ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

2

ウッェーカセキ



世界文化社



世界文化大百科事典《ジュピター》

2

セット商品につき分冊販売不可

発行所　株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel(262)5111(代表)　〒102

発行者　鈴　木　勤
編　集　株式会社世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印　刷　株式会社東京印書館
製　本　中央精版印刷株式会社
製　函　文京紙器株式会社
用　紙　神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表　紙　ダイニック株式会社

Printed in Japan　8211

凡　例

この《世界文化大百科事典　ジュピター》は，現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして，項目の解説は，その記述内容が的確・敏速に把握できるよう，つとめて簡明・平易なものとしたが，各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け，一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し，総括的な理解が得られるようにしてある。また，カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し，内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

1　各ページに収録されている項目を，そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目，奇数ページには最後の項目の，それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし，促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し，長音〈ー〉は除いた。

東　　京──→**トウキヨ**

ヨーロッパ──→**ヨロツハ**

2　項目の見出しは，〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し　　本見出し

げんじものがたり　【源氏物語】

エヌエイチケー　［NHK］

インキ　［ink］

1）国語読みおよびそれに準ずるものは，現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし，現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては，〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず　【沼津】　⇨ぬまづ

2）外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し，〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン　（ベートーヴェンとはしない）

ベネチア　（ヴェネチアとはしない）

ただし，外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ　【羅紗】

らっぱ　【喇叭】

3）地名で，日本の行政区画および外国の国名・地域名，山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは，検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか　【大阪(府)】

おおさか　【大阪(市)】

ミシシッピ(州)

ミシシッピ(川)

4）中国・朝鮮の地名・人名は，原則として日本で慣用されている国語読みで示し，現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう　【河北省】　ホーペイ省

ふざん　【釜山】　プサン

もうたくとう　【毛沢東】　マオツォートン

ただし，国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用読みのものはそれに従った。

シャンハイ　【上海】

ペキン　【北京】

メイランファン　【梅蘭芳】

5）本見出しでは，かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し，外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ　【入れ墨】　刺青・文身とも書く。

ウイスキー　［whisky］

ただし，原語のつづりでイタリック体は，植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ　［*Aloe*］

項目の配列

1　かな見出しの五十音順に配列し，清音➔濁音➔半濁音の順とした。

しんくう　【真空】

しんぐう　【新宮(市)】

じんぐう　【神宮】

はい　【肺】

ばい　【蛽】

パイ　［pie］

2　促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

じゅう　【銃】

じゆう　【自由】

3　長音の〈ー〉は音順から除外したが，同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

{ **あへん**　【阿片】
　アーヘン　［Aachen］

4　同音のものは次の順とした。

a）見よ項目➔解説のある項目

{ **あか**　【赤】　⇨色
　あか　【垢】

b）普通名詞➔固有名詞

{ **じゅんし**　【殉死】
　じゅんし　【荀子】

c）固有名詞では地名➔人名

d）町名などで同音の場合は北から南への順

e）人名などで同音の場合は生年の早い順

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め，各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって，五十音順による項目配列の当該の位置には，その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇　　宙

すべての天体とそれを含む全空間，いいかえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

1　かなづかいは，歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き，すべて現代かなづかいを用いた。

2　送りがなは，原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。

3　漢字は，原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし，固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い，(　)の中にその読み方をひらがなで示した。

4　生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち，教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは，それにならった。ただし，生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

5　年代は，原則として西暦で示した。ただし，国内に関する記述の場合は，その項目の初出の箇所に年号を併記した。

6　外国地名の表記は，原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

7　外国語・外来語の表記については，〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

1　日本の都道府県市町村の人口は，自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし，10,000以上の場合は100の位で，10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

2　都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業，鉱業・建設業・製造業などの第2次産業，商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は，総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。

3　外国およびその地域・主要都市の人口は，主として国際連合編《人口統計年鑑1975年版》によったが，他の資料によって補ったところも多い。

地　　図

1　日本の都道府県と8地方，世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け，また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

2　地図の記号は一般の地図記号に準じているが，都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

3　都道府県と独立国の地図の地貌表現は，等高線段彩で示した。しかし，全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり，その数値は各図中の等高線上に記入してある。

4　地図中の地名の表記は，本文の地名表記の基準に従っ

た。

符号・記号

解説文中に用いた，おもな符号・記号は次のとおりである。

⇨　指示した項目にこの項目の解説があることを示す。
　かんさいべん　**【**関西弁**】**　⇨方言
　しょせき　**【**書籍**】**　⇨図書
　サイン　⇨正弦
　ジンフィズ　⇨カクテル

→ ➔　解説文中または末尾につけて，参照・関連項目を示す。
　抽象主義(→アブストラクト-アート)は，
　従来の漢方(→東洋医学)を背景としたもの
　あいいろ　**【**藍色**】**　……(解説)……。➔色

*　解説文中の用語の右肩につけて，その語が項目として別に立てられていることを示す。
　あんざんがん　**【**安山岩**】**　中性の火山岩*。
　いほうじん　**【**異邦人**】**　カミュ*の小説。

【 】〈 〉　解説文中に中見出し・小見出しを施し，解説内容の整理を図ったことを示す。
　アイヌの場合
　【名称・歴史**】**
　【生活**】**
　【衣食**】**
　【住居**】**
　【風俗習慣**】**
　【音楽**】**
　貨幣の場合
　【種類**】**
　【制度**】**
　【歴史**】**〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈 〉　引用文または強調する語であることを示す。
　日本国憲法第9条に〈日本国民は，正義と ……
　戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり，……

《 》　書名・曲名・題名を示す。
　《日本書紀》
　《カルメン》

( )　語句の言い替え・補足説明や，年号の併記などを示す。
　病変米(黄変米)
　燃料ガス(都市ガス)
　慶長年間(1596～1614)
　1872年(明治5)

( )　読みがなであることを示す。
　石川啄木(たくぼく)
　伊豆(いず)半島
　香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では，次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし，必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm^2	平方センチメートル	W	ワット
m^2	平方メートル	kW	キロワット
km^2	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm^3	立方センチメートル	km/秒(分，時)	速さ
m^3	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	° ′ ″	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁　田中一光

特別大項目目次　第2巻

うつえ

うつえしじゅうはちたき【宇津江四十八滝】岐阜県吉城(よしき)郡にある県立自然公園で，宮川支流の宇津江川にかかる四十八の滝があり，滝の上流では雄大な日本アルプス連峰が遠望できる。高山線飛騨(ひだ)国府下車が便利。

うつぎ【空木】双子葉植物・ユキノシタ科。ウノハナともいう。山野の陽地，川岸などに普通の落葉低木。高さ2m前後。枝は対生し，中空である。葉は楕円(だえん)形で対生し，長さ3～10cm，幅1.5～5cm，細かい鋸歯(きょし)があり，両面に星状毛がある。花は白色の5弁花で，5～6月，枝の先に多数集まって咲く。八重咲きのものもある。朔果*(さくか)は球形で頭は平たい。この果実を君子仙(くんしせん)と称し民間ではせき止めとして用いることがある。性質はじょうぶで土質を選ばない。繁殖は株分けによる。〔加藤僖重〕

うつくしいたましいのこくはく【美しい魂の告白】ゲーテ*の教養小説*《ウィルヘルム-マイスターの修業時代》第6巻の内容全体を形づくる挿話(そうわ)。敬虔(けいけん)な一女性の深い宗教心の成長の告白的記録で，演劇の世界に幻滅した主人公ウィルヘルムは，これを読んで精神的危機を救われる。しかし，作者は結局，主人公を宗教的陶酔に満足させずに有益な人生活動に導く。→ウィルヘルム-マイスター

うつくしがはら【美ケ原】長野県のほぼ中央，諏訪湖(すわこ)の北，松本盆地の東側の筑摩(ちくま)山地にある高原。古い火山の溶岩が削剝(さくはく)されて平坦(へいたん)になったもので王ケ頭・茶臼(ちゃうす)山(2,006m)などを中心に，2,000m内外の高原状の稜線(りょうせん)が連なり，高山植物の美しい草原や湿原が展開する。ここからの北アルプスの展望はことにすばらしく，夏のハイキング，冬のスキーでにぎわう。

うつくしきあおきドナウ【美しき青きドナウ】ワルツ王ヨハン-シュトラウス*2世作曲のワルツ。作品番号314。はじめ男声合唱曲として書かれ，1867年2月15日にウィーンで発表されたが，あまり評判はよくなかった。ところがパリの万国博覧会に招かれて，オーケストラ曲として演奏して喝采(かっさい)を博し，ロンドンでも好評で，以後彼の数あるワルツの中でも特に有名なものとなった。序奏と後奏をもつ五つのワルツの連続した形をもっている。〔向坂正久〕

うつくしきすいしゃごやのむすめ【美しき水車小屋の娘】シューベルト*作曲の連作歌曲。《冬の旅*》と同じミューラーの詩に基づいている。20曲からなり，1822年に作曲された。①さすらい，②どこへ，③止まれ，④小川への感謝，⑤仕事を終えて，⑥疑い，⑦いらだち，⑧朝のあいさつ，⑨水車小屋の花，⑩涙の雨，⑪私のもの，⑫休止，⑬緑のリボン，⑭狩人(かりうど)，⑮ねたみと誇り，⑯好ましい色，⑰いやな色，⑱しぼんだ花，⑲水車小屋と小川，⑳小川の子守歌。若者の水車小屋の娘に対する恋と失恋をうたった名品である。〔向坂正久〕

うつくしのもり【美ノ森】山梨県北部，八ケ岳南東麓(ろく)の美ノ森山(1,543m)一帯をいう。小海線清里駅の北西方にあり，ツツジ・スズランなどが群生する草原である。清里から自動車道路が通じ，キャンプ場となっている。



ウツギ



美ケ原　王ケ頭の火山台地斜面はお花畑が広がり，牧場などに利用されている。ここは日本の屋根にふさわしい眺望をもち，はるかに北アルプスの乗鞍岳や穂高連峰をはじめ中南アルプスの山々が遠望される

うっけつ【鬱血】静脈の流れが妨げられて，局所の組織に静脈血が異常にふえた状態。局所はチアノーゼ*を呈して皮膚や粘膜が暗紫色調となり，温度も下がり，腫張(しゅちょう)する。長く続くと血液の液体成分が組織内に漏出して水腫や出血が起きる。

うっけつにゅうとう【鬱血乳頭】視神経は眼球後壁を貫いて眼球内にはいり，そこで四方へ枝を出している。眼底を見ると，この視神経刺入部が縦楕円(じゅうだえん)形の高まりとして見える。これを視神経乳頭という。この乳頭が強くはれて眼球内に突出した状態を鬱血乳頭という。脳腫瘍(のうしゅよう)の重要な症状の一つで，また高血圧の末期，脳炎などでもみられることがある。現在のところ発生機序は正確にはまだわかっていない。〔氏原　弘〕

うったえ【訴え】ある者(原告)が他の特定の者(被告)との間で，自分の請求が法律上正しいものであるかどうかについて裁判所へ審理・判決を求める申し立てをいう。ふつう訴状という書面を裁判所の受付に提出して行なうことになっているが，簡易裁判所では口頭でも行なうことができる(民事訴訟法353条)。訴えの種類には，①確認の訴え，②給付の訴え，③形成の訴えの3類型がある。訴えを起こすと，重ねて同じ訴えを起こすことができないという効果とか，また訴えによって審理・判決を求めている権利についての時効*も，中断されるという効果が生ずる。→訴訟〔内田剛弘〕

ウッチェロ［Paolo Uccello］(1397～1475) イタリアの画家。はじめは金銀細工師として彫刻家ギベルティ*の弟子(でし)であったが，のち絵画に転じた。遺品は少ないが，1450年ごろの〈戦争図〉の連作やサンタ-マリア-ノベルラ聖堂*にある《ノアの洪水に



ウッチェロ《サン-ロマーノの戦い》1455～1460　ウフィツィ美術館蔵

うずい)》などが知られている。その絵は，イタリア初期ルネサンス芸術に課された遠近法などの科学的理論の追求への熱意に満ち，特にマンテーニャ*に大きな影響を与えた。〔井関正昭〕

ウッド［Grant Wood］（1892～1942）アメリカの画家。アイオワ州の生まれ。アイオワ大学とシカゴ美術研究所に学ぶ。その後，4度のヨーロッパ旅行を経て，アイオワに定住。北欧-ルネサンスの絵画に影響を受けた克明な細部描写によって，アメリカ中西部の農場生活や労働者を好んで描いた。作品に《アメリカン-ゴシック》《植木をもつ女》などがある。

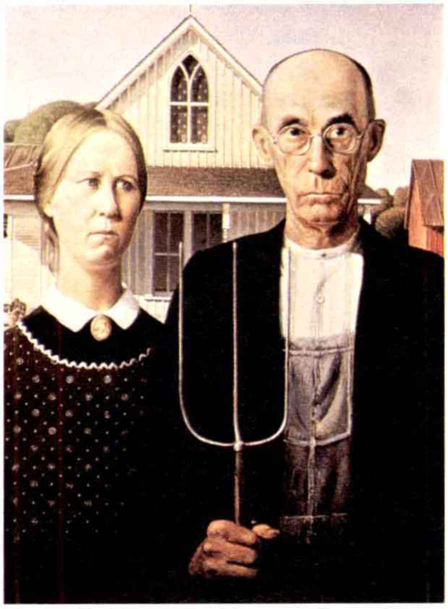
ウッドごうきん【ウッド合金】易融合金*の一種。組成はビスマス50%，鉛25%，スズ12.5%，カドミウム12.5%。融点68℃，比重7.9，熱伝導率0.032cal・cm^{-1}・sec^{-1}・deg^{-1}，融解熱8.4cal・g^{-1}。

ウッド-ブロック［wood-block］木魚に似た打楽器で，レーニョ・木鐘などともいう。丸形・角形の2種があり，ドラム-セットに備えたり，手にもったりして，撥(ばち)でたたく。さえた音色がジャズや一部の管弦楽曲に応用されている。

うつのみや【宇都宮(市)】栃木県中央部，県庁のある市。11世紀に下野(しもつけ)(栃木県)の守護藤原宗円が築城し，江戸時代は戸田氏七万七千石の城下町，日光街道・奥州街道の宿場町・市場町として発達した。1896年(明治29)市制施行。第2次世界大戦中市街の大半を焼失したが，戦後は北関東第1の商工業都市として復興した。人口37万3,000。関東平野北端が宇都宮台地に接する地点にあたり，中心商店街を境として，東半に商業地区，西半にもと武家屋敷から発達した住宅地区や官庁街があり，宇都宮大学(農・工・教育)がある。産業三大別人口比は9：31：60で，商品販売額が県総額の40%に達する商業都市である。戦前は食品工業が盛んであったが，最近は機械工業が発達し，車両・航空機・電気機器・ミシンなどの大工場がある。東北本線・日光線・東武鉄道宇都宮線の分岐点で，国道4号線(陸羽街道)・119号線(日光街道)・123号線(水戸(みと)街道)が集まる。市街の西に位置する大谷(おおや)は大谷石の産地で，建築用石材として全国へ移出される。近郊はユウガオ・タバコなどが栽培される農業地域である。八幡山(はちまんやま)公園，つり天井の伝説をもつ宇都宮城跡，二荒山(ふたらさん)神社付近の前方後円墳，大谷寺の特別史跡大谷磨崖仏(まがいぶつ)などの名所史跡に富み，二荒山神社で奉納される田楽舞(1月15日)は無形文化財に指定されている。〔浅井得一〕

うつのやとうげ【宇都谷峠】⇨蔦紅葉(つたもみじ)宇都谷峠

うつのやとうげ【宇津谷峠】静岡市の西南にあり，静岡市とその西の岡部(おかべ)町との境をなす峠。標高180m。旧東海道では丸子(まりこ)・岡部の両宿駅の間にあたる。国道1号線はトンネルでここを通過するが，かつては山間を縫う険路であった。《伊勢(いせ)物語》の在原業平(ありわらのなりひら)の〈駿河(するが)なるうつの山辺のうつつにも夢にも人に会はぬなりけり〉の歌や，河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)の名作《蔦紅葉宇都谷峠(つたもみじうつのやとうげ)》で名高い。〔高野　繁〕



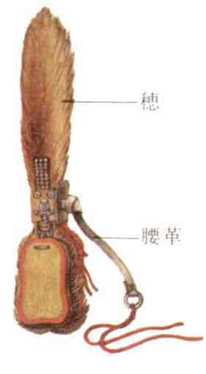
ウッド《アメリカン-ゴシック》1930 シカゴ美術研究所蔵



宇都宮市　大谷石の採石場。大谷石は第三紀緑色凝灰岩で，ここでは厚さ300mに達するところもある。採石によってできた空洞で落盤が起き，人身事故を起こすこともある



ウツボ



空　穂

ウッパータール［Wuppertal］西ドイツ，ノルトライン-ウェストファーレン州の商工業都市。ライン川の支流ウッパー川に沿う。人口40万9,700(1974)。ドイツの主要な機業都市で，織物・リボン・レースのほか，金属・化学工業・機械・製紙などの工業が盛んである。1929年にエルバーフェルト・バルメンなどの6町村が合併してできた都市で，市街は川沿いに13kmも延び，モノレールが交通機関として用いられている。

うつびょう【鬱病】⇨躁鬱病(そううつびょう)

うつぼ【鱓】硬骨魚類・ウツボ科。80cmほどになる海産魚。ウナギを太くしたような形で，黄かっ色の地に暗かっ色の不規則な模様がある。本州中部以南の岩の多い岸べにすむ。気が荒く，鋭い歯で人間にかみつくこともある。皮がかたく，なめして工芸品などに使われる。肉はまずい。近縁のものに，トラウツボ・コケウツボ・ユリウツボなどがあるが，習性・分布・大きさなど，いずれもウツボによく似る。

うつぼ【空穂】矢を盛る道具で，武士が背や腰につけていくさや狩りに出た。はじめ下部のかまどと称するもののみだったが，矢羽根を雨などで損ぜず，また残る矢数を敵に知られないように，上部を穂でおおった。穂は竹を骨組みとし，サル・シカ・イノシシ・クマ・鳥類などの毛皮を張って中は空洞(くうどう)にした。矢数は7本・9本・11本と定め，季節により，矢の種類により，かまどの中の並べ方が違っていた。空穂には毛皮を使わぬ木製のものがあり，大和(やまと)空穂という。これに対し毛皮をかけたものは騎馬空穂といった。また，大形で矢数の多い〈土俵〉という空穂は，腰につけられず従者に持たせた。弓矢が合戦の主要な武器だった鎌倉・室町時代に大いに用いられた。〔稲垣史生〕

うつぼかずら【靫葛】双子葉植物・ウツボカズラ科。ネペンテスともいう。熱帯，特にボルネオなどの湿地に多く，他の植物にからむ多年生でつる性の食虫植物。日本



ウツボカズラ

では温室で栽培される。葉の先が伸びて筒状の捕虫嚢(ほちゅうのう)となり，蜜(みつ)にひかれて筒の中にはいった虫は，分泌される消化液によって消化され，吸収される。

うつぼぐさ 【靫草】 双子葉植物・シソ科。カコソウともいう。日あたりのよい山や野原に多い多年草。茎は10～30cmで直立し，断面は方形。葉は対生で，長楕円(ちょうだえん)形。6～8月に茎の上部に紫色の唇形(しんけい)の花を穂のようにつける。穂の長さ3～8cm。花が終わるとこの穂は枯れる。花穂を乾燥したものは生薬で夏枯草といい，カリウム塩を多く含む。漢方では利尿薬として用いられる。〔小清水義隆〕



ウツボグサ

うつぼざる 【靫猿】

1 狂言の曲目。大名狂言。太郎冠者(かじゃ)を連れて狩りに出た大名(シテ)が，途中で出会った猿引きに，サルの皮を*靫にかけたいから貸せといい，弓に矢をつがえて脅迫する。猿引きはしかたなくサルの急所を一打ちにしようとするが，そのつえを取ったサルが船の櫓(ろ)を押すまねをするのを見ると，命にかえても殺すことはできないと泣き伏す。もらい泣きをした大名はサルの命を許し，サルに舞を舞わせて自分もまねて楽しみ，装束を脱いで猿引きに与える。殺気をおびた舞台は愁嘆場となり，一転してにぎやかにめでたく終わる。緊密な構成をもつ大曲。大名と猿引きに相譲らぬ演技力が要求され，サルの無心のいじらしさが，涙と笑いを誘う。猿引きの歌う猿唄(さるうた)は，中世の民謡の旋律を伝えている。狂言師は〈サルに始まってキツネに終わる〉といわれ，このサルで初舞台を踏み，《*釣狐(つりぎつね)》のキツネで技術の修行を終了する。〔増田正造〕

2 常磐津(ときわず)の曲名。《花舞台霞(かすみ)の猿曳(さるひき)》の略称。1838年(天保9)5世岸沢式佐によって作曲された舞踊のための音楽で，筋は狂言によりながら，大名が女大名，太郎冠者(かじゃ)が奴(やっこ)になるように，はなやいだ面が強くなっている。

3 長唄(ながうた)の曲名。1869年(明治2)2世杵屋勝三郎(きねやかつさぶろう)によって作曲された。筋は狂言によっており，劇的な動きの音楽的な描写に注意が払われている。花見どきのにぎわいの描写，サルを殺されそうになるくどきでの義太夫(ぎだゆう)的な表現，また，助けてもらったあとのさる回しの音楽などが好例である。〔徳丸吉彦〕

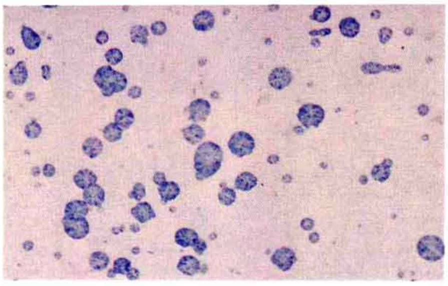
うつほものがたり 【宇津保物語】 平安前期の物語の一。成立年代は不明。作者も不明。ただし男性であろう。作者に*源順(したごう)をあてる説もある。巻数は〈俊蔭巻(としかげのまき)〉から〈楼上巻　下〉までの20巻，現存最古の長編物語で，主人公清原仲忠(なかただ)の人となりとその行末を追う形をとり，仲忠の恋した貴宮(あてみや)，貴宮を恋う源涼などが登場する。主題は，琴曲の伝承を中心とする孝の思想の交じった儒教的理想主義にあり，ひとりの美しい娘をめぐっての《竹取物語》的な恋物語の世界は，ときには興味本位に描かれるが，あくまで副次的立場をとる。物語名の由来は，仲忠母子が貧窮のうちにこもった山の木のほら穴から出ている。なお〈俊蔭巻〉などには伝奇物語的な要素と歌物語的な要素とが未分混融の形で現われ，〈藤原君巻〉の常軌を逸した3人の人物の描写，〈吹上巻〉の源涼邸の豪奢(ごうしゃ)なありさま，〈国譲巻〉の迫真的な内容をもつ政争の記述，〈楼上巻〉に現われるロマン性など，部分的に高い評価を与えられはしても，おおむね平板な形に終始し，物語文学の完成過程に至る道筋を示しているといえる。〔中島　尚〕

うつり 【移り】 俳諧(はいかい)用語。*連句における結合の方法の一つで，前句の気分・場面に映発させる〈映り〉と，前句の気分を流動的に受けて付ける〈移り〉とがある。元禄(げんろく)俳壇一般に広く提唱されたが，特に蕉風(しょうふう)*俳諧でくふうが深められた。

うつりょうとう 【鬱陵島】 ウルルン島　朝鮮半島，江原道の東方122kmの日本海上の火山島。最高峰は聖人峰(984m)。南北9.5km，東西10kmのほぼ5角形を呈し，面積72km²，人口18,000(1963)。雨量は1,570mmに達し，冬の雪も多い。海岸線は出入りが少ないうえ海食崖(かいしょくがい)が目だち，良港には恵まれない。平地は乏しいが，山の斜面を耕作し，トウモロコシ・ダイズ・麦などを栽培している。一方，付近の海域ではリマン海流(寒流)と対馬(つしま)海流(暖流)が合し，魚類は豊富で，イカ・ブリ・サバ・アワビなどの漁獲がある。古くは于山国があり，新羅(しらぎ)に属していたが，女真人に滅ぼされ，12世紀ごろは無人島であった。現在の住民はすべて近代に渡島したものである。江戸時代以来，わが国と朝鮮との間で島の帰属や漁業権についての紛争がしばしばくり返されたが，1910年(明治43)日韓(にっかん)併合後は慶尚(けいしょう)北道に編入された。〔矢守一彦〕

うていえんば 【烏亭焉馬】 (1743～1822) 江戸後期の*噺本(はなしぼん)・*洒落本(しゃれぼん)・*黄表紙の作者で狂歌師。本名は中村英祝，通称は和泉屋(いずみや)和助，別号には立川談州楼などがある。江戸本所の大工の棟梁(とうりょう)の家に生まれ，ことに狂歌・茶番狂言をよくし，落語を寄席(よせ)芸能として発展させるきっかけをつくり，落語中興の祖といわれた。洒落本《蚊不食呪曽我(かのくわぬまじないそが)》は代表作の一。

うてき 【雨滴】 雲から落下してくる水滴。雨粒ともいう。空中に浮かんでいる*雲粒より，はるかに大きい。雲粒から雨滴に成長するには，水蒸気からの凝固とともに，衝突・併合などの複雑な過程が必要である。また，高空で氷の粒として成長し落下する途中でとけて雨滴になる場合もある。雨滴の大きさを調べるには，濾紙(ろし)に，水溶性染料(例，ウォーターブルー)の粉末をガソリンで被膜したものに雨滴を受けて斑点(はんてん)をつくり，斑点の直径を測定すればよい。雨滴の実際の大きさは斑点の直径の3分の2に比例する。→雨〔曲田光夫〕



雨　滴 (×½) 水溶性染料の粉末で被膜した濾紙に雨を受けると，雨のあたった部分が染色され斑点ができる。実際の雨滴の大きさは，斑点のさしわたしの3分の2に比例する

うでくらべ 【腕くらべ】 永井(ながい)*荷風作の長編小説。1916年(大正5)8月から1917年10月まで《文明》に連載。その後単行本となったが私家版のほか多くの諸版がある。芸妓(げいぎ)駒代(こまよ)を中心に菊千代・君龍(きみりゅう)の間に生じる金と恋との争いをめぐって，第1次世界大戦後の好況下にあった新橋花柳界の風俗を詩情豊かに，また著者の文明批評をも鋭く加えながら描いたものである。

うでどけい 【腕時計】 手首につけて携帯される小形の時計。20世紀初めに市場に現われ，第1次世界大戦後，急速に懐中時計に取って替わった。現在，携帯用の時計(ウォッチ)の90%以上を占めている。手首につけられるため，衝撃・振動・磁気・温度変化およびほこりや湿気の侵入について，特に考慮を払った製品がある。一般に腕時計の機械部分は直径30mm以下であるが，カレンダー・目ざまし・自動巻き・*クロノグラフなどの複雑な装置を備えた製品も数多くつくられている。精度については，誤差が1日につき1秒以下という*水晶時計から，3分程度のロスコフとよばれる安価なものまである。〔元持邦之〕

うでぬき 【腕貫】 田畑で働くときや山仕事や土木工事に従事するときなどに，手首からひじにかけて着装する腕カバーよう

のもの。テヌキ・ユガケなどともいう。腕をおおって，きゃはんのようにひもで巻く手おおい，また，子どもの手袋のようにひもをつけて首にかけるもの，こはぜ留めにするものもある。草の葉やイバラ，虫・ヘビの害を防ぎ，また日よけ・汗よけにするほかに，暖かくして，筋肉の疲れを少なくする効果もある。あるいは事務をとる際，そで口のよごれを防ぐためのそで口カバーも，腕貫の一つといえる。なお，腕貫のようにそでを細くした着物を〈うでぬき〉という地方が千葉県・秋田県などにある。〔渡辺欣雄〕

うでわ【腕輪】⇨ブレスレット

うてん【于闐】⇨コータン

うと【宇土(市)】熊本県中部の市。近世初期には，小西行長の居城があってキリシタン文化の中心となり，江戸時代は細川氏の支藩三万石の城下町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口33,000。宇土半島の基部を占める交通の要地で，産業三大別人口比は32：25：43。日本合成化学の工場があり，セメント・医薬・農業加工などの工業も興っている。鹿児島本線・三角(みすみ)線の分岐点で，国道3号線・57号線が通ずる。熊本市に近く，最近その衛星都市化の傾向が強い。

うど【土当帰・独活】双子葉植物・ウコギ科の多年生草木。茎は1.5mぐらいに伸び，大形の複葉を互生する。全国の山野に自生しているが，野菜として利用するのは栽培品種で，白芽・伊勢白(いせしろ)・坊主などがある。根株は株分けにより養生し，根株を地下の室に入れたり，ビニルハウスに入れたり，または盛り土をして，若茎を軟白したものを出荷するのが普通である。特有のかおりがするので，酢の物，サラダ，つま物，しるの実などの利用が多い。〔松本正雄〕

うど【鵜戸】宮崎県日南市の北域で，海に迫る鵜戸山地内の狭い平地部を占める。東へ突出する鵜戸崎には約700m²の海食洞(かいしょくどう)の中に神武天皇の父，鸕鶿草葺不合尊(うがやふきあえずのみこと)を主神とする鵜戸神宮*があり，古くから〈海の神〉として全国的な信仰を集めた。海岸沿いに国道220号線が走り，日南海岸国定公園の中心部となっている。

ウード［ūd］アラビア・北アフリカの代表的な撥弦(はつげん)楽器。15世紀以前スペインに渡ってラウドとよばれ，それがヨーロッパじゅうに広まり，変形されてリュートやギターとなった。西洋ナシの形をした胴とネックに8～12本(トルコでは11本)の腸弦が張ってある。多くは2本ずつ同音に調弦してある。羽毛を指にもってはじくか，あるいは直接指ではじいて演奏する。古来，アラビア音楽演奏の中心的役割を果たし，楽理構築に際しても有効に使われた。さまざまな微小音程，たとえば中立3度を出せるようにフレットの位置を厳密に計算し，ウードに則して，マカーム*という旋法体系がつくられた。〔山口　修〕



ウ　ド



ウ ー ド



ウ ト ウ



鵜 戸 神 宮　天然の岩窟内に建立された社殿

うとう【善知鳥】鳥類・ウミスズメ科。中形の海鳥。胸腹部は白，他の部分はかっ色，くちばしは橙色(とうしょく)で，繁殖期には上嘴(じょうし)基部に上方に伸びる突起ができる。土に穴をあけて営巣する。北海道の天売(てうり)島・大黒島などで集団繁殖し，冬季には本州・九州にまで南下する。➔ウミスズメ

うとくせん【有徳銭】室町後期に有徳人とよばれた都市や荘園*(しょうえん)の富裕な商工業者から徴収した一種の富豪税。幕府・大名・寺社などは，商品経済の発展に伴って台頭した都市の商工業者や荘園の富裕者への課税を有力な財源とした。これははじめは臨時の課税であったが，しだいに恒久的性格をもつようになり，堺(さかい)・奈良・坂本などの富豪に最も多く課税された。有得銭・有福銭とも書き，徳銭ともいう。

うどさん【有渡山】静岡県清水(しみず)市南部の丘陵。有度山とも書く。標高308mのドーム状の小山塊で，南側は海食崖(かいしょくがい)で駿河(するが)湾に臨み，南端の一残丘である久能山*(280m)上に徳川家康(いえやす)を祭る東照宮がある。広い意味で有渡山塊全体をさして久能山ということもある。

うどじんぐう【鵜戸神宮】宮崎県日南市鵜戸の日向灘(ひゅうがなだ)に面した絶壁上の洞内(どうない)にある。祭神は鸕鶿草葺不合尊*(うがやふきあえずのみこと)。ヒコホホデミノミコトが海神の娘トヨタマヒメに子を生ませた場所とされ，この浜を宇土の浜というのは，産殿(うむとの)の意であるとされる。例祭は2月1日。なお，室町時代に愛洲惟孝(あいすこれたか)が当社に参籠(さんろう)して，剣術の一派陰流を創始したことは著名である。

うとねしま【鵜渡根島】伊豆(いず)諸島の利島(としま)と新島(にいじま)の中間にある無人島で，両島からともに約4km離れた位置にある。行政上は新島本村に属する。西にフズシ根，東にオダイ根とよばれる岩礁を伴い，近海はイセエビの好漁場である。火山島で，最高点は208m，まわりは海食崖(かいしょくがい)で囲まれている。

うとはんとう【宇土半島】熊本県宇土郡の熊本平野南部から南西に突出した半島で，先端に三角(みすみ)町があり，北の有明海と南の八代(やつしろ)海とを分けている。長さ約18kmで九州本土と天草諸島との陸橋のような役目をしており，現在は天草五橋*によって結ばれている。丘陵性であるが，半島の基部には大岳(477m)，先端には三角岳(406m)などの安山岩質の山がある。

ウドムルト(自治共和国)［Udmurtskaya A. S. S. R.］ソビエト連邦，ロシア共和国内の自治共和国。ウラル山脈の西，クイビシェフ湖の北東にある。面積42,100km²。人口144万4,000(1975)。主都イジェフスク。住民はフィン系のウドムルト人(古くはボチャックとよばれた)が52%で，その他ロシア人・タタール人などで構成される。主要産業は，機械・金属・木材などの工業で，工作機械・オートバイ・鉄鋼・建築用材などの生産が多い。またカマ川による水力発電も重要である。農産物ではライ麦・ジャガイモ・アマ(亜麻)などが栽培される。15～16世紀にロシアに併合され，1920年にボチャック自治州となり，1932年自称名ウドムルトを正式の民族名に改め，1934年以降現在のようになった。〔斎藤晨二〕

うどん【饂飩】小麦粉に食塩を混ぜて水でこね，細長く線状に仕上げたものを総称していう。ゆでて玉にしたものを，玉うどん・ゆでめん，乾燥したものを，乾めん・干しうどんという。現在大部分は製麺機(せいめんき)を用いてつくるが，すべて手で行なうこともあり，これを手打ちうどんという。小麦粉は，昔は〈うどん粉〉といって内地小麦を石うすでひいたものを用いたが，現在では輸入小麦からつくった小麦粉(メリケン粉)を用いている。

うどんの名の由来は複雑である。奈良時代に渡来した唐菓子の一種に，小麦粉のだんごにあんを入れて煮たものがあり，くるくるとして端がないので混沌(こんとん)といわれていた。食物なので混沌が餛飩(こんとん)となり，暑いうちに食べるので温飩(うんとん)となり，さらに転じて饂飩になったと伝えられている。したがって現在のうどんとはまったく違ったものである。一方，細線状に切った今日のうどんは，昔は切り麦とよばれ，冷やしたものを冷や麦，熱したものを熱麦といっていた。これが江戸時代に，いつのまにかうどんと名づけられるようになったが，そのいきさつは不明である。

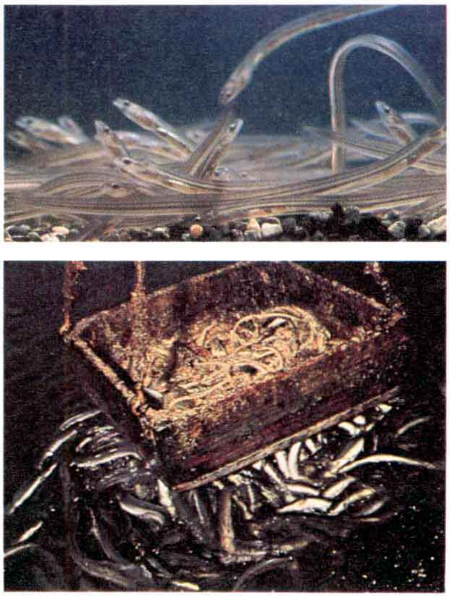
〈種類〉製法は単純ではあるが，太さや形によっていろいろの種類がある。薄く扁平(へんぺい)に切ったものを〈ひもかわ〉といい，同じようなものに〈きしめん〉がある。きしめんは，もとは薄く延ばしたものを竹筒の端で押し切ったので，碁子(きし)といわれたのであるが，現在はひもかわと同じ平打ちで名古屋の名物になっている。これらより少し小形のものが，ふつう，うどんといわれているもので，さらに細いものに，冷や麦*・そうめん*などがある。そうめんをうどんと別にする分け方もあるが，普通のそうめんは単に細いだけの違いなので，うどんの種類の一つにすることが多い。〈食べ方〉ゆでたものを熱湯で暖め，煮出しじるにしょうゆ・みりん・砂糖などで調味したしるをかけ，刻みねぎ・七味とうがらしなどの薬味をかけて食べるのが，最も普通の方法である。京阪(けいはん)ではこれを素うどん，関東ではかけうどんという。このほか，種物として，あんかけ・てんぷら・玉子とじ・なんばん・しのだ・おかめ・小田巻き・たぬき・ニシン・カレーなど多くの種類がある。冷や麦は氷に冷やして食し，盛夏に喜ばれる。〈そばは関東，うどんは関西〉といわれるように，うどんは関西方面がすぐれているようである。〔佐藤友太郎〕



ウードン《ボルテール像》ルーブル美術館蔵

ウードン［Jean Antoine Houdon］(1741～1828) フランスの彫刻家。若くしてローマ賞を受けてローマに留学した。優雅な人体表現によるすぐれた肖像彫刻で知られている。

うどんげ【優曇華】クサカゲロウ科に属するこん虫の卵をいう。クサカゲロウ類では，細長い糸状の卵柄の先に楕円(だえん)形の卵が産みつけられ，一般に樹皮や葉の表面または天井などに，1か所に数粒から数十粒まとめて産付される。日本では，古くから〈うどんげの花〉とよばれ，吉事のしるしとする習慣があるが，生ずる場所によって不吉とされることもある。



ウナギ　(上)シラスウナギ　(下)えさを食う養殖ウナギ

うどんげ【優曇華】仏典に現われる想像上の植物。梵語(ぼんご)udumbara(ウドゥンバラ)の音写。優曇跋羅・烏曇婆羅・優曇鉢とも書く。また霊瑞(れいずい)・祥瑞とも意訳される。3,000年に1度花が咲き，そのときブッダ*や転輪王(理想的国王)が出現するという。転じて〈まれなること〉の比喩(ひゆ)に使われる。

うどんこびょう【うどんこ病】子嚢(しのう)菌による植物の病気。ムギ・マメ・ウリ・リンゴ・クワ・バラなどの葉・茎・穂・果実の表面に，うどん粉を振りかけたように白い粉がつき，のちに灰白色によごれることがある。これはかびの菌糸が植物の表面に増殖し，多数の胞子を形成したもので，灰白色のかびの中にのちに小さな黒点の子嚢殻(しのうかく)を生ずる。これは子嚢胞子を内臓し越年器官となる。日あたり・通風が不良，多雨，窒素肥料の多用の場合多く発生するので，これらの条件を改善し，石灰イオウ合剤などを散布する。〔渡辺　実〕

うなぎ【鰻】硬骨魚類・ウナギ科。長さはふつう50cm程度であるが，ときに1mに達する。皮膚に粘液が多く，つかみにくい。うろこはないように思えるが，度の強い虫めがねでやっと見えるほどの小さなものが，規則正しくモザイク状に並ぶ。本州中部以南の太平洋岸には普通で，川の上流から河口に至る広い水域にすむが，日本海側と東北以北には少ない。川とまったく連絡のない池にすんでいることもある。ウナギは生命力が強く，水から出てもしばらくは生きているので，雨のときに陸上をはって川と無関係な池にはいりこむのだといわれる。熟卵をもつ親魚をみることがないので，〈ヤマノイモ変じてウナギになる〉，〈泥(でい)中から自然に発生する〉などといわれたが，19世紀末に半透明でヤナギの葉のような形をしたレプトセファルス段階の稚魚が発見され，さらに1922年にデンマークのヨハネス-シュミットにより，大西洋沿岸のウナギの産卵場が，バミューダ島近くのサルガッソー海の水深400～500mの中層であることが突き止められた。日本のウナギは，秋，産卵のため川を下って産卵場に向かうが，その産卵場はまだわかっていない。また，日本ウナギのレプトセファルスは，発見数もごくわずかである。日本では，12～5月に河口に集まってくるほとんど無色透明なつまようじほどの大きさの幼虫(いわゆるシラスウナギ)をすくい取って，池で養殖するが，近年は河口の汚染のためにあまり捕れず，フランスから欧州ウナギのシラスを輸入したりしている。かば焼きにして珍重されるが，諸外国では食用にされることはあっても，それほど賞味はされていない。かば焼きのにおいは最も日本的なものの一つである。天然産では需要に追いつかず，ほとんど養殖物にたよっているが，それでも足りず成魚をも外国から輸入することがある。

ウナギの血清は，普通の魚が淡黄色なのに対して，美しい緑色で有毒であるが，熱でたやすく分解され無毒になる。ビタミンA・B_2が豊富で，万葉の昔から夏やせにきくとされてきた。土用の丑(うし)の日*には，大いに売れるが，この習慣の由来については定説がないようである。日本には，ウナギのほかに，オオウナギという体に大理石状の模様があり，長さが2m近くになる別種がある。これは黒潮の影響を強く受ける地方にだけ分布し，伊東(いとう)市の浄ノ池，和歌山県の富田(とんだ)川，鹿児島県の池田湖などが有名で，生息地は天然記念物に指定されていることが多い。食用にはあまりされない。オオウナギの産卵場もまだわかっていない。〔菅野　徹〕

うなぎつかみ【鰻攫】双子葉植物・タデ科。ウナギヅルともいう。湿地に多い一年草。茎は下部が屈曲し，高さ30cmほどで，逆向のとげが多数ある。葉は丸いやじり形。5～6月，紅色または白色の花を頭状につける。なお，アキノウナギツカミは本種の一変種で，秋咲きで葉先がとがる。

うなづき【宇奈月(町)】富山県下新川(しもにいかわ)郡の町。人口7,600。黒部(くろべ)川の上流・中流部の4村が，1954年(昭和29)に合併して発足した。北陸本線黒部駅を経て富山地方鉄道黒部線が宇奈月温泉*まで通じている。平野部は段丘面や扇状地を開田した農業地帯であり，山間部は電源地帯として知られている。

うなづきおんせん【宇奈月温泉】富山県下新川(しもにいかわ)郡宇奈月町にある温泉。泉温42～95℃。泉質は無色透明の単純泉で，胃腸病・皮膚病・リウマチにきくといわれる。日本海に注ぐ黒部(くろべ)川中流の台地上にあり，1923年(大正12)開湯され，上流の黒薙(くろなぎ)・二見両温泉の元湯を引いている。黒部第4ダムの建設により，黒部峡谷探勝の基地として近年急速に発展した。交通は北陸本線黒部駅から富山地方鉄道の便がある。

ウナムーノ［Miguel de Unamuno y Jugo］(1864～1936) スペインの哲学者・文学者。現代スペイン文学のあらゆる領域において活動し，多くの影響を与えた。1891年サラマンカ大学のギリシア語教授となり，1901年に学長に就任したが，当時のプリモ-デ-リベラ政府を激しく批判したためカナリア諸島に追放された。のちに帰国して大学に復職し，共和国建設の革命に参加したが，晩年は人民戦線政府から離れ，内乱の渦中(かちゅう)に死んだ。主著《生の悲劇的感情》は，信仰と懐疑の間をさまよう人間の苦悩の中に生のエネルギーを見いだし，この苦悩をドン-キホーテのように生き抜くことを教えている。〔飯塚勝久〕

うに【海胆】棘皮(きょくひ)動物・ウニ綱・正形亜綱に属する動物のことを一般にウニという。また，食用として珍重されるその生殖巣もうに(雲丹)といわれる。ウニ類には，半球状の本体(俗に殻(から)という)からクリのいがのようにとげがはえているものが多い。本体は互いにかたく接合した骨板でおおわれる。口は腹側に，肛門(こうもん)は背側に開く。口には，アリストテレスが研究したことから〈アリストートルのちょうちん〉とよばれるかたい5枚の歯が集まった咀嚼器(そしゃくき)がある。とげの一部は先が2～3に分かれた叉棘(しゃきょく)に変形しており，これを使って体表に付着した異物をはさみ取って捨て去るので，体表はつねに清潔に保たれている。とげの間からは多数の管足が出ている。管足は細長い柄の先がふくらんだ形で，外見が若いエノキダケやもやしに似ている。ウニはとげと管足を活発に動かして海底をはい歩く。すべてが海産で，岩の多い浅い所にすみ，明るい間は岩にみずから掘った岩穴に半ば埋もれたり，岩陰や転石の下に潜み，夜になるとはい出て主として海藻(かいそう)類を食べるが，海底に落ちているものはほとんどなんでも食べる。

ウニの卵は，採取・受精がたやすく，また透明で観察に便利なため発生学の研究材料として欠くことのできないものである。受精卵は分裂をくり返し，エキノプルテウス幼生になり浮遊生活を送るが，やがて変態して海底に降りウニとなる。雌雄異体で，生殖巣は殻の中にミカンのふさのようにはいっており，卵巣と精巣とは肉眼で区別がつけにくい。

北海道にはエゾバフンウニ・キタムラサキウニ，東北地方以南にはバフンウニ・ムラサキウニ・アカウニが普通で，本州中部以南では，とげが長くて刺さると痛いのできらわれるガンガゼやラッパウニ・シラヒゲウニ・パイプウニが加わる。パイプウニは普通のウニと違って，とげの形が巻きたばこ用のパイプのようで，実際に加工してそのために使われることがある。ほとんどすべてのウニが食用になる。生殖巣は生のまま食べるとはなはだ美味である。地中海沿岸，ことにフランス南部のプロバンス地方，チリのサンチアゴなどでも生のまま賞味されている。また生殖巣を塩づけにしたり(どろうに)，いったん塩づけにしたものに酒・砂糖などを加えてすりつぶして(練りうに)，保存食品とする。最も味のよいのは，バフンウニとエゾバフンウニである。産額は，北海道が最も多い。うにはわずかな生殖巣を集めてつくるため，元来，高価な食品であり，安いうにはカニその他の卵を混入したものがある。ウニは欧米語では〈海のいが〉〈海のハリネズミ〉といわれている。

動物分類学上のウニ綱には，このほかに扁平(へんぺい)なカシパン*の類と卵形およびそれが変形した体形をもつタコノマクラ*・ブンブクチャガマ*なども含まれる。半球状のいわゆるウニ類は，体制が5放射型だが，カシパン以下の体制は2軸放射型で不正形亜綱に属している。〔菅野 徹〕

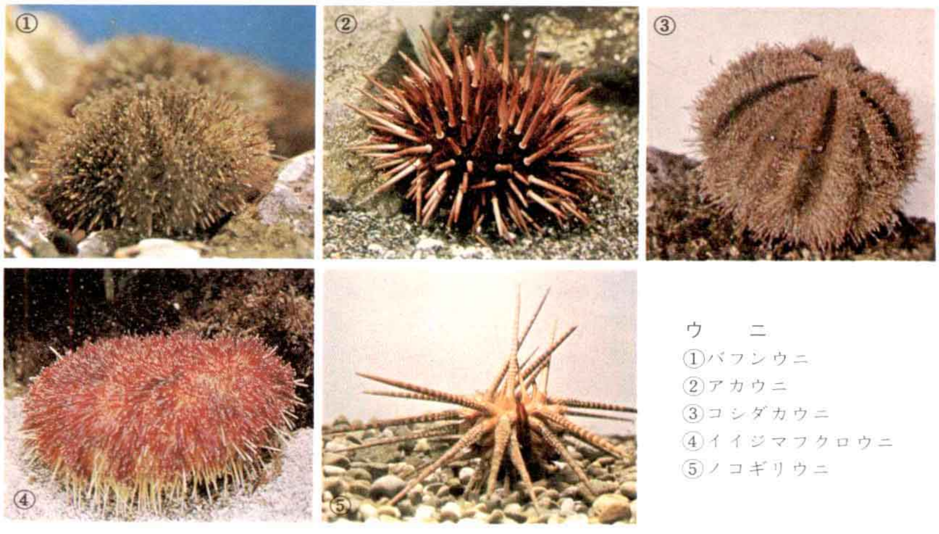


ウナギツカミ

ウニコール ⇨イッカク

ウ-ヌー［U Nu］(1907～) ビルマの政治家。ラングーン大学で学生運動を指導，のち反英運動に参加して，ビルマ独立運動の父オン-サン*を助ける。第2次世界大戦中対日協力政権の外相，のちの情報相となる。戦後オン-サンを継いで反ファシスト人民自由連盟の総裁として初代首相に就任。1958年6月反ファシスト人民自由連盟が分裂し，同年10月政権をネ-ウィン*に譲る。1960年2月反ファシスト人民自由連盟清廉派を率いて総選挙に大勝し，同派を連邦党と改称して総裁となり，同年4月首相に返り咲いた。しかし1962年3月ネ-ウィンによるクーデターで追放，保護監禁される。1966年10月監禁解除となり，1969年8月巡礼を理由に出国してロンドンで〈ネ-ウィン政権打倒〉を宣言した。〔吹浦忠正〕

うねおり【畝織】平織*の変化した組織。経糸(たていと)あるいは緯糸(ぬきいと)の一方に太い糸を用いて組織し，織物の表面に横あるいは縦の畝を現わす。経糸を密にし，数本の糸を引きそろえて太くした緯糸を平組織に織り込んでゆくと，織り上がりの表面には，経糸が高く低く上下しながら緯糸をお



ウ　ニ
①バフンウニ
②アカウニ
③コシダカウニ
④イイジマフクロウニ
⑤ノコギリウニ

おって，横の方向に平行に走る畝目が現われる。この組織は帯地・袴地(はかまじ)に広く使われ，琥珀織(こはくおり)・博多織(はかたおり)・仙台平(せんだいひら)などにみられ，わずかに低い畝のあるものに塩瀬・タフタなどがある。また，一定の緯糸と組織するだけではなく，1本の緯糸と数本の緯糸をかわるがわる織り込んだり，2本・3本と引きそろえた緯糸を混用して，横畝に変化をつけたものもある。この横畝に対し，縦方向に畝を織って現わすにはさきの経糸と緯糸を置き替えればよい。たとえば経糸を綜絖(そうこう)・筬(おさ)ともに2本と1本ずつ交互に通して平組織にし，縦方向に低い畝を現わしたヘアコード(→トブラルコ)，単にコード(→コード織り)ともいわれる婦人服地などがその一例である。〔勝呂小枝〕

うねたてさいばい【畦立て栽培】 一般に作物を栽培する場合，種子をまいたり株を植えつけたあとは，株が倒れない程度に土寄せをする。しかし，根深ネギやサトイモなどのように茎を白くしたり，根をたくさんつけることを目的とするときには，特に土寄せを多くして栽培することがある。このような栽培をうね立て栽培という。なお，排水の悪い水田や畑で作物をつくるとき，水分過多になることを防ぐために高いうねをつくることがあるが，これも一種のうね立て栽培で，高うね栽培ともいう。〔松本正雄〕

うねび【畝傍】 ⇨橿原(かしはら)市

うねびやま【畝傍山】 奈良盆地南部，橿原(かしはら)市の南にある小さな火山。標高199m。大和(やまと)三山の一つで，古くから《万葉集》などによまれている。付近は飛鳥(あすか)の地の一部で，神武天皇陵をはじめ古代の天皇・貴族の陵墓や史跡が多い。

うねめ【采女】 後宮女官の一。天皇に近侍し，食事のことにあたった。律令制(りつりょうせい)以前からあり，国造(くにのみやつこ)が貢献していた。大化改新以後は少領以上の郡司の姉妹子女の中から，容姿端正のものを選んで貢献した。のち官制の発達に伴い，742年(天平14)には各郡にひとりずつ貢献する制を定め，女官として大きな位置を占めていたが，807年(大同2)一時廃止された。811年(弘仁2)復活されたが，そののち下級女官へと転落の過程を経て，名目的には江戸時代まで存続した。〔星野具子〕

うねり 海面の風浪が，発生域を離れて静隠な場所や風の弱い場所に進んできたときに，発生域の風の影響が弱まって波の高さが減少しつつある波。波頭が比較的丸みをおび，風浪に比べて一般に波長が長く，周期も長い。暴風の余波や土用波はその例である。

うの【宇野】 岡山県玉野市の南部地区。もと児島(こじま)郡宇野町で，1940年(昭和15)日比町と合併して玉野市となった。岡山県の海の玄関口で，1909年(明治42)，児島半島南東岸に港湾施設が整備され，翌1910年宇野線の開通と同時に宇高連絡航路が開通し，四国への幹線ルートとして発展した。1929年に第2種重要港湾，翌1930年に開港場の指定を受けた。第2次世界大戦以降は新岸壁も完成して，外国航路の寄港地ともなり，高松市や対岸の直島(香川県)との間にはフェリーボートが通じている。〔浅井得一〕



畝傍山 青いイネの穂波の上に浮かぶ畝傍山の秀麗な姿。この深い歴史を秘めた田園にも最近宅地造成が急速に進んでいる



ウノアシガイ



乳　母 山東京伝筆《江戸風俗図巻》より 細見良蔵氏蔵

うのあしがい【鵜の足貝】 軟体動物・腹足類・ユキノカサガイ科。かさ形の貝殻(かいがら)に，かさの骨のような7本内外のはっきりした条がはいっている。殻の長さは4cm内外。殻表(かくひょう)は青黒色，内面は乳白色，頂部は黒かっ色で，軟体は黄白色。北海道南部以南・インド洋・太平洋に広く分布し，磯(いそ)の潮間帯の岩上にしっかりとはりついている，きわめて普通の種類。水かきのある水鳥のあしに似ているのでこの名がある。

うのこうじ【宇野浩二】 (1891～1961) 小説家。福岡市湊(みなと)町の生まれ。本名格次郎。少年時代を大阪市で送った。早稲田(わせだ)大学英文科を中退後，翻訳などで生活の資を得たが，近松秋江・広津和郎(かずお)らを知って，《蔵の中》《苦の世界》《子を貸し屋》などを発表，自然主義の作家としての地歩を築いた。その後の作品には《枯木のある風景》《子の来歴》などがある。また第2次《文学界》にも加わり，主として作家論を発表した。第2次世界大戦後には《浮沈》《思ひ川》などの作品がある。〔瀬良垣宏明〕

うのじゅうきち【宇野重吉】 (1914～　) 新劇俳優・演出家。本名寺尾信夫(のぶお)。福井県出身。日本大学芸術科中退。左翼劇場・第1次新協劇団を経て，第2次世界大戦後滝沢修らと劇団民衆芸術劇場(民芸)を結成した。映画・ラジオ・テレビ方面にも活躍し，近年は演出も担当している。

うのせん【宇野線】 岡山～宇野間の国鉄路線。営業キロ数32.9。1910年(明治43)開業。宇高連絡航路(→宇高連絡線)と結んで，本州・四国間の連絡鉄道として重要である。全線電化。

うのちよ【宇野千代】 (1897～　) 小説家。山口県岩国市の生まれ。岩国高等女学校を卒業して1917年(大正6)に上京。1921年《時事新報》の懸賞に《脂粉の顔》で1等に入選し，文壇にデビューした。その後に発表した《墓を発(あば)く》は自然主義ふうの小説であり，《色ざんげ》は初期の代表作とされている。第2次世界大戦後の長編小説に《おはん》がある。

うのはな【卯の花】 ⇨ウツギ

うのはな【卯の花】 豆腐をつくるときに出るかすで，大豆1kgから約1.4kg(水分85%)出る。ウノハナ(ウツギ)に似ていることからこの名があり，またおから(御殼)とも，きらず(雪花菜)ともいう。きらずとは，切らずにそのまま使える，という意味である。繊維その他不消化物が多くて消化はよくないが，なお，かなりのタンパク質・脂肪を含んでいるので，飼料として価値がある。ときには調理して食用に供することもある。うのはなづけ・うのはなじる・うのはなずし・いりうのはななどである。〔佐藤友太郎〕

うば【乳母】 母親に代わって乳児に乳を与え，養育する女性。古くは《日本書紀》にヒコホホデミノミコトが乳母を使っている記述があり，平安時代には宮廷貴族の間で普通にみられた。律令(りつりょう)格式には，皇族は13歳まで乳母を官給されることが決められており，乳母は宮人に準ずる待遇を受けていた。その後も〈おちぬし〉〈めのと〉などとよばれ，江戸時代に至るまで行なわれていたが，特に江戸時代になると，将軍

家・諸大名において大きな権力をもつ乳母も現われた。また武家だけでなく裕福な町人の間でも乳母を雇う者があった。明治以後，農村でも地主などの富裕な家では，特に乳母を雇って子どもの養育にあてた例も多くみられた。なお，今日でも実母の乳を生児に与えるまえに，他人の母乳を飲ませる風習が各地にあり，これを乳親(ちちおや)とよんで仮親関係を結び，後見人の役割をになうことがある。〔須藤健一〕

うばうお【姥魚】硬骨魚類・ウバウオ科。ほぼ5cmどまりの海産魚。ややハゼに似て，上下に押しつぶされた形をしている。うろこはない。腹びれが吸盤になっていて，強い吸着力をもち，激しい流れにも流されない。オリーブ色の地に，濃色斑(はん)があるものとないものがある。他の魚と違い，くびの部分を持ち上げるような動作をし，またルビー色に輝く目がよく動く。頭を曲げ，尾を下げて，への字の形になって泳ぐが，きわめてへたである。千葉県以西の本州と沖縄本島に分布し，潮だまりや波打ちぎわに普通にみられる。

うばがい【姥貝】軟体動物・二枚貝類・バカガイ科。ホッキガイともいう。殻(から)の長さ10cmほどになる大形の貝で，バカガイによく似ている。鹿島灘(かしまなだ)以北，サハリン(樺太(からふと))方面の外洋に面した2〜10mの砂底にすむ。北海道に多く，美味であるが成長がおそいので，種々の保護策が講じられている。長命で36〜38年生きたという記録がある。

うばざめ【姥鮫】軟骨魚類・ウバザメ科。15mにもなる大形の海産魚。普通のサメの形だが，かなり太っている。全世界の冷たい外洋に分布し，表層を遊泳する。日本では高知以北に分布する。性質はおとなしく，バカザメの名もある。胎生で，産まれたときの体長は1.8mぐらいといわれる。

うばすてやま【姥捨山】⇨姨捨(おばすて)山

うばすてやまでんせつ【姥捨山伝説】⇨姨捨山(おばすてやま)伝説

うばそく・うばい【優婆塞・優婆夷】仏教で男女在家信者の呼称。梵語(ぼんご)upāsaka(ウパーサカ)，upāsikā(ウパーシカー)の音写。前者は清信士・近善男，後者は清信女・近善女ともいう。〈奉仕する人〉の意で，教団の出家者である比丘(びく)・比丘尼の生活必需品を供給し，修行生活を支援しながら，仏の教えを実行する。仏教信者になるには，原則として三帰，すなわち仏と法と比丘衆に帰依すると唱えるが，さらに五戒*をも受けるとする説もある。教団を構成する四衆・七衆の一。〔大南龍昇〕

うばたまむし【姥吉丁虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・タマムシ科。オバタマムシともいう。体長30〜40mm，体は全体暗銅色ないし金銅色で，ときに緑色をおびる。鞘翅に4条の隆起線がある。本州以西，朝鮮・中国などに分布し，幼虫は枯死したアカマツ・クロマツなどの材部を食べ，成虫になるまでに約3年を要する。俗にタマムシの雌であるといわれることもあるが，これはまったくの別種である。日本の南西部には，本種に近似のサツマウバタマムシが分布する。〔鈴木邦雄〕



ウバウオ



ウバガイ



ウバユリ　東北地方に自生するオオウバユリ

ウパニシャッド[Upaniṣad] 古代インドにおける正統バラモンの哲学思想を網羅(もうら)した哲学書。製作年代はBC800年ごろに始まって近世に及び，その文献の数は200種を下らない。語義〈近くにすわる〉の意から，師弟の間に口伝された秘密の教え，奥義をさす。いずれも四ベーダのどれかに属し，〈シュルティ(天啓文学)〉として神聖視されている。内容と言語により古ウパニシャッドと新ウパニシャッドに大別される。重要なものは多く古代のものに属し，その基本的教義は〈梵我一如*(ぼんがいちにょ)〉の思弁であり，この真理を悟って生死の繋縛(けばく)を離れ，解脱することにあるとする。また，後世インド宗教思想の根幹をなした〈業*〉と〈輪廻*(りんね)〉とそれからの解脱の思想が，はじめて明瞭(めいりょう)にされている。新ウパニシャッドは多岐に展開された。翻訳はペルシア語訳(1657)，ラテン語重訳(1775)の《ウプネカット》(50種)に始まり，近年各国語に訳され，邦訳では高楠(たかくす)順次郎監修《ウパニシャッド全書》(108種)，辻(つじ)直四郎《ヴェーダとウパニシャッド》などの抜粋訳がある。〔北条賢三〕

うばめがし【姥目樫】双子葉植物・ブナ科。中部地方以西の海岸に自生する常緑高木。高さ15mに達するが通常5〜7mである。幹は暗黒色，枝を多数出すのでいけがきや公園樹として用いられる。葉は長さ2.7〜4.5cm，幅1.3〜2.5cmのつやのある楕円(だえん)形〜倒卵形で上半分に荒い鋸歯(きょし)がある。葉柄は長さ4〜8mmで淡かっ色の星状毛がある。4〜5月，一年枝の基部に長さ3〜5cmの雄花序，枝先に2花よりなる雌花序をつける。堅果は長さ約2cm，幅1.4cm円垂形で翌年の秋熟す。材はかたいので種々の細工物に用いられる。

うばやまかいづか【姥山貝塚】千葉県市川市柏(かしわ)井町にある縄文(じょうもん)時代中〜後期の貝塚。1926年(大正15)台地上の広大な馬蹄(ばてい)形貝層から，多数の竪穴(たてあな)住居*跡・埋葬人骨などが発掘されて，原始時代の住居研究の端緒となった。

うばゆり【姥百合】単子葉植物・ユリ科の多年草。やぶの中や山中の木陰にはえる大形の鱗茎(りんけい)植物。鱗茎は葉柄の下部がふくれたものである。若苗は根出葉のみだが，年を経て鱗茎が大きくなると大きな茎が伸びて50〜100cmに達し，7〜8月に緑白色花を数花つける。花をつけた株では，もとの鱗茎はなくなり，根もとに新しい鱗茎ができる。和名は花の咲くときには葉が枯れていることが多いことから，葉と歯の音通からいう。本種によく似たものに本州中部の高山や北海道にはえるオオウバユリがある。〔横井朝子〕

ウバンギシャリ ⇨中央アフリカ(共和国)

うひょう【雨氷】0°C以下に冷却した霧雨または普通の雨が，0°C以下または0℃より少し高い温度の地面や物体にあたって氷結したもの。一般に均質で透明な氷層が地物に付着した現象である。水滴はしばしば0°C以下になっても氷にならないで液体のままでいる過冷却現象を呈するので，それが地物にあたって氷結することになるわけである。

ウファ[Ufa] ソビエト連邦，バシキール自治共和国の首都。ウラル山脈西麓(せいろく)，カマ川の支流ベラヤ川に臨む。人口172万3,000(1968年推)。ウラル工業地帯の中心都市の一つで，石油精製・金属加工・機械などの工業が盛んである。また，モスクワからチェリャビンスク方面とマグニトゴルスク方面に向かう鉄道の分岐点であり，河港の利用価値も高い。

ウフィツィびじゅつかん【ウフィツィ美術館】イタリア，フィレンツェにあり，収蔵品の質と数において世界最大の美術館の一つ。16世紀の政府庁舎の一部にメディチ家*の収集品を陳列したのがはじまりで，有名なボッチチェリ*《ビーナスの誕生》，ミケ

ランジェロ*《聖家族》など14世紀から16世紀にかけてのイタリア-ルネサンスの傑作や，ルネサンス以降の北欧絵画の名品，近世有名画家の自画像(特別コレクション)，80,000点以上のデッサンと版画・古代彫刻などを所蔵展示している。　〔藤井久栄〕

ウフエ-ボワニ　[Felix Houphouët-Boigny]（1905～　）コートジボアール共和国の大統領兼首相。酋長(しゅうちょう)のむすことして生まれ，ダカールの医学校に学ぶ。1946年，アフリカ民主連合(RDA)を創設。フランス共産党とも連携して民族運動を指導し，1950年から翌年にかけて大規模な闘争を展開した。のちにフランスの譲歩に応じ対仏協調に一転し，フランス本国の国務大臣もつとめた。1960年8月の独立実現後大統領に就任，1965年再選され，事実上の一党制であるコートジボアール民主党を率いて，親西欧政策をとった。　〔喜多迅鷹〕

うぶぎ　**【産着】**　赤子に生後はじめて着せる着物。地方によっては，みつめぎもの・そでつなぎ・てつなぎなどとよぶ。生後3日めにはじめてそでのついた着物を着せる地方が多く，婚家でお産した場合，嫁の実家からうぶ着と祝儀(しゅうぎ)の食物を贈る。うぶ着を赤子に着せる儀礼は，人間世界への仲間入りを意味するだけでなく，うぶ着に呪術(じゅじゅつ)的縫いつけを施して，赤子を守護する意味もこめられている。

ウプサラ　[Uppsala]　スウェーデン南東部にある同国の旧都。18世紀に首都はストックホルムに移されたが，国王の戴冠(たいかん)式は近年までここで行なわれた。人口84,000(1964)。1447年創立のウプサラ大学を中心とする文教・学術都市として知られ，多くの学者を輩出している。市街にはグスタワ-バーサ・博物学者リンネ・哲学者スウェーデンボイルらの墓のある大聖堂と，城・リンネ博物館などが立ち並ぶ。鉄道・道路はよく整備され，織物・金属工業なども行なわれている。　〔野間三郎〕

うぶすな　**【産土】**　⇨氏神

うぶめ　**【産女】**　お産で死んだ女の亡霊。〈うぶめ〉という語は単に産婦を意味するが，口承文芸の影響から母子の亡霊をいうようになった。赤子を抱いて路傍に現われ，通行人に赤子を抱いてくれと頼むといわれている。もっぱら妖怪*(ようかい)または幽霊*めいた怪異として語られ，昔話にも，また土着の伝説にもなっている。古い形では，抱いているうちに赤子がしだいに重くなるが，がまんして抱き続けていると剛力を授かったとか，その赤子が金銀財宝と化して大金持ちになったとか説かれる致富譚(ちふたん)の一種であった。血みどろの女が赤子を抱いてヤナギの下に立つといった陰惨な幽霊めいた話になったのはのちの変化である。

うぶゆ　**【産湯】**　出生後すぐにさせる沐浴(もくよく)。初湯ともいう。分娩*(ぶんべん)が始まると湯を沸かし浴槽(よくそう)の準備を整え，



宇部市　港の上空から見た宇部港と宇部市の一部。左手の石炭埠頭には石炭が集積され，石炭輸送の小形鋼船が接岸している

出生後臍帯(せいたい)の結紮(けっさつ)を済ませてすぐに使わせる。浴槽には以前は木製のたらいを用いていたが，最近ではプラスチックなどの製品がよく用いられている。40°Cぐらいの湯を，ゆぶねに半分ぐらいまで入れて乳児を浸し，湯の中でよくからだを洗う。上げてから水分をよくふき，ベビーパウダーを振り，臍帯のしまつをし，おむつと衣服をつけさせる。うぶ湯は生児の健康状態によってはかえって行なわないほうがよいこともある。未熟児のような場合は，体表面の脂肪を洗い去ることが皮膚の保護のために不利になることもあるので，汚物をだいたいふき取るだけにする。またオイルバスといって，オリーブ油や流動パラフィンなどを浸した脱脂綿で，皮膚をふくだけのこともある。

〔特殊な風習〕生児がじょうぶに育つようにと，昔からいろいろな風習が行なわれている。平安時代の医学書《医心方*》には牛脂や虎頭骨(ことうこつ)(トラの骨)を入れるとよいと書かれている。ギリシア・ローマ時代には，臍帯結紮後に生児を冷水に浸し，またぶどう酒や食塩をうぶ湯に混ぜた。日本でも，地方によっては日本酒や酢を混ぜたり食塩を入れたりする。さらに皮膚のかぶれを予防するために，湯を沸かすときに漆の塗り物を入れたりする。そのほか卵を入れたり，また卵をせっけん代わりに用いる地方もある。　〔宇留野勝正〕

うぶんたい　**【宇文泰】**　(505～556)　中国鮮卑宇文部出身の軍閥で，北周の事実上の創始者。北魏(ほくぎ)末の動乱期に台頭，534年高歓の東魏に対抗して長安に孝武帝を擁立，西魏を建てた。20余年にわたって西魏の実権を掌握，漢族の名臣蘇綽(そしゃく)の補佐を得て《周礼*(しゅらい)》にならった官制改革や府兵制を実施し，北周の基礎を築いた。

うべ　**【宇部(市)】**　山口県南西部の市。宇部炭田*の開発と，第1次世界大戦後の工業の著しい発達により，1921年(大正10)村から一躍市制を施行した。人口16万6,000。周防灘(すおうなだ)に臨み，産業三大別人口比は9：37：54で，ソーダ・硫安・硫酸などの化学工業をはじめ，セメント・金属・機械などの諸工業が発達し，小野田とともに周南工業整備特別地域の中心地である。宇部線で山陽本線小郡(おごおり)と連絡し，北郊には国道2号線が通ずる。宇部港は10,000t級の船が接岸できる重要港湾である。1965年(昭和40)には，県下唯一の空港も完成した。山口大学(医・工)・工業短大・国立工専など，工業都市にふさわしい教育施設をもち，常盤(ときわ)公園や阿知須(あちす)温泉などの観光地がある。

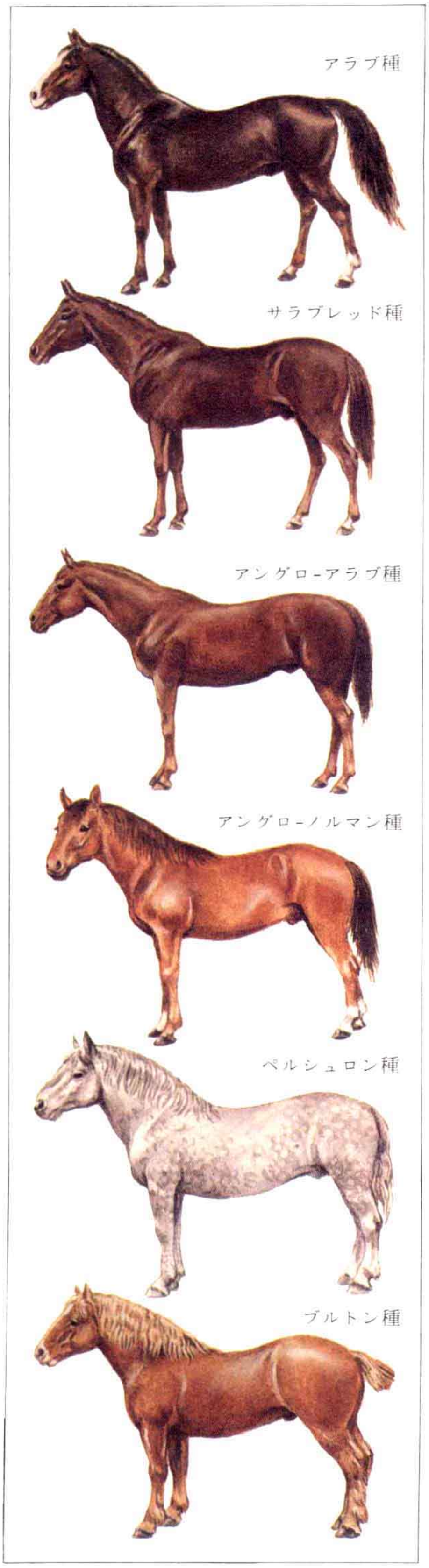
うべこうさん　**【宇部興産(株)】**　化学・石油化学・セメント・機械・無煙炭などを生産する総合化学メーカー。生産の内訳は，肥料を中心とする化学品43%，セメント42%，機械12%，石炭3%。1897年(明治30)に設立された沖の山炭鉱が母体で，1942年(昭和17)に総合化学会社として発足。これまで山口県宇部市に工場を集中してもち発展してきたが，総合石油化学メーカーへの転換を図り，千葉県五井・大阪府堺など各地に新しい工場をつくり，その拡充・強化に力を入れている。資本金382億8,300万円，年間売上高2,354億200万円，従業員数9,916(1980年9月)。

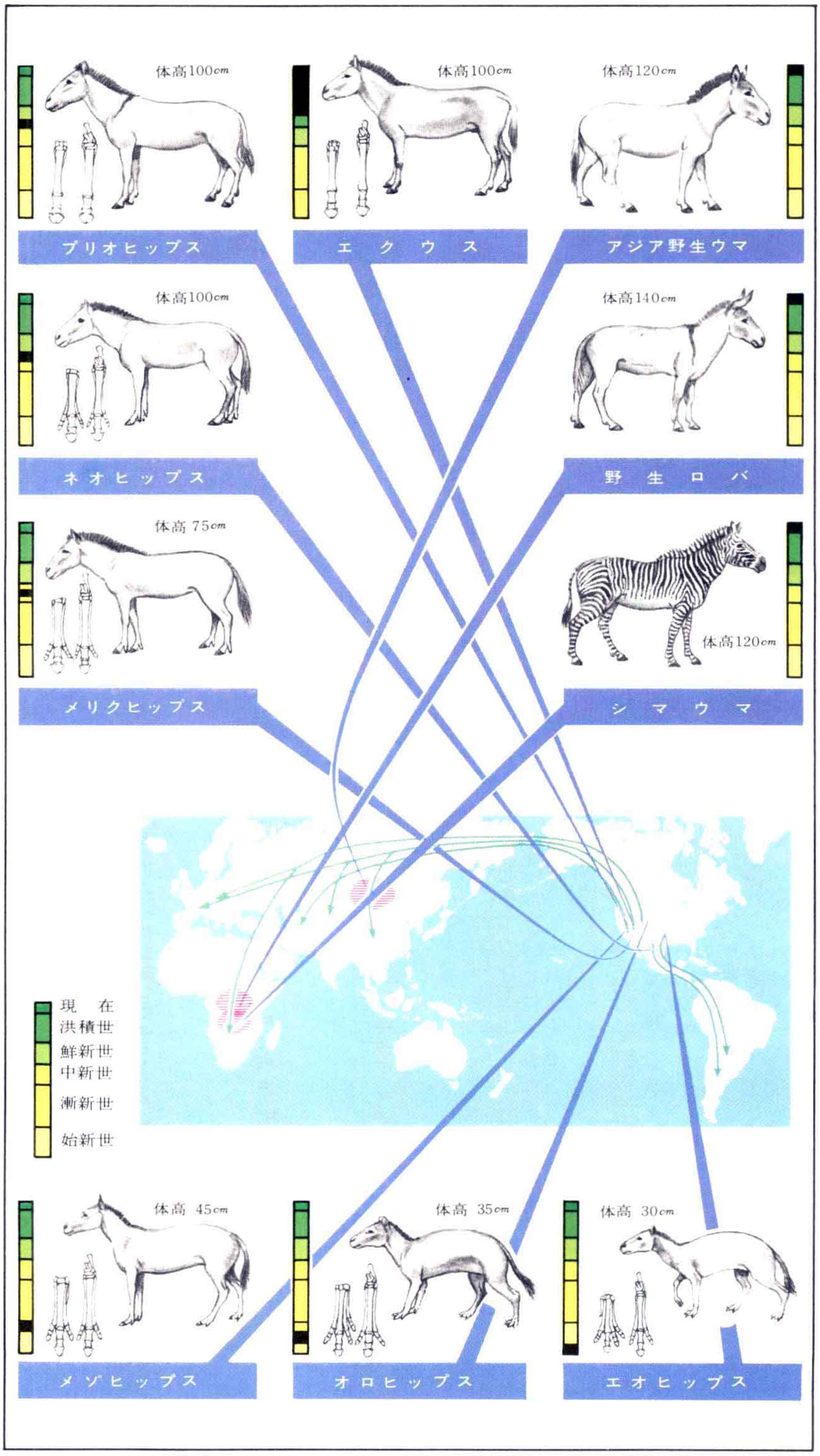
うべたんでん　**【宇部炭田】**　山口県の宇部市・小野田市の沿岸から海底に延び，埋蔵量約5億t，年間出炭量約100万tであったが，石炭不況のため1967年(昭和42)最後に残った沖の山炭鉱が閉山して，現在は石炭が掘られていない。炭田は大部分が海底下にあり，炭層の厚さは0.6～1.6m程度で炭質は亜レキセイ炭であった。宇部市にはこの石炭を基礎にした化学工業が興っている。

ウペペサンケさん　**【ウペペサンケ山】**　北海道中央部，大雪山国立公園の南東部にある火山。十勝(とかち)川の支流である然別(しかりべつ)川の上流にある然別湖の北の奥にそびえ，標高1,870m。然別火山群の主峰の一。東側は音更(おとふけ)川の谷でくぎられる。

ウポル(島)　[Upolu]　中部太平洋の西南，9島からなる独立国，西サモアの一島。面積1,100km²。島の北岸に首都アピアがある。1722年オランダ人が発見した。山が多く，最高峰バエフェツ山は1,100m。雨量多く，土壌(どじょう)は肥沃(ひよく)で，ゴム・ココヤシ・カカオ・バナナを産する。イギリスの小説家R.L.スチブンソン*は晩年の4年間をこの島で送った。彼の家はバイリマに残っており，墓もバエア山のふもとにある。

うま　**【馬】**　ウマは動物分類学上，脊椎(せきつい)動物門の哺乳(ほにゅう)動物綱にある有胎盤動物の奇蹄(きてい)目のウマ科に属する3ウマ属の一つである。ウマ科にはエクウス-カバールス(ウマ)・エクウス-アッシヌス(ロバ)・エクウス-ヒポチグリス(シマウマ)とがある。ウマはほとんど全部が家畜化された家ウマであり，ロバには野生ロバと家ロ





ウ　マ

バとが共存し，シマウマはもちろん全部野生である。

〔進化〕ウマは他の家畜に比べ，その進化の過程がかなり明らかにされている。ウマの進化は，主として北アメリカで系統的に発見された多くの化石によって知られ，その化石は，主として第三紀層に発見されたもので，始新世・漸新世・中新世・鮮新世にわたっている。

始新世の下層に発見されたエオヒップスが最も古い先祖とされており，その大きさは20〜50cmと一定していないが，ほぼキツネ大で，頭とくびが短く，背がひどく湾曲し，あしは短く，前肢(ぜんし)には４本の指，後肢には３本の指がある。おそらく，当時の地表

面の柔らかい平原や森林の中を歩くのに便利であったのだろう。次に始新世の中層からオロヒップスが，またその上層からエピヒップスが発見されたが，エオヒップスに比較してやや体が大きくなったほかは変化がない。次に漸新世の地層に発見されたメゾヒップスは，小さいヒツジぐらいの大きさで，前肢の第4指が退化して前後肢とも3本の指となって第3指(中指)がやや長くなり，ひづめが見られる。くびとあしがやや長くなり，背の湾曲度もしだいに少なくなっている。中新世の上層からは森林中に生息し，木の芽を好んで食べたヒポヒップスと，野草を好食した草原型のメリクヒップスの二つの型のものが発見された。なお，中新世上層のプロトヒップスとネオヒップスは，さらにいっそうウマに似て頭とくびが伸び，四肢も長く，第3指が特に長くなり，軟地歩行のときだけ第2・第4指が接着するほどで，体高が1 m近くなった。指が1本になったプリオヒップスは鮮新世の前期に現われ，体高が1 m以上となり，体形も現在のウマに近くなった。鮮新世の後期にウマ，すなわちエクウスが現われたのである。このころから洪積世(こうせきせい)にはいり，ベーリング海峡が陸続きであったころ，エクウスはアジア大陸に移動し，しだいにユーラシア大陸・アフリカ大陸に延び広がり，盛んに分化して現代のウマ・ロバ・シマウマなどの祖先になった。一方，アメリカのエクウスはおそらく同期末に絶滅したものと考えられている。洪積期末から沖積(ちゅうせき)期初めにかけて，エクウスはアジア北部からヨーロッパ全土に広く生息し，その地方の気候風土によって特徴づけられ，現代のウマの直接の祖先である野生ウマとなったのである。野生ウマが人にならされて家畜化し，いわゆる家ウマになったのであるが，この野生ウマは草原ウマ型・山岳ウマ型・森林ウマ型の3型に大別されている。現存するものは，1879年に中央アジアでロシアの旅行者プルツェワルスキーによって発見された，モンゴル草原ウマのプルツェワルスキーウマがあるが，ヨーロッパの動物園などに天然記念物として保存飼育されているにすぎない。その他のものは狩猟の対象となって絶滅したものや，現在の家ウマの祖先となったものであるが，そのつながりは明らかではない。

日本では，縄文(じょうもん)後期ごろから弥生(やよい)時代にかけ華南沿岸からはいった小形ウマと，弥生時代から古墳期にかけて朝鮮半島から移入された高原ウマの血液を多分に受けた中形ウマに発したものと考えられている。

〔形態〕ウマは中指1本で立って，指端には一つのひづめをもち，疾走に適している。くびは長く，まえがみ・たてがみがあり，尾は先まで長い毛でおおわれる。歯は草食に適した臼歯(きゅうし)が発達している。草食動物ではあるが，ウシなどの反芻(はんすう)動物が複胃(ウシは四つ)をもつのに対して単胃である。腸は長く，全長25mに達する。繁殖年限はだいたい3～20歳，妊娠期間は平均335日。双生子はほとんどなく1腹1子で，子ウマは生後まもなく立ち上がり，4～5時間で歩く。また5～6か月で離乳し，3歳で成馬となる。寿命は約25年。性質は温順であるが神経質で驚きやすい。

〔歩き方〕歩き方に，常歩(なみあし)・速歩・駈歩(かけあし)の別がある。常歩はあしの離地・遊進・着地が4節で一定の順序で起こる。蹄音は四つ聞こえる。たとえば，右前肢・左後肢・左前肢・右後肢の順に離地し，右前肢・左後肢・左前肢・右後肢の順に着地する。速歩は左右対角の前後肢が同時に離地し着地する2節の運歩となり，蹄音は2音となる。駈歩は左手前の駈歩と右手前の駈歩の別があり，左駈歩は右後肢が着地すると，次いで右前肢と左前肢がほぼ同時に着地する。次に右後肢が離地し，左前肢が着地し，続いて右前肢と左後肢がほぼ同時に離地し，最後に左前肢が地面をけってからだが浮揚する3節の運動で，3蹄音が聞こえる。右駈歩はその逆である。

〔毛色〕ウマの毛色は次のようになっている。鹿毛(かげ)は体全体をおおう被毛色は茶かっ色で，長毛(尾毛・まえがみ・たてがみ・距毛)は黒毛であるほか，肢端部も黒色である。黒鹿毛は被毛・長毛ともに黒色の濃度が濃く，眼周囲・口辺・腋間(えきかん)・下腹部が帯かっ色を呈する。栗毛(くりげ)は被毛色は帯黄かっ色で，長毛が同色か，その色をおびた白色であるものである。青毛は被毛・長毛ともに黒毛のものである。葦毛(あしげ)は原毛色は栗毛・鹿毛・青毛であるが，年齢の進むにつれて白色の度合いを増すものである。粕毛(かすげ)は頭部・四肢の下部および長毛は原毛色であるが，体全体に白色毛を混ずるものである。月毛は皮膚の色が薄く，黄白色を呈する白色毛のウマである。

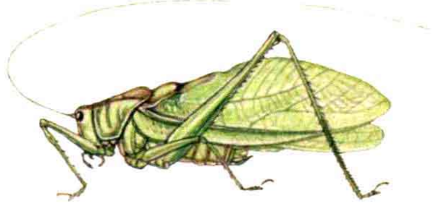
〔品種〕ウマは，その使役の目的，役利用の能力，外貌(がいぼう)・体格などから，いろいろに分類される。骨格によって東洋種と西洋種に分類され，東洋種は骨格が小さく，頭骨は幅広く，臼歯も幅広い。西洋種はこれに反する。代表的品種は，東洋種はアラブ種で，主として東洋に原産するのに対し，西洋種はベルギーのブラバンソン種で，ヨーロッパの低湿肥沃地(ひよくち)の産である。東洋種に相当するものを南方種，西洋種に相当するものを北方種とよぶこともある。軽種・重種の二つにも分けるが，これは体格・運動・性質などから分けたものでおおよそ上の分類に相当する。また，温血種と冷血種の区分があり，さらに，東洋種を短頭種，西洋種を長頭種とする分け方もある。なお，血統の純粋なものを純血種といい，改良のため他品種との系統外交配をなされたものを半血種といっている。用役や歩様によって乗馬・輓馬(ばんば)・駄馬(だば)といい，また駈歩馬・速歩馬・常歩馬に分けることがある。

わが国では軽種・重種・中間種・在来種の四つに分けている。軽種・重種は品種の名そのままを用い，中間種は外国でいう半血種で，両者に含まれない改良雑種である。中間種は軽種系・重種系によって，軽半血種・中半血種・重半血種に分かれている。在来種は日本の土着のウマで外国種の血液を混じないものをいい，その数は少ない。代表的なものは北海道和種・木曽(きそ)ウマ・御崎ウマ(土井ウマ)・吐噶喇(とから)ウマなどである。品種数は世界で数十種類に達するが，わが国と関係の深いものは次のとおりである。①アラブ種：純血種・軽種・乗馬。アラビア半島中心部の砂漠(さばく)が原産地で，遊牧民ベドウィンによって飼われ，同系統のものはシリア・メソポタミア・ペルシア・北アフリカ・インド・トルコなどに生産される。体高は148～150cmで均整のとれた優美な体形を示し，運動は軽快で，耐久性に富んでいる。性質は温順で，体質的にそまつな飼料や管理にも耐える。頭・顔はまっすぐか凹湾(おうわん)しており，くびは高く背腰は短く，じょうぶである。尾は高く付着し，尾離れがよく，運動中は高く保持して美しい。毛色は葦毛・鹿毛・栗毛が多く青毛は少ない。②サラブレッド種：純血種・軽種・競走馬・乗馬。原産地はイギリス。イギリスの在来種と東洋種特にアラブ種とその系統のウマとの交配によって改良された。王室や貴族たちの競馬愛好心につちかわれ，人為の最善を尽くして，競走能力を目標とし，近親交配と異系交配の度合いよろしきを得，競馬の隆盛，血統登録の厳正施行に伴って成立したものである。高い気品と競走に適した体格・体形・資質を兼ね備えたもので，体高は160～165cm，胸が深く，肩・しりの長い筋腱(きんけん)の発達のよいウマである。また，遺伝力が強く，多くの半血種の改良に役だっている。③アングロ-アラブ種：純血種・軽種・乗馬。原産地はおもにフランスの西南部の南北ピレネーと北ガロンヌである。名のとおり英純血種(サラブレッド種)とアラブ種との交配によって生産され，両種の特徴である快速性と強健性と持久力とを合わせもったものである。体高はサラブレッド種よりやや小さく，アラブ種よりも大きい。④ギドラン種：純血種・軽種・乗馬。ハンガリーのメソヒーギス牧場原産のアングロ-アラブ種である。⑤オーロフ-ロストプチン種：純血種・軽種・乗馬。帝政ロシア原産のアングロ-アラブ種で，日本では④とともにアングロ-アラブ種として取り扱われている。⑥ハクニー種：中間種・軽輓馬。イギリスのノーフォーク州の原産で，一名ノーフォーク-トロッターという。乗馬として改良され，のちに軽輓馬として改良された速歩能力の高い馬で，特に各関節を十分に曲げて歩く

高揚歩様をよくする。日本では中間種の改良原種として用いられた。⑦クリーブランド-ベイ種：中間種・輓馬。イギリスのクリーブランド地方が原産地。大形の軽輓馬で，毛色が鹿毛に統一されており，儀仗(ぎじょう)用馬車の輓馬に適している。⑧アングロ-ノルマン種：中間種・乗馬または輓馬。フランスの北西部ノルマンジー地方の原産。この地方に古くからいたノルマン種に，サラブレッド種やハクニー種を交配して改良されたものである。四つの体形のものがあり，乗馬型・大形軽輓馬型・小格農用馬型・速歩競走馬型(フランス速歩馬)である。日本では中間種の改良原種として最も多く用い，特に乗馬型と小格農用馬型のものがおもなものである。⑨アメリカン-トロッター種：中間種・軽輓馬・速歩競走馬。北アメリカ東海岸およびカリフォルニア州などが原産地。速歩競走馬で主として速歩能力に重点をおいて改良された。⑩ブルトン種：中間種・重輓馬。フランスのブルターニュ半島の原産。戦後日本に輸入されたものであるが，その改良には重種が関与している。日本では農馬・重輓馬の改良に用いられる。体形は重格であるが歩様の軽いのが特徴である。⑪ペルシュロン種：重種・重輓馬。フランスのル-ペルシュ地方の原産。大形ペルシュロンと小形ペルシュロンに分けられる。大形は体高が160～170cm，体重600～700kgで，鈍重な重輓馬で青毛が多い。小形のものは体高150～160cmで体重が500～550kgで鹿毛が多い。わが国にも多く輸入され，重輓馬の改良に用いられて成績をあげている。

〔利用〕農業・運搬のための役に利用されるほか，生産物の利用がある。皮革はくつ・かばん・ベルトなどに用いられる。また，太鼓に張る皮としても用いられる。尾毛やたてがみは洋服のしんや楽器の弦にされる。骨ははし・くしなどの細工物の材料となるほか，骨粉として肥料・飼料にされ，ひづめはくしやべっこうの代用品として細工物に用いられる。血液は粉末として接着剤・肥料などに用いられ，排泄物(はいせつぶつ)はうまや肥として農家では有用な自給肥料である。内臓からはいろいろの酵素やホルモンが得られる。また，競馬や運動競技・乗用に用いることがしだいに盛んとなっている。また，医学的には血清療法に用いる免疫血清を得る重要な動物である。妊娠しているウマの尿からは女性ホルモン(卵胞ホルモン)を製造する。脳下垂体から脳下垂体前葉ホルモン，副腎(ふくじん)からアドレナリン・副腎皮質ホルモンを製造する。また馬肉も〈さくら肉〉として食され，その需要が増しているが，なんといってもウマは役用のものであって，本来の用途ではない。〔岡部利雄〕

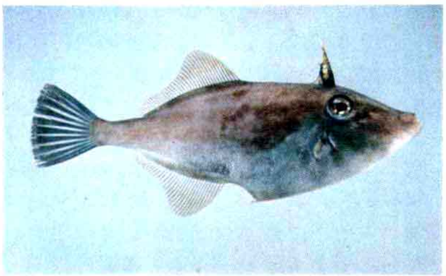
ウマイヤちょう　【ウマイヤ朝】(661～750)　ウマイヤ家の建てたイスラム帝国。正統カリフの最後のアリーが暗殺されると，シリアの総督のムアウィア*はダマスカスによって新政権を建てた。有力武将を任じて地方統治や領土拡大にあて，東はアム川以北のマーワラー・アンナフル，西はイベリア半島に及ぶイスラムの最大版図を現出した。5代めのアブドゥラ-マリクは中興の英主で，公用語をアラビア語に統一し，イスラム新貨幣を発行するなど，イスラム文化の形成に努力した。しかし，アラブ至上主義の強いウマイヤ朝は，イスラム教団の分裂を招き，ハーリジ派やシーア派などが生まれた。また，被征服イスラム教徒(マワリー)の強い反感を招き，それらの勢力を利用したアッバス家によって政権を奪われた。ウマイヤ朝の滅亡後，一族がイベリア半島で後ウマイヤ朝(756～1031)を建てた。〔小谷仲男〕



ウマオイムシ



馬　印《長篠合戦図屛風(部分)》　徳川黎明会蔵



ウマヅラハギ

うまおいむし　【馬追虫】　こん虫類・直翅(ちょくし)目・キリギリス科。ハタオリあるいは単にウマオイともいうが，俗にその鳴き声からスイッチョとよばれ，キリギリスやクツワムシなどとともに古くから親しまれている。翅端までの体長30～35mm，淡緑色で，前胸背は淡かっ色。日本各地に普通な種で，人里近い野原などに多く，成虫は7～8月ごろ出現する。鳴き声は〈スイーッチョン〉。

うまかもしか　⇨ニルガイ

うまごやし　【馬肥し・苜蓿】　双子葉植物・マメ科。ヨーロッパ南部原産の越年生草本。日本には江戸時代にはいり，牧草とされたが，いまは野生化して海岸地帯に多く帰化している。茎は下部で枝分かれして地にはい，上部は直立する。葉は三つの丸い小葉からなる。春に葉のつけ根から茎を出し，黄色の蝶形花(ちょうけいか)を数個つける。豆果はうずまき状で，表面は網目模様があり，縁にとげをもつ。同じ仲間のコウマゴヤシ・コメツブウマゴヤシとともに牧草・緑肥となる。〔小清水義隆〕

うまじるし　【馬印】　戦闘方法が集団的になった戦国時代に，大将の位置を味方に明示するための標識としてつくられた武具。馬標とも書き，また纏(まとい)ともいう。馬印は総大将や侍大将の馬側に立てるから，また，纏は一軍を統率する意味からの称。天文(1532～1554)のころ北条氏康(ほうじょううじやす)が持ったとも，また永禄(えいろく)～元亀(げんき)(1558～1572)に始まるともいわれる。総大将のものは大馬印，侍大将以下のものは小馬印といった。武田(たけだ)信玄の白絹に黒の割菱(わりびし)，織田信長(のぶなが)の黄絹に永楽銭，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の金の切割(きりさき)に千成瓢箪(せんなりびょうたん)などが有名。《信長記》には信長の部将の馬印として，柴田(しばた)勝家の金の五幣，滝川一益(かずます)の金の三つだんご，明智光秀(あけちみつひで)の紙垂竹刀(しでしない)などをあげている。また徳川家康(いえやす)の馬印は，7本骨の金扇に日の丸であった。これら大小の馬印とも，随従の小者に持たせるが，大将に近接する役目だけに，特に屈強で俊敏な者が選ばれた。ふだん馬印は請け筒に差しているが，走るときは柄立て皮で腰のあたりにささえる。しかし，敵が近づくと，馬印持ちも槍(やり)を取って戦わねばならぬなど，江戸時代に成立した《雑兵(ぞうひょう)物語》にその要領が書かれている。〔稲垣史生〕

うまづらはぎ　【馬面剝】　硬骨魚類・カワハギ科。40cmほどになる海産魚。引き延ばした小判形で，肉の厚みは薄い。全身淡かっ色の地に不明瞭(ふめいりょう)な暗色斑(あんしょくはん)を散らすが，死ぬと全体がくすんだ青灰色になる。各ひれが，緑をおびた藍(あい)色で目だつ。北海道以南にすむ。その名のように目から口までの距離が長い。カワハギに似た味でかなり美味だが，ときに苦みのあることがある。皮をむいて料理する。

うまに　【旨煮】　甘煮とも書く。魚・鳥・野菜(ゴボウ・ウド・たけのこ・シイタケ・サトイモ・ヤツガシラ・ニンジンをゆでておく)などの2種以上を取り合わせて，煮出しじる・酒・みりん・砂糖などで煮た料理。しょうゆは2～3回に分けて加え，なべを

ときどきゆり動かしながら，煮じるがなくなるまで十分煮上げててりをつける。味は甘辛めにする。野菜は数種取り合わせていっしょに煮る場合と，別々に煮て盛り合わせる場合とある。さめても美味なので，重詰め・折り詰めなどに用いる。〔塩川ふみ〕

うまのあしがた【馬の脚形・毛莨】双子葉植物・キンポウゲ科の多年草。ウマノアシガタのうち八重咲きのものをキンポウゲというが，現在では一重のものをもいう。➔キンポウゲ

うまのおばち【馬尾蜂】こん虫類・膜翅(まくし)目・コマユバチ科。体長20mm内外，黄赤色ないし黄赤かっ色。前翅に3個，後翅に1個の黒かっ色紋があり，前後翅ともに外縁部に幅広いかっ色帯がある。本種の雌の産卵管は著しく長く150mmにも達し，これを樹幹中に差し込み，カミキリムシ類の幼虫に産卵する。幼虫はカミキリムシの幼虫に寄生し，秋に樹幹内で羽化し，そのまま越冬して翌春外界に脱出する。日本特産種で，本州・四国・九州に分布する。

うまのすずくさ【馬の鈴草】双子葉植物・ウマノスズクサ科。原野ややぶにはえるつる性の多年草。茎は1～5mで細いが強く，葉とともに一種の臭みがある。葉は5cmぐらいの長いハート形。夏，葉のつけ根に緑紫色の花をつける。花弁はなく，がくはらっぱ状となり，基部が球状となっておしべやめしべをおおう。根を土青木香，果実を馬兜鈴(ばとうれい)といい，虫毒・蛇毒(じゃどく)の解毒薬とする。しかし，有毒植物なので注意を要する。〔小清水義隆〕

うまのり【馬乗り】和・洋服のすそに入れる切り開きをいう。乗馬のような動作をするときには，衣服の胴からすそにかけて大きな形の変化が必要なので，これに適合するようにすそを切り開いたことからこの名がある。洋服の場合はベンツ*という。いずれも背縫い・脇(わき)縫い目線を利用してあきをつくるが，洋服は見返し・持ち出しのある重ねあき，和服は突き合わせのあきにする。

うまばえ【馬蠅】こん虫類・膜翅(まくし)目・ウマバエ科。体長12～14mm，体に赤かっ色の毛が密にはえている。世界共通種で，幼虫はウマ・ロバ・ラバ・イヌなどの胃内に寄生し，老熟すると排泄物(はいせつぶつ)とともに体外に出てさなぎになる。人の皮下に寄生しているものが発見されたこともある。

うまびる【馬蛭】環形動物・ヒル類。長さ15cmほどの大形種。体は扁平(へんぺい)で長い紡錘形，背面はオリーブ色で縦に黒っぽい5本の線が走る。日本全土の水田・池などにすむが，チスイビル*とは異なり，人の血は吸わない。

うまや【厩】馬屋とも書く。ウマを飼育する小屋あるいはへや。東北地方では母屋(おもや)とむね続きの曲屋*の中にあるが，西南日本では独立した小屋で，ウマは農耕用・運搬用の貴重な労力であったから，母屋の正戸口や土間の入り口に建てられた。正月には悪魔を追い払う厩の祭りが行なわれ，また河童*(かっぱ)がウマを盗むのを防ぐためにサルの絵札などを飾る俗信がある。

うまやどのおうじ【厩戸皇子】⇨聖徳(しょうとく)太子

ウマル［Umar b.al-khattāb］（591？～644）第2代のカリフ*。在位634～644年。初期イスラム教団の有能な人物で，マホメット*が急死したとき教団をまとめ，アブー-バクルを第1代のカリフに推挙して後継者問題を解決した。みずからカリフになると西方に征服戦を拡大し，東方では642年ネハーバンドの戦い*でササン朝ペルシア軍を破り，これを併合した。国内でも多くの基本的な制度を確立して，サラセン帝国の基礎をつくった。

ウマル-ハイヤーム［Umar Khaiyām］（1042？～1123）イランの科学者・詩人。本名ウマル-イブン-イブラヒーム-ネイシャプーリ。ハイヤームは父の家業〈天幕づくり〉に由来する通称。数学・天文・医学・哲学などに通じ，数学・天文暦法に関する著書により科学者として知られていたが，哲学的な叙情詩集《ルバイヤート*》により詩人としての名声を博している。



ウマノスズクサ

うみ【海】⇨海洋

うみ【膿】膿(のう)，膿汁(のうじゅう)ともいう。炎症(化膿性炎)のときに生じる黄色ないし黄緑色の液体。液体成分を膿清，細胞成分を膿球という。膿清には血漿(けっしょう)成分のほか種々の酵素・脂肪・コレステリンなどを含み，膿球には主として中性多核白血球，組織細胞の崩壊したもの，細菌などが含まれている。➔化膿

うみ【海】ドビュッシー*作曲の管弦楽曲。1905年10月5日パリで初演。〈三つの交響的描写〉という一種の標題音楽で，①海の夜明けから昼まで，②波のたわむれ，③風と海との対話の3部からなる。《ペレアスとメリザンド》(1902年初演)以後のドビュッシーの新しい方向を示した大作で，1903～1905年にかけて作曲が進められ，初演の年の3月5日に完成された。大管弦楽を駆使して海の1日をあざやかに描いたものである。

うみあめんぼ【海水黽】こん虫類・半翅(はんし)目・アメンボ科に属し，おもに海岸の岩礁地帯に生活する小形のアメンボ*の一群。腹部が小さく，中脚と後脚がよく発達し，大部分の種類では翅(はね)がない。このうちの一種であるウミアメンボは，本州中部以南の太平洋岸に生活し，体長4.5～5.5mm，灰色をおびた黒色。その他，日本には体長1.5～2mmのケシウミアメンボ，3mm内外のコガタウミアメンボなど数種類が産する。

うみイグアナ【海イグアナ】爬虫(はちゅう)類イグアナ科。ウミトカゲともいう。エクアドル領ガラパゴス島の固有種で，体長1.4m。海岸の岩礁地帯にすみ，引き潮時に海にもぐって海藻(かいそう)を食べる。岩のすきまの砂地に，6～8個を産卵する。数が減少し，政府や国際機関の保護下にある。

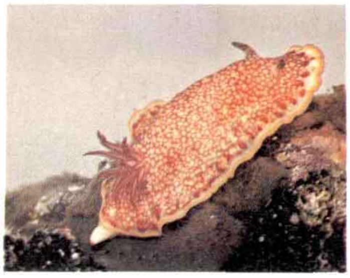
うみうし【海牛】軟体動物・腹足綱・後鰓(こうさい)亜綱に属する動物のうち，殻(から)がまったく退化している群と，殻の退化が進んでほとんど軟体内に隠れているアメフラシ*類との総称。狭義にはそのうちの裸鰓目に属する一群をさす。体は長楕円(ちょうだえん)形またはナメクジ形。触角，ふさ状の突起，花弁状のえらなどが体表に現われて



シラヒメウミウシ



ムカデメリベ



サラサウミウシ



イボウミウシ

ウミウシ

いる場合も多い。アメフラシ類の体色はじみなものが多いが，狭義のウミウシ類にははでな色彩のものが多い。バイカル湖に唯一の淡水種があるほかはすべて海産。浅い岸べに多いが，大洋を浮遊するものや，深海底にすむものもある。泳ぐ能力がなく，海底や海藻(かいそう)の表面をはうものが多いが，ムカデメリベ・ミカドウミウシ・ウミフクロウなどかなり巧みに泳げるものもある。背が銀白，腹があざやかな紺色のアオミノウミウシは，つねに腹面を上にして大洋を浮遊する。アメフラシ類には30cmに及ぶものもあるが，多くのウミウシは数センチメートル。寿命は1年といわれる。食用その他の利用価値はない。〔菅野　徹〕

うみうちわ【海団扇】腔腸(こうちょう)動物・花虫綱・トゲヤギ科。群体をつくり，一平面上に扇状に成長する。不規則に分枝した枝が，たびたび交差・癒着(ゆちゃく)して網状になり，全体の高さ1mに及ぶ。紀伊(きい)半島以南の深海底にすむ。

うみうちわ【海団扇】褐藻(かっそう)植物・アミジグサ科。本州以南の低潮線近くの潮だまりに群生する海藻。体は厚い革質のうちわ形で，同心円様条があり，高さ20cmほど。雌雄異株で，受精卵は四分胞子体に，四分胞子は配偶体に成長する。人に利用されていない。

うみえら【海鰓】腔腸(こうちょう)動物・花虫綱・ウミエラ科。体は長さ10～20cm，中央の軸部の左右に，20～40枚の葉状片が相称に並び，下方の短い柄を海底の砂泥(さでい)に突き立てている。各葉状片の外縁に，50～100個のポリプが1列に並んでついている。色は薄い肉色であることが多く，魚類のえらに似た外観を呈する。わが国の沿岸に普通にみられる。

うみがめ【海亀】海に生息するカメの総称。ウミガメ科とオサガメ科とからなる。先祖は白亜紀に活動した体長3.3mのアルケロンのような大形で，外部形態はオサガメとあまり変わらなかった。四肢(しし)は櫂(かい)状またはひれ状で，指は明らかでない。頸部(けいぶ)は曲がるが，完全に甲内に引き込むことはできない。全世界の熱帯・亜熱帯の海に分布し，温帯地方の海岸にも産卵のため上陸する。餌場(えさば)と産卵場を移動し，ときには陸に上がって甲を干す。日本にはアオウミガメ*・アカウミガメ*・タイマイ*などがみられる。〔松井孝爾〕

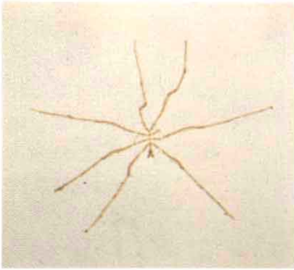
うみがらす【海鴉・海烏】鳥類・ウミスズメ科。中形の海鳥。胸腹部は白，上背面は黒かっ色，くちばしは黒色で細長くとがっている。北海道の天売(てうり)島・根室付近などのがけや岩礁上で集団繁殖する。鳴き声は太く，〈オロロン〉と聞こえるので，土地の人はオロロンチョウとよんでいる。冬には少数が本州北部まで南下する。➜ウミスズメ



ウミウチワ



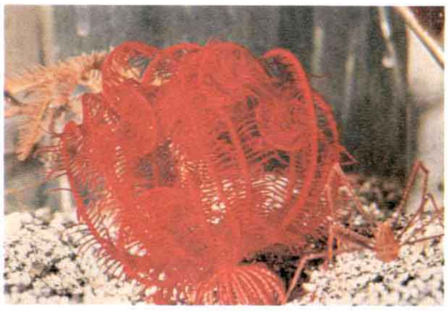
ウミガラス



ウミグモ



ウミケムシ



ウミシダ

うみからまつ【海唐松】腔腸(こうちょう)動物・花虫類・ウミカラマツ科。ツノサンゴ・クロサンゴ・マヨケサンゴなどともいう。群体は枝の細かい樹状となり，高さ2～3mに達し，全体に黒っぽい。ポリプが非常に小さく，植物的な外観を呈する。骨軸はいろいろな細工物に使われる。本州中部以南の浅海底に普通にみられる。

うみぐも【海蜘蛛】節足動物・ウミグモ綱の動物の総称。陸上のクモ類に似ているが，それとはやや離れて独立したグループである。クモは頭胸部と腹部の境がくびれてはっきり分かれているが，ウミグモにはこのようなくびれはなく，タケの節をつないだように頭と胸(ふつう4節からなる)と腹がつながっているなど，体のしくみがクモとは違っている。すべて海産で，浅い所の石の下や海藻(かいそう)に付着する種類が多いが，中には深海にすむものもある。

うみけむし【海毛虫】環形動物・多毛類・ウミケムシ科。毛虫にそっくりな姿の海産小動物で，数センチメートルの細長い体一面に剛毛がはえ，紫色と茶色の交じった毒々しい斑紋(はんもん)がある。本州中部以南の海岸に普通で，インド洋・オーストラリアまで分布する。

うみさち・やまさち【海幸・山幸】日本神話の兄弟神，および説話の一。兄のホデリノミコト(海幸彦)は海のさかなを取り，弟のアマツヒタカヒコホホデミノミコト(山幸彦)は山の獣を取った。あるとき，互いにさち(獲物を取る道具)を取り替えて用いたところ，ヒコホホデミノミコトはつり針を海に失い，これを捜すために海宮に遊幸し，海神から失ったつり針と塩盈珠(しおみつたま)・塩乾珠(しおふるたま)を与えられた。帰還してつり針を兄に返し，そして二つの珠を使って海を制し，兄を臣従させた。なお，隼人(はやと)族は兄のホデリノミコトの子孫と伝えられ，天子即位の際の大嘗(だいじょう)祭*のとき隼人舞*を舞ったのは，久米歌*(くめうた)・久米舞が勝者の歌舞であるのに対し，敗者の歌舞を代表したためといわれる。〔宮井義雄〕

うみさぼてん【海仙人掌】腔腸(こうちょう)動物・花虫綱・ウミエラ目・ウミサボテン科。群体はこん棒状，灰白ないし淡かっ色で，多数の大小のポリプがつき，短い柄で海底の砂に突き刺さっている。群体は昼間は15cmほど，夜になると50cmほどに伸びる。これは，体液の水素イオン濃度*の違いによるためで，酸性では伸び，アルカリ性では縮む。昼間は縮んでポリプが体内にはいってしまうので，呼吸が妨げられ，代謝の結果の炭酸ガスが体内にたまり，体液が酸性に傾く。体液が酸性になるにつれて体は伸びはじめ，ポリプが開いて呼吸が活発化する。その結果，体内の炭酸ガスはどんどん排出され，体液はアルカリ性になり，体は縮みはじめるのである。皮膚には発光細胞があり，刺激を与えると光る。ポリプが十分開くと，ちょうどサボテンのとげのように見える。〔菅野　徹〕

うみじ【産み字】日本の伝統音楽の声楽理論用語。歌詞の1音(子音＋母音)を歌うときに延ばしてメリスマ*的に歌い，休止のあとにもその母音を歌い続けること。

うみしだ【海羊歯】棘皮(きょくひ)動物・海百合(うみゆり)綱・ウミシダ目の総称。五角

形の盤から，放射状に長い腕が斜め上方に伸び，下方に向かっては内側にかぎ状に曲がるつる状の枝(巻き枝という)が輪生する。口も肛門(こうもん)も，盤の上面に開いている。巻き枝で海底の石などをしっかりつかんで静止していると，枝を広げたシダに似ているが，ときどき腕をあおるようにして泳ぐ。ウミシダ類には，腕の長さが10～20cmのものが多く，日本近海の浅い所にはニッポンウミシダ(コマチともいう)・オオウミシダ・アヤウミシダなど比較的じみな色合いのものがいるが，数十メートルの海底にはあざやかな赤や黄色にいろどられた種類も多い。ニッポンウミシダは，10月中旬の1～2日の午後3～4時に，1年にただ1回産卵することが知られている。〔菅野　徹〕

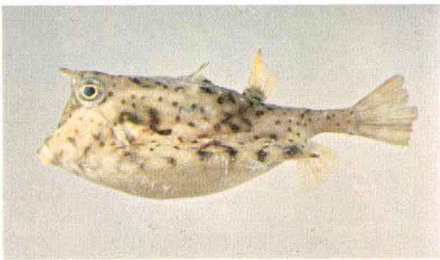
うみすずめ　【海雀】 鳥類・ウミスズメ科。ウミスズメ科の鳥はかつてはウミスズメ目であったが，最近の研究によって内部形態が似ていることからチドリ目にまとめられた。世界じゅうで22種，いずれも潜水して採食し，南半球にのみ生息するペンギン類に相当する北半球特産の海鳥である。わが国には14種が生息する。沿岸から沖合いまで広く分布し，魚・イカなどを主食とするものや，プランクトンを主食とするものがある。和名のウミスズメはこの中の一種であり，だいたいウズラぐらいの大きさで，冬季には九州沿岸海域まで南下する。〔安部直哉〕

うみすずめ　【海雀】 硬骨魚類・ハコフグ科。30cmほどになる海産魚。全身をかたい骨質の箱に包まれ，動くのは口と尾とひれだけである。目の先に左右1対のかたい角が出ている。かっ色の体に亀甲(きっこう)模様がある。幼魚の泳ぐ姿はたいへんかわいらしく，ややスズメに似る。本州中部以南にすむ。

うみぞうめん　【海素麺】 軟体動物・腹足綱に属するアメフラシ*の卵塊の俗称。色は黄色または桃色で，ゆでたそうめんを思わせるのでこの名がついた。卵塊は寒天状の長いひもで，中に卵がたくさんはいっている。3～7月，本州沿岸の浅い所に産みつけられる。

うみぞうめん　【海素麺】 紅藻(こうそう)植物・ベニモズク科。日本各地の高潮線近くの岩上に生ずる海藻。太さ2mm，高さ30cmほどに達するひも状で，あまり枝分かれしない。濃紫色で粘性がある。受精後単相の果胞子を生じ，無性生殖はしない。塩蔵のものまたは灰にまぶしてかわかしたものを水にもどして，しるの実，つまなどにする。

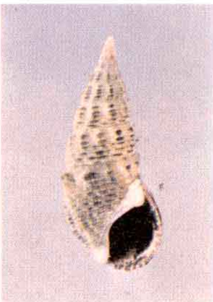
うみたなご　【海鰱】 硬骨魚類・ウミタナゴ科。25cmほどになる海産魚。淡水のタナゴ*とよく似た姿だが縁は遠い。うろこは普通大。体色には淡緑・赤銅・紫黒色などあるが，尾柄上面に小白点があるほかには特定の模様はない。北海道南部以南の沿



ウミスズメ



ウミタナゴ



ウミニナ



ウミネコ

岸に分布し，磯(いそ)づりの対象として人気がある。美味だが，町なかの魚屋にはめったに現われない。ごく近縁のものに，オキタナゴがある。ウミタナゴよりほっそりして，赤かっ色，15cmほどになる。本州中部以南にすみ，地引き網などにはいるが，漁獲量は多くない。両種とも胎生魚で，産まれた子はすぐ泳ぎだす。〔菅野　徹〕

うみだぬき　⇨ビーバー

うみたる　【海樽】 原索動物・尾索綱・サルパ亜綱・ウミタル科。たる状の体に8本の環状筋が，たがをはめたようについているので，ビヤだるのような外観を呈する。長さ6mm内外。全世界の温暖な海域に分布し，浮遊生活を送る。

うみつばめ　【海燕】 鳥類・ウミツバメ科の総称。この科の鳥はミズナギドリ目に属し，小形の海鳥で，いずれも翼長は20cm以下，世界に24種がある。海上を滑空したり，チョウのようにひらひらと特徴のある飛び方をする。わが国に繁殖するものはコシジロウミツバメ・ヒメクロウミツバメ・クロコシジロウミツバメ・オーストンウミツバメ・クロウミツバメで，土に穴をあけて営巣し，日中は外洋で水面近くの浮遊生物を採食し，日暮れ後に群をなして島に帰り，早朝に沖合いに出ていく。いずれも島で繁殖する。〔安部直哉〕

うみてんぐ　【海天狗】 硬骨魚類・ウミテング科。海産魚で5～6cmのものが多い。全身が骨板でおおわれ，上下に押しつぶされた形で，胸びれが大きく左右にはり出して全体として十字架状を呈する。体はかっ色。千葉県以南にすむ。同じ科に，よく似ているがこれよりもずんぐりしたテングノオトシゴという種類があり，ほぼ同じ分布をしている。両種とも底引き網でまれにとれるが，いずれも，とても魚とは思えぬような奇妙な姿をしている。

うみどり　【海鳥】 〈かいちょう〉ともいう。一生の大部分を海域で生活する鳥類の総称。下記のもの以外にガンカモ科のウミガモ類とよばれるものもおもに海域で生活するが，普通は海鳥類にはいれない。海鳥とよばれるものは，ペンギン科(ペンギン目)，ミズナギドリ科・アホウドリ科・ウミツバメ科・モグリウミツバメ科(ミズナギドリ目)，ペリカン科・ネッタイチョウ科・カツオドリ科・ウ科の一部，グンカンドリ科(ペリカン目)，ヒレアシシギ科・トウゾクカモメ科・カモメ科・アジサシ科・ハサミアジサシ科・ウミスズメ科(チドリ目)。世界じゅうに約280種があり，全鳥類中の3％を占めるにすぎない。四方海に囲まれたわが国では，このうちペンギン科・モグリウミツバメ科・ハサミアジサシ科以外の各科の鳥が生息している。〔安部直哉〕

うみなり　【海鳴り】 海岸から聞こえてくる遠雷のような響き。うねりや波浪がくずれるときに巻き込まれた空気が圧縮され，すきまから逃げ出すときに発する音であるといわれている。海鳴りは，台風などの接近の前兆である。

うみにな　【海蜷】 軟体動物・腹足類・ウミニナ科の巻き貝。細長い円錐(えんすい)形で高さ3cmほど。殻表には石畳状の黒斑(こくはん)帯がある。本州以南の岩底の浅い海岸に普通にみられる。

うみねこ　【海猫】 鳥類・カモメ科の海鳥。船についてきたり，漁村や港で最も普通にみられ，なじみのあるカモメの一種。サハリン(樺太(からふと))・南千島から中国沿岸にかけて分布し，日本沿岸には，北海道の天売(てうり)島，青森県の蕪(かぶ)島，三陸海

岸の小島，島根県の経(ふみ)島など多くの繁殖地がある。成鳥は，上背面は灰色で，尾の先端に黒い太い横帯があり，下面は白色。幼鳥は全体に灰かっ色である。〈ミャオ・ミャオ〉とも聞こえる鳴き声から，ウミネコと名づけられている。➔カモメ〔安部直哉〕

うみのきねんび【海の記念日】7月20日。海運の重要性を認識し，船員や海運関係者の功績に感謝するための，国民的行事の一つである。1941年(昭和16)逓信大臣村田省蔵の提案により閣議で決定され，同年7月20日が第1回となった。7月20日を海の記念日としたのは，1876年(明治9)明治天皇が東北・北海道に行幸されたとき，それまでのしきたりであった軍艦によらず，はじめて汽船〈明治丸〉に乗船し，函館(はこだて)を発して横浜に無事入港した日を記念したものである。明治丸は現在，東京商船大学の学内に保存されている。〔飯島幸人〕

うみのちんもく【海の沈黙】フランスの小説家ベルコール(1902～　)の小説(1942)。フランス人である語り手(私)とナチス-ドイツの青年将校との心理的葛藤(かっとう)を，抑制のきいた文体で描き，個人の間の友情も戦争によって阻害されるという悲劇を訴えている。レジスタンス文学*の代表的作品。

うみのなかみち【海ノ中道】福岡県の博多(はかた)湾を北から囲むように発達した長さ約12kmの砂嘴(さし)の半島で，玄界灘(げんかいなだ)に対する自然の防波堤をなし，先端の志賀島(しかのしま)へは干潮のときには歩いて渡れるが，いまは橋によって結ばれている。先端近くには大岳(44m)・小岳などの古第三紀丘陵がみられる。幅0.5～2kmで，松原が磯伝(いそづた)いに続き，休養地・海水浴場としても利用され，玄海国定公園に指定されている。基部に近い所にあって，第2次世界大戦前は朝鮮・中国・東南アジアとの連絡に使われ，戦後はアメリカ軍が接収していた雁巣(がんのす)飛行場は現在はアメリカ軍の通信基地になっている。〔味沢成吉〕

うみへび【海蛇】

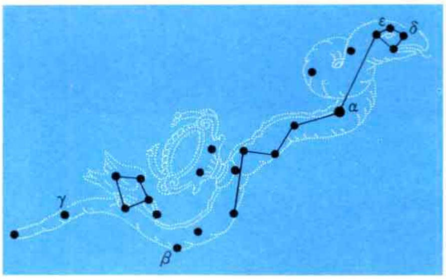
①爬虫(はちゅう)類・ウミヘビ科の総称。世界でウミヘビは50種ほどが知られ，エラブウミヘビ・ヒロオウミヘビ・イイジマウミヘビなどが含まれる。コブラ科から2次的に分化し，海性に適応した形態をもつようになったと考えられている。太平洋・インド洋の熱帯・亜熱帯に分布。分化のあまり進んでいない種類では腹板も大きく卵性であるが，大半の種は外洋性で腹板はきわめて小さく，尾は扁平(へんぺい)で遊泳力が強く，卵胎性。すべて有毒で，強い神経毒をもつ。〔松井孝爾〕

②硬骨魚類・ウナギ目・ウミヘビ科の総称。日本近海にも，ダイナンウミヘビ・モンガラドオシなど，数種が分布する。いずれも外観は近縁のウナギやアナゴよりもむしろヘビに似るが毒はない。

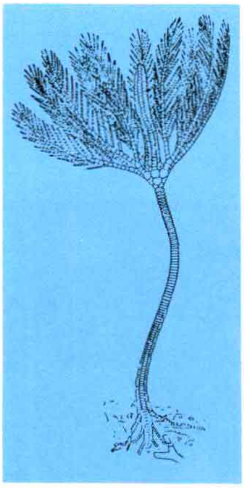
うみへびざ【海蛇座】春の南天黄道の南側に沿って長く連なる星座。こいぬ座の東からてんびん座の西まで全長約100°に及び，天球の約4分の1を取り巻いている。主星アルファルド(赤っぽい2等星)以外に明るい星はない。➔星座



ウミヘビ　(上)ヒロオウミヘビ
(下)エラブウミヘビ



うみへび座



ウミユリ　古生代シルリア紀，イギリスのウエンロック石灰岩産

うみぼうず【海坊主】海上に現われる妖怪*(ようかい)の一。体験談の多くは裸体の坊主ふうだったと語っている。海入道・海法師の名もあり，広島県下では池の面に現われる似たような怪異をも海坊主とよんでいる。一般にトドやイルカ，あるいは入道雲などを見誤ったと考えられるが，民間信仰では海で遭難死した無縁仏の亡霊と信じられている。海の無縁仏が船幽霊*になるという俗信は全国的に分布するが，海坊主と船幽霊を混同して語られる地方もある。大入道姿のひとり，もしくは数人が群れをなして船を追ってきたとか，直接に船を襲ってきたという話もあり，中には〈やあやあ〉という声を発したという話もある。〔今野円助〕

うみほおずき【海酸漿】一般に，巻き貝は多数の卵を卵嚢(らんのう)に収めて産み出すが，そのうちプラスチックス状の強靭(きょうじん)で透明な膜でできている卵嚢を，特にウミホオズキという。真水につけて中の卵を殺し，赤や黄その他の色に染めておもちゃとして売られる。ホオズキのように口に含んで鳴らして遊ぶ。親の巻き貝の種類によって卵嚢の形が異なり，軍配形のグンバイホオズキはテングニシ，トックリホオズキはボウシュウボラ，ナギナタホオズキはアカニシの卵嚢で，どれもごく普通にみられる。ナガニシのサカサホオズキ，コロモガイのチャンチャンホオズキ，ミガキボラのマンジュウホオズキなどもたまに売られている。〔菅野　徹〕

うみほたる【海螢】甲殻(こうかく)類・ウミホタル科。カイミジンコ*に近い種類で，体はカイミジンコと同様，左右2枚の薄い殻(から)に包まれている。淡かっ色。昼間はなぎさ近くの砂中に潜み，夜間，動物の死体などに集まる。青白く発光するのでこの名がある。これは上唇(じょうしん)の一部から発光物質が海水中に分泌され，光を放つのである。わが国の太平洋沿岸に，夏から秋にかけて多数現われ，ヤコウチュウ*とまちがえられるが，本種は殻の長さが3mmほどもあり，肉眼でもその所在が確認できる。

うみやなぎ【海柳】腔腸(こうちょう)動物・花虫類・ウミエラ目・ヤナギウミエラ科。ヤナギウミエラの俗称。深さ10m以上の砂泥(さでい)の海底にすみ，全体細長く，70cmほど。色はかっ色。近縁のオオヤナギウミエラは2mほどになり，ヤナギの枝のように細長い。北洋に広く分布するが，その骨軸を俗に白サンゴと称して，はし・ステッキなどにする。

うみゆり【海百合】棘皮(きょくひ)動物・海百合綱の動物のうち，海底に着生しているものの総称。動物ではあるが，きわめて植物的な外観をしていて，体各部も根とか茎とかよばれる。この仲間は，通常200～5,000mの深海底に根を降ろし，茎を立て，その頂にやや花に似た冠を広げる。冠の中心上面に口と肛門(こうもん)が開く。雌雄異株体で冠の腕に生殖腺(せいしょくせん)がある。シロウミユリ・イボウミユリ・トリノアシ・チヒロウミユリなどがある。なお，海百合綱にはウミシダ*の仲間が含まれる。地質時代に栄え，化石種が多い。〔菅野　徹〕

化石種は，古生代オルドビス紀に始まって石炭紀に著しく発展し，中生代には古生代に比べてはるかに少ない。新生代に至ってはきわめて僅少(きんしょう)である。ウミユリの茎をつくっている節板は，日本の古生

界二畳系や石炭系の石灰岩から豊富に産出する。〔神戸信和〕

うみりんごるい【海林檎類】古生代のカンブリア紀前期から二畳紀に生存し，シルリア紀に特に栄えた，海産の棘皮(きょくひ)動物。シストイドともいう。柄または苞(ほう)の一端で他の物に固着して生活をする。苞は球形・卵形・半球状の非対称で，不定数(13～200ぐらい)の石灰板におおわれている。

ウムラウト ⇨音韻交替

うめ【梅】双子葉植物・バラ科・サクラ属。各地に栽培される落葉高木。中国の四川・湖北省の山間部，台湾の阿里(あり)山，日本では大分・宮崎県に原生が認められている。高さ6～10mになり，分枝が多い。古い枝には小枝の変形したとげがある。葉は互生し，卵形で先のほうが急に細くなってとがり，長さ5～8cm，縁には細かい鋸歯(きょし)がある。早春，前年に出た枝に葉に先だって白から紅色のかおりがよいほとんど無柄の花をつける。花弁・がくともに5個でほとんど水平に開く。めしべは1，おしべは多数で花弁よりも短い。果実は中心部にかたい核をもつ核果で，一方にみぞがあり外側に密生した毛がある。江戸時代には花木として栽培され，紅・白・一重・八重・しだれなど多くの品種がつくられ，一部果実を利用した。明治時代になって梅干し*の需要が増加し，果樹としても栽培されるようになった。近年は，梅酒(→ホームリカー)用としての需要が増加している。中国では，蜜餞(みっせん)(糖果)に加工される。

〔栽培〕ウメは土壌(どじょう)をあまり選ばないが，排水のよい土質に生育がよい。また，一般に自家不結実性のものが多く，花粉の多い品種を混植するとよい。枝は先へ先へと伸びる性質が弱いので，主枝を伸ばすには切りづめをくり返して伸ばしていく。樹冠内部に枝が込みすぎた木は，陽光の透射をよくするために十分に間引き剪定(せんてい)をする。〈桜切るばか，梅切らぬばか〉のたとえもあるように，適度の剪定が必要である。繁殖は，通常は接ぎ木による。アブラムシ*がつくと葉が巻きちぢれ，枝が曲がってあまりよく伸びないので，つぼみや茎の時期にスミチオンなどで消毒する。幹からやにや虫糞(ちゅうふん)を出して害をするコスカシバは，その場所をほじくって駆除する。

〔品種〕古くから栽培されているため多くの品種が知られている。①白加賀：実ウメの代表品種。関東地方に多く，適応性が広い。花は白色で一重。果実は大きく果肉が厚い。自家不結実性。梅干し・梅酒用。②養老：和歌山原産。花は淡紅色で一重。果実は大きく果肉が厚い。梅干し用。黒星病に弱い。③花香実(はなかみ)：後水尾天皇(在位1611～1629年)が花・香・果実ともによいというので，この名を賜わったという古い品種。花は淡紅色で八重。果実は中程度。④



ウ メ
(左上)白加賀
(右上)豊 後
(左下)花香実
(右下)養 老



ウメイロ

玉英：東京青梅(おうめ)原産の新品種。花は微黄白色で一重。花粉は少ないが豊産。果実は大きく梅酒に好適。梅干しにも用いられる。⑤梅郷：東京都青梅市原産の新品種。花粉が多く，授粉樹として好適。果実は豊産で，梅酒用に適する。梅干し兼用。⑥豊後(ぶんご)：ウメとアンズの雑種。耐寒性が大で，開花期はおそい。栽培は容易で各地に行なわれる。花は淡紅色で一重。果実は大きく，肉質しまる。収量は多くない。炭疽病*(たんそびょう)に弱い。東北地方に有利。梅干し用。梅酒用としてもよい。このほか，コウメ*として甲州最小・龍峡(りゅうきょう)小梅などがある。なお，梅林として有名なものに，水戸(みと)市の偕楽園(かいらくえん)，熱海(あたみ)市の熱海梅林，和歌山県日高郡南部(みなべ)村の南部梅林などがある。〔岩垣駛夫〕

うめいろ【梅色】硬骨魚類・フエダイ科。25cmほどになる海産魚。マアジに似た形だが，背のほうが熟したウメの実の色に似ている。南日本以南の深さ100～200mあたりの岩礁底にすむ。かなりの漁獲があり，美味。

うめえだしゃくとりが【梅枝尺取蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シャクガ科。ガの一種で翅(はね)を広げた長さ40～50mm。翅は黒地に白色のやや帯状の斑紋(はんもん)があるが，個体による変異が大きく，まれに翅の大部分が白色で占められるものもみられる。日本全土に分布し，幼虫はウメ・モモ・サクラなど種々の葉を食害する。成虫は6～7月ごろ出現し，昼間飛び回る習性がある。

うめがえ【梅が枝】⇨ひらかな盛衰記

うめがえ【梅が枝】筑紫(つくし)流箏曲(そうきょく)を八橋検校*(けんぎょう)が編曲して伝えた《八橋の十三組》という箏組歌の表組7曲のうちの1曲。《千鳥の曲》ともいう。装飾音の多い曲で，同名の曲が催馬楽(さいばら)・八雲琴音楽にもある。

うめがさそう【梅笠草】双子葉植物・イチヤクソウ科。山のやや乾燥した林の中などにはえる常緑多年草。高さ10～15cm。葉はかたく，縁に鋸歯(きょし)があり，長さ1.5～3cm，3枚くらいずつ集まってつく。6～7月に茎の先に白色の花を下向きに一つつける。

うめがわ【梅川】浄瑠璃(じょうるり)の曲名。遊女梅川と飛脚屋忠兵衛(ちゅうべえ)の情死事件を扱ったもので，原曲は義太夫節(ぎだゆうぶし)《けいせい恋飛脚》の〈新口村(にのくちむら)の段〉であるが，詞章がそのまま他のジャンルにも使われている。常磐津節(ときわずぶし)は《道行情の三度笠(さんどがさ)》，清元は《道行故郷の春雨》，富本は《道行恋飛脚》，新内は《傾城(けいせい)三度笠》として知られている。いずれも義太夫を模した様式をとり，聞かせどころが，梅川の〈くどき〉である点も共通する。〔山口 修〕

うめがわちゅうべえ【梅川忠兵衛】⇨恋飛脚大和往来(こいのたよりやまとおうらい)

うめけむし【梅毛虫】こん虫類・鱗翅(りんし)目・カレハガ科。オビカレハの幼虫名。枝のまたのところに天幕状の巣をつくって群生し，果樹などの葉を食害する。→オビカレハ

うめけんじろう【梅謙次郎】(1860～1910) 法学者。島根県に生まれる。司法省法学校卒業。フランス・ドイツに留学後，1885年(明治18)東京大学教授となり，

民法・商法を講じた。1890年旧民法典論争においては実施断行派として活躍し，のち法典調査委員となり，穂積陳重(のぶしげ)・富井政章(まさあき)とともに民法を起草した。また，岡野敬次郎らと商法の起草にも参与し，晩年は韓国(かんこく)政府のために諸法典起草に従事した。《民法要義》《商法義解》など著書多数がある。〔吉田善明〕

うめざきはるお　**【梅崎春生】**（1915～1965）　小説家。福岡市の生まれ。1932年(昭和７)第五高等学校文科に入学，木下順二を知る。1936年東京大学国文科に進み，同人雑誌《寄港地》に《地図》を発表，東京大学卒業後は東京都教育局・芝浦電気などに勤務。1944年入隊し，海軍暗号兵として九州の基地を転々とし，その体験を生かして《桜島》《日の果て》などを発表，戦後文学の代表作家のひとりとなった。その作風は，現代の人間が生活の奥底にかかえもっている死に対する不安や暗さを描き出すところにあり，長編小説《幻化》は死の直前に発表され，この作家の資質を明瞭(めいりょう)に示している。〔瀬良垣宏明〕

うめしゅ　**【梅酒】**　⇒果実酒

うめず　**【梅酢】**　ウメの実を塩づけにすると出てくるしるで，クエン酸やリンゴ酸が多く含まれ，すっぱいのでこの名がある。梅干しをつくるときのほか，紅しょうがをつくるときなどに用いられる。また，家庭薬として夏季の暑気あたりや下痢止めとして，昔から用いられている。しかし，梅酢ははじめはこのような食用としてではなく，強い酸のなかったころ，金工にとって欠かせぬ重要な役目をもっていた。大正期まで，飾り職人は仏具やみこしの金具を金めっきするとき，梅酢を使っていたという。なお，梅干しは梅酢を取ったあとの廃物利用が発端だという説がある。〔佐藤友太郎〕

うめだ　**【梅田】**　大阪市北区，国鉄大阪駅付近の地域。明治時代以前は水田が広がり，地名は埋田から転じたといわれる。1874年(明治７)に梅田駅(いまの大阪駅)が開設されてから，大阪の北の玄関口として発展し，いまでは東海道本線・大阪環状線のほか，京阪神(けいはんしん)急行神戸(こうべ)線・同京都線・同宝塚(たからづか)線・阪神電鉄本支線・地下鉄・バスが発着する一大ターミナルとなった。大阪駅の乗降客数は国鉄のみで１日平均32.8万人に達し，新宿・池袋・東京・横浜・渋谷についで，全国第６位(1977年度)。駅の周辺部には阪急・阪神の両デパート，第一生命・富国生命・中央郵便局などのビジネス街が立ち並ぶ。駅・デパート・ビル街はすべて地下道で結ばれ，広い地下街には飲食店などが多い。駅の東側には梅田コマスタジアム・ＯＳ劇場・梅田劇場・北野劇場などの劇場・映画館があり，商店・飲食店なども多く，古くから開けた曾根崎(そねざき)とともに，〈キタ〉の盛り場を形成する。駅前から南へ走る御堂筋(みどうすじ)

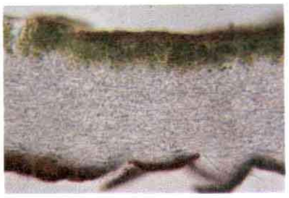


梅　田　大阪の表玄関大阪駅(左手)と駅前広場。正面は阪急デパート。広場の下と周辺の高層ビルの下は一大地下街となっている



埋忠明寿　松竹文鐔





ウメノキゴケ　(上)ウメノキゴケ　(下)その断面

の大舗道は，大阪美観地区の一つに指定されている。〔浅井得一〕

うめだうんぴん　**【梅田雲浜】**（1815～1859）　江戸末期の勤皇派の志士。若狭(わかさ)(福井県)の小浜藩士。通称源次郎。山崎闇斎(あんさい)流の朱子学を修め，大津・京都で子弟に教えたが，たびたびの幕政批判が災いして浪士の身となった。1853年(嘉永６)のペリー来航後，尊皇攘夷論(じょういろん)を唱えて同志を集め，吉田松陰ら諸藩の志士とも交流し，日米通商条約の勅許問題，一橋慶喜(よしのぶ)の将軍擁立，大老井伊直弼(いいなおすけ)の排斥など幕府改造に奔走したが，安政の大獄で捕えられ，江戸の小倉藩邸に幽囚中に病死した。〔小田　博〕

うめただみょうじゅ　**【埋忠明寿】**（1558～1631）　京都の金工の名門埋忠家の初代，鐔工(つばこう)・刀工として知られる。三条宗近(むねちか)25世の孫と伝え，初銘は重吉(しげよし)あるいは宗吉，明寿はその法名という。作刀銘から，京都西陣に住み，1618年(元和４)に61歳であったことが判明している。明寿の鐔は，真鍮地(しんちゅうじ)に色がねで象嵌(ぞうがん)をした桃山期の大胆な作風を示し，また鉄地のものもある。作刀は短刀が多く，その特色は，古刀期にみられなかった斬新(ざんしん)な刀身彫刻にある。一門には肥後守輝広(ひごのかみてるひろ)らがいる。〔小笠原信夫〕

うめたて　**【埋め立て】**　主として，海岸寄りの浅い海に土砂を捨てて陸地を造成すること。遠浅の砂質海岸で干満の差の少ない所が技術的に有利である。普通は浚渫(しゅんせつ)した土砂を用いるが，この場合はポンプ船(浚渫船の一種)で水底の土砂を水とともに吸い上げ，これを水面に浮かべたパイプを通して，埋め立て予定地に吐き出させる。パイプの長さは数百メートルが普通で，１km以上になると中間にも別にポンプが必要になる。山土の土取り場が埋め立て予定地に非常に近いなど，有利な事情があれば山土を用いることもあるが，一般に工費はかなり高くなる。埋め立て予定地の水深が大きくなるにしたがい，坪あたりの埋め立て土砂量が多くいるわけで，採算のとれる限界水深は以前は水深10ｍぐらいまでといわれていたが，最近は埋め立ての規模，ポンプ船の馬力，土地の需要度などが増したため，水深15ｍの等深線のあたりまで埋め立てる所が多いようである。造成した埋め立て地は主として大工場敷地として利用されている。大埋め立て地の例としては，古くは川崎市の工場地域，近年のものでは東京湾周辺(京葉工業地域)・岡山県水島(石油コンビナート)などがある。埋め立て工事に山土を用いた実例としては，かつて東京電力株式会社横須賀(よこすか)火力発電所(久里浜)の敷地造成工事の際，工期短縮のために背後のがけを削った山土を併用したことがある。また，神戸(こうべ)港のポートアイランド計画の埋め立て工事は，神戸市の裏山を削って宅地を造成するとともに，それによって得た土砂をベルトコンベヤーと船で埋め立て予定地まで大規模に運搬するもので，現在ほとんど完成している(1970年２月)。〔佐島秀夫〕

うめにもはる　**【梅にも春】**　端唄(はうた)・うた沢の曲名。三味線(しゃみせん)は本調子。陽気な内容の歌詞で，初春のふんい気に浮かれて，男を待つ女の心をうたっている有名な曲で，嘉永(かえい)年間(1848～1854)ごろに流行した。

うめのきごけ　**【梅樹苔】**　地衣植物・ウ



ウメバチソウ



梅原龍三郎 《ナポリよりソレントを望む》 1921 ブリヂストン美術館蔵

メノキゴケ科。樹皮上や岩石上にはえる代表的な葉状地衣で，ほぼ円形に広がり，直径10～20cm，周縁部は円形の裂片に分かれている。表面は乾燥すると灰緑色に，湿ったときには鮮緑色となる。裏面は辺縁部だけが焦げ茶色で他は暗黒色。暖地性で，好んで海岸のクロマツの樹皮上にはえるが，アカマツ・スギ・ウメなどの樹皮上，岩石・墓石の上などにもはえる。正月のいけ花に用いるマツやウメの古木に着生しているのも本種である。

うめのさかえ 【梅の栄】 長唄(ながうた)の曲名。1870年(明治3)，3世杵屋(きねや)正次郎が岡安喜三梅との結婚をみずから祝って作詞・作曲し，曲名もその名からとられている。歌詞はめでたいものと音楽に関係のあるものを並べたものなので，新春によく演奏される。音楽的にも作曲の機会を反映して，〈手まりの合方(あいかた)〉や〈琴の合方〉などがあって，表現をおさえて上品にしてあるのが特徴である。

うめのはる 【梅の春】 清元の曲名。文政年間(1818～1830)に川口お直によって作曲されたといわれる。清元の代表的な語り物で，本調子の平家がかりで始まり，隅田(すみだ)・吉原(よしわら)の描写に進み，二上がりに変わり，三下がりで隅田川の春のふぜいを陽気にうたう。舞踊曲としてよく取り上げられ，素踊りの代表的なものとされている。

うめばちそう 【梅鉢草】 双子葉植物・ユキノシタ科。高山の日あたりのよい湿地にはえる多年草。ときには低地にもはえる。長い柄をもつ大きさ1～3cmのハート形の葉が，根もとに集まってつく。夏から秋にかけて，高さ10～40cmで中央に一つ葉をつけた茎を数本出し，その頂にウメに似た2cmくらいの白色の花を一つつける。

うめはらりゅうざぶろう 【梅原龍三郎】(1888～) 安井曾太郎*(そうたろう)とともに昭和前半期を代表する洋画家。京都の生まれ。浅井忠*に学び，1908年(明治41)から1913年(大正2)にかけてパリに留学，ルノワール*に師事。帰国後は二科会に参加したが1917年に退会，翌1918年以降は国画会*の指導者として活躍した。初期のルノワールふうからしだいに日本の伝統・風土に結びついたフォーブ的作風をみせ，裸婦・浅間山などの連作を描いた。



ウメボシイソギンチャク

うめびしお 【梅びしお】 梅干し*から種子と皮を除いてなめらかな梅肉のみを取り，これに砂糖(梅肉10に対して砂糖16)を加え，熱してよく練りあげたもの。茶請けによい。

うめぼし 【梅干し】 ウメの実の塩づけ。材料のウメは小粒ないし中粒の白加賀・紅加賀・玉梅・難波やコウメ*などが用いられ，やや黄ばんで少しかためのものがよい。ウメを洗い，核離をよくし苦みを抜くために1夜(12時間以上)水に浸して洗い，水を切ってからウメの重量の20％強の塩を入れてつけこみ，押しぶた・重しをして3～4週間ぐらいおく。これを土用の晴天の日を選び，すのこまたはむしろの上に並べて3日3晩ぐらい干し，夜は夜露にあてて果肉を柔らかくする(日光に干すので梅干しの名がある)。一方，アカジソの葉を生ウメの10％ぐらい用意し，少量の塩でもんで，黒いしるをかたく搾って捨てたあと，下づけの梅酢*の中に入れてもみ出すと赤い梅酢ができる。これはアントシアン系の色素シソニンが，酸により赤変するためである。このシソの葉とウメを，交互にたるまたはかめに詰め，梅酢を加え，中ぶたをして重しをしてつけこむ。こうしてつけた梅干しは風味がよく幾年たっても変味・変色せず，古くなるほど味がなれて色もさえてくる。〈梅干しをつけはじめたら3年連続せよ〉との言い伝えがあるが，これは古いほどよいとされているので，順送りに古いものから使用させるようにしたものと思われる。つけ損じると凶事があるといわれるのは，処理に注意を促すための戒めである。

梅干しは保存食として重宝であり，また古来薬用としての効果も認められている。その起原は明らかでないが，鎌倉時代の書《世俗立要集》に〈梅干しは僧家の肴(さかな)なり〉とあり，また武家の供応の献立に供せられていた。梅干しのつけ方につき《雍州(ようしゅう)府志》には〈梅をつけるときその肉の少しを砕いて，砕かないのと混ぜてつけておく。日数がたてば砕いた梅が糜爛(びらん)し全形の梅と混合し，両種ともその味は甘くて少しの酸味がある〉とあり，こういうつけ方もあったが，そのほかは昔もいまもあまり変化はない。また，はじめはシソがはいらなかったが，のちにウメといっしょにつけて色を美しくつけるようになった。

〔塩川ふみ〕

うめぼしいそぎんちゃく 【梅干磯巾着】 腔腸(こうちょう)動物・花虫類・ウメボシイソギンチャク科。直径5cmほどになるイソギンチャクで，色は濃紅色，縮むと梅干しのように見える。触手は淡紅色で美しい。茨城県以南九州までの引き潮のとき干上がるような浅い岩陰についている。体内受精をして，直径1～2mmの淡紅色の小さな子どもを産む。広く地中海にも分布する。

うめぼりこくが 【梅暮里谷峨】(1750～1821) 江戸後期の洒落本*(しゃれぼん)・読本*の作者。本名は反町三郎助(そりまちさぶろうのすけ)，上総(かずさ)(千葉県)の久留里藩士。代表作の《傾城買二筋道(けいせいかいふたすじみち)》は，それまでの洒落本が遊里のうがち，客と遊女の駆け引きを主として描いたのに対し，きまじめな恋愛を細かく描写して，以後の洒落本の傾

向に一転機をつくった。

うめもどき　【梅擬】　双子葉植物・モチノキ科。山地性の落葉低木で，高さ２～３m。細い枝がたくさんある。葉は互生し，長卵形で長さ４～８cm，葉脈上に毛が密生し先端がとがる。葉の縁には細かい鋸歯(きょし)がある。雌雄異株で，６月に淡紫色の小花を多数葉腋(ようえき)につける。がく片は４～５裂し，花弁も４～５枚。雄花にはおしべ４～５本，雌花にはめしべ１本がある。晩秋に径５mmほどの球形の果実が赤熟する。庭木として用いられる。



ウメモドキ

うめもとりゅう　【楳茂都流】　日本舞踊の流派の一。江戸末期に初世扇性が興した。上方舞としては軽妙な芸風がある。初世・２世が大阪の歌舞伎界(かぶきかい)・花柳界で地盤を築いた。現在の家元３世陸平は父祖の家芸を守るとともに，ヨーロッパに遊学した成果を生かし，近代感覚による振り付けで創作舞踊に活躍している。

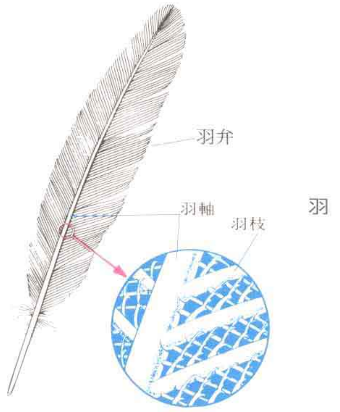
うめわかまんざぶろう　【梅若万三郎】(1868～1946)　観世流シテ方の能楽師。１世梅若実の長男。一時，実弟の六郎(２世実)と梅若流を樹立したが，のち観世流に復帰。華麗なスケールの大きな芸風で，名人とたたえられた。芸術院会員・文化勲章受賞。

うめわかみのる　【梅若実】　観世流シテ方の能楽師。

1 初世(1828～1909)　江戸神田の生まれ。寛永寺御用達(ごようたし)であった鯨井家から梅若家へ養子にはいった。前名，亀次郎(かめじろう)・六之丞(ろくのじょう)・六郎。明治維新後の衰微期にも演能を続け，能楽を復興に導いた功労者。機略の芸にすぐれ，宝生九郎・桜間伴馬(ともま)とともに明治三名人とうたわれた。

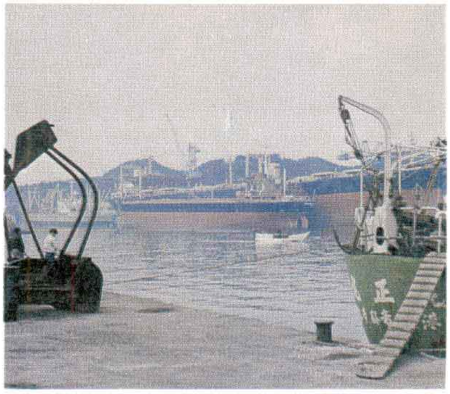
2 ２世実(1878～1959)　初世実の次男で，前名を六郎といい，梅若流を樹立。芸術院会員。

うもう　【羽毛】　鳥類の体表をおおっている皮膚の変形物。鳥類以外にはまったくみられない。正羽と綿羽があり，正羽は羽軸と羽弁からなり外から見えるもの，綿羽は体の正羽(体羽)の下にあって羽弁を構成する羽枝が分離して綿状となったもの。羽毛は体表をおおって皮膚の保護・保温や体型を流線形にするなどの働きを有するほか，前肢(ぜんし)で一列に長く伸びて風切羽となり，翼の主要部を構成する。本数は大形鳥ほど多く，ツグミ5,500本，ハクチョウ25,200本など。→換羽　〔浦本昌紀〕



羽　毛

うもれぎ　【埋もれ木】　地質時代の樹木が，水に流されて砂や粘土とともに地層中に埋もれたり，立ち木のまま地層中に埋もれ，いまだに炭化せず，木膚・年輪がよくわかる状態のもの。鮮新世あるいは洪積(こうせき)世などの段丘や，三角州・浅海・湖沼などの堆積(たいせき)から出土する。仙台(せんだい)周辺の鮮新世の地層中から豊富に発見され，伊豆(いず)・富山・福井・京都地方からも産出する。



浦　賀　波静かな浦賀港内。右手の造船所には艤装中の巨船が見える。海上自衛隊の艦船や漁船の出入りも多い

うゆうじん　【于右任】　ユイユーレン(1879～1964)　中華民国の政治家。日本に留学。帰国後，上海(シャンハイ)で《神州日報》《民呼日報》《民立報》などの新聞を発行し，革命思想を鼓吹。国民党に属し，孫文の死後同党右派の領袖(りょうしゅう)であり，今日まで元老として重きをなしている。

うよく　【右翼】　⇨26ページ

うら　【裏】　⇨逆

うらが　【浦賀】　神奈川県横須賀(よこすか)市の東端地区。かつては三浦郡浦賀町として独立していたが，1943年(昭和18)に横須賀市に編入された。三浦半島の東岸，浦賀水道に面した港町で，1720年(享保５)に浦賀奉行所(ぶぎょうしょ)が置かれてから，江戸湾口の警備と，上方から江戸へ送られる物資の中継地の役割をになって発展し，多くの問屋が集まっていた。1853年(嘉永６)アメリカの水師提督ペリーが浦賀沖に来航し，南の久里浜で開国交渉が行なわれたことはよく知られている。浦賀湾奥には幕府直営の造船所の伝統を受け継ぐ住友重機工業の造船所があり，東端の観音崎には日本最古の洋式燈台がある。浦賀駅から京浜急行電鉄が東京の品川へ通じている。

うらがき　【裏書】　指図(さしず)式の手形・小切手などの指図証券を譲渡する形式。この裏書の方式は，その証券の原本または付箋(ふせん)(証券につけられた紙片)に所要事項を記載して裏書人が署名(自署ばかりでなく記名捺印(なついん)も含む)し，被裏書人にその証券を交付することが必要とされている。被裏書人を指定した〈記名式裏書〉のほか，被裏書人を特に指定しない〈白地裏書〉もある。裏書人から手形・小切手の交付を受けた被裏書人は，その手形・小切手上に署名したすべての者(引受人・振出人・裏書人など)に対して手形金・小切手金の支払いを請求できる(手形法14条・小切手法17条)。もっとも裏書人が，〈裏書人としての担保責任を全部または一部負わない〉という文面を書いて裏書をすると，その記載どおりに担保責任を負わないですむし(無担保裏書)，〈今後は裏書をしてはならない〉という文面を書いて裏書をすると，それ以後裏書をした人に対しては，担保責任を負わないですむことになっている。　〔松本治雄〕

うらがすいどう　【浦賀水道】　房総半島と三浦半島の間にある東京湾口の水道で，幅約10km，最深部は200mを越える。江戸時代から江戸へ出はいりする船でにぎわい，現在もわが国で最も交通量の多い水路の一つである。また房総・三浦両半島間の最短路として古くから利用され，いま天羽(あまは)町金谷(かなや)と横須賀(よこすか)市久里浜の間に，フェリーボート(30分)が通っている。

うらかた　【裏方】　劇場用語。表方に対する名称で，舞台の幕を境にして，裏で働く演出関係者をいう。囃子方(はやしかた)・大道具・小道具・衣装・床山などの担当者のことで，俳優は含まれない。→表方

うらがぶぎょう　【浦賀奉行】　江戸幕府の遠国(おんごく)奉行の一。相模(さがみ)(神奈川県)浦賀に所在した船改(ふなあらため)番所の長官。1720年(享保５)伊豆(いず)(静岡県)下田より番所を移転した際，これまでの下田奉行をそのまま移駐任命した。江戸湾出入りの船舶，および奥州・大阪間の回漕(かいそう)荷物を検査し，付近の幕府領の民政にもあたった。定員は１人ないし２人。老中の管轄に属し，安政開港前後から重要視されて格式も高くなった。

うらかみ　【浦上】　長崎市の北部地区で，



浦　上　浦上地方の代表的建造物である浦上天主堂は第２次世界大戦前は東洋一の大きさを誇ったが原爆で破壊され，戦後再建された

〈うらがみ〉とも読む。西に岩屋山(475m)，東に金比羅(こんぴら)山(366m)を控え，100～150mの丘陵に囲まれた盆地をなす。キリシタン*ゆかりの地で，現在もキリスト教徒が多く居住する。西を流れる浦上川に沿って三菱(みつびし)重工業の長崎製鋼所や関連する下請け工場が集まる重工業の町である。第２次世界大戦末期に原子爆弾が中央部の松山町に投下され，盆地内の低地および段丘上の諸施設はすべて全焼し，死者73,000，負傷者およびゆくえ不明者は80,000人に達する被害を受けた。かつて東洋一を誇った浦上天主堂も被災したが，戦後の都市計画によって，長崎大学医学部・同付属病院などとともに再建され，国際文化会館・真珠会館などが新設された。年中行事の〈聖体行列〉(６月15日)が名高い。　〔浅井得一〕

うらがみぎょくどう　【浦上玉堂】(1745～1820)　江戸後期の南画家。姓は紀，名は弼(ひつ)，字(あざな)は君輔(くんすけ)，玉堂琴士と号した。生来学芸を好み，50歳で岡山鴨方(かもがた)藩の藩士を辞し，以後絵を描き，詩を賦し，あるいは琴をひく文人生活をしながら各地を遊歴し，晩年居を京都に定めた。絵はきわめて個性的で，特異な構図の中に奔放な筆致の独自の山水画様式をみせる。《東雲篩雪図(しせつず)》はその代表作である。また，七弦琴の名手としても世に知られ，《玉堂琴譜》の著もある。当時，画家としての盛名はむしろ子の春琴のほうが高かった。　〔小林　忠〕

うらかわ　【浦河(町)】　北海道日高支庁の町で，支庁の所在地。人口19,400。15世紀の中ごろから和人がはいり，北海道でも最も古くから開けた地方である。太平洋に面して浦河漁港があり，サケ・マス・イカ・コンブの漁獲が多い。米作を行なうほか，競走馬サラブレッドの全国一の産地であり，その飼育を専門とする農家が多く，農林省日高種畜牧場がある。日高本線が通じる。

うらぎんしじみ　【裏銀小灰蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。翅(はね)を広げた長さ45mm内外。雌雄によって翅の色彩が異なり，雄は黒かっ色の地に前翅の基部から中央に至る部分と，後翅の中央より外縁に至る部分に橙赤(とうせき)色の紋があり，雌は雄に比べ前翅の先端がとがり，雄の橙赤色に相当する部分は紫白色。雌雄ともに翅の裏面は一様に銀白色に輝く。東京以西・朝鮮・中国・台湾など東部アジアに広く分布する。年２回発生し，成虫で越冬する。幼虫はフジ・クズなどマメ科植物の新芽やつぼみを食べる。成虫は山道を活発に飛び回り，路上・獣糞(じゅうふん)・動物の死体などに数頭集まって止まることが多い。　〔鈴木邦雄〕

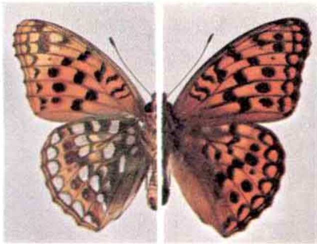


浦上玉堂《東雲篩雪図》　76歳で没した玉堂の60歳代末の作と推される。画題の東は凍に通じ，篩雪は粉雪

うらぎんひょうもん　【裏銀豹紋蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ65mm内外。翅は橙黄(とうおう)かっ色で，多くの黒色の豹状紋があり，後翅の裏面には数個の銀白色紋がある。日本全土をはじめ，シベリアからヨーロッパに至る地域に広く分布する普通種で，多くの亜種に分けられている。成虫は６月ごろより出現し，種々の花上に集まる。幼虫はスミレ類の葉を食べる。卵で越冬する。近似種にオオウラギンヒョウモンおよびギンボシヒョウモンがある。　〔鈴木邦雄〕



ウラギンシジミ
(左)裏
(右)表



ウラギンヒョウモン
(左)裏
(右)表

うらくりゅう　【有楽流】　茶道の一流派。江戸時代初期に成立した。千利休門下の逸材であった織田有楽斎*を開祖とする。利休流より分かれたもので，のち古田織部*(おりべ)の織部流にも影響を与えた。現在も東京都を中心に存続し，有楽流七宝会という結社がある。

うらごえ　【裏声】　日本の伝統音楽の発声法の一。地声*に対する。声門を広く開いて発声され，地声では出せない高音域が得られるが，倍音の少ない特別な音色をもつ。新内節・清元節・小唄(こうた)や民謡で，地声と対比的に用いて効果的である。

うらごし　【裏漉】　調理器具。いも・豆などの煮たものをこすのに用いる。毛ごし・絹ごし・金ごしの３種があり，馬尾の毛でつくった毛ごしがいちばん多く用いられ，網の目のあらさにより，一番・二番・三番の別もある。きんとん・マッシュポテト，濁ったスープ，離乳食などをつくるときに用いる。絹ごしは，あえ衣・黄味酢などをごくなめらかに仕上げるときに用いる。金ごしは，細い針金で編んであり，目が正確である。魚や肉などの筋のあるものをこすときに用いる。　〔塩川ふみ〕

うらごまだらしじみ　【裏胡麻斑小灰蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。ウチムラサキともいう。翅(はね)を広げた長さ45mm内外。翅の周囲は幅広く黒色に縁どられ，内部は紫色。日本全土から，朝鮮・アムール地方などに分布し，雑木林に普通な種類で，成虫は５～６月ごろより出現す

27ページへ

右　翼

〔右翼の概念〕右翼ということばは，わが国ではふつう，国粋主義*・ウルトラ-ナショナリズム*・対外強硬・大陸進出などを主張する団体，または皇室や国体(天皇主権を中心内容とする)を至上価値として，この大義名分のもとに社会主義*・共産主義*，さらに自由主義*に至るまですべてを攻撃する反動主義的な団体ないし，運動をさす。満州事変以後には，国体の真姿顕現・反財閥・反既成政党・反共などを旗じるしに，個人的テロリズム*も行なう分子や若手の軍人の行動となって現われた。この段階においては，ヨーロッパのファシズム*・ナチズム*の運動と，かなり性格を同じくしたが，ヨーロッパ諸国，特にイタリアやドイツのように，広い範囲で大衆を組織し，反共産主義的・反革命的権力を樹立して独裁政治を行なうには至らず，軍部の独裁支配の補足ないしそれへの道ならしにとどまった。天皇制*ファシズムなどといわれるものがこれである。第2次世界大戦前の右翼は特にそうであった。そして右翼各派はボス的個人崇拝に貫かれ，明確な体系的な理論による組織的活動ではなく，多分に陰謀的な，あるいはテロリズム的な戦闘を主とし，軍部*や一部の財閥*と結びつき，その保護のもとに，社会主義・共産主義，さらに自由主義の運動の抑圧を図った。現在資本主義体制に対する本格的な批判・変革の理論はなく，しかもこの資本主義体制の指導的分子にテロルを加えて，みずからが革新的分子であるかのような外見をとったのも，ヨーロッパ的ファシズムと等しく，体制的危機の段階に必然な現象であった。

ヨーロッパにおける右翼ということばは，もっと広い意味で用いられた。その起源は，フランス革命に発する。すなわち，大革命に際してフランス国民公会で，議長席から見て右の方に改良主義的なジロンド党*，左側に急進的・徹底共和主義のジャコバン党*，中央に中間派・穏和派が席を占めたことから生じた。ジロンド党は，けっして今日われわれが普通に考える反動派・王党派ではなかった。したがって右翼・左翼・中間派などは，今日でも，保守・革新ないし革命・中間・中道の各派のよび方としても用いられる場合がある。日本の保守勢力，自由民主党などを総括して，日本の右翼といっているアメリカの政治学者もある(マックネリー《日本の政治》など)。

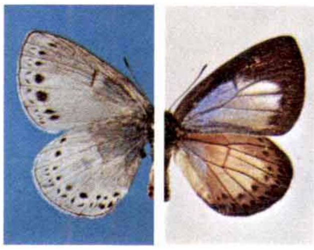
また右翼ということばは，保守・革新を問わず，その集団・政党内部での右派をさす場合にも用いられる。自由民主党のニュー-ライト(新右翼)，社会党の右派などが，この例である。そこでも少し正確な概念規定が必要となる。より基本的な思想分類としては，保守主義・急進主義・革命主義などがある。これらはなにを基準としていわれるのであるか。これは現在の社会制度・政治体制などに対する基本的な政治的およびイデオロギー的立場によるものである。すなわち，現存の体制を肯定し，そこに含まれている伝統・文化の価値を高く評価し，その維持・発展を図るのが保守主義である。これに対し，現存体制の歴史的意味がすでに消滅したとし，その根本的変革の必然性と必要とを主張するのが革命主義であり，またその変革ないし改革の方法において，より穏健な立場をとりつつ，体制の改革をめざすものが急進主義といえよう。保守主義は，それ自体十分に存在理由があり，全世界にわたって，現実の強大な勢力をなしている。そしてその中に多少その時代の進展に即応して改良を図ろうとする自由主義的保守主義がある。しかしまた，あくまでも伝統に固執し，すべての改革を拒否し，ことに革命的変革を敵視するものもあり，それらは反動派と名づけられよう。右翼というとき，この反動派および保守派をさすものである。現代においては，この広義の右翼は，かたくなな保守派，さらに過激なテロル手段，クーデター*などをも用いて革命派ないし，急進派を抑圧しようとする反革命派(ファシズム・ナチズムはこれにはいる)を含む。しかし最も著しい潮流としてはファシズム的活動であることは，日本の場合と同じであろう。ファシズムの特色は，資本主義体制をいちおう財閥支配・ブルジョア政党独裁の体制として非難しつつ，大衆の共感をかちえて，大衆をみずからの組織に動員し，大衆に現代に対する不満の有効な解決策を錯覚させつつ，革命の危機を避け，資本主義体制の再編成を図る運動である点にあり，その主張は，したがってしばしば変転する。しかし対外侵略・資本主義・反共を本質とする運動として上述の役割を有効に果たすもので，手段としてはテロリズムもあえてし，また伝統的な議会制民主主義を否定して，独裁を樹立する。このほか，ファシズムとして大衆を組織し，表面的には現体制の改革を掲げることなく，もっぱらクーデター・軍部独裁の政権樹立による反動支配の確立をめざすものもある。いずれにせよ，このような意味での右翼は，保守主義から区別されて現代の一つの思潮・運動となっているといえよう。第2次世界大戦後のドイツやイタリアにおけるナチス党・ファシズム党の復活――ドイツの国家民主主義，イタリアのイタリア社会運動――さらにフランスその他における反ユダヤ的種族主義的運動などがそれである。そして南ベトナム政府・韓国(かんこく)政府など，アジアにおける保守政権をささえているのも同じ本質の思潮であるというべきである。

〔日本の右翼〕わが国で右翼という場合は，保守派一般を含まず，保守派のうちの最も反動的・積極的なものをいい，その一貫した特質は次の点にある。第1に極端な国家主義・国粋主義であり，それは，わが国における天皇制を，世界に比較するもののないすぐれた善政の代表的なものと美化し，天皇と日本臣民との関係は，親子の愛情，君臣一体の点にあるとする。したがって天皇崇拝・忠君愛国などが，そのイデオロギーであり，明治憲法体制のもとでも，それによって可能とされた議会制*・政党政治*を排撃し，天皇親政などによる独裁政治をめざすことになる。第2に，立ち遅れて国際社会に登場し，しかも諸外国との不平等条約によって半ば従属国的な地位に置かれた明治初年の状態に対する民族的反抗も加わって，その発足の当初から，排外主義*・対外強硬路線，ひいては大アジア主義*の名のもとに中国・朝鮮などに対する進出を一貫して主張する。一方でアジア諸民族の解放や財閥打倒・腐敗政治の改革を唱えながらも，軍部や一部財閥と結びつき，アジア大陸への進出を正当化し，大東亜共栄圏*の名のもとに，アジアの帝国主義的・軍事的支配を企てたごとき，わが国の右翼の本質を示すものである。第3に，一貫した反共・反社会主義の主張であり，北一輝*にみられるような国家社会主義といえども，それがいささかでも資本制社会の社会主義的変革の理論ではありえず，天皇制の変革とは縁遠い，一種のファシズムにほかならなかった。

遠くは頭山満らの玄洋社*(1881)は，自由民権運動の右派ともいうべき性格をもっていたが，その国粋主義・国家主義*が，自由民権運動*からの離脱を促し，内田良平らの黒龍会*(こくりゅうかい)(1901)に引き継がれた。大アジア主義といわれるアジア全域に対するわが天皇制国家の支配――実質的には軍部・財閥の権益保証となる――，特に対ロシアの攻撃的な侵略主義，他方日本による中国支配の意図を潜めての中国の国民革命*に対する支持などが，この右翼の特徴であった。無産階級運動が成長し，社会主義運動が多少とも組織化された第1次世界大戦以後には，反社会主義・反共の潮流が加わった。同時に，わが国資本主義の独占資本主義への発展，社会における貧富の格差の拡大，農村の窮乏などを背景として，既成政党の腐敗をつき，議会政治の堕落を非難し，財閥の利己主義を批判する右翼が組織されてくる。橘(たちばな)孝三郎らの農本主義*，大川周明の行地社*(1924)，ことに北一輝の猶存社*(ゆうぞんしゃ)(1919)，その主張する日本国家の改造案は，高畠素之*(たかばたけもとゆき)らの国家社会主義にも影響を及ぼし，ひいては，や

がて満州事変以後の戦時体制下に革新陣営からナチス的な赤松克麿*(かつまろ)の日本国家社会党や麻生(あそう)久*らの軍部との結合など，社会主義運動の転換にも立ち至ったものである。しかしわが国では，イタリア・ドイツのように，これら社会主義運動からの転向・脱落分子による右翼運動は成長せず，また北一輝らの影響下になされた五・一五事件*，ことに二・二六事件*のような昭和維新クーデターの試みにも失敗し，反革命的・排外主義的・独裁的体制は，天皇制の最も反動的なイデオロギーを支柱とする高度国防国家体制，いわゆる天皇制ファシズムの形態で完成された。日本の右翼は，このようにして，つねに支配権力の補足物であり，あるいは刺激剤であり，国政の反動化に寄与したとしても，権力を把握(はあく)するには至らなかった。同時に，在郷軍人会*とか青年団・婦人団体など半官的な大名組織が，むしろ権力の指導のもとに，右翼的役割を果たすこととなった。日本の右翼のもう一つの特色は最盛期には500を越える団体があったが，各種分派がいずれも個人指導的な分派争いをくり返し，また反共・反労働運動の御用団体，暴力団的活動などのみを行なうものも続出するという低調な性格にあった。第2次世界大戦後，日本国憲法のもとでは，もはやかつての右翼・軍人たちの大義名分とした国体顕現・天皇親政，昭和維新あるいは大アジア主義などではそのままでは，綱領ともなりえないし，また大衆に訴える力ももちえなくなった。戦後の占領政策によるいわゆる民主化の段階が過ぎ，ふたたび旧支配層が復活するにつれて，右翼陣営の再出発・再編成が行なわれるに至った。特徴的なことの一つは，その国粋主義・民族主義の伝統にもかかわらず，占領軍のアメリカに結びついているとも判断されるような親米的運動をとる右翼団体の生じていることである。そしてメーデー反対・日米安全保障条約堅持・憲法改正促進をスローガンとしたり，またその名も勝共連合という共産主義に対する不断の敵対宣伝を行なう団体まで結成されている。国体護持・天皇制絶対を依然として旗じるしとする小集団や労働争議破り，革新陣営の集会の妨害などに動員される暴力団的集団などは，戦前からの組織形態のものだが，もっと組織的な全国的再編成の動きとしては，全右翼の大同団結をめざす日本国民会議，また全日本愛国者団体会議，これから分立した児玉(こだま)誉志夫らの青年思想研究会などがある。単一組織としては，大日本生産党・大東塾(だいとうじゅく)・大日本護国団・大日本国民党・日本青年連盟・防共挺身隊(ていしんたい)・大日本愛国党・大日本国粋会*・国民同志会・日本学生同盟など，その組織内容は十分知られていないし，また少数者の集団にとどまるものもあるが，約500以上，団員はほぼ10万人前後といわれる。社会党委員長の浅沼稲次郎暗殺(1960)やいわゆる三無(さんゆう)事件*なるクーデター未遂事件(1961)など，表面に現われたもの以外に革新勢力，特に共産党の政治的進出，またアジアにおける民族解放闘争の進展に対決するために，他方日米安保体制の推進のために，右翼勢力のイデオロギー的訓練・組織的強化が進められていると伝えられているが，その整然たる全国統一的組織はまだできていない。しかし学生運動・労働運動における直接行動などが口実となり契機となって，権力的抑圧体制が強化されていると同様，右翼の実力行動準備もしだいに活発になりつつあると判断される。➜ファシズム　〔鈴木安蔵〕

る。幼虫はイボタノキ*の葉を食べる。



ウラゴマダラシジミ (左)裏 (右)表

うらさく　【裏作】　表作に対することばで，主作物の栽培された跡地に別の作物が栽培された場合，これを裏作という。水田では水稲が表作とよばれ，水稲のあとに麦作が行なわれれば，麦作は裏作である。この場合，水田裏作という。一般畑作の場合，同一の畑で，2種類の作物栽培が行なわれるとき，いずれを主要な作物とするかは，耕作者の意志によるところであるが，耕作期間の長いもの，利益のあがる作物を主要作物と考えるのが普通である。〔金木良三〕

うらじ　【裏地】　保温・補強・美感，そしてなめらかな着やすさなどの目的で，衣服の裏側につける布地。《洋装》一般には裏地用としてつくられ，平織り・綾(あや)織りの種類があり，張りのあるタフタ，軽い羽二重，伸縮のよいクレープデシンなど，それぞれつける目的や表布の種類，ドレスのシルエットなどによって選び分けられる。《和装》あわせ・綿入れの和服の裏につける布。長着にはすそ回し*・胴裏*の2種の裏地があり，羽織には羽裏*がある。それぞれ適当な幅・たけに切って売られている。表布に応じた地質を使う。　〔小池千枝・堀越すみ〕

ウラジオストク　[Vladivostok]　ソビエト連邦，沿海州の行政の中心地。シベリア鉄道の終点。ソ連の太平洋側最大の港で，軍港でもある。人口41万(1968)。造船・機械・食品加工などの工業が盛んであり，捕鯨・カニ漁・毛皮獣狩猟などの基地としても重きをなす。科学アカデミー極東支部がある。1860年にロシア人の集落ができ，1897年シベリア鉄道の開通で大きく発展した。ロシア革命後，1922年まで日本の干渉軍などによる反革命の拠点となった。　〔斎藤晨二〕

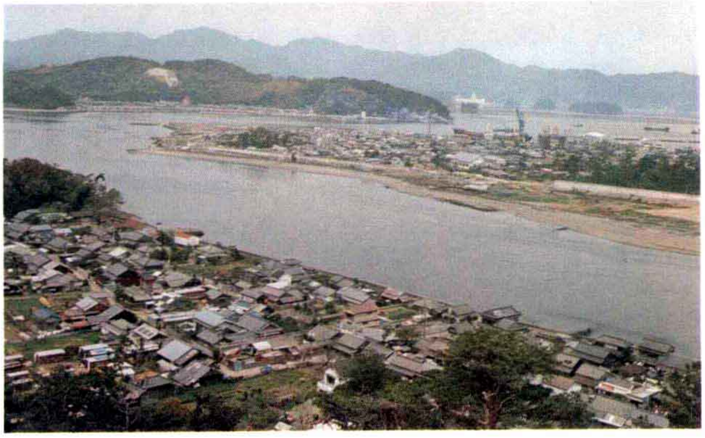
うらしま　【浦島】　長唄(ながうた)の曲名。1828年(文政11)4世杵屋三郎助(きねやさぶろすけ)(のちの10世杵屋六左衛門*(ろくざえもん))の作曲，2世瀬川如皐(じょこう)の作詞で発表されたもので，本来は七変化物(しちへんげもの)の《拙筆書七以呂波(にじりがきななついろは)》の5番めの舞踊のための曲。筋は昔話《浦島太郎*》と同じで，龍宮(りゅうぐう)から帰ってきた浦島，乙姫(おとひめ)への回顧，玉手箱によって老人となるさまなどが扱われている。音楽的には地歌の影響が濃く，全体に落ち着いた性格をもっている。　〔徳丸吉彦〕



ウラシマソウ

うらしまそう　【浦島草】　単子葉植物・サトイモ科。本州・四国・北海道南部の湿気の多い林や竹やぶの下にはえる多年草。球茎があり，上から発根し，緑に子球を多数つける。葉柄は肉質，濁紫色で暗緑色の斑点(はんてん)があり，葉身は鳥趾(ちょうし)状に分かれる。4～5月ごろ葉柄の基部から短い花茎を出し，暗紫色の仏炎包(大きな筒状の包葉)に包まれた肉穂花序を出し，多数の無花被の花をつける。実は赤く熟し，数個の種子がある。肉穂花序の先は糸状になり，仏炎包外に長く伸びて下垂する。和名はこのようすを浦島太郎のつり糸にたとえたもの。雌雄異株で，球茎にたくわえられる養分が少ないと雄株に，多いと雌株になる。　〔横井朝子〕

うらしまたろう　【浦島太郎】　昔話の一。古く《日本書紀》《万葉集》に記されており，平安時代には漢文化されてもいる。のちに《御伽(おとぎ)草子》に収められて，広く知られるようになった。浦島太郎がつりをしているとカメがかかり，海に放してやる。翌日もつりをしていると，きのうのカメが現われ，その言に従って龍宮(りゅうぐう)に行き，歓待を受ける。3年を過ごして故郷にもどると，故郷では700年の年月がたっている。とほうに暮れて，乙姫(おとひめ)の



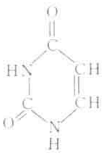
浦戸湾　湾の東岸にある五台山の展望台から見た浦戸湾の一部。右手の方が湾奥で，高知市の市街地へ続く。湾の東岸地区では埋め立てによる土地造成が行なわれ，住宅地・工場がふえている

戒めを忘れ，みやげにもらった玉手箱を開くと，白煙が立ち上って，浦島太郎は老人に変わってしまう。全国的に分布している伝説であるが，地域により細部が異なっている。しかし，動物の報恩，異郷行き，禁忌を犯して不幸を招くなど話のモチーフは同じである。〔山路勝彦〕

うらしまつつじ　【裏縞躑躅】　双子葉植物・ツツジ科。クマコケモモともいう。本州中部以北の高山帯，北海道にはえる落葉小低木。高さ2～6cm。茎は細長く分枝し地をはって伸び，枝先に葉が何枚も集まってつく。葉は倒卵形で，柄とともに長さ3～7cm，縁に細かい鋸歯(きょし)がある。花は鐘状で白色，2～7個が総状花序につく。果実は球形で秋に黒熟し，食べられる。

ウラジーミル(1世)　［Vladimir］　(955ごろ～1015)　ロシアのキエフ大公スビャトスラフ-イゴレビチの子。970年にノブゴロド公，978年以降キエフ公となる。全東スラブ人の領土を統合・拡大し，法制・行政上の改革を行なって古代ロシア国家の強化に貢献した。南下を渇望し，ビザンチンとの交わりを望んだことが，キエフ公国*の商業・文化発展につながった。989年ごろキリスト教(ギリシア正教)を国教とし，西欧との関係を深めた。〔山県弘志〕

ウラシル　［uracil］　2,4-ジオキシピリミジン。RNA*(リボ核酸)を構成するピリミジン塩基の一。DNA*(デオキシリボ核酸)中には存在しないため，トリチウム*などでラベルしたウラシルを用いることにより，RNAの合成のようすを知ることができる。



うらじろ　【裏白】　シダ植物・ウラジロ科。暖地の林中，乾性陽地にはえる常緑性のシダ。高さ0.5～2m。根茎は長くはい，密に針状で黒色の鱗片がある。葉は2回羽状複葉。羽片は対生して軸と直角につき，小羽片は互生する。表は淡緑色，裏は粉白色。芽には鱗片があり，芽は伸びて2段，3段と羽片を出す。胞子嚢(ほうしのう)群は丸く，小羽片の中央に生ずる。なお，葉は，心(うら)が白いとか，歯朶(しだ)を〈よわいたれる〉などと読んで，正月の飾りなどの縁起物に用いる。〔加藤僖重〕

うらじろもみ　裸子植物・マツ科。ダケモミともいう。本州の亜高山帯(1,000～2,000m)に分布する常緑高木。モミ*によく似ているが，若枝が無毛であること，葉の裏面にある白色の気孔線が古くなっても消えないこと，球果は黒青色で包片は小さく外側から見えないことなどで区別される。材はモミと同じように建材・器具材・船材・機械材などに用いられる。

うらせんけ　【裏千家】　江戸初期に分かれた茶道の一流派。利休流の一派。三千家の一。表千家・武者小路(むしゃのこうじ)千家と並び称される。利休の孫にあたる千宗旦(そうたん)の四男仙叟(せんそう)宗室が，父宗旦の建てた茶室今日庵*(こんにちあん)を継いで，今日庵1世を称したのに始まる。今日庵が表千家の茶室不審庵の裏手に建てられたので，裏千家の名がある。利休を1世とし，現在の15世鵬雲斎(ほううんさい)宗室に至る。裏千家は三千家中で数においては茶道各流派中全国的に最も優勢である。これは，一族同門を中心に組織する淡交会の力によるもので，各地にその支部がある。〔桑田忠親〕

うらづけしょうこ　【裏付証拠】　⇨証拠

うらどわん　【浦戸湾】　高知県，土佐湾の湾首中央部にくびれる南北に細長い沈水性の湾入。湾口は桂浜(かつらはま)と種崎砂嘴(さし)によって狭く閉塞(へいそく)され，湾奥には西から鏡川，東から国分川が流れ，高知市街が発達する。両川の堆積(たいせき)作用は旺盛(おうせい)で，湾の面積は縮小を続けてきた。周縁の土佐平野には10世紀ごろ内海七島とよばれた島が残されており，五台山(大島山)もその一つである。湾内は浅く，東側で1～2m，西側で2～4mである。近年は埋め立て地も増加し，石灰岩の集積，木材工業団地などの工業用地の造成が盛んである。西側の鷲尾(わしお)山(310m)・宇津野山(256m)，東側の大畑山(144m)の低い連山の切れ目によって湾は南北にくびれ，北湾を北東岸五台山麓(さんろく)の部落の名をとって吸江湾とよぶこともある。狭義の浦戸湾である南湾は，小島を配する沈水性のけしきに富み，湾周辺の景勝地や行楽地とあいまって古くから観光の対象となってきたが，臨海工業地造成で壊滅しつつある。湾内は特定港・開港・重要港湾の高知港となり，湾口およびその近くの西岸に機船底引き網(そこびきあみ)漁業の根拠地である浦戸，御畳瀬(みませ)の漁港と長浜の町がある。湾口に架橋中の日本道路公団の有料道路浦戸大橋(長さ894m)は1971年(昭和46)4月完成の予定。〔山口惠一郎〕

うらなみあかしじみ　⇨アカシジミ

うらなみしじみ　【裏波小灰蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。翅(はね)を広げた長さ30～35mm。翅の表面は，雄は一様に光沢のある紫色，雌は前翅中央部に青藍(せいらん)色の鱗粉(りんぷん)をつける。後翅の尾状突起の基部に2個の黒色円紋がある。翅の裏面は灰白色で，多数のかっ色の波状紋がある。卵は青白色，まんじゅう形で，放射状の条紋がある。幼虫はうじ虫形で，フジマメ・エンドウ・ソラマメなどのマメ科植物を食害する。老熟した幼虫は淡緑色で，体長9mm内外。さなぎは淡黄かっ色で，体長9mm内外。本種はほとんど全世界に広く分布するが，日本では北海道には産せず，東北地方からの記録があるが，関東地方以北では越冬できないと考えられている。東京付近でもほとんど越冬せず，毎年暖地(東京の場合は三浦半島や房総半島南部)から移動してくるものと考えられる。幼虫の駆除にはパラチオン乳剤9,000倍液を10日おきに散布する。〔鈴木邦雄〕

ウラニウム　［uranium］　⇨ウラン

うらにほん　【裏日本】　本州の日本海側をいい，表日本*に対する呼称である。冬に降水量が多く，その多くが雪になり，農業上は一毛作しかできないことが多く，水田単作地帯が広がっている。表日本に比べると工業は不振で経済的な発展が遅れており，人口密度も小さく，最大の都市である新潟や金沢の人口も，40万内外である。日本海側の人たちは，裏日本という呼称を喜ばないふうがある。

うらにほんしききこう　【裏日本式気候】　本州の日本海側の地域では，冬季降雪が多く曇天の日が続く。このような気候を，太平洋側の快晴が続きからっ風の卓越する気候に対して，裏日本式気候という。裏日本*とは本州の日本海に面した地方，つまり東北地方西部・北陸・山陰地方などをいう。これらの地方では，シベリアからの北西の季節風が脊梁(せきりょう)山脈にさえぎられて雪や雨となって降るもので，平野部では1m程度の積雪であるが，山腹斜面では2～4mに達する。このため冬の生活はきわめて不活発となり，出かせぎを生む遠因となった。〔小栗　宏〕

ウラノス　［Uranos］　ギリシア神話で最初に全世界を支配した神。ウラノスは〈天空〉の意。ゼウス*の祖父で，母のガイア*を妻

とし，キュクロペス・ヘカトンケイル(百手の巨人)らを得たが，彼らをきらってタルタロスの奈落(ならく)に投げ込んだ。ガイアはこれを怒り，のちに生まれたティタンらに父を襲わせ，支配権を奪った。そのおり，末弟のクロノスが父の男根を切除して海に投げ捨てたところ，そのあわからアプロディテが生まれたという。〔松田　治〕

ウラーノワ [Galina Ulanova] (1910～　) ソ連の舞踊家。9歳でレニングラード舞踊学校に入学，19歳でデビューした。1944年，レニングラード-オペラ-バレエ劇場のソリストからボリショイ劇場に転じ，現在プリマ-バレリーナとして活躍中。高度のテクニックと抑制された優雅な表現によって，ソビエト最高の舞い姫と称される。あたり役は《ジゼル》などの古典物。映画では，《バレエの招宴》でその至芸を披露(ひろう)した。ソ連邦人民芸術家の称号をもつ。〔高橋孝一〕



ウラーノワ

うらばんだいこうげん【裏磐梯高原】 磐梯山の北側斜面一帯の標高700～800mの高原。北は東西に連なる吾妻(あづま)山群によって境される。1888年(明治21)の磐梯山噴火の際の噴出物や泥流(でいりゅう)によって，長瀬・中津・大倉の諸河川が各所でせき止められ，檜原湖(ひばらこ)・小野川湖・秋元湖・五色沼など大小200余の湖沼群ができた。福島・山形方面からの自動車道路もあり，観光地として訪れる人が多い。磐梯朝日国立公園に属する。〔高野　繁〕



裏磐梯高原　磐梯山の泥流で区切られた無数の湖沼がちらばり，なかでも五色沼は複雑な泥流を地下水が溶解した各種の水色で名高い

うらべかねとも【卜部兼倶】 (1435～1511) 室町時代の神道家(しんとうか)。吉田(よしだ)神道の大成者。京都吉田神社の神職となり吉田姓を名のる。神道の普及に努力する一方，それまでの仏教を主とした神道説を排し，神道を根本とした神道説を展開し，吉田神道を大成させた。その間，後土御門(ごつちみかど)天皇に《日本書紀》および《中臣祓(なかとみのはらい)》を講義し，前将軍足利義政(あしかがよしまさ)のために《神道大意》を上表するなど学才豊かであった。敏腕家でもある彼は，神道界の最高位である神祇伯(じんぎはく)の白川家と対抗し，その勢力をしのぎ，当時の神道界を左右した。《神道大意》《神名帳頭註(とうちゅう)》《唯一神道名法要集》に彼の思想がうかがわれる。〔田上光治〕

うらべけんこう【卜部兼好】 ⇨兼好

うらべし【卜部氏】 古代に，卜占(ぼくせん)をもって各地の神社に奉仕した氏族。山城(京都府)・伊豆(いず)(静岡県)・壱岐(いき)・対馬(つしま)(ともに長崎県)などに散在。一部は神祇官(じんぎかん)に仕えてその下級職員ともなった。壱岐卜部は平安時代になって是雄のとき大いに栄え，壱岐宿祢(すくね)を称した。伊豆卜部の後裔(こうえい)は神祇官に仕えて神祇大副(おおすけ)に任じたり，平野・吉田(よしだ)・粟田(あわた)の各社の預(あずかり)にもなり，神道学者を輩出し，その主流は室町初期から吉田氏を称した。しかし，この流れの卜部氏が，中臣(なかとみ)氏の一派であるというのは信じがたい。〔黛　弘道〕



浦安町　水産物の加工風景。ハマグリのむきみをつくっているところ。最近は東京湾岸の工業化のため，水産養殖・水産加工の環境はきわめて悪化してきている

うらべしんとう【卜部神道】 ⇨吉田(よしだ)神道

うらぼしか【裏星科】 シダ植物・シダ目の中の大きな科の一つで，多年生草本。世界に約7,000種，日本にはクリハラン・コモチシダなど400種が知られる。通常木や岩の上に着生するが，まれには地上生のものがある。根茎が長くはい，鱗片(りんぺん)がある。単葉～羽状複葉までいろいろの葉形がある。胞子嚢群(ほうしのうぐん)は円形～楕円(だえん)形の種類が多い。

うらぼんえ【盂蘭盆会】 一般に，7月14～15日の盆の仏事供養のための法要・儀式。《盂蘭盆経》によれば，ブッダの弟子(でし)の目連が餓鬼道に落ちて苦しんでいる亡母を救うために，ブッダの教えに従って7月15日の僧自恣(そうじし)(夏安居(げあんご)の最終日)(→安居)の日に百味の飲食(おんじき)を盆に盛り，衆僧に供養したのに始まるとされる。中国では6世紀ごろから行なわれ，わが国では606年(推古14)に設けられている。盂蘭盆の語義については，サンスクリットの俗語形ウルンバナの音訳で倒懸(さかさづりにされるような苦しみ)の意とか，救倒懸盆(倒懸を救う盆)の意など，さまざまに論議されてきたが，最近では古代イラン語のウルバン(霊魂)に起源があるとする説もある。

わが国では，これとは別に供物を載せる器物を〈ぼに〉とよんだことから，祖霊祭の器物の名称としての〈ぼに〉〈ぼん〉が盆になったとする説もある。なお，盆に迎える精霊(しょうりょう)(→迎え火)を盆様あるいはほかい様とよぶ地方もあるが，〈ほかい〉ももとと供物を入れる容器の名である。〔岡部和雄・直江広治〕

うらま【裏間】 近世邦楽の用語。三味線(しゃみせん)音楽や箏曲(そうきょく)において拍子の明確なものは主として2拍子系であるため，それらは機能の異なる二つの部分に分かれる。それが表間(おもてま)と裏間である。音量的には表間が大きく，裏間は小さいことが多いが，この区別は西洋音楽の2拍子における強拍(第1拍)と弱拍(第2拍)の関係とは異なる。すなわち音量の大小によって規定されるものではなく，楽曲構成上の重要さの程度によるものである。テンポの規定やアンサンブルのうえで重要なのは表間である。三味線音楽では多くのフレーズは裏間から開始し，その直前の表間は掛け声で示されることが多い。〔徳丸吉彦〕

うらやす【浦安(市)】 千葉県北西部の市。昭和56年市制施行。江戸川の三角州の先端にあり，対岸は東京都江戸川区である。ノリや貝の養殖が行なわれ，アサリの佃煮(つくだに)などをつくっていたが，臨海工業地帯の造成によって，1962年(昭和37)漁業権をほとんど放棄してしまった。1969年に帝都高速度交通営団東西線が浦安を通って総武本線西船橋駅と連絡するようになってから，東京との結びつきがいっそう強くなっている。人口は59,000。

ウラル(山脈) [Ural] ロシア平原と西シベリアの境にあって，東経60°付近を南北に走る古い褶曲(しゅうきょく)山脈。長さ2,600km，幅60～150km，平均高度1,000m。北部は最高峰ナロードナヤ山(1,894m)を含んで高いが，中部は低くなり，南部は多くの山脈の集合した準平原となっている。鉄・銅・

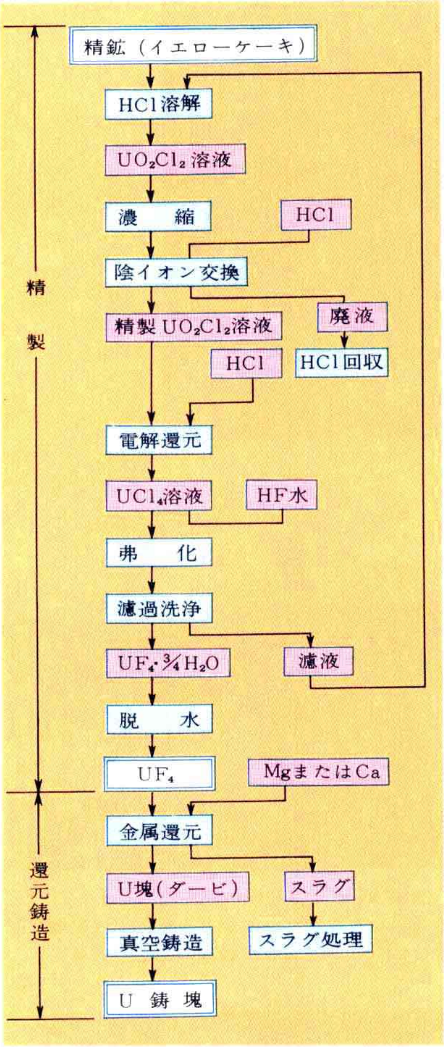
石炭・ニッケルなど多くの鉱産があり，南部はマグニトゴルスク・チェリャビンスクなどの工業都市がウラル工業地帯を形づくっている。シベリア平原とロシア平原を分け，古来アジアとヨーロッパの境界とされてきたが，今日では行政上なんらの境界的な作用をしていない。〔野間三郎〕

ウラル(川) [Ural] ソビエト連邦南西部の川。ウラル山脈南部に源を発し，南流次いで西流してカスピ海に注ぐ。全長2,534km。マグニトゴルスク・オルスク・ウラリスクなどの都市が流路に沿うが，半年間は結氷するため航行にはあまり利用されていない。マグニトゴルスク付近にはダムが建設され，下流部では漁業が行なわれる。

ウラルごぞく【ウラル語族】 系統的にはフィン-ウゲール語派とサモイェード語派に分かれ，フィン-ウゲール語派はさらにフィン語群とウゲール語群に分かれる。フィン語群に属する言語には，バルト-フィン諸語(フィンランド語〔自称スオミ語〕・カレリア語・ウェプセ語・ウォート語・エストニア語・リーウ語)・ラップ語(自称サート語)・モルドウィン語・マリ語・ウドムルト語・コミ語があり，ウゲール語群に属する言語には，オビ-ウゲール語(マンシ語・ハンティ語)・ハンガリー語(自称マジャール語)がある。サモイェード語派の言語は，北部派(ネネツ語・エネツ語・ガナサン語)と南部派(セリクプ語・カマス語)に分かれる。バルト-フィン諸語はバルト海沿岸，ラップ語はスカンジナビア半島北部，モルドウィン語・マリ語・ウドムルト語・コミ語はヨーロッパ・ロシア，オビ-ウゲール語とサモイェード諸語は西部シベリア，ハンガリー語は東ヨーロッパで話されている。〔徳永康元〕

ウラルトゥ [Urartu] 西南アジアの古代民族の一つであるフルリ族系の住民によって，現在のトルコ共和国の東端にあるバン湖付近を中心に，アルメニア高地に建国された古代国家。ミタンニ*王国崩壊以後続いた小王国分立状態を克服して紀元前9世紀に成立し，南隣のアッシリア*と激しく争った。紀元前8世紀前半のアルギシュティシュ1世・サルドゥリシュ2世のころが最盛期。BC714年アッシリアのサルゴン2世*に一時征服されてから，キンメリア人・スキタイ人の圧迫のもとに衰え，BC585年メディア*に滅ぼされた。鉄その他の金属の精錬加工技術にすぐれ，アッシリア・ギリシアに影響を及ぼした。メソポタミアの楔形(くさびがた)文字を借用して記録を残している。〔屋形禎亮〕

ウラル-ボルガ(油田) [Ural-Volga] ソビエト連邦中西部，ウラル山脈とボルガ川にはさまれた大油田地帯。行政的には大部分がタタール自治共和国・バシキール自治共和国に分布し，クイビシェフ・ペルムを中心にソ連産石油の70％以上を採油している。開発は第2次世界大戦中に始まり，1950年代に飛躍的に発展した。パイプラインはシベリアのコンビナートと結びつけられて大工業地帯を出現させる原動力となり，ポーランド・チェコスロバキアにも延びて〈第2のバクー〉といわれる。〔梶川勇作〕



ウ ラ ン　ウランの精製・環元鋳造の過程(湿式法)

うられたはなよめ【売られた花嫁】 スメタナ*作曲のオペラ。作詞はサビナ。1866年5月30日にプラハで初演。3幕からなる喜歌劇で，登場人物はクルシナ(農夫，バリトン)・カチンカ(その妻，ソプラノ)・マリー(その娘，ソプラノ)・ミカ(地主，バス)・アグネス(その妻，メゾソプラノ)・ベンツェル(そのむすこ，テノール)・ハンス(ミカの先妻の子，テノール)など。チェコスロバキア国民オペラの代表作である。特に序曲は名高く，単独曲としてもしばしば演奏される。〔向坂正久〕

うらわ【浦和(市)】 埼玉県南東部，県庁のある市。江戸時代は中山道(なかせんどう)の宿場町であった。1934年(昭和9)全国の県庁所在地中最も遅れて市制を施行。人口35万3,000。表面を関東ローム層*でおおわれる大宮台地と周辺の沖積地(ちゅうせきち)からなり，台地部には麦・サツマイモなどの畑，低地部には水田が開けるが，近年は人口増加につれて宅地化が進んでいる。鉄鋼・セメント・ゴム・機械などの工場が多く，東京と近距離にあるため，商業はあまりふるわない。東京の衛星住宅都市化の傾向が進み，埼玉大学(教養・教育・経済・理工学部)などの教育施設や住宅団地が多い。産業三大別人口比は3：35：62。京浜東北線で東京と結ばれ，環状線の武蔵野(むさしの)線も最近完成して，京浜東北線と南浦和駅で交差している。おもしろいことには，京浜東北線に浦和・南浦和・北浦和，武蔵野線に東浦和・西浦和と，東西南北を冠した駅名がそろっている。産業道路と国道17号線が市街地の東と西を南北に貫通し，西郊には新大宮バイパスがある。荒川沿岸の田島ケ原に自生するサクラソウや，野田の鷺(さぎ)山に渡来するシラサギは特別天然記念物に指定されている。最近は近くを通る自動車などが多くなったので，ほとんどサギの姿を見ることができなくなった。

ウラン [Uran] 周期律表第III族アクチニド族に属する放射性金属元素。ウラニウムともいう。記号U　原子番号92。原子量238.03。天然には遊離金属の状態では発見されず，他の元素と結合して鉱物を形成する。1789年ドイツのクラプロートがセンウラン鉱*から酸化物として取り出し，新元素として確認。1781年の天王星(Uranus)の発見にちなんでウランと命名された。1842年フランスのペリゴーによって金属状のウランが取り出された。また，1896年フランスのベクレルによってウラン化合物から一種の放射線が出ていることが発見され，放射能研究の端緒となった。鉱石としてセンウラン鉱・カルノー石*などがある。

【性質】 金属ウランは銀白色光沢のある結晶で，外観は鋼に似る。比重18.90(25℃)。融点1,133℃。室温では安定であるが，化学的に活性で，酸化物をつくりやすく，水とも反応しうる。ハロゲン・イオウなどと直接化学反応を起こす。原子価は3，4，6のものが知られている。水溶液中のイオンにはU^{3+},U^{4+},UO^{2+}などがある。U^{3+}は濃赤色で容易に酸化される。U^{4+}は緑色で，酸化されてUO^{2+}になりやすい。UO^{2+}は黄色で安定である。ジオキシウラン塩UO_2X_2(Xは1価の酸基)はウラニル塩とよばれ，水によくとけて，普通は黄色を呈し，緑色の螢光(けいこう)を発する。ジオキシ酢酸ウラン(酢酸ウラニル)は陶磁器やガラスの着色に用いられる。

天然ウランには，UI，UII，AcU(アクチノウラン)の同位体があり，これらが一定の割合で混合している。UIは質量数238で，この^{238}Uは天然ウラン中最も多く約99.3％を占める。これはα崩壊をし，半減期4.51×10^9年。また，中性子を吸収して，核燃料として重要な^{234}Pu(プルトニウム)を生ずる。

UIIは質量数234で，天然ウラン中に0.0051%含まれ，α崩壊をし，半減期は2.35×10^5年。AcUは質量数235で，天然ウラン中に0.7%含まれ，α崩壊し，半減期は7.13×10^8年。AcUの原子核は中性子1個を捕えると，ほとんど同じ重さの2個の原子核に分裂する。その際，平均約2.5個の新しい中性子を放出し，約3×10^{-4}エルグのエネルギーを放出する。この放出された中性子が，他のAcUの原子核に捕えられて核分裂反応を起こし，この連鎖反応によって大きなエネルギーを得ることができる。➔原子核燃料 ➔原子爆弾

〔製練〕 ウランの分離および精製には，主として有機溶剤を用いる抽出法によって各種のウラン化合物を製造する。普通は鉱石を粗製練してイエローケーキとよばれる精鉱をつくり，この精鉱から純度のよいウランを得るために乾式法か湿式法による精練を行なう。諸外国では乾式法による製練所がほとんどであるが，わが国では湿式法によって精鉱からウランフッ化物(UF_4)を精製し，それを金属還元して金属ウランをつくっている。なお，世界の主要生産国(共産圏を除く)における産出量を表に示す。わが国では人形峠・東濃・豊田(とよた)などの各鉱山で採掘が行なわれているが，その産出量は年間約10t(1969)とごくわずかである。

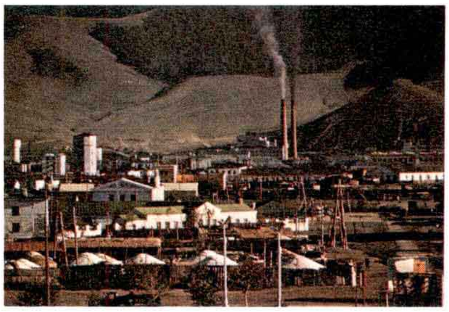
〔用途〕 ウランは化合物の形で窯業・写真などに，金属の形で化学合成用触媒・X線管対陰極材料などに，合金の形で切削用工具材・脱酸剤などに用いられているし，劣化ウラン(原子核燃料としてのAcUを濃縮した場合の副産物として蓄積されるUIを主成分とした減損ウラン)を少量，鉄鋼材料に添加して材質を改良する研究もされている。しかし，ウランの用途の99%以上を占めるのは，原子核分裂に伴うエネルギーの源として利用することである。原子核燃料には，天然ウランとして用いる場合(ガス冷却炉)と，AcUの濃度を高めた濃縮ウランとして用いる場合(軽水冷却炉)がある。

将来の原子力発電規模と，それに対するウラン累積所要量(U_3O_8換算)は，わが国でも1975年度までに18,000t，1985年度までに12万tといわれている。また，海外(自由世界)では1980年において約56万3,000～73万9,000tが見込まれている。わが国のウラン埋蔵量は，1970年4月現在で平均品位約0.05%程度のもので7,700tにすぎないといわれ，今後わが国のウランの需要を満たすためには，積極的に海外からの入手の道を講ずる必要がある。➔濃縮ウラン　〔古屋弘・草川隆次〕

主要国のウラン産出量

国名	1970	1977
アメリカ	9,900	11,200
南アフリカ共和国	3,167	6,700
カナダ	3,234	6,100
フランス	1,136	2,200
ニジェール	—	1,609

注）数値は，採掘された鉱石のU_3O_8含有量。
《国連：統計年鑑》



ウランバートル　ソ連の経済援助で建設された工場地区

ウランウデ ［Ulan-Ude］ ソビエト連邦，東シベリア，ブリヤート自治共和国の首都で，バイカル湖東岸のセレンガ川に沿う。人口23万5,000(1968)。機械・金属・建築材・食品加工などの工業が盛んで，シベリア鉄道からモンゴル方面に向かう鉄道の分岐点にあたる。

ウランけいれつ 【ウラン系列】 ⇨崩壊系列

ウランゲル(島) ［Wrangel, Ostrov Vrangelya］ シベリア北東方，北極海にあるソビエト連邦領の島。面積4,500km²。1867年，アメリカの捕鯨船長T.ロングが発見した。島名は，1820年にこの島の探検に失敗したロシア人ウランゲルにちなんで命名された。1879～1881年にかけてのアメリカ人W.ロングの探検まで，島は大陸の一部と信じられていた。1924年ソ連が領有を宣言し，現在気象観測基地がある。

ウランこう 【ウラン鉱】 金属元素ウランを含む鉱石。ウランは酸化物の形で産出することが多い。最も普通のものはセンウラン鉱(ピッチブレンド)で，その化学成分はU_3O_8である。みかけはピッチに似た黒い重い鉱物で，その他種々のウラン鉱物の多くは地表において二次的に生成したものである。カルノー石$K_2O\cdot2UO_3\cdot V_2O_5\cdot xH_2O$は黄色い粉状の鉱物である。人形石$U_{1-x}Ca_{1-x}R_{2x}\cdot(PO_4)_2\cdot1\sim2H_2O$(Rは希土類元素)は岡山・鳥取県境に近い人形峠で発見された黒色粉状の鉱石である。かつては熱水鉱脈中のセンウラン鉱をウラン鉱として採掘したが，現在では堆積成(たいせきせい)鉱床のウラン鉱を採掘している。鉱石として採掘されている鉱物としてはセンウラン鉱よりも二次的ウラン鉱物が多い。アメリカのコロラド州においては堆積岩中のカルノー石，人形峠においては人形石が有名である。　〔今井秀喜〕

ウーラント ［Ludwig Uhland］ (1787～1862) ドイツの詩人。民謡ふうの叙情詩やバラードにより広く民衆の心をとらえた，後期ロマン主義シュワーベン派の代表的詩人である。古いドイツの伝統や文学の研究に関する著作も多い。1848年には国民議会議員になるなど，政治家でもあり，大ドイツ主義的な民主主義者であった。

ウランばくだん 【ウラン爆弾】 天然ウランの中に0.71%ほど含まれるウラン235に，中性子の衝撃を与えて核分裂を起こさせ，発生する巨大な核エネルギーの破壊力を爆弾として利用するもの。原子爆弾の代表的なもの。

ウランバートル ［Uran Bator］ モンゴル人民共和国の首都。モンゴル語で〈赤い英雄〉を意味する。旧名クーロン。人口26万7,000(1972)。17世紀中ごろからモンゴル地方のラマ教の本山所在地として栄えたが，1921年モンゴル人民共和国の独立とともにその首都となった。現在は皮革・羊毛などの工業が盛んである。中ソ両国を結ぶ連絡鉄道がここを通っている。

ウランホト 【烏蘭浩特】 中国，内モンゴル自治区のホロンバイル(呼倫貝爾)盟の都市。モンゴル語の〈赤い町〉の意味で，もとはワンイエミャオ(王爺廟)といった。内モンゴル東部における政治・経済・文化の中心で，白阿(はくあ)鉄道(白城～阿爾山(あるざん))が通過している。

うり 【瓜】 一般には，マクワウリ・シロウリ・アミメロン(マスクメロン)などの果実をさす。広義には，ヘチマ・スイカ・キュウリ・カボチャなど，ウリ科の総称。ウリ科植物は巻きひげをもつつる草で，花は雌花と雄花の区別がある。果実は水分に富み，食用となるものが多い。おもに熱帯や亜熱帯地方に多く，世界に100属850種がある。日本に自生するものには，カラスウリ・スズメウリ・ミヤマニガウリ・アマチャヅルなどがある。現在栽培されているマクワウリ・スイカ・トウガン・カボチャ・メロンなどは，外国からはいってきたものである。　〔小清水義隆〕

ウーリー ［Charles Leonard Woolley］ (1880～1960) イギリスの考古学者。中東地方において，古代オリエント文明の遺跡の発掘に活躍した。彼の関係した主要な遺跡としては，北シリアのカルケミシュ・アル-ミナ，およびテル-アチャナ(古代のアララク)，また中エジプトのテル-エル-アマルナなどがある。特にウルの発掘(1922～1934)により，古代シュメール文化の輝かしい過去を再現した。学術的労作のほか，講演や一般向きの啓蒙書(けいもうしょ)によって，発掘の成果を広く人々に普及させるのに貢献した。　〔兼岩正夫〕

うりあげぜい 【売上税】 あらゆる財・用役の売り上げに対して課税される税。取引税ともいう。流通税の一。個別の消費税に比べ，低い税率でも課税対象が広いので多額の税収をあげることができる。諸外国では税収入に占める売上税の割合は大きい。わが国では1948年(昭和23)から1949年にかけて実施された取引税がこれにあたる。現

在この種の課税は行なわれていないが，その新設が検討されている。

ウリーウリー ［ulīulī］ ハワイ起源のリズム楽器。現代のフラ-ダンスに最もよく使われている。ほぼこぶし二つぐらいの大きさのひょうたんの中にカンナの花の種などを入れて振る。多人数の場合だとかなりにぎやかな音を出し，通常，フラ-ガールが両手に持って使用することが多い。現在では上部に装飾を兼ねて，あざやかな赤と黄色に染めた羽毛をつけているが，古代のものは自然のままの羽毛を利用したじみな色彩のものである。〔早津敏彦〕

うりオペレーション ［売りオペレーション］ ⇨公開市場操作

うりかけきん ［売掛金］ 商品の販売やサービスの給付など，企業の主たる営業取引において，その代金の決済を後日に行なう掛け売りによって生ずる債権を意味する。これは継続的な取引に基づいて生ずる営業収益の未収代金であり，おもな営業取引以外の取引によって生ずる債権，たとえば，不要器具の売却代金の未収額などや主として時の経過に伴って発生する契約上の収益，たとえば，未収使用料など，臨時の取引によるものとは厳密に区別される。売掛金勘定は，その債権の増減を記録・計算し，得意先元帳の人名勘定を総括・統制する関係にあるから，統制勘定ともいう。

うりくらげ ［瓜水母］ 有櫛(ゆうしつ)動物に属し，外見は腔腸(こうちょう)動物のクラゲに似る。ローマ教皇の帽子のような形で，体長15cm ぐらいになる。淡紅色をおび，透明で美しいが，帽子の下にあたるところに大きな口があり，ほとんど自分と同じ大きさのえさ(甲殻(こうかく)類やクラゲ)を飲み込む。全世界の温暖な海域に広く分布する。

うりごういせき ［瓜郷遺跡］ 弥生(やよい)式文化期の集落遺跡。愛知県豊橋(とよはし)市瓜郷町に所在。豊川の河口近くの三角州に位置している。1947年(昭和22)から数次の調査が行なわれ，土器・磨製石斧(ませいせきふ)・管玉(くだたま)・銅鐸(どうたく)などのほか，木ぐわ・骨もりや浮き袋の口などの生産具が発見された。これらによって，当時農耕と漁労を兼ねた生活が行なわれていたことがうかがわれる。史跡に指定されている。

うりこひめ ［瓜子姫］ 昔話の一。おばあさんが川上から流れてきたウリを拾い，家でこれを割ると，女の子が生まれる。この子は瓜子姫と名づけられ，年とともに美しくなる。老夫婦がるすのとき，天邪鬼(あまのじゃく)が来て，姫を木に縛り，姫に化けて機(はた)を織っているが，露見して天邪鬼は首を切られる。姫はめでたく嫁入りする。《桃太郎》と同類の異常誕生話である。

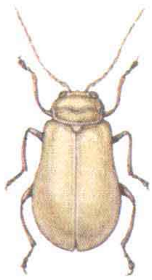
なお，天邪鬼は人のいうことを口まねしたり，反対したりしたあげく，結局は滅ぼされてしまう精霊あるいは妖怪(ようかい)と考えられ，地方によっては山彦(やまびこ)をさす。



ウリーウリー



ウリハダカエデ



ウリハムシ

仏教の守護神である毘沙門天(びしゃもんてん)の腹部につけられた鬼の面および足で押えつけられている小鬼も天邪鬼とよばれている。

うりてしじょう ［売り手市場］ 市場の需給関係が，供給量に比べて需要量が多ければ，売り手の立場が買い手の立場より有利な状態になる。これを売り手市場という。この場合価格は上がりぎみになり，買い手が商品を選択したり価格や数量などに注文をつける余地は少なくなる。逆の場合を買い手市場という。

ウーリーナイロン ［wooly nylon］ ナイロンフィラメントをちぢらせて固定した糸。ちぢれた状態と性能が毛糸に類似するためにつけられた名称。主としてメリヤス地の原糸として，またくつしたなどに多く用いられる。広義のテクスチュアードヤーンに含まれる。

うりぬすびと ［瓜盗人］ 狂言の曲目。雑狂言，盗人物。ウリ畑の主がかかしをしつらえる。夜になって盗人(シテ)がはいり，かかしを番人とまちがえて平あやまりにあやまるが，かかしと知って腹をたて，さんざんに畑を荒らして去る。翌日見回りに来た畑主は，かかしに化けて盗人を待つ。再びやって来た盗人は，かかしと思い込んでそれを相手に祭りのけいこを始めるが，畑主に追われて逃げ去る。前段は〈ズカズカ，メリメリ〉とのこぎりでかきねを破ってはいりこむ擬音のおかしさや，暗い畑でごろごろころがりながらウリを捜すしぐさがおもしろく，後段はかかしを鬼や亡者(もうじゃ)に見立てての，地獄で罪人を追う鬼の責め(囃子(はやし)を用いることもある)のくだりが中心となる。ほとんどシテ独演の，写実的な演技が見どころ。嘯吹(うそふき)の面を用いてかかしをつくるのも秀逸である。

うりのき ［瓜の木］ 双子葉植物・ウリノキ科。山地の落葉低木。葉は有柄でほぼ円形，先が３～５に浅く裂ける。裏面に軟毛がある。５～６月，白い小花を数個，葉腋(ようえき)につける。果実は広卵形で８～９月に青熟する。

うりばえ ⇨ウリハムシ

うりはだかえで ［瓜膚楓］ 双子葉植物・カエデ科。山地の林にはえる落葉高木で，高さ10m以上になる。枝はなめらかで緑色をおび，マクワウリの皮に似ている。葉は対生で，浅く３裂し，中央の裂片が最も大きい。裏面の葉脈に沿ってかっ色の毛がある。５月，長さ５～10cmの黄色の雄花および両性花の花穂を別々の枝先につける。９～11月に翼果がかっ色に熟す。２枚の翼は鋭角ないし直角に開く。➔カエデ

うりはむし ［瓜葉虫・瓜金花虫］ こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。俗にウリバエとよばれる。ウリ類の害虫として著名で，特にスイカやマクワウリの被害が大きい。体長６～８mm。鞘翅は一様に橙黄(とうおう)色で，腹部の腹面は黒色。本州以南インドに至る東部アジア一帯に広く分布する。卵は淡黄色でほぼ卵形，長径0.6mm内外。幼虫は淡黄白色で細長く頭部のみかっ色，老熟したもので体長10mm内外。さなぎは淡黄色で体長６～８mm。年１回の発生で，成虫は土中や落葉の下などで越冬し，翌春出現してウリ類の葉を食害する。初夏から９月ごろにかけて地表に産卵し，幼虫は地中でウリ類の根部を食害する。夏から秋にかけて新成虫が現われる。成虫の防除には，苗に紙テントを張るかデリス剤を散布する。幼虫の駆除には，マラソンまたはスミチオンやパラチオンを水にとかして根ぎわに注ぐ。近似の種類に鞘翅が黒色のクロウリハムシがある。〔鈴木邦雄〕

うりはむしもどき ［擬瓜葉虫］ こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。体長５～６mm，体形はウリハムシに似る。鞘翅の色彩は変化に富み，全体黄色のもの，一部分黄色のもの，全体黒色のものなどがある。日本全土およびサハリン・シベリアなどに分布する普通種。雑食性で，幼虫・成虫ともに多数の植物を加害する。

うりみばえ ［瓜実蠅］ こん虫類・双翅(そうし)目・ミバエ科。沖縄以南の熱帯地方に広く分布し，ウリ類の大害虫として著

名。日本本土には未知であるが，果実に付着して侵入するおそれがあり，植物検疫上の重要な対象種となっている。成虫は体長7～9mm，体は黄色ないし黄赤色。翅(はね)は前縁部が黄かっ色で，淡色の斑紋(はんもん)がある。腹部は丸く，基部が急に細まる。幼虫はうじ状で，果実内に潜入して内部を食害する。

うりゅういわ 【瓜生岩】 (1829～1897) 社会事業家。福島県に生まれる。1889年(明治22)窮民孤児収容のため福島救育所を創設し，1891年上京して東京市養育院幼童世話掛長となる。晩年帰郷して，会津済生会病院・産婆研究所などを設立した。

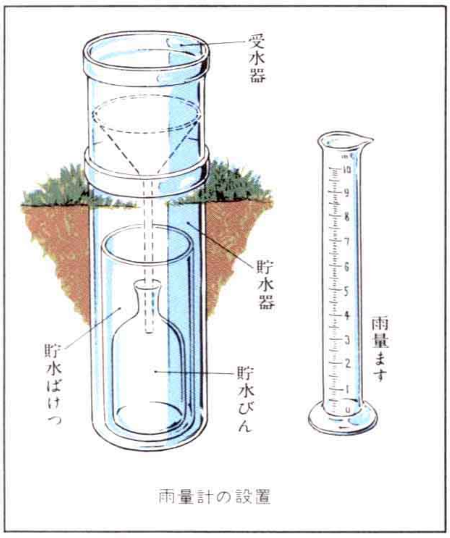
うりゅうがわ 【雨龍川】 北海道天塩(てしお)山地を南流し，上川盆地から流れてくる石狩川に合流する。流程186km。流域一帯は原生林が広く，北海道木材の宝庫といわれている。上流にダムが建設され，雨龍湖*(朱鞠内湖(しゅまりないこ))が貯水池として出現し，北海道第1の発電が行なわれている。流域は北海道でも有数の深雪地である。川沿いに深名線が走る。

うりゅうこ 【雨龍湖】 北海道北部にある人造湖。雨龍貯水池，朱鞠内湖(しゅまりないこ)ともよばれる。石狩川の支流雨龍川の上流にダムを築造するためにつくられた。電源開発によるもので，北海道第1の発電所がある。最大出力52,000kW。

うりょうけい 【雨量計】 降水量*を測定する器械。標準の雨量計は，受水口の直径20cm，高さ60cmの銅製の円筒形のもので，受水器・貯水器・貯水ばけつ・貯水びん・雨量ますで構成されている。貯水器の上部に20cmの長さのシンチュウの輪がついており，その部分が地上に出るように地中に埋められ，貯水ばけつ・貯水びんを順に入れ，その上に受水器を置く。観測のときは，受水器をはずし，貯水びんを取り出してその中の雨水を雨量ますに入れて，その目盛りを読む。雨量を連続的に自記させるために，自記雨量計がある。小屋の屋上に受水器を置き，導管で屋内に固定した装置につながっている。貯水部・排水部・自記部に分かれており，貯水部の浮きに自記ペンがついていて，自記時計に巻いてある自記紙に雨量が記録される。貯水が20mmに達すると，サイホンの作用で自動的に排水され，ペンは0位置にもどるようになっている。 〔曲田光夫〕

うりょくじゅりん 【雨緑樹林】 植物群系の一つで，熱帯モンスーン地帯にできる森林。この地域は1年が雨季と乾季に分かれるため，雨季とともに芽をふき，乾季には落葉する樹木が森林をつくる。着生植物*は少ないが，イネ科の草本やつる性の植物，あるいはタケなどが茂り，低木の常緑樹が下層に生育する。東南アジア・アフリカ中部・南アメリカに発達。

うりわたしたんぽ 【売渡担保】 売買の



雨量計



ウ ル ウル第3王朝時代に造営されたジッグラト

形式を借りた物的担保*。すなわち，融資を受ける者が，その目的物を所持しながら，形式的に融資者に売り渡して，所有権を信託的に移転して融資を受け，同時に目的物を賃借しながら融資された金額を期限内に返済すれば，目的物の所有権を取得する制度。譲渡担保*と異なる点は，売渡担保が売買の形式をとるので，融資者は融資を受ける者に対して債権を有しない。したがって融資した金銭の弁済を請求できないことである。買い戻(もど)し*の方法については，民法に規定する買い戻し(民法579～585条)がこれに該当するが，目的物が不動産に限られ，買い戻し代金についても制限があるため，普通には再売買の予約の方法が用いられる。動産は抵当権の目的となりえないので，この方法によると融資を受けやすく，しかも目的物を所持したまま利用できる点に意義があるが，多くの場合は脱法行為である。公序良俗*に反しないかぎり，慣習上の適法行為として裁判所はこれを有効としている。 〔黒木三郎〕

うりんいん 【雲林院】 京都市北区紫野にあった寺。淳和(じゅんな)・仁明(にんみょう)天皇の離宮であったが，のちに僧正遍照が管理し，884年(元慶8)に天台宗元慶(がんきょう)寺*の別院となった。能の《雲林院》の舞台となり，〈紫の雲の林〉とよばれて歌枕(うたまくら)としても有名。1324年(正中1)に臨済宗大徳寺に属したが，しだいに衰え，現在は紫野雲林院町に観音堂一宇を残すのみ。境内には小野篁(たかむら)・紫式部の墓がある。

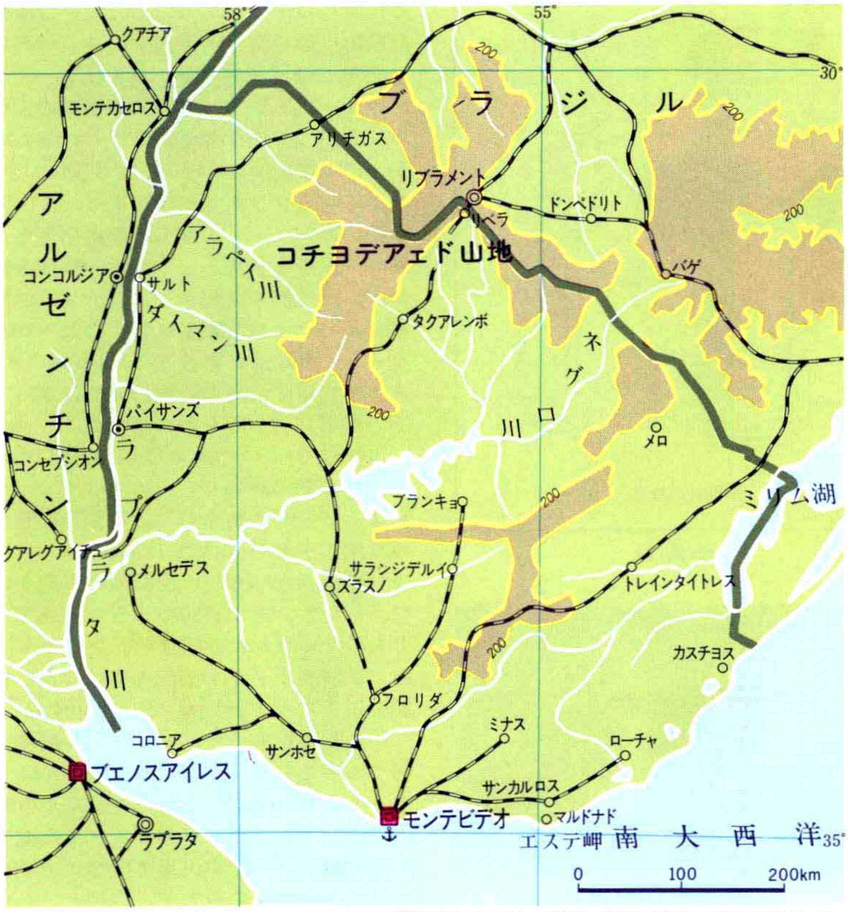
ウル ［Ur］ メソポタミア南部の古代都市。現在，イラク南部のテル-エル-ムカイヤルに廃墟丘(はいきょきゅう)として残っている。かつてユーフラテス河岸にあり，BC 3000年紀にはシュメール*都市国家の盟主として栄え，以後も聖都として宗教的権威を保ったが，紀元前4世紀ユーフラテス川の流路が変わったため放棄された。1922～1934年ウーリー*を隊長とするペンシルベニア大学・大英博物館の合同調査隊の発掘によって，その都市文明が明らかにされた。

定住はウバイド期(BC 4000年紀)に始まり，この期の終わりごろの大洪水(だいこうずい)によって一時中断された。初期王朝時代のウル第1王朝(BC 2500年前後)はシュメールの覇権(はけん)を握り，最初の繁栄期を迎えた。しかし，BC 2350年ごろセム系アッカド人のサルゴンに征服され，アッカド王国および蛮族グティの支配を受けたが，BC 2050年ごろウルナンムが出て，再びシュメールの覇権を握った。シュメール最後の王朝であるこのウル第3王朝(BC 2050年ごろ～BC 1950年ごろ)のときがウルの繁栄の頂点である。全メソポタミアを支配し，官僚組織に基づく中央集権国家に君臨する神格化された王のもとで，市神ナンナル(月神)の神殿，その背後にそびえる高さ20mの4層のジッグラト(聖塔)などの建造が盛んに行なわれた。しかしエラム人による破壊以後，都市の政治的生命は終わるが，月神ナンナルの町として尊崇を受けつづけた。都市が放棄されてからは砂漠(さばく)の廃丘と化した。 〔屋形禎亮〕

ウール ⇨毛織物

うるうづき 【閏月】 閏月(じゅんげつ)ともいう。太陰太陽暦*では月の満ち欠けの周期(1朔望(さくぼう)月*＝29.530589日)を1か月とし，1太陽年(365.2422日)を1か年とするので，1年が12.4か月となり0.4月の端数が出てくる。このずれを調節するためにつくられた月を閏月という。閏月の配置の方法は暦によって異なる。➔置閏法

うるうどし 【閏年】 太陽暦*において閏日*を置く年。1太陽年は365.2422日である。しかし暦の単位は1日であって，0.2422日の端数の出ることはぐあいが悪い。したがって，この端数を切り捨てて365日を1年とする。これが平年である。しかし，平年ばかりが長く続くと端数が積もり積もって，季節のめやすとなる，春分・夏至(げし)・秋分・冬至が実際の季節とずれてしまう。そこで，366日を1年とする年を置いて，暦の日付が季節とずれるのを防がなければならない。これが閏年である。グレゴリオ暦*では，400年間に303回の平年と97回の閏年を置いて，平均の1年の長さを365.2425日としている。このようにすると，1900年か



ウルグアイ



ウルグアイの国旗　1830年制定。独立達成に関係の深かったアルゼンチンの国旗に似ており，左上に描かれた〈五月の太陽〉はまったく同じ。青・白合わせて９本の線は独立当時の９地区を示している

ら2621年たっても１日だけのずれしか生じない。　〔木下　宙〕

うるうび　【閏日】　1年(純太陰暦では１太陰年，太陽暦では１太陽年)に含まれる日の端数が積み重なるのを防ぐため，数年に１度余分に暦に差し入れる日をいう。

うるか　【鱁鮧】　アユの塩辛*。語源は明らかではない。アユの体の使用する部位によって，子うるか(アユの卵を原料とする)・白うるか(白子)・にがうるか(内臓)・切り込みうるか(頭・ひれを除いた全部)などがある。主として酒のさかなとして珍重される。特に，にがうるかは，珪藻(けいそう)の苦みがきいておいしい。塩辛の中では高級なものである。

ウルカヌス　⇨ヘパイストス

ウルグアイ　(東方共和国)　［Oriental Republic of Uruguay］　南アメリカ大陸南部，大西洋岸の共和国。北はブラジル，西はアルゼンチンに接する。面積17万8,000km²。人口290万(1978年推)。首都モンテビデオ。

【自然・住民】国土はブラジル高原の南端部にあり，海岸は深い湾入をもつラプラタ川・ウルグアイ川の河口に臨む。国土全体が温帯草原に属し，東部および南部は平坦(へいたん)であるが，西北部はゆるやかな起伏をもった低い山地帯である。この草原は北に進むとグランチャコ*に，西はラプラタ川を隔ててパンパ*に連なる。大西洋から吹く風の影響を受けて，四季を通じて温和で，モンテビデオの平均気温は夏で23℃，冬で11℃前後であり，雨量も年間1,000mm前後である。国土面積は南アメリカ大陸最小であるが，人口密度は１km²あたり14で，エクアドルに次いで高い。住民の約90%をスペイン系白人が占め，わずかな混血・インディアン・黒人がいる。文盲率も低く，文化水準は南アメリカ諸国中では高い。彼らの大部分はカトリック教徒でスペイン語を話す。20世紀になってイタリア人・イギリス人が移民として入植してきたが，彼らは主として首都モンテビデオに居住している。

【産業・経済】主産業は農牧業であるが，農耕地は，西部のラプラタ川に沿う狭い地域に限られ，モンテビデオの周辺地域で自給用のトウモロコシ・大麦などをつくっているにすぎず，国土の大半はウシ・ヒツジの牧場となっている。ヒツジ約2,400万頭，ウシ約770万頭(1965)を飼ってこの国の産業の主軸をなしているが，近年，ウシの牧場が農耕地化され，その飼育頭数は減少傾向にある。輸出品のほとんどがヒツジとウシで，ヒツジは羊毛として，ウシは冷凍肉・皮革として輸出されるが，近年，羊毛の輸出額が牛肉を上回り，約1.5倍を占めるようになった。輸出先はアメリカ合衆国が第１で，イギリスがこれに次ぐ。輸入もアメリカ合衆国からが最も多いが，日本との交易も盛んで，特に第２次世界大戦前は織物・雑貨などを多く輸入し，その貿易額は日本が第１位であった。現在も工業機械・ミシン・薬品・雑貨などの日本製品を多く輸入している。工業はモンテビデオで食品加工業が盛んであるが，近年は毛織物工業も発達している。また，北部の低い山地には，金・銀・銅・マンガンなどの鉱産物の埋蔵が確認されているが，その産出は少なく，開発はほとんど進んでいない。交通は国土面積の小さいこともあって，比較的発達しており，モンテビデオを中心とする鉄道の総延長は約3,000km，自動車道路は42,000kmに及んでいる。カラスコには空港があり，ブラジル・アルゼンチン・アメリカ合衆国へ数本の定期便が発着している。

【歴史・政治】ラプラタ川の舟運は，アンデス山地の資源をブエノスアイレスに運ぶ主要な輸送路であった。ラプラタ川に接するこの国の領有をめぐって，スペイン・ポルトガル両国が争ったが，1680年ポルトガルの植民地となった。その後1750年・1776年の条約によって，スペインが領有することとなった。以後もブラジルのポルトガル人により侵略されたこともあったが，1825年に独立を宣言し，1828年のリオデジャネイロ会議で承認されて，共和国となった。1952年独裁政治を防ぐため大統領制を廃し，政治は９人で構成される執政協議会を中心に行なわれる。福祉国家をめざし，社会保障制度も進んでおり〈南米のスイス〉といわれている。1919年につくられた憲法はスイスに範をとったものである。首都モンテビデオには国立大学がある。　〔小栗　宏〕

ウルグアイ(川)　［Uruguay］　南アメリカ大陸東南部の国際河川。全長約1,570km。ブラジル南部の高地に発し，ブラジルとアルゼンチンの国境を流れ，やがてアルゼンチンとウルグアイの国境線となってブエノスアイレスの北，河口付近でラプラタ川に合流する。河口から約210kmのパイサンズまでは外洋船の航行が可能で，アルゼンチ

ンにおけるパラナ川同様，ウルグアイの重要な貨物輸送路となっている。

ウルグ-ベグ ［Ulug Beg］（1393～1449） チムール*の孫。シャー-ルフ*の子。1409年サマルカンドに封ぜられ，以来，37年間マワランナフルを支配した。学芸の保護者として名高く，彼みずからもすぐれた天文学者・文人であった。

ウルサン 【蔚山】 朝鮮半島，慶尚(けいしょう)南道の東北端，日本海に面する都市。人口31,000(1960)。新羅(しらぎ)時代の要地の一つで，郊外の城址(じょうし)は文禄(ぶんろく)・慶長の役*の戦跡。湾外に捕鯨基地の長生浦(ちょうせいほ)などの漁港を控え，付近には米・リンゴなどの産も多い。東海南部線(釜山(ふさん)～慶州)が通じ，農・水産物の集散地であったが，1962年，工業センターの起工以来工業化が進められている。精油・製鉄・化学工業などの工場群，火力発電所などが建設されつつある。〔矢守一彦〕

うるさんのたたかい 【蔚山の戦い】 文禄(ぶんろく)・慶長の役*における最も激しかった戦いの一。1597年(慶長2)10月，加藤清正(きよまさ)と浅野幸長(ゆきなが)が蔚山*に築城していて，李如梅(りじょばい)らの率いる明軍(みんぐん)約40,000，朝鮮軍10,000の包囲攻撃を受け，籠城(ろうじょう)3か月，毛利秀元(ひでもと)・鍋島直茂(なべしまなおしげ)らの来援を得てやっと包囲軍を退けた。蔚山は慶州の一つの門戸であり，かつ日本海沿岸における要地で，古くから日本との交通もあった。

うるし 【漆】 双子葉植物・ウルシ科。



ウルシ（果実）

中国原産の10m前後の落葉高木。葉は奇数羽状複葉で7～11枚の小葉からなり，長さ30cm以上に達する。小葉は卵形～長卵形で，葉柄や葉裏に短毛があり，秋に紅葉する。雌雄異株で，5～6月に黄緑色の花が葉腋(ようえき)に円錐(えんすい)花序となってつく。雄花はがく片5・花弁5・おしべ5。雌花はがく片5・花弁5・めしべ1。果実は石果で，長さ6～8mm，表面はなめらか。樹皮に傷をつけると出てくる樹液には，ウルシオール*・ラッカーゼ・ゴム質などが含まれ，高級塗り物(漆器)に利用される。皮膚の弱い人は，漆かぶれ(→接触性皮膚炎)を起こすことがある。樹液の乾固したものを乾漆といい，漢方では浄血薬とすることがある。果実からは良質の木ロウが得られる。〔加藤僖重〕

うるし 【漆】 ウルシ*の樹液を原料としてつくられる塗料の一種。ウルシの幹の切り傷から分泌する液を生漆といい，漆器の下塗りにのみ使用する。製漆するには，〈なやし〉と〈くろめ〉という2工程がある。なやしは漆液の粘度の増加と肉づきをよくするため，くろめは水分を除く工程である。製漆は透漆(すきうるし)と黒漆に大別され，透漆は梨子地(なしじ)・ろいろ・中塗り漆などで透明であり，黒漆には鉄粉・リョクバン(硫酸鉄)・水酸化鉄・重クロム酸カリなどが用いられ，これにより漆器独特の漆黒の外観を現わす。製漆は，塗装後生漆に比べて乾燥が遅れるので，温度25℃，湿度80%に保った乾燥室で乾燥させる。漆の主成分はウルシオール*で，だいたい60～70%を含み，ほかに水分・ゴム質・窒素分を含む。生漆の品位はウルシオールの含有量で決められるが，産地の違いで差異がある。漆の塗膜は漆特有の優雅な美観をもち，かたくて，耐久性・耐薬品性がすぐれており，日本古来の漆器・美術工芸品・神社仏閣などに保護と美観を兼ねて使用されてきたが，最近では産出もきわめて少なく，カシュー樹脂塗料や合成樹脂塗料*の発展により，ごく一部の特殊なものに用いられているにすぎない。〔鈴木荘司〕

うるしいと 【漆糸】 漆を塗った和紙でつくった糸。かたく，特殊の光沢を有するために装飾用に交織される。帯地・着尺地などの高級絹織物に利用する。

うるしえ 【漆絵】 色漆(透明漆に鉱物性顔料を混入してつくる)を使って描いた絵。中国の長沙(ちょうさ)墳墓や朝鮮の楽浪遺跡などから多くの漆絵漆器が発掘されていることから，紀元前5世紀～紀元前2世紀には

漆絵

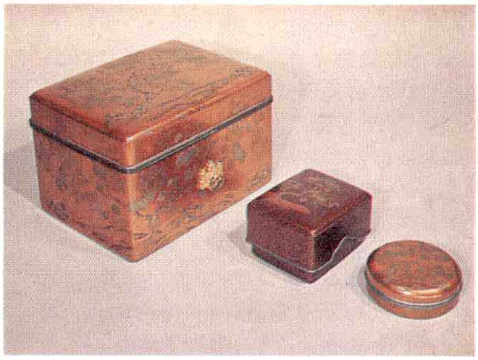


一切経経櫃の十六善神像　七寺蔵

漆工芸



螺鈿玳瑁唐草合子　当麻寺蔵



桐樹蒔絵手箱，櫛箱，鏡箱　熊野速玉大社蔵



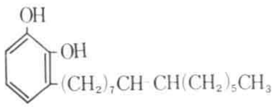
堆朱香盆　聖衆来迎寺蔵



蓮唐草蒔絵経箱(皮製)部分　奈良国立博物館蔵

その手法がすでに完成していたとみられる。古くは赤(朱・紅柄)・黄・青を基本に，混色をして緑・肉色をつくり，黒漆を加えて7色が使用された。わが国の工芸遺品では法隆寺の玉虫厨子*(ずし)が最も古く，宮殿扉(きゅうでんぴ)・須弥座(しゅみざ)の四方にわたって漆絵が施されている。蒔絵*(まきえ)ほどの華麗さがないため目だたぬが，吉野塗(よしのぬり)や八雲塗など，地方のじみな食器・日用品に味わい深いものを残している。〔河田　貞〕

ウルシオール　[urushiol]　フェノール類に属する天然樹脂の一種で，ジヒドロウルシオールやデヒドロウルシオールとともに漆*の主成分として含まれる。広い意味ではこの3者をウルシオールという。淡黄色の液体で，漆中の酸化酵素であるラッカーゼによって黒色樹脂状となる。これが皮膚に触れると漆かぶれを起こすことがある。ツタウルシやタイトウウルシなどでは上記以外のカテコール誘導体を含み，樹脂の組成が異なっている。〔石戸良治・荒木洋之助〕



うるしかぶれ　【漆かぶれ】　⇨接触性皮膚炎

うるしこうげい　【漆工芸】　工芸品のみならず，漆芸技法を応用した建築・彫刻など，漆を直接・間接に塗布する造形品を総称していう。したがって，素材や塗法の差異によりその効果も違う。漆芸技法は，すでに中国の戦国・漢時代(紀元前5世紀から2世紀ごろ)の発掘工芸品に散見され，起源はさらにさかのぼると考えられる。明(みん)の黄大成の著わした《髹飾録(きゅうしょくろく)》には，漆芸は古く舜(しゅん)のころに始まると述べているが明確でない。わが国では縄文(じょうもん)後期・弥生(やよい)期の遺品に漆を使用した形跡がうかがわれ，工芸品では黒漆地に色漆で彩画した飛鳥(あすか)期の玉虫厨子*(ずし)が最古の遺例である。素材には木・金属・竹(藍胎(らんたい)，裂いて表皮をとった竹をかご目に編んだもの)・皮・布(乾漆)・紙・ガラスなどがあり，塗法も漆のみではなく，貝や金属の薄板を切文して併用した螺鈿*(らでん)・平文，金粉をまいて文様を表わす蒔絵*(まきえ)，漆面に針がきして金粉をすりこむ沈金*などの手法がある。〔河田　貞〕

ウールジョーゼット　⇨ジョーゼット

ウルツ　[Charles Adolph Wurtz]（1817～1884）フランスの有機化学者。リービヒ*・デュマ*に化学を学んだ。ソルボンヌ大学教授。多数の有機化合物を合成し，有機反応について系統的研究を行なった。アルデヒド縮合の発見からブドウ糖の構造の研究に及び，アンモニア形構造・原子価概念などを示唆した。

ウルツはんのう　【ウルツ反応】　ハロゲン化アルキルと金属ナトリウム(Na)から，炭化水素を合成する反応。フランスの有機化学者ウルツ*が1855年に発見した。のちになって，フィッチヒがこの反応を芳香族炭化水素の反応に拡張したため，ウルツ-フィッチヒ反応といわれる。例として次のような反応があげられる。



ウルップソウ



ウルバヌス2世

$$2\,CH_3CH_2CH_2I \xrightarrow{Na} CH_3(CH_2)_4CH_3$$

ヨウ化n-プロピル　　n-ヘキサン

$$C_6H_5Br + n\text{-}CH_3(CH_2)_3Br \xrightarrow{Na} C_6H_5(CH_2)_3CH_3$$

ブロムベンゼン　臭化n-ブチル　　n-ブチルベンゼン

ウルップ(島)　[Urup]　得撫島。千島(クリル)列島南西部，エトロフ(択捉)島の北隣の島。ラッコ島ともいう。面積約830km^2。ウルップは魚名で，マスの一種。千島火山帯が通り，温泉が多い。1643年オランダ船が発見し，コンパニースランドともよばれた。原住民はアリュート人で，ロシア人・アイヌ人・日本人が夏季だけ漁猟のため渡島した。18世紀末，日本とロシアが領有をめぐって争い，19世紀には辺境の緩衝地帯となった。1857年(安政4)の下田条約でウルップ島以北はロシア領，1875年(明治8)の千島・樺太(からふと)交換条約により日本領となったが，第2次世界大戦後の1945年よりソ連領となっている。〔大崎　晃〕

うるっぷそう　【得撫草】　双子葉植物・ゴマノハグサ科。本州中部の高山の砂礫地(されきち)やオホーツク海沿岸，千島(クリル)列島・サハリン(樺太(からふと))などの海岸にみられる多年草。地下茎は太く，その上に長い柄をもつ4～10cmの卵形のつやのある葉をつける。夏に紫色の小花を20cmぐらいの穂状につける。

ウルドゥーご　【ウルドゥー語】　ベンガル語と並んでパキスタンの国語の一。また，インド共和国憲法に重要14言語の一つとして規定されている言語。英領インド時代にはヒンドゥスターニー語とよばれ，インドの公用語の一つであった。分布地域は北中部インドばかりでなく，西パキスタンやデカン地方を中心とするインド南部にも及ぶ。これを母国語にする人口はインドに2,323万人，パキスタンに330万人(いずれも1961年)いるが，特に西パキスタンでは公用語・標準語・文学語・教育媒介語として重きをなしているので，使用者数もはなはだ多数に上る。近代インド-アーリアン語の中の中部諸語に属する点ではヒンディー語*と同じだが，12世紀以降，侵入したイスラム教徒の言語に強く影響された点が大きな特徴である。基礎的な語彙(ごい)は共通であり，文法上の差異もまったくないが，高級語彙の面でペルシア語*(およびそれを介してのアラビア語*)からの借用語がはなはだ多いことや，アラビア・ペルシア文字の改良形の使用，若干の外来音韻の保持などで，ヒンディー語とは区別される。両言語は日常会話段階では接近し，文語段階では大きく隔たるという関係にある。➔インド-イラン語派

〔古賀勝郎〕

ウルドゥー語の文例

あるとき，北風と太陽が，どちらが強いか言い争っていました。　《イソップ物語》から

ルォア　ーワハ　ーリーマュシ　ルーバ　クーエ
اور　هوا　شمالی　بار　ایک
と　風　北　きと　るあ

スフバ　ルパ　トーバ　スイ　ジーラス
بحث　پر　بات　اس　سورج
(を)い争い言　で　とこ　のこ　(が)陽太

ンノード　ンウ　ケ　ーテ　ーヘラ　ルカ
دونون　ان　كه　تهے　رهے　كر
の者両　ので　ちわなす　た　い　て　し

ンゥコ　ルワトカータ　ーダーャジ　ンメ
كون　ور　طاقت　زياده　مين
れだ　(は)ち持力　りよ　ちう

イハ
هے -
(か)るあて

ウルトラ-ナショナリズム　[ultra nationalism]　超国家主義・民族至上主義などとも訳される。狂信的なまでの民族的また国家的使命観ないし優越観を強調，逆に他民族への敵対観・差別観を伴うナショナリズム*の一形態。ナチス-ドイツや軍国主義日本のウルトラ-ナショナリズムもその好例で，これらは帝国主義的・ファッショ的・軍国主義的なナショナリズムの表現である。逆にアラブ-イスラエル紛争にみられるユダヤ人の反アラブのシオニズム*，またアラブ人の反イスラエルの思想・行動もウルトラ-ナショナリズムの例である。〔岡倉古志郎〕

ウルトラマリン　⇨群青

ウルバヌス(2世)　[Urbanus]（1042ごろ～1099）本名オド。ローマ教皇。在位1088～1099年。十字軍の提唱者。フランスのクリュニー修道院出身。いわゆるカノッサの

屈辱といわれる教皇グレゴリウス7世と皇帝ハインリヒ4世との争いに際しては，枢機卿(すうきけい)として大いに活躍した。教皇時代にも，引き続き教皇権の拡張に努めた。1095年，ピアツェンツァおよびクレルモンの宗教会議でイスラム教徒からの聖地回復を力説し，1096年第1回十字軍の派遣に成功した。〔五十嵐 誠〕

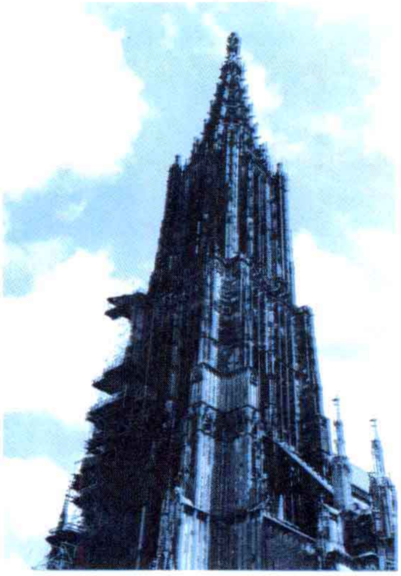
ウルフ [Virginia Woolf]（1882～1941） イギリスの女流小説家。有名な文筆家レズリー-スティーブンの子。ロンドンに生まれ，早くから文学を志した。伝統的作風からしだいに独創的な内面描写に向かい，《ジェーコブの部屋(へや)》《ダロウェー夫人》《燈台へ》などでプルーストやジェームズの流れをくむ〈意識の流れの文学〉を確立した。心理描写が物語のわくを越えるところに独自な精神の領域がある。ほかに《波》《歳月》《幕間》などの小説があり，また文学および女性問題に関する進歩的な評論を書き，旧世代を痛烈に批判した。第2次世界大戦が始まってまもなく，極度の神経衰弱に陥り，入水自殺を遂げた。〔橋本槙矩〕

ウルフ [Thomas Wolfe]（1900～1938） アメリカの小説家。ノースカロライナ州山間の町アッシュビルに生まれたが，そのことが彼の内部に〈かなた〉の世界への憧憬(どうけい)を植えつけ，州立大学卒業後は故郷を捨て，北部への脱出を手はじめに放浪の生涯(しょうがい)を送った。アメリカ全体を描き尽くそうとする壮大な激情に身を焼きながら，長編《天使よ故郷を見よ》《時間と川》，短編集《死から朝へ》などを発表したが，西部旅行の途上で夭折(ようせつ)した。遺作に長編《網と岩》《帰れぬ故郷》，短編集《かなたの山々》がある。〔酒本雅之〕

ウルブリヒト [Walter Ulbricht]（1893～1973） ドイツ民主主義共和国（東ドイツ）の政治家。ワイマール共和国末期のドイツ共産党国会議員であったが，ナチスの政権掌握とともにソ連に亡命。第2次世界大戦後，帰国してドイツ社会主義統一党を組織し，ドイツ民主主義共和国の成立（1949）とともに副首相となり，1953年社会主義統一党中央委員会第一書記，1960年には国家評議会議長（元首）となった。

ウルム [Ulm] 西ドイツ南部，ドナウ川とその支流イラー川の合流点に発達した商工業都市。人口93,000（1965）。バーデン-ビュルテンベルク州に属する。中世には自由市として栄え，世界最高を誇るウルム聖堂の塔（162 m）がそびえる。舟運と鉄道の要点で，酪農品の集散を行なうほか，織物・機械などの工業が興っている。1805年ナポレオンがオーストリアと戦い，これを破った地としても知られる。

ウルムせいどう 【ウルム聖堂】 ドイツ南部，ドナウ川に臨むウルムにあるゴシック様式の教会。東に2基，西に1基の塔をもつが，西側のそれは162 mの高さを中空



ウルム聖堂 五廊式バシリカの西の大塔



ウルメイワシ

に誇る石造の巨大な塔である。1377年に起工され，中断されたとはいえ600年を要して1890年前後に完成された。なお，内部は20,000人以上の信者を高さ42 mの身廊部分が迎え，外側の塔の垂直体とともにドイツ-ゴシックの宗教表現の特徴を明瞭(めいりょう)にしている。〔田島 学〕

ウルムチ 【烏魯木斉】 中国，新疆(しんきょう)ウイグル自治区の中部，天山山脈東部のボグド-オラ山北西麓(ろく)のオアシスにある都市。同自治区の行政の中心地。天山北路の最大要地で，交通・貿易の中心を占める。歴代，諸遊牧民族の争奪地となったが，7世紀になると漢民族の進出が行なわれはじめた。清朝(しんちょう)に至って中国支配が確立し，迪化(ティーホワ)と称して近年に至った。現在は新蘭(しんらん)鉄道が蘭州から通じ，各種の重工業も興っている。〔日比野丈夫〕

うるめいわし 【潤目鰯】 硬骨魚類・ウルメイワシ科。30cmほどになる海産魚。姿も色もマイワシによく似ているが，これよりも丸く，斑点(はんてん)がない。北海道以南の各地沿岸を回遊する。群をなすが，マイワシのような大群にはならない。干物は美味。

ウルンジ ⇨ブルンジ（共和国）

ウレアーゼ [urease] 尿素を加水分解してアンモニアと二酸化炭素にする酵素。

$$CO(NH_2)_2 + H_2O \longrightarrow 2NH_3 + CO_2$$

動・植物，微生物に広く分布しているが，特にマメ科植物（ナタマメなど）の種子中には非常に多く含まれている。結晶化された最初の酵素で，これは1926年サムナーによって行なわれ，それによって1946年度のノーベル化学賞を受賞した。

うれしの 【嬉野(町)】 三重県一志郡の町。人口16,000。伊勢(いせ)平野の中部，雲出(くもず)川の支流中村川の流域にあり，松阪(まつさか)市の北に接する。西部は山地にかかり，東部は条里制の跡がある水田地帯で，古墳群が多く，その開発は古い。紀勢本線の支線名松線が通り，近畿(きんき)日本鉄道大阪線と名古屋線が中川駅で分岐している。

うれしの 【嬉野(町)】 佐賀県藤津郡の町。人口20,000。県の南西部にあり，長崎県と境を接している。嬉野盆地にあり，歴史の古い嬉野温泉と，明(みん)人紅令民によって15世紀に伝えられたという嬉野茶の産地として知られている。鉄道はなく，バス交通にたよっている。

うれしのおんせん 【嬉野温泉】 佐賀県の南西部，藤津郡嬉野町にあり，嬉野川に沿う。8世紀の初めに開かれたといわれ，江戸時代のケンペルやシーボルトの紀行文にもその名が出ている。炭酸アルカリ泉で，泉温は95℃。湯量豊富なので町民は炊事にも利用している。雲仙(うんぜん)にも近く，年間の浴客は80万人に上る。

ウレタン [urethan] H_2NCOOR カルバミン酸とアルコールまたはフェノールから得られるエステルの総称。狭義にはカルバミン酸エチル$H_2NCOOC_2H_5$をいう。無色または白色の粉末で，においはほとんどなく清涼な塩味がある。催眠剤として用いられたこともあるが，慢性骨髄白血病・多発性骨髄腫(こつずいしゅ)などにまれに用いる。細胞の増殖抑制作用があり，核タンパクの合成を抑制するので，反復使用すると造血系の障害が起こるおそれがある。このほか，医薬品を製剤化するとき溶解補助剤として用いる。〔鈴木郁生〕

ウレタンゴム 合成ゴムの一。原料は，二価アルコールと二塩基酸・ジイソシアネート，および橋かけ剤としての水・ジアミンまたはグリコール。最初の二つからできたポリエステルが，ジイソシアネートとの反応でウレタン結合（-NHCOO-）を形成しながら高分子鎖を長くしていく。橋かけ剤は鎖内のウレタン結合の部分と反応して網状構造化する。機械的性質はきわめて良好で，天然ゴムに匹敵し，耐摩耗性・耐油性・耐有機溶剤性もすぐれ，特に耐摩耗性がよい。欠点は，酸・アルカリに弱いことと，耐熱性の悪いことである。タイヤ・くつ底・ベルト・電気用品・接着剤などに用いられる。➔ウレタンフォーム ➔ポリウレタン 〔伊藤 卓〕

ウレタンフォーム [urethane foam] 多孔質のウレタンゴム。フォームラバーの一つであるが，一般には天然ゴムの多孔質のものをフォームラバーと称するので，ウ

レタンフォームはフォームドプラスチック*の一つと考えられる。ウレタンゴム製造の際に橋かけ剤として添加された水は，原料のイソシアネートと直接反応して炭酸ガスを発生しながら尿素となる（$2RNCO+H_2O \longrightarrow RNHCONHR+CO_2$）。この炭酸ガスを発泡（はっぽう）剤に利用して生成するウレタンゴムを，多孔質化したものである。橋かけの程度により軟質・硬質の２種あるが，前者は耐有機薬品性・耐老化性・比重などでフォームラバーをしのぐ性質を有し，しかも無臭なので，家庭用のマットレスベッド・クッションなどに多く用いられている。また，断熱材・吸音材として工業的に利用される。➔ポリウレタン　〔伊藤　卓〕

ウーレンベック　［George Eugene Uhlenbeck］（1900～　）アメリカの物理学者。ジャワ島の生まれ。ライデンに学び，のち渡米，ミシガン大学教授となる。ハウシュミットとともに電子のスピン*の考えを提唱し(1925)，原子スペクトルの説明に成功した。そのほか物性論や原子核論の分野で活躍している。

うろこ　【鱗】　動物の中には，体の一部または全部を固い小薄片のようなもので包まれているものがあり，このようなものをうろことよんでいる。陸上生活をする脊椎（せきつい）動物によくみられるうろこに角鱗（かくりん）とよばれるものがある。これは表皮の角質層からできたもので，爬虫（はちゅう）類によく発達しているほか，鳥類のあしにもみられる。哺乳（ほにゅう）類ではアルマジロやセンザンコウの体の大部分が角鱗で包まれ，ネズミの尾にもこれがみられる。これらの表皮性のうろこは古くなると，摩滅や脱皮現象によって新しいものと入れ替わる。魚類のうろこは楯鱗（じゅんりん）といい，互いに重なることなく密に並んでおり，その構造は中央部には突起があって外面は表皮で形成されたほうろう質で包まれ，内部には象牙（ぞうげ）質がある。その発生と構造は脊椎動物の歯のそれと同じである。軟骨魚類のうち，エイやギンザメではうろこの発達は悪く，シビレエイではまったくみられない。

硬骨魚類のうち，シーラカンスや肺魚類のうろこは，薄い骨板の表面をかたいコスミンという象牙質様の物質がおおい，さらにその上にほうろう質がおおっているうろこ（コスミンうろこ）をもつ。また，ポリプテルス・レピソステウス・チョウザメなどでは，薄い骨板の表面を光沢のある無機物質（ガノイン）がおおう硬鱗をもつが，ガノインと骨板との間にコスミン様の物質でできた層をもつものもある。高等な硬骨魚類のうろこはコスミンやガノインの層でおおわれない単純な構造の薄い骨板（骨鱗）であり，マイワシ・サケ・フナなどにみられる表面のなめらかな円鱗と，スズキ・カナガシラなどにみられる表面のざらざらした櫛鱗（せつりん）とに分けられる。櫛鱗は体表に露出する部分（鱗の後部）に，小さな突起を備えているのでざらついた触感を与える。クロサギ・シマイサキなどでは，櫛鱗と円鱗が混在しているし，ヒラメでは無眼側（眼のない白いほう）は円鱗で有眼側が櫛鱗であり，円鱗と櫛鱗の間には本質的な差異はない。なお，アジ類の側線後部のうろこ（ゼンゴ）やコノシロの腹部正中線にあるうろこなどのように，稜線（りょうせん）を形成しているうろこは特に稜鱗とよばれる。骨鱗には表面にいろいろな模様（鱗紋）があり，ほぼ中心にあらゆる模様の中心となる点（フォーカス）がある。フォーカスを中心として，同心円状の細い条（隆起線）があり，隆起線間の間隔は成長の速さに正比例する。成長の速さが一定であることはむしろまれで，隆起線は成長のよいときには幅広く，成長の悪いときには幅狭く形成され，うろこを全体としてながめると，同心円状の粗密のしま模様に見えることが多い。ある粗な（または密な）しまと次の粗な（または密な）しまとの間は，ふつう１年間であることが多く，しまを数えてその魚の年齢を推定することもできる。すなわち，骨鱗のしま模様は，成因・外観ともに樹木の年輪によく似たものであり，同じく年輪ともよばれている。定期的な季節の推移のほかに，魚の成長の速さに影響を与えた事実，たとえば産卵・遡河（そか）などの経験も隆起線形成の粗密に反映されて，うろこの上に記録される。

〔蒲原春一・菅野徹〕

うろこぎ　【鱗木】　ヒカゲノカズラ類のシダ植物。リンボクまたはレピドデンドロンともいう。古生代の代表的化石植物。現生のヒカゲノカズラ類は矮小（わいしょう）な草本性のものであるが，化石種は巨大な高木である。ウロコギはまさしく巨大な高木で，高さ10m以上に及ぶ。茎幹の大部分は枝がなく，その頂部においてのみ多くの枝が分岐する。葉は単脈線形を呈し，若枝にらせん状に密生する。枝幹が成長すると葉は脱落するので，幹や枝の表面にその跡が残り，規則的なひし形ができてうろこのように見える。古生代石炭紀初期から二畳紀の地層に産出する。また，ヒカゲノカズラ類に属する化石植物としては，ウロコギのほかに古生代末に絶滅したフウインボクや中生代三畳紀の重要な標準化石であるプレウロメイアがある。　〔神戸信和〕

うろこもん　【鱗文】　同形の三角形を配列した幾何学的文様*の一種。魚類のうろこが連想されるところからの名称で，古墳時代の銅鐸（どうたく）・壁画などにしばしば用いられている。しかし，この場合には，鋸歯文（きょしもん）あるいは三角文というべきであろう。この文様は，上代から現代に至るまで種々の作品にその姿を示しているが，特に銅鐸などを飾っている鋸歯文は，その祖形はきわめて単純ではあっても，組み合わせの方法によって意外に複雑な様式をおびた文様となっている。　〔毛利　登〕

ウーロンちゃ　【烏龍茶】　紅茶と緑茶の中間の半発酵茶。この茶は中国で1700年以後に外人の好みに応じ，紅茶・磚茶（たんちゃ）とともに浙江（せっこう）・福建省でつくられたが，現在は台湾に多い。この種の茶のうち，発酵が少なく緑茶に近いものを包種茶といい，花で着香する場合がある。

うわ　【宇和（町）】　愛媛県の南西部，東宇和郡にある町。人口18,500。宇和盆地の中心で，養蚕・養鶏・養豚が盛んである。町の中心は予讃（よさん）本線沿いの卯之（うの）町にあり，宇和海に臨む法華津（ほけつ）峠は景勝の地として知られる。

うわかい　【宇和海】　愛媛県南西部，佐田岬（さだみさき）半島と由良（ゆら）半島に囲まれた海域で，豊後（ぶんご）水道に面する。従来〈うわのうみ〉と称してきたが，今日では〈うわかい〉とよばれるようになった。海域の北部は三崎灘（みさきなだ），南部は由良沖とよばれ，中央に大良鼻（おおらばな）と水荷浦鼻を結ぶ線を湾口とする宇和島湾と，その南の蒋淵（こもぶち）半島（三浦半島）・戸島・日振島の沈水海岸線を抱く。全体に比較的浅く（100m以下）好漁場となり，集魚燈によるイワシ漁業の発祥地である。沿岸一帯はハマチ・真珠の養殖が行なわれる。　〔山口恵一郎〕

うわぐすり　【釉】　素焼きした陶磁器の胎土の表面を被覆して形成される薄いガラス質の層。釉薬（ゆうやく）ともいい，水がしみ，不透明で汚れやすい性質の胎土を，透明で艶（つや）があり，水もしみず，汚れも落ちやすい釉の性質を利用して，器物に色彩や光沢を与えるために施す。その反面，釉の破損しやすい性質を胎土の堅牢（けんろう）さが補う。釉は，窯（かま）の中で素地（胎土）がわずかとけかける程度の熱で，ほとんど完全にとけて液状を呈し，温度の低下があると固まってしまう。この，いわばガラスをつくる最も簡単な方法は，素地に灰をかけて焼成され，一般に灰釉とよばれている。なお，灰釉に鉄分を主とした諸種の微量の金属が含まれると釉色は不純となるが，この金属成分がない場合は無色透明の釉になる。

〔矢部良明〕

うわさ　【噂】　通常，人から人へと口伝えに広がっていくコミュニケーション*の一形態。社会的うわさと個人的うわさと大きく二つに分けられる。その場合にコミュニケーション内容の対象物が存在しないという共通性がある。うわさは正確なコミュニケーションを欠くところに発生しやすく，発生する状況によって，ゴシップや流言飛語などに区別される。発生したうわさは伝播（でんぱ）の間に，強調・同化，あるいは平均化のゆがみを受け，公正な客観性を欠きやすい。　〔鶴見紀文〕

うわざらてんびん　【上皿天秤】　⇨天秤

うわじま　【宇和島（市）】　愛媛県南西部の市。江戸時代は伊達（だて）氏十万石の城下

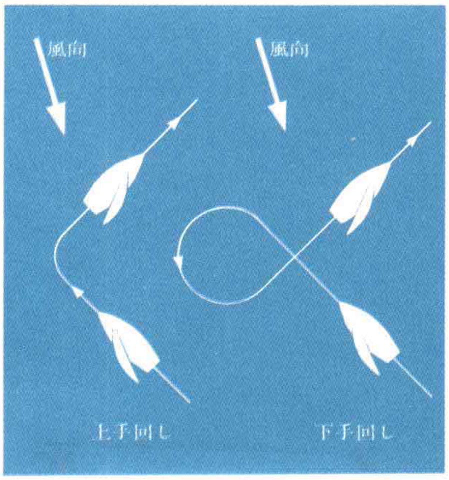


宇 和 島 市　宇和島市付近の海岸と段々畑。屈曲した海岸の入り江には村落が並び，背後の斜面には美しい模様を描いてミカン畑などの段段畑が開け，南伊予の代表的な耕作景観を呈す

町であった。1921年(大正10)市制施行。人口72,000。市域は豊後(ぶんご)水道に面する湾入の深い宇和島湾周辺部に広がり，第2次世界大戦中市域の大半が戦災を受けたが，いまも古い城下町のおもかげを残している。産業三大別人口比は19：20：61で，南予経済開発の拠点として，水産加工業や木工業のほか，綿織物などの近代工業が興り，養豚・酪農・食肉センター・真珠養殖などに力が注がれている。予讃(よさん)本線の終点で，支線予土(よど)線が高知県にはいって，窪川(くぼかわ)で土讃(どさん)本線と結ばれており，また国道56号線が通ずる。中心部に藤堂高虎(たかとら)が築いた鶴島(つるしま)城天守閣や，もと藩主の庭園でフジやショウブの美しい天赦園がある。和霊神社の夏祭り(7月23〜24日)は宇和津彦神社の秋祭り(10月28〜29日)とともに牛鬼祭*として知られる。宇和島湾の一角，大浦湾約30万 m² の埋め立て計画が市によって推進されているが，住民の一部に環境が汚染されて特産のナツミカンに被害が予想されるとして反対がある。

うわじょうし　【上調子】　替え手*とともに，三味線(しゃみせん)音楽におけるアンサンブルの重要な手段の一。通常の三味線といっしょに使われ，一般にはそれよりも1オクターブ高い三味線またはその声部をいう。この場合，基本となる通常の三味線は地調子または単に三味線といわれる。上調子のための特別な楽器はなく，普通の三味線のさおの途中に〈かせ〉とよばれる木または象牙(ぞうげ)の小さな横棒をあてることで，弦長を短くして，高い音を出す。上調子の旋律は地調子より1オクターブ高いままいっしょに動くことが多いが，地より音を細かく分けて装飾的にしたり，地と交互に奏したりもする。特に新内の上調子は高音(たかね)とよばれ，地調子からの独立性が強い。しかし，音楽構造の点では，不可欠な地調子のほうが重要なことはいうまでもない。長唄(ながうた)では，《吾妻(あずま)八景》《鶴亀(つるかめ)》などでよく使われる。　〔徳丸吉彦〕

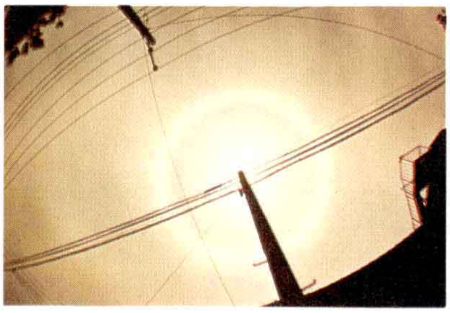
うわてまわし　【上手回し】　帆船が風に



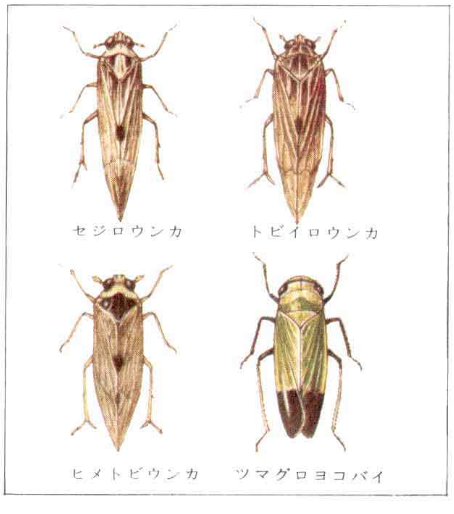
上 手 回 し



ウワミズザクラ



暈



ウ ン カ

対して間切って進む(船を風上へもって行く走法)場合に，風を受ける舷(げん)を変えるにあたって，船首を風上側に回転させて針路を変える運用法を上手回し，またはタッキングという。これに対して風下側に回転させて針路を変える方法を下手回し，またはウエアリングという。

うわばみそう　【蟒草】　双子葉植物・イラクサ科。ミズナ・ミズともいう。山の湿った所に群がりはえる多年草。全体に弱弱しく，水分が多い。茎は高さ30〜50cmで赤みをおびる。葉は卵形で左右が不ぞろいで，縁に鋸歯(きょし)がある。雌雄異株。5〜6月，葉のつけ根に黄白色の小花が多数つく。秋に茎の節がふくらんで肉芽状となり，落ちて芽を出す。東北地方では重要な山菜の一つである。

うわみずざくら　【上溝桜・上不見桜】　双子葉植物・バラ科。山野に自生する落葉高木。高さ10m以上になる。葉は長さ6〜10cm，幅2.5〜5cmの楕円(だえん)形で，先がとがり，縁に鋭い鋸歯(きょし)がある。4〜6月，一年枝の先端に直径6〜8mmの白色5弁花を数十個，長さ5〜15cmの穂状につける。果実は長さ6〜7mmの卵形石果で，黒熟する。

うん　【暈】　太陽や月のまわりにかさのように見える光の輪。日暈(ひがさ)・ハロともいう。これは，氷の結晶からなる薄い雲によって太陽や月の光が反射屈折されて起こる現象である。暈を生ずると1日ぐらいおいて雨になることがあるのは，暈が温暖前線の端にある巻層雲に生ずるからである。

うんか　【浮塵子】　狭義には，半翅(はんし)目・同翅亜目に属するウンカ科のこん虫をさすが，広義にはテングスケバ科・ヒシウンカ科・シマウンカ科・ハネナガウンカ科・ハゴロモ科などを含むウンカ上科の全体をさし，さらに農業上の害虫としてウンカというときにはヨコバイ上科のものも含まれる。広義のウンカ類には農業害虫として著名なものが多く，特にイネに対してはメイチュウ*とともに二大害虫群といわれている。イネを加害するウンカ類として重要なものは，トビイロウンカ・セジロウンカ・ヒメトビウンカ(以上ウンカ科)・ツマグロヨコバイ・イナズマヨコバイ(以上ヨコバイ科)などがある。ウンカ類は年によりしばしば異常な大発生をすることがあり，古くはこれが飢饉(ききん)の原因になったことも多い。日本の古い記録にみられる蝗害(こうがい)の大部分はウンカ類によるものであることが多く，最近でも1897年(明治30)や1940年(昭和15)の大発生は全国的なものとして有名である。これらの大半はトビイロウンカとセジロウンカによるもので，通常前者は秋季に大発生する傾向があり，俗に秋ウンカとよばれ，後者は夏季に大発生する傾向があり，夏ウンカとよばれる。これらウンカ類の被害は，成虫および幼虫がイネの茎から吸汁(きゅうじゅう)することによって起こり，このためイネは衰弱して，ときには全田収穫が皆

無になることさえもある。他種のウンカ類の害は上記2種に比べて小さいが，ヒメトビウンカはイネの縞葉枯病(しまはがれびょう)を媒介し，ツマグロヨコバイやイナズマヨコバイは，直接的な加害のほか萎縮病(いしゅくびょう)や黄萎病を媒介する。

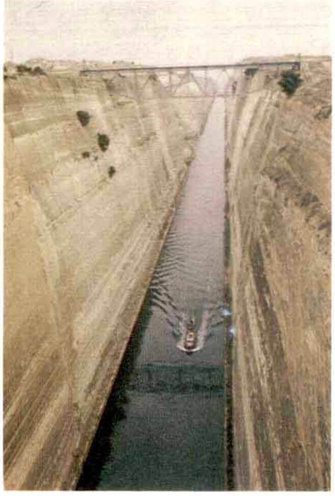
ウンカ類の防除には，第1にその発生(特に大発生)を早期に知ることが重要で，そのため病虫害の発生予察事業においても，ウンカ類は重要な対象害虫となっており，誘蛾燈(ゆうがとう)への飛来状況などの調査が励行されている。発生したものに対する防除対策としては，マラソン・EPN剤などの散布が広く用いられているが，ツマグロヨコバイに対してはTEPPを使用するのが効果的である。また，水田に油を張ってウンカ類をたたき落とす注油駆除法も行なわれるが，その際はできるだけ早朝に実施するようにし，注油前に水田の清掃および換水を行なうのがよい。 ➔イネ 〔鈴木邦雄〕

イネの主要ウンカ類の区別点

種　名	形態上の特徴
トビイロウンカ	体長5mm内外。成虫は雌雄ともに油ぎったようなかっ色～黒色
セジロウンカ	前種よりやや小形(4.0～4.5mm)。成虫は雌雄ともに胸背に白色長方形の斑紋(はんもん)があり，前頭部がよく突出する
ヒメトビウンカ	前種に類似するが，雄は胸背が黒色であるので容易に区別できる。雌は前頭部の突出が顕著でない
ツマグロヨコバイ	体長4～6mm。全体黄緑色で雄の翅端は黒色
イナズマヨコバイ	やや大形で，雌雄ともに翅にはっきりした電光状の模様がある

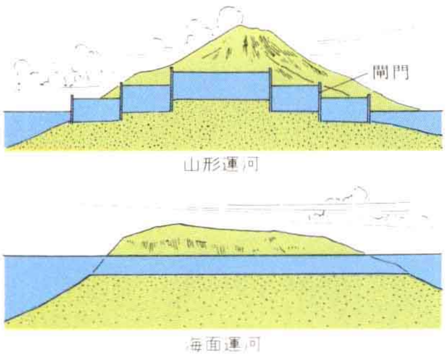
うんが【運河】 船の航行のために開削した人工水路。内陸水運は自然河川と人工水路を縦横に組み合わせて運営されているので，船航に使われている水路を総称して運河といってもよい。自然河川を船航に使うには，線形や水深などを船航に便なるように改修する(可航河川)か，さらに閘門(こうもん)を付設した堰(せき)を設けて河川を階段状に仕上げて船を通す(運河化河川)のであるが，いわゆる運河といわれるものは，陸上に最も有利な道順を選んで新たに水路を開削したものである。東京湾の京浜工業地帯の前面にある京浜運河は埋め立て地間の海面を利用した人工航路である。

【種類】運河には，海を走る船がそのままさかのぼることのできる航洋船運河と，専用のはしけが自力またはひき船によって航行するはしけ運河とがある。また水面の高低で分けてみると，スエズ運河のように，





運　河 (上)ギリシア南端のペロポネソス半島の首にあたる部分に掘られた運河 (右上)ボルガ川とドン川を結ぶ運河(ソ連) 船の往来だけでなく，近辺の広大な土地を灌漑し，発電にも役だっている (右下)アムステルダム市内の運河(オランダ)



運　河 運河の形式

落差の少ない両側水面間を水平水路で連絡した海面運河と，パナマ運河のように両側水面間で山を上り降りする山形運河(頂区運河)，また高低2水面間を片勾配(かたこうばい)で連絡する片勾配運河がある。東京の江戸川・中川・隅田(すみだ)川を連絡する小名木川のようなものは連絡運河といわれ，また，用排水路を兼ねたものは兼用運河などといわれることもある。

【設計】自然河川・湖沼などを利用して航路を設ける場合でも，新たに人工運河を開削する場合でも，船航に適した路線形，断面(幅・水深)，流速，給水源の確保および堤防・護岸・水門・閘門などの水工構造物，物揚げ場・倉庫などの運輸構造物，その他諸種付属施設の設計に配慮する。

【歴史】運河の歴史をみると紀元前にすでに水を流す目的でみぞを掘り，その技術が灌漑(かんがい)水路，船航水路を掘らせるに至ったようである。その古い例はメソポタミアに残っている。エジプト・ローマ・中国など，いずれも紀元前の記録をもち，遺跡が残っている。13世紀につくられたという中国の大運河は組織的水路網の好例である。近代技術によってつくられた運河についてみれば，17世紀につくられたフランスのセーヌ川・ロアール川間のブリアール運河，ドイツのシュプレー川・オーデル川間のフリードリヒ運河・ウィルヘルム運河がある。その後欧米では多くの運河が開かれたが，近代になってからの有名なものをあげれば，フランスのマルセイユ運河・ローヌ運河，ベルギーのアンベルス・リエージュ間のアルベール運河，ドイツのバルト海・北海間のキール運河(1895年完成時にはカイザー-ウィルヘルム運河とよばれた。1914年さらに拡張，98km)，ライン川・エムス川・ウェーザー川・オーデル川を東西に連絡するミッテルラント運河，ソ連のボルガ-ドン運河，アメリカのエリー湖からハドソン川を経てニューヨークへ通ずるニューヨーク州はしけ運河，五大湖とミシシッピ川を結ぶイリノイ運河，セントローレンス川の河口からスペリオル湖へ海洋船を通すセントローレンス-シーウェー(1959年開通，3,700km)があり，スエズ運河(1869年開通。地中海のポートサイドと紅海のスエズを結ぶ。169km)，パナマ運河(1914年開通。太平洋のパナマとカリブ海岸のコロンを結ぶ。83km)とともに利用されてきている。

わが国における近代的運河としては，昭和初期に名古屋市につくられた中川運河がある。幹線延長8.3km，水深3mで同市の産業発展に大いに寄与した。歴史的のものと

しては，福島県の阿武隈(あぶくま)川から北上川に通ずる貞山堀(ていざんぼり)がある。伊達政宗(だてまさむね)時代の開削という。また，埼玉県の見沼通船堀(1719)は，見沼代用水路と芝川との間の落差3mを閘門で乗り切っていて，利根(とね)川・芝川・荒川を結んで物資の集散に利用したもので，わが国最古の閘門式運河*であり，規模こそ比較にならないが，パナマ運河より180年も早く施工されたものである。

〔鉄道・道路との比較〕船舶の最大特徴は輸送費のきわめて安いことであるが，一方速度がおそいという決定的不利をもっている。そのほか積み降ろしに時間と費用がかかる。したがって，船舶運輸では荷づくり費が安く，大量を短時間に取り扱うことができる物資，たとえば，鉱物・農産物・石油などを遠距離を運べば有利である。したがって，長大水路が得られる大陸各国には古来数々の運河網がつくられ，盛んに利用されている。わが国でも明治の時代から琵琶湖(びわこ)を中継とする表裏日本横断とか，東北地方の横断運河が計画されてきた。最近でも琵琶湖を利用する横断運河案が発表され斯界(しかい)の注目を受けた。しかし，国土狭小，地形急峻(きゅうしゅん)のため，流量の豊富な大河川もなく，しかも道路交通がめざましい発達を遂げつつあるわが国では，よほどの輸送方法の革命がないかぎり，運河の発達は望めそうにない。〔米元卓介〕

うんかい　【雲海】　比較的高い山頂に立つとき，海原のように広がって見える雲。これは高さ2,000m程度の層積雲*であることが多い。

うんかく　【惲格】　⇨惲南田

ウンガレッティ　［Giuseppe Ungaretti］(1888～1970) イタリアの詩人。エジプトのアレキサンドリア生まれ。パリで学び，アポリネール*らとシュルレアリスム*の運動にも加わった。ランボー*・マラルメ*らの影響を強く受け，いわゆるエルメティズモ(純粋詩派)最大の詩人。主著に《真悦》《時間の感覚》《悲哀》などがある。サンパウロ大学・ローマ大学の教授も歴任した。

ウンキアル-スケレッシじょうやく　【ウンキアル-スケレッシ条約】　1833年に，コンスタンチノープル(イスタンブール)対岸のウンキアル-スケレッシで，ロシア・トルコ間に結ばれた条約。秘密条項によって，ロシアの要求があればダーダネルス海峡を閉鎖することを取り決めたため，イギリス・フランスなどのヨーロッパ列強の反発を招いた。1841年，イギリス・ロシアなど5か国の間で海峡問題に関する議定書が成立して廃棄された。〔山県弘志〕

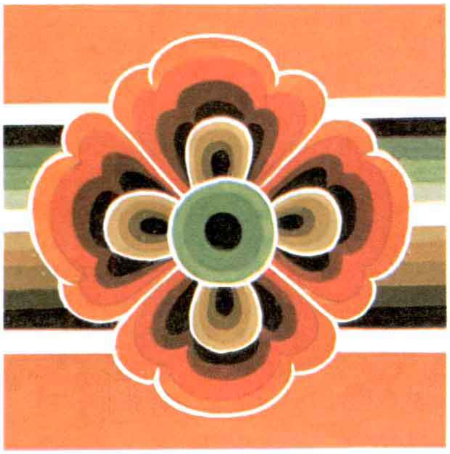
うんきこうげん　【雲貴高原】　ユンコイ高原　中国南部の貴州省より雲南省にわたる高原。平均標高1,000～2,000m。雲南東部には4,000mを越える部分もあるが，雲南西部から貴州にかけては高原状の地形が広がり，



雲　海



運　慶　大日如来像　1176　円成寺蔵



繧　繝　平等院鳳凰堂に例を見る繧繝彩色は，極彩色によって宝相華などをかたどり，善美の尽くされている感がある。図はその一部を図様を変えて模したもの

高度も低くなる。中生代から第三紀にかけての砂岩を主とする地層からなる部分が多く，西部はヒマラヤ造山運動による褶曲(しゅうきょく)が激しい。古生代の石灰岩の地域も広く，カルスト地形もみられる。大理石の産地として，また，世界的なスズの産地として知られる。〔千田　稔〕

うんけい　【雲形】　⇨雲

うんけい　【運慶】　(？～1223)　日本彫刻史上で，最もよく知られている鎌倉初期の仏師。父は定朝*5代の孫康慶で，父から仕事を習い，仏像をつくることも手伝ったらしい。平安末期，勢力を占めていた京都の院派・円派の仏師たちが，南都の諸寺院の復興に伴って奈良の慶派に追われたが，めざましく活躍したのは運慶であった。その作風は，それまでの古典的な仏像をよく見きわめ，現実性のある力強い，しかも自由な動きを表現し，当時の時代精神をあふれさせている。現存する作品を制作順にあげると，円成寺大日如来像，願成就院(静岡県)阿弥陀(あみだ)如来・不動・毘沙門天(びしゃもんてん)像，浄楽寺(神奈川県)阿弥陀三尊・不動・毘沙門天像，興福寺北円堂弥勒仏(みろくぶつ)・無著(むちゃく)・世親像，それに快慶*と合作の東大寺南大門金剛力士像がある。遺作や古記録を除いて詳しい伝記は明らかでない。〔永井信一〕

うんげつさん　【雲月山】　広島・島根両県境に位置する海抜912mの山で，島根県側が雲月山自然公園，広島県側が芸北自然公園になっている。中国山地特有のなだらかな準平原面に放牧されるウシと日本海の遠望が目を楽しませる。

うんげん　【繧繝】　同じ色を3段の濃淡で彩色する方法。奈良時代から仏画・仏像・寺院建築の彩色に用いられ，唐を仲介として遠く西域に淵源(えんげん)をもつ。この塗り方の色層帯を幾種類かくり返す彩色法が繧繝彩色とよばれ，平安時代の仏画などに盛んに行なわれた。なお，この手法は錦(にしき)類などの染織工芸にも応用されている。

うんこうけい　【雲高計】　雲の高さを測定する計器。実用的には航空用として開発され，主要空港に設置されているが，一般気象観測用にはまだ使用されていない。雲高計には，光速度によるもの，投光器によって雲底を照らして三角測量するもの，レーダー方式によるものなどがある。光速度法は，投光器で光のパルスを発生させて，雲からの反射光を受光器で受け止め，その速度から雲の高さを推定するものである。投光器によって雲底を照らす方法では，昼間，強い太陽光に対して，反射光を区別するために変調した光を使う。レーダー方式によるものでは，雨滴などに比し小さい雲粒からの反射波を得るために1.25cm，0.86cm波長の電波が使用され，雲の厚さ，含水量，粒子の大きさなども測定できる。〔曲田光夫〕

うんこうせっくつ　【雲岡石窟】　北中国，大同市の西15kmの所にある仏教石窟寺院。武州川の砂岩の断崖(だんがい)に，東西1kmにわたって開削されており，東方から第

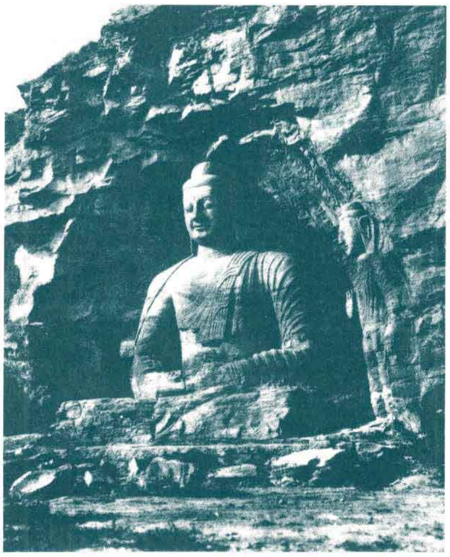
1～第42洞(どう)まで数える。開掘は北魏(ほくぎ)の太武帝の廃仏(446)ののち，仏教復興に熱心であった文成帝が，僧曇曜の勧めで雲岡の谷に五つの石窟を開いたことに始まる。これが一般に曇曜五窟と称されるもので，西丘の第16～20洞にあたる。5体の大きな石仏を彫り出した石窟で，彫像に重点がある。石仏は中央アジア美術の流れをくんでいるが，雲岡初期の素朴(そぼく)で雄渾(ゆうこん)な表現様式をもつ。次にできた第7～10洞になると，建築意匠や図像表現が豊富となり，石窟形式が整然としてくる。5世紀の終わり，孝文帝の太和時代になると，漢化政策が推し進められ，仏像も中国衣装をつけたきゃしゃなものになり，次の龍門(りゅうもん)様式に近づく。まもなく洛陽(らくよう)遷都(494)が敢行されると，雲岡石窟の新しい開掘は進まなくなった。〔小谷仲男〕

うんこくとうがん　【雲谷等顔】(1547～1618)　安土桃山時代の画家。もとは武士で，京都に出て狩野(かのう)派を学び，のち雪舟に傾倒。周防(すおう)(山口県)に移り大内氏の保護を受け，さらに毛利家おかかえの絵師となって雪舟の雲谷庵(うんこくあん)を再興，雲谷派の祖となる。端整厳格な水墨山水・設色花鳥を描き，保守的ながら狩野派・長谷川(はせがわ)派に対抗する気構えをみせた。

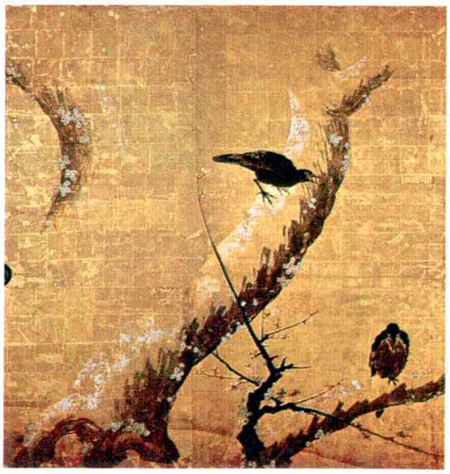
うんこくは　【雲谷派】　安土桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍した漢画の流派の一。雲谷等顔を祖とし，その子等屋・等益らによって中国地方一帯にその画風が広まった。雪舟に追随する保守的な傾向の水墨山水画を特徴としたが，その武家的好みの厳正さはしだいに形式化し，江戸中期以降は衰えた。

うんざ　【運座】　俳諧(はいかい)用語。俳諧の座で連衆一同が一定の題によって句をつくり互選する会合。文政年間(1818～1829)に始まり，明治時代に正岡子規ら日本派の定式となった。句を書きつけたたんざくを紙袋に入れて回す〈袋回し〉と，半紙に各人が句を書きつけて回す〈膝(ひざ)回し〉の2方法がある。

うんざい　【運材】　立ち木を林地で伐採して丸太としたままでは林内に広く散在するため，これをまず集積する必要がある。このことを集材といい，集材された丸太をさらに駅・市場・工場などまで順次運搬することを運材というが，この両者を合わせて集運材といっている。運材の方法には，木馬・土橇(つちぞり)・雪橇などによる橇運材があり，また，機械力によるものとして索道・森林鉄道・トラクター・トラックなどが用いられる。昔は滑路を用いた修羅(しゅら)出し，また河川の水運を利用した管流し・いかだ流しも用いられた。現在では，林道の進展に伴って森林鉄道もほとんど消滅しようとしており，運材の主体はトラック運材となっている。しかし，林内からの搬出量によっては，いまだに人力による木馬が



雲岡石窟　曇曜五窟の一，第20洞の大仏。像高約14m



雲谷等顔《梅に鴉図》(部分)京都国立博物館蔵

用いられる場合がある。また，人力・畜力による雪橇運材も，東北・北海道地方などで積雪期には行なわれている。〔丸山正和〕

うんさいおり　【雲斎織】　もめんの綾(あや)織物。ふつうは，3枚綾または4枚綾の組織とした地厚な白生地。一般的には，たび底に用いられる生地として知られているが，俗に菜っぱ服とよばれる上下続きの作業服にも使われている。雲斎の名称は創始者の名によるといわれ，江戸時代にもめんたびの普及とともに広く用いられるようになり，今日に及んでいる。たび底には，綾の流れを山形にした杉綾(すぎあや)織(杉織)もある。古くは，石底とよばれて，太い地緯糸(じぬきいと)と細い締緯糸(しめぬきいと)とを交互に織り込み，あらく平組織に織った地厚なもめん地，あるいは立て刺し・刺し底とよばれて，太い地経糸(じたていと)と細い締経糸を地経2本と締経1本の割合に配列して，二重経(にじゅうだて)の刺子織にした地厚なもめんも用いられてきたが，現在ではほとんどが雲斎か杉織である。〔北村哲郎〕

うんじゃみまつり　【海神祭り】　沖縄本島の北部地域を中心に分布する祭祀(さいし)儀礼。のろ(祝女)を中心とした巫女(ふじょ)司祭者によって実修される形態をとり，多くは毎年あるいは隔年の旧暦7月に行なわれる。この祭祀は，田の草刈り・魚とり・イノシシ狩りなどの模擬的動作から成立しており，稲作・狩猟・漁労などの儀礼が構成要素であることがうかがえる。また，〈にらいかない〉の信仰と不可分に結びついている点も指摘される。その起源については不明な点が多いが，海の神と山の神との交歓という説もある。この海神祭りとほぼ類似した形態をとる行事に〈しぬぐ〉がある。しぬぐの起源も不明であるが，それは狩猟・漁労的要素のほかに豊凶占い，稲の成育を促進するための呪術(じゅじゅつ)的な予祝やや く払いなどの要素をもった儀礼であって，海神祭りと同じ地域で併行して，あるいは隔年に行なわれており，さらに北に延びて奄美(あまみ)諸島にも行なわれている。〔山路勝彦〕

うんしゅうみかん　【温州蜜柑】　双子葉植物・ミカン科。ミカン類で最も重要な種類。寒さに強く早く熟すので多量に栽培される。花に花粉がつくられないので種子はできない。果肉は11～12月熟し，柔らかく，甘みは強くないがしるが多い。果皮は陳皮といい，漢方では健胃薬・鎮咳(ちんがい)薬として用いられる。→ミカン

うんじょう　【運上】　江戸時代の雑税(小物成)の一。鎌倉時代には公物を京都へ運ぶ意味をもっていたが，室町時代以後は課税の意味に変わった。おもに商・工・漁・鉱・運送業などの営業に従事する者に賦課した。冥加(みょうが)とは異なり，一定の税率で納めさせた。運上の種類には水車・市場・問屋・酒・長崎運上など，幕府や諸藩に多数あったが，その賦課方法や税率は地域によって異なっていた。

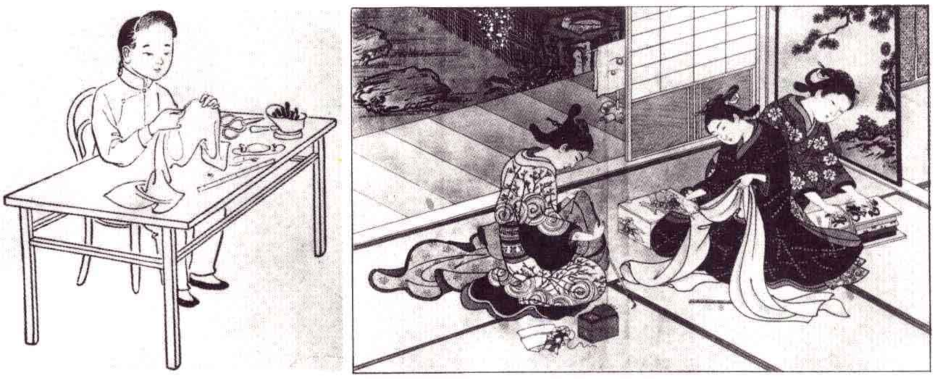
うんしん　【運針】　和服の手縫いの最も重要な基礎縫いの一。布を縫い合わせるのに2枚の布を重ね，表裏同じ長さの0.2～0.4cmくらいの針目で縫う縫い方。俗にぐし縫い(ぐしぐし縫うので名づける)，くし縫い(くしに物を刺すように縫うのでよばれる)ともいう。古代から江戸時代の末まで，縫うといえばこの縫い方をさしていたが，明治維新後学校教育でこれを運針と名づけ今日に至っている。なお，中国では運針とは縫いの技術の総称で，わが国のぐし縫いは平捺(へいなつ)法(俗に直針縫い)とよび，英米ではランニングステッチという。運針には短針(3.3cmか3.6cmの長さ)で縫う手法と，長針(5.45cm内外)をつかみ針にして縫う手法がある。短針の運針法は，右中指の中央に環状の指ぬきをはめ，中指・薬指・小指は握って針頭を指ぬきにあて，親指・食指で針先をもち，布に針を刺して布とともに針をもつ。左手は親指・食指で布の縫ってい

く先の位置をもって引っ張り，右手の針を布の表裏にさして縫っていくのを助けて上下に布を動かす。この方法は中国で発明され発達したものである。中国では新石器時代すでに絹織物があり，のちこれを衣服に縫うために細い絹針(現今の〈四ノ一〉ぐらい)がつくられ，漢代婦人は環状の指ぬきを使って0.2cmの針目のすぐれたぐし縫いを絹の衣服に縫っている。わが国では飛鳥(あすか)・奈良時代に朝廷が中国の衣服を取り入れたのに伴い，このぐし縫いの手法も伝えられ，公家(くげ)，のちに富裕な武家・町人の絹の衣服に広く行なわれた。明治以後，学校の裁縫教育で全国統一して教えたのは，この短針の運針である。一方長針のぐし縫いは古代から一般大衆の麻などのあらい布の衣服，後世には厚くかたいもめんの労働着を縫うのに行なわれ，右手の中指の根元に針頭をあて，親指と食指で針先をつまんで縫うもので，つかみ針の運針とよぶ。針は太く長いものを用い，針頭のあたるところにはさらつき指ぬきをはめる。これは環状のひもに直径3cmくらいの円形の布を3～4枚重ねて止めつけたもので，明治以後は地方によっては金属製のものもわずかではあるが売られ，いまなお山村の老婆などでこの方法で縫っているものもある。手法は楽であるが，細い絹針の長針は曲がったり折れたりして不適当であるため，今日では短針の運針が広く用いられる。〔堀越すみ〕

うんすい　【雲水】 雲水僧の略。師を求めて各地を行脚(あんぎゃ)し，行雲流水のように一処に定住しない修行僧のこと。禅宗では参禅弁道して，師のもとで修行に励む僧をいい，現在では，本山や専門僧堂で一定の修行期間を過ごしている僧侶(そうりょ)をいう。また，雲衲(うんのう)ともいう。

ウンセット　［Sigrid Undset］（1882～1949） ノルウェーの女流作家。前期の代表作としては，大胆な恋愛体験を描いた《イエンニー》がある。また，カトリックに帰信してからの真摯(しんし)な人生観を示したものとしては，14世紀初めの史実を背景に，一少女の波瀾(はらん)万丈の生涯(しょうがい)を描いた大河小説《クリスティン-ラブランスダッテル》(3部作)がある。1928年ノーベル文学賞受賞。

うんぜんあまくさこくりつこうえん
【雲仙天草国立公園】 島原半島中央部の雲仙岳*を中心とする一帯と，天草諸島中の一部を除いた海岸とを含み，長崎・熊本・鹿児島の3県にわたる。面積256km²。雲仙地区は1934年(昭和9)わが国で最初に指定された国立公園の中の一つで，1956年に天草諸島の南東部・北西部が追加指定された。雲仙岳は円錐(えんすい)火山であるが，数度の爆発により不完全な二重式火山となっている。最高峰の普賢岳(1,360m)をはじめとするいくつかの火山があり，ミヤマキリシマ・カエデの美で知られる高原は冬の



運　針　(左)《縫衣時之態度》 中国新縫紉(1924年版)から (右)江戸中期女性裁縫の図 中央の女性が運針をしている



雲仙天草国立公園

霧氷でも有名である。雲仙岳中腹の雲仙温泉には，ガスや熱湯を吹き出す立間地獄・叫喚地獄・兄弟地獄などがある。土地全体が沈降した天草諸島は砂嘴(さし)・断崖(だんがい)・湾入・海食洞(かいしょくどう)など変化に富んだ海岸をもち，特に天草島南西海岸の景観はすぐれている。また天草はキリシタン殉教の地で，島原の乱にちなむ旧跡が多い。1966年に宇土半島三角(みすみ)と天草上島を結ぶ国道266号線の一環として完成した天草パールラインには，天草五橋がある。

うんぜんおんせん 【雲仙温泉】 長崎県の島原半島にあり，小浜町に属する。わが国の代表的な温泉の一つで，厚生省指定温泉保養地(国民温泉)となっている。雲仙岳の最高峰である普賢岳の南西斜面，矢岳と絹笠(きぬがさ)山の間の爆裂火口跡にあって，盆地状をなしており，海抜は700～800mである。古湯・新湯・小地獄の3地区に分かれているが，古湯は1,200年の歴史をもつといわれ，旅館も古くからのものが多いが，いまは湯が出ないので新湯から引いている。新湯は1878年(明治11)に開かれ，ごうごうと音をたてて沸き上がる叫喚地獄をはじめとしていくつもの地獄があり，雲仙温泉の中心となっている。もとは外人のための避暑地で，第2次世界大戦前には，上海(シャンハイ)あたりからの外人客も多く，いまも高級ホテルが集中している。小地獄は，1731年(享保16)に開かれたといわれる庶民的な温泉である。泉質はいずれも硫化水素含有酸性緑礬(りょくばん)泉で，皮膚病・リウマチ・神経痛にきくといわれる。泉温は50～90℃。小浜から雲仙道路，島原から島原道路の有料道路が通じ，長崎からは諫早(いさはや)を経て定期バスで2時間10分である。観光客は年間約400万人に達する。温泉の北東1kmには，1913年(大正2)に開設されて，わが国でも最も古いコースの一つである県営雲仙ゴルフ場があり，緑の芝生(しばふ)と5月から6月中旬にかけてのミヤマキリシマの紅紫色の対照が美しい。〔浅井得一〕

うんぜんだけ 【雲仙岳】 長崎県島原半島中央に噴出する火山。南(絹笠(きぬがさ)山)・北(九千部岳)・東(雲仙岳)の三つの火山群の複合体で，この順で形成された。1657年(明暦3)雲仙岳の東の眉(まゆ)山の大崩壊は著名で，その岩塊は海中に落ちて島原市の九十九(つくも)島をつくった。絹笠火山群中の標高約700mの盆地群には，多くの温泉があり，旅館・キャンプ場・ゴルフ場の施設も整う。雲仙岳一帯は雲仙天草国立公園の一部で，雲仙岳(雲仙岳の最高峰は普賢岳，1,360m)からは，阿蘇(あそ)・霧島から九州山地の山々，天草の島々がながめられる。島原市から小浜へ至る国道57号線はここを横断する。〔高野　繁〕

うんそうほけん 【運送保険】 陸上・河川・湖沼・空中を輸送される貨物についての保険で，損害保険の一。しかし，陸上運



雲仙岳　最高峰の普賢岳付近の霧氷。南国ではあるが，冬季には山頂部は全山霧氷におおわれ，これが朝日に輝いて美しい

送保険・海上保険および航空運送保険を一まとめにして運送保険とするのは広義の場合で，普通はこのうちの陸上運送保険をさす。つまり，主として鉄道・自動車などにより陸上運送される貨物の保険であるが，小蒸気船・川船などで輸送される貨物も，この保険で引き受けられる。保険の対象となるものは陸上・河川または湖沼運送中の輸送用具の脱落・転覆・火災・衝突・沈没・盗難などによる損害である。〔庭田範秋〕

ウンター-デン-リンデン 〔Unter den Linden〕 東ベルリンにある大通りで，全長1.3km。ベルリンを東西に走るこの通りには，美しいボダイジュ(Linden)の並み木があるのでこの名がついた。第2次世界大戦までは官庁街であった。今日ではブランデンブルク門を境にして東ベルリンの部分だけをいう。

うんちん 【運賃】 運輸サービスに対して支払われる対価。運賃は一般に価格決定の方法によって，個々の運輸費用に基づき決定される自由運賃と，運輸業者側であらかじめ価格表を決めて公表する表定運賃に分けられる。さらに具体的には，次のように異なった条件に応じて各種の運賃形態が形成される。①運輸機関の種類による分類：陸上運賃(鉄道運賃・自動車運賃など)・海上運賃(定期船運賃・不定期船運賃など)・航空運賃。②運送客体による分類：貨物運賃・旅客運賃など。③計算方法による分類：距離比例運賃・逓減運賃・均一運賃・地帯運賃など。運輸サービスの準独占的性格・公共性からいって，運賃決定を自由競争に任せることには難点がある。そのため，運賃決定に関しては，一部の陸上運賃(トラック)と海上運賃を除き，なんらかの統制を課すのが普通である。わが国では，一般に運賃の引き上げ・引き下げ・新設に際しては，事業者は運送費用に適正利潤を加えた価格を運輸省に申請し，運輸省はこれを運輸審議会にかけたうえで，許可を与えるしくみになっている。運賃が引き上げられると，一般物価水準の引き上げを招き，生計費を増大させる。したがって，特に運賃引き上げに対しては，その波及効果を抑制することができるかどうかについて十分な政策的配慮が必要とされる。➔鉄道運賃 〔原　豊〕

うんちんどうめい 【運賃同盟】 ⇨海運同盟

うんちんほけん 【運賃保険】 着地払い運賃の場合に，物品輸送の途上で事故が生じたとき，運送人は貨物の荷主から運賃をもらえなくなるおそれがある。このような経済上の不利益をこうむることを防ぐためにつけられる保険で，運送賃保険ともいう。貨物保険の一部である。

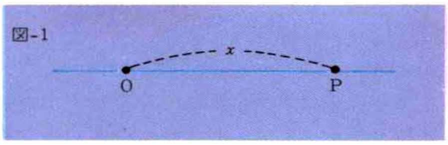
うんてい 【芸亭】 わが国最初の公開図書館といえる。奈良時代末期，石上宅嗣(いそのかみのやかつぐ)が旧宅を阿閦(あしゅく)寺とし，寺内に一院を設けて芸亭と名づけた。仏典の理解を助けるためにそれ以外の書籍(外典)を置き，好学の徒には自由に閲覧を許したという。

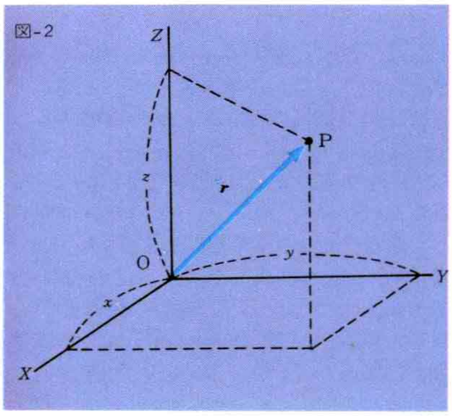
うんてんしきん 【運転資金】 原材料や商品の購入，および賃金その他諸経費の支払いなど，日常的な経営活動のために用いられる資金のこと。各種固定設備の購入や改善にあてられる設備資金に対する語で，両者はいずれも売り上げ収益によって回収されるが，設備資金は，ひとたび投下されると長期間にわたって固定化し，その回収に手間どるのに対して，運転資金のほうは流動的で，短期間(普通は1年以内)に回収されるところに特質がある。運転資金は，回収された売り上げ代金をあてるのが普通であるが，そのほか必要に応じて，借用証書の差し入れ，金融手形の振り出しあるいは当座借り越しなどの方法で，普通銀行その他の金融機関から調達されることもある。〔森川八洲男〕

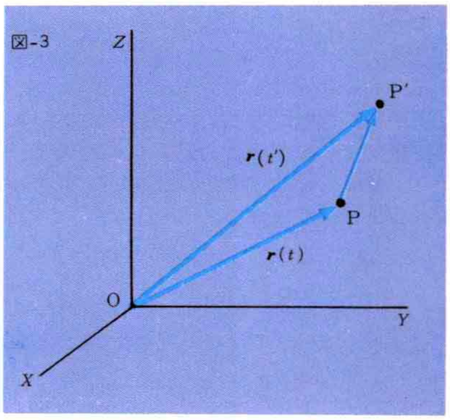
うんてんめんきょ 【運転免許】 ⇨自動車運転免許

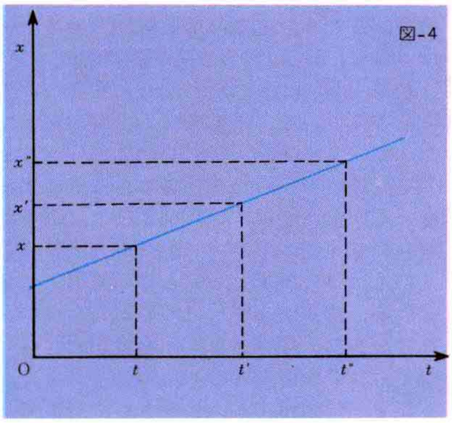
うんどう 【運動】 生物の運動は，生体内で生成されるエネルギーによって行なわれる能動的なものである。見かけ上静止状態の植物でも，細胞をよくみると原形質が流動していることがわかる。動物・植物を問わず，このような原形質流動がみられるが，これは生命のあることの現われともいえる。この極端な場合がアメーバや白血球が動く際にみられる偽足の形成で，アメーバ運動とよばれ，原形質流動が細胞を一定の方向に走らせる原因となっている。まとまった器官や組織の運動としては，まず繊毛とべん毛の運動があげられる。繊毛は比較的小さく，体内の管や腺(せん)の上皮細胞に並んでいて，食物の嚥下(えんげ)，分泌物や排出物の運搬に役だっている。べん毛はこれに比して非常に長くて太く，水中に生活するものの運動に便利なようにできている。精子・微生物などにもよくみられる。動

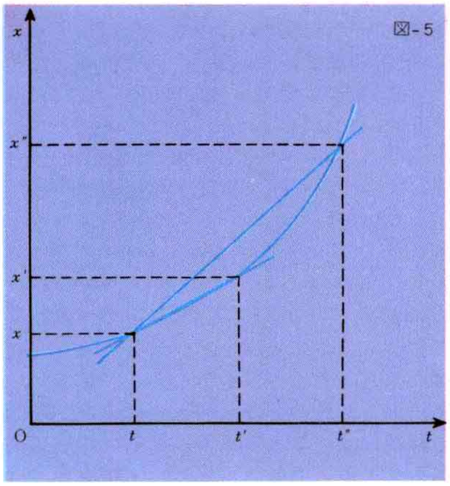
運　　動

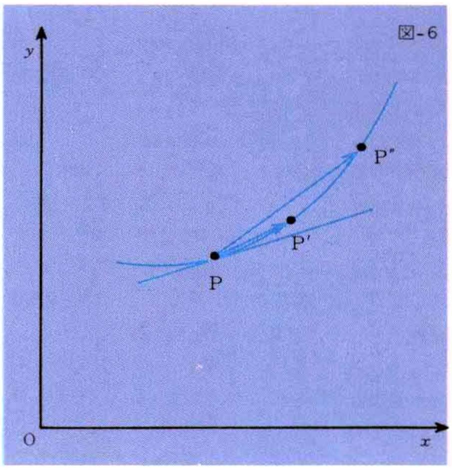












物の運動としていちばん顕著なことは筋肉による運動で，筋肉の収縮の結果，骨格が動く。筋肉は腱(けん)によって骨に付着しているため，筋細胞中に生じた筋繊維の収縮や弛緩(しかん)は直ちに骨に伝えられて運動をひき起こす。骨格筋は運動神経によって興奮が伝えられてはじめて反応するので随意筋(横紋筋)とよばれるが，内臓の動きを支配している神経によって自律的に動く筋肉は不随意筋(平滑筋)とよばれている。横紋筋の動きは早いがすぐ疲労する。これに対し，平滑筋は動きが鈍いがなかなか疲労しない。動物は用途に応じてこの2種類の筋肉を巧みに使い分けている。呼吸運動も胸部を形成しているろっ骨とそれに付着している筋肉と肺との共同作業である。➔筋収縮　〔井坂三郎〕

うんどう　【運動】 点または物体が，時間の経過にしたがってその位置を変える現象。物体の運動に関しては，古くはギリシア時代にアリストテレス*らによって研究されていたが，16世紀から17世紀にかけて，ケプラー*の惑星の運動に関する研究や，ガリレイ*の落体の運動を中心とする実験的研究などの多くのすぐれた研究が行なわれ，これらの成果を総合して，ニュートン*が〈万有引力の法則*〉〈運動の3法則〉を打ち立て，精密科学としての力学の基礎を築いたのである。➔力学

〔物体の運動の表わし方〕 物体の運動を論ずるためには，まず，物体の位置の数学的な表わし方をはっきりさせておかねばならない。図-1のように，一直線上を運動する物体Pの場合には，その直線上に選んだ定点Oからの距離 x でPの位置を表わすことができる。物体が空間に曲線を描いて運動する場合は，図-2のように一点Oで互いに直角に交わる3本の座標軸 OX, OY, OZ をとり，Pからそれぞれの直線におろした垂線の足の，Oからの距離 x, y, z によってPの位置を示すことができる。あるいは，OからPへ至る矢印 $\boldsymbol{r}=\overrightarrow{OP}$(太字はベクトル*を表わす)を使ってPの位置を示してもよい。$\boldsymbol{r}$ を〈位置ベクトル〉という。物体が運動していれば x, y, z または $\boldsymbol{r}$ は時間とともに変化する。その時間に対する関数の形を示せば，運動のようすはすべてわかることになる。なお，x, y, z の間の関係を示す時間を含まない方程式 $F(x, y, z)=0$ は，物体の運動の軌跡を示すもので，これを〈軌道〉という。

〔速度〕 物体がある時刻 t に点Pにあり，時刻 t' に点P'にあったとする(図-3)。ベクトル $\overrightarrow{PP'}$ を時間 $t'-t$ の間の物体の変位という。位置ベクトルの考え方を使って $\vec{\boldsymbol{r}}(t)=\overrightarrow{OP}$, $\vec{\boldsymbol{r}}(t')=\overrightarrow{OP'}$ とすれば，ベクトルの加法の約束によって $\overrightarrow{PP'}=\overrightarrow{OP'}-\overrightarrow{OP}=\vec{\boldsymbol{r}}(t')-\vec{\boldsymbol{r}}(t)$ と書ける。単位時間あたりの物体の変位の割合を速度という。変位がベクトルであるから速度もベクトルである。物体が一直線上を運動している場合は変位も速度もその直線の方向に沿っている。さらに図-4のように，x が時間に比例してふえるような運動であれば，単位時間あたりの変位の大きさは $(x'-x)/(t'-t)$ で与えられ，t, t' の選び方とは無関係に一定である。このような運動を等速直線運動または等速度運動という。しかし，図-5のように，x の増加と t との関係が比例関係にない場合は t, t' の選び方によって $(x'-x)/(t'-t)$ は変化する。このような場合には，t を決めておいて，t' を限りなく t に近づけた極限 $\lim_{t'\to t} x'-x/t'-t$ をとれば，これは一定の値をもつ。数学のことばでいえばこれは t における x の時間微分 dx/dt である。これを直線運動をしている物体の時刻 t における速度と定義する。物体が図-6のように，曲線を描く場合にも同じように考えて，

$$\boldsymbol{v}=\lim_{t'\to t}\frac{\overrightarrow{PP'}}{t'-t}=\lim_{t'\to t}\frac{\boldsymbol{r}(t')-\boldsymbol{r}(t)}{t'-t}$$

を時刻 t における速度とする。これを関数の微分と同じように考えて $\boldsymbol{v}=d\boldsymbol{r}/dt$ と書く。$\boldsymbol{v}$ は大きさが $\lim_{t'\to t} PP'/t'-t$ (PP'は軌道に沿ってはかったPからP'までの距離)，方向

がPにおける軌道の接線の方向を向くベクトルである。$\boldsymbol{v}$の大きさを速さとよんで速度と区別する。速さの単位はMKS単位系では1 m/秒，CGS単位系では1 cm/秒を用いる。

【加速度】運動の速度も，一般に時間とともに変化する。この変化の割合を加速度という。速度と加速度の関係は変位と速度の関係とまったく同様で，

$$\boldsymbol{a}=\lim_{t'\to t}\frac{\boldsymbol{v}(t')-\boldsymbol{v}(t)}{t'-t}=\frac{d\boldsymbol{v}}{dt}=\frac{d^2\boldsymbol{r}}{dt^2}$$

と表わされる。加速度の大きさの単位はMKS単位系では1 m/秒^2，CGS単位系では1 cm/秒^{2}である。

【運動の法則】ニュートンは，物体に働く力と質量・加速度の関係を次のような三つの経験法則にまとめた。〈運動の第1法則〉慣性の法則ともいう(物体の速度は，力が作用しなければ変わらない)。静止していた物体は永久に静止を続け，動いていた物体はいつまでも一定の速度で運動を続ける。〈運動の第2法則〉力と加速度の関係(物体に力を加えると，その力の方向に加速度を生じる。加速度の大きさは力に比例し物体の質量に反比例する)。この関係を式で表わすと，F(力)＝k(定数)×m(質量)×a(加速度)と書ける。力の単位を適当に選べば$k=1$となる。それには，質量1 kgの物体に作用して1 m/秒^{2}の加速度を生じる力を力の単位とすればよい。この単位を1ニュートンとよぶ。また質量1 gの物体に作用して1 cm/秒^{2}の加速度を生じる力を単位としてもよい。この力の単位を，1ダインとよぶ。$1\mathrm{N}=10^5\mathrm{dyn}$である。上の式は力$F$が作用するとき物体がどのような運動をするかを決める式で，〈運動方程式〉とよばれる。〈運動の第3法則〉作用・反作用の法則(物体Aが物体Bに力を及ぼすとき，物体Bは物体Aに対して，同一直線上で大きさが等しく向きが反対の力を及ぼす)。

【運動量】運動方程式を書き変えてみると，

$$\boldsymbol{F}=m\boldsymbol{a}=m\frac{d\boldsymbol{v}}{dt}=\frac{d}{dt}(m\boldsymbol{v})$$

となる。$\boldsymbol{p}=m\boldsymbol{v}$を運動量という。運動の第2法則は，〈力は物体の運動量の時間的変化の割合に等しい〉と言い換えることができる。力が作用しなければ運動量は変化しない。➔運動量保存の法則　〔有山正孝〕

うんどうエネルギー　【運動エネルギー】運動している物体は，静止するまでに他の物体に対して仕事をすることができる。このように運動している物体が他に仕事をする能力をもつことを，運動エネルギーをもっているという。運動エネルギーの大きさは次のように求められる。一直線上をv m/秒の速さで運動している質量$m$kgの物体に，運動の向きと反対の向きに大きさFニュートンの一定の力を加えたときSmだけ進んで止まるとする。この物体に生じる加速度は$a=-F/m$(m/秒^2)である。よって，$v'^2-v^2=2aS$から$S=-v^2/2a=\mathrm{m}v^2/2F$となる。ゆえにこの物体が他の物体になした仕事$W$は，$W=FS=\frac{1}{2}mv^2$

であり，これが運動エネルギーである。運動エネルギーは，位置エネルギーと同じく運動方向と関係のないスカラー*量である。回転体のエネルギーは，慣性モーメント*をI，角速度をωとするとき$E_k=\frac{1}{2}I\omega^2$で与えられる。　〔今淳治郎〕

うんどうかい　【運動会】運動場などで団体的に行なわれる遊戯や陸上競技などの会。イギリスでは1660年代から行なわれていたといわれ，1817年のネクントルギルの運動会が記録されている。秩序だった運動会としては，1849年にオックスフォードの陸軍士官学校で行なわれた運動会がある。わが国では，1874年(明治7)海軍兵学校で開かれた〈競闘遊戯会〉が最初で，1878年の札幌(さっぽろ)農学校の〈遊戯会〉は1922年(大正11)まで39回続けられている。また，東京大学が予備門と合同で1883年に開いた陸上競技会は，はじめは純然たる陸上競技会であったが，人気が沸くにつれて祭り気分が加わり，余興的なものが取り入れられるようになって，〈帝大運動会〉として知られている。この形式が，やがて全国の学校・会社などに広まった。運動会で行なわれる運動は各種各様で，一定のスポーツを主として行なう競技会とは区別されている。最近の種目には，2人3脚・スプーンレース・綱引き・障害物競走・棒倒し・騎馬戦・パン食い競走・借り物競走・リズム運動・ダンス・ボール遊戯・マス-ゲーム・徒競走(短距離競走)・リレーなどがある。なお，運動会は，肉体の運動を通して心身の健全な発達を図ることを第一の目的とするが，参加することによって，協力と連帯の意識が育てられることも無視できない。　〔永井　博〕

うんどうがくしゅう　【運動学習】生体の筋の反応や運動機能が中心となる学習*形態。一般には，スポーツ技術・モールス打信・タイプライターのような技術の学習にみられ，状況に即して運動系と知覚系との協応関係が変容し，動作が習熟していく過程をいう。

うんどうざんぞう　【運動残像】外物が静止していても，動くと感ずることがある。これを仮現運動*といい，その一つに運動残像がある。A・B二つの光点を同時に提示すればもちろん二つと認められるが，A・Bを適当な時間(50/1000秒ぐらい)で交互に提示すると，AからBへ連続した運動の感覚が起こる。これが映画の原理である。すなわち，持続時間および一定の強さの光を網膜上に照射すると，間隔の長いときはちらつきとして，またある程度以上になるとちらつきの融合が起こり，その光の持続的な明るさの感覚を起こすようになる。そのため，残像はAまたはBにはできるが，AとBの中間には生じないのである。

〔平野修助〕

うんどうしっちょうしょう　【運動失調症】多くの骨格筋運動からなりたつ協調運動が円滑に行なわれない状態。起立時に身体をささえるのが困難となり，四肢(しし)の運動もよくできなくなるが，その際個々の筋肉の運動には異常がない。協調運動は大脳・小脳・前庭神経・末梢(まっしょう)神経によって調節され，そのいずれの部が障害されても失調症が起こる。目も失調症に関係し，起立時に目を閉じると動揺が増強することがある(ロンベルグ徴候)。字を書いたりボタンをはめたりする動作や言語などが拙劣となり酩酊(めいてい)したような歩き方となる。

〔井形昭弘〕

うんどうじょう　【運動場】学校体育や一般のスポーツを行なうために設けた一定の区域をいう。近年の体育思想の普及に伴って設置が促され，わが国でも整備されつつはあるが，ことに欧米において著しい発展をみせている。運動場は，設置の場所によって屋外・屋内・屋上運動場に分かれる。①屋外運動場：戸外運動場または単に運動場ともいう。通風・採光がよい，外部の喧噪(けんそう)・塵埃(じんあい)・臭気から隔離されている，冬の寒風・寒気と夏の直射日光を避ける，排水がよい，ほこりがたたない，弾性がある，すべらない，霜柱が立たない，などの条件を備えるのがよいとされる。広さの規準は児童1人あたり5 m^2，高校生1人あたり30m^{2}である。②屋内運動場：室内運動場または体育館*ともいう。床に各種の球技のためのコートをしつらえ，天井につり輪・つりなわ・つり棒・つりばしご，壁にろくぼく・鏡や移動式の鉄棒・横木などを備える。観覧席のある運動場もあれば，屋根だけがあって地面のままのものもある。③屋上運動場：鉄筋コンクリート建築の場合などに多くみられる。　〔永井　博〕

うんどうしょうがい　【運動障害】運動を支配する神経または筋肉の障害によって，骨格筋運動ができないこと。筋肉に至るまでの部位によって，脳卒中，脊髄(せきずい)・末梢(まっしょう)神経の外傷，腫瘍(しゅよう)その他による障害，脊髄前角炎・神経炎・筋萎縮症(いしゅくしょう)などのときにみられる。一般に脳または脊髄の障害では筋緊張が亢進(こうしん)し，脊髄前角より以下の障害では筋緊張が弛緩(しかん)する。また，運動失調症*や錐体(すいたい)外路障害でも類似の症状を呈することがある。　〔井形昭弘〕

うんどうしんけい　【運動神経】⇨神経

うんどうせいだん　【運動星団】空間的に一定方向に向かって同じ速度で平行運動している恒星の集団。固有運動の方向が天球上の一点に集束するようにみえることから発見された。プレアデス星団，おうし座の星(アルデバラン)を除く，ヒアデス星団・おおくま座運動星団などがその代表的な例。

うんどうちかく　【運動知覚】視覚・触

覚・聴覚で感じ取る物の動き。すなわち，視対象が視野内の他の物体に対して相対的に位置の移動を起こすとき，視覚運動の知覚が生ずる。同様に，皮膚面を触刺激が移動するとき触運動の知覚が，また物体が音を発しながら位置の移動を起こすとき聴運動の知覚が生ずる。これらの各感性分野に生ずる運動の知覚は各種の条件に左右されるため，実際に運動が起こっていても運動の知覚が得られない場合と，実際に運動していなくても運動の知覚が生ずる場合とがある。運動残像*・誘導運動・自動運動・仮現運動*などの知覚は後者に属する。〔吉田俊郎〕

うんどうのほうそく【運動の法則】⇨運動

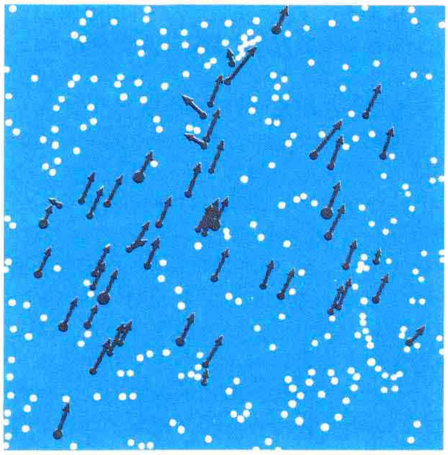
うんどうほうていしき【運動方程式】⇨運動

うんどうまさつ【運動摩擦】⇨摩擦

うんどうりょう【運動量】⇨力積

うんどうりょうほう【運動療法】身体の運動を利用して，運動機能を改善・強化することを目的とする理学療法の一種。神経疾患・筋疾患のみならず，心臓病その他のリハビリテーション*に大きな役割を演じている。運動療法は専門医の正しい診断と指導のもとで行なわれることが必要で，現在では専門の理学療法士も養成されている。運動は，自動運動・他動運動・抵抗運動の3基本運動に分けられるが，運動練習は無理な姿勢で行なったり過剰にやってはならない。短時間のくり返しを根気よく行なったほうが，一度に長時間練習するより効果的で，温熱療法や水治療法を併用すると効果を増す場合が多い。患者自身が意義を理解して，意欲をもって行なうことが最も重要である。〔増田武弘〕

うんどうりょうほぞんのほうそく【運動量保存の法則】二つ以上の物体が相互に力を及ぼし合っていて，それ以外には外部からの力が作用しない場合，これらの物体の運動量の総和は一定不変に保たれる。これを運動量保存の法則という。ニュートンの運動の法則(→運動)から導き出される重要な一般的関係である。



運動星団



惲南田　《花塢夕陽図巻》　京都国立博物館蔵

うんなんしょう【雲南省】ユンナン省　中国西南部の省。ビルマ・ラオス・ベトナム民主共和国(北ベトナム)などと境を接する。省都は昆明(こんめい)。面積43万6,000km²。人口2,400万(1972年推)。2直轄市(昆明・東川)，7専区，8自治州に分かれ，2市，102県，15自治県，1鎮が統括されている。インドシナ半島・ビルマ方面に流れるソンコイ川・メコン川・サルウィン川などの上流部にあたり，高原とこれを刻む深い侵食谷よりなっている。気候はきわめて温暖で，米・麦・トウモロコシなどのほか，サツマイモや良質の茶が生産される。古来，スズ(箇旧)・銅(東川)・大理石の産地として知られ，近年昆明付近は工業化が進んでいる。鉄道は，滇越(てんえつ)線(河口〜昆明)のほか川滇線(江県〜昆明)の一部が開通し，自動車道路には，四川・貴州とビルマ方面とを連絡する，いわゆるビルマ公路がある。住民は漢族のほか，チワン・ミャオ・タイ・ロコ・チンポ・ロロ・チベット・イ族など，計約800万の少数民族が居住し，民族分布上中国本土とインドシナ半島との過渡地帯としての性格を示している。〔船越昭生〕

うんなんでん【惲南田】(1633〜1690)　清(しん)初の画家。江蘇(こうそ)武進の生まれ。名は格，字(あざな)は寿平。明(みん)末清初に出た四王呉惲*(しおうごうん)のひとり。山水・花鳥とも宋(そう)・元のあらゆる画法を学んだが，特に宋の徐崇嗣の没骨*(もっこつ)の花鳥を範とし，明末の写生画態をさらに進めて，印象的な描写をする花卉(かき)・翎毛(れいもう)画態をつくった。この一派を出身地にちなんで常州派とよぶ。➔花鳥画

うんのじゅうざ【海野十三】(1897〜1949)　小説家。本名佐野昌一(しょういち)。徳島市の生まれ。早稲田(わせだ)大学理工学部卒。はじめ科学的トリックを用いた本格的な推理小説*を書いたが，やがて空想的な着想を交えて，わが国のＳＦ*の先駆者となった。代表作は《三人の双生児》《俘囚(ふしゅう)》など。

うんのしょうみん【海野勝珉】(1844〜1915)　明治期の金工家。水戸(みと)の生まれ。幼名を竹次郎または弥五郎(やごろう)といい，同地で伯父(おじ)海野美盛(よしもり)と萩谷(はぎや)勝平の二匠に金工を学び，1887年(明治20)絵画を安達梅溪(あだちばいけい)に，書を武庄次郎(たけしょうじろう)に学ぶ。のち東京美術学校の雇員となり，加納夏雄に師事，1894年教授，1896年帝室技芸員となり，各種金工会の審査員を兼ねた。初銘は海野甚平で，芳洲(ほうしゅう)・藻税軒(そうぜいけん)・貞月庵(ていげつあん)・旭東(きょくとう)・東華斎などの別号がある。〔小笠原信夫〕

うんばん【雲版】色紙・たんざくなどを入れて鑑賞できるようにつくった掛け額。形は，円形・長方形・正方形などいろいろなものがあり，表面にガラスを入れている。

うんばん【雲版】禅宗に特有の仏具。庫裡(くり)に掛け，食事や衆僧の集合に打ち鳴らして時を告げるのに用いる。青銅・鉄の鋳物で，ふつう吊手穴(つりてあな)をつけた頭部，蕨手形(わらびてがた)の雲形くりこみをつくる肩部，撞座(つきざ)のある胴部からなる。表裏同文のものと，片面のみ撞座・縁を鋳出し，他面を素面とするものとがある。太宰府(だざいふ)天満宮*のそれが，紀年銘品中最古(文治3年〔1187〕)のもの。〔河田　貞〕

うんぱんかんり【運搬管理】生産工程のうち，作業対象物(原材料・部品・仕掛かり品)や治工具などの移動を管理すること。運搬方法や運搬機械また運搬設備などを管理し改善して，生産性の向上，安全確保・原価低減などを達成するのが目的である。これにより能率向上・災害減少・原価低減や製品品質の保持，仕掛かり品の減少，運搬費や労働の節減，床面積の有効的利用などの利点をもたらす。企業では，運搬管理を工場全体として効率的に実行するため，運搬管理部門を設置し，運搬計画およびその実施を担当させる。〔清水　晶〕

うんぱんさよう【運搬作用】地学的には，岩石の破片や土壌(どじょう)などが，風や水流や氷雪の流れなどによって他の場所に運ばれる現象。これらのほか，がけくずれ・地すべり・泥流(でいりゅう)・陥没などによってくずれた岩石や土壌が低地に運ばれるが，このような場合は重力による移動がおもなために，一般に上記の運搬作用には含めない。運搬作用は地殻(ちかく)の表面に変化をもたらす作用の一つで，侵食作用や崩潰(ほうかい)作用と堆積(たいせき)作用の中間にあって両

者をつなぐ過程であり，したがってその両方に密接な関係をもっている。

〔河川による運搬作用〕河川は大小の岩片や土砂を下流に運ぶが，その量は川の荷重とよばれる。川の流れが砂や岩片を動かす力(F)は，水量(V)と水流の速度(v)とによって，$F = kv^2 V$で表わされる。したがって，水流の速度が2倍になれば運搬する力は4倍になる。運搬作用はそのほか，たとえば，川底の傾斜度や川底のようすなどによっても影響される。川底の傾斜が増すと，水流の速度が速くなるので，運搬作用は強くなる。川底や川岸がなめらかな場合には，水の流れは水の薄い層を重ねてすべるように流れる(層流という)が，流れが速度を増したり川底や川岸がなめらかでないと，うずを巻いて不規則になる(乱流という)。乱流の場合には運搬作用はいっそう増加する。静かな底流では，小石や砂は川底に沿って転動しながら流れ，どろは浮かんで流れるが，乱流の場合には，小石や砂も浮かんで流れ，ときには巨礫(きょれき)や巨石が転動して流れる。河川は，このような機械的な運搬作用のほかにいろいろな物質を溶解して運搬する(溶流という)。石灰岩地帯を流れる河川が石灰分を多量に含むのはその例である。

〔海水による運搬作用〕海水の流れ(海流・潮流・沿海流・底流など)も，細かい砂・泥土，海水中の生物の遺骸(いがい)などを遠距離に運搬することがよく知られている。さらに，海水中にも種々の物質が溶解して運ばれる。岸に近い所では，波浪によっても礫・砂・どろ・鉱物粒などが運ばれ，ときに海浜に砂鉄層をつくることもある。

〔風による運搬作用〕乾燥した砂漠(さばく)地帯で強く起こった風は，地面から土砂を吹き飛ばしたり吸い上げたりして，ときには砂あらしとなってかなりの上空まで運び，微粒子は気流によってさらに遠くに運ばれる。中央アジアの砂漠からの微粒子は日本にまで運ばれることで知られ，黄土*はこれらの微粒子が洪積世(こうせきせい)に積もったものである。また関東地方の台地をおおっている赤土(関東ローム*)は，富士山その他の火山から噴出した火山灰が風で運ばれて堆積したものである。砂漠や砂丘も，多くは風の作用で運ばれた砂が堆積したものである。深海の堆積層にも，風で運ばれて海上に落ちたどろ・火山灰などで生じたものがある。

〔氷雪による運搬作用〕おもなものは氷河*による場合である。氷河の表面や側面にはいった岩片・砂・どろなどは，氷河の流れとともに運ばれて氷堆石*となったり，氷河がとけた水は，川岸の堆積物を運んで氷河堆積物をつくったりする。　〔平山　健〕

うんぴょう　【雲豹】　食肉目・ネコ科。小形のヒョウに似た猛獣で，体長1ｍほど，尾は長く80cmほど。体には大きな雲形をした斑紋(はんもん)がある。東南アジアの密林にすみ，木登りが非常に巧みで，小獣・鳥・



運 搬 作 用　山梨県勝沼付近



ウ ン モ　キンウンモ　朝鮮半島砲手鉱山

ヒツジ・ヤギなどを食う。

ウンブリア　[Umbria]　イタリア中部，アペニン山脈を主体とする山地中の州。ローマを経てチレニア海に注ぐテベレ川の上流域を占め，標高500〜1,500ｍ前後の丘陵地帯になっている。面積8,456km²，人口78万9,000(1961)。住民の多くはウンブリア人で，彼らは先史時代からイタリア中・北部に住んでいたが，ケルト人・エトルリア人にしだいに圧迫され，この地方に居住するに至った。山地ではあるが，フラミニア街道が貫通する交通の便利な農業地帯となっている。ぶどう酒の産が多く，タバコなども栽培される。工業では，伝統的な毛織物の生産で知られ，テルニでは水力発電を利用した製鉄工業が行なわれている。アッシジ・スポレトなどは古い史跡をもつ由緒(ゆいしょ)ある都市として知られる。ルネサンスのころには画家フランチェスカ・ピントリッチョ・ペルジーノなどが出てウンブリア派を形成し，文化の中心的地位を占めた。　〔梶川勇作〕

ウンブリアは　【ウンブリア派】　⇨ルネサンス美術

うんぺん　【雲片】　普茶料理*の献立中の一菜名。野菜を油でいためてくず寄せし，くずを雲に見たてたもの。昔，参禅の大衆が蔬菜(そさい)の残片を利用して，しるまたはあえ物などに使用した遺風という。材料はタケノコ・シイタケ・ニンジン・ゴボウ・キクラゲ・グリンピース・ユリネ・豆めん(春雨)など。

うんめいこうきょうきょく　【運命交響曲】　ベートーベン*作曲の交響曲第5番ハ短調の俗称。〈運命〉の名は作曲者自身がつけたものではないが，第1楽章の曲頭のテーマをベートーベンが〈運命はこのようにとびらをたたく〉と語ったと伝えられるところから，この名が広く一般化した。完成は1808年ごろといわれ，次の第6番《田園》とともに初演された(初演時は第6番として発表されたという)。彼の9曲の交響曲の中でも特に構成感のある充実した作品とされている。ハ短調を主調とした4楽章で，作品番号は67。　〔向坂正久〕

うんめいろん　【運命論】　人間の意志や努力にかかわりなく，その行為や存在を支配する超越的な力や定めがあり，すべての事がらはその予定または必然的なおきてに従って進行するとする思想。宿命論ともいう。人間のどうすることもできない運命を描いているギリシア悲劇，原罪説に基づいて人間存在の根本的な運命を考え，キリストによる救済を説くキリスト教などは一つの運命論といえる。自己の運命のうちに使命を認めて運命愛を説いたニーチェ*のように，近世には運命を自己の力によって切り開いていこうとする思想も興っている。➔決定論　〔本橋正義〕

うんも　【雲母】　カリウム・マグネシウム・鉄の含水アルミナケイ酸塩で，重要な造岩鉱物の一。俗に，きらら(ウンモ)・千枚はがしともいう。化学成分の変化によって多くの種類があり，一般的な化学式は$(K, Na)(Mg, Fe, Al)_{2\sim3}(Si, Al, Li)_4O_{10}(OH, F)_2$　単斜晶系。比重2.8〜3.4，硬度2.5〜4.5，屈折率1.53〜1.71。劈開*(へきかい)は完全で，薄く平行にはがれやすく，色は種類によって異なる。六角の板状または鱗片(りんぺん)状の結晶として，いろいろな種類の岩石・土壌(どじょう)・深海堆積物(たいせきぶつ)中に産し，また他の鉱物の風化によっても生ずる。大きな結晶はペグマタイト*中に産する。種類には，シロウンモ・キンウンモ・クロウンモなどがある。電気絶縁材・断熱材として用いられ，粉末のものは潤滑剤，ゴム製品・アスファルト中の粉剤，窯業原料として用いられる。インド・カナダなどが主産地。　〔加藤敏郎〕

うんもちくでんき　【雲母蓄電器】　⇨コンデンサー

うんもへんがん　【雲母片岩】　泥質(でいしつ)の堆積(たいせき)岩を起源とする結晶片岩*の一種で，主としてセキエイ*とウンモ*とからなり，ウンモの結晶はほぼ平行に配列して明瞭(めいりょう)な片理を示している。ウンモ片岩は300℃以上，圧力3,000バール以上の地下でできたと考えられ，変成度の高いものは600℃ぐらいでできたと推定される。変成度の低いものは，セキエイ・シロウンモ・リョクデイ石*・アルバイト*の鉱物組成で特徴づけられ，緑色片岩*相に属している。変成度が高くなるにつれ，クロウンモが現われ，次いでザクロ石*・ジュウジ石*・ランシ

ョウ石*・ケイセン石*が順次現われる。ジュウジ石以下の鉱物を含むウンモ片岩はカクセン岩*相に属する。日本では秩父長瀞(ちちぶながとろ)地方や，四国の別子銅山地方で，典型的なウンモ片岩がみられる。〔片山信夫〕

うんもん【雲文】 雲の形の文様をいうが，時代によって形状や呼び名は違っている。わが国には雲をはじめ，自然にかかわる現象の水・雪などを文様化した例は多い。これらは自然を愛する心深き日本人の感覚の表現としては特筆されてよい。多くの雲の文様の中で，最もすぐれている作例は，平安時代を中心にして表わされた，いわゆる霊芝雲(れいしぐも)である。この名称は，霊芝(マンネンタケ*)とよばれる菌類にその形象が似ているので，つけられたと想像されるが，流れる雲の一瞬の姿がみごとに表現されている。〔毛利　登〕

うんゆぎょう【運輸業】 人や貨物の場所的移動に関するすべての行為を総称して運輸といい，運輸サービスを提供する事業を運輸業という。ふつう運輸手段や領域によって，陸運業*・海運業*・空運業に分けられる。社会生活や産業活動にとって運輸サービスは欠くことのできないものであり，運輸業は一国の経済をささえる大きな柱となっている。そして，運輸業のあり方は，各国それぞれの歴史的・地理的特徴，社会経済の発展段階，運輸手段の発達程度などに基づく輸送構造の変化を反映する。わが国においても経済発展に伴って運輸量は急速に増大しつつあるが，近年における自動車の急激な普及，航空運輸網や航空技術の発達によって，自動車運輸・航空運輸は急速な伸びを示し，1889年(明治22)以来の鉄道中心の輸送構造は大きく変貌(へんぼう)しようとしている。鉄道運輸の伸び悩みは，現在では日本のみならず世界的な傾向でもある。また，輸送需要の大量迅速化，コスト低減の要請および輸送手段の機能向上により，広範囲にわたり競争が激化してきている。また，陸・海・空の3分野を通じて急激に進展しているコンテナリゼーション(コンテナー*化)は，いまや世界的規模で進行し，輸送形態に大きな変革をひき起こしている。これに対応して関連産業の集約・再編成が要請され，最近ではいくつかの運送人が連係した複合運送もしくは一貫責任体制の上に立つ産業再編成が進行している。

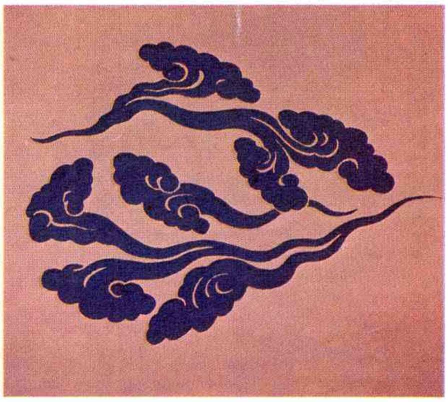
運輸業は運輸サービスの特殊性，すなわち公共性をもち，地域的・自然的に独占になりやすいこと，大規模化が有利なこと，また巨大資本を必要とする分野が多いことなどのために，各種の公的規制を受ける。特に民間の運輸業に対しては，競争の規制，法的独占の承認，運賃統制，免許制や補助金制という公的統制や施策を通じてサービスの確保や質的改善がはかられるのが普通である。また，基幹的な運輸サービス(たとえば鉄道)や，民間事業として成立しがたい運輸サービス(航空事業*など)では，国有・国営ないしは半官半民的な経営形態をとることが少なくない。わが国では基幹鉄道のほとんどが国有企業であり，最大の航空企業である日本航空*は半官半民の特殊企業となっている。〔原　豊〕

うんゆしょう【運輸省】 運輸・港湾・鉄道などをつかさどる国の行政機関。運輸大臣を長とする。明治初年以来鉄道省，運輸通信省，運輸省と，名称・職掌範囲を多少変えつつ現在に至っている。1949年(昭和24)日本国有鉄道*を公共企業体として分離した。組織は内局として大臣官房のほかに海運・船舶・船員・港湾・鉄道監督・自動車・航空・観光の8局を置き，外局として気象庁・海上保安庁・海難審判庁がその管轄下にある。これ以外に付属機関として，全国に9の陸運局，10の海運局・港湾建設局をもっている。なお国鉄は陸運局の監督を受けることになっている。〔寺尾方孝〕

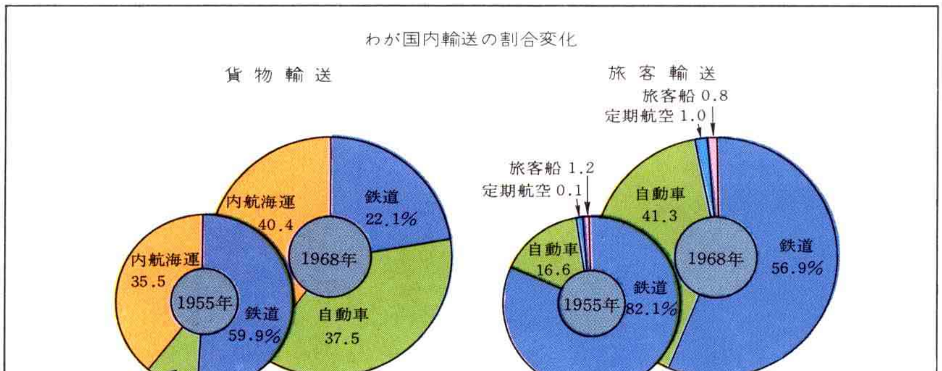
うんようあずかり【運用預かり】 証券会社が顧客から有価証券*を預かり，その運用を任されること。証券類の遺失を防ぐ目的で預かる保護預かりとは違い，運用預かりの場合，証券会社は預かった証券(おもに割引金融債)を短期資金借り入れなどの担保として運用し，預け主に対しては品借り料(日歩1厘以内)を支払う。1965年(昭和40)証券界の混乱期に顧客からの引き出し要求が殺到し，一部の証券会社が苦境に立ち至った。このため，運用預かりは1965年7月以降大蔵省の指導によって廃止の方向に向かい，1968年4月に廃止。〔池内得二〕

うんら【雲鑼】 中国の楽器で，鑼すなわちゴング類に属する体鳴楽器。明楽(みんがく)(→明清楽(みんしんがく))で使われ，明楽が明滅亡のころに日本に伝えられたとき長崎・京都・山口などに広まった。木製のこうしのわくに音高の異なる10個の銅製の盤をつり下げて，木の小づちで打つ。各盤の大きさは同じで，厚みで音高を変えている。

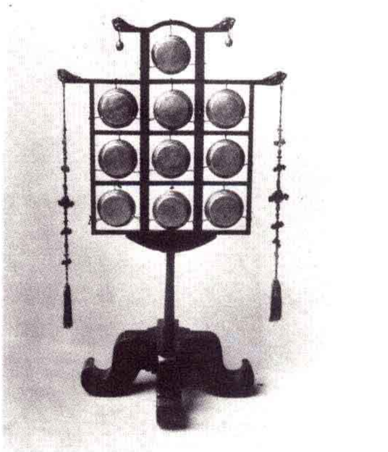
うんりょう【雲量】 雲におおわれた部分が，天空全体の面積の何割にあたるかを示す量。空が一面雲でおおわれている場合を雲量10とし，0から10までの数で表わす。快晴は雲量2以下，晴は雲量3～7，曇は雲量8以上をいう。雲量は，雲の濃さとか高さなどに関係なく決められる。また，霧や煙霧で隠された空の部分も雲量に含める。



雲　文　霊芝雲



運　輸　業



雲　鑼

え

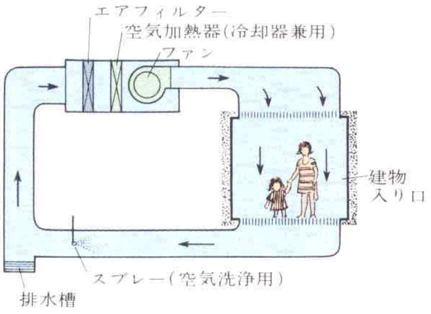
エーア(湖) ［Eyre］ オーストラリアのサウスオーストラリア州にある塩湖。水深は深い所で20m，湖面は海面より12mも低い。面積9,000km²。大鑽井(だいさんせい)盆地*の一部で，周辺には掘り抜き井戸を利用した牧場や農場が広く開けている。

エーアイディー ［AID］ ⇨国際開発局

エアカーテン ［air curtain］ 厚さが数センチメートルないし1m前後で幅が出入り口の幅に等しい気流を建物の出入り口の上部から吹き出して，この気流の膜により内外の空気の流通を遮断(しゃだん)する装置。空気ドアということもある。気流の吹き出し速度が大きいほど，膜の厚さが厚いほど，遮断効果はよい。デパートや商店など，室内を空気調和しているとき，ドアの開放時に外気の流入することを防止する。そのほか，冷凍ショーケース，工業用の酸洗いタンクなどにも用いられる。〔井上宇市〕

エアクリーナー ［air cleaner］ 空気清浄機。室内空気を吸入循環することにより空気中のちり・有害ガス・臭気などを濾過(ろか)・吸着し，空気清浄を行なうもので，工業地帯における居住区・地下街や冷暖房された居室などに使用される。空気清浄機は原理により，①機械的フィルターにより濾過するもの，②電気的にちり粒子を除去するものに大別できる。機械的フィルター方式のうち家庭用の例では，吸入口から送風機により吸入された空気は，フロントフィルター・プリフィルター・メインフィルター・活性炭フィルターの四つのフィルターを通過し浄化される。活性炭フィルターを除く三つのフィルターは，後段になるほど細かいちりを濾過できるようになっている。特にメインフィルターは目の細かいガラス繊維でできており，たばこの煙(粒子の大きさは1～0.1μ)が濾過できる。電気式では，機械的フィルターの代わりに放電電極および平板電極を備え，放電電極に高電圧を印加して放電させることにより，吸入空気中のちりに帯電させ，平板電極に吸着してちりを除くものである。〔田村康男〕

エアシューター ［air shooter］ 気送装置。伝票・書類・小切手・資料などを気送子(コンテナー)に入れ，気送管内を空気圧を利用して搬送するもの。気送子の速度はふつう6～8m/秒で，最大重量は5kg程度である。機構としては，モーターと送風機を組み合わせた空気動力源を使用，管内を真空または圧力(吸引方式・圧送方式)により物品を送る。ステーションが多くなると特殊な制御装置などが必要となる。ステーションボックスには投入部・受信部および信号操作盤が設けられ，ボックス本体には気送子受け箱およびシュートが装置されている。〔中村守保〕

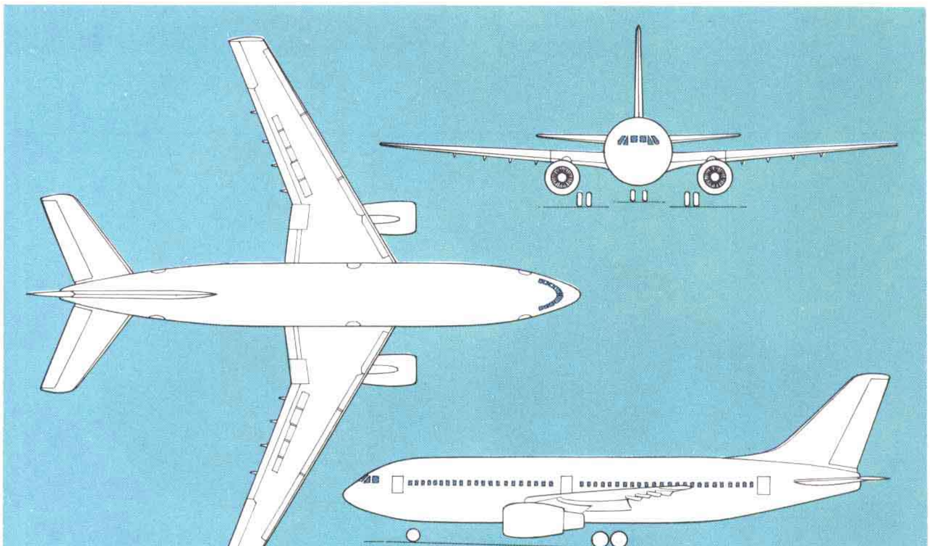


エアカーテン

エアターミナルビル ⇨空港

エアトン ［William Edward Ayrton］ (1847～1908) イギリスの電気工学者。1873年(明治6)工部大学校(東京大学工学部の前身)設立とともに御雇(おやとい)外人として来日。1878年3月25日に中央電信局開局祝宴が同校の大ホールで開かれたとき，講義用のグローブ電池50個でアーク燈を点じた。これが日本最初の点燈で，この日を1928年(昭和3)から電気デーとして記念している。帰国後もイギリスの大学で電流計の発明など多くの国際的業績を残した。〔山崎俊雄〕

エアバス ［air bus］ 空飛ぶバス。航空旅客の数は世界的に年を追って増加の趨勢(すうせい)にあり，長距離の旅行はもちろん，比較的近距離の旅行にも高速で快適な飛行機を選ぶ傾向がある。これにこたえて，比較的近距離の区間で大量の旅客を運ぶための飛行機の開発が進められている。エアバスの構想はヨーロッパ諸国から始まり，アメリカでも各社で計画を始め，1970年代の前半から就航をもくろんでいる。イギリス・フランス・西ドイツの3航空機メーカーが


エ ア バ ス　イギリス・フランス・西ドイツ共同開発のエアバスA-300

共同で開発しているA-300は，推力24.5tのターボファン-エンジン双発，全備重量約140t，主翼面積290m²と，現用DC-8などとほぼ同じ大きさながら，300人の乗客を乗せて航続距離2,200kmと，中距離の大量輸送をねらい，滑走路長2,500m級の中級空港でも使用できるように配慮している。アメリカではマクダネル-ダグラスのDC-10とロッキードのL-1011が就航している。両者とも重量や形はA-300より一まわり大きく航続距離4,000～5,000kmで，乗客数約330人である。〔中口　博〕

エアハルト［Ludwig Erhard］(1897～1977) 西ドイツの政治家・経済学者。ニュルンベルク大学を卒業し，ニュルンベルク産業-市場研究所長をつとめた。第2次世界大戦後バイエルン州経済相。1949年ドイツ連邦共和国の成立とともに連邦議会議員となり，アデナウアー政権の経済相として西ドイツの経済復興を推進した。アデナウアーのあとを受けてキリスト教民主同盟党首となり，1963～1966年首相に就任した。

エアポケット［air pocket］飛行機が飛行中に出会う下降気流。飛行機が下降気流に突入すると，翼の揚力が減少して機体が突然沈下する。そのためにシートベルトを締めていない乗客は座席から上方へ投げ出される形になり，ひどい場合には天井などに衝突して負傷することがある。このような気流は乱気流あるいは突風の一種であって，気象上あるいは地形上，起こりやすい時と場所とがあり，ある程度予知することができる。〔中口　博〕

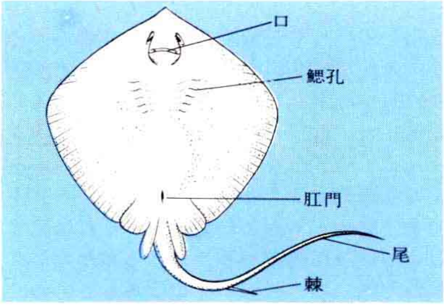
エアロベーン ⇨風向風速計

エー-アンド-ピー［A&P］The Great Atlantic & Pacific Tea Co. の略称。アメリカ最大の食料品の小売りチェーン-ストア。1859年の設立当初は茶の小売り販売が専門であったが，しだいに食料品に手を伸ばし，19世紀末にはパン類の生産を開始して今日の基礎をつくった。店舗は約5,000店で，カナダやブラジルにも系列会社をもつ。現在約15万人の従業員をかかえ，食料品のうちではコーヒー，さらに食料品包装の仕事にも力を入れはじめている。本社ニューヨーク。年間売上高57億ドル(1969)。〔氏家　尚〕

えい【纓】⇨冠

えい【鱝】軟骨魚類・エイ目の総称で，ノコギリエイ・シビレエイ・アカエイ・イトマキエイなど，約340種類を一般にエイとよぶ。体は押しつぶされたように上下に平たく，胸びれが広がって体側に水平についている。口と5対のえら穴が体の下面にあり，えら穴が体の側面についているサメの類とははっきり区別される。このようにして分けると，サカタザメはエイ類で，コロザメは一見エイのようにみえるがサメである。すべて海産で，一般に底生性。〔菅野　徹〕

えい【穎】イネ科植物の花または小穂の基部を包んでいるかたい鱗片(りんぺん)状の包葉。数枚あり，中側にあって花を包むものを内穎，外側にあるものを外穎という。小穂の根もとにあるものを包穎ということもある。



エ　イ　アカエイの体制図

えい【衛】中国古代の国名。西周時代初期，周に滅ぼされた殷(いん)王朝の余民を治めるため，殷の旧都朝歌(河南省湯陰)に，周の武王の弟の康叔(こうしゅく)が封ぜられた。西周時代末の武公の時代にその国力は最も盛んとなり，周王朝の東遷と再興を助けた。狄(てき)の侵入によりBC660年いったん国は滅んだが，斉(せい)の桓公(かんこう)の助けで再興し，楚丘(そきゅう)(河南省滑県)に都し，さらに帝丘(同濮陽(ぼくよう)県)に移った。戦国時代になると，四方の強国の間にわずかに命脈を保つのみとなり，BC209年秦(しん)に滅ぼされた。〔小南一郎〕

えい【穎娃(町)】鹿児島県揖宿(いぶすき)郡の町。薩摩(さつま)半島の南端部にあたり，指宿枕崎(まくらざき)線・国道226号線に沿う。中心集落郡(こおり)は，島津藩の麓(ふもと)(郷士の居住地。軍事・交通上の要地で，地区行政の中心地)が置かれていた。農業を主としているが，コラとよばれる火山灰の土壌(どじょう)のために生産性が低く，国費による排除事業が行なわれた。ポンカン・サツマイモ・茶などがつくられている。かつては人口39,000(1950)の日本一大きな町であったが，1951年(昭和26)に，東部の開聞(かいもん)村(1955年に町制施行)が分離した。人口18,000。

エイイットル-スカラグリムソン［Egill Skallagrímsson］(895？～983) アイスランドの詩人。スカラグリムソンは〈はげのグリムのむすこ〉の意で，姓ではない。バイキングとして勇名をはせた英雄詩人で，中世北欧の宮廷詩(スカルド詩)で有名。仇敵(きゅうてき)の王の地に漂着して首をはねられようとしたとき，王に献じた詩《身受けの詩》のみごとなできばえのために死を免れたことがある。この詩を含む《エイイットルのサガ》に，彼の生涯(しょうがい)が詳しく描かれている。〔鈴木徹郎〕

えいいんぼん【影印本】原本を写真その他の科学的方法で複製したもの。影印版・景印本などともいう。最近流行のリプリント版もこれに属する。以前は写真石版などを用いたが，最近はコロタイプ・オフセット・写真版などの印刷法を用いる。原本(底本)を明らかにするときは影印宋刊本(そうかんほん)・影印旧鈔本(きゅうしょうほん)などという。原本である刊本を模して刊刻再製した復刻本，原本である写本を模して刊刻した模刻本とは区別する。〔庄司浅水〕

えいえんへいわのために【永遠平和のために】ドイツの哲学者カントの著書。副題〈哲学的草案〉。初版1795年9月。第2版増訂新版1796年。本書が書かれたのはカントが71歳のときで，おそらく1795年4月に締結されたバーゼル平和条約の欺瞞(きまん)性を哲学的に批判する意図からであったことは，本書の予備条項第1法則に照らしても想定される。全体は常備軍の全廃などの6法則を含む〈予備条項〉と，国際法は自由な諸国家の連邦制度の上に基礎づけられるべきであるとし，国内法・世界市民法に共和制・訪問権を規定した3項の〈確定条項〉を主文とする。〈追加条項〉および〈付録〉はその哲学的基礎づけである。永遠平和は空虚な理念でなく，実現すべき課題であり，実現を保証するものは〈偉大な芸術家自然〉であるという。この考えはすでに《世界市民的見地における一般歴史考》(1784)で言及され，《判断力批判》で基礎づけられた自然の合目的性の思想である。本書が国際連盟や国際連合の思想上の先駆および基礎づけとなったことはよく知られている。〔中川　誠〕

えいか【穎果】痩果(そうか)の一種で，穀果ともいう。成熟すると果皮は乾燥して薄い皮となり，種皮に密着している果実。イネ科植物にみられる。➔果実

えいが【映画】⇨次ページ

えいかいってい【詠歌一体】藤原為家(ためいえ)の歌論書。一名《八雲口伝》。為家晩年の成立とおぼしく，広狭3種の本のうち，いわゆる甲本が為家の著作であろう。内容は初心者向きの詠歌上の具体的注意がほとんどで，和歌の本質に言及した論は乏しいが，後世に与えた影響は大きい。

えいががく【映画学】映画を研究対象とする学問，あるいは〈映画とはなにか〉という問いに向かって開かれたいっさいの学問の総称。映画は総合的な芸術であり，また歴史の浅い芸術であるため，既成の芸術概念でとらえることがむずかしい。そこできわめて多角的な考察が行なわれている。映画を哲学的側面から把握(はあく)しようとする映画美学，表現形式の側面から把握しようとする映画芸術学，社会との関連で把握しようとする映画社会学や映画心理学がある。しかし，それぞれの区分は必ずしも明確でなく，美学と芸術学が同一視されることもあるし，ゲシュタルト心理学と社会心理学に分かれる映画心理学は，それぞれ映画美学や映画社会学と表裏一体をなしている。したがって，映画学はこれらが一つの学問たらんとしてめざしている焦点に位置するものであり，ある意味でまだ実現

⇨55ページ

映　　画

シネ-カメラ*が1秒間に24こま(無声映画の場合は16こま)の写真を連続的に撮影し，映写機*が同じ割合でそれをスクリーン上に投影すると，網膜上の残像*現象のおかげで，観客は運動の印象をいだく。映画は,写真・映写・残像現象を応用した運動の合成・分析という，三つの要素的な技術を根底とした一つの複合的な技術である。いうまでもなく映画は今日芸術的な表現手段であり，さらに娯楽や教育・報道などの手段でもある。しかしそれらのすべての根拠に技術としての映画があることも明らかである。機械技術の基礎の上に成立する芸術であり娯楽であるという点で，映画はすぐれて現代的だともいえるのである。

〔歴史〕映画の歴史の第1段階は，技術的成立の歴史である。残像現象の原理はすでに古代ギリシアにおいて知られていたが，それに基づいて運動の合成・分析のための装置がつくられたのは，19世紀にはいってからである。たとえばベルギーの物理学者プラトーが1832年につくったフェナキスティスコープは，運動を分解した一連の絵と放射状にあけられた穴をもった円板であった。これは今日のアニメーション*の原型であるが，ここから映画が生まれるためには，描かれた絵が連続的に撮影された写真に置き換えられる必要があった。写真の原初的形態であるピンホール-カメラの原理は，やはりギリシア時代から知られていたが，ルネサンス期のカメラ-オブスクラを経て今日の写真が成立したのは，これも19世紀初めのことである。その後イギリス人マイブリッジの連続早どり写真(1878)を経て，フランス人マレーが回転するシャッターを備えて連続的に撮影を行なうクロノフォトグラフを1880年代に完成した。またアメリカ人エジソン*が最初の撮影機バイタスコープを発明した。映写技術はすでに中世に幻燈(スライド*)として完成されており，18世紀には動く幻燈への試みが行なわれはじめていた。この三つの技術は19世紀中ごろから合流を始め，やがて映画を生んだ。1890年代前半には多くの人によってさまざまな装置が考案されたが，1895年の暮れに公開されたリュミエール兄弟*のシネマトグラフが現在の映画のはじまりであると一般に考えられている。

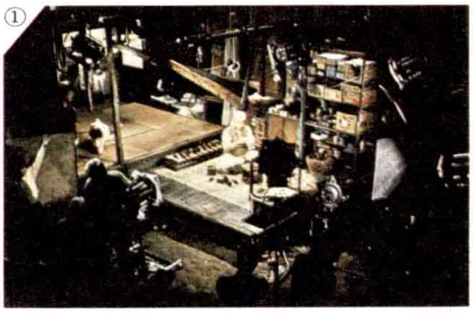
リュミエールの最初の映画は，わずか数分程度の，ただ一つの画面からなるものであり，編集はもちろん，カメラの移動も行なわれていない。それは日常的な現実の一断片を，まったく受け身に模写したものにすぎなかった。やがてメリエス*が特殊撮影*の技法を発見して空想的な内容の映画をつくり，さらに演劇の演出技法を採用して映画の物語を複雑化した。1907～1908年ごろからヨーロッパで一般的になったフィルム-ダールは，有名な文学作品を有名な演劇人を使って撮影することによって，映画を芸術にまで高めようとした。しかしそれは全体としては舞台劇をカメラでとらえただけのものであって，画面の変化はあるものの，舞台における場や幕の変化に対応する程度のものでしかなかった。一方アメリカのポーターは《アメリカ消防夫の生活》(1902)で，多くの短い画面を結びつけることによって物語を描き出すことを試みた。ポーターの仕事を受け継いだグリフィス*は，画面と画面を，単に物語の進行の順序にしたがって結びつけるだけでなく，特定の表現上の効果をあげるために自由に結びつけたのである。カメラも当然1か所に固定されているのではなく，自由自在に動き回り，あるときには人物の心の中を描くためにその顔に近づいてクローズ-アップ撮影を行なったのである。

映画は，この段階に至って，単に与えられた現実や物語を模写するだけの状態から抜け出したのである。対象に対するカメラの位置や動き，撮影されたフィルムの選択と切り取り,切り取られたフィルム断片(ショット)の結合,すべては作者の主観的判断に従って自由に行なわれるに至る。したがってこうしてつくりあげられた映画は，作者によって自由に創造されたという性質をもつ。ほぼ第1次世界大戦の前後に映画独自の表現方法が確立し，映画は一つの芸術として考えられるようになったのである。1920年代は，こうして成立した映画の表現が，多くの作家による試みを通して，飛躍的に展開した時期である。フランスにおいては，映画の特質は光と影による造形的な美しさとリズムにあると考える人々が現われ，いわゆるフォトジェニー*派が生まれた。ソビエトにおいては，エイゼンシュテイン*やプドフキン*らによってモンタージュ*理論が唱えられ，映画によって表現できぬものはないという信念さえ生まれた。1920年代も後半になると，映画の表現の可能性をひたすら追究しようとする傾向はさらに強まり，前衛映画運動が生じた。映画表現はこうして急激にその領域を広げていったが，それとともに一つの問題が明らかになった。音やことばのないことが矛盾として現われてきたのである。1927年ごろに企業的な理由からアメリカにトーキー*が生まれるや，世界の映画は直ちにトーキー化され，1930年代には1920年代に開拓された表現と音やことばをどのように融和させるかが主要な問題とされた。

ところでトーキーの出現は安易にことばにたよる傾向を生み，さらにモンタージュ理論の普及は映画表現を型にはめるという結果を生んだ。1940年代はそうした傾向を反省し，本来の映画のあり方を追究するところから出発した。そのきっかけの一つとなったのがネオレアリスモ*である。第2次世界大戦後の混沌(こんとん)たる現実を，いっさいの既成の観念を捨てて映画にとらえうるかぎり忠実にとらえようとする態度が，映画の本来の姿への復帰を促したのである。ネオレアリスモの影響は世界各国に及び，フランスのヌーベル-バーグ*やポーランド映画*の新しい傾向などを生み，さらに今日に至っている。1950年代におけるテレビジョンの一般化は，映画から報道・娯楽の面で多くのものを奪ったが，かえってそのため芸術的な面が純粋化されたと考える人も多く，確かに企業的には多くの問題をかかえているにせよ，表現面での探究は，今日むしろ非常に盛んになっているとさえいえる。一方技術的にも映画は展開を続け，トーキー出現後1940年代には色彩映画*が一般化し，1950年代にはテレビジョンへの対抗策としてワイド-スクリーン*映画が登場，1960年代後半には，エックスパンデッド-シネマともよばれる，同時に多数の画面を映写するマルチスクリーン方式の映画や，観客のまわり360°の映写面をもつ映画，さらにはドーム状のスクリーンなど，多様な試みが行なわれている。

〔特質〕その歴史が示すように，映画はまず一つの機械技術である。運動する事物を再現するという課題を，写真という手段をおもに用いて解決した技術である。レンズはカメラの前の対象を機械的にとらえ，フィルムはそれを機械的に固定し，映写機は機械的にフィルムをスクリーンに投影する。スクリーン上に観客が見るものは，だから現実の対象を機械的に再現したものなのである。映画の特質を現実に類似した性格に求める理論家が多いのも当然のことである。ところで，フランスの理論家バザンの指摘するところによれば，画家がいかに自分の主観を殺して対象を忠実に再現しようと考えても，それがひとりの人間によって描かれたものだというだけで，絵の対象に対する忠実さはつねに疑われざるをえない。ところが写真の場合，機械が対象を再現するために，人はその客観性を信じ，現実の対象との類似を疑わないのである。忠実かつ精密に描かれた絵よりも，1枚のぼやけた写真に人は再現の忠実さを感ずるのである。まして動きまで再現する映画の場合はなおさらである。映画は人間がこれまでつくりえた最も完全な対象の再現，つまり模像なのである。

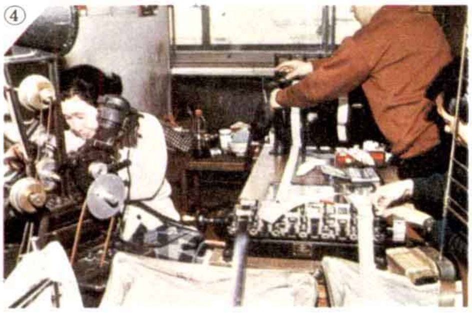
ところで完全な模像であることによって映画はどのような役割を果たすことができ

①


③


⑤


②


④


映画の製作　①スタジオ内セットでの撮影。カメラは左下のライトのかげ。②ロケーション風景。左の2人が俳優。③時代劇用のオープンーセット。右の方はカメラにうつらないので家屋は建てられていない。④フィルムの編集。未編集フィルムの断片を編集機(左)で見ながら切断部分を指定し，スプライサー(右)でつないでいく。⑤ダビング。映像と音声を結びつける

るだろうか。出現したばかりの映画は，まず見せ物になった。今日のように映画によってつくりだされるものが興味の対象になったのではなく，スクリーン上に完全な模像が現われることが好奇心の対象になったのである。しかし見せ物であることは，映画そのものの性質によるのではなく，映画の新しさ・珍しさという，一時的な性質によるものにすぎなかった。映画がその特質に従って果たした機能は，まず娯楽であり報道であった。映画のつくりだす世界は，全体としては非現実の，仮構のものでありながら，模像による世界としてきわめて現実に類似した性格をもっている。非現実的・非日常的な世界――夢やあこがれの世界が，あたかも現実的であるかのごとく現われ，人々はひとときを夢の世界の中で実際に生きているかのような印象をいだくのである。現実からの逃避による緊張の緩和，それは確かに娯楽の一つの性格であろう。そして非現実性を保証された現実に酷似した世界の中では，極度に強い刺激を経験することができるだろう。実生活にかかわりのない緊張は，かえって実生活の緊張の解消に働くのである。模像であることにより，映画は現代的な娯楽として成立しているのである。

一方機械的手段による模像であることによって，映画は報道や情報伝達の手段として成立する。社会の範囲が拡大し，その組織が複雑化するとともに，人が生きていくために必要な情報の量は著しく増大する。しかし，人はそのすべてを直接的体験によって獲得することはできない。なんらかの手段(媒体)を通して間接的に知るしかない。媒体は当然正確な内容を多数の人に伝達しうることを要求されるが，それと同時に直接的体験に近い体験をつくりだしうることも，ある点で要求されるだろう。映画は機械的産物であることによって客観性を保証され，また同時に多量のコピーを作成し，かつ現実に類似した模像であることによって，直接的性格をももつのである。映画は現代の複雑化した社会に適応した情報伝達の手段であり，報道・教育や宣伝広告の領域で活発な機能を果たしている。➔ニュース映画　➔教育映画　➔記録映画

〔芸術〕現代的な娯楽・情報伝達の手段としては，現在テレビジョンのほうがより積極的な機能を果たしているとも考えられる。かつて映画が独占していた多くの領域における王座がテレビジョンに奪われた今日，映画の中心的領域は芸術のそれだといっていいだろう。しかし芸術が個性の活動による独自な世界の創造であるなら，機械による模像である映画は，むしろ芸術と対立するものといわなければならない。

しかし模像とはいっても，映画は現実の対象のすべての性質を再現するのではない。カメラがとらえてフィルムに固定するのは，物の視覚的性質，正確にいえば物と光線の関係からつくりだされる性質だけである。そのうえフィルムやレンズは作者の意図に従って自由に選択されるのであるから，映画は主観の働きによって現実から抽象されたものだというべきである。物のもついろいろな性質の中からただ一つだけが取り出されて観客に示されるとすれば，結果的にはその性質が強調され拡大されたことになるだろう。映画は人が日常の中で見落としていた性質を気づかせるのである。いわば埋もれていた美しさを引き出すこともできるのである。俗にいう写真うつりのいいという現象も，このことを物語っている。人がものを見る目は各人各様である。経験や性格の違いによって，たとえ同じものを見ていても，ひとりひとり違った印象をいだくのだろう。人はその人なりにしかものを見ることができない。ある意味ではゆがんだ姿だけを見ているのである。カメラのレンズはこうした経験や性格の影響を受けない。もののありのままの姿をとらえるだけである。フィルムに固定されるのは，私たちの見ているものではなく，レンズが見たものなのである。こうして映画は日常の世界では気づかれなかったものの美しさや姿を明らかにするのだから，機械による模像だとしても，芸術に反するものではない。まして作者の意図に従って位置を決められ，移動するカメラが撮影するものは，明らかに作者の主観を反映させたものというべきである。

しかし映画の芸術にとってさらに重要な意義をもつのは，画面の結合(モンタージュ)である。画面結合は，ある場合には現実の単なる再現のためにも行なわれるし，物語の進行に従ってだけ行なわれるだろう。しかしある場合には作者の表現上の意図に従って行なわれるだろうし，さらには，ダダイスム*映画などのように現実の法則性を否定するためにも行なわれるのである。ある時期のエイゼンシュテインの理論では，結合は個々の画面のもっていなかった新しい意味を生み出すものと考えられ，個々の画面の意味は二次的なものと考えられている。作者が自由に切り取り結合する画面によってつくりあげられる世界，それはいかなる意味でも現実の再現ではない。しかしながら画面結合は，エイゼンシュテインの考えたように自由には行ないえない。ことばの単語などと違って，映画の画面は(模像であ

るため)非常に具体的で細部まで規定された性質をもつからである。画面結合を自由に行なうためにその具体的・現実的性質を弱めようとすることは，ある意味で映画独自の性質をあやうくしかねない。現実的・日常的な性質の強い画面から，結合によって独自の世界がつくりあげられる。そこに映画の芸術の特質があるのではないか。映画の芸術は，その機械的模像としての性質の否定によってつくりあげられるのではなく，むしろその上に築き上げられるのである。

たしかに近代までの芸術観からみれば，映画には非芸術的な性質が多く認められる。それは多くの美学者の主張したとおりである。だが19世紀末に生まれ20世紀に育った映画は，まさに現代の芸術でなければならない。ある意味で映画の特質は近代から現代を区分すべき特質なのである。

〔要素〕映画を構成する要素は，基本的には視覚的要素と聴覚的要素の二つである。視覚的要素はまた映像ともいわれ，その最も小さい単位はショットである。ショットの結合から生ずるシーン(場面)，シーンの結合から生ずるシークェンスが映画を構成する。聴覚的要素はことば・物音・音楽の三つからなる。映画のことばは，登場人物のことばと解説・説明のことばに分かれ，映像との関係によって演劇のせりふとは異なった役割を果たす。物音も単に画面の現実感を強めるだけでなく，画面の意味を補ったり強めたりする働きをもつ。音楽は映画において非常に大きな役割を演じ，映像による視覚的リズムを補強したり，事件展開のリズムを強調したり，ふんい気をつくりだし，人物の内面を表現するなど，多様な機能を果たす。

一方，映画の製作は，非常に多くの要素的な作業からなるが，列記すれば，作品の企画を行ない，製作全体を総括する製作者(プロデューサー)の下に，脚本・演出・撮影・照明・録音・装置・衣装・演技・編集の諸部門が存在するが，作品創作上の中心は，演出者(監督)であるとみなされる。演劇の演出家はある意味で戯曲の解釈を根底に仕事を行なうのであるが，映画監督はもちろん単にシナリオ*の解釈を行ない，それを具体化するのではない。映画の根本がカメラによる表現である以上，シナリオからコンティニュイティを作成することに映画創作の中心的作業があると考えられるのである。シークェンス・シーンに区分されたシナリオを，ショットに細分し，演技，カメラの動き，照明その他に対する明確な指示を行なうこと，あるいは，自分の中にあるイメージをフィルムに定着するために，撮影対象を選び，カメラの位置を決め，その他の要素を決定する，これが監督の仕事であり，映画作家という名まえは，彼にふさわしいものである。もちろん彼が自己のイメージを定着するためには，各部門の担当者の積極的な参与が必要なのであり，その意味では映画は一つの共同創作の結果であり，各人・各要素が集積された総合的な芸術である。この点でも映画は個人の天才を中心におく近代的芸術観とは必ずしもあいいれない。

映画を娯楽や情報伝達の手段として考えるにせよ，あるいは芸術として考えるにせよ，それがきわめて現代的な現象であることに変わりはない。映画は単に現代の時代的要請にこたえているだけでなく，むしろ現代をつくりあげるうえで大きな役割を演じていると考えられるからである。映画は(テレビジョンなどとともに)私たちの世界認識に積極的に関与している。現在の私たちにとっての世界は，私たちの直接的体験や印刷媒体を通しての間接的(抽象的)体験からだけではなく，間接的でありながらなお直接性をもつ映画やテレビジョンを通しての体験からもつくりあげられているのだろう。ある意味では，映画(テレビジョン)は，現実の模像にとどまらず，現実をつくりあげるものであり，現実そのものだともいえるのである。企業的盛衰にかかわりなく映画は最も重大な現代的現象の一つである。おそらく今日のような鑑賞の形態は大きく変化していくだろう。技術的発展に伴って，映画は家庭内でもっと自由に個人的に鑑賞されるようになるだろう(→小型映画)。そのとき映画はもはや今日の姿とはまったく異なったものになるかもしれない。しかし映画はあくまでも一つの技術なのである。それは技術全体の展開とともにこれまでも姿を変えてきた。今後も姿を変えていくだろう。そのことが実は映画の特質の一つなのである。〔浅沼圭司〕

映画の用語

アフター-レコーディング 撮影・編集したフィルムを映写しながら，画面の動きに合わせて音声部分を録音すること。アフレコと略す。

エヌ-ジー(NG) no good の略称。撮影中の俳優の演技やカメラ・照明・美術などに不良・事故が生じ，撮影したフィルムが使用不能になること。

オーバーラップ 一つの画面が次の画面へと重なりながら少しずつ変わっていく画面転換。ディゾルブ，または溶暗・溶明ともいい，OLと略して書く。

カット カメラが始動してから停止するまでに撮影された一連の画面。ショットともいう。

カット-バック 切り返し。一つの画面が他の画面に切り換えられ，またもとの画面にもどること。

クランク-イン 撮影開始のこと。撮影のときカメラのクランクを回すところから用いられる。反対に撮影終了をクランク-アップという。

コンティニュイティ 演出台本。撮影前に監督がつくるノートで，画面構成，カット割り，カメラの位置や角度，音楽，効果などをしるし，略してコンテという。

シークェンス 作品の中の一つのまとまったエピソードをなす部分をいう。ショットの積み重ねがシーンを構成し，いくつかのシーンが集まってシークェンスとなる。

ショット カットと同じ。

シンクロナイジング 映像とせりふ・音楽・効果音などを同調させること。実際にはラッシュ-プリントと画面ネガとサウンド-フィルムを同調させることをいう。

ストップ-モーション 動きのある映像が突然静止すること。その映像の意味をより鮮明にしようとする場合などに用いられる。

スーパー-インポーズ 二重焼き付け。一般には，外国映画にせりふを翻訳して焼き付ける字幕をいう。

ダビング せりふや効果音が同時録音されている音フィルムに，音楽や音響などを重層的に録音すること。

パン パノラミックの略称。カメラの位置はそのままで，カメラ-ヘッドだけを動かし対象を追って撮影する技法。

フェイド-イン 暗い画面をしだいに明るくしていく手法。溶明ともいう。逆に明るい画面を暗くしていくのをフェイド-アウト(溶暗)という。

フラッシュ-バック カット-バックを急速にしたもの。

ラッシュ-プリント 撮影ずみの未編集フィルム。スタッフの検討のために映写され，NGがあれば撮影しなおすこともある。

ロケーション 撮影所以外の場所で野外撮影すること。略してロケともいう。ロケ地を捜すことをロケーション-ハンティング，略してロケハンという。

ワイプ 場面転換の技法。一つの画面を他の画面でぬぐい去るように消していくこと。1点に絞るように消していく場合は別にアイリスという。

されない学問であるともいえる。映画心理学ではジークフリート-クラカウアーの《カリガリからヒトラーへ》，映画社会学でワルター-ベンヤミン*の《複製技術時代の芸術》，映画芸術学ではルドルフ-アルンハイムの《芸術としての映画》，映画美学ではジルベール-コアン-セアの《映画哲学の諸原理をめぐる試論》などの名著がある。また，アンドレ-バザンの《映画とは何か》などは，これらの統合をめざす名著である。
〔波多野哲朗〕

えいがかん　【映画館】　映画の上映を専門とする建物。不特定多数の観客から入場料をとって映画を見せる現在の映画館の興行形態は，すでに19世紀末の映画誕生のころからとられているが，映画専門の常設館は1900年ごろからつくられた。上映作品の傾向は，その立地条件・設備などによってさまざまに異なり，映画館の種類もロードショー館・封切り館・二番館・三番館・アートシアター*などに分かれ，映画製作配給会社との関係に応じて，直営館・傍系館，あるいは独立館などがある。映画のもつ大衆性・娯楽性のゆえに，アメリカのブロードウエーや浅草のように映画館を中心に発展した娯楽街もある。しかし，近年のテレビの普及やレジャー産業の発展によって，映画館の数は世界的に減少しつつあり，その結果，総合娯楽場のような大劇場と名画専門の小劇場との両極に分化する傾向をみせはじめている。〔波多野哲朗〕

えいがきょういく　【映画教育】　⇨教育映画

えいがさい　【映画祭】　数多くの映画を集めて上映する催し。映画祭には，国際映画祭・国内映画祭のようなものから，短編映画祭・実験映画祭・学生映画祭のように，それぞれその映画の長さ・内容・参加資格などによって限定したものまでいろいろな種類がある。歴史的には1932年にカンヌで開かれたものが最も古いとされている。代表的な国際映画祭にカンヌ映画祭・ベニス映画祭・ベルリン映画祭などがあるが，近年しだいにその意義が薄れ，テーマ性を打ち出したアビニョン映画祭・サルロビバリ映画祭などが注目されはじめた。
〔波多野哲朗〕

えいがし　【映画詩】　⇨シネ-ポエム

えいがしょう　【映画賞】　すぐれた映画作品または映画人に与えられる賞。最も有名なものにアメリカのアカデミー賞があり，オスカーという人物像が与えられる。そのほか，ソビエトのレーニン賞，カンヌ(フランス)のグランプリ，ベニス(イタリア)のサンマルコ賞などが有名であるが，その数・種類は数えきれないほど多く，日本国内にも新聞社や映画雑誌社などが主催するものがある。元来映画賞は，映画の芸術的な価値ないし映画人のすぐれた業績に対して与えられるものであったが，しだいに企業の市場開拓政策の道具と化し，映画賞に不信の目が向けられるようになってきた。また，一般に芸術作品を多数決によって価値判断して優劣をつけるという賞の発想自体が誤りであるとして，映画賞の意味が根本的に問いなおされる時代を迎えている。
〔波多野哲朗〕



瑛　九
《午後(虫の不在)》 1958
東京国立近代美術館蔵

えいかたいがい　【詠歌大概】　藤原定家*の歌論書。1223年(貞応2)ごろの成立。詠歌の最も基本的な注意を簡勁(かんけい)な漢文でしるしたもの。《近代秀歌*》の説とほぼ等しく，情(こころ)は新しく詞(ことば)は古く用いられたものを用いるべきこと，本歌取り*の方法，規範とすべき古典などについて説いている。ふつう，秀歌例〈秀歌之体大略〉が添えられている。

えいがものがたり　【栄花物語】　平安後期の歴史物語。前30巻の正編と後10巻の続編からなり，編年体で記され，歴史物語の嚆矢(こうし)とされている。《栄華物語》とも書く。正編は，宇多天皇から後一条天皇までの御歴代を骨子に，藤原道長*の栄華の明暗二面を交互にくり返す。作り物語の手法をとってはいても，一貫した道長物語とするには構成が散漫にすぎ，むしろ娘彰子や妍子(けんし)および法成寺*関係に重きがおかれ，精細な叙述に特徴がある。成立は道長の死後まもないころ，作者は赤染衛門*(あかぞめえもん)かといわれる。《源氏物語》の影響が強い。続編は10巻が2部に分かれる。作者については，巻37までを出羽守(でわのかみ)平季信(すえのぶ)の娘出羽弁(いでわのべん)，残りを別の女房とする説があり，成立は1092年(寛治6)以後まもなくと推測される。前半の視点は出羽弁の主人威子・章子後宮におかれ，歌合*などの行事，女房の服飾など宮廷生活の描写が多い。後半は関白師実(もろざね)とその子師通(もろみち)が物語の中心とされている。正編より平板で文学的な味わいに乏しい。
〔谷中静子〕

えいきごう　【嬰記号】　西洋音楽の記譜法で，音を半音高くするために使われる記号。調号として用いられるときは音部記号の右に，また，曲中で一時的に用いられる場合は，高くする音の左につけられる。記号は今日では♯が用いられ，臨時に用いられるときは，1小節の内部だけ有効とされている。♯を解消するには♮(ナチュラル)を付せばよい。

えいきゅう　【瑛九】　(1911～1960)　洋画家。宮崎県の生まれ。本名杉田秀夫(すぎたひでお)。1925年(大正14)上京し，1930年(昭和5)ごろからフォトグラム*を研究，1936年新時代洋画展同人となる。その後印象派ふう写実から抽象的作風をとり，自由美術家協会・デモクラート美術家協会などに関係した。銅版画・石版画・フォト-コラージュなどを試み，斬新(ざんしん)な作品でわが国の前衛美術運動に先駆的な役割を果たした。

えいきゅうかくめいろん　【永久革命論】　トロツキーによって主張された革命*理論。この理論によれば，帝国主義の時代には社会主義革命だけが必要であり，農業人口の多い国の革命は，まずプロレタリアート(労働者階級)が権力を奪取し，他国の革命の援助を得てはじめて勝利する。その意味で，一国社会主義*革命はありえず，同時的・連続的世界革命のみが帝国主義時代の革命であると説いている。➜世界革命　➜トロツキズム
〔西尾孝司〕

えいきゅうきかん　【永久機関】　第1種永久機関と第2種永久機関とがある。第1種永久機関とは，外部から熱も仕事も受けないで(受けてもその代数和が0)，それ自身で引き続いて仕事を行ないうる機関のことである。無から有の仕事を引き出しうるこの機関をつくるために，人間は長い間努力したが成功せず，逆にこのような機関をつくることは不可能であることが熱力学の第1法則(エネルギー保存の法則*)として確立された。熱を仕事に変えることは熱力学の第1法則からは文句なしに可能であるが，ほかになんの変化も残さないで熱を全部仕事に変えることは経験上できないことがわかっている(熱力学の第2法則*)。これを可能とする機関を第2種永久機関という。実際このような機関ができたとすると，ほとんど無限にある大地や大海の熱エネルギーを

使って電車や船を走らすことができ，われわれの経験と矛盾する。〔中野藤生〕

えいきゅうきたい【永久気体】　臨界温度の非常に低い，水素・酸素・窒素あるいはヘリウムなどは容易に液化することができなかったので，永久に気体のままで存在するものと思われ，永久気体とよばれていた。現在は，これらの気体も液化することが知られているので，永久気体は過去のことばとなった。

えいきゅうこうさい【永久公債】　永遠公債または年金公債・無期限公債ともいう。政府が一定の利子を定期的に支払う義務を負ってはいるが，元金償還の期限が定められていない公債，すなわち元金償還の期限が政府の自由にゆだねられている公債のことである。したがって，政府は必要なときに市場から公債を買い上げ，これによって実質的な償還を行なうことができる。永久公債は，物価の上昇など貨幣価値の変動によって政府の実質的な負担が減少することもあり，政府にとっては有利である。その反面，永久公債が乱発されると，赤字公債*となる危険性がある。1751年にイギリスで発行されたコンソル公債が永久公債の代表的なものである。〔速水　保〕

えいきゅうこうすい【永久硬水】　⇨硬水

えいきゅうし【永久歯】　生涯(しょうがい)はえ変わらない歯のことをいう。ヒトでは，20本の乳歯が最初にはえ，それが脱落したのちにはえる20本の歯を代生歯という。６歳・12歳・20歳ごろ，左右上下それぞれの後部に１本ずつ，全部で12本の大臼歯(だいきゅうし)が付け加えられる。これを加生歯という。代生歯と加生歯を合わせて永久歯とよぶ。➔歯

えいきゅうじしゃく【永久磁石】　電磁石*などの一時磁石と異なり，磁化力を除去したのちにも残留磁気を長く保っている磁石。材料としてタングステン磁鋼・コバルト鋼・クロム鋼などの合金鋼が多く用いられる。これらの中で，日本で開発されたＭＫ鋼*・ＫＳ鋼*などが有名である。その他，フェライト*などの粉状の磁性体を固めたものが最近よく用いられる。永久磁石は，電気計器その他に多く用いられる。➔磁石

えいきゅうそしき【永久組織】　高等植物は受精卵から胚(はい)発生のころまでは，どの細胞も分裂して新しい細胞をつくる能力をもっている。しかし発生が進むと，このような能力は分裂細胞とよばれる一部だけとなり，他の部分の細胞は特定の機能と形態をもつ組織となる。このような組織を永久組織とよぶ。

えいきゅうへんけい【永久変形】　⇨塑性

えいぎょうじょうと【営業譲渡】　商人が，特定の営業の目的に供される組織的財産(営業)を，一体として他の商人に移転すること，またその契約をさす。この組織的財産の中には，機械・什器(じゅうき)・備品などの動産や，土地・建物などの不動産はもちろんのこと，〈のれん*〉および得意先や営業上の秘訣(ひけつ)も包含しているので，動産・不動産などの評価の総和以上の価値をもっていることが少なくない。この契約によって，譲渡人は，一体となっている営業組織体を一括して譲受人に移転し，その財産の種類に応じて引き渡し，登記*などを行なって，譲受人が営業を営めるようにする義務を負うことになる。したがって譲渡人が，その後同種の営業を再開することができたのでは，得意先なども重複しかねないことになるので，譲渡人は，同市町村および隣接市町村において，20年間は，同一の営業を営むことはできないと規定されている(商法25条)。なお株式会社・有限会社が，営業の全部または重要な一部の譲渡あるいは他の会社の営業全部の譲り受けをするときは，株主総会*の特別決議を得なければならない。〔松本治雄〕

えいぎょうぜい【営業税】　営業を課税の対象とする税。しかし〈営業〉の概念が一般に不明確であるので，実際にはこの種の税によって賦課されるべき営業の範囲を限定しているのが通常である。課税標準としては，純収益か，さもなければ売上高・資本金額・従業員数などの外形標準がとられる場合が多い。わが国の営業税は，1878年(明治11)に府県税として発足し，その後1896年に国税としても設けられた。そして，1926年(大正15)の改正により，いままでの外形標準に基づく税から，純収益を課税標準とする営業収益税に改められた。しかし1940年(昭和15)の税制改正では，このような地方税は廃止されて国税に吸収・統合され，一本の営業税となった。第２次世界大戦後，1947年に再び地方に委譲され，1949年に事業税*(都道府県税)と改められた。〔西野義彦〕

えいぎょうそんえき【営業損益】　生産・販売など企業の本来的な営業活動の結果として生ずる損益の総称。売上高から売上原価と営業活動に要した諸経費とを差し引いたものをいう。営業損益の額は，企業の本来的営業活動の良否を端的に示す指標となる。

えいきょうのらん【永享の乱】　1438年(永享10)から翌年にかけて，鎌倉公方(くぼう)足利(あしかが)持氏*が６代将軍足利義教*(よしのり)にそむいた事件。４代将軍義持の死後，持氏はその後嗣となることを望んだが，義教の就位で果たせず，これを機に義教とことごとく対立した。これをいさめた関東管領(かんれい)上杉憲実*(うえすぎのりざね)とも不和となり，持氏が憲実を攻めたのが乱のはじまりである。憲実はこれを幕府に訴え，持氏追討の命を受けて，今川・小笠原(おがさわら)・武田(たけだ)氏らに出兵を命じ鎌倉を攻め，1439年持氏を鎌倉の永安寺に自殺させた。〔大三輪龍彦〕

えいぎょうほうこくしょ【営業報告書】　財産目録・貸借対照表*・損益計算書*・配当議案とともに，代表取締役が作成し，定時株主総会に提出して，その企業の出資者や主務官庁に対して承認を求めなければならない計算書類の一。当該営業年度における営業状態の概要を記載した報告ではあるが，商品売買業に適用される商業帳簿*とは異なる。

えいぎょうようじどうしゃ【営業用自動車】　他人の需要に応じ人や荷物の輸送を仕事として営業活動をする自動車。ハイヤー，タクシー，運送会社のトラック，バス会社・観光会社のバスなどはこの中にはいる。しかし，同じ仕事に使用しても自分の荷物のみ運搬する車や，自家用として使用するバスは営業用自動車とはいわない。➔自家用車

えいきょく【郢曲】　日本の中世歌謡に対して使われる分類用語。ばく然と神楽歌(かぐらうた)・催馬楽*(さいばら)・朗詠*・今様*・宴曲・風俗歌などの謡物を総称する。語源的には，中国春秋時代の楚(そ)の都である郢で歌われた通俗的な歌曲・民謡をさしたらしい。しかし，日本では雅楽*に対比することばとして使われた。郢曲を伝承する家系に２流あって，源家の一部は存続しているが，藤家は絶えた。

エイクマン［Christian Eijkman］(1858～1930)　オランダの医学・生理学者。バタビアでニワトリのかっけを研究し，はじめて実験的に食物欠乏症を認め，微量の必須(ひっす)食物因子の概念を提出して，ビタミン研究の端緒を開いた。1929年ノーベル生理学・医学賞を受賞。

えいげんじ【永源寺】　滋賀県神崎郡永源寺町高野にある臨済宗永源寺派の大本山。山号は瑞石山(ずいしゃくざん)。1361年(正平16・康安１)六角氏頼(うじより)が寂室元光を開基としてこの寺を建てた。応仁(おうにん)の乱中に五山*の名僧が多数避難したため，1495年(明応４)五山に準ぜられ，さらに紫衣(しえ)勅許の出世道場の資格を得た。しかし1571年(元亀２)織田信長(のぶなが)に焼かれたため，1643年(寛永20)に後水尾天皇が一糸文守に再興させた。伽藍(がらん)は壮大で風景がよく，紅葉の名所として知られる。〔藤本昌子〕

えいご【英語】　イギリス(イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド)・イギリス連邦(カナダ・オーストラリア・ニュージーランド)・アイルランド共和国・アメリカ合衆国などに公用語*として用いられる国語。比較言語学の系統では，インド-ヨーロッパ語族中のゲルマン語派西ゲルマン語系に属し，さらにその中の低地ゲルマン語に含まれる。したがってオランダ語と非常に近く，また，高地ゲルマ

ン語に属するドイツ語とは兄弟関係にあり，ゲルマン語派の北ゲルマン語に属する北欧諸国の言語とも親近関係をもつ。

〔歴史〕英語の歴史は，紀元前7世紀ごろから，ケルト民族のブリトン人が大陸からこの島に移住してきたことに始まる。そののち，紀元前半世紀ごろ，カエサルがこの島を攻略して，以後300年ほどはローマの支配が続いた。しかし，ヨーロッパ北部のゲルマン民族中のアングル人・サキソン人・ジュート人らの侵入を受けてローマ人はしだいに撤退し，5世紀末にはついに，それらゲルマン民族がこの島国の主人公となった。今日の英語は彼らの言語がもとになって形成されたものである。以後1066年ノルマン人のイギリス征服のころまでが古代英語の時代で，文学作品としては有名な叙事詩《ベーオウルフ*》がある。古代英語は現代ドイツ語を複雑にしたような文法組織をもっていた。すなわち現代英語にはみられない高度な屈折変化をもった総合的な言語であった。

ノルマンの征服から15世紀末ごろまでが中世英語の時代とされる。ノルマンの征服王ウィリアムは高度な文明をもったフランス語を携行してこの地に来たためにフランス語が上流階級の言語となり，それまでの英語は民衆のことばとして一時衰退するに至った。13世紀末，イギリスが大陸依存から独立するに至って英語も公的言語としての地位を回復するが，その英語はフランス語の影響を強く受けて大きく変貌(へんぼう)し，屈折語尾は多く簡略化された。中世英語の時期を代表する文人としては，《カンタベリー物語》で有名なチョーサー*があげられる。

1600年代前半は，初期近代英語の時期で，《欽定訳(きんていやく)聖書》*やシェークスピア*の作品によって，近代的な標準英語がしだいに確立され，発音や文法でも現代英語の原型ができあがった。アメリカ英語はこの時代に分かれたものである。1650年以後は後期近代英語の時代で，S.ジョンソン*の辞書(1755)などによって語のつづりもようやく固定しはじめた。その後の英語は現代の英語とほとんど変わらない。現代の英語は，きわめて分析的で，語尾変化が少なく，語順が確立し，発音も強弱アクセントが顕著で，かつ論理性に富む言語である。デンマークの言語学者イェスペルセン*は英語を称して〈男性的な言語〉とよんだ。

〔英語の国際性〕英語を公用語とする地域は，イギリス・イギリス連邦・アイルランド共和国・アメリカ合衆国，およびかつてイギリスが支配した南アフリカ連邦・ローデシアなどであるが，このほか，英・米の勢力が強い地域では，第二の国語として用いられている。特に指導者層にその傾向が著しい。このように英語を使用する地域は広大であり，したがって英語を話す人も多数に上る。正確な数は不明であるが，ある書によれば，母国語として英語を話す人口は約2億7,000万で，このほか実際に英語を使用している人は約1億だという。しかし，その数はしだいに増加しているから，総計では4億に近いであろう。約7億の使用者がある中国語には及ばないが，約1億7,000万人というロシア語使用者よりははるかに多い。しかも，使用地域が局所的でなく，また使用者がさまざまの民族にわたることから，英語は現代の国際語であるといってよい。事実，世界の郵便物の4分の3はあて名が英語で書かれ，世界の新聞の2分の1以上が英字新聞であるといわれる。

国際語としての使用分野においても，経済・商業の方面では，従来から英語は他の国語の追随を許さなかったが，現在は政治・外交・技術・文化の面でも広く用いられるようになり，たとえば外交関係でのフランス語や医学関係でのドイツ語などの地位を奪いつつある。国際会議の用語としても英語は筆頭に立つようになった。このように英語が国際性を獲得した大きな理由には，英・米両国の世界史上に果たした役割の大きさがあげられる。すなわち，かつてイギリスが〈太陽の没することなき〉植民国家として活躍した実績と，二つの世界大戦を通じて示されたアメリカの実力とである。しかし，一方では，英語の表現力が高度であり，その文法構造が比較的簡単である，という言語面の特性もその普及に寄与したといえよう。

〔共通英語〕一概に英語といっても，その使用される地域は広く，使用する人口も多いから，内容的にもまったく同一であるわけではない。しかし，その地域的な差異はきわめてわずかである。かつて，ウェブスター*は，米・英両国の英語は分化すると予言したが，それは実現せず，事実はむしろ逆に両国の英語は接近しつつある。ゆえに，一般に英語という場合，それは特定の地域や階層の英語をさすのではなく，それぞれの英語を集積し，総合的に止揚した最大公約数的なものとしての〈共通英語〉を意味する。それぞれの英語はこの場合，互いに方言の関係に立つが，それと同時に，それぞれの地域では標準語*の役割を果たしている。

イギリスにおいては，ロンドンが政治・経済・文化の中心地であるから，ロンドンを含む南部地方の方言(ロンドン子のいわゆるコックニーは日本語の江戸っ子弁にあたるから問題外である)が標準語であり，教養のある階層や指導者層の言語としては，パブリックスクール出身者，オックスフォード大学・ケンブリッジ大学の卒業生の英語が標準となってきた。しかし，現在では標準はむしろ国営放送局(BBC)の英語にあるといえる。アメリカにおいては，東部や南部に対していわゆる西部の方言，特にシカゴを中心とする中西部のことばが標準語とされる。〈一般米語〉とよばれるものがこれである。アメリカではイギリスのような階級差はないから，一応は高等教育を受けた人々のことばといってよい。そのほか世界各地の英語もだいたいにおいて英・米の標準語を基準としている。

各地域の英語において最も顕著な差異があるのは発音の面で，文法面ではほとんど差がない。語彙(ごい)は地域によって特殊なものが多少あるけれども，これは相互の理解に大きな障害となるものではない。したがって，少なくとも書きことばにおいては，共通英語は十分成立している。話しことばにはやや地域的な差があるが，標準語のレベルでは相互に話が通じないというようなことはない。発音に関してしばしば問題にされる英・米の差は，音素の点では体系的に同一とみられるから，その間のずれ(hot：英〈hɔt〉，米〈hat〉，ask：英〈aːsk〉，米〈æsk〉，あるいはアメリカ音の〈r〉など)はだいたい規則的に説明できる。このような均質性によって共通英語は成立しているのであり，標準的な英語でさえあれば，どの地域のものでも世界的に通用する。

〔特性〕①音声：母音も子音もかなり種類が多いが，特に発音がむずかしいものは少なく，音節が子音連続をもつ閉音節を可能にしているので，同音異義語が避けられる。単語も文章も強勢を軸としているため，リズム感に富み，音調も躍動的で，力強い表現力をもつ。つづり字は一見不規則であるが，実際は従来悪名が高かったほどひどくはない。②文法：現代の英語は語尾変化がほとんどなくなって，その代わりに語順が確立し，前置詞などを用いる分析的な構文をもつ。数・格・時制・法などわずかに残った文法範疇(はんちゅう)もきわめて簡単で，形式よりも実質を重んじている。③語彙：本来の語のほかにロマンス語系の語が豊富にあり，他国語からの借用も自由に行なわれ，品詞の転用なども自在であるので，きめの細かい表現力をもつ。➔アメリカ英語

〔林　栄一〕

英語の文例

あるとき，北風と太陽が，どちらが強いか言い争っていました。　《イソップ物語》から

ザ	ノース	ウインド	アンド	ザ	サン
The	North	Wind	and	the	Sun
	北	風	と		太陽(が)

ワンス	フェル	インツー	ア	ディスピュート
once	fell	into	a	dispute
あるとき	陥った	に		論争

アズ	ツー	ウィッチ	ウォズ	ザ
as	to	which	was	the
について		どちらが	である(か)	

ストロンガー	オブ	ザ	ツー
stronger	of	the	two.
より強い方	のうちで		ふたり

えいこう【営口】インコウ　中国の遼寧(りょうねい)省南部，遼河河口の港市。人口20万(1960年推)。1858年の天津(てんしん)条約*で，上流40kmの牛荘が開港場と定められ，実際

の貿易はここで行なわれることとなった。のち大連の発達によって衰えたが，背後に南満州の平野を控え，遼河の水運とともに鉄道の利便にも恵まれているので，農産物の集貨が盛んで，ダイズ・豆油・豆かすなどの輸出が多い。

えいごうかいき　【永劫回帰】　ドイツの哲学者ニーチェ*の後期の根本思想の一。《ツァラトゥストラかく語りき*》の主題をなす。〈神の死〉によって世界は目的も意味もなく生成消滅するものとなる。世界に満ちているものは力であり，その発現の場としての時間ははじめも終わりもない。したがってありうべきものはすべてすでにあったものであり，刻々の世界はかつてあったあらゆるものの回帰として，瞬間のうちに永劫を含んでおり，世界のできごとは円環運動を行なって永遠にくり返すという。〔豊福英利〕

えいこうだん　【曳光弾】　弾尾に曳光剤を充塡(じゅうてん)しておき，発射後，弾道が見られるようにした弾丸。弾道を修正するためのもので，航空機銃の場合は3発に1発ぐらいの割合で曳光弾を混ぜることが多い。

えいこさくけん　【永小作権】　小作料を支払って，他人の土地で耕作または牧畜をする権利(民法270条)。わが国での土地の使用は，明治以来賃貸借によるものが多く，永小作によるものは少ない。そのうえ，わずかに存在していた永小作も第2次世界大戦後の農地改革*により，原則として国に買収され，永小作人に売り渡された。永小作権の存続期間を契約で定めるときは20年以上50年以下とし，50年より長い期間を定めたときは，50年に短縮される。契約で期間を定めなかった場合は慣習により，慣習のないときは30年とする(民法278条)。永小作権は特約のないかぎり，地主の許可なくその土地を他人に賃貸し，譲渡することの自由を含むが(民法272条)，土地に永久の損害を生ずるような変更を加えてはならない(民法271条)。小作料については，凶作などの場合でも減免の請求はできない。ただし，3年以上まったく収穫がなかったか，あるいは5年以上収穫高が小作料を下回る場合に，はじめて永小作権を放棄できるという苛酷(かこく)な規定を設けており(民法275条)，また小作人が2年以上小作料を滞納し，あるいは破産*の宣告を受ければ，地主は永小作権の消滅を請求しうる(民法276条)という規定を置くなど，民法上の規定は地主に一方的に有利である。しかし，農地法は小作料の金納制，小作料額の統制および凶作の年の小作料の減免についても適用される。なお，民法制定当時従前の小作権で永小作権とされたものについては，最長期間の50年めが1948年(昭和23)であり，農地改革などのためその後に更新されたものは少なく，現在ではその社会的・法律的意義は少ない。→小作権　〔黒木三郎〕



栄　西　寿福寺蔵



栄山寺　八角堂

えいさい　【栄西】　(1141～1215)　日本臨済宗の開祖。〈ようさい〉ともいう。備中(びっちゅう)(岡山県)吉備津(きびつ)の人。いみ名は明庵(みょうあん)，号は葉上房，通称は千光国師という。11歳で安養寺静心(じょうしん)のもとに出家し，14歳で剃髪(ていはつ)。19歳で比叡(ひえい)山に登って天台の教学を学び，さらに伯耆(ほうき)(鳥取県)大山(だいせん)の基好に密教を学んだが，天台教学の停滞を憂いて，1168年(仁安3)28歳で入宋(にっそう)し，天台山に学んだ。天台の章疏(しょうしょ)を請来して帰朝後，比叡山にとどまって葉上流の一派を開いた。さらに禅による教界の革新を志し，1187年(文治3)47歳で再び入宋し，さらにインドにはいろうとしたが果たせず，天台山万年寺の虚庵懐敞(きあんえしょう)について，臨済宗黄龍(おうりょう)派の法を受け，1191年(建久2)帰国した。博多(はかた)(福岡県)に日本最初の禅寺聖福寺を開いたが，たちまち天台宗徒の新宗停止の抗議上奏にあい，《出家大綱》《興禅護国論》を著わして，けっして新宗でないことを抗弁し，鎌倉に新天地を求めて東下した。将軍源頼家(よりいえ)に謁し，その信任を得て禅宗興隆を図り，寿福寺*を建立(こんりゅう)，さらに頼家によって1202年(建仁2)京都に建仁(けんにん)寺*が開かれると，その開山に迎えられた。

建仁寺は，朝廷より台密禅(天台・真言・禅)三宗兼修の宣を受け，比叡山の末寺として止観院・真言院を置いたから純粋な禅寺ではなかった。1213年(建保1)僧正に任ぜられ，1215年7月5日，鎌倉の寿福寺で75歳の生涯(しょうがい)を閉じた。著作には，前記2著のほかに《一代経論総釈》《喫茶養生記》などがある。特に《喫茶養生記》は，彼が中国で天台山から明(みん)州に行く途中，茶店ではじめて茶を喫してその効用を知り，帰国後喫茶の風習を広めるために，1211年(承元5)正月に著わしたもので，茶の採取・調法や治病の効能などがしるされている。また彼が持ち帰った茶の種は，高弁*が栂尾(とがのお)(京都市右京区)に植え，わが国に茶を発展させる基をなした。〔田中良昭〕

エーイーざい　【AE剤】　コンクリート中に，無数の微細な独立気泡(きほう)を含ませるために混入する表面活性剤。空気連行剤ともいう。表面活性作用による起泡性をもち，コンクリートに少量入れると直径0.025～0.3mmの独立気泡を生じ，これが一様に分布することにより，コンクリート中の空気量が容積で3～4%(普通のコンクリートでは1%ぐらい)となる。微細な気泡は，流動性を増し，施工しやすくなり，セメントペーストと骨材の分離防止に役だち，凍害・塩害にも強い。しかし，空気量の増大は強度を低くさせ，鉄筋との付着性をそこなうので，その使用は厳正でなければならない。ふつう，軽量骨材コンクリートや砕石コンクリートなどに混入される。〔難波蓮太郎〕

えいざんじ　【栄山寺】　奈良県五条市にある真言宗豊山(ぶざん)派の寺。719年(養老3)光明皇后の兄藤原武智麿*(むちまろ)の創建，一時は藤原家の氏寺として栄えた。八角堂(国宝)は藤原仲麻呂(なかまろ)の建立(こんりゅう)で，内部の天蓋(てんがい)，内陣の柱・貫(ぬき)などに彩色の装飾模様を残し，奈良時代の建造物として貴重である。また，鐘楼の梵鐘(ぼんしょう)(国宝)はもと山城(京都府)深草の道澄寺のもので917年(延喜17)の作，陽刻の銘文は小野道風*(みちかぜ)に擬せられ，その文体と筆跡は神護寺*の鐘と双璧(そうへき)をなすとされる。なお，1379～1383年(天授5・康暦1～弘和3・永徳3)に置かれた長慶天皇の栄山寺行宮(あんぐう)跡は史跡に指定されている。〔永井信一〕

えいざんすみれ　【叡山菫】　双子葉植物・スミレ科。山の木陰にはえる多年草。茎はなく，スミレにしては珍しい細く切れ込みのある葉をもつ。春，淡紅色の花を長い柄の先につける。

えいじさつ　【嬰児殺】　新生児*(生産児)を故意に殺害することをいい，殺人罪を構成するものである。母親が自分の生んだ子

どもを殺すことが最も多い。手段としては，扼殺(やくさつ)・絞殺・溺殺(できさつ)のほかに布・ぬれ紙・ふとん・衣類などによる鼻・口閉塞(へいそく)が比較的に多い。嬰児殺で問題になるのは，①成熟児であるかどうか(生活能力の有無)，②生産児か，死産児か，③分娩(ぶんべん)後の生存期間，④死因，である。一般に女性は月経時・妊娠時・分娩時には，心理状態が多少異常になることが多いので，まちがって罪を犯すことがある。これら同情すべき事情がある場合は刑罰の量を決定する際に顧慮されることもある。ヨーロッパではギリシア・ローマ時代，日本では江戸時代に，かなり多くあったとみられる。現在でも未開社会ではかなり広く行なわれており，宗教・風俗習慣・社会制度など，それぞれの社会の特殊性に応じてみられる。〔朝倉　了〕

えいしちょうせん【衛氏朝鮮】 朝鮮の古代王朝。中国の漢代初期に燕(えん)の亡命者衛満が箕氏(きし)朝鮮*を滅ぼして立てたもの。王険城(いまの平壌(へいじょう))を都とし，中国人が支配層を占める一種の中国植民地であった。満の孫右渠(うきょ)は漢の武帝の降服勧誘を退けたが，大軍に攻められてBC108年に滅亡。その後高句麗(こうくり)成立まで，朝鮮は漢の直接支配下に置かれた。

えいじはっぽう【永字八法】 中国における書法伝授の一種。〈永〉の字にはすべての漢字に共通する書法が含まれているとするもので，もと漢の蔡邕(さいよう)が嵩山(すうざん)石室の神人から授かり，崔瑗(さいえん)・張芝(ちょうし)から魏(ぎ)の鍾繇(しょうよう)，晋(しん)の衛夫人・王羲之(おうぎし)，隋(ずい)の智永(ちえい)，唐の虞世南(ぐせいなん)・張旭(ちょうきょく)・顔真卿(がんしんけい)に伝えられたという説があるが，疑わしい。唐の張懐瓘(ちょうかいかん)の《玉堂禁経》にみえるのが最も古い記録である。また，唐の林韞(りんうん)の《撥鐙序(はっとうじょ)》にも永字八法の名がみえ，唐代にはすでに行なわれていた書法伝授の方法の一つであることがわかる。八法とは側・勒(ろく)・努・趯(てき)・策・掠(りゃく)・啄(たく)・磔(たく)の八つの基礎点画の書法をいう。宋(そう)の陳思に《八法詳説》がある。〔中田勇次郎〕

えいしゃき【映写機】 フィルム上の影像を光によってスクリーンに映し出す機械。映画映写機のほか，スライド(幻燈)映写機・実物投影機など種類は多いが，ふつうは映画映写機のことをいう。映画フィルムの1こま1こまを$\frac{1}{16}$秒(無声映画の場合)，または$\frac{1}{24}$秒(トーキー映画の場合)の速度で光源の前を通過させると，目の残像*現象によって，1こまと次のこまの影像はスクリーン上で時間的に連続する一つの映像を形づくり，運動を生み出す。これが映写機の基本的な原理である。したがってたいていの映写機は，フィルムのリールと巻き取りリールを掛ける回転軸二つ，光源のランプ(またはカーボン-アーク燈)，その前でフィルムを一定速度で通過させる歯車，こまからこまに移る瞬間に光源をさえぎるシャッター，レンズなどを基本的な形として構成されている。フィルムの種類に応じて，映写機にも8ミリ・16ミリ・35ミリなどの種類がある。映写機のはじまりは，1893年にエジソン*が発明したキネトスコープだとされているが，より不完全なものではそれ以前にも類似の映写機が発明されているので定めにくい。むしろ現在の映写機の原型は，1895年フランスのリュミエール兄弟*によって発明された16こまの速度で進むシネマトグラフであるとするのが妥当だろう。映写機はその後部分的に改良され，電動式になり，トーキーの出現に及んで標準速度が16こまから24こまに変わった。また，音響を再生するためのヘッド(光学再生ヘッドまたは磁気再生ヘッド)が取り付けられた。現在では映像の動きを分解して映せる解析用映写機，高速度または微速度映写機があり，録音機能をはじめとするさまざまな諸機能を備えた高度な映写機が誕生している。映写機はしだいに単なるフィルムの再生の域を脱して，積極的な役割を果たそうとしている。立体映画*・シネラマでは2〜3台の映写機が使われるし，マルチ-プロジェクションでは，数十台の映写機が使われる。また一方では，小形の8ミリ映写機が簡便かつ安価なものとなって，一般家庭に普及している。〔波多野哲朗〕

えいしょう【詠唱】 ⇨アリア

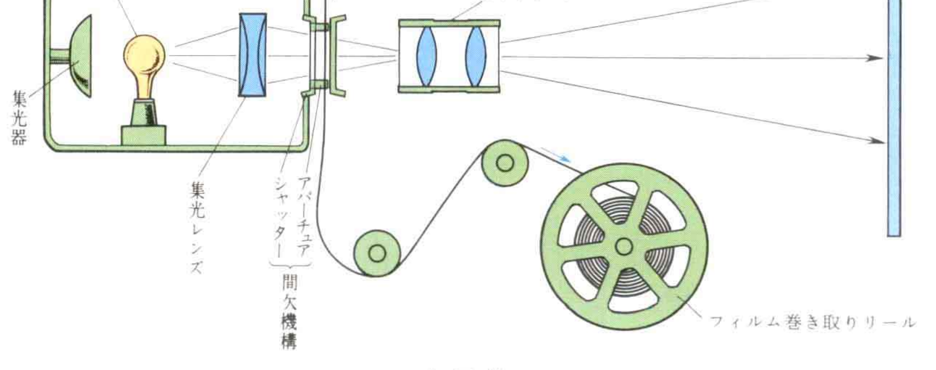
えいしょう【泳鐘】 腔腸(こうちょう)動物・ヒドロ虫綱・クダクラゲ目に属するカツオノエボシ・カツオノカンムリなどは群体をつくるが，その個虫の中でクラゲの形をもつものをいう。泳ぐベルのような形ということからこの名がついた。→クダクラゲ

えいせい【衛星】 惑星*のまわりを公転している天体。現在までに地球に1個，火星に2個，木星に12個，土星に11個，天王星に5個，海王星に2個，合計33個が発見されている。衛星の特徴は，①一般に離心率は小さく，軌道の形は円に近い。また軌道はほぼ母惑星の赤道面内にあるものが多い。離心率(e)が0.1より大きい衛星は11個で，月(e＝0.0549)を除く21個の離心率は0.03より小さい。離心率が0.1より大きい11個の衛星は母惑星から遠い軌道を公転し，軌道傾斜も大きい。このうち，木星の第6・7・10衛星，第8・9・11・12衛星の軌道半径



永字八法


エイザンスミレ



映写機

はだいたい等しく，軌道は互いに交わっている。②木星の外側にある4個の衛星，土星の第9衛星は逆行運動をしている。③天王星の4個の衛星の軌道は，黄道面に垂直である。④木星と土星の23個の衛星のうち，公転周期の比が簡単な有理数になっている組みが9組みある。たとえば，土星の第1衛星と第3衛星の公転周期の比は1/2，第6衛星と第7衛星の公転周期の比は3/4である。⑤木星の第1・2・3・4衛星，土星の第6衛星と海王星の第1衛星はだいたい月と同じ質量・体積をもっている。他の衛星は上記の7個の衛星よりはるかに小さくて，だいたい小惑星*と同じ半径である。

〔木下　宙〕



衛　　星　木星とその衛星

えいせい　【衛青】（？～BC106）中国，前漢の武帝のときの軍人。平陽侯曹寿（そうじゅ）の下女であった衛媼（えいおう）の子，武帝の皇后衛氏と同母弟。BC129年に車騎将軍に任命されてから，11年間に7度も匈奴（きょうど）討伐に従事し，甥（おい）の霍去病（かくきょへい）とともに，輝かしい軍功をあげた。

えいせいがいちゅう　【衛生害虫】人間に衛生上の害を与えるこん虫およびダニ類の総称。この害は，①病気を媒介すること，②吸血すること，③不快感などの精神的な害を与えること，に分けられるが，質的にみれば，病気を媒介する害が最も大きい。しかし，わが国では，こん虫媒介疾病（しっぺい）は，日本脳炎*やフィラリア症*など数種に限られる。害を量的な面も加味して考えた場合，②・③の害も無視しえない。現在，わが国の重要な衛生害虫としては，ハエ・カ・ゴキブリ・ノミ・ナンキンムシ・アブ・ブユ・ヌカカ・イエダニ・ツツガムシ・コナダニ・ドクガなどがある。〔鈴木　猛〕

衛　星　一　覧　表

母感星	番号	衛星名	発見者	発見年	軌道の半長径	公転周期	直径	質量	公転方向
地球		月	——	——	60.3	27.32日	km 3 476	1.23×10^{-2}	順行
火星	1	フォボス	ホール	1877	2.76	0.3189	12	——	順行
	2	ディモス	〃	〃	6.92	1.2624	6	——	〃
木星	1	イオ	ガリレイ	1610	5.91	1.7691	3 340	3.8×10^{-5}	順行
	2	ユーロペ	〃	〃	9.40	3.5512	2 920	2.5×10^{-5}	〃
	3	ガニメド	〃	〃	14.99	7.1545	5 100	8.1×10^{-5}	〃
	4	カリスト	〃	〃	26.36	16.6890	4 720	5.0×10^{-5}	〃
	5	——	バーナード	1892	2.53	0.4982	140	——	〃
	6	——	ペリネ	1904	160.46	250.57	100	——	〃
	7	——	〃	1905	164.46	259.65	20	——	〃
	8	——	メロット	1908	329.3	738.9	20	——	逆行
	9	——	ニコルソン	1914	330.4	758	16	——	〃
	10	——	〃	1938	162.02	253	14	——	順行
	11	——	〃	〃	316.0	692	16	——	逆行
	12	——	〃	1951	297.6	631	12	——	〃
土星	1	ミマス	ハーシェル	1789	3.07	0.9424	600	6.66×10^{-8}	順行
	2	エンセラダス	〃	〃	3.94	1.3702	600	1.48×10^{-7}	〃
	3	テチス	カッシニ	1684	4.88	1.8878	1 000	1.10×10^{-6}	〃
	4	ディオネ	〃	〃	6.24	2.7369	1 000	2.04×10^{-6}	〃
	5	レア	〃	1672	8.72	4.5175	1 400	4×10^{-6}	〃
	6	チタン	ホイヘンス	1655	20.22	15.9454	4 880	2.41×10^{-4}	〃
	7	ハイペリオン	ボンド	1848	24.49	21.2766	400	$<8\times10^{-8}$	〃
	8	ヤペタス	カッシニ	1671	58.91	79.3301	1 000	3.9×10^{-6}	〃
	9	フェーベ	ピカリング	1898	214.4	550.41	200	——	逆行
	10	テミス	〃	1904	24.17	20.85	——	——	順行
	11	ジャヌス	ドルフュス	1967	2.65	0.7490	——	——	〃
	(環)	——	ホイヘンス	1655	——	——	——	$<1\times10^{-4}$	〃
天王星	1	アリエル	ラッセル	1851	7.71	2.5204	600	1×10^{-5}	逆行
	2	ウムブリエル	〃	〃	10.75	4.1442	400	6×10^{-6}	〃
	3	チタニア	ハーシェル	1787	17.63	8.7059	1 000	5×10^{-5}	〃
	4	オベロン	〃	〃	23.58	13.4632	800	3×10^{-5}	〃
	5	ミランダ	カイパー	1948	5.23	1.414	200	1×10^{-6}	——
海王星	1	トリトン	ラッセル	1846	13.33	5.8768	4 000	1.3×10^{-3}	逆行
	2	ネレイド	カイパー	1949	210.1	359.9	200	3×10^{-7}	順行

注）軌道の半径および質量は，母感星の赤道半径および質量を単位としてはかったもの

えいせいがく　【衛生学】公衆衛生学とともに予防医学を研究する科学。医学の父とよばれるヒポクラテス*がすでに空気・水・場所について論文を残しているが，その後の人間社会の発展の歴史において，人の生活環境が健康に重要な意味をもつことが明らかとなり，その対策が今日の衛生学の基礎となった。しかし，科学的基礎に基づいて近代衛生学をはじめたのはペッテンコーヘル*である。衛生学は公衆衛生学と目的を一つにしているが，実験に基づいて人間と環境の関連を明らかにし，これに基づき環境を改善し，疾病（しっぺい）を防ぎ，健康を保持増進させる科学である。わが国では1890年(明治23)東京大学医学部にはじめて衛生学講座が開設された。➔公衆衛生

〔金子義徳〕

えいせいかんしいん　【衛生監視員】地方公務員，多くは保健所の職員。環境衛生監視員と食品衛生監視員とがある。環境衛生監視員の多くは衛生工学*の教育を受けている者で，ネズミ・衛生害虫などの駆除，清掃および汚物処理，上・下水道および飲料水などの指導・監視や，理容所・旅館・公衆浴場・興行場などの公共の場所の衛生状態の向上・保持について指導・監督する。全国で4,142人(1970年度)。食品衛生監視員は薬剤師・獣医師の資格のある者が大多数を占めており，業務の内容は食品衛生に関する検査・監視指導・営業規制と分けることができ，その対象には食品の内容のみならず，製造施設・販売施設・容器・食品添加物なども含まれる。全国で4,767人(専任1,122人，兼任3,645人，1970年度)。

〔金子義徳〕

えいせいかんりしゃ　【衛生管理者】事業場の衛生を管理する者。法令の定める事業場の使用者は，その選任を義務づけられている。その数は，常時使用する労働者数によって異なる。医師である衛生管理者は，少なくとも毎月1回，医師でない衛生管理者は，少なくとも毎週1回作業場などを巡視し，設備・作業方法または衛生状態で，衛生上有害のおそれある場合には，応急処置または適当な予防の処置をしなければならない(労働安全衛生規則18条)。

〔木元美代子〕

えいせいきしょうがく　【衛生気象学】気象を人との関連において研究する学問。主として気象の変化に伴う疾病（しっぺい）の問題(➔気象病)，地域的に特殊な気象をもつために起こる疾病(➔風土病)，その他生理的な機能の上に気象変化がどんな変化をも

たらすかなどの問題を扱い，予防・対策を立てる。

えいせいけんさ　【衛生検査】　衛生行政に必要な試験検査。すなわち，疾病(しっぺい)の診断に役だて，その流行を防ぎ，ならびに食品・水・医薬品・毒物・劇物・衛生用具・化粧品などによる危害の発生を予防する目的で行なう微生物学・寄生虫学・病理学・化学上の検査である。実施の場所としては国立予防衛生研究所・国立衛生試験所・地方衛生研究所・保健所検査室があり，一般病院の検査室でも行なわれることがある。

えいせいこうがく　【衛生工学】　衛生に関する工学。具体的には上水道・下水道・水質・汚物処理・工場廃水・塵芥(じんかい)処理・衛生動物対策などの公衆衛生上の問題を扱うもので，近年公害として問題となっている大気汚染もたいせつな研究対象である。北海道大学・京都大学では衛生工学科が，東京大学には都市工学科があり，これらの技術者になる教育を行なっている。

えいせいこく　【衛星国】　一つの強国の周辺にあって，その国とほぼ同一の政治体制をとり，国際社会においてその強国と一致した行動をとって同一陣営を構成する小国家群をいう。多くの場合，反対陣営の立場から蔑視(べっし)的に衛星国といっている。法的には完全な主権国家であるが，政治的には従属的立場にあるため，その独立性の有無について疑問が提出される。西側諸国は，東欧諸国をソ連の衛星国といい，また，東側諸国が，日本・フィリピンなどをアメリカの植民地*・半植民地などというのは，両体制の立場の相違を示すものである。　〔広部和也〕

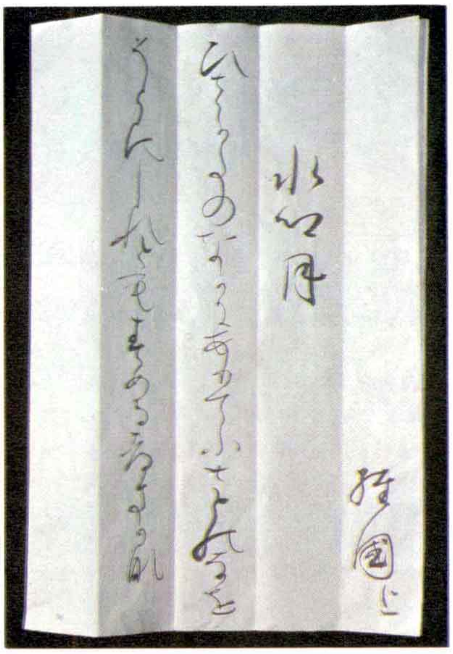
えいせいし　【衛生紙】　トイレットペーパー・紙タオル・化粧紙(顔ふき紙)・ナプキン紙・紙綿(生理用紙綿)などの総称。用途に適した柔軟性と吸水性をもつことが重要で，また紙タオルには湿潤に対する強さが，紙綿には水中分散性が要求される。化粧紙や紙綿などは晒(さらし)化学パルプのみでつくるが，トイレットペーパー・紙タオルは化学パルプ*に砕木パルプ*などを混合してつくり，また高級なナプキン紙はマニラ麻を原料とする。製品はクレープ加工を施したものが多い。　〔角祐一郎〕

えいせいしけんじょ　【衛生試験所】　国立衛生試験所は医薬品・化粧品・医療用具・食品・毒物・劇物の試験検査，薬用植物の栽培・指導・研究，医薬品の試験製造や標準品の製造などを目的として1874年(明治7)に設立された厚生省付属機関で，東京都世田谷(せたがや)区にあり，大阪に支所をもっている。なお，各都道府県には衛生研究所があり，さらに保健所には試験検査室があって，それぞれの段階で上記の衛生関係の試験検査を受け持っている。〔金子義徳〕

えいせいせん　【衛星船】　人間の乗る人工衛星。ソ連は1960年，ロボット人形を乗



エイゼンシュテイン　自画像　日本語と日本文化への深い関心を示すもの　1920



詠　草　竪詠草の例

せた人工衛星をはじめて衛星船を意味するコラブリ-スプートニクの名でよんだ。➔宇宙船

えいせいちゅうりつこく　【永世中立国】　国際法(条約)上，永久に他の諸国家間の戦争に関係しない義務を負い，同時に，その独立の維持，領土の保全について，諸国家により保障されている国家。永世中立国は，同盟条約を結んだり，他国に軍事基地*を貸すなど，戦争に巻き込まれるようなことをしてはならない。他国に対する攻撃などは許されないが，自衛のための武力行使は許される。戦略上の重要な地位にある弱国の安全保障の一方式として，勢力均衡する大国間の緩衝国的な意味において，大国との条約により成立する。現在承認されている国は，スイス・オーストリア・ラオスである。➔中立　〔広部和也〕

えいせいつうしんきょうてい　【衛星通信協定】　⇨通信衛星協定

えいせいとうき　【衛生陶器】　⇨陶磁器

えいせいとうけい　【衛生統計】　健康と疾病(しっぺい)に関係のある事がらについて記録し，これに統計的な処理を行なうこと。特に集団として一国あるいは一地方を対象とし，その衛生状態を把握(はあく)し，衛生の向上に数字的な裏づけをする。一時点における状態を知る静態統計と，ある期間の動きを知る動態統計がある。国で行なっている衛生統計は，人口静態統計としては国勢調査，人口動態統計としては出生・死亡・死産・婚姻・離婚統計がある。　〔金子義徳〕

えいせいどうぶつがく　【衛生動物学】　人体に衛生上の害を及ぼす動物を取り扱う学問。対象の動物は，こん虫やダニをはじめ，哺乳(ほにゅう)類のネズミや，寄生虫の中間宿主となる貝類などを含む。しかし，寄生蠕虫(ぜんちゅう)は寄生虫学に含め，この対象としては扱わないのが普通である。類似のことばに，医動物学・人体病害動物学がある。わが国では，第2次世界大戦後急速に充実し，日本衛生動物学会(日本医学会第37分科会)が，この分野の学問の普及発達の中心的存在である。　〔鈴木　猛〕

えいせいとし　【衛星都市】　⇨田園都市

えいせいばくだん　【衛星爆弾】　⇨軌道爆弾

エイゼンシュテイン　［Sergei Eizenshtein］(1898～1948)　ソビエトの映画監督・映画理論家。はじめメイエルホリド*の舞台美術の助手として出発し，のち演出家となったが，1923年映画を学びはじめ，1925年《ストライキ》で映画監督としてデビューした。《戦艦ポチョムキン*》で世界的名声を獲得し，《十月》《全線》などの記念碑的作品を残した。また，モンタージュ*という映画技法を一つの表現思想にまで高め，いわゆる〈モンタージュ理論〉としてのちの映画作家に大きな影響を与えた。その後スターリンに冷遇されて不運な作家生活を送るが，《メキシコ万歳》や晩年の《イワン雷帝》など，一作ごとに新しい表現世界を開拓した。著書に《映画の感覚》《映画の形式》などがある。　〔波多野哲朗〕

えいそう　【詠草】　詠藻とも書く。詠歌の草稿。①一般に和歌の下書きをいうが，特定の題や詞書(ことばがき)のない歌につけるばく然とした題名をもいう。②詠歌の草稿の形式。竪詠草(たてえいそう)・横詠草がある。竪詠草は公式のもので，奉書・杉原(すぎわら)紙・美濃(みの)紙を縦に二つに折り，さらに五つに折って，前半の第1行に名，その下に小さく〈上〉と書き，第2行に題名，第3～4行に和歌1首を初句～3句，4～5句の2行に分けて書く。第5行および後半はあけておく。なお，詠進の際には後半の第2～3行に住所・氏名を書く。横詠草は一般の歌会や添削を請うときのもので，美濃紙・半紙を横に二つに折り，さらに縦に四つに折って，第1折りの右下に名を，左上に題名を書く。第2折りに和歌1首を初句～2句，3～4句，5句の3行に分けて書く。2首以上を書く場合は，同じ書き方をくり返す。③綴詠草(つづりえいそう)ともいい，

個人の年々の詠歌をつづり合わせたもの。家集にあたる。➔歌会　〔春名好重〕

えいそう【営倉】旧日本陸軍の兵に対する懲罰の罪名，またその受罰者を入れる施設をいう。懲罰とは軍人・軍属の規律違反に対する軍事上の制裁で，行政処分であって，国家の司法権によるものではない。陸軍懲罰令による兵の罰目は，降等・重営倉(故意による犯行)・軽営倉(過失による犯行)に分けられる。営倉の拘禁日数は1～30日で，重営倉は軽営倉より待遇が悪い。営倉は通常兵営内の衛兵所わきに設けられていた。〔森田　哲〕

えいぞん【叡尊】(1201～1290) 鎌倉時代の律宗の僧。西大*寺中興の祖。字(あざな)は思円。諡号(しごう)は興正菩薩(ぼさつ)。大和(やまと)(奈良県)の人。はじめ密教学を学んだが，戒律の復興を念願し，奈良西大寺にはいって自誓自戒し，研学に努めた結果，朝野の信望を得て，多くの帰依を得た。1261年(弘長1)北条時頼(ほうじょうときより)に招かれて鎌倉に下り菩薩戒を授けたが，すぐ上洛(じょうらく)し，後深草上皇・亀山(かめやま)天皇はじめ多くの人々に授戒。1代のうち菩薩戒を授けた者97,710人，講席を開くこと10,721座，行法を修した回数は41,208座，殺生禁断地区の設定1,356所，寺の新建100余所，修道590余所，西大寺に寄付して末寺と称するもの1,500余所に上り，西大寺・家原寺・浄住寺・海龍王(かいりゅうおう)寺・法華(ほっけ)寺には新たに戒壇を設けたという。著書には《梵網古迹文集(ぼんもうこしゃくもんじゅう)》《菩薩戒本宗要補行文集》《勧発菩提心集流雑記(かんぼつぼだいしんしゅうりゅうようき)》《授菩薩七衆戒作法》のほか，密教関係の撰述(せんじゅつ)も多く，自叙伝《感身学正記(かんじんがくしょうき)》，旅行記《関東往還記》は有名。弟子(でし)を指導し《菩薩戒本宗要》《勧発菩提心集》を西大寺で開版している。叡尊が真に目的としたのは下層民を戒律によって救済することであり，受戒者の中には非人・こじきも含まれている。また殺生禁断の地区を定めたのをはじめ，多くの架橋を行なった。こうして大いに社会事業を行なった業績は高く評価されている。叡尊の門下には，忍*性ら30余人が数えられる。〔下山成元〕

えいたいうり【永代売】年期を限らず物品などの所有権・占有権・用益権などを永久に売り渡すこと。特に江戸時代の田畑などの売買における年季*売に対する形式をいう。しかし江戸時代には原則として1643年(寛永20)に出された田畑永代売買禁止令などで田畑の永代売は禁止されていた。➔田畑永代売買解禁

えいだか【永高】永盛・永別ともいう。永楽*銭の価値を基準に算定した年貢(ねんぐ)収納高で，土地の広狭を表わしたもの。鎌倉末期から領主の年貢収納高を銭で納める貫*高が行なわれたが，室町時代に明(みん)から永楽銭が輸入されて流通するようになると，貫高は永楽銭の価値ではかられるようになった。



永平寺　1844年改築の勅使門

エイチ-アールず【H-R図】⇨ヘルツシュプルング-ラッセル図

えいていが【永定河】ヨンチン川　中国北部の大河。山西省北部から発して太行山脈を横切り，河北省にはいって天津(てんしん)市の付近で白河に流入する。全長約700km，上流は桑乾河といい，北京(ペキン)付近では盧溝河(ろこうが)ともよぶ。もとは，氾濫(はんらん)が激しく河道が一定しなかったので無定河といわれたが，清(しん)代に治水工事が行なわれ永定河と改名された。中華人民共和国成立後は上流に官庁ダムがつくられ，洪水(こうずい)防止と水力利用とに画期的な成功を収めている。〔日比野丈夫〕

えいてん【栄典】国家が特定人の名誉を表彰するために付与する法的・特質的地位をいう。旧憲法下にあっては，爵*位・位*階・勲*章・褒*章(ほうしょう)があり，その授与は天皇の大権事項とされていた。現行憲法では爵位・金鵄(きんし)勲章は廃止され，位階その他の授与も停止された。その後，文化勲*章だけが授与されていたが，1963年(昭和38)7月の閣議決定で生存者叙勲が復活した。叙位は故人に限られている。現在認められている栄典制度の大綱は次のとおり。

①栄誉：国家・地方公共団体などに認められた名誉ある表彰をいう。名誉市民の称号，憲政功労者の表彰，公の機関の与える顕功章・功労章などである。②勲章：勲績または功労のある者に褒章として与えられる賞牌(しょうはい)をいう。現在，勲章には，いわゆる普通勲章と特別勲章の2種類がある。前者は大勲位および勲一等から勲八等までの等級に分けられている。後者は文化勲章がこれにあたり，等級はない。③褒章：これは人命を救助した者，発明・改良・創作に関し事績著名な者，その他褒章条例(1881年(明治14)太政官(だじょうかん)布告63号)に掲げる事由に該当する者に授与される記章である。これらの栄典のうち憲法7条7号の対象になるのは②であり，内閣の助言と承認により天皇が授与することになっている。栄典の授与は，それを受ける者の一代限りその効力をもち，いかなる特権をも伴わないとされている(憲法14条3項)。このような規定が設けられた趣旨は，栄典の授与によって一般国民とは異なった特権が生ずるのを防ぐためである。〔吉田善明〕

えいにんのとくせいれい【永仁の徳政令】1297年(永仁5)鎌倉幕府から出された徳政*令。御家人が売却または入質した土地は，無償でもとの持ち主に返却すべきことをおもな内容とし，それに関する訴訟をいっさい受理しないことを規定している。御家*人の所領の喪失を防止し，その窮乏を助けることが目的であったが，経済界に恐慌を起こして失敗し，翌年廃止された。はじめての徳政令。

えいふくじ【叡福寺】大阪府南河内(みなみかわち)郡太子町にある。もとは真言宗であったが現在は単立宗教法人。科長山(しながさん)聖霊院と号し，磯長(しなが)寺・上太子(かみのたいし)・石川寺・御廟(ごびょう)寺などともいう。聖徳(しょうとく)太子の廟所に聖武天皇が建立(こんりゅう)したのに始まり，平安・鎌倉時代を通じて栄えたが，1574年(天正2)兵火により焼失，1603年(慶長8)豊臣(とよとみ)家によって再興された。愛染堂付近から出土した高屋連枚人(たかやのむらじひらひと)墓誌と文殊渡海図は重要文化財に指定されている。〔永井信一〕

えいふくもんいん【永福門院】(1271～1342) 伏見天皇の中宮。名は鏱子(しょうし)。父は太政(だじょう)大臣西園寺実兼(さいおんじさねかね)。母は源顕子。1288年(正応1)女御(にょうご)，同年中宮となり，1298年(永仁6)院号宣下を受ける。和歌にひいで《玉葉和歌*集》の代表的歌人のひとり。

えいふつきょうしょう【英仏協商】⇨イギリス-フランス協商

えいぶんがく【英文学】⇨イギリス文学

えいへいじ【永平寺】福井県吉田(よしだ)郡永平寺町にある。開山は道元禅師で，曹洞宗(そうとうしゅう)の大本山。越前(えちぜん)の領主波多野義重(よししげ)が所領にあった古刹(こさつ)を改修して道*元を迎え，はじめは傘松峯(さんしょうほう)大仏寺と称し，1246年(寛元4)吉祥山永平寺と改めた。1372年(文中1・応安5)朝廷(北朝)から日本曹洞第一道場の勅額を受けたが，1473年(文明5)兵火のために諸堂を失い，数年にして再興，江戸時代には総持*寺と並んで栄えた。法堂(はっとう)・仏殿・中雀門(ちゅうじゃくもん)・山門が一直線に並び，仏殿の覚皇宝殿には釈迦(しゃか)・弥陀(みだ)・薬師の三尊が祭ってある。僧堂は座禅・修行の場で雲堂・禅堂または選仏場と

称している。なお，建物の大部分は近代の造立で，寺宝には道元自筆の《普勧坐禅儀(ざぜんぎ)》(国宝)など多数がある。

〔永井信一〕

エイヤー [Alfred Jules Ayer] (1910～) イギリスの哲学者。ロンドン大学・オックスフォード大学教授。イギリスの伝統的な経験論の哲学が，ウィーン学団の思想と結びつくとして，同学団の論理実証主義*の哲学を紹介・発展させた。彼は経験的に検証しうるものにのみ意味を認めるという実証主義の立場から形而上(けいじじょう)学を否定した。また倫理学の命題を単なる感情の表現とする情緒(じょうちょ)主義の立場をとった。主著は《言語・真理・論理》。

〔寺中平治〕

えいゆうこうきょうきょく 【英雄交響曲】 ベートーベン*の交響曲第3番変ホ長調。作品番号55。《運命交響曲*》とは異なり，ベートーベン自身が名づけたものである。はじめ《ボナパルト》として時代の英雄ナポレオンに献呈すべく構想されたが，彼が皇帝になったと聞いて《英雄》になおしたというエピソードが伝えられている。1804年に完成され，第2楽章に葬送行進曲をもつ4楽章からなっている。

えいゆうでん 【英雄伝】 1世紀ごろのギリシア人プルタルコス*の作で，正しくは《対比列伝》という。アレクサンドロスとカエサル，デモステネスとキケロというように，ギリシア人とローマ人から互いに似たところのある著名人物をひとりずつ対比した23組みの伝記と，独立の伝記14編からなる。しかし現存しているのは22組みと4編の伝記のみである。作者は読者を楽しませながらも，政治家の道徳性とはなにかを例をあげて説くために，この伝記を書いた。したがって史実を検討して確かめたりせず，孫引きやうわさなどもふんだんに用いたが，この伝記によってばくだいな資料が後世に伝わった。

〔久保正彰〕

えいゆうのしょうがい 【英雄の生涯】 リヒアルト-シュトラウス*の作曲した交響詩。1898年の作で，彼の交響詩の系列の8番めにあたる。音でつづった作曲者の自叙伝ともみられる。①英雄，②英雄の敵，③英雄の伴侶(はんりょ)，④英雄の戦い，⑤英雄の平和な仕事，⑥英雄の隠遁(いんとん)と完成の六つの部分からなっているが，全体は続けて演奏される。オーケストレーションのみごとさと構想の大きさから，彼の代表作とされている。

〔向坂正久〕

えいよう 【栄養】 生物が適当な物質を外から体内に取り入れて，生体の諸活動を行ない，生命を維持していくことをいい，それに必要な物質を栄養素とよぶ。栄養には独立栄養(自家栄養)と従属栄養(他家栄養)の二つの型があり，各生物はこのうちのいずれかの型の栄養を営む。独立栄養の場合には，外界から摂取された無機物から有機物が合成されるが，その際，光合成*を行なう植物では光のエネルギーが利用され，化学合成細菌では化学作用によるエネルギーが使われている。一方，動物や大部分の微生物(ウイルスを含めて)は従属栄養を営むが，これらの生物は無機物から有機物を合成する能力をもたないので，必要とする有機物は独立栄養を営む生物から供給されている。

〔人体の栄養〕 人間の栄養に必要な物質は炭水化物*・脂肪*・タンパク質*・ビタミン*・無機質*で，これらを五大栄養素という(はじめの3種を特に三大栄養素ということもある)。また，水を栄養素とよぶこともあるが，呼吸に必要な酸素は栄養素には入れない。栄養素のおもな作用は次の三つがあげられる。①エネルギー源：炭水化物・脂肪，ときにはタンパク質。②構成源：タンパク質・無機質。③体の調節：ビタミン・無機質。

人体の成分のうち，水分は65％でほぼ3分の2を占め，次いでタンパク質16％，脂肪14％，無機質およびその他5％となる(日本人の成人の平均値)。しかし個人差が大きく，肥えると脂肪分が増加し，また幼いほど水分が多い。

体を構成するタンパク質は食物からのタンパク質を素材として合成されるが，それはそのまま体内にとどまるのではなく，やがて分解される。体タンパク質は毎日少量ずつ分解され，その分だけ食物として取り入れたタンパク質から合成されている。これは体タンパク質にかぎらず，他のすべての体成分も一方では新生され他方では分解されるという，絶えざる新旧交代が行なわれている。したがって，体成分の分解された分を補充するため，毎日，必要量だけの栄養素を食物からとらねばならない。もちろん成長期の場合は，さらに体成分の増加分に見合った量も必要である。必要量に不足するような食事を続けていると，やがて栄養失調症*などになる。

炭水化物や脂肪は消化吸収されたのち，体内で酸化分解され，最後には二酸化炭素と水とになって排出される。酸化分解される際に得られたエネルギーは，いったんATP*に移される。ATPが分解してADP*となるときに遊離するエネルギーによって生体活動が営まれている。体内で酸化される際，炭水化物1gから4Cal，脂肪1gから9Cal，タンパク質が熱源として利用されるときは1gから4Cal得られる。1日に必要なカロリー数は，性別・年齢・体重，作業の軽重，気候・温度などによって左右されるが，体重60～70kgの成人では約2,500Calとされている。

タンパク質は食品の種類によってその栄養価が異なり，一般には動物性タンパク質のほうが植物性タンパク質よりもすぐれている。栄養価の高いタンパク質ほどむだなく体タンパク質に転換されやすい。タンパク質を過剰に摂取してもその一定量しか体タンパク質にならないので，余分な量は他の成分へ転換されてしまう。したがって毎日摂取する必要があり，できるだけいろいろな食品からさまざまなタンパク質がとれるような献立が望まれる。

〔わが国の栄養摂取の現状〕 栄養摂取量の推移にみるように，戦後における栄養水準の向上は著しく，今日ではほぼ良好なレベルに到達したとみられている。動物性食品と植物性食品がバランス良く摂取されるようになり，動物性タンパク質比率や動物性脂肪比率は約50％のレベルを維持している。若い世代に多い肉食化の傾向が一層高まるようになると，栄養摂取のバランスが崩れ，動物性タンパク質，脂肪の過剰摂取となる。その結果，肉食型の欧米諸国のように，心疾患等の成人病増加の恐れが生じてくる。従って，肉食化の抑制策や米食の見直しが大きな課題となってきた。減塩(1日，10g以下)も大きな課題の一つ。

〔米川五郎〕

えいようか 【栄養価】 食品の栄養*的価値をいうが，同じパターンの食生活をしている人々の食事において，特に気をつけて摂取しなければならない栄養素をどれほど供給できるかで，食品の栄養価は決められる。たとえば，米食中心の日本人の食事では，タンパク質・カルシウム・ビタミン類の摂取不足に陥りやすく，肉類や牛乳などの動物性食品はそれらのよい供給源になるため，栄養価が高いといわれる。しかし同一の食品でも，どの栄養素の補給源

栄養摂取量の推移(国民1人1日あたり)

		1955	1965	1970	1975	1979
エネルギー	kcal	2,104	2,184	2,210	2,188	2,113
タンパク質総量	g	69.7	71.3	77.6	80.0	78.4
動物性タンパク質	g	22.3	28.5	34.2	38.9	39.4
脂質	g	20.3	36.0	46.5	52.0	54.8
炭水化物	g	411	384	368	337	315
カルシウム	mg	338	465	536	550	548
ビタミンA	I.U.	1,084	1,324	1,536	1,602	1,628
〃 B_1	mg	1.16	0.97	1.13	1.11	1.18
〃 B_2	mg	0.67	0.83	1.00	0.96	1.03
〃 C	mg	76	78	96	117	115

(厚生省国民栄養調査による)

になりうるかで栄養価は違ってくるし，食品によってそれを補給源とする栄養素の種類が異なる。そこで食品をすべてエネルギー源と考え，食品のもつカロリー価を栄養価とみなす以外，食品相互の栄養価を比較することは不可能である。しかし多くのパターンの食事において，タンパク質・ビタミン類の摂取に気をつけねばならない共通性がみられるので，一般にこれらを多く含む食品ほど高い栄養価をもつといえる。

また一方，食品中の栄養素の栄養価は，消化率，体内での利用率を考慮して決められる。タンパク質以外の栄養素は，それぞれがどんな食品に含まれたものであっても，消化吸収後，体内でのはたらきに大きな差異はないため，主として消化率が栄養価を左右している。これに反し，各食品のタンパク質はすべて体内利用率が異なる。これはタンパク質を構成するアミノ酸（特に必須（ひっす）アミノ酸*）の組成によって血や肉をつくるはたらきに差があるためである。一般に食品タンパク質の必須アミノ酸組成が人体タンパク質のそれや，人間の必須アミノ酸要求量比に近い組成のタンパク質ほど利用されやすい。このようなタンパク質の質的評価をタンパク価，また実際に生物にタンパク質を与えて得た体内での利用率を生物価といい，これらの値と消化率とを合わせ考えて，タンパク質の栄養価を知ることができる。一般に，動物食品のタンパク質は栄養価が高く，中でも卵や牛肉のそれは最も高い。〔江川元偉〕

えいようきかん　**【栄養器官】**　植物の器官で有性生殖に直接関係する生殖器官以外の器官をいう。葉肉のように光合成によって栄養をつくるものはもちろんであるが，栄養の貯蔵・移動などに関係する茎・根なども栄養器官といい，これを構成する組織が栄養組織である。

えいようざい　**【栄養剤】**　病気などによって正常な食事がとれなくなったとき，チューブを口または鼻から十二指腸まで入れたり，静脈から点滴したり，皮下注射をするなどして，栄養補給を行なう薬をいう。アミノ酸・ブドウ糖・ビタミン類・電解質

日本人の栄養所要量

普通の労作における栄養所要量及び妊婦・授乳婦別付加量

年齢（歳）	身長推計基準値(cm) 男	身長推計基準値(cm) 女	体重推計基準値(kg) 男	体重推計基準値(kg) 女	エネルギー(kcal) 男	エネルギー(kcal) 女	たん白質(g) 男	たん白質(g) 女	脂肪エネルギー比(%)	カルシウム(g) 男	カルシウム(g) 女	鉄(mg) 男	鉄(mg) 女	ビタミンA(IU) 男	ビタミンA(IU) 女	ビタミンB_1(mg) 男	ビタミンB_1(mg) 女
0 0～(月)					120/kg		3.3g/kg		45	0.4		6		1,300		0.2	
0 2～(月)					110/kg		2.5g/kg		45	0.4		6		1,300		0.3	
0 6～(月)					100/kg		3.0g/kg		30～40	0.4		6		1,000		0.4	
1～	81.8	80.3	11.25	10.77	970	930	30	30				7	7			0.4	0.4
2～	91.3	89.9	13.51	13.09	1,240	1,200	40	35								0.5	0.5
3～	98.5	97.1	15.30	14.77	1,400	1,350	40	40		0.4	0.4			1,000	1,000	0.6	0.5
4～	104.7	103.4	16.98	16.45	1,500	1,400	45	45				8	8			0.6	0.6
5～	110.6	109.4	18.84	18.23	1,600	1,500	50	50								0.6	0.6
6～	116.3	115.3	20.96	20.30	1,700	1,600	55	50								0.7	0.6
7～	121.9	121.1	23.39	22.78	1,800	1,600	60	55			0.5	9	9	1,200	1,200	0.7	0.6
8～	127.5	126.8	26.12	25.60	1,850	1,700	65	60		0.5						0.7	0.7
9～	132.7	132.7	29.11	28.85	1,900	1,800	65	65			0.6					0.8	0.7
10～	138.0	139.1	32.40	32.84	2,000	1,900	70	70	25～30	0.6		10	10			0.8	0.8
11～	143.9	145.5	36.38	37.53	2,100	2,100	75	75		0.7				1,500	1,500	0.8	0.8
12～	150.8	150.9	41.29	42.41	2,300	2,200	80	80		0.8	0.7					0.9	0.9
13～	158.1	154.6	46.97	46.68	2,400	2,300	85	80		0.9						1.0	0.9
14～	164.2	156.6	52.50	49.81	2,600	2,300	85	75								1.0	0.9
15～	168.1	157.5	56.78	51.78	2,650	2,200	85	70		0.8		12	12			1.1	0.9
16～	170.0	157.7	59.41	52.75	2,700	2,200	85	70								1.1	0.9
17～	170.9	157.8	60.86	53.00	2,700	2,100	80	70						2,000	1,800	1.1	0.8
18～	171.3	157.8	61.41	52.59	2,650	2,100	80	65		0.7						1.1	0.8
19～	171.6	157.7	61.39	52.02	2,600	2,050	75	65								1.0	0.8
20～	170.0	156.6	62.01	51.33	2,500	2,000	70	60								1.0	0.8
30～	166.6	154.5	62.74	53.02	2,400	1,950	70	60			0.6					1.0	0.8
40～	164.0	152.5	60.80	53.70	2,300	1,900	70	60					12（閉経期は10）			0.9	0.8
50～	161.7	150.3	58.58	52.62	2,200	1,800	70	60	20～25	0.6		10		2,000	1,800	0.9	0.7
60～	159.4	147.5	56.15	50.11	2,000	1,700	70	60								0.8	0.7
70～	157.0	144.1	53.04	46.61	1,800	1,500	65	55					10			0.7	0.6
80～	154.7	140.5	50.46	43.37	1,600	1,400	65	55								0.6	0.6
妊娠前半期（付加量）						+150※		+10			+0.4		+3		0		+0.1
妊娠後半期（付加量）						+350※		+20	25～30		+0.4		+8		+ 200		+0.1
授乳期（付加量）						+720		+20			+0.5		+8		+1,400		+0.3

労作強度別付加量（A：軽い労作　B：普通の労作　C：やや重い労作　D：重い労作）

年齢・性		エネルギー(kcal) A	エネルギー(kcal) B	エネルギー(kcal) C	エネルギー(kcal) D	ビタミンB_1(mg) A	ビタミンB_1(mg) B	ビタミンB_1(mg) C	ビタミンB_1(mg) D	ビタミンB_2(mg) A	ビタミンB_2(mg) B	ビタミンB_2(mg) C	ビタミンB_2(mg) D
15(歳)～	男	− 300	0	+ 600	+1,100	− 0.1	0	+ 0.2	+ 0.4	− 0.2	0	+ 0.3	+ 0.5
	女	− 200	0	+ 500	+ 900	− 0.1	0	+ 0.2	+ 0.3	− 0.2	0	+ 0.2	+ 0.4
20 ～	男	− 300	0	+ 500	+1,000	− 0.1	0	+ 0.2	+ 0.4	− 0.2	0	+ 0.3	+ 0.5
	女	− 200	0	+ 400	+ 800	− 0.1	0	+ 0.2	+ 0.3	− 0.1	0	+ 0.2	+ 0.4
40 ～	男	− 300	0	+ 400	+ 900	− 0.1	0	+ 0.2	+ 0.4	− 0.2	0	+ 0.3	+ 0.5
	女	− 200	0	+ 400	+ 700	− 0.1	0	+ 0.2	+ 0.3	− 0.1	0	+ 0.2	+ 0.4
60 ～	男	− 300	0	+ 400	+ 700	− 0.1	0	+ 0.2	+ 0.3	− 0.1	0	+ 0.2	+ 0.4
	女	− 200	0	+ 300	+ 600	− 0.1	0	+ 0.1	+ 0.3	− 0.1	0	+ 0.2	+ 0.4

1 栄養所要量は個人にそのまま適用されるべき数値ではない
2 身長，体重は昭和60年推計基準値である。20歳代は20～25歳までの各値と26～29歳までの値との荷重平均，30歳代から70歳までは各５歳代値の算術平均で示した
3 ※　妊婦の所要量については軽い労作に対する付加量で示した。授乳婦のそれは非妊時（普通の労作）に対する付加量で示した
4 労作強度は従来と同様４段階に区分し，普通の労作に対する付加量で示した。しかし，特に軽い労作に属する人々は余暇時間に運動などによって，消費エネルギーを増
5 たん白質所要量は動物性たん白質を40％程度摂取するものとして求めた値である
6 食塩の摂取量は１人１日あたり10g以下にすることが望ましい

などを輸液・血漿(けっしょう)・血液などに加えて補給する。なお，これらの成分を，手軽に飲めるようにしたドリンク剤をも含め，栄養剤ということがある。

えいようし　【栄養士】　1947年(昭和22)制定された栄養士法第1条によると，〈栄養士とは，栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事するもの〉と定められている。栄養士のおもな仕事は，国民の栄養状態を向上させるために，個人・団体に対して栄養に関する知識と技術を普及させ，食生活が改善されるように指導する。また集団給食施設で，献立作成・栄養出納などの栄養管理面での業務も行なう。栄養士の資格は厚生省指定の栄養士養成施設(家政系の大学・短大・専門学校)を卒業するか，または国家試験に合格することによって得られる。なお1962年には管理栄養士(栄養士の中でも複雑・困難な業務を行なう適格者として登録された者)の制度ができた。〔榊原住枝〕

(1979年，厚生省)

ビタミンB₂(mg)		ナイアシン(mg)		ビタミンC(mg)	ビタミンD(IU)
男	女	男	女		
0.3		4		35	400
0.4		6		35	400
0.5		6		35	400
0.5	0.5	6	6		
0.7	0.7	8	7		
0.8	0.7	9	9		400
0.8	0.8	10	9		
0.9	0.8	11	10		
0.9	0.9	11	11	40	
1.0	0.9	12	11		
1.0	0.9	12	11		
1.0	1.0	13	12		
1.1	1.0	13	13		
1.2	1.2	14	14		
1.3	1.2	15	15		100
1.3	1.3	16	15		
1.4	1.3	17	15		
1.5	1.2	17	15	50	
1.5	1.2	18	15		
1.5	1.2	18	14		
1.5	1.2	17	14		
1.5	1.1	17	14		
1.4	1.1	17	13		
1.3	1.1	16	13		
1.3	1.0	15	13		
1.2	1.0	15	12	50	100
1.1	0.9	13	11		
1.0	0.8	12	10		
0.9	0.8	11	9		
	+0.1		+1	+10	+300
	+0.2		+2		
	+0.4		+5	+40	+300

ナイアシン(mg)			
A	B	C	D
−2	0	+3	+7
−2	0	+3	+5
−2	0	+3	+7
−1	0	+3	+5
−2	0	+3	+6
−1	0	+3	+5
−1	0	+3	+5
−1	0	+2	+5

すことが望ましい

えいようしっちょう　【栄養失調】　栄養障害の一種。ある種の栄養成分(特にタンパク質)が不足している食物や，あるいは熱量が不足しているか量そのものが少ない食物を，毎日摂取することにより，やがて体にいろいろな異常が起こること。おもな症状としては羸痩(るいそう)(やせ衰えること)・浮腫(ふしゅ)(むくみ)・貧血などが起こり，食欲不振・倦怠感(けんたいかん)・無気力などを伴い，栄養失調症とよばれる。食糧が極端に欠乏した第2次世界大戦の終戦前後には多数の人人が栄養失調になった。食糧の豊富な今日でも，消化器系の疾患などによる食欲不振とか消化吸収不良，タンパク質不足，またやせることなどを目的としたしろうと療法による食事制限などによって栄養失調症にかかる人もある。乳児の場合には，母乳の不足や誤った人工栄養の与え方によって，栄養失調を起こすことがある。おとなでも，乳児でも，本症の治療には食餌(しょくじ)療法が第一である。消化吸収がよく，熱量が高く，良質なタンパク質に富んだ食物を，必要に応じて流動食から与える。〔米川五郎〕

えいようせいしょく　【栄養生殖】　無性生殖*と同じ意味で用いられることもあるが，普通はその中で胞子形成や無配生殖*を除き，からだの一部が分かれてふえることをいう。植物の例でよくみられ，葉から苗の出るベンケイソウ，ユリ・ヤマノイモのむかご，ジャガイモの塊茎などがある。動物では，イソギンチャクが正中線で体軸に平行な面で左右に分かれて新個体となったり，ミズクラゲにみられるストロビレーション(横分裂)，プラナリアの分裂，ヒドラの出芽，ジストマの幼生生殖などの例がある。➔生殖　〔蒲原春一〕

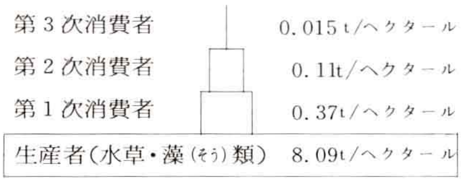
えいようそ　【栄養素】　⇨栄養

えいようたい　【栄養体】　有性生殖に直接関係せず，もっぱら個体の栄養をつかさどっている部分。種子植物では根・茎・葉などをいう。

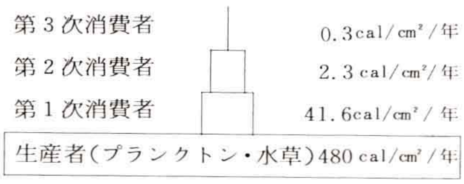
えいようだんかい　【栄養段階】　自然生物群集を，太陽エネルギーを光合成で固定し無機物を有機物に変換して独立栄養生活をする植物(生産者)，それに依存して生活する第1次消費者の植食性動物，その動物を食べる第2次消費者の肉食性動物，また動植物の死体や排泄物(はいせつぶつ)を利用するバクテリア・菌類などの微生物(分解者または還元者)というように，エネルギー・物質経済を段階構造としてとらえることができる。この考えはエルトンの食物連鎖*の概念をリンデマンが1942年にいっそう一般化したものであり，陸水学に伝統的な生産者・消費者・還元者の3区分とエルトン的な食物連鎖の考えをうまく折衷したものといえる。各栄養段階の現存量を生産者・第1次・第2次・第3次消費者という順に積み重ねると普通必ずピラミッドを形づくる。しかし現存量のピラミッドの形は真の生産構造を表わしているわけではない。そこで各段階の生産力をエネルギー単位で表わした生産力またはエネルギーのピラミッドが最も基本的なものとして生産生態学では扱われている(➔生態学的ピラミッド)。リンデマンは各栄養段階間のエネルギー転送効率を調べており，この考え方は近年いっそう発展し，IBP*において世界各地のデータが集積しつつある。栄養段階の数は5個より多いことはまれである。同じ種でも年齢や条件により属する栄養段階が異なることがあり，たとえばアユは生長の時期により第1次消費者になったり第2次消費者になったりする。〔松本忠雄〕

生態学的ピラミッドの例

①シルバー-スプリングの湧水(ゆうすい)生態系の生体量(乾重量)のピラミッド(オーダム，1957)



②メンドータ湖の生産力のピラミッド(リンデマン，1942)



えいらくせん　【永楽銭】　永楽通宝の略称。室町時代，中国明(みん)から大量に渡来した銅銭。遣明船の将来するおもな輸入品となった。当時わが国には多くの種類の銭貨が流通していたが，永楽銭はその中で最も信用度が高く，標準貨幣となることが多かった。のち明銭*の輸入が減少すると，粗悪な私鋳銭*が出回り，織田信長(のぶなが)は撰銭令(えりぜにれい)(➔撰銭)で粗悪銭との交換比率を4対1に定めた。1636年(寛永13)江戸幕府が寛永通宝*を鋳造してから永楽銭はみられなくなった。〔高崎徳次〕

えいらくたいてん　【永楽大典】　中国最大の文献集。明(みん)代に現存する典籍を集め，書き抜き，事項別に分類・編集し，《洪武正韻(こうぶせいいん)》の文字の順序に従って配列。今日すでに散逸した書を含み貴重な典籍である。最初1403年(永楽1)に着手したが，1405年に再編集を始め1408年に完成。監修者は姚広孝(ようこうこう)・鄭賜(ていし)・解縉(かいしん)。本文22,877巻，目録60巻，11,095冊。永楽・嘉靖(かせい)の2写本があるが刻版するには至らず大部分は焼失・散逸した。

なお，中国に残存する730巻は1960年に中華書局が複製印刷した。〔勝村哲也〕

えいらくつうほう【永楽通宝】⇨永楽銭

えいらくてい【永楽帝】(1360～1424) 明朝(みんちょう)第3代の皇帝。洪武帝(こうぶてい)の第4子。成祖・太宗ともいう。はじめ燕王(えんおう)に封じられて北京(ペキン)にいたが，洪武帝の死後あとを継いだ孫の建文帝が諸王抑圧策をとると，それに反抗し靖難(せいなん)の役を起こして彼を破り，1402年みずから帝位についた。彼は反対派を一掃し，諸王をおさえるとともに宦官(かんがん)を重用し皇帝権の強化を図った。また，北京遷都を行なって首都と北辺防衛を一体化させたが，それに伴って大運河を修築し，江南の経済力と首都とを結びつけた。一方，彼は対外的にも積極策をとり，モンゴル族を5回にわたって親征するとともに，安南や南海諸島の遠征をも行ない，明朝の基礎を固めた。〔谷口規矩雄〕

えいらんせんそう【英蘭戦争】⇨イギリス-オランダ戦争

えいらんたい【依蘭苔】地衣植物・ウメノキゴケ科。高山の地上にはえる樹状地衣で，ふつう大群落をつくる。高さは5～10cmで，幅は0.5～1cm。地衣体は扁平(へんぺい)で，かっ色または黒かっ色で光沢があり，多少管状に内巻きし，分枝する。辺縁部には長さ0.5cmくらいの黒色のとげ状の突起を生じる。アイスランドやスカンジナビア諸国では，製粉して小麦粉の代用品にしたり，家畜の飼料にする。また，健胃剤としても用いられる。

えいりほうじん【営利法人】⇨法人

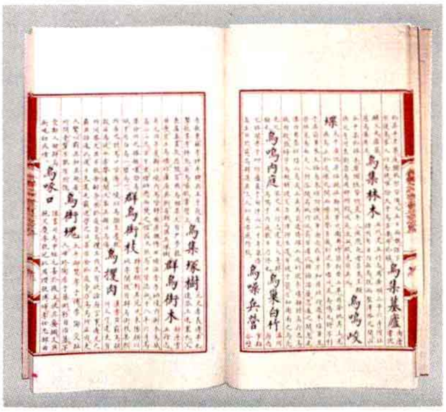
えいりゆうかいざい【営利誘拐罪】⇨誘拐罪

えいりん【映倫】映画倫理規定管理委員会の略称。日本の民間の映画検閲機関。1949年(昭和24)マッカーサーの指令によって，検閲が業界の自主規制に移行されたときに発足した。自主規制であるためその決定は法的な拘束力はもたないが，不合格作品は配給業者・興行館が上演しないので実質的な力を有している。特に，武智(たけち)鉄二監督の《白日夢》(1964)，《黒い雪》(1965)をめぐって，わいせつの理由で警視庁が映倫に勧告や手入れを行なったことは，国家権力による検閲の始まりであるとして警戒されている。〔波多野哲朗〕

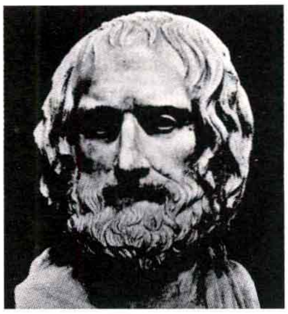
えいろきょうしょう【英露協商】⇨イギリス-ロシア協商

えいんがきょう【絵因果経】⇨過去現在因果経絵巻

えいんれっしょう【会陰裂傷】分娩(ぶんべん)時に会陰に生ずる裂傷。多くは正中線に発生し，ほとんど腟(ちつ)裂傷を伴う。胎児が娩出されるときに会陰は強く伸展されるため，会陰の伸展性が不良であったり，急激に伸展される場合に起こる。初産婦，特に高年初産婦，または骨盤位分娩・鉗子(かんし)分娩などに多い。高度の裂傷では肛門(こうもん)括約筋や直腸が断裂することがあるので，これを防止するためには，会陰保護に注意をし，特に伸展性の悪い産婦には外科的に切開を加える必要がある。裂傷は手術的に縫合する。〔木川源則〕



永 楽 大 典 中華書局影印本



エウリピデス

エウクレイデス ⇨ユークリッド

エウスタキオ［Bartolomeo Eustachio］(1520～1574) イタリアの解剖学者。ローマ大学の解剖学教授となり，数多くの人体解剖を行ない，すぐれた業績を残した。耳と咽喉(いんこう)との間の管を発見し，それをエウスタキオ管とよぶいわれをなし，また死後に出版された《解剖図》はベザリウス*のものよりある点ではまさっているといわれる。

エウセビウス［Eusebius］(263ごろ～339) 神学者。教会史の祖といわれる。パレスチナのカエサレアの生まれ。313年カエサレア司教。325年ニカイア公会議*では，アリウス・アタナシウスのいずれにもくみせず中間派のオリゲネス派に立つ。〈ニカイア信条〉に署名したが，のちに反アタナシウスの色彩を強めた。主著《教会史》は原始キリスト教史の史料として価値が高い。ほかに《年代記》《パレスチナの殉教者》《コンスタンチヌス大帝伝》《福音の準備》《福音の証明》などがある。〔石井忠厚〕

エウドクソス ⇨ユードクソス

エウボイア(島) ⇨エビア島

エウリディケ［Eurydike］ギリシア神話において数人の女性にこの名が与えられている。最も有名なのはオルペウス*の妻。彼女は森のニンフで，水のニンフたちと野原を散歩していてヘビにかまれて死んだ。嘆き悲しんだオルペウスは冥界(めいかい)へ下って彼の歌で神々の心を動かし，地上へ出るまであとに従うエウリディケをふり返って見ない約束をして彼女を取りもどす。しかし，地上へ着く寸前にふり返ってしまい，その瞬間に彼女は再び冥界に連れもどされたという。〔黒田杏子〕

エウリピデス［Euripides］(BC484ごろ～BC407または406) アイスキュロス*・ソポクレス*とともにギリシア三大悲劇詩人のひとり。伝説によれば，サラミスの海戦の戦勝の日(BC480)に生まれたともいい，アイスキュロスが悲劇競演ではじめて優勝した日(BC484)に生まれたともいう。地主階級の富裕な家庭に生まれ，幼時より当時の最先端をいく高度の科学的・哲学的教育を受けた。その後，生来の瞑想(めいそう)的傾向がいっそう強まり，政治活動をのがれて読書や創作に日を送った。BC455年に最初の作品を上演し，その後89編の作品を書いたが，優勝したのは5回である。彼の作品はペルシア戦争後の若者たちや新教育を受けた人々の圧倒的な人気を得たが，有産階級や年輩の人々の好みに合わなかったために，優勝回数は少なかったといわれる。晩年，マケドニア王アルケラオスの招きを受けておもむき，その国で客死したと伝えられる。全作品のうち，サチュロス劇《キュクロプス》を含む19作品が現存している。《アルケスティス》(BC435)，《メディア》(BC431)，《ヒッポリュトス》(BC428)，《エレクトラ》(BC413ごろ)，《ヘレナ》(BC412ごろ)，そして《オレステス》(BC408)を最後にアテナイを去り，マケドニアでは《バッコスの女たち》と《アウリスのイピゲネイア》を制作したが，この2作は詩人の死後アテナイで上演され，いずれも1等賞を得た。

啓蒙(けいもう)主義・合理主義の新風潮になじんで育った彼は，悲劇の題材を神話伝説にとってはいるが，主人公の人間としての感情や動機を細かく描き出すことに力を注いだ。恐ろしい運命にとらえられた女主人公の恋の炎と苦悩・嫉妬(しっと)・憎悪(ぞうお)・怨恨(えんこん)など激しい感情をあくまで冷静に緻密(ちみつ)に描き出す一方，静かで美しい叙情を添えることも忘れない。心理のひだを分析しつつも，理性だけではとらえきれない人間の意識の奥に潜む非条理なもの，説明できない激しい奔流のような力をえぐり出し，人々に投げかけた。彼は伝統的宗教的色彩の強かった悲劇に，強い人間的要素を導入した。〔久保正彰〕

エウロペ［Europe］ギリシア神話の女性。テュロス王アゲノルの娘。ゼウス*が彼女に恋をし，海辺で雄ウシに身を変えて彼女に近づき，彼女がその背に乗るや，海にはいってクレタ島へ連れ去った。彼女はその地でミノス*とラダマンテュス*，さらにカ

ルペドンも生んだという。

ええじゃないか 1867年(慶応3)名古屋に起こり，東海・近畿(きんき)・東北・四国に及んだ民衆の乱舞。〈ええじゃないか〉と歌いながら集団で踊り歩いたもので，伊勢(いせ)神宮のお札が降ったことから起こったという。前年までの一揆(いっき)や打ちこわしに続く世なおしの要求を，幕末の政治的流動を背景として，民衆の不満が宗教的形態で表現されたものと考えられるが，作為的な面もある。お蔭(かげ)参りの変形ともいわれる。なお，討幕派は，これを大衆の混乱助長に利用した。 〔松尾 涼〕

エーエスエー ［ASA］ American Standard Associationの略称。アメリカ規格協会。日本のJIS規格に相当する。一般には同規格による写真フィルムの感度標示として親しまれている。アメリカ製写真フィルムの業界専有率が大きいこと，標示がわかりやすいこと(たとえば標示100のフィルムは標示50・200のものに対し各2倍または2分の1の感度であることを示す)などからアメリカ以外のフィルムでも自国の標示と併記することが多い。現在のJISによる感度指数も同様の測定法・指示法をとっているため，ASA標示とほぼ同じものと見てさしつかえない。このほかにフィルムの感度標示で世界的なものとしてはDIN(ドイツ産業規格)がある。なお現在はASA自体はAmerican National Standard Institute, Inc.(ANSI)と改称されている。 〔河合玲二〕

エーエスエスアール ［ASSR］ Avtonomnaya Sovetskaya Sotsialisticheskaya Respublika の略称。自治ソビエト社会主義共和国。ロシア文字のかしら字を取ったものではACCP。ソビエト連邦を構成する15の共和国の中には民族構成上の理由から，ロシア共和国(16)・グルジヤ共和国(2)・アゼルバイジャン共和国(1)・ウズベク共和国(1)の4共和国が自治共和国を含み，その数は全部で20ある。これらの自治共和国は各自国の憲法をもち，完全な自治権を行使する。また各11名の代表を最高ソビエトの民族会議に送り，自国の利益を反映させている。 〔斎藤晨二〕

エーエフエル-シーアイオー ［AFL-CIO］ AFL(American Federation of Labor, アメリカ労働総同盟)と，CIO(Congress of Industrial Organization, 産業別労働組合組織)とが，1955年合同協定を結んで組織された，アメリカの労働組合中央組織。熟練労働者を構成員として1886年に設立されたAFLは，熟練工本位の保守的職業別組合連合体であった。一方，産業別組合方式による不熟練労働者の組織化を進めるために，1938年AFLから分裂してCIOが結成された。第2次世界大戦後，CIOは，世界労働組合連盟の結成に努力したが，のち反共政策に移り，世界労連を脱退して国際自由労働組合連盟に参加，産業構造の変化による労働者の同質化を背景に，1955年AFLと合同してAFL-CIOを組織した。国際自由労連の中核をなしている。 〔木元錦哉〕

エーエフピー ［AFP］ Agence France-Presseの略称。フランスの独占的通信社。1944年設立。世界最古の近代的通信社アバス(1835年設立)の伝統と施設を受け継いで生まれた。1957年改組して民間企業となり，現在は新聞社，記者，海外でフランスを代表する公職にあった人たちで構成される最高委員会によって運営されている。

エーエムピー ［AMP］ adenosine monophosphateの略称。アデニール酸ともいう。アデニンにD-リボースがついたアデノシンのリン酸エステルで，ヌクレオチドの一。➔ATP

エーエルシー ［ALC］ autoclaved lightweight concreteの略称。セメントと骨材のほかに石灰・膨張剤などを添加してモルタルまたはコンクリートをつくり，それがまだ固まらないうちに高圧がまに入れて加圧高温養生して製造した軽量コンクリート。

エオス ［Eos］ ギリシア神話の〈あけぼの〉の女神。ヒュペリオンとテアの娘で，戦車に乗って天を駆け，夜明けを告げる。恋人が多い。彼女とティトノスとの間に生まれたメムノンがトロヤ戦争でアキレウスに殺されたとき，彼女の流した涙が露になったという。ローマ神話ではアウロラとよばれる。

えおん 【慧遠】 (334～416) 中国，東晋(とうしん)時代の仏教界の指導者。山西省の雁門楼煩(がんもんろうはん)に生まれ，21歳で道安に師事し，広く仏教を学び，のちに南方の廬山(ろざん)で研究・修行・教化に尽くした。402年同志123人とともに創設した白蓮社(びゃくれんじゃ)は念仏実践の信仰団体として著名。また王権の支配下にあった当時の仏教のあり方に反省をいだき，《沙門(しゃもん)不敬王者論》を著わして，沙門(僧侶(そうりょ))は王権に服従する必要がないことを主張した。 〔佐藤成順〕

えおん 【慧遠】 (523～592) 中国，隋(ずい)代の僧。智顗(ちぎ)・吉蔵(きちぞう)と並ぶ学僧。甘粛省敦煌(とんこう)の出身。北周武帝の仏教廃止の宣言に強硬な反対意見を述べ，護法に努めた。のちに隋の文帝に迎えられ，長安の浄影寺に住して仏典の講義に専念した。著書には《涅槃経(ねはんぎょう)》《維摩経(ゆいまぎょう)》《華厳経(けごんきょう)》《無量寿経》など多くの経典の注釈書があるが，《大乗義章》26巻は仏教概論ともいうべきもので，隋・唐の仏教研究に多くの影響を与えた。 〔佐藤成順〕

えおん 【慧苑】 (673ごろ～743ごろ) 中国，唐代の僧。華厳宗(けごんしゅう)の大成者法蔵(ほうぞう)の弟子(でし)。《華厳略疏(けごんりゃくしょ)刊定記》の著者。長安の人。師の学説と異なるため異端者とされ，華厳宗の伝統からはずされたが，《新訳華厳経》を唯識学などをふまえて論理的に解釈した点，すぐれた学者である。また《華厳経音義》(別名《慧苑音義》)を著わし，言語学的な整理を行なった。華厳宗第4祖澄観(ちょうかん)は，慧苑の学説を徹底的に批判したが，現代の学界では再認識されている。 〔鎌田茂雄〕

えか 【慧可】 (487～593) 中国，南北朝時代の僧。禅宗第2祖。武牢(ぶろう)(河南省洛陽(らくよう)付近)の人。姓は姫(き)氏。幼名を神光という。若くして老荘の典籍や仏典を学び，洛陽香山の宝静(ほうじょう)について出家し，永穆(えいぼく)寺で受戒した。その後，諸方を遊歴し，40歳で嵩山(すうざん)少林寺に菩提達磨(ぼだいだるま)を尋ね，雪中に左臂(さひ)を断って求法の熱意を示したと伝えられる。随侍すること6年，心印を授けられて第2祖となり，鄴都(ぎょうと)でもっぱら禅法を宣揚した。 〔田中良昭〕

エーカー ［acre］ ヤード-ポンド法の面積の単位。4,840平方ヤードに相当し，4,046.87m^2にあたる。記号ac。

えかきむし 【絵書虫】 ジカキムシともよばれる。種々のハムグリガやハムグリバエの総称。これらの幼虫は葉の葉肉中に潜行して食害し，その食跡が表皮を通して絵や文字を描いたようにみえるためこの名がある。ある種の甲虫やハチの類の幼虫にもこうした潜葉性を示すものがある。

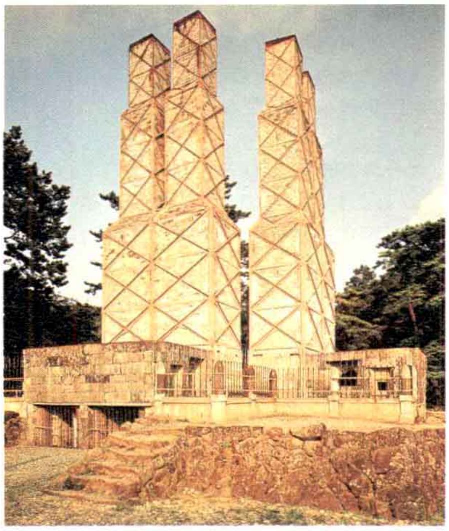
エーがたのうえん 【A型脳炎】 1917年ウィーンに嗜眠(しみん)を特徴とした脳炎の流行があり，オーストリアの神経病学者エコノモが嗜眠性脳炎と命名した。それでエコノモ型脳炎ともよばれる。のちになって，日本脳炎(B型脳炎)と区別して本症は冬季脳炎・A型脳炎ともよばれるようになった。わが国では1918年(大正7)ごろ局部的流行を示したが，その後はきわめてまれである。症状は一種特有の嗜眠状態が特徴で，眠ってはいるが命令には反応する。また，目の症状(眼瞼(がんけん)下垂・斜視・複視・眼球振盪症(しんとうしょう)・瞳孔(どうこう)不正・対光反射異常など)が強く，のちにパーキンソン症候群になる率が高い。 〔国井乙彦〕

エカテリーナ ［Ekaterina］ ロシアのロマノフ朝の女帝。

1 1世(1684～1727) ピョートル1世の皇后。のち女帝。在位1725～1727年。リトアニアの農家に生まれ，北方戦争の際捕えられてロシアに連行され，メンシコフ公の側室となる。1712年ピョートルと結婚，1725年ピョートルが没したのち，メンシコフら新貴族，近衛(このえ)連隊の支持で即位した。ピョートル1世には個人的影響を及ぼしていたが，女帝在位中は実権は最高枢密院のメンシコフらが握った。宮廷娯楽，高官の公金横領による赤字を機構整理で埋めようとした。

[2] 2世(1729～1796)　在位1762～1796年。18世紀ロシア絶対主義の代表者で，貴族の要求を満足させ，封建領主階級の利益となるような政治を行なった。ドイツに生まれる。1745年ピョートルと結婚したが，彼は病弱無能で，ピョートル3世として即位後まもなく，エカテリナは愛人オルロフら近衛士官の支持でクーデターを起こし，帝位についた。以後，啓蒙(けいもう)君主として君臨し，ボルテール*らと親交を結んだ。1767年君主権の絶対性，法の前の万人の平等などを内容とする啓蒙的訓令を与えた。一方で地主の土地所有を強化したため，1773～1775年のプガチョフの反乱*を頂点に暴動・反乱があいついだ。その後独裁制を強め，有力な貴族に農民つきの土地を盛んに与え，在位中に約80万の農民が農奴に転落，ロシア農奴制は最高潮に達した。対外的には，2度の対トルコ戦争で黒海岸に進出し，3度のポーランド分割で西方に領土を拡大した。フランス革命に際しても王党派を保護し，進歩的知識人を弾圧した。在位中，宮廷を中心にサロンが発達し，ロシア社会の上下分解を決定づけた。〔山県弘志〕

エカフェ［ECAFE］Economic Commission for Asia and the Far East の略称。アジア極東経済委員会。国際連合の経済社会理事会*の下部機構である四つの地域経済委員会の一つとして，1947年3月に設立。アジア極東地域各国の経済発展促進のための調査研究，統計・情報収集などを行ない，国連各機関と加盟各国に勧告を行なう。現在，国際会議セミナーの開催，統計調査，専門家の派遣などを主とする活動を行なっている。年1回総会が開かれるほか，運輸・通信，産業・天然資源，貿易の三つの常設委員会があり，またアジア経済協力閣僚理事会・アジア工業化会議・アジア経済計画官会議などの特別会議が定期的に開催されている。アジア各国にわたるアジア-ハイウエー計画，コメコン川下流地域開発計画を立案実施中であり，国連アジア経済開発計画研究所も設立されている。事務局はバンコクにあり，ウ-ニュン事務局長以下200名近い職員が活動している。ほかに，季刊誌《アジア経済年報》などアジアの現状認識・基礎統計資料参照のために，報告書をいくつか発行している。現在加盟国は正式加盟国27か国(域内26か国，域外5か国)に準加盟国8か国，合計39か国になっている。エカフェ地域の範囲は，西はアフガニスタン，東は日本，北は大韓民国(だいかんみんこく)，南はオーストラリア・ニュージーランド・西サモアにも及び，アジア・オセアニアのほぼ全域にわたっている。日本は1954年(昭和29)正式加盟国となっている。太平洋諸地域の参加国の増加にともない，当初の〈アジア極東経済委員会〉の名称がふさわしくなくなったので，1974年9月12日，〈アジア太平洋経済社会委員会〉〔ＥＳＣＡＰ〕と改称した。事務局長はＪ・Ｂ・Ｒ・マラミス(インドネシア)。1975年現在。〔深海博明〕



江川太郎左衛門　伊豆(静岡県)韮山に建設した反射炉

えがわたろうざえもん【江川太郎左衛門】(1801～1855)　江戸末期の砲術家。名は英龍(ひでたつ)，号は坦庵(たんあん)。伊豆(いず)(静岡県)韮山(にらやま)の代官。蘭学(らんがく)に理解があり，渡辺崋山(わたなべかざん)らの尚歯会*(しょうしかい)を援助し，種痘をも奨励した。高島秋帆*に砲術を学び，またみずから江戸で砲術を教授し，佐久間象山・川路聖謨(としあきら)・橋本左内・桂(かつら)小五郎ら多くの俊才を育てた。ペリー来航後，勘定吟味役格海防掛となり，江戸内湾の砲塁としてお台場をつくり，また，韮山に反射炉を築いて鉄砲を鋳造した。〔善積美恵子〕

えき【易】　古代中国(夏または殷(いん)の時代という)に起こった自然観察の方法に，宇宙間のすべてを象徴する八卦(はっか)の方法を加えて行なわれる占い。ほかに連山・帰蔵の易などもあったといわれるがそれらの占法は不明で，現在まで伝えられているのは周代に盛んになった周易である。周易による占断の最も古い記録は《春秋左氏伝*》にみられるが，はじめは国家・王室の大事に関して専門職である巫(ふ)(のちに史官)によって占われ，のち民間でも行なわれるようになって普及した。一方，戦国時代以後に《易経*》がつくられてからは，周易は儒教に取り入れられ，前漢のころには政治上の現象を解釈し予見することによってその上に政治理論が打ち立てられるようになった。こうして易学が生まれたが，これはそののち中国思想のあらゆる面に大きな影響を及ぼした。わが国に伝えられたのは応神天皇または欽明(きんめい)天皇のときといわれ，陰陽家によって行なわれたが，一般に普及したのは江戸時代以後のことで，易学は儒者特に古学派に注目され，またいまも伝え用いられている一派をつくった新井白蛾(あらいはくが)・真勢(ませ)中州らの易占の名人が出た。

易占は50本の筮竹(ぜいちく)(長さ約40cmの細い竹の棒。古くは蓍(し)という草の茎)を用い，定められた手続きによって大成卦および爻(こう)(卦の中におけるさらに小さな変化)を得，これを《易経》の繇辞(ちょうじ)(判断の説明文)に求め，それを具体的事物にあてはめて占断する。大成卦は二つの小成卦を重ねたものであるが，小成卦には☰(乾(けん))・☱(兌(だ))・☲(離)・☳(震)・☴(巽(そん))・☵(坎(かん))・☶(艮(ごん))・☷(坤(こん))の八つがあり八卦という。〔柳下尚範〕

えき【駅】

[1]鉄道で，列車を停止させ，旅客・荷物，および貨物を取り扱う場所。駅には，旅客扱い専門の旅客駅，貨物だけを取り扱う貨物駅，両方を取り扱う一般駅などがある。自動車線においても鉄道と同様に旅客・貨物取り扱いの場所を駅と称している。このような駅を含めて，操車場*や列車の行き違いや待ち合わせをする信号場など，列車の発着するところをすべて停車場という。したがって，駅は停車場の一種であり，他と異なるのは，旅客・貨物取り扱いの窓口業務を行なうことにある。駅の種類は，さきの輸送対象による分類のほかに，列車の運転系統によるものとして，列車が始発・終着となる終端駅，この中間に位置する中間駅，中間駅で線路が分岐する分岐駅，あるいは乗り換え・乗り継ぎをする連絡駅・接続駅などがある。また構造的には，高架駅・地下駅・地平駅などにも分類される。現在，国鉄の駅の数は5,182で，このうち一般駅2,702，旅客駅2,371，貨物駅122，その他8である(1971年4月)。〔宍塚正幸〕

[2]古代陸上交通制度における人馬の乗り継ぎ場。➔駅制

えきあん【液安】⇨液体アンモニア

えきか【液果】　中果皮が厚くなり，多汁(たじゅう)な柔らかい多肉質の果実。ふつうかたい種子を多数もつ。石果(ウメ・モモ)・漿果(しょうか)(ブドウ)・柑果(かんか)(ミカン)などが含まれる。➔果実

えきか【液化】　気体が液体に変わること。気体を液化するには，臨界点以下にまで冷却しなければならない(➔臨界状態)。それには，冷却剤を用いたり気体自身の熱力学的状態変化を利用する。前者は装置が複雑で，大量操作には不向きであって，今日では，気体の自由膨張，あるいは断熱膨張を循環的に行なうことにより，臨界点まで冷却する方法がもっぱらとられている。気体は，自由膨張によって必ずしも温度が下がるとは限らない。温度を下げるためには，十分低い温度で自由膨張させねばならない(➔ジュール・トムソンの実験)。実際の液化の場合には，前段階として断熱膨張によって十分に温度を下げてから自由膨張をさせることによって液化が行なわれている。

〔中野藤生〕

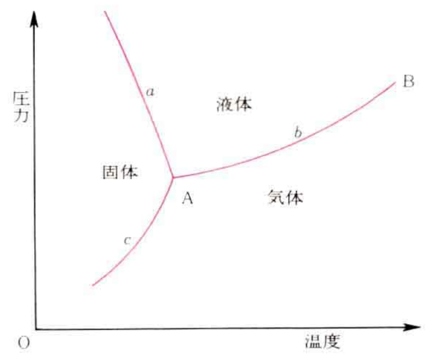
えきがく【疫学】 集団を対象にして伝染病・多発性疾患・傷害・事故，さらには健康そのものの実態を観察し，その発生原因がなんであるかを明らかにし，疾病(しっぺい)などの予防と撲滅に役だつための医学の一方法。臨床医学において，正しい診断があってはじめて正しい治療が可能になるように，集団現象についても，それがどのような疾病であり，いつ，どこで，どのような人々に発生しているかが明らかになれば，集団を対象にした対策も可能になる。したがって公衆衛生診断学ともよばれる。たとえば，結核は結核菌がなければ存在しないが，結核菌があれば必ず結核になるわけではない。結核菌の感染を受ける人の側の条件も大きな意味をもっているし，またどのようにして感染するかもたいせつな発病要因となる。結核菌・人・感染様式のそれぞれが，結核の発生にどのような役割をもっているかを明らかにするのも疫学の一つの応用例であり，その意味で医学的生態学とよぶ者もある。〔金子義徳〕

えきかせきゆガス【液化石油ガス】 LPG(liquefied petroleum gasの略称)ともいう。石油工業で副生する炭素原子数3～4のガス状炭化水素を圧縮液化し，耐圧容器に充塡(じゅうてん)したもの。プロパンC_3H_8を主成分としたものが多く，俗にプロパンガスともよばれる。容易に気化して都市ガスと同様に使用でき，家庭用・工業用燃料として広く用いられる。ガスライター用のガスはブタンC_4H_{10}が主成分で，これも液化石油ガスの一種。〔原　伸宜〕

えきかせきゆガスじどうしゃ【液化石油ガス自動車】 プロパンガス・ブタンガスなど，パラフィン系炭化水素ガスを燃料として走る自動車。これらのガスは，圧縮・液化してタンクに貯蔵されている。ガソリンと比較して燃料費が経済的なため，全国の営業用乗用車の約67％(1968)が液化石油ガスを燃料としている。しかし，エンジン出力が低下すること，じょうぶな圧力タンクを備えなければならず，取り扱いに注意を要することなどのため，一般の自動車にはあまり使用されていない。〔成田武男〕

えきかメタンガス【液化メタンガス】 LMG(liquefied methane gasの略称)，またはLNG(liquefied natural gasの略称)ともいう。メタンCH_4を主成分とする天然ガスを冷却圧縮して液化したもの。最近天然ガスの海上輸送法として，液化メタンガスを冷凍タンカーで運ぶ方法が発達し，わが国でもおもに化学工業用原料として海外からこの輸入が行なわれている。

えききょう【易経】 儒教の経典の一。《周易》ともいう。経文と十翼(10編の解説)からなる。儒教の伝説では孔子ら聖人の著作だというが，元来易は占いの書で，陽(—)と陰(--)の爻(こう)を三重にした八卦(はっか)，八卦を二重にした六十四卦によって人生の全面を表現したものである。それがしだいに処世訓として整理され，さらに十翼によって一つの陰陽的世界観に発展させられたもので，その時期はほぼ紀元前3～紀元前2世紀であった。



〔状態図〕　A：三重点　B：臨界点
曲線 a：融解曲線　曲線 b：蒸気圧曲線
曲線 c：昇華圧曲線

液　体

エキサイトン［exciton］ 励起状態にある原子(または分子，以下同じ)は，光や熱の形でエネルギーを放出して基底状態にもどる。結晶中では同種の原子が規則的に並んでおり，互いに作用し合っているので，励起状態にあった原子は基底状態にもどるとき，エネルギーを光や熱として放出してしまうのでなく，隣の原子に渡してその原子を励起させることができる。そうすると励起状態とエネルギーが隣の原子へ移った形となる。これを次々にくり返して，結晶中を原子の励起状態が波動として伝わる。この波動を量子化して粒子とみなしたとき，エキサイトンという。結晶の表面で吸収された光のエネルギーを内部へ送るなど，絶縁体結晶内でのエネルギー伝達機構として重要。〔中野藤生〕

エキスざい【エキス剤】 生薬の成分を水・アルコールなどの溶媒で抽出し，溶媒を蒸発させて水あめ状や固型としたもの。生薬の有効成分やその他の成分が含まれる。生薬成分を濃縮するため容量は生薬のそれよりも小さくなり，調剤に便利である。しかし濃度などが不正確になりやすい欠点がある。ゲンチアナエキス・甘草エキス・ロートエキスなどがある。

エキストラ［extra］ 映画撮影における臨時俳優。群衆場面の撮影など必要に応じて集められる。ふつうは別の職業についている趣味人・学生などで端役(はやく)に扮(ふん)するが，なかには俳優を志してすでにかなりの演技力を身につけた人で，せりふを語る場合もある。

えきせい【駅制】 律令(りつりょう)制で中央と地方との行政上の連絡を図るための交通制度。駅伝制度ともいう。大化改新以前から早馬による連絡は行なわれたが，大化改新の詔にはじめて駅馬・伝馬(てんま)のことがみえる。ただし実際にこの制度が整えられたのはもう少しのちのことで，確かなのは大宝令の制である。令制では諸道におおむね30里(1里＝4 km)ごとに1駅を設け，駅馬を備え，駅長のもとに駅子が雑役に従事した。駅使は駅家(人馬調達・官吏宿泊の設備・機能をもった施設)に宿泊し，駅鈴の剋(きざみ)数だけの駅馬を提供されて旅行を続けた。駅家の経費は駅子が耕作する駅田の収穫稲(駅稲)をもってし，駅馬の死欠もこれで補充した。駅馬を急行とすれば，鈍行にあたるのが伝馬である。これは各郡家に備え緊急でない官使の往来に供し，その経費には正税(農民が納めた租稲)を用いた。このような駅制は中央と地方の連絡を緊密にして中央集権体制の確立と強化をねらうものであったが，駅子の負担が一般公民よりも重く，そのため駅戸(労働の提供を義務づけられた家)が疲弊没落して，駅制の維持は困難となり，律令制全般の衰退に相応ずるかのごとく，10世紀以降急速に衰えた。〔黛　弘道〕

えきせいかくめい【易姓革命】 中国古来の儒家的政治思想。有徳の者が天の命を受け天子となって天下を統治するが，徳が衰えると，天は命を革(あらた)め，易(か)えて他姓の有徳者を新天子に命じる。そして，天命・徳の有無は民心の帰趨(きすう)にあるという王朝交替の思想。天子の位を有徳者に譲る禅譲と，武力で新王朝を創立する放伐とがあり，特に後者は孟子(もうし)が力説した。戦国時代の末には五行説の裏づけを得て体系化され，後世の王朝交替に多大な影響を与えた。〔安田二郎〕

えきせん【易占】 ⇨易

えきたい【液体】 常温で水・酒・牛乳・水銀などのように流動性があり，一定の形をもたず，一定温度で一定の体積をもつものをいう。ガラス・ロウなどの無定形物質は流動性はないが，その内部構造から考えて粘性の大きな一種の液体と考える学者もいる。水などのように液体が化学的に単一の物質からなるものを純液体または単に液体といい，酒のように2種以上の化学物質からなるものを溶液という。液体または溶液を一つの相として扱うときはこれを液相という。

【分類】 液体を凝集させている力で分類すると分子性液体・イオン性液体・金属性液体・等極性液体に分類できる。分子性液体(例：大部分の有機溶媒)は構成粒子が分子であり，その凝集力はファンデルワールス力である。イオン性液体(例：融解塩化ナトリウム)はイオンがその構成粒子でありイオン間の静電的引力が凝集力である。金属性液体(例：融解金属)は正の原子イオンと金属電子(自由電子)が構成粒子で，電子がイオン間を自由に動き回っている。その凝集力はイオンと電子間の静電的引力(金属結

合)である。等極性液体(例:融解炭素)は主として共有結合力によって凝集し，高温でのみ存在する。常温付近で存在する液体は，水銀・セシウム・カリウムの3金属を除いて，すべて分子性液体である。

〔物質の3態における位置〕 多くの物質には気体・液体・固体の3状態があり，一つの物質がどの状態にあるかはそのときの温度・圧力などで決まる。縦軸に圧力，横軸に温度をとってこれを図で示したものが状態図である。液体はほとんどすべての物質に共通な一つの相であり，物質の状態図で気相と固相にはさまれた一つの領域を占める。流動性という点を除けば液体はいろいろの点で気体よりもむしろ固体に似ている。第1に気体は固有の体積をもたず温度・圧力の影響を受けやすいが，液体と固体はほぼ決まった固有の体積をもち，温度・圧力の影響を少ししか受けない。そのほか密度・圧縮率・比熱(特に定容モル比熱)などもその類似をよく示す。

〔構造〕 X線による研究の結果多くの液体では，ある一つの粒子の周囲の構成粒子の位置配列については，長距離の秩序性はないが短距離の秩序性はかなり高いことが明らかになった。これに対して気体では遠距離でも短距離でも秩序性はなく，固体ではいずれでも秩序性が高い。液体が温度や圧力によってその体積を変えることが気体ほど著しくないのは，短距離の秩序性(ファンデルワールス力が大きい)のためである。

〔三輪誠・野宮健司〕

えきたいアンモニア 【液体アンモニア】 液化したアンモニア。無色の流動性の強い液体で，水にきわめて似た性質をもち，多くの有機および無機化合物をよく溶解する。溶媒・冷凍用寒剤・肥料などに用いられる。肥料の場合は液安とよばれ，わが国ではあまり用いられないが，アメリカの農家では自家のタンクに貯蔵し，水で薄めて大量に用いている。窒素濃度は窒素肥料中最高の82%であり，運搬の経費節約は大きいとされている。単独で用いるほか，他の肥料成分と混合して液肥の材料としている。

〔鈴木篁・早瀬達郎〕

えきたいおんどけい 【液体温度計】 水銀やアルコールのような液体の体膨張を利用した温度計。原理としては，ガラスの容器と液体との見かけの膨張が温度変化に比例することを利用する。温度計の目盛りは，ある特定の物質の温度特性を利用して定められる。たとえば，水銀温度計の目盛りの温度定点は1気圧における氷の融点，および水の沸点をそれぞれ0℃および100℃に目盛る。液体温度計の測定可能な温度範囲は，用いる液体によって異なり，水銀は300〜−30℃，アルコールは50〜−100℃，トルエンは常温〜−90℃，ペンタンは常温〜−200℃などである。〔中野藤生〕

えきたいくうき 【液体空気】 空気は圧縮するだけでは液化しないので，永久気体と考えられていたが，1894〜1895年，ドイツの工学者リンデらはジュール-トムソン効果を利用して空気を臨界温度以下に冷却し，同時に加圧することによって液化に成功した。その後さらに，フランスの化学者，クロードらによって液化装置が工業的に改良され，容易に液体空気が得られるようになった。わずかに青色をおびた液体で，沸点約−190℃(常圧)。液体窒素・液体酸素の混合物で，放置すれば窒素に富む空気を発生し，液相には酸素が濃縮される。それゆえ，液体空気を有機物と混合すれば爆発などの災害を及ぼすことがある。低温実験用冷却剤などに用いられ，工業的には沸点の差を利用し，分留によって窒素および酸素を製造するのに用いられる。最近ではさらにこれからアルゴンその他の希ガスの工業的分離も行なわれている。〔鈴木　篁〕

えきたいねんりょう 【液体燃料】 燃料として用いられる液体。木炭・石炭・コークスなどの固体燃料*，石炭ガス・液化石油ガス・天然ガス・発生炉ガスなどの気体燃料*に対する語。液体燃料の大部分は石油原油から得られる石油系燃料(ガソリン・燈油・軽油・重油など)であるが，ほかに石油系燃料よりは重要性は劣るが，石炭の高温乾留で得られるタールをさらに分留して得られるモーターベンゾール・クレオソート油や，石炭の高圧水素化(直接液化法)による石炭液化油や，水性ガスから得られるフィッシャー油などの石炭系燃料があり，かつてはケツ岩油も液体燃料として使用された。また，アルコール系燃料にエチルアルコール・メチルアルコールなどがあり，これらはもと炭水化物から得られていたが，最近はおもに石油を出発原料として合成されている。なお，魚油・大豆油などの脂肪油類も使用される。液体燃料の用途は広く，内燃機関・家庭暖房やボイラー加熱用などに大量に消費されるほか，溶剤・洗浄剤などとしても用いられる。重質油の一部はガス化して，気体燃料として使われるが，石油留分の一部は石油化学工業*の原料として用いられ，多種の重要な化学工業製品が製造されている。このように，液体燃料は石油系燃料を主体として，近代化における重要なエネルギー源・原材料である。➔燃料

〔寺沢誠司〕

えきたいヘリウム 【液体ヘリウム】 ヘリウムガスを液化したもの。ヘリウムは，すべての気体中で最も理想気体に近く，液化が非常に困難で，最後に液化された気体である。1908年オランダの物理学者H.カメルリング-オンネスによってはじめて得られた。気体を圧縮して冷却し，急激に膨張させると温度の低下がみられる断熱膨張をくり返し，ヘリウムの臨界温度5.2°K以下に冷却することにより，液化に成功した。液体ヘリウムの比重は0.126で，25気圧で融点1.2°Kの固体もつくられている。また液体ヘリウムを使って0.005°Kの最低温度も記録されている。液体ヘリウムを冷却すると2.19°Kで種々の物理的性質に不連続がみられる。この温度より高い温度で安定な変態をヘリウムⅠとよび，これより低い温度で安定な変態をヘリウムⅡとよぶ。

〔吉屋　弘〕

えきたいホーニングかこう 【液体ホーニング加工】 微粉状の砥粒(といりゅう)をさび止め剤を入れた水と混合して，圧縮空気によって金属工作物の表面に吹きつけ，きれいな梨地(なしじ)状の表面に仕上げる加工法。めっきの下地，時計・カメラの小物部品，複雑な形状の部品などによく用いられる。

えきたいロケット 【液体ロケット】 液体の推進剤(燃料)を用いるロケット。一般には，酸化剤と燃料とが別々になっている。酸化剤および燃料には，液化温度の極度に低いもの(例，酸素−183℃，水素−253℃など)もあるので，これらを液状に保つにはそれ以下の温度を保たねばならない。このような推進剤を低温液化型という。一方，硝酸のように常温で液状のものもあり，これを貯蔵可能型という。現在，大部分のロケットが〈液体酸素＋ケロシン(燈油)〉を用いているが，〈液体酸素＋液体水素〉〈四酸化窒素(酸化剤)＋非対称ジメチルヒドラジン〉を用いるものもあり，比推力のもっと大きいものが研究されている。➔ロケット

〔原田三夫〕

えぎたすく 【江木翼】 (1873〜1932) 政治家。山口県に生まれる。東京大学卒業。枢密顧問官江木千之(かずゆき)の養子となる。法制局参事官などを経て，1912年(大正1)桂(かつら)内閣の書記官長。加藤高明内閣以降3度入閣し，司法・逓信大臣を歴任。立憲民政党の知恵袋といわれた。

えきちゅう 【益虫】 人類に直接または間接に利益をもたらすこん虫類の総称。ときに便宜上こん虫の近縁動物をも含めることがある。益虫は害虫*に対する呼称であるが，両者の区別は便宜的かつ相対的なもので，絶対的なものではない。たとえばチョウ類のように，幼虫時代はしばしば農作物や果樹などを食害するが，成虫は花粉媒介の役割を果たすなど，同一種のこん虫が，あるときは益虫として，あるときは害虫として扱われることがある。益虫は，その利用面から一般に有用こん虫と有益こん虫の二つに分けられる。

〔有用こん虫〕 人類に直接的利益を与えるこん虫で，これには，こん虫自体を直接利用するものとこん虫の生成物・分泌物・収集生産物などを利用するものとがある。こん虫自体を利用するものには，①食用に用いられるもの：イナゴ，スズメバチ類の幼虫(ハチの子)など，②薬用に用いられるもの：養毛剤の原料となるマメハンミョウ，子どもの疳(かん)の薬になるといわれるマゴ

タロウムシ(ヘビトンボの幼虫)など，③美術工芸品に用いられるもの：各種のチョウや甲虫類，④愛玩(あいがん)用に用いられるもの：キリギリス・クツワムシ・マツムシ・スズムシ・コオロギなどの直翅(ちょくし)目に属する鳴虫類や，ゲンジボタル・カブトムシ・クワガタムシなどの甲虫類，⑤学術研究に用いられるもの：ショウジョウバエ類・イエバエ・ニクバエ・カイコ・ゴキブリなど，⑥つりのえさや愛玩動物のえさに用いられるもの：カイコのさなぎをはじめ各種のこん虫類，などがある。

こん虫の生成物・分泌物・収集生産物などを利用するものには，①衣料用として絹糸をとるもの：カイコ・ヤママユ・サクサン・クスサン・テグスサンなど，②染料・塗料・油・ろうなどをとるもの：染料・インキ・なめし皮製造に用いられるタンニンはタマバチ類やヌルデノミミフシなどのアブラムシのつくる虫こぶ*からとれ，塗料・接着剤・電気絶縁剤の原料になるシェラックはラックカイガラムシの体表から分泌されるラックからとれる。また，ミツバチの巣からはみつろうが，イボタロウムシの体表からは白ろうがとれる，③食用あるいは薬用に用いられるもの：ミツバチが花から採集する蜂蜜(はちみつ)などがある。ミツバチ・カイコ・ラックカイガラムシはしばしば世界の三大有用こん虫といわれる。

【有益こん虫】こん虫の活動が，人類に間接的利益をもたらすもので，これには，①花粉媒介こん虫：ハチ類やチョウ類など，②天敵：害虫に寄生したりそれを捕食するもので，各種のヤドリバチ類・ヤドリバエ類や多くの食肉性こん虫の幼・成虫など，③雑草駆除こん虫，などがある。これらのもののうち，特に天敵による害虫防除，すなわち生物的防除*の研究は日本においても盛んに行なわれ，数多くの成果をあげてきた。柑橘(かんきつ)類の害虫イセリアカイガラムシの駆除にオーストラリアからベダリアテントウムシを輸入して放し飼いしたり，柑橘類をはじめ多くの果樹や庭園樹に寄生して大害を与えるルビーロウカイガラムシの駆除にルビーアカヤドリコバチを放し飼いして大成功を収めた例などは特に有名である。〔鈴木邦雄〕

えきちょう【益鳥】 ある種類の鳥が人間の生活にとって有益であるときに，その鳥は益鳥であるという。逆に有害であるときには害鳥という。一般にはこん虫食の鳥は益鳥であるとみなされ，農水産物を食べれば害鳥といわれる。しかし，害益の判断はきわめてむずかしく，また人間生活のどの面にとって有益かという規定もないので，実際にはあまり意味のないことばである。たとえばムクドリは害虫を多く食べるが，集団ねぐらではやかましくうるさい。スズメはイネを食べるが，初夏には害虫を秋冬には雑草の種子を食べて有益である。〔浦本昌紀〕

えきていしこう【駅逓志稿】 古代より明治初年までの交通史。駅逓局御用掛(ごようがかり)青江秀らの編集。1882年(明治15)刊。〈大日本帝国駅逓志稿〉という本文と，編年体に史料を収めた〈大日本帝国駅逓志稿考証〉とからなる。史料は明治調に書き改めてあるが，最も詳細な陸上交通史・郵政史である。1928年(昭和３)内閣印刷局内朝陽会より復刊のとき《大日本交通史》と改められた。

えきでん【駅田】 律令(りつりょう)制の駅制*で駅家の費用をまかなうために置かれた田。不輸租田。大宝令では駅起田といった。山陽道では駅ごとに４町，東海・東山道では３町，そのほかでは２町で，その耕作には駅子があたった。

えきでんきょうそう【駅伝競走】 道路上に定められた距離を幾区間かに分け，たすきをリレーしながら優勝を争う団体競走。日本で発達した。1917年(大正６)，京都三条大橋から東京上野不忍池(しのばずのいけ)まで508kmを23区間に分けて東西対抗で争ったとき，駅伝競走の名がはじめて使われた。1920年に始まった東京～箱根間往復大学駅伝競走が有名。第２次世界大戦後生まれた駅伝では，全国高校(京都)・都府県対抗(青森～東京，九州一周)や全日本実業団(伊勢(いせ)～賢島(かしこじま))が知られている。主として冬に行なわれる。最近では道路事情が悪化したため，駅伝・マラソンなど道路を使用する競技の前途が心配されている。〔伊東春雄〕

えきでんせいど【駅伝制度】 ⇨駅制

エキノコックス [echinococcus] 扁形(へんけい)動物・条虫類に属する全長３～５mm内外の小さな条虫。キツネ・イヌなどを終宿主とする。幼虫は包虫またはエキノコックスとよばれる嚢虫(のうちゅう)で，中間宿主(野ネズミ・ヒツジ・ウシ・ブタやときにヒト)の種々の臓器内にみられる。包虫は長年月の間に内部に多数の娘・孫包虫をつくり巨大なふくろとなる。ヒトではおもに肝臓内に包虫がみられ，ときに重い症状を呈する。ヨーロッパ・ソ連・アラスカ・オーストラリア・日本などに分布する。日本では北海道の礼文(れぶん)島が流行地として知られるが，内地からも患者の報告がある。礼文島での調査によれば，野犬やネコがおもな感染源で，ヒトの感染は虫卵で汚染された飲料水・食物などから起こると考えられている。適当な治療法がなく，予防特に感染動物対策が急務である。〔山本　久〕

えきば【駅馬】 律令(りつりょう)制の駅制*で駅家に常備して駅使の乗用に供する馬。〈はゆま〉ともいう。山陽道の各駅では20匹，東海・東山両道で10匹，その他の諸道では５匹と定められた。駅馬は駅戸で飼い，死欠の場合は駅田の穫稲をもって補充した。

えきひ【液肥】 粉状・粒状の肥料に対し，希釈して液体状にして与える肥料。土壌(どじょう)に施用するものと葉面散布用のものとがある。前者は大部分が，尿素・リン安・塩化カリウムを含み，成分合計量が25～30％である。わが国の消費量は1967年(昭和42)約7,000tという少量であり，多くは野菜や花のハウス栽培に用いられている。しかしアメリカ合衆国においては非常に大量に使用されており，近い将来，肥料全消費量の過半を占めるといわれている。またヨーロッパ各国でもしだいに増加の勢いを強くしつつある。葉面散布用のものはおもに尿素を含み，そのほかにマンガン・ホウ素・鉄・銅・亜鉛・モリブデンの微量要素をも含む。生産量は1967年1,800t。〔早瀬達郎〕

えきびょう【疫病】 伝染病・流行病のこと。細菌・リケッチア・ウィルス・スピロヘータ・原虫などでひき起こされる病気で，だいたい急性の経過をとり，全身的な症状を示し，しかも集団的な発生をみるものをいう。

えきびょう【疫病】 藻菌(そうきん)類・フィトフトラ属のかびによって起こされる病気。ジャガイモ・トマト・カボチャ・タバコなどの葉・茎・いも・果実に，はじめは暗緑色水浸状の小さな斑点(はんてん)を生じ，まもなく急速に拡大して黄色からかっ色となり，葉や未熟の果実はゆでたようになって腐敗・枯死する。病斑部に白い霜のようなかびを輪状に生ずる。これは病原菌の分生胞子が気孔から突き出たもので，胞子は水分があると内容が分割して遊走子を水中に泳ぎ出させ，これがのちに発芽管を出して植物の表皮から組織内部へ侵入する。梅雨期のような冷涼で多雨，または湿度の高いときに発生が著しい。病原菌は菌糸または卵胞子の形で土壌(どじょう)中の種いも・被害茎葉の中で越冬し，翌年に分生胞子を形成して伝染・発病する。ジャガイモ疫病に対しては無病の種いもを用い，開花期ごろから4-4式ボルドー液(水１l に硫酸銅４g，生石灰４gをとかしたもの)を散布する。〔渡辺　実〕

えきべん【駅弁】 明治初期に開通した鉄道とともに，各路線の主要駅で規定された価格内でその地方独特の弁当をつくって売り出したもの。1885年(明治18)７月，上野～宇都宮(うつのみや)間が開通して，宇都宮駅で売り出したものが最初といわれ，３か月後に横川駅で，1886年に高崎駅で売り出された。それらはいずれも竹の皮包みの握り飯であった。いまのような折り詰めの幕の内スタイルになったのは，1888年，山陽本線が姫路まで開通したときに売り出した弁当からである。現在は特殊弁当と普通弁当とがあり，特殊弁当は米飯を主とし，副食としておもに特別な材料を調整したもので，すし・うなぎ飯・とり飯などがある。普通弁当は，米飯のほかに副食として肉類・卵類・つくだ煮などを容器の一隅(いちぐう)また

は別容器に少量ずつ詰め合わせたものである。おもな駅弁をあげれば次のとおりである。

〈北海道地方〉 海の幸(さち)のイカ・タラ・サケ・マス・カニ・コンブ・ホタテガイを材料としたものが多い。函館(はこだて)のいか弁当・帆立て飯(ホタテガイの貝柱,シイタケ・ゴボウ・ピーマン・たけのこなどのたきこみご飯), 長万部(おしゃまんべ)のかに飯(ケガニをほぐして二杯酢につけて飯の上に一面にふりかけ, 金糸卵・シイタケを散らし, たけのこ・焼き魚・こぶ巻きなどを添えてある), 苫小牧(とまこまい)のシシャモ・チップずし(チップはアイヌ語でヒメマスの意), 札幌(さっぽろ)の石狩さけ飯(サケのそぼろを飯に載せてある),岩見沢のにじますずし・釜飯(かまめし), 滝川のジンギスカン弁当。

〈東北地方〉 大館(おおだて)のとり飯(大館地方はアイヌ語で〈よい沢〉を意味する語にちなんで比内地方ともいうが, 食肉用優良種として知られる比内鶏を用いる),仙台(せんだい)の竹駒(たけこま)ずし(名取郡岩沼町の竹駒神社は五穀豊穣(ほうじょう)の神として広く東北地方に知られる),青森の帆立て飯, 原ノ町のさけ飯弁当(地もと新田(にった)川のサケとイクラを用いる), 郡山(こおりやま)の磐梯(ばんだい)山のちらしずし(折り箱を磐梯山の山頂にかたどっている), 宇都宮の茶飯弁当(茶飯にマッシュルーム・サクランボ・ノリ・グリンピース・パセリをふりかけて飾る。おかずはかんぴょう・鶏肉・ゆで卵・こんにゃく・がんもどきなど), ひさご弁当(ひょうたん形の器を使い, 栃木県名産のシイタケを使ってたき, 上に卵そぼろ・刻みのり・グリンピースなどをあしらう),黒磯(くろいそ)の九尾ずし・九尾釜飯(鳥羽(とば)上皇の寵姫(ちょうき)玉藻前(たまものまえ)が実は金毛九尾の妖狐(ようこ)であったという殺生石*(せっしょうせき)の伝説に基づく)。

〈関東・中部地方〉 大宮の盆栽ずし(名物の盆栽市にちなみ, 多治見製の器を使用し, すしごはんの上に置き石になぞらえて一口いなりを3個並べ, 卵・チーズ・焼き肉・エビ・キュウリなどが載せてある),高崎のだるま弁当(開運の福達磨(だるま)で知られる達磨寺にちなんだもの。シイタケ・たけのこ・ハス・糸ごんにゃくのうま煮に鶏肉を添える),長岡の大名ずし(参勤交代に携行した弁当にちなみ, 信濃(しなの)川を上るサケを塩づけにして細長く切ったものをしんに巻いたのり巻きずしとちらしずしが詰めてある), 横川の峠の釜飯(釜飯弁当の開祖, 益子焼(ましこやき)の釜を用いている), 長野のきじ焼き弁当(狩猟地での宴にキジやウサギを焼いて食べたという故事にならった駅弁。現在は鶏肉を用いる。器は漆黒の抹茶(まっちゃ)茶わんふうで, ふたに善光寺の智栄上人(ちえいしょうにん)直筆の〈静〉の1字が焼き付けてある), 富山のますのすし(長さ60cmに及ぶサクラマスを用いる), 金沢のおにえずし





エクアドルの国旗 1845年に制定。独立前に属していた大コロンビア連邦の三色旗に紋章を加えたもの。紋章にはアンデス山脈のコンドル, 太陽と赤道, チンボラソ山, 海運と貿易を表わす海と蒸気船が描かれている

(〈にえ〉は神に供える食物,特に魚・鳥獣をいう。加賀の一の宮として北国の一大勢力であった白山比咩(しらやまひめ)神社で5月6日に行なわれるおにえ祭りの当日, 町家でつくった押しずしに由来するもの), 上諏訪(かみすわ)の諏訪湖弁当(淡水魚と山菜の弁当で, ワカサギのくし焼き, ウナギのかば焼き, エビの甘露煮, コイのから揚げ, 凍り豆腐, ハチの子, たけのこ, ピーマンの油揚げ, 卵焼き, セロリのかすづけ, ダイコン・ゴボウのみそづけなど),千葉の焼きはまどんぶり(内房一帯でとれるハマグリを焼いたもの),横浜のシューマイ弁当, 大船のアジの押しずし, 小田原のおたのしみかまぼこ弁当, 浜松のうなぎ飯, 豊橋(とよはし)のちくわ弁当・いなりずし, 名古屋のとりご飯, 岐阜のあゆずし(1904年から売り出されている), 飛騨金山(ひだかなやま)の葉巻きずし(飛騨川のマスを塩づけにし, 細かく刻んですし飯に混ぜ, ショウガの葉で巻いたもの),松阪(まつさか)の牛肉弁当(松阪ウシをぶどう酒・みりん・しょうゆで調味したしるにつけて網焼きしたもの),新宮のさんまずし, めはりずし(きこりが山に携行した握り飯で,目を見張らなければ食いつけないほど大きかったのでこの名がある。すし飯にゴマを混ぜ, 塩づけのタカナを二杯酢で湿したもので包み, 小さい俵形に握る)。

〈中国・四国・九州地方〉 福知山のくり飯, 鳥取のかにずし(駅弁かにずしの元祖), 下関(しものせき)のふぐ飯(ふぐ雑炊の感じにたきあげてある), 高松のあなご飯(アナゴの頭や骨でとったスープでご飯をたき, アナゴのかば焼きを載せてある), 三角(みすみ)のタイの姿ずし,宮崎のしいたけ飯(ここのシイタケはかさが下向きで裏が白っぽく, 肉の厚い優良品。それを含め煮にして載せ, 鶏肉そぼろと金糸卵をあしらったもの)。

〔塩川ふみ〕

えきめんけい 【液面計】 タンク中の液面の位置をはかる計器。液位計ともいう。特に水の液面をはかるときは, 水面計・水位計ということがある。タンク中の液面の測定は,貯蔵量をチェックしたり,液面の位置を一定に保つ場合などの目的で行なわれる。種類は非常に多いので,実際には測定範囲・精度, 液体の種類および性質, 開放か密閉か, 変動の速さなどにより選択する。ふつう使われる液面計は, タンクの側面にガラスなどの透明な細管を取り付け, ものさしで直接測定するゲージグラス, 液面に浮かべたフロート(浮子)の動きを機械的・電磁気的に取り出すフロート式, 圧力計あるいは差圧計を用いて $p=\gamma h$ (ただし, p:圧力, γ:比重量, h:液面の高さ)を測定し液面を求める圧力式, ならびに放射線・超音波・静電容量などを利用した方法のものである。

〔土屋喜一〕

えきり 【疫痢】 赤痢菌や病原性大腸菌の感染による中毒性疾患。夏季高温多湿の候に多く, 幼児期に多い。発病も経過も急速なので, 俗に〈はやて〉とか急症などともよばれる。症状としては高熱, 粘液性の下痢があり, 脳症状としてけいれん・意識障害・嘔吐(おうと)・嗜眠(しみん)がある。さらに循環障害も伴い,脈搏頻数(みゃくはくひんすう)細少, 四肢(しし)冷たく, チアノーゼなどを主症状とする。最近, 幼児の栄養状態がよくなり, 抗生剤が使用されてからほとんどみられなくなった。

〔高橋悦二郎〕

えきれい 【駅鈴】 律令(りつりょう)制の駅制*において, 駅使に与えられた鈴。中央と諸国に一定数を備え, 駅使の位に応じて剋(きざみ)をつけた鈴を支給した。駅使は鈴の剋数に応じて駅ごとに人馬を調達し, 鈴を鳴らしながら往来した。現在, 隠岐(おき)(島根県)国造(くにのみやつこ)家に伝えるものが唯一の遺品といわれる。

エクアドル(共和国)〔Republic of Ecuador, República del Ecuador〕 南アメリカ大陸北西岸, アンデス山中にある共和国。国名はスペイン語の〈赤道〉の意。面積は28万3,000km²で南アメリカの諸国中でウルグアイに次いで小さい。人口835万(1978)。首都はキト。

【自然・住民】 チンボラソ山(6,272m)やコトパクシ山(5,978m)などの高山を含んだアンデス山脈が中央部を南北に走り, 国土の

半ばは標高2,000～3,000 mの高原である。したがって，首都の北部を赤道が通る熱帯の国ではあるが，高地という条件から気候は涼しく，キトの年平均気温は12℃で過ごしやすい。しかし，東部のアマゾン川上流域，西部の太平洋に面した海岸平野には，熱帯雨林気候に支配される低地が広がり，これらの地域は暑さがきびしく，かつては黄熱病などの風土病が猛威をふるった。また，ウミイグアナ・ゾウガメなどの生物の生息で知られるガラパゴス諸島が西方太平洋上にあり，同国の領有地となっている。小国ではあるが1 km² あたり17という，南米諸国第1の人口密度を示す。住民の50%はインディアン，30%はメスチゾとよばれるインディアンと白人との混血，残りがスペイン系の白人で，住民の58%が高原地域に住む。カトリック信者が多く，スペイン語を話すが，住民の45%近くが文盲といわれる。

〔産業・経済〕 主産業は農業であるが，国土の大半が森林におおわれ，耕地面積は13%にすぎない。高原地帯では，自給用のトウモロコシや麦類を粗放的に栽培し，ウシやヒツジを飼って，自給自足の生活をしている。西部の海岸低地ではカカオ・バナナなどの栽培が盛んであり，低地に続く山腹斜面ではコーヒーの栽培とパナマ帽の生産が行なわれている。これらは同国の主要輸出品であり，グアヤキル港からおもにアメリカ合衆国へ積み出される。港市グアヤキルは海岸低地の農業の中心地であるとともに，同国最大の貿易港であり，キトとは鉄道で結ばれている。この鉄道のほかは交通機関は発達しておらず，特にアンデス山脈を越えて高原地帯と海岸低地とを結ぶ交通は，不便をきわめる。近代工業はグアヤキルに食品工業などの軽工業がみられるほかは発達せず，自給にも足りないわずかな石油の産があるほかは地下資源にも恵まれていない。

〔歴史・政治〕 15世紀後半は，インカ帝国の一部であったが，帝国滅亡後，1534年からはスペインの植民地となった。19世紀のはじめ，S.ボリバールの指導のもとに，コロンビア共和国の一部として独立(1822)し，1831年共和制に基づく単独独立国となった。しかし，山地の貧しい住民と海岸地域の商業的農業に従事する農民とが対立し，政情は容易に安定しなかった。またコロンビアやペルーとの国境がいまだに不分明で，国境紛争が絶えない。1945年の憲法発布以後は，政情はようやく民主主義的な安定をみせるようになってきた。しかし，1963年軍部のクーデターによって憲法は停止され，現在は軍事委員会が政治の実権を握っている。1918年野口英世(ひでよ)が黄熱病などの研究でグアヤキルを訪れている。〔小栗　宏〕

エクアパック 〔EQUAPAC〕 ⇨国際協同海洋観測

エクイテス ［equites］ 古代ローマの騎士身分。はじめ，馬に乗って軍務につく文字どおりの騎士層をさした。第2次ポエニ戦争ごろから，元老院身分に次ぐ第2身分をさすようになった。共和政末期になると，元老院階層に商業活動が禁止されたのに乗じ，第2身分の人々は属州との通商・金融・国営事業や徴税の請負などを担当し，ばくだいな財産をたくわえて一種の商業資本家層を形づくった。このような階級分化が国内の混乱，三頭政治出現の一因となった。ローマ帝政期になると彼らは宮廷官僚となった。〔高山高雄〕

エクジスタンス ⇨実存

エクジソン ⇨脱皮ホルモン

エクスクラーフェン ［Exklaven］ 領土の飛び地のことで，領土の一部が他国の領土によってその周囲をすっかり取り囲まれているような場合，この飛び離れた部分をいう。これに対して，取り囲む部分をエンクラーフェンという。中世にはこの形は数多くみられたが，国民国家が形成されるとともにしだいにみられなくなった。インドに接し，東西に分かれていたかつてのパキスタンは形態上この例といえる。

エクスター ⇨X線星

エクスタシー ［ecstacy］ 主客の対立を超越した，忘我・恍惚(こうこつ)の境地，あるいは神との合一の体験をさすことば。ギリシア語ekstasis(自己の外に立つこと)に由来する。宗教的にはシャーマニズム，ギリシアのディオニュソス崇拝，オルフィズム，ヘブライの預言者の体験に大きな役割を果たしている。《新約聖書》の〈異言を語る〉描写もこれをさす。一般に神秘主義と結びつき，哲学史の上でもフィロン・プロチノス・ボナベントゥラ・エックハルトらにこれの尊重がみられる。なお，てんかん・精神分裂病・ヒステリーなども類似の状態を示すことがあり，宗教的・神秘的体験と病理的現象とは完全に区分することは困難であるが，やはり根本的相違があると考えられる。〔石井忠厚〕

エクスプレス ［L' Express］ フランスの代表的週刊紙。1953年創刊。進歩的政治論説で知られ，おもに知識人に強い影響力をもつ。1955年末から4か月ほど日刊となったこともある。1957～1958ごろアルジェリア問題で政府を批判して押収されたことは有名。1970年9月1,000号を迎えた。パリで発行され，発行部数は約67万(1970)。

エクスプローラー ［explorer］ アメリカの初期の科学観測用人工衛星シリーズの名称。ソ連最初のスプートニク1号に遅れること4か月，1958年1月31日にアメリカ最初の人工衛星エクスプローラー1号が打ち上げられた。4段ロケットのジュピターCで打ち上げられ，最終段は重さ14kgで観測機と無電機を積み，近地点360km，遠地点2,550kmの楕円(だえん)軌道を回る人工衛星になった。バン-アレン帯は，このシリーズ中に発見された。〔原田三夫〕

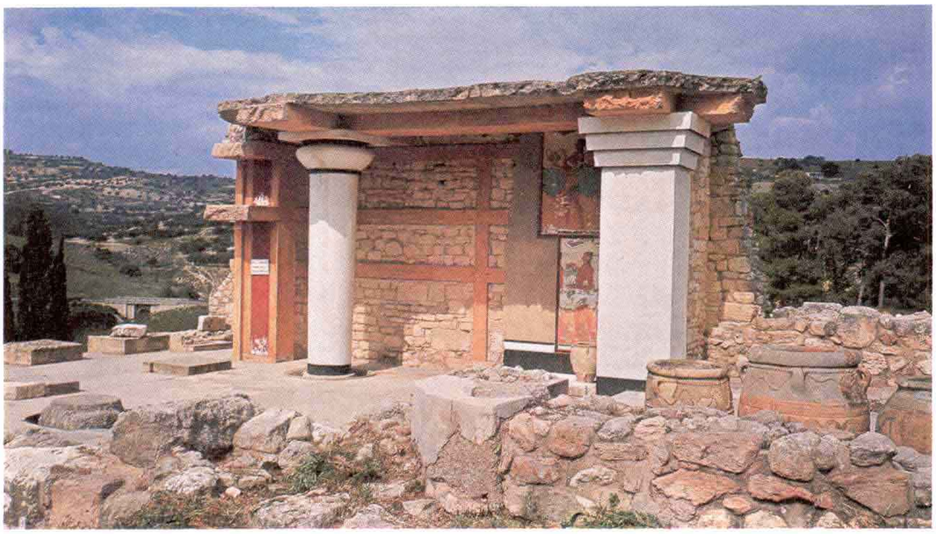
えぐち 【江口】 能の曲名。三番目物。観阿弥(かんあみ)作という。西行が摂津(大阪)の江口の里で遊女に一夜の宿を求めて歌問答をした伝説に基づく。旅僧がこの江口の君の墓所で，そのときの西行の歌を口ずさんでいると，女が現われて伝説を語り，自分が江口の君の亡霊だと言って消えうせる。やがて屋形船の作り物が出され，3人の遊女の現われる中にさきほどの江口の君があり，ゆったりした船遊びのありさまを見せたあと，舞を舞い，やがて普賢菩薩(ふげんぼさつ)となって西の空に飛び去る。シテは江口の君の亡霊，ワキは旅僧，間狂言(あいきょうげん)は所の者。後ジテは船遊びの遊女2人を伴う。舞は序之舞である。長唄(ながうた)《時雨(しぐれ)西行》はこの曲を原作とする。〔長尾一雄〕

えぐちきよし 【江口渙】 (1887～1975) 小説家。東京麹(こうじ)町の生まれ。1916年(大正5)東京大学英文科中退。《帝国文学》の編集員などを経て，1920年日本社会主義同盟の中央執行委員となった。1929年(昭和4)〈ナップ〉に加盟。《かがり舟》を処女作とし，《火山の下に》でマルクス主義への傾斜を示した。代表作として《性格破産者》があげられる。

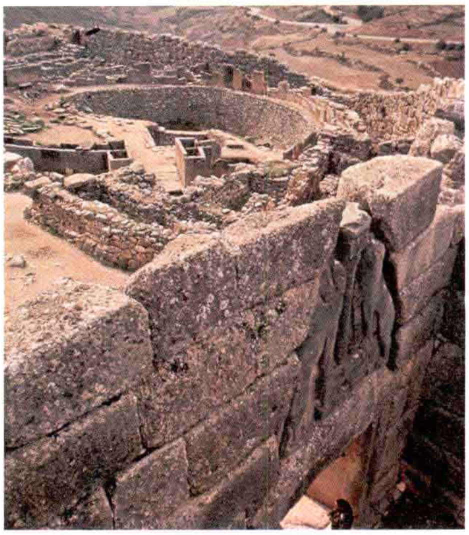
えぐちたかや 【江口隆哉】(1902～1977) 舞踊家。青森県生まれ。本名捨松。高田雅夫(まさお)・せい子門下。1931年(昭和6)同門の舞踊家宮操子(みさこ)とともに渡独し，ビグマンの舞踊学校でモダンダンスを学ぶ。1933年帰国後，〈江口・宮舞踊団〉を結成，本格的なドイツ系モダン-ダンスの創作に努めた。〈わかりやすいモダンダンス〉をモットーに，舞踊劇ふうの作品を多く発表し，モダンダンスの普及に尽くした。代表作は《プロメテの火》(1951年度文部大臣賞受賞)《日本の太鼓》など。

エグバート ［EgbertまたはEcgberht］ (775ごろ～839) エセックス王。在位802～839年。若年のころに，イングランド7王国の最強国マーシアの王に追われ，フランク王国に亡命し，カール大帝の保護を受けた。802年帰国して即位。イングランドの諸小王国を次々に隷属させ，エセックス王の宗主権を認めさせてイングランドを統一した。

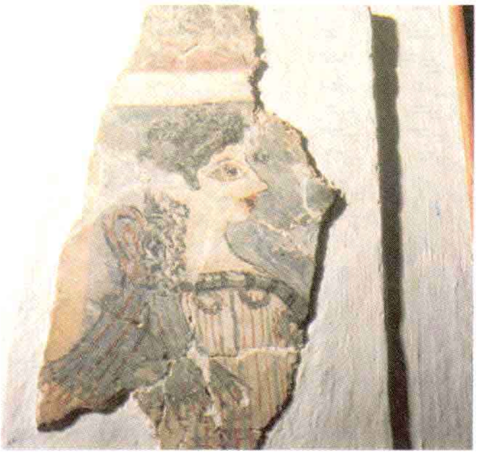
エクマン ［Vagn Walfrid Ekman］ (1874～1954) スウェーデンの海洋物理学者。ルンド大学教授。従来の海流の理論に，地球の自転と海水のうず粘性を導入した新しい理論(すなわち，北半球では海流の方向は風の方向に比べ20°～40°右にそれる)を提出，これを北氷洋の氷の流れ方から確かめた。このほか，海水などの研究が有名で，また海流を計測するための流速計を考案した。父(Gustav Ekman，1852～1930)もスウェーデンの海洋学者。滴定法による塩分



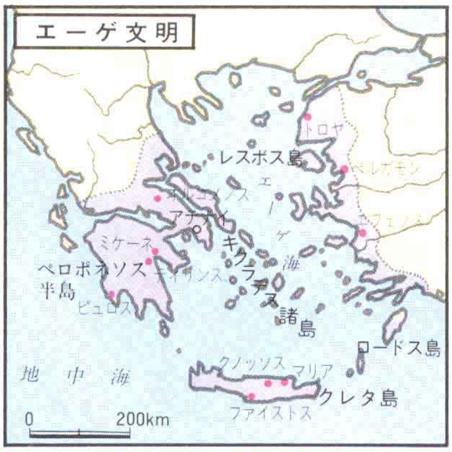
クレタ島クノッソス宮殿の西南プロピュライア。宮殿の公式の玄関にあたり，壁画《杯を持つ人》(復原)などがある



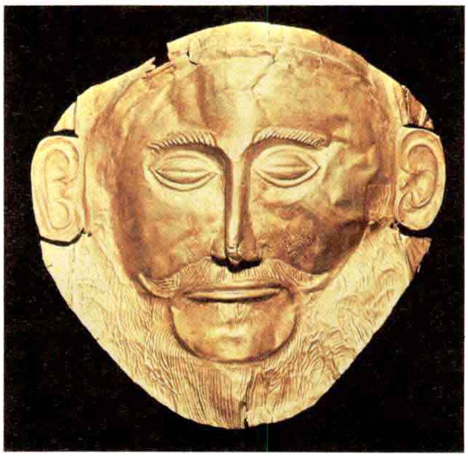
ミケーネの王城の獅子門。その奥に円形墳墓などの墳墓群が広がっている



《パリの女》の名で知られるクレタ島クノッソス宮殿の壁画。はなやかな宮廷生活がうかがわれる　イラクリオン博物館蔵



エーゲ文明



ミケーネ出土の紀元前16世紀ごろの《黄金のマスク》。アガメムノンのデスマスクともいわれる　アテネ国立考古博物館蔵

濃度の測定など，海洋観測の新生面を開拓した。〔根本順吉〕

エクメーネ［Ökumene］　地球上で人間がつねに居住しうるところをいい，居住地域と訳されている。人間は地上に住みついて以来，たえずエクメーネを拡大し，水平的には極地や砂漠(さばく)に向かって，垂直的には山麓(さんろく)から山頂に向かって居住地を前進させたが，技術の進歩は今後いっそうこれを拡大させるであろう。エクメーネに対し，非居住地域をアネクメーネという。

エグモント(山)［Egmont］　ニュージーランド北島西端にある火山。高度2,517m。万年雪をいただき，富士山に似た美しい山容をもつ。先住民マオリ族はタラナーキとよんでいたが，1770年イギリスの探検家クック*によってエグモントと命名された。種々の設備が整い，夏季の登山者が多い。北麓(ほくろく)のニュープリマスでは酪農が盛んに行なわれる。

エグモント　ゲーテ*の戯曲(初稿1775年，改作1787年)。5幕の悲劇。新教を抑圧しオランダに圧制をしいたスペイン王フィリップ2世の施策に抵抗し，祖国の独立を図って捕えられ刑死した貴族ラモラル-エグモント(1522～1568)を主人公とする。ゲーテは彼を壮年から独身の青年に変え，かつ市民の娘クレームヒェンとの恋愛を話の筋に加えるなどの虚構を施した。全編に自由への熱情がみなぎり，ベートーベンが感動して《エグモント序曲》を作曲した。〔北条元一〕

エクレア　⇨シュークリーム

エクレクチシズム　⇨折衷主義

エクロジャイト［eclogite］　マグネシウムを多量に含むザクロ石*とナトリウムやアルミニウムをかなり多量に含むキ石*からなる岩石。リュウキ岩ともいう。化学組成はほぼ玄武岩*と同じである。かなり広い温度範囲にわたり，高圧のもとで形成される。多くは地殻*(ちかく)内でできた変成岩*であるが，一部にはマントル*上部でできた火成岩と考えられるものもある。日本では愛媛県の赤石山に産する。

エーゲ(海)［Aege］　地中海の東部，東をトルコに，北と西をバルカン半島，南をクレタ島に囲まれた海域。面積17万9,000km^2。ダーダネルス海峡からマルマラ海へ，さらにボスポラス海峡を経て黒海へ通ずる。この海域には島が多く，〈多島海〉ともいわれる。もとは大陸の一部であったのが氷河時代に陥没し，その際海面に残った陸地がこれらの島々であるといわれる。ギリシア人が紀元前からこの海域に進出し，高度な文化が展開した。中でもエーゲ文明*期には，クレタ島を中心とするクレタ文化と，それに続くミケーネ文化がこの海域を文化圏として栄えた。クレタ島のクノッソス宮殿*のほか，ペロポネソス半島のミケーネ・チリンスの城壁など，ギリシア文明の遺跡が多く残っている。静かな海はサンゴや海綿に恵まれ，島には純白の大理石を産し，地中海式気候特有の柑橘(かんきつ)類やブドウなどの産も多い。〔長津一郎〕

エーゲぶんめい【エーゲ文明】　BC 2000年代を最盛期として，クレタ島を中心とするエーゲ海の島々とその周辺に広まった

青銅器を中核とする文明。エーゲ文明発見のいとぐちをつくったのは1870年から始まったシュリーマン*のトロヤ・ミケーネなどの発掘であるが，この発掘に刺激され，1900年クレタ島のクノッソスを発掘したイギリスの学者エバンズ*によってエーゲ文明と名づけられた。エバンズはクノッソスでギリシア神話にラビュリントス(迷宮)として伝えられた複雑な構造をもつ王宮の遺跡とともに多数の粘土板文書を発見した。彼はこの文書に書かれた文字を神聖文字(象形文字)と2種の線文字(A・B)に分類した。そののち線文字Bでしるした文書はギリシア本土のミケーネ・ピュロスからも発見され，1952年イギリスの若い建築家ベントリス*によって解読された。

エーゲ文明は先進オリエント文明の影響を受けて興ったが，そのにない手は不明で，おそらく小アジア系の民族と推定される。そのおよその年代は出土したつぼの様式を基準として別表のように区分される。

〈クレタの海洋文明〉 クレタ文明はクレタ島の伝説的な王ミノスの名にちなんでミノア文明ともいわれる。クレタ文明は初期ミノアンの段階に新石器から銅器を経て青銅器時代へ発展している。中期ミノアン第1期にはクノッソスをはじめファイストス・マリアに最初の王宮が築かれた。クノッソスは城壁をもたず，王宮は台地にあった。王宮の構造は複雑で広い中庭を囲んで四方に多数のへやがあり，その中には玉座の間や王妃の間，浴室・貯蔵室・記録室，職人の仕事場などがあり，水洗便所や下水設備も巧みにつくられている。壁画やつぼ絵は流動的なタッチで海洋生物・女人像や自然の風物が描かれ，〈パリの女〉と名づけられたモダンなヘアスタイルや衣装を着こなした女人の絵は特に有名である。はなやかな宮廷生活の外では，一般人民はヒツジ・ヤギを飼育し，大麦・小麦・ブドウ・オリーブなどをつくっていた。王は人民からみつぎ物を取り立てたほか，エーゲ海を舞台とする通商貿易によって富を獲得した。こうしてエーゲ文明は海洋文明の性格が強く，エジプト・メソポタミアの文明のほか，シリアのウガリット，小アジアのヒッタイト，ギリシア本土などとも交流があり，オリエント世界とギリシア世界との中間にあって両者を媒介する役割を演じた。中期ミノアンにはクノッソス・ファイストス・マリアがおそらく地震で破壊されたが，後期ミノアン第1期には再建され，クレタ島におけるエーゲ文明の頂点を迎えた。しかしBC1400年ごろにはクレタ島全域に再び地震による大破局が起こり，その後まもなくギリシア人の支配を受けるようになった。

〈ミケーネ・ピュロスの王国と文明〉 他方ギリシア本土では，中期ヘラディックのはじめにギリシア人がバルカン半島を南下し，後期ヘラディックにはクレタ文明を知り，その強い影響を受けてミケーネ文明をつくり，BC1500～BC1200年ごろが最盛期であった。ホメロスの詩編にアガメムノンの居城とうたわれたミケーネの巨石で固めた城壁・獅子門(ししもん)，〈アトレウスの宝庫〉とよばれるハチの巣形の墳墓，〈クリュタイムネストラの墓〉とよばれる同時代の円墳，それより約100年古いとされる〈アイギストスの墓〉など，クレタ文明と異なった北方的要素を示しており，またシュリーマンやその後の発掘によって知られた遺体は，男は黄金製のデスマスクをつけ，女は金の装飾品とともに葬られ，精巧な細工を施した刀剣や銀の大杯なども発見された。ミケーネ文明の遺跡としてはほかにミケーネ南方のティリンスや中部のオルコメノスおよびペロポネソス半島の西南端に近いピュロスなどがある。特にホメロスの詩編にネストルの居城と伝えられているピュロスでは，大きな炉が中央にある〈玉座の間〉を中心に〈王妃の間〉や倉庫や文書室が発掘された。ミケーネやピュロスの出土文書によって知られる諸王国は王・貴族・平民・奴隷の身分があり，王はテメノスとよばれる所領をもち，土地・家畜・奴隷の大所有者で，また各種の専門手工業者を従え，外国貿易も行なった。王は全国土の完全な所有者ではないが，多数の村々を支配し，村の首長や補佐役を任命し，村々の貢納を監督させた。このようにミケーネ時代のギリシア人の王国はオリエント的な専制君主国に近い性格をもっていたが，共同体の経済的自主性によって王権は制限されていた。これらの諸王国はBC1100年ごろ内部の紛争とドリス人の侵入によって崩壊し，ミケーネ文明も終わりを告げた。　〔秀村欣二〕

エーゲ文明時代区分

年代		クレタ島	ギリシア本土	キクラデス諸島
初期	BC3000～BC2800	ミノアン I	ヘラディック I	キクラディック I
	BC2800～BC2500	〃 II	〃 II	〃 II
	BC2500～BC2200	〃 III	〃 III	〃 III
中期	BC2200～BC2000	ミノアン I	ヘラディック I	キクラディック I
	BC2000～BC1800	〃 II	〃 II	〃 II
	BC1800～BC1600	〃 III	〃 III	〃 III
後期	BC1600～BC1500	ミノアン I	ヘラディック I	キクラディック I
	BC1500～BC1400	〃 II	〃 II	〃 II
	BC1400～BC1100	〃 III	〃 III	〃 III

エコー [Echo] ギリシア神話に現われる森のニンフ*の名。〈こだま〉の意。パン*の愛を拒んだため，パンの羊飼いたちに八つ裂きにされてこだまに変わったという。また一説には，彼女がおしゃべりなのをヘラ*が戒めて，相手のことばの最後の一つをくり返して言うことしかできないようにした。やがてエコーはナルキッソス*を恋したが拒まれ，嘆き悲しむうちに姿は消え，声だけが残ってこだまになったともいわれる。

エゴ ⇨自我

エゴイスト メレディス*の小説(1879)。富裕の美青年が貧しい娘の純情をもてあそびながら，上流階級の娘と婚約するが，打算と虚栄の利己心を見破られ，純情な娘のもとにもどっていくという物語。知的な警句と観念的な人物造形は，当時優勢であった自然主義とは異質なものである。

エゴイズム [egoism] 利他主義に対立する利己主義のこと。①理論的エゴイズム：論理的には自分の心の中にあるもの，自我しか認識できず，存在するのは自我のみと主張する。主観的観念論・独在論をさす。②実践的エゴイズム：万物の尺度は自我であるとするプロタゴラス*，いわゆる自己満足を説くキュニコス派*・エピクロス派，自我を自分のすべての行為の目的とみなすホッブズ*などに顕著にみられる。一般に自己にのみ関心を集中し，自分の立場は万人が当然認めるべきものとする独断的な傾向をもつ。

徹底したエゴイズムは利他主義に通じることもある。たとえば宗教において，自己の魂を救済するには他人の魂を救う努力が必要とされる場合である。エゴイズムは社会的には社会を個人の集合とみる原子論的立場をとり，倫理的には絶対的な善悪の区別を認めず，善悪は各人によって異なるとする。ショーペンハウアー*・ニーチェ*の哲学なども反社会的という意味でエゴイズムとみなされることがある。　〔玉井　治〕

えこう【回向】 仏教において，自分の修した善行功徳を自分の悟りや菩提(ぼだい)のためのみならず，他の衆生のためにめぐらして，その衆生に及ぶよう差し向けること。慧遠*(えおん)は《大乗義章》で回向を，自分の修した善行をみずからの菩提のために差し向ける〈菩提回向〉，他の衆生を利益するために差し向ける〈衆生回向〉，真如*の理を悟るために差し向ける〈実際回向〉の3種に分けて説明している。浄土教ではふつう2種回向といい，自分のなした善行功徳を他の衆生にめぐらして，ともに浄土に往生を願う〈往相回向〉と，浄土に生まれてのち再び苦界に立ちもどって，すべての衆生を教化し，ともに浄土に向かわしめる〈還相(げんそう)回向〉とを説く。しかし親鸞*(しんらん)はこれをすべて阿弥陀仏*(あみだぶつ)の本願力によって仏の

側から振り向けられるものとして〈願力回向〉の説を立てている。また一般には仏事法要を営んで，その功徳が死者の安穏をもたらすよう振り向けることも回向とよんでいる。➔往相・還相　〔大谷旭雄〕

えこういん【回向院】 東京都墨田区東両国にある浄土宗の寺。国豊山無縁寺という。1657年(明暦３)の明暦の大火*(振袖(ふりそで)火事)による約10万人の無縁の死体を幕府がここに埋葬し，その回向のために建立(こんりゅう)した。開山は増上寺の僧遵誉。その後も事故による死者，無縁仏・刑死者・牢死(ろうし)者を供養し，1855年(安政２)の安政の大地震*の際の死者も葬られている。1923年(大正12)関東大震災で焼失したが，のち再建された。1705年(宝永２)作の銅製阿弥陀(あみだ)如来像が安置され，加藤千蔭(ちかげ)・山東京伝・鼠小僧次郎吉(ねずみこぞうじろきち)らの墓がある。死者の霊を供養するため，寛政年間(1789～1800)から年２回の勧進相撲(すもう)が行なわれて，相撲の発展に貢献し，1909年(明治42)境内(けいだい)に国技館*(第２次世界大戦後，台東区蔵前に移転)が建てられた。　〔藤本昌子〕

えごうしゅう【会合衆】 室町・戦国時代，都市の自治組織の指導者となった豪商らをいう。伊勢(いせ)(三重県)の宇治・山田・大湊(おおみなと)などにその名が散見するが，最も著名な堺(さかい)では，日明(にちみん)貿易によって経済的地位を高め，納屋衆*36人の合議によって自治的市政が行なわれた。戦国の争乱に際しては町の周囲に濠(ほり)を掘り，牢人(ろうにん)を招いて武力をたくわえるなどの自衛手段を講じたが，織田信長(のぶなが)の矢銭*の要求を拒否したため，自治と独立を奪われた。　〔鈴木英雄〕

エコーえいせい【エコー衛星】 アメリカの受動型の通信衛星。マイラーとよぶプラスチックでできた皮膜にアルミめっきを施した大気球。これは，折りたたまれたまま打ち上げられ，軌道に乗ると中の薬品がガス化してふくらむようになっている。1960年には直径30ｍのエコー１号が，1964年には直径41ｍの２号が打ち上げられ，２号では，テレビ中継も試みられた。

エコセーズ［écossaise］ 舞曲の一。イギリスのいなかで踊られたグループによる舞踊の一つで，18世紀の後半からイギリスやフランスでこのための音楽が作曲された。名まえはフランス語で〈スコットランドの〉を意味するが，特にスコットランドに関係があるわけではない。19世紀には，ベートーベンとシューベルトが速い４分の２拍子の舞曲にこの名をつけている。

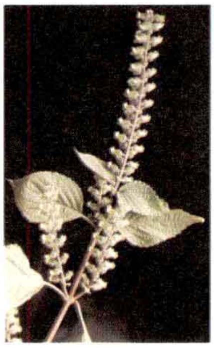
えごのき【斉墩果】 双子葉植物・エゴノキ科。山野にはえる落葉小高木で，高さ５～７ｍ。若枝には星状毛があるが，のちに無毛となる。葉は互生し卵形で鋸歯(きょし)がある。５～６月に枝の先に総状花序を出す。花は長さ２～３cmの柄をもち下垂する。白色の花冠は５裂し，おしべ10，めしべ１がある。果実は灰白色の卵形で長さ１～1.2cm，９～10月熟すと殻(から)が破れ，かっ色のかたい種子が１個出てくる。庭木にするほか，材は将棋のこま，小楊子(こようじ)に用いられる。　〔加藤僖重〕

エコノミスト［The Economist］ 1843年イギリスのロンドンで創刊された世界最古の週刊経済雑誌(リベラル的中立系)。ニュー-ステーツマン*・リスナーとともにイギリスが世界に誇る高級誌で，毎週の経済問題と，一般的な政治情勢を掲載。その論評は世界的に定評がある。発行部数は，現在約60,000，創立者は初代編集長のJ.ウィルソン(銀行家・政治家)，1956年以降の編集長はD.タイヤーマン。日本では毎日新聞社が同名の週刊経済雑誌(1923年〔大正12〕創刊)を発行している。　〔須藤泰秀〕

えごのり【牛毛石花菜】 紅藻(こうそう)植物・イギス科の海藻。日本各地の低潮線下のホンダワラ類の体にからみつき着生する。径１mmぐらいの茎が二またに分枝し，先端がかぎ形に曲がって互いにからみ合い20cmぐらいのかたまりになる。有性生殖の結果果胞子を，無性世代は四分胞子を生じて繁殖する。煮てこした液の固まったものをえごてんなどといい，裏日本では食用とする。また，福岡のおきうど*は有名。寒天原藻として主要なものの一つである。



エゴノキ

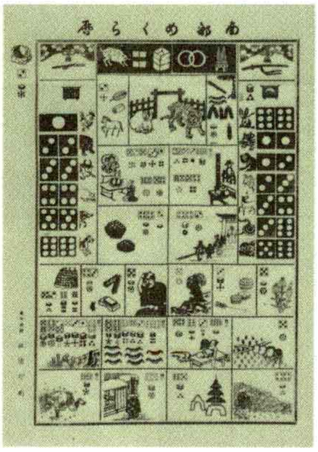


エゴマ

えごま【荏胡麻】 双子葉植物・シソ科。東南アジア原産の一年草。広く栽培され，また野性化している。高さ60～90cmで茎の断面は四角。葉は卵円形。夏～秋に白色の唇(しん)形をした小花を穂状につける。果実は油を多く含み，これからえごま油がとれる。この油は乾燥性が高いので，雨がさや油紙に用いられる。

えごよみ【絵暦】 絵入りあるいは絵だけで暦日を示した暦。盲暦・座頭暦ともいう。日本では南部(岩手県)の南部暦が最も古く，江戸中期にすでにつくられており，太陽暦に改めたものが今日も用いられている。絵には十二支の動物やその月の行事，また判じ絵によるものもある。西洋では中世に貴族が自己の生活や領民たちの各月に即した生活を描いた暦がつくられた。また，フランクリン*がつくった〈貧しきリチャードの暦〉には農耕生活を描いた絵に加えて，勤勉と節約とを訴える簡明なことわざふうの文句が書かれ，当時の開拓農民の生活規範ともなった。　〔斎藤高夫〕

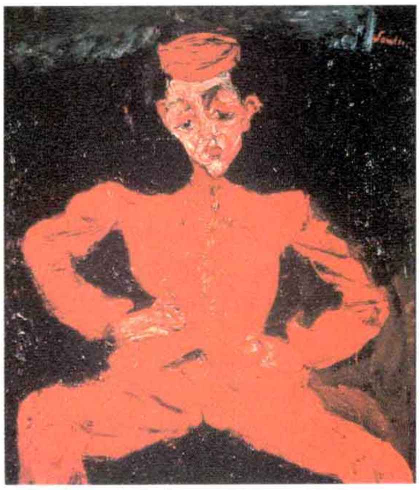
エコール-ド-パリ［École de Paris］ パリ派の意。おもに20世紀の前半，特に第１次世界大戦後の数年間に，パリに住んで制作した一群の画家をさすが，彼らは特定の理論・主義によって統一されてはいなかった。しかし，外国人の画家の多いせいもあって，一様にエキゾチックなふうを漂わせ，多くはモンパルナスに住み，パリの風物を描いていた。モジリアニ*(イタリア)・キスリング*(ポーランド)・シャガール*(ロシア)・スーチン*(ロシア)・藤田嗣治*(つぐじ)(日本)らがその画家である。ほかに，フランス人のユトリロ*・スゴンザック*らもこ

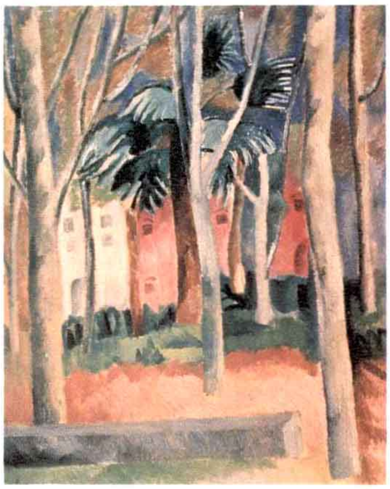


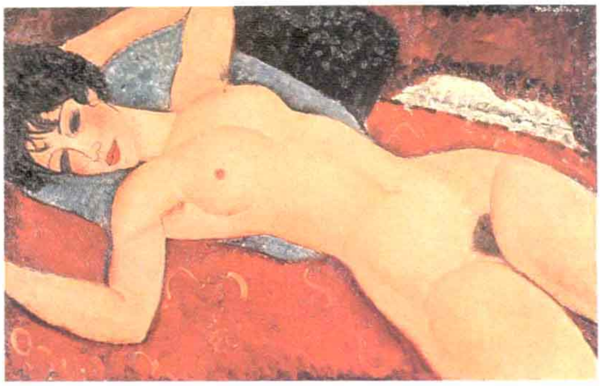


絵　暦
(左)南部盲暦
(右)ベリー公の絵暦(１月)。祝宴の席で聖職者と歓談するベリー公　コンデ美術館蔵









エコール-ド-パリ

(上左)ユトリロ 《ラパン-アジール》 1910 パリ国立近代美術館蔵
(上中)スーチン 《給仕》 1927ごろ パリ国立近代美術館蔵
(上右)キスリング 《コートダジュール風景》
(下左)モジリアニ 《横たわる裸婦》 1917～1918

の派に考えられている。なお，マチス*・ピカソ*・ドラン*らをも含めることもある。このほか，上記の画家を第1次エコール-ド-パリとし，第2次世界大戦中に興った〈フランス伝統青年画家〉の作家を第2次エコール-ド-パリとよぶことがある。クートー*らがこの派に属した。さらに現在では，国籍とは無関係に非象形派(ノン-フィギュラチフ)のスーラージュ*・マネシエ*らを称してもいる。〔末吉雄二〕

エコール-ノルマル-シュペリュール [École Normale Supérieure] パリにある国立高等師範学校。1808年，国民公会*によってすぐれた知識をもつ市民に教授法を学ばせることを目標に設立。文部省の直轄下に置かれたが，1903年パリ大学*に所属した。独自の伝統と体制を誇り，学生は18～20歳の年齢層から競争試験により選抜する。エコール-ポリテクニク*と並ぶフランスにおける最高学府とされ，学部は文科(定員30，国語，文法，哲学，地理，歴史)と理科(定員20，数学，物理・化学，博物)に分かれ，基礎教育はソルボンヌ大学*で行なわれている。修業年限は4年，国家試験の合格者はリセ(官立中学校)正教授の資格を得る。なお，在学生・卒業生は《ノルマリアン》とよばれる。

エコール-ポリテクニク [École Polytechnique] パリにある国立理工科大学。1795年国民公会*により，文武の公役務に関する研修機関のため，広い科学的知識をもつ人材を養成すること，理科に特別の素質をもつ学生に才能教育を施すことを目的に設立され，各国の高等技術教育機関の設立に影響を与えた。エコール-ノルマル-シュペリュール*とともにフランスで最もレベルの高い学校といわれ，数学にコーシー*・ポアンカレ*，物理学にカルノー*らを出している。



江差町 ニシンとともに栄え，ニシンとともに衰えた江差町のニシン倉庫。いまは使われていない倉庫があちこちに残されている

エーコンかん 【エーコン管】 ⇨高周波真空管

エサキダイオード ⇨トンネルダイオード

えさし 【江刺(市)】 岩手県南部の市。江戸時代江刺氏の小城下町であった岩谷堂(いわやどう)が，1958年(昭和33)周辺9村を合わせて市制施行。人口37,000。北上川中流に沿い，江刺丘陵を中心に東の高原地帯，西の北上川流域の沖積地(ちゅうせきち)を市域に含む。産業三大別人口比は53：19：28で，低地では水田耕作，高地では野菜の促成栽培や酪農が行なわれる。みそ・しょうゆ・乳業などの工場があるが，近代工業は伸び悩んでいる。東北本線水沢駅から8kmも離れて，鉄道交通は不便であるが，バス路線が放射状に発達し，盛岡～岩谷堂間には急行バスが通じ，東郊の種山高原への観光コースが近年開発されている。特産は岩谷堂だんす・ホップなど。

えさし 【江差(町)】 北海道檜山(ひやま)支庁の町で，支庁の所在地。人口14,000。日本海に面し，江戸時代からニシン漁で大いに栄え，〈江差の五月は江戸にもない〉とうたわれたが，明治の中ごろからニシン漁は衰微し，現在ではホッケ・マス・イカ・コンブ・ワカメなどを水揚げしている。米・ジャガイモ・ダイコンなどの農業も盛んである。民謡江差追分(→追分)が名高い。また，かつて網元が建てたニシン蔵がいくつか残り，中でも横山家のものは道文化財に指定されている。松前・檜山道立自然公園の表口で，奥尻(おくしり)島への定期船が出ている。函館(はこだて)本線の五稜郭(ごりょうかく)から分岐する江差線の終点。

えさしおいわけ 【江差追分】 ⇨追分

エサ-デ-ケイローシ [Eca de Queirós] (1845～1900) ポルトガルの小説家。

詩人ケンタールとともにポルトガル写実主義文学の創始者。鋭い観察力とユーモアと風刺に富んだ近代的な文体で社会を批判した。《従兄(いとこ)バジリオ》《都会と山国》などが代表作。

えさん【恵山】 北海道渡島(おしま)半島東南端の温泉郷を含む道立恵山自然公園の中心をなす火山。恵山岬(えさんみさき)や銚子岬(ちょうしみさき)はその外輪山で,太平洋の怒濤(どとう)に浸食された断崖(だんがい)の景勝地として知られる。

えし【壊死】 全身の死に対して,局所の組織が生活力を失って死んでしまうことをいう。原因としては,物理的・化学的・中毒的害作用,局所の血行障害,神経性障害などがある。顕微鏡的所見としては細胞の核の変性・消失と細胞質の均質化が基本的な変化である。壊死に陥った組織が生理的状態よりも固まったものを凝固壊死,これとは反対に組織がくずれ液状化したものを液化壊死(軟化)とよぶ。

えし【画師】 絵師とも書く。古代において朝廷に直属し絵画制作にあたった職人。奈良時代には画工司*(えだくみのつかさ),平安時代には画所*(えどころ)に属した専門画家を称した。中世以後は広く画家一般をさすようになる。ほかに宮廷・幕府の御用絵師,世俗の町絵師などにも用いられた。

えし【慧思】(515~577) 中国,南北朝時代の僧。天台宗の開祖智顗*(ちぎ)の師で,中国天台宗第2祖とされる。南岳大師ともいう。江南省出身。慧文*から法を授けられ,《法華経(ほけきょう)》によって悟る法華三昧(さんまい)を体得し,現代は仏教衰微のときであるという末法思想*をはじめて唱えた。禅の実修に個性を強く打ち出したので僧や道士から迫害を受けた。河南省大蘇(だいそ)山にこもっていたとき智顗に法を伝えた。著書に《立誓願文》《法華経安楽行儀》がある。〔京戸慈光〕

えじ【衛士】 律令(りつりょう)制において諸国の軍団から毎年交替で上京し,衛門府および左・右衛士府に配置されて,宮門の警備や雑役に服した兵士。722年(養老6)以後は3年交替制になる。はじめ衛門府400人,左・右衛士府600人であったが,以後増減があった。衛士は課役を免ぜられたが,長年の使役のため,逃亡者が続出した。

エーシーエム［ACM］ ⇨アラブ共同市場

えしき【会式】 仏教で行なわれる法会の式事。普通には毎年10月12・13日に行なわれる日蓮*(にちれん)の忌日に修する法会をさし,御会式(おえしき)・御命講をいう。また開山会・御影供(みえいく)・報恩会ともいう。この日,日蓮宗の寺院では日蓮の像をかけ,造花で美しく飾り,もちなどを供え,昼夜にわたって読経し,説教する。夜になると信者は団扇(うちわ)太鼓をたたいて題目を唱え,万燈をおし立てて参拝する。東京都大田区池上本門寺と杉並区堀内(すぎなみくほりのうち)妙法寺が最も盛んである。〔玉山成元〕

えじこ ⇨いずめ

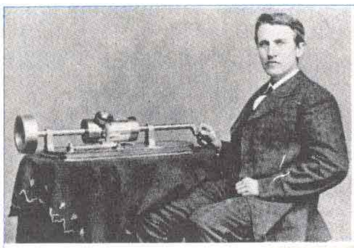
エジソン［Thomas Alva Edison］(1847~1931) アメリカの発明家。オハイオ州ミランに生まれる。父はサミュエル,母はナンシーで,母の7番めの子として生まれた。父はカナダ生まれの材木商兼穀物商人である。7歳のとき,一家はミシガン州ポートヒューロンに移り,わずか3か月間小学校に在学しただけで,おもに母から教育を受けた。1857年ごろ家の地下室に最初の実験室をつくる。1859年鉄道の新聞売り子となり,かたわら汽車の中で化学実験を始める。駅長の子どもの生命を救った礼として電信術を習い,1869年まで電信手をつとめた。その間ファラデーの《電気学の実験的研究》を読んで感銘を受け,電気投票記録機(1868),株式相場表示機(1869)などを発明した。その特許で得た資金をもとにしてニュージャージー州ニューアークに工場を建て,発明に専念した。のち彼の実験所は1876年にメンロパークに,1887年にウエストオレンジに移った。これらの実験所で印字電信機(1871)・二重電信機(1872)・炭素電話機(1876)・蓄音機(1877)・白熱電燈(1879),映画の撮影機・映写機などを次々と発明した。メンロパークにおける1876~1881年の間が最も彼の創造力の盛んな時期であり,特に重要なのは1879年10月21日に成功した白熱電球の製作である。電燈を実用化する世界最初の中央発電所とエジソン電燈会社は1882年に創立された。また,1883年に彼が電球の実験中に発見したエジソン効果は,20世紀になってから,熱電子現象として研究され,エレクトロニクスの基礎を開いた。彼は死ぬまで発明を続け,特許数は1,000を越え,〈発明王〉といわれる。〈天才とは99%が発汗(パースピレーション)であり,残りの1%が霊感(インスピレーション)である〉というのがモットーであった。彼が電球の発明に使用した京都付近の八幡(やわた)のタケにちなんで,日本ではエジソン記念碑が京都市外石清水(いわしみず)八幡宮外苑(がいえん)に建設され,1934年(昭和9)5月3日に除幕された。〔山崎俊雄〕

エジソンこうか【エジソン効果】 1883年,エジソン*は白熱電球のガラス壁の黒くなるのを防ぐための試みとして,金属板をフィラメントの間に設け,この電極をフィラメントの端子に接続してみた。その結果,接続する端子の正・負によって,金属板に電流が流れたり,流れなかったりすることを発見した。この現象をエジソン効果といい,イギリスの物理学者J.J.トムソン*によって,フィラメントから放出される電子によって起こることが明らかにされた。この金属板に流れる電流I_sは,イギリスの物理学者O.W.リチャードソンによって理論的に研究され,主として陰極の材料に固有な仕事関数ϕエレクトロンボルトと陰極温度T(°K)とによって決まり,

$$I_s = AT^2 e^{-\frac{\phi}{kT}} \ (\mathrm{A/cm^2})$$

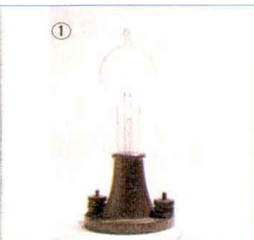
という関係が成立することが示された。Aはリチャードソンの定数とよばれ1.2×10^6 A/m²・°K²,kはボルツマン定数*である。〔伊藤糾次〕

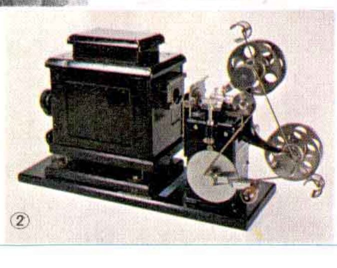
エジソンでんち【エジソン電池】 ⇨電



エジソンと彼の発明した蓄音機

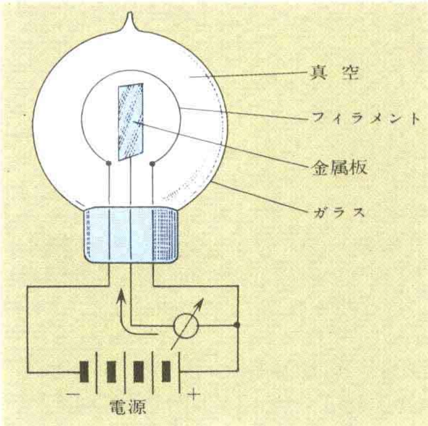
エジソン







①白熱電球
②映写機
③蓄音機(エジソンが明治天皇に献上したもの)



エジソン効果

池

エーシーティーエイチ ［ACTH］ 副腎(ふくじん)皮質刺激ホルモン*(adrenocorticotrophic holmon)の略称。

エジプト ［Egypt］ アフリカ大陸東北隅(とうほくぐう)の地域で，現在の国名はエジプト・アラブ共和国。

エジプトの名称の起こりはギリシア名アイギュプトスによる。地域は厳密にはナイル川第1急流以北の河谷地帯と河口の三角州とをさす。古代エジプト人は自国をナイル川の沖積土(ちゅうせきど)にちなんで〈黒土〉を意味するケメトとよび，外国を〈赤色土の地〉すなわち砂漠(さばく)を意味するデシェレトとよんで区別した。この名称が示すように〈エジプトはナイルの賜物(たまもの)〉(ギリシアの歴史家ヘロドトスのことば)である。現在のアラブ連合共和国の居住可能面積約35,000km²(国土の3.5％)の大半はナイル川流域に属する。降雨量のきわめて乏しい国土は，毎年夏季3か月間のナイル川の定期的増水によって灌漑(かんがい)され，また肥沃(ひよく)な沖積土が形成される。エジプト本土は上下二つに大別される。上エジプトは現在のカイロ付近からナイル川上流第1急流までの幅数キロメートルから30kmに及ぶ渓谷(けいこく)地帯で，乾燥は著しく，農耕のためには灌漑事業が必須(ひっす)であった。下エジプトはナイル川の7分流とその無数の支流が網の目状に流れる三角州で，気候は温和であり，歴史時代の初めには沼沢地が大部分を占め，干拓によって耕地が形成された。上下エジプトの地理的環境の相違，国土が南北に長すぎることにもかかわらず，ナイル川の治水事業の必要性は政治的統一と強大な王権の形成を助長した。

【古代～イスラム征服以前】〈歴史〉 エジプトではBC 5000年ごろから農耕が開始され，北アフリカの乾燥化が進行するのとあいまって，ナイル河谷への定住が始まった。最古の文化は上エジプトのタサ文化および下エジプトのファイユムA文化である。以後，上エジプトにはバダリ文化・ナカダⅠ文化(アムラー文化)・ナカダⅡ文化(ゲルゼー文化)が，下エジプトにはメリムデ文化・マアディ文化が続いた。いずれも新石器文化である。この間に各地に部族国家(のちの地方行政単位であるノモスの祖型)が成立し，灌漑水路の統制の必要性が増大するとともに，分立する部族国家の統合過程が進んだ。伝承によれば，上エジプト王メネス*(史料上のナルメルか)が下エジプト王国を征服して国土の統一を実現した。上下エジプトの境界に新都メンフィス*が建設され，〈初期王朝時代〉(第1王朝～第2王朝，BC 3000ごろ～BC 2700ごろ)を通じて中央集権国家の基礎が固められていった。第3王朝の祖ジェセル王とともに絶対君主であるファラオ*(神王)を頂点にいただく中央集権国家，いわゆる神王国家が完成され，〈古王国時代〉(第3王朝～第6王朝，BC 2700ごろ～BC 2150ごろ)にはいる。ジェセル王の墓であるサッカラ*の階段式ピラミッドはこの強大な王権の確立を明確に表わしている。古王国の最盛期はギゼーのクフ王・カフラー王・メンカウラー王の墓として知られる三大ピラミッドが建造された第4王朝期である。第5王朝および第6王朝にはナイルの第2急流地方まで領土を拡大し，シナイ・パレスチナ・紅海沿岸と盛んに交易活動を行なったが，国内では世襲貴族の勢力が増し，州知事職の世襲化によって地方分権化が進行していった。こうして〈第1中間期〉(第7王朝～第10王朝，BC 2150ごろ～BC 2040ごろ)においては王権の支配は有名無実となり，地方には州侯が割拠し，民衆による社会革命の試み，異民族のデルタ地方への侵入，定着など混乱が続いた。この中からテーベ侯による再統一の試みが成功し，再び中央集権国家が復活した。この〈中王国時代〉(第11王朝～第12王朝，BC 2040ごろ～BC 1780ごろ)には，王は貴族への対抗措置としていわゆる〈庶民〉を積極的に官吏に登用し，国政のささえにしようと試みている。第12王朝は中王国の盛時をもたらし，下ヌビアの征服やファイユム地方の開拓などによって国富は著しく増大した。古代エジプト文学の古典とされる作品の多くはこの時代の作とされている。こののち，王権は再び衰え，〈第2中間期〉(第13王朝～第17王朝，BC 1780ごろ～BC 1580ごろ)にはいった。この時代には混乱に乗じて異民族ヒクソスがデルタ地方に侵入定着し，全土の支配権を握った。しかし，南半部にはヒクソスの宗主権下にテーベの土着王朝が存続し，やがてこの王朝によってヒクソス支配からの解放が達成され，〈新王国時代〉(第18王朝～第20王朝，BC 1580ごろ～BC 1080ごろ)が始まる。この時代は帝国時代ともよばれているように，エジプトはヒクソスから学んだウマ・戦車，その他の新しい武器および戦術を駆使してシリア・パレスチナの支配をめぐってミタンニ・ヒッタイトと争い，アジアおよびヌビアの〈植民地〉支配をめざす軍事国家へと変貌(へんぼう)した。トトメス3世*はこの大帝国の建設者である。こうして王権は名実ともに強化されるが，一方では帝国の守護神として尊崇されたアモン神とその神官団もまた，神の与える勝利への感謝のしるしとして王が寄進するばくだいな戦利品および土地を背景に，王権に対抗する勢力として成長していった。イクナートン*王の宗教改革(→アマルナ時代)はこの動きをおさえ，王権の一元支配を貫徹しようとしたものであったが，アジア植民地の喪失と内政の混乱とを招いて失敗した。ラーメス2世*および同3世らが再びアジアの植民地を回復するが，ヒッタイトの進出と諸民族の移動のためその支配は安定せず，国内では神殿領の増加，神官団およびリビア人傭兵(ようへい)の勢力増大によって王権は衰えた。アモン神官団の王権奪取に始まる〈末期王朝時代〉(第21王朝～第31王朝，BC 1080ごろ～BC 332)において，エジプトはリビア人・エチオピア人・アッシリア人・ペルシア人とあいついで異民族に支配され，土着の第26王朝(BC 663～BC 525)による一時的な勢威回復も空しく強国としての地位を失い，ペルシア帝国の一部としてアレクサンドロス大王に征服された。大王の死後，その部将プトレマイオスがエジプトの支配権を受け継ぎ，ギリシア人の王朝(プトレマイオス朝，BC 305～BC 30)を開いた。プトレマイオス朝*は紀元前3世紀がその最盛期で，シリアのセレウコス朝との数回にわたる戦争に勝利をおさめてシリア・小アジアを領有し，首都アレキサンドリアは当時の学術の一大中心地として繁栄した。しかし王家の内紛，エジプト人の民族的自覚による反乱のため衰えて海外領土を失い，クレオパトラのときローマに征服された。征服者アウグストゥスはBC 30年エジプトを皇帝直属の属州とし，騎士階級から総督を任命するという原則を定めた。代々の皇帝もこの方針を踏襲し，いずれもファラオの後継者としてエジプトに君臨した。2世紀からは激しい迫害にもかかわらずキリスト教がエジプトにも急激に広



がった。395年の東西ローマ帝国の分裂とともにエジプトは東ローマ(ビザンチン)帝国の支配下にはいった。しかし疫病と飢饉(ききん)は民力を疲弊させ,重税がエジプト人の民族感情を刺激したが,反乱を組織する力はなく,土着のキリスト教の一派コプト教会に精神上の支柱を求め,わずかに民族感情を満足させた。したがって641年のイスラム教徒によるエジプト征服は,エジプト人には圧制からの解放として迎えられた。

《政治》 古代エジプトでは神である絶対君主ファラオ(神王)にすべての権限が集中する中央集権体制がとられた。権力の源泉は灌漑水路の統制による農業生産の把握(はあく)にあったとみられる。神王の意志が絶対であるため,メソポタミアにおけるような〈法典〉の集成はなされなかった。現実の政治においては宰相およびその他数人の中央政府の長官が王の権限の一部を委任されて代行し,巨大な官僚組織を統轄している。全国は42州に分けられ,中央から知事が派遣された。官職は王が直接その当人に委任したものであるとされ,1代限りが原則とされたが,しばしば世襲権が尊重され,地方分権化を進行させている。王朝時代の官僚機構はプトレマイオス朝以後もほとんどそのまま踏襲されたが,プトレマイオス朝ではギリシア人が,ローマ治下においてはローマ人が,主要な官職を独占した。この当時は租税収入の強化のため村や町の自治がかなり大幅に認められ,その代償として税の共同負担が義務づけられた。

《経済》 ナイル川の定期的増水を利用した灌漑農業が国富の源泉となった。理念上,国土の唯一の〈所有〉者はファラオであり,臣民はその〈保有〉者であるにすぎない。しかし,高官・貴族・神官は事実上の大土地〈所有〉者であり,農民の大部分は王領地またはこれら大所領の小作人として農奴的状態にあった。プトレマイオス朝においては〈国土王有〉の原則はさらに強化され,肥沃な土地は王領とされ,開墾の必要とされる土地は軍事賦田地として当人1代に限って下賜された。ローマ時代には土地私有が認められたが,重税にあえぐ農民の逃亡があいつぎ,大土地所有を進行させた。商業特に対外貿易は国家の独占とされた。特にプトレマイオス朝は商工業活動の大部分を国家の統制下におき,国の発する生産規定に服させた。また,第26王朝においてギリシア人傭兵に対する給金のため貨幣の鋳造が始まるまでは,金・銀・銅の地金が代用された。

《社会》 王族・貴族・高官・神官などの上層階級,都市生活者(工人・商人など)・書記などの中層階級の下に,人口の大部分を占める農民が下層階級を形成している。奴隷である戦争捕虜の数は人口に比較すればごくわずかである。この身分秩序は,第1中間期の社会革命,中王国時代の〈庶民〉登用,新王国時代の軍人の進出などの例外はあったが全体として厳密に保持され,特に末期王朝時代には職業世襲制による固定化が明瞭(めいりょう)である。しかし,プトレマイオス朝ではギリシア人,ローマ治下ではローマ人が上層階級を形成し,エジプト人は例外を除いて被征服民として支配された。

《宗教》 その宗教は自然物や動物・植物に霊を認めるフェティシズム(物神崇拝)を起源とする多神教である。すでに初期王朝時代には神の擬人化がなされているが,獣頭人身の神の姿,神の象徴,聖獣などはフェティシズムの痕跡(こんせき)をとどめている。神々の大部分は地方的信仰にとどまっているが,ホルス・ラー・アモンなどは国家神の地位につき,王はその化身であるとされている。現世の延長としての〈永生〉が信じられ,その準備としてのミイラ*の製作や墳墓の設営などを含む複雑な葬祭慣行が発達した。建築・彫刻・絵画などの芸術はもっぱらこれと結びついて発展しているといえる。エジプト神話の中心を占めるのも,これと関連する死と復活の神オシリスを主題とする神話である。神話にはほかにアトゥム・プタハ・アモン・クヌムをそれぞれ創造神とする天地創成神話も比較的よく知られている。しかし,その他の神々に関する神話は断片的にしか残されていない。紀元2世紀以後はキリスト教が急速に普及し,キリスト教のローマ帝国国教化とともに,5世紀初頭には伝統的な多神教は完全に姿を消した。

《言語・文学》 古代エジプト語はハム-セム語族に属する。3,000年以上にわたる長い期間の間に言語は①古エジプト語(古王国時代),②中エジプト語(中王国時代から新王国時代前半まで),③新エジプト語(新王国時代後半から紀元3世紀まで),④コプト語,と変化した。文学の分野では《シヌへの物語》をはじめとする物語文学の傑作もみられるが,最もエジプト的な文学作品を生んでいるのは《冥界(めいかい)の書》および《教訓》である。前者は古代エジプト人の最大関心事である冥界の案内書ともいうべきもので,《死者の書*》もこれに含まれている。また後者は官僚社会における処世の知恵を語り,聖書への影響が指摘されている。文字を知り書記となることは官僚社会における栄達の道とされ,したがって学問も主として書記としての修練を積むという目的からなされている。 ➔エジプト文字

《科学》 実際的な知識が追求され,理論的な研究に乏しい。農作業の正確な時期を予知するため天文学が発達し,1年365日の太陽暦がつくられた。ナイル川増水後の耕地の測量・灌漑工事・大建築工事などの必要から数学が発達し,また外科手術・薬学など医学の分野での発達にもみるべきものがある。➔エジプト学 〔屋形禎亮〕

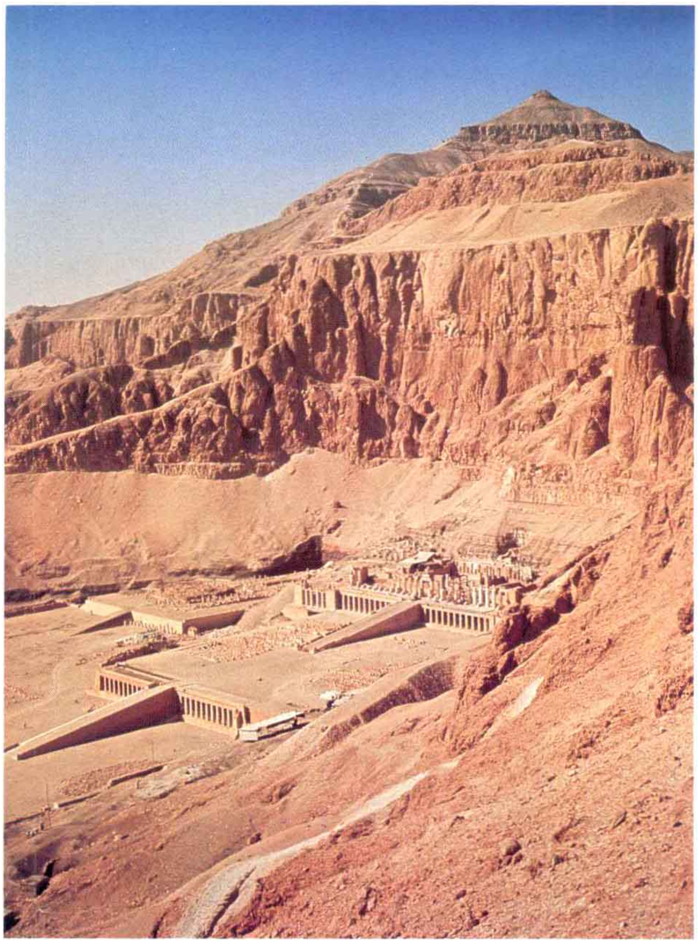
【イスラム征服以後】《イスラム教徒支配》 エジプトのイスラム支配は639年,第2代カリフのオマルのときに始まる。カリフ時代,ウマイヤ時代にかけてエジプトは北アフリカ支配の拠点となり,イスラム教が根をおろした。バグダットを中心とするアッバス朝の繁栄が限界に到達した9世紀中ごろになると,エジプトはトゥールーン朝によって独立し,これをイフシード朝・ファティマ朝が継いだ。カイロはバグダットやコルドバと並んで商業・文化の中心となり,エジプトふうイスラム文化が生まれた。次いでアイユーブ朝(1171～1250)はヨーロッパ十字軍との交戦に明け暮れて文化的向上は少なかったが,次のトルコ系マムルーク朝(1250～1517)はイスラム諸国の中心として繁栄した。これは当時しだいに活発となってきたヨーロッパとアジアの貿易中継地点として関税利益を独占できたからである。ところが15世紀になってヨーロッパ人がアフリカ回りのインド新航路を発見すると,エジプトの地理的優位は一挙にくずれ,さらにイスラム勢力の中心がイスタンブールに移って,エジプトの経済・政治的独立性は失われてしまった。この回復はスエズ運河の開削まで待たなければならず,その後のエジプトはオスマン-トルコの1属州に転落した。

【ヨーロッパ勢力の進出】 1798年のナポレオンのエジプト遠征はあらたにヨーロッパ人進出の道を開いた。それは同時にヨーロッパ近代文明をもたらし,エジプト人の民族的自覚をうながすことになった。アルバニア出身の太守メフメット-アリーはエジプトの近代化政策に着手し,メフメット-アリー王朝を興した。一方フランス・イギリスの植民地化政策も熾烈(しれつ)で,エジプトの財政窮乏に乗じたイギリスはスエズ運河(1869年完成)の利権の大半を握り,実質的植民地支配を行なった。第1次世界大戦後にエジプトの民族独立運動は反英運動の形で激しく展開し,1923年にいちおう立憲君主国として独立した。しかし,イギリスはスエズ運河防衛に名を借りて数々の特権を残し,問題は第2次世界大戦後にまでもちこされた。1952年ナセルを指導者とした軍人クーデターが起こり,共和国となり,国内の民主改革やスエズ運河の国有化がなしとげられた。1958年にはシリアが政治的安定を求めてエジプトと合邦し,アラブ連合共和国が成立し,ナセルが初代大統領となってアラブ民族の指導的立場についた。
➔アラブ連合共和国 〔小谷仲男〕

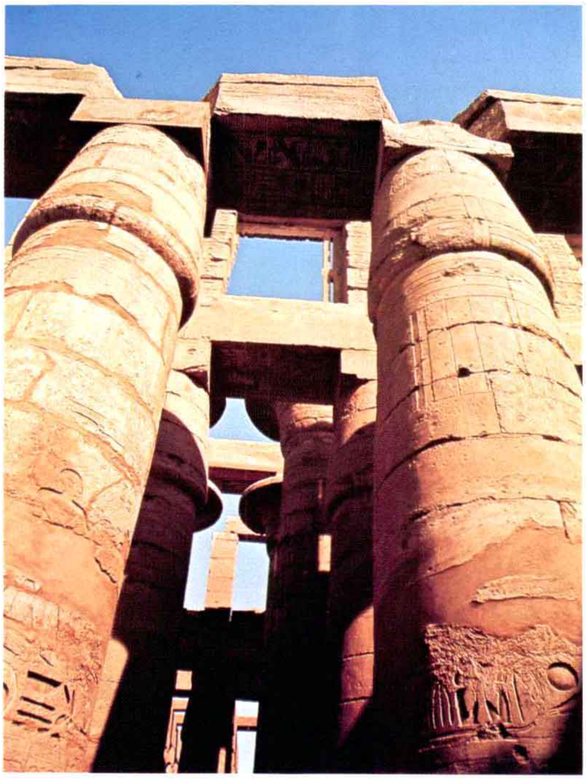
エジプトえんせい【エジプト遠征】 1798～1799年,フランスの総裁政府が,その最大の敵であるイギリスとインドとの間の通商路を絶つため,ナポレオンの指揮のもとに行なった遠征。ナポレオン*は陸戦には勝ったが海戦に敗れて劣勢に陥り,本国の危機を知ると遠征を放棄して帰国し,ブリュメール18日*のクーデターで独裁権を握っ



ジェセル王の階段ピラミッド　第3王朝　絶対王権の確立を告げる最初のピラミッドで，エジプト最古の石造建築である　サッカラ



ハトシェプスト女王の葬祭殿　第18王朝　背景の断崖との調和に成功した2段テラスの印象的な神殿である　テーベ(デル-エル-バハリ)



カルナク神殿の多柱室　第19王朝　新王国の国家神アモン信仰の総本山で，代々のファラオの建築活動の跡が残されている　テーベ



ルクソール神殿　第19王朝　新王国時代の神殿の典型的なもので，国家神アモンにささげられている　神殿の前半部にあたり，モスクは後代のもの　テーベ



イシス神殿の大塔門　プトレマイオス朝　古代エジプト文明の終末期を代表する神殿　ダム工事のため半ば水没し，解体移転が計画されている　アスワン(フィラエ島)

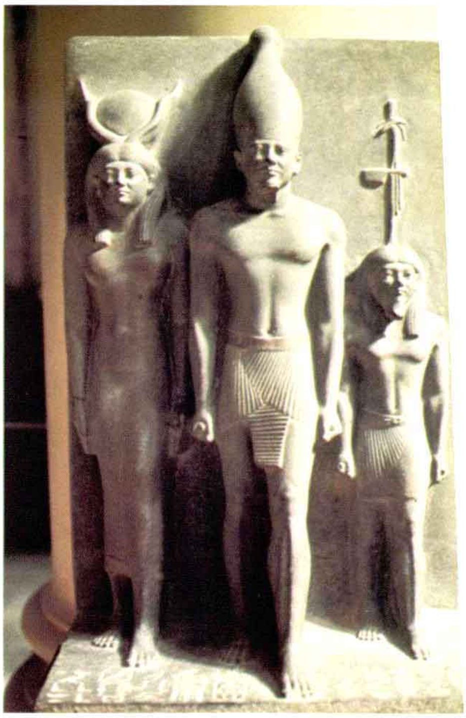
彫　刻



①



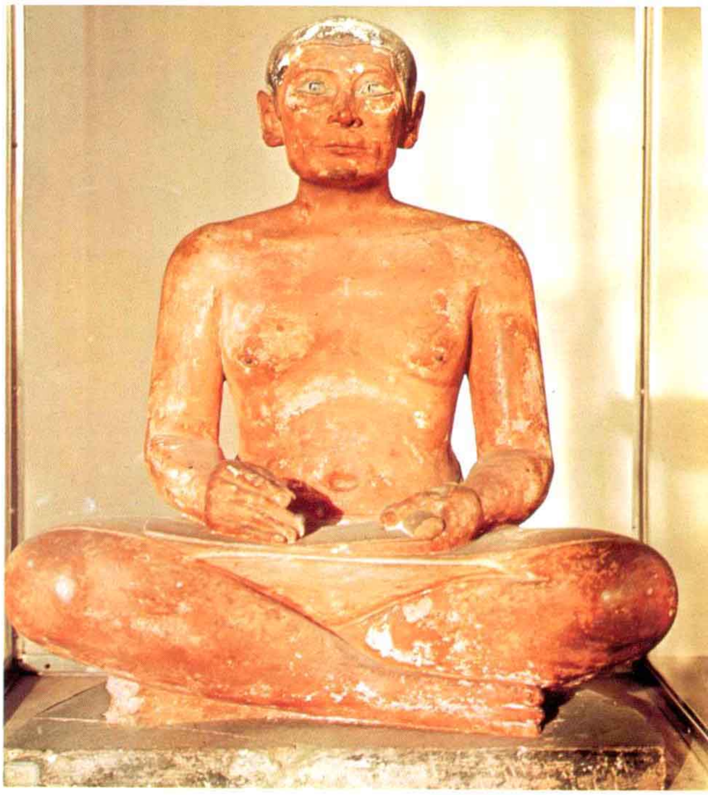
②



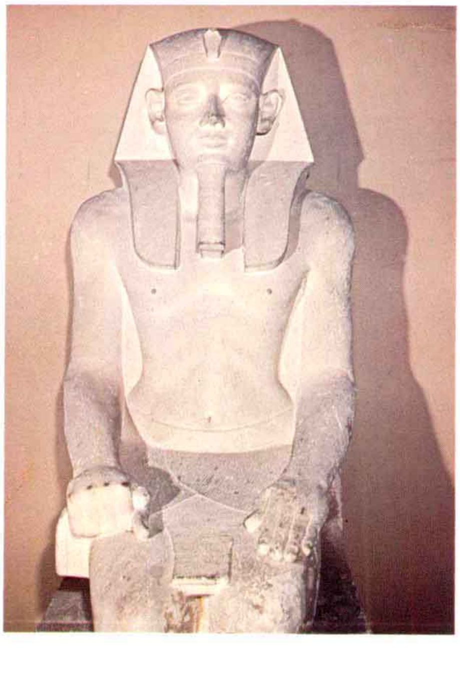
③

①黒色口縁土器　ＢＣ4000年紀　バダリ文化を代表する土器で，特徴ある黒色は焼成の際の不完全燃焼による　カイロ美術館蔵
②蛇王の碑　第１王朝　現存するエジプト美術最古の傑作。王権の守護神ホルス(聖鷹)を頂く宮殿が表わされ，その内部に王名が記されている　アビドス出土　ルーブル美術館蔵
③メンカウラー王と２女神の像　第４王朝　ギゼーの第３ピラミッドの建造者メンカウラーをはさんで女神ハトホルと上エジプト第４州(テーベ)の守護女神が立つ　カイロ美術館蔵
④書記の像　第５王朝　文字の知識こそ官僚社会における栄達の条件であった。書記像は官吏の誇りの表現である　ルーブル美術館蔵
⑤センウセルトⅠ世座像　第12王朝　ファラオの力で秩序の回復に成功した中王国では個性的な王像彫刻が盛行した　カイロ美術館蔵
⑥カバ　第12王朝　カバ狩りは貴族の主要な娯楽の一つで，古王国時代の墓の壁画に好んで描かれたが，中王国時代にはファイアンス(スズ釉の軟質陶器)のカバが代わりに副葬された　カイロ美術館蔵

④



⑤



⑥



① ②





③



①ラモーセの墓の壁面　《泣く女たち》　第18王朝　葬送の行列の場面の一部で，故人のひつぎを乗せた舟を見送る女たち　テーベ（シャイク-アブデル-クルナ）

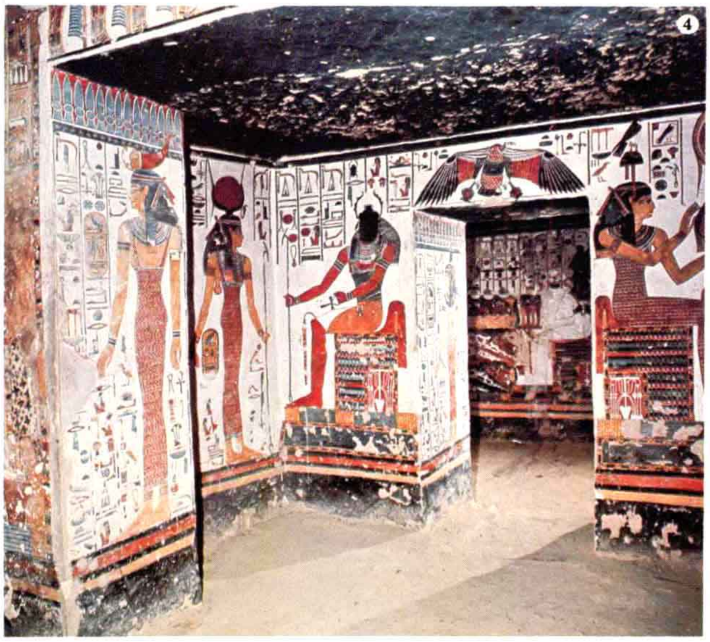
②メンナの墓の壁面　《脱穀》　第18王朝　農作業を表わす場面の一部で，ウシに踏ませて脱穀をしている　テーベ（シャイク-アブデル-クルナ）

③女楽師たち　第18王朝　宴会の場面の一部　女楽師の主題は帝国建設の自由なふんい気を反映して当時好んで取り上げられた　テーベ出土　大英博物館蔵

④ラーメス２世の王妃ネフェルト-イリの墓室内部　第19王朝　壁面には神々を礼拝する王妃を主題とする壁画が描かれている　テーベ（王妃の谷）

⑤パシェドゥの墓の壁面　《オシリス神》　第20王朝　墓地の所在地である西テーベの山の前にすわる冥界の支配者オシリス神が描かれている　テーベ（デル-エル-メディネ）

④



⑤



た。なお，ロゼッタ-ストーン*はこの遠征の際に発見されたものである。

エジプトおんがく 【エジプト音楽】 古代エジプトの音楽については，王家の墓その他の遺跡から発掘された楽器などの現物や浮き彫りから，かなりはっきりしたことがわかっている。BC4000年ごろ，すでに拍子木やガラガラがあったことが明らかであり，それらは悪霊を追い払う儀礼音楽舞踊の伴奏楽器として使われたもののようである。古王国時代になると，ハープに弓形の共鳴室のついたものや，たて笛・二重クラリネットなどが使われていたことが知られている。浮き彫りに描かれている歌手・踊り手・楽器奏者のようすから判断して，すでになんらかのポリフォニー(多音音楽)があったのではないかと推測される。中王国時代になると，サハラ砂漠(さばく)以南やアジアあたりからの影響が現われはじめ，たる形の太鼓やリラなどが使われはじめた。リュートに似たものが導入されたのもこのころである。新王国のころになると，それまでにあった楽器はさらに複雑に加工され，美術的な装飾も施された形としてさまざまに現われて，さらに違った種類の楽器もまた数多く見られるようになる。二重オーボエ・トランペット・小形のリュートなどである。王朝の華美な生活趣味が反映されて，トランペットに至っては，金や銀でできたものさえある。音階は，初期には，幅の広い音程の音数の少ないものであったのが，楽器の展開とともに狭い音程も使うようになって音数も多くなってきた。楽器の構造のよしあしにあまり依存しない音楽では，応誦歌(おうしょうか)・交誦歌・有節形式歌謡・典礼歌唱などいろいろの特徴を示していたと思われる。さらに時代が下がって，リビア・エチオピア・アッシリア・ペルシアなどの外からの圧迫があり，音楽伝統もまた十分に保持されることはなかった。アレクサンドロス大王以後，ギリシアの支配下にあったとき，音楽の影響関係は，むしろ逆にエジプトからギリシアに対して楽器などの移入があったというようなものであった。ローマの支配，初期キリスト教の伝播(でんぱ)，コプト教会の設立など連鎖的状況のもとでそれらと平行して音楽慣習もめまぐるしく変わった。7世紀以後には，エジプトはほぼ完全にイスラム圏に組み入れられ，同時に，アラビア音楽理論や音楽慣習が全面的にはいってきた。しかし，エジプトはそのまま受け入れずに，24個の4分の1音を理論化するなど，独特の特徴をアラビア音楽理論に付加させた。19世紀以後は，ヨーロッパ音楽が逆流してきたが，アラブ的伝統音楽もいまなお健在である。〔山口　修〕



エジプト音楽



エジプト文字　上方は聖刻文字，下方は民衆体。ロゼッタ-ストーンから

エジプトがく 【エジプト学】 古代エジプトに関するあらゆる資料(史料・文献・遺構・遺物など)を駆使して古代エジプトの歴史・文化を研究する学問をいう。アッシリア学*とともに古代オリエント研究の一分野をなす。対象とする時代はいわゆる王朝時代，すなわち統一王朝の出現からアレクサンドロス大王の征服まで(ＢＣ3000ごろ～BC332)を中心とするが，これに先行する新石器時代をも含んでいる。ナポレオンのエジプト遠征*(1798)がエジプト学成立の契機となった。この遠征に同行した学者の調査研究の成果である《エジプト誌》(1809～1813)により研究の基礎資料が提供され，遠征中に発見されたロゼッタ-ストーンは，シャンポリオン*によるヒエログリフ解読(1822)をもたらした。1851年からフランス人マリエットにより学術的な発掘調査が開始され，マスペロ・ペトリー*らによって受け継がれた。一方，文献的研究の基礎はドイツ人エルマンらによって固められ，今世紀初頭には専門としてのエジプト学が確立した。現在，欧米の主要大学のほとんどにはエジプト学の講座が設けられており，活発な研究が続けられているが，19世紀以来の伝統をもつドイツ・フランス・イギリス・アメリカが学界の中心をなしている。〔屋形禎亮〕

エジプトびじゅつ 【エジプト美術】 狭義には，BC3000年ごろから，ナイル川の流域に発達した古代エジプトの美術を意味する。しかし，広義には，この地方における全時代にわたる美術をさし，ローマ統治以後の初期キリスト教美術であるコプト美術，その後のイスラム美術などをも含める。

古代エジプト美術は，きびしい自然と宗教に密接に結びついた強大な王権によって性格を決定され，その3,000年の歴史の間にもほとんど性格を変えなかった。

建築においては，はじめ杙(くい)を立てアシを張ったものと練り土でつくった楕円(だえん)形の住居をつくったが，先王朝時代にはいると，方形のプラン(平面)をもった日干しれんがでおおった住居建築が発達した。初期王朝時代にはいると，死後の世界に対する信仰が確立し，墳墓建築が最も重要な建造物となった。長方形の墳墓マスタバ(アラビア語では腰掛けをいう)から階段状ピラミッドを経て，ギゼーにある一群の大ピラミッドへと発展した。神殿建築は，第5王朝のころには，柱の形式などがほぼ完成されたが遺構は乏しく，様式的完成は第18王朝以後と考えられる。また，この時代以後には，岩窟(がんくつ)を掘って神殿をつくることも行なわれた。カルナクのアモン神殿，アブシンベル宮殿*などが代表的な例である。

彫刻と絵画においては，第1王朝に〈蛇王(じゃおう)の碑〉のようなすぐれた浮き彫りがある。第3王朝には大形の丸彫りも現われ，墳墓の壁面を装飾する絵画・浮き彫りも急速な発展を示した。古代エジプト美術は様式的には固定されていて，彫刻では正面性・左右均斉(きんせい)の法則を守り，絵画・浮き彫りでは人体の頭部・腰・脚はつねに側面を表わし，目と肩・胸は正面を表わす。第18王朝には〈アマルナ芸術〉とよばれる優美で写実的な美術が生まれ，この法則にもいくらかの改変が加えられた。

コプト美術は，2世紀から7世紀にかけて，エジプトの伝統とヘレニズム*・ビザンチン美術*の影響のもとでアレキサンドリアを中心に栄えた初期のキリスト教美術である。コプトとは古代エジプト人の子孫のキリスト教徒をさすが，この様式はイスラムに占領されたのちも数世紀は存続し，イスラム美術に影響を与えた。特に織物類にすぐれた遺品が多い。〔末吉雄二〕

エジプトもじ 【エジプト文字】 古代エジプトの象形文字(聖刻文字，ヒエログリフィック)と，その僧侶体(そうりょたい)(ヒエラティック)，民衆体(デモティック)。最古の文字の一つで，セム文字に影響を与えた。のち，コプト文字に代わられた。〈水〉に波線，〈日〉に円，〈行く〉に前後に開いた両足，〈冷たい〉に水差しからたれる水の図をあてた。また，〈支配〉につえをあてる転注，目(jrt)で〈造る(jrj)〉を示す仮借(かしゃ)があり，両足(意符)に家と口(音符pr＋r)を添えて〈進む(prj)〉を示す形声が発達した。〔日下部文夫〕

エジプトれき 【エジプト暦】 ＢＣ4000年ごろから，エジプトで行なわれた太陰暦*。

1年は365日で，すべての月を30日とする12か月と，どの月にも属さない5日を年末に付加した。1月を30日とするのは明らかに月の満ち欠けの日数に由来する。また，年末の5日は故人を追悼する日にあてられていた。さらに1年を〈洪水(こうずい)期〉〈冬〉〈夏〉の3季節に分けた。エジプトでは一定の時期(だいたいグレゴリオ暦の7月19日ごろ)にナイル川が氾濫(はんらん)を開始し，洪水がもたらした沃土(よくど)によって豊かな収穫が得られたので，1年を洪水の起こる季節，減水する季節，農業を行なう季節に分けたものと思われる。エジプト暦の1年は，つねに365日であり閏日(うるうび)を置かなかったので，年の初めの日はしだいに移動していく。したがって，月名は時代によって異なった季節をさしている。たとえば，洪水期は紀元前18世紀では9～12月で，紀元前13世紀では1～4月であった。1日は昼12時，夜12時の24時に分けられていた。エジプト人は1日を24時に分けた最初の民族である。昼は日の出から日没までの間を12等分したので1時間の長さは季節によって伸縮した。　〔木下　宙〕

えじまいくしま【江島生島】日本舞踊・長唄(ながうた)の曲名。1913年(大正2)初演。長谷川時雨(はせがわしぐれ)作。将軍徳川家継の生母月光院に仕えた大奥の年寄江島(絵島)と歌舞伎(かぶき)役者生島新五郎の恋愛事件に取材したもの。八丈島(三宅(みやけ)島ともいう)に流された生島新五郎が，江島との逢瀬(おうせ)を幻に見，また島の娘に江島のおもかげを求めて狂う。新形式の研究的作品で，第1景が夢の場，第2景が島の海岸。

えじまきせき【江島其磧】(1666～1735) 江戸前期の浮世草子作者。本名村瀬権之丞(ごんのじょう)，通称庄左衛門(しょうざえもん)。はじめ浄瑠璃(じょうるり)作者であったが，のち京都の八文字屋から八文字屋自笑(→八文字屋本)の名を借りて浮世草子を出版，一時自笑と疎隔したがのち和解した。70種以上の浮世草子の中には西鶴(さいかく)の模倣作もあるが，《傾城禁短気(けいせいきんたんき)》《世間息子気質(せけんむすこかたぎ)》などのいわゆる〈気質物〉で独自の世界を開拓し，その平明な構成によって多くの読者を獲得した。　〔小池正胤〕

えじょう【懐奘】⇨孤雲懐奘

エジルネ［Edirne］トルコの西北端，ブルガリアおよびギリシアと国境を接する同名県の主都。人口50,000(1965)。周辺地域で栽培される小麦・タバコを集散するほか，絹糸・綿製品・あへんなどを取引する商業都市である。古くからアジアとヨーロッパを結ぶ交通上の要地として知られる。バルカン戦争中はブルガリア軍に，第1次世界大戦中はギリシア軍に占領された。

えしん【回心】仏教用語。廻心とも書く。邪悪な心，欲望にさいなまれている心を翻し，悔い改めて仏道に帰依することを



エジンバラ　エジンバラ城は旧市街西端の崖上にそびえる。写真は城門前の広場で行なわれる名物のスコットランド兵の衛兵交替式

意味する。さらには，自己・悟りだけを中心とする小乗仏教の立場(自利)を越えて，生きとし生けるものいっさいへ慈悲の精神を及ぼす大乗仏教の立場(利他)に立つことも回心という。さらにまた大乗仏教の中では，自己の力で悟りを得ようとする自力(聖道門)の立場における執着心を捨てて，阿弥陀仏(あみだぶつ)の力にすがって往生する他力(浄土門)の立場にはいることをも回心という。それはひたすらに念仏して仏の本願力に乗じて浄土に往生することにほかならない。回心しうる人間の性(しょう)や回心の時期については古来さまざまな論議がある。回心できる種別と回心できない種別を区別する場合と，いかなる人間でも回心して仏になれるとする立場とがあり，また根(こん)(資質)の利鈍によって回心に遅速があるともいわれる。これを最近の宗教心理学の分野における心理学的回心についての研究成果と比べると興味深い。なおキリスト教では〈かいしん〉と読んでコンバーションの訳語としているが，宗教・信仰の世界へ歩み入るというかぎりでは仏教の回心と同じである。
➔かいしん　〔峰島旭雄〕

エジンバラ［Edinburgh］イギリス，スコットランド地方の主都で，東岸のフォース湾に面した政治・学術・文化の中心地。人口46万8,000(1967)。市街は新旧に分かれ，旧市街にはスコットランド王宮やエジンバラ大学・ウォルター=スコット記念塔などイギリス中世文化の貴重な遺産である古い建造物が多く，新市街は住宅地である。古い伝統をもつ印刷出版業をはじめ，ビール醸造・製紙などの工業が盛んである。また，氷河侵食のなごりをとどめた丘陵・湖沼・谷・入り江と中世以来の歴史的建造物とが調和した風景は多くの観光客をひきつけている。　〔梶川勇作〕

エジンバラ(公)［Duke of Edinburgh, Philip Mountbatten］(1921～　) イギリス女王エリザベス2世の夫。ギリシア王室の出身。ダートマス海軍兵学校を卒業し，第2次世界大戦中はイギリス海軍に加わる。1947年イギリスに帰化し，同年エリザベス王女と結婚し，エジンバラ公となる。

エジンバラだいがく［エジンバラ大学］1583年，スコットランド王ジェームズ6世の勅許によってエジンバラに設立された。はじめは市の管理下にあったが，1858年以降は独立した自治体となった。ダーウィン・ヒューム・カーライルらの母校で，世界で最初に女子の入学を許可している。現在，神・文・法・医・理・音楽・社会科学・獣医の8学部があり，通学制度をとっている。医学部の研究・業績は世界的にも名高い。

エス　⇨イド

エスアールとう［SR党］⇨社会革命党

エスイーシー［SEC］Securities and Exchange Commissionの略称。アメリカの証券取引委員会。1934年の証券取引所法によって設立されたアメリカの政府機関で，証券界・金融界に広く関与し強い発言権をもっている。おもに，証券取引における投資者の保護と証券投資の公正を監督し，健全な有価証券投資の促進を目的としている。委員会は大統領の任命する5名の委員からなり，強い権限を与えられている。任期は5年で，毎年1名ずつ改選される。わが国の大蔵省証券局にあたる。　〔日東証券調査部〕

エスエスティー［SST］超音速旅客機。supersonic transportの略称。➔超音速機　➔旅客機

エスエフ［SF］Science Fictionの略称。未来における科学の発展の成果をもとにして人間のドラマを描く小説のことで，〈空想科学小説〉ともいう。SFの起源は，古くギリシア・ローマ時代にさかのぼれ，18世紀に書かれたスウィフトの《ガリバー旅行記》もSFの一つに数えられるが，近代的科学性に基づくSFは，19世紀フランスの《海底二万里》などの作家ベルヌが創設者であり，その後イギリスのウェルズが《タイム-マシン》などの作品によって発展させ，現代SFの基盤を確立した。第1次世界大戦後，アメリカのガーンズバックが《アメージング-ストーリーズ》というSF雑誌をつくってから，通俗小説として隆盛し，荒唐無稽(こうとうむけい)なSF(いわゆるスペース-オペラ)の全盛期を迎えた。第2次世界大戦後は，科学技術の著しい進歩とともに，アメリカ・ソ連・イギリスなどで爆発的な人気をよび，推理小説と並ぶエンタテインメント(娯楽小説)の一分野を形づくっていて，文学一般にも深い影響を及ぼしている。現代のSFには，大別して，科学に重点を置く科学小説と，空想に重点を置くファンタジーの二つがあり，前者の代表的作家として，ハインライン・バン-ボクト・アシモフ・クラーク，後者の代表的作家としては，ブラッドベリー・スタージョン・ベスター・ブラウンらが活躍している。日本では，1930年代に海野十三(うんのじゅうざ)らが先駆的な活躍をし，第2次世界大戦後には，《第四間氷期》の安部

(あべ)公房*,〈ショート-ショート*〉の星新一，あるいは小松左京らが輩出，今後の進展が期待されている。〔福田生雄〕

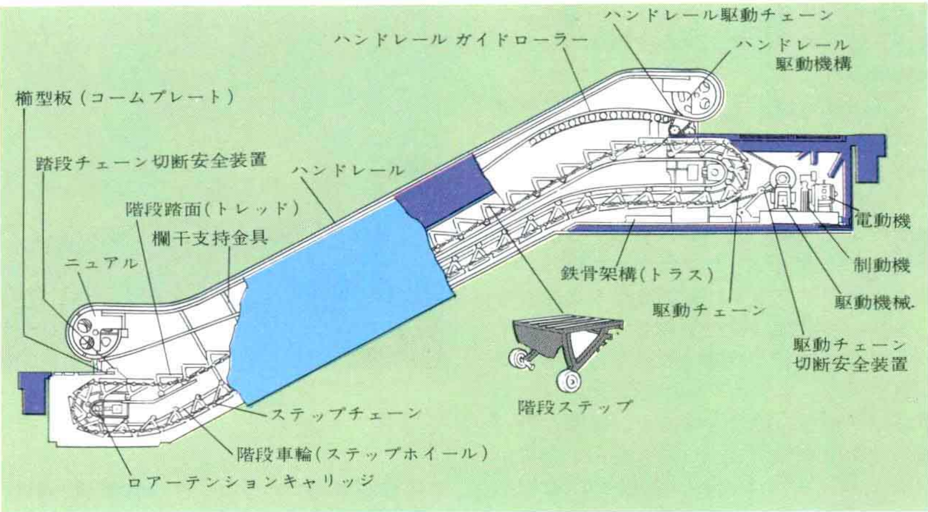
エスオーエス ［SOS］ 船舶または航空機が重大な危機に陥り，至急に他からの救助を求める際に発する無線電信による遭難信号。···(S) ---(O) ···(S)の符号から構成される。これは簡単・リズミカルでわかりやすいため，1906年ベルリンの国際無線電信会議で万国共通に用いられることに決まった。SOSは〈Stop Other Signals〉〈Save Our Souls〉〈Save Our Ship〉などの略であるとの俗説もあるが，決定の理由は上記のとおりである。なお無線電話の遭難信号は〈MAY DAY〉である。〔飯島幸人〕

エスカルゴ ［escargot］ 軟体動物・腹足類の陸貝で，カタツムリの一種だが，殻(から)の高さが高く，4cmほどで，形態はタニシに似る。茶かっ色地に，白のうずまき模様がはいっているところは，カタツムリに似ている。

生のものを塩ゆでして肉を取り出し，切って調味したものをまた殻に詰めて供したり，肉だけを取り出してシチューにしたりする。フランスの有名料理である。エスカルゴは古代中国では，あつものやひしおにして天子の食膳(しょくぜん)に供され，古代ローマ帝国でも賞味されていたが，これがフランスに伝わった。現在フランスが最大の消費地で，養殖されているほどである。なお，パリの公衆便所が，形が似ているところから，エスカルゴとよばれている。〔菅野徹・佐藤友太郎〕

エスカレーション ［escalation］ 1957年ごろから限定核戦略*の可否について論議がなされたが，その際，戦術核兵器を使用すると，限定戦争が全面核戦争にエスカレート(拡大)するという批判があり，このことからエスカレーションの用語が広まった。その後，戦争の規模の点で，政治的意図をもって，ゲリラ戦などの小規模な戦闘が，長期化して徐々に段階を追って規模を広げられ，しだいに激化したり，参戦国が増加したりすることをエスカレーションというようになった。逆の場合をデスカレーションという。〔広部和也〕

エスカレーター ［escalator］ 自動階段または移動階段。階間に斜めに設置し，エレベーター*とともに縦の交通機関として，一定方向に連続して人員を搬送する。運送能力はエレベーターの数十倍で，用途によっては経済的である。構成としては，移動するエプロン(踏み段)・手すりからなる。エプロンは，前輪(2個)と後輪(2個)からなりそれぞれの軌道間隔の違うレールによって案内される。前輪(駆動輪)は，上階と下階とを連結するエンドレス-ステップ-チェーンに取り付けられ，このチェーンはウォームギア減速機を介して循環運動をする。運転操作は昇降可逆式であるから，上階および下階の手すり欄干に設けられた上昇・下降・停止の押しボタンを押すことにより自動的に上昇または下降・停止を行なう。法令により傾斜角度は30°以下,速度は30m/分以下に規制されているが，最近地下鉄駅などで多数の利用者が消化しきれず，現在の速度規制が問題となっている。〔中村守保〕



エスカレーター


エスキモー
(左上)アラスカの北端バローの海岸エスキモーの老夫婦
(左下)アナクトブック-パスの内陸エスキモーが犬ぞりをつないで狩猟に出かけるところ
(右)獲物を捕えたところ

エスキシェヒル ［Eskishehir］ トルコ，アナトリア高原の西端部にある同名県の主都。人口17万3,000(1965)。ポルスク川に臨み，イスタンブールからアンカラを経て西へ延びる鉄道に沿う。古くから知られる高温のイオウ泉があり，保養地となっている。市の西方28kmには，パイプの材料となるカイホウ石*のばくだいな埋蔵がある。町の歴史は古く，古代フリジア王国・東ローマ帝国時代の遺跡が多い。

エスキース ［esquisse］ 絵画・彫刻などでは下絵・下図を意味し，作品の部分的な下書き，または全体的略画などをいい，多くは作品の本制作に備えて行なわれる。なお，文学においては作品の草稿をさしていい，建築設計・舞台装置などにもこの語が用いられている。

エスキモー ［Eskimo］ シベリアの東端からアラスカ・カナダ・グリーンランドにかけての広大な海岸地帯をおもな住地とする民族。人口約50,000(グリーンランド23,000人,アラスカ16,000人,カナダ11,500人，シベリア1,000人)。エスキモーの身体特徴はアメリカ-インディアンよりもモンゴロイドに近く，エスキモー語*もアメリカ-インディアン諸語とは異なっている。エス

キモーの祖先は，インディアンの祖先よりもずっと遅れて，アジアから移住した人々と考えられる。

エスキモーは，1年の大半を氷雪に閉ざされたツンドラ地帯で，狩猟によって生活をささえてきた。おもな獲物は陸上ではカリブー(アメリカ産野性トナカイ)，海ではアザラシ・セイウチ・クジラなど。植物性食料は，小果実などごくわずかである。カヤック*やウミアックなどの皮舟をあやつり，弓矢や巧妙な銛(もり)を使用するほか，アザラシの息穴猟などの独特な猟法の発明も知られている。エスキモーの社会組織はごく単純で，親族の結合もゆるく，家族だけが唯一の単位をなすといっても過言ではない。なお，ユーモアに富み，苛酷(かこく)な自然を生き抜いてきた極北の狩猟民も，いまでは急速な近代化の波にさらされている。〔岡田宏明〕

エスキモーご【エスキモー語】 グリーンランド沿岸・北アメリカ大陸北岸・アラスカやアジア大陸東北端のチュコト半島沿岸に住むエスキモーの言語。分布範囲の広さのわりにはその言語差は小さい。使用者は数万人と推定される。アラスカ半島のアレウト語とともにエスキモー-アレウト語族を構成し，さらにアメリカ-インディアン諸語*と系統的な関係をもつ可能性が大きい。エスキモー語は文と語との区別が明らかでないために膠着語(しゅうごうご)に分類されることがある。〔崎山 理〕

エスクロしんようじょう【エスクロ信用状】 貿易用語の一。エスクロとは，第三者に預け託すという意味。相手国の輸入業者から受け取るべき自国の輸出品の代金を，そのまま自国の指定銀行(エスクロ銀行)に預託しておいて，相手国の輸出業者への輸入代金の支払いは，この保留債権を譲渡して支払うという国家間協定を結んでいる場合，輸入業者が，輸入手形の引き受けや支払いを保証するため，自国のエスクロ銀行から発行させる証書をエスクロ信用状という。これは協定国間のバーター貿易*や三角貿易*の決済に使われる。輸出債権を第三者預託の形式で指定銀行に保留させ，輸入債務の決済に利用させるため，インパウンド信用状ともいう。〔上坂酉三〕

エスコリアル［Escorial］ マドリード北西のエル-エスコリアルにあるスペイン-ルネサンスの代表的建築。スペイン王フェリペ2世*の命により，対フランス戦勝利を記念して建設された。1563年に着工し，1584年に完成。殉教者ロレンソを祭る僧院と歴代国王の廟所(びょうしょ)を兼ね，宮殿が併設されてフェリペ2世の居宅となっていたことは，国家と教会の融合を図る王の意図をよく表わしている。外面はいっさいの彫刻的装飾を排し，単純な線でまとめられている。画廊にはスペイン・フランドル・ベネチア各派の名作が蔵せられ，特にエル-グレコの絵が有名である。〔大野慎一郎〕



エスコリアル

エスシーアール ⇨サイリスター

エスじょうけっちょうかちょうしょう【S状結腸過長症】 S状結腸(大腸の一部で，結腸の末端がS状に曲がって直腸に連なる部分)が延長している状態で，虚弱体質などにみられる。便通不整(特に常習便秘)・腹痛がおもな症状である。特別な治療法はないが，栄養を十分にとり，適当な運動を続ける。薬剤は原則として用いない。

エスタード-ノーボ［Estado Novo］ ポルトガル語で〈新体制〉の意。1937年から1945年まで，ブラジルで実施された政治制度をさす。ヨーロッパ流の全体主義の影響を受けた一種のファシズム的政治体制。同制度のもとで，大統領バルガス*は立法・行政権を一手に掌握し，強固な独裁制を敷いた。労働法規を充実して労働者の支持を得る一方，軍部をその傘下(さんか)に収めた。このような軍部・労働者一体化の方式は，アルゼンチンのペロン*に大きな影響を与えた。〔松下 洋〕

エスディーアール［SDR］ Special Drawing Rightの略称。IMF*特別引き出し権。国際流動性*の増加を確保するために，IMFが従来からの一般的引き出し権に加えて新たに創出した，特別の引き出し権。1967年8月，十か国蔵相会議*で議決され，同年9月のIMF第22年次総会において加盟国106か国によって承認された。特別引き出し勘定の参加国になるかならぬかは，各加盟国の自由であり，IMFの現行割り当て額総額の75％以上を有する諸加盟国が特別引き出し勘定の参加国になったときに，特別引き出し権制度は発足する。1969年秋のIMF総会で第1回の発動が決議された。

〈創出と配分〉 SDRの創出と配分に関する決定は，IMF理事会の同意のもとに専務理事が提案し，IMF総務会が85％の多数決をもって決定する。特別引き出し勘定参加国は，一定限度額(各国配分額の2倍)まで他の参加国から提供されたSDRと交換に，交換可能通貨を提供するという義務を負う。各参加国がこの義務を忠実に履行するかぎりにおいて，SDRは交換可能通貨に対する取得権として機能し，各参加国は，SDRと交換にいつでも交換可能通貨を取得することができ，各参加国において準備資産として取り扱われるようになる。SDRの使用は，自国の国際収支*の赤字決済に必要な場合，もしくは自国の総準備に必要な場合のみに制限され，自国の準備資産構成を変化させるために使用することは認められない。しかし，各参加国は，他の参加国の同意のもとに，他の参加国の保有する自国通貨残高を購入するためにSDRを使用することは認められている。SDRを使用した各参加国は，準備ポジションを復元する義務を負っている。とりあえず，SDR発行から5年間の基本期間では，SDRの純使用額が過去5か年間平均で，その期間の平均累積配分額の70％を超過した場合，その超過分について復元しなければならない。SDR1単位の価値は，純金0.888671gであり，これはアメリカ-ドルの1ドルと等価である。

〈特色〉 ①SDRは，ポンドやドルと異なって，国際的協議に基づいて国際的管理のもとに新しく創立される国際通貨であり，史上はじめての国際管理通貨である。②国際通貨としてSDRの価値の根拠は，参加国の義務の履行に関する誓約に求められる。SDRは金との交換は認められず，その背後に実質的な価値の裏づけがない。ただ参加国がその義務を忠実に履行するかぎりにおいて，SDRは，参加国間で受領性をもち，交換可能通貨の取得権として機能し，国際通貨として扱われるようになる。③SDRは，国際通貨であるといっても，単に交換可能通貨に対する取得権であるにすぎず，国際取引通貨ではない。SDRは，交換可能通貨を取得するための手段として，IMF特別引き出し勘定の振替を通じて参加国の中央銀行間に移転されるのみであって，外国為替(かわせ)市場*に姿を現わして，そこで取引されることはない。➔国際通貨〔安井孝治〕

エスティーオーエル［STOL］ ⇨垂直離着陸機

エステート ⇨プランテーション

エステラーゼ［esterase］ 加水分解酵素の一種で，エステル結合を切って酸とアルコールにする酵素の総称。種類は多く，消化酵素中のリパーゼのように脂肪を脂肪酸とグリセリン(三価アルコール)にするもののほか，シナプシス・神経末端部にあって神経の興奮伝導にたいせつな役目をしているアセチルコリンエステラーゼ，その他リン酸エステルを切るエステラーゼもある。タンパク分解酵素にもこの作用があることが知られている。〔井坂三郎〕

エステル［ester］ 有機酸または無機酸とアルコールが脱水縮合して得られる化合物，またはこれと同じ構造をもつ化合物をいう。二塩基酸以上の酸には，酸残基が全部エステルになった中性エステルと，一部だけがエステルになった酸性エステルとが

ある。ふつう単にエステルとよぶ場合はカルボン酸エステルのことをいう。低級のカルボン酸と低級のアルコールとのエステルは一般に芳香があり，植物の精油中に含まれるものがある。高級カルボン酸と高級一価アルコールとのエステルはロウとして動植物界に広く存在する。高級カルボン酸とグリセリンのエステルは動物の脂肪や植物油の成分である。エステルはいろいろな方法で合成されるが，最も基本的な方法はカルボン酸とアルコールを鉱酸の存在下で加熱するものである。低級エステルは一般に揮発性で果実の芳香をもっているので，人工果実エッセンスとして食品の香料に使われている。〔石戸良治・荒木洋之助〕

エステルか【エステル価】油脂またはロウ1gに含まれているエステルを完全に鹸化(けんか)するために必要な水酸化カリウムのmg数をいう。脂肪のエステル価をEとするとそのグリセリン含量は0.0547E(%)として求められる。➔鹸化

エステルしょ【エステル書】《旧約聖書》の第17書。BC125年ごろ成立。ペルシア王クセルクセス*は新しい王妃としてユダヤ人の孤児でモルデカイの養女エステルを迎え入れた。しかし，宰相ハマンは王国中のユダヤ人を根絶やしにする法令を王に出させたので，王妃は王に自分の生まれを明かし，逆にハマン以下のユダヤ人の敵が殺される。ユダヤ人はこれを記念してその翌日・翌々日をプリムとよんで祝った。

エストッペル ⇨禁反言の原則

エストニア(共和国)［Estonskaya S.S.R.］ソビエト連邦を構成する共和国の一。ヨーロッパ-ロシア北西部にあって,北はフィンランド湾，西はバルト海に面する。リトアニア・ラトビアとともにバルト三国とよばれる。面積45,000km²。人口130万4,000(1968)。首都タリン。

〔自然・住民〕地形は低平で，海抜100mを越える部分は国土の10分の1にすぎず，大部分が40m程度の低地である。平均海抜は50m。古くは氷河におおわれていたため，モレーン(➔氷河)や氷河湖が多く，湖沼は1,000以上,その総面積は2,200km²に及ぶ。地味はやせていて，肥料を多量に用いねば農耕は不可能である。気候は西岸海洋性と大陸性の中間型であり，1月の平均気温は−5℃，7月は16℃となり，年平均降水量は550mmである。この気候に支配されて針葉樹を主とする樹木が繁茂し，その森林面積は全国土の30%を占める。住民はエストニア人(75%)・ロシア人(20%)・フィン人(1.4%)などで構成され，エストニア語を話す。エストニア人はフィンランド人に近く，文化の面で西欧的なところがある。

〔産業・経済〕産業は酪農を中心とし，ブタ・ニワトリなどの畜産も盛んである。農産物はジャガイモが多く，ライ麦・大麦・アマ(亜麻)などもつくっている。漁業は，バルト海のエストニア群島を根拠地として行ない，アンチョビー・スプラットイワシの漁獲が多い。工業は豊富な森林資源を利用した木材・パルプ・製紙工業が盛んであるが，近年タリンを中心に機械・化学などの工業も興ってきた。鉱産は，ソ連全体の57%を産出するユボケツ岩のほか,石灰岩・ドロマイトがあり，特にユボケツ岩は，これを燃焼させてガス化を行ない，パイプによってレニングラードまで送られている。鉄道・道路ともに発達し，交通機関の普及度はバルト三国随一といわれる。

〔歴史〕16世紀半ば以来スウェーデン領であったが，1721年ロシア領となり，1918年エストニア民主共和国が成立した。しかしドイツ，次いでイギリスの干渉で倒された。1940年ソビエト連邦に加入したが，アメリカ合衆国はまだこれを承認していない。〔斎藤晨二〕

エストラジオール［estradiol］$C_{18}H_{24}O_2$ 卵巣の濾胞(ろほう)でつくられる卵胞ホルモンの一種で，α,βの2種がある。ステロイド化合物で，発情ホルモンの一種である。第2次性徴を促進し，女性の性周期を正常に保つ。すなわち膣(ちつ)上皮細胞の増殖，頸管腺(けいかんせん)からの粘液分泌，子宮内膜の増殖肥厚などに作用している。安息香酸エステルは，発情ホルモンの国際単位を決める基準物質の一つとなっている。➔卵胞ホルモン

えすとる【恵須取】⇨ウグレゴルスク

エストロン［estrone］卵巣の濾胞(ろほう)でつくられ，エストラジオール*・エストリオールとともに卵胞ホルモンをなし，ステロイド化合物に属する。第2次性徴を促進し，性周期を整える。妊娠時は尿への排出が1日30mgにもなる。➔卵胞ホルモン

エスは【S波】⇨地震

エスビーアール［SBR］⇨スチレン-ブタジエンゴム

エスピーエフぶた【SPF豚】specific pathogen freeの略称。比較的広範囲のブタ群に損害を与える重要ないくつかの疾病(しっぺい)をもたないブタという意味で，特定病源体非感染ブタなどともいわれている。プライマリーSPFとセコンダリーSPFとがあり，前者は母ブタから無菌的に開腹手術によって取り出した子ブタを隔離室で無菌的に数週間哺育(ほいく)し,以後清浄な豚舎で飼育しているものをいう。後者は，この清浄な豚舎でプライマリーSPFブタどうしから普通の交配・分娩(ぶんべん)によって得られたものをいい，これもSPF的閉鎖環境の中で飼育される。SPFブタは内外寄生虫はもちろん，大腸菌症・萎縮(いしゅく)性鼻炎・流行性肺炎などに感染していないため，育成率・飼料要求率がすぐれている。〔大田正義〕

エスピネル［Vicente Espinel］(1550〜1624) スペインの小説家。放浪生活を送ったのち聖職者となる。自伝的な悪者小説*《従士マルコス-デ-オブレゴンの生涯(しょうがい)》は，ル-サージュ*の《ジル-ブラース物語》の粉本となったといわれる。

エスプリ［Esprit］フランスのカトリック系総合雑誌。月刊。1932年ムーニエ*によって創刊され,人格主義(ペルソナリスム)を基盤にした編集で現在も広く読まれている。第2次世界大戦中，ビシー政府によって発禁処分にされたが，1944年に復刊した。現編集長はドムナック。

エスプロンセーダ［José de Espronceda］(1808〜1842) スペイン-ロマン主義の代表的詩人。年少より国内外で革命運動に関係し，その間，バイロン*の強い影響を受けた。代表作は《サラマンカの学生》，未完の劇詩《悪魔現世》など。

エスペラント［Esperanto］ポーランドのユダヤ人ザメンホフ*が，1887年に発表した国際語*。エスペラントとは〈希望する人〉という意味で,発表のときの彼の匿名。彼は，この国際語が広まることによって，世界に平和がくることを希望した。それで，エスペランチスト(エスペラント使用者)のバッジは，平和を象徴する緑の星となっている。単語はラテン系を中心とし，ゲルマン系・スラブ系を少し加えてある。発音は1字1音素で，そのためŝ(英語のsh)のような特別の文字がある。アクセントはいつも終わりから二つめの音節。文法は簡単である。形容詞は-a,名詞は-o。例：bela floro(美しい花)。複数は-j(英語のｙ)。例：belaj floroj。動詞の現在は-as，過去は-is，未来は-os，命令は-u，仮定は-us。例：Kato kaptis raton(ネコがネズミを捕えた)。ただし,動詞の目的になる語は-n。接頭辞・接尾辞がたくさんあり，単語の組み合わせも盛ん。エスペラントの文学作品は，世界各国のものの翻訳だけでなく，創作もある。エスペラント運動の団体として，エスペラント学士院・世界エスペラント協会・日本エスペラント学会のほか，社会運動・科学・宗教その他の専門団体がある。〔川崎直一〕

エスペラントの文例

あるとき，北風と太陽が，どちらが強いか言い争っていました。《イソップ物語》から

イウン	ターゴン	ノルダ	ベント	カイ
Iun	tagon	Norda	vento	kaj
ある	日	北	風	と
スーノ	ディスクーティス	キウ		
Suno	diskutis,	kiu		
太陽(が)	議論した	だれ(が)		
エスタス	プリ	フォルタ		
estas	pli	forta.		
である	より	強い(かと)		

エズラき【エズラ記】《旧約聖書》の第15書。BC538〜BC432年のユダヤ史がしるされ，《歴代史略*》の続編をなす。1〜6章はペルシア王キュロスに許されたバビロン捕囚*がエルサレムに帰り，神殿を再建する

まで，7～10章は祭司エズラがその後の人人の堕落を見て，律法の精神を取りもどすべく宗教改革を行なうことが記されている。

エスラージ　インドの擦弦楽器。北インド，特にベンガル地方(東パキスタンも含めて)で，芸術音楽・民謡に広く使われている。伴奏・独奏・器楽合奏に使われる。共鳴弦がインドの他の楽器よりは少なく，音量の小さな柔らかい音色のものである。

エスロ　⇨ヨーロッパ宇宙研究機関

エセー　⇨随想録

エゼキエルしょ　【エゼキエル書】《旧約聖書》の第26書である預言書。紀元前6世紀に成立。一貫して〈神の声〉を伝えている。契約を裏切った民に対する神の怒りとその力が圧倒的な恐ろしさで示される。しかし，神はやがて恵みと光栄に輝く未来を民に示し，永遠の契約がなされる。エゼキエルはバビロン捕囚*のひとりで，その後20余年，同胞を教え励ました。四大預言者のひとりとされるが，その象徴的表現，幻視の経験が他の預言者よりはなはだしい。〔松田　治〕

エセックス　［Essex］　イギリス，イングランドの州。面積4,000km²。人口228万8,000(1961)。首都はチェルムスフォード。西部地区は食料品・化学(薬品)・自動車などの工業が発展しているが，この州の主産業はカキの養殖を中心とする漁業と，おもにロンドン向けの野菜・果実を栽培する近郊農業である。また，ロンドンで働く労働者たちの住宅地でもある。

エセーニン　［Sergey Aleksandrovich Esenin］　(1895～1925)　ソ連の詩人。ロシアの農村の自然と生活を繊細に，叙情的にうたう農村詩人として出発し，処女詩集《追善週間》にはそのような詩が収められている。のち，ロシア革命の時代には，革命に関する《変容》などの詩も書いたが，古きロシアの消滅に深い苦悩を覚え，ついに自殺するに至った。代表的な詩集に《酔いどれのモスクワ》がある。

えそ　【狗母魚】　硬骨魚類・エソ科。50cmほどになる海産魚。正しい和名(標準和名)ではマエソという。体は細長く円筒状，頭の上面が平らで，ボラに似ている。体色は淡かっ色，腹面は白い。本州中部以南の浅い海底にかなり多い。小骨が多いが美味で，上等なかまぼこの原料になる。近い種類にオキエソがある。30cmほどになり，本州中部以南の内湾の浅海底にかなり多いが，味はマエソより劣る。

えそ　【壊疽】　脱疽ともいう。壊死*の一型。壊死に陥った組織に種々の嫌気性(けんきせい)菌による二次的感染が起こって，腐敗・変性したもので，病巣は軟化し，悪臭を出すようになる。

えぞ　【蝦夷】　〈えみし〉とも称せられた。古代日本の東部・東北部の辺境地方に住んでいた原住民。アイヌ*と同系の種族のようであり，古代文献では毛人ともしるされて，内地社会からは長く異民族としてみられた。国土統一を進めていた大和(やまと)朝廷が関東の蝦夷を征服した時期があったことはヤマトタケルノミコトの神話などに伝承され，その時期は5世紀前半ごろと推定されている。大化改新後，律令(りつりょう)国家の北進政策は積極化し，8世紀前半には多賀城*を拠点として，蝦夷の生活圏は宮城・秋田県の北限まで律令制*下に置かれた。蝦夷の間ではすでに水田耕作が行なわれ，部族集団も形成されていて，律令国家の蝦夷地開拓はその生産力や資源をめざして推進されたとみてよい。780年(宝亀11)に始まる蝦夷の大反乱は重大な脅威を中央に与えたが，801年(延暦20)坂上田村麻呂*(さかのうえのたむらまろ)により鎮定された。のち，蝦夷は政府の同化政策に応じ逐次内地化の傾向を強めていったが，古代末期においてもなお陸奥(むつ)(東北地方)には，安倍(あべ)氏*・奥州藤原氏*のように蝦夷の首長をもって任ずる大豪族が出現し，富強を誇った。12世紀末，源頼朝(よりとも)が奥州藤原氏を滅ぼすまで，古代史を通じて蝦夷は辺境異民族として位置づけられ，中央にとって対立勢力となっていた。〔高崎徳次〕



エ　ソ

えぞいたち　⇨オコジョ

えぞうし　【絵草紙】　⇨草双紙

えぞかんれい　【蝦夷管領】　鎌倉幕府の職名の一。蝦夷代官ともいい，陸奥(むつ)(青森県)津軽に設置された。執権北条義時(ほうじょうよしとき)が津軽の豪族安倍(あべ)氏の子孫安東氏(安藤氏)を代官としたのがはじめで，以後安東氏の世襲となる。奥州および渡島(おしま)(北海道)の蝦夷反乱に備え，貢税を徴収するのを役目とした。鎌倉幕府滅亡とともに断絶した。

えぞぎく　【蝦夷菊】　⇨アスター

えぞせいばつ　【蝦夷征伐】　⇨蝦夷

えぞぜみ　【蝦夷蟬】　こん虫類・半翅(はんし)目・セミ科。体長40～43mm，翅(はね)の先端までの長さ65～68mm。体は黒色で，黄緑色(死後は暗黄色となる)および赤かっ色の斑紋(はんもん)がある。日本全土に分布し，7～9月に発生する。鳴き声は〈ギャーギャー〉に近い。近縁のコエゾゼミは，体長33～35mm，翅の先端までの長さ50～55mm。北海道および本州の山地に分布し，鳴き声や発生期は本種に近い。

えぞち　【蝦夷地】　北海道*の旧称で，単に〈蝦夷〉ともよぶ。蝦夷がかつて居住していた地域の意味で，広くは千島やサハリン(樺太(からふと))をも含み，樺太のことを北蝦夷ともいった。古代にはまだ蝦夷地のようすはよくわかっていなかったので，出羽(でわ)の国に編入されて，渡島(おしま)とよばれていた。江戸時代に，蝦夷地の開発が進むにつれて，さらに地域的に区分して，渡島半島の山越(現在の山越郡八雲町)以南を口蝦夷，山越以北を奥蝦夷とよび，また，渡島半島亀田(かめだ)町以遠の東海岸を東蝦夷，熊石(くまいし)町以北の西海岸を西蝦夷とよぶようにもなった。1869年(明治2)北海道開拓使の設置に伴い，これらの呼称は廃された。〔浅井得一〕

えぞばい　【蝦夷蛽】　軟体動物・腹足類・エゾバイ科の巻き貝。かっ色の殻(から)は，高さ6cm程度。東北地方以北千島までの，10～30mの磯(いそ)に普通にみられる。

えぞぶぎょう　【蝦夷奉行】　⇨箱館(はこだて)奉行

えぞぼら　【蝦夷法螺】　軟体動物・腹足類・エゾバイ科の巻き貝。かっ色の厚い殻(から)は高さ15cmほど。東北地方以北の水深50～200mの海にすむ。美味。北海道ではエゾボラ属と，それに近い数種をひっくるめて，〈ツブ〉とよんで賞味しているが，その中で代表的なのはヒメエゾボラである。これは，エゾボラによく似た高さ9cmほどの白茶けた厚い殻をもち，本州中部以北・華北・朝鮮に分布する。エゾボラの仲間はすべて肉食。

えぞまつ　【蝦夷松】　裸子植物・マツ科。北海道以北に多い常緑高木。幹は灰かっ色で深い割れ目があり，若枝は黄かっ色でらせん状に花をつける。葉は線形で長さ1～2cm，幅1～2mm。葉が基部で曲がるために葉の表裏が逆になる。雌雄同株。球果ははじめ上を向いているが，のちに下を向く。材質が緻密(ちみつ)で，建材・パルプ材として用いられる。トドマツ*はこの一変種で，本州亜高山帯に分布する。

えぞりす　【蝦夷栗鼠】　哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・リス科。北海道の森林にすむ。体長22～27cm，尾長15～20cm。本州のリスに似るが大形で耳の先に大きなふさ状の毛がある。夜は樹上に枯枝を集めてつくった巣に潜み，早朝と夕刻に出て，マツ類の種子，どんぐりなどを食う。秋にはクリや，かわかしたきのこなどを穴にたくわえて冬の食糧とする。

えた　【穢多】　江戸時代，非人*とともに賤民階級に置かれた人々。一般民との雑居・通婚が認められず，各地の都市や農村の一隅(いちぐう)で閉鎖的な生活を送った。江戸の弾左衛門*(だんざえもん)が穢多頭(えたがしら)として支配，皮革加工などの手工業生産，罪人の逮捕・処刑などに従事した。幕藩体制のきびしい身分制を，その底辺でささえさせられた犠牲者といえよう。1871年(明治4)非人・穢多の称は廃止されたが，なお今日にも問

題を残している。➔部落解放運動
〔高崎徳次〕

えだ　**【枝】**　ふつう多年生の維管束植物の幹から分かれた茎をいう。植物の種により決まった方向に出る，腋芽(えきが)の生長したものであるが，不定芽からも生ずる。

えだあしくらげ　**【枝足水母】**　腔腸(こうちょう)動物・ヒドロ虫類・エダアシクラゲ科。高さ4mm，幅3mmほどの薄茶色のクラゲであるが，一般のクラゲと異なり，浮遊性ではなく，沿岸のホンダワラなどに付着している。9本の触手が複雑に枝分かれしているので，この名がある。

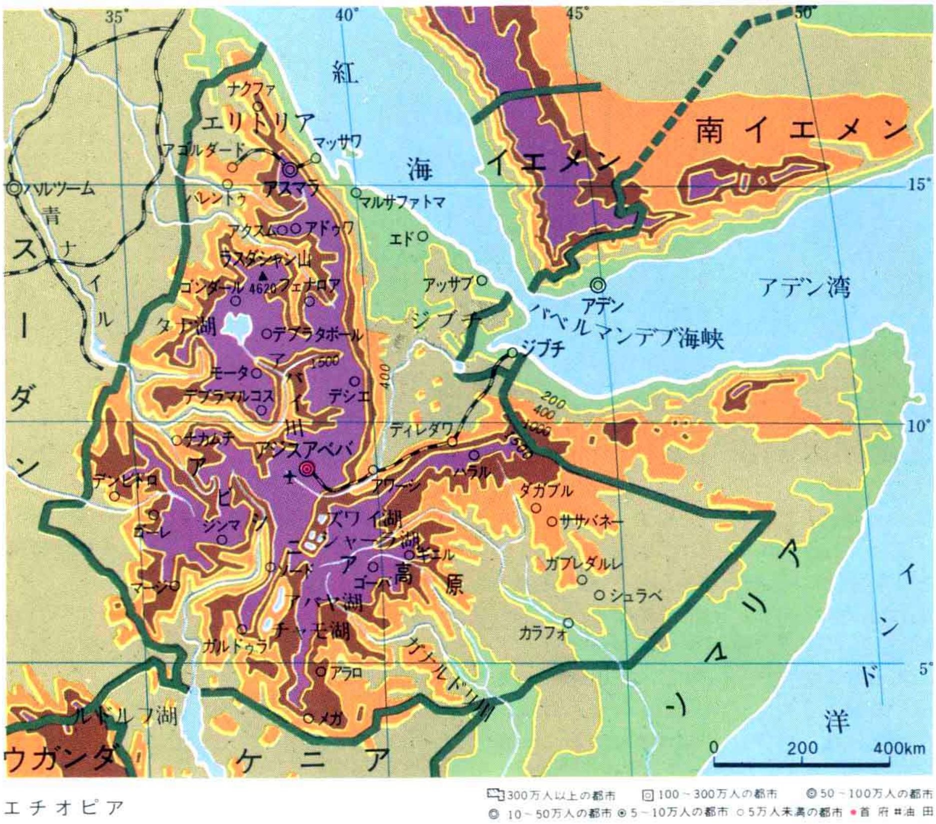
えだくみのつかさ　**【画工司】**　絵画・彩色に関することを扱う役所。養老令(りょう)(718)によれば中務(なかつかさ)省に属し，正・祐(ゆう)・令史各1人，画師4人，画部(えかきべ)60人，使部16人，直丁(じきてい)1人からなる。808年(大同3)漆部司(ぬりべのつかさ)とともに内匠寮(たくみりょう)に併合。のち画所*(えどころ)とよばれ，宮廷関係の絵画制作にあたった。

えたじま　**【江田島(町)】**　広島県安芸(あき)郡の町で，広島湾内にあるY字形の島の北東部(江田島)を占める(他は西能美(にしのうみ)島・東能美島といい，ともに佐伯(さえき)郡)。人口16,000。カコウ岩の山地からなり，平地に乏しいので，役場のある本浦をはじめ，集落は海岸に点在する。沿岸漁業が行なわれ，カキの養殖が盛んで，斜面を開いて農耕を行ない，ハクサイ・キャベツ・トマトなどを栽培している。広島・呉(くれ)両市へ通勤する人も多い。1888年(明治21)以来本浦に海軍兵学校が置かれたが，現在は海上自衛隊の第1術科学校・幹部候補生学校となっている。

えたふなやまこふん　**【江田船山古墳】**　熊本県玉名郡菊水町大字江田にある後期古墳。前方後円墳*で，内部からは刀剣・鏡・馬具・金製耳飾り・金銅製履(くつ)などすぐれた細金細工を施した副葬品を豊富に出土し，被葬者が大陸系文化に包まれて地方に君臨していたようすを如実に示している。ことに出土品中の鉄製太刀(たち)の刀身には75字の漢字が刻まれており，判読によると5世紀中ごろの製刀と推定され，わが国漢字使用の最古の遺品となっている。
〔高崎徳次〕

えだまめ　**【枝豆】**　未熟なダイズ(青豆)をさやごと塩ゆでしたもの。栄養価も高く風味もよい。地方によっては水田のあぜに植えたものを用いるので，あぜ豆ともいう。古来月見にはなくてはならぬものとされており，9月13夜の名月は，豆名月の称がある。近年は，はしりを尊重するあまり盛夏に出盛って，かんじんの季節に味が落ちるようになった。

エタン　[ethane]　CH_3CH_3　メタン系炭化水素の代表的なものの一。天然ガス・石油分解ガス・石炭ガスなどに含まれる。低温分留によって得られるが，ハロゲン化



エチオピア

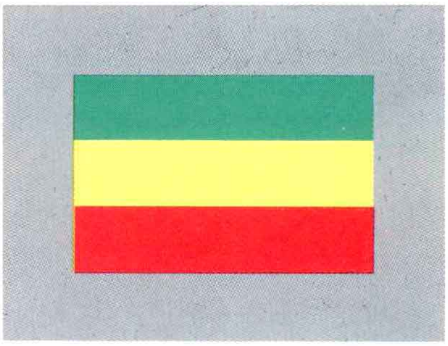
エチルを還元したり，エチレンやアセチレンを水素添加しても得られる。無色無臭の気体で引火性・爆発性がある。熱分解によりエチレンやアセチレンを生じる。燃料として使われるほか，エチレンの製造原料・有機合成原料として重要である。
〔石戸良治・荒木洋之助〕

エチェガライ　[José Echegaray]　(1832～1916)　スペインの劇作家。数学者・経済学者としても成功し，政治家として大蔵大臣をつとめたりもした。のちに劇作に専念し，《狂か聖か》《恐ろしきなかだち》などの成功により，1904年ノーベル文学賞受賞。

エチオナミド　[ethionamide]　化学名2-エチル-4-チオカルバモイルピリジン。黄色の結晶で無味・無臭の抗結核剤。イソニアジド*と同系統の結核化学療法剤であるが，試験管内ではイソニアジドの10分の1，ストレプトマイシンの2倍の抗菌力を示す。副作用としては，食欲不振・胃部不快感などがある。

エチオピア　[Ethiopia]　アフリカ大陸東部高原にある古い王国。**北東は紅海に面し，東はソマリア・ジブチ，南はケニア，西はスーダンに接している。別名アビシニア。面積122万1,900km²，人口3,260万(1978)，首都アジスアベバ。**

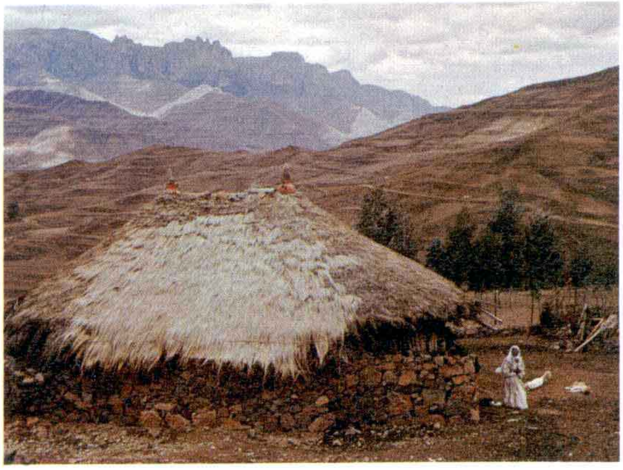
〔自然・住民〕中央部を海抜1,800～2,400mのアビシニア高原が占め，南東部のウェブシベリ川流域と北部のダナキルの低地は砂漠(さばく)となっている。気候は低地は乾燥気候であるが，高原は高山気候であり，アジスアベバの年平均気温は15.8℃で過ごし



エチオピアの国旗　1894年採択。3色はエチオピアでよくみられるにじの色といわれる。アフリカで最も古い独立国であることから，黒人アフリカ諸国の国旗に大きな影響を与え，アフリカ統一のシンボルとまでいわれている。なお，政府旗は中央にライオンの紋章がつく

よい。雨季は4月から9月までである。住民はアラブに連なるセム系の農耕民が主であるが，ほかにハム系の遊牧民がダナキルの低地などでウシ・ヒツジ・ヤギなどを飼育し，南部にはガラ族とよばれる黒人系の住民が原始的な農耕生活を営んでいる。宗教は，住民の多くがセム系であるため，エジプトのコプト語族が信仰していたキリスト教(コプト教会)を信仰しており，次いでイスラム教徒が多い。

〔産業・経済〕現在のアフリカ大陸の独立国中最も早く独立した国であるが，経済的には未発達の面が多い。耕地面積は国土の10%前後で，自給作物としての小麦の栽培と乳牛の飼育を行なう。最大の輸出品であるコーヒーは毎年50,000t以上を産するが，



エチオピア 北部のエリトリアに近いラスダシャン山(4,620m)付近の高原と村落の家で,白い服は民族衣装のシャンマ

多くは自生のものから採取するため生産性は低い。しかしコーヒーの原産地であり,その素朴(そぼく)な風味は輸出先で好評を博し,輸出額は国家の輸出総額の50%以上を占める。鉱物の開発はまだまだなされておらず,工業もたばこ・紡績など軽工業が中心であるが,近年ようやく化学工業が行なわれるようになった。鉄道はアジスアベバから紅海に面したソマリアの海港ジブチまでの約780kmと,エリトリアにおけるマッサワ〜アゴルダード間の306kmがあるだけで,今後の敷設に期待するものが大きい。首都アジスアベバには国際空港があって,世界各地と結ばれ,国営のエチオピア航空は同空港を本拠に国内各地を結んでいる。道路網は比較的発達している。

【歴史・政治】 エチオピアの皇室は《旧約聖書》にあるシバの女王の子孫と称しており,古い伝統をもっていた。紀元前11〜紀元前10世紀ごろすでに独立王国となり,3〜4世紀にはキリスト教がはいってきた。周辺の諸国がイスラム教国となり孤立したこともあったが,現在でもキリスト教が主要な宗教となっている。2度にわたるエチオピア戦争*でイタリア軍に侵略されたが,それ以外に他国に占領された経験はない。1952年国連の決議によって紅海に臨むエリトリア地方を合併,海への連絡口を得ることになった。政府は国土の自力開発が困難なためアメリカ合衆国・ソビエト連邦などからの開発援助を得ており,日本も1960年まで開発顧問団を送っていた。〔小栗 宏〕

⇨ハイレ-セラシエ(1世)

エチオピアく 【エチオピア区】 動物地理学上の分布区の一。アフリカ大陸のサハラ砂漠(さばく)の以南をいい,ゴリラ・チンパンジー・キリン・カバ・ダチョウなどがみられ,大形脊椎(せきつい)動物の多いことが特徴となっている。哺乳(ほにゅう)類の約3分の2,鳥類の5分の2が固有種とされている。マダガスカル島は大陸とは著しく異なった動物相をもち,マダガスカル亜区として独立させている。K.P.シュミットはエチオピア区と東洋区*は共通または近縁種が多いとして,両者をそれぞれ亜区として扱い,旧熱帯区としてまとめている。➔動物地理区

エチオピアせんそう 【エチオピア戦争】 イタリアのエチオピアに対する2度にわたる侵略戦争。

1 1895年イタリアはエリトリアからエチオピアに侵入。イタリアと同様,エチオピア侵入の機会をねらっていたイギリス・フランスはイタリアと激しく対立した。のち,イギリスとは妥協が成立したが,フランスはエチオピア皇帝に通じて武器・資金を援助した。このため,イタリアは1896年3月アドゥワの戦いでエチオピア軍に敗退し,エチオピアの独立を承認した。

2 ムッソリーニ*は世界経済恐慌のもたらした社会不安を打開するため,1935年エチオピアに侵入した。国際連盟*はイタリアに対し経済封鎖を発動したが,ドイツ・アメリカが連盟に参加していなかったので実効はなく,1936年5月首都アジスアベバは陥落し,イタリアはエチオピア併合を宣言した。この戦争を通じてイタリアはドイツに接近し,1936年10月ベルリン・ローマ枢軸が成立し,エチオピアの独立は第2次世界大戦後に達成された。〔大野慎一郎〕

エチカ 〔Ethica〕 オランダの哲学者スピノザ*の主著。《倫理学》とも訳される。1675年に出版しようとしたが自由思想のゆえに許可されず,1677年,彼の死の年に遺稿集の一つとして出版された。しかし翌年には発禁になり,1世紀のちにボルテールやドイツ啓蒙(けいもう)主義者らに再発見されるまで埋もれていた。内容は5部に分かれ,〈幾何学的秩序によって論証〉される。第1部は形而上学(けいじじょうがく)(実体論),第2部は認識論(精神論),第3部は感情論,第4部・第5部は倫理学・宗教論。神即自然を説く形而上学から筆を起こすが,重点は人間の幸福と自由の追求にあり,これは神への知的愛によって得られるとする。〈すべて高貴なものはまれであるとともに困難である〉の句が結語。《エチカ》の後世への影響は大きく,汎神論(はんしんろん)はレッシング・ゲーテらに,身心平行論(一元論)はシェリング・ヘーゲルらに,決定論はフォイエルバッハやマルクス主義者に受け継がれた。

えちがわ 【愛知川】 滋賀県と三重県の境を走る鈴鹿(すずか)山脈の西斜面,藤原岳から御在所山にかけての水を集め,渓谷部(けいこくぶ)を出てから北西に向かい,湖東平野とよばれる沖積地(ちゅうせきち)をつくって琵琶湖(びわこ)に注ぐ。流程39.6km。河口の沖積面の拡大によって琵琶湖の水面を取り込み,伊庭内湖(いばないこ)をつくったが,干拓によっていまはない。湖東平野は広い水田地帯に開拓されている。

エチケット ⇨礼儀作法

えちご 【越後(国)】 佐渡*を除く新潟県の旧国名。越州。北陸道に属する。天武朝(672〜686)に古志(越)を3分して越後を置き,702年(大宝2)さらに越中の4郡をさいて越後に編入し,石船(いわふね)・三島・古志・蒲原(かんばら)・沼垂(ぬたり)・魚沼・頸城(くびき)の7郡となる。国府は頸城郡(直江津市)にあった。現在は新潟・長岡・高田・直江津・新発田(しばた)などの20市と15郡に分かれる。鎌倉時代には比企・佐々木・北条(ほうじょう)・名越の諸氏が,室町時代には宇都宮(うつのみや)氏,次いで上杉(うえすぎ)氏が守護となったが,戦国末期,守護代長尾氏が上杉と改姓した。豊臣秀吉(とよとみひでよし)は1589年(天正17)上杉氏を会津に移し,以後江戸時代を通じて諸大名を各地に分封した。幕末には長岡(牧野)・高田(榊原(さかきばら))など11藩,別に新潟に奉行(ぶぎょう)を置いた。維新後,柏崎(かしわざき)・新潟の2県を経て1873年(明治6)新潟県となる。〔綫 弘道〕

えちごうさぎ 【越後兎】 哺乳(ほにゅう)類・ウサギ目・ウサギ科。体長50cm,尾長3cmほどのノウサギ*で,普通は冬は耳の先端を除き全身白色となる。本州の日本海沿岸と東北地方の田・畑・林に分布。家畜のイエウサギよりも後ろ足が大きく,1回の跳躍は2mに達する。

えちごおいわけ 【越後追分】 ⇨追分

えちごさんみゃく 【越後山脈】 新潟・福島県境を,ほぼ北東から南西にかけて広がる。北は阿賀野(あがの)川の横谷で飯豊(いいで)山地と区別され,西は魚沼丘陵などをはさんで越後平野に臨み,東および南は只見(ただみ)川上流の山地を経て,帝釈(たいしゃく)山地・三国山地に接する。本州の脊梁(せきりょう)山脈の一部を構成し,守門岳(すもんだけ)(1,538m)・浅草岳(1,586m)などの火山も含み,地形は複雑である。山地が深く,また冬季の深雪地帯で,山村の生活様式が残っている。かつては越後と奥会津地方を結ぶ六十里越・八十里越などの交通路が通じていたにすぎなかったが,第2次世界大戦後は電源開発で脚光を浴び,只見川流域には多くのダムがつくられた。〔高野 繁〕

えちごじし 【越後獅子】

1 地歌の曲名。18世紀末に峰崎勾当(こうと

う)によってつくられ,箏曲(そうきょく)としても演奏される。角兵衛獅子*(かくべえじし)と越後の名物を折り込んだ歌詞をもち,手事の役割も大きい。

②長唄(ながうた)の曲名。1811年(文化8)に9世杵屋六左衛門(きねやろくざえもん)によって七変化舞踊《遅桜手爾葉七字(おそざくらてにはのななもじ)》の一つとして作曲された。歌詞・旋律とも地歌から借りた点が多い。また,浜唄や甚句(じんく)などの民謡も折り込まれていて,旋律形態がはっきりしており,洋楽器による合奏でも親しまれてきた。〔徳丸吉彦〕

えちごじょうふ【越後上布】 新潟県小千谷(おぢや)市・十日町・六日町を中心として,越後地方で生産される麻織物の高級着尺地。経(たて)・緯(ぬき)糸に極細の苧麻*(からむし)の手紡ぎ糸を用いて平織とし,薄手できわめて軽く,縞(しま)・絣(かすり)を織り出したものが多い。昔どおりの技術(手紡ぎ糸を用い,手くびりによって染め,居坐機*(いざりばた)で織り,雪でさらす)によるものは,現在,国の無形文化財に指定されている。緯に強撚糸(きょうねんし)を用い,製織後に湯もみをして布面に縐(しぼ)を出したものは,通常は越後縮(えちごちぢみ)・小千谷縮の名でよばれている。明治末から普通品には苧麻の代わりに経緯の一方か,またはいずれにもラミー*が使われるようになり,現在に及んでいる。越後地方における麻織物の歴史は古く,奈良時代にさかのぼると考えられるが,平安時代初期には,毎年越後から1,000反の麻織物が交易品として都へ送られていた。また,鎌倉時代には源頼朝(よりとも)が越後布1,000反を朝廷に献上したことが《吾妻鏡(あづまかがみ)》にみえている。こうした時代の越後布は,単に布・白布・越布などとよばれ,糸も太く,織りもあらく,文様を織り出すこともなく無地のものであったと思われる。ところが江戸時代になって,商品経済がより盛んになるに及んで,技術の改良や縞や絣の意匠が加えられた結果,その需要・生産は飛躍的な増加をみるに至り,天明(1781～1788)・嘉永(1848～1853)のころには小千谷に集散された製品は数十万反に達したと伝えられている。この技術改良に力を尽くした人は,寛文年間(1660～1672)に播磨(はりま)(兵庫県)明石(あかし)から小千谷に移住した堀(ほり)次郎将俊(まさとし)といわれ,小千谷縮布の創始者とされている。越後に高級麻織物が発達したのは,そうした長い伝統にもよるが,雪が多いという自然条件が麻織物の生産に適していたからでもある。つまり,麻を織るには適度な湿気が必要であり,雪の水素イオンが麻の漂白に有効であるからである。また,積雪のために冬の農閑期が長いことも,織物を盛んにした一因といえる。〔北村哲郎〕

えちごせん【越後線】 柏崎(かしわざき)～吉田(よしだ)～新潟間の国鉄路線。営業キロ数83.8。1912～1913年(大正1～2)および1951年(昭和26)開業。山寄りを走る信越本線に対して海岸砂丘地域を通過するローカル線である。

えちごそうどう【越後騒動】 越後(新潟県)高田城主松平光長(みつなが)の家中で起こったお家騒動*。1674年(延宝2)光長の嫡子綱賢(つなかた)の死により重臣熟議のうえ,光長の弟永見長頼(ながみながより)の遺子万徳丸(三河守(みかわのかみ)綱国)を養嗣子とすることを決めたが,この相続問題をめぐり重臣たちの反目が激しくなった。家老小栗美作(おぐりみまさか)は光長の妹を妻とし,藩政を掌握して権勢並ぶ者がなく,その子大六を推して越後家を継がせようとの意図があった。永見大蔵・荻田(おぎた)主馬らの重臣(御為方(おためがた))は小栗美作ら(逆意方)の排斥を企てて,幕府に訴え出たが,1679年幕府の大老酒井忠清(ただきよ)の裁断で御為方の敗北となった。しかし5代将軍となった綱吉(つなよし)の巡見使に美作の虐政を訴える領民もあったため,1681年綱吉が再審を命じて親裁し,美作父子は切腹,永見・荻田らも八丈島に流された。光長は改易され,のち光長のいとこの子長矩(ながのり)が養子となり,美作(岡山県)津山十万石に松平氏を再興した。〔善積美恵子〕

えちごへいや【越後平野】 ⇨新潟平野

えちごや【越後屋】 江戸時代に三井家*が経営した呉服店の屋号。三越の前身。伊勢(いせ)(三重県)松阪(まつさか)出身の商人三井高利(たかとし)・高平ら父子が,1673年(延宝1)江戸本町に呉服店を開き,祖父越後守(えちごのかみ)高安の名にちなんで〈越後屋〉を店名とした。のち駿河(するが)町に移転,京都・大阪にも開いた。両替店を兼業しながら急速に発展し,江戸後半期の代表的大商家となった。〈現銀安売り掛け値なし〉〈店前売り〉の商法で評判になる。江戸末期に営業不振となるが,明治にはいって三井家の経営から分離独立し,三越呉服店のち三越となり,さらに1928年(昭和3)株式会社三越百貨店となって現在に及んでいる。➔三越 〔松尾 涼〕



越後湯沢温泉　雪におおわれた温泉街。上越線が町の東方を走り,付近にはスキー場が多い

えちごゆざわおんせん【越後湯沢温泉】 新潟県南魚沼郡湯沢町にある温泉で,古くから知られる。泉温42～80℃,泉質は単純泉・セッコウ食塩泉で消化器病・外傷などにきくといわれる。1931年(昭和6)清水(しみず)トンネルが開通してから急速に発展した。付近には清津峡の景勝やスキー場もあり,川端康成(かわばたやすなり)の《雪国》の舞台となったことでも有名である。交通は上越線越後湯沢駅下車。

えちぜん【越前(国)】 福井県の東半部の旧国名。越州。北陸道に属す。もと越国(こしのくに)の一部であったが,天武朝(672～686)に3分されて成立。718年(養老2)能登*(のと)が,823年(弘仁14)加賀*(ともに石川県)が分離独立して敦賀(つるが)・足羽(あすわ)・丹生(にう)・今立・坂井・大野の6郡となり,国府を丹生郡(いまの武生(たけふ)市)に置く。今日では,福井・武生・敦賀など6市と7郡からなる。鎌倉時代には比企・大内・島津・後藤の諸氏が,室町時代には斯波(しば)・細川・畠山(はたけやま),次いで朝倉氏が守護となったが,朝倉氏滅亡後は柴田(しばた)・前田・佐々(さっさ)・堀(ほり)の諸氏が分封され,さらに江戸時代にはその大部分を松平氏が,一部を数大名が分領した。廃藩置県で福井県,次いで足羽県,さらに敦賀県を経て,1876年(明治9)いったん廃止し,1881年福井県を再置して今日に至る。〔黛 弘道〕

えちぜんかがかいがんこくていこうえん【越前加賀海岸国定公園】 福井県の敦賀(つるが)湾東岸から越前岬*(えちぜんみさき),東尋坊*・



越後屋　内部のありさま　歌川豊春画　三井文庫蔵

北潟湖(きたがたこ)や，石川県の橋立・柴山潟(しばやまがた)などを含む。面積97.85km²。1968年(昭和43)国定公園に指定された。越前海岸は山が海に迫り，特に越前岬の付近はレキ岩・凝灰岩の露出する断崖壁(だんがいへき)をつくり，南岸は高さ300～400mの大断層海岸のながめが豪壮である。このあたりの海岸斜面はスイセンの自生地として知られた所で，近年栽培も盛んである。東尋坊は高さ25mの大絶壁と，水深45mの海淵(かいえん)をもち，景勝の地として知られる。橋立付近は砂浜もあり，海水浴場もみられるが，東端は岩壁となり，荒波の砕ける日本海のながめは豪快である。北潟湖は浸食した谷の沈降によってできた湖で，フナ・コイ・ウナギなどがとれ，近くに芦原(あわら)温泉*がある。柴山潟西岸には片山津温泉*がある。〔木村東一郎〕

えちぜんくらげ　**【越前水母】**　腔腸(こうちょう)動物・ハチクラゲ類・ビゼンクラゲ科。直径1m，重さ150kgに達する大きなクラゲである。半球状の傘(かさ)に8個の足のようにみえる口腕がついていて，色は茶かっ色。朝鮮・中国の沿岸に産し，海流によって日本海にはいり，冬期北海道に及び，さらに津軽海峡を通って太平洋を南下することもある。中国料理で賞味されるクラゲは，エチゼンクラゲであることが多い。近くは1958年(昭和33)に，日本海一円から太平洋犬吠埼(いぬぼうざき)に及ぶ大発生があった。〔菅野　徹〕

えちぜんそうどう　**【越前騒動】**　1612年(慶長17)に越前藩で起こったお家騒動*。家老の久世但馬(たじま)らが重臣間の派閥抗争のすえ，藩主に抗戦した事件。事の起こりは，かねてから家老の本多伊豆(いず)富正・久世但馬と今村掃部助(かもんのすけ)・清水(しみず)丹後とが派閥をつくって対立していたが，久世の農民が殺傷事件を起こしたのを今村ら反対派が取り上げ，藩議で久世は切腹を命ぜられた。久世がその命令を拒否したので，藩主松平忠直(ただなお)は藩兵を差し向けて久世の邸を攻め，乱戦の中に久世は自殺した。久世側の本多伊豆はこの件につき幕府に上訴したので幕府の裁断が下り，今村は流罪，清水は預けとなった。越前藩は六十八万石の大藩で，忠直は将軍秀忠(ひでただ)の甥(おい)にあたっていたが，当時17歳の若年の故をもって格別のとがめを受けなかった。藩中の政争がしばしば外様(とざま)大名*改易の理由になった幕府初期にあって，この処置は幕府の親藩保護の方針を示したものといえよう。〔高崎徳次〕

えちぜんみさき　**【越前岬】**　福井県丹生(にう)郡の西に突き出す岬で，丹生山地の一部にあたり，安山岩・レキ岩・凝灰岩の層からなり，海岸段丘上に燈台が設けられている。対馬(つしま)海流の一部はこの岬にあたって南下し，敦賀(つるが)湾岸を環流しているので沿岸は冬季も比較的暖かく，付近で，自生あるいは栽培される早咲きのスイセンは有名である。また，海岸には海食作用によって奇岩や洞門(どうもん)などの変化に富む景勝が形成され，越前加賀海岸国定公園*に指定されている。〔味沢成吉〕

えちぜんやすつぐ　**【越前康継】**　(?～1621)　近江(おうみ)(滋賀県)坂田郡下坂村出身の刀工。初代康継は通称を下坂市左衛門(いちざえもん)といい，越前(福井県)に移住してから結城秀康(ゆうきひでやす)の抱鍛冶(かかえかじ)となり，はじめ肥後大掾(だいじょう)下坂と銘した。その後1606年(慶長11)ごろに徳川家康(いえやす)・秀忠(ひでただ)両将軍に召し出されて江戸で鍛刀，家康から〈康〉の字を賜わり名を康継と改め，茎(なかご)に葵紋(あおいもん)を切ることを許され，五十人扶持(ぶち)の幕府抱工となった。作風は美濃(みの)(岐阜県)関派(→美濃鍛冶)の流れで，流れた板目肌(いためはだ)の鍛えに沸(にえ)づいた湾(のた)れ刃を基調としているが，相州正宗*(まさむね)・貞宗(さだむね)らの古名刀を写した作品も多い。これは大阪落城の際に焼けた豊臣(とよとみ)家の名刀の再刃を行なっているためであろう。〈以南蛮鉄，於武州江戸〉と添銘した作刀銘が多い。なお，2代・3代の康継は代々幕府抱鍛冶として幕末まで続いているが，一般に〈御紋康継〉〈葵下坂〉などとよばれるのはこの刀工である。〔小笠原信夫〕

エチュード　［étude］練習曲。音楽の演奏技術を習得する上で必要な技術を教えるのを目的とした教材で，特に，19世紀にはいって楽器が普及するに従い，さまざまな目的のものが出版されている。中でも，チェルニー*によるピアノのための一連の作品，ハノン(正しくはアノン)による音階練習，シェフチクによるバイオリンのための一連の作品は有名で，今日でも使われている。この種の練習曲は，エチュードのほか，シュトゥーディエ・エクゼルシス・カプリチオなどともよばれた。それぞれの曲はつくられた時代に要求されていた技術を反映しているので，有名なものでも今日では使われないものも多い。また，20世紀にはいってから，新しい時代に必要な技術を現代音楽の様式に従って教材化したものが習われている。その代表的なものに，ピアノのためのバルトークの作品とバイオリンのためのドーフラインの作品がある。名人芸の時代でもあった19世紀には，エチュードの形をとった演奏会用の小品が現われた。これは，高度の技術を曲の構成要素としながらも，全体として芸術的なまとまりをもったもので，これらの例としては，ピアノのためのリストの超絶技巧練習曲，ショパンのエチュード，バイオリンのためのパガニーニのカプリスがあげられるが，ほかにも演奏会用と規定したエチュードは多く，今日に至っている。〔徳丸吉彦〕

エチルアルコール　［ethyl alcohol］　CH_3CH_2OH　エタノール，酒精ともいう。アルコール類の代表的なもので，単にアルコールともいう。天然にはエステルやエーテルの形で存在する。酵母によるデンプン質・糖質のアルコール発酵により得られる。また，エチレンやアセチレンに水を付加させたりして合成される。水にとけやすく，水と共沸混合物をつくる。水を除くには生石灰と煮沸還流したのち蒸留する。さらに微量残っている水を完全に除くには，金属ナトリウムや金属カルシウム・金属マグネシウムなどを使う。無色透明，特有のかおりと味をもつ液体で，融点−114.15℃，沸点78.3℃。酸化するとアセトアルデヒドや酢酸を生じる。アルコール飲料に含まれ，酔いの原因となる。合成酒の原料や溶剤・燃料としても使われ，その他各種有機化合物の製造原料としても重要である。また，殺菌薬・消毒薬(70容量%近辺のとき最も強力である)などに用いられる。飲料アルコールは有税であるのに対し，工業用に使うアルコールは無税扱いであるので，これを飲料に転用されないように毒性のあるメチルアルコールやベンゼンなどを加え変性アルコールとしている。〔石戸良治・荒木洋之助〕

エチルエーテル　［ethyl ether］　$C_2H_5OC_2H_5$　ジエチルエーテル・酸化エチルともいう。また，エーテル類の代表的なもので，単にエーテルともいう。エチルアルコールに濃硫酸を加え加熱するか，エチレンからアルコールを製造する際の副生成物として得られる。融点−116.2℃，沸点34.5℃。無色の液体で刺激臭をもつ。揮発性で非常に引火しやすく，空気との混合物は爆発を起こす。化学的に安定な化合物であるが，長い間空気中に放置すると酸化されて過酸化物を生じ，そのため蒸留の際に爆発したりすることがある。麻酔性があるので，単独またはアルコールと混合して麻酔薬とする。またすぐれた有機溶剤として広く使われるほか，ディーゼル-エンジンの始動燃料としても用いられる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

エチレン　［ethylene］

1エタンCH_3-CH_3の2個の炭素から1個ずつの水素がとれてできた2価の原子団-CH_2-CH_2-のこと。

2$CH_2=CH_2$　エチレン系炭化水素の最も簡単な化合物でエテンともいう。天然ガス・石炭ガス・石油分解ガス中に含まれる。無色，オレフィン臭のある引火性の気体。二重結合をもつため各種付加反応を受け，種種の化合物に導かれる。触媒を作用させると重合する。各種有機化合物の合成原料として非常に重要であり，塩化ビニル・エチルアルコール・エチルエーテル・アセトアルデヒド・酢酸・エチレングリコール・アクリル酸メチルなど多数の化合物が合成される。ことに合成樹脂ポリエチレンの製造原料として大量に消費されている。また麻酔薬としても使われる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

エチレングリコール ［ethylene glycol］ $HOCH_2CH_2OH$ 1,2-エタンジオールともいう。グリコール類中最も簡単なもので，単にグリコールともいう。エチレンの酸化，二臭化エチレンのアルカリ加水分解，あるいはエチレンクロルヒドリンの加水分解などによって製せられる。大規模な製造はエチレンオキシドに水を付加して行なわれている。無色で粘りけがあり甘味をもつ液体。合成繊維，特にポリエチレンテレフタート（ポリエステル繊維）の製造原料であり，アルキド樹脂の原料でもある。冷却装置などの不凍剤としても用いられている。また，この水溶液を密封して〈氷のいらない氷枕(こおりまくら)〉などと称して市販されているものもある。 〔石戸良治・荒木洋之助〕

エチレンけいたんかすいそ 【エチレン系炭化水素】 オレフィン・アルケン・アルキレンともいわれる。エチレン($CH_2=CH_2$)の同族化合物で，環式飽和炭化水素と同じく一般式C_nH_{2n}で表わされる脂肪族不飽和炭化水素の総称。分子内に炭素間二重結合を１個もつことが特徴である。エチレン・プロピレン・イソブチレン・1-ペンテンなどがこの系列に属する。一価アルコールの脱水，ハロゲン化アルキルのアルカリ処理による脱ハロゲン化水素，アセチレン系列炭化水素の部分水素化などにより合成される。低級のものは天然ガスや石炭ガスに含まれており，中級ないし高級のものはアメリカ産の石油中に含まれている。きわめて反応性に富み，各種付加反応や重合反応を受ける。有機化学工業上の製造原料として重要なものが多い。➔炭化水素

〔石戸良治・荒木洋之助〕

エチレンプロピレンゴム 合成ゴムの一種。英語(ethylene propylene rubber)のかしら文字をとって，ＥＰゴムまたはＥＰＲともよぶ。

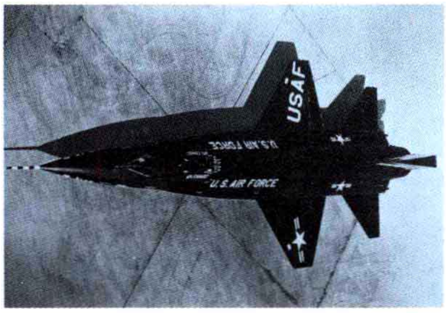
$$-\!\!\left[CH_2CH_2\right]_m\!\!-\!\!\left[CH_2\overset{\overset{\displaystyle CH_3}{|}}{C}H\right]_n\!\!-$$

石油のナフサ分解で得られるエチレンとプロピレンを，チーグラー-ナッタ系の触媒で共重合させたもの。この共重合体には不飽和結合がないため，加硫には，過酸化物とイオウを加えて加熱する方法や，共重合の際にジエンを第三成分として添加する方法などがとられる。耐熱性・耐候性・耐アルカリ性が特に優秀で，原料の安さとあいまってこれからの進展が期待されている。 〔伊藤 卓〕

えつ 【斉魚】 硬骨魚類・カタクチイワシ科。30cmほどになる海産魚。体は薄くて長く，なぎなた状。銀白色。有明海に多く，川に上るところを捕えて料理され，筑後(ちくご)川の名物になっている。



エ ツ



X-15

えつ 【越】 中国古代の国名。粤とも書く。[1]夏の帝少康の子の無余が会稽(かいけい)（浙江(せっこう)省）に封ぜられて国を開いたとされるが，おそらくは南方の異民族の中から興ったものであろう。中原に勢力を伸ばそうとし，楚(そ)と結んで北方の呉と争う。数回の戦いののち，越王の勾践(こうせん)は，BC473年呉を滅ぼし，北に兵を進めて中原の諸侯たちと会盟を行ない，周の王室からも覇者(はしゃ)として認められた。勾践ののち国勢ふるわず，BC334年楚に滅ぼされた。

[2]五代十国中の一国(909～971)。唐末の清海軍節度使であった劉隠(りゅういん)が広州で建てた国。彼の死後，弟の劉龑(りゅうえん)が帝位につき，918年に国号を漢と改めた。一般には南漢とよばれている。

エッカーマン ［Johann Peter Eckermann］(1792～1854) ドイツの詩人。ゲーテ晩年(1823年以来10年間)の秘書をつとめた。その著《ゲーテとの対話》(1836～1848)は，晩年のゲーテの思想・芸術観を知るための貴重な文献で，筆者の謙虚で無私な叙述態度からゲーテ自身のことばとして信頼のおけるものとされている。エッカーマンの生まれは貧しく，苦学のすえゲッチンゲン大学に学び，1823年《文学論》をゲーテに送り，のちワイマールにゲーテを訪れてその秘書になった。詩集もある。 〔浦野春樹〕

えっかんてつどう 【粤漢鉄道】 ユエハン鉄道 中国南部の鉄道。南シナ海に面する広州から揚子江中流の武漢市武昌(ぶしょう)に至る。延長1,106km。1905年に着工され，建設当時，帝国主義列強の利権争奪の対象となり，結局，イギリスの中国南部における勢力拡張に利用された。沿線には韶関(しょうかん)・衡陽・長沙(ちょうさ)などがあり，浙贛(せっかん)・湘桂(しょうけい)鉄道などの支線を分岐して，華南に産する小麦・綿花・桐油(とうゆ)などの農産物やアンチモン・鉛・タングステンなどの鉱産物輸送に利用されている。1957年，長江大橋が完成し，武漢市において京漢鉄道と連絡して，中国を南北に縦貫する京広鉄道の一部となった。 〔船越昭生〕

エック ［Johannes Eck］(1486～1543) ドイツのカトリック神学者。ルターの強力な反対者として有名。1519年ライプチヒ公開討論でルターを異端者の立場に追い込んだ。1520年主著《ペテロの首位について》を書き，ローマに行って教皇にルター破門を宣言させた。のち，教皇特使としてカトリック同盟の結成に尽力し，またアウグスブルク信仰告白（プロテスタント最初の信仰告白）の誤りを指摘するなど，旧教の戦士として活躍した。 〔石井忠厚〕

エックスきかん 【Ｘ器官】 甲殻(こうかく)類の眼板にある２種の器官。一つは複眼の基部の感覚孔に連なる上皮性の細胞からなり，第２のＸ器官からくる神経の末端を包むタマネギ状の構造（タマネギ体）が見られる。Ｘ器官末端部とか感覚孔Ｘ器官ともよばれる。第２のＸ器官は脳の視葉基部にあり，数十個の神経分泌細胞からなる。Ｘ器官神経節部とか終髄神経性Ｘ器官ともよばれる。ここから出る神経軸索は二つに分かれ，一つはタマネギ体に至り，一つはサイナス腺(せん)に分泌物を送っていて，卵巣の発育・脱皮を調節する働きがある。

〔蒲原春一〕

エックスきゃく 【Ｘ脚】 両下肢(かし)をそろえて立ったとき，両下肢が外側に開いた湾曲を示すものをいう。下肢体重線がひざの中心より外側を通る。Ｏ脚の反対の変形である。先天性，小児・少年性，佝僂病(くるびょう)性，症候性などがある。外見上湾曲の著しいものや，歩行時両ひざの接触のため疼痛(とうつう)のあるものには手術的治療を行なう。小児・少年性のものでは矯正(きょうせい)装具をつけ，佝僂病性ではビタミンＤの投与を行なう。 〔荻野幹夫〕

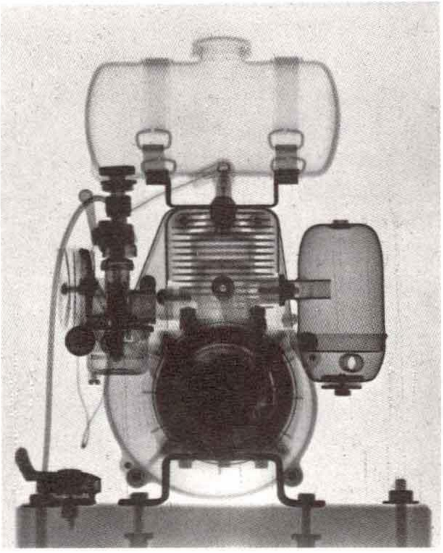
エックスじゅうご 【Ｘ-15】 アメリカの実験用ロケット機。長さ15ｍ，翼幅6.8ｍ，重さ1.5t，１人乗り。大気圏外の飛行を試験するため，1958年にノース-アメリカン社が開発した。B-52の腹に取り付け，12kmの高さにのぼってから発進する。推進剤は無水アンモニアと液体酸素。1963年，パイロットのウォーカーが操縦，107kmの高さに達して航空機の高度記録を樹立した。

エックスせん 【Ｘ線】 1895年，レントゲンによって発見された放射線。レントゲン線ともいう。Ｘ線は波長の短い電磁波で，その波長は0.01から100Å（オングストローム）程度である。物質をよく透過するので，人体の透視や工業材料または製品の検査に利用される。また，Ｘ線の結晶による回折を用い，結晶構造を明らかにすることができる（➔Ｘ線結晶学）。Ｘ線という名は，レントゲンがビュルツブルク大学の研究所で陰極線の研究をしていたとき，放電管の近くに置いたシアン化白金バリウム螢光板(けいこうばん)が輝くのを見つけ，放電管を黒紙でおおっても輝きは消えなかったので，まだその本性を知られていない未知の放射線というのでＸ線と名づけた。

〈連続Ｘ線と特性Ｘ線〉 電子を加速して高速度にし，これを物質（ターゲット，対陰極）

X　線





生物の骨格などを見る場合や，たとえば回転機械などの見えない部分の作動状態を調べるのに便利である
(上)ウミヘビ
(下)教材用模型エンジン



美術工芸品へのX線写真の応用例。内部構造および修理箇所とその年代判定などに役だつ。矜羯羅童子　金剛峯寺蔵



にぶつけるとX線が発生する(X線管*)。加速電圧が小さいときには，連続的な波長の分布をもつ連続X線が生ずる。連続X線の波長の最小値は，加速電圧に逆比例する。加速電圧がある限界値を越えると，ターゲットの原子に特有な波長をもつ線スペクトル*の特性X線が連続X線に加わる。連続X線は，電子が原子核のまわりの電場で減速されるとき，余分になったエネルギーが放射されたものである。減速後の電子のエネルギーが連続的な値をとりうるので，X線の波長分布も連続的になる。一方，原子と高速電子との衝突により，原子の内殻(ないかく)電子が外にたたき出されたのち，外殻電子が内殻にできた穴を埋める。このとき余分になったエネルギーが特性X線として放射される。K殻の穴をL，M，N殻の電子が埋めるとき，それぞれ$K\alpha$,$K\beta$,$K\gamma$の特性X線が，L殻の穴をM，N殻の電子が埋めるときには，それぞれ$L\alpha$，$L\beta$の特性X線が発生する。一例として，よく使用される銅の特性X線の波長をあげれば，$\mathrm{CuK}\beta_1$：1.39217Å，$\mathrm{CuK}\alpha_1$：1.54051Å，$\mathrm{CuK}\alpha_2$：1.54433Å であり，これらの強度比はほぼ2対10対5である。$K\alpha$X線の波長は(原子番号−1)の2乗に逆比例する(モーズリーの法則)。原子番号の低い原子の放つ$K\alpha$X線の波長は長く，原子番号の高い原子では短い。たとえば，クロムCrKα2.29Å，モリブデンMoKα0.71Åなど。

〈X線と物質との相互作用〉X線が物質にあたると，物質に種々の変化が起きる。すなわち，X線は螢光板を光らせ(螢光作用)(→X線写真)，写真乾板やフィルムを感光させ(感光作用)，気体原子から電子を追い出して陽イオンとする(電離作用)。これらの作用からX線を検出したり強度をはかることができる。X線は電磁波であるから，原子にあたれば原子内の電子を揺り動かす。振動する電子からは，入射X線と同じ波長の電磁波が球面波として放出される。これをX線のトムソン散乱という。またブラッグの条件式が満たされる場合は，結晶の各原子による散乱X線波の干渉の結果，X線の結晶による回折が起きる。ラウエ*らによって発見(1912)されたX線の結晶による回折は，X線が波長の短い電磁波であることを確証し，X線結晶学への道を開いた。また，入射X線の光子が電子に衝突して電子をはねとばし，光子もその進行方向を変える。これがX線のコンプトン散乱である。この衝突の前後で，X線光子および電子の運動量の和とエネルギーの和は不変に保たれる。したがってコンプトン散乱により，X線光子のエネルギーは減少し，X線の波長は長くなる(→コンプトン効果)。

X線の物質による吸収には，上記の散乱による入射波の減弱，すなわち散乱吸収のほかに真吸収がある。真吸収は一種の光電効果*で，X線が原子にあたるとその内殻電子をたたき出し，このときX線光子のエネルギーが消費されるものである。X線の吸収係数は，一般にX線の波長の約3乗に比例して増大するが，波長がある値(吸収端)に達すると吸収係数はいったん急に減る。これはX線の波長の増大とともにX線光子のエネルギーが減って，原子の電子(たとえばK殻の)をたたき出すことができなくなるからである。

X線が原子にあたって真吸収が起きるとき，光電効果によって原子の内殻に生じた穴を外殻の電子が埋める。このとき放たれる特性X線を螢光X線という。螢光X線の波長は，照射X線の波長よりも長い。

X線の人体による吸収は人体に各種の障害を起こすので，人体の照射については許容線量の規定がある。人体をX線から防護するには，密度の大きい鉛やその化合物によるX線の吸収を利用する。➔レントゲン ➔ブラッグの条件式　〔飼沼芳郎〕

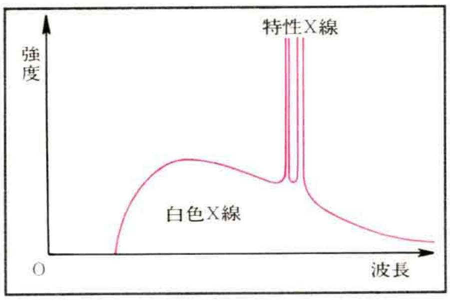
エックスせんかん　【X線管】 X線を発生させるための真空管。数十キロボルトの電圧で加速した電子を金属板(対陰極，ターゲット*)にたたきつけると，X線が発生する。以前は低圧気体中の放電によって生ずる電子を用いる冷陰極管も使われたが，最近では真空中で熱したフィラメントから出てくる熱電子を用いるクーリッジ管*が使われている。発生するX線には，対陰極の原子に特有の波長をもつ線スペクトル*の特性X線

と，電子の加速電圧によって決まる最短波長以上に連続的に分布する連続スペクトルの白色X線とがある。加速された電子が原子にあたると，原子内の電子は低いエネルギー準位から高いエネルギー準位にたたき上げられ，これがもとの準位にもどるとき，余分のエネルギーを特性X線として出す。加速された電子が原子にあたって原子核のまわりの強い電場によって曲げられるとき，電子から電磁波が放出される。これが白色X線である。〔飼沼芳郎〕

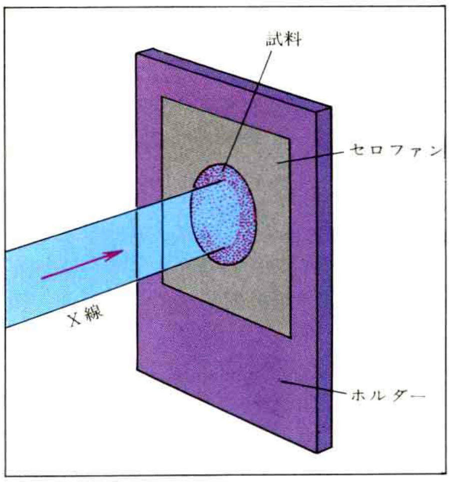
エックスせんぎし【X線技師】 X線装置を使用し，X線写真撮影などを行なう技術者をいい，診療X線技師のこと。厚生省または文部省の指定する２年課程の学校を卒業ののち，国家試験に合格した者が都道府県知事から免許を授けられる。この資格をもつ者は,医師の指示のもとに100万電子ボルト未満のX線照射を行なうことができる。しかし，最近の医学の発達によって業務内容の拡大が要求され，癌(がん)治療の際の電子線の取り扱いや人体臓器の機能検査などの際の放射性同位元素の計測取り扱いなどが必要となってきた。このためX線に限らず広く放射線を扱うことのできる放射線技師の資格が設けられた。このほか機械や船舶などの亀裂(きれつ)や鬆(す)などの損傷をX線を用いて検査する，X線非破壊検査などの行なえるX線取り扱い作業主任がある。〔安国宗直〕

エックスせんけっしょうがく【X線結晶学】 X線を用いて結晶の構造を調べる学問。結晶は各種の原子を材料として立体的に描かれた連続模様とみなすことができる。単色のX線が結晶に入射するとき，ブラッグの条件(式)が満たされると,強い回折(反射)X線が現われる。その回折X線の強度を測定すると，結晶内の原子配列について有力な情報が得られる。金属・合金,その他簡単な無機物・鉱物・有機物,最近ではタンパク質のような複雑な化合物に至るまで，多くの物質の結晶構造の解析が行なわれている。また，人工結晶その他の単結晶について,結晶中の転位など，格子(こうし)欠陥の種類・分布などを研究するのも，X線結晶学の重要な応用である。なお，X線の代わりに電子や中性子の回折を使った結晶学的研究には，それぞれ独自の利点があり，これらの研究も盛んに行なわれている。➔結晶 〔飼沼芳郎〕

エックスせんしゃしん【X線写真】 X線の物質に対する透過力を利用して，写真乾板・螢光(けいこう)物質に透過線を得るようにしたもの。X線結晶学において,回折(反射)X線の検知とその強度の測定には,計数管なども用いられるが，X線の写真作用を利用すれば，X線の結晶による回折現象を写真フィルム上に回折図形として記録して一目で見渡すこともできるので，きわめて便利である。結晶の粉末試料の検査や格子



X 線 管



X線粉末写真　粉末法試料

(こうし)定数の測定にはデバイ-シェラー環からなる粉末写真，単結晶試料の方位や対称性の決定にはラウエの斑点(はんてん)からなるラウエ写真が用いられる。結晶構造解析には，結晶を回転および振動させてとる回転写真および振動写真，結晶だけでなくフィルムも運動させるワイセンベルク写真・プリセッション写真が用いられる。単結晶内の転位，その他の格子欠陥の直接観察には，Xトポグラフという写真が用いられる。なお医学では，X線写真を用いてレントゲン検査が行なわれる。〔飼沼芳郎〕

エックスせんせい【X線星】 強いX線を放射している見かけの小さな天体。エクスターともいう。さそり座に発見されたX線星(さそり座X１)は,視直径10″以下,600光年の距離にあり，光度は約12.5等。紫外線が強く，明るさは不規則に変化している。➔X線天文学

エックスせんてんもんがく【X線天文学】 天体から放射されるX線を観測して，その天体の性質を研究する天文学の一分野。X線は地球大気で吸収されるので，ロケットあるいは人工衛星に検出装置を載せ，大気圏外で観測を行なう。現在までにX線の源として観測されている天体は，太陽，超新星の残骸(ざんがい)，電波を強く放射している星雲，X線星などである。

エックスせんはっせいそうち【X線発生装置】 ⇨X線管

エックスせんふんまつしゃしん【X線粉末写真】 X線回折の発見(1912)後しばらくたってのち，1916年にアメリカのデバイとスイスのシェラーが，試料が単結晶でなく粉末(多結晶)でも回折X線を得られる方法を考案した。細いガラス棒に数～数十ミリグラムの試料をのり付けし，X線粉末カメラの中央に置いて，スリットを通してX線を15分～２時間ぐらいあてると，円弧状に置いたX線フィルムに回折X線が感光される。カメラ(フィルム)の直径はふつう5.73cm，精密さが要求される場合には11.4cm，19cmのものを用いる。各物質はそれぞれ固有の回折線を示すから，回折線の位置(格子(こうし)面間隔に相当する)と強さを測定し，ちょうど指紋照合のようにあらかじめ標準物質についてとってあるデータと比べて，試料がなんであるかを決めることができる。また，結晶の大きさの測定にも利用できる。最近ではフィルムの代わりに計数管による自動記録方式を用いるX線回折計が開発され，手軽に利用される。〔加藤敏郎〕

エックスたんい【X単位】 X線分光学・結晶学で用いる長さの単位。記号X　X線の波長や，結晶の格子(こうし)定数，網平面の面間隔を表わすのに，長さの単位として用いられることが多かった(➔ブラッグの条件式)。しかし,最近ではなるべくオングストローム(Å)を用いることになっている。1kX＝1,000X＝1.00204Å。岩塩の18℃における(200)面間隔を，2.81400kXとしたものである。この数値は，原子量・アボガドロ数・密度から計算した面間隔をÅで表わしたときの数値に00を付加したものである。〔飼沼芳郎〕

エッグノッグ〔egg-nog〕 わが国の卵酒ともいうべき卵入りのカクテル。ノッグの原意は強いビールである。シェリーグラスに卵１個,砂糖・ウィスキー適量,砕き氷を入れ，牛乳を満たしてシェーカーに移し，よく振ってクラーレットグラスに入れて出す。ナツメグを粉末に削って入れたり，任意のリキュールを加えてもよい。なお，アルコール分を加えずに，あわ立てた卵に砂糖・牛乳・香料を混ぜた飲物も，日本ではエッグノッグといっている。〔泉　敬子〕

エックハルト〔Meister Johannes Eckhart〕(1260～1327または1328) ドイツ神秘主義の中心的思想家。ドミニコ会の出。ケルン・パリで学び，帰国後ザクセンのドミニコ会管区長。思想面では主としてトマス-アクィナスの影響を受けたが,魂が火花と化して超越者と合一するときに，人は無となり，神のみが働いて神が認識されるとすること，また三位一体の神を越えた根源的神性を認めることなどに彼の独自性がみられる。彼の思想は当時の民衆に多大な影響を与えたが，死後は異端とされた。主著《神の慰めの書》。〔玉井　治〕

えつけ【絵付け】 陶磁の技法の一。陶磁器は素地(きじ)と釉(うわぐすり)の結合から形

成されているが，この器体に装飾(文様)を加える作業を絵付けという。絵付けには，器体の釉下(ゆうか)に施す場合と釉上に施す場合とがあり，前者には染め付け・釉裏紅磁が属し，後者には色絵または赤絵がある。これらは耐熱性のある金属顔料を用いて彩色し，焼き付けるものであるが，絵画に用いる絵の具で文様を加え，焼き付けしないものを加彩という。〔矢部良明〕

エッケ-ホモ [ecce homo] 《新約聖書ヨハネ伝》19章5節にあることばで，ピラトがいばらの冠をつけたキリストをさしていった〈見よ，この人を〉のラテン訳。19世紀，イギリスのシーリのキリスト伝，ニーチェの自伝の題名にこのことばがそのまま使用されている。前者は人間イエスを強調する自由主義神学の所産だが，後者はイエスに挑戦(ちょうせん)しようとする皮肉な題名。なお，イエスを主題とする絵画の題名にも用いられている。

えづこ 【江津湖】 画図湖とも書く。熊本市の南東郊，水前寺公園の南1kmにある湖で，公園とともに市民の行楽地となっている。周囲約5km。公園内の水前寺池の水があふれて沙取(すなとり)川となり，この部分で水面を拡大して流れる。上下2湖に分かれ，水深は下江津湖のほうが大きく2.5mある。湖中に産するスイゼンジノリは食品となるが，産額は少ない。

えっしゅうよう 【越州窯】 中国南東部，浙江(せっこう)省紹興府(しょうこうふ)付近で漢・六朝(りくちょう)から唐・宋(そう)にかけて行なわれた窯芸の総称。その起源は古く，漢時代にすでに鈍いオリーブ色の青磁を製したともいわれ，特に唐時代になって技術的に著しく進歩し，当時天下第1の名磁を生み，〈秘色甆器(ひそくじき)〉の名で知られていた。素地は灰色をおびた堅緻(けんち)な半磁質で，淡いオリーブ色の透明な釉(うわぐすり)が薄くかかり，格調の高さがうかがわれる。〔矢部良明〕

エッジワース [Francis Ysidro Edgeworth] (1845～1926) イギリスの数理経済学者。オックスフォード大学教授。1891年から1926年にわたって，《エコノミック-ジャーナル》の編集者として活躍した。古典に通暁し数学にひいでていた。彼の経済学への貢献は，消費者行動理論の基礎となった無差別曲線の理論を展開したこと，また，クールノーの複占理論を数学的に分析して批判したことなどにある。

えつじん 【越人】 (1655～1739？) 江戸初期の俳人。通称越智(おち)十蔵。加賀(石川県)の生まれで名古屋で染物屋を営む。1684年(貞享1)ごろ蕉門(しょうもん)にはいり，作品は《春の日》に初出。芭蕉(ばしょう)の更科(さらしな)の旅に随行し，《曠野(あらの)》《ひさご》に作者として名を連ねたが，のち芭蕉から遠ざかった。晩年《鵲尾冠(しゃくびかん)》を刊行。支考の所説に対し《不猫蛇(ふみょうじゃ)》《猪(いのしし)の早太》などを草して論戦を展開した。

エッセー [essay] 文学形式の一。語源は〈試み〉という意味で，文芸評論や学術論文の標題にしばしば用いられる〈試論〉はこれにあたる。しかし文学のジャンルとしては，詩・小説・戯曲などに比べると，形式・内容ともに自由で限定されていず，さまざまな文学的随想をいう。ヨーロッパでは，フランスのモンテーニュの《随想録》がそのはじまりとされ，内容は〈私の自画像〉であった。これをベーコンがイギリスに伝えたが，その著《随筆集》は人生百般にわたるものである。以後，イギリスにはさまざまな傾向のエッセイストが現われた。ドライデン・アジソン・ラスキン・アーノルド・T. S. エリオットらであり，特にラムの《エリア随筆》は世界的に名高い。なお日本では〈随筆〉がエッセーとほぼ同義とされる。〔日高八郎〕

エッセン [Essen] ドイツ連邦共和国(西ドイツ)西部，ルール川沿いに発展したルール工業地域の中心都市で，ルール地方の経済・文化の中心をなす。人口71万6,000 (1967)。豊富な石炭をもとにして，製鉄・化学・繊維・ガラス・セメントなどの工業が盛んである。都市は9世紀に建設されたが，鉄鋼王クルップが1810年ここに製鉄所を設立して以来大発展した。



越州窯　鉄斑鶏口水注(青磁)

エッセンス [essence] 植物から抽出した精油(香料)。化学的には，エーテル・エステル・アルデヒド・テルペンなどが複雑な結合をしたもの。油状を示すので，エッセンシャル-オイルともいい，常温に置くとすぐ揮発するので揮発性油ともいう。普通はアルコールにとかして食用エッセンスとして販売している。精油を抽出するには，原料によって方法が異なるが，圧搾法・浸出法・蒸留法などがある。以上は天然香料であるが，最近では，化学合成技術の進歩によって，天然香料の主成分を合成して精油をつくることが可能になってきた。これを合成香料という。〔佐藤友太郎〕

エッソ [ESSO] ⇨スタンダード石油

エッダ 古代北欧の詩集で，神話・英雄物語などの集大成。〈新エッダ〉または〈散文のエッダ〉とよばれるものと，〈古エッダ〉または〈セームンドのエッダ〉とよばれるものの2種がある。〈新エッダ〉は，スノッリ-スツットルソンが若い人々を古詩に親しませ，古詩の伝承を保存しようとして書いた詩学ともいうべき解説書で，作詩法に合わせて，古代アイスランドの韻文詩が紹介されている。その後1643年に，アイスランドの僧正ブリニヨルフール-スバインソンが僧院の中から45枚の羊皮紙に書かれた20編の古代詩を発見し，その多くが〈新エッダ〉に引用されているのに気づいた。彼はこの詩集が〈新エッダ〉の原拠となったと考え，その編者をスノッリ以前の大学者セームンドと誤認し，〈セームンドのエッダ〉と命名した。今日では〈エッダ〉といえば一般にこの詩集のほうをさし，20編の詩のほかに，各種の写本より集めた同系統の詩を加え，神話詩11編，英雄詩19編の計50編を総称する。〔鈴木徹郎〕

エッチかたこう 【H形鋼】 断面がH形をした形鋼。高さと幅の等しい広幅，高さ



エッセン　工業都市エッセンの町の中心部の広場。子どもや老人や家族連れのいこいの場となっている

より幅の小さい中幅・細幅に大別される。欧米では早くから使用されていたが，わが国でも1961年(昭和36)ごろから生産が開始された。柱・はりにそのまま使用され，構造的に安定かつ経済的で，特に最近の超高層建築には欠かせない材料となっている。

エッチししょう【H氏賞】文学賞の一。1951年(昭和26)創設され，毎年1回，前年に刊行された新人詩人の詩集を対象とする。名称は匿名の賞金提供者のかしら文字による。日本現代詩人会の主催。第1回の殿内芳樹(よしき)《断層》から始まって，黒田三郎・吉岡実・黒田喜夫らの詩集に与えられ，現代詩の育成に寄与している。

えっちゅう【越中(国)】富山県の旧国名。越州。北陸道に属する。天武朝(672～686)に越を3分した際成立。702年(大宝2)には東部の4郡を越後*(えちご)にさき，新川(にいかわ)・婦負(ねい)・礪波(となみ)・射水(いみず)の4郡となる。国府は射水郡(いまの高岡市伏木)。現在は富山・高岡・魚津・黒部など9市と7郡に分かれる。745年(天平17)能登*(のと)(石川県)を合わせたが757年(天平宝字1)また分離した。鎌倉時代には比企・北条(ほうじょう)・名越氏，室町時代には吉見(よしみ)・桃井・細川・斯波(しば)・畠山(はたけやま)の諸氏が守護となったが，戦国末期には上杉(うえすぎ)謙信の勢力下にはいり，次いで織田信長(のぶなが)に従う。その後佐々(さっさ)氏を経て前田氏の領となり，江戸時代を通じて富山藩(前田氏の支藩)領であった。明治維新後富山県・新川県・石川県を経て，1883年(明治16)富山県を再置し現在に至る。〔黛　弘道〕

えっちゅうおはらぶし【越中おはら節】⇨おわら節

えっちゅうじま【越中島】東京都江東区南部の町。隅田(すみだ)川の河口部にあたり，晴海(はるみ)運河を隔てて佃(つくだ)島・豊洲(とよす)と対する。江戸後期に東京湾の干潟(ひがた)を埋め立て，幕府の練兵場などが置かれたが，1902年(明治35)東京高等商船学校(東京商船大学の前身)が，第2次世界大戦後は糧秣廠(りょうまつしょう)のあとに警察予備隊(自衛隊の前身)が置かれた。

エッチング ⇨銅版画

えつねんせいしょくぶつ【越年生植物】発芽・生長・開花・結実という生活環を足かけ2年かかって完全に行なう植物。冬までは植物体の生長が行なわれ，春になると開花・結実が行なわれる。例として，ダイコン・ヒメジョオンなどがあげられる。

えつびそうどうひっき【閲微草堂筆記】中国，清(しん)代の怪談集。紀昀*(きいん)の作。《四庫全書*》の編纂(へんさん)の余暇に，見聞を追録して執筆した。キツネや鬼の話にかこつけて儒者の苛酷(かこく)な人間批評の態度や，人間性の自然にそむいた教説を批判している。《聊斎志異*(りょうさいしい)》とともに清代に盛んに読まれた。



エッフェル塔

エッフェル［Alexandre Gustave Eiffel］(1832～1923) フランスの土木技術者。パリの高等工芸学校に学ぶ。ガロンヌ川に臨むボルドーの鉄橋(1858)，ドーロ川河口のオポルトの鉄道橋(1877)，南フランスのガラビット高架橋(1880～1884)などを設計。1889年，パリ万国博覧会に際して建てたエッフェル塔*は，鉄橋建設の経験を十分に生かした彼の代表作である。晩年は，航空力学の研究に励み，風洞(ふうどう)やエッフェル塔をその実験に使用した。〔山崎俊雄〕

エッフェルとう【エッフェル塔】パリ万国博覧会(1889)の開催に際して，エッフェル*の設計によって建てられた鉄骨構造の壮大な塔。セーヌ河畔にあり，高さ約300m。市内を一望する高さ274mの第3展覧台までエレベーターが通じ，パリの名所の一つとして親しまれている。建設当時は，鋳鉄構造から鋼鉄構造への移行期にあたり，新しい材料と斬新(ざんしん)な技術によってはじめてこのような高さの建造物が可能となったもので，その意味でも貴重な記念塔といえよう。現在はラジオ・テレビの送信用アンテナがつけ加えられ，また夜間の航空燈台としても利用されている。〔田島　学〕

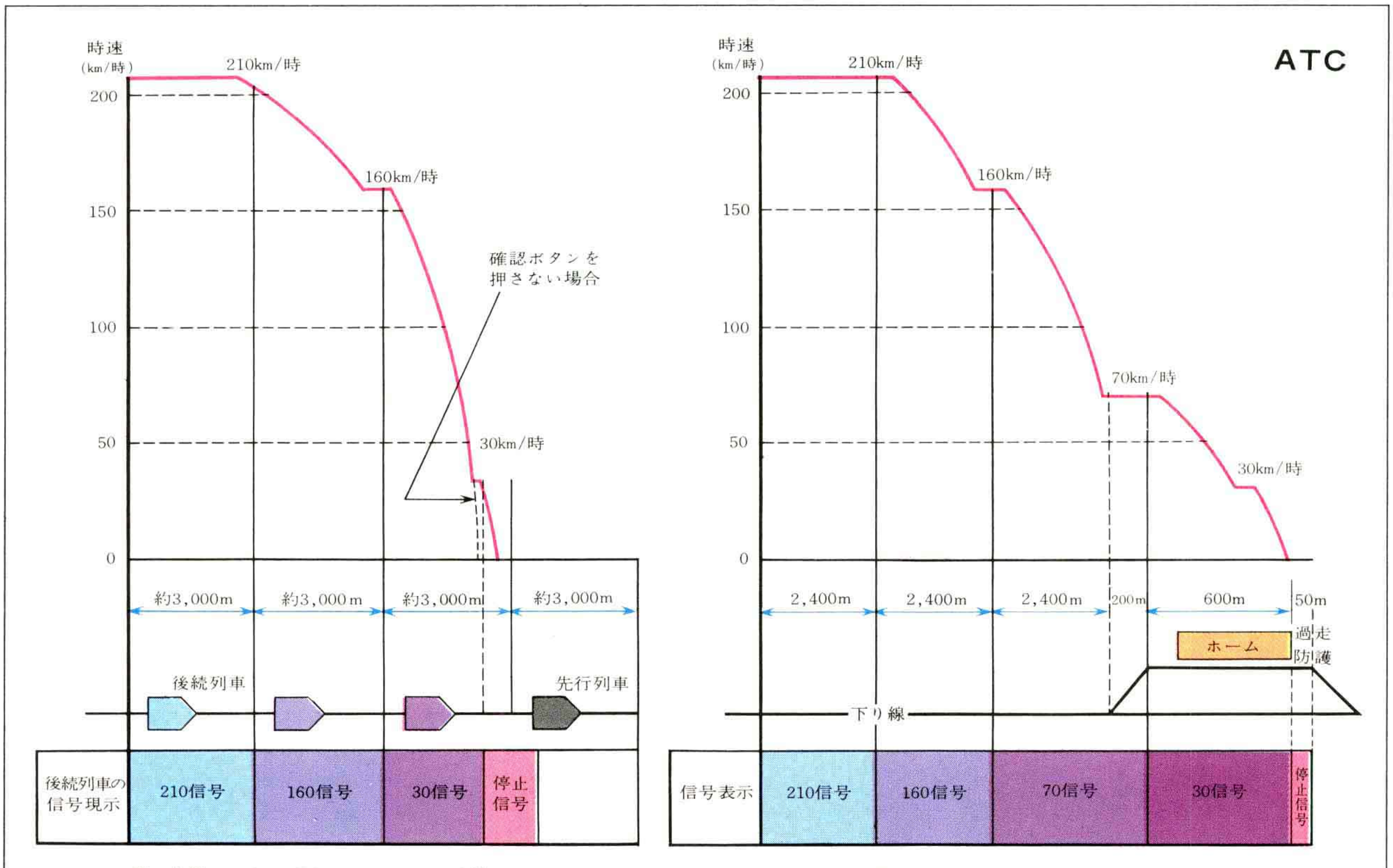
エーディーアール［ADR］American depositary receiptsの略称。アメリカ預託証券。アメリカの銀行が外国証券の預託を受けて，それと見合いに発行する証券のことをいう。アメリカの証券市場では，日本の株式そのものは取引されない。これと同じしくみで，ヨーロッパの証券市場で発行するものをEDR，ロンドンで発行するものをLDRという。ADRには，アメリカからの資本の調達を目的としてアメリカで公募するものと，すでに発行している株式で，アメリカの投資家の持ち株比率の高い銘柄のADRをアメリカの銀行が発行するものとの2通りがある。前者に属する日本のADRは，1961年(昭和36)に発行されたソニーをはじめ，東京芝浦電気・本田技研工業・日本電気・関西電力・三井物産・日立製作所・東京海上火災保険など，1963年にかけて次々に発行された。後者には1969年になって発行されたシャープ・松下電器産業・トヨタ自動車工業・富士写真フイルム・日本航空などがある。〔日東証券調査部〕

エーティーアンドティー［AT&T］⇨アメリカ電信電話会社

エーティーエス［ATS］automatic train stop deviceの略称。列車自動停止装置。列車の運転士が停止信号(赤)を誤認しても，事故防止のために列車を自動的・強制的に停止させる装置。列車が停止信号に接近すると，自動的に運転室にベルや電光の警報を発して運転士に注意を促し，5秒以内に運転士がブレーキ操作を行なわないときに，自動的に制動機構が作動するしくみになっている。ATSには地上装置と車上装置の周波数の変換を利用して地上と車上の連絡を行なうS型と，軌道回路電流の開閉により車上に伝えるB型，軌道回路に変調した高周波を重ねて車上に伝えるA型の3種類がある。国鉄では1965年(昭和40)度末までに全線の設備を完了しているが，私鉄で全区間に装設しているのは，東京急行東横線・名古屋鉄道全線・京阪(けいはん)電鉄全線，近畿(きんき)日本鉄道の大阪線・奈良線・名古屋線・山田線，阪神電鉄全線，京阪神急行電鉄京都線・神戸(こうべ)線・宝塚(たからづか)線である。なお，地下鉄とモノレール鉄道は，地方鉄道建設規程によってATSの設置が義務づけられており，これらのすべての路線で使用されている。〔宍塚正幸〕

エーディーエフ［ADF］⇨方向探知機

エティエンヌ-マルタン［Etienne-Martin］(1913～　) フランスの彫刻家。シュルレアリスムに強い関心を寄せながら，しだいに抽象的な表現を明確にし，不定形のひだや空洞(くうどう)を含む複雑な形態が増殖する有機的な構成に，表現主義的な作風



駅の中間におけるATCによるブレーキ曲線

駅に停車する場合のATCによるブレーキ曲線

を展開した。

エディキュラ ［aedicula］ 古代ローマで家族の守護神の彫像や祭壇を収める厨子(ずし)または家形。転じてニッチェ*の前面につけた切妻屋根状の家形の装飾。

エーティーシー ［ATC］ automatic train control の略称。自動列車制御装置。先行列車との間隔，および進路の条件によって，車内に列車の許容運転速度を示す信号を連続して現示し，その信号現示に従って，自動作用により列車の速度を制御する機能をもった装置(新幹線運転取扱心得の定義)。東海道新幹線の列車は，最高速度210km，最小運転時隔５分という高能率な輸送を目標としているので，地上信号機をなくし，運転士の信号確認，速度の制御を自動化している。このため全線にATCの地上装置と全列車にATCの車上装置が設けてある。地上装置は，先行列車との間隔，線路などの速度制限に従って，列車を安全に運転するための０(停止信号)から210kmまで６段階の速度を指示する信号を運転室に送る。運転室の車上装置は，この信号を受信し，車内の電子機器と連動して列車の速度が信号の指示する速度より大きいか小さいかを判断する。もし速度が大きいときは自動的にブレーキをかけて減速させ，指示する速度以下に下がれば自動的にゆるむようになっている。ATCは，東海道新幹線における運転保安の根幹であるから，重要な機器は２～３個同時に作動し，たとえ１個が故障しても他の機器で正常に運転できるよう設計されている。〔宍塚正幸〕

エディター ［editor］ 新聞・雑誌などで編集の仕事に従事する人々の総称，また映画作製のフィルム編集者も含めていう。新聞社では編集責任者をよび，日本ではデスク(各部次長)がこれにあたる。しかし一般にエディターの呼称は出版に多く用いられる。かつて出版社主によって決定された原稿の採否が，専門的編集者の出現によって，採否の決定だけでなく，企画・原稿依頼・校閲にまで及ぶ業務内容をもつに至っている。エディターという職業の成立によって，ジャーナリズムは，固有の生産機能をもつ文化領域として出発した。〔松沢　勝〕

エディトリアル-デザイン ［editorial design］ 書籍・雑誌・新聞・ダイレクト-メールなどの編集の技術。文章とイラストレーション*を視覚心理を考えて構成することにより，読みやすく，適切な伝達を行ないうる紙面，体裁をもつ印刷，出版物の制作を目標とするデザイン活動をいう。つまり，その印刷・出版物における全体のデザインを構想し，予定のページだてに従って１ページ，１ページを構成しながら，最終的には一つの視覚的な流れをつくりだす。エディトリアル-デザイナーとはこの活動を行なう人をいう。エディトリアル-デザイナーは，筆・著者および編集者との打ち合わせにより，その企画の趣旨を理解したうえで，視覚的なトータル-イメージを構想し，判型・版種・紙質などを決め，見出し文字・本文・図版説明文などの書体とその大きさを選択する。そして，各ページにおける文字の組み方や，絵・写真・図表などの大きさおよび位置を検討し，内容の理解を助けるところの可読性に基づいた紙面を演出する。〔武井邦彦〕

エーティーピー ［ＡＴＰ］ adenosine triphosphateの略称。アデノシン三リン酸。アデノシン-リン酸(AMP)のリン酸のところにさらに２個のリン酸がついたもの。この２個のリン酸の結合は高エネルギー結合であり，生物体内での代表的なエネルギー伝達体として，エネルギーの獲得および利用に重要な働きをしている。筋肉ではアクトミオシン*によって分解されて，一つの高エネルギーリン酸を失ってアデノシン二リン酸(ＡＤＰ)となり，その際に得られるエネルギーによって動物の運動の基本である筋収縮*を起こさせる。また，種々の酵素によってＡＴＰの高エネルギーリン酸を他の化合物に与えてリン酸化合物をつくり，このリン酸エステル化された物質は活性化された形として生体内でのいろいろな合成反応の基質として使われる。エネルギーを

放出して1～2個のリン酸を失い，AMPまたはADPとなったものは，解糖系・トリカルボン酸回路・電子伝達系などによって再びリン酸化されATPとなる。さらにATPは他のヌクレオチド三リン酸とともにリボ核酸(RNA)・デオキシリボ核酸(DNA)の合成に使われ，また，アデニルシクラーゼという酵素によってサイクリックAMPとなり，これはホルモンの細胞内における伝達物質として作用するといわれる。

〔福島　健〕

アデニン－D-リボース－リン酸～リン酸～リン酸

├── AMP ──┤

├── ADP ────┤

├── ATP ──────┤

～は高エネルギー結合

エーディーピー　［ADP］　adenosine diphosphoteの略称。アデノシン二リン酸。AMPにさらに一つのリン酸の結合したもの。2分子のADPが酵素によって1分子のATPとAMPとになる反応がある。広く生体内に分布し，エネルギー授受などの反応に関与する。➔ATP

エディプス　⇨オイディプス

エディプス-コンプレックス　［Oedipus complex］　フロイトの精神分析理論の基本的概念の一。無意識のうちに自分と同性の親を憎み，異性の親に性的愛着を抱く傾向をさしていうが，狭義には男子が父親に対して抱く憎しみと，母親に対して示す愛情をさしていう。フロイトは，自分の神経症患者の無意識的な精神生活の中に異性の親と相姦(そうかん)しようとする空想がつねに存していて，それが同性の親への嫉妬(しっと)あるいは殺害的な怒りと結びついていることを発見した。その発見と，ギリシア神話に出てくるエディプス(オイディプス)王の悲劇の類似性からこの観念複合体をエディプス-コンプレックスとよんだ。このコンプレックスは幼児期が過ぎると無意識のうちに抑圧されるが，その後の性格形成や神経症の発生に重要な役割を果たすといわれる。

〔乾　吉佐〕

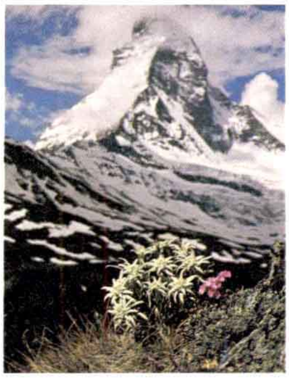
エーディーへんかんき　【A-D変換器】⇨変調

エディントン　［Sir Arthur Stanley Eddington］(1882～1944)　イギリスの天文学者・物理学者。北イングランド，ケンダルの生まれ。ケンブリッジ大学で数学と物理学を学び，のち天文学に転向して，1906年にはグリニッジ天文台の助手となった。1913年ケンブリッジ大学教授，その翌年からは同大学の天文台長となった。1916年に放射平衡に基づいて恒星内部の研究を始め，1924年に質量光度の関係を理論的に導いた。1919年，アフリカの皆既日食の観測によって，太陽付近を通る光の屈曲(アインシュタイン効果)を観測，一般相対性理論を実証した。著書《恒星内部構造論》(1924)，《星と原子》(1927)，《物的世界の本質》(1930)。

〔根本順吉〕



エーテボリ　スウェーデン第1の貿易港エーテボリの町の後背に広がる静かな住宅街。付近には城塞などの史跡も多い



エーデルワイス　マッターホーンを背景として白く咲くスイスの国花エーデルワイス

エーテボリ　［Göteborg］　スウェーデン南西部，カテガト海峡に面したこの国第2の都市。人口41万8,000(1964)。エーテボリ港は不凍で，スカンジナビア諸国の貿易の中心地である。エータ川の水力を基盤として重工業が発達し，特に造船業では世界的な規模を誇る造船所がある。首都ストックホルムとはエータ運河で結ばれている。1619年バサ朝の英王グスタフ-アドルフ(グスタフ2世)によって建設され，中世・近世の史跡も多い。

〔梶川勇作〕

エーテル　［ether］　宇宙いたるところに存在し，光および電磁波を伝える媒質と考えられていた仮想的な物質。ファラデーは電気力に関する問題を真空空間が電気的弾性体で満たされているとして取り上げた。この考えを発展させていくと電磁波の伝搬という現象は，真空空間が電磁気的弾性体で満たされていると仮定して説明することができる。そして，この媒質である弾性体にエーテルと名づけた。しかし，マイケルソン-モーリーの実験では，このように仮定したエーテルがもつと想像される〈エーテルの流れ〉を見いだすことができなかった。したがって，エーテルの実在を仮定する必要がなくなった。

〔川崎　博〕

エーテル　［ether］　①エーテル類の中で最も代表的なエチルエーテルを単にエーテルということが多い。②2個の炭化水素残基が酸素原子と結合した形の化合物をエーテルと総称する。一般式R-O-R′で表わされ，RとR′が同じ場合に単一エーテル，RとR′が異なる場合に混成エーテルという。なお，分子内で環を形成している場合は環状エーテルといい，Rが芳香族残基の場合はフェノールエーテルという。フェノールエーテル類はアネトール・オイゲノール・サフロールなどとして植物精油中に含まれており，香料原料として重要である。アルコールに濃硫酸を作用させたり，ナトリウムアルコキシドにハロゲン化アルキルを作用させて合成される。一般に中性で芳香のある揮発性の液体である。

〔石戸良治・荒木洋之助〕

エーデルワイス　［edelweiss］　双子葉植物・キク科の多年草。セイヨウウスユキソウともいう。ピレネー・アルプス山脈・シベリア西部・ヒマラヤなどに自生し，高山植物の代表。高さ10～20cm，根もとから枝分かれし，葉は細く，茎とともに白い綿毛がある。茎の上部に白色の綿毛を密につけた大形の葉をつけ，その中に数個の頭花をつける。日本にはウスユキソウがみられる。

エデン　［Eden］《旧約聖書 創世記》によれば，ヤーウェが木を植え，アダムとイブを住まわせた園。生命の木と善悪の知恵の木，四つの川の源がある。アッカド語のエディヌ(荒野)に由来するらしいが，紀元前3世紀ごろの《七十人訳聖書》がパラダイスと訳したため，楽園と同一化した。

えてんらく　【越天楽】　雅楽の曲。入門曲である。舞を伴わない純器楽曲(管弦)で，左方の楽すなわち唐に由来する。平調(ひょうじょう)のものが原曲で，他の調に移調された渡し物(単なる移調ではなく，他の調での，原曲の性格的変奏に近いと考えられるもの)として盤渉調(ばんしきちょう)のものがある。この旋律は日本音楽史上に重要な役割を果たし，今様・箏曲(そうきょく)・民謡・現代音楽などに影響を与えた。

えてんらくいまよう　【越天楽今様】　今様の一。優雅で貴族的なタイプの曲として代表的なもので，雅楽曲《越天楽》の旋律をほぼそのまま踏襲し，それに歌詞をつけたものである。〈春の弥生(やよい)の〉や〈蕗(ふき)というも草の名〉などの歌詞があり，4句構成である。のちに箏組唄(そうくみうた)や民謡《黒田節》などの基礎となった。

えと　【干支】　⇨十干十二支

えど　【江戸】　東京の旧名。現在の東京都の中央部にあたり，古くは武蔵(むさし)(東京都)豊島(としま)郡江戸郷の一村であったが，平安末期に秩父(ちちぶ)平氏の一族江戸氏が，現在の皇居近くに居館をつくったことから発達したという。1457年(長禄1)扇谷上杉(おうぎがやつうえすぎ)氏の執事太田道灌(おおたどうかん)が江戸城を築いてから城下町として発展し

た。後北条(ごほうじょう)氏領有期に一時衰退したが，1590年(天正18)徳川家康(いえやす)が入城以後，城下町の経営に本腰を入れた。1603年(慶長８)幕府開設により政治の中心地となり，町割りなどの都市計画を実施した。五街道の開設で全国交通の起点となり，また寛永年間(1624～1643)の参勤交代制の制定で諸大名が邸宅を設け，妻子を居住させたことなどから市街地が拡大され，人口も急速に増加した。また，神田上水・玉川上水もつくられ，都市としての機能も整備された。1657年(明暦３)明暦の大火後，火除地(ひよけち)・広小路を設け，両国橋などをかけ，本所まで市街地を拡張した。八百八町と称される町数は初期に約300町，中期に1,670余町，末期に2,770余町を数えた。市街地の６割が武家地，２割が寺社地，２割が町地であった。18世紀初めごろにはすでに人口は武家50万，町人50万の計100万と推定され，当時世界一の人口を有する大都市であった。幕府所在地として政治都市の性格をもち，大消費地として大阪とともに商品流通の中心地で商業都市の性格ももった。1868年(慶応４)７月東京と改称され，翌年首都となり，東京市を経て，現在東京都の都心部を形成している。〔松尾　涼〕

エード　[ade]　天然果汁(かじゅう)に砂糖と水または炭酸水を加えた飲み物。日本では水で薄めたものをエード，水の代わりに炭酸水で割ったものをスカッシュとよんでいる場合が多いが，本来は同義語である。用いるくだものの名を冠してレモネード・オレンジエード・グレープエードなどという。新鮮な果実から直接果汁をしぼって直ちに飲用に供するので，果実独特の芳香があって美味である。なお，ラムネはレモネードのなまりであるといわれているが，わが国のラムネは，炭酸水に砂糖とレモンの風味をつけた飲料のことである。〔泉　敬子〕

エトアールがいせんもん　【エトアール凱旋門】　パリの，道路が12方に放射するド-ゴール広場(エトアール広場)の中央にある，ナポレオン麾下(きか)の将兵の栄誉をたたえるための記念建築。1806年ナポレオン１世がシャルグランとライモンに設計を命じ，1837年シャルグランの案に基づいて完成した。高さ50ｍ，幅45ｍの壮大さで，壁面にはリュードの《ラ-マルセイエーズ》などの浮き彫りがある。



エトアール凱旋門

えとうじゅん　【江藤淳】　(1933～　)　評論家。東京の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学英文科卒。在学中に《夏目漱石(そうせき)》を発表して注目された。《奴隷の思想を排す》《作家は行動する》などの評論で，作家の石原慎太郎・大江健三郎(けんざぶろう)らと並んで，評論家としてこの世代を代表した。ほかに《小林秀雄(ひでお)》《成熟と喪失―母の崩壊》などがある。

えとうしんぺい　【江藤新平】　(1834～1874)　政治家。佐賀藩下級武士の家に生まれ，1862年(文久２)脱藩して尊攘(そんじょう)運動に参加したため，藩から永蟄去(えいちっきょ)に処された。明治新政府成立後は東下して江戸鎮台府判事，のち東京府判事などを歴任して，1872年(明治５)司法卿(きょう)となり，司法権の独立や改定律令(りつりょう)の制定などに努め業績をあげた。征韓派(せいかんは)に属したが破れて下野し，のち板垣(いたがき)退助らと民選議院設立建白書に署名，1874年反政府士族の団体に押されて佐賀の乱を起こし，敗れて斬罪(ざんざい)となった。〔岸野淳子〕

えとうとしや　【江藤俊哉】　(1927～　)　バイオリン奏者。12歳のときに音楽コンクール第１位となって注目され，1948年(昭和23)に東京音楽学校(現東京芸術大学音楽学部)を卒業し，さらにアメリカのカーチス音楽院に学んだ。カーネギーホールでリサイタルを開き，カーチス音楽院の教授にもなった。1962年に帰国し，日本を中心に演奏活動を続けるかたわら，教育活動でも後進の指導に力を注いでいる。ピアノの園田高弘(たかひろ)とともに戦後日本の音楽界に新風を吹き込んだ。〔向坂正久〕

えどうまれうわきのかばやき　【江戸生艶気樺焼】　江戸後期の黄表紙。山東京伝作。1875年(天明５)刊。醜男(ぶおとこ)でうぬぼれの強い金持ちのひとりむすこ仇気屋艶次郎(あだきやえんじろう)が，色男の評判をたてようと芸者を駆け込ませたり，女郎と駆け落ちをしくんだりしてすべて失敗する滑稽(こっけい)を描く。うがちの精神で貫かれ，人間の心理をやや誇張して鋭くついている。黄表紙の代表作の一。

えどおんがく　【江戸音楽】　江戸時代に生まれた音楽，あるいはその時代に様式化された音楽の総称。箏(そう)・三味線(しゃみせん)・尺八の三つの楽器に代表され，さまざまな流派に分かれる一方，それ以前の時代とも，のちの時代とも区別される音楽様式を形成している。おもなジャンルは箏曲・尺八音楽・三味線音楽であるが，三味線音楽は長唄(ながうた)に代表される歌い物と，義太夫節(ぎだゆうぶし)に代表される語り物に大別される。江戸時代においても，たとえば語り物の中に常磐津(ときわず)・富本節・清元節といった様式が分化したが，多くの場合，これは様式の交代を意味せずに並存していた。

江戸音楽は普化宗と結びついた尺八を除けば，世俗的な性格が強い。それは第１に，江戸音楽のにない手が幕府の式楽となった能や宮廷の音楽であった雅楽と異なり，町人階級であったことによる。また，多くの三味線音楽が歌舞伎(かぶき)や文楽といった劇場と結びついたため，その歌詞が演劇的な要素に制約されたためである。江戸音楽すなわち遊里の音楽という後世の誤解はこの性格によるものである。箏曲はもちろん，長唄にも，劇場と関係のない作品があるが，世俗的であることは同じである。

江戸音楽の場合は家元制度をもったものが多く，そのため家元によって芸の正統性が確保されたが，激しい様式変化はこれによっておさえられる結果になった。家元制度は多少変質しながら今日でも機能を果たしている。〔徳丸吉彦〕

えどがわ　【江戸川】　利根(とね)川の支流で，利根川の中流部，茨城県に千葉県北西部が細くはいり込むあたりで分流して南に向かい，千葉県と埼玉県，千葉県と東京都の境を流れて東京湾に注ぐ。流程50km。もと利根川の本流であったが，分流地点一帯と下流部のたび重なる水害から，江戸時代以来河道変更・改修の大工事が行なわれ，今日のようになった。下流部は湿田・低湿地の見られる水郷景観を呈し，江戸川大橋の近くには東洋一の江戸川水門がある。いまでも舟運の便は大であるが，かつては重要な内陸水路として活用された。野田市・流山市など，この水運が発展の基盤になった都市が多い。〔長津一郎〕

えどがわ　【江戸川(区)】　東京都23特別区の一つで，その東端にあたる。東京湾に臨み，東は江戸川をはさんで千葉県と接し，北は葛飾(かつしか)，北西は墨田，西は江東の３区と接する。面積45.18km²，人口49万3,000。人口密度は１km²あたり10,912人で，千代田区・中央区に次ぎ少ない。江戸川河口の沖積地(ちゅうせきち)上に位置し，西に旧中川と新荒川(荒川放水路)，東に江戸川が流れ，中央部を中川放水路が貫く。新荒川と旧中川にはさまれた平井・小松川地区は，大正期から江東工業地域の一部として発展し，日新製鋼・本州製紙・日産化学工業・日本化学工業・東邦アセチレン・ライオン油脂をはじめ各種の工場が集まる。昭和期になってからは新荒川以東の地域が宅地化し，第２次世界大戦後は，総武本線小岩駅付近や国道14号線沿線に住宅地・商店街が急速に発展した。東部と南部の地域は最近

まで近郊農業が営まれ，中川放水路東部，鹿骨(ししぼね)町の草花・はち物栽培は有名である。東京湾に面する葛西(かさい)地区では，キンギョの養殖が盛んで，大和(やまと)高田(奈良県)や弥富(やとみ)町(愛知県)と並ぶ三大産地とされ，コイも多く飼育されるが，最近は住宅や工場の進出によって，養魚池の確保がしだいに困難になってきている。京葉有料道路が小松川橋から江戸川大橋へと区域内を東西に横断し，環状7号線はほぼ中央部でこれと交差して，区域を南北に貫通する。葛飾区にまたがる江戸川水郷では，都内には珍しい水郷風景を見ることができる。〔浅井得一〕

えどがわすいごう【江戸川水郷】 東京都と千葉県の境を流れる江戸川の下流域一帯を占める東京都立自然公園。小合溜井(こあいためい)，都立水産試験場水元分場，江戸川ラインとよばれる緑地帯，柴又帝釈天(しばまたたいしゃくてん)，小岩渡し跡，江戸川桜堤などの名所がある。

えどがわらんぽ【江戸川乱歩】(1894～1965) 小説家。本名平井太郎。三重県名張町に生まれ，早稲田(わせだ)大学政経学部卒。1923年(大正12)の《二銭銅貨》以下の作品でわが国に推理小説の分野を確立した功績は顕著である。本格的推理小説として《心理試験》《陰獣》が，怪奇幻想物として《パノラマ島奇談》《押絵と旅する男》が著名。また《幻影城》その他で研究評論にも力を注ぎ，雑誌《宝石》の編集，江戸川乱歩賞の制定など，推理小説の振興，新人作家の育成に努めた。探偵(たんてい)作家クラブ会長，日本推理作家協会理事長を歴任し，1962年(昭和37)紫綬褒章(しじゅほうしょう)を授与された。〔中島河太郎〕



江戸川乱歩

えどご【江戸語】 江戸時代に江戸に発達し，現在の東京語の基盤となった方言。江戸時代初めに江戸に行なわれた言語は，関東方言を主としながら各地の方言が雑然と混じり合ったものだったが，やがて関東・関西の2方言が対立する形となった。18世紀の半ばに江戸文化が独自の特色を示すようになると，関東方言もズーズー弁の要素を去って洗練されたものになった。これを主体とし，さらに関西方言を融合して，独自の江戸語が成立した。この独自性がのちに東京語が標準的地位を得る一つの理由となっている。〔野元菊雄〕

えどこばなし【江戸小話】 ⇨噺本(はなしぼん)

えどころ【画所】 絵所とも書く。平安時代，宮中で絵画制作をつかさどった役所。専門の絵師が任命されて画事にあたった。鎌倉時代になると特定の社寺にも置かれ，室町時代以後には院や幕府に設けられ，土佐派や狩野(かのう)派などがその任にあたった。

えどざ【江戸座】 俳諧(はいかい)流派。芭蕉(ばしょう)の没後其角(きかく)が晩年に唱えた洒落(しゃれ)ふうを受け，その都会趣味に基づく作風が江戸で隆盛をきわめた。沾徳(せんとく)の洒落ふう，沾州(せんしゅう)の比喩体(ひゆたい)，不角の化鳥(けちょう)ふうなどに分かれるにしたがい俗悪に流れたが，江戸文学の素地を養った意義は認めねばならない。

えどさんざ【江戸三座】 江戸時代における歌舞伎(かぶき)の劇場は，幕府の許可を得なければ興行ができなかった。とりわけ幕府のひざもとである江戸では，取り締まりがきびしく，中村座・市村座・森田座の3座だけが官許の劇場として興行権を与えられていた。これを〈江戸三座の制〉という。1714年(正徳4)に江島生島(いくしま)の事件が起こり，山村座が取りこわされて以後この制が固まった。なお，3座に支障がある場合は，都座が中村座の，村山座・桐(きり)座が市村座の，河原崎(かわらざき)座が森田座の控櫓(ひかえやぐら)として興行を許されていた。中村座は堺(さかい)町に，市村座は葺屋(ふきや)町に，森田座は木挽(こびき)町にあったが，1841年(天保12)に天保の改革の余波によって3座は猿若(さるわか)町に集め移された。明治にはいって三座の制はくずれ，守(森)田座だけがあとまで残った。〔服部幸雄〕

えどし【江戸氏】 代表的なものは次の2氏。

[1] 桓武(かんむ)平氏秩父(ちちぶ)氏の分流。平良文(よしぶみ)の孫，秩父将常(まさつね)の玄孫重継(しげつぐ)が江戸氏を称したのがはじまり。その子重長が石橋山の戦いに加わってのち，鎌倉幕府の御家人となり，のち足利(あしかが)・後北条(ごほうじょう)・徳川氏に仕え，喜多見と称した。1683年(天和3)喜多見藩一万石を与えられ，1686年(貞享3)二万石となったが，1689年(元禄2)改易された。

[2] 藤原秀郷(ひでさと)の分流。藤原姓那珂(なか)氏から出た。秀郷6世の孫通資(みちすけ)が那珂氏を称したのがはじまり。のち10代めの通泰(みちやす)が足利尊氏(たかうじ)に属して功をたて，常陸(ひたち)(茨城県)那珂郡江戸郷を与えられ，江戸氏を称した。その孫通房(みちふさ)は上杉(うえすぎ)禅秀の乱後，水戸(みと)地方に進出して発展し，宣通(のぶみち)のとき徳川家康(いえやす)に仕えて水戸氏と改姓した。〔鹿野賀代子〕

えどじだい【江戸時代】 ⇨次ページ

えどじだいのびじゅつ【江戸時代の美術】 大別して幕府や宮廷に奉仕する御用美術と個性の自由な表現を追求する在野の美術とがある。前者は，幕藩体制の確立期にその文治理念に即応した芸術様式を形成するがやがて創造的な活動を停止し，以後は下級武士を含む市民層の手によって後者が多彩な展開を遂げ，時代の主流をなした。安土桃山時代に続いて宗教美術は衰微し，生活に密着した工芸や絵画などの世俗美術が発達するが，その背後には社会の安定と教育の普及による美術享受者層の飛躍的増大が準備されていたことも見のがせない。

さらに，鎖国という特殊な状況のもとにありながら，中国やオランダなど外国の新しい美術の動向にも強い関心を示し，後半期には芸術理論や写実的技法の学習と展開に努めて，明治以降の近代美術へつながる基盤をも築いている。〈建築〉 初頭には建築界も活況を呈し，江戸では江戸城を中心に桃山の遺風を継ぐ豪壮な武家的書院建築が次々と造営され，京都では実用と美とが簡潔な形式で調和した公家(くげ)的書院建築の桂離宮(かつらりきゅう)や修学院離宮などが営まれた。また，この時代に独特の創造的建築様式として日光東照宮に代表される霊廟(れいびょう)建築があげられ，ほかに揚屋建築の京都の角屋(すみや)，学校建築の岡山の閑谷(しずたに)学校講堂，洋風建築の長崎の大浦天主堂などがあり，江戸時代の建築が開発した特殊な様式をいまに伝える遺構がある。〈彫刻〉 伝統的な仏像彫刻は正系仏師たちが創造精神を枯渇させてふるわず，かえって円空・木食(もくじき)らの遊行僧が信仰的情熱によって制作したものに新鮮な彫刻美が実現された。

〈絵画〉 1617年(元和3)狩野(かのう)探幽は幕府の御用絵師となるが，以後狩野派は官学的絵画と公認されて諸藩にも迎えられ，画壇に絶対的な権威を誇った。一方では，土佐派が宮廷の絵所預(えどころあずかり)に復帰し，土佐派から分かれた住吉(すみよし)派も幕府の御用絵師となるなど，支配層による絵画界の統制は進んだ。しかし，これら官学派は封建支配層の原理に密着して創造の意欲を失い，富と教養を増した市民層は自身の喜びのための絵画をみずから育成するに至る。それが江戸に生まれた独特の庶民芸術の浮世絵であり，古典的伝統の根強く残る京都に展開した琳(りん)派や円山(まるやま)派・四条派の装飾的絵画である。さらに，知識人の中国趣味に発した南画，蘭学(らんがく)の発達とともに合理的な西洋画法を知り，その理解と実践を試みた洋風画，あるいは尊皇思想に基づき王朝絵画の復興を意図した復古大和絵(やまとえ)など，多岐にわたる絵画思潮がそれぞれに結実する。〈工芸〉 前代と比べて技術的には洗練の度を加えたが，総体に細工的な弱さを免れない。注目される現象としては各藩が財政の窮乏を救うために特産工芸の育成に努めたことであり，地方的な発展は従来にない活発さをみせた。〔小林　忠〕

江戸時代

江戸時代の初めは1600年(慶長５)の関ケ原の役*とする説や，1603年の徳川家康*(いえやす)の征夷(せいい)大将軍補任とする説があるが，実質的には1598年の豊臣秀吉*(とよとみひでよし)の死によって徳川氏の覇権(はけん)の基礎が定まったといえる。その終末は，1867年(慶応３)の15代将軍慶喜(よしのぶ)の大政奉還*とするのが通説である。

家康は関ケ原の役で勝利を得ると，西軍に属した諸大名の領地を奪って，東軍の諸将および譜代の家臣に加増して各地に分布させ，全国支配の基を築いた。それとともに青山忠成(ただなり)・内藤清成を江戸町奉行兼関東総奉行に，奥平信昌(のぶまさ)次いで板倉勝重(かつしげ)を京都所司代としたのをはじめ，伏見・堺(さかい)・京都・山田・長崎などの都市を直轄地としてそれぞれ奉行を置いて支配体制を固め，さらに江戸と京都を結ぶ組織として東海道と中山道(なかせんどう)の宿駅制を整え，金座・銀座を設けて統一的な金銀貨を鋳造し，貨幣鋳造権と商業統制の手段を掌握した。そのためには佐渡(新潟県)・伊豆(いず)(静岡市)・石見(いわみ)(島根県)などの主要な金銀山を独占し，経済的にも絶対優位な立場に立ち，1603年に征夷大将軍に補せられ，名実ともに全国の支配者となった。幕府成立の直後に郷村法令７か条を発布したが，それは幕領だけでなく私領にも及ぶもので，農民が領主の圧迫に耐えきれないときには他領へ移ることを認めるとともに，年貢(ねんぐ)率をできるだけ平均化させる意図を示し，統一者としての権威を明確にした。1605年秀忠が将軍となったが，家康は駿府(すんぷ)(静岡県)にいて政治の実権を握っていた。家康は対馬(つしま)(長崎県)の宗氏を通じて朝鮮との和平をはからせていたが，1609年には宗氏と朝鮮との間に慶長条約が結ばれた。また同年島津氏は，琉球(りゅうきゅう)(沖縄(おきなわ))に出兵してこれを版図に加え，琉球を通じて対外貿易の利を得た。家康は1609年にはオランダに，1613年にはイギリスに通商を許し，関税免除・治外法権など多くの特権を与える一方，朱印船貿易*を設けて邦人の海外発展を奨励した。しかし，キリスト教およびポルトガル・スペインの植民政策に対する不安から，1612年には禁教令を発して教会を破却し，宣教師と高山右近*(うこん)らの有力信者を国外に追放した。そのあと大阪の陣*を起こして豊臣氏を滅ぼし，対抗勢力を全滅させた。

これより２代秀忠(在職1605～1623)・３代家光(いえみつ)(在職1623～1651)の約35年にわたる内政・外交の整備時代が始まった。内政面では，武家諸法度*(しょはっと)・禁中並公家(きんちゅうならびにくげ)諸法度*などの制度，大名・旗本(はたもと)の軍役の負担基準の設定，幕府職制の整頓(せいとん)，諸大名に対するきびしい処罰(改易・減封など)を行ない，将軍の統一的封建国家の支配者である面を明確にした。外交面では1623年(元和９)にイギリスが日本市場から敗退し，キリスト教禁令が強化される中で1624年(寛永１)にスペインとの国交も絶たれた。幕府は1635年になると朱印船貿易を禁じ，さらに1637～1638年の島原の乱*の結果，1639年にはポルトガル人の来航を禁じ，1641年にはオランダ商館を平戸から長崎に移して，これよりオランダ・中国両国の船は長崎でのみ貿易が許されることとなり，対外的にも鎖国*が完成し，幕府は完全に貿易を管理・統制することになった。一方，諸大名は参勤交代*制度，妻子の江戸居住，手伝普請(幕府が諸大名に課した土木事業の助役)の負担などによって早くから財政難に陥り，そのため領民への収奪が苛酷(かこく)になった。これに対して農民は逃散*(ちょうさん)などの反抗を試みたが，特に島原の乱においては，宗教的な団結心も加わり，半年近くも10万の軍隊に抵抗した。そのあと，幕府も農民に対する多くの法令を発し，ことに1643年には土地永代売買の禁令を出して，直接生産者である本百姓から米を主とする現物年貢を徴収し，ほぼ全国一様の支配組織・徴税制度による幕藩体制*が制立した。

４代将軍家綱時代(在職1651～1680)は幕府では文治政治に転じ，大名の処分も激減している。都市や交通運輸の発達と生産力の向上とがあいまって，商品流通が盛んになり，それにつれて商人が富をたくわえたが，農民の年貢を主とする租税制度では，支配者は彼らの利益を吸収することができなかった。寛文から元禄(げんろく)にかけての町人の台頭は，そうしたことと大きな関係があり，ひいては武士の生活の窮乏を招き，財源の豊かであった幕府でさえも，家綱時代からは緊縮財政策をとった。家綱は病身であったため，大老酒井忠清*が権力を握り，幕政にゆるみが生じた。諸大名の財政難は領民への重税となって現われ，百姓一揆*(いっき)がしきりに起こったが，江戸などの大都市には華美なふうが生じてきた。５代将軍綱吉(在職1680～1709)は就任後，家綱時代に成立しかけた門閥譜代大名である大老・老中の合議制を破って，将軍の独裁を再現し，それにつれて側衆(そばしゅう)・側用人などの側近を用い，ことに牧野成貞(なりさだ)・柳沢吉保*(よしやす)を寵愛(ちょうあい)し，やがてその政治は，生類憐みの令*(あわれみのれい)のごとき悪政となって現われた。前代から悪化の傾向をたどっていた幕府財政は底をつき，長崎運上*や酒運上などの新税を設けたが，1695年(元禄８)から貨幣を改鋳して質を落とし，数年間で500万両の利益をあげたが，浪費も多く財政上の余裕を得ることができなかった。しかし貨幣価値の下落によって物価が騰貴し，表面的には好景気のごとき時期を生んだ。綱吉の死後，６代家宣(いえのぶ)(在職1709～1712)・７代家継(在職1713～1716)父子の時代には，側用人間部詮房*(まなべあきふさ)と儒者新井(あらい)白石*とが補佐し，ことに白石の礼楽を政治の根本とする思想は，武家諸法度の改定，朝鮮信使の待遇改正，対朝廷政策などにも現われ，貨幣も慶長金銀と同質同量の正徳金銀の発行をするなどしたが，将軍が病弱・幼少のために彼らの背景になる力がなく，十分な成果をあげることができなかった。８代吉宗(よしむね)(在職1716～1745)は前代と異なって譜代の者を重んじ，新参者の登用を避けた。また将軍の権威確立のために心を用い，享保(きょうほう)の改革*も自身が中心になって遂行した。1721年(享保



江 戸 時 代
1620年，２代将軍徳川秀忠の娘和子(東福門院)が後水尾天皇の女御として入内したときのようす
《東福門院入内図屏風》(三井八郎右衛門蔵)

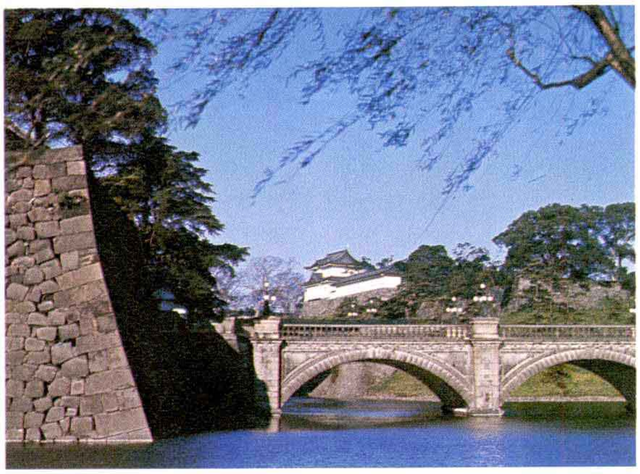
6)には評定所に目安箱を設けて庶民の直訴を認めたが，のちには諸方に置いて各種の情報を得るとともに，老中以下諸役人に対して強い圧力を加えた。財政上では1718年に新金銀通用令を出して，正徳金銀を基準とする金銀の交換率を定め，通貨の統一と収縮とを図った。奢侈(しゃし)生活をおさえるために，不要物資の生産を制限し，商人には組合を結成させて，幕府の統制が及びやすくした。このために経済界は不況となり，金銀貸借に関する訴訟が激増したので，1719年には金銀相対済令*(あいたいすましれい)を発した。そのほか，人材登用のために足高*(たしだか)の制を決め，司法運営のために公事方(くじかた)御定書*を制定し，刑罰の緩和などをも図ったが，主要点は財政に置かれ，上米*の制度を設けて新田開発を奨励し，貢租徴収法を改めて租税の増収を図った。このため一時は余裕を生じたが，1732年の大凶作により多数の餓死者を出し，翌年正月には江戸で最初の打ちこわし*が生じた。1736年(元文1)には金銀貨の質を落として，通貨増量政策に転換した。吉宗のあと，9代家重(いえしげ)(在職1745～1760)・10代家治(いえはる)(在職1760～1786)時代には，田沼意次*(おきつぐ)が権力を握り，幕府財政は悪化の一方であったが，年貢増徴はすでに限界に達していたため，田沼は株仲間*から冥加*(みょうが)・運上などを徴して補いとし，また商業統制を図った。しかし，1783年(天明3)以来の奥羽の大飢饉以来天災があいつぎ，百姓一揆も天明年間(1781～1788)には全国にわたり，都市では打ちこわしとなった。田沼の没落後松平定信*が老中となって寛政の改革*が行なわれ，凶作・流出などで減少した農村労働力の回復をめざす政策をとり，また江戸市内の浮浪者のためには人足寄場*を設けた。物価引き下げのためには株仲間を整理し，冥加・運上を廃止したが，目的は果たせず，また1789年(寛政1)には旗本・御家人のために棄捐令*(きえんれい)を出した。一方風俗を粛正して，奢侈(しゃし)品の販売を制限し，私娼(ししょう)を禁じ，言論出版を統制し，異学を禁ずるなど，各方面の改革を断行した。1792年にロシア使節ラックスマン*が根室に来て通商を求めると，江戸湾防備計画を立てたが，定信は在職6年で辞任したため，実現しなかった。諸藩でもこの期には儒教の振興によって風俗の強化を図るとともに，財政立て直しのために専売制や藩札*発行などの手段を講じた。

松平定信の引退後，文化・文政時代を迎えるに至り，寛政の政策は受け継がれたが，幕政はゆるみがちであった。11代家斉(いえなり)(在職1787～1837)は奢侈な生活を好み，幕府財政は破綻(はたん)に瀕(ひん)したが，1818年(文政1)から1832年(天保3)までたびたび貨幣を改鋳し，その益金によって危機を避けた。しかし，農村では商品作物が盛んに作られ，在郷商人*が台頭して流通経済が発達し，その間に農民の階層分化が生じて，つぶれ百姓や離村百姓が増加した。関東地方は領地が入り組んでいたために治安の維持が困難となり，幕府は1805年(文化2)に関東取締出役*(八州回り)を設けて警察機能をもたせ，1827年には寄場組合をつくって強化した。外交上では1804年のロシア使節レザノフの長崎来港と，それに伴う蝦夷地(えぞち)での暴行事件，1804年のフェートン号事件*，1824年のイギリス船員の常陸(茨城県)大津浜での上陸事件などがあって，1825年には異国船打払令*を出した。このように内外情勢が切迫した天保初年に全国的な大凶作が続き，各地で百姓一揆が続発し，1837年には大阪で大塩平八郎*の乱が起こった。1841年に将軍家斉が没すると，老中水野忠邦*(ただくに)を中心とする天保の改革*が始まった。奢侈品の販売・使用の禁止，出版統制から，物価引き下げのための株仲間解散令を出し，年々赤字の続いている幕府財政のためには貨幣を改鋳し，御用金を都市の富商に課した。1842年に異国船打払令を廃して薪水給与令*を復したのは，阿片(あへん)戦争*の結果を知ったためである。1843年忠邦は上知令*を出して諸大名の反対に会い失脚したが，彼の改革の中には，藩を越えての挙国的な軍事・経済の集中化をめざすものがあった。同じころ長州藩・薩摩(さつま)藩などでも改革を断行し，藩内の商業統制や軍制刷新に抵抗した。阿片戦争後イギリス・フランスは琉球に来て通商を求めていたが，1853年(嘉永6)アメリカ使節ペリー*が浦賀に来港し，幕府はその強圧に屈して翌年に日米和親条約*，1858年(安政5)に日米修好通商条約*を結んで，国内経済に大影響を与え，また内政にも重大な結果を招いた。それは，条約勅許問題*に関連しての安政の大獄*と，1860年(万延1)の桜田門外の変*となって現われた。幕府は安藤信正*(のぶまさ)らの公武合体策に転じた。しかしその間に西南雄藩が台頭して幕府に対抗するようになり，長州藩は強硬な攘夷(じょうい)運動の中心となった。文久3年8月18日の政変*で長州藩は京都を追われ，公武合体派が一時勢力を回復し，それに乗じて幕府は長州征伐*を断行したが，その間に薩長連合が成立し，窮地に陥った幕府は1867年(慶応3)10月に大政を奉還し，260年に及ぶ幕府権力が倒れ，同時に武家支配が終わったのである。

文化面では，200余年の鎖国と平和が続き，わが国独自の文化が多彩に創造された。17世紀前半はなお桃山文化の余風を存し，江戸城・名古屋城・二条城・大阪城・桂離宮*(かつらりきゅう)や日光東照宮*などの建造物や絵画・彫刻となった。17世紀後半からは，幕府・諸藩ともに文治主義を進めて学芸を奨励し，経済力をたくわえた町人の台頭とあいまって，上方を中心にした元禄(げんろく)文化*を開花させた。元禄文化の特色は自由闊達(かったつ)な気運のうちに人間精神を追求し，合理的傾向を高めたことにあった。儒学での伊藤(いとう)仁斎*・荻生徂徠*(おぎゅうそらい)，文学での西鶴*(さいかく)・芭蕉*(ばしょう)・近松門左衛門*(もんざえもん)らはよくその特色を発揮した。上層町人の豊満な生活意識は，尾形光琳*(こうりん)の絵画に表現されている。18世紀にはいるとようやく封建制は停滞し，精神の躍動はとかく妨げられたが，学問・美術の発達は百花競い咲くの趣を呈し，繁栄した江戸を中心に化政文化が展開した。新しい学問として国学・洋学(蘭学)が発達し，町人の商業芸術の中からは喜多川歌麿*(うたまろ)らのすぐれた錦絵*(にしきえ)が生まれた。また季節感の豊かな年中行事*が一般化した。

〔児玉幸多〕

えどじょう　**【江戸城】**　現在の東京都千代田区内皇居。平安末期，秩父(ちちぶ)一党の江戸氏*がこの地に築城したのに始まるというが不明。1456年(康正2)，太田道灌*(おおたどうかん)が東京湾に注ぐ荒川と多摩川の中間台地の先端，武蔵(むさし)(東京都)豊島(としま)郡江戸郷(のちの江戸城本丸の地あたり)に築城開始，翌年完成した。1486年(文明18)，道灌が上杉定正(うえすぎさだまさ)に討たれてのち，扇谷上杉(おおぎがやつうえすぎ)氏・後北条(ごほうじょう)氏の支城となり，1590年(天正18)，後北条氏滅亡後，浅野長政(ながまさ)が入城したが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)は同年関八州を徳川家康(いえやす)に与え，家康は江戸城にはいった。1592年(文禄1)に西の丸の普請を始め，1606年(慶長11)本丸(将軍常住所)・二の丸・三の丸と外郭(そとぐるわ)，翌年北側外郭，1610年西の丸(将軍家隠居所)の石塁，1636年(寛永13)家光のとき外郭全部が完成した。天守閣1・小天守1・三重櫓(やぐら)6・二重櫓10・平櫓4・多聞(たもん)26・外郭城門25・内郭城門11・城内城門87・城橋30がつくられ，外郭の堀(ほり)は両国橋付近に始まり，内へ内へとらせん形にはいって内堀(うちぼり)に達する。1657年(明暦3)の明暦の大火をはじめ，1731年(享保16)・1844年(弘化1)・1859年(安政6)・1861年(文久1)の5度の火災にあい，そのつど修築，しだいに規模を改変したが，天守閣は明暦の大火後再建されなかった。大政奉還の翌年1868年(明治1)，明治天皇は江戸へ行幸，江戸城を東京城と改めて居所としたが，城は1873年に炎上，1888年西の丸跡に宮殿完成，宮城と改称した。明治宮殿は，1945年(昭和20)の空襲で焼失，1969年に西の丸跡に新宮殿が完成した。現在，江戸城の外郭は市街となり，



江 戸 城　現在の皇居。二重橋と伏見櫓

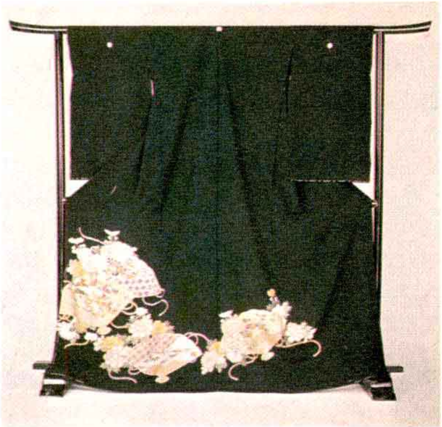
その堀も大部分埋められたが，西の丸跡・吹上一帯は皇居，本丸跡・二の丸跡・三の丸跡・北の丸跡・西の丸下郭跡は公園となっており，いくつかの櫓・城門などと堀・石がきがよく残って，特別史跡に指定されている。〔仲野　浩〕

えどじょうるり【江戸浄瑠璃】日本音楽分類上の用語で，江戸節ともよばれ，上方浄瑠璃あるいは上方節に対するものとして使われる。江戸で発達した語り物*の総称で，だいたいの特徴は，上方のものよりはでである。外記節*(げきぶし)・土佐節・大薩摩節*(おおさつまぶし)などの薩摩系統のもの，半太夫節(はんだゆうぶし)・河東節*などの丹後系統のものがあり，さらに変容したものでは，常磐津(ときわず)節・富本節・清元節・新内節などがよく知られている。

エトスろん【エトス論】古代ギリシアにおける音楽論の一。たとえばドリア旋法(→ギリシア旋法)は〈男らしさ〉を，イオニア旋法は〈放逸さ・安易さ〉を表わすなどというように，音楽をある種の情緒または道徳的規範と結びつけて考え，これが人間の道徳的性質に影響を及ぼすと考えられた。ピタゴラスの数論に始まり，プラトンの《国家》を経て，アリストテレス・アリストクセノスの著にもみることができる。

えどせんけりゅう【江戸千家流】江戸中期に形成された茶道の一流派。紀伊(きい)(和歌山県)新宮出身の茶人川上不白*を流祖とする。不白は18歳で表千家7世如心斎宗左の門にはいったが，その信任が厚く，30歳のころ，師命によって江戸に下り，駿河台(するがだい)に居を構え，表千家流茶道の普及に努めた。不白の直系は絶えたが，その一族のうちで上野の池之端(いけのはた)に住む川上宗雪が，代々，江戸千家流をとなえ，現在の10世閑雪に至る。川上宗順の表千家不白流とは別。〔桑田忠親〕

えどそだちおまつりさしち【江戸育御祭佐七】歌舞伎(かぶき)脚本。3幕の世話物で3世河竹(かわたけ)新七作。1898年(明治31)東京歌舞伎座初演。いわゆる〈小糸佐七物〉の一。芸者小糸は養母らの奸計(かんけい)から心にもないあいそづかしを恋人の佐七に言い，怒った佐七に殺されるが，書き置きからその真意が判明するという筋。殺し場の立ち回りの様式的な美しさで名高い。



江戸褄模様



エトナ山　雄大なすそ野を引くエトナ火山の遠望。アフリカ大陸から渡ってくるシロッコ(熱風)のため，山頂部には降雪がある

えどづまもよう【江戸褄模様】①女物紋つき長着のすそ模様の一種。えり下に高く前すそに低く，三角形に置く模様。②その模様づきの長着。現今は婦人の正装である黒留めそで五つ紋つき模様づきがこの模様で，振りそで*・訪問着*に対していわれる。江戸時代の前期は長着全体に模様を配置したが，安永・天明年間(1772～1788)には腰から下に模様を置くようになり，特に江戸でこの模様の配置が起こり，この名がつけられて広く普及した。いまは集会が座敷より洋風の会場で開かれることが多いため，模様の中心がひざから上に置かれ，後ろすそにも高くつける傾向に変わった。これを〈後ろがかり大江戸褄模様〉という。〔堀越すみ〕

えどとくみどんや【江戸十組問屋】⇨十組問屋

エトナ(山)［Etna］イタリアのシチリア島北東岸にある円錐(えんすい)形の活火山。高度3,295mで，ヨーロッパの火山中最も高い。寄生火山は260に達し，爆発回数はBC475年以降260回以上を数える。最近では1964年に噴火したが，1169・1669・1695・1832年の噴火は特に被害が大きかった。国際火山研究所があり，火山研究の中心的存在である。1,300mくらいまでは，ブドウ・柑橘(かんきつ)類などの栽培が行なわれている。観光客も多い。〔野間三郎〕

えどばくふ【江戸幕府】徳川家康*(いえやす)が江戸を本拠として開いた武家政権。家康が関ケ原の役後，1603年(慶長8)征夷(せいい)大将軍に任ぜられて幕府を開いてから，1867年(慶応3)15代将軍慶喜(よしのぶ)が朝廷に大政を奉還するまで265年間続いた。政権の所在地の名によって江戸幕府といい，また政権の保持者の名によって徳川幕府ともいった。その支配下にあった時代は幕藩体制社会とよばれ，世界でもまれにみる中央集権的封建国家であった。幕府の政治組織は3代将軍家光(いえみつ)の時代から，4代将軍家綱の時代にかけて整備されたもので，将軍の下に中枢部に，老中・若年寄・大目付・目付と三奉行(ぶぎょう)(寺社奉行・町奉行・勘定奉行)などの諸役人があり，老中の上に大老が置かれたが，これは常置の職ではなかった。また5代将軍綱吉(つなよし)のとき，側用人(そばようにん)が新たに置かれ，老中に準じた待遇を与えられた。老中は二万五千石以上の譜代*大名の中から選ばれ，定員は4～5名，月番で御用部屋(ごようべや)に出仕し，合議制によって政務をとった。若年寄は城をもたぬ譜代大名から選ばれ，定員は3～4名，老中を補佐し，旗本(はたもと)・御家人を支配した。側用人は将軍の近侍をつとめ，老中の下にあってその連絡にあたり，側近政治を生むようになった。大目付は老中の下にあって大名の監察にあたり，目付は若年寄の下にあって旗本を監察した。このほか奏者番・高家・留守居・大番頭などがあった。地方には京都に所司代，大阪などに城代，幕府の直轄地には郡代・代官が置かれた。また参勤交代*の制・武家諸法度*(しょはっと)・禁中並公家(きんちゅうならびにくげ)諸法度*・寺院法度*などの法制によって，大名・公家・寺院を統制し，農民を支配するために検地*・五人組*制度などが行なわれた。〔岡山泰四〕

江戸幕府職制表

- 将軍
  - 大老
  - 老中
    - 寺社奉行
    - 町奉行
    - 勘定奉行
    - 大目付
    - 大番頭
    - 京都所司代
    - 城代(大阪・駿府など)
    - 町奉行(京都・大阪など)
    - 遠国奉行(長崎・堺など)
    - 郡代・代官(天領)
  - 側用人
  - 若年寄－目付

えどはんじょうき　【江戸繁昌記】　寺門静軒著。太平無事な天保(てんぽう)年間(1830～1843)の江戸市中の盛り場・名所・名物などを，漢詩文に形式をかりて軽妙洒脱(しゃだつ)な文体に戯述し，5編からなる。このほかにも《太平志》《江戸繁昌後記》《新潟繁昌記》などの類似作品がある。なお，これの模倣として1859年(安政6)成島柳北*の《柳橋新誌》，1874年(明治7)服部撫松(はっとりぶしょう)の《東京新繁昌記》がある。

えどひがん　【江戸彼岸】　双子葉植物・バラ科。サクラの一種で，ウバヒガンともいう。山地にはえる落葉高木で，高さ6～10mになり，庭にも植えられる。葉は楕円(だえん)形で鋭頭。3月ごろ葉に先だって淡紅色の花を開き，6月ごろ黒熟した核果を生ずる。

エトピリカ　鳥類・ウミスズメ科の中形の海鳥。主としてアラスカ・北太平洋諸島で繁殖し，わが国でも北海道の大黒島・根室付近の海岸で少数が繁殖する。繁殖期にはくちばしのもと半分は黄緑色，先半分は朱赤色である。エトピリカという名はアイヌ語で鼻先の美しい鳥という意味からきているという。➔ウミスズメ

えどぶんがく　【江戸文学】　広くは近世全期(江戸開幕から明治維新前まで)を対象にするが，一般には近世中期以後，江戸を中心として出版された文学についていう。政治的には寛政・天保(てんぽう)の改革，各藩の経済的危機，百姓一揆(いっき)の頻発(ひんぱつ)など問題はあったが，江戸市中はおおむね平穏で消費経済の発展，人口増加，寺子屋の普及などから庶民の読書に対する関心が徐徐に高まった。このため文学はより大衆的・遊戯的・享楽的傾向をもち，一方，作品の規模は一部を除いては小さくならざるをえなかった。〈小説類〉ではまず赤本*・黒本*・青本*・黄表紙*・合巻*の草双紙の流れがある。いずれもさし絵が中心であったが，赤本が婦人・子どもを読者としたところから，黒・青本を経て，しだいに時代の流行・好尚(こうしょう)を取り入れて黄表紙に発展し，寛政の改革の影響もあって，かたき討ちを主題にした伝奇性の強い長編小説的要素をもった



エトピリカ

合巻に変わり，幕末まで続いた。これに対し，文章を主とした読本*は上田秋成*の《雨月物語*》や滝沢馬琴*の《南総里見八犬伝*》に見られるように，中国文学の影響が大きく勧善懲悪・因果応報の思想で貫かれ，明治期まで多くの読者をもった。一方，現実生活や遊里の生活を新しい感覚・表現で書いたものが洒落本*(しゃれぼん)・滑稽本*(こっけいぼん)・人情本*である。洒落本は遊里の客と遊女の手管と人情の機微をうがった通の文学であり，滑稽本は十返舎一九*の《東海道中膝栗毛(ひざくりげ)》(➔道中膝栗毛)や式亭(しきてい)三馬*の《浮世風呂*(うきよぶろ)》のように平凡な庶民生活の中に如実な笑いを見いだした。人情本は遊里の男女の手管を離れて，市井の恋愛を緻密(ちみつ)に描写した。為永(ためなが)春水*の《春色梅児誉美*(うめごよみ)》以下一連の作品は，通俗小説としての技法を近代以前に最も高めた文学である。〈韻文〉では，和歌も俳諧(はいかい)も元禄(げんろく)期(1688～1703)ほどに独特のものを生み出してはいない。俳諧は蕉風*(しょうふう)の再興をめざした天明俳壇に成美*などがいたが，真に個性的であったのは一茶*(いっさ)のみである。むしろ前句付から発展し柄井(からい)川柳*によって完成された川柳*は，ただ17文字だけの短詩型に庶民生活を中心とするあらゆる人間の悲喜劇を端的に表現した独特の文学で，この期の特色の一典型といえる。このほか狂歌*・狂詩が天明期(1781～1788)前後に最盛期を迎えた。

〔小池正胤〕

エートベッシュ　[Roland von Eötvös]　(1848～1919)　ハンガリーの実験物理学者。ブダペスト大学教授。液体の表面張力と温度に関する法則のほか，エートベッシュのねじり秤(ばかり)を作製し，慣性質量と重力質量の比例関係を高い精度で確かめた業績で著名(1896)。科学アカデミー院長・文部大臣などもつとめた。

えどまちぶぎょう　【江戸町奉行】　江戸幕府中央機構の三奉行の一。単に町奉行*というのが正しい。老中の管轄。江戸府内の行政・司法・警察などをつかさどり，府内の町人・百姓を支配した。町奉行は通常2人いて，その奉行所の位置で南町・北町奉行といった。元禄(げんろく)年間(1688～1703)には3人いたこともあって，そのときは1人を中町奉行といった。2人の奉行が月番で職務を遂行し，町奉行は旗本(はたもと)の職として三千石を与えられた。奉行の下には与力*・同心*がおり，さらにその下に町年寄・町名主があって庶民の政治にあたった。

〔善積美恵子〕

えどめいしょずえ　【江戸名所図会】　1834年(天保5)と1836年に分けて刊行された7巻20冊よりなる地誌。斎藤幸雄，その養子の幸孝，幸孝の子の幸成の手になる。長谷川雪旦(はせがわせったん)(谷文晁(ぶんちょう)・酒井抱一らと並称され，狩野派(かのうは)ふうにすぐれた)が挿画(そうが)。江戸市中と近郊の名所旧跡・産業などを7方面に割り，道順に従って歴史・伝説を交えて述べている。寛政(1789～1800)以来父子孫3代が実地踏査をし，30余年の歳月を費やして完成した江戸地誌の集大成。雪旦の挿画によって，近世後期の江戸市中のようすと人々の生活風俗がうかがえる。

〔渡辺守邦〕

えともみさき　【絵鞆岬】　北海道室蘭(むろらん)市の南にあり，西に向かって突出した半島で，室蘭港を太平洋の荒波から守る天然の防波堤の役目をしている。かつての島が陸繋島(りくけいとう)となったもので，森林や草地でおおわれた標高100m前後の丘陵である。南側は断崖(だんがい)で太平洋に臨み，北側のすそは切りくずされて埋め立て地が造成され，室蘭市の中心部となっている。

エドモントン　[Edmonton]　カナダ，アルバータ州の州都。人口37万7,000，大エドモントン40万1,000(1968)。州の中央部に位置し，アラスカやカナダ北部への玄関口として陸・空交通の要地となっている。全長2,450kmのアラスカハイウエーはここから北上している。春小麦地域を控えて小麦の集散をなし，また，大石油産地を控えて，石油化学工業が発達している。アルバータ大学がある。

えどるすい　【江戸留守居】　諸藩が江戸の藩邸(上屋敷)に置いた職名。江戸幕府と諸藩との公務の連絡，他藩の留守居との交際連絡にあたった。江戸城の同じ間詰(まづめ)の留守居と組合をつくり，ときおり諸事の打ち合わせなどの寄り合いを行なったが，交際を口実にとかく豪遊をして弊害が多く，幕府から戒諭されることが多かった。

エトルリア　[Etruria]　今日のイタリア半島のトスカナ地方にほぼあたる地域の古代の名称。今日のトスカナという名称は，古代ローマ人がエトルリア人のことをトゥスキとよんだのに由来する。さらに古くはチレニアまたはチレニイとよばれ，彼ら自身はみずからをラセンナと称した。彼らの支配した地域は今日のトスカナ地方からしだいに広がり，最大のときはテベレ川からアルプスに至る北イタリア全域を含んでいたが，その後，紀元前5世紀末ごろまでに縮小していった。エトルリア人の起源については，インド-ヨーロッパ語族*に属さないという点を除いては確実なことはわからない。最も有力な学説はヘロドトス*などの記

①


②


③


エトルリア美術

①黒絵人物付祭器台鉢　ブリヂストン美術館蔵
②夫妻像　チュルベテリ出土，テラコッタ彩色　ビラ-ジュリア美術館蔵
③牝獅子の墓内部の壁画　墓室を装飾する壁画は多く，いずれもフレスコ画法で描かれ，色彩の豊かさと個性的な表現で知られる

事にある小アジア渡来(紀元前10世紀ごろ)説であるが，土着説，北方からの南下説もまだ否定されてはいない。エトルリア人の勢力拡大はまず内陸と北方に向かい，やがて紀元前7世紀には南方のラチウム地方からカンパニア平原まで進出し，この地方のギリシア系諸都市を勢力下に置き，さらに紀元前6世紀にはローマをもその支配下に収めたらしい。しかし紀元前6世紀後半，ラチウムの諸市の独立回復とともにエトルリア人勢力も後退しはじめ，ローマからもエトルリア人の王が追放された。紀元前5世紀にはいると，BC474年クマエの海戦でギリシア諸市連合軍に敗れ，BC453年にはコルシカ・エルバ両島をも失った。エトルリア南部の主要都市ウェイイ(いまのウェイヨ)もローマと80年以上も戦ったすえ，BC396年には陥落させられた。同じころ，ポー川流域のエトルリア人植民市もガリア人の急襲の前に壊滅し，しだいに勢力を増大するローマによって征服された。

エトルリア人の国家は，ウォルトゥムナの神殿を中心とする12の都市による宗教同盟で，そのため政治的・軍事的結合はゆるかったため，没落も早かった。各都市は終身の選挙王制を敷いたが，実質的には貴族政で，1年任期の貴族の政務官が実権を握った。彼らの支配の経済的基礎は海上貿易によったらしく，ギリシア人・フェニキア人との通商が盛んに行なわれた。輸出品は



鉄・銅・鉄製品・青銅製品，輸入品はギリシアからはつぼ・芸術品，フェニキアからは金・銀・スズなどであった。彼らの用いた文字はまだほとんど解読されていないが，豊富な副葬品の発掘から貴族の日常生活や宗教をうかがい知ることができる。彼らの宗教は地下の神々，デーモンおよび死者の霊をまつるもので，ギリシアの神々も導入され，神殿建築も行なわれた。ローマのユピテル神殿も彼らの創建によるものであった。こうした宗教観念や宗教儀礼のローマへの影響は著しく，鳥占(とりうら)，犠牲獣の肝臓占いのほか，貴族の葬儀に奴僕(ぬぼく)の奉献した真剣闘技もローマに伝わり，ローマ人の主要な娯楽の一つとなった。このほかエトルリアがローマに与えた影響がいかに強いかは，ローマの最高の国家権力の行使を意味するインペリウム(命令権)の観念，インペリウムの象徴としてその保持者の下僚がかついだファスケス(数本の棒とおのとの束)，上級政務官の正規の礼装であるトガ-プラエテクスタ(紫紅色の縁どりのある上質白色の羊毛製の衣服)などがすべてエトルリア起源のものであることからわかる。ローマ支配下のエトルリアでは奴隷労働による大土地所有制が発展し，BC196年ローマではほとんど前例をみない大奴隷反乱が起こって，その鎮圧に正規軍1軍団が投入された。BC137年，ティベリウス-グラックスがこの地で大奴隷制農場の普及を見たことが，彼の土地制度改革運動の動機となったことは有名である。　〔弓削　達〕

エトルリアびじゅつ　【エトルリア美術】
紀元前8世紀から紀元前2世紀ごろにかけて，

イタリアのトスカナ地方を中心に南北を広く支配したエトルリア人の美術。エトルスク美術ともいう。その様式の根底にはオリエント・ギリシアの美術の影響もあったが，明らかに独自性を表わして，古代西洋の最もすぐれた美術を形づくった。①建築は，東方からもたらされた迫持(せりもち)構造(→アーチ)を用いている。この技法は，ローマ時代・中世を通じての建築技法となった。②彫刻では，大理石をほとんど用いず，粗石を用い，素焼彫刻に巧みであった。ベイオのアポロン神殿跡から出土の《アポロン像》などは，生気あふれる作品である。また，青銅彫刻にはローマの《牝狼(めすおおかみ)》《キマイラ》，その他奉献像など現代的感覚に訴えるものが多い。③絵画では墓室内の壁画が残っている。主題には宴会・舞踊・奏楽・狩猟などがとられ，明るい場面がとらえられている。しかし，その衰亡期の神話歴史画では残酷で暗い主題となっている。これらは，エジプトの壁画と匹敵するほど巧みである。④工芸では，青銅の鍋釜(なべかま)・燭台(しょくだい)・香炉・手鏡・化粧箱に人物・動物の小像を巧みに線彫りした優品が多い。なお，陶器には，器形の整った黒陶(ブッケロ)がある。〔三輪福松〕

えとろふ【択捉(島)】 千島列島中の最大の島で，面積3,220km²。1854年(安政1)の日露和親条約によって，日本とロシアとの国境が択捉島とウルップ島の間と決められたが，第2次世界大戦以後ソ連がここを占領しているため，日本政府はこれを日本固有の領土と主張しており，いわゆる〈北方領土〉の一部である。現在，ソ連はここをロシア共和国連邦サハリン州に入れ，イトルプとよんでいる。千島火山帯が通っていて火山が多く，最高峰はヒトカップ(単冠)岳(1,680m)である。海岸は屈曲に富み，良港湾が多い。南岸のほぼ中央にあるヒトカップ湾は，太平洋戦争の開戦直前に，日本の連合艦隊が真珠湾攻撃のために集結した所である。かつては北洋漁業の基地で，サケ・タラ・オヒョウ・タラバガニなどの漁獲が多かった。北岸中央部の沙那(しゃな)は，かつて島の中心地であったが，現在はクリリスクとよばれ，大規模なサケの養殖場がある。1798年(寛政10)に近藤重蔵がはじめて探検し，のち1802年(享和2)にロシアの標柱に変えて〈大日本恵土呂府(えとろふ)〉という木標を建て，翌年，高田屋嘉兵衛(かへえ)が航路を開拓した。〔浅井得一〕

エドワード［Edward］イングランド王。

1 懺悔王(ざんげおう)（1002ごろ～1066） 在位1042～1066年。当時のイングランドはデーン人の侵入を受けていたため，ノルマンジー公の宮廷で成長した。1042年，デーン出身のハルザクヌート王の死後，全国民に迎えられて帰国し即位した。ノルマンジー出身の貴族を重用したため，ノルマン人の勢力がしだいに支配的となった。ウェストミンスター寺院の建立(こんりゅう)に着手し，またアングロ-サクソン法典を編集。アングロ-サクソン王家最後の王である。



エナガ

2 1世(1239～1307) 在位1272～1307年。ヘンリー3世の長子。1258～1265年の内乱には父王を助け，1265年シモン-ド-モンフォールを破って活躍。1270年十字軍に参加。遠征中に父の跡を継ぎ王に選ばれ，1274年帰国した。司法・行政を改革して一連の制定法を発令し，封建社会の秩序維持に努めた。また産業を奨励し，1285年には商人法を発令した。ウェールズの反乱を制し，1284年これを併合。また，スコットランドの内紛に乗じて，1296年不徹底ながらも併合した。大陸におけるナバラ・カスチリアの王位継承問題，アラゴン王とローマ教皇・フランス王との調停にも活躍した。国政面では特に大貴族の横暴を排し，国王を中心として国政を円滑に運営するために，州の騎士と都市の市民の代表を規則的に議会に召集して，議会の発達を促した。

3 3世(1312～1377) 在位1327～1377年。エドワード2世の子。母后イサベラと廷臣モーチマーが政治の実権を握っていたが，1330年両者に対抗する諸侯の助けで王権を回復。即位当初はスコットランド戦争に終始した。また，当時毛織物業の盛んであったフランドル地方の商業権をめぐってフランスと対立し，1338年フランスの王位継承問題をきっかけに百年戦争が開始された。クレシーの戦い，ポアチエの戦いに勝利し，西南フランスとカレーの領有が認められた。治世の後半は，長年の大陸戦争の結果として封建制度がすたれ，封建末期の様相を呈した。政府の戦費調達と結びついて商人層が成長し，1376年の議会で弾劾されたような政商も現われた。在位中，数度にわたってペストが流行し，人口が激減した。

4 黒太子(1330～1376) エドワード3世の長子。フランスとの百年戦争には父王に従って出征し，クレシーの戦いやカレー占領で勇名をはせ，ポアチエの戦いではフランス王を捕虜にした。これらの勝利は彼の軍事的才能とともに，自由農民を主力とした歩兵軍の功績が大きかった。1367年スペインに遠征したが，このころから病気にかかり，1371年帰国した。〈黒太子〉という異名は，着用した黒色のよろいに由来するといわれる。

5 4世(1442～1483) 在位1461～1483年。ヨーク公リチャードの子。バラ戦争ではヨーク派の首領として活躍。1461年ランカスター派のヘンリー6世を破り，議会の承認を得て即位し，ヨーク朝を開いた。王妃エリザベスの近親者を重用したため，1470年貴族の反乱が起こり，オランダに亡命した。1471年帰国し，バーネットの戦いに勝って王権の強化に努めた。新興商人階級や下級貴族を味方として大諸侯の勢力に対抗し，また巨額の税や強制献金によって王室の財政を豊かにした。

6 6世(1537～1553) 在位1547～1553。ヘンリー8世の子。幼少で即位し16歳でなくなった。はじめは伯父(おじ)エドワード-シーモアが摂政となり，のちジョン-ダッドリーが権力を握った。まじめな新教徒でカトリックに反対し，宗教改革は一段と前進した。1549・1552年の2回にわたって礼拝統一令が制定され，クランマーの編纂(へんさん)した一般祈禱書(きとうしょ)がイングランドの教会で用いられることになった。〔松下京子〕

エドワード［Edward］イギリス国王。

1 7世(1841～1910) 在位1901～1910年。ビクトリア女王の長子。母の治世が長く，老齢で即位。内外政策の決定に直接的影響を及ぼすことはなかったが，皇太子時代にヨーロッパ各地に旅行し国際外交の場に名を知られていた。特に20世紀初頭の国際関係の上に大きな役割を演じた。1902年，日英同盟により〈光栄ある孤立〉政策を転換し，1904年のイギリス-フランス協商，1907年のイギリス-ロシア協商によって三国協商を成立させ，ドイツ・オーストリアと決定的に対立することになった。〔松下京子〕

2 8世 ⇨ウィンザー(公)

えな【恵那(市)】 岐阜県南東部の市。中心地区大井は江戸時代は中山道(なかせんどう)の宿場町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口35,000。木曽(きそ)川中流に沿う大井盆地に位置し，産業三大別人口比は20：35：45。木曽の森林地帯を控え，パルプや段ボールを主とする製紙工業が盛んである。中央本線と明知線の分岐点で，国道19号線・257号線が通ずる。付近には恵那峡や金龍(きんりゅう)温泉，日本最初のダム式発電所など観光地に富む。

えなが【柄長】 鳥類・シジュウガラ科。全長13～14cm，体重約8gの小さな鳥。白・黒・ぶどう色の混じった羽色で，身体のわりに尾が長い。柄の長いひしゃくのような感じに見えるのでこの和名がある。旧北区に広く分布し，わが国では平地から山地にかけての林でみられるが，植林地には少ない。枝先で小こん虫をとる。近縁種が5種あってヒマラヤ・中国・ジャワに分布している。非繁殖期は小群で生活し，早春樹幹や枝間にスギゴケ類とクモの糸で，袋状のみごとな巣をつくる。〔浦本昌紀〕

えなきょう【恵那峡】 岐阜県の南東部，

木曾(きそ)川中流にある峡谷で，河床が基盤のカコウ岩を深く刻み，両岸には天然記念物の傘(からかさ)岩をはじめ種々の形をした奇岩が並んでいる。1924年(大正13)恵那市大井町に日本最初のダム式発電所が建設されて約12km上流まで湖水化し，遊覧船で峡谷をながめられるようになった。春のサクラとツツジ，秋の紅葉の季節には観光客でにぎわう。恵那峡県立自然公園に指定されている。〔味沢成吉〕

えなさん【恵那山】 木曾(きそ)山脈のほぼ南端近くにそびえ，標高2,190mで，岐阜・長野の県境に位置する。頂上の稜線(りょうせん)が長く，舟を伏せたように雄大な山容をもつので，覆舟(ふなふせ)山ともいう。山頂に恵那神社がある。北側の鞍部(あんぶ)神坂峠(1,595m)は，奈良・平安時代には中山道(なかせんどう)の重要な峠であった。1975(昭和50)に，中央自動車道*の恵那山トンネルが開通，長さ8.5kmで，フランス・イタリア間のモンブラントンネル(11.5km)に次ぐ世界第2の長さの自動車道路トンネルである。

エナメル [enamel] ワニス*に顔料を分散してつくった塗料。普通には樹脂ワニスあるいは油ワニスを用いたものをいい，使用する原料や用途により品種も多い。長油性ワニスを用いた外部用エナメル，中・短油性ワニスを用いた内部用エナメルおよび焼き付けエナメルなどがある。ペイントに比べ，速乾性でつやのあるかたい塗膜が得られる。なお，エナメルということばは広義のワニスに顔料を分散した有色不透明塗料の総称にも用いられる。〔鈴木荘司〕

エナメルクロス [enamel cloth] 綿布などを基布として，その上に硬質で光沢ある塗布剤を塗装したもの。乾性油・繊維素系塗布剤・天然樹脂ラッカー・合成樹脂塗布剤などが用いられる。耐水・光沢などの性質に富み，くつ・かばん・バッグその他装飾的な用途に使われる。

エナメルしつ【エナメル質】 歯冠(歯の歯肉から出ている部分)の表面をおおっている硬組織。人体のうちで最もかたく，硬度は7度で，セキエイと同じである。➔歯

エナメルじょうひしゅ【エナメル上皮腫】 胎生期に歯のエナメル質*をつくる細胞であるエナメル上皮が，歯のできあがったあともあごの骨の中にとどまり，それがなんらかの刺激を受けて異常増殖してできた腫瘍(しゅよう)。20〜30歳に多くみられ，下あごの大臼歯(だいきゅうし)部に多数の嚢胞(のうほう)をつくる型が最も多い。治療は，摘出手術や腫瘍を含めた顎骨(がくこつ)の切除手術を行なう。まれに，悪性変化(癌(がん)化)をきたすことがある。〔成田令博〕

えなんじ【淮南子】 中国，前漢の初めの淮南王劉安*(りゅうあん)が学者や神仙術(しんせんじゅつ)士に書かせた編著。内容は当時のもろもろの思想・知識・技術の雑集であるが，基礎には道家の虚無一元の思想が横たわっている。政治思想としては，中央集権に反対する〈無為〉の黄老思想であった。➔道家



エニシダ

エニ [ENI] Ente Nazionale Idrocarburiの略称。炭化水素公社。イタリアの国営石油会社で，同国の石油事業のほとんどを独占している。1953年に，政府が同国の石油会社の大多数を統合し，政府所有の持ち株会社として発足させたもの。この中心になったのは，AGIP(アジップ)で，もともとは天然ガスや油田の開発をしていたが，ENIの発足によりその子会社として組み込まれた。ENIは現在，ガラス・肥料・機械・建設・電力・繊維などの事業にも手を伸ばし，イタリア国内だけでなく，リビア・チュニジア・モロッコ・ガーナ・アラブ連合などでも活動を始めている。本社ローマ。年間売上高16億1,700万ドル，従業員数63,000(1969)。〔氏家 尚〕

エニウェトク(環礁) [Eniwetok] 太平洋西部，マーシャル諸島に属する環礁。直径30kmの範囲内に約40の小島が取り囲んでいる。アメリカ合衆国の信託統治領で，原子力兵器の実験地になっている。第2次世界大戦前は日本の委任統治領であった。

えにしだ【金雀児】 双子葉植物・マメ科。ヨーロッパ原産の常緑低木で，高さ1.2〜2m。わが国へは1675年(延宝3)ごろ中国から渡来。葉数は少ないが，枝が緑色で光合成を行なう。葉は3小葉からなる複葉であるが，枝の上部につく葉は単葉のことがある。小葉は倒卵形で細毛がある。5〜6月，葉腋(ようえき)に1〜2個ずつ黄色の花がつく。7〜8月，縁に毛のある果実を結ぶ。側弁が赤色のホオベニエニシダは，この園芸品種である。エニシダにはスパルテインなどのアルカロイドが含まれ，子宮収縮薬として用いられる硫酸スパルテインの製造原料となる。〔加藤僖重〕

エニセイ(川) [Enisei] シベリア中部を北流して北極海に注ぐ世界有数の長流。全長5,200km，流域面積260万km^2。モンゴル北部に発し，サヤン山脈を横断してミヌシンスク・クラスノヤルスク・イガルカなどの都市を経てウスチポルト付近で海に注ぐ。河口からミヌシンスクまでの3,700kmは航行可能で，中央シベリアの重要な輸送路となり，沿岸で産する金・鉄・石炭・木材などを運ぶが，下流部で10月から翌年6月まで，中流部で11月から翌年4月まで凍結する。上流部は有数の電源地帯で，支流アンガラ川流域の開発が進んでいる。マス・サケ・チョウザメの漁獲も多い。〔野間三郎〕

えにっき【絵日記】 主として低学年児童の生活指導および国語教育の一環として用いられる教育方法の一。1日の生活経験のうち，印象的で重要なできごとを絵に描いたもの。絵のみで，絵と単語または文章で，あるいは文章表現の補助手段として絵を用いて表わす，などが考えられる。日常生活を具象的にとらえて絵に描くということから，ことばを用いる代わりに絵で，さらに進んで，絵と文章で生活内容を如実に伝えるということから，作文指導の一要素として用いられる。またこれらは，子どもの興味が出発点であり，その表現が生活の具象であるということから，生活指導にも適切な手がかりを与えている。〔山崎昌甫〕

えにわ【恵庭(市)】 北海道，石狩支庁の市。1970年(昭和45)11月，市制施行。人口43,000。市域は島松・漁(いざり)両川流域の沖積地(ちゅうせきち)から支笏湖(しこつこ)周辺の火山灰台地まで東西に細長く延び，北西から北へかけて札幌(さっぽろ)市，南は千歳(ちとせ)市と接する。産業三大別人口比は12：24：64。沖積地には水田地帯が開け，台地では畑作・酪農が行なわれるが，最近は国道36号線沿いに食料品工場などが進出している。千歳線，札幌と千歳空港を結ぶ有料道路が通ずる。北海道における稲作の先覚者中山久蔵，札幌農学校のクラーク*らの記念碑がある。スズランの群生で知られる陸上自衛隊の恵庭演習場は，恵庭事件*でその名が知られた。

えにわじけん【恵庭事件】 1962年(昭和37)12月，北海道恵庭市の陸上自衛隊島松演習場で，生活を守るために酪農の野崎兄弟が，自衛隊の電話線を切った行為が防衛用器物損壊罪にあたるとして起訴された事件。被告側は，自衛隊の憲法9条違反，自衛隊の国民生活破壊を立証し，自衛隊合憲を主張する検察側との間に憲法論争が行なわれた。また，三矢計画(アメリカ軍の対中国作戦に呼応する自衛隊の行動計画)についての証言もあり，自衛隊の合憲性について初の判決が出るものと予想されたが，1967年3月，札幌(さっぽろ)地方裁判所は，憲法判断を回避し，電話線切断行為は防衛用器物損壊罪(自衛隊法121条)にあたらないから無罪と判決した。〔吉田善明〕

えにわだけ【恵庭岳】 北海道南西部，支笏湖(しこつこ)の北西側にそびえる火山。標高1,320m。東側はすそ野を長く引く広い原野で石狩平野に続き，一部は自衛隊の演習地となっている。支笏湖の対岸に近い樽前(たるまえ)山*と相対し，ともに支笏洞爺(とうや)国立公園*に含まれる。

エヌエイチケー [NHK] 日本放送協会，そのローマ字名の略称。1950年(昭和25)に発足したわが国の公共放送の事業体。〈放送をあまねく全国に普及すること，放送を通じて人々の要望にこたえること，およびその福祉の増進と文化水準の向上に寄与するこ

と〉を使命としている。

1925年(大正14)NHKの前身である社団法人東京放送局として発足し，その後名古屋・大阪両放送局が開局，1926年には以上3局が合併して，社団法人日本放送協会が設立された。放送が公益民間法人の手で行なわれた世界最初の例である。第2次世界大戦後，整備された放送法のもとに放送を行なうべきであるとの気運が高まり，特殊法人日本放送協会として再出発，イギリスのBBC*放送に範をもつ経営委員会によって運営されるに至った。日本最大の放送組織であるばかりでなく，世界でも有数な巨大放送機構である。BBCと並んで国際放送*にも定評がある。

1968年9月現在，テレビ受信契約世帯数2,078万。放送網は，総合テレビ709局・教育テレビ706局・ラジオ第1放送170局・第2放送138局・FM実用化試験・実験局170局をもつ。〔須藤泰秀〕

エヌエイチケーこうきょうがくだん【NHK交響楽団】日本の最も代表的なオーケストラ。日本のオーケストラの歴史をそのまま語るといえる。略称をN響という。1926年(大正15)に近衛秀麿(このえひでまろ)を指揮者として創立されたが，当時は新交響楽団(略称，新響)といい，その後1942年(昭和17)に財団法人となって日本交響楽団(略称，日響)と称した。1951年にNHKの専属交響楽団となり，現在の名称となった。歴代の指揮者にローゼンストック・シュヒター・ロイブナーらがいる。現在は常任指揮者を置かず，岩城宏之(いわきひろゆき)が正指揮者という地位についている。1960年以後海外への演奏旅行も多い。〔向坂正久〕

エヌエイチケーそうごうぎじゅつけんきゅうじょ【NHK総合技術研究所】1930年(昭和5)6月，わが国のラジオ放送開始後，5年にして設立されたNHK技術研究所は，送信・音響・電波伝搬など放送技術の基礎的研究をおもな業務としていた。その後放送事業の発展に応じ，年とともにその研究範囲も広められ，1965年1月それぞれの分野での系統的な研究開発を促進するため，総合技術研究所と放送科学基礎研究所とに専門分化した。総合技術研究所は，電気通信・電気工学など放送技術全般にわたって基礎的研究から応用研究まで行なわれ，研究成果は放送現場でたえず実用化されており，カラーテレビの技術開発にはめざましいものがある。後者は，人間の視聴感覚についての生理学的・心理学的研究を主としている。〔前納弘武〕

エヌエイチケーそうごうほうそうぶんかけんきゅうじょ【NHK総合放送文化研究所】日本放送協会(NHK)が企業内の専門研究機関として放送文化の研究のため設けた研究所。1946年(昭和21)6月，放送文化研究所が設置され，各種聴視率調査や番組意向調査，国民生活時間調査の実施，放送用語の調査改善とその成果の出版など幅広い活動を続けてきたが，1965年1月，世論研究部を分離独立させて放送世論調査所とし，放送文化研究所を改組して総合放送文化研究所とした。1968年7月，東京愛宕(あたご)山に総合新館が完成。この間に番組研究の分野では，〈地域特性〉に関する研究や，放送理論の分野では〈放送学〉の理論的体系化など基本的な問題に取り組み，意欲的な研究活動を進めている。〔林　茂樹〕

エヌエーディー［NAD］ニコチンアミド-アデニン-ジヌクレオチド(nicotinamide adenine dinucleotide)の略称。助酵素I，補酵素I，DPNともいう。生物の体内に吸収された種々の物質は，細胞の中でいろいろな酵素の作用により分解されたり酸化されたりしてエネルギー源となるが，いくつかの酵素の働きを助ける補助因子としての物質(助酵素または補酵素)が必要な場合がある。このような働きをする生体内物質の中で，最も広く生物一般に見いだされるのはNADである。たとえば，乳酸脱水素酵素やアルコール脱水素酵素はそれだけでは乳酸やアルコールを酸化することができないが，NADが十分に共存すれば，乳酸は直ちにピルビン酸に，アルコールはアセトアルデヒドに変化する。このとき，NADは還元されたNAD($NADH_2$と表わす)となり，水素受容体として働く。また，トリカルボン酸回路の脱水素酵素の働きによっても$NADH_2$となり，これは呼吸酵素系の働きによって酸化され，再びもとのNADとなるが，この際は水素供与体として働いている。つまり，NADを仲立ちとして水素の授受が行なわれることになり，エネルギーの運搬を行なっているともいえる。このように生物のエネルギー代謝を円滑に行なわしめることが，NADの生物細胞における特に重要な役割である。また，この還元・酸化の過程を経ることによって生物の活動に必要なATP*が生ずる。➔酵素〔大岡忠一〕

エヌエーディーピー［NADP］ニコチンアミド-アデニン-ジヌクレオチド-リン酸(nicotinamide adenine dinucleotide phosphate)の略称。助酵素II，TPNともいう。NAD*と類似した化学構造をもつ生体内物質で，NADと同様に水素の授受に関与し，助酵素の一つである。NADとは異なった，いくつかの酵素の補助因子となる。たとえば，NADPはグルコース-6-リン酸脱水素酵素の反応促進には有効であるが，アルコール脱水素酵素の反応は促進しない。このほか特異的にNADPを必要とする酵素がいくつもあることが知られている。生物体内には通常NADに比し，ごくわずかな量しか含まれていないが，いろいろな生合成反応において，還元を必要とする場合に重要な役割を果たしている。動物赤血球中でメトヘモグロビンからヘモグロビンへの転換反応において，また，植物の緑葉における光合成反応においてNADPの存在は必須(ひっす)である。➔酵素〔大岡忠一〕

エヌエルエフ［NRF］フランスの文芸雑誌《La Nouvelle Revue Française》の略称。《新フランス評論》。1909年10月コポー*やジイド*などによって創刊され，第1次・第2次世界大戦期に一時休刊したが，その後再刊し現在に至っている。その間，20世紀フランス文学に多大の貢献をなし，ジイドのほかバレリー*・クローデル*・マルロー*・サルトル*など多数のすぐれた作家が，ここから育っていった。政治的色彩を排除する方針を貫き，文学の領域に厳然ととどまっている。〔池田公麿〕

エヌオーシー［NOC］⇨国内オリンピック委員会

エヌがたはんどうたい【N形半導体】⇨半導体

エヌシーアール［NCR］The National Cash Register Co.の略称。世界最大の金銭登録機会社。創業1882年。金銭登録機のほかにも計算機や電子データ処理装置や事務用品をつくる。経済成長に伴う紙上作業の増大につれて事務器産業は急速に伸び，NCRの事業規模も急速に拡大しつつある。アメリカ国内での販売は過去10年間，年平均10%の伸び率である。現在，インプットの機械を直接に計算機につなげる小売りシステムの開発に力を入れている。海外に主力工場を12もち，海外の売り上げも伸びており，現在工場の拡張や新工場の建設を急ピッチで進めている。子会社の一つに日本ナショナル金銭登録機がある。本社オハイオ州デイトン。年間売上高12億5,000万ドル，従業員数10万2,000(1969)。〔氏家　尚〕

エヌディーシー［NDC］⇨日本十進分類法

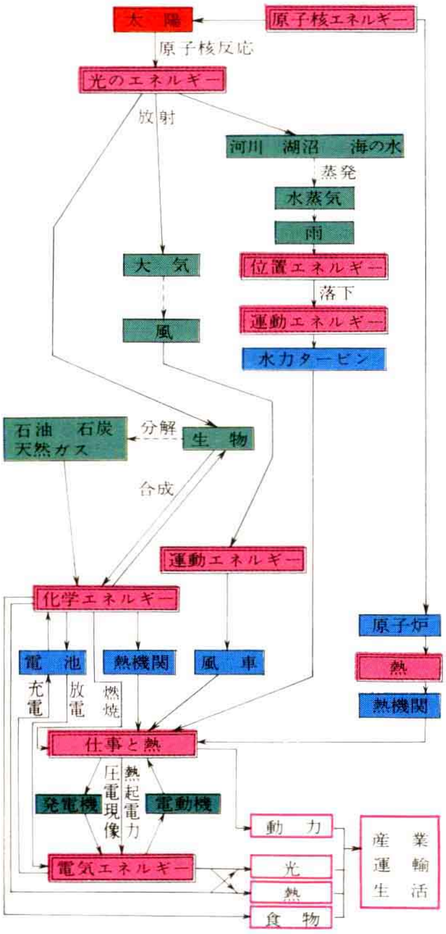
エヌビーアール［NBR］⇨ニトリルゴム

エヌビーシー［NBC］ナショナル放送会社。National Broadcasting Co.の略称。アメリカ合衆国最大で最も歴史の古い放送ネットワーク。テレビ三大ネットワークの一つであり，ラジオ四大ネットワークの一。電気通信機器メーカーRCA*の子会社。1926年創設。全アメリカのテレビ局650のうち，約200局をその傘下(さんか)に置き，直営局としてラジオ局6とテレビ局5を所有・運営し，さらにNBCフィルム会社を所有している。一時，CBS*に押されがちであったが，RCAがカラー・白黒兼用テレビを開発，1953年にこの方式が正式に承認されてから，非兼用のCBS方式を退けて優位に立っている。

エネスコ［Georges Enesco］(1881～1955) ルーマニアのバイオリン奏者・作曲家。7歳でウィーン音楽院にはいり，13歳でパリ音楽院に転じて作曲も学んだ。1897年に自作の発表会を開いて作曲家としても注目されたが，バイオリン奏者として各地

を旅行し，特にバッハの演奏で高い評価を受けた。またメニューイン*などの俊才も育てた。指揮者としても有名で，ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団やクリーブランド管弦楽団などの客演指揮者をつとめた。作曲では，《ルーマニア狂詩曲》など，民族色のあるもので成功している。〔向坂正久〕

エネルギー ［energy］ 電力・石油・原子力などは産業・交通のエネルギー源として人類社会に欠くことのできない重要なものである。また，食物は，ひとりひとりの人間の毎日の活動のエネルギーを補給する。このようにエネルギーということばは，日常の会話の中にも使われるなじみ深いものであるが，厳密には〈仕事*をなしうる能力〉として定義される。運動している物体を静止させるには力を加えて仕事をしなくてはならない。逆に運動している物体は静止するまでに他の物体に対して仕事をすることができるわけである。つまり，運動している物体はエネルギーをもっている。これを運動エネルギー*という。重力の作用を受けている物体は，高い位置から低い位置へ落下する際に仕事をすることができる。つまり高い所にあることによってエネルギーをもつ。これを位置エネルギー*という。運動エネルギーと位置エネルギーは，力学で説明・理解のできる種類のエネルギーなので，しばしばこれらを総称して力学的エネルギーという。熱*もエネルギーの一つの形態である。熱の本質は，物質を構成する原子や分子の一つ一つの運動の力学的エネルギーである。物体を熱して温度を上げると，この運動は激しくなる。力学的エネルギーは摩擦などによって直接に熱に変わる。熱は内燃機関・タービンなどの熱機関によって力学的エネルギーに変換されて仕事をする。電磁場*は，電気エネルギー・磁気エネルギーを伴う。電流は，モーターを回転させて力学的エネルギーに変わり，またジュール熱*として熱に変わる。逆に力学的エネルギーによって発電機を回転させると電流が発生する。また電場*や磁場*によって荷電粒子を加速して大きな運動エネルギーを与えることができる。光・赤外線・電波などの電磁波*はエネルギーの流れである。太陽の放射によってもたらされるエネルギーは地球上の生命現象を可能にした不可欠の要素である。分子はいくつかの原子が結合したものであることはよく知られているが，この結合には一種の位置エネルギーが伴っている。これを化学エネルギーという。化学反応に伴って熱の吸収・放出が起こるのは，一つ一つの分子の化学結合が切れたり，新しくできたりする際のエネルギーの吸収・放出の総和を観測するのである。燃料を燃やして熱を発生させるのも，食物をとって人間がエネルギーを補給するのも，物質の化学エネルギーを取り出して別の形態のエネルギーとして利用することにほかならない。



エネルギー　エネルギーの移り変わり

また化学エネルギーを直接に電気エネルギーに変えて電流を取り出す装置が電池である。質量とエネルギーが同等であって（エネルギー）＝（質量）×（光速度）²という関係があることはアインシュタインによって理論的に示されたが，原子核反応*の際には実際に質量の一部がエネルギーに転換され，ばくだいなエネルギーが放出される。これが原子核エネルギーである。太陽の巨大なエネルギーの源は，太陽内での原子の融合反応によるものであることが知られている。このようにエネルギーはさまざまな形態をとって現われ，一つの形態から他の形態に移り変わることができるけれど，その間にまったく消滅してしまうことも，まったく新たに発生することもない。これを〈エネルギー保存の法則*〉という。自然界を支配するきわめて基本的な法則の一つである。またエネルギーは自然の傾向に任せておけばひとりでに1か所に集中することはなく，全体に一様に分布しようとする。温度の高い物体から温度の低い物体へ熱が伝わるが，逆はけっしてひとりでには起こらないのはその一例である。このような自然の性質は〈熱力学の第2法則〉としていい表わされている（→熱力学）。エネルギーの量を表わす単位としては仕事の単位のジュール・エルグ，または熱の単位のカロリーが用いられる。

〔有山正孝〕

エネルギーこうたい 【エネルギー交代】 生物体を構成しているいろいろの化合物はたえず生成・分解をくり返している。このような化学反応に際してはエネルギーの出入りが必ず伴う。物質の変化を特にエネルギーの面からみたときエネルギー交代という。このエネルギーも生物に特殊なものがあるわけではなく，普通の化学反応に際してのものとまったく同じである。生物は食物をとって，ここからエネルギーをある形にして保存し，このたくわえられたものを使って生命を維持していくわけである。

〔井坂三郎〕

エネルギーさんぎょう 【エネルギー産業】 エネルギー源には石炭・石油などの1次エネルギーと，1次エネルギーを加工転換した電力・都市ガスなどの2次エネルギーとがある。一般に，これらのエネルギー源を生産・配給する部門をエネルギー産業という。エネルギーは，産業活動においても家庭生活においても不可欠のものであり，経済が発展するにつれてエネルギー消費量は増大していく。と同時にエネルギーの需給構造自体，新エネルギー源の開発による供給条件の変化，技術革新に基づくエネルギー選好の変化，エネルギー供給技術の発達による価格の変化などによって大きく変化していく。

わが国のエネルギー消費量も1955年（昭和30）から1965年までの期間に年率11％のテンポで増大しているし，わが国のエネルギー需給構造もまた，固体エネルギーから流体エネルギーへの転換という世界的なエネルギー革命の進展と歩調を合わせて，石炭中心から石油中心へと大きく転換を遂げてき

一次エネルギーの供給構成比（％）　資源エネルギー庁《総合エネルギー統計》

年度	1955	1960	1965	1970	1975	1976	1977	1978
水力	21.2	15.3	11.3	6.3	5.8	5.6	4.8	4.8
原子力	—	—	0.0	0.4	1.7	2.2	2.0	3.6
石炭	49.2	41.5	27.3	20.7	16.4	15.4	14.9	13.7
亜炭	1.0	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
石油	20.2	37.7	58.4	70.8	73.3	73.9	74.5	73.0
国産	0.6	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
輸入	19.6	37.1	58.0	70.5	73.1	73.7	74.3	72.9
天然ガス	0.4	1.0	1.2	1.3	2.5	2.8	3.7	4.8
薪炭	8.0	3.9	1.7	0.5	0.3	0.1	0.1	0.1

た。わが国では特に石炭産業は政府の保護助成策のもとに非能率炭鉱の整理と優良炭鉱への生産集中により，若干の炭価引き下げが行なわれてきたものの，なお他のエネルギー源よりも割高であることが致命的な欠陥であった。同様に電力についても有利な水力開発点が減少するとともに，割安な重油火力発電所の建設が進み，水力発電から火力発電へとその主体が変わっていった。すなわち，わが国の主要エネルギーの供給構成比をみると，1960年において総エネルギー供給の41.5％を占めて首位にあった石炭が年とともに比重を低下し，1961年を境に首位に立った石油・液化石油ガス*(LPG)の比重が急増し，1967年現在，64.6％と圧倒的な地位を占めるに至っている。

こうしたエネルギー源の転換に伴って，1962年度に輸入エネルギーが国産エネルギーをしのいで以来，輸入エネルギー比率は増大の一途をたどり，1967年度には輸入エネルギー比率が74.5％に達している。今後は原子力発電が割安になるものと予想されるから，それに要する核燃料輸入が増大していくであろうし，国産エネルギー産業の前途はけっして明るいものではない。したがって，わが国エネルギー産業の問題は，国産エネルギー生産を不測の事態に備えてどの程度維持し，しかも企業採算にのせるかということと，安価な輸入エネルギー源の安定供給をいかにして確保するかということであろう。➔電力事業 ➔原子力 ➔石油産業 ➔石炭産業　〔原　豊〕

エネルギーしげん　【エネルギー資源】 人類には他の生物と異なる特徴がいくつかある中で，最も重要な一つは，自分の体力以外のエネルギーを自由に使いこなす能力をもっていることである。人類が利用するエネルギー資源の質と量の向上に伴って，人類はしだいにそのなしとげる仕事の規模を拡大してきた。将来への展望も，エネルギー資源の供給の見通しによって規制を受けるであろう。その意味であらゆる資源問題の中で最も基本的な意義をエネルギー資源はもっている。歴史的にみれば大きくは燃料時代と原子力時代に分けられ，燃料時代はさらにたきぎ時代と化石燃料時代に，化石燃料時代は石炭時代と石油・天然ガス時代に分けられる。

たきぎ時代は人類が火を扱うことを知って以来，産業革命まで続いた。この時代はエネルギーの需要の絶対量が小さかったので，資源問題はほとんど起こらなかった。産業革命とともに急速に石炭がたきぎに置き換わり，エネルギー需要の絶対量も急上昇を続けたが，20世紀の初期までは，新しく開発される炭坑の生産で十分まかなうことができた。一方，19世紀の中ごろに油井によって石油を採油する技術が開発されてからは，燃料としての性能がすぐれていることと，能率的に大量輸送ができることとにより，しだいに石炭に打ち勝って需要増分をまかなうようになり，ついに1950年代以降は先進工業国があいついでエネルギー需要の過半を石油と天然ガスでまかなうようになった。

石炭・石油・天然ガスは，いずれも地質時代の生物の遺骸(いがい)が分解・変質してできたものであるから，化石燃料とよばれる。化石燃料は埋蔵量に限界のあるものであるから，現在のように需要の急増が続くと，長期にわたる供給の確保はむずかしい。そこで登場したのが原子力発電*であって，現在はまだ小さな割合しか占めていないが，今後は急速に発展し，需要増分は主として原子力でまかなわれるようになる日が近いであろう。　〔片山信夫〕

エネルギーじゅんい　【エネルギー準位】 原子・分子などでは，一般にかってなエネルギーの値をとることができず，その可能な値は限られている。この値，または状態をエネルギー準位という。図式的には，ある点からの高さがこの値に比例しているような点に水平の線を引いて表わす。固体では，準位が互いに接近してほとんど連続とみなせるような範囲が多数存在する。これをエネルギー帯という。

エネルギーそんしつ　【エネルギー損失】 電気回路には次に述べる各種のエネルギー損失がある。交流電気回路において電流IA(実効値*)が抵抗$R\Omega$を流れると，I^2RW(＝ジュール*/秒)の熱損失(オーム損ともいう)がある。たとえば，電気の良導体である銅やアルミニウムは電線や巻き線として使われるが，これに電流を流すと，熱損失を生ずる。これを銅損という。また，モーターやトランスの内部で磁界の強さが変化すると，磁束の通路を形成しているケイ素鋼板の中にうず電流が流れ，鉄損とよばれる熱損失を発生する。また，磁性体*を循環的に磁化する際には，磁化力を変えるために磁性体じゅうに熱損失を伴う。これをヒステリシス損という。コンデンサーを形づくる誘導体には，$\tan\delta$(タンデルタ)といわれる誘電体損失がある。超高圧送電などにみられるように，電位傾度の非常に大きな空間の絶縁が破れると局部放電(コロナ放電)が起こるが，これにはコロナ損とよばれる電力損失を伴う。　〔田村康男〕

エネルギーたいしゃりつ　【エネルギー代謝率】 いつでも作業が開始できるように準備して，いすに腰かけて待機している状態の代謝を保持代謝という。この保持代謝の状態を出発点にして作業を開始すると，作業による筋肉の動かし方の多少に比例して代謝量が増加する。この場合，作業の激しさを表わす指数をエネルギー代謝率RMR(relative metabolic rate)という。エネルギー代謝率は，次のような式で示される指数で，個人差が少ないのが特徴であり，労働の強度を評価するのに便利である。

$$\text{エネルギー代謝率} = \frac{\text{作業代謝量}-\text{保持代謝量}}{\text{基礎代謝量}}$$

ただし，作業代謝量は，その作業をすることによって消費した全カロリーを示し，基礎代謝量・保持代謝量は作業時間内の量を示す。　〔平野修助〕

エネルギーほぞんのほうそく　【エネルギー保存の法則】 摩擦や抵抗のない運動では，物体の運動エネルギー*と位置エネルギー*の和は一定に保たれる。これを〈力学的エネルギー保存の法則〉または単に〈エネルギー保存の法則〉という。たとえば重力の働きを受けて運動する落体や放物体，太陽の万有引力を受けて運動する惑星などではこの関係がなりたっている。しかし，摩擦や抵抗のある運動では，一般に熱が発生して力学的エネルギーは減少する。19世紀の半ばに熱力学の研究が進み，マイヤー*・ジュール*・ヘルムホルツ*らによって，熱もエネルギーの一種と考えられること，また力学的エネルギーが熱に変わる場合や，その逆に熱が力学的エネルギーに変わる場合にもエネルギー保存の法則がなりたつことが確かめられた。この関係は〈熱力学の第1法則*〉とよばれ，熱力学の重要な基本法則となっている。さらに，電磁気的現象まで含めて，エネルギーは一つの形態から他の形態へと移り変わることができるが，その間にけっして消滅も発生もしないという一般的な法則が確立されるに至った。これが広い意味でのエネルギー保存の法則とよばれるもので，物理学の法則の中でも最も基本的なものの一つである。さらに，20世紀にはいって相対性理論と原子核人工変換の実験に基づいて，質量もまたエネルギーの一種であることが明らかとなり，質量保存の法則とエネルギー保存の法則が〈質量・エネルギー保存の法則〉として統一された。➔熱力学　〔有山正孝〕

エネルギーろん　【エネルギー論】 エネルギー一元論・エネルゲティクともいう。物理現象・化学現象はすべてエネルギーの法則に基づいて説明できるという考え方で，19世紀の終わりに原子論的な考え方に対立して現われた。1887年ドイツのヘルムホルツが，精密科学においては原子・分子などの仮説を導入するのは誤りで，温度・圧力・エネルギーなど，直接に観測できる量のみを用いて記述すべきであるという説を唱えた。当時の高名な物理化学者オストワルトがこれを支持して原子論的な考え方を非難し，エネルギー一元論を主張したため，この考え方は急速に広まった。しかし20世紀にはいってから，アメリカのアインシュタイン*，ポーランドの物理学者スモルコフスキー，フランスのペラン*の3人によるブラウン運動に関する研究の結果，分子の実在することが実験的に示されたためエネルギー一元論の主張がくずれ，影を潜めた。

えのう【慧能】(638～713) 中国,唐代の僧。禅宗第6祖。おくり名は大鑑禅師,一般には六祖大師・曹溪(そうけい)大師という。新州(広東(カントン)省)に生まれ,貧困の中でまきを売り歩いた際,《金剛経》を唱えるのを聞いて出家を決意し,24歳で蘄(き)州黄梅山の5祖弘忍(こうにん)に参じ,法を授けられた。のち韶(しょう)州曹溪の宝林寺・大梵(だいぼん)寺に住し,南宗禅の祖として禅宗発展の基を築いた。《六祖壇経》は,大梵寺での説法を中心として編纂(へんさん)されたものといわれている。〔田中良昭〕

えのき【榎・朴】 双子葉植物・ニレ科。山野にはえる落葉高木で,高さ15～20m。樹皮は灰色,若枝は黒かっ色で細毛がある。葉は互生し,広卵形で鋭頭,鋸歯(きょし)がある。表面はざらつき,3本の脈が目だつ。雌雄同株。4～5月に雄花は枝の下部に,雌花は葉腋(ようえき)につく。果実は直径5～7mmの液果で,赤熟し食べられる。材は薪炭などに用いられる。

えのきぐさ【榎草】 双子葉植物・トウダイグサ科。畑や道ばたに普通にみられる一年草。高さ30～50cm。葉は卵円形で縁に鋸歯(きょし)があり,エノキの葉に似る。夏に葉のつけ根にかっ色の粒のような花を多数つける。花は茎の上方についたものは雄花,下方のものは雌花である。葉のつけ根にある包葉が2枚合わさったようすがかさに似ているのでアミガサソウともいう。



エノキグサ

えのきたけ【榎茸】 担子菌類・シメジ科。晩秋から春にかけて広葉樹の枯れ枝や切り株上に群生する高さ2～9cmの食用きのこ。かさはまんじゅう形で直径約3cm,黄かっ色ないし濃かっ色で周辺は淡色。表面は湿っているときには粘性がある。このためナメコ*と混同されるが,茎が細く下部に黄かっ色の短毛があり,肉・胞子ともに白色である点が異なる。各地でおがくずびん培養が行なわれ,びんの中に菌糸が十分に繁殖したものを暗室に置き,きのこを白軟化する方法で栽培が行なわれている。栽培されたもののかさは小形で,粘液も少ない。〔中村克哉・曽根田正己〕



エノキタケ

えのぐ【絵の具】 おもに絵画の制作に用いられる着色材をいい,顔料*を主体としてこれに各種の展色剤(絵の具をとく用剤)が加えられている。

絵の具の歴史は古い。原始時代にさかのぼるとアルタミラやラスコーの洞窟(どうくつ),古代エジプト王朝の墳墓などの彩色がある。これらの彩料は,主として土,焼いた獣骨,樹液などから製されてはいるが,人間の本能的行為ともいうべき〈いろどる〉という欲求の現われとして興味深い。その後,多くの人々の研究と開発によって,彩料としての絵の具の質は高められてきたが,今日において使用されている絵の具の歴史は,19世紀における無機化学の発展期に始まるといってよい。このことは,具体的には,天然顔料にたよらずに,人工的な化学精製による各種の顔料を用いうるようになったことを示している。そして,さらには,展色剤の発達とともに,20世紀の工業的大量生産の開始により,絵の具は質量ともに飛躍的な発展を遂げるに至った。

絵の具の種類は,形態・展色剤,用いられる絵画形式,使用方法などによって種々に分類される。①粉末状の絵の具には泥(どろ)絵の具・岩絵の具があり,②半固形状の絵の具には水彩・ポスターカラー・ガッシュ・テンペラ・油・合成樹脂の絵の具などがある。このうち,水彩・ポスターカラー・ガッシュ・テンペラ絵の具を水絵の具ともいう。また,③固形絵の具にはパステル・クレヨン・コンテ,型に流し込んで固めた色鉛筆,水絵の具などがある。なお,水彩絵の具は,顔料にアラビアゴム・カゼイン・にかわなどを加え,水と練り合わせてのり状にして製され,油絵の具は,顔料を乾性植物油で練り合わせてのり状にして製されている。乾性油には,おもにケシ油(ポピー-オイル)やあまに油(リンシード-オイル)が用いられている。〔武井邦彦〕

えのこしゅう【犬子集】 俳諧(はいかい)選集。1633年(寛永10)刊。松江重頼(しげより)選。貞門俳諧*の成立を背景に,《犬筑波集*(いぬつくばしゅう)》以降の作品の集成を企画して編んだもので,俳諧選集刊行の最初の試みである。発句*・付句*2,600余句を四季・恋・神祇(じんぎ)・釈教・雑など17巻に編集。作者は伊勢(いせ)山田の100人をはじめ,京・堺(さかい)・江戸・因幡(いなば)(鳥取県)・大阪に及び,俳諧興隆期の気運をうかがわせる資料である。

えのころぐさ【狗尾草】 単子葉植物・イネ科の一年草。畑や道ばたに普通にみられる雑草。ネコジャラシともいう。茎は30～60cm。葉は短い線形または長い披針(ひしん)形で少しざらつく。夏,茎の頂に円柱状で淡緑色ないし少し紫色をおびた長さ4～10cmほどの花穂をつける。和名は穂の形を小イヌの尾にたとえたもの。アワの原種とされ,たやすく交配できる。



エノコログサ

えのしま【江の島】 神奈川県藤沢市に属し,片瀬川の河口近くにある陸繋(りくけい)島で,対岸の藤沢市片瀬とは砂州上に設けられた480mの弁天橋で結ばれている。面積わずか0.18km²,周囲2.2kmの小島で,約1,400の人口の3分の2は観光に関係のある仕事に従事している。最高点は60.4mで,全体が台地状をなし,第三紀の凝灰岩と凝灰岩質砂岩からなり,その上をローム層が



江の島 周囲を海食崖に囲まれ,南西端には〈御岩屋〉とよばれる海食洞がある。片瀬川河口から砂嘴が延び,陸繋島となっている

おおっている。島名のいわれは，形が〈江〉という字に似ているためというが，最近は東部が埋め立てられて，ヨットハーバーの湘南(しょうなん)港ができたため，もとの形は失われてしまった。もとは半島であったが，断層によって離小島となり，1923年(大正12)の関東大震災のときに隆起して，片瀬と砂州でつながるようになった。またこのときの隆起によって，島のまわりは隆起海食台に囲まれるようになり，特に南岸では海食台の幅が50ｍもある。南岸の中央には〈御岩屋〉とよばれる奥深い海食洞(かいしょくどう)がある。島全体が弁才天を祭る江の島神社の境内のようになっていて，鎌倉時代から行楽を兼ねた参拝者が多く，今日もこの伝統は続いている。江の島神社は，鎌倉時代初期から神仏混合の金亀山(きんきさん)興願寺となっていたが，明治維新の神仏分離で神社となったもの。７月14日の例祭には，毎年人出でにぎわう。〔浅井得一〕

えのしま【江の島】 謡曲・河東節・箏曲(そうきょく)の曲名。謡曲・河東節では，島の由来，弁才天の縁起が題材となっている。山田流箏曲では《江の島の曲》と正称され，風景描写，弁才天賛美，雅楽を模倣した箏の手法〈楽〉，そして歌の聞かせどころの多い名曲である。生田流でも演奏することがある。

えのたけ【可愛岳】 宮崎県北東部，延岡市の北部にそびえ，標高728ｍ。セキエイハン岩からなり，これが侵食を受けて奇岩・奇峰をつくっている。1877年(明治10)の西南の役*の戦場となったことで知られている。

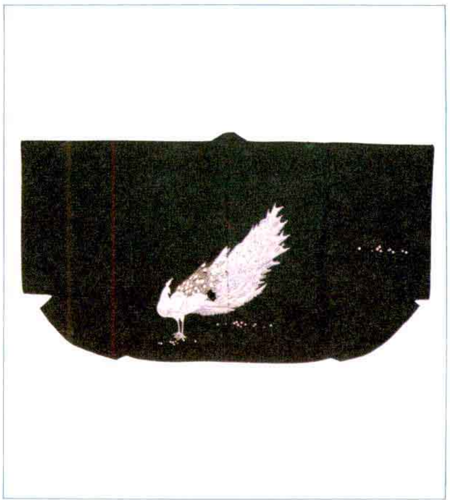
えのもときかく【榎本其角】 ⇨ 其角

えのもとけんいち【榎本健一】(1904～1970) 映画・演劇の俳優。愛称エノケン。東京生まれ。1919年(大正８)浅草オペレッタの舞台で喜劇俳優として認められ，劇団〈カジノフォーリー〉を経て，1930年(昭和５)に〈エノケン劇団〉を結成。1951年の解散まで多くの映画や舞台に出演し，その小さな身体に大きな目玉，独特のどら声によって日本の代表的コメディアンとなる。その後，脱疽(だっそ)を病み両脚を切断したが，立ちなおり出演を続けていた。〔波多野哲朗〕

えのもとたけあき【榎本武揚】(1836～1908) 江戸末期の幕臣・政治家。通称釜次郎(かまじろう)。幕臣の子として江戸に生まれる。1856年(安政３)幕府の長崎伝習所に派遣され，さらにオランダのハーグに留学，兵制・法律・自然科学の諸学を修め，帰国後，海軍副総裁として，江戸海軍の重鎮となった。1868年(慶応４)４月東征軍が江戸城に入城すると旧幕艦を率いて北海道に脱走，函館(はこだて)の五稜郭*(ごりょうかく)に拠(よ)って抗戦したが，翌年降伏して投獄された。1872年許され，のち開拓使四等出仕から海軍中将となり，特命全権公使としてロシアに派遣され，樺太(からふと)・千島交換条約*を締結した。さらに海軍卿(かいぐんきょう)，清(しん)国駐在

榎本武揚





絵羽模様（羽織絵羽）

公使として天津(てんしん)条約の締結を助け，逓相・農商相・文相・外相などを歴任して，その間枢密顧問官となった。子爵。〔岸野淳子〕

えはつ【衣鉢】〈いはつ〉〈えはち〉とも読む。衣は衣服，鉢は食器のこと。仏教の戒律によれば，三衣一鉢*(さんねいっぱつ)が僧侶(そうりょ)に私有を許されたものである。三衣一鉢は衣鉢とも略称されるが，僧侶にとって最も重要な所有物とされ，出家して教団にはいるときは必ずこれを用意しなければならなかった。中国や日本では衣鉢といえば袈裟(けさ)と鉄鉢を意味するようになり，神聖なものとされた。〈衣鉢を伝える〉〈衣鉢を継ぐ〉とは師が弟子(でし)に法を伝えることを意味する。〔岡部和雄〕

エバミルク evaporated milkの略称。無糖練乳。牛乳を½～⅓に濃縮したものである。砂糖を加えてないので防腐力がないため，かんに詰めてから高熱殺菌する。良品は特有の淡いクリーム色を呈し，独特のこうばしい風味をもつ。均質化しているので脂肪球も微細で消化がよく，外国では育児用として広く用いられている。わが国では価格の関係で育児用にはあまり用いられず，紅茶・コーヒーなどに多く用いられている。開かん後はなるべく早く消費するほうがよい。〔佐藤友太郎〕

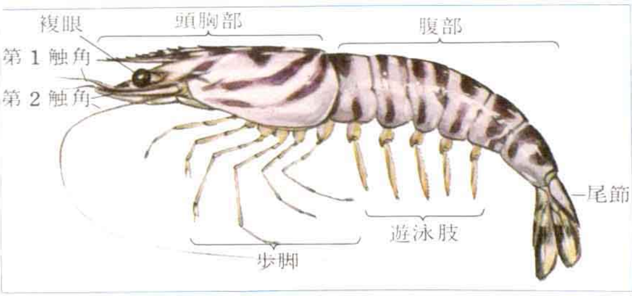
エパメイノンダス［Epameinondas］(BC418ごろ～BC362) 古代ギリシアのテーベの政治家・将軍。スパルタがアンタルキダス条約*を口実にテーベのボイオチア支配に干渉したのに反対した。独特の斜線陣戦法の密集歩兵作戦でスパルタ軍を破り，BC371年テーベの覇権(はけん)を確立した。のち，BC362年マンチネイアの戦いでアテナイ・スパルタ連合軍を破ったが，みずからも戦死し，テーベの覇権は失われた。

えばもよう【絵羽模様】 和服の模様の一種。女物長着の盛装・礼装に多く使う。衣服全体に一つの絵画のように配置した模様。したがって，縫い目で模様が続いている。染色で表わすことが多いが，金銀の摺箔(すりはく)・ししゅうも使われる。近世初期から発達し，特に友禅染めによって多彩・華麗な小袖(こそで)模様となった。模様の置き方に総模様とすそ模様とがある。総模様は全体に模様を置く。すそ模様はすそのほうだけに置き，腰模様・江戸褄(えどづま)模様*・島原模様・片褄模様*などがある。江戸後期は数度の奢侈(しゃし)禁令によって，模様を小さくすそに低く置くようになり，明治の末まで続いた。他方，見えないところにぜいたくをする風潮もあって，羽織裏・長じゅばんに絵羽模様が染められた。大正にはいってしだいに華麗になり，若い女性に夜会模様・胸模様・千代田模様など大きく発展し，特に変わりすそ模様である訪問着*の絵羽模様は，江戸の初期・中期にみるような自由な画材配置となって今日に流行している。現在は黒留めそでの江戸褄模様，振りそでの総模様が盛装に広く使われ，羽織絵羽も流行し，女子の礼装に絵羽模様が全盛である。〔堀越すみ〕

エバンジェリン ロングフェロー*の物語詩(1847)。18世紀の後半，イギリス・フランスが新大陸アメリカに勢力を争った時代に，フランス系移民のエバンジェリンが，イギリスの強制的な移民政策によって離れ離れになった婚約者をたずねてアメリカ各地を放浪するという作品で，愛と貞節がかおり高く描かれている。

エバンズ［Arthur John Evans］(1851～1941) イギリスの考古学者。クレタ文明の発見者。実業家でかつイギリス先史時代の研究家であるジョン-エバンズの子。1900年に東地中海のクレタ島のクノッソスで発掘に従事した。その結果，クノッソス王ミノスの迷宮(ラビュリントス)といい伝えられてきた宮殿が発見され，その壁を飾る数十面の壁画が見いだされた。これは，BC1700～BC1400年ごろ，クレタ文明の最盛期のものであった。エバンズはこの遺跡の近くに家を建てて住み，クレタ文明の研究に従事した。この遺跡の入り口に，彼の胸像が建てられている。著書《クノッソスにおけるミノス王の宮殿》ほか。 ➔エーゲ文明〔兼岩正夫〕

エバンズ［Herbert Mclean Evans］(1882～) アメリカの生化学者。カリフォルニア大学解剖学教授。脳下垂体前葉ホ



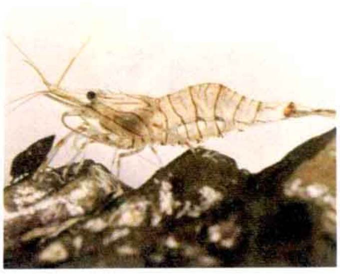
エビの体制図　クルマエビ



テナガエビ



オキノスジエビ



イソスジエビ



オトヒメエビ



スジエビモドキ

エ　ビ

ルモンの研究，ビタミンEの発見，ビタミンFの作用など多くの業績がある。

エバンスビル［Evansville］アメリカ合衆国インジアナ州南西端，オハイオ川右岸にある商工業都市。人口13万9,000(1970)。河港。自動車・食品工業が盛ん。

えび【海老・蝦】節足動物・甲殻(こうかく)綱・軟甲亜綱・十脚目のうち，ヤドカリの属する異尾亜目とカニの属する短尾亜目を除く長尾亜目の動物がいわゆるエビ類である。体は概して細長く，キチン質の甲殻でおおわれ，頭・胸・腹の3部からなり，うち頭部と胸部は，頭胸甲とよばれる一つの甲らでおおわれている。腹部は7節からなり，カニやヤドカリと異なりよく発達し，長く伸びている。第1～第5腹部からは，泳ぐのに用いる葉片状の遊泳肢(し)(腹脚)が1対ずつ出ている。尾は第6腹節から出る1対の遊泳肢が左右に平らに変形して体の後方に水平に伸びたものと，その中央に位置して体後方に水平に伸びる第7腹節(尾節ともいう)とからできている。これは扇状に開かれるので尾扇ともいう。長尾亜目という名は，腹部を尾とみなした命名である。胸部は外部からはわからないが8節からなり，うち，後ろのほうの5節からそれぞれ1対の歩脚が出ている。これらの10本の脚(十脚目の名の由来はここにある)のうち，一部はその先端がはさみに変形している。これらの歩脚はえさをつかんだり体をささえたりして，手と足の役を果たす。頭部からは俗にひげといわれる2対の触角が出ていて，特に第2触角は長く，普通は体長と同長かそれよりも長い。目は一部の深海性のもの以外では，よく発達した1対の複眼である。卵は産出されると同時に雌の腹脚に付着するのが普通である。卵は孵化(ふか)したのち，原則として，ノープリウス・ゾエア・ミンスの幼生段階を経るが，種類によって異なることが多く，一様でない。エビ類は全世界のあらゆる場所で栄えており，淡水・汽水・海水の各水界に生活し，7,000 mの深海にすむものさえある。歩脚で歩いたり，腹脚で泳いだりするが，危急の際には腹部を激しく屈伸して後ろへはねてのがれる。エビは一般に雑食性で，かなり貪食(どんしょく)である。体はあまり大きなものはなく，紀伊(きい)半島以南にいるニシキエビがおそらく世界最大種で，体長55cmに達する。しかし，小笠原(おがさわら)諸島では体長60cmのシマイセエビがとれるともいわれる。淡水産のヌカエビ・ヌマエビなどは小さく，3cm程度である。

英語では，クルマエビ・シバエビなどのように体が細長く甲が薄いものはシュリンプ，甲が厚く体がやや太短いもののうちザリガニ*のように淡水産のものをクローフィッシュ，イセエビのように海水産のものをロブスターといっている。

一般に美味で，食用として喜ばれるが，クルマエビ・クマエビ・シバエビなどの沿岸種は近年資源が減少し，南シナ海のコウライエビ(大正エビ)，メキシコ沿岸のメキシコエビなどで需要に応じており，現在年間200億円以上のエビがわが国に輸入されている。〔菅野　徹〕

エーピー［AP］アメリカの世界的通信社。Associated Pressの略称。1848年に創設。本社はニューヨーク。速報第一主義の非営利組織で，はでなUPI*と対照的な性格をもつ。加盟社はアメリカ国内で新聞社約1,700社(1966)，ニュース交換の協定をしている通信社は19社。会員組織の共同管理で，会員は自社で得たニュースをAPに提供，代わりに外国や全国的ニュースの配給を受けている。経費は加盟各社の発行部数・規模に応じて分担されている。APからニュースを受ける世界じゅうの新聞社・放送局は約8,950社に達している。〔須藤泰秀〕

エビア(島)［Evvoia, Euboea］エウボイアともいう。ギリシア本土南方，エーゲ海にある島。面積4,100km²。人口16万5,000(1961)。ギリシア本土との間には，エボリポス海峡があるが，鉄道で結ばれている。最高峰デルファイ山は1,608 m。適度の降水量があり，島は樹木におおわれている。主産業は牧畜で，ヒツジ・ヤギ・ウシを飼っている。ぶどう酒・オリーブ油・大理石を産する。古代にはカルキス・エリトリアの2都市国家があった。BC478年からアテナイに属し，東ローマ帝国が支配した時代にはベネチア・コンスタンチノープル(現在のイスタンブール)間の中継港として栄えた。1470年から1830年まではトルコに支配されたが，その後ギリシアに復帰した。主要都市はカルキス。〔大崎　晃〕

エービーエスじゅし【ABS樹脂】アクリロニトリル(A)・ブタジエン(B)・スチレン(S)の3成分からなる合成樹脂。3成分の取り入れ方によってグラフト型・ブレンド型・グラフト-ブレンド型の3種がある。たとえば，グラフト型ABS樹脂は，最初にブタジエンを重合*させてポリブタジエンラテックスとし，これにスチレン・アクリロニトリルの単量体*を加えて共重合*をさせたものである。製造会社により3種のうちのいずれかの型がそれぞれ採用されているが，できた樹脂の性質については大差ない。3成分の中で，ブタジエンは耐衝撃性に，アクリロニトリルは引っ張り強さに，スチレンは成形流れの向上にと，それぞれ寄与しあって，すぐれた性質を有する熱可塑性樹脂となる。衝撃に強く，荷重変形・膨張係数が小さい(寸法安定性がよい)など，機械

的性質だけでなく，金属材料に比べて軽量・成形容易・不銹(ふしゅう)であり，また耐油性・電気絶縁性がよいなど長所が多いので，自動車部品としての応用が年々盛んになっている。ABS樹脂への真空蒸着で金属と同じ外観をもたせることができるのも特徴である。上記自動車用以外にも，これらの性質を利用して冷蔵庫など家庭用電化器具や通信機・事務機・かばん・くつ底・ヘルメット・工場装置部品など，きわめて応用範囲は広い。現在のところ，原価が割高なのが唯一の欠点ともいえるが，今後量産化などによりコストが低下すれば，さらに用途の拡大が期待される。〔伊藤　卓〕

エービーオーしきけつえきがた【ABO式血液型】⇨血液型

エピオルニス［Aepyornis］鳥類・エピオルニス目の総称。マダガスカル島の洪積世(こうせきせい)以後の地層から，化石または半化石として発見される巨大な絶滅鳥のグループである。ダチョウのようなからだつきであるが，それよりも大きくてがんじょうで，最大のものは高さ 3 m以上，体重450kgに達すると推定されている。沼地から発見される卵殻(らんかく)は約33×22cm，容量 9 *l* もあり，原住民が水筒として使うほど新しいものが見つかっており，絶滅したのはごく最近と思われる。この巨大な卵から伝説の巨鳥ロック*が生まれたといわれる。〔浦本昌紀〕

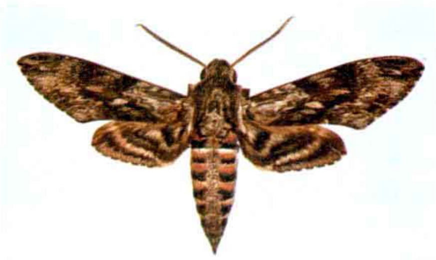
えびがに ⇨アメリカザリガニ

えびがらすずめ【蝦殻天蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・スズメガ科。体長47～50mm，翅(はね)を広げた長さ100～120mmの大形のガ。体・翅ともに暗灰色で，胸部はややかっ色をおび，黒色の縦条をもつ。腹部の背面は灰色で，各節ごとに白・赤・黒の 3 横帯をもつ。日本全土・台湾などに分布し，5 ～ 7 月に発生する。幼虫はサツマイモやアサガオなどの葉を食害する。

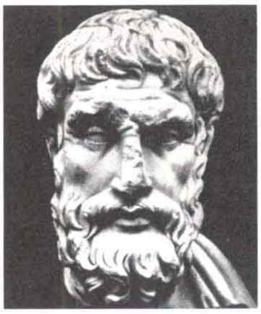
エピキュリアン ⇨快楽主義

エピクテトス［Epiktetos］(60ごろ～140) ローマ帝政時代の後期ストア派の哲学者。小アジア，フリュギアのヒエラポリスの生まれ。奴隷時代にムソニウス-ルフスの教えを受け，のち解放されてローマで哲学を教えた。89年ドミティアヌス帝の哲学者追放にあい，ニコポリスへのがれて終生その地で講じた。弟子(でし)アリアノスの手になる《語録》と《提要》が残存する。神は人間の父であり，人間はすべて兄弟である。また自己の弱さと悲惨とを知る者だけが哲学の恩恵を受けることができるとし，初期ストア派の哲学者たちと異なり，多数の貧しい者のために実践的倫理を説いた。人間が運命の手からのがれるためには，自己の自由にならぬものに頼るべきではない。つねに自己の自由になるものは，自己の意志だけであると説いた。〔左中庸博〕

エピグラム［epigram］短詩・警句詩。



エビガラスズメ



エピクロス



エビスグサ

古くは建造物の壁面や墓・金貨などに刻んだ銘文をさし，転じて警世的な機知・風刺を盛った短詩文をいう。古代ローマから18世紀のイギリス・フランスなどに流行した文学の一形式で，イギリスのダン*，フランスのボルテール*，ドイツのゲーテ*・シラー*らが，すぐれたエピグラムを書いている。

エピクロス［Epikuros］(BC342または341～BC271または270) 古代ギリシアの哲学者。サモス島生まれのアテナイ人。デモクリトス*の弟子(でし)に原子論を学び，BC306年アテナイに移って庭園つきの家を買って学園を開いた。これがいわゆる〈エピクロスの園〉で，以後死ぬまで弟子とともに簡素な隠遁(いんとん)の生活を送った。彼は哲学の目的を幸福の獲得にあるとし，哲学を規準学・自然学・倫理学の三つに分けた。感覚を知識の唯一の根拠とし，デモクリトスの原子論に立って事物の感覚的認識を説明する。また最高善は快楽であるとしたが，これは肉体的快楽ではなく，あらゆる苦悩や恐怖から脱した魂の平安(アタラクシア)による快楽であった。

なお，彼の開いた学派にエピクロス派があり，メトロドロス・ヘルヌルコス・ポリュストラトス・アポロドロス・ピロニデスら，数多くの弟子がいた。この学派で開祖に次いで有名なのはローマ時代のルクレチウス*で，彼は哲学詩《事物の本性について》で，エピクロスの説を説き広めた。この派は紀元 4 世紀まで続いた。消滅後もこの派の思想は広く影響を与えた。〔本橋正義〕

エービーシー［ABC］Audit Bureau of Circulationの略称。新聞・雑誌の部数監査機関。広告媒体としての価値は新聞・雑誌の発行部数の実績によって決定する。そこで広告主・広告代理店・新聞社・雑誌社が会員となり，発表された部数を公査するために設けられた。1914年アメリカに創設され，日本では1958年(昭和33)に日本ＡＢＣ協会として正式に発足した。全新聞社はこれに加入し，近時雑誌社の加入も増加している。〔名生尚志〕

エービーシー［ABC］American Broadcasting Co. の略称。アメリカ放送会社。アメリカにおけるラジオ四大ネットワーク(NBC*・CBS*・MBS*)，テレビ三大ネットワーク(NBC・CBS)の一つとして，全国ネットワークの一つを運営している。1943年にNBCの所有する二つのネットワークのうちの一つを買収して成立した。

エービーシーシー［ABCC］Atomic Bomb Casualty Commission の略称。原子爆弾傷害調査委員会。アメリカの原子力委員会の委嘱により，アメリカ学術会議(U. S. National Research Council)が1946年(昭和21)末に，広島と長崎に日米合同でつくった委員会。原爆による傷害を調査し，原爆の人体に及ぼす影響を長期的に調査する機関である。

エービーシーへいき【ABC兵器】atomic(原子)・biological(生物)・chemical(化学)のかしら文字を取ったもので，原子兵器*・生物兵器*・化学兵器*を総称する略語。

えびす【夷】恵比須・戎とも書く。七福神の一。一般に狩衣*(かりぎぬ)に指貫(さしぬき)を着装して烏帽子(えぼし)をかぶり，右手につりざお，左手にタイをかかえた姿で表わされており，本来は漁の神として漁民から信仰されていた。中世以降，七福神信仰と結びついてからは，大黒天*と並んで福徳をもたらす神として商家などに浸透し，夷講*も生まれて広く普及した。

えびすぐさ【夷草】双子葉植物・マメ科。ロッカクソウともいう。北アメリカ原産の一年草。日本へは江戸時代に中国からはいり，薬草として栽培された。茎は高さ 1 m以上になる。葉は羽状に切れ込んだ複葉。夏，葉のつけ根に花びらが 5 枚の黄色い花をつける。種子はややひし形で，長さ 5 mmくらい，さやの中に 1 列に並ぶ。種子を決明子といい，緩下薬・強壮薬とする。また民間では種子をほうじて，はぶ茶として飲用する。〔小清水義隆〕

えびすこう【夷講】戎講・恵比須講などとも書く。商業の守護神である夷*を信仰対象とする祭祀(さいし)団体で，同業者あるい

は同一地域の商家相互の親睦(しんぼく)を図るとともに，共済組合としての機能も果たした。中世末に始まり，江戸時代には各地に結ばれた。10月20日には商売繁盛を祈って酒宴を開いたが，のち京阪地方では誓文払いとして大売り出しを行なうようになった。

エピダウロス ［Epidauros］ ギリシアの南端，ペロポネソス半島のサロン湾に臨む古代都市。商業で繁栄したが，BC 580年ごろから商業権を他に奪われた。しかし，医神アスクレピオスの神殿と治療所はヘレニズム時代・ローマ時代にも尊崇を受けた。また，半円形劇場は20,000人収容の広大さで，古代ギリシアの代表的な劇場である。

えびちゃ 【葡萄茶・海老茶】 色名。葡萄色をおびた茶色。赤紫みのある茶色。この色は，赤蘇芳(あかすおう)(→蘇芳色)に涅(くり)色(→栗色)を混ぜてつくり，赤色のやや黒みをおびた色ともいえる。また，イセエビをゆでたときの色を海老色といい，その茶がかった色を海老茶ともいうが，葡萄茶も海老茶もその色には変わりはない。近世になってから生じた色名である。葡萄色は，紫根染めの，やや暗い赤紫色であり，ヤマブドウやエビヅル(エビカズラ)の実の色からきた名称であろう。したがって，葡萄色と葡萄(ぶどう)色とは同じ色と考えられる。古代の紫は，黒紫というような濃い紫が一般的であり，葡萄色のような赤紫に染めるには，紫根染めの際に特に酢を使ってあくの作用を弱めて，赤みのある紫を染め出した。日本工業規格(JIS)慣用色名〈エビ茶〉は，色相8.5R，明度3.0，彩度4.5と規定されている。〔武井邦彦〕

エピック ⇨叙事詩

えびづる 【蘡薁】 双子葉植物・ブドウ科。山野の陽地にはえるつる性の落葉低木。巻きひげが葉と対生する。葉は心形で長さ4～10cm，3～5裂し鋸歯(きょし)があり，互生する。裏面に白ないし淡かっ色の毛がある。雌雄異株。葉と対生して淡緑色の花の円錐(えんすい)花序を6～7月につける。9～10月に果実は黒熟し，食べられる。

えびな 【海老名(市)】 神奈川県中央部の市。1955年(昭和30)有馬(ありま)村を合併し，1971年(昭和46)市制施行。人口174,000。相模(さがみ)川をはさんで厚木市の対岸にあり，水田がよく開け，東部は相模原台地で畑が多い。相模線と相模鉄道・小田急電鉄小田原線が集まり，交通が便利なので最近は住宅地化が進み，1970～1975年の人口の増加率は県下の市町村中，第5位である。古代は相模の国府が置かれ，海老名駅近く国分寺・国分尼寺跡がある。産業三大別人口比は6：46：48。

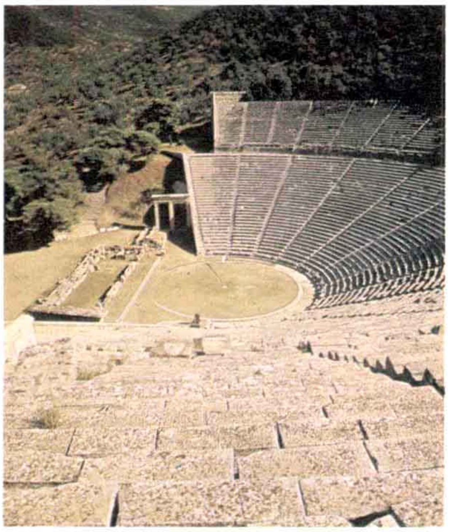
えびなだんじょう 【海老名弾正】 (1856～1937) 明治・大正時代のキリスト教の指導者。プロテスタントの牧師。筑後(ちくご)(福岡県)柳河(やながわ)藩士の家に生まれた。1872年(明治5)熊本洋学校に入学し，アメリカ人教師ジェーンズの教えによって入信。1876年，保守派の迫害をのがれて同志社英学校に移り，卒業後群馬県安中・熊本・神戸(こうべ)・京都で伝道ののち，1897～1920年東京本郷教会の牧師となる。熊本英学校・熊本女学校を創立し，日本伝道会社社長・同志社大学総長などを歴任。日本主義の民族的キリスト教の拡張に努め，正統的・福音主義的立場の植村正久*と論争を展開した。著書《基督教(キリストきょう)十講》など。〔五十嵐誠〕

えびね 【蝦根・海老根】 単子葉植物・ラン科の多年草。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。雑木林や竹やぶなどの陰地を好む。葉は2～3枚根生し，長さ15～30cm。花茎は30～50cm。花は4～6月に開き，花被片は紫かっ色，唇弁(しんべん)は帯紫白色で3裂している。中裂片に3条のひだがある。和名はエビのような節のある根茎から由来。古くから栽培され，品種が多い。

えびの 【えびの(市)】 宮崎県南西部の市。1970年(昭和45)12月市制施行。人口28,000。市域は加久藤盆地と周辺の広い山林原野を占め，盆地中央部を川内(せんだい)川が西流する。東は小林市，北は熊本県，南と西は鹿児島県に接する。産業三大別人口比は56：13：31。良質米の産地として知られ，スイカ・サトイモの特産がある。吉都線が通じ，国道221号線が南北に，268号線が東西に走る。京町・吉田(よした)温泉があり，また南部にえびの高原*を控えて，霧島国立公園の観光基地となる。1968年のえびの地震では大きな被害があった。

えびのこうげん 【えびの高原】 蝦野(えびの)高原とも書く。霧島火山の韓国岳(からくにだけ)(1,700 m)・甑岳(こしきだけ)(1,301 m)・白鳥山(1,363 m)に囲まれた標高約1,200 mの高原。北部には不動池・六観音池・白紫池などの火口湖があり，落葉樹の自然林が広がる。霧島国立公園に含まれており，キャンプ村や山荘・ホテルがあり，有料道路〈霧島スカイライン〉が縦断している。

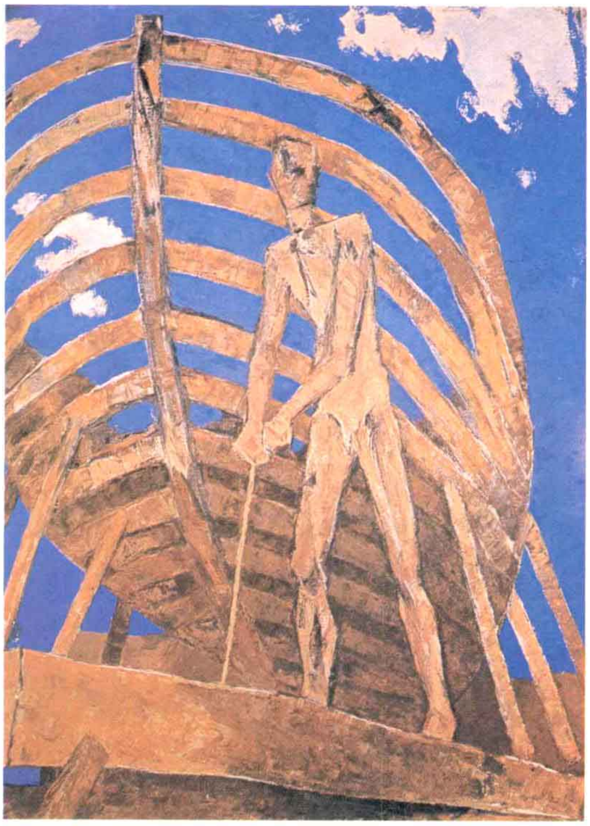
えびはらきのすけ 【海老原喜之助】 (1904～1970) 洋画家。鹿児島市の生まれ。有島生馬*(いくま)に師事。1923年(大正12)に渡仏し



エピダウロス　紀元前4世紀半ばに建てられた大劇場



エ ビ ネ



海老原喜之助
《船を造る人》 1954

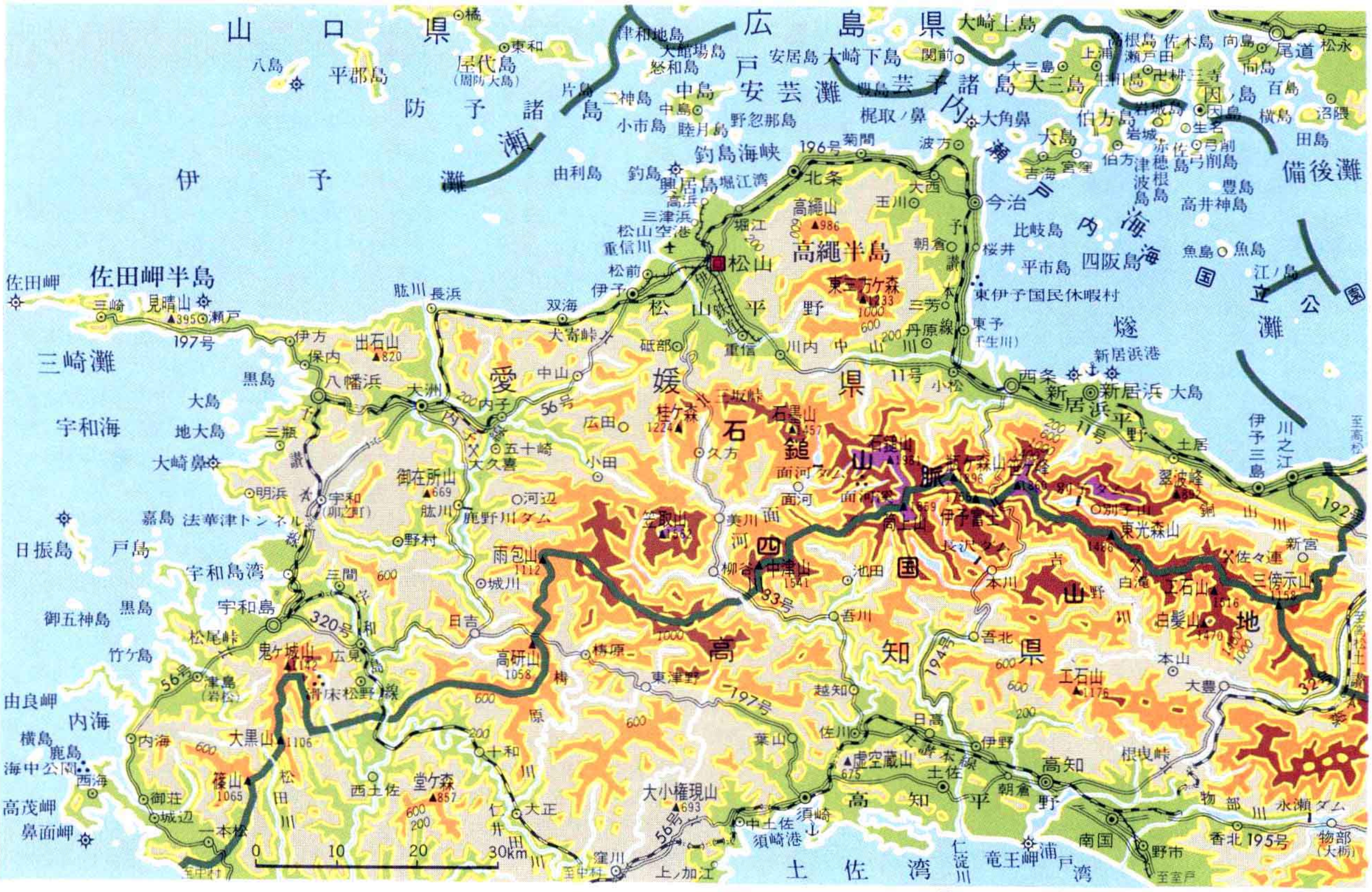
て藤田嗣治*(つぐじ)に学びながらパリの各展覧会に出品。1934年(昭和9)帰国後は独立美術協会*の会員となる。その後は独自の個性的画風で国際展などに活躍，1960年に毎日芸術賞を受けた。

えひめ【愛媛(県)】 四国地方北西部の県。北は瀬戸内海，西は豊後(ぶんご)水道に面し，東は香川・徳島，南は高知の各県と接する。伊予(いよ)全域を占め，面積5,664km²で，四国地方の約3分の1を占める。人口152万1,000，人口密度は1km²あたり268人である。県花はミカン，県木はマツ，県獣はニッポンカワウソ。県庁のある松山以下の12市と，11郡(44町14村)に分かれる。

〔自然〕地形は，瀬戸内海へ向かって走るイヌの姿にたとえられる。北東から南西にかけて縦走する四国山地が県域の大半を占め，平地に乏しい。東部の伊予三島市付近から西部の佐田岬(さだみさき)に至る西南日本の中央構造線*によって南北に区分され，中央構造線上には四国山地に属する石鎚(いしづち)山脈が走り，四国一の高峰石鎚山(1,981m)をはじめ，瓶ケ森(かめがもり)山(1,896m)・笹ケ峰(ささがみね)(1,860m)・伊予富士(1,756m)などの高山が連なる。石鎚山脈の北面は切り立った断層崖(だんそうがい)で，その前面には，東に新居浜(にいはま)平野，西に松山平野があり，北に突き出す高縄(たかなわ)半島には今治(いまばり)平野がある。半島の北には，芸予諸島に属する大三(おおみ)島・大島(伊予大島)・伯方(はかた)島・弓削(ゆげ)島などがあり，西には中島・興居(ごご)島などがある。中央構造線以南は四国地方の分水嶺(ぶんすいれい)をなす険しい山地で，多くの河川がここに源を発するが，一般に短く水量が少ない。四万十(しまんと)川・仁淀(によど)川は南流して高知県へ，銅山川は東流して徳島県へはいるが，県内最長の肱(ひじ)川はほぼ北流して伊予灘(いよなだ)に注いでいる。肱川の上流には宇和，中流に大洲(おおず)などの盆地があり，山間内部の重要な居住地である。海岸線は瀬戸内海と豊後水道に面して，延長1,200kmに及ぶ。瀬戸内海の燧灘(ひうちなだ)・伊予灘沿岸にはあまり複雑な出入りがない。西方へ突出する佐田岬半島以南の豊後水道沿岸は典型的なリアス式海岸で，宇和海にはネズミの島として知られる日振島をはじめとして多くの島がある。

気候は，瀬戸内海沿岸の瀬戸内式気候と，山間部の内陸式気候に大別される。瀬戸内海沿岸地帯は一般に温暖で，松山の年平均気温は15.9℃，年降水量は1,381mmを示すが，山岳地帯は寒暑の差が著しく，降水量は年間2,000mm近くに達する。宇和海沿岸一帯は，亜熱帯気候を呈し，夏はしばしば台風の進路となり，家屋や作物などの被害が大きい。佐田岬付近は冬は強い北風を受ける。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は20：29：51。県民分配所得は1人あたり115万7,000円で，全国29位である。《農林水産業》米・麦類・サツマイモのほか，ミカンなどの果樹の栽培に特色があり，農家数は11万戸(1975)を数えるが，耕地面積は84,000ヘクタールにすぎず，最近は兼業農家が増加している。狭い平地部では多角的農業が盛んで，島や南予地方では段々畑をつくって階段耕作が行なわれる。水田率は41.4%，米の年産量は約13万tで自給できず，裏作にはおもに裸麦が栽培される。畑作では，サツマイモ・ダイズ・トウモロコシなどのほか，ミツマタ・コウゾ・ハゼノキなどの工芸作物がつくられる。果樹園の面積は40,000ヘクタールを越え，静岡県につぎ全国2位で，温州(うんしゅう)ミカンが中・南予地方で広く栽培され，全国一の生産をあげている。ナツミカンは宇和海沿岸が主産地で，生産高は全国一を誇る。そのほか，カキ・ビワ・ナシ・クリ・モモなども多くつくられる。養蚕は，南予地方が中心であるが，近年はあまりふるわない。畜産業では，乳牛は少なく，役肉牛が多く飼育されている。林野面積が県域の70%以上を占める全国有数の林業県である。コウゾ・ミツマタの生



愛媛県



愛媛県　近代工業の発達がめざましい東予地方は，住友系各社の金属製錬工場と化学工場が集中している。写真は東予新産業都市の中心新居浜市

産は全国一で，マツ・スギ・ヒノキなどの針葉樹類も多く，薪炭類・竹材なども多く産する。樟脳(しょうのう)・木ロウなどの特産物もある。水産業は，長い海岸線，好漁場，多くの漁港などに恵まれ，タイ・エビ・イワシ・タコ・貝類などの漁獲が多い。南予地方ではイワシ漁が盛んで，煮干し・削りぶしなどに加工される。燧灘沿岸ではノリ，南予地方では真珠が養殖される。伯方島には稚魚センターが置かれ，栽培漁業*が開拓されている。《鉱工業》北東部には，かつて日本の四大銅山の一つに数えられていた別子鉱山*の銅をはじめ，金や各種の硫化物などの地下資源がある。このうち別子鉱山は，しだいに鉱量が枯渇し，1973年（昭和48)に300年に近い歴史を終えて閉山した。電力では，西条・新居浜・松山など六つの火力発電所があり，1965年(昭和40)から操業した四国電力の新西条火力発電所は，四国最大の規模をもつ。銅山川・肱川の上流には約30の水力発電所がつくられ，火力発電所とともに，県の動力源となっている。最近では，瀬戸内海沿岸工業地帯の一環として，近代工業の発達がめざましく，軽工業から重化学工業への比重が増加しつつある。四国一の工業都市新居浜を中心として，東から川之江・伊予三島・西条・今治の5市と，壬生川(にゅうがわ)などの12町村を含む地域は，東予新産業都市に指定され，金属・機械・化学製品などの大工場が立地している。また，松山市を中心とした地区では，化学・繊維・石油化学・機械などの工業が盛んである。地域別にみると，伊予三島市・川之江市の製紙，新居浜市の化学肥料・機械，西条市・壬生川町の化学繊維，今治市の紡績・綿ネル・タオル，菊間町の石油，北条(ほうじょう)市の紡績，松山市の石油・化繊・農機具，松前(まさき)町の化繊，川之江市・八幡浜(やわたはま)市の紡績などがあり，今治タオルの産額は全国一である。在来工業としては，松山市南方の砥部(とべ)町周辺でつくられる砥部焼，松山市・伊予郡を主産地とする伊予絣(いよがすり)が特に名高い。そのほか，桜井漆器，郡中花がつお，



箙
葡萄栗鼠蒔絵箙
東京国立博物館蔵

菊間がわら，南伊予の生糸や竹製品などの特産がある。

〔交通・都市〕予讃(よさん)本線は海岸部の都市群を結ぶ幹線で，内子線・予土(よど)線(旧宇和島線)を分岐する。1974年(昭和49)に，予土線と高知県の土讃(どさん)本線窪川との連絡が完成し，これによって四国を鉄道で一周できるようになったが，四国一周の列車はまだ運転されていない。国道は延長530kmで，松山市を中心として11号線が徳島市と通じ，33号線が山間部，56号線が海岸部を走り，それぞれ高知市と結んでいる。鉄道の便がない山間部の交通にはバスが広く利用され，路線網は比較的よく発達している。最近，松山～高松(国鉄・四国急行)・松山～高知(国鉄)の特急バスも開通した。海上交通はきわめて発達しており，堀江(ほりえ)～仁方(にがた)間に国鉄仁堀連絡船が通じ，堀江～広島間，今治～三原間，松山～宇品間などにフェリーボート，三津浜・高浜～宇品間に定期航路が通じて，対岸の広島県と結んでいる。大阪～別府航路は，今治・高松に寄港して，下関(しものせき)・門司(もじ)方面と連絡し，宇和島・八幡浜・三崎からは，それぞれ九州航路が通じている。航空路は，松山空港から大阪・広島に定期便があり，大阪とは約1時間，広島とは約25分で結んでいる。観光資源としては，瀬戸内海国立公園の一部である来島海峡の潮流，近見山の展望，桜井海岸の松原などの風光がすぐれており，さらに石鎚国定公園・足摺(あしずり)国定公園がある。わが国で最も古い歴史をもつ道後温泉は，四国でただ一つの温泉でもある。そのほか，松山城址(じょうし)・宇和島城址・大山祇(おおやまづみ)神社などの史跡にも富む。都市では，松山・今治・宇和島・八幡浜・西条・新居浜などの主要都市が，海岸沿いの平地部に発達している。これらは，古くは農業や水産業の中心地，物資の集散地として栄えたが，今日ではしだいに近代工業都市の性格をおびるようになった。大洲・伊予三島・川之江・伊予・北条の5市は，いずれも1953年(昭和28)10月の町村合併促進法施行以降の新しい市である。

〔歴史〕開発の歴史は古く，県名は《古事記》の〈愛比売(えひめ)〉(美女の意)に由来するといわれる。道後温泉はわが国最古の温泉といわれ，《風土記(ふどき)》には景行天皇行幸の記録がみられる。大化改新に際して14県72郡に分かれ，奈良時代には今治に国府や国分寺が置かれ，平安時代には荘園(しょうえん)が発達した。鎌倉時代には佐々木氏が守護となり，道後7郡を河野(こうの)氏が領し，のち宇和地方は西園寺(さいおんじ)・摂津・宇都宮(うつのみや)の諸氏が守護として領した。中世には，芸予諸島を根拠地とする海賊衆*伊予水軍の活躍が知られる。中世以後は，石鎚山の石鎚神社，大三島の大山祇神社がそれぞれ山と海の守護神として全国から多くの信者を集めた。室町末期には国内が乱れ，1584年(天正12)に土佐の長宗我部元親(ちょうそかべもとちか)の支配下にはいったが，翌年豊臣秀吉(とよとみひでよし)の四国平定によって小早川氏・福島氏・戸田氏の統治するところとなった。関ヶ原の役後，今治に藤堂高虎(たかとら)，松山に加藤嘉明(よしあき)が封じられて築城し，江戸時代には天領のほか，松山十五万石・今治三万五千石・宇和島十万石・西条三万石・吉田三万石・大洲六万石・新谷一万石・小松一万石の8藩が置かれ，松山に四国の目付け役として久松松平氏がいた。1871年(明治4)の廃藩置県によって9県に細分されたが，まもなく松山県と宇和島県の2県(翌年それぞれ石鉄県と神山県と改称)に分かれ，1873年には統合されて愛媛県となり，松山に県庁が置かれた。さらに1876年には，讃岐(さぬき)・伊予を合わせて愛媛県となったが，1888年に香川県が分立して現在の県域が確立した。　〔浅井得一〕

えびも　【蝦藻】　単子葉植物・ヒルムシロ科。池や流水中に普通にみられる多年草。南アメリカ以外の全世界に分布している。地下茎は地中をはい，一節ごとに水中茎を出す。全体に緑かっ色で茎は柔らかく流れになびく。葉は互生し線形，先が丸く縁は波状。初夏に枝先から水面に穂を出し，淡黄色の小花を開く。水媒花。晩秋に枝先に越冬芽をつくることがあり，これはやがて枝を離れて新しい株となる。

えびら【箙】矢を盛って背に負う武具。もと〈やなぐい〉といったが，その形が養蚕具の蚕簿(えびら)に似ているためにこの名でよばれるようになったという。鏃(やじり)を箱形の方立(ほうだて)の内部の筬竹(おさだけ)にさし，方立の背板から伸びる羽立蔓(はだてづる)につけた皮ひもで矢をたばね，別のひもで背後に斜めに背負った。なお，方立の前板にトンボの飾りをつけたり，クマ・イノシシの毛皮でおおったのは，それらの直進性の縁起によるものという。奈良時代から用いられたが，室町時代以後は空穂*(うつぼ)が用いられるようになった。〔稲垣史生〕

エピレナミン ⇨アドレナリン

エピローグ [epilogue] プロローグ*に対する名称で，①詩や小説などの終わりの部分，②演劇で終演後に補足されるせりふや場面のことをいう。特に中世宗教劇*やシェークスピア劇において盛んに用いられたが，近代劇*以後は少なくなった。

えふ【衛府】律令(りつりょう)制で宮城の警衛にあたった役所の総称。衛門府，左・右衛士府，左・右兵衛府(ひょうえふ)の五衛府に始まる。前三者の兵員は農民出身の衛士*であり，後二者は郡司*の子弟からなる兵衛で，衛士は宮門を守り雑役に従い，兵衛は閤門(こうもん)(内裏(だいり)の内郭の門)を守った。その後幾多の変遷を経て，811年(弘仁2)左・右近衛府(このえふ)，左・右兵衛府，左・右衛門府の六衛府(りくえふ)となった。平安時代にはいって治安維持が困難になると，衛府の警察権は一時拡大したが，検非違使*(けびいし)設置後は実権を失った。〔星野具子〕

エフアールピー [FRP] ⇨ガラス繊維 ⇨強化プラスチック

エフイーエヌ [FEN] Far East Networkの略称。アメリカ合衆国の極東駐留軍向けラジオ放送。日本では，佐世保・板付・岩国・芦屋(あしや)・奈良・名古屋・東京・三沢・千歳(ちとせ)・稚内(わっかない)に放送施設がある。大部分は音楽番組で24時間放送を行なっている。アメリカ国防総省が管轄し，AFRTS(アメリカ軍放送サービス)が供給する番組のうちから，情報提供や教育・慰安のために放送している。

エーブイきょういく【AV教育】⇨視聴覚教育

エフィラ [ephyra] 腔腸(こうちょう)動物・ハチクラゲ類の発生の途中，クラゲ*になる直前に経過する段階の幼生名。肉眼でようやく認められるほどの大きさだが，整然たる形が美しい。薄い盤状で，花弁状の8枚の弁(エフィラ縁弁)をもつ。中央には十字状の口があり，微生物を食べる。エフィラ縁弁を開閉して泳ぐ。色は種によって異なる。なお，成体になってもエフィラそっくりなエフィラクラゲという種類のクラゲもある。➔ハチクラゲ

エフエーエス [FAS] free alongside shipの略称。商品の対外売買に使われる〈船側渡し〉条件のこと。売り手が契約の物品を輸出港の本船(ship)の船側(alongside)で，その本船の責任者に引き渡すことによって，それ以後の費用は負担しなくてよい(free)という内容の貿易条件。この本船は，物品の買い手が船会社と契約し用意するもので，売り手は本船が輸出国に寄港したとき，その船側で契約の物品を引き渡せば，買い手に引き渡したものとみなされる。つまり，契約の物品を本船に積み込むまでの費用や船積みの際の危険・責任は買い手の負担となる。これは，いかだでの積み降ろしが多い木材貿易に専用されていたが，最近アメリカで大貿易港の埠頭(ふとう)設備が超近代化するに伴い，本船と埠頭とのスピーディーな機械的直結によって，一般商品にもこの条件が採用されるようになった。〔上坂酉三〕

エフエーオー [FAO] ⇨国連食糧農業機関

エフェソスこうかいぎ【エフェソス公会議】431年教皇ケレスチヌス1世のとき，小アジアのリュディア(いまのトルコ)のエフェソスで開かれた宗教会議。聖母マリアはキリストの母ではあるが神の母ではないとするネストリウス*の説を異端とした。また，キリストには一つのペルソナ(位格)と二つの本性，すなわち神性と人性とがあることを決議した。

エフェドリン [ephedrine] マオウ科の植物マオウから，1887年(明治20)長井長義が発見したアルカロイド*。化学構造や薬理作用はアドレナリン*に似ていて交感神経興奮作用をもつ。アドレナリンより効力は弱いが安定で効力が長い。気管支ぜんそくに経口内服し，麻酔時のショックや失神の際の血圧降下に静脈注射する。このほか，じんましん・夜尿症・鼻カタルにも使用される。劇薬。

エフエーにひゃく【FA-200】単発の軽飛行機。4人乗りなら耐空類別のN類(実用)，2人乗りならA類(曲技)の強度をもつ。

要目		性能
エンジン		ライカミング 160馬力または 180馬力×1
座席数		4
翼幅	(m)	9.42
全長	(m)	7.96
主翼面積	(m²)	14.00
自重	(kg)	530
全備重量	(kg)	1 150
最大速度	(km/時)	233
巡航速度	(km/時)	174
最小速度	(km/時)	95
離陸距離	(m)	450
着陸距離	(m)	150
航続距離	(km)	1 130

富士重工業(株)が独力で開発し，1965年初飛行に成功，外国にも輸出されている。

エフエムほうそう【FM放送】FMとはFrequency Modulation(周波数変調)の略称で，音の強弱に応じて周波数*そのものを変化させる方法をいい，この方式による電波を利用して放送するのがFM放送である。これに対して音の強弱に応じて電波の幅が変化する方法をAMすなわち振幅変調*(Amplitude Modulation)という。FM方式はテレビの音声放送，パトロールカーやタクシーの移動無線，ウォーキー-トーキー*，ワイヤレスマイクなどに，一方，AM方式は中波・短波のラジオ放送やテレビの映像放送に使われている。電波は周波数の高低によって長波・中波・短波・超短波・極超短波の5種に分けられているが，このうち超短波がFM放送に使われている。そのため電波を管理している郵政省では，FM放送を超短波放送とよんでいる。日本では76メガサイクルから90メガサイクルがFM放送用の周波数としてあてられているが，そのうち76～80メガサイクルは1969年(昭和44)現在まだ使われていない。したがってわずか10メガサイクルがFM放送用にあてられていることになる。ただしFM局は隣の局との間隔も入れて1メガサイクルあれば1局できる。➔電磁波

〈FM放送の特徴〉 第1に周波数特性が広いので人間の耳に聞こえる最も低い音から高い音まで忠実に再生することができる。第2に雑音がはいらない。ただし電気器具による雑音には強いが，自動車エンジンの点火による雑音には弱い。第3に混信がない。これは山などの障害物にさえぎられると電波が先へ進まないので，特に日本のような山国では他局の電波がはいらないためである。もちろんそのためサービス地域は狭くなる。第4に最も魅力的なことは，一つの電波に2種類以上の音を乗せることができるのでステレオ放送に向いている。良質の音を楽しめることと合わせてステレオ放送が可能なのでNHK*ではラジオ放送の半分以上をステレオによる音楽番組にあてている。弱点は，受信機が高価であることや専用のアンテナを設置しないと良感度は得られないことなどである。

〈歴史と現状〉 わが国では，1957年12月に，NHK東京が，翌1958年2月にNHK大阪が，10月にFM東海(東京)が実験放送を開始した。1970年9月現在，NHKは全国に250局あり，その可聴範囲は89％に及んでいる。民間放送では，FM東海が〈FM東京〉に衣替えしたほか，新たに〈FM愛知〉〈FM大阪〉〈FM福岡〉の3社が放送を開始した。全国の受信機数は1,000万台を越えていると推定されている。放送時間は，各局とも20時間前後で，内容はFMの特質を生かしたステレオによる音楽番組が圧倒的に多い。郵政省では従来県域放送であった中波放送

を広域放送とし，ＦＭ放送を県域放送にする方針である。またＮＨＫでは，外国電波との混信などによる電波障害の激しい場所では，第１・第２放送と併用している。ヨーロッパでは各国が近く混信が激しいので，ＦＭ放送が盛んに利用されている。アメリカでは，1941年から本放送が始まり，1968年現在2,238局に達している。音楽専門局がほとんどである。〔名生尚志〕

エフエルエヌ　［FLN］　Front de la Libération Nationaleの略称。アルジェリア民族解放戦線。アルジェリアの民族独立運動が政治的に最初に組織されたのは，1925年のメッサリ-ハジの創設した反仏民族主義団体〈北アフリカの星〉であるが，その後いくつかの党派に分かれた。第２次世界大戦後は，アルジェリア宣言民主同盟(UDMA)と民主自由の勝利の運動(MTLD)が活躍したが，1954年に後者から分離した統一行動革命委員会(CRUA)の台頭でMTLD中央委員会は分裂，CRUAは民族解放戦線(FLN)と改称した。その後UDMAも合流して，FLNはアルジェリア民族解放運動の中核として独立運動を続け，独立後，1963年９月公布の憲法で同国で唯一の合法政党とされた。トリポリ綱領によれば，アルジェリア革命は民主人民革命を目標としているが，FLN内部の指導権争いがこれの大きな障害となっている。FLNは，1965年のクーデターで成立したブーメディエン政権を支持している。〔広部和也〕

エフエルキュー　［FLQ］　Front de Libération de Québecの略称。ケベック解放戦線。カナダの総人口2,100万のうち約600万はフランス系といわれ，主としてケベック州に居住し，その一部はイギリス色の強いカナダからの分離独立を主張している。中でもＦＬＱはその目的として〈資本主義を打倒してケベックをカナダから独立させること〉を掲げ，要人に対するテロ行為やカナダ植民地時代からの歴史的記念物の爆破など過激な活動を展開し，1970年10月にはラポルト-ケベック州労相を殺害した。トリュドー首相は直ちにＦＬＱを非合法化し，ポンピドー-フランス大統領もＦＬＱを非難する声明を出したが，民族問題の底深さから紛争は長引こう。ＦＬＱの組織は総勢100人前後，〈リベラシオン〉〈シニェル〉〈ネルソン〉などの名でよばれるいくつかの細胞に分かれ，秘密が漏れるのを防ぐため互いの連絡もなく，不明な点が多い。➔人種問題〔吹浦忠正〕

エフオービー　［FOB］　free on boardの略称。商品の対外売買に使われる〈本船渡し〉条件のこと。正しくは〈FOB条件の売買契約〉の意味である。本船とは目的物を外国の仕向け港まで運ぶ買い手側の船で，買い手の指定する輸出港の本船に貨物を搬入(on board)すれば，それで売り手の義務が解除(free)されるというのが，国際解釈



エプスタイン《オリエル-ロスの肖像》1931　ニューヨーク近代美術館蔵



Ｆ-111

である。CIF*(シフ)とともに最も多く用いられる貿易上の取引条件。アメリカでは国内売買についても用いられる。なお，FOB値段とは，売り手が本船に引き渡すまでの諸費用を含めて採算した値段のことである。船積み以後に要する海洋運賃や海上保険料は特約のないかぎり含まれない。アメリカでは，この用語は国内用と貿易用と合わせて10数種に細別されて使われている。単にFOBといえば，広く運搬機関への持ち込み渡し条件と解され，前記の本船渡しの場合には船(vessel)の一語を入れた〈FOB vessel〉が慣用されている。〔上坂酉三〕

エブゲーニー-オネーギン　プーシキン*の代表作で詩の形式で書かれた小説(1823～1830)。都会育ちでバイロン気どりの主人公エブゲーニーといなか育ちのタチヤーナの物語。素朴(そぼく)で高い道徳感情と愛情をもつタチヤーナと，無為な生活を送る〈余計者*〉エブゲーニーを対比させ，当時のロシア社会のさまざまな人物像を生き生きと描き出している。なお，この小説をもとにしたチャイコフスキー*の同名の歌劇(３幕)がある。〔川端香男里〕

エプスタイン　［Jacob Epstein］(1880～1959)　イギリスの彫刻家。ニューヨークに生まれ，渡仏してロダンに学ぶ。1905年からロンドンに住み，イギリスに帰化。建築彫刻・肖像彫刻を数多く制作し，その激しい表現はしばしば物議をかもした。

エフそう　【Ｆ層】　⇨大気　⇨電離層

エフタルぞく　【エフタル族】　中央アジアのイラン系遊牧民族。アム川の南から起こって，ソグド地方をおさえ，5世紀の中ごろには中央アジアの大勢力となって天山山脈の南北にも進出した。６世紀後半に突厥(とっけつ)とペルシアに挟撃(きょうげき)されて滅亡した。

エフち　【Ｆ値】　⇨写真レンズ

えぶっし　【絵仏師】　仏教関係の画業をつかさどった絵師。仏具・仏像彫刻の制作にあたった仏工・仏師に対した名称。仏画制作や寺院内の装飾に従事し，自身も出家して僧籍にあった。鎌倉時代以後は寺社の絵所*に属した。代表的な流派としては，東寺・高山寺の宅磨(たくま)派*，興福寺の巨勢(こせ)派*がある。なお，禅宗関係の画家は別に画僧とよばれていた。

えふで　【絵筆】　①油絵用の筆には軟毛(セーブル)・硬毛(ブリストル)の２種があり，軟毛はテン・リスなどの毛から製して流動性のある絵の具に用い，硬毛はブタの剛毛などで製し，かた練りの絵の具を用いる際に使う。②水彩用の筆は油絵の軟毛に準じて考えてよいが，太さは１～14号(油絵用では０～24号)ぐらいまでがある。③日本画用の筆は書の筆から発達したためか構造も似ているが，線書き筆・付け立て筆・彩色筆・くまどり筆など用途別に種類がある。材はおもに羊毛。〔萩原卓也〕

エフデーゲーベー　［FDGB］　⇨自由ドイツ労働総同盟

えぶね　【家船】　陸上に根拠地をもちながら，水上生活をしている移動漁民。長崎県に多くみられた。家船の漁法は網漁やほこ突き漁だが，男子の潜水作業を伴っており，女子が潜水作業をする，いわゆる海女*(あま)の形態をとることはない。家船は周囲の農村とは習慣が違い，久しく注目されてきたが，詳細な研究は少ない。家船に非常に似た漁業を営む者に，うたせ・のうじ・わたまど・とよたのもん・かねりなどとよばれる漁民がおり，瀬戸内海沿岸にみられる。〔渡辺欣雄〕

エフビーアイ　［FBI］　Federal Bureau of Investigationの略称。アメリカ連邦警察局。1908年連邦政府司法省に創設。アメリカ禁酒法時代，シカゴなどの大都市を中心にギャング団が多発し，これを従来の自治体警察では制止できなくなったため設けられた。おもに金融機関に対する犯罪，ギャング団などの暴力犯罪，国家の安全を阻害する犯罪，各州にまたがる広域犯罪などの捜査を任務とし，指紋・銃器などの全国的鑑識施設を有している。1924年，局長に就任したJ.E.フーバーが現在の機構を確立して，優秀な捜査官の育成に努めた。以来Gメン*とよばれて犯罪者から恐れられている。〔井上公耳〕

エフひゃくじゅういち　［F-111］　世界ではじめて可変翼を採用したアメリカの戦闘機。可変翼は，高速機の欠点である低速

時の不安定を改善するため，主翼を可動式にして面積と角度を飛行中に変えられるようにしたもの。F-111はゼネラル-ダイナミクス社のグラマン部門で開発され，1962年，空軍に正式採用された。最大速度マッハ2.5。

エフひゃくよんジェー 【F-104 J】 航空自衛隊の現用主力迎撃ジェット戦闘機。原型F-104は，アメリカのロッキード社が，朝鮮戦争の戦訓を取り入れて1954年に開発したマッハ2級の軽量高速戦闘機であるが，装備できる電子装置が貧弱で，アメリカの防空システムに適合できず，日本をはじめ西ドイツ・カナダなどで主力機として使われている。わが国では，1962年(昭和37)に一部の装備を日本向けに改造したJ型を採用，練習用を兼ねた複座のDJ型とともに250機を国内でライセンス生産もしくは組み立てた。〔藤井冬木〕

エフよんファントム 【F-4ファントム】 アメリカの双発複座の全天候艦上ジェット戦闘機。マクダネル社が1957年に開発したもので，速力・航続力・搭載(とうさい)量などにすぐれた万能型の機体で，現在空軍も採用し，海・空軍の主力機となっている。のち，イギリス空軍・西ドイツ空軍が採用し，わが国の航空自衛隊もF-104 J*の後継機として本機の装備を決定した。

エープリル-フール ［April fool］ 万愚節とも四月ばかの日ともいう。4月1日に限って悪意のないうそ(虚偽の情報)を伝達して楽しむ西欧の慣習。17世紀ごろからヨーロッパで盛んに行なわれた。わが国には大正時代に伝わり，現在は若い人の間で慣習化されている。キリストの受難がこの月にあたることから，フランスでユダヤ人にばかにされたことを忘れぬための行事という発祥説もある。

エブロ(川) ［Ebro］ スペイン北東部の川。北部のカンタブリア山脈に源を発し，ピレネー山脈からの多くの支流を合流してバルセロナの南西130kmの地点で地中海に注ぐ。全長928km。穀物と果樹の農業地帯アラゴンの灌漑(かんがい)に古くから利用されている。

エフロレッセンス ［efflorescence］ コンクリートの施工後表面に沈着する白い結晶。この結晶は，コンクリート中の水酸化カルシウム・硫化カルシウム・硫化マグネシウムなどが溶出して空気中の炭酸ガスと化合してできる。乾燥・湿潤をくり返す箇所や湿った日光のあたらない箇所に生じやすい。水密性の大きい良質のコンクリートには発生しにくい。

エプロン ［apron］ 衣服のよごれを防ぐために用いる前掛け。主として調理・そうじ・洗たくなどをする際の実用的なものや子どもの遊び着であるが，最近では家庭着を明るくする装飾的なエプロンも多くなり，ホステス用としてドレッシーな布のはなやかなデザインのものもある。さらにドレスふうに発展して，たぶんにエプロンの機能性を加味した楽しい家庭着として，単独に用いられることもある。もと，ヨーロッパでは装飾的な衣服として重要なもので，ししゅう・宝石・レースなどで飾られた小さなエプロンは婦人の盛装用であった。16～18世紀ごろがこの種の最盛期で，以後しだいに実用性を兼ねたものとなり，現在に至っている。〔小池千枝〕

えべつ 【江別(市)】 北海道南西部の市。1878年(明治11)岩手県から屯田(とんでん)10戸が入植し，1882年，幌内(ほろない)鉄道の開通とともに道内唯一の平行四辺形の土地区画をもつ屯田兵村*となった。1954年(昭和29)市制施行。人口83,000。市名の起源はアイヌ語の〈エペッ(胆汁(たんじゅう)のような川)〉で，石狩川に沿う濁流の地を意味する。石狩平野のほぼ中央部，石狩川と支流江別川の侵食を受けた野幌(のっぽろ)台地の末端部を占める。産業三大別人口比は9：27：64で，台地部では酪農，低地帯では水田耕作が行なわれる。製紙業とれんがを主とする窯業が盛んで，1963年には道央新産業都市の区域内に含まれ，食品・乳製品・金属などの近代工業が興っている。函館(はこだて)本線・国道12号線(中央国道)が通じて札幌(さっぽろ)の衛星住宅都市化が進み，〈最も快適な生活〉を目標に掲げた大麻団地が建設された。



F-104 J



F-4 ファントム

エベール ［Jacques-René Hébert］ (1757～1794) フランスの政治家。フランス革命の進展に応じて，小市民・労働者を地盤とする急進的なエベール派を形成。ジャコバン派*を支持し，1793年ジャコバン派が政権を握ると，恐怖政治下に経済統制の実施を促し，またキリスト教廃止を主張した。しかし，その極端な急進性のためロベスピエール*と対立し，公安委員会に対する反乱を企てて失敗し，逮捕処刑された。

エーベルト ［Friedrich Ebert］ (1871～1925) ドイツ共和国の政治家。初代大統領。馬具師の職人からドイツ社会民主党員となり，やがて同党右派の改良主義派の有力者となった。第1次世界大戦の際，〈城内平和〉の立場から政府に協力し，ドイツ革命*が起こると多数派社会民主党を率いて革命派の抑圧に努め，新共和国の資本主義的再建を方向づけた。1919年，国民議会で臨時大統領に選ばれ，ベルサイユ条約を忠実に履行する方針をとった。➔ワイマール共和国

エベレスト(山) ［Everest］ インドの北東部，ネパールとチベットとの国境をほぼ東西方向に弧を描いて走るヒマラヤ山脈中にある世界最高峰。チベット語でチョモルンマといい，中国では1952年以来ヨモル



エベレスト 中央左奥が世界の最高峰エベレスト(8,848m)。右はヌプツェ(7,897m)で，その間を雄大なクーンブ氷河が流れ出ている

ンマ(珠穆朗瑪)とよんでいる。標高8,848 m。1849年インドの測量隊によって最初の測量(三角測量)がなされ，1855年に初代測量局長官となったイギリス人ジョージ-エベレストの名にちなんで命令された。頂上は変成を受けた二畳石炭紀石灰岩よりなり，山腹はジュラ紀の堆積物(たいせきぶつ)よりなる。頂上付近は東からカンシュン氷河，西からクーンブ氷河，北からロンブク氷河・東ロンブク氷河によって削られ，山容は典型的なピラミッド形をなしている。南側は7,986 mのサウスコル峰を経て，世界第4の高峰ローツェ(8,501 m)に連なる。エベレストを征服しようという試みは第1次世界大戦後イギリスに興った。イギリスは1921・1922・1924・1933・1935・1936・1938年の7回，北側のロンブク氷河より北東のリッジを経て，モンスーンの吹きはじめるまえにアタックした。そして1933年4月には空中写真測量を行ない，頂上の写真を撮影することに成功した。1951年にはクーンブ氷河側からモンスーン後にアタックした。1952年には春秋2回スイス隊が登頂を試み，春は8,600 m地点まで達することができた。1953年5月29日，第9次イギリス登山隊のヒラリー*と，ネパール山間部に住むシェルパのテンジンがついに頂上をきわめた。1921年にはじめて踏査されて以来，実に32年めに登頂が実現したのである。その後1956年にはスイス隊が，1960年には中国隊が，1963年にはアメリカ隊が，1965年にはインド隊がそれぞれ頂上をきわめている。〔大石堪山〕

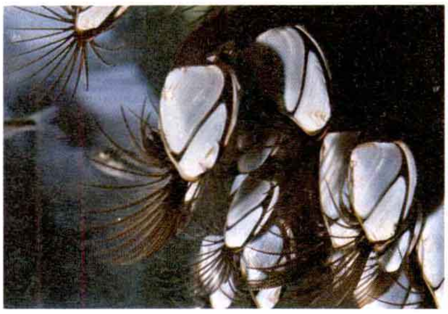
日本隊員の登頂は1969年(昭和44)の藤田隊・宮下隊の試登につづいて，1970年に松方三郎隊長一行によって南東稜(8,848 m)の初登頂に成功した。また1975年5月日本女子登山隊がエベレストに挑戦，田部井淳子登攀(はん)隊長(一行15名の隊長は久野英子)が女性として初登頂に成功した。

えほう【恵方】兄方・吉方とも書き，〈あきのかた〉ともいう。中国伝来の十干十二支*の思想に由来する。干支(えと)の組み合わせで，年月日の吉凶を定めているが，その中で幸運をもたらすとされる方位がこれである。日本各地には，歳神*が恵方から来るとされる俗信があり，家ではその方角に向けて神だなをつくり，供物を供えて年の吉祥を祈る。あるいは，その方角にある神社・仏閣に参拝して利福を受けようとする(恵方参り)。恵方は年によって違い，地方によっても差異が認められる。東北地方で年の暮れに，最後の雷が鳴った山の方位を吉方とする俗信があるのは，そのよい例である。〔紙谷威広〕

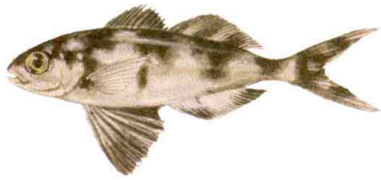
エポキシじゅし【エポキシ樹脂】エポキシ基($-\underbrace{\mathrm{CH}-\mathrm{CH_2}}_{\mathrm{O}}$)を有する化合物と二価フェノールとの反応から得られる熱硬化性樹脂。含エポキシ化合物としてはエピクロルヒドリンが用いられ，フェノールにはビスフェノールAか，またはフェノールとホル



烏帽子



エボシガイ



エボシダイ



エボシドリ

ムアルデヒドとの初期縮合物，あるいは脂肪族環式化合物のビスフェノール誘導体などが用いられる。用いたフェノール化合物の種類により，ビスフェノール型・ノボラック型・脂環型エポキシ樹脂と，それぞれよばれる。エポキシ基と水酸基の重付加反応で高分子化合物ができるが，加工時に，これにアミン類・有機酸などを加えると架橋反応が起こって硬化する。この硬化反応は付加反応なので揮発性物質が副生することがなく，したがって容積変化が少ないのが特長である。その他，機械的強度・接着性・耐薬品性・電気的性質がすぐれているため，塗料・表面処理剤・接着剤としてその利用は急速に広まっている。また，建築・土木関係でもコンクリートブロックの接着など，しだいに利用が高まっている。→プラスチック〔伊藤　卓〕

エポケー[epochē] 古代ギリシアの懐疑論*の基本用語で，〈判断中止〉と訳される。懐疑派によれば，すべてのものは各人各様に現われるままにあり，事物の実在や真理はわからないから，いっさいの判断を差し控えるべきである。このように真偽・善悪・正邪の断定を差し控える〈エポケー〉こそ賢者にふさわしい理想の実践的態度であり，アタラクシア(心の平安)に達する唯一の道とされた。これはのちに，デカルトの方法的懐疑，フッサールの現象学の方法として取り入れられた。〔本橋正義〕

えぼし【烏帽子】参朝の正服に用いられた冠*に対し，公家(くげ)の家居の正服に用いられたかぶりもの。はじめは黒い紗絹(しゃけん)でつくられた柔らかなものであったが，平安時代末期に強装束*(こわしょうぞく)が用いられるようになってからは紙でつくり，漆で塗り固められ，また掛け緒をあごにかけて結ぶようになった。立烏帽子が本来の形であり，室町時代からは五位以上が着用，その上部が折れた形の風折(かざおれ)烏帽子は六位以下の着用と定められた。また，上部をいくつにも折った形の侍烏帽子などもできた。表面に型押しをして凹凸(おうとつ)をつけたものを錆(さび)烏帽子という。〔稲垣史生〕

えぼしおや【烏帽子親】中世の武士社会において，子どもが成年となる元服式のとき，子どもに烏帽子をかぶせて仮親となる者。仮親は有力者に頼むのが普通である。このような慣習は民間にも伝えられ，烏帽子親のことを〈よぼしおや〉，かぶせられる子どものことを〈よぼしご〉〈ゆぶしこども〉などとよんでいる地方もある。これを長男あるいは相続者のみに行なう地方も少なくない。→成年式

えぼしがい【烏帽子貝】節足動物・甲殻(こうかく)綱・蔓脚(まんきゃく)亜綱の動物で，貝類ではなく，カメノテ*やフジツボ*の仲間である。灰色の長い柄の先に，白い殻(から)におおわれて本体がついている。この白い殻は一見，二枚貝のように見えるが，大小5枚もあり，そのすきまからむち状の細い足が何本も出てくるので，貝ではないことがわかる。流木・船底などに柄の先でしっかりくっついて暮らす。全世界に分布する。

えぼしくらげ【烏帽子水母】腔腸(こうちょう)動物・ヒドロ虫類・エボシクラゲ科。ポリプ*は群体となって，カニ・貝などに付着する。クラゲ*は，名のようにえぼし状で，かさは高さ1 cm，幅6 mmほど。春，太平洋岸でみられる。

えぼしだい【烏帽子鯛】硬骨魚類・エボシダイ科。15cmほどになる海産魚。アジのような普通の魚とあまり違わぬ姿だが，夏の海水浴場できらわれるカツオノエボシ*といつもいっしょにいることで有名。体色

は，銀色の地に不規則な藍(あい)色をつけ，背側はほとんど藍一色である。この藍色は，カツオノエボシの色と同じである。世界じゅうの暖かい外洋にいる。台風のあと，カツオノエボシといっしょに岸べに寄せられていることがある。

えぼしどり【烏帽子鳥】 鳥類・ホトトギス目・エボシドリ科の総称。ハトよりやや大きく，尾が長くて冠羽をもつ。サハラ砂漠(さばく)以南のアフリカにのみ分布し，約20種からなる。果実を主食とし，樹上性だが飛力は弱く，おもに枝に沿って走ったりはねたりする。羽色は光沢のある緑・青・紫・茶色などで，美しいものが多い。翼を広げると大きな深紅の斑紋(はんもん)があるが，この深紅の色素は動物界全体を通じてエボシドリにしかない特殊なものとして有名である。〔浦本昌紀〕

エボナイト［ebonite］ ゴムを高度に加硫したもの。硬質ゴムともいう。ゴム弾性に富んだ，いわゆる軟質ゴムの場合には，生ゴムに対して5％前後のイオウで加硫されるのに対して，エボナイトの場合は30～50％のイオウを用いて長時間加硫される。純粋のものは黒色の弾性ある角質物だが，実用されるものはこれに充塡(じゅうてん)剤が加えられるので外見は異なる。エボナイトの歴史は比較的古く，19世紀中ごろから製品化されている。強度・電気絶縁性・化学的安定性・加工性などにすぐれた利点を生かして電気器具などに広く用いられたが，最近では，種々の物性面でよりすぐれたプラスチックが開発されているので，しだいにその応用範囲が縮小されている。なお，軟質ゴムに充塡剤を加えてかたくさせたものも硬質ゴムといわれるので，それと区別する意味で特にエボナイトということばが使われることがある。〔伊藤　卓〕

エホバ ⇨ヤーウェ

えぼや【柄海鞘】 原索動物・尾索綱の動物。長い柄の先にホヤ*がついたような形で，体は7cm，柄を含めて10cmほどになる。柄の先で船底や貝類の養殖いかだに付着して業者にきらわれる。日本海を取り巻く沿岸地方全域，日本の太平洋岸全域に分布し，さらに，イングランド地方南部などにも移住し，定着している。

エボリュート ⇨伸開線

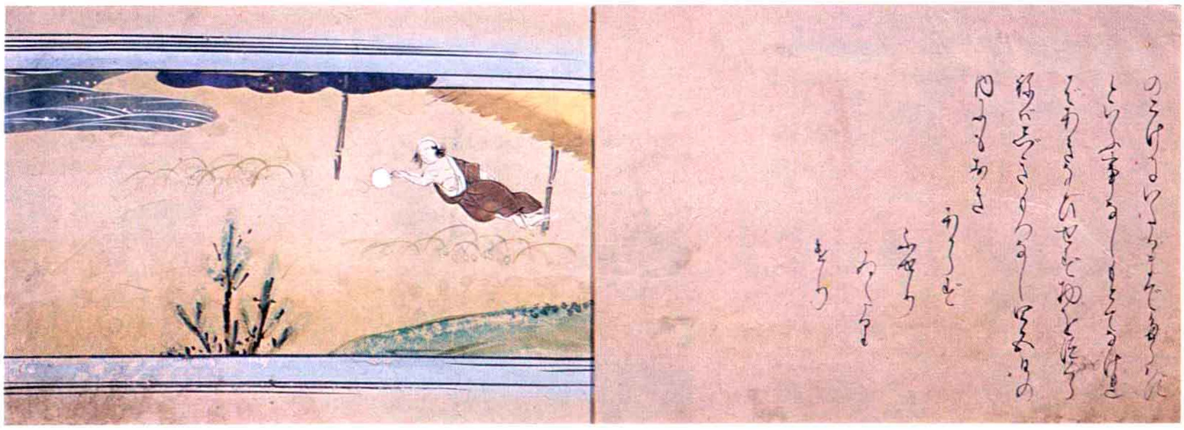
えほん【絵本】 一般には絵による表現を主とした書物をさし，大別して絵によって物語などの展開される形式と，文章による物語などに絵が添えられる形式の2種がある。また，それを享受する対象層からいえば，本来的には成人の鑑賞すべき対象としても十分に成立しうるし，また現実的にも存在してはいるが，今日にあっては，まだ十分に文章を読むことのできない幼児・児童のための文学形式あるいは書物形態として評価されるようになった。

［世界の絵本］中世以前，羊皮紙などを材料としてつくられた絵・図を挿入(そうにゅう)した写本類が祖型であろうと思われるが，一般に最初の絵入り本と見なされているのは，イギリスで最初に活字印刷を行なったウィリアム-カクストン出版の《イソップ物語》(1484)である。しかし，子どものための絵入り本を積極的に出版したのは，18世紀中期のジョン-ニューベリーであり，チャップ-ブックとよばれる行商用の200余種の廉価本を出版している。ただし，これは子どもの立場に立ってつくられているとはいえず，芸術的にもさほど高められているとはいいがたかった。これらの欠点を克服し，子どもの興味性や理解度などが顧慮されるようになるのは，19世紀の中期以後で，ドイツの精神科医で絵も描いたハインリヒ-ホフマン(1809～1894)の《もじゃもじゃペーター》(1845)が嚆矢(こうし)とされる。この刊行は，アンデルセン*の第1童話集《子どものための童話集》から10年後であり，アンデルセンを



エボヤ

絵　本









(上)奈良絵本《おたかのほんち》(物草太郎，江戸時代写)大東急記念文庫蔵
(下左)ホフマン《もじゃもじゃペーター》
(下中)バートン《ちいさなおうち》
(下右)赤本《花さきちぢい》 大東急記念文庫蔵

ささえたと同じ近代的児童観が，絵本にも作用していたといえよう。19世紀の後半になると，ドイツにみずからのくふうになるオフセット印刷で処女作《花の童話》そのほかを製作したエルンスト-クライドルフ，フランスに歴史画を得意としたブウテ-ド-モンベル，そしてイギリスには現在〈コールデコット絵本賞〉にその名を残しているランドルフ-コールデコット(1846～1886)をはじめ，ケイト-グリンナウェイ・ウォルター-クレーン，《ピーターうさぎ》でわが国の子どもにも親しいビアトリックス-ポッター，《ちびくろサンボ》で有名な絵本作家ヘレン-バンナーマンらの登場がある。20世紀にはいると，絵本は幼児に最も適切な文学として重視されるようになる。1930年代には，フランスに《ぞうさんババール》のジャン-ド-ブリュノフ，イギリスに《チムとゆうかんな船長》のエドワード-アーディゾーニが現われ，第2次世界大戦の前後にはアメリカにおいてバージニア-リー-バートン・ワンダ-ガグらが活躍した。現在にあっては，各国に世界的な絵本作家が生まれ，その作品が互いに翻訳され，出版されて刺激し合っている。また，オランダのディック-ブルーナの〈子どものはじめてであう絵本〉のように，乳児向けの物語絵本が試みられるようになった。

〔日本の絵本〕 わが国における絵本の源流は，平安中期に成立した絵巻物*にあるともいえる。わが国には，遠く奈良時代から中国の文物が招来され，その中に少なからぬ数の絵入り本があったが，平安時代の国風文化の成立とともに，《源氏物語絵巻*》などを代表作とする絵巻形式が成立した。これが最盛期の鎌倉時代を経て室町時代に至ると，それまでの巻き物形式が書冊形式に取って代わり，絵巻も絵入り本の形をとるようになった。この絵本は，主として奈良の仏僧などが製作に携わったところから，古くは〈奈良法師絵〉とよばれ，近年は〈奈良絵本〉と総称されている。その内容は，《はちかづき》《ぶんしやう》《浦島太郎物語》など当時のいわゆる御伽(おとぎ)草子*を鳥の子紙などに能筆で書いて極彩色のさし絵を入れたもので，その絵は多く土佐絵ふうのもの，そして読者は主として上流の婦女であった。江戸初期の慶長年間(1596～1614)には木版による書物の複数製作が可能となり，元和(げんな)・寛永期(1615～1643)以降は絵入り本の出版が盛んに行なわれ，〈草双紙〉または〈絵双紙〉と総称され，表紙の色によって赤本*・黒本*・青本*・黄表紙*・合巻*の別があり，黒本・青本・黄表紙・合巻はしだいに成人を主とした読者対象とする傾向をおびていったが，赤本は幼い子どもを読者とする方向を変えず，《桃太郎》《猿蟹合戦(さるかにかっせん)》《文福茶釜(ぶんぶくちゃがま)》などの昔話・伝説の絵説きを中心とした。

明治維新によって近代的な思想・文物が興ると，子どものための文学にも新たな曙光(しょこう)が訪れた。そして，明治期の巌谷小波*(いわやさざなみ)や大正期の鈴木三重吉*らの努力によって近代的な児童文学が成立するが，しかし幼児を読者とする絵本にあっては，江戸時代のそれとさほど変わらない赤本絵本がその主流であった。ようやく大正後期になって，絵雑誌〈コドモノクニ〉や〈キンダーブック〉が創刊され，武井(たけい)武雄・初山滋(しげる)・清水良雄(しみずよしお)・岡本帰一・川上四郎らによって童心主義的な〈童画〉が誕生，昭和10年代に至って〈講談社の絵本〉シリーズが刊行されて大衆的絵本に一時期を画したが，これらはいずれも幼児の心性や興味を科学的に把握(はあく)してはいなかった。科学的に解明・把握された幼児観に立って，幼児にとって真におもしろく，しかも芸術的にもすぐれた絵本がつくられるようになったのは，第2次世界大戦後であったといわなくてはならない。すなわち，1953年(昭和28)から世界の傑作絵本の翻訳シリーズ〈岩波子どもの本〉が刊行されはじめたが，これらに学んでわが国にも，ようやく本格的な幼児のための絵本が出現した。現在では児童文学者・画家・イラストレーターが絵本づくりに関心を燃やし，外国に翻訳される作品も少なくない。

〔絵本の種類〕 子どものための絵本は，その内容や傾向によっていくつかの種類に分けられる。第1は〈物語絵本〉で，空想的なものであるにせよリアルなものであるにせよ一貫したストーリーの展開を中心としたもの，第2は〈知識絵本〉であって，幼い子どもにその必要とする諸知識を教えることを目的としたものである。前者は，バンナーマン《ちびくろサンボ》やグリムの文にフェリックス-ホフマンが絵をつけた《ねむりひめ》のごときをさし，後者は単に動物・乗り物・草花などを描いたのみの幼稚なものから，バージニア-リー-バートンの《ちいさなおうち》や《せいめいのれきし》のようにドラマを内包したものまである。第3として〈伝記絵本〉があげられるが，これは物語絵本と知識絵本の中間に位置するといえよう。乳児ともいえるような発達段階にある幼児には，単純な知識絵本がふさわしく，それより成長すると物語絵本が可能になり，さらに精神的に発達すると，物語を内包した知識絵本や伝記絵本の享受が可能になる。

〔上笙一郎〕



絵本太功記〈尼ケ崎〉の場 光秀(歌舞伎の舞台より)

エーボン ［Avon Products Inc.］ 世界最大の化粧品専門メーカー。小売店を通さず，販売代理人による家庭訪問販売をするのが特徴。カナダ・中南アメリカ・ヨーロッパにも生産販売網をもつ。このうちスペインだけは合弁会社であるが，他はすべて子会社で，従業員は現地人を使っている。販売のセールスマンは〈エーボン代理人〉とよばれ，地域ごとにこれを統轄する現地管理者に大きな責任と権限が与えられている。市場ではイギリスと西ドイツが第1位で，そのほかフランス・中南アメリカ・オーストラリアにも進出している。創業1916年。本社ニューヨーク，年間売上高6億6,000万ドル，従業員数約20,000(1969)。〔氏家 尚〕

えほんたいこうき 【絵本太功記】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。13段の時代物*で近松柳・近松湖水軒・近松千葉軒3人の合作。1799年(寛政11)豊竹(とよたけ)座初演。おもに読本の《絵本太閤記(たいこうき)》の筋を脚色し，13日にわたる明智光秀(あけちみつひで)(ここでは武智(たけち)光秀)の謀叛(むほん)を1日1段にしくんであるが，中心は10段目の〈尼ケ崎〉の場面で，俗に〈太十〉とよばれる。歌舞伎(かぶき)では《恵方太功記》として1800年大阪角(かど)の芝居が初演。〔前田慎一〕

えま 【絵馬】 祈願またはお礼の目的で社寺に奉納する板絵。ウマの絵を描くのが本格であるが，神の乗るウマを奉納する代わりに絵馬を納めたという起源説は，絵馬という語が固定してからの合理的解釈であろう。ウマの絵は，家畜のウマの安全を祈る農家が馬頭観音などに奉納し，廐(うまや)や



絵　馬　(左)京都府伏見稲荷神社の絵馬　(中)馬小屋の中の絵馬(岩手県)　(右)茨城県笠間稲荷神社の絵馬祭。神馬の代わりにサカキに結んだ絵馬を燃やして神前に奉る

門口に掲げ，また初午(はつうま)にもあげる習俗がある。絵馬の絵がらには，一般にウマはむしろ少ない。男・女・親子がひざをつき合掌して祈る姿には願主の男女別や姓名・年齢などがしるされてあるだけで，願いの筋は不明なものが多い。しかし，目・手足の絵や〈め〉の文字をしるしたものは，病気平癒(へいゆ)という祈願の目的を直接に訴えている。その他キツネ・ヘビ・ニワトリ・魚などを描いた絵馬も多い。天神にウシ，弁天にヘビ，稲荷(いなり)にキツネなどは，それぞれの神仏の使徒と考えられているための図がらである。いずれも絵馬屋とよばれる専門の画工の製作によるものが多く，祈願がかなえられたお礼の絵馬には〈諸願成就〉の文字がしるされる。〔今野円助〕

えまきもの【絵巻物】⇨次ページ

エマソン［Ralph Waldo Emerson］(1803〜1882) アメリカの思想家・文学者・詩人。ユニテリアン派ボストン第2教会牧師を辞任後，ヨーロッパに遊び，その思想文化を摂取して，帰国後《自然論》《アメリカの学者》《神学部講演》によって神秘的な超絶主義を唱えた。新プラトン主義，東洋の宗教，スウェーデンボルイ*などに影響されたが，その思想はピューリタン的なロマン主義で，その基本的理念は，大霊・償い・自己信頼や実在の霊性，多様性の中の統一を強調した。なお，すぐれた形而上詩(けいじじょうし)も書いている。➔コンコード-グループ〔綿川　羔〕

えまなかし【江馬修】(1889〜1975) 小説家。岐阜県の生まれ。田山花袋の書生として出発，《早稲田文学》に明治44年短篇を発表。白樺派の武者小路實篤*，千家元麿*らに親しみ，人道主義的傾向の長篇《受難者》を刊行，話題を集めた。後，社会主義作家として《戦旗*》などに活躍，第2次世界大戦後，明治維新の側面をとらえた歴史小説《山の民》を完成した。

エマナチオン［Emanation］エマネーションともいう。一般に放射性希ガス元素の総称。天然にはラドンの同位体*である ^{222}Rn(ラドン)・^{220}Rn(トロン)・^{219}Rn(アクチノン)がある。そのほか人工的につくられたアルゴン・クリプトンなどの同位体も存在する。

エマルジョン［emulsion］液体の中に不溶性の他の液体が微細な液滴として分散している系。乳濁液ともいう。成分の一つは水の場合が多く，他の成分は油または親油性液体が多い。クリーム・ゴムラテックスなどがその例。分散している液滴の直径は1〜50μと他のコロイド*に比べて大きく，分散しているものの成分比も大きく，クリームでは15〜20%の脂肪が水中に分散している。製法には分散法と凝縮法があるが，安定したエマルジョンを得るにはいずれも乳化剤を加える。乳化剤は1分子中に大きな親油基と極性基をもち，油滴に保護層をつくって互いに凝集することを防止する作用をするもので，せっけんや界面活性剤がそのすぐれたものである。〔水野俊彦〕



エミュー

エマルジョンとりょう【エマルジョン塗料】一般に水に不溶の樹脂・乾性油あるいはワニスを水中に分散させた乳濁液を主ビヒクル(展色剤)とし，これに顔料を分散させた塗料。今日多量に使用されているものは，酢酸ビニル系樹脂・スチレン-ブタジエン系樹脂，およびアクリル系樹脂の乳化重合体を主ビヒクルとしたものである。エマルジョン塗料は引火の危険がなく，水の添加で粘度が自由に調節でき，常温乾燥性で塗膜は耐アルカリ性にすぐれているので，室内塗装，特に壁用塗料として好適で，家庭用塗料としても広く使用されている。〔鈴木荘司〕

えみ【江見】⇨鴨川(かもがわ)市

エミグレ［émigré］〈亡命者〉という意味のフランス語で，歴史上ではフランス革命中に大量に国外逃亡を行なった王族・貴族をさす。彼らはオーストリアをはじめとする反動的君主国と結んで策動し，国外からフランス革命の打倒を企てたが成功しなかった。しかし，1794年のテルミドールの反動*以後，革命と逆行する情勢に乗じて一部帰国し，王政復活の陰謀を続けた。亡命者があいついで帰国するのは1814年王政復古ののちである。〔大野真一郎〕

エーミス［Kingsley Amis］(1922〜) イギリスの小説家。大学で英文学の講師をつとめるかたわら，詩・小説・批評の分野で活躍。1954年ピカレスク小説*ふうの長編《ラッキー-ジム*》でデビュー。社会の古い秩序や欺瞞(ぎまん)に対する痛烈な風刺性によって，〈怒れる若者たち*〉の代表的な作家とみなされる。ほかに小説《あの曖昧(あいまい)な気分》《お似合いの娘》《反死同盟》や詩集などがある。

えみすいいん【江見水蔭】(1869〜1934) 小説家。本名忠功(ただかつ)。別号を怒濤庵(どとうあん)，水蔭亭雨外，角燈子，落水子，半翠隠士などと号した。岡山市壱番町の生まれ。明治14年軍人を志して上京，杉浦重剛*の私塾〈稱好塾〉に入り，巌谷小波(さざなみ)，大町桂月*らを知って文学に親しみ，小波の紹介で硯友社*(けんゆうしゃ)の同人となった。明治25年田山花袋*と江水社をおこし，雑誌《小櫻緘(こざくらおどし)》を創刊，創作活動に入った。《旅画師(たびえし)》《女房殺し》など詩情と苦悩に満ちた作品を書いたが，のち探偵小説，山窩小説を手がけた。

エミッタ ⇨トランジスター

エミネスク［Mihail Eminescu］(1850〜1889) ルーマニアの国民詩人。青年時代ベルリン・ウィーンに遊学し，哲学を専攻した。帰国後は職業を転々としながら，貧窮の中で詩作を続けたが，失意と過労の極に発狂し，廃人として生涯(しょうがい)を終えた。代表作《第三書簡》《グロサ》《カリン》《金星》などには，自然美と人間本能の賛美，東洋的な虚無感，退廃した社会に対する憤り，孤高の天才の悲しみなどがルーマニア語の美しさを最高度に駆使した詩形式によって表現されている。〔直野　敦〕

えみのおしかつ【恵美押勝】⇨藤原仲麻呂(なかまろ)

エミュー［emu］鳥類・エミュー科。この科に属する唯一の鳥で，飛ぶことができない走鳥である。ダチョウに似た鳥で，オーストラリア大陸に広く分布し，ダチョウよりやや小さく，高さ160cmほど，体重40〜50kg。あしゆびはダチョウの2本に対し，3本である。主として植物食。羽色はじみな黒かっ色。

エミール ルソー*の，小説の形式をとった教育論(1762)。孤児の主人公エミールの年齢に対応して5部に分かれており，幼年期から青年期に至るまでの教育方法の理想が語られる。著者独特の自然性善説が基調となって，書物による教育は極力排され，子どもはいなかの自然の中で伸びやかにはぐくまれねばならないとしている。

エムアイエス［MIS］⇨経営情報システム

エムアールエー［MRA］Moral Re-armamentの略称。道徳再武装と訳される。キリスト教精神に立つ社会的・政治的世界革新の運動。第1次世界大戦後，アメリカの宗教家ブックマンの提唱に始まり，キリスト教的・民主的思想によって階級闘争・人種憎悪(ぞうお)を克服して個人および世界の平和を実現することを主張し，はじめブックマン主義として知られていた。その後ブックマンはオックスフォード大学教授となり，大学を中心として正直・無私・純潔・愛を信条とする宗教的覚醒(かくせい)運動を起こした。これをオックスフォード-グループ運動という。

1938年，MRAと改称，第2次世界大戦後はスイスに本部を置き，多数の指導的政治家の参加を得て活発に運動している。〔中川　誠〕

エムアールビーエム［MRBM］Medium Range Ballistic Missileの略称。中距離弾道ミサイルのこと。射程1,000〜2,000km前後で，アメリカのレッドストーン・メースB，ソ連のT-1など。

絵　巻　物

わが国で上代および中世に盛行した，説話・物語・伝記・寺社縁起や神仏の霊験などを描いた巻き物の総称。普通は，内容を書いた詞書(ことばがき)(文章)と絵が段落をつけて，交互に組み合って展開する方法がとられている。

もともと巻き物は書物の装丁の一つで，これに絵を挿入(そうにゅう)すれば自然に絵巻の形になる。絵巻の形式がわが国にいつ伝来したかは明らかでないが，奈良時代には中国のものを写して絵因果経(→過去現在因果経絵巻)が製作されており，現存している。絵巻物は，その草創期には中国の絵巻(画巻・図巻)にならって，仏典関係や中国の故事・文学に題材をとっていたが，平安時代の中期になって，文化の国風化が進むようになると，わが国の説話や物語に取材したものがつくられて，絵巻は日本独自の展開を示した。

特に宮廷子女の間で物語が愛読され，これが盛行すると，物語に絵を添えて鑑賞することが流行した。物語絵・絵物語とよばれるものである。《源氏物語絵合(えあわせ)》はその盛況を伝えている。現在，徳川美術館(43面)と五島美術館(13面)に蔵される《源氏物語絵巻*》は12世紀前半の製作になるが，王朝の物語絵のあるべき姿を伝えている。そこに描きだされた貴族の男女は，いずれも〈引目鈎鼻*(ひきめかぎばな)〉という象徴的な面貌(めんぼう)で表わされ，四季の情景を取り入れて，きわめて情趣的に描出されている。物語に示された哀感やあわれの美を絵画的に表現するものである。このほか大和(やまと)文華館所蔵の《寝覚(ねざめ)物語絵巻》(《夜の寝覚*》に取材したもの)も12世紀後半の製作であるが，これはややはなやかな装飾性があって，みやびを志向した王朝人の感情がうかがわれる。これらの画面は，一つの場面ごとに段落がついており，濃厚な色彩で余白を残さずに塗り込まれ，当時は作り絵とよばれていた。また，静かで情趣本位で，女性のための絵であるところから女絵ともよばれていた。

この物語絵の宮廷子女の間への流行に対して，仏教説話や民間説話に対する世人の興味が高まった平安末期になると，諸種の説話集の編集と並行して，説話絵巻の製作が盛んになった。《信貴山(しぎさん)縁起*》《粉河寺(こかわでら)縁起*》《伴大納言絵詞*》《吉備大臣入唐(きびだいじんにっとう)絵詞*》などは12世紀後半の遺品である。これらの絵巻は物語絵とは対照的に描線本位となり，時間の経過を巧みに表わし，長大な画面に数場面を連続描写するところに特色がある。また，躍動する人物を暢達(ちょうたつ)した運筆によって動的に表現し，そのデッサンはきわめて的確であり，添えられている詞書よりもむしろ画面自体がもつ説話性によって，内容がいっそう豊かに語りかけてくる。

これら文学的内容の絵巻のほかに，文献の上で《後三年合戦(かっせん)絵詞*》が存在したことが確かめられている。また，宮廷・公家(くげ)の年中行事を描いたものがあり，江戸期の模本《年中行事絵巻*》が現存する。これは横長な画面に行事のようすをパノラマ的に描いている。さらに，平安末期から鎌倉初期にかけて描かれた《鳥獣戯画*》は年中行事絵の一変形とも，風刺画ともみられる墨一色の絵巻で，その表現力と描写力はすぐれている。

一方，経典絵巻としては，奈良時代の絵因果経の流れをくんで，平安時代にも絵因果経が製作され，前期と後期の遺品が残っている。また，《華厳経(けごんきょう)》に基づいた《善財童子絵巻》，浄土教関係の《地獄草紙*》《餓鬼(がき)草紙*》《病草紙(やまいのそうし)》が伝存しており，平安末期には，文学関係の絵巻に加えて宗教関係の絵巻の製作が盛んに行なわれたことがわかる。

鎌倉時代の絵巻は，内容・形式とも前代の絵巻がさらに発展したものであるが，作風や技法の上に新しい方法がみられる。画法からは古典的な作り絵系統のもの，線描を主としたものもあるが，さらに両者を融合したもの，似絵(にせえ)(大和絵肖像画)の技法を用いたもの，さらに宋画(そうが)様式を用いたものなど，種々の要因を含んで，きわめて多彩な様相を呈し，また題材も多様で数量的にも多く，まさに絵巻の黄金時代というにふさわしい高揚期を迎えた。また，これらの絵巻を享受した人々も，前代の支配者層から一般大衆へと拡大され，広く普及されるに至った。

この時代の絵巻を題材的に分類して主要遺品をあげると，物語絵巻は《紫式部日記絵巻*》，《葉月物語絵巻》(本来は逸名の絵巻であるが，巻頭の詞から称されている)，《住吉(すみよし)物語絵巻》(《住吉物語*》に取材し，奈良絵本(→絵本)もある)，《狭衣(さごろも)物語絵巻》(《狭衣物語*》に取材)，《なよ竹物語絵巻》(《鳴門(なると)中将物語》によっているが，中将の妻奈与竹の名から出た物語の別名)，《駒競(こまくらべ)行幸絵巻》(《栄花物語*》駒競の段を描く)《西行物語絵巻*》《枕草子(まくらのそうし)絵巻*》，《豊明絵(とよのあかりえ)草紙》(逸名の絵

エムエイチディーはつでん　【MHD発電】⇨直接発電

エムエスティーエス　［MSTS］ Military Sea Transport Serviceの略称。アメリカの海上軍事輸送部。国防省が認めた人員・資材の海上輸送を行なう。軍隊輸送船・貨物船・給油船を含み，正規または特別航路上を進行させる。MSTSの運営統制は海軍長官に委任されている。

エムケーエスエーたんいけい　【MKSA単位系】 MKS単位系*の基本単位に，電流の単位アンペア(A)を加えた単位系。国際的に用いられている実用単位であり，絶対単位系*である。➔電磁気単位系

エムケーエスたんいけい　【MKS単位系】長さの単位にメートル(m)，質量の単位にキログラム(kg)，時間の単位に秒(s)を基本単位として用いる単位系。これらの基本単位を組み合わせることによって，いろいろな単位をつくることができる。たとえば，速さ*は単位時間内の物体の移動距離で示されるから，1秒間に1mを移動する速さ1m/秒が速さの単位となる。同じように，加速度*の単位は1m/秒²，力*の単位は1kg・m/秒²(＝1ニュートン)などとなる。これらの誘導単位もやはりMKS単位系である。

MKS単位系の単位はわれわれの生活に手ごろで測定しやすい大きさであるから，これを用いることが多い。実用単位とよばれるのもそういう意味からである。なお，MKS単位系は，仕事の単位から電気関係の単位とも関連づけられ，アンペア(A)・ボルト(V)・オーム(Ω)・クーロン(C)などを誘導することができる。なお，この単位系に電流の単位アンペアを基本単位として加えたものをMKSA単位系*とよんでいる。➔単位　〔今淳治郎〕

エムケーこう　【MK鋼】 1932年(昭和7)東京大学教授の三島徳七が発明した強力な磁石鋼。鉄・ニッケル・アルミニウムを主成分とし，コバルト・チタンなどを添加したもので，磁性の強さはアメリカのアルニコと同等のものである。当時最高であったKS鋼*に比べて，保磁力は約3倍，比重は約20%小さく，当初はコバルトのような高価な原料が少なくてすんだため安価につくられた。スピーカー・マイクロフォン・電気計器など多くの電気機器に使われている。〔長谷川正義〕

エムさんじゅういちせいうん　【M31星雲】 ⇨アンドロメダ星雲

エムシーピー　［MCP］ メチルクロロフェノキシ酢酸(2-methyl-4-chlorophenoxy acetic acid)の略称で，そのナトリウム塩・カリ塩・エステルなどがある。ホルモン型除草剤の一種で，わが国では主としてコナギ・オモダカ・アゼムシロなど広葉雑草を防除するために用いられる。除草の機構は2，4-D*に似て，イネ科植物にはほとんど無害だが，広葉植物には選択的な除草力を示す。低温下でも除草効果が十分認められるので，冷涼な地方にもよく普及している。〔深谷昌次〕

巻であり，巻頭の語から称されている)，《隆房卿艶詞(たかふさきょうつやことば)絵巻》(藤原隆房が美女との悲恋をうたった《艶詞》に題をとって，象徴的に絵画化している)で，《枕草子絵巻》以下は色彩を口唇(こうしん)に用いる程度の墨一色の線描で白描絵巻と称されている様式である。

歌仙(かせん)・歌合絵巻は《三十六歌仙絵巻*》《釈教三十六歌仙絵巻》《時代不同歌合》《東北院職人尽歌合絵巻》《伊勢(いせ)新名所歌合絵巻》などで，このうち《伊勢新名所歌合絵巻》は歌枕*となる名所絵が描かれ，その他は読み人の画像に詠歌を添えた形式をとっている。

説話絵巻は《当麻曼荼羅(たいままんだら)縁起》(当麻寺*に伝わる阿弥陀(あみだ)浄土変相図に関して描く)をはじめ，各種の地蔵縁起・地蔵霊験記，《不動利益(りやく)縁起》，《天狗(てんぐ)草紙》(7巻，京都・奈良諸大寺の僧侶(そうりょ)の慢心や争論を天狗にたとえて風刺している)，《小野雪見御幸絵巻》，《直幹申文(なおもともうしぶみ)絵巻》，《長谷雄卿(はせおきょう)草紙》(平安初期の文人紀長谷雄が鬼と双六(すごろく)の勝負をして勝ち，美女を与えられる。しかし，100日間手を触れぬ約束を破ると，美女は水となって流れてしまうという物語による)，《絵師草紙》(現実に即して貧しい絵師の生活を描く)，《男衾(おぶすま)三郎絵詞*》，《大江山絵巻》《土蜘蛛(つちぐも)草紙》があり，さらに《稚児(ちご)草紙》《稚児観音縁起》《秋夜長(あきのよなが)物語絵巻》《足引絵巻》など，末期からは御伽(おとぎ)草子的内容の絵巻がつくられだした。

戦記絵巻は《前九年合戦絵巻》《後三年合戦絵詞*》《平治物語絵巻*》《蒙古(もうこ)襲来絵詞*》などがあり，記録・肖像絵巻は《随身庭騎絵巻》(平安末期から鎌倉初期へかけてのころ，上皇・貴族に付き従った武官9名と8頭の騎馬を描く)，《中殿御会図巻》《公家列影図巻》《天子摂関大臣影図巻》《天皇摂関影図巻》《駿牛(しゅんぎゅう)絵巻》《馬医草紙》がある。

宗教絵巻のうち，仏典関係では《絵因果経》《法華経(ほけきょう)絵巻》《観音経(かんのんきょう)絵巻》《十二因縁絵巻》《往生要集絵巻》。社寺縁起は各種の《北野天神縁起*》《春日(かすが)権現験記*》《山王霊験記*》《箱根権現縁起》《石山寺縁起*》《因幡堂(いなばどう)縁起》。祖師・高僧絵伝のうち，《聖徳(しょうとく)太子絵伝*》《高祖大師(空海)絵伝》《法然上人(しょうにん)絵伝*》《親鸞(しんらん)上人絵伝*》《一遍上人絵伝*》など，わが国の祖師絵伝はそれぞれ数種の類本があり，さらに《華厳宗祖師絵伝》《東征絵伝》《玄奘(げんじょう)三蔵絵巻》《浄土五祖絵伝》など中国・朝鮮の祖師を主題とした絵巻がつくられた。これら社寺縁起・祖師絵伝は鎌倉時代絵巻のうちに最も盛行した題材である。

これらの鎌倉時代絵巻は，初期と末期とは様式的にも変化が認められるが，一般的にいって写実性と説明性が強く，絵の表現が叙事的に行なわれている。したがって，前代絵巻にみた引目鈎鼻式の面貌表現は，ごく一部を除いては行なわれなくなった。しかし，詞書に忠実になりすぎているので，画面自体がもつ説話性が希薄になっていることは否めない。その反面，種々の画風があって，相互に影響し合っているためか，きわめて多彩な様相を示している。しかし，作風や技法の上で最もはなやかなのは，《一遍上人絵伝》《春日権現験記》など13世紀末から14世紀初めにかけて製作された絵巻で，そのころを頂点に，平安時代以来の大和絵の伝統を継承した絵巻は衰え，新しい観照方式をもつ画面の絵巻に移り変わってゆく。

その意味で，鎌倉末期に引き続く南北朝*時代は日本絵巻史上，第2の転換期(第1の転換期は鎌倉初期)となった。当時の遺品には，伝統的な大和絵ふうの作品のほかに，絵画的には質が落ちるが，大衆的ともいうべき稚拙で無邪気な表現を示す作品が現われてくる。そして，この傾向は室町時代にはいると，いわゆる御伽草子や物語のさし絵などに著しくみられ，その中にはしろうとの絵もかなりあるようである。一方，伝統的なものにも変化がみられる。特にそこに描かれた人物は大きく取り扱われて，人間に関する興味が示され，物語・説話における役割とは別に，登場人物を風俗画的にとらえようとするところがある。この傾向は，室町時代には土佐派*につながる画家によって受け継がれ，宮廷や将軍家，大教団・大社寺などを背景に製作された。しかし，一般的には，室町時代になると絵巻に対する享受層はいっそう広まるが，その反面，大和絵流派の衰退も原因して，内容描写・技法的に低くなった。そして，巻き物の形から冊子の形に移り変わり，絵巻としての存在価値はまったく失われてゆくのである。

この時代の重要遺品に《白描源氏物語絵巻》《源氏物語歌合絵巻》《福富草紙*》《狐(きつね)草紙》《猫(ねこ)草紙》《十二類合戦絵巻》《百鬼夜行絵巻》《秀郷(ひでさと)草紙》《結城(ゆうき)合戦絵巻》《融通念仏縁起*》《八幡宮(はちまんぐう)縁起》《神功(じんぐう)皇后縁起》《星光寺縁起》《清水寺縁起》《桑実寺(くわのみでら)縁起》《当麻寺縁起》《清涼寺縁起》《道成寺縁起*》《長谷寺縁起》などがある。➔133ページ(写)

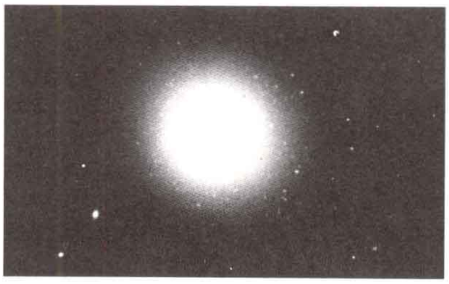
〔宮　次男〕

エムス(川)　[Ems]　西ドイツ北西部の川。ロタール高原北東部に源を発し，ウェストファーレンを経て北流し，エムデン付近で北海に注ぐ。全長371km。ドルトムント-エムス運河によってルール地方と連絡し，工業地帯・油田地帯を北海に結びつけている。

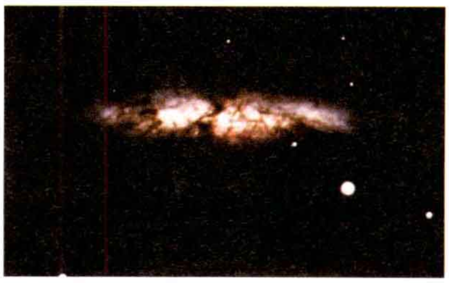
エムスでんぽうじけん　【エムス電報事件】　プロイセン-フランス(普仏)戦争*のきっかけとなった事件。1870年，スペイン王位継承問題についてプロイセン国王ウィルヘルム1世*とフランス大使ベネデッティの会談が王の保養地エムスで行なわれた。その際，その内容を報じた電報をビスマルク*が故意に書き替え，政府機関紙の号外として発行し，プロイセン国民の反フランス感情をあおって，プロイセン-フランス戦争をひき起こした。　〔松　俊夫〕

エムティーかん　【mT管】　⇨真空管

エムデン(海淵)　[Emden]　フィリピン海溝(かいこう)にある世界最深の海底の一。水深10,400m。1927年ドイツの軍艦エムデン号による音響測深で計測されたので，それを記念してこの名がつけられた。



M 87 星 雲



M 82 星 雲

エムはちじゅうななせいうん　【M87星雲】　おとめ座*にある代表的な楕円(だえん)星雲*。見かけの大きさは3′×3′，距離は4,000万光年。まわりには1,000個の球状星団*が観測されている。中心部より強い偏光を示す淡い光がジェット状に飛び出している。星雲全体のスペクトルはG5型で星雲としては正常なものであるが，ジェット状の部分は高速電子が磁場の中で放つシンクロトロン放射で発光し，中心核が爆発したなごりと考えられる。➔銀河系　〔磯部琇三〕

エムはちじゅうにせいうん　【M82星雲】　おおくま座*にある不規則型の銀河系外星雲*。見かけの大きさは7′×2′，距離は1,000万光年。中心部から10,000光年の所まで明るいガスのかたまりがジェット状に噴出している。核から外にいくほどガス塊の飛び出す速度が大きく，先端での速度は2,000km/秒

以上にも及んでいる。これは，星雲の中心部から太陽質量の5×10^{6}倍程度のガスのかたまりが150万年前に爆発によって飛び出したものと推測されている。また，この天体からくる光は強く偏光しているので，2×10^{-6}ガウスの磁場が存在していることがわかる。➔銀河系　〔磯部琇三〕

エムピー　［MP］　military policeの略称。アメリカ陸軍の憲兵。軍隊の保安・警備と軍規の取り締まりなどを任務とする。軍の占領地では行政警察活動が多いので，民衆との接触が多くなる。なお，アメリカ海軍憲兵はSP(shore patrol)，空軍憲兵はAP(air police)とよぶ。➔憲兵

エムビーエス　［MBS］　Mutual Broadcasting Systemの略称。ミューチュアル放送会社。NBC*・CBS*・ABC*とともにアメリカの四大ネットワークの一つで，ラジオだけの全国ネットワークである。1934年，シカゴ-トリビューンのWGN局と，ニューヨークにあるメーシー百貨店のWOR局とによって創設された。傘下(さんか)に510局の加盟局をもっているが直営局はもっていない。

エムユーツー　［MU-2］　ターボプロップ双発の多用途機。類型機の中では高速で，離着陸距離が短い特長をもっており，ビジネス機などとして，国内よりもむしろアメリカを主とする外国に多く輸出されている。三菱重工業の自社開発で，初飛行は1963年。

要　　　目	性　　　能
エンジン	ツルボメカ(フランス)アスタズIIK 562eshp*×2・またはエアリサーチ(アメリカ)TPE-331 605eshp×2
座席数	7
翼幅　(m)	11.95
全長　(m)	10.13
主翼面積　(m²)	16.55
自重　(kg)	2 626
全備重量　(kg)	4 500
最大速度　(km/時)	547
巡航速度　(km/時)	459
最小速度　(km/時)	132
離陸距離　(m)	518
着陸距離　(m)	402
航続距離　(km)	2 500

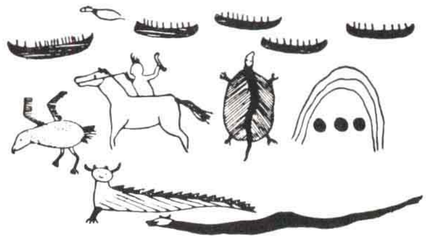
注）　*＝有効軸馬力

エメチン　［emetine］　トコン(吐根)などのアカネ科植物の根に含まれているアルカロイド*。医薬品としては塩酸エメチンを用いる。白色の結晶で苦く，アメーバ赤痢の特効薬。アメーバ肝炎・肝臓ジストマにも用いられるが毒性は強く，嘔吐(おうと)・下痢・血圧降下などが起こる。毒薬。

エメラルド　［emerald］　リョクチュウ



エメラルド　コロンビア産



絵文字　スペリオル湖岸岩上のインディアンの絵。湖を渡った探検を描いたもので，5そうのカヌーで51人が出かけ，先頭のカヌーの上の水鳥をトーテムとする酋長キシケムナシーに率いられ，天空にかかる日が三つ，つまり3日かかり，カメで示す幸運な上陸ののち，乗馬のように速く進んだ。隊員には，ワシのような勇気があり，力のヒョウと知恵のヘビに願がかけられた

石*のうち特に緑色透明で美しいものの宝石名。翠玉(すいぎょく)ともいう。BC2000年ごろから宝石として高い価値を有し，ダイヤモンドに次ぐ宝石の女王とされる。硬度・比重・屈折率などは普通のリョクチュウ石と変わりないが，色が美しく，透明で，傷のないものが宝石として賞用される。緑色はアルミニウムを置換した少量のクロムの存在に起因する。結晶はふつう六角柱状で，不完全な劈開*(へきかい)があるため底面に平行に割れやすい。美しい色のため，眼病によくきくとされ，また出産・てんかん・赤痢にききめがあり，また所有者の純潔を守るともいわれた。5月の誕生石で，無窮・清廉を表わす石として用いられる。コロンビアのアンデス山脈中のメゾー，ソ連のウラル地方が有名な二大産地で，このほかブラジル・オーストラリア・オーストリア・エジプト・南アフリカなどからも産する。アメリカでは200g以上のエメラルドが合成されており，最も良質のものは天然のものとほとんど見分けがつかない。➔宝石　〔加藤敏郎〕

エメラルドグリーン　［Emerald Green］　色名。エメラルドのような色。あざやかな緑色。普通のエメラルドの色よりもやや白っぽい緑色をいう場合もある。本来は人工顔料の名称であり，組成は酢酸銅と亜ヒ酸銅との複塩*である。毒性を伴うが，緑色顔料の中で最も鮮麗であり，耐久性が強い。花緑青(はなろくしょう)・シュワインフルト緑ともいう。日本工業規格(JIS)慣用色名〈エメラルドグリーン〉は，色相4.0G，明度6.0，彩度8.0と規定されている。➔色　〔武井邦彦〕

エメリー　［emery］　金剛砂または鑽石(さんせき)ともいわれている。コランダム*の不純なもの，アルミナにジテツ鉱・セキテツ鉱・セキエイなどの不純物が混じったもので，砂質になっている。そのままでも研摩剤として用いられるが，一般に紙・布に塗られて，研摩紙・研摩布として，また円形板状・箱形に固められて，グラインダーホイール・砥石(といし)として用いられている。

えもじ　【絵文字】　文字*以前の記録法の一。これの慣習的に固定した象形から原始の文字ができた。記録や通信に使う絵が，話に引き直されることを期して描かれたが，その中で固有名詞などを物を借りて示すことは，特に文字完成の契機をなした。沖縄の記帳用のカエダーズなどは，作物・家畜・数など限られた記号しかなかった。中国南方地域のモソ族の文字は，一部まだ話に翻案を必要とする文字でない部分もあるが，またことばの叙述に沿って，その成分に漏れなく対応することによって，真の文字と認められるものがある。　〔日下部文夫〕

えもん　【衣紋・衣文】

1 公家(くげ)の男子の装束の着装法。鎌倉初期，束帯*が儀式服化してのりをかたくつけて角張らせる強装束(こわしょうぞく)となると，それを形よく，着くずれしないようにつけるために衣紋・衣紋道という方法が生じ，高倉・山科(やましな)両衣紋家がこれを行なって江戸末期まで続いた。女子の公家装束には侍女があたった。なお，近世・近代には，小袖(こそで)のえりを正しく合わせて着ることを衣紋を繕うという。　〔堀越すみ〕

2 彫刻の着衣のひだを表わす線のことで，仏像の場合，顔面の表現とともに像の美しさを構成する要素となっている。国・民族・時代，石・木・金属・塑土・乾漆などの材質によってその表わし方も異なる。〔永井信一〕

えもん　【慧文】　中国，南北朝時代の僧。北斉の人。中国天台宗の初祖とされる。ナーガールジュナ*(龍樹)の《大智度論(だいちどろん)》の文と《中論》の4句の偈文(げもん)とによって，すべての事象・存在がそのまま相対的思惟(しい)を越えた仏教の真実の理法にかなうことを体得する一心三観(いっしんさんがん)を無師独悟したといわれ，その本質の精要を慧思*，さらに智顗*(ちぎ)に伝えた。智顗はその旨を受けて教観二門を大成し，天台の思想を確立した。　〔京戸慈光〕

えら　【鰓】　水中で生活をする動物の呼吸器官。からだの一部が外に突出したような形のものが多く，その表面は細かいひだ状や糸状またはふさ状の構造となっていて

表面積をなるべく広くし，内側には血管が分布しておりガス交換に役だっている。環形動物では貧毛類のエラミミズの尾部に，多毛類のゴカイの体側面にあるいぼ足とこれにつく糸状・ふさ状のものがえらで，またケヤリムシでは頭端に多数ある触毛がえらとして働いている。軟体動物のえらは板状のひだがくしの歯のように並び，ウミウシなどは本来のえらが消失して外套膜(がいとうまく)が突出した二次性えらをもつ。甲殻(こうかく)類には羽状や葉状のえらがあり，遊泳運動のほかに呼吸器官としても働いている。こん虫の水生幼虫には気管えらなどがある。原索動物の呼吸器のおもなものは，消化管の咽頭部にある鰓裂(さいれつ)とよばれる部分で，魚類のえらはこの鰓裂が発達したものである。両生類では幼生や一部の成体にもえらがみられる。〔蒲原春一〕

えらこ【鰓蚕】環形動物・多毛類・ケヤリ科。体長10cm内外，幅6～8mm。黄かっ色の本体の頭部に黄斑(おうはん)のある紫かっ色の糸のようなえらが冠状に集まってつく。本体は，体表から分泌した粘液でつくったじょうぶな筒(棲管(せいかん))の中にはいり，えらだけを花のように水中に開かせているが，驚くとこのえらも棲管の中に引っ込んでしまう。棲管は，しばしば多数集まってかたまりになっている。えらは呼吸に役だつだけでなく，水流を起こしてプランクトンを口に運ぶのにも役だっている。東北地方以北の浅い海に多く，つりのえさとする。

棲管の頭部の外側には，小形で，拡大すると回教徒の祈禱(きとう)の姿を思わせる形のニンギョウヒドラが寄生していることが多く，うっかり触れると，その刺胞に刺されることがある。〔菅野　徹〕

エラシストラトス［Erasistratos］BC280年ごろ，アレキサンドリアで活躍した古代ギリシアの医師・生理学者。同時代の医師・解剖学者ヘロフィロスとともに，末梢(まっしょう)神経に感覚神経と運動神経とが存在することを指摘した。また，脳を傷つけるとからだの一部が運動することを示すなど，生理学の実験をはじめて試みたが，死体の動脈に血液が含まれていないことから，動脈には空気様の物質〈精気〉が流れていると考え，これを生命の原理とみなした。〔中村禎理〕

エラスチン［elastin］脊椎(せきつい)動物の結合組織中にある繊維状のタンパク質。非常に伸張性のある繊維で，特に肺や動脈の壁に多量に存在している。同じようなタンパクにコラーゲン*があるが，アミノ酸組成が違うばかりでなく，水で煮沸してもゼラチンに変わらない点が特徴である。エラスチック(弾性がある)ということから命名された。

エラスムス［Desiderius Erasmus］(1466～1536) オランダの人文学者。〈ユマニスト*の王〉といわれる。ロッテルダムに私



エラコ



エラスムス　ホルバイン画　ルーブル美術館蔵



エラトステネス

生児として生まれる。9歳ごろから修道院で養われ，成人して正式に修道会士となる。1495年カンブレ司教の援助でパリに留学，1499年渡英してモア*を知る。以来イタリア・ドイツなどヨーロッパ各地を訪れた。彼の業績は古典研究を通して近代文献学の祖となったこと，《格言集》などを通してラテン語の規範を確立したこと，文献学的手法を《聖書》や古代キリスト教の教父の著作に対して用い，本来のキリスト教の姿を復元しようと努めたこと，以上の仕事を通して獲得した自由な精神をもって当時のカトリック教会の硬直腐敗を風刺批判したことなどがあげられる。ルター*に対してははじめ共感を示したが，やがてその過激な実践に硬直した精神を認めて一線を画した。そのため，新旧両陣営から敵視されたが，最後まで〈人間的であること〉に忠実であった。主著《痴愚神礼賛*(らいさん)》《対話集》ほか。〔石井忠厚〕

エラトステネス［Eratosthenes］(BC275？～BC194？) 古代ギリシアの博物学者。アフリカのキュレネに生まれ，アレキサンドリア図書館の司書となった。雄弁家で，天文・地理・古典・哲学・数学・詩にも造詣(ぞうけい)が深く，また，地球の全周を測定した。彼が発見した素数*を求めるための〈エラトステネスの篩(ふるい)〉は，今日においても最も便利な方法である。晩年は盲となり，餓死したという。

えらぶうなぎ ⇨ エラブウミヘビ

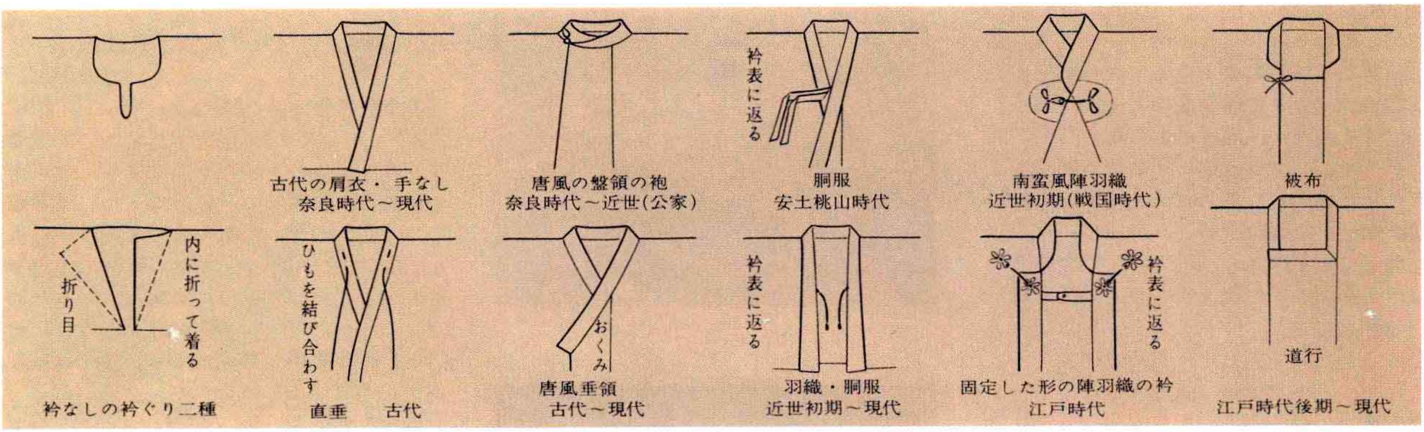
えらぶうみへび【永良部海蛇】爬虫(はちゅう)類・ウミヘビ科。エラブウナギともいう。太平洋・南シナ海・インド洋に分布し，南西諸島のサンゴ礁に多い。体長1.2m，尾は扁平(へんぺい)で遊泳に適する。神経毒が強いが，性質はおとなしく実害はない。陸上で産卵する。魚類を捕食する。

エラム［Elam］メソポタミアの東方からザグロス山脈に至る地域の古名。現在のイラン西部にあたり，中心都市はスーサ。特異な彩色土器をつくった種族不明の好戦的なエラム人が住み，バビロニア北方に侵入して，ウル第3王朝を滅ぼした。紀元前7世紀アッシリアのアッシュールバニパル*に征服された。イラン西部ベヒスタンの岩に浮き彫りされているダレイオス1世*の記念碑にはペルシア語・バビロニア語とともにエラム語が記されており，楔形(くさびがた)文字解読の貴重な資料とされる。〔高山高雄〕

エラール［Erard］フランスの代表的なピアノの一。1777年にセバスチアン-エラール(1752～1831)がおそらくフランスでは最初に製作したのに始まり，18世紀の終わりには，すでに国際的な名声を得ている。他のドイツ系のピアノとは異なる音色とタッチをもち，近代フランスのピアノ音楽の成立に与えた影響は大きい。

エラン-ビタール［élan vital］フランスの哲学者ベルグソン*が主著《創造的進化*》において唱えた基本的観念の一つで，〈生命の躍動〉という意味。ベルグソンによれば，生命の進化は諸要素の結合や累積によって機械的に行なわれるのではなく，不可分の内的衝動により分裂という形をとって行なわれる。こうした生物進化の推進力となるもの，すなわち成体を通じて世代から世代へと伝えられる生命の根源的躍動こそ種の創造に際してみられる変異の深い原因であるという。〔飯塚勝久〕

えり【衿】襟・領とも書く。衣服の首にまとう部分をいう。洋服のカラー*にはいろいろのデザインがあるが，現代の和服では洋風を加味したもの以外はえりの形はそれぞれの衣服で一定し，デザイン上で個人差はない。長方形の布を直線で縫い合わせる形を基本とする和服ではえりも長方形で，



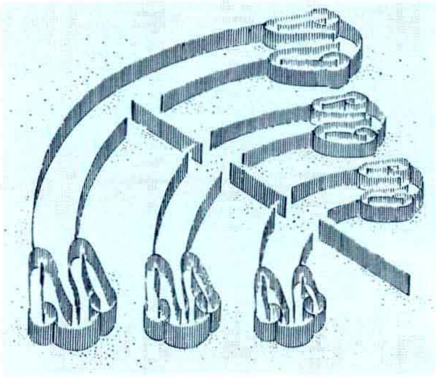
衿

えり肩あきと前身ごろ・おくみに直線で縫い付けるのが特徴である。

古代からの和服のえりを大別すると，えりなし・垂領(たりくび)・盤領(あげくび)と洋風を加えたものの4種類となる。垂領は現代の和服にみられる直線形のえり，盤領はおもに古い衣服にみられる丸いえりぐりの立ちえり，洋風のものは陣羽織*や女物のコートに取り入れられている。

原始時代の衣服は，布の中央にあけた穴に頭を通して着る貫頭衣*で，えりはなかった。穴は円形にくり抜いたりT字形に前中央を切ったりしたが，後者では前を三角に斜めに折って着たり，前を左前に重ね合わせて小ひもで結び止めたりした。やがて衣服はわきを縫うようになり，えり肩あきから前身ごろのすそまでをT字形に切り，細い長方形のえりをつけた。これが垂領で，えりの胸元に赤い小ひもをつけて結び合わせることもあった。後世そでなしとよばれるようになったこの形の短衣は，現代まで引き続いて労働着や下着に広く用いられ，わが国の湿気の多い夏の暑さに好適のえりをもつものである。またこの形は，中世まで武士の日常着となった直垂*(ひたたれ)・素襖*(すおう)・大紋*にも用いられ，いずれもおくみがなくて細いえりがつき，胸の左右のえりに胸ひもをつけて着た。武士の正装であった肩衣(かたぎぬ)(→裃(かみしも))も同じ形で，これらは江戸末期まで礼装として続いた。

一方，飛鳥(あすか)・奈良時代には朝廷中心に隋(ずい)・唐の衣服が取り入れられて袍*(うえのきぬ)となったが，これにはおくみがつけられ，円形のえりぐりに幅の狭い立ちえりがつけられた。これを盤領とよぶ。えり先はとんぼ頭(がしら)と掛け輪で掛け合わせ，首に密着させた。袍は公家(くげ)の正装となり，官吏はみなこれを着たが，下着はすべて垂領であった。しかし盤領の衣服は夏には暑く苦しいので，しだいにえりぐりが大きくなり，下着の垂領が多く見えるようになってきた。江戸時代の末まで用いられた束帯*・直衣*(のうし)・狩衣*・水干*がこのえりである。このうち水干はえり先に長い打ちひもをつけて結び合わせて着たが，左右のえりを斜めに折って垂領にして着ることもあった。



魞

女子がもっぱら着用した袿(うちき)も奈良時代に唐風を取り入れたもので，身たけは長く，おくみがつき，現今の長着*と同形の直線のえりがついていた。袿は何枚も重ねて着られ，平安時代からはおめり(袷(あわせ)の裏布を広くしてえり幅の外に1cmぐらい出す)が現われ，表布と裏布の色の調和がくふうされた。これを重ねの色目という。袿は公家社会では江戸時代の末まで続いたが，中世以降一般民衆や武家の衣服もこの形をとり，おくみのついた長着(小袖*(こそで))を着るようになった。そしてえりは幅広くなり，おくみのえり下の低いところまでついた。この長着は男女ともに大差なく今日に続いているが，そのえりには広えり(女物，えり幅11cm)・ばちえり(女物，えり幅はえり肩あきでは5.5cm，えり先では7cmで，形が三味線(しゃみせん)のばちに似ていることからこの名がある)・くけえり(えり幅は男物6cm，女物5.5cm)の3種がある。

室町時代末期，ヨーロッパ人の渡来によって衣服にも欧風が取り入れられ，そのえりにならって武士の胴服*・陣羽織や羽織のえりを表に折り返すことが流行し，胸の左右につけたひもで締めた。羽織はそのまま今日に続いている。特に陣羽織は盤領の小えりを首回りだけにつけたり，これにギャザーを施したり，毛皮をつけたりするなど，個人の好みで種々欧風のデザインが行なわれた。またこのころ取り入れられた合羽*(かっぱ)にも陣羽織にみられるような盤領の小えりがつけられて引き回し合羽とよばれ，またこのえりの形をゆるやかにして着物仕立てにしたそでつき合羽もつくられた。なお明治中期，東(あずま)コートの名で創作された女性用コートのえりは，そでつき合羽のものと同じ形である。

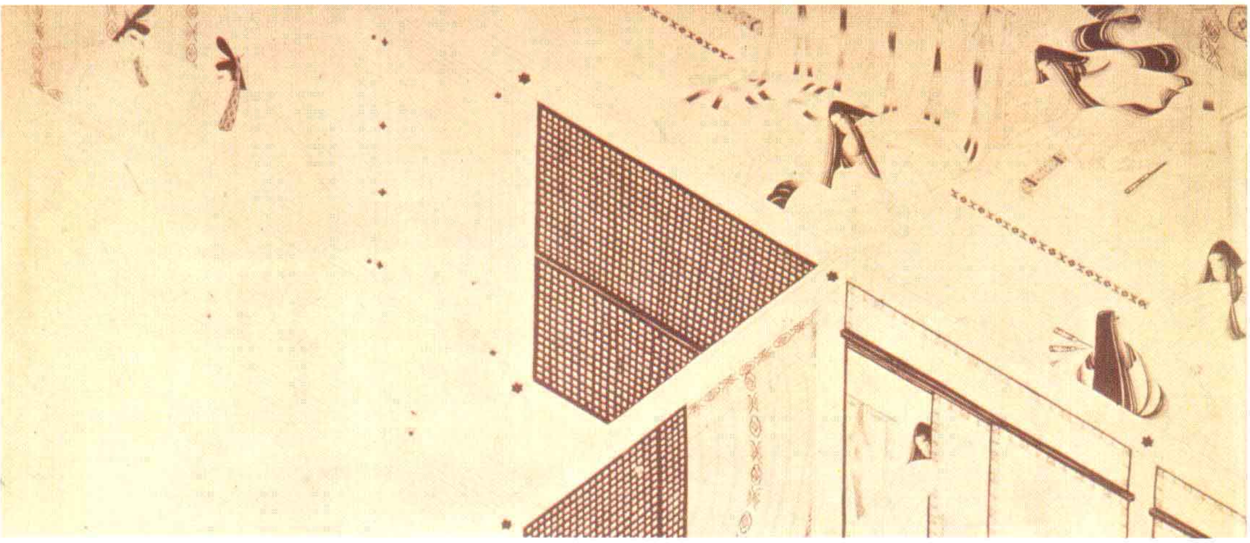
江戸時代には，道行きと称して胸を長方形にあけ幅2cmの細い縁どりのような小えりをつけた道中着が医師・僧侶(そうりょ)などに着られたが，これは明治以後女性のコートに取り入れられ，いまなお流行している。また江戸後期の蘭学者(らんがくしゃ)などが着た被布は，合羽の小えりの幅をやや広くしてうしろに折り返したもので，明治以後婦女子に流行したが，現今はすたれている。

そのほか，近世初期にはだ着専用の衣服としてポルトガルの衣服からその名と用途を取り入れたじゅばん*は，形はそで・おくみのない直線のえりをつけた古代からのもので，現今まで続いている。江戸後期からは装飾的な半えり*をかけることが起こり，明治・大正時代には豪華なししゅうや絞りが流行したが，第2次世界大戦のころから無地に変わった。半天*のえりもじゅばんと同じ垂領で，羽織とは違って表に折り返さず，ひももつけない。これは中流以下の庶民・職人が多く着し，ふだん用には汚れや傷みを防ぐ目的で黒八丈*の掛けえりをつけた。丹前*も同様である。また，長着のえりの上に同じ布地を用いた共えりをかけるのは江戸後期から起こり，現在に続いている。庶民の女性は黒繻子(くろじゅす)などの掛けえりを用いたが，明治以後はすたれた。→和裁

〔堀越すみ〕

えり【魞】 内湾・湖・河川などの浅い所に杭(くい)を立てて区画し，アシやタケなどで編んだすのこを張り，潮流や魚の習性を利用して魚をとる装置。東京湾の簀(す)立て(ヒラメなど)，琵琶湖(びわこ)の魞ぐれ(アユなど)はこれである。

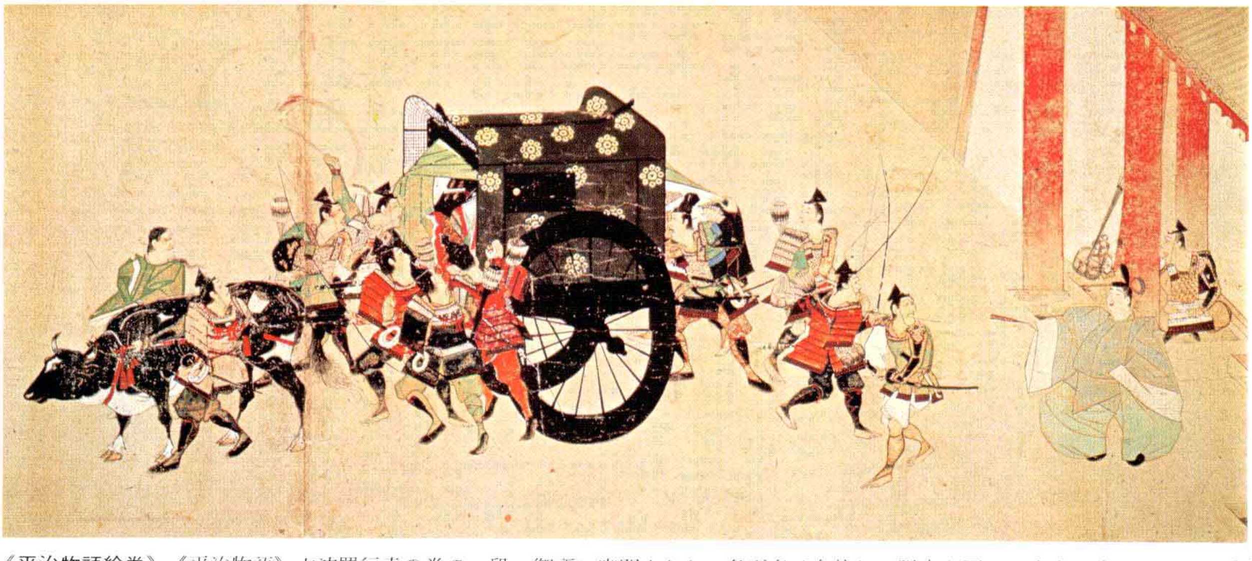
エリー ［Erie］ アメリカ合衆国ペンシ



《枕草子絵巻》《枕草子》の〈この君くれ竹……〉と称される一段を描く。焦墨と淡墨のみによる白描が清楚な味わいをみせている



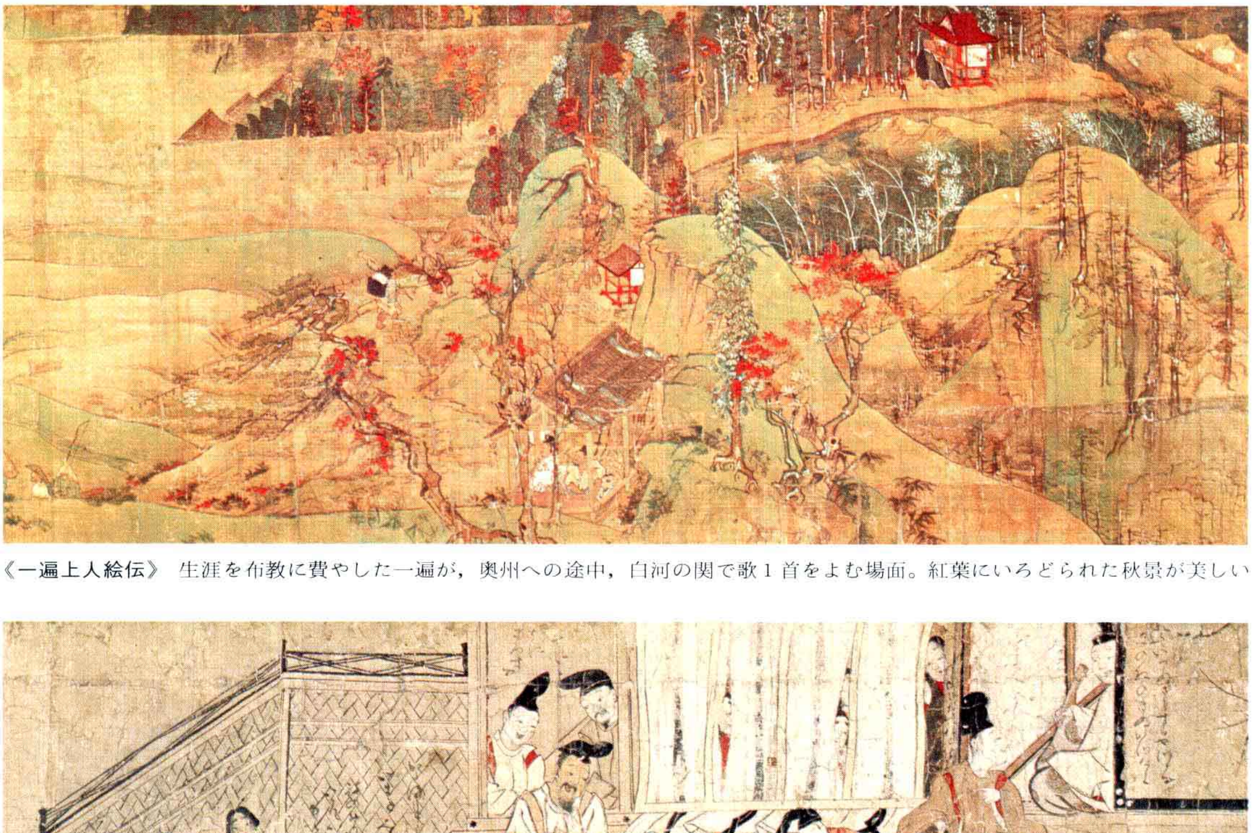
《北野天神縁起絵巻》 御賜の御衣を取り出して，はるかに都をしのぶ大宰府の道真。ツタや秋草が繊細な筆で鮮麗に描かれている



《平治物語絵巻》《平治物語》六波羅行幸の巻の一段。御所に幽閉された二条天皇は女装して脱出を図る。牛車を改める源氏の兵士



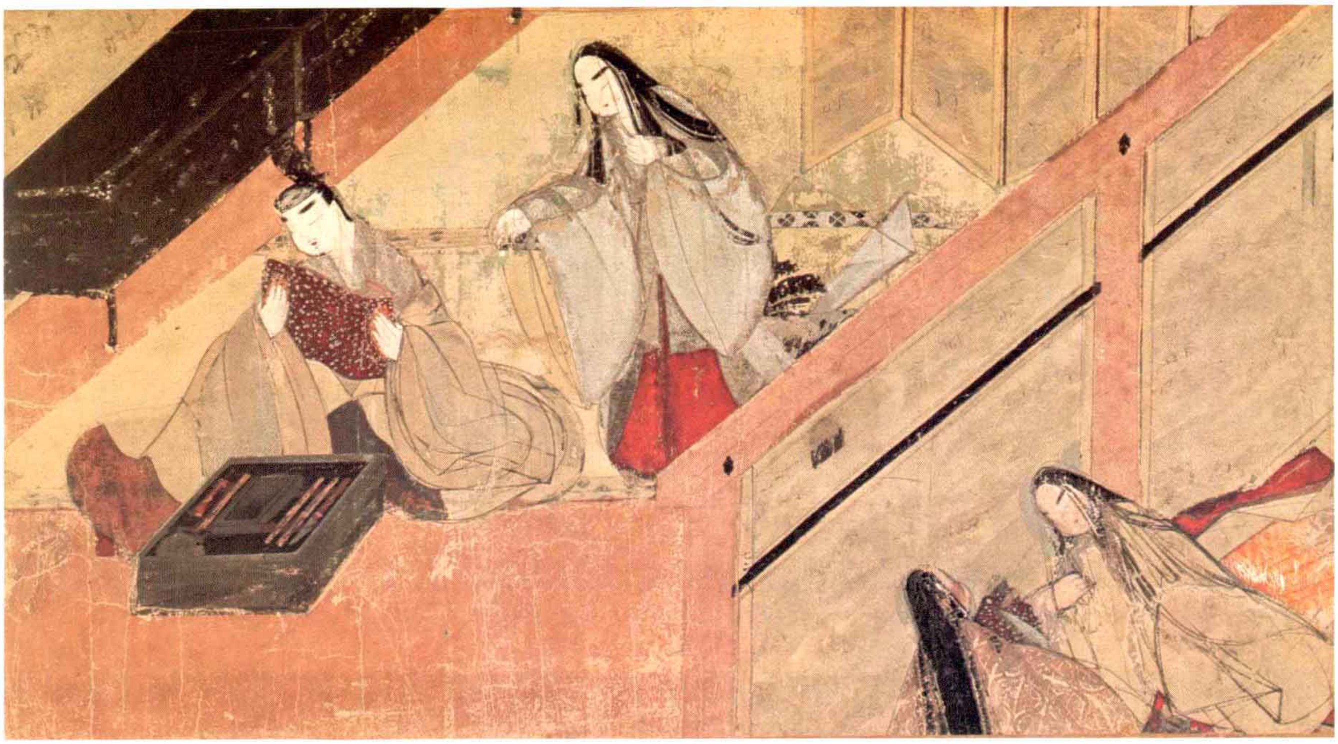
《**地獄草紙**》 地獄の恐しげな光景を描いた絵巻中で，特に迫力ある鶏地獄の一段。暗闇に浮き出すニワトリの赤があざやかである



《**一遍上人絵伝**》 生涯を布教に費やした一遍が，奥州への途中，白河の関で歌１首をよむ場面。紅葉にいろどられた秋景が美しい



《**福富草紙**》 放屁の奇芸が得意で長者になった男とまねて失敗した男の物語。さる中将の邸で珍芸を披露し，紅の御衣を与えられる



《源氏物語絵巻》 柏木の未亡人にひかれた夕霧を妻の雲井雁が嫉妬する。先方の母君からの手紙を読む夕霧，背後から奪おうとする雲井雁



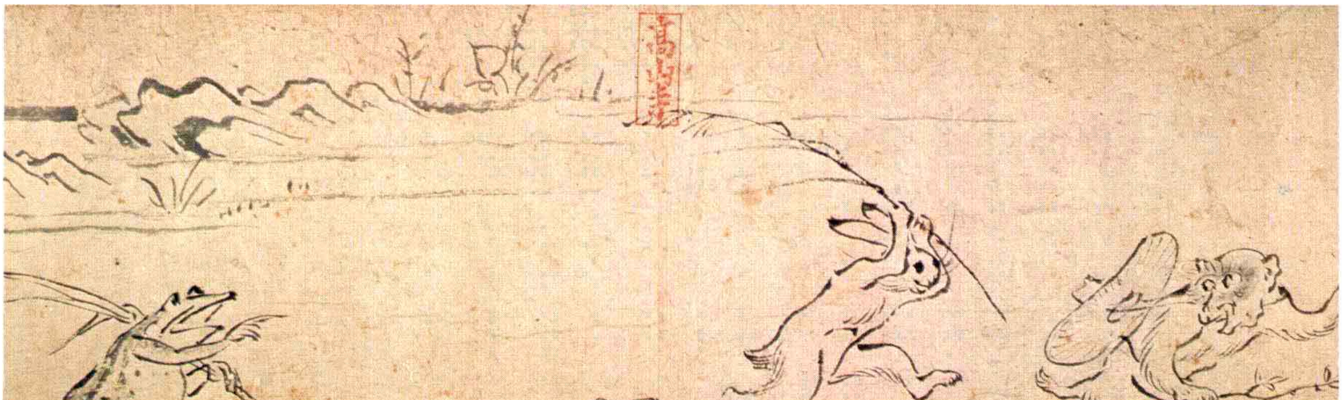
《伴大納言絵詞》 応天門の放火を扱った絵巻。真相が露見するきっかけとなった子どものけんかの段。異時同図法が巧みに用いられている

絵巻物

観賞者の繰作によって，横長の連続する画面が右から左へ展開し，物語が進展するという形式を活用した絵巻物は，ことに物語や説話と深く結びつき，独自の発展をみせた。平安後期はその隆盛期ともみられ，いくつかの名品を今日に伝えている。《源氏物語絵巻》ははなやかな宮廷貴族の恋愛を濃麗な絵の具を厚く塗り重ねた〈作り絵〉で描き，王朝の美を提供する。一方，《信貴山縁起》は暢達な描線を主体に活趣に富む描写を旨とし，流動的な画面とともに興味ある対照をみせている。また，《伴大納言絵詞》も絵巻物の特性を生かしたすばらしい画面展開をもち，前2作を折衷したような描・彩にすぐれた画風を示す。さらに《鳥獣戯画》のごとき，卓抜な筆をもって墨1色で動物の姿態をとらえた白描の絵巻物もみられるなど，いずれもこの時代の大和絵の多彩さ，高度さを物語っている。流行期の鎌倉時代には，おびただしい絵巻物の制作をみると同時に，その種類も多方面にわたった。物語絵巻の系統を継いだものも多く，中には《枕草子絵巻》のごとき



《信貴山縁起》 信貴山にこもって毘沙門天を祭った高僧，妙蓮に関する物語を描く。妙蓮の法力で，米俵の倉が空に舞い上がる冒頭の一段



《鳥獣戯画》 墨色の濃淡を使い分けて，伸びのある描線を自由に駆使しながら，擬人化された動物たちの遊び興ずるようすを描いている

白描形式の珍しい作例もいくつかみられる。また，前代末ごろから盛んとなった六道思想に基づいて《地獄草紙》《餓鬼草紙》など六道絵の類もつくられた。なお，新興の諸宗派を中心に，教化・布教の目的で社寺の縁起，祖師の伝記などを説いた《北野天神縁起絵巻》《一遍上人絵伝》などが盛んに制作されたのは大きな特色である。また，時代がら合戦物も盛行し，《平治物語絵巻》などの傑作を生んだ。これら鎌倉時代の絵巻物の傾向は，概して画面が説明的となり，作風は力強く，写実的で，中国宋・元画の影響が随所に認められる。室町時代には，絵巻物はさらに一般化し，卑俗な内容をもった御伽草子的な題材のものが広く好まれ，普及するようになった。

《源氏物語絵巻》五島美術館蔵 《信貴山縁起》朝護孫子寺蔵 《伴大納言絵詞》酒井家蔵 《鳥獣戯画》高山寺蔵 《枕草子絵巻》浅野家蔵 《地獄草紙》奈良国立博物館蔵 《北野天神縁起絵巻》北野天満宮蔵 《一遍上人絵伝》歓喜光寺蔵 《平治物語絵巻》東京国立博物館蔵 《福富草紙》春浦院蔵

ルベニア州，エリー湖南岸にある港湾・工業都市。人口14万2,000(1967)。電機製品・ボイラー・金物などの工業が発達し，小麦・パルプ材・鉄鉱石・石炭の取引・輸送が盛んである。

エリー(湖) [Erie] アメリカ合衆国・カナダの国境にある五大湖の一。面積25,800 km²。水面は海抜174 m，最深64 m。ヒューロン湖の水がデトロイト川を経てこの湖の西端に注ぎ，東のナイヤガラ川からオンタリオ湖に流れる。水河の下刻と地盤沈下が湖の成因といわれる。湖上交通は盛んで，川による連絡のほか，1825年完工のエリー運河(全長550km)により，ハドソン川からニューヨークに通じ，五大湖地方とニューヨーク間の物資輸送に大いに活用される。貨物のおもなものは鉄鉱石・石炭・小麦など。湖岸にはバッファロー・クリーブランド・トレド・デトロイトなど多くの工業都市が発達している。〔長津一郎〕

エリアずいひつ 【エリア随筆】 ラムの自伝的な随筆集。第1集は28編よりなり1823年刊，第2集24編は1833年刊。少年時の追憶・身辺雑記・人物印象記，さらに人生・文学・演劇の印象批評など，人生の辛酸をなめて成熟した人間観が，ゆうゆうたる高雅な文体でつづられている。

エリウゲナ [Johannes Scotus Eriugena] (800ごろ～880ごろ) 中世ヨーロッパの哲学者。当時の古典文化の中心地の一つアイルランドに生まれ，847年ごろパリに出て禿頭(とくとう)王カール2世の宮廷付き学院で教えた。王の死後，その生涯(しょうがい)はわかっていない。彼は真の宗教は真の哲学，真の哲学は真の宗教と考え，両者が矛盾するとみえるときは哲学に従うとした。その著作は再三異端を宣せられた。古典語に堪能(たんのう)で《偽ディオニュシウス著作》をはじめてラテン語に訳し，中世哲学を新プラトン主義の影響下に置くもととなった。主著に《自然区分論》《予定論》がある。〔左中庸博〕

エリオ [Edouard Herriot] (1872～1957) フランスの政治家。急進社会党に属し，ドレフュス事件のドレフュス派として政治活動を始めた。1924年急進社会党党首として，いわゆる〈左翼連合〉内閣の首相となり，ルール撤兵・ソ連承認を行なった。その後もたびたび首相・閣僚となり，ペタン政権に反抗しドイツ軍に逮捕された。戦後もリヨン市長・国民議会議長として活躍した。なお，文学・音楽・歴史にも造詣(ぞうけい)が深く，著作も多い。〔大野慎一郎〕

エリオット [George Eliot] (1819～1880) イギリスの女流作家。本名メアリー-アン-エバンズ。家庭教師の指導と独学で哲学・宗教・歴史に通じ，はじめゲーテ評伝や宗教・哲学論文をドイツ語から英訳出版しつつ，評論雑誌の副主筆をつとめたが，評論家ジョージ-ヘンリー-ルイスを知り，



T. S. エリオット



エ リ カ
ジャノメエリカ



エリザベス1世

その勧めにより38歳で小説を書きはじめた。その作品は，伝統的な写実主義によりながら，濃厚な思想性をイギリス小説に導入した。歴史小説《ロモラ》以外の諸作では，田園または地方都市を背景に，無知・我執と倫理・愛情との関係，過去の重みをもつ家族環境と倫理的価値判断との関係，社会生活と個人の生き方など，重厚な主題が，確実な性格描写をこめて展開されている。主要作品《アダム-ビード》《フロス川の水車》《サイラス-マーナー》《ミドル-マーチ》。〔長崎勇一〕

エリオット [Thomas Stearns Eliot] (1888～1965) 現代イギリスの代表的な詩人・劇作家・評論家。アメリカのセントルイスに生まれ，のちイギリスに帰化。詩における反ロマン主義思潮・反ビクトリア思潮の中心人物である。初期の作《アルフレッド-プルーフロックの恋歌》は，ことばに純感覚的な価値をおき，珍しい韻律や語法で，無力と幻滅の時代を皮肉に描いた。大きな反響をよび現代詩の記念碑的作品となった長詩《荒地》は，第1次世界大戦後の荒廃した文明の実相を斬新(ざんしん)な象徴的技法と交響楽的な構成で表現した。やがて宗教色を強め，より平穏で澄明なスタイルへ脱皮し，詩集《聖灰水曜日》を通って，カトリック的な世界観に立つ哲学的な長詩《四つの四重奏》に至り頂点に達する。一方，主知的な古典主義に基づく透徹した知性による《聖なる森》その他多くの重要な文学批評や文化論，社会評論がある。1935年の《寺院の殺人》以来，詩劇の分野にも活躍，《カクテルパーティ》その他がある。1948年，ノーベル文学賞を受賞した。〔星野恒彦〕

エリカ [*Erica*] 双子葉植物・ツツジ科・エリカ属の総称。英語ではヒースという。ヨーロッパ・アフリカに広く分布する常緑小低木で，約500種が知られている。どの種類も枝を多く出し，高さ50～100cmのものが多いが，中には3 mに達する種類もある。葉は線状ないし卵形で，3または4個が輪生する。花は小さく，筒状・鐘状・つぼ状などで，通常枝先に白または赤の総状花序をなす。広い地域一面に密に群生しているので，花期には丘や野が花でおおわれる。日本ではケエリカ・ジャノメエリカなどが生花に用いられている。また，エリカ-アルボレアの根はブライアといわれ，パイプを作る材料に用いられる。〔加藤僖重〕

えりかたあき 【衿肩あき】 和服の肩山に，えりをつけるために切るあき。大きさはおよそ首の円周の半径に相当する。ふつう，長着のできあがり9 cm。

エリコ [Jericho] エルサレムの北東24kmのヨルダン溪谷(けいこく)にある町。人口41,000(1952)。その歴史は古く，町の周囲に石がきをめぐらしていたことが《旧約聖書ヨシュア記》にしるされている。第2次世界大戦後にヨルダン領となったが，1967年，イスラエル軍が奪還した。しかし，現在なおその帰属は不明である。

えりさいぼう 【襟細胞】 海綿動物に特有な細胞。いちばん簡単な体制をもったアスコン型の海綿では胃腔(いこう)の全面にあり，その他の型の海綿では水の通る道にあたるべん毛室の壁にある。細胞体の腔に面した端に1本のべん毛がはえており，その基部にべん毛を囲んで円筒状などの〈えり〉とよばれる部分がある。べん毛の運動によって水流を起こし，小孔からはいった微生物をとらえて細胞内消化をするほか，呼吸・排出に役だち，また有性生殖にも関係する。
→海綿動物〔蒲原春一〕

エリザベス(1世) [Elizabeth] (1533～1603) イングランド女王。在位1558～1603年。ヘンリー8世の子。異母姉メアリの没後に即位した。その治世は，〈エリザベス時代〉とよばれるイギリスの隆盛期であった。1559年首長令と礼拝統一令を発布してイギリス国教会を確立し，他方，異端をきびしく取り締まり，カトリック的陰謀の源となっ

たスコットランド女王メアリ-スチュアートを処刑した。内政では議会に対して種々の圧力を加えて専制を強行し，絶対主義を完成させた。経済的には重商主義政策をとり，外国貿易を保護奨励し，工業を育成した。対外的にはオランダの独立を援助してスペインと対立し，1588年スペインの無敵艦隊を破った。また，東インド会社を設立し，北アメリカにバージニア植民地を建設するなど，イギリスの海外発展はめざましかった。エリザベスの治世はイギリス-ルネサンスの最盛期にあたり，エリザベス朝文学とよばれる国民文芸の黄金時代でもあり，シェークスピア・スペンサー・F.ベーコンらを生んだ。〔松下京子〕

エリザベス(２世)［Elizabeth］(1926～　) イギリス女王。ジョージ６世の長女。1947年エジンバラ公と結婚，1952年父の死後に即位。王女時代より世界各国を歴訪して親善に努め，とりわけイギリス連邦の結束を図った。長男チャールズ・長女アン・次男アンドリューの３子をもうけた。

エリザベスようしき【エリザベス様式**】** チューダー朝最後の女帝としてイギリスに黄金時代をもたらしたエリザベス１世の時代に，イギリスの城館や邸宅など世俗建築に現われた一様式。垂直線を強調する後期ゴシック建築の伝統の上に，ルネサンス様式を導入した折衷的なもので，塔や張り出し窓，破風(はふ)などにゴシックの特徴を残す一方，大きな窓や軒の欄干(らんかん)，片蓋柱(へんかいちゅう)使用などにルネサンス様式が巧みに取り入れられている。これは，当時イギリスに渡ったイタリアの美術家や，同国に定住した多数のフランドルの工人たちからの影響によるものと考えられ，ダービーシャーのハードウィック-ホールなどがその代表例とされる。〔富山秀男〕

エリザベートビル ⇨ルブンバシ

えりした【衿下】 長着につくおくみのえり先からつま先までの部分。およそ腰骨から足首までの長さに相当する。

えりしめいと【衿締め糸】 女物長着の広えりを，後ろのえり肩あきの間で，幅二つ折りにするためにつける糸。左右のえり肩止まりと背の3か所に白の絹糸を2本よってえり幅に渡し，着るときに引き締める。江戸時代の末に江戸で行なわれはじめたもの。第２次世界大戦後はスナップ留めに代わりつつある。

エリス［Alexander John Ellis］(1814～1890) イギリスの学者。音響学・音声学・心理学・数学・音楽学などの広い視野をもち，後世へ大きな影響を与えた。《諸民族の音階》(1885)を著わし，民族音楽学の音階論の基盤をつくった。特筆すべき業績は，相対的な音程測定単位セント(平均律の半音を100セントとする)を考案したことである。

エリスロクルオリン［erythrocruorin］無脊椎(むせきつい)動物の血液や微生物に含まれる赤色の色素タンパク質。鉄ポルフィリンをもち，広義にはヘモグロビンに含まれるが，脊椎動物の血球中のヘモグロビンと区別してエリスロクルオリンとよぶ。無脊椎動物では甲殻(こうかく)類・こん虫類・腹足類・環形動物・扁形(へんけい)動物などの血球または血漿(けっしょう)中に存在し，長時間または短時間の酸素欠乏を切り抜ける働きをすると考えられる。微生物では原虫類・かび類・酵母類中に見いだされている。〔山崎博子〕

エリスロマイシン［erythromycin］1952年，アメリカのマックギールらがフィリピンのピネー島の土壌(どじょう)中から得た放線菌より分離した抗生物質。おもにグラム陽性菌の発育を阻止するが，特にペニシリン・テトラサイクリンなどの耐性菌に有効で，敗血症・肺炎・中耳炎・扁桃炎(へんとうえん)・淋疾(りんしつ)・ジフテリア・結膜炎・梅毒などの治療に用いる。ぶどう状球菌と腸球菌以外はほとんど耐性がみられず，毒性もきわめて弱い。〔川村次良〕

えりぜに【撰銭】〈せんせん〉とも読む。銭貨の良悪を区別し，良銭を選び取ること。また選び取られた銭(精銭)をもいう。室町時代以降，同一価格を標示する異質の銭貨(宋(そう)・元・明(みん)銭と悪質の私鋳銭)が混用され，悪銭は通用を忌避されることが多く，そのため商取引・金銭貸借が混乱し，物価上昇をもたらした。1500年(明応９)以降，室町幕府・戦国大名はしばしば撰銭令(撰銭の禁止規定)を発布した。江戸初期，寛永通宝の鋳造により根絶した。〔松尾　涼〕

エリソン［Ralph Ellison］(1914～　) アメリカの黒人小説家・批評家。はじめラウドの自然主義の影響を受けたが，唯一の長編《見えない人間》は，アメリカ黒人の経験を通して人間の実存に迫った作品である。批評家としてもすぐれ，評論集《影と動き》がある。

エリダヌスざ【エリダヌス座**】** 秋から冬にかけて，南の空に低くかかる星座。オリオン座の西からかすかな星の列が曲がりくねって，地平線下につながっている。その端にはα星アケルナル(0.5等星)が輝いているが，日本では九州の南端まで行かないと見えない。➔星座

エリテマトーデス［Erythematodes］紅斑(こうはん)性狼瘡(ろうそう)ともいう。皮膚の発疹(はっしん)を主徴とするものと，全身の結合組織に広い病変をもち，心臓・肺臓・腎臓(じんぞう)・神経系・関節を冒す全身型の２型がある。この２型は互いに移行することがある。慢性関節リウマチなどと同じく，自己免疫疾患である膠原病(こうげんびょう)の一つである。女性に圧倒的に多く，発熱・関節痛，顔面の蝶(ちょう)形紅斑などで始まる。副腎皮質ステロイドホルモンが有効である。〔清水直容〕

エリート［élite］選良と訳される。権力・富・名誉などを握る集団をさす場合と，集団を指導し決定を下す人そのものをさす場合とがある。封建時代には〈血統と家がら〉によってエリートが決まったが，現代では政府・政党・官庁・企業・労働組合・協同組合などに専門の指導者が輩出し，彼らをエリートとよんでいる。民主主義社会ではだれでもがエリートになる可能性があったはずなのに，現実は逆の方向へ行く傾向が大きくなっている。そこに欲求不満による不安・絶望・焦燥にかられた大衆が数多く生まれる。社会の高度化・複雑化に伴って生じてきたこのような傾向をいかに打破するかが問題である。〔名生尚志〕

エリトリア［Eritrea］アフリカ大陸北東部の紅海沿岸地域でエチオピアに属する。かつてはイタリアの植民地であったが，1952年にエチオピア領となった。面積12万4,000km²，人口は2,000万前後と推定される。主都はアスマラ。海岸平野と2,000ｍ前後の高原からなり，年降水量200～300㎜で乾燥している。住民は農業と牧畜を営む。イタリアの植民地時代に起こったセメント工業や食品加工工業のほかに，近年はガラス工業もある。マッサワは北部エチオピアの内陸と鉄道で通じる主要な貿易港である。〔小栗　宏〕

エリニュエス［Erinyes］ギリシア神話の復讐(ふくしゅう)の女神たち。特に血族間の殺人の復讐をつかさどった。ウラノスの血から生まれたとされ，奈落(ならく)の底タルタロスに住み，その姿は翼をもち，身体に無数のヘビを巻きつけた恐ろしい女怪として表現される。ギリシア社会成立以前の古い血族社会のおきてを神格化したものと考えられる。ローマ神話ではフリアイあるいはディライとよばれる。

エリバレ(鉱山)［Gällivare］別名ゲリバラ。スウェーデン北部の鉄鉱山で，北方にあるキルナバラ鉄鉱山とともに世界的に有名である。片麻岩やカクセン岩などの中に層状またはレンズ状の磁鉄鉱鉱床群があり，鉱床の長さは６～７km，幅２kmに及ぶが，規模はキルナバラより小さい。品位は鉄分62～68％，リン分0.025～0.8％である。年産約150万ｔ，埋蔵量は４億ｔといわれる。北極圏内(北緯67°10′)にあるが，1704年にはすでに採鉱が行なわれた。鉱石はスカンジナビア半島横断鉄道によって北極海沿岸にあるノルウェー領内の不凍港ナルビクとボスニア湾岸にある自国領内のルレオから輸出されている。〔大石堪山〕

えりまき【衿巻】 防寒・ちりよけ・装飾などの目的で首に巻く布。毛皮・編み物もある。江戸時代から庶民は手ぬぐい・ふろしきなどを首に巻き，寒さを防いでいたが，江戸末期から明治にかけて洋風のえり巻きを取り入れ，男は紫紺・藍鼠(あいねず)・黒などの無地ちりめんの広幅で長さ120㎝ぐらい

のものを巻き，たけの余りをふところに入れた。これは家の内外で使われた。その後，幅20cm，たけ120cmぐらいのマフラー型が和・洋装に用いられ，またカワウソ・キツネ・タヌキなどの毛皮が，はいだままの形(頭・足・尾がつく)で使われた。明治の末ごろからは，大衆・労働者の間に輸出用の羽二重のハンカチをネッカチーフとして三角に折って首に巻き，前で小さく輪奈(わな)結びとするのが流行したが，これもえり巻きの一種である。女性のえり巻きの幅の広いのを肩かけ・ショールとよぶ。角巻きもその一種である。その他ベールといって薄絹のふろしき状の布を頭にかぶってちりよけとするのが，明治の末から大正の末まで芸者の間に流行し，これをえり巻きとすることも多かった。〔堀越すみ〕

えりまきしぎ 【襟巻鷸】 鳥類・シギ科。中形のシギで，おもにユーラシア大陸のツンドラで繁殖し，日本には少数が渡来する。繁殖期の雄には他に例のない個体変化に富んだえり巻き状の羽毛を生じ，数羽の雄はこの羽毛を立てて誇示し合い，集まってくる雌と乱婚性の婚姻をする。➔シギ

えりまきとかげ 【襟巻蜥蜴】 爬虫(はちゅう)類・アガマ科。オーストラリアの東北部クィーンズランド地方に分布。体長70cm。頸部(けいぶ)の周囲にえり巻き状のひだがあり，平常は後方にたたまれているが，興奮すると大きく広げて相手を威嚇(いかく)し，また繁殖期にも広げて誇示する。このひだには舌骨が伸びており，それに付いた筋肉により動かされる。ひだはまた，体温調節に役だつともいわれる。こん虫・小動物を捕食する。

えりまきらいちょう 【襟巻雷鳥】 鳥類・ライチョウ科。ニワトリの若鳥大。赤かっ色または灰かっ色に淡色の小斑(しょうはん)が散在する。北アメリカ中北部の落葉樹林や混交林に生息し，その地方では狩猟鳥として著名。およそ10年の周期で個体数が大きく増減することでも知られる。主食は木の葉・芽・実など。雄は林の地上で翼を震わせてドラミングとよばれる奇妙な音をたてて踊り，雌がそれにひかれて寄って来る習性があって，一雄多雌または乱婚型の雌雄関係を結ぶ。〔浦本昌紀〕

えりもみさき 【襟裳岬】 北海道胴体部の南端，日高山脈が太平洋に突き出してつくった岬で，その延長には岩礁が多く，かつては船舶の遭難が頻発(ひんぱつ)して〈魔の海〉といわれていた。3段の海岸段丘がみられ，その上に1889年(明治22)に建てられた1等燈台がある。一帯は風が強く，沖合いはコンブの採取で夏季にはにぎわう。襟裳道立自然公園に指定されている。

エリュアール [Paul Eluard] (1895～1952) フランスの詩人。貧家に生まれた。第1次世界大戦に従軍し，戦後，ダダの運動を経て，シュルレアリスムの積極的な推進者となったが，やがてスペイン内乱を契機に共産党に入党した。その詩は自由と人間への愛を新鮮なイメージと洗練された平易なことばで率直にうたったもの。代表的な詩集に《愛・詩》《万人のための詩》などがあり，またブルトンとの共著《処女懐胎》がある。〔森　英樹〕

えりんじ 【恵林寺】 山梨県塩山市の乾徳(けんとく)山のふもとにある臨済宗の寺。1330年(元徳2)二階堂道蘊(どううん)が夢窓疎石を開山として創建。のち武田(たけだ)信玄が帰依してその菩提所(ぼだいしょ)とし，快川を招いて保護した。1582年(天正10)に織田信長(のぶなが)が武田勝頼(かつより)を滅ぼしたとき，快川が佐々木(六角)承禎(じょうてい)らを逃がしたため，寺は衆僧とともに焼き打ちされた。このとき快川は〈心頭を滅却すれば火もおのずから涼し〉と言ったという。徳川家康(いえやす)によって再興され，のちに柳沢吉保(よしやす)が廟所(びょうしょ)とした。1905年(明治38)火災にかかり，のち再建された。庭園が美しい。〔藤本昌子〕

エリンバー [elinver] 鉄合金の一。弾性不変鋼，あるいは恒弾性鋼ともいう。鉄53～61%，ニッケル33～35%，クロム4～5%，タングステン1～3%，ほかに少量のマンガン・ケイ素および炭素を含む。温度の変化に対し弾性係数がほとんど変化しないので，時計その他の精密計器のひげぜんまい・標準振動子などに利用されている。



エリマキトカゲ

エリン-ペリン [Elin Perin] (1878～1949) ブルガリアの代表的短編小説家。本名ジミートル-イバーノフ。農民出身で，若いころ教師をしていた。作品には支配階級を皮肉ったもの，農民の悲哀と希望を表現したものが多い。暗い生活をテーマにしてはいても，作風はユーモアに富んでおり，ブルガリアのチェーホフともいえる作家である。代表的短編集は《夏の日》。児童向きの作品《ヤン-ビビヤン》もある。

エール ⇨アイルランド共和国

エルウッド [Charles Abram Ellwood] (1873～1946) アメリカの社会学者。ミズーリ大学・デューク大学教授。アメリカ社会学会会長・国際社会学会議議長・国際社会学協会会長などを歴任。スモールの門下で，心理学的社会学を樹立した。社会の本質を心的相互作用であると規定し，集団の統一・持続・秩序・進歩などを考察しようと試み，経済学・政治学・宗教学などの特殊社会科学とは異なった，人間社会の原理的研究である理論科学としての社会学を成立させることに努めた。〔国近浩一〕

エルエスティー [LST] Landing Ship of Tankの略称。水陸作戦用艦艇の一つで戦車揚陸艦のこと。第2次世界大戦中，アメリカ軍が太平洋やヨーロッパで多くの上陸作戦を行なう必要から，戦車を海上輸送し，そのまま直接上陸させる艦艇として建造したもの。波打ちぎわに接岸して艦首を観音開きにし，そこから戦車を自力発進させる。基準排水量1,500～3,500トン，速力11～17ノット。

エルエスディー [LSD] リゼルギン酸ジエチルアミド(lysergic acid diethylamide)の略称。麦角アルカロイドから合成される白色の結晶で幻覚剤。0.25mgの少量でも思考分裂，時間と空間の感覚の麻痺(まひ)などの幻覚作用を生ずる。常用すれば染色体に異常をきたし，第2の麻薬として問題となっている。生化学的研究に使用され，医薬品としては用いられない。



襟裳岬　典型的な海岸段丘が発達し，段丘上の先端には燈台がある。黄金道路(国道236号線)から約10km余で岬に達する



□300万人以上の都市　□100～300万人の都市　◎50～100万人の都市
◎10～50万人の都市　⊙5～10万人の都市　○5万人未満の都市　●首府　♯油田

エルサルバドル

エルオベイド　[Elobeid]　アフリカ大陸北東部，スーダン共和国の都市。人口60,000(1964)。首都ハルツームの南西約368kmに位置する。鉄道の要地であり，隊商路・定期航空路の拠点でもある。商取引の中心地で，アラビアゴム・ウシ・ヒツジの交易が盛んである。19世紀に戦争と反乱のため市街が破壊されたが，20世紀になって再建され発展した。しかし水の便が悪く，大都市への発展は頭打ちになっている。

エルカー　[Lazarus Ercker]　16世紀後半のドイツの冶金(やきん)家。ドイツ語で書いた《試金の書》は，1574年プラハではじめて出版され，アグリコラ*の書物よりも長い間流布した。この書物は体系的で実証的であるが，ほとんど理論的な記述はなく，技術の前科学的段階を代表している。

エルガー　[Edward Elgar]　(1857～1934)　イギリスの作曲家。教会のオルガン奏者を父として生まれた。はじめ法律を学んだが，やがて音楽を独習し，父のあとを受け継いでセント-ジョージ教会のオルガン奏者となった。作品は重厚な大曲が多く，不振のイギリス作曲界にあって特に目だつ存在となった。《なぞ変奏曲》(1899)や5曲からなる行進曲《威風堂々》(1901)などはよく知られているが，むしろ2曲の交響曲をはじめ，バイオリン・チェロの協奏曲などの大曲にその真価がある。　〔向坂正久〕

エルギン　⇨ブルース

エルグ　⇨単位

エルグ　⇨砂漠(さばく)

エル-グレコ　⇨グレコ

エルゴステロール　[ergosterol]　エルゴステリンともいう。ビタミンD_2(カルシフェロール)の前駆物質。無色の結晶で，空気中で比較的酸化されやすい。自然界にはビタミンDの存在は限られているが，前駆物質は広く動植物界に分布している。麦角・糸状菌・酵母・シイタケなどに比較的多く含まれる。275～300 mμの紫外線照射により，ルミステロール・タキステロールなどとともにビタミンD_2を生成するが，エルゴステロール自身にはビタミンD_2のような抗佝僂病(こうくるびょう)作用はない。　〔谷村顕雄〕

エルゴノミクス　⇨人間工学

エルザス-ロートリンゲン　⇨アルザス-ロレーヌ

エルサルバドル(共和国)　[Republic of El Salvador, República de El Salvador]　中央アメリカの共和国。太平洋に面し，西はグアテマラ，北と東はホンジュラスに接する中央アメリカ最小の国。面積21,000km²。人口481万(1978年推)。首都はサンサルバドル。



エルサルバドルの国旗　1912年制定。青・白・青の線はかつて所属していた中央アメリカ連邦の国旗に由来する。中央の紋章には〈自由の帽子〉と，中央アメリカ連邦を表わす五つの火山，独立の日である1821年9月15日の文字，〈神・統一・自由〉のことばが書かれている

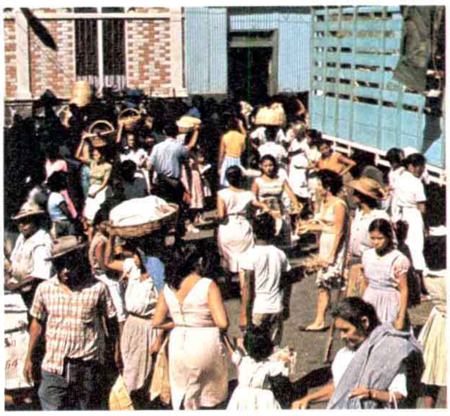
【自然・住民】平野は太平洋に面した狭長な海岸平野があるだけで，国土の大部分は火山性の高原である。最高峰サンタアナ山は2,385m。熱帯にあるが，気温は月平均22～25℃，年降水量1,700mmで，年じゅう温和な気候を示す。雨は6～12月に多い。

住民はインディアンが50%，メスチソとよばれるインディアンと白人との混血が40%で，インディアンの占める比率は中央アメリカ諸国中，グアテマラに次いで大きい。人口は海岸寄りの，高度500～1,200mの山地に集中して，おもに農業に従事している。住民はスペイン語を話し，サンサルバドルには大学もあるが，学校教育はまだ不完全で，文盲が70%を占める。

【産業・経済】主産業は農業と鉱業で，農場は海岸平野に集中して国民の主食トウモロコシと，おもにアメリカ合衆国に輸出されるコーヒーを栽培している。その額は輸出総額の約80%を占め，同国の経済の支柱



エルサレム　坂道と石の多いエルサレムの町。破壊された家屋に，戦乱の跡がなまなましく残されている



エルサルバドル　首都サンサルバドルでの市場風景。人々が雑踏し，布地や野菜・食料品などが売られている

になっている。狭い海岸平野で栽培されるサトウキビは，コーヒーに次ぐ輸出作物である。このほか，海岸に野生するバルサムノキからとれるバルサムは医療用ゴムの原料として，同国の特産物となっている。

鉱産物は金と銀が後背山地から採掘されるが，工業が発達していないため，大部分が原鉱のまま輸出される。この二つの鉱産物を合わせた輸出額はコーヒーに次ぎ，サトウキビと並ぶ額をもっている。鉄道は，この国を東西に走る主要幹線があるほかはみられず，道路状態もあまりよくない。

【歴史・政治】16世紀スペイン人に発見され，その植民地時代は，はじめはメキシコ，のちにはグアテマラに総督府を置く総督領の一部であった。1821年に独立を宣言し，さらに1823年，グアテマラ・ホンジュラス・ニカラグア・コスタリカとともに中米連邦共和国を成立させたが，各国はそれぞれ国情を異にするため，1838年，連邦議会を解体し，5か国に分かれてそれぞれ共和国として独立した。1941年以降，大統領を元首とし，一院制の議会をもつ共和国として現在に至っているが，人口過剰など幾多の問題をかかえ，政情は安定しているとはいえない。政治的には中米機構に加入し，経済的には1961年以降，中米共同市場*に加入して加入国(グアテマラ・エルサルバドル・コスタリカ・ホンジュラス・ニカラグア)相互の利益を図っている。　〔小栗　宏〕

エルサレム　[Jerusalem]　イスラエルの首都。人口30万5,000(1972年推)。ユダヤ教*の聖地であるとともにキリスト教・イスラム教の聖地でもあり，それぞれの信徒にとっての名所旧跡に満ち，信徒・観光客が絶え間なく集まる。市域はユダヤ高原にあり，雨量は少なく，周囲は半砂漠(さばく)である。それぞれ時代を異にする三つの市壁をもつ旧市街のほかに新市街がある。町の歴史は古く，紀元前10世紀といわれる。第1次世界大戦後，イギリス委任統治領パレスチナの首都となり，イスラエル建国とともにその首都となった。1947年，イスラエルの国際

化が国連で決議されたが，1948年，ユダヤ人とアラブ人の間で，エルサレム支配をめぐる紛争が起こり，その結果，旧市街はヨルダン領となり，ユダヤ教の聖所〈嘆きの壁〉もユダヤ人から隔絶された。1967年，再度のアラブ人との紛争の結果，全市域はイスラエルの手に帰し，この状態は現在も続いている。〔今井留吉〕

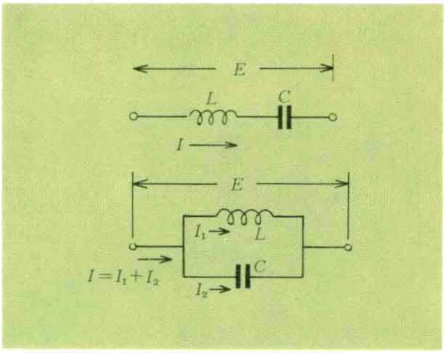
エルサレムおうこく 【エルサレム王国】 第1回十字軍が聖地エルサレムに建てた王国。1099～1187年存続。キリスト教の聖地エルサレムは，7世紀以降イスラム教徒の支配下にあった。ローマ教皇ウルバヌス2世は聖地奪回のため十字軍の結成を提唱し，フランスを中心にイタリア・ドイツの騎士らによって組織され，1099年エルサレムを攻略して，聖地確保のためこの王国を建てた。王国は典型的な封建国家で，土着のアラブ人やシリア人は農奴とされ，重税を課された。このため，現地人の反感と，加えて征服者間の内紛，政治の腐敗で国力は弱まり，アイユーブ朝創始者サラジンの攻撃を受けて1187年崩壊した。その後王国回復のため第3回十字軍が組織されたが失敗した。〔高山高雄〕

エルサン 一般には，PAP剤とよばれる低毒性有機リン殺虫剤。原体は油状を呈し，わずかに芳香臭を有する。各種の害虫に有効で，ニカメイチュウ・クロカメムシ・ツアグロヨコバイ・ドロオイムシ・ヤノネカイガラムシ・グンバイムシ・ニジュウヤホシテントウや青虫などにすぐれた効果がある。剤型には粉剤・乳剤があり，またジメトエートやケルセンとの混合剤も知られている。同じ成分で商品名を異にするものにパプチオンがある。〔深谷昌次〕

エルシーエム 【LCM】 ⇨最小公倍数

エルシーかいろ 【LC回路】 抵抗Rを含まず，インダクタンスL，キャパシタンスCのみからなる回路。LとCの直列回路と並列回路は，次の特性をもつ。毎秒fヘルツの振動数をもつ正弦波状の交流電圧EをLとCの直列回路に加えて，$2\pi fL=1/(2\pi fC)$がなりたつときは，合成インピーダンスが0となり，きわめて大きな電流が流れる(直列共振)。上記の関係をもつL，Cを並列につなぎ，電圧$\dot{E}$を加えると，$I_1=-I_2(=0)$となり，全電流$I(=I_1+I_2)$は0となる。つまりLとCからなるループ回路を大きな振動電流が流れているのに，回路全体としては電流が全然流れ込まない(並列共振)。振動周期Tは$T=2\pi\sqrt{LC}$秒となる。→共振〔田村康男〕

エルスター 【John Phillip Ludwig Julius Elster】 (1854～1920) ドイツの実験物理学者。ガイテルと共同して熱イオン現象を調べ，これから光電効果の研究へと進んだ。アルカリ金属の薄膜が大きな光電効果をもつことを見いだして光電池を製作，また光電光度計もつくった。



L C 回 路



エルタテハ
(左) 表
(右) 裏

エルステッド 【oersted】 磁界の強さを表わすCGS電磁単位。記号Oe 1電磁単位の磁極がつくる磁界によって1ダインの力が作用するとき，その点の磁界の強さを1エルステッドという。MKS単位系ではアンペア回数毎メートル(AT/m)が用いられ，$1(\mathrm{Oe})=10^3/4\pi(\mathrm{AT/m})$の関係がある。

エルステッド 【Hans Christian Oersted】 (1777～1851) デンマークの物理学者・化学者。コペンハーゲン大学を終え，はじめ化学の研究に従い，塩化アルミニウムの製出に成功したが，コペンハーゲン大学教授となったのちは，電気化学から電流の物理的研究に移り，電流の磁針に及ぼす作用に関する法則を発見して電磁気学形成のきっかけを開いた。今日，磁界の強さを表わす電磁単位としてその名が残されている。科学振興に努力し，王立科学協会会長もつとめた。〔藤村 淳〕

エルステッドのじっけん 【エルステッドの実験】 デンマークの物理学者エルステッドが，1820年に針金状の電線に電流を通じると，その近くに置いた磁針が電流の影響を受けて振れることを発見した。この実験をエルステッドの実験という。この結果はのちにアンペールの法則として，理論的にまとめられた。

エルズミーア(島) 【Ellesmere】 カナダ北端，北極海にある島。面積20万km²。グリーンランドとはスミス海峡によって隔てられる。カナダ領。海岸にはフィヨルドが発達し，山がちで全島が氷におおわれている。1825年，遭難したフランクリン探検隊の捜索に向かったイングレフィルドが，最初に探検した。ユーレカサウンドは，アメリカ合衆国とカナダが共同で行なう気象観測基地である。

エルズワース 【Lincoln Ellsworth】 (1880～1951) アメリカの極地探検家。1926年アムンゼン・ノビレの飛行船ノビレ号による北極横断に，次いで1931年飛行船ルゲ号の北極飛行に加わった。1935年と1939年には飛行機による南極大陸の探検調査を行なった。南極のエルズワースランドと，エルズワース山は彼の名にちなんだものである。

エールだいがく 【エール大学】 アメリカ合衆国の私立大学。コネチカット州南部のニューヘブンにある。1701年同州セーブルックに創設された神学校コレギエート-カレッジが，1716年にエリヒュー-エールの寄付を受け，ニューヘブンに移転してエール-カレッジとなり，1887年に総合大学となった。一般教養に重点を置く教育方針をとり，学生数の増加をおさえ，教官と学生間の接触を深めるなどの努力がなされている。学生は独立した12のカレッジ(それぞれ寄宿舎・図書館・食堂をもつ)に属し，そこで教官と起居をともにして指導を受ける。ハーバード大学とともにアメリカを代表する私立大学の一つで，神学部や大学院の専門コースは名高く，古代イギリスの演劇資料などで世界的に著名な図書館，ピーボディ科学博物館，人間関係研究所などの付属機関がある。

エルたては こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ65mm内外，地色はあざやかな赤かっ色で，外縁は突起が多く，黒かっ色の帯があり，さらにそれに接して黒色の帯がある。前翅には数個の黒紋があり，翅端には1個の白紋がある。後翅の前縁は黒く，その間に1個の白紋がある。翅の裏面は灰かっ色ないし茶かっ色で，後翅中央に明瞭(めいりょう)なL字形の紋がある。北海道および本州の山地に分布し，7～8月ごろより出現する。性質はきわめて活発で，飛翔(ひしょう)も敏速。幼虫はニレ・ヤナギ・カバなどの葉を食害する。〔鈴木邦雄〕

エルディーごじゅう 【LD_{50}】 lethal dose percentの記号。50％致死量ともいう。同一条件の試験動物の半数を殺しうる量(薬剤や病原菌毒素など)である。動物を死に至らしめる量の中で，この量が理論的に正確に示しうるため，動物反応の最大量として用いる。これとED_{50}(50％有効量)との比が安全域として考えられ，この比が大きいほど安全である。

エルティーぼうえき 【LT貿易】 ⇨日中覚書貿易協定

エルド ⇨ヨーロッパ宇宙ロケット開発機関

エルトールきん 【エルトール菌】 1906年にゲッチュリヒが，紅海北端部のシナイ半島のエルトール検疫所でメッカ巡礼者の死体から分離した細菌。一端にべん毛を有するコンマ状グラム陰性桿菌(かんきん)。稲葉・小川のOI抗原を有する点はコレラ菌

と一致するが，培地中にヤギやヒツジ血球を溶血する物質を出す点が異なる。近年，エルトール菌によって，東南アジアに臨床的なコレラの大流行をひき起こしたが，その過程で非溶血性の変異株が現われた。エルトール菌は現在ではコレラ菌*という種の一生物型とされる。〔和気 朗〕

エルトン〔Charles Sutherland Elton〕(1900～) イギリスの生態学者。オックスフォード大学で動物学を学び，卒業後，動物生態学を専攻，この分野の進歩に著しく貢献した。特に，個体数ピラミッド・食物連鎖・生態学的地位などの考え方を確立し，個体数変動の研究で大きな業績をあげた。

エルナンデス〔José Hernández〕(1834～1886) アルゼンチンの作家。近代文明の前に失われてゆく自然と伝統を愛惜の情をこめてうたった人。ガウチョ(パンパに住む土着民)の放浪の物語詩《マルティン-フィエロ》は〈ガウチョ詩〉の最高のものである。

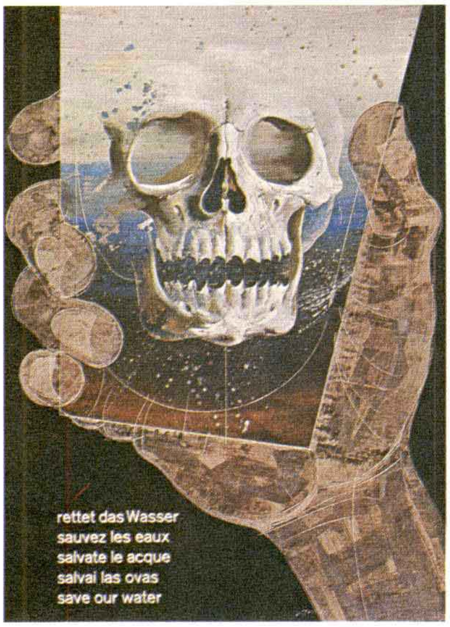
エルニ〔Hans Erni〕(1909～) スイスの代表的画家。デザイナーとしても知られる。ルツェルンの美術工芸学校を卒業してパリに出，ピカソ・ブラックらの感化を受けた。1939年のスイス大展覧会に，《スイス，各国民のいこいの地》の大壁画を描いて注目され，第2次世界大戦後は，絵画に，商業美術に多面的な才能を示している。

エルは【L波】 ⇨地震

エルバ(島)〔Elba〕 イタリア西岸とコルシカ島との間にある小島。面積224km²。人口32,000(1961)。イタリア領。1814～1815年ナポレオン1世*がこの島に流されたことで有名。ポルトフェラヨの高台には，当時のままの彼の屋敷が残っている。古くから鉄鉱石の産で知られ，現在もイタリアの鉄鉱産出量の90%を占める。古代ギリシア人は〈すす(煤)の島〉とよび，エトルリアの文明は，ここの鉄に負うところが大きい。

エルパソ〔El Paso〕 アメリカ合衆国テキサス州西端にある都市。人口27万7,000(1960)。メキシコへの連絡路にあたり，リオグランデ川をはさんで対岸にあるメキシコのシウダドホアレスとともにオアシス集落をなす。エルパソの名は，かつてスペインの征服者たちがここを通ってメキシコから北方に向かい，この地点を〈北の川(リオグランデ川)の通路(El Passo del Rio del Norte)〉とよんだことに基づくという。市の周辺部は，灌漑(かんがい)が発達して果実・野菜・綿花を産し，エルパソはこれらの集散地として発展した。また銅の精練，石油の精製などの工業もある。〔樋村大彬〕

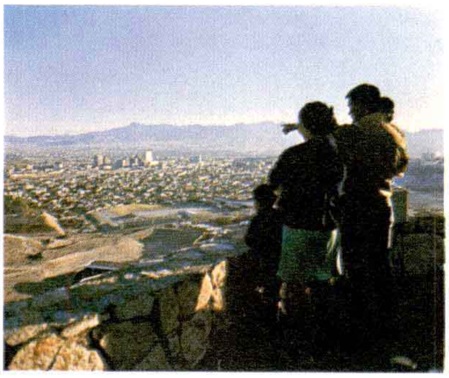
エルバン〔Auguste Herbin〕(1882～1960) フランスの画家。はじめは印象派の影響のもとにあったが，1910年以後にはキュービスム*の運動に加わった。さらに，1926年以降には，三角形・円・長方形などの幾何学形態と赤・青・黄の原色とを組み



エルニ　ポスター　1961



エルバ島　島の東岸，本土側に面するリオマリナの港風景。鉄分の多い結晶質の岩石からなる山はだが露出して海岸に臨む



エルパソ　市街の展望。メキシコとの国境に近い町だけに，住民にはメキシコ系が多い。史跡が多く，観光都市としても知られる

合わせる抽象絵画を描いた。

エルピー〔LP〕 ⇨リニアプログラミング

エルビウム〔erbium〕 ランタニド族元素の一。記号Er 原子番号68，原子量は167.26。質量数166～170の同位体がある。暗灰色の金属状粉末。比重9.16，融点1,400～1,500℃，酸化物Er_2O_3は桃色で酸にとける。

エルピージー〔LPG〕 ⇨液化石油ガス

エルピージー タンカー〔LPG tanker〕 近年化学製品を専門に運搬する化学製品タンク船があるが，これらの中で液化石油ガス*を運搬する専用タンク船。一般には，タンク船とタンカーを区別していないので，LPGタンカーといわれる。液化石油ガスを冷温高圧に封入するコンテナー(タンク)が設備されているのが特徴である。

エール-フランス〔Air France〕 Compagnie Nationale Air Franceの略称。フランス国営航空会社。国内のほか，ほとんど全世界に航路をもつ。特にフランスの政治性から，共産圏にも自由世界にも，アラブ側にもイスラエル側にも航路をもつという他の会社にみられない特色がある。1933年に私企業として発足し，1948年に国が70%の株をもつ国営法人に改組された。1970年以降の近代化5か年計画に50億フランをかけ，ジャンボジェット機(1970)，コンコルド超音速機(1973)，ボーイングSST機(1979年ごろ)の就航を計画している。1970年4月からはシベリア経由の大気圏コース(モスクワ～パリ間)を開発した。本社パリ。従業員数25,000。〔氏家 尚〕

エルブルース(山)〔Él'brus〕 ソビエト連邦南西部，黒海とカスピ海にはさまれたカフカス地方を東西に走るカフカス山脈の最高峰。安山岩質の溶岩で形成された円錐(えんすい)形の火山で，東西2峰がある。西峰は5,633m，東峰は5,593m。雪線高度は3,200～3,500mで，氷河が発達している。

エルブールズ(山脈)〔Elburz〕 イラン高原北部，カスピ海の南岸に沿う三日月形の山脈。全長1,000km，最高峰はデマベンド山(5,671m)。平均標高は3,000mで，平行した三筋の険しい山脈となって東西に走り，イランの南北交通を著しく妨げている。北斜面は雨量が多く，森林におおわれているが，南斜面は雨量に乏しく，乾燥したイラン高原が続く。包蔵水力が大きく，最近，カラジダムなど電力・灌漑(かんがい)などの多目的ダムが建設された。

エルフルト〔Erfurt〕 ドイツ民主共和国(東ドイツ)南西部，同名州の州都。人口19万(1964)。くつ・金属製品・機械・衣服製造のほか，野菜栽培，花の種子生産も盛ん。ドイツの古都市の一つで，ゲラ川に臨む砦(とりで)として重要な役割を果たし，のちにはスラブとの交易の中心地となった。中世のハンザ同盟*都市の一。歴史的建造物が多く，聖アウグスチヌス僧院は，13世紀の創建で，ルターにゆかりが深い。

エルフルトこうりょう【エルフルト綱領】 1891年，エルフルト*で開かれたドイツ社会民主党*大会で採択され，1921年まで同党の基本方針となった綱領。おもにカウツキー*

が起草した。ラッサール主義の傾向をもつゴータ綱領*に代わり，マルクス主義の原則に基づく諸要求を掲げたが，のちエンゲルス*に批判された。

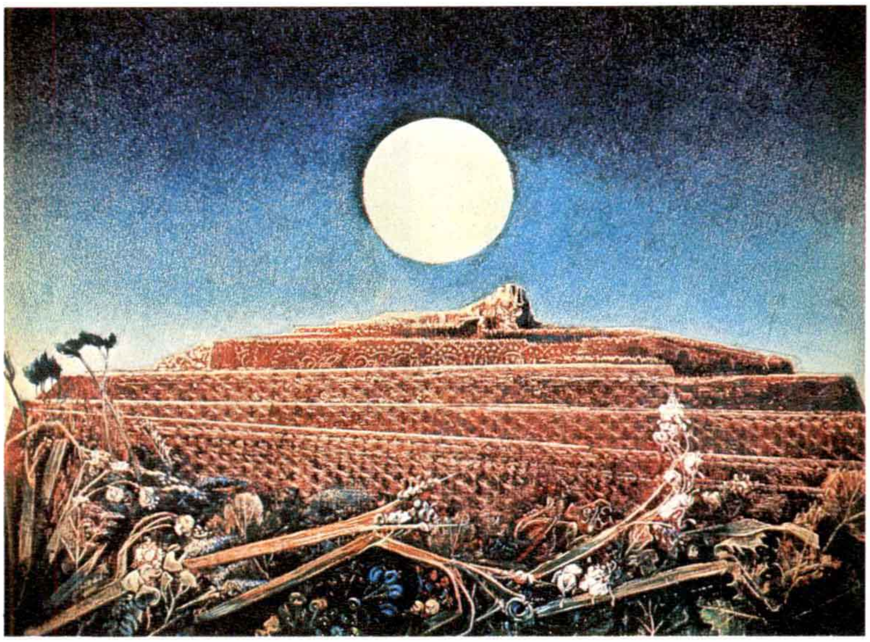
エルベ(川) [Elbe] チェコスロバキア中南部に源を発し，東西ドイツを流れて北海に注ぐ川。全長1,114km。ドイツではライン川に次ぐ大河である。プラハ・ドレスデン・マグデブルクなどの都市を貫流し，大貿易港ハンブルクを経て海に注ぐ。北海の潮の干満の差が大きいため河口はらっぱ状を呈する。ハンブルクまでは外洋船が航行し，内陸船はチェコスロバキア国境付近までさかのぼる。ミッテルラント運河など多くの運河によってライン川・ウェーザー川・ルール川・オーデル川などと結ばれ，交通の大動脈となっている。〔野間三郎〕

エルベシウス [Claude Adrien Helvétius] (1715～1771) フランスの哲学者。《百科全書*》編纂者(へんさんしゃ)のひとり。パリに生まれ，パリに死す。収税官として財をなし，それをもとにして研究に専念した。慈善家としても知られている。若いときロックの《人間悟性論*》を読み感銘を受け，コンディヤック*の感覚論にも影響された。2者に多くを学びつつ，彼の哲学は唯物論的思想に到達した。教育の機能を重視し，そこから旧体制(アンシアン-レジーム)を痛烈に批判した。主著《精神論》《人間論》ほか。〔石井忠厚〕

エルベのちかい 【エルベの誓い】 第2次世界大戦後米・ソ関係が冷戦状態にはいってから，深刻な対立と戦争の不安のない平和な世界を希求する人々によってよく引き合いに出されたエピソード。大戦末期，ドイツに東西から進撃した米・ソ両軍は，1945年4月25日エルベ川のトルガウ橋上にはじめて会し，連合国勝利の喜びを分かち合い，戦後は平和な世界を築き，2度と戦争を起こすまいと誓い合ったという。

エルマク [Timofeevich Ermak] (?～1584) ロシアのシベリア征服者，ドン-コサックの隊長。イワン4世に追われて東方のカマ川流域にのがれ，1581年シベリア遠征隊を組織した。1582年シビル-カン国を征服して前進を続けたが，シベリア-タタールのクチュム-カンの急襲を受けてのがれる途中，イルチシュ川で溺死(できし)した。彼の征服はその後のシベリア開発の基礎となった。

エルミタージュびじゅつかん 【エルミタージュ美術館】 レニングラードにあるソ連最大の国立美術博物館。世界でも屈指の美術館の一つに数えられている。歴代のツァーリ(ロシア皇帝)，特にエカテリナ2世*の収集品を基にした帝室博物館として，19世紀末に一般に公開，1917年のロシア革命後は国有となった。所蔵品は，西欧の古代から近代にわたる彫刻・絵画や古代オリエント・黒海沿岸・シベリアなど世界各地のあらゆる時代の美術工芸品，考古学・民族学資料など，合わせて約250万点にのぼる。〔藤井久栄〕



エルンスト《都市》1935～1936

エルミート [Charles Hermite] (1822～1901) フランスの数学者。ソルボンヌ大学教授。整数論・不変式論・方程式論・楕円(だえん)関数論など，多くの研究がある。自然対数の底 e が超越数であることの証明は有名。エルミートの多項式，エルミート形式，エルミートの行列式などの発見者でもある。

エルランゲンのもくろく 【エルランゲンの目録】 ドイツの数学者クライン*の幾何学に関する論文。彼が，1872年エルランゲン大学教授に就任した際に発表した論文《最近の幾何学研究の比較考察》のことで，当時多方面に分化して研究されていた幾何学を，変換群の考えで統合するという画期的な見解を述べたものである。

エールリヒ [Paul Ehrlich] (1854～1915) ドイツの微生物学者。シレジアのシュトレーレンに生まれ，ブレスラウとストラスブールに学んだ。卒業後ベルリン大学を経て，1890年コッホが主宰する伝染病研究所で微生物の研究を始め，のち血清研究所長(1896)・実験療法研究所長(1899)・化学療法研究所長(1906)を歴任。彼は，色素が特定の生体組織だけを選択的に染色する事実に着目し，病原体に特異的に強く作用する薬剤の追求に向かい，1909年，秦(はた)佐八郎*の協力を得て，トリパノゾーマと梅毒スピロヘータに有効なサルバルサン(606号)を発見した。そのほかにも業績が多いが，免疫反応の側鎖説を唱え，生物学的特異性を分子的に説明する先駆的な理論を提出したことは，特に重要である。1908年にメチニコフとともにノーベル生理医学賞を受賞。〔中村禎里〕

エールリヒ [Eugen Ehrlich] (1862～1922) ドイツの法社会学者。法の本質を理解するためには，派生的な法規よりもその根底をなす社会団体の内部的秩序を分析し，それによって〈生ける法〉を明らかにする必要があると説き，この主張を基礎づけるため法社会学*を提唱した。主著《法社会学基礎論》。

エルレンマイヤー [Emil Erlenmeyer] (1825～1909) ドイツの有機化学者。ミュンヘン大学教授。リービヒ*・ブンゼン*に学ぶ。不飽和化合物の反応性を研究し，1866年グレーベとともにナフタリンの構造式を決定して，有機化合物の構造論の建設に寄与した。彼の考案した三角フラスコは，〈エルレンマイヤーのフラスコ〉とよばれている。

エルンスト [Max Erust] (1891～1976) ドイツ生まれのシュルレアリスム*の主要な画家。ボン大学に学び，1919年にダダ*の運動に参加してコラージュ*を発表した。1922年パリに出て，ブルトン*・エリュアール*・アラゴン*らと交わり，フロッタージュ*などの技法によって絵画の領域を広げた。その作品は豊かな幻想にあふれ，不可視の世界を現出させている。1954年ベネチア-ビエンナーレ展で受賞。フランスの国籍を得ている。〔酒井忠康〕

エレアは 【エレア派】 紀元前6世紀の後半，南イタリアのエレアに興った哲学学派で，創始者はパルメニデス*。ほかにエレアのゼノン*，サモスのメリッソスらも，この派の代表者である。この派は，世界を根源的存在の生成変化とみたイオニア派*やヘラクレイトス*の万物流転説に対立して，真の存在は唯一不可分で不変不動なものであると説いた。パルメニデスは存在のみが存在し，非存在は存在しないゆえに，

存在を切り離す空虚(ケノン)は存在しないとし，多の存在も運動変化も感覚(ドクサ)の虚妄(きょもう)にすぎないとして否定した。ゼノンは〈アキレウスもカメを追い越せない〉〈飛ぶ矢は飛ばない〉という論証を行なってパルメニデスの説を擁護した。この派は厳密な論理と合理主義的な批判精神を重んじた点に特色を示している。〔本橋正義〕

エレキテル 江戸中期，オランダ貿易を通じて日本にも伝えられていた摩擦起電機。オランダ語electriteitをなまったよび名という。1765年(明和2)本草学者後藤梨春(りしゅん)がオランダの風土・物産・器物を紹介した《紅毛談》に，エレキテルのことが，病気の治療に用いられるもので〈人体より火をとるもの〉と説明されている。1771年，江戸時代中期の科学者平賀源内*は破損したエレキテルを長崎より持ち帰り，7年間の苦心ののち復原に成功した。現在，平賀源内の自作といわれるエレキテルが東京逓信博物館に所蔵されている。それはガラスの円筒とスズ箔(はく)を張ったつえとの摩擦で発電させるしくみになっている。〔堀内和夫〕

エレクテイオン 〔Erechtheion〕 アテネのアクロポリス*のパルテノン神殿の北にある神殿。アテナイの伝説的神王であるエレクテウスをはじめとする神々を祭る。少女をかたどる6本の柱をもつイオニア式列柱の代表作。BC480年ペルシア軍に焼かれたのをBC420年ごろから再建したもので，アテナイ市民の特別の尊崇を集めた。

エレクトラ 〔Elektra〕 古代ギリシアの伝説上の女性。アガメムノン*の娘。オレステス*の姉。父を殺した母を恨み，母のつらいしうちに耐えていたが，放浪の弟オレステスが帰郷すると，弟を助けて母を殺し，父の復讐(ふくしゅう)をする。古典悲劇3詩人アイスキュロス*・ソポクレス*・エウリピデス*がそれぞれ彼女を主人公にして悲劇を書いており，3作家の作風を比較する上で重要な作品である。

エレクトラ-コンプレックス 〔Erectra complex〕 精神分析*の幼児性欲論における女の子と両親との葛藤(かっとう)を示すコンプレックス*のことで，特に女の子が父を愛して母を憎む傾向をさしていう。広義にはエディプス-コンプレックスに属する。→エディプス-コンプレックス

エレクトロスラッグようせつ 【エレクトロスラッグ溶接】 1951年にソ連で開発された立て向き溶接の方法。溶接する2枚の母材を，約20mmの間隔をおいて立て向きに固定して上からワイヤーを送り，溶融スラッグ(溶接ビードの表面をおおう非金属物質)の中で溶接を行なうが，このとき溶着金属が流れないように母材の両側に水冷銅板をあてておく。炭素鋼の厚板の溶接に用いる。

エレクトロニクス ⇨146ページ

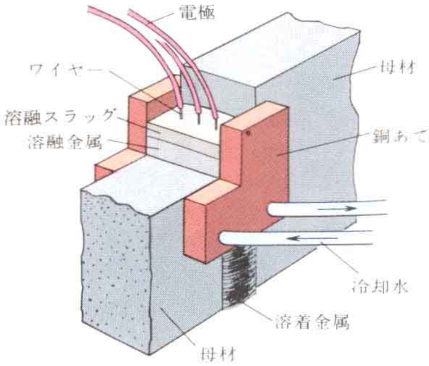
エレクトロルミネッセンス ⇨電場発光



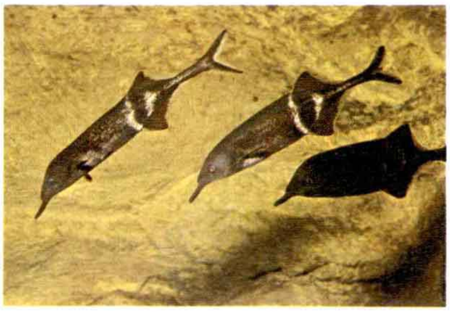
エレキテル　平賀源内作



エレクテイオン　南面のカリアティード(おとめの列柱)



エレクトロスラッグ溶接



エレファントノーズ

エレクトロン ⇨電子

エレクトロン-ボルト ⇨電子ボルト

エレクトーン 〔Electone〕 日本楽器製造によって，1958年につくられた電子オルガンの一種。トランジスターの発振回路を音源とし，音色や音量の変化だけでなく，ビブラートや打楽器音も出せる点で伝統的なオルガンと異なっている。楽器の規模はさまざまで，大きなものは2段の手鍵盤(しゅけんばん)と1段の足鍵盤を備えている。わが国ではこの楽器がよく知られているので，電子オルガンの代名詞としても使われている。

エレゲイアし 【エレゲイア詩】 古代ギリシア文学・ラテン文学の叙情詩の一種。六脚韻と五脚韻の組み合わせをくり返してつくられる短い詩。紀元前8世紀ごろイオニアで起こり，ギリシア本土に伝わった。本来酒宴や祭りの際，笛に合わせて歌われたものであるが，ギリシアでは進軍歌や教訓詩などに用いられた。のち碑文に多く用いられ，転じて哀悼のための詩となった。ラテン詩人は特にこの韻律を好み，碑文詩はもとより恋愛歌や祭祀(さいし)縁起歌などの長編詩としても用い，ビザンチン時代まで愛好されていた。代表的な作家に，ギリシアではソロン・テオグニス，ヘレニズム時代ではカリマコス，ローマではカトゥルス・オウィディウスらがいる。〔久保正彰〕

エレディア 〔José-Maria de Hérédia〕 (1842～1905) フランスの詩人。キューバに生まれた。いわゆる高踏派*(パルナシアン)の詩人で，完璧(かんぺき)な技巧を凝らした絵画的な詩集《戦勝牌(はい)》の作がある。

エレトリア 〔Eretria〕 ギリシアのエウボイア(エビア)島西海岸のポリス。カルキスの南，狭長な海峡を隔ててアテナイに対する。トラキア・イタリア方面に植民市を建設し，紀元前6世紀ごろ商業で繁栄した。ペルシア戦争の原因となったイオニアの反乱のとき，イオニアを援助した。そのためBC490年，第2回ペルシア戦争のときペルシア軍に破壊された。のちアテナイからの移民により再興したが，以前ほどの繁栄はみられなかった。1890年代に劇場・神殿・城壁・体育館・公共浴場などの遺跡が発掘されている。〔高山高雄〕

エレバン 〔Erevan〕 ソビエト連邦南西部，黒海とカスピ海にはさまれたアルメニア共和国の首都。アラクス川の支流ラズダン川に臨む風光明媚(めいび)な都市。人口68万7,000(1968)。ラズダン川にはいくつかの発電所があり，この電力を利用して，電機・化学・金属などの重工業が発達している。また，ぶどう酒や果実のかんづめなどの食品加工工業も盛んである。

エレファンタせっくつ 【エレファンタ石窟】 西インド，ボンベイの東北10kmの海上にある小島の石窟寺院。ヒンズー教のシバ*にささげられた列柱広間の大石窟で，側面の祠堂(しどう)には，シバ像，リンガ像，シバ三面像，踊るシバ像，シバ妃パールバティ像など，量感のある彫像が豊富に配置されている。7～8世紀の製作とみられる。

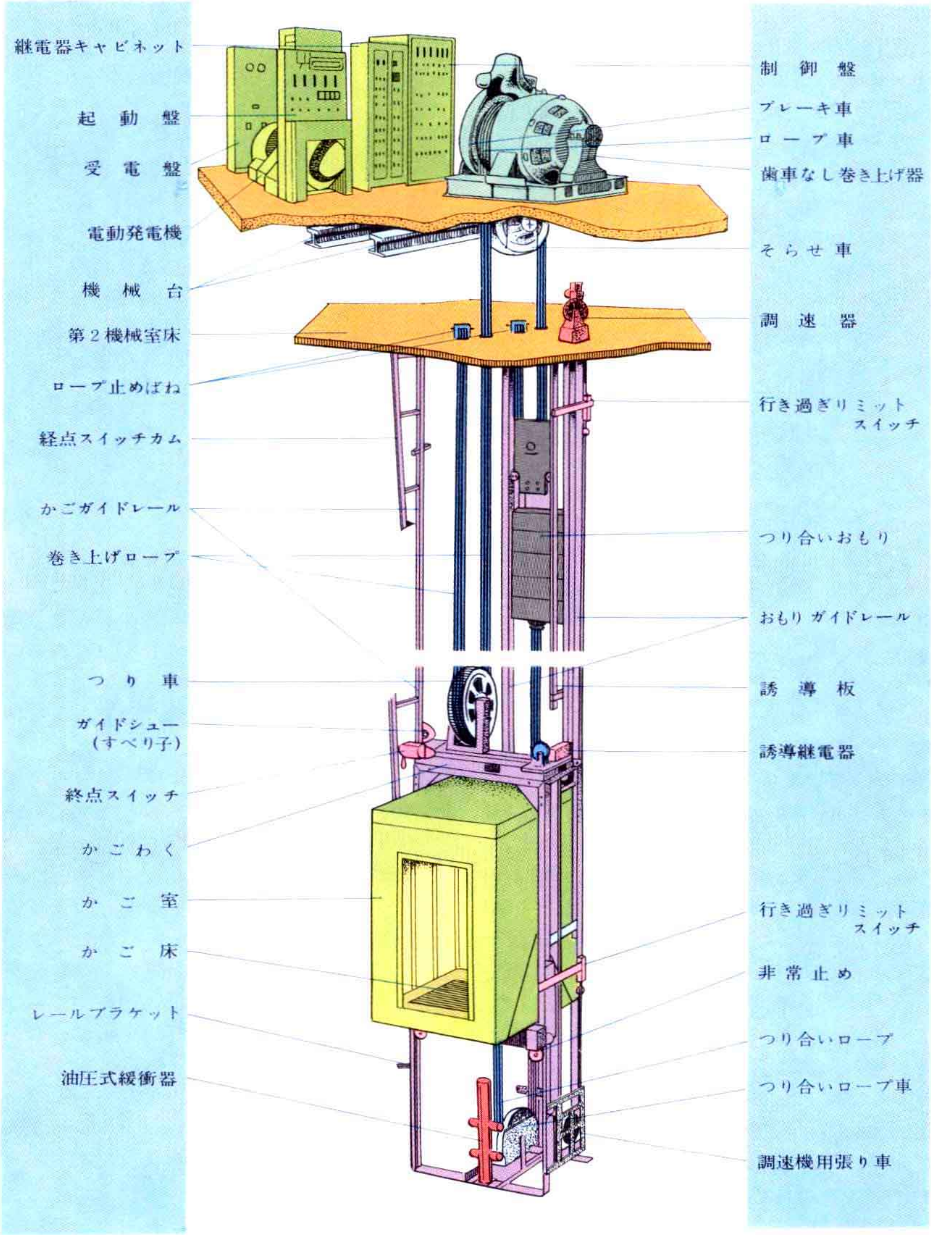
エレファントノーズ 〔elephant nose〕

硬骨魚類・モルミルス科の淡水魚のうち，鼻(正確には口先)の長いものの総称。鼻の長短は種類によってまちまちだが，長く伸び，先に口がついて，ゾウに似た感じのもある。他の部分は，普通の魚とあまり変わらない。1.5mにもなる種類もあるが，普通は15cm内外。魚の中で最も脳が大きいことでも知られ，弱い発電器官ももっている。アフリカ産。この魚の奇妙な姿は，古代エジプトの王の墓の装飾にも残っている。日本でも，まれに鑑賞魚として飼われている。〔菅野　徹〕

エレプシン　［erepsin］　脊椎(せきつい)動物の小腸の壁から分泌される液(腸液)中にあるタンパク質分解酵素の混合物。主としてペプチダーゼ，すなわち，カルボキシペプチダーゼ・アミノペプチダーゼ・ジペプチダーゼからなる。これらの酵素は腸内にできたタンパク質の途中分解物であるペプトンやポリペプチドをさらに分解して，アミノ酸に変え，吸収に便利なようにする役目をもっている。

エレブス(山)　［Erebus］　南極，ロス島にある活火山。高度3,795m。1841年，J.C.ロスが発見，その乗船名がつけられた。初登頂は，1908年イギリスのシャクルトン隊によってなされた。

エレベーター　［elevator］　昇降機。人や荷物などを入れた昇降箱を鋼索でつるし，電動力によってその鋼索を巻き上げ，また，巻きもどして垂直に昇降させる装置。高層建築物など地面から上下方向に距離の離れた場所への縦の交通機関・輸送設備として活用されている。エレベーターは使用目的によって，乗用・貨物用・人貨用・患者用・リフト(小荷物・料理・書類などを運ぶ小形エレベーター)に分けられ，それぞれが高速(150〜210m/分)・中速(45〜90m/分)・低速(45m/分以下)に分けられる。巻き上げ用電動力の種類によって，交流エレベーターと直流エレベーターに分けられ，直流には，定電圧エレベーターと可変電圧エレベーターがある。一般に直流エレベーターとよばれているものは，可変電圧(ワード-レオナード方式)エレベーターで，エレベーター1台ごとに電動発電機を設け，発電機の発生する直流電圧を制御して巻き上げ電動機に可変電圧を送り，エレベーターを円滑に運転するものである。エレベーターの選定の際には，運転方式(専用運転手方式・運転手なし方式・併用方式・群管理全自動方式)，戸締め装置，ウォームギア減速機の有無などが問題になり，積載量と速度によって巻き上げ機と電動機の容量，定員，箱の大きさ，機械室の大きさ，昇路・駆動の方式などが決定され，建物の用途や規模に応じて運転方式，箱の意匠，交通計算による設置台数などが決定される。〔中村守保〕



エレベーター

エレミヤしょ　**［エレミヤ書］**　《旧約聖書》の第24書。三大預言書の一。BC622年のヨシア王の宗教改革からBC586年のユダ王国の滅亡までの激動期に活動した預言者エレミヤのことばを，弟子(てし)バルクがしるしたものとされる。本書には他の書よりいっそう個人的な悲痛感がみなぎっており，また31章の〈新しい契約〉はモーゼ以来の契約とは違って形よりも精神の問題となり，新しい展開を示している。

エレミヤのあいか　**［エレミヤの哀歌］**　《旧約聖書》の第25書。BC586年のエルサレムの破滅を背景とする5章からなる嘆きの詩。ヤーウェのさばきを受けて悔い改め，神の救いを待望している。

エーレンシュレーガー　［Adam Gottlob Oehlenschläger］　(1779〜1850)　デンマークの詩人。ドイツロマン派の影響を受け，デンマーク文壇にロマン主義*を導入した。《黄金の角杯》《ハーコン-ヤールの死》など，ヨーロッパ北部の古代伝説に基づく作品が多い。劇作も多く，詩劇《アラジン》《ヘルゲ》《コレッジオ》などが知られている。ゲーテ*との親交もあった。

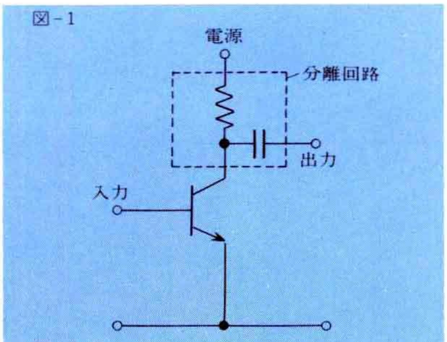
エレクトロニクス

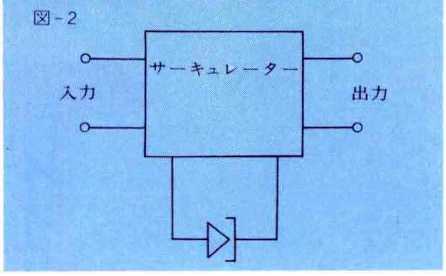
[electronics]

電子運動に起因する諸現象を利用した装置，ならびに，それらの装置の応用に基づく工学の一部門。一般には，電子工学*と同一の分野を意味する広範囲な工学である。エレクトロニクスは，その発達に伴って分岐し，量子電子工学・光電子工学・医用電子工学・生物電子工学などと，他の科学分野との結合をもつようになった。第２次世界大戦後，トランジスターなどの半導体*装置の開発や電子管の進歩により，諸量の計測・制御あるいは情報の処理・伝達などの応用分野が拡大し，電気工学の分野から独立した学問・技術の形態が確立されるに至り，エレクトロニクスとよばれるようになった。

エレクトロニクスは，電子機器を中心とする学問・技術であり，その内容は①電子材料，②電子装置，③電子回路，④電子応用の諸分野に分けることができる。

〔電子の作用〕 真空・気体・液体・固体の中での電子は，それぞれ異なったふるまいをし，固有の現象を示す。すなわち，外部から加えられる電界・磁界はもちろん，光・音・熱・圧力(ひずみ)などによる作用を受けると，それぞれ特有の現象を起こすと同時に，また，その反作用を外部に与える。これらの作用と反作用を利用して，多種多様な電子装置がつくられている。たとえば，真空・気体および半導体(固体)中の電子を媒体(キャリア)とし，電界・磁界による信号入力に対して，信号出力が得られるようにつくられた電子装置の代表的なものが，それぞれ，真空管・放電管およびトランジスターである。また，光・音・熱あるいは圧力に応答して電気抵抗の変化や起電力を生ずる電子装置(デバイス)などもつくられている。このほか，半導体にみられる電界効果や電子の注入現象に基づく発光現象があり，これらを利用した発光素子などもつくられている。電子装置に共通していることは，入力信号を加えてから，出力信号が得られるまでの時間がきわめて短いことで



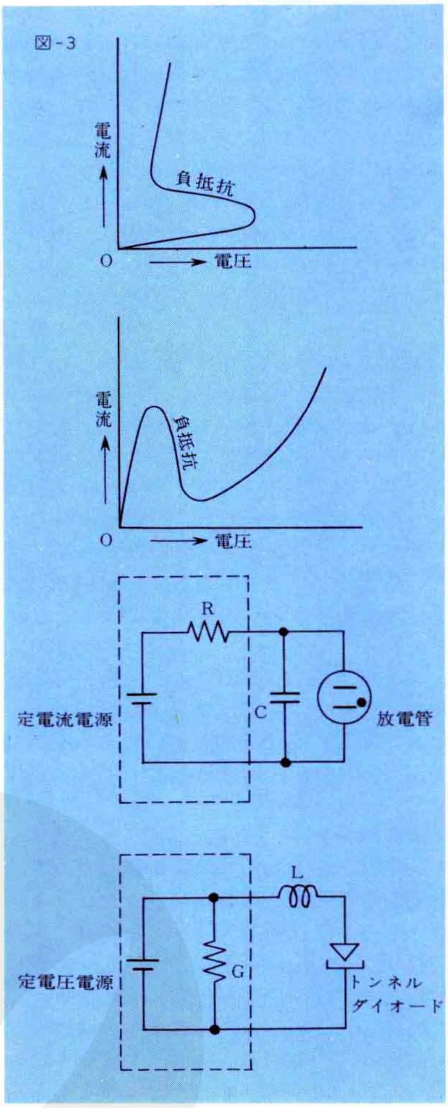


いいかえれば，信号に対する応答速度が非常に早いことである。同時に，真空管やトランジスターでは，信号に対する大きな増幅作用をもっていることである。これらの作用は，電子装置の最も大きな特長であり，エレクトロニクスをささえている大きな柱をなしている。

〔電子材料〕 エレクトロニクスの分野で用いられる材料はきわめて多種多様であるが，大別すると電子管・トランジスターなどの能動素子を構成する主体となる材料と，抵抗器・コンデンサー・コイルなどの受動素子を構成するための材料とに分けることができる。これらの材料の中でおもなものを表-１に示す。材料に関連して，真空もエレクトロニクスでは重要な役割を果たしている。真空技術の進歩は電子装置の進歩と密接な関係にある。また，放電管やレーザー*管などでは，水素・ヘリウム・ネオン・アルゴン・水銀などの気体も重要な材料である。

磁性材料は，ヒステリシス*現象に伴う記憶作用があるため，コンピューターその他の構成に必要な記憶素子をつくるのに重要な材料である。

〔電子装置〕 ここでいう電子装置とは，電子回路を構成するために必要な電子的素子



を意味している。素子は，受動素子(非活性素子)と能動素子(活性素子)に大別することができる。また，それぞれの中には直線素子と非直線素子が含まれている。これら素子のおもなものを表-２に示す。このほか，このような分類に属さないものに変換器(トランスジューサー)があり，それらのおもなものを表-３に示す。電子回路に用いられる能動素子は，一般に，電源から供給される電気エネルギーを，信号入力に対応する電

エレンブルグ [Ilya Grigorievich Erenburg] (1891～1967) ソビエトの小説家。ユダヤ人の中流家庭に生まれ，若くから革命運動に加わり，18歳でパリに亡命，唯美派の詩人として文学的出発をした。ロシア革命直後は同伴者的な立場をとっていたが，1930年代以降ソビエト体制の側に立ち，時代の直面する問題を鋭敏な感受性で取り上げた。第２次世界大戦中のフランスやソビエトの状況を描いた《パリ陥落》《あらし》のほか，戦後も，論争を巻き起こした《雪どけ》など多くの問題作を書いた。〔川端香男里〕

エロア [EROA] ⇨見返り資金特別会計

エロイカ ⇨英雄交響曲

エロイーズ ⇨アベラール

エロキューション [elocution] ラテン語では〈大声で話す〉の意であったといわれ，転じて音声の調子で聞き手や聴衆をひきつける技術をさす。演説法・雄弁法・朗読法・話術などと訳すが，日本ではおもに演劇用語として発声法または俳優の声自体をさす。

エログラム [aérogramme] 外国あて100円均一の航空書簡。〈空飛ぶたより〉といったフランス語。1949年(昭和24)３月，郵政省(当時，逓信省)ではじめて発行された。それ自体がびんせんになっており，郵便料金も印刷されているので，切手も封筒もびんせんもいらない。普通の航空郵便は郵便局の窓口へ差し出さなければならないが，エログラムだけはポストに入れてよい。制限としては，中にほかのものを入れたり，添付したり，または原形を変えて差し出す

エレクトロニクス

表-1　おもな電子材料

分類	材料
金属	金・銅・アルミニウム・ニッケル・モリブデン
抵抗体	炭素・合金(ニクロム)・金属酸化物(酸化スズ)
半導体	シリコン・ゲルマニウム・化合物半導体(ヒ化ガリウム・硫化カドミウム)
誘電体	磁器・マイカ・金属酸化物(アルミナ・酸化タンタル)
絶縁体	合成樹脂(ポリカーボネート・マイラ)
磁性体	フェライト・パーマロイ
電子放射体	酸化バリウム・酸化ストロンチウム・タングステン

注)　(　)内は例を示す

表-2　電子装置(素子)の分類

	受動素子	能動素子
直線性	抵抗・コンデンサー・空心コイル	3極真空管・トランジスター(接合形・電界効果形)
非直線性	磁心入りコイル・2極真空管・放電管・ダイオード(整流用・バラクター・バリスター)	トンネルダイオード・ガンダイオード・インパット-ダイオード・サイリスター・サイラトロン

表-3　エネルギー変換器の例

エネルギー	吸収	放出
光	光ダイオード(太陽電池)・光トランジスター・光導電セル	電界発光素子・注入発光素子
熱	サーモエレメント(熱電対)・サーミスター	サーモエレメント(熱電対)
音	圧電素子(電歪素子)・歪抵抗素子	圧電素子
磁気	ホール素子・磁気抵抗素子・磁歪素子	

気エネルギーに変換する役割を果たすものであり，信号の入力・出力端子のほかに電源端子が必要である。しかし，真空管やトランジスターは3端子素子であり，このため，陽極あるいはコレクターの端子を回路的に分離し，出力端子と電源端子として用いている(図-1)。負抵抗特性を示す2端子の能動素子の場合には，入力・出力端子も共通であるため，これを増幅回路として用いる場合には，入力・出力を分離する回路を付加する必要がでてくる(図-2)。

マイクロ波の発振に重要な役割を果たすようになった能動装置にガンダイオードおよびインパット-ダイオードがある。また，レーザー光を発振するダイオード*も実用化されている。このほか，制御用素子としてサイリスター*があるが，光や圧力で開閉を制御することのできるサイリスターと類似の多層接合素子，あるいは，表示用の可視発光ダイオードなど，固体素子の発展は，将来も注目に価するものが多く開発されるであろう。

〔電子回路〕エレクトロニクスで重要な回路は，電子管あるいはトランジスターを含んだ活性回路であり，アナログ回路とディジタル回路に大別される。前者はリニア回路ともよばれ，連続的な信号波形の増幅・発振・変調ならびに復調などに用いられるもので，たとえば，通信機器，計測・制御機器，アナログ計算機*などに用いられる。これに対して後者は，パルス回路ともよばれ，ディジタル計算機*・ディジタル通信・ディジタル計測・ディジタル制御などに用いられている。

①アナログ回路において重要なのは，非活性回路では濾波器(ろはき)と，活性回路では帰還(フィードバック)回路をもった増幅器である。増幅器と正帰還回路を組み合わせると，高入力インピーダンス増幅器・発振器などを構成することができる(図-3)。また，増幅器と負帰還回路を組み合わせると，インピーダンス変換器の構成，増幅器の安定化，増幅器の広帯域化，増幅器の雑音の低減などが可能となる。この場合，帰還の正負は，増幅器の出力側から入力側へ帰還する信号の位相を進めるか遅らせるかによって決定される。

3端子素子とは別に，負抵抗特性を有する活性2端子素子を用いると，容易に発振器を構成することができる(図-3)。この場合には，負荷の抵抗成分を負抵抗で補償することにより，回路を発振状態とするものである。したがって，発振状態に達するまでは伝送線路の損失を補償する増幅器として動作させることも可能である。

②ディジタル回路は，パルス*の計数と処理を主体とする回路であり，マルチバイブレーター*および各種の論理回路から構成されている。現在は，トランジスターおよびダイオードなどの固体素子を用い，同時に，インダクタンス*はもちろん，抵抗やコンデンサーもできるだけ用いないですむような回路がつくられている。このような傾向は，ディジタル回路では，同一の回路を多数併用する場合が多いこと，応答速度の増加に対する要求から生まれた。

〔電子応用〕エレクトロニクスは，ラジオ・テレビジョンなどの身近なものから，コンピューター，計測機器・制御機器をはじめ，化学工業・機械工業，また交通関係・医学関係などでも応用されていることは，よく知られている。このほか，宇宙開発*・海洋開発*などはエレクトロニクスの助けを借りなくては考えられない。また，教育の分野でもエレクトロニクスの力が発揮されつつあることは注目される。〔伊藤糾次〕

ことは禁ぜられており，書留・配達証明・価格表記・年賀特別郵便の取り扱いは行なわない。郵政省の承認を受けて私製が認められている。〔高橋譲二〕

エロス ⇨愛

エロス［Eros］小惑星の名。1898年に，ドイツのウィットによって発見された。離心率が0.223という比較的細長い楕円(だえん)軌道上を動き，太陽に近づいたときには火星の軌道の内側にはいりこむ。直径約25km，衝*における平均等級11等。1931年には，地球の0.17天文単位の距離まで接近したが，このときエロスを観測して太陽地球間の距離の測定が行なわれた。➔小惑星

エロス［Eros］ギリシア神話の愛の神。ギリシア文学ではさまざまな意味づけがある。ゼウスをヘラに，またパリスをヘレネにかりたてるような激しい欲求ともなり，あるいは人をも神々をも支配する宇宙的全能者ともなり，あるいは至高至善を求める精神の象徴ともなった。母はアプロディテ*とするのが普通だが異説もある。時代が下ると弓矢を持つかわいい子どもの姿をとる。ローマではクピド・アモールとよばれ，プシュケー*との恋物語がつくられた。〔松田　治〕

エローストン(国立公園)［Yellowstone］アメリカ合衆国のワイオミング州北西部を中心に，モンタナ・アイダホ両州にまたがる国立公園。面積8,990km²。合衆国最大，また，世界で最初(1872年指定)の国立公園である。ロッキー山中の溶岩台地を流れるエローストン川が平均300mの深い峡谷を刻んでさまざまの地形をつくり，数か所

に滝をかけている。1807年コルターが探検して以来注目をひくところとなった。オールドフェイスフルをはじめ3,000以上の間欠泉や温泉があり，マンモスホットスプリングはイオウの付着した岩板上を噴泉が流れ，エローストン（黄石）の名を生んだ。$360km^2$ のエローストン湖など多くの湖と滝が美しく，野生動物・鳥類が大森林の中に自然の姿をみせる。開園期間は5～10月であるが，内外から多数の観光客が訪れる。〔野間三郎〕



エローストン国立公園　公園内の間欠泉に集まる観光客。これは約1時間おきに4分間噴出するオールドフェイスフル間欠泉

エーロゾル ［aero-sol］ 気体の中に固体または液体の微細な粒子が分散している系。気体ゾル・煙霧質ともいう。たとえば空気中に液体が分散しているものには霧・もや・雲・雨があり，また固体が分散しているものには煙・ちりなどがあるが，両者の区別のつけにくいものもある。分散粒子の直径は1～10mμ，一般に帯電しやすく，非金属は正に帯電する傾向がある。沈降・ブラウン運動・拡散・光泳動などの性質を有し，光学的性質としてチンダル現象*が知られる。また，石炭・デンプン・コルクのような有機物の微粉は，空気中で微粉爆発することが知られている。このような性質をもつエーロゾルは工業・衛生・気象の上で重要な関係を有している。〔水野俊彦〕

エーロゾルとりょう 【エーロゾル塗料】 塗料を噴射剤とともに耐圧性容器に充塡(じゅうてん)し，噴射剤が気化して生ずるガスの圧力により容器中の塗料を霧状にして塗装する塗料。充塡する塗料には一般にニトロセルロースラッカーを用い，噴射剤にはプロパン・ブタン・塩化ビニル・フレオンなどの液化ガスを用いる。はけやスプレーガンなどの塗装用具を必要とせず，必要な量の塗料だけを使って簡単な操作で塗装ができ，しかも速乾性で，むらのない美しい色とつやをもった塗膜が得られるので，広く一般に使用されている。〔鈴木荘司〕

エロチシズム ［eroticism］ 性愛的・官能的な傾向。ギリシア神話の愛の神エロス*が語源。人間の生物的本能としての性欲そのものではなく，そのような欲望が心理的・精神的に昇華された現われをいう。エロチシズムは人間のあらゆる文化的な営みにあり，特に芸術においては基本的要素の一つであるといえる。インドの性典《カーマ-スートラ*》やポンペイの壁画，ギリシア神話，日本におけるイザナギ・イザナミの神話などは，古代人の自然な性愛の表現であった。中世ヨーロッパではキリスト教の倫理感によって，エロチシズムは屈折した表現をとったが，ルネサンス*によって赤裸な人間性が謳歌(おうか)されるようになり，ラファエロ*の美術やボッカッチョ*の《デカメロン*》など，エロチシズムの芸術的表現が続出する。その後，性にまつわる拘束を破ろうとする動きは活発で，18世紀にはサド*やカザノバ*らの思想と行動，19世紀にはボードレール*やロートレアモン*らの詩が，エロチシズムを追究した。20世紀にはいると，フロイト*による深層心理の探究が人間の性意識に新たな照明をあて，ローレンス*・H.ミラー*・バタイユらの文学・思想が生まれた。日本でも古くから文学や絵画などにエロチシズムの表現があり，現代芸術の基本的な問題として，文学・美術のみならず，映画・演劇などさまざまな面で探究されている。→好色文学　→性〔田島　修〕

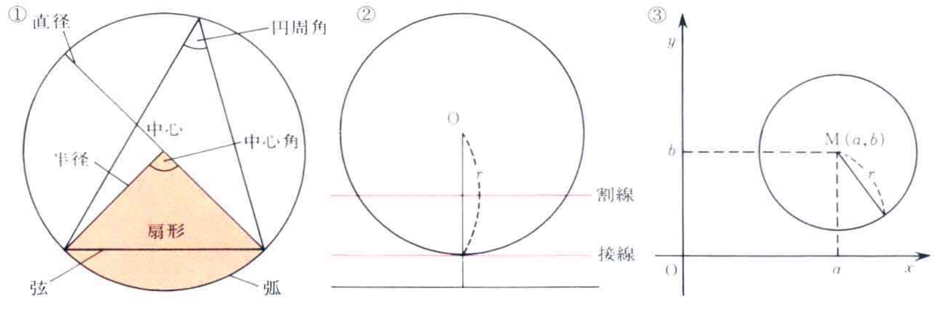
エローラせっくつ 【エローラ石窟】 西インド，アウランガバードの西北にある石窟寺院。山崖(さんがい)2kmにわたって主要34窟が開掘されている。第1～12窟が仏教(7～8世紀)，第13～29窟がヒンズー教(7～8世紀)，第30～34窟がジャイナ教(8～9世紀)のものである。仏教やジャイナ教石窟は近傍のアジャンター石窟*に比べて簡略の観を免れないが，ヒンズー教石窟は建築的にも彫刻的にも圧巻である。第16窟のカイラーサ寺院のように，シバ神の住居であるカイラーサ山を自然の岩を利用して彫り出したものもある。〔小谷仲男〕

えん 【塩】 酸の水素原子を金属原子や陽性基(アンモニウム基など)で置き換えた形の化合物。〈性質〉常温で固体，水にとけて成分イオンに電離するものが多い。融点が比較的高く，とけると電導体となる。強酸と弱塩基，強塩基と弱酸の塩は水溶塩で加水分解してそれぞれ酸性・塩基性を示す。〈製法〉①酸と塩基の中和による。おのおのは無水酸化物(二酸化炭素・酸化カルシウムなど)でもよい。②酸に金属をとかす。③ハロゲン化物は元素どうしの直接化合によってもできる。④不溶性の塩は2種の塩の複分解で得られる。⑤弱酸塩を強酸で分解し，弱酸を蒸発させれば強酸の塩が得られる。〈分類〉①酸の水素原子のうち，金属原子で置換可能な水素原子が残っているものを酸性塩*，水酸基を含んでいるものを塩基性塩*，ちょうど中和し合っているものを正塩*という。②塩の正イオン部が単イオンのものを単純塩，2種以上のイオンを含んでいるものを複塩*，錯イオンのものを錯塩*という。しかし，この区別は不明確で，単純塩とよばれるものでも実際の構造は錯塩となっているものが多い。③結晶水を含むものを含水塩，含まないものを無水塩という。→正塩　→酸性塩　→塩基性塩〔三輪誠・玉野秀樹〕

えん 【円】 平面上で，一定点からの距離が一定である点の集合を円または円周という。その定点を円の中心，円の中心と周上の1点とを結ぶ線分またはその長さを半径という。円周は平面を内部と外部とに分ける。円周と内部とを合わせて円領域といい，円周または円領域のことを簡単に円とよぶ。半径 r の円では，円周率*を π とするとき，円周の長さは $2\pi r$，面積は πr^2 で表わされる。円周上の2点を結ぶ線分を弦，特に中心を通る弦を直径という。一つの直径によって2分されたおのおのを半円とよぶ。二つの半径によってはさまれた円周の部分を弧*または円弧といい，はさまれた角を中心角*という。このとき，二つの半径と弧に囲まれた部分の図形を扇形*という。円周上の1点を共有する二つの弦によってつくられる角を円周角*とよぶ。

【円の性質】円は任意の直径について線対称で，中心のまわりに任意の角度だけ回転してももとのものに重なる(→対称)。また，長さが一定な閉曲線によって囲まれる図形のうち，円は最大の面積をもつ。

【位置関係】半径 r の円と直線との位置関



円

係は，中心からその直線までの距離 d によって決まる。$d<r$ のときは共有点が二つで，このとき直線と円は交わるといい，その直線を円の割線とよぶ。$d=r$ のときは共有点は一つで，その直線は円に接するといい，その直線を接線とよぶ。$d>r$ のときは共有点がない。また，半径が r_1，r_2 の二つの円($r_1>r_2$)の位置関係は，中心間の距離 d によって決まる。$d=0$，すなわちこれらの円が中心を共有しているとき，同心円という。$0<d<r_1-r_2$ のとき小円は大円に含まれ，$d=r_1-r_2$ のとき内接し，$r_1-r_2<d<r_1+r_2$ のとき交わり，$d=r_1+r_2$ のとき外接する。さらに，$d>r_1+r_2$ のとき2円は互いに他の外部にある。
【式表示】座標の原点を中心とする半径1の円の方程式は $x^2+y^2=1$ である。一般に，点(a，b)を中心とし，半径 r の円の方程式は

$$(x-a)^2+(y-b)^2=r^2$$

であり，方程式

$$x^2+y^2+2ax+2by+c=0$$

は中心が$(-a,-b)$で，半径が$\sqrt{a^2+b^2-c}$の円を表わす(ただし，$a^2+b^2-c>0$)。
〔菊池兵一〕

えん　【円】　わが国の貨幣の単位。明治維新によって幣制が改革され，江戸時代の貨幣単位であった両・分・朱の四進法が廃止されて，新たに十進法の円(＝100銭)・銭*の単位が採用された。正式に定められたのは1871年(明治4)の〈新貨条令〉によってである。これによって1円金貨(純金1.5g，約0.4匁)が本位貨幣とされた。しかし実際には金の不足と経済力の弱体のために金銀複本位制度ないし銀本位制度*をとらざるをえず，国際的金銀比価の変動の影響を強く受けた。その後1897年，日清(にっしん)戦争の賠償金として多額の金を得たことによって金本位制度*の採用が可能になった。その結果，〈貨幣条令〉によって1円＝純金量2分(750mg)と定められた。その後，日本経済の発展とともに円の国際通貨としての地位は向上し，その流通地域はアジア各国に及んだが，為替(かわせ)平価*は1939年(昭和14)までポンドとリンクされていた。第2次世界大戦中から戦後の占領期にかけては為替管理が行なわれていたが，1949年4月，1ドル＝360円という為替相場が決定され，1953年，IMF加入にあたって，それがそのまま円の為替平価と決定された。金1オンス＝35ドルとすると，1円は純金2.4685mgにあたる。現在では，わが国経済の復興と高度成長により産業の国際競争力は強化され，円の対外価値は安定し，マルクとともにその価値維持の動向が注目されている。〔速水　保〕

えん　【燕】　中国古代の国名。
1西周時代初期，召公奭(しょうこうせき)が河北省中部に国を建てたとされる。青銅器の銘文には匽(えん)と書かれる。戦国時代特に昭王の時代に，郭隗(かくかい)や楽毅(がくき)を臣下に得て国力を伸ばし，戦国七雄の一つに数えられた。はじめ，西方の秦(しん)と合従(がっしょう)して南方の斉(せい)に対抗したが，魏(ぎ)・趙(ちょう)を支配した秦は，かえって燕を攻め，BC227年には都の薊(けい)(北京(ペキン)付近)が落とされた。太子の丹が刺客の荆軻(けいか)を秦に送り回復を図ったが，結局BC222年，秦のために滅ぼされた。
2中国，五胡十六国*の一。ヒラームレン上流に遊牧していた鮮卑族慕容部が建てた国。前燕(337～370)，後燕(387～407)，南燕(398～410)，漢族の馮(ふう)氏が建てた北燕(409～438)がある。中でも前燕は，その酋長(しゅうちょう)の慕容廆(ぼようかい)が遼寧(りょうねい)省の棘城(きょくじょう)に都を置き，中国的な農耕・養蚕技術や法制の受容に努めたので強大となり，358年に河南省の鄴(ぎょう)に遷都して以後は朝鮮・南満州から河南・山西に及ぶ大勢力となった。前燕の別流に西燕(384～394)がある。
3(五胡十六国)➔北燕
4隋(ずい)末に王須抜が河北省北部で建てた国(615～618)。
5隋末群雄のひとり高開道が河北省漁陽で建てた国(618～624)。突厥(とっくつ)と結び，一時は唐に対抗し河北諸州に勢力を奮った。
6五代十国の一。唐末の盧龍(ろりょう)節度使劉守光(りゅうしゅこう)が幽州で建てた国(911～913)。

えんあん　【塩安】　⇨塩化アンモニウム

えんあん　【延安】　イエンアン　中国の陝西(せんせい)省北部の都市。延水の南岸に位置し，古くから地方行政の中心であった。歴代軍事上の要地として重視されたほか，近年は特に付近の油田をもって知られる。1935年江西省の瑞金(ずいきん)を追われた中国共産党が，大西遷ののちここに本拠を移し，1936年から中華ソビエト共和国臨時政府を置いた。以後第2次世界大戦の終わりに至るまで，抗日・解放の中心であったので，革命の聖地として国民あこがれの地となっている。〔日比野丈夫〕



延　安　延水のほとりに広がる延安の町並み。宝塔のある黄土の台地には多数の穴居があり，抗日戦を指揮した毛沢東の本営もここにあった

えんうんじゅうろくしゅう　【燕雲十六州】　中国，万里の長城の南側一帯にあった16州の歴史的呼称で，燕(現在の北京(ペキン))・雲(現在の大同)のほか，薊(けい)・涿(たく)・檀(だん)・順・瀛(えい)・莫(ばく)・蔚(うつ)・朔(さく)・応・新・嬀(き)・儒・武・寰(かん)の諸州をいう。五代の後晋(こうしん)の高祖石敬瑭(せきけいとう)が後唐を滅ぼして建国するにあたり，援助を仰いだ契丹(きったん)への代償としてこの地を割譲した。後周の世宗，宋(そう)の太宗らがこれの奪回を企てたが果たさず，紛争が続いた。〔藤善真澄〕

えんうんどう　【円運動】　物体が一定の円周に沿って動く運動。糸の一端におもりを結びつけ，他端を持って振り回すと，おもりは円運動をする。惑星や人工衛星の運動は軌道が円形の場合，円運動である。またカーブを通過する列車や自動車は円の一部を描いて運動するので，円運動をしているものと考えることができる。半径 a の円に沿って円運動をする物体の速さを v，角速度を ω とすれば，$v=a\omega$ の関係がある。円運動をする物体の運動の方向はつねに変化し，円の中心に向かって大きさ v^2/a(角速度を用いて表わせば$a\omega^2$)の加速度成分をもつ。また円の接線方向には v の時間微分に等しい大きさの加速度成分をもつ。特に v＝一定の場合を等速円運動とよび，このとき加速度は円の中心に向かう成分だけである。物体が円運動を続けるためには，円の中心に向かう加速度を生じさせるような力が作用していなくてはならない。この力を向心力*または求心力とよぶ。向心力は円の中心に向かって働き，その大きさは物体の質量を m とすると mv^2/a (角速度を用いて表わせば$ma\omega^2$)である。おもりを糸に結びつけて振り回す場合には，糸の張力が向心力として働く。また惑星の運動の場合には万有引力が向心力として働く。
〔有山正孝〕

えんえい　【遠泳】　長距離を続けて泳ぐこと。日本では遠泳のための泳法を考え出した流派が多く，遠游(とおおよぎ)(神伝流)・長泳(ながおよぎ)(能島流)などといっていた。明治以降，学校体育に水泳が取り入れられてから，グループ指導の重要な行事として行なわれ，体力や精神力をつけさせるねらいから，5時間程度の周游(しゅうゆう)，江の島一周，須磨(すま)～浜寺間などの形式がとられる。近年は，個人や団体の競泳としても行なわれている。外国にはグループの遠泳行事は少ないが，1875年，イギリス人キャプテン＝ウェッブがドーバー海峡(35.4km)をはじめて泳ぎきるなど，冒険心に富んだ遠泳が行なわれている。〔浮田裕之〕

えんえき　【演繹】　論理学の用語。普遍的な命題から特殊な命題を導き出す推理。前提が真であれば必然的に結論は真となることを特色とする。これは結論において述べられていることのすべてが，すでに前提の中に暗に含まれていることによる。したがって，この推理の働きは新しい知識を獲得することではなく，あらかじめ普遍的に与え

られている真理を敷衍(ふえん)ないし明確にすることにある。➔帰納　➔三段論法

えんか　【塩加】　⇨塩化カリウム

えんか　【演歌】　明治時代に生まれた大衆歌謡の一種で，演歌の字が示すように，壮士たちの自由民権運動*の演説を歌の形にした演説歌であった。初期には〈愉快節〉〈欣舞節(きんぶぶし)〉〈ダイナマイト節〉といった悲憤慷慨調(こうがいちょう)のものが多かったが，やがて政治的な機能を離れ，日常生活に題材をとったものが，演歌師とよばれる専門的な芸人によってバイオリンを伴奏にして歌われるようになった。その代表的な存在は〈ラッパ節〉の添田唖蝉坊(あぜんぼう)である。この形の演歌はレコードの出現とともに社会的な役割を終えたが，今日まで歌われている大衆歌謡の一つの源流になった点は重要である。なお，〈艶歌(えんか)〉は演歌のうち非政治的なものをさすのにしばしば使われたが，今日では歌謡曲の中で西洋音楽の影響の少ない形のもの，つまり，小ぶしを用いて柔軟な旋律の動きをつくり，しかも，昔ながらの心情を歌詞にしたものをさしている。〔徳丸吉彦〕

えんかあえん　【塩化亜鉛】　$ZnCl_2$　激しい潮解性をもつ白色の粉末で，水によくとける。水溶液は加水分解により弱酸性を呈し，金属酸化物を溶解する性質がある。また繊維を膨潤させる。亜鉛くずを塩酸で溶解し，その溶液を煮つめるか塩素気流中で亜鉛を加熱して製造する。塩化亜鉛法による活性炭の製造，亜鉛やスズめっきの際の金属の表面清浄，乾電池の電解液成分として塩化アンモニウムと併用して用いる。またバルカナイズドファイバーの製造におけるパルプの膨潤剤，軽合金鋳造の際の脱酸剤，アクリロニトリル系合成繊維の凝固剤や化学工業原料に用いる。〔鈴木　篁〕

えんかアルミニウム　【塩化アルミニウム】　$AlCl_3$　無色の結晶であるが，工業的なものは不純物を含み，色が着いている。潮解性が強く，水に熱を出してよくとけ，水溶液は加水分解によって酸性を呈する。湿った空気中では発煙して塩化水素を放出するので，貯蔵には注意を要する。ボーキサイトに炭素を加え，900℃前後に加熱して塩素を通すか，くずアルミニウムを加熱して塩素を通して得られる。石油の分解触媒，アルキルベンゼンを生ずる反応であるフリーデル-クラフツ反応の触媒，および重合触媒として用いる。〔鈴木　篁〕

えんかアンモニウム　【塩化アンモニウム】　NH_4Cl　白色の結晶で水にとけやすい。アンモニアと塩化水素を混ぜれば生成する。熱すると昇華してアンモニアと塩化水素に解離する。電池製造・はんだづけ融剤・医薬品・肥料などに用いられる。肥料に用いる場合は，塩安とよばれる。ガラスの原料となるソーダ灰の製造法であるアンモニアソーダ法の合理化によって，副産物として



円　覚　寺　舎利殿

1950年から生産が開始された。肥料として大量に生産しているのは日本だけである。副産物として生産されるため，成分価格は尿素と並んで窒素肥料中で最も安い。塩安は通常，窒素を25％含む白い結晶で，吸湿性は少ない。速効性の生理的酸性肥料で，肥効や施用法は硫安とほぼ同じである。硫酸根を含まないため，老朽化水田では肥効が高い。しかし含有する塩素イオンのため，土壌(どじょう)の中の塩基が流亡しやすくなるので，酸性土壌では石灰や苦土資材を投入する必要がある。硝酸化成速度は尿素・硫安に比べおそい傾向がある。塩素を含むため繊維作物の繊維の形成に効果があるが，たばこ用としては火つきを悪くする傾向があるとされている。1967年(昭和42)の生産量は約58万tで，そのうち37万tを中国・東南アジアに輸出しており，国内では3分の2が複合肥料*の原料となる。〔早瀬達郎〕

えんがい　【円蓋】　⇨ドーム

えんかいしゅう　【沿海州】　ソビエト連邦，極東の南端，東は日本海に面し，西は中国の東北部に接する地方。日本では一般に州とよんでいるが，ソ連の行政区画上は，州(オブラスチ)ではなく，地方(クライ)である。面積16万6,000km²。人口16万9,000(1968)。主都ウラジオストク。日本海寄りを南北方向にシホテアリン山脈が走り，南西部の中華人民共和国との国境に近いハンカ(興凱)湖周辺・ウスリー川流域には平野が開ける。気候は，東アジアのモンスーン帯にはいり，温暖多雨で，面積の3分の2は森林である。産業は鉱業・林業・漁業を主とし，石炭・木材の産が多く，毛皮獣の狩猟・飼育も盛んである。南西部の平野では小麦・イネ・ダイズが栽培される。日本とは，ウラジオストク・ナホトカなどの港を通じて貿易・交通面で密接な関係をもつ。〔斎藤晨二〕

えんかいな　【縁かいな】　三味線(しゃみせん)歌曲・俗曲の曲名。江戸末期につくられ明治時代中期に流行した。曲名の由来は，歌詞を〈縁かいな〉ということばでしめくくっていることからきている。四季と名所の風情(ふぜい)を織り込んだ歌詞であるが，替え歌も多い。本調子の短い曲。

えんかカリウム　【塩化カリウム】　KCl　無色の結晶で水によくとける。性質は塩化ナトリウムに似る。原料は，主としてカーナリット($KCl \cdot MgCl_2 \cdot 6H_2O$)・ハートザルツ($KCl \cdot MgSO_4 \cdot NaCl \cdot H_2O$)・シルビン($KCl$)・シルビニット($KCl \cdot NaCl$)などで，ドイツ・フランス・スペイン・カナダなどの岩塩鉱床に産する。カリ塩原料・肥料などとして重要である。肥料では塩加とよばれ，カリ肥料の代表的なものである。最近5か年間(1964～1968)におけるわが国の輸入量は90～100万t。産地は，カナダ・アメリカ・ソ連・西ドイツ・フランス・イスラエルなど多岐にわたる。原料や製法によりいくぶん着色されていることもある。➔カリ肥料　〔鈴木篁・早瀬達郎〕

えんかカルシウム　【塩化カルシウム】　$CaCl_2$　無色の結晶で，1・2・4・6分子の結晶水をもつものが存在し，いずれも吸湿性が強い。アンモニア-ソーダ法によるソーダ灰製造の際の副産物として得られる。フレーク状($CaCl_2$　77～80％)・固体($CaCl_2$　73～75％)・液状($CaCl_2$　40％)などの状態で市販される。寒剤，炭坑・道路などのほこり止め，セメント硬化促進剤，豆腐の凝固剤，医薬などに用いられる。

えんかぎん　【塩化銀】　$AgCl$　無色の結晶で，水にはほとんどとけないが(20℃の100gの水に0.000156gとける)，アンモニア・濃塩酸・チオ硫酸ナトリウム溶液などには錯イオンをつくってとける。一般に銀イオンと塩素イオンとが合わさった白色沈殿として得られる。塩化銀は感光性があり，写真のフィルムや印画紙の製造に用いられる。

えんがく　【縁覚】　梵語(ぼんご)　pratyeka-buddha(プラティエーカ-ブッダ)，パーリ語　pacceka-buddha(パッチェーカ-ブッダ)の訳。独覚とも訳され，また，辟支仏(びゃくしぶつ)などと音写される。声聞*(しょうもん)・菩薩*(ぼさつ)とともに三乗の一つで，仏の教えを受けることなく，修行を積み，迷いを絶ってみずから真理を悟るという一種の聖者。伴侶(はんりょ)のない独住者であるので，一角獣の角にたとえられる。寂静(じゃくじょう)の境地を好むゆえに，みずからの悟りを求めるための修行のみあって，大慈悲心をもって人々を救うことはないといわれる。〔佐藤良純〕

えんがくじ　【円覚寺】　神奈川県鎌倉市にある。鎌倉五山*の一つで臨済宗円覚寺派の大本山。山号は瑞鹿山(ずいろくさん)，鹿山とも

いう。1282年(弘安５)北条時宗(ほうじょうときむね)が中国僧無学祖元を迎え，元寇(げんこう)の役における両軍戦死者の霊を弔うため，中国の径山(きんざん)寺にならって建立(こんりゅう)。1284年時宗の没後は北条家の菩提(ぼだい)寺になった。以来，禅林の名刹(めいさつ)として日本・中国の高僧があいついで来山，参集する修学僧も絶えなかった。しかし，室町末期の大火と足利(あしかが)家の滅亡により寺運は傾いた。その後明治期に今北洪川(こうせん)・釈宗演などの名僧が出，参禅者も多くなってその名も広まった。なお，舎利殿と梵鐘(ぼんしょう)は国宝に指定され，禅宗美術の名品も多い。〔永井信一〕

えんかくせいぎょ【遠隔制御】⇨リモートコントロール

えんかコバルト【塩化コバルト】$CoCl_2 \cdot 6H_2O$　赤色の結晶で水にとける。無水塩は青色を呈する。コバルト酸化物または炭酸塩を塩酸に溶解し，溶液を蒸発させることによって得られる。水溶液は淡赤色で，紙に塗ってもほとんど見えないが，加熱すると無水塩となり，はっきりした青色となるので，あぶり出しなどに使われる。晴雨計・温度計・比重計・電気めっきなどにも使用される。

えんかすいぎん【塩化水銀】塩化第一水銀(→甘汞(かんこう))と塩化第二水銀(→昇汞)とがある。

えんかすいそ【塩化水素】HClで表わされる化合物。常温常圧において無色の刺激臭をもつ気体である。湿った空気中で激しく発煙し，冷却すると無色の液体および固体となる。１気圧，20℃で水１体積に約450体積とける。実験室的にはアンモニウム・アルカリあるいはアルカリ土類金属の塩化物に硫酸を加えて加熱すると得られる。工業的には水素と，食塩の電解で得られる塩素とから直接合成される。塩酸の原料として用いられ，また塩化ビニルの原料となる。➔塩酸〔鈴木　篁〕

えんかすず【塩化錫】

1塩化第一スズ$SnCl_2$は無色の結晶で，市販のものは２分子の結晶水をもつ。無水塩は融解した金属スズと塩素とを直接反応させてつくる。二水塩は金属塩を塩酸にとかすか，塩化第二スズの水溶液を電解還元してつくる。還元剤・分析試薬・潤滑油・香料安定剤・触媒などに使われる。

2塩化第二スズ$SnCl_4$は発煙性を有する無色の液体である。水には熱を発して溶解し，２・３・５・８・９分子の水和物が知られている。水溶液は加水分解により酸性を呈する。遊離イオウを含有する塩化第二スズ溶液中に金属スズを浸し，乾燥した塩素を送入し，生じた液を蒸留してイオウおよび塩化イオウを除去し，製品とする。絹の増量剤・媒染剤として用いられる。〔鈴木　篁〕

えんかてつ【塩化鉄】塩化鉄には塩化第一鉄$FeCl_2$と塩化第二鉄$FeCl_3$とがある。

1塩化第一鉄：鉄を塩酸処理すると塩化第一鉄溶液を得るからこれを酸化しないように濃縮すると四水塩($FeCl_2 \cdot 4H_2O$)が得られる。無水塩は赤熱した鉄に塩素水素を作用させてつくる。四水塩は淡緑色の結晶で，無水塩は緑黄色の結晶である。無水塩の融点は672℃，沸点は1023.4℃で，無水塩・四水塩ともに潮解性がある。媒染剤・還元剤・冶金(やきん)用・医薬用品などに用いる。

2塩化第二鉄：鉄粉を塩素中で比較的低温で熱すると無水塩が得られる。また塩化第一鉄溶液に塩素を通じ，その溶液を濃縮すれば六水塩が得られる。無水塩は融点300℃，沸点317℃，黒かっ色の結晶で，六水塩は黄かっ色の結晶で，ともに潮解性がある。顔料の製造，酸化剤・医薬用品・写真製版・廃水処理剤などに用いる。〔鈴木　篁〕

えんかナトリウム【塩化ナトリウム】NaCl　食塩ともいう。正立方体の無色の結晶で水によくとける。温度による溶解度の差は小さい。➔食塩

えんかバリウム【塩化バリウム】$BaCl_2$　無色の結晶で，２分子の結晶水をもつことが多い。硫化バリウムに塩酸を加えて得られる。水にとけやすく，水溶液は硫酸イオンの定性・定量分析に用いられる。有毒であるため取り扱いには注意を要する。金属の熱処理，マグネシウムの電解精製，アルミニウムの電解精錬の際の融剤として用いられる。

えんかビニリデンじゅし【塩化ビニリデン樹脂】$\{CH_2CCl_2\}_n$　塩化ビニリデンの重合体*。熱可塑性樹脂の一。塩化ビニリデン単独の重合体はほとんど実用にならないので，普通は塩化ビニルとの共重合体*が用いられる。初期にはラテックスとして防湿用紙製造のための紙塗装用にもっぱら使われたが，1956年からはフィルムとしての需要が急速に高まった。このフィルムは透明で，耐薬品性・耐水性がよく，透湿度が特に低いにもかかわらず通気性が多少あり，無毒でもあるので食品包装材料として有用なものである。特に魚肉ソーセージの包装材や，家庭用食品包装用シートとしてはクレラップ・サランラップという商品名でなじみの深いものもある。〔伊藤　卓〕

えんかビニル【塩化ビニル】$CH_2{=}CHCl$　クロロエチレンともいう。常温で無色の気体である。アセチレンに塩化水素を付加させて製造する。光や触媒の作用で容易に重合する。ポリ塩化ビニル・塩化ビニル-酢酸ビニル共重合体・塩化ビニリデン-塩化ビニル共重合体などは，合成樹脂の製造原料として重要である。

えんかビニルじゅし【塩化ビニル樹脂】塩化ビニルの単独重合体，または塩化ビニル50％以上を含む共重合体*からなる合成樹脂の総称。PVCまたは塩ビと略称されることもある。$\{CH_2CH(Cl)\}_n$ 硬質塩化ビニル樹脂*と軟質塩化ビニル樹脂の２種類があり，前者は重合体そのもの，または重合体にごく少量の可塑剤*を加えたもので，熱可塑性樹脂*であるのに対し，後者は大量の可塑剤(重合体に対して30〜50％)を混和して常温で可塑性をもたせたものである。さらに，軟質製品の中には，共重合によって可塑化させたものもあって，これは一般に内部可塑化合成樹脂とよばれる。塩化ビニル単量体の製造は，従来はもっぱらアセチレンと塩酸との気相反応によっていたが，近年，石油化学工業の発展に伴い，ナフサからのエチレンとアセチレンを原料として，二塩化エチレン(EDC)を経由する方法が確立された。わが国でも1964年以来，このような，石油や天然ガスを原料とする方法が取り入れられはじめ，現在では主力になっている。重合はラジカル開始剤を用い，ほとんどの場合，懸濁重合*が行なわれる。

戦後わが国で，次々に現われる合成樹脂製品を単にビニルと呼称することがよくあったが，これは，身のまわりの家庭用品に塩化ビニル樹脂製品がいかに多いかを端的に物語っていよう。軟質製品はフィルム(厚さ0.2mm以下)・シート(厚さ0.2mm以上)・織物被覆に分けられ，包装・衣料・玩具(がんぐ)・ふろしき・ビニルレザーなどとして用いられる。また，わが国でのフィルムの特殊用途として農業用温床ビニルもある。硬質製品では，水道管などに盛んに使われるようになったパイプ類や波板・ビニタイルなどで知られる建材用の塩ビ板がよく知られている。また，塩化ビニル-酢酸ビニルの85対15の共重合体はレコード材料・塗料に用いられる。

塩化ビニル樹脂はこのように原料の安さ，成形の容易さ，多彩な性質などで利用範囲はきわめて広い。欠点としては透明性・耐衝撃性が劣ること，経時的に分解が起こる結果，塩酸が脱離して不飽和結合が残り，それによって着色が著しくなってくること，その塩酸による毒性が生ずること，さらに廃品を焼却する際に塩酸が発生することなどがあり，これらが解決されればさらにはかりしれない発展がみられると思われる。➔プラスチック　➔重合〔伊藤　卓〕

えんかビニルせんい【塩化ビニル繊維】ポリ塩化ビニルを主成分とする合成繊維*。アセチレンを原料として塩素を作用させてつくる。フィラメント*・ステープル*ともに生産され，強さ・耐熱度は高くないが，弾力があり，水を吸わず，化学薬品に対する抵抗性が大で，衣料用・家具装飾用・工業用などに用いられる。

えんかぶつ【塩化物】塩素と塩素より陽性な元素との化合物の総称。塩素を－1価の状態で含み，希ガス以外のほとんどすべての元素の塩化物が知られている。２種以上の原子価を示す元素は，それぞれの原

子価に相当する塩化物をつくる。また複塩化物も多数知られている。金属あるいは金属酸化物・水酸化物・炭酸塩を塩酸にとかして得るか，元素と塩素とを直接反応させてつくる。

えんかマグネシウム 【塩化マグネシウム】 $MgCl_2$ 白色の光沢のある潮解性の結晶で，水和物は6水塩が普通であるが，その他のものも知られている。岩塩層中のカーナリット，あるいは海水やにがりからまず水和物を得，これを脱水して無水物を得る。またマグネサイトやマグネシアを塩素化してつくる。電解して金属マグネシウムをつくり，またマグネシアセメントの原料とされる。

えんがる 【遠軽(町)】 北海道網走(あばしり)支庁の町。サロマ湖の南西方にあり，石北本線と名寄本線を分岐する。人口21,000。ジャガイモ・テンサイ・ハッカなどの寒冷地農業が行なわれ，米や麦類も栽培するが，最近は農家の半数以上が乳牛を飼っており，集約酪農地域の指定を受けている。

えんがわ 【縁側】 日本建築で座敷の外側にある細長い板張りの部分。単に縁ともいう。縁側の外側に雨戸・ガラス戸などをたてるのが普通で，板張りのほか，畳敷き(入り側)あるいは内側の半間を畳敷きや薄縁(うすべり)敷きとすることもある。縁側は座敷と戸外との中間にあって冬の寒気を和らげ，夏の日ざしを緩和し，屋内の通路ともなる。多くは榑縁(くれえん)といって，縁の長手方向に沿って板を平行に張ったものであるが，ほかに長手方向に直角に板を張って木口(こぐち)をみせるもの(切目縁あるいは木口縁)，縁側の外側に雨戸・ガラス戸がなく，雨露にさらされるもの(ぬれ縁)，竹または板を目透かしに横に張ったもの(簀子縁(すのこえん))，他の部分より一段低いもの(落ち縁)などがあり，これに手すりなどを設ける場合もある。縁側は，わが国の住居が高床式となって床が張られるようになってからできたもので，古くは簀子敷きといわれて貴族の邸宅に限られていたが，年代の経過とともに一般の住宅にも普及し，和風建築の様式をつくりだした。 〔神山幸弘〕

えんがわせ 【円為替】 外国為替には外国貨建てのものと自国貨建てのものとがある。わが国では自国貨建ての外国為替，つまり円表示の外国為替を円為替とよぶ。第2次世界大戦以前には対ポンド地域との取引には主としてポンド為替が，対米取引には主としてドル為替が，そして，その他の国との取引にもポンド為替やドル為替が用いられていたが，対中国および対東南アジア取引には円為替がかなり広く利用されていた。第2次世界大戦後は為替管理の実施により，管理通貨制がとられ，円はそれからはずされていたため，円為替はまったく存在しなくなった。しかし，1960年(昭和35)7月1日に円の非居住者経常勘定の交換性が回復されて，非居住者の保有する円勘定は外国貨への自由交換が認められるようになった。その後現在まで，円為替の利用はしだいに増加しつつある。 〔安井孝治〕

えんがんぎょぎょう 【沿岸漁業】 陸岸に近い水域を漁場として営まれている漁業。遠洋漁業*・沖合い漁業*(もしくは近海漁業)と対比して使用される。沿岸漁業には，きわめて多種多様な漁業種があって，根付魚や沿岸近くに回遊してくるさまざまな水産生物をその対象とする。漁場はしたがって大陸棚(だな)の上や漁礁*付近であって，定置網*の大形のものを除けば，その経営規模は一般には小さい。近年，内湾地帯をはじめとして，臨海工業地帯の開発が進められ，漁村地帯の工業化・都市化が進められて，埋め立てによって漁場がせばまり，水質汚染の問題があいつぎ，生産性の低い沿岸漁業が極度に圧迫されつつある。漁場のこのような荒廃化のみならず，沿岸漁業における若年従業者の数が年々減少していることは，注目しなければならない。 〔石野　誠〕

えんかんすう 【円関数】 ⇨三角関数

えんがんりゅう 【沿岸流】 磯波*(いそなみ)によって生じ，岸に沿って表面を流れる比較的一様な海流。磯波として沖から海岸線に向かって運ばれてくる海水は，一部は底流として底に沿って沖にもどり，他は沿岸流として流れ去る。

えんき 【塩基】 酸*に対する語。物質の性質の認識が深まるとともにその定義は歴史的に変わり，現在でも完全といえるものはない。現在，おもな定義として次のようなものがある。①アレニウスとゲルマンの定義：溶媒にとけてその溶媒の負(正)イオンを与える物質を塩基(酸)という。水溶液の場合，水酸イオンOH^-を出す物質。②ブレーンステッドの定義：陽子H^+の受容体(供与体)を塩基(酸)という。たとえばNH_3(塩基)＋$H^+ \rightleftarrows NH_4^+$(酸)。③ルイスの定義：電子対の供与体(受容体)を塩基(酸)という。たとえば，NH_3(塩基)＋H^+(酸)$\rightleftarrows H:NH_3^+$。④ウサノビッチの定義：電子や負イオンを与えたり正イオンと結合したりする物質を塩基，逆を酸という。通常，狭義に①の意味で使うことが多い。この場合，塩基は塩基性を示し，酸と塩基は中和反応を起こして塩をつくる。また，強い塩基性を示すものはアルカリに属する。なお④の定義は最も広義で酸化還元反応をも包含している。➔酸　➔アルカリ 〔三輪誠・玉野秀樹〕

えんぎ 【演技】 演劇用語。俳優が身体・言語・扮装(ふんそう)などによって，ある人物を表現すること。そのほか，広く芸人が演ずるわざや芸のことをさしていう場合もある。演劇の様式により演技にそれぞれの特色がある。特に舞台が野外から屋内の劇場へと進むにつれて演技の内容も変わった。演技は元来，観客の面前で行なわれるものであったが，現在では映画・ラジオ・テレビのような機械を媒介として行なわれる演技も生まれている。 〔西尾邦夫〕

えんぎ 【縁起】 仏教の根本教説の一つで，無自性・空*と同義語。梵語(ぼんご)のPratītyasamutpāda(プラティートゥヤ-サムトパーダ)の意訳で，因縁生起の意味。ほかとの関係が縁となって，ものが生起すること。原始仏教の教説である十二縁起*に，無明*が縁となって行が生じ，行が縁となって識を生ずるという関係が説かれているがごときである。大乗仏教の哲学である空観(くうかん)では，縁起は無自性・空としてとらえられ，さらに唯識(ゆいしき)仏教では，阿頼耶識(あらやしき)縁起として阿頼耶識*を中心として縁起が説かれた。そのほか《大乗起信論*》や《楞伽経(りょうがきょう)》には，如来蔵縁起*が説かれた。中国仏教では，華厳宗(けごんしゅう)が法界(ほっかい)縁起を説いて，縁起を相依相関としてとらえ，空間的・時間的関係において個物の円融無尽なあり方を明らかにした。この華厳宗の法界縁起を論理的基礎として，さらに発展させたのが，真言宗の六大縁起である。縁起の思想は仏教に一貫して流れる原理である。

また寺院や仏像などの沿革・由来や，御利益(ごりやく)・功徳などに関する伝説を〈縁起〉といい，何々寺縁起といわれるものが書かれた。そのほか俗に〈縁起をかつぐ〉ということばで表現されるように，吉凶を卜(ぼく)したり，物忌み・断ち物などをすることをもいう。 〔鎌田茂雄〕

えんぎぎしき 【延喜儀式】 三代儀式の一。恒例・臨時の朝廷の儀式を定めた書。10世紀初頭に，先行の《弘仁(こうにん)儀式*》と《貞観(じょうがん)儀式*》を合わせて選定された。もとは全10巻あったが，現在は巻5および巻6の一部が断片的に伝えられるにすぎない。

えんぎきゃくしき 【延喜格式】 弘仁(こうにん)格式*と貞観(じょうがん)格式*とを合わせて三代格式*というが，その最後のもの。905年(延喜5)醍醐(だいご)天皇の命によって編集が開始された。《延喜格》は12巻で，藤原時平*以下14名が編集委員となり907年完成，翌908年から施行された。内容は《貞観格》のあとを受けて，869年(貞観11)から907年の間の詔勅・官符のうち重要なものを選んである。今日そのままの形では伝わらないが，3代格を集めた《類聚(るいじゅう)三代格》などに引用され重要な史料となっている。

《延喜式》は50巻。それまで併用されていた《弘仁式》と《貞観式》を併合取捨し，さらに改定を加えてある。格と同じく藤原時平が最高責任者となり，その他11名の委員によって編集が開始されたが，格と違って順調に進まず，909年時平が死亡するに及んで，一時中絶の形となった。そこで912年時平の弟忠平(ただひら)にあらためて命が下り，さらに925年(延長3)重ねて藤原清貫(きよつら)に命じて完成を急がせた結果，927年ようやくできあがった。しかし22年の歳月をかけて完成を

みたものの，施行されたのはさらに40年を経た967年(康保４)であった。これは当時の式の編集が，立法事業というよりは文化事業であったことを示すものといえよう。中国・日本で編集された式のうち，完全な形で残る唯一のものとして，王朝期の制度・文化を具体的に知るうえに高い史料的価値をもつ。〔菊池礼子〕

えんぎしき【延喜式】⇨延喜格式(きゃくしき)

えんぎしょうせつ【演義小説】⇨小説〔中国〕

えんきせいえん【塩基性塩】酸性塩・正塩に対する語。塩の一種で，陰性基として酸基のほかに水酸基を含むヒドロオキシ塩，およびこれから水がとれた形の酸素原子を含むオキシ塩をいう。水にとけて塩基性を示すということではない。塩基の部分的中和，正塩の加水分解で得られる。ヒドロオキシ炭酸鉛(塩基性炭酸鉛)$2PbCO_3$・$Pb(OH)_2$やオキシ塩化ビスマス(塩化ビスムチル)BiOClなどの例がある。水にとけるものは少ない。➔塩

えんきせいがん【塩基性岩】火成岩をシリカSiO_2の含有率に基づいて大別するとき，シリカ分の比較的少ない45～52%のものを塩基性岩という。玄武岩が塩基性岩の代表である。また，同じく塩基性岩であっても，ほかの成分の含有率によって鉱物組成はいろいろに変わる。

えんきせいさんかぶつ【塩基性酸化物】塩基の無水物とみなすことのできる酸化物で，水と化合すれば塩基となり，酸を中和すれば塩をつくるものをいう。たとえば酸化カルシウムCaOなどはこの典型的なものである。

えんきせいせんりょう【塩基性染料】分子中にアミノ基あるいはその誘導体(複素環窒素を含む)など塩基性基を含む染料。酸性溶液に陽イオンを形成してとけるため，あらかじめ塩酸塩・硫酸塩・シュウ酸塩・塩化亜鉛複塩あるいは第四アンモニウム塩などの形にして市販されている。最初の合成染料モーブ(1856)をはじめ歴史的にも古く，著名なものが多い。一般に色濃度が高く，色調が鮮明なことを特徴とするが，日光をはじめ堅牢度(けんろうど)の低いのが欠点である。動物繊維，特に絹には中性あるいは弱酸性の染浴からよく染着するが，もめんには直接染まらず媒染剤(タンニンなど)の助けが必要である。現在では衣料繊維の染色に使われるものは比較的少なく，むしろ紙・木材その他の雑貨類・皮革・香粧品などの着色，インキ・顔料製造など用途が多い。しかし近年，合成繊維の発達に伴い，この分野の染料が再開発され，カチオン染料と称して特にポリアクリルニトリル繊維(オーロン・カシミロンなど)の染色に用いられている。色調が鮮明でまた非常に日光堅牢度がすぐれているのでポリアクリルニトリル繊維用の重要な染料である。➔染料〔稲田正作〕

えんきせいたんさんなまり【塩基性炭酸鉛】⇨鉛白

えんきせいひりょう【塩基性肥料】⇨アルカリ性肥料

えんきせいりゅうさんなまり【塩基性硫酸鉛】PbO・$PbSO_4$ 一般にホウエン鉱を炉で強熱酸化してつくる。製造法によって一酸化鉛15～30%，硫酸鉛70～85%までのものが得られ，色は白から明るい灰色のものまである。比重6.4～6.6，屈折率1.9～2.0，吸油量15～18ml/100g，粒子の大きさは1.3～1.4μである。活性を有し，塗料にした場合塩基性で，親和性が強いので，油と和して鉛せっけんをつくり，さび止め顔料としてすぐれた耐水性・耐久性を表わす。〔品田 登〕

えんきつ【延吉】イエンチー 中国，吉林省東部の都市。人口10万(1960年推)。旧名は局子街。朝鮮との国境に近く，この一帯は間島といわれ，朝鮮からの農業移住者が特に多い。その中心都市として交通の要地を占め，農産物の集散のほか製粉・アルコール製造などの工業も行なわれる。

えんぎつうほう【延喜通宝】皇朝十二銭の一。908年(延喜８)寛平(かんぴょう)大宝銭を改鋳。寛平大宝銭10をもって延喜通宝１にあてた。958年(天徳２)乾元(けんげん)大宝銭が鋳造されるまで51年間通用。銅銭・鉛銭の２種類があり，銭文は醍醐(だいご)天皇の筆といわれる。

えんぎ・てんりゃくのち【延喜・天暦の治】延喜は醍醐(だいご)天皇，天暦は村上天皇の時代の年号。のちの王朝貴族は10世紀のこの時代を聖代であったとしてこのようによんだ。延喜時代には荘園(しょうえん)整理をはじめ，班田制・租庸調制・国司制など，律令(りつりょう)制全般にわたって再編・強化を目的とする法令が発せられ，《延喜格式(きゃくしき)》《日本三代実録》の撰修(せんしゅう)，《古今和歌集》の勅撰などが行なわれた。天暦時代には朝廷の経費を節約し，官吏の奢侈(しゃし)を戒め，完成はしなかったが国史の編纂(へんさん)が計画され，《新儀式》などの朝廷儀式の書の撰述，《後撰和歌集》の撰上，銭貨(延喜通宝・乾元(けんげん)大宝)が鋳造されるなど，表面的には政治・文化両面にかなり積極的な時代であったが，裏面においては律令制の解体が急速に進行しつつあり，両治世の中間には承平・天慶(てんぎょう)の乱が起こり，現実には理想太平の世ではなかった。〔菊池礼子〕

えんきど【塩基度】酸１分子中の金属原子で置換できる水素原子数。酸性の激しさとは無関係である。塩基度１の酸を一塩基酸，２，３のものをそれぞれ二塩基酸・三塩基酸とよぶ。分子量を塩基度で割った数が当量で，酸と塩基の同当量はちょうど中和しあう。

えんぎもの【縁起物】よい前兆を祝うためのもの，およびよい前兆を伴うと信じられている品物。運・不運の結果はそれぞれある因縁によって起こるものであるとする，仏教の考え方に由来している。元来社寺の霊験縁起に基づいたものであり，庶民に広く信仰されてきたが，最近は郷土玩具(がんぐ)となっているものも多い。代表的なものに福を招く福助・福禄寿(ふくろくじゅ)・七福神・招き猫(ねこ)・宝船などがあり，また弓矢や杓子(しゃくし)，笛・太鼓などの楽器，お酉様(とりさま)の熊手(くまで)など，よい縁起に導いて開運の目的を達成する一種の護符と信じられた。〔渡辺欣雄〕

えんきょうじ【円教寺】姫路市郊外の書写山の山上にあり，普通は書写山とよばれている。966年(康保３)性空上人(しょうにん)の建立(こんりゅう)になり，花山・後白河(ごしらかわ)・後醍醐(ごだいご)の各天皇をはじめ，平清盛・源頼朝(よりとも)・足利尊氏(あしかがたかうじ)の帰依もあって栄え，比叡山(ひえいざん)・伯耆大山(ほうきだいせん)とともに西国の天台三大道場といわれた。大講堂・食堂(じきどう)・護法堂・鐘楼・金剛堂・寿量院など現存の建物は1429～1433年(永享１～５)の再建。大講堂の釈迦(しゃか)三尊は草創当初の仏像として貴重である。〔永井信一〕

えんきょうだいがく【燕京大学】中国の代表的なミッションスクール。燕京とは北京(ペキン)の別名。1880年代に教会が開設した滙文(わいぶん)書院，通州大学堂などを合併して1918年私立燕京大学となった。国民政府成立以後，特に1930年代前半，アメリカのハーバード大学と提携して社会科学系の調査・研究に業績をあげ，蔣介石(しょうかいせき)治下のアカデミズム形成に寄与した。中華人民共和国のもとで，教育権回収運動が大学再編成と結びつき，1953年，その工科系統は国立清華大学に吸収され，廃校となってその歴史を閉じた。〔斎藤秋男〕

えんきょく【宴曲】⇨早歌

えんきょくしゅう【宴曲集】1301年(正安３)ごろの成立。僧明空の編。当時，おもに酒宴の席で歌われた中編の叙事歌謡の早歌50曲を四季・賀・恋・雑という勅撰集(ちょくせんしゅう)の部立てにならって収めたもの。内容は古典的で古歌・古詩からの引用が多く，七五調を基本にした華麗な表現が目だつ。

えんきんちょうせつ【遠近調節】目は精巧な写真機にもたとえられ，遠くから近くへ，また，近くから遠くへとたえず焦点を合わせている。この働きを遠近調節，または単に調節といっている。正常のヒトの目は，無限遠から6.5mくらいまでの物体を見るときには調節を必要としないが，これより近い物体を見るときには写真機のレンズにあたる水晶体が厚くなることによって調節が行なわれる。この調節を行なっているのは毛様筋である。毛様筋は環状になっ

ており，この環に水晶体がはめこまれたようになっている。毛様筋のある毛様体と水晶体の間に，チン帯(水晶体小体)という多数の繊維が張っている。毛様筋が収縮すると環が縮んでチン帯がゆるみ，その結果水晶体が自己の弾力性によってその厚さを増し，屈折力が高まるようになる。この調節作用の強さを調節力という。調節力は毛様筋の働きと水晶体の弾性に関係するものであり，毛様筋が麻痺(まひ)したときや，水晶体が弾性を失ったときには調節が行なわれない。水晶体は年齢とともに弾性が弱くなる。そのため，調節力は20歳くらいまでが最も強く，年齢が増すにつれて減退し，通常45歳になると近くへ調節することは困難となり，字などがぼやけてくる。これが老視*である。

鳥類・爬虫(はちゅう)類では，哺乳(ほにゅう)類と同様に水晶体の曲率を変えることによって遠近調節を行なうが，両生類・魚類・頭足類などでは，水晶体を前後に移動させることによって遠近調節を行なっている。➔目　〔氏原　弘〕

えんきんほう　**【遠近法】**　平面上に一定の視点を定めて，上下・左右・奥行きのある三次元の物象を描写・表現する絵画的な方法。当初の科学的な透視図法は，ルネサンス期にフィレンツェの画家・建築家によって発見された。これは視点を固定すれば平行線は地平線の1点に消失するという図法であり，線的透視図といわれる。また，レオナルド-ダ-ビンチやバン-アイクなどの色彩の変化によって遠近などを表現する方法は空気遠近法といわれ，画家たちの必須(ひっす)の技法であった。しかし，セザンヌに始まる現代絵画では，その単眼性・静止性が疑問とされ，ピカソやマチスのように平面性を強調する画家が多くなった。　〔萩原卓也〕

えんくう　**【円空】**　(？～1689)　江戸初期の天台宗系の僧。美濃(みの)(岐阜県)竹鼻の生まれ。東日本一帯から北海道へかけて行脚(あんぎゃ)遍歴し，布教のかたわら仏像彫刻の大願を起こし，大は3m余の仁王(におう)像から小は2.3cmの木端仏(こっぱぶつ)まで12万体の仏像をつくることを念願したという。その作は鉈(なた)彫りといわれ，丸のみの跡を表面に残し，ほとんどが一木造り*である。未完成像との説もあるが，形式に堕した当時の作品とはまったく違った彫法で，生命の躍動，素朴(そぼく)な美しさ，新鮮さをもっている。現在まで二千数百体が知られているが，未発見の遺作も多いと思われる。　〔玉山成元〕

エングラー　［Heinrich Gustav Adolf Engler］　(1844～1930)　ドイツの植物分類学者。キール・ブレスラウ・ベルリンの各大学の教授を歴任。進化論の確立後始まった植物分類体系を，進化の系統に合わせてつくりなおそうという動機に基づく研究が，エングラーの分類体系となって結実した。彼


円　　空　荒子観音寺(名古屋市)の木端仏


エンクルマ

の体系は，基本的には現在でも通用している。

エンクルマ　［Kwame Nkrumah］　(1909～72)　アフリカ民族運動の指導者。ガーナ共和国の初代大統領兼首相。在任1960～1966年。黄金海岸(現ガーナ)エンジマに生まれ，小学校教員をつとめたのち，アメリカのリンカーン大学・ペンシルベニア大学に留学，さらにロンドン大学に学んだ。帰国後，統一黄金海岸会議の書記長となり，1949年ガーナの即時独立を主張し，青年と労働組合勢力を結集して会議人民党(CPP)を創立した。デモ・ストライキ・ボイコットなどで闘争を展開し投獄されたが，1951年の新憲法後最初の総選挙に獄中から立候補して当選した。1952年黄金海岸首相，1957年3月ガーナ独立(自治国)とともに初代首相，1958年アフリカ独立諸国会議を主宰し，1960年7月共和国宣言とともに初代大統領となった。1965年再選されたが，1966年2月北京(ペキン)訪問中軍事クーデタが起きて失脚し，ギニアに亡命。在任中は，アフリカ統一・非同盟主義・植民地主義打倒を主張し，アフリカ急進勢力のシンボル的な存在であった。　〔喜多迅鷹〕

エンクロージャー　［enclosure］　囲い込み・総画などともいう。共有地・未開墾地・放牧地・開放耕地などを生けがき・塀(へい)などで囲って，私有地とすること。典型的にはイギリスにみられ，15世紀末から17世紀にかけて行なわれた第1次エンクロージャーと，17世紀後半から19世紀前半にかけて行なわれた〈議会エンクロージャー〉とよばれる第2次エンクロージャーがある。**〈第1次〉**15世紀末以降，領主・富農層は土地収入を増加するために農民保有地を囲い込んで牧羊地にした。多くの農民は非合法的に土地を奪われて失業し離村したため，政府はエンクロージャー禁止法を再三出したが，効果がなかった。**〈第2次〉**牧羊のための囲い込みは18世紀まで行なわれたが，一方17世紀半ば以降，穀物の耕作のために囲い込みが盛んに行なわれた。特に18世紀半ば以降，人口の急増と対フランス戦争のため穀物の輸入が不可能になってからは，囲い込みに拍車をかけ，さらに囲い込みが議会によって合法化されたため，イギリスのほとんどの地域に波及した。エンクロージャーによって没落した農民は農村・都市で賃金労働者となっていった。また，農村でも地主・農業資本家・農業労働者と階層分化が進んだ。　〔松下京子〕

エンケ　［Johann Franz Encke］　(1791～1865)　ドイツの天文学者。ハンブルクの生まれ。ゲッチンゲン大学で数学を専攻したが，ガウス*の勧めにより天文学に転向，多くの小惑星の軌道計算を行なった。1822年よりゼーベルク天文台長，のちベルリン天文台長(1825～1863)をつとめた。1818年10月フランスの天文学者ポンの発見した彗星(すいせい)の軌道を計算して1,200日の周期を得，これによって短周期の彗星の存在することを確かめた。この彗星は彼の名をとってエンケ彗星*とよばれている。そのほか，天体暦の改良を行なった。　〔根本順吉〕

えんげ　**【嚥下】**　口腔(こうこう)内の食塊を飲み込む動作をいう。口腔内で咀嚼(そしゃく)が終わると，筋肉が収縮し，口腔はせばめられ，食塊は舌背上へ送られる。前・後蓋弓(がいきゅう)は収縮して狭くなり，同時に軟口蓋の咽頭(いんとう)口蓋筋の一部が咽頭後壁に密着して鼻咽腔を閉鎖する。喉頭(こうとう)は舌根部まで喉頭筋の収縮で完全に上がって閉鎖され，食塊が気道にはいらないようにする。次いで咽頭三括約筋(さんかつやくきん)の蠕動(ぜんどう)的収縮が起こり，食塊は食道入口部に達する。このとき輪状咽頭括約筋は弛緩(しかん)し，食道を開き，嚥下が終わる。このように嚥下は複雑な反射運動の連続であり，重力によって起こるのではないので，さか立ちをしても行なわれる。咽頭

は耳管を通じ鼓室に通じるため，嚥下は鼓室の換気と気圧の均等化をも行なっている。〔平野修助〕

えんけい　【燕京】　中国，北京(ペキン)の別名。938年，遼(りょう)の太宗は従来幽州治であったここに南京を置き，戦国時代の燕が都を置いていたことにちなみ燕京とよんだ。その後，遼・金時代を通じて燕京の名称が普遍的であった。当時の城郭は現在の北京の西半部から西南郊外に及ぶ。

えんげい　【演芸】　寄席(よせ)演芸の総称。落語・講談・漫才・漫談・浪曲・歌謡漫談・曲芸・手品・音曲・百面相・紙切り・独楽(こま)回し・声帯模写など。演芸の歴史は古く，平安時代に中国や朝鮮から渡来した散楽が民衆の間に広まり，猿楽(さるがく)から能楽という演劇形態を生む一方，散楽固有の滑稽(こっけい)調戯が諸演芸として発達した。文化・文政期(1804～1830)の寄席興隆期に落語に三笑亭(さんしょうてい)可楽・三遊亭円生・林家正蔵，講談に桃林亭東玉・錦城斎(きんじょうさい)典山・伊東燕晋(いとうえんしん)，百眼(ひゃくまなこ)に可上，写し絵に都楽らが出た。第2次世界大戦後はテレビの普及によって各演芸に消長があり，新たにボードビルふうのトリオ物も加わってきた。〔興津　要〕

えんげい　【園芸】　園は囲んだ土地で，芸は栽培である。したがって園芸は囲われた土地で植物の栽培をする意。農業の一部門に属し，果樹・蔬菜(そさい)・花卉(かき)を栽培し，またその生産物を加工する4科に分かれ，造園を加えて5科とすることもある。盆栽と花卉装飾は花卉に含ませている。営利と趣味の栽培があり，年々盛んになってきている。

えんけいげきじょう　【円形劇場】　舞台の四方を客席で囲んだ劇場形態。原理的には古代の劇場形態や原始的な芸能の場などにもあてはまるが，今日では，1932年ワシントン大学教授グレン-ヒューズが，古代のギリシア劇場から考案した実験的な演劇形態をいう。正面の効果のみを重視する通常の額縁式舞台の不自然さを解放し，舞台と客席との交流を増大させる利点があり，特に簡便な室内劇に適している。アメリカの公共演劇で発達したが，戦後はヨーロッパをはじめとしてわが国の前衛劇運動および革新的な劇場建築に大きな影響を与えている。〔大島　勉〕

えんけいだつもうしょう　【円形脱毛症】　俗に禿頭病(とくとうびょう)，台湾坊主ともいう。限局した部分の毛髪が突然抜けて円形のはげを生ずる病気。はじめは円形でも多発融合して不規則な形となることもある。はげた部分の皮膚に異常を認めないのが普通であるが，周囲よりいくぶんへこんだり，薄赤色になることもある。ふつう頭髪が侵されるが，ひげ・まゆ・まつげが抜けたり，まれには全身の毛が全部抜けてしまうこともある。拡大しつつある脱毛巣の周囲の毛は，軽く引っ張ったり，こすったりすると痛みを伴うことなく抜け，またその毛根は正常の毛をむりに抜いたものと異なって，先のほうが細くとがっている。経過はいろいろであるが2～3か月でなおるものが多い。病因についてアレルギー説・自律神経障害説・内分泌障害説・遺伝説・毛生長周期障害説などがあるが，決定的なものはない。内用療法・外用療法・局所注射・太陽燈照射などが行なわれるが，再発しやすい。軽症では自然に治癒(ちゆ)することもある。〔田嶋公子〕



演劇博物館　早稲田大学

えんけいどうぶつ　【円形動物】　⇨袋形動物

えんげき　【演劇】　⇨次ページ

えんげきはくぶつかん　【演劇博物館】　演劇に関する諸資料を収集・展示する施設。ソ連のバフルーシン記念中央演劇博物館のような国家的な施設から，劇場付属あるいは個人の記念室までさまざまの規模がある。わが国では，早稲田(わせだ)大学構内にある坪内逍遙(しょうよう)博士記念演劇博物館(1928年創設)が唯一のもので，内容・外観ともに世界的規模のもの。

エンゲージ-リング　［engage ring］　婚約のしるしの指輪。男子から婚約者に贈り，贈られた女子は左手第4指にはめる習慣である。ダイヤまたはほかの宝石と組み合わせたり，誕生石などを金やプラチナ台に飾ったものが通例。

エンケすいせい　【エンケ彗星】　木星族の周期彗星の一。周期は彗星中最も短く，3.299年。1786年1月17日にフランスのメシアンが発見，次いで1795年11月，1805年10月にも発見されたが同じ彗星がもどってきたとは思われなかった。1818年になりフランスのポンが約7週間観測して豊富な観測資料を得た。これをもとにガウスの弟子(でし)であるエンケはこの彗星の軌道を計算し，周期1,200日の楕円(だえん)軌道を得て，1786年・1795年・1805年の彗星と同じものであることを確認した。この功によって，この彗星に彼の名まえがつけられている。エンケ彗星の軌道は時間とともに縮小しつつあり，したがって，周期も減少している。最近の近日点通過は1967年9月22日で，この日の太陽からの距離は，0.3382天文単位。離心率は0.8477，軌道傾斜角は11.99°である。〔木下　宙〕

エンゲル　［Christian Lorenz Ernst Engel］　(1821～1896)　ドイツの社会統計学者。ベルギーにおける労働者の家計を調査・分析して，1895年に論文《ベルギー労働者家族の生活費》を発表し，総支出の中に占める食費の割合は低所得層ほど高いことを明らかにした。これはエンゲルの法則として有名である。➔エンゲル係数

エンゲルガルト　［Vladimir Aleksandrovich Engelgardt］　(1894～　)　ソビエトの化学者。ソビエト科学アカデミー生化学研究所長。筋肉の生化学を研究し，ミオシンがATPを分解する酵素作用があるとともに，収縮現象を示すことを見いだして，生物体のエネルギーのプールがリン酸結合にあること，および，化学エネルギーを運動エネルギーに変換する生体内の機構を明らかにした。

エンゲルけいすう　【エンゲル係数】　家計支出の中に占める飲食費の割合をいい，生活程度を示す指標として用いられる。一般にどの家庭もふえた所得の一定割合，たとえば40％を食費に回すというように，まったく同じ割合に分けて消費支出するということはない。しかし，統計によると，家族の食費や衣服費については，かなり規則的な傾向が見いだされる。このような一般的傾向について，ドイツの社会統計学者エンゲルは1895年に〈所得の少ない家庭ほど全家計支出中に占める飲食費の割合は高い〉というエンゲルの法則を発表した。彼は生活程度を示す指標として，家計支出の中で飲食費がどれだけを占めているかという割合を百分比で表わしたものを用いた。これを一般にエンゲル係数という。これによると，係数20以下は上流，25はゆとりのある生活，30はややゆとりのある生活，50はやっと生活できるものということになっている。エンゲルの法則は以上のほかに，所得の増加につれて，①全所得中に占める住居費の支出割合は，はじめは減少するが，ある限度を越えると同一の割合にとどまるか，または増大する，②文化費の支出割合はたえず増大する，③衣服費の支出割合ははじめは増大するが，ある限度を越えると同一割合にとどまるか，あるいは減少する，という関係も含めて使われることがある。しかし，これら①，②，③の関係はそれほど明確に現われないのが通常である。〔藤枝省人〕

エンゲルス　［Friedrich Engels］　(1820～1895)　ドイツの社会主義者。マルクスの協力者として，科学的社会主義の創設に精神的・物質的援助を惜しまなかった。1844年にマルクスとの親交が始まり，1848年にはマルクスとともに《共産党宣言》を発表し，共同で多くの著作を著わしている。彼自身でも，労働者階級こそが革命的階級で

➔158ページ

演　劇

〔演劇の本質と要素〕演劇は，俳優が戯曲に描かれた人物に扮(ふん)して，舞台の上でせりふと動作によってつくりだす芸術である。といっても，演劇が芸術の一つのジャンルとして認められてこのように定義され，研究されるようになったのは，西洋でもせいぜい近代100年のことにすぎない。それは一つには，演劇が絵画や彫刻や文学などのように1個の作品として永久に存在するものでないからである。演劇は生きた人間の関係そのものによってつくられ，上演時間の間だけ存在し，終われば永久に消えてしまう。この点は舞踊に似ている。もう一つ，演劇は純粋な芸術的意図でつくられる純粋な作品というより，娯楽あるいは宗教的行事としての性格が昔から強く，かつ集団的・大衆的であるからである。肉体的でしかも社会的，このことは演劇の二大特質だといってよい。

形態からみると，演劇は総合的な複雑な芸術である。少なくとも俳優と戯曲と観客がなくてはなりたたない。そこで，この三つを演劇の3要素という。俳優はいわば絵画における絵の具とカンバス，彫刻における石や木のような素材である。戯曲*は必ずしも文字で書かれていなくてもよい。たとえばイタリアのコメディア-デラルテ*という即興喜劇や，日本の歌舞伎*(かぶき)の初期などは，きちんとした台本はなく，座頭(ざがしら)役者が簡単な筋書きを立案し，俳優は即興的にせりふを述べ，動作した。こういう方法を歌舞伎では口立て式といった。しかし少なくとも，一定の時間内になんらかのストーリーを展開し完結しなければ，劇とはいえないであろう。〈劇〉という字はもともと，トラを意味する〈虍〉と，イノシシの〈豕〉，刀の略の〈刂〉とからなっている。つまり語源的にたけだけしい対立者が，刃のようなきばやつめをむき出して戦う意味をもっている。まさしく演劇は人間と他の何ものか――対立する他者・神・運命・社会悪や人間自身の中に潜む矛盾など――と戦い，いかに打ち勝ち，いかに生きるかを，描くものとして出発している。この劇的内容がすなわち，3要素の一つとしての戯曲である。観客は経済的な支持者であるだけでなく，積極的に演劇の創造に参加する本質的要素といえる。観客の反応は直ちに舞台の俳優にはね返り，芝居のよしあしを決定する。観客はまた，俳優の演ずる演劇の世界に浸り，そこに自己を見いだして感動し，泣きあるいは笑う。極端にいえば，劇の最高潮において，観客と俳優と作者(つまり戯曲)とは一体化する。それが演劇の最も根本的な姿なのである。このことを演劇における〈三位(さんみ)一体〉という。

〔演劇の発生と展開〕古くは，演劇は意識的な芸術であるよりも，まず人生に不可欠な社会的存在であった。西洋演劇の源流とされる古代のギリシア演劇*は，ブドウの神ディオニュソスをたたえる円舞合唱歌から発生した。日本でも，《古事記》《日本書紀》にみえる古代芸能の始原は，太陽崇拝の祈禱(きとう)舞踊としてのアメノウズメノミコト*の踊りだとされる。一般に生産の増大，病魔・死神の退散，自然の災害や戦争不安の克服，性的願望成就など，個体的・集団的な生活の安定と人生への希求を目的とする本能的な営みから，演劇・舞踊などは発生したと考えられる。これは現存する未開民族にもみられる原理である。歌い踊るうちに陶酔の状態に達する。すると神や魔もその中に誘い込まれ，ついに同化し，願いがかなえられる――こうした一種の，神と交感する原始的行為を共感呪術(じゅじゅつ)という。このような呪術的行為は，その意義とは別に，しだいに人々の興味を引きはじめ，見るものと見せるものに分かれ，神話・叙事詩・戦記文学・民俗説話などによる劇文学的内容の発達とともに，作家が生まれ，今日いうような演劇が成立していくのである。

〈西洋演劇の発展〉西洋演劇の源流は，紀元前5世紀に黄金時代をもった古代ギリシア劇であった。ブドウと酒の神ディオニュソスへの円舞合唱は，紀元前6世紀にテスピスによって演劇としての内容と形式との完成をみた。すなわち都市国家アテナイの国家的大祭の奉納芸能として，大野外劇場で行なわれ，内容は古代伝説や神話に取材した英雄の運命悲劇，様式は合唱隊の合唱と仮面をつけたひとりの俳優(何役かを演じ分ける)による朗誦(ろうしょう)悲劇である。紀元前5世紀にはいるとまずアイスキュロス*が俳優をふたりにし，次いでソフォクレス*が3人にふやして悲劇は内容形式ともに完成，その頂点に達し，エウリピデス*を生んだ。一方，冬のいなかの祭りから起こった喜劇もやや遅れて大成され，アリストパネス*が出た。しかも紀元前4世紀の哲学者アリストテレス*は，すぐれた悲劇論《詩学*》を著わし，西洋演劇論の基礎を開いている。

ローマ時代になると，本格的悲劇はギリシア劇の模倣，それも朗読のためのものとなり，低俗な喜劇や，即興身ぶり狂言のミムスが栄えた。パントマイム*はミムスの一種として発生したものである。しかしこれら大衆劇は職業劇団として巡回し，やがてルネサンス以後の民衆演劇発展につながる点で，歴史的に重要である。

中世は他の文化一般と同じく，古代ギリシア・ローマの伝統は断絶され，教会におけるキリスト教普及のための僧の宗教劇*が支配的となる。すなわち，無知な民衆に布教する目的で，僧が《聖書》の中の人物に扮したのがそのはじまりとされるものである。それが，中世後半になるとしだいに教会の中から野外・街頭にあふれだし，民衆の参加を求めるようになる。またギルド社会の発達とともに各地方特有の世俗劇が盛んになり，ラテン語による聖書劇一点ばりだったのが，各地方の国語・風俗・物語が舞台に現われはじめた。これがやがて近世の各国民演劇の土壌(どじょう)となる。

ルネサンスは教会の絶対支配から人間の自覚・人間性尊重へと開眼し，すべてが超自然的観念から自然ないし現実直視へと進む時期である。演劇も人間本来の心理・性情・感覚にとって自然な，合理的な内容・構造・表現方法を求めた。そのよりどころとなったのが，古代ギリシア・ローマの戯曲および演劇論である。

この古代研究はまず16世紀のイタリアで始まり，《詩学》その他が訳読され，知識階級の間に古代劇の想像的復活試演が試みられた。さらに写実精神を基調とする遠近法の発明は舞台美術に革命をもたらし，背景画と書き割り装置を自由に置き換えることのできる額縁式舞台が考案され，劇場が野外から屋内式の建造物となる。現存最古のイタリアのオリンピコ座(1584年完成)がその典型で，これが現在まで西洋劇場様式の主流となる額縁式近代劇場の祖となった。

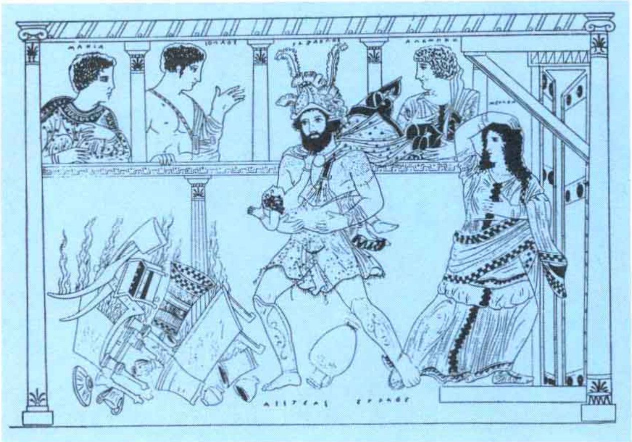
またイタリアを経てフランスにはいった古典劇の構造理念は，17世紀ルイ王朝の宮廷劇として完成実現される。コルネーユ*・ラシーヌ*の悲劇がその代表であり，理論家としてはボワローを生んだ。その理念は古代ギリシア悲劇論をさらに厳格にしたもので，場所は同一場面，劇の事件の時間経過は1昼夜以内，筋は単一というもので，三一致(または三単一)の法則*という。これは観客が自然に劇の進行に同化し，断絶感なく鑑賞できるという，合理的な考えに基づいたものである。モリエール*は同じころ，イタリアのコメディア-デラルテの潑剌(はつらつ)とした喜劇精神と職業俳優の技術との影響のもとに，鋭い社会批判と知的なことばによる高度な喜劇を生んだ。この時代がいわゆるフランス古典主義時代である。

中世までは祭祀(さいし)的宗教的性格が強かったために女性の登場はみられなかったが，ルネサンス以後はイタリア・フランスをはじめ西欧全土に，女優が一般化される。これも宗教的呪縛からの解放，合理的精神の目ざめ，現実の写実的再現という，ルネサンス精神の一つの現われといえる。

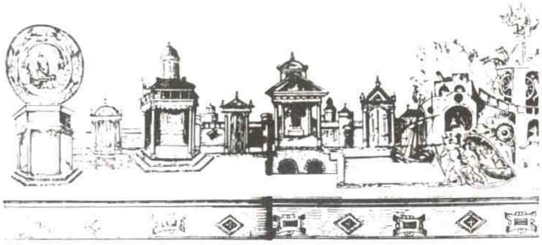
一方16～17世紀には，これと別にスペインにベーガ*やカルデロン*らの自由で奔放な戯曲が生まれ，イギリスではシェークスピア*が出て，潑剌とした詩情と自在な作劇術

演　劇


①


②


③


④


⑥


⑦


⑤

①自然の丘腹を利用したギリシアの大野外劇場(ディオニュソス劇場，BC331)
②ギリシア悲劇の一場面　子をだいているヘラクレスとその妻(壺絵をもとに復元)
③古喜劇の登場人物〈物売り〉をかたどった素焼きの像　(アッチカ製)
④受難劇の並列舞台装置図(1547年，カイヨー画)
⑤コメディア-デラルテの即興芝居風景図
⑥ドラクロワの描いたシェークスピア作《ロミオとジュリエット》の一場面(部分)
⑦モスクワ芸術座によるゴーリキー作《検察官》の舞台(1968年上演)

により人間性を豊かに写し，エリザベス朝演劇の花を咲かせた。フランスを中心とする古典主義と，その三一致理念を無視したこれらの流動的な劇群とは，西洋演劇の二大潮流であるといってよい。もっともヨーロッパ大陸では，17〜18世紀には古典主義が支配的で，シェークスピアやスペイン劇は野蛮人の芝居とさえ非難されていた。

18世紀後半，フランスのディドロ*が古典主義の形式化に疑問を発し，さらにドイツのレッシング*が出て近世市民劇の基をつくった。彼は，シェークスピアの詩性・人間性を高く評価し，ギリシアの悲劇精神に直接触れることにより，新しい演劇の理念を求めた。それを作品によって実行したのがゲーテ*とシラー*だった。かくしてシェークスピア研究が活発になり，ヨーロッパ各国にロマン主義の風潮がみなぎる。神や英雄に代わって，普通の人間が劇の主人公となるのも，このころからである。

19世紀後半になると，進化論や物理・天文などの自然科学や技術の発達により，文化全般が近代合理主義・自然主義に向かう。演劇ではゾラ*の自然主義リアリズムの提唱(1873)をはじめとして，イプセン*・ストリンドベリ*・ハウプトマン*・チェーホフ*らの近代戯曲がぞくぞく生まれた。また商業主義的大劇場のスターシステムが栄える一方で，それに対抗して，人生の探究をめざす非営利的な小劇場運動が起こってくる。フランスのアントワーヌ*の自由劇場(1887)をはじめ，イギリスのグライン*の独立劇場，ドイツのブラーム*の自由舞台，ロシアのスタニスラフスキー*らのモスクワ芸術座*などがそれで，これらはやがてアメリカ・日本へも波及し，世界的な近代劇運動を形成する。日本では1924年(大正13)創立の築地小劇場*がその牙城(がじょう)となった。

近代劇において様式方法上特に重要なのは，科学の発達により舞台装置や照明・音響効果などが高度に進み，リアリズムが完成されたことと，それに伴って〈演出〉という仕事が独立した職能となったことである。作者はいまや単なる娯楽や神への奉仕ではなく，自身の人生観・世界観や問題意識によって自己を表明する姿勢をとりはじめた。その意図を的確に舞台化するには，俳優はじめ舞台の各要素を統一しなくてはならない。その役目を果たすのが演出である。その提唱者はクレーグ*で，ラインハルト*・メイエルホリド*・スタニスラフスキーらはそれに続いた。ことにスタニスラフスキーは演出・演技の訓練方法を科学的に体系化し，世界各国の演劇に大きな影響を及ぼした。

第1次世界大戦ごろになると，自然主義的写実主義では描けない人間のより深奥のもの，意識下の世界に反映された社会の矛

盾や不安を，直接感覚的にとらえようという方法が求められはじめた。表現主義・象徴主義・構成主義から，ブレヒトの叙事演劇，第2次世界大戦後に盛んな実存主義，フランスのアンチ-テアトル(反演劇)などは，みなこの，反写実主義演劇の流れであるといってよい。

〈東洋演劇の発展〉 東洋でも演劇は，生産に結びついた古代信仰の行事から発展したが，その発達の様相は各地方によって雑多である。この点，中世にキリスト教文化という共通の基盤をもった西洋と違う。また一般に東洋では歌舞の性格が強く，劇文学としての発展は西洋に比べて貧弱である。したがってその歴史は文字に定着されず，歌舞的様式そのものがいわば肉体的な伝統をもって今日に至っている。ジャワの影絵人形劇や宮廷舞踊，バリ島の踊り，セイロンの仮面舞踊，朝鮮や中国東北部・モンゴルの跳鬼舞踊やシャーマン芸能など，それぞれの風土や生活感覚を反映して特徴的だが，劇的内容は単純素朴(そぼく)で，西洋に比すべきドラマと演技演出の歴史をもつのは日本・中国・インドぐらいである。

　中国では古代の固有の歌舞に西域地方からの芸能がはいって多彩となり，唐代(7世紀より)になると宮廷に歌舞をつかさどる教坊や俳優の技を教える梨園(りえん)がつくられ芸術化された。日本の雅楽・舞楽はこの系統のものである。劇的構成や俳優の役がらなどが確立されるのは北宋(ほくそう)・金のころ(10世紀以降)で，北宋では雑劇，金では院本と称した。元代(13世紀以降)になって元曲(北曲)が音楽劇として完成される。さらに明(みん)・清(しん)と下るにつれて，崑曲(こんきょく)や京劇を生み，南方の越劇とともに古典の伝統をなした。しかし第2次世界大戦後の中国革命，さらに1966年からの文化大革命により改廃が進み，日本の新派・新劇の輸入による話劇(せりふ主体の近代劇)の比重が現在急速に大きくなりつつある。

　インドでは5世紀に最大の劇作家カーリダーサが現われ，その後400年の全盛時代を生んだ。彼の《マハーバーラタ》を素材とする《シャクンターラ》その他の雄大な叙事詩劇は，ゲーテに影響を与えたとさえいわれる。しかし，8世紀以後はみるべきものなく，今日もこれら古典の伝承以外に近代劇は発達していない。

　日本では古代の神事的芸能から7世紀以降大陸からの伎楽(ぎがく)・舞楽・散楽などの移入を経て，中世の能・狂言に至って劇的内容のある演劇を確立，さらに近世に文楽・歌舞伎を生み市民劇を確立した。近代には西洋の文学演劇をいちはやく取り入れて新劇運動を展開，西洋演劇の水準に迫って今日に至り，つねに東洋の指導的役割を果たしている(→日本演劇)。

〔演劇と社会〕 演劇の歴史は以上みてきたように古く，各時代・各社会を反映してその種類も多種多様である。しかし演劇は内容・表現手段ともにきわめて人間的・肉体的で，かつ集団的であるため，社会と密着し，したがって社会的影響力はあらゆる芸術史上最大といえる。それゆえに歴史をさかのぼると演劇はときには教化に利用され，ときには害毒として弾圧された。宗教劇や左翼演劇は一種の民衆教化劇である。エリザベス朝演劇はまもなく社会悪として清教徒革命により滅亡し，歌舞伎は徳川幕府によりしばしば禁止や干渉を受けた。役者は河原乞食(かわらこじき)とさげすまれ，芝居町は吉原(よしわら)遊郭とともに悪所とされた。近代に至るまで，東西ともに演劇はおおむね社会的に低い地位に甘んじなければならなかったのである。しかし演劇の社会的重要性が明確に意識されたのは近代以降としても，それまでにもその重要性が，さまざまな形で示されてきた。アリストテレスは2400年まえに《詩学》の中で，すぐれた悲劇はカタルシス作用により人間の心を浄化することを指摘して演劇の有用性を唱え，能の大成者世阿弥(ぜあみ)は〈諸人の心を和らげ〉〈寿福増長の基〉となると，芸能の存在意義を強調した。また近松門左衛門(もんざえもん)は《虚実皮膜論》において，虚構の中に芸ないし芸術の本質を認め，その目的を〈なぐさみ〉としたのである。現代は映画からテレビへとマス-メディアが急速に発展しつつあるが，この高度工業化社会の中に埋没しようとする人間性を，最もなまなましく肉体的に回復するうえで，実は演劇が最も切実に求められている時代ともいえよう。実存主義もアンチ-テアトルも，ブレヒト劇も，あるいは近年流行のハプニング・アングラ演劇なども，現代社会の中で孤立し疎外されつつある人間に，根本的な生のエネルギーを回復し，存在を確かめようとする努力にほかならないのである。　〔河竹登志夫〕

あると主張する《イギリスにおける労働者階級の状態》をはじめ，社会主義の思想や経済学などに関する著作，《ドイツ農民戦争》(1850)，《反デューリング論》(1878)，《家族・私有財産および国家の起源》(1885)などを著わしている。マルクスの死後はその遺稿を整理して《資本論》の第2巻を1885年に，第3巻を1894年に発行した。さらに，実践的な活動家としても，彼は1864年に設立された第1インターナショナル(国際労働者協会)の指導者として重要な役割を果たしている。マルクス主義理論の形成・普及は，マルクスとともに彼に負うところが多い。　〔松浦　保〕



エンゲルス

えんこ　【円弧】 ⇨円

えんご　【縁語】 和歌修辞法の一。1首中のある語と特別深い関係にある語を，互いに縁語といい，《古今和歌集》以後，掛詞(かけことば)などとともに発達し，《新古今和歌集》の時代に頂点に達した。縁語は〈縁の詞〉〈うへした〉〈よせ〉などともいわれ，〈えんの字を胸腰裾(すそ)にすゑつるを，よき歌とす〉(《悦目抄》)などと説かれ，歌人必修の修辞とされた。たとえば，〈初雁(はつかり)のはつかに声を聞きしより中空にのみものを思ふかな〉では〈初雁〉と〈中空〉が縁語。　〔鈴木一雄〕

えんこうどう　【袁宏道】 (1568～1610) 中国，明(みん)代の文人。袁中郎ともいう。兄の宗道，弟の中道も文人で，世に三袁といわれた。王陽明派の哲学と禅宗とで思想を形成し，主観主義的傾向の文章観をもち，古来の形式を重んずる文章美学のわくにとらわれないエッセイを書いた。わが国には江戸時代に伝わり，一部の人々に愛好された。

えんこうるい　【円口類】 脊椎(せきつい)動物門のうち最も下等な綱である円口綱のことをいう。ヤツメウナギの類とメクラウナギの類がこれに属す。下等とされる根拠は，これらは口が吸盤状で，上下に分化したあごがないところにあり，他の脊椎動物がすべてあごをもっているのに対比させて，無顎(むがく)綱といわれはじめている。ヤツメウナギ類・メクラウナギ類はともに胸びれ・腹びれをもたず，骨はすべて軟骨で，脊椎の前身である脊索しかもっていない。ヤツメウナギ類とメクラウナギ類では，体の構造がかなり違っているので，両者の起源は相当離れているとする説が有力である。　〔菅野　徹〕

えんごこくごん　【圜悟克勤】 (1063～1135) 中国，宋(そう)代の臨済宗の僧。諡(おくりな)を仏果禅師・真覚禅師という。彭(ほう)州(四川省)の人。姓は駱(らく)氏。幼くして出家遊歴し，のち中国臨済宗第5祖法演に法を継ぐ。成都の昭覚寺に住し，のち澧(れい)州(湖南省)夾山(きょうざん)霊泉院の碧巌室(へきがんしつ)にあって，学徒のために雪竇(せっちょう)重顕の集めた《頌古(じゅこ)百則》(百の公案)を基にして，《碧巌録》10巻を編纂(へんさん)

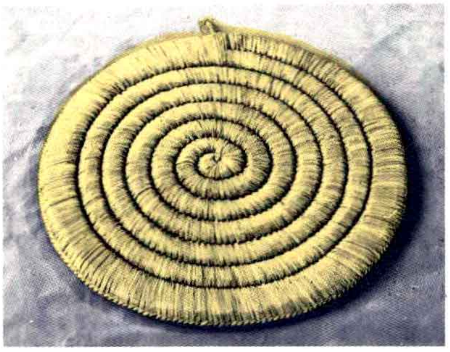
した。これは宗門第一の書として尊重される。　〔田中良昭〕

えんごさく　【延胡索】　双子葉植物・ケシ科・キケマン属の一群の総称。ふつうジロボウエンゴサクをさす。本種は林下にはえる多年草で，高さ12～20cm，地下に小さな球茎があり，毎年新しい球がつくられ，これより数本の花茎と根生葉が出る。根生葉は3回3出複葉で小葉は倒卵形をなし，1～2個の欠刻がある。4～5月，長さ5～15cmの花茎の頂に紅紫色の不整花を総状花序につける。果実は長さ約2cmの線形で多少じゅず状となる。種子は黒色で細かい突起がある。エゾエンゴサクは中部以北にみられ，葉は2回3出複葉で前種より一まわり大きく，青紫色花で，蒴果(さくか)は長さ1.5～2.3cmの線形，種子はなめらかでつやがある。ヤマエンゴサクはジロボウエンゴサクに似るが根出葉はなく，2～3回3出複葉の茎葉が2枚互生につき，淡紅色花で，蒴果は長さ0.8～1.3cmの広披針(こうひしん)形ないし卵状楕円(だえん)形，種子は平滑で光沢がある。これらの根を乾燥したものが延胡索(和延胡索)で，浄血・鎮痛薬として家庭薬に配合されるが，市販品の多くは中国産(唐延胡索)である。　〔加藤僖重〕

エンゴーベ　⇨陶磁器

エンコミエンダ　［encomienda］　スペイン語で〈委託〉の意味。スペイン国王が，植民地で功労のあった臣下に与えた一種の権利。1503年，イサベル*女王の命により，ラテン-アメリカに施行された。その内容は原住民の教化と福祉を条件に彼らを植民者に委託し，一定期間その使役を認めるもので，当初の目的は原住民の保護にあったが，実際上，原住民を搾取する役割を果たした。その収奪のきびしさは多くの批判をよび，原住民の減少という条件と重なり，17世紀末にはその多くが消滅した。〔松下　洋〕

えんざ　【円座】　わらうだともいう。わら・イ・スゲなどをたばね，うずまき状に丸く巻いて，平たく編んだ座具。平安時代には官位によって使用区分が定められていたが，のちには一般にも用いられた。畳の普及した今日では，社寺や茶席などで見られるにすぎない。



円　座

えんざ　【縁座】　重犯罪人の親族が連帯責任で罰せられる刑罰制度。大宝律では，謀叛(むほん)・大逆などの国家・天皇に対する罪では父子は没官，兄弟は流罪に処せられた。鎌倉時代の御成敗式目*では，一般の殺傷はその企てを知らないかぎりは縁座の適用を免れたが，謀叛殺害は妻の所領を没収し，子孫が父祖の敵を殺害した場合も父祖に適用された。室町時代から戦国時代にかけて，縁座を適用する犯罪はしだいに多くなり，分国法*では厳重に規定された。江戸時代には武士と庶民とは区別され，武士の切腹・獄門には子は死罪，遠島*には子は中追放に処せられたが，庶民には比較的ゆるく，御定書では主殺し・親殺しのみに適用された。1882年(明治15)施行の旧刑法により完全に廃止された。➔連座〔松尾　涼〕

えんさん　【塩酸】　塩化水素HClの水溶液。刺激臭のある無色の溶液(工業用は鉄イオンを含むため黄色)。市販の濃塩酸は比重1.19，37％の塩化水素を含み，12規定，湿った空気中で発煙する。20.2％の塩酸は，110℃の共沸混合物*をつくる。一塩基酸。強酸であり，0.1規定のものは18℃で93％電離している。多くの金属をとかし，同時に水素を発生する。銅は酸素に接しつつ作用させればとかす。銀・金・白金はとかさない。塩基性酸化物と反応して塩化物を生じる。炭酸塩を分解して二酸化炭素を発生させる。酸化されやすく，重クロム酸塩・過マンガン酸塩・二酸化マンガンなどにより塩素を発生する。電離により生じる塩素イオンCl^-が遷移金属に配位するのでクロロ錯体をつくりやすく，鉄・銅・コバルトの溶液が硫酸溶液と異なる色を示すのはこのためである。塩酸は胃液にも含まれ，人間で0.3～0.4％の濃度である。濃塩酸は劇薬である。

古く行なわれた食塩に硫酸を加えて熱するルブランソーダ法は，現在では実験室的製法である。現在，工業的には，水素と塩素の直接化合で得た塩化水素を水に吸収させる(合成塩酸・高純度)か，有機物の塩素化の際の副生物(副生塩酸)として得られている。石油化学の発達とともに副生塩酸は増し，品質も向上してきた。アミノ酸調味料(タンパク質加水分解用)・化学工業(薬品・電解ソーダ・染料工業など)・鉄鋼・パルプ・食料品・薬品・医薬製造などに用いられる。➔塩化水素〔玉野秀樹・三輪誠〕

えんざん　【演算】　計算を実際に行なう操作。運算ともいう。加法・減法・乗法・除法・開平・開立などはいずれも演算で，特に，加・減・乗・除を四則*という。たとえば，3の演算の結果を5と求めることは，整数の集合の元からつくった順序対(2，3)に対して，整数の集合の一つの元5を一意に対応させたとみられる。すなわち，演算は，このように集合の元について対応関係を定めるものである。

【二項演算】集合Xの元の順序対(x, y)に対し，集合Xの元zが一つ定まる対応関係$(x \circ y \longrightarrow z)$を$X$における二項演算という。四則は二項演算であるが，四則以外にも二項演算が考えられる。たとえば，自然数の順序対(6，8)に，それらの最大公約数2を対応させて，$6 \circ 8 = 2$と表わせば，これは自然数における一つの二項演算である。

【単項演算】集合Xの一つの元xに対して，集合Xの一つの元yが定まる対応関係$(x \to y)$をいう。たとえば，任意の整数に対して，その絶対値は一つ定まる。この〈絶対値をとる〉演算は単項演算である。

【閉じている】一つの集合の元について，ある演算を決めたとき，演算の結果定まる元がすべてその集合に属しているとき，その集合はその演算について閉じているという。自然数の集合は，加法・乗法について閉じているが，減法や除法については閉じていない。〔青柳雅計〕

えんざん　【塩山(市)】　山梨県北東寄りの市。1954年(昭和29)市制施行。人口27,000。江戸時代は青梅(おうめ)街道の宿場町であった。甲府盆地の北東部，笛吹川の谷口に位置し，産業三大別人口比は31：26：43。ブドウ・モモなどの果樹栽培が行なわれ，山地では木材・カコウ岩を産出する。中央本線・国道140号線に沿い，武田(たけだ)信玄の菩提(ぼだい)寺恵林(えりん)寺や塩山鉱泉があり，大菩薩嶺(だいぼさつれい)の登山口にあたる。

えんさんカルシウム　【鉛酸カルシウム】　$2CaO \cdot PbO_2$　石灰と一酸化鉛とを高温で焼成してつくる。色は淡黄白色。吸油量が多く(15～22ml/100g)，被覆力は鉛白の2倍で，亜麻仁(あまに)油などの乾性油と混ぜて塗料をつくると，親和性が強く，鉛せっけん・カルシウムせっけんをつくる。そのためにさび止め顔料としてすぐれた耐水性・耐久性を表わす。

えんし　【遠視】　目が遠近調節*を行なっていない場合，無限遠方からの平行光線が網膜より後方に焦点を結ぶような眼科疾患。正視の場合は無限遠方からの平行光線は無調節の状態で網膜に焦点を結び，したがって遠方がよく見えるのだが，遠視の場合は無限遠方を見るためにも調節を行なって目の屈折力を増加しなければならない。それより近くを見るためにはいっそう調節することが必要となる。したがって，どこを見るのにもたえず調節せねばならず，目の休まるときがないので，眼精疲労を起こしやすい。遠視の矯正(きょうせい)には，屈折力を増すための，適当な強さの凸(とつ)レンズのめがねを使用する必要がある。➔めがね
〔氏原　弘〕

えんじいろ　【臙脂色】　色名。やや青みのある赤色。本来はベニバナで染めた赤い色で，基本色の赤よりやや青みのある暗い赤色をさす。紅のことを臙脂ともいったので，この名がある。日本工業規格(JIS)慣用色名〈エンジ色〉は，色相4.5R，明度4.0，

彩度10.0と規定されている。➔色

えんしせん　【燕子箋】 中国，明(みん)代末期の阮大鋮*(げんたいせい)の戯曲。1羽のツバメがもたらした手紙が縁となり，才子霍都梁(かくとりょう)と佳人酈飛雲(れきひうん)とが曲折を経て相結ばれる。

えんしつしきりゅうさんせいぞうほう　【鉛室式硫酸製造法】 最も古くから行なわれている硫酸*の製造方法。イオウ分を含む鉱物原料を焼いて二酸化イオウSO_2をつくり，窒素の酸化物（NOとNO_2）と水分を作用させて硫酸H_2SO_4にする。この反応を行なわせるために大きな鉛張りの室を用いるのでこの名でよばれる。その反応は複雑であるが，原理的に化学反応式で示すと，

$$SO_2 + NO + NO_2 + H_2O \longrightarrow H_2SO_4 + 2NO$$

右辺のNOは一部が酸化され，くり返して反応に用いる。

鉛室式を改良したものに，半塔式・塔式などの方式があり，これらはいずれも反応中に窒素酸化物を用いるので総称して硝酸式とよぶ。一般に硝酸式でつくられる硫酸は濃度が薄く（約62%），不純物も多いので，用途が限られているうえ，最近は濃硫酸を必要とする化学工業が多くなり，接触式硫酸製造法*による量が増大している。　〔久保輝一郎〕

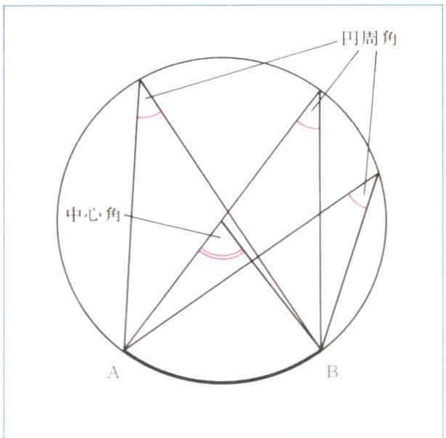
えんシフト　【円シフト】 広義には，外国における外貨建て金融の利用から国内における円建て金融の利用に移行することをいう。しかし，普通は輸入貿易金融において，輸入業者が外国銀行の外貨建て金融の利用から，わが国の銀行の円建て金融の利用に乗り換えることをいう。従来，わが国では資金が十分でなく金利も高かったから，輸入業者はもっぱら外国銀行の外貨建て信用に依存してきたが，1965年（昭和40）ごろからアメリカの金利が騰貴し，逆に日本の金利が低下する傾向が生じたため，わが国輸入業者のドル信用利用から円信用の利用への乗り換えが顕著に発生した。輸入業者にとって，いずれの信用を利用するかの選択は，金利が最も重要な要因であるから，金利の動向いかんによっていつでも円シフトは発生しうる。　〔安井孝治〕

えんじゃくきょ　【閻若璩】 (1636～1704) 字(あざな)は百詩，号は潜邱(せんきゅう)。山西省の人。《書経*》の中の《古文尚書(しょうしょ)》25編が東晋*(とうしん)時代の偽作であることを証明した。この《尚書古文疏証(そしょう)》は同時代の胡渭(こい)の古代地理研究書《禹貢錐指(うこうすいし)》などとともに，その周到で厳密な文献学的古典研究により，清朝(しんちょう)の漢学*の基礎をつくった。

えんしゃくざん　【閻錫山】 イエンシーシャン (1883～1960) 中華民国の軍閥。清朝(しんちょう)の末，日本の士官学校を卒業。辛亥(しんがい)革命*のとき，孫文らの同盟会の一員として戦い，民国成立後，山西省の都督に就任。以後，山西モンロー主義を唱え，軍閥として勢力をふるった。蔣介石(しょうかいせき)の北伐を助け，国民党の重鎮として国防部長になったが，共産党に追われて台湾へのがれた。



エンジュ　果実中の種子は腎臓形でかっ色



円周角

えんしゃっかん　【円借款】 外国に円資金を貸し付け，これをわが国からの輸入代金などに使用させる国家的な信用供与をいう。しかし，わが国が従来実施してきたのは，世界銀行*への円出資金を世界銀行を通じて貸し付ける方式（つまり世界銀行の円借款），あるいは日本輸出入銀行がインドやパキスタンのために円建て勘定を開設し，これを通じて立て替え払いをする方式があるのみで，本来の意味での円借款は行なっていない。なお，商業銀行などの短期の対外円金融は円借款とはいわない。〔安井孝治〕

えんじゅ　【槐】 双子葉植物・マメ科。中国原産の落葉高木で，高さ8～10m。街路樹・庭木として用いられる。葉は羽状複葉で9～15個の小葉からなり，葉裏は白色をおび，互生する。7～8月，枝の先に淡黄色の花穂をつける。果実は長さ2～5cmのさや状をなし，多肉質でじゅず状にくびれる。開花前のつぼみを干したものを槐花(かいか)といい，消炎・鎮痛薬などに用いられ，またルチン*の製造原料とされる。

えんしゅう　【演習】 ⇨ゼミナール

えんしゅう　【円周】 ⇨円

えんしゅうかく　【円周角】 円の弧の両端と円周上の1点とを結ぶ二つの弦のつくる角を，その弧に対する円周角という。また，弧の両端と中心とを結んだ二つの半径のつくる角を，その弧に対する中心角*という。定まった弧ABに対する円周角はすべて等しく，同じ弧に対する中心角の半分である。逆に，同じ円または等しい円では，等しい円周角に対する弧は等しい。

えんしゅうなだ　【遠州灘】 愛知県伊良湖岬(いらごみさき)から静岡県御前崎に至る沿岸前面の海域で，以前は遠江灘(とおとうみなだ)とよばれた。御前崎・天龍(てんりゅう)川間の御前崎砂丘と，浜名湖から渥美(あつみ)半島南岸に至る台地端の海食崖(かいしょくがい)からなる海岸線で，御前崎付近を除いては岩礁もない。冬の偏西風が強く，伊良湖水道ではこれを尾張出(おわりだし)とよぶ。港泊地に恵まれず，江戸時代には江戸～上方間航路の難所であった。潮流も強く，大潮時の平均流速は御前崎南方では時速1ノットに達する。　〔山口恵一郎〕

えんしゅうななかま　【遠州七窯】 江戸初期の茶人，小堀(こぼり)遠州*の好尚(こうしょう)を盛る茶器を製した全国7か所の窯芸。遠江(とおとうみ)（静岡県）志戸呂(しどろ)焼・近江(おうみ)（滋賀県）膳所(ぜぜ)焼・豊前(ぶぜん)（福岡・大分県）上野(あがの)焼・筑前(ちくぜん)（福岡県）高取焼*・山城（京都府）朝日焼・摂津（大阪府・兵庫県）古曾部(こそべ)焼・大和(やまと)（奈良県）赤膚焼*をいう。この呼称の成立は江戸後期と推定される。

えんしゅうりつ　【円周率】 円の直径に対する円周の長さの比。直径1の円周の長さにあたる。円周率の値は，ギリシア語で周という意味の語のかしら文字π(パイ)で表わす。古くから，近似値*として3，3.14，22/7などが知られていた。アルキメデス*は円に内接・外接する正96角形の周を計算して$223/71 < \pi < 22/7$を求めた。最近は，コンピューターによって小数点以下10万けた以上計算されている。πの値は無理数*であるが，はじめのほうの数字の並び方を記憶する一つの方法として，次のものがある。

産医師異 国 に向こう産後やくなく
3.1415926 5 358979
産婦みやしろに 虫 さんざん 闇 になく
32384626 4 3 3 83279

〔菊池兵一〕

えんしゅうりゅう　【遠州流】 江戸初期に形成された茶道の一流派。小堀(こぼり)遠州*を開祖とする。遠州は茶道を古田織部*(おりべ)に学び，織部流を本として，さらに作意をこらし，茶事の各分野において新しい改革をなした。その好みを〈きれいさび〉という。遠州流茶道の直系は遠州の子孫である小堀家に伝わり，現在11世小堀宗慶（正明）に至る。家元は東京都新宿区四谷(よつや)にあるが，大徳寺を中心に京都に発展したのを京遠州という。そのほか，越後(えちご)（新潟県）・仙台(せんだい)方面にも普及している。　〔桑田忠親〕

えんしゅうりん　【演習林】 林学課程を有する高等学校および大学において，林学

の教育(実習)施設ならびに研究施設として高等学校および大学が管理経営する森林。林学の教育研究以外の目的で学校が管理経営する学校林とは性格が異なる。

えんじゅかいがん【煙樹海岸】和歌山県御坊市西部の海岸で，県立自然公園に指定されている。砂嘴(さし)上に，防風・防潮のために初代紀州藩主徳川頼宣(よりのぶ)が植えたといわれる美しい松林がある。

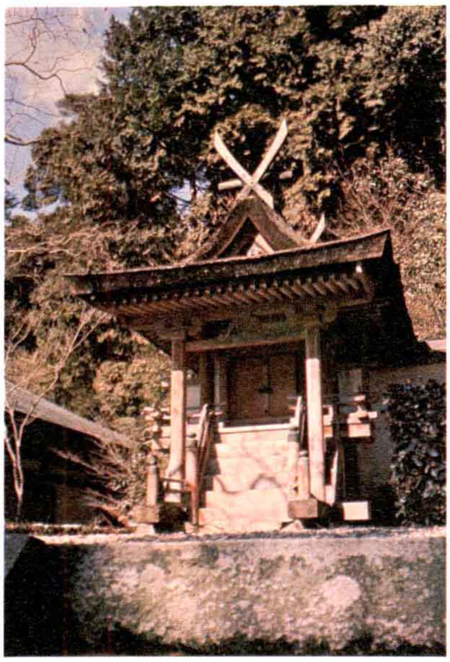
えんしゅつ【演出】演劇上演における芸術面での統率的役割をいう。仕事の手順としては，戯曲の検討に始まり，配役および装置・照明などの各部門にプランを浸透させて，けいこの過程を通じて全体を統一的に仕上げて舞台監督に引き渡す。もとは座頭(ざがしら)や脚本作者が行なっていたが，前世紀後半ヨーロッパにおいて独自の部門として確立され，わが国でも明治末に小山内薫(おさないかおる)らによって移入され，新劇における舞台創造の最高責任となり，歌舞伎(かぶき)などの分野にも浸透しつつある。〔大島　勉〕

えんしょう【炎症】炎症ということばは，ギリシア時代より体の中で火が燃えているような感じのする状態，すなわち赤くはれて熱っぽくなった状態をいっていたが，時代とともにその意味も変わってきた。今日では，日常の病気の大部分にみられるように，種々の原因・刺激に対する生体の組織の変質，循環障害(充血・滲出(しんしゅつ))，組織の増生を併発する複雑な病変をいう。この病変のいずれが主要な変化であるかにより，変質性炎・滲出性炎・増生性炎・特殊性炎(病原体が明らかで特殊な病像を示す)の4型に分けられる。経過からは，急性・亜急性・慢性に分けられる。〔中原義行〕

えんじょうじ【円成寺】奈良市忍辱山(にんにくせん)町にあり，真言宗御室(おむろ)派に属し，山号の忍辱山で知られる。開創は奈良時代，唐僧虚滝(ころう)によるとか，京都東山から移したとかいわれるが，1026年(万寿3)命禅上人(しょうにん)が中興，1153年(仁平3)京都仁和(にんな)寺の寛遍僧正が東密の一派忍辱山派を興してから栄えた。本堂は1466年(文正1)再建，春日(かすが)造りの社殿に両廂(ひさし)をつけた阿弥陀堂(あみだどう)で，本尊は藤原期の作，大日如来像は1176年(安元2)運慶の作として著名。また，春日堂・白山堂はわが国最古の春日造りの社殿で，国宝に指定されている。〔永井信一〕

えんしょく【演色】ある光源を使って照明したとき，物体がどのような色に見えるかということをその光源の演色性という。演色は，物体がどのような色を吸収するか，また光源がどのような分光分布をもっているかによって決まる。

えんしょくしょくぶつ【炎色植物】光合成植物の一門。黄かっ色植物ともいう。黄かっ色の補助色素をもち，光合成産物はデンプンである。かっ色鞭毛藻(べんもうそう)類と渦(うず)鞭毛藻類の2綱を含む。前者はその性質のはっきりしないこともあるが，核の構造の異なること，口溝(こうこう)のあることなどから，この門からはずすべきであるという意見もある。



円成寺　春日堂

えんしょくはんのう【炎色反応】アルカリ金属，アルカリ土類金属，および銅の化合物を炎中に入れたとき，それぞれの金属もしくは金属化合物に特有の色を与える現象。これは，気化してできた金属原子または金属化合物が電子的に励起され，それが基底状態にもどるときに，その励起エネルギーに相当する可視光線を出すためである。試料はふつう，溶液とし，気化しやすくするために少量の塩酸を加える。次に白金線もしくはニクロム線の先端を輪状またはコイル状にし，その部分を塩酸で湿し，強熱する。この操作をくり返したあとに，試料溶液に浸して，試料の微量を先端部分につけ，ブンゼンバーナーなどの外炎に挿入(そうにゅう)し，炎の低温部からしだいに高温部に移して観察する。試料中に数種の元素が共存する場合でも，元素によって気化の温度に差があるから，段階的に識別できるが，適当なフィルター(たとえばコバルトガラスを使うとナトリウムD線は吸収される)または簡単な分光器で観察すれば，判定はいっそう容易である。試料が非常に微量であっても明瞭(めいりょう)な炎色反応を呈するため，簡単にアルカリ金属，アルカリ土類金属，および銅の化合物の検出ができる。なお，花火の色はこの反応を利用したものである。〔三輪誠・宇山裕〕

元素	色	備　　考
Li	紅	イオンに基づく色
Na	黄	〃
K	紫	〃
Rb	紅紫	〃
Cs	青	〃
Ca	赤黄	酸化物に基づく色
Ba	緑	〃
Sr	紅	〃
Cu	緑	化合物に基づく色
Sn	青	第一スズ化合物に基づく色
In	青紫	イオンに基づく色
Tl	緑	塩化物に基づく色

エンシレージ　⇨サイレージ

エンジン　⇨内燃機関

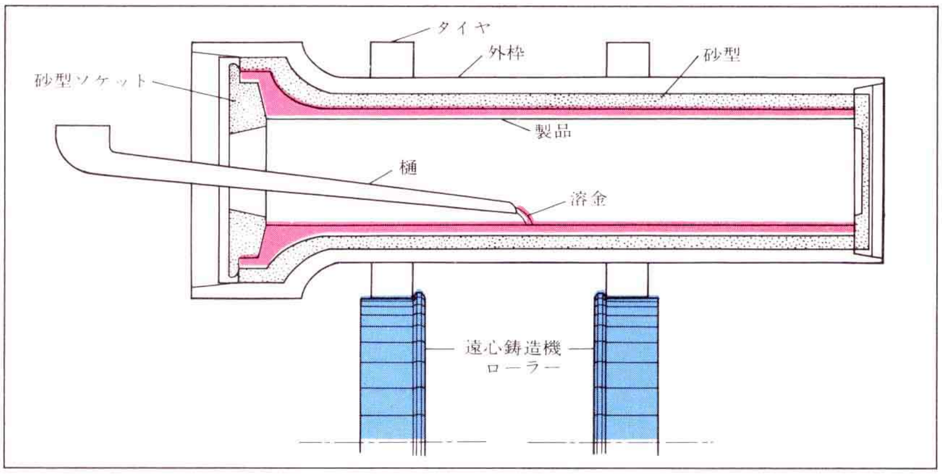
えんじん【猿人】第四紀洪積世(こうせきせい)に，南アフリカ・東アフリカに生息した化石人類の総称。最初に発見されたタウングス小児頭骨は，厚い頭蓋骨(とうがいこつ)と，現代人より著しく小さい頭蓋容積(約500cc)をもつ。頭骨と脊椎(せきつい)の接続のしかたや，骨盤の位置からして，直立二足歩行していたと推測される。下顎骨(かがくこつ)からみて，ヒトと同じように，かみ合わせは上下動より回転運動を主体としていたらしい。1924年にダートによって最初の化石が発見され，1936年以後，ブルームによってヨハネスバーグ西方60数キロメートルの地点で，多数の化石が発見され，それらはパラントロプス・プレジアントロプスと命名された。1959年には，リーキーによって東アフリカのタンガニーカのオルドワイ峡谷で，ジンジャントロプスが発見され，同時にオルドワン形とよばれる礫石器(れきせっき)も伴出した。直立二足歩行と，利器の使用の点で，ヒトとしての地位が与えられた。なお，この化石の出土したオルドワイ第1層の堆積(たいせき)年代は，カリウム-アルゴン法や，他の方法から約200万年前とされる。

形態学的特徴は，脳容量約600cc，下顎は大きく，かつ突出する。項筋粗面は類人猿と比較して低く，大臼歯(だいきゅうし)は大きい。脳頭蓋・眉上弓(びじょうきゅう)・額は，現生類人猿よりヒト的である。犬歯の発達も，類人猿ほどでない。骨盤および大腿骨(だいたいこつ)は，ヒト的であり，身長は150cmより低い。要するに最初の人類とみなされる。〔鈴木　尚〕

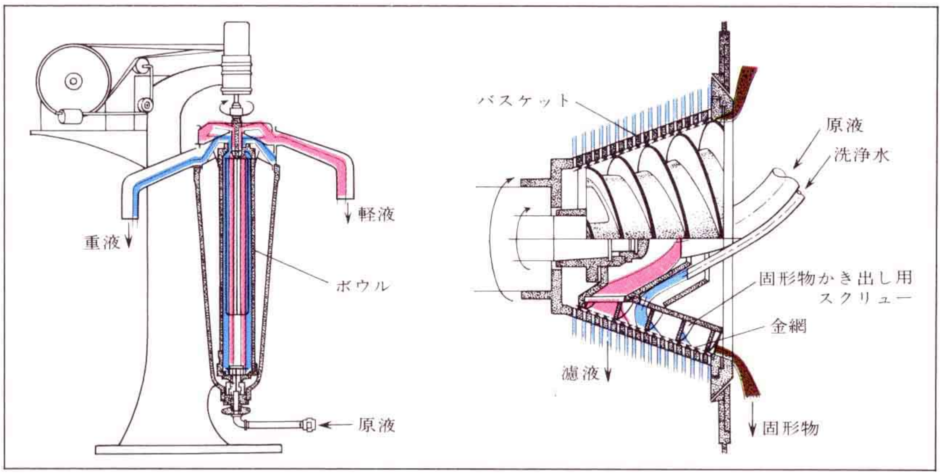
えんしんき【遠心機】⇨遠心分離機

えんしんちゅうぞう【遠心鋳造】鋳造法の一。鋳型を回転しながら溶融金属を注入するもので，金属に遠心作用による圧力が加わるので，緻密(ちみつ)な鋳物をつくることができる。また，パイプ・シリンダーライナーなど，断面が円形の鋳物では，中子(なかご)の必要がなく，金属中に含まれていたガスは内側から容易に逃げるので，巣(す)ができることも少ない。遠心鋳造機には，回転軸が縦のものと横のものとがあり，また金わくの中に砂を内張りした砂型と，金型とが使われる。➔鋳造〔加山延太郎〕

エンジンブレーキ［engine brake］



遠心鋳造　横型遠心鋳造機の原理



遠心分離機　(左)シャープレス型遠心分離機　(右)工業用スクリュー排出型連続遠心濾過機

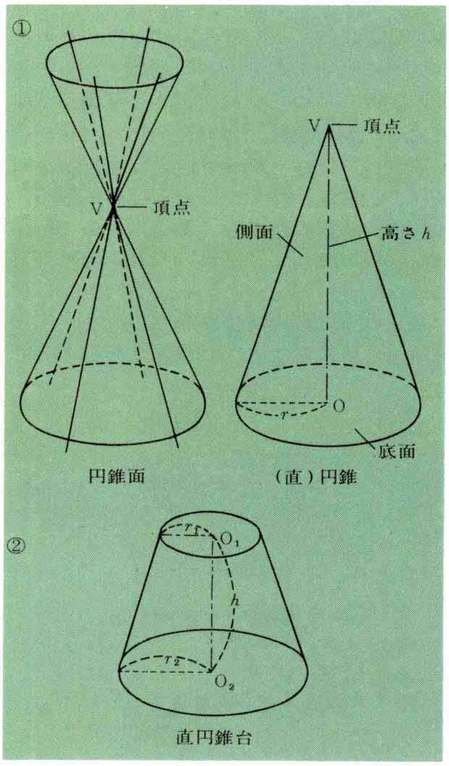
自動車の走行中アクセルペダル*から足を離し，燃料の供給を止めてエンジンの回転を低下させ，ブレーキを掛けたのと同じ効果を得る操作。長い坂を降りるときなど，連続的にブレーキをかける必要のある場合に，車輪ブレーキと併用すると車輪ブレーキの過熱を防ぎ事故を防止できる。シフトレバーを登坂時の位置，あるいはそれより1段下へ入れると，完全で効果的なエンジンブレーキが得られる。　〔成田武男〕

えんしんぶんりき　【遠心分離機】　回転による遠心力を利用して固体と液体，または比重の異なる液体と液体との混合物を分離する機械。遠心機ともいう。遠心分離機を大別すると，比重差によって沈降分離させる遠心沈降機と，濾過(ろか)・脱水によって分離する遠心濾過機とになる。遠心沈降機は穴のない容器を回転させることにより回転体内に沈降させて分離するものであり，遠心濾過機はバスケットとよばれる穴のあいた回転体の内側に布または金網を張り，それによって濾過・脱水を行なって液体だけを外側へ振り飛ばして分離するものである。いずれも，原料を一定量遠心分離機に供給して，分離が終わったら取り出す回分式と，原料の供給や排出を連続的に行なう連続式とがあり，連続式は工業的に大量の原料を処理するのに便利である。また，回転軸が垂直である縦型とこれを水平にした横型とがある。

遠心分離機によってどれだけの遠心力が加えられるかを示すには，遠心力が重力の何倍であるかによって示される。これを遠心効果という。すなわち遠心効果は遠心加速度を重力加速度で割った値である。遠心力は回転速度の2乗と回転半径に比例するので，遠心効果は遠心分離機の回転体の直径と回転速度とによって決まる。遠心効果はふつう100ぐらいから10,000程度のものが用いられるが，特殊なものでは10万を越えるものまである。

遠心分離機は分離速度が速いこと，またそのためにすえつけ面積が小さくてすむことなどの利点により，化学工業・食品工業その他多くの産業で広く利用されている。遠心濾過機ではたとえば工業的には，食塩・砂糖・硫安などの結晶の分離や工業薬品の分離・脱水に使われているほか，家庭では電気洗たく機の脱水機やジューサーもこれにあたる。遠心沈降機は薬品や合成樹脂の分離，油中の水分やごみの除去，牛乳のクリームの分離など微粒子やコロイドの分離に使われる。その他血漿(けっしょう)の分離やビールスの分離，そのほか分析用など実験・研究用の特殊な遠心分離機もある。〔加藤宏夫〕

えんしんりょく　【遠心力】　電車や自動車がカーブにさしかかったとき，車内の乗客や物体はカーブの外側に押しつけられ，あたかもその向きに働く力を受けているようにみえる。このみかけの力を遠心力という。この場合，実は力が働いているのではない。車体が向心力*の作用を受けてカーブするのに対して車内の人や物体は直接に向心力を受けないのでそのまま直進を続けようとする結果，車体に対して相対的に運動を始めるのである。しかし車体に基準を置き，また速度の変化を生ぜしめるのは力であるという立場に立ってみると，車内の人や物体に力が働いたと考えるのがぐあいよい。このような意味で遠心力はみかけの力であるという。厳密には遠心力は慣性系*に対して回転する座標系に現われる慣性力*の一種である。われわれが物体の運動を調べる場合には地面に固定された座標系を用いるのが便利である。しかしこの座標系は地球の自転によって回転するので，この座標系で物体の運動を論ずる際には遠心力を考慮に入れなくてはならない。しかし地球の自転の角速度が小さいので，多くの場合にはこれを無視してもさしつかえはない。→重力　〔有山正孝〕



円　錐

えんすい　【円錐】　円周上を1周する点と，この円と同じ平面上にない定まった点Vとを通る直線(母線)のつくる面を円錐面といい，この円錐面からつくった立体*が円錐体である。円錐体の曲面の部分を側面，

平面の部分を底面といい，Vを頂点という。円錐面または円錐体を円錐と略称する。特に，円錐の頂点が，底面の円の中心Oを通り底面に垂直に立てた直線上にあるとき，これを直円錐といい，そうでないとき斜円錐という。しかし，誤解のおそれがないときには，直円錐を単に円錐とよんでいる。

〔体積・表面積〕直円錐では底面の円の中心Oと，頂点Vを結ぶ線分OVの長さが高さにあたる。この高さを h，底面の円の半径を r とすれば，直円錐の体積 V，全表面積 S は，それぞれ次の式で求められる。

$$V=\frac{1}{3}\pi r^2 h \qquad S=\pi r^2+\pi r\sqrt{h^2+r^2}$$

このVは，高さと半径がそれぞれこの直円錐の高さと半径に等しい円柱*の体積の3分の1にあたる。**〈円錐台〉**円錐をその底面に平行な平面で切り取ったとき，頂点を含まないほうの立体を円錐台という。上底面の円の半径を r_1，下底面の円の半径を r_2，高さを h とするとき，直円錐台の体積 V，全表面積 S は，次の式で求められる。

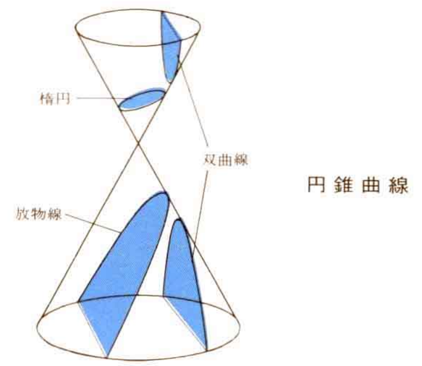
$$V=\frac{1}{3}\pi h\,(r_1^2+r_1r_2+r_2^2)$$

$$S=\pi\,\{(r_1^2+r_2^2)+(r_1+r_2)\times\sqrt{(r_2-r_1)^2+h^2}\,\}$$

〔菊池兵一〕

えんすいかくまく　【円錐角膜】 角膜*のほぼ中央を頂点として角膜が円錐状に膨隆した眼科疾患。近視となり，さらに進めば頂点が混濁して視力が低下する。この場合，コンタクトレンズを装用するか，角膜切開または角膜移植などの手術を行なう。

えんすいきょくせん　【円錐曲線】 円錐*を頂点を通らない一つの平面で切ったとき，切り口として得られる曲線の総称。この曲線は，円錐の母線に対する平面の傾きによって異なる。どの母線にも平行でない平面で切ったとき，切り口が頂点の一方の側だけに現われるなら楕円*(だえん)，両側に現われるなら双曲線*となる。平面が一つの母線に平行なときは放物線*になる。円錐曲線は，ギリシア時代の数学者アポロニウス*の《円錐曲線論》によってはじめて体系化された。
➛二次曲線　〔菊池兵一〕

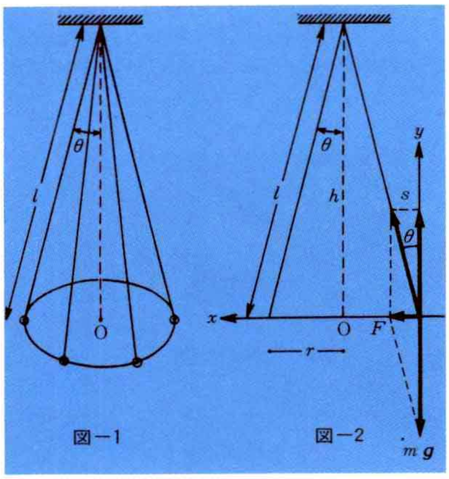


円錐曲線

えんすいずほう　【円錐図法】 ⇨地図

えんすいせん　【塩水選】 1882年(明治15)，横井時敬(ときよし)が発明公表した水稲種もみの選別方法である。一定比重の塩水に種もみを入れ，沈んだもみを種子として利用すれば，その内容が充実していることからよい苗の育成を図ることができる。一般に塩水比重1.13のものが用いられるが，糯(もち)や陸稲や芒(のぎ)がある場合には塩水濃度を変える必要がある。なお，レンゲソウ・アブラナなどでも，比重で分別すると菌核病を予防できる。　〔金木良三〕

えんすいふりこ　【円錐振り子】 振り子*のおもりが水平面内で等速円運動をするようにした振り子。糸は円錐面を描く(図-1)。円錐振り子では重力 mg と糸の張力 s の合力 F が向心力*として作用し，おもりが水平面内で等速円運動をする。その周期 T は糸の長さを l，糸の鉛直方向に対する傾きを θ とすれば $T=\sqrt{l\cos\theta/g}$ で与えられ，おもりの質量とは無関係である。θ が大きくなるほど周期が短くなる。円錐振り子は調速機*などに応用される。　〔有山正孝〕



円錐振り子

エンスヘデー　［Enschede］ オランダ東部，オーベルアイセル県のドイツ国境に近い都市。人口13万7,000(1967)。繊維および繊維機械工業の中心。酪乳品の生産，鶏卵の取引も多い。鉄道の分岐点であり，トゥエンテ運河，さらに近くに空港をもつ交通の要地。

えんせい　【延性】 ⇨塑性

えんせいがい　【袁世凱】 ユワンシーカイ　(1859～1916)　中国，清(しん)末の軍人・政治家。河南省の人。字(あざな)は慰庭，号は容菴(ようあん)。壬午(じんご)の変*(1882)，甲申の変*(1884)などにおいて，朝鮮での清国の勢力確立に功があった。日清戦争後，新建陸軍の建設に努め，戊戌(ぼじゅつ)の変法*には守旧派のために犬馬の労をとり，義和団の乱*に際しては帝国主義の代理人として尽力した。その後中央政界の実力者となった。西太后の没後罷免されたが，1911年武昌蜂起(ぶしょうほうき)の勃発(ぼっぱつ)とともに返り咲き，辛亥(しんがい)革命*の退潮に乗じて清帝退位と引き替えに臨時大総統に就任。1913年第2革命を圧殺して初代大総統になり，新約法を定めて独裁的権力を確立した。引き続き，総統の任期を10年とする修正大総統選挙法を公布するなど，帝制運動が進められる中で，1915年末雲南護国軍の蜂起より第3革命に発展し，1916年3月，結局帝制を取り消して，6月に憤死した。　〔狭間直樹〕

えんせいしゅぎ　【厭世主義】 ペシミズムの訳語。悲観主義ともいう。ラテン語の〈最悪〉の意による。生や世界が不幸や悪に支配されているとする考え方から発し，哲学説ともなった。もともと身体的・心情的障害や欠乏，生来の気質などに基づく気分であるが，それが単に個人的にとどまらず，1世代を支配して時代の病状を示すこともある。また，あらゆる救済宗教の特色をなす世界観で，地上的存在の無価値から彼岸渇仰(ひがんかつごう)，あるいは渇仰をも消し去ることへと向かう。哲学説としては，盲目の意志を世界の本質としたショーペンハウアー*の思想が近代的厭世主義の典型である。また，実存哲学者ハイデッガー*の体系は，史上最も強硬な厭世的哲学ともいわれる。神学においては，世界と人間性に関する厭世主義はバルト*・ブルンナー*らの思想の特質となっている。　〔豊福英利〕

えんせいしょくぶつ　【塩生植物】 海浜など塩分の多い土壌(どじょう)に生育する植物。アッケシソウ・ハママツナなどのように茎・葉が多肉のものが多い。海浜では十分な水分はあるが浸透価が高く，根による吸水が困難であるが，塩生植物の細胞中には多くの塩分を含み高い浸透価を有するため吸水することができる。

えんせいはかい　【延性破壊】 ⇨破壊

えんせき　【塩析】 塩類を加えて，水にとけている物質を析出させること。荷電をもっている巨大分子，たとえばタンパク質などはなかなか沈殿しにくい。これは分子のまわりに水分子がたくさんくっついているためである。そこで大量の中性塩，たとえば食塩などを加えると，分子のまわりの水分子が塩のほうに奪われて，水にとけにくくなる。このようにして沈殿したものは，塩を透析法で除くと再びもとと同じ性質を示す。非常に変化を受けやすい酵素などを純化するときによく使われる方法で，塩としては硫安がいちばん多く用いられる。なお，この方法は，等質点で析出させる方法と併用されることが多い。　〔井坂三郎〕

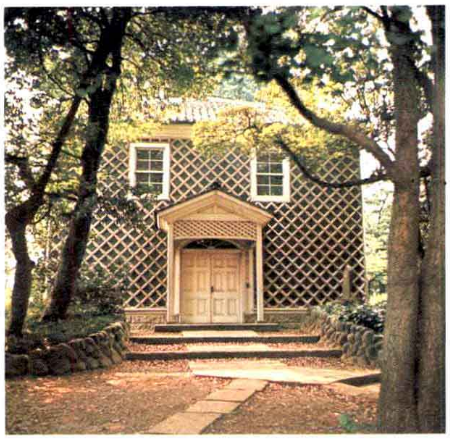
えんせきじっしゅ　【燕石十種】 叢書(そうしょ)6集。1857～1863年(安政4～文久3)刊。岩本佐七(達磨屋(だるまや)活東子)が，養父花の屋蛙麿(かわずまろ)の補佐を得て，広く近世各地方の人情・風俗・地理に関する著作を集めて編纂(へんさん)したもの。柳沢淇園*(きえん)の《独寝(ひとりね)》，愚性庵(ぐせいあん)可柳の《江戸節根元記》，山東京伝*の《大尽舞考証》など60種を収め，近世の風俗研究などの資料として重視される。

えんぜつ 【演説】 聴衆に対して自分の主義・主張・意見を述べること。福沢諭吉が英語のspeech を〈演説〉または〈演舌〉と訳して実行したのが最初といわれる。今日ではおもに政治上の発言についていう傾向がある。施政方針演説・選挙演説・賛成演説・質問演説など。従来の演説には格調ばかりを重んずる美文口調のものや激しいことばでまくしたてるアジ型のものが多かった。演説は原稿に基づいて行なわれることが多いので，書きことば，特に文語調のことばがよく使われる。今日のように，平易で親しみやすい語りかけが好まれる時代では，話しことばとして不自然な表現を多用しては十分な効果はあげられない。〔芳賀　綏〕

エンゼルフィッシュ 〔angel fish〕 硬骨魚類・シクリッド科。15cmほどになる淡水魚。厚みのないひし形の銀白色の体に，黒い垂直のしまが３本はいる。背びれ・しりびれ・腹びれが長く伸び，優雅な姿で，古くから代表的な熱帯魚*として愛好されている。南アメリカのアマゾン川・オリノコ川の原産。品種改良が進み，黒っぽいもの，ひれが非常に長いものなどもできている。名に反して性質は荒く，小さな魚を丸のみにする。〔菅野　徹〕

えんそ 【塩素】 ハロゲン元素の一。記号Cl，原子番号17，原子量35.453。二つの安定な同位体 ^{35}Cl (75.4%)，^{37}Cl (24.6%)が存在する。1774年スウェーデンのシェーレが塩酸に二酸化マンガンを作用することによって未知の元素の酸化物が得られたとしたが，1810年イギリスのデービーが元素であることを示した。常温・常圧で黄緑色・刺激臭の気体。密度3.165g/lで空気の3.214倍。きわめて反応性に富み，水と反応して塩酸と次亜塩素酸になり，酸化作用によって漂白作用がある。水素と反応すると塩酸を生成する。水素１モルと塩素１モルの混合ガスは，水素と酸素の場合と同様，点火により爆発的に反応するので塩素爆鳴気という。この場合点火は日光などの紫外線の照射による。塩素は漂白剤・酸化剤，水道などの消毒剤などに用いられ，また，医薬品・さらし粉や多くの有用塩化物の原料とされる。〔古屋　弘〕

えんそう 【演奏】 物理的な音としての音楽作品をつくる行為。一般に，演奏は作曲と鑑賞との間に介在するものと考えられている。演奏家は，作曲家が楽譜*という記号を用いてしるしたもの，あるいは過去の演奏の記憶を通して伝えられたものを，時間と場所をことにして実際の音として鑑賞者に提供するからである。この場合，どのように精密な体系の楽譜であっても，完全に一義的な演奏を指示しうるものではないので，作曲者の制御を受けつつも，多少なりとも演奏者の創造的な部分が加えられる。かつては，これをつとめて制限しようとする



演　　説　1875年(明治８)福沢諭吉によってつくられ，演説の会場にあてられた三田演説館。慶応義塾大学構内にあり，重要文化財に指定されている



エンゼルフィッシュ

動きもあったが，現在ではむしろ演奏者が作品創造に参加しうる余地を多くしようとする作曲家もあり，古典作品の演奏においても演奏者の個性的な解決を楽しむ聴衆がふえている。演奏者の参加の度合いが強い場合には，仲介としての機能を逸脱することになるが，これは必ずしも新しいことではなく，歴史的にも作曲しながら演奏したり，そのつど既製の作品の部分を新しく並べなおして演奏したりする作曲即演奏という活動もあった。

なお，今日では国際的交流も増大したため，世界でのまた一国での初演という行為が一つの価値となっている。また，レコード・テープレコーダーの普及によって，演奏が消えてしまうものではなく，記録されるものであるという考えも強くなっている。〔徳丸吉彦〕

えんそうかい 【演奏会】 音楽の演奏を聞かせるために行なう会合。英語のコンサートは，歴史の古い私的な演奏会に対して，比較的新しい公的な演奏会を意味する。ヨーロッパでも17世紀末ごろまでは，整った演奏をだれでもが聞ける唯一の場所は教会であった。しかし，教会での演奏はその機能からいって，近代的な意味での演奏会とはよべない。一方，宮廷や貴族の私邸で行なわれる演奏会は，もっぱら音楽を聞かせるという点では今日の状態に近かったが，出席することのできる者は限られていた。一般市民に公開する試みのうち最も先駆的なものは，ベネチアのサン-カシアノ-オペラ劇場の設立(1637)であり，オペラ以外ではバイオリン奏者ジョン-バニスターによるロンドンでの演奏会(1672)である。フランスやドイツもこれに続くが，市民階級の形成の早かったイギリスはその後もこの種の催しで指導的な役割を果たしている。19世紀になると国や市などが音楽文化の中心として専用の演奏会場をつくったり，演奏会へ財政的な援助を行なって，今日まで続いている。現在は大量の聴衆に安い入場料で演奏を供給する組織が活発であり，また，ラジオやテレビによって演奏会の中継・録音が行なわれて，間接的ではあるが多くの聴衆が演奏会に参加しているといえる。〔徳丸吉彦〕

えんそうきごう 【演奏記号】 楽譜*上で，通常の音符*や休符*が示す以上に演奏家に対する要求を伝えるための記号。典型的なものは〈強く〉〈弱く〉などの強弱記号*と，〈速く〉〈おそく〉などの速度記号*である。楽譜にこのような指示を書き込むことは17世紀初めのイタリアで始まり，装飾音*や奏法上の注意などもしるすようになった。今日の演奏家の課題は時代によって異なる記号の意味を，正確にとらえることである。

えんそくど 【円速度】 人工衛星が円軌道をとる場合の速度。高さによって違う。地球の表面では7.9km/秒，高度200kmでは7.78km/秒，500kmでは7.61km/秒である。

えんそさんカリウム 【塩素酸カリウム】 $KClO_3$ 無色の結晶。石灰乳に塩素を通じて塩素酸カルシウムを生成させ，やや過剰の塩化カリウムを加えて晶出させる。また塩化カリウムの微酸性液を電解して得られる。注意して熱すると，融解して400℃くらいで酸素を発生する。二酸化マンガンを加えるとこれより低い温度で酸素を発生するので，実験室などで酸素を得る場合に用いられる。強い酸化剤で，イオウ・木炭などの還元性のあるものと混合して，衝撃を与えると爆発する。マッチの点火剤，花火の製造に用いられる。また医薬品としても用いられる。〔鈴木　篁〕

えんそさんナトリウム 【塩素酸ナトリウム】 $NaClO_3$ 無色の結晶で，吸湿性があり，水によくとける。強い酸化力をもつ。石灰乳に塩素を通じて塩素酸カルシウムを生成させ，この液を煮つめて含有する塩化カルシウムの大部分を水和物として除去し，残りの液に硫酸ナトリウムを加え，母液を分離冷却すると晶出する。あるいは，食塩の弱酸性溶液を電解してつくる。過塩素酸塩の製造原料，除草剤・染料の合成，織物・毛皮の加工に使用される。〔鈴木　篁〕

えんそりょう 【塩素量】 海水１kg中に含まれるハロゲン元素，すなわち塩素・臭素・ヨウ素の全量をグラム数で表わしたもの。ふつう，塩素量は千分率で表わされる。

測定法としては，硝酸銀の標準水溶液で，一定量の海水中のハロゲン元素を検出する方法などがとられる。この測定によって，海水の状態・組成・密度を知ることができる。

えんだい【縁台】 4脚の長方形の腰掛け台で，主として夏季に庭や門外などで涼むときに用いられる。奈良時代には榻(とう)という床几(しょうぎ)があって後世に伝わり，平安時代には大床子という4脚の台で，上に細板を並べた座具があった。武家時代には4脚のものや折りたためる座具もあったが，関西ではこれらを床几とよび，同時に縁台のことをも意味した。

えんだい【煙台】 イエンタイ 中国，山東省北東部の渤海(ぼっかい)に臨む海港。人口20万(1960年推)。一般には芝罘(チーフー)の名で知られる。1858年の天津(てんしん)条約*で開港場となり，対岸の満州との貿易も盛んであったが，やがて大連(現在の旅大)・青島(チンタオ)に繁栄を奪われた。しかし近年は藍煙(らんえん)鉄道が新設され膠済(こうさい)鉄道と連絡して，活気を取りもどしている。

えんたいぜい【延滞税】 国税の納付義務者が，税金を所定の期日までに納付しなかった場合に，本来の税額のほかに付加して課せられるもので，延滞利子的性格をもっている。期限内に申告書を提出した場合はもちろん，次のような場合にもこの延滞税が課される。①期限後に申告書を提出した場合，②修正申告書を提出した場合，③税務署長により更正決定の処分を受けた場合。延滞税の額は，正当納期限の翌日から納付の日までの期間に応じ，日歩4銭の割合で計算される。ただし，納期限の翌日から1か月以内は日歩2銭で計算される。〔西野義彦〕

エンダイブ［endive］ キク科に属する洋野菜。原産地はインドで，日本には江戸時代に渡来したといわれ，キクヂシャとよばれている。品種により緑色のもの，黄色みをおびたもの，紫色の勝ったものなどがある。葉は繊維が少なく生食すると独特の風味があり，サラダや肉類のつけ合わせに用いられる。栄養的にはビタミンCや無機質の供給源としてすぐれている。

えんたいりゃく【園太暦】 南北朝時代の公卿(くぎょう)洞院(とういん)公賢(きんかた)の日記。《中園太相国(だいしょうこく)暦記》の略称。公賢が中園と称したことからこの名がある。なお，太相国は太政(だじょう)大臣の唐名。日記は1311年(応長1)から1360年(正平15・延文5)にわたり，もと120巻。現在では自筆本1巻と，甘露寺親長(ちかなが)・三条西実隆(さねたか)らが室町時代に抄録した抄本《歴代残闕(ざんけつ)日記》に収録された分など一部分を残すのみである。南北朝時代の重要な政治史料。〔大三輪龍彦〕

えんだか・えんやす【円高・円安】 円高とは，円の対外価値が高いということで



エンタシス イタリア，パエストゥムのバジリカの柱



エンタープライズ

あり，円安とは，円の対外価値が低いことである。円高・円安ということばは，わが国の為替(かわせ)平価*を円の実勢相場(公定相場に対するやみルート)と比較して使用する場合と，市場相場を為替平価と比較した場合に使用される。実勢相場に関して円高・円安という場合には，為替平価が実勢に即応した水準にないことを意味するのであって，為替平価それ自体が問題となり，場合によっては為替平価の改訂が必要となる。市場相場に関して円高・円安という場合には，市場相場の一時的な動向が問題となっており，円高・円安は，円の強調・弱調と同じ意味である。〔安井孝治〕

エンタシス［entasis］ 頂部が底部より細くなっている円柱において，柱の直径を漸減させていく際，柱の輪郭が曲線状になるようにつけたふくらみ。柱の上下を直線的に結ぶと，かたい感じになるばかりでなく，巨大な円柱では錯覚で柱の途中が細くやせてみえるが，エンタシスがあると矯正(きょうせい)されて安定感が増す。特に古代ギリシアの建築によくみられ，ローマ建築やルネサンス建築など古典様式の建築には，柱に関する重要な技法として受け継がれている。日本の古代建築にも，胴張*とよばれる柱のふくらみがあるが，ギリシア文明の東漸による影響と考えられている。〔渡辺保忠〕

えんたつさよう【遠達作用】 物体間の力が媒質を通さずに直接に作用すること。遠隔作用ともいう。惑星間の万有引力や電気間のクーロン力のように真空中でも力が伝わるということから，自然界におけるこのような作用の存在が考えられるが，現代ではむしろそれらの力を近接作用として理解する立場が主流となっている。➔近接作用

エンタープライズ［Enterprise］ アメリカの世界最大の航空母艦であり，また現在のところ唯一の原子力空母。先代は太平洋戦争に活躍した20,000tのヨークタウン型空母。アメリカ海軍が動く戦略爆撃基地とするために原子力機動部隊の建設を計画し，それに基づいて建造された。最大排水量85,800t，全長335.9m，加圧水冷却型原子炉8基，タービン出力30万馬力，速力35ノット，搭載機(とうさいき)100機で，1962年1月ニューポートニューズ造船所で竣工(しゅんこう)した。〔藤井冬木〕

エンタブレチュア ⇨オーダー

エンタルピー［enthalpy］ 圧力・体積・温度などと同じように，物質の熱平衡状態を指定する熱力学量の一つ。内部エネルギーに圧力と体積との積を加えたものに等しい。圧力一定のもとに，外部から物質に流れ込む熱量は，それによって起こる物質の状態変化におけるエンタルピーの増加高に等しい。したがって物質の状態が変化しても，その物質と外部との間に熱の出入りがなければ，エンタルピーの値は変わらない。また，圧力一定のもとで化学反応が進んだときに吸収される熱量はエンタルピーの増加高に等しい。エンタルピーがエントロピー*と圧力との関数として具体的に与えられたならば，この物質の熱力学的性質を明らかにすることができる。➔熱力学 ➔エントロピー〔中野藤生〕

えんたろうばしゃ【円太郎馬車】 明治初期，新橋～浅草間を走っていた鉄道馬車の俗称。明治初年から中期にかけて滑稽音曲噺(こっけいおんぎょくばなし)で人気を博した4世橘家(たちばなや)円太郎が，当時新橋～浅草間を走っていた鉄道馬車のらっぱを高座で吹き，〈らっぱの円太郎〉という愛称を得ていたところから，逆にこの鉄道馬車を円太郎馬車とよぶようになった。

えんたん【鉛丹】 Pb_3O_4 四三酸化鉛，または光明丹ともいう。金属塩を加熱して一酸化鉛とし，さらにこれを酸化してつくられる赤色顔料。比重は四三酸化鉛の含有量が85%のもので9.0，吸油量6～7 ml/100g，粒子の大きさは0.5～2μである。塗料用としては四三酸化鉛が80%以上のものが用いられ，四三酸化鉛の含有量が増すと赤みを，一酸化鉛の含有量が増すと黄みを増す。一般に活性が強く，油と反応して金属せっけんをつくり，付着性および可撓(かとう)性のよいじょうぶな塗膜をつくる。また，塗料中で四三酸化鉛が微アルカリ性として作用するため，さび止め顔料としてすぐれた性質を表わす。塗料のほかに，蓄電池・ガラス・窯業・医薬(膏薬(こうやく))および鏡の裏引きなどに用いられる。〔品田 登〕

エンチクロペディー　ドイツの哲学者ヘーゲル*の著書。原題は《哲学諸科集成綱要(Enzyklopädie der philosophischen Wissenschaften im Grundrisse)》というが，わが国ではふつうこの名でよばれている。第1版1817年，増訂第2版1827年，改訂第3版1830年。教科書として簡潔に書かれ，講義の際に補足説明された。

広義のヘーゲル哲学体系が《精神現象学*》以後の全著書・講義からなるのに対して，本書は狭義のヘーゲル哲学体系である。序論および3部に分かれた本論よりなる。序論は〈神のみが真理である〉とするヘーゲル哲学の基調を述べる。第1部〈論理学〉は世界以前にある神の計画・理念の叙述で，《論理の学》(《大論理学*》)を一部修正して簡略化し，別名を《小論理学》という。第2部は神の理念の他在(自己疎外)としての〈自然哲学〉。第3部は他在から自己の内へ帰る〈精神哲学〉で，現実に存在する永遠な理念としての絶対精神で終わる。以上はすべて精神の絶対弁証法によって叙述される。本書は神の自己認識の論理を展開し，同時に神が歴史理性として世界史に自己を現わす論理をも示す。〔中川　誠〕

えんちじしん　【遠地地震】　震央距離2,000km，ときには5,000km以上の地震で，地震計に記録されたものをいう。地球深部の性質についての情報を得るのに役だつ。

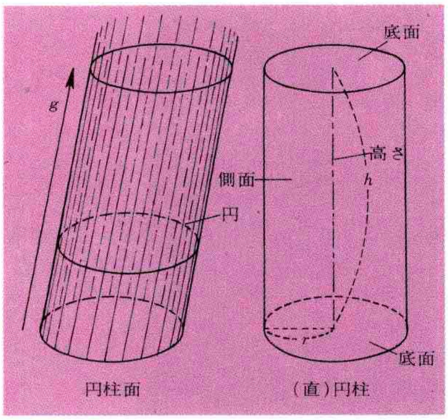
えんちてん　【遠地点】　地球のまわりを回る月やその他の天体が地球から最も遠ざかる点。最も近づく点を近地点という。中心となる天体が太陽のときは遠日点・近日点，木星のときは遠木点・近木点などという。また，遠地点・近地点は，人工天体の場合にも用いられる。

えんちふみこ　【円地文子】　(1905～　)　小説家。東京の生まれ。本名富美。父は国語学者の上田万年*(かずとし)。日本女子大学付属高等女学校中退。はじめ戯曲を書いた。1954年(昭和29)《ひもじい月日》(1955年女流文学者賞受賞)，続いて翌年《朱(あけ)を奪ふもの》を発表。作風は，国文学の素養に裏づけられた女性の愛欲を中心とした耽美(たんび)的傾向を特色とする。ほかに《妖(よう)》《女坂》《耳瓔珞(ようらく)》《なまみこ物語》など。

えんちゅう　【円柱】　⇨コラム

えんちゅう　【円柱】　円周上を1周する点を通り，定直線に平行な直線(母線)のつくる面を円柱面といい，この円柱面からつくった立体*が円柱体である。円柱体の曲面の部分を側面，平面の部分を底面という。円柱面または円柱体を円柱と略称する。特に底面が円で母線が底面に垂直になっているものを直円柱という。しかし，誤解のおそれがないときには，直円柱を単に円柱とよんでいる。

〔体積・表面積〕直円柱では母線の長さが高さとなる。この高さを h，底面の円の半径を r とすれば，直円柱の体積 V，全表面積 S は，それぞれ次の式で求められる。



円　柱

$V=\pi r^2 h$　　　$S=2\pi r(r+h)$

〔菊池兵一〕

えんちゅうずほう　【円柱図法】　⇨地図

えんちょくせん　【鉛直線】　ある地点における重力の方向。鉛直線は，物体を糸でつるしたときの糸の方向，すなわち重力の作用する方向と一致する。鉛直線はその地点でのジオイド*に垂直になるが，準拠回転楕円体*(だえんたい)には必ずしも垂直にならず，鉛直線偏差*を生ずる。

えんちょくせんへんさ　【鉛直線偏差】　ジオイド*に立てた法線と，地球表面の凹凸(おうとつ)をならした地球回転楕円体*(だえんたい)に立てた法線は，一般には一致せず，その差を鉛直線偏差という。この鉛直線偏差は天文緯度*と地理緯度の差として現われる。日本の地図の原点である，東京都港区飯倉(いいくら)の旧東京天文台における鉛直線偏差の値は約20秒である。

えんちん　【円珍】　(814～891)　平安時代の天台宗の僧。延暦(えんりゃく)寺第5世座主。寺門派の祖。讃岐(さぬき)(香川県)那珂(なか)郡の人。俗姓は和気(わけ)氏。母は空海*の姪(めい)という。幼名を広雄，諡号(しごう)を智証(ちしょう)大師という。15歳のとき比叡(ひえい)山に登って義真*に師事し，顕密の経論を学んで20歳で得道受戒した。12年間籠山(ろうざん)して846年(承和13)延暦寺真言の学頭となり，850年(嘉祥1)には内供奉(ないぐぶ)十禅師に任ぜられた。853年(仁寿3)入唐(にっとう)し，天台山・五台山・長安で顕密を学び，また福州開元寺遊歴中のインド僧般若怛羅(はんにゃたら)に《梵字悉曇章(ぼんじしったんしょう)》を学んだ。858年(天安2)441部1,000巻の経疏(きょうしょ)を請来して帰国し，藤原良房(よしふさ)・基経(もとつね)らの保護を受けて宮中に灌頂壇(かんじょうだん)を設け，また三井寺(→園城(おんじょう)寺)を修造して灌頂道場とした。868年(貞観10)55歳で延暦寺座主に勅任された。著書に，《法華(ほっけ)集論》《授決集》《観普賢経記(かんふげんきょうき)》《大日経指帰》《諸家教相同異》などのほか《伝教大師略伝》《行歴抄》《山王院在唐記》などがある。なお，円珍作と伝える仏画・仏像，特に不動明王は有名であるが確証はない。しかし，密教芸術に大きな影響を与えた。〔京戸慈光〕

えんつうじ　【円通寺】　京都市左京区岩倉幡枝(はたえ)町にある臨済宗妙心寺派の寺院。もと後水尾上皇の幡枝御殿であったが，1678年(延宝6)霊元天皇の乳母(うば)円光院が妙心寺の禿翁(とくおう)実性を開山として創立した禅寺に始まる。庭園は真東に臨む比叡(ひえい)山を借景した刈り生けがきに囲まれ，京都の名園の中でも特異な景観を示す。

エンツェンスベルガー　［Hans Magnus Enzensberger］　(1929～　)　ドイツの詩人・評論家。文学思想誌《時刻表》を主宰，具体性と風刺性に富む思想詩や評論によって，ドイツ戦後世代で最も先鋭な発言を続けている。代表著作に，詩集《狼(おおかみ)どもを弁護する》，評論集《細目》《政治と犯罪》《何よりだめなドイツ》などがある。現在ノルウェーに在住。

えんてつろん　【塩鉄論】　前漢の武帝*のとき塩・鉄などの専売制度による経済的中央集権を行なったが，その人民にとっての利害に関して，次の昭帝のとき，桑弘羊(そうくよう)らの中央官僚，地方利益の代弁者の賢良，文学の士ら60余人の間に論争を行なわせた。その記録を桓寛(かんかん)が整理したもの。

エンテベ　［Entebbe］　アフリカ大陸東部，ウガンダの都市。アフリカ大陸最大のビクトリア湖北岸に位置し，海抜約1,000mの高原にある。ウガンダがイギリス保護領であったときの首都。1962年イギリス連邦の自治領として独立するとともに，首都は30km北のカンパラに移った。人口約10,000(1960)。湖を見おろす風光明媚(めいび)な市であるが，経済の中心は鉄道で結ばれた首都カンパラに移った。アフリカの国際空路として重要な空港をもち，大形機の離着陸が可能である。〔小栗　宏〕

エンテレケイア　［entelecheia］　アリストテレス哲学の基本術語で〈完成態〉と訳される。エネルゲイア(現実態)と同じ意味に用いられる。〈働き・活動〉の意味が強いエネルゲイアに対して，エンテレケイアは〈究極・目的〉という意味が含まれ，デュナミス(可能態)の完成された状態を強調する語とされる。アリストテレスによれば，生成は可能態としての質料*がその目的としての形相*を実現することであり，エンテレケイアはその目的が実現された状態であった。〔本橋正義〕

エンテロウイルス　［enterovirus］　ポリオウイルス・コクサッキーウイルス・エコーウイルスの3群は，いずれもヒトの腸管から感染し，形態も似ているので，さらに一つの群としてまとめられ，エンテロウイルス(腸内ウイルス)とよばれる。ウイルスとしても特に小さいグループで，直径約30mμの球状(おそらく正二十面体)のタンパク質構造の中にRNA*がはいっている。ウシ・サルそのほかの哺乳(ほにゅう)類からも，この

群に属するウイルスが分離されている。脂溶性溶媒には耐性，55℃30分の加熱で不活化される。コクサッキーウイルス・エコーウイルスには，無菌性髄膜炎そのほかの疾患をひき起こすものもあるが，病原性の不明なものも多い。〔石川　彬〕

エンテロキナーゼ　[enterokinase] 酵素の一種。小腸腺(せん)より腸液の一部として分泌される。膵液(すいえき)中に出てくるトリプシノゲンは，腸液中にあるこの酵素によって活性化されてトリプシン*となる。つまり活性化酵素の一つである。

えんてん　【遠点】 ⇨近点

えんでん　【塩田】 海水による製塩法で水分蒸発のためにつくられた粘土の田。入浜式製塩法では，干潮面と満潮面の中間水準に塩田面をつくり，水閘(すいこう)によって満潮時に海水を入れ，干潮時に余分の水分を排水する。塩田は細かい砂を敷きつめ，海水の水分が蒸発して砂に付着した塩分を海水でといて濃度の高い塩水を得，煮つめて塩をとる。しかし，1952年(昭和27)ごろ砂を敷きつめたゆるやかな斜面に海水を流し，天日と風力で海水の蒸発を促進させる流下式製塩法が出現し，さらに風向に対して直角につくった足場に竹の小枝の束をかけ，ポンプでくみ上げた海水を散布し，それが落下する間に水分を蒸発させる枝条架法による製塩が取り入れられた。この結果，塩田作業は立体化し，曇天や夜間でも風があれば製塩が可能となった。生産高も流下式塩田が始まった当時は全国で43万t であったものが，1967年には98万5,000 tに増加する一方，労働力は従来の10分の1に減少した。　➔製塩　〔別技篤彦〕



塩　田　香川県宇多津町付近の流下式製塩法。遠景は坂出市の番ノ洲の工業埋め立て地で，造船所の建設が進んでいる

えんとう　【遠島】 江戸時代の刑罰の一。死刑と追放刑の中間の刑で，ばくち，僧の女犯，誤殺などの罪に科した。期間を限らず，江戸よりは伊豆(いず)七島，京・大阪・中国・西国よりは薩摩(さつま)五島・隠岐(おき)・壱岐(いき)・天草などの諸島に流し，付加刑として田畑・家屋敷・家財を没収した。八丈島への流刑は関ケ原の役に敗れた宇喜多秀家(ひでいえ)に始まり，のち英一蝶(はなぶさいっちょう)らもここに流された。　➔流刑　〔松尾　涼〕

えんどう　【豌豆】 双子葉植物・マメ科の一年生または越年生草本。つる性種と矮性(わいせい)種がある。つる性種は草たけが2m以上に達するものがあり，矮性種は草たけ30cmぐらいで分枝が多い。葉は2～3対の小葉をもつ羽状複葉で，先端は巻きひげになるものが多い。花は白または紅紫色の蝶形(ちょうけい)で，1花梗(かこう)に1～2花咲く。さやは長さ5～10cm，幅0.5～1cmぐらいの扁平(へんぺい)な円筒形であるが，品種により大きさや形にかなりの違いがある。さや中に数個の種子を含み，未熟な種子は淡緑色で，完熟すると黄白色・白緑・かっ色と，品種により異なった色を呈する。また完熟種子の種皮は，品種によってしわのできるものと豊円平滑なものとがある。

原産地は地中海沿岸と小アジアといわれているが，ヨーロッパでは古くから完熟種子を穀物として利用していた。18世紀になってイギリスで未熟種子を野菜として利用することが考えられ，以来野菜としてのエンドウの品種改良が進み，アメリカでも栽培が盛んになり，特にかんづめや冷凍の加工がなされるようになった。わが国には10世紀ごろ中国から導入されたという記録があるが，現在栽培されているものは明治初期に欧米から導入された品種を改良したものである。わが国に栽培されている品種を大別すると，乾燥種実用・むき実用・さや用とになり，アラスカ・札幌(さっぽろ)大手無・ワールドレコード・碓井(うすい)・フランス大さや・広島赤花・三十日絹さやなどの品種が有名である。なお，グリンピースといわれるのは未熟な種子のことで，かんづめなどにされる。

一般に低温性の作物で，関東以西では，秋に種子をまいて春に収穫するが，寒冷地では冬の寒さがきびしすぎるため，春まいて夏に収穫する。また，冬の気温が高い暖地では，夏の終わりか秋早くまいて年内に収穫したり，春早く収穫する栽培がなりたっている。〔松本正雄〕

えんどうぞうむし　【豌豆象鼻虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・マメゾウムシ科。体長4.0～5.0mm。体は楕円(だえん)形で黒色。鞘翅には各10条の縦溝(じゅうこう)があり，全面にかっ色の短毛を装い，部分的に黒かっ色の短毛を混生する。腹部末端の背面にいかり状の白色紋がある。全世界に広く分布し，成虫は4～5月ごろエンドウの花に集まり，若いさやに産卵する。卵は長楕円形，長径1mm内外で橙(とう)かっ色。孵化(ふか)した幼虫はさやを貫通して豆に侵入して加害する。老熟幼虫は6mm内外，淡黄色のうじ状で，7月ごろ豆の中でさなぎとなり，まもなく羽化して成虫となって，丸い脱出孔をあけて脱出する。さなぎは体長5mm内外で淡黄色。被害を受けた豆は品質が低下するばかりでなく，発芽力を失って種子用に使えなくなる。防除には，産卵期に成虫を殺虫するとよい。また収穫後は種子を日光乾燥するか，クロルピクリンや二硫化炭素などで薫蒸する。〔鈴木邦雄〕

えんどうとしさだ　【遠藤利貞】 (1843～1915) 数学史家。桑名藩士。江戸八丁堀(はっちょうぼり)の藩邸に生まれ，和田寧*(やすし)の高弟細井寧雄(やすたか)に和算を学ぶ。上野戦争に参加して敗走。維新後は数学の教師となる。1878年(明治11)《算顆術(さんかじゅつ)授業書》を刊行。数学の教授法および官版の算術書の最初である。1877年，東京数学会社(日本数学会の前身)の発足以後，和算の内容を世間に知らせようとして，19年間，貧困と家庭的不幸の中で《大日本数学史》(1896)を完成した。日本で最初のまとまった数学史の書である。〔下平和夫〕

えんどうはもぐりばえ　【豌豆翅潜蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・ハモグリバエ科。ナモグリバエともいう。体長2.0～2.5mm，体は一様に灰色。幼虫は雑食性であるが，エンドウや各種のアブラナ科植物の葉にもぐって食害する。卵は長楕円(ちょうだえん)形，長径0.1mm内外で乳白色。老熟幼虫は体長3mm内外，さなぎは楕円形でかっ色。日本全土のほかヨーロッパや北アメリカにも分布する。発生は寒地で3～4回，暖地ではより多く発生する。本種に加害されると葉の葉肉が食い尽くされ，葉は白い袋状となり，さやの着生が悪くなり，子実の充実も悪くなる。防除にはパラチオン剤・EPN剤などを散布する。〔鈴木邦雄〕

えんとつ　【煙突】 ストーブやボイラーなどから煙を屋外に排出するための装置。同時にストーブなどの内部に負圧(内部の圧力が外部より低い状態)を生ぜしめ，ストーブのたき口から燃焼用空気を吸引する役目をもつ。内部の負圧は煙突の高さと煙の温度に関係し，高さが高いほど，煙の温度が高いほど負圧の大きさは大きくなり，いわゆる煙の引きがよくなる。また，煙突の径が小さかったり，ストーブから煙突までの横引きの長さが長くなると引きが悪くなる。煙突の構造は，鉄板・れんが・コンクリートなどの不燃材でつくり，大形ボイラ

ー用などの煙突ではこの内部に耐火れんがを被覆して，煙突の本体を保護する。煙突の高さは，石炭消費量25kg/時以上のボイラーに対しては15m以上(東京都などでは23m以上)と法規で規定されている。また，防火上，壁の貫通口にはめがね石などの不燃材を設け，その先端は屋上より60cm以上突き出し，煙突本体が鉄板製のときは，木造の軒から少なくとも15cm離さなければならない。〔井上宇市〕

エントモノチス ⇨モノチス

エンドリン [endrin] 農薬。いわゆるドリン剤の一つで，酸やアルカリに対し安定性を示し，残効性高く，ほかの塩素剤より高い殺虫力を示すが，特に魚毒性が強いので水田では使用できない。畑地では知事の指定する地帯でのみ使用される。ヨトウムシ・シンクイムシ・シロイチモジマダラメイガ・カキヘタムシや青虫などに卓効があるが，食用作物では収穫前3週間以内には本剤を散布しないようにする。〔深谷昌次〕

エントロピー [entropy] 物質の熱平衡状態を指定する熱力学量の一。物質が無秩序な状態にあるほど大きな値をとる。微小変化が続けざまに起こって有限の状態変化が生じたとき，各微小変化において物質が受け取る微小熱量を絶対温度で割ったものを次々に加えた合計が，この状態変化におけるエントロピーの増加高に等しいように定めてある。したがって，ある状態のエントロピーの値を定めておくと，それを基準にしてすべての状態のエントロピーの値を定めることができる。一方，物質の巨視的な性質はそれを構成する多数の原子・分子などの微視的性質に基づいて解明される。そういう原子論的立場では，エントロピーは$k\log_e W$で与えられる。kはボルツマン定数，Wは巨視的状態を定める条件を満たす微視的状態の個数に等しい。自然界で起こる変化の多くは非可逆過程であって，その場合には物質に流れ込んだ熱量を温度で割ったものよりも大きいエントロピー変化が生じている。したがって，外部からの熱の出入りが絶たれている場合には，物質の非可逆変化はエントロピーが増大するように起こる。たとえば，高温の物体から低温の物体へ熱が伝わるとき，気体が真空中に噴出するとき，2種の気体が混合するときなどにはエントロピーが増大する。また，断熱系ではエントロピーが最大値をとっている熱平衡状態が安定であることがわかる。➜熱力学 ➜エンタルピー ➜断熱変化〔中野藤生〕

えんなん【燕庵】 京都の茶道宗家藪内(やぶのうち)家にある茶亭(ちゃてい)。3畳台目であるが，片すみの二枚引きの仕切りをはずせばさらに1畳増す。最初，藪内家の祖紹智(じょうち)の席であったが，古田織部(おりべ)の屋敷に移され，再び織部屋敷から移建したが，1864年(元治1)兵火に会い焼失した。現在



縁　日　東京水天宮の縁日

の席は，紹智の弟子(でし)武内儀右衛門(たけうちぎえもん)の燕庵写しの移建である。茶道の始祖珠光筆の〈燕庵〉の額があり，露地は昔のままである。〔重森完途〕

エンニウス [Quintus Ennius] (BC239～BC169) 古代ローマの詩人。ラテン詩の父といわれる。南イタリアのカラブリアに生まれ，ギリシア文学を学んだ。ローマ軍の百人隊長となりサルジニアで軍役についたが，ローマの将軍カトーに見いだされ，ローマに移った。ラテン語で詩や悲劇を書き，ローマの上流文化人らの知遇を得た。陽気な性格でスキピオ-アフリカヌス・マルクス-ノビリオルらと親交を結び市民権を得たが，貧窮のうちに死んだ。ホメロスふうの叙事詩《年代記》はローマの建国から彼の同時代までの史実を力強くうたったもので，のちのラテン詩に大きな影響を与えた。そのほか，20編以上の悲劇・喜劇・寓話(ぐうわ)を書き，ラテン語の範となった。〔久保正彰〕

えんにち【縁日】 有縁日・結縁(けちえん)日のことで，神仏を祭るゆかりのある日。神仏の降臨示現のいわれのある日，空海・日蓮(にちれん)・菅原道真(すがわらみちざね)など宗祖や祭神となった人物の忌日，寺社の創建・遷座のなった日などが，特に縁日とされている。代表的なものに，妙見の1・15日，不動の2・7日，水天宮の5日，稲荷(いなり)の8日，鬼子母神の8・18・28日，薬師の8日あるいは12日，観音の18日，大師の21日，地蔵の24日，天満宮の25日，また毘沙門天(びしゃもんてん)の寅(とら)の日，弁才天の巳(み)の日，大黒天の亥(い)の日がある。この日に寺社に参拝すれば，特に御利益(ごりやく)があるとされるところから，参拝者が多く集まり，この参拝者を相手に市がたち，門前町に発達したところもある。今日でも縁日には屋台店が出て，その庶民的なふんい気が広く愛されている。〔山路勝彦〕

えんにべんえん【円爾弁円】 (1202～1280) 鎌倉初期の臨済宗の僧。東福寺開山。駿河(するが)(静岡県)の人。おくり名を聖一国師という。若くして奈良・京都に出て仏教教学や儒学を修め，のち鎌倉寿福寺の退耕行勇に禅を学んだ。1235年(嘉禎1)入宋(にっそう)し，径山(きんざん)の無準師範に侍すること6年，心印を得て帰朝し，九州で開法した。1243年(寛元1)藤原道家の請により東福寺開山となり，寿福寺・建仁(けんにん)寺にも歴住し，禅風を挙揚した。著作に《三教要略》《十宗要道》などがある。〔田中良昭〕

えんにん【円仁】 (794～864) 平安初期の天台宗の僧。延暦(えんりゃく)寺第3世座主(ざす)。山門派の祖。俗姓は壬生(みぶ)氏。下野(しもつけ)(栃木県)都賀(つが)郡の生まれ。9歳のとき出家し，15歳で比叡(ひえい)山に登って最澄(さいちょう)の弟子(でし)となり，20歳のときに得度した。29歳のとき最澄の死に会ったが，《山家学生式(さんげがくしょうしき)》の規定どおり山中に12年間こもった。838年(承和5)入唐(にっとう)し，五台山にもうでて，長安で元政(げんしょう)から金剛界，義真から胎蔵界・蘇悉地(そしっち)と，3部の密教を受けた。たまたま会昌(かいしょう)の廃仏にあったが，847年に経疏(きょうしょ)・儀軌559巻を請来して帰国した。在唐9年のことは《入唐求法(ぐほう)巡礼行記》に詳しくしるされ，マルコ-ポーロの《東方見聞録》，玄奘(げんじょう)の《大唐西域記》と並んで世界三大旅行記の一つとされる。翌年比叡山に帰って灌頂(かんじょう)法を始修，850年(嘉祥3)文徳天皇の勅願により持念道場の総持院を建て，翌年引声念仏を修し常行三昧堂(じょうぎょうざんまいどう)を建て，最澄の遺業の大成に努めた。854年(斉衡1)天台座主となった。没後，清和天皇から慈覚大師の諡号(しごう)を贈られた。彼が天台の中に密教を取り入れ，浄土教の興る基礎を確立し，菩薩(ぼさつ)大戒の宣揚に努めたことは，偉大な功績である。著書は《金剛頂経疏》《蘇悉地経疏》など数多い。〔京戸慈光〕

エンネアデス [Enneades] 新プラトン派の祖プロチノスの著作集。54編の論文を彼の死後に弟子(でし)ポルフュリオスが，問題別(倫理学・自然学・宇宙論・霊魂・理性・一者)に9編ずつの6部にまとめ，生涯(しょうがい)と解説を付して刊行したのでエンネアデス(9編集)とよばれる。ここにはプラトンの精神が受け継がれているが，理性が自己を出て(エクスタシス)一者と冥合(めいごう)する神秘的体験を基調とし，一者からあふれ出て理性，霊魂，物質へと下る世界形成の道(いわゆる流出説)と，一者に向けて霊魂が浄化上昇する上り道が説かれる。〔村治能就〕

えんのおづぬ【役小角】 生没年不詳。7～8世紀の呪術者(じゅじゅつしゃ)。役行者(えんのぎょうじゃ)，役優婆塞(うばそく)ともいう。大和(やまと)(奈良県)の生まれで，若いときから山岳にはいって修行し，孔雀(くじゃく)明王を呪持し，大和の大峰山・金峰山(きんぷせん)を開いたが，699年(文武3)その験術(げんじゅつ)は世人を惑わす妖術(ようじゅつ)であるとの理由で伊豆(いず)(静岡県)に流された。701年(大宝1)許されて京に帰ったが，その後の消息は不明。後

世，密教や本地垂迹*(ほんじすいじゃく)説の思想と結びついてさまざまな伝説が付加され，鎌倉時代以降は修験道*(しゅげんどう)の開祖と仰がれ，1799年(寛政11)には神変大菩薩(じんぺんだいぼさつ)の勅諡号(ちょくしごう)をさえ賜わることとなった。〔黛　弘道〕

えんのぎょうじゃ　【役の行者】　坪内逍遙*(しょうよう)の戯曲。はじめ《女魔神》として発表され，のちに手を加えられた。1917年(大正6)刊。1926年築地(つきじ)小劇場で初演。3幕6場。信念に生きる役行者が，弟子(でし)広足(ひろたり)の離背，母への危難，自己への誘惑を退けて悟りを得るというのが骨子である。役小角*(えんのおづぬ)の伝説によってはいるが，逍遙の主観が自由濶達(かったつ)に働いている。

エンバ(油田)　[Emba]　ソビエト連邦，カザフ共和国のエンバ川下流域一帯にある油田。エンバ川は全長647kmでカスピ海に注ぐが，沿岸にはカスピ海沿岸低地とよばれる海抜50m以下の低地が広がり，油田はこの低地にある。産油量は150万tで，同国の中でもそう大きくはないが，オルスク・オーレンブルグに送油管が通じて，ここに石油化学工業を発展させている。コスチャギルが中心都市で，ウラル川下流のグリエフには製油所がある。〔斎藤晨二〕

えんばい　【袁枚】　(1716～1797)　中国，清(しん)代の詩人。世に随園先生といわれた才人で，説話集の《子不語》，味覚案内の《随園食単》，詩論の《随園詩話》などがあり，多面的な才能を示した。

エンパイア-ステート-ビル　[The Empire State Building]　ニューヨーク，マンハッタンの33～34番街にある高層建築。地上102階，高さ381mで，屋上にはさらに61mのテレビ塔がある。また，86階と102階には展望台があり，市内と近郊が一望のもとに収められる。シュリーブ・ラム・ハーモンらの設計により1931年に完成，以来1971年に日系2世ミノル-ヤマザキ設計のワールド-トレード センター-ビルが竣工(しゅんこう)(高さ410m)するまでは，世界最高のビルとうたわれた。地価を考えて，狭い敷地に容量を大きくするために垂直に建てた建造物の典型例である。なお，エンパイア-ステートはニューヨーク州の別名。

えんばく　【燕麦】　単子葉植物・イネ科の一年草。マカラスムギ・オートムギともいう。草たけ1～1.5m。葉幅広く濃緑色。茎はわずかにロウ質で包まれ，乳緑色。種子はほかの穀物に比べて，タンパク質・脂肪・ビタミンに富み，家畜の飼料にし，稃(すくも)(種実の皮)を除いたものは消化がよく，オートミール*として利用。原産は中央アジアとされ，ヨーロッパでは青銅器時代(BC2200～BC1300)から栽培されている。日本には明治初年に飼料作物として導入された。温帯の冷涼でやや湿りけの多い地方を好むが，低温にはほかの麦より弱い。種



エンパイア-ステート-ビル



円盤投げ

実用は秋まき。青刈り飼料用は初秋まくが，北海道のように寒い所では春まきにする。世界の主産地はソ連・アメリカ。〔横井朝子〕

えんぱく　【鉛白】　$2PbCO_3 \cdot Pb(OH)_2$　塩基性炭酸鉛。白鉛，または唐土ともいう。一般には，鉛板に熱した空気，二酸化炭素，酢酸の蒸気および水蒸気を作用させてつくられる白色顔料。比重6.4～6.9，吸油量8～14ml/100g，粒子はおよそ2.5～5μ。水・アルコールには不溶で，酸・アルカリには可溶。硫化水素で黒変する。有毒。白色顔料中で最も古くから使用され，亜鉛華*・リトポン*および酸化チタン*などが使われるようになるまでは使用されていた。塗料として用いるときには，付着性・可撓(かとう)性・弾性のよい塗膜をつくり，また白亜化しない耐久力のある塗膜をつくるので，ほかの顔料と併用して使用されている。〔品田　登〕

えんばんなげ　【円盤投げ】　陸上競技の重要種目の一。直径2.5mのサークルの中から円盤を投げて飛距離を争う。円盤(木の胴体の両面と縁に金属をはめ込んだもの)は，男子用が重さ2kg以上，直径219～221mm，厚さ44～46mm，女子用が重さ1kg以上，直径180～182mm，厚さ37～39mm。ギリシア彫刻に残っていることでもわかるとおり，古代オリンピック時代からあった。すくい上げるように投げていた時代は男子でも29m15(第1回オリンピック優勝記録)だったが，サークルの中で回転する技術が開発されて以来記録は飛躍的に伸び，世界記録は男子66m54(1968)，女子62m54(1968)となっている。〔伊東春雄〕

えんぴつ　【鉛筆】　筆記用具の一。木製の軸の中に，黒鉛と粘土でつくったしんをはめこんだもの。他の筆記具に比べて取り扱いが容易なうえ価格も安いので，筆写用その他に広く用いられる。

【歴史】起源は太古にさかのぼる。スペインのアルタミラ洞穴(どうけつ)には，どろや石の粉，獣骨などで描いた動物の絵が残されているが，これは現代の色鉛筆と同じものといえる。ギリシア・ローマの時代に人々は鉛の円板を使って書いていた。しかし，今日のような鉛筆が開発されたのは，イギリスのエリザベス女王の時代，カンバーランド山脈のボローデールという谷で黒鉛が発見されたのがはじまりである。これを使って1565年には，イギリスに世界最初の鉛筆工場ができた。その後1761年には，ドイツ人カスパー-ファーバーがニュルンベルクに鉛筆工場を建てている。さらにその後，フランスの科学者ジャック-コンテが黒鉛の粉と粘土とを焼き固めるしんづくりを発明した。この製法は今日まで継承されている。

鉛筆がわが国に渡来したのは江戸初期で，オランダ人が幕府に献上したものである。越えて1877年(明治10)真崎仁六(三菱(みつびし)鉛筆の創業者)がパリの万国博覧会で鉛筆を見て帰国し，1887年東京の四谷に水車を動力とする鉛筆工場を建てた。日本で鉛筆の工業化に成功したはじめである。その後東京を中心として鉛筆工場が各地に設立された。現在では，種類も多く品質も向上して，アメリカに次いで世界第2位の生産をあげている。

【製法】黒鉛と粘土とを混合してすりつぶし，水を加えてさらにすりつぶす。これを乾燥させて固め，しん出し機にかけて棒状にし，1,000～1,200℃の高温で焼き，さらに油をしみこませてすべりをよくする。色しんの場合は，顔料・タルク・ロウ・粘土・のりを混合し，黒しんと同じ順序で機械にかけ，鉛筆の長さに切って筒に入れ，1週間ほど乾燥させてつくる。黒しんと違って焼くことはない。

軸木の材料には，アメリカのカリフォルニア産のインセンスシーダーが最も適し，大部分はこれで占められるが，日本産のヒノキ・アララギ・ハン・シナノキ・ヒメコマ

ツも使われる。軸木の製造工程は，まず原木を厚さ6mmの板に切り，蒸気で蒸してやにを抜いてからパラフィンをしみこませて削りやすくする。これにしんを入れるみぞを刻んでしんを入れ，もう1枚を上から重ね合わせて合成樹脂の接着剤で張り合わせる。これを乾燥させて1本ずつに切り離し，角形または丸形に削りあげてラッカーを10～12回塗り，マークを入れて包装する。

よい製品の条件には，しんがじょうぶで折れにくく，なめらかに書けてかすが出ない，軸が柔らかで削りやすく，かつゆがみがないなどの点があげられる。色鉛筆の場合は色彩が鮮明であることも必要である。いずれにしてもJISマークのあるものを選ぶとよい。

〔種類〕 しんの原料によって黒しん鉛筆と色しん鉛筆とに分けられ，黒しん鉛筆はさらにしんのかたさによってH・B・Fに分かれる。Hはhardのかしら文字で，2H，3H，……としだいにかたくなる。Bはblackのかしら文字で，2B，3B，……としだいに柔らかくなる。Fはfirmのかしら文字で，HBとBとの中間のかたさを表わす。筆記用の標準はHBで，粘土35％，黒鉛65％である。また，鉛筆の形は長さ17.2cm，直径0.8cmが標準であるが，長いもの，太いものもあり，手帳鉛筆のように細く短いものもある。軸は六角形か丸形が普通であるが，四角形や三角形のもの，消しゴムつきのものもある。さらに用途の上から鉛筆を分けると，一般筆記用・硬筆習字用・製図用・画用・デッサン用（コンテ）・絵の具用・マーキングチョーク（木材や鉄板にマークを入れる）などとなる。なお，しんだけでシャープペンシルやコンパスに用いられるものもある。

色鉛筆は，しんのかたさや用途の上から，ガラス・金属・プラスチックなどに自由に書ける軟質のもの，一般事務用ないし学習用の中硬度のもの，地図や絵画に使う硬質のもの，に分けられる。

〔鉛筆削り〕 鉛筆を削るにはナイフも用いられるが，しだいに安全で能率のよいハンドル式の卓上シャープナー（削り機）が普及した。その機構は，ホルダーに差し込まれた鉛筆をらせん状の刃（カッター）が回転しながら削るものである。初期のものは片手で鉛筆を保持しつつ，片手で切削用のハンドルを回すしくみのものであったが，しだいにクラッチによって自動的に鉛筆を送る装置のついたものや，しんの先端の太さを自由に調節できるものなどが使われるようになった。最近は，モーターでカッターを回す電動式のシャープナーも登場し，普及しつつある。〔三菱鉛筆（株）〕

えんびふく 【燕尾服】 正しくはイブニングドレスコートというが，日本名はスワロー-テール-コートの訳語。男子の夜間正装の服。19世紀中ごろから礼服として用いられるようになった。上着の後ろすそが細長く二つに分かれてツバメの尾に似ているところからこの名がある。上着は黒か濃紺のウーステッドかドスキンで，えりは剣えりまたはショールカラーで拝絹といわれる絹布がかぶせてある。チョッキは白地でえりつきのものが多く，えりあきが大きい。ズボンは上着と共布で，側面の縫い目に側章がつけられ，すそには折り返しがない。シャツは堅胸か胸ひだつき，タイは白の蝶（ちょう）ネクタイ。くつは黒エナメルのオックスフォードで，手袋は白，帽子はシルクハットを用いる。〔小室正雄〕

えんぶ 【振鉾】 雅楽における舞楽の一種で，舞人が鉾（ほこ）を振って舞うもの。舞楽の演奏の場合，通常のレパートリーのまえに置かれる儀礼的なもので，他の舞楽とは異なり，左方の舞人1人と右方の舞人1人が，最初は1人ずつ，最後にはいっしょに舞う。伴奏の楽器も，舞人が左方であるか右方であるか，あるいはいっしょであるかによって変えられる。

えんぶきょく 【円舞曲】 ⇨ワルツ

エンプソン ［William Empson］（1906～　） イギリスの詩人・批評家。詩の解釈の多様性こそ詩の魅力であるという評論《曖昧（あいまい）の七つの型》（1930）でデビュー。その主旨はみずからの詩作品として実践されている。《牧歌の諸変型》《複雑語の構造》などでは文学構造の複雑性に着目し，リチャーズ*の流れをくむ《新批評*》派の支柱的存在となった。ほかに，反キリスト教的ヒューマニズムの立場から《失楽園*》を分析した《ミルトンの神》がある。日本・北京（ペキン）で教えたこともある。〔五十嵐一〕



えんぶり　2月17日の祈年祭の早朝，家々を祝福して回るまえに，神前に奉納する烏帽子太夫（八戸市新羅神社）



掩　蔽　プレアデス星団の掩蔽

■

えんぶだい 【閻浮提】 古代インドの世界形態論。梵語（ぼんご）Jambu-dvīpa（ジャンブ-ドゥビーパ）の音写。閻浮は樹，提は州の名。閻浮樹が茂り，樹間を流れる川からは閻浮檀金（だごん）という砂金を産出する国土のこと。バラモン教やジャイナ教では，閻浮提州（全インド）を世界の中心地と考えたのに対し，仏教では須弥山*（しゅみせん）を中心とする4州中の南方の州を閻浮提州と考え，他の州よりも労苦が多いが，諸仏が現われてその救済を受けることのできる唯一の国土とされた。形は北に広く南に狭い三角形で，インドの地形を広げた世界観である。〔大南龍昇〕

えんぶり 青森県八戸（はちのへ）市周辺で，2月17～20日ごろまで（もとは旧暦15日），その年の豊作を祈願して行なわれる神事芸能。えんぶり（杁）とは，本来田をならす農具の名まえであり，えんぶりはその使用法を演技化したものである。1組み30人くらいで，先頭には頭九郎（藤九郎）とよばれて采配（さいはい）を振る先達，3人か5人の舞を舞う烏帽子太夫（えぼしだゆう），そのわきで笛・太鼓などではやす人からなる。烏帽子太夫は絵模様のついた烏帽子をかぶり，前髪という5色の紙を烏帽子のまわりにつけ，その帽子の上からはち巻きをして下がりを後ろにたらす。さらに鶴亀（つるかめ）・鳳凰（ほうおう）などを染め抜いたはっぴを着，ももひき・脚絆（きゃはん）・わらぐつ姿で，左手に扇とてぬぐいを持ち，右手にえんぶりを持って舞う。田遊びの要素を主体とした豊作祈願の予祝儀礼である。〔須藤健一〕

えんぶん 【塩分】 海水1kg中に含まれている塩類のグラム数をいい，千分率で表わされる。海洋観測では，直接塩分をはかることはなく，海水中にとけている塩類の組成は微少量の成分を除いては一定であることを利用して，塩素量*の測定から経験式によって塩分を算出する。海の表面の塩分は降水・蒸発などによって変化し，また海流や上下の混合によっても変化する。海洋表面の塩分の緯度分布は，それぞれの大洋では類似の型を示す。赤道付近で塩分は少なく，南・北半球とも20°あたりで極大となり，それより高緯度で再び減少する。20°付近の塩分が極大となるのは，海流の関係で海水が停滞しているためである。塩分の垂直分布は，表面から深さ約1kmまで減少し，2～3kmまでやや増加し，それより深いところでは漸減する。〔相原正彦〕

えんぷん 【円墳】 ⇨古墳

えんぺい 【掩蔽】 月または惑星が，ほかの星をおおい隠す現象。月による恒星の掩蔽は古くから知られていて，プトレマイオス*の《アルマゲスト*》にも記録が出ているが，いつどの星が月におおい隠されるかは，17世紀になってグリニッジ天文台の初代台長フラムスティード*の予報したのが最初といわれている。掩蔽の観測は，月の天球上

の動きを正確に知るために重要な役割を果たしている。

エンペドクレス [Empedokles] (BC493ごろ～BC433ごろ) 古代ギリシアの哲学者。シチリア島アクラガスの生まれ。政治家・宗教家・医師・弁論家として多方面に活躍した。その死については不明な点も多いが，郷里のエトナ山の火口に投身して没したとの伝説もある。エレア派*に反対し，不生・不滅・不変の四つの根(リゾーマ)として土・空気・火・水を立てた。この四根の結合と分離によって万物が生成・消滅し，結合と分離の原因はそれぞれ愛(フィリア)と憎(ネイコス)であるとした。四根は完全な分離と結合の二つの時期とその中間の過渡の二つの時期を生じ，この世はこの四期を周期的に反復するとした。オルペウス教(→オルフィズム)の魂の輪廻(りんね)説を述べた著作《浄(きよ)め》が残っている。〔本橋正義〕

えんぽう【塩法】 中国における塩の専売法およびその違反に関する刑法。中国の塩の専売は，漢の武帝*によってはじめて行なわれ，唐の粛宗(在位756～762)以後，歴代の王朝が実施し，きびしい法律を制定して違反者を罰した。塩の専売制度が確立したのは宋(そう)のときで，生産・運搬・販売を一括して政府が行なう榷塩(かくえん)法と，徴税して商人に払い下げ，法規に従ってかなり自由に販売させる通商法とがあった。販売については，生産地によって販売区域が決められており，これを行塩地と称した。また，辺境地帯の軍隊に軍需品を納入した商人に証書を与え，これを産塩地に持参して塩を受け取って販売させる入中法の制度もあり，この方法は明(みん)では開中法として広く行なわれた。清(しん)では政府の監督下に大商人が独占事業として専売制度を維持した。塩専売は独裁政治の発展とともに発達したといわれ，国家財政の収入面で，宋では50%以上，清でも30%以上の比重を占め，膨大な官僚や軍隊を維持する一大財源であった。〔衣川 強〕

えんぽうこん【遠方婚】 村の境域を越えて結ばれる婚姻。村外婚ともいわれ，村内婚と対する。奈良時代から平安時代にかけて貴族社会を中心に支配的だった妻問い婚に代わって，室町時代になると，武家の婚姻として嫁入り婚が儀礼方式上も確立し，庶民の間にしだいに及ぶにつれて，遠方婚も盛んに行なわれるようになった。これは家の格式を重んずる風習から，村内に相応する家がないときに行なわれることが多かった。日本の村では，家格は歴史的に序列づけられており，比較的上層の家で特にこの傾向が強かった。同族集団においては，本家筋は他の村の同格の家と結ばれることを望む結果，おのずから遠方婚となった。なお，未開社会でみられる族外婚とは異なる。→結婚 〔須藤健一〕

エンボスかこう【エンボス加工】 布地や紙などに型押しして模様を表わす加工。主として金属ローラに型を彫って型押しする。布地の場合には，合成樹脂を含ませて型押しすると型が消えにくい。木目模様・エバーグレーズなどが行なわれる。

えんぽん【円本】 1926年(大正15)の秋，改造社が《現代日本文学全集》(全63巻)を1冊1円で予約募集したところからその名がある。菊判，6号活字，ルビつき，毎冊500～600ページ，定価1円という超廉価版のため，たちまち23万の予約購読者を得た(のちには50万にもふくれあがった)。これに次いで新潮社の《世界文学全集》全57巻，春陽堂の《明治大正文学全集》全60巻，平凡社の《現代大衆文学全集》全60巻などが次々と発表され，一時，円本全集の種類は，200種以上にも上り，《世界文学全集》の58万部を筆頭に，1種で10万部，20万部と読者を獲得したものもいくつかあり，いわゆる〈円本時代〉を現出した。円本の功罪についてはいろいろいわれるが，少なくとも，書物を安価に供給することによって，一般の読書力を涵養(かんよう)し，読者層をふやし，絶版となって埋もれてしまった良著名作を再びよみがえらせ，また造本技術についても，大量生産による技術低下がうんぬんされながらも，大量需要の結果，各種製版印刷の改良，和製クロスの進歩，製本技術の機械化(紙折り・糸かがりなど)などの功績を見のがすことはできない。〔庄司浅水〕

えんま【閻魔】 インド起源の死の神。Yama(ヤマ)の音写。紀元前12～紀元前10世紀には天上の楽土の王であると同時に人間最初の死者で，死をつかさどるとされた。紀元前10～紀元前8世紀にも，死の神ではあるがすみかはまだ天界にある。紀元前4世紀～紀元3世紀ごろに，はじめて下界冥府(めいふ)の王となり，死者の生前の行為に応じて賞罰を与えるようになった。赤い服をまとう恐ろしい姿に描かれる。仏教に摂取されると，一方ではヤマ(夜摩)として温和な天界の一神として仏教を外護し，他方では閻魔王として冥界の支配者，人間行為の審判者となった。仏教とともに中国に渡ってからは，道教的民間信仰と合して，五官王・八王・十王などの説が出てくる。日本では最初期より，閻魔王すなわち地獄の主として理解され，さまざまな儀礼や行事も発達した。〔奈良康明〕

えんまく【煙幕】 味方の行動を敵の視界からさえぎるため，砲弾・発煙筒などに詰めた発煙剤によってつくられる人工煙霧。発煙剤には黄リン・無水硫酸・発煙硫酸・四塩化スズ・四塩化チタン・ベルゲル混煙剤などを用いる。第1次世界大戦以後用いられたが，現今はレーダーの発達で戦術的効用は著しく小さくなった。

えんまこおろぎ【閻魔蟋蟀】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・コオロギ科の大形種。体長20～26mm。体はかっ色ないし黒かっ色で，雌は尾端に長い産卵管をもつ。本州以西に広く分布する普通種。年1回の発生で，成虫は8月上旬ごろより出現する。昼間は土中や石の下，枯れ草の下などに潜み，夜間活動してときにウリ類をはじめナス・トマトなどの農作物に大害を与えることがある。鳴き声は〈コロコロ〉という連続音であるが，〈コロコロリー〉という交尾音を出す。北海道には近縁のエゾエンマコオロギ，南九州にはやはり近縁のタイワンエンマコオロギが分布するが，形態や鳴き声が多少異なる。〔鈴木邦雄〕

えんまむし【閻魔虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・エンマムシ科。体長9～12mm。体は光沢のある黒色。日本全土のほか朝鮮・中国に分布する普通種。腐敗した動植物に集まり，これらを食するハエ類の幼虫などを捕食する益虫である。エンマムシ科のこん虫は全世界に3,000種以上知られており，腐敗動物のほかにきのこ・朽ち木，獣類の糞(ふん)，シロアリの巣などに生活し，いずれも他のこん虫類の幼虫などを捕食する。

えんむ【煙霧】 大気中のかわいた微細な塵埃(じんあい)や塩分によって，全体として視程の悪い状態。煙霧は，背景が暗いと青みがかり，明るいと黄または赤みをおびて見える。

えんむしつ【煙霧質】 ⇨エーロゾル

えんめいえん【円明園】 北京(ペキン)の西北郊外にあった清(しん)代の離宮で，夏の避暑地・政務所。1725年雍正(ようせい)帝が建築，乾隆(けんりゅう)帝がいっそうの増改築を加えた。ベルサイユ宮殿にならってイタリア人カスチリオーネ*，フランス人ブノワが設計したバロックふうの洋館や庭園もあり，世界四大名園の一つとも称せられたが，1860年英仏連合軍が北京を攻撃した際その略奪と放火で一瞬のうちに廃墟(はいきょ)と化した。

えんゆうかい【園遊会】 自宅や別荘，あるいは有名な庭園に多数の客を招いて催す屋外宴会。イギリスのガーデン-パーティーにならい，1883年(明治16)大隈重信*(おおくましげのぶ)が自邸で改進党1周年を記念して開いたのがはじまりとされている。かつての観桜会*・観菊会*に相当する宮中行事の一つとして，1953年(昭和28)秋および1965年春から皇室園遊会が行なわれ，当日は，天皇皇后両陛下が国会議員・閣僚・裁判官など，立法・行政・司法各機関の人々，都道府県知事など地方自治体の主要な人々，産業・文化・社会事業などの分野で功労のあった人々とその配偶者の約2,000人を赤坂御用地内の御苑に招待し，皇太子以下各皇族とともに1日を過ごす。なお，秋の園遊会には外国大公使以下の各外交官とその夫人・令嬢も招待される。〔小林亥助〕

えんゆうじ【円融寺】 京都市右京区にあった寺。別名円融院。延暦(えんりゃく)寺の別院として円融天皇*の御願によって建立(こんり

ゅう)され，986年(寛和２)には円融法皇が堀河院(ほりかわいん)からここに移った。1170年(嘉応２)仁和(にんな)寺守覚法親王が検校*(けんぎょう)に補せられ，のちに真乗院深助が別当職となって以来，仁和寺に所属していたが，のち廃寺となる。現在は廃寺跡を残すのみ。

えんゆうてんのう【円融天皇】(959～991) 名は守平。村上天皇の第５皇子。母は皇后藤原安子。969年(安和２)兄冷泉(れいぜい)天皇の譲りを受けて即位。その直後安子の兄，藤原兼通(かねみち)らが安和(あんな)の変*で政敵の左大臣源高明を失脚させ，摂関常置の体制が定まった。984年(永観２)花山天皇に位を譲り，翌年出家して円融寺にはいり，風雅な生活を送った。陵墓は京都の後村上陵。

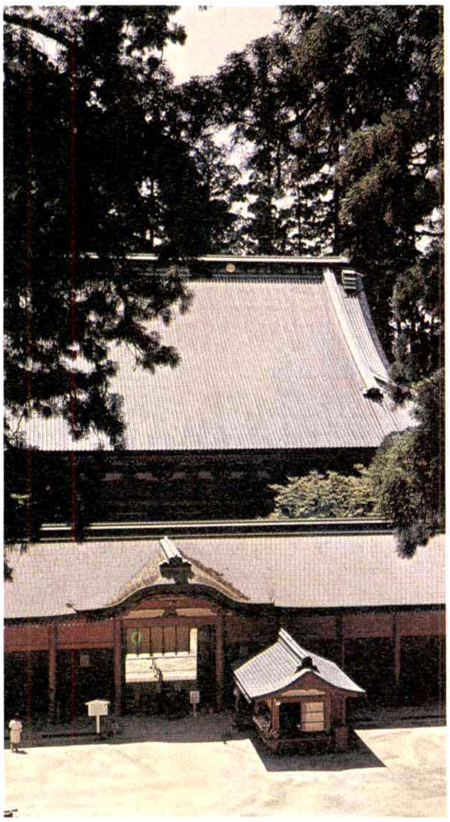
えんようぎょぎょう【遠洋漁業】本土の漁業基地を遠く離れた海域で営まれている漁業。したがって，外国の海洋からは比較的近い漁場でも，遠洋区域として取り扱っている。海外漁業などその好例である。わが国では，以西トロール-マグロはえなわ漁業，母船式のサケ・マス・カニ漁業，母船式北洋トロール・母船式捕鯨漁業などがその主体をなしている。遠洋漁業に従事する漁船は大形で，設備も近代化されているので，かなりの漁業資本を必要とする。第２次世界大戦後のわが国は，アフリカ漁場におけるトロール漁船の操業，大西洋や南太平洋の暴風圏におけるマグロはえなわ漁業の操業など，遠洋漁場の開拓は著しい。遠洋漁業は一見はなやかではあるが，国際関係もからみ，カニは日ソ漁業条約によって，サケ・マスは日米加漁業協約によって，それぞれ規制を受けるなど，漁船の行く先々で国際競合を生じてきている。〔石野 誠〕

えんようトロール【遠洋トロール】本土を遠く離れた漁場で操業するトロール漁業*。遠トロともいう。南シナ海・北洋・アフリカ漁場などの遠トロ船は，鋼船で200トン速力11ノットを越えることがなくてはならない条件とされている。近年，遠トロ漁場は世界のあらゆる海域に広げられてきている。

エンリケ[Henrique](1394～1460) ポルトガルの地理上発見事業の指導者。航海王といわれる。ジョアン１世の子。父王から３代の間，アビシュ朝*の通商・植民の担当者として関税収入増大のため商業貿易の発展を助けた。そのかたわら宮廷に航海術・地理学の研究所を営み，学者・船員を集めて航海・探検・商業の事業を推進した。彼は自分では航海を行なわなかったが，彼の援助で部下の船はアゾレス諸島・マデイラ諸島・カナリア諸島に至り，植民・開拓を行ない，アフリカ西岸では北緯8°の地点にまで達した。彼はアフリカ南端到達には成功しなかったが，彼の事業が基礎となって，ジョアン２世・マヌエル１世の援助でポルトガルはインド航路の発見に成功することになった。➔大航海時代〔大野慎一郎〕



遠洋漁業 キャッチャーボートから母船と捕獲されたクジラを望む



延暦寺 根本中堂



エンレイソウ
(左)エンレイソウ
(右)ミヤマエンレイソウ

えんりっぽん【閻立本】(？～673) 中国，唐初期の画家。太宗朝の官人で位は工部尚書(しょうしょ)，右相(うしょう)にもなった。兄の立徳とともに技術官僚として，宮廷の工芸・建築・土木に携わった。またすぐれた人物画家で，《歴代帝王図巻》の作者と伝わる。六朝(りくちょう)以来の伝統的な鉄線描による輪郭と朱の隈取(くまどり)による重厚な威圧感の表現に特徴がある。

えんりゃくじ【延暦寺】滋賀県大津市坂本本町にある天台宗の総本山。延暦年間(782～805)宗祖伝教大師最澄*(さいちょう)が比叡(ひえい)山上に一乗止観院を建立(こんりゅう)したのがはじめで，最澄の死後の823年(弘仁14)延暦寺と名を改め，天台宗の根本道場として今日に至っている。山上の地形を巧みに利用した伽藍(がらん)や僧坊が建てられ，東塔・西塔・横川(よかわ)の３地区に区分されている。東塔は一山の中心で，根本中堂・戒壇院・文殊楼院・大講堂・阿弥陀堂(あみだどう)・浄土院などの主要伽藍がある。また，西塔には釈迦堂(しゃかどう)・法華堂(ほっけどう)・常行堂・相輪橖(そうりんとう)などがある。なお，横川は，９世紀の中葉に慈覚大師円仁*(えんにん)が開いた草庵(そうあん)に始まり，のちには慈覚大師源僧・元三大師良源らがこの地にこもって修法し，四季講堂(元三大師堂)・横川中堂跡・根本如法塔・元三大師御廟(ごびょう)など，天台高僧のゆいしょを物語る事跡が多い。開創以来，寺門(➔園城(おんじょう)寺)との対立抗争をも含めて，歴史の変転に寺運もいくたびか衰退を招き，伽藍の火災にあうことも少なくはなかったが，現在の根本中堂(国宝)は1640年(寛永17)の再建で，壮大な規模を有する天台宗本堂の形式を伝える遺構である。このほか彫刻では聖観音菩薩(しょうかんのんぼさつ)像・維摩居士(ゆいまこじ)(以上重要文化財)，絵画では天台大師像・相応和尚(おしょう)像(以上重要文化財)，工芸では横川如法堂跡から出土した金銅経筥(きょうばこ)・宝相華蒔絵(ほっそうげまきえ)経筥(以上国宝)など，書跡では最澄自筆の天台法華宗年分縁起(国宝)など，叡山の歴史のみでなく，わが文化史上にあっても貴重な遺品が多い。〔永井信一〕

エンリル[En-lil] 古代バビロニア神話の主神。もとはシュメール人の聖地ニップール*の神で，シュメール人の運命を決する最高神。あらしの神。バビロンを中心に国家が統一されてからは，バビロンの都市神マルドゥク*と合体してベル-マルドゥクとなった。

えんるいせん【塩類泉】⇨温泉

えんれいそう【延齢草】単子葉植物・ユリ科の多年草。日本全土の山地林内に自生する多年草。草たけ20～40cm。太い茎の先端に，広卵状ひし形の葉が３枚輪生。４～５月，葉の中心から１個の花を開く。ふつう花弁がなく，３枚のがく片は卵形，帯紫色。液果は卵球形で，熟すと紫黒色になる。根茎を干したものを延齢草根といい，民間ではせんじて胃腸病・催吐剤として用いるが，量を越すと有害である。近縁のものに淡緑色の外花被片３枚，白色の内花片３枚からなる花をつけるミヤマエンレイソウがある。

お

おあかんだけ　【雄阿寒岳】　北海道東部,阿寒国立公園内の主峰の一。阿寒カルデラの中央火口丘の一つにあたる成層火山で,標高は1,371m。ふもとを阿寒湖・パンケトー・ペンケトーなどの湖で取り囲まれ,約800mの比高でそびえる。

オアキャリア　［ore carrier］　専用船の一種で,鉱石特に鉄鉱石を専門に輸送する船。構造はタンカー*に似ているが,固形物運搬のため大きな倉口がある。重量に耐えるよう船体は特に頑強(がんきょう)にできている。20,000重量トンないし40,000重量トン級のものが多い。わが国の年ごとに増大する鉄鉱の需要を満たすために,産出国を次次と遠隔地に求めるため輸送距離も遠くなり,輸入量も1968年度(昭和43)で6,814万3,000tになっているが,1975年度予想は1兆900万tの鉄鉱石貿易量に対して邦船積取比率70%を期待し,その輸送量は7,630万tを目標としている。　〔茂在寅男〕

オアシス　［oasis］　乾燥地域の中の肥沃(ひよく)な部分をいい,地下水の帯水層が局地的に地表に達して水が湧出(ゆうしゅつ)している泉地や,湿潤地域から流入する河川の流域が多い。泉地のオアシスはサハラ砂漠(さばく)・アラビア半島・タリム盆地にあり,河川流域のオアシスの例はナイル川・チグリス-ユーフラテス川・アムダリア川・シルダリア川・インダス川などにみられる。不毛の乾燥地域の中にあって,オアシスの周辺には樹木がおい茂り,農業が営まれ,集落ができ,古くから砂漠を往来する隊商の中継地となってきた。また,オーストラリアの大鑽井(だいさんせい)盆地にみられるように,人工の掘り抜き井戸で水を得たものや,コロラド川の水を導水して灌漑(かんがい)したインピリアル谷,パースから水道を引いている砂漠の鉱山都市カルグーリなども,広義にはオアシスに含めている。〔小栗　宏〕

オアフ(島)　［Oahu］　ハワイ諸島中第3の大島。アメリカ合衆国ハワイ州の州都ホノルルはこの島にある。面積1,554km²。人口50万(1960)。火山島で海岸線は屈曲に富み,北東貿易風帯に位置するため風下の西岸に良港がある。ウェアナ山脈とクーロウ山脈が南端・西端をそれぞれ走り,最高峰はウェアナ山脈のカアラ山(1,220m)。両山脈の間は乾燥した平原で,灌漑(かんがい)によってパイナップル・サトウキビを栽培している。島のあちこちにそびえる火山は独特の風景を添え,ダイヤモンドヘッド・ココヘッド・パンチボウルは有名。美しい浜べが多く,なかでもワイキキは世界的に知られている。パールハーバー(真珠湾)は面積25km²の入り江をもつ湾入で,現在アメリカ合衆国の海軍基地がある。日本からの移民も多い。➔ハワイ諸島　〔大崎　晃〕



雄阿寒岳　阿寒湖畔から望んだ雄阿寒岳。雄阿寒岳は8合め付近までエゾマツ・トドマツのみごとな原生林におおわれている



オアシス　サハラ砂漠北部,モロッコのオアシス。凹地が帯水層を切るところに泉がわき,集落ができ,ナツメヤシや野菜が栽培される

おあまおんせん　【小天温泉】　熊本県玉名郡天水町にある温泉。泉温37℃,泉質は単純泉で,胃腸病・皮膚病・神経痛などにきくといわれる。金峰山のふもとにあり,有明海に臨む景勝地である。夏目漱石(そうせき)の小説《草枕(くさまくら)》に那古井(なこい)温泉として登場したことで名高く,近くには漱石館がある。鹿児島本線玉名駅からバスの便がある。

オーアール　［OR］　⇨オペレーションズ-リサーチ

おい　【笈】　本来は物を背に負うための道具として考案された。木枠(きわく)に背負いひもをつけた板笈と,箱に懸紐(かけひも)をつけた箱形笈に大別される。修験道(しゅげんどう)の山伏が使用した山伏笈は,箱形に四脚をつけ,独特の透かし彫りや毛彫りの文様を施した金銅板金具で外面を飾り,内部は2段に分けて上段に五仏の影像,下段には念珠・手錫杖(てしゃくじょう)・舎利塔・密具・文書類を入れるのが通例である。山伏笈の遺例はかなり多いが,板笈形式のそれは福岡県英彦山(ひこさん)神社*のものが唯一である。なお道元笈・大見笈なども名高く,また箱笈の正面に鎌倉彫を施した鎌倉彫笈や,箱形を網代(あじろ)編みにした網代笈などもある。　〔河田　貞〕

オーイーイーシー　［OEEC］　⇨OECD

おいえきょうげん　【お家狂言】　歌舞伎(かぶき)の脚本の一種。御家物ともいう。江戸時代の大名の家に起こった事件を脚色したもの。《加賀見山旧錦絵*(こきょうのにしきえ)》《伽羅先代萩*(めいぼくせんだいはぎ)》などが例。ただし,当時の法規では実名の事件を実名どおり脚色してはいけなかったので,鎌倉・室町時代の人物・地名に変えて脚色しているものが多い。

おいえそうどう　【お家騒動】　江戸時代,諸大名の家督相続争いや家臣の権力争いなどがからみ合って,一藩の動揺を招いた紛争事件。原因は,泰平が続き藩内の政治問題にからむ利害関係が武士階級にとって最大の関心事となったこと,また一夫多妻の風

習と，嫡子嫡孫相続などにあった。藩主が暗愚・病弱・幼少などで政治能力を欠いている場合が多い。伊達(だて)・加賀・黒田・越後(えちご)・生駒(いこま)・会津・池田・鍋島(なべしま)などの騒動は有名。藩の実権を掌握しようとする〈逆意方〉と，これを排除しようとする〈お為方(ためかた)〉の2派に分かれて争い，それが表面化した場合は幕府の裁断を仰いだが，それにより越後松平・讃岐(さぬき)生駒家などが廃絶となった。泰平の世には世上一般の興味をひいた政治事件なので，読み物や演劇化され，虚構が加えられて現在に伝えられているものが多い。伊達騒動*に取材した《伽羅先代萩*(めいぼくせんだいはぎ)》などは有名。〔善積美恵子〕

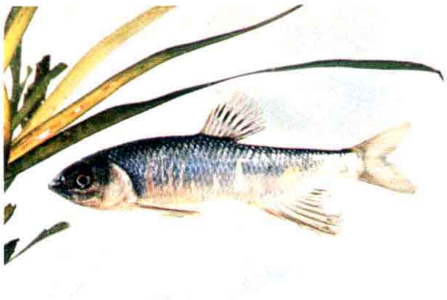
おいえりゅう【御家流】江戸時代の青蓮院(しょうれんいん)流の別名。御家流の名称の由来はよくわからないが，青蓮院門跡の院家の流であるからとか，伏見天皇*が尊円法親王に家の流とせよと仰せられたからとかといわれている。→青蓮院流

おいがみおんせん【老神温泉】群馬県利根(とね)郡利根村にある温泉。泉温56～60℃，泉質はイオウ泉で，性病・湿疹(しっしん)にきくといわれる。利根川支流の片品川の河床から湯が湧出(ゆうしゅつ)し，渓谷美(けいこくび)の中の静かな温泉である。旧暦の4月8日には湯つぼにしめなわを張って，赤城(あかぎ)の神をお祭りする珍しい行事がある。上越線沼田駅からバスの便がある。

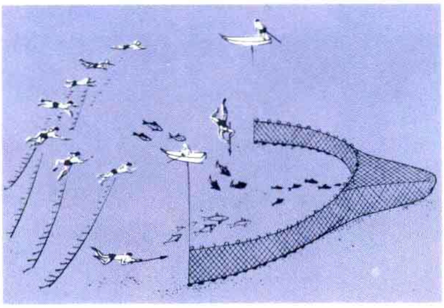
おいかわ【追河】硬骨魚類・コイ科。15cmほどになる淡水魚。ほっそりしたハヤ形の銀色の体に，薄くにじのように7色に輝く太い不明瞭(ふめいりょう)な横じまが数個ある。成魚ではしりびれが長く伸びている。産卵期には，雄が毒々しいほどはっきりしたにじ色の婚姻色*を表わす。北海道を除く各地の川・湖沼に分布しており，地方名が多く，関東のヤマベ，関西のハエはこの魚である。形も大きさもよく似たものに，カワムツがある。このほうは，体側に太い暗青色の縦帯がある。中部以西の川にすみ，前者と同じ川にすむ場合には，すみ分けをしている。〔菅野　徹〕

オイケン［Rudolf Christoph Eucken］(1846～1926) ドイツの哲学者。東フリースラントのアウリヒに生まれる。バーゼル大学，次いでイエナ大学教授。当時のドイツ哲学の実証主義・唯物論などの反理想主義的傾向に反対し，また純粋知性主義をも排し，人間を自然との精神生活相互媒介の場としてとらえ，精神生活の優位を説き，新理想主義を唱えた。世界を一つの精神的過程としてとらえる一種の汎神論(はんしんろん)的理想主義哲学である。1908年ノーベル文学賞を受け，その影響は一時世界的となった。主著《大思想家の人生観》《精神的生活内容のための闘争》など。〔豊福英利〕

おいごえ【追い肥】⇨追肥(ついひ)



オイカワ



追い込み網漁業（沖縄式）



お市の方　和歌山県高野山持明院蔵

おいこみあみぎょぎょう【追い込み網漁業】サンゴ礁*の間に張り巡らした網に，水にもぐって魚を追い込み漁獲する方法。沖縄漁民の間で行なわれていて，ベラなどの食用魚のほか，鑑賞用の熱帯魚などを捕獲している。

オーイーシーディー［OECD］Organization for Economic Cooperation and Developmentの略称。経済協力開発機構。第2次世界大戦後，ヨーロッパ18か国はマーシャル-プラン*(ヨーロッパ復興計画)によるアメリカ援助の受け入れと配分をめぐって，またヨーロッパ諸国間の経済復興のための協力をめざしてOEEC(Organization for European Economic Cooperation：ヨーロッパ経済協力機構)を1948年4月に設立した。このOEECは，戦争によって疲弊したヨーロッパの経済を再建し，ドル不足を緩和し，貿易の自由化および経済成長に貢献してきたが，より長期的な目標に取り組み，低開発国援助問題など世界の新しい経済情勢の変化，時代の要請に適合させるため，従来の加盟18か国にアメリカとカナダを加え，1961年9月，OEECを発展的に改組して，OECDが正式に発足した。日本は1964年4月28日に正式に加盟。

その主要目標は，①加盟国における最高の持続的経済成長，雇用の増大および生活水準の向上を促進すること，②加盟国・非加盟国を問わず，発展途上にある国の健全なる経済的拡大に寄与すること，③国際的義務に従った多角的かつ無差別の基礎に立った世界貿易の拡大を助長すること，の三つである。OECDは統制的機関ではなく，むしろ政策問題に関する有益な見解を交換する場である。ここでは，一つの効果的作業方法として，コンフロンテーションという形式がとられているが，これは各加盟国の政策および計画につき，関係諸国が直接討議・審査し，当該国に問題点を指摘し，これに対するコメントを与えるものである。

組織としては，最高機関としての閣僚理事会，執行機関としての執行委員会，専門委員会・専門機関があり，本部・事務局はパリに置かれている。多数存在する専門委員会のうち，経済政策委員会(Economic Policy Committee：EPC)・開発援助委員会(Development Assistance Committee：DAC)・貿易委員会(Trade Committee)，およびヨーロッパ通貨協定*(EMA)管理委員会が特に重要である。

加盟国は，イギリス・フランス・西ドイツ・オーストリア・ベルギー・デンマーク・アイルランド・ギリシア・アイスランド・イタリア・ルクセンブルク・オランダ・ノルウェー・ポルトガル・スウェーデン・スイス・トルコ・スペイン(以上18か国はOEECからの加盟国)・アメリカ・カナダ・日本・フィンランドの22か国，準加盟国はオーストラリア・ユーゴスラビアの2か国である。〔深海博明〕

オイストラフ［David Oistrakh］(1908～1974) ソ連のバイオリン奏者。5歳からバイオリンを始め，1926年にオデッサ音楽院を卒業，1935年全ソビエトコンクール，2年後のイザイエ国際コンクールに優勝した。1951年以後欧米に進出，日本にも1955年以降しばしば訪れている。むすこのイーゴリ(1931～　)もバイオリニストで，たびたび親子でコンサートをもっている。

おいちのかた【お市の方】(1548～1583) 小谷の方ともいう。織田信秀(のぶひで)の娘。信長の妹。はじめ近江(おうみ)(滋賀県)小谷城主浅井長政*(ながまさ)に嫁し，3女(豊臣秀吉(とよとみひでよし)の側室淀殿(よどどの)，京極高次の室常高院，徳川秀忠(ひでただ)の室崇源院)を生む。長政が信長に滅ぼされたため，3人の娘を連れて柴田(しばた)勝家*に再嫁。

1583年(天正11)勝家が秀吉に北庄(きたのしょう)城を包囲されたとき，娘たちを脱出させて，夫とともに自刃した。〔善積美恵子〕

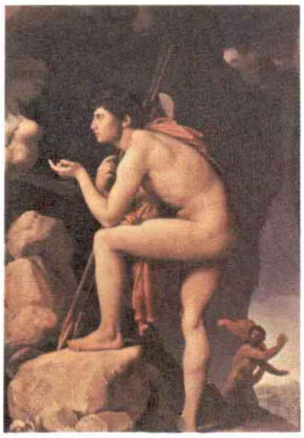
おいつきざん 【追いつき算】 ⇨算術

オーイーディー 〔OED〕 オキシエチレン-ドコサノール(oxyethylene docosanol)の略称。最初水温上昇剤として開発されたが，そのほか蒸散抑制による活着や根の植え痛みを防いだり，収穫された果実の萎凋(いちょう)を防止して長く鮮度を保つなどの利点が認められ，植物生長調整剤*の一つに数えられるようになった。本剤は白色の粉末で水にややとけにくいが，使用を容易にするためにいろいろな剤型がくふうされている。〔深谷昌次〕

オイディプス 〔Oidipus〕 古代ギリシアの都市テーバイの伝説に登場する王。テーバイ王ライオスのひとりむすことして生まれたが，〈父を殺し母と交わる〉というアポロンの神託があったため，父王は赤子を捨てる。しかし，赤子は拾われて隣国の王子として育ち，長じて自分に下された神託を知り，義父を実父と思い，これをのがれようとテーバイに来る。途中で実父と知らず無礼な老人を殺害，テーバイを悩ませたスフィンクスのなぞを解いてテーバイの王となり，先王の妃，自分の母親を妻とする。ギリシアの悲劇詩人ソポクレス*はこのオイディプスを主人公として不朽の名作《オイディプス王》を著わした。オイディプス王の自己探究とついに自分がなに者かを知った悲劇を，なぞ解きの手法と巧みな伏線を用いて息もつかせぬ盛り上がりで描く。〔久保正彰〕

オイノコエ 〔Oinochoe〕 ギリシア陶器の名称。三つ口の特異な形の注口をもち，頸部(けいぶ)の後ろに把手(とって)をつけたぶどう酒・オリーブ油・水などのつぼ形容器。紀元前9世紀ごろからつくられ，装飾には幾何学文・同心円文その他を用い，時代がくだると黒絵手・赤絵手の彩文がみられる。製作地はギリシア本土・キプロス・南部イタリア・エトルリア・シチリアに及ぶ。

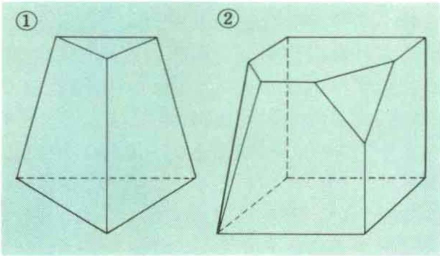
おいのこぶみ 【笈の小文】 俳諧(はいかい)紀行文。芭蕉*(ばしょう)が風狂の士〈風羅坊(ふうらぼう)〉を自称して1687年(貞享4)10月江戸を立ち，翌年にかけて尾張(おわり)(愛知県)・伊賀(いが)(三重県)・伊勢(いせ)(三重県)・吉野(よしの)(奈良県)・須磨(すま)(兵庫県)・明石(あかし)(兵庫県)を旅した際の作。風狂の色の濃い中に，無能無芸にして俳諧一筋につながるとする自覚，〈造化にしたがい造化に帰れ〉という芸術観や新しい紀行文に対する抱負を述べるなど，注目すべき記事が多い。〔奥野純一〕



オイディプス　アングル《オイディプスとスフィンクス》ルーブル美術館蔵



奥入瀬川　湖(十和田湖)から流れ出るため，渓流の水量の変化がきわめて少なく，川岸や瀬の中にも樹木がよく育ち，美しい渓谷美をつくる。新緑と紅葉のころが特に美しい。



オイラーの定理

おいのさかとうげ 【老ノ坂峠】 老坂(おいさか)峠ともいう。京都市の西方，西山山地(老ノ坂山地)を越え亀山(かめやま)市へ通ずる所にあり，古くは山陰道が京都市内へはいる要衝の地であった。現在は，古い峠の北側に老ノ坂新峠が開かれ国道9号線が通っている。

おいのすさび 【老のすさび】 宗祇*(そうぎ)が1479年(文明11)越前(えちぜん)(福井県)朝倉氏に送った連歌論書。救済*(ぐさい)・頓阿*(とんあ)・宗砌*(そうぜい)ら先輩七賢の作品65句に詳細な解釈を加え，また規範となる句や特色ある付句121句を列挙したもの。実作の批評を通じて宗祇の連歌観を知りうるとともに，〈心正しく，言葉艶(あや)〉で安らかな句がよいという主張のうかがえる点が注目される。

おいぼし 【追星】 産卵期のコイ科の魚とアユなどの皮膚に現われる角質の小突起をいう。白くてかたく，にきびのような感じである。雄の頭部に多いが雌にも出ることがある。産卵期を終わるとほとんど消えてしまう。オイカワ・カワムツ・キンギョなどで著しい。二次性徴の一つである。

おいまつ 【老松】 日本音楽の曲名。世阿弥(ぜあみ)作の能，1世常磐津(ときわず)文字太夫(もじだゆう)・佐々木市蔵共作の常磐津節，4世杵屋(きねや)六三郎作の長唄(ながうた)のほか，富本節・清元節にある。いずれも祝儀曲(しゅうぎきょく)として演奏され，特に常磐津節は流派創立のときにつくられたもので，演奏会・舞踊会の最後の曲として上演される。長唄は，歌舞伎(かぶき)から離れた純粋に音楽的なお座敷長唄としてつくられた最初のものである。〔山口　修〕

オイラー 〔Leonhard Euler〕 (1707～1783) スイスの数学者・物理学者。18世紀最大の数学者といわれるほどに，その業績は高く評価されている。父は牧師で，ベルヌーイ*家のヤコブ1世に数学を学んだ人。父から数学の手ほどきを受け，1720年バーゼル大学哲学科に入学，1723年数学科にはいり，ベルヌーイ家のヨハネス1世に師事した。卒業後，創設したばかりのペテルブルク-アカデミーに招かれて会員となったが，一時はロシアの政情不安定のため，ベルリン-アカデミーの数学部長になったこともある。過労のため右目を失明し，のちに左目も失明したが仕事をし続け，〈自分の死後，20年はペテルブルク-アカデミーが困らないだけの論文を残しておく〉と言ったが，まさにそれ以上の，数学・力学・天文学・物理学の各分野にわたる驚異的な仕事をした。〔下平和夫〕

おいらせがわ 【奥入瀬川】 十和田湖(とわだこ)の東岸から流れ出し，渓谷部(けいこくぶ)を過ぎてからは東流して三本木原台地を通り，太平洋に注ぐ。流程67km。湖からの落口である子ノ口(ねのくち)から焼山までの約13kmの間は奥入瀬渓流とよばれ，その渓流美によって十和田湖とともに特別名勝に指定されている。十和田湖の水位変化の少ないことがこの渓流の水位を安定させ，河岸にはカエデ・ナラ・ブナなどの植物が茂り，コケやシダ類のついた流れの中の岩が清流に囲まれて美しい。新緑と紅葉の時期が特に美しいといわれる。十和田八幡平(はちまんたい)国立公園*に属する。〔長津一郎〕

オイラート 〔Oirat〕 〈瓦剌〉〈衛拉特〉とも書く。西モンゴル系諸種族の総称で，ドルベト・バイト・トルグート・ザハチン・ミンガト・エレートなどは，今日，モンゴル人民共和国西北部や中国新疆(しんきょう)ウイグル自治区・アラシャン・青海省などに分布。17世紀，ジュンガリアを去ってボルガ川下流域に住みついた者を特にカルムックといい，ヨーロッパ人はこの名でオイラート全体をさす。17世紀が彼らの全盛期で，そのジュンガル帝国は清朝(しんちょう)の強敵となり，高僧ザヤ-パンディタが出てオイラート文字をつくった。〔田中克彦〕

オイラーのていり 【オイラーの定理】 スイスの数学者オイラー*が発見した定理。

図のような多面体の表面は，連続的な変形によって球面と一致させることができる(➡トポロジー)。このような多面体を単純多面体という。図の多面体の頂点・辺・面の個数V, E, Fは，それぞれ次のようになっている。

	V	E	F
①	6	9	5
②	11	17	8

これらの数の間には$V-E+F=2$という関係があり，一つの頂点を平面で切り落としても，Vは＋2，Eは＋3，Fは＋1となって，この関係は変わらない。一般に，単純多面体のV, E, Fの間には，つねに$V-E+F=2$という関係がなりたつことが証明され，これをオイラーの定理という。 〔菊池兵一〕

おいらん 【花魁】〈姉女良〉〈傾城〉〈花孃〉とも書き，主として江戸の高級遊女の称。禿(かむろ)が〈おいらがとこの姉さん〉といったのが〈おいらん〉につまったといわれる。元禄(げんろく)(1688～1703)ごろの禿の句〈おいらんがいっちよく咲く桜かな〉が初見。宝暦(1751～1763)ごろに元吉原(もとよしわら)以来の太夫(たゆう)がいなくなると，花魁がその地位を踏襲した。したがって和歌・茶・生け花など高い教養を身につけ，ただの娼婦(しょうふ)ではない格式と誇りをもっていた。高尾や小紫などの源氏名を用いたのも花魁だけで，日常，2人の新造と2～3人の禿が召使としてつく。花魁道中にもこの同勢を引き連れて歩いたし，張り見世をするときも，左右に新造を従えて定めの席についた。そのおり芝居の下座のように，菅掻*(すががき)という三味線(しゃみせん)の一曲を奏したのも，花魁の威勢を示したもの。しかし原則としては，花魁は張り見世をせず，引き手茶屋の紹介によって客をとった。茶屋*から口がかかると，花魁道中をして客を迎えに行く。そして，遊女屋へ案内してもすぐには床入りせず，初会は杯事だけで終わる。2度めの遊興を〈裏〉というが，このときもなお打ち解けず，原則的には酒宴だけ。3度めからやっと〈馴染(なじみ)〉といい，模擬夫婦の態度となる。花魁の揚げ代は時代により一定しないが，寛政(1789～1800)以降は1両～1両1分であった。 〔稲垣史生〕

おいらんそう ➡フロックス

オイルガス [oil gas] 石油系原料から製造される都市ガス*。ナフサ*・重油*などを触媒*の存在下で水蒸気と反応させるか，重油を高温で熱分解して製造される。生産費が安いため，最近では都市ガスとして従来の石炭ガスよりも多く使われている。

オイルクロス [oil cloth] 油布の意味で，綿布などに亜麻仁油(あまにゆ)・桐油(とうゆ)などの乾性油を塗布したもの。表面に油性皮膜がつくられ，耐水性・不通気性・光沢などが与えられる。防雨具・シャワーカーテンなどに用いられる。

オイルタンカー [oil tanker] 油槽船(ゆそうせん)。石油を船倉内に直接積んで運搬する船。タンカー*の代表的存在であることから，単にタンカーといえばオイルタンカーのことをさす場合が多い。石油は一定した産地から多量に産するので，船形を大きくして一度に多量に運んだほうが経済的である。最近では，ますます大形化の傾向にあり，かつては10,000～15,000トンぐらいが標準形であったが，現在では30万トン形が現われるようになった。日本は，大形タンカー建造では世界の主導権を握っている。タンカーの巨大化に伴い，わが国では大きさを表わす俗称が下表のようによばれているが，あまり厳密には使われておらず，50,000トンぐらい以上を超大形船，または巨大船という場合もある。 〔飯島幸人〕

大きさ(重量トン)	名　称
10 000～15 000	標準形タンカー
15 000～20 000	中形タンカー
20 000～30 000	大形タンカー
30 000～40 000	スーパータンカー
40 000～60 000	ジャイアントタンカー
60 000～80 000	マンモスタンカー
80 000～110 000	モンスタータンカー
110 000～	ドラゴンタンカー

おいわけ 【追分】 民謡の曲名。中山道(なかせんどう)と北国街道との分岐点にあたる信濃(しなの)(長野県)の追分宿近辺で歌われていた馬子唄(まごうた)である信濃追分に始まり，これが各地に伝わって越後(えちご)追分・松前追分・江差追分などそれぞれの土地ふうに変えられた。声を長く引き，規則的な拍節によらず自由なリズムで細かい装飾音をつけて朗々と歌い，わが国の民謡のうちでメリスマ*的様式の代表にあげられる。伴奏に鈴と尺八がつけられることがあり，尺八は歌の細かい装飾音を模倣する。また，尺八が独奏することもある。なお，三味線(しゃみせん)の伴奏でお座敷唄として歌われる追分節は，追分本来の様式からは離れたものである。 〔山口　修〕

おう 【王】 ➡君主制

おうあんしんしき 【応安新式】 二条良基*(よしもと)が救済*(ぐさい)の協力を得て1372年(応安5)に完成した連歌式目。連歌制作としての式目は，13世紀中ごろの《本式目》以来，《建治式目》《藤谷(ふじがやつ)式目》などが各地に行なわれたが，その統一を意図して編集されたもの。韻字事・輪廻(りんね)事・本歌事・一座一句物・可隔三句物・句数・体用事など17項目からなる。

おうあんせき 【王安石】 (1021～1086) 中国，北宋(ほくそう)の政治家・文人。原籍は撫州(ぶしゅう)臨川(江西省)，建業で育った。王荊公(おうけいこう)とよびならわす。1042年の進士。江南の地方官を歴任，その間《万言の書》により政治改革の必要と具体策を述べ注目された。国防費増大による財政危機，大土地所有進行による中小農民の没落に対処するため，5代皇帝神宗は1070年彼を宰相に抜擢(ばってき)し，新法とよばれる大改革を断行させた。中小農民や商人を救済し，国家財政の安定と強兵を目的とした新法は，あまりに急進的で，利益を侵害された地主・豪商・官僚など保守派の猛反対を受けて挫折(ざせつ)，1076年失脚，建業に引退した。性質はややかたよるが，当時としては珍しい現実を直視する合理主義者。唐宋八大家のひとりとして詩文にすぐれる。〔梅原　郁〕

おうい 【横位】 子宮内での胎児の位置が横である状態。すなわち，胎児軸(児頭と臀部(でんぶ)とを結ぶ線)と母体子宮軸が直角に交差するものをいう。妊娠中には比較的しばしばみられるが，末期には非常に少なくなる。横位になった成熟児では自然分娩(ぶんべん)は不可能。

おうい 【王維】 (701～761) 中国，唐代の詩人。仏教を信ずること厚く，官界でかなりの地位を占めたが，都長安の近郊，藍田(らんでん)の輞川(もうせん)に隠棲(いんせい)し，清浄な自然の風光を詩にうたい，絵に描いた。《輞川集》20首は，その代表作である。756年からの安禄山(あんろくざん)の乱のときは，賊軍に捕えられ，これに臣事したけれども，詩文の徳で罪が許された。後世，蘇軾*(そしょく)は，王維の詩画を〈詩中画あり，画中詩あり〉と評している。

オウィディウス [Publius Ovidius Naso] (BC43～AD17ごろ) 古代ローマの詩人。中部イタリアの町スルモの生まれ。ローマで法律・弁論学を学び，のち父親の希望でアテナイに遊学。シチリア・小アジアを旅行してローマに帰る。3度結婚した。ローマで下級官吏職についたが，《恋はさまざま》で一躍文名をあげる。《名婦の書簡》も評判になったが，《色の道》は謹厳なアウグストゥス*帝の忌諱(きい)に触れ，詩人の不謹慎な態度とあいまって追放のうきめをみた。流謫(るたく)の地，厳寒のトミスで現地人の尊敬と好意に守られつつ詩作に励み，この地で他界した。

彼は人々を楽しませるために詩作した。ふんだんに比喩(ひゆ)を用い，明るく洗練された文章を書き，その作品は機知にあふれている。《恋はさまざま》は16年に発表。《名婦の書簡》は古代の有名な婦人たちの書簡という趣向で書かれている。《祭暦詩》や《色の道》のほか《転身譜*》15巻が代表的な作品とされている。 〔久保正彰〕

おういん 【押韻】 韻文*において，同音または類音を一定位置にくり返して用い，音律的効果を高めようとすること。韻*を踏む位置によって，頭韻*・脚韻*などの別がある。外国の詩歌では，押韻は法則として守られるのが普通であるが，日本では個人の好みに終わっている。日本語のアクセントが高低アクセントであって強弱アクセント

でないこと，開音節語であること，母音の数の少ないことなどが，日本の詩歌に押韻を発達させなかった原因とされる。➔韻律　〔鈴木一雄〕

おううえつれっぱんどうめい　【奥羽越列藩同盟】 戊辰(ぼしん)戦争*のときに東北・北陸諸藩が結成した反政府軍事同盟。1868年(慶応4)仙台(せんだい)・米沢(よねざわ)の2藩は，会津藩擁護と徳川慶喜*(よしのぶ)の寛大な処分要求の運動を起こし，維新政府の奥羽鎮撫(ちんぶ)総督府に嘆願したが拒否された。薩摩(さつま)・長州2藩を中心とする維新政府の横暴に憤激した東北25藩，さらに北陸の新発田(しばた)・長岡など6藩も加わり，列藩の代表者が仙台領白石に集まって会議し，同盟が成立，新政府と戦争関係にはいった。しかし同盟諸藩は一般領民の支持が弱く，政府軍に圧倒され，脱退藩もあって数か月で解体した。〔千野境子〕

おううさんみゃく　【奥羽山脈】 東北地方の脊梁(せきりょう)山脈で，東北地方の中央を約500kmにわたって南北に貫く。山脈自体の高度は1,000m内外でそれほど高くはないが，那須(なす)火山帯に属する諸火山(八甲田・岩手・蔵王(ざおう)・磐梯(ばんだい)など)がこの山地の上に噴出しているため，高度差が目だつ。また火山活動に由来する湖沼(十和田湖・田沢湖・猪苗代湖(いなわしろこ)など)や多くの渓谷(けいこく)があって，さらに地形を複雑にしており，これらは重要な観光資源ともなっている。地下資源にも恵まれ，銅・鉛などが採掘されている。山脈の諸々の鞍部(あんぶ)は，太平洋岸と日本海岸の諸都市を結ぶ交通路として古来利用され，鉄道や道路が各所でこれを横断している。〔高野　繁〕

おううせんそう　【奥羽戦争】 ⇨戊辰(ぼしん)戦争

おううほんせん　【奥羽本線】 福島～秋田～青森間の国鉄路線。営業キロ数487.4。他に貨物支線9.6kmがある。1894～1905年(明治27～38)開業。奥羽山脈西側の米沢(よねざわ)・山形・横手・秋田・能代(のしろ)・大館(おおだて)・津軽の各平野・盆地を連ねて，奥羽地方中央部および日本海岸を縦断する幹線鉄道である。福島～山形間が電化されている。

おうえいのがいこう　【応永の外寇】 李(り)氏朝鮮(➔李朝)による日本攻撃事件。建国以来倭寇*(わこう)に悩まされてきた朝鮮は，太宗*の時代となり，ようやく下火となりつつあった倭寇を壊滅しようと，1419年(応永26)兵力17,000をもって根拠地対馬*(つしま)を攻撃した。朝鮮はまもなく兵を対馬から引いたが，日本国内には中国軍来寇のうわさが流布した。1423年太宗が没し，朝鮮と対馬の修好が回復して治まった。

おうえいのらん　【応永の乱】 大内義弘*(よしひろ)が室町幕府に対して起こした反乱。周防(すおう)・長門(ながと)(ともに山口県)，石見(いわみ)(島根県)，和泉(いずみ)(大阪府)など6か国の守護となった大内義弘が，対明(たいみん)貿易によって経済力を強化し，当時最大の守護大名を誇ったため，将軍足利(あしかが)義満と不和になった。義弘は鎌倉公方(くぼう)足利満兼および諸豪族と結んで，1399年(応永6)兵をあげたが敗死した。

おうえきげんそく　【応益原則】 租税原則の一。政府が提供する財・サービスは，社会の人々に広く利益を与える。それをまかなう租税を，いかなる原則に立脚して個個人に課すべきかについて，応益原則と応能原則の二つがある。応益原則というのは，人々の受けた利益に応じて課税すべきであるというもので，固定資産税*や事業税*などは地域社会においてこの原則に立脚して課される税である。これに対し，応能原則とは，人々の負担能力に応じて課税すべきであるというもので，所得税*や法人税*がその代表である。〔西野義彦〕

オーウェル　［George Orwell］ (1903～1950)　イギリスの小説家。本名エリック-ブレア。イギリス税関吏の子としてインドに生まれ，ビルマ・フランスなどを転々としたのちイギリスに帰り，その間種々の職業についた。その作品はいずれも自己の体験に根ざしたもので，処女作であるどん底生活の記録《パリとロンドンでの最低生活》，イギリス炭坑地帯の悲惨な生活の記録《ウィガン桟橋(さんばし)への道》，スペイン内乱に人民戦線の義勇兵として参加した経験に基づく《カタロニア賛歌》などは，時代の証言となっている。小説においても，時代状況への批判がその主題となり，代表作である《動物農場*》《1984年*》には，独裁政治や全体主義体制への鋭い風刺が込められている。ほかに評論集《鯨の腹の中で》《象を撃つ》などがある。〔奥山康治〕

おうえん　【黄鉛】 クロムイエローともいう。鉛または一酸化鉛を硝酸または酢酸にとかして，可溶性鉛塩をつくり，これに重クロム酸ナトリウムの水溶液を加えてつくる。色相*は製造方法により異なり，緑色をおびた黄色は黄鉛10G，黄色は黄鉛5G，だいだい色をおびた黄色は黄鉛G，黄色をおびただいだい色は黄鉛R，だいだい色は黄鉛5Rのように色相によって黄鉛の名称は分類される。主成分は，黄鉛10Gおよび5Gでは$m\mathrm{PbCrO_4}\cdot n\mathrm{PbSO_4}+\mathrm{Al(OH)_3}$，黄鉛Gでは$\mathrm{PbCrO_4}$，黄鉛Rおよび5Rでは$m\mathrm{PbCrO_4}\cdot n\mathrm{PbO}$で表わされる。比重は5.3～7.0，吸油量は15～25ml/100g，粒子の大きさは約0.1～1.0μ。日光では退色しにくいが，徐々に黒変する。緑色をおびた黄色のものは黒変しやすく，だいだい色のものは黒変しにくい。希硝酸には完全にとけ，硫化水素ガスでは黒変する。黄色顔料として最も多量に使用されていて，塗料・印刷インキを主体として，絵の具，リノリウム・プラスチックの着色材として使用されている。➔顔料　〔品田　登〕

おうえんか　【応援歌】 スポーツ，特に学生スポーツでゲームの最中に味方を励ますために観客によって歌われる歌。日本で応援歌が成立したのは1890年(明治22)の第一高等学校と東京高等商業学校のボートレースのときであるといわれる。その後も軍歌*や唱歌*の歌詞を変えて応援歌として歌われてきたが，昭和にはいってから大学野球の早慶戦を機会に《若き血に燃ゆるもの》や《紺碧(こんぺき)の空》などの新作が現われた。今日では応援に際して，学生歌・校歌なども歌われている。〔徳丸吉彦〕

オーウェンズ　［Buck Owens］ (1929～　)　カントリー-アンド-ウェスタンの歌手・作詞家・作曲家。テキサス州シャーマンの生まれ。はじめトミー-コリンズの楽団でギター奏者として活躍し，1959年《アンダー-ユア-スペル-アゲイン》で歌手としての人気を得た。自作のヒット曲に《じゃじゃ馬娘》《トギャザー-アゲイン》がある。

おうかくまく　【横隔膜】 哺乳(ほにゅう)類の心臓・肺などを含む胸腔(きょうこう)と，肝臓・腸などを含む腹腔との境界にある膜状の筋肉。胸部には12個の胸椎(きょうつい)，12対のろっ骨，1個の胸骨から構成されるかご状の胸郭があり，胸部内臓を保護するとともに呼吸運動にあずかっている。胸郭の下部は広く広がりこれを胸郭下口というが，この部に横紋筋からなる横隔膜が胸腔に向かって円蓋(えんがい)状に張り，体腔を横に胸腔と腹腔を分けている。横隔膜は，胸骨から始まる胸骨部と，ろっ骨から始まるろっ骨部と，腰椎から始まる腰椎部に分かれ，この3部の筋繊維は横隔膜中央部の腱(けん)中心に集まる。ここに下行大動脈を通す大動脈裂孔，下大静脈を通す大静脈孔，食道を通す食道裂孔がある。横隔膜は緊張するとこの筋のつくる円蓋は低くなる。したがって胸部が大となり吸気が起こる。また，この筋が弛緩(しかん)すると円蓋は高くなり，呼気が起こる。すなわちこの筋は吸気筋として働き，腹式呼吸にあずかる。頸髄(けいずい)から出る頸神経の一つである横隔神経によって動かされる。しゃっくりは横隔膜がけいれんすることによって起こる。〔幡井　勉〕

おうがしゅうきょく　【横臥褶曲】 ⇨褶曲

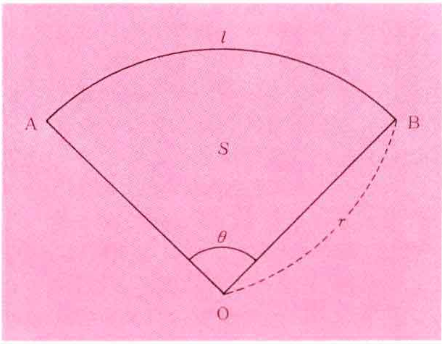
おうかしゅぎ　【欧化主義】 明治政府が近代国家としての基礎を短期間に築くためにとった政治・経済・文化上の一連のヨーロッパ化政策。この政策は1887年(明治20)ごろまで続いた。また条約改正*を有利にするために行なわれた鹿鳴館*(ろくめいかん)の舞踏会など，ヨーロッパの風俗の皮相な模倣をさして用いることもある。制度面では，議会制・官僚制・徴兵制・税制・学制の近代化が行なわれ，思想・文化の面においても，知識人を中心に近代思想の導入がなされた。代表的なものとして，福沢諭吉



王　翬《千巖万壑図》1693　国立故宮博物院蔵



扇



扇　形



オウギガニ

などの明六社の活動,植木枝盛(えもり)を中心とする自由民権思想(→自由民権運動)の啓蒙(けいもう),内村鑑三(かんぞう)らのキリスト者による活動などがある。これらすべてのヨーロッパ化運動はそれ自体は浅薄な模倣に終わったものが多いが,これらの運動を通じて近代国家の基礎が確立された点は高く評価される。〔浜岡政好〕

おうかん 【王鑑】 (1598〜1677) 中国,明(みん)末・清(しん)初の画家。四王呉惲(しおうごうん)のひとり。字(あざな)は円照,号は湘碧(しょうへき)など。江蘇(こうそ)省太倉の人。明末の学者・文人であった王世貞の孫で,官吏となって広東省廉州府の知府(太守)に至ったが,40歳で辞して郷里で文人的生活にはいった。同郷の王時敏を通じて呉派文人画の流れにくみし,元末の黄大痴(こうたいち)の画風を学んだ。作品は運筆が鋭く墨も濃厚で,書巻の気があると評された。〔中島純司〕

おうき 【王翬】 (1632〜1717) 中国,清(しん)初の文人画家。四王呉惲(しおうごうん)のひとり。字(あざな)は石谷,号は耕煙山人。江蘇(こうそ)省常熟の人で,呉派の文人画家王鑑が虞山(ぐさん)にいたころ弟子(でし)となり,のち王時敏の門にはいった。諸家の筆法を兼ねるが,特に五代の関同や北宋(ほくそう)・元末の大家に似て沈厚な水墨山水画をつくった。その画系は虞山派とよばれ,清朝文人画の正系である。

おうぎ 【扇】

①扇子(せんす)ともいう。扇には,神事祝儀(しゅうぎ)に用いるもの,儀式に際しての持ち物,詩・歌・絵などを書きつけるもの,涼をとるためのもの,という四つの機能が認められる。ヒノキやスギの薄板を糸でつづり合わせた檜扇(ひおうぎ)の系統と,折りたたみのできる紙(絹)製の摺畳扇(すりたたみおうぎ)系統とに分けられる。檜扇のほうが段階的には古い。摺畳扇は日本人の発明で,中でも蝙蝠扇(かわほりおうぎ)は平安時代に極度に発達し,平安末期から鎌倉時代にかけて,朝鮮・中国に輸出された。室町時代に男子の直衣(のうし)・狩衣(かりぎぬ)が装束の中心になると檜扇の代わりとして中啓(たたんでも少し開いているようにつくった扇)が生まれた。日本最古の扇は平城宮跡出土の檜扇で,広げると植物の葉のようになる。島根県の佐太神社所蔵の檜扇は平安末期のものといわれ,神聖な木の葉の模擬物として納められている。〔直江広治〕

②能で,手に持つ小道具のうち最も重要なもので,演技の核をなす。中啓の骨に漆を塗った黒骨は女性・鬼・武将に,竹の生地のままの白骨は神・老人の役に用いる。扇面に,朝日に白波を描いた修羅扇(しゅらおうぎ)や赤地にボタンを一輪描いた鬼扇など,決まり模様によって指定がある。地謡・囃子方(はやしかた)などは普通の扇子と同じ形の鎮折扇(しじめおうぎ)を腰に差して出,着座すると前または右横に置く。能の登場人物でも,平服の武人,庶民の男の役の持つ扇はこれである。舞囃子や仕舞では中啓を用いることは少ない。素謡用も鎮折扇であり,流儀によって観世水・五雲・五星などの決まり模様がある。なお,狂言では主として鎮折扇を用い,1本の扇をのこぎりや筆・杯などに見立てる演技が特徴的である。〔増田正造〕

③邦楽では,歌唱者は儀礼的持ち物として舞台に携え,休んでいるときは床に置き,歌う場合は手に取って合い図を兼ねる。舞踊の扇は小道具として欠かせぬもので,儀礼的な意味のほかに,扇自身が種々の物を表現し,踊りの内容の説明を助ける役目をもつ。〔後藤瑠美子〕

おうぎがた 【扇形】 一つの円弧とその両端を通る半径で囲まれた図形。半径のつくる角を扇形の中心角という。扇形の弧の長さl,面積Sは,半径がr,中心角がθ(弧度法による)または$x°$であるとき,それぞれ次のように表わされる。

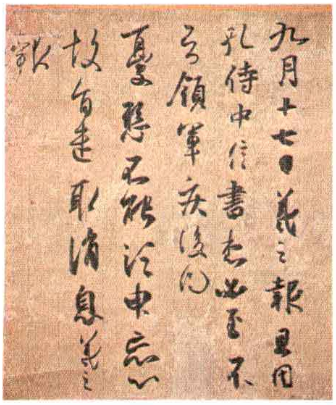
$$l = r\theta = \pi r \times x/180$$

$$S = r^2\theta/2 = lr/2 = \pi r^2 \times x/360$$

おうぎがに 【扇蟹】 甲殻(こうかく)類・オウギガニ科のカニ。甲らの幅が3cm程度の

小形種で，甲らは名のように扇形をしている。房総以南，太平洋・インド洋に広く分布し，わが国の磯(いそ)にもごく普通である。オウギガニ科のカニは種類が多く，わが国にも多種いるが，ほとんどが小形種で，食用にはされない。最近，その中の一種，スベスベマンジュウガニの肉に，猛毒があることが報告された。

おうぎし　【王羲之】（307？～365？）中国，東晋(とうしん)時代の書家。字(あざな)は逸少。名門王氏の出身で，曠(こう)の子，導のおい。瑯邪臨沂(ろうやりんき)（山東省）の人。351年右軍将軍となったので，世に王右軍とよばれる。次いで会稽(かいけい)内史となり，355年退官してのちこの地にあって余生を楽しみ，59歳で没した。書は隷・行・草・章草・飛白の諸体をよくし，絶妙入神の域に達して，後世，書聖の称がある。いま，伝わるのは小楷(しょうかい)の楽毅論*(がっきろん)，行書の蘭亭序*(らんていじょ)，行草の尺牘(せきとく)（書状）など数百帖(じょう)に及ぶ。中でも真跡から双鉤塡墨(そうこうてんぼく)（→臨摸(りんも)）の方法によって写しとった《喪乱帖*(そうらんじょう)》や《孔侍中帖》が最も信頼性のある筆跡として名高い。王羲之の書風はわが国にも奈良時代に伝わり，大きな影響を及ぼしている。　〔中田勇次郎〕



王　羲　之《孔侍中帖》

おうぎばしょう　【扇芭蕉】単子葉植物・バショウ科。アフリカ東岸のマダガスカル島原産の多年草。高さ10～15mになり，木質の茎をもつ木状草本。葉が一平面に展開し扇状になる。葉柄の基部にたまる水を旅人が飲用するという説により，タビビトノキ(旅人木)ともよばれる。しかし，この植物は砂漠(さばく)のような乾燥地にははえないので想像説ともいわれ，また葉面が一方向を向くところから，それで方角を知ることができるためその名がつけられたともいう。



オウギバショウ

おうぎょく　【黄玉】⇨トパズ

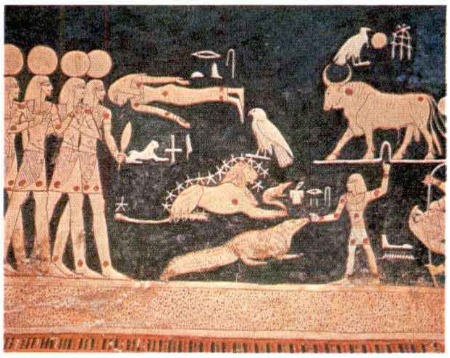
おうけつ　【甌穴】川床のかたい岩石の面に掘られた円形の穴。川床のわずかのくぼみにも水のうずができやすく，そのうずの中で回転する砂や岩石の破片が岩面のくぼんだ部分を削ってしだいに深くすると，その中にはいった岩片は水とともに回転していよいよ穴を深くする。穴の中には摩滅して円形になった石が残ることも多い。直径や深さはまちまちであり，川の上流の急流や滝の付近にできることが多い。木曾(きそ)川峡谷の〈寝覚(ねざめ)ノ床*〉，宮崎県の〈関ノ尾〉の甌穴は有名である。　〔平山　健〕



甌　穴　大淀川の甌穴(宮崎県，関ノ尾)

おうけつえん　【黄血塩】$K_4[Fe(CN)_6]\cdot 3H_2O$ フェロシアン化カリウムともいう。黄色の結晶で，徐々に熱すると100℃で結晶水を失って白色の粉末(無水物)となる。毒性はないが，希硫酸または濃硫酸と加熱すると，シアン化水素または一酸化炭素を発生して毒性が現われる。第二鉄塩溶液を加えると，濃青色の沈殿(ベルリン青)を生じる。この反応はきわめて鋭敏で，第二鉄イオンの検出に用いられる。

おうけのたに　【王家の谷】ナイル川中流の古都テーベ(現在のルクソール)の西岸台地の後ろの谷で，エジプト新王国時代の王家の墳墓がある。墳墓は副葬品の盗難を避けるために，人里離れた岩峡に横穴式でつくられたが，そのほとんどが盗難にあった。1922年，イギリスの考古学者カーター*が未盗掘のツタンカーメン*の王墓を発見して注目を浴びた。付近から，計算書・領収書・手紙など当時の記録が発見され，古代エジプトの職人の生活状況が判明した。　〔高山高雄〕



王 家 の 谷　王家の谷にあるセティ1世の岩窟墳墓の天井壁画《星座の図》　第19王朝

おうけん　【王建】

1（？～830あるいは840）　中国，唐中期の詩人。字(あざな)は仲初。楽府*(がふ)にすぐれ，《宮詞》100首が最も有名。

2（847～918）　中国，五代前蜀(ぜんしょく)の創設者。高祖。在位907～918年。黄巣(こうそう)の乱*鎮圧に参加し，884年四川に逃亡して僖宗(きそう)のもとに走って功績をあげた。唐の滅亡後自立し，成都で帝位につく。1943年にその墓を発掘し，王建の像をはじめとする多数の石刻美術品を出土した。

3（877～943）　朝鮮，高麗(こうらい)の創設者。太祖。百済(くだら)を撃ち，新羅(しらぎ)を合わせて朝鮮を統一した。

おうげんき　【王原祁】（1642～1715）中国，清(しん)初の画家。四王呉惲*(しおうごうん)のひとり。字(あざな)は茂京，号は麓台(ろくだい)。江蘇(こうそ)省太倉の人。康熙朝(こうきちょう)（1670)の進士で多くの要職を歴任し，書画譜館総裁として《佩文斎(はいぶんさい)書画譜》の編纂(へんさん)に関係した。王時敏*の孫にあたり，その指導によって呉派文人画のにない手となった。四王のうち最も黄公望*の画法・画趣に近く，気韻の高さを〈高曠(こうこう)〉と評され，その画系は婁東(ろうとう)派とよばれる。　〔中島純司〕

おうけんけいやく　【黄犬契約】労働者が労働組合に加入せず，もしくは組合活動をしないことを雇用条件とする労働契約。このような契約は，憲法28条の団結権保障の趣旨に反し，組合の弱体化を招く。わが国の労働組合は大部分企業別組合*なので，特にそれを不当労働行為*として禁止している(労働組合法7条1号)。なお，黄犬は〈臆病者(おくびょうもの)〉を意味する英語の俗語イエロー-ドッグの訳。

おうげんさく　【王玄策】中国，唐の太宗・高宗朝のインド使節。まとまった伝記がないので生没年は不明。出身地は洛陽(らくよう)か。643～646年李義表(りぎひょう)の副使，647～648年，657～661年正使として，3度インドにおもむく。ハルシャ-バルダナ*の没後マガダ王国*の王位を奪い，一行の入国を拒んだ阿羅那順(あらなじゅん)を長安に連れ帰った第2回渡印は有名。このとき鹿野苑(ろくやおん)で仏足石を図写したが，これは遣唐使の黄書本実(きぶみのもとみ)によってわが国にもたらされ，753年(天平勝宝4)に薬師寺で石刻された。《中天竺(ちゅうてんじく)行記》10巻，図3巻を著わす。　〔勝村哲也〕

おうけんし【王献之】(344～388, 一説に386) 中国, 東晋(とうしん)時代の書家。字(あざな)は子敬。王羲之*(おうぎし)の第7子。建威将軍・呉興大守を経て中書令となったので, 世に王大令とよばれる。父とともに書名が高く, 二王の称がある。書風は父に比べて, 骨勢は及ばないが媚趣(びしゅ)に富んでいると評されている。小楷(しょうかい)の《洛神賦(らくしんぷ)》, 行草の尺牘(せきとく)(書状)《地黄湯帖(じおうとうじょう)》《廿九日帖》《送梨帖(そうりじょう)》《中秋帖》などがある。〔中田勇次郎〕

おうけんしんじゅせつ【王権神授説】 国王の権力は神から授けられた絶対のもので, 人民や議会からいかなる制約も受けるべきではないとする政治思想。王権の根拠を神に求める考え方は古代に発し, 中世を通じて行なわれてきたが, ふつう王権神授説という場合, 近代にはいって人民の勢力が台頭してきたころ, それに対抗する絶対主義擁護のイデオロギーとして現われてきたものをさす。イギリスではスチュアート朝のジェームズ1世*自身がこれを説き, イギリス革命期にフィルマーがそれを受け継いだ。フランスではルイ14世時代のボシュエ*の説が有名である。〔大野慎一郎〕

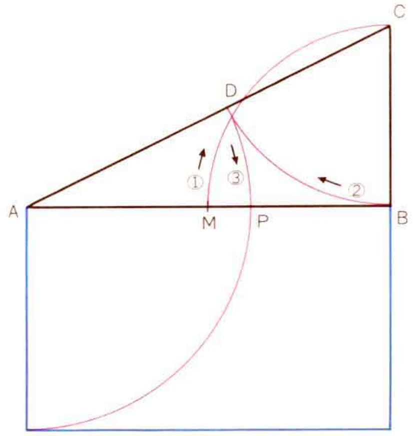
おうご【応其】(1525～1606) 安土桃山時代の真言宗の僧。木食上人(もくじきしょうにん), または興山上人の名で知られる。もとは武士で, 37歳のとき出家して高野山にはいった。応其の名を高めたのは, 1585年(天正13)豊臣秀吉(とよとみひでよし)が高野山を攻撃しようとしたとき, 秀吉に単身会見して和議を整えたことによる。以来秀吉の帰依を受け, 秀吉の命令で京都に大仏をつくり, また高野山に興山寺を建立(こんりゅう)した。木食上人という名は, 木の実とくだものだけで一生貫いたのに由来する。〔金岡秀友〕

おうこうぎょるい【横口魚類】 軟骨魚類のうち, ギンザメ類を除いたエイ・サメの仲間をいう。5対ないし7対のえら穴をもっていること, 口が体の下側についていることなどが特徴である。

おうこくい【王国維】(1877～1927) 中国の学者。浙江(せっこう)省海寧の人。字(あざな)は静安, 号は観堂。1898年上海(シャンハイ)の日本語学校に学び, 1901年日本に留学。翌年帰国後, ドイツ哲学と中国文学史(特に宋(そう)・元以後の戯曲・小説)の研究に携わる。1911年辛亥(しんがい)革命を避け, その師羅振玉(らしんぎょく)とともに一時京都に住む。のち研究の中心を経学・史学に移す。清朝(しんちょう)考証学の伝統と西洋近代精神を合わせ, 殷墟(いんきょ)の卜辞(ぼくじ), 漢代の木簡などについてすぐれた研究を発表。1927年清朝の前途を憂えて, 北京(ペキン)で入水(じゅすい)自殺した。〔小南一郎〕

おうごんかいがん【黄金海岸】 ⇨ガーナ(共和国)

おうごんのろば【黄金のろば】 アプレイウス*作のラテン語で書かれた最古の小



黄金分割



おうし座

説。《変身物語》ともいわれる。11巻。魔法の失敗から人間がロバに変身し, 各地をさまよう。その途上さまざまな経験や風俗・人情を味わう。庶民の生活, 好色な人の性, 山賊の生活などをやや猥雑(わいざつ)な筆致で書き連ねている。しかし4～6巻を占める〈クピドとプシェケー〉の章は全体の調子から離れて, ふたりの愛の清らかさと純粋さが敬虔(けいけん)な態度で書かれている。〔久保正彰〕

おうごんぶんかつ【黄金分割】 黄金截(おうごんせつ)・黄金比ともいう。線分ABを点Pで二つの部分に分け, AP : PB＝AB : APすなわちAP^2＝AB・PBのとき, これを点Pによる線分ABの黄金分割という。この黄金分割の作図は図のように①②③の順序で行なえばよい。黄金分割によって得られる比AP : PB＝$(1+\sqrt{5}) : 2$＝1.618‥‥を黄金比とよぶ。また, 長方形で2辺の比が黄金比をなすものを黄金長方形といい, 身近なものの中にも名刺・画布など多く見られる。〔菊池兵一〕

黄金比は, 自然や美術作品に認められる各種比例のうち, 古くから最も調和ある美的なものとされ, エジプトやギリシアの神殿・彫刻などに盛んに採用されてきた。以来, 現代(たとえばスーラ*の絵画)に至ってもそれは顕著に認められている。また, 19世紀の半ばに, 黄金分割の比が普遍的法則として自然の美および美術一般を支配することを立証しようとしたドイツの美学者A. ツァイジングの試みは有名である。ただ, 美の概念は時代・地域などによって一定しないから, この比例関係が美の原理として通用する範囲はおのずから限定されている。〔松久勝利〕

おうごんもんじょ【黄金文書】 ⇨金印勅書

おうさかやま【逢坂山】 滋賀県大津市西部にあり, 京都府に接する。比叡(ひえい)山の南に続く小丘陵で近江(おうみ)盆地から京都山科(やましな)の盆地へ抜ける鞍部(あんぶ)にあたる。古くから交通の要衝となり, 逢坂ノ関が置かれた。現在, 東海道本線が逢坂山トンネルによってここを通り, また国道1号線・名神高速道路なども通じている。

おうじ【王子】 東京都北区中央部の地区。もとは北豊島(きたとしま)郡王子村であったが, 1908年(明治41)に町制を施行, 1932年(昭和7)区制施行の際に王子区の一部となった。王子区はさらに1947年滝野川区と合併して北区と改称された。王子駅周辺は国電・都電・バスなどの交通網に恵まれて, 古くから北区の中心地区となり, 1872年日本最初の洋紙製造工場が設立されて以来, 工業地域が駅前から東方の豊島・堀船(ほりふな)方面へかけて発展し, 十条製紙・日本油脂・日産化学工業・日本金属・保土谷(ほどがや)化学工業などの大工場が多い。台地上には北区役所があり, 飛鳥山(あすかやま)公園は江戸時代以来のサクラの名所であった。〔浅井得一〕

おうじ【王寺(町)】 奈良県北葛城(きたかつらぎ)郡の町。人口17,000。県西部にあり, 大和(やまと)川が奈良盆地から大阪平野へ出る峡谷部にある交通の要地。関西本線・和歌山線の分岐点であり, 近畿(きんき)日本鉄道信貴生駒(しぎいこま)線・田原本(たわらもと)線の起点で, 国道25号線が通る。このような交通上の利点から, 近時, 工場の進出, 住宅の造成が進んでいる。

おうしざ【牡牛座】 黄道第2星座。秋から冬にかけて南の空高くに見える。主星アルデバランの付近に群がるヒアデス星団, 宝石のようにきらめくプレアデス星団, 超新星*の残骸(ざんがい)で電波やX線を強く放射しているかに星雲など, 興味ある天体が存在している。➔星座

おうじせいし【王子製紙(株)】 1873年(明治6)に創設され, 日本の製紙業発展の歴史とともに伸びてきた, 製紙業の最大手。第2次世界大戦前の旧王子製紙はわが国の紙生産の85%を占め, 業界に独占的な地位を築いていたが, 1949年(昭和24)に過度経済力集中排除法*の適用を受けて3分割され, 苫小牧(とまこまい)製紙・十条製紙・本州製紙の3社が新発足した。のちに苫小牧製紙が王子

製紙に社名を変更。新興製紙会社の進出により，旧王子3社の市場占拠率は落ちたが，王子製紙は新聞用紙・クラフト紙の生産では依然業界のトップを占めている。1968年に3社の合併が一時話題になったが，市場独占に反対する公正取引委員会の動きもあって実現しなかった。本社東京，工場は苫小牧(新聞用紙)・愛知県春日井(かすがい)(上質紙・クラフト紙)にあり，大規模で徹底的な集中生産体制が敷かれている。また北海道に材木育種研究所をもつ。資本金196億3,700万円，年間売上高3,070億2,900万円，従業員数6,259(1980年9月)。

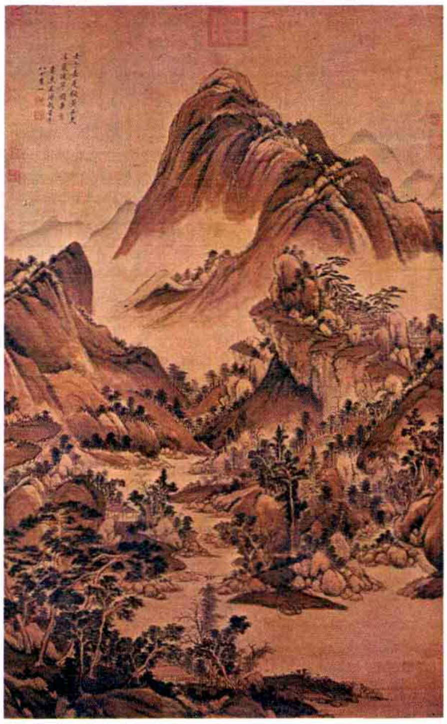
おうじっぽ 【王実甫】 (1200？～？) 中国，元代の劇作家。関漢卿(かんかんけい)・馬致遠(ばちえん)・白樸(はくぼく)と並ぶ元初四大作家のひとり。作品は，《麗春堂》《西廂記*(せいそうき)》《破窰記(はようき)》の3種が現存しているが，《西廂記》が最も有名。

おうしてい 【王士禎】 (1634～1711) 中国，清(しん)代の代表的詩人。詩論上，〈神韻説〉を主張し，修辞の技巧や構想の妙を離れて，おのずから感ぜられる風趣を重んじた。詩の音律に厳格であった。

おうじびん 【王時敏】 (1592～1680) 中国，明(みん)末・清(しん)初の文人画家。字(あざな)は遜之(そんし)，号は烟客(えんきゃく)。四王呉惲*(しおうごうん)のひとり。宋(そう)・元の名家，特に黄公望*をよく学び，董其昌*(とうきしょう)に認められて清朝文人画に呉派中心の傾向を確立した。詩文書に通じ，しかも名画の収集家でもあったので，その門下から王翬*(おうき)らの画家が育った。その画系は婁東(ろうとう)派といい，虞山(ぐざん)派*とともに清朝文人画の中心勢力である。 〔中島純司〕

おうしゅう 【押収】 刑事裁判または捜査において，証拠として必要な物を押えて確保する処分のこと。裁判所，または裁判官の令状を得た捜査機関(検察官・検察事務官・警察官)が行なう。差し押え*・提出命令・領置の3種がある。差し押えは，相手の意思如何(いかん)にかかわらず強制的に物を押えること。提出命令は，裁判所・捜査機関などが所持者から物の提出を命ずること。領置は，被告人その他の者が遺留した物および所持者らから任意に提出した物を預かることをいう。押収を行なうにあたり令状を要する場合は令状を示して押収物の目録を作成交付し，押収の必要がなくなったときには還付しなければならない。なお押収は，証拠物のほか，刑事裁判の没収物についても行なわれる。 〔井上公耳〕

おうじゅう 【王充】 (27～96) 中国，後漢初期の批判的思想家。字(あざな)は仲任(ちゅうじん)。貧家に生まれ下級官吏として生きたが，晩年にその博学を駆使して，当時の豪族政治の生んだ学問・思想の腐敗・不合理を批判した《論衡》を書いた。彼が批判したのは，王朝を絶対視するための讖緯説*(しんいせつ)や豪族政治を正当化するための陰陽五行説*である。彼は，これらが権威に盲従する御用学者の不合理で神秘的な思想であることを暴露した。しかし，彼の思想的根拠は〈気〉の自然運動を絶対視する宿命説であった。 〔西 順蔵〕



王 時 敏 《浮嵐暖翠図》 1672 国立故宮博物院蔵

おうしゅうあだちがはら 【奥州安達原】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。5段の時代物で近松半二*・竹本三郎兵衛(さぶろべえ)らの合作。1762年(宝暦12)竹本座初演。翌年，歌舞伎(かぶき)に移された。前九年の役以後の安倍貞任(あべのさだとう)・宗任(むねとう)兄弟を中心に一族再挙の苦心を，安達原黒塚(くろつか)伝説や謡曲の《善知鳥(うとう)》および先行の浄瑠璃(じょうるり)作品を織り混ぜて脚色している。3段目の切りにあたる〈袖萩祭文(そではぎさいもん)〉の段は特に名高い。 〔前田慎一〕

おうしゅうかいどう 【奥州街道】 五街道*の一。奥州道中ともいう。江戸～白河(しらかわ)(福島県)間の幹線道路で，千住・宇都宮(うつのみや)などを経て31宿。江戸～宇都宮間は日光街道*も兼ねていたから，厳密には宇都宮～白河間をさした。栗橋宿*(くりはしじゅく)には関所*があった。この街道で参勤交代*する大名は30余家を数え，蝦夷地(えぞち)(北海道)が要地になってからは，幕臣らが往復する公用路として重要性を増した。

おうしゅうせいばつ 【奥州征伐】 1189年(文治5)，源頼朝*(よりとも)が奥州平泉(岩手県)の豪族藤原泰衡*(やすひら)を征討した戦い。秀衡(ひでひら)死後頼朝は奥州を幕政下に収めるため藤原氏の保護下にある源義経*(よしつね)を殺すよう泰衡を威圧した。それに屈した泰衡は義経を殺したが，頼朝はその遅滞を理由にしてみずから兵を率いて奥州を攻め，藤原一族を滅ぼし全国統一を完了した。

おうしゅうそうぶぎょう 【奥州総奉行】 鎌倉幕府が奥州(東北地方)統治のために置いた官職。1189年(文治5)源頼朝(よりとも)の奥州征伐*後，葛西清重(かさいきよしげ)・伊沢家景(いざわいえかげ)らが，それぞれ陸奥(むつ)御家人奉行(ぶぎょう)・陸奥留守職(るすしき)に任ぜられ，御家人の統率，庶民の訴訟取り次ぎなどをつかさどったが，のちにこの両者が奥州総奉行とよばれた。北条(ほうじょう)氏が陸奥守(むつのかみ)を世襲すると同時に実力を失った。

おうしゅうたんだい 【奥州探題】 奥羽地方の鎮撫(ちんぶ)・民政をつかさどった室町幕府の地方行政機関。南北朝時代，足利尊氏*(あしかがたかうじ)が北畠親房*(きたばたけちかふさ)に対抗させるため石堂義房(よしふさ)を派遣したのに始まる。畠山国氏・吉良貞家(きらさだいえ)のあと，一時，貞家を殺した国氏が独占した。しかしのち吉良・畠山両氏，斯波(しば)氏が職を継ぎ，1590年(天正18)豊臣秀吉(とよとみひでよし)に滅ぼされるまで続いた。

おうじゅうよう 【王重陽】 (1112～1170) 中国，金代の道士。重陽は号。名は哲。薬やお札によって不老長生を願う従来の道教を革新し，禅や儒教の修道によって安心を得るという三教一致の新道教〈全真教*〉を創始した。➔道教

おうしゅうれいぼ 【奥州鈴慕】 尺八古典本曲(本来の尺八音楽レパートリー)の中でも三虚霊*という最古の3曲に次いで代表的な鈴慕物の一つの変形。故人あるいは離別した人を慕う気持ちを表現しているともいわれるが，純粋に抽象的な器楽曲として解釈することもできる。《葦草(いぐさ)鈴慕*》《九州鈴慕》などと同列に並び本質的には同じ曲であるが，地方的な差異が多少生じているために，この曲には奥州の名がつけられる。➔鈴慕 〔山口 修〕

おうしゅく 【王粛】 (195～256) 中国の魏晋(ぎしん)経学史の開幕者。字(あざな)は子雍(しよう)。魏の元勲である王朗の子で，司馬文王の義父。鄭玄*(じょうげん)の経学体系を批判して《尚書(しょうしょ)》《詩》《左伝》《論語》などの注釈書を著わす一方，《孔子家語》を偽作，当時の政治社会の実情に適した合理主義的な経学を展開し，魏晋両王朝のイデオローグの役割を果たした。

おうしゅくおんせん 【鶯宿温泉】 岩手県岩手郡雫石(しずくいし)町にある温泉。泉温47～56℃，泉質は硫化水素泉で，胃腸病・神経痛・リウマチにきくといわれる。北上川の支流鶯宿川に臨む静かな温泉で，カジカの名所として，また名石〈忍石(しのぶいし)〉の産地として知られる。最近は盛岡市民の週末休養地に利用されている。田沢湖線雫石駅からバスの便がある。

おうじょう 【往生】 仏教用語で，西方極楽の世界に死後生まれること。転じて，俗に死と同じ意味にも使われる。特に浄土教*では重要な語である。平安朝以降の

伝記や物語には浄土往生を確信して，戦いや苦しみの中にも安らかに死を迎える人人が数多く描かれている。こうした確信によって死の恐怖を越え，死・生ともに煩いのない暮らしが期待される。往生の確信によって，死後でなくむしろ現実において心定まるときこそ，往生に準ずるものとの考え方もある。これらは，往生の字句の意味でなく，人生への意味を示すものである。〔真野龍海〕

おうしょうくん【王昭君】 中国，漢の元帝の官女。名は嬙(しょう)。昭君は字(あざな)。生没年は不明だが，BC100年代の人。漢では武帝より宣帝まで，たびたび匈奴(きょうど)征伐を行なったため，匈奴は郅支単于(ちしぜんう)の北匈奴と，呼韓邪単于(こかんやぜんう)の南匈奴に分裂。前者は漢と戦って敗死し，後者は漢に帰順し，北辺を守ることを請うたので，元帝はBC22年昭君を呼韓邪にとつがせた。彼女は寧胡閼氏(ねいこあつし)と称し男子2人を生み，さらに復株累単于(ふくしゅたいぜんう)に再嫁して2女を生んだ。この王昭君が匈奴に嫁した悲話については，南北朝以来種々の伝説が付け加えられ，詩・絵画・楽曲の材として使われているが，晋(しん)の石崇の《王昭君辞》，元の馬致遠(ばちえん)の戯曲《漢宮秋*》などが著名で，わが国の雅楽や能にも取り入れられている。〔米田賢次郎〕

おうじょうようしゅう【往生要集】 源信*の著。3巻。985年(寛和1)に成立。末世の汚濁した世の中に適応しうる仏教は，往生極楽の教えのほかになく，極楽に往生するためには，念仏の実践が最もたいせつである，との趣旨を説いた書。数多くの仏典の中から往生極楽に関する要文を選集し，浄土教思想を組織的に構成している。法然*や親鸞*(しんらん)の思想形成に与えた影響は大きく，また文学や美術の上にも影響を及ぼしている。地獄・極楽の観念が一般化したのは本書に由来する。〔佐藤成順〕

おうしょくさんかてつ【黄色酸化鉄】 α-$Fe_2O_3 \cdot H_2O$ またはα-FeO(OH) 合成黄土・合成オーカー，またはオキサイドイエローともよばれる黄色顔料。一般には，硫酸第一鉄水溶液に鉄くずを入れ，加熱加水分解してつくる。比重は約3.9で，酸・アルカリには強いが，着色力は小さく，色はあざやかでない。加熱すると270℃付近で結晶水*を失ってα-Fe_2O_3(弁柄*)となる。塗料・絵の具，リノリウム・壁・紙・プラスチックなどの着色材として使用され，また近年金属フェライト(→フェライト)の原料として多量に使われている。〔品田 登〕

おうしょくしょくぶつ【黄色植物】 光合成植物の一門。カロチン・キサントフィル系の補助色素をもち，色素体は黄緑ないし黄かっ色。貯蔵物質は炭水化物の一種ロイコシンと油脂で，デンプンはつくらない。細胞壁は2殻(かく)からなりケイ酸を含むものが多い。黄色鞭毛藻(べんもうそう)類・ケイ藻類・黄緑色藻類の3綱を含む。

おうじん【応身】 ⇨三身

おうじんてんのう【応神天皇】 生没年不詳。5世紀初頭の天皇。名は誉田別(ほんだわけ)。仲哀天皇の第4皇子。母は神功(じんぐう)皇后。〈記紀〉に伝えるところは修飾が多いが，この時期に大和(やまと)国家の飛躍的発展があったこと，帰化人の大量渡来に伴い大陸文化の摂取が著しかったことはほぼ事実であろう。大和(奈良県)の軽嶋豊明宮(かるのしまのとよあきらのみや)を皇居とした。陵墓は河内(かわち)(大阪府)の恵我藻伏崗陵(えがのもふしのおかのみささぎ)で，封土の体積では本邦最大の古墳である。宋書(そうじょ)にみえる倭王(わおう)の讃(さん)を応神天皇のこととする説もある。なお天皇は後世八幡社(はちまんしゃ)の祭神として祭られ，武神として崇敬された。〔黛 弘道〕

おうすい【王水】 濃硝酸1体積と濃塩酸3～4体積の混合物。発生期の塩素や塩化ニトロシルを含み，強い酸化力があり，ほかの酸にはとけない金・白金をもとかすのでこの名がある。窒息性の臭気をもつ橙色(とうしょく)の液体で，空気中で発煙する。用途により濃度や両酸の混合比を変えることがある。混合比を逆にした物を逆王水という。試金・冶金(やきん)，貴金属の溶解に使用。

おうせいてい【王世貞】 (1526～1590) 中国，明(みん)代の文人。復古主義的な詩をつくった。通人で著述が多いが，評論集《芸苑卮言(げいえんしげん)》がよく知られている。

おうせいふっこ【王政復古】 武家政治あるいは共和政などが廃止され，以前の君主政体にもどること。歴史上重要なものに三つある。

[1]1660年，ピューリタニズムに基づく軍事独裁の性格をもつ護民官政治が崩壊し，チャールズ2世*が即位し，王政が復活したこと。また，これ以後名誉革命*(1688)までの時期をさす場合もある。護民官政治に対する不満が強まり，軍隊と議会の対立，軍隊内部の対立が激化し，1660年国王の復位を支持する人々が多数を占める暫定議会が開かれた。この議会がチャールズ2世に即位の交渉を行ない，彼はブレダ宣言*を発し，内戦中の政治犯の大赦，土地購入の確認，信仰の自由の保証を約束したうえで帰国し復位した。これは絶対主義への復帰を意味するものではなかったが，国王・廷臣・議会内の王党派の策動によってしだいに反動政治が行なわれた。土地の無償返還，革命派の処罰，旧教の復活，さらに非国教徒の排撃によって革命の成果を摘み取り，絶対王政の再建を試みようとした。1685年ジェームズ2世*即位後はますます反動化の道をたどり，ついに1688年名誉革命が起こり，王政復古時代は終わった。〔松下京子〕

[2]1814年4月パリに敗退したナポレオン1世が退位すると，亡命中のルイ18世が即位してブルボン朝*を復活した。しかし，エミグレ*(亡命貴族)と結んで急激に反動化して国民にきらわれ，エルバ島を脱出したナポレオンの政権復帰を招いた。ルイ18世は再び亡命したが，1815年6月ワーテルローの戦い*でナポレオンの百日天下が倒されたため，王位に復することができた。貴族・大地主・大商人を地盤にしたこの復古王政は，1824年即位したシャルル10世のもとでさらに反動化したため，1830年七月革命が起こって打倒された。〔大野慎一郎〕

[3]1867年(慶応3)12月9日，江戸幕府を廃止し，天皇親政を実現した政治変革。下層の公家(くげ)岩倉具視*(ともみ)を中心に，薩摩(さつま)・長州の両藩は武力倒幕をひそかに画策したが，その遂行直前の10月，将軍徳川慶喜*(よしのぶ)が大政を奉還し朝廷がこれを勅許したため，12月に至り王政復古の大号令が発布された。摂政・関白・幕府を廃止し，かりに総裁・議定・参与の3職の設置，万事神武創業のはじめに基づき，至当の公議を尽くすことを明示した。総裁に有栖川宮熾仁(ありすがわのみやたるひと)親王，議定には皇族および中山忠能(ただやす)・松平慶永(よしなが)・山内豊信(とよしげ)ら公卿(くぎょう)と諸侯，参与には岩倉具視・後藤象二郎・西郷隆盛*(たかもり)・大久保利通*(としみち)らのほか尾張(おわり)・越前(えちぜん)・安芸(あき)・土佐・薩摩の5藩の藩士各3人が就任した。

しかし，同夜京都御所内の小御所で開かれた御前会議は，慶喜の処分をめぐって深夜まで紛糾した。そして岩倉・大久保らの倒幕派は，土佐派の公議政体論をおさえて慶喜の辞官納地(官位辞退と領土返上)を議決したため，幕府側は権力を私物化するものと憤激し，1868年(慶応4)1月，鳥羽(とば)・伏見の戦い*を起こした。ここに旧幕府勢力と維新政府軍との間に戊辰(ぼしん)戦争*が開始された。官軍は勝利を収めながら東進，慶喜は水戸(みと)に謹慎した。江戸城総攻撃の直前に幕臣勝海舟*，官軍参謀西郷隆盛との間に会談が成立し，無血江戸開城を実現した。一方，1月15日，政府は各国公使に王政復古を通告し，同17日3職・7科(神祇(じんぎ)・内国・外国・海陸軍・会計・制度・刑法)の制を設置，天皇制政府の基礎を確立した。

さらに3月14日，五か条の御誓文*を，紫宸殿(ししんでん)に群臣を集め天神地祇に誓う形式で発表した。これは，内には公議世論(内容は列藩会議)の喚起による天皇親政，外には開国和親の新政方針を示し，新政権の安定を企図したものである。王政復古は，幕府を廃し宮廷雄藩連合政権樹立の道を開き，摂関などの廃止によりこれまで比較的家格の低い倒幕派公家の実権を確立したこと，公議の伸張を主張したことなどの意義をもっている。しかし天皇親政は，あくまでこのクーデターを正当化するための名目であり，維新新政の第1段の変革である。〔千野境子〕

おうせん【黄癬】 黄癬菌の寄生による皮膚病。毛髪の根もとを囲んでイオウ色のぼろぼろしたものがつき，それがしだいに大きくなって，低く円錐(えんすい)形に隆起したエンドウ大くらいのかたまりとなる。これは菌甲とよばれ，黄癬菌のかたまりで，ネズミの糞(ふん)に似た悪臭がある。はじめは点々と生ずるが，融合して全頭に及ぶ。菌甲下の皮膚は萎縮(いしゅく)し，毛が脱落して瘢痕(はんこん)状となる。生毛部・つめ，ときには手のひらその他毛のない部分にも生ずることがある。日本ではまれ。〔田嶋公子〕

おうせんけん【王先謙】 (1842～1917) 中国，清(しん)末の学者。原籍は湖南省長沙(ちょうさ)。歴史編集官として中央に出仕し，晩年は郷里で教育に従事。政治上では保守的な立場を堅持した。学問の範囲は広く総合的で，《東華録》《東華続録》《皇清経解続編》《漢書補注》《後漢書集解》など著書はすこぶる多い。

おうせんこぎって【横線小切手】 ⇨線引小切手

おうせんざん【王船山】 (1619～1692) 中国湖南省の生まれ。名は夫之(ふうし)。顧炎武*・黄宗羲*と並んで清(しん)初の三大師と称せられた。満州族の中国侵入に抵抗したが，清朝成立後は僻地(へきち)に潜んで著述の一生を過ごし，その民族思想は清朝末期の民族主義に影響している。また彼は哲学者であると同時に歴史評論家でもあり，その著《読通鑑論(どくつがんろん)》は有名。

おうせんし【王仙芝】 (？～878) 中国，唐末の反乱の指導者。山東省濮州(ぼくしゅう)の人。唐朝後半期の塩の専売政策は，多くの塩の密売商人を発生させた。王仙芝もそのひとりで，密売の取り締まりや処刑がきびしくなったうえ，貪欲(どんよく)な官吏の収奪の激しさに抵抗を決意し，874年末に反乱を起こした。黄巣*もこれに呼応し，全国的に反乱は拡大したが，王仙芝は878年に殺された。

おうそう・げんそう【往相・還相】 往相回向と還相回向のこと。回向*とは自分の行なった善行を他の人々または自分の悟りのために差し向けることであるが，仏事法会を営み，なき人の冥福(めいふく)を祈ることをも含める。曇鸞*(どんらん)はこれを往相と還相とに分けた。〈往相〉は自分の善行を他の人々にめぐらしてともに浄土に生まれようと願うこと，〈還相〉は浄土に生まれた者が再び濁世(じょくせ)に生まれてきて，人々を教え導き，浄土に向かわせることである。この説はのちの浄土教思想の展開に大きな影響を与えたが，親鸞*はこの立場を受けつつ，阿弥陀仏*(あみだぶつ)の救いの絶対性を強調し，往相・還相ともに阿弥陀仏の本願力(他力)に基づくと解釈した。〔奈良博順〕

おうたい【黄体】 排卵ののちに卵胞の壁からできる組織のかたまり。卵胞が破裂し排卵が起こると，その後の卵胞は卵胞液を失って卵胞壁は収縮する。しかしすみやかに黄体が形成されてその空隙(くうげき)を満たす。黄体は肥大した黄体細胞よりなり，その中に黄色顆粒(かりゅう)状の色素を含み，黄色を呈している。ヒトの黄体からはプロゲステロン(黄体ホルモン*ともよばれる)およびエストロゲンが分泌される。黄体は妊娠した場合には比較的長く存続するが，排出した卵が受精しない場合は短期日で退化する。ヒトの排卵は次回月経前14±2日に起こる(荻野(おぎの)学説)ことから，黄体の寿命は14±2日と考えられる。〔木川源則〕

おうたいけいせいホルモン【黄体形成ホルモン】 LH(luteinizing hormone)と略称される。間質細胞刺激ホルモン(ICSH)ともいう。脳下垂体前葉の塩基好性細胞から分泌されるタンパクホルモン。必要な成分として糖を含有する。雌ではFSH(卵胞成熟ホルモン)の作用によって成熟した卵胞に働きかけて排卵を起こさせ，黄体*の形成を促す。雄では睾丸(こうがん)の間質細胞(ライデッヒ細胞)を刺激して，アンドロゲン*の分泌を促す。〔木川源則〕

おうたいしげきホルモン【黄体刺激ホルモン】 LTH(luteotrophic hormone)と略称される。脳下垂体前葉から分泌され，すでに形成された黄体*を刺激し，黄体ホルモン*の分泌を促進すると考えられている。ラットおよびマウスでは，乳汁(にゅうじゅう)分泌を促す作用のあるプロラクチンに黄体刺激ホルモン作用があるが，ヒトではプロラクチンにはこの作用がない。また，ヒトでは黄体刺激ホルモンが脳下垂体前葉から分泌されているかどうかも現在のところ明らかにされていない。ただし，胎盤絨毛(じゅうもう)で産生される絨毛性性腺(せいせん)刺激ホルモンには，黄体刺激ホルモン作用が認められる。〔木川源則〕

おうたいホルモン【黄体ホルモン】 卵巣の黄体*から分泌されるホルモン。はじめブタの黄体から抽出され，この名がつけられた。その後結晶化され，構造式が決定された。いろいろな名称があるが，普通はプロゲステロンとよばれている。プロゲステロンはエストロゲンで増殖相とされた子宮内膜を分泌相に変え，妊卵の着床を準備する。また妊娠の維持に不可欠である。さらにプロゲステロンは妊娠中乳腺(にゅうせん)の発育を促し，またオキシトシン*に対する子宮筋の感受性を低下させる。プロゲステロンは黄体のみでなく，胎盤・副腎(ふくじん)・睾丸(こうがん)からも産生される。このため黄体ホルモンという語はプロゲステロンが卵巣で産生されることだけがわかっていた時代のもので，今日では適切な名称ではない。→性ホルモン →妊娠 →月経〔木川源則〕

おうたく【王鐸】 (1592～1652) 中国，清(しん)代の書家。字(あざな)は覚斯(かくし)。号は崇樵(すうしょう)・東皐長(とうこうちょう)・雪山道人・癡遷(ちせん)道人。河南孟津(かなんもうしん)の人。1622年の進士。明(みん)・清2朝に仕え，ともに礼部尚書(しょうしょ)に至った。詩文・書画ともによくし，絵は山水花鳥に長じて逸気にすぐれ，書においては楷書(かいしょ)は鍾繇(しょうよう)を，行・草は二王を学んで臨摸*(りんも)の功を積み，連綿草を得意として筆勢は雄暢(ゆうちょう)で抑揚頓挫(よくようとんざ)，絶妙の域に達した。文集に《擬山園集》があり，その書を集めた法帖(ほうじょう)に《擬山園帖》がある。〔中田勇次郎〕

おうたどころ【御歌所】 天皇・皇后のお歌(和歌)および歌御会をつかさどるところ。室町中期に歌会が和歌御会として宮中行事となったが，明治時代になると新年の恒例儀式となり，御歌所を設けて所長・参候・寄人(よりうど)などの職を置き，和歌に関する事務を取り扱わせた。

おうだん【黄疸】 血液中のビリルビン(胆汁(たんじゅう)色素)が増加し，皮膚・可視粘膜・尿などが異常に黄色調をおびる状態。一般に黄染が最も早く認められる部位は眼球結膜・硬口蓋(こうこうがい)粘膜で，血清ビリルビンが100mℓ中に2mgを越えると黄疸が認められるという。ビリルビンは肝内および肝外の特殊な細胞(細網内皮系細胞)でヘモグロビンよりつくられ，肝臓を通過することで，間接型より直接型に変化するとされている。デュシは1950年に①肝前性黄疸，②肝性黄疸，③肝後性黄疸と分類した。肝前性黄疸は過剰に血球が破壊されて起こり，溶血性黄疸や家族性非溶血性黄疸が属する。肝性黄疸は肝細胞の機能障害により胆汁分泌障害を起こしたもので，伝染性肝炎・血清肝炎，クロロフォルム・四塩化炭素・リン・サルバルサンなどによる中毒性肝炎，ワイル病・黄熱・黄色肝萎縮症(いしゅくしょう)・ラエンネック肝硬変などがある。肝後性の黄疸は，胆汁を腸へ流す胆管の流通障害によって起こるもので，胆石・カイチュウ・肝ジストマ，胆道の瘢痕狭窄(はんこんきょうさく)，膵臓(すいぞう)・胆嚢(たんのう)および肝臓の腫瘍(しゅよう)や，肝門リンパ節腫脹(しゅちょう)による胆道圧迫によって生ずる。〔後藤義隆〕

おうちがた【邑知潟】 能登(のと)半島頸部(けいぶ)の邑知潟地溝帯(ちこうたい)にある湖。面積5km^2，水面高度1m，水深19m。水は西に流れて羽咋(はくい)川となり，日本海に注ぐ。この地溝帯はもと海峡であったが，砂丘の発達によって両端がせき止められ，流入する河川の運搬物で埋め立てられて陸化し，潟湖(せきこ)として邑知潟が残ったものである。コイ・フナ・ワカサギなどの淡水魚が豊富で漁業が盛んであったが，1952年(昭和27)から国の干拓事業が進められ，いまは消滅した。国際保護鳥トキの生息地として知られる。〔長津一郎〕

おうちゅう【烏秋】 鳥類・オウチュウ科の総称。この科は旧熱帯に20種が分布し，そのうち1種は中国東北地方にまで産する。

全長20～65cmで，ほとんどの種は全身黒色。冠羽や長い尾をもつものが多い。森林の樹上に住み，おもにこん虫を食べる。なお，このうちの1種で東南アジアから台湾にかけて分布するものも，同じくオウチュウとよばれる。

おうちょうめい【汪兆銘】ワンチャオミン(1883～1944) 中国の政治家。字(あざな)は精衛。法政大学に留学,中国革命同盟会に加盟し,《民報》誌上に論陣を張った。1910年，清朝(しんちょう)の摂政王の暗殺を企てて失敗し逮捕されたが，辛亥(しんがい)革命*の成功によって釈放された。第2革命後，一時，フランスに亡命。孫文死後は，国民党の指導者として活躍し，1927年武漢政府*の主席になった。日中戦争が始まると，重慶を脱出，反共和平救国声明を出し，1940年には南京(ナンキン)に日本の傀儡(かいらい)政権を樹立するなど，民族統一戦線を裏切る行動をとった。〔小野和子〕

おうつかこふん【王塚古墳】古墳時代の代表的な装飾古墳。特別史跡。福岡県嘉穂(かほ)郡桂川(けいせん)町に所在。全長約78mの前方後円墳*で，内部主体は壁画装飾のある横穴式石室*として有名。石室は前・後室に分かれ,赤・黄・緑・黒の4色を駆使して双脚輪状文・蕨手文(わらびてもん)・騎馬像・連続三角形文様が全面に規則的にいろどられている。また，出土遺物も各種玉類・神獣鏡・武具・馬具など豊富である。

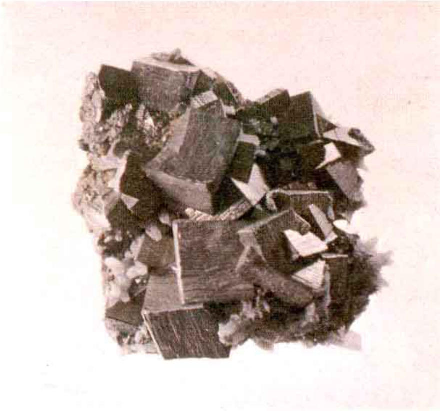
おうてっこう【黄鉄鉱】鉱石中最も広く分布するものの一つで，硫酸の原料鉱石。FeS_2 等軸晶系。比重5.02，硬度6～6.5，条痕*(じょうこん)は帯黒色。立方体・八面体などの結晶として産し,真鍮(しんちゅう)色に輝く。わが国ではほとんどすべての金属鉱山に産し，世界じゅうにも広く分布する。

おうてわかれて【逢うて別れて】小唄(こうた)の曲名。テンポの速い初期の小唄，早間小唄に属する。1780年以前から行なわれていたと推定される。三味線(しゃみせん)は本調子，つやっぽい歌詞に簡素な旋律がついている。

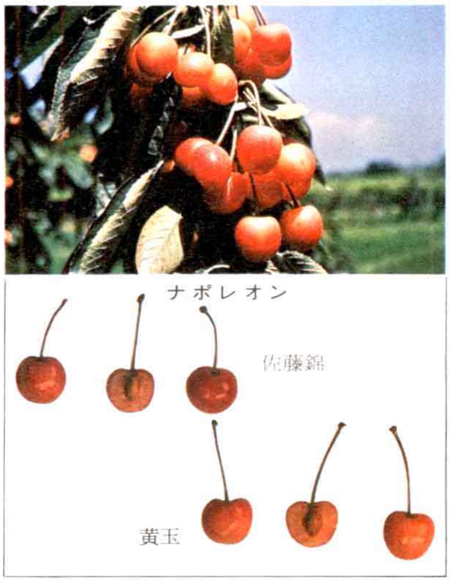
おうてんもんのへん【応天門の変】866年(貞観8)に，平安京応天門の炎上をめぐって起こった政治疑獄事件。大納言伴善男*(とものよしお)はこれを左大臣源信(まこと)の放火だと訴えたが，太政(だじょう)大臣藤原良房(よしふさ)らの工作で信は無実となった。その後真犯人は善男と子中庸(なかつね)と告げる者があり，善男父子,共謀者紀豊城(とよき)らは流罪となった。これで藤原氏は名族大伴・紀両氏を政界から追放，良房が摂政となり，藤原政権確立への地歩を固めた。平安末期の《伴大納言絵詞*(えことば)》にその顛末(てんまつ)が描かれている。〔菊池礼子〕

おうと【嘔吐】胃の内容物(胃液・胆汁(たんじゅう)・血液・食物など)を吐き出す現象。神経の反射によって起こるが，その原因は複雑である。嘔吐には，神経性の場合，消化器疾患のある場合，脳圧亢進(こうしん)のある場合,全身疾患(尿毒症*・脊髄癆(せきずいろう)など)のある場合などがある。神経性嘔吐は器質的疾患のないのが特徴で，形式によって定期的嘔吐(一定の周期で発作が起こる)・青年嘔吐(青年期に起こる)・学校嘔吐(学童が登校するときに起こる)に分けられる。神経性嘔吐は食後に多くみられ，悪心(おしん)その他の前駆症状がなく，嘔吐後は爽快(そうかい)となり，頻回(ひんかい)に嘔吐しても全身状態はまったく侵されない。メニエール症候群*の場合にもよく似た嘔吐が起こる。消化器疾患で起こる場合は，ウイルス性肝炎の初期，胆嚢炎(たんのうえん)・胆石症の発作時，膵炎(すいえん)の発作時，虫垂炎などが原因となる。これらはいずれも腹痛のために腸が動かなくなることによって嘔吐が起こる。また，ほとんどのイレウス*では嘔吐症状がある。しかし，消化器疾患による嘔吐の原因で最も多いのは，急性胃炎*・慢性胃炎*・胃潰瘍*(いかいよう)・胃癌*(いがん)・十二指腸潰瘍*などの疾患がある場合である。脳圧亢進による場合は，脳腫瘍*(のうしゅよう)・脳出血*・くも膜下出血*・硬膜下出血・硬膜外出血*などが原疾患となり，脳圧が亢進することが原因となる。この場合も，ふつう悪心はみられない。

嘔吐が起こっても，特殊の神経疾患がなければこれを誤飲する心配はない。嘔吐がある場合は，重大な病気にかかっている可能性もあるので，嘔吐の原因となる疾患をよく確かめる必要がある。〔吉田　彰〕



オウテッ鉱　秋田県大地鉱山



オウトウ

おうと【嘔吐】サルトル*の処女作小説。1938年の作。自己と事物の存在について，吐きけを出発点として考察を重ねる孤独な歴史研究家アントワーヌ=ロカンタンの日記の形で構成され，サルトル哲学の根本理念の形成が跡づけられている。20世紀後半の文学に対して，先駆的な役割を果たした重要な作品とみなされる。

おうど【黄土】①中国北部で，風によって運ばれて堆積(たいせき)した土壌(どじょう)。(→レス) ②天然に産するもので,イエロー=オーカーともよばれる黄～黄かっ色の顔料。主成分は酸化鉄(III)・二酸化ケイ素・酸化アルミニウムからなるが，マンガンを含有する赤みのあるものをシエナといい，これを焼成したものをバーントシエナという。塗料・セメントなどの着色材に使われる。

おうどいろ【黄土色】色名。黄土のような色。黄みのある，明るい茶色。黄土は顔料の一つであるが，水酸化鉄の含有量によってその色調に差がある。ふつう，イエロー=オーカーとよばれる顔料は黄土と同じものをいっている。なお，黄土を焼いて赤みを増したものは，一般に弁柄*といわれている。日本工業規格(JIS)〈カーキー色〉は，色相10.0YR，明度6.0，彩度9.0の色と規定されている。→色

おうとう【桜桃】双子葉植物・バラ科・サクラ属。核果類。さくらんぼともいう。オウトウには甘果オウトウ・酸果オウトウ・甘酸雑種・中国オウトウがある。日本では甘果オウトウの生産が主体。甘果オウトウの原産地は小アジア地方およびヨーロッパ中・南部の地域で，日本へは明治初年以後欧米から導入された。温帯北部の排水のよい砂壌土(さじょうど)に適する。おもに山形・福島県などの東北地方，北海道・長野県・新潟県で栽培され，栽培面積1,690ヘクタール。凍霜害にめしべが弱い。また成熟期に雨が降り，果実に雨滴がつくと水が内部に浸透し，膨圧を高めて実割れを起こす。代表品種ナポレオンは果実は大きく，果肉はかたく，品質がよい。晩生で6月下旬に熟し,生食・加工に適する。黄玉は中生の代表品種であるが，栽培は減少している。日の出は極早生で5月に濃紫赤色に熟し，やや小粒。このほか,高砂(たかさご)・佐藤錦(さとうにしき)(山形で偶発実生として発見)・北光(小樽(おたる)で偶発実生として発見)などの品種がある。オウトウは自家不結実性と熟期の似た品種の相互間に他家不結実性があるので，1品種だけの栽培では結実しない。→シナミザクラ〔岩垣駿夫〕

おうとう【王韜】(1828～1897) 中国，清(しん)末のジャーナリスト。イギリス人宣教師と協力して，《聖書》の中国訳や，また，中国古典の英訳などの仕事に参加した。1874年，《循環日報》を創刊，新聞記者として政治体制の改革を説き，かたわら小説などを書いた。1879年，招かれて日本に来たことがある。

おうどう【黄道】⇨こうどう

おうどう【黄銅】銅を主成分とする銅-亜鉛系合金およびさらにこれに多少の他元素を添加した合金の総称。真鍮(しんちゅう)ともいう。青銅ほど古くはないが，太古以来人類に使用されてきた合金であり，鋳造・加工とも容易で廉価，機械的性質・耐食性にすぐれ，美しい色と光沢を備えている。鋳物・棒・板・管・線などをはじめ，各種の機械器具・日用品・工芸品・金具類など用途は広く，使用される数量も多い。銅に亜鉛を加えると，亜鉛38％まではα固溶体をつくる。α固溶体は亜鉛の濃度が増加すると図に示したように色相が銅赤色から黄金色を経て黄色へとしだいに変化し，約50％で赤みをおびた黄色の相をつくる。黄銅とよばれるのは30～40％亜鉛の合金が多く使用されるためである。亜鉛30％前後のものは7：3黄銅またはα黄銅とよばれ，延性・展性に富み，冷間加工が容易。また亜鉛40％のものは6：4黄銅または$\alpha+\beta$黄銅とよばれ，7：3黄銅よりかたく，主として鋳物として用いられる。〔藤井康次〕

おうどう【王道】孟子*(もうし)によって説かれ，のち中国で理想的政治とされた。これは，天の意志を体得した王者が行なう道徳政治であって，人民の生存を五倫*・五常*の儒教的社会秩序の中で保障しようとするもの。力によって統一秩序を図る覇道*(はどう)と対立する。

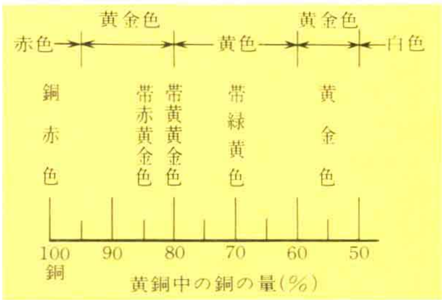
おうとうき【桜桃忌】6月19日。太宰治*(だざいおさむ)の死体が玉川上水で発見された日，彼の誕生日でもある。作品《桜桃》にちなんだ忌名。毎年，三鷹(みたか)市下連雀(しもれんじゃく)黄檗宗(おうばくしゅう)禅林寺の墓前で，友人・知己・愛好者が集まって故人を忍ぶ。

おうどうこう【黄道光】⇨こうどうこう

おうどうこう【黄銅鉱】銅の代表的な原料鉱石。$CuFeS_2$ 正方晶系。硬度3.5～4，比重4.1～4.3。真鍮(しんちゅう)状の金属光沢を示す。条痕*(じょうこん)は緑黒色で断口は平らではない。しばしば微量の金・銀を含むことがある。内外の銅鉱床に広く産する。

おうにんき【応仁記】軍記物語*の一。室町末期の応仁の乱*のいきさつをしるした合戦記(かっせんき)。作者未詳。漢文口調の文体で中国故事の引用，儒教的批評の多い点が目だつ。

おうにんのらん【応仁の乱】1467年(応仁1)から約11年にわたって京都を中心に起こった戦乱。室町時代にはいって，諸家に家督相続争いが頻発(ひんぱつ)した。将軍家でも8代将軍足利義政*(あしかがよしまさ)ははじめ弟の義視*(よしみ)を嗣子としたが，妻の日野富子*との間に義尚*(よしひさ)が生まれると，両者の間に次期将軍職をめぐる争いが起こった。また，管領(かんれい)畠山(はたけやま)・斯波(しば)両家の家督争いと有力守護の勢力争いがからみ合い，細川勝元*(東軍)・山名持豊*(もちとよ)(宗全)(西軍)をそれぞれ首班とする東・西両軍に天下を2分してこの戦乱を現出した。この根底には，嘉吉(かきつ)の乱*による幕府権威の失墜，頻発する土一揆*(どいっき)・徳政一揆*などの社会不安，分割相続制より単独相続制への移行過程での軋轢(あつれき)，輻輳(ふくそう)する土地所有権の単純化への動きなどの社会背景があった。途中1473年(文明5)に勝元・持豊があいついで死んだが戦火はやまず，その間領国の動揺を不安とする諸将は帰国して相争ったため，しだいに地方へも波及し，以後約100年間の戦国争乱の時代を迎えざるをえなかった。戦いが京都市街で行なわれたため，町はほとんど灰塵(かいじん)に帰した。多くの公家(くげ)は荒廃した都を捨てて地方の守護のもとに走ったが，これは中央文化の地方波及を促進した。〔村尾元忠〕



黄　銅



オウドウ鉱　秋田県阿仁鉱山産

おうねつ【黄熱】黒吐病ともいう。アフリカおよび南アメリカの熱帯多雨森林地帯にみられるウイルス性の急性伝染病。野口英世(ひでよ)がアフリカでこの病気の研究中に犠牲となったことでも知られる。東洋および日本ではみられない。カの一種ネッタイシマカによって媒介され，潜伏期は3～6日。症状は悪寒(おかん)を伴った40℃に達する発熱と頭痛・四肢痛(ししつう)がみられ，次いで嘔吐(おうと)(血液を混じ，黒色を呈する)・尿量減少・タンパク尿・鼻血・皮膚粘膜出血・黄疸*(おうだん)などが加わってくる。黄疸は重症例ではつねにみられるが，病名を代表するほど強くはない。典型的な症例では発病後10日くらいで死亡する。軽症では7～10日間くらいでしだいに解熱するが，回復期は長い。なおれば終生免疫を得て再発はなく，また後遺症も残さない。死亡率は軽症が計算されなかった時代には50％といわれたが，正しくは10％以下である。弱毒化ウイルスのワクチンの予防接種が有効である。患者の隔離，防虫網によるカからの遮断(しゃだん)，殺虫剤によるカの駆除などが予防上重要で，治療は対症療法を行なう。〔国井乙彦〕

おうのうげんそく【応能原則】⇨応益原則

おうばい【黄梅】双子葉植物・モクセイ科。中国原産の落葉低木。庭木に用いる。枝は細長く角ばり，たれ下がる。葉は対生し，3小葉からなる複葉。早春に葉に先だって3cmほどの黄色花を咲かせる。がくは6深裂し，花冠も長い筒部をもち6裂する。おしべ2，めしべ1である。別名は迎春花。この種および仲間の花から香料(ジャスミン)がとれる。

おうばくきうん【黄檗希運】(？～850ごろ) 中国，唐代の禅僧。南岳(なんがく)系3世百丈懐海*(えかい)の法嗣。福州(福建省)閩(びん)県の人。おくり名を断際禅師という。



応仁の乱　岩倉山上の細川軍を追い落とそうとする山名軍　《真如堂縁起絵巻》(部分)

洪(こう)州(江西省)黄檗山で出家し，長じて京師に遊学し，洪州に帰って百丈懐海に法を受け，黄檗山に住して宗風を宣揚した。842年鐘陵(しょうりょう)の龍興(りゅうこう)寺に移り，848年宛陵(えんりょう)の開元寺にはいった。著作には門人の編集になる《鐘陵録》《伝心法要》などがある。〔田中良昭〕

おうばくさん　【黄檗山】　ホワンポー山　中国福建省福州付近の山。8世紀末，正幹禅師の開創した寺院があり，黄檗希運が住持してから名声を得，以来，臨済禅の道場として重視された。元代に一時衰えたが，明(みん)代に復興して万福寺と号し，隠元のときに諸堂が完備した。わが国の京都府宇治にある黄檗山万福寺は，来日した隠元が福州の黄檗山に似たこの地に，その形式・規模にならって創建したものである。

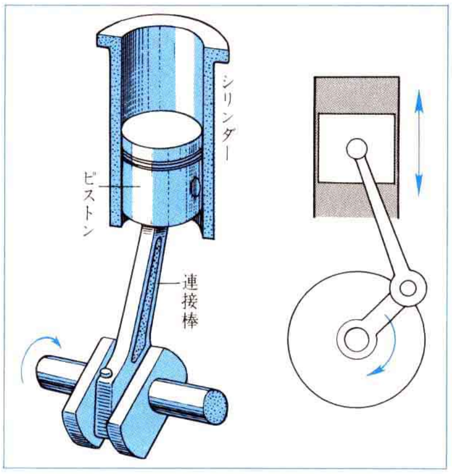
おうばくしゅう　【黄檗宗】　日本禅三宗の一。中国福建省黄檗山万福寺の隠元隆琦(りゅうき)が，江戸時代に日本に広めた臨済禅の一派。隠元は1654年(承応3)長崎の興福寺逸然の請により来日し，長崎の興福寺・崇福(そうふく)寺・福済寺で教化した。1658年(万治1)徳川家綱に会い，翌年山城(京都府)宇治に土地を得て，1661年(寛文1)黄檗山万福寺を開いた。2世の木庵性瑫(もくあんしょうとう)は，江戸の白金に瑞聖(ずいしょう)寺を開き，関東に基礎を確立した。万福寺は，これより13代に至る間，中国僧が住持を続けたが，元文(1736～1740)のころ，宗風衰微に際して，日本僧の龍統(りゅうとう)がはじめて住持となった。33代良忠は宗門を刷新したが，1874年(明治7)教部省の命により臨済宗に合併，2年後再び独立し，1952年(昭和27)宗教法人法による認証を受けた。その禅風は明(みん)代の念仏禅を加味し，法式も《黄檗清規(しんぎ)》にみられるような明朝ふうのものである。明様式の黄檗禅の伝来は，日本文化の上にも多大の影響を与えた。〔田中良昭〕

おうばくびじゅつ　【黄檗美術】　江戸初期黄檗宗の伝来によって興った美術。隠元ら多くの中国僧が渡来のたびに中国美術の新しい潮流を伝え，建築・書跡・絵画・彫刻の各方面に特色ある美術様式を形成した。宇治の万福寺や長崎の三福寺(興福寺・福済寺・崇福(そうふく)寺)などの寺院を中心に，明(みん)末・清(しん)初の美術の新様式を伝達した功績は大きい。隠元・木庵(もくあん)の書，逸然の絵，范道生(はんどうせい)の彫刻はことに名高い。〔小林　忠〕

おうはわかれの　【逢ふは別れの】　明治期の小唄(こうた)の曲名。永井(ながい)素岳作詞，3世清元斎兵衛(さいべえ)作曲で，いまでも好んでよく歌われる。別離をよみ込んだうたで，三村周という人の外遊の送別会のためにつくられた。三味線(しゃみせん)は三下がり。

おうはん　【凹版】　⇨印刷

おうはんいんさつ　【凹版印刷】　画線・画点が版材の表面よりも凹入して印刷模様



往復動機関

をつくっている凹版を使って行なう印刷。凹入部の深浅にしたがってインキのはいる量も異なり，それによって濃淡が現われる。凹版は，銅面に画線模様を彫刻刀や針で彫刻してつくる直刻凹版に始まり，次いで薬品で腐食してつくる腐食凹版が考案され，今日では直刻法と腐食法とを組み合わせて製版し，芸術的印刷物を得るための彫刻凹版として使用されている。彫刻法および腐食法の手法によりドライポイント・メゾチント・アクアチント・エッチングなどの芸術的凹版がある。その後写真技術を取り入れて腐食法で凹版を製版する写真凹版が発達した。散粉グラビアおよび今日のグラビアはすべて写真凹版である。凹版印刷物の画線・画点はインキ層が厚く盛り上がり，どっしりした感じになる。特に写実的濃淡の調子を表わす点がすぐれている。⇨印刷〔長野昌隆〕

おうひつ　【王弼】　(226～249)　中国，三国魏(ぎ)の思想家で，何晏(かあん)と並ぶ正始年間の清談界の雄。字(あざな)は輔嗣(ほし)。山陽郡高平県の人。後漢の章句学や讖緯(しんい)思想に染まった学問を批判，経文の統一論理を重視し，老荘的見地から解釈した《周易注》，簡潔で体系的な《老子注》を著わし，魏晋(ぎしん)南北朝の学問・思想に多大な影響を与えた。しかし政界では不遇で，24歳の若さで死んだ。

おうふくどうきかん　【往復動機関】　シリンダー内を往復運動するピストンと，その運動を回転運動に変えるためのクランク機構をもった内燃機関。ピストン式機関ともいう。ピストンの往復運動によってシリンダー内のガスを圧縮し，また燃焼ガスの膨張仕事を受ける。ピストンの往復運動は連接棒を介してクランクピンに伝えられ，クランク軸を回転する。現在の内燃機関のほとんどはこの往復動機関で，その機構は蒸気機関や空気圧縮機と同じである。往復動機関は回転ピストン機関やガスタービンに比べて，往復運動部分の質量の慣性によって振動が出やすく，またトルク変動も大きい。しかし，高圧縮比にできるため一般に熱効率がよい。往復運動を回転運動に変えるには，上のクランク機構のほかにも，斜板や歯車を用いたものもあるが，実用にはなっていない。〔斎藤　孟〕

おうぼういほん　【王法為本】　仏教用語。〈王法を本(もと)と為(な)す〉の意で，主として浄土真宗で用いられる。仏教者も世間に生きているかぎり王法を重んじ，それにのっとってゆかねばならぬ，という考え方。王法とは国家・世俗の法や世間の倫理・道徳のおきて(俗諦(ぞくたい))をさし，この世を越えた法である仏法，つまり宗教世界の真理(真諦)に対していわれる。蓮如(れんにょ)は《御文(おふみ)》の中で〈ことに外には王法をもて表とし，内心には他力の信心を深くたくはへて，世間の仁義をもて本とすべし〉と述べて，この意義を平明に表わした。〔坂東性純〕

おうほうけい　【応報刑】　犯罪を行なった者にはそれ相応の苦痛を科するものでなければならないという刑罰思想。復讐(ふくしゅう)などの人間の本性に根ざす応報感情に根拠をもつが，現在では，刑罰は単なる応報ではなく，犯人を改善し教育するものでなければならないという教育刑思想が優勢となっている。

おうぼつ　【王勃】　(649～676)　中国，唐代の詩人。幼いときから詩文の才能に恵まれ，詩名が高かった。闘鶏を文にしたのが高宗の怒りに触れ，辞職して交趾(こうし)県(ハノイ西方)にいる父のもとへおもむき，海を渡る際，舟から落ちて溺死(できし)した。《滕王閣(とうおうかく)の序》は，この旅のとき南昌(なんしょう)でつくったもの。

おうま　【黄麻】　双子葉植物・シナノキ科のツナソのこと。茎の繊維はジュートといい，袋・梱包(こんぽう)材料などに用いる。➔ツナソ

おうみ　【近江(国)】　滋賀県の旧国名。江州。東山道に属する。古く琵琶湖(びわこ)を淡海(おうみ)といったのが国名の起源で，浜名湖を遠淡海(とおつおうみ)とよぶのに対して近淡海といい，のち近江と記すに至った。もと，滋賀・甲賀・栗太(くりもと)・野洲(やす)・蒲生(がもう)・神崎(かんざき)・犬上・坂田・浅井・伊香(いかご)・愛智(えち)・高島の12郡で，国府は栗太郡(いまの大津市瀬田町)にあった。現在は大津・彦根(ひこね)・長浜・草津などの7市と12郡に分かれる。鎌倉時代に佐々木氏が守護となり，子孫2家に分かれ，六角氏は南半を，京極氏は北半を領したが，戦国末期に至りいずれも滅び，一時浅井氏が強大になった。やがて織田信長(のぶなが)が安土に城を築いて本拠としたが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)は石田三成らを分封した。関ヶ原の役後，彦根に井伊氏を封じ，国内各地に小藩を建てたが，明治維新後大津・長浜2県，次いで滋賀県を建てて今日に及ぶ。〔簱　弘道〕

おうみ【青海(町)】新潟県西頸城(にしくびき)郡の町。県の最西部にあって，町域は富山県に接する。人口12,000。かつて北陸道の最難所であった親不知*(おやしらず)を控え，宿場町として栄えた。現在は付近で産する豊富な石灰岩を原料とする化学・セメント工業が盛んである。北陸本線が通ずる。

おうみおおつのみや【近江大津宮】大津宮・志賀宮ともいう。天智(てんじ)天皇*の皇居。667年(天智6)飛鳥京(あすかのみやこ)から遷都，672年(弘文1・天武1)天武天皇が飛鳥浄御原宮(きよみはらのみや)に移るまで続いた。壬申(じんしん)の乱で焼失し，長く廃墟(はいきょ)となった。いまの大津市北部であるが詳細は未詳。宮には内裏のほかに西殿・西小殿・大蔵・浜台・新台などあったことが記録にみえるが，その場所については確認されていない。ただ，第2次世界大戦前に発掘された南滋賀の廃寺や崇福(すうふく)寺*がこの時期につくられたことが明らかであり，遺跡によって現在の南滋賀町や滋賀里町付近と推定される。〔坪井清足〕

おうみげんじ【近江源氏】⇨源氏

おうみげんじせんじんやかた【近江源氏先陣館】義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。9段の時代物で近松半二*・三好松洛(みよししょうらく)らの合作。1769年(明和6)竹本座初演。歌舞伎(かぶき)は翌1770年大阪中の芝居初演。大阪冬の陣に取材しているが，幕府の圧迫により鎌倉時代の近江源氏の世界に仮託して脚色したもの。8段目〈盛綱陣屋の場〉の首実験は名高く，盛綱の母微妙(みみょう)は三婆*(さんばばあ)の一つで，むずかしい役とされている。〔前田慎一〕

おうみしま【青海島】山口県長門(ながと)市に属する日本海上の島で，本土とは幅約100mの仙崎(せんざき)水道を隔てており，青海大橋がかかっている。面積14.3km²，人口5,000。おもにセキエイハン岩からなり，その上に玄武岩を載せ，最高所は高山(320m)である。北岸に海食地形が発達し，南岸は沈水海岸で，砂州の波ノ橋立が青海湖をいだき，変化に富んだ地形は，北長門海岸国定公園*の主要部となっている。南岸の大日比に天然記念物のナツミカン原樹があり，東端の通(かよい)は漁村で，かつてクジラ漁が盛んであったので，鯨墓や鯨過去帳を残している。〔浅井得一〕

おうみしょうにん【近江商人】室町後期から江戸時代にかけて伊勢(いせ)商人*と並んで活躍した商人。古代から商業の盛んな近江(滋賀県)の日野・八幡(はちまん)などに本拠を置いた。中世以降，麻布・薬・呉服反物を全国に行商し，のち江戸・大阪を中心に全国で出店経営が行なわれ，江戸日本橋にも菱垣(ひがき)回船*・樽(たる)回船*などの有力者が多く進出した。しかし明治初期には大名貸し*の回収ができず倒産者が続出した。また旧式な経営組織のために近代化に遅れて衰退する者も多かった。〔松尾　涼〕



青海島　島の北岸は断崖の連なる豪壮な海岸美をつくり，大小の岩礁が散在する。青海島1周約2時間の遊覧船がある

おうみのみふね【淡海三船】(722〜785)奈良後期の詩人・漢学者。大友皇子(弘文(こうぶん)天皇)の曾孫(そうそん)。父は池辺王。孝謙・淳仁(じゅんにん)・称徳・光仁の4朝に仕え，大学頭(だいがくのかみ)・文章博士(もんじょうはかせ)を経て，刑部卿(ぎょうぶきょう)・因幡守(いなばのかみ)となった。詩文にひいでた大学者で，《経国集*》に詩5編を載せる。なお，神武から光仁に至る歴代天皇の諡号(しごう)を選んだとする説もあり，また，鑑真*(がんじん)の渡航を描いた《唐大和上(とうのだいわじょう)東征伝》の著者ともされ，《懐風藻*(かいふうそう)》の選者にも擬せられている。〔大久保広行〕

おうみはちまん【近江八幡(市)】滋賀県のほぼ中央部の市。天正年間(1573〜1592)，豊臣秀次(とよとみひでつぐ)の城下町として開け，江戸時代には商業活動が盛んで，近江商人*の本拠地となった。1954年(昭和29)市制施行。人口60,000。琵琶湖(びわこ)の東岸に沿い，湖東平野の中心部を占める。産業三大別人口比は21：35：44。かや・畳表・じゅずなどの伝統的な家内工業のほか，帆布・皮ぐつなどの製造工業が発達し，南東郊の瓶割(かめわり)山の北から国道8号線へかけて，広大な工業団地が造成されている。東海道本線・近江鉄道八日市線と中山道(なかせんどう)が通ずる。水辺一帯は湖岸でも最も屈曲が多く，新琵琶湖八景の一つ〈春色一安土・八幡の水郷〉の景勝地である(→琵琶湖)。八幡神社の左義長*(3月15日に近い週末)，松明(たいまつ)祭り(4月14〜15日)が名高い。近江商人の中には江戸初期にすでに海外へ渡航した者もあり，インドシナ半島の安南へ渡った西村太郎右衛門(たろうえもん)が八幡神社に献上した《安南渡海船図》が残っている。

おうみはっけい【近江八景】滋賀県琵琶湖(びわこ)周辺の八つの景勝地をいい，三井の晩鐘，石山の秋月，堅田の落雁(らくがん)，粟津(あわづ)の晴嵐(せいらん)，矢橋(やばせ)の帰帆，比良(ひら)の暮雪，唐崎(からさき)の夜雨，瀬田の夕照をさす。1500年(明応9)に近衛(このえ)関白政家が中国の瀟湘(しょうしょう)八景*にならって選んだといわれる。現在唐崎の松は枯れ，矢橋に帆船なく，瀬田と堅田は近代的な橋に改められて往時をしのぶことはできない。いまは琵琶湖国定公園*に指定されて新琵琶湖八景が選ばれている。〔菊池万雄〕

おうみはっけい【近江八景】山田流箏曲(そうきょく)の曲名。奥許し歌物に属する。1887年(明治20)ごろ，山登万和の処女作品で，作詞は福城可童。琵琶湖(びわこ)近辺の名所風物として知られる近江八景*のそれぞれを歌う。音楽的特徴は，江戸浄瑠璃(じょうるり)ふうであること，〈雪の手〉として知られている合の手を本来どおり〈鐘の手〉として取り入れていることである。

おうみぼんち【近江盆地】滋賀県の大部分を占める盆地。東の伊吹(いぶき)山地・鈴鹿(すずか)山脈と西の比良(ひら)山地の断層による急崖(きゅうがい)にはさまれ，北は野坂山地を境に裏日本と接し，南は低山性の信楽(しがらき)高原に続き，これらの山地がいずれも県境をなしている。盆地の中央には日本最大の淡水湖である琵琶湖*(びわこ)をたたえ，周囲の山地からの川はすべてこの湖に注ぎ，排水は人工の琵琶湖疎水を除けば，宇治川の上流にあたる瀬田川ただ一つで，湖の最南端から流出している。まわりの山地の前面には第三期末から洪積世(こうせきせい)初めにかけてのものと考えられている古琵琶湖層からなる丘陵がみられる。盆地の東側の山地からは姉川・愛知(えち)川・日野川・野洲(やす)川，西側の山地からは安曇(あど)川をはじめ多くの川が湖に注ぎ，山麓(さんろく)に扇状地を，湖岸に三角州を形成し，東側には特に広い平野を形成している。湖の西側の山地は湖の近くで断層崖をなしているため，湖東に比べ平地が少ない。盆地南東部の川は堆積(たいせき)作用が大きく，特に草津川は典型的な天井川になっており，東海道本線や国道は川の下にトンネルをうがって通っている。湖南の平野は最も大きく，江州米の主要な産地となっている。湖岸周辺は近江八景*をはじめ，史跡・名所も多く，琵琶湖国定公園*に指定されている。〔味沢成吉〕

おうみりょう【近江令】日本における律令(りつりょう)制定史上，はじめて編纂(へんさん)された令*。22巻。藤原鎌足*(かまたり)が主宰。飛鳥浄御原令(あすかのきよみはらりょう)および大宝令の原型となる。668年(天智7)に完成し，

689年(持統3)飛鳥浄御原令の施行まで実施されたとするのが通説。ただし近江令の完成を否定する説，あるいは近江令の完成施行は天武朝(673～686)における飛鳥浄御原令であるとする説など，近江令そのものの完成あるいは施行を否定する説もある。〔柳雄太郎〕

おうむ　**【鸚鵡】**　鳥類・オウム目・オウム科のオウム・インコ類の総称。全世界の熱帯地方に300種以上が分布する。ほとんどの種が果実食で群をなして生活し，樹洞(じゅどう)に営巣する。色が美しく飼いやすいので，多くの種が飼鳥とされている。一般に，大形で尾の短いものをオウム，中・小形で尾の長いものをインコとよぶが，その区別は必ずしも厳密なものではない。オオバタン*・キバタン*・コバタン*・ヨウム*などがおもなもので，オオバタン・キバタンは人語をまねるのがうまい。

おうむがい　**【鸚鵡貝】**　軟体動物・頭足綱・原始頭足亜綱・オウムガイ科。巻き貝とも思えるような殻(から)をもっているが，この殻は左右相称である。長い間，死殻(しかく)しか発見されなかったので貝の名がつけられているが，所属の示すようにイカ・タコの仲間である。殻の内部は隔壁によっていくつにも仕切られている。オウムガイは成長にしたがって殻を大きくし，仕切りをつけていくが，本体はつねに殻の入り口の一室(住房)に収まり，ほかは気房となっている。体長20cm，殻の長径20cm，幅9cmほどになる。腕は90本近くもあって細くて吸盤がなく，墨も吐かないなど，イカ・タコとはかなり違っている。むしろ，古生代・中生代に栄えたアンモナイト*に近く，〈生きている化石〉の一つといえる。先祖は古生代のカンブリア紀の海に現われ，オルドビス紀・シルリア紀に繁栄したがデボン紀以後急に衰え，現在では南洋諸島・フィリピンの数メートルから60mほどの海にすむ。頭を下に殻を上にしてはい，肉食でカニ・エビ・ウニなどを食べる。殻は本体が死んで腐敗したのち海上を漂流し，原産地を遠く離れた岸に打ち上げられ，わが国ではまれに三崎以南に漂着することがある。

殻の描くカーブとその黒い端がオウムのくちばしを連想させるのでオウムガイといわれるが，学名ではノーチラスという。〔菅野　徹〕



オウムガイ

おうむせき　**【鸚鵡石】**　歌舞伎(かぶき)俳優の声色(こわいろ)を習うのに便利なように，台本中の名せりふを抜き書きした半紙4～5枚程度の小冊子。声色本ともいう。早くから同種の本はあったが，1772年(安永1)〈オウムのように反響する石〉の名を書名にして発行したのがきっかけで，声色本の総称となった。

おうむびょう　**【鸚鵡病】**　鳥類，ことにオウムから人体に伝染し，一種の肺炎を起こす伝染病。病原体はおうむ病ウイルス(→クラミディア)で潜伏期は7～15日。地方病の傾向を示すことがある。症状は発熱・頭痛・背痛，乾性のせき，弛張熱(しちょうねつ)を示し，ふつう肺炎の所見がみられる。重症のものはチフス様症状を呈し，精神障害(ことに興奮状態)とともに循環器症状を示す。治療にはペニシリン*・テトラサイクリン*などの抗生物質が有効である。〔国井乙彦〕



青梅市　上空から見た青梅市の中心部。多摩川が蛇行して丘陵を深く刻んで流れ，美しい自然を繰り広げる。遠景が下流

おうめ　**【青梅(市)】**　東京都北西部寄りの市。室町時代以来の綿および織物の産地で，江戸時代は青梅街道の宿場町・市場町であった。1951年(昭和26)市制施行。人口96,000。多摩川が関東山地から武蔵野(むさしの)台地*へ流れ出る地点に発達した溪口(けいこう)集落*で，林野面積が市域の70%を占め，農業はあまりふるわず，スギ・ヒノキを伐採し，足場丸太の生産が多い。織物業の伝統が古く，いまは輸入綿による夜具地の生産が盛んで，全体の70%を供給し，600余の中小工場と10,000台の織機がある。東郊に開発された工業団地には電子産業の関係工場などが進出し，近代工業の発達が期待されている。産業三大別人口比は3：44：53。青梅線・青梅街道*が通ずる。西部は秩父(ちちぶ)多摩国立公園*の区域内で，奥多摩溪谷を中心とした景勝地が多く，吉野(よしの)梅郷は〈関東の月ヶ瀬〉として知られる。南西郊に御岳山(1,070m)があり，御岳神社がある山頂までケーブルカーが通ずる。

おうめかいどう　**【青梅街道】**　近世に江戸と武蔵(むさし)(東京都)多摩郡青梅村(青梅市)方面を結ぶために開かれた街道。青梅付近の上成木村・北小曾木(きたおそき)村に産する石灰が江戸城などの城壁の白土に用いられ，その運送路として発達し，はじめは成木街道とよばれた。江戸西端の内藤新宿で甲州街道*と分かれ，中野・荻窪(おぎくぼ)・田無・箱根崎などを経て青梅に達する。沿道には中野・田無のような宿場*も発達した。なお青梅より氷川(ひかわ)・小河内(おごうち)を経て大菩薩(だいぼさつ)峠を越えて，塩山・日下部(くさかべ)を経て甲府に至る道をも合わせて青梅街道ということがある。明治以後は，小河内・日下部間に柳沢峠を越える新道が開けた。また現在は青梅・東京間に青梅街道バイパスが建設されつつある。〔児玉幸多〕

おうめんきょう　**【凹面鏡】**　⇒鏡

おうもう　**【王莽】**　(BC45～AD23)　中国，前漢元帝の王皇后の一族。平帝のとき大司馬となり，劉歆(りゅうきん)らを政治顧問として実権を掌握，平帝を毒殺した。次いで2歳の劉嬰(りゅうえい)を立てて摂政となったが，AD9年に讖緯(しんい)説*に基づいて漢朝を倒し，みずから天子の位についた。国号を新と改め，《周礼(しゅらい)》(周の官制・職掌を説いた書)を政治の模範とした。官制・地名を改め，土地を国有とし，奴婢(ぬひ)の売買を禁止した。彼の一連の政策は非現実的で社会を混乱させ，匈奴(きょうど)討伐失敗後は各地に反乱が起こり，劉玄の軍に殺された。〔上田早苗〕

おうもう　**【王蒙】**　(？～1385)　中国，元末の文人画家で四大家のひとり。字(あざな)は叔明，号は黄鶴山樵(こうかくさんしょう)。董源*(とうげん)・巨然*をはじめ唐末・五代にさかのぼって画法を習得，重畳とした山林の幽致を水墨または淡彩で明晰(めいせき)に表現し，明(みん)・清(しん)文人画家の典範となった。

おうもんきん　**【横紋筋】**　平滑筋*に対比して用いられる語で，横紋のある筋繊維からなる筋肉。横紋は筋繊維を顕微鏡で見た際に横に走る細かいしま模様として認められる。骨格筋*のすべてと内臓筋の一部が横紋筋である。→筋肉　→筋収縮

おうようかがく　**【応用化学】**　化学の工業的応用に関する学問分野で，工業化学とほぼ同様の意味に使われている。ふつう工学の一部門として取り扱われているが，工学よりも，広義の意味での化学の一分野とする考え方もある。大別して無機工業化学(一般無機化合物・酸・アルカリ・肥料・窯業など)・有機工業化学(染料・染料中間体・顔料・石油化学・油脂・界面活性剤・塗料・精油・香料など)・高分子化学(プラスチック・化学繊維・ゴム・接着剤・パルプ・紙など)・応用電気化学(電解・電熱化学など)，写真・印刷・化学工学などがある。広義には農芸化学・木材化学・薬化学なども含まれる。〔志田正二〕

おうようしゅう　**【欧陽脩】**　(1007～10

72)　中国，北宋(ほくそう)の政治家・学者。吉州廬陵(ろりょう)(江西省)の出身。字(あざな)は永叔。おくり名は文忠。号は六一居士(こじ)。1030年の進士。仁宗の後半から英宗時代にかけて政界に新風を吹き込み，特に濮議(ぼくぎ)では一方の旗がしらとなった。王安石*に反対して下野。《新唐書》《新五代史》を編纂(へんさん)。文豪として一世を風靡(ふうび)し，金石学者としても有名。唐宋八大家*のひとり。〔梅原　郁〕

おうようじゅん　【欧陽詢】(557～641)　中国，唐代の書家。字(あざな)は信本。譚州臨湘(たんしゅうりんしょう)(湖南省長沙(ちょうさ))の人。隋(ずい)・唐2朝に仕え，唐の太宗のとき，太子率更令となったので欧陽率更とよばれる。渤海男(ぼっかいだん)に封ぜられた。書は王羲之*(おうぎし)の伝統を受け，諸体をよくしたが，楷書(かいしょ)に最もすぐれ，唐の建国の新文化を反映して清秀勁健(けいけん)の気韻にあふれた書風を創始した。書の代表作に《皇甫誕(こうほたん)碑》《化度寺塔銘》《九成宮醴泉(れいせん)銘*》《温彦博(おんげんはく)碑》があり，著述に《芸文類聚(げいもんるいじゅう)》100巻がある。〔中田勇次郎〕

おうようしんりがく　【応用心理学】　人間の適応性増進をめざす心理学。職業の適性，精神衛生，集団・社会の機能，人間関係の基本要件，コミュニケーションの機能，教育・訓練の方法，独創性の啓発，人間行動のコントロールなどの研究領域を含み，基礎心理学の原理と方法を応用するとともに，実生活の問題解決に独自の研究方法をも発展させている。教育心理学*・社会心理学*・産業心理学*・犯罪心理学*・臨床心理学*などがこの部門に属する。社会機構の高度化と技術の長足の進歩は人間の情緒を不安定にし，ために今日応用心理学の重要性はますます増大してきている。現在，この専門家は労働・教育・社会福祉事業に関係する機関で心理技術者として実際問題の処理に従事している。〔金子秀彬〕

おうようめい　【王陽明】(1472～1528)　中国，明(みん)代の政治家・思想家。名は守仁，字(あざな)は伯安。浙江(せっこう)省の人。詩文・禅*・道教*などの道を遍歴して儒教*に帰着したが，時の儒教の中心であった朱子学*を批判して独自の思想を創造した。これは彼の政治家としての実践，特に中国南方の反乱鎮定の軍事行動の中で形成されたものである。彼の思想は，心即理・知行合一・致良知(良知の実践)などのことばで表現されているが，その要点は〈欲望の道徳規範による規制というような朱子学的二元論は人間の本来の姿でなく，人間の本質はその生きた心をそのまま実践することによって実現される〉という点にある。これは学説史としては陸象山*の心即理の説の発展であった。➔陽明学　➔伝習録　〔西　順蔵〕

おうようよせん　【欧陽予倩】　オウヤンユイチエン　(1890～1962)　中国現代の劇作家・俳優。日本留学や，川上音二郎*の壮士劇に刺激され，春柳社という中国人による新劇団を組織して《アンクル＝トムの小屋》を上演，それに出演してから演劇界にはいった。中国の演劇教育・映画事業，旧劇の改革に尽力し，新中国になってからも演劇界の重鎮であった。1956年，梅蘭芳*(メイランファン)とともに来日したことがある。

おうらいぼうがいざい　【往来妨害罪】　交通を妨害し，その安全に危険を生じさせる罪。これには，①陸路・水路・橋を損壊したり閉鎖したりする罪(狭義の往来妨害罪〔刑法124条〕)，②鉄道またはその標識，燈台または浮標を損壊したり，その他の方法で汽車・電車・艦船の交通を危険にする罪(往来危険罪〔刑法125条〕)，③人が乗っている汽車・電車・艦船を転覆・沈没・破壊させる罪(汽車・電車転覆罪〔刑法126条〕)がある。③の汽車・電車転覆の結果，人を死亡させたときは刑が加重され，②の往来危険の結果，汽車・電車などが転覆したりしたときは③の罪として処断される。また，過失および業務上過失による往来危険罪(刑法129条)がある。なお，刑法のほかに〈東海道新幹線鉄道における列車運行の安全を妨げる行為の処罰に関する特例法〉〈航空法〉などがある。〔野口恵三〕

おうらいもの　【往来物】　平安末期から明治前半にかけて，多数つくられ，広く使用されたわが国独自の初歩教科書。平安期においては社会の上層(貴族・僧侶(そうりょ))の子どもを対象に，往復一対の手紙をいくつも収録して，日常生活万般の知識を与えようとしたもので，最古のものとして藤原明衡(あきひら)の《明衡往来》が知られている。中世になると教科書としての編集形式・体裁が整い，手紙文練習のためにその単語・短句・短文を集めたものや，歴史・地理など特定分野に教材を限定したものなどが現われたが，使用階層が中流以下の武家となったため，その生活に即した内容となった。近世から近代初頭にかけては，一般庶民の家庭や寺子屋*で盛んに使用されたため，その種類は7,000種にも上り，内容も手紙文にとらわれずに，歴史・地理・経済・産業など社会生活の全般にわたるようになった。〔石川松太郎〕

おうりょうざい　【横領罪】　自分の占有内にある他人の財物(たとえば他人から預かって保管中の洋がさなど)を，自分の物のように処分したりして不法に領得してしまう犯罪。これには三つの類型がある。①委託物横領罪(単純横領罪ともいう)：他人から委託されて占有している物を領得する犯罪で，5年以下の懲役(刑法252条)。②業務上横領罪*：10年以下の懲役(刑法253条)。③遺失物横領罪：道路に落ちている他人のさいふを取ってしまうような犯罪で，1年以下の懲役(刑法254条)。また，自分の物でも差し押え*に付された物など公務所から保管を命じられている物を処分したりすると，やはり横領罪が成立する(刑法252条2項)。〔野口恵三〕

おうりょうし　【押領使】　令外官*(りょうげのかん)の一。押領とは軍兵を統率するの意。はじめは地方豪族を臨時に任命し，その私兵によって反乱の鎮圧や盗賊の追捕などにあたらせたが，10世紀ごろから常置の職となった。律令(りつりょう)制の衰退と在地武士の成長に伴い，政府は在地武士の武力を治安維持のために利用しようとしたが，結果的には在地武士の台頭とその武士化を促進するものであった。

おうりょうしょくみんち　【王領植民地】　17～18世紀，イギリスが北アメリカの植民地を支配した統治形態の一。国王の任命した総督が直接統治するもので，1624年のバージニアをはじめとして，以後コネチカット・ペンシルベニア・メリーランド・ロードアイランド以外の全植民地に適用された。植民地議会は財政支出権をもつのみで，その他の官吏任命権，植民地議会の立法拒否権など，すべて本国政府に属した。

おうりょく　【応力】　物体に外力が作用するとき，物体内部に外力に抵抗して生ずる内力。物体を任意の面で仮想的に2分したとき，この断面に生じている単位面積あたりの応力を応力度という。一般には，応力度を単に応力と略称している。通常，この仮想断面に生ずる応力を，垂直な成分と平行な成分とに分解して考える。前者を垂直応力または法線応力，後者を剪断(せんだん)応力または接線応力という。垂直応力はその作用方向によって，引張り応力・圧縮応力とよぶ。➔弾性　〔山根雅巳〕

おうりょっこう　【鴨緑江】　ヤールー川　朝鮮と中国との国境を流れる川。全長790km，流域面積31,739km^2。白頭山に源を発し，南西に流れ，龍巌浦(りゅうがんぽ)付近で黄海に注ぐ。700km上流の恵山鎮までは小舟が運行するが，冬季約4か月間は凍結する。上流部山岳地帯には大森林があり，新義州・丹東(旧名安東)の製材所まで，鴨緑江節*で名高いいかだ流しが行なわれたが，1941年水豊ダム建設後は，水豊湖までの600kmとなった。水豊ダムは朝鮮戦争で徹底的に破壊されたが，その後復興され，出力70万kWhで，朝鮮民主主義人民共和国の工業化の起動力となっている。〔矢守一彦〕

おうりょっこうぶし　【鴨緑江節】　大正時代に流行した三味線唄(しゃみせんうた)の曲名。朝鮮と中国の国境に沿って流れる鴨緑江のいかだ流しのふぜいを両江道恵山鎮の日本人芸者が歌いだしたものである。《恵山鎮節》ともよばれる。

おうりん　【黄燐】　リン*の準安定な同素体。白リンともいう。リン酸カルシウム・ケイ酸・炭素を電気炉中で加熱すると，蒸気として発生する。これを空気に触れないように水中に導いて凝縮する。ニンニク臭が

あり，純粋なものは無色だが通常は淡黄色をおびた透明ロウ状の固体で，比重1.82，融点44℃，沸点280℃，二硫化炭素などに溶解する。空気中では徐々に酸化され，60℃で発火し，五酸化リンとなる。化学作用は激しく，炭素・窒素以外の元素と直接反応する。暗所でリン光を発する。猛毒で，致死量0.1g。P_4なる分子として存在する。蒸気は，800℃以上でP_2およびPに解離しはじめる。水中に貯蔵する。〔竹下三吉〕

おうれん【黄蓮】双子葉植物・キンポウゲ科。山地の林の陰のやや湿った所にはえる常緑多年草。薬用として栽培もされる。根茎は黄色で太く，ひげ状の根を出す。葉は複葉で，切れ込みのある3小葉からなる。春，花茎を出し，白色の花をつける。キクバオウレンは一変種で，葉がキクの葉のように羽状に深裂する。またセリバオウレンは葉の切れ込みが非常に深い。根茎を乾燥したものを黄蓮といい，ベルベリンなどのアルカロイド*を含み，漢方では消炎薬・苦味健胃薬として用いる。この仲間に，小葉が広いくさび形のミツバオウレンや，葉が5小葉からなる複葉のバイカオウレンなどがある。〔小清水義隆〕

おうレンズ【凹レンズ】⇨レンズ

おうわのしゅうろん【応和の宗論】963年(応和3)，村上天皇が宮中で法華(ほっけ)講を開き，仲算ら奈良法相宗の10師と良源ら北嶺(ほくれい)天台宗の10師を招いて討論させた宗論。すべてのものが成仏できるかどうかについての論争で，法相宗側は五性各別(衆生*(しゅじょう)が先天的に備えている5種の性質と能力)説の考えに立って，成仏できないものがあることを主張したのに対し，天台側はすべてのものが仏になれると主張した。規模の大きさと，その激しさにおいて，かつて類をみないものであった。〔玉山成元〕

オーエイチレーダー【OHレーダー】over the horizon radarの略称。地平線のかなたにあるミサイルを探知できるレーダー。短波を電離層に反射させて索敵する。アメリカ国防総省は，このレーダーがBMEWS(弾道ミサイル早期警戒網)より早く敵ミサイルの情報を発することができると発表した。現在アメリカは，このレーダーをソ連・中国のミサイル発射実験探知用に使用している。

オーエーエス〔OAS〕Organisation de l'Armée Secrèteの略称。アルジェリア独立前後のフランス人コロン*(入植者)の過激右派と右翼軍人グループからなる秘密軍事組織。指導者はサラン将軍・ジュオー元帥。1962年のエビアン協定後，ドゴールの和平政策を非難し，〈フランスのアルジェリア〉を叫び，現地とパリでテロと破壊活動を続けたが，アルジェリア独立後は弱体化した。

おえどにほんばし【お江戸日本橋】はやり歌の曲名。《コチャエ節》ともいう。もとは天保(てんぽう)(1830～1843)ごろの色っぽい《はこね節》であったが，のちに替え歌が次々につくられて，中でも〈お江戸日本橋七つ立ち，初上り，行列そろえてアレワイサノサ，コチャ高輪(たかなわ)夜明けのちょうちん消す，コチャエコチャエ〉に始まる東海道をよみこんだものが特に明治にまで流行した。



オウレン　(左)キクバオウレン
(右)セリバオウレン

オーエーユーけんしょう【OAU憲章】OAUはOrganization of African Unity(アフリカ統一機構)の略称。OAU設置の基本条約である。1963年5月エチオピアの首都アジスアベバで開かれたアフリカ独立諸国首脳会議で，30か国が調印，同年10月成立発効。➔アフリカ統一機構

オーエン〔Robert Owen〕(1771～1858)　イギリスの空想的社会主義者。理想社会の構想を描き，織物業で産をなしたのちに，ニューラナークにある工場を，短縮した労働時間，改善された労働条件をもつ労働者のためのモデル工場に改革した。彼はこの企てだけに満足せず，アメリカのインディアナ州にニュー-ハーモニーという名の〈共産主義社会〉を建設しようとして全財産を投入したが，失敗に終わった。その後も，約30年にわたって，イギリスにおける労働運動・社会運動の前進のために力を尽くした。エンゲルス*は，彼の社会主義思想の空想性とその歴史的背景を指摘しつつも，社会主義の創始者のひとりとして高く評価し，〈イギリスで労働者の利益のために行なわれた社会運動やほんとうの進歩は，すべてオーエンの名と結びついている〉と述べている。〔松浦　保〕

オーエン〔Richard Owen〕(1804～1892)　イギリスの動物学者。ランカスターに生まれる。エジンバラとロンドンで医学を学び，1828年にロンドンの外科専門学校の助手，1834年に同学校の比較解剖学の教授となる。かたわら，イギリス領各地から産出する化石爬虫(はちゅう)類について研究報告を発表した功績で，1838年にロンドンの地質学会からワラストン賞を受ける。1856年には外科専門学校の教授の職を辞して，イギリス博物館の館長の職についた。1881年に，同博物館の博物展示品が南ケンシントンの新しい建物に移管されるとともにその管理者となった。1857年には，イギリスの科学普及協会の会長に選出された。主著に《歯の記載学》(1840～1845)《脊椎(せきつい)動物の解剖》(1866～1868)《ニュージーランドの絶滅無翼鳥類記事》2巻(1878～1879)がある。〔大森昌衛〕

オーエンス〔Jesse Owens〕(1915～　)アメリカの黒人陸上競技選手。1936年の第11回オリンピック-ベルリン大会で100m競走(10秒3の世界タイ記録)，200m競走(20秒7のオリンピック新記録)，走り幅とび(8m06の世界新記録)，400mリレー(39秒8の世界新記録)の4種目に優勝し，〈かっ色のカモシカ〉といわれた。7日間のうち予選を含めて12回出場し，いずれも1位。当時21歳。その後，生活のためにプロに転向。第2次世界大戦後，アメリカ合衆国国務省の親善使節として新興国の陸上競技を指導したり，テレビの解説などをしている。〔伊東春雄〕

おおあおぞうむし【大青象鼻虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。体長12～14mm(口吻(こうふん)を除く)。体の地色は黒色だが，全体に黄緑色の鱗毛(りんもう)におおわれている。前胸背板および鞘翅の側部にはそれぞれ1本の黄色鱗毛からなる縦条がある。頭部は短く，口吻も短く太い。鞘翅は前胸背板よりもはるかに幅広く，各10条の規則的な点刻列がある。北海道・本州・九州・サハリン(樺太(からふと))などに分布する。ヤナギ類の害虫で，成虫は6～7月ごろ多く見られる。〔鈴木邦雄〕

おおあきないひるがこじま【大商蛭子島】歌舞伎(かぶき)の脚本名。初世桜田治助*作。1784年(天明4)中村座*初演。源頼朝(よりとも)旗揚げのエピソードに，曾我(そが)兄弟のおいたちをからませて脚色したもの。頼朝の好色と内縁の妻辰姫(たつひめ)の嫉妬(しっと)を描いた場面がおもしろい。

おおあさ【大朝(町)】広島県山県(やまがた)郡の町。人口4,200。島根県との県境に近く，江(ごう)川の支流可愛(えの)川の水源付近の大朝盆地の中心。国道261号線に沿い，広島市と浜田市・大田市(島根県)との中継地で，国鉄バス広浜線もここを通過する。近世まで続いた鑪*(たたら)(砂鉄を原料とする和鉄製錬法)の歴史を引き継ぐ大朝鋳物や和牛などの産がある。

おおあさやま【大麻山】徳島県鳴門(なると)市の北にあり，弥山(みせん)ともいう。山頂に奥宮，南麓(なんろく)に本宮のある大麻比古神社と，神社の参道に近く四国八十八番札所の第1番札所である霊山(りょうぜん)寺とがあり，1961年(昭和36)県立自然公園に指定された。

おおあまのおうじ【大海人皇子】⇨天武天皇

おおあみしらさと【大網白里(町)】千葉県山武郡の町。人口26,000。町域は九十

九里浜から下総(しもうさ)台地にかけて，東西に細長く延びている。1954年(昭和29)に，大網町と白里町ほか1村が合併してできた。大網は下総台地の市場町から発展した商業・交通の要地で，房総東線から東金線がここから分かれており，白里は九十九里浜の漁村で，夏は海水浴場としてにぎわう。米・麦・サツマイモ・ラッカセイなどの農業が行なわれ，また天然ガスを採取している。

おおあらい　【大洗(町)】　茨城県東茨城郡の東端の町。人口22,000。1954年(昭和29)磯浜(いそはま)・大貫(おおぬき)両町が合併して発足した。太平洋に面し，那珂(なか)川の南岸に位置する。磯浜は漁港で，水産加工業が盛んであり，大洗磯前(いそざき)神社の門前町でもある。大貫は保養地として知られるが，1968年に日本原子力大洗研究所が完成して新たな脚光を浴びている。付近の大洗岬(おおあらいみさき)は〈磯で名所は大洗さまよ，マツが見えますほのぼのと〉と磯節に歌われ，巨大なレキ岩の海岸に鹿島灘(かしまなだ)の怒濤(どとう)が白く砕ける雄渾(ゆうこん)な景観は広く知られる。また南北に連なる海岸線は背後の涸沼(ひぬま)と涸沼川を含めて県立自然公園に指定されている。海水浴場・海洋博物館・明治記念館・水族館などの施設も整い，観光と合わせて夏は海水浴客でにぎわう。

おおありくい　【大蟻食】　哺乳(ほにゅう)類・貧歯目・アリクイ科。体長1.2～1.5m，尾長70～90cm。ラテンアメリカの沼地や湿った森林，およびサバナ*にすみ，地上で生活する。前肢(ぜんし)の強大な4本のつめでシロアリ・アリの塚(つか)や巣をこわし，卵・さなぎ・成虫を長い舌にくっつけて食べる。長い尾で体を包むようにして眠る。➔アリクイ

おおあわがえり　【大粟還】　単子葉植物・イネ科。チモシーともいう。小川や路傍の縁にはえる多年草。代表的な牧草で，日本には明治初年ごろ牧草として移入され，その後各地に帰化した。茎は麦わら状で基部が肥厚。6～8月に円柱状の花序に淡緑色の花をつける。水盤に綿を敷き，種をまくといっせいに発芽し，観賞用にもされている。

おおあわだちそう　【大泡立草】　双子葉植物・キク科。北アメリカ原産の多年草で，いたるところの川原・荒地などにはびこる。茎は高さ1m以上。葉は細長く，先がとがる。秋，茎の先に黄色の頭花を穂のようにつける。近縁のものにアキノキリンソウ*がある。

おおい　【大井(町)】　埼玉県入間郡の町。人口35,000。川越街道に沿い，東武鉄道東上線が東端をかすめているが駅はない。1956年(昭和41)町制施行。ニンジン・ゴボウなどの産地であったが，東京に近いので近年は住宅や工場が進出し，人口が急増している。



大洗町　海岸道路に大洗神社の大鳥居が見える。手前は港と防波堤で，緑の台地の向こうは，那珂川の河口と那珂湊市の市街地



大井川　広い川幅いっぱいにみごとな網状流路を描いて流れる。手前の鉄橋は東海道本線，上方は国道1号線。右側島田市，左側金谷町

おおい　【大井(町)】　神奈川県足柄上郡の町。人口13,000。1956年(昭和31)相和村ほか2村が合併し，中世の大井荘(おおいしょう)の名をとって町名とした。米・タバコ・ミカン・ナシなどをつくる農村地帯であったが，1968年に第一生命保険の本社が東京から移転し，新しい町づくりが行なわれている。東名高速道路が通じ，その松田インターチェンジがある。

おおいがわ　【大井川】　静岡県北部，赤石山脈中央部に源を発し，県中央部を南流して駿河(するが)湾南西部に注ぐ。流程180km余。山間部には支流の寸又(すまた)川とともに，接阻峡(せっそきょう)・寸又峡・清涼峡などの峡谷をつくり，また電源開発もよく行なわれている。畑薙(はたなぎ)・井川・千頭(せんず)・大間などのダムが建設されて，平野部では水量も少なく，広々とした礫(れき)の川原をみせているが，東海道屈指の荒れ川で，ひとたび雨季となると川道いっぱいに濁流が流れる。江戸幕府はこの川を渡る東海道に架橋を許さず，出水時には川止めの布令を出して通行を禁じた(➔川越し)。両岸の宿駅島田・金谷(かなや)はこれで栄えた。下流南に展開する牧ノ原台地はこの川の古い扇状地で，台地面は広く茶畑に開拓されている。〔長津一郎〕

おおいがわ　【大堰川】　京都府の丹波山地に水源を発し，園部(そのべ)・亀岡(かめおか)の盆地を経て京都市西部を流れて，淀(よど)川に合する川。古く，京都市西部の嵐山(あらしやま)のふもとに堰堤(えんてい)をつくり，付近一帯を灌漑(かんがい)したのでこうよばれるようになった。なお嵐山から上流の亀岡盆地のあたりまでは保津川，嵐山・桂(かつら)の付近から淀川合流点までは桂川とよばれる。保津川は，江戸時代初期に角倉(すみのくら)了以*が河道を改修してから，丹波地方の木材・薪炭・米を京都方面へ運搬するのに利用され，また急流のため船遊びの場所として有名で，これを保津川下りという。桂川は，平安時代の貴族の船遊びの場で，歌枕(うたまくら)となっている。また付近に，西芳寺*・桂離宮*などの名所が多い。〔長津一郎〕

おおいがわおおはし　【大井川大橋】　静岡県の島田市と金谷(かなや)町の間の大井川にかかる国道1号線(東海道)の橋で，全長1,019m。江戸時代には橋がなくて〈大井川の渡し〉で有名であったが，1873年(明治6)にはじめて橋がかけられた。現在の橋は，1928年(昭和3)にかけ替えたものである。

おおいけんたろう　【大井憲太郎】(1843～1922)　政治家。自由民権運動*の指導者。大分県の生まれ。長崎で蘭学(らんがく)を学び，のち江戸に出て開成所*にはいり，フランスの政治・法律・経済思想を学んだ。維新後，フランスの代議政体に感銘し，1874年(明治7)民選議院設立建白書*をめぐって民権論を展開，翌年愛国社*にはいった。1881年，自由党創設後は党内急進派の指導者となった。このころ朝鮮問題にひかれ，朝鮮内政改革を企てた大阪事件*を起こして入獄。1889年憲法発布とともに大赦出獄した。のち中江兆民*らと自由党の再建を図り，1890年立

憲自由党を設立したが1892年脱党，続いて東洋自由党を結成して，党内に普通選挙期成同盟会*・日本労働協会・小作条例調査会を設けたが，晩年は政界に孤立して右翼*と結び，大陸問題に関心を移した。〔岸野淳子〕

おおいしたさいばい【覆下栽培】 冬季寒風を防ぎ，太陽熱を十分活用して，冬の生育を順調にして早出しをする栽培法。ふつう，うねの北側に，よしずやわらを用いて45°くらいの傾斜をつけた片屋根をつくる。資材費が少なくてかなり効果がある。元来は，東京近郊でカブ・ダイコン・つけ菜類を春早く出すのに発達したものであるが，近年はビニルトンネルを用いたトンネル栽培に変わりつつある。〔松本正雄〕

おおいしまさみ【大石正巳】(1855～1935) 政治家。高知県に生まれる。1874年(明治7)立志社にはいって国会開設運動に参加，1881年自由党幹事となったが板垣(いたがき)退助の洋行に反対して脱党。1887年大同団結運動*に参加，雑誌《政論》で活躍した。1892年朝鮮駐剳(ちゅうさつ)弁理公使として防穀令事件*の交渉にあたった。1896年進歩党の組織に加わり松隈(しょうわい)内閣の農商務次官，1898年憲政党内閣の農商務相，党分裂後は憲政本党の改革派の中心となり，1910年立憲国民党総務，1913年(大正2)立憲同志会に参加したが，1915年政界を引退した。衆議院議員当選6回。〔安達淑子〕

おおいしよしお【大石良雄】(1659～1703) 赤穂(あこう)義士の首領。播磨(はりま)(兵庫県)赤穂城主浅野氏の城代家老，千五百石。通称内蔵助(くらのすけ)。軍学を赤穂配流中の山鹿(やまが)素行に学んだ。1701年(元禄14)主君浅野長矩(ながのり)が吉良義央(きらよしなか)に江戸城中で刃傷(にんじょう)し，領地没収・切腹に処されたため，同志と浅野家再興に尽力したが成功せず，1702年12月14日同志46名と吉良邸に討ち入り復讐(ふくしゅう)した。のち細川家に預けられ，翌年2月切腹。長子良金も行をともにした。泉岳寺*に葬られている。
→赤穂義士 〔松尾　涼〕

おおいずみ【大泉(町)】 群馬県邑楽(おうら)郡の利根(とね)川に沿う町。人口31,000。太田(おおた)市の南隣にあり，第2次世界大戦中は，太田とともに航空機生産の軍需工業地域をなしていた。現在，三洋電機のテレビ・冷蔵庫の工場などがある。1957年(昭和32)小泉町と大川町が合併して生まれた。1965～1970年の人口増加率は18.3%で，人口の増加している町村は，県内では例が少ない。東武鉄道小泉線が通ずる。

おおいそ【大磯(町)】 神奈川県中郡の町。人口30,000。相模(さがみ)湾に面し，もとは東海道の宿場町で，いまは東海道本線・国道1号線に沿い，国道134号線を分岐する。1885年(明治18)，日本ではじめての海水浴場となり，その後保養地・別荘地として発展，伊藤博文(いとうひろぶみ)・山県有朋(やまがたありとも)などが別荘をここに置き，最近は吉田(よしだ)茂がいた。岩崎弥太郎(やたろう)の別荘の跡が，いまその孫沢田美喜が経営する混血児の収容施設であるエリザベス-サンダース-ホームとなっている。漁港があり，また野菜・草花の栽培，酪農が行なわれている。地福寺に島崎藤村の墓がある。西部の旧国府町は，相模の国府があったところで，1954年(昭和29)に大磯町と合併した。

おおいた【大分(県)】 九州地方北東部の県。北東と東は瀬戸内海の周防灘(すおうなだ)・伊予灘(いよなだ)・豊予海峡(速吹瀬戸)を隔てて，本州・四国に対し，北西は福岡，西は熊本，南は宮崎の各県と接する。豊前(ぶぜん)の東部と豊後(ぶんご)の全域を占め，面積6,330km^2，人口**123万4,000**，人口密度1km^{2}あたり**195**である。県花・県木はブンゴウメ，県鳥はメジロ。県庁のある大分以下の11市と，12郡(36町11村)に分かれる。

〔自然〕かつての激しい火山活動や，瀬戸内海の陥没作用の影響を受けて複雑な地形を呈し，全体として山がちで，その間に狭小な平野や盆地が散在する。北部は広い耶馬渓(やばけい)溶岩台地で，福岡県境に英彦(ひこ)山(1,200 m)がそびえ，周辺一帯は耶馬日田英彦山国定公園に指定される。北東部には国東(くにさき)半島が突き出して，コニーデ火山の両子(ふたご)山(721 m)がある。中央部には，霧島火山帯が北東から南西の方向に走り，九州の屋根といわれる火山群九重山群に属する久住山(1,788 mで九州本土最高)・鶴見岳(つるみだけ)(1,375m)・由布岳(ゆふだけ)(1,584m)などのトロイデ火山群が並び，周辺一帯は阿蘇(あそ)国立公園に指定されている。南部は険しい九州山地が宮崎県境を走り，豊後水道に没するあたりで典型的なリアス式海岸をつくる。海岸線はこのほか，国東半島の突出や別府湾の湾入などの屈曲に富み，延長580kmに及ぶ。おもな河川は，山国川・駅館(やっかん)川・大分川・大野川・番匠川などで，いずれも北東流，あるいは東流して瀬戸内海・豊後水道に注ぐが，大野川以外はいずれも短小である。平野は，北部に山国川下流流域の中津平野，別府湾南岸に大分・大野両川下流流域の大分平野が開け，大野川上流域に竹田盆地がある。また，北西部は筑後(ちくご)川流域に属し，その上流玖珠(くす)川流域に玖珠・日田の両盆地がある。

気候は一般に温暖で，雨もかなり多いが，地域差が著しい。南部の豊後水道沿岸は高温多雨の南海気候区に属し，年平均気温16℃，年降水量1,700～1,800mmであり，一部にビロウやアコウなどの亜熱帯植物が自生する。中央部から北部にかけての海岸地方は瀬戸内式気候で，雨が少なく，夏は夕なぎが起こる。西部の山間諸盆地はやや内陸性気候を呈し，気温が低くて降水量が多く，山地では年平均気温が12℃，平均降水量2,000mm以上を記録する。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は20：28：52で，第1次産業の就業人口が多く，県民分配所得は1人あたり107万7,000円で，全国で41位の低位にある。農業人口が半ばを占める農業県で，耕地面積77,000ヘクタールのうち水田が約68%を占める。約10万の農家はほとんどが零細規模で，動力化も遅れ，兼業率は85%で，全国平均の88%よりやや低い。〈農林水産業〉主要農業地域は中津平野と竹田盆地で，年産19万tの米をはじめ，麦・サツマイモ・ナタネ・ダイコンなどをつくっている。果樹ではミカンが多く，国東半島を中心とした海岸線一帯で増産が図られており，国営・県営の開拓事業によって耕地の造成が進んでいる。特産物のシチトウイは国東半島西部から大分平野に至る地域で栽培されて全国の3分の2を産し，豊後表とよばれる畳表に加工される。南部の山間農村では，副業としてシイタケの栽培が行なわれ(産額は全国1位)，ハゼノキ・タバコなどもつくられる。中津平野における台地のダイコン，豊後高田市呉崎(くれさき)干拓地のネギ，大野川下流のゴボウなどは，近年発展した飯田高原の高冷地野菜とともに，県外へも移出される。畜産業は，豊後ウシとして知られる肉用和牛の飼育が盛んで，久住山あたりの火山原野一帯を中心に54,000頭が飼育され，全国でも上位にあるが，最近はやや頭数が減っている。肉用牛はおもに京阪神(けいはんしん)地方に出荷される。養鶏は農業改善事業による大規模な経営が普及し，北九州地域への移出が増加しつつあり，乳牛の飼育頭数は最近増加して約13,000頭に及ぶ。林野面積は県面積の72%を占め，温暖多雨の気候に恵まれて，内陸各地で林業が盛んに行なわれる。西部の日田・玖珠両地方では良質のスギ・マツ・ヒノキが生産され，生長の早い〈日田スギ〉は全国的に名高い。木炭生産も盛んで，その約60%は白炭であり，工業用として広島・岡山地方へ出荷される。竹材は，速見郡や，大分・竹田・豊後高田各市の周辺で生産され，竹細工は特産物として移出される。水産業は零細な沿岸漁業が主体で，長い海岸線をもち，良港のあるわりに漁獲量は多くない。臼杵(うすき)・津久見・佐伯(さいき)・米水津(よのうづ)・蒲江(かまえ)などは古くから開けた漁港である。周防灘・別府湾ではノリ・貝など，豊後水道沿岸ではカキ・真珠などの養殖が行なわれているが，別府湾のノリの養殖は臨海部の工業地帯造成計画によって，今後の生産はあやぶまれている。〈鉱工業〉地下資源としては，石灰岩・金・銀・スズ・イオウなどの産出が多い。石灰岩は南部山地に多く埋蔵されるが未開発で，いまは臨海部の津久見地区が主産地である。溝部(みぞべ)・鯛生(たいお)の両鉱山では金・銀，豊栄(全国3位)・尾平・木浦などの鉱山ではスズをおもに産出し，国東半島では砂鉄の採掘が行なわれている。佐賀関(さがのせき)の日本鉱業の精錬所では，

他県からも鉱石を集めて，おもに銅の精練をしている。ドロマイト・炉材・ケイ石・硅藻土(けいそうど)など，各種の土石類の採掘も盛んである。工業は，農林水産物加工の木材・木製品と食料品などの中小工場が大半を占め，臼杵・佐伯周辺では石灰岩を原料とするセメント工場が多い。そのほか，大分市・中津市の紡績・製糸業を除き，近代工業は未発達である。1959年(昭和34)以来，新産業都市に指定された大分市の東部に，1,200万m²に及ぶ大分・鶴崎臨海工業地帯の造成計画が進められ，石油化学・鉄鋼を基幹とするコンビナートの一部がすでに建設されている。

〔交通・都市〕陸上交通では，日豊本線が海岸を南北に走り，久大本線は大分から九州山地を横断し，日田を経て久留米(くるめ)(福岡県)まで東西に走る。また，豊肥本線は大分から南下して竹田を経由し，阿蘇のカルデラを通って熊本まで達している。主要道路は県域をほぼ南北に走る国道10号線，東西に走る57号線・210号線などで，別府から阿蘇を経て熊本へ通ずる九州横断道路も開通した。バス交通は，観光地別府を中心にきわめて発達し，延べ路線は3,700kmに及ぶ。海上交通では，別府港が阪神と九州を結ぶ瀬戸内海航路の起点となっており，また，大分港は商港として発展してきたが，1965年に開港指定を受け，新産業都市大分地区の海の玄関としての役割が注目される。津久見港・佐伯港はセメント・木材・パルプなどの積み出し港である。航空路では，大分空港から東京・大阪・松山・広島・大村・熊本・鹿児島などに定期航空路が通じている。人口は，東部の海岸地帯に集まり，北から南にかけて，もと奥平氏十万石の城下町で商工業都市として発展している中津市，田園都市の豊後高田市，もと松平氏三万二千石の城下町でシチトウイ栽培の中心である杵築(きつき)市，温泉観光都市として全国に知られる別府市，県庁所在地の大分市，かつてポルトガルとの貿易で知られた臼杵市，貿易港の津久見市，もと毛利氏二万石の城下町で県下有数の漁港佐伯市がある。山間部には，北の日田盆地，南の竹田盆地に日田市・竹田市があるが，西部の山地の人口はきわめて少ない。

〔歴史〕豊国(とよのくに)とよばれて古くから開けたが，大化改新によって豊前・豊後の2国に分かれ，それぞれ国府が置かれて大宰府(だざいふ)に統括されていた。鎌倉幕府が開かれると，1196年(建久7)に大友能直(よしなお)が鎮西奉行(ぶぎょう)兼豊後の守護として入国して土着の豪族を征服し，豊前には宇都宮信房(うつのみやのぶふさ)が守護職(しゅごしき)について支配した。大友氏は府内(いまの大分市)を本拠地として多くの荘園(しょうえん)を治め，武家政治の体制を確立し，鎌倉・室町の両時代を通じて豊後を支配した。戦国時代のキリシタン大名大友宗麟(そうりん)のころには，その勢力が北九州全域から四国の南西部にまで及び，ポルトガルや中国などとも交易して繁栄した。戦国時代末期に大友氏が滅びたのちは，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の分割統治政策によって，府内・中津・杵築・日出(ひじ)・佐伯・森・岡・臼杵に細分された。江戸時代には，一部が天領や熊本・延岡両藩の領地となり，幕末には中津・杵築・府内の譜代大名のほか，外様(とざま)大名・神領・天領や他国大名の飛び地などが介在していた。1871年(明治4)廃藩置県によって，前記8藩に旧天領の日田県を加えた9県が生まれ，その後豊前は小倉県，豊後は大分県に統合された。1876年には小倉県の解体によって，そのうち旧中津藩の下毛・宇佐の2郡を大分県に編入して，現在の県域が確立した。〔浅井得一〕



大分県


大分県　大野川河口の鶴崎臨海工業地区。手前に日豊線が通る。煙を吐いているのがパルプ工場，海岸の埋め立て地のタンクは九州石油

おおいた【大分(市)】 大分県の中部，県庁のある市。古代には豊後(ぶんご)の国府が置かれ，幕末まで府内とよばれた。鎌倉時代には大友氏の城下町として京都や鎌倉をしのぐほど繁栄し，江戸時代には松平氏二万一千石が統治していた。1911年(明治44)市制施行。人口34万9,000。市域は別府湾に注ぐ大野・大分両川の下流流域に沿い，大分平野のほぼ全域を占める。第2次世界大戦中戦災を受けたが，1948年(昭和23)に都市計画のモデル都市となり，昔の武家屋敷跡は，県庁や大分大学(教育・経済)のある行政・文化地区に，商家街は商業地区となって，完全な復興を遂げた。産業三大別人口比は6：31：63。1959年以降大分港の東方を埋め立てて工業用地の造成が進み，在来の繊維・食料品・木材などの工業に加えて，

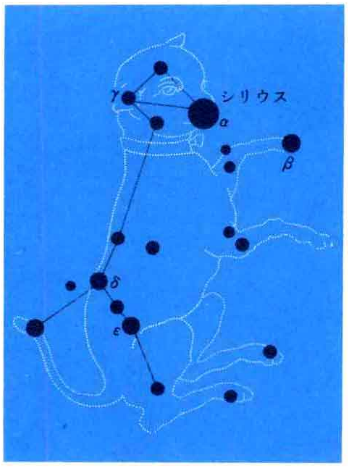
紡績・機械などの近代工業も興り，1963年には大分新産業都市の指定を受け，東隣の鶴崎(つるさき)市ほか3町1村を合併した。鶴崎地区にはすでに石油化学(昭和電工)・鉄鋼(新日本製鉄)などの工場がはいって，コンビナートの建設が進んでいる。日豊本線に沿い，九州を横断する久大・豊肥の両線が分かれる。国道10号線(小倉街道)・197号線が集まり，大分空港からは各地へ定期航空路が通ずる。大分港は第2種重要港湾に指定され，臨海鉄道を通じて東九州の物資を集散するが，旅客港としては別府港に一歩を譲っている。瀬戸内海国立公園の区域内にあり，野生ザルが生息する高崎山*(628m)，大友宗麟*(そうりん)がザビエルを招いて建てた教会デウス堂の遺跡，宗麟がポルトガル船や明船(みんせん)と交易した神宮寺浦(いまの春日浦(かすがうら))，柞原八幡宮(ゆすはらはちまんぐう)などの名所史跡がある。〔浅井得一〕

おおいたしんさんぎょうとし【大分新産業都市】 大分・別府・杵築(きつき)の3市と隣接する7町を含む地域で，1964年(昭和39)新産業都市に指定された。指定以前から工業地域造成に積極的で，最近は大規模な製鉄所・石油精製工場が建設され，将来さらに電力(火力)・機械工業の建設もめざしている。ほかに戦前からの佐賀関(さがのせき)の金属精錬(特に銅)，大分の紡績工場などもある。

おおいたへいや【大分平野】 大分県の別府湾南岸に面し，九重火山群に源を発する大分川と大野川がつくった三角州が複合した沖積(ちゅうせき)平野で，その周辺には背後の山地からの丘陵が突き出している。ほぼ大分市の市域と一致し，西部の大分川左岸に大分市の中心市街があり，東部は主として米作が行なわれている。丘陵は畑作が主であるが，最近市街地付近の丘陵は住宅地として開発されている。海岸は砂浜海岸で数列の砂丘がみられたが，この一帯は大分新産業都市*に指定され，特にこの平野の海岸は大分臨海工業地帯として埋め立てが進められて，工業用地が造成され，大きく変わりつつある。歴史的にも開発が古く，豊後(ぶんご)国府跡と条里制の遺構がみられる。

おおいちもんじ【大一文字蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ120mm内外。翅の地色は青みをおびた黒色。前翅中室内に1個の横紋および各室に1～2個の白紋がある。後翅は外縁に1本の青灰色の帯があり，これに沿って多数の橙黄(とうおう)色の小紋が帯状に配列し，中央部には幅広い顕著な白色帯がある。翅の裏面の地色は金黄色で，雌は雄に比べて淡色。北海道および本州の山地帯に産し，7月ごろより出現する。飛び方は敏速で，樹間の道路や日あたりのよい空地・川原などを好む。朝鮮北部にも分布し，原種はヨーロッパに分布する。

おおいとせん【大糸線】 松本～糸魚川(いといがわ)間の国鉄路線。営業キロ数105.4。1914～1957年(大正3～昭和32)開業。飛騨(ひだ)山脈(日本アルプス)の東麓(とうろく)を走る鉄道で，観光線としての要素が強い。松本～白馬間が電化されている。



おおいぬ座

おおいなるいさん【大いなる遺産】 ディケンズ*の長編小説(1861)。利己心のままに生きようとした青年がやがて幻滅し，真実の人情をとりもどしていく過程を，教養小説ふうに描いた作品。匿名の人から金を贈られたいなかの孤児ピップは，ロンドンへ出て紳士教育を受け，人情を忘れた俗物になっていく。やがて，匿名の恩人が昔助けた脱獄囚とわかり，ピップは無一文になるが，改心して善良と勤勉さをとりもどす。

おおいぬざ【大犬座】 オリオン座の南に従い，冬の南天を飾る星座。全天第1の輝星シリウスをはじめ，明るい星が多い。シリウスの南約4°のところには，双眼鏡の対象として手ごろな散開星団*が見える。➔星座

おおいぬのふぐり【大犬の陰嚢】 ⇨イヌノフグリ

おおいりょう【大炊寮】 令制(りょうせい)で宮内省に所属する官司。諸国から供出される舂米(しょうまい)(精白米)・雑穀の検査および諸司に分給する食料の事務をつかさどった。頭(かみ)・助・允(じょう)・大属(だいさかん)・少属・大炊部(おおいべ)・使部・直丁・駈使丁(くしてい)などの職員が整えられ，平安末期以後，頭は中原氏の世襲となった。

おおうた【大歌】 宮廷の公儀に用いた上代の謡物の総称で，民間で歌われた小歌*に対する語。伴奏には和笛*(やまとぶえ)・和琴*(わごん)が用いられた。平安時代に宮中で大歌をつかさどる大歌所が雅楽寮から分かれて設立され，神楽*(かぐら)・催馬楽*(さいばら)などが管理された。《古今和歌集》に大直日歌(おおなおびのうた)・倭舞歌(やまとまいのうた)などがうたわれたとある。

おおち【大内(町)】 香川県大川郡の町。県の東端に近く，播磨灘(はりまなだ)に面する。人口18,000。高徳本線の通る三本松を中心に，1955年(昭和30)1町2村が合併発足した。主産業は農業であるが，隣接する白鳥町の手袋工業の影響を受け，手袋工場が多い。漁業はふるわない。

おおうちけかべがき【大内家壁書】 周防(すおう)(山口県)の守護大名大内氏*の家法。〈大内殿掟書(おきてがき)〉ともいう。1459年(長禄3)から1495年(明応4)までの間に出された法令50余を収録している。殿中武士の儀礼や，城下の取り締まり，商人統制などの社会事象を対象としたものが多く，中世社会を研究する好史料である。《群書類従》に収録されている。➔分国法

おおうちし【大内氏】 南北朝から室町時代にかけて中国地方で活躍した守護・戦国大名。百済(くだら)の聖明王の子孫で多々良(たたら)氏と称した。古くより周防(すおう)(山口県)の豪族として大内に住み，16代盛房(もりふさ)以来周防権介(ごんのすけ)を世襲していた。24代弘世(ひろよ)のとき長門(ながと)(山口県)に移り，その子義弘(よしひろ)は6か国を領有して強大を誇ったが応永の乱*で敗死した。のち復興し，義隆*(よしたか)のときには長門・周防・石見(いわみ)(島根県)・豊前(ぶぜん)(福岡県・大分県)など7か国の守護となって勢力をふるった。明(みん)との貿易の利を独占して中国地方の大豪族となったが，1551年(天文20)義隆は家臣陶晴賢*(すえはるかた)のために殺された。晴賢は大友宗麟(そうりん)の弟義長を迎えて大内氏を継がせたが，晴賢も義長も毛利元就*(もとなり)に攻め殺され，大内氏は滅びた。〔村尾元忠〕

おおうちよしおき【大内義興】(1477～1528) 守護大名。父は政弘(まさひろ)。長門(ながと)・周防(すおう)(ともに山口県)・安芸(あき)(広島県)・石見(いわみ)(島根県)・豊前(ぶぜん)(福岡県・大分県)・筑前(ちくぜん)(福岡県)6か国の守護。1508年(永正5)室町幕府前将軍足利義稙(あしかがよしたね)を擁して入京し，将軍義澄(よしずみ)・細川政元を追い，義稙を将軍に復し，みずから管領(かんれい)となった。1516年明(みん)との貿易の利権を獲得，貿易独占の端を開いた。在京10年で帰国し，出雲(いずも)(島根県)の尼子経久(つねひさ)と安芸・備後(びんご)の地を争奪し，その戦中に死んだ。

おおうちよしたか【大内義隆】(1507～1551) 守護大名。父は義興*(よしおき)。長門(ながと)・周防(すおう)(ともに山口県)・安芸(あき)・備後(びんご)(ともに広島県)・石見(いわみ)(島根県)・筑前(ちくぜん)(福岡県)・豊前(ぶぜん)(福岡県・大分県)7か国の守護。後奈良天皇即位にあたり費用を献ずるなどして大宰大弐(だざいのだいに)従二位になる。学問・芸術に意を用い，城下山口に公家(くげ)を保護したり，書籍を印刷(大内版)したり，またフランシスコ・ザビエル来日のときにはキリスト教布教を許すなど，文化上にも功があった。1551年(天文20)家臣陶晴賢*(すえはるかた)に襲われ自殺した。〔村尾元忠〕

おおうちよしひろ【大内義弘】(1355～1399) 室町初期の武将。父は弘世(ひろよ)。

長門(ながと)・周防(すおう)(ともに山口県)・石見(いわみ)(島根県)・豊前(ぶぜん)(福岡県・大分県)の守護となり，明徳の乱*後の1392年(元中９・明徳３)功によって山名氏の旧領和泉(いずみ)(大阪府)・紀伊(きい)(和歌山県)を加えられ計６か国を領有した。同年，南北朝の合体に尽力し，その間高麗(こうらい)および李氏(りし)朝鮮(→李朝)との国交回復に尽くし，室町幕府と朝鮮の修好の生じるもとを開いた。1399年(応永６)前将軍足利義満(あしかがよしみつ)に抗して応永の乱*を起こしたが，和泉(いずみ)(大阪府)堺(さかい)で敗死した。〔村尾元忠〕

おおうら【大浦】 長崎市の南部，長崎港の東岸に臨む地区。幕末以来オランダ人やイギリス人の居留地となり，当時の石畳の道路や西洋館がいまも残っている。日本最古の天主堂で，国宝に指定されている大浦天主堂*や，お蝶(ちょう)夫人ゆかりの地として知られるグラバー邸などがあり，海岸には税関・倉庫・県水産試験所などがある。

おおうらかねたけ【大浦兼武】(1850～1918) 政治家・警察内務官僚。薩摩(さつま)藩出身。1871年(明治４)邏卒(らそつ)小頭を振り出しに島根・山口・熊本など各県知事を歴任，1898年山県有朋(やまがたありとも)系内閣のとき警視総監となった。山県系官僚勢力の代表者として桂(かつら)内閣・大隈(おおくま)内閣に入閣したが，1915年(大正４)の総選挙における選挙干渉，２個師団増設案をめぐる買収事件が暴露し，追及されて失脚した。

おおうらてんしゅどう【大浦天主堂】 長崎市南山手町にある，日本最古のカトリック派の教会堂。1864年(元治１)フランス宣教師プティジャンの設計で建てられたゴシック式木造建築。当時はキリスト教の禁教下にあったが，フランスと接近関係にあったため幕府は黙過した。1596年(慶長１)の長崎におけるキリシタン殉教者を記念して，これを二十六聖殉教者堂と命名した。1875年(明治８)改築し，れんが造りとした。国宝。〔松尾　涼〕

おおえけんざぶろう【大江健三郎】(1935～　) 小説家。愛媛県の生まれ。東京大学仏文科卒。在学中の1957年(昭和32)《奇妙な仕事》で東大五月祭賞受賞。その後《死者の奢(おご)り》《他人の足》《芽むしり仔(こ)撃ち》などを発表，翌年《飼育》により芥川(あくたがわ)賞*受賞。第２次世界大戦後の世代を代表する，現代文学の旗手としての地歩を固めた。《われらの時代》《個人的な体験》《万延元年のフットボール》など多数の作品がある。

おおえし【大江氏】 平城(へいぜい)天皇の皇子阿保(あぼ)親王*から出た皇別氏族。親王の子音人(おとんど)が大枝(おおえ)本主に養われて大枝を称したのにはじまる。866年(貞観８)大江と改姓。姓(かばね)は朝臣(あそん)。維時(これとき)・朝綱・匡衡(まさひら)・匡房(まさふさ)ら多くの学者・文人を輩出した。広元のとき，鎌倉幕府に仕えて政所(まんどころ)別当となって武家政治に貢献した。以後その子孫は長井・那波(なわ)・毛利・海東らの諸氏に分かれた。とりわけ毛利氏は戦国末期に元就(もとなり)が出てから大いに栄え，その子孫は江戸時代には周防(すおう)・長門(ながと)(ともに山口県)２か国の領主となった。〔篠　弘道〕





大浦天主堂　(上)長崎港東岸斜面の港を見おろす位置に建っている。最初は木造であったが，1875年れんが造りに改造された。周辺は石畳を敷いた坂道と異国情緒豊かな屋敷町である　(下)天主堂の内部。ステンドグラスが美しい

おおえたく【大江卓】(1847～1921) 政治家・実業家。土佐藩の下級武士の家に生まれ，陸援隊にはいって倒幕運動に参加した。1868年(慶応４・明治１)兵庫県判事試補，1871年に〈穢多*(えた)・非人〉廃止を政府に建白。翌年神奈川県参事・同県権令のとき，中国人奴隷売買のペルー船の不法を摘発して世論の共鳴を得た。西南戦争には挙兵を図り投獄された。1890年立憲自由党再建に活躍，第一議会の予算委員長として政府と民党との妥協を図ったが，1892年落選して政界を引退した。のち東京株式取引所会頭，京釜(けいふ)鉄道の重役に就任するなど財界で活躍した。〔岸野淳子〕

おおえのあさつな【大江朝綱】(886～957) 平安中期の学者。音人(おとんど)の孫。父祖の業を継ぎ博学で詩才にすぐれていた。選国史所で国史の編集に従い，村上天皇の命を受けて《新国史》《坤元(こんげん)録》を撰(せん)した。渤海*(ぼっかい)の大使を送る彼の詩，〈前途ほど遠し思ひを雁山(がんさん)の暮雲に馳(は)せ……(原漢文)〉は有名。官は参議に至った。著書に《後江相公集》がある。

おおえのこれとき【大江維時】(888？～963) 平安中期の学者。音人(おとんど)の孫，大江朝綱とは従兄弟関係。江納言(こうなごん)または江相公とよばれた。博覧強記で学才にすぐれ，929年(延長７)文章(もんじょう)博士，939年(天慶２)大学頭(かみ)となった。醍醐(だいご)・朱雀(すじゃく)・村上天皇の侍読となり，官は参議を経て中納言に進んだ。編集した漢詩集として，わが国の当時の名詩を撰(せん)した《日観集》，中国の名詩を撰した《千載佳句》がある。〔高崎徳次〕

おおえのちさと【大江千里】 生没年不詳。音人(おとんど)の子。維時(これとき)の父。中務少丞(なかつかさしょうじょう)・兵部(ひょうぶ)少丞を経て902年(延喜２)兵部大丞となった。その他の経歴については明らかでない。894年(寛平６)宇多天皇の勅命により《句題和歌》を選集。また《古今集》をはじめ勅撰(ちょくせん)和歌集にその詠歌が計31首選せられている。漢学の家がらである大江氏*に生まれながら，和歌の作品を多く残していることは唐風文化から国風文化へ移りつつあった当代の風潮を反映している。〔高崎徳次〕

おおえのひろもと【大江広元】(1148～1225) 鎌倉幕府の政所(まんどころ)別当。維光(これみつ)の子。中原広季(ひろすえ)の養子となったが，のち大江姓に復した。1184年(寿永３・元暦１)源頼朝(よりとも)に招かれて鎌倉に下り，公文所(くもんじょ)別当となって，以後頼朝の側近職員としてその信任を得て活躍した。守護・地頭の設置は彼に負うところが大きい。1191年(建久２)公文所を改称した政所別当となり，頼朝没後は北条(ほうじょう)氏と協力して，執権政治の確立を助け鎌倉幕府の基礎を固めた。官は因幡守(いなばのかみ)・掃部頭(かもんのかみ)・陸奥守(むつのかみ)など。出家して覚阿(かくあ)という。〔鹿野賀代子〕

おおえのまさひら【大江匡衡】(952～1012) 平安後期の学者。維時*(これとき)の孫で神童の聞こえ高く，24歳で文章生(もんじょうせい)，38歳で文章博士となり，その後，一条天皇の侍読を勤めた。詩文・和歌・陰陽道(おんようどう)にすぐれ，家門の再興と学問の隆盛を夢みていたという。その和歌は《勅撰(ちょくせん)和歌集》にとられ，ほかに《江吏部集》を残した。仁康(にんこう)の渡宋(とそう)の際につくった願文は名高い。赤染衛門*(あかぞめえもん)は彼の妻。〔谷中静子〕

おおえのまさふさ【大江匡房】(1041～1111) 平安中期の学者。匡衡(まさひら)の曽孫(そうそん)，成衡(なりひら)の子。幼時より神童と称せられ，長じて文章(もんじょう)得業生となり卒業して官に仕えた。1069年(延久１)後三条天皇の即位に及び蔵人(くろうど)となり，累進して正二位権中納言兼大宰権帥(だざいのごんの

(そち)に至る。世に江帥(ごうのそち)という。この間後三条・白河(しらかわ)・堀河(ほりかわ)3天皇の侍読となり，朝儀典礼に通じ博学多才をもって称せられ，藤原為房(ためふさ)・同伊房(これふさ)とともに〈三房〉といわれた。著書に《江家次第》《本朝神仙伝(しんせんでん)》《続本朝往生伝》があり，《江談抄》は彼の談話を筆録したもの。〔籔　弘道〕

おおえまる【大江丸】(1722～1805) 江戸中期の俳人。大阪の人。大伴(おおとも)氏。本名安井政胤(まさたね)，別号旧国(ふるくに)など。通称大和屋善兵衛(やまとやぜんべえ)。家業の飛脚問屋を継ぎ，諸国を旅したので交遊が広く，多くの編著の中でも《俳懺悔(はいざんげ)》《俳諧袋(はいかいぶくろ)》は，当時の俳壇の見聞録としてもおもしろい。俳諧は家業の余技で蓼太*(りょうた)に私淑したが，作風はきわめて自由であった。

おおえやま【大江山】京都府北部の丹後山地にある山で，千丈ヶ岳ともいう。標高833mで，宮津湾に流れ出る野田川の上流に位置する。源頼光(よりみつ)の大江山酒呑童子(しゅてんどうじ)鬼退治の伝説で知られ，付近には鬼ヶ島神社・鬼穴・鬼茶屋などの地名がある。東のふもとには大江山スキー場がある。

おおおかえちぜんのかみ【大岡越前守】⇨大岡忠相(ただすけ)

おおおかしょうへい【大岡昇平】(1909～) 小説家。東京の生まれ。京都大学仏文科卒。はじめスタンダール*の翻訳・研究に従事。1948年(昭和23)《俘虜記(ふりょき)》によって横光(よこみつ)利一賞を受け，1951年《野火》で読売文学賞を受賞。《レイテの雨》《生きている捕虜》などを含めて第2次世界大戦の経験を書いたものが多い。スタンダールの手法に学び，人間心理の知的な考察に鋭い。なお中原中也*(ちゅうや)・富永(とみなが)太郎*の評伝もある。

おおおかせいだん【大岡政談】江戸の町奉行(ぶぎょう)大岡越前守忠相(えちぜんのかみただすけ)の名裁判ぶりを描いた通俗読み物で，講談をはじめ落語・歌舞伎(かぶき)・映画にも取り入れられている。実録体小説とよばれる一群の読み物に属し，著者は不明。中国小説の翻案を付会したり，まったくの創作もあって事実とかけ離れたものも多い。《天一坊》《村井長庵(ちょうあん)》《越後(えちご)伝吉》《白子屋お熊(くま)》《三方一両損》などが有名。

おおおかただすけ【大岡忠相】(1677～1751) 江戸中期の幕臣。越前守(えちぜんのかみ)。1712年(正徳2)山田奉行*(ぶぎょう)となり，山田・松阪(まつさか)の訴訟に紀伊(きい)領松阪の非を裁断して，紀伊藩主徳川吉宗(よしむね)に認められ，吉宗が将軍となると江戸町奉行*に抜擢(ばってき)された。享保(きょうほう)の改革*においては吉宗を助け，行政的手腕と公正な裁判によって名奉行と称された。1736年(元文1)寺社奉行*となり，1748年(寛延1)三河(みかわ)に一万石を与えられ，大名に列した。

おおおく【大奥】江戸城*本丸のうち将軍夫人(御台所(みだいどころ))および側室の居住する建物。江戸城本丸は表・中奥・大奥の三つの部分からなるが，大奥の建物は表向きと銅塀(どうべい)で厳重にくぎられ，2本の御鈴(おすず)廊下によってつながれている。その入り口を御錠口という。将軍以外は原則として男子禁制。大奥はさらに御台所の居所，大奥の事務を取り扱う広敷役人の詰め所，大奥の女中のへやである長局(ながつぼね)などに分かれる。大奥の女中には将軍付きと御台所付きとがあり，上臈(じょうろう)・年寄・中臈からお末に至るまで，多くの身分階層に分かれていた。大奥の隠然たる力が幕府政治に影響することも多かった。〔善積美恵子〕



オオオニバス

おおおにばす【大鬼蓮】双子葉植物・スイレン科。ボリビア，アマゾン地方の沼地にはえる多年生の水草。日本では温室で栽培される。全体にとげがあり，葉は丸く直径2mに達し，水面に浮かぶ。葉の縁は5cmほど上に折れ曲がり，お盆のような形である。種子植物のうちで最も大きな葉で，浮力が大きいため子どもなどが乗っても沈まない。花は水面上に頭を出して咲き，直径30～40cm，スイレンに似ており，強いかおりがある。咲きはじめは白色であるが，のちに桃色になり，翌日は紅色に変わり，3日めの朝には落ちる。種子は黒緑色でエンドウの種子大。繁殖は種子による。

おおおみ【大臣】律令(りつりょう)制以前の最高官。臣を姓*(かばね)とする諸氏族を代表し大連*(おおむらじ)とともに大和(やまと)朝廷の政治を執行した。成務天皇のときの武内宿祢*(たけのうちのすくね)を初見とするが実在は疑わしい。大和(奈良県)土着豪族の葛城(かつらぎ)・巨勢(こせ)・平群(へぐり)の各氏があいついで任ぜられたがいずれも没落した。6世紀後半より蘇我(そが)氏*が世襲的に独占し，587年大連物部守屋(もののべのもりや)を打倒したのちは，大臣専権時代を現出した。大化改新による蘇我氏の失脚で廃止され，左右大臣制に代わり，やがてこれは臣姓とは無関係の新官職とした。〔北条秀樹〕

おおかがみ【大鏡】平安後期の歴史物語。《世継(よつぎ)物語*》または《古鏡》ともいう。文徳天皇の850年(嘉祥3)から後一条天皇の1025年(万寿2)にわたる14代176年間を，藤原北家の興隆から道長の極盛を主題として紀伝体に描く。雲林院(うりんいん)の菩提講(ぼだいこう)で行き会った190歳の大宅(おおやけの)世継と夏山繁樹(しげき)の両翁に，繁樹の妻と若侍が加わり，おもに世継が語るのをかたわらの作者が書き取ったという対話体の体裁が目新しい。作者には諸説があって定説をみないが，源氏の繁栄を予想するなどの言辞から，源氏関係の貴族らしいと考えられている。成立年時も，本文の記述にある後一条天皇の万寿2年(1025)とみるのは否定的で，それ以後半世紀から1世紀の院政時代とみる説が多い。構成は，序・本紀・列伝・藤氏物語・昔物語の5部で，各部はそれぞれ巧みに脈絡を保っている。これには，《史記*》から影響を受けたと思われる紀伝体，仏教の論議の影響とみられる対話形式が有効であった。《栄花物語*》ののちに出ながら，その表面的・無批判な道長賛美に満足せず，道長栄華の由来の究明に向かおうとする史観や，人間に対する深い理解と関心などが，この作品を歴史物語の代表作たらしめている。〔加納重文〕

おおがき【大垣(市)】岐阜県西部の市。中山道(なかせんどう)と美濃路(みのじ)の分岐点で，水門川を通じて桑名と連絡する交通の要地にあたり，江戸時代は戸田氏十万石の城下町であった。1918年(大正7)市制施行。人口14万2,000。濃尾平野の輪中(わじゅう)地域の北西部，揖斐(いび)川の扇状地の末端部を占め，かつての大垣輪中や北西の金生山などの山地も市域内に含まれる。産業三大別人口比は5：47：48で，周辺農業地域の米・麦・菜種などを集散し，最近は豊富な地下水を利用して，紡績・石灰窯素・カーバイド・酸化ビニルなどの大工場が発達している。商業活動が活発で，県西部の経済の中心地である。東海道本線から赤坂・垂井(たるい)・樽見(たるみ)の各支線が分かれ，近畿(きんき)日本鉄道の養老・揖斐各線，国道21号線・258号線が通じ，名神高速道路のインターチェンジがある。国宝大垣城は戦災で焼失したが，いまは鉄筋で再建された。水門川船町港跡にはかつての繁栄のなごりをとどめる住吉(すみよし)燈台が残り，また，芭蕉*(ばしょう)が舟で伊勢(いせ)へ下った〈奥の細道むすびの地〉の碑がある。近郊には古墳群があり，養老の滝・関ケ原古戦場などの名所史跡が多い。特産は富有ガキ。〔浅井得一〕

おおがた【大潟(村)】秋田県南秋田郡に属し，八郎潟*の中央干拓地に1964年(昭和39)に新設された村で，中央干拓地の面積166.57km²，戸数686戸，人口3,300(1979)。1972年度の完成までに910戸6,500人の入植者農家が定着する予定であったが，最近の米の生産過剰のために，農林省は1969年に今後の開田打ち切りを決めたので，村の前途に暗影が投げかけられている。赤・黄・ピンクと入植年次別に屋根の色を塗り分けたオランダふうの入植者住宅や，地上30mの

もみ貯蔵用のカントリーエレベーターなどは，いままで日本の農村のイメージにはないもので，1969年夏にはここを会場の一つとして秋田県農業博覧会が開かれた。村は県の管理下にあり，村長も県から派遣されていたが，1976年に村長・村会議員が選挙されて，完全な自治体となった。〔浅井得一〕

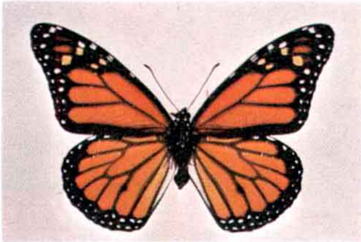
おおかばまだら【大樺斑蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・マダラチョウ科。翅(はね)を広げた長さ95mm内外。翅の地色は赤かっ色で，翅脈と外縁部は黒色，黒縁中に灰白色の小斑紋(しょうはんもん)が多数ある。幼虫はトウワタを食べ，南アメリカおよび北アメリカの寒地を除いたほとんど全域に分布する。大群をなして，しかも遠方まで移動することで，ヒメアカタテハなどとともに有名である。ヨーロッパ西部・アフリカ北西部・アラスカ・太平洋中南部の諸島，オーストラリアにまで移住し，日本でも1940年(昭和15)に東京で1頭が採集されている。〔鈴木邦雄〕

おおかべ【大壁】柱・間柱などの軸組材を下地ならびに仕上げ材で包んでしまう壁体構造。洋風の木造建築の多くはこの構造である。構造材が壁の中に隠れてしまうため，筋かいに柱と同程度の太さのものが使用できる。接合金物が使用できるので真壁に比し，耐震性・耐風性が強い。外壁をモルタル塗・石綿セメント板を用いて仕上げれば防火的で，壁内に中空部分があるので断熱材を挿入(そうにゅう)すれば防暑・防寒に効果がある。しかし水分が侵入すると蒸れるので腐朽し，虫害を受けやすい。

おおかまきり【大蟷螂】こん虫類・直翅(ちょくし)目・カマキリ科。体長95mm。体は全体かっ色のものと緑色のものとの2型がある。前胸背は大きく細長い。前翅は膜質で尾端の後方に少し延び，先端は著しく細まっている。後翅は前翅端に延び，基部に黒色の大形紋がある。東京以南，東洋区*に広く分布する普通種。

おおかみ【狼】哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イヌ科。体長1～1.3m，尾長36～50cm，肩の高さ63～80cmくらい。ヨーロッパ・北アメリカ・アジアに分布。暖かい地方に産するものは小がらで細く，毛は短いが，寒い地方のものは大きく，毛は長い。体色の変異も大きく，ほとんど白色のものからかっ色・灰かっ色・黒色のものまである。森林・原野・ツンドラなどに広くすみ，夏は家族群を構成するが，冬になると数家族が集まって10～30頭の群れをなし，広大な地域を行動し，シカやウサギを襲い，ときにはウマなどの家畜や人も殺す。妊娠期間60～63日，1腹3～12子。子は暗かっ色で，1週間ほどで目があく。

シンリンオオカミ(北アメリカ産，コヨテが草原オオカミとよばれるのに対していう)，シベリアオオカミ(ヨーロッパ～アジア産)，シロオオカミ(北極付近のツンドラに


オオカバマダラ


オオカミ

分布し，全身白色)など多くの亜種がある。北海道に中形のエゾオオカミ，本州・四国・九州に小形のニホンオオカミ(ヤマイヌ)が分布したが，前者は1900年(明治33)ごろ，後者は1905年ごろに滅びた。〔今泉吉典〕

おおかみうお 硬骨魚類・オオカミウオ科。ほぼ1mに達する海産魚。恐ろしい顔つきで，口から鋭いきばをむき出している。貝・ウニ・カニなどをかみ砕いて食べる。性質が攻撃的で，人にも向かってくるといわれる。北海道以北の沿岸にすむ。英語でもウルフ-フィッシュとよばれ，フランス語では〈海のオオカミ〉とよばれる。

おおかめのき ⇒ムシカリ

おおかわ【大鼓】⇒おおつづみ

おおかわ【大川(市)】福岡県南西端の市。江戸時代は筑後(ちくご)川水運と有明海航路を結ぶ物資の集散港として栄えた。1954年(昭和29)市制施行。人口51,000。筑後川河口の沖積地(ちゅうせきち)を占め，産業三大別人口比は15：48：37。日田地方から運ばれる木材を材料とする木工業が盛んで，古くから〈家具の町〉として知られた。1949年に重要木工集団地，1964年に不知火(しらぬい)・有明・大牟田(おおむた)新産業都市に指定された。1935年昇開式鉄橋で筑後川をまたぐ佐賀線が開通し，1955年には国道大川橋(有料道路)が対岸の佐賀県諸富(もろどみ)町とを結んだ。

おおかわしゅうめい【大川周明】(1886～1957) 国家主義者。山形県に生まれる。東京大学卒業。はじめマルクス主義を学んだが，のち右翼*理論家となった。1919年(大正8)北一輝と結んで猶存社*を創立したが，別れて1924年みずから行地社*を興し軍部との関係を深めた。軍部独裁政権をめざした三月事件*・十月事件*などのクーデター計画に参画し，1932年神武会*を創立，侵略戦争を賛美した。五・一五事件では幇助(ほうじょ)罪に問われたが恩赦で出獄した。第2次世界大戦でA級戦犯として逮捕されたが，公判中発狂を理由に審理から除かれた。《日本文明史》《皇国2600年史》など著書が多い。〔岸野淳子〕

おおかわへいざぶろう【大川平三郎】(1860～1937) 製紙王といわれる事業家。川越(埼玉県)出身。親類にあたる渋沢栄一の経営する王子製紙*に製図工として入社，その後アメリカ・ヨーロッパで製紙技術の研究を重ね，大川式ダイゼスターという機械を発明，1893年(明治26)同社の専務取締役に就任した。1898年に同社が三井財閥の資本支配を受けたために退社，その後九州製紙創立をはじめ製紙業界で活躍した。彼は資本による支配を好まず，必要資金を渋沢・浅野・安田などの財閥の共同出資に求め，みずからは事業家として経営実務にあたり，製紙はもちろん，セメント・ビール・ガラス・造船・鋼管など，多種多様な企業に関係した。〔片岡一郎〕

おおきたかとう【大木喬任】(1832～1899) 政治家。佐賀藩出身。明治新政府には徴士として出仕，東京遷都を建議して東京府知事となる。1871年(明治4)文部卿(もんぶきょう)，次いで司法卿となり，萩(はぎ)の乱，神風連の乱に際してはその処刑の任にあたった。1880年民法典編纂(へんさん)総裁，1885年元老院議長，1889年枢密院議長，のち法相・文相として，文教・立法の分野で活躍した。伯爵。

おおきのこむし【大蕈虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オオキノコムシ科。体長15～35mm。体は光沢のある黒色で，前胸背板および鞘翅の肩部と翅端にそれぞれ赤かっ色の紋がある。日本特産種で，日本産のオオキノコムシ科中最大の種である。北海道および本州の山地の森林帯に多く，枯れ木の樹皮下やサルノコシカケなど枯れ木に生ずるキノコ類に見いだされる。オオキノコムシ科は全世界に約2,500種が知られ，おもに熱帯地方に多くの種が知られている。日本からは約70種が発見されており，5mm内外の小形種が多い。いずれも枯れ木に生ずるキノコ類を食べるが，シイタケなど食用キノコを食害する害虫も知られている。〔鈴木邦雄〕

おおぎまちきんみち【正親町公通】(1653～1734) 江戸初・中期の垂加神道家(しんとうか)。権大納言実豊の末子として生まれる。1680年(延宝8)山崎闇斎*(あんさい)に誓文を呈して門人となり，垂加神道を学びその奥義を伝授された。のち根本経典とも称すべき《中臣祓(なかとみのはらえ)風水草》を後西上皇の上覧に供し，〈この書は貴重なる事のみにて容易の説にあらず。長く汝(なんじ)が家秘としてみだりに人に示すことなかれ。〉との仰せに従い，正親町流神道を称するに至る。著書に《正親町公通卿(きょう)口訣》《無窮記》《甲子際考》がある。〔中西正幸〕

おおぎまちてんのう【正親町天皇】(1517～1593) 名は方仁(みちひと)。後奈良天皇

の第1皇子。母は吉徳門院藤原栄子。戦乱で皇室衰微の極に達した1557年(弘治3)皇位を継承し，1560年(永禄3)毛利元就(もとなり)の献費で即位の儀式を挙行した。のち織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)によって皇居造営・儀式再興がなされ，応仁(おうにん)の乱後皇威を振興した。1586年(天正14)皇孫の後陽成天皇に譲位。陵墓は京都の深草北陵。〔松尾　涼〕

おおぎり　【大切】　歌舞伎(かぶき)の興行で，最後につける一幕物のこと。にぎやかな舞踊劇*が多く，縁起をかついで大喜利とも書く。江戸時代，1興行1作品が原則で，1作品が1番目と2番目に分かれていた時代には，1番目の最終幕を〈大詰〉，2番目の最終幕を〈大切〉とよんだ。

おおぎりじょうるり　【大切浄瑠璃】　歌舞伎*(かぶき)の大切*に多く上演される舞踊劇。観客を明るい気持ちにして送り出すため，にぎやかな見た目のはでなものが多く，風俗描写をした舞踊の《乗合船*》《どんつく*》《かっぽれ*》などが代表的な例。なお，これらの曲の音楽も大切浄瑠璃という。

おおくち　【大口(市)】　鹿児島県北西部の市。江戸時代は島津藩の直属地で地頭が置かれ，西南の役では激戦地となった。1954年(昭和29)市制施行。人口28,000。川内(せんだい)川上流の大口盆地の中心部を占め，熊本・宮崎の両県域と接する。産業三大別人口比は46：17：37で，良質の伊佐(いさ)米の産地として知られる。林野面積が市域の3分の2を占め，林業が盛んで，北東部には大口金山がある。宮之城(みやのじょう)線・山野線の分岐点で，国道267号線・268号線が交差し，川内川県立公園の観光基地となる。

おおくにたかまさ　【大国隆正】　(1792～1871)　江戸末期の国学者。石見(いわみ)(島根県)津和野藩士今井秀馨の子。姓は藤原，はじめ今井，さらに野々口・大国を名のった。15歳のとき平田篤胤(あつたね)門下となるとともに，昌平黌(しょうへいこう)で儒学，村田春海(はるみ)に音韻学を学び，26歳のとき長崎で洋学を修めた。これらの学問的基盤の上に国学の究明に努力し，その復古思想は尊王攘夷論(じょういろん)者に多大の影響を与えた。著書は多いが《本学挙要》《当世要語》《天津祝詞太祝詞考*(あまつのりとのふとのりとこう)》などに彼の思想がよく現われている。《大国隆正全集》7巻がある。〔田上光治〕

おおくにたまじんじゃ　【大国魂神社】　東京都府中市宮町にある。景行天皇41年の創建と伝えられる。祭神は大国魂神(おおくにたまのかみ)。小野大神・小河大神・氷川(ひかわ)大神・秩父(ちちぶ)大神・金佐原大神・杉山(すぎやま)大神を相殿神として祭るところから六所宮とも，また武蔵(むさし)(東京都・神奈川・埼玉県)の諸神を祭るところから武蔵総社ともいわれる。源頼朝(よりとも)が兵をあげて武蔵に入り，まず当社に参詣(さんけい)して神馬(じんめ)と引き矢をささげた故事により，武門の信仰が厚かった。例祭は5月5日。当夜行なわれる神輿(みこし)の渡御にあたっては，氏子一同が全町燈(ひ)を消して迎えるために，俗に暗闇(くらやみ)祭り*とよばれる。



大国魂神社　拝殿



大久保利通

おおくにぬしのかみ　【大国主神】　日本神話の神。またの名をオオナムチノカミ・アシハラシコオノカミ・ヤチホコノカミ・ウツシクニタマノカミと称する。オオモノヌシノカミ・イワノオオカミと同一神にする場合もある。国主とは大八洲(おおやしま)内の諸国の君主をさすことばであったらしく，《神代紀》に〈すなはち国主事勝国(ことかつくに)勝長狭(かつながさ)を召して訪(おとな)ひたまふ〉という例が見いだされる。大国主はいくつもの小国主を従える者であり，オオクニヌシノカミは出雲(いずも)(島根県)を支配した神となっている。アマテラスオオミカミがニニギノミコトを天下すに先だって，タケミカヅチノカミ・フツヌシノカミを出雲につかわし，この神に国譲りを行なわせた。この神話の背景はいろいろに解釈されるが，国譲りののち，杵築(きつき)の大社に隠退し，出雲国造(くにのみやつこ)の祖アメノホヒノミコトを祭主としたと伝えるのは，政治的権力の放棄を意味する。大化改新の際における出雲国造の運命の投影する一面も存すると考えられる。➜出雲系神話　➜出雲大社

〔宮井義雄〕

おおくのしま　【大久野島】　広島県竹原市の沖合にある面積0.7km²の小島。1927年(昭和2)から1945年まで，ここに陸軍の毒ガス工場があり，戦後工場は破壊されたが，竹原市から通勤していた旧従業員の中には，いまだにイペリットなどの毒ガスによる呼吸器系統の後遺症に悩んでいる人があって，問題になっている。眺望がよく温泉もあるので1963年(昭和38)に国民休暇村に指定されたが，かつて〈毒ガス島〉と呼ばれた不気味さは，山をくり抜いて造った毒ガス貯蔵庫跡などにまだ残っている。

おおくぼとしみち　【大久保利通】　(1830～1878)　明治初期の指導的政治家。薩摩(さつま)藩の下級藩士の家に生まれる。本名は一蔵。20歳で島津家の内紛(お由良(ゆら)騒動*)に父とともに連座して鬼界島に流された。翌々年擁立した島津斉彬(なりあきら)が藩主となって許され，以後西郷隆盛*(たかもり)らと結んで藩政改革派の中心となった。また京都・江戸の間を往復して公武合体運動に奔走し，藩のわくを越えて討幕の必要を悟った。1866年(慶応2)京都で長州の木戸孝允*(たかよし)と薩長同盟を成立させ，岩倉具視*(ともみ)ら倒幕派の公家(くげ)とも結んで政局転換の主役を演じた。明治新政府成立とともに参与となり，版籍奉還*・廃藩置県*など中央集権の強化に努めた。1871年(明治4)岩倉遣外使節*の副使として欧米に行き，西郷らの征韓論*(せいかんろん)を聞いて帰国，これに反対した。征韓派の下野とともに新政府の実権を握り，1874年内務卿(ないむきょう)に就任，独裁的地位を高めた。以後も政府財政確立のため殖産興業政策を進め，1875年台湾に出兵して国内の不平を対外侵略にそらした。佐賀の乱に始まる不平士族の反乱は，1877年の西南戦争鎮定で終わるが，1878年石川県の不平士族島田一郎らによって，登庁の途中紀尾井坂で殺された。のち子の利和(としかず)が侯爵となる。〔岸野淳子〕

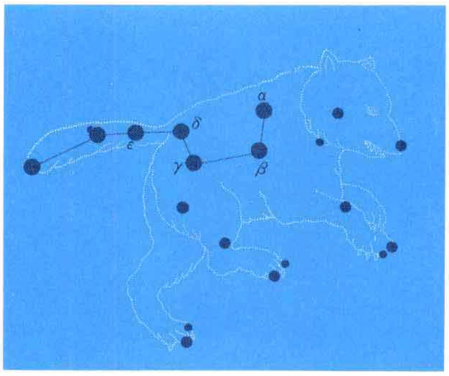
おおくぼながやす　【大久保長安】　(1545～1613)　江戸初期の金山奉行(ぶぎょう)。能役者大蔵藤十郎としてはじめ武田晴信(たけだはるのぶ)(信玄)に仕え，のち徳川家康(いえやす)に仕えた。鉱山開発のわざを認められ，金鑿司(きんさくし)となり，伊豆(いず)(静岡県)・石見(いわみ)(島根県)・佐渡(新潟県)などの金銀山の開発・採掘に従事。大久保忠隣(ただちか)の寵(ちょう)を受け，大久保の名字を与えられて大久保十兵衛(じゅうべえ)と名のる。金銀山開発の功をもって石見守(いわみのかみ)となり，八王子三万石の藩主となった。1603～1613年(慶長8～18)佐渡奉行となり，また高田藩主松平忠輝(ただてる)に臣属した。のち私財をたくわえ，ひそかに切支丹*を信仰した罪により死刑に処せられた。〔松平秀治〕

おおくぼひこざえもん　【大久保彦左衛門】　(1560～1639)　江戸初期の幕臣。忠員(ただかず)の八男。初名忠雄(ただお)，のち忠教(ただたか)。代々松平氏の家臣。1576年(天正4)遠江(とおとうみ)(静岡県)乾(いぬい)の戦い以来，各地の戦いで戦功を立て，徳川家康(いえやす)の関東移封後，武蔵(むさし)(埼玉県)で二千石を与えられた。1613年(慶長18)一族の中心者である小田原城主忠隣(ただちか)の改易によって，三河(みかわ)(愛知県)に一千石を加増された。

大阪の陣には槍奉行(やりぶぎょう)，1632年(寛永9)旗奉行となり，一千石加増され武人として旗本*(はたもと)の尊敬を受けた。著書の《三河物語》は松平氏の発展や三河武士の精神を知る好材料。講談などで知られる逸話の多くは信じがたい。〔松尾 涼〕

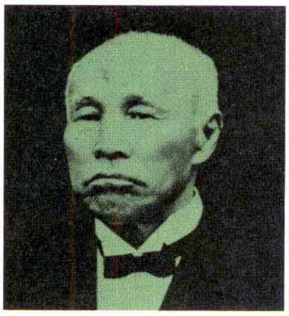
おおくまことみち【大隈言道】(1798～1868) 江戸末期の歌人。筑前(ちくぜん)(福岡県)の商家の生まれ。歌と書を福岡藩士二川相近(ふたがわのすけちか)に学んだ。39歳で家業を弟に譲り作歌に専念。歌は各人の経験・環境に即したものであるべきだ，との独自の見解のもとに清新で個性的な歌を残したが，世に入れられずに終わり，明治末になってはじめて真価を認められた。家集《草径集*》，歌論《ひとりごち》《こぞのちり》など。

おおくまざ【大熊座】北天の星座。北斗七星を含むので有名。ひしゃくの形をした星の配列は，北極星を見つける手がかりとして古くから注目され，バビロニアでは〈荷車〉，イギリスでは〈すき〉，中国では〈帝車〉に見立てられていた。また，この星座には銀河系外星雲*が多く存在している。



おおくま座

おおくましげのぶ【大隈重信】(1838～1922) 政治家。佐賀藩の下級武士の家に生まれる。幕末の動乱期には尊攘派(そんじょうは)として活躍し，明治維新後は民部大輔(たゆう)兼大蔵大輔となり，1870年(明治3)には参議，また大蔵卿(おおくらきょう)・地租改正事務局総裁を兼ね，内政・財政・渉外事務，貨幣鋳造，鉄道・電信敷設に努めた。台湾出兵・西南の役には事務を主宰し，この間軍事輸送にあたった岩崎弥太郎*(やたろう)と密接な関係を結んだ。1881年国会即時開設論と北海道開拓使官有物払い下げ事件*で薩長(さっちょう)勢力と衝突して下野した。翌年立憲改進党*を組織し，同年東京専門学校(早稲田(わせだ)大学*の前身)を創立した。1888年，伊藤(いとう)内閣・黒田内閣の外相として条約改正*にあたり，翌年排外主義者，来島恒喜(くるしまつねき)の投弾によって，右脚を失った。1898年板垣(いたがき)退助と憲政党*を結成してわが国最初の政党内閣(隈板(わいはん)内閣)を組織したが，党内抗争によって4か月で瓦解(がかい)した。1907年早大総長に就任。1914年(大正3)再び内閣を組織し，第1次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)に際しては連合国側に立って参戦した。のち対華二十一か条要求*を強行し，袁世凱(えんせいがい)の帝政延期を勧告した。《開国五十年史》などの著書がある。1916年侯爵。〔岸野淳子〕


大隈重信


大倉喜八郎

おおくら【大蔵】古代，大和(やまと)朝廷の蔵の一。《古語拾遺》によると雄略天皇のときに創立され，蘇我(そが)氏が，従来の斎蔵(いみくら)・内蔵(うちくら)と大蔵の総轄的責任者となった。斎蔵・内蔵が祭祀(さいし)，宮中の財政にあずかったのに対し，大蔵は諸国の貢献物などを取り扱う一般財政機関として形成されたものとみられる。近江令*(おうみりょう)六官の一つに大蔵があり，のち大蔵省*となった。

おおくらえいじょう【大蔵永常】(1768～？) 江戸時代後期の農学者。字(あざな)は孟純，号は亀翁，通称は徳兵衛(とくべえ)・亀太郎(かめたろう)。豊後(ぶんご)(大分県)に生まれる。全国を巡って農業の実際を見聞調査し，一時は駿河(するが)・田原・浜松の諸藩に招かれた。しかし晩年は不遇で没年も不明だが，長寿を全うしたようである。永常の農法には，中国と西洋の農学の影響も認められるが，その卓越性は，彼の広い経験的な知識に由来する。《農家益》(1802)，《老農茶話》(1810)，《農具便利論》(1822)，《除蝗録(じょこうろく)》(1828)，《綿圃(めんぽ)要務》(1833)，《広益国産考》(1844)など多くの著作を残した。〔中村禎理〕

おおくらきはちろう【大倉喜八郎】(1837～1928) 明治の代表的政商のひとり。越後(えちご)(新潟県)出身。18歳のとき江戸に上り，維新前後の混乱期に鉄砲店を経営，官軍・幕軍の双方に売りさばき巨大な資本を蓄積した。その後貿易商に転向，政府御用達(ごようたし)としておもに軍関係の仕事につき大倉組を創立した。日清(にっしん)・日露両戦役では兵站(へいたん)輸送で巨利を得，それを足がかりとして，中国・朝鮮へ進出，多くの事業を興して，第1次世界大戦のころには財閥にのし上がった。なお，教育・文化方面にも貢献するところが多く，大倉集古館や大倉高等商業(現東京経済大学)の創立者としても名高い。〔片岡一郎〕

おおくらしょう【大蔵省】

1 令*制(りょうせい)の8省の一。5世紀には大和(やまと)朝廷に置かれた大蔵*を継承し，令制定後，唐制により組織が整えられた。諸国の調庸・銭・金・銀・度量衡，貢物などのことをつかさどった。はじめ所管の官司には，典鋳(いもの)・掃部(かもり)・漆部(ぬりべ)・縫部・織部の5司が置かれていたが，そののち著しい改廃・増置が行なわれた。卿(きょう)以下の官吏のもとには宮廷工芸技術民が配属され，戸*を編成していた。律令制の衰退に伴い，省としての機能は弱まり，武家政権以後は有名無実となった。

2 明治維新後の1869年(明治2)2官6省の1省として設置。1869年，1871年の太政官制改正，1885年の内閣制度創設を通じ重要国政機関として設置を続け現在に至った。当初は事務は広範であったが，漸次各省に移管し，1886年に各省官制通則・大蔵省官制が制定されて，近代的中央財政機関としての省の組織が整備された。〔高崎徳次〕

3 1949年(昭和24)大蔵省設置法に基づいて再編成された。組織は，①内局：大臣官房・主計局・主税局・関税局・理財局・証券局・国有財産局・銀行局・国際金融局。②地方支分部局：地方財務局・税関。③付属機関：造幣局*・印刷局*・金融制度調査会・財政制度審議会・財務研修所など。④外局：国税庁*があり，内部部局は1房4部，地方支分部局に11の国税局と多くの税務署があり，付属機関に税務大学校・醸造試験所などがある。〔寺尾方孝〕

おおくらしょうしきんうんようぶ【大蔵省資金運用部】⇨資金運用部

おおくらしょうしょうけん【大蔵省証券】⇨政府短期証券

おおくらりゅう【大蔵流】狂言の流儀の一。南北朝時代の叡山(えいざん)の学僧玄恵法印を流祖とするが，芸統の確立者は室町後期の宗家9世宇治弥太郎(やたろう)。江戸時代にはいり，宗家大蔵弥右衛門(やえもん)家は金春座付きとして幕府御用をつとめたが，明治維新後の能楽衰微期に廃絶。東京は山本東次郎家，京阪(けいはん)は茂山千五郎家・忠三郎家によって流儀が守られてきた。現24世家元大蔵弥太郎は忠三郎家から分家した善竹弥五郎の次男で，山本東次郎家の則寿(のりひさ)らと東京で活躍する。京阪地方では茂山千作・千五郎・千之丞(せんのじょう)・忠三郎・善竹忠一郎ら大蔵流が狂言界を独占している。芸風は同流でありながら茂山・善竹家は写実味濃く現代的であるのに対して山本家は格調を重んじ，狂言演技の両極

端を示している。　　　　　　〔小林　貢〕

おおげしま【大毛島】徳島県鳴門(なると)市に属し，面積7.84km²。四国本土とは小鳴門を隔て，小鳴門橋がかかり，これによって結ばれている。淡路島との間には鳴門海峡があり，1976年(昭和51)から本州四国架橋工事の一部として，大鳴門橋が建設されつつあるが，橋脚が鳴門のうず潮に与える影響が心配されている。鳴門のうず潮の観光基地で，また真珠の養殖が行なわれ，鳴門ワカメの産もある。最大の漁業集落は南端の土佐泊で，ここの潮明寺に，《土佐日記》に出ている紀貫之(つらゆき)の歌碑がある。

おおけたで【大毛蓼】双子葉植物・タデ科。アジア原産一年草で，観賞植物として栽培される。高さ２ｍくらいになり，多数の枝を出し，葉とともに白色の長い毛を密生する。葉は卵形で10～20cm。秋に淡紅色の小花を密につける。

おおげつひめのかみ【大宜都比売神】日本神話の女神。オオゲツヒメノカミのゲはケ(食)，ツは助辞で，ウケモチノカミと同格の女神である。高天原(たかまがはら)を追放されたスサノオノミコトは，この女神に食物を請うたところ，神は鼻・口・しりから種々の食物を取り出してスサノオノミコトにささげた。スサノオは怒って女神を殺すと，女神の頭には蚕，目には稲種，耳にはアワ，鼻にはアズキ，陰(ほと)には麦，しりにはダイズがなった。これが《古事記》の所伝である。この神話はツキヨミノミコトに殺されたウケモチノカミの神話と等しいが，ただし，ここではアマテラスオオミカミの代わりにカミムスビノミオヤノミコトが女神の身になった物を取って種としたことになっている。カミムスビノミオヤノミコトは出雲(いずも)系神話にしか現われず，高天原系神話と出雲系神話の相違点である。➔保食神(うけもちのかみ)　　　　　〔宮井義雄〕

おおご【大胡(町)】群馬県勢多(せた)郡の町。人口12,000。赤城山南麓(なんろく)にあり，中世は牧野氏の城下町，近世以降は繭・生糸・ウマの市場町として発達。現在，上毛電鉄が通じ，地方物資の集散地となっている。米・麦を主とする農業，養蚕が盛ん。

おおこうちまさとし【大河内正敏】(1878～1952) 工学者・実業家。三河(みかわ)(愛知県)の大多喜藩主大河内正質長男として東京港区浜松町に生まれ，子爵を継ぐ。学習院，第一高等学校を経て1903年(明治36)東京帝国大学造兵学科卒業。同大学の造兵学教授として火砲構造理論・砲外弾道学・精密工学の研究と教育にあたった。1921年(大正10)理化学研究所長に就任し，同所の制度を確立して多くの人材を育成した。1927年(昭和２)理化学興業株式会社会長を兼ね，1945年公職追放で退くまで，新興コンツェルン〈理研産業団〉傘下(さんか)60数社を主宰して研究の企業化に活躍した。

おおこうもり【大蝙蝠】哺乳(ほにゅう)類・



オオケタデ



オオコウモリ　エラブオオコウモリ

翼手目・オオコウモリ科の総称。普通は食虫性の小翼手類よりも大形で，大きいものは前腕長37.5cm，翼を広げた長さは1.5～1.8ｍに達するが，小さいものは前腕長3.8cmほど。旧世界の熱帯・亜熱帯に群れですむ。日中は大きな樹葉の下や枝にぶらさがって休息し，夜飛び出して果実・みつ・花粉を食う。バナナ園・パイナップル園などに大群が来て，食害することもある。オオコウモリ類は世界じゅうに200種ほどいるが，日本付近には小笠原(おがさわら)のオガサワラオオコウモリ，琉球(りゅうきゅう)列島のエラブオオコウモリの２種を産する。　〔今泉吉典〕

おおごしょ【大御所】隠居した親王・公卿(くぎょう)・将軍の居所。転じてその人の尊称。江戸時代にはもっぱら隠居した将軍の尊称として用いられ，特に徳川家康(いえやす)の隠居後の政治を大御所政治，家斉(いえなり)の隠居後，江戸文化の爛熟(らんじゅく)期であった文化・文政時代を大御所時代といった。

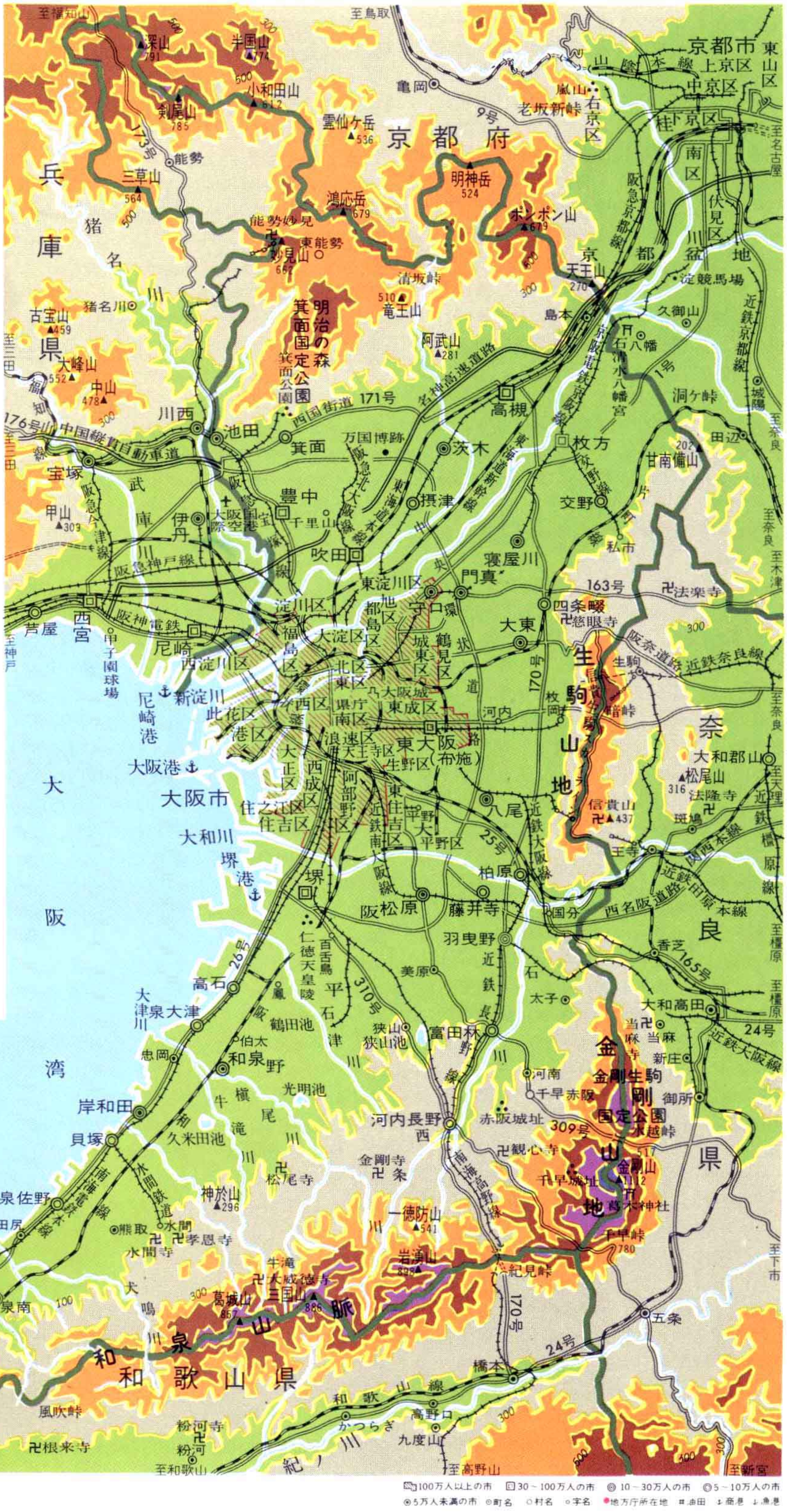
おおこのはずく【大木葉木兎】鳥類・フクロウ科。全長約25cm。羽角(いわゆるミミズクの耳)が著しい小形フクロウで，赤かっ色ないし黄かっ色の地に細かい黒斑(こくはん)がある。大形こん虫・小鳥・小獣を主食とし，低山から平地にかけての森にすむ。アジア一円に分布するが，北アメリカ産のものも同種とされている。➔フクロウ

おおさか【大阪(府)】近畿(きんき)地方のほぼ中央部の府。瀬戸内海東端に接し，北は京都府，東は奈良県，南は和歌山県，西は兵庫県と境を接する。河内(かわち)・和泉(いずみ)の全域と摂津の東半を占め畿内*の圏内にあった。面積は1,831km²で都道府県中最小であるが，人口は826万7,000人で東京都に次いで多く，人口密度１km²あたり4,515人も東京に次ぐ。府木はイチョウ，府花はアシ，府鳥はモズ。府庁のある大阪市以下31市と５郡(12町１村)があり，市の数は全国で３番目に多い。

【自然】中央に大阪平野が瀬戸内海に面して開け，北・東・南の三方を山地が取り巻く。北部には丹波山地の延長である高原状の老ノ坂山地が走り，箕面(みのお)の断層崖(だんそうがい)で大阪平野と接する地域一帯は明治の森箕面国定公園に指定されている。山地の東端は大阪平野と京都盆地をつなぐ山崎地峡で，桂(かつら)川・宇治川・木津川が合流して淀(よど)川となり，大阪平野に注ぐ。東部には，生駒(いこま)・金剛の両山地が奈良県境をくぎり，大和(やまと)川が奈良盆地の諸川の水を集めて金剛山地を横断し，大阪湾へ注ぐ。周辺一帯は金剛生駒国定公園に指定されている。南部には和泉山脈が東西約40kmにわたって走り，和歌山県境をくぎる。大阪平野は，これらの山地に続く丘陵部，その前面の台地部，台地の前面に広がる沖積地(ちゅうせきち)の３地域に区別される。丘陵部には老ノ坂山地に接する千里山丘陵，生駒山地北端の枚方(ひらかた)丘陵，和泉山脈北西部に広がる和泉丘陵などがある。台地は枚方丘陵や千里山丘陵の周辺に分布し，大阪市内の中央部を南北に細長く走る上町台地，北東部の交野(かたの)台地，北西部の豊中(とよなか)台地などがある。沖積地はこれらの丘陵や台地に囲まれた中央部に発達し，上町台地の東側から生駒山麓(さんろく)にかけて広がる河内平野を中心として，南部に大阪湾沿岸に細長く延びる和泉平野，北部に兵庫県にまたがる武庫平野がある。大阪湾沿岸の海岸線は単調で，近年埋め立てが進んでいる。気候は一般に温暖で，大阪市の年平均気温は15.6℃，瀬戸内式気候に属し，冬の寒さはあまりきびしくなく，夏はやや暑い。年降水量は1,390mmである。西部の瀬戸内海沿岸は雨が少なく，夏には夕なぎがみられる。南部の和泉地方では太平洋式気候を示す。

【産業・経済】産業構造の面では西日本の中枢機能を果たしており，産業三大別就業

人口比は1：41：58で，第1次産業従事者は約50,000人にすぎず，商工業の比率がきわめて高い。府民の分配所得は1人あたり151万1,000円で，東京に次ぐ高位である。〈農水産業〉耕地面積25,000ヘクタールは東京都に次ぐ狭さで，総面積の1％余にすぎない。水田は約19,000ヘクタールで，耕地の75％たらずであるが，大半は二毛作で，耕地の利用度はきわめて高い。米の平年収量は46,000 tである。農家の兼業率は約93％に達するが，最近では耕地が工場用地・住宅地へ転用されて離農者がますます増加し，農家の戸数や農業人口は減少の一路をたどっている。しかし，京阪神(けいはんしん)の大消費地を控えて，最近は近郊農業に力が注がれており，裏作として和泉平野で栽培されるタマネギは年に約5万 tを産して全国第4位を占める。ダイコン・トマト・キュウリなども府下各地でつくられ，生駒山地西麓ではブドウ・ミカンなどの果樹類，伊丹(いたみ)・池田では，ウシ(乳牛)・ブタ・ニワトリなどの飼育が農村地帯で行なわれる。林業は，北部山地にナラ・クヌギ・クリ，南部山地にスギ・ヒノキの美林があるが，林野面積が狭いために素材生産量は沖縄県に次いで全国最下位である。水産業は，大阪湾沿岸地域の工業化が進んだため，めぼしい漁獲物はない。和泉地方では，イワシ漁と煮干し加工が行なわれるが，乱獲と海水の汚染などのために最近はふるわない。地下資源は乏しく，鉱業にはほとんどみるべきものがない。〈商工業〉大阪を中心とする商業活動は古くから盛んで，日本の商業・経済の一中心をなし，東京とともに全国を2分する商圏をもつ。この商圏は，近畿地方はもとより，西は中国・四国・九州まで，東は糸魚川(いといがわ)～松本～静岡を結ぶ線まで，広い地域に及んでいる。工業は商業とともに府下の主要産業で，阪神工業地帯を中心に生産活動がきわめて活発で，工業製品の年間出荷総額は8兆1,846億円(1972)に達し，東京をわずかにしのいで全国第1位である。江戸時代には刃物・食料品などの手工業生産が大阪市周辺で行なわれたにすぎないが，明治初年に大阪造幣局・堺(さかい)紡績所などの官営工場が設置されて近代工業発展のいとぐちとなり，民間ではセメ



大阪府

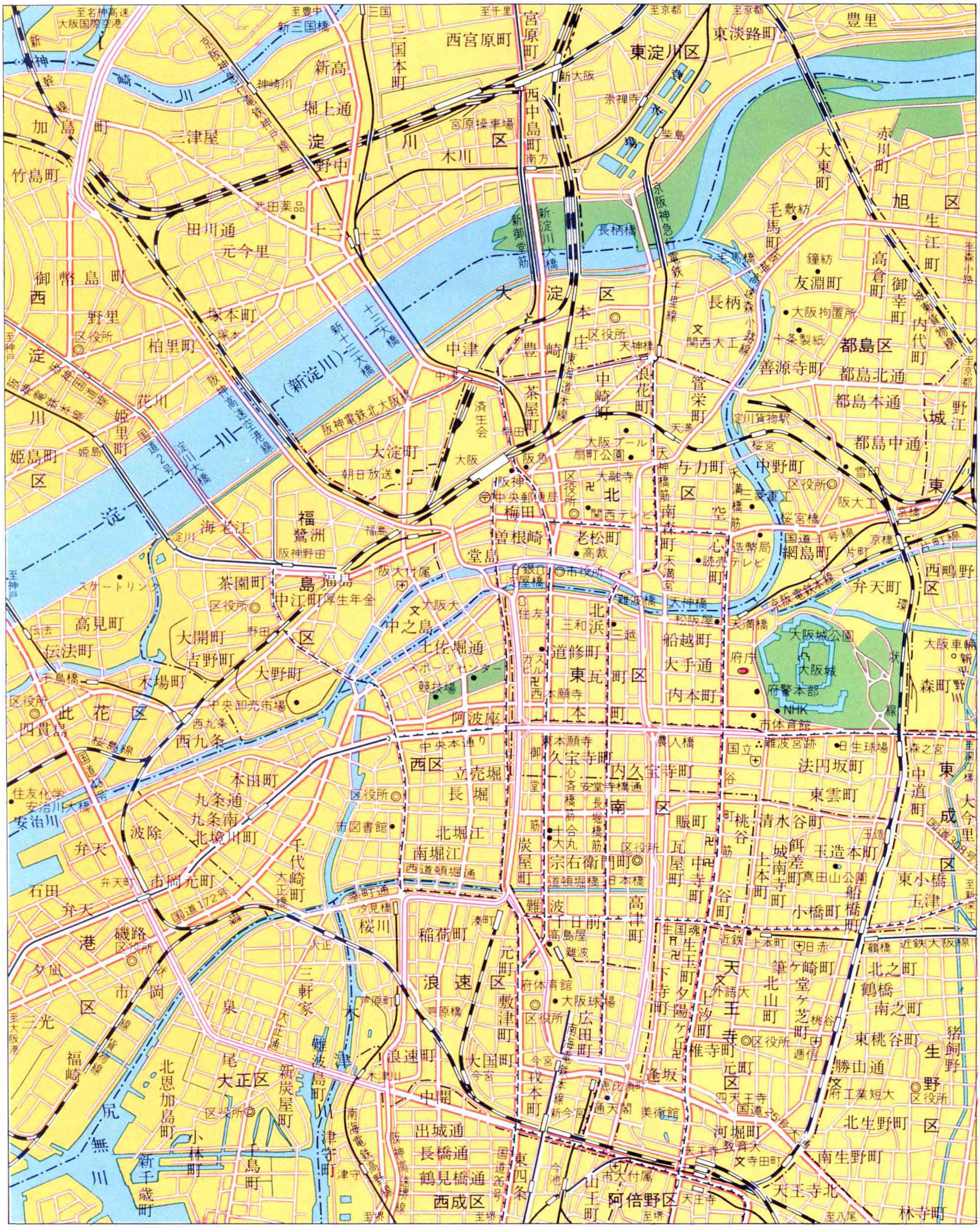
ント・メリヤス・マッチなどの工業に続いて綿紡績の機械化が進んだ。明治中期から大正期にかけては紡績・繊維・雑貨などの軽工業が主体となり，これらの諸製品は国内はもとよりアジア大陸方面へも数多く輸出された。第２次世界大戦前後からは，鉄鋼・機械・金属・化学などの重化学工業が大阪・堺・岸和田など，大阪湾沿岸諸都市を中心に発展している。これらの工業地区では，人口密集地域に近接しているために，用地が得にくくなり，合わせて工業用水のくみ上げによる地盤沈下や公害が社会問題化している。最近では，堺・泉北（せんぼく）の埋め立て地区に新設された石油化学コンビナートをはじめ，兵庫県の播磨（はりま）地区や和歌山県北地区にまで近代的な大工場が設けられて，工業地帯は大阪湾沿岸にとどまらず，近県各地に拡充しつつある。また，商工業の共同化・集団化も進み，金物・鉄鋼・銘木などの企業団地も続々と建設され，生産も伸びているが，一方，公害や人手不足の問題も深刻化し，産業経済自体の地盤低下が問題とされている。

【交通・都市】わが国のほぼ中央部にあたり，特に瀬戸内海を利用する水運の便に恵まれて，交通は古くから発達した。鎌倉期以降は，東国の開発が進むにつれて諸街道も整備された。江戸時代には，大阪を中心として，守口（もりぐち）・枚方・淀を経て京都に至る京街道，四天王寺・堺を経て和歌山に至る紀州街道，高野山へ通ずる高野街道があり，また京都から山崎・桜井・西宮を経て中国地方へ通ずる西国街道も府域を横断していた。現在の鉄道交通では，東海道本線・同新幹線が主要幹線となり，淀川以南では片町線が奈良から，さらにその南方を関西本線が名古屋から，大阪湾沿いには阪和線が和歌山から，それぞれ大阪に通ずる。私鉄の発達は全国一で，阪神電鉄や京阪神急行（阪急）宝塚（たからづか）線，同神戸線が西へ走って神戸ほか各都市間を結び，京都へは阪神京都線・京阪電鉄京阪本線が通ずる。奈良へは，近畿日本鉄道（近鉄）奈良線が生駒トンネルをくぐって通じ，同南大阪線が関西本線の南を走る。ほとんどの鉄道が大阪市域から発着し，国鉄大阪環状線がこれらのターミナル各駅を結んで1961年（昭和36）に全通した。道路交通では，国道１号線・２号線（阪神国道）がかつての京街道の道筋を通って京阪神の主要通路となるほか，国道26号線はもとの紀州街道に沿って和歌山方面へ通ずる。国道26号線から分岐して西へ延び，尼崎・西宮・芦屋を経て神戸市で２号線と合流する高速道路の第２阪神国道（国道43号線）や，奈良と結ぶ阪奈道路，天理と結ぶ大阪天理道路などの有料道路も通じている。名神高速道路は大阪市の北部を走って，終点の西宮で第２阪神国道と接しており，府域内では茨木（いばらき）・吹田（すいた）・豊中の３か所にインターチェンジがある。陸上交通のこのような発達にもかかわらず，最近数年間における交通事情は，大阪市や周辺衛星都市への人口集中化によって，ますます悪化しており，1975年を目標として，大阪環状線の複々線化，各私鉄の大阪中心部への乗り入れなどが計画されている。海上交通では，大阪港が貨物を主として世界各地に航路を開き，1868年（明治１）の開港以来拡張を続け，1965年以降は，港湾整備の新５か年計画によって，貿易港から工業港への発展を図っている。大阪港天保山桟橋（てんぽうざんさんばし）からは，淡路島をはじめ，瀬戸内海各地や，四国・九州・沖縄への航路が通ずる。国道26号線に沿う府最南部の深日（ふけ）からは，徳島と洲本（すもと）（淡路島）へフェリーボートが通ずる。航空路では伊丹（兵庫県）を中心に，池田・豊中の３市にまたがる大阪国際空港*があり，大阪の空の玄関として，内外各地との連絡に重要な役割を果たしている。そのほか，八尾には八尾飛行場，堺には堺水上飛行場があって，国内線航路・報道・観光用などに利用され，国際空港を助けている。都市は，古くから平野部に発達していたが，第２次世界大戦後には大阪市を中心とする衛星都市群が形成され，人口10万以上の都市は，百万都市*の大阪市をはじめ，堺・東大阪・豊中・吹田・八尾・岸和田・守口・高槻（たかつき）・枚方・茨木・寝屋川・門真（かどま）・松原・和泉・大東・羽曳野（はびきの）の17市を数える。河内長野・松原・大東・和泉・箕面・柏原（かしわら）・羽曳野・門真・摂津・高石・藤井寺の11市は1953年の町村合併促進法施行以後の新興都市である。近年はこれらの都市群の人口増加率が大阪市のそれを上回り，いわゆるドーナツ化現象が進んでいる。また，千里（山）丘陵北部には，巨大な千里ニュータウンの建設が進められ，人口15万の新都市が出現しようとしている。

【歴史】古くから開けた地域で，先史時代の遺跡が多い。生駒山地西麓には縄文（じょうもん）式の遺跡がみられ，弥生（やよい）式の遺跡は府下各地の丘陵や台地から数多く発掘される。古くから九州や大陸との水運が開け，すぐれた文化をもつ帰化人の来住もあった。堺の仁徳（にんとく）天皇陵，応神天皇陵をはじめ，泉北・南河内・三島郡などの古墳文化にみるべきものが多い。５～７世紀にかけては，上町丘陵の先端に難波津（なにわづ）が発達し，応神天皇がここに離宮を造営後，仁徳天皇の難波高津宮（たかつのみや），孝徳・聖武（しょうむ）天皇の難波宮と，いくたびか首都となった。６世紀末には，聖徳太子がこの地に四天王寺を建てて仏教精神を高め，社会事業を行なったことが知られている。大化改新に際しては，都を中心とする畿内の圏内にはいり，大阪平野には全国にさきがけて条里制が敷かれた。室町時代から戦国時代にかけては，淀川・大和川の氾濫（はんらん）や戦乱に災いされたが，室町後期に蓮如上人（れんにょしょうにん）が大阪御堂（みどう）（のちの石山本願寺）を建立（こんりゅう）し，その門前町として栄えた。一方，堺は大陸貿易を行ない，自由都市として繁栄した。戦国時代，石山本願寺は織田信長（のぶなが）によって攻略されたが，豊臣秀吉（とよとみひでよし）が天下を統一して大阪城を築き，周辺に伏見や堺の商人を移住させて城下町をつくり，近世における商都大阪の発展の基盤を築いた。江戸時代運河もつくられて，海岸や内陸部には新田の開発が著しく進んだ。大阪が〈町人の町〉として繁栄するにつれて，江戸後期の大阪平野には，ワタ・サトウキビ・ナタネなどの商品作物の栽培が進んだ。綿織物・製油などの家内工業も興り，物資の流通とあいまって水陸の交通路も著しく発達した。1871年の廃藩置県に際して，大阪市街地を含む摂津の東半分が大阪府となり，河内・和泉は堺県となったが，1881年堺県は大阪府に編入され，1887年に大和地方が分離して，現在の府域がほぼ確立した。〔浅井得一〕

おおさか【大阪（市）】大阪府中央部，府庁のある都市。市域は淀（よど）川河口の三角州を中心に広がる広大な沖積地（ちゅうせきち）に位置し，中央部には上町台地が南北に細長く連なる。わが国第２の大都市で，西日本の経済・交通・文化の中心をなしている。1889年（明治22）に市制施行。面積は209.50km²，七大都市中最小で，大阪府の11.1％を占める。人口は258万，１km²あたりの人口密度は12,305人に達する。市制施行当時は東・西・南・北の４区しかなかったが，その後たびたび隣接の町村を合併して市域を拡大し，区の分設と新設を行ない，現在は26区となっている。区名および人口は次のとおり。北（44,000）・都島（82,000）・福島（６万）・此花（このはな）（73,000）・東（28,000）・西（53,000）・港（99,000）・大正（85,000）・天王寺（てんのうじ）（56,000）・南（42,000）・浪速（なにわ）（49,000）・大淀（43,000）・西淀川（88,000）・東淀川（15万8,000）・東成（82,000）・生野（14万2,000）・旭（あさひ）（11万3,000）・城東（15万3,000）・阿倍野（あべの）（12万）・住吉（すみよし）（16万4,000）・東住吉（15万2,000）・西成（14万1,000）・淀川（15万2,000）・鶴見（８万7,000）・住之江（11万4,000）・平野（20万1,000）。

【歴史】古代には難波（なにわ）（浪速・浪華）とよばれ，中世以降石山本願寺*の本拠地となったころは小坂，江戸時代には大坂とよばれた。〈大阪〉と書かれるようになったのは明治以後である。瀬戸内海に面する水陸交通の要地で，古くから大和（やまと）朝廷の外港として発達し，のちの大阪城の南方一帯の高台の地に仁徳（にんとく）天皇の難波高津宮（なにわのたかつのみや），聖武（しょうむ）天皇の難波宮などが設置された。平安時代には京都の外港として淀川河口付近が栄えたが，鎌倉時代から南北朝時代にかけてはしばしば戦乱の地となった。室町後期以後は石山本願



東淀川区
淀川区
大淀区
北区
都島区
旭区
城東区
西淀川区
福島区
此花区
西区
東区
南区
天王寺区
東成区
生野区
港区
大正区
浪速区
西成区
阿倍野区
新淀川
淀川
大阪城公園
大阪城
豊里
東淡路町
西宮原町
新高
堀上通
三津屋
加島町
竹島町
田川通
元今里
御幣島町
野里
柏里町
塚本町
姫里町
姫島町
海老江
大淀町
中津
豊崎
本庄
中崎町
浪花町
菅栄町
長柄町
善源寺町
都島北通
都島本通
都島中通
友淵町
高倉町
御幸町
内代町
大東町
赤川町
中野町
与力町
南森町
網島町
弁天町
曽根崎
老松町
梅田
堂島
福島
鷺洲
茶園町
高見町
伝法町
大開町
吉野町
大野町
木場町
中之島
土佐堀通
道修町
瓦町
本町
船越町
大手通
内本町
森町
阿波座
西九条
四貫島
九条通
九条南
本田町
北境川町
波除
弁天
市岡元町
千代崎町
立売堀
長堀
北堀江
南堀江
久宝寺町
内久宝寺町
法円坂町
東雲町
清水谷町
上本町
宗右衛門町
玉造本町
小橋町
船橋町
東小橋
玉津
難波
高津町
桜川
稲荷町
磯路
三軒家
泉
尾
鶴橋
北之町
南之町
筆ケ崎町
北山町
堂ケ芝町
東桃谷町
勝山通
北生野町
南生野町
猪飼野
河堀町
逢坂
大国町
敷津町
恵美須町
戎本町
出城通
長橋通
鶴見橋通
北恩加島町
新炭屋町
小林町
千島町
新千歳町
尻無川
天王寺北
林寺町
山王町
大阪国際空港
新大阪
十三大橋
新十三大橋
長柄橋
大阪駅
大阪府庁
府警本部
NHK
市役所
難波宮跡
日生球場
大阪球場
通天閣
美術館
天王寺

大阪市



大 阪 市　(左)御堂筋の自動車の洪水。手前の堂島川の大江橋を渡った左側が大阪市役所，右側が日本銀行大阪支店。その向こうが土佐堀川と淀屋橋　(右)アーケードの続く心斎橋筋のショッピングストリート

寺の門前町として栄えたが，戦国時代織田信長(のぶなが)によって攻略された。のち豊臣秀吉(とよとみひでよし)が大阪城を築き，周辺に堺(さかい)や伏見の商人を移住させて城下町の経営にあたった。豊臣氏の滅亡後は，江戸幕府の直轄地として大阪城代が置かれ，寛文期から元禄(げんろく)期にかけては河村瑞賢*(かわむらずいけん)の東回り航路，西回り航路の開発，淀川・大和川の治水工事によって水運がきわめて発達した。諸藩の回米や西日本の商品が集まり，回米を扱う蔵屋敷が中之島*付近に立ち並び，堂島*に米市場，天満(てんま)に青物市場，鷺州(さぎす)に雑喉場*(ざこば)(魚市場)なども開かれて，〈町人の町〉〈天下の台所〉とよばれるようになった。文化面でも，竹本義太夫(ぎだゆう)・近松門左衛門(もんざえもん)らの人形浄瑠璃(じょうるり)や井原西鶴(さいかく)の浮世草子などに代表される町人文化の花が咲き，また西鶴が表現するような〈金銀が町人の氏系図〉という大阪商人かたぎが生み出された。幕末から明治初年にかけては再び戦火を受け，また東京遷都によって市勢は一時衰退したが，1874年の鉄道開通やその後の紡績業の発達によって復興し，阪神(はんしん)工業地帯の形成とともに〈東洋のマンチェスター〉とよばれる商工業都市となった。第2次世界大戦では市域の3分の1を焼失したが，今日では戦前以上に繁栄し，東京に次ぐ巨大都市となっている。

【産業】 産業三大別人口比は0：40：60で，周辺の衛星都市群とともに商工業を中心とした活発な市況を呈する。東京の東日本に対して，大阪の商圏は西日本を支配し，特に問屋街の発達が著しく，中心部の商業地区には道修(どしょう)町*の薬品，丼池*(どぶいけ)・本町一帯の繊維製品，谷町筋の洋服地，南久宝寺筋の小間物・化粧品，八幡筋(はちまんすじ)の道具，松屋町筋の玩具(がんぐ)・菓子類など，同一業種の問屋が集まる。特に繊維製品の卸売業は東京をしのぎ，全国に広い販路をもっている。小売業では心斎橋・戎橋筋(えびすばしすじ)に高級商店街が発達するほか，私鉄各線のターミナルを中心として難波*・新世界・上六(うえろく)・梅田新道などの商店街がある。中之島に面する北浜には大阪証券取引所を中心に証券会社が集まり，今橋・高麗橋筋(こうらいばしすじ)・御堂筋*(みどうすじ)には金融機関が多い。工業の発展は明治初期の造幣局設置，メリヤス手工業開発などに始まり，その後繊維・金属工業を中心として飛躍的な発展を遂げた。北部と東部には小規模な工場が多く，北部地区では淀川・新淀川間に工場が分布し，繊維・窯業などに特色がある。東部地区は，明治初期に海軍工廠(こうしょう)が設置されて以来，機械・器具などの関連工場が増加した。西部地区には，大阪港の整備や運河の開通などに伴って，汽車・車両・造船・金属・化学などの大規模な重化学工場が集まる。しかし，大阪湾沿岸地区では工業用水のくみ上げのために地盤沈下がはなはだしく，淀川下流地区では高潮の被害に備えて防潮堤が張り巡らされている。

【交通】 古くから〈水の都〉とよばれ，淀川とその分流の大川・堂島川・土佐堀(とさぼり)川・安治(あじ)川・木津川・尻無(しりなし)川・中津川などが市域内を流れ，明治以前は回米や商品の重要な輸送網であった。洪水(こうずい)を防ぐために宇治川・木津川・大和川などの改修が行なわれ，新淀川は1896年から15年を費やしてつくられた新河道である。運河の開削も水運の便を助けており，江戸時代に東横堀・西横堀・道頓堀(どうとんぼり)などが，明治以降には堂島堀川・境川運河・城東運河などがつくられたが，これらの水運がしだいに衰えるにつれて鉄道交通が著しく発達した。市域の北部を東西に貫く東海道本線・同新幹線をはじめ，関西本線・阪和線などの国鉄，阪神電鉄・京阪神急行電鉄(阪急)・南海電鉄・京阪電鉄・近畿(きんき)日本鉄道(近鉄)などの私鉄が放射状に延び，周囲の衛星都市群と密接に連絡する。国道は，東京と結ぶ1号線，北九州と結ぶ2号線をはじめ，25号線・26号線・43号線・176号線などが近県各都市と連絡し，176号線が市の中心部と大阪港を結ぶ。名神高速道路は市の北郊を走り，中央環状線道路が市の外郭を一巡している。なお，大阪中央環状線(大阪空港～堺)を中心とする三つの環状線と新御堂筋線を中心とする10本の放射線は，1970年の万国博覧会を契機として新設されたものである。大阪環状線は私鉄の始発駅を結んで市域を一周し，地下鉄1～3号線は中心部を南北に走り，大阪港から深江橋まで東西に貫通する4号線も完成した。また，バスの路線が市域の内外に縦横に張り巡らされて，大阪周辺の交通網はわが国でも最も密度が高い。水上交通では，大阪港は瀬戸内海航路を中心とする内国航路が主であるが，貿易港としても横浜・神戸(こうべ)に次いで第3位の貿易額を示している。なお，大阪国際空港*は兵庫県伊丹(いたみ)市と池田市・豊中市との境にある。

【市街】 市域には，古い歴史を物語る史跡・神社や公園・繁華街などが多い。大阪城は市街の北東部にあり，1931年に復元された天守閣や巨大な石がきは昔のおもかげをしのばせ，周辺部は大阪中央公園になっている。大阪城南側の地下一帯から発見された難波宮跡の中心部は，日本最古の王宮跡として史跡に指定されている。949年(天暦3)に創建された天満天神宮，日本最古の寺院四天王寺，摂津の一の宮として古くから信仰の対象とされた住吉神社なども史跡として名高い。代表的な繁華街としては道頓堀・千日前が古くから知られ，劇場・映画館・飲食店街などが多い。その南方の新世界はさらに庶民的な盛り場である。御堂筋を東西に横切る市道今里～泉尾線の地下には，わが国いちばんの広大な地下街がある。これらのいわゆる〈南〉の盛り場に対して，北部には大阪駅を中心としてデパート・地下街・食堂・劇場などが集まる梅田があり，いわゆる〈北〉の新興繁華街として発展している。中之島には市民のいこいの場である中之島公園のほか，公会堂・図書館をはじめ，諸官庁・商社などのビルが多い。南部には運動施設の整った住吉公園，美術館・動物園・植物園・自然科学博物館などの施設を集めた天王寺公園がある。上町台地の南部を占める阿倍野*は高級住宅地で，大阪大学・大阪女子大学をはじめ教育施設が多く，学園地区となっている。

【年中行事】 今宮・堀川の戎社の十日戎*(1月10日)，住吉神社のお田植え神事(無形文化財，6月14日)，四天王寺の別院勝鬘院(しょうまんいん)の愛染祭(6月30日～7月2日)，港祭り(7月15日)，天満天神宮の夏祭り(7月24～25日)，住吉神社の南祭り(8月1日)，少彦名(すくなひこな)神社の神農祭り(11月22～23日)などがあり，大阪造幣局の春のサクラの通り抜けも多くの行楽客を集める。

〔浅井得一〕

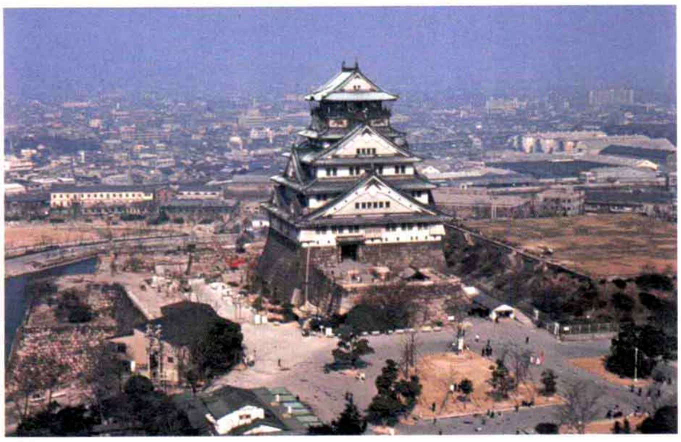
おおさかかいぎ【大阪会議】1875年(明治8)1月，大久保利通(としみち)・木戸孝允(たかよし)・板垣(いたがき)退助らが大阪に集まり立憲政体の樹立を約した会議。征韓論*(せいかんろん)による分裂，木戸の下野など政局の不安打開のため，伊藤博文(いとうひろぶみ)・井上馨(かおる)らの仲介で実現した。立憲政体への漸進を条件に，大久保と木戸・板垣との間に妥協が成立し，木戸・板垣は参議として再入閣，立憲政体漸次移行の詔勅，元老院・大審院の設置，地方官会議の開催の実現をみた。〔千野境子〕

おおさかガス【大阪瓦斯(株)】東京瓦斯*に次ぐ，わが国第2のガス会社。1897年(明治30)，資本金35万円で設立。1945年(昭和20)4月に神戸(こうべ)・山陽・播磨(はりま)・浪速(なにわ)・尼崎(あまがさき)・堺(さかい)の六つのガス会社を合併，さらに同年10月京都・奈良・和歌山・泉州・南海・彦根(ひこね)・長浜・但馬(たじま)の8会社を合併，広域ガス会社として東京瓦斯と双璧(そうへき)の地位を占めた。1969年1月末の需要家数は25万戸に達しているが，核家族傾向の増大に伴って需要家数がふえるため経済性にすぐれた石油系ガス源の採用などに設備投資を行なっている。資本金877億1,500万円，年間営業収入4,235億2,300万円，従業員数11,366(1980年9月)。

おおさかこくさいくうこう【大阪国際空港】兵庫県伊丹(いたみ)市，大阪府豊中(とよなか)市・池田市にわたって広がる運輸省管理の第1種空港。長さ3,000mおよび1,828mの滑走路各1本をもつ。国内幹線航空路の寄港地であるとともに，大阪以西に向かうローカル航空路の起点として重要で，外国航空会社の発着も多い。しかし，すでに現状の設備では発着能力の限界に達したのと，まわりの住宅地に与える騒音がひどく，住民が国を相手に訴訟を起こしていることなどもあって，〈大阪湾南東部の泉州沖5kmの海上〉に関西国際空港として新空港を建設することが決定しており，1978年度(昭和53)に着工，規模は成田空港ぐらいで，1985年に開港の予定である。しかし住民の間に早くも反対運動が起きている。なお，大阪国際空港は，新空港の開港とともに廃止される。

おおさかこくさいフェスティバル【大阪国際フェスティバル】日本の代表的な音楽祭。1958年(昭和33)から毎年春に大阪で開かれ，日本の音楽家だけでなく，世界的な独奏者・室内楽団・交響楽団・歌劇団などが来演している。また，能などの演劇が参加しているのも特色の一つである。

おおさかじけん【大阪事件】1885年(明治18)，大井憲太郎*ら旧自由党左派が，朝鮮に独立党政権の樹立を企図した事件。自由党解党後，自由民権運動*の衰勢回復のため，外患(対清(しん)危機)により愛国心を喚起する目的で，朝鮮を清国から独立させる民主改革を計画。大井や磯山清兵衛(いそやませいべえ)らは爆弾を製造。壮士20余名を組織したが渡鮮隊長磯山は失踪(しっそう)し，大井らは大阪で協議中発覚して逮捕された。他民族を利用したこの計画は，自由民権運動発展の契機とはならず，逆に国権論へと傾斜した。〔千野境子〕



大阪城
1931年再建された復興天守閣



大阪の陣《夏の陣図屏風》(部分)　大阪城天守閣蔵

おおさかじょう【大阪城】金(錦(きん))城ともいう。現在の大阪市東区馬場町にあった城。1580年(天正8)織田信長(のぶなが)は，小坂(鳥瑳箇)の地の石山本願寺を攻略，その跡地を池田信輝(のぶてる)に守らせたが，豊臣秀吉*(とよとみひでよし)は，1583年石山本願寺*跡地一帯に大阪城築城工事を起こした。工事は西国30余国の諸大名に命じ，浅野長政(ながまさ)・増田長盛が奉行(ぶぎょう)となって行なわれ，翌年石がき・堀(ほり)・五層天守閣が完成，3年半で全工事が終了した。天守閣内部は金箔(きんぱく)で飾られた。のち秀吉は伏見城に移り，1598年(慶長3)没したが，子秀頼(ひでより)は同年伏見城より大阪城に移り増築工事を行なった。1615年(元和1)，大阪の陣*で豊臣氏が滅亡後，松平忠明(ただあき)が入城したが，1619年以降は江戸幕府の直轄となり，城代の支配下に置かれた。その後1620年・1624年(寛永1)・1628年に修築されたが，数度の落雷で焼失し，1858年(安政5)鴻池*(こうのいけ)家らの献金で大修築工事が完成した。しかし1868年(慶応4)鳥羽(とば)・伏見の戦いの混乱中，失火で城中の大部分が焼失した。豊臣時代の城の規模の詳細は不明であるが，主要部の配置は徳川時代のものと大差ないと考えられている。本丸などの現存石がきはすべて徳川氏修築のものであり，特別史跡となっている。現在の天守閣は1931年(昭和6)に再建されたものである。〔仲野　浩〕

おおさかしょうせんみついせんぱく【大阪商船三井船舶(株)】1964年(昭和39)に海運再建整備法によって三井系の三井商船と住友系の大阪商船の二大手海運会社の対等合併で生まれた，業界随一の海運会社。旧三井商船は1876年(明治9)三井物産の海運部門として発足，旧大阪商船は1884年設立の古い歴史をもつ。保有船舶は内外航船合わせて131隻，290万重量トン，このほかに定期用船136隻，175万重量トン(1969年3月現在)。海運業はコンテナー時代を迎えたが，コンテナー第1船〈あめりか丸〉が予想以上に好調であり，超大形タンカーの建造や船舶の超自動化のために多額の設備投資を行なっている。資本金373億6,400万円，年間営業収入4,168億9,300万円，従業員数3,639(1980年9月)。

おおさかじょうだい【大阪城代】江戸幕府の職名。大阪城にあって，城下の諸役人を統率して政務にあたり，城中を警備し西国諸大名の動向を監視した。五～六万石以上の譜代大名*の中から選任され，多くは奏者番*・寺社奉行*(ぶぎょう)を経てこの職につき，さらに京都所司代*・老中*に転じた。1619年(元和5)松平忠明(ただあき)の転封により，内藤信正(のぶまさ)が伏見城番から転じたのが最初で，1652年(承応1)以後は各地の城番が輪番制で兼職した。1662年(寛文2)青山宗俊(むねとし)からは専職となった。〔松尾　涼〕

おおさかしょうにん【大阪商人】大阪は海陸交通の要地にあり，先進生産地帯に位置し，中世には石山本願寺の門前町とし



大阪平野　枚方市から淀川を隔てて高槻市方面を望む。対岸には淀川に沿う広い緑の水田の中を走る東海道新幹線が見える

て栄え，のち大阪城の城下町として発達した商業都市で，〈天下の台所〉と称された。大阪商人はおもに堺(さかい)・平野・伏見の町人が移住したもので，江戸時代には上方商人の中心として経済の実力を掌握した。その気質は，貨幣観念が発達しており，利欲・拝金ともいわれ，江戸商人と対照的である。明治前半期には封建性・保守性から脱皮できず停滞したが，のち再び実業人として経済界に活躍している。〔松尾　涼〕

おおさかだいがく　【大阪大学】 国立大学。1869年(明治2)創立の大阪医学校を基に，1931年(昭和6)医・理の2学部からなる大阪帝国大学として発足した。その後1949年に，付属医専・大阪薬専・大阪高校・浪速(なにわ)高校を合わせ，新制大学となった。現在，工・理・医・薬・歯・経済・法・文・基礎工学の9学部と大学院，微生物病研究所・産業科学研究所が置かれている。本部は大阪市北区常安町36。

おおさかのじん　【大阪の陣】 1614年(慶長19)冬，および1615年(元和1)夏の2度の戦闘で徳川氏が豊臣(とよとみ)氏を滅ぼした戦い。豊臣秀吉(ひでよし)没後，関ケ原の役*で覇権(はけん)を握った徳川家康*(いえやす)は，潜在的大勢力である豊臣秀頼*(ひでより)を圧迫し，また秀吉の蓄積した財力を減少させるため，方広寺の再建など諸社寺の造営を盛んに行なわせた。家康は，秀頼が成長し諸大名の衆望を得はじめたことによって，豊臣氏攻略を決意し挙兵した。

〔冬の陣〕1614年家康は，方広寺鐘銘問題*と豊臣氏の牢人(ろうにん)召しかかえを豊臣氏に詰問した。豊臣氏の老臣片桐且元(かたぎりかつもと)は弁解・和解に努めたが，逆に秀頼から徳川氏への内通を疑われ大阪を退城したのをきっかけに，同年10月家康は全国の大名らを動員し大阪城を包囲した。秀頼は家臣や真田幸村*(さなだゆきむら)ら牢人とともに大阪城に籠城(ろうじょう)し，要害を最大の防御力として抗戦した。大きな戦闘はないまま，翌年1月，城の外堀(そとぼり)を埋める条件で両軍の講和が成立した。

〔夏の陣〕家康方は講和条件の外堀のほか内堀・三の丸をも埋め，大阪城の防備を奪った。さらに秀頼の大和(やまと)(奈良県)・伊勢(いせ)(三重県)への転封，召しかかえた牢人の追放を要求した。豊臣方がこれを拒否したため，1615年3月家康は諸大名に出兵を命じ，4月より戦闘が再開された。豊臣方は城外に出て奮戦したが多くの将兵を失い，5月8日大阪城は陥落，淀殿(よどどの)・秀頼母子や大野治長*(はるなが)は自殺し，豊臣氏は滅亡した。これにより徳川氏は対抗勢力をなくして覇権を強化確立した。〔松尾　涼〕

おおさかフィルハーモニーこうきょうがくだん　【大阪フィルハーモニー交響楽団】 関西の代表的なオーケストラ。1947年(昭和22)に朝比奈隆(あさひなたかし)を指揮者として結成され，最初は関西交響楽団(略称関響)と称したが，1959年に芸術派と現実派に分かれ，定期演奏会を続けていたメンバーを中心に1960年に現在の名称のオーケストラとなった。常任指揮者は朝比奈がそのまま続け，ほかに複数の指揮者を置くシステムをとっている。関西地方を中心に活躍しているが，年1回東京で定期公演を行なっている。〔向坂正久〕

おおさかふゆのじん　【大阪冬の陣】 ⇨大阪の陣

おおさかへいや　【大阪平野】 大阪府と兵庫県の南東部にわたり，摂河泉平野ともよばれる。面積約1,700km²で，中央部を河内(かわち)平野，西部を武庫平野，南部を和泉(いずみ)平野ともよび，その広さは近畿(きんき)地方第1である。北は京都府西部から兵庫県東部に広がる丹波高原南部の能勢(のせ)山地とその西に続く六甲山地に，東は生駒(いこま)山地・金剛山地に，南は和泉山脈に囲まれ，西は大阪湾に面する。平野を三方から囲むこれらの山地の前面には，第三紀鮮新世末期から第四紀洪積世(こうせきせい)初期にかけて形成されたといわれる，大阪層群からなる丘陵が続き，能勢山地に接して千里(山)丘陵，生駒山地北端に接して枚方(ひらかた)丘陵，和泉山脈西部に接して河泉丘陵が広がる。これらの丘陵はかつて雑木林・竹林・畑・果樹園などでおおわれていたが，最近急速に住宅地化し，千里(山)丘陵には千里ニュータウン，枚方丘陵には香里ニュータウンが建設され，千里(山)丘陵の東部は1970年(昭和45)に日本で最初に開かれた万国博覧会の会場になった。丘陵の周辺には台地が広がり，上町台地の北部には大阪城がある。またこの付近一帯は難波宮(なにわのみや)の跡でもある。上町台地と生駒山地の間やこの台地から堺(さかい)市にかけての一帯は，淀(よど)川や，上野台地と生駒山地の間を北流して淀川に合流した旧大和(やまと)川によって形成された三角州で，かつて米作や近郊農業が盛んであったが，近年東大阪・八尾両市をはじめとして，都市化が急速に進められている。上野台地西側の三角州は新淀川・安治(あじ)川・尻無(しりなし)川・木津川など，多くの小河川が分流する大阪市の中心地で，なかでも中之島は〈水の都〉にふさわしい景観を現わしている。大阪湾岸は大阪港を中心に阪神(はんしん)工業地帯の中心地であるが，工業用水の過度の利用のために近年地盤沈下が急速に進み，防潮堤を建設したり，盛り土を行なうなどの対策が進められている。〔味沢成吉〕

おおさかまちぶぎょう　【大阪町奉行】 江戸幕府の職名。1619年(元和5)設置。大阪市中の一般の政務のほか，地方*(じかた)・寺社方に関する件，回米*・消防・警察・糸割符*(いとわっぷ)に関する件などを取り扱い，1722年(享保7)以降は摂津・播磨(はりま)(ともに兵庫県)・和泉(いずみ)・河内(かわち)(ともに大阪府)の4か国にある天領*の租税徴収，公事*裁判にもあたった。奉行所は東西に分かれ，定員2人で月番で勤務した。老中の支配下にあって，千石以上三千石以下の旗本(はたもと)から選任され，与力30騎，同心50人が従属した。〔善積美恵子〕

おおさかゆうきち　【大幸勇吉】(1866～1950) 物理化学者。東京大学で御雇外人教師ダイバースに無機化学を学ぶ。1892年(明治25)卒業。熊本の第五高等学校を経て，1896年東京高等師範学校教授。1899年池田菊苗*とともにドイツに留学し，オストワルド*・ネルンスト*に物理化学を学ぶ。1902年帰国後京都大学教授となりアレニウス*のイオン説をはじめ新興の物理化学を日本に導入・育成した。なかでも多相系平衡について研究し，チリ硝石より硝石を得る反応に相律*を応用，これは第1次世界大戦に際して連合国側勝利の一因となったといわれる。多数の教科書をも著わしている。

おおさかわん　【大阪湾】 大阪・神戸(こうべ)・堺(さかい)・岸和田などの前面に開き，西は淡路島，南は友ケ島に画される海域で，瀬戸内海の東端部にあたるが，一般には独立した湾と考えられることが多い。北は明石(あかし)海峡で瀬戸内海の播磨灘(はりまなだ)へ，南は友ケ島水道(紀淡海峡)で紀伊(きい)水道に通じ，その間広い海面をいだいて和泉灘(いずみなだ)ともいわれる。古名を茅渟海(ちぬのう

み)といい，また，難波潟(なにわがた)ともよばれ，古来京都・大阪を結ぶ淀(よど)川水運に連結して瀬戸内水運の重要な水域であった。大阪を中心として明石市から岬(みさき)町に至る湾岸一帯には，多くの市が連接して並び，阪神(はんしん)工業地帯や浜寺・芦屋(あしや)・須磨(すま)・舞子・明石などの行楽地・住宅地がある。〔山口恵一郎〕

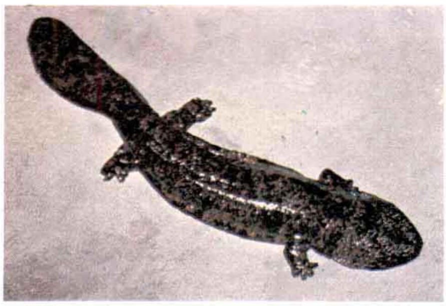
おおさき　【大崎(町)】　鹿児島県曽於(そお)郡の町。人口18,000。大隅(おおすみ)半島の東岸にあり，志布志湾に臨む。シラス台地が大部分を占めているが，米・サツマイモ・ミカンをつくり，サツマイモを原料とするデンプン工場が多い。古江線が通ずる。

おおさきかみじま　【大崎上島】　広島県竹原市の沖合いにあり，芸予諸島に属する。このあたりは瀬戸内海でも最も島の多いところで，東に大三島，南西に大崎下島がある。面積37.6km²。人口16,000。豊田(とよた)郡に属し，南の木江(きのえ)，北東の東野，北西の大崎の3町に分かれ，東野町は付近の生野島・契島などを含む。山がちで，最高点は木江・大崎両町の境界にある神峰山(453 m)で，大崎町の海岸の平地では干拓も行なわれ，水田がある。主産業は，ミカンとジョチュウギクの栽培，石灰岩の採掘および造船業で，木江町には大崎下島の豊町からミカンの渡りづくりにくる者が多い。東海岸の木江港は，瀬戸内海航路の一中心で造船業が盛んであり，小形の貨物船や漁船をつくり，県立大崎高校には造船科がある。このほか東野町に鮴崎(めばるざき)，木江町に漁港の沖浦がある。この島はまた古くから海運業で知られ，多くの船員を出し，東野町には国立広島商船高等専門学校がある。神峰山一帯は，瀬戸内海国立公園の区域にはいっており，登山路が完備している。晩秋には，全島がミカンで黄金色にいろどられ，初夏はジョチュウギクでまっ白になって壮観である。フェリーボートによる定期船が，木江港から竹原市や愛媛県今治(いまばり)市，大崎下島の御手洗(みたらい)港との間に通じている。〔浅井得一〕

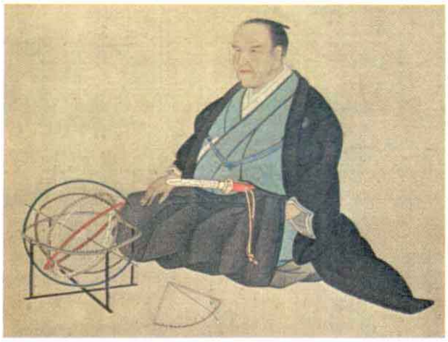
おおさきしもじま　【大崎下島】　広島県豊田(とよた)郡に属し，北東に姉妹島の大崎上島，北に三角(みかど)島，西に豊島，東に愛媛県の岡村島がある。面積17.5km²。人口9,600。大部分は豊町に属し，西の一部は，中心地区が豊島である豊浜村にはいっている。また三角島は東半が豊町，西半が豊浜村に属している。南部に最高点の一峰山(449 m)があり，平地が少ない。ここはかつて伊予(いよ)(愛媛県)に属し，大長島とよばれていたが，現在も商業圏は愛媛県の今治(いまばり)市の勢力が強い。豊町は，1956年(昭和31)に御手洗(みたらい)町と，久友・大長の2村が合併したもので，旧大長村の集落は東岸の入り江の奥にあって耕地に乏しく，生活は苦しかった。1903年(明治36)に大分県津久見から



大崎八幡神社　社殿は安土桃山時代の代表的建造物で，国宝に指定されている



オオサンショウウオ



大塩平八郎　大阪城天守閣蔵

移入したウンシュウミカンの栽培が成功したため，いまでは広島県のミカン産額の半ば近くを占めている。まわりの島々や本土まで半径16kmにわたって，船を使って耕作に出かけるいわゆる〈渡りづくり〉を行なっている。山頂近くまでミカンの段々畑が石がきで築かれ，ミカン運搬用のケーブルや，大長港に集まる渡りづくりの船は，この島特有の景観である。南岸の御手洗は，江戸時代は西回り航路の重要な港で，いまも古い港町のおもかげを残しており，現在は今治や広島県の竹原市および大崎上島との間にフェリーボートによる定期船が通じている。島の東部の一峰山一帯は，瀬戸内海国立公園の区域内である。〔浅井得一〕

おおさきはちまんじんじゃ　【大崎八幡神社】　仙台(せんだい)市八幡町にある。祭神は応神天皇・仲哀天皇・神功(じんぐう)皇后。社伝によると，源義家(よしいえ)が安倍貞任(あべのさだとう)を討ったとき，はじめ戦いは不利であったが，ある夜，義家が八幡神を夢み，凱旋(がいせん)しえたところから，八幡神を勧請(かんじょう)したのが当社のはじめであるという。はじめ大崎氏の領内遠田郡にあったためこの名があるが，1607年(慶長12)伊達政宗(だてまさむね)が青葉城を築く際，この地に移祭した。当時そのままに残された社殿は権現造り黒漆塗りの華麗な建築で，桃山時代の神社建築の代表的なものの一つである。

おおざつまぶし　【大薩摩節】　1720年(享保2)ごろ，江戸で薩摩文五郎(大薩摩主膳太夫(しゅぜんだゆう))が始めた浄瑠璃(じょうるり)。古浄瑠璃に属する。外記節の系統から出たものであるため，レシタチーボふうの豪壮な語りや大まかな歌い方と力強い三味線(しゃみせん)の手を特徴とする。歌舞伎(かぶき)の荒事の伴奏音楽として隆盛をきわめたが，荒事がはやらなくなるにつれて衰え，しかも三味線方を受け継ぐ者がとだえて長唄(ながうた)からの助力を仰ぐようになった。そして，江戸末期には江戸浄瑠璃の系統から離れて江戸長唄に併合された。以後は独立した流派ではなく，元来大薩摩節のレパートリーであった曲も，長唄の中の〈大薩摩物〉とよばれるにすぎない。なお，歌舞伎の舞台で浅黄幕の前に立って唄本を左手に持ち，堂堂と大薩摩物を独唱する特殊な演出法があるが，これを〈大薩摩〉とよぶこともある。代表曲に《俣野(またの)の相撲(すもう)》《矢の根》《蜘蛛拍子舞(くものひょうしまい)》《範頼道行(のりよりみちゆき)》《不動》などがある。

長唄の11世杵屋六左衛門(きねやろくざえもん)(3世勘五郎)は大薩摩節の復興に努力したのみならず，大薩摩節特有の三味線の手を整理分類して〈大薩摩四十八手〉として残した。これらは，序・かかり・地・手・三重・段切・たたき・落とし・結びの9種に大別され，それぞれがさらに細分されている。〔山口　修〕

おおさわけんじ　【大沢謙二】　(1852～1927)　生理学者。三河(みかわ)(愛知県)豊橋(とよはし)に生まれる。12歳のとき藩医大沢玄龍(げんりゅう)の養子となり，15歳のとき江戸に出て西洋医学所にはいり，医学を修める。1870年(明治3)ベルリン大学に留学。1874年東京医学校教授となる。1878年再び外遊してストラスブール大学にはいり，生理学を専攻。1883年東京大学生理学教授に任ぜられ，1915年(大正4)まで在職した。脊髄(せきずい)反射・脊髄神経などに関する研究を行なうかたわら，生理学・栄養学・衛生学などの啓蒙(けいもう)指導に尽くした。

おおさんしょううお　【大山椒魚】　両生類・オオサンショウウオ科。ハンザキともいう。体長1.2 mに達する世界最大の両生類であり，また，いわゆる生きている化石として世界的に有名。日本の固有種で，本州の中部以西から九州北部に分布。山間部の清流に生息し，水中で一生を過ごす。多くは川岸の水面下の土中に掘られた穴の奥にすみ，夜間

には川の中に出て活動する。目はきわめて小さいが口は大きく，魚・カエルなどが近づいて口に触れるとすばやく捕食する。水中の横穴に産卵。本種はすべて特別天然記念物となっている。〔松井孝爾〕

オーオーシー　［OOC］　⇨オリンピック組織委員会

おおしお　【大潮】　ふつう，満月または新月から１～２日たったときに，潮汐(ちょうせき)の干満の差が最も大きくなる。このときの潮汐を大潮という。潮の干満の差は月との距離に関係し，近いほど大きい。世界でいちばん干満の差の大きいところは，アメリカ大西洋岸のファンデー湾奥で，潮差が19ｍ以上に達するところがある。イギリスのブリストル水道や朝鮮の仁川(じんせん)では13ｍ以上，東京の品川では2.2ｍ程度である。➔小潮

おおしおへいはちろう　【大塩平八郎】（1793～1837）　江戸後期の儒学者。名は後素(としもと)，中斎と号した。平八郎は通称。家職の大阪町奉行所(ぶぎょうしょ)与力をつとめ，のちに吟味役として活躍し，名声を得た。林述斎に朱子学を学び，のち陽明学に転じた。37歳で隠居し，私塾(しじゅく)洗心洞(せんしんどう)を開いて著述・教育に専念。1837年（天保８）には前年の飢饉(ききん)（➔天保(てんぽう)の飢饉）による窮民を自費で救済した。町奉行にその救済を上申したがいれられず，憤激して門弟らを誘い大阪で乱を起こしたが失敗し自殺した。著書に《洗心洞箚記(さつき)》などがある。➔前ページ（写）〔松尾　涼〕

おおじか　【大鹿】　哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・シカ科のヘラジカ*・アカシカ*の俗称。

おおしきあみ　【大敷き網】　大形定置網の一。大謀網*とともに台網*類として分類される。すなわち，袋網*と垣(かき)網*とから構成されるが，大敷き網の袋網部は三角形で，その一辺が開口している。大敷き網には魚類が入網しやすいが，その反面いったん入網した魚群が逃げやすい欠点をもつ。大敷き網の起源は古く，明治から大正にかけて，わが国の沿岸各地に敷設され，マグロ・ブリなどをその主漁獲物としたが，近年はほとんどすたれてしまった。網の敷設水深は，10～100ｍ程度，従事漁夫数は，大規模なもので100名前後を必要とする。大敷き網の一種に行成網がある。〔石野　誠〕

おおしこうちのみつね　【凡河内躬恒】　平安前期の歌人。生没年未詳。三十六歌仙*(かせん)のひとり。紀貫之*(きのつらゆき)と並称され，貫之・紀友則*(とものり)らと《古今和歌集》の選にあたったが，官位に恵まれず，その悲哀をよんだ歌も多い。また，〈歌合〉の歌や屏風歌(びょうぶか)なども残されている。

おおじしぎ　【大地鷸】　⇨ジシギ

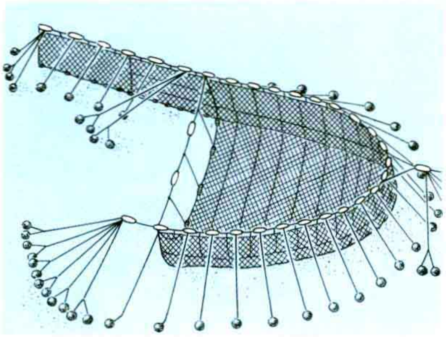
おおしたうだる　【大下宇陀児】（1896～1966）　小説家。本名木下龍夫(たつお)。長野県の生まれ。九州大学工学部卒。犯罪心理や世相風俗を柔軟な筆致で描き，《鉄の舌》《石の下の記録》《虚像》などの作品で，わが国のリアリズム推理小説を確立した。

おおしま　【大島】　宮城県気仙沼(けせんぬま)市に属し，気仙沼湾内にあって，湾を東湾と西湾に分けている。面積8.4km²。高さ235ｍの亀山(かめやま)からの眺望(ちょうぼう)がよく，ツバキやサクラの花も多い。リアス式の海岸美もすぐれ，陸中海岸国定公園の区域内に含まれ，その南端にあたっている。海水浴場が三つあり，北東岸の十八鳴浜(くくなりはま)は，歩くと音がする〈鳴き砂〉で知られている。人口5,452。島民はおもに漁業に従事している。〔浅井得一〕

おおしま　【大島】　伊豆(いず)諸島中最大の島で，伊豆大島ともいい，面積90.9km²，人口11,100，全島が大島町となっている。島は富士火山帯に属する玄武岩質の二重式成層火山で，中央火口丘の三原山*（758ｍ）はいまも盛んに噴火しており，気象庁による活火山の分類では，浅間山・阿蘇(あそ)山・桜島とともに，常時観測を必要とするＡ級４火山の一つとなっている。噴煙は〈御神火〉とよばれ，溶岩流は海岸にまで達しているが，最近では1950～1951年（昭和25～26）の大噴火によって火口の南方に新しい溶岩流ができている。島の東南端にある波浮港(はぶみなと)は，寄生火山の爆裂火口の跡である。海岸には海食崖(かいしょくがい)が発達し，特に東海岸では高さが150ｍにも達する。西海岸は比較的傾斜がゆるやかで，島の中心集落である元町もここにあり，また北西端に第三種空港の大島飛行場がある。気候は温暖な海洋性気候で，年平均気温は15.0℃，東京に等しいが，１月は6.2℃で東京の4.1℃よりも暖かく，８月は24.8℃で東京の26.7℃よりも低い。年降水量は3,002mmで，東京の1,503mmの２倍に近い。

西海岸の野増(のまし)部落の南に，龍ノ口(たつのくち)とよばれる石器時代の遺跡があり，人骨のほか，石器や弥生(やよい)式土器が出土している。古くから遠流の地となり，奈良時代には役小角(えんのおづぬ)が，平安時代には源為朝(ためとも)が流されている。江戸時代の初めには武田信道(たけだのぶみち)（信玄の孫）一家が流され，その供養塔と屋敷跡が野増にあるが，江戸時代後期には流刑地から除かれた。明治以後，元村・岡田・泉津・野増・差木地(さしきじ)・波浮港の６村に分かれていたが，1955年に合併して大島町となり，元町に町役場がある。元町には東京都大島支庁もあって，大島町と利島(としま)村・新島本村・神津島(こうづしま)村の１町３村がその管内にある。

火山島のために水が少ないので水田がなく，畑に陸稲・麦・サツマイモをつくっているが，食料は自給できない。かつては切り替え畑が多かったが，いまはすたれてしまい，切り替え畑と密接な関係のある薪炭(しんたん)の生産も激減している。１，２月のころ赤い花をつけるツバキは，大島の象徴であるが，９月中旬に実を採取してつばき油をつくり，重要な現金収入源となっている。沖合いは豊富な漁場であるが，本土の漁船によって圧迫され，島の漁業の規模は小さい。波浮港はもとは火口湖であったが，1703年（元禄16）の地震で火口壁の一部がくずれてわずかに海とつながり，1800年（寛政12）に上総(かずさ)（千葉県）の人，秋広平六がその入り口を掘り広げて港とした。昭和初期ごろまでは，地元の漁船はもとより，関東近県や東北・四国方面からの漁船の根拠地・避難港としてにぎわったが，今日では漁船の大形化によって存在価値が薄れた。水揚げされる水産物はおもにサバ・トビウオ・タカベ・ムロアジ・イカ・イセエビ・サザ



大敷き網



大　島　南西方洋上の高空から見た伊豆大島の全容。手前の入り江は波浮港。島中央の三原山の頂上にわずかに噴煙が見える。その向こうあたりが元町にあたる

エ・トコブシ・アワビ・テングサなどである。酪農はかつては盛んであったがいまではふるわず，それに代わって花卉(かき)栽培が農家の重要な現金収入となり，ほかにサヤエンドウの早期栽培も行なわれている。

観光地として脚光を浴びはじめたのは昭和の初めごろからで，富士箱根伊豆国立公園に属し，泉津には都立大島公園がある。東京・熱海(あたみ)・伊東・下田からの定期船と，1955年に開設された東京からの全日空の定期便があり，東京から船で7時間，航空機ならば35分で着く。船はその日の風向きによって，元町港か岡田港に着岸する。島の女の紺がすりに赤い前かけの〈あんこ姿〉は，いまではみやげ物店や休憩旅館のサービス用の服装となっている。

〔浅井得一〕

おおしま 【大島】 和歌山県の南端，潮岬(しおのみさき)半島東方にあり，東牟婁(ひがしむろ)郡串本(くしもと)町に属する。面積9.8km²。高さ40～80mの隆起海食台地からなり，3段の海岸段丘があるが，耕地がよく開け，水田と畑の比率は4：6で，キンカンの特産がある。西端に大島港があり，民謡《串本節*》にうたわれるように巡航船が，串本との間を約30分で連絡している。漁業はあまり盛んでなく，農業に依存しているが，大島港には日本水産の捕鯨基地がある。串本から大島へ向けて延びる橋杭岩(はしくいいわ)は名高い。〔浅井得一〕

おおしま 【大島】 愛媛県の北東部，来島(くるしま)海峡を隔てた東方5kmの海上にあり，越智(おち)郡に属する。東に宮窪(みやくぼ)町，西に吉海(よしうみ)町があり，面積41.7km²，人口11,300。ミカンやハッサクなどの柑橘(かんきつ)類の栽培と，〈大島石〉という比較的細粒のカコウ岩の採掘を主産業とし，漁業は小規模で三重県の業者による真珠の養殖などが行なわれている。大島石の採掘は，宮窪町の余所国(よそくに)・早川地区で行なわれ，国内はもとより，製紙用ローラーとしてソ連へも輸出したことがある。東京の赤坂離宮・日本橋，大阪の大阪城・心斎橋，出雲(いずも)大社の鳥居などに，この石が使われている。宮窪町からは〈宮窪杜氏(とうじ)〉が，11月から4月にかけて徳島・高知方面へ出かせぎに行く。その数は，第2次世界大戦前には1,000人以上にも及んだが，現在は約400人程度である。〔浅井得一〕

おおしま 【大島】 愛媛県新居浜(にいはま)市に属し，本陸と1kmの距離にあってフェリーボートで連絡している。面積2.2km²。江戸時代には大黒島といい，港として栄えていたが，いまは新居浜市の工場労働者の住宅地となっている。かつて海賊村上氏の出身地として九州の長崎との関係が深く，いまも長崎との通婚がある。旧暦1月15日の左義長(さぎちょう)の行事は，四国としては例の少ないものである。

おおしま 【大島】 山口県の南東部，柳



オオシマザクラ

井(やない)市の東方にある。瀬戸内海では淡路島・小豆(しょうど)島に次ぐ大きな島で，わが国に数多い大島と名のつく島では，奄美(あまみ)大島に次いで大きい。《古事記》や《日本書紀》に大八州(おおやしま)の一つとして出てくる歴史の古い島で，〈周防(すおう)大島〉〈屋代(やしろ)島〉ともいう。面積は129.6km²，全島が大島郡で，大島・久賀(くか)・橘(たちばな)・東和の4町に分かれ，人口は33,000。他の瀬戸内海の島と同じく沈水島で，海岸は出入りに富み，大島町の笠佐(かささ)島，久賀町の前島，東和町の浮島・情島・沖家室島をはじめ，大小の付属の島や岩礁が多い。大部分がカコウ岩からなり，高いところは一部に安山岩を載せている。最高点は西部の嘉納(かのう)山(695m)で，付近一帯は瀬戸内海国立公園の区域内に含まれている。主産業はミカンの栽培で，山頂近くまで段々畑が築かれ，久賀・橘両町を中心として，年産約15,000t，山口ミカンの4分の1近くを出荷している。沿岸では1本づり・船引き網・刺し網の漁業が行なわれ，三重県からきた業者が真珠の養殖をしている。山がちで平地が少なく，早くから人口が飽和状態となったために，出かせぎや海外移民が盛んで特に1885年(明治18)の第1回ハワイ官約移民の3分の1がこの島から参加したのをはじめとして，ハワイ・アメリカ合衆国本土・カナダ・ブラジル，あるいは朝鮮・台湾や中国大陸に多くの移民を出した。なかでも大島町屋代は移民の出身地として有名で，アメリカ帰りの人たちが建てたりっぱな家が目だつ。本陸との交通は，山陽本線の大畠(おおばたけ)駅から大島町の小松港まで国鉄連絡船が3kmの大畠瀬戸を15分で結んでいるほか，久賀港から柳井や松山への航路があり，1976年(昭和51)7月には，待望の大畠瀬戸の架橋も完成した。長さ1,025mの大島大橋である。島内の交通は国鉄バスの循環線によっている。小松にある塩田は，山口県下唯一の残存塩田で，この塩田の東隣に国立大島商船高等専門学校がある。北東方にある柱島(岩国市内)と大島の間の海上で，1945年(昭和20)6月8日に当時日本海軍の戦艦だった陸奥(むつ)が原因不明の爆発で海底に沈んだが，いまその慰霊の〈陸奥の碑〉が東和町の松ケ鼻に立っている。ケ

〔浅井得一〕

おおしま 【大島】 福岡県北西部，玄海町の北西方6kmの海上にあり，その北方48kmの沖ノ島(0.69km²)とともに宗像(むなかた)郡大島村となっている。面積7.4km²，人口1,200。平地に乏しく，最高点は中央の御岳(217m)で，男子は漁業，女子は農業に従事し，水田と畑の比率は4：6である。大島に宗像神社の中津宮が，沖ノ島には沖津宮が祭られる。沖ノ島には神社と燈台の関係者が数人常住するだけであるが，その近海はタイの豊富な漁場で，秋から冬にかけての漁期には約200隻の漁船が集まる。

おおしま 【大島】 長崎県の北部，平戸島の北方にあり，北松浦郡大島村に属する。的山(あずち)大島・北松大島・平戸大島などともいう。面積15.3km²，人口2,600。玄武岩と安山岩からなる台地状の島で，最高点の平ノ辻(ひらのつじ)は216mある。ため池や防風林などによって玄武岩地帯の水田化に成功し，米を移出している。中心集落は南部の神ノ浦(こうのうら)で，古くは倭寇(わこう)の根拠地，捕鯨基地として知られ，また南西にある天然の良港的山港は大陸との交通の要地であった。北西の断層海岸には海食崖(かいしょくがい)がよく発達し，北松(ほくしょう)県立自然公園に含まれている。〔浅井得一〕

おおしま 【大島】 宮崎県の南東部，南那珂(みなみなか)郡南郷町に属し，本陸からおよそ4km離れている。周囲約8kmの小島で，約50戸の家があり，半農半漁の生活を営む。無霜地のため早出しエンドウの栽培も行なっている。

おおしま 【大島(町)】 長崎県西彼杵(にしそのぎ)郡の町。人口7,500。西彼杵半島北西岸に近い大島(西彼(せいひ)大島)と，大島からの出作りの人たちが定着した寺島および六つの無人島を町域とする。大島には，1935年(昭和10)に開発された近代的な設備をもつ炭鉱があり，炭鉱町を形成しているが，粘結炭を産するので石炭斜陽化の影響を受けていない。サツマイモや麦などの農業も行なわれている。

おおしまざくら 【大島桜】 双子葉植物・バラ科。房総半島・伊豆(いず)半島南部・伊豆七島などに分布するサクラの仲間で落葉高木。葉は互生し，無毛で重鋸歯(じゅうきょし)の先が毛状になる。3～4月，白色あるいは淡紅色の花が葉と同時に開く。果実は大形の球状で，5～6月に黒熟する。庭木に用いられ，葉は芳香を有するので桜もちの皮として利用される。➔サクラ

おおしまたかとう 【大島高任】 (1826～1901) 近代鉱業技術の先駆者。南部藩医の子として盛岡に生まれ，江戸で箕作阮甫(みつくりげんぽ)・坪井信道に師事。さらに長崎で蘭学(らんがく)を学び，手塚(てづか)律蔵とともに蘭書《鉄熕鋳造篇(てっこうちゅうぞうへん)》を訳述した。1853年(嘉永6)水戸(みと)藩の反射炉築造を計画。さらに南部藩の釜石(かまいし)鉄山を開発し，1857年(安政4)ここで洋式高

か)による製鉄を開拓した。その後も郷土の産業と教育に尽力するとともに，北海道をはじめ各地の鉱山を指導した。〔山崎俊雄〕

おおしまつむぎ　【大島紬】　略して大島ともいう。本来は，奄美(あまみ)大島で生産されてきた絹絣織(きぬかすりおり)の着尺地のことであったが，第２次世界大戦中鹿児島に疎開してきた奄美の紬織業者によって，戦後は鹿児島でも生産されるようになった。また，紬の名でよばれているが，現在は本絹練り糸を経(たて)・緯(ぬき)ともに使用した絹織物である。明治初期までは紬糸を使っていたが，業界発展を企図して明治中期には玉糸が使われるようになり，さらに1915年(大正４)ごろからは本絹糸を用いるようになって，今日に及んでいる。

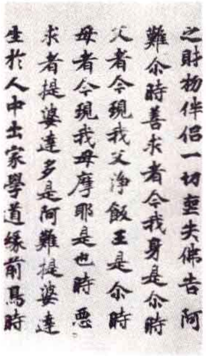
大島紬の特色は，テーチキ(テカチキ)泥(どろ)染めによる黒かっ色の色調と細かい絣技術にある。テーチキはシャリンバイ(車輪梅)・ハマモッコクなどともよばれるバラ科の灌木(かんぼく)で，九州や奄美・沖縄などには豊富な植物である。この幹皮にかっ色の色素とタンニンが含まれ，煮出すと赤茶色の染液が得られる。これに絹糸を浸染したのち，鉄分を含む泥田につけると，テーチキのタンニンと泥土中の水酸化鉄とが結合して堅牢(けんろう)なかっ色に染色され，また絹つやのよい，しなやかでじょうぶな独特の風合いが得られる。色調は，この工程をくり返すことによって濃度を増す。こうして織られたものが泥大島である。泥大島は現在も生産されてはいるが，染色工程に時間がかかり，かなりな労働でもあるので生産量は少なく，価格も高い。

もう一つの特徴である細かい絣は，織り締めという大島独特の方法によって得られる。この加工は1901年(明治34)ごろ，名古屋で行なわれていた技術にならって，奄美大島出身の永伊(ながい)栄温父子が多大な苦心と努力を重ねて完成したものである。織り締めは，締め機(ばた)という機にもめんガス糸を経にかけ，それに絣糸となる絹糸をある本数ずつ束にして緯に織り込み，かたく打ち込んでむしろ状の織物をつくる方法である。こうして織り上がったものは絣莚(かすりむしろ)といわれ，そのままの状態で染色をすると，もめんの経糸で締めつけられたところは染まらずに残り，むしろをほどけばそこに絣糸が得られる。この方法は，手くびりで絣糸をつくるのに比べるとはなはだ能率的であり，同時に非常に細かい絣の作成も可能であったから，大島紬の生産と声価は飛躍的な上昇を遂げるに至った。その意味で，大島紬の完成はこの締め機の成功からもたらされたといってよい。

現在の大島紬は上述の泥大島のほかに，藍(あい)大島とか白大島・色大島とよばれる藍や白や多色のものが盛んに織られ，その特色の第１は泥染めの色調より，この締め機による細かい絣にあるともいえる。



オオジュリン



之財物伴侶一切盡失佛告阿
難尒時善求者今我身是尒時
父者今現我父淨飯王是尒時
母者今現我母摩耶是也時惡
求者提婆達多是阿難提婆達
生於人中出家學道緣前爲時

大聖武



オオスカシバ　羽化直後のもので，翅は鱗粉におおわれている

大島紬のがらは，第２次世界大戦前には男物・女物ともに十字や亀甲網代(きっこうあじろ)などの幾何構成のものに決まっており，ふだん着として着られていたが，現在では花がらなどのさまざまな自由ながらが織られ，もっぱら女性の外出着・常着あるいは趣味の着物として愛好されている。〔北村哲郎〕

おおしまぶし　【大島節】　伊豆(いず)大島の民謡。明治初期に旧野増(のまし)村で茶の栽培が行なわれていたころ，茶摘みや茶もみの歌として始まったといわれ，当時は《野増節》とよばれた。節は島の古謡《よまひ節》からの影響が強い。歌詞は〈わたしゃ大島御神火育ち，胸に煙は絶えはせぬ〉。

おおじゅりん　【大寿林】　鳥類・ホオジロ科。全長約16cm。上面は赤かっ色ないし黄かっ色と，黒かっ色のまだらで，下面は淡色だが，雄は繁殖期には頭部が黒色になる。北海道の草原で繁殖し，本州以南のアシの密生地で越冬する。ヨーロッパ・シベリア・中央アジアから日本にかけて分布する。➔ホオジロ

おおじょうむ　【大聖武】　伝聖武天皇宸筆(しんぴつ)《賢愚経》の断簡。大和(やまと)(奈良県)の東大寺に伝えられていたので《大和切》ともいうが，伝聖武天皇宸筆の写経のうち字形が最も大きいのでこの名でよばれる。料紙は香木を細かく砕いたものをすきこんだ茶毘(だび)紙で，１行12字または13字づめ，点画は太くて筆力が充実している。手鑑(てかがみ)(各種の古筆切をはりこんだ帖(じょう))の巻首に必ずはらなければならないものとされている。

おおじょうや　【大庄屋】　⇨名主

おおす　【大須】　愛知県名古屋市中区の繁華街。鎌倉時代に美濃(みの)(岐阜県)中島郡大須に創建され，江戸初期同地に移された北野山宝生院真福寺(通称大須観音*)の門前町として，尾張(おわり)藩主徳川家の援助を受けて栄えた。付近は劇場・映画館・飲食店が多く，〈名古屋の浅草〉として庶民に親しまれている。東に接する万松寺通りにも盛り場が発展し，特に衣料品店が多い。大須観音は第２次世界大戦中焼失した。1952年(昭和27)に，東京のメーデー事件，大阪の吹田(すいた)事件とともに戦後三大騒乱事件といわれた大須事件が起こり，1969年判決が下されて騒乱罪が成立した。〔浅井得一〕

おおず　【大洲(市)】　愛媛県西部の市。もと大津と書き，肱(ひじ)川中流の河港として開け，江戸時代は加藤氏六万石の城下町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口39,000。市域は大洲盆地の中心に位置し，風光が美しく，〈伊予(いよ)の小京都〉といわれる。産業三大別人口比は32：24：44で，米・麦・ミカンを集散し，最近は酪農と野菜のビニル栽培が盛んである。藩政時代には養蚕・製糸が盛んに行なわれたが，近年はふるわない。予讃(よさん)本線・国道56号線・197号線が通ずる。大洲城跡や中江藤樹邸跡などの史跡に富み，夏季の鵜(う)飼いも名高い。

おおすがおつじ　【大須賀乙字】　(1881～1920)　俳人。福島県の生まれ。東京大学国文科卒。東大在学中に河東碧梧桐*(かわひがしへきごとう)に入門，小沢碧童とともに碧門の俊秀として注目される。1908年(明治41)〈俳句界の新傾向〉を《アカネ》に発表，新傾向俳句*の口火を切る。のち碧梧桐・荻原(おぎわら)井泉水*らと別れ，雑誌《懸葵(かけあおい)》などに伝統尊重・古典復古を提唱した。理論にすぐれたといわれるが，秀句も多い。

おおすかしば　【大透翅蛾】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・スズメガ科。体長35mm内外，翅(はね)を広げた長さ65～70mm。体は黄緑色で腹面は白色。腹部は黄色で，その腹面は黒色。腹部の第４および第６節の中央部は黒色で，第５節は紫赤色。翅は，羽化直後は灰色の鱗粉(りんぷん)におおわれているが，まもなく脱落して透明となる。翅脈は黒色。昼間活動性で，活発に飛翔(ひしょう)し，種々の花を訪れて求蜜(きゅうみつ)するため，一見スズメバチ類によく似ている。幼虫はクチナシの葉を食べ，地中でさなぎになる。本州以西，インドに至る東アジア一帯に広く分布する。近似の種類にリュウキュウオオスカシバ・スキバホウジャク・クロスキバホウジャクなどがあるが，いずれも昼間活動

性で種々の花を訪れる。〔鈴木邦雄〕

おおすかんのん【大須観音】名古屋市中区門前町にある真言宗智山(ちさん)派の寺。正しくは北野山真福寺。別称宝生院。南北朝時代に僧能信が美濃(みの)(岐阜県)中島郡長岡荘(しょう)大須に建立(こんりゅう)。1350年(正平5・観応1)後村上天皇の勅願所となり，皇子任愉法(にんゆほう)親王が入寺した。1605年(慶長10)木曽(きそ)川の大出水のため堂塔が流され，1612年徳川家康(いえやす)の命により現在地に移された。名古屋市の中央にあり，付近は江戸中期より門前町として栄えた。約15,000点の蔵書は《大須本》あるいは《真福寺本》とよばれ，仏書・史書・漢書・文学書など珍しいものが多い。〔藤本昌子〕

おおすぎさかえ【大杉栄】(1885～1923) 社会運動家・無政府主義者。父は愛知県出身の陸軍歩兵少佐。名古屋陸軍幼年学校で上官に反抗して放校され，のち東京外国語学校仏語科に入学。在学中幸徳秋水*らの平民社に加わり，卒業後は朝日新聞筆禍事件*・赤旗事件*などで数回にわたって投獄された。1912年(大正1)荒畑寒村*らと《近代思想》，次いで《平民新聞》を発刊し，大逆事件*以来沈滞していた社会主義運動を復活させた。アナーキズム*とボリシェビズムの対立にはアナーキズムの立場をとり，これに大きな影響を与えた。関東大震災の混乱のとき，妻伊藤(いとう)野枝・甥(おい)とともに甘粕(あまかす)憲兵大尉に殺害された。著述は《大杉栄全集》に収録。➔甘粕事件〔岸野淳子〕

おおすぎだに【大杉谷】三重県の南西部，宮川上流の峡谷で，〈大杉峡谷〉ともいう。まわりはスギをはじめとする原生林で，断崖(だんがい)と滝がいたるところにあり，滝の数は本支流合わせると100以上になる。吉野熊野(よしのくまの)国立公園に属し，紀勢本線三瀬谷駅よりバスで約1時間半，大台ケ原への登山ルートにあたっている。1952年(昭和27)に県営宮川ダムができたが，これによって新しい景観が加わった。もとは多気郡大杉谷村に属していたが，1959年に東隣の宮川村に合併された。〔浅井得一〕

おおすべらかし【大垂髪】女子の髪形の一つで〈おすべらかし〉ともよんだ。平安時代の貴族，中世・近世の公家(くげ)・武家の女性の髪風で，現在宮中儀式に残るおすべらかしとは異なるもの。自然のたれ髪を肩のへんでたばね，長かもじを添えて絵元結いで結び，その先を水引きで2か所，さらに小ひっさきで3か所結ぶ。

おおすみ 日本最初の人工衛星。1970年(昭和45)2月11日，鹿児島県内之浦の東京大学宇宙空間観測所から発射され，近地点328km，遠地点5,160km，周期2時間24分の衛星軌道に乗った。ロケットはラムダ4S型5号。衛星は直径48cmの第4段球型ロケットの燃えがらを含めて重さ23kg。打ち上げのテストであったため，加速度計と送信機しか積んでいなかった。送信は10数時間でとだえた。国産人工衛星を国産のロケットで打ち上げたのは，ソ連・アメリカ・フランスに次いで4番めである。ラムダ4S型による人工衛星の発射は，1966年9月に始まり，4回の失敗ののち，この5号機で成功した。本格的な科学衛星は，ラムダよりずっと大きいミューロケットで打ち上げられる。〔新羅一郎〕



大杉　栄



オオソリハシシギ(冬羽)

おおすみ【大隅(国)】鹿児島県東半の大隅半島とその南方海上に浮かぶ種子(たね)・屋久などの諸島を含む地域の旧国名。隅州。西海道に属する。713年(和銅6)日向*(ひゅうが)の囎唹(そお)・肝坏(きもつき)・姶羅(あいら)・大隅の4郡をさいてはじめて大隅を建て，824年(天長1)種子島を編入して熊毛(くまげ)・馭謨(ごむ)2郡，さらに桑原・菱刈(ひしかり)2郡を建てて計8郡となる。国府は囎唹郡(国分市)にあった。現在は国分・鹿屋(かのや)など5市と5郡に分かれる。辺境なので班田制がほとんど行なわれず，平安末期には国内の大部分が荘園*(しょうえん)化されて，近衛(このえ)家・興福寺領島津荘が最大の荘園であった。鎌倉時代には薩摩(さつま)守護島津氏が本国と日向の守護を兼任した。中世を通じてしだいにその支配を強化し，戦国末期以降は長く本国を統治し，明治維新に及ぶ。廃藩置県の際鹿児島・都城(みやこのじょう)2県に分属したが，1871年(明治4)鹿児島県に編入された。〔黛　弘道〕

おおすみ【大隅(町)】鹿児島県曽於(そお)郡の町。人口17,000。大隅半島のつけ根の部分にあり，志布志線に沿う。1955年(昭和30)岩川町ほか2村が合併して生まれた。シラス*台地上の畑でサツマイモ・タバコをつくり，サツマイモをデンプンに加工している。和牛を飼い，林業も行なわれる。

おおすみかいきょう【大隅海峡】鹿児島県大隅半島の佐多岬(さたみさき)～火崎間とその南方の大隅諸島東部の種子島(たねがしま)との間を占める海峡で，幅40km，最狭部の佐多岬と竹島の間は24km，深さ100～250m。太平洋と東シナ海とを結ぶ水道にあたり，黒潮の流速も1時間2.5kmと大きく，船舶の運航もひんぱんである。

おおすみしょうはちまんぐう【大隅正八幡宮】⇨鹿児島神宮

おおすみはんとう【大隅半島】鹿児島県の東部，南東に突き出した半島で，北部には1,000m前後の山々からなる高隈(たかくま)山地，南部には900m前後の山々が続く肝属(きもつき)山地があり，太平洋岸は断崖(だんがい)をなしている。両山地の間には笠野原(かさのはら)・鹿屋原(かやのばる)など，原とよばれるかつての姶良(あいら)火山の噴出によるシラス*台地が展開し，水田には不適なので，おもに畑作が行なわれ，サツマイモ・タバコ・ナタネなどが栽培されている。しかし，土壌(どじょう)侵食による災害が大きく，防災に力が注がれている。志布志海岸には肝属川が形成した肝属平野が発達し，米作が行なわれている。半島の南部にはソテツ・ビロウなどの自生がみられ，西南部の海岸と南端の佐多岬(さたみさき)周辺は霧島屋久国立公園*に属している。〔味沢成吉〕

おおせざき【大瀬崎】長崎県五島列島南端の福江島の南西端にあたり，白と黒の互層の美しい高さ約100mの海食崖(かいしょくがい)の上に，無人の大瀬崎燈台がそびえている。南松浦郡玉之浦町に属し，西海国立公園*の区域内に含まれている。

おおぞうむし【大象鼻虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。体長12～18mm(口吻(こうふん)を除く)で，日本最大のゾウムシ。体はきわめて堅固，地色は黒色で，灰かっ色紋で密におおわれている。鞘翅には各10条の点刻列があり，多数の小黒紋がある。ときに全体黒化した個体もみられる。日本全国をはじめ中国・台湾・ニューギニアなどに広く分布し，成虫は夏季に枯れ木やクヌギ・コナラなどの広葉樹の樹液に好んで集中し，夜間は燈火にもよく集まる。幼虫は枯れ木中で生活する。〔鈴木邦雄〕

おおそりはししぎ【大反嘴鷸】鳥類・シギ科。やや大形のシギで，全長約40cm。上方に少しそりかえった長さ7～12cmのくちばしをもつ。冬羽は全体にじみな淡かっ色，夏羽は頭頸部(とうけいぶ)・胸腹部が美しい赤かっ色。大きな川のどろの多い河口や干潟(ひがた)に普通にみられる。これと近縁のオグロシギは大きさ・羽色もだいたい似ているが，尾羽の先端部に幅広い黒色帯があり，また翼には顕著な白帯がある。➔シギ

おおた【太田(市)】群馬県南東部の市。江戸時代は〈子育て呑龍(どんりゅう)〉として有名な大光院の門前町で，日光例幣使街道の宿場町・市場町でもあった。1916年(大正5)，中島飛行機工場の設置以来一躍都市化して，1948年(昭和23)市制施行。人口12万2,000。

利根(とね)川と渡良瀬(わたらせ)川の沖積地(ちゅうせきち)が市域の大半を占め，中心市街は金山(かなやま)丘陵に続く台地上にある。第２次世界大戦以後，軍需産業の壊滅によって市勢は一時衰えたが，1950年ごろからスクーター生産やメリヤス工業が興り，1960年首都圏市街地開発地区に指定されて，工業都市としての再建が進んだ。産業三大別人口比は14：46：40。南部には富士重工業の自動車製造工場がある。東武鉄道伊勢崎(いせさき)線・桐生(きりゅう)線の分岐点で，国道122号線が通ずる。北部の金山丘陵の頂上に中世山城の典型的遺構である金山城跡と新田(にった)神社，南麓(なんろく)に大光院がある。

おおた【大田(区)】東京都23特別区の一つで，最南端の区。東は東京湾に臨み，南から西にかけては多摩川をはさんで神奈川県川崎市に相対し，北は品川，北西は世田谷(せたがや)・目黒の各区と接する。1947年(昭和22)大森・蒲田(かまた)両区が合併して成立した。面積41.7km²，人口65万7,000は特別区中第２位である。区域の東部は東京湾に面して埋め立て地が広がり，南部は多摩川下流域の沖積地(ちゅうせきち)で，ともに明治後期から工業地域となり，日本特殊鋼・東京計器製造所・荏原(えばら)製作所・キャノンカメラ・日本精工などの大工場が集まり，京浜工業地帯の中核をなしている。北部と西部には武蔵野(むさしの)台地の南端部が延びており，その中央を流れる呑(のみ)川の谷によって荏原台と久ケ原台に２分される。南西部の池上地区には日蓮宗(にちれんしゅう)大本山本門寺があり，毎年10月11～13日の会式は人出でにぎわう。東海道本線・京浜急行電鉄がほぼ平行して走り，国電蒲田駅から東京急行電鉄池上線が国電山手線の五反田駅に，目蒲線が同じく目黒駅に通じている。これらの沿線地区は大正後期以降宅地化が進み，大森山王・田園調布・洗足池付近には高級住宅地もある。おもな繁華街は，大森・蒲田・池上など各駅の周辺部で，多摩川三角州先端にある羽田は東京国際空港を控えて国際色豊かなふんい気をもつ。北部には東海道新幹線と品鶴(ひんかく)貨物線が走り，羽田からモノレールが埋め立て地の海岸や昭和島・平和島を通って浜松町へ通ずる。おもな道路としては，都心部から羽田へ通ずる首都高速道路１号線をはじめ，産業道路・国道15号線(第１京浜国道)・１号線(第２京浜国道)・中原街道などのように区域内をほぼ南北に縦断しているものと，環状７号線や８号線のようにこれと交差してほぼ東西に横断しているものとがある。〔浅井得一〕

おおだ【大田(市)】島根県中部の市。江戸時代は山陰道の宿場町・市場町として栄えた。1954年(昭和29)市制施行。人口38,000。日本海に注ぐ静間川下流の氾濫原(はんらんげん)上に位置し，産業三大別人口比は33：24：43。周辺の農林業地域の物資を集散し，最近は酪農が盛んで，乳製品を多くつくる。背後の石見(いわみ)高原には，マツを主とする木材の産出が多く，大森地区には江戸時代に栄えた石見銀山*がある。海岸部に山陰本線・国道９号線が通ずる。南東郊の三瓶(さんべ)山(1,126 m)・三瓶(志学)温泉一帯は大山隠岐(だいせんおき)国立公園*に含まれる景勝地で，観光開発が進んでいる。



大台ケ原山　東ノ川の刻む深い侵食谷に落下する中ノ滝の遠望。滝見台から望んだもの。東ノ川の下流は北山川に合流して瀞八丁をつくる

おおだい【大台】⇨証券市場

おおだいがはらさん【大台ケ原山】紀伊(きい)山地東部，奈良・三重県境にまたがる山地。年雨量4,000mmを越えるわが国の最大多雨地の一つとして知られる。西は北山川の谷，東は宮川上流の大杉谷渓谷(おおすぎだにけいこく)に臨む。山頂付近は秀ケ岳(1,695 m)・経ケ岳(1,529 m)などに囲まれた高原状で，まわりは大蛇嵓(だいじゃぐら)・蒸籠嵓(せいろぐら)などの大絶壁をなし，大峰山*信仰の行場になっている。吉野熊野(よしのくまの)国立公園*の一部で，吉野方面から伯母峰(おばみね)峠経由の大台ケ原ドライブウェーが通じている。〔高野　繁〕

おおだいがはらさんしょううお【大台ケ原山椒魚】両生類・サンショウウオ科。紀伊(きい)山地，四国や大分県の山地に分布し，数は多くない。体長18cmで尾はその２分の１を占める。体の背面は黒かっ色，腹面は色が淡く，斑点(はんてん)はない。５月ごろ渓流(けいりゅう)の石の下などに産卵。

おおだいこ【大太鼓】

1 芝居の下座音楽や神楽(かぐら)・祭礼囃子(ばやし)に使われる両面太鼓。皮は胴に鋲(びょう)で留めてあり，木のばちでたたく。

2 西洋音楽の最大の太鼓。バスドラム。胴の両面に皮が張ってあり，張力は加減できる。先端に布を巻いたばちでたたく。

おおたか【蒼鷹】鳥類・ワシタカ科。中形のタカで，全長は雄が約50cm，雌が約56cm。体重は雌が雄の1.5倍あって約１kg。森林にすみ，ウサギ・キジ・ヤマドリなどを捕食する。鷹狩り*に用いられるタカは，本種が最も多い。全北区*に広く分布する。

おおたがきれんげつ【大田垣蓮月】(1791～1875) 江戸末期の女流歌人。本名誠(のぶ)。京都の生まれ。早く両親・夫・愛児を失い，夫死去の際，蓮月と号して出家，以後洛中(らくちゅう)・洛外を転々とし，楽焼きなどをつくって孤高清廉の生涯(しょうがい)を送った。尊王の志厚く，歌は小沢蘆庵*(ろあん)に私淑，流麗優美な歌風で叙景歌にすぐれる。歌集《海士(あま)の刈藻(かるも)》がある。

おおたかげんご【大高源吾】(1672～1703) 赤穂(あこう)義士のひとり。名は忠雄(ただお)。赤穂城主浅野長矩(ながのり)に仕え，腰物方二十石五人扶持(ふち)。1701年(元禄14)浅野家断絶後，大石良雄(よしお)らと吉良義央(きらよしなか)への復讐(ふくしゅう)を計画，吉良邸偵察(ていさつ)に専念した。1702年12月吉良邸に討ち入る。討ち入り以後伊予(いよ)松平氏にお預けとなり，翌年２月切腹。俳諧(はいかい)に親しみ，江戸の沾徳(せんとく)に師事して子葉と号した。➔赤穂義士〔松尾　涼〕

おおたがわ【太田川】広島県西部を南流して広島湾に注ぐ川。流程110km。水源は中国山地で，山間部上流は峡谷をなし，数多くの飛瀑(ひばく)で有名な三段峡は特別名勝に指定されている。下流海岸近くでは六つに分流し，沖積(ちゅうせき)平野をつくる。城下町広島はこのデルタの上に建設されたものである。世界最初の原子爆弾の爆心地は分流の一つ元安川のほとりで，そこにあった産業奨励館の建物は原爆ドームとして保存されている。

おおたき【大多喜(町)】千葉県夷隅(いすみ)郡の町。人口14,000。房総半島の中央部東寄りにあり，夷隅川に沿う。中世以来の城下町で，幕末には松平氏(二万石)がいた。城は夷隅川の蛇行(だこう)と断層崖(だんそうがい)を利用してつくられており，要害の地である1954年(昭和29)，まわりの４村を合併して町域を拡大した地方的な商業都市で，天然ガスを豊富に産し，1931年以来大多喜天然瓦斯(ガス)会社によって採取されているが，工業はあまり盛んではない。国鉄木原線が通じている。

おおたきねさん【大滝根山】福島県東部阿武隈(あぶくま)山地のほぼ中央に位置する。標高1,193m。阿武隈隆起準平原の残丘で，カコウ岩からなる。まわりの山地から突出してそびえ，東に太平洋，西に磐梯(ばんだい)・安達太良(あだたら)・吾妻(あづま)の山々が望まれる。付近は石灰岩が多く，西のふもとには入水鍾乳洞(いりみずしょうにゅうどう)がある。

おおたきんじょう【太田錦城】(1765～1825) 江戸後期の儒者・漢詩人。本名元貞。字(あざな)は公幹。加賀(石川県)の人。京都の皆川淇園(きえん)，江戸の山本北山らに学び，三河(みかわ)(愛知県)の吉田(よしだ)藩主松平氏のち加賀の前田侯の儒臣となった。宋学(そうがく)，漢・唐の註疏(ちゅうそ)の学，清(しん)初期の考証学，わが国の儒者の説などを広く取り入れて折衷学を大成した。著書に《論語大疏(たいしょう)》《九経談》《疑問録》《錦城詩

集》などがある。　〔平田澄子〕

おおたけ【大竹(市)】広島県南西端の市。古くから山陽道の渡船場・宿駅として開け，江戸時代以降和紙の製造が発達した。1954年(昭和29)市制施行。人口37,000。小瀬川(木野(この)川)河口の三角州上にあり，大野瀬戸を隔てて厳島(いつくしま)と相対する。呉(くれ)軍港に近いので，第2次世界大戦中は海兵団などが置かれ，海軍の重要な基地であった。産業三大別人口比は3：54：43で，製紙・パルプ工業，レーヨンなどの化学繊維工業が発達し，近年は埋め立て地におもに三井系の資本による石油化学工業が進出し，西隣の岩国(山口県)と結んで一大コンビナートを形成している。山陽本線・国道2号線が海岸線近くを走る。

おおだち【大裁ち】⇨本裁ち

おおだて【大館(市)】秋田県北部の市。1951年(昭和26)市制施行。人口73,000。米代(よねしろ)川中流，大館盆地の中心に位置し，産業三大別人口比は20：27：53で，盆地周辺の秋田スギを集散し，製材工場が多い。北郊に花岡鉱山があり，1962年，日本鉱業が釈迦内(しゃかない)地区に良質の黒鉱*鉱床を発見して以来，鉱床の開発が進んでいる。奥羽本線と花輪線・同和鉱業小坂線の分岐点で，国道7号線(羽州街道)・103号線が通じ，バスも四通八達する。日本犬の代表の一つとされる秋田犬の原産地で，長鳴鶏(ながなきどり)の一つであるコエヨシ(声良)とともに天然記念物になっている。1953年・1955年・1956年と3回の大火にあったが，森林資源に恵まれて復興が早く，防火都市として再出発している。特産は曲げ木細工を中心とした木工品・家具類など。

おおだてぼんち【大館盆地】秋田県の北部，米代(よねしろ)川の中流とその支流の長木川によって形成された断層盆地で，盆地は断層崖(だんそうがい)によって周囲の山地と限られている。平野は洪積(こうせき)台地と沖積(ちゅうせき)低地の2段の堆積面(たいせきめん)にはっきり分かれ，洪積台地には段丘が形成されている。平野の北部は大館市，南部は北秋田郡比内町で，大館市では段丘上の旧藩時代からの集落と，長木川を隔てた奥羽本線開通後の新市街地とが対象をなしている。周辺の山地は秋田スギをはじめ林産資源に富み，大館市では製材・木工業が盛んである。盆地は銅鉱，特に近年発見の黒鉱*が豊富で，その採掘のために景観が一変した。北部には鉱山都市として発達した旧花矢町(1967年大館市に合併)がある。〔味沢成吉〕

おおたどうかん【太田道灌】(1432～1486) 室町中期の武将。名は持資(もちすけ)。入道して道灌と称した。清和源氏の流れで，父資清以来扇谷(おおぎがやつ)上杉(うえすぎ)家の執事となり，1457年(長禄1)江戸城*を築いて根拠とした。関東諸勢力の抗争する中を各地に転戦して武功をたて，主家の興隆に努めたが，1486年(文明18)山内上杉顕定(あきさだ)の讒言(ざんげん)により主君の上杉定正(さだまさ)に謀殺された。教養高く，歌人として著名。



太田道灌
静勝寺蔵



オオタニワタリ

おおたなんぽ【大田南畝】⇨蜀山人(しょくさんじん)

おおたにこうざん【大谷鉱山】京都府亀岡(かめおか)市にある日本最大のタングステンの鉱山。合金用としてすぐれた球形の粒子をもつタングステン精鉱120t(1963)のほか，スズ精鉱30tを産する。

おおたにこうずい【大谷光瑞】(1876～1948) 浄土真宗本願寺派の管長。大谷光尊(明如*(みょうにょ))の長子。学習院に学び，光尊の跡を継いで，第22世門主となる。法号を鏡如上人(しょうにん)という。欧米に留学後，1902年(明治35)中央アジアの探検を試みた。翌年父光尊の逝去(せいきょ)により帰国し，本願寺派管長に就任。宗政の刷新，教宣の拡張，学事の奨励，たび重なる中央アジア探検，人材養成などに努め，スケールの大きな数多くの事績を残した。〔坂東性純〕

おおたにこうそん【大谷光尊】⇨明如(みょうにょ)

おおたにたけじろう【大谷竹次郎】(1877～1969) 日本興行界の貢献者。京都出身。京都祇園座(ぎおんざ)の売店従業員から身を起こし，29歳のとき双生児の兄白井松次郎*と劇場経営に乗り出し，兄弟の名から1字ずつとって松竹合名会社を設立した。まもなく関西劇壇全体を掌握し，1912年(大正1)には東京歌舞伎座(かぶきざ)を買収，当時の歌舞伎と新派の幹部役者のほとんどを傘下(さんか)に収め，演劇界の最大勢力となった。さらに1920年には松竹キネマ合名会社を創立，映画部門にも手を広げ，興行を実業として確立させた。また，歌舞伎・文楽などの伝統古典芸能の存続保護に力を注ぎ，1955年(昭和30)に文化勲章を受けた。〔片岡一郎〕

おおたにわたり【大谷渡】シダ植物・チャセンシダ科。八丈島・四国・九州・沖縄など暖地の林内に分布，樹上に着生する常緑性の大形シダ。葉は倒披針(とうひしん)形，鋭頭で長さ60～120cm，幅3～15cmの単葉で全縁，鮮緑色でなめらかである。葉柄基部に灰かっ色で披針形の鱗片(りんぺん)がある。胞子嚢(ほうしのう)群は裏面の3分の2以上を占める。

おおたぶみ【大田文】鎌倉時代，課役賦課のため国ごとに国内の田数とその領有関係を記録した帳簿。図田帳・田数帳(でんすうちょう)ともいう。幕府の命令によったものと，国衙*(こくが)によって作成されたものとがある。現存する最古のものは淡路(兵庫県)大田文で，そのほか若狭(わかさ)(福井県)・但馬(たじま)(兵庫県)・常陸(ひたち)(茨城県)などのものがある。《続群書類従》に収録。

おおたみずほ【太田水穂】(1876～1955) 歌人・国文学者。長野県の生まれ。本名貞一。上京して，1915年(大正4)短歌雑誌《潮音*》を創刊主宰。感動を尊重し，直観によって対象を把握(はあく)する独自の歌風を展開する一方，芭蕉(ばしょう)・《新古今和歌集》などの古典研究にも多くの業績を残した。歌集に《つゆ艸(くさ)》《雲鳥》《螺鈿(らでん)》，研究に《芭蕉俳句研究》がある。

おおたわら【大田原(市)】栃木県北東部の市。江戸時代は奥州街道の宿駅，大田原氏一万一千石の城下町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口47,000。市域は那須(なす)扇状地の扇端部から那珂(なか)川の支流箒(ほうき)川南岸の沖積地(ちゅうせきち)一帯を占め，産業三大別人口比は32：29：39で，イネ・麦・野菜などの栽培が盛んな農業地帯である。つけ物・製菓などの食料品工業が行なわれ，最近は近郊に金属・機械部品などの諸工場も進出している。東野鉄道のバス路線が東北本線西那須野駅と連絡する。特産はトウガラシ。

おおつ【大津(市)】滋賀県の南西端，県庁のある市。古くは近江(おうみ)大津宮*が置かれ，のち三井寺(園城(おんじょう)寺*)の門前町，京極氏の城下町と多くの変遷を経て，江戸時代には本多氏六万石の城下町，東海道の宿場町，北国米陸揚げ港として栄えた。1898年(明治31)市制施行。人口20万9,000。琵琶湖(びわこ)南岸に臨み，大津地区は商業・政治・文化の中心で，かつての城下町であった膳所(ぜぜ)は住宅地として発展し，最近は隣接する京都市の衛星都市的な機能を強めている。産業三大別人口比は，5：36：59で商業都市の性格が強いが，南の石山地区は東レ・新日本電気・都築(つづき)紡績などの大工場をもつ東南部工業地帯の中心地である。東海道本線・京阪(けいはん)電鉄京津線・

石山坂本線や国道1号線・161号線が通じ，名神高速道路のインターチェンジがある。瀬田川渓流(けいりゅう)に沿う石山寺*，芭蕉(ばしょう)の幻住庵(げんじゅうあん)，木曾義仲(きそよしなか)・芭蕉の墓がある義仲寺*，三井寺，比叡(ひえい)山，日吉(ひえ)神社*などの名所旧跡が多く，琵琶湖国定公園*の観光基地となっている。

おおつえ【大津絵】江戸時代の民俗絵画。大津のみやげ物として売られたための呼称で，はじめ筆で描かれていたが，のちに墨刷り・合羽摺(かっぱずり)りとなった。稚拙な中に滑稽味(こっけいみ)があふれていて楽しい。寛永(1624～1643)のころに始まり，主題は《青面金剛像》などの仏教的なもの，《鬼の念仏》《藤娘(ふじむすめ)》などの戯画的なものに大別される。



大津絵
《鬼の念仏》

おおつえぶし【大津絵節】江戸時代後期に全国的に流行した歌で，はじめは，近江(おうみ)(滋賀県)大津でみやげ品として売られた大津絵*の画題をよみこんで大津の遊郭の芸人がつくったといわれる。それが江戸に伝えられ変唱され，さらに三味線(しゃみせん)の二上がりの曲につけられて人気をよび，各地に伝えられたと考えられる。大阪・江戸以外のものでよく知られているのは，会津・福島・仙台(せんだい)のもので，南九州や種子島(たねがしま)ではかなり変えられて《おちえ節》として知られる。〔山口　修〕

おおつき【大月(市)】山梨県東部の市。江戸時代は甲州街道の宿場町，甲斐絹(かいき)の集散地であった。1954年(昭和29)市制施行。人口36,000。山林・原野が市域の大半を占め，平地に乏しく，産業三大別人口比は8：47：45で，人絹・絹・人絹交織の洋服裏地やパラソル地などの生産が多い。中央本線と富士急行電鉄の分岐点で，国道20号線・139号線が通じ，中央高速道路のインターチェンジがある。富士登山・富士五湖巡りの観光基地となり，猿橋(さるはし)の奇勝がある。



オオデマリ

おおつきげんたく【大槻玄沢】(1757～1827) 蘭学者(らんがくしゃ)。陸中(岩手県)の生まれ。磐水(ばんすい)と号した。江戸へ出て杉田(すぎた)玄白*に師事し医学を修め，前野良沢*にオランダ語を学ぶ。のち長崎へ出てさらにオランダ語の研究を深めた。1786年(天明6)江戸に蘭学塾(らんがくじゅく)芝蘭堂(しらんどう)を開き，多くの蘭学者を養成した。著訳書に《蘭学階梯(かいてい)》《蘭訳梯航》《重訂解体新書》などがある。

おおつきじょでん【大槻如電】(1845～1931) 学者。父は大槻磐渓*(ばんけい)。音楽・舞踊の研究・作詞・作曲・振り付けを盛んに行ない，日本音楽の保存育成に努めた。和・漢・洋の諸学に造詣(ぞうけい)が深く，著述もすぐれている。《舞楽図説》《東西年表》《洋学年表》《俗曲の由来》など。

おおつきでんぞう【大槻伝蔵】(1703～1748) 加賀藩の家臣。藩主前田吉徳(よしのり)の寵(ちょう)を受け，権勢をほしいままにした。1745年(延享2)吉徳の死後失脚し，改易・配流ののち自殺。一権臣のはなはだしい栄枯盛衰と，幼主のあいつぐ死没から加賀騒動*の俗説を生み，張本人とされた。

おおつきばんけい【大槻磐渓】(1801～1878) 江戸末期・明治初期の儒学者。大槻玄沢*の次男として江戸に生まれる。本名清崇(きよたか)，字(あざな)は士広，磐渓は号。昌平黌(しょうへいこう)に学び，仙台(せんだい)藩侍講となり儒学に専念。嘉永(かえい)年間の情勢に応じ，西洋砲術を修め，また親露排英・開港を建策した。戊辰(ぼしん)の役*に従軍して下獄したが，釈放後は酒と詩作に自適の生活を送った。古註学(こちゅうがく)派に属して詩壇に重きをなし，著書に《孟子(もうし)約解》《近古史談》《鴻濛斎(こうちょうさい)詩抄》など。〔中西正幸〕

おおつきふみひこ【大槻文彦】(1847～1928) 国語学者。江戸木挽(こびき)町に生まれ，幼時から家で漢文を学んだ。のちに，開成所・東京大学南校・英学私塾(しじゅく)三叉(さんさ)学舎などで修学。1872年(明治5)文部省出仕以後，宮城師範学校校長・高等師範学校講師・文部省国語調査員・国語調査委員会主査委員・臨時仮名遣(かなづかい)調査委員会委員となる。1911年帝国学士院会員。官命により起稿した《言海*》はわが国最初の近代的辞典として辞書史上逸することができないものである。また，《広日本文典》《口語法別記》は西欧言語学の研究方法を参考とした文法研究書として，以後の文法研究の基礎となった。〔寒河江実〕

おおつじけん【大津事件】湖南事件ともいう。1891年(明治24)5月11日，ロシア皇太子ニコライ-アレクサンドロビッチ(のちのニコライ2世)が日本訪問中，大津市で津田三蔵巡査に刺傷された事件。第1次松方内閣は，事件から日露関係が悪化することを恐れ，大逆罪を適用して津田を死刑に処するよう大審院長児島惟謙*(こじまいけん)に申し入れた。しかし児島は普通謀殺未遂罪を主張して政府と対立し，刑法に従って無期徒刑の判決を下した。行政権の干渉を排し，司法権の独立を擁護した事件として有名。〔千野境子〕

おおつづみ【大鼓】〈おおかわ〉とも読む。能・長唄(ながうた)の囃子(はやし)楽器。桜製の砂時計形の胴の両面に牛皮をあて，朱色のひもで締める。このひもは，皮の張力を加減して音高・音色を変えるので調緒(しらべお)とよばれる。能では床几(しょうぎ)に腰かけ，長唄では正座して奏する。左手で調緒を握って左わき下にかかえ，美濃(みの)紙でつくった指皮(袋)をはめた右手の指の腹で打ち鳴らす。小鼓と比べて音量は大きく，ニュアンスも多様で，掛け声もいろいろに使い分けられる。〔山口　修〕

おおつのおうじ【大津皇子】(663～686) 天武天皇の第3皇子。母は天智(てんじ)天皇の皇女大田皇女(みこ)。天武天皇は皇后(のちの持統天皇，大田皇女の妹)の子草壁皇子*を皇太子としながら，まもなく大津皇子にも朝政を聞かせたので，皇位継承問題は微妙になった。しかも大津皇子には文武の才幹があり，その豪放な性格とあいまって，多くの人が心を寄せた。草壁皇子の将来を案じた皇后は天武天皇の没後まもなく，大津皇子を謀叛(むほん)の疑いで捕え，次いで自殺を命じた。〔鷲　弘道〕

おおつのみや【大津宮】⇨近江(おうみ)大津宮

おおてすじ【大手筋】⇨証券市場

おおてたくじ【大手拓次】(1887～1934) 詩人。群馬県の生まれ。早稲田(わせだ)大学入学の前後から詩作を始め，ボードレール*などに傾倒，萩原朔太郎*(はぎわらさくたろう)・室生犀星*(むろうさいせい)と並んで北原白秋*門下の新進と目されたが，内気な性格のため生涯(しょうがい)を孤独のうちに送った。生前の詩集の刊行はなく，死後に《藍色(あいいろ)の蟇(ひき)》《蛇(へび)の花嫁》などが友人の編集によって出版された。

おおてまち【大手町】東京都千代田区のうち，もと丸ノ内の北部地区で，北は同じ千代田区内の神田地区，東は中央区と接する。地名は，江戸城の表玄関にあたる大手門の門前に広がる地域であったことにちなむ。江戸時代には大名屋敷が立ち

並んでいたが，いまは大手ビル・大手町ビル・新大手町ビル・日本ビルなどの高層ビルが多く，労働省・気象庁，電信電話公社の関東および東京電気通信局，東京中央電報局・日本長期信用銀行・国際電信電話会社・日本経済新聞社などが集まって，日本最大のビジネスセンターを形成する。東京駅に近く，地下鉄丸ノ内線・東西線・千代田線・都営三田線が通ずる。〔浅井得一〕

おおでまり　【大手鞠】　双子葉植物・スイカズラ科のヤブデマリの栽培種。葉は対生し広卵形で表面に著しいしわがある。4～5月ごろ葉腋(ようえき)にアジサイの花に似た白色の球状の花序をつける。めしべ・おしべともに退化しているので実をつけない。
➔ヤブデマリ

おおどうぐ　【大道具】　演劇の舞台に飾られる道具のうち，背景・家屋・樹木・岩石など，演技者が動かさないものをいう。手で持ち運ぶ*小道具に対するもの。歌舞伎(かぶき)から出た語だが，今日では一般演劇用語として使われている。

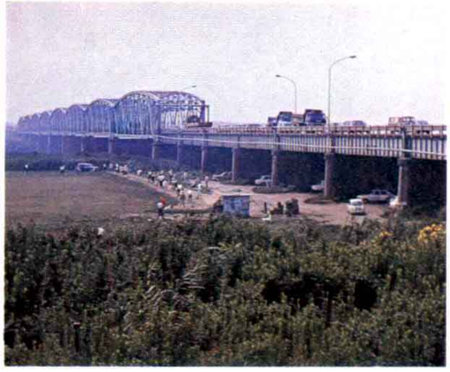
おおとうのみやあさひのよろい　【大塔宮曦鎧】　義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。5段の時代物で*竹田出雲(いずも)・松田和吉の合作を*近松門左衛門(もんざえもん)が添削した。1723年(享保8)竹本座初演。《太平記》にみえる大塔宮が北条(ほうじょう)氏を討つ話と，六波羅(ろくはら)の下司斎藤太郎左衛門一族の悲劇とに材を取ったもの。

おおとかげ　【大蜥蜴】　爬虫(はちゅう)類・オオトカゲ科の総称。30種ほどが知られ，最大3m，最小30cmで，大半は体長2mほどになる。南北アメリカ以外の各大陸や島の熱帯地方に分布する。代表的なマライオオトカゲは，東南アジアの森林や草原地帯にすみ，水中に好んではいるが木にも登る。四肢(しし)が発達し，速く走ることができる。尾の力は威力があり，敵を打って身を守る。小形哺乳(ほにゅう)類や鳥類，ワニの卵などを好んで食べる。皮製品として多く用いられる。〔松井孝爾〕

おおとねばし　【大利根橋】　千葉県我孫子(あびこ)市と，茨城県取手市の間の利根川にかかる国道6号線(陸前浜街道)の橋で，全長984m。1872年(明治5)にはじめてかけられ，現在の橋は1955年(昭和30)にかけ替えたものである。

おおとねようすい　【大利根用水】　千葉県九十九里平野北部を灌漑(かんがい)する農業用水路で，利根川の水を下流の東庄(とのしょう)町で毎秒10.3tの割合で揚水し，下総(しもうさ)台地をトンネルで導水している。1936年(昭和11)に起工し，1951年に完成した。工費2億1,000万円を費やしたといわれる。この結果九十九里平野北部の6.5km²の灌漑が可能となり，この地域の農業生産は安定した。

おおともし　【大伴氏】　古代有数の豪族。アメノオシヒの子孫と称する*神別氏族で，姓



大利根橋　国鉄常磐線の鉄橋の上手にかかり，国道6号線(陸前浜街道)が通ずる。付近の河川敷き一帯はゴルフ場に利用されている



大友宗麟

(かばね)は連(むらじ)。軍事をもって朝廷に仕えた。5世紀ごろから史上に現われ，室屋・*金村は大連となり，物部(もののべ)氏と並んで大和(やまと)朝廷に力をふるったが，6世紀前半，金村が失脚してから衰えはじめた。*大化改新，*壬申(じんしん)の乱で一時立ちなおったが，奈良末期，*家持(やかもち)の死後再び衰退した。821年(弘仁12)淳和(じゅんな)天皇のいみ名を避けて伴氏と改めたが，866年(貞観8)*応天門の変で伴善男(とものよしお)が失脚してより，ほとんど政界から姿を消した。〔黛　弘道〕

おおともし　【大友氏】　鎌倉時代から戦国時代にかけての豪族。相模(さがみ)(神奈川県)大友郷を本領として，ここから大友氏を称した。初代能直(よしなお)は鎌倉幕府の有力御家人で豊後(ぶんご)(大分県)などに広大な所領を恩給され，また豊後の守護となり，以後少弐氏とともに代々*鎮西奉行(ぶぎょう)に任じられ勢力をふるった。7代氏泰(うじやす)は足利尊氏(あしかがたかうじ)に属して少弐・菊池(きくち)らと戦い，北九州の有力守護大名に成長，18代義鎮(よししげ)(宗麟(そうりん))のころ肥前(佐賀県・長崎県)の龍造寺(りゅうぞうじ)氏，薩摩(さつま)(鹿児島県)の島津氏と九州を3分するに至り，最盛期を迎えて代表的なキリシタン*大名となった。しかし義鎮が晩年に島津氏に敗れて以後衰えはじめ，その子義統(よしむね)は文禄(ぶんろく)の役従軍のとき豊臣秀吉(とよとみひでよし)の怒りに触れて領地を没収された。しかしその後子孫は江戸幕府に仕えて*高家に列せられた。〔飯田悠紀子〕

おおともそうりん　【大友宗麟】　(1530～1587)　戦国時代のキリシタン*大名。豊後(ぶんご)(大分県)臼杵(うすき)城主。義鑑(よしあき)の子。名は義鎮(よししげ)。宗麟は号。受洗名はフランシスコという。キリスト教布教を保護したため，豊後は*切支丹の中心となった。一時は北九州6か国を領有したが，1578年(天正6)日向(ひゅうが)(宮崎県)耳川で南九州の島津氏に敗れ，以後大友氏の勢力は衰えた。1582年ローマへ*天正遣欧使節を派遣した。〔松尾　涼〕

おおとものおうじ　【大友皇子】　⇨弘文(こうぶん)天皇

おおとものかなむら　【大伴金村】　生没年不詳。5～6世紀の政治家・武人。武烈・継体・安閑・宣化・欽明(きんめい)朝の*大連(おおむらじ)。大臣(おおおみ)平群(へぐり)氏を討って武烈天皇を立て，次いで越前(えちぜん)(福井県)から継体天皇を迎えて大いに権力をふるったが，欽明天皇のとき，朝鮮半島の経営の失敗を*物部尾輿(もののべのおこし)に攻撃されて引退した。以後，大伴氏はしだいに衰えた。

おおとものくろぬし　【大友黒主】　生没年は未詳。平安初期の歌人。*六歌仙(ろっかせん)のひとりに数えられる。近江(おうみ)(滋賀県)に住んだらしく，大友姓も居住の大友郷によるものという。大友皇子の末裔(まつえい)とも，帰化族の子孫とも伝えるが，定かではない。和歌は《*古今和歌集》に4首，《*後撰(ごせん)和歌集》に3首，他の勅撰和歌集に4首とられている。*紀貫之(つらゆき)は《古今和歌集》の序でその和歌を〈心はをかしくて，歌のさまいやし〉と評している。能《草子洗小町》などにみられる小野小町との伝説で知られ，またその名の連想から悪役として歌舞伎(かぶき)などに取り入れられている。

おおとものさかのうえのいらつめ　【大伴坂上郎女】　生没年不詳。奈良前期の歌人。大伴安麿(やすまろ)の娘。*大伴旅人(たびと)の異母妹で，*大伴家持(やかもち)は甥(おい)。はじめ穂積皇子に召され，死別後藤原麻呂(まろ)の妻となり，のち異母兄大伴宿奈麻呂(すくなまろ)に嫁して坂上大嬢(おおいらつめ)(家持の妻)・乙嬢(おといらつめ)を生んだ。長歌6首，旋頭歌(せどうか)1首，短歌77首はすべて《万葉集》に収められている。相聞(そうもん)・挽歌(ばんか)・叙景歌・宴歌など多方面にわたる内容と才気あふれた歌風を特色とする。万葉女流歌人の第一人者。〔大久保広行〕

おおとものたびと　【大伴旅人】　(665～731)　奈良前期の歌人。大納言大伴安麿(やすまろ)の長男。母は巨勢郎女(こせのいらつめ)。*坂上郎女(さかのうえのいらつめ)は異母妹，*家持(やかもち)は子。元明・元正・聖武(しょうむ)の3朝に仕え，左将軍・中納言を経て，720年(養老4)征隼人持節使(せいはやとじせつし)として乱を平定し，726年・727年(神亀3・4)ごろ大宰帥(だざいのそち)として九州に下向した。728年に妻を失い，730年(天平2)冬大納言となって帰京，731年従(じゅ)二位で没した。長歌1首，短歌76首(歌数については異説がある)が《万葉集》に収められており，その大部分は大宰府

在任中のもので，山上憶良*(やまのうえのおくら)とともに筑紫(つくし)歌壇を形成し，その中心的存在であった。また，博学で，特に中国文学に通じ，老荘思想の影響がみられる。純粋な叙景歌はほとんどなく，藤原氏の政治的圧迫による辺地生活の憂悶(ゆうもん)を背景に，望郷の歌，妻の死を悼(いた)む歌，〈酒を讃(ほ)むる歌〉など人事を題材にした作が多い。歌風は名家の人らしく明朗でのびのびしており，空想的情趣と浪漫的精神に富んでいる。〔大久保広行〕

おおとものやかもち　【大伴家持】(717？～785)　奈良時代の代表的な歌人のひとり。《万葉集*》の編集に関係しているといわれている。旅人*(たびと)の子。藤原氏の権勢に押される大伴氏の最後の棟梁(とうりょう)として，自家の誇りと凋落(ちょうらく)にはさまれたその生涯(しょうがい)は数奇に満ち，悲劇的であった。《万葉集》には長歌46首・短歌431首・連歌1・漢詩1が収められ，集中に最多歌数をもつ。彼の歌は16歳ごろから43歳までの作である。少年時代，大宰帥(だざいのそち)であった父旅人に従って筑紫(つくし)へ行き，父に和歌・漢詩の薫陶を受け，また叔母(おば)大伴坂上郎女*(さかのうえのいらつめ)，山上憶良*(やまのうえのおくら)らの刺激を受けた。30歳で越中守(えっちゅうのかみ)になるが，青年時代の多彩な相聞歌(そうもんか)から独自の歌境に転じ，広く新しい歌題を盛んに歌った。続く在京時代には，さらに内面的な深みをたたえた静寂な歌境へと進むが，40歳ごろを境に，官途は滞り，下降没落する大伴氏そのものと命運をともにして，歌もまったく残されていない。自然を心情の象徴とし，これを繊細・新鮮な表現に結晶した憂情憂愁の作が多い。〔鈴木一雄〕

おおとりけいすけ　【大鳥圭介】(1832～1911)　江戸末期の幕臣，明治時代の外交官。号は如楓(じょふう)。播磨(はりま)(兵庫県)の医者の家に生まれ，蘭学(らんがく)・兵学を修めたのち，1866年(慶応2)幕臣に召され，歩兵奉行(ぶぎょう)となった。1868年(明治1)の戊辰(ぼしん)戦争*では旧幕府軍を率いて官軍に抵抗し，関東・奥羽を転戦したのち，榎本武揚(えのもとたけあき)とともに五稜郭(ごりょうかく)で戦ったが，降伏して投獄された。1872年許されてから明治政府の大蔵・陸軍・工部諸省に出仕，工部大学校長・学習院長を歴任した。1889年清(しん)国特命全権公使，1893年朝鮮公使を兼ね，東学党*の乱に際してはその善後処理をめぐって清国の撤兵と朝鮮の内政改革を要求，これが日清戦争の端となった。1894年以後枢密院顧問官。男爵。

おおとりじんじゃ　【鷲神社】　東京都台東区千束にある。祭神は天日鷲命(あめのひわしのみこと)と日本武尊(やまとたけるのみこと)。一般には〈お酉様(とりさま)〉として知られる。ヤマトタケルノミコトの東国征伐のとき，この地でアメノヒワシノミコトに祈願して無事凱旋(がいせん)したのが11月の酉の日であったといわれ，以来この日を例祭として酉の市が行なわれる。➔酉の市



大伴家持　佐竹本《三十六歌仙絵巻》より(《日本絵巻物全集》第19巻所収)

おおとりじんじゃ　【大鳥神社】　大阪府堺(さかい)市鳳北(おおとりきた)町にある。祭神は大鳥連(おおとりのむらじ)の祖，天種子命(あめのたねこのみこと)とも，また日本武尊(やまとたけるのみこと)ともいう。後世，大鳥美波比(みわい)・大鳥比浜・大鳥浜・大鳥井瀬の4摂社とともに大鳥五社明神と称する。いわゆる大鳥造*りの社殿は，1905年(明治38)の炎上後，1909年に再建されたもの。例祭は8月13日。

おおとりづくり　【大鳥造り】　大阪府堺(さかい)市の大鳥神社にみられる本殿形式。古代神殿に属する一形式であるが類例は非常に少ない。➔神社建築

おおなみいけ　【大浪池】　鹿児島県北東部，霧島火山群中にある円形の火口湖。面積1.2km²。水面高度1,239m，水深12m，周囲4km。周辺のミヤマキリシマの群落，秋の紅葉が美しいので知られている。池の南西方に霧島温泉郷がある。霧島屋久国立公園*に所属する。

おおにえのまつり　【大嘗祭】　⇨だいじょうさい

おおにしじょうげん　【大西浄元】(1689～1762)　江戸中期の釜師(かまし)。通称は清右衛門(せいえもん)。初代浄林から6代めにあたり，京都にあって茶の湯釜の制作を続けている大西家のうちでも，名工のひとり。純然たる京風の，はだは与次郎ふう(➔辻(つじ)与次郎)に仕上げた厚釜をつくり，千家7代如心斎好みの鶴首釜(つるくびがま)などがある。

おおにしはじめ　【大西祝】(1864～1900)　哲学者。専門的・学術的哲学の先駆者。操山と号した。岡山藩士の子として生まれ，1884年(明治17)同志社大学神学科卒業。1889年東京大学哲学科卒業。1891年から1898年まで東京専門学校講師として哲学関係を講義，この間キリスト教の総合雑誌《六合(りくごう)雑誌》を編集した。1897年には丁酉(ていゆう)懇話会を結成，同年東京高等師範倫理科講師嘱託，1898年ドイツのイエナ大学・ライプチヒ大学に留学中発病。留学中の1899年6月新設される京都大学文学部の学科や組織調査を依頼されたが，9月に帰国し，同年文学博士。翌年3月京都に移転したが，病勢思わしくなく，11月2日郷里岡山で死去。彼はヘーゲル*とショーペンハウアー*の集大成を志し，倫理学に結集しようとしたが，未完に終わった。プロテスタントの信仰に立ち，批判精神に貫かれた理想主義者で，《批評心》(1883)，《社会主義の必要》(1896)，〈教育ト宗教ノ衝突〉論争で井上(いのうえ)哲次郎*の国家主義的見解を批判した《利見一束》(1893)などは，批判的理想追求の精神の発露であり，また文芸批判の方面にも活躍し，当時の異彩であった。《大西博士全集》(7巻)は，東京専門学校の講義録《論理学》《倫理学》《西洋哲学史》，大学院卒業論文の草稿《良心起源論》《思潮評論》《論文及詩集》を収める。〔中川　誠〕

おおにじゅうやほしてんとう　【大二十八星瓢虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・テントウムシ科。体長8mm内外。体は半球形，地色は赤かっ色，前胸背面に3個，鞘翅に各14個の黒紋がある。幼虫・成虫ともにジャガイモ・ナスなどの大害虫。北方系の種で，関東以北の地方では平地にみられるが，本州中南部以西では山間部に発生する。卵は長楕円(ちょうだえん)形で，長径2mm内外，光沢のある黄色。幼虫は孵化(ふか)直後は黒かっ色であるがのちに淡黄緑色になり，老熟幼虫は体長10mm内外，ほぼ楕円形で背面は隆起し，各節の上部に枝分かれした肉質の突起がある。さなぎは楕円形で黄色。発生は，北海道・東北地方で年1回，本州中南部で年2回，九州では年3回。成虫で越冬し，翌春ジャガイモなど寄主植物に来集して加害し，葉裏に産卵する。幼虫・成虫ともに葉の裏面から表皮を残して食害し，食い跡はさざ波状の模様になる。食害が激しいときは，作物は著しく生育が阻害され，減収や枯死を招く。防除には，ヒ酸石灰などをまく。疫病防止を兼ね，ボルドー液と混合して散布されることが多い。〔鈴木邦雄〕

おおぬさ　【大麻】　祭典に先だって行なう修祓(しゅばつ)の用具。1m程度のサカキの枝か白木の棒に，紙垂(しで)・麻苧(あさお)などをたらす。これを左・右・左と振って不浄をはらい清める。大麻は大ぜいをはらうのに用い，これに対してひとりをはらう小麻がある。なお，修祓には塩湯をも用いる。

おおぬま　【大沼】　⇨頓別湖(とんべつこ)

おおぬまこくていこうえん　【大沼国定公園】　北海道の渡島(おしま)半島にそびえる駒ケ岳(こまがたけ)(1,140m)を中心に，大沼・小沼・蓴菜沼(じゅんさいぬま)の湖沼を含む。面積94.69km²。1958年(昭和33)国定公園に指定された。湖は，かつて駒ケ岳の大泥流(だいでいりゅう)が押し出し，ふもとの水流をふさいで湖水となったもので，ひょうたんのようにくびれた中央部の東側を大沼，西側を小沼といい，西北に離れて蓴菜沼がある。湖面には八百八島といわれる多数の小島や，突き出た半島がみられ，島をつなぐ橋が付近の自然にとけこんで美しい景観をつくる。コイ・フナ・ワカサギなどが豊富。駒ケ岳は活火山で，西にとがった頂を残し，ウマの背形に南に延びる峰が，山名の由来を思わせる。この景色が山麓(さんろく)の湖と調

和して，四季を通して美しい。山麓には春になるとヒメスイバの赤い花が群生する。〔木村東一郎〕

おおの【大野(市)】 福井県北東部寄りの市。江戸時代は土井氏四万石の城下町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口43,000。九頭竜(くずりゅう)川上流に沿う大野盆地の中心部を占め，碁盤目状の美しい町割りで〈小京都〉と称される。産業三大別人口比は23：40：37。福井機業地帯の東端で，合織・人絹織物を産し，米・木材・木炭を集散する。越美北線・京福電鉄と国道157号線・158号線が通ずる。

おおの【大野(町)】 大分県大野郡の町。人口7,900。県南部の山中にあり，大野川*が南境を流れている。サツマイモ・タバコ・採種用ダイコンなどの畑作農業，牧牛，シイタケの栽培が行なわれているが，豊肥本線からやや遠く，交通は不便である。中心集落は田中である。

おおのがい【大野貝】 軟体動物・二枚貝類・エゾオオノガイ科。長さ約10cmの灰白色の殻(から)が，淡黄色の薄い皮でおおわれている。サハリン(樺太(からふと))から九州・朝鮮の内湾の浅い泥底(でいてい)に深くもぐっている。食用にする。

おおのがわ【大野川】 大分県南部を北に流れて別府湾に注ぐ。流程107km。祖母山，竹田盆地を巡る九重山，阿蘇(あそ)山東面などの水を集め，別府湾南部に大分平野の一部をなす三角州平野をつくる。灌漑(かんがい)用水として古くから利用されてきたが，近年は工業用水としての価値が大きくなり，デルタの中心をなす大分市鶴崎(つるさき)地区には新しい工業地帯が広がりつつある。

おおのじょう【大野城】 白村江(はくすきのえ)の戦い*ののち，新羅*(しらぎ)に備えて664年(天智3)大宰府*(だざいふ)防衛のために築かれた古代城郭(じょうかく)の一。現在の福岡県大野城市・太宰府(だざいふ)町と粕屋(かすや)郡宇美町にまたがる大城(おおのき)山につくられた。城は土塁で内部を固めて諸建物を配し，城門・石塁を設けた。774年(宝亀5)山上に四王院を建立(こんりゅう)して四天王像を安置し，守りとした。土塁・石がき・建物礎石が遺存しており，特別史跡に指定されている。〔仲野　浩〕

おおのじょう【大野城(市)】 福岡市の南東に接する市。1972年(昭和47)市制施行。人口62,000。鹿児島本線の南福岡駅，西日本鉄道の雑餉隈(ざっしょのくま)駅がある。福岡市の住宅地としての発展が著しく，工場も進出し，市街が福岡市と一続きになろうとしている。1970年(昭和45)～75年の人口増加率は54.3％で，県下の市町村中第3位である。産業三大別人口比は2：28：70。

おおのせと【大野瀬戸】 広島県南西部，佐伯(さいき)郡大島町と厳島(いつくしま)の宮島町との間の瀬戸。長さ約14km，水深約7m。本土側では廿日市(はつかいち)町地御前あたりから県境小瀬川(木野川)まで，厳島側では北端聖崎(ひじりざき)から南端の革籠崎(こうろうざき)に至る西海岸の前面をいう。浅瀬や砂州が多く，中央部では幅600mほどで最も狭く，可航幅も150mほどとなり，航路も屈曲が多い。北部では宮島口と厳島の宮島市街との間に国鉄その他の連絡船や龍頭鷁首(りゅうとうげきしゅ)をかたどった観光船がひんぱんに運航されている。厳島神社の管弦祭(旧6月17日)には華麗な舞台となる。〔山口恵一郎〕

おおのでら【大野寺】 奈良県宇陀(うだ)郡室生(むろう)村大野にある新義真言宗豊山(ぶざん)派の寺院。寺伝には，奈良前期に役小角*(えんのおづぬ)が開基し，824年(天長1)空海が慈尊院弥勒(みろく)寺と改め，弥勒仏を本尊として祭ったとある。現在，本堂には，身代わり焼き地蔵として一般に知られる鎌倉末の地蔵菩薩(ぼさつ)が安置されている。また，寺の前を流れる宇陀川の対岸の大磨崖仏(だいまがいぶつ)弥勒如来は，1207年(承元1)後鳥羽(ごとば)上皇の発願によって笠置(かさぎ)山の弥勒仏を写してつくられたと伝えられ，総高は13.78mである。〔永井信一〕

おおののあずまひと【大野東人】 (？～742) 奈良時代の武将。724年(神亀1)蝦夷(えぞ)征伐に参加，翌年功により従(じゅ)四位下勲四等に叙せられ，その後も征夷(せいい)事業に従事して功があり，739年(天平11)参議となった。740年藤原広嗣*(ひろつぐ)の乱に大将軍となって北九州におもむき乱を鎮定した。翌年功により従三位となったが，まもなく没した。多賀城*跡にある碑に〈この城は724年大野東人が置いた〉とあるが疑わしい。〔黛　弘道〕

おおのはるなが【大野治長】 (？～1615) 安土桃山時代・江戸初期の武将。修理亮(しゅりのすけ)と称した。豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕え，秀吉死後も大阪城にあって淀殿(よどどの)の片腕となった。徳川氏に対する主戦派で，大阪の陣で敗れて自殺。弟治房(はるふさ)もこの戦いで戦死。➔大阪の陣

おおのぼんち【大野盆地】 福井県の東部にあり，北と東は白山山地に，南は越美(えつみ)山地に，西は越前(えちぜん)山地に囲まれている。北西に流れる九頭竜川に注ぐ真名川や清滝川は扇状地を形成して盆地床を埋めている。それぞれの谷口には古くから集落が形成され，特に扇頂付近の集落には中世の豪族によって形成されたものがみられる。第2次世界大戦後，清滝川扇状地の扇央が灌漑(かんがい)用水路の完成により水田化され，盆地の南東部にある塚原野(つかはらの)の開拓が行なわれるなど，現在でも開拓が進められている。盆地の西部，清滝川扇状地の扇端にあたる位置に大野市*があり，盆地の中心地となっている。〔味沢成吉〕

おおのやすまろ【太安麻呂】 (？～723) 奈良時代の文学者。712年(和銅5)稗田阿礼*(ひえだのあれ)の暗唱する《帝紀*》《本辞*》《旧辞*》を筆録して献上した。これが《古事記*》である。また720年(養老4)舎人(とねり)親王*とともに《日本書紀*》を撰進(せんしん)した。役人としては従(じゅ)四位下民部卿(みんぶきょう)に至る。

おおのゆきひこ【大野幸彦】 (1859～1892) 明治初期の洋画家。旧姓曾山(そざん)。鹿児島県の生まれ。1878年(明治11)工部美術学校でサン-ジョバンニ・カペレッティらに学び，のち工部大学校・東京大学工学部助教授となる。1884年小団体を組織，画学校大幸館を創立し，晩年に大野家を継いだ。写実的な作風で，代表作に《日光廟(にっこうびょう)》などがある。

おおばかげちか【大庭景親】 (？～1180) 平安末期の武将。桓武(かんむ)平氏の支族，鎌倉権五郎景政(かげまさ)の曾孫(そうそん)。相模(さがみ)(神奈川県)の住人。1156年(保元1)保元(ほうげん)の乱では源義朝(よしとも)に従い，のち平氏に属して1180年(治承4)5月以仁(もちひと)王・源頼政(よりまさ)の挙兵の鎮圧にあたり，8月源頼朝(よりとも)が挙兵するとこれを石橋山の戦い*で破った。10月富士川の対陣に際しては，平軍に合流しようとしたが果たさず，頼朝に下って梟首(きょうしゅ)された。

おおはくちょう【大白鳥・大鵠】 鳥類・ガンカモ科。最大級の水鳥で，翼開長2.5m，体重13kgに達するものもある。成鳥は全身白色，幼鳥は淡灰かっ色。ユーラシア大陸北部で繁殖。サハリン(樺太(からふと))でも少



大沼国定公園　大沼を隔てて望んだ駒ヶ岳。山頂部左の最高点が剣ヶ峰(1,140m)。大沼には大小80余個の島が数えられる

数繁殖している。わが国へは初冬に渡来し，越冬する。わが国に渡来するもので一般に白鳥といわれている鳥は，本種とハクチョウの2種で，大部分は本種である。主要な渡来地は北海道の濤沸湖(とうふつこ)・サロマ湖・風蓮湖(ふうれんこ)，青森県大湊(おおみなと)湾，宮城県伊豆沼(いずぬま)，山形県最上(もがみ)川，新潟県瓢湖(ひょうこ)，島根県宍道湖(しんじこ)などである。完全に水中にもぐって採食することはなく，長い首を伸ばし，さかだち姿勢でおもに水底の水草やその根を食べる。各地の野鳥愛好者がリンゴ・茶がら・穀類などを給食し，保護活動を行なっているが，わが国最大の渡来地である風蓮湖付近では，冬がきびしい場合にはかなりのものが死亡することがある。太くよく通る声で〈コオー・コオー〉と鳴く。渡来・渡去期の大群が海に浮かぶ風景はことにみごとである。〔安部直哉〕

おおばこ【車前草】 双子葉植物・オオバコ科。山野・道ばたなどいたるところにはえる多年草。葉は根もとにつき，長い葉柄があり，楕円(だえん)形～卵形，葉脈は平行である。春から秋にかけて，葉の間から10～20cmの茎を出し，白色の小花を穂のようにつける。茎は非常にじょうぶで，子どもはこれをからげて引き合い，遊ぶ。若葉は食用にもなる。全草を車前草(しゃぜんそう)，種子を車前子といい，漢方では消炎・利尿薬とする。民間では葉をはれものの吸い出しとし，また車前子はせき止めとして用いられる。オオバコの仲間には葉の大形のトウオオバコ，ヨーロッパ原産の帰化植物で葉がへら状披針(ひしん)形のヘラオオバコなどがある。〔小清水義隆〕

おおはし【大嘴・巨嘴鳥】 鳥類・オオハシ科の総称。熱帯アメリカ特産で，約37種からなり，全長約30～60cm。この類の最も著しい特徴は，その名に示されるように大きなくちばしで，中には全長の半分以上を占めるものさえある。このくちばしは大きいが非常に軽い。身体もくちばしも何色かのあざやかな色で染め分けられているのが普通で，スタイルはよくないが美しい鳥である。森林性で，木の上部で生活し，さまざまな木の実を主食とするが，こん虫・トカゲ，小鳥の卵・ひななども食べる。天然の樹洞(じゅどう)や他の鳥があけた穴に卵を産み，雌雄で育てる。〔浦本昌紀〕

おおはしそうけい【大橋宗桂】(1555～1634) 将棋棋士。室町末期に至って現行の形式に改良された将棋を，囲碁の本因坊算砂とともに発展させた。将棋師として織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)さらに徳川家康(いえやす)・秀忠(ひでただ)らに仕えた。信長は桂馬の1字を与えてもとの名宗慶を宗桂と名のらせ，家康は幕府の将棋所を設けて宗桂をその司とし，五十石五人扶持(ふち)を与えた。宗桂は1世名人を唱え，以後将棋の家元制が生まれた。〔坂口允彦〕



オオハクチョウ



オオバコ





オオハシ
(上)オオオオハシ
(下)キムネオオハシ

おおはしとつあん【大橋訥菴】(1816～1862) 江戸末期の攘夷(じょうい)思想家。兵学者清水赤城の四男として江戸に生まれる。名は正順(まさより)，字(あざな)は周道，訥菴は号。佐藤一斎*の門下。1853年(嘉永6)黒船の来航に際して幕府に攘夷断行を建策し，また君臣の大義に立脚して華夷の別を説き，洋学を排斥した。1862年(文久2)老中安藤信正(のぶまさ)の襲撃を画策して下獄。著書に《闢邪(へきじゃ)小言》《元寇(げんこう)紀略》がある。

おおはた【大畑(町)】 青森県下北郡の町。人口13,000。下北半島の北岸にあり，大湊(おおみなと)線の下北駅から分かれる大畑線の終点である。漁港で，イカの水揚げが特に多く，するめの生産が多い。南東の恐山*にはヒバの美林があり，林業が盛んである。

オオバタン 鳥類・オウム科。モルッカ諸島原産。全身白色で，大きさはカラス程度。頭に羽冠があるじょうぶな鳥で人によくなれ，ものまねもよくする。オウムかご・禽舎(きんしゃ)・架で飼う。木をよくかじるので，禽舎には用心のためブリキをはる。

おおはば【大幅】 ⇨広幅

おおはむ【大波武】 鳥類・アビ科。全長65～75cmの海鳥で，潜水して魚を捕えて食べる。シベリア東北部・アラスカなどで繁殖し，日本沿岸で越冬する。冬羽は上背面が灰かっ色，下面が白色。わが国へ渡来するものの大部分は後頸部(こうけいぶ)が灰白色のシロエリオオハムという亜種である。広島県の豊島(とよしま)付近に伝わる鳥持網代(あじろ)という漁法は，アビ類，特にシロエリオオハムを使い，この群れに追われたコウナゴ類やそのコウナゴを追って浮上してくるタイ類を捕獲するものである。〔安部直哉〕

おおばやしぐみ【大林組(株)】 建設大手5社の一。1892年(明治25)1月大林芳五郎(よしごろう)が創業，1909年合資会社に改組。別に1918年(大正7)12月株式組織の大林組を設立，その後合資会社を合併し現在の大林組となる。完工高の内訳は建築部門69，土木部門28の割合。最近は宅地分譲など住宅部門への進出に積極的な姿勢を示している。本社大阪。資本金264億6,000万円，年間完工高5,434億3,800万円，従業員数9,948(1980年9月)。

おおはら【大原】 京都市左京区，八瀬の北方にある地区。もと小原と書き，〈おはら〉とも読む。賀茂(かも)川支流の高野川流域の小盆地にあり，深山と清流に恵まれた景勝地で，建礼門院が隠栖(いんせい)した尼寺の寂光院*や天台三門跡寺院の一つの三千院*，後鳥羽(ごとば)天皇御陵などの名所史跡に富み，《平家物語》の中でも最も名文といわれる〈大原御幸〉や能の《大原御幸》(または《小原御幸》)の舞台でもある。黒木という皮のついたままのたきぎを頭に載せて京都市街へ売りに出た大原女(おはらめ)の風俗は古来名高い。最近，敦賀(つるが)街道にバスが通じたので，農林兼業者で京都中心部へ通勤する者が多くなった。〔浅井得一〕

おおはら【大原(町)】 千葉県夷隅(いすみ)郡の町で，太平洋に面する。人口22,000。1955年(昭和30)まわりの2村とその他2村の一部を合併した。六斎市の開かれた市場町として発達し，小浜漁港があって漁業も盛ん。房総東線から木原線が分かれる。夏は海水浴場としてにぎわい，大聖(だいしょう)寺の波切不動が有名である。

おおはらえ【大祓】 罪・けがれ・災いを除く神事を祓といい，大祓は天下万民のための公的な祓の神事である。恒例としては6月と12月のみそかに行ない，臨時に大嘗祭*(だいじょうさい)や悪疫・天災・異変に際して行なった。大祓が国の制度として定められたのは《大宝令(たいほうりょう)》《延喜式》で，百官

男女を祓所に集め，中臣(なかとみ)氏が祓詞(はらえことば)を宣(の)り，卜部(うらべ)氏が解除(はらえ)を行なった。この中臣氏の宣読する祓詞を大祓詞*(おおはらえのことば)といい，《延喜式》に記載されている。大祓は罪・けがれを祓物(はらえつもの)に託して清めを行なうもので，現在は人形(ひとがた)・木綿(ゆう)・麻・解き縄・茅輪(ちのわ)・祓串(はらえぐし)がこれにあてられる。中でも人形は，身体をなで息をかけて罪・けがれをこれに転嫁し，河海に流すものである。現在の大祓は1871年(明治4)に復興されたもので，宮中や神社で行なわれている。〔小野和輝〕

おおはらえのことば【大祓詞】大祓*のときに読みあげられる詞。全文900字余り。《延喜式》巻8に記載があるが起源はこれより古く，すでに《古事記》に仲哀天皇(2世紀末)のときに行なわれたと記されている。大化改新後は中臣(なかとみ)氏がその奏読をつかさどったので，中臣祓詞(なかとみのはらえことば)ともいわれる。今日でも宮中および各神社では6月30日と12月31日には古例のまま神前で奏上されており，また一般家庭でも神を拝むときの詞として広く用いられる。

おおはらだんぎ【大原談義】大原問答ともいう。1186年(文治2年，一説には1189年)天台宗の僧顕真が，京都大原の勝林院に法然*を招いて行なった浄土教についての談義。このとき明遍・智海(ちかい)・貞慶(じょうけい)などの高僧も多数参加したというが，法然は浄土宗の本義，念仏の功徳，阿弥陀(あみだ)の本願の旨を説き，阿弥陀の本願こそ末世の凡夫を救う唯一のものであることを主張し，問者の本成坊もついに信伏し，300人の聴衆も3日3夜の不断念仏を行なったと伝えられる。〔玉山成元〕

おおはらトンネル【大原トンネル】豊橋(とよはし)と辰野(たつの)を結ぶ飯田(いいだ)線の大嵐(おおぞれ)～水窪(みさくぼ)間にある単線型鉄道トンネル。延長5,063mで，1955年(昭和30)に開通した。佐久間ダムの建設により水没した佐久間～大嵐間の旧路線を移設した結果つくられたもので，わが国長大トンネルの一つになっている。

おおはらびじゅつかん【大原美術館】岡山県倉敷市にある東洋・西洋の近代絵画を中心とした美術館。実業家大原孫三郎*の委嘱により，洋画家児島虎次郎(こじまとらじろう)(1881～1929)が収集した作品が主体となり，児島の死後は児島を記念して，美術研究に寄与するために，1930年(昭和5)設立され，1935年財団法人となった。1947年新館増築。所蔵作品には，古代エジプト・ペルシアなどの作品を含むが，印象派から現代に至る西洋の絵画，明治以降のわが国の洋画，児島虎次郎の代表的作品などがある。〔陰里鉄郎〕

おおはらまごさぶろう【大原孫三郎】(1880～1943) 実業家。倉敷紡績創立者大原孝四郎の二男。岡山県出身。早稲田(わせだ)大学を卒業後，父の事業を継ぎ，倉敷紡績社長・倉敷絹織社長・中国銀行頭取として関西財界に重きをなした。一方文化・社会の発展に深い関心をいだき，1919年(大正8)私財を投じて大原社会問題研究所を設立，森戸辰雄(たつお)・高野岩三郎などをはじめ多数の俊秀を集めて，社会労働問題の研究に業績を残した。また別に大原農業研究所を創立，農業改革・農民教育・農業技術の向上などに努め，さらに岡山県倉敷市に西洋絵画の収集では日本有数といわれる大原美術館*や倉敷民芸館を開設した。また市の中央病院・孤児院の設立など社会事業にも力を尽くし，その功績は測り知れないものがある。〔片岡一郎〕



大　判
慶長笹書大判

おおはらゆうがく【大原幽学】(1797～1858) 江戸末期の農民指導者・社会改良家。18歳のころ養家を離れて近畿(きんき)・中国などを寄食放浪し，1837年(天保8)以後下総(しもうさ)(千葉県)香取郡長部村に定住。神・儒・仏を混合した一種の心学(性理学)に基づき，祖先崇拝・勤倹貯蓄を説いた。また，諸村から農地を出資させて共有財産とし，家の没落を防ぐ先祖株組合の設置，農事改良の技術指導など農村復興に努めたが，1857年(安政4)幕府の嫌疑(けんぎ)を受け処罰され，翌年自害した。著書《微味幽玄考》《性学趣意》。〔小田　博〕

おおばん【大鷭】鳥類・クイナ科。全長約40cmの水鳥で，全身黒かっ色，額とくちばしは白色。本州中部以北の池・湖沼で繁殖し，冬季は本州中部以南や，フィリピンなどに渡って越冬する。

おおばん【大判】安土桃山・江戸時代に通用した金貨の一種。はじめ長方形，のち長円形。表裏に〈拾両〉などと墨書。1588年(天正16)，中世以来の彫金家後藤氏が天正大判を鋳造した。江戸時代には後藤氏が大判座(大判鋳造をつかさどった役所)に任ぜられ，鋳造・補修の特権をもった。江戸時代の大判には慶長・元禄(げんろく)・享保(きょうほう)・天保・万延大判の5種類がある。小判(1両)10枚に相当するとされるが，実際には7～8両に通用した。通貨としてよりも多くは将軍と大名間の賜与や進献などの儀礼・贈答用に用いられた。〔松尾　涼〕

おおばん【大番】江戸幕府の職名。江戸城二の丸の警備と京(二条城)・大阪(大阪城)の在番，江戸府内の巡察などにあたった。鎌倉幕府の御家人に課せられた京都の大番役*の名をそのまま襲用した名称で，1587年(天正15)徳川家職制として3組みがすでに設置され，寛永年間(1624～1643)以後12組みが定数となった。各組は大番頭1，組頭(くみがしら)4，組衆50人からなり，さらに与力・同心が付属し，大番頭ははじめ老中自身，のち老中の管轄となり，大名・旗本(はたもと)の中から任命された。〔善積美恵子〕

おおばんやく【大番役】①平安後期の京都御所警固役。官制の衛士*(えじ)上番が衰退すると，地方武士を交替でつとめさせた。②鎌倉幕府の御家人役の一。皇居と京都の警固を目的とした京都大番役と，幕府を警固する鎌倉大番役がある。前者は守護が招集統率して6か月または3か月の勤番。後者は1225年(嘉禄1)遠江(とおとうみ)(静岡県)以東15か国の御家人*に課した。両者とも御家人の平時の奉公であった。

おおびけ【大引け】⇨証券市場

おおひらだいおんせん【大平台温泉】神奈川県足柄下郡箱根町にある温泉。泉温75℃，泉質は弱食塩泉で，神経痛・リウマチにきくといわれる。早川右岸の浅間山斜面の台地上にあり，会社の寮や保養所が多い。交通は箱根登山鉄道大平台駅下車，また小田原からバスの便がある。

おおぶ【大府(市)】愛知県名古屋市の南隣の市。西は東海市，東は刈谷市である。もと大夫または大符と書き，伊勢(いせ)・熱田両神宮のお札を配り，獅子舞(ししまい)・田楽などによって集めた米や金を両神宮に奉納した人々の居住地区であった。1970年(昭和45)9月市制施行。人口60,000。市域は知多半島の基部の東側にあり，濃尾平野南東部にあたる平地と知多丘陵北部の台地にまたがる。産業三大別人口比は6：56：38。東海市との境近くの台地上は愛知用水が通じて，モモ・ブドウなどの果樹や野菜類の栽培が行なわれ，酪農も盛んで，近郊農業地帯を形成し，トマトケチャップの工場もある。東海市を中心とする臨海工業地帯の延長線上にあって，近代工業も興っている。東海道本線に沿い，武豊(たけとよ)線を分岐し，国道155号線に沿い，西部に知多半島道路(有料道路)が通じる予定である。近年，名古屋市のベッドタウンと化して，1965～75年(昭和50)の10年間に人口が1万8,000も増加している。

おおふうちょう【大風鳥】⇨フウチョウ

おおふな【大船】神奈川県鎌倉市の北西部地区。もと鎌倉郡小坂村で，大船はその大字名であった。小坂村は1933年(昭和8)大船町となり，1948年鎌倉市に編入された。中心部は柏尾(かしお)川の沖積地(ちゅうせきち)に位置し，東海道本線の大船駅が設けられ，さらに横須賀(よこすか)線が分岐してから駅を中

心に市街地が急速に発展した。〈鎌倉ハム〉の産地として古くから知られ，最近は電気・機械などの大工場も進出する一方，宅地化が進み，人口が著しく増加した。野菜や草花の栽培が盛んで，県立フラワーセンターが設置されている。また，大船観音・横浜ドリームランド・松竹映画大船撮影所などもあり，山ノ内地区には建長寺*・円覚寺*などの古寺が多い。

おおふなと　【大船渡(市)】　岩手県南東部の市。江戸時代の小城下町盛(さかり)と漁港の大船渡の2町が周辺5村を合わせて，1952年(昭和27)市制施行。人口40,000。五葉山麓(さんろく)に源を発して，大船渡湾に注ぐ盛川の沖積地(ちゅうせきち)上にあり，湾に面して南北に市街地が帯状に開ける。産業三大別人口比は17：35：48で，1953年に開始された北上特定地域の開発によって大船渡臨海工業地帯の造成が進み，小野田セメントをはじめ，かんづめ・製塩化学などの工場が集まる。大船渡港は天然の良港であり，かつ港湾設備もすぐれて，10,000t級の船舶用岸壁をもち，遠洋漁業の根拠地となっている。内陸部ではビワなどの果樹栽培，湾内ではカキの養殖が行なわれる。大船渡線*・岩手開発鉄道・国道45号線・国道107号線が通じ，岩手開発鉄道は岩手石橋駅からさらに釜石(かまいし)線上有住(かみありす)駅へ延びる予定である。南接する陸前高田市とは通岡峠有料道路，北の三陸村との境には三陸トンネルが通ずる。1960年のチリ地震津波によって市街地の30％が破壊されたが，その後完全防災都市の建設を目標に防波堤や防災建築の整備が進んでいる。海岸部は陸中海岸国立公園*に編入され，景勝地が多い。　〔浅井得一〕

おおふなとせん　【大船渡線】　一ノ関～盛間の国鉄路線。営業キロ数105.7。1925～1935年(大正14～昭和10)開業。北上川流域から三陸海岸に至る北上山地横断鉄道の一。気仙沼(けせんぬま)・大船渡などの漁港が沿線にある。陸中門崎(かんざき)～千厩(せんまや)間は政争の影響で極端な迂回(うかい)路線となった区間として著名である。

おおへびがい　【大蛇貝】　軟体動物・腹足類・ムカデガイ科。直径15mmほどの円筒形の殻(から)を，ほぼ1回り巻いたような形で，岩の上に石灰質を分泌して，セメントでくっつけたように強固に付着し，殻口(かくこう)はやや持ち上がっている。巻きは左巻きで，一個体の直径は5cmほどである。しかし，ときには棒状になっており巻いていないこともある。殻の色は淡かっ色。その姿からは想像しにくいが巻き貝の一種で，北海道南部以南の浅い岸べの岩に普通に見られる。まったく動けないが，口から粘液糸を出して，クモの巣のように張ってえさをとらえる。ヘビがとぐろを巻いた姿に見立てた名だが，むしろ動物の糞(ふん)めいた姿である。　〔菅野　徹〕



オオヘビガイ



大歩危　吉野川は結晶片岩系の緻密な岩石を刻んで深い横谷をうがち，奇岩怪石をつくる。このがけを一般にホケまたはハケとよんでいる

おおぼけ・こぼけ　【大歩危・小歩危】　徳島県西部にある吉野(よしの)川中流の8kmに及ぶ峡谷をいう。吉野川が四国山地を横断するところにあたり，急流が結晶片岩層を深く刻んで，数十メートルから数百メートルの断崖(だんがい)をつくり，奇岩怪石が多く，秋の紅葉が美しい。土讃(どさん)本線と国道32号線(高松～高知)が，谷底の近くを通じている。大またで歩いても，小またで歩いても危険というのが，地名の由来といわれ，大歩危の方が上流で，土讃本線の大歩危駅付近をいい，小歩危は小歩危駅付近にあたる。大歩危の景観は雄大豪壮だが，小歩危はそれほどでもない。〈大崩壊・小崩壊〉とも書き，地盤がくずれやすく，鉄道も道路も，大雨のときはよく崩壊して不通になる。車窓からのながめもよいが，歩危下り船とよばれる遊覧船も出ている。三好(みよし)郡山城町と西祖谷(にしいや)村に属し，剣山(つるぎさん)国定公園*の区域に含まれる。この付近の結晶片岩は，秩父(ちちぶ)などの三波川層のものに比べると，別子層・大崩壊層など特殊なものが多く，大歩危駅付近の含礫(がんれき)片岩の露頭は，徳島県指定の天然記念物となっている。　〔浅井得一〕

おおまえだえいごろう　【大前田英五郎】　(1793～1874)　江戸末期の博徒(ばくと)。栄五郎とも書く。1793年(寛政5)上州(群馬県)勢多(せた)郡大前田に生まれ，15歳のとき誤って人を切り，いわゆる凶状旅に出た。また，賭博(とばく)の罪で捕えられ，佐渡の金山に送られたが，島抜けをしたこともある。その後有力な親分となったが，いっさいかごやウマに乗らず，高札場は避けて通ったほど博徒の分を知っていた。幕末の動乱に際し，子分を警備隊に参加させて治安に貢献。82歳の長寿を保ち，大前田で没した。　〔稲垣史生〕

おおまがり　【大曲(市)】　秋田県中南部の市。古くから羽州街道の宿場町，雄物川の河港として開け，仙北(せんぼく)地方からの米の積み出しと日用品の移入地として栄えた。1954年(昭和29)市制施行。人口42,000。横手盆地北西部，雄物川と支流丸子川の合流点に位置し，街区の延長3kmに及ぶ典型的な街道町である。産業三大別人口比は30：17：53で，米の生産は県下の約20％を占め，商業活動が活発で，乳業などの近代工業も興っている。奥羽本線から田沢湖線を分岐し，国道13号線・105号線が通ずる。年中行事には，古い伝統をもつ全国花火大会がある。

おおまきおんせん　【大牧温泉】　富山県東礪波(ひがしとなみ)郡庄川(しょうかわ)町にある温泉。泉温59℃，泉質は石灰含有食塩泉で，胃腸病・神経痛・化膿症(かのうしょう)にきくといわれる。庄川の上流の小牧・祖山ダムの湖岸にあり温泉宿の窓べからつりを楽しむこともできる。高岡から小牧までバスが通じ，小牧からは遊覧船の便もある。

おおまざき　【大間崎】　青森県，下北半島の北西端の岬(みさき)で，鳥居崎ともいう。本州最北端にあたり，北緯41°33′に位置し，北海道の汐首岬(しおくびみさき)との間は，津軽海峡の最も幅の狭い部分で，約20kmである。岬付近は砂浜海岸で，西側には海岸に面して大間町があり，背後は3段からなる海岸段丘が広がっており，牧場や畑に利用されている。岬の北の沖合いに弁天島があり，大間崎燈台がある。最近は大間町と函館(はこだて)の間にフェリーボートが運行している。

おおまち　【大町(市)】　長野県北西部の市。江戸時代は糸魚川(いといがわ)街道の宿場町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口33,000。松本盆地の北端，北アルプスの東のふもとに位置する山岳都市で，中部山岳国立公園*に属する3,000mに近い山地も市域内に含む。産業三大別人口比は17：41：42で，海抜700m前後の高冷地に水田が開け，豊富な電力を利用してアルミニウム製造や紡績などの近代工業も興っている。大糸線・国道148号線に沿い，大町有料道路が北西方へ通じて，北アルプス登山，黒四ダムや仁科(にしな)三湖(青木湖・中綱湖・木崎湖)などの観光基地となる。

おおまちけいげつ　【大町桂月】　(1869～1925)　評論家・詩人。高知県の生まれ。本名芳衛(よしえ)。東京大学を卒業。在学時から評論などに筆をとり，その後も幅広い活躍を続け，大学派と称される。雑誌《学生》を主宰(1909～1918)。晩年には自然に傾倒して全国を旅し，数々の紀行文を書いた。

おおまつよいぐさ 【大待宵草】 双子葉植物・アカバナ科。北アメリカ原産の多年草。明治の初めに日本にはいり，広く野生化している帰化植物。根は白くゴボウ状。茎は高さ150cm，下のほうから枝分かれし，上部に花をつける。葉は楕円(だえん)状で両端がとがり毛が多い。夏の夕方，直径6cmぐらいの黄色の花を開き，翌朝しぼむ。花が開くときは，がくがそり返って4枚の花弁がいちどきに開く。俗にツキミソウともよばれるが，ほんとうのツキミソウは白い花をつける別種である。〔小清水義隆〕

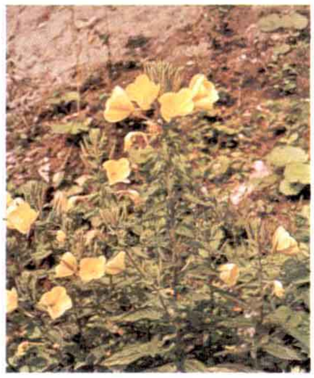
おおまんどころ 【大政所】 平安時代以降，摂政*・関白*の母の尊称。はじめは大北政所といったが，のち略して大政所とよぶようになった。摂政・関白の妻室を北政所というところから，その母をさらに尊んでこうよんだものである。

おおみしま 【大三島】 愛媛県の北端にある県下最大の島で，面積64.5km^2，人口13,000。付近は瀬戸内海でも最も島が密集しているところで，南には大島(愛媛県)，東には生口(いくち)島(広島県)，西には大崎上島(広島県)があり，北の広島県竹原市とわずか4kmの海を隔てて対する。越智(おち)郡に属し，西半が大三島町，東半が上浦町となっている。山がちで，最高峰鷲ケ頭(わしがとう)山(437m)からの展望がすぐれ，瀬戸内海国立公園の区域内にはいる。ミカンの栽培が盛んで，ほかに米・麦・タバコ・ジョチュウギク・サツマイモをつくり，真珠も養殖している。大三島町宮浦にある大山祇(おおやまづみ)神社*は，奈良時代からの古い神社で，水軍の神として知られ，武器の国宝が多く，明治以後は海軍軍人の参拝者が多かった。北岸に宮浦，南東岸に瀬戸，東岸に井ノ口の3港があって，今治(いまばり)・尾道(おのみち)・竹原との間に定期船が通じている。また，この3港はバスで結ばれている。1975年(昭和50)12月，本四連絡橋の最初の工事として大三島大橋の起工式が行なわれた。大三島の上浦町とその東方の伯方(はかた)島の伯方町との間を結ぶ全長328m，幅23mのアーチ橋で，尾道(おのみち)―今治(いまばり)ルートの一部にあたり，石油ショックによる総需要抑制のために着工が2年遅れたのである。〔浅井得一〕

おおみしま 【大三島(町)】 愛媛県越智(おち)郡にある大三島の西半部を占める町。人口6,800。町の中心宮浦は海上守護神として広く信仰されてきた大山祇(おおやまづみ)神社*の門前町である。

おおみずあお 【大水青蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤママユガ科。体長33～40mm。翅(はね)を広げた長さ100～110mm。雄の触角は羽毛状，雌の触角はくしの歯状。翅は青白色で，基部に多くの白毛を生ずる。前翅の前縁部は暗紫色。前・後翅とも中室の末端部に黄色ないし淡黄色の楕円(だえん)形の紋がある。北海道・本州に分布し，成虫は6～8月に出現し，燈火にもよく飛来する。

おおみずなぎどり 【大水薙鳥・大水凪鳥】 鳥類・ミズナギドリ科。全長約50cmほどの外洋性の海鳥で，頭頸部(とうけいぶ)は白とかっ色のまだら，他の部分は上面は灰かっ色，下面は白色。ミズナギドリ類中最大級で，日本周辺でのみ繁殖している。繁殖地は北海道の松前大島，岩手県三貫島，伊豆(いず)七島，京都府冠島，島根県星の神島など。土中に穴を掘って産卵する。海上飛翔(ひしょう)に適した体形のため，地上での歩行はきわめてまずく，飛び立つ際には木の幹やがけ状の突出部につめをたてて登り，そこから飛び降りるようにして海上に出て行く習性がある。カツオドリの別名がある。➔ミズナギドリ ➔カツオドリ〔安部直哉〕



オオマツヨイグサ



オオミズアオ



オオミズナギドリ

おおみそか 【大晦日】 1年の最終日で，大つごもり・年越しともいう。もと家ごとに歳神*(としがみ)を祭り，供物を煮たきして寝ずに神を迎えたが，現在はその習俗のなごりが正月料理や夜を明かしての初詣(はつもうで)となっている。大祓*(おおはらえ)の神事もこの日に行なわれ，いっさいの汚れが清められる。商家では，〈祓〉が〈払い〉に転化して，年間の貸借を総決算する慣習となり，これは今日でも生きている。➔除夜の鐘

おおみなと 【大湊】 青森県むつ市の西部，大湊湾*に臨む地区。もと下北郡大湊町で，第2次世界大戦中まで海軍の要港があり，〈海軍の町〉として知られた。1962年(昭和37)東隣の田名部町と合併し，当初は大湊田名部市と称したが，翌1953年むつ市と改称した。いまは旧海軍施設に海上自衛隊の諸機関が置かれており，わが国最初の原子力船〈むつ〉の母港でもある。国鉄大湊線*が野辺地(のへじ)へ，大畑線が大畑へ通ずる。

おおみなとせん 【大湊線】 野辺地(のへじ)～大湊間の国鉄路線。営業キロ数約58.4。1921年(大正10)開業。下北半島を縦貫する鉄道で，旧海軍の大湊要港(現在は海上自衛隊が使用)への連絡線として建設された。

おおみなとわん 【大湊湾】 青森県陸奥(むつ)湾の北の奥部の湾入で，陸奥湾の支湾をなす。湾奥のむつ市大湊*はかつて海軍基地であったが，現在は海上自衛隊が置かれている。大湊湾ではアサクサノリの養殖が行なわれ，付近は冬季オオハクチョウ*の渡来地として名高い。

おおみねさん 【大峰山】 紀伊(きい)山地東部に位置する山地で，東は吉野(よしの)川上流と北山川，西は十津(とつ)川にはさまれた一帯をいう。最高峰八剣山(仏経ケ岳)(1,915m)をはじめ，1,700～1,800mの峰が南北に連なり，森林と峡谷の美をもち，吉野熊野(くまの)国立公園*の一部になっている。古くから修験道*(しゅげんどう)の道場として知られ，現在でも行者の入山がみられる。

おおみねたんでん 【大嶺炭田】 山口県



大宮市 市の南部に位置する国鉄大宮操車場とその付近。上方右側が大宮市の中心部で，操車場敷地の左手前が与野市になる

美禰(みね)市を中心とする約100km²の地域に広がる日本最大の無煙炭産地。中生層にはさまる13の炭層があり，埋蔵量約1億4,000万t，出炭量約100万t(1965)である。現在宇部(うべ)興産の経営する6炭鉱が稼動(かどう)している。美禰市内の大嶺町や豊田前(とよたまえ)・埴生(はにう)などに炭鉱従業者の住宅がある。

おおみや【大宮(市)】 埼玉県南東部の市。県下最古の都市で，古代には武蔵(むさし)の国府が置かれ，中世末には潮田(うしおだ)氏の寿能城(すのうじょう)があった。江戸時代は中山道(なかせんどう)の宿場町，明治以後は〈鉄道の町〉として発展した。1940年(昭和15)市制施行。人口34万8,000。市域は大宮台地の中央部にあり，東部および西部の低地をも含む。産業三大別人口比は，3：35：62。1885年(明治18)，大宮駅が設けられ，東北本線・高崎線の分岐点となったのを発展の契機として，1894年に国鉄最大の大宮工場(当時は日本鉄道会社大宮工場)が創設され，与野駅との間には広大な操車場もつくられた。第2次世界大戦後は工業団地や住宅団地による開発が進み，1959年に市街地開発区域の指定を受け，吉野原(よしのはら)地区には大宮工業団地の造成が進んでいる。市域を南北に縦貫する東北本線・高崎線のほか，西に川越線，東に東武鉄道野田線が走る。道路は，市街地を通る旧中山道をはさみ，西に国道17号線，東に産業道路があり，17号線は大成橋で鉄道を越えて中山道と合し，6車線のバイパスに結ばれる。これら南北方向の道路と直交する国道16号線は上江橋の有料橋で川越市と連絡する。東京都練馬(ねりま)区に通ずる国道16号線以南の新大宮バイパスも開通した。市北部の氷川(ひかわ)神社は武蔵の一の宮で，地名はこれに由来する。例祭は8月1日で，〈大湯祭〉(12月10日)のだるま市は有名。神社境内を中心に県営大宮公園があり，各種のスポーツ・文化施設に富み，サクラの名所として知られる。また，公園付近に数十万の盆栽を育成している盆栽村がある。➔前ページ(写)〔浅井得一〕

おおみや【大宮(町)】 茨城県那珂(なか)郡の町で，水戸(みと)から水郡線で約30分の位置にある。人口25,000。1955年(昭和30)周囲の4村と2村の一部を合併した。棚倉(たなぐら)街道の宿場町として発達し，付近の交通・商業の中心となっている。農林省放射線育種場(ガンマー-フィールド)があって，γ線照射による作物の品種改良の実験をしている。

おおみわじんじゃ【大神神社】 奈良県桜井市三輪町にある。祭神は大己貴命(おおなむちのみこと)の和魂(にぎみたま)，倭大物主霊魂命(やまとのおおものぬしくしみかたまのみこと)である。わが国で最も古い神社の一つといわれ，三輪山自体を神体とする山岳信仰に発する特殊な社で，したがって，本殿をもたず，拝殿を通して神体を拝する。拝殿と三輪山との間には三輪鳥居(俗称，三つ鳥居)という特異な構造の鳥居がある。オオナムチノミコトはスクナヒコナノミコトとともに国土を経営し，これを天孫にささげてのち，三輪山にみずからの魂をしずめたという。例祭は4月9日と10月24日。現在は酒の神として酒造業者に信仰されている。〔佐野文哉〕

おおむぎ【大麦】 単子葉植物・イネ科。原産地は不明であるが，古くから栽培されている越年草。根もとから多数の茎が出，高さ1m前後で無毛。葉は長さ15～30cm，幅1～2cmの線形で先はたれない。葉鞘(ようしょう)はなめらかで短い葉舌がある。4～5月，長さ5～10cmの花穂をつける。小穂は1花からなり，花軸の節に3小穂ずつつくが，交互に出るので上から見ると6列に見えるものや，外側のものが重なるため4列に見えるものがあり，それぞれ六条オオムギ，四条オオムギとよばれる。また，二条オオムギといわれるものもある。小花には2枚の穎(えい)があり，包穎は針状，外穎には長いのぎがある。果実は穎果で，穎から離れやすいのをハダカムギ，離れにくいのをカワムギとよぶ。

六条オオムギでは，3小穂が穂の中軸から等距離に着生し，しかもいずれも稔実(ねんじつ)して六角形を示すが，四条オオムギでは，側列の小穂が中軸からやや隔たり，粒着も疎となるところから四角形を示すので四条の名が生じた。しかし，二条オオムギでは，3小穂中，中央の小穂だけが実り，側列の2小穂は不稔となる結果，扁平(へんぺい)二条型を示すものである。したがって，二条種の種子は他2種よりかなり大形に成育する特徴がある。

オオムギの原型は二条種に近いもので，紅海・カフカス山脈・カスピ海の付近に見いだされる。栽培の起源は，六条オオムギが古代から広く栽培され，エジプト最古の記念塔，また石器時代のスイスの湖上住居の遺跡からも見いだされている。わが国では開闢(かいびゃく)以来存在したといわれる。オオムギの生産は年々減少し，わが国では1967年(昭和42)産で35万5,200ヘクタールであり，1944年の50万8,000ヘクタールから見ると30%も作付けが減少している。いろいろの理由があげられるが，主として生産量が低く，生産コストの高いこと，需要の伸びが低いことなどである。

冬作の主要イネ科食糧で，押し麦として食され，家畜の飼料としても貴重である。また，ビール醸造・麦芽製造に用いられる。元来温和な気象条件下で，火山灰土などの土壌(どじょう)によく生育する。畑作が普通であるが，コムギよりも生育期間の短いところから水田裏作にもしばしば作付けされる。しかし，湿田での生産性は低い。条播(じょうはん)を普通とし，反あたり20～30kgを播種(はしゅ)する。耐寒性はコムギよりも小さいため，播種の期間は短く，暖地ではともかく，寒地では播種期を失しないよう，整地などを簡略化して，不整地まきをすることも多い。施肥は10アールの精麦収量240kgとして，窒素7kg，リン酸2.5kg，カリ5.5kgを施用する。管理としては中耕・除草・鎮圧(麦踏み)・土入れなどが行なわれる。除草は中耕と兼ねて行ない，2～4回行なわれる。鎮圧は霜柱による根の浮き上がりを防ぐためで，12～2月の間に数回行なう。土入れは，株間の通風と採光を図るために3月上・中旬に1～2回行なうが，倒伏防止の効果が高い。収穫は5月下旬から6月中旬にかけて



大牟田市 有明海を隔てて遠くに島原半島がかすんで見える。海岸線の中央は三池港。写真近景は三井系石炭化学コンビナートの工場群



オオムギ 上から六条みすずオオムギ(カワムギ)，六条御堀稞(ハダカムギ)，二条博多2号(カワムギ)，カワムギの子実，ハダカムギの子実

であり，一般に二条オオムギは熟期がおそい。また，成熟は暖地で早く，寒地ではおそい。1967年の六条種反収平均は346kgであった。〔金木良三〕

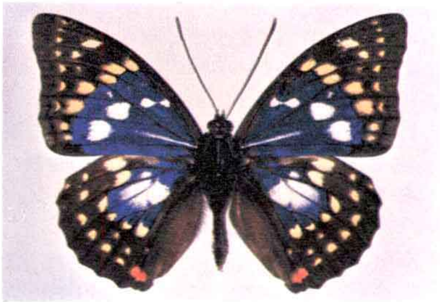
おおむた【大牟田(市)】福岡県南西端の市。1899年(明治32)三池炭田の開発以来急速に発展した。1917年(大正6)市制施行。人口16万6,000。有明海に臨んで第三紀層の低い丘陵部が広がり，北から東へかけては筑肥(ちくひ)山塊に属する山地が連なる。海岸には埋め立て地・干拓地が多く，市街地は丘陵部から埋め立て地に発達して，南隣の荒尾市(熊本県)の市街とつながっている。産業三大別人口比は6：36：58で，三井系の資本によって三池炭田は海底まで掘り進められ，石炭を原料とする染料・薬品などの化学工場や火力発電所が建設され，石炭化学コンビナートが形成されたが，現在ではそれが石油を使用する石油化学コンビナートに転換している。炭鉱もかつてのような活気がないが，最近発見された有明海海底の有明炭鉱に希望がもたれている。三池港は10,000t級の船が接岸できる岸壁をもち，有明海の潮の干満の差を閘門(こうもん)で調節している。三井系の工場の従業員は50,000人に達し，〈三井の町〉とよばれるほどである。1963年(昭和38)に不知火(しらぬい)・有明・大牟田新産業都市に指定されたが，最近は企業整備などによる離職者が多く，生活保護を受ける者の率が県下最高に達している。鹿児島本線・西日本鉄道が通じ，国道208号線・209号線が集まる。黒崎公園は有明海の不知火*の展望台として知られる。特産には全国産量の約50%を占める有明ノリがある。〔浅井得一〕

おおむら【大村(市)】長崎県南部の市。戦国時代にはキリシタン大名大村純忠*(すみただ)がここでポルトガル貿易を行ない，江戸時代には大村氏二万七千石の城下町であった。1942年(昭和17)市制施行。人口65,000。多良岳(たらだけ)火山の西麓(せいろく)，大村湾*に臨む大村扇状地のほぼ全域を占め，産業三大別人口比は17：20：63で，周辺の農水産物を集散する。九州電力の火力発電所や大村耐火煉瓦(れんが)工場があり，湾内では真珠が養殖される。長崎・佐世保(させぼ)両市の衛星住宅都市化も進んでいる。大村線*・国道34号線に沿い，大村空港から福岡・大分へ定期航空路が通ずる。風光のすぐれた多良岳県立自然公園や玖島(くしま)城跡がある。

おおむらさき【大紫蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。日本産タテハチョウ科中で最大の種である。翅(はね)を広げた長さ90〜120mm。雄は前・後翅とも基部から中央部にかけて美しい紫色を呈するが，雌ではこの部分も他の部分と同様暗かっ色である。紫色部には白紋があり，暗かっ色部には黄紋がある。日本全国のほか，朝鮮・台湾・中国などに分布する。本州西部・四国・九州に分布するものは，表面の黄紋が淡く，裏面も著しく青白色をおびる。北海道産のものは，翅の裏面の色彩が濃く，別亜種に属する。幼虫はエノキ・エゾノキの葉を食べ，幼虫のままそれらの木の根もとの落ち葉の裏で越冬する。発生は年1回。成虫は6月ごろ出現し，雌は8月までみられる。高所を活発に飛ぶが，クヌギやニレなどの樹液に好んで集まり，ときには腐った果実や汚物にも集まる。なお，本種は1957年(昭和32)の日本昆虫(こんちゅう)学会40周年大会のおりに日本の〈国蝶(こくちょう)〉に決定され，のち，70円の通常切手の図がらとしても用いられた。〔鈴木邦雄〕

おおむらさき【大紫】双子葉植物・ツツジ科。庭に植えられる常緑低木。葉は互生し，枝先に集まってつく。枝は茎の下から多数出る。5月ごろ枝の先に赤紫色の大形の花2〜3個をつけるので，株全体が花でおおわれる。八重咲きのものもある。

おおむらじ【大連】律令(りつりょう)制以前の最高官。連を姓(かばね)とする諸氏族(伴造*(とものみやつこ)的諸豪族)を代表し，大臣*(おおおみ)とともに大和(やまと)朝廷の政治を執行した。大臣・大連の並置は雄略天皇のとき(5世紀中ごろ)からとみられる。5〜6世紀より物部(もののべ)・大伴(おおとも)両氏が大連家であったが，6世紀にあいついで失脚したため，蘇我(そが)氏*の大臣専権時代となった。大化改新以後，左右大臣がこれらに代わった。



オオムラサキ



オオムラサキ

おおむらすみただ【大村純忠】(1533〜1587) 戦国時代のキリシタン大名*。肥前(長崎県)の大村城主。有馬晴純(ありまはるずみ)の次子。1538年(天文7)大村純前(すみさき)の養子となった。近隣の西郷純堯(すみたか)・龍造寺隆信(りゅうぞうじたかのぶ)・後藤貴明(たかあき)らとしばしば戦った。1563年(永禄6)受洗，受洗名バルトロメオ。長崎を耶蘇会*(やそかい)に寄進し，南蛮貿易を推進し，1582年(天正10)大友・有馬氏とともにローマに天正遣欧使節*を派遣した。〔松尾 涼〕

おおむらせいがい【大村西崖】(1868〜1927) 美術史家。静岡県の生まれ。東京美術学校彫刻科を卒業。1902年(明治35)に同校教授となり，東洋美術史を講じた。作品と文献を結合した美術史学の開拓者として知られ，田島志一と審美書院を興し，《東洋美術大観》《真美大観》などの膨大な図録類を出版した。1918年(大正7)《密教発達志》によって帝国学士院賞を受けた。

おおむらせん【大村線】早岐(はいき)〜諫早(いさはや)間の国鉄路線。営業キロ数47.6。1898年(明治31)開業。大村湾*東岸を走る。建設当初は門司(もじ)〜長崎間の幹線ルートで，国有移管後も長崎本線を称していたが，1934年(昭和9)同本線のルート変更によってローカル線となり，大村線と改称した。

おおむらますじろう【大村益次郎】(1824〜1869) 明治兵制の創始者。はじめ村田蔵六，藤原永敏(ながとし)ともいった。周防(すおう)(山口県)出身。オランダ医学を梅田幽斎，蘭学を緒方洪庵(こうあん)に学び，1853年(嘉永6)宇和島藩御雇いになり，次いで蕃所(ばんしょ)調所・講武所教授を歴任，そののち長州藩に仕え，1866年(慶応2)の第2



大村湾 湾西岸の西彼杵半島側は，海岸線の小さい屈曲が多く，小さい島もあって，風景は変化に富んでいる

次長州征伐には幕軍に抗して藩兵を指揮し幕軍を破った。続く戊辰(ぼしん)戦争でも，江戸で上野の彰義隊攻撃の総指揮をとり，1日でこれを壊滅させた。1869年(明治2)新政府の兵部大輔(たゆう)に任ぜられ，イギリス・フランスの兵制を採用，後年実現された明治軍制の大要を準備したが，廃刀や徴兵制などの改革案が守旧派の反発を招き，京都で刺された。〔岸野淳子〕

おおむらわん【大村湾】長崎県の中央部にある肥前半島の一大湾入。北西部にある湾口は針尾島によって閉ざされ，水深10m以浅の早岐(はいき)瀬戸と水深25～43mで潮流の激しい針尾瀬戸で佐世保港の海域に連なるのみで，ほとんど湖水状をなしている。湾の周囲は，東浜がやや単調であるほかは小さな支湾が多く，海岸付近では真珠の養殖がきわめて盛んで，その生産高は三重県の英虞(あご)湾に次ぐ。針尾瀬戸には西海橋がかけられ，観光客をよんでいる。➔前ページ(写)〔山口恵一郎〕

おおむろやま【大室山】伊豆(いず)半島北東部，伊東市の南方にある山。大室山火山群の中にあり，すりばちを伏せたような草山で，頂上に小さい火口のくぼ地がある。周辺の大室高原にはゴルフ場などが設けられ，北方に一碧湖(いっぺきこ)がある。東伊豆道路・遠笠山(とおがさやま)道路・伊豆スカイラインなど自動車道路が完備している。富士箱根伊豆国立公園に属する。

おおめいぶつ【大名物】茶道の名物の一。名物道具の中で最もいわれが深く，貴重なものをいう。利休以前に選定された名物茶道具を，利休時代に選ばれた名物茶道具と区別してよぶ称。その中心をなすものは東山御物であるが，それに準ずる伝来の名器をも含める。

おおめつけ【大目付】江戸幕府の職名。1632年(寛永9)設置され，定員は4～5名。老中支配下にあり，役高三千石。幕政の監察を主要任務とし，その他諸大名の席次，その殿中における礼法・刑罰などをつかさどった。旗本(はたもと)が任ぜられるが，諸大名の指揮・監督を任務とするために，留守居・大番頭に次いで重要な役職であった。

おおもときょう【大本教】明治末期から大正期にかけて起こった教派神道(しんとう)系宗教の一。教祖は出口ナオ(1837～1918)。長女と三女の発狂をきっかけに，1892年(明治25)〈艮(うしとら)の金神〉が乗り移り，神がかり状態で〈おふでさき〉を書きしるした。神の出現による〈世のたてかえ〉〈みろくの世〉の実現をめざして，鎮魂帰神による病気なおしを説いた。出口王仁三郎(おにさぶろう)が教団を組織づけ，大正初期から急速に教勢を伸ばした。しかし公認されず，類似宗教の扱いを受け，1921年(大正10)第1次弾圧後，皇道大本と称したが，1935年(昭和10)には再び不敬罪・治安維持法違反で弾圧された。第2次世界大戦後は，大本愛善苑(あいぜんえん)として再出発し，のち大本(正式な名称)の旧称に復した。戦後の新興教団の生みの親で，エスペラント語運動でも知られる。公称信者14万。本部は京都府綾部(あやべ)市および亀岡(かめおか)市にある。〔藤井正雄〕



大谷石　門柱・壁に大谷石を用いた日本民芸館(東京都)

おおもり【大森】東京都大田区の一部で，広義には旧大森区全域をさし，狭義には国電大森駅付近の旧大森町をさす。大森区は1932年(昭和7)旧荏原(えばら)郡の大森・入新井(いりあらい)・馬込(まごめ)・池上・東調布の5町が合併して東京市に編入されたときに新設，さらに1947年の新区制の施行によって蒲田(かまた)区と合併して大田区となった。住宅地である山王台(さんのうだい)を除き，大半は東京湾に臨む低地を占め，江戸時代には幕府の天領で，ノリの特産があり，明治以後は工業地域として発展した。国電京浜東北線沿いに大森貝塚(かいづか)(史跡)，京浜急行電鉄沿いに鈴ケ森刑場跡がある。〔浅井得一〕

おおもりかいづか【大森貝塚】東京都大田区山王1丁目に所在。1877年(明治10)アメリカの動物学者E.モースによって発見された縄文(じょうもん)時代後期の貝塚。モースによる発掘調査は，わが国最初の学術的発掘調査として知られる。当時の発掘箇所は明らかでないが，2か所に発掘を顕彰する記念碑が建てられており，1954年(昭和29)史跡に指定された。

おおもりふさきち【大森房吉】(1868～1923) 世界的な地震学者。理学博士。福井県に生まれ，東京帝国大学物理学科卒業の翌年1891年(明治24)濃尾地震にあって，地震研究を始めた。1897年東京帝国大学教授となる。初期微動の継続時間から震源地の距離を算出する大森公式や，大森式地震計を考案した。また1902年の伊豆(いず)鳥島の爆発があったのち，火山物理学を開拓し，浅間山に火山観測所を設けたりした。関東大震災当時は海外におり，帰国途中で発病，帰国後まもなくして死んだ。〔野間三郎〕

おおや【大家】大屋とも書き，家守(やもり)・家主ともいう。江戸時代の町人の一階級。地主の下にあり，多くは地主から請け負って地主の所有する土地・家屋を管理し，その土地の町役をつとめ，地主に毎月定額の地代・店賃(たなちん)を納めた。地主より給金をもらい，一方では，借地人・借家人(店子)から樽代(たるだい)・糞尿代(ふんにょうだい)・節句銭などを受領する特権を有した。

おおやいし【大谷石】石材の一。宇都宮(うつのみや)市の近郊で採掘されている。第三紀層の中の凝灰岩の一種で，薄い緑色をおびる。〈みそ〉とよばれる暗かっ色または緑かっ色の斑点(はんてん)があるのが特徴で，みそがあまり大きいと石材としては不適格になる。耐火性が強いので，倉庫などの建築用に用いられ，またその風格を生かした建築も少なくない。普通品は，石がきや石べいに用いられている。年産数十万トン。

おおやの【大矢野(町)】熊本県天草郡の町。人口21,000。大矢野島(面積31.2km^2)をはじめとする19の島からなり，1954年(昭和29)登立町ほか4村が合併して生まれた。麦・サツマイモ・グリーンピース・ミカン・草花などの農業や酪農，タイ・タチウオ・ワカメなどの漁業，クルマエビの養殖が行なわれ，石材を産する。天草五橋によって宇土半島の三角(みすみ)町および天草上島と結ばれ，観光地としても発展しつつある。島原の乱の指導者天草四郎の出身地として知られる。

おおやま【大山】神奈川県西部，丹沢山地の南東端にある山。標高1,246m。相模(さがみ)川下流の平野に臨んでそびえているため，京浜地区からよく目につく。また山頂からは房総・伊豆(いず)・箱根一帯の眺望(ちょうぼう)がすぐれ，海上からの好目標にもなっている。一名，阿夫利(あふり)山といい，山頂に阿夫利神社，山腹に大山寺があり，古くから修験道(しゅげんどう)の道場として知られ，長く民間信仰の対象ともなってきた。山麓(さんろく)の集落大山は，御師(おし)(参拝者の先導師)の家や宿坊・みやげもの屋・飲食店の並ぶ門前集落である。〔高野　繁〕

おおやまいくお【大山郁夫】(1880～1955) 社会運動家・政治学者。兵庫県に生まれる。早稲田(わせだ)大学卒業。1912年(大正1)早大教授，一時大阪朝日新聞論説委員となり，デモクラシー運動の先頭に立った。1918年朝日新聞筆禍事件のため退社，のち長谷川如是閑(はせがわにょぜかん)らと雑誌《我等(われら)》を創刊，1926年労働農民党を創立，無産政党運動を指導した。1930年(昭和5)衆議院議員に選出されたが，弾圧をのがれてアメリカに亡命，ノースウエスタン大学研究員となる。1947年帰国して早大教授に復帰，1950年参議院議員，1951年にはスターリン国際平和賞を受賞し，世界平和評議会理事として世界平和運動に専心した。著書に《政治の社会的基礎》《大山郁夫全集》などがある。〔岸野淳子〕

おおやまいわお【大山巌】(1842～1916) 陸軍軍人。薩摩(さつま)藩出身。初名は弥介(やすけ)。西郷隆盛(たかもり)のいとこにあたる。戊辰(ぼしん)戦争には薩摩藩兵の砲隊長として参加。1869年(明治2)および1870年の再度フランスに留学し，1874年帰

国後は新知識をもって陸軍の建設にあたった。1880年参議・陸軍卿(りくぐんきょう)，1891年に陸軍大将となり，日清(にっしん)戦争には第2軍司令官として功を立て，日清戦争後侯爵となる。1898年最初の陸軍元帥となり，日露戦争には満州軍総司令官として出征し，日露戦争後公爵となる。1914年(大正3)内大臣となり，在任中死亡。　〔岸野淳子〕

おおやまざきのあぶらじんにん【大山崎の油神人】　石清水八幡宮*(いわしみずはちまんぐう)の末社大山崎八幡宮に従属して燈火用のエゴマ油を売った神人。免税権と畿内*(きない)・東国・四国・九州の油専売権をもち，原料を各地から優先的に買い占めて油市場を独占し，中世の経済界に有力な位置を占めていたが，応仁(おうにん)の乱以後衰微。元来，神人を中心としたが，のちには諸国の商人をも加えて組織化された。

おおやますてまつ【大山捨松】(1851～1919)　大山巌*(いわお)の妻。会津藩士山川尚江(しょうこう)の娘。1871年(明治4)津田梅子らと渡米，ニューヨーク州ポッケプレー女学校に学んだ。1882年帰国，大山の後妻となった。赤十字社篤志看護婦会に尽力し，愛国婦人会*でも活躍した。

おおやまづみじんじゃ【大山祇神社】　愛媛県越智(おち)郡大三島町にある。和多志大神・三島神社・三島大明神ともいう。祭神は大山祇神。社伝に大山祇神は仁徳(にんとく)天皇のとき百済(くだら)より渡来し，摂津(大阪)の三島に鎮座したが，のちにこの地および伊豆(いず)の三島に移祭されたという。当社は古来，山陽・南海・西海3道の航路の要衝にあたるところから，水軍の守護地として信仰され，厳島(いつくしま)神社*・金刀比羅宮*(ことひらぐう)・太宰府(だざいふ)天満宮*・宇佐神宮*を含めて五社参りが行なわれた。社蔵の武具類，特に甲冑(かっちゅう)は全国の国宝・重要文化財の半ば以上が集められており，源頼朝(よりとも)・源義経(よしつね)・源頼家奉納の甲冑など著名なものが多い。　〔佐野文哉〕

おおやまとじんじゃ【大和神社】　奈良県天理市新泉(にいずみ)にある。祭神は大国魂神(おおくにたまのかみ)(→大国主命(おおくにぬしのみこと))。相殿神として八千戈神(やちほこのかみ)と御年神(みとしのかみ)がある。はじめ皇居内に祭られていたが，崇神(すじん)天皇の6年，この地に移祭されたという。例祭は4月1日。

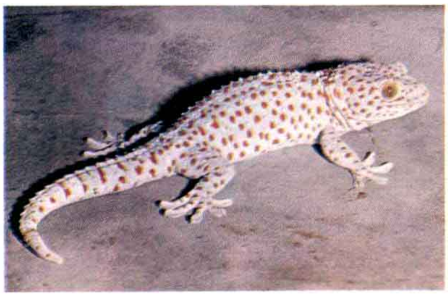
おおやまねこ【大山猫】　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ネコ科。大形・短尾のヤマネコで，体長90cm，尾長13cmほど。耳の先端に黒い毛房がある。ユーラシア北部と北アメリカ北部の森林にすみ，リス・ウサギ・シカなどを食う。足底は扁平(へんぺい)でかんじきの役目をし，深い雪の中でもうまく歩ける。

おおやまふどう【大山不動】　⇨大山(だいせん)寺

おおやままいり【大山参り】　神奈川県，丹沢山地南東端の大山山頂にある阿夫利(あふり)神社に参拝すること。信仰の中心は石尊



オオヤマネコ



オオヤモリ



オオワシ

大権現の本体とされる石剣で，江戸時代に多くは講を仕立てて参拝した。大山は古くから修験道(しゅげんどう)の道場として知られていたが，江戸時代にはいってからは関東・東海地方の農業神として農民から厚く信仰され，雨ごいや豊作祈願のために参拝する者が多かった。江戸中期には勝負の守護神と誤解され，賭博師(とばくし)や職人らの参拝が盛んに行なわれた。

おおやまやすはる【大山康晴】(1923～　)　将棋棋士。岡山県の生まれ。1935年(昭和10)木見金治郎9段に入門。1952年に第11期名人戦に木村義雄*(よしお)名人を破って以来，15世名人の資格を得た。1965年，永世棋聖となる。二枚腰といわれるほどねばり強く受け，地味で沈着な棋風によって他を圧し，名人戦17期を含め，タイトル戦に限っても63回の優勝という大記録を持つ。

おおやもり【大守宮】　爬虫(はちゅう)類・ヤモリ科。ヤモリのうちの最大種で，全長25cmを越える。東南アジアからマダガスカル島に分布。体は平たく頭部と目が大きい。夜間〈トッケイ〉と大きな声で鳴くので，トッケイともよばれる。敵が近づくと，口を開き声を立てておどす。夜行性。

おおゆおんせん【大湯温泉】　秋田県鹿角(かづの)市にある温泉。泉温73℃，泉質は弱食塩泉で，胃腸病・皮膚病・婦人病などにきくといわれる。米代(よねしろ)川水系の大湯川に沿い，荒瀬ノ湯・上ノ湯・下ノ湯・川原ノ湯がある。付近にはスキー場もあり，縄文(じょうもん)後期の遺跡である大湯環状列石*が珍しい。交通は花輪線十和田南駅下車，または奥羽本線大館(おおだて)駅からバスの便がある。

おおゆおんせん【大湯温泉】　新潟県北魚沼郡湯之谷村にある温泉。泉温57℃，泉質は単純泉で，胃腸病・婦人病・リウマチにきくといわれる。魚野川支流の佐梨(さなし)川に沿った静かな温泉であったが，1958年(昭和33)只見(ただみ)川の電源開発が行なわれてから急速に発展した。古くから山岳信仰の対象とされる越後(えちご)三山(駒ケ岳(こまがたけ)・中ノ岳・八海山)の登山口にもなっている。上越線小出(こいで)駅からバスの便がある。

おおゆかんじょうれっせき【大湯環状列石】　秋田県鹿角(かづの)市に所在。野中堂と万座の2か所で発見された環状列石*。数十個の組石遺構が内外二帯を環状に巡らしたものを称し，野中堂は全径42m，万座は全径47m。環状列石の時期は縄文(じょうもん)文化*後期で，性格は明らかでないが，共同墓地と考えられている。

おおよこばい【大横這】　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・オオヨコバイ科。体長は雄8mm，雌10mm内外。体は緑色であるが，黄色みをおびた個体もあり，濃淡は個体によって変化する。夏から秋にかけて雑草間にきわめて普通にみられ，また，各種の農作物や果樹などの害虫として知られている。日本全国のほか，朝鮮・中国・台湾・シベリア・ヨーロッパに至る広い地域に分布する。オオヨコバイ科は，全世界にきわめて多数の種が分布しており，すべて草食性で，寄主植物の組織中に口吻(こうふん)を刺し込んで汁液(じゅうえき)を吸う。このため，しばしば植物のウイルス病などを伝播(でんぱ)する。このほか，日本にはツマグロオオヨコバイなど20数種が分布する。〔鈴木邦雄〕

おおよどがわ【大淀川】　宮崎県南部を東流して日向灘(ひゅうがなだ)に注ぐ。流程106km。大隅(おおすみ)半島北部山地に発し，都城(みやこのじょう)盆地を過ぎて宮崎平野に出る。平野は農業が盛んで，カボチャ・キュウリ・スイカなどの早期栽培は特に有名である。流域には都城・小林・宮崎の3市が開ける。最下流部の河畔には，川に沿ってフェニックスが植えられ，南国情緒豊かな風景を展開する。

おおるり【大瑠璃】　鳥類・ヒタキ科。全長約16cmの小鳥。雄は上面が光沢ある濃青色，下面は顔から胸まで真黒色で腹は白色。雌は淡黄かっ色のじみな鳥である。全国の渓流(けいりゅう)沿いの森林で多くみられる。日本から中国北部にかけて繁殖し，マライ諸島などで越冬する。したがって，日本では夏鳥である。鳴き声が美しく，古くからウグイス・コマドリとともに日本三銘鳥の

一つに数えられる。➔ヒタキ

おおわくだに 【大涌谷】 神奈川県西南部，箱根火山にある大噴気孔をもつ谷で，箱根二重式火山の中央火口丘北部の中腹を破って噴気孔ができたもの。亜硫酸ガスと水蒸気の噴出は，付近の景観を無気味なものにしており，地熱を利用して谷川の水を温水にし，強羅(ごうら)や仙石原(せんごくはら)に送っている。強羅・早雲山・大涌谷・桃源台を結ぶロープウエーの便もある。

おおわし 【大鷲・羗鷲】 鳥類・ワシタカ科。雌は全長１ｍを越え，翼開張2.5ｍ，体重７kg近くに達し，日本で最大の鳥の一つである。雄はやや小さい。カムチャツカ・サハリン(樺太(からふと))・朝鮮で繁殖し，わが国へは冬季に渡来するが，おもに北海道にとどまる。主として魚類を食べるが，鳥や獣をも捕食する。➔前ページ(写)

おおわたこなかいがらむし 【大綿粉介殻虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・コナカイガラムシ科。雌成虫は体長３～６mm，楕円(だえん)形で紫かっ色，体表面は白色のロウ物質でおおわれ，翅(はね)がない。雄成虫は体長1.5～２mmで黄かっ色，翅は透明で広げた長さは約3.5mm。カキ・リンゴ・サクラ・カエデ・クワ・ヤナギ・イチジク・ビワなどの害虫で，日本全国に分布する。卵は楕円形で，長径0.3mm内外，淡黄色で卵嚢(らんのう)中に収められている。幼虫は扁平(へんぺい)な楕円形で黄色。年１回の発生で，３齢で樹皮下などにつくられた白色楕円形の繭の中で越冬する。４月ごろ，雌幼虫が繭から脱出して寄主植物の新芽に集まり，汁液(じゅうえき)を吸って加害し，新芽の伸長や着花を悪くする。５月中旬ごろにさなぎになり，のちに成虫になる。雄は繭中でさなぎになり，のち成虫になる。雌は交尾後，葉裏や小枝に産卵し，その上を白色の綿状の卵嚢でおおう。卵嚢は細長く，幅1.2～３mm，長さは30mm内外。孵化(ふか)幼虫は葉裏で成長し，夏秋各１回脱皮し，晩秋のころ枝幹に移動する。加害の著しいときは樹勢が衰弱して減収を招き，しばしば分泌液にすす病菌が繁殖して被害を大きくする。防除には，幼虫が新芽に集まる時期にパラチオン剤を散布するのが効果的である。〔鈴木邦雄〕

おおわだたてき 【大和田建樹】 (1857～1910) 国文学者・詩人。愛媛県の生まれ。広島外国語学校卒。漢学・国文学などを独学して，在野の学者としてきこえた。のち東京大学古典講習科などで教鞭(きょうべん)をとるかたわら，数十種の唱歌もつくり，〈汽笛一声新橋をはやわが汽車は離れたり〉の《鉄道唱歌》(1900)は広く愛唱されてきた。数多の著書がある。

おおわだのとまり 【大輪田の泊】 輪田泊ともいう。現在の神戸(こうべ)港の一部，兵庫港の古名。僧行基がつくったと伝えられる五泊(室の泊，韓(から)の泊，魚住の泊，河尻(かわじり)の泊)の一。奈良時代より瀬戸内海



男鹿市　市の中心船川港。秋田湾臨海工業地域の一端にあたり，臨港線の建設と築港によって工業地域の整備が進められている



岡倉天心　下村観山の描いた《岡倉天心像》1921　東京芸術大学芸術資料館蔵

の要津であった。平清盛は経ヶ島を築いて港の安全を図り，僧重源も修築に尽力した。中世以降，兵庫島・兵庫経ヶ島と称されるようになり，大輪田の名は消えた。

おおわにおんせん 【大鰐温泉】 青森県南津軽郡大鰐町にある温泉。泉温40～80℃，泉質は石膏(せっこう)含有弱食塩泉で，婦人病・貧血症・リウマチなどにきくといわれる。岩木川支流の平川の両岸に大鰐・蔵館(くらだて)の温泉街が展開する。歴史の古い温泉で，1543年(天文12)の《津軽郡中名字》には〈大安国寺〉と記され，また〈大阿子〉と書かれた古書もある。江戸時代には津軽藩の湯治場であった。信仰的な言い伝えから，現在でも土用の丑(うし)の日に湯治客が多い。奥羽本線大鰐駅下車が便利。〔木村東一郎〕

おが 【男鹿(市)】 秋田県北西部の市。古くから天然の良港で，避難港として利用された船川港を中心に1954年(昭和29)市制施行。人口40,000。日本海に突き出す男鹿半島の大半部を占める。産業三大別人口比は30：27：43で，秋田湾工業地帯の一部を占め，石油化学工業が発達し，住居・商業・工業の３地域を区画した都市計画が進められている。船川港は水産物の水揚げが多く，また近代的な工業港として整備されている。男鹿線が奥羽本線追分駅に通ずる。男鹿県立自然公園の域内に寒風山・八郎潟(はちろうがた)・男鹿温泉郷の景勝地をもち，また海岸風景は雄壮で，それぞれ入道崎八望台・寒風山・金ケ崎などの有料道路が通ずる。男鹿地方の〈なまはげ*〉(12月31日)の風習は広く世に知られる。

おかあさじろう 【丘浅次郎】 (1868～1944) 生物学者。静岡に生まれる。東京大学予備門に入学したが途中で落第退学し，東大動物学科の選科を卒業した。その後ドイツの動物学者ロイカルトについて学び，帰国後，東京高等師範学校の教授となった。ヒルやホヤなどの比較解剖学において専門的な業績をあげているが，なによりも，生物学特に進化論の啓蒙(けいもう)普及家として，また科学思想家として評価されなければならない。《進化論講話》(1904)，《進化と人生》(1906)，《生物学講話》(1916)，《猿(さる)の群れから共和国まで》(1926)などが，この方面での代表作である。〔中村禎理〕

おかおにたろう 【岡鬼太郎】 (1872～1943) 劇作家・劇評家。東京都の生まれ。本名嘉太郎(よしたろう)。慶応義塾(ぎじゅく)大学を卒業後，時事新報社にはいり，劇評や花柳小説の筆をとる。また演芸記者としても活躍し，戯作調(げさくちょう)の戯曲も執筆，その上演は好評をもって迎えられた。《今様薩摩歌(いまようさつまうた)》《二筋道》などの作品がある。

おがくずコンクリート 【大鋸屑コンクリート】 おがくずを骨材の代わりに用いてつくったコンクリート。軽くて断熱性に富み，切断やくぎ打ちなど加工性にすぐれている。強度は小さい。荷重を受けない間仕切り壁などに用いられる。

おかくらてんしん 【岡倉天心】 (1862～1913) 美術行政などに貢献した美術史家。横浜市の生まれ。少年時を横浜に過ごし，1877年(明治10)新設の東京帝国大学文科大学でフェノロサ*らに学び，卒業後は文部省に勤めて古美術調査にあたった。1886年文部省美術取調委員としてフェノロサと渡欧，翌年に帰朝，新設の東京美術学校幹事を経て，1890年同校校長となった。また，フェノロサらと鑑画会を興して古美術復興と新日本画建設に乗り出し，狩野芳崖*(かのうほうがい)・橋本雅邦*を知り，1896年に日本絵画協会を創立，その主宰者として多くの新人を養成し，次いで1898年には雅邦・横山大観*・下村観山*・菱田(ひしだ)春草*らと日本美術院*を創設した。その後1904年からはボストン美術館東洋部長に就任。《東洋の理想》《茶の本》などの英文著書を書き，広く世界に東洋美術や日本文化の紹介・普及に努めた。その多くの著作は《岡倉天心全集》に収められている。〔匠　秀夫〕

おかくらよしさぶろう 【岡倉由三郎】 (1868～1936) 英語学者・英文学者。横浜

市の生まれ。1890年(明治23)文科大学選科で博言学科と国文学科を修了。1891年ソウルの国立日本語学校で教鞭(きょうべん)をとる。1896年東京高等師範学校教授。1902年ヨーロッパ留学。1925年(大正14)立教大学教授。ラジオ放送開始と同時に初等英語講座を担当，放送による外国語教授の創始者となる。またＮＨＫの放送用語の統一を基礎づけた。岡倉天心の弟。

おかげまいり【お蔭参り】 約60年ごとに訪れるとされるお蔭年に伊勢(いせ)神宮に参拝すること。この年に参拝すると特に効験(くげん)があるという信仰が，中世末期から近世初期にかけて広まった。記録の上では，1650年(慶安３)・1705年(宝永２)・1771年(明和８)・1830年(天保１)・1867年(慶応３)の５回が最も顕著で，なかでも1705年のときには400万人近い大群集が短時日に参宮したという。

おかざき【岡崎(市)】 愛知県中南部の市。徳川家康(いえやす)の生地として知られ，江戸時代は東海道の宿駅として，また本多氏五万石の城下町として栄えた。1916年(大正５)市制施行。人口25万6,000。岡崎平野東部，矢作(やはぎ)川中流東岸の段丘面とカコウ岩の丘陵斜面を占める。産業三大別人口比は６：47：47で，近世以来特産として知られる三河(みかわ)もめんの伝統によって紡績業が盛んで，特にガラ紡の生産は全国一である。約400年の歴史をもつ石工業や，三河花火・八丁みそなども名高い。東海道本線・名古屋鉄道・国道１号線・国道248号線が集まり，東郊には東名高速道路のインターチェンジがある。1970年(昭和45)刈谷(かりや)へ移るまで愛知教育大学があった。岡崎城跡はサクラの名所として知られる。

おかざきへいや【岡崎平野】 西三河(にしみかわ)平野，また略して西三(せいさん)平野ともいう。愛知県中央部の矢作(やはぎ)川および境川流域の洪積(こうせき)台地と沖積(ちゅうせき)平野をさし，その中心は矢作川左岸の岡崎で，豊橋を中心とする東三河平野(豊橋平野)と合わせて，三河平野を形成している。開発の歴史が古く，三河湾岸には干拓新田も多い。岡崎のほか，豊田・安城・西尾・刈谷(かりや)碧南(へきなん)などの都市があり，安城付近の碧海台地は，明治用水によって水田化され，〈日本のデンマーク〉とよばれる農業の多角経営で知られている。豊田の自動車工業をはじめとする工業も盛んで，中京工業地帯の一部となっている。〔浅井得一〕

おかざきよしえ【岡崎義恵】(1892〜　) 国文学者。高知市生まれ。第三高等学校を経て東京大学国文学科に学び,1917年(大正６)卒業，大学院に進む。1919年,高知・京都で絵画を修めた。1923年東北大学助教授,1927年(昭和２)同大学教授。1955年共立女子大学教授，1959年辞職。1934年ごろから美学を基礎とした日本文芸の様式論的研究を始め，明快な理論に基づく日本文芸学の学問体系を築き上げた。著書には《日本文芸の様式》《文芸学概論》などがある。



小笠原諸島　諸島中最大の父島。父島は火山島のため周囲はほとんど断崖で，この二見港が唯一の深い入り江をもつ錨地になっている

おがさわらおおこうもり【小笠原大蝙蝠】 哺乳(ほにゅう)類・翼手目・オオコウモリ科。中形のオオコウモリで，体長22cm，前腕長13.5cmほどで全身灰黒色。小笠原諸島と硫黄(いおう)島の特産。日中は森林中の樹枝などにたれさがって眠り，夕方から飛び出して果実などを食う。天然記念物。➔オオコウモリ

おがさわらきだん【小笠原気団】 夏季，北太平洋上の広い地域をおおう高温多湿の大気塊の西側部分を，日本で小笠原気団とよぶ。夏の日本の天気を支配する重要な要素で，この気団におおわれると，一般に天気はよく，驟雨(しゅうう)や豪雨を降らせることが多い。

おがさわらこうきあつ【小笠原高気圧】 北太平洋上に発達する背の高い大規模な高気圧。夏季に優勢になって西に延び，その西側部分を小笠原高気圧とよぶ。この高気圧におおわれるとわが国の天気はよくなり，夏の天気に重要な影響を与える。台風は，小笠原高気圧の周辺を回る傾向が強く，またその進路をさえぎったりして，台風の挙動と密接な関係をもっている。

おがさわらさだむね【小笠原貞宗】(1291〜1347) 南北朝時代の武将。父は宗長(むねなが)。信濃(しなの)(長野県)の守護に任ぜられ，飛騨(ひだ)(岐阜県)・遠江(とおとうみ)(愛知県)を管轄。元弘(げんこう)の乱には新田義貞(にったよしさだ)に従って鎌倉を攻め功を立てた。建武政府では武者所に属した。1335年(建武２)足利尊氏(あしかがたかうじ)が鎌倉にそむいたとき，はじめ義貞に従い，のちそむいて尊氏に属した。射術その他の諸礼に通じ，唐の百丈懐海(えかい)の《百丈清規(ひゃくじょうしんぎ)》をもとに礼法儀式を定め，小笠原流の祖となった。故実家の今川・伊勢(いせ)氏とはかって武家礼節を定め，《三儀一統》を著わしたといわれる。なお江戸時代には，小笠原流と称して武家礼式にならった種々の作法を教える者が現われて民間に普及したため，小笠原流は良家の子女が教養としておさめる礼法をさすに至った。〔鹿野賀代子〕

おがさわらし【小笠原氏】 甲斐(かい)源氏加賀美遠光(とおみつ)の次子長清が，甲斐(山梨県)巨摩(こま)郡小笠原村に住んだのに始まる。長清は源頼朝(よりとも)に従って功を立て，子孫は信濃(しなの)(長野県)・阿波(あわ)(徳島県)の守護となるなど，諸国に広がった。貞宗(さだむね)は足利尊氏(あしかがたかうじ)の将となり，信濃の豪族となった。孫の長基のあと深志(松本)・松尾の２流に分かれ，松尾家は武田(たけだ)信玄の家臣となり，深志家は信玄と争って越後(えちご)(新潟県)の長尾景虎(かげとら)(上杉(うえすぎ)謙信)のもとに走った。のち徳川家康(いえやす)に仕え，下総(しもうさ)(茨城県)古河三万石，播磨(はりま)(兵庫県)明石(あかし)十万石などを領し，1632年(寛永９)豊前(ぶぜん)(福岡県・大分県)小倉十五万石に移った。明治になって伯爵となる。播磨安志・肥前(佐賀県)唐津(からつ)・豊前千束・越前(福井県)勝山の小笠原氏は同族である。松尾小笠原家のあとは越前勝山藩主となった。〔鹿野賀代子〕

おがさわらしょとう【小笠原諸島】 東京の南およそ1,000kmの海上にあり，北から聟(むこ)島・父島・母島の３列島に分かれ，父島の西方130kmにある孤島西之島は，30余りのサンゴ礁に囲まれた火山島である。なお，広くは硫黄(いおう)列島を含めることもある。父島(24.5km^2)が最大で，母島(21km^2)がこれに次ぎ，このほか父島列島に兄島(８km^2)・弟島(５km^2)があり，聟島(3.5km^2)がこれらに次いで大きいが，そのほかはいずれも狭小である。中心集落は父島の北西岸の大村で，諸島第１の良港である二見湾を控えている。このほか父島の西岸に扇浦があり，母島にはかつて北村と沖村の二つの集落があったが，いまは無人島である。硫黄列島を除いた面積は73.6km^2。気候は亜熱帯的で，父島の年平均気温は22℃，夏は平均27℃，冬は17℃で，ほぼ沖縄(おきなわ)の那覇(なは)と同じくらいである。年降水量は1,600mm。タコノキなどの亜熱帯性の植物が茂り，特有の哺乳(ほにゅう)類としてオガサワラオオコウモリ，チョウにオガサワラ



岡鹿之助
《雪の発電所》 1956

セセリがある。オガサワラセセリは絶滅したと思われていたが，1970年(昭和45)に母島の沖村で発見された。

東京都に属し，1935年の人口は5,567で，父島・母島・弟島・聟島・嫁島・姉島・姪(めい)島の７島に人が住んでいた。しかし，第２次世界大戦中に戦局が悪化すると，ここが軍事基地となったために，全住民が本土へ引き揚げた。戦後しばらくアメリカ海軍の占領下にあったが，1968年６月日本に復帰，東京都小笠原支庁小笠原村となる。

1593年(文禄２)に信州松本の城主小笠原貞頼(さだより)が発見したといわれるが史実は定かでなく，その後ずっと無人島で，ヨーロッパ人は〈ブニン島〉とよんでいた。1675年(延宝３)に幕府が第１回巡検司を派遣したが，その目的は島の領有にあった。19世紀になって，太平洋の捕鯨が盛んになると，捕鯨船が水の補給などのために，この島に立ち寄りはじめ，船員の中にはそのまま父島や母島に住みつくものが出てきた。1827年(文政10)に，イギリスの軍艦ブロッサム号が来島してイギリス領を宣言したが，1853年(嘉永６)には，ペリーが日本への途中で寄港して，ハワイから移住してきたアメリカ人ナザニエル-サボリを首長に任命した。このため，イギリスとアメリカ合衆国の間で，島の領有をめぐって争いが起き，幕府も1861年(文久１)には，外国奉行(ぶぎょう)水野忠徳(ただのり)を派遣して，八丈島から38人を移住させた。領有をめぐる３国の争いは，1875年(明治８)に各国が日本領であることを認めて落着し，1880年には東京府の所属となった。イギリス系やアメリカ系の住民は，このとき日本へ帰化している。第２次世界大戦後の1946年10月に，47世帯176人の帰化人の子孫だけが帰島を許されて父島に住み，1968年の返還後は，東京都・気象庁・自衛隊の職員や東京電力の社員のほか漁業が目的の旧島民60人がまず渡り，その後帰島者がしだいにふえ，1980年の人口は1,595人で，1970年の782人にくらべて，813人(104％)の増加である。

かつてサトウキビや野菜，熱帯性のくだものの栽培が行なわれ，ウシ・ブタ・ニワトリなども飼われていた。近海はマグロ・カツオ・クジラなどが豊富で，サンゴやタイマイ・アオウミガメなどもとっていた。戦時中から戦後にかけての20数年に及ぶ空白期間のために，耕地やいろいろな施設が密林の中に埋まってしまった小笠原諸島の復興は，東京都によってまだ調査や測量が行なわれている段階であり，漁業も意外に不振で，今後は観葉植物の栽培と観光に重点をおくようになると思われる。東京から週１回だけの船便があるが，父島の二見港まで38時間かかり，空港がないので，父島の旧飛行場を小型飛行機の緊急着陸用に整備中であるが，将来は兄島に小笠原空港(第３種)が建設されることになっている。

〔浅井得一〕

おがさわらながきよ【小笠原長清】 (1162～1242) 鎌倉時代の武将。小笠原氏の祖。甲斐(かい)源氏加賀美遠光(とおみつ)の次子。母は和田義盛(よしもり)の娘。加賀美二郎と称し，父とともに源頼朝(よりとも)に従って戦功を立てた。信濃(しなの)(長野県)で勢力をもち，承久の乱には幕府側に立って功を立て，阿波(あわ)(徳島県)の守護に任ぜられた。

おかしかのすけ【岡鹿之助】 (1898～1978) 洋画家。劇評家岡鬼太郎の子。東京に生まれ，東京美術学校で岡田三郎助に師事，1924年(大正13)同校を卒業して1939年(昭和14)までフランスに留学，のちに会員となったサロン-ドートンヌなどに出品した。帰国後は春陽会会員として活躍。柔らかな色感のうちに詩情を漂わせた表現で知られる。

おかしとビール【お菓子とビール】 モームの長編小説(1930)。一人称形式をとり，物故したイギリス文壇の大家ドリッフィールドの伝記を書くように依頼された，小説家で劇作家の〈私〉が，物語を語っていく。故人の先妻ロージの，性的に放埓(ほうらつ)でありながら天真爛漫(らんまん)な行動を中心に，当時の文壇の模様や多くの人間像を，風刺的にいきいきと描き出した作品。ドリッフィールドは文豪ハーディをモデルにしたとされ，発表当時物議をかもしたことがある。

おかじまかんざん【岡嶋冠山】 (1674～1728) 江戸中期の儒学者。長崎の生まれ。名は璞(ぼく)，字(あざな)は玉成，冠山は号。中国語通訳として萩(はぎ)藩に仕えたが，のち宋学(そうがく)を修め，31歳で京都に上って同地で死ぬまで，江戸・大阪に往来して講話を業とした。中国語に精通し，稗史(はいし)・小説を紹介してその先駆をなした。《水滸伝(すいこでん)》に訓点・口訳を施し，没後に刊行された。著書に《唐話纂要(さんよう)》などがある。

〔中西正幸〕

おかしみ 滑稽(こっけい)み。《古事記》の中の説話，《今昔物語》などの説話文学，民話などにみられる素朴(そぼく)なおかしみと，《古今集》《伊勢(いせ)物語》などにみられる知的に洗練されたおかしみとがある。おかしみはときに人間性の悲しみの，またときに権威に対する反抗の表現である場合もある。狂言・俳諧(はいかい)・戯作(げさく)の笑いなどは，それぞれおかしみの最も洗練された種々相ともいえる。

オーガスタ ［Augusta］ アメリカ合衆国メーン州の州都。人口21,000(1960)。1628年に建設された古い植民地で，インディアンとの毛皮の交易で発展した。1827年以降メーン州の州都となり，現在では綿織物・製紙・くつ・食品加工業が盛んである。

オーガスタ ［Augusta］ アメリカ合衆国ジョージア州東端，サバナ川に臨んだ工業都市。人口71,000(1960)。アパラチア山脈東麓(とうろく)の滝線都市の一つで，綿紡績が盛んに行なわれる。

おかだけいすけ【岡田啓介】 (1868～1952) 海軍軍人・政治家。福井県の生まれ。海軍兵学校・海軍大学校卒業。海軍大将。連合艦隊司令長官などを経て田中内閣・斎藤内閣の海相となり，1934年(昭和９)首相となる。内閣は，天皇機関説の問題化，ロンドン軍縮会議の脱退などがあって，宮中重臣の期待するようには軍の圧力を緩和することができず，1936年の二・二六事件で崩壊，自身も官邸を襲撃されたが奇跡的に死を免がれた。第２次世界大戦の末期には，重臣として終戦工作を図った。➔二・二六事件

〔岸野淳子〕

おがたけんざん【尾形乾山】 (1663～1743) 江戸時代，元禄(げんろく)・享保(きょうほう)期の陶工・絵師。京都の呉服商雁金屋(かりがねや)の三男に生まれ，尾形光琳(こうりん)は実兄。京焼の祖野々村仁清に師事して1699年(元禄12)陶法伝書を伝授され，京都の西北(乾(いぬい)の方角)鳴滝に窯(かま)を設けて乾山と号し，晩年は江戸に住んで絵をよくした。角ざら・はち・向こう付けなどの作品が多



尾 形 光 琳　《紅白梅図屛風》 熱海美術館蔵



岡 田 謙 三　《銀と緑》 1969



岡田三郎助　《婦人像》 1907　ブリヂストン美術館蔵

く，琳派の妙趣を取り入れた意匠は京都諸窯で模倣されている。　〔矢部良明〕

おかだけんぞう 【岡田謙三】（1902～　）洋画家。横浜市の生まれ。東京美術学校を中退して1924年（大正13）から1927年（昭和2）までフランスに滞在，帰国後は二科会の会員となる。1950年渡米，ニューヨークに在住し，各国際展に活躍。抽象的作風のうちに東洋の幽玄を表わし，国際的な評価を得ている。

おがたこうあん 【緒方洪庵】（1810～1863）　蘭学者（らんがくしゃ）・医学者。備中（びっちゅう）（岡山県）足守（あしもり）の生まれ。1826年（文政9）大阪に出て中天游（てんゆう）に蘭学を学び，1831年（天保2）江戸へ行き坪井信道に従ってさらに研究に専心した。1836年長崎へおもむいていっそう研究を深めた。1838年大阪に蘭学塾（らんがくじゅく）適々斎塾を開き，1862年（文久2）までの間に多くのすぐれた蘭学者・医学者を養成し，また牛痘法の実施，コレラの対策に力を尽くした。同年夏江戸へ出て奥医師となり，西洋医学所頭取に任ぜられた。著訳書に《病学通論》《虎狼痢（ころり）治準》《扶氏経験遺訓》がある。

〔大鳥蘭三郎〕

おがたこうりん 【尾形光琳】（1658～1716）　江戸中期の画家。通称は市之丞（いちのじょう），号は方祝。京都の富裕な呉服商雁金屋（かりがねや）の次男，尾形乾山*（けんざん）の実兄。父の遺産を受け，遊蕩（ゆうとう）生活を送ったが，破産後は画業に専念，44歳で法橋（ほっきょう）の位に叙された。はじめ山本素軒について狩野（かのう）派*を学び，のち俵屋宗達*に傾倒して独自の感覚をもってその様式を再興，宗達光琳派*の伝統を確立した。遺品は多く，なかでも《紅白梅図》《燕子花図（かきつばたず）》の屛風絵（びょうぶえ）は，装飾性・絵画性を深く追究した傑作である。このほか水墨・淡彩・図巻などにも優作が多く，また後援者であった中村内蔵助（くらのすけ）の肖像画や，すぐれた素描力の習修過程を示す写生帳なども貴重である。さらに，きわだった才能をみせた《冬木小袖（こそで）》《八ツ橋硯箱（すずりばこ）》，乾山作の焼き物の絵付けなどの工芸意匠も注目される。　〔村重　寧〕

おかださぶろうすけ 【岡田三郎助】（1869～1939）　洋画家。佐賀市の生まれ。はじめ曾山幸彦（そやまゆきひこ）の塾（じゅく）で洋画を学んだが，のちに黒田清輝*の指導を受けて外光派（→印象主義）の作風に至った。1897年（明治30）に渡仏，1902年帰国後は東京美術学校教授となる。官展創立以来その審査員をつとめ，1937年（昭和12）第1回文化勲章を受けた。

おかだしんいちろう 【岡田信一郎】（1883～1932）　建築家。東京の生まれ。東京大学建築学科を卒業，のち早稲田（わせだ）大学・東京美術学校教授として建築史・建築意匠などを講じ，建築家としては大正から昭和初年にかけて活躍した。生来病弱であったので作品数は多くないが，東京都美術館・ニコライ堂（修築）・明治生命館など，さまざまの様式のすぐれた建築を残し，鉄筋コンクリート造り日本建築様式の先駆者といわれた。また，新しい建築思潮への理解も深く，その紹介・育成にも功績があった。　〔山口　広〕

おがたたけとら 【緒方竹虎】（1888～1956）　政治家。福岡県出身。早稲田（わせだ）大学卒業後，東京朝日新聞社に入社。1943年（昭和18）副社長，1944年小磯（こいそ）内閣・米内（よない）内閣の国務相兼情報局総裁となる。第2次世界大戦後，東久邇（ひがしくに）内閣で国務相兼内閣書記官長となったが，追放され

た。1952年解除後，自由民主党に入党。第4次吉田(よしだ)内閣の国務相兼官房長官，第5次吉田内閣の副総理を経て，1954年自由民主党総裁，1955年保守合同で成立した自民党の代行委員となったが，次期総裁を望まれつつ急死した。　〔溝口　潔〕

おかだたけまつ【岡田武松】(1874～1956)　気象学者。千葉県布佐の生まれ。明治から昭和にかけて日本の気象学・気象事業を発展させた。1899年(明治32)東京大学卒業後直ちに中央気象台にはいり，天気予報の仕事に従事。1904年には予報課長，1920年(大正9)には神戸(こうべ)海洋気象台長，1923年から1941年(昭和16)までは中村精男(やすお)のあとを受け，4代めの中央気象台長をつとめた。1921年イギリス王立気象学会名誉会長，1924年同学会からサイモンズ賞を贈られた。1931年帝国学士院会員。1950年文化勲章を受賞。海上気象無線通報をはじめとして，気象観測・通報網を完成させ，わが国の気象事業の基礎をつくった。また，測候技官養成所(現気象大学校)を創設，多くの技術官を養成するとともに，多数の著書によって気象学を普及させた。梅雨論，日本の気候についての理論・研究に大きな業績を残した。　〔根本順吉〕

おかだためちか【岡田為恭】(1823～1864)　江戸後期の画家。藤原姓，のち冷泉(れいぜい)の姓を自称し，さらに岡田家の養子となり，菅原(すがわら)姓に改めた。京狩野(きょうかのう)家に出ながら古典大和絵(やまとえ)を思慕し，田中訥言*(とつげん)の復古大和絵運動の強力な推進者であった。古画の模写に熱中のあまり幕臣の家に出入りしたので，ついに勤皇浪士のために斬殺(ざんさつ)された。《大樹寺障壁画》《天保施米(てんぽうせまい)図巻》などの代表作がある。　〔小林　忠〕

おがたまさのり【緒方正規】(1852～1919)　衛生学者。肥後(熊本県)に生まれる。1880年(明治13)東京大学医学部を卒業。ドイツへ留学して衛生学を専攻，同時に細菌学を修めた。1886年帝国大学医科大学の初代の日本人衛生学教授となる。日本における初期の衛生学・細菌学・公衆衛生の発展に尽くした。

おがたまのき【小賀玉木】　双子葉植物・モクレン科。暖地にはえる常緑高木。神社の境内によく植えられる。幹は直立して高さ15mに達し，葉は倒卵形で表面はなめらかで光沢があり，互生する。3～4月，葉腋(ようえき)にモクレンによく似た花を1個咲かせる。がく片6・花弁6，おしべ・めしべ多数。10～11月，果実は裂開し，赤い種子がさがる。



岡田武松



岡田為恭《忠度出陣図》東京国立博物館蔵



男鹿半島　西方上空からの大観。手前の湾は戸賀湾で，湾の内陸の小さい湖は二ノ目潟，その奥は一ノ目潟，右手の湖は三ノ目潟

おかちとうげ【雄勝峠】　秋田・山形の県境にあり，横手盆地と新庄(しんじょう)盆地とを結ぶ標高427mの峠。江戸時代からの重要な交通路で，かつては院内杉(いんないすぎ)峠といわれた。現在，奥羽本線と奥羽街道(国道13号線)がともにトンネルでここを通過している。

おかっぱ【お河童】　明治時代より流行した童女(6歳以下)の髪風。上流・中流家庭では，7～8歳になった女子は髪を結う習慣があったが，それより幼時には髪を肩より短く，また前髪を額で切りそろえた。この種の髪風には，江戸末期，吉原(よしわら)の禿(かむろ)の髪形がある。

おかでら【岡寺】　奈良県高市郡明日香(あすか)村大字岡にある，新義真言宗豊山(ぶざん)派の寺。山号は東光山。天智(てんち)天皇の御代(663年)に，岡本宮を寺として僧義淵*(ぎえん)に賜わったのが始まりと伝え，一説には僧道鏡*の開山ともいわれている。別名を龍蓋(りゅうがい)寺ともいうが，これは寺の境内の池に龍神を招き，石で龍穴をおおったことによるという。もとは法相宗(ほっそうしゅう)であったが，江戸時代になって真言宗となった。また，西国三十三所観音霊場第七番の札所としても有名。本尊の如意輪観音座像は4.6mに及ぶわが国最大の塑像で，8世紀末の優作，飛天を描いた光背も当初のものらしい。本尊の胎内仏といわれる半跏思惟像*(はんかしいぞう)の金銅如意輪観音は天平(てんぴょう)(729～748)の作。また，木心乾漆の義淵僧正座像(国宝)は平安初期の肖像彫刻の名作と伝えられ，天人を浮き彫りにした天人塼(てんにんせん)は奈良時代の作。　〔永井信一〕

おかとらのお【岡虎尾】　双子葉植物・サクラソウ科の多年草。山や野原にはえ，地下茎でふえる。茎は高さ80cm，枝分かれせず，基部は赤色。葉は互生し，長さ6～13cm，長楕円(ちょうだえん)形で先がとがる。夏，茎の上部に白色の小さな花が穂のようにつき，下から咲きだし，先は曲がる。

おかばしょ【岡場所】　江戸幕府が公認した吉原*(よしわら)以外の，非公認の私娼地(ししょうち)。私娼を隠売女(かくしばいた)という。1656年(明暦2)新吉原への移転に先だち，湯女風呂(ゆなぶろ)を捜索し，続いて1665年(寛文5)の茶汲女(ちゃくみおんな)の検挙により，幕府は私娼禁圧政策を打ち出した。両度の検束によって私娼は吉原へ移され，遊女に〈散茶〉という新しい階級を生んだ。その後も幕府は一貫して私娼狩りを行ない，本人だけではなく，かかえ主や家主も手錠・重過料に処したが，私娼の発生を防ぐことができなかった。岡場所が最もにぎわったのは，安永・天明期(1772～1788)で，吉原を制圧する勢いをみせた。寛政の改革*・天保(てんぽう)の改革*で一時衰退したが，幕末までなくなることはなかった。おもな岡場所には，深

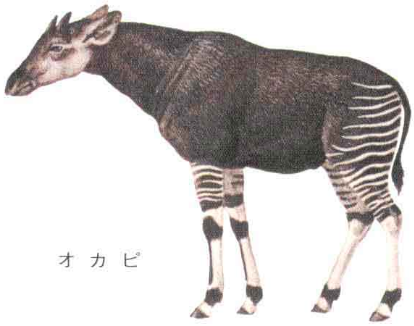
川・麻布(あざぶ)・氷川(ひかわ)・回向院前・品川・四谷(よつや)・新宿・牛込行願寺・芝神明地内・市ケ谷八幡(はちまん)・霊岸島・三田同朋(みたどうほう)町・上野山下・赤坂田町・麻布藪下(やぶした)・板橋宿・千住宿(せんじゅのしゅく)・浅草どぶ店(だな)・本郷根津などがあり，遊び代は場所・時代によって違うが，ほぼ200～500文であった。〔稲垣史生〕

おがはんとう【男鹿半島】 秋田県の中央部から，日本海に突出する。北の米代(よねしろ)川と南の雄物川から運搬される土砂が，沿岸流によりそれぞれ砂州を発達させ，第三紀末まで島であった男鹿島をつないで，複式陸繋(りくけい)島となったもので，内側に形成された湖が八郎潟*(はちろうがた)である。半島はかつて島であった先端部が最も高く，第三紀層を基盤とし，10数段にも及ぶ海岸段丘が発達している。その上に本山(716 m)を最高峰に，真山(571 m)・毛無山(673 m)などがそびえ，また，八郎潟との間には，低い丘陵の上に噴出した火山の寒風山(355 m)がある。西側の海岸は断崖(だんがい)と岩礁からなり，孔雀ケ窟(くじゃくがくつ)・大桟橋(だいさんきょう)・カンカネ洞(どう)・潜り岩(もぐりいわ)など海岸美に富み，北西岸には北から一ノ目潟・二ノ目潟・三ノ目潟など旧火口群が並び，戸賀湾は二つの旧火口に海水が侵入したものである。男鹿温泉・金ケ崎温泉などもあり，1953年(昭和28)に男鹿県立自然公園に指定された。半島の南部の砂丘地帯では県内向けの野菜が栽培されており，八郎潟は1964年に干拓が完成し，一部はすでに水田化されている。最近は沿岸漁業も不振で，出かせぎの多い地域となっている。半島で唯一の市である男鹿市は，秋田市を含めて新産業都市に指定されており，海岸の埋め立てが進められ，製油所が稼動(かどう)している。〔味沢成吉〕

オカピ［okapi］ 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・キリン科。肩の高さ1.6 mほどで，キリンほど頸部(けいぶ)も四肢(しし)も長くなく，雄には皮膚におおわれた短い角がある。コンゴのイツリおよびセムリキ森林にすみ，木の葉を食う。1900年に発見され，20世紀に発見された哺乳類のうち最大のものの一つで，日本へは1度もきたことがない。

おかひじき【陸鹿尾菜】 双子葉植物・アカザ科。ミルナともいう。海岸の砂地にはえる一年草。茎ははじめ地をはうか，あるいは斜めに立ち，多く枝分かれし，長さ10～40cmとなる。葉は互生し，肉質の円柱形で長さ1～2.5cm,先がとがる。夏，葉のつけ根に淡緑色の柄のない小花を1つずつつける。若葉は柔らかく，ゆでて食用とする。姿が海藻(かいそう)のヒジキに似ており，陸にはえるのでこの名がある。

おかふもと【岡麓】(1877～1951) 歌人。東京の生まれ。少年時から作歌に親しみ，宝田通文(みちぶみ)の塾で国・漢文を多田親愛(ちかよし)に書を学んだ。その後1898年(明治31)短歌革新ののろしをあげた正岡子規*の門にはいり，根岸短歌会の創立に参加。一時は歌作から遠ざかったが，子規没後は《アララギ*》によった。歌集に《庭苔(にわごけ)》《涌井(わくい)》《冬空》などがある。



オカピ



阿　亀　宮崎県高千穂の夜神楽



岡本一平《指先人形》(1929年刊)の〈喰へる帯〉第7場のさし絵



岡本かの子

おかまこおろぎ【御竈蟋蟀】 ⇨カマドウマ

おかめ【阿亀】 お多福・お福・おたやんともいう。額・鼻・おとがいが平らで，両ほおのふくれている，いわゆる三平二満の円満な女面。延命息災の人相を表わしている。カメとか多福ということばは縁起がよいものとされ，この面を家に置くと福縁が得られるという庶民の俗信に適合したものである。仮面に似たものとしてよく使われているお多福面は，神楽(かぐら)などにも使われ，また縁起をかつぐ興行芝居などでも用いられている。〔合田　濤〕

おかめいんこ【阿亀鸚哥】 鳥類・オウム科。オーストラリア原産。わが国には明治の中ごろに輸入され，すぐに巣引きに成功している。大きさはインコ*の仲間としては中くらいで，体長30cmほど。雄は頭・顔が黄色を呈し，頭頂から後頭にかけ烏帽子(えぼし)形の羽冠がある。きわめておとなしく他鳥との同居もさしつかえない。また，寒さに強いので戸外で越冬させられる。

おかめこおろぎ【阿亀蟋蟀】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・コオロギ科。体長13.5～15.5mm。全体黒かっ色。頭部は特異な形態をしており，顔面は扁平(へんぺい)で，後下方を切断したようになっている。頭頂は丸く突出している。本州・四国・九州に分布し，年1回の発生で卵で越冬し，成虫は8月上旬ごろから出現する。草原などの乾燥地を好む。〈リ・リ・リ・リ〉と4～5回連続的に鳴く。近似の種に，モリオカメコオロギとタンボオカメコオロギがあり，本種と混同されてきたが，生息地と鳴き声が異なる。前者は雑木林中に，後者は水田などの湿地に生活する。➔コオロギ〔鈴木邦雄〕

おかめざさ【阿亀笹】 単子葉植物・イネ科の多年生植物。日本特産のササで，関東ないし九州南端の山野にはえ，栽培もされているが，自生地は不明。茎は1 m内外，三稜柱(さんりょうちゅう)状または半円柱状で群生し，各節に2～5本の枝が出て，枝先に1枚葉をつける。葉の裏面は帯白色で柔らかい毛が密生する。たけが低いので庭園の縁などに植える。また葉に黄色の縦じまのあるシマオカメザサは珍重される。和名は，酉(とり)の市で売られる縁起物としておかめの面その他をくくりつけたところから由来する。〔横井朝子〕

おかもといっぺい【岡本一平】(1886～1948) 大正時代から昭和初頭へかけての新聞漫画の中心作家。北海道函館(はこだて)市に生まれたが，1892年(明治25)以後は東京に育った。1906年東京美術学校に入学，1910年同校卒業。1912年(大正1)東京朝日新聞

に入社，その探訪漫画が夏目漱石(そうせき)に認められて花形漫画家となった。漫画・漫文を得意とし，《探訪画趣》《マッチの棒》などを出版。昭和期にはいってから《新水や空》と題する，有名人似顔シリーズを残した。夫人かの子は文学者として知られ，長男太郎は画家として著名である。〔須山計一〕

おかもとかのこ 【岡本かの子】（1889～1939） 歌人・小説家。神奈川の旧家の長女として東京に生まれた。第２次《新思潮*》の創刊同人大貫(おおぬき)晶川の妹。跡見高等女学校卒業後，与謝野鉄幹・晶子(あきこ)夫妻に師事，《明星*》《スバル*》に短歌を発表した。その後《青鞜*(せいとう)》に参加し，1910年(明治43)岡本一平*と結婚，太郎を生むが，家庭生活の悩みから仏教にはいった。この間には一平の献身的な奉仕もあったが，1929年(昭和４)には一家をあげて渡欧。1932年に帰国し，２年後に芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)をモデルにした処女作《鶴(つる)は病みき》を発表，以後没するまでの４年間に《母子叙情》《金魚撩乱(りょうらん)》《老妓抄(ろうぎしょう)》《生々流転》《女体開顕》などの佳作を残したが，作品には虚無に連なる流転の相があやしく映されている。➔前ページ(写)

おかもときどう 【岡本綺堂】（1872～1939） 劇作家・小説家。本名敬二。狂綺堂とも号した。東京芝高輪(たかなわ)の生まれ。東京府立第一中学校を卒業後，東京日日新聞に入社，劇評の筆をとった。やがて戯曲を書き始め，特に２世市川左団次*のために多くの作品を書いた。1930年(昭和５)演劇月刊誌《舞台》を創刊，主宰。戯曲には，《修禅寺(しゅぜんじ)物語*》などの史劇，《権三(ごんざ)と助十》をはじめとする講談物があり，ほかに小説《半七捕物帳*》がある。

おかもとたろう 【岡本太郎】（1911～　） 洋画家。岡本一平・かの子夫妻の子。東京の生まれ。1929年(昭和４)東京美術学校に入学したが，中退して渡仏し，パリで前衛的な芸術運動に参加，ソルボンヌ大学を卒業後1940年に帰国。超現実主義的作風で知られる。評論家としての著作も多く，1961年二科会退会後は無所属ではあるが，彫刻その他各方面にわたって幅広い活躍をみせている。

おかものあらがい 【岡物洗貝】 軟体動物・腹足類・オカモノアラガイ科の陸貝。殻(から)の高さは2.5cmほどで卵形。殻の質は薄く，あめ色でモノアラガイ*に似るが，目が触角の先端にあること，体が白いこと，水べの草地にすんでいることなどで区別できる。関東・甲信越・北海道・サハリン(樺太(からふと))・千島に分布する。



オカモノアラガイ

おかや 【岡谷(市)】 長野県中央部の市。もと平野村といい，1875年(明治８)洋式製糸工場を設置して以来発展し，1930年(昭和５)には，人口62,000を数える全国最大の村となり，その51％が製糸工場の工員であった。1936年，村から直ちに市制を施行したが，その後製糸業不振のために人口が停滞し，1955年・1957年にわたって隣接３村を編入したが，現在の人口は62,000にすぎない。諏訪湖(すわこ)北岸，横河(よこかわ)川扇状地上に位置し，農耕地は少ない。産業三大別人口比は4：58：38で，第２次世界大戦後は繊維工業のほかに食品工業やカメラ・時計・測定計器などの精密機械工業が発達し，1958年には県の精密工業試験所が設置された。中央本線・国道20号線が通ずる。

おかやすぎぬた 【岡康砧】 山田流箏曲(そうきょく)の曲名。奥許し手事物に属する。18世紀前半，岡安小三郎が作曲したといわれるが，不明。胡弓(こきゅう)の曲として伝えられたのが残って，それが三味線(しゃみせん)曲・箏曲に移し変えられた。短い前唄(まえうた)，長い手事*，短い後唄(あとうた)の形式をとっている。この曲にある旋律は，長唄《秋色種*(あきのいろくさ)》の前弾や〈琴の合方〉として応用されているほど特色のあるものである。

おかやどかり 甲殻(こうかく)類・オカヤドカリ科のヤドカリ。甲はかたく石灰化し，長さ４cm程度で細長く，暗かっ色。西表(いりおもて)島・小笠原(おがさわら)諸島以南に広く分布し，ほとんど陸上にすむ。夜店などでオカヤドカリとして売られるものは，甲が青みをおび，形も大きさも前種に似たナキオカヤドカリであることが多い。これは本州中部以南から九州にまれに発見され，インド・太平洋熱帯域には普通に見られる。ほとんど陸上にすむ。すみかにする貝殻(かいがら)は殻の厚い重いものを好む。〔菅野　徹〕

おかやま 【岡山(県)】 中国地方南東部の県。南は瀬戸内海に面し，東は兵庫，北は鳥取，西は広島の各県と接する。備前・美作(みまさか)・備中(びっちゅう)の全域を占め，面積7,071km²，人口188万4,000，人口密度は１km²あたり266人。県花はモモ，県木はアカマツ，県鳥はホトトギス。県庁のある岡山以下の10市，18郡(56町12村)に分かれる。

〔自然〕中国山地が県域の大半を占め，南は瀬戸内海に面する。中国山地は，北部の高さ1,000～1,200mの脊梁(せきりょう)山地と，300～600mの吉備(きび)高原に分かれる。吉備高原はなだらかな隆起準平原で，北西から南東にかけて低くなり，岡山平野に接する。中国山地を発する吉井(よしい)川・旭(あさひ)川・高梁(たかはし)川は山間部に深い谷をえぐって南流し，多くの支流を集めて瀬戸内海に注ぐ。これらの河川は上流部に津山・勝山・新見(にいみ)などの盆地をつくり，下流に中国地方最大の岡山平野をつくる。海岸線は，沈降による出入りや島々が多く，岡山平野の中央部には児島(こじま)半島が突き出して干拓の進んだ児島湾をいだき，人工湖の児島湖がつくられている。南の海岸部一帯は瀬戸内海国立公園に属し，児島半島の鷲羽(わしゅう)山(133m)は内海随一の眺望(ちょうぼう)で知られる。北端の蒜山(ひるぜん)高原は大山隠岐(だいせんおき)国立公園に編入されている。

気候は一般に温暖な瀬戸内式気候を示す。北の中国山地，南の四国山地にはさまれた風陰に位置し，降水量は少なく，県北で年間1,500mm，県南で1,000mm程度である。冬は快晴の日が続き，海岸部は風も弱く，夏は朝なぎ・夕なぎが起こる。台風の通過は少ないが，津山盆地北東部では台風期に〈広戸風〉とよばれる突風が発生することがある。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は13：38：49で，全国有数の農業県であるが，最近は新産業都市の水島・岡南(こうなん)地区を中心として，近代工業への脱皮が図られている。県民分配所得は１人あたり134万0,000で，全国９位である。温暖な気候に恵まれて，古くから〈農業王国〉として知られる。農家１戸あたりの耕地面積は0.73ヘクタールで，南部の岡山平野と，中部の丘陵地，北部の山間地域では，経営規模や内容がかなり異なる。〈農林水産業〉農業の中心地は岡山平野で，豊富な農業用水に恵まれ，集約化された水田を中心に多角的な機械化農業が進んでいる。良質な〈備前米〉は年産30万tに達し，大阪や東京方面へ移出される。裏作には，イグサ・ハッカ・ジョチュウギクなど，工芸作物の栽培が盛んである。イグサ*は県南一帯，ハッカは井原と県南東部，ジョチュウギクは笠岡(かさおか)など県南西部を主産地とする。イグサを原料とする畳表(備後表(びんごおもて))・花むしろや，麦稈真田(ばっかんさなだ)などの農産加工品の産額が多く，畳表の産額は全国産額の60％，花むしろは90％を占める。瀬戸内海沿岸部の干拓によって，野菜や果樹の栽培が普及し，モモ・ナシ・ブドウ・カキなどの果実類や，阪神(はんしん)地方へ出荷する野菜類が多くつくられる。モモは，笠岡・玉島(倉敷市)などの南西部，ブドウは玉島・西大寺(岡山市)などでおもに栽培されている。また，最近ではマスクメロンの温室栽培が進んでいる。中部の吉備高原では工芸作物の畑作が多く，タバコ・コンニャクなどの特産物がある。北部の中国山地脊梁部付近は，地形や気候条件から二毛作は不可能で，役肉用牛の飼育，薪炭の生産などの副業にたよっている。畜産業では，高梁川の上流，新見盆地周辺部で古くから千屋ウシとよばれる肉牛が飼育され，中東部の津山盆地周辺には新しい酪農地帯が開け，蒜山高原にはジャージー



岡山県

種の乳牛が多い。家畜数は，肉牛約44,000頭，乳牛約43,000頭，ブタ約72,000頭，ニワトリ約530万羽に達する。林業は農業の兼業程度に行なわれているにすぎない。林野面積は約50万ヘクタールで，県域の70％を占め，民有林が大半で，クロマツ・アカマツ・スギ・クリなどの暖帯林が多い。吉備高原にはマツタケの特産があり，たけのこも津山近くで産出する。瀬戸内海に面して長い海岸線をもつが，島の大半は香川県に属しており，各地の沿岸が干拓されるなどの悪条件が重なって，水産業はあまりふるわない。漁獲物は，ボラ・クロダイ・カレイ・ヒラメ・タイなどの沿岸回遊魚のほか，タコ・イカ・貝・海藻(かいそう)類などで，ノリ・カキ・真珠などの養殖は大幅に増産の傾向を示している。気候・風土の関係で，古くから製塩業が盛んであったが，現在ではすべての塩田が廃止されて，その跡が工場用地などになっている。内水面漁業はダム建設やじゃり採取に妨げられて不振であるが，児島湖でウナギ・コイ・アユ・ニジマスなどの養殖が行なわれる。〈鉱工業〉中国山地の地質構造は複雑で，硫化鉄鉱やウラン鉱をはじめ，金・銀・銅・鉛・クロム鉄鉱・タングステン鉱・ロウ石・石灰岩・天然ガスなど，多種類の地下資源に恵まれ，100余の鉱山がある。北東部の柵原(やなはら)鉱山は良質の硫化鉄鉱を産する日本有数の鉱山で，埋蔵量は約2,000万tと推定され，産量は年間約80万t，全国産量の約40％に及ぶ。クロム鉄鉱では北西部の高瀬鉱山が全国産量の約30％を占め，ロウ石は兵庫県境に近い三石を中心として発掘され，全国産量の50％以上を占めている。鳥取県境の人形峠ではウラン鉱が開発されていたが，現在ではすべて採掘しつくしてしまった。阿哲台(あてつだい)の石灰岩はセメント用あるいは製鉄工場の触媒用に採掘される。工業はかつては軽工業，特に繊維工業が中心であったが，いまでは化学工業製品・鉄鋼・石油製品・輸送用機器などの重化学工業が主となっている。繊維工業は，綿織物・縫製品を生産する井原・児島両地方を中心とする中小工場群と，倉敷紡績・クラレ・鐘紡(かねぼう)などの大工場群に分かれる。そのほか，鋼船や木造船の造船所が児島半島付近に分布し，三石付近ではロウ石を原料とする耐火れんががつくられる。南部地区は岡山県南新産業都市*に指定され，岡山・西大寺工業地帯，水島工業地帯の今後の発展が期待される。水島工業地帯は，倉敷から西の玉島，東南の児島にかけて，1953年(昭和28)から大規模な埋め立て工事が行なわれ，三菱(みつびし)石油・日本鉱業などの精油工場や，石綿・製鉄・自動車などの工場群が立地して，瀬戸内海の重化学工業基地として発展している。工業用地の総面積は2,275万m²で，現在，80社の89事業所が進出しているが，1974年(昭和49)12月，三菱石油水島製油所の重油タンクの故障で，約1万tの重油が瀬戸内海に流出して，漁業に大きな打撃を与え，工業と公害との関係にいっそうの注意が必要なことが，改めて認識された。なお，笠岡・井原の両市は，1964年に備後工業整備特別地域に編入された。〔交通・都市〕陸上交通では，山陽本線が瀬戸内海沿岸を東西に走って各都市間を結び，県の動脈となっている。1971年には，東京～岡山を4時間で結ぶ山陽新幹線も開通し，1975年には博多(はかた)まで延長，県内に岡山駅のほか新倉敷駅がある。その他の国鉄線には，北部の山間盆地帯を縫う姫新(きしん)線・芸備線，山陰地方と連絡する伯備線・津山線・因美線，四国地方と連絡する宇野線があり，吉備線や赤穂(あこう)線も岡山から延びている。道路交通は，古くから開けた西国街道・四国街道・出雲(いずも)街道などを中心とした道路網が県下全域に及ぶ。国道2号線が瀬戸内海沿岸部を東西に



岡山県　倉敷市の水島臨海工業地帯。水島港に臨んで，日本鉱業・三菱石油・川崎製鉄(左手)が並ぶ。遠景は高梁川の河口

走って幹線道路となり，30号線は児島半島へ通じて四国への道を開き，53号線・179号線・180号線・181号線は北上して山間盆地部から山陰地方へ通ずる重要な役割を果たしている。海上交通は，瀬戸内海に臨む諸港を中心として古くから発達している。宇野線が宇野港と四国の高松港との間を鉄道連絡線によって結んでいるのをはじめ，岡山・玉島などの諸港は阪神・四国・九州を結ぶ定期航路や内海観光の要地となり，笠岡港は将来10万t級の外国船が接岸できるように整備されている。航空路は，岡山市浦安地区の岡山空港が東京・広島・米子(よなご)との間を定期便で結んでいる。都市の多くは南部の平野部に集まり，岡山を中心に都市圏がしだいに拡大されている。岡山・倉敷・笠岡は，古くから海陸交通の要地として栄えた。1963年，県南の臨海地区が岡山県南新産業都市に指定され埋め立て地の造成などにより，工業地区としての発展を期待されている。北部山間部では人口の集中が少なく，津山以外には都市がみられなかったが，1953年の町村合併促進法施行以後，平野北端部の農工業都市の井原・総社や，高梁川の上・中流に沿う新見・高梁が市制を施行して，吉備高原や中国山地にも開発が及んでいる。

〔歴史〕 畿内(きない)と北九州を結ぶ要地として早くから交通や産業が開けた。南部には縄文(じょうもん)文化の遺跡や貝塚(かいづか)が多く発掘され，県下各地に約3,000の古墳がみられる。崇神(すじん)天皇のころ，吉備津彦命(きびつひこのみこと)がこの地へ派遣されてから，吉備の国とよばれ，総社に国府が置かれた。この地方は，縄文・弥生(やよい)・古墳時代から律令(りつりょう)時代を通じてのはなやかな古代文化の発祥地であった。大化改新以後は備前・備中・備後の3国に分かれ，奈良時代初期713年(和銅6)備前北部に6郡が分離して美作(みまさか)の国となり，国府は苫田郷(とまだきょう)(津山市)に置かれた。平安時代末期平忠盛(ただもり)が塩飽(しわく)諸島を中心にはびこった海賊を平定し，平氏が一時瀬戸内海周辺に勢力を広げた。鎌倉・室町の両期を通じては，割拠の地となり，戦国時代にはいって宇喜多氏がはじめて全域を統治したが，関ケ原の役以後，小早川秀秋(ひであき)が代わった。のち，江戸幕府が開かれると，備前に池田忠継(ただつぐ)，美作に森忠政(ただまさ)が封じられた。1632年(寛永9)，池田光仲(みつなか)が因幡(いなば)・伯耆(ほうき)の2国に転封されて，池田光政(みつまさ)がこれに代わり，以来池田氏三十一万五千石が明治維新まで備前を統治した。美作は3藩に分かれ，備中は九つの小藩と天領とに分けられて，複雑な配置を示した。明治維新以後は，1871年(明治4)の廃藩置県で，岡山・小田・北条(ほうじょう)の3県が置かれ，1875年に小田県，翌年に北条県が岡山県に合併され，さらに，備後の東部が広島県へ移されて，1876年4月に現在の県域が確立した。

〔浅井得一〕



岡山市 蛇行して流れる旭川に臨む岡山城。対岸の川中島に広がる庭園は後楽園。



岡山平野 旭川下流の児島湾に近い干拓地と農村の景観。直線状に区切られた整然とした耕地と灌排水路が幾何学的模様を描いて美しい

おかやま 【岡山(市)】 岡山県の南部，県庁のある市。古代から山陽道の要地で，戦国時代には宇喜多直家の城下町として発展し，関ケ原の役以後，小早川秀秋(ひであき)，次いで池田忠継(ただつぐ)の領地となり，1632年(寛永9)鳥取からはいった池田光政(みつまさ)以来幕末まで池田氏三十一万五千石の統治下にあった。1889年(明治22)市制施行。1969年(昭和44)東隣の西大寺市を編入した。人口**54万2,000**。

市域は岡山平野*の中央部，旭(あさひ)川下流に沿い，瀬戸内海に面する。中心街は，城下町当時の繁華街であった〈表八ケ町〉とよばれる区域だが，第2次世界大戦中に戦災を受け，戦後は岡山駅の周辺地区も新しく発展した。産業三大別人口比は10：29：61で，商工業都市の性格が強く，旭川河口に近い岡南(こうなん)地区には繊維工業を中心とする工業地帯が造成されている。周辺部は良質の備前米の産地で，モモ・ブドウなどのくだものの栽培も盛んである。山陽本線の分岐点で，山陽新幹線も走り，南部には大元から岡南(こうなん)元町までの岡山臨港鉄道がある。国道2号線・30号線が市街地の中心で交差し，53号線・180号線が北へ走り，浦安地区には岡山空港がある。北部に岡山大学があり，旭川に沿って日本三名園の一つ，後楽園*や岡山城趾(じょうし)があり，1966年天守閣が再建された。近郊には池田産業動物園や児島湖(こじまこ)などの観光地がある。特産は，畳表・花むしろ・備前焼・熊野(くまの)染め・吉備だんご・モモ・マスカットなど。

〔浅井得一〕

おかやまけんなんしんさんぎょうとし

【岡山県南新産業都市】 岡山県南部の岡山・倉敷・玉野・総社の4市と隣接する26町村を含む範囲で面積1,469km^2にわたる。1964年(昭和39)に指定。この地域の人口は岡山県のほぼ60％を占める。児島(こじま)(倉敷市)・西大寺(岡山市)には従来からの繊維・衣料品工業があったが，指定後水島工業地区(倉敷市)には鉄鋼・石油精製・機械などの工場が操業している。

おかやまてんたいぶつりかんそくじょ

【岡山天体物理観測所】 岡山市西方約40kmの鴨方(かもがた)町にある竹林寺山頂(370m)に，1960年(昭和35)に創設された天体物理観測所。東京天文台に属し，おもな観測装置として，口径188cmおよび91cmの反射望遠鏡，口径60cm，焦点距離36mの太陽望遠鏡を備え，日本における天体物理学研究の最前線の役割を果たしている。

おかやまはん 【岡山藩】 江戸時代，備前(岡山県)に置かれた藩。藩主池田氏*。外様(とざま)大名。三十一万五千石。戦国末期には宇喜多氏がこの地を支配していたが，1600年(慶長5)の関ケ原の役後封を除かれ，小早川秀秋(ひであき)が領有した。1602年秀秋の没後は嗣子なく断絶したため，1603年池田忠継(ただつぐ)が入封した。3代光仲(みつなか)のとき，幼少を理由に鳥取藩主池田光政*(みつまさ)と国替させられた。光政は備前と備中(岡山県)の一部を領し，ここに岡山藩が成立した。以後廃藩置県まで池田氏が支配した。光政の代に藩制を確立，幕末には水戸(みと)の徳川斉昭(なりあき)の子茂政(もちまさ)を藩主にすえ，尊王攘夷(じょうい)の態度をとった。支藩に備中鴨方(かもがた)藩二万五千石と備中生坂(いくさか)藩一万五千石がある。

〔松平秀治〕

おかやまはんがっこう 【岡山藩学校】 1669年(寛文9)岡山藩主池田光政*(みつまさ)が，城下の西中山下に開いた藩校*。学校領として二千石(のち五百石，さらに千石となる)が与えられ，藩士の子弟に儒学・習礼・武芸などを教授した。幕末には洋学や洋式兵術も取り入れている。前身は光政が1641年(寛永18)建てた花畠(はなばたけ)教場であり，これが1666年城内に移され，仮学館といわれていた。仮学館の修学者が多数に上ったため，再び城下に移され，拡大整備されてこの藩校となった。一般庶民のためには別に光政の建てた手習い所が各地にあったが，

のち和気郡閑谷(しずたに)の閑谷学校*に統合された。なお，ここでは武芸は教授されなかった。〔松平秀治〕

おかやまへいや【岡山平野】 岡山県の南部，吉井(よしい)川・旭(あさひ)川・高梁(たかはし)川の下流に発達した沖積(ちゅうせき)平野で，中国地方では最も広く，その中心に岡山市がある。平野の内部にはところどころに貝塚(かいづか)がみられ，以前は海岸線が奥深くはいっていたことを物語っている。かつてははるか沖にあった大小の島々は，三角州の発達によって海岸線が伸びたために，平野に組み込まれて，いまでは丘陵や低い山地となっている。平野と瀬戸内海との間に横たわる児島(こじま)半島も，かつては島であったものが陸続きとなり，その間に児島湾が形成された。岡山平野の歴史は干拓の歴史でもあり，干拓地は平野の半分にも及んでいる。16世紀初めには宇喜多秀家(ひでいえ)が早島から倉敷までの4kmに及ぶ潮止め堤防を築いて，天正新田をつくったのをはじめ，平野の西部で干拓が進められた。17世紀には岡山藩が大規模な児島湾沿岸の干拓を進め，次々に藩営新田をつくり，岡山藩の行なった干拓は4,000ヘクタールに及ぶといわれている。明治時代にはいって藤田組による干拓も行なわれ，大農場経営の藤田農場がつくられたが，第2次世界大戦後，農地改革により農場は解体され，自作農中心の農村になった。1956年(昭和31)に農林省直営工事による児島湾淡水化工事が完成し，約1,100ヘクタールの淡水湖である児島湖ができ，沿岸農地の灌漑(かんがい)用水の確保のみならず，干害・塩害を防ぎ，沿岸低湿地の排水も可能にし，堰堤(えんてい)上は対岸への道路としても使用されている。農業は機械化や多角経営が非常に進んでおり，米・麦のほか，瀬戸内式気候の特色である雨が少なく，高温で乾燥している気候を利用して，くだものの生産が多く，特に平野北部で栽培される温室ブドウ(マスカット)は全国一の生産をあげている。またモモの栽培も行なわれ，そのほか，ナシ・メロンなどがつくられている。江戸時代のワタに代わって，イグサが栽培され，畳表・花莚(はなむしろ)の加工産業が盛んである。1888年(明治21)，倉敷に倉敷紡績所が設立され，倉敷が繊維工業都市として発展するもとをつくり，現在はクラレの工場がある。また高梁川の河口の埋め立て地には水島工業地域が形成されて石油・製鉄・自動車などの重化学工業が発展しつつあり，一方，旭川河口の埋め立て地には岡南(こうなん)工業地帯が形成されている。〔味沢成吉〕

おから ⇨卯(う)の花

オカリナ［ocarina］ 東アジア・南アフリカ・ヨーロッパに多くみられる楽器。球形フルートとして分類されるが，実際には球形・卵形・鳥形など。内側が広い空洞(くうどう)になっていて，歌口のほかに5～6個の指穴をもっている。おもちゃとしても純楽器としても用いられている。



小川芋銭
《夕凪》1924

オガリョーフ［Nikolay Platonovich Ogaryov］（1813～1877） ロシアの詩人・社会運動家。1830年代にゲルツェン*とともに哲学・政治思想の研究会をつくり，のちロンドンに亡命してゲルツェンと〈自由ロシア印刷所〉を設立し，新聞《鐘》を発行して，祖国ロシアのために革命的啓蒙(けいもう)運動を続けた。詩人としては叙情性にあふれるすぐれた詩を残している。

おかる【お軽】 長唄(ながうた)の曲名。作曲は2世杵屋(きねや)勝三郎，作詞は3世桜田治助。1847年(弘化4)《仮名手本忠臣蔵》の各段をひとりで踊る歌舞伎(かぶき)舞踊としてつくられたものの一部で，七段目のお軽を扱っている。10分弱の小品で，三下がりによるめりやす調の独吟曲である。

おかるかんぺい【お軽勘平】 《仮名手本忠臣蔵*》(歌舞伎(かぶき)・人形浄瑠璃(じょうるり))の点景として登場する道行の男女。男は塩谷(えんや)判官の若党，早野勘平。女は腰元のお軽。《道行旅路の花聟(はなむこ)》の外題(げだい)で単独でも再々上演される。

おがわ【小川(町)】 埼玉県比企郡の町で，1955年(昭和30)にまわりの3村を合併した。人口27,000。秩父(ちちぶ)山地の東のふもとにある小川盆地の中心で，槻(つき)川の溪口(けいこう)集落，六斎市の開かれた市場町として発達した。奈良時代から槻川の水でコウゾをさらして和紙をつくっており，江戸時代末期には700軒もの紙屋があった。いまは，いわゆる小川和紙は減り，機械すきの包装紙や障子紙をつくっており，コーン紙(スピーカー用)・ガスケット紙(パッキング用)はともに全国の60%を産し，県立製紙工業指導所がある。八高線と東武鉄道東上線が交わっている。南西境の堂平山(876m)にある東京天文台堂平観測所には，91cmの反射望遠鏡があり，変光星・星雲・すい星などの観測を行なっている。

おがわうせん【小川芋銭】（1868～1938） 日本画家。東京の生まれ。本名は茂吉。はじめ本多錦吉郎(きんきちろう)の画塾(がじゅく)で洋画を学び，かたわら日本画を独習した。1907年(明治40)ごろには《平民新聞》などに時事漫画を描いている。1917年(大正6)日本美術院*同人となり，新南画の境地を開いて独自の画風を示したが，特にその河童(かっぱ)は有名である。

おがわおんせん【小川温泉】 富山県下新川郡朝日町にある温泉。泉温53～67℃，泉質は弱食塩泉で，神経痛・リウマチにきくといわれる。黒菱山麓(くろびしさんろく)にあり小川元湯から引き湯している。静かな温泉として知られ，近在の農民の湯治場に利用されている。北陸本線泊駅からバスの便がある。

おがわたくじ【小川琢治】（1870～1941） 地理学者・地質学者，理学博士。和歌山県に生まれ，東京大学理学部地質学科卒業後地質調査所技師になったが，1908年(明治41)京都大学教授となり，文学部史学科に地理学講座を創設し，わが国における人文地理学の開拓に努めた。のち理学部地質鉱物学科に移り，《地質現象の新解釈》など創見に富む研究を続け，わが国地質学の成立期に指導的役割を果たしている。家庭は学者一家として知られ，湯川秀樹*(ひでき)はその三男である。〔野間三郎〕

おがわはりつ【小川破笠】（1663～1747） 伊勢(いせ)(三重県)の生まれ。平助といい，笠翁(りつおう)・卯観子(うかんし)・夢中庵(むちゅうあん)などと号した。江戸に出てはじめ談林派の福田露言に，のち芭蕉(ばしょう)に俳諧(はいかい)を学び，絵を英一蝶*(はなぶさいっちょう)に学んだ。多芸に長じ，特に漆芸は本阿弥(ほんあみ)光悦*の技法に傾倒して，漆面に鉛・貝・陶片・象牙(ぞうげ)・堆朱*(ついしゅ)の細工物を嵌入(がんにゅう)して蒔絵(まきえ)を併用する独特の手法を考案した。一般にこれを破笠細工という。〔河田　貞〕

おがわみめい【小川未明】（1882～1961） 小説家，児童文学作家。新潟県生まれ。本名健作。早稲田(わせだ)大学卒業後，島村抱月*の導きで児童文学雑誌《少年文庫》を編集したことが童話創作の機縁となった。1910年(明治42)刊行の処女童話集《赤い船》はおと

ぎ話の革新として評価された。同じころ《物言はぬ顔》，唯一の長編《魯鈍(ろどん)な猫(ねこ)》など多くの小説を発表，このころから大杉(おおすぎ)栄*との交遊を通じて社会主義に近づいた。1925年(大正15)童話創作に専念する旨の声明を発表，小説の筆を絶つ。童話の代表作には《赤い蠟燭(ろうそく)と人魚*》《野薔薇(のばら)》などがあげられる。生涯(しょうがい)に幾度か作風の変化を示したが，小説・童話ともに北国の自然を背景とした神秘的・浪漫主義的傾向が強い。近代児童文学の先駆者のひとり。〔向川幹雄〕

おがわらこ【小川原湖】〈おがらこ〉ともよぶ。青森県東部の三本木原台地の東北部にある湖。面積62.7km²，水面高度0m，水深24.4m。水は高瀬川となって太平洋に流れているが，まれに逆流することもある。ワカサギ・シラウオなどの淡水魚が豊富で，冬季には鳥類の飛来もあって狩猟地としても知られている。

オーガンジー［organdy］細糸で織り目を荒く平織りに織った綿布で，かたくのりづけして仕上げる。絹・ナイロン・レーヨンなどでもつくる。軽く通気性があり，夏の婦人・子ども服，人形衣装・えり飾り・帽子・造花などに使われる。

おき【置】日本舞踊音楽の用語。演者が舞台に現われるまえに音楽のみ演奏し，舞踊の内容・人物などについて観客に暗示を与える部分をいう。開幕時の舞台の空気をつくる使命ももっている。

おき【隠岐(国)】島根県の隠岐諸島の旧国名。隠州。山陰道に属し，島前(知夫里島・西島・中島)・島後の4島よりなり，知夫(ちぶり)・海士(あま)・周吉(すき)・穏地(おち)の4郡に分かれ，国府は周吉郡(西郷町)にあった。古代から遠流の地とされ，後鳥羽(ごとば)上皇・後醍醐(ごだいご)天皇をはじめ，ここに流された者は多い。鎌倉時代を通じて佐々木氏が，室町時代には京極氏，次いで尼子氏が守護となったが，戦国末期には毛利氏が領有した。関ケ原の役後は堀尾(ほりお)・京極氏を経て松平氏の預かり地となり，1869年(明治2)隠岐県となった。まもなく大森県に合併し，翌年浜田県となり，その後島根県・鳥取県を経て，1876年以降島根県に編入されて今日に至る。〔黛　弘道〕

おぎ【荻】単子葉植物・イネ科。沼や沢にはえるススキに似た多年草。日本全土・中国北部・朝鮮に分布。地下茎はかたく，長く地下をはい，茎は地下茎の節から単生する。1～2.5mの高さになり，秋にススキと似たかっ色をおびた銀白色の散房花序をつける。小穂はのぎがなく，小穂の2～4倍もある長毛でおおわれる。

おぎ【小木(町)】新潟県佐渡郡の港町。佐渡島小佐渡地方西南部に位置する。人口4,800。江戸時代には佐渡金山の積み出し港として，また西回り航路の風待ち港として栄え，多くの史跡がある。本土との連絡の中心が両津港に移ってからさびれたが，南佐渡の観光の中心地として，新潟・直江津・柏崎(かしわざき)との間に定期航路が通じている。



小木町　小木のたらい船。訪れる観光客の船遊びとして人気がある。磯つりも観光客用に用意されている



沖合い漁業（カツオの一本づり）

おぎ【小城(町)】佐賀県小城郡の町。人口14,000。佐賀平野の北西隅(ぐう)にあり，唐津(からつ)線に沿う。鍋島(なべしま)氏の支藩七万三千石の旧城下町で風光が美しく，小京都とよばれる。米・麦のほかミカンをつくり，清酒・めん類を産する。名物の小城ようかんは東京へも出されている。

おきあいぎょぎょう【沖合い漁業】沿岸漁業*よりやや沖合いで営まれる漁業。近海漁業ともいう。航海日数も数日から10日前後で，漁獲物は母港か漁場に近い港に水揚げするのが普通である。サンマ棒受け網漁業，東海・黄海機船底引き網漁業，近海捕鯨業などがこれにあたる。したがって，漁船の能力も，10日前後の航海に耐える程度の水・食糧・燃料を積載しているにすぎない。しかしながら，わが国の総漁獲高の中で，本漁業形態の果たしている役割は大きい。〔石野　誠〕

おきあさり【沖浅蜊】軟体動物・二枚貝類・マルスダレガイ科。長さ5cmほどの三角形の殻(から)は，白または灰青色の地に3～4本の濃青色の放射帯があり，つやがある。本州中部以南台湾までの10cmくらいの浅い海の砂底にすみ，食用とされる。煮ると殻の色が茶色に変わるところはアサリに似ている。

おきうど　浮太・沖独活とも書く。エゴノリ*をもみ洗いして天日乾燥し，これを2～3回くり返して漂白したものを煮とかして木箱に流し込み，放冷して固めた食品。これを乾燥した干しおきうどもある。細く刻んで削り節・しょうゆをかけて食する。酢じょうゆ・ごまじょうゆを用いることもあり，さらしねぎ・おろししょうがを薬味として添えることもある。また，かすづけにもする。古くから博多(はかた)湾のエゴノリでつくられた福岡付近固有の食品で，貝原益軒*の書にも記載されている。

おぎえぶし【荻江節】三味線(しゃみせん)音楽の流派名。河東節*(かとうぶし)・一中節*・宮薗節*とともに〈古曲*〉に数えられているが，その中で荻江節のみが歌い物である。1760年代，市村座を引退した荻江露友*は遊郭でお座敷ふうな長唄(ながうた)を始めたが，歌い方，三味線のひき方がしだいに独自なものになり，やがて長唄から離れて，荻江節として独立してよばれるようになった。劇場・舞踊向きのはでな長唄とは違って，室内・純演奏用の荻江節は，全般に地味である。中心は三味線よりは唄のほうにあり，地歌*的なものとなっている。三味線は単純・素朴(そぼく)に奏し，替手*も上調子*も控えめで，あくまでも唄の助力として陰に隠れなければならない。他の楽器を加えた囃子(はやし)を伴奏に入れるのは原則からははずれる。代表曲に《高尾ざんげ》《八島》《山姥(やまうば)》《深川八景》《短か夜》《金谷丹前(かなやたんぜん)》などがある。〔山口　修〕

おぎえろゆう【荻江露友】(？～1787) 荻江節*の家元。初世は本名，千葉新七。津軽藩士とも江戸の豪商の出ともいう。趣味として長唄(ながうた)界にはいり，劇場にも出演した。しかし，その声は劇場には向いていなかったので，低い声と繊細な節回しを生かしたうたい方とお座敷ふうの三味線(しゃみせん)の手を編み出した。これは吉原(よしわら)を中心として大いに流行し，のち荻江節として一派をなした。

おきかえ【置き換え】心理学用語。ある特定の対象に向けられる感情・欲求・態度などを，別の対象に向けかえる心的メカニズムのこと。置き換えられる感情・欲求・態度には，愛情・性欲・攻撃性，あるいは敵意・恐怖・不安・罪悪感・劣等感などが含まれる。置き換えられる代理的対象としては，①自我*(外界に向けていたリビドーを自我に置き換えるナルシシズム*)，②他人(父母に向けていた感情や態度を他の人物に置き換える感情転移)，③物(異性への愛情・性欲を，その人物の身につけていた物に置き換えるフェチシズム*)などがあげられる。〔矢沢康代〕

おきくさん【お菊さん】ロチ*の小説。1887年の作。フランスの若い海軍士官が日本に来て，長崎でお菊という娘とひと夏を過ごし，やがて別れるという物語。異国情緒と哀愁に富み，明治中期の日本社会の変

貌(へんぼう)の経過がとらえられている。

おきくむし【お菊虫】 アゲハチョウ科の一種ジャコウアゲハ*の幼虫およびさなぎをいう。皿屋敷(さらやしき)伝説(→播州(ばんしゅう)皿屋敷)の主人公〈菊〉の死後，多数発生したのでこの名があるという。幼虫はウマノスズクサ類の葉を食べ，全身に肉とげ状の突起が多数あり，黒ないし黒かっ色で，中央部に乳白色の帯がある。さなぎは奇異な形態をしており，黄だいだい色で多数の突起があり，〈菊〉が後ろ手に縛り上げられた姿であるともいわれている。

おきくらげ【沖水母】 腔腸(こうちょう)動物・ハチクラゲ綱・オキクラゲ科。かさは半球状，直径7cmほどで，8本の触手をもつクラゲである。美しい紫紅色を呈し，黒潮に乗って漂っている。完全な外洋性のクラゲだが，秋の初めごろ日本の太平洋によく流れつく。

おきごんどう【沖巨頭】 哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・ゴンドウクジラ科。シャチモドキともいう。雄は体長5.7mほど，雌は小さい。シャチに似て歯は強大だが背びれが小さい。世界じゅうの暖海に大きな群れで広くすみ，おもにイカを食う。→ゴンドウクジラ

オキサイドイエロー ⇨黄色酸化鉄

オキザリス［*Oxalis*］ 植物学的には双子葉植物 カタバミ科・カタバミ属のことであるが，一般的にはハナカタバミのことをさす。ハナカタバミはアフリカ原産の多年草で，日本でははち植えにする。葉はカタバミ*に似て大きく，地下に球茎をもつ。秋に直径3cmほどの紅色・淡桃色・白色などの花をつける。

オキザロさくさん【オキザロ酢酸】 $HOOC\text{-}CH_2CO\text{-}COOH$ 生物体内に広く見いだされる有機酸の一。主としてリンゴ酸の酵素的酸化によって生ずる。トリカルボン酸回路の物質代謝が行なわれるとき，その中間過程で重要な役割をになっている。すなわち，オキザロ酢酸は，炭水化物や脂肪の分解の結果生ずるアセチル-CoA(アセチル助酵素A)から，2原子の炭素単位を受け取ってクエン酸を形成する。このようにして生じたクエン酸がさらに分解していく過程で生物は必要なエネルギーを獲得するのである。→トリカルボン酸回路

オキシカルボンさん【オキシカルボン酸】 アルコール酸，オキシ酸ともいう。一分子内にカルボキシル基(-COOH)とアルコール性水酸基(-OH)とをもつ化合物の総称。両方の基が同一の炭素に結合しているものをα-オキシカルボン酸，となり合った炭素に結合したものをβ-，さらにもう一つ炭素を隔てるとγ-というように接頭語をつけて表わす。この類の化合物には乳酸・リンゴ酸・マンデル酸・酒石酸・クエン酸など，動植物界に広く分布し，糖類やアミノ酸に関連した構造をもつものがある。γ-およびδ-オキシカルボン酸は分子内で水を失って環状の分子内エステルを生じる。これらのエステルをそれぞれγ-ラクトン，δ-ラクトンという。〔石戸良治・荒木洋之助〕



隠岐諸島 島民所得の6分の1を占める漁業は，各所に発達している内湾と付近の隠岐堆などの漁場の存在が好条件となっている

オキシゲナーゼ［oxygenase］ 酸化酵素*の一種。基質にはいろいろな種類の化合物がある。体内で必要な代謝物ばかりでなく，生体に異物である化合物までも酸化する。酸化のしかたは分子状(空気中)の酸素からの酸素原子が直接に基質を酸化するしくみで，2個の酸素原子が基質の構造にはいるときと1個はいるときとがある。前者の場合には鉄や銅のような重金属を必要とすることが多い。

オキシさん【オキシ酸】 ①オキシカルボン酸*の略称。②酸素酸ともいう。酸素原子を分子内に有する無機酸のことで，水素酸に対応する語である。イオンとして解離して酸になりうる水酸基をもっている。過塩素酸・塩素酸・亜塩素酸・次亜塩素酸・過ヨウ素酸・硝酸・硫酸・リン酸などがこれに属する酸である。

おきしじみ【沖蜆】 軟体動物・二枚貝類・マルスダレガイ科。殻(から)は径5cmほどのほぼ円形の貝でよくふくらんでいる。殻表(かくひょう)は白いが，黄かっ色の皮でおおわれ，内面は青白い。本州中部以南台湾までの内湾の浅い泥底(でいてい)や干潟(ひがた)にすむ。外観がシジミにやや似ているがシジミの同族ではなく，また，沖合いにいるものでもない。肉は食用となる。

オキシダーゼ ⇨酸化酵素

オキシダント［oxidant］ 大気汚染物質に強い太陽光があたってできた非常に活性の高い酸化物の総称。目・呼吸器に強い刺激を与える。大気汚染物質は一酸化炭素・亜硫酸ガス・炭化水素類・窒素酸化物・煤煙(ばいえん)などが主体となっているが，これらのうち二酸化窒素が太陽光によって分解され，一酸化窒素と原子状酸素を生じる。こうして生じた原子状酸素は非常に活性が高く，他の酸素や大気汚染物質と一連の化学反応を起こしてオゾンや無水硫酸，各種過酸化物を与える。これら酸化型汚染物質を総称してオキシダントというが，特に酸化力の強いオゾンやパーオキシアシルナイトレート(PANと略称される過酸化物の一つ。化学式RCO_3NO_2)を主としてさす場合もある。晴れた日ざしの強い日によく起こる光化学スモッグはこれらのオキシダントを主体としている。→公害

〔石戸良治・荒木洋之助〕

オキシトシン［oxytocin］ 脳下垂体後葉ホルモンの一つで，分子量約1,000のポリペプチド*。視床下部の特定の神経細胞で産生，脳下垂体後葉に貯蔵され，必要に応じて分泌される。平滑筋，特に子宮筋の収縮を促進する作用があり，分娩(ぶんべん)に必須(ひっす)のホルモンである。また，授乳婦人の乳腺(にゅうせん)に働いて，乳汁(にゅうじゅう)分泌射出作用もある。

オキシドール［oxydol］ 過酸化水素*を2.5～3.5%含む水溶液。オキシフルの商品名で知られる。無色透明でわずかにオゾン臭があり，弱酸性。酸化性の殺菌消毒剤で傷口の洗浄・止血に用いる。3～10倍に薄めたものをうがいに用いるが，濃いものは粘膜を刺激するので注意が必要である。また，毛髪の脱色，器具の洗浄，漂白剤などにも使用する。金属に触れたり，光にあたると分解して酸素を発生するので，かっ色びんに入れて冷暗所にたくわえるのがよい。

おぎじま【男木島】 香川県高松市の沖合い7kmにあり，もとはその南の女木島*とともに，香川郡雌雄島村をつくっていたが，1956年(昭和31)に，高松市に合併した。面積1.2km^2，人口800。カコウ岩の山地に段々畑をつくり，麦・サツマイモ・雑穀・イチジクを栽培し，ウシを飼い，サワラやタコをとっている。島民は屋島の合戦に敗れた平家の子孫と称している。雨が少なく，年降水日数は90日以下で，天水を貯蔵している。〔浅井得一〕

おきしょとう【隠岐諸島】 島根県に属する日本海上の一群の島々で，もとは隠岐として一国をなし，かつては周吉(すき)郡の西郷町・布施村，穏地(おち)郡の五箇村・都万(つま)村，海士(あま)郡の海士町，知夫郡の西ノ島町と知夫村の4郡3町4村に分かれていたが，1969年(昭和44)4月1日4郡合併して隠岐1郡となった。面積347km^2，人口30,000。

北東に最大の島である島後(どうご)(243km^2)があり，南西にはひとまとめにして島前とよばれている西ノ島(56km^2)・中ノ島(33km^2)・知夫里島(13km^2)の3島を中心とする島々がある。島後・島前とも付属の小島がきわめて多く，合わせて約180に達する。すべて火山島で，島後は流紋岩，島前は玄武岩などの台地や丘陵を主とし，平地は少なく，最高点は島後の東南にある大満寺(だいまんじ)山(608m)である。島後には南流する八尾川，北流する中村川がある。島前は，西ノ島の南端にある焼火(たくひ)山(452m)を中央火口丘とし，西ノ島・中ノ島・知夫里島を外輪山とするカルデラ*と考えられている。対馬(つしま)海流が島をはさんで流れるため，気候は比較的温暖で，中心集落である島後南岸の西

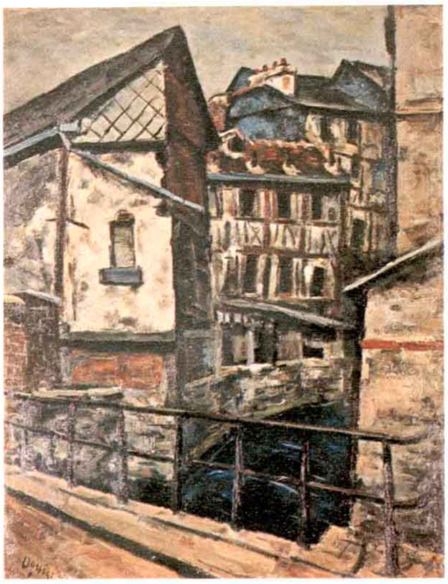
郷の年平均気温は13.8℃，1月の平均が3.7℃，8月が25.8℃，年降水量は1,888mmである。年平均気温はほぼ同緯度にある福井に等しいが，1月の平均気温が1.3℃高く，また東京の1月よりも0.4℃低い。西ノ島に後醍醐(ごだいご)天皇の行在所跡と伝えられる黒木御所跡があるが，その近くの海岸にはえているクロキヅタという熱帯性の海草は，日本では隠岐と愛媛県にしかみられないもので，天然記念物に指定されている。

歴史時代には遠流の地として知られ，後鳥羽(ごとば)上皇・後醍醐天皇や歌人の小野篁(たかむら)などが流されている。後醍醐天皇の行在所は，西郷町下西にあったという説もあるが，はっきりしない。在島19年の後鳥羽上皇の行在所跡は，中ノ島北部の小丘勝田山にある。後鳥羽上皇の〈われこそは新島守(にいじまもり)よ〉や，小野篁の〈わたの原八十(やそ)島かけて〉の歌は，流人の心境をうたったものとして名高い。鎌倉時代には近江(おうみ)(滋賀県)の佐々木氏が隠岐の守護となり，室町時代には京極氏，戦国時代には尼子氏・毛利氏の所領であったが，江戸時代にはいって堀尾(ほりお)氏・京極氏の所領となり，1638年(寛永15)以来幕府の直轄領，1720年(享保5)からは，幕府領のまま松江藩松平氏が預かり地として支配してきた。1869年(明治2)隠岐県となり，まもなく大森県に合併し，翌1870年浜田県となり，その後島根県・鳥取県を経て，1876年以降島根県に編入されて今日に至る。

江戸時代には，麦やダイズ・アズキ・アワ・ヒエ・サツマイモなどの牧畑と漁業を主とし，干しアワビ・イリコ・スルメなどの海産物は，幕府の手で集められて長崎から中国へ輸出されていた。明治以降，牧畑で飼われていた役牛が肉牛に代わり，牧畑にはスギが植林されるようになり，今日，牧畑は島前の一部にわずかに残存しているにすぎない。近海には広い大陸棚(たいりくだな)があり，隠岐堆(おきたい)などのすぐれた魚礁があって，日本海でもイワシ・アジ・サバなどのすぐれた漁場となっているが，境港・浜田・香住(かすみ)など本陸から出漁してくる大形漁船に圧倒されて，島の漁業は沿岸の零細漁業に甘んじており，古くから知られているスルメイカの生産も昭和初期以来不振である。

海岸の海食地形がすぐれているほか，史跡も多いので観光価値は高く，大山(だいせん)隠岐国立公園に指定されている。鳥取県の境港(さかいみなと)から，おもな四つの島に至る隠岐汽船の定期便があり，境港から島後の西郷までの直航便で3時間15分かかる。島後・中ノ島・西ノ島には，一畑電鉄のバス路線がある。島後の南端に隠岐空港(3種)があるが，現在定期便は廃止されている。〔浅井得一〕

オーキシン ［auxin］ 植物生長物質・植物生長素ともいう。植物の茎や根の先端でつくられ，その生長を促進させる物質。高等植物から発見されたインドール酢酸などの植物ホルモン(天然オーキシン)と，これら天然物質と同じ活性を示す合成薬品(合成オーキシン)の総称。ただし，ジベレリン類は独自の作用をもつのでオーキシンに含めない。オーキシンは幼茎の伸長生長，茎・根からの発根，茎組織の細胞分裂，吸水・原形質流動の促進などの作用があるが，一般に高濃度では阻害的に，低濃度では促進的に働くことが認められている。しかし，植物の種類・器官・組織によってその最適濃度が異なり，また同じ組織でも老幼によって差がある。植物に対するオーキシンの作用機作はまだ不明の点が多いが，核酸・タンパク質代謝と密接に関係しているものと考えられている。頂芽優先や屈性などの現象も，組織内のオーキシンの分布によって説明される。→アベナテスト〔吉田精一〕



荻須高徳《ルーアン(オー-ド-ロベック小橋から)》1934 紀伊国屋書店梅田店蔵



翁 天下泰平の翁舞を舞うシテ(梅若六郎)。右前方に千歳が平伏している。後方の小鼓方は，この曲特有の作法で烏帽子をつけている

おぎすたかのり 【荻須高徳】(1901～) 洋画家。愛知県の生まれ。藤島武二(たけじ)に師事，1927年(昭和2)東京美術学校卒業と同時に渡仏し，1941年に帰国，建物を主とした風景画で知られ，1948年の再渡仏後はパリに在住，国際的に活動している。新制作協会会員。

おきたま 【置賜】 〈おいたま〉ともよぶ。山形県南部地区の米沢(よねざわ)・長井・小国の3盆地とそのまわりの山地を含んだ地域で，行政上は米沢・長井両市と東置賜郡・西置賜郡に分かれる。かつては南置賜郡もあったが，郡内の各村が米沢市や東・西置賜郡に編入されて1958年(昭和33)に自然消滅した。最上(もがみ)川の上流部が米沢・長井の両盆地を北流，荒川が小国盆地を西流する。面積約2,500km²，人口約22万。古くは陸奥(むつ)の一部で，712年(和銅5)出羽(でわ)に合併され，中世には地頭長井氏，戦国時代には伊達(だて)氏の支配下にあったが，1591年(天正19)に伊達政宗(まさむね)が岩出山に転じて以来，蒲生氏郷(がもううじさと)の領地となった。1598年(慶長3)以後，江戸時代を通じては上杉(うえすぎ)氏の知行地となり，米沢から荒川に沿って越後(えちご)平野北部へ通ずる米沢街道が開かれ，産業では生糸をはじめ上布や蚊帳(かや)の原料になる麻の青苧(あおそ)やロウ・漆などの特産で知られていたが，いまでは生糸を除いてほとんど残っていない。現在は米沢街道に沿って米坂(よねさか)線が走る。〔浅井得一〕

おきつ 【興津】 千葉県勝浦市の南部地区。太平洋岸に面する漁港で，上総(かずさ)丘陵が海岸に迫り，市街地は海岸を走る道路に沿って細長く続く。市街地南方の高さ100m，距離4kmの断崖(だんがい)は，〈おせんころがし〉の景勝地として広く知られる。房総東線興津駅の北東方にある守谷(もりや)海食洞(かいしょくどう)には，古代人の穴居跡が残り，西方には日蓮宗(にちれんしゅう)四本山の一つ妙覚寺がある。また付近は鵜原(うばら)理想郷や行川(なめがわ)アイランドなどの行楽地に富み，南房総国定公園の一中心である。〔浅井得一〕

おきてがき 【掟書】 法令。鎌倉末期ごろから戦国時代にかけて多く使われたことば。なかでも戦国大名の家法(→分国法)や豊臣秀吉(とよとみひでよし)の法令などは特に重要であるが，村落には村掟などの自治的規約もあった。

おきな 【翁】 能楽の式典曲。正月・祝賀・追善など，儀礼的な催能のはじめに上演される。他の能と違って戯曲的な筋はなく，一曲が能の儀式になっている。登場人物は翁・三番叟(さんばそう)(三番三)および露払い役の千歳(せんざい)の3人。翁はシテ方，三番叟は狂言方がつとめる。観世・宝生2流では千歳はシテ方の役で，別に狂言方から面箱持が出，金春・金剛・喜多流では千歳が面箱持を兼ねて狂言方が演ずる。翁が舞台で白式尉(はくしきじょう)の面をつけ，天下泰平を祈って舞ったあと，三番叟が五穀豊穣(ほ

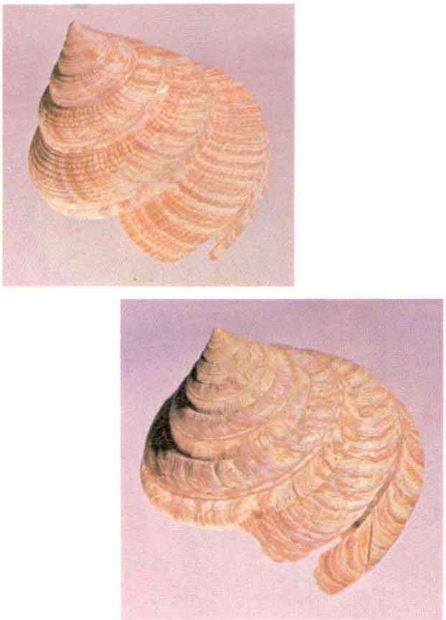
うじょう)を願い，前半は活発な揉(もみ)の段，後半は黒式尉の面をつけて鈴を振りながら飄逸(ひょういつ)な鈴の段を舞って，一曲を終わる。囃子(はやし)は笛，小鼓3人，大鼓。小鼓3人は他に例がない。面は白式・黒式ともほほえんだ老人の面相で，切顎(きりあご)といって下あごが動くようになっているのが特徴。能の《翁》は仏教の行法から出ていると伝えられ，芸能の古い形態が認められるが，民間信仰に起源があるともいわれ，各地の民俗芸能に素朴(そぼく)な《翁》が残されている。歌舞伎(かぶき)や三味線(しゃみせん)音楽に与えた影響も大きい。〔小林　責〕

おきなあめ　【翁飴】　あめ菓子の一種。寒天に水を入れて煮とかした中に砂糖を加えてとかし，とろ火にかけあめを入れて煮つめ，煮つまったら型に流し固める。包丁で適宜の大きさに切り，みじん粉*にまぶし，焙烙(ほうろく)で乾燥し，オブラートに包む。1790年(寛政2)越後(えちご)(新潟県)高田の高橋孫左衛門(まござえもん)が創製したもので，現在も同地の名物となっているが，その後各地で製造されるようになった。

おきなえびす　【翁戎】　軟体動物・腹足類・オキナエビスガイ科の巻き貝。チョウジャガイともいう。殻(から)は高さ・直径とも10cmほどの円錐(えんすい)形。この殻はエビスガイの殻に似ており，江戸時代の貝学者である武蔵(むさし)石寿が1833年(天保4)の著書で，エビスガイの老成したものとしてオキナエビスの名を与えた。しかしエビスガイとはまったくの別種であり，殻の入り口のところに細長く深い切れ込みがはいっているのが特徴である。オキナエビスの類は古生代・中生代に大いに栄え，多くの種類が化石として残っているが，現生種は世界で10種しかなく〈生きている化石〉の一つに数えられている。これらの現生種は，白っぽい地はだに橙赤(とうせき)色の火炎模様がはいる美しい殻の色彩と殻の形が互いに似ている。このうち日本沿岸の深い海底から，オキナエビスを含む6種が採集されている。ベニオキナエビスという種類は土佐沖で多数とれている。しかし，リュウグウオキナエビスという種類は，世界じゅうでも標本が非常に少ない大珍種である。明治初年，世界的にオキナエビス類が珍しがられたころ，採集者に多額の報酬が与えられたことから，チョウジャガイ(長者貝)という別名が生まれたといわれる。〔菅野　徹〕

おきなかし　【沖仲仕】　船内荷役に従事する港湾労務者をいい，作業の場所たる船が岸壁にあっても沖にあってもいう。船内荷役事業者の下にあり，フォアーマン・ウインチマン・デッキマンおよび一般作業員らからなっている。その作業は，船舶側と船内荷役事業者側の契約によって行なわれる。

おきなぐさ　【翁草】　双子葉植物・キンポウゲ科。山野にはえる多年草。茎は高さ



オキナエビス　(上)オキナエビス
(下)リュウグウオキナエビス

20cm，根はゴボウ状。葉は根もとより出て羽状に深く切れ込み，全体に長い白毛がはえる。4～5月に暗赤紫色の花を一つ下向きにつける。果実には長く白い毛がある。根を白頭翁といい，漢方で消炎・止血薬として用いる。

おきなわ　【沖縄(県)】　九州から台湾へかけて，太平洋上をほぼ南西方向に連なる沖縄諸島*にある県をいう。南西諸島*の南半部で，もとは〈琉球(りゅうきゅう)〉といい，1879年(明治12)に沖縄県が生まれてから，沖縄とよばれていたが，第2次世界大戦後アメリカが統治するようになってからは，再び琉球を公称としていた。北東端の沖縄本島*から南西端の与那国(よなぐに)島まで，約400kmの海域にわたって，大小60余の島々があり，沖縄本島を中心とする狭義の沖縄諸島，宮古島*を中心とする宮古諸島，石垣(いしかき)島*・西表(いりおもて)島*を中心とする八重山諸島*，沖縄本島東方の大東諸島*，八重山諸島北方の尖閣(せんかく)諸島*などに分かれる。

面積は2,245.87km²で，神奈川県よりもやや大きく，人口は111万9,000(1980)で，第2次世界大戦前の2倍に近く，奈良県よりやや多い。1km²あたりの人口密度は498人で，日本の平均より高い。第2次世界大戦前からアメリカ合衆国，特にハワイをはじめとして多くの移民を出していたが，戦後もボリビアをはじめおもに南アメリカへ移民が出ている。県木はリュウキュウマツ，県花は5月ごろ濃赤色の花をつけるマメ科の植物デイゴ*，県鳥は沖縄だけに生息するノグチゲラ。

1969年の佐藤＝ニクソン共同声明で，1972年中に沖縄が返還されることにきまったが，その前の1968年2月1日アメリカ民政府のアンガー高等弁務官により，琉球政府の行政主席を公選制によって選出する旨の発表があり，これに基づいて同年11月10日初の主席選挙が行なわれ，屋良(やら)朝苗主席による新政権が12月1日より発足した。アメリカ民政府と琉球政府とは，いわば統治者と被統治者を代表するものであるが，復帰をまえに1970年3月24日発足の〈施政権の移転の準備に関する諸措置についての現地における協議及び調整のため〉設置された準備委員会や，従来の沖縄に関する日米協議委員会，それに1970年11月からの第64臨時国会以来の沖縄選出議員の国政参加などとあいまって，政治面での沖縄の本土化は急速に進められたのである。

1972年5月15日，沖縄の復帰が実現した。復活した沖縄県は，県庁のある那覇(なは)以下10市8町35村に分かれている。

【自然】すべて火山島で，まわりには隆起サンゴ礁が発達し，干潮時には枝のように広がった干瀬(ひし)が島々を巡らしている。台地状の地形で高山はなく，石垣(いしかき)島の於茂登岳(おもとだけ)(525m)が最高峰である。



沖　縄　(左)石垣島のパイナップル畑　沖縄で産出されるパイナップルの大部分は石垣島で栽培されている　(右)上比屋付近のサンゴ礁海岸　平原の突き出たムイ川の先には東平安名崎が望まれる(宮古島)



沖　縄　県

平地は沖縄本島中南部や宮古島・石垣島などにみられるほか一般に少なく，大きな川もない。

気候は高温多湿の亜熱帯的な気候で，那覇の年平均気温は22.3℃，最低の1月でも平均16.0℃に及び，年間を通じて気温の差が少ない。沖縄本島では1月下旬にサクラが咲き，田植えは2月中旬から3月にかけて行なわれ，7月が収穫期で，二期作の場合には7～8月に田植えをし，11月に取り入れる。7月から11月にかけて南太平洋から北上する台風の進路となって，多い年には30回，少ない年でも8回は台風が通過し，しばしば大きな被害を受ける。島々では防風林・防潮林を植え，家屋は軒を低く柱を多くつくり，まわりを石がきなどで囲って台風に備える。降水量はきわめて多く，雨天日数は年平均200日にも及び，那覇の年降水量は2,118mmに達する。しかし琉球石灰岩とよばれるサンゴ礁によって生成された石灰岩におおわれた島が多いので，しばらく雨が降らないと水不足になる。

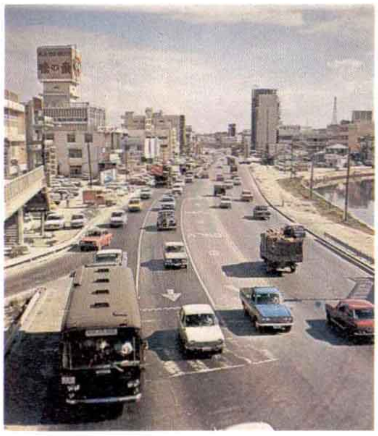
アダン・モクマオウ・ガジュマル・ソテツ・バショウなど，熱帯性・亜熱帯性の植物が多く，バナナやパパイアも実る。アダン・モクマオウは防潮林，ガジュマルは屋敷防風林として役だっている。石がきのまわりには，ブーゲンビリアやブッソウゲの花が，四季を問わず咲きにおい，海岸には熱帯特有のマングローブが繁茂し，八重山地方ではヤシがみられる。また，西表島には1967年に新属新種として発表されたイリオモテヤマネコがおり，そのほかダイトウコウモリ・ハブ・ジュゴン・ノグチゲラなどの珍しい動物が各地に生息し，〈東洋のガラパゴス諸島〉とよばれる生物学の宝庫である。

〔産業・経済〕 就業人口は**42万7,000**で，産業三大別人口比は13：**23**：**64**。古くから農業と漁業が主産業であったが，第2次世界大戦以後は約38,000人が軍雇用員としてアメリカ軍基地関係の労務に従事し，商業・サービス業などの就業人口も急増した。県民所得は戦前まで全国都道府県中最低であったが，戦後は基地経済によって潤い，1977年度の1人あたりの所得は**91万3,000円**で，全国の**47位**であり，そのあとには青森・鹿児島の2県がひかえているだけである。しかし，1972年度まではおおむね46位で，鹿児島県に次いで全国最低であった。復帰後はドルから円経済への移行によって，一時混乱があったが，まもなく平静をとりもどした。しかし本土からの資金の流入や業者の進出によって，地元の産業は圧迫を受け，物価の上昇も本土以上に激しく，いろいろと問題が多い。

全面積のおよそ18％が耕地で，約43,000ヘクタール(1974)あるが，農家戸数は4,8000戸(1975)，1戸あたりにすれば0.90ヘクタールで，全国平均の0.91ヘクタールと大きな差はないが，これは最近において都市近郊と離島の農家の離農が目だって多くなった結果であって，1972年には農家戸数60,000戸，1戸あたりの耕地は0.77ヘクタールであったのに，わずか3年間で⅕の離農というのは，ほかにあまり例がない。アメリカ軍の基地建設による耕地の接収は，耕地の減少をもたらし，特に沖縄本島では全軍用地の48％がもとの耕地および宅地である。

主要農作物はサトウキビとパイナップルで，米・サツマイモなどもつくり，葉タバコの特産もある。しかしサトウキビもパイナップルも政府の保護を受け，買取ってもらわなくては輸入品に対抗できない作物である。サトウキビは復帰後の開発ブームや沖縄海洋博工事のための労務者不足もあって，耕作をやめる農家が続出し，1974年には115万tしかとれなかったが，これは1968年の244万tにくらべれば半分以上の減産である。パイナップルは戦前はわずかに試作的に栽培されていただけであるが，最近はサトウキビに次ぐ重要な換金作物となり，八重山諸島や沖縄本島の本部半島を中心として，いままで酸性土壌(どじょう)のために作物に適さないとされていた山地や台地の開発によって，多くの農家が栽培に従事するようになり，年産76,000t(1974)に達する。米の二期作も一部で行なわれるが，貧弱な土壌と台風・干害などの悪条件が重なり，年2回分の収量は本土の1回分にすぎず，平年収量約5,000tは県民の需要を満たすに足りない。家畜はブタが最も多く，農家1戸あたり平均2頭が飼育され，農家の副業から専業化への傾向も目だっている。最近は肉用牛が増加し，ヤギ・ニワトリなども飼育される。

林野面積は約12万ヘクタールで，全域の54％を占めており，本土で一般にみられるシイやカシなどの広葉樹のほか，沖縄特有の針葉樹であるリュウキュウマツもあり，木の種類は豊富である。しかし第2次世界大戦中の乱伐や戦場となったところの荒廃が影響して，木材は不足し，フィリピンや





沖　縄　(左)軍用道路１号線　那覇市から島の北端辺戸岬まで西海岸沿いを縦走する沖縄本島の幹線道路である。写真は那覇市内で，右側に久茂地川が流れる
(右)那覇空港　那覇市街の西側，那覇港を隔てた小緑台地にある



那覇市内首里にある沖縄のシンボル守礼之門　市街を一望に見おろす丘の上にそびえ，首里王城のおもかげを伝える

本土からの輸移入が多く，また最近は開墾されてサトウキビ畑やパイナップル畑に転用される山林も多くなっている。木材の加工はおもに合板類である。

近海は魚種が多く，マグロ・カツオ・カジキ・ヒメダイ・サバ・トビウオ・イカなどの水揚げがある。駆虫剤として利用されるカイニンソウ(マクリ)や壁塗りの糊料(こりょう)となるツノマタなどの海草もとれる。かつては〈繰り船〉という小形の手こぎ船でインド洋から遠く地中海まで出漁した糸満漁夫の名が知られたが，最近は発動機船が増加し漁船の大形化も行なわれている。漁船は1967年から日の丸を掲げることを許されていたが，日の丸の上にRYUKYUSと書いた三角旗をつけなければならなかった。かまぼこや魚肉のハム・ソーセージ，かつお節など，水産加工も盛んである。

地下資源は未開発であるが，石炭など各種鉱産物の埋蔵が多く，特に尖閣諸島付近の大陸棚(たいりくだな)に石油・天然ガスの豊富な埋蔵が推定されており，最近，学術調査が進められている。特産にはトラバーチン(大理石の一種)がある。工業は製糖とパイナップルかんづめ製造が中心で，沖縄本島に多くの工場があるが，いずれも規模が小さい。その他の工業は最近は肥料・セメント・紡績・製粉・ビール・たばこなどの製造工業が興っているが，出荷額の60％は食料品で，工業の水準はきわめて低い。特産物としては種々の織物や陶器・漆器・泡盛(あわもり)などがある。本土からの観光客が近年急増し，年に約70万人に達して，その観光収入は農作物による収入を上回っているが，観光客による墓荒しなどが問題になっている。なお1975年７月19日から，76年１月18日まで沖縄本島で開かれた〈沖縄国際海洋博覧会〉の入場者は，内外合わせて348万人で，期待したより少なかった。

すでにアメリカのガルフ系の石油基地が沖縄本島にあり，民族資本による石油基地建設の計画も進められているが，公害を心配する住民の反対運動が強く，アラビア石油のように進出を断念した企業もある。

本土へ砂糖，パイナップルのかんづめやジュース，ウシなどの家畜やマグロなどの水産物を移出し，日用品・雑貨品，産業用機械類，米をはじめとする食料品を本土から移入しているが，移出よりも移入の方がずっと金額が多い。復帰後は本土からの移入品が沖縄の製品を圧迫している。

【交通・都市】沖縄本島では，第２次世界大戦時まで，那覇を中心に嘉手納(かでな)・与那原・糸満などに軽便鉄道が通じていたが，沖縄戦で壊滅して以来，今日まで鉄道はない。アメリカの占領後，軍事上の目的からも道路網はよく整備されており，南の摩文仁(まぶに)から最北端の辺戸岬(へどみさき)まで，西海岸沿いに縦走する軍用道路１号線をはじめ，各基地間を結ぶ道路の総延長は240kmに及ぶ。軍用道路１号線の主要部分は，復帰後国道58号線となっている。バス交通が盛んで，自家用自動車やタクシーの利用率も高い。海上交通は那覇，宮古島の平良(ひらら)，石垣島の石垣などを中心に航路が開け，那覇からは奄美(あまみ)大島の名瀬を経由して鹿児島や大阪との間に定期航路が通じる。航空路としては，那覇国際空港から東京・福岡をはじめ，台北・香港(ホンコン)・マニラ・ハワイなどへ定期便が発着する。

小さな島が多く都市の発達は遅れていたが，第２次世界大戦後，アメリカ合衆国の軍事基地となってから，いわゆる〈基地の町〉が発達し，沖縄本島の南部から中部にかけて宜野湾・沖縄・具志川・石川などの新しい都市が生まれた。古くからの集落としては沖縄本島の南端に近い漁港の糸満市や，北西岸の名護市，宮古島の平良市，石垣島の石垣市などがあり，戦災を受けなかった石垣市では，町並みにかつての琉球王国当時のおもかげがしのばれる。

【文化】琉球人は日本人であり，人種的には本土の住民と同じであるが，体質にはいくらか相違がある。たとえば耳あか型をみると，日本人の約80％は乾型，20％が湿型であるが，沖縄の住民は40％が乾型であるにすぎない。また言語は琉球語で，日本語の本土方言と対立する大方言であり，千数百年前に同一の祖語から分離したものとされ，《古事記》や《万葉集》などにみられる古語が，いまも多く含まれていて，言語学的には貴重である。しかし現在は，日本語を標準語とし，琉球語は方言として存在しているだけである。

沖縄の文化は，沖縄独自のもののほか，日本本土・中国・南方から伝えられたものが混じっている。建築では首里にある王陵の玉御殿をはじめ，石造建築にすぐれたものが多い。工芸品では独特の色彩や焼き・味わいをもった陶器があり，那覇の壺屋(つぼや)がその生産の中心となっている。漆器は，軽くてあまりかたくないデイコやエゴの木を使ってつくり，朱塗りと青貝をはめた螺鈿(らでん)がすぐれ，繊維では〈紅型*(びんがた)〉とよぶ南国の強烈な光線に負けないあざやかな麻かもめんの色染めや，久米島紬(くめじまつむぎ)・宮古上布・八重山上布などがある。音楽は独特の蛇皮線(じゃびせん)音楽や，本土の能や歌舞伎(かぶき)に似た音楽と舞踊の組み合わせによる〈組踊り〉があり，また12世紀ごろから17世紀の初めごろまで，沖縄や奄美大島でうたわれた歌謡の〈おもろ*〉が，輝かしい文化遺産となっている。武術の空手*(からて)は，500年ほどまえから沖縄にあったものに中国の拳法(けんぽう)を取り入れたもので，大正末期から本土へも伝えられている。固有信仰としては，部落の守護神を祭る〈おたけ*〉があり，部落の旧家の娘がノロ*として，その祭りをつかさどる。また祖先を祭ることが厚く，本土にはみられないほど広大な石造りの墓があり，中国の福建省あたりの風習が伝わったものといわれている。

【歴史】沖縄に人が住みはじめたのは，新石器時代になってからで，縄文(じょうもん)土器に似た土器が出土している。文献の上で，沖縄の歴史がはっきりしてくるのは６～７

世紀のころからで，大和(やまと)地方とも交渉のあったことが《日本書紀》にみえる。このころ部落の支配者として，按司(あじ)とよばれる者が現われ，11世紀末になると，武力をもった按司が石がきで囲った城(ぐすく)に立てこもり，〈世主(よのぬし)〉と称して，いくつもの部落を支配するようになった。13世紀になると，沖縄本島の北・中・南部に3人の勢力の強い按司が立って，三つの小国家を形成し，それぞれ王と称して北山・中山・南山の3王統が分立した。〈山〉というのは沖縄語で島や村を意味し，中国人が与えたことばである。

1350年，中山に察度(さっと)王統が成立し，1372年に明(みん)の太祖から日本や安南に次いで国使の招請を受け，独立国としての沖縄の存在がはじめて認められた。察度王統は1406年佐敷の按司尚巴志(しょうはし)によって滅ぼされ，尚王統が成立した。尚巴志ははじめ父の思紹を王位につけ，父の死後即位したが，在位中に北山・南山を征討して中山王の専制支配権を確立した。しかし，領内にはその後も按司の独立勢力が強く，王位をめぐる親族間の抗争も激化して，政情不安の状態が長く続き，1469年7代尚徳の病死によって尚巴志の王統が滅亡した。

1470年には前身が伊平屋(いへや)島の農夫で，貿易官となっていた尚円が人々に推されて新しい王統を樹立し，その子尚真の治世には中国大陸や南方諸国との貿易によって経済が安定し沖縄の黄金時代を迎えた。当時の貿易は中国の陶磁器・織物などを買い求めて，ジャワ・スマトラ・ボルネオ・マライに持ち運び，蘇木(そぼく)や胡椒(こしょう)などと交易し，これをさらに中国や朝鮮に持ち込んでばくだいな利益をあげた中継貿易であった。しかし，15世紀後半以来，西洋諸国が東洋へ進出するに及んで，このような中継貿易は南方諸国から締め出され，しだいに衰退した。

日本本土との関係は14世紀後半に沖縄船が九州の坊ノ津(ぼうのつ)・飫肥(おび)・博多(はかた)・大分，近畿(きんき)の兵庫・堺(さかい)などの各港に出入りしたことに始まる。当時の沖縄の繁栄ぶりは本土でも注目されており，1591年(天正19)豊臣秀吉(とよとみひでよし)は朝鮮征伐を意図した際，薩摩(さつま)(鹿児島県)の島津氏を通じて琉球にも出兵と名護屋築城の賦役を課したが，独立国である沖縄はこの要求をいわれのないものとして拒否した。このため，薩摩と沖縄の関係は悪化し，1606年(慶長11)島津家久は徳川家康(いえやす)から琉球討伐の許可を得た。1609年家久は琉球侵略の軍船を派遣し，ほとんど武力をもたない琉球領の奄美諸島をくだし，さらに沖縄本島の首里城を攻略して，国王尚寧以下重臣100余人を捕虜とした。その後沖縄は形式的には琉球王国として残されたが，実質的には薩摩藩の属領となり，貿易は島津領内と中国との交易に制限され，住民は重税の負担に苦しんだ。

1871年の廃藩置県によって鹿児島県に編入され，翌1872年に琉球藩となり，1879年には沖縄県が設置された。沖縄はその後第2次世界大戦に至るまで，日本の南進基地として利用されたが，1945年には沖縄本島の中部以南が日本・アメリカ合衆国両軍の激戦地となり，アメリカ軍が占領を完了するまで約2か月間に那覇をはじめ多くの町が廃墟(はいきょ)と化し，軍隊と住民を合わせて約20万の死傷者が出た。学童疎開で本土へ向かう途中，アメリカ軍の潜水艦に撃沈された対馬丸(つしままる)に乗っていた小学生数百人の霊を祭る〈小桜の塔〉，戦争に従軍して自決した女学生の霊を祭る〈ひめゆりの塔〉などが戦争の痛ましさを今日に伝えている。

戦後はアメリカ軍が沖縄全域と奄美諸島を軍政下に置き，1949年に中国に中華人民共和国が成立して以来，極東の軍事基地としての機能を強めた。1951年のサンフランシスコ対日講和会議によって日本の独立が回復したのち，1953年に奄美諸島は日本に返還されたが，沖縄は日本の潜在主権を認められたままアメリカ合衆国の統治下に置かれ，最近のベトナム戦争では，アジアにおけるアメリカ軍の前線基地としての役割を果たしている。1969年，沖縄返還は政治上の重要問題となり，佐藤首相が渡米してアメリカ合衆国のニクソン大統領と会談した結果，共同声明によって，沖縄は1972年中に日本に返還されることが約束されたのである。〔浅井得一〕

おきなわ【沖縄(市)】 沖縄本島中部の市。第2次世界大戦以前は越来(ごえく)村という一農村であったが，戦後は西隣の嘉手納(かでな)村からこの地にかけて東洋一といわれるアメリカの嘉手納空軍基地があるために急激に発展した。1956年(昭和31)市制施行。人口は98,000で女子が多い。もとはコザ市といい，1972年(昭和47)沖縄の日本復帰とともに，美里(みさと)村を合併して沖縄市と改名した。コザというのは，もと胡屋(ごや)という地名があったのを，アメリカ人が誤ってよんだことからきている。市域は北の読谷岳(よみたんだけ)を頂点として舌状に広がる。産業三大別人口比は4：20：76で，市の経済はほとんど基地に依存しており，全面積の70％以上がアメリカ軍施設である。〔浅井得一〕

おきなわじま【沖縄島】 ⇨沖縄本島

おきなわしょとう【沖縄諸島】 琉球(りゅうきゅう)諸島*のうちで，北東の部分をいい，沖縄本島とそのまわりの伊平屋(いへや)諸島・粟国(あぐに)島・久米(くめ)島・宮城(みやぐすく)島・慶良間(けらま)諸島などからなっており，全沖縄の人口の87％が集まっている。

おきなわタイムス【沖縄タイムス】 沖縄の代表的日刊新聞。1948年(昭和23)7月，当時の沖縄知事がアメリカ軍政府の認可を得て，那覇(なは)市で創刊された。はじめは孔版印刷のタブロイド*で，週2回発行であったが，1949年6月活字印刷になり，同年11月から日刊となった。1952年7月に夕刊を発行，1954年3月から朝夕刊セット制を実施し現在に至っている。1958年10月日本新聞協会加盟。発行部数朝刊約15万8,000(1980)。

おきなわほんとう【沖縄本島】 沖縄島ともいう。沖縄諸島の北東端にあり，鹿児島県の与論島と20km余の海を隔てて相対している。沖縄最大の島で，面積は1,257km²で，淡路島の2倍強あり，人口は92万で，沖縄県の面積の53％の土地に，人口の88％が集まっており，1km²あたりの人口密度は731人に達する。北東から南西に延びる細長い島で，北の辺戸岬(へどみさき)から南の喜屋武崎(きゃんさき)まで約110kmあるが，幅は石川～仲泊の地峡部では3kmしかない。地形や地質も石川～仲泊の地峡部を境にして異なり，北部の国頭(くにがみ)または山原(やんばる)地区は古生層・中生層の険しい山地を主とし，北から西銘岳(にしめだけ)(420m)・与那覇岳(よなはだけ)(498m)・伊湯岳(いゆだけ)(449m)，本部(もとぶ)半島の八重岳(453m)などの山々が並ぶ。土壌(どじょう)は強酸性であるが，山地もよく開拓してパイナップルを栽培しており，また海岸の狭長な低地には水田が開けている。地峡部から那覇市までは中頭(なかがみ)地区(中部地区)，それより南は島尻(しまじり)地区(南部地区)で，第三紀の琉球(りゅうきゅう)石灰岩の台地を主とするが，よく開発されて，おもにサトウキビがつくられている。中頭はまたアメリカ軍の基地の集中しているところで，宜野湾市の普天間に軍司令部，嘉手納(かでな)村に村の面積の88％を占める空軍基地がある。島尻は，第2次世界大戦の沖縄戦最後の激戦地で，南端の孤立した摩文仁岳(まぶにだけ)(91m)付近には，慰霊碑が林立している。

おもな産業は，パイナップルとサトウキビを主とする農業で，パイナップルかんづめと砂糖が重要な移出品となっている。また養豚は戦前から盛んであり，戦後は養鶏も行なわれているが，鶏卵はまだ自給できない。もともと耕地面積が少ないうえに，アメリカ軍が基地として耕地の多くを接収しているので，1戸あたりの耕地面積は国頭で55アール，中頭で32アール，島尻で50アールしかない。そのため，基地からの直接・間接の収入にたよって生活しているところが多く，特に中頭地区では目だっている。工業は農産加工業を除けば，セメント・合板・たばこ・ビールなどの工場がある程度で，そのほか織物・陶器・漆器などの伝統的な工芸品があり，また最近は観光収入が年々増加している。

国頭地区は，名護市と国頭郡に分かれ，国頭郡には本部町のほか，国頭・大宜味(おおぎみ)・東・今帰仁(なきじん)・恩納(おんな)・宜野座(ぎのざ)・金武(きん)の7村があり，この

ほか東シナ海上の伊江島の伊江村も国頭郡に属している。中頭地区は，沖縄本島の中枢であって，県庁のある那覇(なは)をはじめ，石川・沖縄・宜野湾(ぎのわん)・具志川・浦添(うらそえ)の6市と，中頭郡に属する与那城(よなぐすく)・勝連(かつれん)・読谷(よみたん)・嘉手納(かでな)・北谷(ちゃたん)・北中城(きたなかぐすく)・中城・西原の8村がある。島尻地区は糸満(いとまん)市と島尻郡に属する与那原(よなばる)町のほか，沖縄本島には豊見城(とみぐすく)・東風平(こちんだ)・具志頭(ぐしかみ)・玉城(たまぐすく)・知念・佐敷(さしき)・大里(おおざと)・南風原(はえばる)の8村があり，沖縄県では村はすべて〈そん〉と読む。なお，島尻郡はこのほかに離島の仲里以下10村を含んでおり，そのうちの北・南大東(だいとう)村は，沖縄本島から東へ約400km²も離れた太平洋上の大東諸島にある村である。また，久米島の西部は具志川村，東部は仲里村であるが，沖縄本島にも同名の具志川市があるのでややこしい。➜沖縄 ➜沖縄諸島 〔浅井得一〕

おきなわりょうり【沖縄料理】 沖縄で発達し，油脂(おもにラード)をたっぷり使った独特の料理。中国との交流が盛んであったため中国料理の影響を受け，見た目に美しい日本料理のよさを取り入れ，両者の長所を合わせもっている。おもな材料と料理は次のとおりである。

〈豚肉〉沖縄のブタは美味で安価に入手できるので，よく用いられる。頭から尾まで皮・血液・内臓もじょうずに使い，捨てる部分はほとんどないほどである。チム(肝臓)とマーシ(腎臓(じんぞう))の酢みそあえ，ミミガー(耳皮)のさしみ(耳の軟骨をゆでたもの)，アシテビチ(足をぶつ切りにし，コンブ・ダイコンとともに長時間煮込む)，ソーキグニ(肋骨(ろっこつ))のしる(肉つき肋骨とコンブ・野菜の煮込みじる)，ナカミ(胃と腸)の吸い物(ナカミを油いためしてゆで，繊切りとし，肉のだしじる，かつお節のだしじるを合わせた中にシイタケの繊切りとともに入れ，塩・しょうゆで味つけ香辛料を振り入れる)，ラフテー(三枚肉や赤肉をゆでて角切りにし，しょうゆ・だしじる・泡盛(あわもり)・砂糖・みりんを加え，はしでちぎれるようになるまで長時間煮る)，血いり(血液のいためもの)などが有名である。

〈豆腐〉沖縄の豆腐はかたくて，揚げ物・いため物につごうがよいので，あらゆる料理に用いられている。代表的なものは季節の野菜1種を用いて油いためするチャンプルー(豆腐を手でちぎって油いためしたのち野菜を加えていため，塩・酒で調味し，仕上げに卵をといて混ぜ入れる。野菜は緑豆もやし・ニガウリ・ラッキョウ・ニラ・カラシナ・ダイコンなど)で，そのほかカラスガー(小魚の塩辛)で食べる冷やっこ，とうふよう(豆腐を発酵させたチーズ様のもの)などがある。〈野菜〉ゴーヤー(ニガウリ)・ナーベーラー(ヘチマ)・シブイ(トウガン)・カラシナ・チブル(ユウガオ)・フーチバー(ヨモギ)などがよく用いられる。〈魚〉さしみ・から揚げ・しるもの・煮物にする。

〈ご飯もの〉セーファン(繊切り野菜と薄焼き卵をご飯の上に色どりよくのせ，熱いしるをかける。茶づけ代わりにする)，ジューシー(豚肉・かまぼこ・野菜のたきこみご飯。ブタのだしじるやラードを加えた濃厚なもの)，フーチバージューシー(ヨモギと豚三枚肉を入れた味つけご飯)がある。 〔塩川ふみ〕

おきにめすまま【お気に召すまま】 シェークスピア*の喜劇。1599年または1600年の作と推定される。弟に位を奪われた公爵と兄に追放されたオーランドーが，アーデンの森に住み，その牧歌的生活の中で，やがてやってきた娘たちとの間に恋愛が生まれる。爛熟(らんじゅく)した宮廷文化からのがれた人々が田園生活を楽しむ模様を描き，甘美な恋や荒々しい格闘の場面，あるいは人生への自嘲(じちょう)に満ちた警句を交え，複雑な人生模様が織りなされている。

おきのえらぶしま【沖永良部島】 〈おきえらぶしま〉ともいう。鹿児島県の徳之島と与論島の間にあり，大きさでは奄美(あまみ)諸島*中第3の島で，大島郡和泊(わどまり)町・知名町に分かれる。面積95km²，人口18,000。最高点は在日アメリカ軍のレーダー基地のある大山の245mであるが，大部分はサンゴ礁の石灰岩からなる低平な島である。地表水の乏しいこの島では，地下の鍾乳洞(しょうにゅうどう)にたまった水が女たちの苦しい水くみ作業によって利用されてきたが，いまは簡易水道が普及している。奄美諸島のうちでは比較的耕地に恵まれ，サトウキビ・バナナ・パイナップルがつくられるほか，純白の大花数十輪をつけるエラブユリの特産があり，球根は輸出されている。和泊町国頭(くにがみ)に空港があり，鹿児島へ定期便が出ている。大小300の鍾乳洞があり，昇龍洞(しょうりゅうどう)などは観光資源として脚光を浴びようとしている。 〔浅井得一〕

おぎのがくせつ【荻野学説】 荻野久作(1882～1975)が1924年(大正13)に発表した人類黄体に関する学説。正常成熟婦人では平均4週の周期で月経が反復し，月経と月経のほぼ中間の時期に，卵巣では下垂体前葉から分泌される性腺(せいせん)刺激ホルモンの作用により，成熟卵胞が破れて卵子が排出する。これを排卵といい，排卵後卵胞は黄体となる。1924年までは多数の学者は月経から排卵までの期間に意義を求めて努力してきたが，荻野は排卵から月経までの期間に意義を求め一定の法則を発見した。荻野によると，黄体の寿命は14±2日で，排卵は次回月経前12～16日の5日間に起こる。しかも，排卵の時期は月経周期の長短にかかわらずつねに一定不変である。この学説を受胎調節に応用する方法を，わが国では一般にオギノ式とよんでいる。つまり，受胎期間は精子の生存期間3日を加えて次回月経前12～19日となり，この期間中は避妊用の器具や薬品を用いるか，あるいは禁欲することによって受胎調節を行なう。➜避妊法 〔木川源則〕

なお，荻野久作は愛知県豊橋(とよはし)に生まれ，本姓は中村。1909年(明治42)に東京帝国大学医学大学を卒業，産婦人科教室にはいり，のち新潟市の私立竹山病院長となる。新潟市名誉市民。 〔大島蘭三郎〕

おぎのぎんこ【荻野吟子】 (1851～1913) 医師免許証を得た日本最初の女医。武蔵(むさし)(埼玉県)大里郡奏(はた)村の生まれ。16歳のとき結婚したが，まもなく離縁。1873年(明治6)東京に出て，国学者であり医学者でもあった井上頼圀(いのうえよりくに)について学び，その後女子師範学校にはいり，1879年に卒業。さらに下谷(したや)にあった好寿医院にはいって医学を修め，1882年に卒業。1885年医術開業試験に合格，東京本郷で開業。1890年牧師と結婚，北海道へ渡って医業を行なったが，1908年東京へ帰った。

おきのしま【沖ノ島】 ⇨大島(福岡県)

おきのしま【沖ノ島】 高知県の南西端，宿毛(すくも)湾の湾口近くにあり，宿毛市に属する。高知県最大の島で，面積12.2km²，人口はかつて3,000近くあったが，いまでは1,700に減少している。山がちで，最高点は妹背(いもせ)山(404m)。海岸には断崖(だんがい)が多いが，西岸に狭い平地があって，ここに母島(もしま)と弘瀬(ひろせ)の集落がある。サツマイモやハダカムギをつくり，イワシ・カツオの漁業を営むが最近は不振で出かせぎが多い。アコウ・ビロウなどの亜熱帯性植物が茂り，キクメイシなどの造礁サンゴの間を縫って泳ぐ熱帯魚コバルトスズメダイなどの色とりどりの魚が美しい。風土病のフィラリア*があり，かつては300人もの患者がいたが，現在ではほとんど根絶された。 〔浅井得一〕

おきのとりしま【沖ノ鳥島】 南硫黄(みなみいおう)島の南西約680km，北緯20°25′，東経136°03′の地点にある南北に細長い無人の環礁で，周囲がおよそ11kmあるが，大部分は海面下に没している。パレセベラ礁またはダグラス礁ともいい，17世紀の初めにスペイン人が発見した。1931年(昭和6)の内務省告示で，小笠原(おがさわら)支庁管下に編入，第2次世界大戦後アメリカ合衆国の統治下にあったが，1968年に他の小笠原諸島の島島とともに，日本に復帰した。日本の最南端である。 〔浅井得一〕

おきぶたい【置き舞台】 日本舞踊を演じるとき，足のすべりをよくし，また足拍子*を共鳴させるために，舞台の上に敷きつめる檜(ひのき)製の舞台。

おきぶみ【置文】 古文書*の一様式。現在ならびに将来にわたって遵守すべき事がらを定めた文書で，寺院の開山・開基，寺僧が定めた規式，武家の譲状*などにしるさ

れた遺言・遺訓はその代表的なもの。近世では書き置きという。

オーギー-マーチのぼうけん 【オーギー-マーチの冒険】 ベローの小説(1953)。シカゴ生まれのユダヤ青年オーギー-マーチが，高校卒業後，自活するために強盗の手伝いやメキシコでのトカゲ狩りなど，さまざまな体験をする物語で，社会との妥協を拒否して真実を追求する彼の姿を，ピカレスク小説の形式で描いている。

おきや 【置屋】 私娼(ししょう)や芸者の寄寓(きぐう)する遊女屋。太夫(たゆう)などの高級遊女は，客をとる場合，揚屋(あげや)や引き手茶屋へ送り込みとなり，遊女をかかえておくだけで客を揚げなかった置屋とは機能がはっきり分かれていた。江戸ではさらに踊り子の系統を引く町芸者が，子ども置屋から茶屋・船宿へ呼ばれる方式がとられた。吉原(よしわら)では張り見世をし，遊女屋で売春するケースも多かったが，上方ではもっぱらこの方式をとったので，置屋は上方系のことばとなった。1871年(明治4)の売春条例に，芸妓(げいぎ)置屋の名称が使われたので，略称としての〈置屋〉は昭和まで存続した。〔稲垣史生〕

オーきゃく 【O脚】 両下肢(りょうかし)をそろえて立ったとき，両下肢が内方凹(おう)の湾曲を示すもの。下肢の体重線は膝(ひざ)関節の内側を通る。湾曲のおもな部位により大腿(だいたい)内反・下腿内反および内反膝(ないはんしつ)とよばれる。生理的・くる病性・少年性および症候性があるが，新生児の大部分はO脚が正常であり，生後3年を過ぎるころには消失する。下腿の内旋を伴うことが多く，疼痛(とうつう)などで歩行に障害のあるときや著しい変形時には治療の対象となる。

おぎゅうそらい 【荻生徂徠】 (1666～1728) 江戸初期から中期の儒学者。名は双松(なべまつ)，字(あざな)は茂卿(しげのり)，徂徠は号。徳川綱吉(つなよし)の侍医方庵(ほうあん)の第2子として江戸に生まれた。一時柳沢吉保(よしやす)に仕えたが，のち日本橋茅場町(かやばちょう)に塾を開き，朱子学を批判して山鹿(やまが)素行・伊藤仁斎とともに重きをなした。また伊藤仁斎の古義学派に対して古文辞学派とよばれる近世古学派の一派である蘐園(けんえん)学派を創始した。主著《蘐園随筆》《政談》《弁道》《弁名》。門人に太宰(だざい)春台・服部南郭らがいる。

おぎょう 【御形】 双子葉植物・キク科。春の七草の一。ハハコグサの別名。

おぎわらしげひで 【荻原重秀】 (1658～1713) 江戸中期の幕臣。通称彦次郎(ひこじろう)。勘定所の下役・勘定組頭(くみがしら)を経て，1696年(元禄9)勘定奉行(ぶぎょう)。三千七百石を与えられ，近江守(おうみのかみ)に任ぜられた。金銀含有量の低減した金銀貨(→元禄(げんろく)金銀)を鋳造し，その利益で窮乏した幕府財政を救済した。しかし悪貨が流通して物価が上昇したため経済界に混乱を招いて庶民の不評をかい，またわいろをむさぼるなどの私曲が多かった。1712年(正徳2)新井白石の弾劾を受けて罷免。〔松尾 涼〕



荻原守衛《坑夫》1909 碌山美術館蔵

おぎわらせいせんすい 【荻原井泉水】 (1884～1976) 俳人。東京の生まれ。東京大学言語学科卒業後，河東碧梧桐(かわひがしへきごとう)の新傾向俳句に共鳴，のち1911年(明治44)にこの派の中央誌《層雲》を創刊。季題や五・七・五の定型を離れ，内部生命のリズムを表現のリズムとする自由律俳句を主張した。おもな著作は《井泉水句集》《昇(のぼ)る日を待つ間》《旅人芭蕉(ばしょう)》など。

おぎわらもりえ 【荻原守衛】 (1879～1910) 明治末期の彫刻家。碌山(ろくざん)と号した。長野県穂高町の生まれ。小学校卒業後農業に従事していたが，1899年(明治32)上京し，キリスト教に接近，また不同舎で小山正太郎に洋画を学ぶ。1901年渡米，アート-スチューデント-リーグなどで学び，戸張孤雁(こがん)を知る。1903年渡仏，1904年のサロンでロダンの《考える人》を見て感動し，いったんアメリカに帰り1906年再度渡仏して彫刻に転向し，ロダン・ブールデルらを知る。1908年イタリアを旅行して帰国。太平洋画会に所属，文展にも作品を発表し，わが国にはじめてロダン以後の近代彫刻をもたらした。高村光太郎とともに明治末期の彫刻界に果たした役割は大きい。彼の唱導した〈生命の彫刻〉は，当時の若い美術家に大きな影響を与え，中原悌二郎(ていじろう)らの彫刻家を生むことになった。代表作には《坑夫》《北条虎吉(ほうじょうとらきち)像》《文覚》《女》などがあり，生地の穂高町には碌山美術館が設けられている。〔陰里鉄郎〕

おく 【邑久(町)】 岡山県の南東部，邑久郡に属する町。人口19,700。1952年(昭和27)6町村が合併してできた。吉井(よしい)川下流のデルタ地帯に位置し，方格状の道と溝渠(こうきょ)，地名などに条里遺構がみられる。主産業は農業で，岡山市・西大寺市の商圏・通勤圏内にある。

おくあいづ 【奥会津】 福島県会津地方南部一帯をいうが，狭義には只見(ただみ)町以南の只見川上流と伊南(いな)川の流域をさす。上信越との国境に近い山岳地域で，第2次世界大戦後只見川の電源開発で脚光を浴び，尾瀬沼へ至る一つのコースとして多くのハイカーが訪れている。

おくがいこうこく 【屋外広告】 屋外において公衆を対象にして掲出される広告。看板・野立て看板・広告塔・ネオンサイン・ポスター・アドバルーンなどの媒体が含まれるが，今日においては，媒体よりも宣伝活動にいかに〈屋外〉を活用するかということが主要な問題になっている。現在屋外広告物として最も注目されているのは，ネオンサインを含む広告塔であろう。その設置する場所を選ぶことができ，また，一定期間ある地点に継続的に定置しうるということは，選択した訴求対象に対して，長期間にわたって行なう広告活動であればこそ，その効果を強めることを可能にする。さらに，平面的なグラフィックな広告活動に比べて立体的であり，しかも照明による〈光〉の効果はより強い訴求効果をもたらす。ひところ，鉄道沿線の無神経な野立て広告や都市における醜悪なネオンサインが人々に非難されたが，それらは，企業の〈環境〉に対する無神経さとデザイナーの未熟さに起因していて，屋外広告そのものはなんら非難さるべき性格のものではなかった。そればかりか，都市・建築などの〈環境〉と有機的に結びついて，より豊かな生活のために機能しうるともいえよう。〔武井邦彦〕

おくきぬおんせんきょう 【奥鬼怒温泉郷】 栃木県塩谷(しおや)郡，鬼怒川峡谷に沿って散在する温泉群で，川俣(かわまた)・八丁ノ湯・加仁湯(かにゆ)・手白沢・日光沢の5温泉を総称したもの。湯量豊富で，泉質は単純泉とイオウ泉とがあり，森林に囲まれた素朴(そぼく)な温泉で知られる。天然記念物の湯沢噴泉塔がある。日光国立公園内にあり，尾瀬や奥日光へのハイキングコースも開かれている。東武鉄道鬼怒川温泉駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

おくじょうていえん 【屋上庭園】 1909年(明治42)創刊の文芸雑誌。北原白秋・木下杢太郎(きのしたもくたろう)・長田秀雄(ひでお)による同人誌で，都会趣味・異国情緒にあふれた耽美(たんび)的傾向が強く，《スバル》の衛星誌と考えられる。蒲原(かんばら)有明・永井(ながい)荷風らも寄稿した。第2号(1910)掲載の白秋の《おかる勘平》の，大胆な官能描写のために発禁処分を受けて廃刊した。

おくじょうるり 【奥浄瑠璃】 古浄瑠璃

の一種で，陸奥(むつ)(東北地方)で行なわれたのでこの名があり，仙台(せんだい)地方に郷土芸能として伝えられているので〈仙台浄瑠璃〉ともよばれ，土地の人々は〈お国浄瑠璃〉ともよんでいる。仙台藩が保護していたという。伴奏には，三味線(しゃみせん)，古くは琵琶(びわ)や扇を使った。浄瑠璃の起源とされる《浄瑠璃姫物語(十二段草子)》に由来するのか，平曲*や幸若舞*に由来するのかは明らかでない。題材は，古浄瑠璃に手を加えたもの，新たに東北地方を舞台にした話を語るものなど，あくまでも語りのおもしろさをねらった芸能であるので，音楽的には複雑なくふうはない。代表的な曲目は,《御所の的》《田村三代記》《丸山物語》《迫合戦》などである。〔山口　修〕

オークション [auction] 美術品・家具などの競売をいう。自由な競売と，遺産相続人のない死亡者，破産者などの場合などに行なわれる強制的な競売とがあり，後者の早い例として16世紀のフランスで行なわれたものがあげられる。また，17世紀のオランダでは自由な競売も盛んであった。現在,世界的な競売所にパリのパレー-ガリエラ，ロンドンのサザビーとクリスティ，ニューヨークのパーク-バーネットがある。

おくしりとう【奥尻島】北海道渡島(おしま)半島の西岸から約20km離れた日本海上にあり，檜山(ひやま)支庁に属し，全島が奥尻町となっている。面積143km²，人口5,600。北海道の属島では利尻島に次いで大きく，約500年前から人が住む。丘陵性で，神威(かむい)山が最高点，海岸には段丘の発達が著しい。西海岸の海食の風景は豪放で，檜山道立自然公園の一部となっている。主産業は漁業で，南端に青苗，東岸に奥尻の2港があり，イカ・マス・ホッケ・アワビ・ウニ・タコ・ワカメなどの漁獲がある。段丘上には水田や畑が開かれ，米やジャガイモをつくり，ウシを飼っている。江差(えさし)から青苗と奥尻へ毎日定期船が出，青苗とは3時間，奥尻とは2時間40分で結ばれ，夏には観光客が多い。〔浅井得一〕

おくだえいせん【奥田穎川】(1753～1811) 江戸後期，京都の陶工。当時の文人間に流行した中国趣味に伴う煎茶(せんちゃ)趣味を反映して，中国の陶磁器の写しに優作を残した。門下から青木木米*などの逸材を出し，京焼の先駆として知られる。

おくただみダム【奥只見ダム】福島県南会津郡檜枝岐(ひのえまた)にある。阿賀野(あがの)川水系の只見川の上流に，1961年(昭和36)に完成した重力式ダム。高さ157m，総貯水量606億100万m³で，水力発電を目的としてつくられた。只見川の電源開発計画が発表されたのは1947年だったが，その後福島県と新潟県との間に開発条件をめぐっての争いが続いたため着手が遅れ，1957年に電源開発会社によってようやく完成された。高さは,黒部(くろべ)川第4ダムに次ぎ日本第2位，貯水量は人造湖としては第1である。奥只見発電所は最大出力36万kWで,田子倉発電所に次いで日本第2位，年間可能発電量は5億2,400万kWhである。新潟県との話し合いにより，貯水の一部は魚野川支流の黒又川に落とされ，水力発電と灌漑(かんがい)に利用されている。〔木村東一郎〕



奥只見ダム　深く水をたたえる銀山湖。湖水は樹枝状に山ひだに食い込み，さながら地形の模型をみるよう。季節には湖上を定期船が走る

オクタビアヌス ⇨アウグストゥス

オクターブのほうそく【オクターブの法則】音階律，ニュランズの法則ともいう。元素の周期律が未知の時代，1865年にイギリスの化学者ニュランズが発見した法則。彼は当時知られていた約60種の元素を原子量の順に配列すると，8番めごとに性質の類似した元素がくり返し出現することを認め，これを音楽におけるオクターブにちなんでオクターブの法則とよんだ。この法則は当時の学会では認められず，メンデレエフ*による元素の周期律が発見されて再び想起された。なお，下表中でGはベリリウム，Boはホウ素，Diはプラセオジウムとネオジウムの混合物，Roはロジウムを表わす。➔周期律表　➔下表〔三輪誠・野宮健司〕

オクターブの法則　ニュランズの元素配列

1 H	8 F	15 Cl	22 Co, Ni	29 Br	36 Pd	42 I	50 Pt, Lr
2 Li	9 Na	16 K	23 Cu	30 Rb	37 Ag	44 Cs	53 Tl
3 G	10 Mg	17 Ca	24 Zn	31 Sr	38 Cd	45 Ba, V	54 Pb
4 Bo	11 Al	18 Cr	25 Y	32 Ce, La	40 U	46 Ta	56 Th
5 C	12 Si	19 Ti	26 In	33 Zr	39 Sn	47 W	52 Hg
6 N	13 P	20 Mn	27 As	34 Di, Mo	41 Sb	48 Nb	55 Bi
7 O	14 S	21 Fe	28 Se	35 Ro, Ru	43 Te	49 Au	51 Os

おくたま【奥多摩】東京都西部の多摩川上流域一帯をいい，秩父(ちちぶ)多摩国立公園の東部にあたる。東京都の最高峰である雲取山(2,018m)をはじめ，七ツ石・三頭・鷹ノ巣(たかのす)・六ツ石・御前の諸山からなるハイキングコース，周辺に多摩湖温泉・小河内(おごうち)神社・大麦平展望台などをもつ奥多摩湖，奈良時代に東国鎮護のために開かれ，その後関東における山伏の修験場(しゅげんじょう)であった御岳(みたけ)山，溪谷美(けいこくび)の鳩ノ巣(はとのす)，日原川上流の鍾乳洞(しょうにゅうどう)などがあり，東京近郊の行楽地として利用者が多い。〔菊池万雄〕

おくたまこ【奥多摩湖】東京都西多摩郡奥多摩町にある人造湖で，多摩川の上流に建造された小河内(おごうち)ダム*によってできた。満水面積4.36km²，水面高度525m。水は多摩川の水位が低下せぬように放水され，羽村町で水道用水として取水される。秩父(ちちぶ)多摩国立公園*に所属し，東京都民の日帰り行楽地として人気がある。

オクタンか【オクタン価】ガソリン*のアンチノック性*を数量的に表わす指数。標準物質としてアンチノック性の高いイソオクタン(2,2,4-トリメチルペンタン)とこれが低いn-ヘプタンのオクタン価をそれぞれ100および0と定め,ガソリンのオクタン価はこれら2種の炭化水素を混合して得られる各種オクタン価(混合物中のイソオクタンの容積百分率の数値)の標準燃料とアンチノック性を比較して求められる。炭化水素のオクタン価は，一般に芳香族および分枝状脂肪族(イソパラフィン・イソオレフィン)が最も高く，直鎖状脂肪族(n-パラフィン・n-オレフィン)が最も低い。また四エチル鉛・四メチル鉛などのアンチノック剤*をガソリンに微量添加すると，オクタン価が著しく上昇する。ガソリンとしては高オクタン価成分に富むことが欠くことの出来ない条件であり，市販されているガソリンのオクタン価は並級で90～91，特級で100～101程度である。〔原　伸宜〕

おくちちぶ【奥秩父】埼玉県秩父市以西の山地一帯をいい，秩父多摩国立公園*の北部にあたる。三国山・唐松尾(からまつお)山・雲取山などの高峰が連なって山岳美・溪谷美(けいこくび)を形成する。三峰山は古くから山岳信仰の中心地で東日本に広い信仰圏をもち，山腹の三峰神社にはふもとからロープウエーが通じ，本殿は県の文化財に指定されている。峡谷美の中津峡も著名である。

おぐちびょう【小口病】夜盲症*の一種で，先天性眼科疾患。眼底を見ると，一般に眼底が黄白色をおびて，霜降り状またははげかかった金箔(きんぱく)様に輝いて見える。暗室に入れておくと，数時間後眼底はほとんど健常と同様になる。これを水尾現象という。本病は遺伝病であって劣性遺伝をし，両親が血族結婚である場合が多く，治療法はない。小口忠太により1906年(明治39)に発見されたのでこの名がある。

オクチャブリスト ⇨十月党

おくつおんせん【奥津温泉】岡山県苫

田(とまた)郡奥津町にある温泉。泉温34～50℃。吉井(よしい)川支流の奥津川に沿い，奥津・川西・大釣(おおつり)温泉に分かれている。泉質はアルカリ性単純泉で，胃腸病・神経痛・婦人病などにきくといわれる。中国山地中では屈指の天然温泉で，湯原・湯ノ郷とともに美作(みまさか)三湯とよばれる。付近一帯は奥津溪*(おくつけい)とよばれ，そこの甌穴(おうけつ)群は天然記念物として有名。姫新(きしん)線津山駅からバスの便がある。

おくつけい【奥津溪】岡山県北東部，吉井(よしい)川上流の溪谷で，苫田(とまた)郡奥津町に属する。急流がカコウ岩を刻んで，河岸段丘がよく発達し，天然記念物に指定されている多数の甌穴(おうけつ)がある。なかでも大釣(おおつり)甌穴が名高く，9個あるうちの最大のものは東西4.55 m，南北3.57 m，深さが2.12 mもある。シャクナゲ・ツツジ・モミジが美しく，錦(にしき)川ともよばれて，カジカやホトトギスも多い。両岸に奥津・川西・大釣の奥津温泉*群があり，冬にはスキーもできる。この付近の子女の足踏み洗たくの奇習は名高い。〔浅井得一〕

オグデン［Ogden］アメリカ合衆国ユタ州北部，グレートソルト湖東岸にある工業都市。人口170,000(1960)。南パシフィック鉄道とユニオン-パシフィック鉄道の分岐点であり，交通上の要地。製粉・精糖・かんづめ製造(特に肉)工業が盛んである。

おくとね【奥利根】利根川本流上流域一帯をいい，上信越高原国立公園*の南東部を占める。深山幽谷と温泉群に恵まれ，登山・観光・保養・行楽の地として知られる。特に雄大な山岳美を誇る谷川岳や水上・湯檜曾(ゆびそ)・法師・猿ケ京(さるがきょう)などの温泉は京浜地区にも近く，四季を通じて行楽客が多い。

おくないはいせん【屋内配線】建造物内部の電燈・電熱用などの電気設備や，機械器具を使用するために設けられる電気配線および付属品の総称。屋内配線には回路方式・設計・施工方法・工事材料・配線器具・信号通信配線・検査などの問題がある。

〔回路方式〕電気方式のおもなものは，①単相2線式，②単相3線式，③3相3線式，④3相4線式，⑤直流2線式，⑥直流3線式がある。①②は電燈・小形器具類の回路に，③は電動機回路に，④は電燈・電動機の共用回路に，⑤⑥は直流を必要とする工場・映画館に用いられる。わが国では電燈の標準電圧は100 Vであるが，大形ビルでは設備費の経済を考えて，幹線には100または200 V単相3線式，400 V級の3相4線式などを採用する。電動機回路としては200 V 3相3線式が最も普通であるが，近年は400 V級3相回路が増加しつつある。

〔設計〕まず屋内の負荷分布を決定し，これに基づいて，電気方式・工事方法，電圧降下の計算(普通2％程度)，電圧降下の経済的配分，回路の保護方式などを検討する。

〔施工方法〕これには，①絶縁電線の碍子(がいし)による支持，②裸電線の碍子による支持，③絶縁電線を管・ダクトなどに収めて施設する方法，④導体をダクト内に収める方法，⑤ケーブルを用いる方法，などがある。

〔工事材料〕絶縁電線(600 V ビニル絶縁電線・600 Vゴム絶縁電線・600 Vスチレンゴム*絶縁電線)・ケーブル・コードが用いられる。従来，これら電線の導体としては銅が用いられてきたが，今後の傾向としてアルミニウムの使用がふえるであろう。電線接続材料・鋼製パイプ・硬質ビニルパイプ・可撓(かとう)パイプなども用途に応じ多種多様である。

〔配線器具〕各種スイッチ・開閉器・ヒューズ・電流制限器(家庭で使われるサービスブレーカー)・差し込み接続器*・ソケットやレセプタクル・漏電警報器などがある。

〔信号通信配線〕屋内用としては，電話管路・電気時計・拡声放送・信号表示・火災報知・インターホン，ラジオ・テレビ共聴など，それぞれの用途に応じて施工される。

〔検査〕工事の規模によりかなりの隔たりがある。検査は新設検査と定期検査に分かれ，前者は電気工作物完成後，使用に先だって行なわれ，後者は定期的(たとえば隔年に1回)に絶縁抵抗を測定し記録する。

また火災の恐ろしさを合わせ考えるとき，電気工作物の安全性はいくら強調してもすぎることはないであろう。〔田村康男〕

オークニー(諸島)［Orkney］イギリス，スコットランドの北東にある約90の島々からなる群島。面積970km²，人口18,000(1964)。イギリス領。北方のシェトランド諸島とともに北海の出入り口にあり，両度の大戦に海軍基地として重要な役割を果たした。ポモーナとホイが主要島で，中心集落ギルクワールはポモーナ島にある港町である。875年ごろノルウェー人が居住したが，1468年スコットランド王ジェームズ3世に嫁したノルウェー王女の持参金といわれ，以後スコットランド領となった。島民は半農半漁の生活を営んでいるが，諸島の3分の2は無人島である。〔大崎　晃〕

おぐに【小国(町)】熊本県阿蘇(あそ)郡の町。人口11,000。阿蘇山の外輪山の北側，筑後(ちくご)川の支流杖立(つえたて)川が流れる小国盆地の中心。久大本線の恵良(えら)駅から宮原線が通じている。まわりの山地に産する〈小国スギ〉は良材として名高く，多雨のために生長が早い。また，シイタケの栽培や役肉牛・オーストラリアから輸入した乳用牛の飼育が盛んである。南隣の南小国村を含めて小国地方と総称され，屋根に千木を置いた民家が見られる。北部の大分県境に近い所に杖立温泉がある。なお山形県西置賜(にしおきたま)郡にも小国町(人口12,000)がある。

おくにかぶき【阿国歌舞伎】1603年(慶





奥村土牛
《鳴門》 1959 山種美術館蔵



奥村政信 《佐野川市松の人形使い》東京国立博物館蔵



オクラ 花と果実

長8)春，出雲(いずも)大社の巫女(みこ)国(出雲阿国*)と名のる女性が，京都で歌舞伎踊りとよばれる芸能を始めた。それまでは〈ややこ踊り〉とよばれた小歌踊りだったものをいくらか劇的に構成し，歌舞伎者(はでな姿で放縦な生活をした当時の遊侠(ゆうきょう))が茶屋に通う風俗を演じた。この芸能を阿国歌舞伎とよぶ。歌舞伎の創始である。

おくにっこう【奥日光】 日光国立公園*のいろは坂・馬返以西をさす。火山の男体山・白根山，火口湖の五色沼，堰(せき)止め湖の菅沼(すがぬま)・丸沼・大尻沼(おおじりぬま)，湿原の戦場ケ原，火山山麓(さんろく)の光徳牧場などがあって風物は変化に富む。特に中禅寺湖の近くは，湯滝・龍頭滝(りゅうずのたき)・華厳滝(けごんのたき)など瀑布(ばくふ)に富み，また湖畔の中宮祠(ちゅうぐうし)・立木観音・養魚場なども著名で，観光・行楽の地となっている。茶ノ木平や明智平(あけちだいら)は中禅寺湖・華厳滝・男体山などが一望されるので名高い。

おくにとごへい【お国と五平】 谷崎潤一郎*の戯曲。1幕。1922年(大正11)《新小説》に発表され，同年帝国劇場で初演された。お国は若党の五平とともに，恋の恨みで夫を討ったかたき池田友之丞(とものじょう)を3年越しに捜し歩き，ついに捜しあてて切りつけるが，友之丞は死の間ぎわ，お国は自分にも身を任せたことがあったと言って息絶える。あだ討ちの美名に隠された愛欲の恐怖と葛藤(かっとう)が話題をよび，好評を博した。谷崎戯曲の代表作の一つであり，1952年(昭和27)には映画化もされている。

おくのほそみち【奥の細道】 芭蕉*(ばしょう)の代表的な紀行。1689年(元禄2)3月末，門弟曾良*(そら)を伴って江戸を立ち，関東・奥羽・北陸を遍歴して，9月6日美濃(みの)(岐阜県)の大垣(おおがき)から伊勢(いせ)神宮に出発するまで，日数150日，行程2,400kmに及ぶ旅行記である。この旅の動機は未知の辺境へのあこがれ，歌枕(うたまくら)や名所旧跡の探訪のほかに，地方俳壇の開拓も目的の一つであったらしい。この旅で芭蕉は自然と人生に思いをはせ，古人の詩心に接し，ますますその芸術境を深めた。内容は必ずしも旅の忠実な記録ではなく，随処に創作・虚構を交え，あくまでも独立した文芸作品として，全体の変化・統一が図られている。句・文のみごとな調和・交響など，芭蕉の俳文の最も完成された形を示し，後世に大きな影響を与えた。なお，同行した曾良の《曾良随行日記》は貴重な参考資料である。

おくはらせいこ【奥原晴湖】 (1837～1913) 日本画家。下総(しもうさ)古河藩の家老池田重太郎の三女として生まれ，同藩の牧田水石について学んだが，さらに江戸で明(みん)・清(しん)諸家の技法を研究した。明治初期，女流ながら豪放磊落(らいらく)な画風で，当時の南画壇に名声を得ていた安田老山と文人画に覇(は)を競った。

オグバーン［William Fielding Ogburn］(1886～1959) アメリカの社会学者。1929年19代アメリカ社会学会会長。ギディングス*の教えを受けた彼は，その著書《社会変動論》の中で物質的文化が非物質的文化に先行するという，いわゆる文化的遅滞の理論を説き，文化人類学・文化社会学に大きな影響を与えた。

おぐまひでお【小熊秀雄】 (1901～1940) 詩人。北海道小樽(おたる)市の生まれ。多くの職業を転々としたのち上京し，ナップ*に参加。プロレタリア文学運動解体期の動揺と沈滞の中で，風刺詩や叙事詩によって新風を吹き込んだ。ことに日中戦争下の抵抗詩は高く評価され，詩集に《飛ぶ橇(そり)》《小熊秀雄詩集》《流民詩集》がある。

おくみ【衽】 おおくびともいう。くびはえりのことで，大きいえりの意。おくみは，長着の左右の前を重ね合わせるために，前身ごろに縫い足す布。並幅の半幅を使い，その裁つ形で棒おくみ・かぎおくみ・姥(うば)おくみ・柳裁ちおくみがあったが，現今は棒おくみのみ。→和裁

おくみさがり【衽下がり】 おくみ*をつけるのに，肩山から下げる部分。女23cm，男19cm。

おくみやたけゆき【奥宮健之】 (1856～1911) 社会運動家。父は土佐藩の陽明学者。自由民権運動に参加し，1881年(明治14)自由党に入党。1882年，鉄道馬車の敷設で失業状態にあった東京府下の人力車夫300余名を集めて人力車夫大懇親会を開き，車会党*を結成したが，直後に巡査に暴行して投獄された。1883年出獄。1884年鹿児島に向かう途中名古屋に滞在，名古屋事件*を指導したため無期懲役に処せられた。1904年出獄後欧米を旅行した。自由民権思想から社会主義思想に接近，1910年大逆事件*で検挙され，幸徳秋水*らとともに無実を叫びながら刑死した。〔岸野淳子〕

おくむさし【奥武蔵】 埼玉県南西部の正丸峠を中心とした県立自然公園。関東平野に臨む丘陵性の山地で，古くから秩父(ちちぶ)と東京を結ぶ近道であった正丸峠は眺望

(ちょうぼう)がよいので有名であり，現在ここを西武鉄道秩父線がトンネルで抜けている。付近には雄大な岩山の伊豆ケ岳(いずがたけ)，また名栗(なぐり)川や高麗(こま)川の渓谷(けいこく)があってつりやハイキングでにぎわう。

おくむらいおこ【奥村五百子】(1845〜1907) 愛国婦人会*の創立者。肥前(佐賀県)唐津(からつ)の東本願寺派，高徳寺住職の娘。父兄の討幕運動を助け，男装して萩(はぎ)藩へ使したこともある。1880年(明治13)ごろ朝鮮の志士金玉均*・朴(ぼく)泳孝をかくまい，1894年にはソウルにおもむいた。1900年北清(ほくしん)事変のとき日本軍慰問使に参加した体験から，1901年愛国婦人会を創立。日露戦争には慰問・弔魂に上流婦人を動員し，会の飛躍的発展をもたらした。1905年には会員が46万人にも及んだ。〔岸野淳子〕

おくむらどぎゅう【奥村土牛】(1889〜) 日本画家。東京の生まれ。名は義三。梶田(かじた)半古・小林古径*につき，再興院展(→日本美術院)に出品。1932年(昭和7)に同人となる。真摯(しんし)な筆致と清澄な色彩による新古典主義風の作風で，院展日本画を代表している。→前ページ(写)

おくむらまさのぶ【奥村政信】(1686〜1764) 江戸前期の浮世絵師。出版元を兼ねた商魂と進取の気性に富む積極性は，紅絵・漆絵の着彩版画を創案し，柱絵・三幅対物という新しい画面形式を開発し，浮世絵版画の多彩な発展に寄与した。また彼の創始した浮絵*は，洋風表現の普及に端緒を開いた。→前ページ(写)

おくゆるし【奥許】 日本の伝統的な技芸・武芸の教授制度で使われることばで，奥伝ともいい，秘伝と関連がある。特に邦楽の家元制度による教授組織では，教えられる曲目が段階的に分類されていて，職業的レベルである奥許の段階に達するまでには，多大の金品・時間・儀礼が必要とされている。

オクラ [okra] 双子葉植物・アオイ科。アメリカネリともいう。熱帯アフリカ原産といわれる一年草。茎は直立し，高さ2mに達する。葉は大きく，3〜5の深い切れ込みがあり，長い葉柄をもつ。花は黄色で，中心は紅色。果実は長さ15cm前後で先がとがり，縦に脈が走る。果実は熟さないうちにとり，スープやシチューに入れたりつけ物に利用される。種子はコーヒーの代用となる。アメリカなどでは広く栽培されるが，日本では普及していない。→前ページ(写)

おくら【御蔵】 御米蔵ともいう。江戸幕府がその直轄領から集めた年貢米(ねんぐまい)・買い上げ米を収支・保管する倉庫。収納した米を廩米(りんまい)と称し，多くは幕臣の俸禄(ほうろく)として支出した。勘定奉行(ぶぎょう)に属する蔵奉行が管理した。重要なものとして江戸浅草・本所，大阪難波(なにわ)，京都二条の3蔵がある。ほかに長崎・甲府・駿府(すんぷ)(静岡)や大阪天王寺などにもあった。



オクラホマ州 州都オクラホマシチーの政庁付近。今世紀初めの油田の発見以来急速に発展し市内にも油井やぐらが多い



オクラホマ油田 年間2億3,000万バレルを採油し，現在も合衆国第4の原油生産を誇る。写真は採油所の油井やぐらと送油管

おぐらいけ【巨椋池】 京都市伏見区南部，宇治川の湾曲部南にあった池。《万葉集》に〈巨椋の入り江〉としてよまれている。古くは宇治川・木津川が注ぎ，しばしば洪水(こうずい)に悩まされたが，まず宇治川を北に迂回(うかい)させて切り離し，のち木津川も西に河道をつくって池水を安定させた。かつては面積6.65km²，周囲17km，深度約1mの大池であったが，周辺から水田化が進められ，1939年(昭和14)の干拓工事で全面水田となり，いまは池の姿はない。〔長津一郎〕

おぐらきんのすけ【小倉金之助】(1885〜1962) 科学史家・数学教育家。山形県酒田市の回船問屋に生まれる。東京物理学校卒業後，東京大学化学選科に入学したが，家業のため退学。のちに数学者として出発することを決意し，東京物理学校・東北大学に勤務した。1916年(大正5)に理学博士となり，広島文理科大学・大阪大学などで数学史の講義をする。日本科学史学会や日本数学史学会の会長，日本数学教育会の名誉会員となる。世界史的な視野のもとに数学史や数学教育を研究した。〔下平和夫〕

おぐらしきし【小倉色紙】 1235年(文暦2)藤原定家*が百人一首(小倉山荘色紙和歌)を書いた色紙形。料紙は縦20cmばかり，横16cmばかり，金・銀の切箔(きりはく)・砂子・野毛をまき美しい。歌1首を漢字を交えて4行に書いている。定家の74歳のときの筆跡で，肥厚鈍重にして生彩がないが，江戸時代には古筆のうちで最も尊重され，1枚の値段が千両であった。

おぐらしんぺい【小倉進平】(1882〜1944) 言語学者。仙台(せんだい)市生まれ。第二高等学校を経て東京大学へ進み言語学を専攻。1911年(明治44)朝鮮に渡り朝鮮語を研究，1926年(大正15)京城大学の設立と同時に教授となる。1933年(昭和8)東京大学言語学科教授。朝鮮語学の基礎的研究の確立に貢献した。《郷歌および吏読の研究》は古代朝鮮語研究を開拓し，また《朝鮮語における尊敬法・謙譲法の助動詞》は文法史の研究を深めるなど，基礎的労作である。

おぐらひゃくにんいっしゅ【小倉百人一首】 奈良・平安・鎌倉の3期の歌人100人から1首ずつ集めた歌集。選者には諸説があり，藤原定家*説が有力。定家の選になる《百人秀歌》なる書が，現存する歌がるた〈百人一首〉の原典になったことはまちがいなく，彼の選したものに後人が手を加え，現在の形に至ったと推定される。したがって成立は14世紀後半であろう。歌は《古今和歌集》から《続後撰(ぞくごせん)和歌集》までの勅撰集所載のものばかりで，恋や秋の部立(ぶだて)の歌が多く，定家の好んだ余情妖艶(ようえん)な歌風を示している。〔新藤協三〕

オクラホマ(州) [Oklahoma] アメリカ合衆国中南部の州。面積18万1,000km²，人口255万9,000(1970)，州都オクラホマシチー。1907年11月合衆国46番めの州となる。州名は〈赤い人〉の意で，クトウ-インディアン語に由来する。地域の大部分は東と南に傾斜した平均高度400mの波状地をなしている。農牧業と石油の州といわれ，経済は石油・小麦・ウシなどに依存する。土地の約80%は農地で，冬小麦の生産額は合衆国第3位。また中央部の油田地域には石油精製工業のほか各種の機械工業が発達している。工業の生産額では，食肉・製粉などの食品工業，石油・石炭業，機械工業，金属工業の順である。インディアンがわりあいに多く居住する地域でもある。主要都市，オクラホマシチー*・タルサ。〔椙村大彬〕

オクラホマ(油田) [Oklahoma] アメリカ合衆国オクラホマ州の北東部から中央部と南部に広がる油田。20世紀初めに開発され，1926年ごろには合衆国第1の採油量があった。現在では原油生産第4位で，80,000本の油井から年間2億3,000万バーレルを採油している。オクラホマシチー*をはじめ，各所に大製油所がある。

オクラホマシチー [Oklahoma City] アメリカ合衆国，オクラホマ州の州都。州の中央部にあり，商工業の中心をなす州内第1の都市。人口35万7,000(1970)。20世紀の初め，大油田が発見されて以来急速に発

達し，市域には2,000以上の油井やぐらが林立している。製粉・食品加工・繊維などの工業のほか各種輸送機械の製造などが盛んである。家畜の取引市場としても有名。オクラホマ医科大学・オクラホマシチー大学がある。〔相村大彬〕

おぐらやま【小倉山】京都市西部，嵐山(あらしやま)公園の西方にそびえる標高293 mの山。南側は保津川の渓谷(けいこく)を隔てて，その南の嵐山(375 m)に相対する。紅葉の名所として古くから有名で，特に文人の山荘が多かった。

おぐらゆき【小倉遊亀】(1895～　)日本画家。大津市の生まれ。奈良女子高等師範学校を卒業して各地の女学校に勤務したが，1920年(大正9)に安田靫彦*(ゆきひこ)に師事，再興院展(→日本美術院)に出品して，1932年(昭和7)女性としてはじめての同人となる。第2次世界大戦後は上村松園賞・毎日美術賞・日本芸術院賞を受賞した。人物画にすぐれ，静物画にも力作が多い。

オークランド［Oakland］アメリカ合衆国カリフォルニア州中部，サンフランシスコ湾東岸の港市・学園都市。人口36万8,000(1960)。カリフォルニア大学本校の所在地で，機械・化学工業が盛んである。背後の丘陵は公園の多い住宅地となり，ここから臨む湾内や金門橋*のけしきはすばらしい。1936年，世界最長のサンフランシスコ-オークランド-ベイ橋*が建設され，サンフランシスコと結ばれている。

オークランド［Auckland］ニュージーランド最大の商工業都市。人口15万3,000(1974)。北島の北部に位置し，1840～1865年の間はこの国の首都であった。商工業が盛んで，後背酪農地帯の産物を集散している。工業は製糖・食料品，さらには造船・機械工業なども活発である。大学・民族博物館などの文化施設も整い，学問・文化の中心でもある。周辺は変化に富んだ火山地形の美しい山野で，近代的な市街とあいまって非常に美しい都市となっている。

おくり【送り】日本の伝統音楽の理論用語。能では基本の地拍子からはずれるものをさす。義太夫節(ぎだゆうぶし)では語りあるいは三味線(しゃみせん)によるつなぎとしての経過句を意味し，1段を交替で演奏する場合には，送りを奏することによって円滑に受け渡しを行なう。また，ある旋律から別の旋律へ移る橋渡しの機能を果たすことも多い。種類は，小オクリ・ウオクリ・吟オクリ・フシオクリ・色オクリなど。小唄(こうた)では，唄の後奏を前奏として利用して唄が反復される場合に，三味線による後奏をこの名でよぶ。これは義太夫節からの影響とされる。尺八では，ある音を連続的に反復することをさし，技法としては指使いによる場合と息使いによる場合がある。

おくりがな【送り仮名】漢字とかなとを用いて語や文を書くときに，そこに使った漢字の読み方を明らかにするために漢字の下に書き添えるかなをいう。したがって，ある語全体を漢字か，かなだけで書く場合には送りがなはない。〈落ち葉〉〈生き物〉の〈ち〉〈き〉のかなが送りがなで，これがないと〈ラクヨウ〉〈セイブツ〉と読まれるおそれがある。送りがなは読みがなの一種で，古くは〈捨てがな〉〈副仮名(そえがな)〉ともよばれた。〈ご無事〉〈年より〉などと，接頭語や複合語の一部をかなで表わしたものは送りがなではない。送りがなは奈良時代に始まり，漢字の訓読に基づいて，漢字を読み誤らせないために，漢字に添えて，活用語尾・助詞・助動詞を万葉仮名で書いたり，漢字よりも小さく右に寄せて書いたりした。平安時代には漢字の字面(じづら)に符号(ヲコト点*)が使われたが，活用語の語尾や訓読みの語末の一部に用いられた。それがのちに漢文の訓読や漢字交じり文に漢字の誤読を避けるために使われるようになった。しかし，いわゆる送りがなは，漢字の誤読・難読をおそれてつけたもので，活用語尾とか語末の1音を示せば足りたので，あまり送らないのが普通であった。また，ときによって，送ったり，送らなかったりして，一定のきまりがなかったが，明治時代になると，教科書などの編集上統一する必要が生じたので，その送り方を示す送りがな法がいくつかつくられた。一方，従来の漢字本位のかな交じり文から，漢字かな交じり文，さらには漢字交じり文が多く行なわれるにつれて，できるだけ漢字の誤読・難読を防ぎ，動詞の自動・他動の対応をはっきりさせ，漢字の部分の読みを一定しようという合理的・教育的な考え方から送りがながしだいに多く送られるようになった。さらに従来の漢字の読みを示すふりがなが使わ

動　詞

漢字	活用語尾に続く形					
	ない ⋮ う よう	ます ⋮ た だ	(終止)	こと	ば	(命令)
読	ま　も	み　ん	む	む	め	め
考	え	え	える	える	えれ	えよ えろ
感	じ	じ	じる	じる	じれ	じよ じろ
対	し	し	する	する	する	せよ しろ
来			る	る	れ	い
見			る	る	れ	よ ろ
寝			る	る	れ	よ ろ

形　容　詞

	漢字	う	た	なる	(終止)	こと	ば
Aい	高	かろ	かっ	く	い	い	けれ
Bしい	美	しかろ	しかっ	しく	しい	しい	しけれ

形容動詞

	漢字	う	た	ある	なる	(終止)	こと	ば
Aだ	安全	だろ	だっ	で	に	だ	な	なら
Bただ	新	ただろ	ただっ	たで	たに	ただ	たな	たなら
かだ	静	かだろ	かだっ	かで	かに	かだ	かな	かなら
らだ	平	らだろ	らだっ	らで	らに	らだ	らな	らなら
やかだ	健	やかだろ	やかだっ	やかで	やかに	やかだ	やかな	やかなら
らかだ	明	らかだろ	らかだっ	らかで	らかに	らかだ	らかな	らかなら



オークランド 市の南部，アラメダ市に接する工業地区と港湾部。市域はサンフランシスコ湾の東岸に位置する

れなくなったこともそれに拍車をかけた。第2次世界大戦後，《当用漢字表》《当用漢字音訓表》が制定され，送りがなの基準となるものを定めることが要望されてきたので，1959年(昭和34)7月11日内閣訓令・同告示をもって《送りがなのつけ方》が公布され，法令・公用文・教科書などにこれが実施されている。

送りがなは，現代口語文を書く場合のつけ方の基準を示したもので，次の3か条を方針として定めたものである。

①活用語およびこれを含む語は，その活用語の語尾を送る。例：編む，編み物(編物)，編み上げる(編上げる)

②なるべく誤読・難読のおそれのないようにする。例：読み書き(読書き)，表わす(表す)

③慣用が固定していると認められているものはそれに従う。例：献立，受付

(注)かっこ内はこの基準によらない送り方

なお，送りがなは，活用する語は活用語尾を送る。名詞は原則として送らない。副詞は最後の1音を送るのが原則である。ただし，以上の原則によると，〈行った〉(いった，おこなった)，〈表した〉(あらわした，ひょうした)など同じ送りがなになるので，〈行った〉〈行なった〉，〈表わした〉〈表した〉などと区別して送る。〈現われる〉〈異なる〉〈少ない〉〈平たい〉〈後ろ〉〈幸い〉〈半ば〉〈情け〉〈祭り〉なども送る。

また，活用語尾だけを送ると，〈集る〉〈集める〉，〈悲む〉〈悲しい〉，〈暖い〉〈暖かだ〉などとなるが，漢字の読みを一定にして，〈集まる〉〈悲しむ〉〈暖かい〉と送る。しかし，読みを一定して送ると，〈明ける〉〈明かるい〉〈明きらか〉などのように送るかなが長くなるものは，〈明ける〉〈明るい〉〈明らか〉と送る。〈連れる〉〈連なる〉〈交じる〉〈交わる〉〈荒れる〉〈荒い〉なども読みを別にして送る。

誤読・難読のおそれのないものは，〈終わり〉〈行ない〉とは送らずに〈終り〉〈行い〉と送り，〈話〉〈光〉〈恋〉など慣用が固定していると認められているものは送りがなをつけなくてもよい。 〔石黒 修〕

おくりじょう 【送り状】 ⇒インボイス

おぐりただまさ 【小栗忠順】 (1827〜1868) 江戸末期の幕臣。豊後守(ぶんごのかみ)のち上野介(こうずけのすけ)。1859年(安政6)目付となり，翌年日米修好通商*条約批准書交換のためアメリカに渡った。帰国後外国奉行(ぶぎょう)・勘定奉行・町奉行・陸軍奉行・軍艦奉行などを歴任し，フランスの軍制を模倣した陸海軍の充実と洋式訓練の実施，造船所の設置など，大いに幕政改革に努めた。薩長(さっちょう)打倒を策し，フランスに協力を求め，戊辰(ぼしん)戦争では主戦論を唱えたが，江戸開城後，知行地の上野(群馬県)で官軍に捕えられ殺された。 〔善積美恵子〕

オークリッジ [Oak Ridge] アメリカ合衆国テネシー州東部，テネシー川上流の山あいにある新興都市。人口30,000(1960)。第2次世界大戦中，原子爆弾の製造のため，研究所・実験所の所員や工員の家族の住居を主体として建設された。広島・長崎に投下された原子爆弾はここで製造されたものである。核研究所と原子エネルギーアメリカ博物館がある。



オグルマ



おくんち 長崎市諏訪神社

おくりな 【諡・贈名】 死後に追贈する号。諡号(しごう)ともいう。国風諡と漢風諡がある。国風諡は703年(大宝3)持統太上天皇に大倭根子天之広野日女尊(おおやまとねこあめのひろのひめのみこと)と追諡したのを最初とし，7例にとどまるが，漢風諡は神武から桓武(かんむ)まですべての天皇にある。以後は数例を数えるばかりであったが，幕末，仁孝(にんこう)天皇より復活した。ほかに臣下に贈ったもの，私に諡号を制したもの，儒者に門人弟子(でし)より贈ったものなどがある。なお，仏門にはいって剃髪(ていはつ)したものには諡号を贈らない。 〔黛 弘道〕

おぐりふうよう 【小栗風葉】 (1875〜1926) 小説家。愛知県の生まれ。1895年(明治28)*尾崎紅葉の門にはいり，《亀甲鶴(きっこうづる)》《恋慕流し》によって認められた。のち*ツルゲーネフの影響を受けて《沼の女》などを書き，1905年には代表作《青春》を発表したが，結局は当時の自然主義思潮に遅れ，新しい文学的展開をなしえなかった。

おぐりむしたろう 【小栗虫太郎】 (1901〜1946) 小説家。本名栄次郎。東京の生まれ。印刷業など多くの職業に従事し，1933年(昭和8)《完全犯罪》で推理小説作家としてデビュー。《黒死館殺人事件》《二十世紀鉄仮面》など，特異な素材と独特の文体で注目され，伝奇小説・秘境小説を開拓した。

おぐるま 【小車】 双子葉植物・キク科。田のあぜや湿地にみられる多年草。日本・朝鮮・中国に分布する。茎は直立し，高さ20〜60cmで全体に毛があり，地下茎でふえる。葉は基部がふくらみ先はとがる。夏から秋にかけて茎の上部が分かれ，その先に直径3cmくらいの黄色の花をつける。花は旋覆花といい，健胃・利尿薬として漢方で用いられることがある。園芸品種にして，八重咲きのヤエオグルマがある。

おくんち 【お九日】 お供日とも書く。もと旧暦9月9日の*重陽の秋祭りをさしたが，のちに単に祭りの意味で用いられている。特に長崎市諏訪(すわ)神社(10月7〜9日)，唐津(からつ)市唐津神社(10月28〜30日)のおくんちは有名。諏訪神社では，龍(じゃ)踊り・オランダ万歳などの奉納踊りが行なわれ，鎖国時代に唯一の海外への窓口であった長崎の異国情緒をいまにとどめる祭りとして，多くの観光客を集めている。

おけ 【桶】 木製円筒状の容器の総称。おけ側・たが・底板の3部からなり，細長い板を縦に丸く並べ合わせ，底をつけ，たが(竹または金属製の輪)で締めた円筒形の器で，その種類はきわめて多く形状または用途によってさまざまな名称でよばれている。最も典型的な円筒状のおけには入浴用の小おけ，調理用の米とぎおけ，洗いおけ，水おけ，つけ物おけ，多量の酒を入れる醸造用大おけがある。木材豊富な日本の家庭では明治中期以降，金属製品が出まわるまで用いられた。 〔前田一枝〕

オケアノス [Okeanos] ギリシア神話の神。*ウラノスと*ガイアから生まれ，*ティタン族のひとり。テティスの夫で，河神たちやオケアニデス(海のニンフら)の父。大地を取り巻いて流れる大河で，地下の流れによってすべての川・泉と通じているとされた。太陽の沈む西の端に源があり，太陽は夜の間に黄金の舟に乗ってオケアノスを渡り，翌朝再び東から上ると考えられた。また，神々に愛された人々が死んだのち，幸福に暮らすエリュシオンの野，至福者の島島，冥界(めいかい)などと接し，そのほとりには*ゴルゴンなどの怪物やピュグマイオイなど地の果ての民が住むという。〔左中庸博〕

おけがわ 【桶川(市)】 埼玉県東部の市。1970年(昭和45)11月市制施行。人口55,000。もと中山道(なかせんどう)の宿場町，六斎市の開かれる市場町として発達し，周辺部で産するベニバナを原料とした桶川臙脂(えんじ)の特産があった。市域は大宮台地の中央部と，その東方の元荒川沿岸低地を含む。産業三大別人口比は9：42：49。台地上は畑作地帯で，低地には水田が開けるが，最近は工業地化が進んで，三井精機工業などの大工業が集まり，新興工業都市としての発展がめざましい。国鉄高崎線に沿う。また，国道17号線と同バイパスが併走する。

オケゲム [Johannes Ockeghem] (1430ごろ〜1495ごろ) ベルギーの作曲家。幼

少のころについては明らかではないが，1443年アンベルス大聖堂の歌手となり，20歳代の初めにフランス王の礼拝堂(らいはいどう)楽団にはいり，1465年にはその楽長に就任。以後この地位にあって作曲を続け，12曲のミサ曲をはじめ，シャンソンなど多くの作品を残している。非常に高度なポリフォニー*の作曲技法をもち，当時の人々は〈音楽の王〉とよんだ。代表作に《種々の比によるミサ曲》がある。〔船山　隆〕

おけさぶし　【おけさ節】　民謡の曲名。越後(えちご)にはじまる民謡で，九州北部の《ハイヤ節》が伝わってきて変化してできた。歌い出しが〈オケサエー〉であるところからこの曲名があるが，その意味はお桂(けい)さん節・おけ屋の佐助など諸説がある。佐渡に伝わってできた《佐渡おけさ》がいちばん有名であるが，ほかに《新潟おけさ》《浜おけさ》《三条おけさ》《柏崎(かしわざき)おけさ》《出雲崎(いずもざき)おけさ》《寺泊おけさ》などがある。〔山口　修〕

オケーシー　［Sean O'Casey］（1884～1964）　アイルランドの劇作家。ダブリンの貧民街に生まれ，労働運動やイギリス植民政策に対する独立運動に加わり，のち劇作を始めた。代表作は《銃上の影》《ジュノーと孔雀(くじゃく)》《鋤(すき)と星》など。いずれもアイルランド独立運動期のダブリンを舞台に，貧民の生活を写実的に描いたものである。

オーケストラ　⇨管弦楽　⇨交響楽団

オーケストラ　［orchestra］　古代ギリシア劇場のステージ（舞台）の前にある円形平面の部分で，コーラスが合唱したり，踊ったりする場所。円の中心に，アルターとよばれる机状の祭壇があり，神にささげる歌と踊りの祭りの場がオーケストラの源であったことを示している。観客席はオーケストラをすりばちの底のようにして，その周囲の半周以上も取り囲んで，同心円状に配置され，観衆がかつては周囲全体から取り囲んで見物したなごりをとどめている。劇場で演じられるものが，歌や踊りだけでなく，筋書きをもつ劇が現われ，劇の比重が大きくなるにつれて，演劇のための背景や楽屋をもつステージが発達し，相対的にオーケストラの中心的性格が薄れて，ローマ劇場では，スペースが縮小されて半円形となり，機能も伴奏席に変わった。近代劇場でも，歌劇などのような音楽の伴奏を必要とする劇の上演のために，ステージの前に観客席より低い床部分がつくられ，伴奏の楽団席とされ，オーケストラ-ボックスとよばれる。〔渡辺保忠〕

おけと　【置戸(町)】　北海道網走(あばしり)支庁の町で，常呂(ところ)川上流の北見山地の中の盆地を占めている。人口6,400。酪農やジャガイモ・ハッカ・燕麦(えんばく)などの寒冷地農業が行なわれる。林業も盛んで，池北線の置戸駅から森林鉄道が奥地に延びている。付近はわが国でも冬の寒さが最もきびしい地方の一つである。



オケラ



白朮参り

おけはざまのたたかい　【桶狭間の戦い】　1560年（永禄３）５月，今川義元*(よしもと)と織田信長*(のぶなが)の桶狭間（現在，名古屋緑区）における戦い。京都進出をめざす義元は，駿河(するが)・遠江(とおとうみ)（ともに静岡県）・三河(みかわ)（愛知県）の大軍を率いて信長の領有する尾張（愛知県）に侵入，優勢のまま沓掛(くつかけ)を経て桶狭間近くの田楽狭間に駐軍した。一方，信長は部下3,000人を率い暴風雨に乗じて義元の本営を奇襲。このため義元は戦死し，今川勢は退却した。この戦いは信長の全国制覇(せいは)への端緒となった。またこれにより，三河の松平氏*が今川氏より独立することとなった。〔松尾　涼〕

おけら　【御螻蛄】　⇨ケラ

おけら　【朮】　双子葉植物・キク科。山のかわいた所にはえる多年草。茎は高さ50cmで細くかたい。葉は下部のものは羽状に切れ込み，上部のものは長楕円(ちょうだえん)形で鋸歯(きょし)がある。秋，茎の先にさかなの骨のような包葉に包まれた白または淡紅色の花をつける。雌雄異株。若苗は食用になる。根茎を乾燥したものを白朮(びゃくじゅつ)といい，漢方では健胃薬・利尿薬として用いられる。また，正月の屠蘇散(とそさん)の一原料とされる。ごく近い仲間のホソバオケラの根茎を蒼朮(そうじゅつ)といい，利尿薬・健胃薬として用いられる。〔小清水義隆〕

おけらまいり　【白朮参り】　京都の八坂神社*で元日の早朝に行なわれる神事。参詣人は，燈火を消した拝殿で白朮(びゃくじゅつ)（➔オケラ）を混ぜて焼く神火から吉兆縄(きっちょうなわ)に火を移して家に持ち帰り，燈明に用いたり，雑煮を煮たりする。白朮の煙が邪気を払うという信仰による。

オゴウェ(川)　［Ogoué］　アフリカ大陸の赤道直下を西流する川。コンゴ共和国の中央山地に源を発し，ガボンのほぼ中央部を西流して大西洋に注ぐ。全長約1,100km。下流部の海岸平野には湖沼が多く，湿地帯を形成しており，シュバイツァー*の病院で名高いランバレネがある。

おごうちダム　【小河内ダム】　東京都西多摩郡奥多摩町にあり，多摩川上流の小河内に1957年（昭和32）に完成した重力式ダム。高さ149 m，総貯水量１億8,900万m^3で，上水道用水の確保と水力発電を目的として東京都が建設した。1932年に計画され，1938年に着工したが，1943～1947年の間は第２次世界大戦のため工事を中断している。湖底に沈む小河内村民の悲しみをうたった歌《湖底の故郷》が着工当時流行して有名になった。➔奥多摩湖〔木村東一郎〕

おごおり　【小郡(市)】　福岡県南西部の市。南は久留米(くるめ)市，西は佐賀県の鳥栖(とす)市に接している。1955年（昭和30）小郡町ほか４村が合併，1972年（昭和47）市制施行。北部には畑，南部には水田が多く，野菜・酪農・養鶏・養豚などの近郊農業が行なわれ，久留米市・福岡市への通勤者も多い。甘木線・西日本鉄道大牟田(おおむた)線が通じている。人口は41,000で，1970～1975年の増加率は21.2％。産業三大別人口比は17：22：61となっている。

おごおり　【小郡(町)】　山口県吉敷(よしき)郡の町で，山陽道の交通の要地である。人口18,000。椹野(ふしの)川の右岸に位置し，山口盆地の入り口にあたる。山陽本線と山口線・宇部線の分岐点で，国道２号線・９号線もここで合し，秋芳洞*(しゅうほうどう)や萩(はぎ)方面へのバス路線の起点にもなっている。

おこし　干菓子の元祖で日本最古の菓子。平安初期に唐から輸入された唐菓子の一種粔籹(こめ)からきている。粔籹は和名を於古之古女(おこしごめ)といい，《倭名類聚抄(わみょうるいじゅうしょう)》に〈蜜(みつ)をもって米に和して煎(い)つてつくる〉とある。〈岩おこし〉はこれに類するものである。また，興米(おこしごめ)ともいう。これは米をいってふくらますためであろう。江戸時代菓子店(かしだな)や家庭でもつくられ，関東と関西とでは製法をことにした。おこしは種類が多く，また現在でも地方の名物品とされるものが多い。東京の雷おこし，大阪のあわおこし・さざれ石，佐賀県唐津(からつ)の松原おこしなどが知られている。

〈一般的な作り方〉なべに砂糖・水あめを入れ，水を加えて火にかけて煮詰め（はしの先につけ，水に浸したものが固まりかたくなる程度。夏季においては155℃程度），火からおろして食用油を少々入れ，おこし

種(うるち米を膨張いり器でいったもの)とピーナッツか黒豆を同時に加えて手早くしゃくしで混合する。よく混ざってから枠(わく)にあけ，平たくして包丁で切る。丸めるときは，こね上げた種をさめないようにしておき，少量ずつ切り取って丸める。〔塩川ふみ〕

おこし　**【起】**　愛知県の北西端尾西市の中心地区。古くは美濃路(みのじ)の宿場町で，木曽(きそ)川の渡船場であった。もと，中島郡起町で，1955年(昭和30)尾西市に合併した。江戸時代中期以来，絹と綿を交織した結城縞(ゆうきじま)の産地として知られ，明治中期には輸出向け白もめんの産地となった。1901年(明治34)以降は尾西機業地帯の中心地となり，約2,000の工場が集まる。有料橋濃尾大橋で，対岸の岐阜県羽島市と通ずる。

おこじょ　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イタチ科。エゾイタチ，ヤマイタチともいう。雄は雌より大きく，体長21cm，尾長18cmほど。夏毛は体上面かっ色，下面白色で，尾の先端は黒色。冬毛は尾端の黒色部を除き全身純白。アジア北部・ヨーロッパ・北アメリカに分布し，日本では北海道および中部以北の亜高山ないし高山に産する。岩陰・樹洞(じゅどう)などに巣をもち，昼間もよく出歩き，人を恐れないのでよく姿を見かける。木登りや泳ぎが巧みで，おもにネズミを食べる。毛皮はアーミンとよばれ，高級品。

おこぜ　**【虎魚】**　硬骨魚類・カサゴ科のうちの数種の海産魚にオコゼの名がつけられているが，単にオコゼというと，オニオコゼをさすことが多い。オニオコゼは，25cmほどになり，普通の魚の前半分を上下に押しつぶしたような形で，頭部はひどくでこぼこである。体色は黄・赤・かっ色などいろいろで，全身の皮膚にひらひらして海藻(かいそう)を思わせるような突起がある。本州中部以南の砂泥底(さでいてい)にすむ。背びれのとげに毒腺(どくせん)があり，刺されるとひどく痛む。姿は悪いが美味で，吸い物・みそしる・ちりなべなどにして喜ばれる。ダルマオコゼは，20cmほどになり，オニオコゼよりも丸みをおび，泥色で海底にじっとしていると，いるのかいないのかわからないほどである。食用にはしないが，水族館によく飼われている。本州中部以南に分布する。ハオコゼは，せいぜい10cmにしかならない茶かっ色〜赤かっ色の小魚で，本州中部以南の岸近くにかなり多い。活動は前2種よりは活発だが，無器用な泳ぎ方をする。食用にはされない。〔菅野　徹〕

おこそずきん　**【御高祖頭巾】**　おもに婦人が防寒のために頭部を包んだ，方形の布に耳かけのひも輪をつけたかぶり物。享保(きょうほう)年間(1716〜1735)ごろから用いられ，宝暦年間(1751〜1763)に大いに流行し，明治・大正時代まで用いられてきた。着物のそでのような形をしているので〈袖頭巾(そでずきん)〉ともいう。



オコジョ

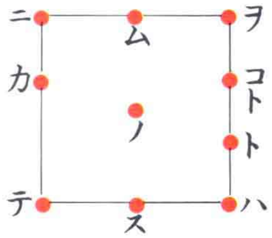




オコゼ　(上)オニオコゼ(下)ダルマオコゼ



御高祖頭巾
江戸時代の御高祖頭巾



ヨコト点
博士家点の一種



オゴノリ

オゴタイかん　**【オゴタイ汗】**　(1186〜1241)　モンゴル*帝国第2代皇帝。元の太宗。ジンギス*汗の第3子。1229年即位。カラコルムを首都とし，金を滅ぼし，バト*ゥの率いる西征軍を派遣して南ロシアを征服，モンゴル帝国の基礎を固めた。

オゴタイかんこく　**【オゴタイ汗国】**　モンゴル帝*国の四汗国の一。ジンギス汗の第3子オゴタイ*汗とその子孫の領国。アルタイ山脈以西，エミル川流域にわたる地域を含む。首都はイリ川西北エミル。モンゴル帝国の大汗の位がジンギス汗の第4子トゥルイの系統に移ったため，激しくこれと対立し，オゴタイの孫カイドゥ*汗は諸汗国と同盟して，元朝を建てたフビライ*汗に対抗した。約40年にわたったこの戦乱後，モンゴル帝国の分裂は決定的となった。カイドゥ汗の子チャパルはその後チャガタイ汗国と戦って敗れ，元朝に亡命し，オゴタイ汗国は1310年滅亡した。〔若松　寛〕

おことてん　**【ヲコト点】**　日本の古代，漢*文(仏典・漢籍類)を訓読したときに用いた符号。のちの送りがなや返り点などにあたる。漢字のわき，四すみ，四すみの中間，あるいは漢字の中央などに朱または胡粉(ごふん)・藍(あい)などで点(〈・〉〈、〉〈｜〉など種種ある)をつけ，その点の位置で読み方を示した。もと，中国で漢字の四すみに点を付して声*調(四声)を示したのにヒントを得たもののようである。寺派や学者の家がらによって点のつけ方が異なり，それぞれ秘伝として公開を許さなかった。ヲコト点を付した現存最古の文献は平安時代初期のものである。いろいろな点のつけ方を図式化したものを点図というが，そのうち普通に行なわれたのは，漢字の右肩に点をつけて〈ヲ〉と読むことを示し，〈ヲ〉の少し下に点をつけて〈コト〉と読むことを示す方式をとった点図で，これをヲコト点(乎古止点)といい，あるいはテニヲハ点ともいった。はじめはかなと点とを用いていたが，鎌倉時代以後は，訓読に点を使用することはまれになった。

オコナー　[Flannery O' Connor]　(1925〜1964)　アメリカの女流作家。大学卒業後，郷里ジョージア州の農場で不治の病と戦いながら執筆活動を続けた。〈キリスト教の正統的信仰の立場からものをみる〉という態度を堅持し，鋭角的な暗い陰影をもった力強い作品を残している。中編小説《賢い血》《激しく攻むるものはこれを奪う》のほかにすぐれた短編小説がある。

おこのみやき　**【お好み焼き】**　小麦粉を水でとき，好みの材料を入れて鉄板で焼きながら食べるもの。江戸時代の雑菓子〈麩(ふ)の焼き〉から発生したといわれる。これは小麦粉を水で練り，焼きなべの上に薄く延ばして焼き，片面にみそを塗って巻いたのがはじまりで，元禄(げんろく)(1688〜1703)ごろまで民間では春秋の彼岸に仏事用としてつくった。巻いた形が経巻に似ているためという。これが商品となって焼き麩と区別するため，麩の焼きとしたといわ

れる。江戸麹(こうじ)町の助惣(すけそう)の麩の焼きは，延宝ごろから文政ごろ(1673～1829)まで江戸の名物となって長い間庶民に親しまれてきた。明治以後一部の駄菓子屋や屋台で文字焼きと称して，文字の形に焼いて子どもに売られた。大正以後は遊びの一種として流行し，甘味・塩味のものをつくり，お好み焼きとした。《作り方》小麦粉に水・卵を混ぜてとき，サクラエビとネギのみじん切り，肉の薄切りにキャベツかタマネギの繊切り，そのほかタコ・イカなどに野菜を合わせ，といた小麦粉に混ぜ，鉄板で焼く。薬味としては紅しょうがのみじん切り，もみのり，削り節などを用い，ケチャップ・しょうゆ・ウスターソースなど好みのものをかけて食べる。〔塩川ふみ〕

おごのり【海髪】紅藻(こうそう)植物・オゴノリ科。日本各地の潮間帯の岩・小岩・貝殻(かいがら)などに着生する海藻。汽水の内湾では大形になり群生する。径1～3mmの軟骨質の体は密に羽状分枝し，高さはふつう20～30cm。雌雄異株で有性生殖の結果果胞子を生じ，これが無性世代の四分胞子体となる。あくで煮沸すると緑色になり，さしみのつまにする。また寒天原藻として重要なものの一つである。

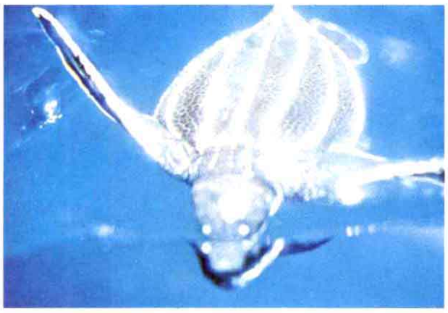
おこもり【御籠】神を祭る際に拝殿や籠堂などの一定の場所で，心身の汚れを去って清浄な状態にはいること。特に潔斎を重んじるところでは祭礼前の1か月間，あるいは三七日(21日)間とか7日間など長期にわたって行なわれたが，しだいに短縮され，現在普通には宵宮(よいみや)，すなわち祭りの前夜に精進のために徹夜することをいう。のちに昼間のおこもり，(日ごもり・昼ごもり)も行なわれるようになった。長野県上田市の生島足島(いくしまたるしま)神社の〈御籠神事〉，京都府相楽郡精華町祝園(ほうその)の〈忌籠(いごもり)祭〉などが名高い。

オコンナー［Feargus Edward O'Connor］(1794～1855) イギリスのチャーチスト運動*の指導者。はじめアイルランド独立運動の指導者オコンネル*のもとで活躍。1832年下院議員となるが，1835年議席を追われ，やがてチャーチスト運動に身を転じた。実力による人民主権の獲得を主張し，《ノーザン-スター》を機関紙とする急進的労働者団体を組織して，各地で蜂起(ほうき)を指導，1840～1841年投獄された。1845年〈チャーチスト土地協同協会〉を設立し，1847年再度下院議員となり，1848年の大請願デモを指導した。〔松下京子〕

オコンネル［Daniel O'Connell］(1775～1847) アイルランド独立運動の指導者。1828年イギリスの下院議員に選出されたがカトリック教徒のため議席を拒否され，1829年カトリック教徒解放令*成立後はじめて議席を得た。以後10年余議会にあってアイルランドの分離を主張し，1840年アイルランド併合法撤回協会を組織し，1843年大規模な人民大会を指導し，そのために投獄された。はじめは直接行動を主張する青年アイルランド党にも支持されていたが，暴力的非合法的活動を避けたため急進派と対立し，協会も分裂して失意のうちにジュネーブで客死した。〔松下京子〕



オサガニ
ヤマトオサガニ



オサガメ



尾崎紅葉

おさ【筬】織機の部分品。たて糸を並べ通すためのきわめて細かい格子(こうし)状の道具で，織り込んだよこ糸を打ち込む働きもする。格子の密度，その1目に通すたて糸の数によって織物のたて糸の密度が決定される。

おさがに【筬蟹】甲殻(こうかく)類・スナガニ科。甲らが横長の長方形で幅4cmほどのカニ。表面は青緑色，腹面は黄かっ色。目は長い柄の先についている。東京湾以南の内湾の干潟(ひがた)に穴をつくってすむ。朝鮮・中国沿岸にも分布する。近縁のものに青森以南にいるヤマトオサガニ，伊豆(いず)以南のメナガオサガニなどがあり，同じような所にすむ。

おさかべしんのう【忍壁親王】(？～705) 天武天皇の皇子。刑部とも書く。母は宍人臣(ししひとのおみ)大麻呂(おおまろ)の娘櫰媛(かじひめ)。671年(天智10)壬申(じんしん)の乱に際して父の大海人皇子*(おおあまのおうじ)に従って吉野(よしの)に隠棲(いんせい)。翌年父とともに吉野を脱出して東国におもむく。681年(天武10)勅命により修史事業に参加し，700年(文武4)大宝律令*(りつりょう)撰定(せんてい)の功により，禄(ろく)を賜う。この律令は親王が総裁となり，翌年完成，施行された。703年(大宝3)知太政(ちだじょう)官事となった。ときに位は三品(さんぽん)。〔鷺 弘道〕

おさがめ【長亀】爬虫(はちゅう)類・オサガメ科のウミガメ。若い個体では体表が細かい角質板でおおわれるが，成体では脱ぎ落とされ，体表はなめらかな皮膚でおおわれる。背甲はモザイク状に並んだ小骨片の集まりからできている。太平洋・インド洋・大西洋に分布し，遊泳力はウミガメ中最も強く遠洋性。産卵以外は上陸しない。甲長2m，体重650kgを越え，現生のカメ類中最大。クラゲ・甲殻(こうかく)類・藻(そう)類を好む。〔松井孝爾〕

おざきかずお【尾崎一雄】(1899～) 小説家。神奈川県の生まれ。早稲田(わせだ)大学国文科卒。はじめ志賀直哉*(なおや)に私淑したが《暢気眼鏡(のんきめがね)》でユーモアのある独自の作風を示し，1937年(昭和12)第5回芥川(あくたがわ)賞*を受賞，作家としての地位を確立した。第2次世界大戦中の大病の体験に根ざす《虫のいろいろ》は死を深くみつめた傑作である。ほかに《懶(ものう)い春》《まぼろしの記》などがあり，私小説作家として知られる。〔源 五郎〕

おざききはち【尾崎喜八】(1892～1974) 詩人。東京の生まれ。京華商業学校卒。はじめ《白樺*(しらかば)》に詩・翻訳を寄稿。1924年(大正13)高田博厚*(ひろあつ)・片山敏彦(としひこ)らと《大街道》を創刊。処女詩集の《空と樹木》以来，自然と人事の交流を平明な口語でつづっている。またロマン-ロラン*などの訳書，《山の絵本》などの著作，《田舎(いなか)のモーツァルト》などの詩集も多い。

おざきこうよう【尾崎紅葉】(1868～1903) 小説家。東京の生まれ。本名徳太郎。東京府立第2中学校，大学予備門などを経て東京大学国文科に進み，中退。1885年(明治18)予備門在学中に山田美妙*らと文学結社，硯友(けんゆう)社*を結成，《我楽多文庫*》を創刊，江戸戯作(げさく)と欧化風潮の西洋趣味を取り合わせた写実的作風で，新進として認められた。1889年の《二人比丘尼色懺悔(ににんびくにいろざんげ)》が出世作。その後も西鶴(さいかく)に学んで写実的態度を深め，遊郭の世界を描いた《伽羅枕(きゃらまくら)》の成功で，幸田露伴*と並び明治20年代の文壇を代表する地位を占めた。さらに《多情多恨*》で心理描写と言文一致の文体に新生面を開き，《金色夜叉*(こんじきやしゃ)》では社会的写実小説への広がりをみせたが，完結させずに死去。その作品の写実的作風は結局皮相で戯作的なものに終わったが，広く読者に迎えられ，紅露時代とよばれる文壇の主流を形成した。その門下からは泉鏡花*・徳田秋声*らが出た。〔木村幸雄〕

おざきしろう【尾崎士郎】(1898～19

64) 小説家。愛知県幡豆(はず)郡横須賀(よこすか)村の生まれ。早稲田(わせだ)大学政治科中退。売文社・毎夕新聞などに勤め，社会主義者と交わった。1921年(大正10)改造社社長山本実彦(さねひこ)の依頼で，長編小説《逃避行》を刊行。その後大森の馬込村に住んで，多くの作家たちと交友を深め，1933年(昭和８)《人生劇場(青春編)》を発表，文壇的な地歩を確立した。その作風は大正期の理想主義に基づく浪漫的な傾向に特徴がみられる。なお，歴史小説も多く，関ケ原の役を描いた《篝火(かがりび)》はその代表とされる。〔尾崎秀樹〕

おざきほうさい【尾崎放哉】(1885～1926) 俳人。鳥取県の生まれ。本名秀雄(ひでお)。東京大学法学部卒。一高俳句会に出席して句作を始める。大正初年から，荻原(おぎわら)井泉水の主宰する《層雲》に投句し，その代表的作家のひとりとなる。その句は自由律で，虚飾を排し，対象の本質への鋭い切り込みをみせる。遺著に句集《大空》《放哉書簡集》がある。

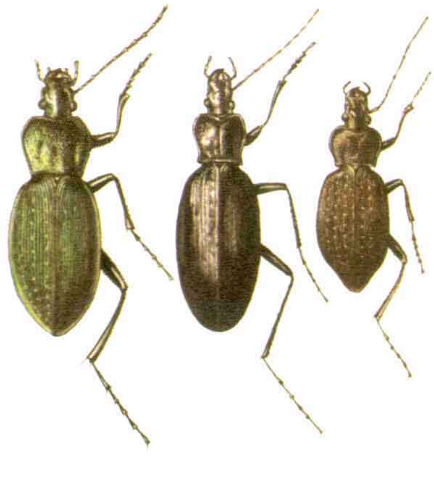
おざきほつみ【尾崎秀実】(1901～1944) 新聞記者・評論家。東京都出身。東京大学卒業後，1926年(大正15)東京朝日新聞社に入社，上海(シャンハイ)特派員となる。現地で中国問題の研究に従事したが，1938年(昭和13)同社を退社し，南満州鉄道株式会社の嘱託となった。日中戦争のとき，近衛文麿(このえふみまろ)に中国知識を買われ，そのブレーンのひとりとなり，太平洋戦争開始直前にはソ連との開戦阻止に努力した。1941年のゾルゲ事件に連座，1944年11月死刑に処せられた。《現代支那論(しなろん)》などの著書および獄中通信《愛情はふる星の如(ごと)く》がある。〔美ノ谷和雄〕

おざきゆきお【尾崎行雄】(1859～1954) 政治家。相模(さがみ)(神奈川県)の郷士の家に生まれ，慶応義塾(ぎじゅく)・工学寮などに学んだ。1880年(明治13)新潟新聞主筆に迎えられ，1882年立憲改進党の創立に参加して政治生活を始めた。1887年大同団結運動に参加，保安条例で東京退去を命じられた。1890年第１回総選挙に三重県から立候補して当選，以後連続24回当選という記録保持者である。1898年隈板(わいはん)内閣の文相となったが藩閥政治を攻撃した共和演説事件で貴族院などの攻撃を浴び辞職。1900年立憲政友会の創立に参加し，1903年から1912年(大正１)まで東京市長，このときワシントン市にサクラを寄贈した。1913年第１次憲政擁護運動の先頭に立って桂(かつら)内閣を攻撃したが，次の山本内閣協力に反対してのち政友会脱党，第２次大隈(おおくま)内閣の法相となり，憲政会に属した。しかしすぐに離党し，以後は孤高の政治家となり，第２次世界大戦中1942年(昭和17)田川大吉郎の応援演説で不敬罪として弾圧された。戦後は国会の長老的存在となった。〔岸野淳子〕


尾崎行雄


小山内 薫


オサバグサ


オサムシ (左)アオオサムシ (中)クロオサムシ (右)ヒメオサムシ

おさたけたけき【尾佐竹猛】(1880～1946) 司法官・歴史学者。父は金沢藩士で漢学者。明治法律学校(明治大学の前身)卒業。東京・福井などの地方裁判所・東京控訴院・大審院の判事を歴任，1942年(昭和17)退官。一方，日本憲政史・明治維新史研究の先駆者で，吉野(よしの)作造とともに明治文化研究会をつくり，《明治文化全集》を編纂(へんさん)した。著書に《維新前後に於(お)ける立憲思想》《日本憲政史大綱》などがある。

おさだめがきひゃっかじょう【御定書百箇条】 ⇨公事方(くじかた)御定書

おさないかおる【小山内薫】(1881～1928) 劇作家・演出家・演劇研究家・小説家。広島市に生まれ，東京大学英文科卒。はじめは新派劇の伊井蓉峰(いいようほう)の一座に参加したが，新しい演劇の創造をめざして，1907年(明治40)に雑誌《新思潮》(第１次)を発刊し，西欧の近代劇や新文学の紹介に努めた。次いで1909年に市川左団次(２世)と協力して自由劇場を，1924年(大正13)には土方(ひじかた)与志と築地(つきじ)小劇場を創設，新劇運動に先駆的な役割を果たした。また，1927年(昭和２)に日本最初のトーキー《黎明(れいめい)》を制作するなど，その芸術活動は多方面にわたった。代表的戯曲として《第一の世界》《息子(むすこ)》《西山物語》などがある。〔西尾邦夫〕

おさばぐさ【筬葉草】 双子葉植物・ケシ科。本州中部以北の高山の針葉樹林内にはえる日本特産の多年草。葉はくしの歯に似た切れ込みがあり，長さ６～15cmで根の上部に集まってつく。20cmほどの花茎を１本出し，夏に白色の花を穂のようにつける。花びらは４枚。

おさべしんのう【他戸親王】(761～775) 光仁(こうにん)天皇の第４皇子。母は聖武(しょうむ)天皇の皇女井上(いのえ)内親王。光仁天皇が即位すると771年(宝亀２)12歳で皇太子となったが，翌年母后井上内親王が天皇を呪詛(じゅそ)した罪で廃せられると，太子もまた廃された。母子ともに大和(やまと)(奈良県)宇智(うち)郡に幽閉され，悲惨な死を遂げた。

おさむし【歩行虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オサムシ科に属する甲虫の一群の総称。色彩は変化に富み，紫・金紫・赤・だいだい・青・緑色などの金属光沢をもつ美しい種が多く，鞘翅の彫刻(点刻や条線)も多種多様である。そのため，国内外を問わず，古くからこの類の愛好者が多い。オサムシは，狭義にはオサムシ属のものをさし，ユーラシア大陸の中北部や北アメリカなど，北半球の寒帯から温帯にかけて約500種が知られているが，旧大陸に圧倒的に多くの種が産する。オサムシ属は，約20の亜属，約60の群に分類され，わが国には約30種が分布する。アオオサムシ・クロオサムシ・クロナガオサムシ・オオオサムシ・マイマイカブリなどが代表的な種類である。いずれも地上生の種類で，後翅が種々の程度に退化しているものが多く，飛翔(ひしょう)できない。昼間は石や倒木の下などに潜み，夜間活動して他のこん虫類や小動物を捕食する。分布の局限されている種も多く，同一種内で種々の地理的変異を示すものも多い。広義のオサムシ類には，カタビロオサムシ属とセダカオサムシ属が含まれる。前者は，全世界に約80種，わが国にはクロ

カタビロオサムシなど３種が分布するが，後翅も発達しており，昼間も活動し，樹上生で，鱗翅(りんし)目幼虫などを捕食する。後者は，ユーラシア大陸中北部に約30種が分布し，わが国には北海道にセダカオサムシ１種のみが産する。〔鈴木邦雄〕

おさむしもどき【擬歩行虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オサムシ科。体長22mm内外。黒色で頭は幅広く，前胸背板は後方が著しくせばまる。日本全土のほか，朝鮮・台湾・中国などに分布し，海浜や川原などに普通に見られる種類で，砂中に穴を掘りその中に生活する。

おさらぎじろう【大仏次郎】(1897～1973) 小説家。本名野尻清彦(のじりきよひこ)。横浜生まれ。東京大学政治学科卒。一時外務省に勤務したが，関東大震災ののち博文館の《ポケット》ほかに伝奇性に富んだ作品を発表，《鞍馬天狗*(くらまてんぐ)》《赤穂(あこう)浪士》などで時代小説に新風を吹き込み，大衆文学の草創期を飾る代表的作家となった。フランスの第３共和制下の諸事件を扱った《ドレフュス事件》《ブウランジェ将軍の悲劇》，パリ-コンミューンを描いた《パリ燃ゆ》，開化ものの《霧笛》《幻燈》，現代ものの《帰郷》，あるいは日本近代の黎明(れいめい)期を語る《天皇の世紀》などがある。西欧的な教養に裏づけられた良識ある作品が多い。〔尾崎秀樹〕

おさりざわこうざん【尾去沢鉱山】 秋田県鹿角(かづの)市にある日本有数の銅鉱山。奈良時代にすでに知られていたといわれ，江戸時代には南部藩直営となって藩財政上重要な役割を果たした。明治中期以後は三菱(みつびし)金属の経営に属している。銅は現地で精錬されるが，銅とともに産する鉛・亜鉛鉱は宮城県の細倉鉱山に送られて精錬される。

おざわせいじ【小沢征爾】(1935～) 指揮者。中国の瀋陽(しんよう)生まれ。桐朋(とうほう)学園の斎藤秀雄(ひでお)教室の最初の卒業生として世に出た。1959年(昭和34)に単身渡欧し，ブザンソンの指揮者コンクールに第１位となって認められ，翌1960年アメリカのバークシャー音楽祭のコンテストでも優勝し，ニューヨーク-フィルハーモニー交響楽団の副指揮者となる。1965年よりトロント交響楽団の常任指揮者，1968年より日本フィルハーモニーの首席指揮者などを歴任，1970年よりサンフランシスコ交響楽団の常任指揮者。〔向坂正久〕

おざわろあん【小沢蘆庵】(1723～1801) 江戸中期の歌人。別号観荷堂。尾張(おわり)(愛知県)犬山藩の京都留守居役(るすいやく)をつとめたが，のち辞して和歌に専心。堂上(とうしょう)派*歌人冷泉為村(れいぜいためむら)に学んだが師の風にあきたらず，また，賀茂真淵(かものまぶち)らの万葉派にも反対して，〈ただこと歌*〉を提唱，京都歌壇に新風の地歩を築き，平安四天王のひとりといわれる。歌論書《布留の中道》《振分髪》，家集《六帖(ろくじょう)詠草》などがある。〔平田澄子〕

オザンファン［Amédée Ozenfant］(1886～1966) フランスの画家・評論家。はじめパリで絵画・建築を学び，のち理論活動を多く行なった。1918年，芸術の純粋観念を説き，ピューリスム(純粋主義)を主唱。次いで《エスプリ-ヌーボー》誌(1920～1925)を発行，ル-コルビュジエ*とともに《近代絵画》を著わした。また，パリ・ロンドン・ニューヨークに〈アカデミー-オザンファン〉の名称などで知られる美術研究所を開いた。

おさんもへい【おさん茂兵衛】 ⇨大経師昔暦(だいきょうじむかしごよみ)

おし【唖】 生まれつき言語を用いる能力がない者。①生理的唖(あ)：幼児で多少言語発育がおそい者，②痴呆(ちほう)的唖*：知能が低いために言語機能がない者，③聴唖*：聴能は健全で言語理解も正常であるが，言語中枢の障害のため話せない者，④聾唖(ろうあ)：生まれつき聴能が失われているため，唖となった者，などに分類される。なお，一度獲得した言語能を失ったものは失語症*とよばれ，唖とは区別される。

おし【御師】 平安時代以来，伊勢神宮*・石清水八幡宮(いわしみずはちまんぐう)・春日(かすが)大社*・熊野(くまの)神社*などの諸大社で崇敬者に代わって祈禱(きとう)した人々をいう。御師の制度が整ったのは室町時代で，各大社に所属する御師は世襲が多かった。彼らは自宅に神殿を設けて師檀関係を結んだ檀那(だんな)のために神楽(かぐら)を奏し，毎年定期的にその檀那を歴訪して祈禱をなすとともに，神札などを配布した。また，檀那が参詣(さんけい)するときには自家に招いて参拝・宿泊の便宜をはかり，神社信仰や参詣の発展に多大の貢献をなした。なかでも有名なものに伊勢神宮のそれがあり，伊勢神宮参詣の気運を高めた。なお，伊勢神宮では伝統的に〈おんし〉とよんだ。〔田上光治〕

おしいた【押し板】 今日の床の間*の原形と考えられるもので，室町時代の上流住宅における座敷飾りの一。間口が広く奥行きの狭いへこみに，厚い１枚板を畳から１段上げてつくりつけにし，その下に小壁を設ける。民家には，地方によっていまでも押し板とよぶ奥行きの狭い板床のあるものがある。

おしいれ【押し入れ】 住宅において寝具・衣類などを収納する部分で，前面にふすまや戸をたてるもの。和室には机や座卓のように装飾を兼ねたもの以外の収納家具類は置かないのを原則としていた。しかしへやそのものが多目的空間であるため，寝具・衣類などを納めるところを必要とするので，押し入れまたは納戸*を設ける。押し入れは寝具の出し入れに便利なようにへやに接して置き，一般的にはふすま，そのほか板戸・舞良戸(まいらど)(水平の細いさんを間隔をつめて取り付け板を張った戸)を立てる。押し入れの奥行きはふつう３尺，幅も３尺の倍数とし，和風住宅の他の部分と同じく，畳の寸法単位に合わせる。最近は座敷生活の衰退に伴って収納する品物も変わりつつあるので，押し入れという和室特有の部分も変化していくものと思われる。〔波多江健郎〕

おしうり【押し売り】 買い受ける意思のない者にむりに物品を売りつける行為。刑法上，住居者の意思に反して住居に侵入すれば住居侵入罪*(刑法130条)，〈いらない〉と言われても居すわって立ち去らなければ不退去罪*(同条)が成立する。意思を抑圧する手段として，相手方またはその親族の生命・身体・自由・名誉・財産に対し危害を加えるような言動をした場合は，強要罪*(刑法223条)または脅迫罪*(刑法222条)が成立する。〔野口恵三〕

オージオメーター［audiometer］ 聞こえの悪くなり方，すなわち難聴*の程度を測定する装置。発振器と受話器とからなり，125・250・500・1,000・2,000・4,000・8,000ヘルツの音を出すこと，またその強さを変えることができるようになっている。通常人の聞きうる最低の音圧を平均して０デシベル*にとり，これよりもどれだけ音圧を高くしたときはじめて聞きうるかをデシベル値で表わす。この値を聴力損失といい，気導および骨導を測定し，各周波数で聴力損失を表わしたものを聴力図(オージオグラム)という。聴力図によって伝音系難聴か感音系難聴かを判定できる。〔池谷和夫〕

おじかじま【小値賀島】 長崎県北松浦郡に属し，五島列島の北に続く平戸諸島中の一島で，北に宇久(うく)島，南に五島列島の北端の中通島がある。東にあるキリシタンによって開発された野崎島(7.3km^2)をはじめ八つの人の住む島と，八つの無人島を含めて，小値賀町を形成している。面積13.0km^2，小値賀町の面積は25.9km^2，人口は6,000。玄武岩の台地に大小約20の臼状(きゅうじょう)火山を載せた特異な火山地形で，海食崖(かいしょくがい)がよく発達している。農業は畑作が主で，麦・サツマイモをつくり，水田もいくらかある。〈小値賀ウシ〉とよばれる牛の放牧が盛んで，無人島の古路島も放牧に利用されている。中心集落は笛吹で，ここに役場や高校があり，また漁港として，前方や斑ノ浦(まだらのうら)とともに，一本づりや磯建網(いそだてあみ)漁業の基地となっていて，アワビを採取する海女(あま)の姿も見られる。風光が美しく，西海国立公園*の一部である。〔浅井得一〕

おしかはんとう【牡鹿半島】〈おじかはんとう〉ともいう。宮城県の東部，北から南へ太平洋上に突出した半島で，北上山地の南端にあたる*。半島の先端には金華山瀬戸を経て金華山*があり，その南端に金華山燈台がある。半島の東側にはウミネコの繁殖地として有名な江ノ島をはじめ，笠貝(かさがい)島・足島があり，西の石巻(いしのまき)湾側には網地(あじ)島・田代(たしろ)島などがある。半

島北部は粘板岩が多く，石碑や石盤として出荷されている。半島は褶曲(しゅうきょく)や断層を伴った主として古生層の地層からなり，リアス式海岸のそれぞれの湾の奥には漁港がある。最高峰は光山(445 m)で，440 m前後の山稜(さんりょう)が半島のやや東部に沿って走り，東側では海食崖(かいしょくがい)も高く，海岸段丘もよく発達している。耕地が少なく，近海に日本でも有数の漁場を控えるため住民の大部分は漁業に従事している。沿岸では定置網漁業や磯(いそ)漁業が行なわれ，湾内ではカキ・ノリの養殖も盛んである。リアス式海岸のけしきが美しく，金華山には野生のシカやサルが生息し，八景島の暖地性植物は天然記念物に指定されている。1947年(昭和22)に牡鹿半島県立自然公園に指定された。〔味沢成吉〕

おしかぶせこうぞう【押しかぶせ構造】⇨褶曲(しゅうきょく)

おしかわしゅんろう【押川春浪】(1877～1914) 明治時代の大衆作家。押川方義(まさよし)の長男で本名は方存。松山市の生まれ。東京専門学校(早稲田(わせだ)大学)卒業。在学中より空想冒険小説を書いて，その奇抜な構想と勇壮な文体で人気を博した。ことに《海底軍艦》は青少年に熱狂的に読まれ，雑誌《冒険世界》主筆として活躍，日本の少年少女向き冒険小説の祖型をつくった。

おじぎそう【含羞草】双子葉植物・マメ科。ネムリグサともいう。ブラジル原産で本来は多年草であるが，一年草として栽培。熱帯では雑草である。茎は高さ40cm，赤みをおび，毛ととげをもつ。葉は羽状に裂けたものが2対ずつつく。夏に葉のつけ根に淡紅色の花が，直径1cmぐらいの球状に集まって咲き，その後1.5cmの豆果ができる。この植物は就眠運動*をするものとして有名で，刺激を与えると葉が閉じ，あるいは茎のつけ根から折れ曲がり，しばらくするとまたもとにもどる。観賞および実験用植物として栽培される。〔小清水義隆〕

おしだ【雄羊歯】シダ植物・オシダ科。北海道・本州・四国の山地にみられる夏緑性の多年草。高さ0.5～1.5 m。葉は何本もまとまって直立する。葉柄は太く短い。葉柄および中軸にかっ色～淡かっ色の薄鱗片(はくりんぺん)が密生する。葉身は長さ40～65cm，幅15～20cmで2回羽状。胞子嚢(ほうしのう)群は葉の上部3分の1，やや主脈よりに2列に並ぶ。包膜は全縁である。

おしだしかこう【押し出し加工】金属の塑性加工法*の一。金属材料を，一方にダイスをつけた押し出し機に入れ，他の一方から突き棒で押し，ダイス孔から押し出し，丸・角・みぞ形，その他いろいろな断面形状の棒材をつくることができる。このような加工法であるから，マグネシウムや鉛入り黄銅のように比較的もろい材料は熱間押し出しによって粗加工のみが可能である。また銅・アルミニウムのように延性・展性



オジギソウ



オシダ



オシドリ

に富む材料の棒・管・型材は鋳塊から直接，熱間押し出しで成形される。一般に，その押し出し温度は，アルミニウムで490～520℃，銅合金で800℃程度である。最近は工具・装置の強力化，加工および潤滑技術の発達(潤滑材としての溶融ガラスの使用など)によって，硬度の高い炭素鋼・合金鋼・ニッケルなどの熱間あるいは冷間押し出しも工業化されようとしている。〔草川隆次〕

おしだしぶつ【押し出し仏】打ち出し仏ともいう。仏像を彫り出した銅の原型に，薄い銅板をあてて槌(つち)で強くたたいてつくる，浮き彫り状の仏像。細部をさらにたがねで打ち，鍍金*(ときん)して仕上げる。小さな仏像をいちじに大量につくりだすときに用いられた手法で，その盛期は7～8世紀ごろといわれる。奈良地方の古寺に遺品が伝わり，正倉院には原型が9点ほどある。

おしどり【鴛鴦】鳥類・ガンカモ科。日本人には特になじみの深い美しい鳥。雄の羽毛は全体に美しく，三列風切羽は銀杏羽(いちょうばね)といわれる橙色(とうしょく)で特殊な形をしている。雌は下面は白色，上背面は紫灰色のじみな色である。〈鴛鴦(えんおう)の契り〉〈鴛鴦の偶〉などといわれるが，この比喩(ひゆ)は，カモ類は全般に飼育状態でも野性のものでも異種と交配して雑種ができることがよくあるが，その中でオシドリは他の種とは交雑しない性質が非常に強いことによるのであろう。さらに，カモ類は一般に繁殖を終えてから，外敵に対し安全な場所や人目につきにくい場所で風切羽を換羽し，一時飛べなくなる。換羽を終えて秋の渡りを始めるが，次の繁殖のためのつがいの形成は春を待たずに冬季に行なわれるので，雌雄1羽ずつがいっしょにいる状態がみられる期間が他の鳥より長い。このことも比喩にかかわりがあろう。〔安部直哉〕

オジーブ［ogive］オジーアーチともいう。下方が凹(おう)曲線で上方が凸(とつ)曲線になるねぎ花状の尖頭(せんとう)アーチ。なお，広く尖頭アーチをさす場合が多い。➔アーチ

おしべ【雄蕊】雄蕊(ゆうずい)ともいう。種子植物の花を構成している雄性生殖器官。小胞子葉にあたるもので，花粉のはいっている葯(やく)とその柄の花糸とからなる。

おしま【渡島(支庁)】北海道庁管轄14支庁の一。道南西部，渡島半島*東半の内浦湾・津軽海峡に面する地域で，管内に14町2村を含む。庁舎所在地は函館(はこだて)市。面積3,506.7km^2，人口19万5,000。

大半が山地で，平野は函館平野と，八雲・長万部(おしゃまんべ)両町周辺部に限られる。漁業人口が最も多く，農業がこれに次ぐ。いずれも経営規模が小さく，漁獲高53億円(1965)は全道の7％にすぎず，耕地は1世帯あたり3ヘクタールで，全道平均の5.3ヘクタールを下回り，そのために出かせぎに行く者が多い。

おしまはんとう【渡島半島】北海道の南西部に突出しており，北は寿都(すっつ)・黒松内・長万部(おしゃまんべ)の断層で限られ，東は内浦湾(噴火湾)に面し，南は津軽海峡を隔てて本州と最短距離約20kmで相対し，西は日本海に臨んでいる。古生層の上に北から第三紀の火山である狩場山(1,520 m)・駒ケ岳(こまがたけ)(1,140 m)・横津岳(1,167 m)・恵山(618 m)などが噴出しており，温泉も多い。また半島の中央に並ぶ太平山(1,191 m)・遊楽部岳(ゆうらっぷだけ)(1,276 m)・乙部岳(おとべだけ)(1,017 m)や東の亀田(かめだ)半島の気無山(415 m)や西の松前半島の大千軒岳(1,072 m)などの山々は，古生層やこれを貫くカコウ岩から形成されている。このように半島は山がちで，海岸には海岸段丘が発達しているが，平野に乏しく，東部の長万部・八雲，南部の函館(はこだて)付近，西部の利別(としべつ)川下流に小規模の平地がみられるのみである。ここは北海道で最も早く開発された地域で，稲作も北海道では最初に行なわれたが，農業用地が少ないため，大

きな発展はみられない。現在では，函館平野を中心にリンゴ・ブドウなどの果樹栽培をはじめ酪農が行なわれ，また，ジャガイモの種イモが各地に移出されている。江差(えさし)・寿都などはかつてニシン漁業で栄えたが，いまではすっかり衰退した。八雲・美利河(ぴりか)・上国などのマンガン鉱山もあるが，工業は函館の造船，上磯(かみいそ)のセメント以外は一般に遅れている。函館は特に交通上重要な位置を占め，北海道と本州の結節点をなしている。松前半島の白神岬(しらかみみさき)と本州の龍飛崎(たっぴざき)の間には青函(せいかん)トンネルの建設が進められており，本州との一体化に期待がかけられている。松前城や五稜郭(ごりょうかく)などの史跡も多い。〔味沢成吉〕

おしむぎ【押し麦】大麦または裸麦を精白した丸麦を圧扁(あっぺん)したもの。最近のものは，麦の歩どまりを低くして(50%ぐらい)，十分に精白し，さらに漂白を行なって色を白くしたのち圧扁している。またビタミン強化した製品も出回っている。

おしめ【押し目】⇨証券市場

おじや ⇨雑炊

おぢや【小千谷(市)】新潟県中央部の市。機業地として古くから知られ，江戸時代は三国街道・飯山(いいやま)街道の合流する宿場町，信濃(しなの)川の河港として栄えた。1954年(昭和29)市制施行。人口45,000。信濃川の河岸段丘に位置し，産業三大別人口比は28：36：36で，特産小千谷縮(→越後(えちご)上布)のほか，紬(つむぎ)・毛織物の産も多く，観賞用として珍重されるニシキゴイの養殖が盛んである。上越線と国道17号線・117号線が通ずる。県下有数の豪雪地帯で，本棟(ほんむね)造りの商家が多く，中門造りの民家もみられる。国鉄小千谷発電所・山本山スキー場がある。

おしゃまんべ【長万部(町)】北海道渡島(おしま)支庁の町で，内浦湾の北西岸にある。人口11,000。函館(はこだて)本線と室蘭(むろらん)本線の分岐点で，鉄道の町として知られる。米・ジャガイモを産し，林業やカレイ・ホッキガイ・ケガニなどの漁業も行なわれ，長万部駅のケガニの立ち売りは有名である。かつては砂鉄の生産が盛んで全国の砂鉄の70%を産したが，いまは少なくなった。長万部温泉・二股(ふたまた)ラジウム温泉がある。町名はアイヌ語のオシャマンベ(カレイのいるところ)に由来する。

オージャム〔Jean Aujame〕(1905～)フランスの画家。ルーアンの美術学校に学んで，ゴッホ・ルノアールらに影響を受けて出発。その絵には，近代的造形のうちに装飾性が加味されている。

オーシャン(島)〔Ocean〕西太平洋，ミクロネシアに属する島。バナバ島ともいい，南緯0°52′，東経169°33′に位置する。面積5km²，人口2,000。住民はギルバート諸島やエリス諸島からの，おもにサモア系の



小千谷市　伝統的な特産小千谷縮の雪ざらし風景。小千谷縮は国の文化財に指定されている



オシリス

移住者。リン鉱石を豊富に産し，ナウル島とともにイギリスのリン鉱石会社が採掘している。1900年以来イギリス領となる。

おじゅうや【御十夜】十夜・十夜法要ともいう。浄土宗の寺院で，十日十夜にわたって営まれる念仏を主とした法要。ふつう旧暦の10月6～15日に行なわれる。《無量寿経》に〈ここにおいて善を修すること十日十夜なれば，他方諸仏の国土において善をなすこと千歳するにまさる〉とあるのに基づく。《真如堂縁起》によれば，平貞国(さだくに)というものが十日十夜の称名念仏によって現世利益*を得たのがはじまりで，のち鎌倉の光明寺の世観誉がこれを光明寺に移し，以後同宗の寺院で盛んに行なわれるようになった。〔広川堯敏〕

オジュク〔Chukwuemeka Odumegwa Ojukwu〕(1933～)ナイジェリアの旧ビアフラ共和国大統領。オックスフォード大学卒業。1966年1月のクーデターで東部州軍政長官となる。同年7月ゴボン中佐(当時)らのクーデターに参加して連邦政府(ラゴス)と対立，1967年5月には東部州の独立宣言を発して，連邦政府との武力対立が続いたが，1970年1月連邦軍に敗れて亡命した。イボ族の出身。

おしゅんでんべえ【お俊伝兵衛】⇨近頃河原達引(ちかごろかわらのたてひき)

おしょう【和尚】仏教用語。戒を受けるとき師となる人のことで，戒和尚(かいわしょう)を意味する。日本では古くは僧侶(そうりょ)の官名となり，中世には徳の高い僧に対する尊称として用いられ近世以降は住職以上の俗称となった。宗派によって読み方が異なり，天台宗・浄土宗では〈かしょう〉，法相宗(ほっそうしゅう)・真言宗・律宗では〈わじょう〉(律宗では〈和上〉と書く)という。

おしょく【汚職】刑法上の瀆職罪*(とくしょくざい)にあたる社会用語。公務員が職務に関してわいろを受け取る収賄罪*(しゅうわいざい)(刑法197～197条ノ4)と，公務員がその職権を乱用して不正を行なう職権乱用罪*(刑法193～195条)とを合わせていう。

オショグボ〔Oshogbo〕アフリカ大陸，ギニア湾北岸のナイジェリア共和国西部の都市。人口25万2,000(1971)。首都ラゴスとは鉄道で結ばれている。周辺の農民を相手として取引を行なう小村にすぎなかったが，開拓が進むにつれて同国内陸部の中心都市に発達し，現在は，同国の主要産物ココアを集散する一大中心となっている。イスラム教会・キリスト教会・学校など文化的施設も多い。〔小栗　宏〕

おしょろ【忍路】北海道小樽(おたる)市の西部，日本海に突き出す忍路半島*の西に開けた忍路湾に臨む地区。人口約1,200。忍路港は江戸時代後期から明治にかけてニシン漁業の基地として繁栄し，《江差追分》にもその名がうたわれている。最近はニシン漁は衰退したが，はえなわ漁業によるスケソウダラの水揚げが多い。湾奥には北海道大学臨海実験所があり，半島基部の蘭島(らんしま)付近に環状列石がある。

オショロコマ ⇨イワナ

おしょろはんとう【忍路半島】北海道小樽(おたる)市西部の小半島で，西に帆船時代の避難港として有名な忍路湾をいだいている。先端は龍ヶ岬(りゅうがみさき)で，龍ヶ岬半島ともいう。また半島基部の小樽市蘭島(らんしま)町には，高さ1m内外の大小の自然石が東西21m，南北28mの長円形に並べられ，その内外に数本の石柱が立つ忍路環状列石(史跡)があって，考古学上貴重な存在となっている。

おしらさま おしらぼとけともいい，主として東北地方にみられる民間信仰の一。また，降霊に用いる偶像。30cm前後のクワ材の棒に男・女・ウマなどの顔を刻み，〈おせんたく〉という布切れを着せた2体1組みの偶像で，〈いたこ*〉とよばれる盲目の巫女(みこ)が祭文を唱えながらこれを舞わせ，自己催眠に陥って霊をよび降ろす。おしらさまに顔を描いたのは中世からで，古くは神木や斎串(いみぐし)と同じ依り木である。

オシリス〔Osiris〕エジプト神話の幽界の神。弟セトに殺害されて死体を寸断されたが，妻イシスの努力で復活，幽界の神となった。古代エジプトでミイラがつくられたのは，死者の霊魂がオシリスの力によって再び肉体にもどると考えられたのによ

る。《死者の書*》は不滅の生命力と復活を示すオシリスに向けられたものである。オシリス神話はギリシア・ローマにも伝わった。

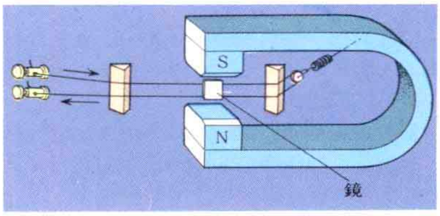
おしろい 〔白粉〕 はだの色を美しく見せるための化粧品。良質のおしろいははだへのつき・伸び・すべりぐあいがよく，色やかおりも満足できるものであることが条件。種類は粉おしろい・水おしろい・練りおしろい・油性おしろい・固形おしろい・紙おしろいなどがある。粉おしろいは二酸化チタン・亜鉛華・タルク・カオリンなどを混合して粉砕し，ふるいにかけて製する。水おしろい・練りおしろいはこの粉末に化粧水・グリセリン・水などを加えてとかしたり，あるいは練ったもの。油性おしろいは多少の油脂分を含んでおり，乳液状・クリーム状・棒状・コンパクト状に製されている。下地クリームを兼ねたものとして使用され，光沢のあるはだに仕上げる。固形おしろい・紙おしろいは化粧なおし用。ただしケークとよばれる固形おしろいはスポンジと水で伸ばしてつける。一般的に油性のおしろいはかわいたはだに潤いとつやを与え，水性のおしろいは汗や油の多いはだの化粧くずれを防ぎ，衣服をよごさない利点がある。近代の生活は化粧法にも変化をもたらし，水おしろい・練りおしろいの類は現在ほとんど用いられず，油性おしろいの類が多く用いられるようになっている。

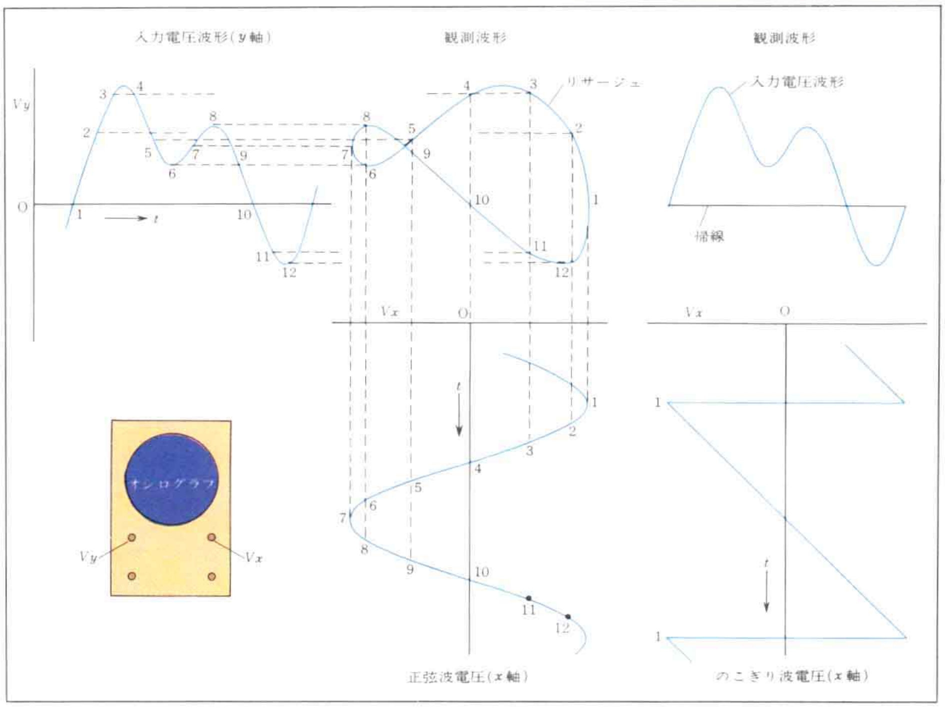
おしろいの色は淡い緑や青から濃い茶色まであるが，通常用いられるのははだ色を中心にした黄系とピンク系の濃淡各色である。かつては材料に鉛白が多く使われ，歌舞伎(かぶき)俳優の鉛中毒の話題などがあるが，1934年(昭和9)鉛おしろいは禁止され，着色料は無害の顔料および許可されたものとなっており，現在は鉛中毒などのおそれはない。使用法は種類によりそれぞれに異なるが，おしろいののりをよくするにははだそのものをなめらかに整えておくことがたいせつである。化粧ばえを左右するのは，この土台をつくることと，むらのないようにつけること。　〔メイ-ウシヤマ〕

おしろいばな 〔白粉花〕 双子葉植物・オシロイバナ科。ユウゲショウともいう。南アメリカの原産の多年草で，庭などに植えられるが，ときとして野生化している。茎は節が太く，下部から枝が出て全体として横に広がる。高さは1ｍぐらいになる。葉は対生で広い卵形，先はとがり，基部はへこみ，長さ5～10cm。夏から秋にかけて，紅・黄・白色などの漏斗形の芳香のある花をつける。花は夕方から咲きはじめ，翌日の午前中に閉じる。種子の胚乳(はいにゅう)は粉状で白く，子どもが遊ぶ。



オシロイバナ





オシログラフ　(上)電磁オシログラフの原理図　(下)オシログラフによる観測波形

オシログラフ 〔oscillograph〕 時間的に変化する電圧あるいは電流波形を観測する装置。原理的に次のように大別することができる。①陰極線オシログラフ：電子ビーム(方向がほぼそろった電子の流れの束)を電圧あるいは電流で偏向させ，螢光面(けいこうめん)上にそれらの波形を描かせる方式。たとえば，ブラウン管の y 軸偏向電極に観測しようとする電圧を加え，x 軸偏向電極にはのこぎり波電圧を加えると，時間的にくり返される電圧波形を螢光面上に静止させて観測することができる。この場合には，x 軸は時間軸に対応することになり，このように，波形の時間的変化を2次元的に表現する方法を掃引(スイープ)とよぶ。掃引のために用いられるのこぎり波電圧の発振器を組み込んだ装置をオシロスコープという。オシロスコープのうち，特に観測しようとする入力信号によって時間軸の掃引が開始する形式のものをシンクロスコープということがある。②電磁オシログラフ：強い磁界中に平行に張った往復導線に，測定しようとする電流を通ずると，導線は電流波形に応じて運動する。この運動を，導体に張り付けた小形反射鏡と光学系を用いて拡大して観測するようにした装置。時間的な掃引には回転鏡が用いられる。　〔伊藤糾次〕

オシロスコープ ⇨オシログラフ

おじろぞうむし 〔尾白象鼻虫〕 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。オジロアシナガゾウムシともいう。体長は7.5～10mm(口吻(こうふん)を除く)。体は黒色で，翅端を除く鞘翅の後半部に白色鱗毛(りんもう)を密生する。本州・四国・九州・台湾・中国に分布し，成虫は5月ごろより出現し，クズなどを食する。

おじろわし 〔尾白鷲〕 鳥類・ワシタカ科。全長は雌で90cm，雄で85cmほど。旧北区*北部に広く分布し，わが国では主として北日本へ冬に渡来する。北海道東部でも繁殖している。全身かっ色で，尾のみ白色。主として海岸にすみ魚類を食べるが，鳥獣をも捕食する。

おす 〔雄〕 雌雄異体の生物で，雄性配偶子すなわち精子をつくるところである精巣をもつほうの個体。植物や動物でも分化の程度が低いものの場合は，小配偶子という比較的小さくて運動性のあるものをつくる個体が雄である。雄に共通な性質を雄性というが，場合によってはこの雄性を多くもっている個体を雄ということもある。雄を表わす記号は♂。

オスカー ⇨映画賞

オスターデ 〔Adriaen van Ostade〕 (1610～1685)　オランダの風俗画家。ハル

スに学び，ブロウエル・レンブラントの影響を受け，農民などの生活を深い機知をこめて描いた。作品には《村の教師》《村の居酒屋》などがある。なお弟のイザック-オスターデは風景画にすぐれていた。

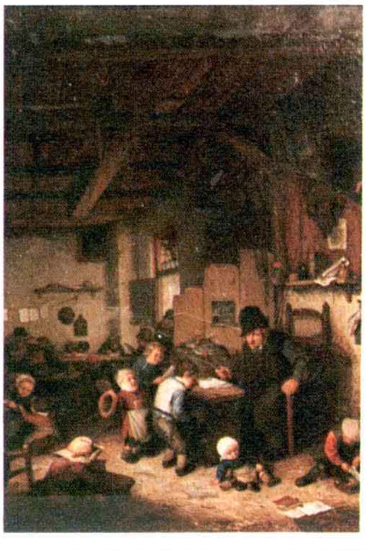
オスチャークぞく　［オスチャーク族］　西北シベリアのオビ川中・上流域に住むフィン-ウゴール系民族。ロシア革命後，公式にはハンティとよばれ，マンシ(ボグル)族とともにハンティ-マンシ民族管区をつくった。総人口20,000弱。トナカイ牧養と漁労を生業とする。

オースチン　［Austin］　アメリカ合衆国テキサス州の州都。人口25万2,000(1970)。州の東部，コロラド川(テキサス州西部山地に発し，メキシコ湾に流れる川で，カリフォルニア湾に注ぐ有名なコロラド川とは別)が西部高原から海岸平野へ出る谷口に発達した都市で，石材・れんが・家具の産地。フットボールの名門校テキサス大学がある。州庁は州内産のカコウ岩を使用した幅80 m，長さ170 m，ドーム先端までの高さ90 mもある巨大な建物である。1838年の入植当時はウォータールーとよばれ，1839年オースチンと改名した。インディアンやメキシコ人にいくたびか略奪されたことがある。　〔相村大彬〕

オースチン　［Jane Austen］（1775～1817）　イギリスの女流作家。いなか牧師の円満な家庭に生まれ，生涯(しょうがい)を独身のまま過ごした。家事のかたわら18世紀詩文に親しみ，《自負と偏見》《マンスフィールド-パーク》《エマ》など6編の長編小説，その他未完の小説を書いた。どの作品も身辺の観察に基づき，地方小都市の中産階級の家庭に繰り広げられる結婚話の経緯を語る。政治・社会の情勢と結びついた社会性からは無縁であるが，登場人物の性格描写は，素朴(そぼく)なリアリズムを基調に，皮肉・ユーモア・温情の巧みな結合のもとになされ，歴史小説の大家スコットはその才能を高く評価した。　〔長崎勇一〕



オジロワシ



オスターデ《村の教師》ルーブル美術館蔵

オースチン　［John Austin］（1790～1859）　イギリスの法律学者。法律と道徳とをきびしく区別し，法を主権者の命令であるとする命令説を展開した。またベンサムの功利主義的法思想を継承し，分析法学の確立者・代表者として後世その功績を認められている。主著《法律学講義》。

オーステナイト　［austenite］　鉄は910～1,041℃で体心立方格子(こうし)から面心立方格子の配列に変わる。この鉄をγ鉄と称し，金属組織学上これをオーステナイトという。α鉄(フェライト)とγ鉄の変化する温度をA_3変態点と名づけ，炭素がはいった鋼では炭素含有量によって変化し，炭素0.8%で723℃となる。高温のオーステナイトより鋼を徐冷するとセメンタイトとフェライトに変化するが，水中に焼き入れるとマルテンサイトが得られる。このように炭素鋼では少なくとも723℃以上でなければオーステナイトは存在しないが，ニッケルやマンガンを多く含む鋼では常温でもオーステナイトが得られるようになる。　〔長谷川正義〕

オーステンデ　［Ostende］　ベルギー北西部，北海に臨む都市。人口58,000(1966)。アンベルスに次ぐ港で，セメント・れんが・水産物を輸出し，石炭・木材・羊毛を輸入する。またイギリスのドーバーとの間に海峡横断ボートが連絡している。ベルギー漁業の根拠地であるとともに国際的な保養地として知られる。第1次世界大戦中はドイツ軍に占領されて，潜水艦基地となった。

オストラキスモス　［ostrakismos］　古代ギリシアの民主政制度。陶片追放ともいう。アルゴスでも行なわれたが，有名なのはアテナイで，僭主(せんしゅ)の出現を防ぐために，クレイステネスがBC508年ごろこの制度を制定した。市民が陶片(オストラコン)に追放すべき人物の名をしるす秘密投票制で，その票が6,000を越えた者は10年間アテナイから追放されるが，妻子や財産は保護された。これが実施されたのはBC480年代からで，テミストクレスも追放されている。しだいに政争の道具として悪用されたが，紀元前5世紀末には行なわれなくなった。

オストラバ　⇨モラフスカ-オストラバ

オーストラシア　［Australasia］　オセアニアの南東部をいい，メラネシア・ミクロネシア・ポリネシアに対するもので，オーストラリア大陸とタスマニア・ニュージーランドを含み，その陸地面積はオセアニアの93%，人口は80%で，オセアニアの主要部をなす。この名称は探検時代から用いられているが，はじめは範囲が明確でなかった。またオーストラリアと混同しやすいので，今日ではあまり使われない。

オーストラリア(連邦)　［Commonwealth of Australia］　オセアニア州にあり，オーストラリア大陸，タスマニア島，サンゴ海・タスマニア海の諸島を領土とする連邦国家。面積768万6,848km²(世界第6位)，人口1,441万8,000(1979年推)。イギリス女王を元首とする6州からなるイギリス連邦構成国で，いままではイギリスとの結びつきが強く，アジア諸国との関係は薄かったが，近年，アメリカ・日本との交流が深まっている。ヨーロッパ人移民により形成され，イギリス国教会・カトリック教徒が多い。人口の99%がイギリス系移民を中心とする白人。近年，インドシナ難民も受け入れている。公用語は英語。首都キャンベラ。通貨はオーストラリア-ドル。

〔自然〕オーストラリア大陸は，単調な地形と気候をもつが，生物相は，他の大陸と異なる特殊な生物群の生存がみられる。また，開発の歴史が18世紀末以来できわめて短いために，土地や資源の利用は，大きく自然に規制され，歴史的に複雑なものをもっていない。

〈地形・地質〉オーストラリア大陸は地質時代を通じてきわめて安定した地域で，大部分が原生代・古生代の地層からなり，中世代以後の地層の分布地域は狭い。中新世の世界的造山期にも直接影響を受けず，1,000 m程度の東部山地の隆起と，350 m内外の西部高原がつくられただけで，火山や褶曲(しゅうきょく)山地の形成はみられなかった。長い間の侵食を受け，地形はなだらかで各所に準平原が広く分布する。地形区は三つに大別される。

①西部高原：およそ大陸面積の3分の2を占める，平均高度350 mの準平原面でゴンドワナ大陸の一部である。内陸はサンジー・ギブスン・グレートビクトリアの砂漠(さばく)で，各所に残丘の岩脈が露出する景観がみられる。砂漠の西にハマズリー山地，中央部にマックドネル山脈が1,000 m以上の高度でそびえているが，いずれも侵食が進み，山容はなだらかな傾斜面をもっている。

②東部山地：東海岸沿いに幅約240 kmに達する大山地で，大分水嶺(だいぶんすいれい)山脈とよばれる。気候を東西に分ける境界をなすが，単一の山脈ではなく，高度も低く，東海岸では急傾斜し，内陸側にはゆるく傾斜している一種の傾動地塊の集まりで，高原上は農牧地に利用されている。北端は700～800 mの高原状を示し，アサートン高原とよばれるが，南端はかなり急峻(きゅうしゅん)でオ



オーストラリア

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市
10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市

ーストラリア-アルプスとよばれ，大陸の最高峰コシウスコ山(2,234 m)がある。1,000 m以上の高所には洪積(こうせき)期の氷河による圏谷などの氷河地形が各所でみられる。山地南東部海岸の平野は気候もよく，人口の大半はここに集中し，この国の政治・文化の中心地域を形成している。

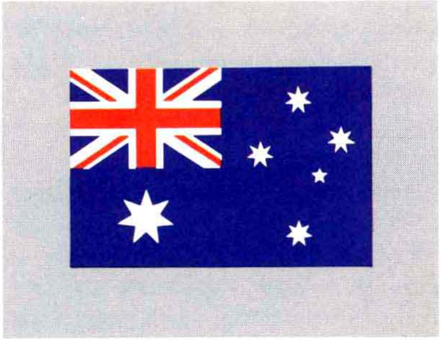
③中央低地：北岸のカーペンタリア湾から，南岸のオーストラリア湾東部にかけて，なだらかな傾斜で落ち込んだ低地が大陸を縦断している。これは中生代白亜紀以後の地向斜でできたもので，150～250 m程度の高さである。低地の中央部は掘り抜き井戸の多い地方で，大鑽井(だいさんせい)盆地ともよばれ，大部分が牧場として利用されている。

オーストラリア大陸の南にあるタスマニア島は，地質的に東部山地の続きであり，大部分が900 m以上の開析された高原で，多くの湖を高原上に載せている。またオーストラリア大陸東部の海岸沿いには，2,400 kmにも達する世界最大のサンゴ礁があり，大堡礁(だいほしょう)とよばれている。

〈気候〉南回帰線が大陸のほぼ中央を東西に走り，その北部は熱帯圏に属し，大陸北岸ではサバナがみられる。降水量の多い地域は東部山地の東側に限られ，内陸にはいるにしたがって，草原から砂漠に移行する。北東海岸の一部には熱帯密雨林が存在する。南部は温帯の海洋性気候で，オーストラリア湾岸には，地中海性気候の地域がある。土壌(どじょう)も気候に対応した分布を示し，中央に広く砂漠土壌の地域が広がり，概して土壌はあまり肥沃(ひよく)ではないが，雨量500mm以上の地域の沖積土(ちゅうせきど)はきわめて肥沃である。

〈生物〉オーストラリア大陸は中生代白亜紀に他の大陸から分離し，動植物は在来種が保存され，進化の姿もこの大陸独自のものをもっている。スピニフェクス草でおおわれる砂漠を取り巻いて，草地と林地の混淆(こんこう)地帯があり，外側は林地に変化し，高木林の分布は相対的に狭い。樹木の在来種は，アカシア属とユーカリ属のみであるが，ユーカリ属は365種，アカシア属はそれ以上の種が数えられ，きわめて多い。カンガルーに代表される有袋類が多く，猛獣はいない。ネズミ・ネコ・クマ・ムササビ・モグラに至るまで有袋類である。なかでもコアラはかわいい小動物として知られている。原始的特徴を残している魚類・鳥類・両生類・爬虫(はちゅう)類も知られ，肺魚・エミュー・ツカツクリ・コトドリ，卵生の哺乳(ほにゅう)動物のカモノハシなどがあり，他の大陸では化石にしかみられないものが現存している。➜オーストラリア区

〔住民〕住民は，イギリス人を中心とするヨーロッパ人が人口の大部分を占めている。ほかに約51,000人のオーストラリア原住民*があり，その数は年々減りつつあるが，きわめて古い時代にアジア大陸から来住し，大陸全土に分布していたといわれる。現代でも石器を使用し，狩猟中心の生活を営んでいる。狩猟には獲物にあたらないと舞いもどって



オーストラリアの国旗　1901年，数万点の応募作品の中から選ばれたもの。右の五つの星は南十字星で，この国が南半球にあることを表わしている。ユニオン-ジャックはイギリス連邦に所属することを示し，その下の七稜星は六つの州と属領の団結の象徴である



オーストラリア　(左)オーストラリア北部のダーウィン付近の海岸　(右)同じくダーウィンから南へはいった内陸のテナントクリーク付近のステップ。この付近の降水量は年間50mmにも満たない

くるブーメラン*という木製の器具を使う。それ以前に住んでいたタスマニア人たちは，オーストラリア原住民によってタスマニア島に追い払われ，1876年に絶滅した。宗教はヨーロッパ系住民の信仰するキリスト教がほぼすべてである。

【人口】国土が広い割には人口は1,000万余で少ないが，移民に対しては白豪主義*政策をとって，有色人種の移民を排除し，ヨーロッパ人からなる住民の高い労働生産性と生活水準が保たれている。しかし，慢性的な労働力不足と高賃金による工業化の停滞に悩んでいる。人口分布では，南東の海岸部の諸都市と，南西のスワンランドの都市に集中し，農村人口は少なく，オーストラリア大陸の3分の1は無住地域である。

【産業・経済】豊かな資源に恵まれているが，白豪主義による労働力不足という課題をかかえつつ開発を進めている。特に第2次世界大戦後は工業化をめざしているが，高級技術者の不足は深刻な問題となっている。このため，今日でも経済は農牧生産を基盤とし，先進工業国の製品市場として，貿易依存度の高い国である。

〈牧畜〉内陸の広大な草原はヒツジとウシの大牧場となっている。ヒツジはオーストラリア-メリノーとよぶ世界最良といわれる毛用種を，ステップの南東部地域を中心として，熱帯を除く砂漠周辺の草原で広く飼育している。全頭数は1億5,000万頭に及び，原毛生産高は約80万tで，世界の約38%を産出し(世界1位)，この国の輸出総額の約50%を羊毛で占める。世界の羊毛輸出貿易の半分はこの国の羊毛で，おもな輸出先はイギリスをはじめとするヨーロッパ諸国，日本・アメリカ合衆国で，日本はアジアにおける最大の輸入国となっている。また，肉用種のヒツジも総飼育数の約15%を占めている。東部山地の東斜面では乳牛，内陸サバナでは肉牛を飼育し，総頭数1,600万で，年間90万t近くの牛肉を生産し，その約80%は国内で消費され，残りを輸出している。国民1人あたりの食肉消費量は世界1である。乳牛は豊富な牧草を必要とするため，多湿な東海岸に多く，集約的に飼育される。酪製品工場も同じ地帯に集中しており，酪製品の50%が輸出される。これらのヒツジやウシはパドックとよばれる牧場で飼育され，その数は全国で約90,000を数える。

〈農業〉耕作可能な土地は大陸面積の4分の1に及ぶが，既耕地はその10%にも満たず，最大の農産物である小麦は年530万t程度の生産で，世界産額の2～3%にすぎないが，その約60%は輸出され，世界第4位に達する。小麦の生産地域はステップの南部で，マーレー川・ダーリング川の流域や輸送の便のよい鉄道沿線地域に集中している。灌漑(かんがい)施設の整った地域では豊凶の差は少ないが，その他の地域では天候に影響されるところが大きい。しかし，収穫期が主要市場である北半球のそれとずれることは輸出上有利である。また，地中海性気候の地方ではブドウ・ミカン，大陸北部の熱帯ではバナナ・パイナップル，南東部ではリンゴ・モモ・ナシなどを栽培している。

〈鉱工業〉第2次世界大戦中に戦線への物資輸送基地として，近代工業の発展が促されたのがいとぐちとなって，工業化へ踏み出した。古くからあった農畜産加工業に加えて戦後は，豊富な金・銀・銅・鉄・鉛・亜鉛・スズ・石炭などの鉱産資源をもとに重化学工業が興った。シドニーを中心とする製鉄・機械工業(自動車・航空機・船舶)，メルボルンを中心とする農畜産加工業，アデレードを中心とする鉄・スズ・鉛・亜鉛の精錬と各種機械・農畜産加工業がある。

【交通】鉄道は南東部を中心に発達し，オーストラリア湾岸のナラーバー平原を経て西南部と結ぶ路線がある。中央部はアリススプリングスまで北上する鉄道があるのみで北西部はほとんど発達していない。建設当初は各州でまちまちに敷設されたため州によって軌幅が異なる不便があって，近年これを統一するための工事が進んでいる。また，自動車道路と航空路はよく発達し，鉄道の不足を補っている。

【貿易】イギリスに農畜産品を輸出し，工業製品を輸入するという，イギリス植民地時代の貿易の形態が最近まで続いたが，近年日本への輸出とアメリカからの輸入がふえてきた。〔小栗　宏〕

【歴史】オーストラリア大陸は，すでに2世紀ごろの地理学者プトレマイオス*の地図に〈未知の大陸〉として記録されている。しかし，ヨーロッパ人がこの大陸に至り居住するようになるのは17世紀以降で，それまではオーストラリア原住民・タスマニア人らが旧石器時代の段階そのままの生活を営んでいた。

16世紀前半，いわゆる大航海時代*に，ポルトガル人がオーストラリア西北岸に到達したらしいが，記録にはっきり残っているのは，1616年，オランダ人ハルトクが西海岸のディルク-ハルトク島に上陸したのがはじめである。さらに1642～1643年にオランダ人タスマン*が西海岸周辺を回って東南海岸に達し，タスマニア島・ニュージーランドを発見して，オーストラリアを〈ニュー-オランダ〉と命名した。

1699年，イギリスの海賊ウィリアム-ダンピアが海軍の命を受けて西岸地域を探検し，人間の住めるところではないと報告をした。その後，オーストラリアはほとんど忘れさられた存在だったが，1770年，クック*を隊長とするイギリス王室地理学協会の金星観測隊が，いまのシドニー南方のボタニー湾に上陸し，東岸一帯を詳しく調査して，文明人の居住が可能であることを確認し，〈ニュー-サウスウェールズ〉と命名した。イギリスは1788年にこの大陸の領有を宣言した。

イギリスは長期刑囚人の流刑地を，アメリカ独立後は西アフリカとしていたが，マラリアの流行などで失敗し，代わってニュー-サウスウェールズを流刑地に決めた。1788年，第1回の流刑者約700人と役人・軍人

約200人が移住した。1793年以降には自由移民も行なわれ，エンクロージャー*による土地喪失者や産業革命による失業者らの自由移民が行なわれ，1830年代には自由移民が流刑囚を上回った。19世紀半ばに金鉱が発見されると，1850年ほぼ50万だった人口が，10年後には約110万になった。この間，1851年にイギリス議会にならって二院制議会が組織され，1853年には流刑植民地であることをやめた。

19世紀後半，大陸内の各地方はあいついで自治州をつくって独立を宣言した。イギリス本国はアメリカ独立戦争の失敗に懲りて強圧策を避け，1870年には全軍隊を引き上げた。1901年，6自治州は連合して連邦政府をつくり，首都をキャンベラに定めた。同時に白豪主義政策を宣言して今日に至っている。〔高山高雄〕

〔政治〕 政治制度は，首都キャンベラにイギリス国王の任命する総督がおり，また各州にもイギリス国王の任命する総督がいる。憲法はイギリスの政治的伝統にアメリカ合衆国の連邦組織を取り入れており，州に大きな権限が与えられている。連邦はニュー-サウスウェルズ・ビクトリア・クインズランド・サウスオーストラリア・ウェストオーストラリア・タスマニアの6州と，ノーザン-テリトリー・キャピタル-テリトリーの二つの連邦直轄区からなる。キャンベラは，連邦の首府を争ったシドニーとメルボルンの中間の山地に建設されたもので，計画的な都市づくりのモデルとされている。議会は二院制で定員は上院60人，下院124人。比例代表制による選挙で，第1党から首相を選出する。労働運動が盛んで，組合の組織率が高く，組合をバックにした労働党と，保守政党としての自由党が強力である。自由党は西欧支持政策をとり，労働党は，ナショナリズムと保護関税による工業化，白豪主義を政策に掲げている。〔小栗　宏〕

オーストラリア-アルプス(山脈)［Australian Alps］オーストラリア南東海岸の褶曲(しゅうきょく)山脈。大陸の東岸を，北端のヨーク岬(みさき)から，南端のタスマニア島に至る大分水嶺(だいぶんすいれい)山脈の南端部を占める。平均高度800～1,500mで，オーストラリア大陸の最高部を形成し，コシウスコ山(2,234m)はオーストラリアの最高峰である。年1,000～2,000mmの雨量があり，乾燥したこの大陸の主要な水源地で，マーレー川の源となっている。冬には降雪があるが，万年雪にはならない。南東麓(ろく)には，シドニー・キャンベラ・メルボルンなどの都市が並び，人口の集中区となっている。

オーストラリアく［オーストラリア区］オーストラリア大陸およびニューギニア島を含めた動物地理学上の分布区の一。単孔類・有袋類など原始的な哺乳(ほにゅう)類を含み，他の区と比べてその動物相は著しく特異的である。有袋類が多種多様いることは，



オーストラロピテクス-アフリカヌス

この大陸が第三紀のころ他の大陸と分離したために，他の大陸では真獣類の出現によって滅びた有袋類が，ここではそうした生存競争も行なわれず，生き長らえたと考えられる。脊椎(せきつい)動物以外でもこん虫などにも特異的なものが多い。➔動物地理区

オーストラリアげんじゅうみん［オーストラリア原住民］オーストラリアに白人が上陸する以前からずっと住んでいた未開の人々。後期石器時代末期にマラヤ・ニューギニアを経て渡来した。原始的な文化をもつことで知られ，一種の掘っ建て小屋に住み，採集経済を中心として狩猟も行なう。食生活もこれに伴ってまことに貧弱で栄養不良の者も多い。塩の不足に悩み，塩分を含む独特の土を食べたりする。道具はすこぶる貧弱でこん棒とやりを中心とするが，これ以外にブーメラン*を使うので著名。社会生活はいくつかの核家族を1グループとして，気候の変化や獲物の多少によって移動し，これが一つの外婚単位となっている。このホルドのいくつかの集まりは部族といわれる。トーテミズムが発達している。近ごろは白人との接触が進み，伝統的な文化も少しずつくずれているが，政府は保護政策をとり，保留地を設けている。人口約40,000。〔鈴木二郎〕

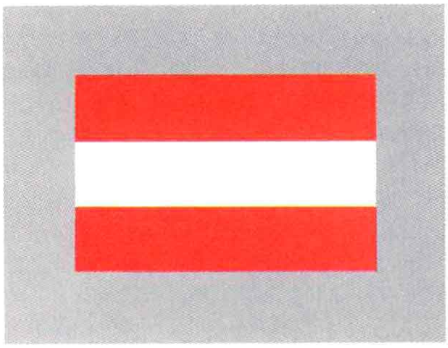
オーストラロイド［Australoid］インド・マレー半島・アンダマン島・フィリピン・ニューギニア・オーストラリアなどに分布するネグリト人種・マライ人種・オーストラリア人種などの総称。毛髪は球状毛から直毛まであるが，一般に波状毛で，皮膚色は，黒からかっ色，目は茶色，毛は黒色であるが，オーストラリア中央砂漠(さばく)では金髪と多様である。また，身長も高身長から低身長まで変異が多い。突出した眉上弓(びじょうきゅう)，後退した額，広鼻，あごの発達が悪いなど，古人類の特徴を備え，コーカソイド*から派生した系株(けいしゅ)の原始的生き残りとする説が有力である。

オーストラロピテクス［Australopithecs］1924年，南アフリカのタウングスで，ダートによって発見された猿人(えんじん)の女性小児頭骨。頭蓋(とうがい)容積は約500ccで，男性成人の600～700ccに相当し，ゴリラとほぼ同じで，チンパンジー(450cc)をしのぐ。歯牙(しが)の特徴は，全体的に人的な特徴が優勢である。その後，多数の同種化石が発見され，1958年，石器を伴うジンジャントロプスが発見されるに及び，ヒト科オーストラロピテクス属という分類学上の位置が与えられている。〔鈴木　尚〕

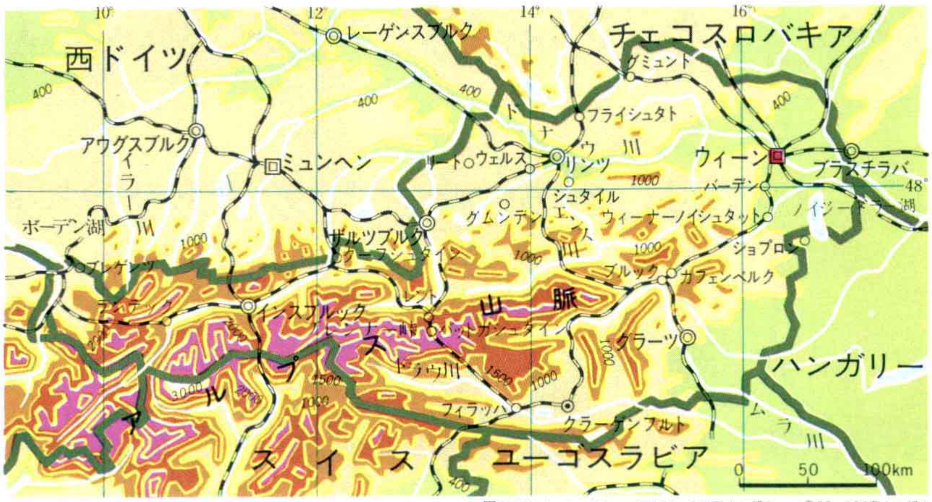
オーストリア(共和国)［Republik Österreich, Republic of Austria］ヨーロッパ中央部の共和国で，第1次世界大戦まではオーストリア-ハンガリー帝国を形成し，領域67万km²，人口5,200万人(1914)を擁し，現在のチェコスロバキア・ハンガリー全域とポーランド南部，ユーゴスラビア南部，ルーマニア北西部，イタリアの一部を含み，ヨーロッパではロシアに次ぐ大帝国として君臨していた。当時は50以上の言語を話す多民族をかかえていたが，両度の大戦の結果，ドイツ民族の居住地として残ったのが，現在の領域である。国名は〈東の境をなす国〉を意味し，10世紀にオットー大帝が神聖ローマ帝国を建設したとき，東方のマジャール人に対する防衛のため，この地方にドイツ人を移住させたのに起源をもつ。面積83,849km²。人口751万(1978年推)。首都ウィーン。

〔自然〕 平均海抜高度が900mもあり，スイスに次ぐ，ヨーロッパ第2の山国である。国の中央を東西に東アルプス山脈が走る。山脈は最高峰グロースグロックナー山(3,798m)などの氷河のかかった山峰の多い中央山脈と，ドナウ川支流のムール川およびエンス川の谷で隔てられた2列のやや低い石灰岩山地からなる。北西部のドイツのバイエルン地方との国境には，アルプス前山の丘陵が帯状に広がる。ここには多くの氷河湖があり，避暑地に利用されているとともに，丘陵や谷は黄土におおわれるため，豊かな農業地帯となっている。ドナウ川本流の北部はチェコスロバキアから延びるボヘミア高原の一部で，土壌(どじょう)は一般にやせて，森林におおわれている。南東部にはユーゴスラビアに向かって開いた，ドラバ川流域のクラーゲンフルト盆地とムール川流域のグラーツ盆地がある。東部はアルプスとカルパチア山脈の切れ目に発達したドナウ川中流のウィーン盆地と，その南のハンガリー平原の一部分であるブルゲンラントからなり，農業が最も盛んで，この国の中心をなす地域である。国土の大部分がドナウ川とその支流の流域であるが，西端のフォアアールベルゲ地方のみはライン川の河谷に属し，スイスとの結びつきが強く，また水力発電が盛んで，ドイツへも電力を供給している。

気候も変化に富み，首都ウィーン(海抜203m)では1月の平均気温－2℃，7月は20℃で，降水量は690mmである。しかし気温較差が大きく，盆地の冬の寒さはきびしい。高度440mにあるクラーゲンフルトの1月の平



オーストリアの国旗　第３回十字軍遠征の際，白い陣羽織がベルトの下を除いてサラセン人の返り血で赤く染まるほど戦い抜いたというレオポルド公の伝説に由来する。なお政府旗にはワシの紋章がつく



オーストリア





オーストリア　(左)東部はドナウ川の本・支流に沿って平野が開け，耕地と森林が美しく展開する　(右)西部のオーストリア-アルプスには3,000ｍ級の高峰がそびえ，壮大な氷河をもつものも多い

均気温－６℃は，同緯度のところの1,500ｍの高地の気温に相当するといわれる。東西に延びた谷では，南向きの斜面と北向きの斜面との気温の差が大きいため，集落や耕地は前者においては，より高いところまで発達している。北側に開いた谷ではしばしばフェーン現象が起こり，インスブルックでは年間40日以上もある。

〔産業・経済〕この国は地下資源に恵まれ，スチリア州には上質の鉄鉱の埋蔵があって年間110万ｔを採掘し，この国の製鉄業をささえている。しかし，石炭は外国から輸入し，褐炭(かったん)が下オーストリア州で産出されるが，石炭の不足はこの国の工業発展の障害となっている。ザルツブルク州の岩塩は古くから知られており，いまも年間44万ｔを産出して世界的に有名であり，マグネサイトの生産は153万ｔでチェコスロバキアに次いで，世界第２位である。チロル州では銅，カリンチア州では，鉛・亜鉛，ホーエタウェルン山脈北側の谷では金・銀を産する。石油はウィーンの北東50kmのジステルストルフの油田が1930年ごろから開発され，いまでは年産276万ｔ(1966)が採油されており，ヨーロッパではソ連・ルーマニアに次ぐ産額で，かなりの量を輸出している。水力資源は豊富で，現在，開発可能水力の60％にあたる177億kWh(1967)の電力が生産され，その15％以上がドイツへ送られている。電力はこの国で第７位の輸出額を占め，石油とともに石炭不足を補う重要なエネルギー資源となっている。スチリア州のグラーツ・レオーベン・ドーナウィッツ，上オーストリア州のリンツ・シュタイルが鉄鋼・機械・化学など重化学工業の中心で，ウィーンとその周辺には多種類の消費財工業が集中している。西端のフォアアールベルク地方では繊維，特に上品なししゅうの生産で名高い。

農用地は国土の20％を占める耕地と27％をも占める牧草地からなる。耕地は上オーストリア・下オーストリアの２州に全体の３分の２が集中し，ここが最大の穀物生産地域になっている。かつては食料不足に悩んだこともあるが，現在は小麦年産90万ｔ(1966)，ライ麦年産36万ｔ(1966)で，これらは95％まで自給が可能である。このほか，ジャガイモが年産298万ｔ(1966)で，生産量が多い。東部の丘陵ではブドウ，アルプス山麓(さんろく)地方ではリンゴの栽培が盛んであり，また低地ではテンサイがつくられ，粗糖の年産33万ｔは国内需要をまかなっている。農家は小規模の自作農が多く，農家の約半分は５ヘクタール未満の土地を所有するにすぎない。第１次世界大戦以降，アルプスを中心に牧畜が盛んとなり，肉・ミルク・チーズなどの生産が急速に伸び，250万頭のウシが飼育されて，畜産品の自給も可能である。また国土の38％をおおう森林はエゾマツ・ブナ・モミなどからなり，ヨーロッパではスウェーデン・フィンランドに次ぐ量があり，おもにアルプス山地やボヘミア高原から伐採され，木材や紙として輸出される。両者はそれぞれ輸出品の第３位，４位にあり，合わせて輸出額の10％以上を占めている。

観光も重要な産業で，１年間にここを訪れる外国人は754万(1966)で，この国の人口より多い。美しい山岳風景や絵のような谷や村，数多くの温泉，登山やスキー施設が人々を魅了するが，観光開発は歴史が浅いため，スイスよりは遅れている。

鉄道は国内をいくつかの国際路線が横断しており，その大半は電化されている。高速道路もよく整備されているが，鉄道とともに建設と維持には山国のために多額の費用をかけている。ドナウ川の水運は，その下流の社会主義国との間に交流が少ないために，第２次世界大戦前のような価値はなくなったが，リンツやウィーンの河港では石炭・鉄鉱・石油など年間655万ｔ(1966)の物資が出入りしている。また空港は，ウィーン・リンツ・ザルツブルク・グラーツ・クラーゲンフルト・インスブルックの６か所にある。

1946年の法律で，諸産業の国営化が進められ，製鉄の96％，電力の83％，化学肥料の100％が国営となっている(1965)。鉄道は第１次世界大戦以前から国有である。貿易ではヨーロッパ自由貿易連合に属し，西ドイツ・イタリアのEEC*(ヨーロッパ経済共同体)諸国，スイスとの結びつきが強く，貿易収支はかなりの赤字であるが，観光収入がこれを補っている。



オーストリア継承戦争　1745年5月のフォントノアの戦い。この戦いでオーストリア軍はフランス軍に敗れた。ベルネ《フォントノアの戦い》　ベルサイユ宮殿蔵

〔社会・政治〕国民の大部分はドイツ人で，高地ドイツ語を話し，86%がカトリック教徒である。ほかに若干のスラブ系住民がクラーゲンフルト盆地に住んでいる。国民の3分の1は人口10万以上の都市に集中し，特にウィーンには人口の23%が集中している。社会保障制度が充実しており，また芸術文化の水準が高く，特にウィーンにあるブルク劇場，ウィーン-フィルハーモニー交響楽団，ウィーン少年合唱団などは有名である。

国会は二院制で，上院は各州の代表で構成し，下院は直接選挙で選ばれる。国民党と社会党の二大政党がある。〔梶川勇作〕

〔歴史〕オーストリアは10世紀に神聖ローマ帝国の辺境伯領として歴史に登場し，13世紀後半にはハプスブルク家の領地となった。ハプスブルク家は1438年以後，神聖ローマ皇帝の位を世襲するようになり，皇帝もオーストリアの君主として活動した。三十年戦争(1618～1648)によりドイツ全体が荒廃したが，その中で有力になったのは，北のプロイセンと南のオーストリアであった。プロイセンがプロテスタントで軍事的独裁制をとる新興国であるのに対して，オーストリアはカトリックで多民族からなる伝統のある国であった。18世紀には，女帝マリア-テレジアがプロイセンのフリードリヒ2世(大王)と七年戦争で対抗し，オーストリアの地位を守った。神聖ローマ帝国は1806年に消滅したが，ウィーン会議(1814～1815)後の反動時代にオーストリアはメッテルニヒのすぐれた外交手腕により，ヨーロッパ外交の中心として保守主義の牙城(がじょう)となった。しかし，七月革命・二月革命など自由主義の進展でその政策は失敗した。またフランス革命・ナポレオン戦争により台頭したナショナリズムは，諸民族を含むこの国に大きな影響を与えた。特にマジャール人はハンガリー王国の独立を強く要求し，1867年両者はオーストリア-ハンガリー帝国(→二重帝国)を形成した。両国は独立の政府と国会をもつが，ともにオーストリア皇帝を君主とし軍事・外交・財政を共同にした。またプロイセンとオーストリアの間で争われてきたドイツ統一問題は，オーストリアを除外して1871年プロイセンによって解決された。

第1次世界大戦にはドイツとともに同盟国として参戦したが，敗戦により1918年11月皇帝カールは退位し，オーストリア共和国が成立した。翌1919年9月サン-ジェルマン条約によって講和を結んだが，この条約によって面積・人口は旧帝国の4分の1になった。政権ははじめ社会民主党が，のちにキリスト教社会党がになったが，産業の不振やインフレで国民生活は困難であり，ドイツとの合併を求める民族主義者の運動などで政情は不安定であった。1932年成立したキリスト教社会党のドルフス内閣は共産党とともに民族主義者も弾圧したので，民族主義者はナチスに加わり，1938年オーストリア-ナチスはドルフスを暗殺し，同年ドイツとオーストリアの合併(アンシュルス)が実現した。

第2次世界大戦が起こると，1939年オーストリアはナチス-ドイツの一翼として強制的に参戦させられた。1945年3月ソ連軍はウィーンを占領し，この国はアメリカ・イギリス・フランス・ソ連の4国により占領された。これら4国は講和条約に関し協議を続けたが，各国の利害の対立で容易に一致せず，ようやく1955年オーストリア国家条約が4国との間に調印された。これによってオーストリアは軍備を制限され，またドイツとの合併を禁じられたが，永世中立の独立国としての地位を認められて今日に至っている。この国は西欧の資本主義圏と東欧の共産圏との境界にあって困難な状況に置かれているが，古くからのすぐれた文化伝統をもっている。〈音楽の都ウィーン〉で象徴される音楽を中心として，文学や美術や学術など，ヨーロッパにおける文化国家としての地位はきわめて高い。

〔兼岩正夫〕

オーストリアがくは　【オーストリア学派】　1870年代に成立した近代経済理論体系。1870年代は経済学の歴史の中で新しい思潮の台頭の時期であった。それは従来の古典学派の労働価値説に対抗し，ローザンヌでワルラス，ウィーンでメンガー，イギリスでジェボンズが時を同じくして限界効用学説を唱え，近代経済理論の基底となる限界効用の概念をうち立てたことである。この中でウィーン大学のメンガーは財の価値を消費者の主観的評価としての効用に基礎をおく限界効用理論を体系的に展開し，方法論的基礎を確立した。次いで彼の方法を受け継ぎ大成させたのがウィーザー・ボエーム-バベルクであり，この学説が主としてオーストリアのウィーン大学の学者によって発展してきたことから，これらの学者をオーストリア学派とよぶ。なお，オーストリア学派は狭義には限界効用学派をさす場合もある。〔藤枝省人〕

オーストリアけいしょうせんそう　【オーストリア継承戦争】　1740～1748年にかけてオーストリアのハプスブルク家の王位継承問題をめぐり，ヨーロッパ諸国間で行なわれた国際戦争。1740年神聖ローマ帝国カール6世の死後，その娘マリア-テレジアがオーストリア王位につくと，バイエルン選挙侯らが異議を唱え，これに乗じてプロイセンのフリードリヒ2世がシュレジエンに侵入した。マリア-テレジアはイギリスと結んで反撃に出たが，プロイセンもフランスと結んでこれに対抗し，ロシアの介入を機に列国はアーヘンの和約を結んで戦争を終結させた。その間イギリスとフランスは新大陸で植民地戦争(ジョージ王戦争)を行なった。プロイセンはこの戦争によりシュレジエンを得て台頭のきっかけをつかみ，イギリスも新大陸で優位に立った。〔大野慎一郎〕

オーストリアこっかじょうやく　【オーストリア国家条約】　正式には〈独立と民主主義のためのオーストリア再建の国家条約〉という。オーストリアは第2次世界大戦後，アメリカ・イギリス・フランス・ソ連の4か国によって分割占領されていたが，1955年5月，本条約が調印され，主権を回復した。本条約のおもな内容は，オーストリアの独立尊重，ドイツとの併合禁止，核兵器などの特殊兵器の所有禁止などである。

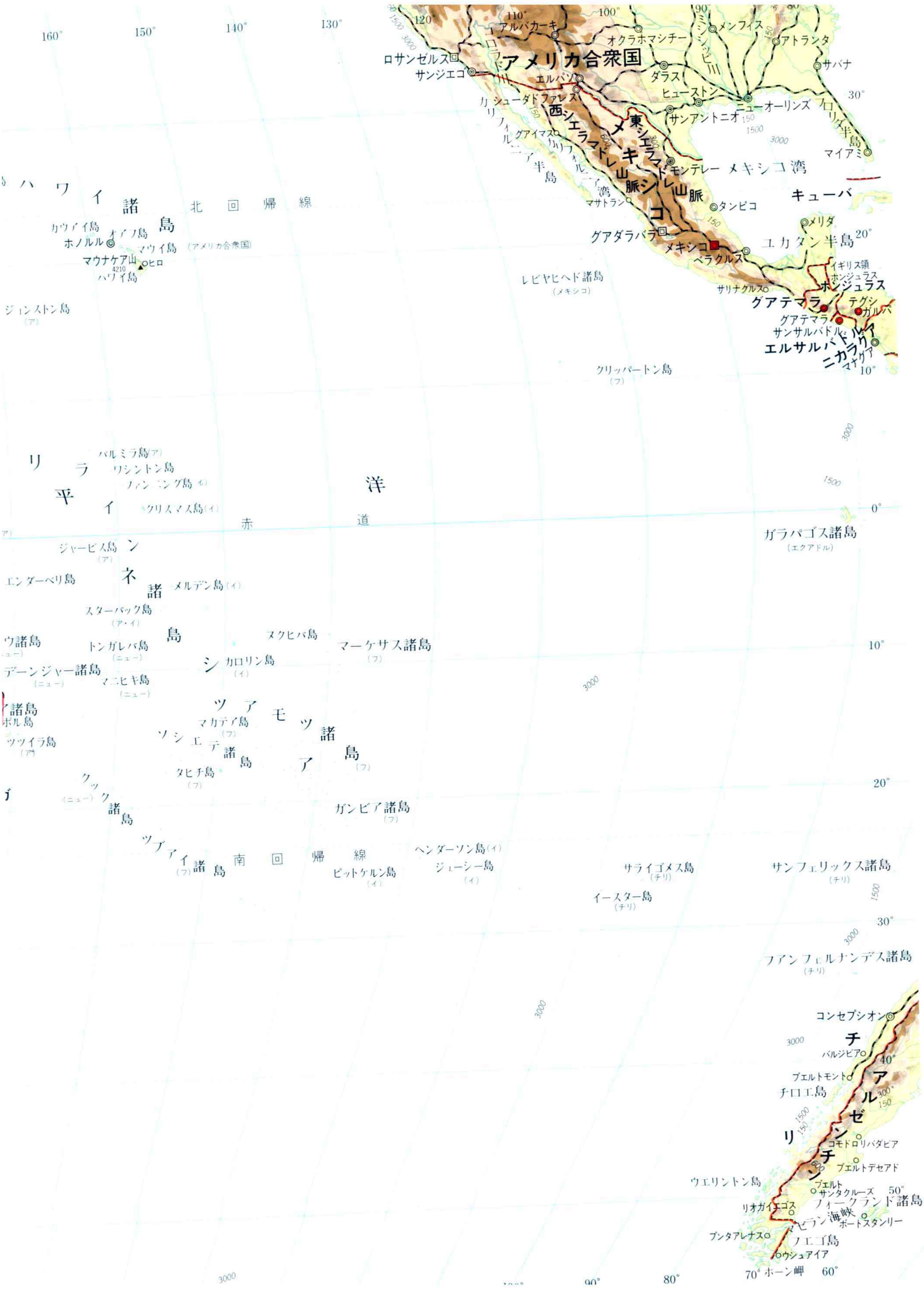
オーストリア-ハンガリーていこく　【オーストリア-ハンガリー帝国】　⇨二重帝国

オーストロ-アジアごぞく　【オーストロ-アジア語族】　南亜語族ともいう。オーストリアの人類学者W.シュミットの命名による。彼は，マライ半島からインドシナ半島を経てインド北西部に分布する南アジアの言語が一つの語族を構成するとみなし，それらの諸言語を次の3群に分ける。①セマング・セノイ，②カシ・ニコバル・ワ-パラウン-リアン，③モン-クメール・ムンダ・

オセアニア



中華人民共和国
蘭州
済南
西安
鄭州
徐州
南京
成都
重慶
武漢
上海
宜賓
長沙
南昌
杭州
昆明
貴陽
福州
広州
香港
ハノイ
海口
海南島
ラオス
ベトナム社会主義共和国
ユエ
ダナン
ビンジン
ポーチミン（サイゴン）
南シナ海
京城
大韓民国
釜山
北九州
日本
名古屋
東京
横浜
大阪
鹿児島
日本海溝
伊豆諸島
東シナ海
南西諸島
奄美大島
沖縄島
台北
台湾
高雄
+ラマポ海淵
−10680
父島
母島
小笠原諸島（日本）
硫黄島
硫黄諸島
沖大東島
沖ノ鳥島
アパリ
ルソン島
マニラ
ケソン
フィリピン
サマル島
イロイロ
バコロド
セブ
パラワン島
ミンダナオ島
ダバオ
サンボアンガ
フィリピン海溝
+ケープジョンソン海淵
−10497
+エムデン海淵
−10400
ビチアス海淵
−11034
チャレンジャー海淵
−10863
ヤップ島
アンガウル島
ヌグールー島
パラウ諸島
マリアナ諸島
マリアナ海溝
アグリハン島
（ア信）
アナタハン島
サイパン島
グアム島
（ア）
ミッドウェー島
リシアンスキー島
ウェーク島
日付変更線
エニウェトク島
ビキニ島
マーシャル諸島
（ア信）
クェゼリン島
ラリク列島
ラタク列島
ミクロネシア
トラック諸島
トラック島
ポナペ島
カロリン諸島
（ア信）
太平洋
ギルバート諸島
マキン島
タラワ島
カピンガマランギ島
ナウル
ナウル島
オーシャン島
（イ）
ホーランド島
ベーカー島
カントン島
マレーシア連邦
キナバル山
4101
ナツナ諸島
ブルネイ
セレベス海
タンジュンセロル
クチン
メナド
モルッカ海峡
ハルマヘラ島
ボルネオ島
マカッサル海峡
セレベス島
スカダナ
ラヤ山
2278
バンカ島
ブル島
セラム島
ソロン
アドミラルチ諸島
メラネシア
カビエング
ニューアイルランド島
ビリトン島
バンジェルマシン
ウジュンパンジャン
（マカッサル）
ジャカルタ
インドネシア共和国
ジャワ海
スラバヤ
ジャワ島
小スンダ列島
バリ島
ロンボク島
スンバワ島
スンバ島
フロレス島
チモール島
ジリ
アラフラ海
西イリアン
ホーランジア
アイタペ
ジャヤ峰
5030
ニューギニア島
マダング
ビスマーク諸島
ラバウル
ニューブリテン島
ラエ
パプアニューギニア
ブーゲンビル島
ソロモン諸島（イ）
ソロモン海
メラウケ
ポートモレスビー
サンタイサベル島
マライタ島
ガダルカナル島
サマライ
トレス海峡
木曜島
ヨーク岬
サンクリストバル島
サンタクルーズ諸島
（イ）
フナフチ島
（イ）
エリス諸島
ロツーマ島
西サモア
ウォリス諸島
（フ）
ダーウィン
アーネムランド半島
カーペンタリア湾
ヨーク岬半島
サンゴ海
トレス諸島
（イ・フ）
エスピリツサント島
ウィンダム
バーダム
ダービ
ブルーム
デーリウォーターズ
ノーマントン
カマウウィール
ケアンズ
タウンズビル
北部地方
ニューヘブリジーズ諸島
（イ・フ）
エロマンガ島
フィジー諸島
バヌアレブ島
フィジー
スバ
ビチレブ島
チェスターフィールド諸島
（フ）
ポートヘッドランド
北西岬
サンジー砂漠
オーストラリア
ヒューエンデン
大分水嶺
ニューカレドニア島
（フ）
ヌーメア
ローヤルチー諸島
（フ）
トンガ諸島
ヌクアロファ
トンガ
トンガ海溝
ブルース山
1226
マックドネル山脈
アリススプリングス
ロックハンプトン
ギブソン砂漠
ウェストオーストラリア
シンプソン砂漠
クインズランド
マリーバロ
ミーカサラ
ウィルナ
大鑽井盆地
ブリスベーン
クイルピー
ビクトリア砂漠
サウスオーストラリア
エーア湖
シェラルトン
ラバートン
カルグールリー
マーレー
ニューイングランド山脈
バーク
グラフトン
ノーフォーク島
（オー）
ケルマデック諸島
ケルマデック海溝
ケルマデック海淵
−9427
パース
ナラーバー平原
ブロークンヒル
ロードハウ島
ポートオーガスタ
ニューサウスウェールズ
ニューカッスル
シドニー
ウロンゴング
エスペランス
オールバニ
アデレード
キャンベラ
オーストラリアアルプス山脈
オーストラリア湾
カンガルー島
メルボルン
タスマン海
ノース岬
ラッセル
オークランド
北島
ハミルトン
ギスボーン
ニュージーランド
バス海峡
オサ山
ローンセストン
タスマニア島
1617
ホバート
タスマニア
パーマーストンノース
ネルソン
ウェリントン
クック海峡
南島
クック山
3763
クライストチャーチ
チャタム諸島
インバーカージル
スチュアート島
サウス岬
アンチポデス諸島
オークランド諸島
インド洋
比高図例（m）
3000 150 300 1500
6000 1500 0 600 3000
1：40,000,000
0 400 800 1200 1600 1800km



アメリカ合衆国
ロサンゼルス
サンジエゴ
アルバカーキ
オクラホマシチー
メンフィス
アトランタ
サバナ
ダラス
エルパソ
シウダドファレス
ヒューストン
ニューオーリンズ
サンアントニオ
フロリダ半島
マイアミ
カリフォルニア半島
カリフォルニア湾
グアイマス
西シエラマドレ山脈
東シエラマドレ山脈
メキシコ
モンテレー
メキシコ湾
キューバ
タンピコ
マサトラン
グアダラハラ
メキシコ
ベラクルス
メリダ
ユカタン半島
イギリス領ホンジュラス
ホンジュラス
テグシガルパ
グアテマラ
サンサルバドル
エルサルバドル
ニカラグア
マナグア
サリナクルス
レビヤヒヘド諸島
(メキシコ)
クリッパートン島
(フ)
ハワイ諸島
北回帰線
カウアイ島
オアフ島
ホノルル
マウイ島
(アメリカ合衆国)
マウナケア山
4210
ヒロ
ハワイ島
ジョンストン島
(ア)
パルミラ島(ア)
ワシントン島
ファンニング島(イ)
クリスマス島(イ)
リライン諸島
平洋
赤道
ジャービス島
(ア)
エンダーベリ島
メルデン島(イ)
スターバック島
(ア・イ)
ウ諸島
トンガレバ島
(ニュー)
ヌクヒバ島
マーケサス諸島
(フ)
デーンジャー諸島
(ニュー)
マニヒキ島
(ニュー)
カロリン島
(イ)
ポリネシア
諸島
ボル島
ツツイラ島
(ア)
マカテア島
(フ)
ツアモツ諸島
(フ)
ソシエテ諸島
タヒチ島
(フ)
クック諸島
(ニュー)
ガンビア諸島
(フ)
ツブアイ諸島
(フ)
南回帰線
ピットケルン島
(イ)
ヘンダーソン島(イ)
ジューシー島
(イ)
サライゴメス島
(チリ)
イースター島
(チリ)
ガラパゴス諸島
(エクアドル)
サンフェリックス諸島
(チリ)
ファンフェルナンデス諸島
(チリ)
コンセプシオン
チリ
バルジビア
プエルトモント
チロエ島
アルゼンチン
コモドロリバダビア
プエルトデセアド
ウエリントン島
プエルトサンタクルーズ
フォークランド諸島
リオガイエゴス
マゼラン海峡
ポートスタンリー
プンタアレナス
フエゴ島
ウシュアイア
ホーン岬
160°
150°
140°
130°
120°
110°
100°
90°
80°
70°
60°
30°
20°
10°
0°
10°
20°
30°
40°
50°
60°
150
1500
3000

チャム-ラーデ。さらに，この語族とマライ-ポリネシア語族*とがアウストリッシュ語族(南方語族)という大語族を形成すると考えた。仮説として有名であるが，比較言語学的にはまだ承認されていない。その後，フランスの学者J.プシルスキーは，この分類を改め，①モン-クメール語，②ムンダ語，③ベトナム語としたが，それら言語間の系統関係の証明は依然としてできていず，仮説の域を出ていない。〔崎山 理〕

オーストロネシアごぞく【オーストロネシア語族】 ⇨マライ-ポリネシア語族

オストロフスキー［Aleksandr Nikolaevich Ostrovskii］(1823～1886) ロシアの劇作家。軽薄な笑劇や翻訳ものが横行し，主として貴族の世界が描写の対象であったロシア演劇界にあって，最もロシア的な生活を演劇化して，ロシアにおけるリアリズム演劇を確立したことで国民演劇の創始者とみなされている。その作品は，金銭に貪欲(どんよく)で家庭ではがんこな小暴君である主人，そのもとでしいたげられる妻子・使用人などを登場人物として，無知と迷信，横暴と悲惨の支配する商人の世界を写実的な手法で描き出している。代表作は《雷雨》《森林》などで，ほかにリムスキー-コルサコフ*の音楽でオペラ化された《雪娘》が有名。創作以外に，俳優・劇作家の社会的地位の向上にも貢献した。〔藤家壮一〕

オストロフスキー［Nikolay Alekseevich Ostrovskii］(1904～1936) ソビエトの小説家。さまざまな労働生活を経て政治活動に幼少から従事した。国内戦における負傷がもとで手足に不自由をきたし，視力が失明に近いほど衰えたが，社会への奉仕のために，ひとりの若い共産党員の成長を描くことを決意し，自伝小説《鋼鉄はいかに鍛えられたか*》を書いた。

オストワルド［Friedrich Wilhelm Ostwald］(1853～1932) ドイツの物理化学者。ライプチヒ大学教授。反応速度に対する酸の影響から，酸の親和力を決定し，1884年アレニウス*の発表した電離説を直ちに認め，翌1885年弱酸のモル伝導率の測定から，オストワルドの希釈律*を見いだした。1887年ファントホッフ*・アレニウスとともに《物理化学年報》を創刊し，物理化学という新しい基礎科学を建設した。また，アンモニア酸化法(オストワルド法*)による硝酸の工業的製法の基礎を完成させ，晩年には色彩論・エネルギー一元論を発表した。なお，彼はすぐれた教育者でもあり，著書《化学の学校》は有名。化学史上貴重な《古典叢書(そうしょ)》を編集した。1909年ノーベル化学賞受賞。〔山下愛子〕

オストワルドほう【オストワルド法】 アンモニア酸化法ともいう。硝酸の製造方法として，各国で行なわれているものである。20世紀の初めにオストワルド*が，副生アンモニアを用いて硝酸製造を行ない，ちょうどそのころハーバー*が空気中の窒素を用いたアンモニアの合成法を完成した(→ハーバー-ボッシュ法)。そのためアンモニア酸化による硝酸製造が有利になり，急激に発達して，それまでのチリ硝石の硫酸分解法や空中窒素の酸化法に取って代わった。製法の原理は次のとおりである。

①アンモニアと空気または酸素との混合ガスを触媒(白金，またはコバルト酸化物に助触媒を加えたもの)の存在下で高温で反応させて酸化窒素NOをつくる。

$4NH_3 + 5O_2 \rightarrow 4NO + 6H_2O$(酸化)

②NOを高温で酸化して二酸化窒素NO_2にする。

$2NO + O_2 \rightarrow 2NO_2$(酸化)

③NO_2を水に吸収させて硝酸HNO_3にする。

$3NO_2 + H_2O \rightarrow 2HNO_3 + NO$(吸収)

酸化と吸収をそれぞれ常圧で行なう常圧式，加圧で行なう加圧式，吸収だけを加圧で行なう半加圧式がある。生成する硝酸の濃度は，常圧式で50～60%，加圧式で60～65%，半加圧式で62%であるが，濃硝酸(98%)は濃縮によるかまたは濃硝酸直接合成法によってつくられる。〔久保輝一郎〕

オスナブリュック［Osnabrück］ 西ドイツ北部，ニーダーザクセン州，エッセンの北東にある工業都市。人口14万1,000(1966)。オスナブリュック織で知られる繊維工業をはじめ，鉄鋼・機械などの工業が盛ん。ハーゼ川に沿い，運河でハノーバーなどと結び，ベルリンやオランダに至る鉄道の分岐点でもある。14世紀にはハンザ同盟*に加わって発展した。三十年戦争*終結のウェストファリア条約*はここで結ばれた。

おすねこムルのじんせいかん【牡猫ムルの人生観】 ホフマン*の小説(1821)。ホフマンは30歳半ばで，20歳も年下の少女ユーリアとの一種異様で神秘的な恋愛のとりことなるが，この作品はその体験を主題に，雄ネコの手記と楽長クライスラーの自伝が交じり合う形で書かれた未完の大作である。人間とネコとの性格と行動の中に皮肉な相似を見いだすことができ，ホフマンの俗界への嘲笑(ちょうしょう)がうかがわれる。夏目漱石(そうせき)の《吾輩(わがはい)は猫である*》に影響を与えたといわれる。〔松尾幸子〕

オズーフ［Jean Osouf］(1898～) フランスの彫刻家。デスピオ*とマイヨール*の指導を受けたが，その作品は温和な写実的形態のうちに，みずみずしい情感をたたえた表情豊かな独自の作風を示している。

オズボーン［Henry Fairfield Osborn］(1857～1935) アメリカの古生物学者。コロンビア大学教授。ニューヨークのアメリカ自然史博物館の古生物学部門主宰者であった。化石脊椎(せきつい)動物の研究で知られ，ウマ・サイ・長鼻類・雷獣類などのすぐれた研究を発表している。コープ*の考えを受け継ぎ，《哺乳(ほにゅう)類の臼歯(きゅうし)の進化》(1907)の中で，生物の適応放散の事実を明らかにしている。また，《生命の起源と進化》(1917)の中で，〈連続進化の法則〉〈進化直進の法則〉〈進化の促進および遅滞の法則〉〈進化の躍進または不連続の法則〉を明らかにしている。また物理化学における粒子論の考えを取り入れ，いわば動力進化説ともいわれる考えをまとめている。モーガン財閥の有力者であったため，1929年にロックフェラー基金によって北京(ペキン)に新生代研究所を設立している。〔大森昌衛〕

オズボーン［John Osborne］(1929～) イギリスの劇作家。ロンドンの下層階級出身で，大学教育は受けず，17歳のころからいなか回りの劇団で働きながら戯曲を書いた。1956年，デビュー作《怒りをこめてふりかえれ*》が上演され，イギリスをはじめ各国の演劇界にセンセーションを巻き起こした。偽善的な社会への怒りと，単調な生活に対するいらだちを舞台いっぱいにたたきつける主人公の反抗的な姿勢が，〈怒れる若者たち*〉の名称を生むきっかけとなり，その代表的な存在とみなされるようになった。ほかに《寄席(よせ)芸人》《ポール-スリッキーの世界》《イギリスのための芝居》《認められぬ証言》などの戯曲，およびシナリオ《トム-ジョンズ》などがある。〔栗原行雄〕

オズボーンはんけつ【オズボーン判決】 1908年イギリスの合同鉄道従業員組合の組合員オズボーンが組合資金の用途に関して組合を訴えた。2審・3審の判決で，労働組合が国会議員に俸給(ほうきゅう)を出すなどはその権限外で違法だとされ，オズボーンの勝訴となった。労働党の躍進，組合資金特別保護立法の制定という当時の風潮に逆らう事件で，1913年には一定の制限内で本判決を事実上破棄する立法がなされた。

オスマン(1世)［Othmān］(?～1326) オスマン-トルコ帝国*の創建者，第1代スルタン。モンゴル軍に押されて西方にやってきた遊牧部族の君長の子といわれる。イル汗国*のモンゴル軍によって宗主である小アジアのセルジュク朝*が解体した混乱期にあって1299年に独立し，西方のビザンツ領を侵略して勢力を拡大し，帝国の基礎を築いた。

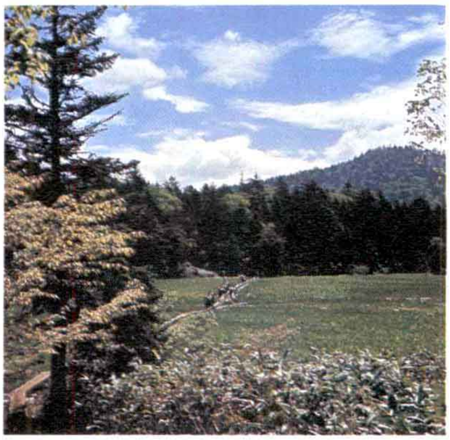
オスマン-トルコぞく【オスマン-トルコ族】 オスマン-トルコ帝国*を建てた遊牧民族の一集団。一般には，中央アジアに広く分布していたオグズ-トルコの一分派であるカイウ部から出たといわれるが，明確ではない。今世紀の初めにオスマン史家の間で論争が起こり，多くの著名な歴史家がこれに参加した。

オスマン-トルコていこく【オスマン-トルコ帝国】 13世紀末，小アジアの西北辺境にいたオスマン-トルコ族の王朝によって建てられたイスラム帝国。1299～1922年の622年間存続。小アジアの支配者であったセルジュク朝解体期の無政府状態の中にあって

同族相争う小アジアの内部には向かわず，衰退期にあるビザンツ領を侵略して勢力を拡大した。1326年のブルサの占領をはじめとしてニケア・ニコメディアなどの重要都市を次々と占領し，バルカン半島に進出した。1389年にコッソボの戦いでバルカン同盟軍を破り，次いで1396年にニコポリでヨーロッパ諸国軍を破ってバルカン半島の大半を併合した。しかし，1402年に西進してきたチムール軍とアンカラに戦って敗北し，帝国の発展は中断した。王位継承の内乱ののち，メフメット1世（1413～1421）が即位すると勢力を復活し，メフメット2世の時代（1451～1481）にはオスマン領内で孤島のごとき存在を続けるビザンツの首都，コンスタンチノープルを陥落させ，東ローマ帝国を滅ぼした。セリム1世の時代（1512～1520）になると目を東方に向けてイランに迫り，シリア・アラビア地方を保護下に置き，エジプトを征服するに至った。このとき，マムルーク朝の保護下にあったアッバス朝カリフの遺族からカリフの称号を譲り受けたといわれ，スルタン-カリフ制度といわれる特異な制度が成立した（1517）。次のスレイマン1世の時代（1520～1566）には最盛期を迎え，1529年にはウィーンを包囲して，アジア・アフリカ・ヨーロッパにまたがる大帝国を完成した。文化は爛熟（らんじゅく）し，国家的な諸制度も完成して当初の軍事的な面よりはイスラムの原則に基づく文治的な面が強く現われるようになった。しかし，いわば頂点であったこの時代が過ぎると帝国は徐々に衰退しはじめ，中央・地方を問わず統治機構内部に退廃がみられ，貨幣価値の下落がこれに拍車をかけた。対外的にも第2回ウィーン包囲（1683）に失敗するなど軍事的な弱体化は免れなかった。17～18世紀の対外戦のあいつぐ敗北と屈辱的な諸条約の受諾はスルタンに改革政策を決意させることになり，セリム3世（1789～1807）に始まる改革政策は継承されてアブデュル-メジト（1839～1861）からアブデュル-アジズ（1861～1876）の治下にかけて行なわれた広範な改革タンジマートの近代化・西欧化政策となって現われたが，支持者のない改革は失敗に終わり，帝国の衰退はとどめることができなかった。東方諸州の反乱・独立はあいつぎ，列強もまた続々と侵略を開始し，あるいは反乱に援助を与えさえした。また，ギリシアの独立に始まってロシア-トルコ戦争の敗北はバルカンの領土の大半を失わせた。スルタン政府はこれに対しなんらの方策も施すことができなかった。他方，国内的には下からの改革運動として展開していた立憲運動の結果，成立した憲法もスルタンにより停止されて専制支配が行なわれていた。この状況下にあって西欧的な教育を受けた青年将校からなる青年トルコ党が決起し，新内閣を成立させた（1908）。しかし，第1次世界大戦にはドイツ側に立って参戦したため，1919年に首都は連合国側の占領体制下にはいり，国土には連合軍が進駐した。このとき，帝国軍の司令官のひとりであったケマル-アタチュルクが立ち，屈辱的な条約を受諾したスルタン政府を否認し，アンカラに新政府を樹立して国民軍を組織し，各地で独立戦争を開始した。この結果，連合国側は新政府を認め，新政府は1922年11月1日にスルタン制の廃止，1923年10月に共和制の宣言を行なって，オスマン帝国は滅亡し，トルコ共和国が生まれた。〔斎藤淑子〕



オスロ 市庁舎の港に向いた南面入り口から見たオスロの波止場。広場には有名な彫刻家の作品が飾られている



尾瀬 尾瀬ケ原の夏。貴重な自然を保護するため，尾瀬ケ原一帯の湿原には，板を渡してつくった木道が整備されている

オスミウム [osmium] 周期律表第Ⅷ族に属する白金族元素の一。記号Os，原子番号76，原子量190.2。質量数186～192の七つの同位体が知られている。天然に存在するものは質量数192のものが約42.5%で最大である。1804年S.テナントにより発見された。帯青色の亜鉛に似た外観をもつ金属で，比重22.5ですべての物質中最大であり，融点は約2,700℃で白金属元素中最高である。合金材料や触媒として用いられる。酸化されやすく，常温の空気中では酸化オスミウムになる。〔古屋　弘〕

オスロ [Oslo] ノルウェー南部にある同国の首都で，政治・経済・文化の中心地である。人口47万9,000（1975年推）。深い湾入をもつオスロ-フィヨルドの奥部にあり，港は年じゅう凍結しない。水陸交通の結節点であり，商業のほか，貿易・海運業が盛んである。また，グロマ川の水力をもとに造船・パルプ・食品加工などの工業が発達している。市街は，カール-ヨハン街を中心に国会議事堂・オスロ大学・国立劇場などが立ち並び，すぐれた都市計画によって建てられた美しい都市として世界的に名高い。スキー博物館・航海博物館・民族博物館など，特色ある文化的施設も多い。

1050年ハロルド3世によって建設され，13～14世紀にはハンザ同盟に加わって繁栄した。1397年デンマークに併合され，1624年の火災で市街は焼失したが，デンマーク王クリスチャン4世によって再建され，クリスチャニアと改名。1925年旧名に復した。〔梶川勇作〕

おぜ【尾瀬】 群馬・福島・新潟3県の県境にあり，日光国立公園の北西部に位置する海抜1,400m内外の高原で，高山植物群落のある大湿原尾瀬ケ原には，大小数百の池沼に浮き島が浮かび，ミズバショウの咲く6月，ニッコウキスゲの開く7月，湿原地全体が紅葉にいろどられる秋などは特に美しい。最近交通の便もよくなり，四季を通じて訪れる人が多くなった。三平峠（尾瀬峠）は沼田口の表玄関ともいうべきところで，燧ケ岳（ひうちがだけ）（2,346m）の溶岩が沼尻（ぬまじり）川をせき止めてつくった尾瀬沼が一望に収められる。燧ケ岳と至仏山（2,229m）は尾瀬の景観と切り離すことのできない存在で，頂上からのながめは絶景である。また，富士見峠の近くの菖蒲平（あやめだいら）は，1,900mの高地にあって尾瀬の縮図を思わせる。尾瀬はまた，植物学上の宝庫で，オゼソウ・オゼコウホネ・リュウキンカ・ニッコウキスゲ・キンコウカ・ミズバショウなどがみられ，文化財保護委員会が尾瀬保護センターを建設してその保護と研究とにあたっている。〔菊池万雄〕

オセアニア [Oceania] 六大州の一つで，大洋州ともいう。太平洋の中央部から南部にかけての広い範囲で，オーストラリア大陸と，世界第2の大きさをもつニューギニア島をはじめとする大小無数の島々を含み，これをふつうオーストラリア・ニュージーランドなどを主とするオーストララシア，ニューギニアを主とするメラネシア，多くの小さな島が集まっているミクロネシアおよびポリネシアの四つに分けるが，狭義にはオーストララシアを除いたメラネシア・ミクロネシア・ポリネシアのみをオセアニアとすることがある。オセアニアの範囲は広いが，陸地は少なく，面積850万km²，人口2,090万（1974）で，ともに六大州中最小，人口密度も1km²あたり2.5人にすぎず，熱帯アフリカや熱帯アメリカとともに世界で

最も開発の遅れている地域である。

〔自然〕ニューギニアを除けばいずれの島島もあまり大きくはなく，オセアニアの面積の90％はオーストラリアが占める。島々は陸島と洋島とに二大別され，陸島は第三紀末の環太平洋造山帯の活動によって生まれ，オーストラリア大陸またはアジア大陸の前衛となっているもので，ニューギニア・ニュージーランド，ミクロネシア西部のマリアナ諸島・グアム島・ヤップ島・パラウ諸島などが含まれる。洋島は太平洋底から噴出した火山島であって，だいたい北北西から南南東の方向に並んだいくつかの島列にまとめることができるが，これはかつて太平洋底に生じた大規模な割れ目に沿って噴出したことを示している。ミクロネシアのカロリン諸島やマーシャル諸島と，ポリネシアのハワイ諸島などがこれに含まれる。ニューギニアをはじめとする陸島でも，火山活動が行なわれているが，その噴出物はおもに安山岩質で，洋島の噴出物がおもに玄武岩質であるのと，はっきり相違している。陸島も洋島も，多くはその上にサンゴ礁*を載せており，それはあるいは島の周囲を取り巻くだけの裾礁(きょしょう)，あるいは島の海岸から離れて，島の周囲を取り巻いている堡礁(ほしょう)，あるいはサンゴ礁の輪だけがある環礁となっている。オーストラリア大陸の北東部には，長さ2,000kmに及ぶ有名な大堡礁*がある。陸島群と洋島群の間は，マリアナ海溝(かいこう)などの海溝や洋底のくぼんだ部分によって隔てられているのが，地図を見てもよくわかる。ポリネシアの東端にあるマルケサス諸島やイースター島は，サンゴ礁を伴わない火山島で，海岸は高い海食崖(かいしょくがい)となっている。

世界最小の大陸であるオーストラリアは，海岸線の出入りの少ない単純な形をしていて，地形も比較的単調である。すなわち東海岸に沿って大分水嶺(ぶんすいれい)山脈が走り，その西には大鑽井(だいさんせい)盆地*があって，西部は高さ300mを越える広い台地となり，その内陸部には砂漠(さばく)が広がっている。ニューギニアには，高さ5,000mを越える脊梁(せきりょう)山脈が北西から南東に走っていて，高所には氷河をいただき，低地は熱帯森林におおわれて，湿地が多い。

オセアニアの地域は，ニュージーランドとオーストラリアの南部を除けば，いずれも熱帯圏内にあって，1年じゅう気温が高い。しかし，北半球では北東貿易風，南半球では南東貿易風が1年じゅう吹き，毎日のようにスコールがあるので，比較的しのぎやすい。オーストラリアは，北部が熱帯気候，南部が温帯気候で，北西部は熱帯季節風，北東部と東部は南東貿易風の影響を受けて雨が比較的多く，また南部の海岸は偏西風のために地中海性気候*となっているが，中央部から西部にかけては，世界的に雨の少ない地域で，砂漠が広がっている。ニュージーランドは，偏西風の影響を受ける温暖な海洋性の気候で，冬も暖かく雨は1年じゅう平均して降るが，南島の西海岸は年降水量2,000mmを越え，北島の北部は地中海性の気候である。

オーストラリアやニューギニアは，古い地質時代に他の大陸と分離したために，近接の東南アジアとは生物相がいろいろと異なっている。動物の分布の上で，東南アジアとオセアニアの境界であるウォレス線*やウェーバー線*は，いくつかの例外があって決定的なものとはいえないが，東南アジアに普通の動植物が，オーストラリアやニューギニアにはみられず，その代わりにいろいろな特殊な生物が残っていることは事実である。植物では，オーストラリアのユーカリノキが代表的で，600種もあるうちには高さが100mを越えるものもあり，動物では，オーストラリアのカンガルーやユーカリノキの葉を好んで食するコアラなどの有袋類，ダチョウ目の中でダチョウに次いで大形のエミューや尾の形が竪琴(たてごと)そっくりのコトドリ，その鳴き声が人の笑う声に似ているというワライカワセミのような鳥類，オーストラリアとタスマニアに産する原始的な卵生の哺乳(ほにゅう)類のカモノハシとハリモグラ，ニュージーランド特産で大きさはニワトリぐらいのキーウイ，ニューギニアの密林にすむ約40種のフウチョウ(ゴクラクチョウ)，オーストラリア北部とソロモン諸島にいて，ブッソウゲの蜜(みつ)を吸って生きている親指大の小鳥タイヨウチョウ(太陽鳥)などが，特有のものである。またオーストラリアには野生犬のディンゴ，肺魚類のセラトダスなどがいる。一般に猛獣らしいものはおらず，ワニや毒ヘビの類も，他の熱帯地方に比べて少ない。ニュージーランドには，中生代の爬虫(はちゅう)類で生き残っているムカシトカゲがおり，またコウモリのほかは陸生哺乳類がいないなど，特異な現象を示している。

〔住民〕2,090万の人口のうちの80％余の1,637万は，オーストラリアとニュージーランドに集まっており，そのほとんどはイギリス系を主とする白人で，オセアニアはヨーロッパを除けば，白人の比率の最も高い地域である。オーストラリアの原住民は人種系統がはっきりせず，普通はセイロンのベッダなどとともにオーストラロイドとして分類され，癖のある髪や毛深い点でコーカソイド(白人)に似ている。18世紀末に白人が入植したころは30万人いたと推定されるが，いまでは純血は40,000人，混血を加えても10万人ぐらいしかいない。タスマニアの原住民は，ベンガル湾のアンダマン人に近いとされているが，1876年に最後の女性が死んで絶滅してしまったことは，〈タスマニアの悲劇〉としてよく知られている。

メラネシアの住民は，オセアニア-ニグロともよばれており，皮膚の色の黒いのが特徴で，元来メラネシアという呼称も，ギリシア語で〈黒い島々〉の意味である。大きくパプア人とメラネシア人の二つの系統に分けることができるが，パプア人はニューギニアとビスマーク諸島に住んで約200万を数え，長頭，黒かっ色の皮膚，縮毛，広鼻といったニグロイド系の特色をもち，これに対してメラネシア人はニューギニアの南東部からメラネシアの全域にわたって分布し，その数は50,000人ほどで，パプア人よりも早くこの地域へ来たと思われ，パプア人に似ているがより広鼻で，また頭形も中頭に近い。パプア人を新メラネシア人というのに対して，古メラネシア人ともいうが，オセアニアの原住民の中では，最も原始的である。ミクロネシアに住むミクロネシア人は，メラネシア人・マライ人・ポリネシア人に似ている点もあるが，モンゴロイド的の特色も強い。ポリネシア人は，航海民族としてよく知られており，北はハワイから南はチリ領のイースター島まで，広い範囲に分布し，ニュージーランドに約17万人残っている原住民のマオリ族も，ポリネシア系である。ポリネシア人の人種系統は，不明な点が多いが，長身，かっ色の皮膚，直毛または波状毛という点で共通性をもっており，おそらくいまから2,000年以上もまえに，東南アジア方面から移住してきて，古い型の白人的要素をもつ先住民と混血したものと考えられ，島々の間でいくらかの変異はあるが，基本的には等質である。彼らはマライ-ポリネシア語族に属するポリネシア語を話し，ハワイと7,000km以上も離れたニュージーランドとの間でも，方言の程度の差しかないのは，驚くべきことといわねばならない。またポリネシア人は，オセアニアの原住民の中では，ミクロネシアのチャモロ族とともに最も高い知的水準を示している。宗教は，キリスト教が広まり，植民地の統治政策の一環ともなった白人の宣教活動によって，新旧両教の信徒が多く，どんな孤島にも教会がある。しかし，原住民の間には，アニミズム*もまだまだ根強く残っている。

〔政治〕オセアニアは，世界の中で最もおそくヨーロッパ人によって発見され，開発の遅れていた地域であったが，ポリネシア人の間には，欧米文化と接触するまえにも比較的高度の社会組織があり，部族国家もあちこちに成立していた。19世紀になって，ヨーロッパ人の援助によって，各諸島ごとに超部族的な原住民の王国が形成された。たとえばハワイ諸島は18世紀末から19世紀の初めにかけてカメハメハ大王によって統一され，ここに1893年まで続いた王国があり，同じく18世紀末に成立したタヒチのポマーレ王朝や，19世紀にトンガ諸島を統一したカノクポル王朝も，超部族的な国家であった。欧米の勢力が進出するにつれて，ハワイ王国のようにアメリカ合衆国にまっ

たく併合されてしまったものもあるが，トンガはイギリスの保護下に王制を維持し，内政では原住民の支配が許されていたが，1970年にトンガ王国として独立，イギリス連邦の一員となった。しかし，国連には加盟していない。このほか，イギリスの国連信託統治領から独立した西サモア(1962)，イギリス領から独立したフィジー(1970)があり，ともにイギリス連邦に加わっており，フィジーは国連にも加盟している。リン鉱の豊富なナウル島はオーストラリア・ニュージーランド・イギリスの3国共同の信託統治領であったが，1968年に独立した。バチカン市国に次ぐ世界最小の人口と領土をもつ独立国である。一方，オーストラリアとニュージーランドに植民したイギリス人は，原住民の勢力がほとんど問題にならなかったために，最初から白人のみの社会をここに築きあげ，白人オーストラリア主義(白豪主義*)，白人ニュージーランド主義を掲げて，いっさいの有色人の入植を拒否し，オーストラリアは1901年，ニュージーランドは1907年に，イギリス連邦内の自治領となり，外交権をもつ完全な独立国となった。オセアニアに進出したのは，イギリスとアメリカのほか，フランス・ドイツ・オランダ・ポルトガル・日本があった。イギリスは，ソロモン諸島(保護領)・ギルバート諸島(植民地)・エリス諸島(植民地)・ピトケアン島(植民地)を現在も保有している。このほか英仏共同統治領のニューヘブリジーズ諸島がある。アメリカは，ハワイを第50番めの州として，1959年に連邦に加え，このほかサモア諸島の東部，グアム島・ウェーク島を領土とし，ミクロネシアの大部分であるいわゆる南洋諸島を，太平洋諸島信託統治領としている。フランスは，ニッケルの豊富な産地であるニューカレドニア島を植民地，フランス領ポリネシア・ウォリスーフュチュナ諸島を海外領土としている。フランス領ポリネシアは，面積4,000 km²，人口12万，ソシエテ・ガンビエ・マカテア・マルケサス・ツアモツなどの諸島を含み，ソシエテ諸島のタヒチ島は，〈南海の楽園〉として有名である。このほか，オーストラリア領のノーフォーク島，ニュージーランド領のクック諸島，人口わずか250の絶海の孤島であるチリ領のイースター島などがある。オランダはインドネシアが独立したのちも，西ニューギニア(西イリアン)の領有を続けようとしたが，1969年の自決権行使によって，インドネシアへの帰属が決まり，東南アジア・オセアニアにおけるすべての植民地を失った。ポルトガル領としては，チモール島の東半分が残っていたが，1976年にポルトガルとインドネシアの協定が成立して，インドネシア領となり，チモール島は一本化された。19世紀以降の欧米諸国の植民地獲得競争に一歩遅れたドイツは，遠くオセアニアまで進出し，南洋諸島・西サモア・ナウル島・北東ニューギニアを植民地としたが，第一次世界大戦に敗れてすべてを失い，南洋諸島は日本，西サモアはニュージーランド，ナウル島は，オーストラリア・ニュージーランド・イギリスの3国共同，東北ニューギニアはオーストラリアのそれぞれ委任統治領となった。第2次世界大戦後は，南洋諸島がアメリカ合衆国の信託統治領となったほかは，そのまま委任統治が信託統治に変わり，前述のように西サモアとナウル島は独立した。なおニューギニアの南東部(パプア)は，オーストラリアの保護領であったが，北東部のオーストラリアの信託統治領であった北東ニューギニアや，それに接する同じくオーストラリア信託統治領のビスマーク諸島と一つになって，1975年にパプアーニューギニアとして，独立，国連にも加盟した。

オセアニアは，国際政治的にはきわめて平穏であるが，アジアやアフリカにみられるような，地域的・民族的な連帯感は，ほとんどない。それは，①オーストラリアやニュージーランドにおいては，白人が絶対に優位であること，②広大な範囲にわたって小さな島々が散在しているために，まとまりがつかないこと，③イギリスをはじめ，植民地を領有している国々が，つとめて融和政策をとり，原住民に内政を任せているところが多いこと，④白人絶対優位のところでも，たとえばニュージーランドでは，北島の約2分の1をマオリ族に割り当ててその保有地とするほか白人との混住も許し，4名のマオリ族代表の国政参加を認めていることなどによるものと思われる。アメリカ領のグアム島では，1965年に国連信託統治委員会が，軍事基地の撤廃と島民の自治を促す決議を可決したが，これに対する島民の目だった反応はなく，対米依存の意識が強い。問題があるとすれば，ニューギニアであって，西イリアンではインドネシアへの帰属を喜ばず，独立を願う一派がまだくすぶりを続けている。北東ニューギニアやパプアでも原住民の間に，独立を達成しようとする運動があり，オーストラリア政府はこれに対しては，むしろその運動を育成するような態度をとって，1975年に完全独立を達成させたが，265万の人口が500以上もある部族に分かれ，700以上の言語をもっている現状で，国家的統一はこれからの課題である。実際には旧パプア(南東ニューギニア)と，ビスマーク諸島の中のブーゲンビル島で，すでに分離独立運動のきざしがあり，旧パプアは独立前から分離独立を希望し，ブーゲンビル島も〈北ソロモン共和国〉と称して，一方的に分離独立を宣言するなど，この国の前途は多難である。またオセアニア全体についていえることは，アメリカ合衆国の軍事力と経済力が大きく，その勢力がきわめて強くなっているということであろう。

〔産業〕オーストラリアとニュージーランドの農牧業，特に小麦栽培と牧羊，ハワイのサトウキビとパイナップル，フィジー諸島のサトウキビ，西サモアのカカオ，ニューギニアのココヤシ・ゴム・コーヒーなどのプランテーション形式による栽培や最近急速に発達してきた原住民によるこれらの作物の商品としての栽培，およびこれも最近めざましい発展ぶりを示しているオーストラリアの重化学工業ぐらいのものである。島々の多くの原住民は，ココヤシ・サゴヤシ・パンノキ・バナナ・タロイモ・ヤマイモ・サツマイモ・キャッサバなどを，焼き畑にいまだに掘り棒を使ってつくっている状態で，犂(すき)農耕はみられず，したがって家畜もブタやニワトリだけで，ウシやウマのような大家畜は飼われていない。大きな島のニューギニアでも，まだ採集狩猟の段階にある原住民が少なくない。水産業は原住民によって自給用の小規模なものが営まれる程度であるが，中には西部オセアニアにおけるナマコのように19世紀から商品となっているものもあり，また日本人によるアラフラ海の真珠貝採取や，同じく東サモアやニューヘブリジーズ諸島を基地とするマグロ漁業が注目される。

地下資源としては，オーストラリアに従来からある金・鉛・亜鉛のほかに，第2次世界大戦後に豊富なボーキサイトや鉄鉱石・粘結炭が発見され，石油や天然ガスの開発も進んでいて，これに伴ってアルミニウム精錬・製鉄などの金属工業や，機械・化学工業などが興り，オセアニアにおける唯一の近代工業地帯が，オーストラリアの南東部を中心に生まれつつある。中でも自動車工業の発展はめざましく，オーストラリアは〈羊毛と小麦の国〉から〈鉄鋼と自動車の国〉へ変わりつつあるといわれるほどである。ニュージーランドにも，石炭と金・砂鉄などの地下資源があるが，工業は食品・繊維などの軽工業のほかは，パルプ・製紙工業が発展している程度にすぎない。このほかの地域では，ニューカレドニアのニッケルとクロム，東北ニューギニアとパプアの金・白金・銀・銅・石炭・石油，西イリアンの石油などの地下資源が重要で，東北ニューギニアとパプアのものは，まだ開発途上にあるが，金はすでに輸出されている。またナウル島のリン鉱石は，世界的に有名である。しかし，近代工業はほとんど発達しておらず，わずかに農水産物の加工工業や，サンゴ石灰岩によるセメント工業などがみられるにすぎないが，東北ニューギニアのブロロには，第2次世界大戦後白人資本によるベニヤ板工場ができて，製品をアメリカ合衆国やオーストラリア・ニュージーランドに輸出している。ハワイには製糖業のほか，パイナップルのかんづめとジュース工場があり，アメリカ領サモアのツツイラ島には，アメリカ資本による大規模な

水産物のかんづめ工場がある。

〔交通・貿易〕鉄道はオーストラリアとニュージーランドにあるだけで，ほかに鉄道が必要なほどの大きさをもつ島としては，ニューギニアとチモール島があるが，いまのところ鉄道は敷かれていない。オーストラリアでは，航空路や自動車による道路交通の発達に比べると，鉄道の発達は遅れ，特に州営のために各州ごとに軌幅の異なることは，大きな障害となっていたが，最近は改良工事が進められている。

広大な海域に点在している島々を結ぶには，海上と航空の交通しかないが，これらの島々はまたアメリカ・アジア・オーストラリアの3大陸間交通の中継地として重要で，中でもハワイのオアフ島のホノルル，ウェーク島，グアム島のアガナ，ニューカレドニア島のヌーメア，フィジー諸島ビチレブ島のスバ，アメリカ領サモアのツツイラ島のパゴパゴ，イギリス領ギルバート-エリス諸島の一部であるライン諸島のクリスマス島などが，国際航空路の上で果たしている役割は大きい。

対外貿易上重要な地位を占めるのは，やはりオーストラリアとニュージーランドであって，イギリス・アメリカ合衆国・日本が主要な相手国となっている。オーストラリアと日本との貿易関係は，年々緊密になってきており，オーストラリアから日本への輸出は，鉄鉱石・石炭(原料炭)・羊毛・肉類・砂糖などを主として，アメリカやイギリスをしのぎ，1966～1967年度(1966年7月～1967年6月)以来第1位を続けている。これに対して輸入の第1位は，アメリカ合衆国で，日本・イギリスがこれに続き，輸入商品は重化学工業品が主となっている。ニュージーランドは，オーストラリアに比べると，イギリスへの依存度が大きく，かつては貿易総額の50%強を対イギリス貿易が占めていたこともあったが，いまでは19%程度で，オーストラリア(17%)・日本(14%)・アメリカ合衆国(13%)が，イギリスを追っている。輸出はおもに羊毛・肉類・バター・チーズなどで，輸入はおもに工業製品である。この傾向はオーストラリアと同じであるが，オーストラリアでは鉄鉱石や石炭などの鉱物の輸出があるほか，工業の発達に伴って，鉄鉱や機械，特に自動車の輸出が増加している。オーストラリアとニュージーランドのほかに，国際貿易の上で将来性のあるのはニューギニアの西イリアン(インドネシア領)とパプア―ニューギニアで，開発の進展につれてゴム・ココア・コーヒー・コプラ・木材などの輸出の増加が期待できる。ニューカレドニアのニッケル，ナウル島のリン鉱，ハワイの砂糖とパイナップルかんづめやジュースも，オセアニアの輸出品として重要である。→265ページ(地図)〔浅井得一〕

オセアニアおんがく【オセアニア音楽】



オセアニア音楽 (左)フィジー諸島の楽器ビツ。地面に落としてさまざまな音を出す (中)ニューヘブリジーズ諸島のくり抜き太鼓ダムダム (右)サモア諸島の楽器ラリ



オセロット

オセアニアの人種の分類と同様にオセアニア音楽は大きく三つの系統，すなわち，ポリネシア・メラネシア(ニューギニアを含む)・ミクロネシアに分けることができる。ポリネシアはさらに，航海移民の経路によって東西二つの区別ができる。東ポリネシアはタヒチ島をはじめ，割れ目太鼓による激しいリズムの音楽と舞踊をもつ。それに対して西ポリネシアは，ハワイ・マオリ(ニュージーランド原住民)などには他の島よりも物質が豊富であったので，ひょうたんによる種々の楽器(ガラガラなど)，火山石のカスタネット，サメ皮の太鼓，竹の鼻笛，拍子木・口琴など，楽器の種類がオセアニアの中ではきわめて多い。メラネシアではパンパイプや両面太鼓が儀式音楽舞踊の楽器として重要な意味をもっており，崇拝神を象徴する紋様が彫られている場合が多い。ミクロネシアには楽器は少なく，鼻笛・口琴や棒踊りの棒，敷き石をたたくものがあげられるのみである。オセアニア全般についていえることは，声楽があくまで中心であり，音楽の種類(ジャンル)それぞれに対して旋律型がほぼ決められていて，ある旋律を聞けば，それがどの種類の歌かすぐ識別できるようになっていることである。したがって，オセアニア伝統音楽の作曲ということは，既存の旋律にどのような新しい歌詞を施すかということにある。声楽はソロの場合には装飾音型が多く，コーラスの場合には応誦(おうしょう)ふう・交唱ふう・平行歌唱(3度・6度・4度など)・対位旋律などの多声性が顕著である。オセアニア音楽のもう一つの特徴は，共同体の無形財産としての社会的性格が強く，社会生活の多くの面から切り離せないことである。たとえば，歴史を文字の形で残す代わりに長大な歌詞の中に記録したり，男女別々の成人教育の場で音楽舞踊の訓練が行なわれたり，酋長(しゅうちょう)たちの政治的集会に音楽が機能的に参与したり，音楽に財産としての経済的価値が認められたりすることである。〔山口　修〕

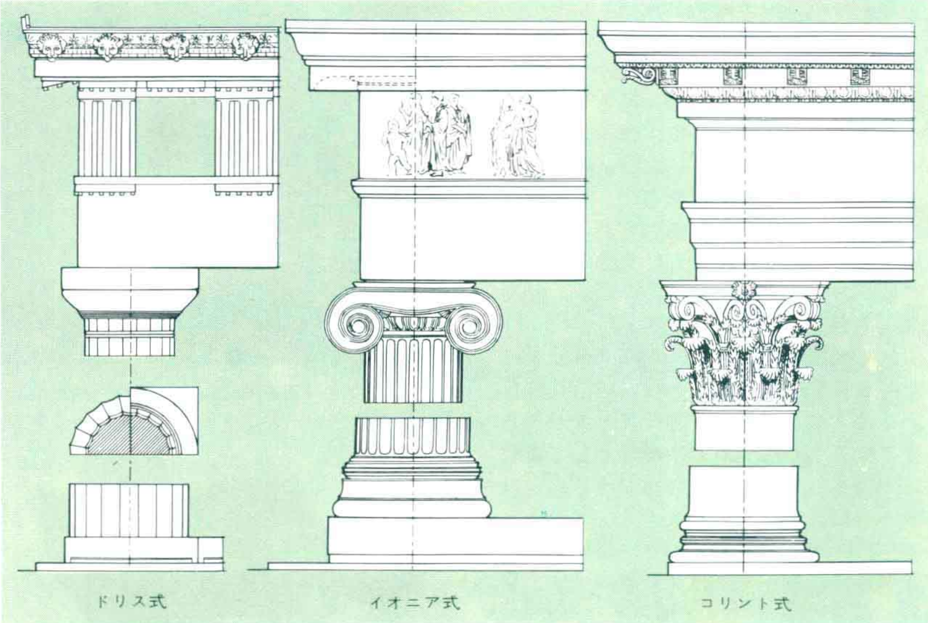
おせちりょうり【おせち料理】 正月三が日の重詰め料理。お節(せち)とはもと五節供の意で，人日(1月7日)，上巳(じょうし)(3月3日)，端午(5月5日)，七夕(たなばた)(7月7日)，重陽(9月9日)をいい，この五節供に用いる料理がおせち料理であったが，のちに正月料理だけをよぶようになった。関東ではおせち，関西ではお重詰めといい，ゴボウ・いも・ニンジン・こんにゃく・ダイコン・焼き豆腐などの精進物を主とした煮しめが中心となっていたが，現在ではすべての正月料理をいう。〔塩川ふみ〕

おぜぬま【尾瀬沼】 福島・群馬両県境にある沼。面積1.67km²，水面高度1,665m，水深8.5m。沼の北にある燧ケ岳(ひうちがたけ)(2,346m)の溶岩による堰止湖(せきとめこ)。水は北西部の沼尻(ぬしり)から流れて只見(ただみ)川にはいる。周辺には原生林におおわれた山を巡らし，湖岸には高層湿原が分布して幽邃境(ゆうすいきょう)をつくっている。沼と尾瀬ヶ原の自然保護に生涯(しょうがい)をささげた平野長蔵の名はいまに伝えられ，沼の東北方丘の上にその墓がある。湿原は初夏から夏にかけてはミズバショウをはじめとする天然の花園をなし，訪れる人が多い。日光国立公園に所属する。→尾瀬〔長津一郎〕

オセロ シェークスピア*の悲劇。1604年の作と推定される。ムーア人オセロは，無敵の武将としての自信と，黒人でありながら白人の妻デズデモーナ(語源はギリシア語の不幸)をもつことから生じる劣等感とに悩む。彼の部下イアーゴはその不安につけこみ，デズデモーナの不貞を偽証する。オセロは苦悩のあげく無実の妻をみずからの手で殺し，その後イアーゴの奸計(かんけい)を知り，自刃して果てる。悲惨に自滅していく単純な男と悪の天才との対比が鋭く浮き彫



恐　山　宇曾利山湖(恐山湖)の湖畔の極楽ノ浜に集まる参拝者。対岸の山は恐山の最高峰大尽山(828m)



オーダー

りにされる作品。　〔五十嵐一〕

オセロット　［ocelot］　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ネコ科。体長97cm，尾長40cmほど。姿が美しく，背には黒い環状の斑紋(はんもん)が鎖状につながる。北アメリカ南部ないし南アメリカ中部の森林にすむ。木登りがうまく，サルや鳥などを食う。よくなれるので，ペットとして飼われる。➔前ページ(写)

おせんころがし　【お仙転がし】　千葉県安房(あわ)・夷隅(いすみ)両郡境，太平洋岸の突出部にあり，延長約4kmにわたり，高さ100m余の断崖(だんがい)が海に迫る。地名は，孝女おせんでさえも神仏の加護むなしくがけから落ちたという伝説にちなむ。南房総国定公園の一部で，鉄道は房総東線がトンネルで抜けるが，道路は断崖の中腹を通って眺望(ちょうぼう)がよい。

おそめ　【お染】　清元節・日本舞踊の曲名。本名題《道行浮塒鴎(みちゆきうきねのともどり)》。4世鶴屋(つるや)南北作詞，初世清元斎兵衛(さいべえ)作曲。1825年(文政8)初演。大阪が舞台のお染・久松の情話(➔新版歌祭文)を，江戸の隅田堤(すみだづつみ)に移した道行物*。心中に連れ立つお染と久松の色模様がかれんに描かれ，通りすがりの猿回(さるまわ)しが意見交じりにたっぷり踊る。

おそるべきこどもたち　【恐るべき子供たち】　コクトー*の小説。1929年の作。子どもらしい気まぐれな空想のうちに生きている思春期の姉弟，エリザベートとポールが，無意識のうちに愛し合いながらも，おとなの世界の冷酷な現実に直面して心中するという物語。第1次世界大戦後の少年の異常心理を，鋭いリアリズムと詩的叙情で描いている。

おそれざん　【恐山】　青森県下北半島の北部にあり，宇曾利(うそり)山ともいう。山頂部は大きな火口をなし，屏風(びょうぶ)山・大尽山(828m)・円山などの火口壁が，火口湖である宇曾利山湖を囲み，山体の南東側には寄生火山釜臥(かまふせ)山(879m)がある。宇曾利山湖の北岸には硫気孔や温泉があり，その付近は植被が少ない。古くから東北地方の霊場として知られ，湖畔の菩提(ぼだい)寺(円通寺)は毎年7月の祭りに多くの参拝人でにぎわい，死者のことばを伝えるといういたこ*の〈口寄せ〉は有名である。山腹一帯はヒバの広大な樹林になっていて，良材が得られる。南東のふもとのむつ市から火口まではバスが通じている。下北半島国定公園に属する。　〔高野　繁〕

オゾン　［ozone］　O_3　酸素の同素体。酸素分子に原子状酸素が作用して生成する。独特の臭気を有する微青色の気体で，水1体積あたり0.5体積しかとけないが，四塩化炭素などにはよく溶解する。液体は黒青色，固体は暗紫色を呈する。融点－193℃，沸点－112℃，0℃における気体密度2.144g/l。常温で自然に分解して酸素となる。強い酸化力をもち，銀を過酸化銀に，硫化鉛を硫酸鉛に酸化する。ヨウ化カリウムデンプン紙を青変させる。この反応は次のような反応式で表わされ，オゾンの検出および定量に用いられる。$O_3+2KI+H_2O \rightarrow O_2+I_2+2KOH$　酸化剤・漂白剤・殺菌剤として，また有機化合物の構造研究にも用いられる。かわいた酸素ガス中で無声放電を行なわせたりしてオゾンを発生するオゾン発生器*が実用化している。地表部の空気中には非常にわずかにしか存在しないが，大気の上層部にはオゾン層*があり，オゾンが多量に含まれる。　〔竹下三吉〕

オゾンそう　【オゾン層】　オゾンを含む気層。高さ25～30km付近が濃く，10～40kmに分布する。平均含有量は，容積にして大気の2×10^{-5}～5×10^{-5}%という微量である。オゾンは0.2～0.3μの波長帯に強い吸収帯をもち，紫外線を吸収する。0.2μ付近より短い紫外線部分は吸収されて地上に到達しない。オゾン層の生成は，太陽放射による光化学反応によるものである。すなわち，大気中の酸素分子は，太陽光線中の紫外線を吸収して原子に解離するが，励起した状態になり，酸素分子と衝突してオゾンをつくる。こうしてできたオゾンは，紫外線・可視線・赤外線などによって分解し，もとの酸素に還元する。オゾンの量の年変化や緯度変化を調べると，オゾンの生成は，単に太陽光線による生成・分解だけでなく，成層圏内の大気の運動にも関連があることがわかる。〔相原正彦〕

オゾンはっせいき　【オゾン発生器】　無声放電や溶液の電気分解などを利用してオゾンを発生させる装置。無声放電による装置をオゾナイザーという。1857年ドイツのジーメンスが考案した装置が有名。二重ガラス管の内外にスズ箔(はく)を張り，5～25kVの交流電圧をかけて無声放電を行なわせながら管の間隙(かんげき)の一方の入り口から乾燥空気を送り込むと，他方の口から10%ぐらいのオゾンが得られる。収量は低温ほど，電圧および周波数が高いほど多い。

オーダー　［order］　古代ギリシアおよびローマ建築で，コラム*(円柱)とエンタブレチュア*とからなる楣式(まぐさしき)構造の細部構成にみられる一定の法則性または規準型。紀元前1世紀のローマの建築家ビトルビウスの著書《建築書》において，ギリシア人が発明したドリス式・イオニア式・コリント式の三つのオーダーを正しく適用するのが美しい建築を設計する基本だと説いたのが，この概念のはじまり。

［ドリス式］最も古い基本的なオーダーで，簡素で力強い表現をもつ。正規の柱は必ず円柱で太く重々しく，その根もとはベース(礎盤)をつけず直接スタイロベイト(基壇)の上に立てられ，シャフト(柱身)にはフリューティングとよぶ彫りみぞをつけ，底部

より頂部の太さを細くしてその直径の減らし方に強いエンタシス*をつけ，キャピタル(柱頭)は四角い皈のアバカス(四角い厚みのある板)とその下の丸い繰り形部分のエキナスとからなり，コラムの円からエンタブレチュアの角へ移行する接点の造形として，最も簡潔な構成をとる。エンタブレチュアは，コラムの上に乗る水平部材の総称で，アーキトレーブ*という本来の梁(はり)と，その上の装飾的なフリーズと，最上部のコーニスの3層からなり，フリーズは，梁の上に乗る小梁にかたどられた縦みぞつきのトリグリフと，その間のすきまを埋める板のメトープからなり，メトープには浮き彫りの装飾をつける場合が多い。建物の妻側ではエンタブレチュアの上に，ペディメントという石造の破風壁(はふかべ)が乗り，ここも浮き彫りの装飾をつける主要な場所となる。

［イオニア式］コラムがドリス式より細く，エンタシスが弱まり，柱の根もとにベースをつけ，うずまきつきのキャピタルに特徴があり，エンタブレチュアもドリス式に準じているが，全体に細く優雅である。

［コリント式］キャピタルにアカンサス*の葉飾りを用いるのが特徴で，イオニア式に比べて，さらにいっそうプロポーション(部材比例)が細くなり，装飾が豊かで華麗である。ドリス式とイオニア式がギリシアの全盛期に用いられたのに対して，コリント式はそのころ新たにくふうされはじめたもので作例が乏しく，のちのローマに伝えられてローマ人が完成し愛用した。

ローマではこの三つのオーダーのほか，ドリス式を簡略化したトスカナ式と，イオニア式とコリント式とを混合したコンポジット式の二つを加えて使用した。古代ギリシアの建築は，全体と各部分との構成にシステムとしての一貫性が保たれていて，それがオーダーの本質であったが，その各部分のプロポーション(形態比例)は建物ごとに異なり，時間的には素朴(そぼく)から洗練の方向へ微妙に変化しつづけていたのに対して，ローマ時代のそれは各形式の洗練された最終形態の比例を固定化して，一定不動の比例関係として理解したところで，オーダーの概念をつくりあげたため，細部比例の画一性という欠陥が生まれた。このローマ的なオーダーの概念が，のちのヨーロッパ建築，特にルネサンス以降の古典様式のデザインの基調に継承されたため，ギリシア建築のもつ細部の微妙な自由さと生気を回復することができなかった。〔渡辺保忠〕

おたいこむすび 【お太鼓結び】 女の帯の結び方の一種。江戸末期亀戸(かめいど)天神の太鼓橋にちなんで，太い帯の結び目を，帯揚げしん・帯揚げ・帯締めを使って太鼓のようにふくらませたのに名づけられた。現今未婚・既婚を通じて広く結ばれる。

おだいばなし 【お題噺】 落語家の余興。



御田植祭り　大阪住吉神社の御田植神事。神田の中央の舞台では早乙女の舞が行なわれる

オタネニンジン



5～6人の落語家が主人・女房・むすこ・番頭・頭(かしら)の役で並び，客に借りた物を前に置き，主人が道楽むすこを勘当するというのを，ほかの者が前の品物でしゃれを言いながらわびる形式で，上席の者がオチをつける。

おたうえまつり 【御田植祭り】 田の神を迎え，その年の豊作を祈る行事。御田植神事ともいう。民間の田植えの儀礼を神社が模し，美しく着飾った早乙女*(さおとめ)が，手に早苗をもち，笛・太鼓・ササラ・鉦(しょう)などの楽器に合わせて祝い歌を歌いながら神田に苗を植えつける。三重県伊勢(いせ)神宮(2月12日)，千葉県香取(かとり)神宮(4月5日)，長野県諏訪(すわ)大社(6月末)などで行なわれている。➔田植え

おだうらくさい 【織田有楽斎】 (1547～1621) 安土桃山時代の武将。また，有楽流茶道の開祖として知られる。織田信長(のぶなが)の弟。源五と称し，長益と名のる。信長の死後，豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕えたが，関ケ原の役には徳川家康(いえやす)に味方し，摂津・大和(やまと)の内で三万石を領した。大阪夏の陣が起こると，京都東山に閑居し，茶事三昧(さんまい)の余生を送った。茶の湯を千利休に学び，茶道の奥義をきわめた。建仁(けんにん)寺正伝院内につくった茶室如庵*(じょあん)(国宝)は，現在神奈川県大磯(おおいそ)町の三井家別宅内に移されている。〔桑田忠親〕

おだきゅうでんてつ 【小田急電鉄】 新宿～小田原間(小田原線)および小田原線の相模(さがみ)大野～片瀬江ノ島間(江ノ島線)の鉄道とその沿線のバス路線をおもに営業する交通企業。1927年(昭和2)に小田原線，1929年に江ノ島線が開業した。1942年東京急行電鉄に統合されたが，1948年分離して現在の会社を設立した。鉄道営業キロ数111.3。全線が直流で電化された東京西南郊の郊外電車で，箱根登山鉄道と提携して箱根地域の観光開発にも大きな投資を行なっている。

おだぎりひでお 【小田切秀雄】 (1916～　) 評論家。東京の生まれ。法政大学国文科卒。高等学校時代から思想運動に近づく。第2次世界大戦後《近代文学*》の創刊，新日本文学会の結成に参加。マルクス主義美学を実践的にとらえ，〈政治と文学論争〉を展開するなど，戦後の民主主義文学運動に主導的地位を占めた。

おたけ 沖縄の代表的な固有信仰であるおたけ信仰で，神を祭る場所。ビロウ・マツなどの老木に混じってススキ・アオキなどの草木が茂る小高い丘の森にあることが多い。社殿はなく，イベとよばれる中心部の前方に香炉を配する拝所がある。ノロ祝女(のろ)によって奉仕され近年まで男子禁制であった。おたけの神は部落の祖先神・守護神と信じられ，祭りのとき，天あるいは海のかなたから降臨するという。

おださくのすけ 【織田作之助】 (1913～1947) 小説家。大阪市の生まれ。劇作から小説に転じ，《夫婦善哉(めおとぜんざい)》で文壇に登場。この作品に示された人生を風俗的に追求する姿勢は，戦時中ももちつづけられた。第2次世界大戦後は評論《可能性の文学》で私小説*の伝統に反逆，《土曜夫人》を書き，短編《世相》《競馬》などをやつぎばやに発表した。西鶴(さいかく)・スタンダールの影響がみられ，いわゆる無頼派作家のひとりと目される。〔堀井謙一〕

おだし 【織田氏】 桓武(かんむ)平氏の流れで，平重盛(しげもり)の後裔(こうえい)と称するが不確実である。越前(えちぜん)(福井県)丹生(にゅう)郡織田荘(しょう)より出る。室町時代の中ごろ，斯波(しば)氏の家臣となり，尾張(おわり)(愛知県)守護代となる。清洲(きよす)系と岩倉系の2流に分かれたが，清洲系の信秀(のぶひで)が力を得て戦国大名となった。その子信長*は全国統一をめざしたが，1582年(天正10)明智光秀(あけちみつひで)の謀叛(むほん)にあい，京都本能寺で自害した。その後，弟の有楽斎長益(ながます)と次男信雄は江戸幕府に仕え，その子孫は大和(やまと)(奈良県)芝村・柳本，出羽(でわ)(山形県)天童，丹波(兵庫県)柏原(かしわばら)の藩主となった。明治維新後ともに子爵となる。〔村尾元忠〕

おだし 【小田氏】 中世の関東豪族。関白藤原道兼の子孫が北関東に土着して宇都宮(うつのみや)氏となったが，一族の知家(ともいえ)が源頼朝(よりとも)に従った戦功で，常陸(ひたち)(茨城県)小田の地を拝領して小田氏を称した。南北朝時代，治久(はるひさ)ははじめ南朝*

方に属し，北畠親房(きたばたけちかふさ)の東国経営を支援したが，のち足利(あしかが)氏に従った。以後関東管領に属して名族として栄えたが，戦国の世，氏治に至って佐竹氏に攻められ，1575年(天正3)小田城を失い滅亡した。

おたにのかた 【小谷の方】 ⇨お市の方

おたねにんじん 【御種人参】 双子葉植物・ウコギ科。チョウセンニンジン，また単にニンジンともいう。朝鮮・中国東北部に分布する多年生草で，わが国には18世紀に渡来し，長野・福島・島根県などで栽培される薬用植物。根は白色でニンジン*のように太く，いくつかに分かれている。茎は高さ50～70cmになり，茎の頂に3～4枚の葉を輪生させる。葉は5小葉からなる掌状複葉で，小葉に細かい鋸歯(きょし)がある。夏，茎の先に淡黄緑色の小さな5弁花を多数つける。果実は扁球形の液果で赤熟する。4～6年たったものの根を乾燥したものが生薬の人参で，サポニン*を含み，漢方では強壮・温補薬として，新陳代謝機能の低下した病弱者の消化不良・食欲不振などに用いる。また売薬の奇応丸などにも用いられている。なお，日本各地の山林にはえるトチバニンジン*(チクセツニンジン)の根も生薬で，ニンジンと同様に用いられる。〔加藤僖重〕

おたのしけ 【大楽毛】 北海道釧路(くしろ)市の西部を流れる阿寒(あかん)川の河口付近にある集落。人口約4,500。1911年(明治44)以来の馬市場は，東北地方の盛岡や三本木の馬市場と並んで名高く，大正から昭和初期にかけて最も繁栄した。いまはもとのような盛況はみられないが，ウマの取引は続いている。1958年(昭和33)に操業を開始した本州製紙の，広葉樹を原料とするダンボール原紙の工場がある。

おだのなおたけ 【小田野直武】 (1749～1780) 秋田派*の代表的画家。秋田佐竹藩士の家に生まれた。1773年(安永2)平賀源内に接して洋画法を学び，翌年江戸に出て《解体新書*》の挿図(そうず)を描く。西洋銅版画の描法を東洋画法に取り入れた画風をみせ，藩主佐竹曙山(しょざん)と並んで洋画の先駆となった。

おだのぶお 【織田信雄】 (1558～1630) 〈のぶかつ〉とも読む。安土桃山時代の武将。信長の二男。一時伊勢(いせ)(三重県)の国司北畠(きたばたけ)氏の養子となる。1582年(天正10)山崎の戦いののち尾張(おわり)(愛知県)を領して清洲(きよす)城主。翌1583年弟信孝*(のぶたか)を攻略して自殺させ，1584年徳川家康(いえやす)と連合して小牧・長久手の戦い*で豊臣秀吉(とよとみひでよし)と争い，のち講和して尾張・伊勢を領し，1587年内大臣となる。1590年北条(ほうじょう)氏滅亡後，秀吉は家康の旧領を与えようとしたが，尾張・伊勢を望んで秀吉の怒りをかい，領地を没収され，下野(しもつけ)(栃木県)烏山(からすやま)に配流された。入道して常真という。のち秀吉に召され御伽衆*(おとぎしゅう)となり，大阪に住む。1615年



小田野直武
《水辺白鷺図》
1776～1777ごろ



織田信長
狩野元秀画
愛知県長興寺蔵



オダマキ



ヤマオダマキ

オダマキ

(元和1)大阪夏の陣に際しては家康に内通して，戦後大和(やまと)(奈良県)宇陀(うだ)松山で五万石を与えられた。子孫は丹波(兵庫県)柏原(かしわばら)藩主と出羽(でわ)(山形県)天童藩主となった。〔松尾　涼〕

おだのぶたか 【織田信孝】 (1558～1583) 安土桃山時代の武将。信長の三男。1568年(永禄11)信長は伊勢(いせ)(三重県)の神戸具盛(かんべとももり)と和し，信孝をその養子としたので神戸信孝ともいう。1582年(天正10)本能寺の変後，豊臣秀吉(とよとみひでよし)らと山崎の戦いで明智光秀(あけちみつひで)を討滅し，美濃(みの)(岐阜県)を領して岐阜城主となる。次いで柴田(しばた)勝家*と結んで，秀吉や兄信雄と対立したが，翌年賤ケ岳の戦い*で勝家が敗死したため信雄に投降し，尾張(おわり)(愛知県)知多郡内海で自害。〔松尾　涼〕

おだのぶなが 【織田信長】 (1534～1582) 戦国大名。戦国末期に統一政権樹立をめざして活躍。信秀(のぶひで)の長子。幼名吉法師(きっぽうし)。1546年(天文15)元服して信長。1549年父のあとを継ぎ，やがて弟信行など国内の対抗勢力を追討して尾張(おわり)(愛知県)半国を統一，清洲(きよす)城に拠(よ)る。1560年(永禄3)には駿河(するが)(静岡県)の今川義元(よしもと)を桶狭間(おけはざま)の戦い*で敗死させ，1562年三河(みかわ)(愛知県)の松平元康(もとやす)(のちの徳川家康)と同盟，同年尾張一国を統一した。1567年美濃(みの)(岐阜県)の斎藤氏を滅ぼして稲葉山城に移り，城下を岐阜と改めた。翌年足利義昭*(あしかがよしあき)を奉じて京都にはいり義昭を将軍職につかせ，朝廷の復興に努めた。1570年(元亀1)姉川の戦い*で近江(おうみ)(滋賀県)の浅井長政(ながまさ)と越前(えちぜん)(福井県)の朝倉義景(よしかげ)の連合軍を破り，翌年浅井・朝倉両氏と結ぶ比叡山(ひえいざん)(延暦(えんりゃく)寺)を焼き打ちした。1573年(天正1)浅井・朝倉両氏を滅ぼし，信長に対立した義昭を追放した。1575年甲斐(かい)(山梨県)の武田勝頼(たけだかつより)を長篠(ながしの)の戦い*で破り，翌年安土城*の築城を開始した。1577年以降北国経略を進め，また中国経略に着手して上杉(うえすぎ)・毛利氏と対立した。1580年石山本願寺*を攻略して畿内*(きない)一円を平定，1582年武田氏を滅ぼし，甲斐・信濃(しなの)(長野県)に勢力を拡大した。しかし同年羽柴秀吉(はしばひでよし)(のち豊臣秀吉*(とよとみひでよし))救援のため中国出陣の途中，京都本能寺で明智光秀*(あけちみつひで)の急襲を受けて自害(→本能寺の変)。信長の楽市・楽座・関所撤廃・検地・刀狩りなどの諸政策は豊臣政権に継承された。〔松尾　涼〕

おたふく 【お多福】 ⇨阿亀(おかめ)

おたふくかぜ 【お多福風】 流行性耳下腺炎(じかせんえん)の俗称。耳下腺がはれ，お多福のような顔になるウイルス性の伝染病。➔流行性耳下腺炎

おたふくまめ 【お多福豆】 乾燥した大粒のソラマメ(一寸豆ともいう)を，皮のまま黒く甘く煮たもの。黒く柔らかにするために，重曹(じゅうそう)と灰汁(あく)の水溶液に豆を一晩浸し，翌日このつけじるで煮て十分柔らかくし，砂糖を加えて弱火で煮含め，最後にしょうゆ少量を加えてつやよく仕上げる。豆の形がお多福の面に似ているので

この名がある。

おだまき 【苧環】 双子葉植物・キンポウゲ科・オダマキ属。古くから観賞用に栽培される多年草。ミヤマオダマキが原種と考えられている。高さ20～50cm。全体粉白色をおびる。葉は1～3回3出複葉で，小葉は広い扇形で深い切れ込みがある。5～7月，茎の上部に花茎を伸ばし，その先に径3～4cmの青紫色，まれに白色の美花を下向きにつける。花弁状のものはがくで5枚。花弁はがくと交互につき，淡黄色で，基部が下方に伸びて内側に巻いた距となる。

この仲間は北半球の温帯に約50種が分布し，ヨーロッパ原産のアクイレギア-ブルガリス，北アメリカ原産のアクイレギア-カナデンシスなどがある。日本には，北海道や本州中部の高山にはえ，高さ10～20cm，花数の少ないミヤマオダマキや，日あたりのよい山地に普通にみられ，高さ30～50cm，がくはかっ色をおび，花弁は淡黄色で，距の先が球状になるヤマオダマキなどがある。〔小清水義隆〕

おだまきむし 【小田巻蒸し】 うどんを入れた茶わん蒸し*。茶わんにゆでたうどんを入れ，鶏肉・シイタケ・ミツバ・鳴門(なると)巻き・クワイなどをのせ，卵を合わせて調味した煮出しじるを加えて，蒸気の上がった蒸器で蒸し固める。卵1に対して煮出しじるは4～4.5で，茶わん蒸しよりしるを多くする。うどんを糸に見立てて苧環(おだまき)蒸しとも書く。

おだまこと 【小田実】 (1932～　) 小説家・評論家。大阪の生まれ。東京大学言語学科卒。1958年(昭和33)ハーバード大学に留学。留学やヨーロッパ旅行の見聞をまとめた《何でも見てやろう》がベストセラーとなり名を得た。《アメリカ》《泥(どろ)の世界》《現代史》など全体小説的志向の作品や，評論集《戦後を拓(ひら)く思想》などがある。

おたまじゃくし 【御玉杓子】 カエルの幼生の総称で，卵から孵化(ふか)し，変態を終わるまでの時代をいう。水中生活に適した生理的機能をもち，外鰓(がいさい)で呼吸する。やがて四肢(しし)を生じ，尾は体内に吸収されて子ガエルとなる。➔カエル

おたまぼや 【蝌斗海鞘】 原索動物・尾索綱・尾虫亜綱の動物を一般にオタマボヤという。オタマジャクシに似た姿のホヤという意味でこの名がついている。近縁のホヤ類と異なり，一生浮遊生活をする。長さは1～5mmほどのものが多い。日本では，内湾にワカレオタマボヤ，黒潮水域にホソオタマボヤ・オオオタマボヤ，親潮・リマン海流水域にキタオタマボヤなどがいる。いずれも体中央を脊索*(せきさく)(尾索とよぶ)が通っている。

おだみきお 【織田幹雄】 (1905～　) 陸上競技選手。日本人ではじめてのオリンピック優勝者。日本オリンピック-メダリストクラブ会長，国際陸上競技連盟技術委員，同アジア地区評議員，早稲田(わせだ)大学教授。1924年(大正13)の第8回オリンピック-パリ大会で三段とびに14m35で6位に入賞，次回のアムステルダム大会では同種目に15m21で優勝し，〈三段とび王国日本〉のきっかけをつくった。若くして頭角を現わし，広島一中時代，1922年の中学陸上(神戸(こうべ)高商主催)で100m競走・200m競走・走り幅とび・走り高とび・三段とびの5種目に優勝。翌年の極東大会(大阪)では，走り高とび(1m73の日本新記録)・走り幅とび(6m90)・三段とび(14m27)に優勝している。戦後，陸上競技連盟ヘッドコーチ，アジア大会陸上競技監督および同総監督を歴任し，オリンピック東京大会では陸上競技の選手強化本部長をつとめた。〔伊東春雄〕



小樽市 南東方上空から見た小樽市の主要部。港の中央に三つの埠頭が見える。市街地背後の丘陵を越えて見えるのは余市湾



オタワ 古城のような風格をもったカナダ国会議事堂の建物。オタワ川をバックにして丘の上に建ち，正面に市民の広場をもつ

オーダーメード [order made] 〈注文に応じてつくった〉の意で，レディーメード(既製品)に対してあつらえ品およびそのシステムをいうが，特に洋服について用いられる。なお，アメリカではカスタムメイドという。専門店・デパートなどでみられる衣服販売の方法で，デザイナーが注文者個人の要求に応じて希望のデザイン・布地を用い，採寸から仮縫い・縫製まで責任をもって仕上げるもの。一品製作なので仕立て代は高いが，いまだに高級品はこの方法をとることが多い。〔小池千枝〕

おたる 【小樽(市)】 北海道西部の市。古くから松前藩のニシン漁業の基地で，明治以後は札幌(さっぽろ)の外港として発展した。1922年(大正11)市制施行。人口18万4,000。地名はアイヌ語のオタルナイ(砂だらけの沢の意)から転じた。市域は石狩湾に臨む海岸段丘上にあって平地に乏しく，〈坂の町〉といわれる。函館(はこだて)本線・国道5号線が海岸部を走り，小樽駅から波止場に至る駅前通りと国道沿道は金融・商業の中心地で，勝納(かつない)川の谷地には，かんづめ・ゴムぐつ・ビール・スキー用品などの製造工場が多く，道央新産業都市に含まれている。産業三大別人口比は3：28：69。小樽港は，はじめ北西部の手宮に設けられ，1882年(明治15)に幌内(ほろない)(いまの三笠(みかさ)市)まで鉄道が開通すると，石狩炭田の石炭の積み出し港として発展した。現在の小樽港は1895年に築港が始まり，広い湾口と多くの岸壁をもち，湾内には長大な防波堤がある。ニセコ積丹(しゃこたん)小樽海岸国定公園の中心地で，1972年(昭和47)のオリンピック冬季大会をまえにして札幌小樽有料道路が開通した。歴史の古い小樽商科大学があり，プロレタリア文学の作家小林多喜二*はその前身である小樽高商を卒業した。手宮洞窟(どうくつ)内の岩壁彫刻は古代文字といわれ，西部の忍路*(おしょろ)地区の環状列石とともに史跡に指定されている。〔浅井得一〕

おたるわん 【小樽湾】 北海道日本海側，小樽市前面の湾入。普通はカヤシマ岬(みさき)



小田原城
復元された天守閣

と平磯(ひらいそ)岬とを結んだ線から内側をさし，かつて石炭積み出し港として築造された小樽港を含む。広義には高島岬から愛冠(あいかっぷ)岬までの石狩湾の別名として使用されることもある。

オタワ [Ottawa] カナダの首都。オンタリオ州の東端，オタワ川とリドウ川合流点にある。人口30万2,000，大オタワ61万9,000(1973)。地名はオタワ族とよばれたインディアンの居住地であったことに由来するとも，原住民語で〈物々交換〉を意味する〈アダワ〉から転じたともいわれている。ケベック地方のいわゆる下カナダと五大湖北岸地方の上カナダが統一されて，1857年首都になり，その後政治・学術都市として発達した。首都の位置決定にあたっては，ビクトリア女王みずからが，下カナダのフランス人勢力と上カナダのイギリス人勢力の均衡を考えて裁断したものである。住民は公務員・教育研究機関などの政府関係者が多く，緑が豊かな美しい町づくりとあいまって，政治・教育都市としての落ち着きをもっている。国立研究所・オタワ大学がある。製材業のほか，パルプ・セメントの生産がある。➔前ページ(写) 〔相村大彬〕

オタワかいぎ 【オタワ会議】 1932年7月21日から1か月間，カナダのオタワでイギリス本国・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・南アフリカ連邦・ニューファンドランド・南ローデシア・インドの代表が集まって開かれたイギリス帝国経済会議。イギリス連邦*を世界恐慌から救うために，貿易・通貨および金融・特恵関税に関する議題を討議し，12条のオタワ協定を結んだ。これによりイギリス連邦内諸国は特恵関税網で結ばれ，保護関税が設定され，封鎖的・排他的な経済ブロックが確立され，19世紀以来の伝統的な自由貿易主義は放棄された。経済ブロックはイギリス連邦内貿易を一時活発にしたが，他の国も保護貿易・経済ブロックの結成へと向かったため激烈な競争を誘発し，国際貿易を縮小させることになった。 〔松下京子〕

おだわら 【小田原(市)】 神奈川県南西端の市。1495年(明応4)に北条(ほうじょう)早雲が城下町を開き，のち北条氏5代の96年間，南関東の中心地として栄えた。江戸時代は，大久保氏十一万三千石の城下町，東海道の宿場町で，明治以降市勢が一時衰えたが，1934年(昭和9)の丹那(たんな)トンネルの開通によって東海道本線と接し，近代都市として復興した。東海道新幹線の駅もあり，また曽我(そが)兄弟の墓や二宮尊徳*の生家も残っている。1940年市制施行。人口17万5,000。

北東半は相模(さがみ)湾に注ぐ酒匂(さかわ)川沖積地(ちゅうせきち)で，南西半は箱根火山東麓(とうろく)にあたり，早川が流れる。産業三大別人口比は7：39：54で，箱根の表玄関口にあたる観光都市の性格が強い。古くから水産業・木工業が行なわれたが，最近は酒匂川総合開発によって豊富な水資源が確保され，繊維・化学・電気機器・食料品などの近代工業も興っている。東海道本線・同新幹線・小田急電鉄，東名高速道路の厚木インターチェンジと結ぶ小田原・厚木有料道路，湘南(しょうなん)海岸を貫く西湘バイパスなどで東京と結ぶほか，国道135号線が下田町，138号線が富士吉田(ふじよしだ)市，271号線が厚木市に通じ，箱根登山鉄道とバスで箱根に，大雄山線で南足柄町に通じ，交通はきわめて便利である。ウメ・サクラの名所小田原公園には小田原城が復元され，酒匂川・早川はアユの漁場として知られる。特産は，かまぼこ・梅干し・外郎(ういろう)・箱根細工など。 〔浅井得一〕

おだわらじょう 【小田原城】 現在の神奈川県小田原市にあった城。平安末期，土肥実平(どひさねひら)が築いたのに始まるという。1416年(応永23)，上杉(うえすぎ)禅秀の乱後，大森頼春(よりはる)入部，1495年(明応4)大森氏を追って北条(ほうじょう)早雲*が入部し，城を拡張，以来，北条氏の城下町の中心となる。1590年(天正18)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の小田原征伐*によって攻略され，徳川家康(いえやす)が関八州を領有するとともにその臣大久保忠世(ただよ)が城主となり，一時期を除き，江戸末期まで大久保氏が居城し，幾多の改変を経て明治維新を迎えた。現在本丸・二の丸・米曲輪(くるわ)などが遺存しており，城跡は史跡に指定されている。なお，1960年(昭和35)3層の天守閣が復元された。

おだわらせいばつ 【小田原征伐】 1590年(天正18)豊臣秀吉*(とよとみひでよし)が北条(ほうじょう)氏*を滅ぼし，全国統一を完成した戦い。秀吉は徳川家康(いえやす)以下諸大名を動員して海陸から圧倒的軍事力・物量で小田原城を包囲，持久戦の態勢を固めた。その間，関東各地に散在する北条氏の支城を攻略した。孤立した城内は〈小田原評定〉といわれるように方針がなかなか決定せずにいたが，7月ついに兵糧(ひょうろう)の欠乏と将士の離反により降伏した。氏政(うじまさ)は切腹，開城の交渉に努力した長子の氏直は高野山に追放された。この間，伊達政宗(だてまさむね)も服属し，秀吉の全国統一はここに完成した。 〔松尾 涼〕

おだわらちょうちん 【小田原提燈】 ⇨提燈

おち 【落ち】 落語用語。落語全体のおもしろさを終局においてより効果的に，より集中的に結ぶ技術。すでに1694年(元禄7)の《正直咄(しょうじきばなし)大鑑》でその重要性が強調されていた。考え落ち・地口落ち・回り落ち・さかさ落ち・見立て落ち・トントン落ち・はしご落ち・仕込み落ち・まぬけ落ち・しぐさ落ち・ぶっつけ落ち・トタン落ちなどあるが，地口落ち・まぬけ落ちが最も多い。なお，〈さげ〉ということばが同義に使われる。 〔興津 要〕

おちあい 【落合(町)】 岡山県真庭郡の町。人口17,000。県のほぼ中央部，旭(あさひ)川と備中(びっちゅう)川の合流点に位置する。姫新(きしん)線に沿い，津山盆地と勝山盆地をつなぐ交通の町であるが，中国縦貫自動車道と中国横断自動車道がともに町内を経由する予定で，将来はこの面での要地となると思われる。

おちあいなおぶみ 【落合直文】 (1861～1903) 歌人・国文学者。宮城県の生まれ。旧姓鮎貝(あゆかい)，号は桜舎・萩廼家(はぎのや)。《新声*》《しがらみ草紙*》に関係したが，1893年(明治26)浅香社*を結成して和歌改良運動に着手。門下から与謝野(よさの)鉄幹*・尾上柴舟*(おのえさいしゅう)ら和歌革新運動の逸材が出たが，彼は擬古典主義*に立ち，主張は漸進的であった。著書に《日本文典》《日本文学全書》などがあり，新体詩*《孝女白菊の歌*》で知られる。 〔堀井謙一〕

おちいしみさき 【落石岬】 北海道の東部，根室市街の西南にあたり，根室半島基部の南岸より太平洋に突出している。岬の基部は地層が軟弱であるため侵食され，陸繋(りくけい)島のようになっている。岬一帯には天然記念物のサカイツツジが自生している。1890年(明治23)に落石岬燈台が設けられ，1908年には落石無線電信局が開設され，北洋の船舶をはじめ多くの電信を扱い，重要な電信局となっていたが，1958年(昭和33)短波の部分は銚子(ちょうし)へ，翌年には中波の送信は根室へ移され，現在

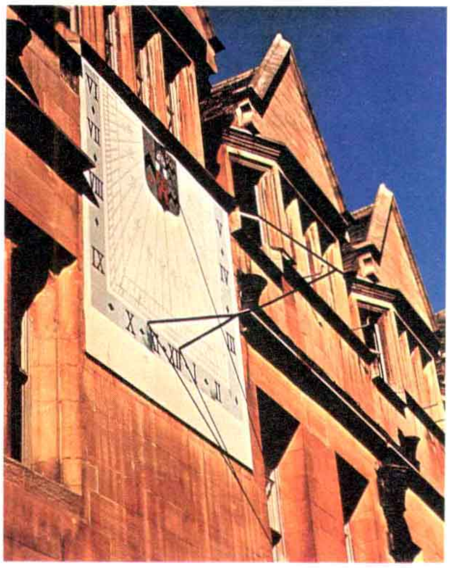
はロラン局が開設されている。〔味沢成吾〕

おちうど【落人】 清元節の曲名。《道行旅路の花聟(はなむこ)》の略称。1833年(天保４)初世清元栄次郎の作曲。《お染*》と並ぶ清元道行物の代表曲で，立回りなどのあるはでな舞踊曲である。つやのあるくどきといきな節づけが好評を得た。

おちくぼものがたり【落窪物語】 平安時代の物語の一。成立年代は不明だが，《枕草子(まくらのそうし)》に言及されているので，それ以前と考えられる。作者は，男性であろうとされているが，不詳。現存する最古の継子(ままこ)いじめ物で，筋の緊密なこと，文章の簡潔なことなどを特色とする。宮廷生活の描写がまったくなく，現実的な内容や滑稽(こっけい)な要素を多くもつことからも，今日の大衆小説に類するものであったろうと考えられている。物語名は，継母に虐待され，床の一段低くなったへやに押しこめられた主人公の姫君が〈落窪の君〉とよばれたことに由来する。物語は，時の権力者のむすこ左近少将が，姫の侍女阿漕(あこぎ)とその愛人の帯刀(たてわき)に力を借りて接近し，愛情を感じ，自分の妻にして継母側に復讐(ふくしゅう)を試みるという筋で，阿漕・帯刀をはじめ，継母や老耄(ろうもう)の父中納言などにかなり個性的な書き分けがみられ，《源氏物語》への影響も大きい。全４巻のうち４巻めは他と成立年次を異にするとの説もある。〔中島　尚〕

オーチャードグラス ⇨カモガヤ

おちゃのみず【御茶の水】 東京都千代田区の北端，神田と本郷の接点にあたる国電御茶ノ水駅付近の地区で，神田川の南北両岸一帯をいい，駅の西にお茶の水橋，東に聖(ひじり)橋がある。地名の起源は徳川２代将軍秀忠(ひでただ)の茶の湯に高林寺境内の清澄なわき水が供されたことにちなむ。高林寺は，いまの駅近くの北岸にあったが，1657年(明暦３)明暦の大火後駒込(こまごめ)の蓬莱(ほうらい)町に移転した。本郷の湯島台と神田の駿河台(するがだい)を分ける神田川の堀割(ほりわり)は，もとは狭かったものを1660年(万治３)に幕府が仙台(せんだい)藩伊達(だて)氏に命じて船が通れるように広げさせたもので，風光美に恵まれて，〈小赤壁〉の名があった。もとの高林寺境内のわき水は，このときに川底になってしまったものと思われ，いま御茶ノ水駅前の交番のかたわらに，その記念碑がある。神田川のがけ下にはいまもわき水がみられ，第２次世界大戦後はここに浮浪者が部落をつくり，獅子(しし)文六*の名作《自由学校》の舞台となった。御茶ノ水駅では国電中央線と総武線が分岐し，付近に地下鉄丸ノ内線・千代田線も通ずる。駅付近は古くから学園地区で，東京女子高等師範学校(いまのお茶の水女子大学)が大塚(おおつか)へ移転したあとに，東京医科歯科大学があり，そのほか，明治大学・日本大学(理工・歯学部)・中央大学などの大学施設が多い。〔浅井得一〕



オックスフォード大学　ブラズノーズ-カレッジの日時計

おちゃのみずじょしだいがく【お茶の水女子大学】 国立女子大学。1874年(明治７)創立の東京女子師範学校が1890年に女子高等師範学校となり，1949年(昭和24)学制改革で文教育・理・家政の３学部をもつ新制大学となった。単なる教員養成ではなく，各界における指導的女性の養成を目標に，幅広い教育を行なっている。現在，文教育・理・家政の大学院，食物化学研究施設が設置されている。本部は東京都文京区大塚２丁目１番１号。

オチョア［Severo Ochoa］(1905～　) スペインのラウルカに生まれ，現在ニューヨーク大学で活躍中の生化学者。1950年代の初めから半ばにかけて，光合成*の酵素化学的研究，特に光とグラナ*の存在下における無細胞系の光化学反応の研究で成果を収めた。さらに1960年前後には，DNA*の遺伝暗号解読の作業を推し進め，分子遺伝学の成功の一端をになった。コーンバーグとともに1959年のノーベル医学生理学賞を受賞した。

おちょうめちょう【雄蝶雌蝶】 ⇨女夫盃(めおとさかずき)

オッカム［William of Occam］(1300ごろ～1349または1350)イギリスのスコラ哲学者。フランシスコ会に属し，オックスフォード大学に学び，1318～1320年ここで教えた。アビニョンへ召喚され，４年間その地で異端審問を受け，また教皇ヨハネス22世と対立して，バイエルン公の保護を求めた。彼はオックスフォードを拠点とする経験論を徹底することによって知識と信仰の分裂を推進し，スコラ哲学の崩壊を導き，近代科学への道を開いた。普遍論争*においては，唯名論の旗手として，普遍は単なる記号にすぎず，個物のみが実在であるとして，オッカム主義の主唱者となった。主著《ロンバルドゥス命題集註解》《神学百語録》《七自由討論集》。〔左中庸博〕

おづきし【小槻氏】 平安中期以降，太政官(だじょうかん)の主典(さかん)である左大史を世襲した家。近江(おうみ)(滋賀県)栗太(くりもと)郡小槻邑(むら)より興ったこの家は，平安中期から太政官の文書を管理する重職につき，壬生(みぶ)家*・官務家・禰(でい)家などといわれた。

オックスフォード［oxford］ 斜子(ななこ)織りの一種。綿糸・スパンレーヨン糸などを２本引きそろえて平織りに織った生地で，ざっくりしていて通気性があり，夏の婦人服地・子ども服地・スポーツシャツ地・パジャマ地・ベッドスプレッド地などに使われる。

オックスフォード［Oxford］ イギリス，イングランド南部にある同名州の州都。人口11万4,000(1973)。ロンドンの北西，テムズ川沿いの学術都市で，ケンブリッジ大学と並び称されるイギリス最古の大学オックスフォード大学*がある。11世紀にデーン人の攻撃を受けたが，12世紀には城・王宮・僧院が建てられて商業・宗教・教育の中心として発展した。南東郊外のカウリーには自動車工場があり，鉄鋼・電気機械器具工業も盛んである。〔野間三郎〕

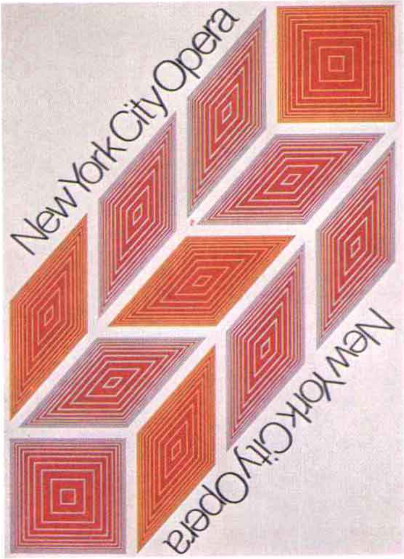
オックスフォードうんどう【オックスフォード運動】 1833年にオックスフォードで始まったイギリス国教会内の改革運動。国教会が国家権力と結びついて制度化し固定化して，一般民衆の精神的要求を満たしえなくなり，一方では進歩党(ホイッグ)によって国教会の諸既得権が外部から侵害されつつあったため，国教会内のキーブル・ロイド・ピュージー・ニューマンらの進歩派は小冊子を続々と出して，国教会に独立性と純粋性を回復する運動を起こした。しかし教会内の保守派の強い抵抗にあい，ニューマンなどは1845年に至りカトリック教会に移らざるをえなくなったことなどのため，運動は下火となった。教義研究・スラム救済などに成果を残した。〔奥山康治〕

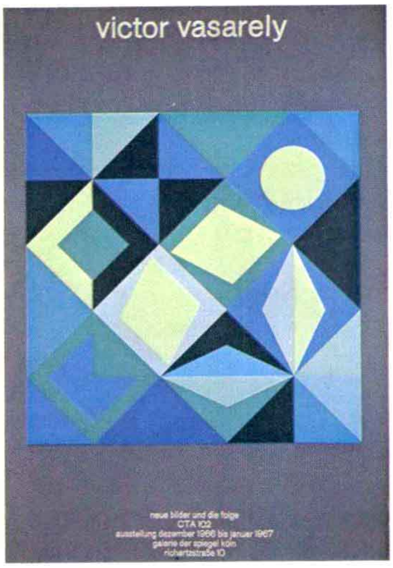
オックスフォード-グループうんどう【オックスフォード-グループ運動】 ⇨MRA

オックスフォードだいがく【オックスフォード大学】 オックスフォード*にあるイギリス最古の私立大学。ケンブリッジ大学と並称される。12世紀に国王ヘンリー２世の勅許により，いくつかのカレッジ(学寮)を統合し，神学研究を中心とする大学として発足，1249年に総合大学となった。その後，ルネサンス・宗教改革に大きな役割を果たしたが，一時は衰微し，19世紀になって再び盛んな発展をみせた。イギリスにおける指導者層養成の中心的存在で，学問研究の水準の高さは世界的に著名。カレッジ制・チューター(指導教師)制をとり，研究・生活両面にわたっての指導が行なわれている。



オットセイ





オップ-アート　(左)アヌスキビッチ　ニューヨーク-シチー-オペラのためのポスター　1968　(右)バザルリ　個展のために制作されたポスター　1966

現在，女子学寮5を含む39のカレッジと三つのホールをもつ。

おっそ　**【越訴】**〈えっそ〉ともいう。一定の順序を経ないで上訴*すること。律令(りつりょう)制下には禁止され，訴人は罰せられた。鎌倉・室町時代には，控訴*棄却となっても再審を要求することを一部許可して，越訴奉行(ぶぎょう)が処理した。江戸時代になると，直訴・駆込訴*・強訴*など広く筋違いの訴訟をさし，厳禁された。

オットー(1世)　［Otto］　(912～973)　ハインリヒ1世の子で大王・大帝といわれる。ザクセン朝2代めのドイツ王。在位936～973年。また神聖ローマ帝国*初代皇帝。在位962～973年。教会勢力と結んで国内封建諸侯をおさえ，対外的にはマジャール人やスラブ人を討って領土を広げ，イタリアにも3度遠征してその王を兼ねた。特に第2回めのイタリア遠征ではローマ教皇ヨハネス12世を助け，962年には教皇からローマ帝国の帝冠を授けられ，神聖ローマ帝国を築いた。しかし，これ以後歴代のドイツ王はしばしばイタリアに遠征することとなり，そのため国内では諸侯の割拠を招いてドイツの統一を著しく困難なものとした。そのうえ，神聖ローマ帝国がローマの伝統とキリスト教の権威を結びつけたものであったことから，のち教権と俗権の対立を招く原因をつくった。　〔松　俊夫〕

おっとせい　**【膃肭臍】**　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・アシカ科。雄は全長2.5m，雌は1.3mほど。体は紡錘形で，前後肢(し)はひれ状で遊泳に適し，頭は丸く吻(ふん)が短く，小さな耳介がある。北太平洋を回遊し，6～8月の繁殖期にはベーリング海のプリビロフ諸島・コマンドル諸島やオホーツク海のチューレーニー島(海豹(かいひょう)島)に上陸し，強い雄は20～100頭の雌を従えてハレムを形成し，雌は1子を産む。ひれ状の前後肢で陸上を歩行する。生まれた子は約1～2週間で泳ぐようになる。泳ぎながらイカ類・魚類・甲殻(こうかく)類などを食う。繁殖期が終わると南下し，日本では北海道・三陸沖まで回遊するが，これはおもにチューレーニー島のものである。毛皮はラッコなどとともに優良なので乱獲により激減し，一時は絶滅するかと思われたが，1957年日本・アメリカ・カナダ・ソ連がおっとせい保護条約を結び，繁殖島でいわゆる〈間引き〉を行ない，その他での捕獲を禁止した。現在約220万頭が生息し，間引きによる毛皮は年約10万枚に達する。　〔今泉吉典〕



オッフェンバック

オット-ハーンごう　**【オット-ハーン号】**　西ドイツの原子力船。1968年10月に完成した鉱石運搬船。排水量約26,000トン，全長171.8m，幅23.4m，深さ14.5m，主機出力11,000馬力，速力15.6ノット，原子炉型式改良PWR(加圧水型)，熱出力38,000kWである。原子力機関の船への平和利用としては，アメリカのサバンナ号*，ソ連のレーニン号*に次いで世界で3番めである。

オットマン　［ottoman］　横うねの現われた織物。ふつう，たて糸に絹・レーヨン・アセテート・合成繊維などの細糸を用い，よこ糸に太い綿糸・梳毛糸(そもうし)などを使って平織りに織る。婦人用コート・スーツ・スカートなどの生地として用いられる。

おつに　**【乙二】**　(1756～1823)　江戸後期の俳人。磐城(いわき)(宮城県)白石の生まれ。本名岩間清雄，号は松窓。俳諧(はいかい)は父の麦蘿(ばくら)に学び，父の死後は師につかなかった。1803年(享和3)江戸におもむき，成美*・道彦*(みちひこ)・巣兆らと交わった。のち2度にわたって函館(はこだて)に行き，その地の俳壇に尽くしたが，晩年北陸道から長崎へ遊ぼうとして病を得，郷里に没した。

おつねんとんぼ　**【越年蜻蛉】**　こん虫類・トンボ目・アオイトトンボ科。体長33mm内外。後翅(こうし)は21mm内外。全体黄かっ色で，頭部には青銅色の斑紋(はんもん)がある。日本全国のほか，朝鮮・中国東北部・中央アジアからヨーロッパに至る広い地域に分布する。成虫は9月ごろ出現し，交尾せずにそのまま越冬し，翌春交尾産卵する。近似のホソミオツネントンボはより細形で，翅(はね)も著しく幅が狭く，成熟すると美しい水色を呈する。関東以西の平地に分布し，やはり成虫で越冬する。　〔鈴木邦雄〕

おっぱま　**【追浜】**　神奈川県横須賀(よこすか)市の北端で，三浦半島の基部に近く，東京湾に臨む地区。横須賀市役所追浜支所が置かれ，管内の人口約31,000。もと浦郷村とよばれた地域で，第2次世界大戦中まで追浜航空隊が置かれ，海軍基地として発展した。戦後は日産自動車追浜工場を中心に近代工業地区となり，工業出荷額は全市の産業の70%に及ぶ。北東端の夏島町は，第2次世界大戦中に水路が埋め立てられるまでは独立した島で，明治憲法の起草地として知られ，また縄文(じょうもん)時代最古の夏島貝塚(かいづか)がある。京浜急行電鉄が通ずる。なおこの付近は横浜に属する金沢八景，逗子(ずし)市との境にあって湘南妙義(しょうなんみょうぎ)とよばれる鷹取(たかとり)山(139m)などの行楽地に富む。　〔浅井得一〕

オップ-アート　［Op art］　ポップ-アート*に口調を合わせてよばれるオプティカル-アートの略称。直接に視覚神経を刺激して，眩惑(げんわく)や錯覚などの心理的反応を起こさせるような傾向の作品，1965年ウィリアム-サイツがニューヨーク近代美術館で開いた〈応答する目〉展以来の美術運動をいう。サイツはこの展覧会でオップ-アートを六つのセクションに分類し，〈カラー-イメージ〉，ラインハートのようにほぼ同色で描かれた形が熟視を続けることによってようや

く見分けられる〈不可視の絵画〉，アヌスキビッチのように色の激しい相互作用による〈視覚的な絵画〉，ライリーのように無彩色と線が錯覚を起こさせる〈白と黒〉，ソトのようにモアレ(点や線が幾何学的に配列され重ね合わされたときに生じる斑紋(はんもん))を利用する〈モアレ-パターン〉，ゲルストナーのように視覚的で平面でない〈レリーフとコンストラクション〉としている。これらはいずれも，見る者と作品との間に情念や心理などの介在物を拒否し，作品の視覚的事実としての側面を強調している。いわゆる絵画的抽象後の抽象の一部で，キネティック-アート*にも影響を与えた。以上のほかの作家として，サイツはバザルリ・アルバース・セッジリー・シュティ・ルーパルクらをあげている。〔三木多聞〕

オッフェンバック　[Jacques Offenbach]（1819～1880）作曲家。フランスで活躍したが本来はユダヤ系ドイツ人で，本名はヤコブ-エーベルト。オッフェンバックの名は父の出身地オッフェンバハの名をとったもの。オペレッタの確立者といわれる。14歳でパリ音楽院に学び，はじめはチェロ奏者として出発したが，1855年自分の劇場ブーフ-パリジャンを開いて多くのオペレッタを発表，特に《天国と地獄*》は258日間も続けて上演されたという。わが国には浅草オペラ*時代に紹介され，広く親しまれた。ほかに《美しきエレーヌ》《パリ生活》《ブン大将》《ホフマン物語》がある。〔向坂正久〕

オッフェンバハ　[Offenbach, Offenbach am Main]　西ドイツ中部，フランクフルトの東方，ヘッセン州のマイン川に沿う都市。人口12万(1974)。皮革工業で名高く，国際皮革見本市はここで開かれる。機械・化学工業が盛んであるが，特に活字鋳造は，この都市の特色ある工業である。

おっぷこうざん　【尾太鉱山】　青森県中津軽郡西目屋村にある銅鉱山。鉱山の歴史は古く，東大寺の大仏鋳造にここの銅が使用されたという記録がある。岩木川の支流湯ノ沢川の谷間に位置し，銅のほか亜鉛・鉛・硫化鉱などを産出する。

オッペケペぶし　【オッペケペ節】　俗謡の曲名。大阪の落語家桂藤兵衛(かつらとうべえ)が祖ともいわれるが，1887年(明治20)川上音二郎*が俳優になる以前に寄席(よせ)で歌い，人気を得て普及した。川上は白はち巻き・陣羽織という装いで幕間に幕の前に出て，〈権利・幸福嫌いな人に，自由湯(自由党)をば飲ませたい。オッペケペ，オッペケペッポペッポッポ〉などという当時の社会や政治を風刺する歌詞を滑稽(こっけい)な節回しで歌い，喝采(かっさい)を博した。〔山口　修〕

オッペル　[Albert Oppel]（1831～1865）　ドイツの古生物学者。ホーヘンハイムに生まれる。チュービンゲンでクェンステット*に師事。1854～1855年にフランス・イギリス・スイス・ドイツの各地を旅行し，



オッペケペ節　壮士芝居の幕間にオッペケペー歌を演じる川上音二郎　春暁筆の錦絵より



オデッサ　黒海に面するオデッサの町にある〈ポチョムキンの階段〉。1905年，戦艦ポチョムキン号の水兵が反乱を起こした故地である

中生層(特にジュラ紀の地層と化石)を研究した。1858年にはミューニッヒの古生物学博物館員となり，のち古生物学部門の管理者となった。1856～1858年に，地層と化石の関係から生層位学(地質学の分野)の最小単位としての化石帯の概念を導入した。

オッペンハイマー　[Franz Oppenheimer]（1864～1943）　ドイツの社会学者・経済学者。はじめ医学を修めて医師となったが，その後社会学の研究に移り，1919～1929年フランクフルト-アム-マイン大学で経済学・社会学を講じた。第2次世界大戦直前，ユダヤ人であるためナチス-ドイツを追われてアメリカに渡った。マルクス主義*に類似した総合社会学を展開，資本主義の矛盾の解決を自由競争の完全な発展に求めた。主著に《国家論》がある。〔根本英美〕

オッペンハイマー　[John Robert Oppenheimer]（1904～1967）　アメリカの理論物理学者。ドイツから移住してきたユダヤ系貿易商を父としてニューヨークに生まれた。ナチスの勃興(ぼっこう)と反ユダヤ主義の流れは彼の政治への関心に影響を与えたという。ハーバード大学を終え，ケンブリッジ大学・ゲッチンゲン大学に学び，諸大学を歴訪してのち，カリフォルニア工科大学教授。のちプリンストン研究所長。量子電磁力学・宇宙線論・原子核論などをはじめ広い分野の研究に携わり，多くの人々と協同，指導的役割を果たした。第2次世界大戦中はロスアラモス研究所長として原子爆弾製作計画を指導，戦後原子力委員会に参与したが，水爆問題に関連して原子力情報への接触を禁止され，物理学と政治の問題の縮図として話題をよんだ。〔藤村　淳〕

おづやすじろう　【小津安二郎】（1903～1963）　映画監督。東京の深川に生まれた。宇治山田中学卒業後，松竹に入社し，昭和初期から独特の家庭劇映画をつくった。代表作は《生まれてはみたけれど》《一人息子(ひとりむすこ)》《父ありき》《東京物語》など。その作品は庶民の生活に対する深い愛とユーモアと悲しみに満ちている。

おつゆう　【乙由】（1675～1739）　江戸中期の俳人。伊勢(いせ)(三重県)の生まれ。中川氏。別号は麦林舎・梅我。芭蕉(ばしょう)晩年の門人で，のち涼菟*(りょうと)・支考*に学んだ。平俗軽妙な作風で広く受け入れられ，伊勢派*または麦林派と称された。後年支考の美濃(みの)派と合わせ，支麦の名で一括される。

オデイオン　[Odeion]　古代ギリシア・ローマの円形の音楽堂。声楽や詩の朗読のほか，会議にも用いられた。代表的なものに，アテネのアクロポリスに残る紀元前5世紀の遺構や，紀元前1世紀金融業者ヘロデス-アッチクスが建てたものがアテネにある。その後，音楽堂にかぎらず一般の劇場にもこの名が用いられるようになり，パリのリュクサンブール公園内にある1791年創建のオデオン座は有名。

オーデコロン　[eau de cologne]　さわやかなかおりをもつ香水の一種。オー-ド-コローニュまたは単にコロンともよばれる。1709年ドイツのケルン(フランス語読みでコローニュ)でマリア-ファリナが創始したもので，〈コローニュ〉の水の意。香水よりも香分が少ないので，一般向きで用途も広く，はだの清拭(せいしき)用や浴用，病室などの床まき用，絞りてぬぐいなどにも用いられる。成分はネロリ油(橙花油(とうかゆ))にベルガモットなどのシトロン性の香油を加え，アルコールで溶解する。〔メイ-ウシヤマ〕

おてだま　【お手玉】　布製の小さな袋の中にあずき・大豆などを入れ，数個を1組みにした遊戯具。古くは袋の中に小石を入れた。遊び方には，数取り歌をうたいながら，お手玉を投げ上げ，その間に下に置いたお手玉を取りさばく方法と，両手または片手で多くのお手玉を続けざまに投げ上げて，

落とさないようにする方法とがある。鎌倉初期に流行したものは，一(ひ)，二(ふ)，三(み)……と数えて歌われたところから，〈一二〉とよばれた。《嬉遊笑覧(きゆうしょうらん)》によれば，絹で丸く袋に縫い，その中に鈴とあずき，または銭などを入れた華美なものも用いられたという。〔渡辺欣雄〕

オデッサ [Odessa] ソビエト連邦，ウクライナ共和国にある同名州の州都。人口98万1,000(1974)。黒海に面し，その港はソ連の代表的な港の一つといわれる。機械・化学・食品・皮革・繊維などの工業が盛んである。気候条件は温和で，保養地として，泥浴(でいよく)・鉱泉などの療養施設や，避寒・休養の設備が整っている。学術・文化都市でもあり，大学・海洋研究所・博物館・国立オペラ劇場などがある。ギリシア植民地に始まる古い歴史をもつ都市で，1792年ロシア領となり，以後ロシアの穀物輸出港・軍港として栄えた。1905年，戦艦ポチョムキン号の反乱で知られ，第2次世界大戦でドイツ軍の攻撃にあった。➔前ページ(写)

オデッツ [Clifford Odets] (1906～1963) アメリカの劇作家。1931年〈グループ劇場〉を創立し，以来アメリカ1930年代の代表的な進歩的劇作家として活躍した。代表作として，タクシー運転手のストライキを扱った《レフティを待ちつつ》，ユダヤ人の苦闘を描いた《醒(さ)めて歌え》，青年の成功と挫折(ざせつ)を描いた《ゴールデン-ボーイ》などがある。

おてもやん 熊本県の民謡。江戸末期ごろに始まり，方言がふんだんに現われる歌詞が親しまれて，第2次世界大戦後に普及した。曲調からは〈甚句*(じんく)〉とよばれるべきもので，曲名は女性に呼びかける歌詞の冒頭による。

オデュッセイア [Odysseia] 《イリアス*》とともにホメロス*の作とされる英雄叙事詩。24巻。原題は〈オデュッセウスの歌〉の意。紀元前12世紀に起こったトロヤ戦争ののち，ギリシアの英雄オデュッセウス*がトロヤから故郷イタケへ帰国する途中遭遇するさまざまな冒険を語った海洋冒険譚(ぼうけんたん)。紀元前8世紀ごろの作品と推定される。

トロヤの陥落後10年が過ぎたが，オデュッセウスはニンフ，カリプソの島にとらわれて望郷の念を絶ちがたい。神々はようやくオデュッセウスの帰国を許す。彼は故郷のイタケに向けて船出するが，途中であらしにあってパイアケス人の国に漂着する。この国の王女ナウシカに救われ，王宮に迎えられる。王宮では宴(うたげ)が開かれ，吟遊詩人がトロヤ陥落をうたう。オデュッセウスは思わず落涙し，それを王に見とがめられて素姓を明かし，自分の経てきた冒険を語る。一つ目の人食い巨人キュクロプスの目玉を計略にかけてつぶしたこと，人を家畜に変える魔女キルケ*の魔法を破ったこと，死者の世界を巡り生の意味と自分の未来をかいま見たこと，甘美な歌声で旅人を魅惑し死の淵(ふち)に誘い込むセイレン*の誘惑に打ち勝ったことなど，数々の危機を不屈の精神と機敏な知性で切り抜けた冒険譚が展開される。一方，故郷イタケでは貞節な妻ペネロペイアが群がり寄る求婚者たちから結婚承諾の返答を迫られ，機織りのトリックや他の口実で引き伸ばしているが，いよいよ最後の選択を迫られる。その日，パイアケス人らの好意で帰国のかなったオデュッセウスはこじき姿に身をやつし，るす中に成長したむすこテレマコスに真相を打ち明けて計略をめぐらし，ともに求婚者たちを殺戮(さつりく)し，夫婦は20年ぶりに再会する。

人間社会への復帰を執念としながら，波瀾(はらん)万丈の冒険を通じてみずから人間性を発揮していく英雄の人間像がいきいきと描かれ，《イリアス》とともに，その後の叙事詩の範となった。〔久保正彰〕

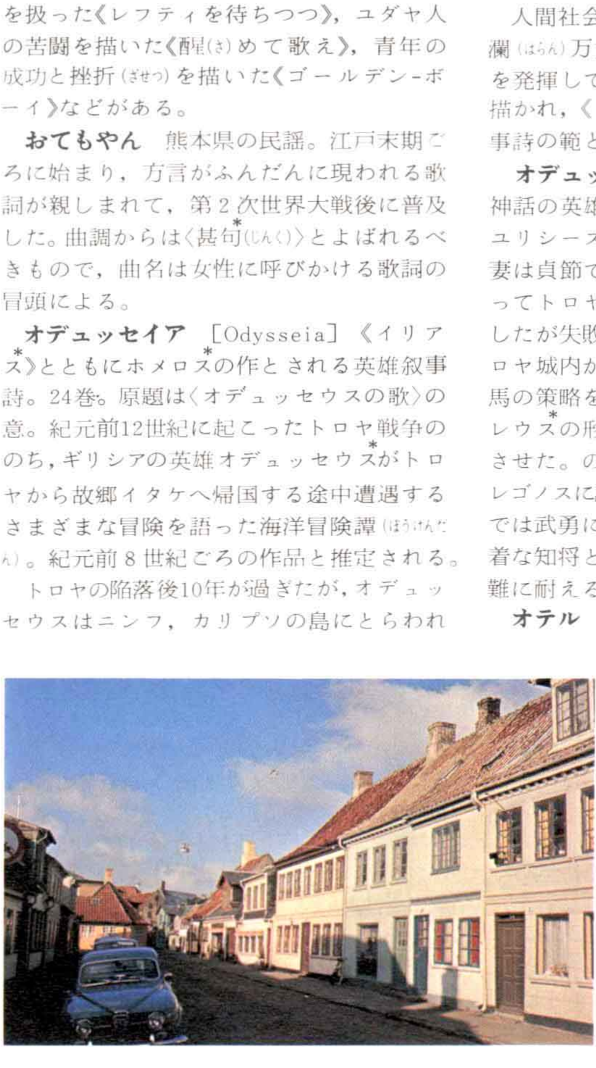
オデュッセウス [Odysseus] ギリシア神話の英雄。ラテン名ウリクセス，英語名ユリシーズ。イタケ島の王ラエルテスの子。妻は貞節で名高いペネロペイア。狂気を装ってトロヤ戦争に従軍するのを免れようとしたが失敗した。ディオメデスとともにトロヤ城内からアテナ像を盗み出したり，木馬の策略を考えるなどの功をたてた。アキレウス*の形見分けではアイアス*(大)を憤死させた。のちキルケ*との間に生まれた子テレゴノスに誤って殺された。彼は《イリアス*》では武勇にも評定にもすぐれている冷静沈着な知将とされ，《オデュッセイア*》では苦難に耐える自制心の強い人物とされている。

オテル [hotel] 近世の都市の巨大な邸館。フランスでは官庁や市庁舎・大病院にもこの語を冠してよぶ。オテルの名でよばれる近世邸館の形式は，都市の広場や街路に面して建ち，左右対称で，背後に広大な庭園を設けているものが多い。

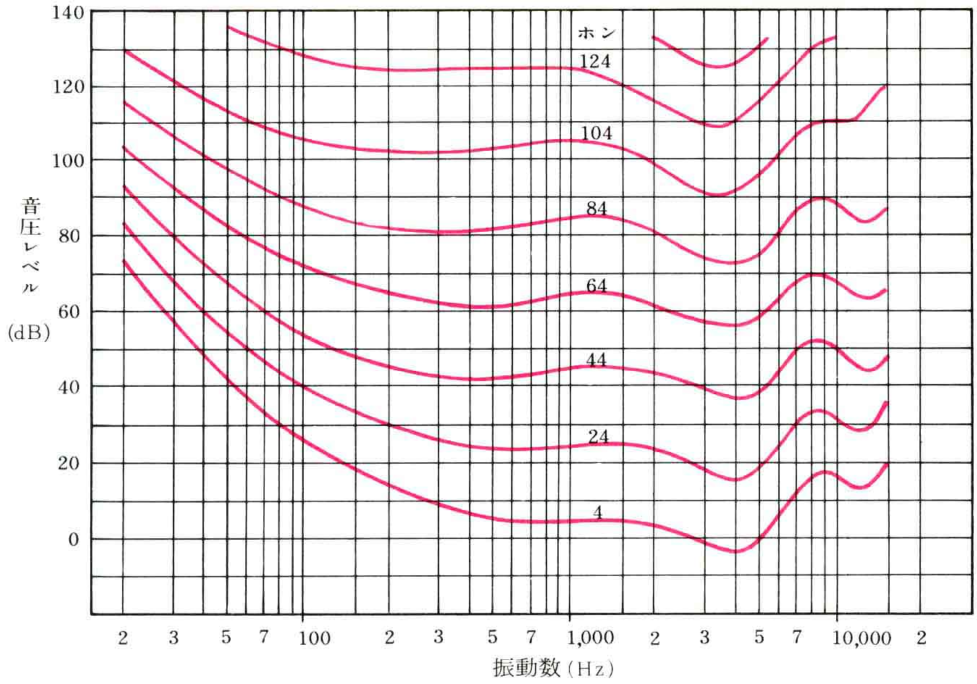
オーデル(川) [Oder] バルト海に注ぐ国際河川。チェコスロバキア北部国境のズデーテン山脈に発し，ポーランドを貫流してナイセ川を合わせ，ドイツとの国境となりながらシュチェチン付近でバルト海に注ぐ。全長約900km。運河によって東西に結ばれて水上交通の動脈となり，上流部シレジエンの石炭・鉄鋼・工業製品などを輸送する。

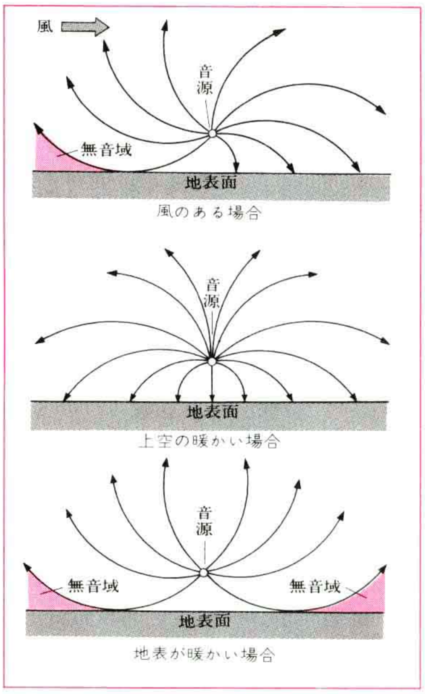
オーデル-ナイセせん【オーデル-ナイセ線】 現在のポーランドと東ドイツ間の国境で，オーデル川と西ナイセ川とを結ぶ線。1945年8月のポツダム協定で，オーデル・ナイセ両川以東の東部ドイツはポーランドが管理すること，ドイツ・ポーランド間の国境は最終的には講和会議で画定されるべきことが定められた。しかし，その後ポーランドはこの地を自国領と宣言，この地のドイツ人を追放した。ソ連もオーデル-ナイセ線を両国間の国境とみなし，東ドイツも1950年国境協定でこれを確認した。これに対し，西ドイツおよびアメリカ・フランス・イギリス3国は戦前のドイツ領の4分の1を失うことになるため，この国境線を承認せず，両国国境は全ドイツ政府との講和会議で画定するべきとの態度をくずしていない。なお，西ドイツは1937年当時の国境を主張している。〔折井一彦〕

おでん なべ料理の一種で，煮込み田楽の略称。田楽*は最初焼き豆腐にみそをつけたものであったが，のちこんにゃくを用い，しだいにいも・ダイコン・ナスなどを併用し，おでんとよばれるようになった。なお魚を用いる場合は魚田という。煮込みおでんが現われたのは江戸末期で，一般に愛好されて普及した。焼き田楽につけたみそに対し，煮込みおでんは下味がついているので，ときがらしがつきものになった。関西では焼き田楽と区別して〈関東だき〉と称している。材料は焼き豆腐・ちくわ・さつま揚げ・はんぺん・がんもどき・こんにゃく・野菜(ダイコン・ニンジン・ヤツガシラ・サトイモなど)，すじ(フカのすじを固めて棒状にしたもの)，コンブ・ぎんなんなどで，最近はゆで卵・ふくろ(油揚げを切り開いて肉類や野菜を入れ，かんぴょうで結ぶ)，キャベツ巻きなどが用いられる。材料は大きく切って，こんにゃく・野菜類はゆで，がんもどき・さつま揚げなどは油抜きしてから用いる。しるは水にコンブ・かつお節・塩・しょうゆ・酒と少量の砂糖を入れて煮立て，吸い物より濃い味にする。これを大なべにたっぷり入れ，こんにゃく・がんもどき・野菜など長く煮込んで味を浸ませるものを先に入れ，さつま揚げ・はんぺんなど味のついているものはあとで入れる。煮



オーデンス アンデルセンの生家のあるオーデンスの町。停車中の車の背後の黄色い壁の家。接続してアンデルセンにちなむ博物館がある





音　(左)音の大きさの等感曲線　(右)気象条件の音に与える影響

立ったら弱火にして長く煮込み，薬味にときがらしを添える。なお，おでんには茶飯*がよく合う。〔塩川ふみ〕

オーデン［Wystan Hugh Auden］(1907～1973)　イギリスの詩人。ヨークに生まれ，オックスフォード大学に学んだ。1930年代ヨーロッパの精神的な荒廃を，T. S. エリオット・マルクス・フロイトらから影響を受けた詩と思想のもとに告発し，いわゆる1930年代文学の中心人物のひとりとなった。共産主義に共鳴して，スペイン戦争に参加したが，第2次世界大戦の直前にアメリカに渡り，その作品は社会的・政治的なものから，倫理的なものへと変わっていった。《詩集》《見よ，旅人よ》《アキレスの楯(たて)》などの詩集のほか，詩劇・旅行記がある。〔星野恒彦〕

オーデン-グループ［Auden Group］1930年代イギリスで活躍した新しい詩人の一派で，オーデン*・C. D. ルイス・スペンダー*を中心とした。彼らはマイケル-ロバーツ編集の雑誌《ニュー-シグナチャーズ》《ニュー-カントリー》を足場に，新しい詩法と主題を標榜(ひょうぼう)し，二つの世界大戦の間にある社会の危機と取り組んだ作品を発表した。指導的な地位にあった前記の3人はいずれもオックスフォード大学出身で，共産主義を支持，スペイン戦争にも参加したが，のち転向して政治的分野から後退し，それぞれの道を歩むことになる。〔星野恒彦〕

オーデンス［Odense］デンマーク南部，フュン島にある同国第3の都市。人口16万8,000(1970)。オーデンス-フィヨルドにつながる港で，商業や造船・機械・ゴム・たばこ・織物工業の中心である。10世紀に建設され，12世紀の教会や14世紀のゴシック寺院などが多い。また童話で名高いアンデルセン*の生誕地で，彼の生家を中心とする記念館はクヌート2世(大王)の墓所とともに名所となっている。

おでんち ⇨ちゃんちゃんこ

おと【音】本来は空気中を伝わる空気の縦波であって，人間に聴覚を起こさせるもの。したがって，楽器の発する音や人間の発する声などがそのおもなものであったが，最近では人間に聞こえないような振動数の高い音波，すなわち超音波，空気以外の気体やあるいはさらに液体・固体中を伝わる縦波もすべて音(音波)として考えている。したがって，音と人間の聴覚との関係をつねに考えることは必要ではない。このように音は空気などの媒質中の波動の一種であるから，媒質粒子の振動と波としての伝わり方をつねに考えなければならない。

〔音の発生〕音の発生，すなわち媒質粒子の振動の原因にはいろいろの場合があるが，固体の振動によってそのまわりの物質が動かされるのが普通である。音を出しているスピーカーのところに手をあててみればこのことがよくわかる。スピーカーの円錐(えんすい)形の紙の部分(コーン)が激しく振動して，まわりの空気を動かしているのである。バイオリンなどのような楽器では，弦の振動がこまを通して胴に伝わり，その結果胴の中の空気が激しく振動させられて音を発生する。しかし，大砲の音などのように化学変化などによって空気が直接振動させられるような場合にも音が発生する。スピーカーの一種であるイオノホンは，電気放電によって音を発生し，普通に使われているスピーカーのように空気を振動させるコーンがない。

〔速度・音圧〕空気中を伝わる音の速さは，1気圧で温度 t ℃のときほぼ331.7＋0.6 t m/秒である。一般の気体では，音の速さcは $c=\sqrt{\gamma P_0/\rho_0}=\sqrt{\kappa/\rho_0}$ で表わされる(γは気体の等圧比熱と等容比熱の比，P_0は気圧，ρ_0は気体の密度，κは体積弾性率である)。音の存在する程度を表わすのには音圧を用いる。たとえば空気中に音が存在すれば，空気の粒子が振動し，部分的に空気粒子の密なところと疎なところができる。空気粒子の密なところは局部的に圧力が大気圧よりも上昇しており，疎のところは大気圧よりも小さい圧力である。このように，大気圧と音の存在するときの圧力との差を音圧という。この音圧も時間的に振動しているものであるから，交流電圧を考えるときのように時間とともに正弦的に変化する場合を基本的なものと考えて，音圧の大きさをその実効値で表わすのが普通である。音による圧力変化はわれわれが通常聞く音ではきわめて小さく，大気圧の100億分の1から10,000分の1の程度である。音圧の単位は1 m^2に1ニュートン(N)の力が働くもの，すなわちN/m^2またはμbar(マイクロバール)で表わす。ただし，1 N/m^2＝10 μbarである。音圧の時々刻々の変化の形を音圧波形といい，その1秒間におけるくり返しの回数を振動数，あるいは電圧と同じように周波数とよび，単位ヘルツ(Hz)で表わす。音圧の代わりに空気粒子の振動速度，すなわち粒子速度や，単位面積のところを毎秒通過する空気粒子の体積を表わす体積速度などで音の程度を表わすこともある。音圧波形が正弦波であれば，これを単純音といい，正弦波でなくとも音圧変化が規則的・周期的であるならばこれを楽音*ということがある。耳で楽音を判断する場合，大きさ・高さ・音色を考える。これらを音の3要素ということがある。音の大きさは主

表-1　空気中の音波の速度（1気圧の乾燥空気）

（単位 m/秒）

温度(℃)	音波の速度
0	331.68
5	334.7
10	337.7
15	340.7
20	343.6
25	346.5
30	349.4
35	352.3
40	355.1
100	387.2
1 000	708.4

表-2　蒸留水中の音波の速度

（単位 m/秒）

温度(℃)	音波の速度
0	1 407.0
5	1 427.0
10	1 448.8
15	1 467.5
20	1 484.2
25	1 498.1
30	1 509.9
35	1 520.6
40	1 530.3

表-3　いろいろな物質中の音波の速度

	物質	温度(℃)	音波の速度(m/秒)
気体（1気圧）	亜硫酸ガス	0	209.2
	塩素	0	205.9
	酸素	0	315.4
	〃	16.5	323.8
	水蒸気	100	471.5
	水素	0	126.2
	〃	18	130.1
	炭酸ガス	0	259.3
	〃	18	265.8
	窒素	0	337.3
	ヘリウム	0	971.0
液体	エチルアルコール	0	1 242
	〃	20	1 168
	エチルエーテル	0	1 095
	〃	20	1 006
	水銀	0	1 460.2
	〃	20	1 451.0
	〃	40	1 441.7

	物質	温度(℃)	音波の速度(m/秒)
金属	アルミニウム	常温	5 104.5
	黄銅*	8	3 546
	金	常温	2 081.6
	銀	〃	2 641.7
	鉄	15～20	5 123.8
	銅	10	3 665.9
	鉛	常温	1 320.0
	ニッケル	〃	4 973.4
	白金	〃	2 792.1
その他	エボナイト	18	1 560
	ガラス(ソーダ)	常温	5 000～5 300
	〃 (フリント)	〃	4 000
	スギ	〃	4 000～4 900
	ゴム	〃	30～70
	コルク	〃	430～530
	樹脂	〃	1 600
	セッコウ	18	2 310
	大理石	常温	3 810

観的な量であり，音の高さは振動数に関連のあるものである。音色は厳密な定義をつけることはむずかしいが，音の波形やそのスペクトルに関連のあるものである。

〔波動的性質〕音は光と同じように媒質中を伝わっていく波動であるから，媒質の中に障害物があるとこれによって音の反射・吸収・透過・散乱・回折などの現象が生ずる。普通には固い物質はよく音を反射するといってよいが，空気中から水中へ，あるいはその逆の場合などでも非常によい音の反射がある。毛織物・ガラス繊維などの繊維製品は一般によく音を吸収する。この場合，音波は空気中から繊維製品の中へ透過していき，繊維と繊維の間の空間にある空気を激しく振動させ，ここで音のエネルギーが熱のエネルギーに代わって音の吸収が行なわれると考えられる。音を吸収することを目的としてつくられたものを吸音材*といい，建築材料の一つとして広く使われている。また音の波長は，たとえば空気中で振動数が1,000Hzの音の波長が約34cmであるように，光の場合に比べるとけた違いに長く，したがって音が物体にあたる場合に，その物体の幾何学的に影となる部分でも音が聞こえる。これが回折の現象である。回折の程度は，その物体の大きさと波長の比によって決まり，この比の小さいほど回折のために音の影ができにくい。実際には，われわれは回折のための音と同時に物体からの反射音も聞くことが多い。このような現象は，空気中にある波長と同じ程度かまたはそれ以下の長さの小さい物体のまわりに起こる。これを一般に散乱という。このように空気中に障害物となる物体がない場合でも，大気中の温度や気圧，したがって音波の速度が一様でない場合にも音の伝わり方が複雑になる。風の吹いている場合にも同じような現象がある。これは，風は空気の移動であるから，風速だけ音の速度が変わることと同じことになるためである。普通には風速は地表面よりも上空の方が大きいから，風上へ向かう音は上の方へ，また風下へ向かう音は反対に曲げられる。このために，風上においては少し遠く離れた所には音の届かない無音域ができるのに反し，風下の方へは十分遠方にまで音が到達する。このような現象はまた空気中だけでなく，水中においても現われる。したがって，魚群探知機*などではこのような伝搬現象に注意しなければならないこともある。

〔音の大きさ〕聴覚に関係のあるヒトの器官は耳と大脳皮質の聴覚領，およびこれらを連絡している聴神経である。耳に伝わった音は外耳道から鼓膜に達し，その振動をひき起こす。この振動は中耳にある3個の耳小骨を通じて内耳に伝えられ，さらに神経から大脳に電気的な信号として伝えられる。しかし，このような聴覚の働きには個人差があるので統計的に考えなければならない。また，聴覚の現われ方，すなわち聞こえ方は音圧や振動数にもよる。ある振動数の音を聞きながらその音圧をだんだん下げてやると，ついには聞こえなくなる。これをその振動数における最小可聴値という。逆に音圧を上げてやると，音の感覚よりも耳に痛みを感じてくる。この音圧値をその振動数における最小可覚値という。最小可聴値と最小可覚値との間の範囲が可聴範囲である。次に音圧を一定にしておいて振動数を変化させると，振動数によって同じ音圧の音でも聞こえ方が違う。そこで1,000Hzの音を基準にし，これと同じに聞こえる音の大きさとして1,000Hzの音圧レベル（音圧0.0002 μbarを基準とした）の値をとる。これを音の大きさレベルといい，単位ホンで表わす。したがって振動数と音圧値が違ってもホン値が同じであれば同じ大きさに聞こえる。振動数と音圧値に対して，同じ大きさに聞こえる場合を曲線で表わしたものを音の大きさの等感曲線という。

〔音の強さ〕波動の一種である音は，またその進行方向へエネルギーを運ぶ。この場合，単位面積を単位時間に通過して運ばれるエネルギーの量を音の強さといい，単位はW/m^2である。したがって，平面進行波では，音の強さは単位体積の空間に存在する平均のエネルギーと音の速度との積に等しくなり，音圧をp，粒子速度をu，媒質の密度をρ_0，音の速度をcとすれば，音の強さIは

$$I = p^2/\rho_0 c = \rho_0 c u^2 = pu$$

であり，これは電力が電圧・電流・抵抗によって表わされるのと似ている。音の強さをデシベル(db)で表わしたものを音の強さレベルという。この場合の基準となる音の強さは10^{-12} W/m^2にとるが，これは0.0002 μbarを基準とした音圧レベルの値と一致して便利である。〔池谷和夫〕

オード ⇨頌歌(しょうか)

オドアケル［Odoaker］（433ごろ～493）西ローマ帝国を滅ぼしたゲルマンの傭兵(ようへい)隊長。476年西ローマ皇帝ロムルス-アウグスツルスを退位させ，全イタリアを支配してゲルマンの王を称した。ダルマチア・ドナウ川中流域に勢力を拡大したが，同じゲルマンの一派である東ゴートのテオドリック*との戦いに敗れ，493年事実上降伏し，のち暗殺された。

おとぎしゅう【御伽衆】御咄衆(おはなししゅう)ともいう。大名などに近侍して話相手をつとめる役。天文年間(1532～1554)周防(すおう)(山口県)の大内氏にみられるのがはじめ。はじめ，陣中で夜間に武辺話などをしていたのが，のち昼間も行なわれるようになった。経験豊かな古老などが任命され，武将の領国経営の参考資料としても役だたせるねらいもあった。泰平の世になった江戸時代には必要性が薄れ，将軍や大名の子弟などの相手をする小姓*の役目に変わった。

〔松平秀治〕

おとぎぞうし【御伽草子】 室町時代に現われた通俗的短編読み物の総称。中世小説ともいう。一般庶民を読者とした筋本位の単純な読み物が多く，教訓性・啓蒙(けいもう)性に富んでいる。絵本・絵巻物の形態で伝わった作品も多い。大部分は作者・成立年代ともに不明。その物語には公家物(くげもの)(《桜の中将》《鉢(はち)かづき》)，僧侶(そうりょ)の物語と本地物(《秋の夜の長物語》《阿弥陀(あみだ)の本地》)，武人伝説物(《酒呑(しゅてん)童子》《弁慶物語》)，庶民的小説(《物くさ太郎》《一寸法師》)，異類物(《鼠(ねずみ)草子》)など，多種多様である。〔信太　周〕

おとぎばなし【お伽噺】 元来は夜のつれづれに語られる話。通夜(つや)を伽とか夜伽とよぶ地方が多いように，伽は眠らずに夜通し起きていることをいった。戦国時代，大名の側近に御伽衆が出て夜の話し相手をつとめ，彼らによってそれまでの説話が大いに修飾・改造された。はじめ昔話や伝説を話の素材としたが，のち書物中のたとえ話などを集めて新味を加え，笑い話の方面に力が注がれて，この種の文芸にお伽噺という名称がつけられた。明治以後巌谷小波(いわやさざなみ)が児童向けの文芸をこの名でよんだことから，昔話を児童向きに改作したり創作したものをさすようになったが，のちそれらは童話や児童文学の名に代わられ，現在ではおもにおとなが子どもを相手に話す古典や口碑伝説を意味するようになった。

おとぎぼうこ【御伽婢子】 浅井了意作の仮名草子13巻。中国の怪異小説《剪燈新話(せんとうしんわ)》その他の類書から翻案した怪異談67編を収める。文章は流麗，随所に和歌を利用するなど，原話を巧みに再構成しているが，巻3の《牡丹燈籠(ぼたんどうろう)》は歌舞伎(かぶき)に取り入れられ(→怪異談(かいだん)牡丹燈籠)，また三遊亭(さんゆうてい)円朝によって怪談情話につくられ，特に有名。同じ了意作の《狗張子(いぬはりこ)》とともに近世怪異小説の先駆をなした。〔長尾高明〕

おとぎりそう【弟切草】 双子葉植物・オトギリソウ科。山野に普通に見られる多年草。茎は円柱形で，高さ30〜60cm。葉は対生し，柄がなく茎を抱く。葉を光に透かすと小さな油点がたくさん認められる。夏から秋にかけて茎の上部が数多く枝分かれし，直径1.5cmほどの黄色い花をつける。果実をつけたころの全草を乾燥したものを小連翹(しょうれんぎょう)といい，タンニンを含み，煎(せん)じて止血・収斂(しゅうれん)剤として用いられる。この草をもんで，負傷したタカにつけるとなおるという兄の鷹匠(たかしょう)の秘密を他の者に話したので，怒った兄が弟を切ったという伝説がある。〔小清水義隆〕

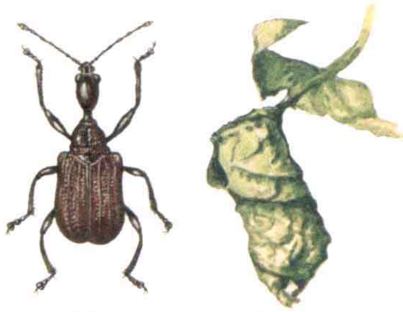
オートクチュール［haute-couture］ オートは〈高級な・高い〉，クチュールは，〈裁縫〉の意で，高級洋裁店(または衣装店)をさしていう。最近わが国でも高級洋裁店をオートクチュールとよぶが，元来はフランスのパリ高級衣装店組合加入店のみの名称であった。これらのオートクチュールでは専属のデザイナーがいて，組合の規約により，その創作デザインを製作し，雑誌・新聞の報道記者，バイヤー(デパートや既製服製造会社の仕入れ係)，顧客などを招いて，春夏物・秋冬物と，シーズンにさきがけて年2回のコレクション発表をしなければならない。さらに特殊な注文者にも専属デザイナーが直接デザインして製作する。このように，単に客の望むものをつくるオーダーメード店やプレタポルテ(高級既製服)を売る店とは異なるわけである。しかし限られた特権階級の顧客のみではオートクチュールもなりたたなくなり，時代の流れに乗じて最近はブティックをつくり，既製服を手がける店もふえてきた。その他，この名をつけた香水・くつした・アクセサリーなどを置く店も多い。〔小池千枝〕



オトギリソウ



オトコエシ



成虫　揺りかご

オトシブミ

オートクラシー ⇨専制政治

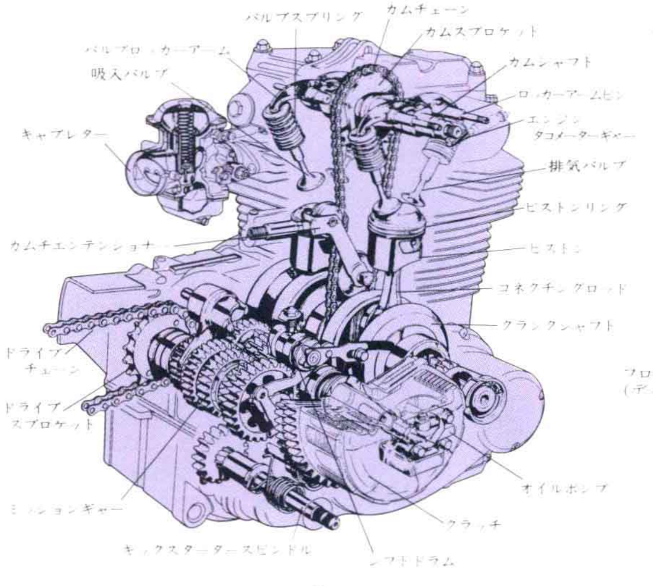
おとこえし【男郎花】 双子葉植物・オミナエシ科。日あたりのよい山や野に多い多年草。茎は直立し，高さ1m。根もとから長いつる状の枝を出してふえる。葉は羽状に切れ込み，全体に毛が多い。夏から秋にかけて直径4mmぐらいの白い花を散房状につける。若葉は食用にされる。和名はオミナエシに対してがっしりした感じがあるので男性に見立てたもの。

おとこやまはちまんぐう【男山八幡宮】 ⇨石清水(いわしみず)八幡宮

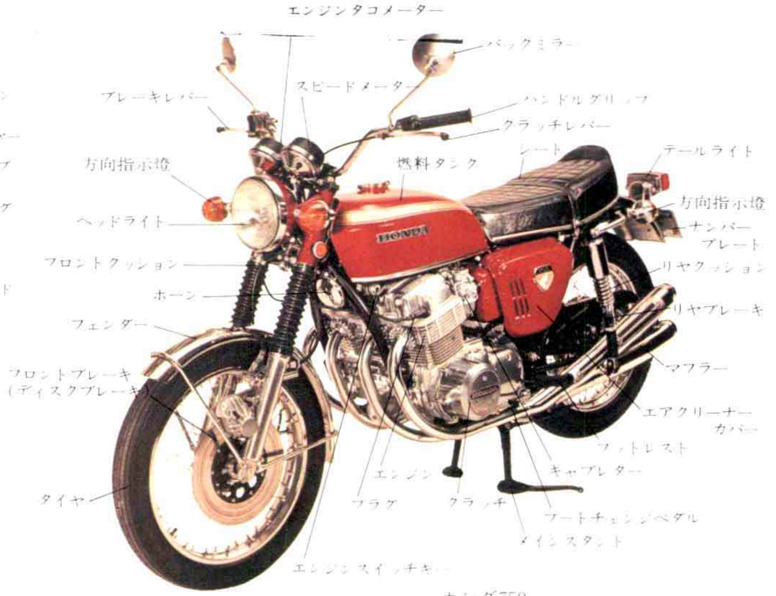
おとし【落し】 浄瑠璃(じょうるり)で，音楽的段落感を与えるようにくふうされた終止的旋律リズム型。はじめ，人形や役者の静止した美を表現するために義太夫節(ぎだゆうぶし)で行なわれたが，のちに他の浄瑠璃でも音楽構成技法的に各流派に特有のパターンをつくるようになり，結果的にそれぞれの様式を区別する一つのめやすとなっている。しだいに遅くなるテンポと下行旋律により，音組織上の中心音へ落ちつかせる意図がある。〔山口　修〕

おどし【縅】 縅は緒通しの意。鎧(よろい)または兜(かぶと)の鞠(しころ)の小札(こざね)をつづる縅毛をいう。美しい染め皮や糸を用い，武将のはなやかな飾りとなった。縅毛のつづり方式により，縦取り縅・縄目縅(なわめおどし)・菱(ひし)縫いがある。縦取り縅は上の小札から下の小札へ縦に連ねるもの，縄目縅は横の小札へ斜めに重ねていくもの。また菱縫いとは上下4孔にX形にかがるもの。このX形の上にさらに縦に1本重ねるのを三所懸(みどころがけ)といった。縅毛の質によっても種類がある。鹿(しか)・虎(とら)皮でつくられた韋縅(なめしおどし)，組み糸の糸縅，麻裂(あさぎれ)をしんにした菱縅，生糸と練り糸で織った練貫縅(ねりぬきおどし)などがあった。さらに縅毛の染色や組み合わせによって色彩を表わす縅名ができている。赤縅毛のものは赤縅または緋縅(ひおどし)。韋製なら赤韋縅，糸なら赤糸縅となる。淡紅色は小桜縅，黄色は卯(う)の花縅など，ふつう花の色で表わし，藤縅(ふじおどし)・白檀縅(びゃくだんおどし)などがある。またその意匠によって，上方から下方へ濃淡をぼかす匂縅(におい おどし)，色の段模様をつけた段縅，左右上段のみ色変わりさせた肩縅，中央の1〜2段に異色を用いた腰縅などの区別があった。→甲冑(かっちゅう)

おとしあな【落し穴】 地表に縦穴を掘り，上部を木の枝葉などでふさいで，通行中の獣や地上棲(ちじょうせい)鳥類(キジ・ヤマドリなど)を捕獲する狩猟施設。無土器文化時代以来近代まで，広く行なわれてきた猟法。小形獣や鳥類を捕獲するためのものは単純な縦穴か底に水を張った水穴だが，大形獣を目的にしたものは先端をそいだ竹などを底に何本も刺しておき，落ちた獲物に裂傷を与え，多量の出血を起こさせるなどして衰弱させるくし穴が普通。こうした



ホンダ250・350系エンジン



ホンダ750

オートバイ

大形獣用の落とし穴は，開口部の直径 2 m，底面の直径 4 m，深さ 5 m以上にも及ぶものがあり，半永久的施設として利用されたから，古代の築造物でいまに残っているものがある。落とし穴は独立の狩猟施設としても用いられたが，弓矢による射殺法，やりによる刺殺法，投げなわによる束縛(そくばく)法などが併用された。この種の大形な落とし穴は，人が落ちると危険なため，〈鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律〉によって現在は禁止されている。〔白井邦彦〕

おとしぶみ【落し文】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オトシブミ科。体長 7 ～10mm(口吻(こうふん)を除く)。黒色で，鞘翅は赤色，まれに全体黒色の個体もみられる。日本全国のほか，朝鮮・中国東北部・シベリアなどに分布する。成虫はクヌギ・クリ・ナラなど種々の広葉樹の葉を巻いて〈揺りかご〉をつくり，その中に産卵する。

オトシブミ類は従来ゾウムシ科に含められてきたが，近年はチョッキリゾウムシ類とともにオトシブミ科として扱う学者が多い。全世界にきわめて多くの種が分布し，日本には10数種が知られている。いずれも後頭部が著しくくびれており，口吻は短く，種々の広葉樹の葉を巻いて〈揺りかご〉をつくるが，その巻き方や形態は種によって一定している。なお，〈落し文〉の名は，〈揺りかご〉の形が巻き紙の手紙に似ていることにちなむ。➔前ページ(写)〔鈴木邦雄〕

オートジャイロ ⇨回転翼航空機

おとたちばなひめ【弟橘姫】 日本神話に現われる女性。ヤマトタケルノミコト*の妻。ヤマトタケルが東国征伐の際，相模(さがみ)(神奈川県)から上総(かずさ)(千葉県)へ走水の海(浦賀水道)を渡ろうとしたとき，海神が波を立てて船の進行を妨げた。オトタチバナヒメは夫を助けるために身を海に投じ，海神の心を静めたので，船は無事に上総についたという。

オートトランス［auto-transformer］ 単巻き変圧器の俗名。小容量のものは配電用柱上変圧器として単相交流用に用いられ，大容量のものは 3 台組み合わせて 3 相交流電圧の昇圧・降圧に用いられる。➔変圧器

おとな【乙名】 中世末期に現われる村落の代表者。大人・老名・長男などとも書く。荘園(しょうえん)制が解体し，郷村制*が発達してくると，名主*(みょうしゅ)層の中から自治的に選出されて村の代表者となり，領主からの課税や用水の統制などについて村の利害の解決にあたった。村落の大小にもよるが，普通は数人からなった。乙名に対して一般の農民を小者・若衆などとよぶ。

オートバイ 英語のauto-bicycleの日本式略語。原動機(通常空冷ガソリンエンジン)を備えた二輪車。自動二輪車・単車・オートサイクル(米・英)ともいう。わが国の法令(道路交通法)では，ガソリンエンジンの総排気量が50cc以下のものを原動機付き自転車(モペットあるいはモーターバイク)と定めてそれ以上の自動二輪車と区分し，それぞれ免許を定めている。また，近年あまりみられなくなったが座席の下に小形エンジンを格納したスクーター*もオートバイの一種である。

〔歴史〕1885年，ドイツのダイムラーによってはじめてオートバイがつくられて以来，ドイツ・イギリス・イタリアなどで普及発達した。わが国でも1913年(大正２)に第１号車が製作されたが，諸工業の未発達など環境が整わず，顕著な普及はみられなかった。第２次世界大戦後，軍需工場がオートバイ製作に転換したのをはじめ多数の企業が生産を開始して急速に普及し1970年(昭和45)で保有台数は約885万台にも及ぶ。

〔構造〕エンジンは空冷の 4 サイクルまたは 2 サイクルのガソリンエンジンで，大は総排気量600cc，45馬力程度から小は50cc，4 馬力程度まで，車の種類に応じて幅広く用いられる。始動方式は電池式とキックペダル式併用型が多く，単独のものもある。変速操作は足で行ない，1 速➔2 速，2 速➔3 速と進み，反対のレバーを踏むとニュートラル(中立)にもどる形式(リターン式)と，一方向に操作するともとにもどる循環式(ロータリー式)がある。いずれも後退段はもたない。変速機の回転はチェーンによって後車輪に伝える形式が多く，シャフト駆動のものもある。加減速はかじ取りハンドルのグリップを回転して行ない，ブレーキは後輪を制動するブレーキペダルと前輪制動用のブレーキレバーが設けられている。表に一般的性能を示す。〔成田武男〕

オートパイロット［autopilot］ 自動操舵(そうだ)装置，またはジャイロパイロットなどともいう。船あるいは航空機が一定の針路で進むとき，自動的にその針路を保つよ

オートバイの総排気量別の性能

排　気　量	最高速度 (km/時)	燃料消費率 (km/l)	登坂能力(度)
50ccクラス	70～80	75～95	14～16
125ccクラス	110～130	60～65	18～20
250ccクラス	140～160	40～45	20～24
350ccクラス	170～175	40～45	20～
500ccクラス	180～	35	20～

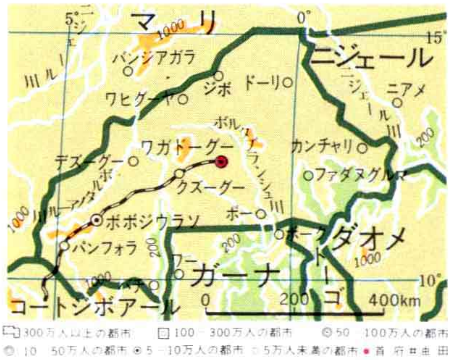
うに自動制御*機構を用いた装置。自動制御装置として最も早くから実用化され，1920年ごろには船に用いられている。ジャイロコンパス，または磁気コンパスによって検出される船首の針路がつねに命令針路と比較され，船首方向が命令針路からずれると偏角信号を発し，この信号が増幅器を通って油圧，あるいは電動サーボモーターに与えられ，その出力で操舵機を操作し舵(かじ)をとって針路を保持する。〔飯島幸人〕

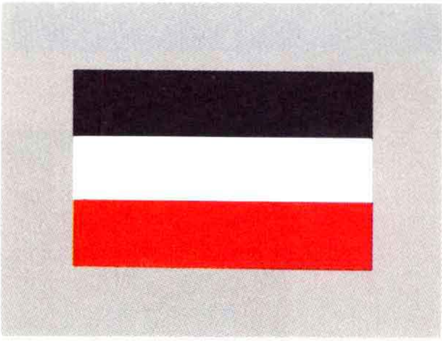
おとひめのはながさ【乙姫の花笠】腔腸(こうちょう)動物・ヒドロ虫綱・オオウミヒドラ科。長い柄の先に払子(ほっす)のようなヒドロ花がつき，高さ1.5mにも達する。紅色で美しい。世界各地の2,000〜3,000mの深海の砂泥(さでい)に柄の下端を埋め，直立している。ヒドロ虫綱の動物としては世界最大。

おとふけ【音更(町)】北海道十勝(とかち)支庁の町で，帯広市の北に接する。人口31,000。豆類・テンサイ・ジャガイモ・燕麦(えんばく)・アマなどの畑作農業が盛んで，酪農やウマの飼育も行なわれる。十勝川温泉・農林省十勝種畜牧場がある。中心集落の音更市街は士幌(しほろ)線に沿う。

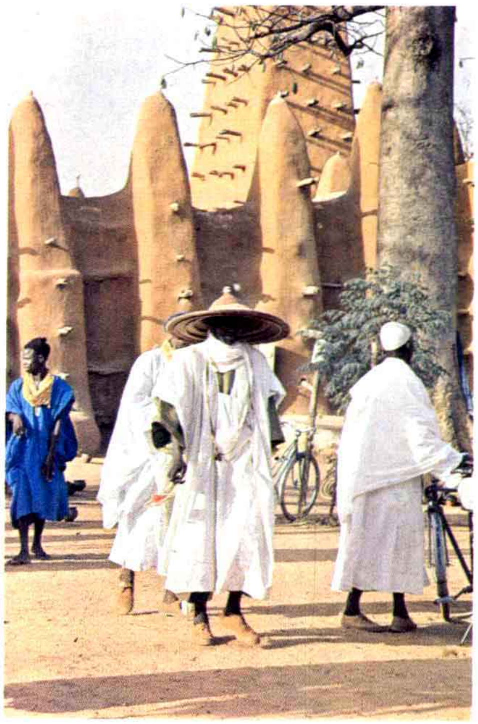
オードブル［hors-d'oeuvre］前菜。主要料理に対する番外料理の意で，食事のはじめに主要料理に先だって，食卓に出される軽い料理である。昔ロシアでは会食の場合，客がそろうのを待つ間，別室でザクスカ*(野菜・魚・肉などのつけ物やその他加工したもの。オードブルと同義語)をつまみ物にして強い酒を飲みながら身体を暖めて食欲をそそった風習があり，その影響を受けて各国でも会食のまえに別室でオードブルとアペリチフ*を勧めるようになった。現在では別室とかぎらず献立に組み入れられるようになり，ことにわが国においては正餐(せいさん)の場合，献立中の主要料理に先だって必ず供されるように習慣づけられている。

オードブルは食前に供して食欲をそそるように形も小さく量も少なくつくり，美味でかつ主要料理の味をそこなわないものでなければならない。《種類》冷・温2種に大別され，前者をオードブル-フロワ，後者をオードブル-ショーという。①冷前菜：一般にいう前菜で，ふつう昼食のはじめに出される。夕食はスープに替えることになっているが，正餐の場合は夕食でもスープのまえに前菜を用いる。正餐の場合の前菜はフランスでは生のカキ(9〜4月)またはメロン(5〜8月)を用い，それ以外のものはあまり出さない。家庭で用いる昼食の前菜は前日の残り物の鳥獣肉を主として用い，そのほか腸づめ類・チーズ類，野菜類・果実類の酢づけ，油づけ・薫製品・鶏卵・カナッペ*などを組み合わせて用いる。料理店では材料は同様であるが多くの種類を供することが多い。②温前菜：アントレ*と同様にスープのあとに用いられ，他の料理が軽いと思われるときに主要料理のまえに1品増して供する。それぞれ基礎となる料理法に基づき，形を小さくつくる。材料はだいたい冷前菜と同様であるが，おもなものとしてコロッケ*・フリッター*・コキール*・ブロシェット*やパイ皮やビスケット皮に詰め物をしたものなどが用いられる。〔泉　敬子〕





オートボルタの国旗　1959年制定。黒・白・赤の3色はこの国を流れるボルタ川の3支流，黒ボルタ・白ボルタ・赤ボルタを表わしている



オートボルタ　この国西部の都市ボボジウラソの住民の特徴ある風俗。住民はほとんどがニグロ系のモシ族。背後の建物はモスク

オートボルタ(共和国)［Republic of Upper Volta, République de Haute-Volta］アフリカ大陸西部の共和国。ボルタ川上流に位置し，北と西はマリ，東はニジェール，南はコートジボアール・ガーナ・トーゴ・ベニンに接する内陸国。面積27万4,000km²，人口691万(1978年推)，首都ワガドーグー。

〔自然・住民〕サハラ砂漠(さばく)南部の高原にあり，その中をガーナを経てギニア湾に注ぐボルタ川の黒・赤・白の3支流が広い谷底平野を刻んでいる。国土は南部のサバナから北部のステップに移行し，ワガドーグーの年雨量は879mmで，雨季は5〜9月に集中する。原住民中多数を占めるのはセネガルからスーダンに至るスーダン-ニグロ系のボルタ種族で，なかでも全人口の50%を占めるモシ族は平均180cmの長身で，色はきわめて黒く，あごの突出が著しい。次いでマンデ種族・フラニ族がおり，ほかに少数のアフリカ人とヨーロッパ人が居住する。公用語はフランス語で，宗教は回教徒が25%，キリスト教徒が5%を占め，ほかに種々な原始宗教がある。

〔産業・経済〕原住民の多くは簡単な農耕を行ない，キャッサバなどの根菜をつくり，ウシの遊牧を営んでいる。特に北部は牧畜が盛んで主要輸出品となり，その5分の4はガーナに向けられている。ほかに輸出品としてはラッカセイ・皮革・綿花がある。南部のボルタ川流域平野では開拓が進み，カカオとコーヒーのプランテーションが開かれ，農産加工工場もある。原住民はプランテーションや工場の労働者として雇われて隣国コートジボアールへも働きに出る。ワガドーグーとコートジボアールのギニア湾岸のアビジャンとを結ぶ鉄道は最も重要な交通機関で，労働者や産物の輸送に利用されている。また，国内定期航空路も開かれている。

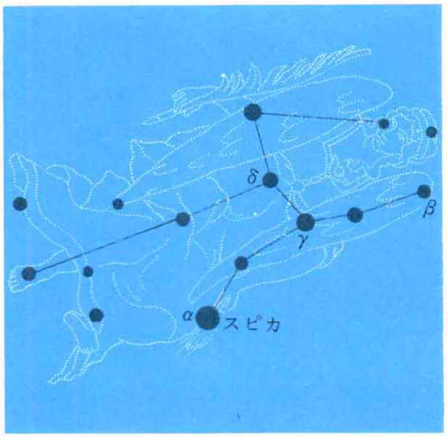
〔歴史・政治〕19世紀はじめ象牙(ぞうげ)海岸(現在のコートジボアール)から進出してきたフランス人が象牙貿易などでしだいに勢力を拡張した結果，1885年の国際会議でフランス領西アフリカの一部に編入された。第2次世界大戦後のアフリカ各地の独立気運の高まりとともに，1958年フランス共同体内の自治共和国となり，1960年8月に独立を宣言した。議会は一院制の国民議会で，定員75名。1966年クーデターが起こり，軍部が政権を握った。〔小栗　宏〕

オートマチスム［automatisme］無意識的自動作用をいい，シュルレアリスム*の基本的方法の一。ブルトン*により唱えられたが，〈シュルレアリスム宣言〉(1924)によれば，〈シュルレアリスムは心の純粋なオートマチスムであり，これによってことばや筆記その他あらゆる手段により思考の真の働きを表現するもの，そしてできるかぎり

受身の，刺激を受け入れやすい状態に自己を置き，あらかじめなにを書こうと予定することなく書き始める〉と述べられている。シュルレアリスムは，この方法によって非合理的認識と意識下の世界の探求を，やがて夢の世界の探求という形で行なうようになる。この方法は，無意識のうちに行なわれる自動的デッサンや描法のほかに，エルンスト*のフロッタージュ*やデカルコマニー*などによっても知られる。　〔松久勝利〕

オートミール [oat meal] 燕麦(えんばく)(オート)を精白して稃(ふ)(穎(えい))と外皮をとり，十分乾燥したのち適度にいって粉砕したもの。粉砕しないで圧扁(あっぺん)したものはロールドオーツといい，あらく砕いたものをグローツとよんでいる。約4倍量の水を加えて煮て，これに砂糖・牛乳をかけて食べる。一般穀類に比べてタンパク質やビタミンに富んでおり，欧米ではふつう朝食に用いられ，多量に消費されている。

おとめざ【乙女座】 黄道第6星座。春の南東の空に一等星スピカを下端として大きなYの字を描く。しし座とてんびん座とにはさまれ，広い領域を占める。現在，秋分点*はこの星座の中にある。この星座の北の部分，かみのけ座との境界付近にはおびただしい数の銀河系外星雲*が存在しているので有名である。➔星座



おとめ座

オートメーション ⇨290ページ

おとめつばき【乙女椿】 双子葉植物・ツバキ科。ツバキの園芸品種。ツバキの仲間は日本・朝鮮など東アジアに分布し，古くから庭木として栽培されてきたが，この種もその一つで高さ2～3m，木ぶりが円錐(えんすい)状となり，花は淡紅色で千重咲き。

おとめとうげ【乙女峠】 神奈川・静岡県境，箱根火山の外輪山の北部にある峠。標高1,000m。箱根を越える国道1号線と宮ノ下で分岐する国道138号線のバイパス乙女道路(5,589m，1964年開通の有料自動車道)が785mのトンネルで峠の下を通っている。仙石原(せんごくはら)側の姥ケ茶屋(うばがちゃや)からのハイキングコースがあり，ここから北西にながめられる〈乙女峠の富士〉は箱根第1の眺望(ちょうぼう)とされている。

オートライン [auto-line] 装置道路。人間を，水平移動するベルトコンベアーなどで運ぶ運搬装置。エレベーターが縦の交通であるのに対してこれは横の交通であり，種類はベルトコンベアー式・エスカレーター式・チェーンベルト式などがあり，現在わが国ではチェーンベルト・スチールベルトを使用したものが使われている。歩行速度は現在多く使われているものは毎分30m前後である。輸送能力としては，ベルト面積1m²あたり5人乗ることができるので，幅1m，速度毎分30mの場合には毎時9,000人となる。　〔中村守保〕

おとり【囮】
1 ⇨囮猟



オドリコソウ

2〈おとり商品〉〈おとり価格〉の意で用いられる。おとり商品は〈目玉〉ともいい，それ自体の売り上げで利益をあげることは期待せず，それによって顧客の愛顧心を得ることを目的として売りに出す商品をいい，そのような価格をおとり価格という。商店の営業政策の一つとして用いられるもので，顧客をひきつけるために知名度の高い，もしくは一般的に認められた信用のある商品について，欠損もしくは無利益の価格をつけ，これにひかれて店に来た客が，その他の一般の商品をも買うという，文字どおり〈おとり〉の効果をもっている。このような販売政策はわが国でも古くから見受けられていたが，アメリカなどにおいては〈ロス-リーダー〉(欠損先導品)と呼称され，ごく普通に行なわれている。　〔清水　晶〕

おどり【踊り】 舞踊*の中の動き方の名称の一。日本舞踊では，舞*・振り*とともに三大要素をなし，踊りは足取りの動きに重点を置く動作をいう。古く《出雲風土記(いずもふどき)》や《日本書紀》にこの語があり，足拍子を強く踏んで，地下のよい精霊を呼び起こし，悪霊(あくりょう)を踏みしずめたといわれる。日本舞踊では，人間の喜怒哀楽をそのまま表現する動作に多く使われ，また集団でみせる群舞に適する。なお，日本の民俗舞踊のほとんどは，〈なになに踊り〉とよばれている。　〔戸部銀作〕

おどりおび【踊り帯】 日本舞踊の女帯。名古屋帯*と同じたけの帯地でお太鼓の部分と手先(約30cm)は表布を裏に折り返し，帯幅全体を30～32cmぐらいにしてしんを入れて仕立てる。締めるとき胴に巻く部分を半幅とせず，このまま用いる。帯地は全体に模様を織り出した金襴*(きんらん)・銀襴*が多い。

おとりこし【お取り越し】 〈お引き上げ〉ともいう。浄土真宗の寺院や門徒の家では，宗祖親鸞*(しんらん)の忌日にその高徳をしのんで報恩講*が営まれるが，本山で行なわれる正忌の法会に参会するため，特に日を繰り上げて営む法会をいう。のちに転じて報恩講の別称となり，また寺院で営まれる報恩講に対して門徒の家で行なわれるものをいうこともある。

おどりこそう【踊子草】 双子葉植物・シソ科。野原や道ばたの日陰にはえる多年草。茎は群がってはえ，断面が四角で直立し，高さ30～50cm。葉は卵形で鋸歯(きょし)がある。4～6月，葉のつけ根に唇形(しんけい)の花を多数輪状につける。若芽はゆでて食用となる。花の形が人がかさをつけて踊っているように見えるのでこの名がある。

おどりじ【踊り字】 同じかなまたは漢字をくり返して書くとき，文字の代わりに用いる符号。くり返し符号・畳字・ゆすりがなともいう。書写の手数を省くためのもので，印刷にも使われるが，近ごろは漢字以外はあまり使わない。

踊り字の種類・名称・使い方

ヽ　(一つ点)　かなに用いる。くり返された音が濁るときは〈ヾ〉を用いる。
例：あヽ　たヽみ
かヾみ　たヾし
〈バナナ〉〈かわいい〉〈いままで〉
〈あわてて〉などには用いない。

〱　(くの字点)　かな，または漢字かな交じりの語句に用いる。横書きには用いない。
例：これ〱　われ〱
しみ〲　返す〲

々　(同の字点)　漢字に用いる。
例：人々　年々　国々
〈民主主義〉〈大会会場〉〈大学学生〉
など，別語で同じ字をくり返すときは用いない。

〻　(二の字点)　漢字に用いる。〈々〉と同じ用法であるが，使わないほうがよい。

〃　(ノの点)　表や簿記で，数字や語句に用いる。

おどりじ【踊り地】 日本舞踊・舞踊音楽の用語。日本舞踊の構成上，最もにぎやかな部分で，その舞踊の内容，人物の性格などの理屈から離れ，リズミカルにはでに踊る部分をいう。

おとりそうさ【おとり捜査】 犯罪捜査機関またはその委託者が，たとえば麻薬などの買い受け人や売却者を装い，相手方(犯罪者)をおびき寄せて検挙する捜査方式をいう。麻薬・密貿易などの組織化された犯罪は，きわめて巧妙であり，つかまる者は

麻薬の使用者，禁制品の所持者などの小物で，組織の中核に及ぶことが困難なためこのような方法をとる。おとり捜査は犯罪をつくるという点で人権無視の批判があり，判例も〈おとりとなっても無罪となるものでない〉としているが，特殊の犯罪捜査では許されるものと考えられる。　〔井上公耳〕

おどりば　【踊り場】 階段を中断して床とした部分。段数が多い場合の下降の際の危険防止，登る際の休息，階段の方向転換などの目的で設けられる。その幅は原則として階段幅に準じ，その位置は階段の高さ，避難時を考慮して決める。

オートリフト　［auto-lift］ 自動車用エレベーター。一般に，小規模の自動車用エレベーターをさす。油圧式・ロープ式・特殊形などがあり，地下駐車場などへの出入り口に設け，斜道を設けずにエレベーター方式にしたものである。大規模なものは立体駐車設備とよばれ，エレベーター-フォーク式・ロータリー式・エレベーター-クレーン式などがある。エレベーター-フォーク式はエレベーター方式により自動車を昇降させ，乗り込みは自動車の自走によらず，フォークリフト(つり上げ機)によって機械に移送させるものである。ロータリー式は，メリーゴーラウンドのように自動車を循環させるもので，一般には20台前後の収容能力がある。エレベーター-クレーン式は二つの建物の間に上下・左右に移動をさせるもので，エレベーターによって上下移動を行ない，建物の間を横方向に移動させる。〔中村守保〕

おとりりょう　【囮猟】 生きた鳥獣・剝製(はくせい)・模型などを並べて獲物を誘い，網や銃器などの猟具を使用して捕獲する猟法をいう。以前はとりもち*も使用したが，わが国では1947年(昭和22)以来，狩猟の目的で行なうことを禁止された。生きたおとりは生きおとり，そのほかは型おとりという。生きおとりの使用は，獲物を安心させるほか，鳴かせて獲物を呼び寄せることができるため，著大な効がある。また，食物となる鳥獣をおとりにして獲物を誘う場合もある。おとり猟は多くの種類の鳥獣を捕獲するのに応用できるが，大多数が鳥類について行なわれ，獣類ではサル・クマなどでまれに行なわれる程度にすぎない。おとり猟で最も一般的なのはカモ猟*とスズメ猟であるが，このほかキジ・キジバト・ガン類・チドリ類・シギ類・マヒワ・ツグミ類やハヤブサ・カラスなどの捕獲にも効果が高い。ただし，上記のチドリ類以下の鳥類は，狩猟行為としての捕獲が禁止されており，有害鳥駆除や学術研究など特殊な場合でないと許可されない。カモ猟では，生きおとりは通常ナキアヒル(マガモとアヒルの雑種)を使い，撃ち場の前面に2～数十羽をつなぎ，飛んでくるカモを呼び降ろさせる。また，訓練した茶かっ色のイヌを岸に沿って歩かせて，これを見たカモが岸近くに寄ってくるのを銃撃することもある。これを赤イヌ猟という。型おとりはゴム・合成樹脂・材木などでつくられ，10～100個くらい並べてカモを誘う。スズメ猟では，むそう網猟のとき，盲目にしたスズメを網の間に数羽つなぐほか，小かごに数十羽のスズメを入れて鳴かせて誘う。このとき慣らしたカラスのおとりを網の近くにつなぐと，付近のスズメが安心して網場に近寄るので効果が高い。キジ猟では，むそう網のそばにオスキジをつないで鳴かせて友を呼ぶ。キジバト猟ではむそう網のそばに盲目にしたキジバトをつなぎ，これにひもをつけて引っ張ってばたつかせ，注意をひいて誘う。ガン猟では，むそう網のそばに慣らしたガンをつなぎ，安心して採食しているようすを見せて誘う。チドリ猟では，チドリの剝製をむそう網のそばに多数並べて誘い，マガモ猟では，かごに入れたマヒワを高木上にゆわえてさえずらせ，そばに黐(はご)(とりもちを塗った竹棒)を仕掛ける。ツグミや秋季渡来する小鳥類は，かごに入れてかすみ網のそばでさえずらせて誘い，コガラ・シジュウカラ・ヤマガラ・オオルリなどはコノハズクを林の中につなぎ，その近くに黐を仕掛けてかからせる。ハヤブサはキジバトやドバトなど，この鳥が食物とする鳥をつないで誘い，とりもちを仕掛けてとり，ウは型おとりを並べたり，負傷ウを鳴かせたりして集めてとる。おとり猟は猟法として効果が高く，特に生きおとりは多獲のおそれがあるので，これを制限している国もある。→網猟〔白井邦彦〕



オナガ



オナガガモ

オートレース　自動車競走を総称する和製英語。普通にはオートバイ*のトラックレースをさし，競輪*とほぼ同じ形式のかけ競走をいう。地方自治体が小形自動車競走会に事務を委託して行なわれる。

オートレッド　［William Oughtred］ (1574～1660) イギリスの聖職者。数学者ではなかったが，業績は著書《数学への鍵(かぎ)》(1631)に要約される。算術と代数を論じ，代数学の普及に役だった。掛け算の記号〈×〉がはじめてこの書に現われ，自然対数をはじめて使用したのも彼である。計算尺*の発明では，1620年イギリスの天文学者ガンターのガンター尺がはじめであるが，オートレッドは円形計算尺を発表し，次いでガンター尺を改良した滑動式計算尺も発表した。　〔下平和夫〕

おとわやまトンネル　【音羽山トンネル】 東海道新幹線の米原～京都間にある複線型鉄道トンネル。延長5,008mで，1964年(昭和39)に開通した。新幹線が比良(ひら)山地を越える場所につくられたもので，同路線中新丹那(しんたんな)トンネル・南郷山トンネルに次ぐ長さをもっている。

おなが　【尾長】 鳥類・カラス科。全長約37cm。頭が黒く，上面は青灰白色，下面は灰白色。尾は20cmを越える。日本から中国北部にかけて生息し，イベリア半島にもいる。10数羽から数十羽の群れをなし，平地の粗林・集落・住宅地などを徘徊(はいかい)する。雑食性で，こん虫などの小動物や木の実・果実などさまざまなものを食べる。

おながあげは　【尾長揚羽蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科。翅(はね)を広げた長さは，春型で100mm内外，夏型で120mm内外。翅は黒色で，雄は後翅の前縁に白色の条紋があり，雌はこれを欠くが，後翅の外縁に赤色の半月紋が強く現われる。幼虫は，サンショウ・カラタチ・コクサギなどを食べる。寒地性の種で，日本全国のほか，中国中部山地帯に分布する。発生は年2回，さなぎで越冬し，春型は5月初旬より，夏型は7月ごろより出現する。尾状突起が長く，翅全体も他のアゲハ類に比べて細長い。ジャコウアゲハによく似ており，飛び方も緩慢で，渓流(けいりゅう)沿いに流れるように飛ぶ。ツツジやクサギの花などに好んで集まるが，しばしば多数の雄が路上で吸水しているのも観察される。　〔鈴木邦雄〕

おながうじ　【尾長蛆】 こん虫類・ハナアブ科のハナアブ幼虫の俗称。体はうじ状であるが，腹端に長い尾状の突起があるためこの名がある。腐敗物や汚水などの中にすんでいる。→ショクガバエ

おながかも　【尾長鴨】 鳥類・ガンカモ科。カモの一種で，各地の湖沼・池などで越冬する水鳥。くびは他のカモ類より長めで，雄の前頸(ぜんけい)部は白色，顔喉(がんこう)部および後頸部はかっ色で，両者の対照が目だち，また，長い細い尾羽も著しく目だつ。雌は全体に茶かっ色。→カモ

オートメーション

[automation]

オートメーションという語は，アメリカのフォード会社のハーダーが，1948年に，オートマチック-オペレーションを意味するものとして造語したものといわれる。定義は明確になされていないが，一つの系を制御して目的に応じた動作をさせることをいう。さらに，一般的には自動的な動作，あるいはもっと広く人間の筋肉労働と精神労働を代行する自動機械の意味で使われている。オートメーションは自動制御装置やコンピューターを含むことが多く次の3形態に分けられる。第1は自動車工業などの組み立てを必要とする工業で行なわれているもので，これをメカニカル-オートメーションまたはデトロイト-オートメーションという。この種類ではトランスファー-マシンとよばれる自動運搬装置あるいは自動工作機械が用いられる。第2は化学工業で行なわれているプロセス-オートメーションまたはフィードバック-オートメーションである。第3は事務の機械化に関するもので，ビジネス-オートメーションといわれる。以下に各分野におけるオートメーションの例を示す。

【各応用分野における実例】 加工工業では数値制御(numeric control,略称NC)の工作機械がしだいにふえつつある。この機械を用いれば，従来のように熟練工を必要とせず，精度のよい均一な加工が可能である。穴開け・切削・プレスなどの加工の自動化に比較して組み立ての自動化は困難である。そのため，組み立ての自動化は現在遅れているが，最近の工業用ロボットの出現により急速に進むものと思われる。単純な組み立て作業は労働者に疎外感を生じさせるので，簡単な組み立て作業から順に自動化する必要がある。化学・セメント・鉄鋼などで代表されるプロセス工業においては，最も早く自動化された。この種の工業は，気体・液体あるいは固体を製造するにもかかわらず，いくつかの装置を通過させることによって均一な物を大量生産する点に特徴をもつ。したがって，これらの工業は自動化には有利な条件を備えていたわけである。つねに均一な製品をつくるには，装置の各部の状態を定められた条件に保つことである。たとえば，温度・圧力・流量，タンクの液面の高さ，酸素・組成などを測定し，これらの値が最適であるように加温をしたり，弁を開閉したり，それぞれに対応した制御を行なう。かつては装置各所の状態を示す計器を作業員が見ては弁を閉じるなどの操作をしていた。しかし，自動化された今日では装置の状態を測定する検出器の出力(電気信号であることが多い)が対応する自動調節器に導かれる。自動調節器は設定された値になるよう弁などを開閉する。

実際の工場では，数百台あるいはそれ以上の自動調節器が用いられているので，これらの調節器は中央管理室の壁面に集められている。この方式を集中管理方式とよんでおり，少人数で装置各部の状態を監視できる。しかし，これだけ多くの調節器を人間が監視するのはたいへんであり，監視漏れも出る可能性がある。したがって，データ-ロガー，またはコンピューティング-ロガーとよばれる装置が取り入れられている。前者は工場の装置各部の温度や圧力などを順次，表の形式で打ち出し，設定値からはずれた値を検出すると警報を発し，異常値を赤字で打ち出す。また後者は警報と作表のほかにある程度の計算能力をもっている。最近の新しい工場ではコンピューターを用いて自動制御を行なうようになった。この方式を計算機制御という。1台のコンピューターで，装置に故障を生じたときの処置を自動的に行なったり，つねに最大の利益を得るように操業の調整を行なうなど，より高度な制御が可能である。

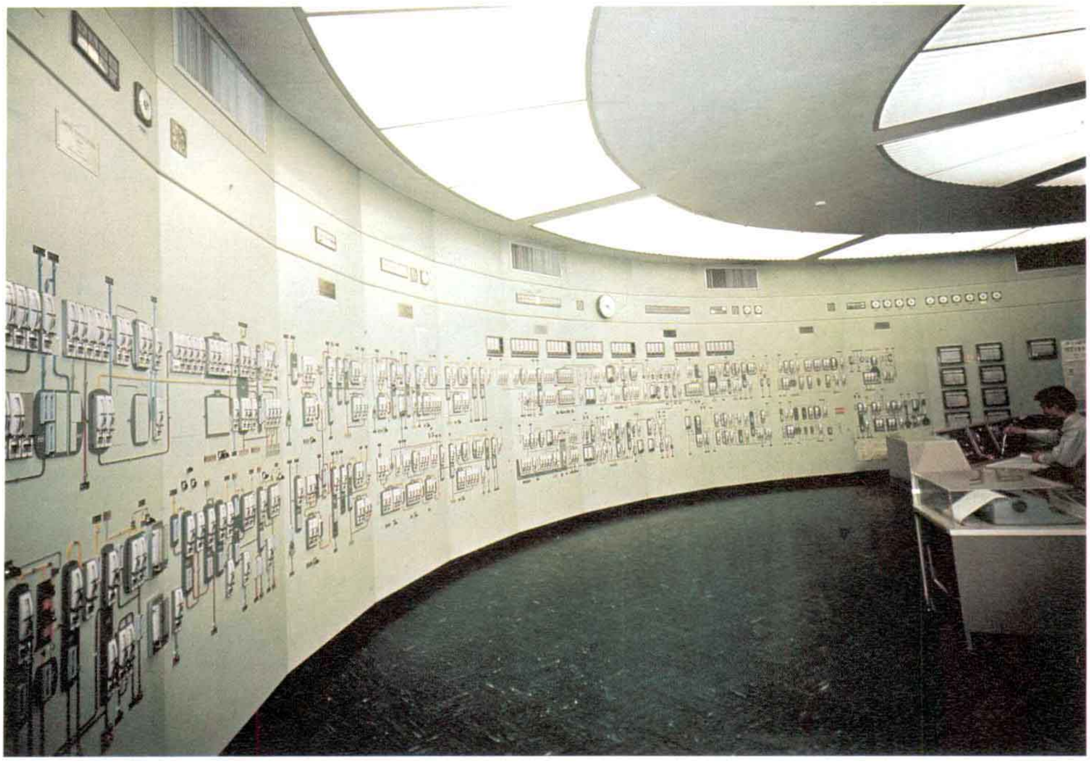
銀行においては，バンク-オートメーションなどとよばれる事務の機械化が行なわれている。その主役は，コンピューターとその入出力情報を伝えるデータ伝送である。銀行特有の業務としては，預金業務・貸付業務および送金業務がある。現在，オンライン*と称しているものは，為替(かわせ)および普通預金の出し入れを任意の支店の窓口で，あるいは業務協定を結んでいる他の銀行の窓口でも行なえる。この方式は，たとえば本店にコンピューターを置き，データ通信網を通じて各支店の窓口にある入出力装置と結ばれている。預金の払い出しの場合を例にとると，払い出し客から出された出金伝票と通帳(従来の通帳と異なり，磁気的なカードのものもある)を入力装置に入れる。この機械から口座番号・サインまたは印鑑・残高などを本店のコンピューターに送り込む。その結果，コンピューターは口座番号に対応したファイル(磁気テープまたは磁気ディスク)の内容を読み出し，サインなどを照合のうえ残高を調べる。もし，残高が合わないときは入金・出金および利息などを調べて，結果を支店に知らせる。残高が合うと入金および出金額をもとに利息の計算をして新たな残高が窓口の装置に送り返され，通帳に印刷される。以上の作業は2分以内で終了する。なお，コンピューターのファイルに扱った結果がはいっているので，その日の閉店後に当日の各種統計も自動的に計算される。銀行のみならず，他の業種においても，コンピューターによって経営および管理を行なう，事務の機械化はいまや当然のことになっている。

都市の再開発が進み，次々と超大形ビルが建設されるようになった。ビルには，電気・通信・空気調節・エレベーター・保安設備などが含まれている。このように多くの設備を少ない人員で管理運用していくには，設備のオートメーション化が必要である。それぞれの設備はほとんど自動化されており，事故が起きないかぎり自動運転が可能である。その結果，霞が関(かすみがせき)ビルにおいても2名の監視員で設備の運用ができるようになっている。ビル設備の監視はプロセス工業のように，データ-ロガーが導入され，中央監視室で行なわれている。また，平常または異常，昼間または夜間などに対応した制御方法がとれるので，あらかじめプログラムした制御，すなわち，プログラム制御が行なわれる。今後はビルの管理にもコンピューターが用いられるようになり，各室ごとの制御のみならず，経済的にも最適であるような制御が行なわれるであろう。また，いくつかのビルを集中的に管理するようになろう。コンピューターをビル管理に導入するには，まずビル管理用のプログラムの開発が必要である。

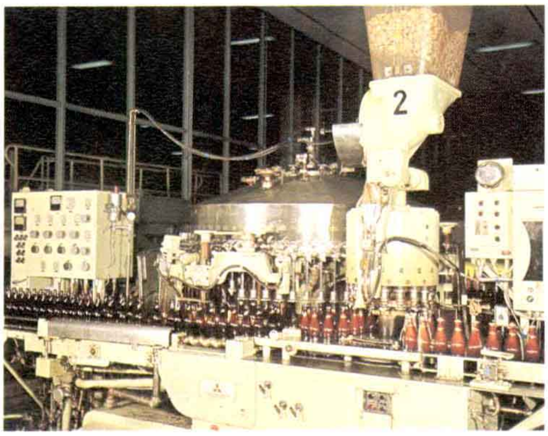
放送分野では，放送時間が長くなり，次次と番組を制作していくには多くのスタジオが必要となり，その管理運用もたいへんである。また，これらのスタジオでつくられた番組を秒単位の精度でプログラムどおりに切り替えねばならない。さらに，一つのスタジオをとっても，何台かのカメラを用いており，これらの切り替えについても正確さを必要とする。従来はこれらの操作を人手で行なっていたが，これも現在では多くの部分が自動化されている。たとえば，テレビカメラの操作を完全にリモート-コントロール(遠隔操作)式にして副調整室から操作できる。また，ビデオテープを切らずに自動的に編集する装置，あるいはフィルムをマガジンのまま自動的に現像する装置もあり，たとえば白黒フィルムの場合5分，カラーフィルムの場合12分で現像される。このほか，時計と連動して，プログラムカードに従って録音されたテープの放送を行なう自動番組運行装置，あるいは自動化された無人送信所などがある。放送の自動化においては，雑務をコンピューターに任せて，人間は創造にあたることを目標にしている。

交通の分野においても，オートメーション化はどんどん進んでいる。この中には，航空機の座席予約をはじめ，われわれになじみ深い列車の座席予約も行なわれている。また，新幹線や地下鉄など列車の運転の自動化，船舶および航空機の航行の自動化をはじめ，道路混雑緩和のため信号機の点滅時間の最適制御など多くの例がある。最近

オートメーション



石油精製プラントの計器　1日に18万バレルの原油が自動的に精製される。フィードバック方式を用いたプロセス-オートメーションの代表的な例である





(左)ビール工場のびんづめ・打栓機　きれいに殺菌・洗浄されたびんに1分間に500本の割合でビールが詰められ，打栓される
(右)自動車のクランク-シャフトのトランスファーマシン　コンベアシステムと工作機械の自動化によって発達したメカニカル-オートメーションの顕著な例である

は旅客および貨物の量がきわめて多くなり，列車間隔も限度に近くなっている。そのため，追突の危険性が大きく，ATS*(自動列車停止装置)が必要となる。この装置は赤信号の手前300～900 mの地点で車内の警報ベルが鳴り，確認用ボタンを押さないと5秒後に非常ブレーキが働くようになっている。また，ATC*(自動列車制御装置)は線路上の各区間の列車の存在を検知し,条件に応じた制限速度を列車に知らせる装置である。東海道新幹線にはこの装置がついている。次に,CTC*(列車集中制御装置)は各列車の運行状態の監視，および各駅のポイントの状態監視と切り替えを1か所で行ない，かつ中央で指令する装置で，東海道新幹線で用いられている。さらに進んでは，ある駅をスタートしてから次の駅に停車するまでの操作をすべて自動的に行なう列車自動運転装置があり，すでに地下鉄などで試験されて実用の域に達している。

船舶の自動化は，機関部の自動化，甲板部の自動化および新しくは航行の自動化に分けられる。従来は航海士と機関士が伝声管などによって連絡し合って運転していたが，現在の大形船では制御室をもち，ここで機関の監視・記録・制御などが行なわれる。また，甲板部には予定の進路からはずれたときに船首の向きを復帰させるジャイロ-パイロットをはじめ,離接岸を容易にするためのサイドスラスタ，あるいは船倉の温度などを自動記録・制御する装置が備えられている。新しく開発されているものに自動航法がある。これは，コンピューターを導入して，最適な航路の決定および最小の燃料消費で航行する方法である。

最後に，航空機関係では，飛行計画をもとに運航票を作成し，この結果を管制官に表示する一連の作業がコンピューターによって行なわれている。また，イギリスで成功しているような自動離着陸なども近い将来に普及するものと思われる。さらに，1980年代の航空管制として，地上のコンピューターによって各航空機の位置制御，すなわち，進路の管制，飛行データの処理および航空機間隔の保持を自動化しようとする方式が提案されている。

いずれにせよ，労働力が不足して人件費が高まりつつある今日，各分野において今後ますます省力化のためのオートメーション化が進んでくる。しかし，中途半ぱな自動化はかえって単純な作業が人間に残され，関係労働者に疎外感を起こさせる原因となることを注意しなくてはならない。自動化が進むにつれて人間には余暇がふえてくるが，この時間をどのように使うかが各人に課せられた今後の問題であろう。

〔内山明彦〕

おながきじ　【尾長雉】　鳥類・キジ科。全長２ｍを越え，そのうち尾が１～1.5ｍを占める。体には栗色(くりいろ)に白黒の小斑(しょうはん)があり，頭部は白色で目の部分を通る黒色のはち巻き状のしまをもつ。中国の揚子江以北の山地森林にすむが，飼いやすく美しいので世界各地で飼育されている。➔キジ

おながざめ　【尾長鮫】　軟骨魚類・オナガザメ科の４ｍほどになるサメ。普通のサメに胴体と同じほどの長さの尾をつけた姿をしている。背は青黒く腹は白い。本州中部以南の外洋の表層にすむ。肉は上等なかまぼこの原料になる。近縁のものに色や形のよく似たハチワレというサメがあるが，これは南日本以南に分布し，底生性である。いずれも胎生魚。

おながざる　【尾長猿】　哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科・オナガザル属の通称。約40種からなり，グェノン類ともよぶ。アフリカにすむ。頬袋(ほおぶくろ)をもち，体つきは細くスマート。頭胴長50cm，尾はそれより長く60～70cm。サル類中最も色彩に富み，美しい。ほとんどが樹上生活をし，一般に10～30頭の群れをつくる。雄のリーダーがいるが，順位制はきびしくない。適応性が高く，ミドリザルのように熱帯草原にすむ種もある。ダイアナモンキー・サイクスモンキー・アカオザル・ブルーモンキーなどが含まれる。　〔河合雅雄〕

おながどり　【尾長鶏】　⇨チョウビケイ

おながわ　【女川(町)】　宮城県牡鹿(おしか)郡の町。人口16,000。牡鹿半島の基部の太平洋側にある女川湾に臨む漁港は，遠洋漁業や捕鯨業の重要な基地で，石巻(いしのまき)線の終点となっている。沿岸ではカキやノリの養殖も盛んである。東12kmの海上にある江ノ島は，江戸時代の流刑地であったが，現在15戸の民家があって近海漁業に従事しており，そのまわりにはウミネコの繁殖地として知られる足島をはじめ，いくつかの無人島がある。

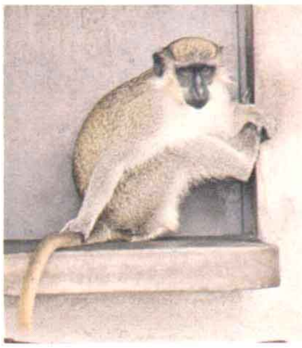
おなじまいまい　軟体動物・腹足類・オナジマイマイ科の陸産巻き貝。殻(から)の高さ１cm，径1.5cmほどの茶色のカタツムリで，中国華中の原産だが世界的に分布を広げ，日本でも都市周辺の庭や畑にみられる。

おなつきょうらん　【お夏狂乱】　常磐津(ときわず)節・日本舞踊の曲名。1914年(大正３)初演。清十郎を慕い，心狂ったお夏が秋の野を行く哀愁を描く。里の子・馬士(まご)・巡礼を配し，よくまとまった構成。当時，坪内逍遥*(しょうよう)が，日本舞踊改良のための自説〈新舞踊論〉を実践する意味で書いた作品で，２世常磐津文字兵衛(もじべえ)作曲。

オナニー　［onanie］　手淫(しゅいん)・マスタベーション・自慰ともいう。性交以外の方法により自己の性器を刺激して性的興奮を起こさせ，性欲の満足に至ること。男女ともに性緊張の生理的な吐け口であって，そのかぎりではまったく自然な行為であり，オナニーの害といわれるものの多くはそれに対する自責によるものである。なお，この呼称はオナンが〈子を得させないため地にもらした〉(《旧約聖書　創世記》)という故事による。　〔平野修助〕



オナガザメ



オナガザル
ミドリザル





オナモミ
(上)花
(下)とげのある果実

おなはま　【小名浜】　福島県いわき市の東部，太平洋に面する良港で，江戸時代から幕領の貢租米や石炭の積み出し港として繁栄した。現在は近代的な港湾施設が整い，10,000ｔ以上の貨物船が出入りする県下唯一の商港で，江名・四倉とともに遠洋・近海漁業の基地ともなる。周辺の臨海地区は常磐(じょうばん)臨海工業地帯の中心地で，化学・金属・機械などの近代工業が発達し，日本水素工業・新日本化学・三菱(みつびし)金属工業などの大工場が多い。水産物の食品加工も盛んで，日本専売公社の小名浜工場では塩田を必要としない加圧式の製塩を行なっている。小名浜臨港鉄道が常磐線泉駅へ通ずる。　〔浅井得一〕

おなもみ　【葈耳】　双子葉植物・キク科。荒れ地や道ばたにみられる一年草。高さ１ｍぐらい。葉は三角状で縁にあらい切れ込みがある。夏，茎の上部に黄色い頭花を穂のようにつけ，上部が雄花，下部が雌花である。果実は２本の長いとげとかぎ針状の多数のとげをもち，他のものにつき散布される。果実にリノール酸を多く含む。民間では，虫さされに葉をもんでつけるとよいとされる。

おなりがみ　【おなり神】　沖縄では姉妹を〈おなり〉といい，霊的に卓越した力をもって兄弟を庇護(ひご)するものと信ぜられていた。兄弟が航海・戦争などの危険な地におもむくときは，姉妹のてぬぐい・毛髪などを身につけることによって，その霊力であるおなり神の守護を願った。琉球(りゅうきゅう)王朝のころ，国王の姉妹が任ぜられる聞得大君(きこえおおきみ)は最高位のおなり神とされ，国の政事(まつりごと)を宗教的側面から補佐した。なお，中国地方では田植えのときに食物を調理・運搬する女性を〈おなり〉というが，これは生産をつかさどる神のなごりとみられている。賀茂神社の旧記にも養女(おなり)として記載されている。　〔山路勝彦〕

おに　【鬼】　人間に似た姿形だが，頭角があって裸形で腰に虎皮(とらがわ)をまとい，容貌(ようぼう)怪奇で恐しく，怪力をもつ怪物の一種のように思われている想像上の生き物。もとは信仰の対象だったが，その信仰が衰えるとともに恐怖の面ばかりが強調され，具象化された。現実には存在しないのが妖怪*(ようかい)の特性だが，オニの思想を醸成した実在のものとして，山奥で特殊な暮しを営んでいた人々が考えられる。里の人人とは同化せずに，彼らとは別個な人生を送っていた人間・異種族を，古くは山人とか山男とよんでいたが，こうした人々もオニの一原型だったろうとみられている。信仰上のものにせよ，実在のものにせよ，これらをなぜオニとよぶようになったかについては，まだ定説はない。漢字の鬼(き)は〈鬼籍にはいる〉ということばにみるように人間の死後霊を意味していた。《日本書紀》に〈鬼神(あしきかみ)〉〈邪鬼(あしきもの)〉などの用例があるが，こうした漢字の鬼も，いまのオニと同じ内容ではなかった。人に災いをもたらし人を襲う恐しいものとしてのオニは，中国伝来の鬼のほかに，仏教や陰陽道(おんみょうどう)などの恐怖の観念の内容を取り入れながら，かなり自由な想像が加味されて姿形を整え，今日のようなオニや雷神のスタイルとその属性を完成したものとみられている。餓鬼や疫鬼・赤鬼・青鬼などは８～12世紀ごろまでに形を整え，文献にも多くみられるが，のちになってこうしたオニの属性は天狗*(てんぐ)として引き継がれ，近世以後は天狗全盛時代になった。また，大江山の酒呑童子(しゅてんどうじ)や羅城門(らしょうもん)のオニなど，文芸上のオニは婦女をさらい，人



鬼
愛知県北設楽郡の花祭りに見られる榊鬼



鬼　瓦



オ　ニ　ク

を襲い殺すような山賊めいた恐しい存在であるが，一方，一寸法師に打ち出の小づちを奪われ，あるいは桃太郎に征伐され，こぶ取り爺(じじい)の話のオニのように，人間にたわいなく負かされ，だまされるようなオニもいる。神事芸能上のオニは，はじめは恐しいものとして出現するが，やがて神に圧伏され，人間を祝福して退場する型が多い。児童遊戯の鬼遊び(→鬼ごっこ)のもとは，鬼追いなど鬼祭りのこうした神事芸能であった。秋田県の正月行事ナマハゲ*に現われるオニの目的は，年の境目に山から里へ降りてきて祝福することであった。神霊が初春に異郷から里を訪れる形式はナマハゲに限らず古くからある信仰形式であった。このような信仰上の対象として山の精霊，荒々しい神霊の形で現われるものをオニとよんだに違いない。そして，そうした信仰の根底には現実の山人の存在があったろう。極端に妖怪化されたオニはしだいに童話の主人公となり，また人に災いをもたらし邪悪なもの，悪魔めいたものの象徴としてのオニは，節分の鬼追いや社寺の鬼祭にみられる形で，もっぱら魔よけ，悪魔払いの対象とされて残っている。〔今野円助〕

おにあざみ　【鬼薊】　双子葉植物・キク科。中部地方以北の山地にはえる多年草。茎は太く高さ50～100cmで，全体に縮れ毛がある。葉は羽状に切れ込み，先がとげ状になる。夏，茎の上部に3cmほどの濃紫色の頭花をつけ，花の下部は粘る。

おにおしだし　【鬼押出し】　上信越高原国立公園の浅間山北斜面の溶岩流で，1783年(天明3)の大爆発のときに流出したもの。この爆発では多数の死傷者を出し，人家や田畑が大被害をこうむった。岩塊が重なり合って荒涼とした風景をなし，奇勝として知られる。またツツジの名所としても有名。

おにがしま　【鬼が島】　⇨女木島

おにがじょう　【鬼ケ城】　三重県熊野(くまの)市木本(きのもと)海岸にある景勝地。波食されたセキエイ粗面岩が隆起してできた洞窟(どうくつ)群で，鬼が口をあけているように見えるところからこの名がある。吉野(よしの)熊野国立公園に属し，天然記念物に指定されている。

おにがらやき　【鬼殻焼き】　クルマエビ・イセエビを殻(から)付きのまま付け焼き*にした料理。クルマエビは，頭の付け根から尾の付け根まで包丁で背開きにし，背わたをとって横にくしを打ち，身の方から先に両側を焼き，みりん・しょうゆ同割のたれを身の方にかけてあぶる。これを3回ほどくり返し，次に殻全体にもたれをかけて焼き，粉山椒(こなさんしょう)をふる。イセエビは縦に二つに割って身を取り出し，細かく(1.5cmぐらい)たたき切ってエビのみそを混ぜ，しょうゆ少々と細かく切ったミツバの軸を混ぜ，エビの殻に平らに詰めてオーブンで焼く。

おにがわら　【鬼瓦】　鬼板ともいう。かわらぶき屋根で，大棟(おおむね)・隅棟(すみむね)・下がり棟などの先端をおおうためにつける装飾用のかわら。奈良時代から魔よけの意味で鬼面を用いたのでこの名があるが，現在の一般住宅用としては州浜(すはま)形をした鬼瓦が普通である。なお，社寺建築の棟端装飾用としての獅子口(ししぐち)・鴟尾(しび)・鯱(しゃち)などもこれに属する。→瓦

おにく　【御肉】　双子葉植物・ハマウツボ科。キムラタケともいう。中部地方以北の高山にはえる一年草で，ミヤマハンノキの根に寄生する寄生植物。高さ10～30cmの肉質の茎を出し，表面に鱗片(りんぺん)状の黄かっ色の葉をつけ，夏に茎の上部に唇形(しんけい)の紫色の花を多数つける。オニクまたは中国産のホンオニクの花期の全草を乾燥したものを肉従蓉(にくじゅよう)といい，漢方では強壮補精薬として用いる。

おにぐも　【鬼蜘蛛】　クモ形類・コガネグモ科。雌は体長3cm，雄は2cm。淡かっ色から黒までの範囲で，地方・個体により色彩は一定しない。体に毛が多く，がっしりした感じがする。日本全土・朝鮮・台湾・中国に分布し，わが国で最も普通のクモの一つである。人家近く，特に軒下や電線の間などに夕方から大きなクモの巣を張り，その中心に頭を下にしてじっと獲物を待つ姿がよくみられる。日中は物陰に隠れている。

おにぐるみ　【鬼胡桃】　双子葉植物・クルミ科。山野の川沿いにはえる落葉高木。葉は9～15枚の小葉からなる大形の羽状複葉で互生する。若枝および葉に毛が密生する。4～5月，葉腋(ようえき)に雄花穂を長く下げ，枝の先に数個からなる雌花穂を直立させる。果実は9～10月に熟し，核の中身を食用とする。→クルミ

おにげし　【鬼罌粟】　双子葉植物・ケシ科。地中海地方原産の多年草。明治時代に日本にはいり，観賞用として栽培される。茎は直立し高さ1m。葉は羽状に切れ込み，茎とともにかたい毛がある。5月ごろ茎の先に深紅の大きな花をつけ，花びらは10cmにも及ぶ。

おにこうべおんせん　【鬼首温泉】　宮城県玉造郡鳴子町にある温泉群。荒雄川に沿って轟(とどろき)・神滝(みたき)・宮沢・吹上・蟹沢(かにさわ)・雌釜(めがま)・雄釜・荒湯などの温泉がある。轟温泉は泉温80℃の単純泉で温泉郷の中心的位置を占め，伊達政宗(だてまさむね)の時代の発見といわれる。神滝温泉は泉温80℃の弱食塩泉で婦人病にきくといわれ，女性の入浴者が多い。宮沢温泉は泉温68℃の含芒硝(がんぼうしょう)弱食塩泉で，胃腸病・リウマチにきくといわれ，200mの段丘上に位置する。吹上温泉は天然記念物に指定されている雌釜・雄釜の二つの噴出口から熱湯を吹き上げる間欠泉で，千人ぶろもある。荒湯は標高600mの山中にあり，荒湯地獄で名高い。陸羽東線鳴子駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

おにごっこ　【鬼ごっこ】　集団で行なわれる児童遊戯の一。鬼遊びには盲鬼・かくれんぼ・丸鬼などがあるが，鬼ごっこは最も一般的な遊びである。元来，鬼追いや追儺*(ついな)のような鬼祭りの神事に基づくもの

で，神楽*(かぐら)にも鬼が暴れ回ったすえに神の前に服するという一連の行法が残っている。遊び方は多人数の中からひとりの鬼役を決め，鬼につかまらないように逃げ，つかまったときには鬼になる。➔鬼

おにしば 【鬼芝】 単子葉植物・イネ科の多年草。海岸の砂地にはえる。シバに似るがやや大形で，10～20cmぐらいの高さになる。根茎は地下深く水平に伸びる。6～8月にシバより大形の穂を出す。北海道西南部から沖縄諸島にかけて分布。

おにしばり 【鬼縛】 双子葉植物・ジンチョウゲ科。低山の陽地にはえる落葉低木。枝は灰かっ色で，樹皮がじょうぶなために折れにくい。葉は柔らかく倒披針(とうひしん)形で互生し，冬の間は緑色であるが夏になると落葉する。雌雄異株で3～4月，葉腋(ようえき)に黄緑色花をつけ，楕円(だえん)形の液果は6～7月に赤熟する。樹皮は和紙の補助材料にされる。近縁のセイヨウオニシバリの樹皮は，ヨーロッパで古くから皮膚病などに用いられている。

オーニソガラム [*Ornithogalum*] 単子葉植物・ユリ科の球根植物。オーニソガラム属(オオアマナ属)は地中海沿岸や南アフリカに約100種が分布する。葉は根生し，線形で，春，花茎を伸ばして散房花序をつける。観賞用に庭植やはち植えにされる。オオアマナ(オーニソガラム-ウンベラーツム)とクロボシオオアマナ(オーニソガラム-アラビクム)がよく栽培されている。前者は10～30cmの耐寒性の球根で，1花序に12～20花をつけ，白花で外面は緑に白い条がある。後者は，白花を6～12個つけ，めしべは太く大きくて黒色である。

おにたけ 【鬼岳】 長崎県五島列島，福江島の東部にあり，〈おんだけ〉ともいう。標高317m。東の火ノ岳(315m)とともに，玄武岩質の溶岩台地の上にそびえる臼状(きゅうじょう)火山で，直径約200m，深さ70mの火口をもつ。山頂はピクニックに好適な草原で，眺望(ちょうぼう)もよい。

おにたびらこ 【鬼田平子】 双子葉植物・キク科。畑や道ばたに多い一年草または越年草。全体に柔らかい細い毛がある。茎は直立して高さ20～100cm。葉は先のほうが幅が広く，基部は羽状に切れ込む。葉の多くは根のほうにつくが茎にもあり，上部のものほど小さい。茎や葉はややかっ紫色をおびる。5～10月ごろ，茎の上部に直径7～8mmの黄色の頭花をたくさんつける。果実にはタンポポのような白い毛があり，風により飛ばされる。 〔小清水義隆〕

オニックス [onyx] 炭酸カルシウムを飽和状態にとかした水から長い年月にわたり少しずつ沈殿したホウカイ石*の薄い層が重なり合ってできたもので，層によって色が異なり半透明のものをいう。置き時計の台やたばこ入れなどの工芸品の材料にする。アルジェリア・エジプト・メキシコなどがお



オニシバリ



オニドコロ
若い果実



オニノヤガラ



オニバス

もな産地である。なお，カメオ*の材料になる白黒のしまのある馬瑙(めのう)をオニックスとよぶこともある。

おにつら 【鬼貫】 (1661～1738) 江戸前期の俳人。摂津(大阪府)の人。上島氏。名は宗邇(むねちか)，別号犬居士(いぬこじ)・馬楽堂・仏兄(さとえ)など。早くから重頼(しげより)・宗旦(そうたん)の指導を受け，さらに宗因に近づいて談林ふうに影響されたが，当時流行の奔放な作風に疑問をいだき，ひとり修行を重ねて1685年(貞享2)〈誠の外(ほか)に俳諧(はいかい)なし〉と悟った。作風は〈心を深く入れて，姿・言葉にかかはらぬこそ好ましけれ〉という主張どおり，まじめな態度と淡白な表現を特色とする。句集に《大悟物狂(たいごものぐるい)》《仏兄七久留万(さとえななくるま)》など，論書に《独言(ひとりごと)》などがある。 〔奥野純一〕

おにどころ 【鬼野老】 単子葉植物・ヤマノイモ科。トコロともいう。日本全土に自生する多年生のつる草。ヤマノイモに似るが，心臓形の葉は互生する。地下茎は横ばいし，不規則に分枝して多数のひげ根を出す。茎は長く伸び，物に巻きつく。雌雄異株で7～8月に淡緑色の花をつける。雄株は直立した円錐(えんすい)花序をつけ，雌株は細長い穂状花序を下垂する。地下茎は苦いが，冬に掘り上げ，あくで煮たりなどして苦みを除くと食べられる。ひげ根が多いので，老人のひげに見立てて，正月の床に飾って長寿を祝う習慣がある。 〔横井朝子〕

おにのしたぶるい 【鬼ノ舌震】 島根県の北東部，斐伊(ひい)川上流の馬木川が，カコウ岩を侵食してできた渓谷。大小の甌穴*(おうけつ)や奇岩が多く，新緑や紅葉が美しい。仁多(にた)郡仁多町に属し，木次(きすき)線出雲三成(いずもみなり)駅からバスの便がある。鬼ノ舌震というのは，大雨が降るとあふれる水のために，鬼が舌をふるわすかと思われるほど岩がふるえるからとも，甌穴の形が鬼が舌をすぼめたようなかっこうをしているからとも，あるいは《出雲風土記(ふどき)》にあるタマヒメノミコトを慕ってきたワニが，ミコトのために石で道をふさがれて会えなかったという〈和邇(わに)の恋(したい)山〉のワニが鬼に転化したともいわれる。島根県立鬼ノ舌震自然公園に指定されている。1961年(昭和36)下流に高尾ダムができた。

おにのやがら 【鬼矢幹】 単子葉植物・ラン科。日本全土・台湾・中国に分布する腐生植物。山の木陰にはえ，葉はなく，地下にジャガイモ状の塊茎をつくり，その中にナラタケの菌糸を入れている。ナラタケを消化吸収して栄養をとる。イモは毎年更新される。6～7月に黄赤色のつぼ状の花を総状花序につける。菌根を天麻，地上茎を赤箭(せきせん)とよび，漢方では強壮・鎮静薬とする。和名は直立する茎を鬼の使う矢にたとえたもの。

おにばす 【鬼蓮】 双子葉植物・スイレン科。インド・中国から日本にかけて，池や用水路にみられる大形の多年生水草。植物全体にとげがある。茎は短く，根はひげ状で，長い柄をもつ葉を水面に出す。葉は直径20cmぐらいであるが，大きなものは3mにもなり，上面は深緑色，下面は紅紫色をおび，脈が網状にはっきりしている。夏，長い柄の先に紫色の花を一つつける。花の直径は4cmで，水面で開き，夜はしぼむ。種子はパルプ質の仮種皮をかぶり，はじめは水に浮くが，腐ると水底に沈む。ハスに似るがとげがあり，また大きいのでこの名

がある。　　　　　　　　　〔小清水義隆〕

おにふすべ　担子菌類・ホコリタケ科。夏から秋にかけて竹林・広葉樹林・庭園内などの地上に発生するきのこ。形は通常球形で，フットボール大(径10〜30cm)，色ははじめ白色で成熟後黄色から黄かっ色となる。若いものは食用とし，独特な風味がある。

おにやどかり　【鬼宿借】　甲殻(こうかく)類・ヤドカリ科。甲の長さ5cm程度の大きなヤドカリである。赤と青が混じった色合いの体に，金色の毛が密生している。宿とする貝殻(かいから)はサザエ・ボウシュウボラなどで，本州中部以南からインド洋・太平洋海域に広く分布する。わが国では，イセエビの刺し網にかかってくることが多く，一般に海岸近くの浅い所では見つからないが，奄美(あまみ)諸島以南では波打ちぎわでも発見できる。

おにやらい　【鬼遣】　⇨追儺(ついな)

おにゆり　【鬼百合】　単子葉植物・ユリ科。日本・朝鮮・中国に分布する多年草。日本のものは古く中国から食料として渡来，野生化したもの。高さ1〜2m。7〜8月，総状花序に径10cmぐらいの花を2〜20個つける。花は朱紅色で暗紫色の斑点(はんてん)があり，花弁の先が外側にそり返る。5〜8cmの鱗茎(りんけい)がある。多くは三倍体で，ふつう分球と球芽(葉腋(ようえき)につくむかご)でふやすが，鱗片でもふやせる。鱗茎は食用とされ，栽培もされる。　〔横井朝子〕

オニール　［Eugene O'Neill］　(1888〜1953)　アメリカの劇作家。俳優を父として生まれ，青年期までは巡業・家出・放浪など不安定な生活を経験。1914年最初の1幕物集を出版して以来，生涯(しょうがい)数多くの実験的作品を世に送り，アメリカ近代劇の確立に大きく貢献した。ほとんど一作ごとに新しい手法を試み，人間の精神・欲望の根底に潜むものの追求がその特質であった。おもな作品は《楡(にれ)の木陰の欲情*》《地平の彼方(かなた)》《奇妙な幕間狂言》《喪服の似合うエレクトラ》など。

おにわやき　【御庭焼】　江戸時代，各藩の大名などがその邸内に窯(かま)を設けて焼いた窯芸。文化・文政年間(1804〜1829)に流行，各地に広まった。和歌山の偕楽園(かいらくえん)焼や彦根(ひこね)の湖東焼は特に有名である。

オネガ(湖)　［Onega］　ソビエト連邦北西部，白海に近い湖。面積9,800km²。最深110m。12月から半年間は結氷する。運河が四方に延びて河川を結び，北は白海から北極海へ，西はフィンランド湾からバルト海へ，南はボルガ川を経てカスピ海へ，またアゾフ海から黒海へも連絡している。

オネゲル　［Arthur Honegger］　(1892〜1955)　スイスの作曲家。スイス人を両親として北フランスに生まれ，スイスのチューリヒの音楽院に入学して2年間学んだのち



オニヤドカリ





オニユリ
(左)花　(右)球芽

フランスに帰り，21歳でパリ音楽院にはいった。以後おもにパリを中心に作曲活動を行なった。1919年，音楽院時代に知り合ったミヨー*らと〈新青年協会〉を結成。オネゲルはのちに〈六人組*〉と改名されたこの作曲家集団の演奏会を通して，いくつかの作品を発表した。小管弦楽曲《夏の牧歌》(1920)や交響的詩編《ダビデ王》(1921)は，彼の初期の代表作である。続いて作曲された《パシフィック231》や《ラグビー》は，機関車やスポーツを素材にした迫力に満ちた音楽で，オネゲルの名を一躍有名にした。以後バレエやオペラなど劇音楽に興味を示し，クローデルの台本による《火刑台上のジャンヌ・ダルク》などを発表した。晩年は健康を害し，第5交響曲《三つのレ》は暗い絶望感に満ちている。　　　　　　〔船山　隆〕

おねり　【御練】　神幸祭・みゆき・おわたり・おいでともいう。本社に鎮座している神が他所へ出かけることをさし，その祭りをもいう。京都の八坂神社の通称祇園(ぎおん)祭*は代表的な例。神幸は神輿(みこし)・鳳輦(ほうれん)・鉾(ほこ)・山車(だし)に神霊を奉じて本社に迎えたり，氏子の区域内を巡行したりするが，ときには海上を渡って船に神を迎えることもある。塩竈(しおがま)神社*の神輿海上渡御，厳島(いつくしま)神社*の管弦祭，熊野速玉(くまのはやたま)神社(→熊野三山)の御船祭は有名である。　　　〔坂本和子〕

おの　【斧】　木を切り倒したり割ったり，さらに削ったりする，人力を利用した原始的な道具。刃と柄の部分からなる。刃の部分は，はじめは石(一部では骨・貝)が使われたが，やがて鉄そして鉄合金と変わり，柄にはカシ・モミ・クルミ・ブナなどのかたい材質の木が使われた。柄と刃の形によって用途が異なり，まっすぐで棒状をした柄をもつ斧(よき)と柄がU字形に曲がった手斧(ちょうな)に大別されている。40°ぐらいの刃先の角度をもった〈よき〉は木を切り倒したり割ったりする機能があり，〈ちょうな〉は薄い刃先をもって木を削るのに使われる。わが国では，おのは10年ほどまえまでは樹木の伐採や大工職の間で一般に使われていたし，家庭でも燃料用のまき割りの道具として使われていたが，機械・動力技術の進歩と燃料革命の浸透が，おのを生活の中から失わせ，いまはその形をみることさえ容易ではない。しかし，人力を機械力に置き換えて変化させただけで，おのの機能的原理はいまも各方面で利用されている。

おのの歴史は古く，石器時代に刃の部分を石でつくった石斧(せきふ)に原型をみることができる。石斧は最初に人類がつくった道具の一つで，いまも未開民族の一部では使われている。旧石器時代・中石器時代にも石斧は用いられているが，本格的な石斧は新石器時代に登場し，ヨーロッパからアジアにかけて広く分布している。この時代を特徴づける，木造の家・くり舟・木製の食器類はみなこの石斧でつくられたものと思われる。石斧は石をみがいてつくったものと打製品があり，刃の部分も蛤刃尖頭(はまぐりばせんとう)形，長方形の薄形から厚形に，さらに舟形と変遷している。そして，石斧の刃に使われる石は，砂岩・玄武岩・センリョク岩などであった。また，石斧は火薬の出現をみるまで，闘斧とよばれて武器として用いられ，その一種には投擲(とうてき)用のものもあった。日本での石斧は縄文(じょうもん)式文化期に現われ，打製と磨製のものがつくられたが，刃の部分は部厚で木工具として利用されるよりは土掘り道具として使われていたとみられている。

金属の開発・利用とともに，刃の部分が石から金属に変えられ，青銅から鉄に，そして鉄の合金へと進んで金属斧の誕生となった。しかし，刃の部分の石から鉄への変遷は刃の効率を高めつくりやすくしただけで，おのの原理は石斧とすこしも変わっていない。その原理は，腕の長さに柄の長さを加え，さらに刃の部分の重さとによって，人力をより大きな力に変えることであった。この力学的な初歩の原理を，古代人はいくつかの経験をとおして学びとり，生活の中に便利なものとして根を下ろしていったとみられる。この便利さが一般におのを神聖視し，たとえばエジプトの神話におのを礼拝の対象として登場させている。また，おのによる占いも行なわれ，日本では地方によっては森林を伐採するまえに〈おの立ての儀〉という式を行なうところがある。

〔吉羽和夫〕

おの　【大沼】　群馬県南東部にある赤城(あかぎ)山の火口原湖。面積0.8km²，水面高度

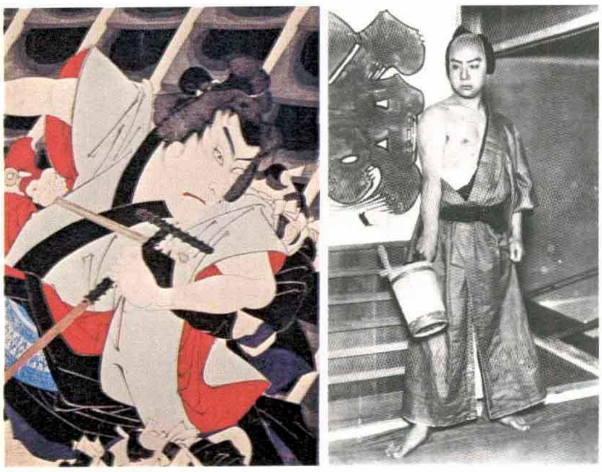
1,330 m，最深部16.5 m。水は西岸から沼尾川となって利根(とね)川にはいる。11月中旬に結氷し，氷質がよいのでスケート場としてにぎわっている。製氷の未発達時代には，湖面の氷を切り販売したこともある。

おの【小野(市)】 兵庫県南東部寄りの市。奈良時代，行基が〈播州高野(ばんしゅうこうや)〉とよばれる浄土寺を建てて以来開け，江戸時代は一柳氏一万石の陣屋があった。1954年(昭和29)市制施行。人口43,000。播磨(はりま)平野の北東部，加古川中流東岸の平地と丘陵部を占める。産業三大別人口比は，10：49：41。米・麦・タバコなどの産が多く，家内工業のそろばんは古くから〈播州そろばん〉として知られ，全国の90％を産し，まな島根県の〈雲州そろばん〉へ原料を送っている。かまなどの家庭金物や繊維・機械などの工業も行なわれるが，いずれも規模が小さい。国際電信電話の小野受信所は東洋一の設備をもつ。加古川西岸を走る加古川線粟生(あお)駅から神戸(こうべ)電鉄が通じ，国道175号線が市街を南北に縦貫する。北東郊の浄谷(きよたに)にある浄土寺境内の浄土堂(阿弥陀堂(あみだどう))と阿弥陀如来・脇侍(わきじ)立像は国宝。

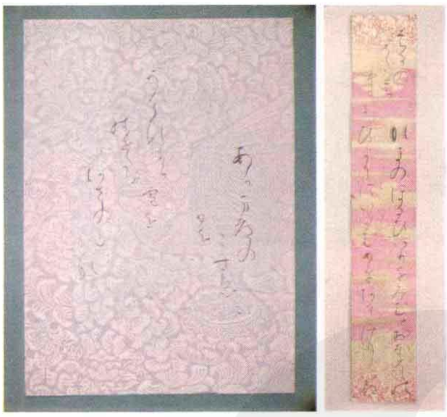
おのあしるい【斧足類】 ⇨二枚貝類

おのあずさ【小野梓】(1852～1886) 法学者・政治家。土佐藩出身。戊辰(ぼしん)戦争には土佐藩兵として参加，維新後は欧米に留学し，帰国後は共存同衆を結成して自由思想の普及に努めた。1876年(明治9)から官吏となり，元老院書記官などをつとめたが，1881年大隈重信(おおくましげのぶ)とともに辞任。立憲改進党創立に参画し，党の知恵袋となった。東京専門学校(早稲田(わせだ)大学の前身)の開設にも尽力した。著書に《国憲汎論(はんろん)》《民法之骨》などがある。

おのいし【斧石】 ホウ素を含む複雑なアルミニウム・カルシウム・鉄のケイ酸塩。$Ca_2(Mn,Fe)Al_2BSi_4O_{15}(OH)$ 三斜晶系。比重3.25～3.30，硬度6.5～7，劈開(へきかい)やや完全。かっ色または紫色の形がおのに似た板状結晶として産する。大分県尾平鉱山などに産出。まれに産する透明な結晶は宝石になる。



尾上菊五郎 (左)《青砥稿花紅彩画》の弁天小僧に扮した5世の錦絵 (右)《新皿屋舗月雨暈》の魚屋宗五郎に扮した6世



尾上柴舟



尾上梅幸 《与話情浮名横櫛》のお富に扮した6世

おのえきくごろう【尾上菊五郎】 歌舞伎(かぶき)俳優。屋号音羽屋(おとわや)。6世まである。

[1]初世(1717～1783) 京都出身で女方から立ち役に転じた。〈花実相対の大立て者〉と称された名優。

[2]3世(1784～1849) 初世尾上松助(松緑)の養子。文化・文政期(1804～1829)の江戸歌舞伎を代表する名優。容姿にすぐれ，江戸っ子の粋な生世話物に新境地を開いた。4世鶴屋(つるや)南北と提携し，怪談仕掛け物を演劇的に洗練させた。

[3]5世(1844～1904) 12世市村羽左衛門(うざえもん)の子。明治劇壇を代表した名優で，9世市川団十郎・初世市川左団次と並び，〈団・菊・左〉と称された。特に世話物をよくし，髪結新三(しんざ)(→梅雨小袖昔八丈(つゆこそでむかしはちじょう))・直侍(→天衣紛上野初花(くもにまごううえののはつはな))・魚屋宗五郎(→新皿屋舗月雨暈(しんさらやしきつきのあまがさ))などはあたり役。舞踊劇にも長じ，新古演劇十種を制定した。写実的傾向と天成の様式美を合わせた芸風の持ち主であった。

[4]6世(1885～1949) 5世の子。5世から受け継いだ写実的芸風に9世市川団十郎に学んだ合理的精神を加え，歌舞伎における近代的演技術の型をつくった。立ち役・女方・舞踊のいずれにもすぐれ，芸術院会員となり，文化勲章を追贈された。長男は7世尾上(おのえ)梅幸，次男は尾上九朗右衛門(くろえもん)である。〔服部幸雄〕

おのえさいしゅう【尾上柴舟】(1876～1957) 歌人。正しくは〈しばふね〉と読む。岡山県の生まれ。本名八郎。東京大学国文科卒。はじめは浅香社に参加，1898年(明治31)いかづち会を興し，新詩社の浪漫主義に反対して叙景詩運動を行なった。また，1905年若山牧水・前田夕暮らと車前草社を結成，さらに1914年(大正3)《水甕(みずがめ)》を創刊，主宰した。また，はじめ大口周魚に，のちにはもっぱら伝藤原行成(ゆきなり)筆《粘葉本(でっちょうぼん)和漢朗詠集》を学んで，端正高雅なかなを書き，その書風は人々に愛好され，広く流行した。著書に歌集《静夜》《永日》や《平安朝草仮名の研究》がある。〔堀井謙一・春名好重〕

おのえしょうろく【尾上松緑】 歌舞伎(かぶき)俳優。屋号音羽屋(おとわや)。

[1]初世(1744～1815) かたき役を得意とし，早替わりの技術をくふうして怪談劇を創始した。前名松助。

[2]2世(1913～) 7世松本幸四郎の三男。6世尾上菊五郎のもとで修行し，その芸風を継承。舞踊では藤間流家元勘右衛門(かんえもん)として芸術院賞を受けた。

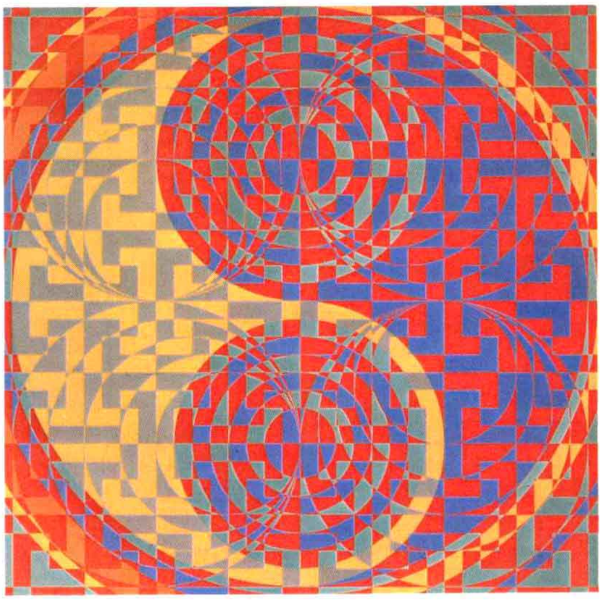
おのえばいこう【尾上梅幸】 歌舞伎(かぶき)俳優。屋号音羽屋(おとわや)。5世までは代々の尾上菊五郎の俳名だった。

[1]6世(1870～1934) 5世尾上菊五郎の養子。女方の名人で，1911年(明治44)から約20年間，帝国劇場の座頭(ざがしら)として活躍。世話物を得意とし，《東海道四谷(よつや)怪談》《茨木(いばらき)》など妖怪変化(ようかいへんげ)の役にもすぐれた。

[2]7世(1915～) 6世菊五郎の長男。重要無形文化財保持者。〔松井俊諭〕

おのえまつのすけ【尾上松之助】(1875～1926) 映画俳優。本名中村鶴三(つるぞう)。岡山市に生まれ，旅役者から映画界にはいり，初期の時代劇スターとして1,000本以上の作品に出演，〈目玉の松ちゃん〉の愛称で親しまれた。代表作《自来也(じらいや)》《荒木又右衛門(またえもん)》。

おのがどう【小野鵞堂】(1862～1922) 明治・大正時代の書家。名は鐧之助(かんのすけ)，駿河(するが)(静岡県)の人。はじめ上代様を習ったが，通俗で習いやすいかなおよび漢字を書いて人々に愛好され，〈鵞堂流〉として広く流行した。多数の門人を養成し，また，いろいろな手本をたくさん書いて，書を普及した功績は大きい。



オノサトトシノブ《作品》1969

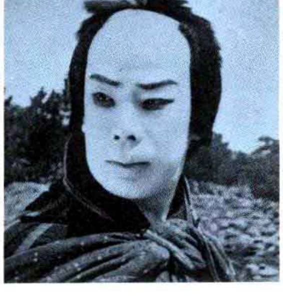
おのぐみ【小野組】明治初期の政商。屋号井筒屋。元禄(げんろく)時代には糸割符(いとわっぷ)商人として栄え，やがて両替商となる。維新政府に財政援助を与え，三井組・島田組とともに為替方(かわせかた)として官金出納事務に従事した。1873年(明治6)第一国立銀行(→第一銀行)の創設には中心的存在であった。ばくだいな借り入れ資金によって各地に機械製糸工場を設けるなど積極的に事業を推進したが，1874年政府に官金を回収されたため倒産した。〔千野境子〕

おのこざん【小野湖山】(1814～1910) 江戸・明治初期の漢詩人。近江(おうみ)(滋賀県)の生まれ。旧姓横山，名は巻，字(あざな)は懐之。のち姓を小野に改めた。梁川星巌(やながわせいがん)門下の秀才とうたわれ，漢詩壇に名声をはせる。尊王の志も厚く，国事に奔走し，藤田東湖らと親交があった。白楽天を宗となし，その詩業数千種に及び，《湖山詩》《湖山楼詩抄》などがある。

おのごへい【小野五平】(1831～1921) 将棋棋士。12世名人。阿波(あわ)(徳島県)の生まれ。天野宗歩(そうふ)門下。1898年(明治31)，主流派の関根金次郎の反対にあいながらも，13世名人は関根に譲る約束で，在野の棋士としてはじめて名人位を継いだ。才気に富み，福沢諭吉ら知名人の知遇を得たが，棋界では孤塁を守り続けた。また，わが国でのチェス研究の先駆者である。

おのさととしのぶ【オノサトトシノブ】(1912～　) 洋画家。本名小野里利信。群馬県桐生(きりゅう)市の生まれ。津田青楓(せいふう)の画塾(がじゅく)に学び，のち〈グループ黒色〉・自由美術家協会展に参加・出品し，現在は前衛的な抽象的作風で国際展などに活躍している。

おのし【小野氏】孝昭天皇の皇子天足彦国押人命(あめたらしひこくにおしひとのみこと)の後裔(こうえい)と称する氏族。臣(おみ)を姓(かばね)とし，和邇(わに)・春日(かすが)氏らの一族。近江(おうみ)(滋賀県)滋賀郡小野村を本拠とする。飛鳥(あすか)朝の妹子(いもこ)，奈良朝の老(おゆ)，平安初期の岑守(みねもり)・篁(たかむら)父子，中期の好古(よしふる)・道風兄弟はことに名高い。なお，武蔵(むさし)七党のうち猪股(いのまた)党・横山党は小野氏の後裔という。



尾上松之助《国定忠次》1921



小野小町《三十六歌仙絵巻》より

おのじろうえもん【小野次郎右衛門】⇒神子上典膳(みこがみてんぜん)

おのだ【小野田(市)】山口県南東部の市。周防灘(すおうなだ)に臨み，市街地は海岸干拓地に発達している。古くから開けた地で，南部の半島東岸には縄文(じょうもん)文化を残す須賀(すか)遺跡があり，また須恵器の窯(かま)跡などの遺跡に富む。旧名の須恵も陶器製造の地であったことにちなむものと考えられる。1940年(昭和15)市制施行。人口44,000。産業三大別人口比は7：46：47。周辺山地の石灰岩を利用した諸工業が主産業で，かっては宇部炭田の石炭も利用された。1881年(明治14)に創設された小野田セメントにより日本最初の民間セメント工業が興って以来，セメントのほか，硫酸を主とする工業薬品や人造肥料・耐酸陶器などの製造が盛んで，火力発電所も設置されている。宇部市とともに，周南工業地帯の中心となり，1965年には石油コンビナートが誘致された。山手部を走る山陽本線小野田駅から分岐する小野田線は市街地や工業地域，港湾部に延びており，国道190号線が市街を貫通する。

おのだセメント【小野田セメント(株)】セメント業界大手会社の一。歴史が最も古く，1881年(明治14)設立。1965年(昭和40)に経営不振で無配会社に転落したが，系列会社の整理など企業の合理化努力によって1968年9月期には年6分の復配にもどった。セメントのタンカー輸送で業界に先鞭(せんべん)をつける一方，設備の拡充に努め，建材部門への進出も図っている。本社山口，工場は小野田・大船渡・田原・津久見など。資本金202億6,600万円，年間売上高2,013億5300万円，従業員数2,766(1979年3月)。

おのとおざぶろう【小野十三郎】(1903～　) 詩人。大阪市の生まれ。本名藤三郎。東洋大学中退。詩誌《赤と黒》に参加，アナーキズムの詩人として出発し，プロレタリア文学運動に近づいた。その後帰阪(きはん)し，《大阪》《風物詩抄》などの詩集で重工業地帯の風物を歌った。リアリズムに立ちながら抽象的再構成を行なう作風は〈短歌的叙情〉の批判，批評精神の要求へと発展。第2次世界大戦後も進歩的詩人として活躍している。〔堀井謙一〕

おののいもこ【小野妹子】生没年不詳。飛鳥(あすか)時代の官人。近江(おうみ)(滋賀県)滋賀郡小野村の豪族。聖徳(しょうとく)太子の命により607年(推古15)遣隋使(けんずいし)として大陸に渡り，翌年隋使裴世清(はいせいせい)を伴って帰国したが，同年隋使および僧旻(そうみん)・高向玄理(たかむこのくろまろ)ら留学生8人を伴って再び渡海し，609年帰国した。

おののおゆ【小野老】(？～737) 奈良時代の官人・歌人。《万葉集》の〈青丹(あお)によし奈良の都は咲く花のにほふがごとく今さかりなり〉の歌は有名。官位は従(じゅ)四位下大宰(だざい)大弐となったが，737年(天平9)当時流行の疫病にかかって没した。

おののこまち【小野小町】平安初期の女流歌人。生没年未詳。六歌仙(ろっかせん)のひ

とりで，《古今和歌集》に18首，《後撰(ごせん)和歌集》に4首の繊細婉麗(えんれい)な歌がある。家集《小町集》などにも歌はあるが，他人の歌も多く混ざっていて確証はない。絶世の美女とうたわれ，種々の伝説もある。なお，小野氏は神職芸道の家系であり，小町も釆女(うねめ)のもつ歴代の霊媒職名であるともされている。➔小町伝説

おののたかむら【小野篁】(802～852) 平安初期の漢詩人・歌人。小野妹子*(いもこ)の子孫で，父小野岑守(みねもり)も漢詩人であった。詩才に恵まれ，その詩情は白楽天に通ずるといわれたが，狷介不羈(けんかいふき)の性質のためか世に入れられなかった。また，遣唐使*の副使としての出発の際に病と称して乗船せず，そのために隠岐(おき)に配流されたという。彼の漢詩は《経国集*》《本朝文粋*》などで知られ，和歌は《古今和歌集》などに入集している。〔鈴木一雄〕

おののみちかぜ【小野道風】(894～966) 平安時代の中ごろの書家，三跡*のひとり。篁(たかむら)の孫。王羲之*(おうぎし)の書風を日本化して和様を創始し，当時第1の〈手書き〉として尊重され，その書風は当時はもちろん，その後も長く流行した。道風の漢字は《智証(ちしょう)大師諡号(しごう)勅書》(国宝)，《屏風土代(びょうぶどだい)》《玉泉帖(ぎょくせんじょう)》などが残っている。字形は端正で，点画は温雅である。かなは現在残っていない。〔春名好重〕

おののみやさねすけ【小野宮実資】⇨藤原実資

おののよしふる【小野好古】(884～968) 平安中期の武将・歌人。道風の兄。承平・天慶(てんぎょう)の乱*で藤原純友(すみとも)を追討して功があり，以後累進して参議，次いで従(じゅ)三位となった。歌は《後撰集(ごせんしゅう)》に収められている。

おのひでお【小野秀雄】(1885～1977) 新聞学・新聞史研究の先覚者。滋賀県出身。東京大学卒業後，万朝報(よろずちょうほう)・東京日日新聞の記者生活を経たのち，1926年(大正15)東大講師，1949年(昭和24)東京大学教授，初代東大新聞研究所所長。1951年日本新聞学会が創設されると会長に就任，以後1967年まで同職をつとめた。現在日本新聞学会名誉会長，上智(じょうち)大学名誉教授。著書に《日本新聞発達史》《新聞原論》などがある。〔美ノ谷和成〕

おのみち【尾道(市)】広島県南東部の市。〈長ノ浦〉とよばれた古い港町で，平安末期以来大荘園(だいしょうえん)大田荘(おおたのしょう)の倉敷地となり，江戸時代には瀬戸内海の商港として栄えた。1898年(明治31)市制施行。人口10万4,000。市域は，向島との間の尾道水道に面して東西に延びる狭い平地部から，背後山地の斜面に向かって広がる。京都・奈良に次いで古い寺院が多く，町並みは独特の景観を示す。産業三大別人口比は10：37：53。芸予諸島や四国にまで及ぶ広い商圏をもち，古い歴史をもつ造船のほか，肥料・船具・畳表製造などの工業が発達している。尾道港は海産物をはじめとする諸物資を集散する。山陽本線が山寄りを走り，国道2号線・184号線が市域内を貫通し，尾道港から今治(いまばり)(愛媛県)へ定期航路やフェリーボートが通ずる。市街西端の尾道駅付近が主要繁華街である。日立造船工場のある向島は，行政上は御調(みつぎ)郡向島(むかいしま)町に属するが，1968年(昭和43)尾道大橋(有料道路)の開通以来，尾道とほぼ同一都市としての機能をもっている。また，本四架橋の一つである尾道－今治(いまばり)のルートの拠点であり，1975年12月から，まず大三島(おおみしま)と伯方島(はかたじま)を結ぶ大三島大橋の工事が始まっている。背後の千光寺山はサクラの名所で，頂上の展望台へロープウエーが通ずる。東郊には奈良末期以来の古寺浄土寺があり，鎌倉時代に被災再建されて本堂・多宝塔は国宝に指定されている。志賀直哉(なおや)旧居，中村憲吉終焉(しゅうえん)の家，林芙美子(ふみこ)記念碑など，文学にゆかりある名所も多い。〔浅井得一〕



尾道市 町の背後の千光寺公園から望んだ尾道市街の中心。眼下に山陽本線・国道2号線が走る。右手に水道を隔てて向島が見える

おのらんざん【小野蘭山】(1729～1810) 江戸時代の本草学者。名は職博(もとひろ)，字(あざな)は以文，通称は喜内。京都に生まれる。早くから本草学に志し，植物採集のために諸国を歩いた。また，幕府の医官となり，医学館で本草学を講義した。日本における本草学の大成者である。代表作《本草綱目啓蒙(けいもう)》(1803)のほか著書が多い。

オノン(川) ⇨アムール川

オハ［Okha］ソビエト連邦，サハリン(樺太(からふと))北部，オホーツク海に面する港市。人口28,000(1959)。港は冬も凍結しない。付近の油田からパイプで西岸のモスカルボに送油している。

オハイオ(川) ⇨ミシシッピ川

オハイオ(州)［Ohio］アメリカ合衆国北東部，エリー湖南岸の州。面積10万6,000 km²，人口1,065万2,000(1970)，州都コロンバス。1803年合衆国第17番めの州となる。古くから大陸横断の交通要地で鉄道・空路の要所となっている。州名はインディアン語の〈大きい〉の意で，南隣するウエストバージニア州・ケンタッキー州との境を流れるミシシッピ川の支流オハイオ川を大河と指称したもの。アレゲーニ台地から西のプレーリーに漸移する地域にあたり，農業生産の3分の2以上を畜産物で占める。鉱産物では瀝青炭(れきせいたん)の産出額が最も多く，石灰岩の産出は全州中第1であり，粘土・岩塩も多い。3番めに工業の盛んな州。主要都市は，クリーブランド・シンシナチ・コロンバス・トレド・アクロンなど。〔椙村大彬〕

オーバーオール［over all］よごれやいたみを防ぐためにはく，胸あてのついた作業用のズボン。デニム*などじょうぶな布地でつくり，用具などを入れる大きなポケットをつけ，サスペンダーでつるようになっている。子どもの遊び着にも愛用される。

おはぎ【お萩】もち菓子の一種。萩のもちまたは萩の花ともいった。《物類称呼》によると，〈煮たるアズキを粒のまま散らしかけたるものなれば，萩の花の咲き乱れたるが如(ごと)しと也(なり)。よって名とす〉とある。もち米とうるち米を等量用い，蒸すか，たくかしてすりこ木でざっとついて丸め，こしあんまたはきな粉・黒ゴマなどに砂糖少々混ぜてまぶす。もち米のみでつくるところもあり，またもち米8，うるち米2の割合もある。うすでつかずすりこ木でざっとつぶすだけなので，音もたたず隣にも聞こえないという意から隣知らずともいう。またボタンの花に似ている，ぼたぼた肥えふとっているなどの意でぼたもちともいわれ，古くは春から初夏にかけてはぼたもち，秋には萩のもちと称した。またあんをつけたのをぼたもち，きな粉をまぶしたのを萩のもちという説もあり，なお地方によっては前者はもちにあんをつけたもの，後者はもち米のめしを用いたものと区別するところもある。春秋の彼岸につくって仏前に供え，家族が相伴し，近隣へも配る風習は，江戸時代から行なわれている。〔塩川ふみ〕

おはぐるま【御羽車】神社で御霊代(みたましろ)を移すときに用いる神輿*(みこし)に似た神具。宮中では即位や非常時にあたって賢所の遷宮に用いられる。白木造りで，四面に格子(こうし)の欄干(らんかん)，屋根に金の擬宝珠(ぎぼし)をつけ，蘇芳(すおう)の錦(にしき)で包まれる。古くは車がついていたがのちに略され，約5mの長柄を前後からかつぐ。

おはぐろ【お歯黒】⇨鉄漿(かね)

おはぐろとんぼ【御鉄漿蜻蛉】⇨ハグロトンボ

おばこだけ【伯母子岳】奈良県南西部，紀伊(きい)山地の西部を占める伯母子山地の主峰。標高1,342 m。高野山から南へ続く山地にあたり，北側の野迫川(のせがわ)村と南

側の十津川(とつかわ)村とにまたがる。東方は十津川の谷を隔てて大峰山地と対し，山腹はブナの林でおおわれている。

おばこぶし【おばこ節】民謡の曲名。山形県庄内(しょうない)地方にはじまる民謡で，秋田県にも伝わって別のものができた。〈おばこ〉は若い娘の意。《山形おばこ》ははじめは《出羽節》とも称され，地域的相違による《庄内おばこ》《酒田おばこ》《鶴岡(つるおか)おばこ》のもとをつくり，《田沢おばこ》《神代おばこ》《大沢おばこ》などに細分類される。馬喰(ばくろう)が田沢湖付近に伝えて《秋田おばこ》《仙北(せんぼく)おばこ》などができた。山形と秋田では《おばこ節》の旋律は大きく異なっている。〔山口 修〕

おはさみ【お挟み】女性の帯の結び方の一種。後ろ中央で結んだ帯のたけの余りを50cmぐらいにたたみ，巻きつけた帯に縦にはさんだ形。江戸後期文化・文政(1804～1829)ごろから，幅が広くたけの長い帯を結ぶようになって起こったもので，明治から大正の初めまで広く未婚の女性の盛装や花嫁衣装に用いられた。一名たてやの字*ともいう。➔帯

おばしぎ【姥鷸】鳥類・シギ科。中形でやや脚の短めのシギ。全長26～30cm，くちばしの長さ4～5cm。冬羽は下面白色，上面はじみなかっ色。夏羽では胸部に幅広い黒かっ色の羽毛が帯状に生ずる。川原や干潟(ひがた)によくみられる。➔シギ

おはしょり【御端折】女物長着を着るとき，足首までの長さより余るたけを引き上げ，腰ひも*・かかえ帯*・しごき*で締めて留める部分。近世以後，女物長着の身たけが長くなり，家内では労働をする以外は引きずっていたが，外出にはおはしょりをするようになった。明治以後は家内でもおはしょりをする。

おばすて【姨捨・伯母捨】能の曲名。三番目物で老女物。世阿弥*(ぜあみ)作という。姥捨山伝説*に基づく。都の男が仲秋の名月を見に信濃(しなの)(長野県)の姨捨山*に登ると里の女が現われて，〈わが心慰めかねつ更科(さらしな)や姨捨山に照る月を見て〉という歌の由来を述べ，この歌をよんだ老女は自分だと言って消え去る。やがて澄んだ月の中に清らかな老女が現われて舞う。シテは老女，ワキは都の男。間狂言(あいきょうげん)は所の者で，ワキに対して姨捨山のむごい伝説を語るが，後ジテはそのむごさとはまったく関係のない悟りきった清い姿で現われて，どっしりとした太鼓入り序之舞を舞う。《関寺小町》《檜垣(ひがき)》とともに三老女とされ，重い習い物になっている。〔長尾一雄〕

おばすてやま【姨捨山】長野盆地南部の千曲(ちくま)川左岸にそびえる山。標高1,252m。〈姥捨山〉とも書き，〈冠着(かむりき)山〉ともいう。篠ノ井(しののい)線姨捨駅南方にあたり，山腹の階段状の無数の狭い水田は，観月の名所として〈田毎の月(たごとのつき)〉の名で古くから知られている。また，姨捨山伝説*は全国各地でみられるが，ここを舞台としたものは古く，《大和(やまと)物語》や《今昔物語》の〈信濃国姨母棄山(しなののくにおばすてやま)物語〉などにもみえて，特に名高い。



姨捨山
春浅い姨捨山のふもと。階段状の田ごとに映ずる月のながめは美しく，〈田毎の月〉として古歌によまれた月の名所である



お花畑
鳳凰山を背景にして咲くハクサンイチゲとシナノキンバイ

おばすてやまでんせつ【姨捨山伝説】孝子譚(こうしたん)。年老いて役に立たなくなった親を子が山に捨てようとする昔話。いくつかの型に分類されるが，最も古風なものは，おきてに従って男が老母を捨てに行く途中，子どもが帰途に迷わぬようにとケシの種をこぼして行く母を見て感動し，連れ帰るという筋。長野県の姨捨山は有名であるが，広く各地で伝承される。

おばたかげのり【小幡景憲】(1572～1663) 江戸初期の軍学者。通称勘兵衛(かんべえ)。父祖は武田(たけだ)家の家臣。武田家滅亡後，幼くして徳川氏に仕え，秀忠(ひでただ)の小姓となる。18歳のとき兵法に志を立て，致仕して諸国を遍歴。1600年(慶長5)関ケ原の役では井伊直政(いいなおまさ)に属し，大阪の陣*には前田家(徳川方)に属して功を立て，また京都所司代板倉勝重(かつしげ)らとはかって大野治長(はるなが)の招きに偽って応じ，大阪城内を偵察(ていさつ)して徳川方に通報した。その功により徳川氏に帰参して千五百石を与えられる。甲州流軍学を興し，北条(ほうじょう)氏長・山鹿(やまが)素行は門弟。《甲陽軍鑑*》を加筆増補したといわれる。〔善積美恵子〕

おばたまむし【姥吉丁虫】⇨ウバタマムシ

おはつとくべえ【お初徳兵衛】⇨曽根崎心中(そねざきしんじゅう)

おばな【尾花】⇨ススキ

おばな【雄花】おしべだけをもつ花。単性花*で，不完全花の一種。ホップ・アサ・アオキなどにみられる。また，ホウレンソウ・カキ・キブシなどのようにおしべだけが成熟して，めしべが不完全であるものにもいう。

おばなざわ【尾花沢(市)】山形県北東部の市。江戸時代は羽州街道の宿場町で，江戸時代初期に栄えた延沢銀山を控えて幕領の代官所が置かれた。1959年(昭和34)市制施行。人口26,000。山形盆地の北部，最上(もがみ)川中流流域の氾濫原(はんらんげん)と河岸段丘上に位置し，全国でも有数の豪雪地帯として知られる。産業三大別人口比は60：16：24。養蚕やタバコの栽培が行なわれ，ブナなどの森林資源も多い。国道13号線に沿い，山形交通の電車が奥羽本線大石田駅に通ずる。銀山温泉・御所山などの行楽地がある。

おはなばたけ【お花畑】高山帯や極地帯にみられる高山草原の極地草原のこと。これらの地帯は，寒冷な冬が長く続き，植物の生育できる期間は著しく短い。また，夏の生育可能な期間には風雨が強いなど，生活条件には変化が激しく，これに耐えることのできる独特な形と性質とをもっ

た背の低い高山植物*・極地植物*が生活している。生育期間が短いため，これらの植物種の生育開始期・開花期はいずれも接近しており，融雪の始まった雪の下で生育を開始し，雪が消えるといっせいに開花する。あざやかな色彩の花が多く，そのながめはたいへんに美しい。わが国の高山帯では，タカネタンポポ・ハクサンフウロ・ツガザクラ・チングルマ・イワカガミなどの高山植物が出現する。お花畑は本州中部では標高2,500m以上に，北海道では1,000m以上，ツンドラでは平地，赤道下のアフリカでは3,200m以上(キリマンジャロ山)にみられる。お花畑を見るのは登山の楽しみの一つであるが，近年本州中部の山岳地帯などでは，引き抜かれ，踏み荒されて絶滅に近いものもあり，保護対策の必要が叫ばれている。

〔船越真樹〕

おばぼたる 【姥螢】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ホタル科。体長7～10mm。黒色で光沢は鈍く，黒色毛を装う。前胸背板に2個の淡紅色紋があり，腹部末端の2節も淡紅色。触角は長く扁平(へんぺい)で幅広い。鞘翅にはしわ状の点刻が密に散布している。日本全国のほかサハリン(樺太(からふと))・千島・朝鮮に分布し，5・6月ごろ種々の花上や草間に多くみられる。幼虫は発光するが成虫は発光しない。近似の種に大形のオオオバボタル，小形で前胸背板の紅色紋のないコクロオバボタルなどがある。

おばま 【小浜(市)】 福井県西部の市。古代には若狭(わかさ)の国府が置かれ，室町時代には京都の外港として米の中継ぎで栄え，江戸時代は，若狭街道の宿場町，酒井氏十万三千石の城下町であった。1951年(昭和26)市制施行。人口34,000。市域の大半は山地で，南西部から北東へ流れる南川と，東部から北西へ流れる北川の流域に平地が開け，両川の合流点付近が中心市街地である。産業三大別人口比は18：38：44で，米のほかキャベツの特産があり，大阪市場へ出荷する。小浜港は若狭湾の好漁場を控えてサバ・アジ・イワシ・イカなどの漁獲が多く，サバのきんちゃく網漁は全国一といわれる。小浜湾内では真珠をはじめ，フグ・ハマチ・カキなどの養殖も盛んである。近代工業としては電気機器や漁網・ロープなどの製造工場があるが，遠敷(おにゅう)地区には古い伝統をもつ瑪瑙(めのう)細工が残っている。小浜線*・国道27号線が海岸寄りを東西に通じ，162号線が南西へ走る。国分寺その他の古社寺が多く，市域内に30余点を越える重要文化財があり，〈海のある奈良〉と称される。蘇洞門(そとも)・蒼(あお)島などの景勝地をもつ海岸一帯は，若狭湾国定公園*の中心で，羽賀地区には特別天然記念物に指定されたコウノトリの生息地がある。藩政時代以来の名産若狭塗りが名高い。〔浅井得一〕

おばま 【小浜(町)】 長崎県南高来郡の町。人口15,000。島原半島の西岸にある。



大原御幸・小原御幸 寂光院に閑居する建礼門院とその侍女たち。中央がシテ門院(観世寿夫)。向かって右が大納言局，左が阿波内侍。作り物の中でうたい出すところ



大原女

雲仙(うんぜん)温泉*・小浜温泉*があり，昔から雲仙岳登山の基地となっていた。農耕地は少なく，北部に富津の漁港がある。

おばまおんせん 【小浜温泉】 長崎県の島原半島の西岸の温泉。小浜町に属し，国民温泉に指定されている。背後には雲仙岳(うんぜんだけ)がそびえ，前は橘(たちばな)湾を隔てて長崎半島に相対し，風光に恵まれている。温泉の歴史は慶長年間(1596～1614)にさかのぼるといわれ，泉温95～100℃の塩類泉で，湯量はきわめて豊富である。

おばません 【小浜線】 北陸本線敦賀(つるが)～舞鶴(まいづる)線東舞鶴間の国鉄路線。1917～1922年(大正6～11)開業。若狭(わかさ)湾沿岸を走る鉄道で，中間の沿線に小浜市*がある。

おばらおんせん 【小原温泉】 宮城県白石市小原にある温泉。泉温52～65℃，泉質は単純泉で，特に眼病・神経痛にきくといわれる。阿武隈(あぶくま)川支流の白石川中流に位置し，近代的な建物が谷底に立ち並んでいる。付近には碧玉渓(へきぎょくけい)や柱状節理の材木岩などの名所がある。東北本線白石駅からバスの便がある。

おはらごこう 【大原御幸・小原御幸】 能の曲名。三番目物。作者不明。《平家物語》の同名の章を中心に脚色されたもので，源平の戦いがすべて終わったあと，京都郊外大原(おおはら)の寂光院に人目を避けて暮らしている建礼門院(平清盛の娘，安徳天皇の母)のところを後白河(ごしらかわ)法皇が訪問して過去の物語をするありさまを絵巻の一場面のようにして見せる。シテは建礼門院，シテヅレは後白河法皇，ワキは法皇の供奉(ぐぶ)万里小路(までのこうじ)中納言。ほかにシテの侍女としてシテヅレ大納言局(つぼね)と阿波内侍(あわのないし)がおり，曲のはじめにワキヅレ官人と間狂言(あいきょうげん)の従者が出る。寂光院の裏山にシテが大納言局と登っていったあと，法皇の一行が訪れ，やがてふたりは対面して，六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅(しゅら)・人間・天上)を戦乱の中で生きながら体験したといわれるほどの労苦や，安徳天皇の最後などが門院の口からこまごまと語られる。ほとんど動きのない，絵画的な能である。〔長尾一雄〕

おはらぶし 【おはら節】 鹿児島の民謡の曲名。《鹿児島おはら節》ともいうが土地の人は単に《おはら節》とよび，土地で生まれた歌としている。しかし起源は日向(ひゅうが)(宮崎県)の《ヤッサ節》とも考えられ，それが鹿児島県原良(はらら)(いまは鹿児島市内)に伝わって《原良節》，さらに県全域に広まって《小原良節》となったという説がある。なお，ほかに青森県津軽地方に伝わる《津軽おはら節》，富山県婦負(ねい)郡八尾(やつお)町に伝わる《越中おはら節》があり，いずれも〈オハラ〉というはやしことばがはいる。

おはらめ 【大原女】 京都市郊外大原*(おおはら)の薪(たきぎ)売りの婦女。古くから京都風物の一つに数えられ，室町末期の《七十一番歌合》にその姿が描かれている。前垂(まえだれ)，黒の手甲，白の脚絆(きゃはん)の姿で，頭上に重しをおき潤花の枝を折り添えるなどして〈大原木かはいのう〉などと呼び歩いた。現在では京都北部一帯の山村ではいずれも薪・はしご・かきもち*などを頭にのせて売り歩く女が多くおり，大原出身の者に限らず，総称して大原女とよんでいる。

おはらめ 【大原女】 長唄(ながうた)の曲名。作曲が9世杵屋六左衛門(きねやろくざえもん)，作詞が2世瀬川如皐(じょこう)。1810年(文化7)に江戸で上演された変化舞踊《奉掛色浮世図画(かけたてまつるいろのうきよえ)》の一部。

おはらりゅう 【小原流】 いけ花流派の一。1912年(明治45)，初代家元，小原雲心(1861～1916)の創始。洋花に注目し，自然を生かした盛花形式を創案し，自由花の道を開拓する。2代家元，小原光雲(1880～1938)は教授法の合理化を試み，あるいは組織の拡大に努め，全国的発展の基礎を築いた。現在の3代家元，小原豊雲は創流の精神を生かしつつ，前衛いけ花*にも積極的に活動し現在に至る。

オパーリン ［Aleksandr Ivanovich Oparin］ (1894～1980) ソ連の生化学者。モスクワ近郊のヤロスラフスカヤに生まれる。モスクワ大学で植物生理学を専攻し，卒業後ドイツに留学。その後モスクワ大学

に就職，現在も同大学教授，バッハ生化学研究所所長。《生命の起源》(1936)において，無機化合物から簡単な有機化合物を経てタンパク質が形成され，生命の始源形態としてのタンパク質コアセルベートが出現すると主張し，生命の起源に関する現代的接近にいとぐちをつけた。〔中村禎里〕

オパール [opal] 非晶質のケイ酸からなる鉱物。タンパク石ともいう。種類が多く，美しいものは宝石。鉱液のケイ酸物質が岩石の空隙(くうげき)に粒状・脈状となって晶出したもの。あらゆる種類の岩石に生ずるが，特に温泉地帯の火山岩中に多い。埋もれ木などの化石，セッコウ・ホウカイ石・チョウ石などを置換してできることもある。鉱物学的にクリストバル石に近く，生成期の古いものはクリストバル石となり，さらにセキエイとなる。熱に弱い。比重1.9～2.3，硬度5.5～6.5。割ると貝殻(かいがら)状の不規則な断口を示す。ふつう空気のはいった微細な穴のために乳白色を示すが，不純物によって黄色から赤色(鉄の酸化物)，また黒色(マンガンの酸化物と有機炭素)を示す。透過光で見ると赤色をおびるが，これはオパール光とよばれ，直径1,000オングストロームの球が最密充塡(じゅうてん)に近い状態で規則正しく並んでおり，ちょうどX線回折*と同じように光が回折されるからである。球の大きさや並びぐあい，また微細なひびによって美しい反射光を示すものが，ノーブルオパールといって宝石に用いられ，中でも濃青色のブラックオパールや赤色のファイアオパールが珍重される。ノーブルオパールの主産地としてオーストラリア(ブラック)・メキシコ(ファイア)・インド・アメリカなどがある。わが国では福島県耶麻(やま)郡西会津町などに産する。10月の誕生石。普通のオパールは研摩剤・電気絶縁材料・充塡剤・窯業原料用。〔加藤敏郎〕

オーバーローン [over loan] 一般には市中銀行の貸し出しが恒常的に預金を上回り，しかもその超過部分を主として中央銀行からの借り入れに依存している現象をいう。この状態が続くと日銀券の増発を招き，インフレーションをひき起こす危険性がある。さらに表裏の関係にあるものとして，企業のオーバーボローイング(企業の外部資金依存度が高く，それが主として銀行からの借り入れに依存している現象)が指摘されることがある。第2次世界大戦後のわが国のオーバーローンは，①民間設備投資を中心とした高度成長が続き，企業が内部資金を越える投資を行なったこと，②企業の資金需要がおもに市中銀行に集中したこと，③財政もおおむね均衡財政が貫かれたこと，④成長通貨の供給がおもに日銀貸し出しによって行なわれたことなどの要因によって起きた。しかし，最近では，企業の自己金融力の強化，国債の発行などを背景に，オーバーローンも漸次改善されつつある。〔池内得二〕



オパール 福島県宝坂産

おはんちょうえもん 【お半長右衛門】
⇨桂川連理柵(かつらがわれんりのしがらみ)

おび 【帯】 和装で衣服の上から胴に締めるひも状の服飾品。原始時代にはわが国でも，現在未開人の間に行なわれているように裸体の胴に帯状のものを装飾として巻き，これに道具，呪術(じゅじゅつ)的なもの，装飾品などをつるしたりはさんだりしたことがあった。埴輪(はにわ)の男子像は，帯を巻いて前やわきに結び下げ，鞆(とも)(弓を射るときに左ひじにつける防具)・火打ち袋・太刀(たち)などを下げたり，かまをさしたりしているものがある。これらの帯は幅約4cmの赤く染めた布らしい。埴輪の女子像にもこの帯がみられるが，5個の鈴をつけた円形の鏡を下げたものは巫女(ふじょ)と思われる。

〔男帯の歴史〕飛鳥(あすか)・奈良時代には隋(ずい)・唐の衣服が朝廷を中心に取り入れられ，糸を組んだ条帯(組み帯)が袍(うえのきぬ)の上に締められ，また倭文機(しずはた)・狭織(さおり)(ともにカジ・アサなどを乱れ模様に織り出した布)の帯もあった。なお，銙帯(かたい)とよばれる皮帯も用いられたが，これには半円形・正方形などの金具が並べて付けられ，金具の下端の穴には玉や金属の装身具，日常必要な小刀などの道具をつり下げた。平安時代には束帯*が官吏の正装となって明治維新まで続いたが，これには皮帯に石を飾った石帯が袍の上に締められ，また宮中で帯刀を許された高官は石帯の上に平緒(幅約10cmの平らな組み帯)を締めた。また，半臂*(はんぴ)(袍の下に着るそでなし)には忘緒が用いられたが，これははじめ付けひもであったものがのちに幅約10cm，たけ4mもある長い帯となり，3段に結び下げた。高級公家(くげ)の日常着である直衣*(のうし)の帯は共布であり，下級官吏の着用した狩衣*(かりぎぬ)の帯は腰帯(宛帯(あておび))とよび，これも共布である。以上の衣服はすべてはかまの上に着るので帯は外に見えるものであったが，中世・近世の武士の礼装である直垂*(ひたたれ)・素襖*(すおう)・大紋*・肩衣*(かたぎぬ)では上衣をはかまの下に着込めたので，帯は見えず，したがって発達しなかった。しかし近世にはいると，庶民は長着*に帯を締め，武士も家居にははかまをつけないようになったので，帯は必要性とともに装飾性をももつようになり，発達しはじめた。室町時代には広幅織物の幅を八つ割り・六つ割りとして4～5cmの細いくけひもであったものが，江戸初期からはしだいに幅が広くなり，かるた結び(かるたを並べたような形に後ろで結ぶ)にするようになった。江戸中期には，繻子*(しゅす)・無地紋繻子・博多織*(はかたおり)などで布幅2尺5寸(81cm)，たけ1丈(364cm)または1丈2尺に織り，幅を三つ割り(仕立て上がり12cm内外)として締めた。なお，ほかに小倉織・桟留(さんとめ)・兎羅綿(とろめん)(ウサギの毛を綿布に混紡した毛織物の一種)・真田織*(さなだおり)・魚子(ななこ)・龍門*(りゅうもん)・琥珀織(こはくおり)・丹後じまなども用いられた。江戸後期になると京都・大阪では博多織が多くなり，たけは1丈，幅は1寸8分(6.8cm)とされた。そうして，武士は多く紺色のものを用いたが，浅黄色や白地も使われ，天明(1781～1788)のころには腹切り帯とよばれた緋博多(ひはかた)が流行した。一般には綿博多が流行し，下流階級には羅紗(らしゃ)や黄じまの八端*が用いられた。結び方には貝の口*・縦結び・駒下駄(こまげた)結びなどがある。これらの角帯*のほかに手綱染め・むきみ絞りなどのもめんの三尺帯(約90cm，胴に一重回して前かわきで結ぶ)・六尺帯(二重回して後ろで両輪に結ぶ)があり，多く職人に用いられた。なお明治以後，白もめんをそのままごいて締めるへこ帯*が鹿児島の男子から始まって広く流行したが，これは明治後期から縮緬(ちりめん)・羽二重・モスリン・もめんを黒・紺・藍(あい)・茶色の絞り染めとし，着流しに締める日常用として今日に続いている。角帯は大正時代以後すたれたが，織り方・材料がくふうされて現在復活する傾向にあり，江戸時代に流行して礼装用と定められていた献上博多がいまなお広く好まれている。

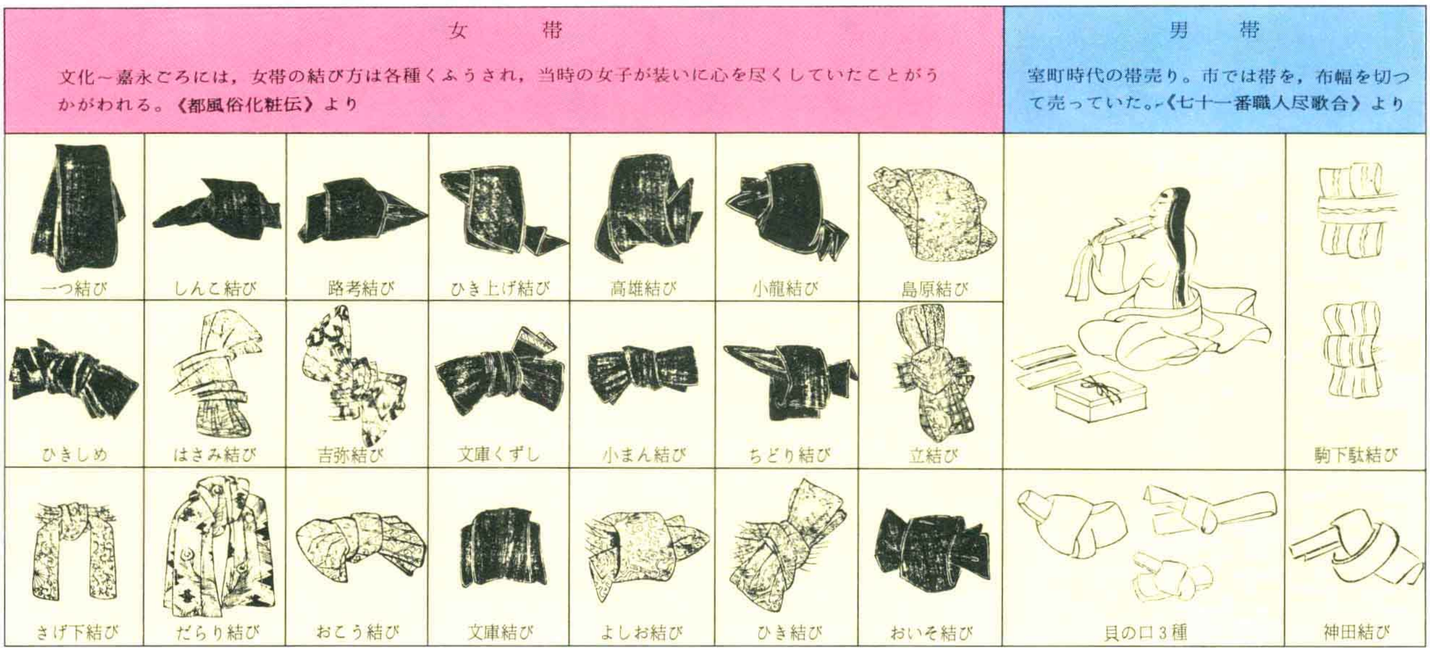
〔女帯の歴史〕奈良時代は唐風の衣服で，裳(も)の上に紕帯(そえおび)(細く長く，先のとがった帯)を結び下げることが礼装に規定されていたが，平安時代以後国風化した公家社会では長着にはかまをはいて袿*(うちき)をうちかけるようになったために帯は外に見えなくなった。しかし中世の末から近世には，庶民や武家の女子には男子と同じく長着と帯が発達し，室町時代には幅4～5cmの平ぐけ帯(帯しんを入れずに平たくくけた幅の狭い帯)を前中央かわきで両輪に結び下げていた。上流武家の女子の夏の盛装には幅3寸(10cm内外)，たけ1丈の錦(にしき)の帯を後ろで水平に両輪に結び，これに腰巻き*をかけるのが江戸の末まで続いている。また安土桃山時代から江戸中期にかけて，名護屋帯*(丸打ちの組み帯でたけの端にふさをつけたもの)を胴に2重3重に巻いて後ろに結び下げるのが流行した。江戸初期には帯地幅2尺5寸を四つ割りとして用いたので仕上がり幅は3寸内外となり，慶長(1596～1614)のころには2寸5分(8cm)がよいとされた。



(左)おはさみ　(右)上流武家女子の盛装では，錦の帯を後ろで水平に両輪に結び，これに腰巻きをかけた。周延《千代田之大奥》より



(左)前帯と後ろ帯　既婚者は前で結び，未婚者は後ろで結んだ。鈴木春信画《野分》東京国立博物館蔵　(右)庶民の細帯　中央の女性



帯

寛永(1624～1643)のころにはそれまで6尺5寸(200cm)であったたけが1丈2尺となり，仕上がり幅も6寸(23cm内外)から8～9寸(30cm内外)にもなった。そうしてはじめ茶繻子・花色繻子が老若を問わず広く用いられたが，しだいに贅(ぜい)を凝らすようになり，上流では金襴(きんらん)・緞子(どんす)・繻珍(しゅちん)，下流ではもめんに金入りが用いられるようになった。また締め方は前・後ろ・わきと一定していなかったが，未婚者は後ろで，既婚者は前で結ぶ(前帯*)ようになった。江戸中期には鯨帯(昼夜帯，黒無地と明るい色を表裏に使った腹合わせ帯*)にしんを入れず，しどけなく締めるふうが起こっている。文化～嘉永(かえい)(1804～1853)ごろには女帯の結び方は吉弥(きちや)結び*・路考結び・ひき上げ結び・さげ下結び・はさみ結び・文庫結び・島原結び・立ち結び・一つ結び(ひっかけ)・だらり結び・千鳥結び・小龍結び・文庫くずし・高雄結び・しんこ結び・ひきしめなど各種がくふうされており，当時の女子が装いに心を尽くしていたことがうかがわれる。江戸後期には長さ1丈2尺，幅9寸と固定されたが，御殿女中の帯はたけが1丈，幅が7寸，打ち掛け*の下に締める帯は幅5～6寸であった。明治になると前帯はまったくすたれ，未婚・既婚ともに後ろで結ぶ形となり，お太鼓結び*が老若を問わず行なわれて今日に続いている。なお当時の女帯は，仕立て方によって丸帯*・腹合わせ帯・半幅帯*・おそめ帯(幅の両端に無地の繻子などをはぎ，中央に絣絞りの布をおいた帯)などがある。大正時代には名古屋で考案されたといわれる胴は15cm，お太鼓の部分を30cmの幅に仕立てる名古屋帯*が始まり，現今まで最も広く好まれている。このほか単帯*(ひとえおび)・袋帯*があり，現在では丸帯はすたれぎみで正装にも袋帯を用いることが多い。大正以後は帯の結び方も種々くふうされ，若向きには変わり太鼓・ふくら雀(すずめ)・立てやの字*などが好まれている。なお，第2次世界大戦後一時和装がすたれ，自分で帯を締めることが困難となったため，結びつけ帯が行なわれるようになった。帯地も軽くじょうぶで安価な合成繊維のものが普及し，帯しん*も従来の重い三河木綿(みかわもめん)に代わって軽くて弾力のある不織布*が使われる傾向になっている。なお江戸中期抱(かか)え帯*といって布幅をそのまましごいて結びたれた帯は，少女のへこ帯，花嫁衣装の腰に締めるしごき*として残っている。→和装　〔堀越すみ〕

オビ(川)［Ob'］ソビエト連邦，シベリア西部を流れ，北極海のオビ湾に注ぐ世

界第4の長流。本流は全長3,680kmで，支流イルチシ川を合わせると5,200kmにも及ぶ。流域面積294万km²。アルタイ山脈北部に発し，草原と大森林地帯を北流する。上流部はクズネツク炭田を中心とする大工業地域でこの川の輸送力は大きな意義をもつが，イルチシ川との合流点から下流では河道が分かれて湿地帯を形成し，凍結期間が長く航行の便はない。〔野間三郎〕

おびあげ【帯揚げ】女帯をお太鼓結び*にするのに用いる半円形のしん(帯枕(おびまくら)・しょいあげ)を包む布。包んだ部分を背にして帯をおさえ，両端を前で男結びにする。明治の末から流行し現在に続く。若い女性用は緋色(ひいろ)・ピンク，中年用には水色・藤色などの絞り，羽二重・ちりめん・紋綸子(もんりんず)などが用いられる。幅35cm，たけ150cm内外。ただし，若い女性の間では明治の末からすでに形式化し，帯枕は小ひもをつけてこれで結び止め，帯揚げは前で結ばず左右を重ね合わせて両端を帯にはさみ，大きく見せるようになった。近年はふくら雀*(すずめ)に結ぶ場合に，この方法を使う。

オビエド［Oviedo］スペイン北西部，ビスケー湾に臨む海岸平野にある都市。人口13万3,000(1965)。近くに石炭・鉄鉱の産地があり，鉄鋼などを生産する重工業都市となっている。ヒホンが輸出港。9～10世紀には，イスラム教徒の侵入に対して猛烈に反抗したことで知られるアストゥリアス王国の首都として栄えた。

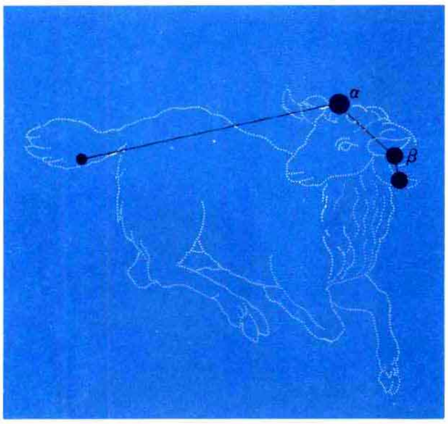
おびかれは【帯枯葉蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・カレハガ科。翅(はね)を広げた長さは，雄35mm，雌45mm内外。雌雄で色彩が異なり，雄は黄かっ色で前翅中央に2条の赤かっ色の横線がある。雌は淡かっ色で前翅の中央部に幅広い赤かっ色の帯があり，後翅の内半も赤かっ色を呈する。成虫は5・6月ごろ出現し，ウメ・モモ・サクラなどの樹枝に指輪をはめたような形に産卵する。幼虫はウメケムシとよばれ，はじめ共同の絹網を紡いでその中で集団生活をし，おもに夜間活動して摂食する。そのため，テンマクケムシ(天幕毛虫)ともよばれるが，第5齢になると網から出て単独活動をする。

おびくらげ【帯水母】有櫛(ゆうしつ)動物・オビクラゲ科。クラゲの名はあるが，腔腸(こうちょう)動物のクラゲとはまったく異なる。全体，ゼラチン質のリボン状で，長さ1m内外。世界じゅうの暖海に広く分布し，透明だが虹色(にじいろ)をおび，海中を漂う。その夢幻的な美しさには，英語でいう〈ビーナスの帯〉の名こそふさわしい。

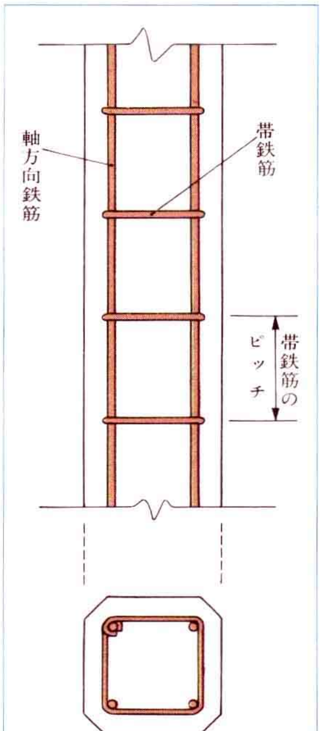
おびこう【帯鋼】幅に対して長さが著しく長い帯状の熱間圧延薄鋼板。大部分が炭素鋼*である。厚さは0.9～6.0mm，幅は19～1,270mm程度であり，長さは400mに及ぶものもある。溶接鋼管の材料，軽量形鋼・切板として自動車部品・電気機器・家庭用品・農機具などに用いられる。なお，帯鋼の幅は広範囲にわたるため，便宜上ヨーロッパでは500mm，アメリカでは25インチ(約635mm)を限界として広幅帯鋼と狭幅帯鋼に分けている。〔長谷川正義〕



オビカレハ
雄



おひつじ座



帯鉄筋柱

おびじめ【帯締め】女帯の結び目の解けるのを防ぐために締めるひも。絹糸の組みひもが多く，丸打ち・平打ちの別があり，皮のろうけつ染めやつづれ織り・佐賀錦(にしき)なども用いられる。正装には白・赤，または黒(喪服用)の羽二重でつくった丸ぐけ(中に綿を入れてふっくりとさせる)のひもを使う。江戸後期から起こったものでもと帯留めともいったが，いまは帯留め*は帯締めの端を縦にはさんで留める金具つきのひもをさすようになり，帯締めとは区別されている。〔堀越すみ〕

おびじょうとし【帯状都市】⇒線状都市

おびしん【帯芯】帯を厚くかたくするために入れるしん地。丸帯・腹合わせ帯・九寸名古屋帯などに入れる。江戸時代には紙を入れることもあったが，のちに三河木綿*(みかわもめん)となった。三河木綿は使用中に縮むことを防ぐため，あらかじめ地詰めをし，真綿を薄くかぶせて帯皮との接触をよくして使う。近ごろは，ナイロン・テトロンなどの不織布が，軽くしわになりにくく，真綿をかぶせることも地詰めをすることも必要がないので好まれる。〔堀越すみ〕

おびスペクトル【帯スペクトル】最も一般的な分子スペクトル*は，電子状態・振動状態・回転状態の変化が同時に起こる。ところが，回転状態はそのエネルギー準位*の差がほかの二つに比べてずっと小さいので，それらの間の遷移で生ずるスペクトルは振動数の接近した多数の線よりなる。分解能があまり大きくない分光器で観測すると，あたかも帯状の連続スペクトルであるかのように見える。これを帯スペクトルといい，可視光線から紫外線部にかけて現われる。〔吉原邦夫〕

おひつ【お櫃】たいた飯を入れておく器で，かぶせぶたがついている。平形・深形・小判形があり，ふつうサクラ材を用いる。陶器・漆器・合成樹脂製のものもあるが，これらは湯げを吸収しないで内部にたまるのが欠点である。

おひつじざ【牡羊座】黄道第1星座。秋の東南の空にかかる。明るい星は少ない。2,000年の昔，春分点はこの星座の中にあったが，地軸の首振り運動(歳差運動)のため，現在では西隣のうお座に移っている。➔星座

オーピッツ［Martin Opitz］(1597～1639) ドイツの詩人・評論家。三十年戦争の混乱期に《ドイツ詩学の書》を著わし，厳密な法則による詩作を主張・実践して，〈ドイツ詩学の父〉とよばれた。また外来語の流行で乱された国語の浄化運動に献身。イタリアのリヌッチーニの台本を翻訳した《ダフネ》はシュッツによって作曲され，ドイツ最初の歌劇として1627年に初演されたが，現在は楽譜が失われている。

おびてっきんちゅう【帯鉄筋柱】鉄筋コンクリート柱の一種で，軸方向鉄筋の周囲を帯鉄筋で囲んで補強したもの。軸方向鉄筋は部材軸の方向の鉄筋，帯鉄筋は軸方向鉄筋を所定の間隔ごとに取り囲んで配置した横方向の鉄筋である。



帯広市　ほぼ東西南北に区画された碁盤の目状の帯広市街。黒ずんで細長く見える帯広駅の向こう(北側)が中心街で，遠景は十勝川

おびと　【首】　姓(かばね)の一。本来は首長を示す普通名詞であったらしいが，姓の制度が整備されるとその一つとなった。大和(やまと)朝廷の国造(くにのみやつこ)の下位に置かれた地方官である県主(あがたぬし)・稲置(いなぎ)，あるいは各地に分置された各種の部(べ)の下級管理者(伴造(とものみやつこ))などの姓に多い。684年(天武13)八色(やくさ)の姓の制定によって廃止されたが，その後一時復したことがある。

おびとき　【帯解】　⇨七五三

おびどめ　【帯留め】　女帯を締めたとき，結び目がとけないように押えて締めるひもの一種。幅0.8cmの平打ちの組紐(くみひも)で，たけの両端に掛け合わせる金具(かなぐ)が付く。金具には金・銀・プラチナ・翡翠(ひすい)・さんご・ダイヤ・ルビー・真珠・琥珀(こはく)などの宝石やそのイミテーション(擬造品)・七宝焼・陶器などの装飾が使われる。江戸末期から起こり，明治・大正から1935年(昭和10)ごろまで盛んに使われた。

おびのこばん　【帯鋸盤】　帯状の細長いのこ刃の両端を溶接して環状にしたのこを，2個の車に掛けて高速度で回転させ，金属や木材などを切断するようにしたのこ盤。2個の車を上下に配置した立形のものが多い。幅の狭い帯のこを用いれば，曲線状に切断することもできる。

おびひろ　【帯広(市)】　北海道南東部，十勝(とかち)支庁のある市。1883年(明治16)，静岡県人依田勉三(よだべんぞう)の率いる晩成社が入植して以来開拓され，十勝地方の中心都市となった。1933年(昭和8)市制施行。人口15万2,000。市名はアイヌ語の〈オペレペレケプ〉(川じりが分かれている川)から転化した。十勝平野のほぼ中央部，音更(おとふけ)川・札内(さつない)川・帯広川の合流点に近い十勝川流域の氾濫原(はんらんげん)上に位置し，直交する道路と帯広駅を中心とする斜向路があり，中央を貫く大通り以西，西二条までが繁華街で，その周辺地区には，製糖工場や農産加工の工場が多い。産業三大別人口比は7：22：71。近郊はアズキ・ダイズ・インゲンマメ・ジャガイモ・テンサイなどを産する畑作地帯で，乳牛の飼養も盛んである。南部には帯広畜産大学や自衛隊基地がある。根室本線とその支線広尾線・士幌(しほろ)線の分岐点で，国道38号線(十勝国道)・236号線(広尾国道)・241号線(足寄(あしょろ)国道)が集まる。1964年には帯広空港が開設されて，札幌・東京へ航空便が開けた。付近には狩勝峠・十勝川温泉・黄金道路・鈴蘭(すずらん)公園などの観光地があり，阿寒(あかん)国立公園の西の玄関口となる。　〔浅井得一〕



オヒョウ

おびまつり　【帯祭】　静岡県島田市大井神社の祭礼。3年に1回，10月13日から3日間行なわれる。供奉(ぐぶ)行列の大奴(おおやっこ)の大太刀(おおだち)に，加護と安産を祈った氏子の娘や新嫁(にいよめ)の帯をぶら下げて行列する。

おびや　【帯屋】　⇨桂川連理柵(かつらがわれんりのしがらみ)

おひょう　【大鮃】　硬骨魚類・カレイ科の海産魚。最大2.6mにも達する巨大なカレイである。北太平洋に広く分布し，南限は北海道。形は普通のカレイと同じで，色は目のある側は鉛色，ないほうは白色。食用とされるが鮮度が落ちるとまずい。魚屋などでヒラメの切り身と称して売られていることもある。北海道近海では数が減り，カナダ・アメリカの沿岸にまで出漁するが，日本・カナダ・アメリカの3国間で，資源保護のためきびしい規制措置がとられている。近縁のものに，北大西洋産のハリバットがある。　〔菅野　徹〕

おひょう　双子葉植物・ニレ科。落葉高木で，高さ20mに達する。北海道・本州などの山地にはえる。葉は倒卵形～長卵形で葉柄は短く，縁に不規則な重鋸歯(じゅうきょし)がある。葉の先は通常三つに分かれ，表面に毛があってざらつく。4月，葉の出るまえに，淡黄緑色の花を前年の枝に咲かせる。果実は淡かっ色でうちわ形の羽がある。アイヌ人はこの樹皮で厚司をつくった。

オーピントン　[orpington]　ニワトリの一品種。イギリス原産の卵肉兼用種で，体形は丸みをおび，内種としては黒色のものが最も有名である。体重は雄4.4kg，雌3.5kg。オーストラリアで産卵能力の高い比較的小形のものに改良したオーストラロープは，体重は雄3.75kg，雌3.0kg，年間180個を産卵。今日では一般にオーストラロープの普及のほうが広い。

オブザーバー　[Observer]　1791年創刊されたイギリスの日曜新聞。政治・外交記事に定評がある。1945年以来，言論の独立を保証するため，同社の所有権はオブザーバー・トラストに委託されている。創刊当時は通俗的な大衆紙であったが，J.L.ガービンが主筆についた20世紀初期から，言論界での権威が高まった。発行部数約66万2,000(1977)。

オブジェ　[objet]　物・物体をいい，造形用語としてはダダやシュルレアリスムが試みたように，〈物〉そのものを作品として表示することをさす。日常の事物の中から，作家が自由に選び出した〈物〉をほとんど加工しないで，それをまったく別の状況に置くと，〈物〉はその実用性や固有の機能を失い，見る人に驚異・幻想・怪奇などの衝撃を与える。つまり，空間を構成する新たな作品に生まれ変わる。1917年デュシャンが彫刻と称して，既成品の便器に《噴水》という題名をつけ，ニューヨークの第1回独立美術家協会展に出品した作品は，最もよく知られている〈レディー-メードのオブジェ〉である。なお，オブジェはわが国の生け花にも大きな影響を及ぼしている。　〔子安三喜男〕

オプス　[opus]　音楽用語。ラテン語で〈作品〉〈仕事〉を意味する語で，ヨーロッパでは1500年ごろから音楽作品をさす場合にも用いられた。1600年以降，楽譜を出版する際にこの番号(作品番号，op. と略されたり，対応するフランス語 œuvre，イタリア語operaが用いられることもある)をしるすことが一般化したが，番号と成立順序が一致しないことも多い。ベートーベンのように作品番号をつけたものが少ない場合は，別に作品番号のない作品の番号W. o. O.が用いられ，バッハの場合には曲種別に整理された番号，モーツァルトの場合はケッヘル(K)番号などが与えられている。なお，

op. post.(opus postumus)は遺作の意味である。〔徳丸吉彦〕

おぶすまさぶろうえことば【男衾三郎絵詞】絵巻物。1巻。鎌倉後期の作品。武蔵(むさし)(東京都・埼玉県)に住む美人の妻をもち栄耀(えいよう)に明け暮れる吉見(よしみ)二郎と，関八州一の醜女を妻として武芸に励む男衾三郎との兄弟一家を中心にした物語。詞は二条為氏(ためうじ)筆，絵は土佐隆相(たかすけ)などと伝えられるがともに明らかでない。絵巻物として名作であるが，地方武士の生活を題材としているので，風俗資料としての価値が高い。〔鹿野賀代子〕



男衾三郎絵詞（部分）山賊に襲われて勇戦する地方武士たち 浅野長武蔵

オフセットいんさつ【オフセット印刷】版面から直接紙面に印刷する直(じか)刷り印刷に対し，版面上のインキを一度ゴム布に転写し，それを被印刷面に移して行なう間接印刷。1905年，アメリカのルーベルが偶然のことから発見したもので，ゴム布の弾力性を巧みに利用した印刷方法である。今日では金属平版の別名であるように，金属を版材とする平版は大部分オフセット印刷で行なわれている。オフセット印刷の特長は，ブリキやアルミニウムなどの金属板，木材面など緻密(ちみつ)なかたい面にも印刷ができ，精密な画像やつぶし模様の版から粗面紙に鮮明な印刷ができ，同時に両面印刷が行なわれ，直刷り印刷よりも耐刷力が大きいことなどである。凸版(とっぱん)や凹版(おうはん)印刷にも応用され，ドライオフセット印刷やチューブ印刷は凸版のオフセット印刷である。〔長野昌隆〕

おふだ【御札】神名または神社名をしるした紙や木でつくった神霊の依代(よりしろ)。これを家庭の神だななどに祭り，拝礼の対象とする。また，家内安全・商売繁盛・病気平癒(へいゆ)などの祈禱(きとう)の護符として授与するものもある。御札は毎年新しくするのがならわしである。➜お守り

おぶつしょり【汚物処理】人間が生活する場所において避けようのない汚物(ごみ・屎尿(しにょう))は，日本においては古来肥料として農村へ還元されていた。現代に至って，人口の増大に伴う汚物の増大と農業の発達に伴う化学肥料の出現により，余剰の屎尿・ごみが大多数となった。汚物を衛生的に処理し，衛生環境を整えることは，近代生活にとって欠くべからざるものであり，そのため，塵芥(じんかい)処理施設の必要性，下水道の必要性が生じてきた。1954年(昭和29)に制定された清掃法では公衆衛生の向上を図る目的で特別清掃地域を設定し，汚物処理を市町村に課し，その方法をも定めている。〔金子義徳〕

オプティミズム ⇨楽天主義

おふねまつり【御船祭】船祭りともいう。船に神霊を乗せ，海・川・湖などの水上で行なわれる祭り。大漁や海難よけなどを祈願する。茨城県鹿島(かしま)神宮(9月2日)，宮城県塩竈(しおがま)神社(7月10日)，長野県諏訪(すわ)下社(8月1日)(➜諏訪大社)が有名。また，島根県美保神社の諸手船(もろたぶね)神事(12月3日)は2隻の船の競漕(きょうそう)で吉凶を占う行事である。

オブラート［oblate］デンプンでつくられた紙のような薄片。丸型・角型・袋型などがある。デンプンと水を混ぜ，適当な型に入れ乾燥して製する。粉末状の医薬品(散剤)のうち，味の悪いもの，いやなにおいのあるもの，口の中に付着して飲みにくいものはこれに包んで水といっしょに飲めば不快感がない。オブラートは胃ですみやかにとけるので，速効性の医薬品に使用することが適当である。医用としてのほか，菓子の包装にも用いられる。〔江本龍雄〕

オブリガート［obbligato］音楽作品で演奏する際に欠かすことのできない主要な楽器のこと。合奏曲の独奏楽器もこの名でよばれ，(ad libitum(アド-リビトゥム)と付された楽器の反対である。オペラのアリアを伴奏するフルートやバイオリンのオブリガートはしばしば〈助奏〉と訳されるが，これは好ましい訳語ではない。また，弦楽四重奏のビオラやチェロ，あるいはリートのピアノが旋律的に重要な働きをする場合，オブリガート的伴奏ということがある。〔徳丸吉彦〕

おふれがき【御触書】江戸時代，幕府・諸藩の命令を広く伝達するために用いた文書をいう。この御触に対し，特定の関係官庁・関係者のみに命令を下す場合を御達(おたっし)といった。8代将軍徳川吉宗(よしむね)以降，これらの御触書を収集編纂(へんさん)することが行なわれた。寛保(かんぽう)・宝暦・天明・天保の各御触書集成がそれである。

オブレヒト［Jacob Obrecht］(1452ごろ～1505) オランダの作曲家。少年聖歌隊の歌手として音楽の道にはいり，1484年カンブレ司教座聖堂楽長に就任。以後フェララの宮廷合唱長やアンベルスのノートルダム大聖堂の楽長をつとめながら，20数曲のミサ曲をはじめ多数の世俗音楽や器楽曲を残した。しばしばイタリアを訪れ，伝統的な形式感や対位法の技法と，新鮮で明るいイタリア音楽の特質とを結びつけた。ネーデルラント楽派のひとり。〔船山 隆〕

オブローモフ ゴンチャローフの長編小説(1859)。善良だが空想家で実行力のまったくない無類のなまけ者オブローモフが，恋人オリガと親友の活動的な事業家シュトルツの努力もむなしく，無為と怠惰の中に身を滅ぼすさまが克明に描かれている。この小説の社会的意義を解説したものに，ドブロリューボフの《オブローモフ気質とは何か》があり，以来無為怠惰の徒の代名詞となった。

オーブン［oven］調理器具の一種。天火ともいう。中に入れた食品を周囲からの熱と，食品から発生した水蒸気で蒸し焼きにするもので，裏返さずに上下に焼き色をつけることができ，また直火(じかび)焼きのように乾燥が激しくないのが特長である。オーブンの種類には，オーブンの内部に熱源を含まずこんろに載せて使うものと，電気・ガスなどの熱源を内蔵したものとがあり，後者のほうが価格は高くなるが，こんろを独占しないで独立して使えるという利点がある。また単独につくられたものと，レンジの中に組み込まれたものとがある。〔山本喜男〕

オープンアカウント［open account］清算勘定。貿易協定を結んだ2国間が支払い協定を結び，取引の決済をそのつどせずに，貸借関係を帳簿にしるして決められた期間ごとにその貸借じりだけを現金決済する方法。この決済方法は金またはドル不足のもとで行なわれ，外貨節約という利点があるが，両国間の貿易量の均衡を保つために貿易量が縮小したりする。わが国では第2次世界大戦後，アメリカ以外の国との貿易に用いられていたが，1960年(昭和35)の貿易・為替(かわせ)自由化に伴い廃止されるようになった。〔上坂酉三〕

オープンカー［open car］屋根のない形の乗用車。コンバーチブルクーペやロードスターの幌(ほろ)を折りたたんだ状態に相当し，初期の自動車はほとんどオープンカーであった。閲兵式やパレードに使われる。

オープンケーソンこうほう【オープンケーソン工法】ケーソン工法の一種。わく状または筒状のケーソンと称する箱を地上につくり，その中の土砂を手掘りまたは水の出る場合には機械掘りし，ケーソンの自重またはこれに重量物を載せて沈下させる。

さらに沈下させたぶんだけケーソンを継ぎ足しては，所定の支持層まで沈下させる。工事用設備が比較的簡単なので，橋の基礎その他の工事に広く用いられている。

オープンコース ［open course］ トラック競技で，走者別の区分を設定しないコース。1,500m 以上の競技はすべてオープンコースで，800m 競走では第2コーナーの出口から，リレーレースでは400m トラックの1周を終わってからオープンコースとなる。➔セパレートコース

オープンシャツ ［open shirt］ 開きんシャツ，スポーツシャツの一種。えりもとは開きんのままのものと，第1ボタンをループ留めにするコンバーチブルカラー（2通り以上に形が変化させられるえり）のものとあり，半そで・長そでとも上着代わりにも着用される。

オープンショップせい 【オープンショップ制】 労働者の採用・解雇に際して，労働組合に加入するかどうかを従業員の自由な意思に任せる制度。従業員の意識が低いときには，労働組合の組織力を低下させるので，どこの国でも経営者が組合の進出を阻止するために，この制度を利用した。➔労働組合

オープンせん 【オープン戦】 公式記録にとどめられない試合。プロ野球ではリーグ戦の開始前・終了後に行なわれ，所属リーグ以外のチームとの対戦も行なわれるので，組み合わせによっては公式試合以上の人気をよぶ場合がある。なお，これはわが国でつくられたことばで，アメリカではエキジビションゲームとよんでいる。

オープンびょういん 【オープン病院】 病院の設備や機能を病院専属の医師に専有させずに，病院外の医師に開放する制度。入院が必要な際には主治医は患者を入院させ，その病院を使って治療を行なうことができる。したがって，患者は主治医によって治療を続けて受けられるし，また，患者自身で自分の医師を選択できることになる。

オープンマーケット-オペレーション ⇨公開市場操作

オペラ ⇨308ページ

オペラ-コミック ［opera comique］ フランス-オペラの一ジャンル。題材の面では叙情的なものから喜劇的なものまで，多岐にわたり，グランド-オペラ*・リリック-オペラなどとの区別は判然としない。音楽的には，イタリアのオペラ-ブッファ*の影響が強く，筋の運びが会話によって行なわれる点がほかのジャンルと異なっている。オーベールの《フラ-ディアボロ》，エロールの《ザンパ》などが有名である。

オペラざ 【オペラ座】 フランスの国立歌劇場。パリにある。オペラ-コミック座に対してグランド-オペラ座ともいわれる。本来の名称は〈国立音楽舞踊アカデミー〉で，その歴史はルイ14世の時代，すなわち1675年までさかのぼり，支配人にはリュリ*・ラモー*・グルック*などの作曲家が並んでいる。しかし，現在の建物は1875年に建設されて，1936年に一部焼失後に改造されたものである。



オペラ座



オベリスク　カルナク神殿にあるハトシェプスト女王のオベリスク　紀元前15世紀

オペラ-セリア ［opera seria］ オペラ-ブッファ*に対することば。18世紀後半から，まじめな内容をもつオペラをさして用いられるようになった。だいたい3幕構成で，大がかりな舞台装置を要する。モーツァルトの《イドメネオ》，ロッシーニの《ウィリアム-テル》などが初期の代表作である。19世紀中ごろからは，ブッファを駆逐してオペラの主流の座についた。なおブッファとの中間的な段階のものをセミ-セリアとよぶこともある。➔オペラ　〔吉田泰輔〕

オペラ-ブッファ ［opera buffa］ オペラ-セリア*に対することば。18世紀後半から，喜劇的な内容をもつオペラをさして用いられるようになった。オペラ-ブッファは，インテルメッツォ*とナポリ派のコミックなオペラから成長した。2幕構成により，歌手の名人わざよりもアンサンブルと軽妙な対話を主体とし，たいていコミックなバス（バッソ-ブッフォ）を主役とする。ロッシーニの《セビリアの理髪師》，モーツァルトの《フィガロの結婚》などが代表的作品である。➔オペラ　〔吉田泰輔〕

オベリスク ［obelisk］ 古代エジプトの記念碑。カコウ岩の細長い四角柱で，先端がピラミッド形にとがっている。未完のものでは高さ40mを越えるものもある。太陽神ラー*の発する光の矢を象徴し，のちには王の功績をたたえる碑文が古代エジプトの象形文字ヒエログリフで彫られた。中王国時代には王の統治記念として神殿の入り口に1対置かれた。なお，この呼称は古代ギリシアでオベリスコス（くし）とよばれたことによる。　〔高山高雄〕

オーベルニュ ［Auvergne］ フランス南部の山岳地方。オーベルニュ山地が横切る火山地帯で，温泉があり，保養客も多い。地味はやせているが火山灰土は放牧に利用され，牛乳・チーズなどの酪農が行なわれる。しかし産額が少ないため，露天商などとしてパリに出かせぎに行く者が多い。オーベルニュ人は勤勉という定評がある。

オーベルハウゼン ［Oberhausen］ 西ドイツ西部，メルトライン-ウェストファーレン州の都市。人口24万1,000（1974）。鉄道交通の要地であり，ジュイスブルク・エッセンに通ずるライン-ヘルネ運河も通る。石炭・亜鉛を産出し，鉄鋼・機械・化学工業が盛んである。

オーベルマン フランスの文学者セナンクールの書簡体小説。1804年の作。孤独と倦怠（けんたい）に取りつかれた青年オーベルマンが，スイスの山々のこうごうしさや人間社会についての考察を，友人への手紙の形で表現したもので，その厭世（えんせい）的詠嘆は，いわゆる世紀末的病弊を象徴的に示している。

オペレーションズ-リサーチ ［operations research］ 略称OR。ORはある思想でも，また多くの手法を含むものでもあって，その定義も一定するに至っていない。アメリカの数学者モースとキンボールの2人は，〈ORは，幹部に対しその管轄下にある仕事に関する決定をする場合の助けとなる定量的な基礎を与えるための科学的方法〉と定義している。また，アメリカの数学者チャーチマンその他は，〈科学的な方法・手法・道具をシステムの運用に関する問題に適用して，その最適解を提供すること〉としている。そのほかに，〈ORは，そうしなければもっと悪い答えが与えられるであろう問題に対し悪い答えを与える術〉のようなきわめて含蓄のある定義もある。

《歴史》 第2次世界大戦中に，イギリスで対空兵器の研究に関連して生まれた考え方で，それがすぐアメリカにも伝わり，海軍において潜水艦に対する作戦などに貢献したといわれている。戦後，アメリカ・イギリスにおいて，ORを産業面に応用しようという努力がなされ，続いて世界各国でも考え方・方法が研究され実施されはじめた。

わが国でも，1953年（昭和28）にモース・キンボールの共著《オペレーションズ-リサーチの方法》（1951）の邦訳が日本科学技術

連盟から出されたが，当時用いられていたORの手法としては，確率・統計・サンプリング理論やミニマックス理論などが主流をなしていた。1950年ごろから数学者ダンツィヒらにより線形計画法(リニアプログラミング)のシンプレックス解法が確立して，ORに一つの転機をもたらし，ORの普及にも役だつことになった。1957年第1回OR国際会議における各国の現状報告においても線形計画の応用が多く報告されている。その後さらにORにおける数学的手法として，ゲーム理論・待ち行列理論・ダイナミックプログラミングおよびシミュレーション手法などが，コンピューターの急速な発達とともに脚光を浴びるようになり，ORの重要さが各企業に認識されはじめて現在に至っている。

〈方法〉ORを進めるための手順としては，まず問題はなにか，目的はなにかを明確にし，その問題に対して数学的に表現されたモデルを作成し，そのモデルに対する解を求め，その解をテストし，結果を評価して，よいとなればその解を実際の場に適用実施することとなる。実施の結果また問題が起これば最初の手順にもどる。ただし，解を実施に移すかどうかの決定は，ORとして行なうのでなく，その仕事の責任者によって行なわれる。以上の手順中，問題の明確化とモデルの作成は実際には最もむずかしい問題であるが，決め手となるような手法はない。すなわち，各種の要因が複雑にからみ合い，また多くの目的をもつ現実の場の中からはっきりした問題を浮かび上がらせ，次にその問題に関係のきわめて強い要因のみを選び出して数学モデルを作成しなければならないからである。しかもつくられたモデルは，現実によく合っていなければならないところにいっそうのむずかしさがある。モデルと現実がどれだけ合うかは，現実からのデータ収集とそのデータによるモデルテストとが適切かどうかによって決定される。この段階における操作がよくできていないと解がいくら最適解であろうと現実の成果とはならない。次に，モデルの解を求める場合に，すでに確立している手法が使えればよいが，そうでない場合には新しい手法・解法を開発しなければならない。ORに用いられる手法としては，古典的な微分方程式や確率統計をはじめ，ORのための数学とされている線形計画法，ダイナミックプログラミング，待ち合わせ理論・確率過程の理論，ゲーム理論またシミュレーション手法などがある。

〈適用分野〉軍事への適用は別として，大は国家行政・地方行政から企業の経営管理まで，またこれらの上層管理者のみならず，下層管理者の権限下の問題にまで適用される。大きな問題としては，たとえば，国民経済における生産と所得に関する問題，全国的な電力の経済的運用の問題などに用いられており，小さな問題としてはガソリンスタンドのサービス要員を何人にすれば利益が最大になるかなどの問題にも適用される。　〔十代田三知男〕

オペレーター　［operator］　一般に，機械または電気など，車輪のない装置を操作する人。たとえば，無線通信の場合は無線通信士，有線通信においては電話交換手をいう。コンピューター関係ではコンピューターを操作する人をいう。

オペレッタ　［operetta］　元来は短いオペラの意。19世紀の中ごろ，オッフェンバック*やスッペ*らの手によって開拓された手軽な喜歌劇。ふつう，せりふによって進行し，随所に踊りがはいる。上記の作曲家のほかに，ヨハン-シュトラウス*・レハール*・サリバン・ロンバーグなどがいる。オッフェンバックの《天国と地獄》，スッペの《ボッカチオ》，ヨハン-シュトラウスの《こうもり》《ジプシー男爵》などはその代表的な作品といえる。　〔吉田泰輔〕

オペロンせつ　［オペロン説］　大腸菌は培地に含まれている乳糖をガラクトースとブドウ糖に分解する能力をもっている。その反応過程には，β-ガラクトシダーゼ・ガラクトシド透過酵素・ガラクトシドトランスアセチラーゼ(以上を乳糖分解酵素群という)の三つの酵素が関与している。乳糖分解能をもたない突然変異菌の遺伝的解析から，これら三つの酵素は，それぞれz, y, aの遺伝子に支配されていることがわかった。すなわち，z遺伝子に突然変異の起こった大腸菌はβ-ガラクトシダーゼを生産することができない。これらの遺伝子は酵素タンパク質の一次構造を決定するものであるため構造遺伝子といい，大腸菌の染色体上にz，y，aの順でとなり合って存在している。

野生型大腸菌は，培地中に乳糖(誘導物質)がないときには乳糖酵素群を生産することができないが，突然変異を起こした菌の中には誘導物質がなくても野生型菌と同程度に酵素をつくることができるものがある。この変異菌(i^-菌)は構造遺伝子に突然変異が起きたものではなく，それと近接した遺伝子(i遺伝子)の突然変異であることがわかった。i遺伝子は酵素活性には影響せず，酵素の合成を調節(制御)していると考えられ，レギュレーター遺伝子(調節遺伝子または制御遺伝子)とよばれる。i遺伝子はリプレッサー(抑制物質;タンパク質の一種)をつくり，酵素生産を抑制している。外部から誘導物質が与えられると，リプレッサーは不活性化され，酵素生産が行なわれる。

ジャコブとモノーは，i遺伝子の変異菌(i^-菌)と同じように，培地に乳糖がなくても，酵素を生産することができる変異菌(O^c菌)を分離した。O^c菌は野生型に対して優性を示すことからi遺伝子とは異なる座位にある遺伝子(オペレーター遺伝子)の変異菌であることがわかった。オペレーター遺伝子は染色体上のi遺伝子とz遺伝子の間に位置しており，近接している構造遺伝子群(同一染色体上にある)を支配している。これは別の染色体上の構造遺伝子群には作用しない。ジャコブとモノーは，一つのオペレーター遺伝子により酵素タンパク質の合成を調節されている隣接した構造遺伝子群を，オペロンと名づけた(1961)。乳糖オペロンは，1個のオペレーター遺伝子とz，y，aの3個の構造遺伝子からなっている。レギュレーター遺伝子によりつくられるリプレッサーが，オペレーター遺伝子に作用し，その結果構造遺伝子群の発現が抑制されたり，されなかったりするというのがオペロン説である。

大腸菌の乳糖発酵の機構はオペロン説では，次のように説明できる。野生型大腸菌のレギュレーター遺伝子i^+によって生産されたリプレッサーがオペレーター遺伝子に働き，それを不活性化するため，z, y, aの構造遺伝子は作動せずβ-ガラクトシダーゼ・ガラクトシド透過酵素・ガラクトシドトランスアセチラーゼは生産されない。i^-変異菌はリプレッサーを生産しないためオペレーター遺伝子の不活性化は起こらず乳糖酵素群は生産される。一方，誘導物質(乳糖)が培地中に存在するときには，リプレッサーは誘導物質によって不活性な形に変えられオペレーター遺伝子の機能は抑制されず，z，y，a遺伝子は発現し酵素は生産される。O^c菌はオペレーター遺伝子の突然変異により，リプレッサーに対し感受性を失っているため不活性化されることなく，培地中の乳糖の有無にかかわらず酵素を生産することができる。ヒスチジンやトリプトファン合成系の酵素生産も乳糖酵素群の生産と同様にオペロン説によって説明することができる。　〔池田洋司〕

オー-ヘンリー　［O. Henry］　(1862～1910)　アメリカの小説家。本名ウィリアム-シドニー-ポーター。さまざまな職業を経て銀行員となったが公金横領のかどで受刑し，服役中から短編小説を書きはじめた。のちニューヨークで作家として立ち，数百に及ぶ短編を書いた。作品は，巧妙な筋立てと意外な結末をもち，独特な語り口によってアメリカ人の生活を描いた。代表作に《未完の物語》《都市通信》《賢者の贈り物》《家具付きのへや》などがある。　〔山本　晶〕

オボ　［Obu］　モンゴル・チベット・新疆(しんきょう)・シベリアなどユーラシア大陸北部に広く分布する石を積んだ祭場。山頂・水辺・村落の出入り口や境界などに石堆(せきたい)を築き，その上には，多くの場合，柳枝が叢立(そうりつ)している。ときには，干し草の類を積み上げたものもある。石は単独のものからモンゴルの〈13オボ〉に至るまでさまざまの形態があり，シャーマニズム*の

⇨310ページ

オペラ

[opera]

オペラということばは，ラテン語のopus(オプス*)からきたことばで，元来〈作品〉を意味している。オペラという楽種は，広義には，器楽伴奏による歌(せりふがはいる場合もある)により，一定の動作を伴って演ぜられるドラマであるが，他の楽種，たとえば，セレナーデとかモノドラマとの境界線はきわめてあいまいである。なお，オペラは，その題材や音楽の違いによって，別の名称をもつことがある。まじめな台本によるオペラ-セリア*に対して，喜劇的な内容のオペラ-ブッファ*，その中間のセミ-セリア，さらにグランド-オペラ*，オペラ-コミック*などである。

【バロック時代のオペラ】オペラという楽種は1600年ごろイタリアで成立した。前駆的なものは，すでにルネサンス時代に多くみられるが，成立の直接のきっかけとなったのは，フィレンツェのカメラータ*の運動であった。文化人・音楽家の集まりであったカメラータで，古代ギリシア悲劇の復興が企てられ，この企ての結果生まれたものがオペラであった。ペリの《ダフネ》(1597年，音楽は現存せず)やカッチーニの《エウリディィーチェ》(1600)を代表とするこの初期のオペラは，簡単な通奏楽器の伴奏によるアリオーソ*ふうの語りと，各場面の終わりに付された対位法的な合唱とからなっている。しかし，これらの作品では，劇が正しく演じられることが目的とされ，音楽は補助手段として，劇に奉仕しているにすぎなかった。

真の意味での近代オペラの創始者はモンテベルディである。その作品《オルフェオ》(1607)は，カメラータたちの理想にしたがってはいるが，音楽とことばとがより緊密に結合し，豊かな管弦楽法とあいまって，オペラ史の第1ページを飾るにふさわしい作品となった。また彼の作品《ポッペアの戴冠(たいかん)》(1642)は，いっそう音楽の豊かさを増し，その後のイタリア-オペラがたどる方向を決定づけたものといえる。

17世紀の前半，フィレンツェに，そして少し遅れてローマに発したオペラは，モンテベルディ以降，ベネチアで花を咲かせた。ここでは，早くから市民のためのオペラ劇場がつくられ，広く一般に開放されていた。ベネチア楽派*の作品ではレシタチーボとアリアがしだいに分化することとなり，一方，管弦楽や合唱は縮小され，歌手のオペラへと移行してきた。したがって，劇としての統一力は弱められ，人々は歌手の名人芸や舞台装置に耳目を奪われるようになった。ベネチア楽派の代表的作曲家としてチェスティとカバルリがあげられるが，旋律を主体とするイタリア-オペラの特徴は，すでにこの時期に確立された。新鮮さを失ったベネチア楽派に変わって17世紀末から18世紀前半にかけては，ナポリの楽人らによるナポリ楽派*がオペラの世界を支配することになった。ナポリ楽派ではすでにベネチア楽派にもみられたアリアの形式の固定化が進行し，ダ-カーポ形式がアリアの一般的書法として確立された。歌手の名人わざはさらにはなやかなものとなり，アリアのみが重視されて，レシタチーボはチェンバロの伴奏により，きまりきったパターンをくり返すだけとなった。したがって，オペラのドラマとしての側面はまったく無視され，題材にかかわらず，きっちりした3幕構成をあてがわれた。ナポリ楽派最大の巨匠はアレッサンドロ-スカルラッティであるが，彼を取り巻く人々は単にイタリアの諸都市のみならず，広くヨーロッパ全土にその足跡を印し，この様式の普及に努めた。また，このころ確立された急～緩～急の構造をもつイタリアふう序曲は注目に価する。

フランスで本格的にオペラがつくられるようになったのは，1669年に王立音楽院が設立されてからであった。ここで歌劇運動の推進役をつとめた作曲家カンベールは，台本作者ペランと組んで，いくつかの作品を書いたが，いずれも成功せず，やがて，王の寵愛(ちょうあい)を受けたイタリア人リュリがこの地位につき，フランス-オペラの基礎を築いた。リュリの成功は，イタリア-オペラを規範としながらもその模倣に終わらず，フランス人の好むバレエと演劇の要素を十分に取り入れたことにある。その特徴は，緩～急～緩のフランスふう序曲(リュリによって確立されたといわれる)にみられる器楽の重視，コメディー-フランセーズの朗唱法にならった独特のレシタチーボの開発，困難な技巧を避け，簡潔な形式と穏健な表情をもつアリア，さらにバレエと合唱の愛用，そして，こうした諸要素をふまえつつ，つねに全体の劇としての統一に気が配られているところにある。こうしたフランスふうのオペラは，次の世代のカンプラやマレに受け継がれ，18世紀前半の代表的作曲家ラモーの諸作品の中で，豊かな和声構造を与えられるに至った。

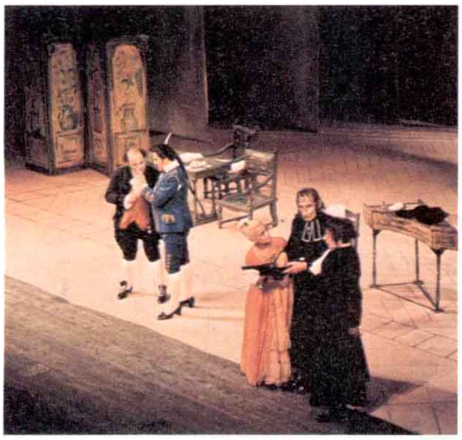
一方，バロック時代のドイツ-オペラは完全に外国の様式の支配下にあった。ジングシュピール*というドイツ独自の音楽劇はあったがオペラに対抗しうるほど音楽的に成熟せず，対位法に対する好みや管弦楽声部の入念な書法を除いては，その様式の大部分はイタリアのそれの模倣であった。各地の宮廷あるいは都市で活動していたオペラ作家は，おおむねイタリア人かイタリアで学んだドイツ人であった。ウィーンで活躍したフックス，ハノーバーのステッファニ，ハンブルクのカイザー，そしてハンブルクの伝統に立つヘンデルらは代表的な人々である。

またイギリスでは，大陸から渡ってきたマスク(仮面劇)とよばれる舞踊・劇・音楽の結合による形式が，ベン-ジョンソンらの手で育成され，17世紀には舞台芸術の中心的な役割を演ずることになった。しかし，しだいにフランス，続いてイタリアの影響が強まり，特にパーセルの死後は，ほかの音楽のジャンルと同じように，外国人作曲家，たとえばヘンデルやクリスチャン-バッハらの支配するところとなった。

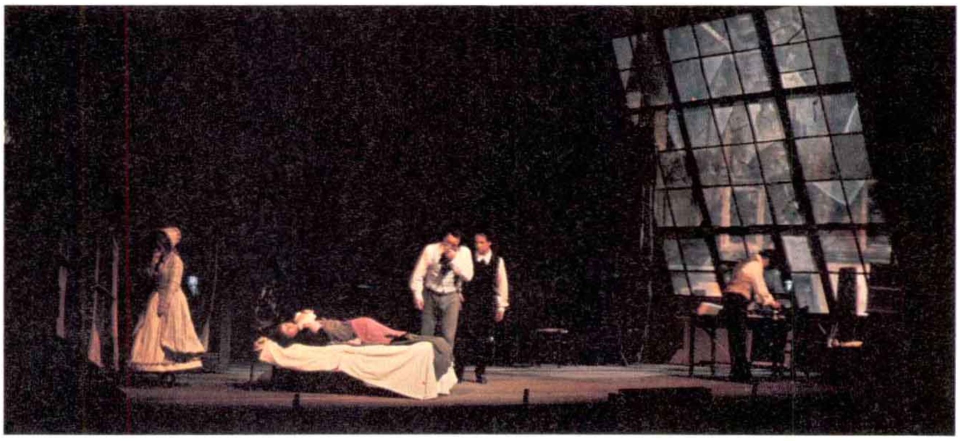
【1730ないし1740年から1800年までのオペラ】アレッサンドロ-スカルラッティ以降の18世紀イタリア-オペラはブッファの時代といえる。すでにスカルラッティにもみられた喜劇的な性格の作品，それにまじめなオペラの幕間(まくあい)に演ぜられたペルゴレージの《奥様女中》のようなインテルメッツォから，オペラ-ブッファという新しい性格のオペラが発展した。それはダ-カーポ形式と名人わざに固着したアリア，劇としてのまとまりのなさなど，そうした固定した様式への反発から生まれた。その性格はバッソ-ブッフォとよばれる低音歌手の軽妙なおもしろさと，気軽で精妙なアンサンブルに象徴される。しかし，ペルゴレージやレオ・ビンチらのナポリ楽派の人々からガルッピ・ピッチーニへ引き継がれ，チマローザ・パイジェルロの手によって18世紀末にその頂点に達したオペラ-ブッファの精神は，その発展の段階で吸収したオペラ-セリアの様式と，みずからのもつ様式の安易さとによってマンネリズムに陥った。後年のロッシーニの《セビリアの理髪師》やドニゼッティの《愛の妙薬》などの作品は，このブッファの様式の最後の姿を具現しているといえる。

同じ時代のフランスでは，ラモー以降，ルイ王朝の衰退とともに宮廷オペラは退潮し，注目すべきフランス人作曲家は現われず，代わって，ピッチーニ(イタリア)やグルック(ドイツ)といった外国の作曲家が主役を演じた。しかし，ブフォン論争(18世紀中ごろに興った，フランス宮廷歌劇支持派とイタリアのオペラ-ブッファ支持派との間の芸術論争)の結果，他国の音楽の流入に対しても，フランス本来の様式を守り，逆に大きな影響を与えたことは注目に価する。

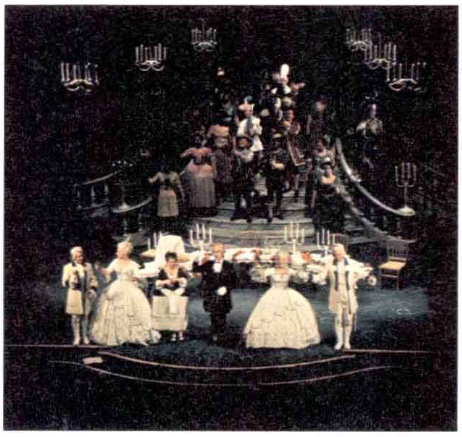
ドイツでは，爛熟(らんじゅく)したナポリ楽派の様式から出発したグルックが，ハッセ・トラエッタ・ヨメルリなどのナポリ楽派の作曲家の作品に萌芽(ほうが)的に現われていた諸要素とフランス-オペラの影響のもとに，《オルフェオとエウリディーチェ》《トーリドのイフィゲニー》など，一連の改革オペラを生み出した。グルックより少しあと



ロッシーニ作曲《セビリアの理髪師》 イタリア歌劇団



プッチーニ作曲《ラ-ボエーム》 イタリア歌劇団



モーツァルト作曲《コシ-ファン-トゥッテ》ベルリン-ドイツ-オペラ



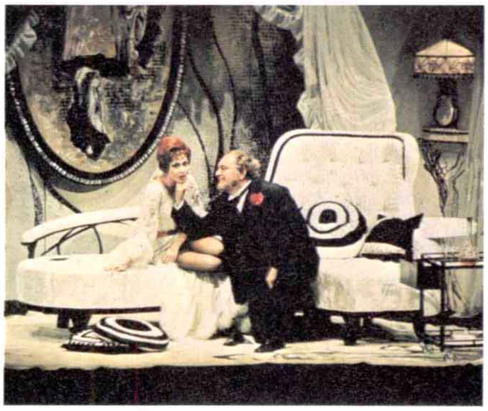
ウェーバー作曲《魔弾の射手》 ベルリン-ドイツ-オペラ



ワーグナー作曲《ローエングリーン》 ベルリン-ドイツ-オペラ



ムソルグスキー作曲《ボリス-ゴドノフ》 ボリショイ-オペラ



ベルク作曲《ルル》 ベルリン-ドイツ-オペラ



ワーグナー作曲《さまよえるオランダ人》
1843年ドレスデンでの初演の舞台スケッチ

に位置するモーツァルトは，グルックのような改革者ではなく，18世紀のイタリアとドイツのオペラ諸様式の総合者である。ここには古典的なオペラ様式の比類のない調和とすぐれた音楽とが満ちている。しかし，中で最も成功したのはオペラ-ブッファである。オペラ-セリアのもつ堅苦しいふんい気はモーツァルトの音楽と本質的に相いれず，《フィガロの結婚》《ドン-ジョバンニ》《コシ-ファン-トゥッテ》のような純粋なブッファ作品と《魔笛》のようなジングシュピールにブッファの精神がみごとに生かされた。そして，そのアンサンブルの美しさは，それまでのどの作曲家も成し遂げえなかった音楽による登場人物の描き分けによって，いっそう精彩を放つものとなった。

〔19世紀のオペラ〕 イタリア-オペラの歴史は19世紀にはいると再びブッファからセリアへと転換する。この転換を促したのは，ブッファがマンネリズムに陥ったこととフランス-オペラの影響である。ロッシーニはグランド-オペラの様式にのっとって，セリアのレシタチーボをすべて管弦楽伴奏で行なうという，革新的手法でオペラ-セリア《オテロ》を書き，やや遅れて，ドニゼッティが《ルチア》で，さらにベルリーニも《ノルマ》などで同じ道を歩んだ。ブッファの精

オペラ

神は急速に後退し，題材のロマンチシズムと雄弁な旋律の表現力とが正面に押し出された。こうした傾向を発展させ，イタリア-オペラをその最も完成された形に導いたのがベルディである。それまでのイタリア-オペラが産み出してきたすべての技法は彼のオペラに総合され，有機的な連関を与えられた。全体の連続性と表現の深さに対するベルディの意欲は，それまでの番号オペラ(伝統的なイタリア-オペラの形。歌唱曲の一曲一曲に番号がつけられているので，この名がある)を乗り越えるに至った。《リゴレット》《椿姫(つばきひめ)》を経て《アイーダ》で頂点を築き，晩年の二大作《オテロ》《ファルスタッフ》では，人間のもつ悲劇的なものと喜劇的なものの本質を，あざやかに描き出した。

同時代のフランス-オペラを特徴づけるのは，伝統的なまじめなオペラの様式によるグランド-オペラと，18世紀イタリアのオペラ-ブッファの影響のもとに成立したオペラ-コミックという，異なった二つの様式のオペラの存在である。マイエルベーアの《アフリカーナ》とオーベールの作品に代表されるこの二様式の相違は，時代が経るにしたがってしだいに解消し，19世紀半ばには，単に筋書きをせりふによって運ぶか，レシタチーボによって運ぶかという形式的な面だけになった。こうしてグノーの《ファウスト》やトーマの《ミニヨン》などのリリック-オペラが生まれた。しかし，一方にはイタリア-オペラの叙情性を取り入れようとする動きがみられ，さらにワーグナーの影響がこれに加わって，ビゼーの《カルメン》やマスネーの《マノン》などの世紀末の作品が現われるのである。

19世紀のいわゆるドイツ-ロマン主義オペラは，ウェーバーの手によって開花した。ウェーバーのオペラの特徴は，古いジングシュピールの中にもみられたもの，つまり民謡やドイツの日常的生活環境といった民族性の重視，自然の状況の描写，超自然的なものが自然のものと対立関係にあって劇の主題をなすことなどの点にあり，これらの特徴は代表作《魔弾の射手》に余すところなく示されている。しかし，なんといっても，この時代最大の作曲家はワーグナーである。彼の楽劇*では，この自然と超自然，人間と神との対立が，浄化された信仰にまで高められている。彼は指導動機*・シュプレヒゲザング(言語のアクセントを重視した歌唱)・無限旋律*という，形式を否定した自由な歌唱法を用い，それまでの和声概念を極限にまで拡大し，さらに壮大な管弦楽法を駆使して，視覚・聴覚を包含した〈総合芸術〉にしようとしその理念を《タンホイザー》《ローエングリーン》《さまよえるオランダ人》《ニーベルンゲンの指輪》《トリスタンとイゾルデ》などで実現した。

一方，すでにウェーバーあたりにみられる民族主義の思潮は東欧やロシアなどにも影響を与えずにはおかなかった。スメタナの《売られた花嫁》，グリンカの《イワン-スサーニン》《ルスランとリュドミラ》，ムソルグスキーの《ボリス-ゴドノフ》，リムスキー-コルサコフの《金鶏》などの作品は，この流れの中でつくられたものである。

【20世紀のオペラ】20世紀の音楽文化が，さまざまな試みと保守的なものとの間で苦悩しているのと同じように，オペラも多様な形態をみせている。民族的な様式からの脱却とそれと同時に起こった混迷，その混迷の中でオペラは模索しつつあるといえよう。さて，今世紀の初頭を飾る一つの大きな傾向は，ベルディやワーグナーの根強い影響力と，そこからのがれ出ようとする動きである。イタリアのベリズモ派の作品やプッチーニの《蝶々(ちょうちょう)夫人》など，さらにリヒアルト-シュトラウスの作品《バラの騎士》などは前者に属し，ドビュッシーの《ペレアスとメリザンド》やラベルのものは後者にはいる。1920年代になると十二音技法によるシェーンベルクの作品やベルクの《ボツェック》《ルル》が現われ，続いて，ヒンデミット・ストラビンスキー・メノッティ・プロコフィエフ・ブリテンらが注目すべき活動をしているが，いずれも主流を形成するものとなっていない。

日本では，特に第2次世界大戦後，団伊玖磨(いくま)の《夕鶴(ゆうづる)》，清水脩(しみずおさむ)の《修禅寺(しゅぜんじ)物語》など，日本独自の様式をもつオペラの創作が行なわれているが，オペラというジャンルそのものがまだ日本の音楽文化に根を降ろしておらず，その発展の過程には多くの曲折が予想される。

〔吉田泰輔〕

聖地で，ラマ僧によっても祭られる。旅人はこれに出会うと周囲を回ったり，木枝に紙や布を結んだりする。〔若松　寛〕

オーボエ　[oboe]　二重リードを発音主体とする木管楽器。高い音域をもち音のとおりがよく，また，ゆっくりした旋律を奏する表現力にすぐれているため，バロック時代(16世紀末ごろ)から独奏や合奏に用いられた。19世紀にはキーをふやすなどの改良が行なわれ，いっそう安定した楽器になっている。管弦楽の音合わせは，ふつうオーボエのイ音によって行なわれる。

【オーボエ属】二重リードはクラリネットのような1枚リードと対照的なもので，その歴史は古く，古代エジプト・イスラエル・ローマなどですでに使われていた。

ルネサンスごろからはさらに広まった。特にイギリスのショームとよばれる大きな音をだす楽器と，ドイツのドゥルチアンとよばれる柔らかな音を出す楽器は，さまざまな大きさのものがつくられ用いられた。また，クルムホルンのようにリードには直接くちびるをあてないものも使われた。バロック時代には〈狩のオーボエ〉というオーボエ-ダ-カッチャや音が柔らかいところから〈愛のオーボエ〉と形容されるオーボエ-ダ-モーレも，普通のオーボエとともに用いられた。これらは今日のバスーン*(ファゴット)・イングリッシュ-ホルン*などとともにオーボエ属を形づくっている。日本の楽器では，雅楽で用いられる篳篥*(ひちりき)がオーボエ属である。〔徳丸吉彦〕



オーボエ　演奏者ハインツ-ホリガー



オホーツク海　雪解けとともに南下する流氷。冬の海は一面が氷原となり，活動を停止する

おぼえがき　【覚書】　メモランダムの訳語。おもに外交上の交渉などにおいて，主要な事実について概略の説明を付したりする場合に用いられる文書の形式。三人称を用いるのを通常とし，あて名も署名もなく，英・仏文が原則とされる。いちおう国家の合意(広義の条約*)として認められる。

オホーツク(海)　[Okhotsk]　カムチャツカ半島・シベリア東部・サハリン(樺太(からふと))・千島列島に囲まれた海域で，ユーラシア大陸の縁海である。面積158万9,000 km²，平均深度約860 m。潮流は左環流。世界の大漁場の一つで，第2次世界大戦前はわが国の北洋漁業の漁場であったが，戦後はサハリンを失い，千島列島の帰属も不明であるため，出漁も戦前のように自由ではない。水産物はニシン・サケ・マス・タラ・タラバガニなどで，漁期は夏。冬から春に

かけては，荒天と流氷のため漁はできない。梅雨期および秋にこの海域で発生するオホーツク海気団*は，わが国の梅雨に深い関係をもつ。〔長津一郎〕

オホーツクかいきだん［オホーツク海気団］⇨気団

オホーツクかいこうきあつ［オホーツク海高気圧］梅雨末期および秋にオホーツク海付近に発生する高気圧。下層では気温が低く，日本付近に冷たい北東風を送り，悪天をもたらす。またオホーツク海高気圧生成と同時に，オホーツク海気団を形成し，オホーツク海高気圧によって，この気団の空気が日本付近に送られ，南方気団との間に梅雨前線をつくり，日本の天気に重要な影響を与える。なお，オホーツク海高気圧は背の低い寒冷高気圧として考えられてきたが，最近では背の高い温暖高気圧と上層で結びついていると考えられている。オホーツク海高気圧からの北東風が，日本付近に悪天をもたらすのは6・7月ごろの梅雨前線，秋の秋雨前線，ならびに春秋の北東気流型の天気の場合である。〔曲田光夫〕

オホーツクぶんか［オホーツク文化］オホーツク海沿岸のサハリン(樺太(からふと))・千島列島・北海道北東岸などで7世紀以降に発達した狩猟・漁労文化。骨製銛(もり)・石器とともに鉄製利器も使用され，住居は夏用の平地住居，冬用の竪穴(たてあな)住居*を併用している。

オポッサム［opposum］哺乳(ほにゅう)類・有袋目・オポッサム科。キタオポッサム，または外形がネズミに似る有袋目のためフクロネズミともいう。体長40〜65cm，尾長25〜50cmで，尾の大部分は毛がなく，物に巻きつくことができる。北アメリカからペルー，アルゼンチン北部に分布。ふつう単独で樹洞(じゅどう)，岩のすきま，穴などに巣をつくる。木登りが巧みで，こん虫・鳥卵・果実などなんでも食い，ときに鶏小屋などを襲う。1腹8〜20子で，新生児はきわめて小さく，体重0.11〜0.16gしかない。南アメリカには近似のミナミオポッサムがある。

おぼないぶし［生保内節］秋田県生保内(→田沢湖町)の民謡の曲名。土地の人は《おぼねだし》とよぶ。〈だし〉とは東風のことで，これが秋に吹くと豊年と喜ばれる。豊作による豊かな土地をたたえる歌である。

オポルト［Oporto］ポルトガル北西部にあるこの国第2の都市。人口130万5,000(1972)。ポールトウともよばれ，ドーロ川河口の港市，商工業都市である。流域でつくられる赤ぶどう酒は名産で，ここから積み出される。ポートワインというよび名はこれから出たもの。河口が狭いため，1890年北西8kmの大西洋岸に人工港を建設した。繊維工業のほかに，金銀細工も有名。

おぼれだに［溺れ谷］海岸地域で山地が沈水するか，または海面が上昇すると，もとの谷筋に沿って海水が侵入し，湾入をつくる。この湾入をおぼれ谷という。三陸沿岸一帯にみられるリアス式海岸*の湾入はこの例で，山地の尾根は岬(みさき)や半島となって海に突き出し，この谷の部分は細長く陸側にはいりこみ，海岸線は複雑な屈曲を示す。おぼれ谷による深い湾入は天然の待避港となるが，津波の害を受けやすい。

おぼれだにかいがん［溺れ谷海岸］⇨沈降海岸

おぼろ［朧］白身の魚をほぐして味をつけたもの。タイ・エビ・スズキ・ヒラメなどをゆでるか蒸して骨をとり，身をほぐしてすりばちですり，みりん・砂糖と塩少しを加えて，とろ火でたえずかき混ぜながらごく細かにいってつくる。これに薄紅色をつけ，料理の色どりに用いる。

おまえざき［御前崎］静岡県の牧ノ原台地の先端にあたり，駿河(するが)湾の西の湾口を占めている。岬(みさき)の高さは約40m，幅約1kmの海食台地で，その先端には1874年(明治7)に開設された1等燈台をはじめ，測候所や航空無線局などがある。またこの付近には，防風のため1軒ごとに屋敷森に囲まれた集落がある。東の沖合い約3kmのところに沖御前岩とよばれる岩礁がある。岬は遠州灘(えんしゅうなだ)の海岸砂丘東端にあたり，冬季には強い西風が吹き，天然記念物に指定されている三稜石(さんりょうせき)がある。台地上は水が乏しいため，茶・サツマイモが栽培されるほか，温暖な気候を利用した野菜・草花の促成栽培が行なわれている。また，冬の乾燥した強い季節風を利用してつくる切り干しいもは有名である。岬東側には遠洋漁業基地の御前崎港がある。〔味沢成吉〕

おまえざき［御前崎(町)］静岡県榛原(はいばら)郡の町。駿河(するが)湾の西の入り口に位置する。人口11,000。明治以後カツオ・マグロ漁業が盛んでかつお節の生産が行なわれるが，砂浜海岸のため良港をもたず，近年ようやく避難港が築港された。背後の約40mの高さの隆起海食台地では，茶・サツマイモ・野菜の栽培が盛んである。南東に突出する岬(みさき)御前崎*には燈台・測候所があり，観光客も年々増加している。

おまきざる［尾巻猿］哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オマキザル科。カツラザルともいう。南アメリカに広くすむ広鼻猿(こうびえん)類の仲間で，ノドジロオマキザル・シロガオオマキザル・クサオマキザル・ナキガオオ



オポッサム



オポルト ドーロ川の河口北岸に広がるオポルトの新市街地区。ぶどう酒で名高く，波止場には出荷を待つぶどう酒のたるが積まれている



御前崎 南方上空から見た御前崎。左手の崖の上に白い燈台が見える。海に突出する防波堤は御前崎港。遠景の弧を描く海岸線で駿河湾をいだく

マキザルの4種がある。頭胴長40〜45cm，尾長45cmぐらいで，広鼻猿類の中では大形に属する。尾を下向きに少し巻いていることが多いのでこの名がついた。尾を器用に使うがクモザル*ほどではない。熱帯雨林にすむ樹上生活者で，行動は敏捷(びんしょう)。雑食性で，果実・こん虫・クモなどを食う。10〜40頭の群れをつくる。広鼻猿類中最も知能が高く，道具を使ったり絵を書いたりすることができる。性質はおとなしく，ペットとしてよくなれる。➔霊長類〔河合雅雄〕

オマハ [Omaha] アメリカ合衆国，ネブラスカ州最大の都市。アイオワ州との州境，ミズーリ川の西岸に発達した商工業都市。人口34万7,000(1970)。家畜の集散，畜産物の加工(特に食肉・バター)，製粉業が盛んである。鉄道はユニオン-パシフィック鉄道ほか10社線が行きかい，オマハ空港は5社線が離着して西部・東部・南部と連絡する定期航空路の要地となっている。ネブラスカ大学医学部とオマハ市立大学がある。

おまもり 【お守り】 神社で授与する神号などをしるした小さな神札。これを所持することにより利益・神助が得られるとされる。陰陽道*(おんみょうどう)の符呪(ふじゅ)・護符*にならったものとされ，病難よけ，家内安全・安産・交通安全・虫よけの守りや干支(えと)守りなどがある。

オーマン(国) ⇨マスカット-オーマン

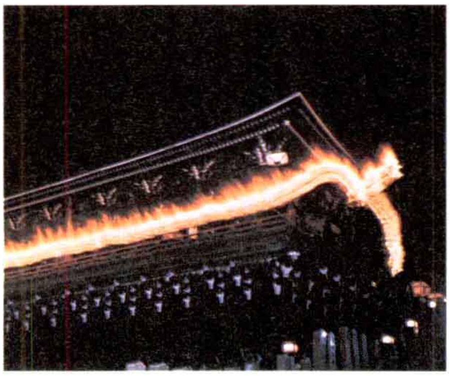
オーマンディー [Eugene Ormandy] (1899〜) ハンガリー生まれのアメリカの指揮者。5歳でブダペスト王立音楽院にはいって，バイオリンを学び，少年時代はバイオリンの天才といわれた。21歳のときに渡米，はじめコンサートマスターとしてニューヨーク-キャピトル劇場オーケストラに席をもったが，やがて指揮者に転じ，1931〜1935年ミネアポリス交響楽団の常任指揮者を経て1936年よりフィラデルフィア管弦楽団に移り，1938年以来その常任指揮者として活躍している。1967年同オーケストラとともに来日した。〔向坂正久〕

おみ 【臣】 姓*(かばね)の一。孝元天皇以前の皇族出身の豪族に与えられた姓と伝えられる。大和(やまと)朝廷の上層部を構成する畿内*(きない)有力豪族に多く与えられ，その最有力者は大臣*として国政に参与した。のち，天武天皇が八色(やくさ)の姓*を制定すると，旧来の臣姓の豪族は第2位の朝臣*(あそん)の姓を賜わっており，一方，従来の臣の姓は第6位に置かれたことから，以後は下級の姓と考えられるに至った。

おみがわ 【小見川(町)】 千葉県香取郡の町で，利根(とね)川に沿い，佐原(さわら)市の東隣にある。人口26,000。1951年(昭和26)に3村，1955年に1村を合併して現在の町域となった。利根川の河港として発達し，江戸時代には内田氏一万石の小城下町であった。米の集散や酒・しょうゆの醸造業が盛んで，対岸の鹿島(かしま)臨海工業地帯の建設に伴う発展が期待される。成田線に沿う。



オマキザル　ノドジロオマキザル



お水取り



オミナエシ



オーム

おみくじ 【御神籤】 寺社で行なわれる卜占(ぼくせん)の一種で，運勢・方角・旅行・結婚などの吉凶を占う。玉くじ・引きくじ・振りくじの3方法がある。玉くじはヒネリブミといって，吉凶をしるした紙を数多くひねりおき，その一つを選びとって神意を判ずる。引きくじは数本のひもの中からその末端に銭を結んだものを選びとって吉凶を占った。今日一般に寺社で行なわれているのは振りくじで，筒の中からタケあるいは鉄の棒を1本だけ振り出して，それに対応するみくじ札によって吉凶を占う。

おみずとり 【お水取り】 東大寺*二月堂で毎年3月1日から2週間行なわれる修二会*の主行事。最も重要なのは12日の真夜中，二月堂の創建者実忠上人(しょうにん)が若狭(わかさ)(福井県)から閼伽*(あか)の水を得た伝説により，堂のほこらにもうでて1年間の仏事に用いる御香水の清水(しみず)をくみあげる儀式と，僧が大松明(おおたいまつ)をかざして石段を登り，神殿の回廊で松明を振り回し，飛び散る火の粉で人々の厄難(やくなん)を払う達陀(だったん)の行事である。なお，京阪(けいはん)地方ではこの行事がすむと春を迎えるとして待たれる。〔渡辺欣雄〕

おみなえし 【女郎花】 双子葉植物・オミナエシ科。山地や野原にはえる多年草で，秋の七草の一。茎は高さ1mぐらい，葉は羽状に切れ込む。夏から秋にかけて，茎の上部に直径3〜4mmの黄色い小花を散房状につける。根は敗醤(はいしょう)といい，漢方では消炎排膿(はいのう)薬として用いられている。

おみぬぐい 【御身拭】 仏教用語で，像身をぬぐうこと。京都市嵯峨(さが)清涼(せいりょう)寺で毎年3月19日に本尊釈迦如来(しゃかにょらい)の開帳にあたって，寺僧が白巾(はっきん)で仏像をぬぐう行事が有名。白巾に如来の妙香が移って衆生の煩悩(ぼんのう)を清めると信仰されている。そのほか知恩院では毎年12月25日に祖像をぬぐい，その白巾で袈裟(けさ)がつくられる。東西本願寺では毎月1回御身(ごしん)といって祖像をぬぐい，1月18日には大御身とよばれ，法主みずから行なう。〔藤井正雄〕

オーム [ohm] 電気抵抗の実用単位。記号Ω。電流・電圧・抵抗の関係を示すオームの法則*を発見した，ドイツの物理学者オーム*を記念して命名した。1Vの電圧を加えたとき1Aの電流が流れるような抵抗を1Ωであるという。国際単位では，0℃において質量14.4521g，長さ106.300cmの均一な切断面積を有する水銀柱の長さの方向に示す電気抵抗を1Ωとしている。しかし，精密な測定によると，これは1.0005±0.00002Ωに相当するので，この値を国際オームとして前者と区別する。〔堀内和夫〕

オーム [Georg Simon Ohm] (1787〜1854) ドイツの物理学者。バイエルンのエルランゲンの生まれ。同地の大学にはいったが経済的理由で中退。各地で職を求めつつ，1826年電流の強さと導線の長さ(抵抗)との比例関係を実証し，オームの法則*を立てた。主著《ガルバニ回路》(1827)をも含めて彼の業績はしばらく認められず，大学に籍も得られなかったが，国外の評価が高まるにつれて，後年，ミュンヘン大学教授となった。今日，電気抵抗の単位として，その名が残されている。〔藤村 淳〕

オムスク ［Omsk］ ソビエト連邦，南西シベリアの同名州の州都。イルチシ川とオミ川の合流点に臨む。人口193万5,000(1974)。シベリア鉄道と河川交通の要衝で，木材・農畜産物を集散する。工業は第2次世界大戦中に発展し，機械・化学・食品加工・木材などの工場が多い。18世紀のはじめ，城塞(じょうさい)として建設された。

オムダーマン ［Omdurman］ アフリカ大陸東部，スーダン共和国最大の都市。人口125万8,000(1971)。北東部のナイル川西岸に位置し，白ナイルと青ナイルの合流点が近くにあることから，河川交通の要地であるとともに商業の中心地となっている。対岸約8kmに首都ハルツームがある。アラビアゴムを輸出し，下流から綿製品を輸入する。ラクダ・ヒツジ・ウシなどの取引も盛んである。民家は昔ながらの土の家が多いが，近年れんが造りの家もふえてきている。
〔小栗　宏〕

おむつ 乳幼児の大便や小便が外に漏れないように始末する布で，おしめ(御湿)・むつき(襁褓)ともいう。むつきは妊娠6か月めに準備することからよばれるという。〈おむつの選択〉形は長方形・輪形・四角形があり，使用上から巻きおむつと股(また)おむつに分かれる。巻きおむつは出生後短期間用いるだけで，あとはおもに四角形のを三角形にたたみ，股にあてるのが用いられている。このほうが乳児の足の運動上つごうがよい。おむつの地質は白のもめん地が最適で，水分の吸収がよく，じょうぶで洗たくにも耐え，白地は便性がよくわかる。最近は使用ごとに捨てる紙おむつが市販され，外出や旅行時には便利である。なお，乳児の初期には1日に20回も排尿するから，少なくとも20組みは必要である。〈洗たくと消毒〉おむつはせっけんで洗たくするが，あとにせっけん分が残ると皮膚を刺激するおそれがあるから，よく水洗しておく必要がある。細菌の消毒のためによく日光にあてるか，できなければ熱いアイロンをかけておく。もし消化器系伝染病になった場合は，おむつを3％クレゾールせっけん水につけて消毒してから洗たくする。最近おむつを洗たく消毒して毎日必要量だけ配達・回収する貸しおむつ業があり，東京では1955年(昭和30)ごろから始められている。
〔宇留野勝正〕

おむつカバー おむつを固定し，尿や便がしみ出ないようにおむつの外からあてるカバー。尿量が少なく，運動も激しくない生後1か月ぐらいは必ずしも必要はないが，その後はつけておくほうがつごうがよい。種類は毛糸編み・ゴム引き・ビニル・化学繊維などいろいろあり，各種市販されているが，家庭でも毛糸で編んだり，古いメリヤスやネルを利用してつくることができる。生後まもない間は巻きおむつカバーが用いられることがあるが，その後は股(また)おむつ型やパンツ型が用いられる。おむつカバーをつけておくとその部からの汗の蒸泄(じょうせつ)や体熱の放散が妨げられ，皮膚温や湿度が上昇，その面積が広ければ鬱熱(うつねつ)の状態となる。この害は通気性の悪いゴム引きやビニル製のものに多い。また尿にぬれたおむつを長時間身体につけていると，尿の分解によりアンモニアが生じ，その刺激によっていわゆるおむつかぶれ*が出やすくなる。

おむつカバーを使用する場合は次のような点に注意する。おむつカバーは，①通気性のよいものを選ぶこと，②できるだけ短時間の使用にすること，③尿でぬれたら早く取り替えること，④腹部や大腿部(だいたいぶ)を強く締めつけることのないようにすること。なお，おむつカバーはつねに3～4枚準備しておき，ときどき洗たくし，よく日光にあててかわかし，日光消毒をしておくこともたいせつである。〔宇留野勝正〕

おむつかぶれ 乳児の尿中の尿素が，アンモニア分解菌によって分解して生じたアンモニアの刺激によっておきる臀部(でんぶ)・股部(こぶ)のアンモニア皮膚炎である。刺激に反応しやすいいわゆる滲出(しんしゅつ)性体質児がなりやすい。予防は尿が出たら早くおむつを取り替えること，局部は湯でよくふき，汗知らずを振ってかわかしておくとともに，おむつは日光消毒や薬品によって消毒し，アンモニア分解菌をつけておかないことである。治療には股(また)を湯でよくふき，亜鉛華オリーブ油を塗っておく。
〔宇留野勝正〕

オムニバスえいが 【オムニバス映画】 オムニバスは乗合馬車の意。いくつかの独立した物語を集めた形をとりながらも，一つの主題によって統一されている映画。個個の部分はふつう数人の映画監督が担当するが，同一の監督による場合もある。代表的な例として，フランス映画《七つの大罪》，日本映画《四つの恋の物語》などがある。

オームのほうそく 【オームの法則】 電気回路における電流・電圧・抵抗の関係を表わす法則。断面が一定な棒状導体に一様な電流が流れている場合，棒状の2点AB間の電気抵抗は$R=l/s\sigma$で表わされる。ここでlはAB間の長さ，sは導体の断面積，σは導電率である。EをAB間に加える電圧，IをAB間を流れる電流とすれば，$E=IR$なる等式が成立する。これが，1826年ドイツの物理学者オーム*によって実験的に確かめられたオームの法則である。交流においては$\dot{E}=\dot{I}\dot{Z}$，ここで$\dot{E}$,$\dot{I}$はそれぞれ電圧ベクトル・電流ベクトルを表わし，$\dot{Z}$はインピーダンス*とよばれる。〔堀内和夫〕

オムライス 卵を焼いてピラフ*を包み込んだ米飯料理。〈つくり方〉割りほぐした卵に油を少量加えてフライパンに平らに流し，表面に少し火が通ったらピラフを入れ，卵で包むようにしてさらにあけ，ふきんでオムレツ形に整えてトマトソースを添える。ピラフの代わりに，トマトケチャップで味つけしたいためご飯でもいい。色どりが美しく栄養もあり，幼児食に喜ばれる。なお，西洋料理にはオムライスという料理はなく，オムレツ*の一種としてオムレット-バレンシアンヌがある。これはスペインのバレンシア地方の代表的料理パエリヤ(サフランをきかせた五目たきこみご飯)を，半熟に焼いたオムレツの中身にしたものである。
〔泉　敬子〕

オムレツ ［omelette］ 代表的な卵焼き料理。調理のしかたに，あわ立てた卵に牛乳を加えて柔らかく焼くフランスふう，軽くかき混ぜた卵に材料を混ぜ入れて焼くイギリスふう，平たく焼いた卵の中に具を置き，二つ折りにして焼くアメリカふうなどがある。また，合わせる材料や盛り付けによってローマふう・リヨンふう・メキシコふう・トルコふうなどがある。さらに，具によってオニオンオムレツ・チーズオムレツ・ハムオムレツ・フィッシュオムレツなどとよばれ，また具を入れないプレーンオムレツ，ジャムや甘煮くだものなどを入れたスイートオムレツなどがある。オムレツは朝食に供するが甘味のものはアントルメ*として用いられる。またスイートオムレツは銀ざらに盛り，供するまぎわにブランデーやウイスキーを注ぎかけ，炎の燃え上がるままデザートとして勧める場合もある。〈プレーンオムレツのつくり方〉鶏卵を割って塩・こしょうで味つけしてよくかき混ぜ，バターをとかして熱したフライパンにいちどに入れてかき混ぜ，半熟になったときフライパンの柄をたたいて向こう側に返しながら木の葉形にまとめて焼き上げる。使用するフライパンはオムレツ専用にしたほうがよく，使い慣らしてなめらかになっていないとじょうずに焼けない。また卵はよくかき混ぜないと卵白と卵黄が別々に離れてしまうし，またかき混ぜすぎても卵の腰が弱くなるから注意する。なお，煮えにくい材料を混ぜるときは下煮をしておくことが必要である。〔泉　敬子〕

おめし 【御召】 御召縮緬(ちりめん)の略称であるが，現在ではこの略称のほうが一般的である。経緯糸ともに練り染めした絹糸を用いた高級着尺地。緯(ぬき)に御召緯とよばれる右撚(みぎよ)り・左撚りの強撚糸(きょうねんし)を二越ずつ交互に織り込み，製織後地入れといって，微温湯につけて撚りどめしたのりを落とすようにすると，布面に細かい皺(しぼ)ができる。御召縮緬といわれるのはこのためであって，それがこの織物の特徴でもある。御召の呼称は11代将軍徳川家斉(いえなり)が好んで着用したところから，それがお召料となり，ひいては同種地ふうのものもそうよばれるようになったといわれている。御召縮緬がいつごろから織られるようになったかは明らかではないが，後練(あ

とねり)の縮緬の製織が盛んになった江戸時代前期の寛永(1624～1643)以後のことと考えられる。〔北村哲郎〕

おめみえ【御目見】御目見得とも書く。古くは上位の者に謁見することで，見参(げんざん)・御対面などともいった。江戸時代には武士の格式を表わす用語となっている。すなわち，幕府直参の武士のうち，将軍に謁見できる者を御目見以上(大名・旗本(はたもと))，謁見できない者を御目見以下(御家人)といって区別した。

おもいぐさ【思草】⇨ナンバンギセル

おもいで【思ひ出】北原白秋の第2詩集。序・序詩・詩190編を収載。序は〈わが生(お)ひたち〉と題され，詩編の背景をなす郷土福岡県柳河(やながわ)の風物や，酒造業であった生家での幼少時の生活を感覚的に語る。詩は書名が示すとおり，多くは幼時から性に目ざめるころまでを追憶した叙情小曲で，特異な感覚と官能を表現している。

おもいでのき【思出の記】《おもひ出の記》として《国民新聞》に連載された徳富蘆花(ろか)の自伝的な長編小説(1900～1901)。九州で漢学・英語を学んだ菊地慎太郎は，育英塾(いくえいじゅく)の駒井(こまい)哲太郎を慕って四国に渡る。その後上京して，平民新聞の配達夫をしながら苦学，民権運動などを通じてしだいに真の自由に目ざめてゆく。敏子(としこ)との純愛もからんで一種健康な教養小説的色彩をもち，当時多くの青年を魅了した蘆花の出世作。〔金子 博〕

おもがい【面掛】面繋・面懸とも書く。轡(くつわ)を固定させるために馬の頭からあごに掛けるひも。首に掛ける部分は首掛け，のどへ回るのは喉連(のどづら)，面部にかかるところを面連(おもづら)という。皮または組みひもでつくられ，色はふつう赤。2筋の大総(おおぶさ)を轡の側面にたらして飾る。

おもかじ・とりかじ【面舵・取舵】船の舵の取り方。船の操舵(そうだ)では，一般に操舵輪を時計回りに回せば船首は右の方に旋回する。このような操舵を面舵といい，この逆に左旋回することを取舵という。また，単に船の右側・左側という意味にも使われる。

おもごけい【面河渓】愛媛県北東部，仁淀(によど)川上流の面河川の渓谷で，上浮穴(かみうけな)郡面河村に属する。急流で，ところどころに滝があり，水が清く，紅葉が美しいので名高く，十和田湖の奥入瀬(おいらせ)川と並び称されている。石鎚(いしづち)山の裏登山口にあたり，石鎚国定公園に属し，松山および高知から国鉄バス，松山から伊予(いよ)鉄道バスの便がある。〈おもごうけい〉ともいう。

おもさ【重さ】物体に作用する重力の大きさ。重量ともいう。ガリレオはピサの斜塔で鋳鉄製の重い球も木製の軽い球も，その重い軽いに関係なく同じ速さで落ちるという事実を発見したが，これは地球上の



オモダカ

すべての物体が，その質量mに比例した力mgで地球に引きつけられていることを意味する。この力を重力というが，物体に働く重力の大きさを物体の重さまたは重量という。厳密にいうと地球上における重さである。質量mは場所によって変わらないが，重さは重力の加速度gの値が場所によって変わるため違ってくる。また，物体の質量と重さとは数値は一致するが，ディメンションは違い，〔質量〕=〔M〕，〔重さ〕=〔MLT^{-2}〕である。したがって，重さ〈何グラム〉とよくまちがって使われるが，これは質量〈何グラム〉ということである。重さの単位は力の単位が用いられ，質量1kgの物体に働く重さは正確には1kg重=9.80ニュートンである。なお，物体が空気や水など気体・液体の中にあるときは，浮力によって真空中の重さとは違ってくる。真空中の重さを真の重さという。➔アルキメデスの原理 〔今淳治郎〕

おもだか【沢瀉】単子葉植物・オモダカ科。池の縁や水田に自生する多年草。クワイに似るが塊茎は小形で食用にならない。葉は矢形で一片は上向し，ほかの2片は斜めに下向して先がとがる。8～10月に20～80cmの花茎が出て，白色花を輪生する。上方に雄花，下方に雌花がつく。日本全土・朝鮮・中国・インド・イランなどに分布する。

おもだせいじゅ【小茂田青樹】(1891～1933) 日本画家。埼玉県川越市の生まれ。旧姓小島，幼名茂吉，小茂田家の養子となり，茂と改名。1908年(明治41)上京して松本楓湖(ふうこ)の安雅堂画塾(がじゅく)に入門，速水(はやみ)御舟を知る。1911～1913年(大正2)まで巽(たつみ)画会に出品，1914年今村紫紅を中心として院展目黒派の赤燿会(せきようかい)に参加，雅号を青樹と改めた。1919年院展落選を機に狭山(さやま)にこもり，翌年松江に仮寓(かぐう)して制作に専念，細密な写生による繊細で個性的な写実主義の画風をみせ，1921年日本美術院同人，1929年(昭和4)には杉立社(さんりつしゃ)を組織したが，42歳で夭折(ようせつ)した。代表作には《出雲(いずも)江角港》《虫魚画巻》などがある。〔陰里鉄郎〕

おもちゃ ⇨玩具(がんぐ)

おもてかた【表方】劇場用語。裏方に対する名称で，舞台の幕を境にして，表のほうで働く興行経営の関係者をいう。座主である座元，資本を出す金主，事務担当の奥役をはじめ，看板係・木戸番・下足番などを含む。明治以後は，興行形態が変わり，守衛・下足番・雑役人など劇場表側の労働業務に携わる人たちのみを総称するようになった。

おもてせんけ【表千家】江戸初期に利休流から分かれた茶道の一流派。裏千家・武者小路(むしゃのこうじ)千家とともに3千家の一つである。利休の次男千少庵(しょうあん)が利休の茶室を復原した不審庵をもととする。それを利休の孫千宗旦(そうたん)が継いだが，宗旦の三男江岑斎(こうしんさい)宗左のとき，不審庵表千家4世を唱えた。千家の正系といわれて，代々格式の高さを誇る。表千家は，久田家と堀内(ほりうち)家を京都の両翼とし，名古屋の吉田(よしだ)家を表玄関と称し，千家同門会を組織し，全国的に支部を設けている。東京都や大阪市にも稽古所(けいこじょ)をつくり，家元がじきじき出張する方策を立てている。〔桑田忠親〕

おもてせんけふはくりゅう【表千家不白流】江戸中期に形成された茶道の一流派。表千家7世如心斎宗左の高弟川上不白を流祖とする。不白は師命を帯び，江戸に下り，江戸の町々に表千家流の茶道を広めた。不白の直系の子孫は絶えたが，傍系が川上宗順を家元として，表千家不白流を称した。上野池の端(いけのはた)の川上宗雪の江戸千家とは，別派といわれている。

おもてにほん【表日本】本州の太平洋側をいい，裏日本に対する呼称である。表日本式気候という場合は，北海道や四国・九州の太平洋側をも含めた気候をさす。冬には晴天の日が続き，夏は高温多湿で，特に梅雨と台風による雨が多い。一般に二毛作が行なわれ，農業は多角的であり，工業もよく発達し，いわゆる太平洋ベルト地帯をなしている。人口密度が大きく，首都東京や横浜をはじめ，大阪・神戸(こうべ)・名古屋などの大都市が集中し，太平洋メガロポリスを形成しつつある。〔浅井得一〕

おもてま【表間】裏間とともに日本音楽，特に近世邦楽の拍子を構成する要素。西洋音楽のアクセントのある拍，すなわち強拍にあたり，リズムを形成する際の核となる。強拍と同じく，表間も音量的に強い音である必要はなく，表間と表間の間の時間的間隔が一定に保たれる傾向にあるなど，音楽を構造化する機能の強さをもったものと考えられる。➔裏間

おもと【万年青】単子葉植物・ユリ科の多年草。本州の東海道以西，四国・九州・中国に分布。根茎は太く，横に伸びる。葉は根茎の頂から9～12枚束生し，質厚くつやがある。5～6月，白色小花が茎に密着して棒状につき，秋に球形の液果が赤熟す

る。多くの葉の変わり物ができるため，園芸品として，享保(きょうほう)年間(1716〜1736)に栽培されはじめ，文久年間(1861〜1864)に最も流行した。多くははち植えにされ，非常に高価なものもある。栽培ははち植えにし，砂・鹿沼土(かぬまつち)・木炭片を混ぜたものを用いる。夏は直射を避け，冬は室内に入れて育てる。繁殖は株分けと実生による。根茎には溶血作用の著しいロディン($C_{30}H_{44}O_{16}$)が含まれるので，強心剤・利尿剤として利用される。〔横井朝子〕

おものがわ　【雄物川】　秋田県南部，山形県との境にある丁岳(ひのとだけ)山地の雄勝峠付近に源を発し，横手盆地を北流，北西に転じて秋田市西北で日本海に注ぐ。流程130km。横手盆地南部では奥羽山脈の水を広く取り入れ，大曲市北部でヒ素を含む毒水河川として有名な玉川が合流する。かつては，河口の秋田港から横手盆地まで舟運が盛んであったが，鉄道開通後は衰えた。流域一帯は深雪地で，雪どけ期の洪水(こうずい)の記録が多く，その対策の一つとして秋田市西南部から日本海に流す雄物川放水路がつくられた。〔長津一郎〕

おもゆ　【重湯】　流動食の一種。米に10〜11倍の水を加えて火にかけ，煮たったら火を弱くして1時間ぐらい煮る。これをガーゼでこし，塩味をつける。乳児や消化力の弱った病人・老人の食事とする。

おもり　【錘】　つりの用具の一種で，針や餌(え)を水中に沈め，道糸を張って魚信(あたり)を鋭敏に感じさせる役目をするもの。したがって水流や潮流の抵抗が少なく，しかも比重の大きいものが適する。古くは石も用いられたが，現在はほとんど鉛を材料とし，紡錘形や球形のものが多い。また，対象魚の種類，水流の遅速，水深の大小などそれぞれの条件に適するようにおもりの研究・くふうが進み，板おもり・かみつぶし・丸形・長円形・角形・引き通し・環つきなど，多様な種類のものがつくられている。なお，おもりで5号・20号などとよぶのは重さを表示したもので，1号は1匁(約3.75g)にあたる。〔清水游谷〕

おもろ　12〜17世紀ごろつくられた沖縄諸島・奄美(あまみ)諸島などに伝わる古代歌謡。〈うむい〉ともいわれ，琉球語の〈思い〉からきた語で，王・英雄・戦争・自然など各種の主題について歌う。古く民間の祭祀(さいし)に歌われた〈うむい〉がのちに王府内で歌われ，おもろとよばれた。尚真(しょうしん)王(1477〜1526)のときより各地のおもろが集められ，全22巻，1,245首を収録する《おもろそうし》(1531〜1623)がつくられた。歌型の特徴は対語・対句・折り返しを使用し，韻律的なことばを音楽的に表現していることである。もっぱらノロや神職によって歌われた。〔山路勝彦〕

おやかた・こかた　【親方・子方】　日常，緊密な生活を営む封鎖的な社会集団の中で，



オモト　(上左)虎額宝　(上右)翁錦　(下左)鷲高隈　(下右)一文字



おもり

指導的立場に立つ有力者と，その指導下にある者との間に成立する支配・従属の関係をいい，特に擬似的親子関係に類するものをいう。社会関係として成立維持される場合には，支配者(親)の保護と被支配者(子)の奉仕の関係を伴って現われる。古く氏族制社会に端を発し，封建社会の強固な身分制度・家族制度のもとにおいて，固定化された。農村ばかりでなく都市においても大家と店子(たなこ)，主人と奉公人などの間でこの関係が生じて発展してきたが，しだいに消滅しつつある。〔根本英美〕

おやかたせいど　【親方制度】　⇨親方・子方

おやこ　【親子】　〈しんし〉とも読む。民法は，いかなる人々の間に親子関係が存在するのか，そして親子関係のある人々の間にいかなる法律効果が生ずるかについて規定している。実親子というのは，生理的な父・母とその間に生まれた子の総称で，実親は実父と実母である。実子は嫡出子と嫡出でない子に分かれる。前者は法律上の婚姻関係にある男女から生まれた子であり，夫から嫡出否認の訴えがないかぎりは，当然嫡出子としての身分をもつ。後者は婚姻をしていない男女間に生まれた子で，母子関係は出産という事実の届け出によって，父子関係はその事実に基づいた認知によって生ずる。かつて，民法上の旧規定は私生子という用語を用い，さらに父が認知した子を庶子といったが，1942年(昭和17)の改正で私生子という用語を廃止し，庶子もまた第2次世界大戦後の民法改正でなくなった。養親子というのは，生理的な親子関係がないにもかかわらず，その間に法律によって親子関係を認めるという擬制的な親子関係である。養親は養父と養母に分かれ，その子を養子という。これらすべての法律上の親子関係に特有な効果は，親の未成年の子に対する監護・養育上の権利義務たる親権である。成年の子と親との関係は，単に一親等の血族であるというだけで，本質的には他の血族との関係と異なるものではなく，その主たる効果は扶養・相続にある。なお，里親・里子という慣習上の制度が古くからあるが，今日これは児童福祉法に規定されている。すなわち，要保護児童を自分の子のように世話することを希望し，里親登録簿に登録した者が里親であり，里親のもとで養育を受ける子が里子である(児童福祉法27条1項－3)。➔家　➔家族制度〔黒木三郎〕

おやこかんてい　【親子鑑定】　親子鑑別ともいう。ある男がはたしてその子の父であるか(父性鑑別)，あるいはある女がはたしてその子の母であるか(母性鑑別)を明らかにすること。もらい子を実子として自分の戸籍に入れておいてあとで取り消す場合や，産院で子を取り違えた場合などに親子鑑別が必要になってくる。法医学上で取り扱われる事例の大部分は，子の認知や嫡出子否認にからむ父性の鑑定で，ある母子の組み合わせと，ある男との間の血縁関係を検査することが多い。また，子の父親と



親不知 北陸道の最大の難所とされた親不知・子不知の険。断崖の縁を北陸本線が走る。近年，トンネル工事と国道8号線の改修工事が行なわれた

して疑わしい男が多数いる場合にも鑑定することがある。親子鑑別するには次の結果を総合的に考察して判定する。①遺伝形質の検査(ABO・MN・P・Q・Rh式などの血液型検査，指紋・掌紋・足紋・顔面各部の諸特徴，毛のはえ方などの人類学的遺伝生物学的検査)，②産科学的検査，③生殖能力の検査を行なう。これらの検査のうち血液型によるものが最も有力であり，この血液型検査により，遺伝の法則に合致しないものは親子関係の否定に絶対的価値がある。しかし，合致する場合にも親子であることの積極的証明にはならないことが多い。その他，耳の形，鼻の形，音声が似ていることなどは親子関係の存在の根拠となるが，その科学的表現法・遺伝形式などが十分明らかでないため，親子関係を肯定する絶対的な資料とはならない。もし親子関係を積極的に肯定できない場合には，鑑定人の主観的判断によらず，各形質の類似度に点数をつけてその総合点をとり，確率や相関を算出するなど，できるだけ客観的判断資料を参考にしなければならない。〔朝倉　了〕

おやこどくしょ　【親子読書】 家庭で子どもが教科書以外の図書や雑誌などを読むのを親がかたわらで聞いてやったり，親が子どもに読み聞かせたりする読書方法。読書を通して親子の精神的交流を図り，子どもの読書意欲を増すことを目的とする。1960年(昭和35)鹿児島県立図書館で始められ，その後全国的運動となった〈親子20分読書〉はその代表的な例である。なお，最近は学校・図書館などでも親子読書会という形式で行なわれている。〔北島武彦〕

おやこどけい　【親子時計】 時間の標準となる一つの親時計と，数多くの子時計との組み合わせ。子時計のほうは，30秒ごとあるいは1分ごとに1回の割で親時計から送られる信号によって遠隔操作される。子時計は調速機をもたず，親時計からのパルス信号を受けて運針するものであるから，多くの子時計に常時正しい時刻を指示させるには，親時計の時間精度が高いことと，パルス信号送り出し機構が高い信頼性をもつことが要求される。高精度を維持するために，JJY



オヤニラミ

信号(→周波数標準)やラジオ時報などで自動的に時間修正する方法をとったり，あるいは振り子の代わりに水晶発振器を用いたりしている。また，パルス信号発生方式には，信頼性向上のためトランジスター式無接点方式が採用されるようになった。1935年(昭和10)国会議事堂に国産の親子電気時計が設置されたが，その親時計は1秒振り子で，子時計は直流24Vで動作する。子時計は，その場所にふさわしい装飾を施して設置されている。〔川中　洋〕

おやこどんぶり　【親子丼】 鶏肉と野菜の卵とじを載せたどんぶり飯。鶏肉と卵の関係をとって，この名がある。小さななべかフライパンに1人まえの鶏肉とネギまたはタマネギ，および調味した煮出しじるを入れ，だいたい煮えたらミツバを散らし，卵を流し入れて半熟ぐらいに煮る。これをどんぶりの飯の上に載せ，もみのりを振りかけてふたをする。鶏肉の代用に牛・豚肉を用いることもあり，この場合は〈まま子どんぶり〉という。〔塩川ふみ〕

おやしお　【親潮】 千島海流の別名。潮流は，ベーリング海からカムチャツカ半島・千島列島の太平洋側を南下して伊豆海嶺(いずかいれい)に至る寒流。秋には三陸沖，春には房総沖で北上する黒潮*(暖流)と接し，潮境(極前線)を形成する。この潮流の発達・減衰と農作の冷害とは関係があるともいわれ，熊野灘(くまのなだ)に周期的に現われる冷水塊も，この流れの潜流に関係があるといわれている。潮境の海域は栄養塩類に富み，プランクトンが豊富なので魚類が集まり，特に秋の潮目*にみるサンマ魚群は有名。日本近海における有力漁場の一つとなっている。

おやしらず　【親知らず】 第3大臼歯(だいきゅうし)の俗称。知歯(ちし)・知恵歯などともいう。顎(あご)の骨の退化に伴ってすでにない人も多い。はえる時期もまちまちで，形も小さくなる傾向にある。いちばん最後にはえてくるため，はえる場所がなく，骨の中に埋もれたままの場合もある。これを埋伏知歯といい，完全に水平位に寝ている知歯を水平知歯とよんでいる。このような埋伏知歯があると，周囲に炎症を起こしたり(知歯周囲炎)，歯嚢(しのう)性歯嚢胞*をつくる原因となったりするので，完全にはえる見込みがなければ抜歯を行なう。〔成田令博〕

おやしらず　【親不知】 新潟県の西端，日本海岸の市振から外波(となみ)に至る海岸。飛驒(ひだ)山脈の北端が日本海に迫って約4kmにわたる断崖(だんがい)絶壁をつくっており，〈親不知・子不知の険〉とよばれて古来北陸道最大の難所とされていた。ここは北西風が卓越するために波の荒い日が多く，絶壁下につけられた街道を行く旅人は親子でも互いに他を顧みる余裕がなかったといわれるところから，こうよばれるようになったという。いまでも隠れ穴跡や，浄土崖・走りこみ・大穴などの名称が残されている。現在，北陸本線はここをトンネルで抜け，国道は舗装されたドライブコースとなっているが，ところどころに設けられた展望台から昔日の姿をしのぶことができる。新潟県立自然公園に指定されている。

おやにらみ　【親睨】 硬骨魚類・スズキ科。10cm止まりの淡水魚。わが国ではスズキ科の純淡水魚はこの種だけである。海産のメバル*に似ており，カワメバルともよばれる。灰かっ色の地に紫黒色の横じまが7～8本通る。えらぶたの後端にオレンジ色の縁どりのある濃藍(のうらん)色の斑点(はんてん)があり，目のようにもみえるので，ヨツメという方言もある。太平洋側では保津川，日本海側では由良(ゆら)川より西の水のきれいな浅い流れにすむ。

おやびっちゃ 硬骨魚類・スズメダイ科。15cm止まりの海産魚。タイに似た形だが，黄と黒のだんだら模様が目をひく。夏季，2～8cmの小形のものが，本州中部以南の岩の多い海岸の浅瀬や潮だまりに群れる。垂直の黒いしまが，本種では5本だが，もう1本多い別種や，尾びれの上下の縁が黒い別類があり，これらと混群をつくることも多い。

おやべ　【小矢部(市)】 富山県西端の市。北陸道の宿場町であった石動(いするぎ)町を中心に，1962年(昭和37)市制施行。人口37,000。小矢部川流域から石川県境に及ぶ広い山地を占める。産業三大別人口比は21：40：39で，付近の農産物を集散し，れんが・ゴム・繊維・木工などの工業が盛んである。北陸本線・加越能鉄道の分岐点で，国道8号線が通じ，古戦場倶利伽羅(くりから)峠が市域内にある。

おやべがわ 【小矢部川】 富山県西部，礪波(となみ)平野西縁を北流して富山湾に注ぐ。流程68km。水源は富山・石川両県境の大門山(1,572 m)。もとは下流で庄(しょう)川と合流し，射水川となって海にはいっていたが，いまは分離されて伏木港を河口としている。礪波平野は米所で，この川の灌漑(かんがい)に果たす役割は大きい。かつては舟運も盛んであった。

おやま 【女形】 ⇨女方(おんながた)

おやま 【小山(市)】 栃木県南東部の市。中世には小山氏の城下町，江戸時代は日光街道の宿駅・市場町，思川の河港として栄え，明治以降も交通の要地として発展した。1954年(昭和29)市制施行。人口12万7,000。市域は，宇都宮(うつのみや)台地を中央に，東部の鬼怒(きぬ)川・田川流域の低地，西部の思川・巴波(うずま)川流域の低湿地と3分される。産業三大別人口比は20：42：38で，首都圏市街地開発地帯に指定され，金属・機械・化学などの近代工業が発達し，付近の農産物の集散加工も盛んである。東北本線・両毛線・水戸(みと)線の分岐点となり，南北に走る国道4号線と東西に走る50号線がほぼ直交する。特産はかんぴょう・アマなど。

おやま 【小山(町)】 静岡県駿東(すんとう)郡の町。県の東北端，富士山の東のふもとに位置する。人口23,000。箱根の山越えによらずに関東地方にはいる通路にあたり，丹那(たんな)トンネル開通までは東海道本線であった御殿場線が通じ，東名高速道路もここを通っている。1896年(明治29)に水車を利用する富士ガス紡績(現在の富士紡績)の工場ができ，のち水車を水力発電に代えて第5工場まで増設，〈紡績の町〉として知られるようになった。1966年(昭和41)に〈富士スピードウェー〉が設けられてから〈カーレースの町〉としても有名になり，そのほか富士霊園・ゴルフ場など諸施設の進出がめざましい。

おやまとくじろう 【尾山篤二郎】 (1889～1963) 歌人。金沢市の生まれ。号は刈萱(かるかや)・無柯亭(むかてい)など。1910年(明治43)に上京，《新声*》の訪問記者，前田夕暮*の《詩歌*》同人を経て，1913年(大正2)第1歌集《さすらひ》を刊行。雑誌《異端》，次に《自然》《芸林》《箜篌(くご)》を発行した。窪田空穂(くぼたうつほ)に私淑し，西行の影響を受け，自由闊達(かったつ)な歌風を開いた。歌集に《明(あか)る妙(たえ)》《清明》，研究に《西行法師評伝》がある。

おゆどののうえのにっき 【御湯殿上日記】 宮中の清涼殿西廂(にしびさし)にある御湯殿上に伺候し，天皇の側近に奉仕した女官が書き継いだかな文の日記。室町中期の1477年(文明9)ごろより江戸末期に至る大部のものが現存している。宮中行事や公家(くげ)の動静を知る貴重な史料である。1477年より1687年(貞享4)までの分は《群書類従補遺》として刊行されている。

おらがはる 【おらが春】 一茶*(いっさ)の代表的な俳文・俳句集。1819年(文政2)57歳の元旦(がんたん)から歳末に至る1年間の随想・見聞の記録に，句を織り混ぜたもの。〈目出度(めでた)さもちう(中)位也(なり)おらが春〉の巻頭吟に始まり，末尾に〈ともかくもあなた任せのとしの暮〉の句をすえ，首尾呼応して一茶らしい凡愚の安心境を述べる。とりわけ愛児さとの成長とその死を悲しむ親心は本書中の圧巻である。晩年の円熟した筆致の中にも野性味が漂い，広く愛読された。



オラン オランの港と市街風景。港をいだくがけの上にフランスふうの近代的ビルやサハラからの原油の貯油所などが立ち並ぶ



オランウータン

オラデア [Oradea] ルーマニア北西部，ハンガリー国境に近い都市。人口14万9,000(1973)。鉄道・道路の要点であり，さらに空港をもつ交通の要地である。機械・紡績・セメントなどの工業が盛んである。12世紀の聖ラジスラス聖堂やマリア-テレジア時代のバロック建築など，歴史的建造物が多い。1083年にローマ時代の集落を基にして建設された町で，1940～1944年間はハンガリー領であった。

オラトリオ [oratorio] 聖譚曲(せいたんきょく)ともいわれる。オラトリオとはカトリック教会で，清められた空間すなわち祈禱所(きとうしょ)を意味する。曲種としてきわめてあいまいな性格をもっている。一般的には，宗教的な題材を扱い，典礼とは直接かかわらないで，教会や演奏会場で演奏される。オペラとは，衣装や動作を伴わないこと，早口の対話がないこと，合唱がより重要視されることで区別される。オラトリオの原型は，中世の典礼劇にみることができる。典礼劇は，典礼時以外に，信徒に聖書をわかりやすく解説するため行なわれたもので，いくらかの衣装と動作を伴い，これに音楽がつけられた。しかし，オラトリオの直接の源は，16世紀中ごろから，ローマで演ぜられるようになったラプレゼンタチオーネとかストリアとかよばれるものである。これらは，相対立するものの対話によって，筋が展開され，この対話にラウダ(イタリアの中世に起源をもつ民衆的な宗教歌)が用いられた。現存する最古のオラトリオは，カバリエルリの《霊と肉との劇》である。

17世紀にはいると，ローマを中心として，オラトリオはますます盛んとなった。17世紀前半にランディやマツォッキらが出て，基本的な形をつくり上げ，17世紀半ばに活動したカリッシミがほぼその形式を確立した。カリッシミの手によって，オラトリオは，オペラ・室内カンタータと並んでバロック時代イタリアの最も重要な声楽のジャンルとなり，彼の作品のもつ流麗な様式はオラトリオばかりでなく，オペラの分野にも多くの刺激を与えた。その後ストラデルラなどに引き継がれたオラトリオはさらにナポリ楽派のアレッサンドロ-スカルラッティらの作品を経て，ヘンデルの諸作品でみごとに完成させられる。また，J.S.バッハの《クリスマス-オラトリオ》はシュッツ以来のドイツの伝統の上に立つものであるが，バロック末期になるとこの作品のように大きな形式のものがつくられるようになる。ヘンデルの《メサイア》，さらに時代が下って，ハイドンの《天地創造》《四季》などはその好例といえるだろう。そしてこの長大な作品でオラトリオのジャンルとしての生命力は尽きたといえる。

19世紀では，シュポールの《最後の審判》やメンデルスゾーンの《エリア》など，さらに20世紀の，オネゲルの《ダビデ王》やストラビンスキーの《エディプス王》のような作品を除いては，今日一般の作曲家の創作意欲をそそるほどのジャンルとはなりえていない。 〔吉田泰輔〕

オラン [Oran] アフリカ北部，アルジェリア北西端の港市。人口32万7,000(1966)。地中海西部に面し，貿易港としての自然条件に恵まれて，商業は首都アルジェよりも盛んである。ぶどう酒・皮革などの農畜産加工物のほか，サハラ砂漠(さばく)の油田で採掘した原油を積み出す。農畜産物加工業・化学工業などの軽工業工場がある。市街はフランス人の建設によるヨーロッパふうの新市街と，原住民の住む旧市街とが混在している。1831年からのフランスの植民地時代は，海軍基地として重要な役割を果たし，その後，急速に発達した。 〔小栗 宏〕

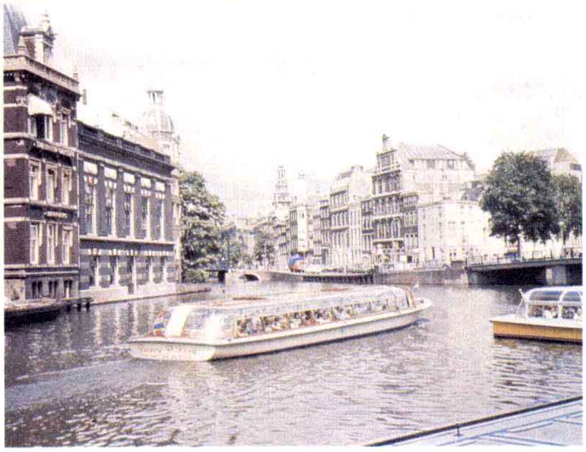
オランイエ(家) ⇨オレンジ家

オランウータン [orang-utan] 哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オランウータン科。ショ



オランダ





オランダ　(上)牧場と風車　乳牛が草をはむのどかな牧場と風車は，いまもオランダの農村の代表的な風物として観光価値を高めている(下)アムステルダム　市内に広がる運河網を縫って，軽快な観光船が毎日行き来している

ウジョウともいう。スマトラとボルネオにすむ類人猿(るいじんえん)の一種。雄の成獣は身長1.36 m，体重70kg。雌の体重はこの約半分。全身かっ色の長毛でおおわれ，雄の成獣にはほおから首にかけて大きなひだがあり，面をかぶったような奇怪な顔になる。熱帯雨林にすむ樹上生活者で，地上に降りることはまれである。1頭ですみ，群れをつくらない。果実が主食であるが，鳥の卵なども食う。巣をつくって寝る。性質は陰気で消極的だが，知能は高い。なお，オランウータンは，現地語で〈森の人〉の意である。➔類人猿

〔河合雅雄〕

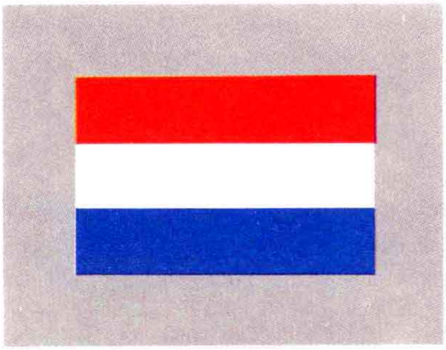
オランダ(王国)［Kingdom of Netherlands, Koninkrijk der Nederlanden］オランダというのは通称で，それは同国の南北ホラント州に由来し，日本では〈和蘭〉の字をあてている。正式名称のネーデルランデンは〈低い国〉の意である。国民はダッチメンあるいはダッチとよばれ，勤勉・質実で聞こえる。北西ヨーロッパの北海に臨み，ライン川・マース川・シェルト川の下流部の低地を占める。ベルギー・ルクセンブルクとともに〈ベネルックス三国〉とよばれ，第2次世界大戦後，3国で関税同盟や経済同盟を結び，ともにEEC*(ヨーロッパ経済共同体)に加入している。面積40,844 km^2，人口1,403万(1979年推)，人口密度は1 km^2あたり344人。首都はアムステルダムであるが，王宮と政府はハーグにある。17世紀以来，商業・貿易面で発展し，海外に多数の植民地をもっていたが，今日では南アメリカに2自治領をもつにすぎない。面積の4分の1が海面より低い干拓地で，オランダ人はみずからの手で国土をつくったといわれている。

〔自然〕国土はライン川とマース川の三角州を占め，国境は自然物によらず，すべて人為的に引かれたものである。西部の海岸に数列の砂丘が走り，その内側は干拓地(ポルダー-ランド)で，東部は砂質土壌(どじょう)と泥炭層(でいたんそう)でおおわれている。南東端の丘陵の322.5 mが国内の最高点である。ライン川北部の平野には氷河堆積物(たいせきぶつ)がちらばり，地味はやせて森林や荒野や沼沢でおおわれ，氷堆石丘が数種の列をつくって走っている。西部は14世紀ごろまで海水が浸入し，小島や湖が散在していたが，15世紀に風車ができてからは，堤防を築いて排水することが可能となり，干拓地がしだいに増加していった。風車による排水は，その後蒸気・ディーゼル・電気ポンプに代わったが，ポルダーは国土の4分の1に達している。20世紀にはいってからはアイセル湖(ゾイデル海)を締め切り，その内側を干拓する大事業が進行している。

北海を流れるメキシコ湾流と偏西風のため，気候は比較的温和である。イギリス東部に比べて冬がやや寒い程度(1月の平均気温2℃)で，運河が凍るのも2週間ほどにすぎず，8月の平均気温も17℃，低平で狭い国土のため南北でも1℃くらいの差しかない。降雨は年間を通じてあり，夏の終わりから秋にかけてやや多く，アムステルダムの年降水量は620mmである。雪は1月と2月にときどき降り，霧が深くて晴天の日は年31日くらいである。国民は夏には休暇をとって外国へ出かけるのが習慣になっている。

植物は一般に乏しく，東部の荒地にヒースがはえ，ほかには雑木林と海岸の砂丘植物やマツがある程度である。木材に乏しく，粘土の多い平地のせいもあって，家屋はれんが造りが特徴である。

〔産業・経済〕地下資源に乏しく，久しく農漁業が主産業であったが，第2次世界大



オランダの国旗　はじめ，16世紀の独立運動の指導者オレンジ家の紋章からオレンジ・白・青の３色がとられたが，1937年に明視度が低く，またオレンジ家の権力を強く表現しすぎるので，オレンジ色を赤に改めて現在の国旗が決まった。最古の三色旗で，多くの国旗に影響を与えた



ゾイデル海の大堤防。長年にわたる工事（1920～1932）のすえ全長約30kmに及ぶ潮止め大堤防が完成し，ゾイデル海はアイセル湖となった

戦後は人口の増加と植民地の喪失から工業化に力を入れ，今日では鉱工業生産が国民総生産の43％を占め，農漁業のそれは９％にすぎない。しかし，農家の経営耕地面積は小さく集約的経営が極度に進められているため，人造肥料の使用量とジャガイモと牛乳の単位面積あたり収量は世界でも最高である。農地は国土の70％を占め，このうち耕地は35％，園芸農地は６％，牧草地は59％で，園芸農業と酪農が進んでいる。農産物の40％が輸出されるが，これはこの国輸出総額の４分の１に達し，練乳の輸出額は世界１位，チーズが２位，バターと粉乳は３位を占める。主要農産物は，小麦・ライムギ・大麦・エンバクなどの穀類と，ジャガイモ・テンサイ・乳製品・食肉（ウシ・ブタ）などである。東部では泥炭地の改良によってジャガイモ・ライムギ・エンバクがもっぱらつくられ，グロニンゲンがジャガイモを原料とするデンプン工業の中心地となっている。園芸農業が盛んなのは，ハーグの南とアムステルダムの南西の地方で，トマト・レタス・キュウリ・花卉(かき)などが栽培される。球根は北ホーラント州のハーレムとライデンの間の砂地につくられ，輸出されている。

漁業は16～17世紀に盛んであったが，今日では国内需要を満たすのみで，北海のニシンを中心にタラ・ヒラメ・サバ・カキなどが水揚げされ，アイセル湖ではウナギがとれる。

地下資源やエネルギー資源には乏しいので，工業化のためには原料を輸入にたよらねばならない。石炭は年産1,145万ｔで，南東のリンブルク州に炭田があるが，ほとんどが西ドイツのルールに依存している。石油も239万5,000ｔを産するが，国内需要の25％にすぎない。1962年に北部地方に1兆1,000億m³の埋蔵と推定される天然ガス田が発見され，さらに北海の探査が進められた結果，イギリス東岸に近いところで大量の埋蔵地域が発見されている。岩塩と粘土は豊富にあり，れんが工業とソーダ工業はこれに依存している。

鉄鉱石はスウェーデン・アルジェリアから輸入され，アイマイデンで製鉄し，銑鉄の輸出は年間約20万ｔで，スズ・亜鉛・鉛なども加えて，金属工業の輸出は全輸出額の約34％を占める。電気機械器具をはじめとする機械類はアイントホーフェン，化学工業はリンブルフがそれぞれ中心地で，製品の半数が輸出される。造船業もまた世界で十指の中にはいる。チョコレート・ココア・植物油・マーガリンなどの食品工業は工業部門中第２位の生産額で，ほかにアムステルダムのダイヤモンド研摩，東部トウエンテには繊維工業がある。

貿易は赤字だが，海外投資や海運収入でその分を補っている。おもな輸入品は機械類・食品・原油・自動車など，輸出品は機械類・石油製品・化学製品・乳製品などで，EEC諸国との取引がその大半を占めている。

国内輸送の半分以上はライン・マース・シェルトの河川と運河による水路交通が占め，国内水路で運搬される物資の量は世界一多い。海運業も盛んで，海運収入は国家の主要な財源になっている。最大の港はライン川河口のロッテルダムで，現在その西に新設中のユーロポートが完成すれば，ニューヨーク港をしのぐ世界最大の施設をもった港となるはずである。航空事業は1919年創設の世界第３位の航空会社であるオランダ航空（KLM*）の独占事業になっている。

〔社会・文化〕 第２次世界大戦では国富の３分の２を失ったといわれ，なかでも植民地のオランダ領東インドの喪失は経済上大きな打撃を受けた。そのため工業化による経済復興を企図したが，古くから商業国として栄えてきたため，依然として貿易・海運・海外投資などによる収益で財政をささえている。またロイヤル-ダッチ-シェル（石油）・ユニレバー（化学）・フィリップス（電気）・AKU（化学繊維）・VMF（機械）などの大企業があって，海外に工場をもち，特にアフリカとラテンアメリカに投資していたため，植民地を失ってもこれらの大企業はほとんど損害を受けていない。

政体は立憲君主国で，現在はユリアナ女王が王位にある。二院制の議会をもち，小党分立の状態だが，カトリック人民党と労働党が比較的多くの議席をもっている。1949年に北大西洋条約機構*（NATO），1951年にヨーロッパ石炭鉄鋼共同体*（ECSC），1957年にEECにそれぞれ加盟した。王室がイギリス王室と関係が深いこともあってイギリスと同じ外交政策をとり，社会主義諸国とも国交を結び，中華人民共和国も1950年に承認している。

宗教はプロテスタントが国民の42％，カトリックが38％を占め，王室もプロテスタントである。毎年数万人の移民をオーストラリアなどに送っている一方，インドネシア共和国独立に伴うアンボン人など数万の難民をかかえている。堅実な中産階級が多く，医療・失業対策・社会保障が整っているが，国民は高い税金に悩んでいる。

文化面では，西ヨーロッパの十字路にあたる位置から，ドイツ・フランス・イギリスの文化・科学を摂取して豊かな文明を築いてきた。伝統のある偉大な文化遺産は，美術（レンブラント・フェルメール・ハルス）と建築（主として教会や公共施設の建造物）にその成果をみることができるが，その反面文学や音楽はあまりふるわない。しかし科学では，物理・化学・天文学にすぐれた学者が輩出し，多数のノーベル賞受賞者を出している。〔野間三郎〕

〔歴史〕 **〈独立前のオランダ〉** ネーデルラント（低地地方）とよばれるこの地は，ほぼライン川を境にして南にはベルガエ人とよばれるガリア系のケルト人が住み，北にはフリシー人，その他のゲルマン諸族が住み，ライン下流のワール・マース川地域には同じくゲルマン系のバタビ人が住んでいた。BC57年ガリアを征服したユリウス-カエサル*はベルガエ人を討ち，その後，紀元１世紀前半バタビ人もフリシー人もローマの支配に服し，南ネーデルラントの地はローマの属州ガリア-ベルギカとして北のゲルマン諸族に対して，ライン川の防御線をもって帝国防衛の役割をつとめた。

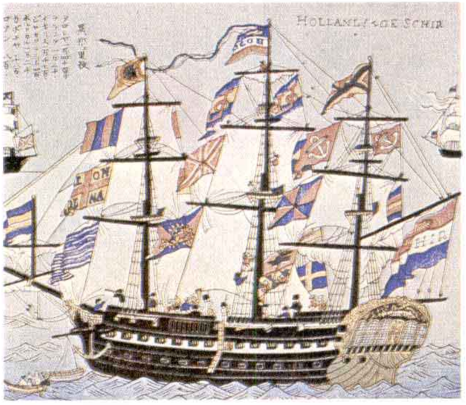
４世紀後半～５世紀のゲルマン民族の大移動期には，海岸地域のフリシー人を除いて，ほとんどフランク族の支配下にはいり，８世紀末にカール*大帝はフリシー人およびこれと結ぶサクソン人を討って，この地を完全に統治下に組み入れた。843年ベルダン条約*によるフランク王国分裂後，この地の大部分はロタール１世の領有するところとなったが，その後東西フランク王国の間でこの地の帰属関係は何回か変わり，また統一的権力の樹立をみることもなく，この地にはブラバント・フランドル・ヘルデルラント・ホラント・ゼーラント・エーノーなどの公領や伯領およびユトレヒト・リェージュ司教領などの小封建国家が分立するようになった。15世紀にはブルゴーニュ公によって，この地域の政治的統一化が行な



オランダ　音楽を楽しむ17世紀半ばごろの農民たち　ステーン《家族の団欒》アムステルダム王立美術館蔵



1677年，オランダはフランス軍に侵攻された。バレンシェンヌを占領するルイ14世(中央)　ベルサイユ宮殿蔵



オランダは鎖国時代の日本と通商を行なっていた唯一の国であった。　江戸末期のオランダ船　長崎市立博物館蔵

われたが，この間，南ネーデルラント(フランドル・ブラバント)は毛織物工業を中心として産業が栄え，中世都市の発展とともに国際商業の中心地となって経済的繁栄を示し，文化的にもヨーロッパの先進地域となっていった。北ネーデルラントはこの南の繁栄には及ばなかったが，北海の漁業や河川を利用しての運輸業などに活発な動きを示し，商工業の発達もみられた。

1477年ブルゴーニュ公女マリーはハプスブルク家のマキシミリアンと結婚し，1482年にマリーが没するとネーデルラントはハプスブルク家の所領となり，16世紀には同家のカール(1519年に神聖ローマ帝国皇帝カール5世となる)がこの地を統治し，1555年カールが隠退すると，その子スペイン王フェリペ2世の統治下にはいった。

〈オランダ共和国〉　ネーデルラントの諸州・諸都市は中世以来の自治的特権をもって経済的繁栄を示していたが，この地を統治するスペイン王フェリペはこの地を王室財政をささえる重要な金蔵として従来の特権を無視して重税を課し，また新教徒を弾圧し，カトリック教を強制する政策をとった。これに対するネーデルラントの反抗は，フェリペの派遣した総督アルバ公の徹底的な弾圧政策の強行に対して，ついにネーデルラント全州の反乱となり，1568年以降それはスペインに対する独立戦争として展開していった。

戦争は長期化し，南ネーデルラントは脱落してスペインの支配下にもどったが，北部7州(ホラント・ゼーラント・ユトレヒト・ヘルデルラント・オーフェルエイセル・フロニンヘン・フリースラント)は1579年にユトレヒト同盟を結び，戦争の指導者オレンジ公ウィレムを総督として戦いを続け，1581年ネーデルラント連邦共和国(オランダ共和国)として独立を宣言した。戦いはなお続き，1584年にオレンジ公は暗殺されたが，その子マウリッツが総督としてよく戦局を好転させ，政治家オルデンバルネフェルトの活躍とあいまって1609年にはスペインと〈十二年間休戦〉を結び，事実上独立国としての地位を確立した。休戦期間終了後，戦いは継続されたが，もはやスペインの国力は下り坂であり，1648年ウェストファリア条約によって戦いは終結し，オランダの独立は国際的に承認された。→オランダ独立戦争

〈共和国の黄金時代〉　17世紀はオランダ共和国の最も発展した時代で，南部が戦乱のうちに経済的衰退を示したのに反して，オランダはよくその経済力を吸引して，アンベルス(アントワープ)に代わってアムステルダムが国際商業・金融の中心地となり，毛織物工業はじめ諸産業が興隆し，東インド会社を中心として東インド各地の植民地を支配し，ジャワのバタビアを東洋経営の中心として，アフリカにケープ植民地を開き，北アメリカ東岸にはニュー-ネーデルラント植民地をたて，強大な海上権力国家として世界貿易を支配した。わが国との交渉も1600年(慶長5)リーフデ号が九州の臼杵沖(うすきおき)に漂着したときに始まり(このときウィリアム-アダムズとヤン-ヨーステンが定住)，1609年平戸にオランダ商館が置かれ，1641年(寛永18)以降は長崎の出島に移され，鎖国日本が通商を行なうヨーロッパ唯一の国となった。そして江戸時代を通じて蘭学(らんがく)は医術その他の知識・技術の新学問としての役割を演じた。

また，文化の上でも自由な市民社会として市民的な学芸の発展をみせ，特に絵画史上では風景画・肖像画などに写実的な芸術性の高さを示すフランドル派の多くの作品を生み，天才レンブラントを生んでいる。

このオランダ市民社会の指導的勢力はアムステルダムを中心とする大商業ブルジョアジーたるレヘンテン(商人貴族)であるが，その政策は必ずしも総督職オレンジ家の指導と合わず，国内政治はしばしば不安定な時期があった。1650年総督ウィリアム2世が急死すると，総督職を置かず，商人貴族の力を代表してデ-ウィットが政治を指導したが，この時期には海上権力国家としての力を伸ばしてきたイギリスがオランダと戦うこととなり，3回にわたって両国の海戦が展開した。特に第3回イギリス-オランダ戦争(1672～1674)のときにはオランダは同時にフランスのルイ14世の大軍の侵略を受けて国土は危殆(きたい)に瀕(ひん)したが(→オランダ戦争)，若年で総督職を継いだウィリアム3世はよくこの危機を克服して戦いを終結させた。やがてウィリアム3世はイギリスの名誉革命によってその妃メアリとともにイギリス王位についたが，オランダの国力はイギリスの発展におさえられ，世界貿易・植民地支配の覇権(はけん)はしだいにイギリスの手に移っていった。

〈共和国から王国へ〉　18世紀前半にはスペイン継承戦争やオーストリア継承戦争などの国際戦争に巻き込まれ，前者のときはイギリスと共同して戦って多くの人命を失うとともに多額の出資に苦しみ，後者のときにはフランス軍の国土侵入を受けて被害も大きく，国勢は二流国の地位に落ちた。同世紀後半には，七年戦争には巻き込まれないよう努めたが，アメリカ独立戦争においては，イギリスにアメリカとの貿易をおさえられたため，他のヨーロッパ諸国とともにイギリスと戦った。その結果はイギリスの海軍に圧せられて不利な条約を結ぶことを余儀なくされ，東インド・西インドにおける数か所の領有地を失った。

18世紀末にはフランス革命戦争の展開に伴い，1794年末革命軍の侵入を受け，総督ウィリアム5世はイギリスに亡命し，フランスに協調する愛国党の主導下に新憲法に基づいて総督制は廃止されて共和制的改革が行なわれ，国名もバタビア共和国(1795～1806)と改められた。その後ナポレオン帝政期になるとナポレオンは弟のルイ-ボナパルトを国王としてオランダへ送り込み，1810年にはこの王国をフランスに合併してしまったが，ナポレオンが敗北すると1815年ウィーン会議によってフランスに対する防壁をつくるため，オランダとベルギーは合併してネーデルラント王国をつくり，亡命中のウィリアム5世の子ウィレム1世が国王

となった。この間，フランスと戦いを続けていたイギリスは，オランダの海外植民地を奪い，ケープ植民地も1814年にイギリスに占領された。

《王国の現代史》 一つの王国として合同されたオランダとベルギーとは言語や宗教も異なり，経済的・社会的諸条件も異質であるため一国家としてまとまっていくことはむずかしく，1830年の七月革命*の影響のもとにベルギーは分離して独立した。そしてヨーロッパにおける自由主義の展開とともにオランダにも自由主義的改革が政治家トルベッケの主導のもとに進み，王権は縮小され，上院改革が行なわれ，責任内閣制の原理がたてられた。19世紀後半のウィレム3世(在位1849～1890)のときにはトルベッケは3度自由党内閣を組織して保守党内閣と交互に政局を担当し，この時期には一般に商工業の発展，運河・鉄道などの整備をみた。

1890年皇女ウィルヘルミナが王位を継ぎ，1898年まで母后エンマが摂政となり，自由主義的な内閣のもとに財政改革・社会福祉政策が進められたが，1894年にオランダ領東インドに深刻な暴動が勃発(ぼっぱつ)し，植民地からの富にかなりの依存度をもつこの国の前途は多難であることを示した。20世紀にはいり，国内には選挙法改正や財政改革を進めるとともに国際紛争を阻止することに努め，ハーグの平和会議開催などを行なった。そして第1次世界大戦にはよく中立を守ったが，工業原料や食料の大部分を輸入にたよっていたオランダの経済は危機に陥った。戦後の政情は安定せず，1926～1927年オランダ領東インドの反乱は深刻な様相を示し，1929年の世界恐慌による失業者の増大，中産階級の没落は社会情勢を険悪にした。

1939年第2次世界大戦が勃発すると，オランダの中立堅持の意図もむなしく，1940年5月ドイツ軍は激しい空襲とともに侵入し，ウィルヘルミナ女王とオランダ政府はロンドンへ亡命し，本国は以後4年間ドイツの占領下に置かれた。また1941年12月太平洋戦争が起こるや，オランダ政府は対日宣戦布告を行ない，日本軍は東インド各地を占領した。ドイツ占領下の本国ではドイツ軍に対するレジスタンスやサボタージュの運動が盛んに行なわれたが，食料不足は深刻であり，2万数千人が餓死(がし)したといわれる。1945年5月ドイツ軍の降伏とともにオランダ政府は本国にもどり，1948年ウィルヘルミナ女王は皇女ユリアナに位を譲った。

第2次世界大戦後のオランダは経済状態の悪化が著しく，戦時中の堤防決壊や工場設備の破壊によって農業・工業は大きな打撃を受け，東インドへの投資はこの地域の独立運動の展開によってほとんど無に帰し，輸送設備も商船数も激減していたが，1947年にはマーシャル-プランの援助を受け入れ，ベネルクス関税同盟を結んで経済復興に努め，1949年には北大西洋条約機構に加盟，1959年にはEEC(ヨーロッパ経済共同体)の構成国となり，西ヨーロッパの有力な国として福祉国家完成への道を進んでいる。〔保坂栄一〕



オランダガラシ

オランダいがく 【オランダ医学】 鎖国政策をとった江戸時代を通じて日本へ渡来を許された唯一の西洋国家であったオランダは，西洋学芸を日本へ仲介したことでもまた重要な役割を演じていた。これと同様なことが医学の場合でもいうことができるので，そのときまでの西洋医学が南蛮医学と総称されていたのに対して，これをオランダ医学とよんでいる。初期のオランダ医学で大いに活躍したのは長崎出島の蘭館(らんかん)の医官たちで，これらの人々は程度の差はあったがきびしい監視を受けながら，患者を診療したり，日本人医者たちの医薬に関する質問に答えたりしていた。第2の時期は1771年(明和8)に江戸で始まったオランダ語医書の日本語(実際は漢文)翻訳である。杉田玄白*・前野良沢*・中川淳庵(じゅんあん)その他の同志らとともに行なったクルムスの《解剖譜》のオランダ語訳書の翻訳書《解体新書*》は，西洋医学書訳述の起こりをなした。本書が出てからオランダ語医書の翻訳が次々と行なわれるようになり，耳で聞き，手まねで覚えたこれまでのオランダ医学は一層確実性を増し，一段と広く行なわれるようになった。第3の時期と考えられるのは1823年(文政6)に来日したシーボルト*と1847年(弘化4)に渡日したポンペによって伝えられた西洋臨床医学に関する知識と技術である。これによってオランダ医学の診療の実際がはじめて日本へ紹介されたわけで，これによって日本の医学の近代化への途が開かれたということができる。この意味でシーボルトとポンペとが日本の医学の発展に寄せた貢献はことに大きい。〔大鳥蘭三郎〕

オランダがらし 【和蘭芥】 双子葉植物・アブラナ科。ヨーロッパ原産の多年草。明治の初めに日本にはいり，葉を食用としたが，繁殖力が強く，いまでは各地の清流中に野生状態でみられる。茎は下部では横にはい，上部では直立して高さ50cmに達する。葉は1～4対の羽状の切れ込みがある。初夏，茎の頂に白色の十字花を多数つける。ウォータークレス・クレソンともよばれ，柔らかい葉はサラダや洋食の添えものとして広く使われている。

オランダご 【オランダ語】 オランダおよび南アメリカのオランダ領ギアナの公用語。また，ベルギー北部・南アフリカ共和国・インドネシアでも話す人が多いので，使用者は2,000万人に達すると推定される。インド-ヨーロッパ語族*ゲルマン語派*西ゲルマン語群に属する。ドイツ語*とは兄弟関係にあるが，ドイツ語にみられるような品詞の複雑な語尾変化をオランダ語は動詞以外のすべての品詞において失いつつある。わが国では，215年間にわたる徳川幕府の鎖国時代にも，オランダにのみ通商を許したので，西洋文明の摂取にオランダ語は大きな役割を果たした。大槻玄沢*(おおつきげんたく)の《蘭学階梯(らんがくかいてい)》(1788)，玄沢門下の稲村三伯らの《波留麻和解(ハルマわげ)》(1796)などは当時のすぐれたオランダ語の文法書・辞書である。〔崎山　理〕

オランダこうくうがいしゃ 【オランダ航空会社】 ⇨KLM

オランダしょうかん 【オランダ商館】 江戸時代，日本にあったオランダ東インド会社*の支店。1609年(慶長14)平戸に設置され，1641年(寛永18)幕府の鎖国*政策により長崎の出島に移転して幕末に至った。江戸時代を通じて中国とともに対日貿易を独占し，日本にとって西洋文化との唯一の接点となった。商館長(甲比丹*(カピタン))以下が駐在し，日本での蘭学(らんがく)の発達に大きな役割を果たした。商館長ははじめ毎年，のち5年ごとに江戸で将軍に謁見し，貢献した。1858年(安政5)長崎開港後は領事館となった。〔松尾　涼〕

オランダせんそう 【オランダ戦争】 1672～1678年，フランスのルイ14世がオランダにしかけた侵略戦争。ルイ14世は，かねてからフランスの北西境をライン川まで拡張する機会をねらっていたが，さきのネーデルラント戦争(1667～1668)におけるオランダの反抗を恨んで，侵略に乗り出した。しかし，オランダは堤防を破壊して洪水(こうずい)作戦をとり，ドイツ・スペインなどと結んで抵抗したため，フランスは侵略に失敗し，ナイメーヘンの和約*を結んでオランダから撤退した。〔大野真一郎〕

オランダつうじ 【オランダ通詞】 ⇨通詞

オランダツツジ ⇨アザレア

オランダどくりつせんそう 【オランダ独立戦争】 スペイン領ネーデルラントと本国スペインが約80年間戦い，オランダの独立が達成された戦争。ネーデルラントは中世以来，毛織物工業と国際商業で栄え，16世紀中ごろにはカルバン主義が広まってい

た。これに対してスペイン国王フェリペ2世は，カトリック主義に基づく専制政治を強化し，財政収入の増大を図るために都市の自治権を制限し，諸種の重税を課した。そのため，ネーデルラントではオレンジ公ウィレムやエグモント伯らの指導下にカトリック教徒をも含む広範な抵抗が起こり，1566年には全ネーデルラントが反乱状態に陥った。これに対してフェリペ2世は1567年，残虐をもって知られるアルバ公を総督に任じ，徹底的な弾圧を試みたが，ウィレムは1568年以降，〈海の乞食(こじき)党〉(海軍)を活躍させてスペイン艦船を攻撃するなど激しい抵抗を行ない，反乱は独立運動の性格をもつようになった。フェリペ2世はカトリック教徒の多い南部10州(のちのベルギー)を脱落させようとし妥協策を講じたため，南部は1579年，スペインと和を結んだ。しかし，この妥協を不満とする商工業者は北部にのがれて独立運動を続け，一方北部ではホラント州など7州が同年ユトレヒト同盟を結んで団結を固め，1581年には独立宣言を発してウィレムを総督とするネーデルラント連邦共和国(オランダ)を成立させた。スペインはなおもオランダの抑圧を図ったが，1588年，無敵艦隊がイギリス海軍に敗れたため現実にはオランダの独立を承認せざるをえなくなり，1609年オランダとの間に休戦条約を結んだ。次いで1648年のウェストファリア条約でオランダの独立は国際的に承認された。〔松　俊夫〕

オランダふうせつがき【オランダ風説書】江戸時代，鎖国中にオランダ船が長崎に入港するたびに幕府に提出した海外情報。オランダ通詞が翻訳して長崎奉行(ぶぎょう)を通じて幕府に提出した。これにより幕府は世界情勢を知り，幕末のペリー来航も事前に予知しえた。開国後は，風説書に代わってオランダ本国とバタビアで発行する新聞を献上するようになった。これを幕府の洋書調所で翻訳したのが《官板バタビア新聞》である。〔松尾　涼〕

オランダぼうえき【オランダ貿易】⇨長崎貿易

オランダまんざい【阿蘭陀万才】19世紀初期にオランダから伝えられたオルゴールをまねた箏(そう)の調弦法〈オルゴール調子(阿蘭陀調子)〉を使って，市浦検校(けんぎょう)が地歌・箏曲の《万才》に三味線(しゃみせん)の本手に対して，箏の替手をつくった曲。新鮮みのある合奏で，当時人気を博した。なお，長崎の御九日(おくんち)の奉納踊りの一つに同名のものがある。

オランダりょうギアナ【オランダ領ギアナ】⇨スリナム

オランダりょうひがしインド【オランダ領東インド】現在のインドネシア領土の第2次世界大戦までの呼称。オランダは17世紀初頭以来この地域に進出し，ジャワ島のバタビア(現在のジャカルタ)に東インド会社を設立してしだいに全群島を植民地化した。その結果，面積では本国の60倍，人口では10倍の地域を支配して，各地で生産される砂糖・茶・キナ・ゴム・コーヒー・石油・スズなどの権益を占有することとなり，これによってオランダは富裕な国となったが，インドネシアの独立によってすべてこれを喪失した。〔別技篤彦〕



オリエンタリズム　ドラクロア《アルジェの女たち》(部分)1834　ルーブル美術館蔵

オーランド(諸島)［Åland］ヨーロッパ北東部，ボスニア湾口にある6,500の島島よりなる群島。総面積1,500km²，総人口21,000(1960)。住民はスウェーデン系で，主島オーランド島を中心に住み(人口15,000)おもに沿岸漁業を行なっている。12世紀スウェーデン人が居住したが，その地理的位置からロシアとの間に係争がくり返された。1921年，国際連盟の決定によってフィンランド領となったが，本国に対してきわめて自立意識が強い。〔大崎　晃〕

おりいと【織り糸】⇨糸

おりいろ【織色】主として，中世以降の公家(くげ)装束に用いられた色目の一種をいう。経(たて)・緯(ぬき)それぞれ異なった色に染めた糸で織った練貫(ねりぬき)(練緯)をさす。経と緯が異色のため，見る角度によって異なった色相を呈する。今日，一般にいわれている玉虫(→甲斐絹(かいき))と同じである。

オリエンタリズム［Orientalism］東方趣味。美術史上では，おもに，19世紀フランスのロマン派の画家が中近東・アフリカなどの強烈な色彩，異国情趣豊かな風俗・光景を好んで描いたことをさし，ドラクロアがその代表的な作家とされる。これは，ナポレオンのエジプト遠征を契機に，東方世界との接触が急速に拡大し，それに伴って増大した東方旅行の影響を物語っている。なお，古典派のアングルが《オダリスク》《トルコ風呂(ぶろ)の女たち》などを残していることは，これが当時の一般的な芸術傾向であったことを示している。〔古川俊英〕

オリエンテーション［orientation］〈方向づけ〉〈指針〉の意。教育・経営・精神科学の用語。学校教育においては，入学時に学校生活に適応させるための指導的行事，あるいは学習指導にあたって，児童・生徒の思考・行動をその単元の目標に向かわせるための導入的指導をいう。いずれにおいても，児童・生徒が主体的・能動的に参加できるように，内容・方法についての綿密な計算と慎重な配慮が必要である。

オリエント［Orient］ラテン語のオリエンス(oriens)に由来し，〈日出ずるところ(東方・東洋)〉を意味する。オクシデント(西方・西洋)に対することばである。

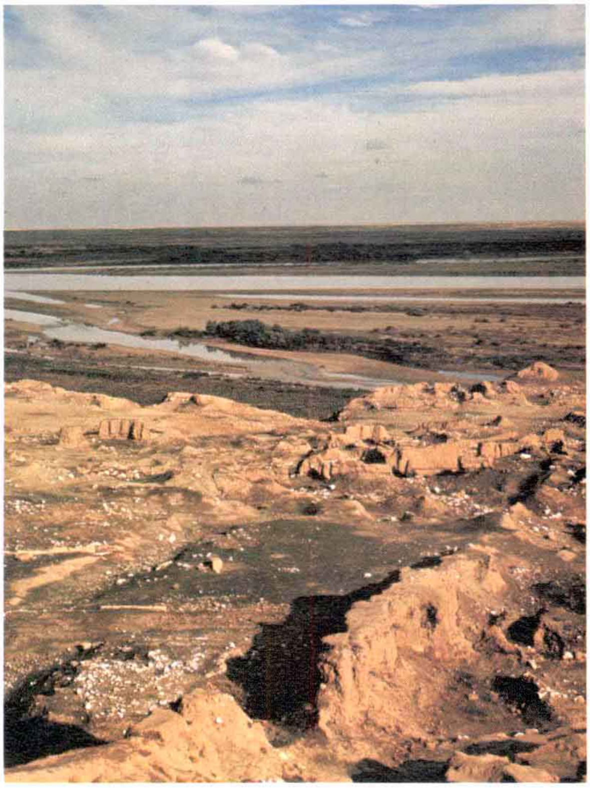
【地域】元来はその当時知られていた東方の地，すなわち地中海東岸地域をばくぜんとさしたが，地域的知識の拡大とともにその範囲も広がった。現在では，広義にはアジア，東洋全体をさすが，狭義には〈中近東〉にほぼ対応する西南アジアとエジプトを含めた地域をさし，一般には後者が用いられている。大部分が乾燥地帯に属し，セム系・インド-ヨーロッパ系・トルコ系の諸民族が活躍する。

【歴史】BC6000年紀ごろ北部山地の南麓(なんろく)地帯，いわゆる〈肥沃(ひよく)な三日月地帯〉に農耕が始まり，やがてチグリス川・ユーフラテス川およびナイル川の流域に大規模な灌漑(かんがい)農業が発達し，BC3000年ごろ最古の都市文明(メソポタミア文明およびエジプト文明)が成立した。交易圏・文化圏の拡大と，文明社会の征服をめざす遊牧民がひき起こすたえざる民族移動とはオリエント世界の統一を促進し，紀元前8世紀にアッシリア，紀元前6世紀にはペルシア帝国が全域を統一した。BC330年，アレクサンドロス大王によるペルシアの征服までが古代オリエントとよばれる。以後ヘレニズム諸国が分立するが，7世紀のイスラムの征服によりほぼ完全にイスラム化し，イスラム系の諸王朝が興亡した。15世紀以後オスマン-トルコ帝国がほぼ全域を支配するが，19世紀から西欧列強の進出が始まり，第1次世界大戦によるトルコ帝国崩壊後は民族運動が激化し，第2次世界大戦後に誕生した多数の独立国は植民地からの脱却と近代化をめざしている。

【文化】古代においては，灌漑のための共同作業の必要から強大な王権が成立し，神または神の代理人の統治する宗教的色彩の濃い国家を形成した。王権の保護の下に，それを賛美するものとして建築・絵画・彫刻が発達し，統治の必要上文字が発明され(楔形(くさびがた)文字・ヒエログリフ)，それはフェニキア-アルファベットを経てギリシアに伝えられた。灌漑農業のための実用的な科学的知識が発達し，太陽暦，1日24時間制，60進法，円の360°分割などが行なわれた。宗教は最初多神教であったが，ペルシ

オリエント

(左)チグリス川に臨むアッシュールの遺跡。BC614年メディア軍に破壊されるまで，アッシリア帝国の首都として栄えた
(右上)新バビロニアの首都バビロンのイシュタル門。彩色れんがには聖獣の浮き彫りが施されている
(右下)ペルセポリス。BC330年アレクサンドロス大王によって征服されるまで，ペルシア帝国の王宮所在地であった





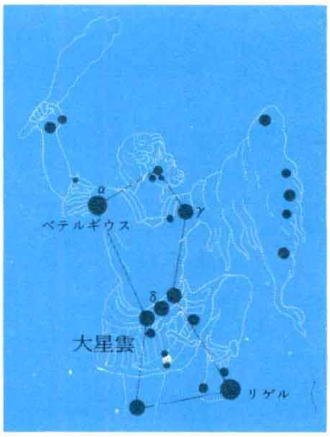


アに二神教のゾロアスター教が生まれ，ヘブライ人の一神教ユダヤ教はキリスト教・イスラム教の母胎となった。ヘレニズム文化におけるギリシア文化の影響はイスラム文化に継承され，固有のイスラム諸学のほかにギリシア哲学・科学を保存し，これをヨーロッパに伝えた。〔屋形禎亮〕

オリオール［Vincent Auriol］(1884～1966) フランスの政治家。社会党に属した。財政政策に精通し，1936年人民戦線内閣の蔵相となって平価切り下げを断行した。第2次世界大戦中はレジスタンス運動に活躍し，解放後は1947年第4共和制の成立とともにその初代大統領に選ばれた。

オリオン［Orion］ギリシア神話の巨人で，美男のかりゅうど。ポセイドン*の子で海の中を歩くことができた。また一説には，ヒュリエウスがゼウス*・ポセイドン・ヘルメス*を歓待したおり，神々からどんな望みもかなえてやるといわれて子どもを請うたところ，神々はウシの皮袋に小水をし，これを埋めるよう命じた。時を経て皮袋からオリオンが生まれたという。キオスの王オイノピオンの娘メロペに求婚したが王に欺かれ，盲目にされた。のち視力を回復し，復讐(ふくしゅう)しようとしたが果たせなかった。彼の死にはさまざまな話があるが，一般にアルテミス*を犯そうとして女神の怒りに触れ，その放ったサソリに刺し殺されたという。ホメロス時代からオリオン座*と同一視され，天空においてもさそり座からのがれようとする姿をとっている。〔松田　治〕

オリオンざ［オリオン座］冬の南天を飾る明るい星に富んだ星座。ほぼ同じ間隔を保って1列に並んだ三つ星と，それを囲んで，1等星および2等星それぞれ2個ずつで形づくる大きな四辺形が目印。この星座にはガス星雲*が多く，肉眼で見ることのできる有名な散光星雲*(オリオン座ガス星雲*)や，ウマの形をした暗黒星雲*などが存在する。➔星座



オリオン座



オリオン座ガス星雲

オリオンざガスせいうん［オリオン座ガス星雲］オリオン座に見える，全天で最も明るい散光星雲*。距離は1,500光年，視直径約1°，鳥が羽を広げたような形をしている。中心部の高温度の光を受けて発光するガスは，約10km/秒で膨張運動をしている。質量は太陽の質量の約100倍，星雲として輝きはじめてからの年齢は10万年以内と推定される非常に若い天体である。

おりがみ［折り紙］紙を素材とした美術造形の一。紙が製造されたときには，どこの国にあっても，自然に始まっていたと考えられる。わが国では，皇大神宮に伝えられたという神体をかたどった折り紙が最も古く，そのなごりは，現在も行なわれている祓(はらい)の形代*(かたしろ)にみることができる。祭具の幣(ぬさ)・垂紙(しで)も切り込み折り紙*でつくられているが，このような信仰を対象としたもののほかに，冠婚葬祭などに用いる〈儀式用折り紙〉があり，今日でも，進物用の折熨斗(おりのし)，婚礼用の目録包み，雌蝶(めちょう)・雄蝶などは実際に使われている。また，上申書や命令書に奉書紙を横に二つに折って用いる書式を〈折紙〉といってもいた。こうした象徴的な折り紙のほかに，極意の伝承や秘伝書などの偽物を防ぐために，書翰(しょかん)の余白の大きさをまえもって相手方と決めたり，余白の一部に折り目をつける書式も生まれている。

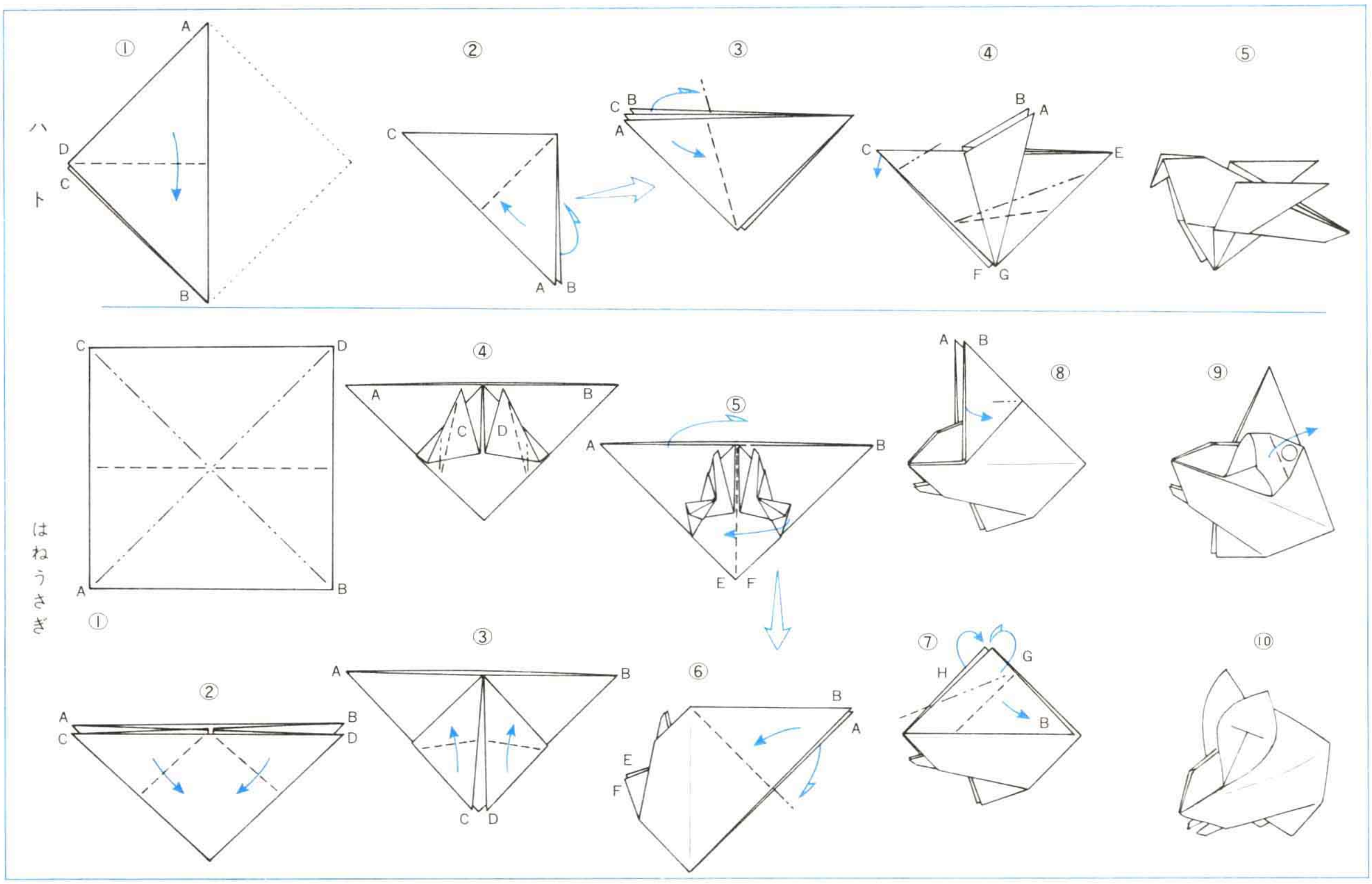
折り鶴(づる)・かぶと・三方・宝舟・奴(やっこ)さんなどの〈遊戯折り紙〉は，室町時代から少しずつ行なわれてきて，大正時代までにはおよそ150種が数えられた。これらの折り紙は，四角な紙に切り込みを入れて人



雲海のツル



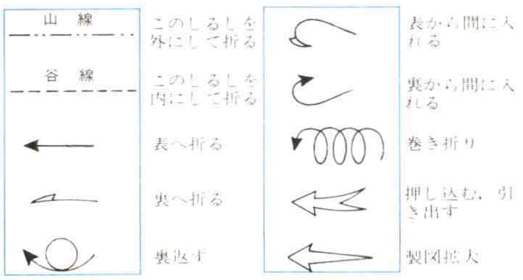
十二神将の幻想



折り方　〔ハト〕①正方形の紙を対角線に折り，さらに二つに折る。②ＡＢを折る。③ＡＢを折り返す。④Ｃの部分を折り込んで頭を作り，ＦＧをかるく開いて，Ｇに山線と谷線で折り目をつけ，Ｆも同様に折る。⑤できあがり。
〔はねうさぎ〕①正方形の紙に山線と谷線に折り目をつけ，②のように折りまとめる。②ＣＤを折り下げる。③ＣＤを折る。④ＣＤにななめに段をつける。⑤Ｆを左に倒し，Ｅと合わせ，Ａを裏側に折ってＢに合わせる。⑥ＡＢを外側に折る。⑦山線の位置でＧＨを折り込んでから，谷線の位置でＢとＡを折り上げる。⑧耳を⑨のように広げ，○印のところを押しつぶし，谷線に折り目をつけながら矢印(やじるし)に引き出して形を整える。⑩耳のつけ根のところを持って，口から息を吹き込むと，前から見た形が三角形になって，できあがり。

創作　吉沢　章

折り方記号



形などをつくったのがもとで，裁縫の予備教育になっていたようである。〈押し絵折り紙〉といって，折り紙の人形に胡粉(ごふん)で下地をして目鼻を描き入れ，衣装に錦(にしき)や綴織(つづれおり)の布裂(ぬのきれ)をはりつける手法も古くから行なわれていた。また，折りたたみ・開きを変えることによって変わった絵や図柄が出る〈変わり絵折り紙〉は，おもちゃ絵をはめ絵ふうに印刷したもので，折り鶴八変化・獅子舞(ししまい)・変化福助その他がある。

折り方の本としては，1797年(寛政9)発行，魯縞庵(ろこうあん)義道の《千羽鶴折形》があり，正方形がたくさんできるように1枚の紙に切り込みを入れ，おのおのの四すみを切り離さずに折り鶴を折る折り方が49種類紹介されている。1845年(弘化2)の写本，足立(あだち)一之の《何哉等草(かやらぐさ)》には，小笠原(おがさわら)流折り紙や雛人形(ひなにんぎょう)・動物などの折り方がある。なお，実物では，1728年(享保13)作の《五百折箱》が最も古く，これには香道や茶道などに用いる折居(おりすえ)の表に，*算額の図案や当時の風物などのいろいろな形が折り出されている。

明治の後期から大正にかけて，こうした折り方の一部が〈教育折り紙〉として幼稚園や小学校の教材になり，一辺の長さ15cmぐらいの正方形の色紙が市販されるようになった。昭和にはいってからは創造的教育が盛んになったため，これらの折り方が直線で形造った紙のかどとかどや切り口と切り口を合わせる機械的な操作であって，模倣のくり返しに終わるとして1954年(昭和29)のユネスコ主催，美術工芸教育国際研究会議の際に，教材のわくからはずされた。しかし，自由表現による造形折り紙は，図形と立体との関係や形と数値との関連などの学習に役だち，情操教育の面でも効果が認められている。

〈創作折り紙〉は，切り込みやのりづけをせずに紙自体の質や色調だけで，面と線の屈折によって造形美の創造がなされる。その表象形式は概して立体的であるが，テーマによって形式は自由で，対象を写実的・象徴的・抽象的に表現する創作が行なわれている。用紙の形は，原則として，星形のような凹形(おうかた)を除けば自由である。大きさ1mを越える作品は，厚口の紙に水で柔軟さを与えて造形美を強調する手法をとる。室内装飾や実用として，ランプシェード，折り紙のモビール，クッキングホイルでつくったさらやコップ，紙ナプキンの食卓飾りがある。また，パッケージ-デザインなどにもすぐれたものがつくられている。こうした紙造形の可能性を追求する一方，学問的な裏づけとして，現在は教育心理学・造形心理学・精神衛生学などを折り紙に導入し，幼児教育や学校教育に成果をあげている。また，科学する折り紙造形は，人間生活と



折口信夫

物とのかかわり合いの本質の理解に役だつので，意義深い。その応用は，身体の機能障害を除くためのリハビリテーションや精神病の治療の一助として，研究が進められている。

外国にあっても折り紙の研究家や著書は多い。スペインの*ウナムーノの折り紙は欧米にかなりの普及をみせていたが，オランダ(1955)・アメリカ(1959)で催された吉沢章(よしざわあきら)の作品の展示がヨーロッパや南北アメリカに広く反響をよんで，現代の折り紙の主流をつくり，日本語の〈折り紙(ORIGAMI)〉が世界共通語となるに至った。現在，フランスのレグマンが折り紙の歴史文献学者として有名である。なお，1954年には国際折り紙研究会(日本)が創設され，ニューヨークにも同会の支部ができて，世界各地の折り紙グループと盛んな交流を続けている。〔吉沢　章〕

おりく　【折句】 雑俳種目。五・七・五の各句の頭に物の名の一文字ずつを分け置いたもの。もともとは和歌の題詠形式であったが，連歌・俳諧(はいかい)にも多少試みられ，雑俳では庶民間に大流行した。〈おもしろやふたり漕(こ)ぎゆく宝舟〉(お・ふ・だ)〈寝所でねずみがちわも猫(ねこ)の留守(とめもり)〉(寝所・ねずみ・猫の同一文字〈ね〉の課題)など。

おりくちしのぶ　【折口信夫】 (1887～1953) 国文学者・民俗学者・歌人。号は釈迢空(ちょうくう)。大阪府西成郡木津村(現大阪市浪速(なにわ)区)に生まれ，1910年(明治43)国学院大学国文科卒業。国学院・慶応義塾(ぎじゅく)両大学の教授として多くの研究者を育成し，1932年(昭和7)文学博士となる。1917年(大正6)《*アララギ》同人となり，1924年北原*白秋・古泉千樫(ちかし)らと《*日光》を創刊する。また鳥船社を創設して後進の指導にも努めた。1948年には詩集《古代感愛集(かんないしゅう)》により芸術院賞を受賞。また，演劇・芸能史にも論著が多い。一方，1913年《郷土研究》に《三郷巻説》を投稿後，柳田国*男の知遇を得て，民俗学の開拓に努め，民俗学の成果を導入した独自な古代文学研究をなした。主著に《春のことぶれ》(1930)《古代研究》3巻(1929～1930)《日本文学の発生序説》(1947)その他があり，全集全31巻がある。〔直江広治〕

オリゲネス　[Origenes Adamantius] (185,186～254,255) ギリシアの教父。生涯(しょうがい)は主として*エウセビウスの《教会史》によって知られる。アレキサンドリアに生まれ，教義学校でクレメンスに学び，その跡を継いで学長となった。異教文化にも深く通じ，のちアレキサンドリアを追放された。プラトン哲学の影響で，彼自身は教会の正統を離れたが，その教説や聖書解釈学は後世に重大な影響を及ぼした。《旧約聖書》のヘブライ語原典とギリシア語諸訳とを比較対照した《ヘクサプラ》が有名であるが，ほかに《原理論》など多くの著書がある。〔左中庸博〕

おりこ　【織匠】 *ハウプトマンの5幕劇(初演1893年)。1844年にドイツのシュレジエンで起きた，紡織工の飢餓暴動に取材した群集劇である。織工の悲惨な生活，一揆(いっき)の蜂起(ほうき)，その挫折(ざせつ)の経過などの描写に，*自然主義の手法を用いて成功した一種の革命劇として世界的に有名であり，わが国でも数回上演された。

オリザニン　[oryzanin] 脱脂米糠(こめぬか)のアルコール抽出物から得られた抗神経炎作用物質。1910年(明治43)*鈴木梅太郎によって命名された。かっけの治療に用いられたが，のちにビタミンB_1を多く含むビタミンB類の複合体であることが知られた。現在は三共製薬ビタミンB_1剤の商品名となっている。➔ビタミン

オリサバ(山)　[Orizaba] メキシコ東部，ベラクルス州の中央部にある円錐(えんすい)形の火山で，同国の最高峰。標高5,658m。シトラルテーペトルともいわれる。1687年以来休火山となっている。

おりたくしばのき　【折たく柴の記】 新井(あらい)*白石の自叙伝。寵恩(ちょうおん)をこうむった将軍徳川家宣(いえのぶ)の5回忌にあたる1716年(享保1)に筆を起こし，祖父・両親のこと，自身の経歴，家宣の政治的業績，また，家宣の死後吉宗(よしむね)が立つまでの幕府関係の事がらの回顧録である。格調の高い雅文体で，豊かな文学性にあふれている。近世かなまじり文の代表作であるとともに，江戸中期の重要な政治資料でもある。

オーリック　[Georges Auric] (1899～) フランスの作曲家。1913年パリ音楽院の聴講生としてオルガンと作曲を学び，スコラ-カントルムで*ダンディにも師事した。オネゲル・ミヨーらと知り合い，〈*六人組〉を結成して作曲活動を始めた。純音楽の作品は少ないが，〈六人組〉の理論的指導者であり，*コクトーの映画につけた音楽(《美女と野獣》《オルフェ》ほか)や，*ディアギレフとイダ-ルビンシュタインのためのバレー音楽《水夫》など，付随音楽のジャンルにすぐれた作品を発表した。純音楽の分野ではサティ・シャブリエ・ストラビンスキーの影響のもとに作曲された《ピアノのための三つの即興曲》などがある。1962年以来，パリのオペラ座とオペラコミック座の総監

督。　〔船山　隆〕

オリッサ(州)　[Orissa]　インド共和国北東部，ベンガル湾に臨む州。面積15万6,000km²，人口2,194万5,000(1974)。州都カタック。北・西部は山地であるが，海岸には低地が連なり，米のほかジュート・豆類を産する。また山地では鉄・石炭の採掘が行なわれ，ルールケラには製鉄所が建設されている。住民の大部分はヒンズー教徒である。

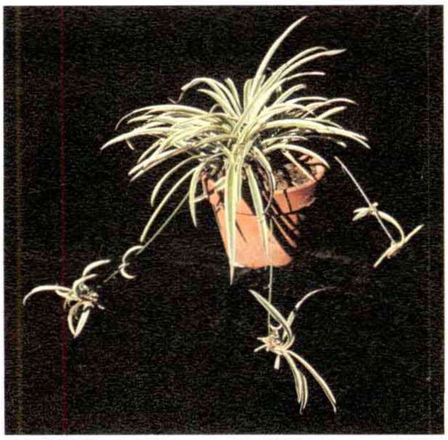
おりづるらん【折鶴蘭】単子葉植物・ユリ科の多年草。アフリカ原産のはち植え観葉植物。常緑で細長く，白斑(はくはん)のある葉が根生し，下垂する長いつるがある。つるの先に新しい株ができる。初夏に小さい白色花をつける。比較的寒さに強く，冬も室内で十分育ち，よく繁殖する。和名は，つるの先についた新しい株を，折り鶴にたとえたもの。

オーリニャックぶんか【オーリニャック文化】後期旧石器文化の一。現生人類によるヨーロッパ中心の文化で，1860年フランス中部のオーリニャック洞窟(どうくつ)でその遺跡がはじめて発見されたので，この名がある。トナカイ・野牛・ヤギなどを狩るための小形で先鋭な石刃や，魚をつるための骨角器が発達したことが知られ，洞窟に呪術(じゅじゅつ)的な意味をもつ写実的な絵画を，また各地に女の裸像を残している。

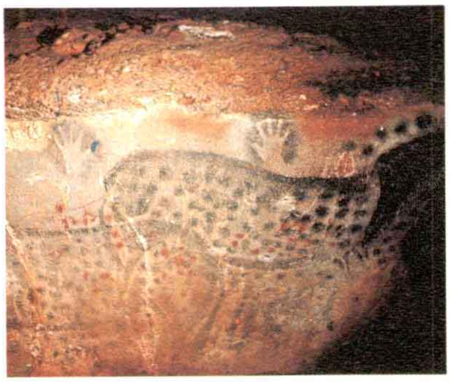
オリノコ(川)　[Orinoco]　南アメリカ北部を流れるこの大陸第3の川。長さ2,220km，流域面積94万4,000km²。ブラジルとベネズエラの国境付近に源を発し，多くの支流を合わせ東流して大西洋に注ぐ。上流域は熱帯雨林地域をなし，下流域はリアノ*とよばれる草原で開発は進んでいない。河口は大きなデルタであるが，雨期(4～10月)には沼沢化する。水位の変化が大きく，河口から420kmさかのぼったシューダドボリバルでも年間15mの差がある。〔大石堪山〕

オリバー　[Joseph Oliver]　(1885～1938)　アメリカのコルネット奏者。キング-オリバーの名で知られ，ジャズ草創期の偉大な演奏者。はじめメルローズ-ブラス-バンドで活躍し，1915年クラリネット奏者シドニー-ベシェーとバンドを結成。ストリービル・シカゴなどで活躍した。アームストロング*に大きな影響を与えた。

オリバー-ツイスト　ディケンズ*の初期代表作(1837～1839)。孤児院から逃げたオリバーが，少年盗賊団や残忍な悪党の魔手を免れ，優しい叔母(おば)に巡り合い，富裕な紳士の養子になるまでの冒険を描く。孤児院の悲惨な生活描写は，当時の救貧院法令の不備に対する作者の人道主義的な抗議を示し，ロンドン暗黒街の描写は読者の好奇心を刺激して大衆作家としての力量を示している。



オリヅルラン



オーリニャック文化　ペシュ-メルル洞窟に描かれている2頭のウマと手形



オリビエ　映画《ヘンリー5世》より（中央）



オリーブ　果実

オリビエ　[Laurence Olivier]　(1907～　)　イギリスの俳優・演出家。バーミンガム-レパートリー劇団の出身で，主としてオールド-ビック劇団(現在の国立劇場)で活躍。力強く繊細な演技と劇づくりで世界的な俳優・演出家とされる。特にシェークスピア劇を得意とするが，古典から現代ものまでレパートリーは広い。また《ヘンリー5世》《ハムレット》などの映画では製作・監督・主演を兼ね，多彩な才能を示した。1947年，ナイトに叙せられ，1970年にはロードの位を授けられたが辞退した。〔岡崎涼子〕

おりひめぼし【織り姫星】⇨ベガ

オリーブ　[olieve]　双子葉植物・モクセイ科。地中海沿岸原産の常緑高木で，高さ5～10m。葉は楕円(だえん)形で厚く，表面に光沢がある。5～6月，葉腋(ようえき)に白色の小さな円錐(えんすい)花序をつける。がく片・花弁は4裂する。おしべ2，めしべ1。果実は液果で，長さ2～3cmの楕円形，秋に黒青色に熟す。成熟果は渋みが強いが，未熟果の塩づけは食べられる。熟した果実からオリーブ油*をとる。日本では小豆(しょうど)島付近で栽培される。

オリーブいろ【オリーブ色】色名。オリーブの果実の表皮のような色。黄みのある，暗い緑色。《聖書》の漢訳の際にオリーブを橄欖(かんらん)と誤認したことから，橄欖色ともいう。日本工業規格(JIS)慣用色名〈オリーブ色〉は，色相7.5Y，明度3.5，彩度4.0と規定されている。➔色

オリーブゆ【オリーブ油】オリーブの果実を冷圧して得られる不乾性脂肪油。橄欖油(かんらんゆ)ともいう。主産地は地中海沿岸やアメリカ。淡黄色～帯緑淡黄色の油液で，特有のかおりと穏和な味をもち，寒冷して長く放置すると混濁するか軟膏(なんこう)状に凝固する。主としてオレイン酸およびリノール酸のグリセリドからなり，パルミチン酸やステアリン酸のグリセリドも含まれる。比重は0.91～0.93，鹸化*価(けんかか)は185～197，ヨウ素価は75～90。アルコールにはとけにくいが，エーテル・クロロホルム・二硫化炭素とよく混和する。食用にするほか化粧品・せっけん・減摩剤・薬用などに用いられる。〔岡部平八郎〕

おりべだな【織部棚】織部陶*と同じく，安土桃山時代の茶人古田織部*の好みに応じてつくられた蒔絵棚(まきえだな)。《幸阿弥(こうあみ)系図》に，幸阿弥長玄が織部の求めによって上段に梅の古木，下段に虎渓三笑*(こけいさんしょう)，扉(とびら)・戸表に柴垣(しばがき)を表わした厨子棚(ずしだな)をつくり，これを織部棚と称したとある。現在，東京国立博物館・サントリー美術館に同意匠の蒔絵厨子棚があるが，これらを長玄作とする確証はない。

オリベッティ　[Ing. C. Olivetti & C., S.P.A.]　イタリア最大の事務機器メーカー。主製品は計算機・タイプライター・事務用家具類で，複写機や関連の工作機械もつくる。1908年にカミロ-オリベッティがピエモンテにタイプライター工場を設立したのがはじまりで，現在イタリア国内に約60の支店，350の総代理店，200の代理店をもつ。国外活動に特に力を注ぎ，アメリカのアンダーウッド社を買収したり，ゼネラル-エレクトリック*社との合弁で電子機器の合弁会社

をつくったりしている。また，国内の販売網を強化するため，世界各地30か国以上に販売子会社を設立するなど，積極的な海外進出で知られる。主要な販売先はスペイン・ベルギー・イギリス・ソ連・東欧諸国・ラテンアメリカなど。日本には1961年(昭和36)に日本オリベッティ(株)が設立されている。本社イブリア。年間売上高6億4,000万ドル，従業員数68,000(1969)。〔氏家　尚〕

おりべとう　**【織部陶】**　桃山時代から江戸時代にかけて，美濃(みの)(岐阜県)地方で焼かれた茶器・食器などの陶器。名称は茶人古田織部*の好尚(こうしょう)を盛ったところに由来し，青織部・絵織部・鳴海(なるみ)織部・赤織部・黒織部・伊賀(いが)織部・唐津(からつ)織部などがある。作風の基本は，器体に緑釉(りょくゆう)を大胆にかけ，余部に鉄絵を施すものであるが，黒釉一色のものもあり，意匠は奇抜な斬新(ざんしん)さに満ちている。土岐市近傍の久尻(くじり)の本屋敷窯(もとやしきがま)が中心であったと考えられる。〔矢部良明〕



織部陶　織部手鉢(美濃窯)　18世紀初　東京国立博物館蔵

おりほん　**【折本】**　書物形態の一種。古く巻子本*(かんすぼん)から変形したもの。巻子本は開閉に不便なので，それを避けるため区欄を設け，区欄と区欄の間の空白部を折りたたみ，屛風(びょうぶ)のように前後に折って冊子の形とした。中国ではこれを摺葉(しゅうよう)または旋風葉とよんだ。法帖(ほうじょう)・仏典などに利用され，習字手本・揮毫(きごう)帳などにも用いられている。折本の背をのりで固めたものを胡蝶装(こちょうそう)という。なお，現行の製本工程のうち，印刷された紙葉をページ順に折ったものも折本または折帖という。〔庄司浅水〕

おりもの　**【織物】**　たて糸とよこ糸を原則として直角に交差させて組織した繊維製品。人類が織物を発明したのはおよそ10,000年近くまえの新石器時代で，これまでに発掘された世界最古の織物は，エジプトのファイウム遺跡から現われた亜麻織物の断片で，BC5,000年ごろのものと推定され，その後の亜麻織物・綿織物はヨーロッパ各地，南アメリカなどで発掘されている。わが国でも新石器農耕文化の遺跡から織物が出土しているので，織物は古い生活資材として発達してきたことがわかる。その後，織物は文化の進展とともにしだいに発達し，手織りでも非常に精巧華麗な織物が世界各国でつくられ，衣料文化はほかの文化事象よりも進んでいた。特に18世紀末の産業革命以来，大量生産が行なわれるようになり，衣生活は，豊富な織物によって向上してきている。近来の織物生産は工場組織で量産されるが，なお地方的に独特な企業として家庭工業的に行なわれるものも多く，各地に特色ある織物が産出する。織物は，原料の種類により綿織物*・麻織物*・毛織物*・絹織物*・化繊織物*・交織織物*などに種別される。また用途・織り幅・染色・文様などによっても種々に類別されている。織物の構成は，長さ・幅・厚さ，糸の密度・組織・表面状態・重量などの構造によって異なり，その性能にも差異が生ずる。織物はまた，形態的性能として，方向性・含気性・伸縮性・圧縮性・形態安定性など，機械的性能として強伸度・引き裂き強さ・破裂強さ・弾性・すべりなど，保健的性能として湿潤性・透湿性・吸水性・発水性・通気性・保温性・吸熱性など，装身的性能として保形性・防皺(ぼうしゅう)性・ドレープ性・プリーツ性・ピリング性など，耐久的性能として耐摩耗性・防汚性・耐洗性・耐熱性・防火性・防虫性・抗菌性など，感覚的性能として風合い・触感・官能性など，用途に応じて必要な性能を備えていることを要求される。織物の主要な用途は従来衣料および寝具であったが，近来家具装飾・産業資材・日用器材・屋外用品など広く用途を開発して多方面に利用されている。わが国は織物工業が発達し，製品は国内需要を満たすうえに海外にも多量に輸出されて外貨の獲得に役だっている。これらの織物の品質を確保するためには，各原料繊維別の織物検査協会があり，日本工業規格(JIS)などに決められた方法で製品の検査を行なったのち市販あるいは輸出することになっているものが多い。また，家庭用品品質表示法によって繊維製品の原料組成の表示をなすことが規定されていて，消費者の需要に便宜を与える制度ができている。最近は繊維組成ばかりでなく，その取り扱い方法についても，洗たく・ドライクリーニング・漂白・絞り方・アイロン掛けなどの可否・程度などを絵表示で消費者に知らせるようになりはじめている。消費者はこれらによって，織物を適切に使用・消費することができる。〔小川安朗〕

おりものぎょう　**【織物業】**　織布・編み立てを行なう繊維産業の一部門をいうが，その使用する原材料によって綿織物業・毛織物業・絹織物業・合成繊維織物業に分けられる。一般に織物業は典型的な中小企業であり，また在来産業*として産地の地域経済と密接な関連をもっている。設備近代化・合理化など産地組合が主となって推し進めており，適正規模に達した企業に国の助成資金によって一括購入した織機その他の設備を貸し出す形をとっている。この結果，織機の自動化率は徐々に上昇しつつあるが，繊維産業の中ではまだ老朽設備が多く，近代化が立ち遅れた分野である。現在，開発途上国繊維産業の発展や労働力需給の逼迫(ひっぱく)化，天然繊維から化学繊維・合成繊維への移行に伴う繊維間競合の問題などに直面しており，大幅な構造改善策が必要とされている。➔繊維産業　〔原　豊〕

おりものそしき　**【織物組織】**　織物のたて糸とよこ糸が一定の方式に従って上下交差している状態。その種類を分類すると下表のようになる。

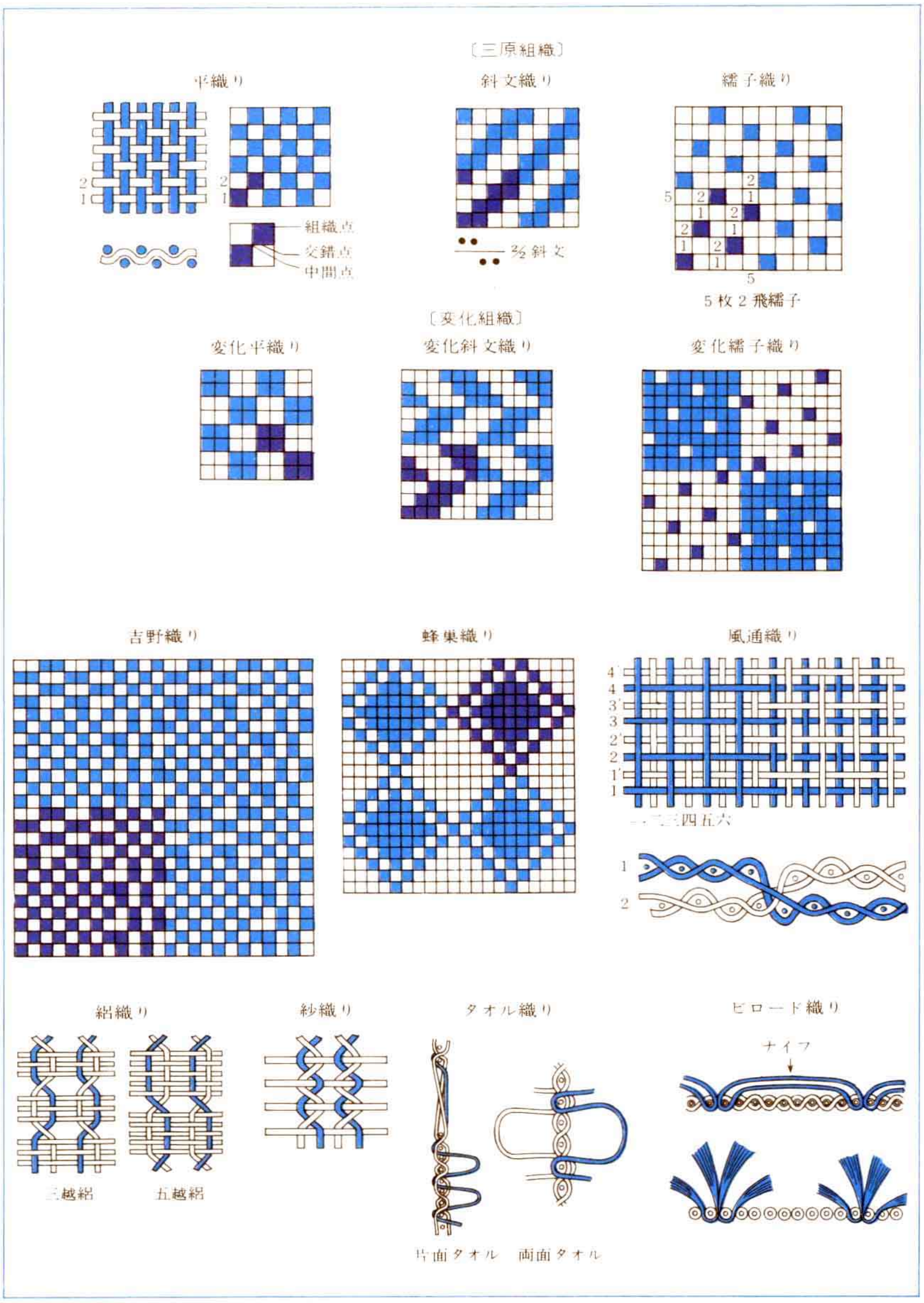
【平織り】　たて糸とよこ糸が互いに1本おきに上下に組み合ったもの。平滑で緊密な組織。

【斜文織り】　たて糸・よこ糸が2本またはそれ以上まとまって組み合った組織。斜めの方向にうねを表わす。組織はゆるやかであるがしっかりした地風。

【繻子織り】　たて糸またはよこ糸が長く浮いて組織されたもの。浮き糸の方向にすべりがよく，光沢に富む。

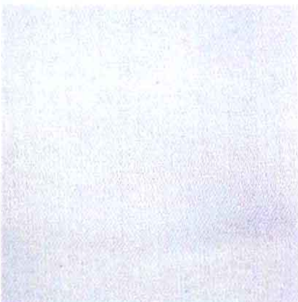
織物組織の分類

- 三原組織
  - 平織り
  - 斜文織り(あや織り)
  - 繻子織り
- 織物組織
  - 一重組織
    - 原組織—平織り・斜文織り・繻子織り
    - 変化組織—変化平織り・変化斜文織り・変化繻子織り
    - 混合組織—原組織と変化組織との混合
    - 特別組織—蜂巣織り・ブライトン織り・ハックアバック織り・模紗織り・網目織りなど
  - 重ね組織
    - 片二重組織—たて二重織り・よこ二重織り・片二重うね織り
    - 二重組織—風通織り・裏じま織り
    - 三重組織—つづれ織り・模様織り
    - 多重組織—ベルト織りなど
  - 添毛(パイル)組織
    - ビロード組織
      - たてビロード—じゅうたん・プラッシなど
      - よこビロード—別珍・コール天など
    - タオル組織—片面タオル・両面タオル・絞りタオル
  - からみ(もじり)組織—絽・紗
  - 紋織り組織
  - ししゅう織り組織




平織り


斜文織り


繻子織り

織物組織　三原組織

以上三つが基本的な組織で，さらにそれぞれを変化させたもの，混合させたものがある。〈変化組織〉平織りを変化させたうね織り・斜子(ななこ)・斜文織りを変化させた破れ斜文(杉綾(すぎあや))・まがり斜文・山形斜文など，繻子織りを変化させた重ね繻子織り・みかげ織り・昼夜繻子など。〈混合組織〉平織りとうね織りを組み合わせた吉野(よしの)織りなど。〈特別組織〉蜂巣(はちのす)織り(ます織り)など。

以上は一重織りであるが，さらに複雑な組織には次のようなものがある。〈重ね織り〉たて二重織り・よこ二重織り，たてよこ二重の風通織り，片二重組織のピケ・ベッドフォードコードなど。〈添毛組織〉パイル組織ともいい，ビロード・別珍・タオル組織。〈からみ織り〉もじり織りともいい，紗(しゃ)・絽(ろ)など。〈紋織り組織〉組織によって文様を織り出したもの。綸子(りんず)・ダマスク・朱珍・錦(にしき)など。

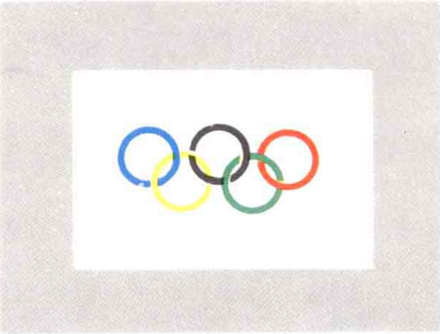
織物組織を表示するためには組織図を用いる。組織図には方眼紙を使ってたて糸がよこ糸の上になっている部分を黒く塗って示す。〔小川安朗〕

オリーン　[Bertil Ohlin]　(1899～1979)　スウェーデンの経済学者。政治家としても活躍。価格の一般均衡に関する考え方を拡大して，国際経済における価格形成の相互依存性を論じ，国際貿易の可能性を説明した。これは自由貿易の有利性を説明する比較生産費説の前提となるものであり，ヘクシャー-オリーンの定理として知られている。主著《交易の理論》(1924),《地域間および国際間の交易》(1933)。

オリンピア　[Olympia]　ギリシアのペロポネソス半島北西部にあるゼウス*の聖地。古くから大地母神の信仰が行なわれ，青銅器時代の住居跡が残っている。古典時代になると，4年ごとにこの地で全ギリシア的な競技会が開催され，祭神ゼウスのためにささげられた。最も古い記録はBC776年であるが，これ以前にも行なわれていたらしい。競技の行なわれる月は〈神の平和〉が完全に守られた。当時は野外競技のほかに演劇・音楽・詩の朗読なども競われた。その後，ギリシアが他国に支配されても競技会はAD393年まで続けられ，この地は栄えていたが，426年東ローマ皇帝テオドシウス2世の異教神殿破壊令が出されてからは衰退した。19世紀にはいってから発掘が行なわれ，ゼウス神殿・ヘラ神殿・スタディオンなどが発掘され，オリンピック競技大会発祥の地として知られるようになった。〔高山高雄〕

オリンピア　[Olympia]　アメリカ合衆国ワシントン州の州都。人口18,000(1960)。ピュージェット湾奥，オリンピック半島のつけ根の地点を占め，海港で緑の多い静かな町。農産物の加工などの工業のほか木材，カキをはじめ水産物の取引が盛んである。

オリンピックき　【オリンピック旗】　五輪旗ともいう。1914年，パリで開催された国際オリンピック委員会*(IOC)創立20周年式典にクーベルタン*が呈示したものを原形として制定された。オリンピック-マークとよばれる五輪はオリンピックで結ばれる五大州を表わし，地色の白を含む6色は制定当時の諸国の国旗のすべての色を含むことを意図した。オリンピック憲章*には，大会開会式に主競技場に特に立てられた独立の旗ざおに掲げるほか，各競技場周辺に参加国の国旗に交えて多数掲揚すべきことが定められている。大会時のオリンピック旗掲



オリンピック旗

揚は1920年の第７回アントワープ大会に始まるが，同大会の組織委員会から第８回パリ大会に贈られたオリンピック旗は白繻子(しろじゅす)にししゅうしたもので，その後の夏季大会の開会式で前大会開催市の市長からIOC会長の手を経て開催市市長に引き継がれている。冬季大会でも，他のオリンピック旗が引き継がれている。なお，IOCはオリンピック-マークの商業的利用をはばんでいる。〔藤岡　端〕

オリンピックきょうぎたいかい【オリンピック競技大会】

【古代オリンピック】一般に古代オリンピックとよばれているギリシアのオリンピア*で行なわれた競技大会は，単なる競技会ではなく，オリンピアの主神ゼウスにささげられる祭典競技であった。このような祭典競技はかなり古くから行なわれていたと考えられるが，記録に残っている最古のオリンピアの祭典競技はBC776年である。以後，大会は各オリンピアード(オリンピア大祭の行なわれた年から次の大祭までの４年紀)ごとに開かれ，ギリシアがローマに征服されてのちも行なわれた。

古代オリンピックの競技者はポリスの市民に限られ，さらに刑罰を受けたことがなく，神に不敬な行ないのないことなど，きびしい条件があった。女子は競技に参加することはもちろん，見物することも許されなかった。競技種目は時代によって異なるが，短距離競走・中距離競走・長距離競走・古代五種競技・レスリング・ボクシング・四頭立て戦車競走など約19種目があったが，これら全種目が一つの大会で競われたのではなく，最盛時でも10数種目が行なわれたにすぎない。競技者は裸で技を競い，優勝者にはある時期から月桂冠(げっけいかん)が贈られた。社会的な地位や賞金は自己のポリスに帰ってから与えられた。

古代オリンピックは，ギリシアがマケドニア王国・ローマ帝国に征服されてのちも続けられていたが，380年東ローマ帝国がキリスト教を国教と定めて異教の弾圧を始めてからは，この祭典競技も393年の大会を最後に禁止された。〔高山高雄〕

【近代オリンピック】ルネサンスによって再認識された古代オリンピックに関する研究は，18世紀中ごろ以後，約１世紀にわたるイギリス・ドイツ・フランスなど各国のオリンピア遺跡の発掘へと発展した。そして，トルコの支配下から独立してまもないギリシアはこれらの動きに刺激されて，1,500年近くとだえていたオリンピック競技の復活に踏み切り，1859年に復活第１回の競技会を開催した。しかし，当初は毎年開く予定であった競技会も新興国ギリシアの力では不可能となり，1870年の第２回，1875年の第３回に次いで1889年に第４回競技会が開かれたが，この回で中止のやむなきに至った。そして，フランスのクーベルタン*が，スポーツを通して世界の青年が相互に理解し合い，友情を深めることによって世界平和の基を築くために，各種アマチュア-スポーツの世界選手権を総合する近代オリンピックの構想を発表したのは1892年であった。この提唱ははじめ多くの反対にあったが，1894年パリで開かれた各競技団体の国際会議で可決され，その場で国際オリンピック委員会*(IOC)が組織され，また第１回大会の開催を1896年，開催地をアテネとすることが決定された。以後，大会は４年を１期とするオリンピアードの第１年に開かれ，２度の世界大戦のために計３回が中止されたが，第１回大会の年から起算されたオリンピアードの順番は守られている。







オリンピック競技大会　オリンピック競技発祥の地オリンピアには多くの遺跡がある
(左)ヘラ神殿は紀元前６世紀に建てられ，ギリシア本土に残る最古の神殿である
(右上)45,000の観衆を集めたスタディオン(競技場)。大理石のスタートラインが残る
(右下)オリンピアにあるクーベルタン記念碑

【大会プログラム】競技大会には次の公式種目中少なくとも15種目を含まなければならない。アーチェリー*・陸上競技*・バスケットボール*・ボクシング*・カヌー競技*・自転車競技*・フェンシング*・サッカー*・体操競技*・ハンドボール*・ホッケー*・柔道*・近代五種競技*・ボート*・射撃競技*・水泳*・飛び込み競技*・水球*・バレーボール*・ウエートリフティング*・レスリング*・ヨット*・芸術競技(建築・文学・音楽・絵画・彫刻・スポーツ記念記手・写真)。そのほかに，デモンストレーションとして国技と外来競技の各１種目を実施することができるが，これらには入賞メダルは与えられない。

【参加者】大会参加者はアマチュア(趣味としてスポーツに専念し，それによってなんらの物質的利益を得ない者)でなければならない。一国を代表する選手はその国の国民だけであるが，国の合併や帰化，また婦人の婚姻などによる例外は認められている。なお，自治領や植民地に生まれた市民は，生地に国内オリンピック委員会*(NOC)がないときには本国の代表となることができる。また，他国で生まれたものは，出生地の代表を経験したことのない者に限り両親の国を代表することができる。なお，女子の参加できる競技は，アーチェリー・陸上競技・カヌー競技・馬術*・フェンシング・体操競技・射撃競技・スケート*・スキー*・水泳・バレーボール・ヨット・バスケットボール・ハンドボール・芸術競技である。近年，自転車競技に女子を加える希望が出ているが，まだ結論を得ていない。

参加申し込みの手続きは，各競技の国内競技連盟(NF)がまとめた上で，NOCを通してオリンピック組織委員会*(OOC)に申し入

れる。参加申し込みは，個人競技は1国1種目（この場合の種目は，たとえば陸上競技なら男子100ｍ競走）3名以下とされているが，参加者の多い陸上競技では，標準記録の制定などによって1国1種目2名以上の申し込みには制限を加えている。団体競技は1国1種目1チームとし，補欠選手の人数も制限している。なお，団体競技については参加チームを16以下にすることになっている。各国代表選手団には選手以外に団長・監督・コーチなど多くの役員が含まれるが，医師・マッサージ師・馬取扱人に至るまで，選手数に応じた人数を規制している。

〔賞品〕入賞者にはメダル・賞状が与えられる。メダルは直径60mm以上，厚さ3mm，1・2位の銀製メダルは純度92.5％以上，1位のメダルには6g以上の純金でメッキする。3位のメダルは青銅製で，4～6位には賞状だけが与えられる。団体競技でも，順位に応じて参加者全員に賞が与えられる。ただし，体操競技の団体種目のように，個人競技の採点の合計で団体の順位を決定するものについては，団体に対して1個のメダルが与えられることになっている。優勝者の氏名は競技会場の壁に彫りつけられ，組織委員会は6位までの入賞者の氏名を記載した栄誉名簿をIOCに提出する。また，賞とは別に，大会に参加した選手・役員の全員に参加メダルが贈られる。

〔オリンピック競技と日本〕日本人がオリンピック競技とかかわりをもったのは1909年（明治42）であった。クーベルタンはオリンピック運動への東洋諸国の参加を期待し，駐日フランス大使ジェラールにIOC委員としてふさわしい人物の推薦を依頼した。大使は，東京高等師範学校の校長であり，新時代の柔道確立者で講道館*館長であった嘉納（かのう）治五郎*に委員就任を勧誘して承諾を得た。そうして，1909年ベルリンで開かれた第14回IOC会議で，嘉納は東洋ではじめてのIOC委員に推薦されたのである。そうして，1912年の第5回ストックホルム大会への参加招待状が届けられ，同時にのちのNOCに相当する統轄団体の組織を勧告された。これが日本体育協会*結成のきっかけである。

オリンピック競技大会が青少年の心身の発達に大きな刺激となり，また国際理解を深める上できわめて有意義であるという認識は，大会参加の回を重ねるごとに大きくなり，選手の活躍とともにオリンピック競技大会は国際的な支持を得るようになっていった。わが国のメダリスト第1号は，1920年（大正9）のアントワープ大会にテニスで2位となった熊谷一弥*（くまがいいちや）（シングルス・ダブルス）・柏尾（かしお）誠一郎（ダブルス）の2人である。その後1928年の第9回アムステルダム大会では，織田幹雄*（三段とび）・鶴田義行*（つるたよしゆき）（平泳ぎ）が金メダルを獲得，1932年（昭和7）のロサンゼルス大会では金メダル7個，1936年のベルリン大会では金メダル6個を中心種目である陸上競技と水泳であげたので，日本は大会参加国の中堅的存在であると自負するまでになった。そうして1940年には東京への大会招致まで決まったのであるが，これは戦争のため中止となった。

第2次世界大戦が終わって，1948年に第14回ロンドン大会が開催されたが，日本にはドイツと同様，参加招請状はこなかった。当時かつての交戦国の対日感情はまだかなり悪かったし，日本はIOCから除外されたのかと考える者さえあった。しかし，1948年末，IOCから永井（ながい）松三IOC委員に書面が届き，日本NOCは1947年ストックホルムIOC会議で資格を確認されていることが判明した。高石真五郎IOC委員は公職追放中で，渡航許可の降りる見込みがなかったが，永井委員は外貨の手当ができればローマ会議出席が可能であると判断した。外貨はハワイ在留邦人の拠金で準備され，永井委員はローマIOC会議（1949）に出席することができた。当時はまだ大使

オリンピック競技大会

第5回ストックホルム大会（1912）：初参加。嘉納治五郎IOC委員が団長格で，監督は大森兵蔵，選手は三島弥彦（短距離）・金栗四三（マラソン）。シベリア経由で遠征したが，成績は問題にならなかった。

第7回アントワープ大会（1920）：代表選手団18名（役員3。選手は陸上競技12，水泳2，うち1名は陸上競技にも出場，テニス2）。テニスは熊谷一弥がシングルスに2位，熊谷一弥・柏尾誠一郎がダブルスに2位。選手はニューヨークとロンドンでそれぞれ約1か月練習したものの，テニス以外はまったく勝負にならなかった。水泳は日本泳法の片抜き手で出場し，はじめてクロールを見て帰った。

第8回パリ大会（1924）：代表選手団28名（役員9。選手は陸上競技8，水泳6，レスリング1，テニス4）。内藤克俊（レスリング，フリー，フェザー級）は3位。宮畑虎彦・野田一雄・小野田一雄・高石勝男（水泳800mリレー）は4位。高石勝男（100m自由形・1,500m自由形）は5位。織田幹雄（三段とび）・斎藤巍洋（100m背泳）は6位。

第9回アムステルダム大会（1928）：代表選手団56名（役員14。選手は陸上競技17，水泳11，ボート7，ボクシング2，レスリング1，馬術4）。織田幹雄（三段とび）・鶴田義行（200m平泳ぎ）は優勝。人見絹枝（女子800m）・米山弘・新井信男・佐田徳平・高石勝男（水泳800mリレー）は2位。高石勝男（100m自由形）は3位。南部忠平（三段とび）・山田兼松（マラソン）・入江稔夫（100m背泳）は4位。木村一夫（走り高とび）・中沢米太郎（棒高とび）・津田晴一郎（マラソン）は6位。

第10回ロサンゼルス大会（1932）：代表選手団190名（役員59。選手131，うち女子16）。参加種目は陸上競技・水泳・飛び込み競技・水球・ボート・馬術・ボクシング・レスリング・ホッケー・体操競技・芸術競技。南部忠平（三段とび）・宮崎康二（100m自由形）・北村久寿雄（1,500m自由形）・清川正二（100m背泳）・鶴田義行（200m平泳ぎ），および宮崎康二・遊佐正憲・横山隆志・豊田久吉（水泳800mリレー）・西竹一（馬術・大障害飛越）は優勝。西田修平（棒高とび）・河石達吾（100m自由形）・牧野正蔵（1,500m自由形）・入江稔夫（100m背泳）・小池礼三（200m平泳ぎ）・前畑秀子（女子200m平泳ぎ）およびホッケーチームは2位。大島鎌吉（三段とび）・南部忠平（走幅とび）・大横田勉（400m自由形）・河津憲太郎（100m背泳）は3位。ロサンゼルス大会での成果は，少年選手による水泳の圧倒的な優勢と，西竹一の大障害飛越にあった。排日的なふんい気に心を暗くしていたアメリカ西部の在留邦人にはなによりの贈り物であった。

第11回ベルリン大会（1936）：代表選手団249名（役員70。選手179，うち女子17）。参加種目は陸上競技・水泳・飛び込み競技・水球・サッカー・ホッケー・体操競技・ボート・バスケット・ヨット・レスリング・馬術・ボクシング。孫基禎（マラソン）・田島直人（三段とび）・寺田登（1,500m自由形）・葉室鉄夫（200m平泳ぎ）・前畑秀子（女子200m平泳ぎ）および遊佐正憲・杉浦重雄・田口正治・新井茂雄（水泳800mリレー）は優勝。原田正夫（三段とび）・西田修平（棒高とび）・遊佐正憲（100m自由形）・鵜藤俊平（400m自由形）は2位。南昇龍（マラソン）・田島直人（走り幅とび）・大江季雄（棒高とび）・新井茂雄（100m自由形）・鵜藤俊平（1,500m自由形）・小池礼三（200m平泳ぎ）・清川正二（100m背泳）は3位。マラソンの初優勝，三段とびの3連破，水泳陣の活躍以上に話題となったのは，5,000m・10,000mの村社講平の健闘だった。フィンランドの3強をおさえて前半を好走したものの，後半は巨漢に取り巻かれて疲労し，ついに4位に甘んじたにもかかわらず，スタンドの絶賛を浴びた。前大会2位の前畑は200m平泳ぎで熱戦のすえに優勝した。西田・大江がメドウス・セフトン・グレーバーと5時間余にわたって展開した棒高とびの激戦は，夜間照明下に観衆をくぎづけにした。しかし，セフトンを含む3人で4.35mを争ったが，アメリカの伝統を破ることはできなかった。

第12・13回大会は，第2次世界大戦のため開催不能となり，第14回大会は参加を招請されず，日本のオリンピック大会参加史は再出発となる。

第15回ヘルシンキ大会（1952）：代表選手団103名（役員31。選手72，うち女子11）。参加種目は陸上競技・水泳・レスリング・ボート・体操競技・ヨット・自転車競技・ウエートリフティング・ボクシング・フェンシング・射撃競技・馬術。石井庄八（レスリング，フリー，バンタム級）は優勝。鈴木弘（100m自由形）・橋爪四郎（1,500m自由形）・北野祐秀（レスリング，フリー，フライ級）・竹本正男（跳馬）・上迫忠夫（徒手）および鈴木弘・浜口喜博・後藤暢・谷川禎次郎（水泳800mリレー）は2位。上迫忠夫・小野喬（体操，跳馬）は3位。捲土重来の意気ごみで臨んだ水球・陸上競技は空白の12年間の変化に目を見張らされ，レスリング・体操競技に曙光を見いだした戦後の初参加であった。

第16回メルボルン大会（1956）：代表選手団167名（役員49。選手118，うち女子16）。参加種目は陸上競技・水泳・飛び込み競技・レスリング・

館も開設されておらず，永井委員は文字どおり孤軍奮闘であったが，エドスロームIOC会長・ブランデージ*副会長らの友情に助けられ，日本はまずNOCの態勢を整備し，種目ごとの国際競技連盟*(IF)への復帰を急ぐべきことを知って帰国した。1950年のコペンハーゲンIOC会議には，病床にあった永井委員に代わって東龍太郎(りゅうたろう)日本オリンピック委員会*(JOC)会長がオブザーバーとして出席，会議中に永井委員の辞表が受理されてIOC委員に推された東は，各IF代表に日本の各競技団体の復帰を懇請した。そして翌年のウィーンIOC会議に出席してみると，フィンランド-オリンピック組織委員会の招請国中に日本NOCも列記されており，1952年のヘルシンキ大会への参加の可否は問題にならなくなっていた。またこの間に，各国内競技団体のIF復帰が続々と実現した。

こうして戦後の日本スポーツ界は，国内の他の国際関係に先だって国際復帰に成功したのである。これにはアメリカの占領政策としてスポーツ対策が重視され，GHQの協力が多かったことも看過できない。ヘルシンキ大会開催の年である1952年4月には対日講和条約が発効して，日本の独立が回復した。日本スポーツ界は，この年にふさわしい国際行事に参加することになったのである。

〔日本選手活躍のあと〕オリンピック大会での日本選手の活躍は下の囲み記事のとおりである。

〔オリンピックの問題点〕世界のアマチュア-スポーツ大会であるオリンピックは，現在いくつかの問題点をかかえている。その一つに国名呼称問題がある。第2次世界大戦後，IOCが苦しんだのは東西に2分されたドイツの扱いであった。ドイツのNOCは二つの組織を認めたが，本来のNOCは西ドイツにあり，東ドイツのそれは西ドイツから独立したものとしている。IOCは両者が1単位となって一つの旗の下で大会に参加することを期待し，斡旋(あっせん)の結果，東京大会までは1単位であった。しかし別個の単位として参加したいという東ドイツ側の意向は強く，グルノーブル・メキシコの両大会には1本の旗の下に両NOCが参加し，それぞれドイツ・東ドイツと呼称した。ところがメキシコIOC会議で，大韓民国(だいかんみんこく)・朝鮮民主主義人民共和国の呼称が問題となり，1968年11月以降は韓国(Korea)・人民民主共和国朝鮮(PDRK)とよぶことになったのに関連して，東ドイツもドイツ民主共和国(IOC略記はDDR. Germany)となり，台湾は中華民国(IOC略記はROC)とよばれることとなった。しかし北朝鮮は大会直前にまたもや抗議することとなり，態度を変えてオリンピック村を退去したので，北朝鮮に関するかぎりは，メキシコ会議以前の状態にもどされた。特に北朝鮮問題は，1967年ユニバーシアード*東京大会直前にも，共産圏諸国が突然不参加となった直接原因であったこともあって，スポーツへの政治介入のきっかけは依然除かれていない。なお，オリンピック運動はあくまでも非政治的なものであり，IOCは〈国〉または〈国民〉をIOCから認められたNOCが管理する地域に適用するものとしている。NOCの承認はIOCの権限に属するが，その地域に安定した政権が妥当な期間継続していることのみを条件としている。また，オリンピック競技大会は国家間の競争ではなく，個人間の競技であるとして，国別の公式得点表を認めたことはない。

第2にアフリカ問題がある。政治のスポーツへの介入のきっかけとして，南アフリカ連邦政府の人種差別主義がある。南アのNOCは差別撤廃に努力していると思われるが，連邦内ではいまだに有色人種と白色人種がともに競技することができず，この状態はアフリカ新興独立諸国のNOCを硬化させて，南アのボイコットの姿勢を続けさせている。ほかに，アメリカ国内の黒人問題がメキシコ大会のアメリカ-チームに反映し

日本選手の活躍のあと

ボート・体操競技・サッカー・バスケットボール・射撃競技・ウエートリフティング・ボクシング・自転車競技・馬術。古川勝(200m平泳ぎ)・笹原正三(レスリング，フリー，フェザー級)・池田三男(レスリング，フリー，ウェルター級)・小野喬(鉄棒)は優勝。山中毅(400m自由形・1,500m自由形)・吉村昌弘(200m平泳ぎ)・石本隆(200mバタフライ)・笠原茂(レスリング，フリー，ライト級)・小野喬(体操個人総合・鞍馬)・久保田正躬(平行棒)・相原信行(徒手)および小野喬・河野昭・竹本正男・久保田正躬・相原信行・塚脇伸作(体操競技団体総合)は2位。小野喬(平行棒)・竹本正男(平行棒・鉄棒・つり輪)・久保田正躬(つり輪)は3位。陸上競技の入賞はマラソン5位の川島義明だけである。レスリング・体操競技は前大会に引き続いて前進歩調をみせている。戦後初出場のサッカー・バスケットボールは不振だった。期待された水泳の山中は善戦しながら優勝を逸したが，水泳陣としては平泳ぎの1・2位でなんとか面目を保った。

第17回ローマ大会(1960)：代表選手団219名(役員50。選手169，うち女子20)。参加種目は陸上競技・水泳・飛び込み競技・水球・体操競技・レスリング・ボクシング・ウエートリフティング・バスケットボール・ホッケー・ボート・ヨット・自転車競技・射撃競技・フェンシング・馬術・近代五種競技。小野喬(鉄棒・跳馬)・相原信行(徒手)および小野喬・鶴見修治・竹本正男・遠藤幸雄・相原信行・三栗崇(体操競技団体総合)は優勝。山中毅(400m自由形)・大崎剛彦(200m平泳ぎ)・松原正之(レスリング，フリー，フライ級)・小野喬(体操競技個人総合)・竹本正男(鉄棒)・三宅義信(ウエートリフティング，バンタム級)および福井誠・石井宏・山中毅・藤本達夫(水泳800mリレー)は2位。富田一雄・大崎剛彦・開田幸一・清水啓吾(水泳400mメドレーリレー)・田中聡子(女子100m背泳)・小野喬(つり輪・平行棒)・鶴見修治(鞍馬)・田辺清(ボクシング，フライ級)・吉川貴久(フリー-ピストル)は3位。次期大会が東京開催に決定しているので，サッカー・カヌー競技を除く16種目に参加した。しかし陸上競技は全敗，水泳にも金メダルはなく，戦後向上している種目をも含めてオリンピックの障壁は高く，東京大会への競技人としての覚悟を新たにさせられた大会であった。

第18回東京大会(1964)：代表選手団410名(役員53。選手357，うち女子選手61)。小野喬・遠藤幸雄・鶴見修治・山下治広・早田卓次・三栗崇(体操競技団体総合)・遠藤幸雄(体操競技個人総合・平行棒)・早田卓次(つり輪)・山下治広(跳馬)・吉田義勝(レスリング，フリー，フライ級)・上武洋次郎(レスリング，フリー，バンタム級)・渡部長武(レスリング，フリー，フェザー級)・花原勉(レスリング，グレコ-ローマン，フライ級)・市口政光(レスリング，グレコ-ローマン，バンタム級)・中谷雄英(柔道軽量級)・岡野功(柔道中量級)・猪熊功(柔道重量級)・桜井孝雄(ボクシング，バンタム級)・三宅義信(ウエートリフティング，フェザー級)および女子バレーボールは優勝。鶴見修治(体操競技個人総合・鞍馬・平行棒)・遠藤幸雄(床運動)・神永照夫(柔道無差別級)は2位。福井誠・岩崎邦宏・庄司敏夫・岡部幸明(水泳800mリレー)・堀内岩雄(レスリング，フリー，ライト級)・一ノ関史郎(ウエートリフティング，バンタム級)・大内仁(ウエートリフティング，ミドル級)・吉川貴久(フリー-ピストル)・円谷幸吉(マラソン)・池田敬子・相原俊子・小野清子・中村多仁子・辻宏子・千葉吟子(体操競技女子団体総合)および男子バレーボールは3位。16の金メダルはりっぱだが，陸上競技・水泳には銅メダル各1個で，主競技場とプールではそれぞれ1回ずつしか日章旗を仰ぎみることができなかったのはいかにも残念であった。

第19回メキシコシチー大会(1968)：代表選手団228名(役員43，選手185，うち女子30)。中山彰規・加藤沢男・加藤武司・監物永三・遠藤幸雄・塚原光男(体操競技団体総合)・加藤沢男(体操個人総合・床運動)・中山彰規(つり輪・平行棒・鉄棒)・中田茂男(レスリング，フリー，フライ級)・上武洋次郎(レスリング，フリー，バンタム級)・金子正明(レスリング，フリー，フェザー級)・宗村宗二(レスリング，グレコ-ローマン，ライト級)・三宅義信(ウエートリフティング，フェザー級)は優勝。君原健二(マラソン)・中山彰規(床運動)・遠藤幸雄(跳馬)・藤本英男(レスリング，グレコ-ローマン，フェザー級)・大内仁(ウエートリフティング，ミドル級)および男子バレーボール・女子バレーボールは2位。森岡栄治(ボクシング，バンタム級)・中山彰規(体操競技個人総合)・加藤武司(床運動)・加藤沢男(つり輪)・監物永三(鉄棒)・三宅義行(ウエートリフティング，フェザー級)およびサッカーは3位。マラソンの君原は，高地の特殊条件を克服して宿題を果たした。菅原武男のハンマー投げ4位は3位と同記録という不運さだった。水泳は壊滅したが，体操競技・レスリングは大いに気を吐いた。金メダル11は，前大会に行なわれた柔道がないのでやむをえぬところであった。サッカーの3位は，君原のマラソン2位とともに特筆されるべき成績である。

た事件もあったが，IOCはこれをまったくアメリカNOC内部の問題であるとしている。

第3にアマチュア問題がある。アマチュアに関してはオリンピック憲章*で規定されており，また各IFに特有な規定もある（→アマチュアリズム）。そして，これをオリンピック競技大会の問題として論ずる場合には，IOCが大会の教育的・社会的・国際的・道義的な意義を高く評価している立場を前提としなければならない。すでに損失賃金補償問題は解決され，大会参加選手の旅費・こづかい・装具などをNOCから支給されることも認められているのに，その他のものが第三者から与えられることに対して，IOCが反発することは当然と思われる。戦前・戦後を通じて，アマチュア資格問題をはじめとする数多くの問題が提起されたにもかかわらず，大会は回を重ねるごとに参加国・参加人員の数を増し，盛大に成功裏に幕を開いている。そのたびにアマチュアリズムに賛辞がささげられるのを常としている以上，IOCはアマチュアリズム堅持に努めるであろう。1971年を期限に，IOC規約専門委員会は，各IF・各NFと協議の上，結論をIOC会議に提出することになっている。ただ歴史的にみて，オリンピックの競技関係諸規約の源流となっている国際陸上競技連盟（IAAF）と，大会運営上入場料収入に大きく貢献する国際サッカー連盟（FIFA）の動きとに注目しなければなるまい。〔藤岡　端〕

オリンピックけんしょう【**オリンピック憲章**】国際オリンピック委員会*（IOC）の定めた5部からなる規則の総称。第1部は根本原則・IOC・NOC（国内オリンピック委員会*）・競技大会・大会儀典に関する規程，第2部は参加資格規程，第3部はオリンピック一般教程，第4部は大会開催希望都市のための必要条件，第5部は文献。規定制定のための特別会議は，1914～1930年の間にパリ・ローザンヌ・プラハ・ベルリンで開催され，規定がほぼ整ったが，その後も大会ごとに若干の補正が行なわれ，特に第2次世界大戦後，1960年の第17回ローマ大会後に大幅な修正が加えられた。最近では，1967年に事務局の機構確立を機会として新版が編集され，主として条項配列の整頓(せいとん)が行なわれたが，1971年には新たな改訂が予定されている。〔藤岡　端〕

オリンピックせいか【**オリンピック聖火**】古代ギリシアで行なわれたオリンピックはゼウスにささげる祭典であったから，競技期間中は神殿前の祭壇に聖火が燃え続けた。近代オリンピックがこの形式を採り入れたのは1928年の第9回アムステルダム大会がはじめであるが，そのときには単にマラソン塔上に点火したにとどまった。オリンピアの神殿前で採火した聖火を競技場までリレーする行事は，1936年の第11回ベルリン大会に始まる。同大会の組織委員会事務局長ディーム博士が発案し，1935年にオスロで行なわれた国際オリンピック委員会（IOC）会議で実施が決定されたものである。冬季大会の聖火行事は1936年の第4回ガルミッシュ-パルテンキルヘン大会から行なわれ，1952年の第6回オスロ大会ではリレーが行なわれた。第7回大会以後は，第8回大会を除き，ギリシアから聖火を会場までリレーしている。〔藤岡　端〕

オリンピックそしきいいんかい【**オリンピック組織委員会**】略称OOC。国際オリンピック委員会*（IOC）は，オリンピック競技大会の開催都市を選定すると，その都市のある国の国内オリンピック委員会*（NOC，わが国の場合は日本体育協会の日本オリンピック委員会〔JOC〕）に大会の組織を委任する。NOCはこの権限をオリンピック組織委員会（OOC）に委任し，その後は大会開催に関してはOOCが直接にIOCと連絡する。OOCは，各種のスポーツの技術的運営についてはそれぞれのスポーツの国際競技連盟（IF）と協議する。IFは，技術面では国内競技連盟（NF）の協力を求め，大会での各競技の技術面はIFとNFの線で実施されるが，OOCは可能なかぎりその希望を取り入れる。また，各国NOCに対する大会参加招待状は，IOCの指示に従ってOOCが郵便で送付する。なお，オリンピック競技大会の開催によって生じたすべての利益はIOCに帰属するが，開催地のオリンピック運動の振興とアマチュア-スポーツの発展のために使用することを条件としてOOCに一任される。〔藤岡　端〕

オリンピックとうきたいかい【**オリンピック冬季大会**】かつて1908年のオリンピック-ロンドン大会（フィギュア-スケート）や1920年のアントワープ大会（アイスホッケー・フィギュア-スケート）で行なわれた冬季競技をオリンピックの正式プログラムに加えようという提案は，1921年ローザンヌ（スイス）で開かれた国際オリンピック委員会*（IOC）でスイス・カナダによってなされた。しかし，その分野で長い歴史と伝統をもつ北ヨーロッパ諸国は，人工の雪，人工のスロープをつくることが不可能なこと，アマチュア規定について国際スキー連盟とIOCとの間に見解の相違があることなどの理由で反対した。そのため，次の第8回大会にはとりあえず冬季週間として行なうことで妥結した。そして，1924年南フランスのシャモニーで開かれた冬季大会では，スキー

オリンピック冬季大会　日本選手の活躍のあと

第2回サンモリッツ（スイス）大会（1928）：日本ははじめて参加，スキーに出場した。代表選手団7，うち役員1。勝負を度外視した参加だったが，北ヨーロッパ勢には歯が立たぬながらも，ドイツ・スイス・イタリアなどとはほぼ互角だったと報告されている。

第3回プラシド湖（アメリカ合衆国）大会（1932）：代表選手団22（スキー：役員1，選手11。スケート：役員4，選手6）。スキーの距離競技18kmは12位，ジャンプは8位だった。

第4回ガルミッシュ-パルテンキルヘン（ドイツ）大会（1936）：代表選手団48（スキー：役員6，選手10。スケート：役員6，選手12うち女子1。アイスホッケー：役員2，選手12）。石原省三（スケート，500m）が4位に入賞したほか，スキーのジャンプで伊黒正次が7位となった。この大会からフィギュア-スケート・アイスホッケーにも参加し，ボブスレーを除いたフル-エントリーとなる。これは，第5回大会を札幌に招致する気運にあったためである。しかし，これは日中戦争の拡大のために返上され，第2次世界大戦後の第5回サンモリッツ大会（1948）には日本は招待されなかった。

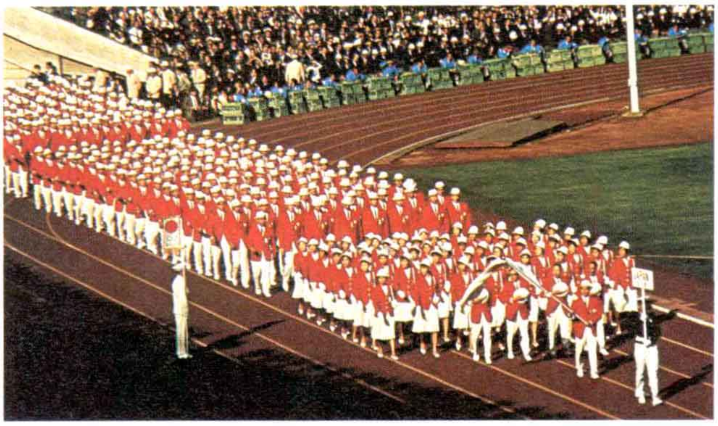
第6回オスロ（ノルウェー）大会（1952）：代表選手団18（スキー：役員3，選手7。スケート：役員2，選手6）。高林清高（スケート，500m）が6位に入賞した。この大会からスキーのアルペン競技が加えられた。スケートはスピードのみに参加。

第7回コルチナダンペッツォ（イタリア）大会（1956）：代表選手団17（本部役員2。スキー：役員2，選手5。スケート：役員3，選手5）。猪谷千春（スキー，回転競技）が2位に入賞。スピード-スケートは初参加のソビエトが強く，またヨーロッパ勢の水準は目だって高まった。

第8回スコーバレー（アメリカ合衆国）大会（1960）：代表選手団52（本部役員3，うち女子1。スキー：役員4，選手13。スケート：役員3，男子選手6，女子選手4。アイスホッケー：役員2，選手17）。この大会から競技種目にはいった女子スピード-スケートで，高見沢初枝は3,000m・500m・1,000mで4位1，5位2に入賞した。また，スピード-スケートでは10の日本新記録を出した。

第9回インスブルック（オーストリア）大会（1964）：代表選手団61（本部役員5，うち女子1。スキー：役員3，選手17。スケート：役員5，男子選手23，女子選手6。バイアスロン：選手2）。鈴木恵一（スケート，500m）・福原美和（女子フィギュア-スケート）が5位に，長久保（旧姓高見沢）初枝（女子スピード-スケート，3,000m）が6位に入賞した。

第10回グルノーブル（フランス）大会（1968）：代表選手団78（本部役員5。スキー：役員3，男子選手21，女子選手2。スケート：役員5，男子選手28，女子選手7。バイアスロン：選手4）。成績はかんばしくなかったが，90m級ジャンプで藤沢隆が1回めに2位と同じ101mを飛びながら，2回めを失敗して8位に甘んじたのが惜しまれた。スピード-スケートの500mと女子フィギュア-スケートの各8位にも将来の希望が認められる。札幌大会に備えてボブスレー・リュージュの視察員を送り，バイアスロンにも参加した。









オリンピック東京大会
(上左)入場式における日本選手団の入場
(上右)自衛隊の飛行機によって空に描かれた五輪
(下左)オリンピック聖火の到着
(下右)体操競技団体優勝の表彰式

(ノルディック競技*)・スケート(スピード)・アイスホッケーが行なわれ，優勝は北ヨーロッパ諸国とカナダによって占められた。なお，日本はスキーに参加する予定であったが，前年の関東大震災のために中止のやむなきに至った。のちに，これは第1回オリンピック冬季大会とよばれることになり，第9オリンピアードからは夏の大会から分離して行なわれることになった。以後の各大会を日本を中心としてみれば，別表のとおりである。

かつて，1938年カイロで行なわれたIOC総会で1948年(昭和23)の第5回大会の札幌(さっぽろ)開催を決定したが，日中戦争の拡大によって返上するのやむなきに至った。しかし，1964年のオリンピック東京大会の盛行がきわめて好評だったこともあって，1966年ローマで開かれたIOC総会で1972年の第11回大会は札幌で行なわれることに決定した。〔藤岡　端〕

オリンピックとうきょうたいかい【オリンピック東京大会】第18回オリンピック競技大会の略称。大会期間は1964年(昭和39)10月10～24日の15日間。それまでアジアで行なわれたことのないオリンピック競技大会の東京招致は，第2次世界大戦前からの宿願で，1930年ごろから始まった関係者の運動が実を結び，1936年ベルリン国際オリンピック委員会(IOC)会議の表決によって，1940年の第12回大会を東京で開催することになった。しかしこれは，その後の日中戦争の推移によって返上のやむなきに至った。第2次世界大戦が終わると，1952年から再び招致運動が開始され，1958年に東京で行なわれた第3回アジア競技大会を機に第54次IOC会議を東京に招致して準備状況の認識を深め，1959年の第55次IOC会議でついに決定され，同年9月にはオリンピック東京大会組織委員会が結成された。会長は津島寿一(のち安川第五郎)，副会長は東龍太郎(りょうたろう)(東京都知事)・竹田恒徳(つねよし)・田代茂樹(しげき)，事務総長は田畑政治(のち与謝野秀(しげる))であった。

競技場として整備された会場は道路競技を含めて32，うち新設17，仮設6，拡充または改修9であった。また，在日アメリカ軍キャンプであった代々木のワシントン-ハイツの返還を受けて開設した選手村は，東京大会の大成功の一因とされている。東京大会の経費は，東海道新幹線の敷設や地下鉄・道路の整備などの関連経費を含めて1兆円といわれるが，直接経費は組織委員会経費99億4,600万円と競技施設関係165億8,800万円の合計265億3,400万円である。

アジアではじめて開催されるオリンピック大会というので，アジア諸国の関心はきわめて高く，8月21日ギリシアのオリンピアで採火されたオリンピック聖火*は空路で各国へ受け継がれ，それぞれの地で聖火リレーが行なわれて，沖縄に到着，9月9日鹿児島・宮崎・千歳(ちとせ)を出発して全国の都道府県庁所在地をつなぎ，開会前夜の10月9日に皇居前広場に到着，翌日の開会式に主競技場の聖火台に点じられた。

東京大会で実施された競技は，次の20種目である。陸上競技・ボート・バスケットボール・ボクシング・カヌー・自転車競技・フェンシング・サッカー・体操競技・ウエートリフティング・ホッケー・柔道・レスリング・水泳・飛び込み・近代五種競技・馬術競技・射撃競技・バレーボール・水球・ヨット競技。参加国数は94，選手数は男子4,826人，女子732人で，合計5,558人にのぼった。本大会で樹立された世界新記録は陸上競技15(男7，女8)，水泳19(男12，女7)，ウエートリフティング6，射撃競技5である。➔オリンピック競技大会〔藤岡　端〕

オリンポス(山)［Olympus］ギリシア北部，マケドニアとテッサリア地方の境にあるギリシア第1の高峰。標高2,918m。オリンポスの十二神といわれる主神ゼウスとその妻ヘラをはじめ，アポロン・ディオニソス・ヘルメスやポセイドンらの住んだ宮殿があるとされている。ギリシアにはオリンポスとよばれる山が諸所にあった。

オール　⇨櫂(かい)

オールウエーブじゅしんき【オールウエーブ受信機】ラジオ受信機の一種で，中波放送並びに短波放送を受信できる受信機。受信する周波数範囲が広いので1組みの同調回路ではカバーできず，幾組みかの同調回路を用いて切り換え方式をとり，周波数帯をいくつかのバンドに分けて受信する。

オルガスムス［orgasmus］男女性交の際，快感が漸次増加し，ついにその極点に到達した状態の快感。一般に男子は快感の上昇・下降の曲線が急速であり，女子は緩慢である。その神経支配は陰部神経で，中枢は大脳の知覚領(中心後回)にある。男子ではオルガスムスの際に射精が起こる。

オルガナイザー　⇨形成体

オルカーニャ［Andrea di Cione Orcagna］(1308？～1368)イタリア，フィレンツェの建築家・彫刻家・画家。彫刻にアンドレア-ピサーノ*，絵画にマッソの影響



オルガン
(左)15世紀のポジティブ-オルガン。バン-アイク《天使の奏楽》
(中)16世紀のポジティブ-オルガン
(右)武蔵野音楽大学の西ドイツ，クラウス社製作のオルガン。演奏者は世界的なオルガン奏者カール-リヒター

を受けたが，14世紀トスカナ地方のゴシック美術の中心的存在であった。代表作にサンタ-マリア-ノベルラ聖堂のストロッツィ礼拝堂の祭壇画などがある。

オルガヌム [Organum] ヨーロッパ中世のグレゴリオ聖歌*を定旋律とする多声楽曲。およそ9世紀から13世紀にかけてつくられた。4度または5度による平行オルガヌムに始まり，11世紀には1音対1音だが平行進行によらない自由オルガヌムへ，さらに12世紀になると上声部が装飾的進行をもつメリスマ的オルガヌムへと発展し，13世紀には当時の多声楽曲を支配したモーダル-リズムを取り入れて一定のリズム形を厳守する定量オルガヌムとなり，3声部・4声部からなるものも現われた。〔吉田泰輔〕

オルガノン [organon] ギリシア語で〈機関・道具〉という意味。アリストテレス学派では，論理学は学問研究そのものではないが，その研究のための道具・機関であるとして，論理学を〈オルガノン〉とよんだ。また，アリストテレス*の論理学的著作《範疇論(はんちゅうろん)》《命題論》《分析論前書》《分析論後書》《トピカ》《詭弁論駁(きべんろんばく)》の6編を総括してこの名でよぶ。なお，F.ベーコン*は帰納的方法を強調した新しい論理学書を書き，《ノーブム-オルガヌム(新機関)》と名づけた。〔本橋正義〕

オルガン [organ] わが国でパイプオルガンと俗称される大形の鍵盤(けんばん)楽器の一。長さや音色の異なるパイプを集めて，鍵盤を押すことによりそれを機械的な手段で吹奏させる。紀元前数世紀から知られており，ヨーロッパではルネサンス・バロック両時代に最も大きな役割を与えられた楽器である。18世紀のドイツにはシュニットガーやジルバーマンらのすぐれたオルガン製作者が現われ，それらの楽器は個性的な響きによって，今日でも模範とされている。オルガンの構造は次のように大別される。第1は発音源としてのパイプで，これは金属製だけでなく木製のものもあり，音高だけでなく，さまざまな音色が出せるように多くのセットに組まれている。第2はパイプに風を送る装置で，もとは手動や水車などでふいごを動かしたが，今日では電気によっている。第3は手でひく鍵盤と足でひく鍵盤で，前者は2～3段に分けられるのが普通であるが，後者は1段である。第4は鍵盤をいくつかのパイプのセットと結びつける装置である。ヨーロッパでは中世から左手でふいごを押し，右手でひくような小形のポルタティブや，すえつけられはするが小形のパイプをもつポジティブなどもあり，今日でも復原されて使われている。オルガンは合唱とともにキリスト教音楽の中心的な表現手段であり，20世紀でも，新たにオルガン音楽が作曲されている。なお，日本ではリード-オルガンや電子オルガンもオルガンとよばれるが，構造的には別な楽器である。➔リード-オルガン ➔エレクトーン 〔徳丸吉彦〕

オルガンチノ [Gnecchi-Soldi Organtino] (1530～1609) イタリアのイエズス会*宣教師。1570年(元亀1)インド～マラヤ～マラッカを経て来日し，フロイス*の下で京都を中心に布教活動を行ない，京都布教区長となる。織田信長(のぶなが)に信任され，南蛮寺・安土セミナリヨ(神学校)を設立した。黒人を伴って世人を驚かせた逸話は有名。信長の死後は迫害を受け，小西行長の援助を受けた。晩年を長崎で送り，同地で没した。

オルギン [Holguin] キューバ東部の都市。人口13万(1970)。周辺はサトウキビ・タバコ・コーヒーの栽培が盛んで，その中心都市として発達した。たばこ工場・製糖工場があり，ソ連の援助によって建設された同国最大の〈レーニン病院〉がある。

オルグレン [Nelson Algren] (1909～) アメリカの小説家。シカゴの貧民街での体験をもとに《宿無し》(1935)を発表して以来，社会派作家として活躍し，麻薬患者を扱った《黄金の腕》(1949)によってピューリッツァ賞を得た。ほかに《朝はもう来ない》や短編集《ネオンの荒野》などがある。

オルコック [Sir Rutherford Álcock] (1809～1897) 幕末のイギリス外交官。清(しん)国で領事として活躍後，1858年(安政5)駐日総領事，翌年江戸高輪(たかなわ)東禅寺の仮領事館に着任。同年初代の公使に昇格した。幕府に諸問題の解決を強く要求し，幕府に接近していたアメリカ公使ハリス*と政策的に対立した。1861年(文久1)東禅寺の公使館で水戸(みと)浪士の襲撃を受けたが無事脱出した。1862年賜暇帰国した際，開港・開市延期のために渡欧した竹内下野守(しもつけのかみ)一行と外相ラッセルとの間を斡旋(あっせん)して，ロンドン覚書の調印を実現させた。1864年(元治1)帰任，列国艦隊の下関(しものせき)砲撃を主張実行したが(➔下関事件)，同年本国に召還され，1865～1871年(慶応1～明治4)駐清公使をつとめた。日本に関する著述も多い。〔松尾 涼〕

オルコット [Louisa May Alcott] (1832～1888) アメリカの小説家。もと女優志願だったが家計のため種々の仕事に従事し，南北戦争中，看護婦をしたときの経験を《病院通信》として出版，広く読まれた。自伝的な《若草物語*》で一躍有名になり，引き続き同種の作品を発表している。また婦人参政権運動にも参加した。

オルゴール 楽器玩具(がんぐ)の一。オランダ語オルゲルから出た名で，自鳴琴ともいう。ぜんまいあるいはモーターで回転する円筒につめをつけ，ある固定した音階に調律した金属板(振動弁)をこのつめではじいて，一定の音楽を奏する。

オルコン(川) ⇨セレンガ川

オルコンひもん 【オルコン碑文】 ⇨突厥(とっけつ)碑文

オルジョニキーゼ [Ordzhonikidze] ソビエト連邦南西部，ロシア共和国内にある，北オセチア自治共和国の首都。旧称ジャウジカウ。人口26万5,000(1974)。カフカス山脈の北麓(ほくろく)を流れるスラク川に臨み，鉛・亜鉛・銀の精練工業が盛んである。トビリシとの間にガスのパイプラインが通ずる。グルジア軍用路の起点。1784年以来ロシアのカフカス支配の拠点であった。

オルスク [Orsk] ソビエト連邦，ウラル山脈南部，ウラル川とオリ川の合流点に

ある工業都市。人口123万7,000(1974)。第2次世界大戦初期のころから工業化が進められた。非鉄金属・機械・食品加工などの工業のほか，エンバ油田からパイプで送られてくる石油の精製を行なっている。

オールスターゲーム [all-star game] プロ野球の年中行事の一。アメリカでは毎年7月に行なわれ，メジャーリーグ各チームの花形が選手として選ばれるので〈ドリームゲーム〉ともよばれる。1933年，シカゴで催された20世紀世界博覧会のスポーツ-プログラムの一つとして行なわれたのが最初で，以後1945年を除いて毎年行なわれている。日本でも，1951年(昭和26)から毎年7月に，セントラル・パシフィック両リーグの選抜チームによって行なわれている。監督は前年度の優勝チームの監督がなり，選手は監督の選抜のほか，ファン投票によって選ばれる。試合回数は2～3回。〔鈴木美嶺〕

オールスパイス [allspice] 香辛料*の一。この名は，その風味がシナモン*・ナツメグ*・クローブ*などのそれを兼ね備えているというところからつけられた調理上の呼び名で，正しくはジャマイカ-ペッパーまたはピメント。西インド地方に産するフトモモ科の常緑高木ピメンタ-オッフィキナリスの果実を乾燥したもので，オイゲノールなどの芳香成分からなる精油を多く含んでいる。つけ物・カレー粉などの調合香料，ソース・肉加工品などの香辛料として広く用いられる。〔佐藤友太郎〕

オルタ [Victor Horta] (1861～1947) ベルギーの建築家。サン-ドニ-ド-レストレ教会堂の設計者のビオレ-ル-デュク(1814～1879)のもとで学び，バン-デ-ベルデ*らとともに，イギリスの工芸運動の影響を受けてヨーロッパに広く流行したアール-ヌーボー*の代表的作家となった。主要作品にはブリュッセルの〈チューリン街12番地の家〉があり，特にその階段室のデザインはアール-ヌーボーの典型的な作例とされている。他の作例には，ブリュッセル人民館・ブリュッセル美術館・ソルベイ-ホテル(→アール-ヌーボー)などがある。〔川田伸紘〕

オルテガ-イ-ガセット [José Ortega y Gasset] (1883～1955) スペインの哲学者。マドリードに生まれる。1910年マドリード大学教授となり，ニーチェ・ジンメルらの生の哲学*の立場から芸術や社会の諸問題を論じ，ウナムノ*とともに現代のスペイン思想に深い影響を与えた。1931年より1933年まで下院議員をつとめたが，1936年内乱が起こるやフランスに亡命し，オランダ・アルゼンチンなどに滞在し，のち帰国した。主著《大衆の蜂起(ほうき)》は，平均人である大衆と精神の貴族であるエリートとを対立させ，ヨーロッパの復興はエリートの創造力にかかっていることを力説している。〔飯塚勝久〕

オルテリウス [Abraham Ortelius] (1527～1598) ベルギーの地理学者・地図制作者。アンベルスに住んだ。多くの地図帳を出版し，特に1670年以後多数の版を重ねた《テアトルム-オルビス-テラルム(世界の舞台)》は名高い。これによって，東洋に関する詳細な地図がヨーロッパ人の目に触れるようになった。これに記載された日本の地図は，ヨーロッパでは古いものの一つである。

オルデンバーグ [Claes Oldenburg] (1929～) 現代アメリアの影刻家。ストックホルムに生まれたがアメリカに渡り，エール大学とインスティチュート-オブ-シカゴに学んだ。1956年以来ニューヨークに住み，抽象表現主義的な絵画を描いたのち，種々のハプニング*を行ない，1961年ごろからハンバーガー・アイスクリームなどの食品，あるいはタイプライター・電気掃除器(そうじき)・便器などの日常的な製品を題材に影刻を制作し，ポップ-アート*の代表的作家とされる。その影刻は，機械的なかたいものを柔体化したり，柔らかい物質を巨大化するなど，日常的なイメージを拡大・変容させるが，摩天楼的規模をもつ空想の《巨大なモニュメント-シリーズ》の計画を発表している。〔三木多聞〕

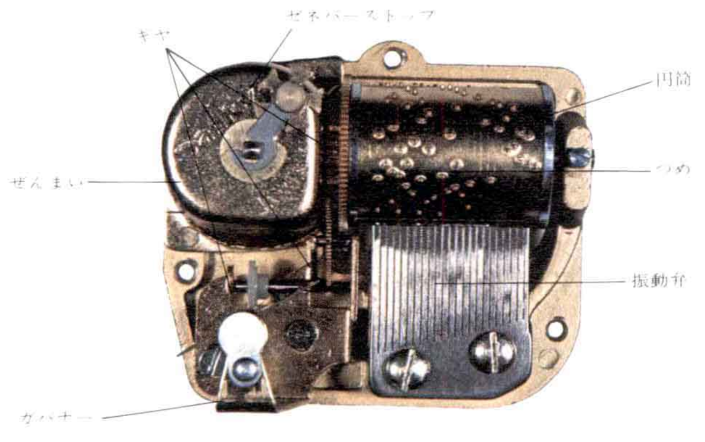
オルドス [Ordos] 鄂爾多斯とも書く。中国，陝西(せんせい)省北部，黄河屈曲部と万里の長城に囲まれた地域。一帯は砂丘と草原で，15世紀中ごろからモンゴル族のオルドス部が占拠したため，この名でよばれる。古来，匈奴(きょうど)をはじめとする遊牧民族はここを根拠として中国に侵入，漢民族国家を脅かした。いわゆるオルドス青銅器文化は，彼らの遺品である。五胡(ごこ)十六国時代の夏(匈奴)や宋(そう)代の西夏(チベット系のツングート族)は，ここに独立国を建てて東西交通路をおさえた。〔日比野丈夫〕

オルドビスき 【オルドビス紀】 地質時代のうちの古生代を6分した第2番めの時代。カンブリア紀のあとで，シルリア紀のまえ。オルドビス紀(ordovician period)の名称は，ローマ帝国時代，イギリス北ウエールズの古代イギリス民族名オルドビセス(ordovices)に由来し，1879年C.ラプワースによって提唱された。約5億年前から約4億3,000万年前までの約7,000万年の期間を代表する。この時代の地層の標準地域はイギリスおよびバルト海沿岸である。この紀には化石として重要な無脊椎(むせきつい)動物の諸綱がほとんど出そろった。フデイシ類が全盛をきわめ，サンゴ類，特に床板サンゴ類が発展し，腕足類も繁栄した。頭足類のオウムガイ類が勢力を得，サンヨウチュウも依然として栄え，魚類ではカッチュウギョが出現した。植物では藻類(そうるい)が代表的である。気候は全般的に温暖であった。遠海相のフデイシケツ岩の堆積(たいせき)が特徴的で，地向斜内に海底火山活動があった。本紀後期に北アメリカのアパラチアで著しい地殻(ちかく)変動(タコニック変動)があった。
→地質時代 →化石〔田中啓策〕

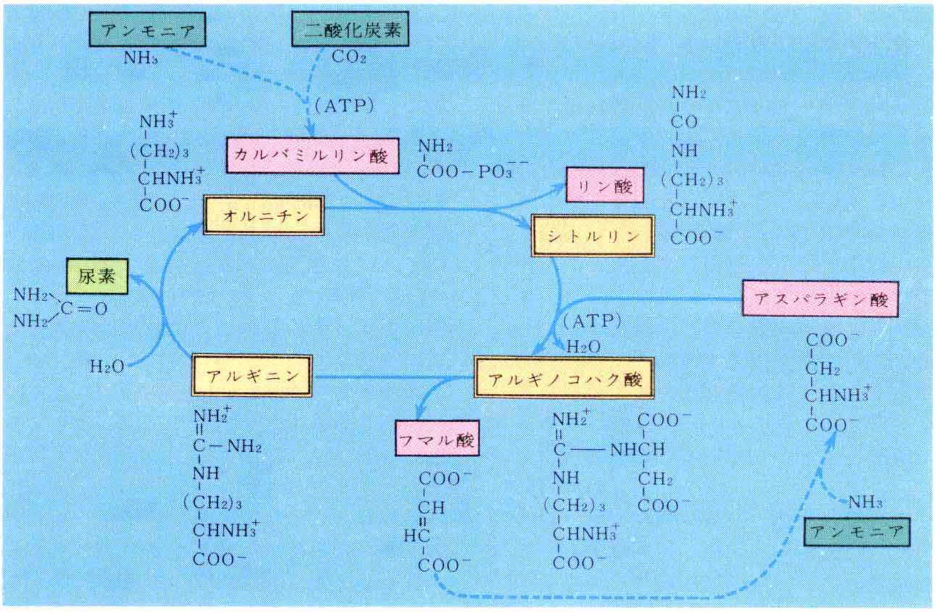
オールド-ビックげきじょう 【オールド-ビック劇場】 ⇨イギリス演劇

オルニチン [ornithine] 塩基性アミノ酸の一種で，タンパク質の構成アミノ酸ではないが，高等植物中に遊離して存在する。生体内においてはグルタミン酸から生成され，オルニチン回路*の一員として尿素生成に関係し，代謝上重要な役割を果たす。

オルニチンかいろ 【オルニチン回路】 アミノ酸などの分解によって生ずるアンモニアを解毒化し，尿素に変換するために行なわれる生体内化学反応の経路。図のように，オルニチン・シトルリン・アルギニンなどのアミノ酸の分解・生成を含む循環反応である。この回路は1932年にクレブスとヘンスライトにより証明され，クレブス-ヘンスライト回路ともいわれる。アンモニアと二酸化炭素とが，ATP*などの働きによりカルバミルリン酸となり，これがオルニチンと反応してシトルリンを生ずる。シトルリンはアスパラギン酸と結合してアルギノコハク酸となり，これが分解してアルギニンとフマル酸を生ずる。フマル酸はいくつかの過程を経てアンモニアを受け取りアスパラギン酸となり，アル



オルゴール
機械装置



オルニチン回路

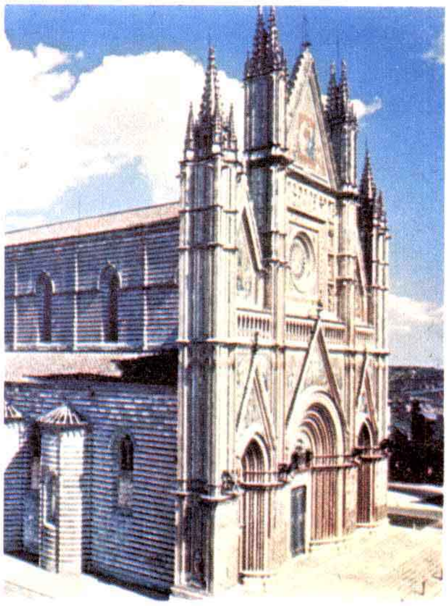
ギニンは分解してオルニチンと尿素を生ずる。これらの各過程はそれぞれの反応に特異的な酵素の働きによって行なわれるが，結局この回路が一巡すると２分子のアンモニアと１分子の二酸化炭素から，１分子の尿素を生ずることになる。哺乳(ほにゅう)動物では窒素化合物は最終的には主として尿素となって排出されるが，これはこのような反応経路によって体内でつくられたものである。〔大岡忠一〕

オルバース ［Heinrich Wilhelm Matthias Olbers］（1758～1840） ドイツの医師・天文学者。ブレーメン近くで生まれた。いくつかの彗星(すいせい)と小惑星を発見したが，その中でも小惑星のパラスとベスタは有名である。

オールバニ ［Albany］ アメリカ合衆国ニューヨーク州の州都。人口11万6,000(1970)。ハドソン川中流に発達した古都で，農耕機械・くつ・ビール・家具の生産が盛ん。エリー運河の終点にあたる内陸港であり，また鉄道の分岐点となる交通の要地。ハドソン川に沿って倉庫や荷役機械が立ち並び，世界有数の小麦荷役設備がある。

オールビー ［Edward Albee］（1928～ ） アメリカの劇作家。1960年《動物園物語》によってオフ-ブロードウェーにデビューし，現代人の疎外や絶望を描いて注目された。さらに《アメリカの夢》《バージニア-ウルフなんかこわくない》などにおいて，家庭の中の孤独と家庭の崩壊とを鋭い批判の視点から描いている。

オルビエトだいせいどう 【オルビエト大聖堂】 ローマの北西オルビエトにある寺院。ロレンツォ-マイタニの設計によって，1290～1330年にかけて建てられた。ロマネスク建築の壁体構造にゴシック建築の装飾性を取り入れて，いわゆるイタリア的な安定感を表出している。内部のブリツィオ礼拝堂には，シニョレッリ*の壁画《最後の審判》がある。



オルビエト大聖堂

オルフ ［Carl Orff］（1895～ ） ドイツの作曲家・音楽教育家。幼時から非凡な楽才を現わし，10代から歌曲・大管弦楽曲・オペラを作曲した。1914年ミュンヘン音楽院を首席で卒業，翌年から３年間第１次世界大戦に参加したのち，ドイツ各地のオペラ劇場の指揮者を歴任し，そのかたわら後期ロマン派ふうの作品を発表した。しかし，しだいにルネサンス音楽・バロック音楽に興味を示し，作風も古代的なものになった。1937年，中世遊行僧の詩稿によるカンタータ《カルミナブラーナ》を作曲，単純な中世歌謡的な声楽の旋律に明快なリズムをもった三和音の伴奏をつけるという独特のスタイルを確立し，《カトゥリカルミナ》など，同じスタイルの舞台作品を次々に発表した。《お月さま》《賢い女》などオペラの作品も重要である。また1924年以来，体育・舞踊・音楽の統合教育に関係し，リズム教育用の楽器を考案したり，《子どものための音楽》など，子ども用教則本の編集を行なったりしている。〔船山　隆〕

オルフィスム ［Orphisme］ 1913年，アポリネール*によってドローネー*の作品に対してオルフィック-キュービスムと名づけられた美術上の一傾向をさす。ギリシアの伝説的詩人オルペウス*の名からとられた名称で，キュービスム*よりいっそう神秘的であることから，通常はオルフィスムといわれる。ドローネーは，絵画はフォルム*より色彩が優先するという事実に関心を示し，キュービスムの空間性と未来派*による絵画の時間性との融合をめざし，かつフォービスム*の強烈な色彩を取り入れて純粋抽象絵画の先駆者のひとりとなった。この派には，ほかにピカビア*・デュシャン*らがあげられる。彼らの理念は，クレー*・カンジンスキー*を通じてドイツの絵画にも大きな影響を与えた。〔井関正昭〕

オルフィズム ［Orphism］ オルフィクともいう。古代ギリシアで紀元前８世紀ごろからオルペウス*の名のもとに，詩・芸術・宗教・哲学の諸領域に展開された精神活動を，現代の学者が総称したもの。トラキア出の宗教詩人オルペウスは鳥獣木石をも魅了したキタラの名手で，愛人エウリディケをハデス*の支配する死の国から連れ帰れず，そのために死の国の神ディオニュソス信仰からアポロン崇拝に転じたと伝えられる。このように，その精神には非合理的なものと合理的なものとが含まれている。また，アルゴ号の航海(→アルゴナウテチカ)に参加して海が荒れたとき，舟人の魂を静めるために歌った天地開闢(かいびゃく)の歌〈コスモゴニア〉は，ヘシオドスによって神々の誕生とともに語られている。

オルペウス教の特異性は，ディオニュソス秘儀を背景に，天地開闢の始源に夜や時間や世界卵(そこから世界が生まれたとする卵)を置き，また卵から生まれるパネス(光の子)ないしゼウスの子ディオニュソスの誕生を重んじた点にある。さらにディオニュソスを殺害し，これを食したティタネスがゼウスの火で焼かれ，その死灰から人間が誕生したという物語に象徴される霊肉二元の人間観は，霊魂輪廻説(りんねせつ)とともにオルフィズムの禁欲生活を生み，ピタゴラス派の生活法，プラトンのイデア論，新プラトン派の神秘主義に影響を与えた。秘儀宗教としては紀元前後にキリスト教に代わられたが，《オルペウス風讃歌集(さんかしゅう)》は後世に伝えられた。ローマのウェルギリウス，ルネサンスのモンテベルディやグルックの歌劇をはじめ，現代の詩人リルケやトラクルやベンなどにも，オルフィズムの精神は脈打っている。〔村治能就〕

オルフェウス ⇨オルペウス

オルフス ［Aarhus］ デンマーク，ユトランド半島東部にあるこの国第2の都市。人口24万5,000(1973)。オルフス湾に臨む良港をもち，海運・商業都市として発達している。農酪産品の集散加工や製鉄・機械・かんづめ製造などの工業も盛んである。

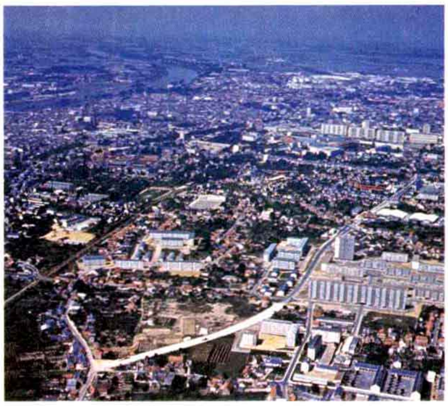
オルブラフト ［Ivan Olbracht］ (1882～1953) チェコスロバキアの小説家。本名カミル-ゼマン。学生時代から革命運動に参加し，のち共産党機関誌《ルーデ-プラーボ》の編集者にもなった。《義賊ニコラ-シューハイ》《労働婦人アンナ》はこの国のプロレタリア文学の代表作といわれる。ほかに《格子(こうし)つきの鏡》などがある。

オルブリッヒ ［Joseph Maria Olbrich］ (1867～1908) オーストリアの建築家。ウィーン美術学校でワーグナーらに師事。1897年，ウィーンの若い芸術家19名が，過去の様式からの脱却分離を図っておこした新しい芸術運動〈セセッション〉に参加。1899年には，ダルムシュタットのマティルデ丘に新しい芸術家村を計画し，広場・エルンスト-ルドビヒ館(共同アトリエ)・住宅など，ほとんどの建築設計を手がけた。中でも，1901～1908年に建てた太公結婚記念塔は円熟した作品で，近代のすぐれた建築の一つとされる。 〔前野　堯〕

オルペウス ［Orpheus］ 伝説上のトラキアの歌とキタラの名手。母はカリオペとも，またムーサのひとりともいわれる。アルゴ号の航海(→アルゴナウチカ)に加わり，その音楽で木石をも感動させたといわれ，またセイレンたちの危機から乗組員を救った。ニンフのエウリディケを妻としたが，妻はヘビにかまれて死んだ。彼は冥界(めいかい)へ降り，歌でハデスを感動させ，後ろに従う妻を地上に出るまではふり返って見ないという約束で，連れ帰る許しを得たが，あと1歩で果たせなかった。秘儀オルフィズムの創始者とされる。〔左中庸博〕

オールポート ［Gordon Willard Allport］ (1897～1967) アメリカの心理学者で，パーソナリティー研究の第一人者。ハーバード大学卒業後，ドイツ・イギリスに遊学，ダートマス大学勤務を経て，1942年母校の心理学主任教授となる。経験的人格主義の立場から人格心理学の発展に尽くすかたわら，デマの心理学，個人と宗教，社会心理学史などの書を著わし，幅広く活躍している。

オルミュッツのきょうやく 【オルミュッツの協約】 1850年，現在のチェコスロバキアのオロモーツで，プロイセンとオーストリア間に結ばれた協約。プロイセン王フリードリヒ-ウィルヘルム4世は，プロイセンを中心としてドイツ諸邦を連合する〈ドイツ連盟〉の結成を企てたが，オーストリア・ロシアの反対にあって，挫折(ざせつ)し，協約を結んでドイツ統一計画の破棄を確認した。



オルレアン　写真左上にロアール川の流れが見えるが，これにかかる二つの橋の右側が市の中心部で，手前は郊外の高層住宅地

オルム ⇨ホライモリ

オルムズ(海峡) ［Hormuz］ ホルムズ海峡ともいう。アラビア海からオーマン湾を経てペルシア湾にはいる海峡。幅50km，最深190m。古くはペルシアとインドの交易の要路であり，現在もボンベイ(インド)・カラチ(パキスタン)とクウェートを結ぶ海上交通の要点となっている。

オルレアン(公) ⇨ルイ-フィリップ

オルレアン ［Orléans］ フランス北部，ロアレ県の県庁所在地で，パリの南西120kmにあたる。人口96,000(1968)。ロアール川右岸の河港で，食品・繊維製品など商業取引の中心地。毛布・既製服の生産も多い。BC52年カエサルに征服され，6世紀にはオルレアン王国の首都であった。百年戦争中はイギリスの占領下にあったが，ジャンヌ-ダルクの指揮する軍隊がこれを奪回した史実は名高い。毎年5月7～8日にはこれを記念した祭りが行なわれている。 〔野間三郎〕

オルレアン(家) ［Orléan］ フランスのバロア家とブルボン家から分かれた貴族。4家系に分かれるが，ルイ14世の弟フィリップにはじまる家系が最も有名である。5代めフィリップ平等公は啓蒙(けいもう)思想の影響を受け，自由主義派貴族としてフランス革命初期に活躍したが，恐怖政治の時代に反革命の疑いで処刑された。その子ルイ-フィリップは七月革命の結果国王に推され，オルレアン家の王朝を開いたが，1848年二月革命によって追放され，イギリスに亡命した。その後，大資本家の援助を背景にオルレアン家の王政復古をめざす運動が，ブルボン朝の復活をめざす正統王党派と対立しながら展開された。 〔大野真一郎〕

オルレアンのしょうじょ 【オルレアンの少女】 シラーの5幕の詩劇(1801)。イギリスと戦った百年戦争において祖国フランスを救ったジャンヌ-ダルクの伝説を演劇化したものであるが，伝説や歴史にはあまりとらわれていない。女主人公ヨハンナは，祖国救済の任務と男性への愛情との板ばさみに迷い苦しむが，身を犠牲にしてフランスの危機を救い，栄光に包まれて昇天するというもの。マリアのお告げ・奇跡などを巧みに織り込んだ一種の浪漫劇である。→次項 〔野島正城〕

オルレアンのたたかい 【オルレアンの戦い】 百年戦争(1338～1453)の後期，ジャンヌ-ダルクのオルレアン解放で有名な戦い。当時優勢に立ったイギリス軍はブルゴーニュ派貴族と協力して，フランス王と結ぶアルマニャック派貴族の本拠オルレアンを包囲し，戦争に決着をつけようと図った。しかし，かえってフランス王側の結束を強め，1429年ジャンヌ-ダルクによるオルレアン解放後は，フランス王軍が優勢に転じ，最後の勝利を獲得するに至った。〔大野真一郎〕

オルロ ［Oruro］ 南アメリカ大陸，ボリビア共和国西部の都市。人口135,000(1973)。アンデス山地の標高3,700mの高地にあり，アリカ(チリ)・ラパス・ブエノスアイレス(アルゼンチン)を結ぶ鉄道交通の要地である。付近には世界有数のスズ鉱山をもち，その採掘・精錬の中心都市として発達した。ほかに銀・銅・アンチモンなども産する。

オレインさん 【オレイン酸】 $CH_3(CH_2)_7CH=CH(CH_2)_7COOH$ シス-9-オクタデセン酸のこと。油酸ともいう。二重結合を一つもつ脂肪酸で，グリセリンとのエステルとしてほとんどの動植物油中に含まれている。オリーブ油・つばき油・扁桃油(へんとうゆ)などから分離する。無色無臭の液体。不純の場合は，空中にさらすと酸化されて着色し，腐敗臭を発する。用途は広い。工業的にはパルミチン酸やステアリン酸・リノール酸などを少量含有した粗オレイン酸が使われている。〔石戸良治・荒木洋之助〕

オーレオピテクス ［oreopithecus］ 第三紀中新世から鮮新世にかけて生息した化石霊長類。1860年代に最初の化石が発見され，1958年には，イタリアでヒュルツェラーによって全身骨格が発見された。歯牙(しが)形態は著しくヒトに似ており，人類に含めてよいとする説もあるが，反論もある。

オーレオマイシン ⇨クロルテトラサイクリン

オレゴン(州) ［Oregon］ アメリカ合衆国北部，太平洋沿岸の州。面積25万1,000km²，人口209万1,000(1970)。州都サーレム。1859年合衆国第33番めの州となる。州名は〈美しい水〉の意で，アルゴンキア-インディアンがコロンビア川を，オーラゴンとよんでいたことに由来する。カスケード山脈を境として西部の沿岸地方は雨が多く，東部の高原地方は少ない。沿岸地方は林業・水産業が盛んであり，高原部は小麦と肉牛を主とする農牧業が中心となる。森林が面積の半ばを占め，木材・パルプなど林産物の生産額は合衆国全州中第1位で，州収入の50%以上を占めている。モモ・サクランボの生産額も第1位である。工業ではくだものの

かんづめ工業が目だつにすぎない。主要都市，ポートランド・ユージーン・サーレム。〔椙村大彬〕

オレゴンきょうてい【オレゴン協定】北アメリカ大陸西部のオレゴン地方(ロッキー山脈以西，北緯42°～54°40′で囲まれた地域)の領有をめぐるアメリカ・イギリス間の国境紛争に終止符を打った1846年の条約。19世紀前半，アメリカは1804～1806年のルイスとクラークの探検，イギリスは1778年のキャプテン-クックの探検などを根拠に，この地方の領有権を主張し争っていた。1818年の協定で同地方は両国の共同管理下に置かれ，1827年協定は無期限に延長されたが，西漸運動*でアメリカ人入植者がふえるにつれ，最終的国境画定が急がれた。イギリスはコロンビア川を国境として主張したが，1844年〈54°40′か，さもなくば戦争を！〉のスローガンを掲げたポークが大統領に選出されるに及んで，イギリスが譲歩して協定が成立した。その結果，コロンビア川までは49度線の国境を延長し，太平洋まではコロンビア川中央を国境とすることが決まり，合衆国ははじめて太平洋に到着した。〔折井一彦〕

オレゴンこっきょうふんそう【オレゴン国境紛争】⇨オレゴン協定

オレステス［Orestes］古代ギリシアの伝説上の男性。トロヤを攻めたギリシア方の総大将アガメムノン*とクリュタイムネストラの子。エレクトラ*・イピゲネイア*の弟である。父アガメムノンが母とその情人アイギストスの手にかかって謀殺されたため，彼は国外にのがれ，復讐(ふくしゅう)の機会をうかがう。のち年を経て，姉エレクトラと親友ピュラデスの協力を得て母と情人を殺し，父のあだを討つ。以後この母殺しがもとで狂気に陥るなど，さまざまな苦難を経るが，最後に裁判にかけられ，アテナ*の1票でかろうじて罪を許される。アイスキュロス*・ソポクレス*・エウリピデス*ら大悲劇詩人が競ってこの伝説をその悲劇の題材にしたが，とりわけアイスキュロスの《アガメムノン》《コエポロイ》《エウメニデス》は〈オレステイア三部作〉として有名である。〔松田　治〕

オレフィン　⇨エチレン系炭化水素

オレンジ［orange］双子葉植物・ミカン科の常緑小高木。オレンジという語は，スイートオレンジ・サワーオレンジ・ビターオレンジ・マンダリンオレンジなどと用いられているが，単にオレンジといえばスイートオレンジをさすことが多い。この果実は球形，オレンジ色*で果皮は締まり，油胞多く，甘み・かおりともに強い。日本にはワシントンネーブルオレンジがよく知られており，わが国でも枝変わりの良系が発見されているが，欧米ではバレンシアオレンジのほうが栽培面積が広く，生食・果汁(かじゅう)用として重要視される。このほか，果肉



オレンジ　ワシントンネーブルオレンジ

が赤血色のブラッドオレンジというものもある。日本で一般にミカンというような場合に，欧米ではオレンジという語が用いられるようである。〔岩垣駛夫〕

オレンジ(川)［Orange］南アフリカ共和国を西流し，大西洋に注ぐ川。ドラケンスバーグ山脈に源を発し，キンバリー付近でバール川を合わせる。全長約2,100km。世界三大滝の一つといわれるオーフラビース滝をはじめ，急流部が多く，航行には不適である。中・下流部は砂漠(さばく)・半砂漠地で，河口では年内わずか3か月しか流水がない。

オレンジ(家)［Oranje］南フランスのオランジュの出で，オランダ総督や王位についた家系。16世紀に相続の関係からドイツのナッサウ伯があとを継ぎ，オレンジ-ナッサウ家と称した。この家系からオランダ独立の中心人物ウィレム1世*や，名誉革命*後イギリス王位についたウィレム3世*が出た。3世の死後，その称号は現オランダ王室に受け継がれた。

オレンジいろ【オレンジ色】色名。オレンジの果実のような色。橙色(だいだいいろ)。この色は，古くから柑橘(かんきつ)類の果実の名称で表わされることが多い。わが国の橙色・みかん色・柑子(こうじ)色などは，みな，橙色系統の色である。正確にいうとオレンジ色は，基本色の橙色よりもやや黄みが多く，ごくわずかに彩度が低い。また，みかん色よりもごくわずかに黄みが多く，明度・彩度ともにわずかに低い。日本工業規格(JIS)慣用色名〈オレンジ色〉は，色相6.0YR，明度6.0，彩度11.5の色と規定されている。➔色〔武井邦彦〕

オレンジ(公)**ウィレム**　⇨ウィリアム3世

オレンジじゆうこく【オレンジ自由国】南アフリカにボーア人*が建てた国(1854～1902)。1814年ケープ植民地がイギリス領となったため，先住のオランダ人入植者(ブール人またはアフリカーナ)は1835年から奥地に〈グレイト-トレック(大移動)〉を行ない，農奴制度を基礎にしたオレンジ自由国とトランスバール共和国を築いた。1860年代にダイヤモンド，1870年代に金が発見されると，イギリスの併合政策を刺激し，ついにボーア戦争*となり，1902年敗れてイギリス領に併合された。1910年南アフリカ連邦成立に伴い，その一州となった。➔次項〔喜多迅鷹〕

オレンジじゆうこく【オレンジ自由国(州)】Orange Free State 南アフリカ共和国の一州。面積12万9,000km²，人口80万(1966)。州都ブルームフォンテーン。ドラケンスバーグ山脈西麓(せいろく)の内陸地域で，オレンジ川*上流を占める。大部分は1,000～1,300mの高原である。降水量は少なく，一帯は草原をなし，ウシ・ヒツジ・ウマ・ダチョウなどの家畜を飼っている。地下資源も豊富で，特にダイヤモンドと金は産出が多い。1899～1902年のボーア戦争*以前は，オランダ系の移民ボーア人の独立共和国であった。戦後イギリス領に編入され，その後，1910年南アフリカ連邦がイギリス連邦の一員として独立したとき，最初の加盟国となった。南アフリカ連邦が南アフリカ共和国に改組されるとともに，同じ境域のままその一州となった。ヨーロッパ人は約20万にすぎない。〔小栗　宏〕

オレンハウアー［Erich Ollenhauer］(1901～1963) 西ドイツの政治家。ドイツ社会民主党員としてワイマール議会で活躍。1933年に党中央執行委員となる。ナチス政権時代はチェコスロバキア・フランス・イギリスに亡命，戦後帰国して党の再建に尽くし，1952年党首となる。この間ドイツ社会民主党はマルクス主義を放棄し，国民政党としての性格をもつようになった。

オレンブルグ［Orenburg］ソビエト連邦，ウラル山脈南部にある同名州の州都。旧称チカロフ。人口40万(1974)。ウラル川に沿うトランスカスピ鉄道の起点で，機械・繊維・食品加工などの工業が盛んである。1735年要塞(ようさい)として建設されたもので，ロシアと中央アジアの交易都市であった。

おろ【悪露】産褥(さんじょく)期に性器から排泄(はいせつ)される分泌物。おもに子宮の創傷面から出るもので，創傷面からの分泌物に，血液・粘液，脱落した上皮細胞などを混じている。一種の生ぐさい臭気を発するが悪臭ではない。分娩(ぶんべん)直後は血液が多いため暗赤色を呈し，量も比較的多いが，しだいに量は少なくなって肉汁(にくじゅう)様となり，産後8～10日ごろには帯黄色となる。ふつう4～6週で消失する。全量は個人差がはなはだしいが，500～1,000gである。〔木川源則〕

おろくぐし【お六櫛】江戸中期の享保(きょうほう)年間(1716～1735)農村や山深い里の女性たちのために，実用と装飾を兼ねてつくられた安物のくし。おもに信州(長野県)木曽(きそ)地方でツゲを材料としてつくられ，蒔絵(まきえ)まがいの絵が朱や藍色(あいいろ)の塗り物で描かれていた。

おろし【颪】山から吹き降ろす冷たい風のこと。風速が異常に強いことが多い。多くは，赤城(あかぎ)おろし・六甲おろしなど，

地名を冠してよばれる。

おろし おろし金でダイコン・ショウガ・ワサビ，ユズの皮などをすりおろしたもの。大根おろしが最も一般的である。おろし金にはあらい目と細かい目のものがあり，ダイコンやショウガは前者を用いる。ワサビは後者を用いて茎の方から〈の〉の字を書くようにおろすと，辛みと粘りが出る。ダイコンはまっすぐ上下に動かしておろし，裏ごしの上にのせ，自然に水気を切って用いる。大根おろしを用いた料理におろしあえ・おろしじる・おろし煮などがある。なお，大根おろしを加工したものには，染めおろし(おろしにしょうゆを混ぜる)，黄身おろし(卵黄を混ぜる)，のりおろし(もみのりを混ぜる)，緑おろし(キュウリをおろして混ぜる)，もみじおろし(ダイコンにはしで穴をあけ，種を抜いた赤トウガラシをさし込んでおろす)などがある。なお，ニンジンのおろしを混ぜたものももみじおろしというが，これはニンジン中のアスコルビン酸酸化酵素が作用することによって大根おろしのビタミンCを破壊するので好ましくない。〔塩川ふみ〕

おろしうりぎょうしゃ 【卸売業者】 商品の生産者と小売業者との間に介在する中間商業者。小売業者や他の卸売業者に向けて販売し，最終の消費者に向けては通常ほとんど販売しない。この卸売業者を広く解釈すれば，問屋*・卸売店・代理店・ブローカーなども含まれる。卸売業者の機能は，①需給調整機能，②生産者の指導・援助機能，③顧客の指導・援助機能の三つに分けられる。第1の需給調整機能は，流通機構の中枢にあって生産と消費の需給を調整する働きで，これは対生産者，対小売業者との双方に対して同時的に果たす機能とみてよい。第2の生産者の指導・援助機能は，主として生産に対する指導・援助機能である。第3の顧客の指導・援助機能とは，卸売業者顧客，すなわち小売業者を主体として，その他の卸売業者あるいは工場諸機関，その他の業務用需要者のいっさいを含む顧客に対する指導・援助機能を意味する。それぞれをさらに細分すると，次のような機能をみることができる。

《需給調整機能》 ㋑生産消費連係機能，㋺取引単純化機能，㋩商品の数量的調整機能，㋥商品の時期的調整機能，㋭商品の貯水池機能，㋬需給調整変動機能，㋣輸送機能，㋠流通費節減機能，㋷価格平準化機能，㋦危険負担機能。

《生産者指導・援助機能》 ㋑生産者金融機能，㋺生産者情報提供機能，㋩生産指導機能，㋥生産促進機能，㋭生産安定化機能，㋬商品開発促進機能，㋣市場開拓機能。

《顧客指導・援助機能》 ㋑顧客金融機能，㋺顧客情報提供機能，㋩新製品紹介機能，㋥品質保証・標準化機能，㋭適時・適量在庫機能，㋬販売指導機能，㋣啓蒙(けいもう)・教育・訓練機能。

流通革新*との関連で卸売業者の役割に触れると，一般に〈流通革新〉とよばれている問題の内容は，①スーパーマーケットの進出とこれに伴う一般小売店の衰微，②生産者・小売業者の直結とこれに伴う卸売業者の排除，の2点に分けられ，卸売業者が存在することが，無用な中間搾取の機関が中に立つために価格が高くなる，生産者や小売業者がもうからない，流通がうまくいかなくなる，などの弊害を生むということであった。しかし，卸売業者の歴史的発展過程，現実の状況からして，流通過程における卸売機能を排除することは不可能であり，卸売業者を排除すれば，その機能を生産者か小売業者が代行しなければならなくなると思われる。〔清水　晶〕

おろしうりぶっかしすう 【卸売物価指数】 卸売段階の物価の全般的な動きを示す指数。国民総生産*(GNP)などの経済量を金額で表示し，異なる時点でその変動をみようとする場合，経済的な諸条件の違いを捨象して実質的な比較をするための因子(デフレーター)として用いられる。また，それ自身が景気の動向を表わす指標としての意味をもっている。わが国の卸売物価指数としては，月間・旬間に発表される日本銀行東京卸売物価指数がある。ほかに経済企画庁が週間卸売物価指数を1965年(昭和40)まで発表していた。日本銀行卸売物価指数は歴史も古く，1887年(明治20)に30品目の価格の単純算術平均によって算出したものに始まり，以後数回にわたって品目数の増加，基準年の改定が行なわれ，1936年以後はラスパイレス式*の加重算術平均によって算出されている。現行の日本銀行卸売物価指数(下表)は，1975年の価格を基準としたもので，総合指数のほか，品目類別指数，生産財・消費材などの部門別(使途類別)指数がある。〔鈴木諒一〕

オロスコ ［José Clemente Orozco］(1883～1949) 現代メキシコの代表的画家。1908年からメキシコシチーの国立美術学校で美術・建築を学び，革命の中で1913年



オロスコ《ケツァルコアトルの出立》 1932～1934 ダートマス大学ベーカー図書館壁画

類別卸売物価指数一覧表(昭和50年基準)

	品目数	ウエート	1980年の値
総平均	1034	10000	131.8
食料品	122	1409	124.1
非食料農産物	27	189	138.3
繊維製品	99	629	121.9
製材・木製品	40	336	149.6
紙パルプ	36	289	133.3
金属素材	14	126	121.6
鉄鋼	78	807	130.5
非鉄金属	56	261	153.0
金属製品	47	370	123.0
電気機械	92	733	98.5
輸送用機械	21	740	104.0
一般・精密機械	123	957	106.9
化学製品	132	911	131.3
石油・石炭製品	27	1022	193.9
窯業製品	46	305	143.7
電力・ガス	5	255	184.4
雑品目	69	661	129.1

歴史画の《サン-ファン-デ-ウルア》を発表して地歩を占めた。のち一時はアメリカに渡ったが，1921年シケイロス*・リベラ*らと美術家組合をつくって壁画運動を開始。各地の公共建築に，風刺的主題や革命の情景を表わす象徴的なフレスコによる大作を制作した。

オロチョンぞく【オロチョン族】エベンキ族(ツングース族*)のうち大興安嶺(だいこうあんれい)からアムール川にかけて住む一派の自称。もっぱらトナカイ牧畜に従事するため，狩猟・漁労を主とする他のエベンキ族から区別して，みずからオロ(オロシ)(〈トナカイの人〉の意)と称する。人口約3,000。オロチ・オロッコも同じ語源をもつが別種族である。

オロッコじん【オロッコ人】サハリン(樺太(からふと))に住むツングース系民族。人口約400。トナカイ飼育民であるが漁労・海獣猟に従事して定住する者が多い。冬季の円錐(えんすい)テント，トナカイ飼育などを除けば，アムール川下流地域の他のツングース族*に近い。第2次世界大戦後，少数が北海道へ移住している。

オロットさん【オロット酸】化学的にはウラシル-6-カルボン酸。ネズミの発育促進因子として牛乳・発酵蒸留廃液などから発見・分離された化合物。白色の結晶で，融点345～346℃。生体内で核酸*の前駆物質または補酵素として作用する。また，乳酸菌の増殖にも不可欠な成分で，ビタミンB_{13}の本体ともいわれている。

オーロビンド-ゴーシュ ⇨ゴーシュ

オーロプレト［Ouro Preto］ブラジル共和国東部，ミナスジェライス州の都市。人口8,000(1965)。都市名はポルトガル語で黒い金の意。1701年金鉱の鉱山都市として建設され，ゴールドラッシュにより急速に発展した。1822年ブラジルが王国として独立したのちに，1823～1897年は州都であったが，金山の不況と交通不便のため，州都はベロオリゾンテに移り，人口も激減した。古い時代の政庁・博物館などが残っており，バロックふうの教会は建築家リスボアの傑作として有名。〔小栗　宏〕

オーロラ ⇨エオス

オーロラ［aurora］地球の極地方の上層大気中に起きる発光現象。極光ともいう。色は緑白色が多いが，赤・黄などもみられる。形は幕状・線状・放射状などがありさまざまである。ふつう，高さは100km以上で，ときには1,000kmに及ぶことがあるが，最も多く出現するのは110km内外である。出現場所は高緯度の特定地域に限られ，その地域を極光帯という。磁極軸を中心にして，平均約23°の距離にある卵形の地帯である。オーロラの原因は太陽である。観測によると太陽表面の活動が激しくなり，爆発などがあると，1～2日後にオーロラが現われることが多い。太陽表面から放出された荷電粒子が地球に到達し，地球磁場によって曲げられて極地方の上空に達し，そこの空気を刺激するためである。荷電粒子のもつエネルギーは低いために，大気上層で阻止されて地上約80km以下には侵入できず，それよりも上層の空気を刺激して発光させる。その光のスペクトルを調べることによって，大気上層の物質組織がわかるが，酸素および窒素の分子または原子によって赤・緑の色が出ていることがわかる。〔相原正彦〕


オーロラ

オロロンちょう ⇨ウミガラス

オーロン［Orlon］ポリアクリルニトリル系の合成繊維の商標。アメリカのデュポン*社が1944年ごろから〈ファイバーA〉の名で生産を始め，1948年にオーロンと命名して大量生産を始めた。アクリル系合成繊維の先駆である。

おわせ【尾鷲(市)】三重県南部の市。1954年(昭和29)市制施行。人口32,000。紀伊(きい)半島南東部，熊野灘(くまのなだ)尾鷲湾に臨み，背後に紀伊山地が迫って，市域の95%を山林が占め，年平均降水量は4,000mmを越えるわが国最多雨地の一つである。産業三大別人口比は14：29：57。水産業・林業が主産業である。延長80kmに達するリアス式海岸は天然の良港に恵まれ，須賀利(すがり)・三木浦は遠洋漁業の基地である。カツオ・サンマ・マグロ・サバ・アジ・イカなどの漁獲が多く，市内でかつお節・かまぼこ・ちくわなどに加工され，近年は真珠やハマチの養殖も盛んである。山地にはヒノキ・スギの美林が多く，江戸時代から木材の積み出しで知られる。近年海岸部の埋め立て地に中部電力の火力発電所が建設された。紀勢本線・国道42号線(熊野街道)が平行して海岸部を走り，三木崎燈台・海金剛・九木崎原生林などの景勝地が多い。

おわらぶし【小原節】⇨おはらぶし

おわり【尾張(国)】愛知県西半部の旧国名。尾州。東海道に属す。もと愛智(あいち)・智多・春部(かすかべ)・山田・丹羽(にわ)・葉栗(はぐり)・中島・海部(あまべ)の8郡をもって尾張国とした。国府を中島郡(いまの稲沢市)に置いたが，いまは名古屋・一宮(いちのみや)・犬山・稲沢などの12市と8郡とに分かれる。平安時代以後，皇室・摂関家・寺社などの荘園*(しょうえん)が多かったが，鎌倉時代には小野・中条・名越の諸氏，室町時代には中条・高・土岐・畠山(はたけやま)・今川・斯波(しば)の諸氏があいついで守護となった。戦国末期には守護代織田氏が斯波氏にとって代わり，その一族から織田信長(のぶなが)が現われ，次いで当国の土民から豊臣秀吉(ひでよし)が現われた。江戸時代には徳川家康(いえやす)の第9子義直(よしなお)が封ぜられて名古屋城に居住した。維新後名古屋県となり，さらに犬山県を合わせ，次いで愛知県と改称，まもなく1872年(明治5)額田(ぬかた)県を合わせて今日に至っている。〔筧　弘道〕

おわりあさひ【尾張旭(市)】愛知県北西部の市。東春日井(ひがしかすがい)郡旭町が1970年(昭和45)12月改称して市制施行(東春日井郡は消滅)。人口52,000。濃尾平野の東部，矢田川中流の沖積(ちゅうせき)地に位置し，東は瀬戸市，西は名古屋市と接する。産業三大別人口比は3：46：51。古くから瀬戸窯業地帯の一環をなし，現在も窯業・土石業を主とするが，最近は機械工業も興っている。北部の丘陵地帯には県立森林公園があり，南郊に長久手古戦場があるほか，愛知芸術大学・愛知工業大学などが進出して県下の文教地区となり，西端には東名高速道路の名古屋インターチェンジがある。名古屋鉄道瀬戸線に沿い，名古屋・瀬戸両市を結ぶ名鉄バスの往復も盛んである。

おわりのくにぐんじひゃくしょうらのげぶみ【尾張国郡司百姓等解文】988年(永延2)尾張(愛知県)の郡司・百姓らが，国司藤原元命*(もとなが)の悪政を訴えて，解任を求めた文書。不法な租税の取り立て，租税の着服・横領などを31条にわたって列挙し，当時の地方政治の腐敗ぶりをよく示している。元命は翌年罷免された。

おわりはん【尾張藩】尾張(愛知県)に置かれた藩。藩主は御三家*の最上位である徳川氏*で，禄高(ろくだか)六十一万九千五百石。1600年(慶長5)徳川家康(いえやす)の四男松平忠吉(ただよし)が清洲(きよす)に入封(五十二万石)したが，1607年忠吉が死亡すると跡継ぎがなく断絶。代わって家康の九男徳川義直(よしなお)が甲斐(かい)(山梨県)より入封(四十七万三千石，のち六十一万九千五百石)した。1610年名古屋城*築城に着手し，1614年にはほぼ完成して城下町を移した。名古屋築城は大阪の豊臣秀頼(とよとみひでより)に備えるためであったが，完成直後に大阪の陣が起こった。義直は学問好きで，《類聚(るいじゅう)日本紀》などの著書がある。7代宗春(むねはる)は享保(きょうほう)の改革*を批判し，城下町繁栄策をとったが，藩士に遊興の弊が生じ，幕府より隠居謹慎を命ぜられた。幕末，14代慶勝(よしかつ)は国事に奔走し，公武合体*策に努め，第1次長州征伐の総督となった。戊辰(ぼしん)戦争では官軍につき，のち王政復古では新政府の議定(ぎじょう)となった。支藩に美濃(みの)(岐阜県)高須(たかす)の松平氏三万石がある。〔松平秀治〕

おん【恩】仏教で説く恩は，梵語(ぼんご)

でkṛtajña(クリタジュニヤ)といい，〈なされたことを知る〉という意味である。これはもともと仏教の根本原理である縁起*の考え方に基づき，すべてものは因縁によって成立しているのだから，互いにささえ合い助け合っており，その恩に感謝しなければならないという。しかし，恩の思想はインド仏教ではあまり展開されず，中国・日本の仏教で注目されてきた。仏教における恩の思想を最も体系的に説いた経典としては《大乗本生心地観経》が有名である。この経典は父母・衆生*・国王・三宝*(仏法僧)の四恩*をあげ，人間はすべて平等にこれらの恩を受けているが，煩悩(ぼんのう)にさえぎられて気づかずに日々を過ごしている。それゆえ，人々はこの恩を自覚し，報恩のための実践に向かわなければならないと説いている。この四恩説は日本人の生活意識にも大きな影響を与え，倫理的規範にまでなったが，同時に従属的な生活態度を形成する原因にもなった。また，恩を〈恩愛〉として理解した場合には，親子・夫婦間などの自然発生的な愛情を意味する。仏教では，これにおぼれるとこの世に束縛され離れがたくなり，仏道修行の大きな妨げとなるため，これを断ち切ることが必要であると教えている。
〔奈良博順〕

おんあつ 【音圧】 ⇨音

おんい 【蔭位】 律令(りつりょう)制における官吏任用法の一。父か祖父の位階*によって出身する制で，五位以上の者の子(蔭子)，三位以上の者の子と孫(蔭孫)は学識才徳の如何(いかん)にかかわらず，21歳になると令*の規定に基づいて一定の位階が与えられ，官吏に任用された。ほかに国家試験を経る法もあるが，初叙の年齢・位階のいずれにおいても蔭位制が優位であった。

おんい 【温位】 大気中の空気塊の気圧を，外から熱を加えないで，標準気圧1,000ミリバールにもっていったと仮定したときの気温。大気中では気圧は上空へ行くにつれて低くなるので，上層と下層の気温を比較するには，一定気圧の下で考えなければならない。温位は，そのために理論上重要な要素である。外から熱を加えないかぎり，大気中を運動する空気塊の温位は変わらない。実用上は気温が用いられるが，理論的には温位を用いることが多い。〔曲田光夫〕

おんいん 【音韻】 ⇨音韻論

おんいんこうたい 【音韻交替】 単語が文法的な語形変化(活用・曲用)をしたり，複合による造語が行なわれたりする場合に，単語の中の音韻(音素)が他の音韻と交替する現象。日本語の連濁(ハコとホンバコにおけるhとbの交替など)の現象や，サケ→サカダルの場合のeとaの交替，英語の動詞の活用における母音の交替(たとえば，sing，sang，sung(歌う)におけるi，æ，ʌの交替)，ドイツ語のウムラウト(Umlaut)とよばれる現象(たとえば，Mann〔人〕，Männerにおけるaとäの交替)などがその例である。
〔上村幸雄〕



音階

おんいんへんか 【音韻変化】 言語の音韻が歴史上変化していく現象をいう。日本語の母音は，奈良時代にi・e・oにそれぞれ2種類あったので合計8個あったが，平安時代にはそれぞれがi・e・oに統合されて現代と同じ5個になった。また，日本語のハ行の音節の子音hは，もとpであったものがΦ(ファ・フィなどの子音)に変わり，さらにそれがhに変化したものである。また，ワ行の〈ゐ・ゑ・を〉はそれぞれwi・we・woと発音されたが，平安末期にはwが脱落して〈い・え・お〉と同じ発音になった。これらは日本語の音韻変化の代表的な例である。〔上村幸雄〕

おんいんろん 【音韻論】 音素論ともいい，言語の中にある音韻(母音・子音などの音素，アクセント，イントネーションなど)の種類・数・機能，その配列の規則や相互関係などを研究する学問で，言語学の一分野。言い替えれば，言語の語彙(ごい)的形式の区別(単語の区別)，文法的形式の区別に役だっているすべての音声現象を扱う研究分野。これに対して音声学は言語の音声現象一般を扱うので，音声の中の個人的特徴といえる側面や，音声異常など，音韻論の扱わない現象も研究対象に含む。音韻論を音声学の中の一領域とする見解と，両者が別だとする見解とがあり，後者は，1930年前後からチェコスロバキアのプラハ学派とその支持後継者によって提唱されてきた。しかし近年，音響学的音声学・音声生理学・言語学などの進歩により，新データがふえて研究法が進歩し，音韻論の理論も書き換えられつつある。〔上村幸雄〕

おんかい 【音階】 一定の様式をもつ音素材をその音高に従って配列したもの。西洋音楽では，主として低いものから高いものへと配列され，オクターブによって反復される。主音*によって規定されるのが普通である。おもなものに①オクターブ内を五つの全音と二つの半音とに分ける全音階*，12の半音に等分する半音階をはじめとして，②主音と3度の関係が長3度か短3度かによっている長音階と短音階，③さらに，四つの全音が連続する旋律短音階，一つの増2度と三つの半音をもつ和声短音階・自然短音階・ジプシー音階などがある。これらは半音階を除いて，基本的にはすべて7音音階である。ヨーロッパ音楽の音階はほとんどこの7音音階に属するが，ドビュッシーの使った全音音階や中世のヘクサコルドなど6音音階がある。また西洋音楽以外では，オセアニアなどに多い1音音階・2〜3音音階，東アジアの5音音階，南アジア・西アジアの7音音階などが顕著なものである。なお，音の数が多いほど，その音楽が発達しているとはいえず，音楽の美意識の相違による。〔吉田泰輔・山口修〕

おんががわ 【遠賀川】 福岡県南部の筑紫(つくし)山地から県中央部を北流し，芦屋(あしや)町で響灘(ひびきなだ)に注ぐ。流程61km。上流部の水は二つの谷に集まり，東の彦山(ひこさん)川，西の嘉麻(かま)川が直方(のうがた)市で合流する。下流を除けば明治以来産炭地として知られる筑豊(ちくほう)炭田の地で，鉄道開通後もしばらくは石炭輸送にこの川の水運が主役を演じたので，その要衝に筑豊の三都とよばれる田川市・飯塚(いいづか)市・直方市などの都市が興ったが，燃料・動力革命によっていまは衰微している。平野部一帯は低湿地が多く，水害もしきりで，藩政時代からしばしば治水工事が行なわれた。
〔長津一郎〕

おんがく 【音楽】 今日，音楽に一義的な定義を下すことはますますむずかしくなっている。単に物理的な側面からだけ定義しようとしても，さまざまな時代や民族の音楽を等しく説明し，さらに現代音楽のあらゆる傾向をも含む定義をつくることは不可能に近い。せいぜい〈音楽は人間の意志を反映した音響的構成物である〉という表現が使える程度であろう。この場合ですら，音をつくること以外の行為をも音楽的な行為とよぶ前衛の考え方は排除されている。音楽観にさまざまな傾向がみられるのは，現代にだけ特有の状況ではなく，すでに西洋古代にも認められる。たとえば6世紀初





音　楽　(左)音楽を楽しむ18世紀の貴族たち。彼らは農民たちとは別ジャンルの音楽を楽しんだ (右)レコードやラジオ・テレビなどのマスメディアの発達は聞き手に音楽を選択する余地を広げた

頭のイタリアの哲学者ボエチウスは，ピタゴラス以来の伝統を受け継いで，音楽を①宇宙の音楽，②人間の音楽，③楽器の音楽の3種に分けている。このうち，①と②はそれぞれ宇宙と人間の中にある調和(ハルモニア)を意味するのであり，音楽といってもわれわれの耳には聞こえない。聞こえるものは，今日の声楽も含む③のみである。一方，アリストテレスの弟子(でし)アリストクセノス*はすでに紀元前4世紀に，音楽を経験的な世界の中でのみ考えようとしている。彼が，音楽をとらえるためには，変化する音を把握(はあく)していく感覚的知覚能力だけではなく，過ぎた音についての記憶も必要であるというとき，そこでは，われわれに聞こえる音楽についてのみ考えられている。

このような立場の違いは，現代的な言い方をすれば，音楽における意味をどのように理解するかという問題として考えることもできよう。音楽における意味とは，ふつう表示的な意味と構造的な意味に分けられる。表示的な意味はある音や音楽がそれ自身とは別なもの，たとえば花や鳥など外界の事物を表わす場合に成立する。構造的な意味は音や音のグループの相互連関性をさす。

アリストクセノスが，旋律は自然の規則に従うことを述べ，〈旋律的なもの〉と〈非旋律的なもの〉の違いを，文字をでたらめに並べてもことばにならないようなものだとして，これと比較していることは，音楽における構造的な意味の重要さを指摘したものといえる。これに対して，18世紀における音楽と情緒を結びつける思想や，音楽の感情表出の機能を重視する19世紀の一部の思想は，音楽の表示的な意味を尊重したといえるだろう。もっとも表示的な意味の中には，実証できないものもあれば，ある集団の中では認められるものもあり，あるいは長い間特定の行動と結びついたため，あたかもそれが本質であるかのようになったものもある。

〈音楽構造の問題〉 音楽では，時間の経過に従って音が使われる。かつては音を楽音と騒音に分類して，音楽に使われるものを楽音と考えていたが，音楽として今日認められているものについては，このような分類をたてることができない。ただ，民族(地域)・時代・目的などによって別々に形成されてきた様式によって，使用する音の範囲が異なるだけである。たとえば，三味線(しゃみせん)の撥音(ばちおと)は近世邦楽には不可欠な音であるが，西洋のバロック音楽では許容されない音である。このような違いが，音の高さ・長さ・強さ・音色などについてあり，また，それらの結合方法に関してもある。今日のところ，こうした音の種類や使い方について，あらゆる様式に共通する普遍的な原理があるようにはみえない。たとえばリズムは，全体としてのまとまりをもつ音楽の中の時間的な側面を表わしたことばである。ある楽曲にリズムがあるというのは，その楽曲が時間の経過にしたがって，相互関連性をもつグループに分けられるということを意味している。したがってリズムのよい演奏とは，旋律や動機などのグループの初めや終わりや，それらの重層的な関係が聞き手によくわかる演奏といえる。このリズム-グループは，必ず音の強弱や長短，あるいはそれらの周期性によって形成されるわけではない。音が強くても弱くてもグループの中心であるアクセントになりうるし，高くても低くても，長くても短くても，アクセントになりうる。それは結局，様式というわくの中での前後関係によって決定される。

したがって，先天的に敏感な聴覚をもっていても，当該の様式を学習しなければ，音楽的聴覚は育たないし，また一つの様式，たとえば西洋古典音楽ですぐれた能力をもつものが，ただちに他の様式，たとえば箏曲(そうきょく)でも同じような能力を示しうるとは限らない。このことを考えれば，しばしばいわれているような〈音楽は国際的言語である〉という言い方は，きびしい条件をつけなければ使えないはずである。

〈音楽と社会〉 音楽を意味する英語のmusicやドイツ語のMusikは，ギリシア語mousike techne(ムーシケー-テクネー)に由来する。これは学芸をになう女神〈ムーサ(ミューズ)たちの技術〉という意味である。また，叙情詩と訳されるリリックがギリシアの竪琴(たてごと)リラに由来しているように，今日，文芸・演劇・音楽など分離して考えられているものが，ギリシアでは不可分な関係にあった。現代のように音楽を独立したジャンルとして扱うことも可能ではあるが，すべての時代や地域にあてはまるわけではない。たとえば自然民族では，他の芸術ジャンルにとどまらず，社会の文脈の中に音楽が組み入れられていることが多い。すなわち葬式に際しては，音楽はつけたしとして歌われるのではなく，葬式のときにしか歌われない決まった歌があり，それがなければ式にならないものとして歌われる。このような音楽のあり方は，音楽を音楽のためにのみ使用する現代化された社会の場合と正反対の位置にある。

この中間にあると考えられるのが，音楽に倫理的機能を認めたり，感情を伝達する機能を認めたものであろう。たとえば古代ギリシアの哲学者アリストテレスは，旋法に関しては，青少年に与えてもよいものと与えることが好ましくないものとを区別している。また，18世紀以降顕著になってくる傾向であるが，音楽をそれが伝える感情からみる立場も，種々の音楽がどのようなものと結びつき，どのような状況で使われたかということに深く結びついている。したがって，時代がくだってそのような結びつきが忘れられた場合には，感情伝達に関する機能があいまいになることは当然である。そして，ある音型が外界の事物を表示する(たとえば3度の下行音がカッコウの鳴き声を示す)場合ですら，その音型はそれが含まれている様式の中で許容されるものであり，したがって構造的な意味をもっていることは注意されなければならない。感情や音型を表わしさえすれば，構造としてはおかしくてもよいという事例はみられない。

19世紀の音楽美学者ハンスリック*は，音楽の内容は響きつつ動く形式であるとして音楽の感情伝達の任務を否定し，構造としての意味こそが音楽を成立させるものであることを力説した。ある楽曲が特定の感情を客観的な方法で伝えているわけではないことは認められるにしても，われわれが音楽を聞くと，心理的に情動を経験しているのは事実である。今日の心理学の段階では，われわれは過去の学習から形成してきた音楽的パターンをもっていて，それと異なる(不一致な)新しい刺激を受けると，そこで情動が起こると説明されている。これによれば，構造的な意味しかもっていな

い楽曲に対しても，われわれは情動を感じうるし，演奏上の細かい差異があれば，やはり，そこに不一致を見いだして情動を得ることができる。

ある社会で音楽の占めている位置についてみてみると,われわれは《源氏物語》から平安時代の貴族が船の上で音楽を楽しんでいるのを知る。また主人公の光源氏が雅楽で舞い，こうした技芸が非常に重視されていたのも知る。また平安後期の物語《夜半(よわ)の寝覚(ねざめ)》には，女主人公が天人から琵琶(びわ)を伝授される描写があり，琵琶や箏の腕まえが尊重されていたのを知る。しかし，これは貴族の中だけのことにすぎない。このような音楽の社会的な結びつき方は西洋のクラシック音楽についてもいえることで，中世の世俗音楽もルネサンスの多声音楽も，大多数の民衆とは関係がなかった。ベートーベンの音楽でさえも，作曲された当時は真の国民音楽とはよべなかった。社会の基底層は民謡を保ちつづけたからである。管弦楽の演奏に大量の観客動員が試みられた19世紀後半ですら，社会的な階層による音楽のジャンルの分化がまだ存在していた。この点ではわが国の江戸時代も同様であった。こうした事態が改善されたのは，一つはレコードや放送などのマスメディアにより，またもう一つは学校における音楽教育による。強力なマスメディアは，民謡をになっていた層にコマーシャリズムと結びついたポピュラー音楽(日本の場合は歌謡曲*)を提供することになりはしたが,聞き手の選択の余地を広げたことは確かである。また義務教育における音楽の採用は,かつて少人数のものであった芸術音楽を一般に解放する役割を果たしている。日本の場合，ピアノやバイオリンなどの西洋楽器の普及はこの傾向を促進している。ただし教育内容が西洋音楽に強く傾いているため,一方では日本の古典音楽に対する無理解をふやす結果となり，新たな問題を生んでいる。〔徳丸吉彦〕

おんがくえいが　【音楽映画】　音楽を主体にした映画。音楽家や歌手を描いた映画や，舞台上のミュージカル*・コンサート・オペラなどをそのまま撮影したもの，あるいはそれらを映画化したものなどがある。また，映画の中で歌われる主題歌がその映画全体の基調となる場合や，浪曲映画なども，広い意味での音楽映画といえよう。最近では音楽に合わせて撮影・編集し，音楽と映像とを純粋に結びつけたものも現われている。代表的なミュージカル映画としては《ウエストサイド物語》などがある。〔波多野哲朗〕

おんがくおんきょうがく　【音楽音響学】　音楽学*の一分野で，音楽の基礎となる音の物理学的ないし工学的分析を行なう。音楽の構造を音響学*的に突きつめれば次の四つの属性に還元することができる。①音高：



音楽映画　《ウエストサイド物語》(ワイズ・ロビンス監督，1961)現代アメリカの一断面を描いた傑作

音の絶対的な高さは1秒間の振動数すなわち周波数により測定できるし，相対的に高さを比較するには音程*用語である短2度・長2度・完全4度・オクターブなどの表現,あるいは平均率に則さない音程も算定しうるエリス*のセント算法による。②力性：音の強弱。③音質：音色，すなわち倍音構造の違いや，部分音の音域形成音の違いによる特徴。④持続：音楽をつくりあげていく過程で現われる音の長さの関係。これらの四つを基礎として協和音・不協和音，共鳴，反響，ビブラート，純音と騒音の区別などを価値判断を下すことなく探究する。音楽音響学の実際的な応用は，楽器の構造の解明や改良，人の歌声の測定,スタジオ・演奏会場・建物などの建築工学的問題に対する示唆などに向けられる。〔山口　修〕

おんがくがく　【音楽学】　音楽に関する多くの学問的研究分野の総称。中心となる分野としては，音楽一般の存在を哲学的にあるいは美学的に考察する音楽美学*，歴史的に様式の変遷を把握(はあく)する音楽史学*,世界的な立場から諸民族や諸国家の音楽を個別的にあるいは比較しながら記述分析する音楽人類学(民族音楽学)などがある。音楽を研究の対象として直接的に扱うか間接的に扱うかは分野によってさまざまであり,音楽の音構造を分析解明する音楽理論(音階論・旋法論・和声法・対位法・リズム論・緩急法・強弱法・音色法・楽式論など)と音楽音響学*,音楽と人間(作曲者・演奏者・享受者)のかかわりあいに目を向ける音楽心理学*や音楽生理学,音楽を媒介として人間と人間がどういうかかわりあいをもつかについての音楽社会学*というような系統がある。このようなわく組の中で実際にいままで研究されてきた題目としては，過去の記譜法や音楽慣習を解読解明して再構成する書誌学的あるいは考古学的な作業，楽器の発展経過や分布状況あるいは伝播(でんぱ)経路を明らかにしようとする楽器学的調査，作曲家の全作品の分析や伝記をたどってある時代ある地域の音楽様式や音楽についての考え方を把握しようとする試み，音楽の構造の特徴(音楽理論)の類似や相違から推測して世界の音楽文化をいくつかの領域に分類しようとする考察，あるいは音楽の音を生み出すまでの過程やその後の態度などいわゆる音楽行動の構造を理解することによって音楽の本質を探ろうとする動きなどさまざまである。一貫している傾向は，個別的なもの(楽曲・作曲家・楽派・時代や国あるいは地域・民族)それぞれの記述をまず行ない，その客観的資料に基づいて複数のものを比較分析し，そして全体を総合するという態度である。対象とする音楽は，過去においても現在においても，特にバロック音楽・古典派・ロマン派の音楽などヨーロッパ芸術音楽が圧倒的に多く扱われてきたが,もっと古い音楽や，現代音楽，あるいは民謡などの民俗音楽にも関心が広まってきている。注目すべきことは，西欧以外の国々で行なわれていた自己の音楽伝統の探究に対して，西欧ふうの音楽学が影響を及ぼし,東欧やアジア・アフリカの主要国でも体系的な研究成果が発表されてきていることである。いまや音楽学は時間(時代)的にも空間(地域)的にも全世界の音楽を研究するようになってきている。〔山口　修〕

おんがくがっこう　【音楽学校】　音楽の演奏技術・作曲法・音楽理論・音楽教育についての専門的な教育と研究を行なう公的な機関。日本ではその中に音楽学*の課程も含まれる。現代のように音楽を公的な制度のもとで教えるのは歴史的には新しいことで，日本では明治以後，西洋でも1800年ごろからである。それ以前は日本における雅楽の伝承がよく示しているように，専門家は特定の家がらの者に限られ，教育は個人的に行なわれたので特別な制度を必要としなかった。

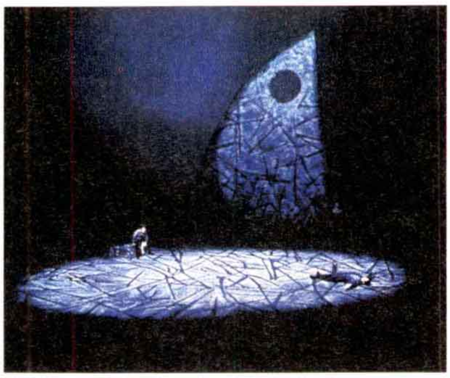
ヨーロッパでは，キリスト教会が教会音楽育成のための学校をつくったり，イタリアの孤児院(コンセルバトリオ)が音楽学校を兼ねていた点は重要である。後者は16世紀には教会やオペラ劇場での音楽家の需要によって盛んになり，ベネチアやナポリの施設は有名である。しかし，身分や階級を問わず入学でき，また教授される音楽もさまざまなものを含むような音楽学校は，17

95年にフランス革命によってはっきりした形態をとったパリ音楽院(コンセルバトワール)がはじめである。これを手本にして1807年にミラノにできた音楽学校も孤児院を兼ねたものではなく，パリ音楽院と同様新しい理念によるものであり，これに続いてプラハ(1811)・ウィーン(1817)など，ヨーロッパ各地に創設された。

音楽学校への入学年齢やそこでの修業年限は国や専攻科目の種類によってさまざまであるが，フランスでは早期教育を中心にしており，ドイツや日本は他の学校制度のわくを使って比較的おそい時期に入学させ，それ以前は個人教育に任せている。しかし，現代における音楽様式の多様化や，卒業生が社会で果たす仕事の種類などから，博士課程までの大学院の必要性がますます強くなっており，今後のわが国の課題は早期教育の制度化と大学院の充実化の両方にあると思われる。〔徳丸吉彦〕

おんがくきょういく 【音楽教育】 広義には，社会の成員をその文化集団にふさわしいものにするために行なう教育の一つであるが，その内容や方法は，それぞれの社会における音楽の役割や地位によって異なっている。たとえば，自然民族では，音楽が文化的・社会的文脈と切り離されていないため，その文脈に従って行動するということは，音楽を習得したことも意味する。これに対して，同時に異なる音楽様式が使われたり，職業的音楽家が存在するような社会では，音楽教育の事情は複雑になってくる。ヨーロッパではだいたい19世紀までは，上流の階級のみが個人的に音楽教育を受け，それと並行して，音楽家の養成のためには，学校という制度がつくられた。中世における聖歌学校，バロック時代のイタリアの音楽学校も，この専門家養成のためのものである。また，音楽家を特定の家系から養成するという方法は，さまざまな地域に認められるが，日本の場合は雅楽*に特にはっきりしている。江戸時代になると，公卿(くげ)階級が雅楽，武士階級が能，町人が近世邦楽というように，社会の階層によって習得すべき音楽様式に違いが生じてきた。しかし，これらの学習は個人的な指導によって行なわれた。

階級の区別を無視した一般的な公教育が19世紀に始まると，音楽教育の内容と目的に関して，かえって問題が生じてきた。明治以降の日本の場合，階級によって習得すべき音楽が異なっていたため，共通に学習すべきものとして洋楽を用いるという解決法をとってきた。一方，音楽教育の目的については，音楽を一般教育として受け入れるうえでこれを別な目的のための道具であるという主張が強かった。第2次世界大戦まで，音楽教育は健康や市民性や道徳観の促進に役だつとする考え方が強かった。しかし，今日では，音楽を人間の重要な行動の一つと考えて，音楽の構造を教えるのが音楽教育の目的であるという自律的な立場が強くなり，それにしたがって，一般の義務教育でも音楽が教えられ始めている。→音楽学校〔徳丸吉彦〕



音楽劇　音楽と演劇との緊密化を図る音楽劇は，ワーグナーによって楽劇として完成された。楽劇《トリスタンとイゾルデ》 バイロイト音楽祭

おんがくきょういくがく 【音楽教育学】 音楽教育についての科学的な研究で，音楽学*の一分野であると同時に，教育学の方法に影響されている。現在の研究の動向としては次の五つの分類にはいるものが多い。第1は哲学的研究で，音楽教育を行なう根拠やそれに対する思想に関するもの。第2は音楽教育についての歴史的な研究。第3は現状に対する記述的な研究。第4は実験的研究で，この学問の中心的な方法であり，新しい教育方法や新しい教材の教育可能性などについて統制された条件のもとで研究を行なう。第5の分析的な研究は，作品の構造を教育の観点から分析的に調べるもので，音楽史や音楽理論と強く関連する。科学的な音楽教育研究が大規模に行なわれたのは今世紀にはいってからである。アメリカでは研究者が第3や第4の方法を中心に活発に研究を続けており，ドイツでは作曲者が自分たちの作品もわかるような子どもを育てようという意識で，第5の方法で教育に積極的に関与している。日本では専門の研究者を育てる機関がきわめて少ない。〔徳丸吉彦〕

おんがくけいしき 【音楽形式】 楽曲の各部分間の相互関係を表わす音楽形式としては，反復・非反復・交誦(こうしょう)(交代)・応誦(音頭と合唱の呼応)・有節形式・展開形式(あるテーマを変奏曲ふうに敷衍(ふえん)していくもの)・通作形式などがあり，これらは世界の諸民族に多かれ少なかれ共通してみられる楽式である。他方，楽曲の構成の基礎となる音の操作についての音楽形式としては，単声的音楽(たとえ合唱であっても同じ旋律のもの)と多声的音楽があり，後者はさらにヘテロフォニー(類似の旋律がずれて聞こえるためにある時点では多声となっているもので，モノディー*に由来する)・平行(3度・6度・4度・5度・8度などの音程の間隔をつねに隔てるもので，まれに2度平行などもある)・和声的(3和音などの複雑な和音構造をもつもの)・対位的(異種の対照的旋律が同時に対比されるポリフォニー)などがある。しかし，これらは，民族によってどれか一つか二つに重点が置かれ，すべてを同時にもっているわけではない。〔山口　修〕

おんがくげき 【音楽劇】 音楽の単なる連続ではなく，演劇的な構成をもってまとめられたものの総称。オペラは成立当時に〈音楽のための劇〉とか〈音楽による劇〉とよばれたように，音楽劇の代表的なジャンルである。また音楽と演劇の関係をもっと緊密にしたのがワーグナーの楽劇である。しかし，今日オペラや楽劇が独立したジャンルになっているため，音楽劇ということばは，演劇における音楽的な要素の濃いもの，あるいは音楽としては会話などの演劇的要素の強いものを総称するのに用いられる。これには，さまざまな名称でよばれるミュージカルが含まれる。→オペラ →楽劇 →ミュージカル〔徳丸吉彦〕

おんがくコンクール 【音楽コンクール】 音楽演奏や作品を競わせることによって，一定の水準を保ったり，すぐれた能力をもった個人や団体を世の中に知らせる制度。すでに古代ギリシアの時代から行なわれているが，最も盛んなのは現代である。代表的なコンクールにはスイスのジュネーブ国際音楽コンクール，フランスのロン-ティボー国際音楽コンクール，ソ連のチャイコフスキー国際音楽コンクール，ポーランドのショパン国際ピアノ-コンクールなどがあり，若い音楽家の国際的な登龍門(とうりゅうもん)としての役割を果たしている。日本では現在の毎日新聞社・NHK共催の音楽コンクールの前身といえるものが1932年(昭和7)に始められ，出身学校や師事した教師によってではなく，個人の技術による評価によって新人を選ぶ機能を果たしている。〔徳丸吉彦〕

おんがくさい 【音楽祭】 音楽を中心にして開かれる祭典的な行事。一般に古代や中世，あるいは今日でもあまり工業化されていない土地では，音楽は祭典と不可分な関係にあるので，音楽だけを取り上げた近代的な音楽祭は成立しにくい。この種の初期の例としては1724年に始まったイギリスの合唱祭や1817年に始まったドイツの古典音楽祭などがあげられる。今日では，交通の便利さと観光客誘致の目的と結びついて，欧米では通常の音楽シーズン以外に音楽祭が開かれることが多い。著名なものには，チェコスロバキアの〈プラハの春〉，オーストリアのウィーン週間・ザルツブルク音楽祭，西ドイツのミュンヘン音楽祭・バイロイト音楽祭，イギリスのエジンバラ音楽祭，アメリカのマールボロ音楽祭などがあり，中には，現代音楽の振興をめざしたり，教育と結びついたものもある。日本には大

阪国際フェスティバル*がある。〔徳丸吉彦〕

おんがくさくひん　【音楽作品】　音楽作品の最も客観的な層は物理的な音響と沈黙との組み合わせとみなされる。しかし，すべての組み合わせが〈音楽〉と形容されるのではなく，その判断の基準は時代や地域によって異なり，さらに正確にいえば音楽様式によって異なる。したがって，物理的な対象がそのまま音楽作品になるのではないので，音楽作品は音響の関数であると同時に，社会的・様式的に規定された聞き手の関数でもある。音楽作品は具体的な刺激の状態にされなければならないが，そのためには美術作品や文芸作品と異なり，演奏という行為が必要である。作曲と演奏とがひとりの人間によって行なわれる場合を別にすれば，作曲者の統制が十分ではないので，作品形成における演奏者の役割が大きくなるのが特徴である。〔徳丸吉彦〕

おんがくしがく　【音楽史学】　音楽学*の主要な分野で，ときには音楽学と同義とみなされる。その対象は，人間行動の所産である音楽を，その歴史性において扱うところにあり，その方法は，基本的には狭義の歴史学のそれと同一であるが，ただ音楽を扱うという点で，様式批判を重んずることが異なっている。すなわち，古文書学・文献学などの関連学科を利用しつつ，外的・内的批判によって資料の真実性を確かめて体系化し，得られた資料をもとにして，一定の音楽史叙述を行なう。

古代ギリシアから18世紀中ごろまでの断片的叙述，さらに，バーニーやマルティーニの音楽史をはじめとする1800年前後の主観的著作は別として，近代の音楽史学は，19世紀後半から，実証主義歴史学の隆盛に伴って発展してきた。まず，バッハやヘンデルらの全集楽譜校訂出版などの仕事に基礎づけられた，シュピッタなどの伝記類を中心とする個別研究に始まり，20世紀にはいると，これらの研究をもととして，リーマンやアドラーらの音楽史通史が刊行された。しかし，音楽学の発展に伴う新資料の発見，さらに，関連諸科学の発達による新しい研究手段の開発により，いっそう精度の高い研究が求められるようになり，これが，第2次世界大戦後，バッハやヘンデルの新全集をはじめとする膨大な作品集の編纂(へんさん)・公刊となって結実しつつある。また一方，通信や複写手段の発達による資料の整備・統合が進み，こうした諸研究の進展を容易にしている。〔吉田泰輔〕

おんがくしゃかいがく　【音楽社会学】　音楽学と社会学の境界領域で，その中心的な研究対象は，社会における個人や集団の音楽行動であり，音楽行動とそれを可能にした音楽以外の社会的要因との関係である。音楽学の側からの初期の研究例では，音楽の社会史ともよぶべき研究が多く，中世における音楽家組合，教会と音楽，楽譜印刷，オペラの成立，管弦楽団など，音楽の自律的な発展だけでは説明がつかない問題が論じられた。また，社会学の領域からは音楽構造の詳細な検証をしないでも比較的議論を展開しやすい軽音楽・大衆音楽の問題が扱われることが多かった。しかし，最近では社会的パターンだけでなく，それと音楽的パターンとの関係を扱うことが盛んになり，それによって特定の音楽様式の強力さや伝播力(でんぱりょく)を社会的諸制度からとらえたり，音楽の社会的機能を社会だけからではなく，その音楽の構造からも研究する態度が生まれている。

M.ウェーバー*は音楽と社会を別々なものの共存とは考えずに，音楽を社会構造の一つの現われと考えた。彼の方法は今日のように多様式が共存する現代社会の問題にそのままの形で応用できるものではないが，自然民族における音楽のあり方を扱っている民族音楽学の方法には非常に近いものがあり，その点で，音楽社会学の一部は民族音楽学と区別できないほど共通な問題領域をもつ。なお，音楽行動の点で，音楽心理学*とも音楽教育学*とも共通領域をもつことはいうまでもない。〔徳丸吉彦〕

おんがくしんりがく　【音楽心理学】　音楽に関する心理学的研究の総称。今世紀前半までは，人間の音楽行動をひき起こす音楽作品などの刺激についても，それを要素のレベルで扱おうとする研究が多かった。たとえば，どのような高さまで聞き取りうるか，どれほど小さな音程までが弁別できるか，あるいはどのような音の組み合わせまでが協和感を与えるかといった問題が調べられた。しかし，今日ではこのような音響的な要素を独立に扱うものを前提としながらも，より音楽作品の全体像に近づいた形での研究に力点が移っている。そこにはゲシュタルト心理学の理論とその後に続くパターン認知の理論が大きな影響を与えている。また，音楽が人間に与える情動についても，音楽が音楽外のものを指示するといった消極的な能力による説明ではなく，不一致や認知的不協和など新しい認知心理学の知見が解明を与えつつある。この考え方はパターン認知を前提とするものであるため，音楽作品をばらばらの要素の集合とみなすものとは反対に，音楽様式に規定された作品の構造をつねに対象としており，この点で音楽理論とも音楽社会学とも密接な関係を保ってはじめて有効な成果が期待できると考えられる。〔徳丸吉彦〕

おんがくびがく　【音楽美学】　音楽についての美学的研究の総称。たとえば，二つの音楽作品のうちどちらがより好ましいかとか，より高い価値をもつかといったことについては，聴衆や演奏家はことばを使わないでも，具体的な選択行動によって判断を示すことができる。しかし，音楽美学は一般には，音楽に関する行動全体ではなく，それを言語化したり，概念化したりする行動に限られる。したがって，音楽をもち，それについての統一的な態度をもっている文化集団でも，音楽美学をもたないことがありうる。

音楽美学の歴史は古代世界にまでさかのぼりうる。中国における礼楽思想や，ギリシアにおける数を媒介とした宇宙論的な音楽観などがその好例であろう。中世キリスト教も音楽を音楽外の領域との関係でとらえようとする点では教理主義的であり，他律的であった。これがカントに代表される批判主義の時代を経て，音楽を音楽外の要因によってではなく，音楽に固有のものから考えようとする自律的な傾向が生じた。この傾向の画期的な宣言がハンスリック*による《音楽美について》(1854)である。彼はそこで〈音楽の内容は響きつつ動く形式〉という命題を出し，形式・内容の安易な二元論とともに，音楽に賦与されてきた感情描写の機能を否定しようとした。

現代の音楽美学は美学一般の方法論に大きな影響を受けており，哲学的な傾向のものとしては，存在論による音楽作品の研究や，現象学による音楽的な知覚の研究が盛んである。また，ハンスリックが否定しようとした感情や情動と音楽との関係は，今日では新しい認知心理学を採用して研究が進められている。また，音楽の社会的な機能や社会的な諸相との関連も，過去の単純な他律主義を越えた形で研究されている。リズム論や時間論や演奏論は特に音楽美学の領域で発展した美学の問題領域であるが，今後は学習や発達の観点と結びついた研究も行なわれ，音楽教育にとっても有効な音楽美学説が形成されることが望まれている。〔徳丸吉彦〕

おんがくほうそう　【音楽放送】　ラジオやテレビによって放送される音楽の総称。レコードと並んで音楽における重要なマスメディアとしての機能をもつ。今日ではFM放送*も含めて，音楽のラジオ放送のほとんどはレコード音楽の放送になっている。特に軽音楽の場合はアメリカに始まったディスク-ジョッキー*がわが国でも盛んで，これが流行にかなり関与していると思われる。ラジオの場合も，演奏会では行ないえないような音響合成や電子音を利用した新しい様式を生んだが，テレビでも単なる中継や録画とは異なる番組が形成されている。テレビの場合は広い劇場とは異なり，顔の表情の変化や声の大きさの変化がわずかな幅ですむため，オペレッタやショーを含めて新しい出演者の層が生まれている。

日本における音楽放送の問題点は，いわゆる西洋クラシック音楽に比べて，伝統的な日本音楽の番組が異常に少ないことと，また，ひんぱんに流される短いコマーシャルでさえ，西洋音楽の機能和声性をもったものが多いことにより，音楽的な趣味の変

化が結果的に強力に推し進められているという点にあると考えられる。〔徳丸吉彦〕

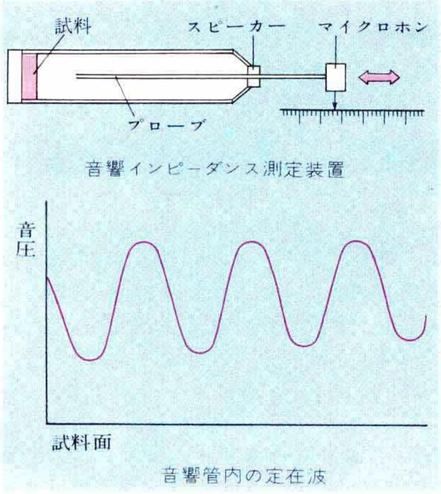
おんがくようしき　【音楽様式】　音楽における様式の問題は特に20世紀以降，ほかの文化史のジャンルから刺激を受けて問題とされるようになった。音楽様式の基本的要因としては，音楽概念(なにを音楽と規定するか)・楽器法・声楽法(発声法など)・演奏慣習・音楽理論や舞踊・演劇・宗教などの音楽以外の文化との関連性などが考えられる。これらの諸要因に基づいて，音楽様式は大きく時代様式と地域様式(民族様式あるいは文化様式)の２種に大別できる。西洋音楽ではおもに前者が中心となり，オルガヌム*様式のように技法的様式から，ベートーベンの様式のような個人的なものもあるが，西洋音楽自体がすでに一つの民族様式であるともいえる。非西洋音楽では，文化圏ないし文化領域的区分けに従って，東アジア・東南アジア・南アジア・西アジア・アフリカ(サハラ砂漠(さばく)以南)・アメリカ(原住民)・オセアニアの民族音楽様式があり，さらにそれぞれに時代的変遷による時代様式がいくつか認められる。

〔山口修・吉田泰輔〕

おんがくりょうほう　【音楽療法】　音楽を利用した医療法の総称。音楽の治療的な効果については，古代から言及されているし，現代でも自然民族の間では音楽が医療と結びついて使われているところがある。しかし，狭義の音楽療法としては第２次世界大戦後に発展した方法のみをさす。これは第１次・第２次世界大戦における従軍兵の治療に音楽を使った経験から出発したもので，精神異常など心的なものに広く使用されている。また，楽器を奏する際の身体運動は身体障害の有効な治療となっている。この種の治療は研究だけでなく実用化されており，特にアメリカ・イギリスや南アメリカ諸国などで強い関心がもたれている。

〔徳丸吉彦〕

おんかんきょういく　【音感教育】　音楽で使われる音の高さやその他の性質を楽器の助けを借りないで弁別できる能力を与える教育のこと。音高については，ある音の絶対的な高さを把握(はあく)できる，いわゆる絶対音感は幼時に教育を受けないと形成できないため，その早期教育の必要性が昭和初期に説かれ，また第２次世界大戦中はこれを軍事目的に応用するために積極的に教育された。音楽を享受したり演奏したりするためには，音高に限らず，和音，音の長さ，音量，音色などの高度の弁別力をもつことが望ましい。しかし，この弁別力をもった者が直ちにすぐれた聞き手になることはなく，さらにそれぞれの音楽様式のパターンの学習が必要とされる。今日では要素的な音感教育を行なわずに，楽譜を読む力，楽譜を自分で歌える力，さらに様式にかなった和音の連結法などを総括するソルフェージュ*の教育が行なわれており，この点ですぐれた能力をもった若い世代が生まれている。〔徳丸吉彦〕



音響インピーダンス

おんき　【遠忌】　仏教で年々の死亡の命日にあたる日を年忌といい，ふつう一周忌・三回忌・七回忌・十三回忌・十七回忌・二十三回忌・二十七回忌・三十三回忌・三十七回忌・五十回忌があり，五十回忌からは50年ごとに数えて遠忌という。一般には弔いあげといって，三十三回忌か五十回忌をもって年忌法要を切り上げるのに対し，一宗の開祖や中興の祖，あるいは寺の開基の場合には遠忌とよんで，遺徳をしのぶ法要が営まれる。ときには大遠忌の名称も用いられる。➔回忌　〔藤井正雄〕

おんきゅう　【恩給】

①封建制度において，主人と従者の間に行なわれた所領給与の制度。封建的主従制は主人の御恩に対して従者が奉公の義務を負うことによって成立したが(➔御恩・奉公)，主人が御恩を与えることを恩給といい，そのおもな対象は土地であった。恩給制は平安中期，武士勃興(ぼっこう)の時代に武士とその従者との間に育成され，また荘園*(しょうえん)領主と荘官との間にはぐくまれてきたものであるが，このような土地の給与を媒介とした主従関係の慣習が鎌倉幕府の成立によって公法的な制度として確立した。

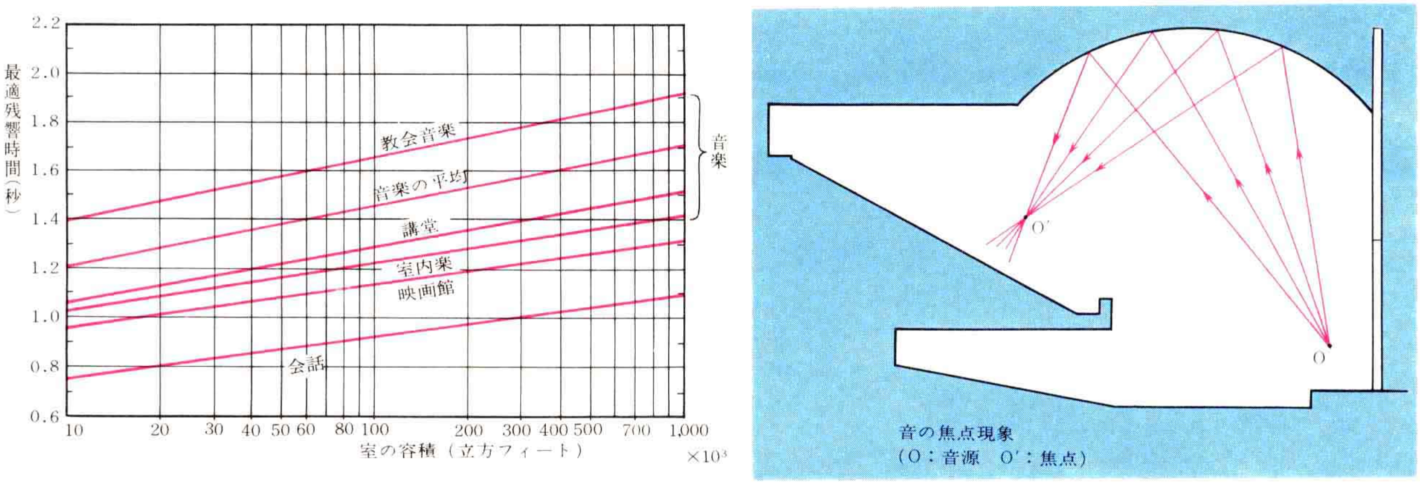
将軍が御家人*に対して本領を安堵(あんど)し，その勲功の賞として地頭職(じとうしき)，そのほかの諸職に補任するが，これに対して御家人は将軍に軍役や大番役*勤仕などの奉公の義務を負担し，奉公の義務を怠るときには恩給地を没収された。恩給制は鎌倉時代に最も典型的にみられるが，室町時代には恩給の対象は荘園所職から土地知行に変化し，戦国時代以降の俸禄(ほうろく)制度*へと移行した。この俸禄制も恩給制に含めることがある。〔鈴木英雄〕

②近代では，公務員*が一定期間以上勤務したのちに退職(または死亡)した場合，当該者およびその遺族に支給される金銭給付をいう。1923年(大正12)従来の法規を統一して恩給法が制定され，制度として確立した。支給対象は国家公務員・旧軍人などであるが，1959年(昭和34)国家公務員に対する恩給は，国家公務員共済組合法*によって共済制度に移行した。旧軍人に対する軍人恩給は1946年廃止されたが，1953年の恩給法改正で復活し，それが国家予算に占める割合はその後年々増大する傾向にある。

〔寺尾方孝〕

おんきょうインピーダンス　【音響インピーダンス】　媒質内を伝搬する平面波における音圧と粒子速度の比。吸音材*の音響的な性質を表わすのによく用いられるもので，ちょうど電気回路におけるインピーダンス*が電圧と電流の比として定義されるのと同じである。波面上の瞬間音圧を P，波面上のある面積を通る体積速度を Sv（ S は面の面積， v は媒質の速度）とすれば P/Sv で表わされる。測定には音響管を用いるのが普通である。この場合，音響管の一方の端に試料を置き，これと反対の端にスピーカーを取り付ける。スピーカーから出た音は音響管内を進んで試料へ達し，一部は試料によって吸収されるが，他は反射して再び音響管内をスピーカーに向けて進む。このように音響管内に進行方向の違う二つの進行波が存在すると，互いの干渉によって管内に定在波が生ずる。すなわち，管内には音圧の大きいところと小さいところができる。このような音圧の状態を測定することによって試料面へ垂直に音波が入射する場合の音響インピーダンスが計算できる。管内の音圧測定には，マイクロホンに細長い管をつけたプローブマイクロホンを用いる。試料の音響インピーダンスがわかれば，これから，その吸音率などを計算することができる。ただし，この場合の吸音率は垂直入射吸音率である。最近は垂直入射でない場合の音響インピーダンス測定法も考えられている。〔池谷和夫〕

おんきょうがく　【音響学】　音の発生・伝達および効果，その他いろいろな性質について研究し，各方面への音の応用を図る学問の総称。音響物理学・音響化学・音響工学・電気音響学・建築音響学・音響心理学・音響生理学などは，それぞれ各分野における音に関係のある学問であり，しかもその分野は科学の発達とともにますます広がりつつある。もともと音の性質に関する研究は，人が聞きうる音，特に楽器の出す音の協和とかその発生の原理に対する研究であった。これらの研究はすでに紀元前，特に古代ギリシアの学者たちによって行なわれていたようである。ピタゴラス*やアリストテレス*は代表的な研究者であり，ピタゴラスの発見になるピタゴラス音階(同じ張力の弦の出す音がよく協和するときには，それらの弦の長さが簡単な整数比をなす)が伝えられている。



音 響 設 計　各種の室の容積と最適残響時間と劇場における音響設計

ガリレイ*は，弦や板などの振動を取り上げて，科学は実験的な事実を基礎として研究されるべきであるという立場を確立した。この精神を受け継いでメルセンヌ*は弦の振動数に関する実験的法則を確かめ，音の協和に対する研究を確立するとともに，音波の伝わる速度をはじめて測定した。音波の伝わる速度を最初に理論的に求めたのはニュートンであるが，音を等温変化としたために実測値よりも小さい値が計算された。音を断熱変化として音速の式を導いたのはラプラス*で，実測値とよく一致した値を得ることができた。19世紀から20世紀の初めにかけては，ヘルムホルツ*・レーリー*らによって音波の物理的・数学的な研究がいちおう完成した。聴覚に関する研究によって音響生理学の基礎を確立したのはヘルムホルツであり，一方レーリーの著書《音の理論》は音響物理学のバイブルとまでいわれている。同じころ，アメリカの音響学者セービンは建築音響学の系統的な研究の基礎を打ち立てている(→音響設計)。

20世紀にはいってからの音響学の発達はきわめて著しいものがある。これは主として電気工学との関連，特に真空管の出現をはじめとするエレクトロニクスの発展によるところが多い。ベル*による電話機の発明，エジソン*による録音機の発明に始まり，マイクロホン・スピーカーの出現，電気的な録音再生，さらにはラジオ放送の開始などにより，エレクトロニクス技術との結びつきによって，音響学の飛躍的発展がみられるようになった。また一方では，第1次世界大戦中に水中音響の実用化が始まり，これが現在の超音波利用のさきがけとなり，さらに物理学・化学・工学・医学・生理学などの各分野における超音波の研究と応用に発展している。このように現代では，音の研究がその応用的な面で進められているが，特にコンピューターの出現などにより，情報化時代の一翼をになうものとして音響学はいっそう重要視されてきている。
〔池谷和夫〕

おんきょうせっけい　【音響設計】　主として，会議場・講堂・音楽堂・映画館などの建設にあたって，会話や講演あるいは音楽の鑑賞などに適した音響状態を実現したり，外部からの騒音を防止したりするように設計すること。1895年，アメリカのハーバード大学教授セービンが室内における音響状態を表わすものとして残響時間の概念を発表してから，建築物に対する音響工学の適用が注目されるようになった。

残響時間とは，室内にある音源から出ている音を遮断(しゃだん)した瞬間から，その音が最初の状態の強さより60デシベル*下がるまでの時間をさすもので，室の大きさ(容積)やその使用目的(音楽・講演・事務室など)に対して最も適当な残響時間(最適残響時間)になるように吸音材*を適宜使用する。これは，室の天井や壁などの音の吸収がよいほど残響時間が短くなるからである。しかし，このために室内における音の減衰が大きくなって，言語の明瞭度(めいりょうど)が減少する。一方残響時間だけについては，残響時間が短いほど明瞭度がよくなるという相反する効果がある。

壁からの音反射はしばしば反響として聞かれることがあり，それによって明瞭度が低下し，話し手も話しにくくなることがある。したがって，壁にも適当な吸音材を用いることが望まれる。そのほか，天井や壁の反射作用によって音がある場所に集中する焦点現象や，その逆にある場所に音が伝わらないような現象(その場所をつんぼ桟敷(さじき)という)が起こることもある。建築物の設計では，このような音響状態が生じないように留意しなければならない。特にオーディトリアム(講堂)のようなものでは，舞台で発生した音が室内の客席にできるだけ均等に行き渡るように，室の形状や吸音材・反射材の選択・配置を考えなければならない。このほか，建物外部からの騒音を遮断し，振動の侵入を防止することも必要である。音響設計の大略は次の手順で行なわれる。①立地条件の選定。②必要な静けさの程度の決定。③騒音レベルの測定。④建物内部の騒音源を考慮した室の配置計画。⑤騒音源自体の防振と遮音計画。⑥使用目的や収容人員による室の形の決定。⑦室内の壁や天井に使用する材料の選定と配置の決定。⑧施工。⑨完成後の音響特性の測定と手直し。
〔池谷和夫〕

おんきょうそくしん　【音響測深】　音波特に超音波を用いて海などの深さをはかる方法。船底に設けた送波器から海底に向けて音波のパルス*を発射すれば，ちょうどやまびこの原理と同じように海底に反射してのち船底にもどってくるから，これを船底の受波器(水中マイクロホン)によって受信する。送波器で音波を発射した瞬間から受波器でこれを受信するまでの時間によって，船底から海底までの距離，したがって水深を求めることができる。水深が特に大きいところでは，水温はもちろん水圧によっても音波の伝わる速さが違うので，これに対する補正が必要になってくる。送波器と受波器は同一のものを切り替えて用いるのがふつうで，これを送受波器といい，電気ひずみ形変換器や磁気ひずみ形変換器がよく用いられる。前者としてはチタン酸バリウム系の強誘電体磁器に1cmあたり15,000Vないし25,000Vの直流高電圧をかけて偏極したものを用いる。また後者としては，ニッケル・45パーマロイ・AF合金などの強磁性体薄板を絶縁成層したもので外鉄形の鉄心をつくり，これに巻き線を施したものを用い，適当な直流磁界を加えた状態で用いる。これらの成層鉄心の代わりにニッケルフェライトなどを用いることもある。音波は10数キロヘルツから数十キロヘルツの超音波パルスを用い，放電記録紙などに発信音と受信音を濃淡で記録し，目盛りを水深に換算しておくようにすれば航行中でも簡単に連続測定ができる。さらにこのような記録紙上のデータから，暗礁の有無や海底土質の状態などを知りうるばかりでなく，魚群などによる音波反射の状態からその探知もできる(→魚群探知機)。現在，精密音響測

深機とよばれるものの精度は，水深10,000mでも誤差数メートル程度である。

音波の発射方向を水平にすれば，遠方にある水中物体の検出などもできる(鯨探・潜水艦探知機など)。これらの装置を一般にソナー*とよんでいる。さらにこれと同じ原理で金属中の傷の検査(超音波探傷器)，タンク内の液量の自動測定(→液面計)のような工業的応用のほか，脳腫瘍(のうしゅよう)の診断や心臓の動作解明などの医学的応用も行なわれている。〔池谷和夫〕

おんきょうひょうじゅん【音響標準】音に関係のある諸量，たとえば音圧とか粒子速度の尺度。音のものさしである音響標準器は，周囲の条件や年月の経過によって性質が変化しないこと，特性の再現性があること，機械的強度のあることなどの信頼性が第1に要求される。

〈レイリー板〉直径数ミリメートルのウンモ円板をきわめて細い溶融セキエイ線(3～5μ)でつるしたもの。これに音波をあてると，円板には粒子速度の2乗に比例した回転力が働く。したがって，逆にこの回転力から粒子速度を求めることができる。ウンモ円板は十分に薄く，しかも直径が波長よりずっと小さいことが要求される。回転力はまた円板直径の3乗に比例する。したがって，レイリー板は音圧が小さいときは測定がむずかしく，安定性に乏しいなどの欠点があって，最近はあまり使われない。

〈サーモホン〉小さな容器の中に薄い金箔(きんぱく)を張ったもの。これに直流電気と交流電気を重ねて流すと，金箔の温度が上下して音圧が発生する。この音圧は物理定数から計算できるから，音圧の標準として用いられたことがあるが，現在ではあまり使われない。

〈コンデンサーマイクロホン〉音響標準器として現在最もよく用いられている。振動系の構造がきわめて簡単であり，しかも平坦(へいたん)な周波数特性が得られ，そのうえ感度もわりあいに高いので，標準用のマイクロホンとしては最も適当なものである。日本電信電話公社の通信研究所の設計によるMR-103コンデンサーマイクロホンは，金属チタニウムを材料としており，わが国の音響標準用マイクロホンとして諸外国の標準器に比べてもすぐれている。コンデンサーマイクロホンの感度の決定には，相互較正法によるのが最もよい結果を得ることができる。これは電気音響変換器の相反性を利用したもので，1個の可逆性のある(音源としても，マイクロホンとしても使える)変換器と，音源およびマイクロホン各1個を用いて，これらを相互に組み合わせて較正を行なうものである。きわめて正確な感度の較正を行なうことができ，国際的にもこの方法が音響標準較正法として認められる。〔池谷和夫〕



音響標準 MR-103コンデンサーマイクロホン



音叉 U字形の部分。下部は共鳴箱

おんきょうへいき【音響兵器】①目標の発する音響(可聴音波)を手がかりにして敵を捜し，あるいは攻撃する兵器。②こちらから指向性の強い超音波を発射し，その反射波をとらえて目標をとらえる兵器。①には第1次世界大戦から第2次世界大戦初期まで防空に用いられた聴音機や，艦船用の水中聴音機がある。音響魚雷・音響機雷もこれに属する。②は超音波を発射してからそれが目標にあたり，もどってくるまでの時間と方向とを測定して目標をとらえる。第2次世界大戦以来対潜用に使われているイギリスのアスディック，アメリカのソナー*がこれにあたり，今日，対潜用の艦艇と航空機，あるいは潜水艦でこの兵器を備えぬものは皆無である。〔藤井冬木〕

おんぎょく【音曲】日本・中国で〈音楽〉とほぼ同義語として使われる用語で，特に舞踊・演劇など他の芸能と結びついているときに音楽的側面をさしていうことが多い。琵琶(びわ)法師の平曲，落語の下座囃子(ばやし)など。

おんぎょくばなし【音曲噺】落語の一形式。落語の途中で，三味線(しゃみせん)や鳴り物を伴奏にして，下座*や演者自身の音曲を入れて効果をあげるもの。《稽古屋(けいこや)》などは代表作であるが，現在あまり行なわれない。初代石井宗叔(1803年没)を創始者とする。

オングストローム［angstrom］メートル法の長さの単位。記号Å 光学または結晶学における長さの計量，その他これに類似する長さの計量に用いる補助計量単位で，0.1mμすなわちメートルの100億分の1にあたる。

おんけつどうぶつ【温血動物】恒温動物(定温動物)の俗称。外界の温度にかかわらずほぼ一定の体温を維持する動物をいう。冷血動物，すなわち変温動物に対する語。→恒温動物

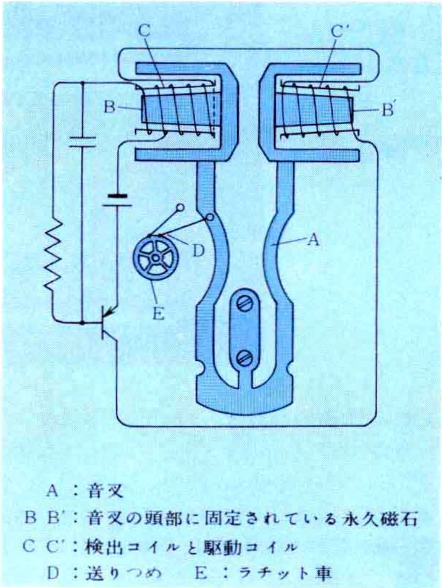
おんこう【飲光】(1718～1804)，江戸中期の真言宗の僧。慈雲尊者・葛城(かつらぎ)尊者などの名で知られる。戒律の復興者であり，わが国におけるサンスクリット語学(梵学(ぼんがく))の開拓者である。俗姓は上月氏。大阪の人。幼いとき仏門にはいり，青年期には伊藤東涯*(いとうとうがい)の門下で儒学や詩文を学び，さらに奈良ですべての仏教学を学んだ。こののち，世間に行なわれている仏教が，正しい学び方，生活法(戒律)に基づいておらず，乱れていることを嘆いて，その復興を志し，正しい戒律(正法律)を唱え，多くの弟子(でし)を育てた。大阪葛城山の高貴寺をその本山とした。さらに学問の上でも，インドに興った仏教を学ぶのに漢文に訳された経典だけを読むのではその真意をとらえられないとして，梵語の研究に志し，多くの資料を集める一方，その資料から文法を帰納的に構成することに成功し，《梵学津梁(しんりょう)》1,000巻を著わした。これは世界ではじめての試みである。また，神道(しんとう)においては雲伝神道の創始者として知られる。他の著書に《方服図儀広本》《南海寄帰伝角纜鈔(かくらんしょう)》《十善法語》など。〔金岡秀友〕

おんごくぶぎょう【遠国奉行】江戸幕府の職名。幕府直轄の要地に配置された奉行の総称。遠国御役人ともいう。京都・大阪・伏見・駿府(すんぷ)などの各町奉行，長崎・山田・日光・奈良・堺(さかい)・佐渡・下田・浦賀・函館(はこだて)・新潟などの諸奉行をさし，設置年代は不同である。原則としては旗本*(はたもと)が任ぜられ，伏見奉行のみは大名*が任ぜられた。

おんさ【音叉】純音を発生する発音体の一種。鋼鉄製の棒をU字形に曲げたり，あるいは切削してU字形にし，湾曲部に柄をつけたもの。先端を柔らかいつちで軽くたたくとつねに正確な純音を発生するので，振動数をはかる標準として用いられる(楽器の調律，音響測定など)。音叉の形や材料を適当にすることによって，多くの固有振動数*のうちで特に一つだけが顕著に現われるようになる。このために，音叉の発する音はきわめて単純な澄んだ音になる。さらにこの音叉を，一方に開いた木製の箱に取り付け，共鳴させると大きな音を聞くことができる。音叉に電磁石を組み合わせたり，チタン酸バリウム磁器などの薄片を張り付けたりしてその振動を持続させ，比較的低い周波数の発振器をつくることもできる。

この場合には固有振動数の温度による変化をできるだけ小さくしなければならないので，特殊な材料を使用したり恒温槽(こうおんそう)に入れたりして，できるだけ小さい温度係数を保つようにする。〔池谷和夫〕

おんさどけい【音叉時計】 調整装置(時間の基準源)として振動周波数の安定している音叉を用いた電気時計。従来の機械時計や振り子式あるいはテンプ式電池時計などのように，振り子・テンプを調速装置としたものとは異なる。音叉を電気的に駆動励振し，その安定した振動を送り車に伝えて時間の指示機構に直接伝達する形式の時計である。クロックでは，1936年(昭和11)アメリカのミード-リードが真空管を使用して，エリンバー*材を用いた音叉発振器をつくり，その発振出力を増幅して同期モーターを駆動する音叉電気時計を完成させた。日差は0.01秒程度であったという。腕時計では1960年，アメリカのブローバ社によって〈アキュトロン〉が開発された。360ヘルツ*の音叉をトランジスター回路で励振し，その安定な振動をつめで直接送り車の歯に送って針を動かしている。音叉時計の時間精度は±2秒/日程度が保証されている。〔川中　洋〕



音叉時計（構造）

オンザロック ⇨カクテル

オン-サン［Aung San］(1915～1947) ビルマ民族運動の指導者。1939年愛国者団体のタキン党の書記長となり，第2次世界大戦時には，イギリス主権下のビルマを解放するために，日本軍に一時協力した。戦後，イギリスに独立を要求して1947年交渉をまとめたが，同年7月暗殺された。

おんししょう【恩賜賞】 日本学士院*・日本芸術院が，学術・芸術上の功労者に与える賞。皇室下賜金でまかなわれる。学術は1911年(明治44)の木村栄(ひさし)(地軸変動の研究)，芸術は1949年(昭和24)の小場恒吉(日本紋様の研究)がはじめての受賞者である。功労者には賞状・賞牌(しょうはい)と賞金20万円が下賜される。

おんしつ【温室】 栽培する植物に最適の環境を与えて，生育・開花・結実を自由に調節できる建物。温度の管理だけでなく，水分・湿度の調節も重要である。温室の材料は，従来はガラスが中心であったが，ビニルや紙を用いてもよいと考えられるようになった。

温室の起源はローマ時代にあるといわれるが，記録に残されている最初の温室は，1619年にソロモン-ド-カウスによってドイツのハイデルベルクに建てられたものである。その後1694年にイギリスの薬用植物園にガラスをはじめて用いた温室が建てられ，1717年には屋根にガラスを用いたものが建てられた。日本では1870年(明治3)に開拓使によって東京渋谷(しぶや)に建てられたのが最初であるといわれている。その後しだいに各地に増加したが，営利花卉(かき)温室が本格的に広まったのは1923年(大正12)の関東大震災以後である。

温室を構造上から分類すると①片屋根式，②4分の3室(南側の屋根の長さが全体の4分の3，北側の屋根の長さが4分の1のもの)，③両屋根式，④連結式(同一の屋根を二つ以上連結したもの)などがある。また栽培植物によって分類すれば，果樹温室・蔬菜(そさい)温室・花卉温室などとなり，使用目的によって分類すれば，営利温室・趣味温室・標本植物温室などとなる。また骨組みの材料によって，木造温室・鉄骨温室・アルミ温室がある。

温室を建てるには，温暖で日照・通風がよくて，風害のない所を選ぶ必要がある。また，排水や水質もよくて管理に便利な所がよい。場所が定まったら次には温室の大きさを考える。同じ面積でも室幅が広ければむねが高くなり，温室は大きくなる。室幅は内部に設けるベンチの数や幅，材料の規格などによって定まる。その次には温室の方向を東西に長くするか，南北に長くするかを考え，屋根勾配(こうばい)を考える。屋根勾配はふつう28°内外である。さらに単棟にするか連結にするか，材料は木材にするか鉄骨・アルミなどにするか，ガラスを用いるかビニルにするかなどを決定する必要がある。〔小杉　清〕

おんしつしょくぶつ【温室植物】 温室で栽培する植物の総称。観葉植物*やラン類のように熱帯または亜熱帯原生の植物が多いが，球根類や花木などのように促成や抑制をするために一時的に温室へ入れるものもある。また，欧州ブドウなどのように，湿度が高くならないように温室に入れるものもある。このように温室植物は種類が多く，性質がさまざまであるうえに，栽培の目的も異なるので，その取り扱いは千差万別である。しかし共通していえることは，温室植物であるからといって，温室の温度を高めさえすればよいのではないということである。それぞれの植物について生育適温を与え，通風に注意してじょうぶに育て，病虫害の被害を受けないようにすることがたいせつである。植物体が健康に育っていれば，薬剤散布の回数も少なくてすむので，葉や花が薬剤で汚染されることが少なく，また花持ちもよくなるなどの利点がある。一般に切り花用として温室で栽培されているものに，キク・カーネーション・バラ・チューリップなどがある。〔小杉　清〕

おんしゃ【恩赦】 すでに決定した刑を免除・減刑したり，起訴*中の事件について起訴を取り消したり，またすでに失っている権利を復活させたりする行政権の行為。これらの裁判についての事項は，刑事訴訟法上の手続きによらず，政府(古くは国家)が国家的慶祝を機に，刑罰から免じて支配者の恩恵を及ぼす政策としてであり，また裁判の結果，実質的には不当だと思われる場合に，これを救済する例外的手段としてである。すべての刑を免除する大赦，特定の刑のみについて免除する特赦，このほか減刑，また刑の執行の免除・復権などがある。恩赦法(1947)がこれについて定めている。その適用については内閣が決定し，天皇の国事行為として行なわれる(憲法7条6号)。〔鈴木安蔵〕

おんしゅう【温州】 ウェンチョウ　中国，浙江(せっこう)省東南部，甌江(おうこう)の河口に位置する，この地方の代表的港市。人口20万1,000(1953年推)。漢代の初めは東甌国の地で，中原からは未開発地域とみられていた。温州の名は唐代から現われる。地方物産の集散地であり，特に茶の輸出が盛んである。1876年に開港場となった。

おんしゅうのかなたに【恩讐の彼方に】 菊池寛*の短編小説(1919)。旗本の家来の市九郎は主人の愛妾(あいしょう)と通じ，主人を切ってたちのいたが，その女の貪欲(どんよく)ぶりに改心し，僧了海となり九州耶馬渓(やばけい)で洞門(どうもん)を掘る。父のかたきと了海をねらう実之助も彼の悲願に感じて協力，洞門開通を得て手を取り合った，という筋。青ノ洞門*の伝承を劇化したもので，人間性をうたった作者の代表作。

おんしょう【温床】 暖房のできるフレームをいう。暖房しないフレームは冷床という。暖房の方法には，〈踏み込み〉と称してわら・うまや肥に米ぬかを振りかけ，水をかけながら踏み込んで発酵熱を出させる方法と，温床電線を土中に張って暖房する方法，温湯管を敷設する方法がある。昔はもっぱら踏み込みが行なわれたが，材料が得にくくなったことや労力がかかることから，最近は温床電線が多く用いられるようになった。温床電線の性能はメーカーによってほとんど大差なく，1巻きで250W用，500W用，1kW用になっている。発熱体の

長さはそれぞれ31・62・120mで，両端に2〜3mの口出し線がついている。温床電線を用いる場合には，サーモスタット*を取り付けておけば自動的に温度調節ができて便利であり，電気も節約できる。サーモスタットは地中用のものもある。その場合には継電器*(リレー)と称する電磁式のスイッチを使用しないと危険である。温湯式は設備費や維持費がかかる。〔小杉　清〕

おんしょうがた【恩賞方】 建武中興*政府の一職名。1334年(建武1)吉田定房(よしださだふさ)・九条光経(みつつね)・藤原藤房・四条隆資(たかすけ)をそれぞれの地方の長官に任命し，将士の軍功に対する恩賞の沙汰(さた)を行なう機関として設置されたが，恩賞方には裁断の決定権がなく，また不正をする者が多かったので短期間で廃された。

おんじょうじ【園城寺】 滋賀県大津市園城寺町にある天台宗の名刹(めいさつ)。比叡山(ひえいざん)延暦(えんりゃく)寺*を山門(あるいは山)と称するのに対して寺門(あるいは寺)と称し，天台宗寺門派の総本山で，山号を長等山という。寺内に，天智(てんち)・天武・持統の三天皇の誕生水に用いられた御井(三井)があるところから，三井寺ともよばれている。草創は古く奈良時代前期にさかのぼり，弘文(こうぶん)天皇の皇子与多王が686年(天武15)に建立(こんりゅう)，のち大友村主の氏寺となったがしだいに衰え，ついに荒廃に帰した。858年(天安2)円珍*(智証(ちしょう)大師)が再興に着手，859年(貞観1)落慶供養を行ない，天台寺院としての基礎を築いた。のち円仁(えんにん)・円珍の両門徒の間に争いが生じて，993年(正暦4)両門徒は完全に分裂，円珍の門徒は比叡山を締め出されたため，両門の確執は激しさを加え，山門のために園城寺の堂舎が焼かれることもしばしばであった。また，1595年(文禄4)豊臣秀吉(とよとみひでよし)によって寺領が没収されたが，還付ののち再建に着手，徳川家によって引き続き諸堂の建立が行なわれた。

琵琶湖(びわこ)の西南にあたるなだらかな山地の中腹に位置するこの寺は古来，景勝の地として名高く，その観音堂は西国第14番の札所であり，近江(おうみ)八景*の一つの〈三井の晩鐘〉として親しまれている金堂左手の梵鐘(ぼんしょう)は特に有名である。また，国宝に指定されている文化財も多く，建造物では，鎮守の一つである新羅(しらぎ)善神堂が室町期の再建で最も古く，金堂・勧学院客殿・光浄院客殿はそれぞれ江戸初期の再建である。彫刻では，大師の御骨を像内に納め，通称を御骨大師とよばれる智証大師像と，山門との抗争の際に比叡山からこの寺に移した智証大師像(御廟(ごびょう)安置)と，2体の肖像彫刻があり，両像とも平安中期の傑作である。絵画では，大師が座禅中感得した金人を画工に描かせた不動明王の名品が黄不動*の名で知られ，また円珍が唐から請来した天台密教系の図像の写しである《五部心観》がある。〔永井信一〕

園城寺
光浄院客殿
1601



オンス【ounce】 ヤード-ポンド法の重量(正しくは質量)の単位。記号oz　1/16ポンドに相当し，28.3495gにあたる。特に，金・銀や薬剤の計量では，金量ポンドの1/12つまり31.103gに相当するものを金量オンスという。➔ポンド

おんせい【音声】 人間がことばとして発する音。ふつう，肺から送り出される空気を利用して，声帯・舌・くちびる，その他の音声器官を働かせることによってつくり出される。ことばは，いつも文として使われるが，文の音声は，音声器官の複雑な連続した運動によってつくられる。文は単語を材料にして組み立てられるが，単語の音声はふつう音節*に，さらに音節は母音・子音などの音素*(フォネーム)に分解される。また単語にはふつう，アクセント*があり，文には一定の文の調子，つまりイントネーション*があって，音声の連続の上に一定の特徴を与えている。また，音声には，話し手ひとりひとりの個人的特徴や，そのときその場の生理的・心理的特徴なども加わっている。なお，音声学*では，〈声〉という用語は音声一般をささずに，声帯を振動させることによってつくられる音声(母音などの有声音)のみをさし，声帯を振動させない無声音(s，hなど)は含めない。〔上村幸雄〕

おんせいがく【音声学】 言語の音声*を研究する科学。研究法にほぼ3通りある。その第1は生理学的音声学といわれるもので，音声が生み出される過程，つまり発音の際の音声器官の位置や運動を研究する。最も一般的な，かつ伝統的な音声学がこれである。母音を前舌母音(〈i〉〈e〉など)・奥舌母音(〈o〉〈u〉など)に分けたり，子音を唇音(しんおん)(〈p〉〈b〉〈m〉など)，歯音または舌先音(〈t〉〈d〉〈n〉など)などに分けるのは生理学的音声学による音の分類である。生理学的音声学は古くは古代インド，中国で発達していたが，19世紀末期からヨーロッパで盛んとなり，いまでは語学の学習と教授，方言・外国語などの研究，言語障害の治療などにその成果が広く利用されている。その第2は音響学的音声学であって，音声を，空気中を伝わる音波としてとらえて，その物理学的な性質を研究するものである。この方法は最近，電子音響工学の発達に伴って非常に発達し，各種の測定装置の進歩により，各母音・子音・音節などの音響学的性質がかなり詳しく明らかにされた。さらに，電子計算機を利用した，音声の人工的な合成の研究などにも成功している。第3は聴覚生理・心理学的な音声学であって，音声が聴覚器によってとらえられ，分析されて大脳においてことばとして認識されるまでの過程を研究するものである。この研究は方法上困難な点が多いので，さして進んでいない。しかし，最近になって人間の聴覚器官の精巧きわまりないしくみがかなり明らかになってきた。日本での音声学ことに日本語の音声学的研究は，生理学的方法による研究が大正末期ごろから進められ，今日では音響学的方法による研究が非常に盛んである。しかしその反面，言語研究・言語教育に従事する者への音声学的知識の普及が足りず，教育への応用の面ではたちおくれており，ことに国語教育の場合それが著しい。〔上村幸雄〕

おんせいきかん【音声器官】 ことばの音声をつくり出すために働かせる器官。横隔膜・肺臓・肋骨間(ろっこつかん)筋肉・気管支・気管・喉頭(こうとう)・声帯・咽頭(いんとう)・咽頭腔(いんとうこう)・口腔(口むろ)・鼻腔(鼻むろ)・口蓋(こうがい)・口蓋帆・口蓋垂・歯・歯茎・くちびる・舌(舌先・前舌・中舌・奥舌・舌根)など。すなわち，人間は固有の音声器官をもつわけではなく，呼吸と消化のための器官を音声器官としても活用し発達させているわけである。〔上村幸雄〕

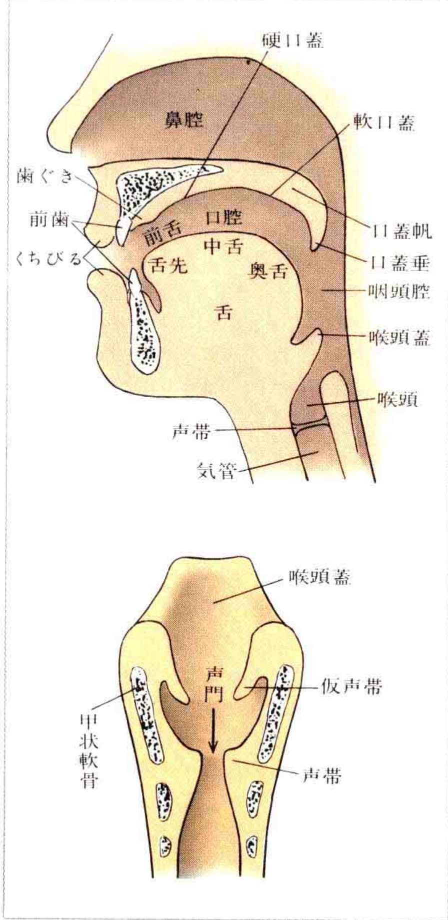
おんせいきごう【音声記号】 もっぱら音声を表わすために用いられる記号で，発音記号・音声字母などともいう。言語の研究，外国語の学習・教授などに利用される。各国語の表記法には不規則つづりが多かったり，同じ記号が言語によって別の音を表わしたりして正確な発音を知るには不便な点が少なくないので，これまでに学者によっていろいろな方式の音声記号が考案されてきた。現在一般に最も広く使われているのは，国際音声記号(International Phonetic Alphabet，略してIPA)である。国際音声記号は国際音声学協会によって1888年にはじめて制定され，以後たびたびの改訂

国際音声記号

（1951年改訂）

		両唇音	唇歯音	歯音と歯茎音	そり舌音	口蓋寄りの歯茎音	歯茎寄りの口蓋音	口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音	咽頭音	声門音
子音	破裂音	p b		t d	ʈ ɖ			c ɟ	k g	q ɢ		ʔ
	鼻音	m	ɱ	n	ɳ			ɲ	ŋ	ɴ		
	側面摩擦音			ɬ ɮ								
	側面無摩擦音			l	ɭ			ʎ				
	ふるえ音			r						ʀ		
	はじき音			ɾ	ɽ					ʀ		
	摩擦音	ɸ β	f v	θ ð　s z　ɹ	ʂ ʐ	ʃ ʒ	ɕ ʑ	ç j	x ɣ	χ ʁ	ħ ʕ	h ɦ
	無摩擦継続音と半母音	w ɥ	ʋ	ɹ				j (ɥ)	(w)	ʁ		
母音								前舌　中舌	奥舌			
	狭	(y ʉ u)						i y　ɨ ʉ	ɯ u			
	半狭	(ø o)						e ø	ɤ o			
								ə				
	半広	(œ ɔ)						ɛ œ	ʌ ɔ			
								æ　ɐ				
	広	(ɒ)						a	ɑ ɒ			

二次的調音は，(　)に入れた記号で示してある。



音声器官　(上）気管より上の音声器官断面
(下）喉頭部断面

を経て現在に至っている(表は1951年改訂のもの)。ローマ字を主体とし，それにいろいろな字母と補助記号を加えており，〔　〕に入れて用いる。音声記号の使い方には精密表記と簡略表記の２種類があって，外国語や方言の発音を比較のために細部まで示したい場合は精密表記を用い，字母を正確に使い，かつ，必要に応じて補助記号を使用する。簡略表記は実用的に発音のおおよそを示すためのもので，英和辞典などに用いられている国際音声記号は簡略表記のものである。〔上村幸雄〕

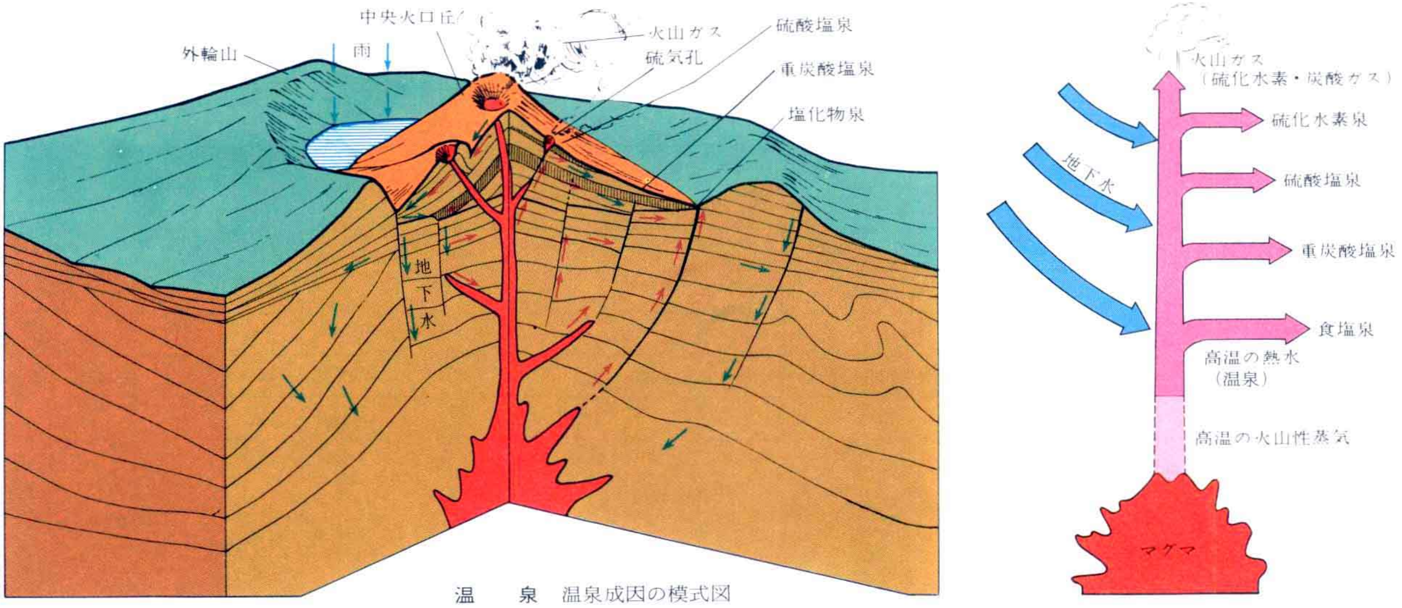
おんせいでんりゅう　【音声電流】　音声の振動の強弱を，マイクロホンや電話の送話器などによって電流の強弱に変換したもの。したがって，音声電流の波形は音声波の音圧と同じであり，含んでいる周波数の成分も男女あるいは老若の差で異なる。音声電流の，特に母音の場合の特徴は反復波形で，隣り合った部分ではたいした変化がない。このことから，現在と次の部分との差を送る方法も生まれた。また，波形をそのまま送らずに特定周波数帯における音声電流の強さ，無声音か有声音かの区別によって符号化するボコーダも研究された。電話においては音声電流の300～3,400ヘルツの周波数を取り扱っている。〔内山明彦〕

おんせつ　【音節】　一くぎりに発音することのできる最も小さい音声の単位で，かつ単語を組み立てる単位でもある。単語は１個以上の音節からなり，たとえば〈メ(me)〉は１音節，〈ハナ(hana)〉は２音節，〈アタマ(atama)〉は３音節である。日本語のかな文字は音節を表わす文字である。音節はさらに，母音・子音などの音素*に分析される。音素の組み合わせの違いによって多くの音節が区別され，さらにその音節の数や組み合わせの違いによって多数の単語が区別される。音節はふつう母音と子音の組み合わせ〈例：メ(me)，ト(to)〉からなるが，母音のみの音節〈例：エ(e)，オ(o)〉もある。さらに，日本語の〈ア(a)〉〈カ(ka)〉〈サ(sa)〉……のように母音で終わっている音節を開音節といい，英語の〈pot〉〈cup〉などのように子音で終わっている音節を閉音節という。また，〈オバサン〉の〈バ(ba)〉は短い音節であるが，〈オバーサン〉の〈バ(baɑː)〉は長い音節である。なお，英語では〈strict〉の〈str〉〈ct〉のように１音節の中で子音が重なることができるが，日本語ではできない。〔上村幸雄〕

おんせん　【温泉】　無機物質を多量に含む泉を鉱泉とよび，温度がその地域の年平均気温より高いものを温泉，低いものを冷鉱泉という。しかし，これでは温泉の定義がまちまちになるので，各国の事情に応じて温度の下限が決められている。日本・南アフリカでは25℃，イギリス・ドイツ・フランス・イタリアでは20℃，アメリカでは70°F(21.1℃)。わが国の温泉法(1948)では，地中から湧出(ゆうしゅつ)する温水・鉱水および水蒸気，その他のガス(炭化水素を主成分とする天然ガスを除く)で，含有成分に関係なく温度が25℃以上であるもの，あるいは温度にかかわりなく法律で定められた成分が一定量以上含まれているものを温泉としている。

〈成分〉温泉はマグマ*から由来した物質とともに，地下の岩石とつねに接しているので，岩石を構成しているすべての成分を含んでいるが，各成分の比率は岩石と異なり，水にとけやすい成分が多い。陽イオンではナトリウム・カルシウム・カリウム・マグネシウム，陰イオンでは塩素・硫酸・炭酸・ケイ酸，ときにはホウ酸などがある。温泉の本質的な成分は塩化ナトリウムNaClであるといわれ，海水の化学組成とかなり類似する。温泉は鉱床をつくった鉱液の最後の形であるともいわれ，地下で高温・高圧状態にある温泉がどのような成分をとかしているか，まだ十分に解明されていない。

〈温泉沈殿物〉温泉が流動し，地表に湧出



温　泉　温泉成因の模式図

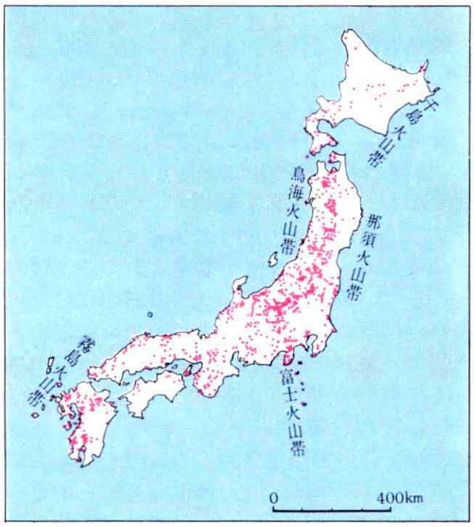
すると，温度・圧力の低下，ガス圧などの変化，あるいは水が蒸発して消失することなどによって，溶解していた物質が固形物となって沈積する。温泉華(湯の花(はな))などもこれに属する。沈殿物としてはホウカイ石・アラレ石・ケイ華・リンケイ石・クリストバル石・セキエイ・フッ石・食塩・ミョウバン石・ジュウショウ石・イオウ・オウテッ鉱・ホウトク石などがある。

〈分類〉温泉は，一般に温度・水素イオン濃度(pH)・化学組成などの違いによって分類される。①温度による分類：25℃未満を冷鉱泉，25℃～34℃未満を微温泉，34℃～42℃未満を温泉，42℃以上を高温泉とする。②水素イオン濃度による分類：pH2未満を強酸性泉，pH2～4未満を酸性泉，pH4～6未満を弱酸性泉，pH6～7.5未満を中性泉，pH7.5～9未満を弱アルカリ性泉，pH9～をアルカリ性泉とする。③化学組成による分類：厚生省編纂(へんさん)の鉱泉分析法指針は鉱泉を陰イオンにより重炭酸塩泉・塩化物泉・硫酸塩泉に大別し，主要陽イオン含有量によって次の11種の泉質に細分し，療養泉判定の基準としている。㋑単純温泉：温度25℃以上で遊離炭酸(CO_2)および溶存物質総量が1kgあたり1g未満(花巻・飯坂(いいざか)・鬼怒川(きぬがわ)・箱根湯本・伊東(いとう)・道後)，㋺単純炭酸泉：遊離炭酸(CO_2)1kgあたり1g以上，溶存物質総量が1kgあたり1g未満(土湯・白骨・有馬)，㋩重炭酸土類泉：溶存物質総量が1kgあたり1g以上，HCO_3^-，Ca^{2+}あるいはMg^{2+}が主成分(鬼首(おにこうべ)・伊香保・白骨)，㊁重曹泉(じゅうそうせん)：溶存物質総量が1kgあたり1g以上，HCO_3^-，Na^+を主成分とする(土湯・綱島・嬉野(うれしの))，㋭食塩泉：溶存物質総量が1kgあたり1g以上，Cl^-，Na^+を主成分とする(カルルス・大鰐(おおわに)・強羅(ごうら)・湯河原(ゆがわら)・熱海(あたみ)・別府亀川(べっぷかめがわ)・指宿(いぶすき))，㋬硫酸塩泉：溶存物質総量が1kgあたり1g以上，SO_4^{2-}を主成分とするもの(浅虫・四万(しま)・湯河原)，㋣鉄泉：総鉄イオン1kgあたり20mg以上(薬研(やげん)・有馬・鉄輪(かんなわ))，㋠ミョウバン泉：溶存物質総量が1kgあたり1g以上，Al^{3+}1kgあたり100mg以上，SO_4^{2-}を主成分とする(鳴子湯元・那須(なす)・湯ノ谷)，㋷イオウ泉：総イオウ1kgあたり2mg以上(白布高湯(しらぶたかゆ)・万座・妙高・雲仙(うんぜん))，㋦酸性泉：水素イオン1kgあたり1mg以上(登別・草津・雲仙)，㋸放射能線：ラドンの量$3/10^9$キュリー/l(8.25マッヘ)以上，またはラジウムの量1lあたり$1/10^7$mg以上(増富・三朝(みささ))。

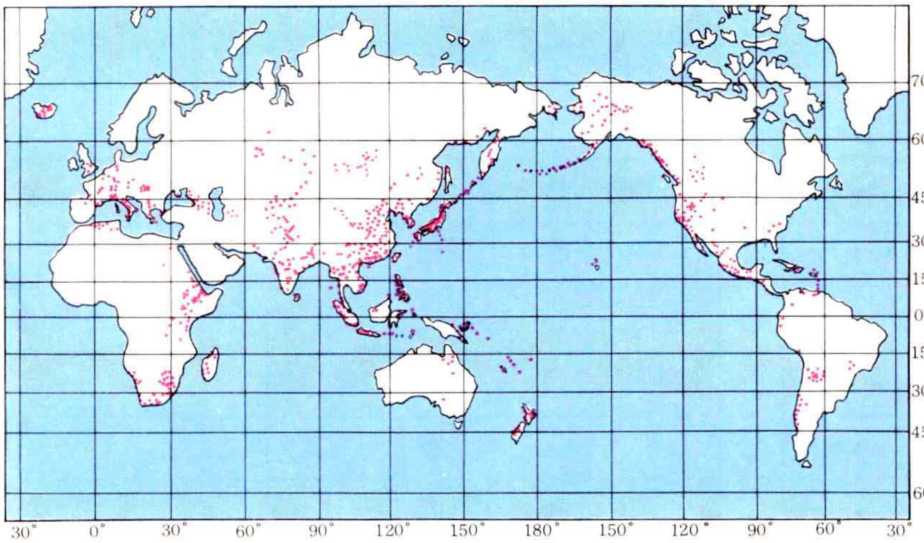
〈分布〉わが国は世界有数の温泉国である。厚生省の調査(1967)によれば，温泉地1,300余り，源泉数16,000以上，総湧出量毎分あたり114万3,000l，温度42℃以上の温泉は源泉の6割強を占める。温度25℃以上の温泉の分布は火山帯の分布と一致する。90℃以上の温泉や噴気のみられる地域の熱源は第四紀の火山活動によるが，またより古い地質時代の火成岩が熱源となっている例も多い。たとえば，紀伊半島の白浜・勝浦の温泉は第三紀の火成活動が熱源となっているし，四国道後温泉の熱源は白亜紀のカコウ岩であるといわれている。石油や天然ガスを採取するための深層ボーリング孔からも温度の高い，多量の塩分やガスを含む温泉が湧出することが多い。また，地下増温率が平均的(3℃/100m)な地域であっても，深さ1,000mでは30℃となり，それにその付近の年平均気温を加算すれば45℃以上になりうるので，深井戸によって温泉法による温泉の適用を受ける地下水を得ることができる。世界の温泉分布も環太平洋火山帯・地中海火山帯・アフリカ大地溝帯(だいちこうたい)などの火山地帯と一致する。特に高温の温泉と関係のある地熱発電*は，イタリアのラルデレロ(地中海火山帯)，ニュージーランドのワイラケイ，アメリカのガイザー，カムチャツカ半島のパウジェック，日本の松川・大岳(環太平洋火山帯)などで行なわれている。中国・インドやバイカル湖付近，パミール高原などのように火山と関係のない地域でも温泉が知られている。

〈成因〉温泉の本質的な主要成分であるNaClの起源は，最近までなぞとされていた。NaClは海水の主要成分であるから，地層中に閉じこめられたNaClが抽出されてきたとする考え方が強かった。しかし，海とまったく離れた大陸や，山地からの温泉にもNaClが多いことがその説明を困難にしていた。アメリカの地質学者ホワイトは高温高圧の蒸気中には約2％のNaClがガス相として含まれることに着目し，マグマの揮発物中にNaClが含まれるのだという説を発表し，高温の温泉中の最もNaCl量の多いものでもマグマからの熱水量は数パーセントにも達しないと推定した。マグマから分化した食塩に富む高温高圧の蒸気は地上に向かって流動するうちに冷却し，地表からの地下水と混合しながら一部は液体(温泉となる)となるが，まだ液体にならない蒸気はさらに上昇し，その一部は途中で冷却し液化するという過程をくり返すことによっていろいろの種類の温泉が分化する。最も早く分化したものは食塩泉，次に重炭酸塩泉，最後に硫酸塩泉が形成され，解析された火山ではこの順序で低い所から高い所にわたって泉質の分布がみられることが多い。火山ガスには塩化水素ガスに富むものがあり，塩化水素ガスが火道を上昇しながら岩石と反応し中和してNaCl型の温泉が形成されるという説を主張する研究者も多いが，そのような酸性ガスは地表近くにしか存在しないものと考えられる。

非火山性の温泉は深成岩ことにカコウ岩類中から湧出するものと，油田・ガス田などの地層水(鹹水(かんすい))の温泉とに区別さ



日本の温泉分布図



世界の温泉分布図(冷鉱泉を除く)

れる。日本の温泉にはカコウ岩(第三紀～白亜紀)中から湧出しているものが多い(三朝・石和(いさわ)・湯村)。カコウ岩体がまだ冷却の途上にあって，地下水をあたためているものである。油田・ガス田の温泉は著しく塩分濃度が高くCl^-が10,000ppm を越す食塩泉(法正院・松之山・焼山)があり，南関東ガス田でもCl^- 5,000ppmのものが知られている。油田や天然ガス田の化石海水型の温泉と火山性温泉，深成岩中の温泉とはLi^+の含有量が前者のほうが少ないことなどで区別される。

〈利用〉 わが国では，古くから温泉は湯治として国民の保健に利用されてきた。そのために温泉は厚生省が管理し，入浴するときの温泉の療養効果に力が入れられている(→温泉療法)。第2次世界大戦後は国民の旅行・観光に対する関心が高まり，温泉は重要な観光資源としての役割を果たすようになった。

農業では温室・養鶏場・養魚場など，工業では製塩業・醸造業などの保温・加熱の熱源として利用される。イタリアのラルデレロでは温泉に溶解しているホウ酸を工業原料として採取している。高温の蒸気は地熱発電*に利用されている。 〔大木靖衛〕

〈日本の温泉の歴史〉 わが国の温泉利用の歴史は古く，すでに《日本書紀》《万葉集》に〈温湯〉の名で現われている。地中からわき出る温湯に薬効があるということはきわめて神秘的な現象とされ，①クマ・サル・イノシシ・シカ・シラサギなどの鳥獣が傷をいやすのを見て発見した ②春日(かすが)明神・観世音菩薩(かんぜおんぼさつ)などの神仏の導きによって発見した，③ヤマトタケルノミコト・スクナヒコナノミコト・役小角(えんのおづぬ)・行基・空海などの神話的・歴史的人物が発見者とされる，などの起源伝説が生まれた。病気の療養や労働後の保養のために温泉に浴することは湯治・入湯とよばれ，古くから普及した。湯治は〈湯七日〉〈湯十日〉などとして7～10日，あるいは1か月以上の滞在も珍しくなく，はじめ湯治客は野天ぶろの周囲の旅籠(はたご)や民家に泊まりこんで入湯に出かけるという素朴(そぼく)な形であったが，旅籠に内湯が引かれるようになってからは温泉宿は大きく変化していった。しかし，昭和初期までは多くの温泉宿はこのような湯治客が主で，気の合った者が数人組んで，ふとんから米・みそまで持参するのが普通であった。 〔直江広治〕

おんせんか 【温泉華】 ⇒温泉

おんせんせいぶつ 【温泉生物】 温泉の中に生活する生物。植物には藍藻(らんそう)類(ユレモなど)・細菌類(イオウ細菌など)などがあり，85℃くらいの熱湯中でも生活できるものがある。動物ではアメーバなどの原生動物が比較的高温に耐え，50℃くらいまでの温泉中で生活しているものもあるが，それ以上の高温には耐えられない。そのほかオンセンアブなどのこん虫類があり，甲殻(こうかく)類，軟体動物などにもみられる。

おんせんよど 【温泉余土】 火山地帯で噴気や温泉の通路にあたる部分や噴気孔，温泉の周囲の岩石などが温度の上昇と化学的作用によって変質し粘土化したもの。化学成分によって粘土の質も違い，酸性ないし中性の場合はカオリン*系，塩基性の場合にはモンモリロン石*系の粘土になりやすい。各地に分布するベントナイト*・酸性白土*の形成も温泉作用に関係したものが少なくない。温泉余土は吸水・膨張性があるので地すべりなどを起こしやすく，またそのような地

温泉法の規定する温泉の含有物質と含有量

成　分	鉱泉の規定 mg/kg	療養泉の規定 mg/kg
溶存物質総量(ガス成分を除く)	1 000 以上	1 000 以上
遊離炭酸(CO_2)	250 以上	1 000 以上
リチウムイオン(Li^+)	1 以上	
ストロンチウムイオン(Sr^{2+})	10 以上	
バリウムイオン(Ba^{2+})	5 以上	
銅イオン(Cu^{2+})		1 以上
総鉄イオン($Fe^{2+}+Fe^{3+}$)	10 以上	20 以上
マンガンイオン(Mn^{2+})	10 以上	
水素イオン(H^+)	1 以上	1 以上
臭素イオン(Br^-)	5 以上	30 以上
ヨウ素イオン(I^-)	1 以上	10 以上
ヒドロ炭酸イオン(HCO_3^-)		360 以上
フッ素イオン(F^-)	2 以上	
ヒドロヒ酸イオン($HAsO_4^{2-}$)	1.3 以上	
メタ亜ヒ酸($HAsO_2$)	1 以上	
総イオウ(S)〔総硫化水素＋チオ硫酸に対するもの〕	1 以上	2 以上
総ヒ素(メタ亜ヒ酸$HAsO_2$として)		1 以上
ホウ酸(HBO_2として)	5 以上	100 以上
ケイ酸(H_2SiO_3として)	50 以上	
炭酸水素ナトリウム($NaHCO_3$)	340 以上	
ラドン(Rn)	20(10^{-10} キュリー単位)以上(5.5マッヘ以上)	30(10^{-10} キュリー単位)以上(8.25マッヘ以上)
ラジウム塩(Ra として)	1億分の1mg(10^{-8}mg)以上	1千万分の1mg(10^{-7}mg) 以上
温度	25℃以上	25℃以上

○ 温泉浴 ● 飲泉	単純泉	単純炭酸泉	重炭酸土類泉	重曹泉	食塩泉	硫酸塩泉	鉄泉	イオウ泉	アルカリ性泉	酸性泉	明ばん泉	放射能泉
胃腸病		●	●	●	●	●		●				○●
肝臓・胆道病				●		●						
リウマチ	○		○	○	○	○	○	○●	○	○		○●
神経疾患	○	○	○	○	○	○	○●	○●	○			○●
循環器疾患	○	○				●		○				
糖尿病				●		●		○●				
痛風			○●	●	○	○		●				
肥胖病				●	●	●						
皮膚病	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○
婦人病		○		○		○	○●	○			○	

温泉療法　泉質と適応症

帯では土木工事に困難を伴うことが知られている。丹那(たんな)トンネルの熱海(あたみ)口の難工事はその例である。〔平山　健〕

おんせんりょうほう　【温泉療法】　鉱泉や温泉を利用した治療法。わが国は全国いたるところに温泉が湧出(ゆうしゅつ)し，世界有数の温泉国である。したがって，温泉および湯治に関する記載はすでに《古事記》《風土記》《万葉集》にみられ，温泉が昔から医療に利用されていたことを明らかにしている。また，各地の温泉にはさまざまな入湯伝説や記録があり，適応症も経験的に知られ，入湯法なども各地に独特の方法がみられるようになった。〈脚気(かっけ)川湯に瘡老神(かさおいがみ)〉(脚気には川湯温泉が，梅毒には老神温泉がきくという意)ということばや，草津の時間湯などはこの間の消息を示している。伝統的な入浴法などには誤っているものもあるが，中には現代の医学からみても合理的と考えられる例も少なくはない。

温泉療法の種類には，浴療法・飲泉療法・泥浴(でいよく)・吸入などがあるが，わが国では温泉療法といえばおもに浴療法を意味し，ヨーロッパではむしろ飲泉療法が中心的に行なわれている。温泉の効果については，水治療法・温熱療法としての効果のほかに，温泉に特有の効果があると考えられている。すなわち，温泉浴が非特異的刺激として作用して下垂体副腎(ふくじん)系をはじめとして，ホルモン分泌・自律神経系・免疫体産生などに影響を与え，生体反応を有利に起こすと考えられる。さらに，温泉成分は経皮的に体内に侵入し，全身の臓器または特定の臓器に集まって身体の整調を行なうとも考えられている。温泉療養の期間は上記のような理由から2～3日では不十分で，少なくとも2週間以上，ふつう3～4週間を一治療期間としたほうがよいとされている。しかし，長すぎると刺激としての効果がなくなり，かつ体内への温泉成分の侵入の度合いが減じるので，温泉療法の効果が減ると考えられ，このため入浴後は特別の障害がないかぎり浴水で身体をふかないほうがよい。

泉質と適応症の関係は表に示すとおりであるが，これは原則であり，微量成分やその他の条件の差により同じ泉質に分類されながらも微妙に効果をことにする。この理由もあって，温泉療法を行なう際には温泉を熟知した温泉専門医によって適応する温泉の指示を受け，かつ入浴法などについて指導を受けることが望ましい。入浴に際しては一般の入浴における注意に加えて，温泉特有の湯あたりを避けるため，入浴時間・回数が度を過ぎないようにするなどの注意も必要である。また興奮したり，強い疲労のあとや食事の直前直後，大量飲酒のあとなどは避ける必要がある。泉温は刺激療法としては高温がよいが，あまり熱くない湯にゆっくりはいるほうが温泉成分の吸収が増大するので，高血圧・神経痛・リウマチの場合は特にこの方法がよい。禁忌としては急性疾患，高度の貧血，機能障害の著しい心臓病・腎臓病(じんぞうびょう)，癌(がん)・肉腫(にくしゅ)，活動性のリウマチ，脳卒中になったばかりの者があげられる。〔増田武弘〕

おんそ　【音素】　音声*の最小の単位で，音節を組み立て，単語を区別するなどの機能を果たしている。フォネーム，音韻ともよばれる。たとえば，日本語の〈ka(蚊)〉〈te(手)〉〈take(竹)〉などのk，a，t，eは音素であり，〈ke(毛)〉〈ta(田)〉のように音素が取り替われば別の単語となる。ローマ字1字はふつう1音素を表わす。ただし，英語の〈shop〉のsh(/ʃ/)，〈box〉のx(/ks/)のように，ローマ字と音素とが1対1に対応しない場合もある。一つの言語にはだいたい10数個から50個ぐらいまでの音素があって，これの組み合わせの変化によって多くの種類の音節が区別される。日本語には母音音素が5個(/a，i，u，e，o/)，子音音素は2個の半母音音素(/j，w/)を含めて15個(/p，t，k，b，d，g，s，c，z，h，m，n，r/と半母音，なおjはヤ行の子音，cはチツの子音を表わす)あり，このほかに2個の拍音素(/N，Q/それぞれはねる音〈ン〉とつまる音〈ッ〉を表わす)がある。一つ一つの音素は他の音素との間で相互に共通点と相違点とを分け合っていて，すべての音素が全体として体系(音素体系)をなしている。たとえばパ行の音節の子音である音素/p/は，他のすべての子音音素とともに母音音素と対立するが，子音音素の内部では，くちびるで発するという点で/b，m/と共通し，閉じてから破裂させる点で/b，t，d，k，g/と共通，声帯を震動させない点で/t，s，c，k，Q/と共通する。このような3条件を/p/自身の独自の特徴として体系内にその位置を保っているのである。こういう，音素の識別に役だてられる音声の特徴は弁別的特徴とよばれる。なお，アクセント・イントネーションなどをかぶせ音素ということがあり，これに対しては母音・子音などの音素を分節音素という。またローマ字を音素記号として使用するときは/ /に入れて示す慣習がある。〔上村幸雄〕

おんぞうししまわたり　【御曹子島渡り】　御伽草子*(おとぎぞうし)の一。兵法の巻き物を入手するため，源義経(よしつね)は千島に向かう。途中裸島・女護の島などで危難に出会うが，笛の功徳で切り抜ける。千島に到着後姫と契り，姫の助けで鬼の大王の手もとにあった巻き物を盗み出す。そしてめでたく帰国。姫は江の島弁才天の化身，義経は毘沙門天(びしゃもんてん)の化身であったという。義経伝説の後日談的な異郷遍歴物語。

おんそく　【音速】　⇨音

おんそしき　【音組織】　音楽理論用語。ある楽曲，あるいはもっと広くある音楽文化全体のもっている特徴的な楽音の使い方が，音階*(使われている音の数とそれぞれの間の音程)，旋法*(その音階で実際の旋律をどのような法則に基づいて使うか)の観点から，どのような組織(構造)として分析できるかの問題である。音の数の観点からはペンタトニック(5音音階*)・ヘプタトニック(7音音階)などの用語が用いられ，数ばかりでなく音程の観点を入れてテトラ



御嶽山 北東麓の長野県開田高原から望んだ晩春の御嶽山。山はまだ雪をいただくが，ふもとの苗代田の緑が目にしみるように美しい

コルド(完全4度のわくの中)・ペンタコルド(完全5度のわくの中)といえば2度ずつの音程で音が並び，全体としての音域も明白になる。さらに，音階の中のどの音がどのような機能をもっているかという観点から，西洋音階については，主音*・属音・下属音・導音などという用語が使われ，民族音楽の分析の際には，中心音・開始音・終止音・装飾音などという用語によって音が分類される。そのような音の分類に際しての基準は，出現回数，音階上の位置，他の音との音程関係，旋律の中での前後関係，アクセントが置かれているかいないかなどである。これらの基準はそのまま旋律理論につながり，ヨーロッパ中世の教会旋法*，インドのラーガ*，アラビアのマカーム*，中国の律呂(りつろ)などの音楽理論の生成の基礎となっている。〔山口　修〕

おんたい【温帯】 気候学者ケッペン*は気温をめやすとして，最寒月の平均気温が18℃～－3℃，最暖月の平均気温が10℃以上となる地域を温帯とよんだ。ここは四季の変化が明瞭(めいりょう)なことが特色である。人間活動に最も適した地域といわれ，住民の文化水準や人口密度が高い。

おんたいかうきこう【温帯夏雨気候】 ケッペン*の気候区分の一つで，大陸東岸では季節風の方向によって降水量が決まり，夏季に大量の降雨をみる。中国大陸に標式的にこの気候をみることから，シナ気候ともよばれる。

おんたいしょくぶつ【温帯植物】 月平均気温10～20℃の月が年間4～12か月を占め，明瞭(めいりょう)な四季をもつ気候帯(温帯)に生育する植物。この気候帯を代表する植物群系である夏緑樹林(落葉広葉樹林ともいう)をつくる植物ともいえる。ブナやクリ・ナラの類がその代表的な植物。わが国では，本州中部山岳以北から北海道道南に分布する。これより北の亜寒帯，南の暖温帯・暖帯を含めて広義の温帯とよぶ場合もあり，そのときは上述の気候帯は冷温帯として区別される。亜寒帯には針葉樹林が広く分布し，アカマツ・スギ・ヒノキ・モミ・エゾマツ・トドマツなどが代表種。暖温帯・暖帯には照葉樹林(常緑広葉樹林)が分布し，クス・シイ・タブ・カシ・ツバキなどが生育する。なお，九州・四国・紀伊(きい)半島南端は亜熱帯に属し，森林限界以上の高山帯は寒帯に対応する。〔船越真樹〕

おんたいせいがんきこう【温帯西岸気候】 ⇨温帯多雨気候

おんたいそうげん【温帯草原】 中緯度内陸の降水量が少ない地域では，樹木が生育せずに草原となり，湿潤気候から乾燥気候への移り変わりを反映する。乾燥する側の縁辺地はたけの短い草の生育するステップで，湿潤側の縁辺地はたけの高い草の生育するプレーリーになる。世界のおもな温帯草原地域としては，ユーラシア大陸内部のカスピ海沿岸から中央アジアの一帯，サハラ・リビア砂漠(さばく)の周辺部，カラハリ砂漠の東辺，オーストラリア大陸の大サンデー砂漠の東部と南部，北アメリカ大陸のプレーリー・グレートプレーンズ*(大平原)，南アメリカ大陸のパンパなどがある。年降水量は一般に250～500mmであるが，雨量や土壌(どじょう)の水もちによって，草のたけに差が生じ，樹木がいくらか生育する場合がある。〔小栗　宏〕

おんたいたうきこう【温帯多雨気候】 ケッペン*の気候区分の一つで，温帯地域の大陸西岸や東岸で年降水量1,000～3,000mmに及ぶ比較的雨が多く，著しく乾燥する月がない気候である。東岸では季節風に支配されて夏に雨季となり，西岸では偏西風の影響によって雨がもたらされる。また，北西ヨーロッパでは沿岸に沿って流れる暖流の影響で，冬の寒さは東岸よりは和らげられ，夏も涼しく，ブナの樹林が多いことからブナ気候ともよばれる。〔小栗　宏〕

おんたいちせい【恩貸地制】〈恩恵〉〈特典〉を意味するラテン語ベネフィキウムの訳。ベネフィキウムとは，国王・教会・豪族などが家臣から一定の奉仕を受けることを交換条件に，土地を期限つきで安く貸す制度，およびその土地自体をさす。のち，この土地はしだいに終身貸与となり，また世襲されて，封建家臣の物的基礎である封土*となった。8世紀ごろにはこの制度が従士制*と結びつき，軍役の義務と封土がともに世襲となって，封建制度としての主従関係が成立するに至る。〔高山高雄〕

おんたいていきあつ【温帯低気圧】 温帯*地方で発生する低気圧。熱帯地方に発生する熱帯低気圧とは異なる性質をもっている。最も典型的なものは，暖気と寒気とが接触する前線上に発生し，温暖前線*と寒冷前線*を備えているのが普通である。前線に沿って天気が悪く，発達するにつれて，寒冷前線はしだいに温暖前線に近づき，暖域が狭くなって，ついには追いついて閉塞(へいそく)前線を形成する。この段階の低気圧を閉塞低気圧という。日本付近では，中国大陸・東シナ海・南岸前線で発生し，日本の南岸に沿って移動するもの，日本海にはいるものなどが多い。また，台湾北東沖に発生し，急速に発達して，東北東に進み日本に悪天候をもたらすものがあり，これは俗に台湾坊主*とよばれる。〔曲田光夫〕

おんたいとううきこう【温帯冬雨気候】 ケッペン*の気候区分の一つで，温帯*の中で雨量によって分類し，冬に雨が降り，夏に乾燥する気候をいう。この気候は大陸の西側にみられ，特に地中海域に標式的に発達しているので地中海式気候ともいう。太陽の直射位置の移動から，冬に偏西風の影響を受けて雨がもたらされる。この気候は特に夏の暑さがきびしい地中海地方のオリーブ気候と，その他の地域のエリカ気候(エリカは南アフリカに多くみられる灌木(かんぼく))とに分けることがある。〔小栗　宏〕

おんたいりん【温帯林】 温帯*を代表する樹林。通常は夏緑樹林(落葉広葉樹林)を意味する。わが国では，本州中部・関東・東北地方の標高500～1,600m付近，および北海道の平地から600m付近までに分布している。冬期の低温による影響が大きく，高緯度の針葉樹林，低緯度の照葉樹林と区別される。林床(林内の地面)は明るく，一般に林床植物がよく茂っている。

おんたけさん【御嶽山】 北アルプス南部，長野・岐阜県境にまたがる複式コニーデ形の火山で，乗鞍(のりくら)火山帯に属する。北アルプスから離れた独立峰としてそびえ，広大な山体を形成している。最高峰剣ヶ峰(3,036m)をはじめ，継母岳(ままははだけ)・摩利支天山・継子岳の諸峰，火口湖・外輪山があり，山頂部の地形は変化に富んでいる。古くから富士山，加賀の白山とともに三大霊山として山岳信仰の対象となり，いまも宗教登山が盛んである。山腹はヒノキ・サワラの美林でおおわれ，広大な国有林となっている。通称，木曽御岳(きそおんたけ)。〔高野　繁〕

オンタリオ(州)［Ontario］ カナダ東部の州。面積89万1,000km²，人口1770万3,000(1971)，州都トロント。1867年カナダ自治体の1州となる。州名は丘・水・空の〈美しきながめ〉の意。古い岩石からなる台地状の土地が広く続き，北はハドソン湾に面し，南は五大湖に接する。大陸性気候が支配するが，南東部はわりあいに温和で，ブドウ・リンゴ・モモ・野菜を栽培している。北部には

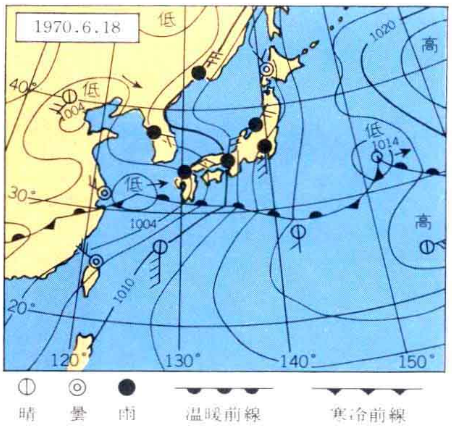
森林地域が広がる。カナダ総人口の3分の1がこの州に居住し，その90％以上はセントローレンス川沿いに集中しており，位置的にも，政治・経済的にも同国の中心地域となっている。混合農業地域で，同国のチーズ生産の4分の3を産する。水が豊富で水運が発達したこと，アメリカ合衆国からの鉄・石炭の供給が得られる位置にあることから，20世紀にはいって工業が急速に発達し，同国の代表的工業地域を形成するに至った。自動車・農具・自転車・デンプンなどの製造工業が盛んである。主要都市，トロント・オタワ・ハミルトン・ウィンザー。〔桓村大彬〕

オンタリオ(湖)［Ontario］ 北アメリカ五大湖の一つで，五大湖中ではいちばん小さい。氷河湖。面積18,760km²，最深225m。湖水はセントローレンス川となって大西洋に注いでいる。ヒューロン・エリーなどほかの五大湖や，ハドソン川などとは運河で結ばれ，湖上交通は盛んである。湖の周囲にはカナダ側にトロント・ハミルトン・キングストン，アメリカ合衆国側にロチェスターなどの都市があって，大工業地域を形成している。〔長津一郎〕

おんだんこうきあつ【温暖高気圧】 対流圏内で気温が周囲より高い高気圧。上層にいくほど，高気圧が顕著になっているが，成層圏では逆に，気温が低くなる。一般に背が高く，小笠原(おがさわら)高気圧などの亜熱帯高気圧はこの種のものである。これに対し，寒冷高気圧は背が低く，冬季発生するシベリア高気圧などがその例である。

おんだんぜんせん【温暖前線】 暖気が進行して，冷気の上にはい上がるようになったとき，その境の面を温暖前面といい，その面と地面が切り合う線を温暖前線という。この面の傾斜は，寒冷前面に比べて小さい。温暖前線が近づくにつれて，湿度が上がり，雲・降雨が増し，激しい降雨をもたらすこともしばしばある。低気圧に伴ってできることが多いが，そうでないこともあり，逆にその上に低気圧をつくることもある。〔曲田光夫〕

おんちこうしろう【恩地孝四郎】(1891～1955) 版画家。東京の生まれ。1911年(明治44)東京美術学校西洋画科に入学したが，1914年(大正3)に中退。その前年，版画・詩の雑誌《月映(つくはえ)》創刊に参加，1915年には萩原朔太郎(はぎわらさくたろう)らの同人誌《感情》に参加した。早くから竹久夢二に私淑し，その後ドイツ表現派の影響を受け，1919年日本創作版画協会，1931年(昭和6)日本版画協会に加わる。装丁・装本も早くから手がけ，終始創作版画の振興に努め，第2次世界大戦後はサンパウロ-ビエンナーレ展など国際展で活躍した。代表作としては連作の《リリック》や《氷島の著者像》《或(あ)るバイオリニストの印象》などがあげられる。〔陰里鉄郎〕



温暖前線



恩地孝四郎《氷島の著者像》(萩原朔太郎) 1943



音　程

おんちょう【恩寵】 キリスト教で，人間に対する神の人格的態度としての恵み。罪の赦しが中心をなし，したがって最大の恩寵はキリストの出現である。ギリシア語のカリスは〈好意〉の原義を有するが，パウロでは〈神の愛〉と同義であった。信仰生活においては，三位(さんみ)一体の神のうち聖霊と最も密接である。カトリックでは聖寵という。

おんてい【音程】 二つの音がピッチ(音高)に関してどの程度離れているかを表わす音楽理論用語。普通は短2度(半音の隔たり)・長2度(全音の隔たり)・完全5度・完全8度(オクターブ)など，西洋の平均律による音程名が使われる。しかし，西洋音楽以外によくある微小音程については，これらは不適当であるので，エリスによるセント算法が使われる。

おんていいん【温庭筠】 生没年不詳。中国，唐代(9世紀ごろ)の詩人。役人としては不遇で，また紅燈のちまたに出入りし，行ないがよくなかったといわれるが，はなやかな詩を書き，李商隠(りしょういん)らと並び称せられた。特に〈詞〉という形式の叙情詩をはじめて生み出したことは大きく後世に影響を及ぼしている。

おんてん【温点】 点状の熱源を用いて皮膚面を調べていくと，暖かさのみを感じて冷たさを感じないところがある。これを温点という。これはいわゆる点ではなくてかなり広い面積をもち，不規則な形をしている。全身に同じ密度で一様に分布しているのではなく，まったくない部分もあり，皮膚1cm²に3個ぐらい存在する部分もある。

➔温度覚

おんでん【隠田】 存在を隠して年貢(ねんぐ)を納めず，作り取りにする田地。班田収授制において，廃戸の田を隠したり，死亡を隠して公に還付しないのもこれに類似している。中世，荘園(しょうえん)では領主がしばしば検注を行ない，隠田の摘発に努めた。大閤(たいこう)検地でも隠田の発見に努めたが，江戸時代には新田開発の盛行とともに増加し，幕府のきびしい取り締まりにもかかわらず，地租改正まで残存した。

おんでんびゃくしょうむら【隠田百姓村】 室町時代から江戸時代にかけて，敗戦の武士が一族郎党を引き連れ，人目から隔絶された山間・海辺などの地に新しく開墾してつくった集落をいう。防御を考慮して，箕輪(みのわ)などとよばれる川の蛇行(だこう)した袂部(けつぶ)や要害の場所につくられている場合が多い。全国的に分布するが，特に関東山地の集落にはこのようにして成立したものが少なくない。新潟県岩船郡の三面(みおもて)，富山県東礪波(ひがしとなみ)郡の五箇山，奈良県吉野(よしの)郡の十津川(とつかわ)，徳島県三好(みよし)郡の祖谷(いや)，熊本県八代(やつしろ)郡の五家荘(ごかのしょう)などはこの村落の例として有名。〔佐藤甚次郎〕

おんど【温度】 物体の温冷の程度を数量的に表わしたもの。元来，物体の温冷の

概念はわれわれの皮膚感覚から生まれたものであるが，こういう感覚に基づいては，この度合いを統一的に定めることもできないし，精密に表現することもできない。熱力学的には，温度は物体の熱平衡状態*を表わす変数として定義される。物体Ａと物体Ｂとが熱平衡であり，物体Ｂと物体Ｃとが同じく熱平衡であれば，物体Ａと物体Ｃとも熱平衡であることが実験事実として知られている（この場合Ｂは温度計の役割をしている）。このようにして，熱平衡状態は各物体系に対して一義的に決まる。この状態を指定する変数が温度である。上記の場合，物体Ａ，Ｂ，Ｃの温度はすべて等しい。物体の状態は温度によって変化するので，一定の条件下にある標準物質が特定の状態を示すときの温度を基準として定め（温度定点），目盛りを適当につければ，数量的に，あらゆる物質のあらゆる状態の温度を統一的に決められる。一般に温度定点と温度目盛りの決め方の差異によって，摂氏・華氏・絶対温度の温度目盛りが使用されている。

①摂氏温度目盛り：１気圧のもとで，とけつつある純粋な氷の温度（融点）を０度とし，同じく１気圧のもとで純粋な水が沸騰しつつある水面近くの水蒸気の温度（沸点）を100度とし，それらを温度定点とする。この２定点の間を100等分したものを単位目盛りとする。これはスウェーデンの天文学者セルシウスによって1742年に提唱され，これによる温度表示には〈℃〉という記号を用いる。さらに広い部分の目盛りも正確にするために，高温と低温の部分でも，１気圧のもとでの，酸素・イオウの沸点，金・銀の融点を温度定点としてつけ加えたものが，国際温度目盛りとして1948年に協定された。またのちに，より正確な再現性を有する水の三重点*を0.01℃とした。

②華氏温度目盛り：ドイツの物理学者ファーレンハイト*は，1724年に当時得られた最低の温度，すなわち水と氷と塩化アンモニウムの混合物の温度を０度，氷の融点を32度，健康な人の体温を96度と定めた。これによる温度表示には〈°F〉という記号を用いる。同じ温度の摂氏目盛りの数値を C，華氏温度目盛りの数値を F とすると，両者の間に，次の関係式がなりたつ。

$$F=\frac{9}{5}C+32$$

③絶対温度　➔ケルビン温度

〔中野藤生〕

おんど　【音頭】　日本音楽の演奏慣習に関する用語，音頭（おんどう）に由来し，民謡の一形式をさす。雅楽では，人声あるいは各楽器のリーダー，また先唱（奏）者を音頭といい，それ以外のものを助音・助管というが，音頭のみがまず最初のフレーズを演奏し，付所という箇所からはじめて助音・助管が加わって合唱・合奏が始まる。これが転じて日本民謡などでは，ひとりがリードして他がはやす形式，あるいは独唱と合唱とが対比的に掛け合う形式を音頭といい，またその指導的独唱者も同じ名でよばれる。木遣（きやり）歌*や盆踊り歌*の多くはこの形式をとっている。音頭の有名な曲に，《真室川音頭》《秩父（ちちぶ）音頭》《河内（かわち）音頭》などがある。なお，最近ではこれらの形式をとらなくても，新しい民謡ふうの歌に地名を冠して音頭と名づけることが多い。

〔山口　修〕



音戸瀬戸　左側が倉橋島の音戸町で，音戸大橋によって右側の呉市警固屋と結ばれる。右側の遠景は呉市の重工業地区で，大工場が立ち並ぶ

おんどかく　【温度覚】　物理的には熱エネルギーの多少によってひき起こされる身体感覚の一。温覚と冷覚の二つに大別される。それぞれ身体表面に作用する外界の暖かさ・冷たさを知覚し（外界感受），あるいは自体の暖かさ・暑さ・冷え・寒さを感じ（内界感受），これにより反射的・本能的・人為的に体温調節を行なっている。温度覚は変温動物・恒温動物を通じて広く動物界一般に存在する感覚である。この感覚は，温度受容器で受け取られ，神経を介して温度覚の中枢の知覚領（中心後回）に到達する。表面感覚あるいは皮膚感覚の一つとして，皮膚のものが主であるが，呼吸器その他の粘膜・結膜・角膜にも存在し，最近では，視床下部の前の方にも，温および冷に感ずる受容器，または細胞があるといわれる。しかし，身体内部は温冷を感じない。はなはだしい高温や低温刺激の深部にしみ通る感覚は，痛みの感覚である。

〔平野修助〕

おんどけい　【温度計】　物体の温度をはかる測定器。使用される物質の種々の性質が，温度の変化にしたがって変わることを利用する。物質の温度変化を種類によって大別すると，①温度変化による物質の体積変化を利用するもの，②物質の電気的性質が，温度の変化に伴って変わることを利用するもの，③高温の物質が発する光や熱放射を利用するもの，の３種になる。①には，ガラスの毛管の下部を円筒状にふくらませて，水銀やアルコールなどの液体を封入し，ガラス容器と液体との膨張の差が温度に比例することを利用した液体温度計，一定圧力下の気体の温度による体積変化を利用した定圧気体温度計，逆に一定体積の容器に封じ込めた気体の圧力の温度変化を利用した定積気体温度計，固体の熱膨張を利用した固体温度計がある。液体温度計にはさらに，寒暖計・体温計，ある時間内の最高・最低の温度，あるいはその両方を記録する最高温度計・最低温度計・最高最低温度計がある。②には，物質の電気抵抗が温度変化によって変わることを利用した抵抗温度計，２種の金属をループ状につなぎ，二つの接点を異なる温度にしたとき，ループにその温度差に基づいた起電力が発生することを利用した熱電対温度計がある（➔熱電気効果）。③には，高温の物質から発生する熱放射を利用した放射高温の物質あるいは高温の物質が，温度によりいろいろな波長の光を発することを利用し，この波長分布から温度をはかる光高温計がある。

〔中野藤生〕

おんどそくしん　【温度測深】　⇨測深法

おんどのせと　【音戸瀬戸】　広島県倉橋島北部の安芸（あき）郡音戸町と本土側の呉（くれ）市警固屋（けごや）間の狭い水道で，広島湾の支湾呉湾と安芸灘（あきなだ）とを結ぶ。長さ約650m，航路幅90ｍ，南口は狭く60ｍ，船舶の交通がひんぱんで〈瀬戸内銀座〉とよばれる。平清盛により開削されたと伝えられ，南口西側に石がきで囲まれた築島（高さ2.7ｍ）に清盛塚（きよもりづか）がある。南口のすぐ内側に，珍しいらせん形やループ式の取り付け道路をもつアーチ形の音戸大橋がかけられ，付近は音戸瀬戸公園として観光地化された。音戸大橋は1961年（昭和36）12月４日開通，長さ116ｍ，幅5.5ｍ，海面上23.5ｍ，道路部690ｍの日本道路公団の有料道路である。

〔山口恵一郎〕

おんどふう　【温度風】　風が上層にいくにつれて，どのように変化するか，その変化の度合いを表わすのが温度風である。その方向は，北半球では低温域を左方に見る方向であり，その強さは気温の水平傾度に比例する。厳密には，地衡風*について成立する理論的関係であるが，実際の大気中では，地衡風が卓越しているので，実際の風が上層にいくにつれて変化する割合を温度風で説明できることが多い。

おんどほうしゃ　【温度放射】　⇨熱放射

おんながた　【女方】　歌舞伎（かぶき）・新派などで，女性に扮（ふん）する男優のこと。女形とも書き，〈おやま〉ともよぶ。日本の演

劇には能・狂言にも男が女に扮する伝統があるが，特に歌舞伎では，1629年(寛永6)女歌舞伎が禁止されて以後，女の役を専門とする俳優〈女方〉が生まれ，以後技法が洗練されて今日に至った。西欧演劇でも17世紀ごろまでは女方を使っていたが，現在はほとんど絶え，東洋では中国古典劇(京劇)に残っている。〔松井俊諭〕

おんなけいず【婦系図】1907年(明治40)発表の泉鏡花の中編小説。少年すりから身を起こして，青年学者になった早瀬主税(ちから)を中心に，師に許されぬ芸妓(げいぎ)お蔦(つた)との悲恋，政略結婚の弾劾を描く。しばしば新派劇で上演されて有名。作者鏡花が師の尾崎紅葉の反対を押しきって芸妓桃太郎と恋愛し同棲(どうせい)したいきさつを反映しているという。

おんなけんげき【女剣劇】大衆演劇の一種で，女性が行なう剣劇のこと。男装して剣をふるう女役者にはエロチックな興味をそそるものがあり，昭和の初期に浅草の公園劇場での不二洋子の人気が女剣劇を発展させた。初代大江美智子(みちこ)をはじめ，浅香光代(みつよ)・林千代らの活躍が目だった。しかしやくざを主役とする作品に限られ，また，観客の変態的興味に焦点を置いたため，第2次世界大戦後，いったんは復興したものの大きな発展は望めず，一座の興亡は激しい。〔西尾邦夫〕

おんなごろしあぶらのじごく【女殺油地獄】義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。3段の世話物で近松門左衛門(もんざえもん)作。1721年(享保6)竹本座初演。実際に起こった事件を脚色したもので，不良青年の河内屋与兵衛(かわちやよへえ)が遊蕩(ゆうとう)の金に窮し，町内の油屋の女房お吉を殺害し，その法事の日に立ち寄ってつかまるという筋。殺しの場で油を使っての演出が効果をあげている。

おんなししょ【女四書】中国，清(しん)の王相の編書。内容は女子特に嫁のための教訓であって，後漢の曹昭(そうしょう)の《女誡(じょかい)》，漢の曹大家の《女論語》，明(みん)の孝仁文皇后の《内訓》，そして《女範》などの書が収められている。日本でも嘉永(かえい)年間(1848～1853)に加賀藩で翻刻され，大正年間(1912～1925)にも刊行されて，女子教育の教本となった。➜次項

おんなだいがく【女大学】江戸後期に流布した女子のための修養・教訓書。貝原益軒の《和俗童子訓》巻5〈女子を教ゆるの法〉を平易かつ実用的に編集しなおしたもの。益軒の妻東軒の著とする説もあるが編者未詳。19条からなり〈一度嫁しては両夫に見(まみ)えざる覚悟〉など封建時代の家族制度の中における女子の服従の道徳を説く。明治以降，これを批判した福沢諭吉の《新女大学》なども出た。

おんなのいっしょう【女の一生】モーパッサンの長編小説。1883年の作。幸福で夢想的な少女時代を送ったジャンヌは，ラマール子爵と結婚するが，結婚初夜にして幻滅を味わい，やがて子爵は次々と女をつくって，そのあげく殺される。ジャンヌはむすこポールに夢を託すが，彼も身を持ちくずし，彼女は絶望のうちに孫に最後の夢を託す。ジャンヌの不幸な一生が冷静・的確な観察のもとに描かれ，人生の哀感と詩情が写し出されている。〔小松英輔〕



婦系図　新派の舞台(水谷八重子と伊志井寛)



御柱祭

おんなのへいわ【女の平和】古代ギリシアの喜劇詩人アリストパネス作の喜劇。BC411年上演。いつ終わるとも知れぬペロポネソス戦争にうんざりしたアテナイの婦人が，若くて美しいリュシストラテのおんどとりで敵方スパルタの婦人たちと力を合わせ，男たちを性的にボイコットする。男たちもやむをえず休戦協定を結ぶ。奇想天外な仮定を最もこっけいな方法で描いた平和論といえる。別名《リュシストラテ》。

おんねとう【温根沼】北海道東部，根室半島の頸部(けいぶ)，根室湾岸の潟湖(せきこ)。周囲15km。面積4.9km²。水辺にはハマナス・センダイハギの群落があり，マガン・カモ・オオハクチョウの飛来がある。野付風蓮(のつけふうれん)道立自然公園に所属している。

おんぱ【音波】⇨音

おんばしらまつり【御柱祭】長野県諏訪(すわ)市中洲(なかす)の諏訪神社上社と諏訪郡下諏訪町の諏訪神社下社で，寅(とら)と申(さる)の年に行なわれる7年めごとの式年祭。神地の四すみの柱を建て替える祭事で，上社では3月の寅の日と申の日に，杣人(そまびと)が御小屋山にはいってモミの丸木8本を切って5丈5尺(約17m)の御柱とし，本宮と前宮にひいて建て替える。下社では正月17日に七五三(しめかけ)山の山中に注連縄(しめなわ)を張り，23日に8本の柱を切る。4月の寅の日と申の日に4本をまず春宮に建て，さらに7日後に4本を秋宮に建てるものである。御柱は，神を降臨させる招代(おきしろ)と考えられる。➜諏訪大社〔佐野文哉〕

おんびん【音便】発音の便宜のために，語中・語尾の音節が，原音とは違った音に発音されること。音便には，二つの場合がある。一つは用言の活用形の音が変わる場合，もう一つは用言に限らず広く一般の語の音が変わる場合である。いずれも，イ音便・ウ音便・撥音便(はつおんびん)・促音便の4種に分けられる。音便を音声面からみると，イ音便・ウ音便には，子音の脱落，音転化，音挿入(おんそうにゅう)の現象がみられる。例：咲きてsakite→咲いてsaite（子音の脱落)，かみべ(頭)kamibe→かうべkaube(子音の脱落，音転化)，しか(詩歌)sika→しいかsi-ika(音挿入)。また，撥音便・促音便には，母音の脱落，音転化，音挿入の現象がみられる。例：立ちてtatite→立ってtatte(母音の脱落)，飛びてtobite→飛んでtonde(母音の脱落，音転化)，ましろ(真白)masiro→まっしろmassiro(音挿入)。なお，原音が，濁音・マ行音などの場合は，それに続く音節も変化して濁音になるのが普通である。例：飛びて→飛んで。音便は，平安時代の初期ごろからみられるが，その発生の原因としては，漢語の影響によるという見方が有力である。はじめ，話しことばに現われ，しだいに書きことばに及んだが，原則として和歌には用いられなかった。平安時代には，音便の形と音便を起こさない原形とが併用されたが，室町時代の末ごろには音便のほうが主体となったようである。
【音便形】用言(一部助動詞も)の活用形が特定の語に続く際に音便現象を起こし，その結果生じた語形をとるとき，これをもとの活用形に対して音便形という。①サ行を除く五段活用(文語では四段活用)の動詞の連用形が〈て〉〈た〉(文語では〈て〉〈たり〉)などに続くときに音便形をとる。これはたとえば，カ・ガ行に活用する動詞はイ音便形をとる(書きて→書いて)，というように，活用する行によって，音便の種類がだいたい決まっている。なお，同じ語でも，方言によっては異なった音便形の用いられることがある。②形容詞・連用形が〈ございます・存じます〉に続くとき，ウ音便形をとる(ありがたく存じます→ありがとう存じます)。なお，文語形容詞の連用形は，随時ウ音便形をとるが，連体形も，体言・助詞〈かな〉に続くときはイ音便となることがある(悲しきかな→悲しいかな)。〔市川　孝〕

おんぷ【音符】音楽を視覚的に書き表



音　符　音符とそれに対応する休符



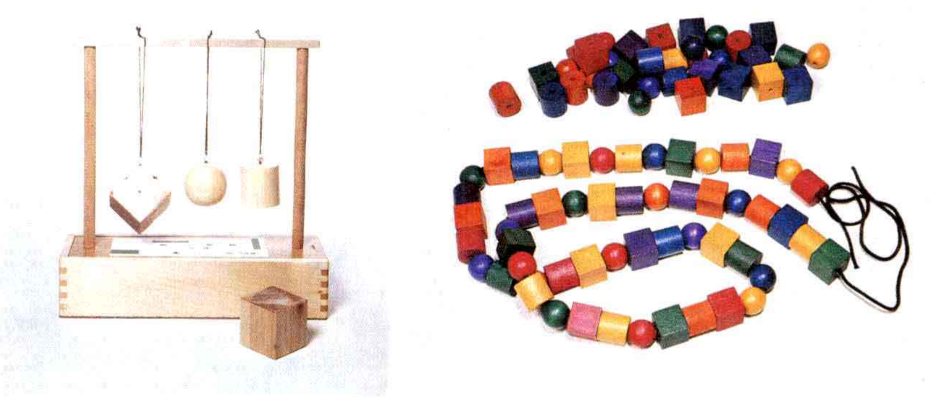
音部記号　各記号と1点ハ音の位置

わすときの記号で，最も広く使われているのは西洋の五線譜*に書かれる，いわゆる〈おたまじゃくし〉である。これは音の長さの割合と音高を示す。ほかにアルファベット・数字などの文字も音符として使われる。

おんぶきごう　【音部記号】　五線譜の左端にしるして音の高さを示す記号。今日ではト音・ハ音・ヘ音の位置を示すことによって他の音をわからせるものが使われており，これをト音記号・ハ音記号・ヘ音記号という。これらの記号は原理的には譜線のどこに置かれてもよく，ルネサンスまではその位置による種類が多かったが，今日では主として図のものが使われる。

おんぶつ　【恩物】　幼稚園児の遊戯・作業に使う教育用具で，フレーベル*の創案になる。ドイツ語のガーベの訳で，神から子どもに賜わった物の意。10個の恩物(まり・三体・積み木第1・積み木第2・積み木第3・積み木第4・板・はし・環・粒体)と，10種の作業(紙刺し・縫い取り・書き方・紙切り・紙織り・板組み・紙組み・紙たたみ・豆細工・粘土細工)からなっている。これは，幼児の諸能力を発達段階に応じて発展させるように，静止した統一体(まり)からしだいに多様な物へ，しかもそれらが相互に関連を形造るように，また遊戯から作業へと発展するように組織・考案されている。

〔山崎昌甫〕



恩　物　(左)三体(木製の立方体・球・円柱)　(右)六色三体(準恩物，木製の立方体・円柱・球を赤・だいだい・黄・緑・青・紫の6色に分けたもの。大・小がある)

オンマヤちょう　【オンマヤ朝】　⇨ウマイヤ朝

おんみつ　【隠密】　隠し目付・忍び目付・庭番などともいう。戦国から江戸時代にかけて探偵(たんてい)の役に従事した地位の低い武士。南北朝時代から同種のものが存在する。戦国時代に主命で地方に潜行して，その形勢を報告。江戸幕府では庭番を常職とする伊賀者*(いがもの)・甲賀者*などが，将軍・老中・若年寄・大目付の命令で随時諸大名の領国に潜行し，その状況を偵察・報告した。諸大名も隠密を使用した。彼らは変装して人に覚えられないように努めたといわれる。　〔松尾　涼〕

おんみょうどう　【陰陽道】　古代中国の陰陽説*・五行説*に基づく俗信。〈おんようどう〉〈いんようどう〉ともいう。6世紀ごろ，天文・暦術とともにわが国に輸入された。のち大宝令によって陰陽寮(おんみょうのつかさ)が設けられて国家的行事にあずかる一方，民間にも受け入れられた。10世紀以後，平安貴族が無気力化するとともに，その呪術(じゅじゅつ)的側面が強調されて，儀式，日時や方角のト定(ぼくじょう)による忌日・物忌(ものいみ)・方違(かたたがえ)など日常生活の細部にわたって強く拘束するようになった。当時改元*が一種の縁起直しの意味でひんぱんに行なわれるようになったのも陰陽道の影響によるところが大きい。陰陽道の流行に伴って陰陽家の活躍も盛んとなり，安倍(あべ)・賀茂両家は重きをなした。中世以降は公的には衰えたが，民俗・祭祀(さいし)面にはさらに浸透し，今日でも婚礼・葬式の日の吉凶判断(大安・友引など)，家屋の移転・新築の際の方角と日取り，生年と干支(えと)との関係についてなど，民衆の俗信として根づいている。

〔菊池礼子〕

おんめい　【音名】　西洋音楽で，一定の高さの音につけられるその音固有の名で，絶対的な音高を表わす。西洋では一般にアルファベット(a～g〔h〕)およびそれに♯(シャープ)や♭(フラット)をつけてよび，ふつうaを振動数440としている。日本ではアルファベットをイロハ～トに変えてよぶ。なお，東洋音楽・日本音楽ではそれぞれの音名をもっている。➔階名

おんもん　【諺文】　⇨ハングル

オンライン　[on-line]　入出力機器から無線または有線によってデータが伝送され，情報処理装置にそのまま送り込まれて処理される方式。したがって，処理されるまでの時間が速い長所をもっている。この方式はリアルタイムともよばれる。現在，航空機および列車の座席予約業務，あるいは銀行の預金業務などにこの方式を採用している。これに対してオフライン方式は，伝送されたデータを一度紙テープ・カードまたは磁気テープなどに記憶させ，適当な時間に処理をする方法である。この方式はディレード-システムともよばれており，データ伝達システムが情報処理装置と電気的に切り離されている。現在では，オフライン方式が多いが，しだいにオンライン方式に置き換わるものと思われる。

〔内山明彦〕

おんりょうけんにちろく　【蔭凉軒日録】〈いんりょうけんにちろく〉とも読む。室町時代，禅宗寺院を管理する僧録司*(そうろくし)がしるした公用日記。1435～1493年(永享7～明応2)の間，季瓊真蘂(きけいしんずい)・亀泉集証(きせんしゅうしょう)によって執筆された。記録は政治・経済・文化の各方面にわたっているので，禅家のみならず幕府関係の史料としても重要である。原本は関東大震災で焼失。《大日本仏教全書》に収録されている。

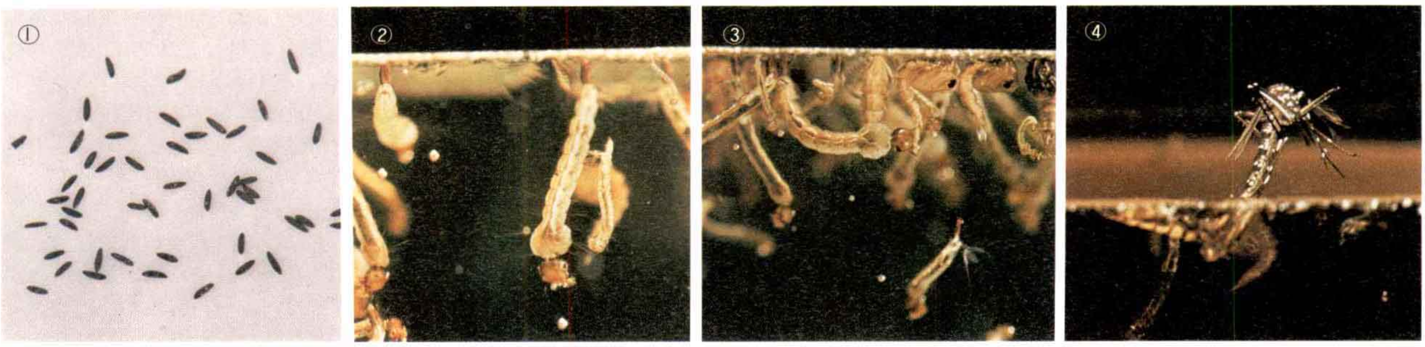
か

か【蚊】 こん虫類・双翅(そうし)目・カ科の総称。近縁のホソカ科とケヨソイカ科を，それぞれ亜科としてカ科に含めて扱う学者や，ホソカ科のみを独立の科と認め，カ科にカ亜科とケヨソイカ亜科を認める学者もあるが，現在では，これら３群をそれぞれ独立の科と認める学者が多いようである。しかし，これは専門的な分類学上の問題で，一般にカという場合には，狭義にはカ科のみを，また広義にはこれら３科を含めたものをさすといってよい。カ科はナミカ亜科・ナガハシカ亜科・チビカ亜科・オオカ亜科・ハマダラカ亜科の５亜科に分けられ，全世界から約100属，1,300種類以上が発見されている。

全身が毛や鱗毛(りんもう)によっておおわれる。体色はかっ色・黄かっ色・灰色・黒色など変化に富み，しばしば白色や淡色の斑紋(はんもん)をもち，また金属光沢をもつ種類もある。頭部は小さく，長い口吻(こうふん)をもつ。触角は14～15節からなり，細長く糸状で長毛を密生し，雄では羽毛状。脚も細長く繊細である。カは卵→幼虫→さなぎ→成虫と変態し，１世代の長さはアカイエカで20～30日である。卵はきわめて小さく，一般に細長い円筒状か紡錘状で，表面は平滑のもの，網目状のもの，とげをもつものなどがあり，ある種では浮器とよばれる特殊な付属物をもっている。水面に卵塊として産下される種類が多いが，地上に産下されるものもある。幼虫はボウフラとよばれ，水棲(すいせい)の自由生活者で，水中の微小な藻類(そうるい)やプランクトンなどを食物とする。幼虫時代をずっと水中で過ごすもの，一時的に水中生活をするもの，また淡水を好むものや塩水を好むものなど，種類によって異なる。さらに，同じ淡水でも，流水を好むもの，たまり水を好むもの，ひなたを好むもの，日陰を好むもの，河川を好むもの，湖水や池沼を好むもの，雨おけや養魚場などの人工的な場所や木のほら穴に見いだされるものなど生活環境は広く，種類によって異なっている。

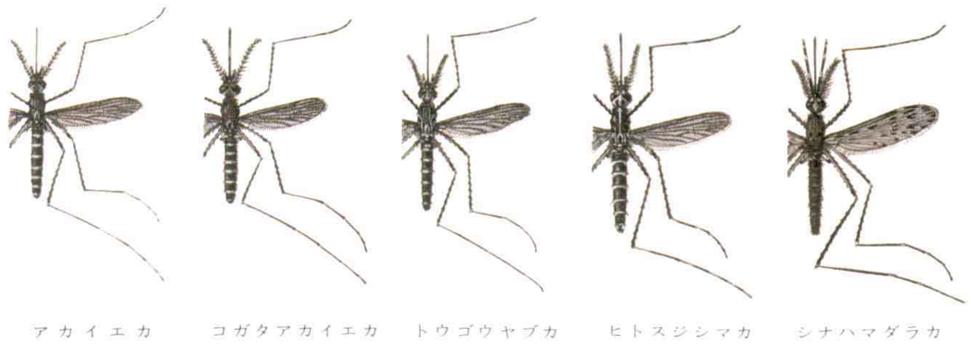
カ科の幼虫はふつう頭部を垂直に下方に向け，水表に直角またはある角度に体を保って尾端を水表面につけて静止するが，ハマダラカ亜科の幼虫では水表面に水平に静止する。またある種類の幼虫は，水草の茎に呼吸管を刺し込んで，植物体から呼吸する。幼虫はふつう４回の脱皮後，さなぎとなる。カのさなぎは刺激に対して敏感に反応し，活発に遊泳する。１世代の経過時間は種類によって異なるが，２～３週間で成虫になるものが多い。

ケヨソイカ科とホソカ科のものはすべて非吸血性であるが，カ科のものはオオカ亜科を除いてはすべて雌が吸血性であるため，種々の疾病(しっぺい)の病原菌の媒介者あるいは寄生虫の中間寄主として，人畜と重要な関係をもつ衛生害虫が少なくない。人類と特に密接な関係をもつものは，ナミカ亜科のクレックス属(イエカ類)とアエデス属(ヤブカ類)およびハマダラカ亜科のアノフェレス属のものである。これらの雄は生涯(しょうがい)吸血せず，雌は吸血しなければ卵が成熟しない。多くの種類は温血動物を襲うが，カエルや



カ

カの発生
①卵
②幼虫(ボウフラ)
③さなぎ(オニボウフラ)
④羽化



アカイエカ　コガタアカイエカ　トウゴウヤブカ　ヒトスジシマカ　シナハマダラカ

イモリなどから吸血する種類もある。吸血された血液は胃で消化吸収される。シナハマダラカをはじめとしてハマダラカ類の多くは人類のマラリア*を，ネッタイシマカは黄熱*やデング熱*を，ヒトスジシマカはデング熱を，アカイエカやコガタアカイエカは日本脳炎をそれぞれ媒介する。また，フィラリア病(住血糸状虫病)の中間寄主としてアカイエカ・シナハマダラカなど多くの種類がある。

カの駆除には発生する水域に殺虫剤をまく。乳剤の希釈液を７～10日に１回定期的に散布するのが普通であるが，粒剤やフローテング粉剤のように，長期間有効な製剤を用いることもある。成虫の駆除には，家屋内の壁にＤＤＴ水和剤の希釈液をまいて，マラリアを防ぐ方法が，台湾をはじめ世界各地で実施され，大きな効果を収めた。少数のカを手軽に駆除するには，エーロゾル式殺虫剤が用いられる。蚊取り線香も有効である。また，煙の出ない電気蚊取り器が最近普及している。夜間に屋外で作業や行動する場合には，忌避剤*をはだに塗るとよい。〔鈴木猛・鈴木邦雄〕

か【科】 生物を分類するのに用いる一つの段階で，属または連(族)の上に位置し，目の下にあたる。全生物を通しての共通な分類段階ではないが，だいたいはその類縁関係を推定しうる属の集まりとして構成される。科のラテン語名は，その科に属する代表的な属名の語幹に，動物の場合は-idae(イヌ科Canidae)，植物の場合は-aceae(カエデ科Aceraceae)をつけて示すが，例外的に-aeをつけて示すもの(キク科Compsitae，シソ科Labiatae)もある。➔分類学

か【戈】 中国古代の青銅兵器の一種。殷(いん)代の戈は剣状のものに直角に柄をつけたもの。戦車に乗った兵が楯(たて)とともに持ち，打擲(ちょうちゃく)あるいはひっかけて敵を倒す。西周から戦国時代にかけては戈の下刃が柄に沿って延びた形になる。秦(しん)・漢には鉄製も現われるが，戦車戦の衰退に伴って儀仗(ぎじょう)化したものが多い。

か【夏】

1 中国古代の伝説上の最初の王朝。殷(いん)・周とともに３代とよばれる。始祖は禹(う)。彼は舜(しゅん)の治世のときに司空に登用され，九州を設置し，洪水(こうずい)を治めた。この功績によって舜から位を譲られて夏王朝を開き，その子孫たちが帝位を世襲していったとされる。17代の桀(けつ)は酒色におぼれて政治を顧みず，殷の湯王に滅ぼされた。現在の山西省夏県禹王城，河南省登封県告成鎮などがその遺跡とされているが，考古学的には実証されていない。

2 五胡十六国*中の一(407～431)。建国者は匈奴(きょうど)族の赫連勃勃(かくれんぼつぼつ)。彼は後秦(こうしん)王朝の保護下に自立して統万城(陝西(せんせい)省横山県)に都し，417年に劉裕(りゅうゆう)が後秦を滅ぼすと，南下して関中を支配した。その死後，北魏(ほくぎ)に圧迫されて西にのがれたが，結局，吐谷渾(とよくこん)によって滅ぼされた。

3 (宋初(そうしょ)) ➔西夏

4 隋(ずい)末の群雄のひとり竇建徳(とうけんとく)が河北省楽寿県によって建てた国(617～621)。唐の李世民(りせいみん)に滅ぼされた。

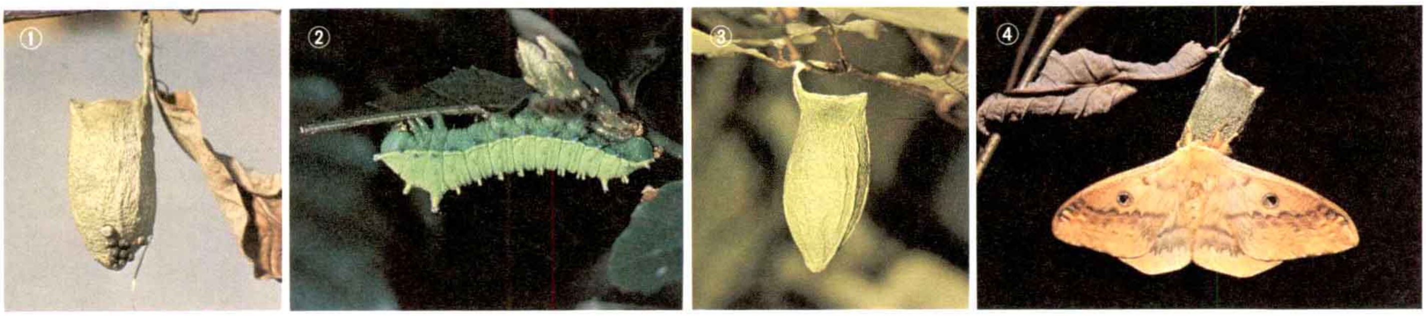
5 (元末) ➔大夏国

が【蛾】 鱗翅(りんし)目に属する一群のこん虫の総称。鱗翅目は，ふつうチョウとガに大別されるが，分類学的には両者は対等の呼称ではない。鱗翅目は同脈亜目と異脈亜目の２群に分類される。同脈亜目は前翅と後翅の翅脈が等しく，両翅が前翅の後縁基部にある翅(はね)の小片である翅垂によって結合する群で，これにはコバネガ上科とコウモリガ上科の２群のみが含まれる。異脈亜目は，前翅と後翅の翅脈が異なり，両翅が後翅の前縁基部にある翅刺によって結合する群で，これがチョウ群とガ群とに二大別されるのである。ガ群は約20の上科と約170の科に分類される。全世界に80,000種以上が分布しており，現在でも年々未知の種が報告されつつあり，日本からも約5,000種が知られている。チョウとガの一般的な区別は，次のとおりである。チョウでは，触角の先端部が膨大して棍棒(こんぼう)状を呈し，くし歯などの突起を欠き，後翅は翅刺を欠き，亜前縁脈は基部で前方に向かって弓形となり，静止時には翅を立てるものが多く(ただしタテハチョウ科のミスジチョウ類やセセリチョウ科のものなどには静止時に翅を広げる習性がある)，昼間活動性のものが多い。これに対しガでは，触角の先端部が膨大しているものはスズメガ科のものに限られ，大部分のものは種々の形状の突起をもつものが多く，後翅には翅刺があり(ただし，カレハガ科のものにはない)，亜前縁脈の湾曲は弱く，静止時には翅が屋根形か水平に保たれるものが多く，夜間活動性のものが多い(ただし，イカリモンガ科のもののように昼間活動性で，種々の花を訪れ，しかも，翅を立てて止まるものもある。

すべてが卵→幼虫→さなぎ→成虫という完全変態を行ない，各態の形態・色彩・生活環境・生活様式・習性などはきわめて変化に富んでいる。成虫は全体が鱗粉や毛でおおわれている。大きさは，翅を広げた長さが最小５㎜内外の小形種から200㎜を越えるような大形種まである。触角は種々の形状のものがあるが，雄のほうが雌よりも複雑な構造をもつ種類が多い。口器は原始的なコバネガ科を除いてすべて吻状(ふんじょう)で，口吻とよばれ，吸収に適し，平常は時計のゼンマイのように巻かれており，ときにこれが２次的に退化している種類がある。口吻は，左右の小腮(しょうさい)が長く延びて合一して管状となったものであり，マダガスカル島に分布するスズメガ科には，その長さが50cmに達する種類が知られている。コバネガ科では花粉を食べることのできる咀嚼口(そしゃくこう)をもっている。翅はふつうよく発達しているが，ミノガ科やシャクガ科のフユシャク類，ドクガ科などの雌には，翅が痕跡(こんせき)的になったものやまったく退化してしまっているものがある。翅には多数の翅脈があり，分類上の重要な特徴となる。また，翅の模様は種によって特徴的なものが多く，分類上の重要な指標となるが，雌雄で異なるものもある。翅の模様や色彩のもつ意義は，配偶行動や擬態などの現象とも関係して複雑多様であると考えられ，他のこん虫類におけると同様未知の点が多い。カレハガ科のものやヤガ科のアケビコノハやキノカワガなどは，しばしば擬態の好例としてあげられる。また，イギリスをはじめヨーロッパ各地の工業地帯で今世紀にはいってから出現した工業暗化型のガは，集団の遺伝的構成の変化が比較的短期間に起こったいわゆる小進化の好例として有名である。後翅の前縁基部にある翅刺は，刺状の突起で，前翅の裏面基部近くにある保帯と翅の膜面との間にこれが差し込まれて，前・後翅の運動が連結されるのである。

卵は，その形状・色彩などが変化に富むが，一般にかたい殻(から)におおわれ，その表面には種々の彫刻模様がある。球形・楕円(だえん)形・円筒形・弾丸形・とっくり形・扁平(へんぺい)など種々の形態のものがあるが，ウメエダシャク(シャクガ科)のように四角形の卵を産む種類もある。産卵される場所も，食草や食樹の葉の表・裏，樹皮の裂け目，果実の表面などさまざまであり，１個ずつばらばらに産みつけられるものから卵塊として産みつけられるものまであり，さらに卵塊の形状も，平面的に１層に産みつけられるもの，列をなすもの，ホシシャク類(シャクガ科)のように幼虫時代に張った糸に産みつけるもの，オビカレハ(カレハガ科)のように小枝を指輪状に取り巻くように産みつけるものなどさまざまである。幼虫は咀嚼型の口器をもち，頭部と３個の胸部環節，９個の腹部環節からなり，３対の胸脚のほかに，腹部の皮膚が突出して肉質の塊となって脚の働きをする２～４対の腹脚をもち(まれに無脚のものもある)，俗にケムシ・アオムシ・イモムシなどとよばれている。

大部分の種類は，生きた植物の葉・茎・幹などを食するため，農林業上の害虫として人類と密接な関係をもつ種類も多い。中でも，イネにつくメイチュウ類(ニカメイガやサンカメイガ)，蔬菜(そさい)類につくヨトウムシ類(ヤガ類)，マツにつくマツケムシ(カレハガ科)などは，特に大害を与えるものとして有名である。また，米や麦などの貯穀類を食害するコクガ(ヒロズコガ科)やバクガ(キバガ科)，毛織物や毛皮などを食害す



ウスタビガの一生　①繭に産みつけられた卵　②幼虫　③ヤマカマスとよばれる繭　④繭に産卵する成虫

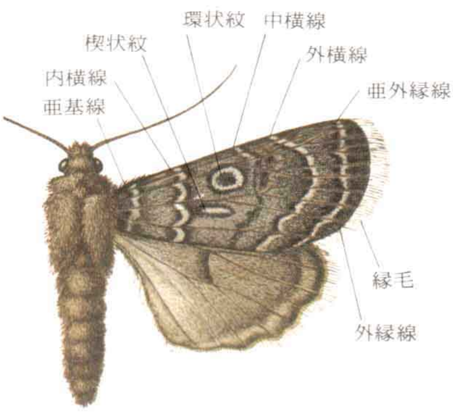


㋑ケムシとよばれるスジモンヒトリの幼虫　㋺枝と似るワモンキシタバの幼虫　㋩尻剣のあるオオスカシバの幼虫　㋥シャクトリムシとよばれるウメエダシャクの幼虫　㋭刺激を受ける頭と尾端を上げてしゃちほこのような形となるシャチホコガの幼虫

るイガ・ジュウタンガ(ヒロズコガ科)なども重要な害虫である。しかし，カイコガのようにその幼虫のつくる繭から絹糸を生産したり，ヤママユガ科のクスサンなどのように幼虫の絹糸腺(けんしせん)からてぐす類似品がとれる益虫もある。また，特殊な食性を示すものも数多く知られている。セミ類の成虫に寄生して体液を吸収して成長するセミヤドリガ(セミヤドリガ科)，ササやタケにつくアブラムシ類を捕食するベニトゲアシガ(マイコガ科)，ミツバチの巣を食害するハチミツガ(メイガ科)などは日本にも産し特に有名である。また，ヨーロッパに産するヒロズコガ科にはアリの巣中で生活する種類があり，オーストラリアに産するヤガ科にはカイガラムシ類を捕食する種類があり，最も特殊な種類として南アメリカに産するブラディポディコラ属のように哺乳(ほにゅう)類のナマケモノに外部寄生する種類も知られている。

幼虫の中には，ドクガ類やイラガ類のように毒毛や刺毛をもつものがあり，これに触れると皮膚に種々の炎症を起こす。また，アメリカシロヒトリ(ヒトリガ科)やドクガのように，若齢のころに，糸を吐いてクモの巣状の巣を張り，集団で生活するものも少なくない。シャクガ科の幼虫はシャクトリムシとよばれ，擬態の好例としてしばしばあげられる。幼虫は，数回脱皮をくり返したのちさなぎとなるが，その間に形態や色彩もしだいに変化する。特に，第1齢幼虫から第2齢幼虫になるとき，および最終齢幼虫になるときの変化が著しい。また，越冬後に形態や色彩が極端に変化する種類もある。幼虫の体にはふつう多くの刺毛がはえているが，その配列の様式は群によってほぼ一定しているため，分類上の重要な特徴として用いられる。さなぎは，裸蛹(らよう)のもの，繭や土中に土室をつくってその中でさなぎになるものなどさまざまである。繭も，葉をつづってつくった簡単なものから，多数の繭が集まって一つの大きな繭となったもの，表面に草・小枝・小石を付着させたもの，クスサンのように網目状のもの，ウスタビガ(ヤママユガ科)のように柄のあるもの，イラガ類のように鳥の卵のようにかたいものなどきわめて多くの種類がある。成虫は，頭部にある突起物で繭を破ったり，絹糸を溶解する液を分泌したりして繭を脱出する。

ガ



体制模式図

鱗翅目の起源は，現生こん虫類の中では比較的新しく，膜翅目(ハチやアリの類)や総翅目(アザミウマの類)とともに最後のこん虫に属する。現生のコバネガ科に似た小形の原始的なガは，約1億5,000万年前の中生代中期のジュラ紀には出現していたという説があるが確認はなく，化石の資料は，いずれもこの群が約6,000万年前の第三紀以後に急激に分化発展したものであることを示している。➔365ページ(写)　〔鈴木邦雄〕

かあん　【何晏】(190？～249)　中国，三国の魏(ぎ)の老荘思想家。字(あざな)は平叔(へいしゅく)。南陽郡宛(えん)県(湖北省)の人。《道徳論》や《論語集解(しっかい)》を著わして王弼*(おうひつ)とともに老荘学の基礎を確立，また清談の風潮を開くなどして魏晋(ぎしん)南北朝の学問思想に大きな影響を与えた。政治の面では，曹操*(そうそう)の娘婿にもあたり，権臣曹爽(そうそう)にくみして吏部尚書(りぶしょうしょ)に昇進したが，司馬懿(しばい)との政争に敗れて殺された。　〔安田二郎〕

があん　【雅安】　ヤーアン　中国，四川(しせん)省の都市。四川盆地の西部，成都の南西約120kmの位置にあり，揚子江の支流岷江(みんこう)に流入する青衣江上流に面している。付近は茶・米・トウモロコシ・大麦・小麦やスギ材・クス材・タケなどの産地で，その集散を行ない，特に茶はここから四川・チベットの各地に移出される。商業活動が活発であり，製紙・皮革などの工業も興っている。

かい　【櫂】　船をこぐのに用いる木製で水かき面をもつ棒。カヌーやカヤックなどのように人間が船の進行方向に向いてこいで進める柄の長い杓子(しゃくし)形のものをパドルといい，これが少し進歩して人間が船尾方向に向き柄の一部を船の舷(げん)に置き，てこの原理を応用してこぐものをオールという。和船のものは上端にT字形の柄があり，上記の2方式のほか船尾において水を切りながら船を前進させるこぎ方もできるようになっている。　〔飯島幸人〕

かい【貝】 石灰質からなる動物の外殻(がいかく)をさしてばく然と，貝殻(かいがら)ということがあり，また，貝殻をもつ種々の動物をひっくるめて貝とよぶこともある。普通は，軟体動物門の二枚貝綱と腹足綱・掘足綱に属し，体を十分におおう貝殻を1個(腹足綱・掘足綱)または2個(二枚貝綱)有する水生動物のことを，貝，または，貝類とよんでいる。サンゴの一種であるチョウジガイ，ヒドラの一種イガグリガイ，コケムシの一種アミガイ，触手動物のシャミセンガイ・ホオズキガイ・チョウチンガイ，フジツボに近いエボシガイ・ミョウガガイ，ヒトデの一種モミジガイなどは，貝の名をもってはいるが，普通の意味の貝とは縁遠いものである。なお，ナマコ・ウニ・イカ・タコ・エビ・カニなどに魚類・貝類を合わせ，有用水産物のすべてを魚介類と総称することもある。貝・貝類とも動物学上はっきり定義された用語ではない。ここでは，上記のような慣用に従い，人生との関係が特に深い二枚貝(二枚貝綱の貝)と巻き貝(腹足綱の貝)とを扱う。なお，それらの体制については軟体動物で扱うようにした(→軟体動物)。

〔貝殻の組成〕貝殻は外套(がいとう)の上皮組織から分泌され，次の3層からなる。

①角質層:体の最外側にある薄い層で，キチン質に似た有機物質コンキオリンからできており，水中の炭酸その他の酸から貝殻が腐食されるのを防いでいる。②稜柱(りょうちゅう)層:中層を占め，外套表面と直角をなす小柱状の炭酸石灰の結晶でできている。貝殻に現われる色彩は，主としてここに含まれる色素による。③真珠層:最も内側にあり，炭酸石灰でできている。外套に水平な薄層をなし，その名の示すように真珠と同質で，真珠様の構造色を表わすことがある。なお，角質層と稜柱層は外套の外縁だけでつくられるので，一度形成されると厚さを増すことはない。真珠層は外套の全表面で形成されるので，生きている間じゅうたえず厚さを増す。貝殻は体の成長につれて大きくなるが，その速度は季節によって違うので殻表に成長線が現われることが多い。

〔貝殻の形状〕巻き貝は，耳形(アワビ・トコブシ)，笠(かさ)形(アオガイ・ウノアシ)，紡錘形，円錐(えんすい)形，逆円錐形(イモガイ)，球形，卵形，管状(オオヘビガイ)，突起の著しいもの(サザエ・ホネガイ・ハリナガリンボウ)，すべすべしたもの(ツメタガイ・タカラガイ類)など形の変化が著しいが，その大部分が右巻きである。二枚貝にも，三角形(イガイなど)・球形・矩形(くけい)・筒状(マテガイ)・扇状(ホタテガイ)・不定形(カキ)など変化が多く，中にはクマサカガイのように殻表に異物をくっつけているものもある。巻き貝・二枚貝はともに色彩・斑紋(はんもん)の変化も著しく，種類数も多く(巻き貝50,000～10万種，二枚貝約25,000種といわれる)，標本にしやすく，また，保存や交換のための輸送なども簡単なため，チョウと並んで収集家・愛好家が多い。そのため，リュウグウオキナエビスやイモガイの珍種ウミノサカエなど珍しいものが，非常な高値をよぶこともある。貝殻の大小の違いも著しく，わずか2～3mmという微小種から，高さ60cmで世界最大の巻き貝とされるアラフラオオニシ，幅1.4m，重さ230kgという世界最大の二枚貝シャコまでいろいろである。

〔貝殻の用途〕貝類の肉はその多くが食用として重要であるが，貝殻にも各種の用途がある。イタリア名産の婦人装身具のカメオ*は，マンボウガイ・トウカムリ・ダイオウカムリの貝殻に彫刻を施したものであり，アワビ・クジャクアワビ・アカネアワビなどは螺鈿*(らでん)の材料となる。ヤコウガイ・タカセガイ・カラスガイ・シロチョウガイ・クロチョウガイなどは貝ボタンとして利用される。また，貝殻は化石として残りやすいため，古生物学・層位学に重要な貢献をしている。

〔貝殻標本の作り方〕海辺で拾った死殻は淡水で洗うだけでよいが，波にもまれてすり減っていることが多く，なかなかよい標本は得られない。生きた貝から殻を取るには，煮てから肉を取り除く。二枚貝は熱で殻が自然に開くので容易である。巻き貝はきり・ピンセットなどで肉をしっかりひっかけて，巻きもどしていくような心持ちでゆっくりと殻から引き出す。このとき，最後の肝臓の端まで完全に抜き出すことはかなりむずかしく，多少とも残ってしまうことが多い。そのような場合には，強く振ったりスポイトで水を強く吹き込んだりして残りかすを取り出す。取れない場合は，数日放置して腐らせる。このようにしてもなお取り除けないときは，殻の中にナフタリンを少し入れ，脱脂綿をしっかり詰めておく。数年を経れば，残りかすは粉状に変化して振り出して取り除くことができる。貝殻の表面には，石灰藻(せっかいそう)・ウズマキゴカイ・チゴケムシ・フジツボ・キクスズメなど雑多な付着生物がしっかりとついていることが多い。これらを取り除くには，歯科用のスケーラー(歯石*を取る道具で，医療器具商で入手できる)やブラシを用いるとよい。巻き貝のふたは，種類を見分けるのにたいせつであるから，貝殻といっしょに保存する。小さくて紛失しやすく，また他の貝殻のふたと混同しやすいので注意が必要である。貝殻は湿気と直射日光を避ければ，半永久的に保存できる。→367ページ(写)

かい【戒】 仏教の修行上の規範をいう。一般には戒律といわれるが，戒と律とは元来別のもので，律が他律的・強制的規範であるのに対して，戒は規則を守ろうとみずから誓う自発的・内面的な心の動きをいう。しかし両者あいまって修行が増進され，教団の秩序が維持されるところから，両者は一つに結合され，戒律として一般化された。原始仏教時代，在家の信者は五戒*のみであったが，出家教団では比丘(びく)の250戒，比丘尼の350戒というように，きわめて煩瑣(はんさ)な規定があった。小乗仏教*時代には，それがいっそう形式主義に堕し，規定条項である律が重視され，精神的な戒が軽んぜられた。そこで革新的な大乗仏教*が起こると，戒の自律的精神が高揚され，原始仏教時代の在家・出家共通の戒であった十善戒を大乗戒とする改革がなされた。しかし，大乗戒は自由闊達(かったつ)であるという長所をもつ反面，堕落の危険があり，小乗戒を重んずる南方仏教*からは批判されている。〔田中良昭〕

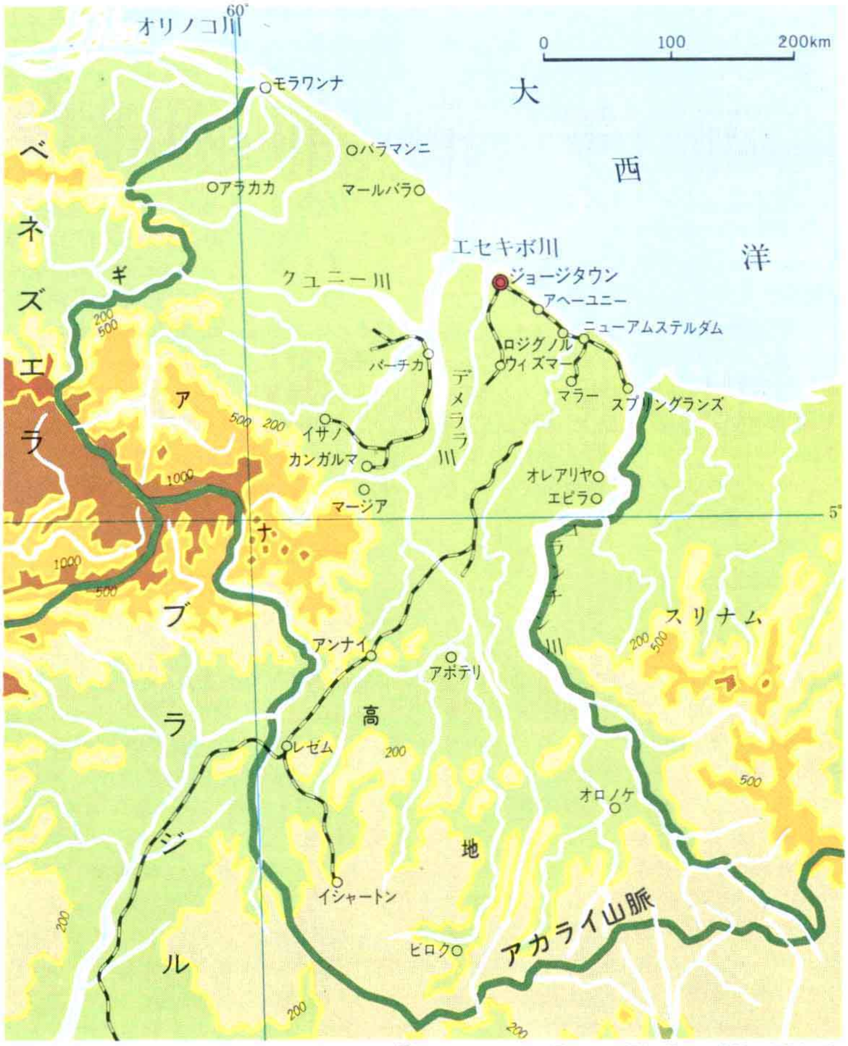
かい【界】

[1] 全生物を分類するときの最高の段階で，よく動物界と植物界に二大別される。しかし，古くから認知された高等な動物・植物以外に，多くの生物が発見され，最近ではこれらを含めて数個の界に分ける分類系が提唱されている。一例をあげると，1948年ロトマラーは無定生物界(ウィルス)・無核生物界(細菌・藍藻(らんそう)類)・原生生物界(単細胞生物・藻類・菌類)・有茎生物界(コケ・シダ・種子植物)・原腸胚(げんちょうはい)生物界(後生動物)の5群に大別している。

[2] 地質時代*の区分〈代〉に対応する地質系統の名称。たとえば，地質時代の古生代に対応する地質系統(地層全体)を古生界という。地質系統の最大区分単位である。

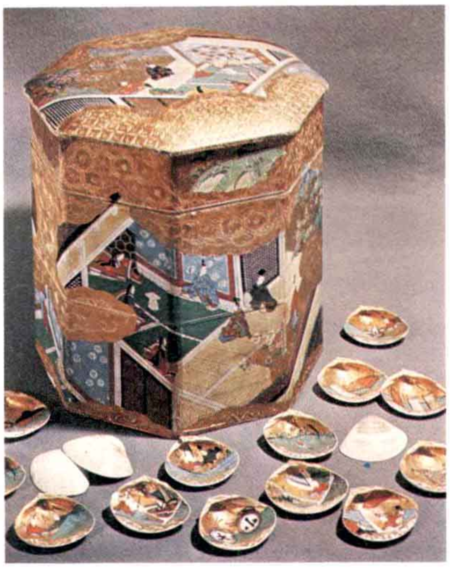
かい【解】 変数 x の変域が整数全体であるとき，方程式 $(x-1)(x+2)(2x-1)=0$ にあてはまる x の値は1または−2であり，不等式 $(x-1)(x+2)(2x-1)>0$ にあてはまる x の値は−1，0，2，3，4，‥‥である。このように，変域の定められた変数を含む方程式または不等式があるとき，それにあてはまる変数の値を解といい，その解の集合を解集合という。解・解集合は，区間や領域などで示される場合もある。→関数　→集合〔菊池兵一〕

かい【甲斐(国)】 山梨県の旧国名。甲州。東海道に属す。四方を山に囲まれた山の峡(かい)より名づけられたという。古く山梨・八代(やつしろ)・巨摩(こま)・都留(つる)の4郡であったが，今日では甲府・富士吉田(ふじよしだ)・大月などの7市と東山梨・東西八代・南中北巨摩・南北都留の8郡に分かれる。国府はいまの東八代郡石和(いさわ)町。国分寺は同郡一宮町。中世を通じて新羅三郎義光(しんらさぶろうよしみつ)の子孫武田(たけだ)氏*が当国守護であったが，江戸初期には親藩・譜代大名領，中期以降は幕府直轄領となり明治に至る。維新後は府中・市川・石和の3県に分かれ，次いで甲斐府・甲府県を経て，1871年(明治4)廃藩置県により山梨県と改称し現在に及ぶ。〔黛　弘道〕

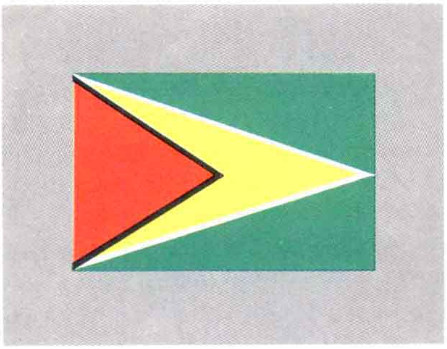


ガイアナ

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　●首府



貝　合　サントリー美術館蔵



ガイアナの国旗　1966年制定。緑は農業，白は純潔，黄色は富，黒は国民，赤は革命を表わす



首都ジョージタウンの市街風景。現在もいくぶん植民地的ふんい気が残っている

ガイア　[Gaia]　ギリシア神話で〈大地〉の女神。ゲーともいう。ヘシオドスによれば，彼女は原初のカオス*（混沌(こんとん)）から生じ，次いでひとりでウラノス*（天空）を生んだという。天と地との結婚からクロノス*その他のティタン族，一つ目のキュクロプスたち，100の手と50の頭をもつヘカトンケイルらが生まれた。クロノスによって天空が去勢されたとき，流れる血によって大地は復讐(ふくしゅう)の女神エリニュエス*たちと巨人ギガスらを生んだという。〔左中庸博〕

ガイアナ　[Guyana]　南アメリカ北東部海岸に面するイギリス連邦内の協同共和国。南アメリカ唯一のイギリス植民地として，東に連なるスリナム（オランダ領ギアナ）・フランス領ギアナとともに残存していたが，1966年5月に独立した。面積21万5,000km²。人口88万（1978年推）。首都ジョージタウン。国土はギアナ高地の北縁にあたり，面積の85％は森林におおわれている。開発は黒人やアジア人労働者をにない手として行なわれているが，まだ海岸地域から30km前後までしか進んでいない。主産物はサトウキビ・米・マニオク・カカオなど。奥地の森林からは硬材の伐採も行なわれている。鉱産物はボーキサイト・金・ダイアモンドなどが知られている。主要輸出品は砂糖・ラム酒。〔小栗　宏〕

かいあわせ　**【貝合】**　左右2組みに分かれて種々の珍しい貝を出し合い，その貝にちなんだ和歌を添えて，双方の優劣を競い合う遊戯。平安時代，おもに貴族の間で行なわれたが，平安貴族の勢力衰退とともに，その影は薄れていった。なお，これに類する遊戯に貝覆(かいおおい)があるが，これは内側に絵や歌を書いたハマグリの殻(から)360個を用意して，これを左右2組みに分配し，1組みの貝（地貝）を伏せて並べ，出し役が貝おけから他の1組みの貝（出貝）を1個ずつ取り出して，中央に伏せた地貝と斑紋(はんもん)，形が同じものを片手で合わせてとる遊びである。江戸時代まで公家(くげ)の子女間で行なわれた。〔渡辺欣雄〕

かいいぬ　**【甲斐犬】**　山梨県を産地とする中形日本犬で，南アルプスの山岳地帯を中心に，シカ・カモシカ・イノシシなどの猟に用いられた敏捷(びんしょう)な獣猟犬。毛色は特有の虎毛(とらげ)で，紀州犬*よりやや小さく，体高は40～46cmぐらい。

がいいんえん　**【外陰炎】**　女性性器の外陰部に起こる炎症。患部は赤くはれて痛みを伴い，特に運動・排尿時には激痛を覚えることがある。女性の外陰部は汚染されやすく，細菌の感染も容易であると思われがちであるが，成人の外陰皮膚は抵抗が強く，炎症を起こすことはまれである。しかし少女や妊婦のように抵抗力が脆弱(ぜいじゃく)な場合には炎症を起こす。炎症の原因となる微生物には淋菌(りんきん)・連鎖状球菌・ブドウ状球菌，大腸菌などがある。また，月経時の不摂生，消毒薬の濫用，内性器からの分泌物の刺激，手淫(しゅいん)などが誘因となる。



貝

外国産

①ミヒカリコオロギガイ(フィリピン)
②シャゴウガイ(フィリピン)
③モロッコボラ(モロッコ)
④ハシナガソデガイ(台湾)
⑤ミミガイ(フィリピン)
⑥カジトリグルマガイ(南シナ海)
⑦イナズマヒタチオビガイ(台湾)
⑧クロトゲホネガイ(フィリピン)
⑨ツマベニヒガイ(台湾)
⑩マメシボリリュウグウボラ(フロリダ)
⑪ベンガルバイ(モルジブ)
⑫テンシノツバサガイ(フロリダ)
⑬オーロラニシキガイ(ベーリング海)
⑭クリイロマイノソデガイ(アラフラ海)
⑮センニンガイ(マレーシア)
⑯マボロシハマグリ(パナマ)
⑰サツマツブリボラ(ザンジバル)
⑱ハデスマキボラ(南シナ海)
⑲タイワンエビスガイ(台湾)
⑳コノハサクラガイ(フィリピン)
㉑ナツゾラニッコウガイ(フロリダ)
㉒ゾウゲツノガイ(フィリピン)
㉓ナガタケノコカニモリガイ(フィリピン)
㉔アラフラツキヒガイ(アラフラ海)



日 本 産

①ミヤシロガイ
②マツカワガイ
③コタイコガイ
④スイジガイ
⑤ニシキヒタチオビガイ
⑥クロスジクルマガイ
⑦ニシキミナシガイ
⑧ニッコウガイ
⑨カブラガイ
⑩チマキボラ
⑪エゾギンチャクガイ
⑫シュモクガイ
⑬カサガイ
⑭イトグルマガイ
⑮ a ショウジョウガイ（和歌山）
b ショウジョウガイ（天草）
⑯ワダチバイ
⑰リンボウガイ
⑱ウグイスガイ
⑲ウミウサギガイ
⑳ギンエビスガイ
㉑ショクコウラ
㉒ニシキツノガイ
㉓チョウセンフデガイ
㉔タケノコガイ
㉕ジャノメダカラガイ
㉖イトマキナガニシ

ガ

日本産



シンジュサン
オオミズアオ
コゴマヨトウ
オニベニシタバ
ホタルガ
アカエグリバ
ヒトリガ
マルモンシロガ
クスサン
キノカワガ
ツマキシャチホコ
マツカレハ
シロオビノメイガ
ムラサキシタバ
モンキシロシャチホコ
カシワマイマイ
ウスキツバメエダシャク
マエアカスカシノメイガ
メンガタスズメ
ホシヒメホウジャク
ユウマダラエダシャク
ヒトツメオオシロヒメシャク
マエグロホソバ
ウチスズメ
ギンボシリンガ
トビイロトラガ
ハイイロリンガ
アケビコノハ
ヤマトスジアオリンガ
コトラガ

外国産



ヒトスジトモエガ （オーストラリア）

ヨナクニサン （台湾）

アカオビスズメ （チェコ）

スペインオオミズアオ （スペイン）

カストニアガ （ブラジル）

ミイロトラガ （オーストラリア）

オオツバメガ （タイ）

ゼノビアオオヤガ （ボリビア）

アフリカオナガヤママユ （マダガスカル）

スキバヤママユ （アルゼンチン）

サカハチオオヤガ （ブラジル）

ナンベイオオヤガ （ボリビア）

セクロピアヤママユ （アメリカ）

小陰唇(しょういんしん)内側にあるバリトリン腺(せん)が感染すると化膿(かのう)して膿瘍(のうよう)を形成する。治療は局所を清潔に保ったうえ，抗生物質などが用いられる。〔木川源明〕

かいいんくみあい　**【海員組合】**　⇨全日本海員組合

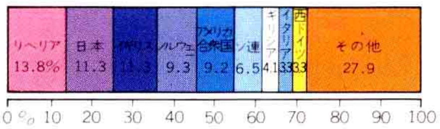
かいう　**【海芋】**　⇨カラー

ガイウス　［Gaius］　2世紀ごろのローマの法学者。当時のローマ法は530～533年に編集された《学説集》に集められたが，そこに5人の法学者の学説が最も多く引用されているが，ガイウスもそのひとりである。また，著書《法学提要》によっても知られ，そのローマ民事訴訟法の歴史的説明は，学史的に大きい業績である。

かいうん　**【海運】**　海運とは，海上運送の略語で，陸上運送を陸運とよぶのと相対する語である。海運の対象となるものは，大別して人(旅客)と物(貨物)に分かれ，現在では商法上のいわゆる商行為として輸送にあたることを意味している。海運を陸運もしくは空運(航空機による輸送)に比べた場合，最大の特徴は，大量を一度に運び，単位あたりの運賃が低いことである。

〔沿革〕 人類は原始時代から丸木舟・いかだで水上を渡ったが，これが櫂(かい)・帆・かじを備えて船の形態を整え，さらに航海術を学び海上へ進出するようになった。古代で最も海運が発達したのはフェニキアで，自国ばかりでなく，地中海沿岸の外国相互間の貿易まで手がけていた。中世になると，北海や大西洋でノルマン人・ハンザ同盟の活動がみられるようになり，十字軍遠征のために船の発達が促された。13世紀末に東方から羅針盤(らしんばん)がもたらされ，天文学の進歩が大洋航海を可能にした。これに伴って1486年，ポルトガル人ディアズの喜望峰発見，1492年コロンブスの新大陸発見，1498年バスコ-ダ-ガマのインド到着と画期的な新航路の開拓が行なわれ，次いで1519～1521年にはマゼランによって南アメリカ南端(マゼラン海峡)通過による太平洋からアジアへの航路が確かめられ，その部下は最初の世界一周記録をつくった。この結果，スペイン・ポルトガルが世界貿易に君臨するようになったが，16世紀末のスペイン無敵艦隊の敗退で，オランダ・イギリスが代わって制海権を握り，19世紀にはイギリスが主導権を奪い，いわゆる七つの海を制覇(せいは)した。かたわら，蒸気機関の発明が，1807年フルトンによって船舶に導入され，機械力による汽船が，それまで自然力にたよっていた帆船に対抗，さらに鉄材利用による造船技術の進歩とあいまって，しだいに帆船の領域をせばめていった。

日本の海運は，7世紀ごろの朝鮮半島・中国大陸との交通にさかのぼる。豊臣秀吉(とよとみひでよし)・徳川家康(いえやす)時代には朱印船がフィリピン・シャム(タイ)にまで及んだが，徳川家光(いえみつ)の時代にはいわゆる鎖国により海外渡航が禁止されて，外航はまったく途絶し，内航の沿岸輸送のみが残され，菱垣回船(ひがきかいせん)・樽回船(たるかいせん)・北前船の著名な定期航路が，わずかに海運の名をとどめた。明治維新後，新政府は外国船に対抗するため船会社助成策をとり，郵便汽船三菱(みつびし)会社が勢力を伸ばし，1885年その対立会社となった共同運輸会社を合併して日本郵船会社を設立した。また，その前年には群小船主の同盟を中心として大阪商船会社が設立された。この2社は社線会社と称され，他の社外線会社とともに，日清(にっしん)・日露戦争さらに第1次世界大戦を経て急激に膨張した。昭和初期，保有船腹量はイギリス・アメリカに次いで世界第3位に達したが，太平洋戦争によって，壊滅的打撃を受け，終戦時は134万総トン(100総トン以上)を残すのみとなり，しかも占領軍によって外航船の建造が禁じられた。しかし1947年政府の海運助成政策に基づいて計画造船が始められ，1951年外航定期航路への復帰が認められて，以後外航船の増強に努め，1969年には保有船腹2,399万総トンに達し，わが国は1世紀以上にわたって海運界を支配してきたイギリスをしのいで世界第2位(第1位はリベリア)の地位を確保した。



海　　運　世界の国別商船船腹量(100総トン以上の鋼船)　1969年6月末現在

〔最近の海運〕 第2次世界大戦後の経済拡大と貿易構造の変化に応じて，船舶輸送も革新が行なわれつつある。それは一口にいうと，船舶の大形化・高速化・自動化，それに伴う専用船化，中でもコンテナー船*の出現である。大形化は輸送コスト切り下げのためタンカー(油送船)・バルクキャリア(撒積船(ばらづみせん))において著しい。船舶を大形化することによって重量トンあたりの建造コストの低減および輸送コストの低下をねらったもので，たとえばタンカーの場合，1966年に20万重量トンを越えたのに続き，1969年には30万重量トン以上の超マンモス-タンカーが建造され，50万重量トン級の実現も2～3年のうちである。その点，高速化については，貨物船では戦前の20ノット近い速力から現在も30ノットに達していないが，運航上の自動化は格段の進歩を遂げている。運航費の節減，船員不足の対策，作業環境の改善などから主機の遠隔操縦と計器類集中監視を行なう自動化船が要請され，1961年誕生したが，現在ではさらに機関室の無人化に至っている。

専用船は，特殊貨物を運送するために最適の構造・設備をもち，原材料や製品の大量長期輸送に応じるため，特定航路にのみ運航される。鉄鉱石専用船・石炭専用船・穀物専用船・セメント専用船・チップ専用船・木材専用船・冷凍船などがある。コンテナー船も広義には専用船の一種で，規格化されたコンテナー(輸送容器)だけを積載する輸送船である。海上輸送でのコンテナー使用のメリットは，すでに論議の段階を過ぎて，世界の主要国相互間はことごとくコンテナー輸送に移行する大勢にある。コンテナー船の就航は1957年で，北アメリカ大西洋岸～プエルトリコ間を最初とする。次いでアメリカ本土～ハワイ間航路が開かれ，内国航路が中心であったが，1966年にアメリカ大西洋岸～ヨーロッパ間に外国間コンテナー輸送が開始され，各国で海上コンテナー方式を取り入れる契機となった。日本船における海上コンテナー輸送は，1968年日本～北アメリカ太平洋航路で開始され，1969年には日本～オーストラリア間に就航，1971～1972年にかけて日本～ヨーロッパ，日本～アメリカ大西洋東岸(ニューヨーク)間も開始される予定である。なお，第2次世界大戦中に発達した航空機による長距離輸送への進出は，特に旅客輸送の面

世界の商船船腹量　（単位：1,000総登録トン）

	1950	1960	1970	1978		
	総トン数	総トン数	総トン数	総トン数	うち タンカー	うち 鉱石・ばら荷運搬船
リベリア	245	11,282	33,297	80,191	49,778	24,114
日本	1,871	6,931	27,004	39,182	16,386	13,431
ギリシヤ	1,349	4,529	10,952	33,956	10,653	12,960
イギリス	18,219	21,131	25,825	30,897	14,731	7,850
ノルウェー	5,456	11,203	19,347	26,128	13,894	8,381
ソ連	2,125	3,429	14,832	22,262	4,693	1,522
パナマ	3,361	4,236	5,646	20,749	6,337	4,820
アメリカ	27,513	24,837	18,463	16,188	6,658	1,921
フランス	3,207	4,809	6,458	12,197	7,715	1,712
イタリー	2,580	5,122	7,448	11,492	4,874	4,215
西ドイツ	460	4,537	7,881	9,737	3,419	2,123
スペイン	1,190	1,801	3,441	8,056	5,079	1,135

注）各年6月末現在。〔資料〕国連：統計年鑑

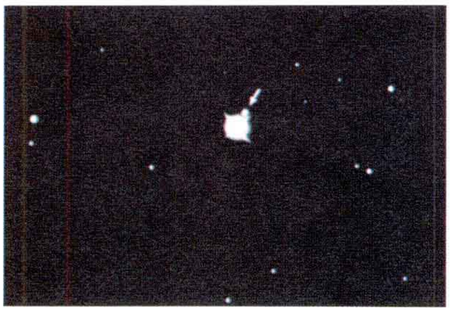
で船舶を圧迫して，世界の客船は定期運航からクルーズ(巡航)サービスへと転向を強いられている。〔松永秀夫〕

かいうんどうめい【海運同盟】船会社が航路経営上の競争を避けて相互の利益を維持増進する目的で，ほかの船会社との間に結ぶ協約。この協約の中には次の3種がある。①運送同盟(積取量，運送区域の分担，発着日時，航海度数，使用船，舶隻(はくせき)数などを協定するもの)，②共同計算同盟(運賃収入の合併計算および利益の分配計算の協定を行なうもの)，③運賃同盟(貨物の等級，運賃率，最低運賃，割りもどしなどに関し協定するもの)，などである。このうち，中心となるのは運賃に関する協定なので，海運同盟を運賃同盟とよぶこともある。世界の主要航路には必ずなんらかの同盟が結成されており，同盟に加わっていない会社の船を盟外船*(アウトサイダー)という。同盟加盟社は盟外船の不正競争に対抗して協力して統一戦線の結成を図る。その方法として，①荷主がそのすべての積み荷を同盟社船で積んだ場合に運賃の一部を払いもどす運賃延べもどし制，②上記の契約がなされている場合には，非契約会社に対する場合よりも低率運賃とする契約非契約制，③同盟船が盟外船と同一港で積み荷を受け取る場合には一時的に極端な運賃値引きをする闘争船を配備する，などが行なわれる。〔飯島幸人〕

かいうんとりひきじょ【海運取引所】海上運送に関する取引を行なうところ。船舶の売買，用船取引のほか船舶積み荷についての情報の収集などの事業を行なう。有名なのはロンドンのバルト海海運取引所である。日本には1920年(大正9)に設立された日本海運集会所があるが，日本においては船主と荷主が直接貨物の取り決めを行なうので，ブローカーのはいる余地はなく，船舶売買の斡旋(あっせん)は行なわず，もっぱら海事に関する紛争の調停を行なっている。〔飯島幸人〕

かいえき【改易】平安時代では荘官(しょうかん)職の改任をさし，刑罰の意味はなかった。のちこれが武家法*に受け継がれ，鎌倉時代には御家人の地頭職などの地位を奪うことをいった。江戸時代では士分以上の者の身分(→身分制度)の除籍をいい，知行*は没収され，役職も失うという，武士の最も重い身分刑であった。

かいえん【海淵】大洋の底にある凹地(おうち)の中で，その形態がはっきりした，最も深い区域。多くは海溝*(かいこう)の中にあり，発見した測量船の名がつけられているものが多い。ビチアス海淵(11,034m)・チャレンジャー海淵(10,863m)，日本海三溝のラマポ海淵(10,680m)，フィリピン海溝のケープジョンソン海淵(10,497m)・エムデン海淵(10,400m)などが知られる。➔海底地形



海 王 星

かいえんたい【海援隊】江戸末期，坂本龍馬*(りょうま)が組織した航海・貿易の結社。はじめは単に社中と称し，1864年(元治1)薩摩(さつま)藩の保護を受け，長崎の亀山(かめやま)で創業。回漕(かいそう)運輸・貿易仲介業に従事し，特に薩摩・長州両藩の物産・武器の運輸や西洋兵器・船舶の輸入を周旋した。1866年(慶応2)には薩長間を仲介して薩長連合*を成立させた。1867年坂本の脱藩の罪が解かれたのを機に土佐藩に属し，海援隊と称したが，同年坂本が暗殺されると不振となり翌年解散。中岡慎太郎の陸援隊*と合わせて翔天(しょうてん)隊という。〔松尾 涼〕

カイエンヌ［Cayenne］南アメリカ北部，フランス領ギアナの首都。人口18,000(1966)。大西洋に面し，カイエンヌ川河口の砂州上にある港市。流刑植民地として開拓された。熱帯雨林気候で暑熱きびしく，不健康地であったが，近年市街地の整備が進められている。金・木材・コーヒー・カカオ・ラム酒・砂糖をおもに本国に向けて輸出する。

かいおうせい【海王星】太陽系の第8惑星。軌道長半径30.22天文単位の外惑星である。天王星の軌道の摂動*から，アダムスとルベリエ*がさらに外側を回る惑星の存在を予報し，その予想どおり，1846年にガルレ*によって発見された。極大光度は+7.9等級。公転周期165.75年。反射能は0.71で大気の層は厚く，メタンCH_4の60kmに及ぶ層がある。水素とヘリウムが大気の大部分を占めている。1967年4月7日に海王星がBD-17°4388という7.8等級の星を掩蔽*(えんぺい)したが，このときの観測をもとに赤道半径が22,300kmと決定された。視直径は2.3″。衛星は2個発見されている。〔磯部琇三〕

かいおおい【貝覆】⇨貝合

かいオペレーション【買いオペレーション】⇨公開市場操作

かいおんじちょうごろう【海音寺潮五郎】(1901～1977) 小説家。本名末富東作。鹿児島県の生まれ。国学院大学卒。1929年(昭和4)《サンデー毎日》大衆文芸賞に《うたかた草紙》で入選，1936年《天正女合戦(てんしょうおんなかっせん)》で直木賞を受賞。代表作に《平将門(たいらのまさかど)》《天と地と》などがあり，いずれもすぐれた歴史小説である。

かいが【絵画】線と色彩によって，平面上になんらかの形象を表現する美術。建築・彫刻・工芸とともに造形芸術を構成し，音楽・文芸の時間芸術に対して空間芸術に包含される。ルネサンス期のアルベルティ*は彫刻を存在の芸術，絵画を平面による形象の芸術と定義しているが，絵画の特質はこの二次元性にある。絵画の表現要素としては線・色彩・明暗・構図があげられる。線と色彩は，絵画の芸術価値を形態価値・色彩価値に分ければ，それぞれのにない手として重要である。17世紀後半のフランス画壇における素描(＝線)と色彩の優劣にかかわる論争は，この種の考えを基盤とした。線に力点を置き，輪郭描写本位のものを線画といい，狭義の絵画つまり彩画と区別することもある。ただし，素描は線を主体としても絵画完成の準備段階と考えられ，線画には含めない。人類最古の芸術表現と推定される先史時代の遺物の掻(か)き素描(石・骨・象牙(ぞうげ)などに彫られた線刻)は，一種の線画といえる。なお，ベルフリン*には著名な〈線的〉と〈絵画的〉という表現様式上の概念がある。〈線的〉とは物象を明確に輪郭づけ，手で触れ，つかめるかのように描出することをいい，〈絵画的〉は，通常の絵画にふさわしい描写対象という意ではなく，自然を目に映じた視覚上の仮象としてとらえ，物象相互間の境界線の消失した全体像として表現することをいう。印象派の絵画のように線を欠いた絵画表現も存在しうるが，一般には線・色彩・明暗の三者は絵画美の成立に関し分かちがたく結ばれている。これら三者は構図によって統一的に結ばれる。現代の抽象絵画は描写性をまったく拒否するが，絵画の本質は自然界のあらゆる物象を二次元の材料上に描写することにあると考えられる。この描写芸術としての絵画は，まったく対象を欠くかもしくは対象が完全に装飾的目的のために用いられている純粋な装飾画とは区別される。この両者の境界はきわめて流動的であると同時に，すべての絵画は多かれ少なかれ装飾目的をになうものでもある。歴史的にみると，可視世界の表現にあたって，大きく分けて二つの方向がみられる。装飾画のように平面性を強調する場合と，人間の視覚上の幻覚を利用して三次元性を生み出そうとする場合である。前者は古代エジプト人・小アジア民族にみられ，後者は遠近法・明暗法の発見と結びつき，古代ギリシア人により進展せしめられた。平面上に空間的錯覚を生じさせ，物象の忠実な描写を可能にしたこの方法が，西洋絵画の主流的伝統として19世紀まで存続した。描写芸術としての絵画の対象は実在する可視的世界にとどまらず，想像されたかあるいは単に考えられたかした世界も，可視的世界の類推としてこれに含まれる。その多様な題材領域から，宗教画・歴史画・肖像画・風景画・静物画・風俗画・建築画の区分が生まれる。さらには，

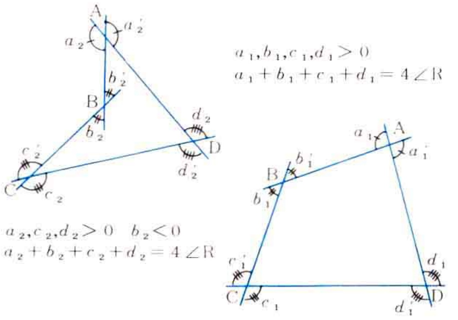
絵画技法，寸法，素地・材料，利用方法などに従っての分類も可能である。技法によるおおまかな分類は展色剤に基づく。代表的展色剤は水・油・乳剤の3種であるが，水彩画・グワッシュ・油絵・テンペラ画・パステル画・ろう画などがその分類である。素地・材料からは壁画と板絵がある。ここには，創造される視覚的価値が絵画と同一であるという理由で，モザイク・タピスリー・ステンドグラス・象嵌(ぞうがん)・七宝などを含めることもある。なお，西洋芸術の歴史上，絵画の占めてきた位置・意義は，それぞれの時代により変遷が認められる。古代芸術においては彫刻が優位を占め，初期キリスト教時代に至ると，キリスト教の表象世界の本質的内容表現に適合するという理由で，絵画が重用された。中世にあっては，キリスト教にとって重要な表現手段であったことは変わらないが，中世芸術の最大の成果は建築と彫刻の全盛にある。その後，中世末からルネサンス期にかけては絵画が再び優位を占め，ルネサンス絵画の内容・精神・技術面での高度の発達は，それ以後から現代に至る芸術界での絵画の支配的地位を確立した。〔古川俊英〕

がいか【蓋果】⇨果実

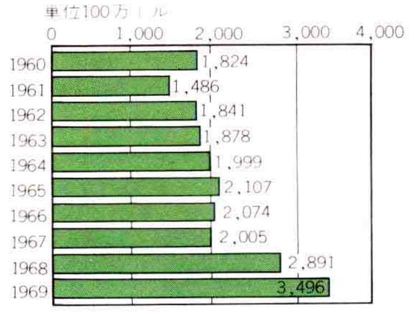
ガイガー［Hans Geiger］(1882～1945)　ドイツの物理学者。イギリスのラザフォードのもとで放射線の研究に従事し，1912年帰国後，キール・チュービンゲン各大学の教授を歴任。1908年のα線計数装置に始まり，β線も数えられる尖端(せんたん)式計数管(1913)を発表，次いでミュラーと協同した線条式のガイガー-ミュラー計数管(1928)を製作するなど，放射線計数管(カウンター)の開発に貢献した。他方，マースデンと協同したα線の散乱の実験では，ラザフォードの有核原子模型の端を開き，放射線に関するガイガー-ナットゥールの法則を見いだすなどすぐれた業績を残した。〔藤村　淳〕

かいがいけいざいきょうりょくききん【海外経済協力基金】1961年(昭和36)3月海外経済協力基金法により設立された全額政府出資の金融機関。開発途上にある地域の産業の開発または経済の安定に寄与するための資金のうち，日本輸出入銀行による供与が困難なものを供給することによって海外経済協力を促進することを目的とする。1968年末現在，資本金628億円，融資承認額は1,167億円，貸し出し実行額は815億円。融資条件は原則として利率3.5％以上，期間20年以内となっている。融資実施地域はアジア(78％)および中南米(18％)に集中している。〔深海博明〕

かいがいしんぶん【海外新聞】アメリカ合衆国領事館付通訳官ジョセフ-ヒコ(日本名は浜田彦蔵(ひこぞう))によって，1865年(慶応1)横浜で発行された民間最初の翻訳新聞。1864年(元治1)とする説もある。毎月1～



外　角



外貨準備　外貨準備高(各年末現在)　1964年以降はIMFゴールド-トランシュを含む

2回横浜に入港する外国船から得た外国新聞を翻訳，木版にして発行。内容は政治・経済記事を主としていた。1866年9月第24号で廃刊。なお，江戸幕府発行の《官板バタビア新聞》とは異なる。

がいかく【外角】多角形の一辺の延長線と延長した側にある隣の辺とがつくる角。一つの頂点における外角は二つあるが，それらは互いに等しい。凸(とつ)多角形では外角はすべてその多角形の外にできるが，〈各頂点における外角を一つずつとってつくった和は4直角に等しい〉という定理がなりたつ。凹(おう)多角形ではその多角形の内部にできる外角を負の大きさで表わすことにすれば，凸多角形の場合と同じ定理がなりたつ。〔菊池兵一〕

かいかくえんかい【改革宴会】1847～1848年，フランスの各地でしばしば開かれた一種の政治集会。七月王政の極端な制限選挙に対し，選挙法の改正を要求することをおもな目的とした。はじめは温和な集会であったが，共和主義者・社会主義者が加わってしだいに革命的な色彩を強めた。1848年2月22日パリで開催予定の改革宴会を政府が禁止したことから民衆の不満が爆発し，二月革命が起こった。

ガイガーけいすうかん【ガイガー計数管】⇨放射線計数管

がいかさい【外貨債】⇨外債

がいかしゅうちゅうせいど【外貨集中制度】一国の居住者が取得した外貨を，政府または外国為替(がいこくかわせ)銀行の手もとに集中する制度。為替管理が施行されている場合に採用される。外貨集中制度は，全面的集中制度と持ち高集中制度とに区別される。全面的集中制度は最も厳格な為替管理のもとに実施されるもので，一国の居住者が取得した外貨は，すべて，為替銀行を通じて政府に売却され，対外支払いのために外貨を必要とするものは，政府の許可を得なければならない。政府は，許可されたものに対してのみ，為替銀行を通じて外貨を売却することになる。持ち高集中制度とは，やや緩和された為替管理のもとに実施されるもので，為替銀行に対して為替の持ち高(為替売買差額)のみを政府に集中することを義務づける制度である。持ち高規制も集中規制も，為替管理が緩和されるにしたがってしだいに緩和され，自由為替体制へ移行していく。➔為替管理〔安井孝治〕

がいかじゅんび【外貨準備】各国の中央銀行(または政府)が対外決済準備の一部として保有する外貨のこと。国際収支が不均衡になると，外国為替(がいこくかわせ)市場で外貨の需要と供給が不均衡になって為替相場の変動が発生する。そこで，為替相場をほぼ一定の水準に維持するためには，中央銀行が外国為替市場に介入して外貨の需要と供給を調整することが必要になる。すなわち，外国為替市場で外貨の需要が供給を超過した場合には，中央銀行は市場に外貨を売却し，また市場で外貨の供給が需要を超過した場合には，中央銀行は市場から外貨を購入することによって，外貨の需要と供給の均衡を図る。中央銀行のこのような操作を外国為替市場における平衡操作とよぶ。中央銀行はこの平衡操作を常時実施するために，手もとにある額の国際的流動資産(➔国際流動性)を保有することが必要になる。中央銀行の保有するこのような国際的流動資産を対外決済準備とよぶ。現在では，対外決済準備は，金・外貨およびIMFゴールド-トランシュから構成されているが，このうち外貨からなる部分を外貨準備とよぶ。現在，外貨準備は主としてアメリカ-ドルである。〔安井孝治〕

がいかてがた【外貨手形】外国為替(がいこくかわせ)手形のうち，額面金額が外国貨幣で表示されているものをいう。これに対し，額面金額が自国貨幣で表示されているものを自国貨手形(あるいは邦貨手形)という。外貨手形は，金額の表示に使用されている貨幣の種類に従って，ドル手形・ポンド手形・マルク手形などとよばれる。わが国の業者が対外的受け払いのために外貨手形を利用する場合，外貨と円との交換の際に為替相場が関係してくることから，為替相場の変動による損失を，わが国の業者または外国為替銀行が負担することになる。第2次世界大戦以後，わが国の貿易はすべて外貨手形によって決済されてきたが，1960年(昭和35)7月1日に円の自由化が実現して以来，円為替手形も使用されるようになった。〔安井孝治〕

かいかてんのう　【開化天皇】　名は稚日本根子彦大日日尊(わかやまとねこひこおおひびのみこと)。孝元天皇の第2皇子。母は穂積臣(ほずみのおみ)の娘欝色謎命(うつしこめのみこと)。春日率川(かすがのいざかわ)に都を定め，伊香色謎命(いかしこめのみこと)を皇后として崇神(すじん)天皇を生む。陵墓は奈良市油坂町にある春日率川坂本陵。実在かどうか疑わしい。➔天皇

がいかのたたかい　【垓下の戦い】　中国，楚(そ)・漢の最後の決戦。垓下は安徽(あんき)省霊璧(れいへき)県東南の地。BC207年に秦(しん)を倒して以来，天下の覇権(はけん)をめぐって争ってきた楚の項羽*と漢の劉邦*(りゅうほう)は，BC203年鴻溝(こうこう)（賈魯河(かろが)）を境界とすることで講和したが，劉邦は張良*らの献策に従って約にそむき，項羽を追撃して垓下に囲み，項羽は四面楚歌の中で壮烈な最期を遂げた。こうして漢が覇権を握り，劉邦が皇帝の位についた。〔永田英正〕

かいかホルモン　【開花ホルモン】　フロリゲン，花成ホルモンともいう。茎の生長点に作用して花芽形成を促進すると考えられている物質である。開花は光周作用によって誘導されるので，この物質は最初葉で生成され，茎の生長点に達して開花を誘導するものと考えられている。光周性誘導処理を行なった枝を光周性をことにする品種や種類につぎ木しても花芽誘導を行なうことから，長日・短日にも種類の異同にもかかわりなく同一の物質が開花を促進すると想像される。〔吉田精一〕

かいかむり　【貝被】　甲殻(こうかく)類・十脚目・カイカムリ科のカニ。甲は丸く，まんじゅう形。全身短毛でおおわれ，かっ色で，はさみの先だけが赤紫色。甲の幅8cmほど。4対の足のうち，後ろの2対が極端に短く，その先端は小さなはさみになっていて，これで海綿などをつかんで背負い，体を隠す。貝を背負うことはない。函館(はこだて)以南，インド洋・紅海・南アフリカに分布する。近縁のヒラコウカイカムリは，二枚貝の死殻を背負って体を隠す。〔菅野　徹〕



カイカムリ

がいかよきん　【外貨預金】　わが国内で開設を認められている外貨建ての預金勘定のことをいう。開設する場合には，〈外国為替(がいこくかわせ)および外国貿易管理法*〉による許可を必要とし，運用についても種々の制限が設けられている。現在，外貨預金勘定には次のようなものがある。①非居住者，または，わが国において営業を営む保険会社・運輸会社・旅行斡旋(あっせん)業者が有する勘定。②コルレス銀行の勘定（わが国の甲種為替銀行が自国あるいは外国の他の外国為替公認銀行または特定の金融機関に開設する勘定）。③乙種為替銀行が，わが国内の外国為替公認銀行に開設する勘定。④商社外貨預金勘定。⑤わが国内に開設された外貨建てのエスクロ勘定。➔外国為替銀行〔安井孝治〕

かいがらついほう　【貝殻追放】　⇨オストラキスモス

かいがらぶし　【貝殻節】　鳥取県気高郡気高町浜村の民謡。《浜村音頭》ともいう。もと漁師が貝殻をかき取るときに歌っていたものを，三上留吉が拍数の規則的な曲に編曲し，松本穣葉子が新しく作詞して，小唄ふうの曲にした。

かいがらむし　【介殻虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・カイガラムシ上科に属する一群のこん虫の総称。全世界にきわめて多くの種類が分布しており，10数科に分類される。日本には，ワタフキカイガラムシ・ハカマカイガラムシ・フサカイガラムシ・タマカイガラムシ・コナカイガラムシ・カタカイガラムシ・マルカイガラムシの7科が分布している。跗節(ふせつ)は1節で，1本のつめがある。雌は体が太く，つねに無翅で，しばしば脚や口器を欠いている。雄は弱々しく，ふつう前翅のみが発達し，その翅(はね)もほとんど無翅脈で，静止時には背上に平らに保たれる。触角は，雌ではまったくないものから11節のものまであり，雄では10～25節。幼虫は楕円(だえん)形や円形のものが多く，扁平(へんぺい)で，触角・脚・複眼があり，孵化(ふか)した直後は食樹上をのろく移動するが，成長すると多くの種類ではこれらの器官が退化し，体表が硬化したりロウ物質を分泌して体表をおおい，食樹上に定着して移動しなくなる。雌は不完全変態を行ない，さなぎを経ずにそのまま成虫となり，終生食樹上で生活する。雄は完全変態を行ない，幼虫からさなぎを経て成虫となるが，一般に後翅が退化し，前翅1対のみをもち，交尾後に死亡する。このように，雌雄によって変態の様式の異なることは，カイガラムシ類の最も大きな特徴である。群生する種類が多く，吻状(ふんじょう)の口器を葉・茎・幹などに差し込んで吸汁(きゅうじゅう)する。そのため，寄生を受けた植物は，樹勢が衰え，加害のはなはだしいときは枯死する。また，排泄物(はいせつぶつ)にすす病菌*が繁殖して，植物体の表面を黒色にすることも多く，果樹や庭園樹の害虫として有名な種類も少なくない。日本に分布する害虫として代表的な種類は表に示したが，人類に利益をもたらす益虫も少数ある。特にラックカイガラムシは世界的に有名で，これはマメ科・クワ科・クルミ科・ウルシ科など14科75種以上の植物に寄生し，これの分泌物は枝から取り去られたのち，熱湯でとかされ，精製されたのち，塗料や接着剤の原料であるシェラックとして販売される。また，この虫体からは赤色の染料が得られ，インドでは絹糸の染料として用いられている。また，ほかに，白ロウを採集するイボタロウムシ*（イボタカイガラムシ）も有名な益虫である。カイガラムシ類の天敵には，テントウムシ類の幼・成虫や寄生蜂(きせいばち)などがあるが，これらを人工的に大量飼育して発生地に放飼し，いわゆる生物的防除を行なって成功した例もある。ミカン

日本に産するおもなカイガラムシ類

種　　名	お　も　な　産　地	お　も　な　寄　生　植　物・そ　の　他
イセリアカイガラムシ	本州・四国・九州。世界の熱帯から温帯にかけて広く分布する	ミカン類をはじめ，300種以上の寄生植物が知られている。日本には明治40年代に，アメリカおよび台湾から苗木に付着して侵入した
ミカンコナカイガラムシ	日本各地の温室。台湾から熱帯地方の各地に分布する	ミカン類，各種の観葉植物，ラン・シュロ・ヤシ・クワなど。温室害虫として知られる
クワコナカイガラムシ	本州・四国・九州。朝鮮・インド・北アメリカ南部・西インド諸島	ナシ・クワ・リンゴ・アンズ・モモ・ウメ・サクラ・カボチャなど。特に袋がけを行なうナシ園に重大な害を与える
ヒラタカタカイガラムシ	日本各地の温室。沖縄から熱帯各地にかけて広く分布する	ミカン類・ヤシ・ソテツ・チャ・パパイア・キョウチクトウなど。温室害虫として知られる
カメノコロウカイガラムシ	本州・四国・九州。世界の温室から熱帯にかけて広く分布する	ミカン類・カキ・チャ・ナシなど
ルビーロウカイガラムシ	本州・四国・九州。アジアの温帯から熱帯にかけて広く分布する	ミカン類・カキ・ナシ・チャ・マサキ・クス・モチノキなど。すす病を併発する。果樹園・公園・庭園樹などにしばしば大害を与える
ヤノネカイガラムシ	本州・九州。中国原産	ミカン類。ミカン園に重大な害を与える
ナシマルカイガラムシ	世界のおもに温帯地方に広く分布する	ナシ・リンゴ・モモ・サクラ・スモモなど

類の害虫として知られるイセリアカイガラムシ(ワタフキカイガラムシともいう)は,ミカン類の苗木とともに北アメリカから輸入された害虫であるが,オーストラリア原産のベダリアテントウを輸入放飼して駆除に成功した。また,ルビーロウカイガラムシに対するルビーアカヤドリコバチも,日本における生物的防除の成功した例として有名である。〔鈴木邦雄〕

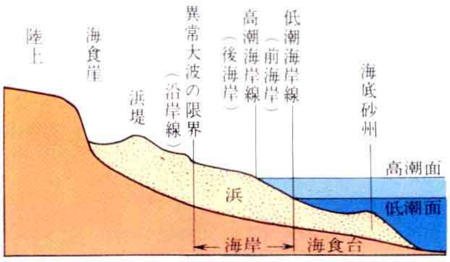
かいかん【会館】⇨公所・会館

かいかん【海関】外国貿易に対して設置された中国の税関。唐から明(みん)に至る市舶司*制度の流れをくむもので,1685年清(しん)の康熙帝(こうきてい)が外国貿易を許可したとき,広州(粤(えつ))・漳州(しょうしゅう)(閩(びん))・寧波(浙(せっ))・上海(シャンハイ)(江)の4海関を設立し,以後増減があった。1858年天津(てんしん)条約*によって,中国のすべての開港場に外国人税務司の制度が採用され,清朝政府の任命する総税務司(ほとんどイギリス人)の下に各港税務司を置いたので,海関は外国人の管理するところとなった。中華人民共和国の成立後は中国の手に回収された。〔衣川　強〕

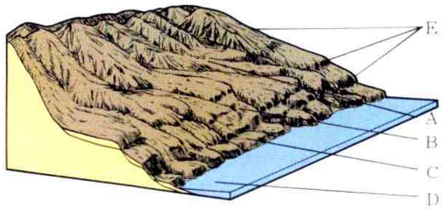
かいがん【海岸】陸地が海に接するところで,その形は地盤運動と波浪・潮汐(ちょうせき)・沿岸流などの海の営力,川の営力によって決められ,大別して砂浜海岸と岩石海岸とに分けられる。砂浜海岸は堆積面(たいせきめん)からなり,堆積海岸ともよばれ,沿岸線・波・風などによって砂浜が形成される。遠浅のため,海岸近くの海底に波の作用で沿岸州ができ,また海岸に打ち上げられた波は砂を堆積して浜堤をつくる。海岸の侵食物や川の運搬物が沿岸流で運ばれ,港の入り口や岬(みさき)などに堆積すると,砂州や砂嘴(さし)をつくる。また,川の運搬物が沿岸流に運ばれずに川口に堆積すると三角州になる。岩石海岸は磯浜(いそはま)海岸ともよばれ,磯波による侵食が著しい。波の侵食で海食崖(かいしょくがい)ができ,海食崖はまた侵食の進行とともに後退し,海面下に平らな海食棚(かいしょくだな)を形成する。海食棚が地盤の隆起または海面の低下によって陸上に出現し,その後表面が侵食されると海岸段丘*ができる。また断層線などの地層の弱線に沿って海食が進むと,海食洞(かいしょくどう)が生ずる。

また,海岸を地盤運動を基にして分けると,陸地の沈降あるいは海面の上昇によって生ずる沈降海岸,陸地の隆起あるいは海面の低下によって生ずる離水海岸,陸地や海面の昇降に関係しない中性海岸,前三者のうち二つ以上の運動が合わさって生ずる合成海岸がある。〔小栗　宏〕

がいかんざい【外患罪】外患誘致罪(刑法81条)と外患幇助(ほうじょ)罪(刑法82条)の二つがある。外患誘致罪は外国の政府や軍隊と通謀して,日本国に対し戦争をしかけさせ,武力を行使させる罪で刑罰は死刑。外患幇助罪は外国から日本国に対し武力の行使があったとき,これに味方してその軍隊に服務したり,武器・弾薬を提供したり,国防上必要な情報を漏らしたりして,外国軍に軍事上の利益を与えた場合で刑罰は死刑・無期または2年以上の懲役。未遂も罰せられるほか,この犯罪の予備・陰謀だけでも1年以上10年以下の懲役に処せられる(刑法88条)。〔野口恵三〕



海　岸　海岸の模式断面と各部の呼称



A 旧海面 I　B 旧海面 II　C 旧海面 III
D 現海面　E 旧海食崖

海岸段丘

かいがんさんみゃく【海岸山脈】コーストレンジズ山脈ともいう。アメリカ合衆国西部,太平洋岸に沿って南北に長く伸び,カリフォルニア州南部からオレゴン州を通って,ワシントン州に達する。カリフォルニア州では高度は1,200～2,700m,オレゴン州では760～2,100m,ワシントン州では2,400m前後で,南部と北部で高い。カリフォルニア州では東のシエラネバダ山脈との間にカリフォルニア盆地をつくっている。なお,カナダの太平洋岸にも海岸山脈があり,この方はコーストマウンテンズ山脈とよばれている。〔大石堪山〕

かいがんだんきゅう【海岸段丘】岩石海岸の海食崖(かいしょくがい)下に発達した海食台が,地盤の隆起あるいは海面の下降によって陸上に出現した平坦面(へいたんめん)で,海成段丘ともいう。最近では海岸段丘の形成を第四紀の氷河性海面変化によるものとする見解が多い。段丘の前面に新しい海食崖と海食棚(かいしょくだな)が形成され,その後再び地盤の隆起が起こり,新しい海食棚が陸上に出現すると,2段の段丘が生ずる。前の段丘面が海食によって失われていなければ,隆起の回数に応じた段丘が形成される。

わが国では,本州北部から北海道全域と房総半島以南の太平洋岸の半島先端部によく発達している。耕地の乏しいわが国では段丘面は農耕地・集落として利用されている。〔桑原正見〕

かいかんぶんせき【開管分析】定性分析*における予備試験の一。硬質のガラス管内に試料を入れて外から熱し,その際に起こる変化を観察する。ガラス管の両端が開いたガラス管を用いる場合を開管分析といい,一方を閉じ他方を開いたものを使用する場合を閉管分析という。開管試験・閉管試験という場合もある。閉管分析は試料を直接火炎に触れさせることなく,かつ空気の流通を絶って試料を加熱するときの諸変化を観察するのが目的である。加熱する際,管底の試料部分のみを熱し他を加熱しないようにすることがたいせつである。そのときの試料の変色,水分の発生,昇華物の生成,気体の発生などを観察して含有物を推定する。開管分析では硬質ガラス管の一方の端から数センチくらいのところを120°～130°の鈍角に曲げたもので行なう。観察方法は前者と同じであるが,空気の流通を十分にして試料を加熱したときに生ずる諸変化を観察するのが本来の趣旨であるから,管内の風通しには十分注意しなければならない。後者は前者に比べて一般に応用範囲が狭い。〔三輪誠・野宮健司〕

かいき【甲斐絹】古くは海気・改機・海黄とも書いた。経(たて)・緯(ぬき)ともに練り絹糸を用い,経糸に比して緯糸を密に織った比較的薄地で軽い絹織物。緯糸が表面に多く表われるので,布面は平滑で光沢が強く,そのため一種の冷たさを感じさせ,しごくと独特の絹鳴りがする点が特徴である。寛文年間(1661～1672)甲斐の郡内地方(山梨県南都留郡・北都留郡)で,中国からの輸入品を模して製織しはじめたと伝えられ,江戸時代には郡内海気あるいは単に郡内とよばれたが,1713年(正徳3)刊の《和漢三才図絵》に京郡内と称する類似品が出回っていると記していることから,そのころには,甲斐絹に対する需要はかなり多かったと考えられる。原料によって本甲斐絹・玉甲斐絹・片甲斐絹の別があり,また無地や玉虫・しまなどによる別もあり,さらに平織りが主体ではあるが,紋を織り出したものやあや織りのものなどもある。羽織・コート・夜具・座ぶとん・風呂敷などに広く用いられてきたが,現在では裏地・かさ地が主体になっている。〔北村哲郎〕

かいき【回忌】仏教で人の死後,何年めかに巡ってくる命日。年忌ともいい,この日には仏事供養がなされる。1年めを一周忌,2年めを三回忌といい,順次七回忌,十三回忌,十七回忌,二十三回忌,二十七回忌,三十三回忌,三十七回忌,五十回忌と数えるが,普通は三十三回忌か三十七回忌で弔いあげをする。➔遠忌

かいぎ【懐疑】⇨懐疑論

かいきげつ【回帰月】⇨分点月

がいきけん【外気圏】大気の電離圏以上(約500kmから数万kmまで)では空気は非

常に希薄になり，気体分子相互間の衝突はほとんど起こらず，分子はただ地球引力の作用だけを受けて運動していると考えられる。このような領域を外気圏とよぶ。外気圏では，ある大きさ以上の速さをもつ気体分子は地球の引力に打ち勝って外に飛び出してしまう。外気圏付近の温度は非常に高く，地上1,000kmでは3,000°Kにも達する。このような高温では分子の熱運動が盛んで，特に水素原子は他の分子・原子に比べて脱出速度以上の速さをもつものが多いと考えられる。現在の大気中に水素がきわめてわずかしか含まれないのはこのためである。➔大気圏　〔相原正彦〕

かいきしょく　【皆既食】　皆既日食・皆既月食の総称。地球が月の(または月が地球の)本影の中に完全にはいったときに起こる現象で，太陽(または月)は完全に見えなくなってしまう。皆既日食は地球の限られた部分でしか見られず，継続時間も2～3分で，長くても8分以下である。皆既月食は月が地平線上に出ているところでは，どこでも同時に見られ，継続時間は平均2時間ぐらいである。➔日食　➔月食

かいきせん　【回帰線】　緯度23°27′を通る等緯度線。このうち北緯23°27′の等緯度線を北回帰線，南緯23°27′の等緯度線を南回帰線とよぶ。23°27′という角度は赤道面(地球の自転軸に垂直な平面)と黄道面(地球の公転軌道面)のなす角に等しく，北回帰線上では夏至(げし)の日に太陽が天頂を通る。したがって北回帰線より北の地点では太陽が天頂を通ることはない。たとえば東京では，夏至の日の南中高度は約77°47′である。南半球では逆に冬至のとき，太陽は南回帰線上の天頂を通る。　〔木下　宙〕

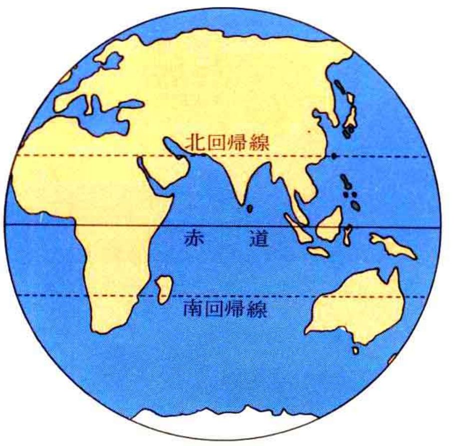
かいきねつ　【回帰熱】　再帰熱ともいう。ボレリア属(回帰熱スピロヘータ属)の各種のスピロヘータによって起こる急性伝染病。世界各地にみられるが，わが国には常在しない。シラミやダニなどによって媒介され，潜伏期は5～7日。寒けやふるえとともに突然高熱で発病し，40℃ほどの高熱発作が数日間続いてから下がり，約1週間ほどは平熱に近いが再び発熱する。このように一定の間隔をおいて発熱が反復して起こるため回帰熱といわれる。関節痛・腓腸筋(ひちょうきん)圧痛・脾腫(ひしゅ)などを伴うことが多い。サルバルサン・マファルゾール・ペニシリン・ストレプトマイシン・テトラサイクリンなどが著効を呈する。なお，サルバルサン使用以後はほとんど死亡例がない。　〔国井乙彦〕

かいきねん　【回帰年】　⇨太陽年

かいぎゃくきょく　【諧謔曲】　⇨スケルツォ

かいきゅう　【階級】　⇨376ページ

かいきゅういしき　【階級意識】　自己の属する階級を階級として自覚した社会意識のこと。原始共同体の解体によって生まれた階級社会では，生産手段の私的所有形態に基づく生産関係は，階級的な労働の搾取関係であり，このような階級支配を強化するために，国家と法律・哲学・道徳・宗教などの上部構造が存在する。したがって被支配階級が自己の解放を要求するとき，労働の事実の中から，支配的な上部構造を批判しつつ，戦おうとするときに成立する。したがって，それはそれらの人々が個々に日常的にいだいている，事実的心理意識ではなく，同じ階級を構成する人々の，共通の要求の自覚を基礎に日常的幻想や，社会心理に対立して形成される。階級意識は自覚性のみならず敵対階級の認識，解放のプログラムの提起を含むものであり，目的実現に向かう階級闘争の基礎となるものである。それゆえそれは自然に形成されるものではなく，自覚した先進部分の指導によって形成されるものである。資本主義下におけるプロレタリアート(賃労働者階級)の階級意識は，前衛政党によって覚醒(かくせい)される。➔階級　〔西尾孝司〕



回　帰　線

かいきゅうこっか　【階級国家】　マルクス主義の主張する国家論。国家は，国会・内閣・裁判所その他の統治機関，さらに警察・軍隊などの実力部隊からなる権力機構を有し，また憲法をはじめとする多くの法令を備えた人間社会で，国境によって区画されて存在する。人類はそれぞれの国家に属して国民として存在するという形式的な定義においては，一般の憲法学・政治学でもマルクス主義でも同じであるが，問題は，この国家の統治や権力がどのような特質のものであるか，国家権力の果たす機能はいかなるものかという見解の相違にある。マルクス主義では，国家権力は支配階級のための権力であり，国家の統治(憲法にいう国政)は，その社会における支配階級が自分の階級的利益を守り，現在の階級的構造の社会秩序(憲法その他の法令は，この秩序の維持・発展に役だつ規範であるとする)を保持していくための支配を本質とするとする。そしてこの本質は，古代の専制国家，今日の福祉国家，さらに人民共和国・社会主義国家についても変わるところがなく，ただそれぞれの時期の国家の支配階級が異なるだけであるとする。そして，社会主義の建設が進んで国内に階級対立が完全になくなるに至ったとき，この階級的支配権力としての国家権力も必然的に消滅し，国民の自治に移行するとする。一般の憲法学・政治学では，国家権力は超階級的な国民全体の福祉を保障し，社会秩序の維持に奉仕する社会的規制力であり，ことに近代憲法国家以後は，憲法および法令に基づく民主的な法の支配が行なわれるとする。また国家は，人類社会に必然的で，また不可欠な組織であるとする。➔国家　〔鈴木安蔵〕

かいきゅうせいとう　【階級政党】　国民政党と対比される政治用語。ふつう労働者階級にその基礎を置き，階級闘争を指導する政党をさすことが多い。したがって一般的にはプロレタリアート(賃労働者階級)政党のことをいう。国民政党も国民政党を名のりながら，実質的な政治の場では特定の圧力団体や政治集団の利益を代弁するので，その内実は一定の階級利害を代表したものといわれている。階級政党でない政党はないといわねばならない。しかし，議会制(➔議会政治)のもとでは階級政党も国民的規模での合意を必要とするから，それを政治的に国民政党というにすぎない。　〔溝口　潔〕

かいきゅうとうそう　【階級闘争】　搾取する者と搾取される者，抑圧する者と抑圧される者との闘争。それは抑圧される者が階級として結束し，自己の解放のために抑圧階級と戦うことから始まる。マルクスは〈これまでのすべての社会の歴史は階級闘争の歴史である〉と述べ，原始共同体を除いて，奴隷制社会の奴隷と奴隷所有者，封建制社会の農奴と領主，資本主義社会のプロレタリアートとブルジョアジーとの闘争はすべて階級闘争であるとしている。階級闘争は，階級的搾取の場である生産点の闘争から，国家権力をめぐる闘争まで広範(こうはん)な部面に存在し，普通には，経済闘争・理論闘争・政治闘争の三つの分野に分かれ，政治闘争によって総括される。マルクスは，歴史はこのような階級闘争によって発展してきたとして，これからの歴史の進歩も階級闘争によってなされることを予示した。階級闘争は階級のない社会である共産主義社会が実現するまでは消滅しない。階級および階級闘争の概念は，マルクス主義の最も基本的な概念である。➔階級意識　〔西尾孝司〕

かいぎゅうるい　【海牛類】　哺乳(ほにゅう)類・海牛目の総称。クジラに似た水生の草食獣で，海藻(かいそう)や水辺の植物を食べる。全身に毛がまばらにはえ，前肢(ぜんし)はひれ状で内部には5指がある。後肢は外部に現われず，尾は水平に扁平(へんぺい)なひれとなる。鼻孔は2個あり，吻端(ふんたん)に開き，

乳頭は胸に1対ある。生活はクジラ類に似るが，原始的なものは長鼻類(ゾウ)にきわめて近縁で，それから分化したものらしい。現世のものは二つに大別される。紅海・インド洋・西太平洋海岸に分布するジュゴン科のものと，南北アメリカとアフリカの大西洋海岸に分布するカイギュウ科のものとである。また，1741年にベーリング海で発見されたステラーカイギュウ(ジュゴン科)は，19世紀中ごろに絶滅したと思われる。➔ジュゴン ➔マナティー 〔今泉吉典〕

かいきょう 【回教】 ⇨イスラム教

かいきょう 【海峡】 二つの海洋を結ぶ狭い水域をいう。相対する陸地は，地体構造からみて連絡のある場合が多く，海峡の成因も，かつて連なっていた陸地が地盤の沈下や海面の上昇によって地峡部分が海没し，それまで隔てられていた二つの海を結ぶことになったところが多い。潮が海峡を通過するときに生ずる強い潮流は，海底の堆積物(たいせきぶつ)はもとより岩盤まで侵食して海釜(かいふ)とよばれるへこみを生ずることがある。海峡の多くは海上交通の重要な関門となり，海峡の周辺にはコペンハーゲン・ドーバー・ジブラルタル・イスタンブール・シンガポールなどのような商業都市が発達する。また政治的・軍事的にも重要で，古くはバルト海の独占をねらったハンザ同盟がスンダ海峡を支配し，デンマークもこれにならった。またイギリスは地中海の制海権を得てフランス・イタリアを封ずるためジブラルタル・スエズを支配し，ロシアに対抗してボスポラス海峡・ダーダネルス海峡の支配をめぐる争いを起こした。〔小栗　宏〕

かいきょうしょくみんち 【海峡植民地】 かつて，イギリスが直轄していたマライ半島南部各地に散在する地域の総称。シンガポール島・マラッカ・ディンディングス地方・ペナン島・ウェルズリー地方などである。1957年マラヤ連邦が独立し，シンガポールが自治領となるに及び，海峡植民地は事実上消滅した。

かいきょうとれんめい 【回教徒連盟】 パキスタン独立運動の中心となったイスラム教徒の組織。インド独立運動が行なわれていた1906年，ヒンズー教徒を主とする国民会議派*に対抗してインドの回教徒間における啓蒙(けいもう)運動のために，イスラム教徒の大地主・ブルジョアを中心に組織された。1926年ごろからしだいに影響力を増し，イスラム教徒を支持するイギリスに呼応して，国民会議派との対立を深めていった。1940年には，詩人モハメッド-イクバルがすでに1930年提唱していたイスラム教国の結成(イスラム教徒の数の多い西北インドにパキスタンを独立)を政治目標として掲げた。第2次世界大戦後さらに運動は激化し，結局，1947年8月パキスタンがインドから分離して独立した。独立後は指導的政党として活躍したが，1958年10月の軍事革命で政党活動を停止，1962年6月の民政復帰後はイスラム教徒連盟会議派とイスラム教徒連盟評議会派に分裂した。前者が与党である。〔広部和也〕

かいきょうもんだい 【海峡問題】 [1]黒海と地中海を連絡しているダーダネルズ海峡とボスポラス海峡の通航権と支配権をめぐる国際問題。東方問題*の一部でもある。両海峡の地理的位置がアジアとヨーロッパを結ぶ要路にあたるため，ヨーロッパ諸国の強い関心をひき，その自由通航をめぐって，諸国，特にロシアとイギリスの間に対立があった。1923年の対トルコとのローザンヌ条約*に付属する海峡条約で，両海峡の国際化と非武装化，および原則としていずれの国の商船・軍艦にも開放することが規定され，1936年のモントルー条約で若干の修正がなされた。第2次世界大戦後，ソ連からの修正提案がなされている。

[2]大西洋から地中海の入り口にあたるジブラルタル海峡，およびその要塞(ようさい)都市ジブラルタルの帰属をめぐるイギリスとスペインとの争い。これらの地帯は，スペイン継承戦争*中にイギリスがここを占領して以来，それが地中海西部の制海権を左右するところから，その帰属をめぐって争いがある。〔広部和也〕

がいきょく 【外局】 内部部局を意味する内局に対する。特殊な行政事務を処理させるため，総理府*および各省に置かれる行政機関をさす。各種の委員会と庁の2種類

府・省	委員会	庁
総理府	公正取引委員会 国家公安委員会	宮内庁 行政管理庁 北海道開発庁 経済企画庁 科学技術庁 環境庁・国土庁 沖縄開発庁 防衛庁 防衛施設庁
法務省	司法試験管理委員会・公安審査委員会	公安調査庁
大蔵省		国税庁
文部省	文化財保護委員会	文化庁
厚生省		社会保険庁
農林省		食糧庁・林野庁 水産庁
通商産業省		資源エネルギー庁　特許庁 中小企業庁
運輸省	船員労働委員会	海上保安庁 海難審判庁 気象庁
労働省	中央労働委員会 公共企業体等労働委員会	
自治省		消防庁

がある。外局の設置改廃は国家行政組織法(1980)によって定められ，現在設置されている外局は表のとおりである。

がいきょく 【外曲】 日本の伝統音楽でレパートリーの分類に使われる用語。本曲*と対する。主として，尺八・胡弓(こきゅう)・一弦琴の音楽について使われ，本来その楽器のためにつくられた曲ではなく，他のものを編曲したもの，あるいは他の楽器との合奏用に編曲されたものなどをさす。各ジャンルによって多少意味が異なり，また，同じ尺八音楽でも，明暗流・琴古流・都山流など流派が異なれば外曲とされる曲の数が増減する。〔山口　修〕

がいきよく 【外気浴】 戸外の新鮮な冷たい空気を吸って，呼吸器その他を鍛練すること。室内の暖まったよごれた空気ばかり吸っていると，塵埃(じんあい)吸入のために呼吸器を弱めるだけでなく，温度差による刺激がないため，呼吸器粘膜の冷気に対する順応の鍛練ができない。人体が冷たい空気に触れると，その冷たさからからだを守るためにのどや皮膚の毛細血管が急に収縮し，血液をからだの中心部に集中させる。もし暖かい室内にいるときのように皮膚毛細血管が拡張していると，冷気のためにどんどん体熱が失われ，かぜをひくことになる。かぜをひかないためには冷気にあたったらすぐ，反射的に毛細血管が収縮しなければならないわけで，外気浴はその訓練のために行なうのである。古くは肺結核の治療に用いたことがあった。乳幼児の保育には特に必要で，生後1か月ごろから始める。最初は朝早く，窓をあけて新鮮な冷たい空気を室内に入れる。5分間ぐらいから始め，だんだん延ばして30分ぐらいまでにする。乳児の月齢が進めば外に連れ出して行なう。うば車に乗せて樹木の下を散歩させることもよい。雨天でないかぎり続けてよく，食欲亢進(こうしん)にも効果がある。北ヨーロッパの都市の住宅街では朝早く戸ごとの玄関にうば車に乗せて乳児を出しておき，外気浴をさせている光景が見られる。ロンドンの産院では生後1週間ぐらいから，すでに病室のテラスに小ベッドを出して，新生児に外気浴をさせている。〔宇留野勝正〕

かいぎろん 【懐疑論】 われわれの認識は主観的・相対的であって，普遍的・客観的真理を認識することはできないから，断定的な判断を差し控えるべきであるとする思想的立場。独断論*と対立し，これを否定する立場をとる。

〔古代〕懐疑論はすでに古代ギリシアに興り，この古代懐疑論は次の3期に分けられる。①古懐疑派：始祖ピュロン*とティモンがその代表者。この派は，何事についても真の知識を得て確実な判断を下すことはできないからエポケー*(判断を中止すること)が必要であると説いた。②中期懐疑派：アカデメイア派中期のアルケシラオスとカル

➔378ページ

階　級

〔階級とは何か〕〈階級の一般的定義〉不平等に基づく社会の差別*をいう。各人がその生活上の行動の面で完全に共同体の中に埋没してしまっていた原始時代は別として，各人が自己の私的所有をもち，個人意識をもちはじめた，いわゆる文明時代にはいると，各人の間に不平等が現われるようになり，そのような不平等を基礎として人間の社会生活の面で差別がみられるようになった。このような人間の社会的差別が一般には階級とよばれるものである。社会的差別は権力*や財力の差に基づいて生じるが，それと同時に権力や財力をもつ者に対する社会的評価によって，威信の差も生じると考えられる。またそれらの差に平行して心理的満足感の点においても差別が生じる。それらの差によって，社会には大きく分けて三つの区別された階級が存在すると考えられることが多い。たとえば上層階級と中産階級と下層階級とに分けることは，一般に常識化している。この場合，同一の階級に属すると意識する人々の間には，平等感と親近感とが生じるが，自分たちの階級より上の階級の者に対しては尊敬の念をもち，それより下の階級の者に対しては軽蔑(けいべつ)の念をもつことが多い。しかしこのような階級を上中下に分ける分け方よりも，現実にはもっと多くの階級間の差別が考えられるから，もっと多くの階級に分けることができる。そうしたうえで，上に述べたような他の階級に対する尊敬ないしは軽蔑の念をもつことが一般には行なわれている。

〈階級の歴史上の区別〉上に述べた階級の定義は一般的な場合のことであって，階級的差別の実態は歴史的にみると違いがある。近代以前の社会においては社会的地位および職業*が世襲*的であることが多かった。古代社会においてもそういう傾向がすでにみられたが，中世の封建社会になるとその傾向は社会的制度となって固定された。つまり，職業および社会的地位の世襲的継承は社会的慣習によって，または成文によって固定され制度化された。このような階級概念は厳密にいえば，身分*といわれるべきものである。中世の封建社会におけるそのような階級すなわち身分の社会的に制度化されたものが，いわゆる身分制度*である。封建社会においては身分制度を固定することが社会の安定につながるところから，身分制度の維持は政治的に強く支持されたし，またそのためには身分相互の区別が厳守されるとともに，身分相互間の上下の関係が強調された。前者のためには，服装・住居・言語・行動様式，その他社会生活の全般にわたって身分上の差別が強調された。日本の封建社会の場合には，分際ないしは分限という語が用いられて，この身分上の差別が強調された。また身分上の差別を強調するだけではなく，差別された身分相互の間には上下の秩序，つまり位階*秩序が存立するものとされた。そして下の身分の者は上の身分の者に服従し，恭順の意を表すべきものだとされたが，このことは封建社会の支配者層にとっては好ましい社会安定の手段であった。封建社会における身分としての階級が，以上のような身分制度のために固定されたものであるところから，これを〈封鎖的階級〉とよぶことがある。これに対して，封建的身分制度が打破されて，法制上人間の自由と平等とが確保されるに至った近代の市民社会においては，〈開放的階級〉が現われるようになった。けだし，近代の市民社会においては職業や社会的地位の世襲制が廃止されたから，各人はその能力と努力とによって自己のめざす職業に従事し，自己の望む社会的地位につくことができるようになったからである。このような開放的階級が現われた社会を〈開放的社会〉とよび，それに対して封鎖的階級の見いだされる封建社会のことを〈封鎖的社会〉とよぶことがある。

〔封鎖的階級としての身分〕中世の封建社会においては身分制度が確立し，職業および社会的地位の世襲制が固定されるに至ったが，古代社会においては身分制度がそれほど固定化されるには至ってはいないが，それでもすでに身分制度的な社会的な慣習が形成されつつあった。たとえば古代ギリシアの哲学者プラトン*の思想のうちにはすでに身分としての階級の差別が主張されている。彼によると，国家*は治者階級と武士階級と庶民階級との三つの階級よりなるものとされている。治者階級は識見という真理を洞察(どうさつ)する徳が，武士階級は実行する能力を有する徳が，庶民階級は欲望をおさえる節制という徳が備わるべきものだと説かれた。これら三つの階級がそれぞれ自己に相応する徳を実現するときにはじめて，国家全体の徳である正義という徳が実現されるものだとした。このプラトンの階級観は，国家は三つの階級が有機的に結合することによってなりたつとする，一種の社会有機体説*を前提としていた。だが，国家の経済的基礎を担当する農工商の生産活動に従事する庶民階級が抑圧されるべきものであるとする主張は，その思想のうちに明白に指摘される。プラトンの時代にはすでに奴隷*制度が確立されていたのであるが，奴隷は彼の階級論の中には組み入れられて扱われていない。プラトンの弟子(でし)であるアリストテレス*においては，その奴隷制度は理論的にも基礎づけられるに至っている。アリストテレスによると，人間には，それ自身で独立している人間と，本性上他の人間に依存する人間との2種類があるとされ，前者が自由人であり，後者が奴隷であるとされている。つまり，奴隷というものは本性上他の人間に依存するものなのであるから，奴隷制度も当然肯定されることになるわけである。アリストテレスのこの奴隷観は，やがてヘレニズムの時代を経て，古代ローマ帝国の大規模な奴隷制度に依存する社会形態を予想するもののようであった。古代ローマ帝国の崩壊後，中世の封建社会が成立するが，ここにおいては身分制度が確立し，職業および社会的地位の世襲制が固定化する。いわゆる身分としての階級がはっきりした形をとって現われるのは，この時期である。身分の差別としては僧侶(そうりょ)・貴族・武士・平民などがあるが，これはアジアの封建社会とあまり変わらない。またそれぞれの身分の中にも位階秩序による上下の差別が厳然として存在することもまたすでに述べたとおりである。この封建的身分制度の一種であるが，宗教的色彩が特に濃厚であるために，特にカースト*制度とよばれて区別されるものがある。カースト制度というのはインドにおいて古代社会以来発生した一種の身分制度である。カーストつまり身分としては僧侶・貴族・平民・賤民の4種類が存在していたが，これをまた四姓とよぶこともある。

〔開放的階級としての階級〕近代の市民社会になると，封鎖的階級としての身分に代わって開放的階級としての階級が出現することは，上に述べたとおりである。法制上各人の自由と平等とが確保されるのであるから，職業や社会的地位の世襲は原則として廃止される。したがって各人の能力と努力によって帰属する階級が決定されることになる。そして階級間の差別といえば，権力や財力，および威信や心理的満足の相違によって生じる。権力や財力の点においてより大きく，また威信や心理的満足の点においてより多くのものを与える上位の階級に各人は努力して到達しようとする。ただし，好ましい上位の階級に到達しうるためには，単に努力や能力だけが条件だとはいいきれない。その場合に重要な条件となるものとして社会学者たちが指摘するのは，所得・職業・教育の三つである。所得の多少が階級の上下を決定する要素になることは，説明する必要がない。職業については，いかに多額の所得を約束する職業であっても，上位の階級にふさわしくないとされる職業がある。そして，所得と職業の二つの条件を決定するものとして，どのような種類の，またどの程度の教育を受ける必要があるかという条件が考えられる。いわば階級の上下を決定するものとして以上の三つの条件は重要視されるべきものである。な

おこれらの条件以外に，エチケットであるとか，ことばづかい，服装なども重要な要素であるとしてあげる社会学者もある。このように，開放的階級は各人の能力や努力を主とし，それにいくつかの条件を選ぶことによって決定されるものであるから，前に述べたように封鎖的ではなくて開放的なものである。したがってこういう開放的階級の上下関係はきわめて流動的である。すなわち各人がその能力と努力によって上位の階級に到達することができるとともに，また他の人間との競争によって追い越されたり，あるいは下位の階級に向かって落ちることもある。つまり，たえず上位の階級に向かって登っていく人々がいる反面，上位の階級から下位の階級に向かって下降する人々もいるわけである。上位の階級の人間とはいわばなんらかの意味で能力のすぐれている人間，つまりエリート*であるところから，かつてイタリアの社会学者パレート*はそういう階級間の上昇および下降の現象をさして〈エリートの周流〉と名づけたことがある。エリートの周流が活発に行なわれるのは，近代の市民社会の正常な姿であるというべきであるし，また近代の市民社会が開放社会であるといわれるゆえんでもあろう。だが実際問題としては，エリートの周流が近代市民社会の普遍的現象であるとは必ずしもいえない。たとえば経済的成長が最も活発に行なわれてきた20世紀のアメリカにおいても，第２次世界大戦以後はすでにエリートの周流のごとき開放的現象が純化しつつあるといえる。ここでエリートの周流として取り上げたものは，実は社会的可動性といわれる現象に属する。社会的可動性は地域的に移動する動態を示す水平的可動性と，階級の上下間を移動する動態を示す垂直的可動性とに分けて考えられるが，近代の市民社会が資本主義的経済を発展させるにつれて，水平的可動性と垂直的可動性との双方が活発化する傾向を示した。いわばこれらの可能性の活発であることは経済の上昇的傾向を示すものと解せられるのであるが，そうだとすると，垂直的可動性が不活発になり，エリートの周流が停滞することは資本主義経済の停滞的傾向を示すものだといえないことはない。

〔階層と階級〕 以上，封鎖的階級としての身分と開放的階級としての階級とを対比させて説明してきたが，これらの階級概念とはまったく異質的なものとしてマルクス主義*の階級概念が存在する。しかも，このマルクス主義的階級概念は19世紀以来，当時の多くの社会思想家たちとの対決を通して獲得されたものであり，いわば階級概念としては古典的なものであり，かつ典型的なものであるといわなければならない。そういうところから，しばしば社会学者は上述の封鎖的階級としての身分や開放的階級としての階級を階層*と名づけて，マルクス主義的階級概念と区別する。たとえば，前述の階級の上中下の３区分の場合の階級は，上・中・下の階層として考えられ，しかもそれら三つの階層が重なり合っていると考えられるところから，そういう階層相互間の重層関係のことを成層ないしは成層関係とよんでいる。もちろん重層関係をなす階層は必ずしも上中下の三つの階層だけではなく，それ以上数多くの階層と考える場合が少なくない。

さらにこのような階層としてとらえられた階級概念の特質として重視されるべきことは，それが少なからず主観性に依存していることである。階層としての階級概念が権力・財力・威信・心理的満足などによって構成されるものであるとすると，それらはいずれも主観性から脱却できない。心理的満足がまったく主観的なものであることはいうまでもないとして，威信といわれるものも，これは社会的評価によって決まるものである以上，やはり主観的なものである。さらに権力や財力にしてもどのような程度の，どのような種類のものがそれの内容となるのかということになると，やはり主観的判定規準を完全に脱却するものではない。このことは封鎖的階級としての身分よりは，開放的階級としての階級に特にあてはまる。それゆえ現代では，しばしば社会的成層関係が重要視されるが，それの客観性の欠如は大いに注意を喚起しなければならない。こういう階層の主観的性格とは区別されて考えられるものが，マルクス主義での階級概念である。マルクス主義においては，階級の区別の基礎を生産手段の有無においている。けだし人間が人間として動物と区別されるゆえんのものは，自己の生活に必要な生活資料を自分の手で生産すること，しかも道具を用いて労働することであるから，生産に必要な種々の生産手段を共有にしている段階（たとえば古代の遊牧民族において家畜という生産手段が集団全体の共有であったような）は別として，私的所有権が現われ，生産手段が私有化されてくると，生産手段を所有する階級と，生産手段を所有しないで生産のために自己の労働力を提供する階級との区別が生じてくる。このように生産手段の有無によって階級の区別が生じるとともに，生産手段を所有する階級が支配階級*として，生産手段を所有しない階級の労働を搾取することになる。それであるから，マルクスの考えによると，原始共産制*においては生産手段が共有であるから，そこにおいては階級の差別はなく，いわんや支配階級の存在もないとされる。原始共産制はいわば階級的支配が行なわれず，また政治権力をもとにした支配も行なわれない，各成員の平等な社会である。次に原始共産制が崩壊し，私的所有制が現われ，生産手段が少数者の手に握られるようになってくると，階級社会が成立する。階級社会においてはすべて生産手段を所有する支配階級が，生産手段を所有しない階級の労働を搾取することになる。それゆえ古代社会や中世封建社会においては，前述したような身分の差別があったにしても，それらの身分的差別を通して階級的対立があったと考えられる。また近代の市民社会における開放的階級に対しても，マルクス主義はこれを階層と考え，このような諸階層の重層関係の中に階級対立の構造が認められるとする。

〔開放社会と階級社会〕 マルクス主義の階級概念を否認し，現代社会の階級対立の事実を抹殺（まっさつ）しようとする論者は開放社会論を採用し，開放的階級としての階級つまり階層を承認して，生産手段の有無を基礎とする階級概念を拒否する。だが，すでに説明したように，階層概念は主観性に基礎を置くかぎり，科学的カテゴリーとして使用するのに欠陥をもっている。それに反して生産手段の有無を基礎とする階級概念は，客観性に依存するものとして，科学的カテゴリーとして使用に適するものである。だがマルクス主義においても，単に生産手段の有無を基礎とするだけでは階級問題を完全に取り扱いえない。生産手段の有無を基礎として支配階級と被支配階級とが一般的に区別されるだけではなく，現実にはそれぞれ階級意識*によって統一された階級的集団が取り扱われなければならないからである。そういう観点に立つならば，マルクス主義においても，単に生産手段の有無に基づく階級概念としての〈即自的階級〉と，生産手段の有無による差別の上になお階級意識を有する者の結合体としての〈対自的階級〉との区別が設けられている。階級意識は社会意識であるかぎり，人間の主観性にかかわるものであるが，そういう階級意識を根底から規定する物質的条件として生産手段の有無が考えられているかぎりにおいて，マルクス主義の階級概念は客観性に依拠しているといってさしつかえないであろう。

マルクス主義の階級概念をとるにしても，なお階層概念がやはり取り上げられねばならぬことは，否定できない。現代の大きな問題として注目すべきものは，ホワイトカラー*という階層の問題である。作業場の現場で肉体労働を行なっている労働者をブルーカラーというのに対して，事務系統の仕事に従事する者はホワイトカラーとよばれる。独占資本主義*の段階にはいってから機械化が進むのにつれてホワイトカラーが漸次増加するのに反して，機械的合理化の進

行はブルーカラーの数を減らす傾向にある。ブルーカラーの相対的減少とホワイトカラーの相対的増大という現象から，プロレタリアートの絶対的増加とその絶対的窮乏化はその階級的闘争を強化し，プロレタリア革命*を必然的なものとするというマルクス主義の主張は，すでに時代遅れになっていると主張する反共的論者も少なくない。しかし，ホワイトカラーとよばれる階層が2度の世界大戦を契機としていっそう貧困化していることは，否定できない事実である。また他方では，ブルーカラーがホワイトカラーに比較して相対的には所得が多く，特に所得の多いブルーカラーにはホワイトカラー的生活態度の模倣さえみられる。だが，ブルーカラーがホワイトカラー化したといって，労働者としての存在条件を失うわけではないし，またホワイトカラーが伝統的な労働者の生活様式とは異なったある点では，小市民的生活意識をもつ存在となっているにしても，やはり根本的な意味においてはプロレタリア階級に属している。けだしプロレタリア階級がプロレタリア階級であるのは，生産手段を所有しないで労働力を提供することによってのみ，自己の生存を保ちうるからである。だとすれば，この意味でホワイトカラーが新中産階級*とか新中間層とかよばれるにしても，その生存条件が自己の意識に上るならば，やはりプロレタリア階級に属することをみずから意識するようになる。ことに高度経済成長が進行する過程で労働の合理化，生産の合理化が強化されるにつれて労働の疎外*が進化するならば，ホワイトカラーといえどもプロレタリア的階級意識をもたざるをえなくなるだろう。〔樺　俊雄〕

ネアデス*がその代表者。彼らは神や真理の存在を疑ってその論証を否定するものは賢者となることはできないとして，蓋然(がいぜん)的な知識で満足すべきであると説いた。③新懐疑派:代表者はアイネシデモス，セクストゥス-エンピリコス。彼らはピュロンのエポケーの思想を復活させ，人間の知覚の不確実性や感覚の無能力を立証しようとしたほか，さらに真理の相対性を実証しようとした。

これらの古代懐疑論に属する人々が共通して求めたのは不安の根源である誤謬(ごびゅう)から解放されて心の平安(アタラクシア)を得るためであった。〔本橋正義〕

【近世以降】ルネサンス時代にすでにピコ-デラ-ミランドラ*・アグリッパなどに懐疑論の復活がみられるが，決定的には宗教改革が懐疑論の風土を準備した。ルター*の〈信仰のみによって義とされる〉という立場は真の信仰と偽の信仰の決定規準とはなにかという問題を生じ，この神学上の懐疑論はやがて哲学の問題となっていった。この傾向はセクストゥス-エンピリコスの《ピュロン綱要》が再発見されたことによって強まった。ピュロニスムの影響のもとでモンテーニュ*の〈クーセージュ(わたしはなにを知っているか？)〉が開花し，ピエール-シャロン(1541～1603)がそれを体系化した。サンチェス(1552ごろ～1632)は懐疑を方法的に用い，デカルト*に先駆する。デカルトは〈コギト-エルゴ-スム(われ思う，ゆえにわれあり)〉という命題によって，パスカル*は〈信仰へのかけ〉によってピュロニスムを克服した。他方，イギリス経験論においては懐疑を徹底することによってヒューム*の懐疑論が成立した。カント*は一方でヒュームを克服しようとしたが，〈物自体〉は不可能で，現象だけが可知であるとする《純粋理性批判*》の立場は明らかに彼の内の懐疑論的傾向を示しているといえる。19世紀には実証科学のめざましい成果のうえに実証主義*あるいは理性への信頼が絶頂に達したが，そのあとを受けて，世紀末から20世紀へかけて再び新たな懐疑思想が現われた。キルケゴール*の合理性批判，ニーチェ*の倫理批判もそうであるが，プラグマチズム・歴史主義などをはじめ，一般に現代思想は多少とも相対主義的であることをその大きな特色としている。〔石井忠厚〕

かいぐん【海軍】 おもに海洋・湖水・河川などの水上・水中およびその上空を活動の舞台とする軍隊。陸軍*・空軍*などと並び称せられる軍種の一。現代の各国海軍は一般に，艦艇部隊・航空隊・海兵隊・基地防衛隊・沿岸警備隊などと補給・整備，その他の管理機関を含んでいる。

【沿革】水面は地球全表面の約70%を占め，大量の人員・物資を輸送するのに最も適した交通路で，文明が進み，生産・消費が増大するにつれて海上輸送が発達してきた。この海洋を他の妨害を受けることなく自由に使用するためには，海上権力が必要である。海上権力とは，海洋利用のためになんらかの形で役だつ国力の要素を総合した力であり，海軍力はこの中に包含される。海上権力は時代の変遷，特に科学技術の発達による兵器の進歩に伴って，しだいに拡大し，複雑化してきた。

【歴史】大陸をおもな活動の舞台とする国家に対して，海洋をおもな生存発展の場とする国家を海洋国家という。古来，海洋国家は海外貿易や商船隊の建設に力を注いできた。そこでは必然的に海上権力が重視される。東地中海はフェニキア・ギリシアが活躍した古代海軍発祥の地である。次いでカルタゴ・ローマ・トルコの海軍が地中海を中心として植民と領土拡張を争った。13世紀末東方から伝えられた羅針盤(らしんばん)は航海術を発展させ，櫂走(かいそう)から帆走となり，海軍も地中海を離れて大洋に進出した。15世紀にはいると海洋の利用がもたらした地球上の諸発見は，ますます海洋の利用価値を高め，スペイン・ポルトガル，次いでオランダ・フランス・イギリスが大西洋・インド洋・太平洋の支配を争って戦いをくり返した。結局，終始新しい海軍力を建設・維持したイギリスが最後の勝者となり，第1次世界大戦まで〈七つの海〉を支配した。この間に特筆されることは，18世紀の，汽走船の発明，大砲威力の増大に伴う装甲艦船の出現，艦隊戦術の進歩である。また，19世紀後半から列国海軍の激しい軍備拡張競争が起こり，日本海海戦(1905)の教訓によって大艦巨砲主義が生まれ，造艦革命が行なわれた。イギリスのドレッドノート級(ド級)戦艦がその代表である。第1次世界大戦では，ド級戦艦を主力とするイギリスとドイツの二大艦隊の海上決戦が行なわれた。この戦いに敗れたドイツは無制限潜水艦戦を行なったが，これは劣勢海軍の優勢海軍に対する戦法として潜水艦の進歩を促すことになった。本大戦後，戦勝列国間で海軍軍縮の努力が行なわれたが成功せず，第2次世界大戦となった。開戦時の各国艦隊編成はなお主力艦中心主義であったが，やがて航空機の優劣が勝敗のかぎを握ることとなり，海上権力の主体は空母機動艦隊と基地航空隊となった。大戦後は，科学技術の急速な進歩により海戦と艦隊装備の大改革をひき起こした。誘導弾が大砲に代わる艦隊兵器となり，原子力が動力源としても実用化されるようになった。この結果，アメリカ・ソ連の海上権力は絶大なものとなり，他の国々とは比較にならぬものとなった。海軍が必要とする最も進んだ科学技術は小国の手に負えないような巨大な研究開発機構と経費をもって不断に推進されなければならないからである。

【各国海軍の現況】世界第1の海上勢力をもつアメリカは，全世界の制海権*を獲得するべく海軍を整備している。当初，その主体は制海に任ずる攻撃空母部隊と対潜水艦作戦に任ずる部隊であったが，1960年代には敵国内の主要目標を攻撃するポラリス潜水艦が整備されて，主要な地位を占めるようになった。このほか，水陸両用作戦部隊・商船護衛部隊・沿岸警備部隊などがある。ソ連は世界第2の有力な海軍をもっているが，その使命は制海権の獲得よりもむしろ敵国内の目標に対する戦略攻撃であり，したがって潜水艦勢力が主体となっている。その他の各国海軍は沿岸の安全確保がせいいっぱいであるから，戦時海上輸送の保護のためには集団安全保障にたよらねばならないであろう。中華人民共和国海軍

は沿岸防御用として逐年増強されてきているが，特に潜水艦建造に努め，ミサイル搭載(とうさい)潜水艦ももっている。

〔日本の海軍〕古代の記録によれば，神武天皇の東征，神功皇后の三韓(さんかん)征伐などに水軍を用いたとされており，考証上問題があるとしても日本民族の海洋思想をよく表わしたものといえよう。そのように強力であった水軍は，663年(天智2)朝鮮の白村江(はくすきのえ)の戦いで唐軍に敗れてから勢力減退し，国防の第一線も大陸から後退して国土の水ぎわとなった。701年(大宝1)の大宝令では兵部(ひょうぶ)省のもとに主船司の職があり，鎌倉幕府の制度中にも船奉行(ふぎょう)があったが，これは一般海事を扱うもので，正規の水軍が平時から組織されていたわけではなかった。したがって，1274年(文永11)および1281年(弘安4)の元軍の九州来襲には苦杯をなめ，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の朝鮮征伐(1592～1598)も陸戦では勝利を得たが海戦に敗れ，このため大陸政策に失敗した。なお，鎌倉時代の末期から，海外に進出して盛んに活躍した倭寇(わこう)は，国家的支援を欠いたため，イギリスのように海軍的役割を果たすことができなかった。そして，すべての海上戦力は，徳川幕府の鎖国政策によってまったく衰微した。江戸時代末期，西欧諸国の脅威が強まったため，幕府は近代海軍建設の必要を痛感し，1855年(安政2)海軍伝習所*を長崎に開いて海事をオランダから学び，1865年(慶応1)海軍奉行を設けて洋式海軍の創設に努めた。これにより，幕末の戊辰(ぼしん)戦争の際は，幕府側の軍艦8隻に対し官軍側は7隻をもって対抗するまでに成長した。1868年(明治1)明治政府は諸藩の海軍を接収するとともにイギリス式兵制への統一を図った。1872年兵部省が廃止されて海軍省が独立し，鋭意海軍の拡張に努めた。しかし，なかなか実現せず，1883年においても合計トン数は約50,000トンにすぎない。一方これに併行して，海軍根拠地として鎮守府・軍港・要港などの設備が逐次建設された。また中央機関では，海軍軍令は当初海軍卿(かいぐんきょう)の権限下にあり，次いで1878年設置された参謀本部が陸海共通の軍令機関となったが，1893年海軍軍令部が設けられて独立した。日本の海軍は，日清(にっしん)・日露戦争で優勢な清国・露国艦隊を独創的な海戦術により撃破し，一躍世界海軍国の仲間入りをした。その後，各種艦船の国産化が進み，第1次世界大戦後は世界第3位の海軍国となった。さらに軍縮・軍拡期を経て太平洋戦争開戦前は艦艇約480隻，約180万トン，飛行機約3,200機を基幹とする勢力になったが，この戦争では国力上長期戦に耐えることができず，1945年(昭和20)8月敗戦に伴って解体された。〔森田　哲〕

かいぐんしょう【海軍省】 日本海軍の軍政を管理していた内閣の一省。1872年(明治5)兵部(ひょうぶ)省が海軍省と陸軍省に分かれた。当時の海軍省は軍政・軍令の最高機関であったが，1893年海軍軍令部が分離独立したので，軍政のみの行政機関となった。海軍省には9局，6部，3外局があり，各鎮守府，艦隊司令長官は軍政事項について海軍大臣の指揮下にあった。


快　慶　地蔵菩薩立像(木造彩色)　東大寺蔵

かいぐんだいがっこう【海軍大学校】 海軍の最高学府で，高等の戦術を研究・教育した機関。1888年(明治21)創設。学生は甲種(高等兵学)・乙種(航海術・砲術)・機関(高等機関学)・選科(各自の専門学科)に分かれていた。

かいぐんでんしゅうじょ【海軍伝習所】 江戸末期，幕府が長崎に設置した海軍訓練所。1855年(安政2)オランダから幕府に蒸気外輪型軍艦(のちの観光丸)が贈られ，これを機会に海軍技術の訓練のため，長崎西役所をあてて伝習所を開いた。オランダ士官らを招き，永井岩之丞(ながいいわのじょう)が指揮した。1859年閉鎖され，伝習生は江戸の軍艦操練所に移った。勝海舟・榎本武揚(えのもとたけあき)・五代友厚(ともあつ)・佐野常民らがここで学んだ。〔松平秀治〕

かいぐんぶぎょう【海軍奉行】 江戸末期，海軍の事務を扱う幕府職名。1864年(元治1)幕府は老中松前崇広(たかひろ)を海軍兼陸軍総奉行に任じ，翌年海軍奉行を新設し，黒羽(栃木県)藩主大関忠裕(ただひろ)を初代海軍奉行に任じた。石高五千石。海軍一隊の将官で軍艦の操練や製造，品川沖の警戒などをつかさどった。1866年(慶応2)海軍総裁設置とともにその直属となる。1868年(明治1)廃止。

かいぐんへいがっこう【海軍兵学校】 海軍兵科将校を養成する学校。1876年(明治9)に創立し，1888年広島県江田島に移転した。生徒は一般の志願者，海軍下士官兵から試験により採用し，修業期間約4年で少尉に任官した。教育の内容は精神教育・軍事学のほか理工科系学科の多いのが特色である。舞鶴(まいづる)に海軍機関学校があったが，1944年(昭和19)兵学校に合併し舞鶴分校と称した。ここでは海軍機関科将校となる生徒を教育した。いずれも1945年敗戦とともに廃校。〔森田　哲〕

かいぐんりくせんたい【海軍陸戦隊】 日本海軍の臨時編制および特別編制による陸上戦闘部隊。建軍当初は常備の海兵隊があったが，のち廃止となり，各艦船の乗員をもって臨時に編制された。第2次世界大戦時には特別任務をおびた独立の陸戦隊編制がとられた。陸戦隊の任務は，平時は警備，居留民の保護など，戦時は上陸戦闘や局地の確保などであり，上海(シャンハイ)事変や太平洋の島々における活躍で有名になった。➔海兵隊〔森田　哲〕

かいけい【会計】 企業・家庭・官庁あるいは一国全体などの経済単位が営む経済活動を，貨幣単位をもって計数的に把握(はあく)するのが会計である。資本主義経済のもとでは，経済のおもなにない手は，株式会社を中核とする企業であり，しかも，複式簿記*を技術的手段にした本来の会計制度は，企業における会計として発展してきたところから，一般に会計という場合には，企業会計をさすものと考えられている。企業はもともと営利的な経済単位であり，したがって，企業会計においては，損益計算がその中心課題となる。また，企業活動は永続的に行なわれることがたてまえであるため，その損益計算は，人為的にくぎった一定期間(多くは6か月)ごとになされる。古くは，その期間の初めと終わりに所有する財産額の比較によって損益計算を行なっていたが，現在では，損益をもたらす原因を逐一記録し，利益をもたらす収益と，それを得るために要した価値犠牲分としての費用との差として損益を求める方式がとられている。なお，近年では，企業の管理のための会計が管理会計として，国民経済全体に対する会計が社会会計として，それぞれ発展をみている。〔山桝忠恕〕

かいけい【塊茎】 地下茎の一部が塊状に肥大して肉質となり，多量の貯蔵物質を組織の中にたくわえているもの。表面は薄いコルク層でおおわれ，多くの芽をもつ。維管束の配列状態や定芽が出ることなどから根とは区別される。ジャガイモ・キクイモ・クワイなどでみられる。塊茎をいくつかの小片に切っても，芽があればそれぞれ完全な個体に発育するので，栄養生殖器官としても重要である。

かいけい【快慶】 鎌倉初期の仏師。生没年不詳。はじめ運慶*の父の康慶について

学び，運慶とは互いにわざを競って造像したとみられる。その後彼は，慶派の流れをくみながらも自己の道を切り開き，個性豊かないわゆる安阿弥様(あんなみよう)をうちたて，運慶と並称されるようになった。その作風の特色は，写実を基礎としながらも優美繊細であり，伝統的な作風に積極的に宋(そう)風の様式を取り入れ，わが国の仏像における一つの典型をつくりあげた。代表作に，金剛峯寺(こんごうぶじ)の《孔雀明王(くじゃくみょうおう)像》，東大寺の《僧形八幡神(はちまんじん)座像》(国宝)《地蔵菩薩(じぞうぼさつ)像》，大報恩寺の《十大弟子(でし)像》などがある。
〔永井信一〕

かいけいかんさ　【会計監査】　すでに作成された会計記録の正否と適否について，作成者以外の第三者が吟味する一連の行為であり，監査の代表的なものである。ここでいう会計記録とは，会計に関係のある会計帳簿・証拠書類・財務諸表*などすべての記録をさす。会計監査には企業内部の第三者が行なう内部監査と企業外部の者が行なう外部監査*とがあるが，通常は後者をさして会計監査という。会計監査は会計の記録の行なわれるところではどこでも存在しうるものであるが，一般に知られているのは企業会計，ことに株式会社の財務諸表監査である。初期の会計監査は，誤謬(ごびゅう)や不正の摘発・防止を目的としたが，やがてそれらを内部監査に依存して，信用目的をもつ貸借対照表*監査を経て，現在では財務諸表監査に移っている。これは財務諸表のすべてを監査対象とし，当該期間の経営成績と作成日の財政状態を適正に表示しているか否かの検証をする。財務諸表監査は，外部の利害関係者を保護するためのものであり，監査報告書で意見を表明するまでを，通常監査の領域に含めている。〔山桝忠恕〕

かいけいかんさにん　【会計監査人】　会計監査を実施する人。広義には自然人たる〈人〉はもとより〈法人〉も含める。会計監査人には公認会計士*・監査法人，政府公共団体などの監査機関，信託会社などがあるが，通常以下のように分類している。

- 職業監査人(公認会計士・監査法人・信託会社など)
- 非職業監査人
  - 公的監査人(検査役*・会計検査官・銀行検査官)
  - 私的監査人(監査役・監事・内部監査人など)

〔山桝忠恕〕

かいけいき　【会計機】　⇨金銭登録機

かいけいけんさいん　【会計検査院】　国の収入支出の決算を検査する行政機関。毎年検査報告を内閣*に提出することが義務づけられている(憲法90条1項)。組織は3人の検査官で構成する決定機関としての検査官会議と，その下で執行にあたる事務総局とからなっている。検査官は衆参両議院の同意，内閣の任命，天皇の認証の手続きにより決められ，任期7年，1回に限り再任が認められる。適正な検査が行なわれるように，他の行政官庁より内閣に対する独立性が強く，その独立保障のために院内人事権の確立，規則制定権の独立，財政法上における予算の独立が認められている。〔寺尾方孝〕



懐月堂安度《立美人図》東京国立博物館蔵

かいけいし　【会計士】　⇨公認会計士

かいけいねんど　【会計年度】　国および地方公共団体の収支会計に関する期間区分をいう。各国とも通常1か年を期間として，これを一会計年度とよんでいる。予算は一会計年度ごとに設定されるが，各会計年度の経費はその年度の歳入をもって支払われなければならない。これを会計年度独立の原則という。始期については各国必ずしも同じでなく，日本・イギリス・ドイツなどの会計年度は，4月1日に始まり，翌年3月31日に終わる。アメリカ・イタリアでは7月1日から翌年の6月30日まで，フランス・ソ連では，1月1日から12月31日までとなっている。国および地方公共団体以外の諸団体においても，その収支は一定期間を区分して決算が行なわれるが，この場合には通常，事業年度とか営業年度とかいわれている。〔西野義彦〕

かいけおんせん　【皆生温泉】　鳥取県米子(よなご)市にある温泉。泉温74～86℃，泉質は食塩泉で，リウマチ・神経痛・外傷などにきくといわれる。日本海に突出した弓ヶ浜に湧出(ゆうしゅつ)し，海浜の景勝地で知られる。古くは〈海池(かいけ)〉とよばれた村落であったが，1900年(明治33)に温泉が発見されてから急速に発展した。松露(しょうろ)狩りや貝拾いが名物になっている。山陰本線米子駅からバスの便がある。

かいげつどうあんど　【懐月堂安度】　江戸初期の浮世絵師。生没年不詳。肉筆画を専門とし，豊満な美人の立ち姿に懐月堂美人とよばれる一典型を創始，多くの門人を擁する〈懐月堂派〉を主宰した。1714年(正徳4)，絵島生島*の事件に連座して伊豆(いず)大島に配流された。

かいけつびょう　【壊血病】　ビタミンCの欠乏によって毛細血管がもろくなり，出血しやすくなった状態。かつて船員が長い航海中，新鮮な野菜をとることが困難であった結果，ビタミンCの欠乏をきたしてこの疾患にかかり死亡することが多かったので有名となった。症状としては出血のほか，貧血・口腔(こうこう)内粘膜の変化(暗紫色腫脹(しゅちょう)・口内炎潰瘍(かいよう))・無力症を呈し，放置すれば出血によって，あるいは悪液質となって死亡する。治療はビタミンCの投与が行なわれる。ときに，人工栄養乳児にこの病気がみられるが，この場合はメルレルバロウ病という。いずれにしても現在ではほとんどみられない疾患である。
〔大橋辰哉〕

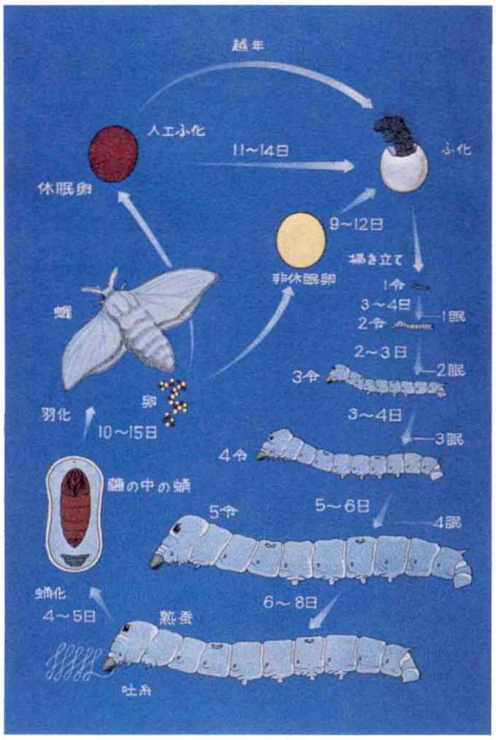
かいけん　【懐剣】　最も短い刀剣。護身用。ふところ刀，隠し刀ともいう。《義経記(ぎけいき)》に牛若丸が紺地錦(こんじにしき)で柄鞘(えざや)を包んだ守り刀を懐中にしたとあり，後世もふつう錦地で包んで，懐中での止まりをよくした。また，短い下緒(さげお)をつけ，その先端を結んで玉をつくったのは，帯にはさんだ場合に取り落とさぬためである。

かいげん　【改元】　年号を改めること。日本では645年，はじめて大化と年号を立てたが，650年(大化6)を白雉(はくち)としたのが改元のはじめである。天皇の即位にあたっての改元のほか，瑞祥(ずいしょう)・天変地異などによっても改めた。また中国の讖緯説(しんいせつ)に基づく辛酉(しんゆう)革命*・甲子(かっし)革命の年にも改めた。1代の間に数回，中にはわずか数か月で改元されることもあった。明治になり一世一元の制*が定められた。

かいげん　【戒厳】　戦時または事変などの国家の非常事態に際し，立法権・行政権・司法権の一部もしくは全部が軍隊に移る制度。戒厳の目的は平時における国民の諸権利を制限することにある。旧憲法はこれを認めていたが，新憲法は認めていない。➔国家非常事態宣言

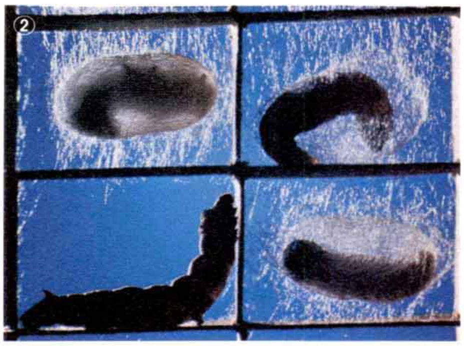
かいげん　【開眼】　仏眼を開くこと。詳しくは開眼供養という。新たに仏像・仏画や塔婆などをつくったり，古い仏像などを修復したとき，これらを供養して宗教的生命を迎え入れる儀式。この儀式によって仏像・仏画が知恵の眼を開き(すなわち入魂)，はじめて神聖な仏像・仏画となると信じられる。俗に〈お性根入れ〉ともいう。日本での最初の例は752年(天平勝宝4)4月9日，東大寺盧舎那仏(るしゃなぶつ)の開眼である。

カ イ コ



生 活 環



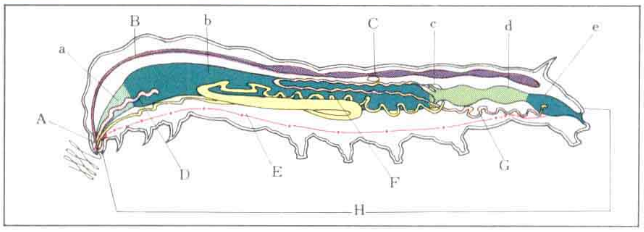






①孵化
②幼虫は糸を吐いて繭をつくる。
③さなぎ(図示するために繭を割った)
④羽化

A 脳　　a 前腸
B 背脈管　　b 中腸
C 生殖腺　　c 小腸
D 唾腺　　d 結腸
E 神経系　　e 直腸
F 絹糸腺
G マルピーギ管
H 消化管



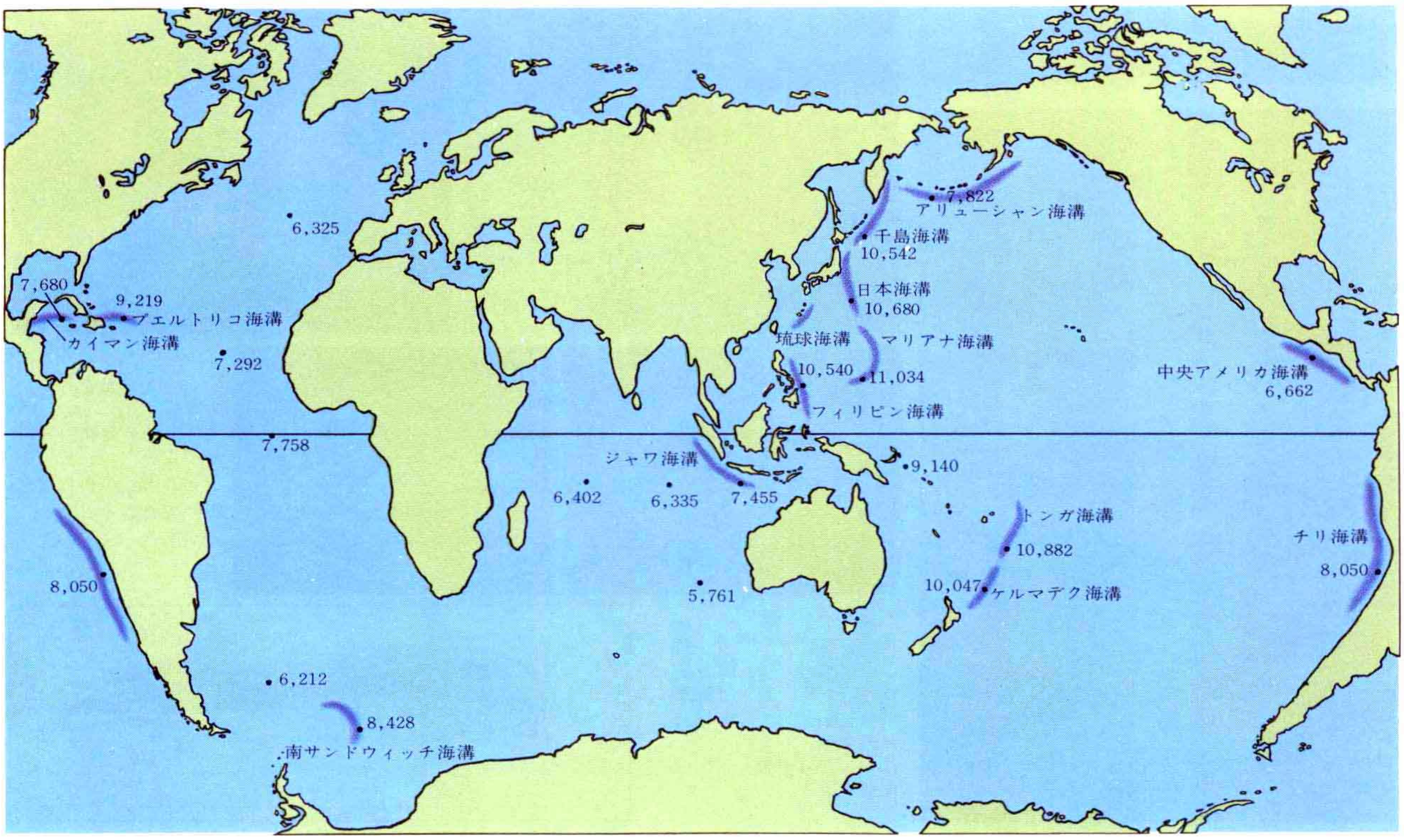
体制模式図

かいげんそく 【快原則】 快を求め，不快を避ける心的傾向のことで，快楽原理，快・不快原則などともいう。フロイト*は，快・不快をエネルギー経済論的に説明し，不快とは，欲求すなわちリビドー*の緊張が高まっているのにその緊張が解放されず欲求が満たされない状態であり，快はこの緊張解放の心的状態であると考えた。幼児は，この原則にしたがって行動するが，やがて自我*が形成されてくると現実を顧慮し，欲求の即自的満足をおさえたり，延期したりする現実原則に支配されるようになる。
〔松田健身〕

かいこ 【解雇】 使用者が一方的に労働契約*を解約すること。いわゆる首切りである。労働力を売る以外に生きる手段をもたない労働者にとって，解雇は，労働者の生活を脅かし，その基本的人権を踏みにじる可能性もある。それゆえ労働法は，使用者に対して，次のような制限規定を設けている。①労働者を解雇しようとする場合，30日前に予告しない使用者は，30日分以上の賃金を支払わなければ，6か月以下の懲役または5,000円以下の罰金に処せられる(労働基準法20条1項，119条)。民法では，2週間の予告つきで解雇できるように定めているが，新たに就職口を捜すための余裕やその間の生活保障のために，労働基準法では30日に延長した。②労働者が業務上の傷病や出産を理由として，休職している期間や回復期間中に解雇することは，労働者に大きな精神的影響を与えるので，このような期間に労働者を解雇することを禁じた(同法19条)。③労働者が組合に加入すること，あるいは正当な組合活動をしたことを理由とする解雇を，不当労働行為*として禁止した(労働組合法7条1号)。そのほか，人種・信条・社会的身分・性別などを理由とする解雇は，憲法や労働基準法の精神から公序良俗*に反し，また権利の濫用となるので無効とされる(憲法14条・労働基準法3条・民法90条)。
〔木元錦哉〕

かいこ 【蚕】 鱗翅(りんし)目・カイコガ科のカイコガ*の幼虫。繭をつくるもののうち最も有用なこん虫の一つで，この繭から生糸が得られる。カイコガの祖先は野外に生息するクワゴ*とみなされ，これはカイコガと交雑して子孫を残すことができる。カイコは動物学上は一つの種であるが，原産地によって，日本種・中国種・欧州種・熱帯種などに分類されている。卵→幼虫→さなぎ→成虫と変態して一生を終える(これを世代という)が，1年に1世代のものを一化性，2世代のものを二化性，3世代以上のものを多化性といい，化性によっても分類されている。農家で飼育されるものは，育種学的に優良な品種(原種)をいくつかつくりだし，これらの原種を交雑してできた1代雑種である。

カイコガの卵はやや扁平(へんぺい)な楕円(だえん)形で，長さ1.4mm，幅1mmほど，産卵直後は淡黄色である。孵化(ふか)したばかりの幼虫(毛蚕(けご))は体長3mmほどで，剛毛におおわれ，黒～黒かっ色である。幼虫はクワの葉を食物として著しい成長を遂げ，成長極度において，毛蚕に比べて体長で23～25倍，体重では約10,000倍に達する。最近，クワの代わりに人工飼料による飼育の研究が進められている。幼虫は孵化してから脱皮をくり返して成熟する。脱皮直前はクワを食べず眠っているようにみえるので，その回数によって三眠，四眠とよぶ。日本のカイコはふつう4回脱皮し，四眠性といわれる。最後の脱皮を終えた幼虫は，体が透き通ったように見える幼虫(熟蚕)となって，絹糸腺(けんしせん)に連なる頭部の吐糸管から糸を吐いて繭をつくり，その中で変態してさなぎとなる(蛹化(ようか))。さなぎは黄かっ色の紡錘形で，成虫となるための内部変化の著しい時期である。蛹化後2週間ほどたつと脱皮して成虫(ガ)となり，繭を破って出てくる。成虫は生殖・産卵の時期であり，出るとすぐに交尾・産卵し，まったく飲まず食わずで数か月を過ごして死ぬ。幼虫の体内には発育に必要な消化管・脂肪体・気管・マルピーギ管・筋肉・神経系・絹糸腺などの器官がある。このうち絹糸腺において絹タンパク質が合成され，繭糸として吐出されるのである。絹糸腺は幼虫の成長とともに著しく発達する。カイコの病気には軟化病*・硬化病*・微粒子病*・膿病*(のうびょう)などがあり，養蚕上特に恐れられている。➔養蚕 ➔繭 ➔生糸
〔赤井　弘〕



海　溝　世界の代表的な海溝　理科年表(1971)による

かいこう　【海溝】 海洋の平均の深さは約3,800mであるが，海の中には水深6,000m以上の深い場所が細長くしかも険しく幅の狭い溝状(みぞじょう)をなして大陸の周辺に存在する。これを海溝という。海溝中の特別な深みは海淵*(かいえん)とよばれる。太平洋の大陸周辺部には，特に海溝が多く集まっており，有名なものとしてはマリアナ海溝・日本海溝・フィリピン海溝などがある。大西洋にはプエルトリコ海溝，インド洋にはジャワ海溝などがあり，いずれも7,000m以上の深部をもつ。海溝と地震帯とは密接な関係がある。海溝の成因については，いくつかの説がある。➔海底地形　〔相原正彦〕

かいこう　【開港】 外国の船舶，または日本船舶であっても外国貿易に従事する船舶，いわゆる外国貿易船が通商の目的をもって出入りすることを許されている港。関税法2条に規定されている。

かいこう　【海口】 ハイコウ　中国広東(カントン)省，海南島北岸の都市，港市。人口13万(1961年推)。1858年の天津(てんしん)条約*により，1867年に開港された。しかし浅海のため大形船の停泊はきわめて困難で，約4km西の秀英港が利用されることが多い。海南行政区公署の所在地で，同島の政治・経済の中心である。貿易は中国本土の諸港や香港(ホンコン)との間に行なわれ，同島の全移出額・輸出額の2分の1を占める。中華人民共和国成立後は，機械・製糖・精米などの工業が行なわれ，道路交通の要地としても発展している。　〔千田　稔〕

かいこう　【海紅】 俳句雑誌。1915年(大正4)河東碧梧桐*(かわひがしへきごとう)主宰，滝井孝作*編集で創刊。荻原(おぎわら)井泉水*の主宰する《層雲*》を碧梧桐とともに脱退した大須賀(おおすが)乙字*・小沢碧童らが参加。1920年末からは中塚(なかつか)一碧楼*が主宰した。《層雲》と並んで大正期の自由律俳句の陣営を代表する雑誌であったが，《層雲》が季題を廃止したのに対し，《海紅》は季題を生かす立場をとってこれに対抗した。

がいこう　【外港】 ①海洋に面していない都市の出入り口の役割を果たす港。チリの首都サンチアゴに対するバルパライソ，高岡に対する伏木港など。②ある港が増加した貨客をさばくために増設した港。ハンブルクにおけるクックスハーフェン，新潟における新潟東港などはこの例である。

がいごう　【外合】 内惑星(水星・金星)・太陽・地球の順に一直線上に並ぶ現象。このとき内惑星は地球から最も遠くにある。➔内合

がいこうかん　【外交官】 外国と外交交渉を行なう際，国家を代表して実際的な交渉を行ない，国家の意思形成にあたる機関(公務員)の総称。国内法上の規律と同時に国際法上の規律も受ける。国内法上は外務公務員といわれるもので，臨時と常駐の場合がある。前者は国際会議などの際に臨時に派遣されるもので，後者は外国に継続的に駐在して，当該国とのいっさいの交渉を行なうものである。後者が一般に外交官とよばれるもので，大使・公使(2外交使節)と外交使節の随員(参事官・書記官)をさす。

一時的に一定の目的のために外国に派遣される使節は古代から存在したが，今日のような常駐的な外交使節が派遣されるようになったのは，中世末のイタリアの都市国家が相互に代表者を交換してからである。これが15世紀ころにはヨーロッパ諸国に行なわれるようになり，17世紀後半には，制度的にほぼ一般化して，外交官という特別の階級が生まれるようになった。外交官の地位については，そのほとんどの部分が国際慣習で定められてきたが，これを基に成文化したのが1961年〈外交関係に関するウィーン条約〉(1964年4月24日発効)である。

外交使節には，従来，特命全権大使(大使)・特命全権公使(公使)・弁理公使・代理公使の4階級を認めていたが，ウィーン外交関係条約において弁理公使を廃止した。これらの間には，その職務・待遇について異なるところはないが，儀礼的な席次・呼称が異なり，この順に従う。どの階級の使節を派遣するかは，派遣国と接受国の間で定める。現在ではほとんどが大使である。一国に駐在する外交使節とその随員で外交使節団を構成し，使節団は，大使・公使・代理公使を長として外交職員・事務技術職員・使用人からなっている。

外交関係の開設は当事国の合意によってなされ，外交使節の派遣は，相手国にアグ

レマンを求めてなされる。アグレマンとは，あらかじめ相手国に特定の人物について異議の有無を照会することであり，相手国が異議のない旨を答えるのをアグレマンを与えるという。好ましくない場合には，アグレマンを拒否してもよい。アグレマンを得た使節は信任状をもって派遣される。信任状は，特定の人を使節として派遣する旨を記載した文書で，本国の元首から相手国の元首にあてられたものである。信任状が接受国に受理されて，使節は正式に接受されたものと認められる。使節が接受国から転任・辞職・免職などで帰還する場合は，本国から解任状を受けてこれを接受国に提出し，接受国から信任答状を得て帰還する。その他，接受国との重大な紛争や開戦の場合，また，使節の不法または不当な行為があった場合には，これらの手続きを省いて，強制的にまたは自発的に退去することもある。

外交使節の任務は，一般的には，接受国において派遣国を代表し，自国民の利益を守り，接受国との間に友好関係を促進することなどであるが，具体的な職務としては，接受国との外交交渉，接受国の政治・経済・世論などの視察と報告，自国民の保障と監督などである。

外交使節と随員およびその家族には，国家を代表するに足る威厳の維持と，その職務を遂行するために，国際法上，広範な特権が認められる。この外交特権は，不可侵権と治外法権*がある。接受国は外交使節に対しては，特に敬意を払い，丁重に待遇しなければならず，外交使節の身体・名誉・館邸・文書は不可侵である。外交使節は接受国において，一般外国人と異なり，原則としてその統治権に服さない。裁判権・警察権・課税権の免除が認められる。ただし，民事裁判権については，原告または被告として訴訟に応ずる場合，私人として不動産所有に関するような場合には例外である。このほか，接受国において，通信・旅行などの自由も大幅に認められる。これらの特権は，外交官とその家族について典型的に認められるが，その他の者については制限的に認められる。なお，領事*については，国際交渉をその任務とするものではないが，密接な関係をもち，外交官に準ずる一定の法的地位が与えられている。〔広部和也〕

かいこうしゃ　【偕行社】　第２次世界大戦前，陸軍将校の親睦と学術調査を目的として設置されていた団体。1877年(明治10)創立。はじめはクラブとして幅の広い活動を行なっていたが，1888年陸海軍将校分限令が公布され，軍人の政治活動が禁止されたため，その後は単なる社交・共済の事業を行なう陸軍の外郭奉仕団体となった。機関紙として《偕行社記事》を発行した。陸軍部内でのただ一つのこの種の公的団体として将校間で利用され，終戦に至った。なお，海軍には同様の団体水交社*があった。

〔高崎徳次〕

かいごうしゅうき　【会合周期】　２個の惑星の黄経*の差が0°のとき(両惑星が合*にあるとき)から次に再び0°になるまでの平均周期時間。おもに地球とほかの惑星について使われる。会合周期を*K*日，惑星の公転周期*を*P*日，地球の公転周期を*E*日とすれば，

外惑星については，

$$\frac{1}{P}=\frac{1}{E}-\frac{1}{K}$$

内惑星については，

$$\frac{1}{P}=\frac{1}{E}+\frac{1}{K}$$

なる関係がなりたつ。会合周期が観測によって求められると，上の式から公転周期が決定される。〔木下　宙〕

かいこうず　【海紅豆】　双子葉植物・マメ科の木本。熱帯アジア・アフリカ原産。原生地では大高木になるが，温室で育てるものは1.5ｍぐらい。葉は互生し羽状複葉，小葉は長楕円(ちょうだえん)形。花は総状花序につき，白・黄色の花が混在し，香気がある。豆果は曲がって細長く10～20cmぐらいで，両端はとがり，中に10～12個の鮮紅色の種子がある。種子はビーズなどの装身具とされる。日本には明治末年に渡来。ブラジル原産のアメリカデイコをカイコウズと誤称することがある。〔横井朝子〕

がいこうせい　【外向性】　⇨向性

がいこうせん　【外航船】　外国貿易に従事する，いわゆる外国貿易船の一般的なよび方。これに対するものに沿海通航船すなわち内航船がある。税関法２条によれば，外航船は遠洋ならびに近海区域の航行資格を有する船舶でなければならない。

かいこうたけし　【開高健】（1930～　）小説家。大阪市の生まれ。大阪市立大学卒。はじめ洋酒会社のPR誌の編集に従い，1957年(昭和32)《パニック》《巨人と玩具(がんぐ)》で認められ，同年発表の《裸の王様》で芥川賞(あくたがわしょう)を受賞した。集団の中の人間疎外を寓話(ぐうわ)的な手法で追求，強い現実意識と行動的姿勢をもつ作家として評価されている。代表作《日本三文オペラ》《ロビンソンの末裔(まつえい)》など。ほかに海外旅行の体験に基づいた紀行ふうの文明論がある。

〔三浦　仁〕

がいこうてきほご　【外交的保護】　外国にいる自国民の損害について，国家が外国国家に対して救済を求め，外交手続きによって請求を行なうこと。国民は，外国にいるときは，その国の統治に服するのを原則とし，内国民待遇*が与えられる。外国において不当不法な措置を受けた場合，その国の法に従って行政的・司法的な保護・救済を求めることができると同時に，その国民の本国政府は，相手国に対して救済を求めることができる。これを外交的保護(または在外人民保護)という。外交的保護が行なわれるためには，その国民があらかじめ在留国の国内法上の救済手続きを尽くしていること，および，その国民が権利を害せられたときから，外交的保護がなされるときまで継続的にその本国の国籍を有していること(国籍継続の原則)が必要である。外交的保護は個人の損害を理由に国家が行なうものであるが，それは国家自身の行為であって，個人を代理したり，個人の名で行なうものではない。また，外交的保護の行使は国家の権利であるから，国民が契約などにより，あらかじめ，個人的に国家の保護を放棄することは認められない(いわゆるカルボ条項)。このような外交的保護は，しばしば個人の保護という趣旨から離れて，政治的に利用されることもまれではない。なお，無国籍者は当然このような保護を受けることはできず，また二重国籍者は，国籍を有する国家相互の間では行ないえない。

〔広部和也〕

がいこうは　【外光派】　⇨印象派

かいこが　【蚕蛾】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・カイコガ科。成虫の体長16～23mm，翅(はね)を広げた長さ38～45mm。雌雄ともに触角はくし歯状。体・翅ともに灰白色で，ときに暗色の細い帯が現われる。出現時期によって春蚕(はるご)・夏蚕・秋蚕に大別できる。幼虫はクワ類の葉を食し，カイコ*とよばれ，繭をつくってその中でさなぎとなる。非常に多くの品種があり，飼育が容易であること，比較的大形であること，人類にとって有益であることなどの理由から，種々の生物学的研究の好材料としてショウジョウバエなどと並んで，最も広く利用されてきたこん虫の一つである。

かいこく　【戒告】

①公務員の職務上の義務違反に対し，秩序維持の観点から本人を戒める懲戒処分。

②行政上において，代執行*する前提的な手続き要件で，相当の履行期間を定め，代執行をなすことをあらかじめ文書で通知する行為。

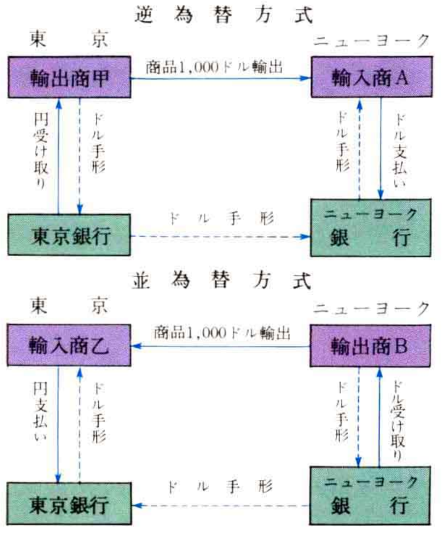
かいこく　【開国】　江戸末期，鎖国*を解き，諸外国と国交・通商関係を結んだこと。江戸幕府はキリスト教禁圧・貿易統制のために17世紀後半に鎖国し，以後200年余，琉球(りゅうきゅう)・朝鮮・オランダ・清(しん)以外の諸外国とは国交・通商関係をもたなかった。しかし18世紀後半以後，欧米列強国のアジア進出が盛んになり，日本への外国船来航も頻繁(ひんぱん)になった。しかし幕府はこれに対して鎖国策をとり続け，来航する外国船の取り扱いにつき，1791年(寛政３)外国船渡来処置令を出し，また1806年(文化３)には来航した外国船に対しては薪水を給与することを命じた。しかし1808年にイギリス船員上陸事件やフェートン号事件*などが起こったため，幕府は対外強硬策に転じ，1825年(文政８)異国船打払令*を発布した。しかし阿片(あへん)戦争後の1842年(天保13)，

異国船打払令をゆるめた。1844年(弘化１)オランダ国王が幕府に開国を勧告したが，幕府は鎖国は祖法であるとしてこれを拒絶した。その後1853年(嘉永６)アメリカの使節ペリー*が艦隊を率いて浦賀に来航し，武力を背景に開港と通商を要求するに及び，幕府は朝廷や一部の藩の反対をおしきって，1854年(安政１)日米和親条約*を結び，開国した。さらに1858年アメリカ総領事ハリスの要求により日米修好通商条約*を締結し，ロシア・オランダ・イギリス・フランスとも同様の条約を締結した。ここに鎖国は完全に破れた。開国の結果，自由貿易が行なわれて国内経済は混乱し，物価が暴騰し，攘夷論*(じょういろん)が高まり，尊王論*と結んだ尊王攘夷運動*がのちに討幕運動に発展し，やがて幕府を崩壊に導いた。〔松尾　涼〕

がいこくかわせ　【外国為替】　広義には，金を現送することなしに国際間に資金の移動を実現する方法，すなわち外国為替機構全体を意味し，狭義には，金を現送することなしに国際間に資金の移動を実現するための一般的手段そのものを意味する。一般には狭義に解して後者を外国為替と考える。外国為替には，電信為替・郵便為替・外国為替手形の３種類がある。これらは，いずれも，外国から資金を取り立てる場合(逆為替方式)にも，また外国に資金を支払う場合(並為替方式)にも利用される。

①電信為替：電信のさしずによって国際間に資金の移動を実現するもので，即日に資金の移動が完了する。特に急を要する場合以外は，一般には利用されず，もっぱら銀行相互間で利用される。②郵便為替：書信のさしずによって国際間における資金の移転を実現するものであって，もっぱら銀行相互間において利用されている。③外国為替手形：外国為替のうちで最も重要なものは外国為替手形である。為替手形は手形法に基づく要式証券で，法定記載事項が確定しており，そのいずれか一つでも欠くと無効である。為替手形である点において，内国為替手形も外国為替手形も同一であるが，両者の相違点は，外国為替手形の場合には手形当事者(振出人，受取人，名あて人もしくは支払人)のいずれかが外国の居住者であることと，異なった通貨の交換であるため外国為替相場*が関係してくることである。上の図は，外国為替手形を使用した場合の最も簡略化した図式で，現実には外国為替手形にはこのほかいろいろの種類があって，決済のしくみもいっそう複雑になっている。

為替手形はその支払い期日から一覧払い為替手形と期限付き為替手形，船荷証券*その他の担保証券が付随しているか否かによって荷為替手形*と荷落ち為替手形(クリーン-ビル)，信用状に基づいて振り出されたか否かによって信用状付き手形とプライベート手形などに分類される。国際貿易の決済にもっぱら使用されるのは，期限付きで



外国為替　外国為替手形

担保書類の付随した，しかも信用状*に基づいて振り出される外国為替手形である。〔安井孝治〕

がいこくかわせおよびがいこくぼうえきかんりほう　【外国為替および外国貿易管理法】　第２次世界大戦下の政府管理や，占領下の他国管理から離脱して，独立後の貿易を自主貿易に転換させるため設けられた貿易立法。その目的は，〈貿易の正常な発展を図り，国際収支の均衡，通貨の安定，外貨資金の有効な利用を確保するために必要な為替・貿易その他の対外取引の管理を行なう〉ことにある。1949年(昭和24)公布・施行され，1964年日本のIMF８条国移行に伴い，外国為替予算制度の廃止という重要改正を加えた。原則としては，戦前の貿易管理中心が為替管理中心に転換したものであるが，為替管理はある程度の貿易管理を伴うため，表記のような法律名となった。しかし，こうした国家管理をしだいに解除しようとするのが貿易および為替の自由化であり，これらの管理が全面的に改廃されたときに，わが国の自由化が完成されるといえよう。〔上坂酉三〕

がいこくかわせぎんこう　【外国為替銀行】　外国為替の売買，海外の代金取り立て，信用状の開設などの外国為替業務を取り扱う銀行。第２次世界大戦前には横浜正金銀行が外国為替専門銀行であったが，戦後は外国為替銀行法(1954)によって横浜正金銀行の後身である東京銀行が外国為替専門銀行となった。外国為替専門銀行は外国為替業務を主たる業務とし，国内の金融取引については制限を受ける。そのほか，〈外国為替および外国貿易管理法〉(1949)によって認可された外国為替銀行があり，外国為替専門銀行とともに外国為替公認銀行という。これには甲種と乙種があり，甲種為替銀行は東京銀行・外国銀行を含めて27行あり，乙種為替銀行は55行ある。乙種は為替取引・代金取り立てなどについて外国銀行との間に結ぶコルレス*契約，外国為替保有の面で制限を受ける。しかし，甲種・乙種の区分は現状に合わなくなり，大蔵省は1970年８月１日からこの名称区分を廃止した。〔速水　保〕

がいこくかわせしきんとくべつかいけい　【外国為替資金特別会計】　外国為替を売買するために設けている政府の特別会計*。輸出その他によって受け取った外貨は外国為替銀行*を通じてこの会計に集中され，代わりに円資金が民間に放出される。また，輸入その他のために必要とされる外貨は，この会計から為替銀行を通じて民間に売却され，その資金が円でこの会計に払い込まれる。したがって，国際収支が黒字であれば，この会計から民間への円資金の放出が増加し，国際収支が赤字であれば，この会計の民間円資金の吸収が増加する。この会計は，必要な円資金を，一般会計からの繰入金，外国為替資金証券の発行などによってまかなっている。〔安井孝治〕

がいこくかわせしじょう　【外国為替市場】　外国為替*の需要と供給が適合する一定の範域を意味し，広義には，対顧客取引市場(銀行と顧客との間で外国為替の売買が行なわれる市場)と銀行間取引市場(銀行相互間で外国為替の売買が行なわれる市場)の両者を含むものと考えられているが，一般には，銀行間取引市場のみをさす。外国為替市場では，外国為替の需要と供給が適合して，外国為替の価格，すなわち為替相場が成立する。外国為替市場を対顧客市場をも含めて広義に解すれば，その主要構成要素は，為替銀行・顧客・為替仲介人であるが，為替銀行が外国為替市場の中心的存在であることはいうまでもない。顧客には，商品貿易の決済，対外貸し付けなどの目的で為替銀行に外国為替の売買を求める実需筋の顧客と，為替投機の目的から為替銀行に外国為替の売買を求める投機筋の顧客とがある。為替仲介人とは，顧客と銀行，または銀行と銀行の間に介在して為替取引の仲介を行ない，仲介手数料を収得する業者である。また，外国為替市場を狭義に解して銀行間取引市場のみを考える場合には，為替銀行と為替仲介人とが，その主要構成要素となる。ロンドンやニューヨークのような国際金融市場には，高度に発達した外国為替市場が存在しており，手形の割引業者や手形の引き受け業者が重要な役割を演じている。〔安井孝治〕

がいこくかわせそうば　【外国為替相場】　一国の貨幣と他国の貨幣との間の交換比率。為替レートともいい，各国の貨幣の対外価値を表わす。外国為替相場の建て方には，支払い勘定建て(自国貨建て)と受け取り勘定建て(外貨建て)とがある。前者は，外貨１単位を基準として，これと交換される自

国通貨の単位数で為替相場を表示するものであり，後者は自国通貨１単位を基準として，これと交換される外貨の単位数で為替相場を表示する。受け取り勘定建ての場合，為替相場の騰落は，そのまま，その国通貨の対外価値の増減を表わすが，支払い勘定建ての場合はその関係は逆になる。為替相場には次のような種類がある。

①為替平価*：１国通貨と他国通貨との間の最も純粋な交換比率を表わすもので，基準相場としての意味をもつが，外国為替の売買に直接適用されることはない。②為替取引相場：実際の外国為替の売買取引に適用される相場。直物(じきもの)為替*相場と先物為替*相場とがある。③集中相場：外国為替の集中制度が実施されている場合に，政府が設定する公定売買相場(→外貨集中制度)。④大蔵大臣売買相場(→MOF(モフ)勘定)：IMF協定により，為替平価の上下１％の範囲内に設定される公定売買相場。各国政府により定められるもので，わが国ではこれを大蔵大臣売買相場(MOF売買相場)という。⑤基準相場・裁定相場・クロスレート：国際金融上有力なある１国の通貨を基準にして，自国通貨との間に設定される為替相場を基準相場という。基準通貨としては国際通貨が選ばれる。わが国では，１ドル=360円が基準相場である。裁定相場とは，基準相場と他の為替相場との関係から算出される為替相場で，裁定相場の算出に利用した第２の為替相場をクロスレートとよぶ。一般にはドルとポンドとの間の為替相場をクロスレートとよぶことが多い。〔安井孝治〕

がいこくこうくうしょかん　【外国航空書簡】　⇨エログラム

がいこくごきょういく　【外国語教育】　わが国の外国語に対する関心は，古くは遣唐使時代から中国語がおもで，漢学*はその変形として知識人の必修となっていた。鎖国政策をとった江戸時代には長崎に駐留を許されたオランダ人との交渉が唯一の外界との窓で，オランダ通辞が交渉の役にあたっていた。幕末にはオランダ語を習得して西洋医学の知識を吸収しようとする蘭学(らんがく)が勃興(ぼっこう)した。しかし，開国とともに諸外国との接触が始まると，蘭学はしだいに英学へと切り替えられ，明治初期からは，英語学習が各種の学校の創設の大きな契機となった。それ以来，学校における外国語教育は，その大部分が英語教育ということになり今日に至っている。現行の制度では，中学校の段階で英語の学習が始められる。これは選択科目になっているが，実際にはほぼ全体の生徒がこれを学習している。高校の入試科目にもおおむね英語が採用され，大学入試でも英語は最重要必須(ひっす)科目とみなされている。したがって，外国語に関する中学・高校の学習指導要領においてももっぱら英語の指導に関してきめの細かい規定がなされている。教授法については，1922年(大正11)に文部省顧問として来日したパーマー以来いろいろの方法がとられた。訳読偏重を改めて口頭での発表力の訓練が強調されたのは，特に戦後の外国語教育の特色である。また民間団体も英語の実用的な運用能力を高める組織を推進しており，ランゲージ-ラボラトリーその他の視聴覚教育器具の開発も盛んである。大学での外国語教育も英語が筆頭で，ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語がこれに次ぐ。なお，その他の外国語の教育には，外国語大学や大学の外国語学部がこれにあたっており，第２次世界大戦後この種の学校・学部が増加しつつある。〔林　栄一〕

がいこくじん　【外国人】　外国の国籍*を有し，かつ自国の国籍を有しない者の総称。無国籍者については外国人に準じて考えるのが普通である。かつては，外国人と自国民との間に差別を設けていた国が多かったが，基本的人権や私有財産制度が認められた今日では，原則として内外人は平等の地位を有する。外国人の入出国は原則としては国家が自由に規制することができるが，実際には，通商航海条約*で相互に入国を認めることが多い。入国を認められた外国人には，選挙権などの政治的権利や土地所有権など一定の権利を制限・禁止されるが，それ以外では内国民待遇*が与えられる。〔広部和也〕

がいこくじんとうろくほう　【外国人登録法】　日本に在留する外国人*が，一定期間内に所定の書類・写真を居住市町村長に提出し，登録証明書の交付を申請すること，および発行された登録証明書(２年間有効・再交付可能)を携帯することなどを義務づけた法律。1952年(昭和27)施行。

がいこくせんうちはらいれい　【外国船打払令】　⇨異国船打払令

がいこくぶぎょう　【外国奉行】　江戸末期の幕府職名。老中支配下で石高二千石。1858年(安政５)幕府は安政の五か国条約*締結に際して，諸外国と外交事務，使節の応接を行なう必要に迫られ，海防掛を廃して新設し，水野忠徳(ただのり)・岩瀬忠震(ただなり)ら５人をこれに任命した。新設当初は通商・貿易などいっさいの対外交渉事務を扱っていたが，その後対外交渉が幕府の重要事務となり，加えて1867年(慶応３)老中専任の外国事務総裁の職制が設置されたため，外国奉行はその重要度を減じ，1868年(明治１)廃止された。〔松平秀治〕

かいこくへいだん　【海国兵談】　江戸後期の兵学書。16巻。林子平*著。1786年(天明６)脱稿し，1791年(寛政３)自費で刊行。ロシアの南下を警戒すべきこと，対外防備の急なることを主張し，海国としての兵制を敷き，水戦・砲戦を研究することの重要性を説いたもの。当時幕府は藩政改革中にあたり，封建体制強化を進めていた老中松平定信(さだのぶ)はみだりに国防を論じたとして，版木を没収し，子平を禁錮(きんこ)に処した。

がいこくゆうびん　【外国郵便】　内国郵便に対比されるもの。1871年(明治４)，駅逓頭前島密*(ひそか)によって，当時横浜・神戸(こうべ)および長崎に設置されていたアメリカ・イギリス・フランスの郵便局を仲介として，海外との郵便交換が始められた。その後，これらの外国郵便局を撤廃するとともに，それまでの煩瑣(はんさ)な交換手続きを改善するため，1874年(明治７)アメリカとの間に日米郵便条約を締結し，翌1875年１月１日から実施した。1877年わが国は万国郵便連合*に加盟したが，これにより外国郵便の地歩が確立され，爾来(じらい)今日まで連合の発展と歩みをともにして進展してきている。この間，第２次世界大戦の末期には交戦国とはもちろん，ほかの諸国とも事実上送達不能の状態となり，また1945年(昭和20)８月15日の終戦とともに海外との交通通信はいっさい停止され，外国郵便も一時閉鎖の形となった。その後は，制限を受けながらも徐々に閉鎖は解除されたが，1947年，パリにおける第12回万国郵便連合大会議(わが国は，ドイツとともに参加を許されなかった)の万国条約の最終議定書によって再加盟が認められ，翌年７月１日，万国郵便条約と，小包郵便物に関する約定が公布され，外国郵便が再開された。その後におけるわが国の万国郵便連合内の活躍は，特にめざましく，常設理事国として連合の使命達成に寄与してきているほか，1969年10月には万国郵便大会議(５年に１回開かれる)が日本で開かれた。外国郵便の発展は，特に近年における文化・経済・技術など各方面での国際社会との接触の強化，国際協力の促進，貿易自由化の趨勢(すうせい)とあいまって，取り扱い物数の急激な増加をみている。とりわけ，航空機の発達，国際航空路線の飛躍的な拡充に伴う航空郵便物の増加は，最近における外国郵便の特色となっている。

外国郵便物の取り扱いは，通常郵便物と小包郵便物とに大きく分けられ，通常郵便物は，航空扱いのものとそれ以外のものとに区別され，書状・はがき(通常・往復)・印刷物・点字郵便物・商品見本・小形包装物・録音郵便物・価格表記書状・価格表記箱物ごとに一定の重量・容積制限のもとに料金が定められている。また，小包郵便物は，船便によるものと，航空便によるものとに区別され，名あて国別に一定の重量と大きさの制限のもとに料金が定められているが，小包郵便物の特色は，万国郵便連合の小包条約加盟国あての，いわゆる連合小包と，非加盟国あての２国間約定による小包の区別があることである。外国郵便物には，以上のほか書留・到達証・別配達などの特殊取り扱いがあるほか，取り調べおよび通報の請求，保管料あるいは通関料を徴収するもの，国際返信切手券の利用などが

ある。なお，沖縄あておよび万国郵便連合加盟国中の地域的な限定連合(アジア-オセアニア郵便連合)加盟国間では一部料金が低廉となっている。なお，朝鮮民主主義人民共和国・ベトナム民主共和国・ブータンあての小包郵便物は送達できない。〔高橋譲二〕

がいこっかく【外骨格】 内骨格に対する語で，皮膚の付属物としてでき，体の外面を包むようになったもの。皮膚骨格ともいい，動物の体を保護したりささえたり，また，筋肉の付着点となって運動に関係したりするような働きをもつ骨格の一種である。軟体動物の貝殻(かいがら)，節足動物に見られるキチン質でできた体の表面を包む構造，棘皮(きょくひ)動物の体表にある甲板などで，脊椎(せきつい)動物のうろこも一種の外骨格と考えることができる。〔蒲原春一〕

かいこのうじばえ【蚕蛆蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・ヤドリバエ科。キョウソバエ・カイコノハリバエなどともいい，養蚕業上の大害虫。成虫は体長12～15mmの灰黒色のハエで，翅(はね)は透明で開張25mm内外，前縁部は多少かっ色をおびる。全体幅広く，胸部背面に5本の黒色帯が走り，腹部は短くやや扁平(へんぺい)。腹部第2～4節の側部は赤かっ色，背面中央は幅広い黒色縦帯があり，多少光沢をおびる。日本全国のほか，中国・インドなどに分布し，カイコガその他の鱗翅(りんし)目幼虫に寄生する。クワの葉裏に産卵された卵は葉とともにカイコの体内にはいり，中腸で孵化(ふか)する。卵は4～5齢の壮蚕にのみこまれることが多く，寄生を受けたカイコは食欲減退をきたし，運動も不活発となり，いわゆる蠁蛆病(きょうそびょう)になる。繭を形成してさなぎになるころに病状が進行することが多く，カイコまたはさなぎが死亡するため，ガとなる歩合が減少して蚕種の製造に損害を与え，また，穴をあけられた繭は繰り糸が不可能となる。近年，本種に寄生するイサリア菌の人工培養が行なわれるようになり，これを生繭処理現場などにまいて本種の幼虫に接触させる生物学的な防除法が地域的に行なわれて効果をあげている。カイコガには，本種のほかにカイコノクロウジバエやクワゴヤドリバエなど数種の寄生バエが知られている。〔鈴木邦雄〕

カイザー［Georg Kaiser］(1878～1945) ドイツの劇作家。表現主義演劇の代表的作家。はじめ南アメリカで電気会社に勤務したが，帰国後，《カレーの市民》(1914)で名声を博し，《朝から夜中まで》《ガス》などの作品を書いた。それらは〈思索劇〉といわれ，資本と機械による人間疎外からの回復を志向したものである。のち，ナチスによって共産主義的ユダヤ的傾向とみなされ，刊行・上演の禁止や焚書(ふんしょ)にあい，スイスへ亡命した。日本でも戦前，築地(つきじ)小劇場によってその作品が上演されている。〔酒井　府〕

ガイザー［Joseph Geyser］(1869～1948) ドイツの哲学者。ネオトミズムの代表的な学者。フライブルク大学・ミュンヘン大学などの教授を歴任した。その学問的業績は形而上学(けいじじょうがく)・認識論・論理学・心理学の多方面にわたっているが，特にスコラ的なアリストテレス主義の立場に立つ実在論によって，これと近代哲学との総合をはかった点が評価される。著書に，《論理学と認識論の基礎》《原因の法則》がある。

カイザー-アルミニウム［Kaiser Aluminium & Chemical Corp.］アメリカの総合アルミメーカー。業界第3位。政府所有工場として第2次世界大戦中に設立された。ボーキサイト鉱床開発・アルミ製品生産を主とし，マグネシウム・肥料・耐火れんが・化学品も生産している。研究部門では輸送や冷凍関係，兵器に使えるアルミと鋼板を溶接して板にしたトランスジットインサートや，塩基性酸素製鋼用の耐火れんがなどの改良に成功し，化学品ではアルミと組み合わせた硬質ウレタン発泡品(はっぽうひん)を開発した。国外ではフランス・オーストラリアなどに進出，日本には総代理店があるほか新日本製鉄・昭和電工などと合弁してスカイアルミニウムを設立，アルミ加工を行なっている。また，不二サッシ工業・昭和アルミニウムが技術を導入している。本社カリフォルニア州オークランド。年間売上高9億3,000万ドル，従業員数29,000(1969)。

がいさい【外債】 外国で募集される国債・地方債・社債などをいう。外債のうち額面の表示および元利支払いが自国通貨でなされる内貨債と，募集地の外国通貨でなされる外貨債とがあるが，実際は後者が大部分である。日本の外債はアメリカ・イギリス・スイス・西ドイツなどで発行される国債・市債・社債が主であり，国際資本市場で引き受け業者に委託して公募される。わが国の外債発行は，1870年(明治3)に鉄道建設資金借り入れのためにロンドンで発行された9分利付き公債が最初のものであり，それ以後も第2次世界大戦前には各種の外債が多額に発行された。戦後では1959年(昭和34)の世界銀行融資のためのドル債をはじめとして，現在各種の外債が発行されている。〔速水　保〕

かいざいく【貝細工】 双子葉植物・キク科。オーストラリア原産の多年草。日本では越年草として栽培する。高さ80cmぐらいで，茎にひれがある。花は茎の先につき，黄色，のち黒色に変化し，あまり美しくない。花屋でいうカイザイクは本種とは別で，やはりキク科のムギワラギクのことをさす。これもオーストラリアの原産で，明治の初めに日本にはいり栽培されている。高さ50～90cm，夏から秋に茎の先に直径3cmほどの頭花をつける。頭花の外側に黄・白・淡紅色などの鱗片(りんぺん)状の総包をたくさんつけ，ドライフラワーとして適する。〔小清水義隆〕

かいさすうれつ【階差数列】 ⇒数列

かいさん【解散】

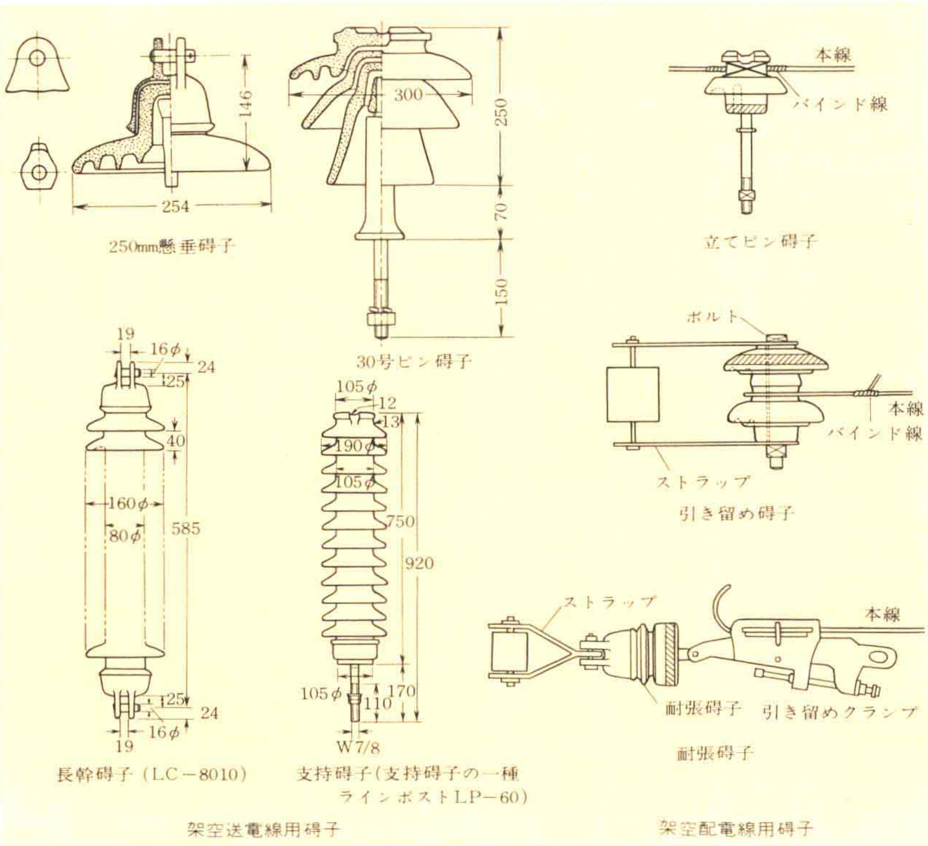
1議会の解散　議員の任期満了前に議員としての身分を失わせること。日本国憲法における国会の解散は衆議院のみに認められて(憲法7・69条)，参議院においては認められていない。解散の目的は国政の重大な問題について，議会の専断を抑制し，民意を問うことにある。解散には大統領・内閣などの議会以外の機関によって議会を解散に持ち込む他律的解散と，議会みずからの議決によって解散に持ち込む自律的解散とがあるが，わが国の場合は他律的解散がとられている。すなわち，衆議院で内閣の不信任決議案が可決されたとき，または信任の決議案が否決されたとき(憲法69条)，あるいは内閣が解散せざるをえないその他の原因(内閣の不統一，国民に判断を求めなければならない問題)が生じたときに解散が認められている。地方議会においても，解散権はふつう地方公共団体の長にあるが(地方自治法178条)，住民にも議会解散請求権が認められている(地方自治法76条)。

2会社の解散　会社がその目的である営業活動をやめ，会社としての活動能力のない状態にはいることをいう。すなわち清算または破産の段階にはいることである。しかし，会社は合併の場合を除き，解散によって直ちに消滅せず，既存の法律関係を処理するため，清算・破産の手続きが終了するまでは，その目的の範囲内で解散前の会社と同じ人格を持続する。解散の原因には存立時期の満了，合併，破産，社員の意思，裁判所の会社解散命令，会社解散判決，または株式会社以外では，社員数の不足などがある。

3法人の解散　一般に法人がその目的である本来の活動をやめ，残務の処理に着手することをいう。したがって，解散は法人の消滅を意味するのではなく，権利能力の範囲を残務の整理に制限することである。〔吉田善明〕

かいさん【開山】 山を切り開いて，最初に仏堂・仏塔を建設すること。また寺院を開創した僧の敬称でもある。同義語として開基の語が用いられるが，これも寺を開く意味である。また日本仏教の宗派の開祖をさす場合もあって，道元を開山禅師，親鸞(しんらん)を開山聖人ともいう。寺院の開山の祥月に修する法会を開山忌，開山を奉る堂を開山堂という。また古語では，はじめて事業を興した人，武芸などの創始者の意味でも用いられた。〔大南龍昇〕

かいざん【海山】 深海底からおよそ1,000m以上もそびえた山で，まったく孤立



碍　子


芥子園画伝

していするか，または比較的孤立している海底の隆起部。一般に，平面形は円形または楕円(だえん)形をしている。成因としては，海底火山かまたは侵食されることなく急速に沈降した火山島と考えられる。北西太平洋に多い。

がいさん【概算】 概数を使って答えのおよその値を求める計算。たとえば，2.83×4.35では3×4＝12とし，$12\frac{1}{5}\div 2\frac{6}{7}$では12÷3＝4として，答えのおよその値が求められる。概算はこのように，答えの見積もりをするのに用いられるほか，検算にも利用される。

かいし【懐紙】

1漢詩・和歌などの詠進の書式。懐紙*(ふところがみ)に書いたのがはじまりである。古くは檀紙*(だんし)・鳥の子*・奉書*などの無地を用いたが，のちにはさまざまな模様や下絵のある紙が使われた。著名な懐紙には熊野(くまの)懐紙・北山懐紙・二条懐紙などがある。料紙の右の端を手のひらの幅ほどあけて，端作(はしづくり)を1行または2行に書き，次に官位・氏名を1行に書く。漢詩は，七言絶句は3行5字，七言律詩は6行3字に書く。和歌は，1首は3行3字，2首・3首は2行7字，5首以上は2行に書く。女子は薄様*2枚を重ねて，上の1枚に歌を散らし書きにし，下の1枚に名を書くのが法式である。〔春名好重・桑田忠親〕

2茶席で使用する小菊紙の略称。菓子を取ったり，茶わんの縁をふいたりするのに使う。〔桑田忠親〕

かいし【会子】 宋(そう)代の紙幣の一種。北宋のころから臨安(杭州(こうしゅう))など大都市の金融業者は手形を発行し，商取引や送金に利用していた。この手形を会子といったが，南宋の高宗のとき業者の会子を禁じて政府の発行に移し，紙幣として通用させるようになった。しかし，のちにはこれを濫発したため価値が下落して経済は混乱した。

かいじ【界磁】 発電機や電動機などの磁場(磁束の存在する空間)をつくる部分や装置。界磁極・界磁巻き線などともいう。発電機は機械エネルギーを電気エネルギーに変換し，電動機は逆に電気エネルギーを機械エネルギーに変える。発電機と電動機は構造上なんら異なるところはなく，単に使用法の違いによりエネルギー変換の向きが変わるだけである。この種のエネルギー変換には磁場が必要であり，永久磁石のN・S極あるいはもっと一般に鉄心に巻かれたコイルに直流電流を流して磁場がつくられる。〔田村康男〕

がいし【碍子】 電気絶縁特性のすぐれた磁器絶縁層に支持金具をセメントで固定したもので，送電線や配電線の支持・引き留め・懸垂などに用いるもの。送電用として懸垂碍子・ピン碍子・長幹碍子および支持碍子がある。最もよく使われる250mm懸垂碍子は，1個で乾燥時80kV，注水時50kVの交流フラッシオーバー電圧(磁器表面に沿うアークを生じ，絶縁器具としての機能を失う限界電圧)を示し，12,000kgの懸垂の引張荷重に耐えるよう設計されている。高圧ピン碍子の耐電圧は，大気中で45kV(2分間)，油中で70kV(1分間)以上と定められている。〔田村康男〕

がいじ【外耳】 鳥類・哺乳(ほにゅう)類の耳の最外部で，鼓膜の外側をさす。哺乳類の外耳は，耳介と外耳道よりなる。鳥類には耳介はなく，ミミズクなどにみられる耳介のようなものは耳羽である。ヒトでは耳介の中の大部分は耳介軟骨が存在してその形を形成しているが，その下にある耳たぶには軟骨が存在しない。耳介には，耳介筋という耳介の運動にあずかる筋肉があるが，ヒトでは退化しているので一般に耳介を動かすことはむずかしい。外耳道は外耳孔から始まって軽く曲がった管をなし，その長さは平均約2.5cmで，管壁の入り口近くは軟骨からなり，その奥は硬骨からなる。外耳道の皮膚には耳毛や耳道腺(じどうせん)があり，耳毛は年をとると長くなる。また耳道腺からの分泌物が耳垢(じこう)をつくる。〔幡井　勉〕

かいしえんがでん【芥子園画伝】 中国の画譜。清(しん)の王槩(おうがい)兄弟の選で，初集および二集・三集がある。初集は，明(みん)の李流芳(りりゅうほう)の画譜を増補して16

79年ごろに李笠翁(りりゅうおう)の序文のもとに発刊された山水画譜で，二集以降は四君子・花卉(かき)・翎毛(れいもう)などの画譜で1701年の発刊。唐・宋(そう)以来の画論集を兼ね，あらゆる画家の素材・筆法・構成法の特徴を集録・分類・分析した図解の刊行本である。1748年(寛延1)わが国で翻刻され，南画の隆盛に寄与すること大であった。〔中島純司〕

かいしつガソリン【改質ガソリン】 重質ナフサ*をリフォーミングして得られるガソリン*。自動車用ガソリンの大部分を占め，芳香族炭化水素の含有量が多く，オクタン価*が高い。➔リフォーミング ➔ガソリン

がいじどうえん【外耳道炎】 外耳道入り口部から鼓膜に至る部分の炎症。①急性局限性外耳道炎(耳癤(じせつ))：軟骨外耳道(外耳道の外側に近い3分の1の部分)の皮脂腺(ひしせん)や耳道腺にブドウ状球菌などの化膿(かのう)菌が感染したために起こるできもの。耳かきで傷をつくったり，耳に水がはいったりすることなどで起こる。激しい痛みがあり，特に耳介をひっぱると痛む。外耳道が閉ざされることもある。3～6日後にできものはひとりでに破れ，うみが出てなおる。聴力はほとんど侵されない。②外耳道湿疹(しっしん)：外耳道および入り口部が赤くなって湿り，かゆみがある。これは慢性中耳炎の耳漏(耳だれ)の刺激によることが多く，乳幼児に多い。③外耳道真菌症：かびの一種が寄生することによって起こり，かゆみ・耳垢(じこう)様物質・耳漏がある。治療は耳を清潔にし，抗生剤などを用いる。➔外耳〔石井哲夫〕

がいしどうにゅう【外資導入】 ある一国の居住者が他国の居住者に資本を貸し付けた場合，貸し付け国は資本を輸出するといい，借り入れ国は資本を輸入するという。ここで資本とは，機械*・資材などの実物資本ではなくて貨幣資本*であり，貸し付け期限の長短によって短期資本と長期資本とに分類される。短期資本であれ長期資本であれ，外国から資本を借り入れることを資本の輸入というが，わが国では，特に外国から長期資本を借り入れることを，外資導入とよんでいる。外資導入の具体的形態としては，外国市場における株式の発行，社債の発行，借款，技術導入*などである。借款は外貨ローンともよび，世界銀行*・ワシントン輸出入銀行のような国際機関や外国政府，また外国の民間の金融機関などからの長期資金の借り入れである。技術導入は技術援助契約に基づくものであり，広義には外資導入に含めて考えることができる。わが国は，戦後，ことに昭和30年代に多額の外資を導入してきたが，そのうちで中心をなすものは借款(外貨ローン)であった。外資の導入は，当時のわが国の国際収支の経常取引収支の赤字を金融するとともに，わが国の経済成長の促進に重要な役割を演じた。外資法の緩和化に伴って，今後は借款のみならず株式・社債の発行をも含めて，外資導入はますます増加する傾向がある。〔安井孝治〕

かいしめい【改氏名】 氏*(うじ)(姓)または名を変更すること。氏や名が非常に書きにくい，読みにくい，珍奇であるなど，やむをえない事由がある場合，届け出により変更できる。戸籍法107条の①には〈やむをえない事由によって氏を変更しようとするときは，戸籍の筆頭に記載した者およびその配偶者は，家庭裁判所の許可を得て，その旨を届け出なければならない〉と規定されており，市役所や町村役場などへ氏変更の届け出をすることにより効力を生ずる。しかしこの効力は同一戸籍内のすべての者に及ぶため，家名に関連した家*制度のなごりをとどめていると理解されている。名の変更については，正当な事由によって家庭裁判所の許可を得て，本籍地または届出人の所在地の市町村役場に届け出なければならない。営業上の襲名とか同姓同名による紛らわしさとかの理由でも，本人の申し出により許可されるが，姓名判断などの理由では認められない。〔椿 輝男〕

かいしゃくがく【解釈学】 解釈学hermeneuticsはギリシア語hermēneuō(通訳する)に由来し，理解の技術の理論をいう。理解とは，外部において感性的に与えられる記号から内部を認識する過程をいう。解釈学は，文字に書かれたものを解釈・批評するための技術や規則として文献学*の方面で開拓された。アリストテレスの《弁論術》はその先駆であり，アレキサンドリアの文献学は聖書解釈問題で解釈学の理論を樹立した。ルネサンス以後，解釈学は著しく発達した。フランキウス・バウムガルテン・F.シュレーゲル・F.A.ウォルフらが多くの成果を収め，シュライエルマッハー*がそれをさらに発達させた。彼は解釈の諸規則の背後に突き進んで，解釈の構造および可能性を分析し，文学作品を創造する精神を生の直観の中で理解し，作品全体を統一的に解釈する過程を考察した。彼の弟子(でし)ベック(1785～1867)は文献学の課題を〈人間精神によって生産されたものの認識〉と規定したが，これを受けて解釈学を哲学の方法論に深化したのがディルタイ*である。彼によれば歴史的社会的存在は生の表現であり，そこには生の内面(体験)と外面(表現)の関係があるから，解釈学は哲学と歴史科学を結びつける基本的な方法となる。こうして，解釈学は現実存在の解釈という意味を有して哲学一般の方法となり，ハイデッガー*に継承された。〔中川 誠〕

かいしゃこうせいほう【会社更生法】 債務が超過したり，資金繰りが悪化したりして窮境にはあるけれども，再建見込みのある株式会社*について，債権者・株主その他の利害関係人の利害を調整しつつ，その事業の維持更生を図ることを目的とした法律。この法律の定めに従って，会社は裁判所に救済を求め，これが裁判所で認められると更生手続きが開始され，裁判所の任命した管財人の手で，一般債券・担保債券・株式をも含める一定の手続きによって更生計画が決められる。この計画に従って，債権の切り捨て，資本の減少など，その会社の実態に即応した会社の更生が図られる。会社更生法は，その会社の更生を目的とする点で，会社財産を債権者に平等に配分する破産法*とは異なる。〔松本治雄〕

かいしゅう【海州】 ヘーチュ 朝鮮，黄海南道の主都。高句麗(こうくり)以来の古い集落で，現在の名は，この地が大海に臨むところから高麗(こうらい)太祖王建が命名したものである。人口10万(1964年推)。中国への交通の要地として五指にはいる大都市であったが，京義線(京城～新義州)からそれているため，一時発展が停滞した。その後，沙里院(しゃりいん)で京義線につながる黄海青年線の終点となり，現在では黄海道の政治・経済・文化の中心地として急速に発展しつつある。セメント・建築資材・金属加工・陶磁器などの諸工業が盛んで，医科大学・師範大学などもある。また名所・古跡にも恵まれている。〔矢守一彦〕

かいじゅう【海獣】 海にすむ哺乳(ほにゅう)類の総称。ジュゴンやマナティーを含む海牛目，アシカ・アザラシ・セイウチなどからなる食肉目のうちの鰭脚(ひれあし)類，ナガスクジラ・マッコウクジラ・マイルカなどからなるクジラ目がこれに属する。体は紡錘形で，四肢(しし)はひれ状に変化し，遊泳に適する。

かいじゅうせき【灰重石】 タングステンの重要な鉱石。$CaWO_4$ 正方晶系。比重6.1，硬度4.5～5，{111}に劈開*(へきかい)がある。灰色または黄かっ色がかった半透明の結晶で，紫外線をあてると螢光(けいこう)を発するので，セキエイなどと区別することができる。わが国のおもな産地は，大谷・鐘打(京都府)，生野(いくの)(兵庫県)，藤ケ谷(ふじがや)・玖珂(くが)(山口県)，高取(茨城県)，恵比寿(えびす)(岐阜県)，屋久島(鹿児島県)の8鉱山。世界では，中国・ビルマ・マレーシアなどに多く産する。〔河原 昭〕

かいじゅうせんじ【海住山寺】 京都府相楽郡加茂町にある新義真言宗智山(ちざん)派の寺。補陀落山(ふだらくさん)ともいう。735年(天平7)聖武(しょうむ)天皇の勅願によって，良弁*(ろうべん)が建立(こんりゅう)して観音寺と称した。1137年(保延3)焼失したが，1208年(承元2)貞慶(じょうけい)が再興して現在の寺号に改めた。鎌倉時代の和様建築である五重塔(国宝)や文殊堂(もんじゅどう)(重文)などの建築のほか，本尊十一面観音像もすぐれている。

がいしゅうだん【外集団】 ⇨内集団・外集団

かいしょ【楷書】 ⇨書体

かいじょう 【階乗】 1からnまでの自然数全部の積をnの階乗といい，n！または$\lfloor n$で表わす。たとえば，5!＝1×2×3×4×5＝120である。この定義からは0！は無意味であるが，計算を便利にするために0！＝1と定めている。

階乗の数値表

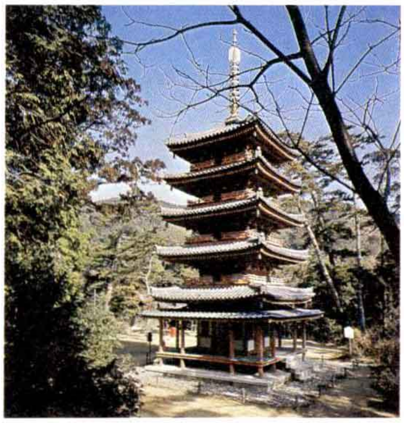
0！＝	1
1！＝	1
2！＝	2
3！＝	6
4！＝	24
5！＝	120
6！＝	720
7！＝	5040
8！＝	40320
9！＝	362880
10！＝	3628800

かいじょう 【開城】 ケーソン 朝鮮，黄海北道の都市。ソウル(京城)の北西78kmに位置する。人口24万(1962年推)。高麗朝(こうらいちょう)31代，470余年の王都で，四方が松山で囲まれているため〈松都〉とよばれた。李朝(りちょう)の太祖成桂(せいけい)に滅ぼされ，1395年王都がソウルに移されたのちにも商都として栄えた。特産のチョウセンニンジンは高麗ニンジンの名で知られ，開城ハクサイも全国的に著名である。朝鮮戦争でいくたびか戦場となったが，王宮跡の満月台，高麗朝末期の儒臣鄭夢周(ていむしゅう)を祭る崧陽(しゅうよう)書院，彼が李成桂に暗殺された善竹橋などの古跡・名所が多く残り，博物館・松都政経大学などの文化機関もある。戦争後は非武装地帯の北側の〈新開放地区〉に属し，板門郡・開豊郡・長豊郡を合わせて〈開城特別市〉制が敷かれた。大規模な繊維工場をはじめ，ゴム・陶磁器など数十の近代工場をもつ工業都市として発展しつつある。 〔矢守一彦〕

がいしょう 【街娼】 街頭で売春行為を誘う私娼をさし，夜鷹(よたか)・ステッキガール・パンパンガール・コールガールなどとよばれている。売春防止法*(1957)施行後はつねに取り締まりの対象とされている。中でもコールガール形態をとるものは，〈ひも〉(背後で女をあやつる情夫)とのつながりをもつ傾向が強い。

かいじょうきしょう 【海上気象】 大気と海面が接していることから，両者の相互作用によって起こる気象の現象。しかし，海面上では，一般に陸上に比べて観測が困難なために不明の点が多い。水は土壌(どじょう)に比して熱容量が大きいので，海水温は変動が少なく，したがって海面水温とその上の気温との間に差のあることが多く，大気と海面の間の熱交換が大きい。また，海面からの蒸発が盛んで，海水は水蒸気の形で大気中に送られ，それが凝結して雲となり，降水として海にもどってくる。蒸発に際しては海から熱を奪い，凝結のときには熱を放出して，大気を暖める。このように，蒸発・凝結による海と大気との熱交換のほうが，直接的な熱交換よりはるかに大きい。前者を潜熱といい，後者を顕熱という。降水現象に関与する水分の大部分は海面からの蒸発による水蒸気である。さらに海流には寒流・暖流などの別があるために，海面水温が急変するところがあり，その影響によって，大気中に局地的な不連続線を形成することがある。また，水蒸気を含んだ暖気が，海面から冷却されて海霧となることがある。次に，重要なのは波浪*である。波浪には，風浪とうねり*があり，前者は風が海上を吹くために起こり，後者は風がやんだのちに風浪が変化したものである。風浪はその山がとがっており，山と山との長さは数メートルから数十メートル程度で比較的小さいが，うねりは山が丸く，山と山との長さが大きく，数百メートルに達することがある。風浪が進行して，風の吹いている場所外に出るか，風が吹きやむと，風浪の中の比較的波長の短いものは減衰して，長い波だけ残り，その表面が丸くなったのがうねりである。また，下に台風などの強風が海面を吹くときに，水量がたまって風下の海岸の水位が高くなっている現象が高潮*である。台風の中心近くでは風が強く，気圧も低いため，吸い上げ作用でいっそう水位が高くなる。その次に重要な要素として表面摩擦がある。陸上に比して，海面上では摩擦効果が小さい。海上を進行中は強大な勢力を維持する台風が上陸して急に衰弱するのは，そのためである。

海上気象の予報は，船舶や飛行機の安全性確保に重要な問題である。気象機関は，船舶・飛行機からも資料を提供してもらい，多くの資料を駆使してできるだけ速く，しかも正確な予報を出すよう努力している。 〔曲田光夫〕



海住山寺 国宝の五重塔

かいじょうこうほう 【海上航法】 ⇨航法

がいしょうごしんけいしょう 【外傷後神経症】 外傷，ことに頭部外傷後にその後遺症と区別しにくいような形で2次的に発生する神経症的症状のこと。おもに神経衰弱様の症状を訴える。

かいじょうじえいたい 【海上自衛隊】 ⇨自衛隊

かいしょうのはいぶつ 【会昌の廃仏】 中国仏教史上で三武一宗の法難といわれる廃仏毀釈(きしゃく)の一。唐の武宗の会昌2年(842)から6年にかけて行なわれたもので，26万余人の僧尼を還俗(げんぞく)させ，40,000余の寺院を廃毀して寺田数千万頃(けい)，奴婢(ぬひ)15万余人を没収した。僧団の粛清，膨大な寺院財産の整理による財政立て直しが目的であったが，これを境に旧来の仏教は凋落(ちょうらく)の道をたどった。

かいじょうほあんちょう 【海上保安庁】 海上交通の安全，治安の維持を主たる業務として，1948年(昭和23)運輸省の外局として設けられた官庁。業務内容としては航海標識業務(燈台の管理，船舶の電波誘導)，水路業務(海流・潮流・海底地形の測量，資料の作成)，港内の治安，海難救助・海難原因の調査，海上犯罪(密輸・密航など)の取り締まりなどがあげられる。これらの業務遂行のために全国を10管区海上保安本部に分け，それぞれ巡視船・航空機を配し，警戒や調査にあたっている。 〔寺尾方孝〕

かいしょうほう 【海商法】 商法*のうちで，海上企業に関する特殊な法規の全体をさす。商法第4編に海商としての規定を設けている。海上企業は，広大かつ危険の多い海洋において，高価な船舶により行なわれるという特殊性があるため，特にこのような別個の法規が設けられている。その性質上国際的に統一される傾向が強く，国際統一条件や普通取引約款が成立し，各国で取り入れられつつある。

かいじょうほかく 【海上捕獲】 戦時において，交戦国が敵の船舶や貨物，ある種の中立*船舶や中立貨物を公海*または領海*上で捕獲すること。敵の経済生活に打撃を与え，他方では中立国国民の商業の自由を維持するという相対立する二つの要求を背景として，これを規制するために海上捕獲制度がある。海上捕獲が認められるのは，①敵船および敵貨の捕獲，②封鎖侵破を現になした中立船舶および貨物の捕獲，③戦時禁制品の供給防止のための捕獲，④軍事的援助(非中立役務)，すなわち一方の交戦国の軍事的利益となるような特定の行為を中立国国民が行なう場合に，これを防止するための捕獲である。①については，敵の船舶は原則としてすべて捕獲されるが，この例外として，沿岸漁業と地方的航海に従事する船舶，病院船，宗教・学術・博愛の任務を有する船舶，およびカーテル船(捕虜交換船)は捕獲されない。③については，絶対的禁制品は敵国領域・占領地・軍隊に向けられたことが証明されたとき，相対的禁制品は敵国軍隊または行政庁に向けられたことが証明されたときに捕獲される。海上捕獲を行なうのは交戦国の軍艦に限られ，また，捕獲の場所は公海と交戦国領海に限る。捕獲の手続きは，まず海上で停船を命じ，臨検・捜索を行ない，捕獲の理由があることが判明した場合には拿捕(だほ)して捕獲審検所に引致し，そこで検定を行なって捕獲を確定する。臨検とは，軍艦から士官を派遣して，船舶書類を検査することであ

り，臨検で不十分なときは捜索が行なわれる。捜索とは現実に貨物を検査することである。これらによって捕獲の理由のないことが判明すれば，直ちに解放する。拿捕は，軍艦がその乗組員を船に派遣し，船をその指揮に従って航行させることによって行なわれる。捕獲審検所は検定のための交戦国の国内裁判所である。検定は捕獲の効力を確定する裁判であり，捕獲の最終的な手続きである。〔広部和也〕

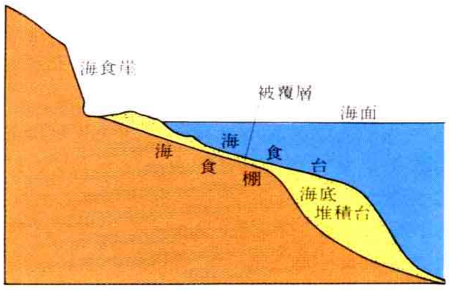
かいじょうほけん【海上保険】航海に関する事故によって船舶または貨物が受ける損害の塡補(てんぽ)を目的とする保険。船舶に関する船舶保険*と積み荷に関する貨物保険*とに分けられる。この保険はまた航海に関する危険を担保するものとも考えられ，損害保険*の一種と認められる。ここにいう航海に関する危険はその範囲がきわめて広く，激浪・海震・破船・沈没・座礁・砂地乗り上げ・衝突などのいわゆる〈海固有の危険〉だけでなく，火災・盗難・襲撃・拿捕*(だほ)または抑留・捕獲・投荷，船長および船員の悪行・一揆(いっき)・暴動・ストライキなど，航海に関連して生ずる船舶または積み荷のいっさいの自然的・人為的な危険を包括する。このように海上保険が，多種多様の危険を包括して負担することは，火災保険*や盗難保険*などが比較的単純な危険の種類を対象とするのに比べて，著しい特徴である。現在では本来航海に関する危険には属さないような危険，たとえば造船中ないし修理中の危険，海陸接続運送の危険なども，この保険で扱われるようになったが，これは海上保険の内容が広範囲に及ぶ，複雑なものであることを示している。

海上保険は，海運業者や貿易商人を相手として行なわれる保険であり，船舶や積み荷が海上を活発に移動することから，事故も多くは航海中に発生し，国際的性質が強い保険である。その起源も遠くギリシア-ローマ時代に求められ，現代における保険の母胎であるともいわれる。〔庭田範秋〕

かいしょく【海食】⇨侵食作用

かいしょくせいきゅう【解職請求】⇨リコール

かいしょくだいち【海食台地】岩石海岸で海食崖(かいしょくがい)がしだいに内陸へ後退すると，崖下の海中には沖のほうにしだいに傾く海食棚(かいしょくだな)(波食台ともいう)が生ずる。海食によって生じた岩屑(がんせつ)は海食棚上を沖へ運ばれるが，海が深くなって運搬力が衰えるとそこに堆積(たいせき)する。このようにして海食棚とその沖合い延長に生じた海底堆積地を海食台という。



海食台地

かいじょけん【解除権】契約*の解除をなしうる権利，すなわち契約当事者の一方が，他方に対して一方的な意思表示*によって，契約の効力を消滅させ，はじめから契約がなかったと同様の効力を生じさせる一種の形成権*をいう。解除権は，契約によって生じるもの(これを約定解除権といい，たとえば，手付の授受や不動産の買いもどしなどの場合に生ずるもの)と法律の規定によって生ずるもの(これを法定解除権といい，たとえば債務不履行や売り主の担保責任*などの場合に生ずるもの)とがある。解除は，はじめから契約がなかったと同様の効果を生じさせるものであるから，当事者は互いに原状へ復す義務を負い，損害があれば賠償をしなければならない(民法545条)。契約当事者のいずれか一方が多数いる場合の解除の意思表示は，その全員から，あるいはその全員に対して行なわれなければならない(民法544条)。解除の意思表示はまた，これを表示した以上取り消すことができない(民法540条)。なお，契約または法律の規定によって解除権をもっている者が，その者の故意か過失によって目的物をこわしたり，あるいは手を加えて別の物につくり変えたりなどして相手方に返せなくなったときは，解除権は消滅する(民法548条)。〔黒木三郎〕

かいしん【回心】キリスト教で罪を悔い改めて神の正しい信仰へ心を向けること。《旧約聖書》では，神に帰ることと誤った行為を悔いることという回心の二つの契機はいちおう区別されている。しかし《新約聖書》では悔い改めること，すなわち回心とされる。悔い改めのギリシア語メタノイアは〈心情あるいは心意の転回〉を意味する。すなわち，罪ある人間が神に帰ることである。最も劇的な回心はダマスカスへ向かう途上のパウロ*に起こったそれである。それまで彼は原始キリスト教徒のきわめて強力な迫害者だったが，このできごとを転機として最も熱烈な伝道者となった。なお，キリスト教では回心はけっして人間の努力の結果とされてはおらず，あくまでも神の恩恵として生ずることを強調する。ただし，プロテスタントとカトリックとでは若干の相違があり，前者に比べると後者は人間的努力の余地を認める傾向がある。なお仏教では，誤った心を改めて仏道に帰依することを回心*(えしん)という。〔石井忠厚〕

かいしん【海進】地質時代に起こった海岸線の移動を表わすことばで，海岸線が陸地の方向に進む場合をさす。陸地が沈降する場合，海面が上昇する場合，両方が同時に起こる場合などが考えられるが，いずれにしても海が陸地をおおって広がる。地質時代に起こった海進のようすは海成層*が陸成層*の上に重なっていること，不整合*の存在することなどから知ることができる。➔海退

かいしん【海震】船舶が海上で感じる地震*。海底の地震動が海水中を縦波となって伝わり，海面に達したものである。それを感知するのは，震央が海底下にあり，船がその真上付近にある場合に限られる。上下動が卓越し，船舶は異様な振動を受ける。海震が激しいときには船舶が遭難することもある。

かいしんき【会真記】中国，唐代の小説。《鶯鶯伝(おうおうでん)》ともいう。詩人の元稹*(げんしん)の作。張生という青年が，崔鶯鶯(さいおうおう)という若い女と相知り，腰元の紅娘(こうじょう)の手引きで契りを結ぶ。青年は官吏登用試験を受けるため出立し，結局，ふたりは別れてしまうという話。作者の自伝的要素が濃い。元代の戯曲《西廂記*(せいそうき)》はこの小説に基づいたもの。

かいじんそう【海人草】⇨マクリ

かいしんとう【改進党】

1 正式名は立憲改進党。明治14年の政変*で政府を追われた大隈重信*(おおくましげのぶ)を中心に，1882年(明治15)結成された自由民権運動*の政党。幹部は犬養毅(いぬかいつよし)・尾崎行雄・前島密(ひそか)ら。イギリス流の穏健立憲主義に基づき，中小産業家・地主層・知識人を支持層として第1議会開設とともに，有力民党としての自由党*と並んで藩閥政府に対抗した。1896年進歩党*となり，さらに自由党と合流して憲政党となって，1898年憲政党内閣が成立した。以後憲政本党・立憲国民党・立憲同志会・憲政会・立憲民政党と変遷し，1940年(昭和15)大政翼賛会*へ合流解党した。

2 1952年(昭和27)国民民主党を中心に，新政クラブ・農民協同党が合同して，重光葵*(しげみつまもる)を総裁として結成された政党。1948年以来吉田茂*を首相として長期化を見せはじめた自由党政権の後継をめざし，第2保守党として誕生したが，内部的には再軍備主張の保守主義者から，革新に近い進歩分子まで混在し，党内一本化を実現できず，政策も動揺した。野党としての役割不十分のため，1952年選挙の成果もふるわず，1954年みずから解党。鳩山(はとやま)一郎ら自由党内の反吉田勢力と結んで，日本民主党*を組織した。〔千野境子〕

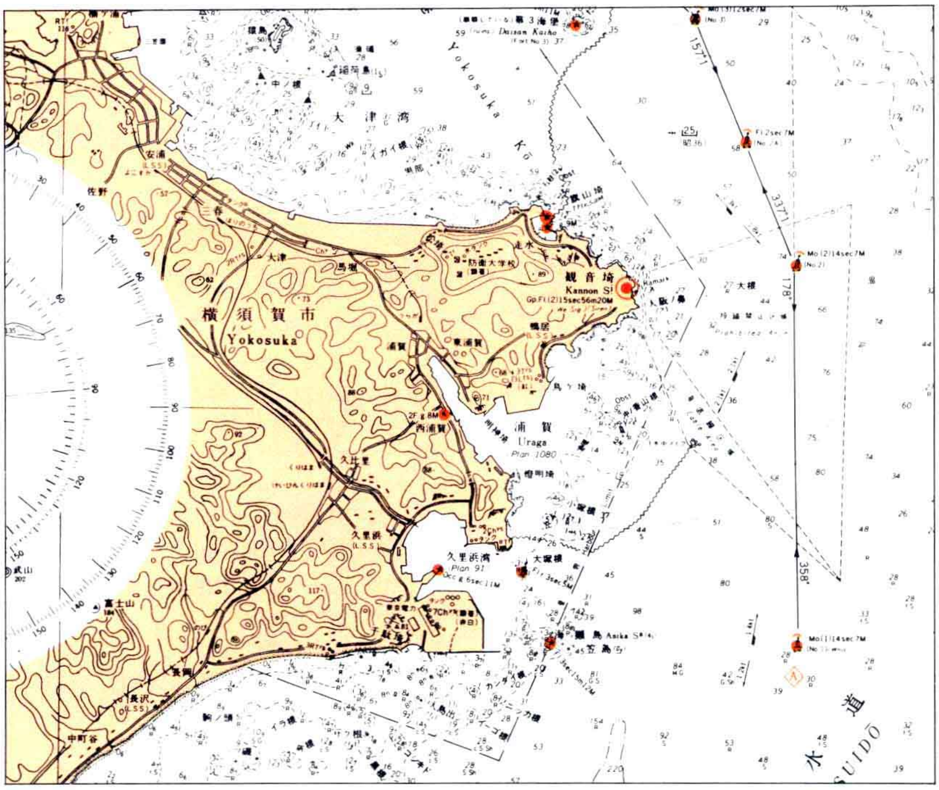
かいず【海図】船舶の航海・停泊のために必要な海岸線・燈台・浅瀬・水深・底質・目標物・障害物などの事項を書き込んだ図で，陸上の地図に相当する。航海用海図は，その用途から次のように分類される。

①総図：太平洋全図などのようにきわめて大きな区域を一目するためのもので，航海計画などを立てるのに便利である。一般に縮尺400万分の1以下である。②航洋図：長

途の航海に用いるもので縮尺100万分の１以下である。③航海図：沿岸航海に利用するもので，燈台・陸標・無線方位信号などから船位を求められるようになっており，縮尺は30万分の１以下である。④海岸図：沿岸航海に用いるもので沿岸の細部が示してあり，縮尺50,000分の１以下である。⑤港泊図：港湾や錨地(びょうち)・水道などを一図としてその細部まで描いた平面図で，入港時に用いられ，縮尺5,000分の１から50,000分の１までである。

海図の図法には平面図法・漸長図法・多円錐(たえんすい)図法・方位等距離図法・大圏図法の五つが用いられるが，航海用として最も多く用いられるのは漸長図法である。なお，海図に書いてある水深の基準は，わが国では最低潮面を採用しているが，国によって多少異なる。また，高さについてはわが国では平均水面からの高さを用いるが，これも国によって相違がある。その他，海図の特殊なものとしては漁業用図・潮海流図・気象図・地磁気偏角図などの水路特殊図や，小港湾図あるいはロラン海図・デッカ海図・レーダー海図などがある。

〔飯島幸人〕



海　図

かいすい【海水】 海洋部分を満たしている塩分を含む水。海洋の研究には，海水の水温・水圧・塩分の観測が必要である。海水温度は－２℃から30℃の範囲にあり，塩分は39‰(パーミル，千分率)を越すことはほとんどない。海水温度の熱源は，太陽からの放射熱，地球内部からの熱補給に大別される。このうち後者は１年間に１cm²あたり53〜61cal程度で，１ｍの厚さの層の水温を0.5℃上げる程度にすぎないので，水の流動の少ない深海の水温には影響があるが，海水温度はおもに前者によって決定される。海水の主成分と組成は表に示すとおりである。その含有成分の濃度は場所によって違うが，海水にとけている塩類の組成は微量成分を除くと，どこの海でも一定である。外洋水では１ｌ中に34〜35ｇぐらいの塩類が含まれる。海洋観測では分析の容易な塩素イオンだけを定量して海水の濃度を代表させる。塩分 S と塩素量 Cl の間には，実験的に次の関係式がなりたっている。

$$S=0.030+1.8050Cl$$

海水の化学組成がどこでも一定しているのは，海洋における循環・対流・拡散などによる結果である。このほかの海水の物理的性質としては，熱容量は0.956calで，空気の約3,130倍になる。このため，海水温度は急激に変化することが少ない。熱伝導率は金属の150分の１から250分の１程度であり，熱に対しては絶縁体である。電気に対しては良導体である。海水はきわめて微量の放射能物質を含み，その量はカコウ岩に含まれる量の1,000分の１以下程度である。海水中の放射能物質を測定することにより，年齢や海水の循環を明らかにすることができる。また，海水中には種々の気体，おもに酸素・窒素・二酸化炭素がとけこんでいる。特に海水はその温度に応じて多量の酸素をとかしており，飽和の状態にある。酸素は魚類の生息と密接な関係がある。

〔相原正彦〕

海水１kg中における塩類の含有量(単位 g)

塩化ナトリウム	NaCl	23.447
塩化マグネシウム	$MgCl_2$	4.981
硫酸ナトリウム	Na_2SO_4	3.917
塩化カルシウム	$CaCl_2$	1.102
塩化カリウム	KCl	0.664
重炭酸ナトリウム	$NaHCO_3$	0.192
臭化カリウム	KBr	0.096
ホウ酸	H_3BO_3	0.026
塩化ストロンチウム	$SrCl_2$	0.024
フッ化ナトリウム	NaF	0.003
合計		34.452

海水中の主要塩類の化学組成(重量百分率 ％)

ナトリウム	Na	30.52
マグネシウム	Mg	3.73
カルシウム	Ca	1.19
ストロンチウム	Sr	0.04
カリウム	K	1.10
塩素	Cl	55.17
硫酸塩基	SO_4	7.70
炭酸塩基	CO_3	0.30
臭素	Br	0.19
ホウ酸基	BO_3	0.08

がいすい【崖錐】 風化作用*によってくずれた岩石片が重力の作用でがけや急斜面のすそに半円錐(はんえんすい)形に積もったもの。山くずれ・地すべりなどによってできる円錐形の堆積物(たいせきぶつ)や扇状地の堆積物とは含まれている物質の違い，でき方の差，層理*の有無，堆積物の分級度の差などによって区別される。

かいすいぎ【海水着】 水泳のときに用いる衣服で，水着ともいう。女子の海水着が現われたのは19世紀中ごろからで，はじめは機能性を考慮したものでなく，そでつきの長い上着と足首までのズボンとのゆったりとしたツーピース形式であった。20世紀にはいってようやくスポーツ服らしく，半そでのワンピースで下半身がひざまでのたけのパンツ形となり，綿メリヤスでつくられ横じまのものが流行した。第１次世界大戦後は上半身がランニングスタイルとなり，純毛メリヤスが使われている。日本で海水着が用いられたのは，明治の初めに海水浴が一般に行なわれるようになってからで，大正中期海水浴が大衆化されたころにはランニング形ワンピースの海水着が用いられた。セパレーツ形や腰部を短いスカートとしたものが出てきたのは，昭和にはいってからである。第２次世界大戦以後には，肩ひもつきワンピーススタイルやビキニスタイルが出てきて，現在は泳ぐ水着から見せる水着への傾向が強くなっている。材質は化学繊維が進出し，伸縮性の多いストレッチ織物*が多く，がらや色は夏の日ざしに負けない強烈ではなやかなものとなっている。男子用はふつうジャージー*のパンツ形式が用いられる。

なお競技用には，女子はワンピース形式，

男子はトランクスと決められている。〔小池千枝〕

かいすいマグネシア　【海水マグネシア】⇨陶磁器

かいすいよく　【海水浴】　日光浴と新鮮な大気浴を兼ねた冷食塩泉浴。夏季の代表的なレクリエーションで，保健上も重要である。歴史的には，古くから世界各地で行なわれていたと考えられ，古代エジプト・ギリシアの記録にも残っているが，運動と沐浴(もくよく)以外に洗身や禊(みそぎ)などの宗教的色彩を有している場合も多かった。わが国でも，イザナギノミコトが黄泉(よみ)の国の汚れを，海水浴によって清めたと伝えられる。また《吾妻鏡(あづまかがみ)》には，源実朝(さねとも)が病気の治療のため，鎌倉海岸で海水浴を行なった事実が記載されている。近代的な意味での海水浴は，1750年にR.ラッセルが保健および体育にきわめて有益であると強く主張し，まずイギリスで盛んに行なわれるようになり，次いでこの傾向はドイツをはじめとするヨーロッパ諸国に広がった。わが国には，明治になってこの風潮の影響が及び，後藤新平は《海水功用論と海浜療法》を著わし，海水浴の保健体育上の有益性を説いた。1881年(明治14)には後藤新平が愛知県常滑(とこなめ)市大野海岸に海水浴場を開設，1885年には当時陸軍軍医総監であった松本順によって神奈川県大磯(おおいそ)の照ケ崎海岸に海水浴場が開かれた。これらが日本における海水浴場のはじめであり，以後全国的に急速に広がり，現在ではいろいろの娯楽設備を設けた海水浴場も出現している。海水浴は保健的効果と同時に，強烈な刺激の下での激しい運動であることに注意しなければならない。

老人・虚弱者はなるべく避けたほうがよく，発熱者，ツベルクリン陽転1年以内の者，貧血・耳科疾患・心臓病・高血圧の人は行なってはならない。また飲酒後・空腹時・疲労時も避け，健康者でも過度にならぬよう注意する。十分に準備体操を行ない，徐々に体を水に慣らしてからはいる。1回の時間は5～20分以内，水温は23℃以上がよい。海水浴場はふつう比較的波の静かな潮流の変化の少ない遠浅の海岸に設けられているが，なるべく水のきれいな，監視が行き届いた救難設備の整ったところを選んだほうがよい。〔増田武弘〕

がいすう　【概数】　整数や小数で詳しく表わすと，けた数が多くなったり，複雑になったりする場合に，必要に応じて，適当な位までにとどめて表わしたおよその数。概数は，切り捨て・切り上げ・四捨五入などの方法によって求めるが，統計数値などでは四捨五入によるのが普通である。たとえばある市の人口が44万9,063人であるとき，その概数として，上から1けたをとれば40万人，上から2けたをとれば45万人となる。

かいずかいぶき　裸子植物・ヒノキ科のイブキの一変種で，針状の葉がなく，枝がねじれる傾向がある。➔イブキ

ガイスラーかん　【ガイスラー管】⇨気体放電

かいせい　【改姓】⇨改氏名

かいせいじょ　【開成所】　江戸幕府の洋学教育機関。蕃書調所(ばんしょしらべしょ)が洋書調所と改称し，さらに1863年(文久3)に開成所と改めて組織を拡充した。江戸神田一ツ橋門外にあり，幕臣および諸藩士に外国語(オランダ・イギリス・フランス・ドイツ・ロシア)と天文・地理・物理・化学・数学などの科学を主として教授した。教官に加藤弘之(ひろゆき)・神田孝平・津田真道(まさみち)・西周(あまね)・箕作阮甫(みつくりげんぽ)・柳川春三などがおり，幕末における洋学の中心となった。授業のほかに外交文書の翻訳にもあたった。幕府の滅亡により一時閉鎖されたが，1868年(明治1)明治政府によって再開され，開成学校と改称，大学南校を経て東京大学に吸収された。〔岡山泰四〕

かいせいそう　【海成層】　海底に堆積(たいせき)した地層の総称。沿海・浅海・半深海・深海などの種類に分けられる。いずれも層理をよく示し，化石を含むことが多い。種類の違う海成層はそれぞれにその相が違っており，特徴(岩石・鉱物の組成，粒子の大きさ，化石の種類など)をもっている。沿海堆積物は，普通の場合最低・最高潮位の間の堆積物で，どろ・砂・小岩片などからできていることが多いが海岸のようす(砂浜か否か)や波浪の強弱などによって性質が違う。浅海堆積物は最低潮位から水深約200mまで(およそ大陸棚(たいりくだな)にあたる)の堆積物で，陸上の堆積層源・火成岩源・生物源・化学的沈殿物源など，各種の堆積物を含む。半深海堆積物は，水深200m以深の大陸斜面に陸地から運ばれたきわめて細かいセキエイを含んだ堆積物や酸化鉄・水酸化鉄・カイリョク石を含む泥土(でいど)・火山泥・サンゴ泥などの粘土類が堆積したものである。深海性堆積物は1,500m以深の海底に主として浮遊性の生物の殻(から)や微細な粘土の堆積したものである。〔平山　健〕

がいせいほうし　【外生胞子】　ある菌糸の先端部がくびれ，胞子が胞子嚢(ほうしのう)の外に突き出してつくられるもので，胞子嚢の中につくられる普通の胞子(内生胞子)に対していわれ，菌類に多くみられる分生子や担子菌類(きのこ)の担子胞子などがある。➔胞子

かいぜいやくしょ　【改税約書】　1866年(慶応2)6月，幕府がイギリス・アメリカ・フランス・オランダの4国と結んだ輸入税軽減などに関する協約。開国後最高の対日貿易額を示していたイギリスは，公使パークスを中心にして列国と共同歩調をとり，清(しん)国の関税並みに関税引き下げを幕府に協約させた。安政の5か国条約による税率(5～35%の従価税)を廃し，大部分の輸入品が当時の4か年間平均価額を原価とする一律5%の従量税に引き下げられた。このため日本にとって関税収入の減少を招くという不利な結果となった。またこの協約により，貿易・交通の制限も除去され，欧米列強の日本市場への進出を容易にした。〔松尾　涼〕

かいせき　【懐石】　茶席で供応する食事を懐石という。懐石(温石(おんじゃく)をふところにして寒さをしのぐ意)は昔禅僧が修業中寒いときなどに空腹を一時忘れるために行なったところから，茶をもてなすまえの軽い食事に名づけられたものである。したがって懐石には山海の珍味を並べ立てる必要もなく，量も食べきれる程度がよいとされ，心をこめて主人みずからがつくり，運んで客に供するのが真のごちそうとされている。

献立はしる・向こう付け・煮物(わん盛り)・焼き物の一汁(いちじゅう)三菜と，はし洗い(一口吸い物)・八寸・湯桶(ゆとう)・香の物。ときには，強肴(しいざかな)といってさらに1～2品の料理を出し，飯と酒を勧めることもある(前者を預けばち，後者を進めざかなともよぶ)。季節のしゅんのもの，新鮮なものを材料とし，調理には技巧を弄(ろう)せず材料の持ち味を生かす。

はじめにほんの一口を盛った飯椀(めしわん)・汁椀(しるわん)と向こう付けをいっしょに折敷(足のないぜん)に載せて出す。客が飯としるを賞味したのち，酒を勧める。煮物・焼き物の順で供し，はし洗いではしと口を清めてから八寸が出，杯の献酬をする。終わったところで湯盆に湯桶と香の物を置き合わせて出す。飯は飯器に入れ，焼き物や八寸・香の物は大きな器に盛り込んで取り回しにする。食後に，生菓子と濃茶，または干菓子と薄茶を供する。なお，会席料理は別。〔塩川ふみ〕

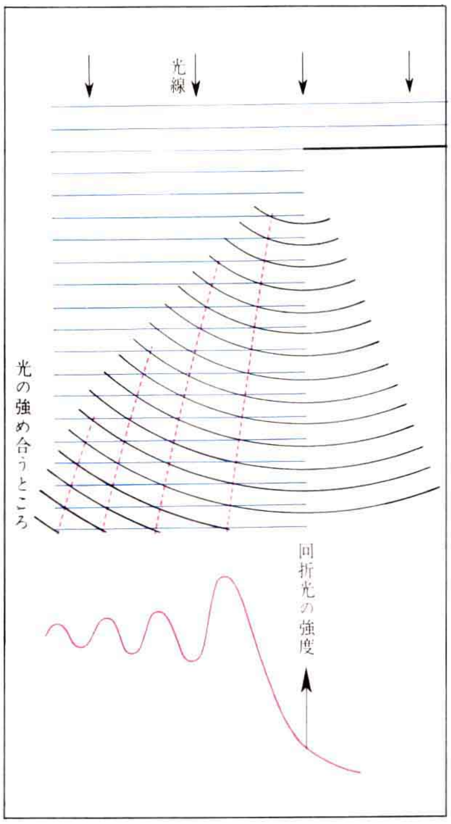
かいせきがく　【解析学】　代数学や幾何学に対立し，おもに関数の連続性に基づく性質について研究する数学の部門。面積や体積を求める方法はギリシア時代から考えられていたが，17世紀になって，曲線の接線とも関連して，ライプニッツは微分法・積分法を導き出した。また，ニュートンは，力学において微分・積分法と同じ考えを用いた。この微分・積分法およびそれから発展した種々の数学を用いて，関数について研究する数学の部門が解析学である。1変数の関数で導関数を用いる方法を，2個以上の変数の関数に拡張したのが偏微分法で，そのときの導関数を偏導関数という。導関数を含む方程式を微分方程式というように，偏導関数を含む方程式を偏微分方程式という。また，積分を含む方程式を積分方程式といい，これらを論ずる数学の部門を関数方程式論という。面積・体積の概念を一般化して取り扱うのが測度論であり，極大・極小の概念を一般化して変分法が生まれた。微分・積分，測度，級数，変分法などを狭

い意味での解析学ということもある。また，複素数の関数を論ずるのが複素関数論である。➔関数論　〔小西勇雄〕

かいせききかがく　【解析幾何学】　デカルト*の創始した数学の一部門。平面上の直交座標を用いると，２点P(x_1, y_1)，Q(x_2, y_2)間の距離は座標の差の平方の和の平方根$\sqrt{(x_1-x_2)^2+(y_1-y_2)^2}$で表わされ，PQの中点Mの座標はP，Qの座標の平均$\left(\frac{x_1+x_2}{2}, \frac{y_1+y_2}{2}\right)$として求められる。また，平面上の直線は一次方程式で，円や双曲線などは二次方程式で表わされるというように，図形の性質を代数的な計算を用いて調べることができる。ユークリッド幾何学*のように，図形を直接考察する方法を総合幾何学または純粋幾何学というのに対し，解析幾何学においては，上記のように座標を用いて代数的な計算を使って処理する。特に，平面上の図形を扱うものを平面解析幾何学，空間で考えるものを立体解析幾何学という。デカルトは，数と図形の間に密接な関係があり，幾何学の一般的な方法として代数学が利用されることをはじめて明らかにした。　〔小西勇雄〕

かいせきりょうり　【会席料理】　本膳*(ほんぜん)や懐石*の堅苦しさを改善した，くつろいで味わう酒宴向き供応料理。江戸時代に始まり，現在では本膳料理に代わって広く供膳として用いられている。もと，俳諧(はいかい)を楽しむ人々が会席して食事をとったのがはじまりであるが，その後料理茶屋の発達に伴って茶席・俳席が茶屋を利用するようになると，茶の懐石と俳の会席とを混同して会席料理の看板を掲げる者が現われ，そのまま一般に通用するようになったという。献立は，前菜・向こう付け・吸い物・口取り・鉢肴(はちざかな)・煮物・小丼(こどんぶり)・止椀(とめわん)・飯・香の物・くだもの・菓子・茶の順。　〔塩川ふみ〕

かいせつ　【回折】　波が進むとき途中にある障害物の後方にまで回り込む，波に特有な現象。波長が障害物に比べて非常に小さい場合はあまり目だたず，波は直進して影をつくる。光はこの場合にあたるが，ていねいに観察するとやはり回折を起こしており，しかもはいりこんだ光の強度分布は単調でなく明暗のしま，すなわち回折じまを生じている。光学的にたいせつなのは，障害物が比較的単純な形をした場合で，たとえば，円形または長方形の穴(回折孔という)のあいた不透明なスクリーンや半無限平面のスクリーンなどである。このとき，光源および観測点が無限遠にあるときをフラウンホーファー回折，一方または両方が有限の距離にあるときをフレネル回折という。回折現象は，光学機器の分解能*を定める点でも，また一方，回折格子*(こうし)などの応用がある点でも重要である。回折現象をはじめて正しく取り扱ったのはフレネル*であって，彼は回折孔上のすべての点から出発し

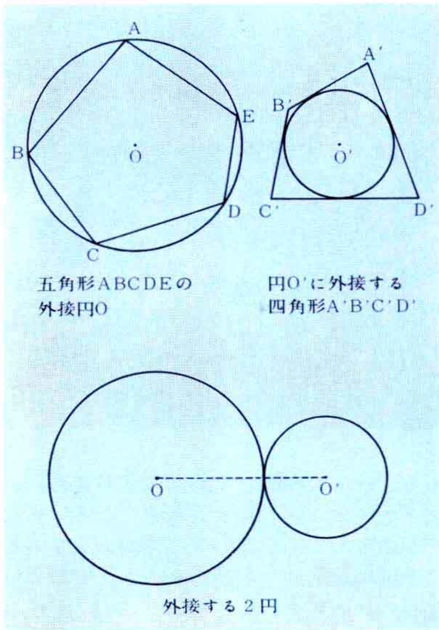


回　折　平面の端における回折。この回折は入射波と，端より放射される円形波との重なりと考えられる

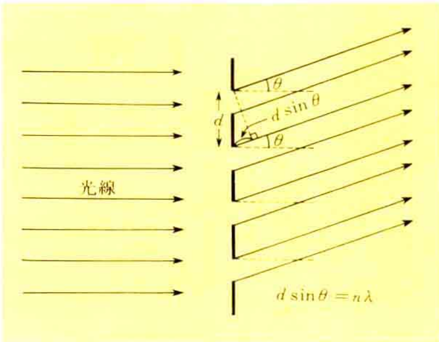
た波が観測点で重なり合って生ずる波の振幅を計算し，それがこの点での実測と一致することを見いだした。この計算の原理をホイヘンス-フレネルの原理といい，現在でも回折現象の研究にはしばしば用いられる。　〔吉原邦夫〕

がいせつ　【外接】　多角形のすべての頂点を通る一つの円が存在するとき，その円は多角形に外接するといい，その円を外接円という。またある多角形の各辺が一つの円に接しているとき，その多角形は円に外接するといい，その多角形を外接多角形という。多面体*に外接する球や球に外接する多面体についても同様に定義できる。また，２円が互いに他の外部にあって，ただ１点を共有するとき，これらの２円は外接するといい，共有する点を接点という。この場合に，接点は２円の中心を結ぶ線分上にある。二つの球についても，同様に外接や接点が考えられる。　〔菊池兵一〕

かいせつこうし　【回折格子】　光の回折*現象を利用して，そのスペクトル*を得る装置。透過型と反射型とがある。透過型は，たとえば，平面板に細長い穴を等間隔にきわめて多数あけたもので，これを通った光がスペクトルに分けられる。反射型は，たとえば金属平面鏡，またはガラス平面鏡に厚くアルミ膜をつけたものの上に，ダイヤモンドの刃で多数の平行なみぞ(１mmに数



外　接



回折格子(透過型)　となり合った二つの光束の光路差 $d \sin \theta$ が波長 λ の整数倍に等しいとき，この方向へ向かう光は非常に強くなる

百〜千数百本)を切ったもので，反射光がスペクトルに分けられる。現在は，ほとんど反射型しか使われない。また凹面鏡(おうめんきょう)の上にみぞを切ると，レンズなどはなくともそれだけでスペクトルを結像させることができる。これを凹面回折格子といい，主として波長のきわめて短い紫外線やX線・超短波の領域で用いられる。回折格子の作用は，周期的な多数の穴(または反射面)で回折した光波が重なり，干渉*し合って，ある特定の方向で特に強め合うことによる。その方向が波長によって異なるのでスペクトルを生ずるのである。一般には同一波長でも強め合う方向が無数に存在するので，無数のスペクトルが生じ，エネルギーがむだになる。みぞの断面が三角形になるようダイヤモンドの刃を選んで格子をつくると，みぞの面で正反射される方向にできるスペクトルにエネルギーが集中する。このような回折格子をエシェレットという。

回折格子の製作には高度の技術が必要で



凱旋門 コンスタンチヌス帝凱旋門(ローマ)

ある。みぞの間隔が不規則に変動するとスペクトルのコントラストが悪くなる。また，刃を送るねじに規則的な誤差があってみぞの間隔に周期的な変動があると，実際には存在しないスペクトル線(ゴースト)が現われる。正確に等間隔にみぞを切るには，振動のない地点の地下に恒温恒湿の室をつくり，その中に装置を置き，干渉計を用いて精密にダイヤモンド刃の移動を制御するなどの注意が必要である。以前は非常に高価なものであったが，最近は回折格子の上に合成樹脂を押しつけてその複製(レプリカ)をつくる技術が進歩したので，比較的安価に入手できるようになった。〔吉原邦夫〕

かいせつじま【回折縞】→回折

ガイセリック［Geiseric］(390ごろ～477) バンダル王。在位428～477年。民族移動でスペインにはいったが，西ゴート族に追われてアフリカ北岸にはいり，カルタゴを攻略し，ここを都としてバンダル王国*を建設した。440年シチリアを占領，455年にはローマ市を略奪し，さらにコンスタンチノープルに圧力をかけたので，東ローマ帝国は王に和を求めた。しかし，王の死後，王国は衰退した。

カイゼル［Kaiser］古代ローマのカエサル*から出た語で，ドイツ皇帝をいう。特にウィルヘルム2世*をさす場合がある。

かいせん【海戦】昔から艦船による水上・水中の戦闘を海戦といっていた。しかしその後，航空機・ミサイルの出現によって海戦の様相は一変し，イギリスではmaritime warfareという語を用い，日本でも海上戦というようになった。海上戦とは，必要海域の制海*を獲得・維持して利用するとともに，敵の制海を打破・防止するために海上部隊その他の所要部隊を使用して，おもに海上において行なう戦闘活動をいう。海上戦は立体的で，きわめて複雑になったので，一つの目的達成のためにも各種の艦船・航空機・武器を動員し，新しい戦略戦術をもってこれを運用し，有効で有機的な戦闘力を発揮することが必要である。なお古くから行なわれてきた艦船相互の大規模な海戦(水上攻撃戦)は今後少なくなるであろう。しかし彼我双方または一方の航空勢力が減少した場合とか，局地戦とかにおいて生起する公算はある。〔森田 哲〕

かいせん【回船】貨物を輸送する回漕船(かいそうせん)。中世には瀬戸内海を中心に発達し，廻船式目*(かいせんしきもく)という船法(海事法)も制定された。江戸時代になると沿岸航路の発達，物資の隔地間の大量輸送の必要性から急速に発展し，大阪を中心に全国各地に航行する回船のほか，地方間でも地回り回船が発達した。江戸・大阪間を定期に航行し物資を輸送した菱垣(ひがき)回船*・樽(たる)回船*や，大阪と北陸・東北地方を結ぶ北国回船・奥羽回船が有名である。〔松尾 涼〕

かいせん【疥癬】俗に皮癬・湿瘡(しつそう)などともいう。ヒゼンダニが表皮に寄生して起こる皮膚病で，第2次世界大戦後著しくまんえんしたが現在は少ない。皮膚の柔らかい指間・肘窩(ちゅうか)・下腹部・大腿(だいたい)内面などにあわ粒大の丘疹(きゅうしん)・小水疱(しょうすいほう)・膿疱(のうほう)が散在的に生じ，疥癬隧道(ずいどう)(長さ2～3mmの線状の隆起)ができて，その一端に黄白色の虫体を発見し，掘り出すことができる。夜間非常にかゆい。衣類や寝具をたびたび洗たく・日光消毒する。イオウやγ-BHCの軟膏(なんこう)がきく。イオウ剤の薬浴もよい。〔田嶋公子〕

かいせん【快川】(?～1582) 室町末期の臨済宗の僧。美濃(みの)(岐阜県)の人。俗姓は土岐(とき)氏，名は紹喜，快川は字(あざな)。おくり名は大通智勝(だいつうちしょう)国師。妙山寺の仁岫宗寿(じんしゅうそうじゅ)に法をつぎ，崇福(そうふく)寺*に住し，武田(たけだ)信玄*に招かれて甲斐(かい)(山梨県)の恵林寺に移った。1582年(天正10)織田信長(のぶなが)が勝頼(かつより)を攻め，寺に火を放つや，衆僧とともに武田氏に殉じ，炎火の中で端然と示寂した。その際に〈心頭を滅却すれば火もまた涼し〉と唱えたことは有名。〔田中良昭〕

がいせんさくせん【外線作戦】作戦軍が数方向から敵に向かって求心的に進攻する作戦を外線作戦，これと反対の形態をとる作戦を内線作戦という。外線作戦は敵を包囲するのに有利であるが，左右の連係が悪いときは，各作戦軍が孤立し，機動力のある内線作戦軍に各個に撃破される危険がある。大きな作戦構想では，まずこの両作戦の特色を巧みにとらえることがきわめて重要である。

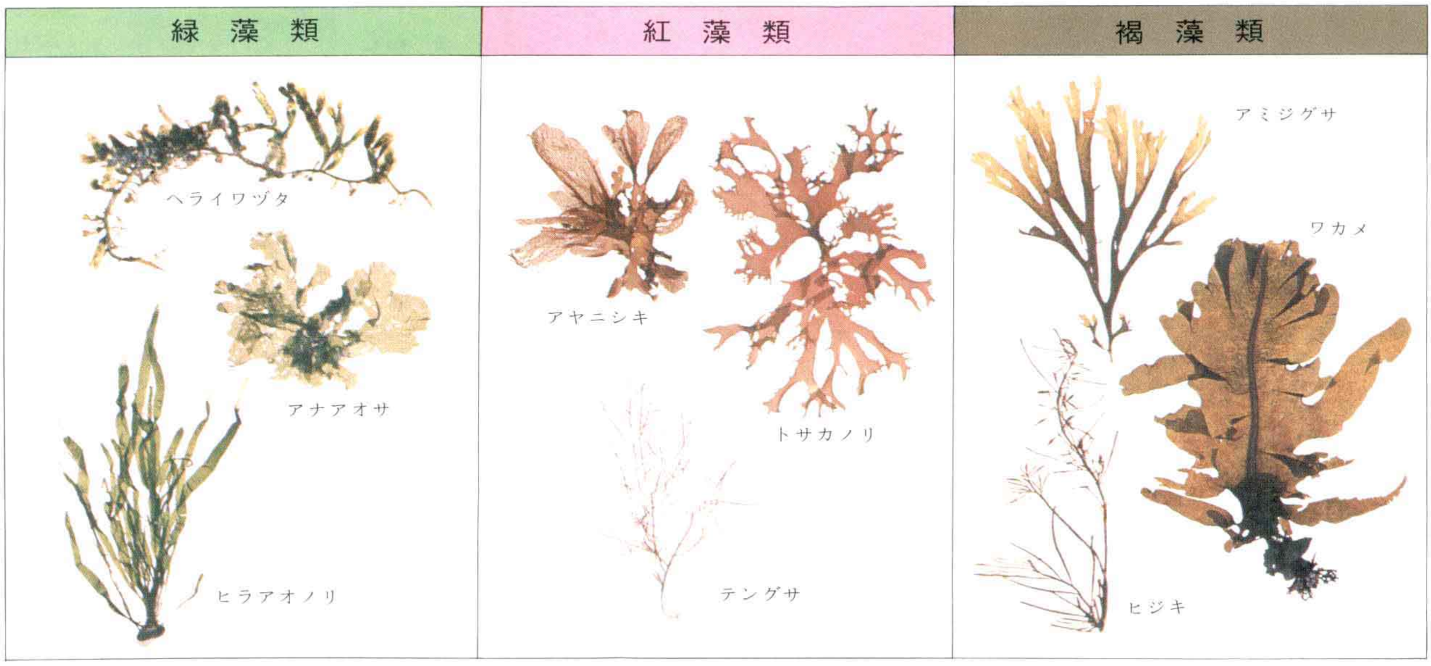
かいせんしきもく【廻船式目】わが国最初の海商法令集。船法・船法度(ふなはっと)などの名があるが，廻船式目は内閣文庫本に〈廻船之式目〉とあることから，明治以降の呼称である。奥書きには1223年(貞応2)鎌倉幕府の執権北条義時(ほうじょうよしとき)の制定とあるが信じがたく，室町末期に瀬戸内海筋の回船*業者間でつくられたと考えられている。織田信長(のぶなが)をはじめ戦国大名も法令として公認し，豊臣秀吉(とよとみひでよし)はこれを参照して海路諸法度を制定した。船舶に関する規定や，海難救助法などきわめて多岐にわたり，のちの海事法に大きな影響を与えた。《海事史料叢書(そうしょ)》に収録されている。〔松尾 涼〕

がいぜんせい【蓋然性】ある事象が起こるかどうかについて，その因果関係が認識されていず，普遍的法則に基づく確実な予言ができない場合にも，過去の経験的知識によりある程度の確からしさをもって予測することはできる。この確からしさをいう。また，特にこれを数量的に表わして蓋然量あるいは確率*という。ある種の事象がn個の事例のうちm個について起こったとする。事例が大量になるにつれてm/nが一定の値に収斂(しゅうれん)したとき，この事象の起こる蓋然量はm/nである。可能な事象がすべて互いに独立で等しい可能性をもつことがわかっている場合には，問題の事象の蓋然性を理論的に測定することもできる。〔石倉恒之〕

がいせんもん【凱旋門】ローマ時代に皇帝や将軍の戦勝を記念するために建造された門。フォーラム*とよばれる記念広場や各地のローマ都市の入り口を飾り，ローマの栄光をたたえる記念建造物として重要な役割を果たした。アーチ*とオーダー*を組み合わせた独特の形式をもち，アーチの数は，一つだけのものと，三つあるものとがある。近世以降もローマの故事にならって建てられた例が多く，中でもナポレオンの戦勝を記念したパリのエトアール凱旋門*は有名である。

かいそ【懐素】(634～707) 中国，唐代の僧。律宗の一派である東塔宗の開祖。経典の翻訳家として名高い玄奘*(げんじょう)の門人であったが，のち法励に師事して出家者の生活規範である律を学んだ。しかし法励の説に満足せず《四分律開宗記》を著わして新説を発表し，東塔宗の開祖となった。東塔宗は法励の興した相部宗，道宣*の四分律宗と並んで律三宗とよばれるが，相部宗と同様しだいに衰えた。

かいそう【海藻・海草】海産の定着藻



海　藻

類の総称。ふつう褐藻(かっそう)・紅藻・緑藻の大形のものをいうが，ときに藍藻(らんそう)や種子植物のアマモ類を含めることがある。海藻は外包的色彩にかかわらず，すべてクロロフィルを含み光合成を行なうので，植物プランクトンとともに海の生物学的生産者として重要である。その分布は沿岸から大陸棚(たいりくだな)までで，特に大形海藻の群落はせいぜい深さ20mほどまでである。海中林とよばれるこの大形海藻の群落と流れ藻(も)は海産動物の産卵・発育場所として重要である。一方，船底付着物としての海藻の害は大きく，完全な駆除法はない。海藻の利用はわが国において最も多様であるが，古くは主として食用とされた。西欧ではおもに肥料・飼料とされてきたが，18〜19世紀には，ナトリウム・カリウム・ヨウ素をとる海藻灰工業が盛んであった。①食料としての価値はカロリーより無機塩・ビタミンなどの特殊成分にある(アオノリ・ヒトエグサ・アマノリ・モズク・ヒジキ・コンブ・ワカメ)。②肥料としては塩化物の多い欠点がある(ホンダワラ)。③西欧では飼料とするケルプミールをコンブ・ヒバマタから製する。④紅藻類のガラクタン・褐藻類のアルギン酸を糊料(こりょう)とする(フノリ・ツノマタ・アラメ・カジメ)。⑤ゲル化の強いガラクタンは寒天となる(テングサ類，オゴノリ)。⑥マクリから駆虫剤をつくるなど，薬品にも利用される。

かいそう　【階層】　人々の置かれている所得・教養・職業などに一定の共通性がみられる集団をいう。階級が生産手段に対する関係の違いによってなされるのに対し，階層は職業・学歴・財産・所得などのさまざまな標識で区分される段階的な社会生活上の層である。それゆえ異なった階級に属している場合でも，学生というように一つの階層区分がなされることもあるし，また同一階級内にあっても財産・所得の大きさの違いから，富農・中農・貧農などの階層区分がなされる場合もある。➔階級

〔浜岡政好〕



改　造
創刊号

かいそう　【会葬】　葬儀に立ち会うことをいう。土葬の場合には通夜・納棺・棺前儀式・埋葬まで通して参列するが，火葬の場合には一般会葬者は棺前で宗教儀礼が行なわれている間に焼香礼拝し，門口で出棺を見送るのが普通である。寺院・斎場葬では通夜と寺院斎場における葬儀告別式にだけ参列する。元来相互扶助の意味をもっていた香典・香典返しの風習はなお盛んであるが，最近，斎場で行なわれる葬儀の場合，供物・供花・香典などを辞退する傾向が強くなっている。➔告別式　〔藤井正雄〕

かいぞう　【改造】　1919年(大正８)１月〜1955年(昭和30)２月(1944年７月〜1945年12月中断)。山本実彦(さねひこ)が改造社を興して創刊した。当時の代表的総合雑誌《中央公論*》がデモクラシーの宣揚を旗標としたのに対し，社会主義的論客に多くのページをさき，先鋭な雑誌として迎えられた。また《中央公論》が文壇登龍門(とうりゅうもん)と目されたのに対抗して文芸欄にも力を入れ，諸作家の代表作・出世作を載せた。1928年以降の懸賞募集では，芹沢光治良(せりざわこうじろう)・小林秀雄(ひでお)・宮本顕治らの作家・評論家を文壇に送った。1944年，軍部の圧力により中央公論社とともに解散を命じられたが，第２次世界大戦後直ちに復刊。しかし社主山本の死後，社の内紛によって1955年廃刊のやむなきに至った。

〔江種満子〕

かいぞく　【海賊】　公海上で船を襲ったり，また沿岸地域を略奪した集団。

〔西洋〕海賊の歴史は海上貿易の歴史とともに古く，紀元前10世紀以降フェニキアさらにギリシアが地中海・エーゲ海沿岸に植民市を建設したころ，すでにその活動はめざましかった。ローマ時代にもローマと属州との貿易船がしばしば襲われたが，こうした古代の海賊は穀物・財宝などのほか，捕えた人間の身代金(みのしろきん)を取ったり，奴隷として高価に売ったりした。しかし，ローマ帝国崩壊後のヨーロッパ大陸には民族移動が波及して海上貿易が衰退し，地中海方面の海賊は衰退したが，８〜10世紀北方のノルマン人(バイキング)の侵攻が始まった。ノルマン人はヨーロッパ沿岸地域だけでなく内陸の都市にまで侵入して略奪あるいは代償金を取って和平を結んだ。これらノルマン人は単なる海賊というよりは民族移動の一形態と考えられる。15世紀以降，諸国が植民地獲得を競いはじめると(➔大航海時代)，海賊は再び活動が盛んになった。特にイギリス・スペイン・オランダなどは利害が対立して戦争状態が続いたため，海賊は海軍力を補うものとして公認され，

他国の船舶の私的な拿捕(だほ)も認められた。ドレークらの海賊は自国では英雄としてたたえられた。しかし，諸国の海軍力が整備されると，海賊はしだいに消滅した。
〔斎藤高夫〕

〔日本〕中世において，港湾や島々を根拠地として武力を背景に海上活動に従事した地方豪族，およびその率いる集団。すでに古く承平・天慶(じょうへい・てんぎょう)の乱で藤原純友*(すみとも)が伊予(いよ)(愛媛県)の海賊と称せられているのは，盗賊行為を事としていた海上民を率いて官物を押領し，国司に敵対したことから名づけられたものであろう。海賊の語は山賊や盗賊の語のごとく，本来海上において盗賊行為を働く者の意であり，このような意味の海賊の用語は鎌倉幕府の法令にもしばしばみられ，強盗・山賊などとともに幕府のきびしい取り締まりの対象とされている。これらは一種の海上浮浪者群で，海上交通の要路に出没し，公私の物資の強奪などを行なった。しかし，鎌倉中期以降になると，名主(みょうしゅ)・荘官(しょうかん)・地頭などの地方豪族や土豪で港湾や島々を根拠地として海上武力を行使し，港湾の経営や貿易活動・海上輸送の警備などに従事する者もあった。このような水軍を海賊とよび，またみずからも海賊と称するようになった。鎌倉末期から南北朝時代には，中央政府の統制がゆるみ，内乱という国内情勢の混乱に乗じて，北九州や瀬戸内海沿岸の土豪や武士，武装した漁民などが朝鮮半島や中国大陸沿岸を襲い，貿易活動を行なったが，彼らはしばしば暴力化し，朝鮮・中国側から倭寇*(わこう)とよばれて恐れられた。これらの海賊は瀬戸内海沿岸や九州，特に北九州のものが有名である。
〔鈴木英雄〕

かいぞくしゅう　**【海賊衆】**　中世における海上武力の行使者の集団。衆とは多数の意で海賊衆とは水軍のこと。水軍の本拠地は瀬戸内海沿岸・九州に多く，一族を中心として武力集団をなすものと，地域的に結集した集団によって行動するものとがあったが，それらの武力集団を海賊衆とよんだ。有名なものでは，備後(びんご)(広島県)因島(いんのしま)の村上氏，伊予(いよ)(愛媛県)の村上氏・来島(くるしま)氏・忽那(くつな)氏・河野(こうの)氏，安芸(あき)(広島県)の小早川一族・多賀谷氏・能美(のうみ)氏，周防(すおう)・長門(ながと)(ともに山口県)の大内氏配下の諸氏，豊後(ぶんご)(大分県)の佐伯(さえき)氏・臼杵(うすき)氏，筑前(ちくぜん)(福岡県)の宗像(むなかた)氏などがある。また肥前(佐賀県・長崎県)の松浦(まつら)海賊衆は東西の松浦党*に所属するもの数十氏を総括した。さらに塩飽(しあく)七島の塩飽海賊衆も有名である。古代における藤原純友*(すみとも)の反乱や平氏の海上勢力，中世における倭寇*(わこう)の海外進出，近世にはいって毛利氏水軍と織田氏水軍との海戦，文禄(ぶんろく)の役におけるわが国の海軍編成



海　賊　カリブ海のスペイン人の町を略奪するフランスの海賊



解体新書　扉　神戸市立南蛮美術館蔵

など，史上海賊衆の海上勢力は有力な戦力となった。
〔鈴木英雄〕

かいぞくばん　**【海賊版】**　著作権を侵害して出版した本のこと。偽版ともいう。ジョン-バニヤンの《天路歴程》(1678年刊)は真版が4版刊行される間に，海賊版が6版も現われたというし，ストウ夫人の《アンクル-トムズ-ケビン》(1852年刊)も，イギリスでは著作権の保護がなかったので，40種以上の海賊版が刊行されたという。わが国でも明治の初め，福沢諭吉の《学問のすすめ》が好評を博し，各地で教科書として採用されると，いろいろの海賊版が現われ，民友社の《国民之友》第1集も，東京と大阪で海賊版が刊行された。第2次世界大戦後，洋書の輸入が極度に制限されていたころ，科学書・医学書・辞典などの高価な洋書をひそかに入手して，これを原本として無許可でリプリントし，定価の何分の一かで販売して大きな問題になったことがある。
〔庄司浅水〕

かいた　**【海田(町)】**　広島県安芸(あき)郡の町。人口29,000。1956年(昭和31)，海田市町と東海田町とが合併して発足。山陽本線と呉(くれ)線，国道2号線と31号線の分岐点で，交通上の要地である。また，かんづめなどの食品工場や鉄工所があり，広島市などへの通勤者も多い。蔬菜(そさい)の産額も多く，カキの養殖も行なっている。

かいたい　**【海退】**　地質時代に起こった海岸線の移動を表わすことばで，海岸線が海洋の方向へ退いた場合をいう。陸地が上昇する場合，海面が下降する場合，両方が同時に起こる場合などが考えられ，結果としては陸地が広がる。地質時代に起こった海退のようすは陸成層*が海成層*の上に重なっていること，不整合*が存在することなどで知られる。➔海進

かいたいしんしょ　**【解体新書】**　日本で最初の西洋解剖学翻訳書。本文4巻，図1巻。1774年(安永3)刊。原書はドイツのJ.A.クルムスの《解剖図譜》のオランダ語訳《ターヘル-アナトミア》。1771年(明和8)，杉田(すぎた)玄白*・前野良沢*らが江戸小塚原(こづかっぱら)で罪人の腑分(ふわけ)を見て西洋医学の正確さを知ったのを機に翻訳にかかり，4年を要して完成した。その苦心は玄白の《蘭学事始*(らんがくことはじめ)》に詳しいが，単に体系的な西洋近代医学の導入にとどまらず，これによって蘭学が確立され，思想・文芸に影響を与えた功績も大きい。〔中西正幸〕

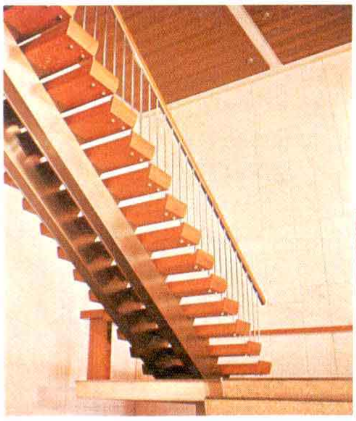
かいたくし　**【開拓使】**　⇨北海道開拓使

かいたくてつどう　**【開拓鉄道】**　未開地を開発するために建設された鉄道をいう。第2次世界大戦前には植民地鉄道ともいわれた。現在でもアフリカ・オーストラリア・南アメリカ・シベリアなどの鉄道にはこの性格がかなり強く残っている。特に，鉱山や，森林などの天然資源の開発の場合に使われることが多い。

かいだこ　**【貝蛸】**　⇨アオイガイ

かいだん　**【階段】**　高さの異なる床をつなぐ段形の通路。道路・廊下・床などの延長ともみなされ，単に昇降の用に供するばかりでなく，緊急時の避難路にもなりうるので保安上各種の規則が定められている。階段の発生は構築物あるいは建築物の発生とともにあり，先史時代1本の丸太を段形に刻んだ階段，エジプト第1王朝のウディム王の墓に降りる階段，高床住居に上る階段などが知られている。日本では，仏寺の塔にしても楼閣・城郭建築にしても，多人数が上るための建築ではなかったので，階段は幅が狭く，かつ場所をとらないよう急勾配(きゅうこうばい)であった。近世の町屋*建築などでも，壁と壁の間に納められるか，せいぜい階段下に引き出しをつける程度で，これを意匠的に扱うことがなかった。西洋では，中世の城郭・教会堂・住宅などでらせん階段が壁や柱の中に設けられ，日常使用された。幅の広い勾配のゆるい階段が現われるのはルネサンス時代で，イタリア-ルネサンスの邸宅建築の特色となった。17世紀

階段


中桁を用いた基本的な構造を美しくまとめている

全折階段


鉄骨を用いて組み立て，表面を木材などで包んだもの


らせん階段ともいい，最小の土地を効果的に用いている

曲がり階段


曲線や曲面の持つ美しさが，十分に計算された階段

後半には階段を建築空間の最も重要な部分として扱い，壮麗な階段を構成するようになった。その代表的なものにイタリアの彫刻家・建築家ベルニーニの設計したバルベリーニ邸の楕円(だえん)形階段，バチカン宮殿のスカラ-レージアがあり，これによって階段の意匠や構造はきわめて豊富になり，広く普及した。

階段は勾配によって50°～90°をはしご，20°～50°を階段，20°以下を傾斜路とよぶ。階段の勾配は20°～35°が普通で，踏面(ふみづら)と蹴(け)上げの関係によって決まる。階段の足の乗るところを踏面，1段の高さを蹴上げ，踏面に直角な垂直面を蹴込み，途中に設けられた床部分を踊り場といい，危険防止ならびに昇降を助けるために手すりが設けられる。種類は単純な直通階段をはじめ，折れ階段・回り階段・らせん階段・楕円階段などがあり，建物の規模・用途・様式・昇降人数などによって選ばれる。材料としては木造・鉄骨造り・鉄筋コンクリート造り・石造りなどがあり，木造にはさるばしご・箱ばしご，和風建築に多く用いられる箱階段，洋風建築に最も多く用いられる側桁(がわげた)階段(両側に側桁を，その中央に力桁をおいてこれに踏み板・蹴込み板を取り付けるもの)，側桁を段型に刻んだささら桁階段，集成木材によるらせん階段などがある。鉄骨階段は軽量で，耐久力にすぐれ，形態も比較的自由なため各種の階段に利用されている。鉄筋コンクリート階段は工場で製作し，現場で取り付けるものなどが出現した。階段は建物火災に際して避難通路となるので，他の廊下・通路とは独立して，区画された壁の中に納められ，出入り口には防火戸を配して階段室としなければならない。デパートのような場合にはシャッターがおりて同様な効果を果たす。しかし，煙は人の出入りとともに階段室に侵入するので，この煙を排除する煙道を階段室中に設けたものがあり，スモークレスタワー・ファイヤーマンタワー・特別避難階段とよんで高層建築にしばしば用いられている。
〔神山幸弘〕

かいだん　【戒壇】　仏教で，戒を授ける儀式が行なわれる特定の壇をいう。原意は，具足戒を授ける上で，便宜上つくられた特定の場所である。具足戒を授けるには5～10人のサンガ(出家教団)の構成員が必要となる。そのサンガを構成するためには特定の場所が必要であるため戒壇ができたのである。原始仏教時代に戒壇があったかは疑問であるが，部派仏教時代にあったことは疑いない。中国では，セイロン僧グナバルマン(求那跋摩(ぐなばつま))によって築壇されたのを最初とし，道宣の律宗興隆以来，各地に築かれた。日本では，鑑真(がんじん)の来朝により東大寺大仏殿前に築かれ，のちに戒壇院がつくられた。このほか，下野(しもつけ)(栃木県)の薬師寺と筑紫(つくし)(福岡県)の観世音寺にも戒壇が設けられ，いわゆる天下の三戒壇として僧になる者はこのいずれかで必ず受戒しなければならなかった。のち最澄は比叡(ひえい)山に大乗戒壇を建設するため勅許を得ようとしたが，生前は許されず，その死後に実現した。〔京戸慈光〕

かいだん　【怪談】　妖怪(ようかい)変化や幽霊など超自然的存在を中心とする怪奇な物語。古代人の自然崇拝や宗教的神秘感に起源をもつが，人間の超自然的なものへの関心は古今東西変わらず，怪談・怪異譚(かいいたん)はさまざまに生き続けている。日本では，9世紀以降，仏教・大陸文化の影響で《日本霊異記(りょういき)》《今昔物語集》などの説話として怪異譚が現われ，《源氏物語》にも怪異性を描き出した巻があり，さらに鎌倉・室町時代には《宇治拾遺物語》などが生まれた。江戸時代にはいると中国怪談の翻訳・翻案が盛んになり，《御伽婢子(おとぎぼうこ)》《英(はなぶさ)草紙》《繁野話(しげしげやわ)》，文学性の高い上田秋成の《雨月物語》などの怪異小説が多く読まれ，鶴屋(つるや)南北の歌舞伎(かぶき)や三遊亭(さんゆうてい)円朝の怪談噺(かいだんばなし)が人気を博した。明治以降は泉鏡花などの浪漫性の強い作家が妖異な作品を書いているほか，小泉八雲の《怪談》がある。西洋でも聖書や神話などに怪談に近いものはあるが，18世紀後半以後のロマン主義に恐怖・怪奇を主題とする芸術が現われる。イギリスのゴシック小説はその代表的なもので，ほかにもホフマン・メリメ・ホーソーン・ポーなど，各国の作家が妖異な幻想美を描き出した。また，中国には古くから怪異譚は多く，特に7世紀以降に隆盛，《剪燈(せんとう)新話》《聊斎志異(りょうさいしい)》など，超自然と人間の関わり合いを描く傑作が生まれた。
〔田島　修〕

かいだん　【怪談】　小泉八雲の短編小説集。1904年(明治37)アメリカで刊行。《古今著聞集(ここんちょもんじゅう)》などの古典や伝説に取材した怪談奇話17編，こん虫研究3編を収めている。壇の浦の合戦という歴史的悲劇を背景に，盲目の一琵琶(びわ)法師の痛ましさを描く《耳なし芳一》や《雪女》は名作とされる。

かいだんいん　【戒壇院】　仏教で師僧が僧徒に戒を授ける建物。754年(天平勝宝6)中国の唐より鑑真(がんじん)が来朝し，東大寺大仏殿の前に戒壇を築いて聖武(しょうむ)天皇以下400人が戒を受けたのが，日本での授戒のはじめである。のちに大仏殿の西に移され，その後たびたび火災にあい，現存のものは1733年(享保18)に霊雲寺の恵光(えこう)が再興したものである。また下野(しもつけ)

（栃木県）の薬師寺と筑紫(つくし)（福岡県）の観世音寺にもつくられ，東大寺とともに〈天下の三戒壇〉と称した。822年（弘仁13）には比叡(ひえい)山に一乗戒壇院が設けられた。
〔京戸慈光〕

かいだんこうさく　【階段耕作】⇨階段畑

かいだんしきダム　【階段式ダム】　一つの河川に連続してダムを建設すると，その貯水水面は階段状となる。そこでこのダムの群を階段式ダムとよぶようになった。わが国では阿賀野(あがの)川および只見(ただみ)川・木曾(きそ)川などの山間部のダム群がこれに該当する。

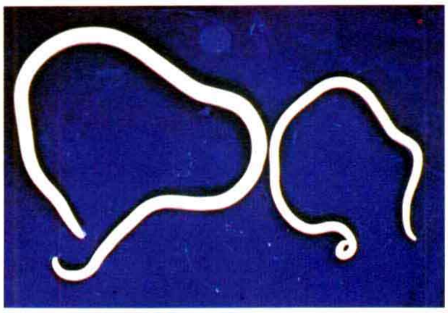
ガイダンス　［guidance］　個人の能力，興味の方向，社会的・経済的環境などについてより認識し，その能力にふさわしい進路を合理的に決定し，将来とも環境などに容易に適応することを援助する教育計画。わが国では指導・補導という語があてはめられるが，指導者の側からする一方向的な導き・さしず・教え込みというような意味は含まれていない。

ガイダンス運動は，1908年にボストン市の職業相談所員のパーソンズによって始められた。当時はおもに職業指導を意味していたが，現在では教育指導・健康指導・適応指導・余暇指導などにわたっている。しかし，ガイダンスの範囲・領域は明確ではなく，個人のあらゆる面からの統一的・全体的な援助こそ十分な効果をおさめうる。したがって，これらを統合して生活指導とすべきであるという主張もある。また，職業指導・進学指導は，卒業期の学童・生徒に特に必要なガイダンスであって，これらは進学指導といわれている。
〔大田垣瑞一郎〕

かいだんばた　【階段畑】　階段耕・階段耕作ともいう。傾斜の大きい農地では，雨水のため土壌(どじょう)が流失しやすいため，等高線に沿って石がきなどで階段状の畑をつくって耕作する。果樹園や茶園などで普通に行なわれるほか，傾斜地の水田はいわゆる棚田(たなだ)・梯子田(はしごだ)として耕作される。

かいだんばなし　【怪談噺】　落語や講談で特に人間の怨霊(おんりょう)を主題にしたもの。夏の寄席(よせ)などで，《真景累ヶ淵(かさねがふち)》《怪談牡丹燈籠(ぼたんどうろう)》などを口演の際，話が最高潮に達したところで照明を暗くし，幽霊に扮(ふん)した前座*を登場させ，鳴り物を入れて話を盛り上げる。初世林屋正蔵*が始祖とされる。

かいだんぼたんどうろう　【怪異談牡丹燈籠】　歌舞伎(かぶき)の脚本。通称《牡丹燈籠》。3世河竹(かわたけ)新七作。1892年（明治25）歌舞伎座初演。三遊亭(さんゆうてい)円朝*の人情噺*（咄）(ばなし)を脚色。旗本(はたもと)飯島(いいじま)家のお家騒動をめぐる複雑な因果物語で，飯島の娘お露の死霊(しりょう)の恋を巧みに利用する小悪党伴蔵が主役で活躍する。





カイチュウ
（上）左は雌，右は雄
（下）卵（顕微鏡写真）

かいちゅう　【回虫】　線形動物・線虫類に属する寄生虫。世界各地に分布し，特に熱帯・亜熱帯に多い。わが国では第2次世界大戦直後は全人口の50％以上が感染していたと推測されていたが，近年は著しく減少し，大都市ではほとんどみられなくなった。雌は体長20～35cm，雄は15～30cmで，雄の尾端は腹側に湾曲し，2本の交接刺がある。陰門は体の前端より体長の約3分の1の辺にあって，この部分は通常帯状にくびれている。成熟した雌成虫は1日に20万個もの卵を産むといわれる。受精卵は楕円(だえん)形で，大きさは50～80×40～50μ，卵殻(らんかく)はタンパク膜という波状の膜でおおわれている。

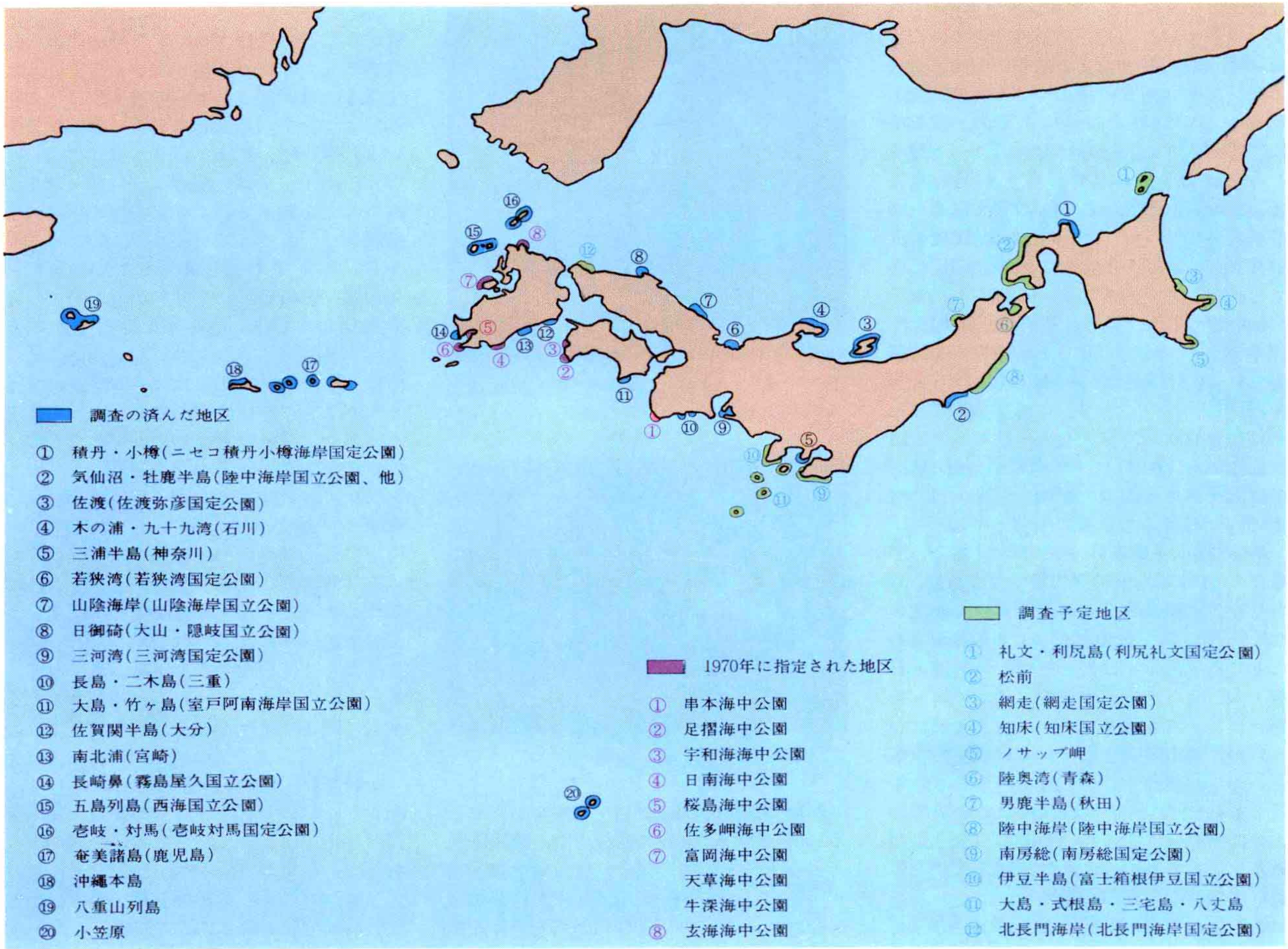
糞便(ふんべん)とともに排出された卵は，夏季適温下で約14日で卵内に感染幼虫をもつまでに発育する。このような成熟卵が野菜やちりなどに混じって口にはいり，小腸上部で孵化(ふか)する。幼虫は直ちに腸壁に侵入し血流やリンパ流にのって肝臓を経て肺にはいる。ここで脱皮して細気管支・気管支・気管を経て喉頭(こうとう)・咽頭(いんとう)から再び食道を下り，小腸に達して成虫となる。感染後成虫が産卵を開始するまで約2か月である。

カイチュウによる症状は，①幼虫の体内移行に伴うもの，②成虫によるものに分けて考えられるが，さらに虫の出す毒素や人体側のアレルギー反応なども関与してたいへん複雑である。幼虫移行の際，せきや種々の気管支炎症状がみられることがある。成虫は小腸内に寄生し，腹痛*・異味症*・神経症状（ひきつけなど）がみられるが，ときには虫垂炎*・腹膜炎*・腸閉塞*(ちょうへいそく)などの原因ともなる。本来子どもの寄生虫で，学童・中学生などに多い。予防としては糞便の合理的処理，殺卵剤の使用，集団駆虫などが重要である。個人衛生としては手洗いを励行する，野菜をよく洗ったり熱湯（75℃以上で瞬間的に卵が死ぬ）に通すなどの方法があるが，衛生教育を行なうことがたいせつである。駆虫剤はサントニン・カイニン酸・ピペラジン製剤などを単味あるいは合剤として用いる。
〔山本　久〕

がいちゅう　【害虫】　人間の生活に害を与えるこん虫およびダニ類の総称で，益虫*に対する語。人間から吸血したり，病気を媒介したりするものは衛生害虫*といい，ここでは農業上に害を与えるものについて述べる。植物の害虫の大部分はこん虫であり，次に多いのはダニ類である。線虫類・ザリガニ・ダンゴムシなども害虫に含めることがあるが，ネズミ・リス・ウサギなどの脊椎(せきつい)動物は小形でも含めないことが多い。加害法は①咀嚼口(そしゃくこう)で植物を外部からかじりとる（イナゴ・ヒメコガネ・ヨトウムシ・アメリカシロヒトリなど），②吸収口（針状の口）を差し込んで外部から汁液(じゅうえき)を吸収する（アブラムシ・カイガラムシ・ウンカ・ヨコバイなど），③植物の内部から加害する（ニカメイチュウ・ナシヒメシンクイ・クリタマバチ・イネハモグリバエなど），④地中で加害する（ハリガネムシ・線虫・ネダニなど），⑤植物の病気を媒介する（アブラムシ・ウンカ・ヨコバイなどの体内・体表について病原が媒介され，加害の傷口から侵入する），⑥産卵部に裂傷・虫癭(ちゅうえい)（虫こぶ）を生ずる，など。防除法は，栽培管理的に害虫の発生を防止し，害虫の習性・生理を利用して捕殺・誘殺し，また，適当な殺虫剤で適期に駆除する。
〔渡辺　実〕

がいちゅうかんり　【外注管理】　企業が自企業の製造工程に関連のある作業・部品などを他企業に発注することを外注といい，この管理業務には外注計画の立案，外注契約の締結，外注品または外注作業の管理，外注工場の管理・育成などがある。外注を利用する目的は，①自企業にない特殊な技術や設備の利用，②自企業の作業量の増減に対処するためなどである。発注会社と受注会社が対等の取引関係になく，加工賃の買いたたきなど支配・従属関係にあるとき，これを下請関係（→下請制）といい，対等な関係にあるときを外注工場あるいは協力工場とよぶ。
〔清水　晶〕

かいちゅうこうえん　【海中公園】　一定の海域とこれに隣接する海岸を区画して，すぐれた海景を保護し，探勝・船遊び・魚つりなどに利用する公園。海中や海底の地形・生物などが総合されて特異な海中景観を構成しているものを観察・鑑賞することは，海外では海洋生物学者や航海者によって18世紀後半から19世紀にかけて開発された。しかし，海として最もにぎやかな水深20mあたりまでの浅海は，漁業者や採集家などによってしだいに破壊され，自然のままの姿をとどめるものが少なくなってきた。このため，自然保護論者が一定の海域を限ってその景観を保護すべきであると説いた。行政上自然公園の一種として海中公園または自然保護区に指定するまでに発展したの



海 中 公 園

は1960年ごろからのことで，アメリカやオーストラリアのクインズランド州などに最初の国立公園または国家記念物として設定された。1962年シアトルで開かれた第１回世界国立公園会議で，この種のものを各国で設置するように議決され，その趣旨を各国に対して勧告した。これを契機として，わが国でも海中公園センターが発足し，広く関係各地方庁の支持を得て，1970年(昭和45)には自然公園法の一部改正となり，和歌山・愛媛・高知・佐賀・熊本・宮崎・鹿児島県に10か所の海中公園地区が指定された。さらにこれが広げられる機運となり，北は北海道から南は沖縄諸島までに有力な候補地が物色されるようになった。

元来，海は各種公共用途のために開発されるべきであり，漁業・鉱業・交通・通信・学術・レクリエーションなどの間で調整をはかりながらそれぞれの用途が開発されるべきである。海中公園もその一つであり，厚生・学術・観光事業として企画され，利用施設としてガラス底船・海中展望塔などを置き，公衆が神秘な世界に接することができるようになった。もとより海岸には水族館・タイドプール(潮だまり)・展示場・園地・休泊施設・駐車場・桟橋(さんばし)・埠頭(ふとう)など整備される。海中公園の海区は，その本来の施設としてはさほど広大な面積を要せず，10～15ヘクタールほどで足りる。しかし，その環境を保護するためには，プランクトンなどを含めて海のあらゆる生物間のつりあいのとれた自然状態の維持が要求され，海水の物理的・化学的な汚染・汚濁を防ぐことも条件となる。このためにはある程度広大な海域とこれに接する陸域とを自然公園として管理することが望ましい。〔田村　剛〕

かいちゅうでんとう　【懐中電燈】　乾電池を電源とする小形の携帯用ランプ。豆電球を直流で点燈する。豆電球は寿命を犠牲にして効率を高めた真空コイル電球で，電圧は直流2.5～4.5Ｖぐらい，ガラス球の直径は12㎜が普通である。ふつう，集光レンズで豆電球から出た光束を細く絞って照明に使用する。なお，蓄電池を用いた充電式のものもある。

かいちょう　【海鳥】　⇨うみどり

かいちょう　【回腸】　⇨小腸

かいちょう　【開帳】　内陣あるいは厨子(ずし)の戸帳を開き，ふだんは公開しない仏像を公衆に礼拝させること。密教の影響が強く，奈良時代から行なわれた。１年１回か，33年・61年めの開帳であったが，のち３・７・10・12・20・30・50・60年など周期的に行なう法要も多く，参拝のたびごとに行なう場合もある。便宜上，よそに仏像を持ち出して行なう場合もあるが，これを出開帳という。善光寺の開帳はよく知られる。〔玉山成元〕

かいちょうおん　【海潮音】　1905年(明治38)刊の訳詩集。編・訳者は上田敏*。わが国の象徴詩*運動に大いに貢献した。海外の詩人29人の57編の訳詩が収められ，フランス近代の高踏派・象徴派の訳詩が中心で，ブラウニング*の《春の朝(あした)》，ブッセ*の《山のあなた》，ベルレーヌ*の《落葉》などは特に有名。

かいちょうせき　【灰長石】　⇨シャチョウ石　⇨チョウ石

かいちょく　【回勅】　アンシクリカの訳語。ローマ教皇から全世界または１国の司教にあてて出される書簡。司教を通して信

徒全体に伝えられる。ラテン語で書かれ，各国公用語の訳がつくのが普通である。内容は神学・道徳・社会などの問題に関する教会の最高指針である。特に社会・経済問題に関するものは〈社会回勅〉とよばれ，世界的に影響が大きい。題名は最初の２～３語をとってよばれる。なお，ピウス11世の《社会の革新》(1931)，ヨハネス23世の《地上の平和》(1963)，パウルス６世の《諸国民の進歩》(1967)は信徒を越えて直接各国民にあてられたものである。〔石井忠厚〕

かいつうしょうこう【華夷通商考】江戸中期の代表的外国商業地理書。長崎通詞(つうじ)西川如見(忠英)著。1695年(元禄８)上下２巻として刊行。のち1708年(宝永５)訂正増補して５巻となる。日本との通商の見地から，中国・アジア諸地域・西洋諸国の位置・風土・人口・産物・交通・風俗などについて書いたもの。

かいづか【貝塚】考古学上，主として縄文(じょうもん)文化*の研究対象となる遺跡。食用とした貝類の殻(から)が遺棄されて築成された場所をいい，先史時代にごみ捨て場としたところである。貝殻・魚骨・骨角器・石器・木の実など生活廃棄物・生産用具・装飾具がことごとくその場所に捨てられているため，考古学研究にとっては資料の宝庫といえる。埋葬された人骨を包含している場合もある。わが国では2,000に近い貝塚がすでに発見されており，弥生(やよい)文化*期以降のものもあるが，大部分は縄文文化期に属し，貝塚の発掘から原始文化遺跡の調査が着手されるのが普通である。本土のうち最も濃厚に貝塚が分布しているのは東京湾周辺で，ほかに本州では遠浅の海浜に臨んでいる太平洋側の各地，九州の有明湾などである。貝塚から出土するさまざまの遺物から当時の文化や生活の状態が明らかにされ，そのうちの土器*の特長によって遺跡の時期を編年的に知ることができる。貝塚の発掘から集落遺跡が発見される例も多い。貝塚を伴う縄文期の集落は，現在では退潮現象で海岸より数キロメートル隔たっているのが普通であるが，当時は海浜に接した丘陵台地を立地として営まれており，後背地帯に原野や森林を控えて，漁労と狩猟の生活が行なわれていた。貝塚はその規模や散布・集積の状態からいくつかの形態に分類されるが，馬蹄(ばてい)形貝塚とよばれる遺跡は東京湾東岸の下総(しもうさ)台地に分布し，加曽利(かそり)貝塚*(千葉市)は特に著名である。馬蹄形貝塚からは環状集落遺跡が発掘され，その中央は広場となっていて，当時の共同体の生活をうかがわせている。多くの貝塚のうち著名なものとしては，1877年(明治10)アメリカの動物学者モースによって発掘され，わが国考古学研究のはじめとなった大森貝塚*(東京都)，百数十体の人骨の発掘された津雲貝塚*(岡山県)などがある。〔高崎徳次〕



貝　塚　わが国で，はじめて学術調査が行なわれた大森貝塚



カイツブリ

かいづか【貝塚(市)】大阪府南西部の市。1545年(天文14)に創設された真宗願泉寺の寺内町として発展し，江戸時代は和泉(いずみ)ぐし・和泉もめんの生産や取引が行なわれた。1943年(昭和18)市制施行。人口79,000。和泉海岸平野のほぼ中央部と背後の丘陵地を占める。産業三大別人口比は３：52：45。北隣の岸和田市，南隣の泉佐野市とともに泉州紡織工業地帯を形成する。ユニチカ貝塚工場をはじめ紡績工場が多く，紡績製品は市生産額の80％以上を占める。また，織物・金属・機械器具などの工場もあり，ワイヤロープの年間生産高は全国の半ば以上を占めている。海岸部から丘陵部にかけて国道26号線・南海電鉄本線・第２阪和(はんわ)国道・阪和線が南北にほぼ並行して走り，水間鉄道が海岸部からこれら各線と交差して葛城(かつらぎ)山の山麓(さんろく)の水間に通ずる。大阪近郊の保養地で，丘陵部には国立大阪療養所や大阪市立少年保養所などの厚生施設が多い。水間寺(水間観音)は厄(やく)よけ観音として知られ，孝恩寺の観音堂(釘無堂(くぎなしどう))は国宝に指定されている。

かいつけぎょぎょう【飼付漁業】海洋中の特定の場所に，浮遊物を設置したり投餌(とうじ)したりして回遊*魚の足を止め，その滞泳を促して行なう漁業。多くは陸棚(りくだな)上の礁や堆(たい)の付近が選ばれ，シイラ・ブリ・タイ・ボラなどがそのおもな対象魚となる。

かいつぶり【鳰・鷿】①鳥類・カイツブリ目の総称。8,000万年前の新白亜紀の地層から化石が発見されている歴史の古い鳥である。カイツブリ科１科からなり，現生するものは20種。いずれの種も脚は体の後端部についていて潜水に適した体形をしている。さらに，脚指にはゴム弁状のひれがあり，潜水して魚・甲殻(こうかく)類・水生こん虫などを捕える。この類の胃の中には自分の羽毛がはいっているが(ひなの胃にもみられる)，これは主食としている魚類・甲殻類などのかたい部分をこの羽毛で包んで消化していき，胃壁を保護していると考えられている。いずれの種も内陸の池沼で繁殖する。わが国にはカイツブリとアカエリカイツブリの２種が繁殖し，前者は日本各地で，後者は北海道で繁殖している。このほか，ミミカイツブリ・カンムリカイツブリ・ハジロカイツブリが内湾や沿岸に渡来して越冬する。②カイツブリ科の一種。全長約26cmの小形の鳥で，全体に灰かっ色。繁殖期には顔頸(がんけい)部はくり色になる。水面に水草の葉茎を集めて浮巣をつくって繁殖する。これは〈鳰(にお)の浮巣〉として知られているものである。危険を感じるとす早く潜水して移動し，再び顔だけを水上に出してようすをうかがったりする。〔安部直哉〕

かいてい【海底】海洋全体について，深さとそれに対応する海洋の面積の関係を調べることによって，海底地形*の大勢をつかむことができる。深さ・傾斜などにより，大陸棚(たいりくだな)・大陸棚斜面・海洋台地・深海域に分類される。①大陸棚：海岸から深さ約200ｍまでの平坦(へいたん)な面，陸地のまわりに棚状をなしている。大陸棚の幅は，海洋全体で平均すると約55kmであるが，場所によって違う。南米の太平洋岸では海岸から急に深くなり，大陸棚はほとんど存在しない。ソ連の北極洋岸では，約1,460kmにも及ぶ大陸棚がある。大陸棚には，河川により陸地の各種栄養分が運ばれるために，良好な漁場が多い。また，鉱物資源のほかに，石油・石炭・天然ガスなどを埋蔵し，近年，その開発が盛んである。②大陸棚斜面：大陸棚を越して深さ3,000ｍあたりまでの急斜面。③海洋台地：大陸棚斜面を越して，深さ6,000ｍあたりまでの台地状の平坦地。その面積は地球表面積の半ば以上を占めている。海洋の平均深度は3,800ｍで，大陸周辺に深さ6,000ｍ以上の細長い形の深み，海溝(かいこう)がある。音響測深技術の発達とともに，海底地形*のようすは急速に明らかにされて精密な海底地形図がつくられるようになった。海山・海底峡谷・海底山脈などの細かい地形が知られ，漁業・航海などにとって便利になってきた。〔相原正彦〕

かいていかざん【海底火山】海底で火山活動が起こって生じた火山。海底に起こる噴火が直接観察されることもあるが，火

山島が生じたり，軽石，ガスの泡(あわ)，死魚などが海上に現われたり，付近の海水が着色したり濁ったりするので発見されることが多い。伊豆(いず)七島は海底火山が成長したものと考えられている。有史以後に存在が知られた海底火山は，全世界で約200座であるが，新島を形成したのはその約4分の1といわれる。新島は侵食作用や爆発などで姿を消すのが普通である。1952年(昭和27)から1953年にかけて海底火山として生まれた明神礁も大爆発でまもなく姿を消している。地質時代に海底火山の存在した証拠として，海成の堆積(たいせき)岩中に凝灰岩その他の火山砕屑(さいせつ)岩が互層していることがあげられる。〔平山　健〕

かいていケーブル　【海底ケーブル】　海底に敷設される電気通信用および電力搬送用のケーブルをいうが，一般には電気通信用ケーブルをさす。浅海用・深海用に大別され，種類は多い。旧式のものはグッタペルカ*で絶縁され，モールス電信また印刷電信程度を送る機能しかもたない。しかし最近，電気通信用の海底ケーブルは同軸ケーブル*とトランジスター中継器を組み合わせた方式が多く，多数の電話あるいはテレビの伝送が可能となった。国産の浅海用のものは，中心導体は銅で，その上を鋼の撚線(よりせん)さらにその上を鋼管でおおい，外部導体は銅帯を用いる。絶縁にはポリエチレンが使われている。外部導体の外側は黒色ポリエチレンでおおい，その上をさらに座床ジュートでおおう。最後に漁具などから保護するためにプラスチゾル被覆鋼線を巻いて外装する。外径は約3.2mmとなる。他方，深海用は張力に耐えるため鋼の撚線を中心とし，これに銅板を巻いて管状にする。その外部をポリエチレンで絶縁し，この上に外部導体として銅帯を巻き，最後に黒色ポリエチレンでおおう。日本海に敷設したものの例では，トランジスター中継器(寿命20年)は32kmごとに接続されており，電源は一方の陸上局から内部導体を通じて50mAの直流定電流を送っている。周波数分割方式を用いており，48～1,188キロヘルツ(kHz)の帯域の中で4kHzの通話路を往復120回線の伝送ができる。〔内山明彦〕

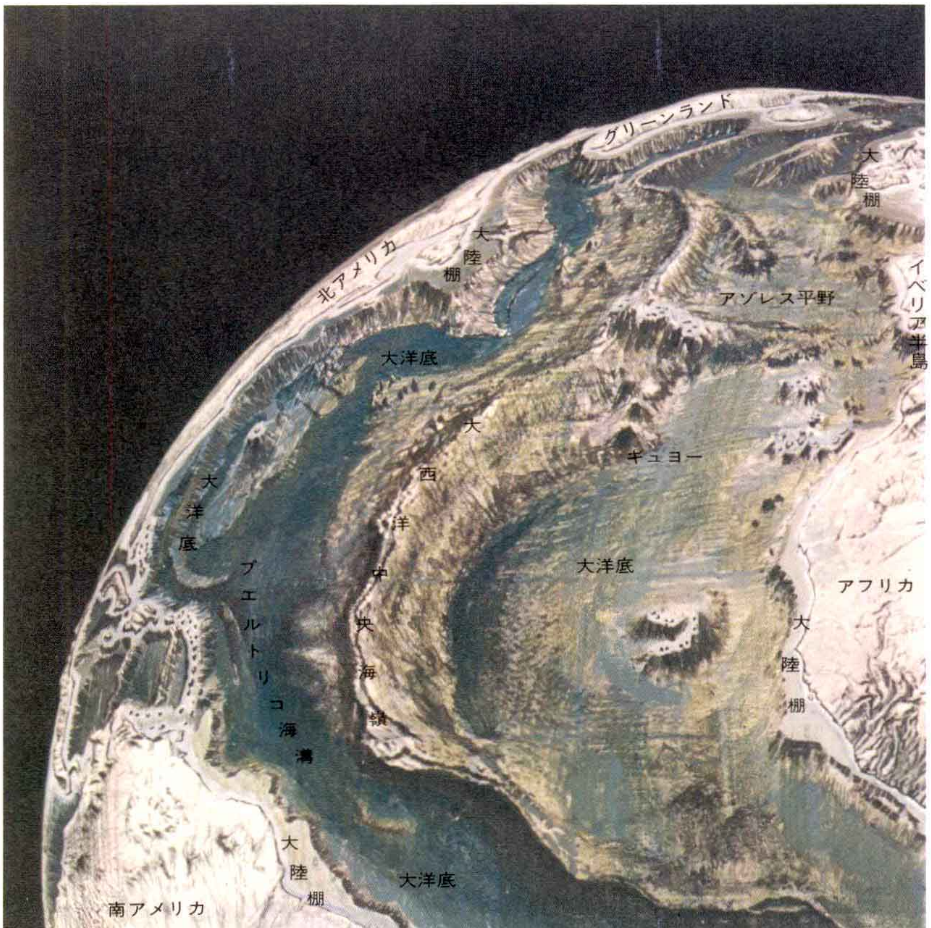
かいていたんでん　【海底炭田】　採掘することのできる炭層が多量に海底下に存在している場所。わが国の炭田では，九州の三池炭田・西彼杵(にしそのぎ)炭田(松島・高島)，北海道の釧路(くしろ)炭田などが海底炭田である。海底炭田を開発するためには，原則として海岸や島から斜坑または立坑と水平坑道を掘進して，炭層に到達して採掘するので，採掘法そのものは陸地の炭田と変わらないが，坑内に海水が浸水してこないように，海底との間にある程度以上の厚さの地層を残して，この部分の岩盤が崩壊しないように特別な注意を払わねばならない。また，陸地から遠くなるにつれて通気が困難になるので，人工島をつくって通気用の立坑を掘り下げたりする。〔西松裕一〕

かいていちけい　【海底地形】　地表の起伏の状態を地形というように，海底の起伏の状態を海底地形という。海底地形は陸地の地形に比べて次の点に特徴がある。①起伏などの構造が大規模で，傾斜がゆるやかである。②地形が単調で，すべての営力は局部的に働くことが多い。③海底の起伏は堆積(たいせき)作用によって平坦(へいたん)化されやすく，侵食作用が少ないので変化を生じにくい。

このような海底地形の特徴は水深によってだいぶ異なる。海底地形は水深によって次の4種に分けられる。①大陸棚*(たいりくだな)：水深200mまでの浅い所で，ほとんど平らである。この部分は氷河時代には陸地であったと考えられ，浅く刻まれた谷がある。②陸棚斜面(大陸斜面)：水深3,000m付近までの斜面で，傾斜は5°内外である。単調な斜面のところどころに谷・丘陵・段丘状地形がみられる場合もある。③深海底：3,000～6,000mの緩傾斜の広大な部分。大洋の海底の80％を占める。深海底は局部的には複雑な形をとり，海嶺(かいれい)(急傾斜した側面をもつ突起部)・海膨(緩傾斜の側面をもつ突起部)などを含んだ海底山脈や，孤立した突起部の海山(高さが高いもの)，海丘(やや低いもの)，ギュヨー(頂の平坦な孤立した山)や円形・楕円(だえん)形を呈した大小のくぼみ(海盆という)などがある。これらは地質時代の地殻(ちかく)変動とか，地質時代(白亜紀・第三紀)に火山島として生じ，のちに侵食されて変形したものと考えられている。④海溝*(かいこう)と海淵*(かいえん)：海溝は海盆のある部分(おもに弧状列島や大山脈の外縁)の長い深み，海淵はその中の局部的な深みで，最深部は10,000m以深である(マリアナ海溝のビチアス海淵は11,034m)。日本海溝は水深6,000m以上の区域が，長さ3,000km，幅100kmにわたってカムチャツカ



海底ケーブル　KDD丸(国際ケーブルシップ(株)所属)による日本海のケーブル敷設



海底地形　北大西洋

から日本列島の東側に沿って南下し，硫黄(いおう)島の南東に及んでおり，世界第1の大規模な海溝である。〔平山 健〕

かいていちんでんぶつ 【海底沈殿物】 風や河川の作用，火山の噴火などによって海底に沈殿堆積(たいせき)した陸地のいろいろな物質，そのほか海中生物の遺骸(いがい)などの沈積によってできる厚い沈殿物。採泥器(さいでいき)で採取した沈殿物を分類すると，一般に海岸から遠ざかるにつれて沈殿物は粒子が細かくなる。沿岸から深さ約200 mまでのいわゆる大陸棚*(たいりくだな)では岩塊・じゃり・砂・どろなどであるが，200 m以深では微細な泥土となる。青泥・赤泥・火山泥・サンゴ泥などがあり，組成によってそれぞれの色を呈している。また，沿岸沈殿物は深海沈殿物に比べて，シリカの含有量が多く，アルミナ・鉄・マンガン・リンなどの含有量は少ない。沈殿物の分析から海底資源についての知識が得られ，また放射能を測定することにより海の年代を知ることができる。〔相原正彦〕

かいていでんしん 【海底電信】 大陸間あるいは陸地・離島間で海底ケーブル*を介して行なう電気通信。最初は電報の送受のみであったが，現在は電話・テレビ電波の送受も含めていう。1851年，イギリス人ブレットがドーバー海峡に敷設した海底電信ケーブルによる通信が最初で，その後大西洋横断(1866)，太平洋横断(1964)の通信も成功した。わが国では，1871年(明治4)下関(しものせき)海峡に敷設されたケーブルによる通信がはじめてである。1970年3月末の日本の海底ケーブルは549本，総延長3,334 kmで，今後さらに重要な国の幹線的通信として見直されよう。〔滝 誠〕

かいていでんせんふせつせん 【海底電線敷設船】 海底ケーブル*を敷設したり，それを修理したりする船。ケーブル船ともいう。上端が前方に突出した船首にローラーやウインチが装備されており，海底から電線を引き上げたり，海底に降ろしたりする。

かいていトンネル 【海底トンネル】 関門トンネル*のように海底に掘られたトンネル。海底の地盤が強固な岩盤の場合には山岳トンネルと同様な工法が用いられ，最近では青函(せいかん)トンネルのようにトンネルボーリングマシン*による掘削も進められている。一方，海底の地盤が砂礫(されき)層や軟弱層の場合には，シールド工法*か沈埋工法*などが用いられる。

かいていぼくじょう 【海底牧場】 現実にはまだ存在しないが，海洋資源開発の構想の中から生まれてきたもので，陸上における放牧の形態を，沿岸近くの海底に応用して水産生物の増殖を図ろうとするものである。たとえば，知能指数の高いといわれるイルカを飼いならして，牧犬のような役割を果たさせようとする提案もなされている。



海底ボーリング　秋田沖で油田調査中の白龍号



回転競技

かいていボーリング 【海底ボーリング】 海底の地質・地質構造・地下資源の探査のために海上から行なうボーリング。海底試錐(しすい)ともいう。陸地から海底に向かって延長していると思われる鉱層・炭層・油層などの状態を調べるために行なう場合が多く，現在では特別の場合を除いては比較的水深の浅い大陸棚*(たいりくだな)の部分に試みられる。このボーリングは地下資源の探査のみならず，開発や生産に直結しており，日本にも秋田沖の油田調査を行なった白龍号(はくりゅうごう)がある。ボーリングの方法は移動式櫓(やぐら)ボーリング・船上ボーリング・潜函(せんかん)式などがあって，それぞれ海上に立てた櫓の上からボーリングを行なうもの，船上から掘管を海底におろして行なうもの，または海底におろした潜函の底から行なうものをさす。陸上のボーリングと技術的に違う点はほとんどないが，作業を行なうときに生じる泥土(でいど)を処理するための清水の補給が困難であることが第1の難点である。〔平山 健〕

かいていゆでん 【海底油田】 ⇨油田

かいていりつれい 【改定律例】 1873年(明治6)公布・施行された刑法。1870年制定の新律綱領*の不備を補うため，これを基礎に修正増補して制定された。司法卿(しほうきょう)江藤新平*が起草したという。フランス刑法の影響を受け，処罰は新律綱領より1級軽減，笞(ち)・杖(じょう)・徒(ず)・流刑は廃止されて懲役刑に統一された。1880年の旧刑法制定(1882年施行)に伴い廃止。

かいてしじょう 【買い手市場】 商品市場において，供給量が需要量より相対的に多かったり，価格が下落ぎみで先行きなお価格下落が予想されるようなときには，買い手は思うように商品を選択したり，価格や購入量について注文をつけたりする余地が多く存在する。このように，買い手の立場が売り手の立場より有利な状態を買い手市場といい，逆の場合を売り手市場*という。

かいてん 【回転】 車軸のまわりを回る車輪，自転する地球などのように，物体がそれ自身の形は変えずに，その各部分が共通の一定の直線からそれぞれ一定の距離を保って円周上を移動する運動。回転運動ともいう。この場合の一定の直線のことを回転軸という。回転軸は一定の位置に固定されていても，自由に移動していてもどちらでもよい。軸のまわりを同じ向きにぐるぐる回る運動ばかりでなく，振り子のように回る向きが交互に変わって往復するような運動も回転である。また，回転運動を行なった結果として，物体または図形が位置や向きを変えることをさして回転ということもある。紙の上に正三角形を書き，同じ大きさの正三角形の紙片をその上に重ね，この紙片を正三角形の重心を通って紙面に垂直な直線を軸として60°，120°，または180°だけ回転させると，紙片は紙の上に書いた正三角形とまったく重なり合う。図形のこのような性質を回転対称性という。〔有山正孝〕

かいてんうんどう 【回転運動】 ⇨回転

かいてんかいじがたはつでんき 【回転界磁形発電機】 ⇨発電機

かいてんきょうぎ 【回転競技】 スラローム競技ともいう。スキーのアルペン競技*の一。いくつかの旗門(2本の旗による関門)によって形成されたコースを滑走してその速さを競うもの。滑降競技*とは対照的に鋭角のターンを要求されるので，鋭敏な反射神経と強い足・腰の力を必要とする。コースは，出発点と決勝点との標高差が男子180～220 m，女子120～180 m，旗門の数がスタートとゴールを含めて男子55～75，女子40～60と決められている。競技は，2回の滑走の合計タイムで争われる。アルペン競技のうち，日本人に最も適する種目といわれ，1956年(昭和31)第7回オリンピック冬季大会で猪谷(いがや)千春選手が2位となり，冬季オリンピックではこれまでにただ一つの日章旗をポールに揚げた。〔堀 浩〕

かいてんけい 【回転計】 車軸やモーターの軸などの回転速度を測定する計器。回転速度計あるいはタコメーターともいう。

回転の遅速の度合いは角速度で表わす。角速度は，単位時間内における回転数あるいは角変位で示す。前者の場合には1分間に何回転したかでrpm(revolution per minute)を用い，後者の場合には1秒間に何ラジアン*変化したかでrad/秒を用いる。

回転計は，はかろうとする機械のパワー・大きさ・構造などにより適切なものを選ぶと同時に，定常状態にある平均回転数を知りたいのか，変動を知りたいのかなどを考慮して選ばなければならない。

回転計を原理によって分類すると，①機械式回転計，②流体式回転計，③電気・磁気式回転計，④ストロボスコープ式(点滅光源による回転じまの停止状態を求め，一定の回転数を求めるようにしたもの)回転計などになる。回転数は，連続した目盛りの上を針が移動して指示するアナログ式と，直接数字で指示するディジタル式のいずれかで表示される。

携帯用回転計としては，ハスラー回転計が軽量で取り扱いが簡単なので広く用いられている。これは，計数器と秒時計を内蔵し，測定軸をはかりたい軸端に押しつけ，始動ボタンを押すと3秒間だけ時計機構が働いて，その間の回転数を指示するようになっている。〔土屋喜一〕

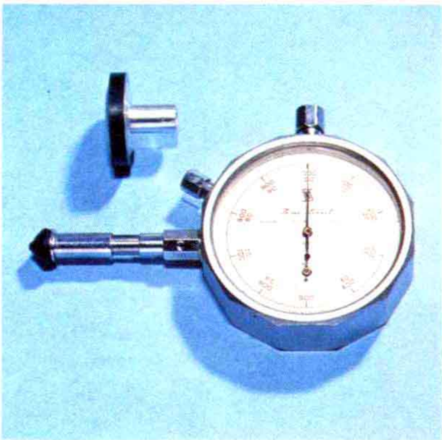
かいてんし【回転子】発電機・電動機の回転部分。ローターともいう。固定子に対する語。火力発電所の同期発電機(タービン発電機ともいわれる)の回転子は，大形のもので主軸直径が1m，長さ10数メートル，目方100t以上もあり，2極の場合毎分3,000回転(50ヘルツ*系統)，あるいは3,600回転(60ヘルツ系統)で回る。この回転子には界磁巻き線が埋め込まれており，直流で励磁して磁束をつくっている。

かいてんじかい【回転磁界】3相交流電流i_a，i_b，i_cは時間的に120°ずつずれた正弦波状の電流であるが，これらを空間に120°ずつずらして配置され固定されたコイルa，b，cに流すと，コイルは静止していても，つくられる磁界は一定の速度で回転する。これを回転磁界という。現今，動力用に用いられる交流機は，みな回転磁界を利用して回転子*を回している。原理的には3相以上の多相交流を用いることも可能である。〔田村康男〕

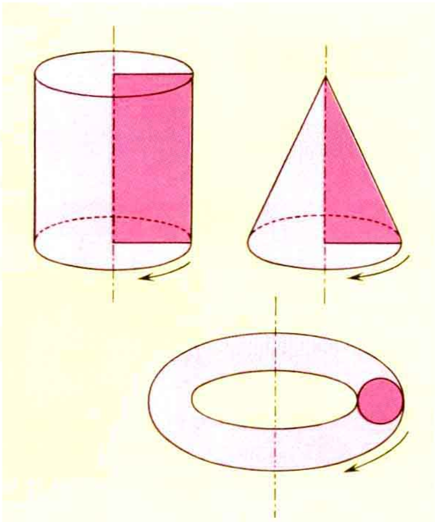
かいてんたい【回転体】半円の直径を軸にしてその半円を1回転させれば球になる。このように，平面図形を一直線を軸にして1回転させてできる立体が回転体である。直円柱や直円錐(えんすい)も回転体である。回転体を軸に垂直に切った切り口は円になり，軸を含む平面で切った切り口は線対称な図形になる。

かいてんピストンきかん【回転ピストン機関】⇨ロータリー機関

かいてんへんりゅうき【回転変流機】交流電力を直流電力に変換する回転機械。電気鉄道用の直流電源として従来よく用いられた。その機能を外部から見ると，交流側は同期電動機*の特性を備え，直流側は直流発電機の特性を有するが，内部的には，電機子*電流は直流機としての電流と交流機としての電流の差になるため，損失が少なく形状も小さい。現在は回転変流機に代わって水銀整流器などによる静止形変換装置が多く用いられる。〔田村康男〕

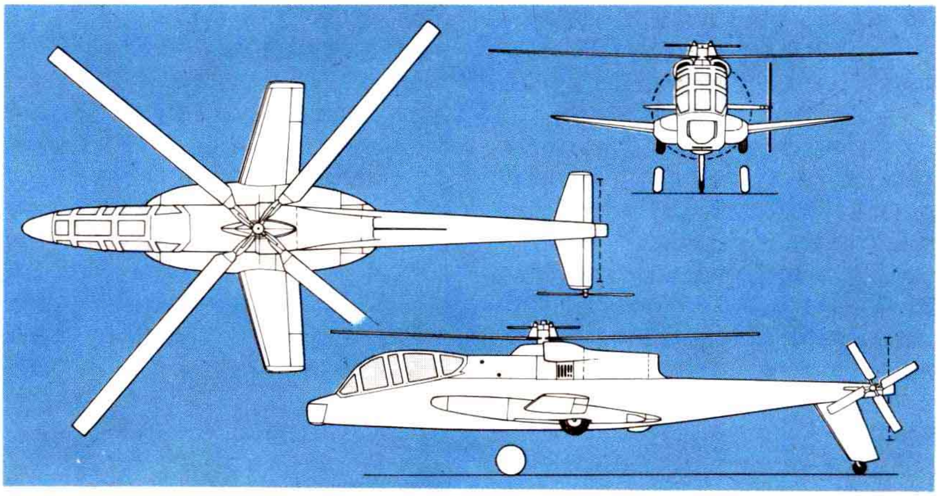


回転計



回転体　回転体の例

かいてんよくこうくうき【回転翼航空機】機体を浮揚させる揚力を得るために，ローターとよぶ直径の大きい回転する翼を使用する航空機。これを大別してオートジャイロとヘリコプターとに分ける。オートジャイロはローターを駆動する動力をもたず，プロペラによって機体が前進するとき，前方から風を受けたローターが風車として回転し，揚力を発生する。これに対してヘリコプターは動力によって駆動されるローターをもち，滑走路をまったく必要としない垂直の離着陸ができる。回転翼航空機の揚力機構は要するに竹とんぼのそれと同じであって，着想はかなり古い昔にさかのぼることができる。ダ-ビンチに回転翼を用いたVTOL*(垂直離着陸機)のスケッチがあることはよく知られている。実際の乗り物としての回転翼航空機は20世紀の初頭から飛行機と平行的に開発が進められ，オートジャイロとしては1926年にスペインのシェルバが，そしてヘリコプターとしては1937年にドイツのフォッケ，および1941年にアメリカのシコルスキーがそれぞれ本格的な飛行に成功した。ヘリコプターには，機体の浮揚のための揚力を出す主ローターが必要である。同時に主ローターを駆動するためのトルク*をつりあわせないと，機体が逆方向に回転してしまう。トルクのつりあわせ方法としては，機体の尾端に垂直面内で回転する小形のローターを使用する尾部ローター方式，主ローターを機体の前後に配置して互いに逆方向に回転するタンデム-ローター方式，2個のローターを同軸に重ねて逆回転させる同軸方式，2個のローターの回転面が互いに重なるように軸を接近させておき，両者がぶつからないように位相差を置いて逆方向に回転させるシンクロプタ方式，およびローター翼の先端から後ろ向きにジェットを噴出して駆動する翼端ジェット方式などがある。ヘリコプターが垂



回転翼航空機　ロッキードAH-26A

直に昇降したり，空中停止(これをホバリングという)したりする場合には，全部のローター翼のピッチを同時に増減することによって，ローターに働く揚力(推力)を変化すればよい。前進飛行を行なう場合にはローターの回転面を前に傾けてローターの推力を前傾させ，その垂直成分が機体の重量とつりあい，前向きの水平成分が機体の空気抗力につりあうようにする。ローターの回転面を傾けるためには，ピッチ角を1回転の間に周期的に変化して，翼に働く揚力を増減させればよい。ローター翼は揚力が最も増した位置で最も下がり，揚力が最小の位置で最も上昇して，翼の先端が描く円は回転軸に対し傾斜することになる。ローターの回転による線速度に対して，前進速度がしだいに大きくなると，前進速度と線速度とが相加的になる側と，相差的になる側とで，空気に対するローター翼の相対速度の違いがしだいに大きくなる。したがって，ピッチ角を一定のままにしておくと，ローター翼に働く揚力は相加側で大きく相差側で小さくなって，左右のつりあいが破れてしまう。この状態で左右の均衡を保つためにも，ピッチ角を相加側で小さく，相差側で大きくなるように周期的に変更する必要があり，ピッチ角の変更幅は前進速度の回転線速度に対する比が大きくなるほど大となる。ピッチ角にはローター翼の失速による限界があるから，それを越えて大きくすることができず，通常の形式のヘリコプターの前進速度は350km/時付近が限度と考えられている。揚力も推力もローターから得ているために，ヘリコプターの有効揚抗比はたかだか6ないし7の程度であって，揚抗比が20近くまでに高められている飛行機に比べると輸送機構としての経済性が劣っている。ヘリコプターの高速性能を改善し，経済性を高めるために，ヘリコプターに固定の翼をつけ，別個の推進装置を装備するコンパウンド-ヘリコプターの研究が盛んに行なわれており，たとえばロッキード社のAH-56A(全備重量約10t，3,435馬力ターボシャフト-エンジン1基装備)は4翼のローターのほかに小形の翼と尾端にプロペラを装備して，最大速度を410km/時まで向上している。ヘリコプターは現在実用化されている唯一のVTOLであるから，その特徴を生かして，農薬散布など農業用に，陸上交通や送電線などの監視用に，あるいは山岳や水辺の救難用に小形機が広く使用され，わが国でも川崎重工業でKH-4型(全備重量1,300kg，270馬力レシプロ-エンジン*装備)が製造されている。短距離の旅客や物資の運搬もヘリコプターに好適の用途であって，わが国でも数社がアメリカから製造権を導入して中形ヘリコプターを製造している。ヘリコプターにはさらに，空飛ぶクレーンとしての用途があり，送電線鉄塔やダム建設，あるいは陸上輸送機関では運べない大形構造物の運搬に使用される。ソ連のMi-10(全備重量43,450kg，5,500馬力ターボシャフト-エンジン*2基装備)やアメリカのS-64E(全備重量19,050kg，4,500馬力ターボシャフト-エンジン2基装備)など，クレーン専用の大形機も出現している。〔中口　博〕

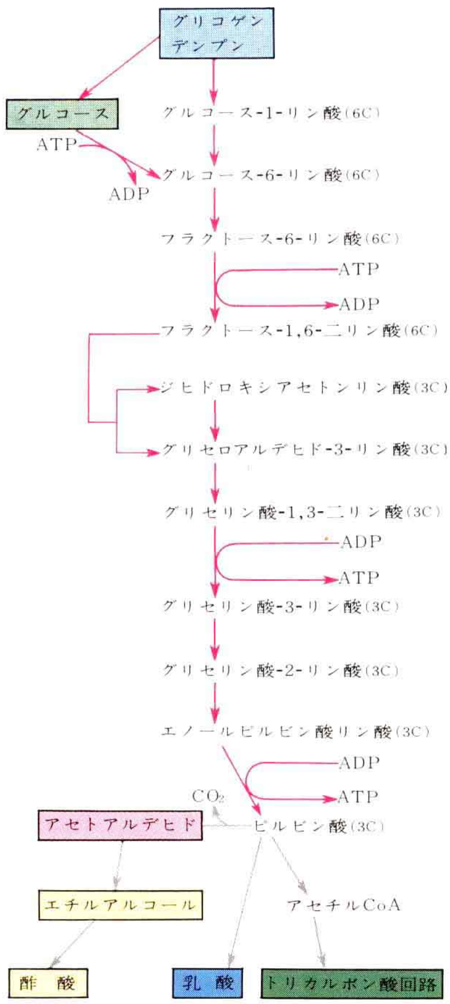
かいてんろ【回転炉】⇨窯炉

かいと【垣内】垣内とは文字どおり垣(かき)で囲まれた土地の区画を意味する語であるが，囲まれる土地は田や畑あるいは荒野も含まれる。しかし，一般的には大字・小字の範囲にその名称を用いている所が多く，かつて村落の最小限の自治単位であったことがうかがわれる。最小限の自治組織は垣内をつくり，そこで経済上の互助や労働を中心とした講*，信仰を中心とした講などの集まりや若者組*・葬式組あるいは行政上の村組の単位を形成し，基礎的な地域社会を形成していた。このような性格の垣内は全国に広く分布し，ケート・ゲート・カイチ・カクチ・カイドなどともよばれる。第2次世界大戦後，農地改革*が施行され，市町村の再編成が行なわれるに及んで，従来からあった垣内の機能はそのような行政区に譲ったものが多いが，垣内は自律的な組織であるため，行政区とは違った独自の機能をいまなお保っている。〔渡辺欣雄〕

ガイド［guide］案内人・指導者・指導方針・入門所・道標・旅行案内・山案内人などの意。日本では，バスガイド・旅行ガイド・登山ガイドに使われることが多い。いずれも以前に比べて社会的な評価の低下がみられ，特に登山ガイドはわが国では消滅したに等しい。しかしヨーロッパ-アルプスでは依然としてガイド制度は確立されており，ほとんどの一般登山者はガイドに案内を依頼している。フランスではシャモニーの国立登山学校で養成されているが，入学はフランス人に限られている。スイスではギルド(組合)が，その養成・承認を行なっている。旅行のガイドはしばしばツアー・エスコート(添乗員)と混同されやすいが，ガイドは案内人であり，観光案内と最低限の身のまわりの世話ですむが，ツアー・エスコートは旅行の最初から終わりまでいっさいの責任を負うのを普通とする。〔小杉　恵〕

かいとう【灰陶】灰青色無釉(むゆう)の中国の土器。焼きしまっていてかたいのが特色で，龍山(りゅうざん)文化，殷(いん)・周代のものが顕著である。手づくね製で，成形の際に条線文や縄席文(じょうせきもん)・格子文(こうしもん)のたたき文様がつけられる。

かいとう【解糖】解糖作用ともいう。動植物の組織で，グリコゲン・デンプン・グルコース(ブドウ糖)などが無酸素状態で分解されて乳酸を生ずる反応過程。炭水化物代謝の主要経路の一。この経路は主要な研究者の名をとってエムデン-マイエルホフ経路といわれる。グルコースから出発した場合，解糖は，$C_6H_{12}O_6 \rightarrow 2CH_3CHOHCOOH$(乳酸)+57kcalと書かれるが，実際は図のように10以上の中間段階からなりたっている。各段階はそれぞれ酵素反応であり，またATP*・NAD*などが補酵素(→酵素)として関与している。解糖系での主要な化学反応は，単糖類のリン酸化(糖のリン酸エステルの生成)，六炭糖二リン酸1分子の三炭糖リン酸2分子への開裂，NADあるいはその還元型(NADH)を補酵素とする酸化還元反応である(解糖系のピルビン酸*までの反応はアルコール発酵*と共通)。上記の式が示すように，解糖ではグルコース1分子につき約57kcalのエネルギーが発生する。図のようにグルコース1分子につき差し引き2分子のATPが合成される。ATPがADPと無機リン酸に加水分解される際に約8kcalのエネルギーが放出されるとすると，解糖で放出される全熱量のうち$2\times 8/57\times 100 \fallingdotseq 28$(%)がATPの形でたくわえられることになる。したがって効率はよくないが，解糖は嫌気(けんき)的状態でATPを合成する手段の一つとみなすことができる。また，解糖の中



1分子のグルコースが2分子のピルビン酸となるまでに，2分子のATPが消費され4分子のATPが生じるので差引き2分子のATPを得る

解　糖

間産物として生成されるピルビン酸は酸素のある状態ではトリカルボン酸回路を経て二酸化炭素と水に完全に酸化される。この意味で，解糖は呼吸の直接の基質を提供する反応とも考えられよう。〔秋野美樹〕

かいどう【海棠】双子葉植物・バラ科。ハナカイドウともいう。中国原産で広く庭園に栽培される落葉低木。古く《尺素往来》にもみられる。高さ8mほどになり，幹はなめらかで灰色。枝にはとげ状の小枝がある。葉は互生し，長卵形で有柄。3～5月濃紅色の径4cmほどの花が下垂する。果実は径約1cmの球形で，黄赤色に熟す。八重咲きのものをヤエカイドウといい，観賞用に栽培する。近縁のノカイドウは九州南部にはえ，天然記念物とされている。中国でいう海棠はミカイドウ・ナガサキカイドウのことで，果実が大きく食用とされる。〔横井朝子〕

かいどう【街道】海道と書く場合もある。主要な道路をいう。律令(りつりょう)制下にあっては，山陽・東海・東山・北陸・山陰・南海・西海の七道が各行政区の諸国を貫通し，駅制が敷かれ，各駅には駅家・駅馬・駅夫などを常備し，官人や庸・調運脚夫が往復する便を図った。都から太宰府(だざいふ)に至る山陽道が最重要路で，東海道・東山道がこれに次ぐものであった。鎌倉幕府が樹立されると京都と鎌倉を結ぶ東海道が最も発達し，駅には早馬などが設けられた。中世末には諸国に戦国大名が割拠して，領内ごとに伝馬の制を設けた。また関所を設けて関銭を徴する者もあり，交通は便利ではなかった。織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)は，天下統一事業を進めるに際して各道を整備した。江戸幕府は江戸を中心とする東海道・中山道(なかせんどう)・甲州街道・奥州街道・日光街道の五街道を直轄し，各街道の宿駅には本陣・問屋場を設置して諸大名の参勤交代や公用旅行者の便を図った。

経済の発達につれ，各街道はしだいに一般旅行者でにぎわうようになり，宿場町が繁栄した。五街道のほかにも各地方に脇(わき)往還(脇街道)が発達した。しかし，近代にはいって鉄道の発達によって街道もさびれ，さらに道路法による国道の開設は旧街道を改廃して行なわれたので，いまではまれにその旧観をとどめているにすぎない。しかし現在の国道の中にも，旧街道名が通称となっているものもある。〔児玉幸多〕

カイドゥかん【海都汗】(?～1301) オゴタイ汗国の第4代君主。ムンゲ汗(憲宗)以来モンゴル帝国の皇帝位がツルイ家に奪われたのに不満をもち，フビライ汗(世祖)の即位に際してフビライの弟アリクブカを擁して反抗したが失敗した。次いでチャガタイ汗国・キプチャク汗国を誘って元と30年余の抗争(カイドゥの乱)を続けたが，戦傷のために死んだ。



カイドウ

かいどうき【海道記】鎌倉時代前期の紀行文。源光行(みつゆき)を作者とする説もあるが未詳。京都白河(しらかわ)のほとりに出家遁世(とんせい)していた作者が，1223年(貞応2)4月鎌倉へ旅し，名所見学ののち，都に残してきた老母の身を案じて帰途につくまでを描く。自己の仏教観に裏づけされた人生観照を強く吐露している点が特色。文章は漢文直訳体で，対句形式など漢詩文の表現様式の模倣が目だつ。

がいとうこう【外套腔】軟体動物の外套膜と，それによって包まれる内臓嚢(ないぞうのう)(消化管や生殖腺(せいしょくせん)を収めた膨大部)との間にある空所。水中生活をする動物ではここに排出器・生殖器・消化管その他の腺が開口している。マイマイなど陸産の有肺類に属する種類では，外套腔の壁の一部に血管が集まりいわゆる肺となっている。なお，ナメクジウオ・ホヤなどの原索動物では，鰓嚢(さいのう)を包む囲鰓腔のことをいう。〔蒲原春一〕

がいとうまく【外套膜】外套ともいい，軟体動物の体表が膜状に延びて内臓嚢(ないぞうのう)を包むようになったもの。二枚貝類(斧足(おのあし)類)では左右2枚に分かれ，2枚の貝殻(かいがら)を分泌してこれで体全体を包んでいる。腹足類の外套膜は内臓嚢の表面から足の背面に広がって，円筒形となっているが，内臓嚢がねじれているこの種類ではそれに応じたらせん状の殻を分泌する。掘足(ほりあし)類では外套膜も，したがって殻も円錐(えんすい)状，頭足類では外套膜は1枚である。〔蒲原春一〕

かいとくどう【懐徳堂】江戸時代の学校。1724年(享保9)朱子学者中井甃庵(しゅうあん)が同門の町人らと図り，その師三宅石庵(みやけせきあん)を学主に迎えて尼ケ崎(大阪市東区今橋)に創設した漢学の学校。1726年には幕府の官許を受け，武士・町人の区別なく講席が開かれた。18世紀末には昌平黌(しょうへいこう)をしのぐ勢いを示したが，しだいに衰え，1869年(明治2)に廃校となった。ここに学んだ者に富永仲基(とみながなかもと)・山片蟠桃(ばんとう)・佐藤一斎らがいる。

ガイドナンバー ⇨フラッシュバルブ

かいどり【飼い鳥】家庭で飼われる馴化(じゅんか)された小禽(しょうきん)類をいう。これにはインコ類や外国産の小鳥があてはまる。外来の小鳥は〈洋鳥〉とよばれ，わが国に野生する小鳥〈和鳥〉と区別される。洋鳥の大部分はキンパラ科とアトリ科の鳥で占められ，これらをフィンチともいう。観賞用のキジ・ウズラ類，ハト類なども広い意味では飼い鳥として扱う。なお，卵・肉の生産を目的として古くから飼われるニワトリ・シチメンチョウ・アヒルなどは家禽として別に扱い，狭義の飼い鳥には入れないのが普通である。〔石島芳郎〕

かいなん【海南(市)】和歌山県北西部の市。1934年(昭和9)黒江町を中心に市制施行。人口54,000。和歌浦(わかのうら)湾の湾奥部黒江湾に臨み，北隣の和歌山市とは低い丘陵を隔てるだけで，ほとんど一体化している。産業三大別人口比は7：44：49。室町時代からの伝統をもつ漆器黒江塗，日方の和がさなどの家内工業があるが，最近は，黒江湾を埋め立てて，北の和歌山市，南の下津町と結ぶ紀北臨海工業地帯が形成され，富士興産の石油工場をはじめ，繊維・機械・化学などの大工場が進出している。紀勢本線・国道42号線(紀州街道)が海岸部を走り，野上電鉄がこれと交差して和歌山県立生石(おいし)高原自然公園の登山口に通ずる。

かいなんきゅうじょ【海難救助】人命・船舶または積み荷の一部や全部が海難にあった場合，これを救助すること。沈没・衝突・乗り揚げ・接触・火災・荒天などがその原因としてあげられる。船舶が海難に陥った場合には遭難信号，または遭難通信によって一般船舶，海上保安庁，もよりの市町村長，サルベージ会社などに救助を求める。船舶が遭難していることを知った場合には，人道上の立場からこれを救助するのは当然であるが，海上保安庁は保安庁法により，市町村長は水難救護法により，一般船舶は，船員法により救助の義務が課せられている。民間が救助に従事した場合，人命救助については救助料の請求はできないが，人命以外の財産の救助に関しては契約によって救助料の請求ができる。〔飯島幸人〕

かいなんしんぱんちょう【海難審判庁】海難事故が発生したとき，その原因を究明し，裁決を下し，勧告を行なう目的で，運輸省の外局として設けられた行政機関。その業務・組織は海難審判法(1948)に定められている。地方海難審判庁(函館(はこだて)・仙台(せんだい)・横浜・神戸(こうべ)・広島・門司(もじ)・長崎)と高等海難審判庁(東京)とからなり，前者は3人の審判官，後者は5人の審判官の合議制により裁決を下す。事故発生地点が明らかな場合は，その所轄地方海難審判庁，それ以外の場合は高等海難審判庁が扱う。〔寺尾方孝〕

かいなんとう【海南島】ハイナン島 中国広東(カントン)省，雷州半島の南，瓊州(けいし

ゅう)海峡を隔てて南シナ海に臨む島。面積$34,000km^2$。熱帯に属するが，季節風の影響のため6月～10月が雨季，冬は乾季となり，南西部はサバナ気候，北東部は熱帯モンスーン気候下にある。北東部の広い海岸平野には水田が開け，西部の草原ではウシ・スイギュウを放牧によって飼育している。鉄鉱・スズ・砂金などの鉱産資源にも恵まれ，近海ではタイ・マグロ・カツオの漁獲がある。北岸の海口は行政の中心で，また貿易港でもある。〔千田 稔〕

かいなんわん【開南湾】白瀬矗*(しらせのぶ)の率いる日本の南極探検隊が，1911～1912年(明治44～大正1)にかけて南極大陸の鯨湾から上陸し，ロス氷棚(こおりだな)の上を犬ぞりで渡り，キングエドワード7世ランドに到達した。このときロス海東部で発見し命名した湾の一つで，探検隊の乗船開南丸にちなむもの。

かいにちおう【戒日王】⇨ハルシャ

かいにゅうけん【介入権】商法上，下記のように性質の異なる二種の介入権が認められている。

1 会社の代表取締役は，株主総会*の認許を受けなければ，自分または第三者のために，会社の営業の部類に属する取引をすることはできない(競業避止義務*)。このような競業避止義務を負う者が，この義務に違反して，自己のために取引をした場合，会社がその取引を自己のためにしたとみなす権利をいう。得意先の維持を図ることを主たる目的として認められたもの(商法41・48・74・147・264条など)である。

2 問屋*が，取引所の相場ある物品の販売または買い入れの委託を受けたとき，その処理にあたってみずから買い主または売り主となることのできる権利。運送取扱人にも，この介入権が認められている(商法555・565条)。〔松本治雄〕

かいにんそう【海人草】⇨マクリ

ガイーヌ［Gayne］ハチャトゥリアン*作曲のバレエ曲。1942年12月レニングラードで初演された。集団農場の生活を題材とした民族的なバレエで，スターリン賞を受賞し，一躍ハチャトゥリアンの名を国際的なものにした。別に，劇中の音楽が三つの組曲に編まれ，演奏会でもよく演奏される。特に〈剣の舞〉〈子もり歌〉〈バラの娘たちの踊り〉は有名である。

かいねい【会寧】ホエニョン 朝鮮，咸鏡(かんきょう)北道の都市。豆満江を隔てて中国東北部の間島地方と相対する。古くから交易で栄えた。咸鏡線の終点で，木材・穀類などの集散をなし，貯木・製材施設もある。市街の北東1.6kmには，北鮮で最も早く開発された会寧炭(かっ炭)の炭田地域がある。

がいねん【概念】個々の対象をそれらに共通の性質に基づいてまとめた思考の産物である。これをことばで表わしたものを名辞という。そしてこの共通の性質を概念



海南島　北部地方の農作業風景。熱帯性の温暖多雨気候のため四季を通じて農業が可能で，特に北部の平野部には稲作地が多い



カイバー峠　峠付近はステップまたは砂漠のきびしい乾燥気候で，荒涼たる景観が広がる

の内包または意味といい，概念が適用される対象の範囲をその概念の外延またはクラスという。〈動物〉という概念の内包は〈形態をもつ〉〈生命をもつ〉〈感覚をもつ〉などであり，外延はノミからクジラまですべての動物である。概念の内包と外延とは反比例の関係にある。〈動物〉に〈脊椎(せきつい)をもつ〉という内包が加わり〈脊椎動物〉となれば，内包は増すがそれだけ外延はせばまり，逆に〈感覚をもつ〉という性質が除かれると外延は生物全体にまで広がる。概念は種々の見地から分類できる。

①発生の起源についてそれが先験的かどうかにより純粋概念と経験的概念。②その指示する対象に関して具体的概念と抽象的概念，対象概念と属性概念。③他の概念と明確に区別できるかどうか，またそれ自身の内容が十分意識されているかどうかによって，明晰(めいせき)な概念と不明晰な概念，判明な概念と乱雑な概念。④外延上の包摂関係から上位概念と下位概念，または類概念と種概念。⑤外延が一か多かにより，単独概念と一般概念。⑥外延が組織的全体とされるとき，全体とその性質との関係から集合概念と個別概念。⑦内包が分析可能かどうかにより単純概念と複合概念。⑧他の概念との関係を前提とするかどうかにより相対概念と絶対概念などが区別される。また，概念相互の関係を示すものとして，①内包も外延も同じである同一概念。②内包は異なるが外延が一致する等値概念。③外延の一部が一致する交差概念。④同じ類概念に属するが外延に共通部分のない離接概念または選言概念。⑤量や程度における最大の相違を示す反対概念。⑥互いに否定し合う矛盾概念。⑦同じ類概念に属する同位概念。⑧同じ類概念に属さない乖離(かいり)概念，または異類概念などがある。➔カテゴリー〔石倉恒之〕

かいのくち【貝の口】帯の結び方の一種。男の角帯の結び方で，手のほうを幅二つ折りにして胴に二重に巻き，そのたけの余りは二重に折って，普通のひもを結ぶように2度結んで締める。締めた形はたけの両端が上方に向くのが特徴。女児，また労働着には女性も，半幅帯をこれに結ぶ。

カイバー(峠)［Khyber, Khaiber］カイバル峠ともいう。ヒンズークシ山脈の東部，西パキスタン北西部とアフガニスタンとの国境にある峠。4,000m以上の高地に切り込んだカブール川の大峡谷に沿う50kmに及ぶ峡道で，最高点は1,029m。アフガニスタンの首都カブールと西パキスタンのペシャワルを結ぶ要害の地で，アジアハイウェー1号線が通っている。古来，西アジアとインドとをつなぐ最も重要な交通上の要地で，アレクサンドロス大王*も東征の際にここを越えた。〔大石堪山〕

がいはいよう【外胚葉】後生動物*の発生の初期，一般には原腸が形成されるときに，胚の表面に残る部分。中・内胚葉とともに胚葉*の一つである。卵細胞の動物極付近の細胞質に由来し，おもに表皮と神経系をつくる。

かいはくごししんれい【海舶互市新例】1715年(正徳5)江戸幕府が発令した海外貿易制限の法令。長崎新令または正徳新令ともいう。鎖国*後長崎に来航する通商国はオランダと中国の2か国に限られたが，1685年(貞享2)以降その両国に対しても幕府は貿易制限を強化した。当時わが国の金・銀採掘量が減少し続けているにもかかわらず，貿易によって海外に流出する正貨は鎖国以後も相当の量に上っていたので，幕府にとっては貿易制限の強化が必要であった。幕政を担当していた新井白石*は通貨・物価の経済政策に力を傾けていたが，わが経済事情を悪化させている銀の海外流出を防ぐため，さらにきびしい貿易制限を行なったのがこの新法である。この発令により，年間において中国船は30隻，貿易額銀6,000貫(そのうち銅で300万斤支払い)，オランダ船は2隻，貿易額銀3,000貫(そのうち銅で150万斤支払い)と限定された。〔高崎德次〕

かいはくしつ【灰白質】中枢神経において神経細胞の密集する部分。脊髄(せきずい)や大脳などの断面を観察すると，灰白色の

灰白質と白色でおもに有髄神経繊維からなる白質が認められる。脊髄ではH状の灰白質の外側を白質が包んでいる。大脳や小脳では灰白質は大脳皮質・小脳皮質とよばれ白質の表面をおおうが，白質の内部にも核とよばれる灰白質のかたまりがある。

かいばしら　【貝柱】　軟体動物・二枚貝類(斧足(おのあし)類)に属する貝の左右2枚ある貝殻(かいがら)を閉じるために働く筋肉。閉殻筋(へいかくきん)・閉介筋または肉柱ともいい，前後1対あるので前閉介筋・後閉介筋とよぶ。この筋肉はほとんどエネルギーを消費することなく，貝殻を強く閉じたままでいることができるほか，リズミカルに収縮して外套腔(がいとうこう)内に水を出入させることができる。

かいはつえんじょいいんかい　【開発援助委員会】　Development Assistance Committee　略称ＤＡＣ。1960年３月発足。ＯＥＣＤ*(経済協力開発機構)の下部機関で，経済政策委員会・貿易委員会とともに，三大委員会の一。1960年１月の大西洋経済会議の決定により設立された開発援助グループ(DAG)が，OEECのOECDへの改組(1961年９月)に伴い，発展的に解消して成立した。それ自体は援助実施機関ではなく，開発援助を協調し効果的に推進していくため，加盟国内で情報・意見の交換や政策調整を行なうことを目的としている。加盟国は，アメリカ・イギリス・フランス・西ドイツ・イタリア・ベルギー・ポルトガル・カナダ・日本など16か国１委員会からなる。毎年，〈低開発国に対する資金の流れ〉に関する統計資料の発表とそれに基づく年次審査を行なっている。　〔深海博明〕

かいはつゆにゅう　【開発輸入】　広義にいえば，先進国企業が海外において資本や技術を投下して，一次産品*を中心とする商品の開発を行ない，その生産物を輸入する方式をいう。この一次産品開発輸入方式は，低開発国が必要とする資本や技術を提供するとともに，生産物の販路を保証し，低開発国の一次産品輸出を増大させ，片貿易を是正するのに役だつ。資源を海外にたよらざるをえない日本にとっては一次産品・海外資源の安定的供給源を確保するという二重の意味において，この方式は重要視されてきている。これまでにも東南アジアを中心に，鉄鉱石・銅鉱石・石油などの鉱物資源および木材の開発輸入を行なってきているが，最近では，飼料その他の農産物の開発輸入も行なうようになっている。代表的な開発輸入方式としては，開発に必要な資金・資材を現地企業に供与し，これを生産物の輸入によって回収するプロダクション-シェアリング方式(生産物分与方式)があげられる。　〔深海博明〕

かいはつりょうしゅ　【開発領主】　荘園*(しょうえん)寄進の主体となった地方豪族。〈かいほつりょうしゅ〉とも読み，また根本領主ともいう。律令(りつりょう)制の弛緩(しかん)とともに私的開発は活発になり，池溝(ちこう)を修理して労働力を投下し，広大な田地を開墾する者も多かった。彼らはこの開発私領を保全し不輸不入の特権を得るために，中央の権門にこれを寄進して荘園化し，みずからは荘官となって実質的権利を留保する契約行為が10世紀ごろから盛行した。　〔鈴木英雄〕

かいばら　【柏原(町)】　兵庫県氷上(ひかみ)郡にあり，加古川上流の日本海側との分水嶺(ぶんすいれい)に近く位置する。人口8,100。古くは山陽・山陰と京都をつなぐ交通の要地として重視された。現在福知山線が通ずる。この一帯は県下の酪農の中心地であり，乳製品工場もある。また紙袋の製造でも知られている。

かいばらえきけん　【貝原益軒】　(1630～1714)　江戸前期の朱子学者・本草学者。名は篤信(あつのぶ)。字(あざな)は子誠，通称は久兵衛(きゅうべえ)，益軒は号。福岡城内に生誕。黒田藩に仕え，京都に遊学して松永尺五(まつながせきご)・山崎闇斎*(あんさい)・木下順庵*(じゅんあん)らに学んだ。和漢の書に通じ，著書に《慎思録》《大疑録》《自娯集》《初学知要》など，また，教訓書としては《和俗童子訓》《初学訓》《養生訓*》など〈益軒十訓〉と称するものがある。儒学者ではあるが神道(しんとう)を尊崇し，《神儒併行不相悖論(ふそうはいろん)》では神儒一致論を唱えた。門人は少なく，竹田春庵・香月牛山があげられるのみであるが，多くの著作によって影響を及ぼした。〔坂本和子〕

がいはんしつ　【外反膝】　両下肢(かし)をそろえて立つとき，くるぶしの間隔が非常に離れるもので，下肢体重線(股関節(こかんせつ)と足関節を結ぶ線)がひざの中心よりも外側を通る状態をいう。両側性のものはX字状を呈するためX脚*といわれる。まれではあるが片側性に起こることがあり，この場合はK脚といわれる。先天性のものや，外傷・くる病などが原因となる。歩行時にはひざが接触し，歩行障害を起こす。軽度のものは矯正(きょうせい)用具などを持続着用させて矯正するが，過度のものは手術的治療を要する。　〔荻野幹夫〕

がいはんぼし　【外反母趾】　足の第１指(親指)が外側(小指側)に曲がっている状態。足の指はそれぞれ中足骨の先についているが，第１中足骨が隆起して第１指の根元がふくらむことによって起こる。ときには第１中足骨の骨頭に粘液嚢(ねんえきのう)が生ずることもあり，歩行時に疼痛(とうつう)を感じる。原因としては先天的に中足骨が不ぞろいで外側に広がっている場合のほか，先端のとがったくつをはくことによって生ずることもある。欧米人に多くみられるが，近年日本でも増加の傾向がみられる。対策としては，くつの大きさなどを調節し，ひどい場合には隆起部を外科的に切除する。

〔荻野幹夫〕

かいひ　【回避】　裁判官または裁判所書記官が，自分の担当する事件について，除斥*または忌避*の原因があることを知ったときに，監督裁判所の許可(民事の場合)あるいは自己の所属する裁判所の決定(刑事の場合)によって，その事件について職務の執行を避けることをいう(民事訴訟法43条)。

かいひょう　【海氷】　海上にある氷をすべて海氷という。海水自身の氷結のほか，氷河*などのように陸でできて海に流れ込んだ氷も含まれる。海水は塩分が多いほど氷点は下がり，同時に，最大密度を呈する温度も低くなる。海水温度は－２℃以下になることはまれである。塩分が24.695‰(パーミル，千分率)のとき氷点と最大密度を呈する温度が同じになり，それより塩分が少ないと氷点のほうが低いので，海水は表面から氷結する。また，これより塩分が多いと海底から氷結しそうだが，海には密度の不連続層などがあるため，やはり表面から氷結する。はじめ，塩分を析出して細い針状または板状の純水の氷晶ができる。これが密集してアイスクリーム状の海氷となり，さらに発達して，いろいろの形となる。氷の厚さ・かたさ・形態に応じて野氷・堆氷(たいひょう)・群氷(パックアイス)などとよばれ，船舶の航行などに影響を及ぼす。海氷の比重は，できた過程やその後の変化によって異なるが，0.86～0.92の間にある。海氷の熱伝導率は，ガラス・大理石・土壌(どじょう)などに近く，熱の不良導体である。このため，海面が厚い氷におおわれると，海氷面下の熱が大気中に逃げにくいので，氷の厚さはある程度以上は増さない。また，沿岸漁業は海氷襲来の時期により大きな影響を受け，沿岸農業も海流の温度に影響を与える海氷に大きく左右される。　〔相原正彦〕

かいひょうとう　【海豹島】　⇨チューレーニー島

かいひんしょくぶつ　【海浜植物】　海浜に生育する植物。塩分濃度の高いことや乾燥に対する耐性が強く，これらの場所に生育することのできる植物は限られ，根がよく発達しており，葉は多肉化したものが多い。崖地(がけち)にはイソギク・クロマツなど，砂地にはコウボウムギ・ハマボウフウなどがみられる。

かいぶ　【回部】　中国，清(しん)代に東トルキスタンをさした名称。現在の中国新疆(しんきょう)ウイグル自治区の天山山脈以南に相当する。回疆ともいう。住民は回子とよばれる。元・明(みん)以来チャガタイ汗国*に属し，16世紀中ごろからはイスラムの貴族一門であるホジャ*が実権を握った。1680年ごろからは西蒙古(にしもうこ)族ジュンガル部が征服したが，清朝が最終的に回部を支配し，新疆とよばれてイリ将軍の軍政下にはいった。のちホジャの子孫の反乱やヤクブベク*の侵入などがあったが，1876年左宗棠*(さそうとう)が平定した。

かいふう　【海風】　⇨海陸風

かいふうそう　【懐風藻】　奈良後期のわが国最古の漢詩集。選者は未詳だが，淡海(おうみ)三船説が有力とされる。近江・奈良朝80余年間の116首を，作者・年代別に記す。作者は文武天皇・藤原総前(ふささき)をはじめ，皇族・官人が大部分で，詩の形式は五言律詩が多く，中国六朝(りくちょう)詩の影響を受けている。侍宴・応詔など公的な場での詩がほとんどで，表現も類型的である。

ガイ-フォークス　⇨フォークス

かいふかいがん　【海府海岸】　新潟県北部，三面(みおもて)川河口以北の朝日山地が日本海に迫り，断崖(だんがい)をなす一帯の海岸をいう。特に山地を形成しているクロウンモカコウ岩が海食作用によって岩礁・絶壁・洞窟(どうくつ)をつくり，〈笹川(ささかわ)流れ〉とよばれて天然記念物となっており，南の瀬波温泉の砂丘海岸とともに1959年(昭和34)に瀬波笹川流れ自然公園に指定されている。現在は羽越本線が走っているが，かつては交通の難所で北親不知(きたおやしらず)ともいわれていた。　〔味沢成吉〕

がいぶかんさ　【外部監査】　内部監査に対立する監査であり，社会目的・信用目的・行政目的などによる会計監査である。外部監査の監査人は，被監査会社以外の，社会的に独立した地位をもつ者によって担当されるので，客観性ならびに正確性を会社の外部に対して立証することができる。外部監査には種々の形態がある。たとえば，銀行法に基づいた大蔵省銀行局による金融検査，税務当局による税務調査などもあるが，その典型は証券取引法による公認会計士監査である。通常外部監査における監査人の責任は，主として依頼者に対するものであるが，この証券取引法による監査では，依頼会社のみならず広く投資家に対しても責任を負わなければならない。➔会計監査　〔山桝忠恕〕

がいぶけいざい　【外部経済】　経済活動が市場を通さないで，すなわち価格体系によらないで他人に経済的な利益を与えることを外部経済，損失を与えることを外部不経済という。経済学者マーシャルが用いたことばで，ある産業の規模の拡大，生産合理化が行なわれた場合，これによって他の産業が利益を得ることなどをいう。一方，産業が大都市に集中した結果起こる工場煤煙(ばいえん)による大気汚染など，いわゆる公害の問題は住民にとって外部不経済の例である。　〔加藤　寛〕

がいぶしゅうしゅくしきブレーキ　【外部収縮式ブレーキ】　ブレーキ胴の外周をブレーキ帯で締めつけて制動力を起こさせるブレーキ。ブレーキ帯には薄鋼板を用い，内側にゴム・合成樹脂を材料としたブレーキライニングを張りつける。このブレーキは構造が簡単なうえ，調整も容易なので初期の自動車には広く用いられたが，摩擦面に泥水(でいすい)・ほこりなどが付着して摩擦面を損傷したりブレーキのききを悪くするなどの欠点があって，現在ではトラック・バスの推進軸ブレーキとしておもに使われている。　〔成田武男〕



解　放
創刊号の表紙

かいふなだ　【海部灘】　徳島・高知両県の沖合い外洋で，徳島県蒲生田岬(かもだみさき)から高知県室戸岬(むろとざき)に至るおよそ90kmの海域をいう。一般に急深で陸棚(りくだな)部分が少なく，沿岸は八坂八浜のような小湾入に富むが，全体としてゆるやかな弧状を呈し，大きい湾入はない。沿岸にはカツオやマグロの遠洋漁業基地が発達し，ブリ・サバなどの定置漁業も営まれる。沿岸一帯は室戸阿南(むろとあなん)海岸国定公園に含まれる。　〔山口恵一郎〕

がいぶん　【外分】　⇨内分

がいぶんぴつ　【外分泌】　動物の体表や消化管への分泌，すなわち細胞の生産物である分泌物を排出すること。内分泌に対して用いられる。脊椎(せきつい)動物では汗・乳・消化液・皮脂などが外分泌として著明であり，無脊椎動物でも多くのこん虫にみられ，カイコの絹糸，ミツバチのロウなどがこれである。軟体動物の貝殻(かいがら)は外套(がいとう)膜から分泌されたものであり，鳥類や爬虫(はちゅう)類・両生類などの卵殻(らんかく)も輸卵管の上皮細胞から分泌されたものである。カエル・毒ヘビなど，粘液や毒液を外分泌する動物も知られている。　〔蒲原春一〕

がいぶんぴつせん　【外分泌腺】　動物が外分泌をする腺。すなわち，特定の物質を産生し，それを排出することをおもな働きとするような組織細胞をいう。普通は分泌物を排出するために排出管をもっていて，これをもたぬ内分泌腺と区別される。腺をつくっている細胞の数によって，単細胞腺と多細胞腺に区別される。単細胞腺に属するのは動物界に広くみられる粘液腺などであり，多細胞腺は胃腺・汗腺・乳腺など種類が多い。このほか，分泌の様式，分泌物の染色反応，生理機能，分泌物の種類などによっていろいろに分けられる。　〔蒲原春一〕

かいへい　【開平】　⇨平方根

かいへいき　【開閉器】　⇨スイッチ

かいへいたい　【海兵隊】　上陸作戦・沿岸襲撃・局地防御などに任ずる海軍の一兵種。海軍をもつ国はたいてい海兵隊を組織している。イギリスの海兵隊は特に長い歴史と伝統がある。アメリカ海兵隊も逐次発展し，第2次世界大戦では6個師団にまで拡充され，海軍部内でも独立的な地位を占めた。その後兵力は縮減されたが，上陸戦闘はもとより陸軍部隊と同じように陸上戦闘を実施できる能力をもっている。➔海軍陸戦隊

かいほう　【解放】　1919年(大正8)5月創刊された総合雑誌。当時は第1次世界大戦後の大正デモクラシーの高揚期でもあり，黎明会(れいめいかい)の福田徳三・吉野作造や赤松克麿(かつまろ)・堺利彦(さかいとしひこ)・佐野学らが中心となり，同時代の《中央公論》《改造》よりも社会主義的論陣を張り，わが国の社会主義ジャーナリズムでは代表的雑誌であった。政治評論のほかに文学にも紙面をさき，小川未明・宇野浩二(こうじ)・江口渙(きよし)などの創作を掲載，初期プロレタリア文学運動にも貢献した。1923年9月終刊となったが，翌年5月，石川三四郎・山崎今朝弥(けさや)らによって第2次《解放》として再出発した。第1次よりも急進的となり，主としてプロレタリア文学に舞台を提供した。廃刊は1932～1933年(昭和7～8)とされる。　〔前納弘武〕

かいほう　【開封】　カイフォン　中国，河南省の都市。黄河の中流域に位置する。人口30万(1960年推)。市街は，黄河が天井川をなすため河床から約3mも下にある。戦国時代の魏(ぎ)以後北宋(ほくそう)時代まで約200年間ここに都が置かれた。それは華北の大平原の中心的位置にあるため，江蘇(こうそ)・浙江(せっこう)などの穀倉地帯から食料を輸送するのに便利であったことによる。しかし，一方黄河の氾濫(はんらん)をこうむることもしばしばであった。現在は商工業都市として，農産物の集散や，紡績・製粉・機械・マッチなどの工業が盛んである。〔千田　稔〕

かいぼう　【解剖】　生物体を解き剖(ひら)いてその構造を明らかにすること。人体の解剖はその目的によって系統解剖・病理解剖・法医解剖に分けられる。系統解剖は常態における基本的構造を明らかにするために行なわれるもの，病理解剖は疾病(しっぺい)の場合の構造や機能を明らかにして病気の原因を解明するために解剖するものである。法医解剖は監察医の行なう法律上の問題となる変死者を解剖する行政解剖と，裁判所の要請によって犯罪行為と死因との因果関係を知るために行なわれる司法解剖に分けられる。　〔幡井　勉〕

かいぼうがく　【解剖学】　解剖学は生物体の形態・構造を研究する学問で，系統解剖学・組織学・発生学の三つに大別できる。系統解剖学は肉眼的に生物体の形態・構造を系統的に調べる分野で，組織学は顕微鏡

を用いて生物体の微細な構造を調べる分野，発生学は受精卵が発育していく過程を調べる分野である。これらのいずれからもさらに広く深い専門分野が分かれている。また，解剖学の応用分野には臨床解剖学・美術解剖学などがある。前者は身体の一定の部位をさらに詳しく調べる分野であり，外科などの基礎となる。後者は絵画や彫刻に必要な骨格や筋肉を調べるものである。〔幡井　勉〕

かいほうぎょそん【海保漁村】(1798～1866) 江戸末期の儒学者。考証学派。上総(かずさ)(千葉県)に生まれ，江戸に出て太田錦城*(おおたきんじょう)に学ぶ。42歳のとき著わした《周易古占法》は考証学的な分析とその学の正確さとにおいて師錦城をしのぐといわれる。その後京都に遊学したこともあるが，1857年(安政4)幕府の医学館の教授となり江戸で没した。彼は宋学(そうがく)を排し，詩・《論語》などを重んじて，その注釈書を多く著わしている。その文章は格調の高い漢文で知られる。〔田上光治〕

かいほうく【解放区】中国共産党*は，農村に革命の根拠地をつくり，都市を包囲する戦術をとったが，この根拠地をソビエト区とよび，抗日戦争の時期以後，辺区もしくは解放区とよんだ。抗日戦争開始以来，解放区はしだいに広げられ，抗日の軍事根拠地として重要な役割を果たした。解放区は辺区政府によって統治されたが，ここでは統一戦線政策がとられ，小作料の引き下げと高利貸しの取り締まりを行なっただけで，1947年まで土地改革は行なわれなかった。〔小野和子〕

かいほうぐん【解放軍】中国人民解放軍の略。中華人民共和国では共産革命を阻害する反革命体制の打破を解放といい，その闘争を解放戦争，革命の武装勢力(民衆を含む)のうち正規軍を解放軍，自己の政治的勢力範囲になったところを解放区*とよぶ。これらの用語ははじめは共産革命に限って用いられたが，現在は被圧迫民族の解放などと広く一般にも使用されるようになった。中国人民解放軍は，国家の防衛軍であるとともに，中国共産党の諸政策を忠実に実行し推進する革命軍であるという特色がある。〈沿革〉1927年8月1日，朱徳*らが南昌(なんしょう)で反国民政府の兵変暴動を起こしたのが建軍のはじまりである。その後，約10年間は紅軍*とよばれ，中南支の江西省周辺で国民党軍と内戦をくり返しつつ成長した。しかし，国民党軍の圧迫によって1934年秋から大西遷を行ない陝西(せんせい)省に根拠地をつくった。1937年日中戦争が勃発(ぼっぱつ)し，国民党との和解がなると，紅軍は改編されて国民革命第八路軍*，新四軍*となり，おもに北支や揚子江下流地域で活躍した。抗日戦争を通じてもっぱら勢力の拡大に努め，1945年8月には正規軍91万，民兵約220万となり，広大な地域にわたり解放区をつくった。その後国民党と中国の支配権をめぐって武力抗争を行なったが，1947年3月，従来の防衛的性格の各軍を野戦軍に改編するとともに全軍を統一して〈人民解放軍〉と改称し，同年9月から総反攻を開始した。1945年秋，ついに中国大陸を制覇(せいは)したが，当時の総兵力は約600万であった。1950～1953年，朝鮮戦争に参加したのち，徹底した整軍により兵力を半減するとともに，ソビエトの援助を受け軍の近代化に努めた。〈現況〉1954年9月の憲法によれば解放軍の最高統帥権は国家主席にあり，国務院の国防部が軍政関係を，人民解放軍総部(総司令部)が軍令関係を担当することになっている。しかし実権は党中央軍事委員会にあるといわれている。総部には総参謀部・総政治部・総後方部と砲兵・装甲・工程(工兵)・鉄道・通信・防化兵・第2砲兵の各司令部，これらと同格の海軍・空軍両司令部がある。陸軍司令部はなく，総部が直接各野戦軍・各軍区を指揮する。軍区は1省または数個の省軍区からなる一級軍区10と辺境地方の直轄軍区3である。兵役制度は1955年に志願兵制から義務兵制に変わったが1965年に全廃し，民兵制が設けられた。解放軍の主力は陸軍である。1967年9月，解放軍総兵力303万6,000，うち陸軍250万，海軍13万6,000，空軍10万，公安および国境警備隊30万と推定される。陸軍の兵力量は世界最大であり，広地域に配置されているので，部隊のタイプは地方の特性，任務によって定められる。注目されるのは，ミサイル装備の第2砲兵の発達である。空軍は1949年10月発足し，ソ連の援助により増強されたが，1960年以降は独力で整備し，約2,800機を保有している。目下は防空空軍である。海軍は1950年9月発足，沿岸警備用であるが，最近は潜水艦の増強に力を入れはじめた。〈特色〉人民解放軍の特色の一つは，他の共産主義国軍と同じく政治委員制度の存在である。総部の総政治部が党中央委員会の指導のもとに全軍隊内の党活動と組織工作を管理する。この系統は軍・師団から内部の最小単位部隊にまで設けられ，各級指揮官と同格の地位において政治指導を実施している。〔森田　哲〕

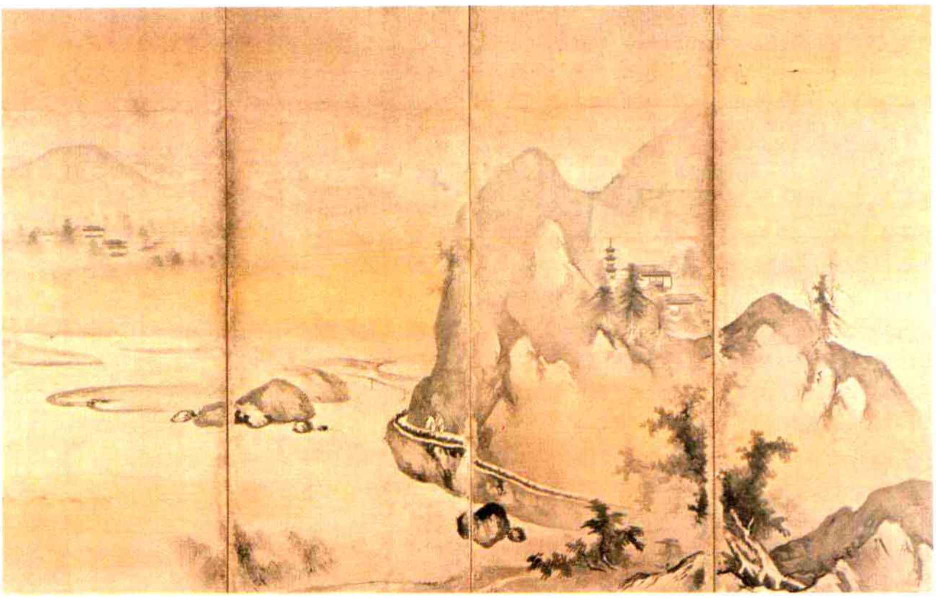
かいほうけいざい【開放経済】外国との経済取引関係をまったくもたない経済状態を閉鎖経済とよぶのに対して，外国貿易・国際投資・国際貸借関係など，対外経済取引を自由に行なう経済状態を開放経済という。貿易の自由化に伴い，必要な財・用役の一部は外国からの輸入に依存するようになり，自国で必要とする以上の生産を行なって外国への輸出を積極的に行なうようになる。こうして国際分業が進展し，消費および生産活動も国際市場と強く結びつけられる。同じようなことが国際資本移動*に関してもいえる。いわゆる資本の自由化が実施されると，資本の輸入，つまり外国資本による投資も，資本の輸出，つまり海外投資も盛んになり，投資活動が国際資本市場との関連において行なわれるようになり，自国の経済と諸外国の経済との相互依存関係が強まる。〔福島義久〕

かいほうけっかんけい【開放血管系】開放循環系ともいい，閉鎖血管系*の対語。動物の心臓から出た血液は動脈から動脈枝に流れるが，静脈枝との連絡を毛細血管によって行なわれている閉鎖血管系と異なり，血液は動脈枝から組織の中に出て流れる。そのあとで，組織の間にある血洞(けっとう)という一種のすき間を通り，直接心臓にもどるか，呼吸器を通って心臓にもどる。つまり，閉鎖血管系では血液が直接に細胞に触れないが，開放血管系では直接触れ，いいかえれば血液の中に組織が浮かんでいるともいえる。この場合の血液はリンパ液と同じような働きなので血リンパとよばれ，節足動物・軟体動物・被嚢(ひのう)類がこのような血管系をもつ。〔蒲原春一〕

かいほうせき【海泡石】含水ケイ酸マグネシウムの鉱物。セピオライトまたはメールシャウム(ドイツ語で海のあわの意)ともいう。$Mg_5Si_8O_{20}(OH)_2 \cdot 8H_2O$ 斜方晶系。白色または灰白色で，ときに黄みまたは赤みをおび，柔らかい(硬度2～2.5)。多孔質で比重が小さいので，かわいた状態では水に浮き，舌に吸い着く。パイプや紙巻きたばこの吸い口の材料となる。安物はカイホウ石の粉を接着剤で固めてつくる。ジャモン岩の変質帯に産し，主産地は小アジア。〔片山信夫〕

かいほうせんそう【解放戦争】1813～1814年，ナポレオン1世の軍事的支配に対し，プロイセンを中心とする諸国がその支配からの解放をめざして戦い，勝利を得た一連の戦争。ナポレオン1世の大陸支配は大陸封鎖令*を通して各国の国民生活に圧迫を加えたが，シュタイン・ハルデンベルクの改革(→プロイセン改革)下のプロイセンやロシアでは，逆に国民意識が高揚し，ナポレオン1世のロシア遠征失敗を契機にロシア・プロイセン・イギリス・オーストリアなどの諸国が解放戦争に立ち上がった。はじめナポレオン軍が優勢であったが，同盟軍は1813年10月ライプチヒの戦い*に決定的勝利をおさめ，1814年3月パリをおとしいれて，帝位を退いたナポレオンをエルバ島に追放した。この戦争は国民意識の高揚をもたらした点で，19世紀ヨーロッパ史の一つの出発点とみなされている。〔大野慎一郎〕

かいほうは【海北派】日本画の一流派。桃山期の巨匠海北友松*を祖として，その子友雪(1598～1677)が江戸初期にこの派の画壇的地位を確保し，以後友竹・友泉・友三・有徳・友樵(ゆうしょう)と家系を幕末までつないだ。しかし，この派の創造的な活動は，友松・友雪父子を中心とした初期に限られるといっても過言ではない。



海北友松 〈山水図屏風〉(部分) 東京国立博物館蔵

かいほうゆうしょう 【海北友松】(1533～1615) 桃山期の画家。海北派の祖。名は紹益。ゆいしょある武門に生まれながら，戦乱のため少年時を寺院(東福寺)に過ごし，のち画家を志して狩野元信(かのうもとのぶ)に師事した。狩野派のわくを脱して個性的な作風を形成したのちは，みずから海北派を興して桃山画壇の一角に君臨した。武人的な鋭い気魄(きはく)のこもる筆致と，墨の濃淡による立体的な形態把握(はあく)に特色をみせ，寺院の障壁や屏風(びょうぶ)などの大画面の制作に活躍した。代表作として，建仁(けんにん)寺の水墨障壁画群や妙心寺の着色屏風画が知られている。〔小林　忠〕

かいぼうろん 【海防論】 江戸中期以降，ロシア船・イギリス船が日本に来航するのに刺激されて起こった沿岸防衛体制の整備に関する議論。特に18世紀以降ロシアの南下に対する国土防備のため工藤平助・林子平・本多利明(としあき)らが北辺防備・蝦夷地(えぞち)開拓を主張した。19世紀になると欧米諸国の日本接近に伴って，佐藤信淵(のぶひろ)・高橋景保(かげやす)・佐久間象山(ぞうざん)らの海防論者が輩出した。さらに幕末に至って欧米諸国との外交問題が急迫すると，水戸学(みとがく)派の尊王攘夷(じょうい)に基づく海防論や，佐久間象山にみられるような開国論(→開国)などの立場からの論議が現われた。〔松尾　涼〕

かいほせいりょう 【海保青陵】(1755～1817) 江戸後期の経済学者・儒学者。江戸の生まれ。丹後(京都府)宮津藩の家老角田市左衛門(いちざえもん)の長子。家督を弟に譲り，祖父の海保姓を名のる。少年のころ，徂徠学(そらいがく)の系統に立つ宇佐美恵助に学んだが，特定の学派には偏しなかった。彼は役にたたない学問は無用のものと考え，徹底した商業主義を唱えた。たとえば，その著《稽古談(けいこだん)》の中で，君主と臣，諸侯と百姓の関係を〈ウリカイ〉の商業取引関係にあてはめている。このような実用主義は，諸藩の藩政改革に大きな影響を与えた。ほかに《万屋談》《升小談》など多数の著書がある。〔田上光治〕

かいぼん 【海盆】 水深3,000～6,000 m の深海底の盆状のくぼみ。円形・楕円(だえん)形を呈し，大きさは不定であるが広大な面積を占めることもある。深海底は全体としては単調な形態であると考えられているが，突起部(海底山脈・海嶺(かいれい)など)やくぼみ(海谷・海溝(かいこう)など)も局部的には存在する。海盆もそのくぼみの一つで，大西洋には数多くの海盆が知られ，西太平洋でも確認されている。海盆の底は堆積物(たいせきぶつ)が薄く，玄武岩質の岩石に続くといわれている。→海底地形〔平山　健〕

かいまい 【回米】 廻米とも書く。江戸時代の米の輸送，またその輸送される米をいう。幕府領から直轄各地の蔵に納められる城米，諸藩の蔵所・蔵屋敷に納められる蔵米，諸藩士・庶民などの売米である納屋米(なやまい)の3種に分けられる。回送先は大部分全国の中心市場である江戸・大阪であった。輸送は沿岸航路・回船の発達により多く海路によって行なわれたが，一部では河川・駄馬(だば)を利用する輸送も行なわれた。〔松尾　涼〕

かいまき 【掻巻】 広そでの長着の形の寝具。夜着より幅・たけともに小さく，綿も薄い。特に違う点は燧布(ひうちぬの)(そでつけの下につける15cm内外の正方形の布)を用いないことである。江戸時代から夏季用，冬のはだがけ用に，身体にかき寄せ巻きつけて着たので名づけられた。仕立てに手数がかかるのと，用布たけの節約のため，昭和にはいってからしだいにすたれ，現今は使われることは少ない。

カイマン [caiman] 爬虫(はちゅう)類・ワニ科・アリゲーター亜科のワニ。4種・4亜種に分けられ，クロカイマン以外は2.5 m以下の小形である。メガネカイマンは中央アメリカから南アメリカの熱帯・亜熱帯に分布し，4亜種に分けられる。吻端(ふんたん)はややとがり，目の間の隆条が強く発達している。クロカイマンはアマゾン川・オリノコ川流域に分布し，全長4.5 mに成長する。性質はアリゲーター類の中で最も荒い。小動物・鳥類・魚類などを捕食する。→ワニ〔松井孝爾〕

かいみじんこ 【介微塵子】 節足動物・甲殻(こうかく)綱・介形亜綱(貝虫亜綱)の総称。体が左右2枚の殻(から)で完全に包まれ，一見二枚貝を思わせるが，殻の中に収まった本体は，みじんこ状である。この殻はしばしば石灰化している。非常に多くの種があるが，殻の長さは平均1 mm，白色・淡かっ色のものが多い。淡水産か海産で，底生性のものが多い。水田・池・沼などにすむマルミジンコや海産のウミホタルなどが知られている。カイエビは，外観がカイミジンコによく似ているが，殻に同心円模様があり，鰓脚(さいきゃく)亜綱に属する。殻長1 cmに達し，初夏のころ水田に発生し，よく泳ぐ。

かいみょう 【戒名】 法名・法号ともいう。本来は生前につけられたが，現在では人が死んだのち，僧侶(そうりょ)から戒を授けられて仏門に帰依した者につけられる名。本来の仏教には戒名の慣習はなく，中国・日本で行なわれた風習である。宗派によって異なるが，男には居士・信士など，女には大姉・信女など，年少者には童子・童女など，幼児には嬰児(えいじ)・嬰女などの位号と院号よりなるが，江戸時代には禁令によって百姓には院号・居士・大姉号などが禁じられた。〔渡辺欣雄〕

かいむ 【海霧】 海上に発生する霧。海霧が発生するには二つの場合がある。水温が気温より高いために，海面から蒸発した水蒸気の一部が凝結して霧になる場合がその一つで，蒸気霧といい，北氷洋の海煙はこの例である。もう一つの場合は，水蒸気を含んだ比較的暖かい気流が，比較的冷たい海上を吹き渡る際に，海面から冷却されてできる移流霧とよばれるもので，夏季，北海道東方海上にできる霧は，この種のものである。〔曲田光夫〕

がいむいん 【外務員】 保険の勧誘，セールス，各種の集金，新聞配達などの業務に従事する者の総称。外務員には，法律上二つの点で問題がある。第1は，外務員と第三者との法律関係の効果が使用者に及ぶか，また代理の効果が認められるかである。この点について，証券取引法64条では第三者を保護するために，〈外務員は，その所属する証券会社に代わってその有価証券の売買その他の取引に関し，いっさいの裁判外の行為を行なう権限を有するものとみなす〉と規定し，代理の効果を認めている。第2

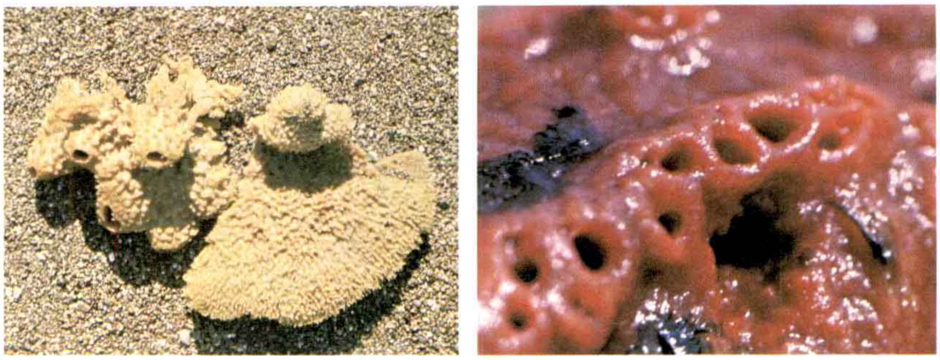
は，使用者と外務員との関係である。現実には，労働契約*によらず民法上の請負*あるいは委任契約*の方法によって使用されている場合が多いため，どのように取り扱われるべきかが問題となる。すなわち生活を保障する労働基準法9条の〈賃金を支払われる者〉の規定を適用するかどうかの問題である。契約の形式に重点をおけば，同法の適用は受けないといえる。しかしその実態からみて，使用者が外務員に仕事上指揮命令し，使用者と外務員との間に使用従属関係がある場合には，労働基準法によって，その労働条件を保護する必要がある。多数説は，後者の立場に立っている。なお，外務員は，労働基準法によって保護される労働者とみなされなくても，労働組合法によって保護される労働者とみなされる場合が多い。労働組合法の労働者は，賃金*で生活する地位にある者とされているから（同法3条），外務員は労働組合*をつくって，交渉によってその労働条件を決めることができる。
〔木元錦哉〕

がいむしょう　【外務省】 外国との関係一般をつかさどる国の中央行政機関。主要な業務は外交政策の立案・実施，海外邦人・海外資産の保護，外交官*・領事官などの派遣・接受，条約*の締結，国際連合など国際機関との協力，外国との文化交流，海外渡航・移住の斡旋(あっせん)，その他外国の事情の調査報道などである。組織は大臣官房・アジア局・アメリカ局・欧亜局・中近東アフリカ局・経済局・経済協力局・条約局・国際連合局・情報文化局・移住局が内部部局としてあり，在外公館として大使館・公使館・総領事館・領事館・同分局・国連日本代表本部などを海外各国に置いて管轄する。明治維新の際に設けられた外国事務科が外国事務局・外国官を経て，1885年（明治18）外務省と改称され現在に至っている。〔寺尾方孝〕

かいめい　【改名】 ⇨改氏名

かいめい　【階名】 音の高さを絶対的な高さ（音名）によってではなく，その属する音階*での位置でよぶための名。日本ではド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シが使われており，同じハ音でもハ長調ではド，変ロ長調ではレになる。このような唱法を移動ド唱法という。一方フランスやイタリアではド・レ・ミを音名としても用いるため，ハ音はつねにドにあたる。これを固定ド唱法という。

かいめん　【界面】 二相間に想定される境界面。気相と液相，または気相と固相の境界面は表面とよばれるが，それに対して，水と油などの不均一系での相異なる相間の境界面を狭義の界面という。界面ではときどき互いに相接している相の内部と著しく異なる物理的・化学的現象がみられる。界面化学では，表面張力・界面張力・吸着・界面活性現象・界面電位・浸透などの基礎的性質とともに，接着・摩擦・潤滑・表面処理，特に界面活性剤*としてのせっけんや合成洗剤などの実際問題がその対象となっている。コロイド分散系における粒子（分散相）は十分大きいので，粒子とそれが分散している媒質（分散媒）との間に明確な表面が存在する。この表面の性質は系全体の物理的性質を決めるのに非常に重要な役割を演じている。このため界面化学はコロイド化学と密接に結びついている。また，固体どうしの界面に起こる現象を利用したものに半導体の整流・増幅作用などがある。➔界面活性剤
〔三輪誠・野宮健司〕



カイメン　（左）ワタトリカイメン　（右）ダイダイイソカイメン

かいめん　【海綿】 海綿動物の全体を海綿と総称し，また特にその中のモクヨクカイメン*とその製品を海綿とよぶ。海綿動物は体のしくみが簡単なので，原生動物を除く動物のうち，最も原始的と考えられる一群である。外形はさまざまで，壺(つぼ)状・円筒状・樹枝状・板状・塊状など。単体のものと群体を形づくるものとがある。

海綿動物の基本構造は次のようである。体上端に大きな穴（オスキュラム・大孔という），体側に多くの小さな穴（オスティウム・小孔という）がある。体の中央には，胃腔(いこう)とよばれる部分があり，その表面に襟(えり)細胞という海綿動物に特有の細胞が並ぶ。襟細胞は外側に長いべん毛を出し，その基部を逆円錐(ぎゃくえんすい)形の原形質層（襟）がおおっている。べん毛の動きで水流が生じ，外部の水が小孔から取り入れられ，水とともにえさになる微生物・海藻(かいそう)の破片，各種動物の卵なども運ばれ，襟の表面について細胞内に取り込まれる。水は大孔から外部へ流れ出る。襟細胞は，原生動物の鞭毛虫(べんもうちゅう)類のエリベンモウチュウ科の単細胞動物ときわめてよく似た外観と機能を備え，海綿動物と鞭毛虫類との類縁関係を示すものと考えられている。体外層の細胞と襟細胞の間には，ゼリー状の中膠(ちゅうこう)とよばれる部分があり，骨片を含んでいる。骨片の形と成分は，種類によって異なっており，種類分けに使われている。

生殖は出芽による無性生殖のほか，有性生殖も行なう。受精卵は多数の繊毛をもった幼生になる。この幼生は水中を泳ぎ，他物に付着し，変態して成体になる。成体はすべて固着性で，自由に運動できるものはない。すべて水生で，ごく少数の淡水種を除く大部分が海産である。沿岸から深海底，赤道から両極まで分布する。一般に再生力が強く，すりつぶして絹ぶるいにかけ，細胞単位にばらばらにしても，海中に放置しておけば寄り集まってもとの海綿となる。

モクヨクカイメンとその近似種の骨格が，入浴・化粧用などに利用されるほか，人間生活と関係のあるものはない。〔菅野　徹〕

かいめんかっせいざい　【界面活性剤】 表面活性剤・サーファクタントともいう。互いにとけ合わない二つの液体が接触している場合，境界面（➔界面）で，その面積を減少させようとする力，すなわち界面張力が働く。この界面張力に著しい変化を与える物質を界面活性剤という。必ずしも液体どうしの界面でなくても，物質の表面または界面に吸着されるものであれば界面活性剤となりうる。通常，分子内に親水性の原子団と親油性の原子団との両方を共有する化合物からできている。せっけん*・合成洗剤*（中性洗剤・ソープレスソープともいう）がその身近な例である。界面活性剤を水溶液にしたとき，界面活性を有する部分の帯電状態により，陰イオン活性剤・陽イオン活性剤・両性界面活性剤・非イオン活性剤に分類される。従来最もよく用いられてきたのは陰イオン活性剤で，せっけんや，大部分の合成洗剤の主成分であるアルキルベンゼンスルホン酸類（ABS*）がこれに属する。水溶液中ではせっけんはアルカリ性を呈するのに対して，ABSは中性になることから中性洗剤という名が生まれた。陽イオン活性剤は，活性剤イオンがせっけんと逆であることから逆性石けんともよばれ，第四アンモニウム塩が主成分である。これは一般に殺菌作用が強いので，医療・衛生・工業の分野で消毒剤として利用されている。アミノ酸型化合物からなる両性界面活性剤は，まだそれほど多く利用されていないが，非イオン活性剤の用途は急速に進展している。非イオン活性剤における親水性基としては水酸基（$-OH$），ポリエーテル中のエーテル結合（$-CH_2OCH_2-$）がおもで，特に後者に属するポリエチレングリコール型のものが圧倒的に多い。水溶液中でのイオン解離がないのが特徴で，繊維工業での需要が現在は最も多い。



開聞岳 南西側上空から見た開聞岳の雄姿。山の右後ろに延びるのが長崎鼻・赤水鼻の半島で，左背後には池田湖の水面が見える

界面活性剤の一般的な作用としては湿潤・乳化・分散・浸透・洗浄・起泡(きほう)・可溶化・帯電防止などがあり，それぞれの目的に応じたものが製造されている。なお，代表的な合成洗剤であるABSは化学的に安定であるという利点に加えて，生物学的にも安定であるため，使用後の腐敗・分解・消失が進行せず，河川での発泡・蓄積・水質汚濁などという新たな公害問題を生じている。このため，合成洗剤のソフト化，すなわち微生物による分解を容易にさせる必要が緊急に生じ，現在でもその面での研究が世界的に続けられている。〔伊藤　卓〕

かいめんぎょぎょう【海面漁業】 海で営まれる漁業の総称で，内水面漁業*に対することば。わが国のように内水面水域の狭いところでは，漁業といえば一般には海面漁業を意味する場合が多い。海面漁業には，遠洋漁業*・沖合い漁業(または近海漁業)・沿岸漁業といったような呼称，底引き網漁業*・巻き網漁業などといった漁法別の呼称，北洋サケ・マス漁業とか南氷洋捕鯨業といったような漁業形態別な呼称がある。1969年(昭和44)のわが国の海面漁業総漁獲高は799万t(世界第2位)。〔石野　誠〕

かいめんじょうそしき【海綿状組織】 葉肉の同化組織のうち葉の裏面表皮に接している部分で，球状の柔細胞がまばらに並んで細胞間隙(かんげき)が多く，気孔*に通じてガス交換のガスの通路となっている組織である。さく状組織*と比べると葉緑体の数は6分の1ぐらいなので，一般に葉の裏面は緑色が淡い。ハナショウブなどの等面葉では海綿状組織は葉肉中央部にある。

かいめんちょうりょく【界面張力】 ⇨表面張力

かいめんてつ【海綿鉄】 鉄鉱石または砂鉄を軟化・溶融の生じないような比較的低温度(1,000～1,100℃)に加熱し，木炭・一酸化炭素・水素などにより還元して得られる多孔質海綿状の鉄。鉱石中の脈石*がそのまま残存しているが，金属鉄の部分は不純物が少ない。高級な鋼をつくるのに使われる。生産高は少ない。

がいもうこ【外蒙古】 ⇨モンゴル人民共和国

かいもくしょう【開目鈔】 日蓮*(にちれん)の著。2巻。1272年(文永9)，佐渡の配所で著述された。日蓮とその門下とに対するたび重なる鎌倉幕府の弾圧によって，信徒の中には信仰上の疑問をいだいて脱落する者もあった。本書はそうした動揺や脱落を防ぐ目的で著述された。日蓮はこの中で，いっさいの衆生が尊崇すべき主・師・親の三徳を備えた久遠の本仏(久遠実成の本師釈迦牟尼仏(しゃかむにぶつ))を示し，日蓮はその本仏の使者として出世したのであるという自覚を述べ，〈われ日本の柱とならん，われ日本の大船とならん，われ日本の眼目とならん〉との三大誓願を唱導している。〔塚本啓祥〕

カイモグラフ［kymograph］ 生物の個体，または，それから取り出された器官などの示す比較的ゆっくりとした運動を記録する装置の一種。筋収縮，心臓の搏動(はくどう)，腸の運動などの記録に広く利用される。油煙紙を張った円筒をゆっくり回転させ，この上にレバーを通して示される運動を記録する。記録のしかたに通常2種類あり，生物材料の長さを不変にしておいて刺激して生じた興奮を記録する法と，生物材料に一定の重量を加えておいて刺激する法がある。〔井坂三郎〕

かいもどし【買い戻し】 売り主がいったん売却した物をさらに対価を払って買い取ることを広義の買い戻しという。この意味における買い戻しの法律上の方法は大別して二つある。①解除権留保売買といわれるもので，これは，売り主が将来の一定期間内に契約*を解除して目的物を買い取ることを売買契約の約款そのものに定めてしまう場合。②再売買の予約といわれるもので，これは通常の売買契約をかわしたうえで，別に売り主が将来の一定期間に買い主から目的物を買い取ることができることを予約するものである。民法579条以下で規定している買い戻しは，このうち解除権留保売買に属するものである。買い戻しは，目的物の所有権が完全に買い手方のものになってしまうのではなく，資金の融通を受けるためこれを信託的に一時手放すのであり，法的効果も経済的効果も譲渡担保*と似ているが，目的物が不動産に限られる点において異なる(民法579条)。また，再売買の予約と異なる点は，売り主が目的物を買い戻す際，再売買の予約の場合は，再売買時の価額と費用で償還しなければならないのに対し，買い戻しの場合は，最初の売買価額と費用の同一金額で足りることである。買い戻しの期間を契約で定める場合は10年以内に限られ，期間を定めなかった場合は5年以内に買い取らなければならない。また，一度定めた期間は延長することができない(民法580条)。売買と同時に買戻権を登記*すれば，目的物が第三者に移っても，その第三者を相手方として買戻権を実行しうる(民法581条)。買い戻しは，このように要件が厳格なため，実際の取引活動においては，再売買の予約のほうがはるかに多く用いられている。〔黒木三郎〕

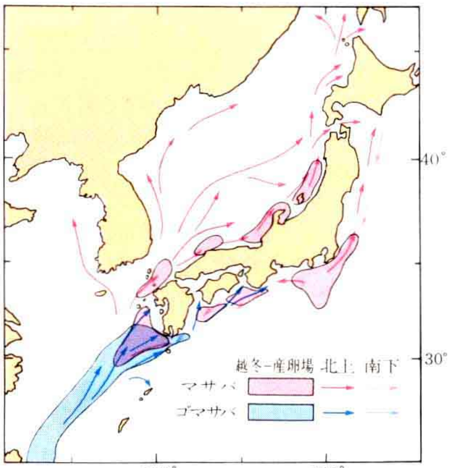
かいもんざき【開聞崎】 鹿児島県南部，薩摩(さつま)半島南端の開聞岳*(924 m)の南麓(なんろく)が海に落ち込むところで，山麓は森林でおおわれており，海食作用によって20 m前後の海食崖(かいしょくがい)をなしている。付近は霧島屋久国立公園にはいっており，最近は急速に観光開発が進められ，開聞岳山麓の一周道路もつくられ，薩摩半島南部の観光の一翼をにないつつある。

かいもんだけ【開聞岳】 海門岳とも書く。鹿児島県薩摩(さつま)半島南端にある標高924 mの美しい成層火山で，薩摩富士ともよばれる。873年(貞観16)と885年(仁和1)の2回の噴火の記録があるが，その後の活動はない。山腹は原生林でおおわれ，侵食谷もほとんどなく，秀麗なシルエットを描いて海上からの好目標となっている。山麓(さんろく)の北側に枚聞(ひらきき)(開聞)神社が，山頂に御岳神社があり，祭礼には参詣人(さんけいにん)でにぎわう。霧島屋久国立公園に所属する。〔高野　繁〕

カイヤール［Christian Hugues Caillard］(1899～　) フランスの現代画家。1924年以来サロン-ドートンヌに出品。題材を求めてモロッコをはじめ中近東・東洋各地を旅行したが，その作品は安易な異国趣味に陥ってはいない。公共建築などの装飾壁画，小説などのさし絵も描いている。

かいゆう【回遊】 魚が群をなし，一生または1年を周期として決まった道筋を移動すること。魚群の水中における分布重心の移動現象で，主としてその種族の繁栄を図るために行なわれる。したがって，分布域の拡大，十分なえさの摂取，増殖に最適な水域の探索などにかかわることが多い。明らかに回遊行動を示す魚を回遊魚という。また，魚類の他にも，クジラ・オットセイ・イカ・タラバガニなどの回遊が知られている。

①産卵回遊：魚類は産卵期になると，適当な場所を求めて産卵行動にはいる。ウナギの降河回遊，サケ・マスの遡河(そか)回遊などがこの例。②索餌(さくじ)回遊：魚群は生長するために，えさを求めて海洋中を移動する。春から秋にかけてのマサバやサンマの北上移動などがこれである。③適温回遊：魚類はそれぞれに固有の適温水中に生息する。したがって，季節変化に伴う水温変化が起こると，適水温域を求めて他に移動していく。カツオやトビウオの回遊などがこれで，季節回遊ともいう。④成育回遊：産卵場で孵化(ふか)した幼魚が，成育して元来の生息場にもどろうとする行動をいう。⑤深浅回遊：魚類は種類によって，昼夜でその生息層を異にするものがある。多くのものは，昼間は深層に生活し，夜間表層近くに浮上してくる傾向がある。主として，明るさとの関係と解されているが，これを深浅回遊という。〔石野　誠〕



回　遊　日本近海のサバ類分布と回遊の模式図

かいゆうしきていえん　【回遊式庭園】　広い池庭の周囲を歩きながら，視点を変えてその景観の変化を観賞する庭園様式。鎌倉初期に建築の武家書院造りとともに発達した。この例としては京都西芳(さいほう)寺があげられる。また，江戸初期の作例としては京都桂離宮(かつらりきゅう)などのほか，諸大名などの邸宅がある。

かいよう　【潰瘍】　皮膚・粘膜・角膜の一部に壊死が起こり，剝脱(はくだつ)・融解して表層から深層に及んで部分的に生じた欠損部をいう。浅いものは糜爛(びらん)とよんでいる。潰瘍の原因・形態はさまざまで，発生部位によって特徴が認められる。胃・十二指腸にみられる消化性潰瘍，放射線照射による皮膚潰瘍のほか，炎症・循環障害・化学物質・神経性因子などの原因によるものもある。

かいよう　【海洋】　地球上の陸地以外の凹所(おうしょ)に水をたたえたところで，全体が一続きになっているところ。海洋の面積は地球の全表面積の70.8％を占め，約4分の3をおおっている。海洋は，大きさ・塩分・温度や海流などの状態から，大洋と付属海に大きく分けられ，またさらに，海峡・湾に分類される。大洋は，面積が広く塩分が一定で，独特の海流・潮汐(ちょうせき)をもっているもので，太平洋・大西洋・インド洋がそれにあたる。他方，付属海は，面積も狭く独自の海流をもたず，接する大洋から大きな影響を受ける。深さもそれほどでなく，歴史も大洋に比べて新しいものである。付属海は，大陸内部に深く侵入している地中海・バルト海・北極海・カリブ海などの内海と，大陸の周辺にあって島や半島によって囲まれている沿海とに分けられる。日本海・オホーツク海・北海・ベーリング海などは沿海である。湾は海洋に向かって口を開いている湾入部であり，メキシコ湾・東京湾などがある。海峡とは，二つの海洋を結ぶ狭い海のことで，マゼラン海峡・ベーリング海峡などがある。一般に，海洋は，海岸から深さ約200 mまでの海底は傾斜がゆるく大陸棚(たいりくだな)とよばれて，航海・漁業などに重要である。深さ200 mから3,000 m付近では傾斜が増し，この部分が大陸棚斜面とよばれる。深さ3,500～6,000 mぐらいの部分は，海洋の面積の約80％を占め，海洋台地とよばれている。さらに深い海溝(かいこう)・海淵(かいえん)が大陸や火山帯に沿って走っている。海の平均の深さは約3,800 mである。➔海洋資源　➔海洋開発

〔相原正彦〕

かいようかいはつ　【海洋開発】　⇨次ページ

かいようがく　【海洋学】　海洋の種々の面を研究する学問で，海洋物理学・海洋化学・海洋生物学・海洋地質学・海洋気象学などとよばれる分野があり，広範囲にわたる。さらに航海・漁業と実用面で結びついている。はじめは，海洋に関する知識は海面付近の流れ・温度・塩分に限られていたが，深海についての知識も測器の発達とともに豊富になり，海流・温度・塩分の垂直分布が明らかになった。また，海水の物理的・化学的性質も調べられ，海中生物や海底資源・歴史などもしだいに解明されてきた。このほか，地震波による海底地質構造の研究，深海生物の生態と深海漁業との関係，放射性物質による深海の海水の流動調査など多くの問題を究明する。海水の循環の源は，太陽の放射熱，および風であり，気象学と海洋学との関連は特に密接である。

〔相原正彦〕

かいようかんそくせん　【海洋観測船】　海洋観測に適するようにつくられた船。長期間にわたって遠方の海域に調査に出るために，船の航続性・安定性・耐波性などについてくふうされている。気象観測・海洋観測に必要な装置をもち，測深・測温・採水・採泥(さいでい)・波浪観測，プランクトンなどの海中生物の採集を行なう。このほかに，船の位置を正確に知るためのレーダーを備えている。日本には数百トンから1,000トン級の観測船があり，気象庁・水産庁・海上保安庁・大学などに所属している。凌風丸(りょうふうまる)・春風丸・拓洋・蒼鷹丸(そうようまる)などがある。〔相原正彦〕

かいようきしょうだい　【海洋気象台】　おもに船舶のための海上気象，気象に関連ある海洋観測・検潮などのほかに，一般気象業務を測候所同様に果たす気象台。日本には，函館(はこだて)・舞鶴(まいづる)・神戸(こうべ)・長崎にある。各海洋気象台はそれぞれ観測船を保有する。

かいようきだん　【海洋気団】　比較的広い海洋上に，長期間停滞したり，一定の吹走を続けて，特定の性質をもつようになった大気塊のこと。海洋の温度変動が小さいために，著しい不安定さや逆転層を示さないが，水蒸気の補給が多いために湿潤で，雲や霧を発生しやすい。オホーツク海気団・小笠原(おがさわら)気団・赤道気団などは海洋気団である。

かいようこく　【海洋国】　一般には海洋に臨み，政治・経済・文化など各分野において国家や国民の活動が海洋に依存する度合いの大きい国をさすが，ニュージーランド・イギリス・日本などのような島嶼(とうしょ)国家や，ノルウェー・イタリアのように半島に位置して広い海岸線をもつ国も海洋国といえる。また，大陸の周縁にあって，海洋に多く面しているフランスなどは，ときにその海洋性を取り上げられることがある。

がいようざい　【外用剤】　経口・注射以外に用いる薬の総称。皮膚・粘膜・肛門(こうもん)などのように，外部から直接適用できる部分の病変に用いる。抗感染・消炎・腐食・収斂(しゅうれん)の作用があるものが多く，体内に吸収されると副作用の強い薬でも局所的に有効なものは用いられる。膏薬(こうやく)・塗布薬・座剤などがある。

かいようしげん　【海洋資源】　海水中や海底に，生存もしくは包蔵されている資源の総称。海洋生物資源の開発利用は，古代人がすでに行なっていたのは事実で，このことは，各地の貝塚(かいづか)にみられる貝類や魚骨の発掘によって立証されている。特にわが国においては，陸上の動物タンパク資源に乏しいことから，動物タンパク質の供給を海に依存し，おそらく将来ともその依存度はきわめて高いであろうと考えられる。第2次世界大戦後のソ連は，海産動物タンパク資源が最も効果的(経済的に)であることを認めて大々的な開発に乗り出し，他の諸国も海の開発に注目するようになった。特に国連食糧農業機構(FAO)は，ますます増加する世界の人口を支持するものとして，海洋生物資源の開発・維持の重要性を指摘してきた。一方，海に関する科学の発達と知識の増大は，次に開発されるべき資源宝庫としての海を重視してきた。アメリカを

➔418ページ

海洋開発

海底または海中にあるさまざまな資源やエネルギーを開発し，これを人間生活に活用しようとすること。世界の総人口は，現在およそ34億人で，20年後には約1.5倍の50億人に達し，さらに30年後，40年後には現在の2倍あるいは3倍になると予想されている。したがって，いま手の届く資源だけでは，このような多くの人口が生活することはとうてい不可能となる。医学の進歩は寿命の向上をもたらすし，産児制限の強化には人道上の問題がある。したがって，積極的な解決策は海洋資源の開発に求める以外にない。海洋は地球表面の約70％余りを占め，生物・鉱物・海水溶存物・エネルギーなどの膨大な資源を包蔵している。さらに，海洋は気象をも支配していて，もしわれわれが気象を支配しようとするなら海洋を支配する以外にない。また，交通や輸送に対して海洋の果たす役割もきわめて大きいのである。海洋は地球上に残された，ただ一つのフロンティアであり，しかも近年，科学技術は急速に進展し，海洋の膨大な資源を開発する可能性は飛躍的に高められつつある。そこで世界各国は長期的な資源需給の対策として，海洋資源の開発，海洋の有効利用に着目しはじめたのである。

〔海洋の資源〕①地質的・化学的・生物的資源：海洋から採取できる資源は，地質的・化学的・生物的資源だけに限定しても，内輪に見積もって，1967年の1年間の採取額は4兆数千億円になるといわれている。化学的資源としては塩化ナトリウム（塩）・カリウム・マグネシウム・臭素・ヨードなどがあげられる。塩についてはあらためて記すまでもなく，全世界の生産量約9,000万tのうち，3分の1が海水から生産されている。マグネシウムは，現在，海水に直接石灰乳を加え，水酸化マグネシウムを沈殿させるなどの方法で大量に生産されている。臭素は，海水を酸性にして，塩素と多量の空気を吹き込むことによって臭素を追い出し，これを苛性（かせい）ソーダ溶液に吸収させたのち，酸性にして蒸留して得られる。臭素の海水中における含有率は必ずしも高くないが，この元素の大部分が海水中に存在するため，海水から直接臭素を抽出する方法が工業化されている。わが国においては，マグネシウムとともに輸出も可能な現状になっている。カリウムは，肥料源として欠かせない元素であるが，いまのところ海水からの直接採取方法は成功していない。現在，わが国はカリ塩の大部分を輸入に仰いでおり，海水からの直接採取を早く実現させる必要がある。海水には約60種類もの元素がとけこんでいるが，実際に人類が利用している元素は上記数元素の範囲を出ない。

生物的資源の大部分は，動物タンパク資源としてなくてはならない魚類である。

以上のような海洋資源の年間の採取量を類別すると，地質的資源が約1兆5,000億円，化学的資源が約7,000億円，魚類約2兆2,500億円に及ぶ。調査が進み，開発技術が発達するにつれて，今後この数字はさらに膨大なものになると予想される。

②大陸棚（たいりくだな）の資源：大陸の周縁にきわめてゆるやかな勾配（こうばい）で広がっている200m以浅の平らな海底が大陸棚である。その面積は地球全表面積の約5.3％で，ほぼアフリカ大陸に匹敵する。1965年の予測では，このさき5年間に人類が大陸棚から引き出すことのできる利益は，石油で約2兆2,000億円，その他の鉱物資源約3,600億円，水産資源1兆3,000億円で，合計4兆円とみられていた。ところが3年後の1968年には，この数字が2倍の8兆円に増大している。わが国の大陸棚は陸地の約70％にあたる。そこには，天然ガス・石油・石炭・銅・鉄・チタン・金などの貴重な資源が豊富に分布している。この大陸棚を完全に開発すれば国土は70％増加し，資源の生産量は少なくとも50％は増大するであろう。大陸棚の資源といっても海底資源だけではなく，その海域の海水に含まれる鉱物資源も開発の対象になる。さらに大陸棚を対象とする栽培漁業*や，近年需要が増加しつつある海洋レジャーも広い意味で大陸棚資源の一つと考えてよいであろう。

〔大陸棚資源と海底の家〕本格的に海底資源を開発し，利用するためには，海底を占有することが必要である。そのためにはまず海底の地形的特徴をよく知り，大きな困難なしに人間が与えられた場所にもどれるように，海底を探検し，研究し，地図につくりあげねばならない。一方地形学的研究や生物学的研究も，鉱物資源の分布範囲と，開発可能な地域を決定するのに必要である。海底や海底近くの作業には現在，ダイビング・潜水調査船，および遠隔操作の機械の三つが用いられているが，いずれも決定的な成果はあげにくい。たとえば，アクアラングを使用するダイバーの場合でも，潜水深度は一般には60～70mまでで，しかもその深さでの作業時間はきわめて短い。それというのも，浮上のときに途中で十分な時間をかけないとケーソン病*になるおそれがあるからである。そこで，アクアラング潜水と組み合わせてこの数年大きくクローズアップされてきたのが〈海底の家〉である。フランスのJ. Y. クストーが，いま強力に推進している〈プレコンチナン計画〉，つまり大陸棚開発計画は，海底に家を建ててそこをすまいとし，海底の作業場で長期間資源開発を行なおうとするものである。

1963年に，紅海で深さ10mの海底に家をつくり，そこに8人のオセアノート（海洋作業要員）が約1か月生活して各種の作業をした（プレコンチナン第2次実験）。これは，1962年にマルセーユ・ポメーグ島で行なった第1次実験（10m潜水，ふたりのオセアノートが1週間滞在）に続くものである。1965年には，深度100mの海底の家に，6人のオセアノートが約30日間生活し，海底作業の可能性を立証した（第3次実験）。10mの海底では，へやの気圧は2気圧であるが，100mの海底では，11気圧にも達するので，そのような高圧下の生活の可能性について，あらゆる角度から十分な検討を加え，まったく不安のないことをあらかじめ実験しておくことが必要である。これらの実験は次のように行なわれる。

ふたりの医師，マルセーユ大学理学部のシュトー教授，ならびにモナコ海洋博物館のアカドロ博士は，1965年8月中旬，マルセーユにおいて，フランス海洋開発委員会の実験潜函（せんかん）内で5日間，13kg/cm²の気圧下に生活した。これらのオセアノートたちは，実験の前後に厳密な医学的検査（新陳代謝・心電図・脳波・血液など）と，精密な精神工学および心理学のテスト（即時記憶テスト・理性テスト・反射テスト，その他）とを受けたが，その結果はまったく異状が認められなかった。また動物実験では，1966年6月，マルセーユの海洋開発委員会が，めん羊（メリノー）1頭とヤギ3頭を高圧タンクに入れて，40気圧（水深400m相当）の圧力下におけるそれらの生態を観察している。また，1968年11月には，ヤギ1頭を100kg/cm²の高圧下で何時間も生活させることに成功している。この種の実験をくり返して，2年以内には100mの海底に家をすえて6人のオセアノートが第4次実験を行なう予定だという。

クストーのプレコンチナン計画に呼応し

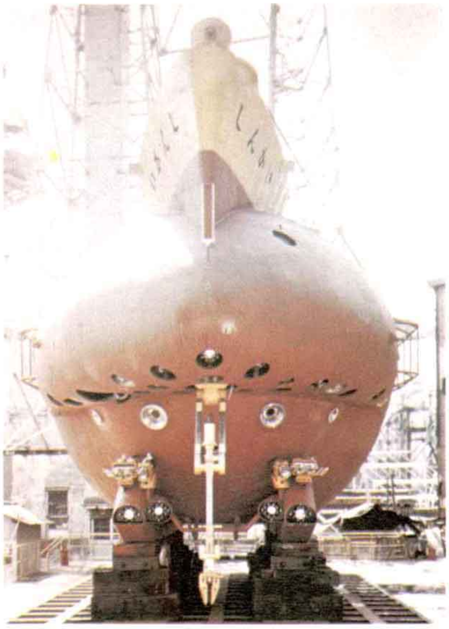
動物実験

実験 ＼ 要目	第1次実験	第2次実験	第3次実験
実験日	1965年4月	1965年5月	1965年7月
動物	めん羊（メリノー）2頭	めん羊（メリノー）2頭	ヤギ（雄）2頭
気圧（kg/cm²）	10	20	20
実験期間（時）	95	327	319
減圧期間（時）	54	56	70

海洋開発



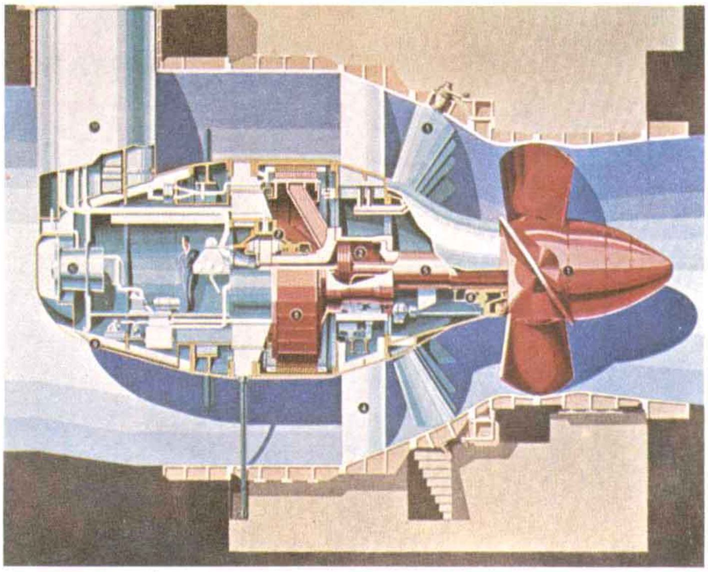
アルキメデス号　現在，世界で最も進んだ装備をもつフランスの深海潜水艇。全長21.3ｍ，幅４ｍ，高さ7.8ｍ，排水量191ﾄﾝ。乗組定員３人で連続潜水48時間，世界の最深部まで潜水可能



しんかい　海上保安庁所属の海洋科学研究用の潜水調査船。全長15.3ｍ，幅5.5ｍ，喫水４ｍ，排水量85ﾄﾝ。４人乗りで潜水深度は600ｍ



プレコンチナン計画　フランスはJ.Y.クストーを中心に1962年から大規模な大陸棚開発計画(プレコンチナン計画)を立てて，現在までに第３次の実験を終わっている。第３次実験では，直径5.7ｍの球形の家を深さ約100ｍの海底にすえ，６人の海中作業要員が約１か月滞在した



潮汐発電　潮汐の干満時のエネルギーを利用する発電方式。フランスは，世界ではじめて潮汐発電を開発し，ブルターニュ地方のサンマロに潮汐発電所を建設した。写真は水平チューブラー-タービンである

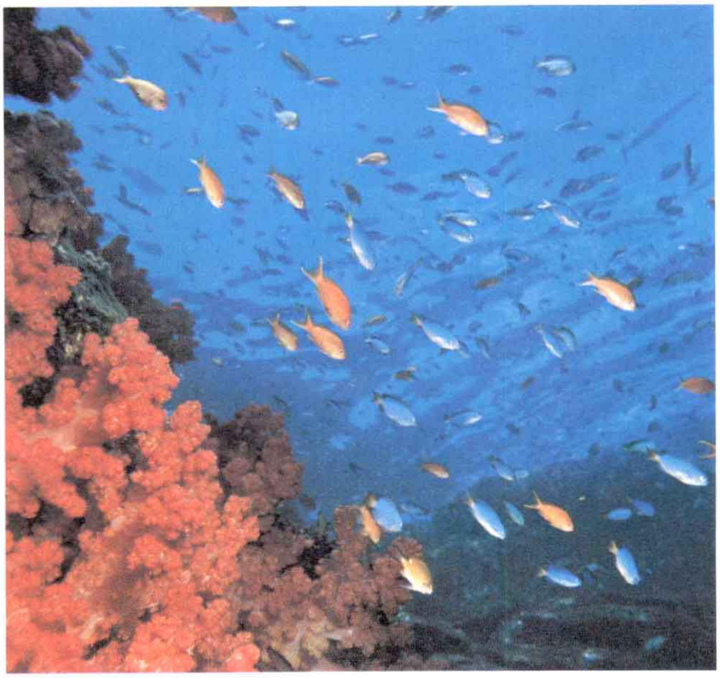
て，1964年７月アメリカのシー-ラブ(海中研究室)計画の第１次実験が，バーミューダ諸島で行なわれた。深さ60ｍの海底に直径2.75ｍ，長さ12ｍの金属製の海底の家をすえ，４人のオセアノートが11日間滞在した。さらに第２次実験は，1965年８～９月に45日間にわたって行なわれている。62ｍの深さで，10人１組みのチームが３組み編成され，それぞれ15日間滞在したのである。実験はカリフォルニア州サンジエゴのスクリップス海洋研究所の沖合い1,220ｍの所で行なわれた。海底の家は，直径3.66ｍ，長さ17ｍのものを使用した。第３次実験は，サンクラメント島沖の深さ180ｍの海底に第２次実験のものを改造した海底の家をすえて，８人１組みのオセアノート５組みがそれぞれ12日間滞在する予定で実験を開始したが，この実験は事故のために中断されている。

〔エネルギー資源〕海底または海水中の鉱物資源などのほかに，海洋そのもののもつエネルギーを利用することも海洋開発の重要な分野である。これには潮汐(ちょうせき)エネルギー・熱エネルギー・波力エネルギーの三つがあり，現在すでにその開発が進められている。

①潮汐エネルギー資源：フランスは世界ではじめて海洋エネルギーの開発に成功した。その一つは，潮汐発電の研究・開発である。フランスはこの研究開発に10年の歳月を費やし，グルノーブルのネルピック水理研究所(現在はグルノーブル水理研究協会)でこの研究を完成した。その原理は海岸に潮池を設け，この潮池内の水位と潮汐による海面の水位との間に差を生じさせ，これを利用して発電するものである。原子力発電は現在の見通しでは，その反応の制御の問題が複雑であり，また設備投資が大きいために実働率を高めて発電原価を切り下げなければならないので，つねにフル運転が要請される。ところが電力の需要は，人類の生活のリズムに応じてつねに変動するものである。そこで出力一定の原子力発

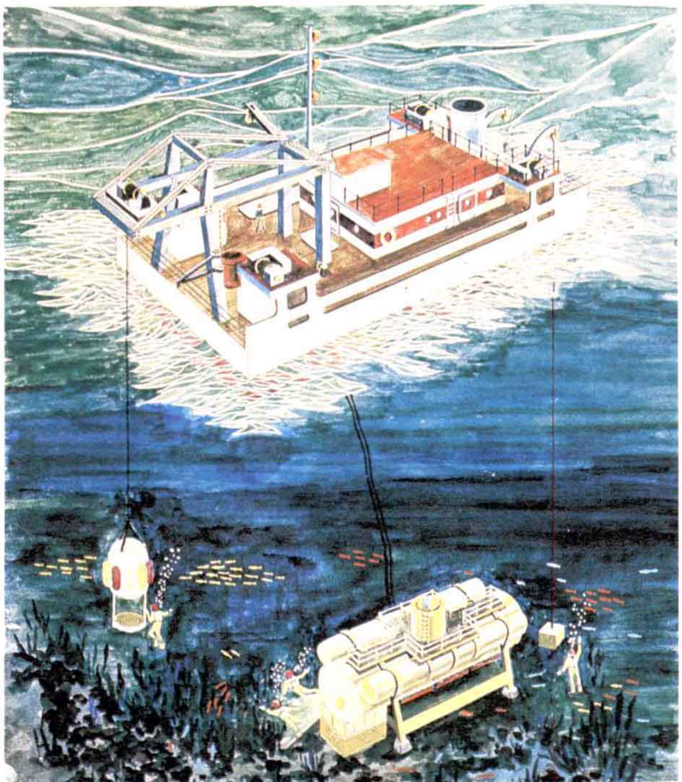


水中展望塔　海中公園の美しい景観や，海中の情景を観察するためには，観察する人の目が対象物と同じ深さに持ちこまれる必要がある。水中展望塔は，その観察窓を通してこうした目的を果たそうとするものである

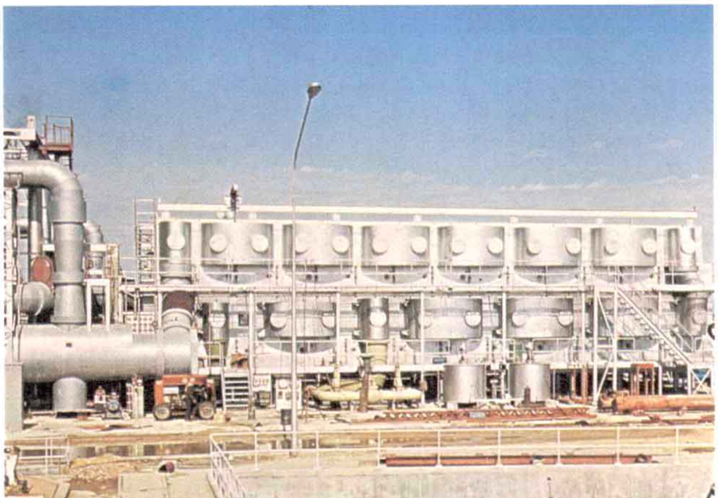




海中公園　海洋自然の生物相をそのまま温存する場で，ときには海洋科学研究をするための場ともなる



海底研究基地　海底に居住区を設置して，そこを基地として海中や海底の，いろいろな海洋のできごとを調査・研究する基地。わが国の海底研究基地は，乗組員４人が深さ100 mの海底で約１か月滞在できることを目標としている



海水の淡水化　海水を淡水化するためには，蒸発法・膜法，その他(たとえば冷凍法など)の方法がある。蒸発法には，フラッシュ式・太陽熱利用法，その他がある。写真は多段フラッシュ式の淡水化装置

電と，変動する需要との差を埋める一つの有力な手段として，フランスでは経済的な潮汐発電に期待をかけ，その実用化を図ったわけである。

この潮汐発電所は，フランス北西部のブルターニュ地方を流れてサンマロ湾に注ぐ長さ約100kmのランス川の河口に建設され，1kWの発電機24基を1968年1月にすえ終わって完成した。年間の発電量は，5億4,400kWhで，これは佐久間発電所の2分の1にあたる。次の計画としてモンサンミッシェル湾からショーゼー島に至る海域を大貯水池とし，年間30億kWhの電力を得ようと計画している。イギリスではイングランド南西部のセバーン川河口に，総工費4,000億円を投入，年間112kWhの電力を発電できる潮汐発電所を計画中である。ソ連はコラ半島の湾内に出力32万kWの実験用潮汐発電所を建設，フランスの装置の改造型で実験を行なっている。その他，オーストラリア・カナダ・アメリカなどでも潮汐発電の計画が進められている。潮汐発電を行なうためには，まず干満の差が十分なければならない。その点，わが国の場合は最大の差をもつ三池港でも，大潮差4.5m，小潮差1.5mで，潮汐発電にはまったく恵まれていない。しかし，最近開発されつつある揚水式発電と組み合わせるか，あるいは低落差チューブラ-タービンが開発されれば可能性がある。

②熱エネルギー資源：海洋には膨大な熱エネルギーがたくわえられている。この膨大な熱エネルギーを巧みに取り出して利用しようというのが温度差発電である。その原理は次のとおりである。太陽によって熱せられた温度の高い表層水をパラプラインを通して陸上の蒸化器にくみ入れる。次にこの蒸化器内の気圧を真空ポンプで減圧する。水の沸騰点は，1気圧の下では100℃であるが，気圧が低くなればそれだけ低い温度でも蒸発する。発生した蒸気は低圧であるから，この低圧蒸気を利用して低圧タービンを回して発電する。タービンを回し終わった蒸気は凝結器に導かれ，深層からくみ上げた冷たい海水によって冷却される。こうして仕事の能率が高められ，また一方では真水が得られる。

海洋の熱エネルギーの利用についても，フランスが最も進んでおり，15年間の長い年月をかけて研究開発を進めた結果，ついに温度差発電の実用化に到達した。コートジボアールのアビジャンに世界ではじめて建設された温度差発電所はいまも稼動(かどう)中で，7,000kWの電力と，副産物として1日約14,000tの淡水を得ている。温度差発電を行なうためには，次のような条件が満たされなければならない。第1に表層水と深層水との温度差が大きい海域であること。したがって，赤道に近い海域ほど有望である。第2に深層の冷海水が必要なので，陸岸に近いところが深く落ちくぼんでいるような地形が望ましい。わが国は黒潮がはいりこんでいるため極東にありながら比較的大きな温度差をもつ海域がいくつかある。また地形的にも期待されるところが多い。次にこれらの海域と温度差を表に示しておく。

	水　深(m)	温度差(℃)			
		夏	秋	冬	春
野島崎	500	17	14	10	12
薩南海域	400	18	15	12	13
立石岬	350	23	15	9	11

いま，積極的に海洋の熱エネルギーの利用に取り組んでいるのは，フランス以外では，アメリカ・イスラエル・チリなどである。

③波力エネルギー資源：海面にはつねに波が発生している。そこで，海面に浮かべたブイの上下運動を利用してタービンを回すもの，海岸に固定した空気タービンに空気パイプを通して波の力で空気を送って空気タービンを回すものがあり，これらが，波力発電である。波力発電はわが国ではすでに実用化されており，各地の燈台のひや多くの航路標識のひが，これによってともされている。開発の当初は，数十ワットの出力しか得られなかったが，現在では数百ワットの出力が得られ，さらに1kWにまで達しようとしている。今後の技術開発によっては，さらに多量の電力を取り出せる可能性もある。海上作業船の電力や各地の部落ごとの電力を波力発電でまかなうことも不可能ではなかろう。

世界じゅうの電気の使用量は少なくとも10年ごとに2倍になる。電力の主役は火力であり，原子力であろう。しかし石炭や石油は有機化学においては基本的な資源であり，たとえばプラスチック・合成繊維などの合成物質の材料としてこれらを使用するために確保しておかねばならない。したがって，海洋のもつ無限のエネルギー資源を利用することは，今後いっそう検討されるべきであろう。

【その他の資源】①マンガン団塊：もとアメリカ鉱山局長であったジョン-ミラーの推定によれば，全世界の海底には15兆tのマンガン団塊があるということである。アメリカはほとんどの資源を自給自足できる国であるが，マンガンだけは例外で，絶対量の不足を輸入にたよっているが，その量は年とともに倍増している。1967年の1年間に輸入したマンガンの額は約1,800億円である。そこで，ドル防衛の必要もあって，アメリカは海底からマンガンその他の鉱物資源を回収する作業船の建造に着手した。この作業船は120～3,600mの深さの海底鉱物資源を回収することができるという。わが国も太平洋の5,000mの深海底にあるマンガン・ニッケルなどの海底鉱物資源の調査とその回収を目標として，1969年度から研究が開始された。

②海水の淡水化：現在，人類は天然に得られる真水によって生活しているが，爆発的に増大する世界の人口，急速に発展する産業を考えるとき，海水の淡水化は真剣に検討されなければならない。その方法として数多くのものが提案されてきたが，そのうちおもなものをまとめると，溶液から水を分離するものに蒸発法・結晶化法・溶媒抽出法・逆浸透圧法が，また溶液から塩分を分離するものに電気透析・オスミオニシス・イオン交換などの方法がある。これはもう一部で実用化されており，今後の研究開発に伴って，近い将来上水道よりも安価に真水が得られるようになる。また，海水の淡水化に伴う副産物として，現在未開発のまま残されている50数種の海水中の元素の回収も大きくクローズアップされつつあり，特に金・セシウム・ウランなどが注目される。わが国の工業用水はやがて年間数百億トンが使用されようとしている。将来，これらを海水の淡水化によってまかなうとすれば，その副産物として年間に海水100億tあたり金が約600kg，真空管工業になくてはならないセシウムが5t，写真工業などで需要の大きい銀が約20t，ウランが20tも回収されるであろう。

③海洋レジャー：最近は海洋スポーツや，海洋レジャーなどが注目されるようになってきた。陸上のレジャーが限度にきた今日，海洋レジャーが急速に盛んになってきたのは当然のことであり，これは世界的な傾向である。そのためには人工海岸をつくることや，海水の汚濁を防ぐことが必要になってきた。特に海水の汚濁防止は沿岸漁業，特に栽培漁業の面からもきわめて重要である。そのほか，水中構造物やパイプラインの施設などの必要もある。さらに観光資源として海中公園*の建設も計画されている。

④医薬品原料の採取：海底の植物とか動物，あるいは海水から薬品を取り出すという興味のある問題がある。わが国でも海底の堆積物(たいせきぶつ)から新しい抗生物質を発見するべく努力している学者がいる。海底にあるいろいろな海草，あるいは魚の毒素などが，人間生活に思わぬ貢献をする可能性は十分にある。アメリカの国立科学財団はすでにある程度の費用をかけて調査を始めている。マークシャープオーンという薬品会社では，研究者を特にその目的のためにあてて研究を始めているという。そして抗生物質とか止血剤については，非常に興味のあるものができそうな可能性がうかがわれるということである。〔佐々木忠義〕

その頂点とする国々が，盛んな海洋開発に乗り出してきた。すなわち，海底下に埋蔵される鉱物資源に着目してきたのである。事実，アラビア湾における海底油田の開発はめざましいものがあるし，アメリカにおいても，その広大な大陸棚(たいりくだな)上に，海底油田開発の利権を確保し，すでにその油井は10,000を越えている。規模こそ小さいが，わが国においても海底油田・海底天然ガスの採掘が行なわれており，海底のマンガン鉱の採取も，真剣に計画されるようになってきている。

さらに，海水そのものには，貴金属元素を含むあらゆる元素が溶存していて，全世界的にはばくだいな量に達する。しかしながら，現在までのところ，その採取が経済的に見合うまでの技術段階に達していない。また，潮汐流(ちょうせきりゅう)を用いたエネルギー資源の開発利用も，ようやく実用化されはじめてきた。すでに一部火力発電所などでは，海水を冷却水として使用しているが，工業用水としての水資源，農業用水あるいは飲料水としての淡水化の研究も進められている。➔海洋開発　〔石野　誠〕

かいようじゆうろん【海洋自由論】 オランダの法学者グロチウス*の著書。〈自由海論〉ともいう。1609年刊。スペイン・ポルトガルによる海洋支配に対して，オランダの権利を主張する目的で書かれた《海上捕獲法論》の一部。海洋独占論に対して公海の自由を説き，国際法の原則を確立するうえに大きな役割を果たした。

かいようしょうねんだん【海洋少年団】 ⇨日本海洋少年団

かいようせいきこう【海洋性気候】 海洋の影響を大きく受ける温和な気候をいう。海洋の熱容量は陸地に比べて大きいので，海水温の日変化，および年変化は陸地より小さく，また海水では，乱流に伴う渦動(かどう)によって熱の垂直運搬が大量に行なわれるため，その影響を受ける地域では気温の日較差および年較差が小さく，したがって温和な気候となる。海洋の年最低および最高気温も，陸地よりはかなり遅れて現われる。気圧も，海洋は冬は低圧部に，夏は高圧部になり，夏の天気は安定するので，温度が高いにもかかわらず晴天が多い。〔桑原正見〕

かいようせいだいちょうえん【潰瘍性大腸炎】 結腸および直腸を侵す非特異性炎症性の病変。病因はまだ不明であるが，感染説・アレルギー説・自律神経障害説・酵素説・腸管筋層神経叢(しんけいそう)障害説・精神身体症説・新陳代謝障害ないしビタミン欠乏説・膠原病(こうげんびょう)説など種々唱えられている。血性・粘液性・膿性(のうせい)の慢性下痢がくり返して起こるのが特徴である。さらに腹痛・食欲不振・腹部膨満・吐きけ・嘔吐(おうと)・貧血などの症状が出現し，重症例では，発熱をみることもある。悪化と寛解をくり返すことが特徴の一つであり，内科的治療のみで完治することはきわめてまれとされる。20～40歳に罹患(りかん)する者が多く，男性のほうが女性より罹患頻度(ひんど)は高いとされている。診断法としては，X線検査・内視鏡検査がおもであるが，症候より本疾患を疑うことも重要なことであろう。治療法としては，外科的療法のほかに，最近では副腎(ふくじん)皮質ホルモンの使用，抗菌的療法，ビタミンなどが使用され，かなりの成果をあげている。〔後藤義隆〕

かいようたんけん【海洋探検】 海洋についての科学的知識は徐々に蓄積されてきているが，科学測器を用いての観測が行なわれはじめたのは比較的最近になってからである。海洋の探究は大昔から行なわれたが，コロンブスのアメリカ大陸発見までは，海洋に対する驚異の念が強く，ほとんど科学的ではなかった。マルコ-ポーロ*の《東方見聞録*》に刺激され，東洋を目ざすスペイン・ポルトガルは，財宝の獲得，植民，他民族との貿易の目的で海洋探検を行なった。コロンブスはアメリカ大陸の発見(1492)，バスコ-ダ-ガマ*は喜望峰経由インド航路の発見(1498)，マゼラン*は世界一周(1519～1522)の偉業を成し遂げた。これらにより海洋の広さ・形がわかった。その後，ビーグル号の航海は，ダーウィン*の進化論に基礎を与え，19世紀後半のチャレンジャー号の探検まで，幾多の探検が行なわれ，海流図・水温図が作成された。実用的見地から海底電線の敷設のため，海底地形・地質・生物などの調査がされた。チャレンジャー号の探検は，その基礎資料が50冊余りの報告書にまとめられている。これに刺激されて欧米各国は探検船を出し海洋調査を行なった。20世紀にはいり，メテオール号による大西洋の調査(1925～1928)が行なわれたが，装置・測器・方法ともにすぐれて精度も一段と向上した。エクマンの海流理論，ムンク・ストンメルらの海洋大循環理論が出た。測器の面でも，GEK(深海の表層流の流速を測定する流速計の一種)・BT(ある深さまで沈めるだけで，その途中の水温の曲線が得られる自記測器)・STD(電気的な方法で，塩分・水温・水深を同時に自記させる装置)などの器械の発達，電波航法*による正確な船位がわかるようになり，精密かつすみやかに観測が行なわれるようになった。また，一度に多くの船を出して協同観測を行なうようになった。〔相原正彦〕

かいようぶんがく【海洋文学】 航海・漂流・漁業生活など，人間の海上生活の特殊性を主要な題材とする文学作品。海は単なる背景ではなく，海に対する強い関心・愛憎が前提となる。海の暴威・包容の2様相と人間の限界との対照，あるいは海上生活の離合集散は，作者の観察・思考が深刻な場合，象徴的な意味にまで高められる。作例として，メルビル*の《白鯨*》，コンラッド*の《ナーシッサス号の黒人》《台風》，ロチ*の《氷島の水夫》など。日本文学では，古くは紀貫之*(つらゆき)の《土佐日記*》，近代では，野上弥生子(やえこ)の《海神丸》，前田河(まえだがわ)広一郎*の《三等船客》，葉山嘉樹(よしき)の《海に生くる人々*》，小林多喜二*の《蟹工船*(かにこうせん)》などがある。〔長崎勇一〕

かいようほうじょうやく【海洋法条約】 〈海洋法に関する国際会議〉で採択された条約。1958年2月24日～4月27日，ジュネーブにおいて，国際連合主催の下に86か国が参加して開かれた。国連国際法委員会が1956年の第8会期に採択した〈海洋法に関する最終報告書〉73か条が原案として討議され，その結果，4月29日に次の4条約として議定書を採択した。①〈領海*及び接続水域*に関する条約〉，②〈公海*に関する条約〉，③〈大陸棚*(だな)に関する条約〉，④〈漁業及び公海の生物資源の保存に関する条約〉と〈紛争の義務的解決に関する選択議定書〉。これら4条約に定められている海洋における国際関係を規律する規則を海洋法と総称する。これらは，加入国の批准書または加入書が国連事務総長に寄託されたときに効力を生ずる。上の4条約の発効日・当事国数(1968年1月現在)は次のとおりである。①1964年9月10日，33か国。②1962年9月30日，40か国。③1964年6月10日，37か国。④1966年3月20日，35か国。日本は，①と②に加入しており，1968年7月10日に効力を生じた。

領海および公海の概念は，古くから国際慣行を通じて確立されてきたものであり，①と②の規定の大部分はこれら慣習国際法の諸規則を成文法規の形にしたものといってよい。これに対して，最近の新しい発展として，公海の一部分である大陸棚の天然資源について沿岸国がその権利を主張し，あるいは公海の一部分である水域に，沿岸国が漁業に関して一方的な規制を行なう例が多くなってきており，このような主張を成文の形式とし，国際法の新しい発展として取り入れたのが，③と④である。日本政府は，このような従来の一般国際法の規則にはみられなかった一方的規制や主張を認めないとの立場で，③と④には加入していない。

領海条約は3部で構成され，32か条からなる。領海の法的地位，領海の限界，無害通航権，接続水域*について規定している。特に直線基線の採用，接続水域の明確化はその成果であろう。公海条約は前文と37か条からなり，その前文において国際法で確立した原則を一般的に採択していることを明らかにしており，この点で領海条約と対照的である。公海の定義，公海の自由，航行権，船舶とその旗国(➔旗国主義)との関係，海上安全関係，公海における有害行為の取り締まりなどについて規定している。なお，領海の幅員および漁業専管水域*については，第2回の国際会議がもたれたが結

論は出なかった。〔広部和也〕

かいらい【界雷】 前線の発達に伴って起こる雷。前線雷ともいう。最も多いのは寒冷前線に伴う場合で，暖域内の空気が不安定のとき，寒冷前線が暖気を押し上げることによって積乱雲が発生し，雷雨になる。温暖前線雷はあまり多くないが，梅雨明けまえの雷はこの種のものが多い。

がいらいご【外来語】 外国語から借用して自国語の体系の中に取り入れられた単語。古くから日本語にはいった漢語は深く日本語の中に融合し，ふつう外来語という意識をもたれていない。反対に，近年欧米語から借用される語の中には，日本語化の程度が低く，外来語というより外国語というべき段階のものもある。現代日本語における外来語の9割までは英語に由来するものといわれる。外来語は一般にかたかなで表記されるものが多い。

漢語と英語のほかに，日本語にはいっている外来語のおもなものを，言語別に少数例示してみよう。①梵語(ぼんご)は中国・朝鮮を経て仏教文化とともにはいり，すっかり日常語化しているものもある。例：ネハン(涅槃)・ガラン(伽藍)・ハチ(鉢)・カワラ(瓦)。②ポルトガル語はキリシタン用語や通商関係の用語としてはいった。例：ミサ・ジバン(襦袢)・メリヤス・ボタン・カステラ・パン・タバコ。③オランダ語は，同国が日本の鎖国中の貿易を独占していた間に数多くはいった。例：セルジ(サージ)・チョッキ・コーヒー・コック・ビール・ガラス・ゴム・ランドセル。④フランス語からは江戸末期に，ゲートルなどが軍隊用語としてはいり，以後は芸術・服飾・料理などの用語としてはいっている。例：アトリエ・デッサン・デカダン・ブラジャー・アップリケ・コロッケ・シャンパン。⑤ドイツ語からは，医学・哲学・登山用語などが多い。例：カルテ・トラホーム・ゾルレン・アウフヘーベン・ヒュッテ・ピッケル。

外来語は，たいてい名詞として取り入れられる。動詞や形容詞も，〈する〉や〈な〉などの活用語尾をつけて，はじめて日本語の動詞や形容動詞の資格を得るのが普通である。例：コピーする・ネグレクトする・ハンサムな・シャープな。上記以外の品詞としてはいったものはきわめて少ない。外来語は日本語の発音の体系に同化して取り入れられるので，もとの発音とは著しく隔たることが多い。しかし，外来語の影響によって，日本語に新しい発音が生じることもある。例：ファ・フィ・ティ。外来語が取り入れられる場合，もとの意味がずれたり，一部分だけがはいったりすることも多い。例：アベック・ベル(bellは広い意味をもつが，日本語では呼び鈴の意だけ)。また，もと同一の単語が，別々の単語として日本語になっている例もある。〈ストライク/ストライキ〉〈トラック/トロッコ〉など。なお，



偕楽園 早春の陽光のもとで観梅客のにぎわう公園広場。正面の建物は好文亭で，ここから望む千波湖のながめはすぐれている

外国語から借りた造語要素を日本で組み合わせてつくった，和製外来語もある。例：ロマンスグレー・シスターボーイ・ワンマンカー。〔西尾寅弥〕

かいらいし【傀儡子】〈くぐつまわし〉ともいう。平安時代から江戸時代にかけて放浪生活を営んだ人形つかいのこと。クグという海浜に自生する草で編んだかごの中に人形を入れ，各地を放浪した旅芸人であることからこの名が生まれた。山野を放浪しているとき，男は猟師となり，人里に来たときは芸人となる。また，女は化粧をしてこびを売る遊女となった。近世文学の基となった人形浄瑠璃*(じょうるり)はこの傀儡子と浄瑠璃語りとが結ばれて生まれたもの。

かいらいせいけん【傀儡政権】 ある国がある他国を思いのまま支配しようとしてつくりあげる政府。そのような国家は形式的には独立国であっても支配国によって自由自在にあやつられる。強国が弱小国または植民地および半植民地を支配する方法として用いられる。傀儡政権は自国民の利益に反して，支配国の利益に奉仕する売国的な政権である。

かいらくえん【偕楽園】 茨城県水戸(みと)市にある県立公園。1842年(天保13)水戸藩主徳川斉昭(なりあき)が造営したもので，衆と偕(とも)に楽しむの意のもとに名づけられた。ウメの別名，好文木にちなんでつけられたという好文亭(こうぶんてい)は，千波湖に臨む台地にあり，藩主が文人墨客を集めて詩歌に興じた所といわれ，国の史跡に指定されている。現在は常磐(ときわ)公園ともいい，ウメの公園として広く知られる。園内には約100種3,000本の梅林がつくる梅園をはじめ，偕楽園の碑，吐玉泉・義烈館・回天館・常磐神社などがある。金沢市の兼六園*，岡山市の後楽園*とともに，日本三名園の一つとされる。〔菊池万雄〕

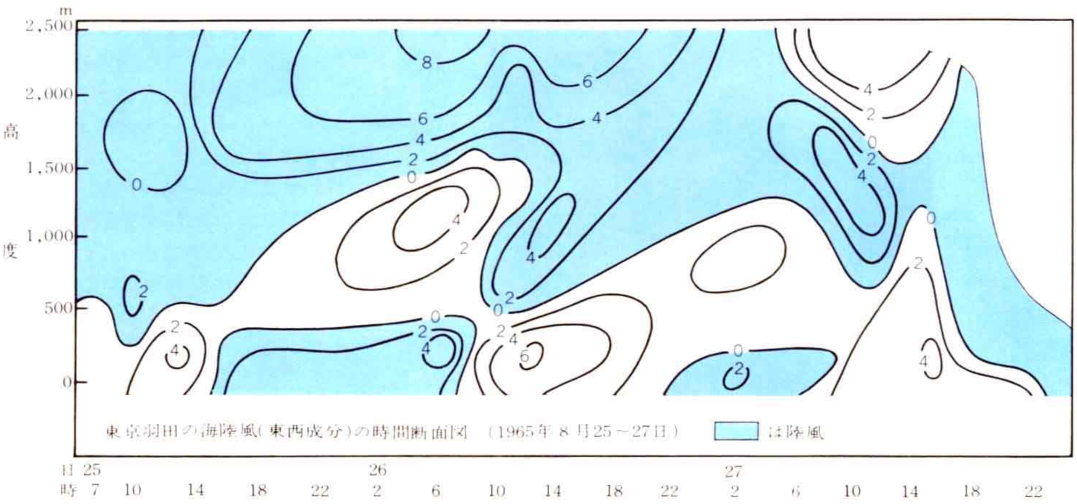
かいらくげんり【快楽原理】 ⇨快原則

かいらくしゅぎ【快楽主義】 人生の目的や価値の基準を快楽におき，快楽を獲得，実現することを道徳の原理とする考え方。これは，快楽が最高の善であると同時に幸福をもたらすものであるとして幸福主義につながる。快楽主義を説いた代表的なものに，古代ギリシアのキュレネ派*・エピクロス派，近代ではベンサムの功利主義*などがある。感覚的快楽主義を説いたキュレネ派に対して，エピクロス*は快楽を最高善としたが，それは肉体的快楽ではなく，あらゆる苦悩や恐怖を脱した魂の平安(アタラクシア)における快楽，すなわち永続的な精神的快楽であった。ベンサムは経験論の上に立って，利己的快楽と社会全体の幸福を調和統一させることを道徳の原理とすべきであると考え，個人個人の快楽の延長拡大としての〈最大多数の最大幸福〉を説いた。また，それまで量的にとらえられていた快楽に質的差異を認めて独自な見方を示したのがJ.S.ミル*である。〔本橋正義〕

かいらんたんこう【開灤炭鉱】 カイロワン炭鉱 中国，河北省唐山市を中心とする一帯にある大炭鉱。名称は同市北東部の開平鎮と北東50kmにある灤州(いまの灤県)に由来する。京山鉄道に沿い，鉱区は南北11km，東西37kmに及び，埋蔵量は7～10億tといわれる。炭層は古生代の二畳紀・石炭紀のもので，良質の粘結炭を産する。

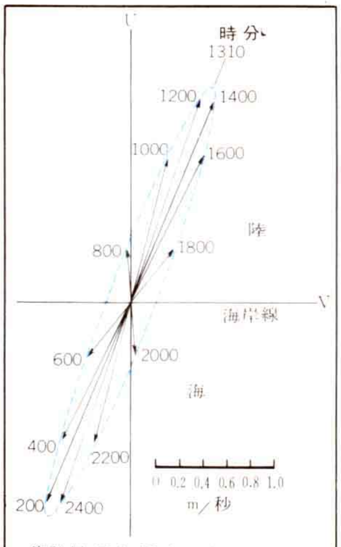
明(みん)代に，唐氏によって唐山で発見され，1878年に李鴻章(りこうしょう)が開平鉱務局を設立したのに始まり，以後順調に発展していたが，1900年の義和団の乱の際は各国連合軍による占領を恐れた清(しん)国の責任者が，イギリス・ベルギーの資本を加えて合弁の開平鉱務有限公司をつくり，香港(ホンコン)政庁に登録した。しかし，事変後，清国政府はイギリス資本に売却されたことを知り，あわてて回収に努めたが不成功に終わった。そこで清国側は1901年，広大な鉱区を開いて灤州官鉱有限公司を設立して対抗した。かくて両公司は激烈な競争を演じたが，たまたま辛亥(しんがい)革命が起こり，中国側各勢力の財政が逼迫(ひっぱく)したのに乗じてイギリスが両公司の合併促進に乗り出し，開灤炭鉱総務局を管理機関として設立し，実質的にイギリスの運営のもとにはいった。1934年，中国国民政府は両公司が合併した開灤炭鉱公司を承認して名実ともにイギリス資本の支配するところとなり，日中戦争中も継続操業した。しかし，1941年には日本に接収され，第2次世界大戦後さらに国民政府に接収されて，イギリスに返還されたが，1948年解放軍によって接収された。近年，産炭は設備の近代化とともに増加の一途をたどり，年産約2,000万tを越えている。なお，積み出し港には秦皇(しんのう)島が利用される。〔船越昭生〕

かいり【海里】 計量単位令に定められた長さの単位で，1,852mにあたる。子午線上の緯度1′の長さに相当し，海面および空中における長さの計量に用いる。記号M，



海陸風

U：東西の風の成分
V：南北の風の成分



海陸風・風向・風速・日変化の模型

nm 他の略号と混同のおそれがない場合にはく′〉を用いてもよい。

かいり　【解離】 一つの分子が，成分原子・原子団，またはより小さな分子・イオンに分解し，しかも原系と分解生成系との間に一定の平衡関係があるか，または，分解が可逆的であるとき，この分解を解離という。分解生成系と原系の分子数の比，あるいは式量単位の比を解離度といい，解離の平衡定数を解離定数ともいう。解離が熱により起こるときには熱解離(例：$2Ag_2O \rightleftarrows 4Ag+O_2$)，イオンを生ずるときには電離(例：$HNO_3 \rightleftarrows NO_3^- + H^+$)という。　〔三輪誠・加藤康〕

かいりくふう　【海陸風】 海岸付近で起こる，昼間と夜間で風向きが交替する風。天気がよく風が弱い日には，日射による気温の日変化は，陸上では大きいが海上では小さい。すなわち，昼は陸上が海上より気温が高く，夜はその反対であることによって対流が起こる。昼は海から陸に向かう風が吹き，夜は陸から海に向かう風が吹く。前者を海風，後者を陸風といい，両者を合わせて海陸風という。その際，上空では，地面付近とは逆向きの風が吹いている。また，1日に2度，両者の交替時には無風状態になる。朝の無風状態を朝なぎ，夕方のを夕なぎという。海陸風の吹く範囲は，地形によって異なるが，ふつう沿岸から10～30km程度で，熱帯地方では100km以上になることもある。風速は海風で5～6m/秒，陸風で2～3m/秒である。海陸風は，陸上の気温の日変化の強さに応じて，中緯度よりも低緯度の地域に多く，また中緯度では冬より夏によく発達する。　〔曲田光夫〕

かいりくほうソビエト　【海陸豊ソビエト】 中国，広東(カントン)省の海豊・陸豊両県で，1927年11月中旬に樹立され，翌年2月末まで続いた，中国最初のソビエト政権。中国共産党東江特別委員会の指導のもとに，地主の土地を没収して耕作者に分配するなど革命的政策を実施したが，社会主義革命をうたったことにみられるように，極左偏向を犯した。

かいりつ　【開立】 ⇨立方根

かいりゅう　【海流】 ほぼ定常的に一定の方向・速さをもって流れている海水を海流という。海流はばくだいな量の海水・熱を輸送するだけでなく，その中に含まれる各種の生物・浮遊物などを運ぶ。

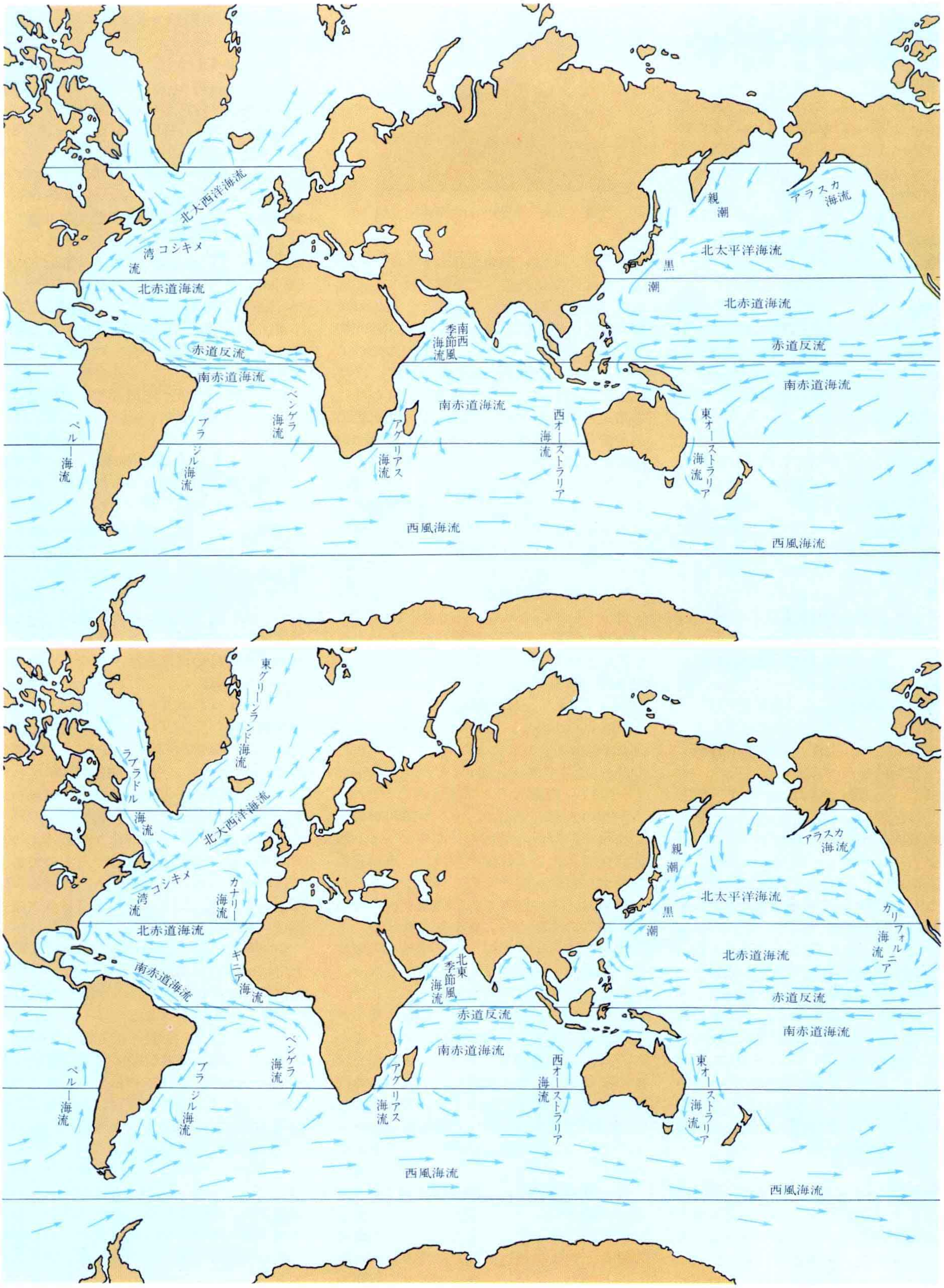
〔海流の測定〕①船の位置の推測と実測の差による方法：航行する船が，その位置を天測・電波測定などで知り，船の速さと方向から推定される到達予定地点で再び船の位置を求めたとき，実際にははずれた位置にあったとする。このとき要した時間で予定地点と実測点との距離を割ると流速と方向が求められる。②漂流物による方法：自然漂流物，たとえば，木材・難破船・氷山など，または人工的なものとして海流びん*・海流カードなどがあるが，方向・速さなどの科学的測定には向かない。③流速計*による方法：代表的なものとして，エクマン-メルツの流速計がある。プロペラと羽根がついていて流速に応じて回転数が変わる。1回ごとに観測する深さまで上下させねばならず，たいへんであるが，気象のロビンソン風速計のように測流標準器となっている。④電磁作用を利用するもの：最近，観測船では表面の流速を測定するのにGEK(深海の表層流を測定する流速計の一種)を用いる。海水が地球磁場の中を運動するときに生ずる弱い起電力を測定して流速を求める装置で，航海中にも測定できるという利点がある。

このほか，水温・塩分を実測し，計算によって相対的な流速を求める力学的計算法などがある。

〔海流の種類〕海流を生じる原因によって，密度流・吹送流・地衡流・傾斜流などと区別される。①密度流：海洋ではそれぞれ性質の違う水塊が表面でつくられ，対流や乱流混合によって性質が変化している。特に密度が異なる場合には海中に圧力分布を生じ，その結果，海水の運動が起こる。これを密度流という。海水の密度は一般に下層ほど大きく，極付近の冷たい海水ほど深海に達する。冷海水は海底に沿って赤道に向かって広がっていくが，その速さは表層の海流に比べればきわめておそい。②吹送流：海面を吹く風の応力によって起こる海流で，海の表層，深さ約200mぐらいまでの海流は大部分これである。黒潮・メキシコ湾流などの大海流の性質は吹送流の理論によってよく説明される。③地衡流：海中の流れは，発生すると地球回転による転向力*と圧力傾度力がつりあう状態となって流れる。これを地衡流という。海洋の中層の流れは地衡流となっていると考えられている。④傾斜流：風・気圧などの原因によって海水の移動が起こり，これが堆積(たいせき)して海面に傾斜ができる。そして，この海面傾斜につりあうような流れが発生する。これが傾斜流である。

このほか，なにかの原因である場所の海水が他の場所に移動すると，これを補うような流れが起こる。これを補流という。赤道反流などは補流の性質をおびている。また，海では二つの海流が合流する場所がある。そこでは，集まった海水は上昇または下降運動をする。たとえば，三陸沖・カリフォルニア沖・アフリカ西岸沖・オーストラリア沖などには湧昇流(ゆうしょうりゅう)がみられ，漁場としても有名である。

〔海流系〕現実の海流系を理想化して大勢を示すと次のとおりである。《太平洋》赤道貿易風帯には北赤道海流があり，東から西に流れ，大陸西岸に沿って黒潮となって北上し，やがて西から東に流れる西風皮流となる。北赤道海流の南，やや赤道上に赤道反流があり，北赤道海流と赤道をはさん

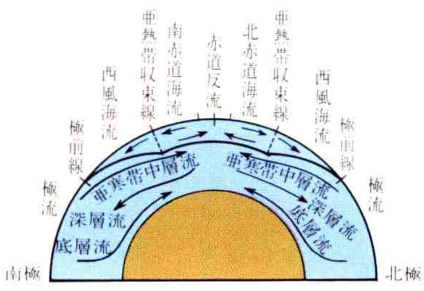


海　　流　世界の７月(上)と１月(下)の表面海流分布

で対称の位置に同方向に流れる南赤道海流がある。高緯度には偏東風による極流が反時計回りに流れ，西風皮流との間に極前線をつくる。親潮は極流の南下する寒流である。西風皮流はアメリカ西岸から南下してカリフォルニア海流となり，赤道付近で北赤道海流につながる。《大西洋》大西洋のおもな海流系のようすは，太平洋のものと似ている。すなわち，赤道をはさんで南北赤道海流が東から西に流れている。赤道反流はアフリカ大陸付近にわずかにギニア海流として存在している。黒潮に相当するメキシコ湾流はアメリカ大陸西岸を北上し，東に偏向して北大西洋海流となり，南下するカナリー海流となって再び北赤道海流に接続する。南半球では，南赤道海流は南下するブラジル海流となり，西風皮流は北上するベンゲラ海流となり，南大西洋を一環する。《インド洋》北赤道海流が東から西に流れ，アフリカ大陸西岸を南下し，マダガスカル島との間を通ってアグリアス海流となる。これは東に転向し，南半球の西風皮流となってオーストラリア南岸を通り，南太平洋の西風皮流に連なる。また，一部はオーストラリア東岸を北上する西オーストラリア海流となって一環する。

海洋には水平面上の循環だけでなく鉛直循環もあるが，この速さはきわめて小さいと考えられる。南北の極前線および密度躍層を連ねる面を境界とする表層がその対流圏である。ここでは熱の交換，蒸発・降水などによる密度変化によって上下に激しい混合があり，表面海流はここに発達する。それより深い成層圏では，水温変化は小さい。成層圏内の海水は，上から亜寒帯中層流・深層流・底層流の三つの流れからなり，それぞれ異なった方向に流れているが，緯度によっては区別が判然としないことがある。亜寒帯中層流は極前線で表層水の下にもぐり，赤道方向に流れる。深層流は蒸発の盛んな赤道海域の表層でできた塩分の濃い海水からなり，沈降して極に向かっている。底層流は極地方でできた冷たい塩分の少ない海水からなり，沈降しつつ，海底に沿って赤道方向に流れる。太平洋・インド洋の底層流は南極に源を発するもので，遠く赤道以北の海底にまではいりこんでいる。極底層流の速度はきわめておそく測定困難であったが，最近ではいくつかの方法によって求められている。放射性同位元素*や海中の音波による方法があるが，このほかにある一定の深さを流れる浮標から送られる超音波を受信して深層流のようすを知ることができる。

〔海流に変化を与える要因〕海流も長時間にはいろいろの変化が起こる。海面を吹く風，気圧配置の変化や蒸発量・降水量の変化，などが原因として考えられる。①風による変化：海洋表面の海流は吹送流であり，卓越する風の変化は当然，表面海流に影響



海　　流　深層水の大循環模型図

する。たとえば，黒潮は卓越する風の変化によって沿岸に接近したり離れたりして流れる。②気圧配置による変化：大気中の循環の変化に応じて，高低気圧の強さおよび位置は変化する。これは沿岸水面の傾斜に影響を与え，傾斜流に変化を及ぼす。また，気圧配置の変化に応じて深層流が変わり，漁業にも関係がある。③蒸発量・降水量による変化：蒸発量・降水量の多少は海洋表層の密度に影響し，密度流に変化を与える。また，河川の流量の増大，結氷・融氷は海流の消長に大きな関係がある。海面気圧・卓越風などの変化は大気の大循環の変化によって起こり，これは海洋・大陸の熱作用などによって支配されている。このように大気・海洋の運動は互いに相互作用を及ぼし合っているのである。

〔海流の影響〕海流の影響は人間生活の各方面にわたり，中でも気候に与える影響は大きい。たとえば，札幌(さっぽろ)の位置は北緯43°，ベルリンは北緯52.5°，ヘルシンキは北緯60°である。しかし，札幌の1月の平均気温は−5.9℃であるのに，ベルリンでは−1.0℃でずっと暖かく，ヘルシンキでも−5.0℃と札幌よりも気温は高い。これは，大西洋の大海流であるメキシコ湾流が暖かい海水を運ぶからである。このように，海流は気候に大きく影響を及ぼし，海流異変*が異常な気候を起こすのも当然である。わが国では，冬に西寄りの季節風が吹くため，せっかくの黒潮も冬の気温を和らげるのに役だっておらず，逆に，夏に寒冷な親潮がふだんよりも南下してくると冷夏となり，東北地方・北海道の冷害を起こす。また，回遊魚*は海流とともに泳ぎ，潮目*に集まり，日本近海のように寒流と暖流のぶつかるところはよい漁場となっている。また海流は船の航海にも大きく影響し，特に帆船時代には風とともに非常に大きな役割を果たし，快速船時代の今日においても海流を利用するのとしないのとでは経済性に大きな差異が出てくる。〔相原正彦〕

かいりゅういへん【海流異変】なんらかの内的または外的な原因，たとえば激しい気象現象などによって海流に起こる急激な変化。台風の通過後などに冷水塊が出現し，このために付近の海流が大きく経路を変えることがある。1934年(昭和9)室戸台風通過後，潮ノ岬(しおのみさき)沖に出現した冷水塊のため，黒潮が大きく迂回(うかい)したのはその例。

かいりゅうおうじ【海龍王寺】奈良市法華寺(ほっけじ)町にある真言律宗の寺。平城宮の東北隅(ぐう)にあったため，角寺(すみでら)(隅寺)ともいう。寺伝によると731年(天平3)，光明皇后が玄昉*(げんぼう)の冥福(めいふく)を祈るために藤原不比等(ふひと)の邸を改めて寺としたことが知られる。寺号は玄昉(げんぼう)が入唐(にっとう)の際に発願して，海の龍王に海上の平穏を祈ったことに由来するとされているが，確証はない。《続日本紀(しょくにほんぎ)》によると，当時そこに毘沙門天(びしゃもんてん)像が安置されていたこと，興福寺のように東・西・中の三金堂を備えていたことが知られる。平安後期に衰えたらしい。重要文化財に指定されている西金堂と講堂のほかに，薬師寺東塔と同様式である叡尊(えいそん)作の木造五重小塔(国宝)が残っている。〔藤本昌子〕

かいりゅうびん【海流瓶】海上を浮遊する自然漂流物に代わって海潮流の測定を科学的にしたもの。ビールびんなどにはがきを封入したもので，発見者が拾った場所や時間を記入するようになっていて，それを返送してもらう。この方法の欠点は，途中経路のわからないこと，拾った日と漂着時とが一致しないことである。海流びんの拾得率は外海では数パーセント程度である。海流びんのほかに海流板・海流カードなども用いられる。

かいりょうしゅぎ【改良主義】社会改良主義ともいう。プロレタリアート*(賃労働者階級)が階級闘争*をするにあたって，革命*的な立場を捨て，資本主義体制のもとで許される範囲の小さな改良要求の運動をしようとする日和見(ひよりみ)主義潮流の一つをいう。改良闘争だけを行なうことによって資本主義の根本的変革を避けるものであり，革命的闘争における改良闘争とは明確に区別される。フェビアン協会*における改良主義は代表的なものである〔浜岡政好〕

かいりょうもくざい【改良木材】天然木材に化学的・物理的な加工を施し，欠点を改良した木材。木材には比重が小，加工が容易，比強度が大などの多くの長所があるが，その反面，材質の異方性，吸湿による膨張，放湿による収縮，腐朽，燃焼などの欠点がある。改良木材はこれらの欠点の改良方法により次のように区分される。①接着工法による改良木材：合板・ランバーコアー合板・化粧合板・集成材・パーティクルボード，②圧縮・圧縮工法による改良木材：圧縮木材・樹脂注入圧縮木材・硬化積層材，③注入工法による改良木材：防腐木材・防火木材・樹脂注入木材，および最近発達したもので，木材にビニル系モノマーを含浸しγ線照射または熱重合させたグラフト重合木材(WPC＝wood plastic com-

bination)，④表面処理による改良木材：特殊合板など，⑤熱処理による改良木材など。〔堀岡邦典〕

かいりょくせき【海緑石】 ウンモに近い鉄とマグネシウムのアルミナケイ酸塩鉱物。$K(Fe,Mg,Al)_2(Si_4O_{10})(OH)_2 \cdot nH_2O$ 単斜晶系。比重2.2～2.8，硬度2～3。緑色の径1mm前後の細粒状となって海成堆積(たいせき)岩中に分布し，秋田県男鹿(おが)半島など各地に産出する。カリ肥料・緑色顔料に用い，また塩基性交換の性質があるため水の軟化剤としても用いられる。

がいりんざん【外輪山】 噴火口が二重またはそれ以上複合している火山の外側の火口縁およびカルデラ縁。イタリアのベズビオ火山が世界的に有名であるが，わが国では赤城(あかぎ)山・榛名(はるな)山・浅間山などにある。

がいりんせん【外輪船】 船尾または両舷側(げんそく)に，水かき用の水車式の車輪を設けた船。外車船ともいう。車輪の回転により水かきが水をかいて推進させる。外輪船は蒸気機関がはじめて船の推進用に利用されたときから用いられた。進退しやすく，喫水を浅くできるので河川などでは今日でも用いられる場合があり，スクリュー-プロペラが発達するまで全盛を誇った。波のある外洋での効率はスクリュー船に比べてはるかに低い。〔飯島幸人〕

かいろ【回路】 ⇨電気回路

かいろ【懐炉】 主として懐中に入れて身体を暖める器具。容器は銅やブリキなどで，通気をよくするため小さい穴を多数あけ，外面はネルやビロードなどを張りつけてある。懐炉灰はナスのへたやイヌタデ・桐材(きりざい)などを黒焼きにして，筒状の薄い和紙に入れてある。懐炉が考案されたのは元禄(げんろく)時代で，昭和初期には揮発油を燃料とするものが考案され，近年は電池を利用するものもできた。なお，懐炉には寝床などに入れる大形のものもある。〔山本喜男〕

カイロ［Cairo］ エジプト・アラブ共和国の首都。ナイル川三角州のかなめに位置し，アフリカ大陸最大の都市である。人口707万(1975)。市名はアラビア語のカヒラ〈勝利者〉の意。古くはイスラム文化の中心であり，政治的にも重要な位置にある都市として栄えるとともに，アジアとアフリカの商業・交通上の接触点として発展した。ナイル川上流地方から運ばれる象牙(ぞうげ)，ダチョウの羽など特産物の集散地で，商工業の中心をなしている。工業はおもに綿糸・綿織物・製糖などの軽工業が行なわれているが，近年は機械工業や製鉄なども開発されている。ヨーロッパや日本の機械類など工業製品を取引し，西アジアから羊毛やたばこを輸入している。住民は，イスラム教徒のアラブ人が大半を占める。市街は城郭や数百に上るモスクなど古い建築の残る旧市街と，官庁街などの新市街とに分かれている。新市街の東部地区はアラビア系エジプト人のほか，トルコ人などの西アジア諸国民，アフリカ内陸の黒人，ヨーロッパ人など多くの人種が居住している。文化面ではイスラム教研究の中心であり，世界最古の大学として知られるアズハル大学やカイロ大学があり，古代エジプトの発掘物を集めたカイロ美術館もある。郊外には有名なギゼーのピラミッドやスフィンクス，南のナイル上流にはメンフィスの神殿，北東にはヘリオポリスの跡など古代の文化遺産が数多く残されている。道路・鉄道が東のスエズと結び，ベイルートと並ぶ規模をもつ国際空港がある。〔小栗 宏〕

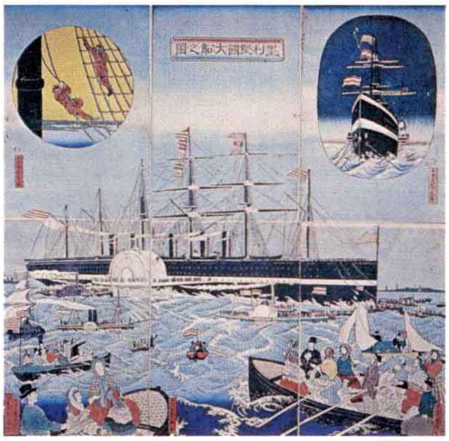
かいろう【回廊】 寺社などで主要な建築物の外方に巡らされた屋根つきの廊下。建物と建物を連絡する目的もあるが，屈曲する長い通路をたどらせることによって，神聖な場所へ到達する感銘をいっそう深めるのがおもなねらいである。また，回廊は外に閉ざし内に開いた形式の例が多いが，これは外部空間を建物から区分して，その内側の空間を引き締め，聖と俗との境界を強調する働きが大きい。➔伽藍(がらん)配置

かいろうどうけつ【偕老同穴】 海綿動物・六放海綿綱・六放星目・カイロウドウケツ科の総称。日本近海に3～4種を産し，いずれも円筒形の体の下部に長い柄がつき，この柄を海底のどろに深く差し込んで直立している。骨格はかご状の構造を示し，しかも，そのかご目はレースのように繊細である。

しばしばかご状の胃腔(いこう)の中に，1～3尾ほどの生きた小エビ(ドウケツエビの仲間)がはいったまま採取されるが，2尾はいっている場合が多い(必ずしも雌雄ではない)。それが夫婦に見立てられて，中国の《詩経》の一節に〈生きて偕(とも)に老い，死んでは同じ穴に葬られる〉という夫婦愛をうたったことばがこのエビの名となり，のちにこのエビのはいる海綿の名となったものである。ドウケツエビは，小さいときにこの海綿の上端の網目状の部分から中にはいりこみ，中で網目よりも大きく育って，結局は出られなくなってしまうのではないかと考えられている。

南日本100～200mの海底にすむ長さ約40cmのオーウェンカイロウドウケツ，中部日本太平洋岸の130～300mの海底にいる長さ約20cmのマーシャルカイロウドウケツ，相模(さがみ)湾・駿河(するが)湾の360～1,000mの海底にすむヤマトカイロウドウケツ(長さ約80cm直径約8cmに達し，この仲間のうち最も美しい)などがある。生きているときの体色は，いずれも淡い黄色か淡紅色である。英語ではその美しさをたたえて，カイロウドウケツを〈ビーナスの花かご〉という。柔らかい部分を取り除いて仕上げた骨格標本は，繊細で複雑な造形に造化の妙を感じさせる。〔菅野 徹〕

カイロかいだん【カイロ会談】 第2次世界大戦中カイロで開かれた連合国戦争会議の一。1943年11月22～26日の第1次会談にはアメリカ大統領F.ルーズベルト，イギリス首相チャーチル，中国国民政府主席蒋介石(しょうかいせき)が参加し，ビルマ方面作戦，戦後の日本領土問題を協議した。12月1日カイロ宣言を発表し，調印3か国は領土拡大の意図のないことを確認し，日本から東



外 輪 船



カ イ ロ ナイル川に沿うカイロ市街の中心部(対岸から望む)。最近は近代的な高層ビルが次々と建設されている



カイロウドウケツ，ヤマトカイロウドウケツ

南アジア・南方諸島の占領地を取り上げること，中国東北地方・台湾・澎湖(ぼうこ)諸島の中国への返還，朝鮮の独立，日本を無条件降伏させることなどを決定した。これは大戦後の日本領土に関する方針の最初の宣言で，のちのポツダム宣言*の基礎となった。12月4～6日の第2次会談には，蒋介石に代わってトルコ大統領イスメット-イネニュが加わり，第1次会談でのビルマ方面作戦の決定を大幅に修正した。　〔折井一彦〕

かいろきごう　【回路記号】　⇨電気回路

がいろけいたい　【街路形態】　都市*の主要な街路の形態をさす。自然発生的な都市の街路は，無秩序で整然としてはいないが，計画された都市の街路形態は，一般に整然とした幾何学的形態をなしている。街路形態は大別すると，格子(こうし)状街路・放射状街路・線状街路の3種類に分けられる。

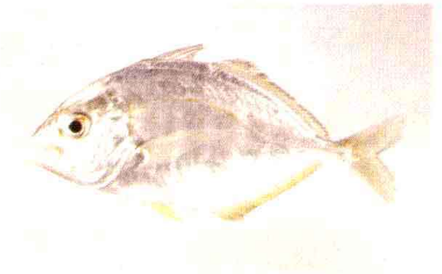
①格子状街路：自然の中にまったく新しく都市を建設する場合に用いられる街路で，具体例には，ギリシアの植民都市ミレトス，中国の唐の都長安，日本の平城京*・平安京*などがある。明治以降につくられた札幌(さっぽろ)・帯広などもこの例である。新大陸アメリカの都市もこの型が多い。ニューヨークのマンハッタン地区，ロサンゼルス・ソルトレークシチーなどがこの型にはいり，格子状街路と放射状街路の組み合わせではあるが，ワシントン・フィラデルフィアの都市も格子状街路型に含めることができよう。

②放射状街路：王宮・神殿といった核を中心とし，周辺に拡大発展していった都市に多くみられる。イタリア-ルネサンス期の建築家スカモッチ*が設計し，実現された中世の理想都市パルマ・ノバや，ベルサイユ宮殿の影響下につくられたバーデン大公国の首都カールスルーエは放射状街路の典型である。現代の大都市は整然とはしていないが，どちらかといえば放射状をなしている。東京・ロンドン・パリなどの大都市圏では一様に放射状街路と同心円状の環状街路の組み合わせによる街路形態となっている。

③線状街路：街道筋の宿場町*，宗教施設へのアプローチに沿って発生した門前町*でみられる。このほか川・海岸など地形的条件から必然的に線状に計画した例としては，ミチューリンのボルガ川帯状工業都市計画案，2都市を結ぶことにより線状になったル-コルビュジエの線状工業都市計画案，都市の将来発展を考慮したロンドン計画(1938)，丹下健三(けんぞう)による〈東京計画1960年〉などがあり，線状街路は新しい都市計画家に好まれる形態である。

〔竹内泰夫〕

がいろじゅ　【街路樹】　樹木のもつ美的効用と空気浄化・防塵(ぼうじん)・温度調節作用など環境衛生的効用を利用して，市街地空間に潤いを与えるため，特に街路に沿って列状に植えられている樹木。日本における街路樹は1867年(慶応3)横浜の馬車道通りにヤナギとマツを植えたのがはじまりとされている。街路樹は均整のとれた樹形で，幹はまっすぐに伸び，人畜に無害で，市街地の環境，病虫害，強い刈り込みなどに耐えて健全に生長する樹木でなければならない。ニセアカシア・スズカケノキ・ヤナギ・アオギリ・トウカエデ・エンジュ・イチョウ・トチノキなどが多く植えられている。トチノキの一種であるマロニエはパリの街路樹として世界的に有名である。イチョウは街路樹に最も適する樹種の一つであるが，果実は悪臭を放ち，また果皮は油脂などを含むため路面に落下すると車がスリップする危険があるので，雄株(イチョウは雌雄異株)だけが用いられる。　〔片岡寛純〕



カイワリ

カイロせんげん　【カイロ宣言】　⇨カイロ会談

かいろそし　【回路素子】　電気の回路を構成している部品。能動素子と受動素子，あるいは線形(直線)素子と非線形(非直線)素子に大別される。能動素子とはエネルギーを回路に供給する素子，すなわち電池・トランジスター*，負性抵抗特性をもったダイオード*(たとえばトンネルダイオードなど)，真空管など信号を増幅する機能をもっている素子である。受動素子はこれ以外のもの，すなわち，抵抗・コイル・コンデンサー・変圧器，普通のダイオードなどの素子である。また，1対の端子に外部から与えた電圧とこれによって流れ込む電流との間が比例関係にある素子を線形素子といい，比例関係のない素子を非線形素子という。

〔内山明彦〕

カイロネイアのたたかい　【カイロネイアの戦い】　BC338年，中部ギリシアのボイオチア西部の小都市カイロネイアで，マケドニア王フィリッポス2世*とアテナイ-テーベ連合軍との間で行なわれた戦い。ギリシア諸都市は敗れ，これによってマケドニアの覇権(はけん)が確立した。

カイロノミー　［chaironomy］　合唱を手の動きで導くこと。カイロはギリシア語で手の意。古代のエジプト・ギリシア・ローマでも行なわれたと考えられるが，特に中世ヨーロッパ典礼音楽では，テンポの指示にとどまらず，旋律やリズムも伝達された。この機能を受け継いだのが，学校教育でドレミを手によって示す方法である。楽譜を見ている奏者を指揮する近代の指揮法とは異なる。

カイロびじゅつかん　【カイロ美術館】　アラブ連合共和国の首府カイロにある美術館。1863年開館，1902年現在地に移る。先史時代から古・中・新王朝を経てグレコ-ローマン期に至るエジプト古美術品約10万点を所蔵し，その質と量において世界第1の美術館。有名なツタンカーメン王の金のマスク，シェイ-エル-バラドの像，ケフレン王像のほか，墳墓出土品である諸王のミイラ棺・貴金属・宝石細工や彫像・石碑・石彫品・貨幣・家具調度品・素描・絵画・写本類を約30の展示室に時代順に陳列している。

〔藤井久栄〕

がいろめねんど　【蛙目粘土】　磁器*の原料になるカオリン*質の原土の一種。カオリンのほかに，径数ミリ以下のセキエイの粒が点々と混じっていて，水でぬれたときにはそれがカエルの目玉のように見えるのでこの名がある。水でほぐして水簸(すいひ)し，セキエイの粒と分離して粘土分だけを精製する。セキエイが多いときは，逆に粘土分を洗い去り，セキエイ分を精製してケイ砂*にし，ガラス原料などに用いる。岐阜県の東濃地方，愛知県の瀬戸地方，三重県の伊賀(いが)地方が主産地。　〔片山信夫〕

かいわ　【会話】　数人が特に形式を決めずに話し合うこと。立ち話・おしゃべり・雑談・話し合い・座談など。広い意味では，ことばのやりとり，さらには身ぶりやその他のシンボルを使った意見・情報の交換をもさす。話の進め方には規則はないが，①相手の発言によく耳を傾け，しかるべき相づちを打つ，②発言者は一方的に自分だけがしゃべりまくることを避ける，③感情を露骨に出しすぎて相手を不快にさせない，などの注意が必要である。　〔芳賀　綏〕

がいわくせい　【外惑星】　太陽系内で地球より外側の軌道を公転する惑星。火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星(めいおうせい)をさす。太陽と地球と外惑星の位置関係によって合*・衝*・矩*(く)などの現象を生じ，位相*も変化するが，月の新月に相当する現象は起こらない。外惑星の公転周期P_oは，地球の公転周期P_eと会合周期Pより$\frac{1}{P_o}=\frac{1}{P_e}-\frac{1}{P}$の式で求められる。

かいわぶん　【会話文】　話されたことばを文字で書き表わしたもの。小説などで，〈地(じ)の文〉に対する会話の部分や，戯曲・脚本におけるト書きを除いた部分をいう。「　」をつけて示すことが多い。ただし，会話文は，会話そのものとは同一でない場合が多く，書きことば的な言い方が交じっていたり，論理的に整えられていたりするのが普通である。

かいわり　硬骨魚類・アジ科。40cmほどになる海産魚。姿はアジに似ているが，もっと平たい。色もアジに似ている。背びれ

としりびれに，美しいしま模様がある。世界じゅうの暖かい海に広く分布し，美味。

カイン ［Cain］《旧約聖書》に現われる人物。〈創世記 第4章〉によれば，人類の祖アダム*の長子で，農業に携わっていた。牧畜を営む弟のアベル*とともに神に作物を供えたところ，自分だけが無視され，理由のわからぬ神の行為に怒って弟を殺し，人類最初の殺人を犯した。その罰として地上の放浪者となり，土地・家・神を捨ててエデン*の東の地ノドへ行き，妻をめとってエノクを生んだ。

がいん 【画院】 中国の宮廷内に設けられた絵画制作の機関。画家に官人としての職階を与えて皇帝の側近に置く形式は漢代ごろからあり，唐代には制度として完成して〈翰林図画院(かんりんとがいん)〉とよばれ，五代から宋(そう)にかけては待詔(たいしょう)・祇候(しこう)・芸学・画学論などの職名が画家に与えられ，全国から名手が呼び集められた。その後，南宋ごろからは院画*もしくは院体画と称する独特な画風が生まれ，中国絵画の伝統の一つとなった。なお，画院は元代にはなく明(みん)代には復活したが，清(しん)代には画職階としてのみ残っている。

〔中島純司〕

カウアイ(島) ⇨ハワイ(州)

ガウガメラのたたかい 【ガウガメラの戦い】 ⇨アルベラの戦い

ガウス ［gauss］ 磁束密度*のC.G.S.系電磁単位。記号G 磁界に対して直角な導線に1電磁単位の電流を流し，導線に1ダイン*の力が作用したとき，磁界の磁束密度を1ガウスという。ドイツの数学者ガウス*の名にちなんで名づけられた。

ガウス ［Karl Friedrich Gauss］(1777～1855) ドイツの数学者・物理学者・天文学者。19世紀前半の最大の数学者。ブラウンシュバイクのれんが職人の子として生まれ，彼の才能を認めた領主の保護によりゲッチンゲン大学に学ぶ。n次方程式にはn個の根があるという代数学の基本定理の証明により学位を得た。1807年以来ゲッチンゲンの天文台長兼大学教授として没するまでその任にあった。1796年に定規とコンパスだけで正十七角形を作図する方法を見つけたことが数学を研究するきっかけになったという。数学のあらゆる分野に業績を残した。最小二乗法・楕円(だえん)関数をはじめ，曲面論・ポテンシャル論などはその代表的なものである。天文学・電気学・測地学などにも記念すべき研究を残した。

〔下平和夫〕

ガウチョ ［Gauchos］ 南アメリカ，特にアルゼンチン・ウルグアイに住むスペイン人とインディアンの混血による子孫。混血が始まった当初のおもな生業は，牛馬の遊牧や皮革製造で，ボーラという重しをつけたラッソ(投げなわ)で放牧中の動物を集めるのがうまい。最近は自由業・政治家など種々な職業にも従事。なお，中南米のカウボーイはこの名でよばれる。

カウツキー ［Johann Karl Kautsky］(1854～1938) ドイツの経済学者。ドイツ社会民主党および第2インターナショナルの理論的指導者でもある。プラハに生まれ，ウィーン大学で歴史学を学んだが，1881年以降ロンドンでエンゲルス*の影響を受け，その後マルクス主義理論の解説・普及に努めた。1883年からドイツ社会民主党の機関紙《ノイエ-ツァイト》を発刊，1892年にはエルフルト綱領*を起草した。彼はマルクス経済学に基づいて理論を展開しているが，特にドイツ農業の特殊性を明らかにすることによって《資本論》の不十分な理論を補おうと企て，《農業問題》(1899)を執筆した。さらに19世紀末から進行しはじめた独占資本主義の形成に直面して，《帝国主義》(1914)をはじめとする一連の帝国主義に関する論文を発表した。しかし，彼の理論展開は帝国主義段階の特質を資本主義一般に解消しようとしたため，マルクス主義に分裂をひき起こし，このためレーニン*らによって批判された。また，革命の方式をめぐって彼は議会主義的方法で漸進的に社会主義に至ることを主張し，ローザ-ルクセンブルグ*ら党内左派と対立した。著書にはほかに《経済学批判序説》(1903)，《剰余価値学説史》(1905～1910)がある。

〔松浦　保〕



ガウス



カウツキー

ガウディ ［Antonio Gaudi］(1852～1926) スペインの建築家。カタロニアに銅細工師のむすことして生まれ，バルセロナに没した。17歳で建築に志し，中世への熱狂的な愛着をもつに至って，手工芸や中世美術への崇拝と，その影響にあって象徴的・神秘的傾向を強めていった。その作風は，ネオ-ゴシック・スペイン-バロック・アール-ヌーボー*などと通じ，曲面や彫刻的装飾を多く用い，幻想的・怪奇的で，19世紀後半の歴史主義と20世紀初頭の表現主義とを連関させる方法・理念であるとされるが，近代建築思潮の機能・構造・技術・形態をより合理的に統一させようとする流れに照らしてみるとき，異端者ともよびうるであ



ガウディ
サグラダ-ファミリア教会
1884～1926

ろう。代表的な作品としてはミラ荘，バルセロナのグエル公園施設やサグラダ-ファミリア教会などがあり，特に未完のこの教会はライフ-ワークとして著名である。〔川田伸紘〕

カウナス [Kaunas] ソビエト連邦西端，バルト海に面するリトアニア共和国の都市。人口33万7,000(1974)。ネマン川中流域にあり，河港として発達した。金属加工・食品加工・木材・紙などの工業が発達しているほか，国立大学・博物館・劇場などがあり，同共和国の学術・文化の中心でもある。同市の起源は13世紀にさかのぼり，1919～1940年はリトアニアの首都であった。第2次世界大戦中，ドイツ軍による破壊を受けている。〔斎藤晨二〕

カウニッツ [Wenzel Anton Kaunitz] (1711～1794) オーストリアの政治家。カウニッツ-リートベルク伯爵。マリア-テレジアの信任を受け，パリ駐在大使・宰相を歴任。その間，従来の反ブルボン家の政策を改めてフランスと接近し，フランスと同盟してプロイセンのフリードリヒ2世に対抗して七年戦争に備えた。また内治・外交にも手腕をふるった。

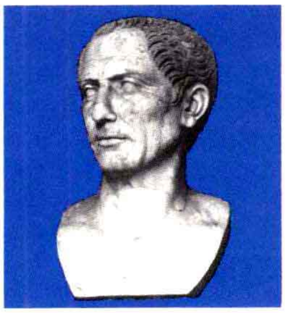
カウボーイ [cowboy] アメリカ中西部平原やカナダ・メキシコの牧場でウマに乗ってウシの飼育，盗難の防止，輸送などにあたった男たち。皮のジャンパー，つばの広いテンガロン-ハットをかぶり，乗馬・投げなわ・銃を得意とした。西部劇映画・民謡などでは主人公として親しまれている。なお，中南米ではカウボーイにあたる者をガウチョとよんでいる。

カウリー [Malcolm Cowley] (1898～) アメリカの詩人・評論家。第1次世界大戦後，一時アメリカをきらってパリに住み，〈失われた世代〉特有の国籍離脱の生活を送ったが，まもなく帰国。詩集2編のほか，評論集として，〈失われた世代〉を論じた《亡命者帰る》《お上品な伝統以後》《文学的状況》などがある。フォークナー・ヘミングウェーらの作品の編者としての功績も大きい。

ガウン [gown] 全体にゆったりとしたたけの長い外衣の総称。本来はイギリスの戴冠(たいかん)式の外衣や，大学教授・法官・聖職者などが特別な行事のときに羽織る外衣のように，威厳のある公式の服をさす。一般的には羽織るものと解釈され，ナイトガウン・ドレッシングガウンなど，へやの中でくつろぐときに着るものをいう。素材はウール・キルティング地・厚地の絹などが用いられる。フランス語のローブにあたる。

カウンセラー ⇨カウンセリング

カウンセリング [counseling] なんらかの適応上の問題をもち，その解決に助力を必要としている来談者(クライエント)に相談員(カウンセラー)が面接して，自主



カエサル

的な問題解決を促進するよう援助する過程。本来相談とか助言を意味することばであるが，臨床心理学的な理論・知識・技術を身につけた専門家が，その理論に基づいて行なう点で日常的な意味の相談と異なる。

原則として面接はあらかじめ約束し，一定の場所(カウンセリング-ルーム)で限られた時間内(約1時間)に行なわれる。ふつうカウンセラー1人対来談者1人であるが，来談者が複数であるグループ-カウンセリングもあり，カウンセラーが複数のマルティプル-カウンセリングもある。

現在行なわれているカウンセリングの理論・方法には次のような三つの立場の違いがある。①指示的立場：面接やテストの結果などからカウンセラーが診断を下し，来談者に直接忠告や指示を与える。②非指示的立場または来談者中心の立場：来談者が緊張をほぐし，みずから問題解決にたどりつけるよう協力し，カウンセラーの指示を極力おさえる。ロジャーズによって提唱された。③折衷的立場：両者を折衷したもの。〔岡山　超〕

カウンター ⇨放射線計数管

がうんたっち 【臥雲辰致】 (1842～1900) がら紡の発明者。信濃(しなの)(長野県)安曇(あずみ)郡田多井村の横山儀十郎の次男に生まれる。20歳で仏門にはいり26歳で臥雲山孤峰院の住持となった。4年後に孤峰院が廃寺となり，還俗して臥雲辰致と名のった。以後，紡機の発明に精進，1873年(明治6)最初のがら紡機を発明し，1877年の内国勧業博覧会に出品して一躍名声を博した。

カウント [count] α,β,γ線などの放射線や粒子の到来個数やそれらの起こす現象の発生個数を計測した数。1秒または1分間あたりの数で表わすが，測定器や測定条件を決めなければ科学的に厳密なものではない。計測にはガイガー-ミュラー計数管・比例計数管や，タリウムで活性化したヨウ化ナトリウムやヨウ化セシウム，アントラセン・ポリスチレンなどを用いたシンチレーションカウンターや半導体カウンターを用いる方法がある。➔放射線計数管〔福井崇時〕

かえいさんだいき 【花営三代記】 〈室町記〉〈武家日記〉ともいう。著者不詳だが，幕府の右筆(ゆうひつ)が記録したものと推定される。1367～1425年(正平22・貞治6～応永32)に至る室町幕府の準公用日記。記録が足利義満(あしかがよしみつ)・義持・義量(よしかず)の室町将軍3代にわたり，義満が洛中(らくちゅう)室町に建てた邸宅が〈花御所〉とよばれたことによってこの名がある。幕府の職制や南朝との交渉など，主として政治史の研究に重要な史料である。《群書類従》に収録。〔村尾元忠〕

カエサル [Caesar] ローマのユリウス氏族の家系名。ローマ建国の祖アエネアスの子ユリウスに由来する。アウグストゥスから5代の皇帝はユリウス氏族出身であるが，ネロで断絶した。その後カエサルは皇帝の権威を示す称号となり，トラヤヌス帝以後はインペラトルと組み合わせて用いられた。また，この称号は共同統治者にも与えられた。ドイツ語のカイゼル，ロシア語のツァーリの語源でもある。

カエサル [Gaius Julius Caesar] (BC102またはBC100～BC44) ローマ共和政末期の政治家・武将。マリウスの妻の甥(おい)にあたり，また17歳で平民派のキンナの娘コルネリアと結婚したことから平民派と目され，時あたかも閥族派のスラが政権を握っていたために，若いときは不遇であった。BC65年アエディリス(按察官(あんさつかん))として公共建築や見世物をローマ市民に与えて民心を得，BC63年には大神官となる。これらの官職への就任にあたって民会の投票を買収によってかき集め，もともと貧乏な彼はローマ最大の借金王となった。同年カチリナ事件に際してはカチリナ派の禁錮(きんこ)刑と財産没収を主張したが，極刑を主張するカトーに敗れた。BC61年スペイン総督。BC60年反元老院派のクラッスス・ポンペイウスと三頭政治を結び，その力でBC59年コンスル(執政官)となる。コンスルとして，ポンペイウス退役兵を含む市民に土地を分配する案を民会で通して自己の政治的票田を設定し，アジア州徴税請負入札額の減額を通して騎士をも味方につけた。そのうえで翌年から5年間(のちにさらに5年延長)アルプス以南のガリア州の総督職，アルプス以北のガリアの平定の任務を民会で承認させた。この約10年のガリア征服は，ガリアのゲルマン諸族の屈服を成し遂げるとともにこの地方のローマ化に道を開いた一方，カエサル自身の軍事力と財政力を強化し，彼はローマ最大の富豪・実力者となった。

しかし，BC54年ポンペイウスの妻として与えた娘ユリアが死に，BC53年パルチア遠征に失敗したクラッススの戦死もあって三頭政治は終わり，その後は元老院派に傾いたポンペイウスとカエサルの対立が現われた。元老院派はカエサルの政治的失脚をねらって，任期終了前のガリアからの召還を決定したので，カエサルは〈賽(さい)を投げよ〉というメナンドロスの詩句を口ずさん

で属州との境をなすルビコン川を渡り，軍隊を率いてイタリアへ攻め入った。ポンペイウス軍はギリシアに逃げたので，カエサルはスペインのポンペイウスの部将を破ったのち東方に向かい，ファルサロスにポンペイウス軍を破り，エジプトまでこれを追撃し，そこでポンペイウスの首級を受け取った。エジプトでは王宮の内紛に巻き込まれ，クレオパトラ*の才色におぼれて危険を冒してこれを助け，彼女を王位に復させた。帰途ポントス王ファルナケスのローマに対する反乱の鎮圧のため，ゼラの戦い(BC47)で大勝した。このときの元老院への報告が〈来た，見た，勝った〉の3語であったことは有名である。BC46年にはアフリカの，BC45年にはスペインのポンペイウス残党を討伐した。その後，彼は共和政の伝統に反して10年任期のディクタートル(独裁官)，BC44年には終身のディクタートルとなったほか，権限集中の措置がはなはだしく，ついには王位をも辞さない態度がみられたので，BC44年3月15日，ブルトゥス*・カッシウスらの共和主義者は元老院議場において彼を刺殺した。

世界帝国となっていた当時のローマ帝国には，すでに共和政的国制が不十分であることを洞察(どうさつ)したカエサルは，権力の集中に成功し，地中海世界の支配をも大いに進めえたが，ローマ市民共同体の理念がまだ健在で，ひとり支配の実現を拒んだことによって，その雄図もあと一歩で挫折(ざせつ)した。この失敗から学んでより賢明な道を学んだのが，アウグストゥス*の元首政であった。なお，カエサルには《ガリア戦記*》《内乱記》など，平明簡潔なラテン語の散文として有名な著書がある。〔弓削 達〕

カエタヌス [Cajetanus] (1469～1534) 本名トマソ-デ-ビオ。イタリアのドミニコ会修道士・神学者。のちにドミニコ会総会長，枢機卿(すうきけい)。教皇使節としてアウグスブルク国会でルター*と論争し，教皇顧問としてイングランド王ヘンリー8世の離婚問題に関与。トマス-アクィナスの《神学大全》に注解を施した業績も注目される。

かえで 【替手】 近世邦楽におけるヘテロフォニー*的表現の一種で，箏(そう)や三味線(しゃみせん)の元来の旋律(本手)に対してつけられる別の旋律をさす。調弦法は箏の平調子に対して雲井調子，三味線の本調子に対して三下がりというように本手とは異なる場合もあるが，もう一つのヘテロフォニー的な表現である上調子*とは違って音域が同じであるのが特徴である。箏曲《六段の調》のように曲全体に替手をもつ場合もあるが，同じく箏曲《夕顔》のように本手なしに替手だけで演奏される場合もある。しかし多くの場合は，替手は曲の一部につけられ，本手とともに奏される。音楽的な機能からみると，替手は本手に対する単なる伴奏ではなく，音の関係では本手に規制されるが，それ自体でも一つのまとまりをもっており，聞き手にも二つの旋律が同時に重ねられたものとしてとらえられる。〔徳丸吉彦〕



ヤマモミジ



イタヤカエデ



イロハカエデ



ウリハダカエデ

カエデ

かえで 【楓】 双子葉植物，カエデ科の総称。約100種が知られ，おもに北半球の温帯に分布する。日本にも約20種を産し，イロハカエデには多くの園芸品種がある。カエデは蛙手(かえるで)の略で葉の形に由来し，紅葉するものの多くがカエデであることからモミジ(紅葉の古語)の名でよばれる。おもなものは，イロハカエデ・ウリカエデ・ウリハダカエデ・オガラカエデ・カジカエデ・カラコギカエデ・コウチワカエデ・コミネカエデ・タカオモミジ・チリメンカエデ・ツタモミジ・テツカエデ・トウカエデ・ハウチワカエデ・ハナノキ・ヒトツバカエデ・ミツデカエデ・ミネカエデ・メグスリノキなどがある。いずれも山野に自生する落葉(まれに常緑)高木で，紅葉が美しい。葉は対生で，托葉(たくよう)はなく，掌状に裂けるのが普通であるが，メグスリノキのように単葉のものから，ミツデカエデのように完全に3小葉片に分かれるものまでいろいろある。花は総状，円錐(えんすい)または散形花序をなし，果実は翼果。ヤマモミジ・ハナノキなどは天然記念物に指定されているものがある。カエデ類の多くは古くから庭園木・街路樹・盆栽などに用いられ，多くの園芸品種が徳川時代から栽培されている。特に葉形の変異は著しく，斑(ふ)入り・色変わりもあり，繁殖は多くつぎ木による。材は種々の用材となるが，特にイタヤカエデは緻密(ちみつ)でかたく，重く粘りがあり，木目が美しいため，装飾材として洋家具・ベニヤ合板・楽器・スキー材などに用いられる。その他のカエデも類似の用途に使用される。明治初年に渡来したトネリコバノカエデ・サトウカエデは，樹液を煮つめてシロップを取り，結晶化してカエデ糖(メープルシュガー)とする。これは特有の風味があり，ホットケーキや菓子に用いて高級品とされる。また，メグスリノキの樹皮をせんじて洗眼薬とすることもあり，イタヤカエデ・カラコギカエデはパルプ材としても利用される。〔横井朝子〕

かえでちょう 【楓鳥】 ①鳥類・カエデチョウ科の総称。アフリカからインド・東南アジア・オーストラリアを経てポリネシアまでの間に約110種が分布しており，すべてが草の種子食。スズメ大以下の小形種ばかりだが，美しいものが多く，飼いやすいので，飼い鳥として知られているものが多い。②カエデチョウ科の一種。アフリカの東北部および西部に群れてすむ小鳥で，ベニスズメよりわずかに小さい。くちばし，目の周囲，腹の中部が桃紅色で，紅葉したカエデに似ることからこの名がつけられた。寒さにいくぶん弱いがおとなしく，飼いよい種類である。わが国への渡来は明治時代であるが，巣引きに成功したのはごく近年である。

カエヌ ⇨カイエンヌ

かえる 【蛙】 両生類・無尾目・カエル類は，成体が尾を欠くため，無尾目とよばれる。現生の両生類では最も繁栄している仲間で，両極と太平洋の一部の島を除き，広範囲に分布するが，その80%を熱帯に産

カ　エ　ル

ヒキガエルの発生
①受精卵
②卵割を始め，16細胞期となる
③さらに卵割が進み，陥入が始まり，卵黄栓が形成される
④発生が進み，だるま形の胚となる
⑤孵化した幼生は外鰓が発達し，尾が伸びて泳ぎ出す
⑥オタマジャクシといわれる幼生となる
⑦後ろあしが出る
⑧前あしが出る
⑨尾が短くなりはじめる
⑩子ガエルとなる

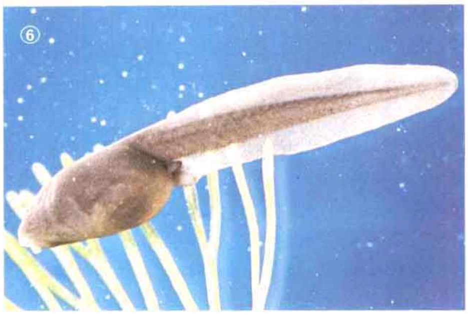


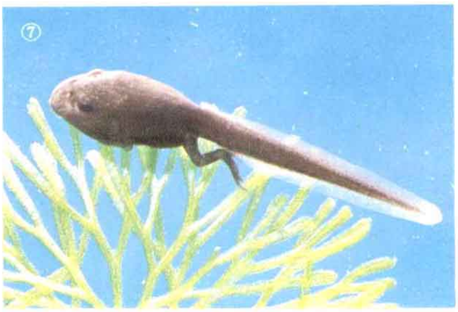


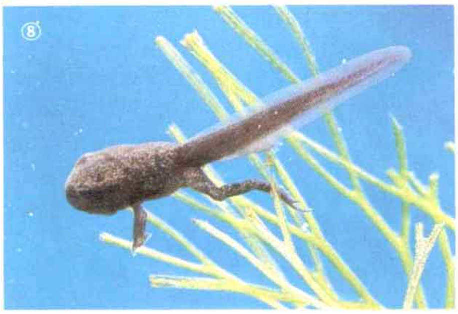
















する。世界に14科2,000種ほどが知られる。日本のカエルは，沖縄をも含めて34種ほどが知られている。先祖は石炭紀初期に出現し，古生代末期に絶滅した迷歯類から生じた一群と考えられ，中生代に現われた原蛙(げんあ)目のムカシガエルが，カエルの直接の先祖とみなされている。しかし，外部形態に系統的な関係を示すような特徴が少ないので，系統分類には多くの問題が残されている。

〔形態と機能〕現生のカエルの体は一般に太短く，頭部と胴部が一体で，頸部(けいぶ)がない。四肢(しし)はよく発達し，特に後肢は著しく大きい。各指は長く，指先が吸盤となっているものがある。後肢の指の間にはみずかきが発達し，水中での遊泳に適する。大半が自衛の武器をもたず，跳躍を唯一の逃避手段とするため，四肢の発達が促されてきたものと考えられる。現在では，後肢のジャンプ力は，敏速に水と陸との間を移動し，草むらを飛び回るほかに，捕餌(ほじ)のためにきわめて能率的となり，ときには捕食のため水中から飛躍することも可能となった。カエルの運動は魚類や爬虫(はちゅう)類と異なって，左右相称型。ピパやツメガエルなどの無舌類のような水中生活者はもちろん，大半のカエルは遊泳が巧みであり，水中では目は瞬膜におおわれる。幼生時代は，魚類によく似た生理的機能をもち，外鰓(がいさい)と発達した尾とで水中生活を送るが，変態終了後は陸上生活にはいり，肺と皮膚とで呼吸を行なう。しかし皮膚は水を透過させ，乾燥した場所では体内の水分が失われるため，つねに水辺から離れることができない。多くのカエルは排出腔(はいしゅつこう)に水をたくわえているが，危険にあうとこれを放出するので，尿のようにみえる。アカガエル類では，体重の3分の1の水分を失うと致命的であるが，比較的かわいた場所にすむヒキガエル類では，40%以上失っても生存できる。肺呼吸は，腹腔に横隔膜がなく，肋骨(ろっこつ)もほとんど発達していないため，のどをふくらませて空気を吸い込み，それをのみこむようにして肺に送る。つねにのどを動かしているのはそのためである。空気中や水中の酸素は皮膚を通しても摂取される。感覚器はよく発達し，内耳はリンパ液で満たされ，位置感覚・聴覚をつかさどる。多くの種には鳴嚢(めいのう)があって，鳴き声で種間の信号を発し，繁殖期には水辺に集まって盛んに鳴きかわす。カエルの生活範囲は広く，水中性・地上性・樹上性・地中性など多様であるが，産卵はほとんど水中で行なわれる。

〔生殖〕繁殖習性はきわめて変化に富み，大半は静水中に産卵し，体外受精を行なう。しかし，北アメリカ産のトゲオガエルのよう



カエルウオ

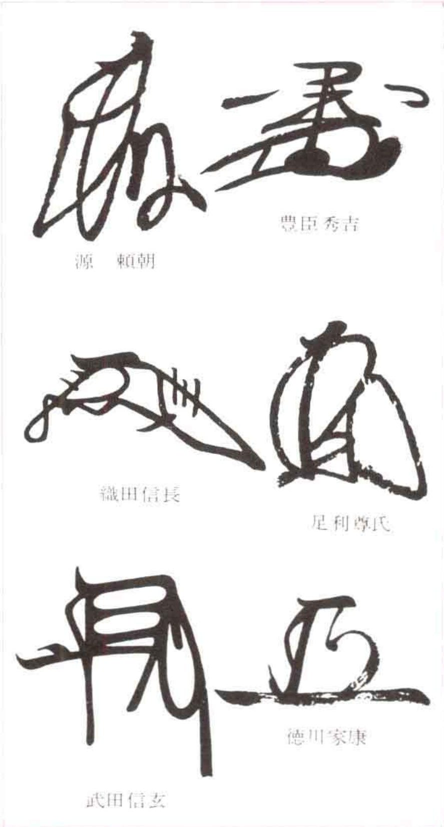
に，尾状突起によって体内受精を行ない，低温の急流の水中に産卵するものもある。カエルの基本的な繁殖行動の第1段階は，雄の鳴き声によって雌が誘引されることで，これはイモリやサンショウウオなどの有尾類にはみられない特徴である。雌雄の抱接は原始的なカエルが腰部抱接型であり，普通の種は胸部抱接型である。卵塊はゼリー状で，ヒキガエル類はひも状，アカガエル類は押しつぶした球状，ツメガエルでは1個ずつ水草に付着させるなど異なるが，1卵塊に1,000個以上が含まれる。多いものではウシガエルのように20,000個に達するものもある。アオガエル科は，泡状(あわじょう)卵塊を水辺の土中に産むが，モリアオガエルはこれを樹上の枝に産みつけ，東南アジア産のアオガエルには，卵塊に葉をくっつけて包んでしまう種がある。孵化(ふか)した幼生は水中で生活する。しかし，南アメリカ産のレプトダクチルスの卵塊は，水辺から離れた陸上の小さな巣内に産みつけられ，発生の全過程は卵黄を養分として，変態を完了する。さらに卵を保護する目的で，ピパやフクロガエルでは背中の袋に，ハナガエルでは鳴嚢内に卵を付着させて幼生を発育させる。また，輸卵管内で発生して，成体から養分を摂取するネクトフリノイデスもいる。これらは，卵を環境条件の変化と外敵から守るとともに，水を透過しにくい膜に包まれた卵を産み，卵を乾燥の危険から防ぐことに成功して，陸上生活者としての，爬虫類へ発展したものであろう。ヒキガエル類の耳腺(じせん)や，南アメリカ産ドクガエルの皮膚腺が有毒であるほかはきわめておとなしい生物であり，理科教材には欠くことができない。また害虫駆除に大きな役割を果たし，南方ではサトウキビの畑などにヒキガエル類を移入することもある。〔松井孝爾〕

かえるうお 【蛙魚】 硬骨魚類・イソギンポ科の海産魚。体は細長く側扁(そくへん)し，全長15cmに達する。体にはうろこがなく，頭部には冠状の突起がある。体色は黒っぽく，体側には淡青色の不規則な横帯がある。相模(さがみ)湾・八丈島以西，沖縄まで分布し，潮だまりの岩の間などにすむ。危険を感ずると岩の上などをはねて逃げるところから，この名を得た。通常は食用にはされない。

かえんほうしゃき 【火炎放射器】 主成分のガソリンに水酸化アルミニウムからつくったゲル化剤を加えたものを，圧縮空気で噴射し，点火して火炎を浴びせかける兵器。携帯型と車両搭載(とうさい)型とがあり，放射距離は5～30m，温度は1,000～1,200℃，強大な焼夷(しょうい)効果を発揮する。



火炎放射器



花　押



可　翁《蜆子和尚図》東京国立博物館蔵

かおう 【花押】 文書(もんじょ)に証明のしるしとして書く自署の変化したもの。書き判または判ともいう。形がはなやかな押字であるから花押という。自署ははじめ楷書(かいしょ)で書いていた。それが時代とともに行書になり，草書になった。そして平安時代の中ごろ草書をさらにくずした草名になり，それを略して文様化した花押ができた。平安時代の末には2字の名の偏と旁(つくり)とを組み合わせた二合体の花押が用いられた。それに対して2字の名の上の1字をくずしたのを二別体という。鎌倉時代には名と関係のない佳字・好字をくずした一字体や，文字でない形の別用体が用いられ，近世の初めには天地に各1画を書き，その間にいろいろな形を入れた明朝(みんちょう)体が用いられた。しかし近世には形式化して，花押を木に刻して押すのもある。それは花押ではなく，印というべきである。花押は，公家(くげ)と武家とで形が違うばかりでなく，時代によっても変化している。さらに同じ人が年齢によって花押を変えるのもあり，同時に2種の花押を用いるのもある。花押には独特の用筆法がはっきり認められるから，証明のしるしとしては印よりよいが，近世に私の印が用いられるようになってからは用いられなくなった。〔春名好重〕

かおう 【可翁】 生没年不詳。鎌倉末期～南北朝時代の画家。最初期の漢画の傑作を残しているが，作品には必ず〈可翁〉〈仁賀〉の印があるところから宅磨派*の絵仏師とも思われ，禅宗絵画の題材を扱った本格的な水墨道釈画からは禅僧とみる見方が強い。一説に南禅寺の僧可翁宗然に擬するが，年代的には妥当とされても，なお検討の余地を残している。

かおうきん 【何応欽】 ホーインチン (1889～) 中華民国の軍人。日本陸軍士官学校を卒業。日本人との交際が多く，知日派の巨頭である。滞日中に中国革命同盟会*にはいり，辛亥(しんがい)革命第2革命に参加，黄埔(こうほ)軍官学校の要職につき，蔣介石(しょうかいせき)と親交をもった。第2次世界大戦終戦の際には陸軍総司令であった。蔣介石とともに台湾へのがれ，各種の要職を歴任した。

かおうせっけん 【花王石鹼(株)】 合成洗剤*のトップメーカー。1940年(昭和15)設立。洗たくせっけんが市場の大半を占めていた当時に，いちはやく合成洗剤に着目，設備の転換を図ったのが成功して急成長を遂げた。最近は歯みがき・クリーム・殺虫剤なども生産，着々と精密油脂工業への発展をはかっている。和歌山工場は合成洗剤をつくるオートメーション工場として業界にそ

の設備を誇っている。このほか東京・川崎・酒田などに主力工場をもつ。本社東京。資本金74億6,900万円，年間売上高2,456億9,800万円，従業員数4,392(1980年9月)。

カオス [Chaos] 古代ギリシアの宇宙生成にまつわる神話において，天と地の生成分離に先だって宇宙に生じた最初の状態をいう。ヘシオドスの《神統記》にはその代表的な記述がある。カオスからはエレボス(暗黒)・ニュクス(夜)・ヘメラ(昼)・アイテル(上空)が生じたとされているが，カオスそのものがなにであるかの説明はなされていない。一般にはなにものも区別できない混沌(こんとん)状態をさすと考えられているが，むしろ天と地の分離を導き出した一つの空間または割れ目と考えるほうが妥当である。〔黒田杏子〕

カオダイきょう 【カオダイ教】 漢字で高台教と書かれる。ベトナムの新興宗教の一つで，政治権力との結びつきにより，歴史上重要な動きを示した。1926年にレーベンチュン(黎文忠)が神の啓示を受けて創唱したもので，ベトナムの民間信仰と仏教・イスラム教・キリスト教・儒教・道教などを融合させたもの。〈アジアにおける第3の救済者〉と自称し，一時は多くの信者を集めた。教団は私兵を有し，ゴ-ディンディエム政権に反対したため，1956年に鎮圧された。〔奈良康明〕

かおみせきょうげん 【顔見世狂言】 江戸時代，顔見世興行に上演された特殊な歌舞伎(かぶき)狂言をいう。顔見世興行は毎年11月に行なわれ，歌舞伎年中行事中最も重要とされた。それは江戸時代の俳優の契約が11月から翌年10月までの1年を原則としたため，最初の興行は新座組の披露(ひろう)を兼ねてはなやかに行なわれ，文字どおり〈顔を見せる〉興行として，重要なお祭りであった。現在では，興行上の政策として，東京・大阪・名古屋でも行なっているが，伝統的な約束事はすたれてしまっており，毎年12月の京都南座のそれが，わずかに古風なおもかげを残している。

江戸時代の顔見世興行には，特別のしくみ方をする作品が，そのつど出演俳優の顔ぶれに合わせて新作され，いろんな約束事があった。第1の基本は，《伊勢(いせ)物語》の世界，《義経記》の世界というように，限られた時代・題材から一つの世界を選び出すことで，それを〈世界定め〉といい，特別な儀式を行なって決定した。実際のしくみにあたっては，1日の狂言を1番目・2番目に分け，1番目は時代物で，その中には必ず《暫(しばらく)》と《だんまり》の場があり，2番目は世話物で，その序幕は貧家の雪の景とされ，大詰めで再び時代に帰って金襖(きんぶすま)の御殿となるのが原則であった。これらの約束は，成功させねばならない初興行の安全策と，さまざまの役がらの俳優がそれぞれ十分に活躍できるよう，バラエティーに富むこと，祭儀としての性格などの理由から自然にできたもので，長い間の歌舞伎の知恵の産物といってよい。〔服部幸雄〕

かおみせもの 【顔見世物】 顔見世狂言のきまりに従い，その一部としてつくられた舞踊をいう。特に四立目(二幕目)や，大切用にできたものに注目される作品が多い。現存曲の大物，常磐津節(ときわずぶし)の《関の扉(と)》《戻駕(もどりかご)》をはじめ，長唄(ながうた)の《高砂(たかさご)丹前》《仲蔵狂乱》，富本節・清元節の《鞍馬獅子(くらまじし)》などがあり，また一連の蜘蛛(くも)物・山姥(やまんば)物もこの系列にはいる。

カオヤンロウ 【烤羊肉】 中国北部の代表的な焼き肉料理の一種。ジンギスカン料理ともいう。本来は，ヒツジを丸焼きにする野外料理であったが，今日では薄切りの羊肉が用いられる。ごく薄切りの羊肉を，しょうゆ・酒・しょうがじる・おろしにんにく・蝦油(シャユー)を混ぜ合わせたつけじるにしばらくつけておく。よく熱したジンギスカンなべに羊脂をこすりつけて，あぶらをなじませてからつけこんであった肉を焼く。熱いうちに芝麻醤(チーマーチャン)をつけながら食べる。〔曾根喜和子〕

カオリン [kaolin] ①カオリナイト・ディッカイト・ナクライト・ハロイサイトなどの粘土鉱物の総称。カオリナイトはアルミニウムの含水ケイ酸塩鉱物の一。$Al_4(Si_4O_{10})(OH)_8$ 単斜晶系。比重2.58～2.60，硬度1，屈折率1.560～1.566。底面に完全な劈開(へきかい)があり，白色の微細な薄板状・鱗片(りんぺん)状結晶として産する。ふつう土状で，チョウ石などの鉱物の分解によって生ずる。ディッカイト・ナクライトは同一の化学成分をもつよく似た鉱物。ハロイサイトはカオリナイトよりやや水分が多いもので，電子顕微鏡で見ると中空管状に見える。②上記のカオリン鉱物を主体とする粘土のこともカオリンという。高陵土ともいい，中国の山の名に基づく。産状は次の二つに大別される。一つはイギリスのコーンウォール地方のようにカコウ岩中のチョウ石の変質によってできたものであり，他はアメリカの南カロライナ・ジョージア地方のように，堆積(たいせき)鉱床として産するものである。わが国でもいろいろな産状で各地から産出する。愛知県瀬戸地方の木節粘土(有機物のために灰色・暗かっ色などの色調を呈する)・がいろめ粘土(セキエイ粒を含む)はカコウ岩などの風化によるものであり，また中国地方の各地の交代鉱床からも産する。融点が高く，焼くと白色になるため，古くから陶磁器・耐火物の主要原料であり，農業補助剤，製糸や製紙の充塡(じゅうてん)剤・ゴム充塡剤・顔料・塗料・有機樹脂充塡剤などにも用いられている。〔加藤敏郎〕

かか 【仮果】 ⇨偽果

かが 【夏芽】 〈なつめ〉ともいい，冬芽に対する語。春から夏に芽が生じ，その年のうちに伸びて枝・葉となる芽。鱗片葉(りんぺんよう)で保護されていない。

かが 【加賀(国)】 石川県南半部の旧国名。加州。北陸道に属す。823年(弘仁14)越前(新潟県)の加賀・江沼(えぬ)2郡をさいて建てた国で，もと江沼・能美(のみ)・加賀・石川の4郡であったが，今日では金沢・小松・加賀の3市と河北・石川・能美・江沼の4郡からなる。国府・国分寺ともいまの小松市。鎌倉時代には比企・北条(ほうじょう)氏，室町時代には富樫(とがし)氏が守護となったが，のち紛争により成春・泰高(やすたか)おのおの半国守護となった。1488年(長享2)成春の子政親(まさちか)は，一向一揆(いっこういっき)と戦って敗れ，富樫氏は滅亡。一揆の支配は80余年に及んだが，のち上杉(うえすぎ)氏，次いで織田・豊臣(とよとみ)氏に征服され，諸将に分与された。関ケ原の役後全国は前田利長(としなが)の領となり，能登・越中を兼領して金沢を統治し，維新に至る。その後金沢・大聖寺(だいしょうじ)の2県となり，さらに大聖寺県は金沢県に合併された。1872年(明治5)金沢県は石川県と改名し，一時のちの富山県を合わせたこともあったが，1883年再びこれを分出して今日に及ぶ。〔黛 弘道〕

かが 【加賀(市)】 石川県南西端の市。古くから温泉地として知られ，江戸時代には加賀絹(大聖寺(だいしょうじ)絹)の特産があり，中心市街大聖寺は前田氏の支藩七万石の城下町であった。1958年(昭和33)に，大聖寺・動橋(いぶりばし)・山代(やましろ)・片山津・橋立の5町ほか4村が合併して市制施行。人口65,000。金沢平野の西部，日本海にはいる大聖寺川下流の沖積地(ちゅうせきち)上に位置し，北隣の小松市との境に柴山潟(しばやまがた)がある。産業三大別人口比は11：35：54。自転車のチェーン・リム・スポークなどの車両工業が発達して全国の約90％を生産し，かつて栄えた織物工業をしのいでいる。市域内に山代・片山津，近隣に山中・粟津(あわづ)などの温泉があり，〈加賀温泉郷〉の名は広く知られる。北陸本線・国道8号線が南北にほぼ平行して走り，北陸鉄道やバスが近郊各地を結ぶ。海岸は風光がすぐれ，越前(えちぜん)加賀海岸国定公園に指定されている。片野には古い伝統をもつ鴨(かも)とり網を残す狩猟場がある。

がか 【雅歌】 《旧約聖書》の第22書。〈歌の歌〉が原名。ソロモンの時代からギリシア時代にかけてなったもので，結婚前後の男女の愛をたたえる叙情詩の集成である。聖書の中に率直な性愛賛美があることへの不安または疑問から，歌の内容をめぐって比喩(ひゆ)説・宗教儀式説・戯曲説・教訓説など，いくつかの解釈がなされてきたが，田園の若い男女の愛を歌った叙情詩とするのが自然である。作者は不詳。

かがいかつどう 【課外活動】 ⇨教科外

活動

ががいも　【蘿摩】　双子葉植物・ガガイモ科。日あたりのよい野原にはえる多年草。茎はつる状で地面をはい，長い地下茎によってふえる。葉は対生し，長さ5～10cmの心臓形で柄がある。茎や葉を切ると白いしるが出る。8月ごろ，葉のつけ根から枝を出し，その先に深く五裂した淡紫色の花が集まってつく。果実は8～10cmで細長く，表面にいぼがあり，蘿摩子(らまし)といわれ，漢方では強壮薬とされることがある。種子の毛は印肉などに使われる。

かかえおび　【抱え帯】　おはしょり*をからげるひも。現在は形式化して花嫁衣装にのみ用いる。幅5cm，たけ220cmぐらいの赤地または白地の金襴(きんらん)の平ぐけひもで，帯の幅の下端に二重に巻き，わきで文庫結びとする。江戸初期には美しい染めがらを施したたけ2mぐらいの並幅の布(多く縮緬(ちりめん))をそのままのしごいて締める帯をいったが，これはのちに帯の下部に締めて長着のおはしょりを引き上げるひもとなり，現在の腰ひも*に変わってきた。しごき*ともいう。　〔堀越すみ〕

カカオ　［cacao］　双子葉植物・アオギリ科の高木。原産地は南アメリカのオリノコ河畔という説が有力。葉は革質，長楕円(ちょうだえん)形で，互生する。下枝の下側または先年の葉の落ち跡の幹から直接に，帯黄白色の小花を多数つける。発芽後4年めから咲きだす。多くの花のうち結実するのはごく少数である。果実は長さ10cmほどの長楕円形で，中に10数個の種子がある。種子には多量の脂肪が含まれる。また，テオブロミンを含み，これは利尿剤とされる。種子を発酵させてから乾燥したものがカカオ豆で，カカオ豆をいってからロールにかけてすりつぶすと，べとべとしたカカオペーストとなる。これを圧搾してカカオバター(カカオ脂)をとり，しぼりかすを粉末にしたものがココア*である。また，カカオペーストに牛乳・砂糖などを加えてチョコレート*をつくる。16世紀初期にヨーロッパに紹介され，現在ではガーナ・ブラジル・エクアドル・セイロンなどが主産地となっている。　〔横井朝子〕

かかく　【価格】　資本主義社会における財貨の価値の貨幣的表現。近代経済学における財貨の価値とは，市場において供給と需要の関係によって成立するそのときの価格をいい，その財貨を商品という。商品の品質が完全に同質であれば，そのどの部分も他の部分と代替されることになるから，ある時点で，また同一の市場において同質の商品のすべての部分は同一の価格で売買されることになる。つまり，同一の商品市場では同一の時点において同種の商品に対して二つの異なった価格は存在しない(→一物一価の法則)。このように現実の市場において時々刻々出会う需要と供給のバランス



ガガイモ



カカオ
(上)果実
(下)その断面

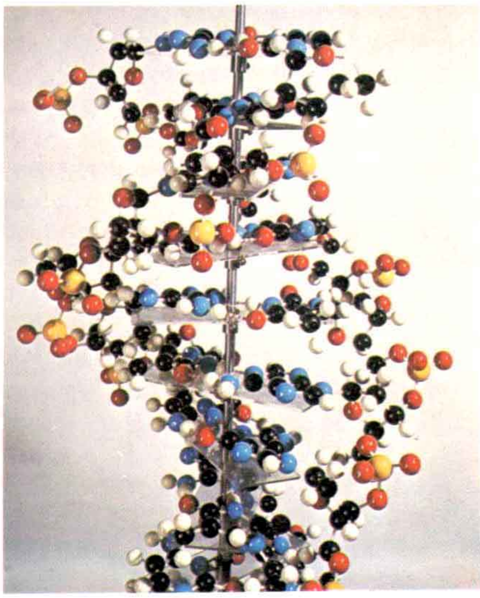
の上に成立する価格を市場価格という。市場価格はその商品の客観的な価値を表わすものと考えられているが，不変なものではない。市場において，その商品に対する全体の需要と全体の供給とが一度に出会うということはほとんどなく，現実の市場では需要量の一部分に応じて供給量が部分的に提供されることになるから，この意味で市場価格はつねに変動しているとみることができる。しかし，このような変動は供給側の一時的な競争の制限と，需給の全体の姿が市場において容易に知られがたいというような個々の一時的な事情によって生ずるものであり，その変動もこれらの事情が排除されることによってある一定の値に落ち着くことになるであろう。この市場に出会う需給の全体がある一定の値に落ち着くと考えられる価格を正常価格という。正常価格は変動する市場価格の中心的な値を意味しており，市場価格はたえず正常価格からそれて動くが，つねにそれに向かって落ち着こうとする傾向をもつ。価格にはこのほかに，相対価格・絶対価格の区別がある。相対価格とは商品と商品との間の交換比率をいい，絶対価格は貨幣で表わされた商品の価値である。通常，価格はこの絶対価格を意味する。貨幣は価値尺度としての役割をもっているから，各商品の絶対価格を知ることによって商品間の価値の大きさをはかることができる。価格の区分はまた市場の性格に従って，自由価格*・管理価格*・独占価格*・統制価格*に分けることができる。
〔藤枝省人〕

かがく　【科学】　ふつう科学といえば自然についての体系化された知識と理論の総体，すなわち自然科学*をさすものと理解されることが多い。しかし最近では，物的自然だけでなく，政治・経済・文化・心理などあらゆる人間的事象についても，自然科学と同様の特質を備えた認識を打ち立てることが志向され，それらすべてが科学とよばれる傾向にある。その際，科学的認識の特質は，それが客観的で実証可能であり，かつ体系化をつねにめざすとともに，その方法において実験と数学的取り扱いが重要な位置を占めることに求められる。また科学を機能の面からみると，経験的事象を相互に関連づけ操作するための普遍的な規則を与えうるような，分節化された知識の体系と特徴づけることができる。この機能的特質のゆえに，科学は今日，生産・流通・管理の諸技術の基礎として広く社会的有用性を認められ，社会体制を動かしていくのに欠くことのできない要素として社会的制度によって奨励・推進されている。

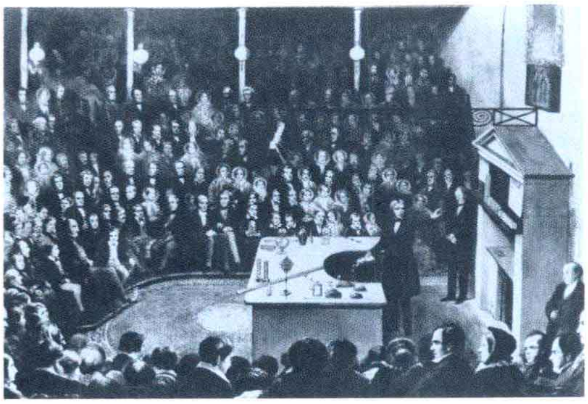
このような特質をもつ科学は17世紀のヨーロッパにおいてはじめて自然科学として誕生した。それ以前にも，またヨーロッパ以外においても，人間は自然について数々の知識をもち，自然現象についての説明を試みていたし，それらのうちには個別的に今日の科学に受け継がれているすぐれた認識も少なくなかった。しかし，その目標・対象・方法を明確に自覚した科学的認識の追求は，17世紀のヨーロッパでのみ始まった。このことは，ヨーロッパにおける近代市民社会の成立と密接な関連がある。

科学の誕生の背景には，中世の間に進んだ技術の発展があった。採鉱・冶金(やきん)・築城・架橋・織物・製陶，そしてこれらに利用されるポンプ・水車・風車・ひき臼(うす)などの機械，そして航海術の発展が初期資本主義を出現させていく中で，技術的知識が蓄積され，16世紀にはこれらの技術をになう職人たちの間に，いっそうの技術的進歩をもたらすような知識への要求と，実験的方法の萌芽(ほうが)とが現われはじめた。この時代の動向を敏感につかんで，新しい学問――科学への待望を雄弁に説いたのがイギリスの哲学者・政治家ベーコン*である。ベーコンは，技術こそ歴史を進める決定的な要因であると考え，この技術を進め，そ

科　学



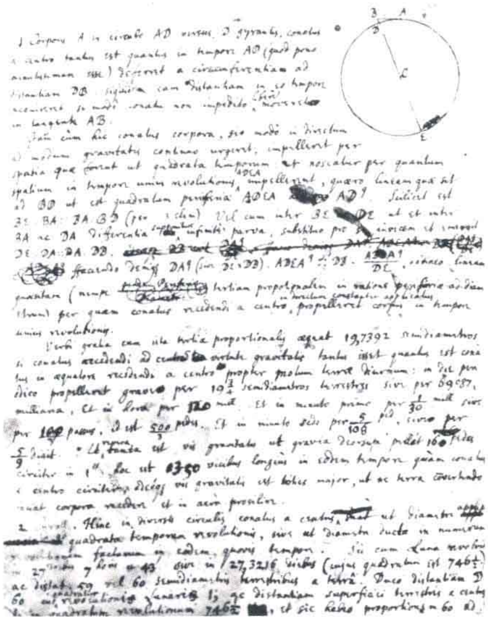
(左上)ＤＮＡ(デオキシリボ核酸)の立体構造を，ワトソンとクリックが提出したモデルに基づいて模型にしたもの



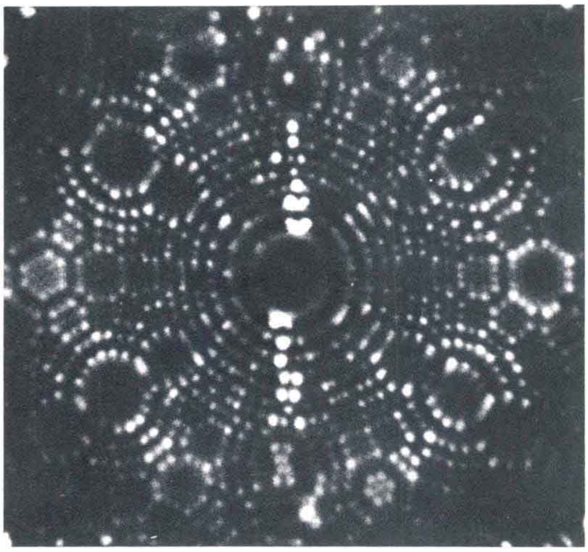
(上)イギリス王立研究所でのファラデーの公開講義



(左)ファラデーが電磁誘導の実験に用いたコイル



(左下)ニュートンがケンブリッジ大学ルーカス数学講座の教授に就任したころ(1669)の，〈重力に関する計算〉の自筆原稿



(右下)電界イオン顕微鏡像　タングステンの結晶の原子配列を示す。針状の資料と，これに向かい合ったスクリーンの間に高電圧をかけ，資料表面に生じた強電界が周辺の不活性ガスをイオン化させる。このイオンがスクリーンに向かって加速され螢光物質を光らせる。特に資料の突起になった部分ではイオン化されやすいため，この部分の原子は，明るくリング状の列をなして見える。資料は半球面で，スクリーンは平板なため縮尺は場所によって異なるが，この写真はおよそ120万倍である

れによって人間に福祉をもたらすために自然の研究を大いに推進すべきことを唱えた。そのような研究は伝統的なスコラ哲学に期待できないと見きわめたベーコンは，新しい目標と方法をもつ学問である科学を待望したのである。以来彼の〈自然は，それに従うことによってのみ征服できる〉という金言は，近代の科学全体の理念を表わすことになった。

しかし，近代科学はこの理念だけでは現実に誕生することができなかった。自然をいかなる観点からどのような方法で研究すれば，そのような理念を実現できるのか，それに方向づけを与えたのがフランスのデカルト*であった。デカルトは方法において合理主義，自然観において機械論と特徴づけられる。デカルトは事物を研究するには，それをこれ以上単純なものはない要素に達するまで，部分に分けることから始めるべきだという。そして要素に達すれば，今度は逆に合理的な推論のみによって要素から一歩一歩複雑なものに至り，かくして最初の事物の理解を得るようにせよという。なにが単純要素であるかは，理性に明晰(めいせき)判明に表われることによって判断される。こうしてデカルトが自然的事物の要素と考えたのは，物質の延長と運動であった。したがって，すべての自然現象はその微小部分の組み合わせと運動とから，あたかも時計仕掛けが歯車やおもりの動きから説明されるのと同じように説明されるべきものとなる。こうして，デカルトにとって，力学*がすべての科学の基礎でなければならなかった。

これは当時の社会的状況にぴったり照応した見方であった。一方で，当時の技術的問題から関心を向けられていた自然現象の多くは，力学にかかわるものだった。他方，事物を互いに等質な諸部分の組み合わせとみる機械論*は，当時ようやく姿をなしつつあった市民社会の構造の理念への反映であった。そのため，機械論は当時の新興階級に広く受け入れられ，力学が最初の近代科学として体系化されるのを促した。また逆に，ニュートン*による力学の形成は，当時の社会思想の機械論化に大きな影響を与えた。もちろん力学は，デカルトの機械論だけから生まれたのでなく，経験により，さらにいえば実験の契機によらなければ成立しなかった。この点では，ベーコンに始まるイギリス経験論の影響が無視できない。

しかし，科学が技術を進歩させ，人間に福祉をもたらすというベーコンの理想は，天体力学を通して航海暦の編成に結びつく以外は，力学によってはさしあたり実現されなかった。むしろニュートン力学の成功は合理主義の支柱として，啓蒙(けいもう)思想の運動と結びついていった。科学と技術の結びつきが現実化するのは，18世紀半ば過ぎから19世紀半ばに至る産業革命以後のこ

とである。産業革命の中で新しく展開した技術は，いずれも工業家や職人が試行錯誤を通して発明し，改良したもので科学研究に導かれたものではない。逆に，新しい技術の展開が従来科学的研究の対象とならなかった諸現象に人々の関心を向けさせ，そこから新しい科学分野が生まれ発展した。物理学は力学以外に，熱・電気・磁気・光の研究へと前線を拡大し，化学の近代的展開が始まり，地質学もこの時期に本格的に誕生した。

これらの新しい諸科学が19世紀に成熟するのを導いたのは〈学問のための学問〉の理念で，それらは実際との結びつきのためでなく，固有の方法に従って真理の探求のために研究されるものとされた。しかし，熱力学・電磁気学・化学などの発展は，19世紀後半に至って，有機合成・内燃機関・電気技術などまったく新しい技術を誕生させるに至った。従来からあった鉄冶金・製鋼法にも画期的新技術が生まれ，これらの上に新しい工業が勃興(ぼっこう)し，それに導かれて資本の集中・独占化が進んだ。ここにおいて，科学者・技術者の養成，また技術の基礎としての科学研究の組織と推進が，社会的に大きな関心をひくことになった。大企業がみずからの内部に研究部門を置き，国家が教育と基礎的・共通的研究を自己の仕事として取り上げはじめた。こうして20世紀にはいるころから，科学は〈学問のための学問〉の理念を維持しつつも，その社会的有用性のゆえに社会的制度として定着する。そして科学への国家の介入が第1・第2の両世界大戦を経て決定的となった。今日，科学，とりわけ自然科学は完全に社会秩序の一環に体制化され，政府・軍部・産業界の主導のもとに推進されている。

今日の科学が19世紀までの科学と異なるのは，このような社会的存在様式の違いだけではない。その学問的内容においても，著しい違いがみられる。その第1は，あらゆる自然現象を原子・分子のレベルに還元して理解し，またそのような理解に立って科学の応用が試みられるということである。19世紀最後の数年から今世紀初頭にかけて，X線*・電子*・放射能*の発見があいつぎ，物理学は原子・分子を実在のものとして，その構造・性質の研究へと突き進んだ。その研究は一方で原子核から素粒子へと微視的世界のさらに奥へと進み，他方では，電子・原子・分子の結合・配列・運動によって物質の巨視的性質を説明する方向に進み，その成果の上にトランジスター*・メーザー*・レーザー*・超伝導磁石など数々の技術的可能性が生み出された。化学はいち早く原子・分子を基礎として物理学と融合した。第2次世界大戦後に至って，生物学も分子遺伝学の発展を先頭として，微視的世界へ還元することによって生命現象の体系的理解をめざす方向が開けた。

このように，科学的探究が微視的世界へ進むとともに，科学が対象とする存在は，われわれが直接経験する事物からかけ離れていく。19世紀までの科学が，実在をそのあるがままに認識し，写し出すものと信じられたのに対して，微視的対象に対する認識はいやでも間接的とならざるをえない。それに加えて，相対性理論*と量子論*という20世紀初頭における物理学理論の革命によって，微視的世界ではわれわれが日常経験するのと著しく異なる法則が成立していることが明らかになった。相対性理論のもたらした革新は，時間および空間という，あらゆる科学的認識の先験的なわく組みと考えられてきた概念が，先験的でも絶対的でもないことが示された点にあった。このような根底的な革新は科学の歴史にかつてなかったものであり，それは哲学にまで多大の影響を及ぼした。

しかし，19世紀までの科学との断絶をさらにきわだたせたのは，量子力学*の誕生であった。量子力学では，ある時点における物理系の状態を知ったとしても，そののちの時刻に物理量を測定したときどのような結果が得られるか，確率的にしか予言することができない。ある時点での状態を知れば，その前後いずれの時点の状態も一義的に決定することを許すのが科学法則であると考えられてきたのに，量子力学はそういう因果的決定論を否定して，確率的法則で置き換えた。また，このことと密接に関連するのは，微視的対象，たとえば電子や光の二重性である。電子や光，あるいはその他の素粒子は，ある実験的調整のもとで測定にかければ粒子のようなふるまいを示し，別の実験的調整のもとでは波のようなふるまいを示す。二つの実験的調整は相互排斥的で，同時に両方のふるまいがつかまえられることはないが，また，波と粒子のどちらか一方にすべてのふるまいを帰着させることもできない。量子力学はそれを一貫した数学的理論の中にとらえることができたが，そのかわり，理論と実験結果との間は確率を介してしか結びつけられない。

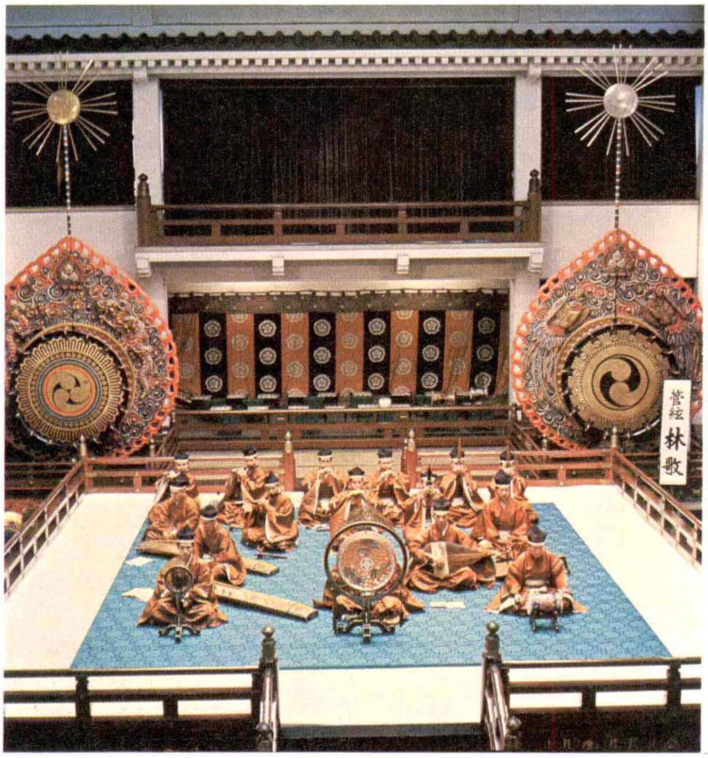
こうして，19世紀までの物理学が自然的実在の構造とふるまいをそのまま写し出すことを目標としたのに対して，現代物理学はむしろ，経験的事象の間に矛盾のない脈絡をつけうるようなモデルを構成し，そのモデルに基づいて事象を記述し，説明することを目標とすると理解されている。そのような物理学が正当化されるのは，それが経験的事象の処理に大きな有効性を発揮し，ことに物理学に基礎をおいて数々の技術的成果が生み出されているからである。この物理学の新しい傾向は哲学にも大きな影響を与え，論理実証主義や分析哲学が現代の大きな潮流となることを助けた。経験的事象の処理における有効性に科学の価値と存在意義を求める思潮は，人文・社会科学にも大きな影響を与え，これらの分野でも自然科学の方法にならうことによって，人間的・社会的事象に対して自然科学なみの有効性を獲得しようとする傾向が支配的となった。今世紀にはいってからの数学の新しい展開，また第2次世界大戦後急激に発展したサイバネティックス*が，人文・社会科学において利用できる数々の技術的手段を提供したことも，この傾向に拍車をかけた。経済学は物質的財貨を対象とするだけに，最も早くこの方向に進み，数理経済学という大きな分野を確立した。そののちこの〈科学化〉の動向は社会学・心理学・政治学に及び，いずれも人間ないし社会集団の行動を数理的モデルに移し変え，このモデルを操作して結論を引き出そうとする。そこでは，人間的事象につきものである情緒的判断や価値を排して，もっぱら事物間の客観的関係のみを追求し，操作しようと試みられている。

しかし，自然科学はもちろんこれらの人文・社会科学においても，その有効性に基づいて存在意義を主張しようとすれば，科学が政治・経済・産業・軍事等々における実際的問題の解決のための技術学として機能することを避けることができない。ことに，科学が大規模化して，公的な資金源への依存が不可避となっているため，ますますその傾向は強まる。19世紀までの科学が人間であれ自然であれ〈存在〉についての問いかけを動因としていたとすれば，現代の科学は〈機能〉の追求を主たる動因とするに至っているのである。　〔広重　徹〕

かがく　【化学】 物質の性質および変化を対象とする自然科学の一部門。純正化学と応用化学*に大別されるが，狭い意味での化学は純正化学をさす。なお，化学には物理化学*・有機化学*・無機化学*・分析化学・生物化学の主要分野がある。

〔歴史〕 化学の歴史は，古代エジプトに興り，その後全ヨーロッパに広がった錬金術*に始まる。その当初の目的は冶金(やきん)・染色・医薬など生活に密着したものの製造にあったが，その後，すべての物質はごく少数の根源物質からできているという誤った説の影響を受け，他の金属から金をつくる努力が重ねられた。この試みは結局失敗に終わったが，1,000年以上も続いた錬金術は，その間に多くの化学実験技術を後世に残した。次いで，16～18世紀には不老不死の霊薬を得る目的のイアトロ化学が盛んになった。近代的化学の基礎を築いたのは，18～19世紀にかけてのボイル*の気体に関する定量的実験，ラボアジエ*の燃焼についての実験と化学変化に伴う質量不変の法則，ドルトン*の原子説，アボガドロ*の分子説である。

〔元素〕 すべての物質の根源物質である元素については，19世紀中葉メンデレーフ*が元素の周期律を発見した当時すでに62種が





雅　楽

(左)左方(唐楽)の管弦演奏。前列左から鉦鼓・楽太鼓・鞨鼓，中列左から箏・琵琶，後列左から龍笛・篳篥・笙　なお背後左右は大太鼓
(中)左方の最も代表的な舞楽《陵王》
(右)右方(高麗楽)の舞楽《狛桙》
宮内庁楽部

知られていたが，その後次々と新元素が発見され，第２次世界大戦前には原子番号１の水素から原子番号92のウランに至る90近い元素が知られていた。一方，20世紀初めには，同じ元素であり，化学的性質もほとんど同じであるが原子量を異にする同位元素(同位体)が存在することが見いだされていた。戦後，原子核の研究の発展により，ウランよりさらに原子番号の大きい，いわゆる超ウラン元素が続々と人工的につくられ，現在では原子番号103のローレンシウムまでが知られている。また，すべての元素について安定(非放射性)あるいは放射性の同位元素が発見または人工的につくられ，その総数は1,000を越える。

【現代の化学】昔の化学では物質に化学変化を起こさせるには混合や加熱が主であった。その後，触媒や高圧・電気的エネルギーの利用(電気化学)，最近では光や放射線のエネルギーの利用(→光化学　→放射線化学)も行なわれている。また，混合物質の分析には古くからある化学的方法のほかに，分光分析・X線分析・質量分析計・ガスクロマトグラフなどの，いわゆる機器分析が非常に普及し，短時間に極微量物質の分析が可能になった。物質構造の研究にはかなり古くからあるX線回折，可視および紫外線吸収スペクトルのほか，最近では赤外線吸収スペクトル・マイクロ波分光学・磁気共鳴吸収などの新しい電磁気的方法が用いられる。一方，放射性あるいは安定同位元素は化学だけでなく広く自然科学の各分野で種々の目的に利用されている。化学の理論では古典的熱力学のほか，最近30年間に量子力学や統計力学が大幅に導入されるなど，現代の化学は戦前の化学とはその様相を著しく異にしている。　〔志田正二〕

がかく　【画角】　⇨写真レンズ

ががく　【雅楽】　中国・朝鮮・日本の音楽で，それぞれの国で多少包括範囲や機能が異なる。

中国の雅楽は，古くからあった自然界と祖先を祭る宗教的な儀礼音楽が儒教の流れにはいって一定の形をとって成立した。雅正の楽，正楽ともいう。楽器は編鐘・編磬(へんけい)・琴・瑟(しつ)など約30種があり，さまざまな編成で器楽・声楽伴奏・舞踊伴奏に使われる。雅楽は孔子廟(こうしびょう)を中心に継承され，かなり忠実な形で朝鮮に伝わった。朝鮮では，孔子廟の祭祀(さいし)に用いられる狭義の雅楽と唐楽(唐の宴饗(えんきょう)音楽)・郷楽(楽器編成は唐楽と変わらない朝鮮独自の音楽)の３種に分けることができる。これらは李朝(りちょう)の下で長く保存されたが，現在では国楽の名を与えられているものの，ほとんど消滅状態にある。

日本では，奈良時代から平安時代にかけて中国・朝鮮から伝えられた宴饗音楽を中心に，既存の音楽・舞踊の要素を混ぜながら新しい様式を創造して，平安中期にほぼその概念の固定をみた。機能的には，宮中および寺社における儀礼音楽であるが，緻密(ちみつ)な音楽理論による大編成の器楽合奏が中心となっているので，純音楽あるいは絶対音楽*として鑑賞することも可能である。そのためか，日本の伝統音楽の中では最も容易に西洋的な耳になじむといわれている。

外来の曲のレパートリーは大きく唐楽あるいは左方(中国から西域)と高麗楽(こまがく)あるいは右方(朝鮮から満州)の二大系統に分類されている。左方の楽器編成は，笙(しょう)・篳篥(ひちりき)・龍笛(りゅうてき)・琵琶(びわ)・箏(そう)あるいは楽箏・太鼓・鞨鼓(かっこ)・鉦鼓(しょうこ)であり，右方では左方のうちの笙・鞨鼓・琵琶・箏を除き，さらに狛笛(こまぶえ)・三鼓(さんのつづみ)が加わる。舞を伴う曲は舞楽とよばれる。管弦*における楽器の役割は，主旋律と旋律装飾を行なうグループ，拍節をささえるグループ，テンポ・段落を明示するグループに分けられている。平安中期に新しく雅楽の一部として加えられたのが催馬楽*(さいばら)・朗詠*という声楽曲である。日本の雅楽の伝統は多少の変化は受けつつも現在まで保持され，世界でも最古の音楽の一つとされており，現代音楽にも大きな影響を与えている。代表曲に《越天楽*(えてんらく)》《太平楽》《万歳楽》《陵王*》《納蘇利(なそり)》《迦陵頻*(かりょうびん)》などがある。　〔山口　修〕

かがくえいが　【科学映画】　科学を内容あるいは方法としてつくられた映画。主として物理学・化学・生物学などの一般自然科学や，医学・工学などの応用科学における原理・実験・成果の内容を撮影した映画をさす。また高速度撮影・顕微鏡撮影・赤外線撮影・水中撮影など，カメラの諸機能を駆使しながら科学的な方法で撮影した映画も科学映画とよばれる。両者とも教育的・啓蒙(けいもう)的な作品が多い。

かがくえいせい　【科学衛星】　超高層の実体の調査や大気圏外での観測を行なう人工衛星。結果は電波信号に変えて地上に送られる。宇宙空間の温度・宇宙塵(じん)・宇宙線・太陽放射線・地球磁場などを観測，

無重量状態が生物に及ぼす影響などを実験する。アメリカが1969年までに打ち上げた約400の無人人工衛星の3分の1は科学衛星であった。➔人工衛星

かがくかこう【化学加工】金属の表面を薬品によって化学的に溶解させて行なう加工。工作物をリン酸・硝酸・硫酸あるいはこれらの混合液中に浸して表面の凸部(とつぶ)を溶解し,平滑な光沢面にする場合を化学研摩といい,工作物の一部を耐食性の膜でおおって,露出している部分だけを溶解して彫刻・肉抜きなどをする場合を腐食加工という。

かかくカルテル【価格カルテル】商品の販売価格の最低限度について,同一産業内部で結ばれた独占的な企業間協定,またはそれに基づく水平的な企業間結合をいう。広く価格の維持を目的とするものには,このほかに,運賃や販売諸経費の負担方法,代金の決済方法などの販売諸条件を協定した条件カルテル,就業時間や機械の稼働(かどう)率を制限することによって生産量や販売量を協定する生産制限カルテル,販売地域を協定する販路カルテルなどが含まれる。➔カルテル ➔管理価格〔加藤 寛〕

かがくかん【科学館】科学博物館の別称として使われる場合と,博物館とは異質のものであるとして意図的に使われる場合とがある。類似の名称に,科学技術館(あるいは技術館)・科学センター・理科センター・科学教育センターなどがあり,さらに交通科学博物館・電気科学館のように,内容を冠して表示するものがある。一般に,科学館の内容は,物理・化学・工学関係のものが多く,自然史科学(博物学。動物・植物・地質学などを含む)を扱ったものは少ない。

わが国では,従来から理工系のもの,自然史系のもの,あるいは両者を含むものもすべて科学博物館と称されてきた。1955年(昭和30)ごろまでは,2,3の例外(大阪電気科学館など)を除いて科学館の名称はほとんど見あたらない。1954年,国立科学博物館*に理工学館が増設されたが,このころから全国に新しい博物館,特に理工系博物館を新設する気運が高まり,昭和30年代後半から40年にかけて,地方自治体・民間の手によっていくつかの施設が増設された。東芝科学館・科学技術館(東京九段)・名古屋市科学館・大阪交通科学館などがその代表的なものである。これらの施設の特徴は,最新の科学技術に関する問題を扱い,発達史的な資料および原理解説装置などの展示は比較的少ないことである。

これらの施設が科学博物館の名称を避けて科学館とよばれるようになったのは,博物館の名称が博物学に通じるためであろう。また,昭和30年代に日本の理工系博物館に最も大きな影響を与えたアメリカのシカゴ科学工業博物館は,わが国に少なかった大形デモンストレーションを主とする展示をもち,近代化をめざすわが国の科学者・産業家にアピールするものがあったため,これにならって新しい科学博物館をつくるべきだとする意見が高まった。そして,このような時期に創設された科学博物館は,いままでの科学博物館とは異なった施設であるとの主張から,科学館という名称が多く用いられるようになったと考えられる。なお,自然史(博物学)系博物館も,日本学術会議など,学界で自然史科学という用語が使われるようになると,自然史博物館・自然史系博物館として,理工系博物館と区別する傾向を示している。

科学館は,前記のように最新の科学技術の解説を重点的に展示し,実験・実習設備を充実し,学校教育との関連を重視して,これと有機的なつながりをもって運営しようとする傾向が強く,新しい社会教育施設のあり方を求めている。しかし,その反面,従来の科学博物館のもっていた大きな機能の一つである資料の収集・保存という面はほとんど無視され,資料庫のスペースがほとんどとられていないのが実情である。このように,新しい分野を解説するという努力のために,発達資料あるいは関連分野の標本の保存が閑却されている点は,将来の発達に問題を残す危険があろう。➔科学博物館〔青木国夫〕

かがくきごう【化学記号】⇨元素記号

かがくぎじゅつかん【科学技術館】⇨科学館

かがくぎじゅつちょう【科学技術庁】科学技術行政を総合的に扱う国の機関。各省庁の科学技術に関連する諸分野の調整統合を目的にして,1956年(昭和31)総理府*の外局として設けられた。日本原子力研究所・日本科学技術情報センター・理化学研究所・新技術開発事業団などを監督し,付属研究所として航空宇宙技術研究所・金属材料研究所・放射線医学総合研究所・国立防災科学技術センター・宇宙開発推進本部をもつ。近年,科学技術の振興が叫ばれるに至り,その総合行政機関として急速に発達した。〔寺尾方孝〕

かがくきょういく【科学教育】学校・幼稚園・社会教育諸施設などにおける自然科学の教授をいい,広義には大衆を対象とするマスメディアによる知識伝達をも包含する。

近代科学教育の萌芽(ほうが)は,コメニウス*が庶民子弟を対象とした普通初等学校の試みの中でつちかわれ,資本主義の発展とともにその内容・方法・制度がしだいに形づくられた。技術革新が社会変化の重要な要因となった現代において,科学教育は教育改革の焦点として大きな変化を遂げつつある。

科学教育の基本は自然科学の体系的教授にあり,実験・観察・論理的思考によって基礎的諸概念を問題の発見・解決に有効な知識として定着させることを目標とする。知識伝達を従とし,科学的方法と創造的能力の育成を主たる目標とする教授思想は古くからあり,最近の急速な自然科学の進歩に促されて,この傾向は諸国の科学教育改革の中に顕著に現われている。教授法にかかわって,初等教育から科学専門家養成の高等教育にまで共通する今日の最大問題は,理論の内容・体系と実験事実が19世紀とはまったく変貌(へんぼう)した現代の自然科学にいかにして対応するかにある。現代社会の状況にふさわしく科学教育の目的を要約するならば,①労働能力の知的基礎,②政治的判断の基礎知識,③自然と人間と社会に関する総合的・科学的観念の形成の3点があげられよう。生産的労働全般が自動化されていく中で,自然科学者はますます大きな階層となっていく半面,大衆の労働は科学的判断を要しないものになっていく傾向が顕著な現在,社会に対する変革主体としての人格形成のための科学教育の機能は,今後大きな意味をもつようになると考えられる。〔田中 実〕

かかくきょうそう【価格競争】同一もしくは類似した商品を生産・販売している企業と他企業(単数・複数)との間で,市場占拠率*の維持・拡大をめざして行なわれる競争のうち,価格による競争形態をいう。通常,買い手は同じ商品であれば,なるべく価格の安い企業から購入する。すなわち,経済学的には,ある商品に対する需要量はその価格が下落することによって増大すると考えられる。したがって,このような価格の作用を考えるなら,ある企業は競争企業よりも価格を引き下げることによって,自社の商品に対する需要量(販売量)を増すことができる。しかし,現実には商品間の品質的差異(性能・デザインなど),販売上の地域的差異などの要因があり,必ずしも価格の引き下げだけで需要量が増加するわけではない。また,価格競争は,往々にしてダンピング*のような過当競争*を招き,企業にとって不利益となる場合があるため,広告・品質・サービスなど価格以外での競争が有効なときもある。〔清水 晶〕

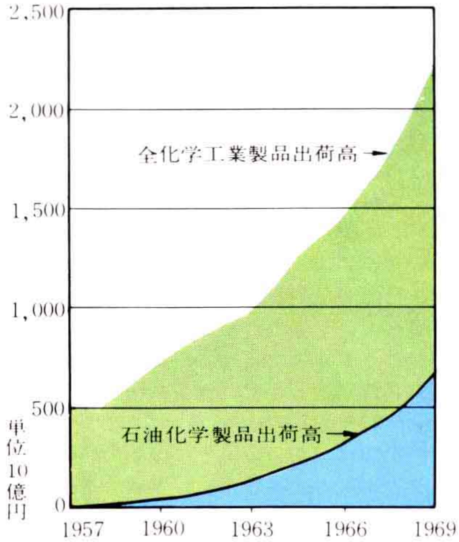
かがくけいさつけんきゅうしょ【科学警察研究所】警察庁*の付属機関。1948年(昭和23)5月科学捜査研究所として,東京都千代田区に設立され,1959年4月科学警察研究所と改称。①科学捜査*の研究および実験ならびにこれらを応用する鑑定および検査,②少年の非行*防止についての研究および実験,③交通事故の防止その他交通警察*についての研究および実験をつかさどっている。第2次世界大戦後の警察*は,新憲法の基本的人権尊重の理念に基づき,見込みや勘にたよる捜査より脱却し,科学的実証に基づく合理的な捜査に切り替える必要から,科学捜査研究所として設立されたが,

のちに防犯警察と交通警察の部門が加えられて今日に至っている。最近は声やにおいの分類鑑定など形のない分野の研究にも進出している。〔井上公耳〕

かがくけつごう　【化学結合】 化合物内で個々の原子を結びつけている本質をいう。従来は化合物の形成は原子価の概念によってばく然としか説明されなかった。今世紀にはいって量子論の発展により，結合の本質がしだいに明らかにされてきた。また，分子構造の研究方法が進歩し，結合している二つの原子間の距離(結合距離)・結合エネルギーや結合に基づく振動スペクトルなどを実験的に知ることができるようになり，従来の原子価の概念よりもいっそう具体的な化学結合の概念が新しく生まれてきた。化学結合は結合の様式により，ふつう共有結合*・イオン結合*・配位結合*・金属結合*の四つに分類されるが，実際の結合は純粋な一つの型に属するものはまれで，二つ以上の型の混ざったものである。このほかの分類には，結合の多重性によって単結合・二重結合・三重結合などに分ける方法もある。〔三輪誠・清水正幸〕

かがくこうがく　【化学工学】 化学工業製品の製造に必要な各種の化学装置ならびにこれらの組織的集合体である化学工場の計画・設計を対象とする工学の一部門。化学装置には蒸留・抽出・吸収・分離・乾燥・混合などの物理的あるいは機械的操作を行なうものと，化学変化を行なわせる化学反応装置とがある。化学工場の大規模化に伴い，近年急激にその重要性を増しつつある。

かがくこうぎょう　【化学工業】 製造工程中に化学技術を応用することによってなりたっている工業。化学技術が応用される範囲はきわめて広いため，化学工業の分野も広範多岐にわたる。そのおもなものは，化学肥料製造業・無機工業製品製造業・有機工業製品製造業・化学繊維製造業・動植物油脂製造業・油脂加工業・塗料製造業・天然樹脂製品製造業・木材化学製品製造業・医薬品製造業，その他(火薬・殺虫剤・化粧品・写真感光材料など)の化学工業である。これらの分野は，最終生産物のみならず，中間原料ならびに副産物を含み，繊維工業・ゴム工業・機械工業・建材工業など広い分野に原料を供給する中心的な地位にある。



化学工業　化学工業製品出荷高に占める石油化学製品の割合　通商産業省《化学工業統計年報》(1970)による

〔歴史〕化学工業は，産業革命以後，繊維産業の発展に伴って起こった。そして19世紀には，ソーダの工業的製法としてルブラン法*，さらにソルベーの手になるアンモニア-ソーダ法*，19世紀末には電解ソーダ法*が企業化され，これらのソーダ工業を軸とし，石炭産業・電力産業の発達にささえられて，イギリス・フランス・ドイツを中心に化学工業は急速な発展を遂げた。一方，日本の化学工業は，1872年(明治５)の大阪造幣局の硫酸工場の建設に始まり，1880年には大蔵省印刷局がルブラン法によるソーダ工場の操業を始めている。しかし，本格的には，ヨーロッパからの化学製品輸入が激減した第１次世界大戦のころで，この時期を転機として，合成塗料工業・ソーダ工業・医薬品工業・硫安工業・石灰窒素工業・爆薬工業が次々に生まれ，1934(昭和９)～1936年には，全工業生産に占める化学工業の比重は，17.2％に増大している。わが国の戦前の化学工業をささえていた製品は，農業・繊維・軍備とそれぞれ深い結びつきをもった肥料・染料・爆薬であった。

〔現況〕第２次世界大戦後の化学工業は，石炭から石油へのエネルギー革命の進行に基づく石油化学工業の発展，アンモニアの原料転換の促進，化学肥料需要の伸び悩みなどを通じて，急速に成長するとともに，生産面・需要面において大きな構造転換を遂げた。特に石油化学工業は，石油精製過程から生ずるナフサの分解，ポリエチレン・ポリプロピレンなど種々の中間原料の生産，これを原料とする合成樹脂や合成繊維の急速な需要拡大を軸としてめざましく発展し，戦後の化学工業の主導部門となった。昭和20年代に化学工業生産額の50％余りを占めていた化学肥料・無機工業製品に代わって，昭和30年代からは石油化学を中心とする有機化学製品の比重が増大し，現在は60％を占めるに至っている。鉱工業生産に占める化学工業の比重もまた増大しつつあり，1966年には出荷額で9.3％，付加価値で10.9％に達している。さらに輸出構造においても，化学製品の比重は漸増し，総輸出額に占める割合は７％に及ぶ。

〔業界〕化学工業は装置産業*であり，また多額な研究投資を必要とするため，企業ならびに工場の規模は一般に大きく，市場占拠率が高いのが普通である。アメリカのデュポン*，イギリスのICI*，西ドイツのヘキスト*・バイエル*・BASF，イタリアのモンテカチニ-エジソン*，フランスのペシネー・サンゴバンなどは世界に聞こえた巨大企業であり，国際的な合弁会社を多数かかえていることでも知られている。しかし，わが国では従来から巨大な総合化学会社はなく，ソーダ・肥料・医薬・合成繊維などの分野

化学工業経営指標の国際比較（1966）　通産省《世界の企業の経営分析》1968年度版

区分 ＼ 項目	企業規模*		収益率	資本構成		生産性		
	売上高	従業員数		自己資本	他人資本	粗付加価値**率	労働生産性	資本装備率
日　本２社（三菱化成・住友化学）	100	100	3.46％	23.38％	76.62％	29.25％	262万円	505万円
アメリカ５社（デュポン・UCC・モンサント・ダウケミカル・アライドケミカル）	652	549	9.88	62.99	37.01	54.42	577	595
西ドイツ３社（ヘキスト・バイエル・BASF）	382	479	5.99	51.72	48.28	46.72	333	345

注）＊日本の平均規模を100とした場合の他国の平均規模　＊粗付加価値＝売上高－原材料・購入部品費など　粗付加価値率＝粗付加価値÷売上高

区分 ＼ 項目	分配率（粗付加価値構成比率）						
	純利益	人件費	租税公課	金融費用	金融収益	減価償却	合計
日　本２社（三菱化成・住友化学）	11.82％	34.09％	8.19％	22.84％	－8.49％	31.54％	100.00％
アメリカ５社（デュポン・UCC・モンサント・ダウケミカル・アライドケミカル）	18.15	48.99	16.95	1.90	－1.85	15.86	100.00
西ドイツ３社（ヘキスト・バイエル・BASF）	12.83	47.81	17.39	4.22	－2.03	19.77	100.00

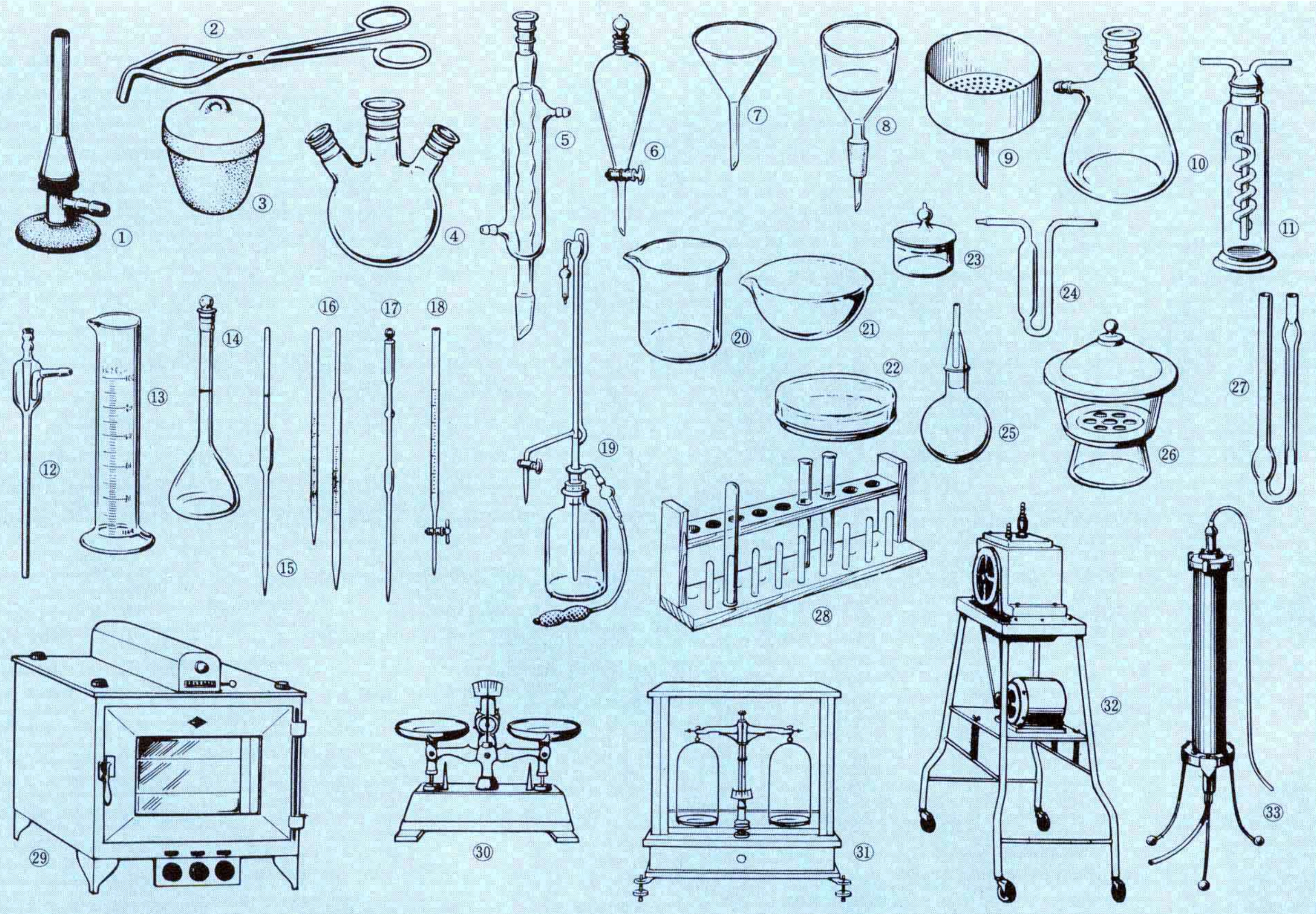
にそれぞれ専門化した形で大企業が併立し，国際的規模以下の規模で盛んな競争を繰り広げてきた。たとえば，日本・アメリカの代表的な化学会社の平均規模を比較すると，売上高ではアメリカのそれは日本の６倍半，従業員数では５倍半，収益率でも２倍以上となっている。さらに，粗付加価値中に占める資本コスト（金融費用＋減価償却費）の割合をみても，日本の化学会社はアメリカに比べてはるかに高い。したがって，日本の化学工業が国際競争の中で生き抜き成長していくためには，小規模か，個別的な部門に専門化した現在の化学会社のあり方を早急に改めて，国際的規模に近い総合化学会社ないしは企業集団の形成を図ることが強く要請されよう。最近盛んになりつつある石油化学コンビナートは，この方向に沿ったものと考えられるが，単に石油化学の分野にとどまらず，他の化学工業部門との連携を密にして生産の効率化を図ることも今後はいっそう必要となろう。〔原　豊〕

かがくごうせい【化学合成】炭酸固定のエネルギーとして，無機物の酸化の際に遊離するエネルギーが用いられる場合を化学合成という。生物が炭酸から炭水化物を合成するために，光合成*と並ぶ主要な反応である。化学合成を行なう生物は一部の細菌に限られており，イオウ細菌*・硝化細菌*・鉄細菌*・水素細菌*などがこれに属する。

かがくしき【化学式】元素記号*を用いて物質およびその組成を表わした式。実験式*・分子式*・示性式*・構造式*が含まれる。

かかくしじせいど【価格支持制度】生産過剰によって価格が大幅に下落するとき，生産者の所得急減を防ぐ価格安定策として，過剰生産物を政府機関が買い付けまたはその商品を担保として融資する制度。買い付けあるいは融資するにあたっての基準の価格を支持価格という。この制度は，小生産者が支配的で自然的条件によって生産量が変動しやすく，生産調整も短期的には困難な農産物におもに適用されている。価格支持制度としては，アメリカでニューディール*政策の一環として1933年施行されたものが有名であるが，わが国では1921年（大正10）の米穀法，1933年（昭和８）の米穀統制法がはじめであり，現在では食糧管理法・農産物価格安定法によって米・麦・甘藷（かんしょ）・馬鈴薯（ばれいしょ）デンプン・菜種・大豆を，また繭糸価格安定法によって干し繭・生糸を基準価格で政府が買い入れる制度が設けられている。さらに，食肉・加工原料乳についても畜産振興事業団*を通じて価格の安定が図られている。特に加工原料乳には，標準価格以下に市場価格が低下した場合，標準価格と市場価格との差額を国が補償する不足払い制度が1966年から採用されている。〔高山隆三〕

かがくじっけんきぐ【化学実験器具】化学実験に用いる器具。



①　バーナー（普通型）
②　るつぼばさみ
③　るつぼ
④　三口フラスコ
⑤　冷却器
⑥　スキーブ型分液漏斗
⑦　普通漏斗
⑧　ガラス濾過器
⑨　ブフナー漏斗
⑩　濾過びん
⑪　洗気びん
⑫　水流ポンプ
⑬　メスシリンダー
⑭　メスフラスコ
⑮　ホールピペット
⑯　メスピペット
⑰　毒薬ホールピペット
⑱　ビューレット
⑲　自動ビューレット
⑳　ビーカー
㉑　蒸発ざら
㉒　シャーレ
㉓　秤量びん
㉔　比重びん（オストワルド型）
㉕　比重びん（ゲイリュサック型）
㉖　デシケーター
㉗　粘度計（オストワルド型）
㉘　試験管・試験管立て
㉙　電気定温乾燥器
㉚　上ざらてんびん
㉛　化学てんびん
㉜　ロータリーポンプ
㉝　純水給水器

化学実験器具

〔加熱用器具〕ガスを熱源とする場合はバーナーを使用する。普通型やメッケル型があり，広い面を強熱する必要があるときに用いる。電熱器には，ガラス繊維を特殊加工したもので電熱線を包んだマントルヒーターや，導電性ガラスを利用した加熱プレートなどがある。

〔反応用器具〕高熱で反応させるためにはるつぼが用いられ，磁器製・アルミナ磁器製・ニッケル製・白金製などがあり，目的によって選択する。るつぼばさみを用いて操作する。液体の関与する反応には一般にフラスコ類が使用される。蒸留用に枝がついたもの，温度計・冷却器・攪拌器(かくはんき)などを取り付けられるように3口あるいは4口のフラスコなどがある。これらの取り付けはすり合わせを利用して行なうのが便利で，共通すり合わせならば互換性があるのでたいへんつごうがよい。共通すり合わせのテーパー(傾斜)は10分の1で，すり合わせ部分の大径が5mm，すり合わせ長さが12mmのものはŦ5/12のように表示される。水溶液からある種の溶質を有機溶媒中に抽出するような場合は分液漏斗を使用する。二つの液を混合して反応・抽出を行なわせたのち相互に分相したものを，コックを操作して分別する。物質を高温高圧で処理する必要がある場合にはオートクレーブを用いる。

〔濾過(ろか)用器具〕最も簡単なものは普通漏斗に濾紙を用いて沈殿などを濾過する。濾過を速くするため，足を長くした足長漏斗もある。さらに濾過速度を上げるためには減圧吸引する方法がとられ，ブフナー漏斗やガラス濾過器を濾過びんと併用して行なう。ブフナー漏斗には濾紙を使用し，ガラス濾過器には種々の孔度のものがあるので目的に応じて選ぶ。減圧にするためには，水流ポンプやロータリーポンプを使用する。

〔測容器具類〕液量をはかって取り出す目的にはメスシリンダーを用い，規定液などを調製するにはメスフラスコを用いる。規定液などの一定量を取り出して反応液に加える場合はピペット類を使用する。毒薬の場合は，直接口で吸い取らないで，すり合わせシリンダーを利用して吸い取る。規定液などを反応の終了するまで徐々に加えていく場合にはビューレットを用いる。一定濃度の規定液を容易に補給するために用いられる自動ビューレットが市販されている。

〔その他ガラス製実験器具類〕試料を乾燥する場合に，ガラス製のデシケーターがよく用いられる。その下部に，無水塩化カルシウム・五酸化リン・シリカゲル・濃硫酸などを入れ，中段の仕切りの上に試料を入れた容器を置いて乾燥する。発生気体を洗浄したり乾燥したりする場合には種々の形の洗気びんを用いる。乾燥する場合には濃硫酸を入れておいて気体を通過させる。

〔その他主要用具〕化学実験には試料の重量をはかることが必要で，所要精度に応じて上ざらてんびん・化学てんびんを使用する。最近では，分銅の増減をダイアル連動で行ない，ダイアル目盛り以下の重量を光学的に投影して読み取る直示型が多く用いられ便利である。また純度の高い水を供給する装置として自動蒸留器や純水給水器がある。後者は，イオン交換樹脂を用いて高度の脱イオンを行なって純水を供給する。試料を一定温度で乾燥したり，家験用ガラス器具類を乾燥するためには，電気定温乾燥器が日常よく用いられる。〔竹下三吉〕

かかくしどうせい　【価格指導性】　ある業界における企業群が，市場をある程度支配できる有力な企業，すなわち，価格に対して指導力をもつ企業の決定した価格に従って商品販売を行なうことがある。このような，価格設定における指導性を価格指導性という。

かがくせん　【化学線】　⇨紫外線

かがくせんい　【化学繊維】　⇨440ページ

かがくせんいこうぎょう　【化学繊維工業】　⇨繊維工業

かがくそうさ　【科学捜査】　見込みや勘にたよることなく，医学・薬学・生物学・物理学・化学・工学などの自然科学のほか，心理学・社会学などの知識・技術を応用した合理的な犯罪捜査。現行憲法および刑事訴訟法では，人権尊重の立場から，〈自白万能主義〉を排し〈物的証拠主義〉を採用している。したがって，指紋・手口・足痕跡(そくこんせき)などに関する科学的施設の充実と活用とともに，捜査に関する資料の分析・検討・整理や，それらをもとにした捜査指揮による犯罪および犯罪者の合理的解明が要請される。加えて最近の犯罪の広域化・巧妙化に対処するため，府県警察相互間の協力一体化(組織捜査)，犯罪科学の研究開発など，科学捜査の領域はますます広がりつつある。〔井上公耳〕

かがくたんさ　【化学探査】　地下資源を開発するために化学を使って調査する方法。地化学探査・化学探鉱ともいう。金属鉱床の場合には，その地帯から採集した岩石・水・泥土(でいど)あるいは植物中の指示元素の含有量とその分布状態から鉱床の位置を推定し，石油の場合には地下浅所の土の中に含まれる空気を分析して，石油に関係のある炭化水素の量を測定し，油層の位置を推定する。

かがくちょうみりょう　【化学調味料】　化学的に合成したり，調製してつくる調味料*。この場合の調味料は狭い意味での調味料であるうまみ料をさし，こんぶ・かつお節やしいたけなどを天然調味料と称することに対していう。おもなものに，グルタミン酸ナトリウム・イノシン酸ナトリウム・グアニル酸ナトリウム・コハク酸ナトリウムなどがあり，それぞれこんぶ・かつお節・しいたけ・貝類のうまみ成分を代表するものといわれる。

なお，イノシン酸やグアニル酸系の調味料は，グルタミン酸ナトリウムなどのアミノ酸系うまみ物質が存在してはじめて真価を示し，相乗効果を示す。グアニル酸はイノシン酸の2～3倍の効果を示すという。このようなことから，イノシン酸やグアニル酸系調味料は必ずグルタミン酸ナトリウムと混合して用いられる。これを複合化学調味料という。➔グルタミン酸ナトリウム
〔佐藤友太郎〕

かがくてきかんかく　【化学的感覚】　動物の感覚のうち，化学物質が刺激となって起こる感覚。離れたところから揮発性物質を感受する臭覚，体に接した液状の化学物質を感受する味覚のほか，それらのいずれにも属さない共通化学的感覚などがある。光学的刺激などよりも一般的であって，食生活や生殖行動などにも大きな影響をもっている。下等な原生動物でもこの感覚があり，後生動物では特殊な受容器である感覚細胞が発達している。〔蒲原春一〕

かがくてきかんり　【科学的管理】　広義には科学的方法を適用した経営管理をさすが，狭義にはアメリカの技術者F.W.テーラー*が提唱したテーラー-システム*を意味する。テーラーは1878年製鋼会社に工員として入社，職長・技師長として勤務する間工場の合理化に力を尽くし，その後も工場管理の研究と実践に従事して最初の科学的管理体系を確立した。当時は産業革命が終了し，工場制度の急速な発展段階にある一方，周期的不況・企業競争の激化していく中で，資本家は作業の合理化，能率の向上にその解決策を見いだそうとしていた。従来の管理制度をテーラーは〈なりゆき管理〉として批判した。この管理制度のもとでは，賃率は過去の経験や実績による推測ないし伝習的方法で決定され，使用者側は〈賃率の切り下げ〉を行なう傾向があり，これに抗して労働者側は〈組織的怠業〉による能率の低下がみられた。このためテーラーは公正な1日の作業量を設定してこれを課業と称し，課業に対応して公正な賃金を支払うという管理制度を考えた。テーラーの管理制度の本質は課業管理にあり，課業を科学的に決行するために，動作研究*と時間研究を実行した。標準的作業方法による作業時間をストップウォッチで測定して標準時間を設定し，新作業には作業を要素動作に分解して各要素動作の時間の和を標準時間とし，標準時間によって賃率が決定された。そして標準時間内で課業を達成した者には高賃率，達成しない者には低賃率の賃金を支払う〈差別的出来高給制〉を創出した。その他，職能的職長制度・指導票制度などを考案，これら一連の管理制度を総称してテーラー-システムとよんでいる。テーラーの科学的管理は，ギルブレス・ガント・エマーソンらの研究でさらに進められ，今日のインダストリアル-エンジニアリング*の

基盤を提供している。〔清水　晶〕

かがくてきしゃかいしゅぎ　【科学的社会主義】　マルクス*とエンゲルス*によって形成され体系化された社会主義思想で，空想的社会主義*と対比されるが，一般にはマルクス主義といわれる。科学的社会主義が空想的社会主義と区別される根本は，史的唯物論*と剰余価値理論*とによって，資本主義社会の矛盾の根源の科学的分析と，この矛盾解決のための現実的諸条件の科学的把握(はあく)が可能になったことにある。空想的社会主義では現実社会の科学的分析の欠如のために，矛盾の解決を人間一般の解放として思弁的・空想的に考えたが，科学的社会主義では，矛盾の現実的要因としての労働者階級の解放と資本主義的生産様式からの解放として把握され，現実の社会変革の主体として労働者階級が組織される。この社会主義はレーニン*や毛沢東*らによってさらに発展した。➔社会主義　〔仲村計美〕

かがくてつがく　【科学哲学】　⇨444ページ

かがくてんびん　【化学天秤】　⇨天秤

かかくとうせい　【価格統制】　政府が直接的に価格を固定・統制すること。本来，価格は購買力と産出量の間で自然に均衡が生じて決まるものだが，価格統制はこの均衡をくずすものであり，これを調整するには配給など物的統制を伴う大規模な方法がとられる。➔統制経済

かがくとうりょう　【化学当量】　単に当量ともいう。元素の当量，酸および塩基の当量，酸化剤および還元剤の当量がある。①元素の当量：いろいろの元素と水素とが化合するとき，化合する原子数が決まっているから化合する量の比も決まる。水素Hの1原子量すなわち1.008と直接または間接に化合し，または置換される元素の量をその元素の1当量という。水素と直接に化合しない元素に対しては½O，すなわち酸素の1当量8と化合する量を求めてもよい。②酸・塩基の当量：酸と塩基が一定量で中和して中性塩をつくる場合，相互の量は互いに当量であるという。通常，塩酸HClの1分子量(36.5)および水酸化ナトリウムNaOHの1化学式量(40.0)をおのおのの1当量とし，これとちょうど中和する他の塩基および酸の量をその塩基および酸の1当量とする。③酸化剤・還元剤の当量：水素Hの1原子量を受け入れ(他に与え)，または½Oを他に与える(受け入れる)酸化剤の量(還元剤の量)をその当量という。等しい当量数の酸化剤と還元剤とは，両者で受け渡しをする電子数が等しいから完全に反応する。➔グラム当量〔三輪誠・野宮健司〕

かがくはくぶつかん　【科学博物館】　自然科学およびその応用に関する資料や標本を収集保管し研究調査して，一般の観覧に供するとともに，それに関連する教育活動を行なう社会教育機関。

【歴史】世界最初の博物館は，自然科学関係の資料を含めて，紀元前3世紀初めにエジプトのアレキサンドリアに建設されたムーセイオンであったといわれる。これはエジプトがローマに支配されてのち，4世紀に滅亡してしまったが，文芸・学術上に価値あるものや珍奇な品を集めるという博物館の重要な使命は，その後も王侯貴族や富豪あるいは寺院などの力のもとに行なわれていた。ルネサンスから18世紀半ばごろになると，ヨーロッパでは，海外発展とともに，自然物や民族資料の収集が盛んになり，それらの研究も起こり，イタリア・フランス・オランダなどには，科学博物館の先駆ともいうべき天然物博物館ができてきた。18世紀末から今世紀初めになると，産業革命の進展とともに，自然科学が急速に進歩し，自然物の標本資料をもつ博物館が，研究機関として重要な役割をもつようになってきた。一方，フランス革命をはじめとする民主的な政治形態の成長とともに，民衆教育の場としての博物館の使命も注目されてきた。

このような，近代的科学博物館の先駆は，1799年創立されたパリの国立技術工業博物館(Conservatoire Nationale des Arts et Métiers)である。その後，ロンドンには，1852年ビクトリア-アルバート博物館(Victoria Albert Museum)の理工学部門(1909年独立して科学博物館〔Science Museum〕となる)が生まれ，また，1880年大英博物館(自然史)(British Museum〔Natural History〕)が大英博物館(1759年公開)の分館として新設された。そのほか，1846年ワシントンにスミソニアン機構のアメリカ国立博物館(United States National Museum, Smithsonian Institution),1863年ウィーンに技術産業博物館(Museum für Kunst und Industrie in Wien),1867年ニューヨークにアメリカ自然史博物館(The American Museum of Natural History),1906年ミュンヘンにドイツ博物館(Deutsches Museum von Meister Werken der Naturwissenschaft und Technik)などが創設された。このように，今日の世界の大科学博物館はこの時代にあいついで生まれたのである。

わが国では，現在の国立科学博物館*が官制上，科学博物館としての性格をうたわれたのは，1921年(大正10)東京博物館と改称されて以来である。

【科学博物館の範囲】科学博物館で科学というのはふつう自然科学をさしている。すなわち，生物・地学をさす自然史(自然誌ともいう。古くは博物学)と理工学・医学・農学・産業技術である。欧米では自然史に民族学や考古学を含めている。また，博物館に動植物園・水族館・自然公園・自然保護地区を含める考え方は，欧米では早くからあったが，わが国では1951年(昭和26)公布された博物館法によって取り上げられている。科学博物館には，自然史・理工学などと，産業技術の全分野にわたる総合博物館のほかに，それぞれ専門分野に限った博物館も多い。これらを大きく分ければ，自然史系と理工学系の博物館に分類される。➔科学館　〔木村東作〕

かがくパルプ　【化学パルプ】　繊維原料に化学薬品を加えて，木窯(きがま)の中で熱と圧力をかけて煮ることによってパルプ化し，機械力を用いないで繊維を取り出したもの。使用薬品により，亜硫酸パルプ(サルファイトパルプ)・硫酸塩パルプ(クラフトパルプ)・ソーダパルプなどがつくられる。パルプの歩止まりは，木材パルプの場合40～50%である。パルプは製紙用・溶解用としていろいろな用途に用いられる。➔パルプ

かがくはんのう　【化学反応】　物質がそれ自身変化するか，または他の物質との相互作用によってほかの物質に変化する現象。化学変化*と同義であるが，変化の過程に重点が置かれるときに多く化学反応とよばれる。反応は主として速さと平衡の二つの観点から考察される。各物質におけるエネルギー(熱含量，エンタルピー*)と起こりうる状態の確率(エントロピー*)との総合を表わす自由エネルギー ΔGが$\Delta G \neq 0$であるか$\Delta G=0$であるかによって，その系の反応が進行しているか，平衡にあるかがわかる。〔三輪誠・加藤康〕

かがくはんのうしき　【化学反応式】　反応物質を左辺に，生成物質を右辺に，それぞれ化学式を用いて表わし，左右両辺で各原子数が等しくなるように，化学式に係数を付して矢印または等号で結んで表わしたもので，等号を用いたときは特に化学方程式という。たとえば，$2H_2+O_2 \longrightarrow 2H_2O$は2分子の水素と1分子の酸素とが反応して，2分子の水が生成することを表わしている。質量保存の法則*も表現しており，また気体があずかっている場合にはそれらの体積関係も表わしている。上の例では，水素原子は1，酸素原子は16の原子量であるから，水素4gと酸素32gとが反応して水36gが生成すること，2容積の水素ガスと1容積の酸素ガスとが反応して2容積の水蒸気を生成することを表わしている。〔竹下三吉〕

かがくひりょう　【化学肥料】　窒素・リン酸・カリの3成分を，それぞれ単独または複合して含む化学的合成物で，農作物の収穫を増大させるために土壌(どじょう)に施すものをいう。したがって比較的安価で，上記3成分の含有量が高く，植物に無害で，施肥に便利な形態をもつことが必要で，多くの場合固形の粉末である。

単独成分を含むものには，窒素肥料として硫安・尿素・塩安・硝安・石灰窒素などがあり，リン酸肥料として過リン酸石灰・重過リン酸石灰・焼成リン肥・溶成リン肥・リン安などがあり，カリ肥料として塩化カ

➔442ページ

化学繊維

天然繊維に対する人造の繊維の総称。略して化繊ともいう。再生繊維*・半合成繊維*・合成繊維*・無機繊維*を含む。もと人造繊維とよばれていたが，合成繊維が生まれてからは現在の名でよばれるようになった。

〔歴史〕綿・麻・羊毛・絹などの天然繊維の生産は，産地・季節・規模などの制限がある。これを人造しようとする念願が，科学技術の進歩してきた近代になって徐々に達せられるようになり，特に絹を人工でつくり出すことがヨーロッパで種々試みられた。それらの先駆的な研究が積み重ねられて，1884年フランスのシャルドンネによって人造絹糸が工業的につくり出されるに至った。これはニトロセルロースをアルコールとエーテルの混合液にとかし，細い穴のガラス管から押し出して固めたものであった。はじめの人造絹糸は弱く，工費も高く，実用的に使うことが困難で，リボン・レース・組みひもなど装飾用に用いられるにすぎなかった。しかし，人造絹糸の研究は急速に進み，1891年にビスコース法による製法が発明されて以来実用化され，レーヨン*と命名されて現在の化繊工業の基礎を築き上げた。第1次世界大戦中，羊毛・綿の不足のために，レーヨンを短繊維に切断して紡績糸を製造する方法が実用化され，ここにレーヨンステープル*が世界各国で工業化されるようになった。また1899年には銅アンモニア法(キュプラ*法)によるベンベルグ*の製法も発明された。こうして再生繊維は各国で研究生産され，品質も向上し，紡績や加工の技術も進歩し，実用的な衣料として，天然の羊毛・綿・絹などと対等の地位をとって20世紀の世界にはなばなしく展開してきたのである。

半合成繊維といわれるアセテート繊維*が化合物として発明されたのは古く1865年であったが，その利用は20世紀へはいってからであった。はじめ，当時の飛行機の翼布などの塗料として用いられたが，第1次世界大戦後，1916年繊維として製造するこ

化学繊維性能表

繊維 ＼ 性能			引っ張り強度 (g/d) 乾燥	引っ張り強度 (g/d) 湿潤	比重	公定水分率 (%)	耐熱性 軟化点	耐熱性 溶融点	耐薬品性 (溶解する薬品)
レーヨン	ステープル	普通	2.5～3.1	1.4～2.0	1.5	11.0	軟化・溶融しない。260～300℃で着色分解しはじめる		銅アンモニア溶液 強硫酸
		強力	3.6～4.2	2.7～3.3					
	フィラメント	普通	1.7～2.3	0.8～1.2					
		強力	3.4～4.8	2.5～3.8					
ポリノジック	ステープル		3.5～5.0	2.6～4.0	1.5	11.0	レーヨンと同じ		レーヨンと同じ
キュプラ	フィラメント		1.8～2.7	1.1～1.9	1.5	11.0	レーヨンと同じ		レーヨンと同じ
アセテート	フィラメント		1.2～1.4	0.7～0.9	1.32	6.5	200～230℃	260℃	アセトン フェノール 氷酢酸
	酢化ステープル		2.6～2.9	2.1～2.4	1.34	5.0	260～300℃	——	
ビニロン	ステープル	普通	3.8～6.2	3.2～5.1	1.26～1.30	5.0	220～230℃	不明瞭	熱ピリジン
		強力	6.8～8.0	5.7～6.4					
ナイロン	フィラメント	普通	4.8～6.4	4.2～5.9	1.14	4.5	180℃	215～220℃	フェノール 氷酢酸 強硫酸・塩酸
		強力	6.4～8.7	5.9～7.4					
ビニリデン	フィラメント		1.5～2.6	1.5～2.6	1.7	0	150～180℃	180～200℃	テトラヒドロフラン ジメチルホルムアシド
塩化ビニル	フィラメント		2.7～3.7	2.7～3.7	1.39	0	——	200～210℃	ビニリデンと同様
ポリエステル	ステープル		4.7～6.0	4.7～6.0	1.38	0.4	238～240℃	255～260℃	フェノール誘導体
	フィラメント		4.3～5.5	4.3～5.5					
アクリル	ステープル		2.5～4.5	2.0～4.5	1.14～1.17	2.0	190～240℃	不明瞭	ジメチルホルムアシド
アクリル系	ステープル		2.5～4.5	2.0～4.5	1.26～1.28	2.0	150℃	210～240℃	ジメチルホルムアシド
ポリエチレン	フィラメント		5.0～9.0	5.0～9.0	0.95	0	100～115℃	125～135℃	——
ポリプロピレン	ステープル		4.5～7.5	4.5～7.5	0.91	0	140～160℃	165～173℃	——
	フィラメント		4.5～7.5	4.5～7.5					
ポリウレタン	フィラメント		0.5～1.2	——	1.0～1.3	1.0	——	200～250℃	——
天然繊維 (比較)	綿		3.0～4.9	3.3～6.4	1.54	8.5	120℃，5時間で黄変，150℃で分解		銅アンモニア溶液 強硫酸
	麻		6.5	7.7	1.5	12.0	ほぼ綿と同じ		綿と同じ
	羊毛		1.0～1.7	0.76～1.63	1.32	15.0	130℃で分解，205℃で焦げる		苛性ソーダ熱液
	絹		3.0～4.0	2.1～2.8	1.33～1.45	11.0	235℃で分解，456℃で燃焼		苛性ソーダ熱液 強硫酸

〔備考〕1.引っ張り強度は1デニールあたりのグラム数　2.公定水分率は温度20℃，湿度65％の標準大気状態のとき

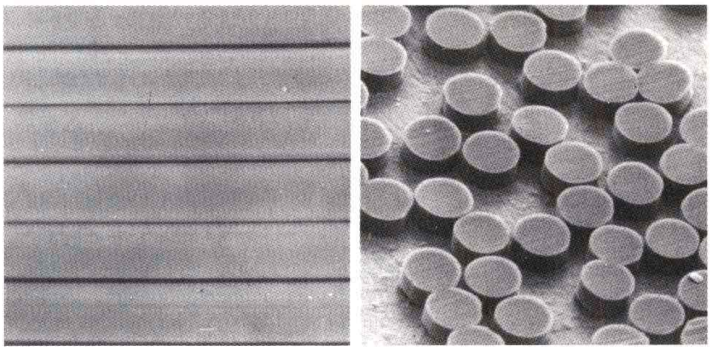
とが始められ，これを染色する特殊染料の発明とあいまって，装飾的衣料などとして特殊の用途を開発するようになった。

1938年アメリカのデュポン社がナイロン*を発表して以来，世界各国で合成繊維の生産が展開し，石炭・石油・天然ガスを粗原料とする塩化ビニル繊維*・ビニリデン繊維*・アクリル繊維*・ポリエステル繊維*・ポリプロピレン繊維*・ポリエチレン繊維*・ポリウレタン繊維*などがあいついで製造され，合成繊維時代を出現した。合成繊維は，その特性によって衣料としての特異な性能を発揮して用法を革新したほか，家具装飾・産業用資材・日用器材など多方面にその用途を開拓するようになった。

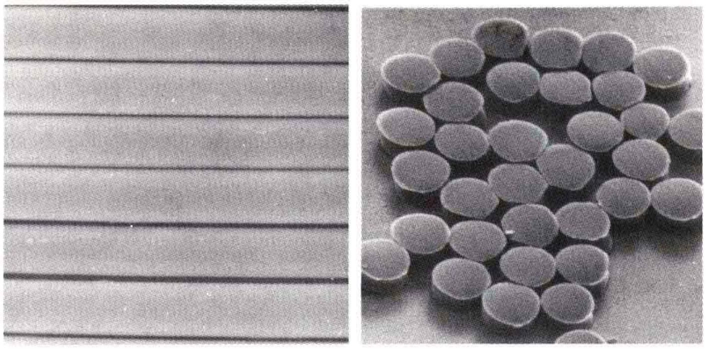
日本における化学繊維の研究は，ヨーロッパで発達しはじめた人造絹糸の輸入見本に刺激されて興り，1915年（大正４）久村清太・秦逸三(はたいつぞう)らによる米沢(よねざわ)人造絹糸製造所ではじめて工業的生産が始められたが，当初は工員わずか10数名というささやかな規模であった。しかし，輸入防止・国産奨励の方針に基づいてビスコースレーヨンの工業がしだいに発達し，製造会社が続出して生産高は急増し，品質も向上した。特にレーヨンステープルの製造は，綿・羊毛などの紡績用繊維の生産のないわが国では急速に発達して，1934年（昭和９）ごろはレーヨン会社は36社を数え，先進国をしのいで世界第１位の大量生産国にまでなった。合成繊維については，アメリカのナイロンの発表に続いて，数年間にビニロン*・ナイロンなどの生産が始まり，ビニリデン繊維・塩化ビニル繊維をはじめアクリル繊維・ポリエステル繊維などの技術移入によって製造し，また自社研究所の開発によって生産するようになった。その他ポリプロピレン繊維・ポリウレタン繊維などの生産を加え，日本の合繊工業は急角度で進展してきている。天然繊維に恵まれない日本は，こうしてレーヨン・アセテートや合成繊維などの化学繊維の生産によって衣料その他の需要を満たしたうえ，大量の輸出によって外貨を獲得している。

〔製造法〕化学繊維は，天然または人造の合成高分子化合物を溶解または溶融して粘液状とし，細孔のノズルから押し出して凝固させて繊維を形成させるという方式で製造する。最初に紡出された繊維はいずれもフィラメント*（連続繊維）の集束であって，ステープル*（短繊維）はこれを所要の長さに切断してつくるのが普通である。製造工程は多く自動連続化され，タンクとパイプの連結で化学反応・流動出入が行なわれ，大規模の重装置工業の形式となっている。したがって，生産には経済単位があって，量産が必要である。化学繊維の製造には，原料・薬品などの工業と密接な連係が必要であり，また薬品の回収や廃液処理などの装置・操作も伴う。

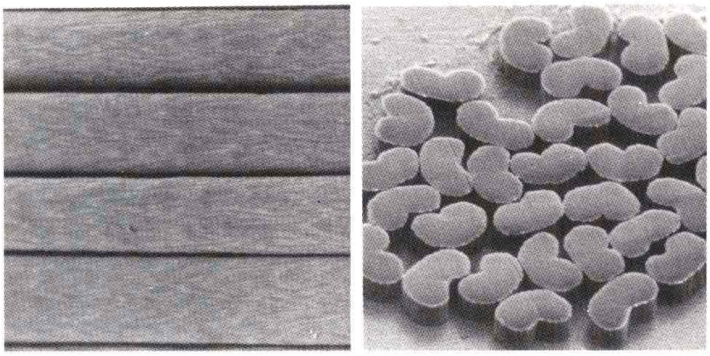
顕微鏡写真（×300）



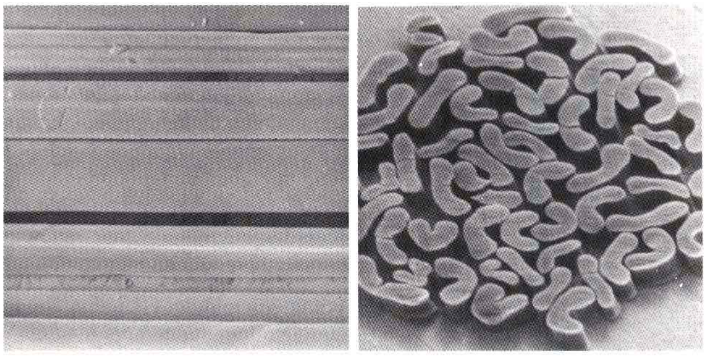
ナイロン　（左）側面　（右）断面



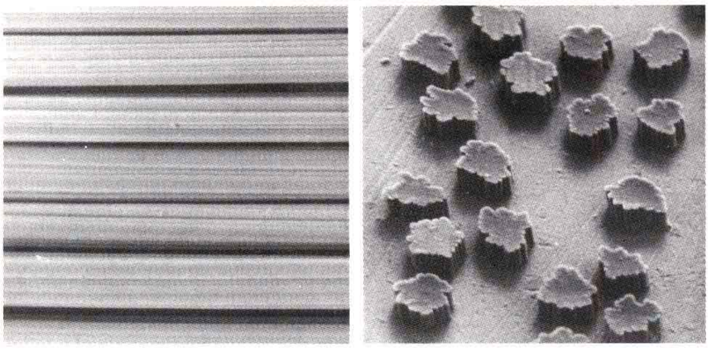
ポリエステル　（左）側面　（右）断面



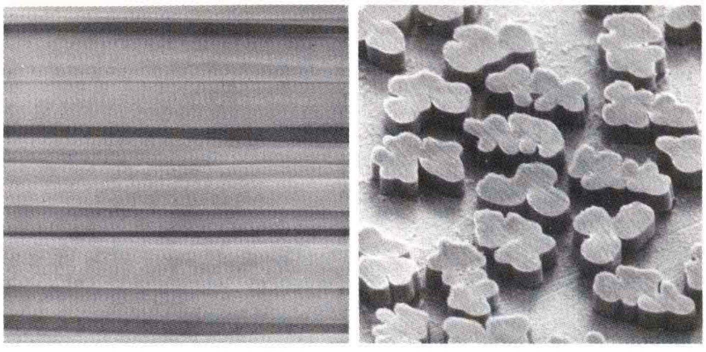
アクリル　（左）側面　（右）断面



ビニロン　（左）側面　（右）断面



レーヨン　（左）側面　（右）断面



アセテート　（左）側面　（右）断面

【性能】化学繊維はその種類によってそれぞれ特有の性能をもっているが，グループ別にみると，レーヨン類はその成分がセルロースであるために天然繊維の綿・麻と共通な性質をもっている。アセテートはセルロースに酢酸が化合したもので，セルロース繊維のレーヨンとはまったく異なっている。合成繊維類は一般に比重の小さいものが多く，強く耐久性があり，吸水性が小で耐熱性が低く，虫やかびに侵されないなどの共通性をもっている。

【取り扱い】洗たくには，レーヨン・キュプラなどはせっけんまたは弱アルカリ性合成洗剤，アセテート・合成繊維などは中性洗剤を用いて軽く洗う。アイロンかけの温度は繊維の種類によって異なる。漂白はレーヨン・キュプラなどはさらし粉を用いてもよいが，アセテート・合成繊維類には亜鉛素酸ソーダ・ハイドロサルファイトを用いる。乾燥は，レーヨン・キュプラ以外は黄変することがあるから，直射日光を避けるほうがよい。〔小川安朗〕

アイロンの適温

繊維	℃
ポリ塩化ビニル	60以上
アセテート・ビニロン	120
ナイロン・アクリル	130～150
ポリエステル	140～150
レーヨン・羊毛・絹	150～160
綿・麻	180～200

リ・硫酸カリなどがある。3成分のうち，2または3成分を同時に含むものを複合肥料と総称し，それが単純な混合物であるものを配合肥料，化学的に結合したものを化成肥料，成分の濃度の高いものを高度化成肥料という。

化学肥料に対し，農家が自分でつくる肥料は自給肥料といい，下肥，廐肥(きゅうひ)，わら，落ち葉，作物の端切れ，草木灰，海草などからつくる堆肥*(たいひ)や緑肥*などがこれである。また大豆かす・油かす・魚かすなどは有機質販売肥料とよばれ，前記の化学肥料を無機質販売肥料ということもある。この両者は農家が購入して用いるので金肥ともよばれる。〔久保輝一郎〕

かがくぶんせき【化学分析】物質の鑑識・検出・組成決定，および存在比など成分の量を決定するために，化学反応または化学的な過程を利用して行なわれる諸操作。目的により定性分析*と定量分析*に分けられる。

かがくへいき【化学兵器】毒ガス・ナパーム弾(焼夷弾(しょういだん))・発煙弾・火炎放射兵器など，化学反応を直接利用した兵器の総称。特に毒ガスのみを意味する場合もある。核兵器*・生物兵器と並んで非人道兵器の代表とみなされ，製造禁止の声があがっているが，毒ガスについては1899年・1907年の両度のハーグ平和会議で締結された条約によって使用が禁止されている。

かがくへいこう【化学平衡】化学反応*は一般には可逆的であるため，原物質が最後まで反応して，まったく生成物質のみになるということはなく，原物質と生成物質の間にある一定の関係が満たされるところで反応が停止する。この状態を化学平衡とよぶ。この状態にある系は実際には静止しているのではなく，正・逆両反応が同じ速さで起こっているために反応が停止したようにみえる(動的平衡)だけである。

かがくへんか【化学変化】物質は一般に加熱により固体から液体へ，さらには気体へとその状態を変える。このような見かけ上の変化を物理変化といい，これに対して原子の結合体である分子種・イオン種が，それ自身あるいは相互の間で原子の組み替えなどを行なって新しい分子種・イオン種に変化する現象を化学変化という。化学変化の形式および例には以下のようなものがあげられる。①化合*。②分解：一つの物質が2種以上の物質に分かれる変化。たとえば水を電気分解すると酸素と水素とに分かれる変化。③置換：物質の一部が他の物質と置き換わる変化。たとえばベンゼンからニトロベンゼンをつくる化学変化。また，同位体の相互変換も化学変化である。しかし，吸着や溶解の現象は，物理変化と化学変化の区別がむずかしい。

〔三輪誠・加藤康〕

かかくへんどうじゅんびきん【価格変動準備金】青色申告*書を提出している者に限り，棚卸(たなおろし)資産*および有価証券(法人のみ)について将来の価格の低落によって生ずる損失に備えるために設けられる準備金。確定決算において一定金額以下を準備金として繰り入れたとき，その繰入額は所得の計算上損金もしくは経費に算入される(租税特別措置法19・53条)。ただし，土地および大規模の受注品などについては設定が認められない。その繰入限度額は時価および帳簿価格を基礎とし，価格変動の激しい物品および株式については積み立て率を高く，その他の物品などについては積み立て率を低くしている。その繰り入れについて，税務上では預金もしくは経費と認められているものの，企業会計の立場からは費用性に乏しく，利益剰余性引当金と考えられている。〔山桝忠恕〕

かがくほうていしき【化学方程式】⇒化学反応式

かがくりょうほう【化学療法】体内に侵入した病原体に対し，死滅もしくは繁殖を食い止める作用をもつ薬品を用いて行なう治療法。体表にある病原体は消毒薬で絶滅できるが，消毒薬は体内に吸収されると毒性が大きく中毒を起こすため，体内の病原体には使用できない。20世紀初頭，体内の病原体には有効で，しかも中毒を起こしにくい合成薬がエールリヒ*によって発見されて以来，それらを消毒薬と区別するために化学療法薬とよび，それを用いる治療法を化学療法とよぶようになった。初期の化学療法薬にはサルバルサンなどがあるが，やがてプロントジルにはじまるサルファ剤*へ，さらにペニシリンを契機とする抗生物質*へと進展していった。〔伊藤隆太〕

かがさんこ【加賀三湖】石川県南西部，日本海岸近くにある三つの潟湖(せきこ)の総称。西に柴山潟(しばやまがた)，東に木場潟があり，北にかつて今江潟があったが，いまは完全に干拓されてしまった。柴山潟は周囲17kmで，福井県境から北流する動橋(いぶりはし)川が注ぎ，新堀(しんぼり)川となって日本海に出る。南西岸に片山津温泉があり，温泉街は湖畔の埋め立て地に発展している。淡水魚が豊富で，コイ・フナ・ウナギなどの漁獲量が大きい。木場潟は周囲6km，水は梯(かけはし)川となって日本海に注ぎ，河口は安宅(あたか)漁港となっている。河口に近い左岸に安宅ノ関跡がある。〔長津一郎〕

かかし【案山子】秋に田の中に鳥をおどす目的で立てられた人形。語源は〈嗅(か)がし〉であるらしく，長野県下伊那(しもいな)方面では，猪害(いがい)を避けるため，イノシシの肉や毛を焼いたもの，毛髪を焼いたもの，鳥獣の死屍(しし)を竹などに差したものをかがしとよんでいる。宮崎県の椎葉(しいば)村ではやえじめ，静岡市北部の山間ではやじいも，岐阜県飛驒(ひだ)地方ではやきたてとよび，節分のやきかがしと同様に，焼き焦がしたものを用いるのが本式であったらしい。古人は田畑を害する鳥獣の背後に霊感などの働きを信じ，黒く焦がすことは臭気に火の呪力(じゅりょく)が加わって，悪霊をも駆逐すると考えた。かかしは神の依代*(よりしろ)であったと考えられる。長野県の十日夜(とおかんや)(陰暦10月10日)の行事に，〈かかしあげ〉または〈そめの年取り〉と称して，かかしを祭る習慣がある。〔合田濤〕

かがそうどう【加賀騒動】大槻(おおつき)騒動ともいう。江戸時代の三大お家騒動*の一。江戸中期，加賀藩(金沢藩)の6代藩主前田吉徳(よしのり)に寵愛(ちょうあい)を受けた大槻伝蔵(朝元(とももと))は，異例の出世をして，政治の実権を握った。これに対し家老前田直躬(なおみ)ら保守派は，世子宗辰(むねとき)に接近して大槻を攻撃した。1745年(延享2)吉徳が病死すると大槻を近習から締め出し，翌年には蟄居(ちっきょ)閉門にし，次の年，越中(富山県)に流した。1748年(寛延1)には新藩主の8代重熙(しげひろ)の毒殺未遂事件

が起こったが，これは吉徳の側室真如院の陰謀であるということが発覚し，さらに大槻との密通の疑いがもたれて，事件はいっそう複雑となった。大槻の自殺，真如院の密殺などによって騒動は落着したが，諸説があって真相は明らかでない。小説・芝居などで有名。　〔松平秀治〕

かがとび　【加賀鳶】　⇨盲長屋梅加賀鳶（めくらながやうめのかがとび）

かがのくけど　【加賀潜戸】　島根県八束（やつか）郡，島根半島北端の潜戸鼻（くけどのはな）先端の懸崖（けんがい）にある洞門（どうもん）と洞窟（どうくつ）。溶岩・集塊岩・玄武岩などが海水の侵食を受けて生じた奇勝で，岬（みさき）に近い洞門は長さ約200mもあり，洞窟は内部に鍾乳（しょうにゅう）石もみられる。大山隠岐（だいせんおき）国立公園の一部になっている。

かがのちよ　【加賀千代】　⇨千代女

かがはん　【加賀藩】　金沢藩，前田藩ともいう。江戸時代に加賀（石川県）・能登（のと）（石川県）・越中（富山県）地方を領有した藩。藩主は前田氏。百二万五千石。俗に加賀百万石といわれる。初代前田利家*（としいえ）は1581年（天正9）織田信長（のぶなが）から能登一国を与えられ，1583年には加賀の2郡を加増されて金沢に住し，のち越中3郡も加えられた。1600年（慶長5）には2代利長が関ケ原の役に功があり，徳川家康から，加賀2郡と弟利政（としまさ）に分封されていた能登を加増され，加賀・越中・能登の3か国を領有し，百十九万余石となった。1639年（寛永16）3代利常の隠居後，4代光高（みつたか）は弟利次に十万石，同利治（としはる）に七万石を分封，それぞれ富山藩・大聖寺（だいしょうじ）藩を立てた。5代綱紀（つなのり）のとき，百二万五千石となり，廃藩置県まで続いた。初期の加賀藩は，大藩であり，また豊臣家（とよとみけ）恩顧の大名であったため幕府よりにらまれたが，徳川氏との婚姻政策によって無事切り抜けた。3代利常の代には，農政改革を行ない，藩制を確立。5代綱紀は学問を好んで，儒者の松永（まつなが）尺五・木下順庵（じゅんあん）・室鳩巣（むろきゅうそう），国学者の田中一閑らを招き，多くの書物を集めた。6代吉徳（よしのり）のとき加賀騒動*が起こった。18世紀後半には経済政策が行きづまり，凶作や一揆*（いっき）も多くなり，政権の交替も頻繁（ひんぱん）になって，人材も多く出ず，見るべき政治は行なわれなかった。しかし海運政策に力を入れたため発達をみ，銭屋五兵衛*（ごへえ）らの豪商も出現した。　〔松平秀治〕

ががぶた　双子葉植物・リンドウ科。暖かい地方の池にみられる多年生の水草。根はひげ状で水底のどろの中にあり，茎は細長く，耳状にふくらんだ柄をもつ葉に続く。葉は円形で水面に浮かび，直径7～20cm。夏，径1.5cmほどの白色の花が集まって咲く。

かがへいや　【加賀平野】　⇨金沢平野

かがみ　【鏡】　なめらかな面をもち，光を反射させて物体の像をつくるもの。金属は反射率が高いので，みがいて鏡にすることができるが，現在ではあまり用いられず，ほとんどの場合ガラスをみがき，その表面または裏面に薄い金属膜を付着させ，反射率を高めて用いる。鏡の表面が平らなものを平面鏡，外へ突き出たものを凸面（とつめん）鏡，内側にくぼんだものを凹面（おうめん）鏡という。平面鏡のほかは，その表面の形により，球面鏡*・楕円（だえん）面鏡・双曲面鏡などとよぶ。学問上の研究のためには，姿見のように裏側でなく表面にめっきをした表面鏡が用いられる。これらは光学系の要素としては一般にレンズより不便であるが，レンズを用いられない場合に使用される。たとえば赤外線*に対してはガラスは不透明なので鏡を使って測定装置をつくる。鏡には色収差*がないので，広い波長範囲にわたる赤外線の実験を行なうときは，かえってレンズよりつごうがよいことがある。表面のなめらかさの程度は，レンズなどの代わりに用いる場合は光の波長程度でよいが，干渉計*に用いる場合は波長の10分の1，ときには100分の1程度にまで凹凸のないようみがかねばならない。反射率を高めるための金属薄膜は，姿見などでは化学的な銀めっき法でつくるが，研究用の表面鏡の場合はアルミニウムを真空蒸着*させてつくる。　〔吉原邦夫〕

かがみ　【鏡】　【歴史】日本神話の〈海幸（うみさち）・山幸*〉の中に，兄海幸彦（うみさちひこ）のつり針を失った山幸彦が，それを捜して海神の宮殿までやってきて，木に上ってようすをうかがっていると，ちょうど木の下の井戸に水をくみに来た下女が，水面に映った姿で山幸彦を見つけるという話がある。水面に影が映る原理がそのまま鏡の発生につながる。鏡は器に水を入れて姿を映したことから始まる。中国に〈鑑〉という洗面器に似た銅器があるが，この漢字の旁（つくり）は，さらをのぞきこんだ姿にかたどられている。もとは〈水かがみ〉に使われた容器と思われる。やがて鑑は金属の反射を応用した鏡と同じ意味に使われることになる。英語のmirror（鏡）とmiracle（奇跡）が同語源であるように，鏡のもつ不思議さは古来人々に崇拝の念をいだかせ，さらに進んで道徳的手本を意味するようにもなった。

【西洋】金属鏡の起源はまだはっきりしていないが，エジプトにはBC2800年ごろから柄のついた青銅の円鏡がある。地中海・西アジアの青銅鏡はだいたい柄鏡の発達したものである。金属柄のかわりに，茎（なかご）に象牙（ぞうげ）や黒檀（こくたん）の柄を取り付けたものもある。ギリシア・ローマの鏡は柄鏡のほか，柄の部分を台座つきの人物像に置き換えた台鏡，つり下げる環のついた懸鏡（かけかがみ），蓋（ふた）つきの蓋鏡などあり，婦人の持ち物として装飾を凝らしたものが多い。ローマ帝政時代には，手鏡に加えて壁つき鏡が出現したが，まだ室内装飾となるまでに至っていない。ガラスもぼつぼつ使用されているが，やはり金属鏡が主であった。ガラス鏡が普及しはじめるのは，12～13世紀ごろからであり，これはガラス板の背面

➔446ページ



千葉県船橋市　東京都八王子市　愛知県豊橋市

埼玉県入間郡　静岡県駿東郡　栃木県宇都宮市

案山子　スズメをはじめイノシシなどの大きな獣に対して，このほかに鳴る子や引き板，谷川の水音を利用したおどしものがある

科学哲学

科学の理論構成を反省・吟味して，科学とはなにかを解明することを目的とする哲学の部門。広義には対象を科学に限定せず，哲学の対象となり得るすべてについての科学的哲学をさす。なお，科学論・科学方法論・科学概論・科学批判・科学論理学・科学基礎論・メタ科学などの語も，内容的にはほぼ同じ意味で用いられてきた。

〔科学哲学とはなにか〕 科学哲学は科学に共通した一般的性格，個別科学間の関係，科学全体の中での個別科学の位置づけ，さらに文化全体の中での科学の位置づけ，科学に共通な仮定などを明らかにし，基礎づけることを目的としている。このような目的には，科学の細部にわたる具体的な知識は必ずしも必要ではなく，科学の理論構成を問題とする理論(メタ理論)の研究が必要である。メタ理論は，対象となっている科学の理論を言語の体系とみなし，言語分析によって研究されるので，記号論*にも属している。また，すべての哲学の問題を言語の問題に帰着して言語分析によって解くことができるとする分析哲学*の立場の上に成立している。

〔科学と哲学〕 現代の哲学には，分析哲学・マルクス主義・実存哲学の三つの大きな流れがあり，このうち科学哲学に最も密接に関連しているのは上述のように分析哲学である。最近ではマルクス主義の立場からも〈科学論〉の名のもとに強い関心が寄せられ，科学哲学の分野での進出が目だっている。それはアメリカの伝統哲学であるプラグマチズム*が分析哲学とほとんど合流し，現代科学哲学の発展の中心がアメリカの哲学となったのに続く傾向である。

哲学は科学に対し相対的にいって次の三つの点で区別される。①哲学の前科学性(科学の前段階としての哲学)。②哲学の総合性(科学を統一する理論としての哲学)。③哲学の後科学性(すでに発展分化した科学の基礎をあらためて問うものとしての哲学)。

古代ギリシアの哲学は，全体としてヨーロッパの近代科学を生み出す母体であり，また科学の前段階として科学から相対的に区別することができる。近代科学が成立したのちにおいては，科学は完全に哲学から独立した。しかし哲学は科学の母体としての機能を失ってしまったのではない。今日においても，新しい科学の部門が成立する前段階は哲学であることが少なくない。科学がさらに発達すれば，科学はさらに細分化し，科学の目的を十分効果的に達しようとすれば，科学者はできるかぎり狭い範囲に限定して徹底した細密な研究をしなければならない。しかし他方では，科学は細分化した諸部門を全体的な視野のもとに総合し統一する必要が生ずる。ここに哲学者との分業が要求されてくるのである。

科学の研究を効率よく前進させるためには，その基礎に仮定を残したままにし，その仮定の根拠を不問に付して，仮定に相対的な条件つきの知識に甘んじなければならない。そこで，分業の結果，哲学者は科学者が残した仮定の根拠を問い，科学を基礎づける任務をもつ。この科学の基礎づけは，科学の発展のある時点で科学が置かれている状況に，相対的に科学と区別される哲学を形成する。すなわち，哲学は科学の発展のある時期において，科学が置かれている状況に相対的に区別されるのであって，哲学を科学の特殊な一部門，つまり個別科学と解したり，科学とはまったく異質な独自な学問，つまり，科学性を拒否する形而上学(けいじじょうがく)とみなしたりする見解は支持できない。

また，哲学は科学と相対的に区別されるにすぎないから，哲学が発達すれば科学に成長して独立する。つまり科学哲学は，科学と直接に接触する境界領域にある哲学であり，科学哲学と科学，科学哲学と哲学との間には，明確な境界線を引くことはできない。

一方，科学は純粋科学と実用科学(プラクチカル-サイエンス)に大別され，前者は真理の認識だけを直接の目的とし，その利用価値を離れた純粋に知的な活動であり，後者は認識以外の実生活上への利用を目的としている。この意味から，この分類は哲学における主要部門である認識論・存在論・価値論に対応する。すなわち，純粋科学に対応する哲学として，認識論と存在論を問題とする理論哲学が考えられ，実用科学に対しては価値論を研究する実践哲学(プラクチカル-フィロソフィー)が対応する。もちろん，哲学は科学の一部門ではないので，哲学は純粋科学と実用科学のどちらか一方に属しているのではなく，そのどちらにも不可分に結びついているのである。

〔科学の認識論〕 科学哲学の中心は認識論である。また認識論を形成している主要なものは論理学である。知識を表現している科学の言語は，数学や記号論理学の言語のように〈記号言語〉という一種の人工言語の部分と，日本語・英語などのように日常使われる自然言語の部分とからなるが，記号論理学のレベルで認識論を研究しようとする科学哲学の分野では，この自然言語の部分までをも記号言語に翻訳再構成して考察する。このような記号論理学的研究は，メタ論理学あるいは科学論理学とよばれ，一種の文法学(一般の文法学と区別して論理文法学という)であり，記号論の中でも純粋記号論の分野に属している。したがって記号論と同様に，構文論・意味論・語用論の3部門に分けられる。

〈構文論〉 科学言語の純粋構文論としてのメタ論理学は，科学理論の論理構造を形式主義の観点にたって研究し，個別科学の一部門の内部だけでなく，個別科学間の関係，さらに科学一般に共通な論理構造などを解明する。数学基礎論*上の形式主義の立場から研究されるメタ数学(超数学)は，数学言語の純粋構文論であり，同じような研究は科学言語一般，さらに言語一般に拡張できる。

〈意味論〉 科学言語の純粋意味論としてのメタ論理学は，科学言語の論理構造を形式主義の観点からではなく，言語外の対象と言語表現との間の指示関係をも扱い，対象との指示関係を考慮に入れて理論の論理構造，たとえば科学の命題の意味・真理・推論などを解明する。数学基礎論上の論理主義は，意味論的分析によって，論理学と数学の命題はともに分析的命題(トートロジー)であり，現実の世界についての認識ではなく，可能な世界についての認識であることを明確にし，さらに経験科学の命題は総合的(事実的)命題であって，経験についての認識であるが，その真偽は論理的には不確定であることを明らかにした。

〈語用論〉 科学言語の純粋語用論としてのメタ論理学は，さらに，言語表現と主観側の経験・直観・思考との間の表現関係を考慮に入れて，理論の論理的構造を解明する任務をもつ。科学の立場に従うかぎり，経験主義を前提とした検証理論でなければならない。論理学と数学の命題はトートロジーであって論理的に真理として確定するが，語用論的分析によって，さらに経験との関係について，経験的な検証を要せずに真であると確認されるという意味でア-プリオーリな性格が明らかにされる。そして，経験科学の命題が事実的であってその真偽が論理的に不確定であるということは，さらに経験との関係では，経験による検証を要するという意味でア-ポステリオーリ(経験的)な性格が明らかにされる。形而上学の命題は，現実の世界についての認識を意図してはいるが，検証不可能であって科学性を欠いているという意味でニセの命題(擬似命題)であることが明らかにされる。数学基礎論上の直観主義は，数学言語の純粋語用論としてのメタ論理学上の一つの立場と解することができる。

また，記号論の範囲に属するが，記号言語のような人工言語を構成しないで，自然言語のままで記号論的(構文論的・意味論的・語用論的)分析を行なう必要もある。その場合はメタ論理学の成果の上に，さらに自然言語の経験的研究が必要で，それは記述的記号論に属している。ここでは認識

論は論理学だけでなく，心理学や社会学や歴史学などの社会科学の成果をふまえなければならない。

科学の認識論は，言語分析という記号論的方法において，論理学を中心に心理学・社会科学と連なるだけでなく，対象の側面においても科学と連なっている。たとえば物理学の認識論は，言語分析という方法の側面において論理学・数学・記号論・心理学・社会科学と連なっているだけでなく，対象の側面において物理学そのものと連なっている。すなわち隣接科学との関連，科学全体の中での個別科学の位置を明確にし，さらに科学を統合する必要から，科学一般と連なっている。したがって，認識論的研究それ自体は，科学として未成熟なものにならざるを得ないが，科学の前段階を脱して，科学として成長するにつれ専門分化し，総合性・後科学性を失って，哲学から独立する部門もある。たとえば，数学基礎論は，このような過程を経て数理哲学*——主として数学の認識論——から分化独立した新しい部門にほかならない。つまり，認識論から個別科学が育っていくのである。しかし同時に，認識論は哲学としての任務を失うことはない。

さらに科学以外の領域，たとえば道徳・芸術・宗教などの分野についても，認識論的方法が適用でき，認識論全体をおおうことが可能であり，この意味では，科学性を最初から拒否する形而上学的認識論とのみ対立するだけであるといえる。

【科学の存在論】科学が不問に付している仮定には存在仮定がある。たとえば，物理学を代表とする自然科学は物質の存在を仮定し，心理学を代表とする人文科学・社会科学では心(精神)の存在を仮定している。そこで，究極の存在を物質とみなす立場(唯物論*)と心とみなす立場(唯心論または観念論*)とが対立する。また，数学(論理学も含め)は数・関係・集合・命題などのような普遍の存在を仮定しているが，このような普遍の存在を肯定する立場(実念論)と，これを否定し，唯一の存在は時間と空間の中に現われる個体だけであると主張する立場(唯名論)とが対立する(→普遍論争)。科学自体はこれらの存在仮定を不問に付し，避けて通るが，これを論ずる哲学が存在論である。実際，存在論は形而上学に陥りやすく，その点でしばしば批判の的となるが，メタ論理学を中心とする科学の認識論と結びつけて論ずるかぎり，科学哲学の正当な一部門とみなされる。

【科学の価値論】実用科学はその基礎に価値の仮定を残している。たとえば，臨床医学は生命価値を仮定し，健康の維持を目的とする技術としての知識である。法学(法解釈学)は社会価値を仮定し，社会の法秩序の維持を目的とする技術としての知識である。しかしながら実用科学は，これらの価値が是認される根拠や諸価値の間の関係などについて言及しない。また一方，純粋科学は，直接には認識価値以外の価値の仮定をもたず，真理の認識だけを目的とする知識であるが，厳密には，科学の理論構成に際して，特に，可能ないくつかの理論の中から一つを選択する場合，認識価値以外の価値を仮定する必要に迫られることが多い。そこで，実用科学だけでなく，純粋科学をも含めて，科学の基礎にある価値仮定を論ずる価値論が成立するわけである。

本来の価値論は規範的理論であるが，分析哲学成立以前の価値論が分析的理論と記述的理論を軽視したため，形而上学に陥りがちであったので排斥されてきた。しかし今日では，科学哲学として成立し得ると一般に認められるに至っている。

なお，記述的価値論は，価値を心理的・社会的事実の側面において記述し分析するもので，その大部分はすでに経験科学として哲学から独立している。また分析的価値論は言語の分析という点からメタ理論に属し，メタ価値論ともいう。分析の目的は〈価値とはなにか〉という評価語の意味を明瞭に認識しようとするもので，みずからは評価的立場を排し，価値に対して中立であろうとするもので，むしろ認識論に属するものとみなされる。しかし厳密には，分析的価値論は，認識論の領域を越え，不可避的に規範的価値論に踏み込んでいる。したがって，価値に対して厳密に中立とはいえなくなっている。さらに最近，価値言語を人工言語として再構成し研究するメタ論理学が記号論理学の中で発展しつつあり，評価語の意味を明らかにする分析的理論にとどまらず，〈いかにすべきか〉，〈いかにあるべきか〉に答える規範的理論の性格をももっている。規範的価値論の分野で完全に哲学から独立した科学とみなされるのは，価値論理学の一部と，最適な意志決定を求める決定理論(デシジョン-セオリー)で，たとえば，ゲーム理論・統計的決定理論などがある。

このように規範的価値論は現代の科学哲学において重要な研究領域となっており，さらに人間論・人生論・道徳哲学(倫理学)など，価値論を基礎とする分野においても大きな役割を果たしている。

【科学哲学の成立】古代ギリシアの伝統の中でヨーロッパ哲学が誕生し，これを母体として近代科学が発展し，さらに科学が細分化，専門化するにしたがってこれらを総合し，さらに科学の成立の基礎を問題とする哲学——主として科学哲学——が成立してきた。

現代科学哲学は言語分析的方法によっている点から，分析哲学の成立の上に発展したものであり，以後，つねに分析哲学によってリードされてきた。

科学哲学の発展をになった人々は，科学哲学の成立過程を反映し，哲学・数学・物理学をはじめ個別科学の分野においても，それぞれ業績を残した人々が多い。まず現代科学哲学の源流はイギリスの経験主義の系譜に連なり，実証主義*の創始者で物理学者としても知られるマッハ*にさかのぼる。彼の理論はアインシュタインの相対性理論*の先駆思想となるとともに，他方ではウィーン学団を中心とする論理実証主義*の先駆ともなった。また，フランスの数学者であり物理学者でもあるポアンカレ*の業績も見のがすことはできない。

一方，記号論理学の分野では，ライプニッツ*を先駆とし，論理代数を創始したイギリスの数学者ブール*，現代数学の基礎となっている集合論の創始者カントル*，さらに数学基礎論における論理主義を提唱し，メタ論理学の先駆者としても知られるフレーゲ*，記号論さらには記号論理学に数多くの業績をもち，プラグマチズムの創始者として著名なアメリカの哲学者パース*などがあげられる。

社会科学の哲学の分野では，イギリスの経験主義を形成した哲学者であるとともに，近代経済学の発展の基礎を確立した社会科学者として知られるロック*・ヒューム*・アダム-スミス*・ベンサム*・J.S.ミル*をあげなければならない。

以上のような先駆思想の影響下に，形而上学的傾向の強い伝統哲学を革命しようとする哲学運動が，今世紀にはいって，特に1920年代ごろから世界の各地に相前後して発生した。現代科学哲学の成立に直接最も大きな貢献があるのは，学派としては，イギリスのケンブリッジ分析学派，オーストリアのウィーン学団を中心とする論理実証主義，ポーランドのワルソー学派の三大学派である。この三大学派は，経験主義と実証主義の哲学を，言語分析を方法とする分析哲学として再編成し，みずからの手によって記号論理学を創造した。そしてさらに記号論理学をメタ論理学として高次の観点から基礎づけることによって，言語分析における論理的分析の手法を開発するに至った。さらに，アメリカの哲学者チャールズ-モリスが1930年代の後半に提唱し始めた記号論は，パースの記号論の先駆思想をメタ論理学の思想と統合し，それまでの構文論と意味論に，新たに語用論を加えることによってメタ論理学の立場を完成した。記号論は，純粋記号論としてメタ論理学を含むだけでなく，記述的記号論を含んでいるので，自然言語の分析方法をも提供している。

〔永井成男〕



①内行花文鏡　中国漢代　白銅製　21.2cm



②海獣葡萄鏡　中国唐代　白銅製　17.3cm



③鼉龍鏡（画文帯神獣鏡の仿製）　38.4cm



④ツタンカーメンの鏡入れ　カイロ美術館蔵

鏡　①②③は東京国立博物館蔵

に錫箔(すずはく)をはったものであった。17世紀にはフランスで大形のガラス鏡がつくられるようになり，有名なベルサイユ宮殿*の〈鏡の間〉のように，室内装飾や家具装飾にまで用いられるようになった。現在のめっき法による鏡は19世紀にはいってから出現した。

〔東洋〕 東洋では中国の青銅鏡がいちばん古い。河南省安陽の殷墓(いんぼ)から一例発見されたといわれるが，鏡だという確証はむずかしい。紀元前７～紀元前８世紀になると，春秋初の虢国墓(かくこくぼ)から出土した確実な青銅鏡がある。円鏡で鏡背の中央に条鈕(じょうちゅう)がつき，粗略ながらトラ・シカ・鳥が陽刻されている。戦国時代以後は青銅鏡がますます流行し，精巧なものがつくられる。これらの青銅鏡は柄のないかわりに，鏡背の中心に穴のある突起(鈕)がつき，そこにひもを通して手持ちのささえとするか，あるいは東晋(とうしん)の顧愷之(こがいし)の《女史箴図(じょししんず)》に描かれているように，鏡架にすえて用いた。一般に西洋は柄鏡，東洋は鈕鏡といわれるが，イランのルリスタンやシベリア発見の青銅器には，柄鏡のほかに柄のつかない円鏡がある。円鏡の場合は背面に動物をかたどった把手(はしゅ)，あるいは条鈕がつく。時期的には，それらが古く，中国の青銅鏡は西方から流伝してきたものであろう。中国では銅鏡の反射をよくするためにスズを多く混ぜた白銅の鏡をくふうした。また，鏡背を豊かな文様で飾り，時代の特色をよく示している。先秦鏡(せんしんきょう)や前漢鏡には細密な地文様や図案化された禽獣(きんじゅう)，幾何学文を配したものが多く，神秘性をひそませる。後漢から六朝(りくちょう)時代にかけては，道教の流行にあわせ，神仙(しんせん)・霊獣の世界を表わすものが多く，図像も平坦(へいたん)なものから浮き彫り風なものとなる。隋(ずい)・唐時代には前代の呪術(じゅじゅつ)，神仙思想的なものが影をひそめ，絵画的，写実風の図柄が多くなり，鏡銘も吉祥語句より文学的なものが好まれた。人々の鏡に対する考え方がいくぶん変わったように思われる。なお，異国趣味豊かな〈海獣葡萄鏡(ぶどうきょう)〉などの流行も当時の特色である。また，鏡形としては円鏡のほかに方鏡・八花鏡・八稜(りょう)鏡などの新形式が生まれ，背面装飾には鋳出のほか螺鈿(らでん)・銀貼(ぎんばり)・平脱などの技法がこらされて多様をきわめた。中国の青銅鏡は盛唐時代を頂点としてしだいに芸術的価値を減ずる。大量生産のために文様が簡略化され，薄手となる。青銅鏡は清(しん)代まで続いて，やがてガラス鏡にかわられた。

〔日本〕 日本の鏡は弥生(やよい)時代に中国の青銅鏡を輸入することから始まる。日本では中国で考えられた以上に鏡に神秘的な力を感じ，神霊のやどるものとして，あるいは神威の象徴として取り扱った。アマテラスオオミカミから授かったという八咫鏡(やたのかがみ)が剣・玉とともに天皇の地位を象徴する三種の神器*とされたことや，神社の神体として鏡が祭られることからも，それがわかる。やがて国内でも中国鏡を模倣した鏡(仿製鏡(ほうせいきょう))がつくられるようになり，それらは墳墓の中に副葬されて，今日多数発見されている。奈良時代には中国唐の豪華な鏡が輸入され，正倉院に残る宝物鏡の大部分は中国製である。平安後期以後になると，花鳥を図案とした日本風の鏡(和鏡)がつくられるようになり，宋(そう)代の柄鏡を取り入れながら，江戸時代にまで続く。江戸時代には西洋のビードロ(ガラス)鏡が知られ，やがてガラス鏡が一般化した。

〔小谷仲男〕

かがみ　**【鏡(町)】**　熊本県八代(やつしろ)郡の町。人口19,000。八代市の北にあり，鹿児島本線の有佐(ありさ)駅がある。1955年(昭和30)有佐・文政の２村が合併して現在の町域となった。八代海の奥部に面する海岸地区は江戸時代からの干拓地で，文政という旧村名がその歴史を物語っている。米・麦のほかイグサを栽培し，また野菜の促成栽培や沿岸ではノリの養殖なども行なっている。

かがみがい　**【鏡貝】**　軟体動物・二枚貝類・マルスダレガイ科。シラカイともいう。殻長(かくちょう) 8 cm，殻高 7 cm，殻幅 3 cmほど，殻(から)のふくらみは弱い。真円に近い円形の殻が，純白色で美しい。殻の質はかたく，表面に同心円状の多くの筋がある。殻の内面は白い。北海道南部から九州および朝鮮に分布し，潮間帯から水深10 mほどの内湾の砂底にすむ。

かかみがはら　**【各務原(市)】**　岐阜県南部の市。各務原台地*上に位置し，明治初年までは不毛の原野であったが，1918年(大正７)に陸軍飛行場が置かれてから発展した。1963年(昭和38)市制施行。人口11万3,000。産業三大別人口比は７：48：45。近代工業が発達し，川崎重工業の航空機工場や多くの紡織工場・金属工業団地などが立地する。陸軍飛行場跡は，第２次世界大戦後在日アメリカ軍の基地となり，現在は航空自衛隊基地がある。高山本線・名古屋鉄道各務原線・国道21号線(中山道(なかせんどう))が市域を東西に貫き，岐阜大学の農・工学部がある。

かかみがはらだいち　**【各務原台地】**　岐阜県南部の各務原市にあり，木曾(きそ)川北岸に東西約９km，南北約２kmにわたって広がる洪積(こうせき)台地(開析扇状地)。台地

上は水利が悪く，江戸時代には広い林野であったが，明治にはいって軍用地となり，開拓はいっそう遅れた。1920年(大正９)高山本線，1926年(昭和１)名古屋鉄道各務原線が敷かれ，1930年代には大規模な軍需工場ができ，現在では航空機・自動車・紡績などの工業ができて，中京工業地帯の一部として発展している。　〔高野　繁〕

かがみしこう　【各務支考】⇨支考

かがみじし　【鏡獅子】長唄(ながうた)・日本舞踊の曲名。本名題《春興鏡獅子》。新歌舞伎(しんかぶき)十八番の一。福地桜痴作詞，3世杵屋正次郎(きねやまさじろう)作曲。1893年(明治26)初演。古い石橋物《枕獅子(まくらじし)》をもとにしてその廓(くるわ)気分を除き，前半をお小姓役，後半を勇壮な獅子の狂いとした。

かがみじたて　【鏡仕立て】⇨額縁仕立て

かがみのま　【鏡の間】能舞台で，揚げ幕の奥にあり，楽屋と橋掛かりをつなぐ板張りのへや。大鏡が置いてあり，楽屋で扮装(ふんそう)を終えたシテはここで能面をつけ，鏡に向かって精神を統一し，出を待つ。囃子(はやし)方も出演をまえに，ここで楽器の調子を調べる。➔能舞台

かがみはだ　【鏡肌】断層運動時の摩擦によって，断層面となった岩盤面に生じる鏡のような光沢をもった面。鏡石・鏡面などともいう。鏡肌は断層のその場での方向や傾斜を示しているが，さらにその面にはすべりの方向傾斜を示すかすり傷・ひっかき傷(掻痕(そうこん))があることが多い。

かがみびらき　【鏡開き】鏡餅(かがみもち)を下げ，雑煮やしるこにして食べる正月行事の一。もとは正月20日に行なわれていたが，寛永年間(1623〜1643)以後11日に改められ，定型化した。武家では，年頭に際して主家の具足に供えた鏡餅(具足鏡)を君臣ともに分かち合って食べ，君臣の関係を固める祝いの儀式が行なわれた。商家・農家では蔵開きなどといって，これを限りとして正月を終わり，この日を仕事始めとした。

かがみもち　【鏡餅】正月，二重あるいは三重に重ねて神に供える丸いもち。いまはふつうもちの上にダイダイ・イセエビ・クリ・ウラジロなどを載せる。腰高に重ねもちにするのは，その形が心臓をかたどったもので，生命力を表わすといわれている。神仏などに供えたあと，鏡開きの日に会食したり，祝いの雑煮に入れて食する地方が多い。

かがみやまこきょうのにしきえ　【加賀見山旧錦絵】義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。通称《加賀見山》。11段の時代物で容楊黛(ようようたい)作。1782年(天明２)江戸外記座(げきざ)初演。1724年(享保９)石見(いわみ)(島根県)浜田藩主松平康豊(やすとよ)の江戸藩邸で起こった事件を加賀騒動に結びつけて脚色したもの。6・7段が好評で現在でもしばしば上演されるが，他の段はすたれてしまった。6段



鏡獅子　前半の小姓弥生(７代目中村芝翫)には，上品さと優雅な味が必要とされ，後半の獅子の勇壮さとの対照があざやかである



加賀見山旧錦絵　〈草履打〉の場　中老尾上(中村歌右衛門)を策略におとしいれ，弾正(市川八百蔵)の前で草履打ちにする局の岩藤(実川延若)(歌舞伎の舞台より)

目の〈草履打(ぞうりうち)〉は特に名高い。歌舞伎(かぶき)化は翌1783年で江戸森田座初演。御殿女中の生態を活写しているため，3月の弥生(やよい)興行には御殿女中の宿下がりに見物する者が多く，たびたび上演された。新内節に同名曲がある。　〔前田慎一〕

かからしま　【加唐島】佐賀県の北部，東松浦半島の沖合い約4kmにあり，東松浦郡鎮西町に属する玄武岩の台地の島。面積4.8km²，人口500。石器時代の遺跡がある。近海はアジ・タイ・サバ・イカ・ブリが豊富で，漁業を主とし，麦・サツマイモなどもつくっている。北に大泊，南に加唐島の2集落がある。

かかり　日本伝統音楽の用語。曲の形態・機能を示す場合と，情趣・模倣を意味する場合とがある。前者の例としては楽を演奏しはじめる際の序ガカリがあり，後者では，他流派や他種目の音楽様式を取り入れて模倣する半太夫(はんだゆう)ガカリ(半太夫節ふうに)・平家ガカリ(平曲ふうに)・謡ガカリ(謡曲ふうに)・新内ガカリ・琴(箏(そう))唄(ことうた)ガカリなどがある。また勢い込んだ趣を表わす勢(きおい)ガカリという手もある。

カカリア　［cacalia］双子葉植物・キク科。インド原産の一年草。和名をベニニガナという。庭に植えられ，高さ25〜50cm。葉は先がとがり，基部は茎を抱く。夏から秋まで赤色の花を順次咲かせる。

かがりび　【篝火】照明の一種。柱の先からつったり，三脚上に置いた鉄製のかごの中でまきをたいて照明するもので，主として屋外にすえ置いて使用する。奈良・平安時代から行なわれているが，現在でも宮廷・社寺の儀式に使用されている。また漁労にも古くから用いられた。

かかりむすび　【係り結び】おもに文語において，文中の特定の助詞に呼応して，特定の活用形で文を終わらせること。〈ぞ・なむ(以上，強意)，や・か(以上，疑問・反語)〉が上にあるときは，文を連体形で結ぶ。(例：山ぞ見ゆる。なにによりてか目を喜ばしむる。)また，〈こそ(強意)〉があるときは，已然形(いぜんけい)で結ぶ。(例：山こそ見ゆれ。)これらの助詞を係り(助詞)といい，これと呼応する活用形を結びという。係り結びの法則は，平安時代に発達したもので，中世以降しだいに衰えた。　〔市川　孝〕

ガガーリン　［Yurii Alekseevich Gagarin］(1934〜1968)　ソ連の飛行家。世界ではじめて宇宙飛行に成功した。ロシア共和国のスモレンスクに生まれ，オレンブルグ航空士官学校を出て空軍にはいった。1961年4月12日人間宇宙船ボストーク1号に乗り，1時間48分の飛行で地球を一周した。のち大佐に昇進したが，1968年3月27日，ジェット機の訓練飛行中に墜死，クレムリン宮殿に葬られた。

かがわ　【香川(県)】四国地方北東部の県。北は瀬戸内海に面し，南は徳島県，南西の一部は愛媛県と接する。讃岐(さぬき)の全域を占め，面積は1,879km²で，大阪府に次ぐわが国第2の小県である。人口100万0,000，人口密度1km²あたり532人。県木・県花はオリーブ，県鳥はホトトギス，県獣はシカ。県庁のある高松以下の5市と，7郡(38町)に分かれる。

【自然】四国北東部の讃岐半島とその付近の島を含み，南高北低の半月形の地形である。北部には讃岐平野が開け，讃岐富士とよばれる飯ノ(いいの)山(422m)や，屋島付近の溶岩台地などの小さな起伏がある。南部は，傾斜のゆるやかな丘陵地帯を経て，高さ800〜1,000mの地塁山地をなす讃岐山脈が徳島・愛媛両県境に連なり，最高峰は龍王(りゅうおう)山(1,057m)である。海岸線は長く，瀬戸内海の小豆(しょうど)島・豊(て)島・直島・塩飽(しわく)諸島・粟(あわ)島・伊吹(いぶき)島など，110の島が県域に含まれる。これらの島および沿岸部は瀬戸内海国立公園に含まれ，小豆島の寒霞渓(かんかけい)や高松市内の屋島・五剣山・栗林(りつりん)公園などの景勝地が多い。

気候は温暖な瀬戸内式気候で春はサクラ，夏は緑，秋は紅葉，冬は雪と，四季の別が明らかである。年間降水量は1,000mmをやや越す程度で，わが国では寡雨地域に属する。夏は夕なぎが続いて蒸し暑い。冬は晴天の日が多く，強い北西風が吹いて漁業や航海の妨げになることが多い。高松市では年平均



香 川 県



香 川 県　讃岐平野のため池群。丸亀市南方から高松市方面を望んだもの。遠景中央は飯ノ山(讃岐富士)。背後に城山と五色台が連なる

気温14.9℃，1月は4.4℃，8月は26.8℃，年間降水量1,242mm(1967)。

【産業・経済】産業三大別人口比は，13：34：53。古くからの農業県であるが，最近は近代工業も興り，観光開発も盛んである。県民分配所得は1人あたり120.9万円(全国24位,1977)で,農業生産所得は7%で,全国平均の6%よりもわずかに多い。《農林水産業》地味豊かな讃岐平野では古くから稲作を行なったが，雨量が少ないために多くのため池がつくられ，日本最大の満濃池(まんのういけ)をはじめとするため池に灌漑(かんがい)用水の約70%が依存している。この水不足を補うために，吉野川の水を徳島県池田町付近から讃岐山脈に7.7kmのトンネルを掘って，香川県財田(さいた)町まで引き，ここから県内各地へ水路で送る〈香川用水〉が，県の工事として1975年(昭和50)に完成した。香川用水で得られる水量は，香川県内の全ため池のそれに匹敵するという。高度な集約農業による米・麦の2毛作が行なわれるが，麦作は最近ややすたれた。酪農や養鶏も行なわれ，タバコなどの工芸作物や花卉(かき)栽培も行なわれる。米の平年収量は約12万tでほぼ自給できる程度である。農家の副業には麦稈真田(ばっかんさなだ)・かますなどのわら工品がつくられる。平野周辺の丘陵地帯にはミカン・モモなどの果樹園が広がり，小豆島特産のオリーブとともに県外へ移出される。山地はほとんどマツにおおわれ，讃岐山脈にはスギ・ヒノキがみられるが，森林面積が狭いうえ，雨が少ないために樹木の生長がおそく，林業はあまりふるわない。水産業は古くからタイ・サワラなどの沿岸漁業が行なわれてきたが，最近は瀬戸内海沿岸に工業地帯の造成が進んで漁場がせばめられ，漁獲量は減少している。各地でノリ・カキ・真珠などが養殖され，東部海岸の引田(ひけた)町周辺ではハマチ・クルマエビなどの養殖が盛んである。製塩は古い伝統をもち，全国製塩高の30%を占めていたが，わが国最初のイオン交換膜製塩の工場が坂出(さかいで)にできたのをきっかけとして，坂出・丸亀(まるがめ)両市を中心にひろがっていた塩田はすべて姿を消し，その跡が工場敷地や港湾施設に転用されている。《鉱工業》金属資源にはみるべきものがないが，小豆島にカコウ岩・安山岩の特産があり，沿岸各地で採掘され，そのために山容が変わったところが多い。直島の製錬所では銅・亜鉛を製錬する。工業は，一般に家内工業的性格が強いが，沿岸地帯を中心に繊維・化学などの近代工業も発達しつつあり，特に坂出市西部の番ノ州工業地域は，番ノ州と呼ばれていた浅瀬を埋め立てたもので，第2次世界大戦後県によって計画され，第1期(459万m^2)。第2期(153万m^2)の工事がすでに完成し，造船・合成繊維などの工場が誘致されている。工業製品の年間出荷額は5,795億円(1973)で，全国でも中位にある。繊維工業は，西部沿岸の丸亀・坂出・観音寺の各市や，東部の大内町，小豆島の土庄(とのしょう)町淵崎(ふちざき)などに紡績工場が多い。化学工業は，塩を原料とする苛性(かせい)ソーダ・塩酸・カリ肥料などが旧塩田地帯で生産されるほか，過リン酸石灰ややし油がつくられる。中小企業では，東部の白鳥町の手袋製造は全国産額の80%で，県移出品の首位を占める。高松市のちり紙は年産25万tで，静岡県に次ぐ全国第2位を誇り，丸亀市特産のうちわは，年間9,000万本を産し，全国産額の80%を占める。小豆島ではしょうゆの醸造が盛んで，年間40,000kl余を産し，阪神(はんしん)方面へ出荷される。伝統的な特産物としては，高松市に象谷塗(讃岐塗)とよばれる漆器類があり，無形文化財の指定を受けている。

【交通・都市】四国地方の表玄関口にあたり，高松を中心として海陸の交通網が発達している。陸上交通では，高松から西へ予讃(よさん)本線，東へ高徳本線が海岸を走り，土讃本線も高松を起点としているので，高松駅の乗降客は1日20,000人を越えるほどである。私鉄では，〈こんぴらさん〉の名で親しまれる金刀比羅宮(ことひらぐう)へ参宮客を運ぶ高松琴平電鉄がある。道路交通は瀬戸内海沿岸をほぼ東西に走る国道11号線を中心に，国道32号線・193号線が県域を南北に縦断して国道192号線と結ばれている。道路の舗装率は42.1%(1974)で，四国では第一，全国的に見ても第6位を占めている。海上交通では，高松～宇野(岡山県)間に国鉄の連絡船が日におよそ30往復しており，快速のホバークラフト*も就航している。普通の連絡船では57分，ホバークラフトでは23分である。瀬戸内海観光ルートの要地を占める高松には，別府航路の豪華船が寄港する。また，宇高国道フェリーをはじめとする多くのフェリーボートが本土との連絡を密にし，高松～玉野間，坂出～児島(こじま)間の瀬戸大橋の計画も進んでいる。航空路には東京・大阪・大分・鹿児島・福岡などと結ぶ高松空港がある。人口は沿岸部の中央に集まり，ここに高松市・丸亀市・坂出市などの都市が並んでいる。高松市・丸亀市はもと城下町，坂出市は製塩業から発達した工業都市である。讃岐平野の西部には，善通寺・観音寺の2市や，金刀比羅宮の門前町として知られる琴平町がある。善通寺市は弘法(こうぼう)大師の生地として名高く，観音寺市は大師が神宮寺に聖観音像を安置したことに由来する。また，県下各地には四国遍路の札所として発達した集落がみられる。善通寺・観音寺の両市は1953年(昭和28)の町村合併促進法施行以降の新市である。

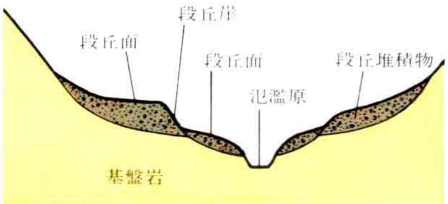
【歴史】県下各地で発掘される多くの出土品によって，有史以前から縄文(じょうもん)式および弥生(やよい)式文化をもつ民族が住んでい

たことが推定される。歴史時代にはいって，讃岐とよばれるようになり，佐奴岐・狭貫などとも書かれたが，その意味はよくわからない。大化改新の際，国司が設置されて平安末期まで続き，いまも条里制の跡が讃岐平野に残る。平安時代には，善通寺に生まれた弘法大師が布教のために四国全土を歩いて88か所(香川県内に21か所)の霊場を設けた。鎌倉時代には佐々木盛綱が讃岐の初代守護職(しゅごしき)となり，南北朝時代になって最後の守護職舟木頼重(よりしげ)が細川定禅に滅ぼされ，讃岐は細川氏の所領となった。戦国時代に豊臣秀吉(とよとみひでよし)が細川氏を討伐し，1584年(天正12)仙石秀久(せんごくひでひさ)を初代大守に任じ，尾藤智宣(とものぶ)を経て1587年に生駒親正(いこまちかまさ)が大守となった。1640年(寛永17)生駒氏はお家騒動のために除封され，翌年幕府は讃岐を2分して丸亀に山崎家治(いえはる)，高松に松平頼重(よりしげ)を封じた。山崎氏が3代で絶家したのち，1658年(万治1)に京極高次が転封され，江戸中期以後は，松平氏十二万石，京極氏(丸亀)五万一千石，京極氏(多度津)一万石の3藩に分かれた。1871年(明治4)の廃藩置県に際して高松藩が高松県となり，次いで讃岐全土が統合されて香川県となった。香川県は一時名東県に合併されたが，1875年に香川県に復し，さらに翌年愛媛県に合併されて愛媛県讃岐国と称した。その後1888年愛媛県から分離独立して，現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

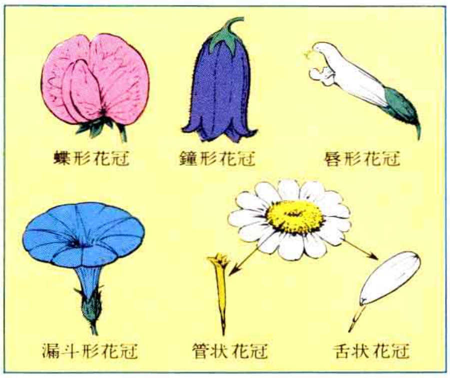
かがわかげき【香川景樹】(1768～1843) 江戸後期の歌人。鳥取の武士の家に生まれ，京都で二条派*の歌人香川景柄(かげもと)の門に学び養子となった。伝統を墨守する二条派に安住しえず，賀茂真淵*(かものまぶち)に反発して〈ただこと歌*〉を提唱した小沢蘆庵*(ろあん)の影響を強く受け，現代のことばを用い，現代の人の耳に快い音調で詠歌せよとの〈しらべの説〉を主張し，当時の歌壇に新風を樹立した。木下幸文*(たかふみ)・熊谷直好*(くまがいなおよし)ら彼の膝下(しっか)に参集した歌人は桂園(けいえん)派*と称した。歌集《桂園一枝*》《桂(かつら)の落葉》のほか，《古今集正義》《土佐日記創見》などの注釈もある。

かがわげんえつ【賀川玄悦】(1700～1777) 江戸時代の産科医。近江(おうみ)(滋賀県)彦根(ひこね)に生まれる。字(あざな)は子玄，本姓は三浦。7歳のとき母方の姓を継ぐ。京都に出てあんま・鍼灸(しんきゅう)を行なって生計を立てる一方古医方を学んだ。たまたま一婦人の難産をちょうちんの鉄かぎを用いて救ったことから助産術には手術が必要なことを痛感し，種々考案くふうして回生術(胎児の位置異常で母体の生命が危険なとき，胎児を犠牲にして母体を救う法)をはじめとする救護術を案出した。これらはわが国ではじめて試みられたもので，その医名は一躍あたりを風靡(ふうび)した。1766年(明和3)《産論》を著わし，賀川流産科の基礎を固めた。〔大鳥蘭三郎〕


賀川豊彦



河岸段丘 断面



花冠


ガガンボ (左)ベッコウガガンボ (右)キリウジガガンボ

かがわとよひこ【賀川豊彦】(1888～1960) キリスト教伝導者・社会事業家。兵庫県出身。アメリカのプリンストン大学卒業。神戸(こうべ)市の貧民窟(ひんみんくつ)に住んで救済と伝導の生活を始め，貧困という社会問題をキリスト教的実践によって解決しようと診療活動に励んだ。労働組合運動にも取り組み，さらに福音農民学校・協同組合・療養所などの設立や，具体的な労働者農民運動を全国的に広げた。第2次世界大戦後は，伝道・共済組合・世界連邦運動の推進に尽力した。小説《死線を越えて》(1920)は当時のベストセラーになったほか，《神の懐(ふところ)にあるもの》《精神運動と社会運動》などの著書がある。〔岸野淳子〕

かかん【花冠】花の構成要素の一つで，花弁(花びら)によって構成される。がくとともにめしべ・おしべを保護する。がくよりも柔質で，色彩に富んだものが多いが，ときには目だたぬものもある。形によって十字形花冠(アブラナ科)・漏斗形花冠(アサガオ)・舌状花冠(タンポポ)・唇(しん)形花冠(シソ)・蝶(ちょう)形花冠(マメ科)などがある。また，花弁が離れているか癒合(ゆごう)しているかで，離弁花冠・合弁花冠の別があるが，これは双子葉植物を二大別するときに用いられ，合弁花類は離弁花類から進化したものと考えられている。〔高島文三〕

カガン【可汗】〈ハガン〉とも読む。5世紀ごろ以後，モンゴル高原に建てられた諸遊牧国家の君主の称号。本来は鮮卑系の諸部族に用いられた部族長の称号であったが，5世紀初めにモンゴル高原を統一した柔然(じゅうぜん)の君主がこの称号を採用したことから君主・皇帝の内容をもつ尊称となり，以後突厥(とっくつ)・ウイグル・モンゴル帝国の君主はみなこの称号をおびた。なお，カン*(ハン，汗)をカガンの同義語とみる説と，両者の間に尊卑の差をみる説とがある。

かかんしゅう【花間集】中国，唐代末期から五代にかけての詞*(叙情詩の一形式)500余首を集めた本。10巻。940年出版。五代後蜀(こうしょく)の趙崇祚(ちょうすうそ)の編で，欧陽炯(おうようけい)の序がある。

かがんだんきゅう【河岸段丘】河岸の一方，あるいは両側の表面が平坦(へいたん)な細長い階段状をなしている地形。河成段丘ともいう。成因は，地盤の上昇，海面の低下，火山活動，気候の変化，河川の争奪などによって新たに侵食力が増大し，そのために河流の下刻作用が活発となって旧河床の一部が侵食されずに残された際に生ずる。旧河床にあたる平坦な部分を段丘面，新たな侵食によって生じた急崖(きゅうがい)を段丘崖といい，侵食力の増加を侵食の復活，あるいは河川の若返りという。段丘は侵食の復活に応じた数だけできるのが一般的である。また，復活の結果，河川の縦断面には傾斜の急変する遷移点が形成される。段丘を構成する物質は，旧河床の砂礫層(されきそう)からなる場合と，砂礫層が薄いときの基盤岩からなる場合とがある。地盤運動の激しいわが国では，各所に段丘がみられるが，段丘面は多く耕地などに利用されている。〔桑原正見〕

がかんぼ【大蚊】こん虫類・双翅(そうし)目・ガガンボ科に属するこん虫の総称。広義には，ヒメガガンボ科をはじめ近縁の数科を含める。体形はカに似て細長く，脚が非常に長い。体長は数ミリメートルの小形種から40mmに達する大形種まで変化に富む。色彩は黒色・かっ色・橙黄(とうおう)色・

灰色などのものが多く，翅(はね)に種々の斑紋(はんもん)をもつものが多いが，無翅の種類もある。幼虫は円筒状で，朽ち木中に穿孔(せんこう)して生活するものや，土中にあって植物の根を食害するもの，土中の腐敗植物やきのこ類・蘚苔(せんたい)類などを食するもの，生きた植物の葉肉を食するものなど変化に富む。さらに陸生のもの，水生のもの，半水生のものなど生活様式もきわめて変化に富んでいる。全世界に多数の種類が分布しているが，特に温帯地域に最も種類が多く，ニッポンユキガガンボのように，無翅で，積雪上に見いだされる特異な種類もある。日本に産するおもな種類には，オオユウレイガガンボ・ベッコウガガンボ・マダラガガンボ・ダイミョウガガンボ・シリブトガガンボなどがあるが，これらのほかに次のような種類が農作物の害虫として知られる。キリウジガガンボは本州・四国・九州などに分布し，体長14〜18mm，淡かっ色で，翅は透明で前縁に顕著な淡かっ色斑があり，幼虫は円筒形で全体暗灰色，老熟すると20mm内外に達し，水稲の苗の根やムギ類の根を食害する。アオホソガガンボは北海道に広く分布し，体長15〜20mm，幼虫はムギ類の根を食害する。北海道・本州に分布し，エンドウ・ダイコン・ムギ類などの根を食害するカラフトアオホソガガンボ，同じく北海道・本州に分布し，イネやムギ類・クワなどの根を食害するヒメキリウジガガンボやオオキリウジガガンボなども重要な害虫である。〔鈴木邦雄〕

かき 【牡蠣】 軟体動物・二枚貝類・イタボガキ科の総称。日本に20数種が知られ，いずれも左の殻(から)で岩などにかたく付着して暮らしている。食用として重要なものが多く，昔から人間に食べられていたことは，貝塚(かいづか)から貝殻が多量に出てくることからもわかる。日本産のものはすべて食用になるが，特に重要なのはマガキ・スミノエガキ・イタボガキである。マガキは，殻長(かくちょう) 5 cm，殻高10cm，殻幅 5 cmほどで，ほぼ楕円(だえん)形であるがその輪郭は一定せず，左殻が大きくふくらむ。殻表は黄白色で，ふつう，紫かっ色の放射帯がある。内面は白い。卵生。サハリン(樺太(からふと))・日本全土・朝鮮・中国の塩分の低い内湾の潮間帯の岩礁に付着し，各地で盛んに養殖されている。主産地は広島県。北海道・東北では殻が細長くなって，ナガガキとよばれる。スミノエガキは，殻長・殻径とも 5 cmほど。扁平(へんぺい)で丸みがあり，灰白色。有明海に多く，アリアケガキともいう。イタボガキは，殻長・殻高とも12cm，殻幅 4 cmほど，ほとんど円形で，右殻は扁平。殻は厚くかたく，かっ色がかった灰色。内面は白い。胎生で，内湾の10mほどの海底にいくつも集まって塊状をしている。函館(はこだて)以南の全土に分布する。ほかに，陸奥(むつ)湾以南，中部太平洋の島々，朝鮮南部に分布し，外洋に面する潮間帯岩礁に付着しているケガキも食用になり，殻高・殻長とも 4 cm，殻幅 2 cmほど，殻の縁が黒く，黒い管状のとげがはえている。



カ　キ　マガキ

カ　キ



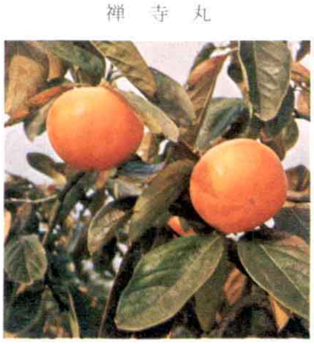
禅寺丸



大磨盤



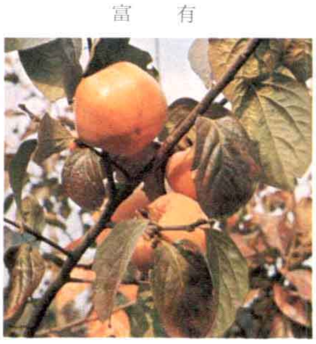
富有



天神御所



愛宕



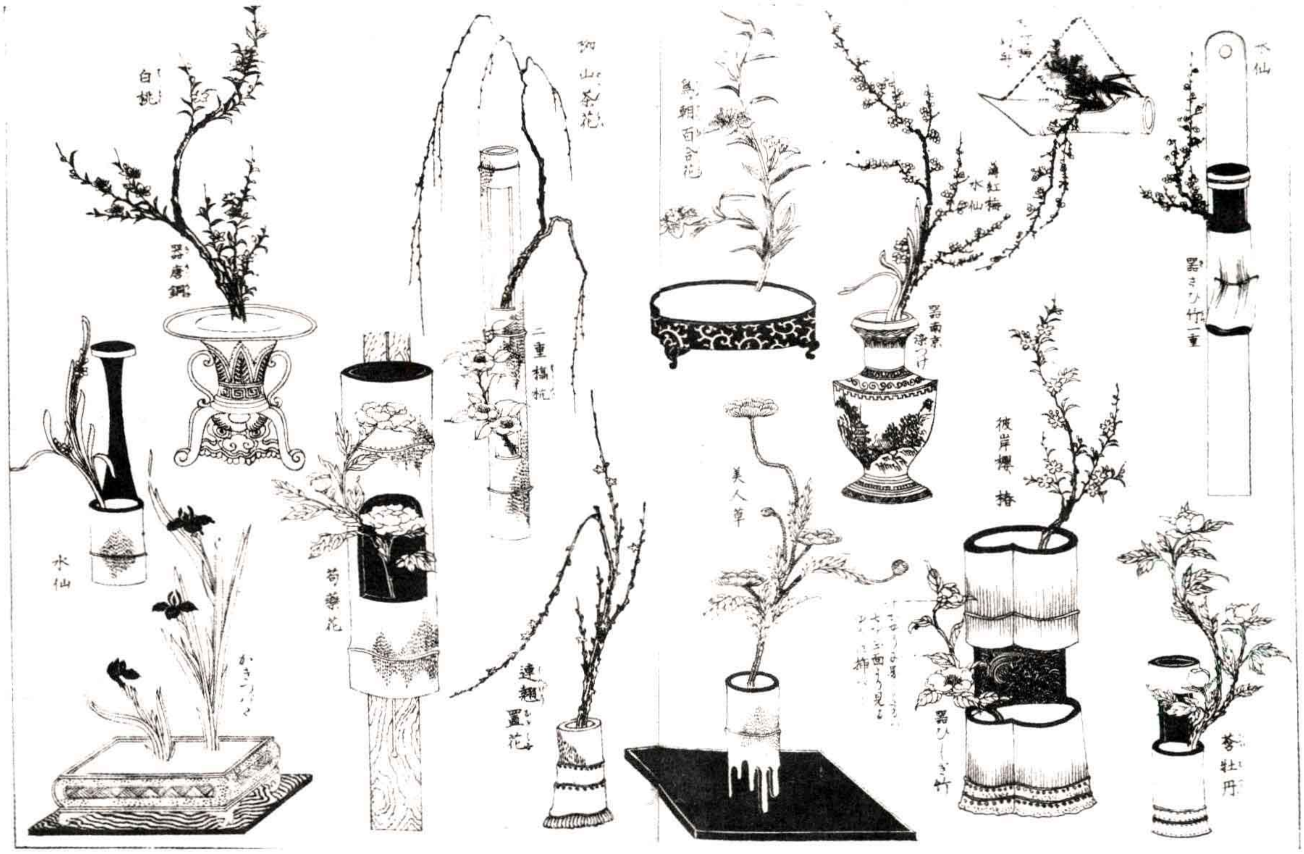
駿河

カキは，ほとんど世界じゅうで賞味され，ヨーロッパではヨーロッパガキ・ポルトガルガキ，アメリカではバージニアガキが重要種である。アメリカ太平洋岸のワシントン州からオレゴン州にかけての水域では，日本からカキの稚貝(種ガキ)を輸入して，大きく育てて食用にしている。輸出種ガキの主産地は宮城・岩手両県。日本におけるカキ類の生産高は年約20万 t で，アサリに次いで産額の多い重要な貝である。なお，英語で r のつかない月，つまり 5 月から 8 月までのカキは中毒の危険があるから食べてはいけないといわれるが，根拠はない。ただし，夏場のカキは産卵期にあたっていて身がやせており，食べてもうまくない。〔菅野　徹〕

かき 【柿】 双子葉植物・カキノキ科・カキノキ属。東アジア特産の落葉高木で，果樹として庭などに植えられる。葉は楕円(だえん)形で長さ 7 〜17cm，幅 4 〜10cm，葉柄の長さ 1 〜1.5cmで互生する。花は単性花で雌雄同株であるが，両性花をつけるものもある。5 〜 6 月葉のわきに花をつける。花冠は緑がかった淡黄色のつぼ形で，4 裂する。果実の形態はいろいろで，古くからくだものとして用いられた。渋ガキと甘ガキがあり，渋ガキは栽培範囲が広く，暖地でも寒冷地でも栽培できるが，甘ガキは山形県以南・近畿(きんき)地方・瀬戸内海付近にわたる地域が適地。未熟果を発酵させて柿酢をつくり，渋ガキの未熟果からは渋紙や漁網に塗る柿渋をとる。なお，いわゆるカキのへたはがくである。〔加藤僖重〕

カキは，中国では最も古くから栽培されている果樹の一つである。日本における栽培の歴史も古く，少なくとも敏達(びだつ)天皇(在位572〜585)以前にさかのぼるとみられる。このため各地方に特徴のある品種が数多く生まれ，農家にカキの木を見ない家はないといわれるほどである。渋ガキは醂柿(さわしがき)・干し柿・熟柿として食べられる。西洋のリンゴに対する東洋のカキといえよう。明治以前は宅地や畦畔(けいはん)に散在的に植えられ，カキ園の出現は優良品種の栽培が経済的になりたつようになってからのことである。主産地は福島・山形・岐阜・和歌山・愛知県などで，北部では渋ガキ，南部では甘ガキが多い。温暖・夏湿の気候に適すが，梅雨期に雨が多いと品種によっては炭疽病*(たんそびょう)に冒される。甘ガキは秋に高温乾燥の場合，果実の色づき・品質ともに向上する。根の耐干性は弱く，水分の要求度大きく，有機質に富み，土層の深いところに適する。

【品種】ふつう御所型と御所型以外の甘ガキおよび渋ガキに分け，その中を果形によ



花　器　水盤・つり花生け・竹一重・竹二重・銅器などがみられる《風俗画報》(1892年刊行)

って類別している。

〈御所型〉御所によって代表される甘ガキで，富有・次郎などがこれに属す。果肉中の褐斑(かっぱん)(ごま)は少なく色は薄い。この型のものは樹上でよく脱渋する。①富有：原産地岐阜。1902年(明治35)に一般に紹介され，優良な性質のため栽培が広がり，カキの代表品種となる。樹勢は強健であるが炭疽病に注意を要する。果実は10月下旬～11月上旬に熟し，扁円(へんえん)形，鮮紅黄色，外観がよく，果肉締まり，品種も優良。単為結実性が弱いので授粉樹を植えるとよい。本種の早生系の枝変わりに松本早生富有があり，熟期が富有より半月ほど早い。②次郎：原産地静岡。富有よりも低温地でも脱渋する。樹勢は強健で，若い葉は黄色。果実は扁円形，横断面は方形。果頂から4条の浅溝(せんこう)が走る。10月下旬～11月下旬に熟し，朱黄色，甘味強く，種子は少ない。本種に一木系次郎・前川次郎などの早生の枝変わりがある。一木系次郎は矮性(わいせい)で家庭樹として適する。③駿河(するが)：農林省園芸試験場で梶浦(かじうら)実らにより選抜され，1959年(昭和34)命名の御所型新品種。短宝珠形で，へたの部分にしわがある。暖地に適し，色づきがよく橙紅(とうこう)色に熟し，富有よりも品質がすぐれ，日もちも良好である。④御所：果実は10月下旬～11月上旬に熟し，扁円形，橙紅色，品質良好。落果が多く収量が悪い。関東北部では渋抜けは不良。このほか花御所(鳥取)・藤原御所(奈良)などがある。

〈御所型以外の甘ガキ〉種子が多いと褐斑が多く，樹上で脱渋し，褐斑の色も濃い。種子が少ないと，種子の周囲だけに褐斑が生じてその部分は脱渋して甘いが，種子のない部分は褐斑ができず渋く，半渋果となる。種子が多くとも果実が大きくなりすぎると，渋い部分が残る。①甘百匁(あまひゃくめ)：関東に分布し，果実は長円形，黄色に熟し，果頂に黒色輪紋を生じる。褐斑の多い甘ガキ。②禅寺丸：神奈川県川崎市柿生(かきお)王禅寺の原産。東京南西部にも古木が多い。小形のカキで，枝つきのまま出荷された。褐斑が多く，甘味が強い。雄花を多くつけるので，富有・次郎などの授粉樹に好適。まれに完全花をつけることがある。このほか佐賀・福岡などの伽羅(きゃら)(別名元山)，熊本の正月(別名小春)などがある。

〈渋ガキ〉樹上では熟柿になる以外脱渋せず，収穫後に醂柿・干し柿・熟柿にして渋を抜き食用とする。①平無核(ひらたねなし)(別名八珍，庄内ガキ)：渋ガキの代表的品種で，樹勢強く，カキのうち最大の木となる。果実は扁平な方形，無種子で，橙紅～橙黄色。脱渋後の日もちはあまりよくない。甘味強く，品質優良で暖・寒両地に向くが，晩霜に弱い。そのほか長大果で醂柿用の甲州百匁(別名富士・蜂屋(はちや))，醂柿用で福島の会津身不知(あいづみしらず)，中果で干し柿用の堂上蜂屋などがある。また，西条(広島)・祇園坊(ぎおんぼう)(広島)・横野(山口)・愛宕(あたご)(愛媛)・葉隠し(福岡)などは地方的に著名である。中国の大磨盤(ターモーパン)，朝鮮の舎谷なども知られている。

〔栽培〕カキの種子から出た苗に栽培品種をつぎ木すると，買った苗木を植えるよりもはじめの生育がよい。前年15～25cmに伸長して充実した枝(結果母枝)の先端2～4芽ほどが果芽となり，これから出た新梢(しんしょう)(結果枝)の葉のわきに雌花が1～5個つく。幼果が多くついたとき，早めに摘果しないと隔年結果*するようになることが多い。摘果は1果あたり20～25葉となるようにする。禅寺丸のような品種はふつう摘果しない。単為結実性の弱い品種は授粉の必要がある。肥料は冬に与える。また，8月下旬ごろにも再び与えるとよい。炭疽病・落葉病・カイガラムシ・カキノヘタムシの防除に留意する。

〔渋〕カキの幼果は甘ガキでも渋い。渋が抜けるのは，可溶性のタンニン物質(シブオール)が不溶性になるからで，渋が糖に変化するのではない。甘くなった干し柿を長時間煮ると，渋味物質が可溶性となり再び渋くなる。カキはビタミンCを100g中30mgと多く含んでいる。渋ガキの脱渋法はいろいろあり，また，品種や気温によっても異なるが，一般には0.02mmの厚さのポリエチレンフィルムを敷きあて，40%アルコールを果実15kgあたり55ml(35度焼酎(しょうちゅう)は60ml)を散布して包んでおくと，約10日間で渋が抜ける。干し柿は，渋ガキのかた

いうちに皮をむいて乾燥させたものである。➔干し柿　〔岩垣駿夫〕

かき【花器】 花をいける器。花瓶(かびん)。茶道では花入れ，花いけという。古くは切り花をさして賞美し，また花の生命を保つための器であり，また仏前供花のための仏具であった。室町中期，花材と器との調和によるいけ花の美しさが注目されるにつれて，花器としていけ花との深い関連が生まれ，いまに至っている。いけ花の最古の伝書である《仙伝抄*(せんでんしょう)》に，〈ただ花瓶をよくよくみて，この花瓶にはいかやうにたてべきやらむと，自由自在にあんじてたてべし〉と花をたてる心得として花瓶にふさわしいくふうが説かれ，《池坊専応口伝》にも，〈花のたかさ凡(およ)そ花瓶の一たけ半なり〉と立花*と花器とのつり合いに一定の規定がみえている。このような関連のもとに，いけ花の趣を変えるために，花器の種類も多くなった。立花のたて方に，真・行・草の花型*ができると，それにふさわしい花器が定められた。真の花型は仏前の荘厳の花で，これには胡銅(こどう)の花器が用いられ，行の花型にはやや平たい器か盤のようなものが用いられ，草の花型には日常身近かにある器，たとえば竹筒・かご・おけなどが用いられた。このような規定がつくられたのは，〈座敷飾り〉として全体との調和が大事にされたからで，立花を省略したいけ花においても床の花として独特の花器が使われた。真の花器には細口の銅器，行の花器には薄端(うすばた)という広口のもの，草の花器にはかけ花器・つり花器・二重切りなどが使い分けられた。定型化をきらって形式に拘束されない抛入(なげい)れ*や，盛り花*になると，前者には細口のたけの高いもの，後者には広口の平たいものを原則とするが，割合に自由で変化のある花器が用いられた。さらに自由花では，自由な創意が花器にも求められて，身辺の雑器が使われ，応用花器や，造型的につくった創作花器などが現われた。このように，いけ花が床の間から解放されて，どこにでもなんでも自由にいけられるようになると，花器も同様に形式的にも色彩的にも拘束されることなく，多種多様なものとなった。それと同時に，花材も花器もいけ花そのものに一体化され，オブジェ化されて，あらゆるものが花器化される可能性も生まれたが，これは一方では花器とはなにか，という問題をはらんでいる。それはまたいけ花全体の課題でもある。➔前ページ(写)　➔いけ花

かぎ【鍵】 ⇨錠

かぎ【嘉義】 チャイー　台湾西南部，西岸に広がる平野の中央部にある都市。人口30万(1960年推)。旧名を天興・諸羅という。砂糖および阿里山一帯の木材の集散地として知られ，市街には製糖および製材の大工場が多い。

かぎ【賈誼】 (BC200～BC168)　中国，前漢文帝のときの政治家。博士に抜擢(ばってき)され，諸侯の領土の分割，政府の貨幣鋳造権の独占などによる中央集権的体制の強化を建言した。思想史的には儒家に属し，秦(しん)代以来の法家的制度を改めて礼教政治への移行を主張したが，周勃(しゅうぼつ)らの反対にあって失脚。著書に《新書》がある。

がき【餓鬼】 梵語(ぼんご)でpreta(プレータ)といい，〈逝(ゆ)ける者〉の意味。〈鬼(き)〉とも訳される。仏教の経論には種々の餓鬼をあげているが，いずれも前生において貪欲(どんよく)や嫉妬(しっと)などに基づく悪業をつくったために餓鬼として生まれたとされている。その姿は，たとえば腹は山のようにでこぼこで，のどは針のように細く，口はただれて悪臭を発する。食を求めても得られず，人の捨てたものや汚物を食する。餓鬼の世界は六道*の一つで，地獄・畜生の両界とともに人間界の下方にあるとされる。施餓鬼会(せがきえ)は餓鬼に食物を施す法要であり，現在では盂蘭盆(うらぼん)の行事と習合している。これは，ブッダの十大弟子(でし)のひとり，マウドガルヤーヤナ(目連)の母が餓鬼道に墜(お)ちていたのが，盂蘭盆の供養によって救済された故事のためである。なお，子どもを餓鬼というのは，よく腹をすかして食物をがつがつむさぼることからの転用らしい。　〔岡部和雄〕

かきあげ【かき揚げ】 魚・貝・野菜類を細かく切り，1種または2～3種を混ぜ合わせて衣で揚げたもの。材料の取り合わせは，小エビとソラマメ，小貝柱と三つ葉，アサリとネギ，イカの足とタマネギなど。材料は下ごしらえをして水けを切る。1個分ずつを玉じゃくしに取って衣を軽く混ぜ合わせ，熱した油の中に静かに落とし入れる。材料が散らないようにはしで形を整えながらゆっくり揚げる。

かきあみ【垣網】 定置網*の一部の名称。魚群を遮断(しゃだん)し，袋網に誘導する役目をもつ　一般に，垣網の網目はかなり大きいが，魚類の行動に対しては，阻止効果をもっている。

かきいろ【柿色】 色名。熟したカキの果実の表皮のような色。黄みのある，あざやかな赤色で照柿(てるがき)ともいう。普通の柿色よりもやや赤みの少ない色は近衛柿(このえがき)といい，さらに赤みの少ない色が深支子(こきくちなし)とよばれる色で，《延喜式》などにみえる色である。くちなし色はクチナシの実とベニバナとで染め出される。なお，柿渋で染めたような赤茶色を柿色ということもある。　〔武井邦彦〕

カーキーいろ【カーキー色】 色名。やや暗い黄かっ色。カーキーはヒンディー語の〈土・土ぼこり〉の意であるから，〈土の色〉ともいえるが，わが国でいう黄土色*よりもやや暗い色である。カーキー色は，多くの国々で軍服および軍備品の色として多用されてきている。日本工業規格(JIS)慣用色名〈カーキー色〉は，色相1.5Y，明度5.0，彩度5.5と規定されている。しかし，一般には，標準のカーキー色にとらわれることなく，赤みや緑みを含む色をもカーキー色とよぶ。➔色　〔武井邦彦〕

かきえもん【柿右衛門】 ⇨酒井田柿右衛門

かきえんげい【花卉園芸】 花卉(草花)を栽培すること。花卉という語は，中国の《群芳譜》(1621)や《秘伝花鏡》(1688)などでは花と卉に分類して記述され，貝原益軒*の《花譜》(1694)ではじめて成語として用いられた。花・卉のいずれもが〈花〉を意味し，古くから葉を観賞するものも加えて，観賞植物の意味をもたせている。

花卉栽培は古代エジプトに始まり，当時すでにスイセンやバラが栽培されていたという。その後ギリシア時代にはダイアンサス・スミレ，ローマ時代にはユリ・ストックなどが加わり，16～17世紀には地中海沿岸産のチューリップなどが北進してヨーロッパに広まった。18～19世紀には東洋原産のバラ・キク・セキチクなどがヨーロッパにはいり，ヨーロッパ産のものと交雑改良されて，現在のバラ・キク・カーネーションなどの基礎ができた。また，南アフリカ産のグラジオラス・フリージアなどもヨーロッパにはいり，20世紀に発展した。アメリカでは19～20世紀に栽培が始まり，大規模な経済栽培に発展した。日本の花卉栽培は奈良朝以前から始まり，ウメ・サクラなどの花木中心に発展し，徳川時代に最も栄えた。明治以後，西洋草花が導入されて花卉園芸は衰えたが，最近ではまた復活している。経済栽培が行なわれるようになったのは1923年(大正12)以後のことである。〔小杉　清〕

カーキキャンベル [khaki campbell]　イギリスのキャンベル夫人によって改良された卵用型のアヒル。雄は首と下腹部後方が青い以外はカーキー色(濃い黄緑の混ざった茶かっ色)を呈し，比較的小形(2.0～2.5kg)である。4～6か月で初産を開始し，75g内外の卵を年間300個内外産卵する。陸飼いが可能である。

かきことば【書きことば】 ⇨話しことば・書きことば

かきしせつ【夏季施設】 学校の夏季休暇を利用して，学習および体位の向上を目的に開設される施設。はじめは，身体虚弱児を転地保養させるために設けられたが，都市の過密化が進むにつれ，海浜の臨海学校，高冷地の林間学校という形で，学習・スポーツなどを一定期間集中的に指導する場として，学校教育活動の重要な部分になりつつある。

かぎそう【鍵層】 離れた2地域の地層の層序*を対比する場合に有効に使われる地層。火山の噴火によって生じる凝灰岩層は，それをはさむ上下の地層が水平方向に変化することがあっても，それ自体は広域にわ

たって変化することが少なく，同質の一地層として連続するために，堆積(たいせき)の時期が同時であることを立証するための鍵層として使われる。そのほか，識別しやすく，分布の広い石炭層・石灰岩層・凝灰岩層，ときにはレキ岩などが多く使われる。鍵層を追跡していくことによって，地域的にも層序的にも付近の地層の分布状態を比較的たやすく知ることができる。〔平山　健〕

がきぞうし【餓鬼草紙】 醜悪な餓鬼*の世界を主題にした絵巻物で，東京・京都の国立博物館に1巻ずつが現存している。いずれも，鎌倉初期の作と思われるが筆は異なる。平安末期から流行した六道*観を示していて，のびやかな描線と落ち着いた色調を効果的に用い，大和絵(やまとえ)の特質を十分に生かして餓鬼の種々の情景を生き生きと表現している。



餓 鬼 草 紙　食水餓鬼（曹源寺本）　京都国立博物館蔵

かきぞめ【書き初め】 新年にはじめて書を書く儀式。吉書・試筆・試毫(しごう)・筆始めなどともいう。吉方に向いて，めでたい意味の語句や和歌・漢詩などを書く。古くは元日に書いていたが，江戸時代には大みそかは夜半過ぎまで起きていて，元日はほとんど寝ていたから，2日に書くようになった。書きぞめに書いた書跡は15日の左義長*で焼き，それが高く舞い上がると，手が上がる（書がじょうずになる）といって喜んだ。〔春名好重〕

かきつのらん【嘉吉の乱】 1441年（嘉吉1）6月播磨(はりま)（兵庫県）の守護赤松満祐*(みつすけ)が6代将軍足利義教*(あしかがよしのり)を謀殺し，室町幕府にそむいた事件。当時，義教は一色・土岐氏らの有力守護を次々に討って将軍の専制的権力を強化し，かねて赤松氏をもねらっていたが，満祐はこれを察知し，先手を打って義教を自邸の酒宴に欺き寄せ謀殺，領国播磨に下った。しかし9月，山名持豊*(もちとよ)（宗全）らの幕府勢に城を囲まれ，一族とともに自殺した。この結果，幕府の権威は落ち，幕府内の山名氏の勢威が強まった。〔村尾元忠〕

かきつばた【杜若】 単子葉植物・アヤメ科の多年草。日本・朝鮮・中国東北部・東シベリアに分布する。湿地にはえ，地下茎は横ばいし多数の繊維がある。剣状の葉の中肋(ちゅうろく)（中心の筋）が隆起しないことでハナショウブ*と弁別できる。5～7月ごろ50～70cmの花茎を生じ，中ごろに1枚葉をつけ，茎頂に3個の花をつける。江戸時代に改良されて品種も多かったが，現在では少なくなっている。白花のシロカキツバタや紫の絞りのワシノオなどの園芸品種がある。和名は〈書き付け花〉の意で，古く花汁(かじゅう)で布を染めたことによるといわれている。〔横井朝子〕



カキドオシ

かきどおし【垣通】 双子葉植物・シソ科。野原や道ばたにはえる多年草。茎は断面が四角，はじめ直立しているが，花が終わると地面に長くはい，つる状となってところどころから根を出す。葉は対生で緑に丸い鋸歯(きょし)のある長さ1～3cmの腎臓(じんぞう)形。春，葉のつけ根に淡紫色のくちびる状の花をつける。つる状の茎がかきねをくぐって伸びていくのでこの名がついた。カントリソウともいい，民間では子どもの疳(かん)にせんじて飲ませるといわれる。

かきとめゆうびん【書留郵便】 郵便物の特殊取り扱いの一種。1871年（明治4）12月創始。現金または郵政大臣が指定した貴金属・宝石その他の貴重品で必ず書留としなければならない物（有価証券や重要書類などの重要物）を郵送する場合，または万一亡失した場合にその損害を賠償してもらいたいときに利用する制度で，次の2種類がある。①引き受けから配達に至るまでを個別的に記録する取り扱い（一般書留）。②引き受けと配達の際のみ個別的に記録し，運送途中は郵便物1通ごとの記録を行なわない取り扱い（簡易書留）。ただし，現金または郵政大臣が指定した貴金属・宝石その他の貴重品を内容とする郵便物や引き受け時刻証明・配達証明・内容証明・代金引き換えまたは特別送達の取り扱いをする郵便物は簡易書留とすることができない。

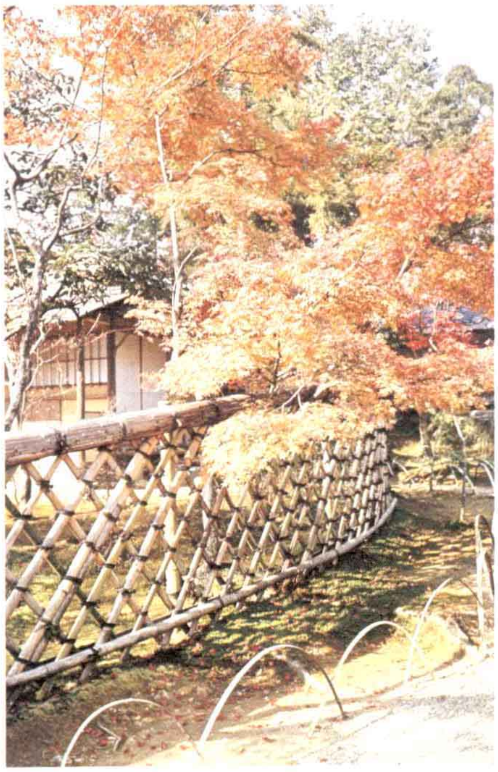
現金を書留とするものは，差し出しの際，郵政省で発行する現金封筒に納めなければならない。また，小包として差し出すときは，厳重に包装しなければならない。このいずれの場合にも，その封じ目に郵政省で発行する現金封緘紙(ふうかんし)を張り付け，郵便物と封緘紙とにかけて印章で封印し，または封印の代わりに署名しなければならない。一般書留の場合は，万一亡失したときに賠償してもらいたい金額を申し出るが，現金を内容とするものは10万円以下，現金以外の物を内容とするものは100万円以下となっており，差出人から申し出がなかったときは，3,000円として申し出たものとみなす。簡易書留は損害賠償額を申し出ることはできないが，万一亡失した場合は2,000円を限度とする実損額を賠償する。

書留を利用する場合には書留料を要するが，これは郵便物の記録扱いと保険扱いの二つの性質をもつ一般書留と，簡易記録および定額賠償の性質をもつ簡易書留とによって異なる。なお，外国郵便*についても書留およびこれに似た価格表記の扱いがある。〔高橋譲二〕

かきぬき【書き抜き】 歌舞伎(かぶき)用語。俳優にせりふを覚えさせるため，脚本の中から個々の役のせりふを抜き書きしたもの。江戸時代の歌舞伎では，台本は作者が書きおろした1冊があるだけで，公にすることはなかった。したがって，俳優もその全貌(ぜんぼう)を見ることはなく，自分の言うせりふだけを覚える習慣であった。

かきね【垣根】 家屋の周囲を囲ったり，庭園を仕切ったりする施設をいい，その機能から囲い垣・仕切り垣，建物に付属する袖垣(そでがき)に分けられる。種類からみると，生けがきと竹・雑木で工作されたかきねに大別される。生けがきは植物を群植し，刈り込んで丸形・角形などに形を整えるが，萌芽力(ほうがりょく)があって刈り込みに耐え，虫・病害に強く，見た目のよい樹種が適し，遮蔽(しゃへい)・区切り・飾りなどの用途や立地条件などによって選ぶ。ふつう2mぐらいの高さには，サワラ・カナメモチ・ヒバ・マサキ・サンゴジュ・ヒノキなどを用い，1mぐらいまでは，イヌツゲ・チャノキ・ツツジ・カラタチ・アオキ・ドウダンなどを用いる。特殊な例に，はえている竹を

垣　根



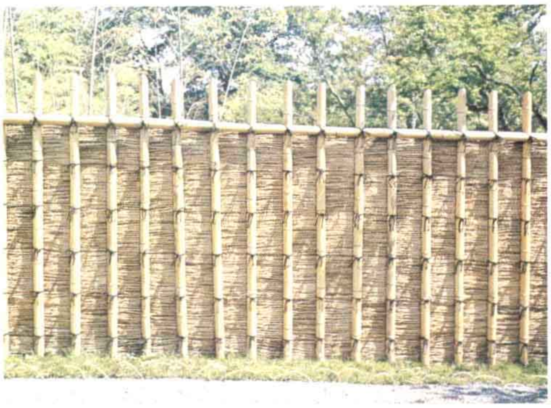
光悦垣(光悦寺)



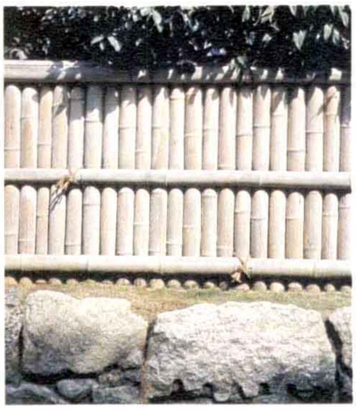
龍安寺垣(龍安寺)



孤蓬庵垣(大徳寺孤蓬庵)



穂垣(桂離宮)



銀閣寺垣(銀閣寺)

折り曲げて構成した桂離宮(かつらりきゅう)の竹穂垣がある。また，工作物のかきねは種類が多く，その例をあげると，寺院名によるものには金閣寺垣・銀閣寺垣・建仁寺垣(けんにんじがき)など,材料によるものには萩垣(はぎがき)・黒文字垣・木賊垣(とくさがき)・竹穂垣など，形態からきた鶯垣(うぐいすがき)・火燈垣・松明垣(たいまつがき)などがある。そのほかこの種のかきねの著名なものには，四つ目垣・大徳寺垣・光悦垣・枝折垣(しおりがき)・網代垣(あじろがき)などがある。〔重森完途〕

かきねつ【夏季熱】 夏季，おもに乳児にみられる発熱で，その原因を暑熱以外に見いだしえないものをいう。ふつう朝方に高温(38～39℃)となり，涼しい風にあたれば下熱する傾向を示す。未熟児であった者，体温調節機能の不完全な者に多い。

かきのうらしま【蛎ノ浦島】 長崎県西彼杵(にしそのぎ)半島の北西方にあり，西彼杵郡崎戸町の主島で，北東の大島(大島町)とは中戸橋で，南西の崎戸島とは崎戸大橋で結ばれている。北部の蛎ノ浦に崎戸町役場がある。面積5.1km²，人口約4,000。1907年(明治40)以来，西岸の福浦から良質の石炭を産し，第2次世界大戦中は生産120万tを越える日本でも指折りの炭鉱となり，崎戸港から積み出していたが，現在は石炭不況のために閉山し，人口も減少している。

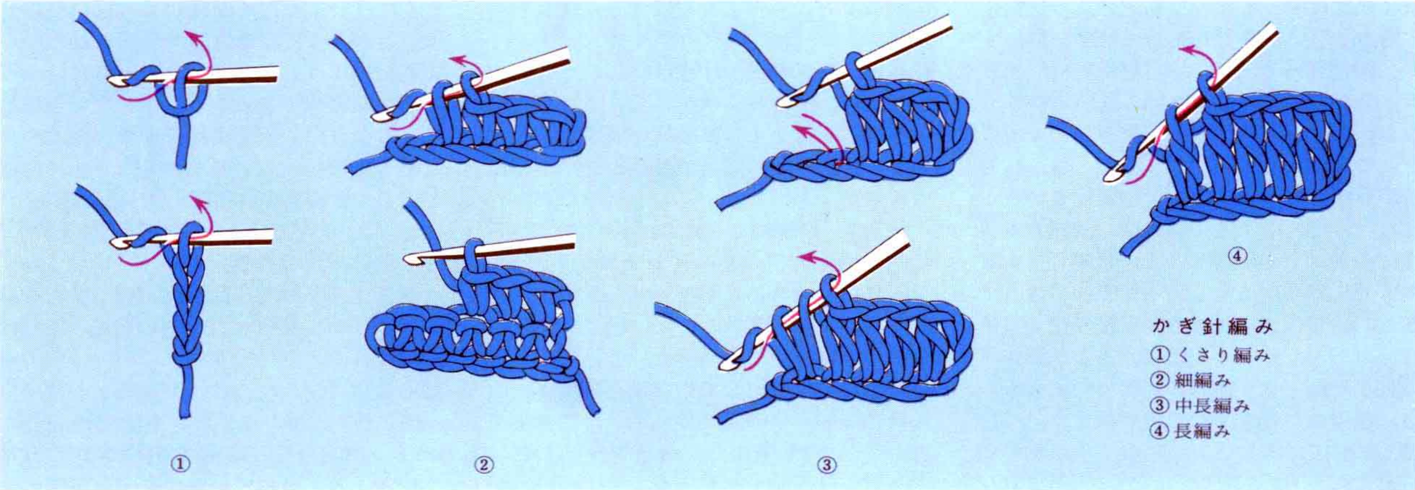
かきのへたむし【柿蒂虫蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・マイコガ科。成虫は体長7mm内外，翅(はね)を広げた長さ13～16mm。翅は基部が幅広く，翅頂に向かってしだいに細まる。前翅は紫色をおびた暗かっ色で，翅頂近くに翅を斜断する1個の黄色紋がある。後翅は暗かっ色で，基部は淡色。前・後翅の後縁には長い縁毛がはえ，後脚の脛節(けいせつ)にも長毛がはえている。本州・四国・九州に分布するカキの大害虫で，カキミガ・カキミムシなどともいう。カキの新芽・果柄・葉柄などに産卵し，孵化(ふか)した幼虫はおもに芽を食害して果柄の基部を経て幼果中に侵入する。7月中～下旬に老熟し，カキのへたの内面に繭をつくってその中でさなぎになる。本種に加害されると，新芽は発芽できなくなり，新枝も生育が阻害され，果実も幼果のままかっ色に変色してへたの部分から落ちてしまう。7月下旬ごろから成虫が羽化し，果柄やへたの部分に産卵し，孵化幼虫は第1化のものと同様果実中に侵入する。このため，果実は早熟して橙赤(とうせき)色となり，9月に落下する。幼虫は果実の落下前に果実から脱出して，樹皮のすきまなどに繭をつくって越冬する。〔鈴木邦雄〕



柿本人麿　佐竹本《三十六歌仙絵巻》(《日本絵巻物全集》第19巻所収)

かきのもとのあそみひとまろのかしゅう【柿本朝臣人麻呂歌集】 柿本人麿の歌集。現存しないが，《万葉集》にこの歌集から採録した歌が長歌2，旋頭歌(せどうか)35，短歌318を数えるので，その有力な資料の一つであったことがわかる。実際は人麿以外の作者の歌も多く含まれており，人麿の歌として伝わってきたものを集めて，奈良時代に編集したものであろうといわれている。

かきのもとのひとまろ【柿本人麿】《万葉集》の代表歌人。柿下とも人麻呂とも書く。持統・文武両帝に仕え，藤原京の宮廷歌人として多くの傑作を残した。しかし，その官位は低く，生涯(しょうがい)も明らかでない。生没ともに未詳であるが，没したのは平城京遷都(710)以後かともいわれる。人麿は天押帯日子命(あめのおしたらしひこのみこと)の子孫と伝えられ，代々大和添上(やまとそえかみ)郡櫟本(いちのもと)に住んだとされるが，出身地には異説が



かぎ針編み
①くさり編み
②細編み
③中長編み
④長編み

多く，定かではない。柿本氏は宮廷儀礼やその詞章の伝承にかかわり，壬申(じんしん)の乱では天武天皇側に尽力した。人麿は，天武帝の皇后持統や草壁皇子(くさかべのみこ)に舎人(とねり)として仕え，側近として雑用につとめるかたわら，宮廷歌人として活躍したものらしい。《万葉集》には，人麿作として確実な作品のほかに，《柿本朝臣(かきのもとのあそみ)人麻呂歌集*》からとったとするもの，左注にあるいは人麿の作とするもの，その他があるが，確実なものは長歌16・短歌57，《人麻呂歌集》のものは長歌2・旋頭歌(せどうか)35・短歌318を数える。多くは天皇・皇子に供奉(ぐぶ)したおりの宮廷賛歌や天武系皇子・皇女への挽歌(ばんか)などの儀礼歌であるが，近江(おうみ)・讃岐(さぬき)・筑紫(つくし)・石見(いわみ)・紀伊(きい)などに旅したおりの歌にも秀作が多い。壬申の乱以後の時代精神や人麿独自の歌才が映り合って，その歌風は雄大かつ荘重，力量感にあふれる中に沈痛の趣を伝えている。集団でうたうものであった歌謡から個人の文学的意識による和歌に移る時代に生き，和歌を育てた最大の功労者であり，歌聖と仰がれている。〔鈴木一雄〕

かぎばが【鉤翅蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・カギバガ科の総称。カギバガ科の1亜科オオカギバガの類を科に昇格させて扱う学者もある。400種以上が知られており，東洋の熱帯や亜熱帯に分布する種類が多く，日本からは約30種類が報告されている。前翅外縁の翅頂部に近い部分が内方にえぐられ，かぎ状を呈する種類が多いためこの名がある。小形ないし中形の種類が多く，単眼を欠き，口吻(こうふん)は退化の方向に進み，完全に退化している種類もある。スカシカギバ・オオカギバ・ウスギヌカギバ・ヒトツメカギバ・オビカギバ・マンレイカギバ・ヤマトカギバなどが日本に産する代表的な種類である。〔鈴木邦雄〕

かぎばりあみ【かぎ針編み】 編み物の一種。かぎ針を使い，引き出したループを編成し，1目ずつ完成しながら編み進んで編み地を形成する。わが国へこの技術がはいったのは幕末開港ごろで，外人宣教師らから伝習を受け，操作が簡単で技術的に親しみやすいので民間に普及した。編み地は棒針編み*に比べて厚手で，組織があらく，伸縮性はやや小さい。衣類・服飾品・室内装飾などに，四季を通じて，広く用いられる。基本となる編み方には，鎖編み・細編み・長編み・中長編み・引き抜き編みの5種類がある。鎖編みは，編み地の土台として使うほか，立ち上がり目(各段のはじめに立てる柱となる目)として編み目の基準にしたり，長編み・細編みなどと組み合わせて透かし模様の構成に用いたりする。引き抜き編みは縁のしまつや成形の減らし目に使う。かぎ針編みは織物のように反物につくることも，また編みながら幅を変えて望みどおりに成形することもできるほか，筒状にしたり，円・四角・三角・六角・楕円(だえん)形などのモチーフを自由につくることもできる。これらのモチーフはでき上がった個々のものをつなぎ合わせて作品とする(モチーフつなぎ)が，はじめから1本の糸でモチーフを編みながらつなぎ合わせて一つの作品を形造ることもできる。➔編み物〔山村あい子〕

かきぶね【牡蠣船】 河岸(かし)に船を浮かべて，カキを主とする料理を客に供する船。大阪，瀬戸内海の沿岸都市にみられる。江戸初期，草津・仁保(にほ)島(ともに広島市)のカキ養殖業者が冬場の出かせぎを兼ねて養殖ガキ宣伝のため大阪に進出したのが始まり。10月初旬にカキを積んで広島から大阪に至り，河岸で営業し，春に広島に帰った。明治以降は船中の設備を整え，常時停泊して営業したが，現在は衰微しつつある。

かきべ【部曲】 古代豪族の私有民。それぞれ豪族の名をとり，大伴(おおとも)氏の大伴部，蘇我(そが)氏の蘇我部などという。律令(りつりょう)制における家人(けにん)・奴婢(ぬひ)よりは自営農民的で，服属する豪族に租税を収め，徭役*(ようえき)に従ったらしい。のち機能的には品部(ともべ)(➔部)に近くなった。大化改新で廃止され，以後公民となった。

かきもち【欠餅】 正月の供えもちを欠き砕いたものが名の由来である。厳冬，寒の水を用いてもちをつくり，これをなまこ形または方形にのして薄く切り，陰干しにして貯蔵し，必要に応じて焼いて食べていた。現在では，もち米を主原料とする焼き菓子の名となっている。関東ではあられ*，関西ではおかき・かきもちという。豆・七味とうがらし・ノリなどいろいろなものを練り込んだり，味つけの際に添加したもの，油で揚げたものなど種類は多い。

かぎや【鍵屋】 わが国の住居の主屋は，平面の輪郭が矩形(くけい)をなす直家*(すごや)が基本であるが，これに突起部がついてT字状・L字状を示すものの総称。全国的に分布し，岩手県の曲家*(まがりや)，新潟県から秋田県にかけて分布する中門造り*，甲府盆地の撞木(しゅもく)造り，佐賀県のくど造り*などは，この形態が地方的定型となっているものである。

かきゃくせん【貨客船】 旅客と貨物の両方を運送する船。旅客を主とし貨物を従とするものと，貨物を主とし旅客を従とするものとがある。純客船の豪華さより実質本位の安易さを主体としたもので，一般に旅客設備は上甲板上にあり，貨物は船倉内に積むのが普通である。なお，法的には貨客船というものはなく，旅客定員12名を越える船はすべて客船とされる。

かぎゃくでんち【可逆電池】 ⇨電池

かぎゃくはんのう【可逆反応】 化学反応*の原系と生成系において，原系から生成系に向かう正反応と，逆向きの逆反応が同時に起こる反応をいう。すべての化学反応は，一方向だけに反応が進むということはないので，原理的に可逆反応である。しかし，平衡点が著しく一方にかたよっているときは不可逆反応として取り扱い，平衡点が一方にかたよらず，正逆両反応の反応速度が同程度のときに，ふつう，可逆反応という。➔化学平衡〔三輪誠・加藤康〕

かぎゃくへんか【可逆変化】 物質系が，ある状態Aから他の状態Bへ，ある過程C

を経て変化するとき，当然，外系も物質系と熱や仕事のやりとりをして状態が変化する。物質系を状態Bから状態Aへもどすとき，必ずしもはじめと同じ過程でなくてもよいが，外系の状態の変化を相殺することができるような過程C′があるとき，状態Aから状態Bへの変化を可逆変化という。したがって，可逆変化の場合，過程Cと過程C′を経て，物質系がもとの状態Aにもどるまでに外系に与える熱と仕事の和は0である。状態Aから状態Bへ可逆変化する場合のエントロピーの変化は，ある熱源から吸収した熱をその熱源の温度で割ったものを，過程におけるすべての熱源について総和したものに等しい。したがって，〈熱力学の第2法則〉は不等式ではなくて，等式になる。平衡を保ちながら，十分ゆっくり行なわれる変化や，摩擦・粘性・熱伝導・拡散などを伴わない純力学過程は可逆変化である。しかしながら，実在の変化は必ず不可逆変化であって，可逆変化は理想的なものである。力学に従う粒子が多く集まった多体系が不可逆変化を示すのは，変化が確率的に起こることによる。〔中野藤生〕

かきゅう【火球】非常に明るい流星。閃光(せんこう)を放ち，ときには爆音を伴うことがある。消えたのちにも明るい雲のような跡を残すことが多い。普通の流星に比べてはるかに大きい固体物質が地球大気内で発光する現象で，ときには空気中で燃えきらずに隕石(いんせき)として地上に落下してくる場合もある。

かきゅうき【過給機】内燃機関の出力を増すためシリンダーに空気を押し込む役をする送風機。ルーツ式・遠心式などの圧縮機が用いられ，圧縮された空気は機関の吸気管に導かれる。圧縮機を機関の出力軸で駆動するものを機械式過給機，機関の排気で駆動されるタービンと直結して回されるものを排気タービン過給機という。機械式は機関の出力の一部を消費するので，あまり大きな出力増加は望めない。航空機用ガソリン機関に広く用いられている。排気タービン過給機による出力増加は50～100%で，船舶用・発電用のジーゼル機関に広く用いられ，車両用にも増しつつある。

かぎゅうこう【蝸牛考】柳田国男によるわが国の言語地理学最初の学問的論文。1930年(昭和5)初版。〈カタツムリ〉の全国の俚言(りげん)を集めて，その分布状態を比較研究することによって，語の推移の過程をいろいろな角度から推論した。新しい語は文化の中心地からだんだん地方に移っていき，その結果辺境に古語が残るという，いわゆる方言周圏論によって有名。

かきゅうさいばんしょ【下級裁判所】最高裁判所の下位に設置されている裁判所。高等裁判所・地方裁判所・家庭裁判所および簡易裁判所の4種の裁判所をいう。憲法は，〈すべて司法権は，最高裁判所及び法律の定めるところにより設置する下級裁判所に属する〉と規定する(76条Ⅰ)。ここにいう法律とは裁判所法，下級裁判所の設立および管轄区域に関する法律をいう。下級裁判所は司法権を行使する審級制を構成するとともに，司法行政の関係で最高裁判所の下位にある。〔野口恵三〕

かきょ【科挙】中国で，隋(ずい)の文帝時代から清(しん)代末期(1905)まで，約1,300年間に行なわれた高等官資格試験制度。官吏登用のことを選挙といい，種々の科目について試験したので科挙という。隋の文帝は細分化して混雑していた地方制度の大改革を行ない，その必然の結果として従来の九品官人法を廃止し，科挙制を始めた。隋・唐では秀才・明経・進士などの科目があったが，唐中期以後は詩賦を主とする進士科が重んぜられ，宋(そう)代になると，進士の名に統一された。特に，宋の太祖による天子自身が試験官となる殿試の成立は，中央集権的な文臣官僚制を確立させ，中国独自の士大夫文化を生み出す役割を果たした。朝鮮も958年以後，科挙制を採用した。〔礪波　護〕

かきょう【華僑】国外に移住した中国人とその子孫。もとは本国の国籍をもつ者に限られたが，今日では現在地の国籍にはいっている者も含まれる。全世界に散在する総数は1,700万にも及び，その95%が東南アジアに住んでいる。中国人の国外移住は宋(そう)・元以後多くなり，明(みん)・清(しん)には政府の禁制を破って東南アジアに移住する者が増加した。はじめは貿易商人や海賊だったが，19世紀から労働移民が多くなるのは，国内人口の過剰や，外国資本主義の侵略による農村の貧困化が原因である。彼らはタイのほか，ジャワ・マラヤ・フィリピン・ビルマなどの西洋列強の植民地開発事業に使用された。その中から商人が生まれて，西洋植民資本家と土着民との中間層を形成し，あるいは産業資本家も現われ，東南アジアの経済界に大勢力を築くに至った。第2次世界大戦後は土着民族の独立，本国の分裂によって苦境に立ったが，いまでは現地政権との妥協でその地位を維持している。〔日比野丈夫〕

かきょう【花鏡】世阿弥(ぜあみ)の能の秘伝書の一。1418年(応永25)《花習》として成立，のち増補・削除(いまの《花鏡》の末尾4か条が増補されたものと思われ，削除された論は推測不能)されて1424年完成。長子元雅(もとまさ)へ相伝。舞と歌とを根底とし，物まねを特色とした能の演技を実践的に考察し，体系化している題目6か条，演出・演技などの諸問題，さらにはけいこの積み重ねによって発展する様式展開に関する面まで，《風姿花伝》での問題点を発展追求し，深化させている事書(ことがき)12か条によって，能を知るとはどういうことかを扱い，その基盤を全生活あげてのけいこに求めたうえ，さらにけいこを貫く原理にまで言い及んだ奥段と，みごとな能芸論が展開されている。父観阿弥に別れてから40余年の間にくふう体得した理論であることを奥書きで明言しているように，演劇実践の中で実践論的に究明し体得した能芸論であるところに特色がある。世阿弥の著作としては《風姿花伝》はもとより，《至花道》《遊楽習道風見》などとも深い関係がある。〔片桐　登〕

がぎょうびおん【ガ行鼻音】子音を鼻音〈ŋ〉にして発音したガ行の音節，またはその場合の子音〈ŋ〉をいう。〈ŋ〉は奥舌を軟口蓋(なんこうがい)につけ，口蓋帆を下げて声を鼻に抜いてつくる子音。英語のsong(歌)，singer(歌手)などのngで表わされる音は〈ŋ〉である。東京式の標準語では単語のはじめのガ行の音節は，ゲタ〈geta〉，ゴマ〈goma〉などのように〈g〉に発音するが，単語のはじめ以外の位置にくるとカゴ〈kaŋo〉，ハゲ〈haŋe〉などのように〈ŋ〉で発音する傾向があり，単語のはじめ以外では〈ŋ〉が正しい発音であると推す向きがある。地方ではさまざまで，東北地方は〈ŋ〉に近い音を発し，九州地方はほとんどが〈g〉である。また，東京にも東京生まれで〈ŋ〉を発音しない人が多数おり，日本語で〈g〉と〈ŋ〉を区別して発音することにはあまり意味がない。なお，ガ行鼻音は半濁音の記号を付して〈カ゚・キ゚・ク゚・ケ゚・コ゚〉のように記されることがある。〔上村幸雄〕

かきょうひょうしき【歌経標式】奈良後期の歌論書。作者は藤原浜成(724～790)。歌病(歌の欠点)・歌体を論じてはいるが，あまりにも中国詩論を模倣しているために，歌論としての価値は低い。しかし，歌語と平常語，新・古の表現などの区別など，画期的な面もみられる。形式的に統一され，音韻・韻律・修辞などにも触れ，初期の歌論をうかがうのに貴重な資料である。

かきょうポリマー【架橋ポリマー】⇨網状高分子

かきょく【歌曲】歌曲ということばはきわめて多くの意味で使われているが，ここでは，独唱曲で器楽伴奏をもつものに限定する。ヨーロッパにおける現存する歌曲の歴史は，古代ギリシア音楽の断片を除けば，中世の吟遊詩人たちの音楽に始まる。トルベールやトルバドールたちが，リュートやフィーデルを伴奏として歌ったビルレー・ロンドー・バラードなどの歌は，14世紀に至ってマショーらの手によって多声化され，ルネサンス時代の多声世俗歌曲隆盛の源となった。また，ほぼ同じ時代のスペインの宗教歌カンティガ，イタリアの民衆的な宗教歌ラウダなどの宗教的な作品，さらにドイツのミンネゼンガーの作品なども見のがすことができない。

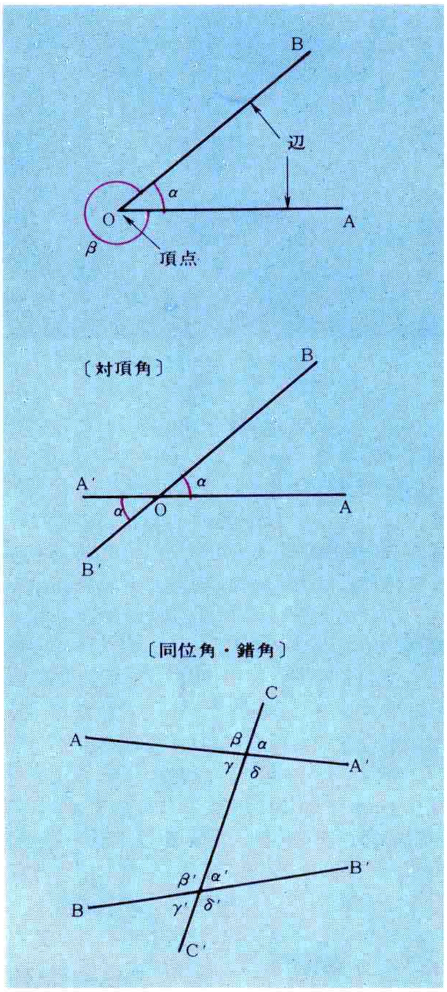
ルネサンス時代は多声歌曲の時代であり，独唱曲としては16世紀ごろのスペインのリュート歌曲，フランスの宮廷歌曲(エール－

ド-クール)があげられる程度である。バロック期にはいると，モノディー*の登場によって新局面を迎えた。特にイタリアでは，通奏低音*をもつアリオーソふうの歌曲がカッチーニらの手によって創始され，これに器楽伴奏をもつ独唱マドリガルが加わる。しかしイタリアでは，オペラの登場によって，歌曲は中心から後退し，むしろ，この様式を受け継いだハスラー・H.アルベルトらドイツの作曲家たちによって，ドイツ-リートの前史を形成するいくつかの作品集がつくられた。またフランスでは，宮廷歌曲の流れを引くボードビル・ブリュネットなどがつくられた。

19世紀にはいると，歌曲はその黄金時代を迎える。ドイツでは，18世紀後半のベルリン歌曲楽派やハイドン・モーツァルト・ベートーベンらの作品を経て，ロマン派の作曲者たちによって開花される。ピアノの奔放な表現力とゲーテ・シラーをはじめとする多くの詩人の輩出に刺激されて，シューベルト・シューマン・ブラームス・ウォルフらの多くの傑作が生まれた。こうしたドイツ-リートの隆盛に影響されて，フランスでも，19世紀末ごろから，デュパルク・フォーレ・ラベル・ドビュッシーらの印象主義の作曲家を中心とする歌曲の創作が行なわれた。またロシアのチャイコフスキー・ムソルグスキー，イタリアのレスピーギらの曲も見のがせない。20世紀は一般に歌曲の沈滞期といえる。十二音音楽をはじめとする現代音楽の様式が，これまでの歌曲のそれと相いれない側面をもつことが，歌曲のジャンルとしての発展を阻害しているからであろう。〔吉田泰輔〕

かく【核】 ⇨原子核

かく【核】 細胞の中にあって遺伝物質を含み，原形質の生活活動の中心をなすもの。原則として1細胞に1個の核があるが，花粉粒のように2核のものもある。また，粘菌類は多核の生物体である。核の形はふつう球状であるが，古い細胞では扁平(へんぺい)・紡錘形などになる。普通は直径5～6 μ。細胞質との境は核膜によって囲まれ，中には核酸とタンパク質からなる透明な核質がある。これはpH7.6～7.8，ヘマトキシリンなどの塩基性色素でよく染まるので染色質といわれる。また数個の仁という小体を含んでいる。核の微細構造を電子顕微鏡で見ると，核膜は200Å(オングストローム)で，二重膜からなり，核膜孔をもっている。核膜の外膜は小胞体とつながっており，細胞質膜系となっている。核液中には180Åの小顆粒(かりゅう)が詰まっており，その中に500～2000Åの染色質がある。実験的に細胞を核のある部分とない部分とに分けると，核を含んでいるほうは再生し，核を失ったほうは再生能力がない。核は分裂によってふえるが，分裂をしていない核(物質交代を盛んに行なっている核)は細胞分裂という面から，休止核または静止核という。核分裂*の際には核物質は染色体になる。細胞化学的研究によれば核の主成分はデオキシリボ核酸*(DNA)とヒストン,非ヒストン性タンパク質である。仁はリボ核酸*(RNA)を含む。DNAは遺伝子の本体で，ここに遺伝情報が書き込まれており，リボ核酸とともにタンパク質合成に関係している。電子顕微鏡の観察によると，酵母菌では核が見られるが，細菌類には核膜をもたず核物質の塊からなる核様体が見られる。➔細胞 〔高島文三〕



角

かく【角】 一点を共有する二つの半直線のつくる図形，または，その開きの度合い。共有点をO，半直線をOA，OBとするとき，∠AOBと表わす。このときOを角の頂点，OA，OBを角の辺という。A，O，Bが一直線上にあるとき，∠AOBを平角といい，平角より大きい角を優角，小さい角を劣角という。平角の半分の角を直角といい，直角より小さい角を鋭角，大きい角を鈍角という。図で∠AOBは劣角 α と優角 β の二つの角が考えられるが，一般には劣角をさす。OA，OBのOの向きへの延長をそれぞれOA′，OB′としたときできる∠AOBと∠A′OB′のように，頂点を共有して逆に向き合っている角を対頂角という。対頂角は互いに等しい。二つの角の和が平角であるとき，その2角は互いに補角をなすといい，和が直角であるとき互いに余角をなすという。2直線AA′，BB′に1直線CC′が交わるとき，図のように角を定めれば，α と α'，β と β'，γ と γ'，δ と δ' をそれぞれ同位角，γ と α'，δ と β' をそれぞれ錯角という。もしAA′とBB′とが平行であれば，同位角は互いに等しく，錯角も互いに等しくなる。角の測定には直角の1/90を1°(度)とし，さらに1°＝60′(分)，1′＝60″(秒)とする単位を用いたり，ラジアン*という単位を用いたりする。〔菊池兵一〕

かぐ【家具】 たんす・机・いす・寝台など日常の衣食住のために用いられる道具類の総称。通常建物に固定せず動かせるものと建物の一部につくりつけられて動かせないものとあり，固定されたものは厳密には家具とはいわない。家具は風俗・習慣ならびに建築様式に大きく影響を受け，室内空間の重要な構成要素で，19世紀まで室内装飾として発達してきた。家具は木材・石材・プラスチックなどの使用材料により，住宅・事務所・劇場などの使用目的により，厨房(ちゅうぼう)・玄関・寝室・応接間などの使用箇所により，さらにはゴシック式・初期イギリス復興式などの様式により分類できるが，機能面から分類すれば次のようになる。①人体を支持するもの：人体を一定の姿勢にささえるための家具で，仕事あるいは休息の際に用いられ，仕事用いす・休息いす・小いす・床机・安楽いす・ひじ掛けいす・ベンチ・寝いす・長いす・寝台などがある。②作業・動作を助けるもの：物を置いたり，その上で作業をするためのもので，食卓子・茶卓子・わき卓子・仕事台・壁つき卓子・化粧卓子・調理台・配ぜん台・応接卓子・事務机・書き机・アイロン台・流し台などが含まれる。③整理・収納をするもの：書類・書籍・衣類・食器などを置いておくもので，たんす類・書だな・衣服だな・食器だな・飾りだな・げた箱などがある。

家具材料としては木材・合板*・集成材*・繊維板*などの木質系材料，竹材・石材・籐(とう)・植物葉枝類などの天然材料，金属・ガラス・陶器・プラスチックなどの工業材料など，天然ならびに人工皮革などがあげられる。利用形態も工業技術の発達によって種々変化しており，曲面合板・パイプ・鋼棒・アルミニウムの押し出し材の利用，プラスチック材の押し出し，射出成型*材などの出現でいっそう拍車がかけられている。

家具のデザインは，手工業的な伝統的なものは別にして，工業的なものは使用材料の開発，情報の急速な普及化，国際交流の迅速化などから国際的な形になりつつある。合板・パイプ・プラスチックの出現によって構造もデザインも単純で軽快な方

向へと変化し，量産家具なども試みられている。さらに組み重ね・組み合わせ家具などその便利性を強調し，いす・机なども合理性を重視して折りたたみ式・組み合わせ式などある。家具にも人間工学*が導入され，科学的な解釈によっていす・机などの曲線・材質・寸法などが決められ，デザインに貢献するようになった。イギリス・アメリカ・イタリア・フランスの家具などが有名だが，スウェーデン・デンマークの木製家具は機能主義と伝統的な手工芸とが結合してその美しさが知られている。〔神山幸弘〕

カグー ［Kagu］ 鳥類・カグー科。ニューカレドニア島の高地森林に生息するこの島特産の１属１種の特殊な鳥。だいたいゴイサギぐらいの大きさで，全体は灰色で，翼には黒白色帯があり，くちばし・脚は赤色。冠状の羽毛があり，別名をカンムリサギモドキという。動物園で繁殖した例によると，地上に葉や枝を集めて巣をつくり，１卵を産み，36日で孵化(ふか)したことが知られている。しかし，天然での生態はまだ詳しく知られていない。人間が移入したイヌ・ネコ・ブタによる捕食や森林の伐材により生存があやぶまれ，国際保護鳥に指定されている。〔安部直哉〕

がく 【萼】 花の構成要素の一つで，花被が内外２輪に分けられるとき，外側にある花葉をいう。がくはがく片によって構成され，がく片の基部が癒着(ゆちゃく)しているものもある。一般に葉緑素をもち緑色を呈するが，他の色素があって花弁様となるものもある。ふつう花が終わると落ちるが，カキ・ナスのようにいつまでも残っている宿存がくや，ケシのように開花前に落ちるものもある。なお，キク科の冠毛はがくの変形したものである。

がく 【額】 紙・布・板などに書・絵画などを書いたり彫ったりして掲げるもの。横長の扁額(へんがく)と縦長の榜(ぼう)とがある。古代の額は榜で，木製，木の縁をつけている。文字を打ちつけ書きにするか，彫るかして，門や殿舎・堂塔に掲げる。後世の額は横長が多いが，縦長のものもある。書または絵を表装し，木の縁をつけて，室内に掲げる。

がく 【学】 学あるいは学問(英語science，ドイツ語Wissenschaft)とは真理の探求ないし真理の体系化された知識のことである。真理は知的活動によって自然と人間の存在の原理ないし法則としてとらえられる。真理はときにあるがままの姿で，ときにあるべき姿で現われる。そこで真理にかかわるしかたに応じて種々の学問がなりたつ。大別して哲学と科学になる。科学(知識)は主としてあるがままの姿に関し，自然的客観的な知識の体系化を企図する。哲学(知恵の愛)は主としてあるべき姿にかかわり，価値規範的・超自然的(形而上学(けいじじょうがく)的)で，いかに生きるべきかに関心をもつ。しかし，この両者は真理の探求にあたって相補うべきものである。



ガクアジサイ

古代ギリシアにおいて学の発生した当初は，哲学と科学は未分のまま働いていた。彼らの学的観照(テオリア*)ははじめはもっぱら自然ないし宇宙の始源と生成に向けられ，次いで人間自身に向けられた。人間は自然の中でロゴス*(ことば)を用いて社会的共同生活を営む。古代ギリシア人は自然におけるロゴス(理法)も直観していたが，特に人間のことばとしてのロゴスを重視し十分に展開した。ロゴスの働きは自然現象や社会現象について観察したものを要素(類と種の概念)に分け，その関係を語る(判断する)とともに単位に分け，その量や比的関係をとらえ，かくて事物の本質や法則を明らかにしようとするところにある。したがってロゴスの働きはことばの論理から数の論理に及んでいる。こうしたロゴスを基軸とする学問が多くの場合〈何々学(－logy)〉とよばれ，論理学と数学が基礎となり，基本的な手続き(方法)として観察と記述(分類)があるわけである。また，分析し総合するロゴスの働きは事象の原理(前提)を見いだし前提から語ること，つまり推理することでもあるから，学問は前提の発見と前提からの説明の両面をもっている。前者は主として哲学的な仕事であり，後者は主として科学的な仕事である。見いだされた前提を仮定としてその締結を検証しながら法則を確立し，それによって事象の説明と予測をなそうとするのが科学である。ソクラテスやプラトンは対話と弁証法によってそうした前提を無仮定なものにまでさかのぼろうとしてイデア(形相*)の道を歩み，善のイデアに至った。アリストテレスはイデア界をこの経験的・自然的世界に内在させ，質料*とともに存在の原因となし，これによって存在の諸領域を目的論的に説明しようとした。彼は哲学を観想(理論)的部門として第一哲学(神学ないし形而上学)と第二哲学(自然学)に分け，さらに実践部門と制作部門を加えた。ストア派はこれを受けて論理学・自然学・倫理学を哲学の３部門として固定した。かくて哲学はイデア的な哲学と科学的な哲学の二つの潮流となって以後の学問の世界に生き続けている。科学は自然や人間のそれぞれ個別的な研究領域に応じて一連の仮説からなる理論を構成し，それを個々の事実の検証(実験)を通して真理に近づけようとする。ここに科学の専門分化が生まれる。古代ではヘレニズム期に医学・数学・力学・天文学・地理学などが個別科学として活動したが，実験が十分可能になった近世社会においてはじめて自然諸科学，特に物理学が一挙に発展した。さらに18世紀に新しい科学として登場した社会科学は，19世紀にはコントの社会学によって実証性が，マルクスの経済学研究によって科学的客観性が基礎づけられた。かくて科学は自然と人間社会にわたって多くの個別科学としてあらゆる分野に及んできたが，専門分化が進むほど，科学は専門ごとに真理の部分的・相対的な把握(はあく)に終始し，真理全体が見失われるおそれがある。そこで科学内部においても個別科学の再編成ないし再分類と，分類しえない境界領域についての新しい理論構成がたえず必要になる。哲学的には学の根本前提にかえって世界全体の根源への問いかけと人間社会の主体性への深化が同時に行なわれねばならない。今日自然科学と社会科学は法則の理解においても方法においても互いに歩み寄りつつある。それは，マルクス主義理論を契機に，それらの学的研究を導く理論が一般的・全体的に宇宙論(コスモゴニー)的基礎に立ちもどりつつあるということであって，かつての古代ギリシアにおける哲学発生の状況を思わせる。科学の技術化は宇宙工学と社会工学を生んで自然と社会の大規模な外的な変革に有効に働いてはいるけれども，人間社会のいわば内面をなす主体性はおさえられたままである。今日ほど科学・技術と哲学の共同が必要なときはない。この共同によって人類の未来社会に真に必要な学問のあり方が確保されよう。〔村治能就〕

かくあ 【覚阿】 生没年不詳。平安末期から鎌倉初期の天台宗の僧。俗姓は藤原氏。14歳のとき比叡(ひえい)山に登って得度受戒し，インドおよび中国の仏典を学んだ。1171年(承安１)法弟の金慶とともに杭州(こうしゅう)(浙江(せっこう)省杭州市)に渡り，臨済宗五山の第二，霊隠寺に仏海禅師慧遠*(えおん)を尋ねた。翌年秋金陵(南京(ナンキン))に行き，揚子江畔で鼓の音を聞いて悟ったという。1175年(安元１)帰朝して比叡山に住したが，高倉天皇に禅旨を問われたのに対して笛を一吹きしただけだったという。〔京戸慈光〕

がくあじさい 【額紫陽花】 双子葉植物・ユキノシタ科の落葉低木。関東南部・伊豆(いず)半島・伊豆七島の海岸付近の日あたりのよい草地や疎林内に自生。枝は太く，葉は対生し，光沢がある。６～７月に青紫色の花を開く。花序の中央は両性花で，まわりにだけ中性の装飾花をつける。装飾花は径２～４cmぐらいで，花弁状のものはがくである。

がくあんじ【額安寺】奈良県大和郡山(やまとこおりやま)市にある真言律宗の寺。額田(ぬかだ)寺ともいう。聖徳(しょうとく)太子創建の熊凝精舎(くまごりしょうじゃ)の後身として，奈良時代に道慈が額田氏の氏寺として建立(こんりゅう)。当寺所蔵の《班田古図》によると，大安寺式伽藍(がらん)を備えた大寺であったらしい。平安後期，密教の隆盛とともに寺運は衰えたが，鎌倉末期に忍性*(にんしょう)が再建，戦国時代になると松永久秀(まつながひさひで)の兵火にあい，次いで豊臣秀吉(とよとみひでよし)が大塔を四天王寺に移建したことによって衰退した。現在は一小寺にすぎないが，虚空蔵菩薩半跏(こくうぞうぼさつはんか)像・獅上文殊(しじょうもんじゅ)菩薩像など多くの重要文化財を蔵し，旧境内は史跡に指定され，飛鳥(あすか)・奈良・平安・鎌倉時代の古がわらが出土し，往時の盛観を察することができる。〔藤本昌子〕

がくい【学位】すぐれた学術研究者に対して，その資格・能力を示すために与えられる称号。わが国においては，1887年(明治20)の学位令，1920年(大正9)の大学令の制定に伴う学位令(1947年学校教育法の制定施行によって廃止，ただし1962年〔昭和37〕3月末日まで経過的に適用)，現行の1953年制定1969年一部改正の学位規則が制度としての沿革である。現行制度による学位は，博士が5年(医学・歯学は4年)以上，修士が2年以上大学院に在学し，所定の単位をとり，論文審査・試験に合格した者，またはこれと同等以上の学力を有する者に与えられる。博士は文学・教育学・神学・社会学・法学・政治学・経済学・商学・経営学・理学・医学・歯学・薬学・工学・農学・獣医学・水産学・保健学の18種，修士は博士のうち医学・歯学を除いた16種に国際学・行政学・家政学・体育学・衛生学・栄養学・芸術学を加えた23種となっている。〔中野　光〕

かくいせいたい【核異性体】質量数*・原子番号*ともに同じであるが，ほかの性質(放射性なら半減期*)の異なる原子核*が2種類以上あるとき，これらの原子核をいう。たとえば，ウラン系列*中のUX_1はβ崩壊してUX_2とUZになる。UX_2とUZはいずれも質量数234，原子番号91で，さらにβ崩壊して同じUIIになるが，UZの半減期はUX_2よりはるかに長い。エネルギーの大きいほうの原子核は他方の原子核が励起*したもので，普通の励起状態の核なら非常に短時間(10^{-12}秒程度)にγ線を放射して基底状態*にもどるのであるが，核のスピンの値が著しく異なれば選択率によってγ線放射の確率が小さくなり，励起状態は準安定状態となって存在できる。そしてγ線放射の確率がβ線放射の確率より小さくなれば，β崩壊をして基底状態に移る。〔福井崇時〕

がくうつぎ【額空木】双子葉植物・ユキノシタ科の落葉低木。東海・近畿(きんき)・四国・九州地方に分布。枝は細く，灰黄かっ色。葉は卵形または長楕円(ちょうだえん)形でやや洋紙質，浅い鋸歯(きょし)がある。5～6月に花をつける。周囲に少数の中性花があり，両性花は花序の中央にある。中性花の花弁状のものはがくである。



岳翁蔵丘　《山水図》東京国立博物館蔵

がくうら【額裏】和服の総裏・通し裏*に対していう。あわせ・綿入れの長着で，胴の上部の裏だけに絹を，他の部分にもめんを使う場合のように，周囲に別布をつけた仕立ての中央の部分の裏地。また，あわせ・綿入れの羽織の背の部分に，額の中の絵のように染めや織りで模様を表わした羽裏(羽織の裏地)もさす。

かくうんどうりょう【角運動量】質量mの質点が速さvで直線ABの方向に運動しているとき，空間で任意に選んだ定点Oから直線ABまでの距離をpとすれば，pmvをその質点のOのまわりの角運動量という。なお，角運動量には質点がOのまわりを時計の針とは逆の向きに回る場合に＋，時計の針の向きに回る場合に－の符号を与える。質点の速度をベクトルvで表わし，また，Oを原点としたときの位置を位置ベクトルrで表わすと，角運動量はベクトル積$r \times mv$によって表わされ，それ自身またベクトルの一種である。多数の質点の集まりからなる質点系の一つ一つの質点の角運動量をベクトルとして加え合わせたものを，その系の全角運動量という。特に剛体の場合にはそれを慣性モーメント*と角速度*の積として表わすことができる。質点系に外から作用する力のOのまわりのモーメント*の総和は，全角運動量の時間微分に等しい。この関係は質点系，特に剛体の回転運動を調べる際に役だつ。外から作用する力のモーメントの和が0の場合には全角運動量は一定で，時間がたっても変化しない。これを角運動量保存の法則という。〔有山正孝〕

かくえき【核液】細胞の核*の中を満たしている液。核膜に包まれ，染色糸や仁などがこの中に広がって含まれている。生体では染色性が弱く，透明・無構造に見えるが，電子顕微鏡像では130～180Å(オングストローム)の小顆粒(かりゅう)がたくさん見られる。非ヒストン形のタンパク質からなるコロイドで，ゾル状である。核分裂のときには紡錘体に変形するといわれる。➔細胞

かくエネルギー【核エネルギー】⇨原子力

がくえんじ【鰐淵寺】島根県平田市別所町にある山陰地方における天台宗の名刹(めいさつ)。寺伝には，開創は594年(推古2)僧知春によって建てられたとされる。寺宝の金銅仏(重要文化財)は白鳳(はくほう)期の作で，台座の縁に陰刻された銘文によれば，壬辰(じんしん)の年すなわち692年(持統6)，出雲(いずも)(島根県)の若倭部臣(わかやまとべのおみ)徳太理が父母の冥福(めいふく)を祈ってつくったとある。ほかに1151年(仁平1)在銘の石製経筒と古鏡，室町期の毛利元就(もとなり)画像などがある。〔永井信一〕

がくおうぞうきゅう【岳翁蔵丘】生没年不明。室町後期の水墨画家。禅僧で，1486年(文明18)ごろから史料に現われ，1584年(永正12)ごろまで生存し，画作したとされる。京都では，了庵桂悟(りょうあんけいご)らの高僧と交遊があり，一時は伊勢(いせ)にいたことがあると伝わる。周文*の弟子(でし)で周文流の水墨山水の伝統を保持し，作品は比較的多く残っている。特に，夏珪*(かけい)流の構図・筆法を明確に表出している点に注目されるが，正統的・保守的である。遺作に，《山水図》《瀟湘(しょうしょう)八景図》《洞山(どうざん)禅師図》《竹林七賢図》などがある。

かくおうだん【核黄疸】胎児あるいは新生児にみられる溶血性血液疾患で，新生児の重症黄疸の10％にみられる。多くの場合は母子間のRh式血液型*の相違が原因となる。黄疸が強く，大脳神経核も黄疸色に染まっているためにこの名がある。出生直後には健康にみえるが，翌日までに黄疸が出現し，神経症状が出現してくる。症状は過度の溶血によって貧血を起こし，肝臓・脾臓(ひぞう)の腫大(しゅだい)が認められ，末梢(まっしょう)血液に多数の赤芽球がみられ，腹水・全身浮腫も起こってくる。黄疸が出現してくるにしたがって出血性素因を伴い，けいれん・昏睡(こんすい)に陥って死亡する者もあ

る。貧血とともに血小板も減少し，肝障害も加わって出血傾向が出現してくる。治療は，できるだけ早期にRh陰性の健康人の血液と交換輸血を行ない，正常の造血の開始を待つのみである。母親の母乳からRh抗体が分泌されることがあるため，母乳栄養を行なわないほうがよい。　〔吉田　彰〕

かくおび　【角帯】　男帯の一種。かたく厚い帯皮の帯で，角張っているので名づけられた。あわせ仕立て(幅20cmぐらいに厚めに織った帯地を二つ折りして，帯しんを入れる)は大正の末からすたれて，袋角帯(8.5cmぐらいの幅の両端を表裏続けて織った帯)に代わり，単(ひとえ)角帯(幅8cm内外で特に厚くかたく織る)は夏季専用。帯地には博多(はかた)織(特に献上博多)・錦(にしき)織・紋織がある。

かくおん　【核音】　音楽理論用語。音組織中心音ともいう。フレーズの開始音や終止音，また最もしばしば現われる音をいい，特に西洋以外の民族音楽の音楽構造を解明するための基準となる。音階の各音は，旋律をつくりあげるうえで同じ機能をもっているものではなく，そのうちの一つか二つだけが他よりも重要な役割を果たしているのが普通である。

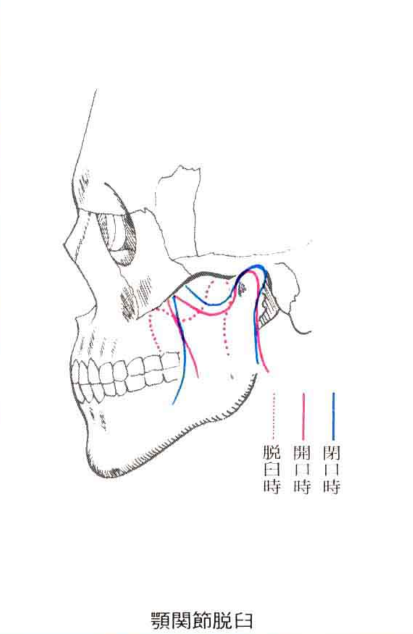
がくおん　【楽音】　雑音と区別される伝統的な音楽を構成する音。物理的には規則正しい振動が続き，部分音の振動がほぼ整数比になる性質をもち，音高や音色がはっきりしている。しかし，現在では音楽にとって楽音と雑音の区別はあいまいになりつつある。

かくがいきどうでんし　【核外軌道電子】　原子模型*において，原子核のまわりを一定の軌道を描いて回っていると考えられる電子。量子論的には，このような軌道が存在するわけではないが，便宜上このようによぶことがある。

かくかがく　【核化学】　原子核化学。核分裂を含む原子核反応に関する現象の化学的側面を扱う科学の一分野。原子核物理学*がそれらの現象の物理学的側面を研究する科学であることに対応する。粒子加速器*や原子炉でできた人工放射性同位元素*の化学的性質を取り扱う分野などが含まれる。核反応による人工放射性同位元素を化学的に試料から分離し，定量分析をして核反応断面積を求めたり，考古学的試料から化学的に取り出した炭素に含まれている ^{14}C の割合から年代を測定したり，放射性同位元素をトレーサーとして化学反応を調べたりすることなどがその例である。測定技術としては，化学的な手段のほかに放射線測定の技術が必要であり，また核物理学的な知識もある程度は必要である。応用面では使用済み核燃料からのプルトニウム*の抽出などがある。なお，放射線化学は，粒子加速器や放射性同位元素による放射線を各種物質に照射して，その化学的性質の変化を調べる分野で，核化学とは異なる。➔核工学　〔加藤敏郎〕

がくがくきはん　【楽学規範】　朝鮮音楽史上最も重要な書物。李朝(りちょう)の第9代成宗康靖王(こうせいおう)(在位1469～1494)のときに編集されたといわれる。全9巻3冊からなり，漢字で書かれている。中国から伝えられた雅楽*の音律論・制度・曲目解説・楽器説明・用具説明などが詳細にしるされている。朝鮮音楽の歴史的変遷をたどる意味ばかりでなく，中国と日本の中間位置にある朝鮮の音楽慣習が解明し得るという意味で貴重である。

かくかくさんぼうしじょうやく　【核拡散防止条約】　非核保有国の核兵器*保有と，核保有国の非核保有国に対する核兵器および原子力*設備の供給を禁止する条約。核実験停止条約*に次ぐ二つめの核軍縮条約である。核拡散(核兵器拡散)の防止が国際連合で扱われるようになったのは1959年以後であるが，特に1963年核実験停止条約が締結されてからは，軍縮問題の中心はこの条約にあり，国連においても何度か核拡散防止決議がなされた。1965年7～9月にジュネーブで行なわれた国連下部機構の18か国軍縮委員会において，米・ソ両国の草案が検討されたが，これは対立のまままとまらなかった。1967年8月には，米・ソは査察条項を除いて，核兵器保有国の増加防止という点で基本的合意に達し，1968年1月には米・ソの同一の草案が提出されて，3月に国連総会に送付，6月12日に第22回再開国連総会において条約推奨決議が採択された。7月1日，ワシントン・モスクワ・ロンドンで調印式が行なわれ，同日，計62か国が署名，その後1968年末までに85か国が署名した。条約は，前文と10か条からなり，非核保有国の国際原子力機関との協定締結，保障措置の受諾，保障措置のもとに置かれないかぎり非核保有国に対する核物質と原子力設備などの供給が禁止されること，原子力の平和利用促進，全面完全軍縮条約への努力などについて定めている。しかし，核爆発の平和的利用も禁止されること，核保有国の核軍縮義務が明記されていないこと，非核保有国の安全保障が明らかでないこと，期間が長いことなどに問題がある。　〔広部和也〕



顎関節脱臼

かくかしょう　【角化症】　皮膚の最外層の角質*が過剰に形成されたために，それが肥厚してざらざらしたり，かたくなる皮膚病の総称。魚鱗癬(ぎょりんせん)・毛孔性苔癬(たいせん)・たこ・うおのめ・乾癬・進行性指掌角皮症など多数の皮膚疾患が含まれ，それぞれ治療法も異なるが，一般に外用療法として角質を剝離(はくり)させるサリチル酸軟膏(なんこう)や，角質化を調整するビタミンA軟膏が用いられる。

かくかぞく　【核家族】　⇨462ページ

かくかそくど　【角加速度】　⇨角速度

かくがり　【角刈り】　1871年(明治4)男子断髪令が施行されて以後の男子の髪風。頭の側面をごく短く刈り込み，上部を水平にし，正面から見ると頭が四角に見えるように角をつくる。おもに職人・労働者・人足のような労働が激しい職の者が好む。

がくかんいん　【学館院】　学官院とも書く。橘(たちばな)氏*出身の大学寮学生のための教育施設。平安初期，嵯峨(さが)天皇の皇后橘嘉智子*(かちこ)と弟右大臣氏公(うじきみ)によって私学校として建設された。964年(康保1)参議橘好古(よしふる)が勅裁を得て大学別曹*(べっそう)としたが，橘氏の衰微とともに衰えた。1147年(久安3)再興の計画がなされたが，実現したかどうか明らかでない。

がくかんせつきょうちょくしょう　【顎関節強直症】　あごの関節が，骨や繊維性組織で癒着(ゆちゃく)を起こして，口があけられなくなった状態。中耳炎，顎骨の骨髄炎・骨膜炎・骨折，顎関節炎などが原因となる。それらが幼少時に起きた場合は，口があかないという状態だけでなく，あごの発育が阻害されて，小さなあごのままにとどまり，一見あごがないような状態(鳥貌(ちょうぼう)といわれる容貌)になる。治療は，癒着している部分を切り離し，関節が再び動くようにする手術(顎関節授動術)を行なうが，顔の変形がある場合は二次的にあごの形成手術も行なう。　〔成田令博〕

がくかんせつだっきゅう　【顎関節脱臼】　俗にいうあごがはずれた状態。人の顎関節の運動は手足の関節と異なって，単なる蝶番(ちょうつがい)運動ではなく，口をあけると関節頭は前方へ移動する。この運動は，急な過度の開口によって，前方にある関節結節を越えて再びもとにもどらなくなることが

ある。整復は，なるべく早く行なったほうがよく，両側の下の第一大臼歯(きゅうし)に親指をあて，他の指で下あごをつかみ，下方へ押し下げながら，後方へと力を入れるようにする。〔成田令博〕

かくき【郭熙】生没年不詳。中国，北宋(ほくそう)の山水画家。字(あざな)は淳夫(じゅんふ)。神宗(在位1067～1085)のとき画院の指導者となる。李成(りせい)の法を学んで寒林山水を巧みに描き，みずから胸奥を放つと評された。大観的な景状把握(はあく)の山水によって李郭派と称される。蟹爪描(かいそうびょう)といわれる樹法は，五代の荊浩(けいこう)・関同らから受け継がれて李成・郭熙に至って完成をみたが，北宋山水画の最大の特徴といえる。画論《林泉高致》は北宋山水画に制作上の理念を与えたとされる。〔中島純司〕



郭　熙《早春図》1072　国立故宮博物院蔵

かくぎ【閣議】⇨内閣

かくきょへい【霍去病】(BC140～BC117)　中国，前漢武帝時代の武将。大将軍衛青*の姉の子。性寡黙で騎射をよくし，兵を用いること迅速であった。しばしば匈奴*(きょうど)と戦って功をたてたが，BC121年驃騎(ひょうき)将軍となって春・夏2回出征し大功をたて，秋には渾邪王(こんやおう)が投降する際に護衛したことと，BC119年の戦いに衛青と各50,000騎を率い匈奴をゴビ砂漠(さばく)の北に駆逐したのとが特筆される。しかし，彼は高貴の出で部下と苦楽をともにする心がなかったと司馬遷から批判されている。〔米田賢次郎〕

かくクラブ【核クラブ】国際的な規約はないが，核兵器を専有している米・ソ・英3国に対する慣用語として使われている。いずれも共通して核兵器とその秘密を他国に与えず，似通った原子力外交を展開し，核拡散防止条約*の審議などを行なっている。フランス・中国はすでに核実験に成功しているが，核クラブには参加していない。

がくげいかい【学芸会】〈公衆の前で臆(おく)せぬ態度を養う〉ことを目的に，学校行事*の一つとして明治後期から行なわれていたが，劇・音楽を中心として盛んになったのは大正期(→新教育)である。一部出演者の独壇場にならぬ配慮があれば，児童・生徒が自主的に計画し，協力する態度を養うという教育的価値は高く，1951年(昭和26)から特別教育活動*として，学校教育に位置づけられた。しかし現在では，ことに高等学校においては，文化祭の一環として演劇発表会・音楽発表会を催すのが一般的であり，小学校低学年の児童らの〈お誕生会〉〈クリスマス会〉のように，児童・生徒の生活と密着する傾向にある。〔福井幸雄〕

がくげいだいがく【学芸大学】わが国においては，主として小学校・中学校の教員養成を目的として設立された国立大学をいう。第2次世界大戦後，戦前の〈師範学校〉という名称を〈学芸大学〉に変更した理由には，次の二つが考えられる。第1は，わが国軍国主義の基礎づくりを，教育を通じて行なってきたのは師範学校であるから，これを改組・改革すべしという占領政策によっている。この場合，アメリカではノーマル-スクール(師範学校)が，徐々にリベラル-アーツ-カレッジに切り換えられてきたという歴史を反映させている。第2に，占領政策を受け入れた日本側も，かねて軍隊教育を模倣した師範学校の改革の必要を痛感しており，アメリカ型のリベラル-アーツ-カレッジの源流である，ヨーロッパの学芸学部(教養学部あるいは哲学部に近い性格)を学芸大学の理念としていこうという積極的な考え方があった。つまり，学芸大学は，狭い技術的な教職専門科目やある特定の教科専門科目に縛られずに，学問的精神によって啓培され，広い教養を身につけた人間の形成と，特に専門職としての教員に必要な，学問的に高められ，科学的に洗練された教職教養によって裏打ちされた職業人の育成を中心課題とした。

ところが，1965年(昭和40)以降教育政策の変化とともに，学芸大学は教育大学という名称に変更され(現在，東京学芸大学のみが改称されていない)，再び教員養成を主目的とする大学に性格を変えつつある。そして当初の学芸学部の理念から遠い存在になりつつある。〔山崎昌甫〕

がくげき【楽劇】オペラ*の一形式。もと，ドイツの哲学者テオドール-ムントが提唱した概念であるが，ワーグナーの多くの作品によって知られている。ワーグナーは，音楽を主としドラマを従とする従来のオペラを強く批判し，音楽・演劇・建築・絵画など，すべてのジャンルが協力することによって芸術が完成されるとした。彼自身は楽劇(Musikdrama)ということばをきらって総合芸術作品(Gesamtkunstwerk)とよんだが，彼のこうした考えに基づく作品と，彼のあとに続く作曲家の一部の作品を，一般に楽劇とよんでいる。ワーグナーの楽劇の特徴は，①レシタチーボやアリアを排し，無限旋律を用いて，一幕中あるいは一場を通して音楽が間断なく劇の進行を誘導する，②指導動機(ライトモチーフ)という，特定の個性(人物)または概念を象徴する動機*を，その個性(人物)が現われる箇所に用いる，③オーケストラの編成が大きくなり，活動範囲も拡大する，④文学的・演劇的要素と音楽美とが深く結合する，などの点にある。

ワーグナーのこうした試みは，初期の作品《リエンチ》《タンホイザー*》などにもみられるが，より完全な形で現われるのは，四部作《ニーベルンゲンの指輪*》においてであり，以後，《トリスタンとイゾルデ》《ニュルンベルクの名歌手*》《パルジファル*》などの後期作品においてその内容はいっそう高められている。ワーグナー以後のオペラ作家はほとんど彼の影響を受けたといえるが，総合芸術作品の理念を保持しつつも，古典的な楽曲形式への復帰，ライトモチーフの適用をゆるやかにするなどの変更がなされた。それらの作曲家のうち，プフィッツナー・リヒアルト-シュトラウスが重要である。〔吉田泰輔〕

かくこう【鶴岡】ホーカン　中国，黒龍江(こくりゅうこう)省東部の都市。松花江下流，佳木斯(チャムス)の北約60kmの位置にある。人口21万(1957)。1914年に炭田が発見され，現在は南北約50km，東西約5kmの規模を有する。炭層は6層よりなり，層厚合計平均20m。炭質は弱粘結炭で，本溪湖(ほんけいこ)炭と撫順(ぶじゅん)炭の中間で，良質である。埋蔵量は東北最大で約50億tと推定され，年産(800万t)も撫順・阜新(ふしん)に次ぐ東北第3位で，将来性のある炭田である。鶴岡の鉱工業生産の80%はこの炭鉱が占めるが，食品加工・製材などの工業も発達している。〔千田　稔〕

かくこうがく【核工学】原子核エネルギー*および放射性同位元素*は，物理学・化学・地学・生物学などの基礎科学の分野のみならず，工学的にもかなり有用である。しかし，それを利用するためには特殊の知識が必要で，近年そのための科学技術が発達してきた。その分野を総称して核工学という。範囲はかなり広く，核物理学*・核化学*などの基礎分野から原子炉*の設計建設，原子炉を安全に運転するための各種の制御機器，原子炉材料・原子炉燃料，放射線測定用の計数管*とその付属電子機器，放射線の遮蔽(しゃへい)用の材料などの製造の分野があり，さらに原子炉でできた放射性同位元素を利用した厚み計などの工業計器の製造，放射線発生用の粒子加速器*から放射線の人体に対する影響を調べて害を防ぐ保健物理などに至るまでの種々の科学技術の分野を含み，自然科学のほとんどすべての分野と関連をもつ。〔加藤敏郎〕

核家族

婚姻*によって結ばれた1組みの夫婦の結合を中心として，夫婦と未婚(独立前)の子どもをもって構成された家族*形態をいう。アメリカの文化人類学者G. P. マードック*は250の現存する未開社会の家族を比較研究し，これを検討した結果，どのような未開社会でも男女一対の性および経済の統一としての婚姻が普遍的に存在することを発見し，これまでの原始乱婚説は成立しないことを明らかにした。そして，夫婦と独立前の子どもが同居する家族単位があらゆる家族形態の原型であると主張し，人類社会に普遍的に存在する家族集団を核家族と名づけたのである。今日では，親と子夫婦が同居する前近代的な直系家族制に対立する近代的な夫婦家族制のモデルとして使用される場合が多い。

〈核家族の構成〉 マードックは，親夫婦と2組み以上の子夫婦が同居する複合家族や，親夫婦と1組みの子夫婦が同居する直系家族のような大家族の形態を拡大家族とよんでいるが，この大家族も必ずその中には核家族の存在が認められ，結局核家族の複合または拡大したものにすぎないとみた。また一夫多妻や一妻多夫のような複数の婚姻による複婚家族は，現在の未開社会に若干みられる形態であるが，この場合でも1人の共通の親をもつ2組み以上の核家族が結びついた形態であって，やはり核家族が原型となっているとみたのである。

〈核家族の機能〉 マードックによれば，核家族は性・経済・生殖・教育の四つの機能をもっており，人類社会にとって不可欠なこれらの機能が核家族によって果たされていることを強調している。〈性〉は，単に動物的・生理的な欲求を充足するためだけに機能しているのでなく，家族を構成することによってはじめて男女の性関係が社会的に承認されるという統制的機能をもっている。社会的な儀礼をすませた1組みの夫婦にのみ認められる性的特権は，その反面において近親相姦(そうかん)に関する禁忌*が存在することを明らかにしている。〈経済〉は，一対の男女の間に婚姻という性の相互的慣習が社会的に承認されると，夫と妻の性的分業に基づく経済の協同が行なわれることを意味する。そして婚姻は，性と経済という二つの機能を一つの関係に結びつける役割を果たすもので，その上に永続的な共住共食という生活がつくりあげられる。〈生殖〉は，さきの二つの機能を持続する男女の間には当然子どもが生まれることを意味している。〈教育〉は，子どもたちの身体的・社会的な成熟をみるまで養い，しつけるという働きを意味している。そして生殖と教育の機能は，主として親子間に作用する機能として特徴づけられている。このように核家族は，社会にとって重要な四つの機能を果たすところの基礎的な集団単位である。社会の進歩に伴って，これらの機能のうちのどれかを家族に代わって行なうような集団を見いだした社会は多いが，この四つの機能のすべてを家族に代わって行なうような集団を見いだした社会はまだ地球上に存在しない。したがって，機能の上からみても，核家族の普遍的存在を説明できるというのである。

〈核家族の居住制〉 家族の居住制の問題は，家族の生活単位(世帯)を決定する上で重要であるが，最近は居住のあり方が核家族と親族群との間の社会的相互作用の頻度(ひんど)や内容を決定する点からも重要な意味をもつものとして注目されている。マードックは家族の居住制について夫婦の住居の所在と親族との居住関係から次の五つに分類する。①母系居住制：夫はその生家を離れ，夫婦が妻方の家またはその近くに居住する。これは主として母系社会にみられ，妻の周囲に母系親族の強固な地域集団が形成される。わが国においては，地方出身の夫と都市育ちの妻との都市家族にみられる居住形態である。②父方居住制：夫婦は夫の父親の世帯の一部にはいる。この場合，妻方親族は排除され，父系親族の地域集団化への傾向を示す。日本にみられる嫁入り婚は族外婚に基づく父方居住制である。またこの居住制の変形である母方・父方居住制は，結婚の一定期間夫は妻方で生活し，その後は夫方に移動するもので，日本のかつての農村でみられた婿入り婚は族内婚に基づくこの種の居住制である。③選択制：夫方・妻方のいずれに居住するかの選択は自由である。④母系伯父(おじ)方居住制：夫の母系伯父方に居住する婚姻慣習である。⑤新居制：夫婦はともにその生まれた家族から別居独立する。その結果，夫婦と未婚の子どもだけの単一の核家族の世帯が構成される。

〈核家族の現代的意義〉 現在では，アメリカのパースンズ*をはじめとして，核家族を近代家族の理想型として規定する学者が多くなった。前近代家族では，家*の存続を中心にすえて，家産や家業の継承者たる家長の権限が絶対的であった。そのために夫婦関係よりも親子関係が重視され，兄弟姉妹の間にも，次代の継承者たる長男とその他の子どもとの区別が明確であった。第2次世界大戦前の日本では，親と特定の子夫婦が同居する直系家族が理想的な家族形態であった。ところが最近では産業化や都市化の進展につれて，生産の場が家族の内部に求められなくなり，職業*はもはや家業でなくなり，家産も子どもの居住移動によって分割されるようになったので親と子夫婦が同居する意味もしだいに薄らいできた。このような物質的な機能も含めて，これまで多方面にわたる機能を複合的に内包していた家族は，あたかもキャベツの皮をむくように次々と他の集団(学校・職場・病院など)に譲り渡してゆき，機能が単純化してきた。そして，近代社会の変動に最も適応した家族形態は，生活単位としての核家族であると考えられるに至ったのである。近代家族としての核家族は，前近代家族にみられる親子中心で生活完結的な直系家族ではなく，1組みの男女の愛情と人格に基づく結合を出発点とした夫婦中心の家族であるところにその特徴をもっている。したがって，家族内の人間関係も相互の人格の尊重を前提とした平等の関係に立つので，友愛的家族や同僚的家族が出現する。また，消費の抑制から消費の充足へと生活の原理が変わるにつれて，子どもを多く生んでも家庭生活の水準を上昇させることにはならず，かえって夫婦生活を経済的にも時間的にも圧迫することになるので，いきおい家族計画*によって家族員数を縮小させる傾向にある。核家族が小家族であるのも，近代家族としての特徴の一つである。近代家族はその形態の上で核家族の形態をとるだけでなく，その機能においても単純化し，縮小してきたが，それでもなお最小限必要な家族機能は存続する。近代家族としての核家族に課せられている機能には，子どもたちを社会の一人まえの成員に仕上げていく〈社会化〉の機能と，おとなの男女のパーソナリティ*の情緒的な〈安定化〉の機能が残されている。核家族にはこの二つの精神的な機能が組み合わさって働いているからこそ，現実においてもすべてのおとなが核家族の成員であり，すべての子どもが核家族の中で社会化の過程を開始するものと認められている。

〈核家族の孤立化〉 核家族は近代家族の理想型とされているが，その反面，現実には孤立化の問題があるとみられている。まず，産業化や都市化の変動の中で地域社会の連帯性が希薄となり，地域生活への無関心が一般化して，核家族はマイホーム主義となり，地域社会*は砂のようにばらばらなねぐらにすぎなくなる。また，職業と技術による社会組織の変化は，両親と成人した子どもとの相互的役割を著しく減退させる。これに関して，もともと核家族は夫婦の役割を中心とし，結婚した子との相互依存関係を否定するところに成立するから，親族組織の中で孤立化するのは当然である。そこから，このような家族形態では親を扶養する別居の子どもは希少価値となる傾向があるとみられていた。しかし，これに対しては，最近の家族研究では批判的になってきており，核家族は親族組織の中では一つの生活単位として孤立しているが，核家族相

互間には一定の社会関係と相互扶助のネットワークが積極的に機能している事実を指摘している。すなわち，老親と成人した子どもとの間には，現実にはお互いの援助と愛情を期待している家族が多く，形態上は単位核家族となって孤立していても，機能的にはむしろ直系家族のもっている物質的・非物質的な相互援助を通して，ネットワークを構成している。ただし，それは前近代家族のように親族集団によって統制されたものではなく，親の核家族と子の核家族がそれぞれ独立した平等の立場に立って連帯し，お互いの自律的な決定に補完的な役割を演じているのである。そうして，このような家族こそ，現代の職業体制が要求する社会的移動に最も適応した家族とみられている。したがって現代の家族は，孤立化した核家族ではなく，修正された拡大家族とみなしたほうがより現実に近い家族類型だともいわれている。しかし，このように親族相互間の機能上の孤立化は否定されたとしても，労働の疎外化や世代の断絶化が未解決な現代の社会体制では，核家族の社会的孤立化やマイホーム主義の問題はなお残された大きな課題である。

〈日本の核家族化〉 日本の家族を，その形態の上からみると，第2次世界大戦前は直系家族を理想型としていたが，戦後の改正民法が核家族を理想型としたこと，産業化に伴って子どもの都市地域への移動が急増したこと，核家族向きの住宅団地が増設されたことなど，社会規範・職業体系・住宅事情が核家族化を急速に推し進めた。核家族化の傾向は国勢調査*でみると1960年(昭和35)ごろから始まったといえる。表-1にみられるように，1920(大正9)～1960年の40年間には夫婦家族的世帯(核家族)はわずかに5％の増加しかみられなかったものが，1960～1964年の4年間には4％の増加をみており，その後も年に1％ずつの核家族化が確実に進行している。

また，日本の家族を家族員の数的構成の上からみると，核家族の特徴の一つである少数の子どもからなる家族が増加している。欧米においては，家族員数の減少傾向はすでに1世紀にわたる継続的な現象であるとされ，1960年のアメリカの平均世帯員数は3.3人であり，同年のスウェーデンでは2.8人となっている。これに反して東南アジア諸国で例をタイにとれば，5.6人である。日本の場合は，表-2のように1920～1960年の調査では1世帯あたりの平均人員はほとんど変わりがないが，1960年に至って大幅な減少が現われはじめ，1965年では4.08人に減じている。子どもの出生率は，今後多少の曲折はあっても，減少傾向をたどるものと予想されている。特に農家世帯では，大都市の雇用の機会の増大に伴って，就職のために他出する傾向が増大する。都市に居住する雇用階層は，子どもの増加が家族収入の増加に直結せず，かえって生活水準を低下させるために，子どもの出生数は抑制される傾向にある。出生率の減少と農家世帯員の流出が原因となって，少数の子どもからなる核家族化は今後も進行するものと予想される。ただし，さきにあげた表-1の夫婦家族的世帯と表-2の1世帯あたりの人員の国勢調査の結果には，単身世帯が含まれている。単身世帯はもともと家族とはいえないが，若い単身世帯は将来核家族を構成するものと予測して核家族率を計算したものであることに注意したい。

〈核家族の周期〉 まず，直系家族を核家族の世代的連帯とみて，1930年と1960年とではどのような周期上の変化があったかをみたのが表-3である。2夫婦そろいの段階(夫婦の結婚から父死亡までの期間)は，この30年間に約2倍の長さに延びている。これは主として平均寿命が延びたためで，したがって1組みの夫婦と未婚の子からなる核

表-1 普通世帯当り人員 単位：人

年次	人員	年次	人員
1920	4.89	1950	4.97
25	4.88	55	4.97
30	4.98	60	4.54
35	5.03	65	4.05
40	5.00	70	3.69
		75	3.45

〔資料〕総理府統計局：日本統計年鑑

表-2 普通世帯の家族類型的構成 単位：1,000世帯

分類＼年次	1955	1965	1975
総数	17,398	23,117	31,271
親族世帯	16,719	21,223	26,968
核家族世帯	10,366	14,444	19,980
夫婦のみ	1,184	2,262	3,880
夫婦と子供	7,499	10,493	14,290
男親と子供	275	228	257
女親と子供	1,408	1,461	1,553
その他の親族世帯	6,353	6,779	6,988
非親族世帯	83	78	67
単独世帯	596	1,816	4,236

〔資料〕総理府統計局：日本統計年鑑

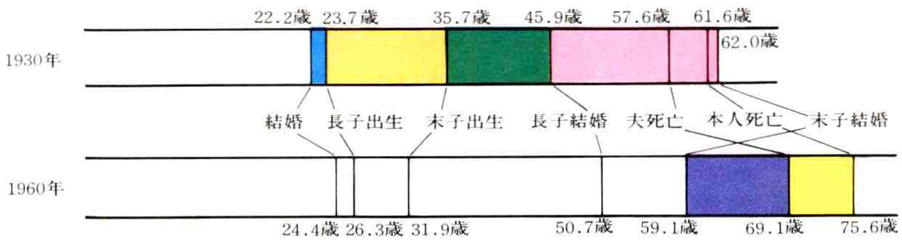


表-4 日本の核家族の周期

家族の段階(母死亡から跡取りの結婚までの期間)は約3分の2に縮まっている。

このように，親と子ども夫婦が同居する直系家族の家族周期では，第3段階の核家族の時期が短縮されているから，現在の時点で家族調査をすれば直系家族制の核家族群はむしろ減少しているはずである。したがって，現在の核家族率の増加はやはり単一の核家族からなる夫婦家族的世帯が増加したことを示すことになろう。生活単位が核家族からなる妻の家族史を調べる周期の研究では，ふつう次の6段階に分けている。第1段階(まだ子のない前期夫婦時代)，第2段階(長子出生から末子出生までの家族の膨張時代)，第3段階(末子出生から長子結婚までの安定時代)，第4段階(末子が結婚するまで。子どもが次々に独立して他出していく縮小時代)，第5段階(末子の独立から夫の死亡までの後期夫婦時代)，第6段階(夫死亡後，本人死亡までの孤独時代)。この6段階について表-4のように1930年と1960年とを比較してみると，日本の核家族の周期的変化に大きな差のあることがわかる。1930年代には，妻の一生は子どもを生み育てることにささげられており，女の一生は家庭内の生活に終始している。しかるに1960年代には，出生児数の減少と出産間隔の短縮によって婦人が40歳になるころには子の養育がすんでしまい，以後20年余りは家庭外の仕事に従事できるようになっている。ここに中年婦人の就労問題が脚光を浴びる一つの基礎的条件が整ったのである。他方，寿命の延長による新しい変化として，1930年当時は末子結婚から夫死亡までの後期夫婦時代は皆無であったものが，1960年には10～13年の期間が生じた。こうして老年期の夫婦だけの時期と，さらに夫死亡後の7年間のひとり暮らしの時期が待ち受けることになり，ここに核家族の老後の生活問題が登場するに至った。

〈核家族と社会問題〉 日本の家族が核家族化するところから，次のような社会問題が起こっている。第1に，家族内の成員相互の役割のうち，核家族は特に夫婦の役割関係を主軸とするが，夫婦の愛情を基底にした人格的結合は夫婦相互の経済的役割や家事的役割への期待と現実に不一致を生じた

場合，簡単に破綻(はたん)しやすい。夫婦間の性的分業が慣習化された直系家族とは異なり，核家族では夫婦の役割交換が行なわれる。しかし，妻も家庭外の収入をあげ，夫も家事を分担するという生活慣習は，日本においてはまだ日常化するまでに至っていないので，かなりの不調整と緊張が続く可能性がある。離婚件数の増大する可能性を含んでいるといわねばならない。第2に，第2次世界大戦後急速に核家族化の風潮が浸透した日本では，最も近い親族からも孤立化する傾向がある。核家族は夫婦中心の家族であるから，子どももまた独立して結婚すれば親子関係の結合は薄れ，相互に孤立して生活する。日本の結婚した子と親との関係では，老親の側は直系家族的価値規範を求めるのに対して，子ども夫婦の側は核家族的規範を求めるという鋭い対立が存在する。したがって，老親と成人した子の家族との間の紛争は潜在的にかなり高いことが推測される。第3に，核家族は直系家族に比べて家族が危機にあった場合，防衛する手段をもちあわせないため，経済的貧困に見舞われると直ちに顕在化する傾向がある。核家族は生活単位ではあっても，経済的には生産単位でなくて消費単位であるから，家族員の増加は消費支出の増大に直結する。核家族の周期段階のうち，子どもの養育に要する出費と家事労働が集中する第2段階は貧困に陥りやすい時期である。また老人夫婦だけの時期は，退職による収入の減少と身のまわりや病気の看護費用の出費によって貧困化しやすい時期である。核家族がその経済的機能に障害を起こした場合，子どもや親族の扶養を全面的に期待することは困難であるから，国家の社会保障や地域社会の福祉活動や職業的活動など，家族外の社会機関による支援なしには生活単位としての核家族は存続維持しがたい。家族の危機を克服するのに役だつ社会的資源が著しくたちおくれた日本において，貧困に対応できるだけの資力と人員を欠く少人数の核家族はきわめて不安定な形態であり，解体しやすい状況にあるといわねばならない。➔家族　〔那須宗一〕

がくこうちゅう　【顎口虫】 円形動物・線虫綱に属する線虫で，わが国には3種が知られる。そのうちの有棘(ゆうきょく)顎口虫はヒトに寄生がみられる。これはアジア各地に広く分布し，わが国では西日本に感染がみられる。終宿主はネコ・イヌ・トラなどで，ヒトは中間宿主となる。成虫は終宿主の胃壁に腫瘤(しゅりゅう)をつくって寄生し，胃内に産卵する。卵は夏季1週間ほどで孵化(ふか)し，幼虫は第一中間宿主であるケンミジンコに摂食されてその体腔内で発育する。このようなミジンコ類を第二中間宿主(カエル・ライギョや各種のトリ，ときにヒト)が取り込むと，その消化管壁を貫いて筋肉内に侵入し，1か月ほどで数ミリメートルの幼虫となり，囊(のう)に包まれる。顎口虫の一つの特色はこのような幼虫は何度でも中宿宿主を替えることで，自然界ではたとえばカエルを捕食する鳥類はカエルを通して感染することも起こる。ヒトではライギョなどのさしみを食べて感染する。皮下や筋肉内に有痛性の移動する腫瘤が出現し(長江浮腫)，ときに呼吸困難などの重い症状を呈することもある。治療は皮下に腫瘤が出現したとき，外科的に摘出する。予防はライギョなどの生食を避ける。➔寄生虫
〔山本　久〕

かくざとう　【角砂糖】 砂糖加工製品の一種。グラニュー糖にその飽和溶液を少量加えてやや湿りけを与えて型抜き機で圧搾し，60℃内外の温熱気を通して乾燥し固めたもの。立方体形のものとまた取り扱いが便利なので，扁平(へんぺい)なドミノ形のものとがある。精製度が高く，コーヒー・紅茶などの甘味料として使用される。

かくさん　【拡散】 異種気体あるいは異種液体が相接しているとき，その成分が高濃度の領域から低濃度の領域に移動し，ついにはその全領域に均一に行きわたって，場所による濃度差がなくなる現象。同一種の気体または液体において起こる拡散を特に自己拡散といい，同位元素を用いて観測される。拡散が隔壁を通して行なわれるときは浸透という。拡散は運動論的には，分子の熱運動あるいは分子間の衝突によって起こる。また熱力学的には，化学ポテンシャルの差，つまり温度・エントロピー・組成などによって決まる自由エネルギー勾配(こうばい)によって起こるもので，熱力学第2法則により不可逆変化である。1855年フィックは経験的な拡散の第1法則において，〈拡散の量Qは濃度勾配$\partial c/\partial x_1$に比例する〉と述べている。すなわち$Q=-D(\partial c/\partial x)$なる式で表わされる。比例定数Dは拡散定数といわれるもので，一定温度では無限希釈度で一定であるが，一般には濃度で変わる。拡散定数は，気体では気体分子運動論から，溶液では浸透圧と濃度との関係から理論的に求められる。拡散定数の測定は，おもに溶液・ゲルについて研究されており，分子量，粒の大きさ，荷電，電解質水溶液などの理論研究に役だっている。
〔三輪誠・野宮健司〕

かくさん　【核酸】 ⇨466ページ

かくし　【画指】 律令(りつりょう)制時代，無筆の者が指の長さを書いて署名に代えたもの。点指ともいう。他人の書いた自分の名の左わきに，ふつう人さし指の指先を下にしてあて，指の長さと関節の位置をしるす。令にも，無筆の者は離縁状に画指するよう規定している。主として奈良時代の文書にみられ，鎌倉時代以後は拇印(ぼいん)・爪印(つめいん)が用いられるようになった。起源は中国。

かくし　【核子】 原子核を構成している粒子である陽子と中性子との総称。陽子と中性子とは電荷も質量も異なるが，素粒子を支配している量子論ではどちらも同じ性質をもつものとして，核子として扱う。それは，それらがいずれもスピンの値は2分の1でフェルミ統計に従うから，核子という素粒子は二つの違った状態をとり，一つは陽子他は中性子の状態であると考えるとつごうがよい。核子間に作用する力(核力)の源は湯川秀樹(ひでき)が予言した中間子(π中間子)で，陽子と中性子はπ中間子をやりとりして，陽子から中性子へ，中性子から陽子へと変わる。反核子の存在が実験で確認され(反陽子は1955年，反中性子は1956年にアメリカのカリフォルニア大学で発見された)，核子の行動はディラックの方程式に従うことがわかった。したがって，陽子の磁気モーメントは1核磁子，中性子は0という値をもつものと予想された。しかし実験での測定値は，

陽子＝2.7928核磁子
中性子＝－1.9131核磁子

と，どちらも大きな値になっている。これは核子がπ中間子と強く作用し合っていると考えると定性的に説明がつく。核子自身さらに構造をもっているらしい実験結果があるので，真の意味の素粒子ではない。この構造がどういうものかまだはっきりわかっていないが，実験・理論の進展により解明されていくであろう。　〔福井崇時〕

がくし　【学士】 大学の学部卒業者に与えられる称号。1872年(明治5)の学制においては，学位は博士・学士・得業士の三等と規定されていた。しかし，1887年の学位令は学士を学位に含めてはいない。第2次世界大戦後，1957年(昭和32)の文部省令は，大学に4年以上在学し，一般教養科目・外国語・専門教育科目の計124単位以上を修得して大学を卒業した者に対して，その履修した専攻に応じた学士の称号が与えられるとしている。

がくしいん　【学士院】 ⇨日本学士院

かくしぎ　【郭子儀】 (697～781)　中国，唐の玄宗(げんそう)から徳宗にかけて活躍した将軍。安史の乱には節度使に任ぜられ，粛宗を奉じて反乱の平定にあたり，勲功第1とたたえられた。以後吐蕃(とばん)の長安侵入などに勇名をとどろかせ，代宗以下名をよばず，徳宗から尚父(しょうふ)の号を与えられるなど位人臣をきわめ，一族多く将相に列した。

がくしき　【楽式】　音楽形式のこと。ある音楽作品が音楽として認められるのは，それがその所属する社会で認められた形式をもっているからである。しかし，その形式はさまざまなレベルでとらえられ，楽式という場合は，比較的具体的なレベルでの形式をさす。西洋音楽における代表的なものは，①リート形式・ロンド形式・ソナタ形式・変奏曲形式などの反復的な形式，②定旋律や模倣を用いた連続的な形式，③より大きな構造を支配する連環的な形式，である。　〔徳丸吉彦〕

かくしつ　【核質】　細胞内の核膜*に包まれた原形質*。生細胞では透明な基質の中に顆粒(かりゅう)が散らばっているように見え，染色して見ると網状構造をしている染色質(核糸ともいう)が見られる。DNA*が主成分で，核酸と塩基性タンパク質とからなる。➔核

かくしつか　【角質化】　角化ともいう。脊椎(せきつい)動物の表皮の最外層の細胞に硬タンパク質の一種である角質，すなわちケラチン*が形成されること。角質化に伴って細胞は死ぬが，表皮ではたえず角質化が起こっている。また，毛髪・羽毛・角・蹄(ひづめ)などは角質化によってつくられる。ネズミなどでは膣(ちつ)の内壁をつくる上皮細胞が発情周期に応じて角質化することも知られている。

かくじっけん　【核実験】　核兵器*の効果を知るために行なう実験。1945年7月16日アメリカ合衆国ネバダ州の砂漠(さばく)で世界最初の原子爆弾実験が成功を収めた。この結果，原子爆弾の巨大な力が確認され，アメリカはこれを実戦に用いる決意を固め，同年8月広島と長崎に投下した。そして第2次世界大戦は終わったが，同時に原子力時代が始まった。その後アメリカは，1946年に軍艦に対する原爆の効果を知るためにビキニ島*で水中と空中での核実験を行なった。これが戦後の核実験のはじまりである。その後，ソ連は1949年に領土内で原爆実験を行なってアメリカとともに核保有国となったが，1952年アメリカがエニウェトク環礁*での水爆実験に成功して，さらに大きな効果を有する爆弾をもったことを示し，同じころイギリスも原爆実験を行なった。1953年にはソ連が水爆実験に成功，1960年にはフランスもサハラ砂漠で核実験を行ない，また中国は1964年原爆実験に成功した。これら各国はいずれも原水爆の開発に成功したので，その効果を調べるために実験を行なったのであるが，それは同時に自国の軍事力を示す示威行為でもあった。しかし，このため地球上の大気ならびに実験場付近の海面が放射能*で汚染され，その影響はほとんど全世界にまで及んだ。そのため核実験を行なうことについてさまざまの論議が生まれ，1958年から核実験停止会議*が開かれるようになった。



核実験　中国最初の原爆実験(1964年10月16日)

核実験が行なわれると核分裂生成物*ができる。これはほとんど放射性同位元素*である。一方爆発により地上の岩石を粉砕する。これは爆発が地上で起こったときのみならず，空中で起きたときでも衝撃波によって起きる。粉砕された岩石と核分裂生成物は混じり合って空中に巻き上げられ，成層圏との境にまで達し，それから四方に広がって地上に落ちる。これが放射能降灰いわゆる死の灰*である。これは爆発のエネルギーが高いときには成層圏上部にまで達することもある。核実験が行なわれたかどうかはこの放射能降灰を検出することによって推定できる。また爆発に伴う異常気圧によってもわかる。ビキニ島でのアメリカの核実験，あるいはソ連のシベリアにおける核実験の際には，いずれも日本で異常気圧が観測された。場合によっては小規模の津波が起きることもある。爆発が超高空で起きたときは放射能灰はすぐには落ちてこないが，爆発により大量のエネルギーが大気上層部に瞬間的に与えられるために各地の微気圧計に変動を与える。大気汚染*に関連した国際世論および軍事機密の点から核実験を地下で行なうこともある。現在では，原水爆実験は国際社会的な問題となり，1963年米英ソ3国は核実験停止条約*を結び，以後は大気圏・宇宙空間・水中における核実験は停止しているが，中国では1964年から1969年9月までに9回も核実験を行なっている。核爆発の平和的利用方法としては土木工事(運河の開削，港湾の掘削)・鉱業(低品位鉱の採取，探鉱)・地球物理学的実験(人工地震による地殻(ちかく)の研究)などが考えられる。その他，海水の脱塩，化学プロセス，発電などにも利用できるといわれている。　〔加藤敏郎〕

かくじっけんていしかいぎ　【核実験停止会議】　核兵器*の実験停止を目的とする条約をつくるために行なわれた会議。略称，核停会議。第2次世界大戦後，核軍備競争による財政の膨張と非核保有国の不安・非難にこたえるため，全面軍縮への第一歩として，核分裂物質や核兵器の生産・実験の制限ないし停止(現状凍結)の機運が一般に強くなった。そこでアメリカ・イギリス・ソ連の核保有国は，1958年，まず核実験探知に関する専門家会議を開き，次いで10月から核停会議を行なった。交渉は難航を続けてまとまらなかったので，1962年3月からは問題を国連機関に移して交渉を再開した。争点は地下核実験の探査査察の問題にしぼられていたが妥結せず，交渉は絶望的となった。しかし，米ソ首脳の努力により，1963年核実験停止条約*が米英ソ3国の間で調印された。➔軍縮　〔森田　哲〕

かくじっけんていしじょうやく　【核実験停止条約】　〈大気圏内，宇宙空間及び水中における核兵器実験を禁止する条約〉の略称。大気圏内外と水中の核実験*を停止する条約で，地下実験が除かれているため，部分的核実験停止条約ともいわれる。1963年8月5日，モスクワで米英ソ3国の外相が正式調印した。1958年10月にジュネーブで米英ソ3国の核実験停止会議*が開かれて以来，核実験停止についての具体案が検討されてきた。途中，ソ連の核実験再開，18か国軍縮委員会における検討など，幾多の曲折を経たが，1962年末から1963年にかけて，最大の争点であった地下実験の探知査察問題にも妥協が得られ，冷戦史上画期的なこの条約が結実した。条約は，前文と本文5か条からなっており，前文では全面軍縮達成への理想をうたっている。そして，第1条において，条約の締約国は，大気圏内，宇宙空間を含む大気圏外，ならびに領水および公海を含む水中における核兵器の実験的爆発および他の爆発を禁止すること，防止すること，および実施しないことを約束し，また締約国はいかなる場所においても，核兵器の実験的爆発，または他の核爆発の実施を実現させ，奨励し，または，いかなる態様によるかを問わず，それに参加することを差し控える義務を負っている。条約はすべての国に開放されており，いつでも加入することができる。条約の有効期間は無期限であるが，締約国は，この条約の対象である事項に関連する異常な事態が自国の至高の利益を危うくしていると認めるときは，他のすべての条約当事国に対して，3か月前に予告すれば，自由に脱退することができる。この条約は，実質的には〈米・ソの不戦紳士協定〉として，冷戦の相当な緩和をもたらし，冷戦構造に重大な影響をもつものであるといわれるが，他方，〈米・ソによる世界平和維持体制〉との批判もなされている。特に，後者については，核拡散防止条約*において，さらに明確となる。条約は，1963年10月10日に発効し，101か国が当事国となっている(1969年9月現在)。　〔広部和也〕

核　　酸

ペントース(炭素原子5個からなる糖)とリン酸とが交互に縮重合してできた長い鎖に，糖の部分から4種類の塩基とよばれる環状化合物が結合したもの。糖の2の位置の炭素に酸素がついているものとついていないものとがあり，これにより大きく二つに分類される。前者はリボ核酸といい，RNAと略称される。後者はデオキシリボ核酸といい，DNAと略称される。核酸は細胞核に多量存在する酸性物質であることからその名がつけられ，19世紀の末にスイスのミーシャーにより発見されたが，その生物的な重要性については20世紀の中途まで明らかにされなかった。DNAは遺伝情報の担体としての役割を果たすもので，細胞核に存在するほか，精子やある種のウイルスにも含まれる。RNAは遺伝情報の発現に関するものが多く，これらには伝令RNAまたはメッセンジャーRNA(m-RNA)，転移RNA(t-RNA)または可溶性RNA(s-RNA)，リボソームRNA(r-RNA)などがある。これに対し，一部のウイルスには遺伝子の担体であるRNAも見いだされ，ウイルスRNAまたは遺伝子RNAとよばれている。

【DNA】〈遺伝子としてのDNA〉生物においては，子の形質(形や性質)が親のものとほとんど同一であるのは，親から子に形質に関する情報をになう遺伝子が伝達されることによるものであることは古くから信じられていた。一方，子が親と同一の形質をもつのは，子の中に親と同一の酵素が含まれるからであり，したがって遺伝子とは酵素そのものか，あるいは酵素の合成に関する情報をになったものであるはずである。細胞内に含まれる酵素の種類は3,000以上といわれるから，遺伝子にも3,000種以上あり，これらは細胞核内では集合して染色体を形成している。

この遺伝子の実体について，これが核酸であるか，タンパク質(酵素はすべてタンパク質に属する)であるかの論争が長く行なわれたが，1950年代の初期ハーシーとチェイスの2人によって，これがDNAであることが明らかにされた。彼らはバクテリオファージ(バクテリアに感染するウイルス)が遺伝子をもつことに着目し，DNAとタンパク質に別々の標識をつけ，バクテリアに感染した場合，いずれがその中にはいるかを調べた。その結果DNAがはいることによりバクテリア内にバクテリオファージが増殖することが判明し，このことからDNAが遺伝子であることが明らかになった。

DNAが遺伝子ならば，それは少なくとも次の三つの性質をそなえていなければならない。①その中には酵素の合成に関する情報をもっていること。遺伝子がDNAならば，当然酵素そのものでなく，その合成に関する抽象的な情報でなければならない。②DNAは安定であること。DNAが遺伝情報の担体であるなら，子が親からもらうのはこれであり，それは子の一生を通じて保存されなければならず，途中で破壊されたりしないほど安定でなければならない。③非常に正確に，かつ容易に複製されるものでなければならない。子が親と同一の形質，すなわち同一の酵素をもつのは，親と同一の酵素合成に関する情報をもつことであり，これは親と同一のDNAをもつことを意味する。したがって，親は子に自己のものと同一のDNAを複製して渡さなければならず，それにつごうのよい機構をもたなければならない。

〈ワトソン-クリックのDNA模型〉これらの必要条件をうまく説明できる模型が1953年ワトソンとクリックにより提出された。これを図-1に示す。これから明らかなように，DNAは2本の鎖からなりたっている。鎖はデオキシリボースとよばれる糖(S)とリン酸(P)が交互に連なってできている。2本の鎖の間には橋渡しが行なわれているが，これは各鎖の糖に結合している塩基間の水素結合によっている。塩基は4種類あり，それぞれ，アデニン(A)，シトシン(C)，グアニン(G)，チミン(T)と名づけられているが，AはTとのみ，CはGとのみ水素結合をつくりうる点がこの模型の最大特徴である。この模型が上の必要条件をいかにうまく説明するかを以下に述べよう。

①の条件については塩基すなわちACGTを文字と考えれば，DNAの鎖の上には，ACGTの4文字で書いた情報文が刻み込まれているということになる。われわれ日本人がいろは48文字を用いる代わりに，生物は4文字を用いて，酵素の合成法を表現しているのである。その情報の内容は，酵素のアミノ酸の結合順序に関するものである。酵素は100ないし1,000個のアミノ酸が一定の配列順序で連なっているものであり，このアミノ酸の配列順序が決まれば，その順序にしたがってアミノ酸をつなぐことにより酵素は合成できるのである。一方，アミノ酸には20種類のものが存在するから，一つのアミノ酸を表現するためにはACGTの4文字中3文字(同一の文字をくり返して用いてよい)を必要とする。したがって，100個のアミノ酸からなる酵素のアミノ酸配列順序を指定するDNAは300個の文字が一定の順序でつながったものになる。

〈DNAの複製〉上記の遺伝子としての条件のうち，②の安定性に関しては，2重鎖を組んでいることによると説明できる。すなわち，2重鎖のものは1重鎖のものよりはるかに分解されにくい。③の複製の正確さと容易さとは，AはTとだけ，GはCとだけしか水素結合をつくらないという，いわゆる塩基の相補性を利用して説明できる。たとえば図-2に示すように，もとのDNAの2重鎖の一部分をほどいて，それを鋳型にして新しいDNAを合成した場合を考えてみればよい。もとのDNAのTのところには新しいDNAのAが結合し，もとのDNAのGのところには新しいDNAのCが結合するといったぐあいで合成が進む。図の下方に新しくできた2重鎖の一部が二つ示されているが，両者はまったく同一であることは明らかであるし，またこれはもとのDNAの2重鎖とも同一なのである。このような合成は写真におけるポジとネガのフィルムの関係にあり，新しいコピーが必要となった場合には，ポジに対しネガをネガに対しポジを焼くことにより，もととまったく同一のものが2組みつくられることと同じ意味である。事実，DNAの2本の鎖のうち，情報をになっているのはどちらか一方の鎖であり，これをポジの鎖とよび，他方はネガの鎖とよんでいる。図-2の下方を見てもう一つたいせつなことは，できあがった2組みのDNAの2重鎖の一方はもとのDNAの鎖がそのまま保存され，使用されていることである。すなわち新しいDNA分子の半分だけが親のものが保存され，使用されているので，これは半保存的な複製とよんでいる。実際のバクテリアのDNAの複製について調べたところ，これが半保存的に行なわれていることがメセルソンによって証明された。これにより，ワトソンとクリックの模型が正しいものであることが証明されたのである。図-1および図-2にはDNA分子のごく一部分を示したが，実際はきわめて長く，しかもおのおのの鎖はその両端で結合していわゆる環状のDNAとなっている場合が多い。

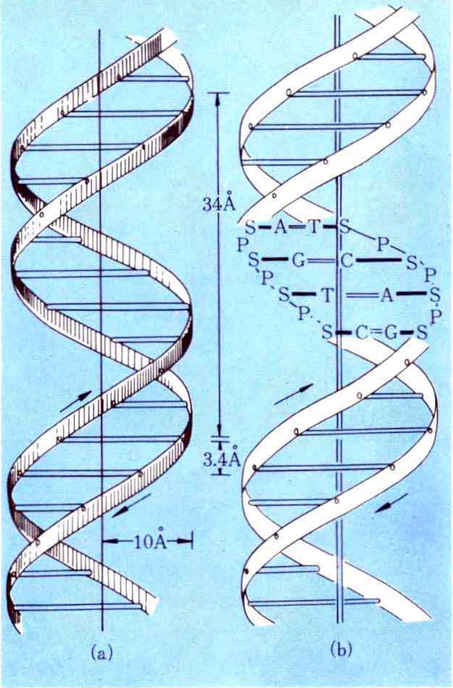
〈DNAの転写〉DNAに書き込まれた情報を実際の形質として発現するには，その情報で指定したとおりの酵素を合成しなければならない。これを情報の発現とよんでいる。酵素の合成は，細胞中の細胞質にあるリボソームとよばれる顆粒(かりゅう)上で行なわれるが，DNAは細胞核の中に存在する。したがって，細胞核から，細胞質のほうへDNAの情報をなんらかの方法によって伝達しなければならない。それには，DNAの情報を特別のRNAへ写し取って，そのRNAを細胞質へ送り込むという操作がとられる。この写し取りを転写とよび，そのRNAがm-RNAである。m-RNAの合成は，DNAの複製とまったく同様な機構により行なわれると考えられる。すなわち，DNAにはポジの鎖とネガの鎖とが常時そなえられているから，このネガの鎖を鋳型にしてRNAを合成すれば，ポジのDNAとまったく同じ情報をもつ

RNAが合成される。ただしRNAにおいて用いられる塩基は，アデニン・シトシン・グアニン・ウラシル(U)であり，DNAのACGTの代わりに，ACGUを用いている。すなわち，TがUに置き換わっているから，m-RNAの塩基配列は，DNAのポジの鎖のTをUに置き換えたものと一致する。

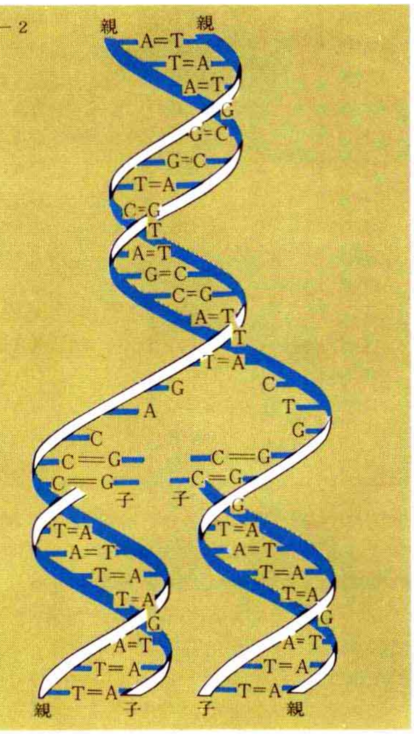
m-RNAの合成について注目すべきことは，それがすべてのDNAを転写するのではなく，必要な部分だけを転写することである。染色体には，細胞が必要とする酵素の合成に関する情報はすべて含まれている。すなわち，すべての酵素に対応する遺伝子が含まれている。しかし，これらの酵素のかなりの部分は，環境の変化に応じて必要とされるものであり，常時必要とされない。したがってそのような酵素の遺伝子は常時転写される必要はなく，必要が生じたときだけ転写されればよい。すなわち，DNAの転写においては，必要とする酵素の遺伝子だけを転写し，不必要な遺伝子は転写しないという，一種の制御が働いていることになる。この制御機構はジャコブとモノーによって明らかにされた。すなわち各遺伝子の端にはオペレーター(指令部分)とよばれるところがあり，この部分がリプレッサー(抑制物質)とよばれるタンパク質でおおわれているかぎりは，その遺伝子の転写は行なわれない。細胞がある酵素を必要とするようになれば，その酵素の遺伝子のオペレーターから，リプレッサーがはずれ，その遺伝子の転写が行なわれるようになる。またその酵素が必要なくなれば，リプレッサーはオペレーターに再び結合し，転写は止まる。

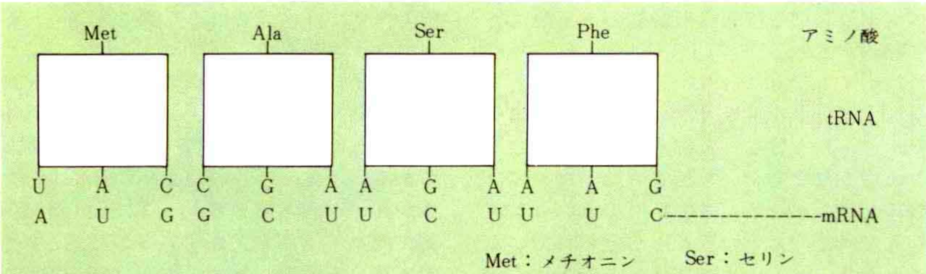
〔種々のRNA〕〈t-RNAの役割〉まえにも述べたように，RNA類は主として遺伝情報の形質への発現に関与しているものである。形質の発現は酵素の合成を通じて行なわれるのであるから，ここでは酵素，すなわちタンパク質の合成過程を説明し，それらに各種RNAがどのように関与するかを説明することにする。すでに述べたような過程で合成されたm-RNAは染色体からはずれて，細胞質のリボソームとよばれる顆粒に結合し，ここでm-RNAのもつ情報にしたがって酵素が合成されるのである。その際，m-RNAのもつ情報はACGUの4文字で書かれたものであるから，これを一定のアミノ酸結合順序をもつ酵素になおすことは，情報の翻訳であると考えられる。すなわち，m-RNAの情報にしたがって酵素を合成する過程は翻訳過程とよばれている。この翻訳の機構は図-3のように行なわれる。いま，AUGGCUUCUUUC……といった文字の配列順序をもったm-RNAがあるとする。まえに説明したように，3文字で一つのアミノ酸を指定するのであるから，この情報により4個のアミノ酸が指定されるはずである。この翻訳に

図－1



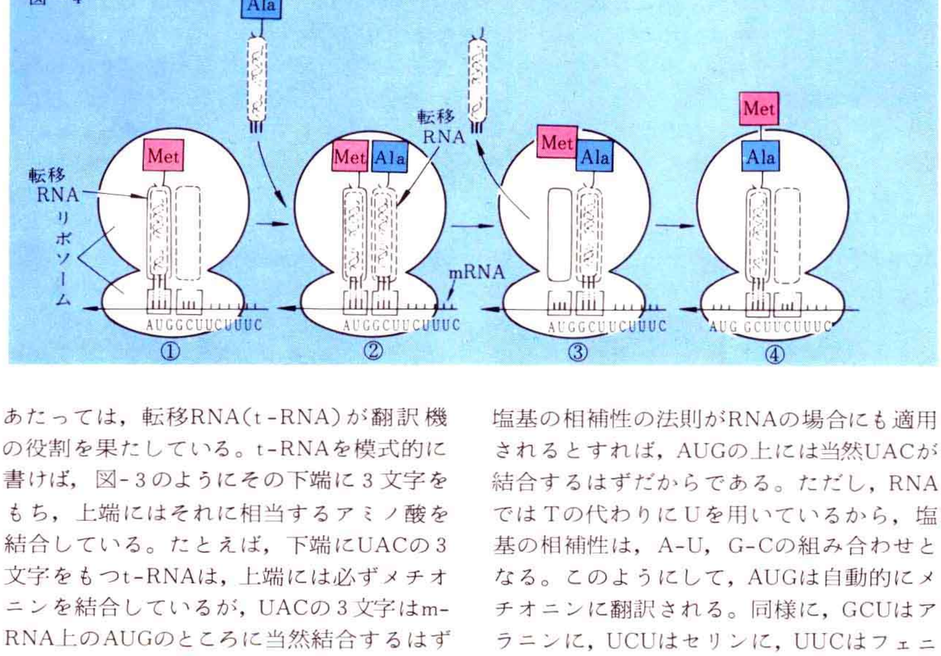
図－2





図－3

図－4



あたっては，転移RNA(t-RNA)が翻訳機の役割を果たしている。t-RNAを模式的に書けば，図-3のようにその下端に3文字をもち，上端にはそれに相当するアミノ酸を結合している。たとえば，下端にUACの3文字をもつt-RNAは，上端には必ずメチオニンを結合しているが，UACの3文字はm-RNA上のAUGのところに当然結合するはずである。なぜならば，DNAでみられた，AはTとのみ，GはCとのみ結合するという塩基の相補性の法則がRNAの場合にも適用されるとすれば，AUGの上には当然UACが結合するはずだからである。ただし，RNAではTの代わりにUを用いているから，塩基の相補性は，A-U，G-Cの組み合わせとなる。このようにして，AUGは自動的にメチオニンに翻訳される。同様に，GCUはアラニンに，UCUはセリンに，UUCはフェニルアラニンに翻訳される。あとで説明する機構により，各アミノ酸とt-RNAとの結合

UUU	Phe	UCU	Ser	UAU	Tyr	UGU	Cys
UUC		UCC		UAC		UGC	
UUA	Leu	UCA		UAA	—	UGA	—
UUG		UCG		UAG		UGG	Trp
CUU		CCU	Pro	CAU	His	CGU	Arg
CUC		CCC		CAC		CGC	
CUA		CCA		CAA	GlN	CGA	
CUG		CCG		CAG		CGG	
AUU	Ileu	ACU	Thr	AAU	AspN	AGU	Ser
AUC		ACC		AAC		AGC	
AUA		ACA		AAA	Lys	AGA	Arg
AUG	Met	ACG		AAG		AGG	
GUU	Val	GCU	Ala	GAU	Asp	GGU	Gly
GUC		GCC		GAC		GGC	
GUA		GCA		GAA	Glu	GGA	
GUG		GCG		GAG		GGG	

Phe ：フェニルアラニン
Leu ：ロイシン
Ileu ：イソロイシン
Met ：メチオニン
Val ：バリン
Ser ：セリン
Pro ：プロリン
Thr ：スレオニン
Ala ：アラニン
Tyr ：チロシン
His ：ヒスチジン
GlN ：グルタミン
AspN：アスパラギン
Lys ：リジン
Asp ：アスパラギン酸
Glu ：グルタミン酸
Cys ：システィン
Trp ：トリプトファン
Arg ：アルギニン
Gly ：グリシン

が切れ，その代わりにアミノ酸どうしが結合するようになると，AUGGCUUCUUUCの情報は，メチオニン・アラニン・セリン・フェニルアラニンというアミノ酸結合順序に翻訳されることになる。これがt-RNAを翻訳機といった理由である。

この翻訳が正確に行なわれるためには，いくつかの重要な点がある。たとえば上の12文字からなる情報文の最初のAを飛ばして翻訳すると，UGGCUUCUUを3文字ずつ翻訳することになり，これはトリプトファン・ロイシン・ロイシンという順列になり，まったく異なった酵素になってしまう。このようなまちがいを起こさないためには，情報文はいかなるときにもAUGという文字から読み始めるということが守られている。すなわち，AUGはメチオニンを指定する語であるとともに，翻訳開始点を指定する語にもなっているのである。したがって，UUUGAUGGCUUCUUUCのような情報文がきたときにも，生物はAUGから読み始め，メチオニン・アラニン・セリン・フェニルアラニンと翻訳する。

いま一つの問題は，たとえば下端にUACをもつt-RNAにはどうしてメチオニンだけしか結合せず，他のアミノ酸は結合しないのかということである。もしも，下端にUACをもつt-RNAに他のアミノ酸が結合するとすれば，翻訳は明らかに誤訳になってしまう。アミノ酸には20種類あり，t-RNAにも当然20種類あるから，確率的にみるならば，正しいものどうしが結合するのは400分の1しかないはずである。これが少しのまちがいもなく，UACをもつt-RNAにメチオニンしか結合しないというのは，この結合を触媒する酵素があるためである。すなわちメチオニンの場合，メチオニルRNA合成酵素とよばれるものがあり，これは20種のアミノ酸中からメチオニンだけを拾い出し，また20種類のt-RNA中から下端にUACをもつものだけを拾い出し，両者を結合するのである。

〈リボソーム〉実際の翻訳はリボソーム上で行なわれる。リボソームというのは分子量数百万の顆粒であり，リボソームRNA(r-RNA)とよばれるRNAとタンパク質とが重量比でほぼ1：1の割合で結合してできたものである。このような顆粒の大きさを表わすのにはふつう沈降定数Sを用いるが，バクテリアのリボソームは70S，植物や動物のリボソームはこれよりやや大きく，80Sの大きさをもつ。リボソームはまた二つの亜粒子からなり，バクテリアの場合には30Sと50Sのものが1：1に結合して70S粒子を形成している。図-4にはこれが示してある。下側の小さい粒子が30Sで上の大きい粒子が50Sである。m-RNAが細胞質側に流れてくると，まず30Sの粒子と結合するが，その際，まえに述べた翻訳開始の語であるAUGのところが30Sに結合するらしい。次いで50Sが結合するとともに，図-4①に示したように，メチオニンを結合したt-RNAがAUGの上に結合する。続いて，その隣の場所にはm-RNAの指定するt-RNAが結合する。図の場合第2の語はGCUであるからアラニンを結合したt-RNAが結合する。次には図の③のように，メチオニンとt-RNAとの間の結合は切れ，メチオニンはアラニンと結合するとともに，メチオニンを結合していたt-RNAはリボソームからはずれていく。最後に，m-RNAはt-RNAを結合したまま，図の④のように一つ左側へずれるから，右側には空席ができ，ここに第3のアミノ酸をつけたt-RNAが結合する。こののち，アラニンとt-RNAの間の結合が切れ，アラニンは第3のアミノ酸と結合すれば，ここに三つのアミノ酸が結合したものが得られる。第3のアミノ酸がセリンであれば，できたものはメチオニン・アラニン・セリンであり，これはまさに，m-RNAの情報AUGGCUUCUの指定する順序でアミノ酸が結合したものである。以下同じ操作をくり返すことにより，100でも200でもアミノ酸をm-RNAの情報どおりにつないでいくことができる。

このようにして合成されるアミノ酸の連鎖が，希望する酵素のものとなったときには，m-RNAのほうに，翻訳終了というシグナルが現われる。そこでアミノ酸の連鎖すなわち酵素は，リボソームからはずれ，細胞質に移動して，酵素本来の役目を果たしはじめるのである。翻訳終了のシグナルとして用いられるのは，UAA・UAG・UGAの3語である。以上のようなタンパク質合成の各段階，すなわち，メチオニンのついたt-RNAの結合から始まって，第2のアミノ酸の吸着，第1と第2のアミノ酸間の結合の形成，m-RNAのすべり，翻訳終了などには，それぞれそれ特有の酵素が働いて，その作用を円滑ならしめている。

〈遺伝暗号の解読〉リボソームに結合したm-RNAに対し，それが指定するアミノ酸の結合したt-RNAが結合することを利用すれば，遺伝暗号の解読ということが可能になる。いままでAUGはメチオニンを，GCUはアラニンを指定すると述べてきたが，このようにRNAのもつ三連文字とアミノ酸との対応関係がわかるまでは，遺伝子またはm-RNAのもつ情報文は一種の暗号とみなされ，遺伝のコードとよばれ，また三連文字はコドンとよばれていた。ニーレンバークらはこの遺伝暗号の解読を成し遂げた。すなわち，いまUUCという三つの塩基をもつRNAを人工的に合成し，これをリボソームに吸着しておく。これに種々のアミノ酸を結合したt-RNAを一つずつ加えてみて，どのアミノ酸を結合したt-RNAがこれに結合するかを調べたのである。その結果，フェニルアラニンを結合したt-RNAだけが吸着された。したがって，UUCはフェニルアラニンを指定するコドンであることが明らかになった。コドンの種類は64あるからこれらについて次々と同様な操作を行ない，その結果，表にあるような結果を得た。これによって遺伝暗号は完全に解明されたのである。表をみて明らかなことは，メチオニンとトリプトファンだけは，それを指定するコドンは1種類しかないが，他のアミノ酸については，一つのアミノ酸を指定するコドンが2種類以上，多いときには6種類もある。これは遺伝子の複製その他で起こるまちがいによる被害をできるだけ少なく食い止めようとするための手段であるとみなされる。たとえば，セリンの本来のコドンがUCUであったとすれば，それがなんらかの理由で，UCC・UCA・UCG・AGU・AGCのどれかにまちがわれるかぎりにおいてはやはりセリンと翻訳されるわけで実害はないからである。なお表に—の引いてあるコドンは，それに相当するアミノ酸がないことを示しているが，これらがまえに述べた翻訳終了のシグナルなのである。〔今堀和友〕

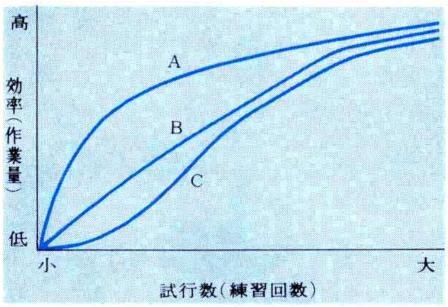
かくしつそう【角質層】脊椎(せきつい)動物の表皮は多層の細胞からなり，爬虫(はちゅう)類や鳥類では角質層といわれる外層とマルピギー層または胚芽(はいが)層といわれる内層に分けられ，哺乳(ほにゅう)類ではさらにこの両層の間に透明層・顆粒(かりゅう)層の２層が含まれる。このような最外層の角質層はあかなどとして脱落し，下方から新しくできたもので補われる。

かくしねんぶつ【隠し念仏】東北地方にみられる秘密宗教の一。御内法・御内証ともいう。この結社は浄土真宗の秘事法門*と習合しているが，厳密には別系統で，新義真言宗の始祖，興教大師覚鑁*(かくばん)の《五輪九字明秘密釈》を経典としている。その芽ばえは室町中期ごろであり，江戸初期以後浄土真宗とも習合し，宝暦年間(1751～1763)のころ京都の鍵屋宇兵衛(うへえ)によって広められたという。現在は，岩手県全域・宮城県北域・秋田県北域・山形県西村山郡などに分布している。本部には本尊として〈南無阿弥陀仏(なむあみだぶつ)〉の名号のほかに弘法(こうぼう)大師・興教大師・親鸞聖人(しんらんしょうにん)の３体の木像が安置されている。各本拠のほか村ごとに智識(ちしき)１人，脇役(わきやく)２人，世話人３人ぐらいがいて，一種の加入礼式の結縁(けちえん)行事を行なう。これを〈お取り上げ〉といい，７～15歳ぐらいの少年少女が受けるが，これによってはじめてその共同体の一員と認められる。未信者は村内において社会的地位が低く，日常生活上不便が多い。〔山路勝彦〕

かくしめつけ【隠し目付】⇨隠密(おんみつ)

がくしゅう【学習】学習とは，一般に訓練・活動・観察などの一定の経験に基づいて，生活体の行動がいっそう目的にかない，しかもかなり永続的な変容をすることである。ただし，疲労とか心理的飽和(あき)のような一時的な行動の変容や，また個体の成熟による変容は，経験に基づく変容ではないから学習とはいえない。

〔学習成立の基本的過程〕一般に，条件づけ*・試行錯誤*・認知(→洞察(どうさつ)学習)の三つに大別される。《条件づけ》条件づけには，古典的(レスポンデント)条件づけと道具的(オペラント)条件づけとがある。前者はパブロフ*流の条件づけのことで，たとえばイヌに対して条件刺激(ベル)と無条件刺激(食物)を反復対呈示(強化)すると，のちにはベルを聞いただけで唾液(だえき)分泌反応(条件反応)が生じるようになる。人間の場合，まばたきを反応の大きさとしてみる眼瞼(がんけん)条件づけや，振幅を反応の大きさとしてみる皮膚電気反応条件づけがしばしば用いられている。道具的条件づけでは，古典的条件づけと違って，条件反応が生じたあとでないと強化が与えられない。ここでは条件反応が強化を得るための道具になっている。たとえば，〈スキナー箱〉のネズミはてこを押す反応(道具的反応)をしてはじめてえさ(強化)を得る。古典的・道具的の両者とも，一定期間強化を与えられたあと，実験操作上，次には強化が与えられなくなると消去の事態になる(→条件反射)。



学　習　学習曲線

《試行錯誤》ソーンダイク*は，飢えたネコを問題箱に閉じ込め外部に脱出する反応を観察した。ネコは脱出するため試行錯誤をしているうち偶然に箱をあけることができ，脱出しえさにありつくことができた。ソーンダイクは，このように試行を重ねるにつれて不成功に終わる反応は排除され，満足を伴う反応はその事態に強く結合するといい，このことを〈効果の法則〉と称した。また，その事態に当面すればするほど，そのときの反応は起こりやすくなるという〈訓練の法則〉を立てた。ソーンダイクによると，学習は単に推理や洞察などによって成立するのではなくて試行錯誤によって成立するとした。《認知(洞察)》ソーンダイクの試行錯誤説に対して，ケーラー*は主としてチンパンジー・イヌ・ニワトリなどの実験を通して，学習は〈見通し〉ないし〈洞察〉によって成立すると唱えた。したがって，学習の過程は漸増的にというより，むしろ非連続的なところにその特徴がある。

〔学習の曲線〕学習の進歩をみるためには，グラフによる記述，つまり学習曲線が用いられる。ふつう，横軸に練習数または練習時間，縦軸に作業量・問題解決量，または錯誤量をとる。図は代表的な三つの曲線である。曲線Aは負の加速度曲線で，初期は急速に進歩するが速度はしだいにゆるやかになる。曲線Cは，初期は正の加速度曲線であるが，しだいに負に加速して進歩する場合である。ときにはカーブBのように直線的になることさえある。また場合によっては，学習の進歩が一時的に停滞する時期があり，この現象は高原現象またはプラトーとよばれる。

〔学習の領域〕スポーツの技術やタイプライティングおよび自動車の運転などの習得は運動技能的学習である。推理・概念達成・問題解決などの比較的高等な心理作用は広く思考的学習の中で取り扱われる。記銘・保持・忘却は記憶的学習(→記憶)の領域である。人間学習にとってきわめて重要な言語の学習は，言語学習といわれる。二つまたはそれ以上の刺激への差別反応を習得するのは弁別学習といわれる。最近は，弁別刺激の正負を逆にしたときの逆転学習など，弁別移行学習の実験が動物や人間で行なわれている。社会的行動や態度が学習によって習得される事実は，社会的学習の中で取り扱われる。代表的なものは模倣*や観察学習である。

〔学習を効果的にする条件〕学習は，種々の要因によって影響を受ける。学習が効果的に行なわれるためには，学習へのレディネスが必要である。認知的レディネスだけでなく，情緒的レディネスも重要である。行動を開発するエネルギーとしての動機は学習を効果的にする条件の中できわめて重要なものの一つである。動機は，その重要な役割として，行動を始発させ，始発した行動を維持し，さらにその行動を一定の方向に導いて終結させる力をもっている。生活体は，学習課題に対してどの程度動機づけられているかによって学習の効率は影響を受ける。学習の水準は成功感のあとでは上昇し，失敗感のあとでは下降する。このように，〈成功と失敗〉は学習に影響するが，これは生活体の要求水準と深い関係がある。言語的賞罰も学習に与える影響は大きい。罰の促進的効果もあるが，一般には賞賛が叱責(しっせき)よりも学習水準を高めるといってよい。他人が賞賛されるのを観察する場合には自分は暗黙の罰を，逆に他人が叱責されるのを観察する場合には自分は暗黙の賞を受けていると感じる場合がある。この暗黙の賞罰も見のがすことはできない。学習過程の各段階で，反応の正・誤，また学習の程度を学習者に確認させると学習水準は高まる。この〈フィードバック〉は即時になされるほど，換言すれば強化が遅延なしに与えられるほど，正反応の学習を促進し誤反応を減少させる効果をもっている。試行間隔をできるだけゼロに近くして学習する集中法と，試行間隔をあけて学習する分散法では，一般に後者が前者に比較して有効な方法とされている。学習材料を全体としてまとめて学習する全習法と，材料をいくつかに区分して学習する分習法とでは，一般には前者が後者に比較して効率がよいとされている。学習が行なわれるとき，人間関係，とりわけそのときの社会的風土は学習に大きな影響を及ぼす。レビン*らの研究では，民主的な風土は独裁的ならびに放任的な風土に比較して学習効率も学習意欲も高いことがわかっている。感情・情緒や薬物の効果，つまり学習衛生が学習に及ぼす影響も大きい。

〔学習の転移〕学習の結果が，のちに行なう学習に影響を与えることがよくあるが，これは学習の転移という。転移効果には正・負・ゼロの３種類がある。正の転移効果とは，すでに学習したことがその後の新しい学習に促進的効果をもつ場合をいい，負の

効果とは，逆に抑制的効果をもつ場合をいう。新しい学習が以前の学習からなんらの影響を受けないときは転移効果はゼロである。転移に影響する条件としては，学習内容の関係性，学習手続き上の条件，原理の理解と学習法の学習，さらに学習者の特性など多くの要因をあげることができる。

〔学習理論〕学習理論は大別して認知理論とS－R連合理論の二つに分けられる。前者の代表者は，ゲシタルト理論のウェルトハイマー・コフカ・ケーラー，さらに場理論のレビン，認知的行動理論のトールマンらである。この人たちは共通して，環境に対する認知の面を強調している。S－R連合理論は，ソーンダイクの結合主義，ワトソンの行動主義，ガスリーの接近説，ハルの強化理論などである。S－R連合理論では，刺激と反応の連合を強調し，習慣としての反応の獲得を重要視している。以上のほかに，S－R連合理論から出発したが，学習二元論を主張するスキナー，さらにS－R連合理論と認知理論との折衷を試みたマウラーやスペンスも現代学習心理学の中で大きな貢献をしている。最近は，数理モデルや生理的モデル，さらに情報理論に基づいて解明しようという新しい試みが活発に行なわれている。

〔学習理論の適用〕学習理論は，しだいに他の領域へ適用されるようになってきた。まず教育活動の面では，〈プログラム学習〉である。これは主として，スキナーの記述的行動主義に基づくもので，教室における学習促進の技術である。次に，学習理論は臨床活動へも適用されている。学習理論からいえば，異常行動は学習されたものであり，したがってその治療も学習理論の立場からなされるべきものだというのが基本的な考え方である。特に最近，フロイトの精神分析学やその立場の心理療法と対立する位置にあるウォルプやアイゼンクを中心とする〈行動療法〉がある。これはハルの強化説やスキナーのオペラント行動に基づく条件づけ療法である。この行動療法は，従来の心理療法とはかなりその方法が違うもので，現代学習理論の諸法則を積極的に神経症に適用したものである。〔祐宗省三〕

がくしゅういん　【学習院】

1 幕末，公家(くげ)の子弟のために京都の宮廷内に創立された教育機関。1847年(弘化4)開講。孝明天皇から〈学習院〉の勅額を賜わってから正式名称となった。儒学を主とし，のち国学が加えられ，おもに堂上家(→殿上人(てんじょうびと))を聴講者とした。東京遷都後不振となり，1870年閉鎖。

2 1877年(明治10)華族有志により皇族(→皇室)・華族の子弟教育のため東京に設立された学校。1884年宮内省に移管され官立となったが，1947年(昭和22)私立となり一般に公開された。現在幼稚園から大学まで一貫した教育が行なわれている。〔高崎徳次〕

がくしゅうしどう　【学習指導】　学力をつけるための教育または教科指導をいう。学校教育においては生活指導に対比され，生活指導が現実の問題に直接的・実践的に取り組む過程で人格形成を目的とするのに対し，学習指導は客観的文化(教材)を媒介として思考・行動を導くことを任務とする。なお，これについての研究は，最近特に質量ともに発展し，その過程・形態が教材とか児童・生徒の認識発展の法則との関連において追究されている。〔中野　光〕

がくしゅうしどうようりょう　【学習指導要領】　小学校・中学校・高等学校の教育課程を編成する際の文部省の定めた基準。アメリカのコース-オブ-スタディに相当し，第2次世界大戦後の1947年(昭和22)に小・中学校，翌年に高等学校に関して発表された。その後小・中学校については1951年・1958年，高等学校については1951年・1956年・1960年に改訂した。当初の学習指導要領は，教師や学校が自主的にカリキュラムを編成するための手びき書としての性格をおびていたが，1958年の改訂を境に官報に告示され，国家基準としての性格が強まった。なお現在，1971年小学校，1972年中学校，1973年高等学校への実施をめざして，全面的な改正が行なわれつつある。

〔中野　光〕

かくしゅがっこう　【各種学校】　学校教育法で定める学校以外の，学校教育に類する教育を行なう教育機関の総称。修業年限は原則として1年以上，年間680時間以上の授業時数がなければならない。ただし，簡易に修得できる技術・技芸などの課程については，3か月以上1年未満，授業時数もこれに応じて削減してよいことになっている。その設置認可権者は公立が都道府県教育委員会，私立が都道府県知事で，一定の条件をもった校長1名と教員3名以上，115.90 m^2 以上の校舎面積があり，明示した課程にふさわしい施設・設備があれば個人でも設立できる。1967年(昭和42)度に認可された課程数は15,634，生徒数は144万2,235名，課程のうち主要なものは38種類に上っている。これを大きく分類すると，①職業および職業技術教育，②家事家政教育，③医療保健教育，④教養・趣味を付与する課程，⑤外国人学校，⑥宗教教育，⑦保母・教員養成，⑧その他，になる。このうち課程数の多いものに和洋裁・編み物・手芸・簿記・珠算・料理・助産・看護などがある。各種学校の教育課程は，その時代の社会的要請を敏感に反映した新型の，あるいは既存の学校教育のわく組みの中では設置しえない特殊・専門的な知識・技能の教育をする場として，大きな存在価値をもっている。そのため，独自な立法化の動きもあるが，外国人学校をどう取り扱うかについて議論が分かれ，保留されている。なお，防衛大学校・自治大学校などは，各省庁法あるいは同設置法で定められた職員の研修機関であり，各種学校ではない。〔山崎昌甫〕

かくしゅけい　【郭守敬】　(1231～1316)　中国，元代の天文学者。河北の人。元の世祖フビライに仕え，多くの水利工事を行なってその手腕をかわれた。また，各種の天文機械をつくって冬至・夏至(げし)などの基礎観測に従い，やがて改暦事業に従って王恂(おうじゅん)・許衡(きょこう)らとともに〈授時暦〉を編集した。これは中国の暦法中で最もすぐれたものといわれ，渋川春海によって編集されたわが国最初の〈貞享暦(じょうきょうれき)〉もこれに基づいている。〔藤村　淳〕

がくじゅつかいぎ　【学術会議】　⇨日本学術会議

がくしょう　【楽章】　ソナタ・協奏曲・交響曲などで最も大きく区分された部分。多くの場合，テンポ・拍子・調などの面で相互に区別されると同時に，動機や主題法によって関連を与えられ，楽曲全体に統一などがもたらされている。

かくしんくらぶ　【革新倶楽部】　1922年(大正11)政友会・憲政会の対立期に，犬養毅(いぬかいつよし)の立憲国民党を中心に無所属議員の野党合同論者45名で結成した政党。憲政擁護運動を積極的に推進，憲政会・政友会との護憲三派内閣に犬養毅が入閣し，与党の一翼となった。普通選挙法の成立，軍部大臣の資格制限の撤廃，軍縮などを主張したが小政党で党勢ふるわず，1925年その大部分は政友会へ吸収されて解消した。

かくしんしゅぎ　【革新主義】　20世紀初頭約20年間にアメリカで展開された政治的・社会的改革運動。プログレッシビズムともいう。〈新国民主義〉〈新しい自由〉〈新民主主義〉〈革新的民主主義〉など多くの考え方があるが，基本的には従来の自由放任経済の悪い点を是正し，国民の利益を十分尊重するために政府機能の拡大を図る新民主主義運動として把握(はあく)されよう。19世紀後半の経済的・社会的ゆがみの改革運動としてのグレンジャー運動・グリーンバック党・人民党，単一租税を主張したヘンリー-ジョージらの社会主義的思想の流れをくみ，後代のニューディール・フェアディールへと続くアメリカ改革思想の一部をなす。革新運動は，帝国主義的国際状況に対応する国内問題の調整と考えられるが，資本主義体制自体の否定とはならず，そこに発展の限界があったといえよう。1917年，アメリカの第1次世界大戦参戦とともに衰退した。

〔折井一彦〕

かくしんとう　【革新党】　アメリカの政党。民主・共和二大政党の政策にあきたらず，革新主義を基盤に結成された。

1 1912年，T.ルーズベルトが共和党を脱党して結成した第3政党。タフトの率いる共和党から進歩派が離反し，ルーズベルトを大統領に立てて，タフトの得票を上回る422万票を獲得したが，この分裂のため民主

党のウィルソン*に政権の道を明け渡した。国民投票・リコール制・人民発議権・直接予選などの直接民主制の拡大，関税改革・トラスト規制など〈ニューナショナリズム〉の綱領を掲げたが，1918年までに共和党に復帰した。〈ブル-ムース〉ともよばれる。

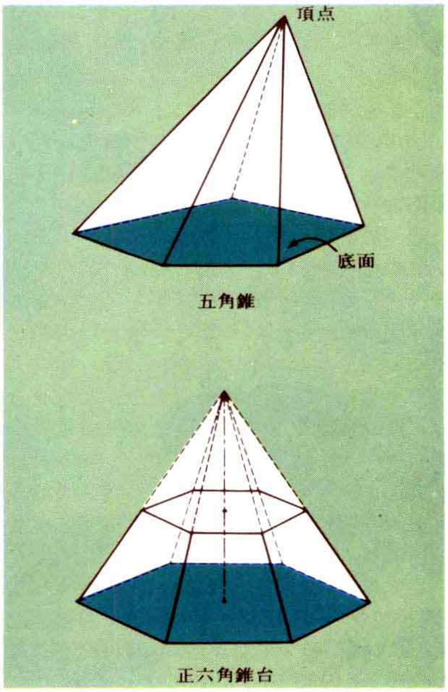
②1924年，共和党の腐敗政治に反発して結成された政党。ロバート-ラフォレットが直接民主主義の拡大，独占規制の強化，農民救済，公共事業の国有化などを綱領とし大統領に立候補，社会党・AFLの支持を得て482万票を獲得した。しかし1925年，ラフォレットの死に伴い，消滅した。

③F.ルーズベルト*の商務長官ヘンリー-ウォレスが1948年に民主党を脱退して結成した政党。修正資本主義的政策を主張して，タフト-ハートレー法*に反対し，社会福祉政策を提唱した。対外的には，トルーマン-ドクトリン*，マーシャル-プラン*に反対し，ソ連との友好関係を説いた。トルーマン反対派の民主党員・労働者の支持で116万票を獲得した。しかし，ウォレスは朝鮮戦争を支持して1950年脱党，党は1955年ごろ消滅した。〔折井一彦〕

かくしんに【覚信尼】(1224～1283) 親鸞*(しんらん)の第7子。常陸(ひたち)(茨城県)の稲田で生まれた。俗名は弥女(いやおんな)。父に伴われて京都におもむき，日野広綱に嫁して覚恵を生み，広綱の死後小野宮禅念に再婚，唯善を生む。禅念の死後尼となる。1262年(弘長2)親鸞の死後，大谷に廟所(びょうしょ)を営み，その子孫が留守職(るすしき)として守護することに定めた。ここは亀山(かめやま)天皇から勅願所として久遠実成阿弥陀(くおんじっしょうあみだ)本願寺の号を賜わり，のちの本願寺の基となった。〔坂東性純〕

かくしんはん【確信犯】政治犯*などにみられるように，自己の信奉する政治的・宗教的・道徳的な主義，使命感・義務感の確信によって行なわれる犯罪。社会的変動期に現われやすい。犯人は現在の法秩序・法規範を価値的に否定しているため，自己の行為についての違法の認識を欠く。さらに適法行為に出ることへの期待可能性*を欠く場合が多い。確信犯人に対しては通常の刑罰を科すのが適当か，保安処分*が適当かが今後の課題として提起されている。〔野口恵三〕

かくすい【角錐】多角形を底面として，この多角形の各辺をそれぞれ底辺とし，底面外の一点Oを共通の頂点とする三角形によって囲まれた多面体。Oを角錐の頂点という。底面がn角形のときn角錐といい，底面が正n角形で頂点から底面におろした垂線が底面の中心を通るとき，この角錐を正n角錐という。どの面も正三角形になっている正三角錐を正四面体という。角錐の体積Vは，底面の面積をS，高さをhとすると，$V=Sh/3$で表わされる。また，角錐を底面に平行な平面で切って得られる二つ



角　錐

の底面をもつ立体を角錐台という。角錐台の体積Vは，二つの底面の面積をS_1，S_2，高さをhとすると，

$$V=(S_1+\sqrt{S_1S_2}+S_2)h/3$$

で表わされる。〔菊池兵一〕

カクストン［William Caxton］(1422～1491) イギリス最初の印刷業者。ケント州に生まれ，ロンドンで毛織物商となってフランスに渡り，商人として成功したが，生来文学好きであったことから，フランス中世文学の翻訳に熱中した。当時の新技術である活版印刷術を会得して，1474年自分で翻訳した《トロイ攻略物語集》を発行，これが最初の英語活字印刷本となった。1476年帰国し，ウェストミンスター寺院内に印刷所を設立，王室の保護を受けて，チョーサーの《カンタベリー物語*》，マロリーの《アーサー王の死》など約100種に近い書物を印刷・出版し，イギリス文学界に残した功績ははかりしれない。〔片岡一郎〕

がくせい【学制】わが国の近代教育制度全般にわたって，はじめて規定した法令。1872年(明治5)8月の〈文部省布達第13号〉を根幹に，翌年3月の《学制二編》，同年4月の《学制追加》および《学制二編追加》の4布達全213章を総称する。学制の思想は，相互に矛盾する見解の，いわゆる学制序文の〈学事奨励に関する仰せ出され書〉にある個人主義的な立身・治産・昌業の教育を推進しようとしたことと，第13号第21章に示されている国家主義的な義務教育確立の立場を明らかにしたことに集約される。制度の内容は，欧米の先進近代国家の学校制度を模し，特に，全国を8大学区，各大学区を32中学区に，各中学区を210小学区に区分し，それぞれへの大学(8)，中学校(256)，小学校(53,760)の設置は，学制取調掛(とりしらべがかり)が洋学系の箕作麟祥(みつくりりんしょう)らで構成されていたことから考え方はフランス，行政運営はアメリカに範をとっていた。なお，制定されるに至った根底には，欧米諸列強国のアジアの植民地再分割政策への対抗と，明治政府の富国強兵・殖産興業政策の一環としての策定があった。➜教育制度

がくせいうんどう【学生運動】⇨次ページ

かくせいき【拡声機】⇨スピーカー

がくせいくみあい【学生組合】⇨ブルシェンシャフト

かくせいざい【覚醒剤】中枢神経・交感神経の機能を積極的に亢進(こうしん)させる薬物で，主として覚醒アミンとよばれるプロパミン製剤のゼドリン類やメチルプロパミン製剤のヒロポン類をさしていう。脳に対する積極的な作用で，気分を爽快(そうかい)にし，疲労感を和らげ，催眠を抑制する効果をもたらす。治療薬として，精神科で嗜眠症(しみんしょう)や鬱病(うつびょう)，内科でパーキンソン病や夜尿症あるいは睡眠薬中毒に対して用いられる。ただし習慣性があるので常用すると慢性中毒に陥り，幻聴・幻覚が現われ，狂暴となり，精神分裂症に似た症状を起こすことがある。また中毒患者が消毒不完全な静脈注射をくり返し行なうと，感染症や敗血症などの合併症で死亡することもある。わが国では第2次世界大戦後，ヒロポンなど覚醒アミンの慢性中毒が激増し，青少年犯罪の誘因の一つとして社会問題になったため，1951年(昭和26)〈覚醒剤取締法〉が制定され，麻薬と同様に，その製造・輸入・販売・所持・使用を規制するに至った。〔朝倉　了〕

がくせいじちかい【学生自治会】⇨学生運動

がくせいしんぶん【学生新聞】学生自身の手で編集・発刊される大学新聞をいう。学生自治会*の機関紙やクラブ活動*の一環としてというより，社団法人として独立の機関で発行している場合が多い。したがって大学当局からは独立している。そのもともとの目的は，学内ニュースの提供であるが，学生運動の全国的動向などにも取材の力が入れられ，学生運動諸派の思想的・政治的傾向が強く現われることもある。しかし学問の問題状況の解説など，学生の問題意識の提起に重要な役割を果たすことが多い。わが国におけるこの種新聞の発行は，1917年(大正6)5月発刊の三田新聞に始まるといわれる。〔海老原治善〕

がくせきぼ【学籍簿】⇨指導要録

かくせんがん【角閃岩】主としてホルンブレンド*とシャチョウ石*とからなる変成岩*で，ホルンブレンドの柱状結晶がほぼ一定の方向に配列している。副成分鉱物としては，ザクロ石・リョクレン石・トウキ石などが多く，少量のクサビ石やチタンテッ

➜475ページ

学生運動

主として，政治・経済・思想・教育・生活などの諸問題について，要求の実現をめざして行なわれる大学生による集団的な運動をさす。今日のわが国においては，体制変革の運動の一翼をになって，反体制的な政治運動の形をとっているが，国家主義的な，いわゆる〈右翼的〉な学生運動もある。

学生運動が，広く社会運動や政治運動の一翼として登場してくるのは，学生が知識階級の一員として，社会の矛盾に鋭敏な問題意識をもち，解決に立ち上がる行動の敏捷(びんしょう)性をもっているからである。したがって，学生運動は，その時代の矛盾の最も集中している課題と取り組むことになる。

【日本の学生運動】わが国の場合，大正中期デモクラシーの高揚の中で，社会主義運動はようやく明治末期の沈滞を脱し，活発になっていく。この中で，自覚的な学生たちは，みずからの置かれている社会的地位をみつめ，立身出世による社会の支配層になるよりは，無産の民の貧困と無権利状態からの解放のために，一身を投げうって社会運動に飛び込む。

1918年(大正7)12月，東京大学法科学生により，ヒューマニズムとデモクラシーを基調にして，社会改造をめざす新人会が結成された。翌年には，早稲田(わせだ)大学に民人同盟・建設者同盟・黎民(れいみん)創生会・一新会，法政大学には扶信会，慶応義塾(ぎじゅく)大学には反逆社，明治大学にはオーロラ協会などが設立されている。

さらに，普選運動*をきっかけに，青年労働者との接触が深まり，労働組合結成へも手をさしのべていった。《デモクラシー》3号にあるように，〈労働者はぼくの愛人だ。あの蒼(あお)い顔が快活になるまで待っていられない〉として，労働者街に居住し，東京・亀有(かめあり)には新人会学生によるセルロイド工組合がつくられるまでになった。

また，すでに京都では，1917年12月，河上肇*(かわかみはじめ)の指導で，労働者と共同した研究会，労学会が活躍していた。それゆえに，学生自身が在学する大学のあり方そのものへの批判・改革は，菊川忠雄(ただお)《学生社会運動史》によると，〈むしろ無視〉されていた。その意味では，まだ一部先進的な学生たちの運動にすぎなかった。

しかし，1922年ごろから，全国各地の大学・高校などに社会思想研究会・社会問題研究会の簇生(そうせい)をみ，やがて社会体制そのものの科学的分析をめざす社会科学研究会が生まれ，1924年9月に，参加校46校，会員1,600名で学生社会科学連合会が組織され，翌年7月に，日本学生社会科学連合会が誕生した。さらに，この社研活動の基盤の中から，学生自治会の設立が始まった。かくて，一部先進的学生による〈ヴ-ナロード(人民の中へ)〉にみられる学園外の社会運動ではなく，学生自身による学園民主化の運動へと発展していく。

その最初の運動が，大学自治擁護と軍国主義教育反対の平和擁護の運動であった。1923年5月，早稲田大学で〈早稲田大学軍事研究団〉の発会式が軍部と大学当局の両者によって行なわれた。学生たちは，軍閥のどろぐつで大学の学問の自由をよごさせるなと反対運動を展開した。その先頭に大山郁夫(いくお)教授や校友秋田雨雀(うじゃく)がたって当局と軍部を糾弾した。しかし3週間後，官憲は大学の臨検を行ない，学生たちの激しい抗議にあった。

さらに，1925年10月，小樽(おたる)高等商業(現小樽商科大学)での軍事教練の際に，配属将校が〈小樽で地震が起き，無政府主義者と朝鮮人が暴動を起こした〉という想定で，野外演習を実施しようとした。小樽高商社研は，これに抗議して全国に訴え，軍事教練反対運動は全国に広がった。

また，日本帝国主義支配下の朝鮮では，1919年3月1日，朝鮮独立万歳と叫ぶ，民族独立のための学生運動がのろしをあげていた。三・一独立運動*である。そして中国でも，旧来の学問観・文化観の批判から，新文化創造へと発展した五・四運動*が展開されていった。

日本の大正期学生運動は，これらの運動との相互影響の中で，とりわけ，学問の自由擁護と反軍平和の学生運動として発展していった。と同時に，学生生活の安定をめざす生活協同組合の組織化や，民衆との日常的生活のレベルでの連帯をめざす学生セツルメント運動も，関東大震災後に始まった。そこでは，医療・法律相談・保育教育活動が事業として取り組まれていた。

政府はこうした学生運動に対し，1926年5月，時の岡田文相が〈①学校当局は学生の社会思想研究に細心の注意を払い，個人的にもこれを禁ずること。②弁論会・読書会などにおいても社会主義的傾向のものを禁ずること。③その他学術講演連合演説会等いやしくも学生の社会思想研究熱を誘うようなことをいっさい禁ずること〉という内訓を関係学校長へ発し，社研解散を命じた。それだけにとどまらず，昭和期にはいると，〈赤化〉教授の名において，学園からの教授追放に及んだ。1928年(昭和3)，河上肇(京都大学)，大森義太郎(東京大学)・向坂(さきさか)逸郎・石浜知行(ともゆき)・佐々弘雄(ひろお)(九州大学)を退職させるよう学長に迫った。

1933年，京都大学の刑法担当の滝川幸辰(ゆきとき)も，左翼思想ということで大学を追われた(→京大事件)。これに対し，大学の自治と研究の自由擁護の学生運動が起こった。だが，戦時軍国主義教育の圧迫・支配の中で苦しい運動となった。美濃部(みのべ)達吉の天皇機関説，矢内原忠雄(ただお)に対する政府の忌避，河合(かわい)栄治郎に対する起訴，津田左右吉(そうきち)の主著4冊の発禁とあいつぐ学問の自由への圧迫が続いた。その中で反戦平和の学生運動が根強く展開されたが，しだいに窒息させられてしまい，ついに〈わだつみ〉の悲劇となった。

第2次世界大戦の敗戦後，学生運動は，まず軍国主義教員の追放と学園民主化をめざして再開された。旧制静岡高校・水戸(みと)高校・佐賀高校での校長追放，日本大学医学部の予科長追放，東京産業大学の学長の辞職・学生課廃止・事務官更迭・無能教授追放など，学園民主化運動が広範に行なわれた。

1946年から1948年にかけて，自治会が全国の学園に澎湃(ほうはい)として結成されていった。特に，1947年の国立大学地方移譲反対，1948年の国立大学の授業料3倍値上げ反対の大きな運動の中で，同年6月20日，全国114校，約20万の学生によって，授業放棄が敢行された。その要求は，〈文教予算の飛躍的増額〉〈学生生活反対(授業料値上げ撤回を含む)〉〈教育制度の改悪反対(大学理事会制度反対を含む)〉〈学問の自由と学生自治運動への干渉反対〉などであった。この気運の中で，9月，全国の国・公・私立145校，約30万の学生が組織されて，全日本学生自治会総連合(全学連)が結成された。

その後，大学管理法反対闘争，イールズによる教官のレッド-パージ反対闘争と，大きく運動が展開され，反体制運動の重要な一翼をになうようになって学園闘争が進んでいった。そして，1950年の朝鮮戦争の勃発(ぼっぱつ)は，平和擁護運動の新たな展開を迫ることになった。

とりわけ，原水爆禁止・核兵器廃絶をめざす平和運動は，国際的な学生運動(国際学連)との連帯のもとで強力に進められた。また，1952年のサンフランシスコにおける講和条約の締結と日米安全保障体制の新たな発足は，日本全土への米軍による軍事基地設置の増大となって現われた。このため学生運動は，軍事基地撤去の運動にも広がり(砂川闘争など)，学生層の生活上の直接的利益擁護というより，全国的な政治課題に焦点づけた全国統一行動による政治運動が主流となっていった。また，教育政策の転換に伴う任命制教委・学力テスト・勤務評定の諸政策にも激しく抵抗するようになった。1960年の安保条約反対の運動において，それは最高潮に達した。

しかし，その後は，条約が事実上締結された結果，安保闘争敗北の総括が行なわれ，

前衛政党への不信から，全学連は分裂の季節にはいっていった。そして今日では，新左翼と称する政治諸集団は，それぞれ全学連を個別セクトごとにもち，反日共系全学連とよばれるようになった。一方，日本共産党・民主青年同盟の影響下の全学連も組織をもち活動が行なわれている。

1960年安保後の池田内閣による高度経済成長政策は，日本資本主義の〈繁栄〉を生み出させ，大衆社会的状況をつくりだした。そして所得の上昇は，進学率を高めさせ，今日では，140万人(短大を含む)の高等教育を受ける人口をつくりだした。かくて大学は，戦前の一部特権階級のための大学ではなくなり，市民的なものとなった。それとともに，経済成長に伴う企業の労働力要求は，その養成にふさわしい大学への再編成を要求しはじめ，〈産学協同〉の声も出されるようになった。

大量の大学生の登場は，マスプロ教育を，特に私立大学において生み出し，大学間格差を深刻なものにし，大学をめぐる諸矛盾が蓄積されていった。それが授業料値上げ阻止を口火に，1969年，いっせいに噴出し，やがて〈大学革新〉，はては〈解体〉などを呼号する学生運動も出現した。その中で，学問のあり方，学生の大学運営への参加，学生の権利問題が論ぜられている。

今日，日本の学生運動は，第1に，大学革新，学園民主化の課題と，第2に，日本の軍国主義・帝国主義復活を阻止する反戦平和の課題をになって展開されている。しかし，一部の反日共系学生運動は，目的のためには手段を選ばぬ直接暴力や武装闘争の戦術をとるため，世論の批判を受けている。〔海老原治善〕

【世界の学生運動】第2次世界大戦後の世界の学生運動は，反ファシズムを共通理念として出発した。その象徴が〈国際学生デー(11月7日)〉である。

1939年11月7日，ナチスは反ナチデモを敢行したチェコスロバキアの学生を武力で弾圧し，学生指導者9名を銃殺した。また，これを口実にしてチェコの全大学を閉鎖した。大戦終了後，ロンドンにあった国際学生評議会は，ファシズムによる民主主義と大学の自治の破壊を許さないという決意をこめて，この日を〈国際学生デー〉に定めた。ここに，世界の学生の共同の思想的原点がすえられたとみてよい。

世界各国の学生運動に共通する目標は，大学の自治と民主化という教育課題と民族の独立，社会の民主化という政治課題の二つにしぼることができる。

1817年，イエナで全ドイツ学生組合がつくられ，絶対主義政府に大学の自治と民主主義を求める運動を進めた。このとき以来，学生運動が社会と大学の民主化をになう力として働き始めた。1870年代のロシアのナロードニキ運動，20世紀にはいってからの中国の五・四運動や朝鮮の三・一独立運動(ともに1919年)などにおいて，学生は主導的な役割を果たした。とりわけ，反帝・民族独立をめざすアジアの学生運動が20世紀前半ではきわだっていた。



東京大学安田講堂前での全共闘系学生による1969年1月15日集会。学生たちは，1月18日に，安田講堂から当局によって排除された。

学生運動は，すでに100年以上の歴史を背負っているが，世界の諸地域でこれほど同時的に，いっせいに学生運動が展開されてきたのは，第2次世界大戦後にはじめてみる現象である。その背景には，学生の政治的自覚の高まりとその学生団体への組織化という主体的な成長があり，他方で，政治の問題が大学および大学生の内面にまで迫ってきて，無関心・無関与ではすまない状況が訪れてきたことがあった。

第2次世界大戦後に，共通の課題を自覚的・組織的に共同して追究する動向が新しく現われて，これまでの各国別のばらばらな運動が互いに響き合う関係に変わってきたことも当然であった。その共同課題を類型的に示すならば，当初反ファシズムと教育の民主化を課題にしていたものが，1950年代には，朝鮮戦争と核脅威をまえに，反戦平和と民族独立を課題とし，1960年代には，ベトナム戦争と大学のマスプロ化現象の進行によって，ベトナム反戦と大学改革を課題とするに至ったのである。

課題の国際的な共通性とその追究ということを媒介にして，各国の学生運動に国際連帯の意識が成立してきたが，その組織的な現われとして，学生団体の国際的な統一組織の結成と発展をあげることができよう。〈国際学生連盟〉がそれである。1946年，39か国・43学生組織で発足した国際学連は，世界の学生の力量を一つに結びつけ，それに方向を与え，平和と民主主義の擁護，学生の生活と権利の改善に大きく貢献してきた。同時に，その間，欧米中心の組織から三大陸が多数派を占める組織に変容してきて，いきおい民族独立運動を強く支援する方針をとるに至っている。1967年当時，82か国・87学生組織が加盟しており，うちアジア――14か国・14組織，アフリカ――29か国・31組織，ラテン-アメリカ――22か国・24組織である。国際学連の指導力は，しかし，しだいに衰えてきている。国際政治の変動に直接影響されて，組織の分裂を招いてきたからである。第1に，アメリカ学連を中心にして，〈学生の本分は学問をなすこと〉という名分を掲げた〈国際学生会議〉が対立組織としてつくられた(1950)。第2に，部分的核実験停止条約支持というソビエト路線を各国に強制したから，これに批判的な中国ほか9か国の学連の遊離を招いた。このため，1960年代後半以降では，国際学連の指導を待たないで各国の学生運動は自主的に進んでいる。国際学連は一つの曲がりかどに立たされているともいえよう。

今日の世界の学生運動には，それぞれ独自の性質をもった三つの流れがある。第1に，アジア・アフリカ・ラテン-アメリカでの民族独立闘争と結びついた学生運動の流れ，第2に，ヨーロッパ・アメリカなど資本主義国にみられる疎外回復をめざす学生運動，第3に，新しく生起した社会主義下の知識人・学生の動向。この三つの流れは，学生運動の課題と質がその置かれている社会体制のあり方によって異なってくるこ



パリ五月革命の中の学生（カルチエ-ラタン，1968年5月4日）

とを示すものである。

三大陸の学生運動は，祖国が植民地・従属国にされたので，植民地解放・民族独立を求めて戦うという点で共通の性格をもち，〈隷属の中の富裕より自由の中の貧困を選ぶ（セク-トゥーレ）〉という共通のモラルで結ばれている。その運動はすでに半世紀以上の歴史を経ているが，そこから①植民地本国への留学生が，そこで主体的に得た自覚と知識を媒介に，学生運動の口火を切ったこと，②民族独立と大学改革を結合させてとらえながら，植民地大学の民族化を要求してきたこと，③中学生・高校生が学生運動に積極的に参加し，重要な構成部分になったこと，④被抑圧民族として共通の運命に置かれた労働者・農民・市民とともに闘争を組んできたことなどの特質を抽出することができる。

この特質を引き継ぎながら，第2次世界大戦後も，エジプト革命・アルジェリア独立運動・キューバ革命などで学生は先進的役割を果たし，1960年における韓国(かんこく)の李承晩(りしょうばん)政権打倒，トルコの反米闘争，1960年代の南ベトナム学生闘争の持続など，三大陸の学生運動は最も精力的に展開されてきた。それにささえられて，学生運動の地域的統一組織（パン-アフリカン学生会議およびラテン-アメリカ学生会議）が創設され，大陸ごとの運動方針を打ち出している。また，特に抑圧のきびしいアフリカ南部およびラテン-アメリカの一部での学生運動が，武力闘争への参加の方向に動いていることは，注目に値する。

ところで，ヨーロッパの学生運動が盛り上がりをみせた時期は，朝鮮戦争・アルジェリア革命，そしてベトナム戦争のときであり，いずれも民族独立戦争によって顕在化した帝国主義体制の危機と三大陸の人民の独立と革命にかける情熱的志向とが，ヨーロッパの学生運動を触発させてきたのである。アメリカでは，ブラック-パワーからスチューデント-パワーへという進展がみられた。そこには，アメリカ黒人を含めた三大陸の人民・学生の運動がヨーロッパ・アメリカの学生運動を励まし，それを導くという新しい力関係が成立している。

アメリカの学生運動が最近のように高揚したことは，いままでになかったことである。教育のマスプロ化・画一化，政治的自由の封殺，就職難，ベトナム戦争拡大による徴兵の強化など，青年・学生にアメリカ社会の矛盾が集中していた。こうした矛盾に立ち向かう主体の形成を進めたのが，黒人解放闘争であり，特に従来の公民権運動の体制内的性格を批判して出てきた学生非暴力調整委員会（SNCC）であった。SNCCは黒人闘争として黒人学生運動を進め，疎外された黒人の権利を主張し，政治的な機構の変革を要求して，これをブラック-パワーと表現した。同時に，大学における黒人関係講座や黒人教師の増大を要求して，大学改革を迫った。この黒人学生の人種差別反対闘争の中で鍛えられた白人学生がSDS（民主社会をめざす学生）の活動家に転じ，バークレーの反乱（1964）に始まる学生運動の高揚に寄与したのであった。

学内民主主義を求めて爆発したバークレーの反乱は，アメリカにおける大学改革闘争の口火となり，コロンビア大学占拠（1968）にまで至った。この過程で，スチューデント-パワー（学生自治権と大学運営への参与権を総括した表現）がスローガンとなり，〈ティーチ-イン〉などの運動方法が創案された。しかし，この大学改革運動も1970年にはいると下火になった。他方，黒人学生運動は，実力闘争の色彩を強めながら，持続している。

同じ1960年代後半に，ヨーロッパの学生運動も西ドイツ・イギリスからフランスの〈五月革命〉に至って頂点に達した。

西ドイツの学生運動は，社会主義ドイツ学生連盟（SDS）の影響下にベトナム反戦運動を進めていたが，大学における左翼思想の制限に抗議して，1965年のベルリン自由大学でのデモを皮切りに大学改革の要求がしだいに強まり，1968年には大学改革案として具体化され，全学生の支持を得るに至った。イギリスでは，ロンドン大学政経学部長に人種差別主義者を任命したことへの反対運動（1967）が，諸大学の学生の不満に火をつけることになり，大学改革運動を巻き起こした。こうした運動の波はフランスに及んで，1967年11月に，パリ大学ナンテール分校の学生が大学改革を要求してストライキにはいった。1968年3月にベトナム反戦デモがあり，ナンテールの学生が逮捕され，これに抗議する学生が同分校を占拠して，〈五月革命〉の序曲が始まった。武装警官の構内乱入，学生の抗議デモ，大学閉鎖がくり返されて，5月11日に学生がカルチエ-ラタンにバリケードを築き，市街戦さながらの状況が生じたのであった。この過程で，学生は大学改革要求から進んで大学占拠，学生コンミューンの構想を打ち出し，資本主義大学解体を叫んだ。

このような結果，ヨーロッパでは，学生運動を抑圧しながら，政府主導による大学改革を図っている。近代の大学は，資本主義社会の高度化に伴って，一方では産学協同・軍学協同という形で国家独占資本への従属を進め，他方ではマスプロ化・巨大化をたどって，学生の人格・学習権を無視する方向に傾いている。そのうえ，権力からの自立および教授会自治からなる大学自治論も，こうした動向の中で空洞(くうどう)化し，かえって大学自体が権力化・官僚化する傾向をおびてきたから，学生の立場や意見は省みられなくなった。このような大学からの疎外に強く反発し，大学の管理・運営，教育の決定機構に学生の参与を要求したところに，ヨーロッパ世界の学生運動の特徴がみられる。

第2次世界大戦後の学生運動における新しい現象の一つは，社会主義社会における学生運動の生起であろう。社会主義社会では，学生はなによりも共産主義青年同盟のメンバーとして存在し，社会主義建設に奉仕する任務を背負っている。ここには，学生の思想改造運動はあっても，資本主義体制下にみるような反体制的な学生運動はありえない，とみなされてきた。しかし，1956年のハンガリー事件を経て，1967年には，チェコスロバキアで言論の自由を要求する学生のデモが行なわれ，1968年にはポーランドで戯曲上演禁止に抗議する学生デモが行なわれて，いわゆる〈自由化〉運動の先頭に学生が立っている状況が，特に東ヨーロッパ社会主義国でみられるようになってきた。それは組織的な学生運動とはいえないが，非社会主義化を望む学生の個別的な動きとして，今後も注意しつづける必要があろう。〔小沢有作〕

鉱を伴う。カクセン岩は温度450～630℃の地下で生成されたと推定され，同じような条件でできた変成岩の仲間をカクセン岩相という。ウンモ片岩の中では，ジュウジ石やケイセン石を含むものがこれに属する。
〔片山信夫〕

かくせんせき　【角閃石】　マグネシウム・鉄・カルシウムなどの含水ケイ酸塩で，重要な造岩鉱物の一。一般的な化学式は，$(Mg, Fe, Al)_7(Si, Al)_8O_{22}(OH, O, F)_2$，または$(Na, Ca)_{2\sim3}(Mg, Fe, Al)_5(Si, Al)_8O_{22}(OH, O, F)_2$　斜方晶系または単斜晶系。比重2.85～3.60，硬度５～６，屈折率1.60～1.76。ケイ素-酸素の四面体は複鎖状に延びているため，繊維状になりやすい。キ石によく似ているが，２方向にある劈開(へきかい)の斜交する角度が124°（または56°）でキ石と区別できる。柱状・針状・繊維状の結晶として産する。マグネシウムの多いものは白色であるが，鉄が多くなるにしたがって淡緑～黒色になり，ナトリウムの多いものは青色を呈する。次のような多くの種類がある。①斜方晶系に属するもの：チョクセン石（マグネシウムに富む）。②単斜晶系に属するもの：カミングトンセン石（鉄の多いもの），トウセン石-アクチノセン石（カルシウムの多いもの），ランセン石-リーベックセン石（ナトリウムの多いもの。アスベストとして用いられるクロシドライトはこの一種）。カクセン石はいろいろな条件のもとに，火成岩中に少量，カクセン岩・片岩・片麻岩などの変成岩中に主要鉱物として産する。カクセン石片岩は普通に産する。繊維状のカクセン石はアスベストとして工業用に用いられる。飾り石として用いられる軟玉はトウセン石の一種である。
〔加藤敏郎〕

かくせんそう　【核戦争】　核兵器を使用する戦争をいう。戦略核戦争は戦略兵力相互間の攻撃，および非軍事目標に対する核攻撃を伴う戦争，戦術核戦争は500～1,000km以内の軍事目標に対する核攻撃を伴う戦争，戦場核戦争は戦場核兵器による第一線部隊に対する核攻撃を伴う戦争をいう。対空核戦争・対潜核戦争も一種の戦場核戦争である。戦略核の使用を伴う全面戦争は強く抑制されるが，コントロールされた制限核戦争は生起の可能性があるものと考えられている。
〔関野英夫〕

かくせんりゃく　【核戦略】　⇨次ページ

かくそう　【核相】　細胞の核の中の染色体構成が全数（$2n$）であるか，あるいは減数分裂をして半数（n）になっているかをいう語。染色体数が半数の核を単相，全数の核を複相という。

がくそう　【楽箏】　雅楽で使う箏。近世邦楽の箏（俗箏）のモデルになっただけに，形や弦の数（13本）とその名称はのちの箏と同じである。右指の３本に竹製のつめをはめて演奏するが，その音楽的機能は管楽器



角閃石　（上）福岡県粕屋郡志賀町産　（下）愛媛県宇摩郡土居町産

の奏する旋律に，閑掻(しずがき)や早掻などとよばれる分散和音的なパターンでリズムを明確にすることにある。なお，音色は俗箏に比べるとくすんでいるが，これは弦が太めであることに理由があると考えられる。

かくそうこうたい　【核相交代】　核相交番ともいう。有性生殖をする同一種の生物の生活史の中で，単相と複相の核相が規則正しく交互に循環して現われる現象。胞子生殖による無性世代は複相，配偶子形成をする有性世代は単相で，世代交代に関連して核相交代が起こる。無性世代の個体を造胞体，有性世代の個体を配偶体という。動物では一般に核相交代はあるが，世代交代の例は少ない。また世代交代をするものでも，核相交代と世代交代とは，必ずしも関連して起こらない。

かくそくど　【角速度】　円運動の速さを表わす量。円Oの周上を等速円運動をしている点Pが，時刻tに円周上の１点P_1にあり，時刻$t+\Delta t$には点P_2にあるとすれば，$\angle P_1OP_2$はΔtの間にPとOを結ぶ半径OPの回転した角である。これを$\Delta\theta$とすると，$\omega=\Delta\theta/\Delta t$は単位時間にOPの回転する角を表わす。これを点PのOのまわりの角速度という。Pが円周上を一定でない速さで運動する場合にはΔtを限りなく小さくした極限$\omega=\lim_{\Delta t\to 0}\Delta\theta/\Delta t$を時刻$t$における角速度と考える。この場合$\omega$は時間とともに変化する。角速度はベクトルで表わしておくと便利なことが多い。そのベクトルは大きさがω，方向は円Oを含む面に垂直で，その方向に置かれた右ねじを円周上でPが回る向きに回したときに進む向きに向いているものとする。これを角速度ベクトルという。点Pが任意の曲線に沿って運動している場合にも，まったく同様に考えて角速度を決めることができる。曲線が平面曲線でない場合にはP_1・P_2・Oを含む面の向きも時間とともに変化するので，角速度ベクトルの方向が変わる。角速度が一定でなく時間とともに変化する場合，その時間微分を角加速度という。なお，剛体が一定の軸のまわりで回転しているとき，剛体内に任意の１点Pを選び，Pから回転軸におろした垂線の足のまわりのPの角速度をωとすると，Pをどこにとってもωは一定である。これをその剛体のその軸のまわりの角速度という。
〔有山正孝〕

かくそで　【角袖】　男子の長着・羽織のそでの一種で，現在一般に用いられるように，たもとのかどが直角形または半径１～２cmの小さい丸みのついたもの。中世の末から江戸時代の中ごろまで，町人・武家ともに日常着る長着は，たもとのかどの丸みが半径10～15cmの大きな丸そでであったが，その後角そでになって今日に続いている。

なお，角そでのついた男子の和装コート〈角そでコート〉を略していい，また明治時代，しばしば私服の和服で勤務したことから，洋服の丸そでに対して刑事巡査をさす俗語となった。
〔堀越すみ〕

かくだ　【角田（市）】　宮城県南東部の市。江戸時代は伊達(だて)氏の一族石川氏の小城下町で，阿武隈(あぶくま)川水運の中継地として栄えた。1954年（昭和29）市制施行。人口34,000。角田盆地の大半を占め，産業三大別人口比は37：30：33の田園都市で，阿武隈川流域に水田地帯が開け，最近は酪農やタバコ・野菜の栽培が盛んである。丸森線が通じ，国鉄・私鉄のバス交通が発達している。科学技術庁航空宇宙研究所の支所が置かれ，市域西方の高倉にある高蔵寺には県最古の建築である阿弥陀堂(あみだどう)（特別保護建造物）があり，本尊の阿弥陀如来は重要文化財に指定されている。

かくだいさいせいさん　【拡大再生産】　拡張再生産ともいう。従来の規模より大きな規模で生産が反復されること。資本主義社会では剰余価値（利潤）の一部が蓄積されて資本に転化される過程に媒介されて行なわれる。したがってそこでは拡大再生産は生産規模の拡大であるとともに，資本蓄積による資本規模の拡大でもある。こうした関係が社会的総資本としてどのように行なわれるかを示したのが，マルクスの拡大再生産表式（➡再生産表式）である。この拡大再生産に対して，従来と同じ規模で生産が反復されることを単純再生産といい，従来よりも縮小した規模で生産が反復されることを縮小再生産という。
〔常盤政治〕

かくたん　【喀痰】　呼吸器から分泌される粘液。呼吸器疾患の検査として重要である。肉眼的に喀痰の量・色・性状・においなどを観察するとともに，顕微鏡的に細胞・結晶やその他の有形成分の検出を行なう。患者に開放性結核があれば染色または培養によって結核菌を発見することができる。肺癌(はいがん)の場合はしばしば血性（イチゴ状）の喀痰排出をみる。喘息(ぜんそく)の場合，喀痰は漿液(しょうえき)性で，シャルコー-ライデン氏結晶およびクルシュマンらせん体を発見できる。僧帽弁不全などで肺循環の鬱血(うっけつ)があれば喀痰中にヘモジデリンをもつかっ色の心臓弁膜細胞がみられる。喀痰の多く出る疾患には急性肺炎・気管支拡張症・肺壊疽(はいえそ)などがある。特に肺壊疽

かくせんりゃく

核戦略

核兵力を運用して戦争目的(戦略・戦術目的)を達成し，あるいは政治的効果(抑止・脅迫など)を得ようとする戦略。目的・場面，および対抗する兵力の比率・特性その他の条件で，種々の戦略構想を生ずる。

〔大量報復戦略〕1950年代の中期に至る，アメリカの核戦力が独占的または圧倒的優位にあった時期に，アメリカの採用した戦略である。共産側の西欧に対する大規模侵入に対しては，ソ連の中枢部・後方基地や報復力・侵入兵力・後方部隊などに全面的な核攻撃を加えて，侵入を阻止するとともに，共産側の戦力を根源から破壊して戦争を勝利のうちに終結するという戦略で，通常戦争をも抑止することを目的としている。

〔柔軟反応戦略〕1950年代の中期にソ連の戦略爆撃機および中距離弾道弾(IRBM*・MRBM*)が配備され，さらに1960年代には対米戦略攻撃力が配備されるようになると，アメリカによる大量報復はソ連による対西欧および対米報復反撃によって共倒れを予想させることになった。そこで，通常戦力による侵入に対してはまず通常戦力で対応し，必要に応じて戦場核兵力(兵器)，さらに戦術核兵力(兵器)の使用を開始し，最後には戦略核兵力(兵器)の使用の可能性，およびその段階的拡大の間，外交手段を尽くして戦争を局限し，抑止しようという柔軟反応戦略が生まれた。この戦略は，西欧諸国に対しては必然的に通常戦力の増強を要求し，財政的負担を増すことになる。そのうえ，米・ソの戦略核攻撃の交換は強く抑止されるとすれば，それ以前の戦術核戦争までは拡大する可能性がある。そのような戦術核攻撃の交換はヨーロッパの荒廃をきたし，ヨーロッパにとっては全面戦争となんら異なるところがない。そこで，西欧にとって柔軟反応戦略は好ましくないという考え方がある。こうして，英・仏の独自の戦略核戦力が創設されたが，これは，もしも核攻撃が西欧の都市に及んでくるならば，ソ連の都市もまた英・仏の核報復によって相当の打撃をこうむるという潜在性によって，ソ連の対西欧都市攻撃を抑止しようという考え方に基づいている。

〔対兵力反撃戦略と対都市反撃戦略〕前者は，共倒れにならないためにまず相手の戦略核戦力を撃滅して一方的勝利を得ようとするもので，その抑止効果は理論的にはあらゆる戦争様式，あらゆる地域にも及ぶ。しかし相手の戦略核兵力が地下サイロ・原子力潜水艦*などの非脆弱(ぜいじゃく)な基地を使用すれば，第1撃によって報復反撃力を撃滅する可能性はなくなる。最近，ICBM*(大陸間弾道弾)の弾着精度の向上と多目標弾頭(MIRV)の出現によって，第1撃能力すなわち対兵力攻撃戦略を可能とする能力の実現性が議論されているが，ポラリス型原子力潜水艦ミサイル体系の非脆弱性(第1撃からの残存性)は当分の間確保されており，また陸上基地ミサイルも早期警戒レーダーによって15分以上まえの警報が得られるので，敵ミサイルの弾着までに大部分のミサイルは報復反撃のため発射しうる。したがって，対兵力戦略の成立する可能性は期待できない。これに対して，対都市反撃戦略は純然たる共倒れを予想させて相手の攻撃を抑止するものであるが，この場合の戦略核報復力は相手の先制第1撃から十分残存しうる非脆弱性をもたなければならない。

〔最小抑止戦略〕対都市反撃戦略では相手の都市数に見合うミサイル数に若干の損耗を見込めばよいので，大量報復や対兵力反撃戦略に比べて最小限の兵力で抑止が成立することになる。さらに，基地を原子力潜水艦ミサイル体系とするならば相手の攻撃からの損耗を無視しうるので，戦略核報復力はまったく相手の重要都市破壊に必要な一定数となる。これを有限抑止戦略という。

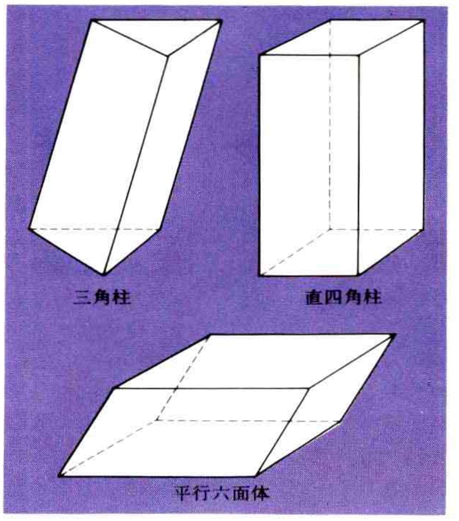
〔損害局限戦略〕1965年以降アメリカの公式的な戦略構想となったもので，当時の国防長官マクナマラの説明によれば，戦略兵力は確実破壊(抑止を保障するに足る確実な破壊)戦力と損害局限戦力とに分かれる。前者は，相手の先制攻撃から十分に残存して相手に耐えられないような確実破壊(人口の5分の1以上，生産力の2分の1以上の破壊)を与えうる潜在力によって相手からの攻撃を抑止しようとするもので，後者はもし抑止が破れて相手から攻撃を受けた場合にも，①戦略攻撃兵力による相手戦略兵力の破壊，②対潜兵力・防空兵力・ミサイル迎撃ミサイル(ABM)などによる積極防御，民間防衛(疎開・退避・救護など)による消極防御などによって損害を局限しようとするものである。しかし，この損害局限によっても，ソ連からの攻撃に対しては確実破壊以下に損害を減少することは困難で，米ソ間には相互抑止関係が成立することを示している。

結局，核兵器の都市に対する大破壊力，基地の非脆弱性，弾道ミサイルの防御突破性のため，核保有国間では多かれ少なかれ共倒れを予想させ，完全なあるいは不完全な相互抑止を成立させる。この相互抑止のもとでは核兵力の使用によって戦争目的を達成することはできず，他の戦争様式，他の地域に対する抑止の有効性を失い，あるいは減少せざるをえない。一方，有効な核報復力をもたない非核保有国に対しては，核兵力使用の潜在性によって軍事的・政治的に大きな効果が期待され，国際世論や道義的抑制にもかかわらず，使用の可能性を無視することはできない。〔関野英夫〕

では，咯痰をとり，放置しておくと，3層に分離するのがみられる。〔平野修助〕

かくだんとう【核弾頭】ミサイル・砲弾・魚雷の頭部に核爆薬を用いたもの。状況に応じて高性能爆薬弾頭(通常弾頭)と換装できるものもある。

かくたんぱくしつ【核蛋白質】核酸とタンパク質とが結合してできた複合タンパク質の総称。結合しているタンパク質の種類により，塩基性タンパク質であるヒストンと結びついたヌクレオヒストンと，強酸性タンパク質であるプロタミンと結びついたヌクレオプロタミンとに大別され，また核酸の種類によってDNAタンパク質とRNAタンパク質とに分けられる。DNAタンパク質はおもに高等生物の細胞核の中にあって遺伝現象に関与し，RNAタンパク質は細胞内に分布してタンパク合成などに関係している。ウイルスではRNAタンパク質がDNAタンパク質の代わりをしている場合もある。〔福島　健〕



角　柱

かくちゅう【角柱】平行な位置にある合同な多角形を二つの底面とし，対応する辺の両端をそれぞれ結んでできる平行四辺形(または長方形)によって囲まれる多面体*。底面が n 角形のとき n 角柱，底面と側面とが垂直のとき直角柱，底面が正 n 角形の直角柱を正 n 角柱という。底面が平行四辺形である角柱が平行六面体で，6個の面がすべて長方形になっている四角柱(うち2個が正方形の場合もある)が直方体である。一般に，底面積 S，高さ h の角柱の体積 V は $V=Sh$ である。〔菊池兵一〕

かくちょうかいしゃく【拡張解釈】法規の用語を日常一般に使われることばの意味よりも広げて解釈すること。たとえば汽

車・電車転覆罪(刑法126条)の中にガソリンカーも含めて解釈するなどである。日常のことばの意味を越えて解釈する類推解釈*と異なり，刑法上拡張解釈は認められる。

かぐつちのかみ 【迦具土神】 日本神話の神。イザナミノミコトの子で，火の神。イザナミノミコトはこの神を生んだために陰(ほと)を焼かれて死に，イザナギノミコトはその死を嘆き，剣を抜いてカグツチノカミの首を切った。この神の生誕とイザナミノミコトの死に関しては種々の考察がある。《播磨国風土記(はりまのくにふどき)》では，火の神であるホアカリノミコトが大地の神であるオオナムチノミコトの御子神となっていて，イザナミノミコトを母なる大地の神とすれば，大地の火処(ほど)なる火山の噴火と，噴火による大地の破壊にカグツチノカミの説話の由来を求めるのも，傾聴に値する解釈といえる。 〔宮井義雄〕

かくていしんこく 【確定申告】 その年の所得が確定するまえに行なわれる予定納税・中間申告などに続いて，実際に所得が確定したときに行なわれる所得金額や税額などについての申告をいう。申告納税制度*をとっている所得税や法人税では，納税者の申告に基づいて所得金額や税額が確定されることが原則となっている。たとえば，所得税の申告納税についていえば，納期の第1期および第2期には，前年の実績に基づいて税額を分割納付する。これが予定納税である。そして歴年が経過したのち，確定したその年の所得税額を計算し，その年税額から予定納税額を差し引いた残額を申告納税する。これが確定申告である。確定申告は必ずしもすべての納税者にとって必要であるとはかぎらない。一般の給与所得者は，源泉徴収と年末調整とですべて精算済みであるから，確定申告書を提出する必要はない。確定申告書の提出期限は2月16日から3月15日まで。法人税の申告については，中間申告書をその事業年度開始6か月を経過した日から2か月以内に提出し，さらにその事業年度が終了した段階で，終了の日から2か月以内に確定した決算に基づく確定申告書を提出して納税する。 〔西野義彦〕

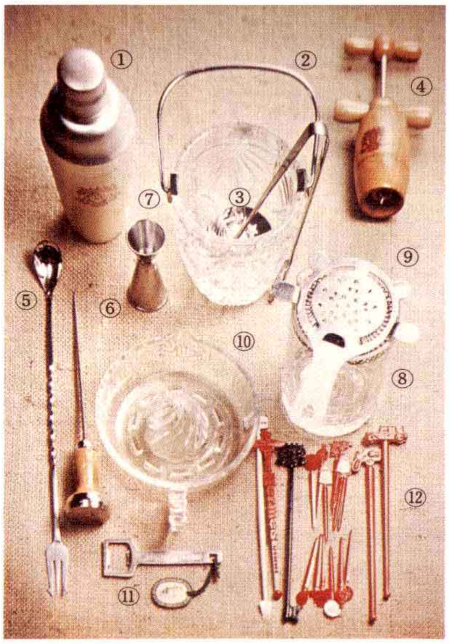
カクテル ［cocktail］ 広義には，2種類以上の飲料を混ぜ合わせるか，または調味料・香料・くだものなどで加工したうえ，外観を整えた飲み物の総称。狭義には，ロング-ドリンクスに対してショート-ドリンクス(比較的短時間に飲みほす混合酒)をいい，この場合は一般にカクテルグラスを用いる。

【語源】 10数種類の伝説があるが，信頼できるものはない。そのうち代表的なものは《ベッチー-フラナガン物語》であろう。アメリカ独立戦争のとき，ベッチー-フラナガンという後家さんが，現在のペンシルベニア州のウェストチェスターで酒場を経営していた。ある勝利の夜，お客のひとりがカクテルを注文したときに，彼女は調合酒をアメリカ士官が盗んできた雄鶏の尾でかき回した。すると乾杯に立ち上がったひとりの士官が，〈こいつはいいや，舌に美酒，目に勝利の尾羽，カクテル万歳(Viva cock's tail)〉と叫んだ，というものである。



グラスの種類

①万能グラス
②コーリングラス
③ウイスキーグラス
④タンブラー
⑤オールドファッションドグラス
⑥カクテルグラス
⑦リキュールグラス
⑧シェリーグラス
⑨ゴブレット
⑩ワイングラス
⑪ブランデーグラス
⑫サワーグラス
⑬シャンパングラス



カクテル

カクテルの用具

①シェーカー
②アイスペール
③アイストング
④コルクスクリュー
⑤バースプーン
⑥アイスピック
⑦メジャーカップ
⑧ミキシンググラス
⑨ストレーナー
⑩スクイザー
⑪オープナー
⑫マドラー

【歴史】 カクテルは19世紀にアメリカで生まれたというのが定説になっているが，ミクスト-ドリンクス(混合酒)の歴史はもっと古く，かつ広い。2種以上の酒を混合したり，酒に水を加えたり，甘味や果汁(かじゅう)を加えたりすることは，きわめて自然に発生した。これらは特別の飲み物ではなく，酒を飲みやすくした生活の知恵の産物といえよう。ましてウイスキーやブランデーのように強い蒸留酒が登場すると，この傾向はさらに強くなった。このような習慣は現在も各地に続いていて，たとえばかぜをひいたときは，ぶどう酒に砂糖を入れてレモンを浮かべ，熱湯を注いで飲むというようなことが行なわれている。ミクスト-ドリンクスとして最初に現われたのは《聖書》にあるワインの〈水割り〉である。そのほか，はちみつや香料を加えた(バビロニア)のも古いが，これらは婦人用(下戸用)として考えられたもの。ミクスト-ドリンクスの典型であり，今日のカクテルの基礎をなすものとしてクラーレット-パンチ(赤ワインにレモン汁(じる)と甘味を加えた飲み物)がある。クラーレット-パンチのようにワインと果汁により，甘(糖分)・酸(果汁)・辛(アルコール分)の三つの味を調味させたドリンクスは，古来世界の各所で生まれている。赤ワインにくだもののぶつ切りを入れ，甘味・ソーダ・ブランデーまたはジンなどを加えると，スペイン系の各国で昔から飲まれているサングリアになるが，これもパンチの一種である。ジンフィズはクラーレット-パンチのワインをジンに変えたものにほかならない。ルーブル美術館蔵のヘンドリック-ファン-ストレク(1659～1713)の静物画は，中央に当時流行の金属台つきガラス製ゴブレット(レーマー杯とよぶ)にレモンピールを飾った飲み物を描いている。今日のホーセスネックを思わせるりっぱなカクテルであって，くだものと飲料との結合が，カクテルの発生に深い関係のあることを思わせる。カクテルという名でよばれたのは，語源説に従えば18世紀末ないし19世紀初めからという

有名カクテル早見表　　tsp：茶さじ　ds：ダッシュ

材料＼名称	ウイスキー	バーボンウイスキー	ウオッカ	ジン	カルーアコーヒーリキュール	チェリーヒーリング	ポートワイン	ライムジュース	グレナデンシロップ	レモンジュース(無糖)	ベルモット(ドライ)	ベルモット(スイート)	トニックウオーター	オレンジビターズ	アロマチックビターズ	コーラ	牛乳	砂糖	卵白	処方 シェーク：シェーカーを用いて，混ぎりにくいものを混ぜ合わせること ステア：ミキシンググラスを用いて，比較的混ぜやすいものを混ぜること
マンハッタン	2/3											1/3			1 ds					ステアして冷やしたカクテルグラスに注ぎ，マラスキノチェリー1個を落とす。ウイスキーをブランデーに変えるとブランデーマンハッタンになる
マテニー				2/3							1/3			1 ds						ステアして冷やしたカクテルグラスに注ぎ，レモンを絞りかけ，オリーブの実を飾る
ジンフィズ				45 ml						20 ml								2 tsp		シェークしてタンブラーに注ぎ，冷やしたソーダで満たし，ステアする。レモンスライスとマラスキノチェリーを飾る
ピンクレディー				1/2					1 tsp	1 tsp									1個分	シェークして冷やしたカクテルグラスに注ぐ
キングピーター						1/3				2 ds			2/3							オールドファッションドグラスにチェリーヒーリングを入れ，氷2～3個とトニックウオーターを注いで，レモンジュースを振りかける
ブラックラシアン			40 ml		30 ml															シェークしてオールドファッションドグラスに注ぐ
ジンライム				2/3				1/3												オールドファッションドグラスに氷2～3個を入れ，上からジンとライムジュースを入れて軽くステアする
カルーアミルク					45 ml												½本			タンブラーに氷2～3個を入れ，カルーアを注ぎ牛乳を8分めまで注いで軽くステアする
バーボンコーラ		45 ml														½本				タンブラーにバーボンを入れ，コーラを8分めまで注いで軽くステアする。レモンスライスを飾る
ウオッカダマ			1/3				2/3													ステアして冷やしたカクテルグラスに注ぐ
ハーフ-アンド-ハーフ											1/2	1/2								オールドファッションドグラスに氷を2～3個入れ，その上に材料を注いでレモンスライスを飾る

ことになるが，カクテルという語が実際に流行するのはもっとあととみてよい。文学作品にこの語がはじめて出てくるのはサッカレーの小説《ザ-ニューカムズ》(1854)であるとされるから，広く普及したのはそれよりのちのことであろう。また，マネーやドガの絵は，バーの一隅でカクテルが飲まれているさまを示しているし，ロートレックは酒のポスターを描き，セザンヌの静物には銘柄品のリキュールが登場してくる。すなわち，酒類が量産に足を踏み入れた時代であって，今日のようなカクテルも，いうまでもなくこの時代の産物である。

【概要】厳密な意味でのカクテル(ショート-ドリンクス)とは，次のような条件を満たすものをいう。①名まえがあること。マンハッタンとかアレキサンダーとかいう気のきいた名まえがつけられている。ロング-ドリンクスの名まえの中には〈水割り〉とか〈フラッペ〉とかいう，製法または材料を示すものがあるが，これらは厳密な意味ではカクテルとはいいがたい。②一定の処方があること。ただウイスキーに水を割るといったおおまかなものではなく，何という酒をグラスに何分の1注ぎ，何をいくら加えたものを，どんなグラスに盛るかということが細かく指示される。これらの処方や容器に対して名まえがつけられるのであって，できあがった味に名まえがあるわけではない。これまでに発表された無数のカクテルにあたってみると，飲んで味の区別がつかなくても，何をどのように使ったかによって，まったくちがった名まえのつけられているものがきわめて多い。③装飾的要素が強いこと。グラスの選定，酒の色，ジュースの色，添加するくだもの類，水・砂糖・ミルク・卵など，味もさることながら，見て美しいということがきわめて大きな条件になっている。これはカクテルには，人をもてなすものという要素が強いことを示している。④即席で調合するということ。最近はびんづめカクテルなどの登場で，この傾向は薄れてきたが，それでも客の前で注ぐというフレッシュなムードはカクテルの特色である。従来は長く置けば，味や色が変わってしまうことから，ショート-ドリンクスでは即時性がたいせつな要素になっていた。

カクテルの発達にはいくつかの条件があった。すなわち，使用されるグラスの量産，製氷産業，製糖産業の発達，酒やその他の材料の自由な入手，がそれである。また，それが飲まれる社交の場も存在しなければならない。しかも一定の処方がある以上，どこの何という，量産された均質な有名銘柄がいくつも存在しなければ，カクテルはできぬ道理である。だからいわゆるカクテル(ショート-ドリンクス)が存在するのは産業革命以後である。19世紀には現存する著名な酒造会社が相次いでできたが，これらの有名酒メーカーは，自社製品の宣伝手段としてカクテルを考案して普及させた。マテニー(マルテーニ社の製品)などをはじめ，カクテルブックに載っている代表的なものはほとんど有名ブランドのメーカーが発表したものである。したがって，カクテルの処方に何某ウイスキー何分の1と示されている場合は，そのウイスキーを使うのが本来の姿である。

近年，カクテルは一つの転機を迎えようとしている。それはびんづめカクテルが登場して，有名カクテルは，その場で調合しなくても既製品が簡単に手にはいるようになったことによる。これは冷却技術の進歩によって沈殿物の除去に成功したことから生まれたものである。そしてミクスト-ドリンクスは，いまや簡単にできる水割り・オンザロックをはじめ，ジンライム，ジントニックのようなロング-ドリンクスの全盛時代にさしかかっている。また，果汁にジンやブランデーを好みに応じて加えたり，菓子やくだものにリキュール類をかけたりするような手軽なものも随所に行なわれるようになった。〔サントリー(株)広報室〕

カクテルドレス [cocktail dress] 女子の略式礼装。夕方近くから夜にかけての時間に着るドレスで，欧米の習慣としてこの時間に軽い酒を飲みながら談笑するカクテルパーティーが開かれることからこの名がある。形は一定していないがワンピース形式のものがいちばんふさわしく，華麗さよりもむしろいきで情緒のあるものが望まれる。

カクテルパーティー T.S.エリオット*の代表的な詩劇(1949)。ロンドンの中産階級の家庭におけるパーティーを中心に，破滅的な夫婦関係や精神的危機に苦しむ人々が描きだされ，現代における人間救済の問題が追究されている。〈絶望から生まれる信仰〉によって，殉教の道を選んだシーリアと，平凡ではあるが幸福な道を選んだチェンバレン夫妻の姿とが，一つの解答を読者に暗示している。

がくどう 【学童】 小学校および中学校時代，年齢からは6歳から15歳までの小児。

〔発育と生理の特徴〕乳児期*に次いで発育の盛んな時代で，いわゆる成熟期発育の時期である。身長・体重の発育速度は男女で違い，10～13歳の間は女児のほうが大きい。これは成熟期発育が女児のほうが早く始まるからである。しかし,14歳以後は男児のほうが女児を凌駕(りょうが)するようになる。この発育には下垂体・甲状腺(こうじょうせん)をはじめ各種の内分泌の活動が大きな影響を与える。男女の性器は10歳ごろから発達を速め，男児では睾丸(こうがん)が急に大きくなり，第2次性徴であるあごひげ・腋毛(わきげ)・陰毛などが出はじめる。一方女児では卵巣の増大が起き，乳房が発達し，11～13歳で月経*が始まる。以上のほかの諸器官も身体全体の発育に伴って量質ともに発達し，一生のうち最も安定した状態となるので疾病(しっぺい)も少なく，死亡率も最も低い。学童期の発育状態は文部省で年々調査しているが，表のように著しくよくなってきている。その原因は栄養や環境の改善がおもなものであろう。生活上，通学・運動その他でからだを動かすことが多く，新陳代謝も盛んなため，体温も成人よりは高く，腋下(えきか)でしばしば37.2～37.5℃ぐらいもある。呼吸数や脈搏(みゃくはく)数は成人よりやや多く，1分間各18～20，70～80である。一方，疲労も激しいので，睡眠は十分(8～9時間)とる必要がある。運動機能では，小学校の低学年児はおおまかな運動はよくできても，指先などの細かい運動はまだうまくできないが，高学年(8～10歳)になると技巧を必要とする細かい運動もじょうずになってくる。知能は著しく進み，記憶力・思考力・推理力・想像力などもよく発達していく。情緒もよく発達して成人に近づいていくし，社会生活への適応能力もしだいに進む。道徳観念は，小学校低学年ぐらいではまだ他律的であるが，10歳過ぎるとだんだん自律的になって善悪の判断ができるようになる。

6歳児および12歳児の平均身長・体重の推移

年	身 長 (cm) 男	身 長 (cm) 女	体 重 (kg) 男	体 重 (kg) 女
6歳児				
1950	108.6	107.8	18.5	17.9
60	111.7	110.6	19.1	18.5
70	114.5	113.6	20.1	19.5
78	115.7	114.6	20.7	20.1
12歳児				
1950	136.0	137.3	31.5	32.6
60	141.9	144.0	34.6	36.9
70	147.1	148.4	38.5	40.6
78	149.6	150.4	41.0	42.2

〔栄養〕発育が盛んであり，運動も激しいので，総熱量を十分に与え，また栄養素をかたよりなく与えることがたいせつである。この時代は自主性が強く，偏食や時間的の不規則なども多くなりがちなので注意しなければならない。この時代に不足しがちなタンパク質(動物タンパク質)・カルシウム・鉄やビタミンA・B_1・B_2などを補う意味で牛乳や乳製品を含む学校給食の大きな効果が認められる。

〔養護と生活指導〕家庭と学校との二面がある。家庭においては保護者による監督指導が必要であるが，しばしば放縦になりがちなので注意する。学校において必要なのは教育のほかに虚弱児童や肢体(したい)不自由児・心身障害児・精神薄弱児などの指導である。これらのうちある程度以上重い者は特殊学校での教育が必要であるが，軽い者は養護教諭の監視のもとに学業を続け，普通児と区別なく教育するほうがむしろ効果があがる場合がある。

〔疾病と予防〕学童期は健康が最も安定している時代で，問題として取り上げるほどの疾病は少ない。死因の順位からは事故死・がん・腎炎(じんえん)・肺炎・心臓疾患などがあげられるが，事故死以外は多くはない。事故による死に至らない障害は死亡数よりはるかに多いので，事故の予防の教育がたいせつである。その他数の上から注意しなければならない疾病は，近視とむし歯である。学校における伝染病は学校伝染病といわれて，特別な注意がなされている。定期の予防接種は小学校入学直前と卒業直前に種痘とジフテリアなどが行なわれているが，そのほか日本脳炎やインフルエンザなども適宜行なわなければならない。

〔社会的問題点〕保健上の問題点の一つとして，わが国における地域差があげられる。毎年文部省から発表される小・中学生の健康診断の結果をみると，発育や栄養状態にかなりな地域差がみられる。鹿児島県や宮崎県の学童は平均して発育が悪いし，農山村の学童は日本各地を通じて栄養要注意児が多い。これらは栄養摂取を主とする社会的因子によることが考えられるので，行政的対策が必要であろう。学校の保健については学校保健法がつくられ，学校の環境衛生，健康診断，伝染病の予防，地方公共団体や国の補助などについて決められているが，もちろん家庭の協力もたいせつである。
〔宇留野勝正〕

がくどう 【学堂】 中国の清朝(しんちょう)末期，近代学制導入期の学校形態。日清戦争から日露戦争への時期，清朝政府は書院*を学堂に改組し，〈中国の学問と西洋の学問を共に学ぶ〉新式学校を学堂とよぶよう性格づけ，これを初等教育から高等教育にわたり系統づけた法令を公布した。1904年の〈奏定学堂章程〉がこれである。翌1905年には科挙*制度が廃止された。学堂は，伝統的旧教育から資本主義的新教育への過渡期を代表する学校形態であって，当時の世人はこれを〈洋学堂〉とよんだ。
〔斎藤秋男〕

がくどうひんけつ 【学童貧血】 ⇨仮性貧血

がくとえんごかい 【学徒援護会】 学生・生徒の厚生・援護を業務とする財団法人。1945年(昭和20)文部省の外郭団体として設立された。具体的活動には学生会館・学生相談所の設立・運営，学生アルバイトの斡旋(あっせん)およびアルバイトや就職に関する研究・技能講習などの指導援助業務，学生診療所などの保健対策業務などがある。

かくとくけいしつ 【獲得形質】 生物のもつさまざまな形質(特徴)は基本的には親から受け継ぐものであるから，親と子の差異は別種間の差異に比べるとはるかに小さい。しかし一方親と子の間にも，また同じ親の子の個体間にも，多少の差異があるのが普通である。これらの差異(変異)の生ずることは生物の進化の重要な条件なのであるが，この変異が，その個体の発育の過程で新しく獲得されたものであるとき，この特徴を獲得形質(または後天性，後天形質)とよび，祖先からの遺伝性によって規定されている特徴と区別する。生物の遺伝性は保守的なものであるから，一般に獲得形質の遺伝が明らかに認められる場合は少ないのであるが，生物進化の理論あるいは育種などに関連してその遺伝性を認める立場は，ラマルク以来連綿として続いている。その例としてはサンチレール・ダーウィン(やや主張があいまいだが)・H.スペンサー・プシブラム・バーバンク・ミチューリン・ルイセンコ・石井友幸・徳田御稔(みとし)らがあり，これと反対に体細胞と生殖細胞は互いに独立しているから獲得形質はいっさい遺伝しないとする人の例として，ワイスマン・モルガン・マラー・バビロフ・ドブジャンスキー・駒井(こまい)卓・吉川秀男(きっかわひでお)らがある。前者をラマルキズムまたはミチューリン主義，後者をメンデリズム，またはメンデル-モルガン主義などということがある。ワイスマンは，ネズミの尾を代々

切り落とす実験を22代も続けたが尾は短くならなかったので，獲得形質は遺伝しないと主張したが，これではその遺伝しない場合の一つを示したのにすぎない。

獲得形質の遺伝が想定される例として，果樹などのつぎ木の際の台木からつぎ穂への遺伝的影響，秋まきコムギの春まき性への転化，温度の影響によるハツカネズミの体形の変化などがあり，日本でもトウガラシ(柳下(やました)登)・ナス(篠遠喜人(しのとおよしと)ほか)などのつぎ木で類似の結果が出ているので，獲得形質が遺伝する場合もあると考えるのが妥当であろう。また，細菌にDNAの塩基に似た物質を与えると，与えた物質に対応して一定の遺伝的変化が起こる例などを考えると，今後多細胞動植物でも，獲得形質の遺伝がその機構を含めて実証される可能性も否定できない。〔柴内俊次〕

がくとしゅつじん　【学徒出陣】　第2次世界大戦中，わが国で大学・高等専門学校在学生の徴兵猶予が停止され，法文科系学生が陸・海軍に入隊したことをいう。学生・生徒は，正課として学校教練を受けるとともに，徴兵猶予制によって満26歳まで徴兵延期される特権があった。しかし第2次世界大戦の進展に伴い，下級指揮官の不足が深刻となったので，1943年(昭和18)10月政府はこの制度を取り消して在学生を徴兵した。ただし，理工科系学生だけは入営延期を認めた。〔森田　哲〕

がくとどういん　【学徒動員】　第2次世界大戦中，わが国で軍需生産の労務を確保するため，国家が学徒(学生・生徒)の労働力を提供させ，これを組織化するとともに，学徒の国防訓練をあわせ行なったことをいう。日本では，1937年(昭和12)の日中戦争勃発(ぼっぱつ)以来，学徒の労務動員を〈勤労奉仕〉の名のもとに逐次強化していたが，1941年8月には，文部省に本部を置く学校報国隊を編成してその基礎を固めた。その後，戦局の推移に伴い，1943年8月本格的な学徒動員が始まり，1944年3月からは学業を事実上停止して，全国の学徒が軍需工場にはいった。1945年8月における動員数は約340万，動員による死亡者約11,000人(おもに空襲による)に達した。〔森田　哲〕

かくに　【角煮】　材料を正方形に切り，こってりとやわらかく煮たもの。豚肉の角煮は，中国料理の東坡肉(トンポーロウ)が長崎料理に取り入れられたものといわれる。三枚肉をかたまりのまま3～4時間蒸し，4～5cm角に切る。ごま油・黄ざらめ・酒・しょうゆ・砂糖で甘からく濃厚なしるをつくり，肉を入れて中火で約1時間煮てそのまま含めておく。カツオの角煮はつくだ煮として賞味されている。

かくねんけっか　【隔年結果】　果樹類で，結実の多い年と結実の少ない年とが交互に現われること。2～3年よく結実したあとに実りの悪いこともある。果樹の種類や品種によって程度が異なり，ふつうカキにはっきりと現われ，ミカン・リンゴにも起こりやすい。その原因は，花芽の分化が果実の発育中に起こるため，結実の多い年はそれに栄養が費やされ，花芽数の減少や花の素質を低下させることにある。このため翌年の結実が悪くなる。反対に，結実の少ない年には養分が十分木にたくわえられ，花芽の形成がよいので，翌年は結実がよくなる。摘果などの栽培管理を行なうことによって，隔年結果の程度は減少する。〔岩垣駛夫〕

かくのうこ　【格納庫】　⇨空港

かくのだて　【角館(町)】　秋田県仙北(せんぼく)郡に属し，人口17,000。横手盆地の北東部に位置し，古くから米および林産物・鉱産物の集散地として，仙北地方北部の中心として発展し，阿仁(あに)・田沢総合開発の関門的地位を占めている。中世末期には戸沢氏の居城が構えられ，1713年(正徳3)に葦名(あしな)氏一万六千石の城下町となった。葦名氏の断絶後は佐竹北家に管理され，そのおもかげが武家屋敷として現在も残っている。1976年(昭和51)に放映されたNHKの連続テレビ小説〈雲のじゅうたん〉の舞台である。

かくばん　【覚鑁】　(1095～1143)　平安時代の真言宗中興の僧。諡号(しごう)を興教大師。肥前(佐賀県)の生まれ。平将門(まさかど)の後裔(こうえい)で武門の出だが，世に最も尊きものを求めて仏門に志したという。13歳のとき京都仁和(にんな)寺にはいり，16歳で剃髪(ていはつ)，20歳のとき高野山に登って研鑽(けんさん)を積み，大伝法院(→根来(ねごろ)寺)を立てて座主となり，金剛峯(こんごうぶ)寺の座主を兼ねて高野山の実権を握った。鳥羽(とば)上皇の庇護(ひご)を受け，学僧を育て，当時乱れていた真言密教の実修観法を大成した。しかし争いに巻き込まれ，紀州(和歌山県)根来山に退き寂す。のちにこの系統を新義真言宗，高野山を古義真言宗と称した。主著《五輪九字秘釈》。〔平井宥慶〕

かくはんき　【攪拌機】　液体と液体，あるいは液体と気体，液体と少量の固体を混合させる機械。アジテーターまたはミキサーともいう。その目的は，両物体をかき混ぜて均質な状態にすること，両物体の接触表面積を大きくすることなどであるが，液体の加熱あるいは冷却に際し伝熱面との相対速度を大きくして熱伝達係数を大きくすることを目的とすることもある。目的によってその形式はいろいろあるが，代表的なものは槽内(そうない)に回転羽根を入れてかき混ぜる形式である。羽根の形状には，櫂形(かいがた)・タービン形および船舶用プロペラ形がある。特別な場合として管路の途中にオリフィス(多くの小穴をあけた板)やジェット(射出噴流口)を入れ，液の流れの乱れによって混ぜるものもある。いずれにしろ，流体の運動状態は複雑で，理論的・定量的に扱うことは困難である。〔下村吉郎〕

かくはんのう　【核反応】　原子核が他の粒子の衝撃によって異なった原子核に変化する現象。原子核反応ともいう。化学反応に伴うエネルギーは原子表面の電子の軌道を変えるときに発生したり吸収したりして，たかだか数エレクトロンボルト(eV)であるのに対して，核反応に伴うエネルギーはこの約100万倍である。

核反応が発見されたのは，1919年ラザフォードがラジウムから出てくるα粒子(ヘリウム原子核$^{4}_{2}He$)を窒素($^{14}_{7}N$)に衝突させると，陽子が放出されて酸素に変わることを見つけた瞬間であった。それは，中世の錬金術以来の夢であった元素の変成がはじめて実現したものであり，また，原子核破壊の科学的な研究のはじまりであった。さらに，1932年コッククロフトなどが陽子などの荷電粒子を約60万Vの直流電圧で加速し，リチウム(Li)などに衝突させると，α粒子やその他の粒子が放出されるのを見つけた。これが人工的に原子核破壊を行なった最初の実験である。その後，粒子加速器の発展はめざましく，サイクロトロン・シンクロトロン・線形加速器などが発明され，原子核反応の研究は飛躍的に進歩した。一方，1932年にチャドウィックによって中性子が発見されたが，この粒子は電荷をおびないので原子核のクーロン斥力を受けず，容易に原子核内に突入できるので，しばしば原子核の破壊に用いられる。原子核Aに粒子aが衝突し，粒子bが放出されて原子核Bができる核反応をA(a，b)BまたはA＋a→B＋bと書く。たとえば，ラザフォードが実験した反応は$^{14}_{7}N(\alpha, p)^{17}_{8}O$または$^{14}_{7}N + ^{4}_{2}He \rightarrow ^{17}_{8}O + ^{1}_{1}H$である。αはヘリウム核($^{4}_{2}He$)，pは水素核($^{1}_{1}H$)すなわち陽子のことである。一般に，核反応の前後の原子核の質量を比較してみると相違があり，上の例では反応後のほうが反応前より0.0012AMU(質量単位)〔1質量単位＝1.491×10^{-3}エルグ(erg)＝931メガエレクトロンボルト(MeV)〕だけ大きい。この場合を吸熱反応とよび，この質量差に相当するエネルギー(アインシュタインの相対性理論によりエネルギーと質量は同等である)を与えなければ反応は起こらない。また，上の例のように静止した$^{14}_{7}N$にα粒子を衝突させる場合は，重心運動のエネルギーは反応に利用されないので，α粒子のもつ運動エネルギーの全部が反応を起こすために有効に使われない。そのため，α粒子は質量差に相当するエネルギーより大きな運動エネルギーをもたなければ反応は起こらない。この必要最小の運動エネルギーを核反応の限界エネルギーとよぶ。またそれとは反対に，$^{7}_{3}Li + ^{1}_{1}H \rightarrow ^{4}_{2}He + ^{4}_{2}He$のような反応を発熱反応とよぶ。このときの質量数は反応前のほうが反応後より大きく，その差は0.0185AMUである。この余分の質量は二つのα粒子の運動エネルギーとなる。なお，反応は一つの過

程だけがいつも起こるとはかぎらない。たとえば上の例のように${}^{7}_{3}Li$に陽子を衝突させた場合，上の反応のほかに${}^{7}_{3}Li+{}^{1}_{1}H \rightarrow {}^{7}_{4}B+n$，または${}^{4}_{2}He+{}^{2}_{1}H+{}^{2}_{1}H$などの反応が起こりうる。

核反応の実験を行なう際，加速する粒子には陽子・重陽子・α粒子・電子などの荷電粒子を使うことが多い。また中性子・γ線*・π中間子*・μ中間子*・反陽子*なども入射粒子として使われる。中性子は電荷をおびないので電磁気的に加速することができないが，他の入射粒子を用いた原子核反応で出てくる加速された中性子を用いる。またγ線は，加速した電子を白金などにあてたとき制動放射で生ずるγ線を用いることが多い。π中間子・μ中間子，あるいはk中間子による実験も，一度加速した陽子により，原子核反応でつくったそれぞれの中間子を用いる。また，粒子加速器では得られない非常に高いエネルギーの粒子による反応は，宇宙線*を利用して研究されている。

核反応は非常に多くの方面に応用されている。たとえば，原子力に利用される核分裂も核反応の一種であり，核融合*も核反応によって生ずる。また，放射性元素の崩壊も核反応に数えることができ，人工放射性元素は医学・生物学・農学・工学など広い分野にわたって，大きく貢献している。

〔中性子による核反応〕電荷をもたない中性子はクーロン斥力を受けないので小さいエネルギーでの核反応を起こさせるのに特に有用である。中性子源は，原子炉中での連鎖反応によって得るか，あるいは加速器で加速した荷電粒子，または自然放射性物質により放出する粒子で核反応を起こして得られる。自然放射性物質による場合は，ふつう，ベリリウムが炭素になる${}^{9}Be(\alpha,n){}^{12}C$などの反応でつくられ，そのときのα粒子はラジウム・ラドン・ポロニウムから放出するものを使う。この方法(たとえばRa-α線)で得た中性子のエネルギー分布は約1MeVから13MeVまで広がっている。また，重陽子またはベリリウムに放射性同位体からγ線(単色の)をあてると，単一エネルギー(約0.1MeV)の中性子源になる。なお一般に，加速器による中性子源は放射性同位体によるものに比べて強度が強く，エネルギーの均一性もよく，エネルギーの制御もやさしい。

初期の中性子反応の実験では，0～10eV程度の領域が最もよく調べられたが，これによって鋭い共鳴現象が発見され，ボーア*の複合核模型が確固たる実験的基礎を得た。この模型によれば，核にはいった中性子は他の核子と強く相互作用し，中性子のもってはいったエネルギーは核内のすべての核子に分散して，複合核ができる。したがって，複合核から粒子を放出するためには核の励起エネルギーの大部分が粒子に集中せねばならず，そのために複合核の寿命が長くなる。一般に寿命の長さは準位のエネルギー幅とは逆比例するから，幅が狭く鋭い共鳴となる。また，1～4MeV程度の中性子による実験も行なわれ，全断面積のおおまかな構造と弾性散乱の角分布を，質量数の広い範囲にわたって測定することにより，巨大共鳴の存在が見いだされた。

原子力エネルギーのもとである核分裂も中性子による核反応の一種で，原子炉の中あるいは原子爆発の際に起こる。

〔荷電粒子による核反応〕荷電粒子反応の実験の目的は，①核の励起エネルギー準位の性質，②核物質の性質や核反応機構を調べる，③陽子・陽子散乱，π中間子・陽子散乱などからの核力の性質，素粒子*の相互作用の性質などを調べることである。①は原子核の構造を明らかにする上で有力な方法で，核反応実験の初期から研究が続けられている。②は核反応を起こす際のようすを知るためのもので，放出される粒子の角分布・エネルギー分布を測定することが手段として用いられている。③の核子散乱実験は最近特に精密化し，核子のスピンの方向を考慮して実験が行なわれている。一方，高エネルギー巨大粒子加速装置と測定器の発達に伴って発見された数多くの素粒子の性質や相互作用が調べられている。

〔γ線による反応〕原子核の性質を知るために，γ線をあてたときに飛び出してくる粒子の角分布やエネルギー分布をはかったり，あるいはその原子核の核分裂のようすを調べる方法がある。この研究は巨大共鳴，軽い核や核子の励起状態を調べるのに成果をあげてきた。　〔福井崇時〕



高エネルギー陽子の起こす核反応の一例。宇宙線中の陽子が原子核乾板中で起こしたもので，3個の低いエネルギーの粒子(濃い軌跡)と1個の中くらいのエネルギーのもの，6個の高いエネルギーの粒子(多分中間子)がつくられている



ラザフォードが発見し(1919)，ブラケットらがウィルソンの霧箱を使って確かめた，α粒子の衝突で起こる核反応の一例。①α粒子 ②酸素核 ③陽子

${}^{4}He$(α粒子)＋${}^{14}N$(空気中の窒素核，写真には写っていない)

$\longrightarrow {}^{17}O$(酸素の同位体)＋${}^{1}H$(陽子)

核 反 応

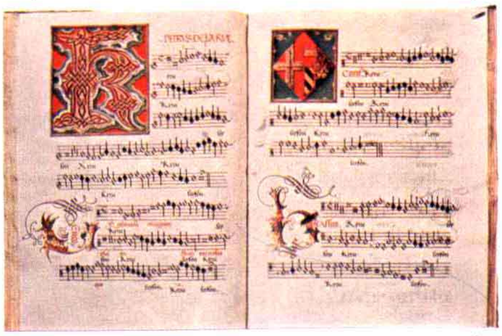
がくひ【岳飛】(1103～1141)中国，南宋(なんそう)の武将。字(あざな)は鵬挙(ほうきょ)。相州湯陰(とういん)県(河北省)の貧農の出身。20歳で対金義勇軍に加わり実戦の経験を積んだ。宋の南渡に従い，鄂州(がくしゅう)を中心とした大軍団の総指揮官に昇進。主戦論を唱え，1140年には開封付近まで反撃したが和平論の秦檜*(しんかい)の策謀で失脚，獄死した。愛国者として，書家としても評価が高い。

がくびわ【楽琵琶】 雅楽で使われる琵琶。弦は4本で，くびの部分が直角に曲がっている。フレットは四つあり，最初ののだけが開放弦から全音離れており，あとの三つは半音の間隔で置かれている。重要な奏法としては，右手に持った撥(ばち)で1弦または2弦をひいたり，3弦・4弦をアルペジオふうに奏するものがある。これはリズムを明確にし，結果的には重要な音が持続音のように響く。また，撥でひいたのち左手で弦をおさえて他の音を余韻として響かせる奏法もあり，管弦*では他の奏者にリズム感を与える。　〔徳丸吉彦〕

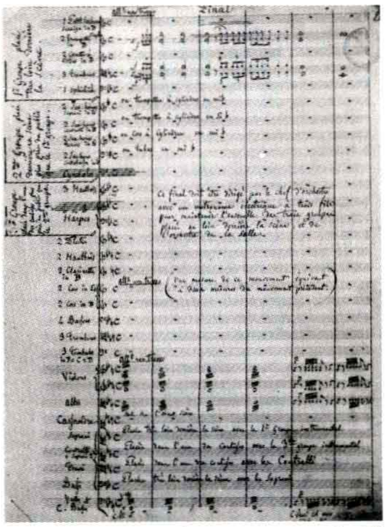
がくふ【楽譜】 さまざまな記号・文字・図などを用いて音楽を視覚的なものに置き換えて記録するもの。西洋音楽では古くから文字によって楽音を示す方法が用いられていたが，中世以降，アクセント記号から発展したネウマ*が主体となり，これに音程を表示するための横線が加えられた。13世紀には定量記譜法*の発達とともに音符・休符の使用によってリズム関係を明確に表示するようになった。現在，西洋音楽で用いられる五線による記譜の体系は，この定量記譜法の発達した形であり，18世紀中ごろには，ほぼ現在の姿に近いものになった。なお，現代音楽では五線譜を用いずにグラフィックや機械的な操作を指示したものもある。日本音楽では，タブラチュア(楽器の



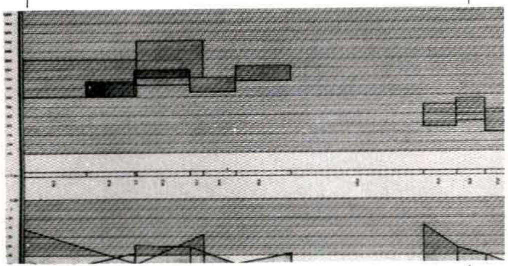
14世紀の黒符定量記譜　ランディーニ作曲の3声のマドリガル《ムシカ-ソン(音楽とは…)》



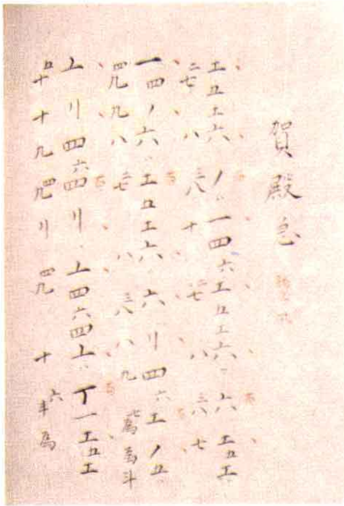
16世紀の白符定量記譜　ド-ラ-リュー作曲の多声ミサ曲《グロリオサ-マルガレータ》のキリエ



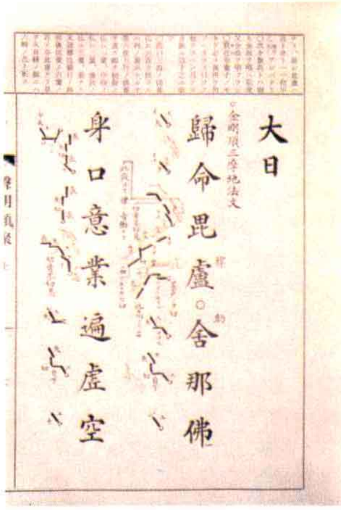
管弦楽のスコア(総譜)　ベルリオーズ自筆のスコア　序曲《トロヤ人行進曲》　1860年



電子音楽の楽譜　シュトックハウゼン作曲《習作(シュトゥディエ)II》　1953年



雅楽の楽譜　赤い符号は拍子と太鼓，中央の数字は篳篥，左の数字は箏を示す　《賀殿》より



真言声明譜(南山進流)　歌詞の左にネウマ的な符号があり，歌唱上の注意が記されている

楽　　譜

奏法を明示する)と文字譜(漢字・数字などによって音を示す)が用いられてきた。これには多くの約束事があり，点や直線や曲線で指示されるが，曲種・楽器・流派などによって異なることがある。

〔吉田泰輔・山口修〕

がくぶ　【楽部】　宮内庁式部職楽部。大宝令によって設置され治部省雅楽寮にはじまり，雅楽*の教習と演奏を行なってきた。1884年(明治17)以後は西洋音楽も取り入れ，宮中の祭儀に際して音楽を担当している。

がくぶち　【額縁】　絵画などを飾る場合に，画面を限ったり周囲の建築空間との調和のために用いる装丁をいう。鑑賞者は，これによって現実の壁面から絵画空間へ容易に移行することができる。額縁は移動可能な板絵とともに発達し，イタリア-ルネサンスからフランス-ルイ王朝にかけて大いに普及した。ルイ13世様式・ルイ14世-15世様式・アンピール様式*など，各時代に独特のものがつくられた。この時代には，画家自身が絵に合わせてデザインする場合も多く，アカンサスの葉文様などの大きく隆起した木彫の上に，金箔(きんぱく)または色彩を施した重厚な作風が目だち，それ自体が工芸品であった。近年は，一定の規格に応じてつくられた安価な既成品が使用されるが，木製のわく組みの上に石膏(せっこう)でかたどりした浮き彫りをつけ，種々の金属粉を塗り，いぶして古色の感じを出したもの，木の材質を生かしたもの，漆塗りのもの，紙製・金属製などがある。インテリア-デザイン*の様式変遷に伴い，重厚な彫刻文様ものは適合しにくくなって，装飾のない直截(ちょくせつ)なものが好まれる傾向にある。ガラスは，水彩画・素描・版画・写真などには入れるが，一般に油彩には用いない。〔古川俊英〕

がくぶちじたて　【額縁仕立て】　和裁用語。①たて・よこの縁の交わるところを額縁の角(かど)のように斜線でつなぐ仕立て。たとえばひとえ長着のつま先でえり下・すその三つ折りの出会う角を斜めに縫って割り仕立てとしたり，道行えりコートの小えりの角を縦・横・斜めにはぐこと。②鏡仕立てともいい，掛けぶとん・座ぶとん・敷きぶとんなどの表布は小さく定め，その周囲に裏布を額のように出し，その角を斜めに仕立てる。　〔堀越すみ〕

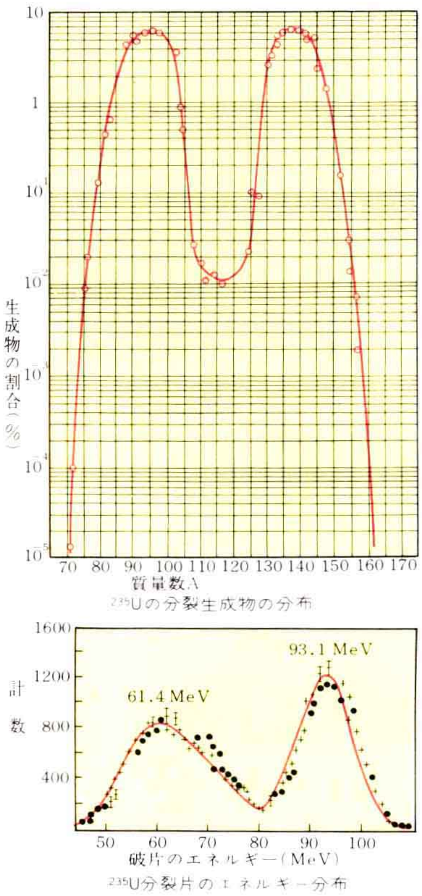
かくぶつちち　【格物致知】　中国の四書の一つである《大学*》の中の文句であるが，宋(そう)の朱子学*によって特別の意味が加えられた。〈格物〉とは事物の理をきわめて格(いた)るということ。格物窮理すると人の知が純化して明徹する。これが〈致知〉である。格物致知によって人心の不純が取り去られ，人心本具の明徳が現われ，したがって家・国・天下を治めることができる，という。

朱子学ではこのように，道徳はまず知ってのちに行なう(先知後行)と考えたが，王陽明*は〈知行合一〉の立場から，知は〈良知(実践的道徳知)〉であり，物とは行為的事物であって，致知と格物とは同一事の両面にすぎず，そして知はすなわち行であるとした。なお明(みん)代以後は自然科学的実証的研究の意味にも用いられ，格致とか窮理とかと称された。　〔西　順蔵〕

かくぶつりがく　【核物理学】　原子核物理学ともいう。原子核*が関係する現象を取り扱う物理学の一部門。原子核自体の構造や性質を研究の対象とする分野を通称低エネルギー核物理学とよび，核子や中間子などの素粒子*を研究対象とする分野を高エネルギー核物理学，または素粒子物理学とよんでいる。この区別はそれぞれが取り扱う粒子のエネルギーによる便宜上のもので，その境を100メガエレクトロンボルト(MeV)程度(このエネルギー以上でπ中間子*をつくり出すことができる)においているが，特別な意味をもつ区別ではない。スピン*・統計・磁気モーメント*・電気四極子モーメント・結合エネルギー・励起準位などは直接的な原子核の性質であり，放射能*・原子核反応・原子核分裂，素粒子の相互作用などは原子核の動的な性質によるもので，これらを実験的に理論的に研究する物理学である。ウォールトン*が1932年に行なった実験は核反応を人工的に起こした最初で核物理学の門戸が開かれたといってよい。その後バンデグラーフの静電高圧発生装置やローレンス*が発明したサイクロトロン*の出現によって核反応や核変換の研究が盛んになった。第2次世界大戦により一般的な研究は停滞をやむなくされたが，1942年末に開発された原子炉*(パイル)は，それまで困難だった中性子*の源となり，しかも大強度の放射線源であるので，中性子による核反応など中性子を扱う分野の研究は大いに進歩した。さらに1948年にπ中間子が人工的につくられて粒子加速器*による素粒子物理学の分野が開かれ，シンクロトロンなど高エネルギー粒子加速器の改良によって粒子の加速エネルギーは高められ，それに伴って次々と新粒子がつくり出され，素粒子の研究が加速度的に盛んになってきた。

エレクトロニクス*など基礎的技術の進歩につれて種々の測定は精密なものとなり，核や素粒子についての知識は非常に増大したが，核およびその関係する系は核子や中間子などの集合している多粒子系であるので，この体系を理論上正確に解くことは数学的に不可能である。物質を構成している究極を支配する世界がどのようなものかを解明するのが核物理学の目標であるが，いままでに得られている豊富な知識をもってしても普遍統一的な解決にはほど遠いものといえる。　〔福井崇時〕

かくぶんれつ　【核分裂】　⇨原子力



核分裂生成物

かくぶんれつ　【核分裂】　細胞の核が分裂して二つの嬢核となること。核物質が均等に2分されるためにはかなり複雑な過程を経る。普通は有糸分裂*によって行なわれるが，ごくまれには無糸分裂*によるものがある。核分裂だけが行なわれて細胞質の分裂が伴わないことがまれにあり，このときには多核細胞となる。細胞分裂*では細胞質の分裂に先だって核分裂が必ず起こる。

かくぶんれつせいせいぶつ　【核分裂生成物】　ウラン235などの原子核*が中性子*を吸収して核分裂を起こしたときにできる分裂片。ウラン235などの原子核は核分裂を起こして全体が二つに分かれて飛び散る。それと同時に平均して2〜3個の中性子が発生する。この中性子は次の核分裂を起こす役目をする。分裂して飛び散った原子核の破片，すなわち分裂片は60〜160ぐらいの質量数をもち，元素の種類では亜鉛からテルビウムにまで及ぶ。統計的には原子炉内で起こるときのようにおそい中性子を吸収した場合は質量数100の前後，たとえばストロンチウム90，および質量数140の前後のもの，たとえばセシウム137が多く，質量数120の前後に分布の谷間がある。また，分裂片のエネルギーはウラン235の場合は61MeV(メガエレクトロンボルト)と91MeVのものが多い。このエネルギーはすぐに熱に変換される。核分裂生成物は一般に放射能をおびており，それぞれ特有の半減期*でβ線*やγ線*を出して崩壊する。場合によっては中性子を放出してしだいに安定な核となる。たとえば，

$^{87}_{35}$Br(臭素)(80秒) $\xrightarrow{\beta}$ $^{87}_{36}$Kr(クリプトン)(励起状態*) $\xrightarrow[\text{放　出}]{\text{中性子}}$ $^{86}_{36}$Kr

のように崩壊する。この中性子は原子炉の制御に重要である。これらの核分裂生成物は化学的に分離されて放射性同位元素*として科学技術の各分野で広範囲に利用されている。　〔加藤敏郎〕

かくへいき　【核兵器】　原子核の分裂反応，もしくは融合反応の際に放出される熱線・爆風・放射能灰の殺傷力を兵器として利用したもの。ウラン235・プルトニウム239など，連鎖的な核分裂反応(→原子力)を利用するのが原子爆弾*で，その際生ずる高熱を用いて水素原子の核融合*反応を利用するのが水素爆弾*である。このほか，爆風と熱線を伴わずに，放射線によって人畜を全滅させる中性子爆弾*も大国によって開発中といわれる。核兵器使用は，1945年(昭和20)8月6日広島に落とされた原子爆弾が最初である。このときは，即死者70,000人，その後5年間に死者24万人に達したが，それも現在では小形兵器に分類されている。核兵器の大形化は1954年のビキニ水爆(20メガトン)，1961年秋のソ連水爆(58メガトン)実験などを経過して進められたが，100メガトン以上の水爆の開発の必要性は疑問視されている。ちなみに第2次世界大戦中に使われた火薬の総使用量は5メガトンであった。核兵器は航空機からの投下という手段以外に，各種ミサイル・各種砲弾・魚雷・爆雷の弾頭ないし爆薬として多様に用いられ，一方では小形化に力が注がれた結果，原子銃やスーツケース原爆(後方攪乱(かくらん)用)なども開発されるに至った。　〔藤井冬木〕

かくべえじし　【角兵衛獅子】　民俗芸能のうちの風流(ふりゅう)系統に属する獅子舞*(ししまい)の一種。名の由来は，宝暦年間(1751〜1763)越後(えちご)(新潟県)から諸大名に召されて江戸に来て獅子舞をした親方の名まえからきたなどの諸説がある。江戸時代には，親方の打つ太鼓の音に合わせて，小さな獅子頭(ししがしら)を頭に載せ，胸に羯鼓*(かっこ)をつけ，足駄(あしだ)をはいた10歳前後の2〜3人の少年が，さかだちをしたり，とんぼをきったりする芸を演じて，年じゅう諸国を回り金をもらって歩いた。明治以降，幼童を酷使するという非難を浴びるに至り，現在ではその姿は見られなくなった。しかし，文化年間(1804〜1817)《越後獅子》《角兵衛》などの名で長唄(ながうた)や常磐津節(ときわずぶし)を地とする舞踊劇がつくられ，それらが，現在でも名曲としてしばしば演じられることから，角兵衛獅子の名は一般によく知られている。→越後獅子　〔佐藤　薫〕

かくへんかん　【核変換】　⇨原子核人工

変換

かくぼう【角帽】わが国の大学男子学生がかぶる帽子。頂が四角で前つばがつく。1884年(明治17)ごろ東京大学の大学予備門で制帽をつくるに際し，イギリスの大学の制帽を模してつくられ，のち各大学の学生が制服とともに用いた。以来大学生姿の代表的表現として親しまれてきたが，最近は制服を着用する学生が少なくなるとともに，角帽も用いられなくなっている。本来はイギリスでコーナーキャップとよばれる上部が四角で頭まわりのバンドがぴったりした形の帽子で，16～17世紀に学者・僧侶(そうりょ)に用いられ，のちヨーロッパの大学でかぶられるようになった。アメリカではモーターボードとよばれる。〔酒井登代〕

かくまき【角巻】東北・北陸地方で冬季に外出用の防寒具として愛用される婦人用大形肩掛け。端に長めのふさをたらした毛布を，三角に折って頭または肩から掛けてマント*ふうに全身をおおう。明治初年ごろ，ケットと称する毛布を肩掛けにするふうが都会に流行し，これが地方で模倣されて寒冷な雪国に定着したもの。色物の角巻を身にまとい，雪ぐつをはいた婦人の姿は雪国の風物の一つとなっている。



角　巻　新潟

かくまく【核膜】細胞の核物質を包んでいる薄膜で，核と細胞質との境をなしている。電子顕微鏡で見ると厚さ200Å(オングストローム)ほどで，外膜と内膜の二重膜からできており，外膜は細胞質側表面にリボソーム*をもち，しばしば細胞質の中に伸びて小胞体に連絡している。核膜には核膜孔があり，ウニなどでは小孔が規則正しく並んでいる。核分裂のとき，核膜はばらばらになって小胞体状のものとなり，核分裂が終わると再び核膜を構成する。➔細胞〔高島文三〕

かくまく【角膜】眼球の前面の時計ざら状にふくれた透明な膜。いわゆる黒目の部分で，血管はないが神経は分布する。まわりは強膜(白目の部分)に続く。角膜が種種の原因で混濁すると視力が衰えるが，これらの視力障害者に角膜の移植が施されるようになった。➔角膜移植　➔アイバンク

かくまくいしょく【角膜移植】角膜*に治癒(ちゆ)の見込みのない混濁があり，そのために著しく視力が低下している場合，混濁した角膜を切除し，そこに他人または他動物の透明な角膜を移し植える眼科手術。手術した場合は透明な角膜となるので透明治癒といい，失敗した場合は移植角膜片が混濁してしまうので混濁治癒という。移植する角膜は通常死後24時間以内の人眼から切除するが，疾病(しっぺい)によって眼球摘出をしたものの角膜を用いることもある。移植角膜確保にアイバンク*が大きな役割を果たしている。ニワトリの角膜を人間に移植する試みもなされている。〔氏原　弘〕



郭沫若

かくまくえん【角膜炎】角膜*の炎症。角膜表層の炎症を表層角膜炎といい，細菌またはウイルスによるものが多い。角膜中層の炎症を角膜実質炎といい，結核または梅毒がおもな原因である。角膜深層の炎症を深層角膜炎といい，眼球内部の炎症，特に虹彩炎*(こうさいえん)に合併して起こってくるのが普通である。

かくまくこんだく【角膜混濁】角膜*が混濁すること。角膜は視力保持にたいせつなところであるため，混濁すれば視力が著しく低下する。角膜炎や外傷後の瘢痕(はんこん)，変性などが原因となるが，最も多いのは瘢痕によるものである。混濁の薄いものを角膜片雲，濃いものを角膜白斑(はくはん)という。いずれも治癒(ちゆ)不能であるため，視力低下が著しい場合は角膜移植*が行なわれる。

かくまくしきかせいソーダ【隔膜式苛性ソーダ】苛性ソーダ*(水酸化ナトリウム，NaOH)を製造する電解法の一方式。精製した食塩水を電解槽(そう)に入れ，黒鉛(＋)と鉄(－)の電極を用い，両極の間を隔膜(石綿布または石綿紙)で隔てて電気分解を行なう。これは－極のまわりにできた水酸化ナトリウムが拡散して＋極のほうへ行くのを防ぐためである。＋極には塩素，－極には水素が発生するので，それぞれ分けて集める。水酸化ナトリウムの溶液は取り出して濃縮し，45％溶液にするか，さらに煮つめて固形のものに仕上げる。そのとき，粒状・薄片状・棒状などにすることがある。水銀式苛性ソーダ*に比べると純度が劣るが，電力が高く燃料が安いときや，鹹水(かんすい)(食塩水)が安く入手できるときは水銀式より有利である。しかし，最近は水銀式による生産力がしだいに増大する傾向にある。なお，電解法によると塩素ができるので，塩化ビニル・殺虫剤・除草剤・漂白剤などの塩素製品の生産が盛んになるにつれて，塩素が副生しないアンモニアソーダ法*による生産量はだんだん少なくなってくる。〔久保輝一郎〕

かくまくなんか【角膜軟化】〈かんめ〉ともいう。ビタミンA欠乏によって発病する眼科疾患。角膜*が中央からくずれてゆき，ついには角膜穿孔(せんこう)を起こして失明する。治癒(ちゆ)してもあとに強い角膜混濁*を残すため，視力は著しく障害される。他のビタミンA欠乏症(夜盲症*・結膜乾燥)と合併して起こることが多く，ビタミンAを補給すればたちまち治癒に向かう。第2次世界大戦時のように食糧不足の時代に多かったが，最近の日本ではほとんどみられない。

かくまつじゃく【郭沫若】クオモールオ(1892～1978)中国現代の文学者。四川省の出身。日本に留学，1923年(大正12)九州大学医学部卒。留学中，郁達夫*(いくたっぷ)らの友人と創造社を結成し，1922年，雑誌《創造季刊》を創刊してロマンチシズムを唱えた。そのころの郭沫若は，ドイツのロマン主義の影響の濃い詩や歴史小説などを書き，自我を主張し，反逆の精神を強調した。国民革命の進展とともに革命文学へ転換し，国民党と共産党が合作して北方の軍閥に対し，内戦を始めるや，郭沫若はこれに従軍した。国共分裂後は上海(シャンハイ)にのがれ，左翼文学運動に従事，1928年初め，蔣介石(しょうかいせき)に追われて日本に亡命した。亡命中，中国古代社会の研究に没頭，多くの開拓的仕事をなし，また一連の自伝を執筆した。1937年，日中戦争勃発(ぼっぱつ)とともに帰国，抗戦中国で宣伝工作に従事し，劇作(代表作《屈原》)と評論を執筆した。中華人民共和国成立後は中国科学院院長その他の要職にあり，文学・学問の分野で大御所的存在を占めている。〔今村与志雄〕

かくめい【革命】国民一般を巻き込む人為的な社会構造の質的転換をいう。自然に起こる社会的変化・推移とは区別される。歴史の発展と進歩に伴い既成の体制自体の内部にはらむ矛盾が増大して，ついには革命という極限形態のもとに，新しい統一的秩序を目ざす行動様式・生活意識が社会全般に生まれる。体制とはたとえば封建体制のように身分*をその根本的な秩序原理としたそれ固有の政治・経済・宗教・法律などの諸体系の構成体をいう。革命は，被支配者階級による国家権力の奪取と既成秩序の徹底的な打破，すなわち体制を突破することを第1の特徴としている。したがって政治革命であると同時に，社会の広範な人人を巻き込む意味で社会革命が行なわれる。

【革命の構造】革命は単に一部の勢力による偶発的な権力*奪取を意味する政権交替や

クーデター*ではない。その社会における主要な階級*の主体的参加を待って，政治・経済をはじめ人間の外的諸条件・制度を根本から否定して新しい秩序形成を遂行するものである。いいかえれば国民大多数の諸要求を変革の原動力とするところに革命の特徴があり，それゆえ革命に参加する個々人の内的な意識の成熟度こそ革命をひき起こす基礎といえる。そこから精神革命または価値の変革とよばれ，理念や理論の果たす役割も重要なものとなる。さらにはその社会の価値体系・信念体系の質的転換をはからなければ社会革命もありえない。M.ウェーバー*は社会の根底から人々の意識の転換が起こり，新しい価値体系が生まれたことを人々が認め，やがて外側の秩序や制度を変える力となることを革命とよび，その際革命を遂行するにない手は，その社会のしいたげられた非特権的な階層であることが多いということも指摘する。わが世の春を謳歌(おうか)し，現在に満足している特権者に比べて，現実とか現世の中に依拠すべき価値を見いだすことのできない非特権者層は，それだけに現在を越えた未来への理念や新しく導かれた世界像に自己を結びつけやすく，また変革への使命感をもちやすいのだとウェーバーは説明している。マルクス*は，これを搾取する者とされる者，支配する者と支配される者との間の闘争としてとらえ，人類史のあらゆる時代は階級闘争*の歴史であること，また近代資本主義社会になると，プロレタリアート*(労働者階級)とブルジョアジー*(資本家階級)の二大階級に分かれ相対立し合うこと，資本主義の搾取から極端に非人間的状態に押し詰められたプロレタリアートは，資本主義の進展に伴い人口量で占める割合を圧倒的なものとし，一握りの資本家階級による政治・経済的支配をくつがえして，生産の当事者たる労働者・大衆みずから社会主義社会を建設するという理論を唱えた。レーニン*はさらにこの革命理論の上に立って，独占資本と帝国主義の支配形態を打破する武力革命を主張してロシア革命*を指導した。マルクス・レーニンのいう社会主義とは，人間の資本主義的な商品化を廃止し，生産手段の公有・公営を基本とする労働者自身での生産労働過程を組織することである。

〔現代革命の諸問題〕社会主義革命は結局のところ，社会の底辺からの基本的等質性をつくりだすことだともいえる。そして資本主義国家のもとでは，その反対にさまざまの不平等と差別*・格差がつけられ，人々は疎外*された状態に陥っている。ただ同じ資本主義諸国でも，独占資本主義の段階に達して高度の工業化が進み，社会の組織技術が異常に発達する一方，他方で一般民主主義が成立して，いちおうの政権交替の制度的保障をみる先進資本主義国家と，アジア・アフリカ・ラテンアメリカなどのいわゆる後進諸国とでは矛盾の現われ方が異なる。植民地化ないし半植民地化された後進諸国では民族独立運動と合わせて革命運動が繰り広げられ，ゲリラ・局地戦などの武力闘争が展開される。かつての毛沢東に率いられた中国革命*は民族自決の運動から，さらに農村を解放区・根拠地の連合にして都市を包囲改変する革命方式をとった。革命運動と民族解放闘争との結びつきは，ゲリラ戦を展開するベトナム戦争に如実に示されているといえる。後進国革命が露骨な植民地的支配から脱却すべく人民武装による単一目標へと集中行動を起こすのと違い，先進資本主義国では高度の分業化を背景に欲望の多様化をもたらしている点で，単に貧困や窮乏化にとどまらない問題の複雑さがある。労働者大衆がなにものをももたない段階から，普通平等選挙権・普通教育・労働組合の結成などさまざまの諸権利を得ることで，古典的な武力革命とはまた違った変革のあり方を迫られている。世界を席巻(せっけん)するヤングパワーの台頭，アメリカの黒人問題*やベトナムをめぐる反戦運動，さらにわが国では安保体制とよばれる軍事同盟や反動化傾向に対する反対運動，そして近年高度経済成長の無理が招いた公害*問題などは単に従来いわれた一階級による革命路線にとどまらない，生きる人間の権利(基本権)を主張して対抗する国民の民主化運動として発展しつつあるといえる。➔支配 ➔毛沢東主義

〔溝口　潔〕

がくめい　【学名】　ある生物が分類されるとき，その属する群を示すためにつけられる名称。命名方法は国際的な命名規約により定められている。命名は分類群によって異なり，属および節以上の分類群は単命名法，種は二命名法，亜種は三命名法，種内の小群はすべて種名の下に添え書きをする。ふつうラテン語かギリシア語を用い，それ以外はラテン語化して用いる。一例をあげるとソメイヨシノは*Prunus yedoensis Matsum*と書き，はじめが属名，次が種名，最後に命名者の名を示す。

かくめいさいばんしょ　【革命裁判所】　フランス革命中の1793年3月，国民公会*が反革命分子処分のためパリに創設した裁判所。ジャコバン党独裁の確立とともに組織が強化されて本格的活動を開始し，恐怖政治*の強力な支柱となった。1794年6月には被告の弁護も禁止され，刑も死刑に限られ，テルミドールの反動*によって廃止されるまでの約50日の間に1,300件以上の死刑宣告を行なった。

かくめいれき　【革命暦】　共和暦ともいう。フランス革命中の1793年11月に制定された暦。1792年にさかのぼり，9月22日共和国成立の日を第1年元日とし，1806年まで14年間使用された。従来のグレゴリー暦*のカトリック性を排除して，理性と農業を基準に編成された暦である。1年を12か月，9月から始まる3月ずつを四季，1月を3旬に分け，第10日を休日とし，また12か月から残った5日を革命祭の日にあてた。各月の名は詩人ファーブル-デグランチーヌが農業・自然に関連して名づけた。〈秋〉バンデミエール(ぶどう月)・ブリュメール(霧月)・フリメール(霜月)。〈冬〉ニボーズ(雪月)・プリュビオーズ(雨月)・バントーズ(風月)。〈春〉ジェルミナル(芽月)・フロレアル(花月)・プレーリアル(草月)。〈夏〉メッシドール(収穫月)・テルミドール(熱月)・フリュクチドール(実月)。

〔大野慎一郎〕

がくめんかぶしき　【額面株式】　株式会社の発行する株式1株の券面金額が定められているもので，券面金額は株券上に表示される。わが国の株式はほとんどが額面株式で，1株の額面金額は，1951年(昭和26)7月1日以前に設立した会社は最低20円，商法改正後に設立した会社は最低500円と規定されている。現実には50円額面の会社が大部分を占めている。額面金額に発行ずみ株式数を乗じた金額が，その会社の資本金である。➔無額面株式

〔日東証券調査部〕

がくもんのすすめ　【学問のすすめ】　福沢諭吉*の代表的な著作。17編の小冊子として1872〜1874年(明治5〜7)にかけて刊行され，のちに1巻にまとめられた。ウェイランドの《モラル-サイエンス》を下敷きにしながらも，巧みに換骨奪胎して，近世的な封建教学を否定し，民主主義の原理に基づく近代社会の学問や教育，ひいては人間のあり方そのものを平易に説いている。本書は，おびただしい版を重ね，わが国の教育・学問の近代化に資するところが深甚であった。

〔石川松太郎〕

かくもんはまき　【角紋葉巻蛾】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・ハマキガ科。翅(はね)を広げた長さは雄で17〜20mm，雌で22〜27mm。前翅の地色はやや緑色をおびた黄色で，3本の不規則なかっ色の横帯がある。後翅は暗い灰かっ色。幼虫は緑色で，頭部は黒色。北海道・本州のほか，シベリア東部からヨーロッパにかけて広く分布し，幼虫は初夏にリンゴやナラなどの広葉樹の葉を巻く害虫である。

がくや　【楽屋】　演劇劇場における舞台裏の総称。本来は舞楽で楽を奏する場所をよんだものだが，能楽から人形浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎(かぶき)に至る中世・近世の芸能では，出演者が準備・休息する場所をさすようになり，ひいては舞台裏全体を含めた意味になった。転じて，日常語でも生活の裏面を楽屋，裏話を楽屋話などという。

かぐやひめ　【かぐや姫】　⇨竹取物語

かくゆう　【覚猷】　(1053〜1140)　平安時代の天台宗の僧。《今昔物語》の著者源隆国(たかくに)の第9子で，はじめ顕智(けんち)と

称したが園城(おんじょう)寺の覚円に師事して覚猷と号した。その後1081年(永保1)四天王寺別当，次いで証金剛院別当・法成寺別当・園城寺長吏を歴任。この間大僧正に進み，1138年(保延4)には47代天台座主となった。絵画特に戯画に長じ，《鳥獣戯画》《信貴山(しぎさん)縁起》の筆者に擬されているが確証はない。しかし，みずから画像の集成に努め，仏画の名手でもあったことが当時の文献にうかがえる。鳥羽僧正の俗称は，証金剛院別当のころに鳥羽に住したことから出た。
〔村重　寧〕

かくゆうごう【核融合】 原子核融合ともいう。いくつかの軽い原子核が核反応*によって別の重い原子核をつくる現象。核分裂*と同様に，反応前後の核の質量差に相当するエネルギーを放出する。核分裂と違って反応後に放射能灰は出ないし，その原料は海水中に無尽蔵にある重水素*であるので，将来のエネルギー源として期待されている。水素爆弾*のエネルギーは核融合によるものであり，また太陽などの恒星も核融合反応である。恒星での核融合は，①炭素循環反応と，②陽子-陽子連鎖反応が主過程で，いずれも一つの反応ごとに26.7メガエレクトロンボルト(MeV)のエネルギーが放出されている。

① $p+{}^{12}C \rightarrow {}^{13}N$, ${}^{13}N \rightarrow {}^{13}C+e^+$,
$p+{}^{13}C \rightarrow {}^{14}N$, $p+{}^{14}N \rightarrow {}^{15}O$,
${}^{15}O \rightarrow {}^{15}N+e^+$, $p+{}^{15}N \rightarrow {}^{12}C+{}^{4}He$,

② $p+p \rightarrow D+e^+$, $D+p \rightarrow {}^{3}He$,
${}^{3}He+{}^{3}He \rightarrow {}^{4}He+2p$

p：陽子　e：電子　N：窒素
O：酸素　C：炭素　He：ヘリウム
D：重水素

両反応は結局，$4p \rightarrow {}^{4}He+2e^+ + 26.7MeV$でゆっくりと連続的に起こっており，反応を維持するために太陽内部では2,000万℃，1,600億気圧という高温度・高圧力になっている。さらに②の反応で${}^{3}He$がつくられてからは，

③ ${}^{3}He+{}^{4}He \rightarrow {}^{7}Be$, ${}^{7}Be+e^- \rightarrow {}^{7}Li$,
${}^{7}Li+p \rightarrow 2\,{}^{4}He$

④ ${}^{3}He+{}^{4}He \rightarrow {}^{7}Be$, ${}^{7}Be+p \rightarrow {}^{8}B$,
${}^{8}B \rightarrow {}^{8}Be+e^+$,　${}^{8}Be \rightarrow 2\,{}^{4}He$

Be：ベリリウム　Li：リチウム
B：ホウ素

という反応も起こってくる。別のタイプの核融合反応として反陽子消滅反応や，負μ中間子を触媒とする反応があり，これらも大きなエネルギーを放出するが，これらの粒子をつくるのが困難なのでエネルギーの収支は合わず実用にはならない。

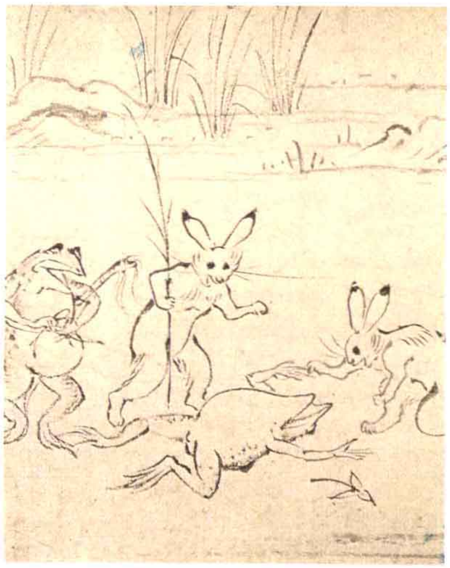
核融合のエネルギーを実用化するには，水素爆弾のように瞬時に反応が起こるものでなく，恒星内のような反応を制御可能な状態にする次のような反応が考えられる。

$$D+T \rightarrow {}^{4}He+n+17.6MeV$$

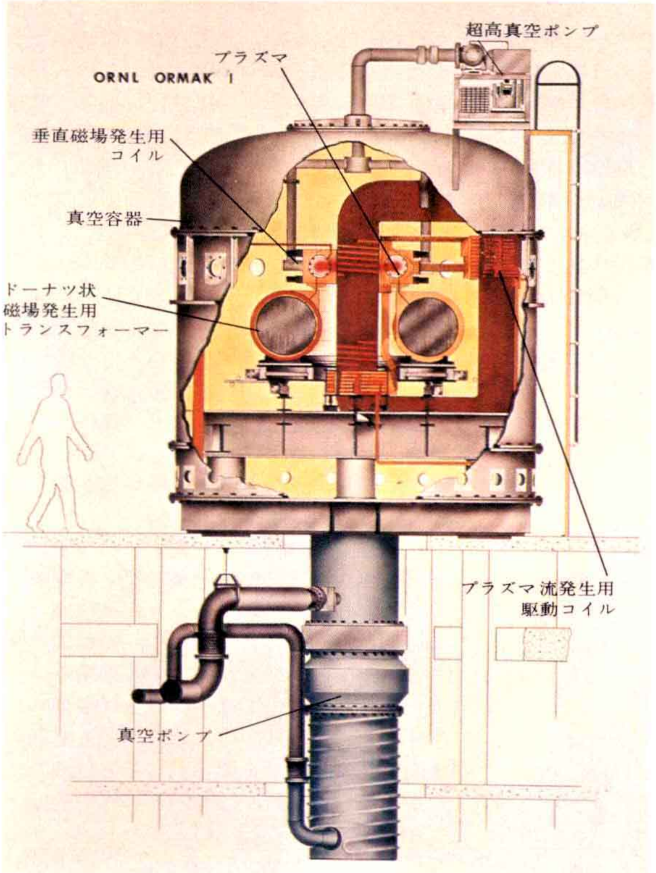
$$D+D \begin{cases} \rightarrow {}^{3}He+n+3.2MeV \\ \rightarrow T+p+4.0MeV \end{cases}$$

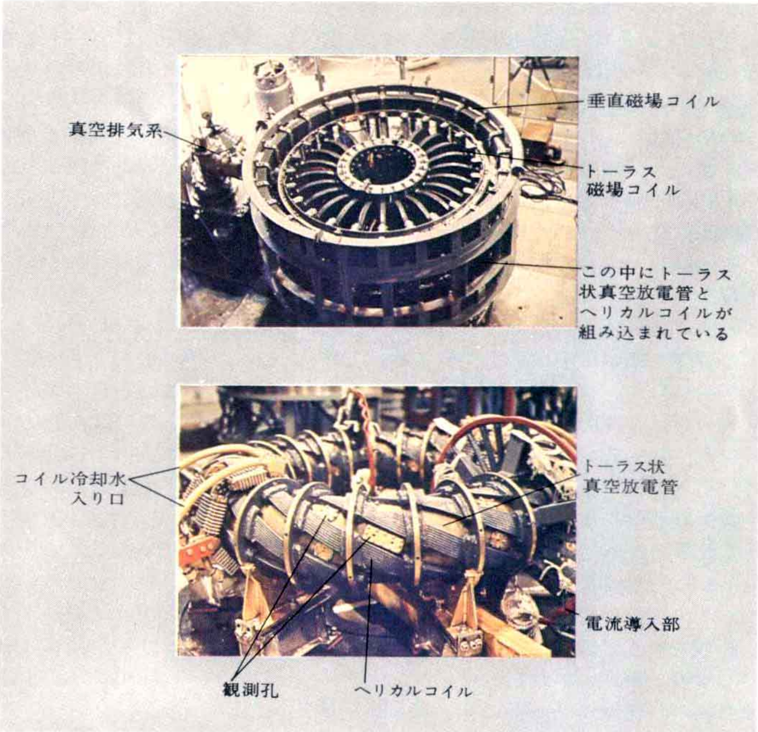
T：トリチウム(陽子1個と中性子2個よりなる水素の同位元素)　n：中性子

これらの反応を起こさせるには，密度約10^{15}個/cm³，温度約10^8℃(1億℃)の重水素トリチウム混合プラズマ，または重水素プラズマを強い磁界で約1秒程度の間，一定空間に閉じ込めることが必要である。この密度は真空放電の場合と同じぐらいであるが，不純物の混じらない完全電離の状態で



覚　猷　覚猷の筆といわれる《鳥獣戯画》部分　高山寺蔵





(右)高温プラズマの閉じ込めと核融合の基礎研究用のステラレーター型の装置(名古屋大学プラズマ研究所)
(左)オーマクとよばれているトコマク型プラズマ閉じ込め装置(アメリカ，オークリッジ研究所)

核　融　合

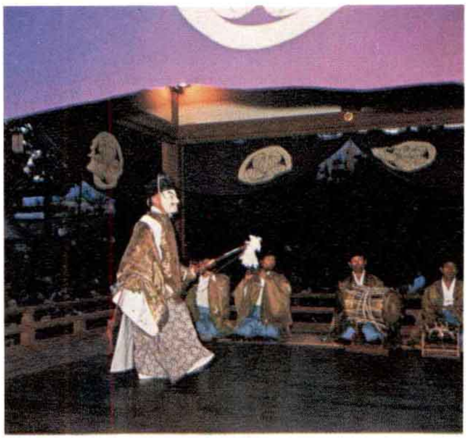
なければならない。これらの条件を満たすには，高温プラズマを磁界で制御する方法が有望と考えられ，1950年ごろより世界各国で研究が始められた。種々のタイプの核融合炉が考案されたが，プラズマの加熱も高温プラズマの保持も非常に困難な問題で，天体物理学・電磁力学・流体力学・統計力学など，広い視野に立つプラズマ物理学の解明が必要である。1969年にソ連のクルチャトフ研究所において1,000万℃のプラズマを約10分の1秒保持できたと伝えられているので，プラズマ制御も間近といえる。〔福井崇時〕

がくようろう【岳陽楼】 中国，湖南省岳陽県城の西にある楼の名。洞庭湖(どうていこ)に臨み，眺望(ちょうぼう)がよい。唐代，張説(ちょうえつ)がこの地方の長官となり，文人と楼に登って詩をつくってから有名となる。李白(りはく)・杜甫(とほ)にこの楼をうたった詩があり，宋(そう)の范仲淹*(はんちゅうえん)が《岳陽楼記》をつくっている。

かぐら【神楽】 古代に発生した神事芸能。語義については諸説あるが，神座(かむくら)の約言とし，芸能の神を安置した移動神座を意味するとの説が有力である。すなわち，神座を設けて神々を勧請(かんじょう)し，一座の者が歌舞して鎮魂(たまふり)(人の魂をしずめ，かつその魂をいきいきと躍動させる神事芸能)・招魂(たまおろし)の呪術(じゅじゅつ)を行なおうとしたのが古い形式だったらしい。古くは神遊びと称し，神の行なう神事芸能のことであったが，のちには神前で演じ，神のみ心を慰める芸能と解されるようになった。神楽の歴史については，宮中と民間とではそれぞれ異なり，今日宮中で行なわれている神楽は御神楽(みかぐら)，民間のものは〈おかぐら〉，またそのうちの特殊のものを里神楽*とよんでいる。

御神楽のはじまりは，天岩戸*(あめのいわと)の前で歌舞したアメノウズメノミコトの神がかりにあるとする。のち，その子孫の猿女(さるめ)氏が鎮魂の呪術をもって宮中に奉仕し，奈良時代には物部(もののべ)氏がこれに代わった。平安時代には宮廷外部からの神人*(じんにん)団が宮廷を祝福するために参入して演じた。この神事芸能の系統が現在に伝わる宮中の神楽である。9世紀中ごろには神楽譜が制定され，1002年(長保4)には内侍所(ないしどころ)(→賢所)御神楽が行なわれるようになり，のち毎年12月の恒例行事となった。その後中絶した期間もあったが，現在は宮内庁の楽部*により，12月中旬の内侍所御神楽をはじめ，特定の宮中祭儀で奏せられている。内侍所御神楽は，当日夕刻，主役の人長(にんじょう)(神に扮(ふん)した神楽の長)に引率されて楽人が参入し，《庭燎*(にわび)》の曲によってかがり火をたき，次に阿曇(あずみ)の磯良(いそら)という醜い姿の海底の神を呼びだす阿知女作法(あじめわざ)があり，採物歌(とりもののうた)(神事歌)が歌われ，韓神(からかみ)の舞・前張(さいばり)など夜を徹して次々と神楽が奏せられた。しかし現在では簡略化された形式で行なわれている。この宮廷の神楽の形式のものは伊勢(いせ)・石清水八幡宮(いわしみずはちまんぐう)・春日(かすが)大社などの神社にも伝えられている。

民間の神楽は全国各地で行なわれ，その種類も多様である。鎮魂の呪術的要素を濃厚に伝えている古式の神楽から，江戸を中心に発達した里神楽のように，近世芸能の所作を取り入れたものまでさまざまである。多くは，中世の田楽*・猿楽*などをはじめとする各時代の芸能を取り入れ，郷土色豊かな神事芸能を形成している。類別すると，神話を劇化した神代神楽。祓*(はらえ)の行事から出て民家を巡遊し，湯を振りかけてけがれを祓え清めることを特徴とする湯立神楽。獅子頭(ししがしら)を神体にして各戸を巡り，病気退散や悪魔払いをしながら舞う獅子神楽。神話や縁起などを仕組んだ神能から出発し，各種の芸能を加えて発達，神社の神楽殿で舞い，演劇的に構成された岩戸神楽。奉納神楽とも称し，参拝者の依頼によって神殿で採物の舞いを巫女*(みこ)が奏する巫女神楽などがある。〔中山和芳〕





神　楽　(左)埼玉県秩父の神代神楽　(右)宮崎県高千穂の岩戸神楽

かぐらばやし【神楽囃子】 平安初期から伝えられてきた宮廷の音楽舞踊が，本来の神秘的な儀式から離れて，日本各地の神社を通じて郷土芸能化されたもの。種類はさまざまであるが，演劇を伴うもの，歌のあるもの，歌がなく器楽演奏だけのものなどがある。能*や長唄*(ながうた)では神楽を模倣した神楽囃子がある。→神楽

かぐらぶえ【神楽笛】 御神楽(みかぐら)で用いられる横笛。日本固有の楽器で，篠竹(しのだけ)でつくられる。長さは45cmほどで，龍笛*(りゅうてき)や狛笛*(こまぶえ)よりも長く，音域が低い。和笛(やまとぶえ)とも太笛ともよばれ，穴の数は狛笛と同じで六つである。楽器の使い方は，歌の旋律が中心となる神楽に限られるため，龍笛のような目だった動きをもたない。

かくり【隔離】 伝染病の広がるのを防止するために，患者・疑似症者・保菌者・接触者ら，感染を伝播(でんぱ)する危険のある者を，他の一般社会の人との接触・交通を断って，切り離して生活させること。検疫法では，検疫伝染病の患者・保菌者および疑似症者に対して隔離，病毒によって汚染された者またはそのおそれのある者，つまり接触者に対しては停留という語が用いられる。

かくり【隔離】 交配可能な集団が種々の理由によって交配が不可能の別々の集団に分かれること。進化の過程で新しい遺伝的変異が少数の個体に現われたとしても，在来のものとの交配により子孫数代のうちに自然淘汰(とうた)によって除去されてしまう場合が多い。新しい変異が集団中に長く残ったり，固定したりするためにはそれらどうし交配しやすいように，もとの集団から独立して隔離されることが必要である。隔離は大きく，地理的隔離と生殖的隔離に分けられる。後者はさらに生態的隔離・季節的隔離・性的隔離・機械的隔離・雑種不妊・雑種弱体化・雑種生存不能・配偶子的隔離などに分けられる。要するに隔離は，二つの集団間の遺伝子の交流を妨げる作用をする。形態的に区別され，しかも生殖的隔離が発達していなければ種が違うとはいえない。→隔離説〔北川　修〕

がくり【楽理】 音楽に関する広い意味での理論の総称で，音楽の実践に対置される。今日ではあまり使われず，音楽に関する学問的研究をさす音楽学に替えられている。しかし日本の音楽大学の中で音楽学を専攻する学科には楽理の名称がまだ使われている。→音楽学

かくりせつ【隔離説】 生物進化の要因を説明する説の一。生物進化に隔離*作用が必要条件であると主張した学者は少なくない。そのおもな者は，ドイツのワグナー・ギュリックらである。ダーウィンの弟子(でし)ローマニスも隔離を重くみて，これを変異・遺伝と並んだ進化の三つの要因の一つとした。ワグナーは最も極端で，隔離説をもって自然淘汰(とうた)説に代わるものと主張した。

かくりつ【格率】 格律・準則ともいう。①学問上最大の前提となる命題。証明不可能であって，公理*と同義もしくは公理に準ずる意に用いられる。②個人的に立てられた行為の原則。カント*によれば，これは個個の主観的条件に従って行為を規定するものであるから，すべての人間がどのような場合にも従うべき客観的な原理。すなわち道徳法則から区別される。行為は，その格率がそれ自身つねに普遍的法則となりうるときのみ道徳的行為とされる。〔石倉恒之〕

かくりつ【確率】 生まれる子が男であることとか，さいころを投げたとき1の目が出ることなどは，事前には不確定である。事前にはその出現が不確定な事象について，その出現の確からしさを数で表わしたものが確率である。N回の観察のうち事象Aがn回出現したとき，事象Aの確率を$P(\mathrm{A})=\frac{n}{N}$と定め，この$P(\mathrm{A})$を経験的確率または統計的確率という。また，可能な場合が，どれも同等とみられるN通りに分けられ，そのうち事象Aが出現するのがn通りであるとき，$P(\mathrm{A})=\frac{n}{N}$と定め，これを先験的確率または数学的確率という。事象Aが絶対に出現しないときには$P(\mathrm{A})=0$，絶対確実に出現するときには$P(\mathrm{A})=1$であって，一般には$0\leqq P(\mathrm{A})\leqq 1$である。

【乗法定理】事象AとBが同時に出現する事象をA∩Bと書き，その確率$P(\mathrm{A}\cap\mathrm{B})$を，AとBがともに起こる確率という。A，Bの一方が出現しても出現しなくても他方の確率に関係のないとき，AとBは独立事象であるという。独立事象A，Bに対して，$P(\mathrm{A}\cap\mathrm{B})=P(\mathrm{A})\cdot P(\mathrm{B})$となる。これを確率の乗法定理という。

【加法定理】事象A，Bの少なくともどちらか一方が出現する事象をA∪Bと書き，その確率$P(\mathrm{A}\cup\mathrm{B})$を，AかBが起こる確率という。AとBがけっして同時には出現しないとき，AとBは排反事象であるという。排反事象A，Bに対しては$P(\mathrm{A}\cup\mathrm{B})=P(\mathrm{A})+P(\mathrm{B})$となる。これを確率の加法定理という。

これらの諸性質を用いて確率の計算を行なう。〔小西勇雄〕

かくりょく【核力】 核子*の間(陽子-陽子間，中性子-中性子間，陽子-中性子間)に作用し合う力。陽子と中性子とが原子核という狭い空間(原子核は直径約10^{-13}cmの球とみなされる)に密集しながら安定に存在するためには，特別の力が必要である。安定な核では，陽子数Zと中性子数Nはほぼ等しい，ZとNが入れ替わっている鏡映核(^{14}Cと^{14}Oなど)の質量欠損*がだいたい等しい，などの事実から，静電気力を無視すれば核子相互間の力はおよそ等しいと想像がつく。^{2}Hから^{4}Heへのわずかな核子の増加に対して結合エネルギーは急激に大きくなる(^{2}H=2.22メガエレクトロンボルト〔MeV〕，^{4}He=28.3MeV)ことから，核力は近距離だけに強く作用すること，安定な原子核では核子1個あたりほぼ一定の結合エネルギー(約8MeV)となって飽和性をもつこと，α粒子(^{4}He)は陽子・中性子各2個ずつの核であって核力は飽和しているので，陽子と中性子間には交換力が作用していること，^{2}Dその他の核の電気四極子モーメントが0でなく，磁気モーメント*に関する量などから核力は中心力以外に双極子形の力も含んでいることなどが推定できる。このような核力の源として，別の粒子である中間子のつくる場が作用しているという考え(湯川秀樹*(ひでき)の中間子理論*)は理論的にも実験的にも一応の成功をみたが，完全に核力を解明する理論はつくられていない。〔福井崇時〕



鶴林寺 本堂



カクレガニ



角礫 山梨県南都留郡御坂峠産

がくりょくけんさ【学力検査】 学習を通じて習得した学力・能力の測定をいい，アチーブメント-テストともいう。現在は，十分な学力検査観の確立と，それにふさわしい的確な方法が開発されていないために，一般的には，学習された〈知的〉内容に限られがちであり，その再生と応用を測定する客観テストに限定して理解されている。学力は，課題の発見能力，その解決法の開発，選択・決定能力，および課題解決性の的確敏速性を含む概念であり，知識・理解・技能などの能力的側面をもつ。したがって，客観テスト(標準学力検査，教師作成の客観テストを問わず)のみではなく，面接による口頭試問や実技観察・論文体試験・作品分析なども採用されねば，正当な測定とはいえない。〔小菅茂雄〕

かくりんじ【鶴林寺】 兵庫県加古川市加古川町北在家にある天台宗の寺。刀田山(とんださん)または戸田太子堂とよばれ，聖徳(しょうとく)太子の創建と伝わる。本堂は入母屋(いりもや)造りで和様・唐様(からよう)・天竺様(てんじくよう)を折衷した室町期の造，太子堂は宝形造りの藤原期の造でいずれも国宝建造物である。また，平安期の釈迦(しゃか)三尊像などの寺宝を有するが，ことに金銅観音菩薩(ぼさつ)立像は白鳳(はくほう)期の名品として知られる。

かくれうお【隠れ魚】 硬骨魚類・カクレウオ科。20cmほどになる海産魚。本州中部以南に分布する。体は薄くて細長く，肛門(こうもん)が胸びれより前方にある。フジナマコという大形ナマコの腸の中にすんでいるのでこの名がある。尾のほうから，ナマコの腸内にはいりこむ。日本産のものについては明らかでないが，外国のカクレウオの中には，ナマコを隠れ家に利用するだけのものもいるが，ナマコが内臓を再生する特性を利用して，少しずつ家主の内臓を食べるものもいるらしい。種類によって，どの種類のナマコ(ときにはヒトデ)にもはいりこむもの，特定の種類のナマコにしかはいらないものなどがある。〔菅野 徹〕

かくれがに【隠れ蟹】 甲殻(こうかく)類・十脚目・カクレガニ科のカニの総称。いずれも，甲は硬化(石灰化)の度合いが弱く，膜質で柔らかい。二枚貝・ナマコ・ギボシムシなどの体内にはいって，共生または半寄生するものが多いが，中に自由生活をするものもある。小形で，甲の幅1cm内外のものが多く，色も白っぽいものが多い。アサリなどによくはいっているのはオオシロピンノという種類で，シジミにはいっているシジミピンノは甲の幅2mmほど。ピンノとは属名のピンノテレスを略したもの。ギボシムシと共生するギボシマメガニなど，マメガニの仲間も，カクレガニ科に属する。

かくれき【角礫】 丸みのない角張った礫のこと。日本で最も大量にみられるのは，火山の爆裂のとき吹き飛ばされる角礫で，これが火山灰の中に埋まって固結した岩石を凝灰角レキ岩とよんでいる。堆積

(たいせき)したばかりで半固結状態の泥(でい)岩*や石灰岩は，海底に乱流が起こると破片となって浮き上がり，その次に堆積する砂岩*や石灰岩の中に角礫となって含まれることがある。また断層面に沿って岩石が破砕されて角レキ岩をつくることもある。〔片山信夫〕

かくれキリシタン 【隠れキリシタン】 江戸初期キリシタン禁令*により，表面的には棄教して仏教徒となりながら，村寺の檀家となってひそかにキリシタン信仰を持続した潜伏信者。はなれキリシタンともいう。

納戸(なんど)などにキリスト教の祭壇を隠し，マリア観音(仏像に似せてつくった聖母子像または子安観音像)などを拝礼し，お帳方・お水方などの指導的役職者のもとに秘密集会や年中行事などを行なった。しかし弾圧によって司祭を失い，長い潜伏の間に神仏と習合して土俗的信仰となり，1873年(明治6)のキリシタン禁令解除後もカトリックに復帰せず，独特の民間信仰として現在に至っている。長崎県の五島列島・平戸島・生月島・黒島などに30,000人余の信者が存在するといわれる。〔松尾　涼〕

かくれくまのみ ⇨クマノミ

かくれみの 【隠れ蓑】 双子葉植物・ウコギ科の常緑高木。関東南部以西，四国・九州に分布。高さ9mほどになる。葉は互生し，肉厚で光沢があり，老木では卵形に近く，若木では3～5裂している。夏に枝先に散形花序に淡黄緑色の小花をつける。果実は広楕円(こうだえん)形で，熟すと黒くなる。

がくれんじけん 【学連事件】 1925年(大正14)末から翌年にかけて，京都大学・同志社大学などの学生38名が，治安維持法*・出版法の違反，不敬罪などの容疑で検挙・処罰された事件。京都学連事件ともいう。同年の第2回学連(全日本学生社会科学連合会)大会開催後，当局は，不敬文書・過激思想の宣伝容疑で会員を検挙したが，学生・教授は直ちに学問の自由弾圧声明を発表した。革命運動に対する治安維持法初の弾圧事件。〔千野境子〕

かくれんぼう 【隠れん坊】 鬼ごっこの一種。関東地方〈かくれんぼ〉，中国地方では〈かくれこ〉，東北地方では〈かくれかがし〉などとよばれる。ひとりが鬼となり，隠れた子たちを見つける遊び。隠れた子たちのだれかが鬼になった者に見つかれば，その者が代わりに鬼となる。この遊びは〈隠れ遊び〉として，すでに平安時代からあることは《宇津保物語》などで知られている。この遊びが盛んになったのは江戸時代から明治時代にかけてであり，現在も地方によって多少遊び方を異にするが広く行なわれている。〔渡辺欣雄〕

かけ 【加計(町)】 広島県山県(やまがた)郡の町。人口6,700。県の西部，太田(おおた)川の上流域にある。1954年(昭和29)国鉄可部(かべ)線が当地に達し，広島・浜田を結ぶ国



カクレミノ



夏　珪《雨景山水図》 根津美術館蔵

道186号線も通じ，山県郡の政治・経済の中心地であり，木材・薪炭・シイタケなどの産がある。北西には滝山峡・深山峡(みやまきょう)・三段峡などの景勝地があり，訪れる人が多い。

かけあい 【掛合】 主として日本伝統音楽の用語で，交互演奏をいう。能・歌舞伎(かぶき)などの演劇上の役割を区別するための掛合と，純音楽的なおもしろさを求めた掛合がある。後者の場合，各種の三味線(しゃみせん)音楽で歌あるいは三味線が二つに組み合わせられて交互に演奏する場合と，地歌・箏曲のように箏と三味線というように異なる楽器で掛合を行なう場合がある。

かけい 【家計】 ⇨次ページ

かけい 【花型】 ⇨はながた

かけい 【火鶏】 鳥類・キジ科。全長90～100cm，尾長45～55cmほどのもので，体色はかっ色・暗青灰色または白色。カケイ類は3種からなり，このうち2種が顕著な長い白色の耳羽をもつので，ミミキジ類ともよばれる。中国の北部・西部の高山に分布しているが，かっ色のもの(単にカケイまたはミミキジとよばれる)は世界各地で飼育されている。➔キジ

かけい 【家系】 祖先から子孫に続く家*の系譜。代々家の継承者によってになわれ，家名や祭祀(さいし)が相続される。しかもそれは単に血のつながりに基づく関係だけでなく，制度としての家族*の存続に内在した関係をいう。また家系は家格，つまり家の格式を決定する要素ともなる。➔系図

かけい 【夏珪】 生没年不詳。中国，南宋(なんそう)の画家。字(あざな)は禹玉(うぎょく)。寧宗朝(1195～1224)画院の待詔。李唐*(りとう)が始めた雲霧や雨気による南宋らしい山水表現をいっそう簡明に感覚的にし，繊麗な筆致で構成に余白の多い独特の山水画様式を確立した。湿潤で柔軟な筆致は北宗画*としては珍しく，范寛(はんかん)らの南宗画家にも学んでいて，その墨法は墨汁淋漓(ぼくじゅうりんり)と評された。馬遠*とともに，その謹恪(きんかく)な空間表現が南宋院体山水画の代表的な構成様式とみなされ，馬夏の蒼勁(そうけい)体とよばれる。わが国には室町初期から知られ，室町漢画の成立に大きな役割を果たした。〔中島純司〕

かけいじょういちざい 【科刑上一罪】 もともとは2個以上の犯罪が成立しているが，刑を科す上で一罪として扱うこと。たとえば，あき巣ねらいの行為は住居侵入罪と窃盗罪の2罪にあたるが，これは牽連犯*(けんれんはん)として重い窃盗罪として処断される(刑法54条後段)。また，一つの行為が2罪にわたる場合，たとえば，相手をはずかしめるため公衆の面前で殴打すれば，暴行罪と侮辱罪が同時に成立し，実質上は2罪となるが，重い暴行罪のほうの刑で処断される(刑法54条前段)。〔井上公耳〕

かけいちょうさ 【家計調査】 家計の収支に関する調査。一定の条件をもつ多数の家計を対象に，数か月の家計簿記入資料をもとにして，平均数値を算出する。総理府家計調査はその規模においても精密さにおいても世界的に権威あるものとされている。ただし家計調査の数値は，そのまま個々の家計内容を表わすものではなく，あくまで統計上の平均額であって，実数とは違うものもあるので平均家計の動向として把握(はあく)したい。〔青木　茂〕

かけいべいか 【家計米価】 ⇨食糧管理制度

かけいぼき 【家計簿記】 家計における収入と支出の記録簿。家庭経済の動向を正しく把握(はあく)し，むだや不合理を改めるのに役だち，予算生活の健全な運営に必要なもので，家計管理の面にたいせつな資料と

➔491ページ

家　　計

〔社会のしくみと家庭経済〕家庭経済は，国家経済や企業経済と密接な形で結びついており，この三者の相互協力のもとに，それぞれが健全な発達をするものである。われわれは家庭経済を正しく理解するためには，まず近代社会において家庭経済がどのように位置づけられ，どのように機能するかをみる必要がある。経済は生産に始まり，流通を経て消費に終わるが，生産と流通を担当するのは主として企業であり，消費を分担するのは主として家庭経済である。そして，社会全体の立場から企業と家庭に役だとうとするのが国家の経済，すなわち財政である。経済のしくみは，このように国家・企業・家庭の三つによってなりたっている。このうち，家庭経済は企業と国家から多くの影響を受けている。企業は，われわれの家庭生活に必要な品物を供給し，生活の向上のために役だたせている。また，国家は種々の社会保障その他の諸政策を通じて，われわれの生活の安定に努める一方，道路や鉄道などの公共施設の整備拡充に責任をもつことによって，社会全体の福祉のために努力する。一方，われわれは家庭経済の立場から企業と国家に協力している。企業の生産物を消費のために購入したり，あるいは貯蓄を通じて企業資本の形成に助力するのは家庭経済であり，また租税や国債の購入を通じて，国家財政の資金を提供するのも家庭経済である。家庭はまた，家族の労働力を国家や企業に提供しており，その見返りとして国家や企業は俸給(ほうきゅう)・賃金を支払うのであるが，これも経済における相互協力のしくみの一つである。

〔家庭経済の意義と目標〕すべての人にとって望ましい経済生活とは，いうまでもなく衣食住を中心として，生活部門全般にわたって，豊かで満ち足りた暮らしをつくりあげていくことにある。このためには，消費生活の充実が家庭経済にとってなにより必要である。一方，現代の社会では，病気はもとより予期しない災害が多く，また，失業・倒産などによって家庭の収入がとだえるという場合も絶無とはいえない。そこで，家庭ではどのような不幸な事態に直面しても，それを切り抜けていけるだけの貯蓄が必要となる。家庭経済を一つの主体と考えその行動法則をながめようとする場合，基本的な考え方は消費と貯蓄をいかにして両立させるかという点にある。

〈現在消費と将来消費の調和〉一口に消費といってもそこには二つの意味がある。一つは，日常の消費生活の充実，すなわち，現在消費の問題である。栄養と嗜好(しこう)をともに満足させる食生活，身づくろいの整った衣生活をはじめ，育児・教育・教養・娯楽・交際・保健衛生などの営みには，消費はくり返して必要なことであり，日常の収入の範囲でまかなわれるいわば現在消費である。これに対し，将来の消費生活の充実を図ることが将来消費の問題である。将来消費には，高価な耐久消費財の購入，家族旅行，子どもの入学や進学，住宅の新設など，家庭生活の長期設計に基づく出費があるし，また老後の生活資金のように働けなくなっても，生活に困らないための出資の準備も必要である。特にわが国の場合，社会保障がきわめて不備なため，老後の問題は個人に帰するところが大きい。これらに備えるため，生活の中で計画を立てて着実に準備していく必要がある。しかし，家庭の収入に限りがある以上，日常生活を豊かに送ろうとすればどうしても将来消費のための備えがおろそかになりがちだし，また，将来消費に対して万全の備えを講じようとすれば，現在消費を犠牲にするよりほかはない。ここにも矛盾がある。そこで，現在消費を犠牲にしないで，将来消費の準備に万全を期するにはどうしたらよいかということが，家庭経済にとって重要な課題となる。

〔生活の短期設計〕家庭経済のこの課題を実現するためには，次の二つのことに留意しなければならない。一般に，貯蓄は将来消費を目的として行なわれる。しかし，その目的の内容をさらに分析すると，不慮の事故などに備えて長期にわたる生活の安定のために，特定の使途を決めずに生活基金として貯蓄するものと，はっきりした消費目的を定めて，そのために一定期間積み立てるものとの２種類がある。現実には，この両者は混同されやすく，また，厳密に区分しにくいことも多いが，家庭の生活設計を考える場合には，後者は積立金と考える。貯蓄は生活の短期設計の課題であり，積立金は生活の長期設計の中心問題である。

〈完全貯蓄と完全消費〉われわれは，まず家庭収入のうち，一定部分を必ず貯蓄して，将来の病気その他不慮の事故のために備えることを心がけたい。そして，残りの部分は，現在の日常生活の充実のために惜しみなく消費するという心構えを身につけるべきである。どれだけ貯蓄して，どれだけ消費するかは，所得・家族数・住居費・教育費の大小など，それぞれの家庭の諸条件によって適正に決めなければならない。これが消費率と貯蓄率決定の問題である。

〈節約不可費と節約可能費〉限りのある収入で，できるだけ充実した生活を営むには，消費予算を家計の各費目に重点的に配分しなければならない。したがって，予算をただ切り詰めることを考えるよりも，それぞれの家庭の実情に応じて，目的に沿って十分に使ったほうがよい重要費目と，場合によっては節約することも考えられる費目とに分けて，消費の重点を前者に置くように考えてみる。前者が節約不可費であり，後者が節約可能費である。しかし，家庭生活にはそれぞれ独自の方針があるから，どの費目を節約不可費とし，どの費目を節約可能費とするかを一様に指定することは不可能であろう。しかし，一般的には，身体の栄養のための食物費と，精神の栄養のための教養費などは節約不可費にしたほうがよい。あるいは，このほかにもう一つ，その家庭独自の重要項目を加えて，これらを節約不可費として消費生活の中心にするといった考え方もできる。また，同じ費目の中にも，節約不可の部分と節約可能の部分が含まれることがあるが，その場合には両者のウエートを見比べて，重要費目かどうかを判定するのがよい。

〔生活の長期設計〕これまで述べた生活の短期設計は毎月くり返し行なわれるものであるが，生活の長期設計はこれとは異なる。われわれの生活は一生でみると，結婚，住居の新改築，子どもの教育，老後など，いろいろな場合に大きな支出が伴うことが予測される。これらの将来消費は，ときとして何十万円，何百万円という巨額な資金を必要とし，目標額に達するまで長期間積み立てなければならないものもあるであろう。家庭のライフサイクルに合わせて，現在消費に支障がないように配慮しながら，これらの資金をふだんから積み立てていくこと，これが生活の長期設計である。生活の長期設計の資金は，経常収入にゆとりがない場合には，原則として特別収入から積み立てるようにする。そして，いろいろな消費目的のために一度に多額の資金を積み立てるよりは，家庭の実態に即して一定の消費目的をできるだけ早めに選び，たとえ少額でも長期間継続して積み立てていくことが健全な方法である。長期設計において積み立ての必要のあるおもなものは住宅・教育・老後などの各資金である。

〔家計簿記の意義と効用〕家計簿記とは，家庭経済の実態をいろいろな帳簿類(これらを総称して家計簿という)に記録することをいう。したがって，家計簿記は家庭経済の動向を正しく把握(はあく)し，そのむだや不合理を改めるのに役だち，予算生活の健全な運営のためのたいせつなよりどころとなるものであり，家計管理上なくてはならないものといえよう。➔家計簿記

このように家計を計画的・合理的に処理することは貯蓄と消費のバランス，現在消費と将来消費の調和という家計の理想を達成することになり，限度のある収入でより豊かな生活を可能にすることになる。

〔青木　茂〕

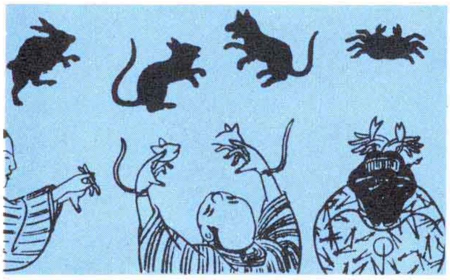
なる。また個々の家庭経済の向上に役だつばかりでなく，各家庭の生活実態の集積は国民生活の各分野の問題点を示すものでもあるので，これによって国家行政や企業の方向を決める基礎資料ともなる。

〔家計簿の選び方〕家計簿は各種各様のものが市販されているが，各家庭の家計管理にいちばん適したものを選ぶことが必要である。家庭生活はそれぞれ独自のもので，職業・収入・家族構成・地域などの事情により家庭の個性がある。家計簿を使用する場合には，それぞれの家庭の生活実態にふさわしいものを選ぶことで，創意くふうをこらした独特のスタイルをノートに記録するのも当を得た家計簿管理である。

〔家計簿の組織〕日常の記録と決算時の記録がある。日常の記録としては，日々の現金の収支を記録して残高を照合する現金出納帳と，日々の収支を要目別にまとめて記入して費目予算と対照させる家計元帳とがある。決算時の記録としては，当会計期間内の収支の総額を計上して予算と対照させ，前年度の実績とも比較して，反省を通して次期の予算編成の資料とする決算表と，当会計期間内の家庭の資産や負債の動きを記録して純財産高を記録する資産負債表とがある。

〔標準予算の立て方〕家計簿管理の第1は予算生活である。各家庭の過去の生活の反省を通して予算が組まれるが，同時に標準予算も参考にしたい。これには1か月を周期とする消費中心のサラリープランと，1か年を周期とする貯蓄や引当金中心のボーナスプランの二つがある。①サラリープランの考え方：手取り収入から，不測の事故に対する備えとして一定の貯蓄を積み立てたら，その残りは消費部分と考えて使いきってしまう。第1に食費予算を理論的に決めたら，あとは必要費目を百分率でおさえる。ただし，心の栄養としての教養娯楽費と，各家庭の個性を打ち出す独自の費目は食費とともに重点費目として予算を十分にとり，他の費目は極力節約を心がけたい。予備費は5～6％を用意し，費目間に流動できるクッションとしてその月の重要な支出に備える(表を参照)。②ボーナスプランの考え方：長期生活設計案には住宅・教育・老後資金などが含まれ，長期間の積み立てを要するもので，ボーナスの40～50％をあてる。またサラリープランでは満たされない消費への夢(電気製品・高額衣類・家具・家族旅行など)は，短期間の積み立てが必要で，これに30～40％を用意したい。このほか家計補助としての準備金やこづかいとして20％ぐらいを計上したい(下表参照)。

〔青木淑子〕



影　絵

サラリープラン

		3人(夫婦・幼稚園児)	4人(夫婦・中学生・小学生)
	手取り収入	42,000	64,000
切りつめたくない費目	食　費	15,000	24,000
	教養娯楽費	1,400	3,000
	個 性 費	わが家の重点費目をここへ	
	計		
切りつめたい費目	住 居 費	9,000 (公営2ＤＫ)	2,500 (社　宅)
	水道光熱	1,800	3,300
	被 服 費	1,200	2,500
	育児教育	3,500	6,000
	こづかい	3,300	7,500
	保険医療	1,700	2,500
	雑　費	1,500	3,700
	予 備 費	2,000	3,000
	貯金・保険	1,600	6,000
	計	42,000	64,000

ボーナスプラン

ボーナス手取り年額	150,000	260,000
長期積立金	70,000	130,000
短期積立金	50,000	80,000
家計補助こづかい	30,000	50,000
計	150,000	260,000

かげえ　**【影絵】**　手の指や手首，あるいは人形・切り抜き絵などを使ってさまざまな形をつくり，燈火に照らしてその影を障子・ふすま・壁などに映して楽しむ遊戯。その仕掛けや技巧の発達したものは見せ物ともなり，影絵芝居*・影絵映画へと発展した。最も素朴(そぼく)な形は古くから日本で行なわれている〈手影絵〉で，両手と指を屈曲し，イヌ・ウサギ・キツネ・天狗(てんぐ)・船頭などの姿を映し出す遊戯である。井原西鶴*(さいかく)の《西鶴置土産(おきみやげ)》には松風琴之丞が影人形を巧みにあやつり写したことが記され，この時代の影絵の流行がうかがえる。

影絵から一歩進んだ回り燈籠(どうろう)は走馬燈・影燈籠ともいい，燈籠の内側にある絵をはりつけた風車が，軸心にとりつけたろうそくの対流あるいは風によって回転し，外側の紙に影が駆け巡るように映るものである。これは江戸中期ごろから夏の夜の観賞用として流行し，軒につられた。

また，切り抜き絵・写し影絵もそのころから発達したもので，これは厚紙で人形を切り抜き，竹ぐしでささえ，手足や頭を糸で胴体に結び，上下にあやつって人形を動かすものである。　〔直江広治〕

かげえしばい　**【影絵芝居】**　厚紙・油紙・獣皮(スイギュウ・ヒツジ・ロバ・ラクダ)や金属・木・セルロイド・プラスチックなど不透明あるいは半透明の材料を用いて平板の人形をつくり，光源にかざして操作し，その影絵を半透明のスクリーン(布・紙)に映して演ずる芝居。人物・花鳥・動物などの人形は，細い棒で下方あるいは後方から操作され，いくつかの関節が動くようになっているのが普通である。まれには立体の人形やほんものの人間を使って行なう場合もある。

発生年代は明らかではないが，アジア・近東地域では古くから民俗芸能として広く



影絵芝居　(左)台湾の影絵芝居の人形　(右)木馬座による《泣いた赤鬼》(浜田広介原作)の一場面

行なわれ，多くは神話や伝説を題材とし，時事的な風刺やユーモアを交えて演じられてきた。中国の影戯(エーシー)，インドネシアのワーヤン-プルワ，トルコのカラギョーズは特に有名である。17～19世紀には東洋の影響を受けて，ヨーロッパでも影絵芝居が行なわれるようになり，フランス・ドイツなどで隆盛をみた。20世紀になると，現代的な題材を演ずる試みもなされ，電気の利用がさらに表現手段を多彩にした。現在最も有名なのは，〈モスクワ影絵劇場〉(1937年創立)の活動である。わが国では，明治期に切り紙による見世物があったにすぎず，第2次世界大戦後にはじめて大きな発達をみた。現在，代表的な職業グループに，藤城(ふじしろ)清治らの〈木馬座〉，藤泰隆(やすたか)らの〈かかし座〉がある。なお，影絵芝居にヒントを得てつくられるようになったのが，アニメーション*映画の一種としての影絵映画である。　〔大井数雄〕

かけえり　【掛けえり】　⇨半えり

かけおび　【懸帯】　中古，女子が外出のとき上胸から背にかけて結んだひも。赤地平絹の平絎(ひらぐけ)で，背の中央で両鉤(りょうかぎ)に結び，端をたらした。木綿襷(ゆうだすき)の遺風とみられ，長さは背たけの2倍ほどあり，女人の物詣(ものもうで)の旅に用いられた。別に懸帯は，女房装束の裳*(も)の大腰につけた飾りひもの意でもある。形は帯状で，肩に掛けて裳をつるためのもの。古代の比礼*(ひれ)のなごりといわれる。

かけがわ　【掛川(市)】　静岡県南西部の市。江戸時代は太田(おおた)氏五万石の城下町，東海道の宿場町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口64,000。太田川の支流逆(さか)川・倉真(くらみ)川・垂木(たるき)川・原野谷川の沖積地(ちゅうせきち)上に中心市街があり，北には赤石山脈が迫り，南には小笠(おがさ)山の丘陵地帯がある。産業三大別人口比は24：37：39。米と茶の生産を主とする農業地帯であるが，近年は日本楽器の大工場や自動車部品の中小工場が進出し，近代工業も興っている。東海道本線から二俣(ふたまた)線を分岐し，国道1号線・東名高速道路が通ずる。特産は葛布(くずふ)。

かげき　【歌劇】　⇨オペラ

かげきよ　【景清】　平家の侍大将，平景清*。通称七兵衛(しちひょうえ)。大力の大男で，伯父(おじ)大日坊を殺したことから悪七兵衛とよばれる。《平家物語》にみえ，能・浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎(かぶき)などの題材にとられている。

1能の曲名。作者不明。四番目物。《平家物語》の一節による。平氏の侍大将，平景清は，平氏滅亡後日向(ひゅうが)(宮崎県)に流され，盲目のこじきになっている。そこへ鎌倉にいた娘人丸が尋ねてくるが，景清は〈私は盲人だからその人を見たこともない〉と言って名のらない。人丸は里人に尋ねると，里人は〈その人こそ景清です〉と言って景清



カケス

のもとへ来る。景清は思いに沈んでいたところを急に里人が訪れるので少し怒るが，やむなく娘と名のり合い，娘に請われて昔屋島の戦いで源氏の侍三保谷(みおのや)十郎のかぶとの錣(しころ)をつかんで互いに引き合った武勇を物語る。そうして，娘を鎌倉へ返す。シテは景清，ワキは里人。人丸はツレ。従者は観世・宝生流ではシテツレ，他の3流ではワキツレとする。浄瑠璃・歌舞伎に影響が大きい。　〔長尾一雄〕

2歌舞伎狂言。〈歌舞伎十八番*〉の一。1732年(享保17)江戸中村座の《大銀杏栄曾我(おおいちょうさかえそが)》の大詰めで，2世市川団十郎が景清を演じたのが最初で，代々の団十郎が演じた。伝説化した悪七兵衛景清の性格が，荒事*の主人公に合うため，純粋な荒事劇として演じられる。土牢(つちろう)に捕えられた景清のところに妻と娘が引き出され，琴と胡弓(こきゅう)で責められる(浄瑠璃の《壇浦兜軍記(だんのうらかぶとぐんき)》からとった趣向)。怒った景清が荒々しく牢を破るという筋である。　〔服部幸雄〕

かけごえ　【掛け声】　人に呼びかけたり，共同作業で物を持ち上げたりするときの短い発声，さらに武芸や音楽・演劇・舞踊などで用いられる一定の発声。演劇では，歌舞伎(かぶき)などで観客が俳優の演技をほめる際に屋号などを呼ぶ。音楽では能の囃子(はやし)・三味線(しゃみせん)音楽・箏曲(そうきょく)などで音楽の一部として効果的に用いられている。また，スペインのフラメンコや自然民族の踊りなど，各国の民族音楽・民族舞踊の中でも生きている。

かけことば　【掛詞】　懸詞とも書き，〈いいかけ〉などともいう。《古今和歌集》時代から急速に発達した和歌修辞法の一つであり，同音異義の語を用い，一義は上の句を受けて，他の一義を下の句に連関させ，意味の転換を図る技巧である。二重の意味を縮約して1語で示す働きともいえる。掛詞は単独で現われる場合，枕詞(まくらことば)や序詞の関係で現われる場合，縁語の関係で現われる場合など，現われ方はいろいろであるが，和歌だけでなく，散文の世界にも応用され，能・道行文・浄瑠璃(じょうるり)などにも多く活用された。たとえば，〈をちこちのたづきも知らぬ山中におぼつかなくもよぶこ鳥かな〉では，〈呼ぶ〉(動詞)と〈よぶこ鳥(カッコウ)〉(名詞)が掛詞。〈もみぢ葉の散りてつもれるわが宿に誰(たれ)をまつ虫ここらなくらむ〉では，〈待つ〉(動詞)と〈松虫〉(名詞)が掛詞。　〔鈴木一雄〕

かけこみうったえ　【駆込訴】　江戸時代における越訴*(おっそ)の一。駆込願ともいう。定められた裁判機関や手続きを無視して，直接に評定所・三奉行所(ぶぎょうしょ)，または幕府の重臣，藩の領主，家老の家などに駆け込んで訴え出ること。駆け込みのあった場合，普通は訴えの内容を聞いたうえ，決められた手続きを踏んで訴え出るようにさとして帰したが，越訴したことをとがめられて過料などの罰を科せられることもあった。しかし駆込訴は特別の場合を除いては厳禁されていた。　〔岡山泰四〕

かけこみでら　【駆込寺】　⇨東慶寺(とうけいじ)

かけざん　【掛け算】　⇨乗法

かけじく　【掛け軸】　⇨掛け物

かけす　【懸巣】　鳥類・カラス科。全長33cmほど。背と下面がぶどう色。腰は白色で飛んでいるときによく目だつ。翼には青と黒がまだら模様になった大きな美しい斑点(はんてん)がある。旧北区*の森林地帯に広く分布する。わが国では全国の山地にすみ，冬は平地にも現われる。雑食性でこん虫などの小動物や木の実を主食とし，特にどんぐりをよく食べるのでカシドリの異名がある。小鳥の卵などもとる。声は〈ジャージャー〉とやかましいが，ときとしてネコやタカの声などを器用にまねる。

かげぜん　【陰膳】　家族の者が旅行などで長期間家にいないとき，旅先で飢えることのないように願って家人が膳を供えておく風習。床の間に供える所もあれば，常の座に供える所もある。供える日時は3食の折々に行なう所，あるいは節日や祭礼のときに行なう所がある。供える食事は，不在者の好物や時節がら珍しいものなどがある。陰膳は不在者の無事を祈る気持ちから行なわれてきたものであるが，根本的には，家族が同じ食物をとることによって，相互の間に目に見えないつながりが生ずるという共同飲食の論理に基づくものと考えられる。　〔渡辺欣雄〕

かけだい　【懸鯛】　正月・祭礼・婚礼などの祝いのときの飾りものの一。2尾の塩鯛を腹合わせにし，わらなどを口に通してしばり，床の間やかまどにつるして飾る。懸鯛は神供であると同時に，これを食べると夏期に病気をしないとして，家人が正月用の食品とする習俗も各地にあった。この祖型はタイ・カツオ・スルメ・野菜などをつり下げる〈幸木*〉・〈懸(かけ)の魚(いお)〉で，九州・四国の各地に見られ，これが都市ふうに形を整えたのが懸鯛である。

かげつそうし　【花月草紙】　松平定信*(さだのぶ)の随筆。6巻。1796年(寛政8)から1803

年(享和3)までの間に成立。刊行は作者の生存中と推定される。社会の諸相，人生の明暗，自然の風物，学問などに関する所感を雅文体の文章で全156条にわたってしるしたもの。全体に教訓色が濃いが，皮肉や警句にあふれ，謹厳な中にこっけいみがある。書名は発端で月花について論じたことによる。

かけはぎ　【掛け接ぎ】 布の*補綴(ほてつ)の一種。2枚の布の折り山に，針目細かく糸を掛けてかがり，縫いしろを割る。かけはぎ屋といって専門業者があったが，現今はすたれ，ミシンで縫うのに変わった。

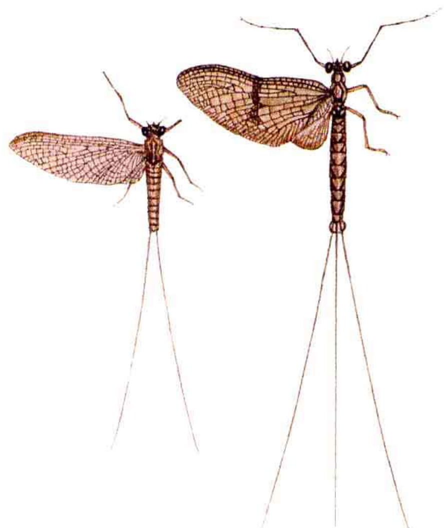
かけひ　【掛樋】 地上に架設した水を引くための樋(とい)で，懸樋(かけどい)または筧(かけい)ともいう。山間に生活する者は水口として用いたが，茶庭においては，蹲踞(つくばい)や手水鉢(ちょうずばち)に竹の樋でたえず清水(しみず)を注ぎ，水の音や水の動きによって閑寂な風情を賞(め)でようとした仕掛けをさす。竹の樋を駒頭(こまがしら)(継ぎ手)でつないでつくったものが多い。

かけぼとけ　【懸仏】 鏡像とともに御正体(みしょうたい)(*本地垂迹(すいじゃく)の説が確立して，神道(しんとう)の御神体である鏡の鏡面に仏・菩薩(ぼさつ)を現わした神・仏の表裏一体であることを示す像)の一種であるが，鏡面にじかに毛彫りしたり半肉彫りの仏像をはりつける鏡像とは異なり，ひも穴や環をつけた鏡代用の円板に毛彫りや半肉彫りの仏像をつけて，懸架することを意図している。当初は銅円板の片面に仏像を毛彫りする程度であったが，しだいに装飾的となり，鎌倉末期ごろからは仏像に別製の天蓋(てんがい)や*瓔珞(ようらく)などを備えるようになる。円形が通例ではあるが，方形・菱形(りょうけい)・華鬘(けまん)形・扇形のものもあり，材料も金銅製・鉄製・土製・木製など多種にわたっている。〔河田　貞〕

かげま　【陰間】 ⇨男娼(だんしょう)

かけまもり　【懸守】 平安時代に，貴族の婦女が護身のために袋に入れて首から懸けたお守り。当初は懐中に入れていたが，しだいに外面を豪華な錦(にしき)や装飾金具で飾り，外出時の装身具としても用いられた。大阪四天王寺に伝わる七懸の懸守は，平安時代の作になる最古の遺品であり，1400年(応永7)ごろの作とされる熊野(くまの)速玉神社古神宝中の懸守とともに，国宝に指定されている。

かけもの　【掛け物】 書や絵を表装して床または壁に掛け，鑑賞できるようにしたもの。掛け軸・軸物ともいう。書の掛け物は掛け字といい，絵の掛け物は掛け絵という。また，2幅になっているものを双幅または対幅，3幅になっているものを三幅対という。礼拝(らいはい)用の仏画は平安時代から掛け物に仕立てられたが，鑑賞用の絵は室町時代になってから行なわれた。書の掛け物は絵の掛け物にならって仕立てられた。普通の掛け物は，本紙の上下に本紙の幅と同じ長さの一文字があり，その周囲に中縁(ちゅうべり)があり，その上下に地題がある。下の地題の端に軸を巻きつけ，軸の両端に重し(風鎮)を下げて風にあおられるのを防ぐ。上の地題の端の標木から風帯を2本下げ，また掛け緒をつけて床または壁に掛ける。なお，風帯・一文字のないのや，中縁と地題との区別がないものもある。〔春名好重〕



カゲロウ　(左)ヒメヒラタカゲロウ
(右)モンカゲロウ

かけものがし　【掛け物菓子】 砂糖掛け菓子の総称。各種のしんに砂糖を層状に掛けたもの。代表的なものに和菓子では*金平糖・源氏豆，洋菓子ではチャイナマー*ブル・ゼリービンズなどがある。しんには砂糖の結晶のほか，豆類，ケシの実，ゴマ，キビ，乾果類，キャンデー類などが用いられる。作り方にはハード掛け法とソフト掛け法がある。〈ハード掛け法〉白ざら(→ざらめ糖)または*グラニュー糖の小結晶粒をしんにして，これを回転なべに入れ，加熱しながら糖液を掛けていく。長時間にわたって糖液を掛けていくので，砂糖の微細結晶は層をなしてゆっくり沈着していくことになり，きわめてかたい糖衣をつくる(例：チャイナマーブル)。できあがるまでに数日ないし2～3週間を要する。〈ソフト掛け法〉回転なべを加熱せず，しんに粘性のある糖液と小粒のグラニュー糖(または粉砂糖)を交互に掛けていくもので，短時間でできる。ゼリービンズはこの代表的なものである。〔塩川ふみ〕

かけものじょう　【懸物状】 鎌倉・室町幕府における訴訟文書の一。懸物押書ともいう。訴人(原告)や論人(被告)が訴状や陳状によって自己の論を主張する際に，その主張の正当性を強調するため，自分の所領を賭(か)ける旨を明記して上申する文書。懸物は賭物の意。

かけや　【掛屋】 銀掛屋ともいう。江戸時代，諸藩は*蔵屋敷に蔵物(年貢米(ねんぐまい)・国産品などの貢租)を輸送し，それを売って江戸藩邸の費用にあてたが，その代金を預かり，出納から送金までいっさいを委託された大阪の商人(両替商)をいう。掛屋は藩から扶持米(ふちまい)を支給され，藩士と同様の待遇を受けた。中には数藩の掛屋を兼ねる者もあり，また財政窮乏の藩に対して蔵物を担保に金を貸し付ける*大名貸を行なった。鴻池(こうのいけ)*家は有名。〔松尾　涼〕

かげやまひでこ　【影山英子】 ⇨福田英子

かけゆおんせん　【鹿教湯温泉】 長野県小県(ちいさがた)郡丸子町にある温泉。泉温21～53℃。泉質は単純泉で，中風(ちゅうぶう)・高血圧にきくといわれて名高く，温泉を利用して高血圧の研究をしている温泉療養所がある。内村温泉郷の最奥の山に囲まれた閑静な温泉で，文殊菩薩(もんじゅぼさつ)がシカに変身して場所を教えたという伝説が地名の由来である。美ヶ原への一方の登山口であり，ハイカーの利用が多く，国民温泉に指定されている。信越線上田駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

かげゆし　【勘解由使】 平安初期，国司の交替事務を監査するために置かれた*令外官(りょうげのかん)。奈良末期ごろ，官吏の任期交替の際に，新任官が前任官の事務引き継ぎに欠陥がないと認めたときには*解由状を出す制度が定められた。しかし，その発行をめぐる新旧両官の争いが多かったので，国司の交替を円滑にするために設置された。806年(大同1)一時廃止，824年(天長1)復活したが，地方政治が乱れるとともに効果も減じ，平安末期以後は有名無実となった。〔星野具子〕

かげろう　【蜉蝣】 こん虫類・カゲロウ(蜉蝣(ふゆう))目の総称。体長が5mmを越える種類は少なく，全体がきわめて軟弱な1群。体は長く，いくぶん扁平(へんぺい)か円筒形。触角は短い。複眼は発達して大きく，単眼は3個。翅(はね)は膜質透明で，多数の翅脈(しみゃく)があり，静止の際は左右の翅を背上で垂直に合わせる。後翅は著しく退化しているかまったく消失している。腹部は明瞭(めいりょう)な10節からなり，第11節にあたる末端部に2本の細長い糸状の尾毛があり，さらにそれに似た1本の中尾糸をもつ種類もある。

この類の変態は有翅こん虫の中では特殊なもので，半変態(亜変態ともいう)とよばれ，若虫(幼虫)から羽化した成虫は亜成虫とよばれ，きわめて不活発であるが飛翔(ひしょう)することができ，適当な個所を捜して数時間のうちに軟弱な表皮が体と翅からはがれて真の成虫となる。成虫はきわめて活発で，特徴的な交尾のための舞踏群飛(スウォームという)を行なう。成虫は燈火にもよく飛来する。俗に短命をさして〈カゲロウの命〉と形容されるごとく，成虫の寿命はきわ

めて短く，わずかに数時間のものから，長いものでも数日である。

卵はほとんどの種類では微小で，表面に種々の彫刻模様をもち，錨具（びょうぐ）とよばれる瘤状（こぶじょう）または糸状の付属物で水中や水表面の植物や汚物などに付着する。産卵数は多く，1雌が数百から4,000粒を産下する。まれに胎生のものがあり，微小で活発な若虫を直接産下する。

若虫の形態は変化に富むが，ふつうシミ形で扁平。孵化（ふか）直後の若虫はえらを欠き，皮膚呼吸を行なうが，第1回の脱皮後にえらが現われる。河川や湖水などの底にある石や堆積物（たいせきぶつ）・水生植物などの下で生活する種類が多い。おもに水生植物の細かい組織片やコケ類・藻（そう）類などを食べるが，まれに微小な水生こん虫類を捕食する種類もある。生育は緩慢で，3年を要する種類も知られている。この類の生活史は調査が困難であるために不明な点が多い。また生育初期の個体数が著しく多いことから，水生こん虫類や小動物類の食物源として，水圏の生物群集の食物連鎖関係上の重要な位置を占めていると考えられる。カゲロウ目の起源は現生こん虫の中ではゴキブリ類などと並んできわめて古く，約3億年前の古生代石炭紀にはすでに地上に出現していたと考えられている。カゲロウ目の既知化石中最古のものは約2億5,000万年前の二畳紀の地層から発見されたもので，それは前後翅がほぼ等しい大きさで，体も現生のものよりも大形である。

カゲロウ目は全世界からきわめて多くの種類が知られており，いくつかの上科および約15の科に分類されている。日本には，アミメカゲロウ科をはじめ，モンカゲロウ・カワカゲロウ・ヒトリカゲロウ・ヒラタカゲロウ・フタオカゲロウ・トビイロカゲロウ・マダラカゲロウ・ヒメカゲロウ・コカゲロウの10科のものが知られている。なお，ウスバカゲロウ*・クサカゲロウ*などはカゲロウの名をもつが，脈翅目に属し，まったく異なるものである。〔鈴木邦雄〕

かげろう【陽炎】 熱せられた物体（多くは地面）の上方の空気を通して，さらにその向こうの物体を見ると，物の形や模様などが揺れて見える現象。これは，空気が熱せられてたえず揺れ動き，またその各部分の密度と屈折率がたえず変化するため，この中を通過する光の方向が変動するからである。春さきのように，地面から水蒸気が多量に蒸発するときには，それが空気と一様に交じらずに疎密が生じ，場所による屈折率の変動がなお大きくなるので，かげろうの現象は人の目に留まりやすい。

〔吉原邦夫〕

かげろうにっき【蜻蛉日記】 平安時代の日記。作者は右大将藤原道綱母。日記といってもいわゆる日次記（ひなみき）ではなく，メモや歌稿などを資料として，作者18～19歳ごろの954年（天暦8）から974年（天延2）までの21年間（上巻15年，中巻3年，下巻3年）をしるした自伝的回想録であり，それも一気に書かれたものではないため，起筆・擱筆（かくひつ）時期に問題もあるが，全巻の完成をみたのは当然974年以降である。上・中巻は権門の藤原兼家の求婚に始まり，一夫多妻の貴族社会で女性が経験せざるをえなかった結婚生活の不安・嫉妬（しっと）・苦悩が赤裸々に語られる。序文にみられるように，〈世の中に多かる古物語〉は〈そらごと〉でしかないという自覚のもとに書かれた深刻な体験と陰影に富む心理の告白は，生活の真実に根ざす女流日記文学の確立を意味している。〈三十日三十夜（みそかみそよ）はわがもとに〉という妻としての切実な願いは最後まで裏切られ，身もだえする作者の情念は971年（天禄2）の鳴滝参籠（なるたきさんろう）で頂点に達する。その後はしだいにあきらめの境地に移ってゆき，下巻では夫を引き留めたい心をかすかに内に揺曳（ようえい）させつつ，一子道綱や養女として引き取った娘の生活を中心に描くようになる。《蜻蛉日記》によってこそ散文による女流文学が確立されたといっても過言ではない。それは《源氏物語》をはじめ，近代文学にまで強い影響を与えている。題名は上巻末尾の〈なほものはかなきを思へば，あるかなきかの心地（ここち）する，かげろふのにきといふべし〉に基づき，不安な自己の生活をカゲロウに象徴した作者自身の命名である。〔石埜敬子〕

かけろまじま【加計呂麻島】 鹿児島県奄美（あまみ）大島の南西に，大島海峡を隔てて接する長さ22km，幅1～3kmの東西に細長い島で，山がちで出入が多い。1956年（昭和31）以来，大島郡瀬戸内町の一部となっている。サトウキビを主とした畑作と，ウシ・ブタの牧畜，漁業によって生活しており，経済的には対岸の瀬戸内町の中心集落古仁屋（こにや）に依存している。人口約5,000。

かげん【下弦】 月が太陽の西側にあって90°離れた方向に見えるとき（太陽と月の黄経の差が90°になったとき）をいう。下弦の月は夜明けごろに南中*し，左半分だけが輝いている。➔上弦

かげんうんどう【仮現運動】 実際には対象が動いてないにもかかわらず，動いているように知覚される〈見かけの運動〉全般を仮現運動と総称することもできるが，一般には2対象が継時的に出現・消失することによって運動が生じたようにみえる現象をいう。その典型的な例が電光ニュースや映画の原理として知られるもので，ベータ一運動と名づけられている。仮現運動は，そのほかにアルファー運動・ガンマ運動・デルタ運動・エクロシロン運動などに区別され，視覚的なものが中心をなすが，聴覚・触覚にもみられる。〔吉田俊郎〕

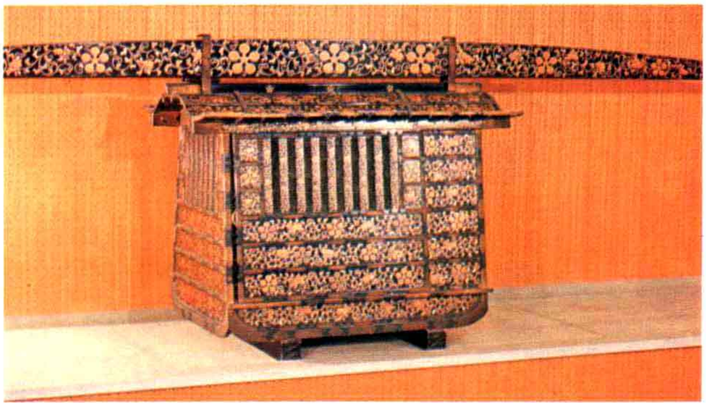
かげんそくどでんどうき【加減速度電動機】 電動機は，一般になんらかの手段によって回転速度を変えることができるが，加減速度電動機は広範囲かつ連続的に調整可能な電動機をいう。直流直巻き電動機は重負荷のときに低速度，軽負荷のときに高速度を出す特性をもつので，発車時に列車抵抗の大きい電車に適している。また，直流分巻き電動機は界磁電流の調整によって速度制御が行なえる。交流整流子電動機は直流機と同様の回転子をもち，整流子の周波数変換作用を利用して速度を大幅に変えうる。〔田村康男〕

かご【籠】 竹・トウ・アケビなどで編んだ容器の総称。編み目があらく，運搬容器として用いるものをかごといい，編み目が細かく主として炊事に用いるざる*と区別される。かごは古くからつくられ，石器時代の遺跡に見られ，日本では縄文（じょうもん）時代遺跡から出土されている。弾力性があり，吸水性の少ない竹類はかごの材料として最適で，とりわけ東南アジア・日本・中国などが竹かごの主産地である。日本では竹のほかにトウ・アケビ・ブドウ・シダなどが材料とされている。かごの編み方にはざる編み・四つ目編み・六つ目編み・網代（あじろ）編みなどが基本的な編み方で，これらをもとに各種の編み方が考案されている。かごの形態は円筒体・楕円（だえん）筒体・半球体・円錐体（えんすいたい）・長方体が基本型。用途により，農耕用のあじか・こしご，漁具用のびく*・てぼ，運搬用具としてのもっこ・背負いかご*，家庭で用いる洗い物かご，下げかごなどがある。〔直江広治〕

かご【駕籠】 乗り物の一種。高級品の〈乗り物〉，粗略な〈駕籠〉に区別される。手に下げる担架，腰部にささえる手輿（たこし）などの変化したもので，竹を編んでつくった台に病人・罪人などを乗せた編み板とよばれるものが起源である。15世紀後半，編み板の上に1本の長柄をつけ，これをかく駕籠が現われた。1595年（文禄4）豊臣秀吉*（とよとみひでよし）は駕籠乗輿（じょうよ）の制度を定め，さらに徳川家康*（いえやす）は1615年（元和1）に成定した武家諸法度*（しょはっと）で階級制度維持の一環として駕籠に乗ることをきびしく規制したが，江戸末期には町人の使用も多くなった。乗り物は，身分によってつくりの差があり，将軍家・公家（くげ）・門跡・国持大名などの貴人が乗用した。駕籠は，江戸の町で用いた辻（つじ）駕籠，武士以外の罪人護送用の鶤鶏（とうまる）駕籠，豪商の使用した法仙寺（ほうせんじ）駕籠，東海道筋で雲助がかいた粗略な山駕籠，問屋がかき手を雇って出した宿駕籠（問屋駕籠）などがある。

〔北見俊夫〕

かご【歌語】 和歌の用語の意。日常語・散文語と違って，和歌には独特の語彙（ごい）・修辞が使われる。語彙の例としては，日常語の〈鶴（つる）〉に対して〈たづ〉，〈という〉に対して〈てふ〉などがあり，修辞では枕詞*（まくらことば）・序詞・縁語*・掛けことば*などが



女　乗　物
前田家



町　駕　籠
《歌舞伎図屏風》
（部分）



山　駕　籠
《伊勢参宮風俗図会》
（部分）

駕　　籠

ある。

かこいこみ　【囲い込み】　⇨エンクロージャー

かこいまい　【囲い米】　江戸時代，幕府・大名・町人が備荒貯蓄（→荒政）・米価調節などの目的で一時的または恒常的に米を貯蓄すること，またその米。白米は腐敗するおそれがあるので籾米（もみごめ）を貯蓄したため，囲い籾ともいう。特に，一時的な囲い米は市場への米の供給量を減少させ，米価低落を防ぐための米価調節に利用された。

かこう　【加工】　他人の動産を材料として，これに手を加えて新たなものをつくり出すこと。たとえば，A所有の画布に，画家Bが絵をかいたような場合である。加工とは，もとのものとは別個の新しいものをつくることであって，修繕などとは意味をことにする。加工物の所有権は，原則として材料の所有者のものである（民法246条①）。ただし，手を加えることによって生じた価額が材料の価額を著しく超過するときは，手を加えた加工者が加工物の所有権を取得する（民法246条②）。絵画について著名な画家の場合などはその例である。しかし加工のために材料などを失って損失を受けた者は，加工物の所有者に対して償金を請求することができる（民法248条）。　〔黒木三郎〕

かこう　【火口】　火山の下のマグマ*のたまりから火道を通って上がってきた溶岩・火山ガスが地表に噴出する口。噴火口ともいう。爆裂火口は爆発によって山体の一部が飛ばされた跡の穴であるが，その形や大きさは不定で，その形成された場所によって山腹爆裂火口・山頂爆裂火口などの名が生じる。磐梯（ばんだい）山は1888年（明治21）巨大な爆裂火口をつくったことで有名である。火口を取り巻く壁を火口壁といい，通常は火口底から火口に向かってV字形に開くが，ときに垂直な壁となることもある。火口湖は火山活動が止まったあとの火口に水がたまって湖沼となったものであり，火口瀬は火口壁の一部が侵食を受けて生じた谷である。➔火山　〔平山　健〕

かこう　【嘉興】　チャシン　中国，浙江（せっこう）省北部の都市。上海（シャンハイ）の西南約90kmの揚子江デルタの中央に位置する。上海と杭州（こうしゅう）を結ぶ滬杭（ここう）鉄道が通り，江南運河にも沿う水陸交通の要地である。付近の平野で産する良質の米やダイズ・ゴマ・菜種などの農産物，魚類などの集散地として発達している。

かごう　【化合】　2個以上の元素の原子が，おのおのの原子価を満足する状態で結合すること。化合によってできる化合物は一定組成をもち，各成分の性質と異なる性質をもつ。化合は原則として定比例の法則に従い，混合と区別されるが，固体の場合には必ずしも化学量論的ではない。化合の結合様式は，一般にイオン結合*・共有結合・配位結合*・金属結合*に分類される。➔化学結合

がごう　【雅号】　文人・学者・画家・書家などが，本名のほかにつけた風雅な名まえ。号ともいう。たとえば，頼山陽・西郷南州・正岡子規・森鷗外（おうがい）・横山大観など。もと中国からはいった風習で，広く流行したが，今日ではすたれている。なお，現代作家などの筆名はヨーロッパのペンネームに相当する。

カーこうか　【カー効果】　等方性の物体に電場をかけると異方性となり，複屈折*を生ずる現象。イギリスの物理学者ジョン-カーが1875年に発見した。すなわち，ガラスを直交ニコル*の間に入れただけでは光は通らないが，ガラスに電場をかけるとアナライザー*から楕円（だえん）偏光が出てくることを見いだした。固体では電場によって生ずるゆがみによっても異方性となり，現象が複雑である。このため，以前はニトロベンゼンなどの液体における効果が注目されたが，現在ではリン酸二水素アンモニウム（$NH_4H_2PO_4$）・リン酸二水素カリウム（KH_2PO_4）などの固体でもこの効果の大きいことが知られている。カー効果は，電場の作用が止まると直ちに複屈折性もなくなり，その間の時間遅れが非常に小さいので，カーの実験のように直交ニコルの間に適当な物質を入れて電場を断続すると，非常に速い光のシャッターとして使用することができる。なお，強く磁化した金属に直線偏光を垂直に入射させると，反射光が楕円偏光になる。この現象をカー磁気光学効果という（斜め入射の場合はどんな金属でも反射光は楕円偏光となる）。　〔吉原邦夫〕

かこうかい　【華興会】　中国，清（しん）末の民族主義的革命団体。1903年，黄興*を首領として湖南省長沙（ちょうさ）で結成され，鼓

吹・起義・暗殺の3手段で革命運動を展開する方針を立てた。主として在日留学生間に勢力を占めた。のち反乱計画が漏れて黄興は日本へ逃げ，ここで孫文と会見，1905年に黄興ら湖南派の華興会，孫文ら広東派の興中会*，章炳麟(しょうへいりん)ら浙江(せっこう)派の光復会*が大同団結して中国革命同盟会*を結成，中華民国革命運動を軌道にのせることになった。〔衣川 強〕

かこうがん【花崗岩】 酸性岩の一。典型的なものは，カリチョウ石とシャチョウ石を主とし，それに10～30%のセキエイと少量のクロウンモを伴っており，それぞれの組成鉱物は肉眼で識別できる程度の大きさで，ほぼ一様に分布している。その他，場合によってはシロウンモ・カクセン石などを含み，またアルカリ岩系のカコウ岩では，ナトリウムや鉄に富む特殊なカクセン石やキ石類を伴う。アルカリカコウ岩では，リンカイ石・クサビ石・ジルコンなどの副成分鉱物が，肉眼で識別できるほどの結晶として含まれていることがある。

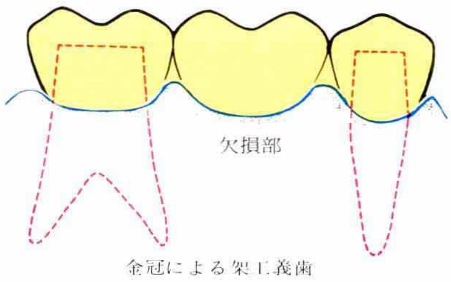
大陸の地殻(ちかく)は，大部分がカコウ岩からなりたっているが，大洋底の地殻にはカコウ岩質のものはほとんど認められない。大陸では，短径数十キロメートル以上，長径1,000km以上に及ぶ大きな岩体が，ほぼ均質なカコウ岩で構成されていることも珍しくない。深さは地震波による推定から20～30kmに及ぶと考えられる。これらは底盤*とよばれている。カコウ岩質のマグマ*は高圧のもとでは10%ぐらいの水を溶解し，そのようなマグマが完全に固結するのは660℃ぐらいである。地下増温率の高いところでは，地下15～20kmぐらいでその温度に達する。一方，過去の造山帯の地質構造を調べてみると，造山運動の末期に大規模なカコウ岩体の貫入が認められる。これらのことを考え合わせて，地向斜*の沈降で新たに地下15～20kmに沈下した岩層の中のカコウ岩質の部分がとけてカコウ岩質マグマをつくり，それが上昇して冷却固化し，カコウ岩体をつくるものと解釈される。一度に大量のマグマをつくるような熱量の供給は考えられないので，少しずつ継続的に進行して，長年の間に大きな底盤をつくるものと考えられる。

石材としてのカコウ岩は御影(みかげ)石とよばれているが，これはもと良材を産した姫路市御影の名に由来する。御影石は強度にすぐれ，美しい大きな材が得られるが，火災にあうとぼろぼろになる。現在日本で最も良質のカコウ岩石材を大量に産するのは岡山県の北木島であり，関東地方では茨城県の稲田地方である。また装飾石材としては，カリチョウ石が肉紅色を呈するものが珍重され，岡山県の万成地方が主産地である。また特に色の濃いものは，スウェーデンから輸入されている。〔片山信夫〕

かこうぎし【架工義歯】 架橋義歯・橋義歯，またはブリッジともいう。歯が一つまたはとなり合って数箇失われた場合，その両隣の残っている歯に金冠などによる維持を求めてこれを支台とし，欠損している部分に人工歯の橋渡しをして連結，固定させた義歯。固着させるので異物感がなく，強い咬合力(こうごうりょく)が得られるが，維持装置をつくるため，支台となる歯を削らなければならない。➔義歯



カコウ岩　新潟県三川温泉裏山産



架工義歯

かこうきりゅう【下降気流】 垂直方向の気流のうち，下降するものをいう。大気中では，垂直気流の大きさは水平方向の気流(風)に比べて，はるかに小さい。高気圧の中心付近には弱い下降気流があり，雷雲・台風などの強い上昇気流*の周辺には，それを補償する下降気流が存在する。下降気流中では，雲は消えるのが普通で，天気がよい。

かこうげんし【加工原紙】 ⇨原紙

かこうし【加工紙】 紙に次のような二次的処理を施したものの総称。①塗被：無機物質・高分子物質などを，溶液または懸濁液の状態で紙の表面に塗被する。代表的な製品に，鉱物性顔料を塗被したアート紙*・コート紙*，写真乳剤を塗被した印画紙*などがある。②含浸：無機物質・高分子物質などを，溶液または溶融状態で紙の内部に浸み込ませる。たとえば，ワックスを含浸させたキャラメルの包装紙など。③張り合わせ：紙の表面にプラスチックフィルム・金属箔(きんぞくはく)などを張り合わせる。たとえば，ポリエチレンフィルムを張った耐湿包装紙，アルミ箔を張った食品・たばこの包装紙など。④その他：紙自体を化学的または物理的に処理する。代表的製品として，前者については硫酸紙*，後者についてはクレープ加工をした紙タオルなどがある。以上のほか段ボール*・色紙なども広い意味で加工紙に含める場合がある。〔角祐一郎〕

かこうしきこうぞう【架構式構造】 柱・梁(はり)・桁(けた)で長方形または台形の骨組みをつくって上部の荷重をささえる構造。楣(まぐさ)式構造(リンテル構造)ともいう。壁とアーチでささえるアーチ構造*に対比される構造法で，日本の木造建築がこれに属し，また，ギリシアの神殿建築は石造りでの代表例である。

かこうしょくひん【加工食品】 食品をそのままではなく，加工して別の形・性質にした食品。1次加工食品と2次加工食品とがある。たとえば小麦を製粉して得られる小麦粉は1次加工食品であり，これを原料としてさらに加工したパンやめんは2次加工食品である。第2次世界大戦後，わが国における加工食品の消費の増大はきわめて著しい。

がこうそう【鵞口瘡】 口腔(こうこう)粘膜，舌の表面，咽頭部(いんとうぶ)に鵞口瘡菌が繁殖し，ミルクかすのような白～灰白色の斑点(はんてん)をつくる疾患。乳児に多く，年長児にはまれである。健康な子にもできるが，多くは栄養不良・乳児下痢症・感冒その他の疾病(しっぺい)に起因して生じる。1～2%ゲンチアナ紫液・ホウ砂グリセリン液を1日2～3回塗布することによりなおる。

かこうにゅう【加工乳】 市乳*に対して，生乳・乳製品に次のような加工を施したものの総称。①生乳に栄養補強の意味で乳固形分や微量栄養素を添加する。前者に濃厚牛乳，後者にビタミン強化牛乳がある。②脱脂粉乳に乳脂肪を加えたり，全脂粉乳をとかしたりして市乳と同様な組成にしたもの。還元牛乳ともいう。この場合，濃縮脱脂乳や濃縮全乳を使用することもある。

かこうはんえん【可航半円】 台風*が海上にあるとき，その進行方向に向かって左半分。これに対して右半分は危険半円という。ただし，南半球ではこの逆。可航半円内では，台風による風と台風を動かしている一般場の風とが打ち消し合って風が比較的弱くなり，航行する船舶にとって危険が少ない。危険半円内では，台風自身のもつ風と台風を押し流す周囲の風とが重なって異常に風が強く，風に流されてゆくと中心に巻き込まれて脱出困難となり，危険が多い。可航半円では，流されても台風の後面に行くので危険が少ない。〔曲田光夫〕

かこうひん【火工品】 火薬を使用した加工品のこと。産業用火工品には，導火線*・雷管*，捕鯨用の銛(もり)などにつける信管*，金属やコンクリートにくぎや鋲(びょう)を打ち込むための鋲打ち空包・信号炎管などがある。このほか軍事用火工品がある。

かごうぶつ【化合物】 2種以上の原子が結合し，そのもとの原子のもつ性質とまったく異なった物質をつくるとき，この物質を化合物という。化合物ではその結合原

子の割合には一定の法則があり，任意の割合に変えることはできない。水素の２原子と酸素の１原子は水という新たな化合物をつくり，水素の２原子と酸素の２原子とは過酸化水素という化合物をつくる。空気は窒素と酸素その他の気体からなっているが，化合物ではなく混合物*である。また各種の合金も化合物ではない。　〔鈴木　寛〕

かごうぶつはんどうたい　【化合物半導体】　⇨半導体

かこうぼうえき　【加工貿易】　原材料を加工して貿易商品につくり変えたものを，外国に売りまたは外国から買う貿易方式の総称。これには，①外国産の原材料を輸入し，これを自国内で加工し，別種の製品として外国に売り出す加工輸出貿易と，②国産の原材料を外国に輸出し，外国でこれを加工させ，新規の商品として自国に買い入れる加工輸入貿易とがある。前のは外国の豊かな資源を利用する点で，あとのは外国の安い賃金や特殊な技術を利用する点で，国民経済の発達に大きな効果をもつ。〔上坂酉三〕

かこうりようぎょぎょう　【火光利用漁業】　集魚燈*を用いて魚群を濃集させて漁獲する趣向の漁業。走向性をもっている魚類その他の水産生物，あるいは燈下に集まる餌料（じりょう）生物を求めて集群する水産生物に有効な漁法で，サンマ棒受け網が典型的なものである。昔はかがり火を燃して発光させたので〈たき入れ〉の語が残っている。

かごかきだい　硬骨魚類・カゴカキダイ科。全長20cmほどになる海産魚。黄色の地に黒い水平じまがあざやかである。このしまは，頭のほうがやや高く，尾のほうへゆるく傾いている。初夏のころ，磯（いそ）に現われる１cm内外の稚魚は，親よりもしまの数が少なく，体高が低く，体の地色が金色に輝き，別の魚のように見える。本州中部以南の沿岸の岩の多いところにすむ。食用になる。

かこがわ　【加古川】　京都府と兵庫県の境，遠坂峠付近に源を発し，篠山（ささやま）盆地を西に流れ，兵庫県中央部を西南流して加古川市と高砂（たかさご）市の境で瀬戸内海に注ぐ。流程111km。下流一帯は姫路平野の東部にあたり，米をはじめとする農産の豊かな平野であったが，近年は工業地帯に変わりつつある。

かこがわ　【加古川（市）】　兵庫県中南部の市。江戸時代は山陽道の宿場町で，1950年（昭和25）市制施行。翌1951年，古くは〈阿閇津（あへつ）〉とよばれた別府（べふ）港をもつ別府町を合併して，播磨灘（はりまなだ）に臨む臨海都市となった。人口20万9,000。産業三大別人口比は４：51：45。市域は加古川下流に沿い，工業用水に恵まれて〈播州（ばんしゅう）織〉の生産が古くから盛んである。また鉄鋼・機械・化学などの近代工業も発達し，1963年，播磨工業整備特別地域に指定された。



過去現在因果経絵巻（部分）　奈良国立博物館蔵

山陽本線・加古川線・高砂線の分岐点で，国道２号線・同加古川バイパスが通じ，別府港は工業港として重要である。聖徳（しょうとく）太子の建立（こんりゅう）と伝えられる鶴林（かくりん）寺（播磨法隆寺）があり，白鳳（はくほう）期の本堂・太子堂は国宝，観音像・鐘楼は重要文化財に指定されている。また，海岸にはマツの美林が広く，尾上（おのえ）神社の〈尾上の松〉は対岸の高砂（たかさご）市にある高砂神社の〈高砂の松〉とともに相生（あいおい）の松として古くから知られている。

かこげんざいいんがきょう　【過去現在因果経】　５世紀中葉，宋（そう）時代に中国を訪れたインド僧グナバドラ（求那跋陀羅）の訳出した経典。４巻。ブッダの伝記を中心に，過去世の業*がいかに現在の結果として現われるかを説く。仏伝として比較的まとまっており，中国・日本で広く読まれた。➔次項

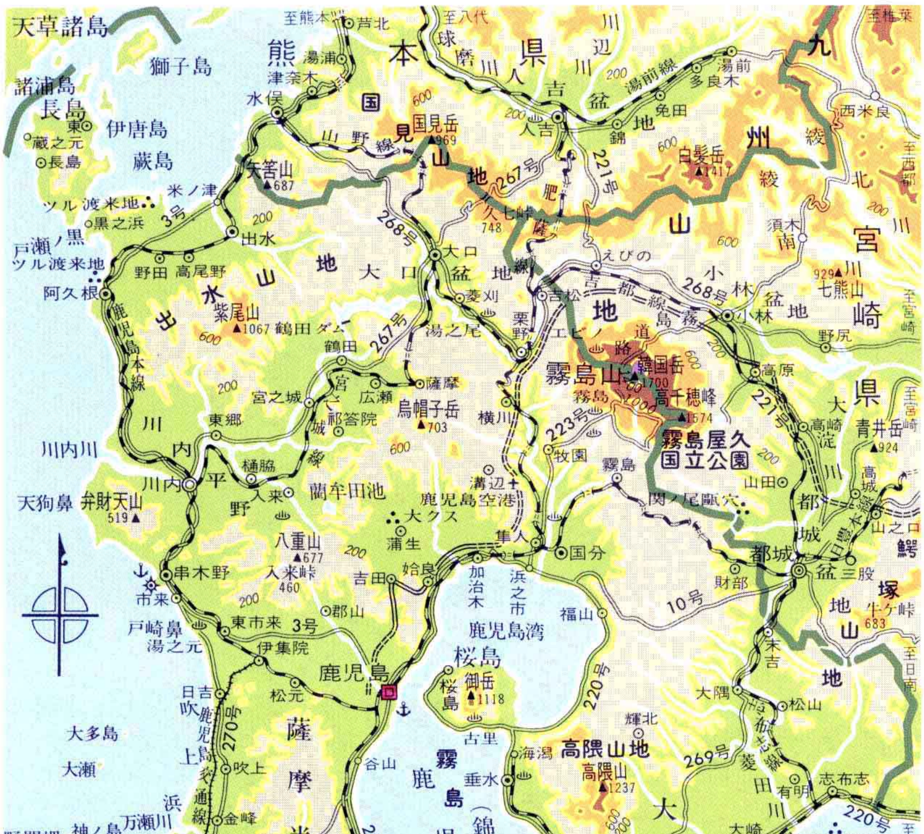
かこげんざいいんがきょうえまき　【過去現在因果経絵巻】　ブッダの伝記を説いた経典《過去現在因果経*》に絵を添えた絵巻物。８巻からなり，略して《絵因果経》ともいう。下段には経文を書写し，上段にはこれに相当する絵を説明的に描く。現在，報恩院・上品蓮台（じょうぼんれんだい）寺・東京芸術大学などに，〈古因果経〉とよばれる奈良時代につくられたと思われる数巻分が伝わっている。いずれも，経文は唐風のきびしい楷書（かいしょ）を用い，絵は六朝（りくちょう）ふうの簡潔な描写にあざやかな彩色を施したものである。また，鎌倉中期につくられた〈新因果経〉２作（根津美術館・大東急記念文庫蔵）は，ともに1254年（建長６）法橋慶忍・聖衆丸父子の筆とされるが，古因果経の忠実な模写ではなく，筆致があらく色彩も淡白である。〔村重　寧〕

かごさかとうげ　【籠坂峠】　富士山の東麓（とうろく），山中湖と南の須走（すばしり）・御殿場方面とを結ぶ峠。標高1,104m。山梨・静岡県境で，国道138号線（富士吉田（ふじよしだ）～小田原）がここを通る。古くは甲斐（かい）（山梨県）・信濃（しなの）（長野県）から相模（さがみ）（神奈川県）へ出る鎌倉往還の要衝であった。付近は富士山斜面の高原で，ゴルフ場やスキー場がある。

かごじ　【籠字】　文字の点画の輪郭線だけを原本どおりに細い線で敷き写した文字。習字の手本にした。籠抜き・双鉤（そうこう）ともいう。

かごしま　【鹿児島（県）】　九州地方の南部にある県。北は熊本県，北東は宮崎県に接し，東・南・西を海に囲まれる。大隅（おおすみ）・薩摩（さつま）の全域を占め，面積は9,153km²，九州７県中最大で，全国でも北海道を除く第９位の大県である。人口179万2,000，人口密度１km²あたり196人。県木はカイコウズ，県花はミヤマキリシマ，県鳥はルリカケス。県庁のある鹿児島以下14市と，12郡（73町９村）に分かれる。

【自然】本土地区と薩南諸島地区とに大別される。本土地区は山がちで，平地や河川に乏しい。九州山地に属する国見山地や霧島火山群が熊本・宮崎両県境をくぎる。霧島火山群は宮崎県境にまたがる韓国岳（からくにだけ）（1,700m）を主峰とする険しい山地で，その展望は雄大で，山麓（さんろく）には多くの温泉がわきだす。霧島火山帯は，霧島火山群からさらに南へ延びて県のほぼ中央部を縦断し，南西諸島を経て台湾の北端にまで達しているが，鹿児島湾内に桜島の御岳（おたけ）（1,118m），薩摩半島南端に開聞岳（かいもんだけ）（924m）などの活火山が秀麗な姿でそびえ，付近には温泉も多い。霧島地区は，鹿児島湾・屋久島の両地区を含めて霧島屋久国立公園*に指定されている。このように火山地形による観光資源には恵まれているが，



鹿児島県

火山の噴出物の堆積(たいせき)によって生じたシラス台地やボラ層・コラ層(→シラス)などの地層が県域の約80%をおおい，農業上の大きな妨げとなっている。山地は北西に出水(いずみ)山地，東部に鰐塚(わにづか)山地，薩摩半島に薩南山地，大隅半島に肝属(きもつき)山地があり，いずれもほぼ南北に走っている。平地は，西部海岸に出水・川内(せんだい)の両平野，山間部には大口盆地があり，薩摩半島西岸の吹上浜は砂丘地帯で，鹿児島湾奥の沿岸部に国分平野，その東方に都城(みやこのじょう)盆地，大隅半島に肝属平野が開ける。県北から西海岸へ流れる川内川のほか，めぼしい河川はない。延長1,353kmに達する海岸線は屈曲に富み，東部の志布志(しぶし)湾岸一帯は日南海岸国定公園*に含まれる。薩南諸島は鹿児島本土と沖縄島との間，北緯30～27°に弧状に連なる列島で，北から口之三島・大隅諸島・吐噶喇(とから)列島・奄美(あまみ)諸島がある。西部沿岸の長島や甑(こしき)列島も県域に属し，離島の面積を合わせると県の面積の3分の1に達する。

気候は，わが国の最南端の位置と季節風や黒潮の影響によって，1年を通じて温暖多雨な南海型気候を呈し，雪はほとんど降らない。海岸地域にはソテツ・ビロウ・ガジュマルなどの亜熱帯植物が自生し，薩南諸島にはバナナ・パパイアも繁茂する。年平均気温は16～18℃で，鹿児島市で17.0℃，屋久島で19.4℃に達し，年間降水量1,800mmを越す地域が広がり，屋久島は年間3,037mm(1967)で日本の最多雨地域の一つである。台風の進路にあたり，わが国を襲う台風の約3分の1が上陸して，被害が大きい。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は26：25：49で，第1次産業の比率は青森・岩手に次ぎ全国第3位である。**〈農林水産業〉**典型的な農業県であるが，農家は零細経営が多く，シラス台地や台風の災害などの悪条件もあって生産力はきわめて低く，兼業農家が全農家の半ば以上を占める。県民分配所得1人あたり100万6,000円は沖縄県に次ぎ全国で2番目に低く，東京都の50%しかない。水田率は35%で畑作が卓越し，温暖な気候のために裏作が進み耕地の利用度が高い。サツマイモは全国一の収量があり，食料・飼料となるほか，デンプン・しょうちゅう・水あめ・ブドウ糖などの原料になる。米の平年収量は17万tで自給できないが，近年は農業構造の改善によって早期水陸稲の栽培が進められている。菜種の年産は3,530tで，青森県に次ぐ全国第2位の収量があり，野菜類の促成栽培も盛んで，特産に桜島ダイコンがある。薩南諸島ではサトウキビの栽培が行なわれ，年間67万t(1974)を産して，沖縄(116万t)についでいる。なお，日本では鹿児島・沖縄の両県を除いて，現在サトウキビを作っているところはない。果樹では早期栽培のミカン・ビワなどが県外へも移出され，ポンカンも全国一の産量がある。タバコの栽培は，慶長年間(1596～1614)以来といわれる古い歴史をもち，出水・指宿(いぶすき)・垂水(たるみず)などを主産地として年間約10,000tの生産がある。なお，《小原節(おわらぶし)》で名高い国分タバコは，現在は保存用としてわずかに栽培されているにすぎない。薩摩半島中央部の知覧町周辺では良質の紅茶を産し，その栽培区域は枕崎(まくらざき)市・志布志町・種子島(たねがしま)にも広がりつつある。畜産業は盛んで，役肉牛は23万5,000頭(全国1位)，ウマ1,900頭(北海道・沖縄に次ぎ3位)，ブタ37万2,000頭(全国4位)，ニワトリ698万羽が飼育されており，乳牛は少なかったが，最近急増して2万6,300頭となり，九州では第一である(1974)。川内川流域では養蚕も行なわれている。暖帯林・亜熱帯林が発達しており，林野面積は県域の63%に及び，国有林の比率が高い。素材生産量は年間136万1,000m^3に及び(全



鹿児島県 鹿児島市から鹿児島湾を隔てて桜島を望む。複合火山の桜島は，しばしば噴火をくり返している

国6位)，特用林産物では，竹材(全国1位)・まき(全国2位)・木炭・乾燥しいたけなどを産する。屋久島のスギ，大隅半島のカシは特に名高く，樟脳(しょうのう)の原料となるクスノキも全国産量の半ばを占める。水産業ではおもにイワシ・アジ・サバなどの沿岸漁業が行なわれ，零細漁業が多く，経営の近代化が図られている。枕崎・串木野(くしきの)・阿久根(あくね)・鹿児島・山川などの良港が多く，山川・枕崎両港はカツオ・マグロなどの遠洋漁業の基地となり，カツオは早春から水揚げされ(年間20,000～30,000 t)，かつお節に加工されて京阪神(けいはんしん)方面へ移出される。《鉱工業》地下資源は豊富で，古くから金の産地として知られ，串木野・大口・春日(かすか)(枕崎市)・赤石(知覧町)の各鉱山で年間約2 tを越える産出があり，北海道に次ぐ全国第2位である。砂鉄は鹿児島湾沿岸・薩摩半島南岸・種子島沿岸などが主産地で，屋久島ではタングステンを産する。電力は，かつては他県から供給を受けていたが，1964年(昭和39)に川内川第1発電所(12万kW)・第2発電所(15,000kW)が完成した。屋久島の包蔵水力は31万kWといわれるが，開発はあまり進んでおらず，電力開発による県の工業の振興が期待されている。工業は，古い伝統をもつ薩摩焼・大島紬(おおしまつむぎ)などの家内工業があり，サツマイモの加工工場や，木材・木製品をつくる小規模な工場が各地に分布している。川内市の製紙・パルプ，串木野市のハム，屋久島の耐火れんが，薩南諸島の製糖などの近代工業は規模が小さく，製品出荷額は2,740億円(全国40位，1972)である。

〔交通・都市〕陸上交通は，山地に妨げられてあまり発達していないが，九州地方の二大動脈をなす鹿児島本線と日豊本線が熊本県と宮崎県からそれぞれ鹿児島市まで延びている。鹿児島本線からは肥薩線・指宿枕崎線が，日豊本線からは志布志線・古江線が分かれて，本線とともに県内の主要交通路となっている。最近は観光ルートの整備に伴い，バス交通も発達している。海上交通では，一般に大型外航船の出入りできる良港が多い。南方の薩南諸島には鹿児島を発着点とする定期航路が通じ，鹿児島新港などの整備が進んでいる。西海岸の出水・阿久根・串木野などからは，天草(あまくさ)諸島や甑列島にも航路が通ずる。鹿児島空港からは，東京・大阪・福岡の各地や，薩南諸島・沖縄を結ぶ定期航空路が開けている。人口はおもに南部の半島部および西部の海岸地域に密集し，北部山地には少ない。南部には鹿児島湾を囲んで，薩摩半島側に鹿児島市をはじめ，指宿・枕崎・加世田・串木野などの諸都市が発達し，大隅半島側には国分・垂水・鹿屋(かのや)などの諸都市がある。西部海岸沿いには，北から出水・阿久根・川内などの諸都市があり，南方諸島には奄美諸島の中心をなす名瀬，種子島北端の西之表などの都市が発達している。県下には14の市があるが，出水・大口・国分・垂水・加世田・指宿・西之表の7市は，1953年の町村合併促進法以後の新市である。

〔歴史〕宮崎県と同様，わが国の発祥の土地として多くの神話・伝説が伝えられ，アジア大陸や南洋に近いために海外と接する機会も多く，最も古くから開けた地域の一つである。県下には多くの古墳群があり，古代には大和(やまと)や出雲(いずも)に劣らぬ有力な豪族のいたことが推定され，熊襲*(くまそ)・隼人*(はやと)の活躍はしばしば大和朝廷を脅かすほどであった。奈良時代から平安・鎌倉時代を経て室町時代に至るまでには，坊津(ぼうのつ)からの遣唐使船の発着や，薩摩・大隅を根拠地とする倭寇*(わこう)の活躍など，大陸や南方との交流がみられた。鎌倉時代には，1197年(建久8)に島津忠久(ただひさ)が，薩摩・大隅(鹿児島県)・日向(ひゅうが)(宮崎県)3国の守護職(しゅごしき)に任ぜられ，戦国時代にはいってからは地方の小豪族を押えて南九州を支配した。1543年(天文12)にはポルトガル人が種子島に漂着してはじめて鉄砲を伝え，1549年には宣教師ザビエルが鹿児島で布教を行ない，西欧文明を紹介している。島津氏は江戸時代にも引き続き，薩摩・大隅両国と日向の一部および琉球(りゅうきゅう)15島を含む薩摩藩七十二万九千石を統治したが，鎖国時代にも幕府の禁を破り，琉球を中継地とする密貿易によって海外の知識を吸収した。幕末には島津斉彬(なりあきら)が紡績・反射炉・造船・ガラスなどの洋式工業や科学をいちはやく取り入れて日本の産業革命のさきがけをなし，その弟久光(ひさみつ)も公武合体を主張して，王政復古に大きな役割を果たしている。1871年(明治4)の廃藩置県によって鹿児島県と都城県が置かれたが，1873年に宮崎県が新設されると，都城県は廃止になった。1877年には西郷隆盛(たかもり)が指導する旧士族たちによって西南の役が起こっている。県域にはその後もしばしば変遷があり，宮崎県との間に離合があったが，1896年に現在の県域に確定した。明治の開国後は，外来文化が日本の中心部に直接はいるようになって鹿児島県は辺境化し，基礎資源にも恵まれず，近代工業の発達が遅れた。第2次世界大戦以後，北緯30°以南はアメリカ合衆国の行政下に置かれたが，1952年29°まで，1953年には奄美大島を含む27°までの施政権がわが国に返還された。〔浅井得一〕

かごしま【鹿児島(市)】鹿児島県の南部，県庁のある都市。江戸時代は，島津氏七十二万九千石の城下町で，琉球(りゅうきゅう)を中継地として対外貿易が盛んに行なわれたが，西南の役で市街は灰燼(かいじん)に帰した。1889年(明治22)市制施行。第2次世界大戦末期，市域の大半を焼失したが，その後順調に復興した。1967年(昭和42)に南隣の谷山市を合併。人口49万7,000。

薩摩(さつま)半島の東岸，鹿児島湾湾奥部に臨み，桜島と相対して南国情緒豊かな風光美に恵まれ，〈東洋のナポリ〉とよばれる。産業三大別人口比は4：24：72。行政・商業・観光を主とする地方中心都市の性格が強い。食品・繊維・木材・木製品などの軽工業が行なわれ，国鉄とたばこの両国営工場があるが，近代工業はあまりふるわず，臨海工業地帯の造成による振興が進められている。水陸交通の要地で，鹿児島本線・日豊本線の終点となり，指宿枕崎(いぶすきまくらざき)線を分岐し，国道3号線・10号線・224号線・225号線・226号線が集まる。また湾内航路や奄美(あまみ)大島・沖縄への航路の起点ともなる。鹿児島空港からは，大阪・福岡・種子島(たねがしま)へ定期航空路が通ずる。鹿児島新港と商港の整備が進められ，桜島とはフェリーボートの便がある。県の文教の中心で，鹿児島大学があり，薩英戦争時の砲台跡，照国神社，西郷隆盛(たかもり)の遺跡などの名所・史跡に富み，城山には亜熱帯植物(天然記念物)が茂る。〔浅井得一〕

かごしまこうつう【鹿児島交通】鹿児島県全域にわたるバス路線網と伊集院(いじゅういん)～枕崎(まくらざき)間の地方鉄道などを営

業する交通企業で，1964年(昭和39)に南薩(なんさつ)鉄道と三州自動車が合併して発足した。鉄道は営業キロ数49.6，1914年(大正３)に南薩鉄道によって開業したのがはじまりで，薩摩半島西部の中心的な交通路としての役割を果たしてきた。

かごしまじんぐう　【鹿児島神宮】　鹿児島県姶良(あいら)郡隼人(はやと)町にある。天津日高彦穂穂出見尊(あまつひだかのひこほほでみのみこと)を祭る。もと大隅正八幡宮(おおすみしょうはちまんぐう)と称された。例祭は８月15日，１月17日の七種(ななくさ)祭りには隼人舞が奉納される。

かごしまぼうせきしょ　【鹿児島紡績所】　江戸末期，薩摩(さつま)藩が鹿児島に設立した日本最初の洋式紡績工場。藩主島津忠義(ただよし)がイギリス製機械を取り寄せ，1867年(慶応３)イギリス人技師の指導で操業を開始した。1869年(明治２)大阪の堺(さかい)に分工場(堺紡績所)を設立。廃藩置県後も旧藩主島津氏が経営した。1882年商通社と改称，1898年経営難により閉鎖された。

かごしまほんせん　【鹿児島本線】　門司(もじ)港〜熊本〜鹿児島間の国鉄路線。営業キロ数399.5。他に貨物支線18.5kmがある。1891年(明治24)門司〜久留米間の開業に始まり，1927年(昭和２)全通した。九州西岸縦貫の幹線鉄道で，全線が電化されている。北九州・福岡・大牟田(おおむた)・熊本・八代(やつしろ)・水俣(みなまた)などの都市が沿線にある。かつては現在の肥薩(ひさつ)線のルートを経由していたが，急勾配(きゅうこうばい)区間を含んでいたため1927年海岸回りの路線の開通とともにルートを変更して現在の形態となった。

かごしまわん　【鹿児島湾】　鹿児島県の二大半島である薩摩(さつま)半島と大隅(おおすみ)半島とによってはさまれた九州南部の大湾。錦江(きんこう)湾ともいう。湾の北部に桜島があったが，1914年(大正３)の噴火による溶岩流で陸続きとなり，海岸線はやや複雑化した。港は，桜島から湾奥部にかけての姶良(あいら)カルデラ，湾口の指宿(いぶすき)カルデラ，その間の地溝(ちこう)陥没などによって生成されたといわれ，湾岸にはカルデラ壁の急斜面が残されている。南北約70km，幅10〜20kmに及び，水深は中央部で237ｍに達する。桜島一帯と湾口一帯は霧島屋久国立公園の一部となっている。湾内ではイワシ漁が盛んである。　〔山口恵一郎〕

かこそう　【夏枯草】　⇨ウツボグサ

かごたけ　【籠茸】　担子菌類・カゴタケ科。夏季・秋季に山中の林間の地上に発生するかご形のきのこ。幼時は約２cmの白色の卵形。のち，網籠(あみかご)状の托(たく)(きのこの本体)が中より出てくる。かごの腕は白くて細い。熱帯系の種類で，珍菌である。

かこちょう　【過去帳】　死者の戒名または法名に俗名を付記し，死亡の年月日・年齢，生前の簡単な事跡などをしるした帳簿。1013年(長和２)にしるされた《二十五三昧結縁衆(ざんまいけちえんしゅう)過去帳》は最古のもので



籠釣瓶花街酔醒〈見染め〉の場　夜桜の新吉原で八ッ橋(中村歌右衛門)の道中姿を見た次郎左衛門(中村勘三郎)は魂を奪われる



笠　折編笠　佐渡

ある。鎌倉時代以降，檀家制度の発展に伴ってしだいに一般化した。現在では寺院はもちろん，信者の家庭でもこれを保持して，祖先供養のため祭っている。

かこつ　【化骨】　骨化ともいう。動物の骨組織ができることで，骨細胞が中心となり，その間に堅固な細胞間物質が沈着する。この物質は，骨素または骨質とよばれる一種のタンパク質と，リン酸カルシウム・炭酸カルシウムなど多量の無機塩が沈着したものである。

かごつるべさとのよいざめ　【籠釣瓶花街酔醒】　歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称《籠釣瓶》。３世河竹(かわたけ)新七作。1888年(明治21)千歳座(ちとせざ)(のちの明治座)初演。俗説〈吉原(よしわら)百人斬(き)り〉を脚色した世話物で，百姓佐野次郎左衛門(じろざえもん)が遊女八ツ橋にほれて通いつめたすえにあいそづかしをされ，銘刀籠釣瓶で八ツ橋はじめ多くの人を殺傷する話。主人公が仲の町で八ツ橋の艶姿(えんし)に魂を奪われる〈見染め〉と，女に振られた恨みを述べる〈縁切り〉の名せりふが見どころである。　〔松井俊諭〕

かこぼら　【水夫法螺】　軟体動物・腹足類・フジツガイ科の巻き貝。殻(から)は太い紡錘形で，殻高(かくこう)16cm，殻径９cmに達する。殻表にかっ色の薄い皮をかぶる。この皮には縦に数列のひだがあり，そこから数多くの突起が出ているので，みのを着ているようで，ミノボラともいわれる。ふたは厚い革質。殻の口の縁に焦げ茶と白の虎斑(とらふ)が目だつ。肉は，淡黄色地に黒いまだらがあって毒々しいが，食用になる。房総半島以南，広く西太平洋各地に分布し，浅い岩礁にすむ。イセエビ網によくかかる。

かごめかごめ　古くからある子どもの遊戯の一。日本の遊戯には神事を象徴したものが多いが，これも神の口寄せのやり方であるといわれる。ひとりの子どもがかがみ，そのまわりに子どもたちが手をつないで輪をつくり歌をうたいながら回る。ふつう，輪の中にかがんでいるのは鳥のカゴメと考えられているが，元来は小仏・地蔵であり，〈かごめかごめ〉というのは〈くぐめくぐめ〉ということばの転訛(てんか)である。地方によっては，〈おのりやれ地蔵さま〉と唱えて回っていると，中にいる子どもに地蔵が乗り移って種々の問いに答える同起源の遊びがあるが，それがこの遊びの原初形態と考えられる。　〔渡辺欣雄〕

かこん　【仮根】　下等植物の葉状体にみられる根。シダ類の前葉体・苔(たい)類の葉状体の腹面などに生ずる。細長い単細胞，または細胞列からできた簡単な構造をもち，付着・水液吸収などの役をして，維管束植物の根毛に似る。藻(そう)類では偽組織をなして，種子植物の根に似ている。

かさ　【傘】　さしがさ・からかさともいう。直接頭部に着装される笠(かさ)に対し，装置された長柄を手にかざすもので，雨がさ・日がさがある。からかさの語源は，唐(から)に由来するとする異邦舶来説や機械(からくり)に由来しろくろ細工によって自由に開閉できることをさすとする説などがある。わが国には，552年(欽明13)百済(くだら)の聖明王の寄進によって布帛(ふはく)を張った〈きぬがさ〉が伝来し，上流社会で用いられた。鎌倉・室町時代には，朱柄(あかえ)がさと称する紙を張った長柄がさが現われたが，民間にかさが普及したのは江戸時代以後である。

雨がさには蛇(じゃ)の目がさ・大黒屋がさなどがある。開くと蛇の目模様が現われる蛇の目がさは元禄(げんろく)年間(1688〜1703)に流行した。また，大阪で大黒屋の〈つんぼがさ〉といわれた太骨の全面に白紙を張った大黒屋がさは正徳年間(1711〜1715)に流行し，現在番がさの名でよばれている。

日がさは延宝〜貞享年間(1673〜1687)ごろ花鳥・唐草などを描いた〈絵日がさ〉として婦女子の間で流行した。また，正徳のころからは藍紙(あいがみ)一色張りの日がさが医師・儒者などに用いられた。なお，布張りの〈洋がさ〉は江戸末期に輸入されたものである。耐久性と軽便性から他を圧倒し，種々改良が加えられて現在一般に用いられている。➔パラソル　〔宮本袈裟雄〕

かさ　【笠】　かぶり物の一種。傘(かさ)と区別するために〈かぶりがさ〉ともいう。か

さの歴史は古く，古墳時代の埴輪(はにわ)に市女笠(いちめがさ)のような形が見られ，また《日本書紀》にも記述がある。かさの組織を大別すると編笠・組笠・縫い笠・押笠・張り笠・塗笠の６種である。材料はイグサ・イネの茎，ヒノキ・スゲなどが用いられている。中でもイグサ・稲わらをおもな材料とする軽快な編笠は日よけ用として広く用いられた。また，菅笠(すげがさ)とよばれる縫い笠は，現在も雨具として東日本に用いられている。なお，明治以後，各種の帽子が一般に普及し，かさの使用を圧倒してきた。

ガザ［Gaza］ アラブ連合のシナイ半島北部，地中海岸から５km内陸にはいったところにある都市。砂漠(さばく)の中の低地にあり，短い冬に少量の降雨がある。付近では小麦・大麦・オリーブ・ヒツジなどを産する。BC1200年ごろに侵入したペリシテ人によって建設された五都の一つとして知られ，また《旧約聖書 士師記》にある英雄サムソンが活躍した舞台ともされている。BC592年からペルシアの領土となり，BC332年アレクサンドロス大王に征服され，ローマ帝国時代にはキリスト教の一中心となった。その後634年からはアラビア人に占領され，1517年からはトルコの支配を受けたが，1799年ナポレオンによって占領された。第１次世界大戦中はイギリス軍が占領してスエズ運河防衛の拠点とし，戦後はイギリスの委任統治領ガザ-パレスチナ地区の行政中心地となった。第２次世界大戦後の1947年，国際連合はガザ-パレスチナ地区のエジプト編入を決めたが，イスラエルはこれに強く反対し，1948～1949年のパレスチナ戦争でイスラエルに占領され，1949年の休戦協定で，ガザ-パレスチナ地区は分割されて海岸沿いのガザ市を含む細長い地域ガザ-ストリップ(面積380km²)がエジプトに残され，ここに80,000の難民がイスラエル側から流入した。1956年のスエズ戦争で再びイスラエルに占領されたが，1958年国際連合を通じてアラブ連合にもどされた。しかし1967年の中東戦争で，シナイ半島一帯とともに三たびイスラエルに占領され，現在に至っている。〔大崎　晃〕

かさい【火災】 ⇨次ページ

かさい【果菜】 野菜類のうちで，植物学的にいう果実を食用に供するために栽培する種類の総称。たとえば，キュウリ・トマト・ナス・ピーマンやイチゴ・スイカ・メロンなどは果菜である。しかし，イチゴ・スイカ・メロンなどは果菜としてつくられているが，市場ではくだものとして扱われるのが普通である。未熟なエンドウやインゲンなども果菜であるが，マメ類として別にすることもある。

かさい【加西(市)】 兵庫県中南部の市。江戸時代の宿場町で，播州(ばんしゅう)白もめんの特産地であった北条(ほうじょう)町が加西・泉の２町と合併して1967年(昭和42)市制施行。人口52,000。姫路平野の北端，加古川支流の万願寺川に沿う沖積地(ちゅうせきち)と丘陵地上に位置する。産業三大別人口比は15：49：36。加西地区は良質の播州米・タバコ・野菜・ブドウの産地として知られ，近年パイロット-ファームによる農業構造の改革が進んでいる。泉地区は播州織物の主産地で，また畳表・ござの特産があり，北条地区には三洋電機とその下請け工場が進出し，工業都市としての動きが活発である。北条線が山陽本線加古川駅へ通ずる。北条地区にある一乗寺は，西国三十三所第二十六番札所として知られ，聖観音(しょうかんのん)立像のほか多くの重要文化財があり，三重塔と聖徳太子および天台高僧像十幅は国宝である。加西・泉地区には古墳群が多い。

がざい【画材】 ①絵画の素材。制作を動機づけた人物・風景・静物などを包括していう。②絵画の用具・用材。いわゆる基底物(画布・紙)・彩料(絵の具)・描具(筆)などからなり，洋画・日本画の別がある。洋画(油絵)では，木枠(きわく)に張ったカンバスに油絵の具(解油(ときあぶら)でといて用いる場合が多い)で描かれる。解油とは乾性油(リンシード-オイル・ポピー-オイル)，揮発性油(テレビン油・ペトロール)があり，シッカチーフなどの乾燥促進剤を混入したりする。また，各種の画用ニスも用いられる。これらはいわゆるメジウム(媒質)として知られている。油絵の筆は毛質によって軟毛・硬毛，形によって平筆・丸筆と区別され，筆の代わりにペインティング-ナイフが用いられたりする。このほか，色を調合するマホガニーやサクラ材のパレット，絵をかけるイーゼル(画架)など各種の道具がある。日本画では，木枠に張ってくどうさ(浸透防止剤，膠(にかわ)の薄い溶液と明礬(みょうばん)からつくる，礬水)〉を引いた絵絹・紙(鳥の子・麻紙)に絵の具・胡粉(ごふん)・膠などによって描かれる。筆は線描用・彩色用・隈筆(くまふで)・面相筆などと分かれ，刷毛(はけ)も用いられる。また，箔(はく)押しの技術に用いられる各種の材料・道具もある。その他，筆洗・さら・乳鉢(にゅうばち)・膠鍋(にかわなべ)・水さじ・羽根箒(はねほうき)・硯(すずり)などがある。

かさいけいほう【火災警報】 火災の発生しやすい状況のとき発せられる警報。気象庁長官・管区気象台長・地方気象台長または測候所長は，気象の状況が風速や湿度などからみて火災の予防上危険であると認めたときは，その状況を直ちにその地を管轄する都道府県知事に通報し，都道府県知事は直ちに市町村長に通報する。市町村長はこの通報を受けたとき，または独自の判断で気象の状況が火災の予防上危険であると認めたときは，火災に関する警報を発することができる。火災警報下では火の使用制限(条例で火入れ・火遊び，またはたき火の禁止などを決めている)に従わなければならないことになっている。この制限に従わないと法律により罰則が適用される。

かさいぜんぞう【葛西善蔵】(1887～1928) 小説家。青森県弘前(ひろさき)市の生まれ。1905年(明治38)徳田秋声の門にはいり，《奇蹟(きせき)》同人と交わり，1912年(大正１)同誌に処女作《哀(かな)しき父》を発表，《子をつれて》(1918)で認められた。私小説作家の典型といわれ，貧困・病苦・放浪の自己の生活を描いた。その作品は，きびしい自虐性の中に一種の詩情と飄逸(ひょういつ)味をおびている。

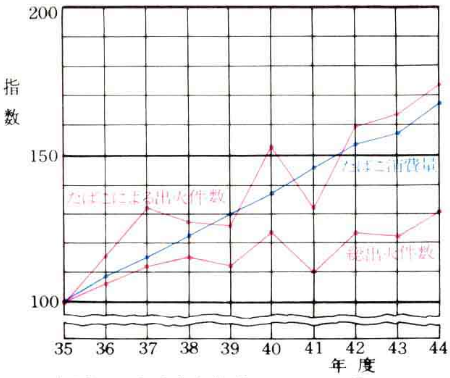
かさいほうちき【火災報知機】 公設の消防機関に火災の発生を知らせるもの。街路や建物に取り付けてある。配線は地中線または架空線によるが，地中線の場合は自動車の通行などによる断線障害防止のため鉛被覆・クロロプレン外装またはビニル外装ケーブルを使用し，架空線の場合はじょうぶな電線を使用し，高圧電線との接触に注意する。受信機を消防機関側に設け，どの場所からの発信であるかがわかるようになっている。発信機は押しボタン方式である。構造・性能・成分などについては自治省令で規格を定め，国で検定を実施している。最近は，一般加入電話が普及してきたので，あまりその活用が期待されなくなっている。火災報知機をみだりに使用すると罰則が適用される。〔矢筈野義郎〕

かさいほうちせつび【火災報知設備】 火災の発生を自動的に早期発見し，建物内の人間に報知する設備。発見部分は感知器からなり，受信機に配線で連結されて，受信機のベルが鳴動する。感知器は，取り付け面(天井の室内に面する部分，または上階の床や屋根の下面)の高さに従って，感度に適するものを取り付ける。また，その高さに対して，１個の感知器が有効に感知できる面積を決め，その範囲内に設ける。火災時には煙が拡散充満するので，特に廊下・階段・パイプダクトなどには煙感知器を設けることが有効である。感知器は数個同一回線に接続されて火災の同時感知区域を形成するが，この回線の受け持つ面積は600 m²以下，かつ１辺の長さ50 m以下とし，また原則として同一階に限っている。電源は，停電その他の故障があっても作動するよう非常用の電源が備えられ，感知と同時に受信機の主ベルが鳴動し，発生箇所も明示される。同時に必要な地域にもベルが鳴って，建物内の人たちに火災の発生を知らせるが，ベルの音量は１ｍ離れた位置で90ホン以上とし，水平距離25ｍの範囲に有効でなければならない。大規模な建物の場合は，全館いっせいに鳴動すると恐慌状態を起こすことがあるので，出火階およびその直上階に限って警報を発することができるよう配線する。劇場・映画館・病院・旅館・学校など一定規模以上のものには，法令で設備の義務設置を決めてある。〔矢筈野義郎〕

火　　災

火事ともいう。火災とは，人の意図に反して発生し，もしくは拡大し，または放火により発生して消火の必要がある燃焼現象であって，これを消火するために消火施設またはこれと同程度の効果のあるものの利用を必要とするものをいう(消防庁の消防行政上の定義による)。近年，わが国は産業経済の高度な発展と生活様式の急激な変化に伴い，火災をはじめ各種の災害が逐年増加している。特に火災については，都市における超高層ビル・地下街・倉庫など特殊建築物の急増，あるいは，一般家庭内における危険物品の使用など新しい火災の危険が増加しているのが現状である。1968年(昭和43)の火災統計をみると，わが国のどこかで火災は10分ごとに発生し，毎日147件の災禍にあい，28人の死傷者を出している。中でも目につくのは，旅館・劇場・サウナぶろなど特殊な建築物の火災が多く発生していることで，1億4,000万円の財産を灰にしている。このような状況からして国民ひとりびとりが火災の予防に深い関心を寄せることが望まれている。

〔火災の種別〕消防庁では火災報告取扱要領の規定に基づいて火災の種別を①建物火災，②林野火災，③船舶火災，④車両火災，⑤航空機火災，⑥その他の火災，の６種別に定めて全国市町村に報告させている。発生件数でみれば，建物火災が全体の60～70%を占め，次いでその他の火災・林野火災・車両火災の順となっている。



たばこによる出火件数とたばこ消費量の推移

〔火災の発生〕火災の原因はもちろん火気の使用が第１であるが，その他に気象的条件，特に湿度は火災の発生に大きく影響する。したがって，日本では火災の発生は冬季に最も多く，年間の32%を占め，次いで春季30%，夏季・秋季18～20%程度の割合となっている。例年１～３月は気温の低下とともに暖房用具の使用が多く，また湿度も低下するため火災発生率は高くなるが，６月ごろは湿度が高く，火の使用も少ないため火災も少ない。また，春先の裏日本ではフェーン*現象のため高温で乾燥し，かつ，風も強いため，この時期の火災は大火となりやすい。なお，地域的にみると，火災は人口集中地域に多く発生している。

〔火災の増加〕火災は年々増加する。1946年の火災件数を100として第２次世界大戦後の傾向をみると，1950年まではおおむね横ばいであるが，1955年207，1960年302，1964年339，1968年371と急激な増加を示している。一方，１件あたりの平均損害額は1946年が50万円，1950年152万円，1955年109万円，1964年108万円，1968年101万円となり，一般的には漸減の傾向にある。これは，消防組織が整備され，特に大都市における大火が減少したためとみられる。

〔建物火災〕1967年における建物火災は35,687件(総出火件数の65.5%)で，戦後最高の出火件数となり，平均すると１日に149件，10分間に１件の割合で発生している。その損害額は１日に１億4,600万円，建物焼損むね数は同じく126むねとなっている。これを建物の用途別にみると，居住専用建物火災が47.3%で約半数を占め，次いで工場3,750件，作業所・付属建築物の順である。建物の１件あたりの焼損面積は68.3m²で，さらに１日あたり6,677m²が焼失し，これを49.5m²(15坪)の家屋に換算すると135戸を焼失したことになる。また，大都市では出火件数は多いが，１件あたりの焼損面積は39m²と少なく，その他の市では60m²，町村では134m²である。このような差があるのは，気象・地勢，都市の構成要因なども影響しているが，主として消防力の格差によるもので，大都市においてはその組織・人員・施設が充実していることを物語っている。

〔出火原因〕火災の原因の94%は失火によ

第２次世界大戦後における死者10名以上のおもな火災

出火日時	出火場所	出火原因	焼損むね数	焼損面積(m²)	死傷者 死者	死傷者 傷者	損害額(1,000円)
1950.5.13	長野県西筑摩郡上松町	ストーブの残り火の不始末	615	85 000	18	150	801 870
1951.4.24	神奈川県横浜市桜木町（国電）	パンタグラフ短絡	—	—	107	81	13 000
1951.6.3	滋賀県彦根市西馬場町（工場）	フィルム引火	—	—	23	99	125
1952.2.14	東京都北多摩郡府中町貫井（花火工場）	火薬引火	—	677	20	53	12 178
1954.9.26	北海道岩内町	火の粉	3 298	321 311	33	551	9 314 110
1955.2.17	神奈川県横浜市戸塚区原宿町（養老院）	かいろ	4	3 036	99	9	15 340
1955.6.18	千葉県市川市国府台（精神病院）	不明	2	947	18	—	9 610
1955.8.1	東京都墨田区廐橋（作業場）	不明	24	1 013	10	4	28 181
1956.8.11	岡山県岡山市南坊（工場）	ボイラー	6	1 736	11	24	86 147
1957.2.18	鹿児島県鹿児島市（市場）	七輪こんろ	12	1 092	13	2	8 515
1958.7.15	東京都大田区雪ケ谷町（製薬工場）	不明	2	238	13	20	22 969
1959.1.27	北海道網走郡美幌町（映画館）	灰	1	675	12	23	11 730
1960.1.6	神奈川県横須賀市小矢部町（病院）	石油ストーブ	5	2 566	16	—	19 122
1960.3.19	福岡県久留米郡国分町（国立療養所）	不明	5	1 223	11	—	1 536
1960.12.21	熊本県熊本市下通町（飲食店）	屋内線	11	1 569	14	6	67 240
1963.9.25	兵庫県神戸市長田区（工業所）	マッチ	10	804	17	8	13 282
1964.6.11	神奈川県川崎市扇町（化学工場）	不明	5	539	15	122	164 107
1964.7.14	東京都品川区勝島町（倉庫）	硝化綿	—	7 563	19	158	806 322
1966.1.9	神奈川県川崎市駅前本町（ビル）	不明	1	641	12	14	41 950
1966.2.10	愛知県名古屋市港区（造船所）	不明	—	—	15	6	2 781
1966.3.4	東京都大田区羽田（ジェット機）	内燃機関	—	—	51	6	2 264 607
1966.3.11	群馬県利根郡水上町（ホテル）	石油ストーブ	8	3 184	30	28	245 250
1968.11.2	兵庫県神戸市兵庫区（ホテル）	不明	1	6 950	30	44	250 000



火　災　目黒行人坂の火事のようすを描いた《火事絵巻》

るもので，火の取り扱いの不注意や不始末から大事に至っていることがよくわかる。さらに，失火のうちでもたばこの火の不始末によるものが最も多く，1962年に発生した54,506件の出火原因(発火源)についてみると，たばこに起因する火災が6,931件，割合にして12.7%となっている。一般に，たばこの消費量が伸びるにしたがって，たばこに起因する火災件数も増加する。1958年におけるたばこ火災の件数が3,250件であったことを考えると，この種の原因による火災がいかに激増しているかがわかる。たばこに次いで，たきび4,877件(8.9%)・火遊び4,278件(7.5%)(いずれも1967年)となり，以下こんろ・ストーブの順となっている。

〔火災による死傷者〕 1967年の火災による死者は1,106人，負傷者9,370人で，通常火災による死者および負傷者としては戦後最高の数字を示した。火災による死傷者の推移を1955年を100としてみると，同年から1958年にかけては減少したが，翌年から再び増加に転じ，1967年には159と6割弱の増加をみている。なお，死傷者は建物火災によるものが圧倒的に多く，死者の87.2%，負傷者の89.6%を占めている。また，これを季節的にみると，12月から2月にかけて503人(45.5%)と全体の半数に近い。時間帯で分けてみると，午前0時から午前4時までの就寝時間に死傷者が多く発生している。さらに都道府県別にみると，北海道が133人(全体の12.1%)と最も多く，次に東京都の91人，大阪府の73人，以下兵庫・神奈川県となっており，死傷者が大都市に集中的に発生していることを物語っている。次に建物の用途別にみると，専用住宅が全体の65.5%を占め，併用住宅12.7%，以下共同住宅・旅館・工場・作業所・病院の順となっている。さらに死亡の直接の原因をみると，一酸化炭素中毒および窒息によるものが55.2%と全体の半数以上を占め，次に火傷死30.9%，自殺8.5%，その他5.4%となっている。

〔火災と気象〕 火災は，可燃物が乾燥していると起こりやすいが，空気中の湿度が高いと木材などの可燃物は水分を吸収して燃えにくくなり，空気中の水蒸気もいくぶん直接燃焼を遅らせる。また，風の強さは出火件数と直接には関係しないが，出火後は風が強いと延焼速度が増大し，風下のほうへ扇状に拡大する。過去における大火は強風下に多く発生している。このように湿度や風などの気象条件は火災と密接な関係をもっているので，風速と温度との関係から火災の危険が予想されるときには火災警報*が発令される。

〔日本の大火〕 火災に関する記録で最も古いのは，ヒコホホデミノミコトの誕生に際し，その母コノハナサクヤヒメノミコトの産屋(うぶや)に火を発したという《古事記》の記述で，わが国は神代の時代から火災に縁の深い国であったらしい。ことに江戸・大阪および京都などの大都市は，兵火によるものをも加えて，歴史に残る幾多の大火を経験した。中でも東京(江戸)は火災が多く，〈火事とけんかは江戸の華(はな)〉といわれた。江戸時代にも振袖(ふりそで)火事とよばれる明暦の大火*(1657)をはじめとして多くの火災を経験したが，東京となってからも大正時代では神田の大火，浅草の大火などがあり，さらに，関東大震災(1923)では記録的な被害を受けている。

昭和にはいってから今日に至るわが国のおもな火災は，1934年3月21～22日の函館(はこだて)大火災(焼失戸数22,667戸)，1940年1月15日静岡市の大火(焼失戸数4,991戸)，1947年4月20日飯田市の火災(焼失むね数3,742戸)，1952年4月17日鳥取市大火(焼損むね数7,240戸)などがあげられる。なお，南海の地震による新宮市の大火，北陸地震による福井市ほか4町の大火および洞爺(とうや)丸台風による岩内町の大火など，天災に基づくものも多い。

〔世界の大火〕 世界における大火の歴史をみると，BC1897年のソドムおよびゴモラの大火をもって嚆矢(こうし)とする。さらに，64年7月，ネロ*の放火として伝わるローマの火災は8日間にわたって燃え続け，市街の7分の5を焼失した。これは都市大火の最古のものであろう。1666年9月2日13,200戸が灰燼(かいじん)に帰したロンドン大火は，イギリスの文化史上有名である。

なお，1812年9月14日ナポレオンの大軍を防ぐための焦土戦術の犠牲となったモスクワの大火，1871年10月9日のシカゴ大火などは，木造家屋の密集した都市大火の実態を物語る有名な火災である。また，1906年のサンフランシスコ大震火災などはわが国にもよく知られ研究されている。

下の表は世界的に有名な火災を焼損面積の大きい順にあげたものである。

火災地	年　月　日	焼損面積(m^2)
東　京	1923. 9. 1	34 650 000
江　戸	1657. 1. 18	25 740 000
江　戸	1772. 2. 29	15 510 000
大　阪	1724	12 309 000
サンフランシスコ	1906. 4. 18	11 880 000
横　浜	1923. 9. 1	9 900 000
シカゴ	1871. 10. 9	7 755 000
京　都	1864. 7. 19	6 468 000
函　館	1934. 3. 21	4 276 800
ロンドン	1666. 9. 2～4	171 600

〔防火と安全対策〕 一般の家庭においては，火気使用器具(石油ストーブ・石油こんろ・ガスこんろ・電熱器など)および火気使用設備(炉・かまど・液化石油ガス消費設備など)を適正に使用し管理することが肝要なことであり，整理された環境で生活することが防火の第一歩といえよう。最近の火災の特性として，煙による死者の発生とプロパンガス爆発による事故死の発生をあげることができる。したがって，屋内における可燃性材料，特にカーテン類の防災化や，液化石油ガス漏洩(ろうえい)防止を積極的に推進していくことが必要である。消防署の専門職員が適宜予防査察をして火災予防上の措置事項

について指示を与え，防火心得の徹底を図っているが，なによりも大事なことは，国民ひとりびとりが自主的に火災予防上の管理を強化することである。法令によれば，50人以上を収容している建物では，一定の資格を有する防火責任者が計画を樹立して火気の適正管理，防火の訓練実施，諸設備の点検などの防火管理を行なうことになっている。また，一定規模以上の建物には消火器・火災報知器・避難器具などの消防設備を設置することが義務づけられている。

高層建築物・地下街などは，特に火災によって大きな災害の起こる危険があるので，管理責任者は次のような措置をとることが必要である。①防火管理者の業務を実態に即して実施するよう連絡協議会を設けて共同管理すること，②可燃物の制限をすること，③内装材料に防火・防煙上の性能の高いものを使用すること，④火災の早期発見・早期通報・安全避難のための諸設備を設置すること，⑤スプリンクラー設備を設置すること，⑥排煙設備を設置すること，⑦防煙区画を設けること，⑧階段・廊下などは不燃材料でつくり，避難経路を確保して2方向完全避難を可能にすること，⑨防火センターの一括指示を可能にすること，⑩防火・防煙のための遮断(しゃだん)を，縦方向と横方向の両面にわたって，一定区画ごとに行なうこと，⑪避難階段の強化をはかること。➔消防　〔藤田昭三〕



笠　懸《男衾三郎絵詞》(部分)　鎌倉時代　浅野長武蔵

かさいほけん　【火災保険】　火災によって生じる損害を塡補(てんぽ)する保険。ここでいう火災とは，通常の用法に反した火力のことで，独立して延焼しうる状態にあるものをいう。火炎による焼損，火熱・ガス・蒸気・煙・臭気などによる変質や変色の損害はもとより，火災の不可避的結果である器物を屋外に搬出するときの破損，消防注水による濡損(じゅそん)，人命救助に必要な破壊や延焼防止のための処分による損害などをも塡補するものである。しかし，盗難・戦争・暴動・地震・噴火・原子力・放射能などに起因するものは，原則として塡補しない。火災保険は，不動産保険と動産保険に区別される。前者はさらに，工場・倉庫などの特殊物件と住宅のような普通物件とに分けられる。後者は，家具・家財・商品・材料・機械などの保険である。火災保険は共済*制度から発生し，1666年のロンドン大火を契機としてはじめて近代的保険に進化したとされているが，その発達の経路は，個人の住宅を主たる対象とするものから，産業の発達に伴って，漸次に企業の不動産ないし動産を対象とするようになってきた。現在わが国の損害保険会社*における営業収入のきわめて大きな部分は火災保険によって占められている。　〔庭田範秋〕

かさおか　【笠岡(市)】　岡山県南西端の市。真言宗大仙院(だいせんいん)の門前町で，江戸時代には幕府の直轄地であった。1952年(昭和27)市制施行。人口163,000。瀬戸内海に臨み，背後の山腹から流れる小河川の合



笠置寺　文明年間(1469〜1486)の造営になる正月堂

成扇状地上に位置し，土地が狭いためにたびたび埋め立て・干拓が行なわれてきた。笠岡(備中(びっちゅう))諸島を市域内に含む。産業三大別人口比は16：37：47。化学・繊維・食品などの大工場が多く，1965年，備後(びんご)工業整備特別地域に追加編入された。モモ・ナシ・イチジクを集散し，ジョチュウギクの産も多い。神島(こうのしま)では硫安，北木島では石材を産出し，北木・真鍋(まなべ)・白石の各島では草花が栽培される。山陽本線・国道2号線が市街を貫通し，井笠鉄道を分岐する。1732年(享保17)の大飢饉(ききん)に際し，サツマイモを普及させて農民を救った代官井戸平左衛門(へいざえもん)にちなむ芋(いも)博物館がある。西郊の金浦湾にはカブトガニ(天然記念物)が生息する。特産は，麦稈真田(ばっかんさなだ)・たんすなど。

かさがけ　【笠懸】　流鏑馬*(やぶさめ)，犬追物*と並ぶ騎射の一種。平安時代から鎌倉時代にかけて流行した。はじめ笠をかけて的としたため，この名があるが，のちには牛皮張りの板に替えられた。長さ1町(約109m)の埒(さくり)(直線の馬場)を設け，中央からややゴール寄りに10間(約18m)ほど離れて的を立ててある。射手は直垂(ひたたれ)・侍烏帽子(えぼし)・行縢(むかばき)・弓懸(ゆがけ)をつけ，馬を駆(か)って的を射る。矢は蟇目(ひきめ)，的の大きさは径1尺8寸(約54cm)，中央に墨で丸を書いた。的の遠いのを遠笠懸，近いのを小笠懸といい，籤(くじ)により敵手を定めて勝負するときは，特に籤笠懸といった。　〔稲垣史生〕

かさぎさんち　【笠置山地】　京都府の南東端から奈良県の北東部を占め，奈良盆地と上野盆地(伊賀(いが)盆地)とを分ける地塁状の山地。穏やかな準平原状の地形で，南半は標高400〜500mで大和(やまと)高原とよばれる。北端は木津川の谷でくぎられ，この谷に臨んで史跡で名高い笠置山*がある。山地は名張川その他の河川に細かく刻まれ，また西に三笠山(若草山)，南に室生火山群などの古い火山地形もみられる。北東部にはウメの名所月ケ瀬*がある。〔高野　繁〕

かさぎでら　【笠置寺】　京都府相楽郡笠置町大字笠置にある新義真言宗智山(ちさん)派に属する寺。天武天皇が皇子のころにこの山に狩りに出て弥勒仏(みろくぶつ)を感得し，ここに弥勒石仏を本尊として寺を建て，弥勒寺と号したのがはじまりという。平安時代には弥勒信仰の霊地として栄え，修験道場としても役小角*(えんのおづぬ)や良弁*(ろうべん)の修行地として知られる。鎌倉時代には解脱上人(げだつしょうにん)が隠棲(いんせい)して多くの信仰を集めたが，南朝の元弘(げんこう)年間(1331〜1333)以後に兵火のために焼け，現存の堂舎は近世の再建である。なお，木津川の南岸にそびえ立つ奇岩怪石は，山頂のながめとともに自然美の景観を呈し，大岩壁に線刻さ

れた弥勒や虚空蔵その他も知られている。〔永井信一〕

かさぎやま【笠置山】 京都府の最南部，奈良県境近くにある。標高289m。木津川峡谷の南岸に位置する。北側はカコウ岩のけわしい山容を示し，山上には笠置寺がある。天武天皇以来の古い歴史をもち，特に1331年(元弘1)後醍醐(ごだいご)天皇の行在所となったことは有名である。山中にはこれらの史跡が多く，また桜や紅葉の季節には行楽客でにぎわう。

かさぐも【笠雲】 山頂にかさのようにかかる雲。レンズ雲の一種。山はだにくっついていることも離れていることもある。富士山のように対称な山の場合には，帽子のような優美なものがしばしば現われる。かさ雲の成因としては，地面または雪面からの蒸発・冷却のほかに，水蒸気を含んだ気流の山の斜面に沿う上昇効果などが考えられる。

かざぐるま【風車】 双子葉植物・キンポウゲ科のつる性の落葉低木。本州・四国・九州に自生し，庭園にも植えられ，園芸品種もある。茎は細長く伸び，葉は対生し，葉柄は長く他の物に巻きつく。5～6月ごろ枝端から長柄を伸ばし，10cm内外の花をつける。花びら状のものは8枚のがくで，自生種は淡紫色であるが，園芸品には白・青紫・紅紫色などのものや，八重咲きのものもある。

かさご【笠子】 硬骨魚類・カサゴ科。25cmほどになる海産魚。タイやハタに似た形であるがあまり泳がず，底や岩陰にじっとしていることが多い。卵は母魚の胎内でかえり，稚魚になって生まれる。体色は，沿岸のものは茶かっ色，深い所のものは赤みが強い。白身の魚で美味。北海道南部から香港(ホンコン)に分布する。オニカサゴは，本州中部以南に広く分布し，赤く，30cmほどになる海産魚で，食用になる。

かささぎ【鵲】 鳥類・カラス科。全長45cmほどで，羽には黒白の大がらなまだらがある。北半球に広く分布し，村落などにすむ雑食性の鳥である。日本には佐賀県・福岡県の一部にのみ生息しているが，これは朝鮮から約400年前にもってこられたものがすみついたのだとされている。カチカチと大声で鳴くところから，カチガラス(勝鳥)ともよばれる。

かざし【挿頭花】 古代の髪飾り。《万葉集》にも多くよまれ，はじめは生花を頭にさしたものがのちに造花になり，平安貴族の男子は冠にこれをさしたという。熊野速玉(くまのはやたま)神社に室町時代の遺品があり，中世期のかざしの形式を知る上に貴重なものである。ウメ・サクラ・ショウブ・ハマユウなどの花や，ヤナギ・サカキ・マツなどの緑の葉を多く用いている。これは自然の生命力を身につけようとした心も含まれている。〔橋本澄子〕



笠　雲



カサゴ



カササギ



累　夏の季節感豊かな木下川(利根川の支流)堤で，かさね(6世尾上梅幸)・与右衛門(15世市村羽左衛門)が出会う。やがて惨事が展開されていく。この演者2人によって復活され，極め付けの演目であった

かさじぞう【笠地蔵】 心のやさしい爺(じじ)が地蔵から福運を授かるという筋の昔話。爺と婆(ばば)は正月がくるのにもちを買う金もないので，ふたりで11個のかさをつくる。雪の日，爺がかさを売りに町へ向かうが，途中で12体の地蔵が雪をかぶっていたので，爺はかさをかぶせてやる。残る1体には自分の着けていたかさをかぶせ，家に帰ってくる。翌朝，軒下をみるとつきたてのもちがたくさん置いてあり，爺のかさをかぶった地蔵を先頭にして12体の地蔵が帰っていくところだった。それ以後，爺と婆は大いに富んだという。この昔話は大みそかの夜の奇瑞(きずい)として語られることが多い。〔山路勝彦〕

かさすげ【笠菅】 単子葉植物・カヤツリグサ科の多年草。日本・サハリン(樺太(からふと))・朝鮮・中国北部・東シベリアに分布する。湿地や沼地の水辺に自生。茎は三角柱状で，50～100cmの高さになる。葉は線形で根生し，基部はさや状に茎を包む。5～6月ごろ茎の頂上に1個の雄花の穂と，その下方に2～3個の雌花の穂をつける。葉を干してすげがさやみのをつくるのでこの名がある。近畿(きんき)・中国地方には変種のキンキカサスゲがある。

カーザック［Hermann Kasack］(1896～1966) ドイツの小説家。はじめ詩を書いたが，ナチス時代に小説に転じ，長編小説《流れの背後の町》(1947)を発表して一躍有名になった。これは生と死の中間にある亡霊の町という比喩(ひゆ)を用いて，独裁制のもとにある全体主義国家を批判した小説で，第2次世界大戦後最も論議の的となった作品の一つである。その後《織機》《大きな網》《偽造》が発表されたが，いずれもシュルレアリスムの手法による時代風刺の作品である。〔柳川成男〕

かさづけ【笠付】 ⇨冠付(かむりつけ)

かさどじま【笠戸島】 山口県下松市とわずか150mの水道を隔てて接する下松市内の島。1969年(昭和44)笠戸大橋によって結ばれた。面積11.9km²，人口約4,000。最高点は255mで，小出入が多く，11の小集落があっておもに漁業を営んでいる。西にある大島半島(徳山市)とともに，下松湾(笠戸湾)をいだいているが，湾に面する江ノ浦に笠戸ドックの近代的な造船工場がある。付近は風光がすぐれ，瀬戸内海国立公園の一部になっている。〔浅井得一〕

かさね【累】 歌舞伎(かぶき)・浄瑠璃(じょうるり)の一題材。17世紀の中ごろ，下総(しもうさ)(茨城県)羽生(はにゅう)村で累という醜い女が夫の与右衛門(よえもん)に殺され，そのたたりが一族につきまとったが，名僧祐天(ゆうてん)の法力で退散したという伝説に取材したもの。その一つ通称《身売りの累》は，伊達(だて)騒動を扱った初世桜田治助作，1778年(安永7)初演の《伊達競阿国戯場(だてくらべおくにかぶき)》の一部分で，与右衛門のために身を売って金を調達しようとした貞女の累が，自分の顔の醜さを知って正気を失い，主君の姫君に嫉妬(しっと)したあげく夫に殺される悲劇。ほかに清元節の舞踊《色彩間苅豆(いろもようちょっとかりまめ)》をはじめとする多くの脚色があ

り，怪談劇の一大系統をなしている。
〔松井俊諭〕

清元節・日本舞踊の曲名。本名題《色彩間苅豆》。作詞は松井幸三，作曲は初世清元斎兵衛(さいべえ)。1823年(文政6)初演。与右衛門は奥女中累の母と密通し，その夫を殺す。のちに与右衛門と累が心中を約し，道行の途上，父のたたりで累の顔が醜く変わり，与右衛門は彼女を殺す。怪奇な道行舞踊。
〔如月青子〕

かさねあわせのげんり【重ね合わせの原理】 ある場所に一つの波が単独で到達したときに起こる変化がψ_1，他の波が単独で到達したときに起こる変化がψ_2であれば，これら二つの波が同時に到達したときに起こる変化は$\psi_1+\psi_2$となる。物体に周期的な外力F_1が働くときの運動が$x_1(t)$，他の周期的な外力F_2が働くときの運動が$x_2(t)$であれば，F_1とF_2が同時に働くときの運動は$x_1(t)+x_2(t)$となる。また一つの電荷q_1によってある場所に生ずる電場がE_1，他の電荷q_2によって同じ場所に生ずる電場がE_2であれば，q_1とq_2が同時に存在するときの電場はE_1+E_2となる。これらの例が示すように，自然現象の中には二つの原因によって生ずる結果が，それぞれの原因によって生ずる結果を加え合わせたものになるものが少なくない。この関係は，その現象を支配する法則が数学的にいって線形の法則である場合に一般になりたつもので，これを重ね合わせの原理という。〔有山正孝〕

かさねうちき【重袿】 平安後期以降主として宮廷の女子が着用した袿の重ね。袿は主として公家(くげ)女子の表衣の類で衣(きぬ)ともいう。重袿は幾枚重ねるという一定の式はないが，平安後期には20枚，あるいはそれ以上にも重ねたが，鎌倉時代以後は5枚となっている。なお重袿姿は鎌倉時代には裳唐衣(もからぎぬ)姿の次に位する晴れの姿となっている。和歌山県金剛峯(こんごうぶ)寺の丹生都比咩(にうつひめ)明神像は晴れ姿としての鎌倉時代の重袿姿である。〔河鰭実英〕

かさねおり【重織】 2組み以上の経緯糸を用いた二重または多層の織物組織。大別すれば，経(たて)または緯糸(ぬきいと)のどちらかが二重となる経二重織・緯二重織と，経緯ともに2組みの糸を用いて表裏を別々に組織し，それが1枚の織物につくられる経緯二重織と，経緯ともまたはその一方を三重・四重にして，複雑にした多層織の3種がある。重織は通常，①表裏異なった組織・色柄の織物をつくる場合，②太い糸を使わないで厚地の織物をつくる場合，③太い糸で極厚のじょうぶな布を織る場合，④袋状の織物をつくる場合，⑤裏糸に綿糸などを用いる場合などに利用されている。

経二重織・緯二重織は裏付織ともよばれる。これらは，通常の一重の織物の裏にもう1本別の経糸か緯糸を添えて組織させる。これを利用して織った無双は袴地(はかまじ)の



重　袿 《丹生都比咩明神像》 鎌倉時代　金剛峯寺蔵

最高級品とされている。経緯二重織は2枚の織物を同一の織機で同時に織りながら，所々で両者をつなぎ合わせて1枚の織物につくったもので，接結法によって4種に分けられる。①2組みの経緯糸によって織られる2枚の織物を，別の経または緯糸によって接結してゆく方法であり，接結する糸はけっして布面の表裏に現われることはない。②接結するために別の糸を用いず，裏の布を織っている経または緯糸を所々表の緯あるいは経糸に接結して，表裏2枚の織物をとじ合わせる方法で，表が無地で裏が格子(こうし)のオーバー地などはこれを応用している。③表裏別々に組織されてきた経緯糸が，あるところで裏の経緯糸が表に現われ，表の経緯糸が裏に回って，表裏の布面を組織し，それをくり返して1枚の織物をつくる方法である。この場合，表裏で経緯糸の色を変えておいて文様を織ると，表裏で地と文様がちょうど正反対の色違いに織り出される。通常，風通組織・風通織または風通とよばれている。④袋織・中空織といわれるもので両端の耳のところだけで接結し，袋状に織る方法である。これは経糸は2組み，緯糸は1組みにし，緯糸はまず表を織る経糸と組織し，次には裏経と組織するように織り込むのである。これを順次くり返せば，耳のところで表裏の布は1組みの緯糸によって接結された袋状の織物となる。消防に使われているホースはこの袋織になったものである。〔北村哲郎〕

かさねがふち【累が淵】 人情噺(にんじょうばなし)の題名。正式には《真景累が淵》。三遊亭(さんゆうてい)円朝の代表作の一。醜婦の累が嫉妬(しっと)から夫与右衛門(よえもん)に殺されるという，下総(しもうさ)(千葉県)羽生(はにゅう)村に残る怪談をもとに構想され，幽霊のたたりは〈神経〉のせいで起こるという文明開化時代の解釈をそのままことばのしゃれにして題名とした。江戸牛込の旗本(はたもと)深見新左衛門(しんざえもん)に虐殺された根津七軒町の盲人針医宗悦の恨みが，新左衛門の一家を苦しめる。新左衛門の長男新五郎も宗悦の娘お園を誤って殺し，死刑となる。その後七軒町で富本節の師匠をしているお園の姉豊志賀(とよしが)は，新吉という年下の弟子(でし)と仲よくなるが，新吉は豊志賀が大病で顔にはれものができたのを機会に相弟子お久と通じ，ふたりの密会の間に豊志賀は死ぬ。新吉は，自分も知らないのだが実は新左衛門の遺子で，宗悦の娘である豊志賀の幽霊にたたられて，お久の故郷羽生村に逃げるが，暗やみの中でいなずまに照らされたお久の顔が豊志賀の顔に見え，落ちていた鎌(かま)で切りつけて結局お久を殺してしまう。その後新吉はお久の縁者の娘お累と結ばれるが，この娘も熱湯で顔を焼くなど，宗悦と豊志賀のたたりは続く。お累の産んだ子は，新吉が素性を教えられて見た兄新五郎の獄門の首にそっくりだった。このお累も新吉が情婦お賤(しず)と会っているうちに死に，幽霊になって出る。新吉とお賤はその後悪事を重ねながら流浪するが，ふとしたことから腹違いの兄と妹であることがわかり，新吉は非道を恥じてお賤を殺し，自分も自殺する。悪事・怪談・因果話・かたき討ちなど，筋立てはきわめて複雑である。なお，この怪談は古くからしばしば歌舞伎(かぶき)劇化されている。➔累
〔長尾一雄〕

かさのいらつめ【笠女郎】 奈良中期の女流歌人。伝未詳。《万葉集》の巻3・4・8に，合わせて29首の大伴家持(おおとものやかもち)に贈った短歌を残す。これらは量的にも質的にも傑出し，爛熟(らんじゅく)した天平(てんぴょう)期の歌風を伝え，理知的・技巧的な作品となっている。

かさのかなむら【笠金村】 奈良初期の宮廷歌人。姓(かばね)は朝臣(あそみ)。伝未詳。正史に名をとどめていない。山部赤人と並んで当代の宮廷歌壇を形成。柿本人麿(ひとまろ)以来の伝統的な歌風の継承者といえるが，職業的な態度と形式的な技法がやや目だつ。行旅についての歌などが多く，《万葉集》に作歌と《笠朝臣金村歌集》からとった歌合わせて46首を残す。

カザノバ［Giovanni Giacomo Casanova］(1725～1798) イタリアの冒険家。ベネチアの人。バイオリニスト・占い師・賭博師(とばくし)・外交官・スパイなど多彩な経歴を持つが，特に数々の恋愛遍歴が有名。ヨーロッパを放浪し，入獄と脱獄(名高いのはベネチア牢獄(ろうごく)〈鉛屋根〉からの逃走)をくり返す。著書に《カザノバ回想録》がある。

カザノバかいそうろく【カザノバ回想録】 カザノバが自分の波瀾(はらん)万丈の生涯(しょうがい)をフランス語で著わした記録(12巻,1826～1838)。フランスの思想家ルソーと同様の赤裸々な告白をめざし，持ちまえの才知で社会や女性を手玉にとった男の姿を，豊富で変化に富んだエピソードを交え

て語っている。18世紀の風俗を知るうえで貴重な資料。

かさのはら　【笠野原】　笠之原とも書き，また〈かさのばる〉とも読む。鹿児島県大隅(おおすみ)半島の頸部(けいぶ)にあるシラス*台地で，北西の高隈(たかくま)山地のふもとから南東に向かって広がり，標高は180mから200mにわたる。滞水不良で地下水面が深く，長く荒地として残されてきた。第2次世界大戦前から一部は軍用地(飛行場)などに利用され，また1962年(昭和37)から国営の大規模な開拓計画によって畑地灌漑(かんがい)事業が進められている。〔高野　繁〕

かさのり　【傘海苔】　緑藻(りょくそう)植物・カサノリ科。南西諸島の浅海岩上に生ずる海藻。高さ7cmほどで，頂部の円板部は直径約1cm。晩秋，円板を形成する放射状の袋の中に多くの胞嚢(ほうのう)がつくられる。胞嚢は放出され，越冬して翌春配偶子をつくり有性生殖をする。接合子の発芽したものは再び越冬し，3年めの夏にかさを完成する。

カザフ(共和国)　［Kazakhskaya S.S.R.］　ソビエト連邦を構成する共和国の一。ユーラシア大陸のほぼ中央部にあたり，西はカスピ海，東は中国の新疆(しんきょう)ウイグル自治区に接する。面積271万5,000km^2で，ロシア連邦共和国に次ぐソ連第2の共和国。人口1,417万(1975)。首都アルマアタ。

〈自然・住民〉国土の大部分は平原だが，カスピ海沿岸は沿カスピ海低地とよばれ，一部には海抜－132mの低地もあり，アルタイ・天山などの山岳地帯は海抜4,500mに達するという西に低く東に高い地形である。大きな川としては南西部にシルダリア川，東部にオビ川の上流部があるにすぎないが，バルハシ湖・ザイサン湖など湖沼が多い。気候は明瞭(めいりょう)な大陸性を示して降水量は少なく，平原の大半はステップ・半砂漠(はんさばく)となる。北部には黒土地帯が広がっている。経済建設が進むにつれ，ロシア人・ウクライナ人の流入が多く，ソ連で最も人口増加率の高い地方となっている。住民はロシア人・ウクライナ人が総人口の2分の1を占め，ほかにカザフ人(30%)・タタール人・白ロシア人・タジク人・ウイグル人などがいる。〈産業・経済〉古くから牧畜地帯として知られ，現在も優良な羊毛産地である。1954年から大規模な開拓が進められ，2,300万ヘクタールの農耕地が開かれて重要な小麦産地になっている。鉱工業はエンバの石油，カラガンダの石炭をはじめ亜鉛・鉛・鉄などを産し，豊富な農牧業産物とともに重工業・繊維・食品加工などの工業を発展させている。幹線鉄道によって西シベリアなどと結ばれているほか，砂漠を横断する自動車道路も通じている。〈政治・歴史〉交易によりロシア・中国と関係が深かったが，18世紀ごろからロシアの支配下にはいった。1920年ロシア連邦共和国内の自治共和国となり，1936年共和国になった。〔斎藤晨二〕



カサノリ



カサブランカ　〈白い家〉を意味する町名のごとく，市街には白い近代的ビルがたち並ぶ。市の中心部の眺望

かさぶた　【瘡蓋】　痂皮(かひ)ともいう。傷や潰瘍(かいよう)などの表皮欠損部や湿疹(しっしん)・皮膚炎などの皮膚病で生じたびらん面上にたまった組織液・血液・膿汁(のうじゅう)などが，時間の経過によって乾固したもの。漏出液の性状や量によって色調や形状が異なる。血漿(けっしょう)やリンパ液からなるものは淡黄色で透光性，膿からなるものは黄色・かっ色または帯緑色，血液を混ずるもの(血痂ともいう)は黒赤色を呈する。痂皮の下に漏出が続き，次々と乾固すると厚い痂皮を生ずる。〔田嶋公子〕

カサブブ　［Joseph Kasavubu］　(1917～1969)　コンゴ民主共和国の政治家。初代大統領。バコンゴ族の母と中国人の父との間に生まれ，ミッションスクールを出て教員・郵便局員・植民地政府公務員などとなる。第2次世界大戦後から独立運動に加わり，1959年1月レオポルドビルの大暴動の中心となったバコンゴ協会(ABAKO)の総裁として逮捕・投獄される。1960年6月独立とともに大統領となったが，首相となったコンゴ民族運動党のルムンバ*と対立してこれを解任した。しかし，1965年11月，軍司令官モブツ*のクーデターで追放された。〔喜多迅鷹〕

カサブランカ　［Casablanca］　アフリカ大陸北西端，モロッコ王国最大の都市。人口137万1,000(1972年推)。大西洋岸にある港市で，首都ラバトの西南にあたる。農産物・リン酸塩・鉄鉱を輸出，ヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国から自動車・砂糖・鉄鋼・石油・小麦・茶・薬品などを輸入する。18世紀後半に貿易港として建設され，20世紀にはフランス領となった。第2次世界大戦中，アメリカ軍の作戦基地となり，1943年1月イギリスのチャーチル首相とアメリカのF.ルーズベルト大統領が枢軸国の無条件降伏による戦争終結について話し合ったカサブランカ会談*の開催地。市街はヨーロッパ人街・ユダヤ人街・アラブ人街の3地区に分かれており，それぞれに白壁づくりの家が多い。市の南西にはカジス空港があり，アフリカ各地やヨーロッパと空路で結んでいる。〔小栗　宏〕

カサブランカかいだん　【カサブランカ会談】　1943年1月，フランス領モロッコのカサブランカで開かれたアメリカ大統領F.ルーズベルト*・イギリス首相チャーチル*間の連合国戦争会議。連合国の対イタリア作戦が協議され，シチリア島・イタリア本土への上陸作戦が決定した。ルーズベルトが枢軸国，特にドイツの無条件降伏を戦争終結の条件としてはじめて提案，チャーチルの同意を得た。しかし，フランスの対ドイツ抗戦派のジローとドゴールとは，対立状態にあったため，両者の協力および連合国との共同作戦を協議したが，十分な解決を得られなかった。〔折井一彦〕

かさま　【笠間(市)】　茨城県中西部の市。江戸時代は牧野氏八万石の城下町，三大稲荷(いなり)の一つとされる笠間稲荷の門前町であった。1958年(昭和33)に西隣の稲田(いなだ)町と合併して市制施行。人口32,000。笠間盆地と周辺の丘陵部を含み，水戸(みと)市の西に接する。産業三大別人口比は27：32：41。盆地底に水田が開け，丘陵部では野菜やタバコを栽培する。稲田地区ではカコウ岩(稲田御影(みかげ))を採石加工し，特産笠間焼がつくられる。笠間駅と笠間稲荷周辺には，商店・旅館・飲食店・みやげ物店などのサービス業が発達する。水戸線・国道50号線に沿う。笠間県立自然公園の中心地。

かさまつ　【笠松(町)】　岐阜県羽島郡に属し，県南部に位置する木曾(きそ)川に臨む町。人口23,000。江戸時代には木曾川の重要な河港として栄えたが，明治以後は東海道本線の通過を拒否したため，発展が遅れた。しかし，今日，名古屋鉄道本線が通り，美濃(みの)がすりの産地として発展している。

かざみ　【風見】　⇨ウェザー-コック

かざみ　【汗衫】　童女の正装の一部。衫(さん)は単衣(ひとえぎぬ)で，もと一般男女の汗取りとして装束*の下に着たが平安中期から童女の礼服となり，儀式のとき表着(うわぎ)の上に重ねて着るようになった。えりは方形でわき開き。前は1丈2尺(約2m40cm)，しり1丈5尺。したがって前身の左右と後ろ

身のすそを豊かに引く。汗衫を着る場合，表着の下には袙(あこめ)・打衣(うちぎぬ)・単を着て，下袴(したばかま)・表袴の重ね袴であった。地質はあや・平絹など。色目は，春はつつじや桜，夏は朽ち葉や薄色の白重ねなどであった。〔稲垣史生〕

がざみ【蝤蛑】甲殻(こうかく)類・十脚目・ワタリガニ科のカニ。甲は横に広いヒシ形。はさみは大きく，最後の足の先は広がってオール状になっており，よく泳ぐ。全体緑かっ色。甲の幅15cmほどになる。本州以南，台湾・朝鮮・中国の沿岸に分布。ときに群をなして海面を泳いで移動するので，ワタリガニの名もある。カニのうち最も味のよいものとされている。近い種類のタイワンガザミ・ジャノメガザミも東京湾以南に広く分布している。

かざやダム【風屋ダム】奈良県吉野(よしの)郡十津川(とつがわ)村にあり，熊野(くまの)川水系の十津川に，1960年(昭和35)に完成した重力式ダム。高さ101m，総貯水量1億3,000万m³で水力発電を目的として電源開発会社がつくった。十津川下流の十津川第1発電所の最大出力は75,000kWである。

かさり【笠利(町)】鹿児島県大島郡の町。人口9,100。奄美(あまみ)大島の北東端を占める。江戸時代には薩摩(さつま)藩の代官所が置かれていた。サトウキビを主とする農業のほか，和牛の飼育などを行ない，また大島紬(おおしまつむぎ)を産する。奄美空港があり，鹿児島や徳之島・喜界島との間に定期便が通じている。海岸にはサンゴ礁が見られる。

かざりいし【飾り石】工芸品の材料になったり，観賞用に供せられる鉱物や岩石の総称。工芸用にいちばん広く用いられるのはメノウ，いちばん高価なのは硬玉である。水晶も巨大なかたまりは工芸用になり，比較的小さい結晶は印材になる。これらの原石は，いずれも硬度が高いので，加工には特別の技術を要し，わが国では山梨県の甲府地方がこれらの加工工業の中心地で，もとは山梨県下から産した水晶を材料にしたが，現在は大部分をブラジルその他から輸入している。柔らかくて加工しやすい材料としては，セッコウ・大理石・ロウ石などがある。日本では人工を施さないで，天然の風化侵食を受けたままの石を観賞する伝統があり，これを水石とよんでいる。〔片山信夫〕

かざりどり【飾り鳥】鳥類・カザリドリ科の総称。熱帯アメリカに約90種を産し，美しい鳥が多く，全長10cm以下の小鳥から全長45cmの鳥まである。森林の樹上で暮らし，木の実を主食とするが，こん虫を食べるものもある。奇妙な飾りをつけている種がいくつかあり，イワドリの冠羽，カサドリの冠羽と肉垂(にくだ)れ，スズドリの肉垂れなどは特に有名である。

かざりミシン【飾りミシン】補強と装飾効果とを兼ねて布の表にするミシン刺しのこと。服のえり・前端・切り替え線・ポケットなどに使用される。何本かのミシン縫いや太い糸を使って装飾効果をあげることもある。



ガ ザ ミ

かざりよりいと【飾り撚り糸】⇨ファンシーヤーン

カザリン ⇨エカテリナ

カザルス［Pablo Casals］(1876～1973) スペインの生んだ偉大なチェロ奏者。オルガン奏者の父から鍵盤(けんばん)楽器を学び，11歳のときバルセロナ音楽院でガルシアからチェロを，さらにマドリード音楽院で室内楽と対位法を学んで，1895年，パリでデビューした。現代的・合理的なチェロ奏法は彼によって完成されたといわれる。1905年，ティボー・コルトーと三重奏団を組織して数々の名演を生み，また1919年にはバルセロナにカザルス管弦楽団を結成して指揮者としても活躍した。スペイン動乱後はフランコ政権に抗議して南フランス，のちプエルトリコに移り住み，後進の指導にあたった。1961年に来日。〔向坂正久〕

かざわおんせん【鹿沢温泉】群馬県吾妻(あずま)郡嬬恋(つまごい)村にある温泉。泉温47～54℃，泉質は含土類重曹泉(じゅうそうせん)で，胃腸病・神経痛・リウマチにきくといわれる。湯ノ丸山・角間(かどま)山に囲まれた鹿沢高原の中央部，湯尻(ゆじり)川の谷間にある。付近は地蔵峠をはじめ，ハイキングコースに恵まれ，冬はスキー客でにぎわう。長野原線長野原駅からバスの便がある。

かざん【火山】⇨510ページ

カザン［Kazan］ソビエト連邦西部，ロシア連邦共和国内にあるタタール自治共和国の主都。ボルガ川中流の河港にある港市・重工業都市。人口193万1,000(1974)。機械・化学・油脂・皮革・じゅうたん・らしゃ・食品加工などの工業が盛んである。ソ連科学アカデミー支所・タタール博物館，1804年創立の大学などがあり，学術・文化の一中心をなしている。13世紀に起源をもち，カザン汗国の都として栄えた。16～17世紀に建てられた城塞(じょうさい)や塔など，歴史的建造物が多く残っている。〔斎藤晨二〕

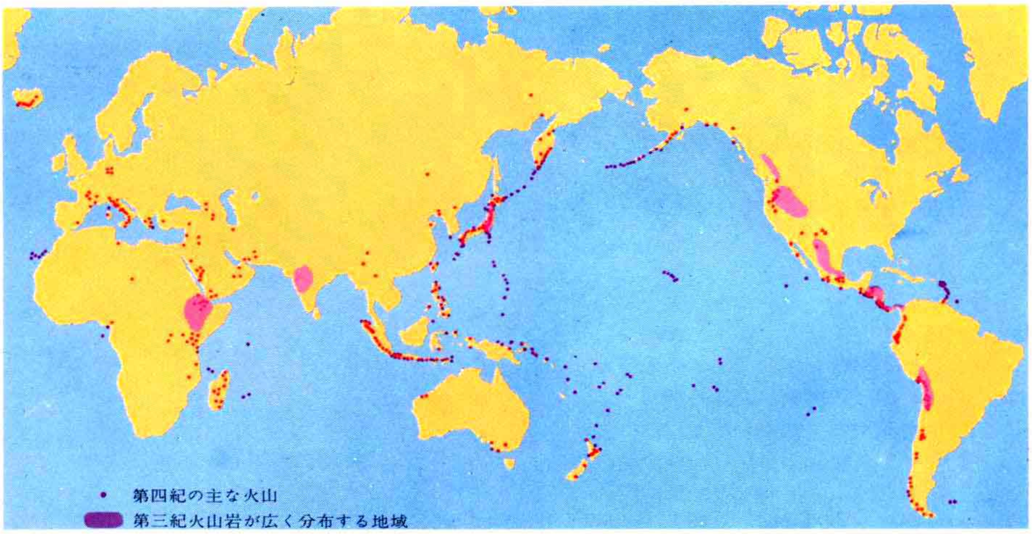
カザン［Elia Kazan］(1909～) アメリカの演出家・映画監督。ギリシア人の子としてトルコに生まれ，アメリカに渡った。グループ-シアターの出身で，アクターズ-スタジオの創設に参加，スタニスラフスキーの演技論をもとに，1940年代に演出家としての名声を確立した。《セールスマンの死》《欲望という名の電車》が演出の代表作。また，映画監督としても活躍し，《波止場》《エデンの東》《アメリカ，アメリカ》などで社会性のあるテーマを追求した。〔岡崎涼子〕

かざんがく【火山学】火山活動，火山体の地質構造，火山の生成過程などを研究し，ひいては火山噴火の予知の手段を探る学問。地質学・地球物理学・地球化学などの境界領域の一。火山活動の研究は，単に噴火そのものの観察だけではなく，その前ぶれとなる火山性の頻発(ひんぱつ)地震や，火山体の微小な変形，地電流(地中を流れている微弱な電流)や地磁気の変化などを観測し，噴火の予知にまで結びつけようとするもので，ハワイ島にある火山観測所は特に優秀な業績をあげている。火山体の地質構造の研究では，火山噴出物の性質，その堆積(たいせき)状況などの記載にはじまり，噴出物の年代測定と堆積物から判断される活動周期とから，火山の生成過程を明らかにし，これも将来の活動の予想に結びつけようとする。しかし，いずれにせよ，火山噴火の予知は，まだ特定のいくつかの火山で可能になったばかりである。また火山活動の源であるマグマの発生機構やその上昇・分化などの機構についての研究は地球全般の研究に直接寄与するところが大きい。〔片山信夫〕

かさんかこうそ【過酸化酵素】ペルオキシダーゼともいう。過酸化水素，またはその誘導体の存在下で化合物を酸化する酵素。基質にはいろいろな種類がある。かつてはこの酵素は植物界にのみみられると考えられたが，現在では動物・微生物界にも広く分布していることがわかっている。過酸化水素を分解して酸素と水に変えるカタラーゼも過酸化酵素としての働きがあるといわれている。

かざんガス【火山ガス】⇨火山噴出物⇨火山

かさんかすいそ【過酸化水素】H_2O_2 無色で粘稠(ねんちゅう)な液体である。水とよく混合し，市販品はふつう3～35%のH_2O_2を含んでいる。消毒薬などに用いられるオキシドールは過酸化水素の3%溶液である。純粋なものは安定であるが，たとえば温度，ある種の金属イオン，粗な表面をもった物質，放射光線(特に短波長のもの)などの影響により急激に分解する。金属粉・活性炭などでは爆発的に分解を起こすから注意を要する。製造方法には電解法と化学法とがある。電解法は，過硫酸・過硫酸アンモニウムまたは過硫酸カリウムなどをそれぞれ硫酸塩の陽極酸化によって生成させ，それらを加水分解してH_2O_2を得る。生じたH_2O_2は蒸



火山帯　新生代の火山帯

留法によって35%程度の水溶液とする。化学法にはアントラキノン法・アルコール酸化法などがある。かつては電解法が盛んであったが，近ごろでは化学法が多く行なわれている。過酸化水素は還元剤とされることもあるが，分解して酸素を放出しやすいため酸化剤として用いられる。すなわち，パルプ・綿・羊毛・絹・麻などの漂白用，エポキシ化・酸化・重合・活性化や水酸基の導入などの合成化学用，および電気メッキ・医薬・化粧品・農薬・試薬などに各種の用途がある。〔鈴木　篁〕

かざんがん【火山岩】火山から噴出した溶岩が冷却固化してできた岩石およびそれと同様な性質をもった火成岩の総称。多くは斑晶(はんしょう)と石基とからなり，気泡(きほう)を多量に含むこともまれでない。玄武岩がその代表であって，そのほか安山岩・流紋岩などがある。火山岩は溶岩流としてばかりではなく，岩脈や貫入岩床の形でも産する。

ガザンかん【ガザン汗】(1271～1304) イル汗国*第7代の君主。在位1295～1304年。中興の英主で，仏教やキリスト教を追放し，イスラム文化の保護・奨励に努め，領内モンゴル人のイスラム化を図った。また，敵対する王族・貴族を粛清し，中央集権を回復した。対外的には元と通好し，シリアのマムルーク朝に対して遠征している。なお，宰相ラシード-ウッディーン*は制度改革の上ですぐれた手腕を発揮し，ガザン汗の要請で《ガザン汗の歴史》を書いた。〔小谷仲男〕

かざんがんけい【火山岩頸】火山が侵食作用を受けて，火道を満たした溶岩・火山砕屑岩(さいせつがん)が塔状に残った地形。アメリカ，アリゾナ州の火山岩頸は有名。

カザンかんこく【カザン汗国】キプチャク汗国*から分かれたウルグ-ムハンマドが，1436年カザン*を首府として建てたボルガ中流のトルコ族の国。征服・同化したブルガリア人から農業を学び，有利な地理的条件によって奴隷売買を含む商業を発展させた。太守を筆頭とする貴族に統制され，汗(最大の地主)が内政をとった。15世紀末から16世紀中期の農民暴動は，封建領主と従属農民との階級矛盾を示している。はじめ西隣のロシアを攻撃したが，15世紀末ごろからは逆に反撃を受け，1552年イワン4世*に滅ぼされ，ロシアに併合された。〔山県弘志〕

かざんかんそくじょ【火山観測所】活火山の活動状況を正確に把握(はあく)して科学的な調査・研究を進めるために，主要な火山の山麓(さんろく)などに設けられた観測所。活動の観測のための施設や火山活動による災害を防ぐための設備を備えており，観測員が常駐している。わが国の主要な施設は大学・気象庁などによって浅間山・三原山・阿蘇(あそ)山・桜島などにつくられており，その観測の成果は諸外国でも高く評価されている。〔平山　健〕

かざんさいせつがん【火山砕屑岩】火山灰・火山礫(かざんれき)・火山弾・火山岩塊などの火山噴出物*が落下堆積(たいせき)してできた岩石。火山ガラスは水分と反応して固結する性質があるので，これらの堆積物は一般にまもなく固結する。主として火山灰が固結したものを凝灰岩*という。火山礫を多く含む場合には火山レキ凝灰岩，火山岩塊を多く含む場合には凝灰角レキ岩という。また主として火山弾からなるものは集塊岩という。〔片山信夫〕

カザンザキス［Nikos Kazantzakis］(1883～1957) ギリシアの詩人・小説家・劇作家。ニーチェの哲学や仏教思想などに深く影響され，神秘主義とリアリズムの間をさまよいながら真の人間性とはなにかを終生探求した。ホメロスの《オデュッセイア》を受け継ぐ形で自己の魂の遍歴をつづった哲学的な長編詩《オジッシア》が代表作。小説ではクレタ島を舞台にひとりの自然人の生き方を描いた《その男ゾルバ》，居住地を追われるギリシア人難民の辛苦を描いた《再び十字架につけられるキリスト》が著名。ほかに，戯曲・紀行文なども数多い。〔森安達也〕

かざんじ【花山寺】⇨元慶(がんぎょう)寺

がさんじょうせき【峨山韶碩】(1275～1365) 鎌倉・室町時代の曹洞宗(そうとうしゅう)の僧。総持寺*2世。俗姓は源氏，能登(のと)(石川県)羽咋(はくい)郡の生まれ。16歳で比叡(ひえい)山にはいり，のち加賀(石川県)大乗寺で瑩山紹瑾*(けいざんしょうきん)に師事し，付法された。1324年(正中1)総持寺に住し，1340年(暦応3)永光寺に移り，再び総持寺に帰った。著に《峨山法語》1巻がある。門下に太源宗真・通幻寂霊・無端祖環・大徹宗令・実峯(じっぽう)良秀の五哲を出し，曹洞宗発展の基をなした。〔田中良昭〕

かさんぜい【加算税】実際の所得を偽って申告したり，申告を怠ったとき罰として課せられる税。加算税には，過少申告加算税・無申告加算税・不納付加算税・重加算税がある。過少申告加算税とは，正当な申告期限までに申告はしたが，それが過少であったという場合のもので，そのため納付することになった税額の5%相当額を課せられる。無申告加算税は，納税者が正当な申告期限までに申告しなかった場合に徴収される税で，税務当局の決定処分に基づき納付することになった税額の10%相当額を課せられる。不納付加算税は，源泉徴収される国税が法定の納期限内に完納されなかった場合で，その未納税額の10%相当額，重加算税は，納税者が課税標準や税額などの計算の基礎となる事実の全部または一部を仮装・隠蔽(いんぺい)し，その仮装・隠蔽に基づいてさきの過少申告・無申告・不納付が適用されている場合で，それぞれ基礎となる税額の30%，30%，35%相当が重加算税として課せられる。〔西野義彦〕

かざんたい【火山帯】地球上の火山の大部分が集中している帯状の地帯。火山の数でいえば，約62%が環太平洋火山帯*に，14%がインドネシア火山帯に属している。

➔513ページ

火　山



キラウェア火山の噴火　粘性に乏しく，流動性に富んだ溶岩が火口や山体にできた割れ目から噴出し，斜面を流れ下る。このような噴火がくり返されて，傾斜のゆるやかな火山ができる

高温の物質が地下から地表に噴出する所，またはかつて噴出した所を火山という。火山がそれらの物質を噴出することを噴火という。

〔火山の噴火〕

①静かなガス噴出：いわゆる活火山が静穏な状態にあるときは，火口*または噴気口*から静かにガスだけを吹き上げている。ガスの成分としては水蒸気が大部分であって，それが空中で凝結して水滴となり，白い雲のように見える。浅間山，伊豆(いず)大島の三原山，阿蘇(あそ)山，桜島などでは，晴れた日に白い噴煙が上がるのを遠望することができる。

②スコリア*や火山灰の噴出：火山活動が活発になって，マグマ*の頭が噴火口の出口に近づくと，噴煙の中に火山灰やスコリアが混じるようになり，噴煙は黒くなる。大きな火山弾などは空中でも赤熱状態を保ち，夜間遠望すると，放物線を描いて落下するのが赤い花火のように美しい。

③溶岩*の流出：さらにマグマが上昇すると，火口からあふれて溶岩流を生じる。溶岩が流出するときの温度はふつう1,000～1,200℃である。塩基性岩*の溶岩は粘性が低く，富士山の猿橋(さるはし)溶岩のように遠くまで流れるが，酸性岩*の溶岩は一般に粘性が高く，北海道の昭和新山のように，盛り上がるだけで横にはほとんど流れないこともある。溶岩は流れながら周囲から冷えて固まっていくが，流れの中心部やあとから流出した部分は流動性を保っているので，それに引きずられてさきに固まった部分は岩塊に砕かれながら押し流され，でこぼこの激しい表面ができあがることがある。浅間山の鬼押し出しなどはその例である。最後まで流動性を保っていた部分が表面に流れ出て固まると，なわをよじったような流れの文様が表面に残っていることがある。またそのような部分が流れ出たあとが大きな空洞(くうどう)になって残ることがあり，これを溶岩トンネルとよんでいる。

④熱雲：粘性の高いマグマでは，噴出するときに分離するガスの一部が，溶岩の皮膜を破りきれずに，小さな気泡(きほう)をたくさんつくり，軽石を生じることがある。その軽石が1,000℃ぐらいの高温の火山ガスの中に懸濁した状態で火口からあふれ出るのを，熱雲とよんでいる。熱雲は高温のまま秒速10～150 mで山腹を流れ下り，流路にあたるいっさいの生物を死滅させる。1902年に西インド諸島マルチニーク島に起こったペレー火山の噴火では，発生した熱雲が，１分間で８km離れた海岸のサンピエールの町を襲い，約30,000人の住人もろとも一瞬にして全滅させた。

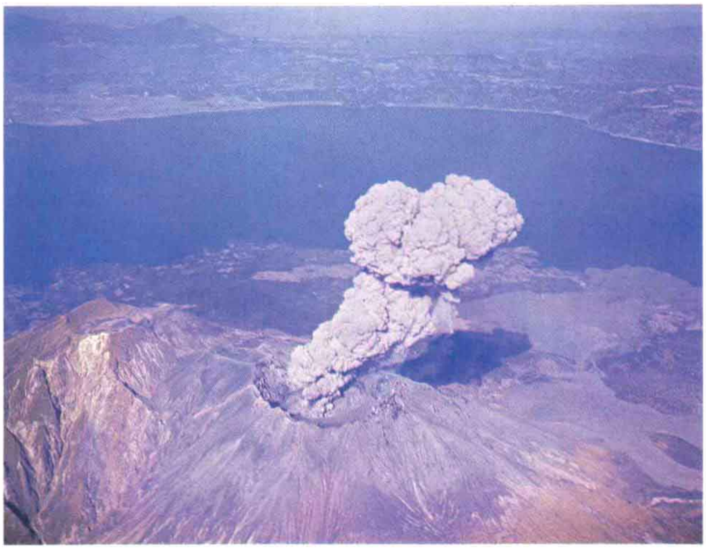
⑤溶岩湖：塩基性のマグマの場合には，とけたままの溶岩が火口のくぼみを満たして，溶岩の湖になることがある。1953年(昭和28)に始まった三原山の噴火のときにも，一時的に溶岩湖を生じたことがあった。ハワイ島のキラウェア火山では，長い年月にわたって溶岩湖が存続している。これらの溶岩湖が冷え固まらない原因は，溶岩湖の下のほうから水素や一酸化炭素などの可燃性ガスがたえず放出されており，それが湖面に出ると燃焼して熱を出すため，湖面直上の温度を常時1,350～1,400℃に上昇させているためである。

⑥爆裂：火山の活動が衰えて，火口が固結した溶岩でふさがれたあとで，再び盛んな噴火が始まるときには，まず高圧になったガスの力で，火口をふさいでいる溶岩や周囲の山体を爆破して新しい噴出口をつくる。新しい火山が生まれるときにも，同じような爆裂が起こる。また，火山体の中にしみこんだ地下水が加熱されて水蒸気となり，その圧力で大爆裂が起こることもある。1888年(明治21)の磐梯(ばんだい)山の大爆裂はこの種のものと考えられ，旧火山体の一部の1.2km³に及ぶ部分が吹き飛ばされ，それが水に混じった泥流(でいりゅう)となってふもとの長瀬川をせきとめた。現在観光地となっている檜原(ひばら)湖などの湖沼群は，そのときにできたせきとめ湖である。

⑦噴火の形式：実際の火山では，以上に述べたような噴火活動が，いろいろに組み合わされて起こっている。それらを一応形式に分類してみると次のようになる。



大室山　砕屑丘。火山砕屑だけを噴出する噴火がくり返し起こって，すりばちを伏せた形の砕屑丘ができる。ふつうは頂上に火口が残る



桜　島　複合式火山。地下での火山ガスの圧力が高くなって，激しい大爆発をする



昭和新山　ドーム。粘性に富み，ほとんど固結した溶岩が地下から盛り上がり，急傾斜の火山ができる



阿蘇山　成層火山。流動性に富んだ溶岩と，火山砕屑とが交互に噴出され，成層構造をもった火山ができる

㋑裂け目噴火：裂け目噴火は，地殻(ちかく)中にできた大きな裂け目から，主として玄武岩質の溶岩が大量にあふれ出るものである。1783年にアイスランドで起こった裂け目噴火では，長さ25kmに及ぶ裂け目から12km³の溶岩が流出し，565km²の範囲をおおった。
㋺中心噴火：普通の陸上火山の大部分を占めており，比較的狭い範囲の火口を中心に噴火が行なわれる。それは，静かな溶岩の流出を主体とする流出噴火，激しい爆裂を伴う爆発的噴火，両者の混ざった混合式噴火に区別することができる。流出噴火はハワイ式ともよばれる。爆発的噴火のうち，比較的穏やかな爆裂を周期的にくり返すものをストロンボリ式，激しいものをブルカノ式とよんでいる。混合式にはベスブ式と熱雲で特徴づけられるペレー式とがある。
㋩カルデラ式噴火：有史時代の実例はないが，現在残っている地形や堆積物(たいせきぶつ)から判断すると，やや酸性のマグマから大量の軽石や火山灰が噴出し，それに伴って大規模な陥没が起こるらしい。大阿蘇・十和田(とわだ)湖・洞爺(とうや)湖などはその例である。
㊁海底噴火：海底噴火はかなり頻繁(ひんぱん)に起こっているが，海面上に現われた現象だけしか観察できない。1952年に八丈島の南方ベヨネーズ礁付近で起こった明神礁の噴火では，かなり斜めの方向に軽石を吹き飛ばして，観測船に犠牲を出した。深い海底で起こる噴火では，海面に軽石が浮かび上がったり，温度が高く色の変わった水が上昇してきたりすることもある。

〔火山噴出物〕火山の噴火で噴出される物質のうち，気体は火山ガスとよばれ，液体として流出するものは溶岩とよばれる。そのほかに火山ガスといっしょに空中に放出される固体の破片や溶岩の破片があり，これを火山砕屑(さいせつ)という。火山砕屑はその大きさや組織に従って，次のように分類されている。

①32mmより大きい径のもの：噴出のとき個体であったものは火山岩塊とよばれる。火山岩塊は，以前の噴火のときの溶岩であることもあり，火山の基盤を構成している岩石であることもある。噴出のときまだ溶融状態にあったものは，火山弾という。火山弾はふつう紡錘状であるが，中には地表に落下した際につぶれてさら状を呈するものや，外側が固まってから内部が発泡して膨張したため，外殻(がいかく)にパンの皮の

ようなひび割れのはいったものなどがある。酸性マグマの火山では，軽石の火山岩塊が少なくない。

②径4～32mmのもの：火山礫(かざんれき)またはラピリという。ラピリの中には黒っぽくて多孔質の溶岩の破片が少なくない。これをスコリアという。スコリアは主として塩基性岩である。酸性岩の場合のラピリは軽石が少なくない。

③径4mm以下のもの：火山灰という。火山岩塊やラピリは，噴火口からあまり遠くまでは飛ばないが，火山灰の細かいものは上層大気の気流に乗って，地球を1周することもある。

〔火山体〕いろいろな火山噴出物が地上に堆積して火山体をつくる。火山体の地形や構造は，それぞれの火山の噴火の形式やマグマの性質によって特徴をことにしている。

①溶岩台地：裂け目噴火で流出した大量の玄武岩は流動性が大きいので，表面がほぼ平坦(へいたん)になって，台地状の地形をつくる。地溝*(ちこう)を埋めて流れる場合も多いが，そのような場合には谷を埋めて平坦な面をつくり，そのあとにできた深い峡谷がそれをえぐっている。朝鮮半島の中央部あたりには，そのような地形が見られる。溶岩台地には，非常に規模の大きいものが少なくない。インドのデカン高原一帯の体積は数十万立方キロメートルに達し，アメリカ合衆国北西部のコロンビア川溶岩台地では数万立方キロメートルに達する。これらは，もちろん1回の噴出でできたものではなく，長い年月にわたってくり返し噴火が行なわれた結果である。

②中心噴火の火山体：中心噴火ではマグマの性質が大きな影響を与える。一般に塩基性マグマでは，溶岩の割合が火山砕屑に比べて大きく，溶岩の粘性も小さいので，火山体の傾斜はゆるく，遠くまですそを引いた形になる。酸性岩では一般に火山砕屑の割合が大きいので，火口付近が特に盛り上がった形となり，また溶岩は粘性が高いため遠方まで流れない。できあがった火山体には次のように種々のものがある。

㋑マール：1回の爆裂だけで活動が終わったときにできる。火口が小さなくぼみとして残り，そのまわりに少量の火山砕屑が堆積しているもの。秋田県男鹿(おが)半島の一ノ目潟(いちのめがた)・二ノ目潟・三ノ目潟はこの例である。

㋺噴石丘：主としてスコリアや火山弾を噴出した火口のまわりに，それらが堆積してできたもの。30°くらいの急傾斜をもち，すりばちを伏せた形で，頂上には噴火口が小さなくぼみとして残っている(例，静岡県伊東(いとう)市の大室山)。なお，噴石丘の中で，高さに比べて噴火口の大きなものを臼状(うすじょう)火山(ホマーテ)とよぶことがある。

㋩楯状(たてじょう)火山(アスピーテ)：粘性の小さな溶岩を主体とする火山体は，傾斜がきわめてゆるく，楯を伏せたような形になる。ハワイ島のマウナロア山などはその典型的な例である。

㊁ドーム(溶岩円頂丘・トロイデ・鐘状火山)：粘性の高い溶岩が盛り上がってできたもの。昭和新山はその一例である。

㋭成層火山：長期間にわたり，火山砕屑と溶岩とがくり返し噴出されてできたもの。富士山がその代表である。

㋬複合式火山：実際の火山には，上記のいろいろな形の火山体のほか，陥没地形も組み合わされてできていることが多い。三原山・箱根・大阿蘇のように，旧期の火山体の中心部に大きな陥没を生じて火口原ができ，その中に新たな噴火が起こって中央火口丘をつくっている例が少なくない。

③カルデラ火山体：径数キロメートル以上，深さは数百メートルに達する大きな陥没地があって，その周囲に広範囲にわたり軽石を主体とする堆積物が高原状の地形をつくっている火山体である。単にカルデラといえば中央の陥没地のことで，多くの場合湖沼になっていて，カルデラ湖とよばれる。支笏(しこつ)湖・洞爺湖・十和田湖などはその例であり，鹿児島湾もカルデラ湖が外海につながったものと考えられている。

④海底火山：海底噴火で噴出した火山砕屑は，海水の影響でほぼ平坦に堆積して上下の地層の間にはさまれ，特に盛り上がって火山体としての特徴を示すことは少ない。しかし，溶岩が同じ火口からくり返し流出すると，その周囲から盛り上がった海山*となる。

⑤火山体の開析：陸上火山では，周囲から盛り上がっているため，侵食作用を激しく受ける。噴火活動の衰えた火山では，侵食によって火山体の中心部が露出するようになり，火口の下部にあたる火山岩頸*(かんけい)や岩脈*・岩床*などが火山体の内部を構成しているのがみられる。

〔火山の分布〕活火山および洪積世(こうせきせい)以後に噴火したと推定される火山の分布を調べてみると，地球上のごく限られた地帯に集中している。活火山の約60％は，太平洋を取り巻いて分布しており，この地帯を環太平洋火山帯*とよんでいる。特にその3分の2は，日本列島を含む西太平洋の弧状列島に沿って分布している。それに次いでは，大西洋中央海嶺(かいれい)に沿うものや，インドネシアのスンダ列島沿いのものがあり，それぞれ活火山の10％余りがそこに分布している。

これらの火山帯は，地震帯と密接に相伴い，地球上での構造上の弱線に相当している。たとえば，環太平洋火山帯は環太平洋地震帯*と平行しており，全体として環太平洋造山帯*に属している。環太平洋造山帯は，新第三紀以降今日まで引き続き造山運動が進行中の所である。また，大西洋中央海嶺は，地球を取り巻く大きな割れ目の一部と考えられている。

〔火山の恩恵と災害〕前述したペレー火山の熱雲噴火の例のように，火山の噴火による大きな災害はいろいろあるが，地震や台風に比べると一般に局地的である。熱雲噴火と同じように恐ろしいのは，火山爆裂に伴って泥流を生じる場合で，その流路に沿った所は避難のいとまもなく埋没してしまうし，その泥流で河川がせきとめられると，広い地域が湖底に没してしまう。前述した1888年の磐梯山の爆発はその例である。火山から少し離れた地域では，軽石・スコリア・火山灰などの降下による作物の被害が主になる。その中で軽石やスコリアは，少し厚く積もると水を保持しない不毛の火山灰地をつくるが，細かい火山灰は風化しやすく豊沃(ほうよく)な農地を提供する。特にジャワのような雨量の多い熱帯では，危険を承知で活火山の山腹に農地を開拓している。

〔噴火の予知と防災〕噴火の災害から免れるためには，噴火の予知ができればいちばんよい。すべての型の噴火を予知することは現在のところまだ不可能であるが，周期的に噴火をくり返すような火山については，かなりの精度で予知に成功している。これらの火山では，長年にわたる研究の結果，噴火の前兆となる現象がいくつか知られている。まず，火山体が全体としてふくらむのであるが，これは精密な傾斜の変化を測定することによって知ることができる。また，頻発(ひんぱつ)性の小地震が起こり，その震源がしだいに地表に近づいてくるが，これは敏感な地震計でとらえることができる。傾斜計や地震計は1か所に設置しただけでは役にたたないので，火山を取り囲んで数か所以上に設置し，それらについて常時同時観測して監視している必要がある。そのような設備が完備しているのは，まだハワイのマウナロア山だけであるが，そこでは，すでに何回かの噴火の予知に成功している。日本でも浅間山で地震研究所の研究陣が同様な試みに成功しているが，まだ常時監視の態勢は整っていない。たえず観測されるようになれば，噴火の予知もかなりよくできるようになり，災害を少なくするのに役だつことはいうまでもない。

被害の大きい泥流の発生は，水の存在が原因の一つなので，ジャワでは火口湖に排水トンネルをつくって，その発生を防いだ例もある。また溶岩の流れは，わずかの障害物があっても方向を変えるので，ブルドーザーで応急の堤をつくったり，飛行機からの爆撃で流路を開いたりして制御した例が，ハワイにある。〔片山信夫〕

これらの火山帯に属する火山は一般に爆裂を伴う噴火を行ない，したがってその噴出物では溶岩よりも火山砕屑(さいせつ)が大きな割合を占めている。火山岩の種類としては，石英安山岩や安山岩が最も大きな割合を占めている。もう一つの大きな火山帯は大西洋の中央部を南北に走っていて，少なからぬ部分が海底火山*で，一部がアゾレス諸島・カナリア諸島・ベルデ岬(みさき)諸島などの火山島となっている。噴出物の大部分が玄武岩溶岩である。ハワイ付近の火山帯などもこれに似た性格をもっている。イタリア半島の西側に沿って走る地中海火山帯は，カリウムに富むアルカリ火山岩*を噴出する特徴をもっているが，火山帯としては分布が狭い。そのほかはあまり帯状の分布がはっきりしないものが多い。〔片山信夫〕

かざんだん【火山弾】⇨火山噴出物⇨火山

かざんてんのう【花山天皇】(968〜1008) 在位984〜986年。名は師貞(もろさだ)。冷泉(れいぜい)天皇の第1皇子。母は藤原伊尹(これただ)の娘懐子。外戚(がいせき)の義懐(よしちか)を重用して政治につとめたが，たまたま最愛の女御藤原忯子(きし)を失って悲嘆にくれる天皇を見た藤原兼家*は，子道兼をして天皇を花山寺(元慶(がんぎょう)寺*)に出家させ，そのあとに外孫一条天皇を即位させて政治をつかさどった。和歌をよくし，《拾遺和歌集*》はその撰(せん)という。陵墓は紙屋上陵(かみやのほとりのみささぎ)(京都市北区)。〔簗　弘道〕

かざんてんもんだい【花山天文台】京都市東山区山科(やましな)にある京都大学理学部付属の天文台。1929年(昭和4)創立。おもな観測設備は口径30cm屈折望遠鏡と口径70cmのシーロスタット*をもった焦点距離20mの太陽望遠鏡。惑星大気の研究や太陽の分光観測をおもな仕事としている。

カサンドロス［Kasandros］(BC358〜BC297) マケドニア王国の王。在位BC316〜BC297。父アンチパトロスの死に際し後継者に指命されなかったため，ギリシア諸都市の支持を得て反乱を起こし，マケドニアとギリシアの大半を支配した。アレクサンドロス大王の遺志を継いで帝国再統一をめざすアンチゴノス1世と対立したが，イプソスの戦い*で彼を破った。

かざんばい【火山灰】⇨火山噴出物⇨火山

かざんばいち【火山灰地】久保栄*の長編戯曲。2部7幕で，第1部は1937年(昭和12)，第2部は1938年に雑誌《新潮》に発表。日中戦争下のきびしい検閲の制約下に完成したもので，1938年新協劇団の初演。北海道十勝(とかち)地方の火山灰地の農村における農業技術の進歩と，それをはばもうとする封建制との相克が主題。

かざんばいど【火山灰土】火山噴出物*を母材として生成した土壌(どじょう)の総称で，日本全国に分布している。多孔質で固相は約20%，一般に腐植に富み，黒色の表層をもつ。火山灰土中の粘土はシリカ-アルミナ化合物であるアロフェンでアルミニウム含量が高く，施肥されたリン酸の無効化はこのアロフェンの性質による場合が多い。大部分の火山灰土壌は酸性土壌である。

かざんふんしゅつぶつ【火山噴出物】火山から噴出される物質のうち，気体は火山ガスとよばれ，液体として流出するものは溶岩*とよばれる。そのほかに火山ガスといっしょに空中に噴出される固体または半ば溶融状態の溶岩の破片があり，これらはその大きさや組織に従って，次のような名称が与えられている。①径が32mmより大きいもの。噴出のときすでに固体であったものは火山岩塊，噴出のとき一部溶融状態にあったものは火山弾とよばれる。②径4〜32mmのもの。火山礫(かざんれき)またはラピリとよばれる。③径4mm以下のもの。火山灰という。

噴出されたマグマ*の小滴が，あめのように引き伸ばされて毛のようになったものを火山毛という。火山弾や火山礫の中で，黒っぽく多孔質のものはスコリアという。スコリアは主として塩基性岩*である。また，白っぽくて多孔質であり，穴の壁のガラスの厚さが非常に薄いものを軽石という。軽石は粘性の高い酸性岩*である。〔片山信夫〕



火山噴出物　(左)火山弾　(右上)火山毛　(右下)火山餅

かざんもう【火山毛】⇨火山噴出物⇨火山

かし【華氏】⇨温度

かし【樫】双子葉植物・ブナ科の常緑高木のアラカシ・アカガシなどの総称で，広義には落葉のナラ類を含める。本州中部以西・四国・九州に分布する。葉は互生し，厚く，光沢があり，裏面は色が薄く，白い粉をふいたようなものもある。雌雄同株で，晩春〜初夏に花を開く。雄花序は細長い穂状で下垂し，雌花序は短い穂状となる。果実は俗にどんぐりといわれ，半分ほどが殻斗(かくと)に包まれる。殻斗は総包片がかわら状に並列したもので，常緑のカシ類では総包片が合着するが，落葉するナラ類では総包片は合着しない。常緑のカシ類には，アラカシ*・アカガシ*・シラカシ*・ツクバネガシ*・ウラジロガシ・イチイガシなどが含まれる。材質はかたくじょうぶなので，船舶材・車両材・農具の柄などに用いる。樹皮にはタンニンを含み，媒染剤・なめし皮剤などにされる。ウバメガシでつくる白炭の









カ　シ
(左)崖地にはえるウバメガシ
(中)アラカシ
(右上)シラカシの果実
(右下)カシワの果実(ナラ類は総包片が合着しない)

備長炭(びんちょうずみ)は，木炭の中で最もかたく，火もちがよいので，こたつ用・かば焼き用などに用いられる。

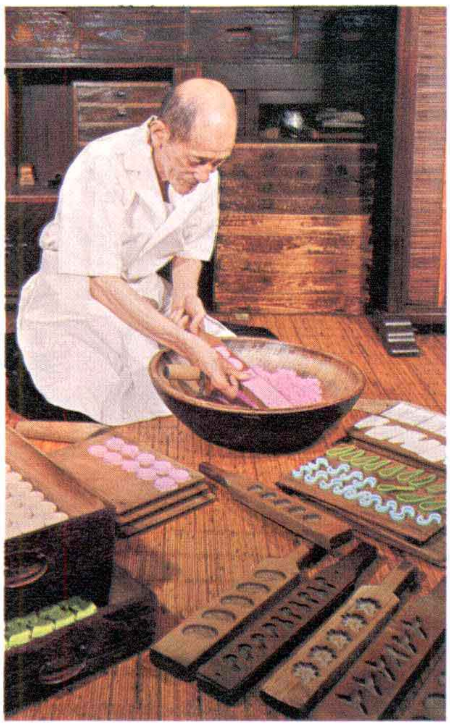
落葉のナラ類にはミズナラ・カシワ・クヌギ・コナラなどが含まれる。ミズナラは材質がすぐれ，家具材として珍重される。クヌギ・コナラの木炭は黒炭として優秀であるが，木炭の需要は減少している。しかし，シイタケ栽培用の原木として大量に用いられている。〔中村克哉〕

かし【菓子】 嗜好(しこう)食品の一種。料理とは別にお茶うけ，食後の甘味品として発達し，各国で特色あるものがつくられている。米・小麦粉・もち・砂糖・あん・乳製品などをおもな材料とする。

【和菓子】わが国で発達した独特の菓子。もと，草木の実を〈果子〉とよんだのが転じて〈菓子〉の名称ができたという。あんを基礎とし，季節感を生かして美しい細工を施したものが多い。

《種類》①蒸し菓子：もち米以外の穀類を蒸したもので，まんじゅう類・蒸しようかん・軽羹(かるかん)など。②棹物(さおもの)：練った材料をさお形の型に流して固めたものでようかん類・錦玉(きんぎょく)類・ういろうなど。③もち菓子：もちとその加工品，およびもち米以外の穀類の加工品で，のしもち・大福もち・うぐいすもち・ちまきなど。④干菓子：熬(い)り種・焼き種の2種がある。熬り種は，穀物の粉をいって固めたもので，雷おこし・粟(あわ)おこし・落雁(らくがん)・塩釜(しおがま)など。焼き種は穀物の粉を固めてから焼いたものの総称で，せんべい類・あられ類・もなかなど。⑤生・半生菓子：あんを基調としたものの総称で，上生・並生・半生の3種がある。上生は，求肥(ぎゅうひ)・練り切りあんを基調として日もちもよく最も上等なもので，玉だれ・そのの月などがその代表。並生は，風味がその日のうちに失われる安価なもので，葛桜(くずざくら)・栗(くり)かのこなど。半生は，生菓子の材料に干菓子の風趣をもたせて細工したもので日もちがよい。石衣・翁(おきな)あめなど。⑥焼き菓子：焼くことにより味やかおりをよくしたもので，どら焼き・ワッフル・カステラなど。⑦あめ菓子：水あめを加えたものでたん切りあめ・有平(あるへい)糖・梅干しあめ・朝鮮あめなど。⑧果蓏(から)加工菓子：果蓏を加工したもので，柿(かき)ようかん・柚餅子(ゆべし)・文旦(ぶんたん)づけ。

《歴史》上古には，ザクロ・ナシ・モモなどの果実(くだもの)，白ウリ・アケビ・イチゴなどの蓏(くさくだもの)，穀物の加工品を一括して菓子といった。穀物の加工品には，漿(つくりみそ)・強飯(こわい)・糒(ほしい)・糄米(やきごめ)などがあった。聖徳(しょうとく)太子のころ，遣唐使によって大陸から8種類の唐菓子と14種類の果餅(かへい)が伝えられた。これらは穀物の加工品で，従来のくだものに対して〈からくだもの〉の名でよばれ，宮中や上流社会ではたいへん珍重された。米・小麦・ダイズなどの粉に塩・酢・ゴマ・甘味料などで味をつけ，種々の形につくったものを焼いたり，揚げたり，いったりしたものである。当時わが国には製糖術が伝わっておらず，遣唐使によって持ち帰られたわずかの砂糖ももっぱら薬用として用いられたにすぎず，菓子の甘味料としては，あいかわらずアマズラの煎汁(せんじゅう)が使われていた。鎌倉・室町時代は，点心(テンシン)が盛んになった。点心は中国から伝わったもので，定食と定食の間に空腹をいやすためにとった小食のことである。鎌倉時代の初期までは，定食は朝夕の2食であったので点心は昼食として欠かせぬものであったが，中期からは朝昼夕の3食となって，点心は昼食と夕食の間にとられるようになり，現在のおやつ(間食)にあたるものとなった。種類は，羹(あつもの)類・めん類・まんじゅう類などであった。中国での羹は，鳥獣の肉を用い，それぞれの形に蒸し上げたもの，たとえば，ようかんはヒツジの肉を使い，ヒツジの肝の形につくって蒸したものを薄味のみそしるに浮かべたものであったが，鳥獣の肉を食べない習慣の日本人は，植物を材料としてつくり，名まえだけを残したものと思われる。また，この時代には喫茶が一般に普及しはじめ，その添え物として点心が供されるようになると，しるは不要になり，中身の蒸し物だけを食べるようになった。これを外見も美しく，甘味のものに改良したのが，蒸し菓子の起こりといわれる。さらに茶道の確立に伴い，茶の情緒を引き立てる菓子が要求されるようになると，技巧をこらした趣味的要素が一段と強まってきた。1341年(暦応4)には中国からまんじゅう(饅頭)が伝えられ，安土桃山時代にはいると1589年(天正17)蒸しようかんに甘味と保存性を補った練りようかんが伏見の駿河屋(するがや)によってつくり出された。一方，1534年(天文12)，ポルトガル人の種子島(たねがしま)渡来後は，鹿児島や長崎に宣教師が来日するようになり，大量の砂糖とともに卵・牛乳・バターなどを原料とする菓子の製造法が伝えられた。この時代以後を有糖時代，それ以前を無糖時代とよぶ。政府が江戸に移ったのちも和菓子はあいかわらず京都を中心に京菓子として発達し，ますます巧緻(こうち)優美なものとなって，柔らかみを生かしたその製法は上流階級に愛好された。この京風に対抗して，元禄(げんろく)・享保(きょうほう)(1688〜1736)のころ，淡白な風味と歯ごたえのある庶民的な江戸風菓子がつくり出された。塩瀬まんじゅう・きんつば・大福・江戸風ようかん・塩せんべい・雑菓子が代表的なものである。雑菓子とは路傍売りの駄菓子(だがし)のことで，江戸ではじめてつくり出された。雑菓子以外のものは上菓子とよばれた。当時上菓子司のほかは白砂糖の使用が禁じられていたために雑菓子には黒砂糖が用いられた。麹町助惣(こうじまちすけそう)の〈麩(ふ)の焼き〉が最も有名で，ほかにたん切りあめ・豆板・今川焼き・かりんとうなどがあり，江戸時代の末期にはもなか・切り山椒(ざんしょう)が人気を集めていた。上菓子の高級化に伴い，雑菓子は下級菓子として〈駄菓子〉とか〈一文菓子〉とかよばれて，庶民の間で愛好された。江戸時代は京菓子と江戸風上菓子が競い，発達して和菓子が完成された時代であり，京菓子・上菓子時代とよばれる。明治維新後，洋菓子の輸入が増加するに伴い，和菓子は，その伝統を守りつつ，一方では，洋菓子の材料・製法を取り入れて，和洋折衷菓子ともいうべきものもつくられるようになった。〔塩川ふみ〕



菓　子　徳川家光から名を賜わったという350年に近い歴史をもつ京都の老舗。干菓子のもつ味・色・形は，茶の湯の精神とともに今日もその伝統を誇っている

【洋菓子】西洋風菓子の総称。一般にはケーキ類・ビスケット類・キャンデー類・プディング類などが含まれるが，特にケーキ類をさす場合が多い。

《歴史》菓子はBC626年ごろからあって，祝祭日に神前に供える目的でつくられたのがはじまりという。初期の菓子は乾燥糖化したくだもの類を練り合わせ，黒糖蜜(みつ)や卵を加えたもので，現在のイギリスのフルーツケーキにそのおもかげが残っている。古代ギリシアの栄えたころには，すでにケーキの形の菓子がつくられ，これがその後ローマ・フランスを経てヨーロッパ各国に伝わり，それぞれの国に特有の菓子として発達した。わが国には16世紀にポルトガル人やスペイン人により南蛮菓子として伝えられた。代表的なものにカステラがある。

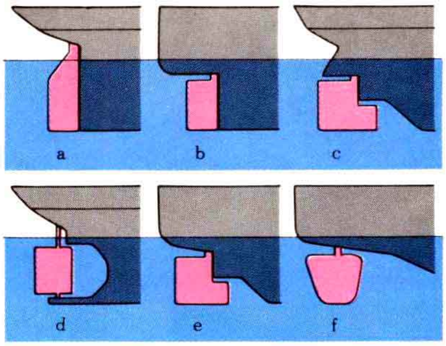
国産の洋菓子としては，1873年(明治5)東京の米津凮月堂(よねづふうげつどう)がビスケットを博覧会に出品したのがはじまりといわれる。その後外国職人を雇い入れたり，また1890年には森永(もりなが)太一郎が渡米して洋菓子の製法を習得したりして，1900年には東京で工業的に洋菓子の製造が始められた。現在では，工業的に大量生産されるものから家庭で手作りにされるものまで，その種類はきわめて多い。

〈種類〉かわいた菓子と，柔らかいデザート菓子に分けられる。①かわいた菓子：午後のお茶や朝食のパン代わりに用いられるもので，ケーキ類・パイ*菓子類・パン菓子類があり，パティスリーとよばれる。②デザート菓子：型に入れて固め，ソースなどをかけて食べるもの。保存はきかず，正式の午後のお茶には用いられない。ババロア*・プディング*・アイスクリーム*・シャーベット*などがあり，アントルメ*という。また，これらのほかにキャンデー・チョコレート*などのコンフィーズ(糖菓)や，くだものを主材料とするマロングラッセ*などもある。

洋菓子は卵・牛乳・バターなどを多量に用いるので，和菓子に比べて全般的に栄養価が高く，消化もよいものが多い。第2次世界大戦後は特に日本人の味覚に合わせたくふうがなされ，和菓子をしのぐ流行をみせている。〔泉　敬子〕

かし【仮死】 外観上生活現象は認められないが実際には生きていて，再び生活現象を現わす可能性のある状態。生活活動がきわめて微弱となり，呼吸運動や心臓搏動(はくどう)を触知できなくなり，反射作用なども消失して，外観では真死との区別は困難である。仮死では自然に，あるいは人工呼吸や心臓マッサージなどの処置により蘇生(そせい)することがあり，死んだように見えてもけっして死んでいない。動物の冬眠*とほぼ同様な状態を呈し，分娩(ぶんべん)第2期で胎児への酸素供給が不十分な場合に認められることが多い。そのほか，失神・中毒・感電・溺殺(できさつ)・寒冷昏睡(こんすい)の際などにみられる。最近では薬物・冷却装置などを使用して治療の目的で人工冬眠*をさせることもある。仮死と区別するために真死の証拠をあげると，①死体の冷却，②死体の乾燥，③死斑(しはん)の発現，④死体の硬直などの早期死体現象がある。〔朝倉　了〕

かじ【舵】 船尾または船首(特殊な場合に限る)に装備して船の進行方向を変更するための装置。ラダーともいう。舵には形状により釣合舵(つりあいかじ)・半釣合舵・不釣合舵・吊(つ)り舵などがある。また，その構造により単板舵と複板舵とがある。前者は1枚の鋼板を舵としているものであるが，後者は断面が流線形となるように組み立ててあるもので，旋回力が大きく，水流の抵抗も小さいので能率がよい。特殊な舵として，舵の前端をプロペラで生ずる水流の方向に



a, b　不釣合舵　　d, f　釣合舵
c, e　半釣合舵　　f　吊り舵

舵



鍛　冶《職人尽歌合絵巻》高松宮家蔵

適応させて船の推進効率を上げるようにくふうした反動式舵，普通の舵の後部に小さいプロペラをつけたアクティブラダーなどがある。〔飯島幸人〕

かじ【鍛冶】 民間に存在する硬金加工の技術者。鉄その他硬金属の普及に伴い，それを加工して農具や生活器具の製造を行なう鍛冶屋・鋳物師は庶民のみならず朝廷にとっても重要な存在であった。古代には鍛冶部(かぬちべ)といわれる部民(→部)がおり，中世には鍛冶が幕府その他に仕えている。14世紀以降，郷村的村落(→惣(そう))の生産力高揚に伴い，鍛冶は分化しつつ各地を巡回し，畏敬(いけい)の念をもって迎えられ，やがて各地村落に定着した。特に武家階級の台頭によって，各地に刀鍛冶*が発達して多くの名匠を出した。鍛冶の行なわれた小村落は，〈かなや〉〈たたら〉〈かねづか〉などの多くの地名にうかがわれる。なお金屋子神はその守護神である。〔渡辺欣雄〕

かじ【加持】 梵語(ぼんご)adhiṣṭhāna(アディシュターナ)の訳語で，護念・加護ともいう。仏の超人的な力によって人々が守られることをいう。密教では，仏の力が人々に及ぶことが〈加〉で，人々がその力に保たれることを〈持〉という。それは一般的には，仏の慈悲の力が衆生に加わり，これに対して衆生の信心が仏に通ずる，両者の相応関係をいう。加持相応あるいは加持感応といわれるものがそれである。これから出て，仏の力を信者に迎えるために祈禱(きとう)をこらすことから，祈禱をも加持という。〔金岡秀友〕

がし【餓死】 ⇨飢餓死

かしあげ【借上】 鎌倉・南北朝時代の金融業者。〈かりあげ〉ともいう。高利無担保で金銭を貸して利子をとる。貨幣経済の発達に伴って鎌倉時代に起こり，地頭・御家人の中には借上からの借金に苦しんで，彼らを代官*に取り立てたり，所領を失ったりする者が多く，1239年(延応1)幕府は地頭が借上のやからを代官にすることを禁じた。1297年(永仁5)には徳政令*を出して売却地の無償返付を命じたが，かえって御家人は金融の道を失い，困窮の度を深めた。室町時代には担保貸付を行なう土倉*が一般化し，借上は消滅した。→永仁(えいにん)の徳政令〔鈴木英雄〕

かしあるいしひょうじ【瑕疵ある意思表示】 詐欺*または強迫*によってなされた意思表示*をいう。意思表示の外形(表示行為)とそれから推断される意思(効果意思)とは一致するけれども，意思決定過程に他人の干渉があり，自由な判断に基づかないままになされた意思表示である。表示行為と効果意思とが不一致の場合の意思の欠缺(けんけつ)とは異なる。瑕疵ある意思表示はこれを無効とせず，一定の要件のもとで取り消しうるにすぎないものとしている(民法96・120条)。〔黒木三郎〕

かしいぐう【香椎宮】 福岡県福岡市香椎にある。古くは香椎廟(かしいびょう)と称した。祭神は仲哀天皇とも，その妃神功(じんぐう)皇后とも，また両神を合祭するともいう。社地は仲哀天皇の熊襲(くまそ)征伐のときの行宮跡と伝えられる。創建は724年(神亀1)といわれ，平安時代以後は宇佐神宮*に準じて天皇の即位，大嘗(おおなめ)および変災など事あるごとに勅使がつかわされた。南北朝以後に一時中断されたが，1744年(延享1)から復興されたと《香椎廟宮記》に見える。本殿は香椎造りとよばれる複雑な構造で他に類を見ない。例祭は10月29日。当社には末社が多く，そのほとんどが武内宿禰*(たけのうちのすくね)を祭神としている。〔佐野文哉〕

かしいしょう【貸し衣装】 損料をとって衣装を貸すことを営業とする店，およびその衣装。親族・友人・知人間で衣類の貸し借りをすることは古くから行なわれたが，料金をとって衣類を貸す専門業者は江戸時代に現われ，庶民の間で利用された。特に主として葬送の喪服を用意できない人に貸すことが広く行なわれ，素襷屋(いろや)とよばれ，葬儀屋がこれを兼ねていた。一方，損料屋という衣類・寝具を貸す業者もあったが，しだいに寝具は寝具商が行なうようになり，衣装は貸し衣装専門店ができて婚礼・葬送の礼服や喪服に利用されるようになった。第2次世界大戦までは利用者は少数で

あったが，戦後民主主義と経済の高度成長に伴って婚礼衣装も豪華となり，女子はおしなべて振りそで・打ち掛けを，男子はモーニングまたは紋付き長着・羽織にはかまを着用するようになり，借りたほうが合理的であるという考えから，貸し衣装が多く用いられるようになった。紋付きは定紋にはり替えることもしている。貸す日数は儀式の日を中心に3日間と定めるのが普通で，よごしたり盗難に会った場合には弁償する。料金は全国でほぼ一定し，高級品・新品，使用度の少ないものほど高価である。〔堀越すみ〕

かじいちご 【梶苺】 双子葉植物・バラ科。本州太平洋岸の暖地，伊豆(いず)七島の海岸に自生する落葉低木。トウイチゴ・エドイチゴともいう。食用にするため栽培もされる。高さ1.5mほどになる。葉は互生し，5～7深裂する。繁殖は地下枝。4～5月，小枝の先にしわのある5弁の白色小花を数個ずつ上向きにつける。果実は球形で，黄熟し，酸味がある。

かじいのみや 【梶井宮】 ⇨三千院

かじいもとじろう 【梶井基次郎】(1901～1932) 小説家。大阪市の生まれ。東京大学英文科在学中に雑誌《青空》を創刊し，《檸檬(レモン)》《城のある町にて》を発表，以後近代的な虚無・倦怠(けんたい)・退廃を詩的な感受性と鋭い自己凝視に基づく清新な文体によって表現した。生前は無名に近く，死後認められた。その作品はいずれも短編である。

カシオペアざ 【カシオペア座】 銀河に浸る北天の星座。3個の2等星，2個の3等星がW字形を描く。北極星をはさんでおおくま座と反対側にあり，北斗七星が低くなったとき北極星を捜す目じるしとなる。➔星座

カシオペイア [Kassiopeia] ギリシア神話中の人物。エチオピア王ケペウスの妻で，アンドロメダの母。海に住む神ネレウスの娘らよりも美しいと自慢したため海神ポセイドン*の怒りを招き，海神のつかわした怪物にアンドロメダを犠牲としてささげねばならなくなる。アンドロメダを救って妻としたのがペルセウス*。星座になってもずっと腰掛けたままでいるのは，海の娘らを侮辱した罰であるという。

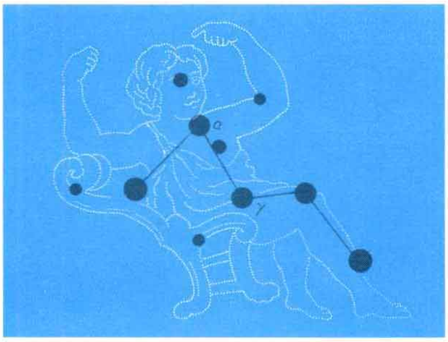
かしおんせん 【甲子温泉】 福島県西白河(にししらかわ)郡西郷村にある温泉。泉温45～51℃，泉質は芒硝石膏泉(ぼうしょうせっこうせん)で，神経痛・胃腸病・リウマチにきくといわれる。阿武隈(あぶくま)川の上流，那須岳北麓(なすだけほくろく)の閑静な温泉で，天然ぶろもあり，渓谷美(けいこくび)をながめながら入湯することができる。那須岳縦走ハイキングコースの登山口でもある。東北本線白河駅からバスの便がある。

かじか 【鰍・杜父魚】 硬骨魚類・カジカ科。15cmになる淡水魚。本州・四国・九州の小石などがある澄んだ水の川底などにすむ。頭は大きく，からだつきがハゼに似るので混同されていることが多い。皮膚はなめらかで，背のほうは灰かっ色，腹のほうは淡い。カジカ科には海産のものが多く，アサヒアナハゼは15cmほどに達し，日本全国の岸近くにきわめて多い。また，ナベコワシカジカは30cmほどになり，東北地方以北にすむ。あまり美味なので，なべの底を搔(か)いて食べようとするということからこの名が出たといわれる。〔菅野 徹〕





カジイチゴ
(上)花
(下)果実



カシオペア座



カジカ



カジカガエル

かじかえで 【梶楓】 双子葉植物・カエデ科。オニモミジともいう。本州・四国・九州の山野に自生する落葉高木。葉は対生で，5裂。あらい鋸歯(きょし)がある。4～5月，総状花序に数花をつける。雌雄異株で，雄花は淡緑色，雌花は暗紅色。果実はあらい毛がある翼果で，翼を合わせて3～4cm。

かじかがえる 【河鹿蛙】 両生類・アオガエル科。本州・四国・九州の固有種で，主として山地の渓流(けいりゅう)に生息。体長は，雄4cm，雌7cmぐらい。体の背面は暗灰かっ色で，周囲の環境によって体色を変える。流れの中の岩や川原のコケのはえた岩の上などに静止しているので見分けにくい。危険を感じるとすぐ水に飛び込み，水底に潜む。盛夏のころには木に登って樹洞(じゅどう)にはいっていることがある。雄の鳴き声が美しく，昔から家庭で飼育されたり，歌や詩に読まれてきた。愛好者はカジカ笛によって鳴き声を訓練する。特に鳴き声を楽しむ目的でカエルを飼育する美習は，日本特有のものであるが，カジカガエルの生息環境が荒されて数が減少している。岡山・山口の両県下では天然記念物に指定されている。6～8月に岸近くの岩の下や草の間に産卵。南西諸島産のニホンカジカガエルはあまり美声でない。〔松井孝爾〕

かじかざわ 【鰍沢】 落語の題名。三遊亭(さんゆうてい)円朝*の作で，〈小室山〉〈卵酒〉〈熊(くま)のこうやく〉を語り込んだ三題噺*(さんだいばなし)。身延山*(みのぶさん)参詣(さんけい)の江戸商人新助が雪の山道に迷い，たまたまあった一軒家に泊まる。主人の熊の膏薬(こうやく)売り伝三郎はるすで，ひとりいた妻女はもと吉原(よしわら)の月の戸おいらん，いまはお熊という。新助は吉原時代の月の戸を覚えていて，思い出話の間に金を包んで差し出し，卵酒を飲んで寝る。お熊はこの旅人に金のあることを見抜いて，卵酒に毒を入れておいたのだが，お熊が酒を買いたしに出た間に，伝三郎が帰ってきて卵酒の残りを飲んで苦しみだす。帰ったお熊がこれを見て騒ぐので，奥の新助も気づき，毒でしびれたからだで外へころがり出て，毒消しの護符を雪で飲み込み，題目を唱えながら鰍沢(山梨県西部，富士川西岸)の断崖(だんがい)から急流に飛び込み，いかだの上に落ちる。お熊の打った鉄砲の玉がいかだのつるを切って，新助は材木1本にすがりながらお題目を唱え続けて危地を脱する。〈おザイモクで助かった〉がサゲ。初演は芝居噺*の形式であった。〔長尾一雄〕

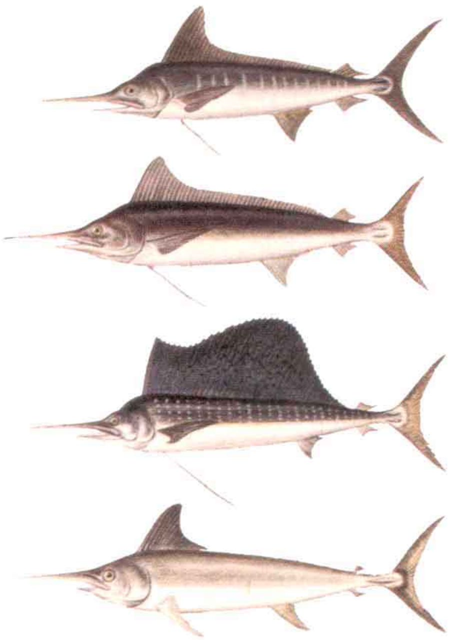
かじかざわ 【鰍沢(町)】 山梨県南巨摩(みなみこま)郡に属し，甲府盆地の南西隅(ぐう)にあって富士川に臨む。人口5,900。江戸時代までは海のない甲斐(かい)の門戸であり，富士川遡航(そこう)の上限の河港として繁栄したが，身延線の開通で港の機能を失った。現在はこの地方の経済・行政上の中心で繭・木材の集散を行なっている。

かじかわ　【加治川】　越後(えちご)山地の大日岳に水源を発し，新潟平野北東部をほぼ北流して日本海に注ぐ。流程60km。もとは平野部に出て紫雲寺潟(しうんじがた)に注ぎ，海岸近くで西流して阿賀野(あがの)川に合流していたが，平野部の氾濫(はんらん)がたび重なり，江戸時代からしばしば治水工事が行なわれてきたが，いまなおくり返されている。新発田(しばた)市北西方の放水路もこの工事の一つで，この堤防上の桜並み木は〈加治川の桜〉として知られていたが，いまは往時のおもかげはない。　〔長津一郎〕

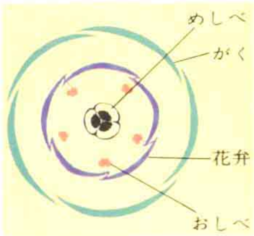
かしかん　【下士官】　軍隊において将校と兵の中間の階級にある軍人。戦闘技術の熟練者あるいは特種技能者として，小部隊の指揮や職場の取り締まりに実力を発揮した。日本陸軍では曹長(そうちょう)・軍曹・伍長(ごちょう)，同海軍では兵曹の語がつくものがこれに相当する。アメリカ軍のコーポラル・サージャントなどの階級に相当する。

かしき　【花式】　花の構造を記号と数字で表わしたもの。がく片をK(ドイツ語のKelchの頭文字)，花冠をC(Corolla)，おしべをA(Androeceum)，めしべをG(Gynaeceum)，花被*をP(Perianth)とし，その構成数を数字で示す。めしべの心皮が癒合(ゆごう)しているときは数字を(　)で囲み，子房の位置は一で示す。たとえばコケモモの花はK(5) C(5) A5+5 G(5)で，癒合したがく片が5，癒合した花弁が5，おしべが5本ずつ2輪に並んでおり，めしべは5心皮が癒着して子房上位であることを示す。また，ユリのようにがく片と花弁の区別のない花は，P3+3 A3+3 G(3)と表わす。そのほか，アヤメ P3+3 A3 G(3)，小麦 P2+2 A3 G(3)，ナス K5 C5 A5 G(5)，サクラ K(5) C5 A10+10+10 G1，ウマノアシガタ K5 C5 A∞ G∞，ダイコン K4 C4 A2+4 G1である。　〔高島文三〕

かじき　【梶木・旗魚】　マカジキ科のマカジキ・シロカワカジキ・クロカワカジキ・バショウカジキ，メカジキ科のメカジキなどを合わせてカジキとよぶ。長めの黒っぽい体に，細長いくちばし(上あごの変形したもの)をつけていることがカジキ類の特徴である。マグロとは少し縁が遠いが，体の色や大きさや肉の感じが似ているために，カジキマグロとよばれることがある。カジキ類は長い上あごで敵を攻撃し，メカジキは特に勇猛で船にまで向かってくることがある。マカジキは3 mほどになる。シロカワカジキは4 mほど，クロカワカジキは3 mほどになり，マカジキに似る。バショウカジキは2 mほどで，背びれが帆のように広く大きい。メカジキは他のカジキと異なり，うろこがなく，成長すると腹びれがなくなるので，他のものとは少し縁が遠いとされている。どのカジキも太平洋水域の暖かい海に広く分布し，メカジキはたくさんとれる。



カジキ　上からマカジキ，クロカワカジキ，バショウカジキ，メカジキ





花式図　イワウメ



賢島　賢島南側の俯瞰写真。近鉄志摩線の終点賢島駅も見える。左手上の対岸の島は多徳島。海面には真珠養殖のいかだが並ぶ

カジキ類は一般に美味だが，中でもマカジキは美しいオレンジ色の肉で，たいへん美味。メカジキはサメに似た白っぽい不透明な身である。カジキ類は表層を泳ぐので，近海では突きん棒漁業*が行なわれ，その漁獲は鮮度がよいので珍重されるが，多くは延縄(はえなわ)でとられている。くちばしを切り落として水揚げされるので，魚市場では完全な姿はなかなか見られない。

欧米では，カジキつりが勇壮な大物つりとしてもてはやされており，ヘミングウェーの小説《老人と海*》に登場するのも巨大なカジキである。　〔菅野　徹〕

かじき　【加治木(町)】　鹿児島県姶良(あいら)郡の町。人口22,000。鹿児島湾の北西隅(ぐう)にあり，日豊本線に沿う。1602年(慶長7)に島津家久が鹿児島へ移るまで，ここがしばらく島津氏の本拠であった。付近は鹿児島県には数少ない平野地帯で，米作のほかにミカンの栽培，養鶏が行なわれている。鹿児島市に近いので，その衛星都市化が進んでいる。特産に薩摩(さつま)焼の流れをくむ龍門司(りゅうもんじ)焼がある。

かしきず　【花式図】　花の構造を平面図で表わしたもの。花を上から見て，めしべを中心に，がく・花弁・おしべを同心円上に示す。おしべは葯(やく)の横断面で，めしべは子房の横断面で示す。花式図は花の構造が視覚的にとらえやすく，花の平面的な関係を知るにはよいが，大きさや子房の位置などを表わしてはいない。

かしきんこ　【貸し金庫】　金融機関などの行なう付随的業務で，財産預かり業務の一種。銀行の金庫室内に顧客専用の金庫を設け，それを顧客に自由に使用させるもの。火事や盗難の危険を防ぐばかりでなく，内容がだれにも知られないので，宝石などの貴重品や有価証券・遺言などの重要書類の保管に利用されている。

かしこうせん　【可視光線】　電磁波*のうち，人間の目に光として感じられる，波長が400～720mμのものをいう。その範囲は人により，また年齢により多少異なる。これが太陽光線のエネルギー最大の範囲とほぼ一致しているのは興味が深い。単色光*の場合は，400～446mμがすみれ色，446～464mμが藍(あい)色，464～500mμが青，500～578mμが緑色，578～592mμが黄色，592～620mμがだいだい色，620～720mμが赤の色の感覚を生ずる。

かしこじま　【賢島】　三重県志摩半島の阿児(あご)町にある周囲7.5kmの小島で，本土とはわずか20mの水道で隔てられている。赤土のマツでおおわれた丘陵が主で，低地は少ないが，もとは水田がわずかに開けている無人島であった。1929年(昭和4)，現在の近畿(きんき)日本鉄道志摩線の終着駅賢島と観光船の港ができてから，奥志摩観光の基地として脚光を浴び，志摩観光ホテルや国民宿舎賢島ロッジをはじめホテルや旅館，みやげもの店も多く，外人客も目だっている。水産庁真珠研究所がある。　〔浅井得一〕

かしこどころ　【賢所】　宮中で三種の神器*のうち神鏡を安置してある宮殿。内侍(ないし)が奉仕したので内侍所ともよばれた。崇神(すじん)天皇が鏡・剣を大和(やまと)(奈良県)の笠縫邑(かさぬいのむら)に移すにあたり，その模



火事装束 (左)大名の奥方の火事装束。兜頭巾と羽織・胸あて。緋らしゃ製 (中)武家の火事装束。羽織・胸あて。らしゃ製 (右)町火消しの羽織(裏)。刺し子の裏一面に刺したししゅうが特徴

品をつくって宮中に安置したという説話がある。平安時代には温明殿(うんめいでん)にあり，鎌倉時代以後は春興殿にあった。以後，移ることしばしばあったが，1869年(明治2)東京遷都後は宮城内の山里の御庭に，1889年以降は吹上御苑(ふきあげぎょえん)に奉置してある。〔柳雄太郎〕

かしざしき 【貸座敷】 料金をとって時間単位で貸すへや。広義に貸席の意もあり，関東では集会所にも用いた。しかし江戸中期以降，一般には男女密会の出合い茶屋・中宿，関西の盆屋のことをいった。出合い茶屋は上野不忍池(しのばずのいけ)畔のものが知られ，当時密通は死罪だったので，川柳に〈出合い茶屋危(あやう)い首が二つ来る〉とよまれている。また盆屋は，あいびきを妨げぬように家人は出ず，客が黙って盆上に金を置いていったので，この名がある。のちには芸者や私娼(ししょう)がはいり，私娼窟(ししょうくつ)に紛らわしいものもあった。1872年(明治5)娼妓(しょうぎ)解放令が出ると，それまでの遊女屋を法律上，貸座敷業といった。遊女が座敷を借りて客をとる形に改めたのである。東京府達第8号に〈吉原(よしわら)・根津，其外(そのほか)四宿ノ貸座敷渡世ノ者〉とあるから，品川・新宿・板橋・千住(せんじゅ)の妓楼を含めて貸座敷といったことがわかる。明治以来ふえ続けた貸座敷も，1957年(昭和32)の売春防止法施行によって消滅した。〔稲垣史生〕

かじし 【加地子】 中世において名主*(みょうしゅ)が作人*から徴収した得分。片子ともいう。中世を通じて名主がしだいに農業経営から遊離し，地主化すると，名主はその所有地を一般農民や下人・所従などに貸与して耕作させるようになった。この場合，耕作民(作人)は荘園*(しょうえん)領主に納める年貢*(ねんぐ)を負担するほか，名主に加地子を納めた。中世末には名主職は加地子徴収権を意味するようになった。加地子の率は土地により差があり一定しないが，一般に年貢より高率であった。〔鈴木英雄〕

かじしょうぞく 【火事装束】 江戸時代に火事のとき消火用に着た特殊の服装。はじめにその制度のできた武家の大名火消し*装束，のちに設定された町民の町火消し*装束の種別がある。

【大名火消し装束】江戸に大火がしきりに発生するため，幕府は大名に防火活動を命じ，いわゆる方角火消しの制を設けさせた。この武家の火消し装束は羽織・兜(かぶと)・はかまからなりたつ。火事羽織は，陣羽織の形式で背のすそを割ったぶっさき羽織，そで・胸あて・あて帯がつき，材料ははじめ皮製であったが，のちにらしゃ製となり，裏に緞子(どんす)などを用い，前後に家紋を白地で切り付け紋としてつけた。兜頭巾(かぶとずきん)は，皮製やらしゃ製で錣(しころ)がつき，一般には陣笠(じんがさ)も用いた。はかまは野ばかま・踏込(ふんごみ)などで緞子製。武家の婦女子もはなやかな火事装束を着た。

【町火消し装束】町火消しは町民の自治消防の制で，享保(きょうほう)年間(1716～1735)大岡越前守(えちぜんのかみ)の奉行(ぶぎょう)令で始められた。その装束構成は，錣つきの猫頭巾(ねこずきん)，刺し子の印半天，ももひきばきのいでたちで，いろは47組などの組の区分によって，半天の背に組紋を表わし，大形の菱(ひし)・角などの紋をつけた。その文字や紋によって，組頭(くみがしら)・纏(まとい)持ち・梯子(はしご)持ち・平(ひら)・人足などの職能区分を表示した。明治以後になってもこの種の火事装束の伝統に従って半天が着られ，紺もめん地に背印・えり印，朱の横引きの肩印などを配して，組の区分や階級表示とした。刺し子の消防服は水を含むと防火能力を増すので，その後も実用的に着用された。〔小川安朗〕

かじしんぱん 【家事審判】 ⇨家庭裁判所

カジス [Cádiz] スペイン南西部，アンダルシア地方の大西洋に面した都市。人口13万6,000(1970)。ジブラルタルの北西96kmにある港市で，塩・魚・果実・ぶどう酒などを輸出している。またスペイン海軍の基地がある。紀元前11世紀ごろ，フェニキアの植民地として建設され，紀元前5世紀にはカルタゴの支配下になり，のちローマ帝国の所領となった。アメリカ大陸発見以後18世紀までは，その植民地との間の交易基地として繁栄した。〔梶川勇作〕

かじそうだん 【家事相談】 ⇨家庭裁判所

かしだおれきん 【貸し倒れ金】 得意先の破産など予期せぬできごとによって，売掛債権(売掛金と受け取り手形)の金額が当期または次期以降においてすべて確実に回収されるとはかぎらない。それらの金額のうちで，実際に回収ができない場合のその回収不能分を貸し倒れ金という。

かしたんぽ 【瑕疵担保】 売買などの有償契約*において，目的物に一般通常人の注意では容易に知ることができない瑕疵(単なるきずとは異なり，目的物が契約当事者の予期する性質に欠け，目的物の価値が減少すること)がある場合，売り主などの引き渡し者が負わねばならない担保責任*のこと。たとえば，買ったテレビの部品がこわれていて使用できない場合など。瑕疵はこのような物理的なものだけに限らず，工場用敷地として買った土地が河川法適用のため，土地使用上種々の制限を受けるなどの法律的なものでもよいと解されている。このような場合には，損害賠償の請求ができるほか，それがために契約の目的が達成できないときは，契約を解除することもできる(民法570条)。瑕疵担保が，不特定物の売買についても適用されるか否かについては，判例はこれを認めるが，通説は否定する。なお，民法は有償契約の典型である売買についてこれを規定しているが，他の有償契約にもこれを準用するとしている(民法559条)。〔黒木三郎〕

かじちょうてい 【家事調停】 ⇨家庭裁判所

かしつ 【過失】 不注意によって犯罪事実の発生を認識しないこと。たとえば，知らずに火事を出したり，寝返りをうったために赤ん坊を圧死させてしまったりする場合をいう。刑法は，故意*による犯罪(知ってわざとやった犯罪)だけを罰するのを原則としているが(刑法38条1項)，人命その他重大な法益*または公共の法益を過失によって侵害した場合，例外的に法律に規定されている場合に限ってこれを過失犯として処罰する(刑法38条1項ただし書き)。したがって，過失は故意とともに責任の要件となっている。過失責任は不注意ということに対する社会的非難である。なお，過失はその不注意の程度により軽過失(普通の過失)と重過失(強度の注意義務違反)に分かれ，重過失は業務上過失*と並んで刑が加重されている。〔野口恵三〕

かじつ 【果実】 めしべの子房が受精後発達したものをいうが，花托(かたく)・がく・総包などがいっしょに発達して全体が果実のようになる場合があり，これを区別するため前者を真果，後者を偽果といっている。

真果では，果皮によって胚珠(はいしゅ)の大きくなった種子が保護されている。果皮は外果皮・中果皮・内果皮に分けることができるが，区別しにくいものも多い。果皮は心皮の変化したものであり，心皮は変態葉なので，果皮の構造は葉と同じである。すなわち，外果皮は葉の表側の表皮と，中果皮は葉肉と，内果皮は裏側の表皮と相同*である。外果皮は通常かたい皮に変化し，中果皮は乾燥してかたくなるもの，肉質のもの，水分を多量に含むものなどさまざまである。

果実には1個の子房が発達してできた単果，いくつかの子房が集まって発達し，1個の果実のようになった複果(イチジク・キイチゴ・オランダイチゴ・ヤマボウシなど)がある。また，穂状花序がいっしょに成熟して1個の果実のようになるものを集合果(クワ)という。

偽果には，オランダイチゴやイチジクのように花托が膨大して肉質となったもの，リンゴやナシのように花托とがくとが果実の大部分を占めているものなどがある。一般的にいえば，子房上位および中位の花からは真果が，子房下位の花からは偽果ができる。しかし，実際には果実の構造や形成過程は非常に変異に富んでおり，その分類はむずかしい。したがって，果実とは種子が成熟したときの状態としか定義できないが，分類の一例を以下に示す。

〈単果〉 1個の花の中で普通1個の子房からできた果実。①裂開果：熟すと一定の場所で割れるもの。㋑袋果：2個以上の子房からなり，各子房が1心皮からなる果実で，腹縫線で割れるもの。シキミ・カツラ・トリカブト・オダマキなど。㋺豆果：1心皮からなる果実で，背腹両面で裂けるもの。エンドウ・ソラマメ・ミヤコグサなど。㋩朔果(さくか)：2枚以上の心皮からなる果実で，心皮の数だけの果片に割れるもの。ハコベ・ユキノシタ・カタバミ・ゲンノショウコなど。㊁蓋果(がいか)：果実の中央部で横に裂け，椀(わん)状のふたがとれるもの。スベリヒユ・マツバボタン・オオバコなど。㋭角果：2心皮2室からなる果実で，2果片に割れ，そのとき中央に膜壁を残すもの。イヌガラシ・ハタザオ・アブラナなどの細長い果実(長角果)とナズナ・イヌナズナなどの短い果実(短角果)に分けられる。㋬孔果：果実の一定の場所に穴があくもの。キンギョソウ・ケシなど。②閉果：熟しても裂けない果実。㋑堅果：果皮がかわいて木質となり，種子とよく離れているもの。ブナ科・カバノキ科・ニレなど。㋺痩果(そうか)：子房下位の花で，果皮が種子と密着するもの。キク科・オミナエシ科など。㋩穎果(えいか)：子房上位の花で，果皮が種子と密着するもの。イネ科。㊁分果：2個以上の閉果からなり，成熟すると1個ずつに分かれるもの。セリ科・アオイ科。㋭翼果：分果の一種で，分果に翼があるもの。カエデ科・トネリコ科など。㋬分離果：堅果の一種で，各分果は心皮の一部にあたり，種子を入れたまま分離するもの。ヌスビトハギ・クサネム。㋣石果：中果皮が水分に富み，内果皮が厚い石質(核)となるもの。ウメ・モモ・サクラ・モチノキ・ヒイラギ・ニワトコなど。㋠液果：中果皮と内果皮とが多汁質(たじゅうしつ)であるもの。ブドウ・ミカン・ナスなど。

〈複果〉 2個以上の果実よりなり，全体として1個の果実に見えるもの。①離生心皮の花の場合：キイチゴ・オランダイチゴなど。②花全体が関与するもの：クワ・イチジクなど。〔加藤僖重〕

かじつ 【果実】 天然果実と法定果実の2種類がある。田畑から生ずる米や麦，乳牛から絞り取る牛乳のように，ある物から自然に産出されるものを天然果実といい，地代・家賃・利息のように，ある物を使用させ，その対価として受け取る金銭その他のものを法定果実という。こうした果実を生ずる農地や乳牛，土地や家屋や貸し金を元物という(民法88条)。天然果実は，元物から分離しない間は原則として元物の所有権の内容となっている(ただし，明認方法をもって未分離の果実を独立の物権とすることはできる)が，それが元物から分離するときには元物の所有権者その他の収益権者・(地上権者・永小作権者・留置権者・不動産質権者・賃借人など)のものとなる(民法89条)。また，1か月分とか1年分とかいうようにまとめて支払われる法定果実は，その収益権の存続期間に応じて日割りで両収益権者に分配される(民法89条)。たとえば，1万円を毎年末に支払うという契約で貸借がなされている土地を地主が年の半ばで売った場合は，地主と買い主とはそれぞれ5,000円ずつ賃借人から受け取ることができるというのがその意味である。もっとも，これら天然果実・法定果実の帰属に関する原則は，特約でこれと異なる定めをすることができる。〔黒木三郎〕

かしつけ 【貸し付け】 利息と返済期限を決めて金銭を貸すことで，金融機関の主要業務の一。これを勘定科目別に分類すれば，証書貸し付け・手形貸し付け・当座貸し越しの三つがあり，通例，手形割引は含めない(手形割引を含む場合は貸し出しとよんでいる)。証書貸し付けとは，借り主から借用証書を取って貸し付けを行なう方法で，設備資金など長期の貸し付けの場合に利用される。手形貸し付けは，貸し出し先振り出しの約束手形を徴求して行なう貸し付け。当座貸し越しは，当座預金の取引先が預金残高を越えて小切手を振り出した場合にも，一定限度までは自由に資金の使用を認めるもの。さらに，貸付債権確保のための担保の有無から類別すると，信用貸し付けと担保貸し付けに大別され，さらに後者は担保の種類によって物的担保貸し付けと人的担保貸し付け(保証貸し付け)に分かれる。信用貸し付けは，取引先の信用のみに期待して行なう無担保貸し付けである。物的担保貸し付けは，取引先または第三者の所有する財産権上に担保物権*を設定して行なう貸し付けであり，人的担保貸し付けは信用のある第三者の保証を得て行なう貸し付けである。〔池内得二〕

かしつけきんせいど 【貸付金制度】 1953年(昭和28)実施された母子福祉資金の貸し付けを〈母子福祉法〉(1964年制定)に組み込ませ，母子福祉政策として各種の資金が融資される制度。貸付金の種類には事業開始資金・事業継続資金・奨学資金・技能修得資金・修業資金・就職支度(したく)資金・生活資金・住宅資金・転宅資金・就学支度資金の10種があり，就学資金や事業開始資金が広く利用されている。たとえば，就学資金は母子家庭の児童または父母のない児童が対象で，高校または高等専門学校(1～3年)では月額1,500円以内，大学または高専(4～5年)では3,000円以内で，卒業まで貸付金がすえ置かれ，20年以内に無利子で償還することになっている。また，事業開始資金は母子家庭の母は20万円以内，母子福祉団体は100万円以内の貸付金が融資されている。〔椿　輝男〕

かしつけげんどがくてきようせいど 【貸付限度額適用制度】 1962年(昭和37)11月に日本銀行が従来の高率適用制*に代わって採用した信用制限方式をいう。クレジット-ラインともいう。市中銀行ごとに日本銀行が貸し付けの限度額を規定し，この限度を越えて日本銀行から借り入れを行なう場合には，公定歩合より日歩1銭高の高い罰則利率が適用される。

かしつけしほん 【貸付資本】 資本主義経済のもとでは，貨幣は貨幣資本として運用されると，設備をつくり，原材料を購入し，労働者を雇って商品を生産し，利潤をあげることができる。しかし，みずからはこの運用を行なわないで，一定期間を限って貨幣資本を提供し，ある期日にはその返済を求め，利潤の一部を利子として配分してもらう方法もある。このように使用される資本を貸付資本とよぶ。

かしつけしんたく 【貸付信託】 信託銀行*(受託者)が，信託契約により多数の委託者から金銭を受け入れ，これを貸し付けまたは手形割引の方法によって，合同して運用する指定金銭信託のこと。1952年(昭和27)制定の貸付信託法によって，その性格が規定されている。金銭信託*は，運用方法によって，特定金銭信託・指定金銭信託・無指定金銭信託に大別され，一般には，委託者の要望によって，どのような契約をも結ぶことができる点に特色がある。この中で，貸付信託は，受託金額や期間を画一化し，かつ信託受益権を受益証券によって有価証券化したことに特徴があり，また無記名

も許される。期間は，２年と５年があり，１年を経過すれば，買いもどすことも認められている。受託金額は現在１口10,000円。配当は，実績配当主義によって証券の口数に応じて分配されることになっているが，他金利との関係もあり，あらかじめ決められた配当率によっている。利回りは各種の貯蓄対象の中でもつねに高い水準にあり，かつ安全性・換金性に富んでいたため，第２次世界大戦後の経済復興のための長期資金吸収に大きく貢献した。➔信託　➔投資信託　〔池内得二〕

かじつしゅ【果実酒】①醸造酒のうち，果実を原料とするもの。ぶどう酒・りんご酒のほか，ナシ・イチゴ・オウトウ・ビワ・モモなどを原料とするものがある。②しょうちゅうに果実をつけ，砂糖を加えて果実の成分を浸出させた酒。梅酒・なつみかん酒・くこ酒などがある。わが国では酒の家庭製造が禁じられていたが，1962年(昭和37)に梅酒，翌年にスモモ・クコを含む12種類の果実酒が酒税法で許可された。➔ホームリカー

かしつそうさい【過失相殺】債務不履行*または不法行為*を理由として損害賠償*を請求する場合，債権者または被害者である賠償請求権者側にも故意*・過失*があれば，その損害賠償額の算定においてこれを裁判所が斟酌(しんしゃく)し，賠償義務者である債務者または加害者の責任を免除もしくは軽減することをいう(民法418・722条)。たとえば，被害者が車道を歩いていて自動車にはねられてけがをした場合や，あるいはその被害者が，受けた傷の手当てを怠って症状をいっそう大きくしてしまった場合などである。

債務不履行と不法行為では過失相殺に民法上差異を設けている。すなわち，債務不履行については，債権者に過失があったときには裁判所は必ずその過失を考慮しなければならず，それによって金額を減じたり，あるいは責任そのものを免除することができる(民法418条)。しかし，不法行為については，加害者に過失があったときには，裁判所はそれを考慮して賠償額を減ずることはできるが，責任を免除することはできないし，軽微な過失については，それを考慮するか否かは裁判所の自由である(民法722条)。もっとも，学説の多くは，この区別の当否を疑っている。　〔黒木三郎〕

かしつちししょうざい【過失致死傷罪】過失*によって他人の身体に傷害を負わせたり，または他人を死亡させる罪。過失傷害罪(刑法209条)は，25,000円以下の罰金または科料に処せられ，被害者が告訴したときにかぎり処罰される(刑法20条２項)。過失致死罪(刑法210条)は，50,000円以下の罰金に処せられる。ただし，著しい不注意(重過失)によって死傷させたときは５年以下の懲役または禁錮(きんこ)もしくは50,000円以下の罰金に処せられる(刑法211条)。業務上過失*による場合も同じである。　〔野口恵三〕



橿原神宮







カシパン　(上)スカシカシパン　(中)ヨツアナカシパン　(下)ハスノハカシパンの体下面(中央部に口がある)

かじどう【賈似道】(1213〜1275)　中国,南宋(なんそう)の政治家。字(あざな)は師憲。台州臨海県(浙江(せっこう)省)の出身。父賈渉の恩蔭で任官。事務的才能にすぐれ，理宗の寵妃(ちょうひ)であった姉の援助もあって地位と勢力を伸ばした。1259年，鄂州(がくしゅう)における対モンゴル戦の武功を背景に政権を獲得，以後16年間独裁権をふるった。南宋滅亡の責任者として悪評をこうむるが，彼が行なった公田法・貨幣政策などには見るべきものがある。1275年，元軍を丁家洲(ていかしゅう)で迎撃したが敗退，失脚ののち殺された。　〔梅原　郁〕

かしどり【樫鳥】⇨カケス

カージナル　⇨枢機卿(すうききょう)

かじのき【梶の木】双子葉植物・クワ科の落葉高木。本州西部から沖縄・中国・台湾に分布。畑のへりなどにも植えられる。高さ10mほどになり，枝太く，葉は互生し，広卵形。若木の葉はカエデ状に３〜５裂する。上面はざらつき，下面は粗毛を密生する。雌雄異株で，５〜６月に淡緑色の小花をつける。雄花穂は尾状５〜７cmで下垂し，雌花序は球形。おしべの花糸は内曲していて，開花すると急に伸び，ぱっと花粉を散らす。果穂は球形で径２cm，核果は熟して赤くなり，果穂のまわりに飛び出す。枝の皮は製紙原料となるが，質はコウゾに劣る。　〔横井朝子〕

かしはら【橿原(市)】奈良県北西部の市。古代文化の発祥地といわれ，藤原京*が置かれた。1956年(昭和31)八木・今井・畝傍(うねび)の３町ほか３村が合併して市制施行。その後も周囲の地域を編入して市域を広げた。人口106,000。奈良盆地南部，飛鳥(あすか)川・曾我(そが)川が北流する肥沃(ひよく)な沖積(ちゅうせき)地帯で，畝傍山・耳成(みみなし)山・天香久(あまのかぐ)山の〈大和(やまと)三山〉も市域内に含まれている。産業三大別人口比は６：37：57。条里制のなごりがみられる溜池(ためいけ)集村が散在し，ゴム製品などの工業が発達する。桜井線・近畿(きんき)日本鉄道京都線・橿原線・南大阪線などが縦横に通じ，国道24号線・165号線・169号線が集まる。特別史跡の藤原宮跡・本薬師寺跡をはじめ，橿原神宮*・神武天皇陵など，名所・史跡も多い。

かしはらじんぐう【橿原神宮】奈良県橿原市にある。祭神は，神武天皇とその妃媛踏鞴五十鈴媛命(ひめたたらいすずひめのみこと)。畝傍(うねび)山の東南麓(ろく)の社地は神武天皇がはじめて皇居を定めた跡といわれ，《古事記》に〈畝火之白檮原宮(うねびのかしはらのみや)〉，《風土記(逸文)》に〈宇弥備能可志婆良(うねびのかしはら)〉とあるのがそれ。江戸時代以降，この地には小祠(しょうし)を祭るのみであったが，1889年(明治22)に京都御所内の温明殿(うんめいでん)と神嘉殿(しんかでん)とを移して，それぞれ本殿・拝殿(現在は御饌殿(みけどの))としたのが現在の社殿の創始である。1940年(昭和15)，社殿・境内が拡張整備され，わが国でも屈指といわれる現在の壮大な規模となった。なお，総合グラウンドを備えた広大な外苑(がいえん)がある。例祭は２月11日。　〔佐野文哉〕

かしパン【菓子麵麭】棘皮(きょくひ)動物・ウニ綱・不正形亜綱・タコノマクラ目のカ

シパン科とスクテラ科の総称。いずれも円形に近い五角形。おおむね扁平(へんぺい)だが，周辺から中央部に向かって，体高が増す種類もある。

普通のウニ(正形亜綱の動物)とは異なって，長さ1mm前後の微小なとげが密生して，あらいビロード様の感触がある。とげとその間にはえている短い管足とで移動する。体上面には，サクラの花弁のような模様(花紋という)が目だつ。花紋は呼吸作用を営む長い管足が体表に出る穴の連なりである。体上面の中央付近，花紋の中心近くには，種類によって異なるが4個または5個の生殖孔が開いている。体下面には，中央に口，周辺近くに肛門(こうもん)が開いている。正形亜綱のものは岩礁地帯にすむが，カシパン類はなぎさから水深200mほどの砂泥(さでい)底にすみ，どろをのみこんで中に含まれる有機物を摂取する。ハスノハカシパンは径8cm前後，せんべいのように扁平で暗紫かっ色。体下面にハスの葉脈のようなみぞが発達しているのが特徴で，全土の沿岸に普通にみられる。スカシカシパンは径15cm，高さ1.5cm前後で，赤かっ色。花紋と体周辺との間にある細い穴が体を貫通しているのが特徴で，本州中部から九州に普通にみられる。

カシパン類は地方によって乾燥して肥料にすることもあるが，普通はまったく利用されない。〔菅野　徹〕

カージフ　［Cardiff］　イギリス，ウェールズ南東部の港湾都市。人口27万7,000(1973)。世界的に有名な石炭の積み出し港で，ウェールズ第1の商工業中心地。製鋼・化学・製紙・造船などの工業が盛んである。1090年に築城されたカージフ城が残り，1883年創立のカージフ大学がある。

かしま　【鹿島(市)】　佐賀県南部の市。江戸時代は鍋島(なべしま)氏の支藩二万石の城下町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口35,000。多良岳(たらだけ)の北麓部(ほくろくぶ)に位置し，有明海に臨む。産業三大別人口比は35：23：42。農林水産業とその加工を主産業とし，ミカン・茶・酒・乳製品・木材・ノリなどを産する。長崎本線・国道207号線が通ずる。南郊の祐徳稲荷(ゆうとくいなり)は三大稲荷の一つとされ，鹿島城跡の旭が丘(あさひがおか)公園はサクラの名所として知られる。

かしま　【鹿島(町)】　茨城県の南東部にある鹿島郡の町で，東は太平洋に，西は北浦に面する。鹿島神宮の門前町として有名な旧鹿島町ほか3村が1954年(昭和29)に合併して生まれた。人口38,000。鹿島神宮は，千葉県佐原市の香取神宮と並んで武神を祭る社として古くから参拝者が多い。太平洋岸には南隣の神栖(かみす)町から波崎町にかけて，延長24kmに及び鹿島砂丘がある。町域の3分の1は耕地で，田と畑の比率はほぼ同じであり，米のほかサツマイモ・スイカをつくり，また養豚が盛んである。1961年以来，鹿島工業整備特別地域が建設されつつあり，工業化がしだいに進みつつある。陸上交通はおもにバスにたよっていたが，佐原～鹿島～水戸(みと)間に鹿島線が通じる予定で，現在，佐原～鹿島間が開通している。



鹿島工業整備特別地域　掘り込み式の人工港鹿島港の入り口水路。製鉄・精油・火力発電などの大企業が建設中。遠景右手に北浦の水面が見える



鹿島神宮　徳川頼房寄進の楼門

かじまけんせつ　【鹿島建設(株)】　建設大手5社の一。建築と土木部門との均衡もとれ，施工能力は抜群。ビル・学校・ホテル・住宅・発電所などあらゆる建築を手がけ，超高層建築では他社を大きくリードし，東京の霞が関(かすみがせき)ビル(36階)，浜松町に世界貿易センター(37階)，新宿区柏木(かしわぎ)に京王プラザ(47階)を建設するなど，業界に優位を誇っている。土木でも高速道路・ダム・臨海開発・トンネル・橋梁(きょうりょう)・地下鉄建設などの面で広く活躍している。海外進出にも積極的で，東南アジアの各地に施工したものがある。アメリカのロサンゼルスには現地法人を設立している。本社東京。資本金363億円，年間完工高6,308億円，従業員数12,372(1980年5月)。

かしまこうぎょうせいびとくべつちいき　【鹿島工業整備特別地域】　茨城県南部の鹿島町を中心とする12町村，751km²にわたる地域。鹿島灘(かしまなだ)に面して掘り込み港の鹿島港を建設し，その周辺臨海部に鉄鋼・石油精製・石油化学・電力・重機械などの基幹産業による一大コンビナートと周辺地区に機械工業などの関連工業地域の形成を目的としている。計画は現在着々と進行しており，港湾の建設に合わせて工場も一部操業を開始している。純農業地域から工業地域への転換を図ったところで，工業生産の伸び率は工業整備特別地域の中で最高を示し，また京浜工業地帯に近いため，将来性もきわめて大きい。〔高野　繁〕

かしまじんぐう　【鹿島神宮】　茨城県鹿島郡鹿島町に鎮座。古くは香島の字があてられた。祭神は武甕槌神(たけみかづちのかみ)。利根(とね)川対岸の香取神宮に祭られている経津主(ふつぬし)神とともに武神として往古から広く信仰された。《日本書紀》をはじめ諸書にしるされた神話伝承によると，天孫降臨に際し天照大神(あまてらすおおみかみ)の命を受け出雲(いずも)(山陰地方)政権をその武威で降伏させ，また神武天皇の国土統一にも神功をたてた。元来は海辺の郷土神であったらしいが，大和(やまと)朝廷の東国経営が進むに及び辺境守護の神格を加えるようになった。朝廷祭祀(さいし)をつかさどる中臣(なかとみ)氏との関係が深く，早くからこの地に中臣部(なかとみべ)が設置された。中臣氏から出た藤原氏が政治進出するにしたがい地方神から中央神へと発展，天神(あまつかみ)系武神として宮廷神話にも組み入れられ，国家的信仰を受けるようになった。大化改新後，神郡の設置，社殿の造営，封戸(ふこ)の寄進など朝廷の奉斎が厚く，平城京の東郊に藤原氏が春日(かすが)大社を建てて祖神を祭るにあたって，第1殿にその分霊を勧請(かんじょう)した。奈良・平安時代を通じ藤原氏の政治勢力を反映して神階が累進，850年(嘉祥3)には正一位《延喜式》では名神大社に列した。社領も増大し，786年(延暦5)には神戸(かんべ)105戸，3,361人に達した。武士の世になってからは武運長久の神として多くの武将から尊信され，1602年(慶長7)徳川家康(いえやす)は朱印地2,000石を寄進した。現在の社殿は1618年(元和4)の造営。社宝の直刀は国宝に指定されている。例祭は9月1日。古式により行なわれている祭祀・神事が多く，3月9



鹿島槍ケ岳　八方尾根方向より望んだ〈鹿島槍〉の双耳峰。南北二つの峰を結ぶつり尾根が美しい弧を描く。手前中景右手は五龍岳へ続く



カシミール　水の都といわれる首都スリナガルは〈東洋のベニス〉の異名がある。遠くには白雪をいただくカラコルムの峰々が望まれる

日の祭頭祭は特に著名。一生を処女で奉仕する斎女(いつきめ)の制が古くからあり，明治維新まで続いた。境内は水郷に臨み，深い森で囲まれて古社にふさわしい神威を漂わせ，水郷巡りを兼ねての参拝者が多い。〔高崎徳次〕

かしまなだ　【鹿島灘】　茨城県大洗岬(みさき)以南，利根(とね)川河口の波崎に至る鹿島浦の沖合いの海域をいう。鹿島浦はゆるやかな弧状の平滑な砂丘海岸で，鹿島砂丘とよばれる砂丘が発達する。汀線(ていせん)はつねに磯波(いそなみ)が強く，海岸線から大陸棚(たいりくだな)が緩傾斜する。黒潮と親潮との会合点にあたり，魚族に恵まれて好漁場となり，かつては千葉県の九十九里浜とともに地曳網(じびきあみ)によるイワシ漁が盛んであった。砂浜海岸であるため漁港に恵まれなかったが，1963年(昭和38)以降，鹿島浦南部の砂丘地帯に掘り込み式の港湾である鹿島港を中心とする鹿島工業整備特別地域*を造成中で，景観は一変した。砂丘地帯ではスイカやピーマンなどの温室栽培がみられ，特にピーマンの特産は知られる。〔山口恵一郎〕

かしまやりがたけ　【鹿島槍ケ岳】　長野県北西部，富山県との境にそびえる山。標高2,890m。北アルプスの北半部を形成する後立山連峰の一つで，東側は大町へ流れ出る鹿島川の谷に面し，西側は黒部峡谷の深い谷に臨んで対岸の剣岳(つるぎだけ)に相対する。山頂部は2峰に分かれ，北の峰は大キレットとよばれる深い鞍部(あんぶ)で五龍岳(ごりゅうだけ)と境している。

カシミアおり　【カシミア織】　チベット原産のカシミアヤギの毛を用いた織物。カシミール*の特産。光沢があり，軽く柔軟で，保温性に富む。主として高級服地・オーバーコート地・ショール地として用いる。なお，これに類似の羊毛織物もカシミアとよばれている。

カシミール　［Kashmir］　インド共和国北西部に位置する地方。面積22万km²。人口461万7,000(1974)。東と北は中国に，西はパキスタン・アフガニスタンに接する。戦略・交通上の要点にあたるため，パキスタンとの間の争奪地となり，正式な帰属はまだ決まっていない。カラコルム山脈とヒマラヤ山脈西部とからなるきわめて険しい山岳地帯であり，両山脈の間をインダス川上流の峡谷が貫流している。カラコルムのK_2峰(8,611m)やヒマラヤのナンガパルバット山(8,125m)などの高峰がそびえ，また多くの氷河がみられる。気候は乾燥気候に属しているが，高度の高まりによって降雨量もいくぶん多い。インダス川の支流ジェラム川流域のカシミール谷は，豊かな灌漑(かんがい)水に恵まれた肥沃(ひよく)な地域で，〈幸福の谷〉とよばれ，全人口の3分の1はここに集中している。中心都市スリナガルもここにあり，海抜約1,600m。付近では米・トウモロコシ・小麦を主に耕作しており，養蚕・果樹栽培も盛んで，果樹は木材に次ぎこの地方の特産物である。牧畜はヒツジの飼育を行なっている。有名なカシミア織はたび重なる戦争で織機が破壊されたこともあっていまは衰えたが，毛織物・毛布・敷き物の羊毛工業・織物工業が盛んである。カシミール地方は16世紀後半，ムガール朝の範土に含められたが，第1次シク戦争後の1846年イギリス領インドの藩王国の一つとされた。このため住民の77%はイスラム教徒であるが，南東部にはヒンズー教徒もみられる。

【カシミール紛争】1947年インドの分離独立にあたって，この地方の所属は宗教・経済的に大きな政治問題となった。住民の宗教からみればカシミールの大部分はイスラム教徒で，当然パキスタン領となるはずだが，藩主がヒンズー教徒であるため，インドも自国の領有を主張した。その背景にはカシミールのもつ戦略的重要性，インダス川の経済的利用の利害などがからんでいた。パキスタンへの帰属を要求する住民の暴動が起こり，インド・パキスタン両軍はついにここで戦火を交えたが，1949年国連の調停によって一応の休戦ラインが設けられ，地域の4分の1はパキスタン，4分の3はインド領とされたが，肥沃なカシミール谷はインド領中にある。そして最終的帰属は住民投票で決められることになったが，インドはこれを拒否している。両国の衝突はその後も続き，1966年タシケント協定で暫定的な和解が成立したが，紛争は依然として未解決である。〔別技篤彦〕

かじめ　【搗布】　褐藻(かっそう)植物・コンブ科。ノロカジメともいう。表日本中部の10mほどの深さまでの海底に生ずる海藻。茎は円柱形で，径2～3cm，長さ1～2mに達する。葉部は分厚い中央片の両側に羽状片がある。本体が遊走子を生じ，これが発芽すると微小な糸状の配偶子となり，卵と精子で　性生殖をする。受精卵は成長し本体となる。アルギン酸製造の原藻。なお古来食用とされた搗布とはアラメ*の乾燥粉末である。

かしゃ　【貨車】　貨物を運ぶために用いられる車両。貨物の形や性質がさまざまなので，その構造や大きさもいろいろである。また，車掌車・除雪車・操重車(事故救援や橋梁(きょうりょう)建造などに用いる)などは貨物を積載しないが貨車に含まれる。大別すると，屋根のある有蓋車(ゆうがいしゃ)，屋根のない無蓋車，石炭・石灰石などを積むホッパー貨車，液体を運ぶタンク車，車掌車などの事業用貨車に分けることができる。現在国鉄で使用されている貨車のおもな種類には次のようなものがある(かっこ内のかたかなは貨車の構造または用途別の記号)。



有　蓋　車　ワム5000形式



タ　ン　ク　車　タキ1500形式



無　蓋　車　コンテナー専用貨車　コキ10000形式



有　蓋　車　冷蔵車　レム6000形式



無　蓋　車　トラ70000形式



アコーディオン方式の貨車　トキ9000形式

貨　　車

①有蓋車(ワ)・鉄製有蓋車(テ)・冷蔵車(レ)・通風車(ツ)・家畜車(カ)・陶器車(ポ)，②タンク車(タ)・水運車(ミ)，③無蓋車(ト)・長物車(チ)・大物車(シ)。

このほか，貨車にはおよそ200種類もあるが，自動車や海上輸送に対抗し，物資流通機構の変化に応じて，新型・新性能の貨車が続々と開発されつつある。特殊な貨車として活躍しているものをあげると，①コンテナー専用貨車：〈戸口から戸口へ〉をキャッチフレーズに国鉄コンテナー輸送網は年年加速度的な伸びを示しているが，コンテナー積載専用貨車には，コキ5500・コキ10000・コキフ10000の形式がある，②穀物専用ホッパー車，③ばら積み(セメントや砂利)ホッパー車，④自動車積み専用貨車(ク5000形式)。自動車の積み降ろし作業は，貨車の縦方向から自走で積まれるもの，ホームからクレーンや貨車の特殊装置で積まれる場合のものがあるが，8～12台積載できる，⑤チップ専用貨車，などがある。全国の貨車の両数は，1970年(昭和45) 3月現在，国鉄の貨車が15万1,699両。このうち，65km/時の走行性能を有している貨車が15,182両，75km/時以上の貨車が13万6,517両である。私鉄の貨車はおよそ11,013両で，国鉄と相互に乗り入れできる貨車がこのうちの約半数である。ほかに私有貨車が15,700両ほどある。国鉄が私有貨車として認めている貨車は，特殊な車種に限っており，大物車・タンク車・ホッパー車などである。大物車は，主として車両メーカーや重工業会社で所有し，自社で製作した車両や重量機械などの運搬用として使用している。積載トン数30 tのシキ40形式から100 t積載のシキ500形式までがある。　〔宍塚正幸〕

カーシャ　［Kascha］　ロシア料理で，スープにつけて食べるせんべいの一種。厚さが約1 cmの丸形のもの。小麦のひき割りと卵でつくるもの，そば粉でつくるものの2種がある。そば粉のカーシャは特にボルシチ*に用いられる。

がじゃじま　【臥蛇島】　鹿児島県大島郡十島(としま)村に属し，吐噶喇(とから)列島中の小火山島で，鹿児島県本土の南250kmにあり，東に小臥蛇島を伴う。面積4.6km²，最高点502 m。明治末期にカツオ漁の基地として栄えていたころは約180人の人口があったが，第2次世界大戦後はおよそ50人に減少，1970年(昭和45) 7月28日には最後の住民3世帯14人と分校の教師夫妻が島を去って，残るは半月交替でやってくる2名の燈台職員のみとなった。　〔浅井得一〕

カジャールちょう　【カジャール朝】　現在のイラン王国*の前王朝(1796～1925)。首都テヘラン。18世紀，サファビー朝*の崩壊後，イランは世界情勢に巻き込まれて多難な時代を迎えた。カジャール朝の創始者アーガー＝モハメッドによってようやくイランが統一されたものの，国土はイギリスとロシアの圧迫に苦しまねばならず，石油の利権が奪われて植民地化の危機にさらされた。その間にもヨーロッパの近代文化が摂取されていくが，ヨーロッパ勢力からの解放を叫ぶアル＝アフガーニー*の汎(はん)イスラム主義思想が反響をよんだ。1906年には憲法の制定，国会の開設が取り決められたが，国王の反動政策にあい，実を結ばなかった。第1次世界大戦では戦場となり損害を受けたが，帝政ロシアに代わったソビエト政府はイランと友好条約を結び(1921)，それによってイギリスもイランの独立回復を認めた。当時の軍隊の指揮官レザー＝ハンが事実上の最高権威者となり，1925年カジャール朝を廃して，現イラン王朝を始めた。　〔小谷仲男〕

かじゅ　【果樹】　人が食用に供する果実の生産を目的に栽培する木本植物。ただし，欧米ではイチゴも果樹に含める。わが国に見られる温帯果樹は，高木性果樹・蔓生(まんせい)果樹・低木性小果類に大別することができる。

高木性果樹には，落葉性の仁果類(ナシ・リンゴなど)・核果類(モモ・スモモ・ウメ・アンズ・オウトウなど)・殻果(かくか)類(クリ・クルミなど)・準仁果類(カキ)・漿果(しょうか)類(イチジク)と，常緑性の柑橘(かんきつ)類(ウンシュウミカン・ナツミカン・ワシントン＝ネーブル・グレープフルーツ・レモンなどの準仁果類)と仁果類(ビワ)がある。蔓生果樹には漿果類のブドウ，低木性小果類にはキイチゴ類・スグリ・ブルーベリー(いずれも漿果類)などがある。

仁果類は子房と花托(かたく)の発育肥大したもの。準仁果類は子房の肥大したもの。核果類は子房が肥大したもので，内果皮はかたい核となり，これを種と称するが，真の

種子はかたい核の中にある。殻果類は果皮がかたくなっており，食用部は種子の子葉。漿果類は子房壁が成熟して多肉多漿化したもの。〔岩垣駛夫〕

ガーシュイン [George Gershwin] (1898～1937) アメリカの作曲家。亡命した貧しいロシア人の商家に生まれ，正統的な音楽教育は受けなかったが，音楽に強い興味をもち，13歳のときから数年間，町の音楽教師にピアノと作曲法の手ほどきを受けた。高等学校中退後，流行歌手や劇場のピアニストになり，その間軽音楽にいくつかのヒット曲を作曲したが，当時ジャズ界の第一人者であったポール-ホワイトマンの勧めでピアノとジャズバンドのための《ラプソディー-イン-ブルー》を作曲，大成功を収めた。その後，多くのミュージカルを作曲する合い間に，和声法や管弦楽法を学び，《ピアノ協奏曲へ長調》《パリのアメリカ人》，オペラ《ポギーとベス》などすぐれた作品を発表した。リストやアントン-ルビンシュタインのピアノ音楽の作法と洗練された新鮮なジャズ感覚を結合した彼のスタイルは，多くの聴衆を獲得した。〔船山 隆〕



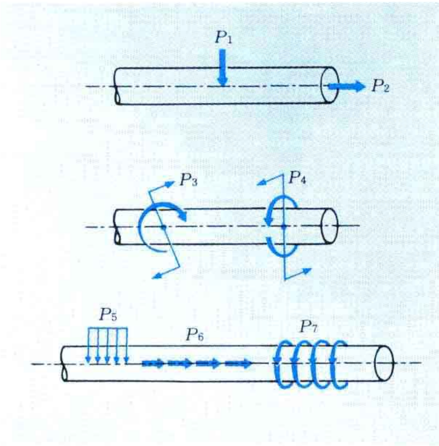
ガーシュイン

かしゅう 【家集】 ⇨私家集

かしゅう 【歌集】 歌を編集した書物。その内容から勅撰(ちょくせん)和歌集*・私撰和歌集・私家集の3種に大別され，それぞれ選歌範囲・方法などは異なる。勅撰集は勅命・院宣によって1人以上の選者が編集，私撰集は1人以上の選者が自分の好み，必要に応じて編集したものである。私家集は，上の2種が多くの人の作品中から選ぶのに対し，1人以上の選者がひとりの作品中から選ぶ点が違っている。

かじゅう 【果汁】 ⇨ジュース

かじゅう 【荷重】 物体に外から加えられる力。工学的には構造物や部材に働く外力をいうことが多い。荷重はその作用のしかたによって，次のように分けられる。棒状の部材に対する分布状態から，①集中荷重：㋑集中横荷重P_1，㋺集中軸荷重P_2，㋩集中曲げモーメント荷重P_3，㊁集中ねじりモーメント荷重P_4。②分布荷重：㋑分布横荷重P_5，㋺分布軸荷重P_6，㋩分布ねじりモーメント荷重P_7，などに分類される。なお，分布荷重には等分布荷重と不等分布荷重がある。また，荷重の時間的変化によって次のように分類される。①静荷重：一定で変化しない荷重。②動荷重：急激に加わる荷重。③振動荷重：周期的に変化する荷重で，長時間受けると物体は静荷重より小さい荷重で破壊される。さらに，機械や構造物の安全を考えるためには材料の強度が問われ，①引っ張り荷重，②圧縮荷重，③剪断(せんだん)荷重，④曲げ荷重，⑤ねじり荷重，のそれぞれについての静荷重・動荷重・振動荷重を考慮しなければならない。〔今淳治郎〕



荷　重

がしゅう 【我執】 梵語(ぼんご) ātma-grāha(アートマグラーハ)の訳。〈アートマン*(我)にとらわれること〉の意。人間には自己の生命や行動の中心となるアートマンがあると考え，これを絶対者として想定した。これに対して，本来〈我〉はないとする〈無我〉の立場に立つのが仏教の教えで，〈我〉にとらわれることからさまざまな煩悩(ぼんのう)が生まれるとし，これを断ち切るのが仏道の重要な課題であるとする。

かしゅういも 【何首烏芋】 単子葉植物・ヤマイモ科。つる性の多年草。ニガカシュウの栽培品で，中国から渡来したといわれる。ニガカシュウより葉もむかご*も大きい。茎はなめらかで淡緑色，つるになり分枝する。葉は円形で先がとがる。いもは大きな扁球塊で年々交替新生される。外皮は暗かっ色で，全体に粗硬なひげ根を生じるので，ケイモの別名もある。むかごは葉腋(ようえき)につき円塊状。雌株だけで雄株がなく，雌花は蒴果(さくか)をつくらない。いもとむかごは食用となる。〔横井朝子〕

かじゅうへいきん 【加重平均】 数量x_1，x_2，…，x_nの和を個数nで割った商を，これらの単純平均という。これに対して，各x_iにそれぞれ数m_iを掛けた積の和，$S=m_1x_1+m_2x_2+\cdots+m_nx_n$を，$m_i$の和$M=m_1+m_2+\cdots+m_n$で割った商$\bar{x}=S/M$を，$x_1$，$x_2$，…，$x_n$の加重平均(詳しくは，各$x_i$にそれぞれ重み$m_i$をつけた加重平均)または重みつき平均という。たとえば，物価を調べるのに，調査する商品を定めて，それらの価格の平均を用いるとする。このとき，単純平均を用いるより各家庭の使用量を考えて重みをつけた加重平均を用いるほうが，物価の消費生活への影響を調べるのに合理的である。また，座標*や力などのようなベクトル*量についても加重平均が考えられる。たとえば，物体の重心は，密度を重みにした座標の加重平均を座標とする点である。〔小西勇雄〕

かじゅえんげい 【果樹園芸】 果樹*を栽培する畑を果樹園，果樹園で果樹を栽培することを果樹園芸という。カキ・ナシ・甲州ブドウなどの栽培の歴史は古いが，日本の果樹園芸は明治初年以降盛んになった。明治初年に欧米からリンゴ・西洋ナシ・オウトウ・欧州ブドウ・アメリカブドウ，中国からモモなど多くの品種が輸入され，そのうち風土に適したものは今日の発展をみた。第2次世界大戦前，適地に栽培が伸びつつあったが，戦中は果樹を不要不急の作物としてその栽培がはなはだしく抑圧された。戦後は国民生活の向上に伴い，果実の需要が増加し，果樹は選択的拡大を期待する成長作物とされ農政面からも重要視されるようになった。1961年(昭和36)には果樹農業の健全な発展に寄与することを目的に，果樹農業振興特別措置法が成立し，1963年には農林省に園芸局が新設された。わが国の果樹園面積は農作物作付け総面積766万ヘクタールの4.6%，約35万ヘクタールであるが，1戸の経営する果樹園面積は零細なものが多いので，病害虫の共同防除を柱に共同化・集団化が進められ，栽培技術も多労力の集約的な形から機械化・小労力の方向に進んでいる。また，大規模の共同選果荷造場が産地に建てられ，園道の整備などの生産基盤の整備が行なわれ，また，長期の貯蔵を可能にする方法などの近代化が進みつつある。〔岩垣駛夫〕

カシュガル 【喀什噶爾】 中国北西部，新疆(しんきょう)ウイグル自治区南西部にある同自治区の直轄市。タクラマカン砂漠(さばく)西端部にあるオアシス集落である。パミール高原北麓(ほくろく)の天山南路の要地で，古来インド・アフガニスタンとの交易が行なわれてきた。漢代以来，中国では疏勒(そろく)とよばれ，唐代には安西四鎮の一つとなった。モンゴル帝国時代にはチャガタイ汗国に属し，1759年以来，清朝(しんちょう)治下にはいった。住民はウイグル族が最も多いが，インド人・アフガニスタン人も住み，農畜産物の交易が盛んに行なわれている。年雨量は40～50mmで，卓越する東風のため1年のうち200日以上もほこりの雲にとざされるという。

かじゅくじ 【過熟児】 本来は過期産(在胎42週以後の出産)で生まれ，かつ身体の著しく大きく発育している新生児をいうが，正期産(在胎38～42週の出産)でも身体の著しく大きい巨大児があり，また妊娠月数の判定は不正確なことがあるので，出生体重4kg以上のものを過熟児(巨大児)とみ

なすことが多い。過熟児(主として過期産巨大児)は皮膚の胎脂欠如・乾燥・落屑(らくせつ)・亀裂(きれつ)，長いつめ，赤みのない皮膚，うぶ毛の脱落，栄養状態不良，皮膚のたるみ，細長いからだなどの特徴があり，羊水は胎便により混濁，胎盤と臍帯(さいたい)は胎便中の胆汁(たんじゅう)色素により黄染している。生活力が非常に弱く，呼吸障害・嘔吐(おうと)・頭蓋(ずがい)内出血・循環障害などを起こして死亡することが多い。このような症状は胎盤の機能に障害がみられることによることが多く，予定分娩(ぶんべん)期を過ぎて，胎盤が退行変化をきたすため，胎児への酸素や栄養の供給が妨げられるからである。分娩遅延の理由については母の体質，内分泌的因子(たとえば糖尿病)などが考えられるが明らかでない。過熟児の養護については，出生体重は大きくとも死亡しやすいので，未熟児と同様な保育上の注意，すなわち施設への入院，保育器への収容，十分な監視が必要である。〔宇留野勝正〕

かしゅけっせつ【歌手結節】⇨謡人結節

かしゅすいじゅう【火主水従】火力発電所の設備容量が水力発電所のそれを上回ることをいう。わが国の発電設備は水主火従の形で発達してきたが，経済的な水資源の減少，火力発電所の信頼度の増大や経済性の向上によって，1955年(昭和30)ごろから電源開発の主体は火力(特に汽力発電)となり，火主水従の形へ移行し，1965年3月末現在では事業用火力設備が全事業用発電設備の57％に達し，現在では70％内外に達している。

カシューとりょう【カシュー塗料】カシューノキの実からとる油を原料とした塗料。油の主成分は漆の主成分であるウルシオールに似たフェノール性化合物のカルドールとアナカルド酸からなり，これを石炭酸-ホルマリンなどと縮合して可撓(かとう)性・耐薬品性・耐溶剤性・耐油性のすぐれた塗料を得る。塗膜は漆に似た色調と性能をもち，漆器用・耐薬品用・家具・工芸品などの塗装に使用される。

カシューノキ【カシューの木】双子葉植物・ウルシ科。熱帯アメリカ原産の常緑高木。10〜12mになる。葉は革質，長卵形で，互生状に集まってつく。花は枝端に円錐(えんすい)花序に淡桃色の花をつける。花後に花柄が異常に肥大し，多肉で黄色，5〜7cmの洋ナシ状となる。その頂部に勾玉(まがたま)形で紅熟する2〜3cmの果実をつける。肥大した花柄部をカシューアップルといい，洋酒やアイスクリームの甘味やジャムにする。果実の中には白色の仁(にん)があり，これをカシューナッツという。これは多量の油を含み，カシュー塗料の原料となるほか，芳香があるので火にあぶって食用にする。また，幹から出る乳液状の樹液をカシューゴムといい，アラビアゴムの代用とする。



ガジュマル　多くの気根が下垂している



カジュラーホ　カンダリヤ-マハーデーバ寺院

がじゅまる【榕樹】双子葉植物・クワ科の常緑高木。屋久島・種ケ島・沖縄・台湾・中国・インド・マレーシアに分布。全体に無毛で枝はよく伸び，葉は厚く，広卵形で先がとがり光沢がある。イチジクに似た果実は径約8mmで赤熟する。幹から多くの気根が下垂する。材は縁が白色，中心が紅かっ色で軽く，模様がおもしろいので細工物にする。熱帯地方では潮風に強いため防風林とされる。また，温室で観葉植物として栽培される。

カジュラーホ　インド中部，チャンドラ王朝(9〜12世紀)の首都カジュラーホにある中世インドの代表的寺院。全盛期には，約85の寺院が創建されたと伝えられるが，ほぼ20が現存しているにすぎない。それらは東・南・西3群に分けられ，西方群に属する寺院がよく知られている。寺院は，一つを除いて，すべて淡黄色の砂岩で造建されているが，著しく個性的である。ことに顕著であるのはシカラ(山頂の意)といわれる円屋根(まるやね)を頂いている屋根の形式である。他の一つの特徴は，寺院内外の石壁面を装飾した彫刻帯である。そこには，ヒンズー教の主たる神々，天女，ミトゥナ(夫婦像あるいは愛欲像と解される)や怪獣などが彫り込まれており，その生気に満ちた描写はヒンズー芸術の高揚した時期の状態をよく物語っている。なお，カジュラーホにおける最大の寺院で，しかも典型的建築様式を示しているのはカンダリヤ-マハーデーバ寺院である。〔西岡康宏〕

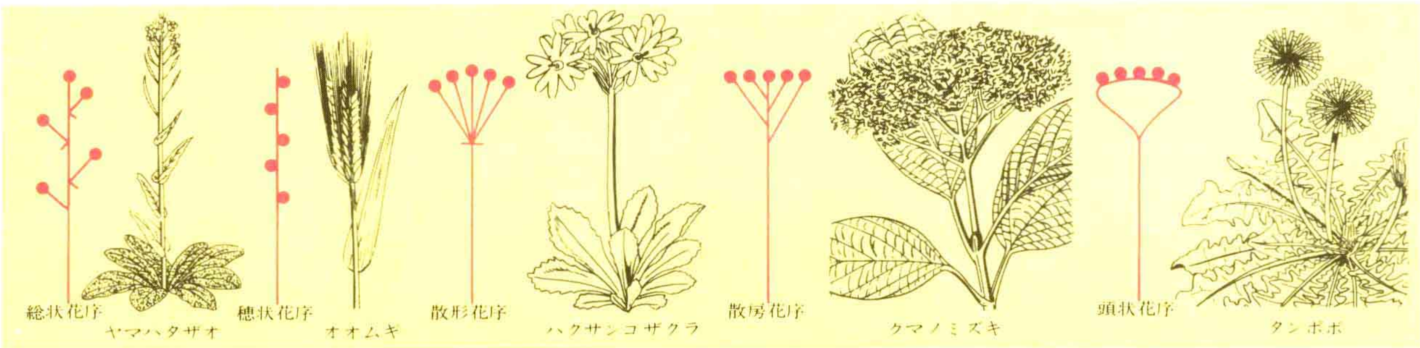
かしょ【過所】関所通過の許可書。過書とも書く。古代の関所は軍事的目的をもち，通過するには身分を証明するために，京都では京職(きょうしき)，地方では国司が下付する過所の携帯を要した。中世，関所料を徴収するようになるとその免除証をいうようになった。近世では一般に関所手形とよばれ，関所料より警察的意味が重視されて，男の負傷者・精神病者・鉄砲携帯者，また女には関所手形が発行され，過所は行なわれなくなった。〔星野具子〕

かじょ【花序】1本の枝の上の花の配列状態をいう。花序にはいろいろの形があり，それぞれ名称がついているがはっきりしないものも多い。形の違いは分類学上重要視される。分枝法に基づいて総穂花序と集散花序とに分ける方法と，花の開く順位によって無限花序と有限花序に分ける方法がある。茎の頂に単一の花をつけるような場合を単茎性(チューリップなど)，茎が1回分枝しその枝の上に花をつける場合を二茎性(アブラナ・ハスなど)，茎が分枝しその枝がさらに分枝したものに花がつくものを三茎性(オオバコ・レンゲソウなど)，さらに分枝を重ねる多茎性がある。

一般には総穂花序の花は下部のものから咲き始めて上方に及ぶ無限花序であり，花が軸のまわりにらせん状に配列し，花梗(かこう)をもつ総状花序(マメ科・アブラナ科)，下方の花軸ほど長いために花がほぼ一平面上にある散房花序(アジサイ属・ミズキ属)，花梗がないかまたはきわめて短い穂状花序(イネ科)，茎の頂に花が多数ほぼ一平面に集まる散形花序(セリ科)，茎頂がふくれその上に多数の花が配列する頭状花序(キク科・スズカケノキ科)がある。

集散花序は花が上部のものから咲き出し下方に至る有限花序で，花序が1節から3花以上出る多散花序(トウダイグサ科)，1節から2花対生する岐散花序(ナデシコ科)，1節にただ1花つく単散花序(ホタルイ属の一部)などがある。さらに仮軸が交互に屈曲しながら配列する互散花序(ハンニチバナ属)，一方にだけ湾曲するように配列する巻散花序(ムラサキソウ科)がある。

その他，花序が集合した複合花序には，同形の花序が重なった同形複合花序と異形花序の重なった異形複合花序がある。前者は総状花序が総状に配列する複総状花序(マメ科)，穂状花序が穂状に配列する複穂状花序(イネ科)，散形花序が散形に配列する複



花　序

散形花序(セリ科)などの複総穂花序と，互散花序が巻散状に配列する互散巻散花序(ハゴロモグサ属)の複集散花序がある。また異形複合花序には頭状花序が岐散状に配列した頭状岐散花序(キク科)，総状花序が互散状に配列する総状互散花序(クサノオウ属)などの総穂集散花序，および互散花序が総穂に配列する互散総状花序(トチノキ属)，互散花序が頭状に配列する互散頭状花序(ハナカンザシ属)などの集散総穂花序がある。〔加藤僖重〕

かしょう　【火傷】　⇨やけど

かしょう　【花床】　⇨花托(かたく)

かしょう　【迦葉】　⇨マハー=カッサパ

かしょう　【仮晶】　ある鉱物が外形はそのままで他の鉱物に置換したもの。たとえば，オウテッ鉱が結晶の輪郭を残してカッテッ鉱に変質したものはオウテッ鉱後のカッテッ鉱仮晶といわれる。また，セキエイがはじめ高温形セキエイに結晶しながら，のちに温度が下がって低温形セキエイに変化する例のように，化学成分に変化をきたさない場合もある。

がしょう　【画商】　絵画を主に美術品を取り扱う商人。注文制作が中心であった中世ルネサンス期にも，王侯・貴族らの美術品収集を行なった画商は存在したが，現在のように画商が店を構えるようになったのは，市民階級の収集家が現われた17世紀以降のことである。また，自身の鑑識眼によって，画家・作品を選定する近代画商の出現は19世紀末以降である。

かしょうき　【何紹基】　(1799～1873)　中国，清(しん)代の学者・書家。字(あざな)は子貞。東洲(とうしゅう)また蝯叟(えんそう)と号した。湖南道州の人。1836年進士となる。翰林院(かんりんいん)にはいり，庶吉士を経て編集となった。1852年四川学政となったが，のち退官して講学に従事し，蘇州(そしゅう)で没した。金石碑版の学に詳しく，阮元(げんげん)・包世臣の碑学の説をうけ，唐の顔真卿(がんしんけい)を学び，北魏(ほくぎ)の張黒女墓法を好み，さらに秦(しん)・漢の篆隷(てんれい)にさかのぼって，北碑派の書家として重きをなした。詩文をよくし，《東洲草堂文鈔(ぶんしょう)》《詩鈔》があり，また蘭(らん)竹山水を描くにも巧みであった。〔中田勇次郎〕



渦状星雲　M33星雲

かしょうき　【可笑記】　仮名草子。如儡子(じょらいし)の作。1636年(寛永13)成立。約400編の随筆を5巻に集めている。儒学の教養を基調とした武士階級への教訓が多く，世相への批判意識も顕著であり，仮名草子随筆類の先駆として文学史的価値が高い。作者如儡子は詳伝不明。武士出身の浪人で，のち出家したらしく，ほかに《百八町記》の著がある。

かしょうこよう　【過少雇用】　現行の賃金率のもとで就業を希望しながら，現実に就業できない労働者が存在する状態，いわゆる非自発的失業の存在している不完全雇用状態のことをいう。古典派理論では，賃金の伸縮性が認められているからつねに完全雇用が達成されるとみなされるが，ケインズ理論では，貨幣賃金の下方硬直性が考えられ，賃金は現行水準以下には下がらないとしているから，過少雇用の状態に陥ることがある。不況の場合には総需要が減少し，生産規模が縮小して雇用水準が低下すると考えられるので，このような場合には，賃金が下がらないと非自発的失業が発生し，過少雇用となる。〔富田重夫〕

かじょうじ　【嘉祥寺】　中国，浙江(せっこう)省紹興府会稽(かいけい)にある寺。東晋(とうしん)の太和年間(366～370)，郡主が竺道壱(じくどういつ)の風徳を慕って建立(こんりゅう)した。梁(りょう)代(6世紀前半)に《高僧伝》を書いた慧皎(えこう)がここに住し，隋(ずい)の開皇年間(581～600)には吉蔵がとどまって8年間つねに講義を行ない，1,000人以上もの聴衆を集めて寺名も名高かった。なお，吉蔵はこの寺に住して三論宗を大成したところから，嘉祥大師とよばれる。〔京戸慈光〕

かじょうせいうん　【渦状星雲】　中心に恒星の密集した核が存在し，そこからうずまき状に何本かの腕が伸びている構造をもった銀河系外星雲。物質の分布は扁平(へんぺい)な円板状に集中し，ながめる方向によっては紡錘状に見える。中心核を構成する星は種族IIに属し，うずまきには種族Iの恒星や散開星団・星間物質が密集している。太陽の1,000億倍程度の大きな質量をもった星雲が多く，銀河系・アンドロメダ星雲などがその代表的な例である。➜銀河系外星雲〔磯部琇三〕

かしょうとう　【火焼島】　ホーシャオ島　台湾の東岸，台東の南東海上約33kmの小島。人口2,000。現在は緑嶼(りょくしょ)の名が用いられる。中国の福建省泉州からの移民によって開拓され，農業および漁業が営まれ，特産物のかつお節は有名。現在は政治犯の隔離収容所が設けられている。

かじょうひなん　【過剰避難】　緊急避難として認められる要件を逸脱している避難行為をいう。たとえば，ほかにも適当な避難方法があったのに他人の法益を侵害したり，または，財産を救うために人命を損じた場合のように，救う法益よりも価値的に重い侵害をいう。違法性阻却事由にはならないから有罪であるが，緊急時の恐怖・ろうばいなどを考慮し，刑が軽減または免除されることがある(刑法37条1項ただし書き)。

かじょうぼうえい　【過剰防衛】　正当防衛の程度を越えた防衛行為。たとえば，相手を昏倒(こんとう)させただけで危害を防衛できたのに，進んで殺害してしまったというような必要の程度を越えた防衛をいう。違法性阻却事由にならないから有罪であるが，情状によって刑が軽減または免除されることがある(刑法36条2項)。

かしょぶんしょとく　【可処分所得】　所得のうちで消費者が自由に処分できる部分をいう。国民純生産分(国民総生産分から減価償却分を差し引いたもの)から，種々の間接税・直接税，法人利潤のうち分配されなかった分(未配当利潤)を差し引き，それに政府による移転支払い分を加えたものである。このような可処分所得はわれわれの消費支出，したがって貯蓄を左右する最も重要な

要因と考えられる。なお，ここでいう政府の移転支払い分は，政府の需要する財・用役に対する報酬ではないが，福祉その他の目的のために政府によって直接移転される処分自由な購買力であるから，可処分所得に加えられる。➔国民所得　〔富田重夫〕

かしらだか【頭高】鳥類・ホオジロ科。全長約15cmの小鳥。シベリアから北欧にかけて繁殖し，日本には越冬にくるだけの鳥。上面は赤かっ色と黒かっ色のまだら，下面は白色で胸に茶かっ色の帯がある。雄はシベリアに帰るころになると，頭部が黒色となり，まゆが白色で目だつ。短い冠羽があり，それをよく立てることからこの名がある。日本では群になっているのが普通である。➔ホオジロ



カシラダカ



カシワ　高さは15mほどになる

かしわ【柏・槲】双子葉植物・ブナ科の落葉高木。高さ15mほどになる。東アジアに広く分布。幹は深く縦裂した厚い樹皮でおおわれ，若枝に灰黄色の短軟毛が密生する。葉は互生し，倒卵形で，あらい鋸歯(きょし)があり，下面は灰色で著しく軟毛を密生する。5月ごろ新しい枝の下方に雄穂が下垂し，上方に雌花がつく。堅果はほぼ球形でかっ色に熟し，下部は外側にそりかえる細かい鱗片(りんぺん)でおおわれた殻斗(かくと)に包まれる。材はかたく耐久力が強いので，建築材・まくら木・船材などに用いる。樹皮はタンニン*の原料となる。葉は，古くは食物を包み，現在はかしわもちを包む。➔カシ　〔横井朝子〕

かしわ【柏(市)】千葉県北西部の市。1954年(昭和29)，もと水戸(みと)街道に沿う宿場町，小金五牧*とよばれた野馬の放牧地であった小金町と明治以後の新興都市柏町を中心に市制施行，東葛(とうかつ)市となったが，2か月後小金地区の大半を南隣の松戸市に分離して柏市と改称。人口23万6,000。両総台地の北西端を占め，北部は利根(とね)川に面する。産業三大別人口比は4：36：60で，〈北工南住〉といわれるように，北部には根上・梅林・花ノ井などの工業団地が集まり，南部には光ケ丘その他の住宅団地が多い。台地上は京浜地方へ野菜類などを供給する近郊農業地帯で，最近は宅地化の傾向が著しく進んでいる。西部の豊四季(とよしき)にも住宅公団の巨大な団地が形成された。常磐(じょうばん)線・東武鉄道野田線が通じ，国道6号線(陸前浜街道)・16号線が集まり，印旛手賀(いんばてが)県立自然公園の観光基地となる。

かしわざき【柏崎(市)】新潟県中西部の市。江戸時代は北陸街道の宿場町で，柏崎港は日本海有数の貿易港として栄えた。越後(えちご)上布の商圏を近江(おうみ)商人と争って，関東・関西・九州方面まで出向いた柏崎商人の活躍は名高い。1940年(昭和15)市制施行。人口82,000。日本海沿岸にそびえる米(よね)山(993m)の東麓(とうろく)，柏崎平野西端の砂丘地帯に位置する。産業三大別人口比は21：38：41。明治末期の西山油田の開発以来，機械・製油・食品などの近代工業が興った。最近，低開発地域工業振興モデル地区に指定され，機械金属工業団地が置かれている。信越本線・越後線の分岐点で，国道8号線・116号線・252号線が集まる。米山山頂の米山薬師や，昭和初期に石油を掘る目的で偶然わき出した柏崎温泉のほか，笠(かさ)島・鯨波海水浴場などの景勝地に富み，米山福浦八景県立自然公園に指定されている。民謡《米山甚句*(じんく)》《三階節*》が名高い。

かしわじま【柏島】高知県幡多(はた)郡大月町に属する小島で，宿毛(すくも)湾の東を扼(やく)する大月半島の先端から150mを隔てており，木橋がかかっている。面積0.57km²，人口1,000。江戸時代からの漁港として知られ，野中兼山*が築いた堤防の一部が残っている。ハマユウやアコウが茂り，足摺(あしずり)国定公園に属している。

かしわまいまい【柏舞舞蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ドクガ科。体長は雄で17〜24mm，雌で23〜25mm。翅(はね)を広げた長さは雄で43〜51mm，雌で66〜75mm。雄は触角が羽毛状で，体・翅ともに暗灰色，体の腹面および腹部は黄橙(おうとう)色，前翅には多数の波状の暗かっ色の帯がある。後翅は黄橙色をおび，暗かっ色の横脈紋がある。翅の裏面は暗灰黄色。雌は雄よりもはるかに大形で，色彩も著しく異なり，体・翅ともにややかっ色をおびた白色。後翅は美しい淡紅色。前翅に数本の暗かっ色の波状紋がある。7月ごろ出現し，本州・四国・九州に分布する。幼虫はクヌギ・ナラ類にしばしば大害を与える。　〔鈴木邦雄〕

かしわもち【柏餅】カシワの葉に包んで蒸したもち菓子の一種。江戸時代にできた。端午の節句に供えられるようになったのは江戸中期ごろからと思われ，古くはちまき*が用いられた。《守貞漫稿》に〈京阪(けいはん)にては男児生まれて初の端午には親族および知音の方に粽(ちまき)を配り，2年目よりは柏餅を贈る。(中略)江戸にては初年より柏餅を贈る。三都ともその製は，米の粉をねりて円形扁平(へんぺい)となし，二つ折りとなし，間に砂糖入赤豆(あずき)あんを挟(はさ)み，柏葉大なるは1枚を二つ折りにしてこれを包み，小なるは2枚を以(も)って包み蒸す。江戸にては砂糖入みそをもあんにかえ交る也(なり)。赤豆あんには柏葉表を出し，みそには裏を出して標とす〉とある。《作り方》上新粉*をぬるま湯でこねて蒸し，器にあけてよくついてのち，水に入れてだいたい熱のさめるまで置き，取り出してもう一度よくつき，デンプンを水でとかしたものを加えて混ぜる。これを1個分ずつ楕円(だえん)形にしてあんを包んで蒸し(蒸し上がるまでに2〜3回ふたを取ってうちわで風を入れると美しいはだになる)，さましてカシワの葉で包む。乾燥したカシワの葉はゆでて水に浸し，あくを抜いてから用いる。なおカシワの葉は西日本には少ないので，サルトリイバラ(またの名をカメイバラという)の葉を代用する地方もある。　〔塩川ふみ〕

かしわら【柏原(市)】大阪府中東部の市。古代には河内(かわち)の国府・国分寺が置かれ，江戸時代には奈良街道に沿う大和(やまと)川舟運の終着地として栄えた。1958年(昭和33)市制施行。人口67,000。大和川が生駒(いこま)山地南麓(なんろく)を横谷をなして大阪平野へ流出する渓口部(けいこうぶ)に位置する。産業三大別人口比は3：50：47。染色・さらしなどの伝統的な家内工業のほか，ミシン・ベアリングなどの機械工業や化学・パルプ工業などが発達し，大工場が進出している。山麓部には堅下(かたしも)ブドウの特産があり，ぶどう酒が醸造される。関西本線と近畿(きんき)日本鉄道の柏原線・長野線・大阪線が集まり，国道25号線・170号線に沿う。周辺部には国分寺などの古寺院跡や古墳群が多く，松岳山古墳には舟人の図を彫刻した壁画があり，史跡に指定されている。

かじわらかげすえ【梶原景季】(1162〜1200)鎌倉時代の武将。景時の子。通称源太。1184年(寿永3)父に従い，木曾義仲(きそよしなか)(➔源義仲)追討軍に加わって上洛(じょうらく)，宇治川の戦い*で佐々木高綱*と先陣争いをしたことは有名。次いで源平合戦(げんぺいかっせん)に出陣して戦功を立てたが，1200年(正治2)父の景時が諸将の排撃を受け失脚すると，一族とともに京都へ脱走を企て，途中駿河(するが)(静岡県)狐崎(きつねがさき)で敗死。

かじわらかげとき【梶原景時】(？〜1200)鎌倉前期の武将。桓武(かんむ)平氏の分

流。相模(さがみ)(神奈川県)の住人景清(かげきよ)の子で，通称は平三(へいぞう)。大庭景親(おおばかげちか)に従い石橋山の戦い*において源頼朝*(よりとも)を攻めたが逆に頼朝の危急を救い，のち頼朝に帰降して信任され，侍所の所司となる。1185年(文治1)源義経(よしつね)について平氏追討に従ったが，義経と意見が対立し，義経を讒訴(ざんそ)して失脚させたといわれる。頼朝没後，幕政の合議に参与したが，1199年(正治1)将軍頼家に結城朝光(ゆうきともみつ)を讒したことで，逆に三浦・和田氏以下の重臣・御家人66名連名の弾劾を受けて鎌倉を追放された。謀叛(むほん)を起こして京都に向かおうとしたが，追討されて駿河(するが)(静岡県)狐崎(きつねがさき)で敗死した。

〔鹿野賀代子〕

かじわらへいぞうほまれのいしきり 【梶原平三誉石切】 歌舞伎(かぶき)脚本。通称〈石切梶原〉。原作の義太夫節(ぎだゆうぶし)《三浦大助紅梅靮(たづな)》は1730年(享保15)竹本座初演。歌舞伎初演は同年大阪角(かど)の芝居。3段目の〈石切梶原〉が中心で，梶原景時*(かげとき)が鎌倉の鶴岡八幡宮(つるがおかはちまんぐう)の社前で刀鑑定のため，二つ胴や石の手水鉢(ちょうずばち)のためし斬(ぎ)りをする。歌舞伎らしいはなやかさに満ちた芝居。



梶原平三誉石切 〈石切梶原〉の場　社前で二つ胴を試す梶原景時(片岡仁左衛門)

かじんのきぐう 【佳人之奇遇】 東海散士*の長編小説で，矢野龍溪*(りゅうけい)の《経国美談*》と並ぶ政治小説。初編刊行は1885年(明治18)10月で，8編まで断続して発表された。物語は，フィラデルフィアに遊学中の東海散士の，スペイン亡命貴族幽蘭(ゆうらん)とアイルランド独立運動*に参加する紅蓮(こうれん)との出会いから始まり，カイロ・朝鮮へと舞台が広がる。作者自身の亡国の危機を訴えながらの政見表明がある。

カシン-ベックびょう 【カシン-ベック病】 中国東北部・シベリア・朝鮮にみられた骨疾患。剖検所見が，唾液腺(だえきせん)摘出時の動物実験でみられた所見と類似しているため，唾液腺ホルモン欠乏症と考える学者がある。長骨の発育停止，指関節の腫脹(しゅちょう)を主症状とするが，骨軟骨異栄養症と類似の疾患である。

ガス [gas] 本来は気体の総称の意味で用い，また霧の状態をさすこともある。しかし，一般的には〈都市ガス〉つまり，主として燃料に使用する目的で都市に供給する気体燃料のことをさす。

【ガスの種類と組成】 都市ガスは石炭ガス・油ガス・ナフサガス・発生炉ガス・増熱水性ガス・天然ガス*・液化石油ガス*(LPG)，石油精製のオフガスなどの各種ガスを混合したものである。その組成はおもに水素・メタン・重炭化水素・窒素・二酸化炭素で，少量の一酸化炭素・酸素が含まれる。日本では最低発熱量は1 m³ あたり3,600kcal，ガス供給の最低圧力は水柱50mm，全イオウ分は1 m³ あたり0.5g以下，アンモニアは0.2g以下と法規によって定められている。

【ガスの製造】 ①石炭ガス：揮発分の多い粘結性瀝青炭(れきせいたん)を耐火れんが製の密閉炉内で1,000℃以上の高温で乾留し，発生する粗ガスからアンモニア・イオウ分などの不純物を除いたもの。このほか，コールタール・ガス液・コークスが副産物としてできる。②発生炉ガス：コークスを空気で不完全燃焼させて製造したもので，一酸化炭素と窒素がおもであるが，実際には水蒸気を空気に混ぜて使用するため，ある程度の水素も含まれている。発熱量は低い。③増熱水性ガス：赤熱したコークスに水蒸気を反応させて，おもに一酸化炭素と水素からなる水性ガスをつくり，これに発熱量を増すために石油系の炭化水素を加熱分解して混合したものである。④油ガス：石油系炭化水素(原油など)を高温熱分解あるいは

表-1　都市ガス組成の一例

成　　分	体　積　%
二酸化炭素	8
重炭化水素	C_2H_4：5，C_3H_6：2
酸素	3
一酸化炭素	5
水素	35
メタン	27
窒素	15
比　重(空気＝1)	0.60
総発熱量(kcal／m³)	5 000

表-3　単体ガスの理論空気量と爆発範囲

単体ガス	理論空気量 (m³/m³)	爆発範囲 (%)
一酸化炭素	2.38	12.5～74.0
水素	2.38	4.0～75.0
メタン	9.52	5.3～15.0
プロパン	23.80	2.2～ 9.5
ブタン	30.90	1.9～ 8.5

触媒を用いて接触式方法で分解してできたガスで，重炭化水素やメタンを多く含み，発熱量が高い。⑤ナフサガス：ナフサ*を原料とし，触媒を用いて水素あるいはメタンを主成分とするガスに改質したもの。⑥天然ガス：メタンが主成分である。最近は海外から液化した天然ガス(LNG)が輸入されている。⑦液化石油ガス：石油精製工場で副生する炭素数3～4の炭化水素(プロパン・ブタン)の混合物で，容易に液化する。これ自体家庭燃料として使用されている。

【ガスの供給】 ガス需要は季節的に変動し，また1日のうちでも朝夕が多いという時間的変動もあるので，ガス製造工場および適当な場所に貯蔵用のガスタンク*を設けて供給を円滑にする。供給するときのガス圧力の大小によって，低圧供給(水柱200～300mm)・中圧供給(3気圧以下)・高圧供給(3気圧以上)がある。小規模ガス事業では低圧供給が用いられるが，大規模のガス事業では高圧から中圧・低圧としだいに圧力を下げていく供給方式が採用されている。大都市では，製造工場から遠く離れた各市街地まで高圧で供給して高圧球形タンクにたくわえておき，そこから付近の需要先へ供給する。工場・需要先までの間には，ガスの圧力を自動的に調節する整圧器が数段にわたって設けられているので，ガス燃焼器具にはつねに所定の圧力でガスが供給される。

【ガスの燃焼】 ガスを完全燃焼させて十分な発熱量を発生させるためには，ガスの組成によって一義的に定まる量の空気を混合しなければならない。この空気は，燃焼するまえに混合する一次空気と，燃焼中の炎に混入する二次空気とに分けられている。

ガスの燃焼方法は，ガスと空気とが混合する場所や混合する一次空気の量によって，次のように大別される。①赤火式燃焼：ガ

表-2 各種原料ガスの組成(体積%)

組成 / ガスの種類	二酸化炭素	重炭化水素	酸素	一酸化炭素	水素	メタン	窒素	発熱量 (kcal/m³)
石炭ガス	2	4	1	9	48	31	5	5 500
油ガス(熱分解)	4	32	1	3	16	37	7	9 600
油ガス(接触分解)	13	10	1	12	43	14	7	5 000
ナフサ改質ガス(ICI式)	21	—	—	3	67	9	—	2 990
ナフサ改質ガス(CRG式)	20	—	—	1	17	62	—	6 450
発生炉ガス	6	—	1	27	10	—	56	1 150
増熱水性ガス	13	5	1	32	34	8	7	3 750
天然ガス	—	3	—	—	—	97	—	9 700
液化石油ガス	—	100	—	—	—	—	—	26 670
オフガス	—	17	—	—	28	55	—	9 000

スをそのまま大気に噴出させて燃焼させる方法で，空気はすべて二次空気として供給される。炎が静かで空気の調整は不要だから，先止め式の瞬間湯沸かし器などに利用される。②ブンゼン式燃焼：一次空気を混入して炎孔で燃やし，残りの空気は炎へ二次空気として供給させる方法。ブンゼンバーナーがその代表的なものである。赤火式よりも燃焼が速く，炎は短く高温になり，都市ガスでは最高1,700℃ぐらいになる。③全一次空気式燃焼：空気はすべて一次空気として供給する方法。ブンゼン式燃焼の炎の外炎に相当するものができないので，肉眼では紫色の炎しか見えない。ブンゼン炎よりも多少高温である。赤外線バーナーなどに利用される。ブンゼン式燃焼のバーナーでは，一次空気孔の調節弁が開きすぎて一次空気が多すぎると，炎は短くなって小爆音を発してバーナーの内へ逆火する。逆にガスの供給圧力が高すぎたりすると，ガスの噴出速度が大きくなりすぎるため，炎が炎孔から浮き上がってしまい，ついには吹き飛んで消えたりする。また，ガス量に対して供給する空気量が不足したり，量が足りても両者の混合が不十分であったり，新鮮な空気でないために酸素が不足したり，炎が低温のものに触れて炎の温度が低下したりすると，不完全燃焼を起こし，有毒な一酸化炭素や刺激性の成分(ホルムアルデヒドなど)およびすすを発生する。

必要とする空気量は各種単体ガスによってかなり違う。実際に供給する空気量は，必要とする最少空気量(理論空気量)よりも20～40%多いのが普通である。空気をあまり多く供給すると，炎の温度が低くなるだけでなく，ガスが爆発(燃焼)範囲からはずれてしまい，炎が消える。ガスの炎の温度はガスの組成，空気との混合状態あるいは周囲の状況などによって違うが，ブンゼン燃焼炎の最高温度は内炎錐(ないえんすい)のわずか上の部分で約1,700℃である。

〔寺沢誠司〕

かすいさい　【可睡斎】　静岡県袋井市にある曹洞宗(そうとうしゅう)の寺。山号は万松山。寺伝によれば，1407年(応永14)如忠天誾(てんぎん)の開山で，はじめ東陽軒と称した。1572年(元亀3)武田(たけだ)信玄と徳川家康(いえやす)の三方原の戦い*で家康をかくまって以来徳川氏の保護を受け，1583年(天正11)以後駿河(するが)・遠江(とおとうみ)・伊豆(いず)(いずれも静岡県)，三河(みかわ)(愛知県)の曹洞宗の僧録*として寺運が上がり，1612年(慶長17)寺号を可睡斎と改めた。明治初年の廃仏毀釈(きしゃく)の際，秋葉山*から秋葉山威徳大権現(秋葉三尺坊)の総本殿が移された。火災よけの霊尊として信仰されている。

〔藤本昌子〕

かすいたい　【下垂体】　脳から垂下する丸みをおびた小さな内分泌腺(ないぶんぴつせん)。脳下垂体ともいう。生体の機能調節や代謝などに関するホルモンを分泌する。➔脳下垂体

かすいたいしゅよう　【下垂体腫瘍】　下垂体より発生する腫瘍。脳腫瘍の10%を占め，細胞の種類によって嫌色素(けんしきそ)性・塩基好性・酸好性細胞腺腫(せんしゅ)の3種に分けられる。下垂体腫瘍の85%を占める嫌色素性細胞腺腫は，ホルモンを分泌することは少ない。しかし，他の腺腫より大きくなるので，正常下垂体組織を圧迫し，下垂体ホルモン欠乏症を起こす。また視神経を圧迫して両耳側性半盲症を起こす。塩基好性細胞腺腫はクッシング病(➔クッシング症候群)の原因となることがあるが，ホルモンを分泌しないものも多い。酸好性細胞腺腫は成長ホルモンを異常に分泌し，末端肥大症・巨人症などの原因となる。なお，頭蓋咽頭腫(とうがいいんとうしゅ)は下垂体の近くに発生するので，下垂体腫瘍との鑑別が必要である。

〔清水直容〕

ガスいと　【ガス糸】　ガス炎・電熱などで毛羽を焼いた糸。主として綿糸・スパンレーヨン糸などが加工される。糸の表面が平滑となり，光沢よく，フィラメントヤーンの外観に類似し，縫い糸や薄地平滑な織物をつくるのに利用される。

かすいどり【蚊吸鳥】　⇨ヨタカ

かすいぶんかい　【加水分解】　一般に水が作用して起こる分解反応を総称していう。【塩の加水分解】塩の成分イオンが加水分解を受けて，他のイオンまたは分子に変わる。加水分解により水素イオンまたは水酸イオンを生ずるので，一般に溶液は酸性またはアルカリ性を示す。塩化ナトリウム$NaCl$などのように強酸と強塩基からなる塩の場合は加水分解は起こらないが，酢酸ナトリウムCH_3COONaなどのように弱酸と強塩基からなる塩，塩化アンモニウムNH_4Clなどのように強酸と弱塩基からなる塩，酢酸アンモニウムCH_3COONH_4などのように弱酸と弱塩基からなる塩はそれぞれ次のように加水分解して，アルカリ性・酸性・中性を示す。

$CH_3COONa \longrightarrow CH_3COO^- + Na^+$,
$CH_3COO^- + H_2O \rightleftarrows CH_3COOH + OH^-$
$NH_4Cl \longrightarrow NH_4^+ + Cl^-$,
$NH_4^+ + H_2O \rightleftarrows NH_3 + H_3O^+$
$CH_3COONH_4 \longrightarrow CH_3COO^- + NH_4^+$,
$CH_3COO^- + H_2O \rightleftarrows CH_3COOH + OH^-$,
$NH_4^+ + H_2O \rightleftarrows NH_3 + H_3O^+$,
$OH^- + H_3O^+ \rightleftarrows 2\,H_2O$

【有機物の加水分解】有機化合物で加水分解を受けるものには次のようなものがある。

①油脂(グリセリド)，その他のエステル

$\underset{\text{酢酸エチル}}{CH_3COOC_2H_5} \longrightarrow \underset{\text{酢　酸}}{CH_3COOH} + \underset{\text{エチルアルコール}}{C_2H_5OH}$

②酸無水物・酸塩化物・酸アミド

$\underset{\text{無水酢酸}}{(CH_3CO)_2O} \longrightarrow \underset{\text{酢　酸}}{2\,CH_3COOH}$

③タンパク質・ペプチド(加水分解によりアミノ酸を生成)

$\underset{\text{ペプチド}}{\cdots NH\overset{R}{\overset{|}{C}}HCONH\overset{R'}{\overset{|}{C}}HCOOH}$

$\longrightarrow \cdots NH\overset{R}{\overset{|}{C}}HCOOH + \underset{\text{アミノ酸}}{H_2N\overset{R'}{\overset{|}{C}}HCOOH}$

④エーテル・ショ糖(特に転化という)・デンプン・セルロース(特に糖化という)などの糖類

$\underset{\text{アニソール}}{CH_3OC_6H_5} \longrightarrow \underset{\text{メチルアルコール}}{CH_3OH} + \underset{\text{フェノール}}{C_6H_5OH}$

また，水の付加反応で加水分解として取り扱われる例としては，ラクトンからオキシ酸の生成，ニトリルから酸アミドまたはカルボン酸の生成，エチレンオキシドからエチレングリコールの生成などがある。

〔三輪誠・加藤康〕

かすいぶんかいこうそ　【加水分解酵素】　基質の化合物中にあるエステル結合・グリコシド結合などを切断するが，そのとき水が反応を媒介する酵素の総称。一般にその反応は次のように表わされる。

$A\text{-}B + H_2O \xrightarrow[\text{加水分解酵素}]{} A\cdot H + B\cdot OH$
(A-B中の-は加水分解される結合)

代表的なものとして次の4種をあげる。①エステラーゼ：基質に対する特異性が低い。エステルに働き，生成物は酸・アルコール。②フォスファターゼ：リン酸エステルを切断する。③グリコシダーゼ：糖どうしの結合，または糖と他の化合物との結合を切る。アミラーゼのように多糖類を加水分解する酵素もこの群に入れられる。④ペプチダーゼ：ペプチド結合-NH-CO-を水解して-NH_2，-COOHにする酵素。基質としては低分子のものでも，タンパク質のような高分子のものでも，すべてこの酵素群によって水解される。この酵素群には長いペプチド鎖を端からのみ切るものと，鎖の内部からのみ切るものとがあり，協力して消化を助けている。

〔井坂三郎〕

ガスいりでんきゅう　【ガス入り電球】　⇨電球

かすう　【仮数】　⇨対数

ガスえそ　【ガス壊疽】　戦傷などの不潔な創傷に起こりやすく，死亡率が50%前後の危険な病気。嫌気(けんき)性細菌であるクロストリジウム属が傷口から感染して起こる。筋肉や皮下組織内に，ガスやガスを含んだ血性漿液(しょうえき)性分泌物が充満してはれる。組織の損傷が大きく，血行障害のある四肢(しし)に発生することもある。菌は局所に存在するが，菌の産生する毒素によって全身が侵される。重症なものは1～2日で死亡する。治療には抗血清の早期大量投与が必要であり，また，感染した四肢の高位切断をためらってはならない。抗血清は予防にも用いられる。

〔三島好雄〕

かすが　【春日(市)】　福岡県福岡市の南東に接する市。1972年(昭和47)市制施行。人口65,000。農村地帯だったが，衛星都市化が進み，1970～1975年(昭和45～50)の人



春日権現験記　第5巻，藤原俊盛邸の庭園　（部分）　宮内庁蔵



春日大社
境内には数多くのつり燈籠・石燈籠があり，節分の夜と8月15日の夜には，全部の燈籠に火がともされる

口増加率は32.6%であった。陸上自衛隊第4師団が置かれ，在日アメリカ軍の基地もある。北部の須玖(すく)に弥生(やよい)時代中期の遺跡があり，須玖式土器の名がここから生まれている。鹿児島本線に沿っているが，最も近いのは福岡市内の南福岡駅である。産業三大別人口比は1：26：73。

ガスか　【ガス化】　固体または液体燃料に対して，空気・酸素・水蒸気・二酸化炭素などを単独または混合ガスとして作用させ，水素・一酸化炭素またはメタンを主成分とするガスを製造すること。炭化水素ガスを同様に反応させる場合はリフォーミングとよんでいる。化学工業で重要な工程で，都市ガス(→ガス)や水性ガス*・発生炉ガス*などの製造に利用されている。

かすがい　【春日井(市)】　愛知県北東部の市。濃尾平野北部に位置し，名古屋市北東部に接する。古くから開発され，農業のほか養蚕・養鶏が行なわれたが，第2次世界大戦中に陸軍工廠(こうしょう)が設置されて以来軍都として発展し，1943年(昭和18)市制施行。人口23万9,000。産業三大別人口比は3：45：52で，戦後，工廠跡に王子製紙の春日井工場が誘致されてから製紙をはじめ関連諸工業が発達し，また名古屋の衛星田園都市として有畜農業や野菜の温室栽培などの生産が行なわれているが，その後，高蔵寺ニュータウンなどの住宅団地も建設されている。中央本線に沿い，東名高速道路のインターチェンジがあり，中央高速道路もここに延びる予定である。

かすがごんげんげんき　【春日権現験記】　春日明神の霊験譚(れいげんたん)を説いた20巻の絵巻物。御物。1309年(延慶2)左大臣西園寺公衡(さいおんじきんひら)が春日大社*に納めたもので，絵は高階隆兼*(たかしなたかかね)，詞(ことば)は前関白鷹司基忠(たかつかさもとただ)とその子3人によっている。50余の物語の展開とともに，春日社頭を中心とした大和(やまと)地方の風景や貴族の邸内，民衆の生活などが細密な描写と華麗な彩色で描かれ，鎌倉末期大和絵の頂点に位置する作でもあり，当時の風俗資料としても貴重である。　〔村重　寧〕

カスカス　⇨クスクス

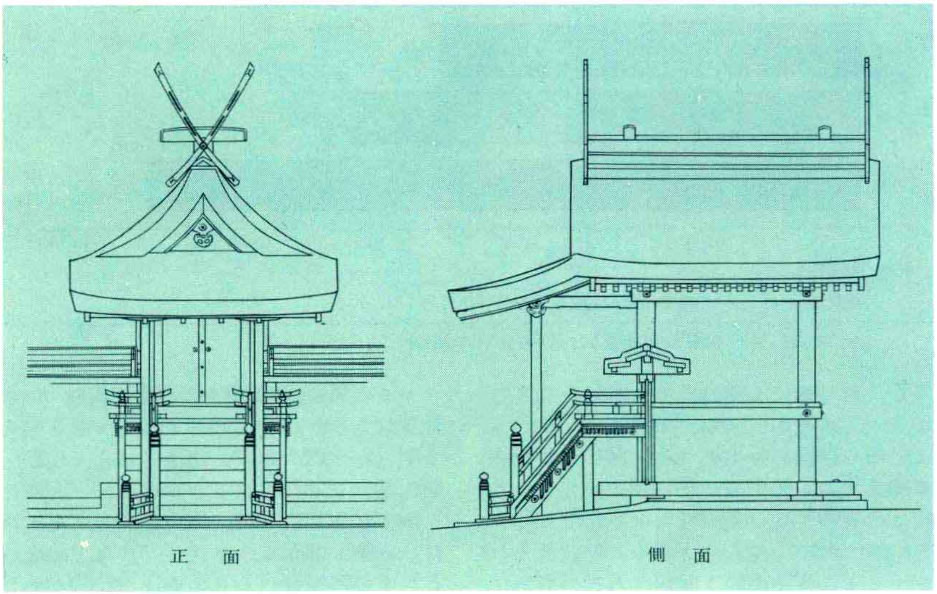
かすがたいしゃ　【春日大社】　奈良市春日野町にある。祭神は武甕槌命(たけみかづちのみこと)・経津主命(ふつぬしのみこと)・天児屋根命*(あめのこやねのみこと)・比売神(ひめがみ)の4神で，4殿からなる本殿(国宝)にそれぞれ祭られているが，信仰対象としては一体化されて春日明神とされている。社伝によると，767年(神護景雲1)茨城県鹿島(かしま)神宮*よりタケミカヅチノミコトを迎え，770年(宝亀1)1月に社殿を現在地に構え，次いで千葉県香取神宮*よりフツヌシノミコトを，大阪府枚岡(ひらおか)神社よりアメノコヤネノミコトとヒメカミを迎えたのに始まるという。しかし《春日由来記》《和州志略》《神宮雑例集》などではそれぞれ異同があり，ほぼ諸説の一致するところは768年に社殿を創建して三笠(みかさ)山頂から現在地に遷座したのに始まるとしている。当社は古来，藤原氏の氏神として朝廷をはじめ武家に重んじられ，足利(あしかが)将軍の参拝，豊臣秀吉(とよとみひでよし)・徳川秀忠(ひでただ)の朱印状寄進などもあった。また当社は，藤原氏の氏寺興福寺*と境を接し，社事についての強訴のときなどには興福寺僧徒の力を借りて，神輿(みこし)や神木を奉じ入洛(にゅうらく)したという。社殿は春日造り*とよばれる神社建築で，細殿・御廊・神楽殿(かぐらでん)は12世紀の建造になる。本殿の4むねは16世紀以来20年ごとの式年造営とされ，現社殿は1863年(文久3)に改築されたが，平安時代のおもかげを残している。回廊のつり燈籠(とうろう)は春日燈籠と称されて有名。社宝には竈太鼓(かまどだいこ)1対，赤銅づくりの太刀(たち)，また12面の舞楽面などがある。3月13日に行なわれる例祭(春日祭)は賀茂祭*・石清水(いわしみず)祭とともに三勅祭の一つ。　〔佐野文哉〕

かすがづくり　【春日造り】　古代神社本殿形式の一種で，切り妻造りの正面にひさしを設けて向拝(こはい)とした形式。奈良市の春日大社本殿の建築が代表的。流れ造り*に次いで広く用いられており，比較的規模の小さなものが多い。木部に彩色し，屋根も優美にそりをつけるなど，大陸建築手法の影響がみられる。

かすがとよ　【春日とよ】　(1881～1962)　小唄(こうた)春日派の創始者。本名，柏原(かしわばら)とよ。函館(はこだて)の生まれ。はじめ清元を，のちに長唄・常磐津(ときわず)・小唄を学んだ。一時，芸者となったが，NHK創立(1925)のころから放送を通じて小唄を歌い，小唄を専業として一派をなした。

かすがのつぼね　【春日局】　(1579～1643)　徳川家光(いえみつ)の乳母(うば)。名は福。明智光秀(あけちみつひで)の甥(おい)斎藤利三(としみつ)の娘。下野(しもつけ)(栃木県)真岡(もうか)の領主稲葉正成(まさしげ)に嫁し3子を生む。1604年(慶長9)家光の乳母となる。2代将軍秀忠(ひでただ)は家光の弟忠長(国千代)を寵愛(ちょうあい)し，これを世子とするきざしがみられたため，局は家康(いえやす)に訴えて家光を世子とすることに成功した。家光が将軍となると局は大奥で勢力をふるい，田安門内に壮大な屋敷を建てた。晩年は江戸湯島に天沢寺を建立(こんりゅう)した。　〔松平秀治〕

かすがばん　【春日版】　平安時代の後半から鎌倉時代全期にわたり，藤原氏の氏寺である奈良の興福寺*と，その配下に属する



春日造り



春日局　狩野探幽筆

春日大社*で開版された，一定の様式を備えた仏典を総称する。書風・墨色・用紙などすべてにすぐれ，１行17字づめの楷書(かいしょ)を用い，毎版面の右すみに開版の年代・寺社名・願主・施主・彫工の名が陰刻されてある。現存のものでは，1088年(寛治２)模工僧観増の刊記のある《成唯識論》10巻(残巻が奈良の正倉院にある)が最古のものとして著名である。このほか，当時印刷したものがいろいろ残っているが，そのとき使用した版木類も比較的多く現存し，中でも，興福寺北円堂にある《成唯識論述記》の版木は，1195年(建久６)に彫刻したもので，現存最古の版木といわれる。　〔庄司浅水〕

かすかべ　【春日部(市)】　埼玉県東部の市。江戸時代には糟(粕)壁と書き，日光街道の宿場町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口153,000。元荒川と庄内古(しょうないふる)川の間の沖積(ちゅうせき)平野上にあり，中心市街は古利根(ふるとね)川の低い河畔砂丘上に位置する。産業三大別人口比は６：38：56。水田地帯が開け，桐(きり)だんす・羽子板・麦わら帽子などの家内工業が行なわれるが，近年は東京の住宅衛星都市化が進み，武里(たけさと)団地が建設された。1970～1975年の人口増加率は43.2％。国道４号線・16号線が通り，東武鉄道日光伊勢崎(いせざき)線・野田線が交差し，営団地下鉄線が北春日部へ乗り入れる。〈牛島のフジ〉(特別天然記念物)が名高い。

カスガマイシン　［Kasugamycin］　イネいもち病の防除剤で有機水銀剤に代わるものとして登場した抗生物質である。奈良の春日(かすが)大社境内の土壌(どじょう)中から分離した放線菌ストレプトミセス-カスガエンシスが生産するところからこの名がある。人畜・魚介類に対する毒性が低いうえに，すでに発病したいもち病を治療する効果もあり，きわめてすぐれた農薬とされている。

かすがやま　【春日山】　新潟県高田市の北西部，妙高山から分岐する難波丘陵北端の地区。信越本線春日山駅から西方３kmの地点にある。地名は15世紀後半に越後(えちご)(新潟県)の守護上杉房定(うえすぎふささだ)が奈良の春日大社の分霊をこの地に祭ったことに由来する。戦国時代に越後の守護代長尾為景(ためかげ)およびその子上杉謙信*によって春日山城が築かれ，その活動の本拠地とされた。久比岐(くびき)県立自然公園内にあり，城郭が保存されている。〔浅井得一〕

かすがやま　【春日山】　奈良市の東部一帯に広がる丘陵性の山地で，最高点は花山(497ｍ)。広義には西に続く三笠(みかさ)山も含めることがある。山体はスギの原生林におおわれ，また三笠山の北には草地におおわれる若草山がある。西のふもとは春日野とよばれ，春日大社・興福寺・東大寺の境内とともに奈良公園となっている。春日山は古来春日大社の社地として伐採が禁じられてきたため，森林がよく保存されている。

かすがわかみやじんじゃ　【春日若宮神社】　奈良市春日野町にある。春日大社*の摂社で，祭神は鹿島(かしま)大明神あるいは天児屋根命(あめのこやねのみこと)など諸説があり，古来社家の秘説とされている。1003年(長保５)に創祀され，1135年(保延１)現在地に祭られた。社殿は春日造り*。12月17日の例祭(御祭)は奈良市最大の年中行事の一。

ガスきかん　【ガス機関】　気体燃料を使用する火花点火機関。燃料としては天然ガス・液化石油ガス(LPG)・都市ガス・木炭ガス，その他の工業副産物としてのガスが使用される。機関の構造はガソリン機関*と同じで，ガスは気化装置によって吸気に混ぜられる。天然ガスは高圧ボンベに詰められ，それから減圧して気化器に導かれる。LPGはボンベに液化して詰められ，それから蒸発器に導かれて気化し，吸気に導入される。　〔斎藤　孟〕

カスケード(山脈)　［Cascade］　アメリカ合衆国北西部，シエラネバダ山脈の北に連なる山脈。カリフォルニア州北部からオレゴン州，ワシントン州を抜けて，カナダのブリチッシュコロンビア州のフレーザー川河口に及ぶ約800kmの長さをもつ。東のロッキー山脈，西の海岸山脈にはさまれ，北西方にピュジェットサウンド湾，北東方にコロンビア台地がある。ジュラ紀にでき，中生代には活発な火山活動を行ない，氷河時代には侵食されて準平原化が進んだ。山脈を横断してコロンビア川が深さ1,000ｍの峡谷を刻んでいる。高峰の間には氷河と雪原が残り，北部には氷食湖が，オレゴン州には火口湖が多い。山の斜面や谷間にはダグラスモミやポンデロサマツなどの美林が広がる。山脈中にはレーニヤ山(4,392ｍ)・シャスタ山(4,317ｍ)・アダムス山(3,751ｍ)・フッド山(3,248ｍ)などの火山がそびえる。またレーニヤ・クレーターレーク・レークシェランなどの美しい森林と湖を誇る国立公園がいくつか存在する。

〔大崎　晃〕

ガスコーニュ　［Gascogne］　フランス南西部の地方。ラテン名ではバスコニアという。西はビスケー湾に面し，南はピレネー山脈，北と東はガロンヌ川流域までの一帯をいう。ぶどう酒の産地として知られる。1360年，百年戦争中のブレチニーの和約でイギリス領となったが，1607年フランスに復帰した。中心都市はオーシュ。

かずさ　【上総(国)】　千葉県中央部の旧国名。房総半島のつけ根の部分。総州。東海道に属する。古くは市原・海上(うなかみ)・畔蒜(あひる)・望陀(もうだ)・周淮(すえ)・天羽(あまは)・夷隅(いすみ)・長柄(ながら)・山辺(やまのべ)・武射(むさ)・埴生(はにゅう)の11郡。現在は木更津・茂原などの５市と君津・市原・夷隅・長生・山武の５郡となる。国府・国分寺はいまの市原市にあった。平安初期，親王の任国と定まり，のち平高望(たかもち)の子孫が上総介(かずさのすけ)となって子孫が世襲したが，広常に至って源頼朝(よりとも)に誅(ちゅう)せられた。次いで足利(あしかが)氏が守護を世襲し，室町時代には佐々木・千葉・上杉(うえすぎ)の諸氏があいついだが，戦国時代に至り紛乱して定



カ ス ザ メ



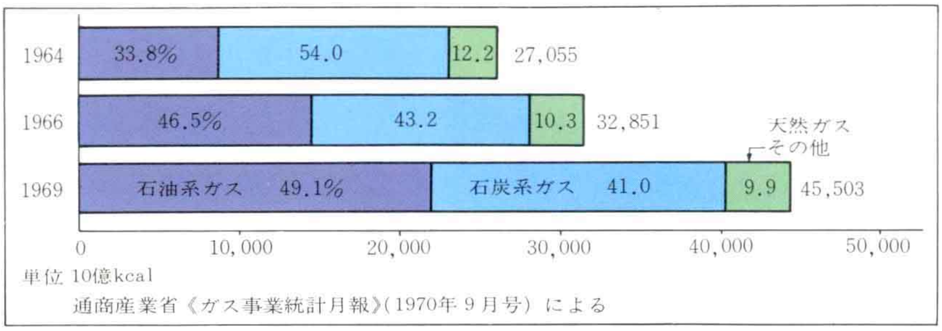
ガ ス 星 雲　ばら星雲

まらず，北条(ほうじょう)・豊臣(とよとみ)氏を経て，徳川氏が関東にかえると当国につごう7藩を分封した。維新後さらに6藩を移したが，やがてこれらをすべて県とし，さらに安房(あわ)の諸県と合わせて木更津県を置き，1873年(明治6)印旛(いんば)県と合わせて千葉県とし現在に至る。〔黛　弘道〕

かずさぼり　【上総掘り】　わが国で，近代的な機械掘りが行なわれる以前に使われた原始的な井戸掘りの技術。おもに上総地方(千葉県)で井戸掘りに用いられていた。竹の弾力性を利用して人力で掘る方法であるが，明治中期には，200～500mの油井の掘削にも広く使われた。

かすざめ　【糟鮫】　軟骨魚類・カスザメ科の海産魚。体は著しく縦扁(じゅうへん)し，大きな胸びれと腹びれが体側に水平に張り出すため，一見エイの類のように見えるが，鰓孔(しこう)は体側に開口し，サメ類に属する。全長2mほどに達する。体は茶かっ色で，小黒点を密に分布する。皮膚はざらざらし，背中線に1列の鋭くとがったうろこが並ぶ。本州中部以南，中国・フィリピンに分布。浅海の砂地にすみ，砂中の小動物を捕食する。胎生で，約10尾の胎児をもつ。肉は上等のかまぼこ原料となり，皮はやすり(さめやすり)に利用される。近似種のコロザメとは背中線の1縦列うろこの有無によって識別できる。〔菅野　徹〕

ガスじぎょう　【ガス事業】　石炭・石油などの一次エネルギー源をガスに加工転換したり，天然ガスを生産し，ガスエネルギーを供給販売する事業をいう。日本のガス事業は1872年(明治5)，横浜にガス燈がついたことに始まる。最初は燈火用として利用されていたが，大正末期ごろから家庭燃料・工業用として普及するようになった。現在，ガス事業は近年のガス需要の急速な伸びによって，株式会社のもの，公営企業・特殊法人を含めて事業者数は229社(1968年末)，需要家数は800万に達している。需要のほとんどは都市およびその周辺の家庭用ガスであり，その普及率は全国で約30%，供給区域内では50%にのぼる。ガス事業の大手は，大都市を基盤にした東京ガス・大阪ガス・東邦ガス(名古屋周辺)・西部ガス(北九州)の都市ガス4社で，需要家数・販売量において全体の80%を占めている。なお，わが国の都市ガス原料は，かつて石炭中心であったが，近年では石油に依存度が高まりつつあり，特に液化石油ガス*(LPG，通称プロパン)の普及はめざましい。アメリカの場合，都市ガスに占める天然ガスの比重はきわめて高く，総販売量の9割を越えるが，わが国ではガス事業者による生産・購入量の1割程度にすぎない。〔原　豊〕



ガ ス 事 業　都市ガス事業におけるガス生産購入の内訳

かすじる　【粕汁】　塩魚と酒かすを入れたしる物。塩蔵したサケ・ブリなどの塩けとかすの香で食べるもので，〈こく〉があり，からだが暖まるので寒い時期に喜ばれる。酒かすには，アルコール分のほかに，タンパク質，糖質，ビタミンB_1・B_2などの栄養を含む。

ガスせいうん　【ガス星雲】　銀河系内の星間ガスのかたまりが発光している姿。惑星状星雲*と輝線星雲*に分類され，銀河面に集中して分布している。恒星のように自身でエネルギーを発生して光を放っているのではなく，付近に存在する温度の高い星の紫外線を受けて輝く天体で，スペクトルを見ると連続スペクトルの上に明るい輝線が重なっている。

ガスせつだん　【ガス切断】　酸素とアセチレンガスなどの混合ガスで材料を約1,000℃に予熱し，溶解しだした金属部に高圧酸素を吹きつけて材料を切断する方法。鉄の切断加工にはなくてはならない方法である。

カスタード-クリーム　[custard cream]　鶏卵・牛乳・小麦粉・砂糖・香料を混ぜ合わせて加熱し，クリーム状にしたもの。シュークリームその他の菓子用に用いられる。

カスタード-プリン　[custard pudding]　プディング*の一。なめらかで柔らかく栄養もあるので，デザート用や幼児食・病人食にも用いられる。かき混ぜた鶏卵に暖めた牛乳と砂糖を加えて裏ごしにかけ，香料を入れる。これをカラメルソース*を入れたプリン型に流し入れ，湯を卵液の高さの1/3～1/2ぐらい入れた天板に載せてオーブンで焼くか，蒸し器で蒸す。

カスターニョ　[Andrea del Castagno]　(1410?～1457)　イタリアの画家。1440年フィレンツェにおもむき，以後は同地およびベネチアで活躍。劇的な構図と力強い彫塑性を特色としたその作風には，マサッチオ*・ドナテルロ*の影響が認められる。代表作は《最後の晩餐(ばんさん)》《聖母昇天》など。

カスタネット　[castanet]　打楽器(体鳴楽器)の一。1対の中空になったかたい木を打ち合わせて音を出す。スペインのフラ



カスターニョ　《最後の晩餐》1445～1450　アポローニア修道院蔵

メンゴ*では踊り手が手にしてリズムをとる。管弦楽では柄つきのものが用いられる。象牙(ぞうげ)製・石製・竹製のものもある。

ガスタービン [gas turbine] 燃料の燃焼によって生じた高温のガスをノズルから噴出し，それによってタービン翼車を回転させる内燃機関。最も単純な形式のものは，圧縮機・燃焼器およびタービンからなる。圧縮機で圧縮された空気は燃焼器にはいり，ここで燃料噴射弁から噴射された燃料をほぼ定圧のもとに燃焼させる。この高温ガスをリング状に並べられたノズルを通して噴出し，タービン翼にあてると，翼車はガスの運動のエネルギーを受けて回転する。これから動力を取り出す。圧縮機はこの動力の一部で回される。熱効率は，圧縮圧力を高くするほどよくなるが，それとともに燃焼ガスの温度も上がるので，材料の耐熱性によって制限される。往復動機関*と違って，タービン翼は常時高温にさらされるので，特殊の耐熱材料を必要とする。熱効率を上げる方法としては，圧縮機を出た空気を熱交換器*に導いて排気の熱で予熱する再生式，タービンを2～3段に分割し，中間に燃焼器を置いてさらに燃料を燃焼させて次の段のタービンの仕事を増す再熱式などの方法が組み合わされて用いられる。

ガスタービンは往復動機関に比べ，回転速度を高くでき，かつ多量の空気を使用しうるので，大きさのわりに大きな出力を得ることができる。また，重量も軽くできるので航空機用機関に最も適している。燃料は燈油に近いものから重油まで比較的広い範囲のものを使用できるが，ディーゼル機関*やガソリン機関*に比べると熱効率が悪く，熱効率を上げるために熱交換器などをつけると全体として装置が大きくなるので，船や車両など可動式の機関への応用は立ち遅れている。燃焼器の代わりに加熱装置によって動作ガスに熱を供給し，タービンから出たガスを再び圧縮機に導いて循環させる密閉式ガスタービンは，全体の圧力水準を上げることによって小形にし，かつ効率をよくすることができる。〔斎藤　孟〕

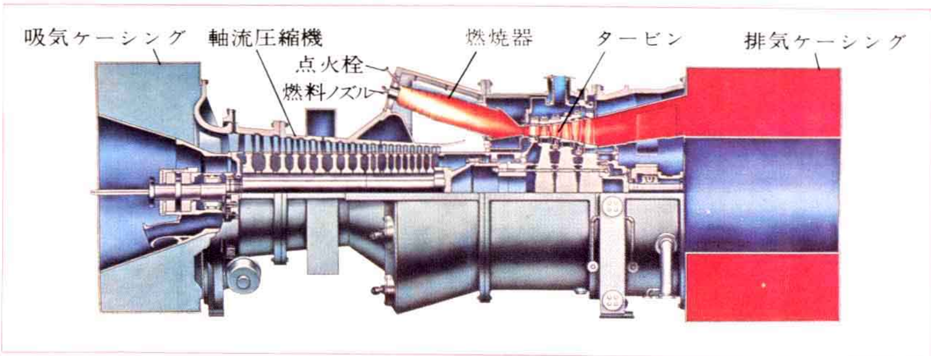
ガスタービンきかんしゃ【ガスタービン機関車】 ガスタービン*を原動機とする内燃機関車。1本のタービン軸で，圧縮機を運転して発電機に動力を送り，その発電機が牽引(けんいん)モーターに動力を供給する。重油を燃料とし，可動部分の容積が少なくてすみ，冷却装置が不要であるなどの利点がある。アメリカではおもに長距離貨物列車の牽引に使われているが，わが国では使用されていない。

ガスタービンじどうしゃ【ガスタービン自動車】 ガスタービン*を原動機とする自動車で，1949年イギリスのローバー自動車会社によって開発された。特徴は，①重量・容積が小さく，自動車全体の性能が向上する，②部品数が少ない，③往復運動部分がなく振動が少ない，④低質安価な燃料ですむ，などがある半面，高級な耐熱材料がいり，1分間20,000～30,000回転とガソリンエンジンの4～6倍の高速回転のため高級な軸受け・歯車を必要とする，などの欠点がある。競走自動車・高速長距離トラックに利用されている。〔成田武男〕

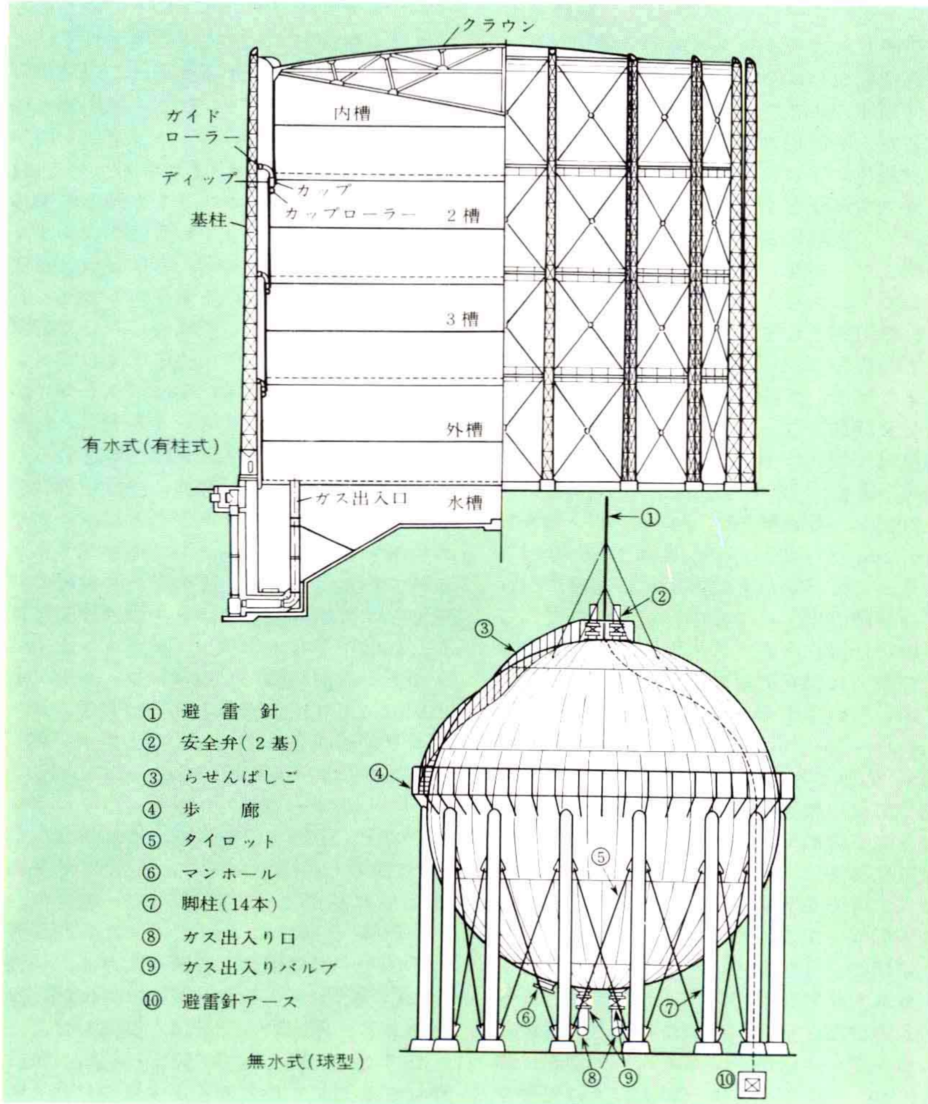
ガスタンク ガスを貯蔵する装置。おもに，ガスの需要変化に応じて円滑にガスを



カスタネット



ガスタービン



ガスタンク

供給するために用いられるが，このほかに貯蔵中にガスの組成を均質化したり，供給ガスに対して適当な圧力を与えたりする役目も果たしている。一般に，その構造から有水式と無水式に大別される。水槽(すいそう)内に円筒形のガス槽が倒置されている有水式が最も多く用いられるが，ガス槽が単槽からなる単式と望遠鏡の胴のように数段に伸縮する複式があり，またガス槽を上下する機構として有柱式と無柱式がある。都市ガス関係に広く用いられているらせん式は無柱式に属するものである。一般にガスは30mmHg以下の圧力で貯蔵される。一方，無水式は円形または多角形の外殻(がいかく)とその内部でガス量に応じて自由に動くピストンを備え，内壁とピストンとの間はグリースなどで気密に保たれる。ガスの貯蔵圧力は普通600mmHg以下である。このほか，高圧ガス(普通は数気圧)をそのまま貯蔵できる球形または円筒形をした耐圧製の高圧ガスタンクがある。これは同一ガス量に対して小形ですみ，すえつけ面積や管理上の利点がある。また，都市の巨大化に伴ってガスの配送距離が長くなったので，需要地域に設置した高圧タンクへ製造工場からガスを高圧配送し，そこから地区整圧器によって使用圧力にまで下げてから需要家へ供給する方式が採用されている。そのため，最近は高圧タンクの増設が多い。〔寺沢誠司〕

ガスちゅうどく　【ガス中毒】　有毒ガスの吸入・接触によって起こる中毒の総称で，有機性ガス中毒と無機性ガス中毒がある。有毒ガスにさらされる機会は産業職場が多く，職業病*として知られる。最近では工場などの煤煙(ばいえん)や自動車の排気ガスなどによる都市公害問題，シンナー遊びのような社会問題となっているものもある。有害限度は一酸化炭素100ppm，炭酸ガス5,000ppm，硫化水素10～20ppm，二硫化炭素10～20ppm，亜硫酸ガス5ppm，アンモニア100ppm，フッ素0.1ppm，塩素1ppmなどである。このほかにも化学工業の発展につれて，諸種のガスによる中毒が増加している。一般には慢性中毒として現われるが，急性重症例では偶発的事故または自殺手段として用いられる場合が多く，重症ガス中毒の90％は一酸化炭素による(→一酸化炭素中毒)。応急手当てとしては，まず病人をガス発生のない風通しのよい場所に移して新鮮な空気を吸わせ，酸素吸入を行ない，安静・保温に注意して回復を待つ。呼吸が止まれば人工呼吸を施す。救出時に救助者が中毒する危険もあるので，状況によりガスマスク着用の必要がある。〔朝倉　了〕

カスチリア(地方)　［Castillia］　スペイン中央部から北部にわたる地方。北はビスケー湾から南はシエラモレーナ山脈に達し，スペイン国土の4分の1以上の面積を占める。大部分がメセタとよばれる海抜500～700mの高原で，降水量は少ない。13州よりなり，同国の政治・文化の中心地で，首都マドリードもここにある。中央部を走るグアダラマ山脈とクレドス山脈によって，南の新カスチリアと北の旧カスチリアに分けられる。アルマデンの水銀鉱は世界の3分の1の産出量を誇り，また，小麦・ジャガイモ・オリーブ・アサ・果実の産もある。イスラム教徒のムーア人に占拠されていたイベリア半島を回復する運動はこの地から起こり，今日のスペイン民族の発祥地となっている。〔野間三郎〕



カスチリア地方　マドリード北西方のセゴビア近郊の田園。小麦畑と草地が広がる。ステップ気候地域のため雨量は少ない

カスチリアおうこく　【カスチリア王国】　イベリア半島中央部カスチリア地方を中心として成立した国。はじめ北西部のレオン王国の支配下にあったが，10世紀半ば独立して，以後半島におけるキリスト教徒の国土回復運動*の中核として成長し，11世紀末にはその領土は半島の中央部に達してトレドを首都とした。12世紀半ばポルトガルが独立分離したが，1230年レオン王国と合体し，アフォンソ10世*のもとで統一が進められ，都市の特権承認，農奴解放，身分制議会の設立などの近代化の歩みとともに，イスラム小国家の征服が進み，半島にはグラナダを残すのみになった。その後約2世紀の間王室と大貴族の抗争により発展は停滞したが，1469年王女イサベルとアラゴン王子フェルナンドが結婚し，1479年フェルナンドの即位により民族国家の統一が実現，スペイン王国が成立した。〔大野慎一郎〕

カスチリオーネ　［Giuseppe Castiglione］　(1688～1766)　イタリアのイエズス会修道士。中国名は郎世寧。1715年北京(ペキン)に到着して南堂に住み，伝道の便を得るために絵師として康熙(こうき)・雍正(ようせい)・乾隆(けんりゅう)の3帝に仕えた。西洋画の手法を中国に伝えた功績は大きく，代表作に《百駿図(ひゃくしゅんず)》《香妃(こうひ)の像》などがある。円明園*の設計にも参画した。

かすづけ　【粕漬け】　野菜・鳥獣肉・魚貝類などを酒かすかみりんかすにつけたもの。特有の香気とうま味が賞味される。つけ込み用のかすは新酒かすをしょうちゅうで練り直し，涼しいところで6か月間熟成させてつくる。かすづけの製造は秋から春までがよく，特に正月前後が適している。シロウリ・キュウリ・ナスなどの奈良づけのほか，静岡のわさびづけ，名古屋の守口(もりぐち)づけ，函館(はこだて)のイカのかすづけなどが知られている。

カステラ　鶏卵と砂糖を主材料とし，これに少量の小麦粉を混ぜて焼いた菓子。南蛮菓子の一種で，天正年間(1573～1591)ポルトガル人が長崎で製法を伝えた。《和漢三才図会(わかんさんさいずえ)》に〈カステラとはイスパニアの異名にていわゆる南蛮なり〉とあり，当時のイスパニア(スペイン)のカスチリア王国の菓子ということから名づけられたといわれ，加須底羅・粕底羅・家主貞良などの字をあてていた。当時の作り方は《和漢三才図会》によると，〈小麦粉1升・白砂糖2升・卵8個を混ぜ合わせ，銅なべに入れ，炭火で黄色く焼き，竹針を用いて穴をあけて火の通りをよくし，取り出して切って用う〉とある。安土桃山時代に長崎名物となり，その後全国に広まった。その間に日本人の嗜好(しこう)に合わせて製法も異なるものが現われ，江戸では長崎ふうの淡白なものより風味濃厚なものとなった。

現在では，卵を卵黄と卵白に分け，卵黄に白砂糖を混ぜ，水アメを加えたものに，あわ立てた卵白を合わせ，ふるった薄力粉*を入れて軽く混ぜ合わせ，和紙を敷いた木製の〈わく〉の中に流し込み，天火で焼く。卵黄による自然の黄色を呈し，適度の弾力性・湿潤状態をもつものがよい製品である。

カステラは風味よく，タンパク質6.7％・脂質3.7％・糖質66.2％・灰分0.6％を含んで栄養もあり，また消化もよいので，病人や幼児にも適している。よく切れる薄刃包丁をあたためながら切ると，形もくずれず，切断面も美しい。〔塩川ふみ〕

ガスでん　【ガス田】　可燃性の天然ガス*を産出する地域。可燃性の天然ガスはメタン(CH_4)を主とする炭化水素よりなり，少量の窒素・二酸化炭素を含む。その産状より油田ガス・炭田ガス・水溶性天然ガスに分ける。油田ガスは海底に沈積して石油鉱床をつくる有機物の一部がメタンのような低級炭化水素となったものである。これは石油ガスといわれ，原油に溶解することもあり，油層の上に遊離状態で集積することもある。炭田ガスは石炭が生成したときの副産物で，化学組成はほとんどがメタンである。水溶性天然ガスは石油鉱床も石炭鉱床もない地帯で地層中の水に溶解したガスで，この中に含まれる炭化水素はほとんどメタンである。また，水溶性天然ガスは新生代の中でも新しい地質時代に海・河口・潟(かた)・湖に堆積(たいせき)した地層から産する。

石油ガスは油田地帯に石油を伴って，あるいは単独に産する。したがって，アメリ

カのテキサス州・ルイジアナ州，アラビアなどに多量に産する。わが国では，新潟・秋田両県の油田地帯がガス田でもある。炭田ガスはあまり開発されていないが，最近オランダ北部から北海にかけて海陸両域に発見された大きなガス田はこの種のものといわれている。わが国にも北海道・常磐(じょうばん)・九州地方の炭田地帯に炭田ガスが存在しているが，石炭中の微細な空間や組織に吸着されて存在し，採炭の際石炭より放出される。ガス爆発を誘起し，採炭上じゃまものであることが多いが，採炭作業前にガス抜きを行ない，そのガスを利用している場合もある。水溶性ガスは，わが国を除いてほとんど利用されていない。新潟市周辺，千葉県で開発されている。

一般に，天然ガスは石油と異なってイオウ分を含まないので，イオウの公害を伴わない。このため，ガス田は近年急速に開発されている。〔今井秀喜〕

カースト ［caste］ インド人社会の身分階級制度。カーストということばは，ポルトガル人がこの制度をカスタ(血統)とよんだことに由来し，インドでは古くから社会集団や階級をバルナ(色)とよんだが，これは人間の皮膚の色による差別である。現在のカーストは細別されて数千に上るという。各カーストは独自の世襲職業・信仰をもち，結婚もカースト内で行なわれる。カーストの起源はBC1000年ごろ，パンジャブ地方に侵入したアーリア人の社会にみられた四姓階級にさかのぼる。征服者の白色アーリア人は最高権威者としての司祭階級のバラモン，次に王族・武士階級のクシャトリア，庶民のバイシャの3階級となり，黒色の皮膚をした被征服者の先住民は隷族民としてのスードラとなったが，この古代カースト制が細かく分岐して現在に至ったものである。カースト制は古くブッダによって否認されたが，ヒンズー教とともにインド人社会に深く浸透した習慣は容易にくずれなかった。18世紀以来のイギリス植民地支配はこの習慣を温存し，むしろカーストによる人間差別を強めた観がある。現在もなおカースト打破が叫ばれているが，これがインド近代化への歩みの大きな妨げとなっているのは惜しまれる。〔小谷仲男〕

ガスとう 【ガス燈】 ガスの燃焼光源を利用する燈火。石炭ガス・アセチレンなどが用いられる。ガス燈は，18世紀の後半にイギリスで発明され，わが国では明治初期に，横浜の外国人居留地にガス燈を点火したのが最初である。現在はほとんど使用されていない。

カストロ ［Fidel Castro］ (1926～) キューバの政治家・革命家。オリエンテ州の砂糖農園主の家に生まれた。ハバナ大学で法律を学び，弁護士となる。キューバ独立運動の英雄ホセ-マルティに傾倒して在学中から政治活動に参加，バチスタ政権打



ガス燈
東京がす
資料館蔵



カストロ

倒をめざす。1953年7月，同志とともにオリエンテ州で反乱を起こし，モンカダ兵営を襲撃したが失敗して逮捕された。裁判では法廷でバチスタ弾劾の演説を行ない，〈わたしを断罪せよ。それは問題ではない。歴史はわたしに無罪を宣告するであろう〉のことばを残した。15年の刑を言い渡されたが，入獄2年で特赦。すぐにメキシコに亡命してバチスタ打倒を準備した。1956年，ゲバラら同志82名とともにキューバにもどり，マエストラ山脈にたてこもってゲリラ戦を展開した。反バチスタの戦いは農民の支持を得てしだいに発展し，1959年1月ついにバチスタ政権を打倒した。同年2月首相となると，社会主義の実現をめざして農地改革やアメリカ系の土地および資産の接収を行ない，また産業の多角化のために計画経済を導入した。外交面ではアメリカと対立し，ソ連と緊密な関係を保っているが，米ソ間の平和共存路線に反対して中南アメリカの武力解放を主張するなど，政策は必ずしもソ連一辺倒ではない。著書に《わがキューバ革命》ほかがある。〔松下 洋〕

ガストロカメラ ⇨胃カメラ

ガズニちょう 【ガズニ朝】 962～1186年。アフガニスタンのトルコ系イスラム王朝。サーマン朝に仕えたトルコ人奴隷アルプテギーンがアフガニスタンのガズニで創立。アルプテギーンの孫マフムード(在位998～1030)の治世が極盛期で，アフガン台地を支配し，インド辺境をイスラム化した。のちゴール朝に滅ぼされた。

かずのこ 【数の子】 ニシンの卵巣。ニシンの別名〈カド〉に由来するといい，またニシンの卵数の多い(年齢1年に約10,000)ことからこの名がついたともいう。生のものを塩づけしたものと，乾燥した〈干しかずの子〉とがある。前者は水で塩抜きし，後者は米のとぎじるの中につけてから真水につけて渋みを抜き，身をくずさぬように小さくちぎって，だし・しょうゆ・酒を合わせたしるにつけこむ。子孫繁栄の縁起として新年の料理に欠くことのできないものとされてきたが，近年ニシンが不漁のため，非常に高価になった。〔佐藤友太郎〕

かずのみや 【和宮】 (1846～1877) 仁孝(にんこう)天皇の第8皇女。名は親子(ちかこ)。孝明天皇の妹。1851年(嘉永4)6歳のとき，勅命で熾仁(たるひと)親王と婚約したが，江戸幕府の公武合体政策に基づく降嫁の要請により，1862年(文久2)徳川家茂(いえもち)と結婚。1866年(慶応2)家茂の急死後は，落髪して静寛院宮(せいかんいんのみや)と称し，維新の際は徳川氏存続のため奔走した。

ガスばくはつ 【ガス爆発】 ⇨炭鉱爆発

カスパーソン ［Torbjörn Caspersson］ (1910～) スウェーデンの細胞化学者。ストックホルムのカロリンスカ研究所教授。1930年代の後半に顕微分光測定法を用い，細胞質におけるタンパク質合成が盛んな場合は，リボ核酸が多く存在する事実を明らかにし，1950年代後半以後における分子遺伝学の開花にさきがけた。

カスピ(海) ［Caspi］ 裏海ともいう。中央アジア南部にある世界最大の湖。ソ連とイランにまたがっているが，沿岸の大部分はソ連領に属する。面積37万1,000km²。湖面の標高は－26m。最深点は980m。湖水は，海水の3分の1ほどの塩分を含んでいる。北部にボルガ・ウラル・エンバなどの川が流入するが，流出河川はない。カスピ海の最大特徴は，夏季には水温が30℃にもなり，激しい蒸発のために湖面低下がみられることである。20年の間に湖面標高は2mも低くなり，面積にして30,000～40,000km²も減少した記録がある。冬季には，北部3分の1は凍結するが，湖上交通は活発で，石油・塩・木材などの輸送に果たす役割は大きい。またボルガ川とそれに連なる運河を利用して黒海へ通じ，内陸地域へも到達できる。チョウザメ・ニシンなどの漁業も盛んで，キャビアは世界的に有名である。近年，ソ連では湖水の減少を防ぐ計画や，湖水を淡水化する計画が立てられている。西岸には，石油で知られるバクー・マハチカラ，北岸には古い港市アストラハン，エンバ石油の精製などを行なうクリエフなどの都市が発達している。〔長津一郎〕

ガスぶんせき 【ガス分析】 ガス状態の試料の組成を分析すること。試料の密度・



霞ケ浦　ワカサギ漁の帆引き網舟。帆の両端と船首・船尾からの綱で網を引く。漁期は晩秋から冬にかけてであるが，最近は公害で漁獲も少なくなった

粘度・屈折率・熱伝導度・発光・吸収スペクトルなどの物理的性質を調べる方法と，試料の分別吸着性・酸化・比色などを調べる化学的方法とがある。また，近時新しい分析技術として質量スペクトル・ガスクロマトグラフィーが多く用いられるようになった。なお，広義には，ガス容量分析・検圧計法などもガス分析に含まれることがある。

かすべ　東北・北海道地方では，テングカスベおよびそれに近いガンギエイ科の魚を，まとめてカスベとよぶことが多い。食用にする。➔ガンギエイ

ガスマスク　［gas mask］　⇨防毒面

かすみ　【霞】　空中に浮かんでいる霧粒よりも小さい微小水滴に太陽や空の光が映って灰白色をおび，遠景がぼんやりする現象。もやともいう。

かすみ　【香住(町)】　兵庫県城崎(きのさき)郡にあり，山陰本線に沿う。人口16,000。日本海に臨み，香住海岸は山陰海岸国立公園*の中でもすぐれた景勝地となっている。また香住港をはじめ，鎧(よろい)港・余部(あまるべ)港などの良港に恵まれて，漁業の町としても知られる。特に冬のマツバガニは有名。山陰本線の余部鉄橋は高さ41mに達し，その高さで知られる。

かすみあみ　【かすみ網】　張り網*の一種。主として小鳥類を捕獲するのに用いられるが，狩猟として使用するのは1947年(昭和22)以来禁止され，有害鳥獣駆除・学術研究その他公益上必要な場合に限り許可される。理由は農林業上有益な小鳥類が大量にかかる可能性があるためである。かすみ網は別に〈罘罳〉とも書く。関西地方では単にかすみという場合が多く，関東地方では昼天ともよばれてきた。また天網という地方もある。昼間，空間に張る網だからである。かすみ網の名は，網の糸があらいため，張った状態をやや離れてながめたとき，薄くかすみがかかったように見えるからである。かすみ網は古来，主として秋季に渡来する中形以下の鳥類を大量に捕獲するために用いられてきた猟具で，江戸時代に名古屋，北陸・東北地方で発達した。かすみ網は，目的の獲物によってツグミ網・小鳥網・シギ網などといい，ツグミ網は主としてツグミ・シロハラ・マミチャジナイなどを，小鳥網は主としてアトリ・カシラダカ・マヒワ・カワラヒワ・アオジ・スズメなどを，シギ網は主としてタシギやチュウジシギを捕えるに用いられ，それぞれ糸の太さと網の目の寸法が異なる。かすみ網の構造は，地方・対象鳥類・猟法などによって若干相違するが，通常10番以下の太さの，黒く染めた絹糸・ガス糸・もめん糸・麻糸・ナイロン糸などで編まれる。近年はじょうぶで安価なためナイロン糸が多く使われている。かすみ網の長さは3.6～12.7m，幅は1.5～2.1mで，横にやや太い糸(棚糸(たないと))が通されており，たなの二つあるものを二棚物，以下三棚物・四棚物という。飛んできた鳥が網に突きあたると，棚糸の下に袋状のたながができて，ここに落ちてからまり，自由を失うのである。



霞が関　桜田門から望んだ写真で，右手前が警視庁，その奥が自治省，左手前の建物が法務省。遠景は地上36階の霞が関ビル

かすみ網の用法は大別して2通りある。その一つは，ツグミ・アトリなど秋渡来する鳥の通路の丘や山の尾根筋に網場をつくり，多数のおとり*を特殊飼育で秋季にさえずらせるようにし，そこに呼びおろしてかからせる鳥屋猟(とやりょう)で，これには地方的に各種の流派があった。この猟法は，石川・富山・福井県などの北陸地方，長野県木曾(きそ)地方，岐阜・愛知県などの東海地方，群馬・栃木県などの北関東地方，福島・山形・岩手・秋田県などの東北地方で盛大であった。もう一つの用法は，採食や休息などのために通過する場所に張っておいてかかるのを待ったり，静かに追い込んでかからせる追い鳥猟である。　〔白井邦彦〕

かすみいし　【霞石】　準チョウ石の一種で，造岩鉱物の一。$NaAlSiO_4$　六方晶系。比重2.55～2.65，硬度6，劈開*(へきかい)はほとんどなく，屈折率1.53～1.55。無色透明ないし白色の六角柱状結晶，または塊状をなし，玄武岩やセンチョウ岩*などに産する。カナダのオンタリオ州，ソ連のコラ半島に大量に産する。純粋なものはガラス・窯業原料として有用である。名まえは，酸によって簡単に分解してかすみ状のケイ酸を遊離することに由来する。　〔加藤敏郎〕

かすみがうら　【霞ケ浦】　茨城県南部にある西浦と北浦の総称であるが，普通は西浦をさす。琵琶湖(びわこ)に次ぐわが国第2の大湖で，面積177.8km²，水面高度0m，水深はだいたい3～6mで最深点は7.3m。三つの湾入があり，北を高浜入り，西を土浦入り，南西を古渡(ふっと)入りといい，西南岸に近く浮き島がある。おもな注入河川は，高浜入りの恋瀬川，土浦入りに桜川があり，牛堀(うしぼり)町から北利根(きたとね)川となって利根川に流れ，太平洋に注ぐ。成因は，桜川・恋瀬川が常総台地に刻んだ河谷が沈水したところに，利根川の運搬物が堆積(たいせき)して出口をせき止めたものである。利根川の沖積地(ちゅうせきち)一帯は水郷とよばれ，大部分が水田化されており，独特の景観はよく知られている。富栄養湖でわが国でも内水面漁業の盛んなところで，ワカサギ・シラウオ・エビ・ウナギなどがとれる。湖岸には，土浦市，高浜(石岡市)・玉造・麻生(あそう)・牛堀町などがあり，土浦から潮来(いたこ)まで定期船が運行されているが，湖上交通は必ずしも便利ではない。霞ケ浦の大部分は水郷筑波(つくば)国定公園に指定されている。　〔長津一郎〕

かすみがせき　【霞が関】　東京都千代田区南西部の地区。皇居の南西部，桜田門から虎ノ門(とらのもん)へ南北に走る大通りに沿い，1～3丁目がある。この地名は，かつて奥州古街道が通り，同名の関所があったことにちなむ。江戸時代には多くの大名屋敷があり，明治以後は，大蔵・法務・外務・文部・厚生・農林・通産・運輸・建設・自

治の各省と最高裁判所・東京高等裁判所・地方裁判所・検察庁・家庭裁判所・警視庁など，行政・司法の諸機関が集まる官庁地区となり，国会議事堂のある西隣の永田(ながた)町*とともに国政の中枢部となった。特に外務省は早くからここにあったために，〈霞が関〉は外務省の代名詞ともなっている。地下鉄日比谷(ひびや)線や首都高速道路が通じ，36階建ての霞が関ビルがある。〔浅井得一〕

かすみざくら 【霞桜】 双子葉植物・バラ科の落葉高木。日本・朝鮮の山地に自生。ヤマザクラに似ているが，樹皮が灰かっ色をおび無毛。葉は倒卵形，鮮緑色で鋸歯(きょし)がある。花は白～微紅色で径約3cm。果実は黒紫色に熟する。

かすみそう 【霞草】 双子葉植物・ナデシコ科・ジプソフィラ属の一年草または宿根草。この属の植物は約50種ばかりあり，おもに東部地中海沿岸に分布している。ただ一種だけはオーストラリア・ニュージーランドにも産する。高さ30～50cm，葉は無柄で対生し，長さ8cm，幅2cm内外。花期は6～8月，花はふつう白色で径6～15mm。花の大きなものや，紅花・桃色花などの品種もある。切り花としてほかの花に添えるとベールをかぶせたようで引きたつ。花壇にも用いる。一年草はふつう秋まきする。カスミソウというのは小さな白花がたくさん咲くと，かすみがかかったようだという意味である。

ガスメーター [gas meter] 通過するガスの全体積を測定する器械。ある断面をある時間内に通過した流体の全体積を積算体積とよび，これを測定する計測器を積算体積計とよぶ。家庭用のガスメーター・水道メーターをはじめ，石油類のオイルメーターなどに使われている。積算体積計は，一定容積のますを用いて自動的に流体の体積をはかる実測形と，流量の関数になるような他の量をはかって算出する推測形とに大別される。ガスメーターは実測形体積計の一種で，さらに湿式と乾式に分かれる。湿式ガスメーターは，回転軸を有する円筒形の羽根車を円筒形の外箱の中に取り付け，外箱に水を半分以上入れ，U字管の送気管から測定ガスを入れて羽根車を回し，出ていくときの回転数から体積を求める。乾式ガスメーターは，羊皮でつくった1対のふいごの内外へガスを供給排除させて，往復運動を起こさせ，この運動を軸の回転に変換してガス量を知る。〔土屋喜一〕

ガスようせつ 【ガス溶接】 酸素とアセチレンガスの混合ガスで材料をとかし，溶接棒を添加して接合する方法。酸素溶接ともいう。1901年，フランスのピカールによって発明された。薄板・非鉄金属の接合に用いる。

かずらもの 【鬘物】 能の曲がらの一。三番目物・女物ともいう。女性を主人公とし，能の理想美である幽玄をもっぱら追求する。王朝の美女の霊をシテとする《井筒》《野宮》，《姨捨(おばすて)》などの老女物，非情の精の《杜若(かきつばた)》《胡蝶(こちょう)》，天女・女神の《羽衣》《葛城(かずらき)》，人情み豊かな《熊野(ゆや)》《千手》などがある。

かすり 【絣】 あらかじめ柄(がら)に合わせて染めあるいは防染した糸によって，柄を織り出す平組織の織物。先染めされた糸によって柄合わせをしながら織るが，糸には延び縮みがあるので柄の周囲はきっしりした線には織り上がらず，かすれた状態になる。絣の語源はこの状態によるといわれるが，沖縄で絣を意味する〈カシィリィ〉に基づくという説もある。飛白と書く場合もあるが，これも防染によって白く染め残された柄が飛んでいる状態からきた当て字である。絣の種類には，まず経糸(たていと)のみに絣糸を用いる経絣と，逆に緯糸(ぬきいと)のみを絣糸にした緯絣，さらに経緯糸ともに絣糸を使う経緯絣の3種がある。また，絣糸をつくる方法には，防染法と捺染(なっせん)法の二つがある。防染法としては，防染する部分を一つ一つ手で麻糸やもめん糸を使って固くくくってゆく手くくり，この作業を簡単な機械でする機械くくり，凹凸(おうとつ)のある2枚の板の間に糸をきっしりとはさみ，糸をだんだらに染める板締め法，絣糸とすべき糸を何十本か束にして，それを緯にし，太いカタン糸を経にして一度織機にかけて仮織し，それを染めてから，これをときほぐすと経糸のあった部分が防染された絣糸が得られる織締法の4種がある。また，捺染法には所要の染料を糸にすり込んでゆくすり込みと，絣糸をある幅に平に並べておいて，その上から染料を糸に押しつけて染めつける櫛押(くしおし)法，およびおおまかに織った布地の上に型紙を使って柄を染め上げたあと，あらためて本格的な織物に織るほぐし織り，このほぐし織りを機械化して，経糸だけを捺染するブロック捺染などがある。絣は，現在ではわが国が最も盛んであるが，その技術は東南アジア諸地域，インド・ペルシア・イタリア・フランスなどにも分布している。絣の歴史は古くインドに発するといわれているが，わが国には通常太子間道とよばれている7世紀ごろの非常に進んだ技術の絹経絣の遺品がある。特に盛んになったのは近世以後である。久留米(くるめ)，伊予(いよ)，備後(びんご)，山陰の広瀬，弓ケ浜の木綿絣(もめんがすり)，奄美(あまみ)大島，鹿児島，結城(ゆうき)，伊勢崎(いせざき)，山形県長井などの絹絣，小千谷(おじや)，近江(おうみ)，能登(のと)の麻絣，沖縄の芭蕉布絹(ばしょうふぎぬ)などが著名である。〔北村哲郎〕

ガスリー [Woody Guthrie] (1912～1967) アメリカの歌手・作曲家。フォークソング*の父とよばれる。オクラホマ州の生まれ。13歳のときから放浪生活にはいり，1930年代から自作の歌をうたいはじめた。その作品は1,000曲を越えるといわれ，代表作に《わが祖国》《みのりの牧場》《900マイル》などがある。1940年代末以後，病にかかり，再起不能となった。彼の作品には民衆，特に貧しい農民の生活感情がこめられている。民謡の改作も行なった。

カスルレー [Viscount Castlereagh] (1769～1822) イギリスの政治家。アイルランドの生まれ。ケンブリッジ大学を卒業し，アイルランド議会議員を経て，1795年

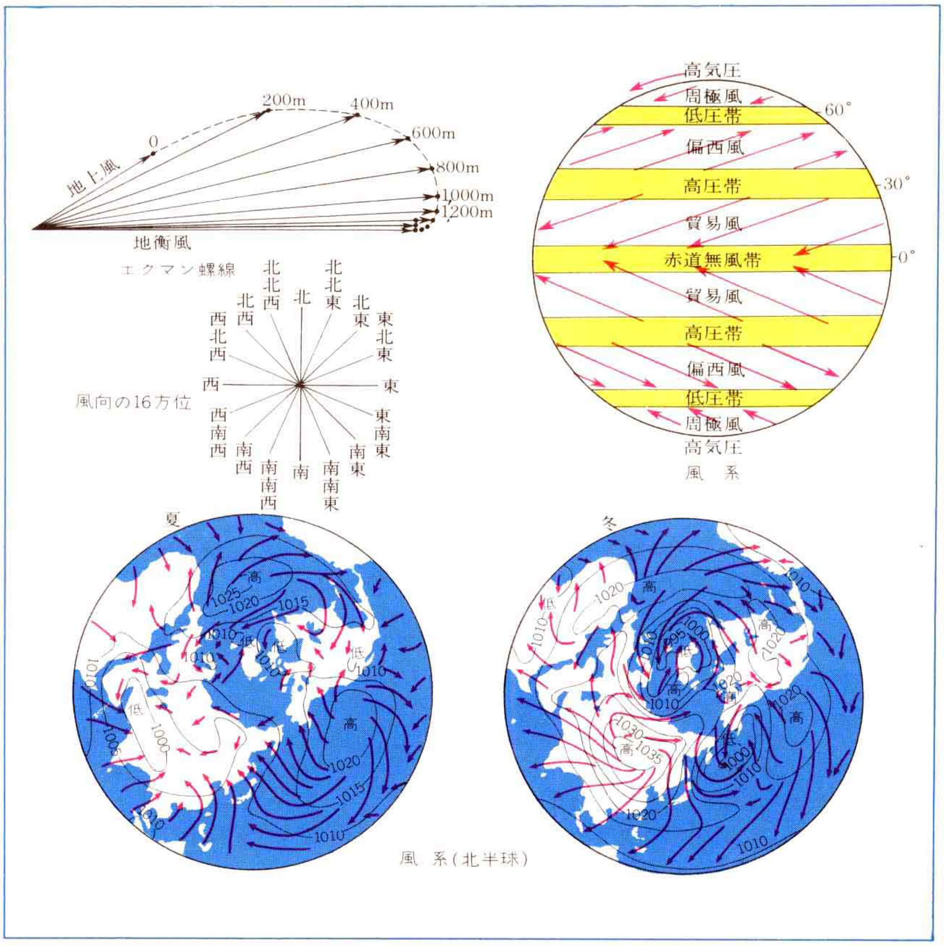


カスミザクラ



久留米絣　弓ケ浜絣　京都西陣

絣



風

トーリー党からイギリス議会にはいり，国璽尚書(しょうじしょ)，アイルランド相を歴任。アイルランド合併とカトリック教徒の解放に努めた。リバプール内閣では外相としてナポレオン戦争およびその後の外交を担当して，ウィーン体制の確立に努めた。国内的には治安立法などの反動政策を主張して，自由主義的な大衆の反感を買った。

〔松下京子〕

カズロフ　［Pyotr Kuzmich Kazlov］　(1863～1935)　ソ連の探検家。コズロフともいう。1899～1901年，1907～1909年，1923～1926年とたびたびモンゴルからチベットにかけて，中央アジアの調査を行なった。この調査の中でも1907～1909年の中国内モンゴル自治区カラホトにある西夏国の都城跡の発見発掘，1923～1926年のモンゴル人民共和国北部の山ノイン-ウラでの匈奴(きょうど)墳墓群の発掘は特に有名。

かせ　【綛】　糸を円周50～70cm内外のわくに巻いてつくった束状のもの。糸染め・シルケット加工などをしたり，ねじって束にして梱包(こんぽう)したりする。1かせの糸の長さは，ふつう綿糸は840ヤード(768 m)，梳毛糸(そもうし)1,000ヤード(914 m)，紡毛糸256ヤード(234m)，麻糸3,600ヤード(329m)，生糸は重さが18匁(67.5 g)で，14デニール*のものは44,000 m，21デニールのものは29,333 mの長さになる。

かせ　【械・枷】　首や手足を緊縛する刑具。首にはめるのを首枷，手につけるのを梏(こく)，足につけるのを桎(しつ)という。中国から伝来したもの。罪によりその重さが決まっており，鉄製だったので鉗(くびかせ)，釱(あしかせ)の字も用いた。初見は《日本書紀》の継体天皇24年(530) 9月の条。当時カシ材を用いたので，〈てかし〉〈あしかし〉といった。

かぜ　【風】　地面に対する空気の運動。ふつう，風というと地上付近の風のことであるが，気象学の立場からいうと，上層の風が重要である。風を表わすには，風向と風速が必要である。しかし，風向・風速とも時々刻々に変化しているので，ある時間間隔での平均風向・平均風速が用いられる。現在，平均風向は1分間の平均値，平均風速は10分間の平均値が用いられている。風速の時々刻々の変動を風の息という。したがって，西の風 5 m/秒といっても，風向は西を中心にして左右に揺れており，風速も 3 m/秒になる瞬間もあれば， 7 m/秒の瞬間もあるかもしれないわけである。風向は，風の吹いてくる方向で表わし，北・北北東・北東・東北東・東・東南東・南東・南南東・南・南南西・南西・西南西・西・西北西・北西・北北西の16方位が用いられている。風速を表わすには，m/秒・ノット*・マイル/時・km/時などの単位が用いられているが，これらの単位の間には，次の関係がある。

1 m/秒 ＝3.6km/時 ＝1.9424ノット
＝2.2369マイル/時

また，気象庁では表のような風力階級を用いている。天気図上では矢羽を用いて表わし，長矢羽の半分の短矢羽を5ノット，長矢羽を10ノット，旗矢羽を50ノットの割合で描き，矢を風向に合わせて表わす。

空気は，気圧の高いところ(高気圧)から低いところ(低気圧)に移動するのであるが，地球上の風は転向力*に作用され，地上付近の風は地表面摩擦の影響を受ける。地表から数十メートルまでは地表面摩擦が卓越して，転向力の作用は小さい。この層を地表境界層とよぶ。数十メートルから1,000 mぐらいまでは中間層で，地表面摩擦と転向力の影響が同程度にきいている。この層はエクマン境界層とよぶ。それ以上では地表面摩擦の影響は無視してよく，この部分を自由大気という。地表境界層における平均風速は，高さに対して対数的に増加する

気象庁風力階級表（ビューフォート風力階級表）

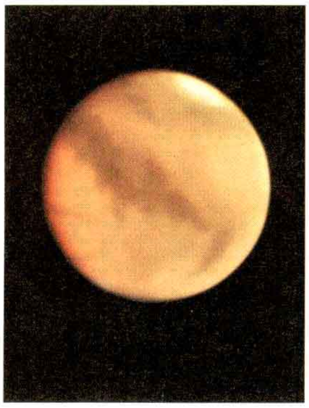
風力	地上10 mにおける相当風速(m/秒)	相当する状態(陸上)
	以上～未満	
0	0 ～ 0.3	静穏，煙はまっすぐ上る
1	0.3～ 1.6	風向は，煙のなびき方でわかるが，風向計ではわからない
2	1.6～ 3.4	顔に風を感じる。木の葉が動く。風向計も動きだす
3	3.4～ 5.5	木の葉や細い小枝がたえず動く。軽い旗が開く
4	5.5～ 8.0	砂ぼこりが立ち，紙片が舞い上がる。小枝が動く
5	8.0～10.8	葉のある灌木が，揺れ始める。湖沼の水面に波頭が立つ
6	10.8～13.9	大枝が動く。電線が鳴る。かさはさしにくい
7	13.9～17.2	樹木全体が揺れる。風に向かっては歩きにくい
8	17.2～20.8	小枝が折れて飛ぶ。風に向かっては歩けない
9	20.8～24.5	人家には軽い被害がある（煙突が倒れ，かわらがはがれる）
10	24.5～28.5	内陸ではあまり起こらない。樹木が根こそぎになる。建物には，被害が多い
11	28.5～32.7	めったに起こらない。広い範囲に被害がある
12	32.7以上	——

ことが多いということが知られているが，そうでない場合についてもいろいろの結果が得られている。エクマン境界層では，風が高さとともに変化する模様は，エクマンのらせんで表わすことができるが，これは理論上の結果で，観測上の精密な検討はまだ不十分である。また，これらの境界層内では，地表の被覆状態（水面・草原・土壌(どじょう)など）による日変化の影響が大きく，海陸風*・山谷風*などが発生する。自由大気中では，地表面摩擦の影響がなく，赤道地域を除いて，だいたい地衡風*が卓越している。すなわち，風は等圧線に沿って吹き，風速は気圧傾度に比例し，風向は気圧の低いほうを左方に見るように吹いている。高・低気圧のように顕著な曲率のある等圧線の場合には，傾度風*をあてはめなければならない。上層の天気図には，ふつう，等圧線でなく等圧面高度の等値線が描いてあるから，地衡風・傾度風の関係も等高度線で同じように考えればよい。

一般に，風は気圧の水平傾度によって起こり，気圧分布は気温分布によって決められる。大気現象のエネルギー源は太陽であり，地球は太陽から熱を受けていると同時に，大気空間へ熱を放出している。地球から放出する熱は，地球を取り巻く大気に与えられるものと虚空へ放出されるものとがある。１年間を平均すると地球全体に出入りする総量は，だいたいつりあいを保っている。しかし，低緯度では受熱量が放出量より多く，反対に高緯度では，放熱量が受熱量より多い。それにもかかわらず，各緯度の平均気温がだいたい一定しているのは，なんらかの作用で熱が低緯度から高緯度へ運ばれていることを示している。このような状況のもとで，地球上ではだいたい一定の風系が存在している。モデル的に示すと，赤道付近には赤道無風帯があって，収束帯をなし，その南北には貿易風*が吹いている。貿易風は東寄りの風系をなし，熱帯偏東風ともいう。さらにその南北には中緯度偏西風帯があり，西風が卓越しており，上層10km付近には強いジェット-ストリーム*がある。偏西風は緯度約60°付近で，寒帯偏東風と接している。以上は，大局的な状態であって，季節によりかなりの変動がある。

地表付近では，海陸の分布や山岳の影響で局地風*が卓越する。沿岸地方では海陸風が吹き，山岳の風下では，フェーン*・おろし*風が起こり，また峡谷を通り抜けた地域では，だし*風がよく現われる。岡山県の広戸風は那岐山麓(なぎさんろく)に起こる強風であり，山形県の清川だしは峡谷の開けた地域に現われる強風である。〔曲田光夫〕

かぜ【風邪】 感冒ともいう。感染性または非感染性の病因による呼吸器の急性カタル性炎症症状を呈する疾患群。アレルギー体質，寒冷・塵埃(じんあい)・ガスなどの刺激によって起こる非感染性のものもあるが，大部分は感染性のものであり，そのうちウイルス感染によるものが最も多い。またそれに二次的な細菌感染の加わる場合もあり，ときに原発性細菌感染もみられる（たとえば溶連菌感染など）。そのほか肺炎マイコプラズマ（細菌とウイルスの中間と考えられている微生物）が肺炎および気道炎の原因ともなり，かぜの病原としてかなりの役割を演じていることが最近わかってきた。さらに，リケッチア・真菌・スピロヘータ・寄生虫などによる気道感染も含まれるが，比較的頻度(ひんど)が低い。最も主要な病原であるウイルスに関する研究が近年著しく進歩し，多くのかぜウイルスが発見された。すなわち，①インフルエンザウイルス（Ａ・Ｂ・Ｃ型），②パラインフルエンザウイルス，③RSウイルス，④アデノウイルス，⑤ライノウイルスが主であるが，その他の種類を調べると百数十種に及ぶ。



火　星

インフルエンザウイルスで起こるインフルエンザ*はかぜの中に含まれるが，発病が急激で，全身症状が強く，発熱も39〜40℃と高熱のことが多く，流行性が強いことなど，特異的である。その他のものでは，症状はのどの痛み，乾燥感，鼻水，くしゃみ，鼻腔(びこう)の鬱血感(うっけつかん)，鼻閉塞感(びへいそくかん)，せき，たん，背部ないし四肢痛(ししつう)，発熱，全身違和感などがある。感染は飛沫(ひまつ)による直接感染で，一般に冬に多いが夏に多発するものもある（たとえばアデノウイルスによる咽頭(いんとう)結膜熱）。大部分は数日で治癒(ちゆ)するが，他の諸疾患（麻疹(ましん)・風疹・百日咳(ひゃくにちぜき)・伝染性紅斑(こうはん)・猩紅熱(しょうこうねつ)・チフス・ジフテリアなど）の初期症状と区別しにくい場合もあるので注意を要する。ワクチンによる予防はまだ成功していない。感染の機会をつくらぬ意味で群集・集会を避け，患者に接近しないようにする。また，過労を避け，衣服・換気などにも注意し，休養と栄養を十分にとることは，予防上大事なことである。

治療としては，対症的に解熱・鎮痛剤・抗ヒスタミン剤などを使用する。２〜３の新抗ウイルス剤について検討されているが，結論は得られていない。マイコプラズマ感染症には抗生物質が有効である。原発性細菌感染症や合併症としての二次的感染症に対しても抗生物質が有効である。一般療法として，安静，十分な水分補給，高カロリーの消化しやすい食事，保温，換気，適当な着衣などもたいせつである。〔国井乙彦〕

ガーゼ［gauze］ 細糸できわめてあらく平織りに織った綿布・レーヨン布。軽く柔らかで吸水性に富み，はだ着・うぶ着・ハンカチーフ・タオルなどに用いられる。衛生材料としてはのりを抜き，脱脂・漂白して用いる。また，特殊な場合には，ガーゼをヨードフォルム・ホウ酸水・リバノールなどの消毒液に浸したものを傷の手当てに用いることがある。

かせい【化性】 こん虫が１年間に卵から成虫までの世代を何回くり返すかを示す動物学用語。１年間に１回しか発生しないものを一化性，２回発生するものを二化性，３回のものを三化性などといい，その数は種によって遺伝的に定まっている。しかし，この性質は温度などの環境要因によって変化することがある。たとえば，ジャコウアゲハは山地などでは年２回の発生であるが，暖かい地方では年３回となる。

かせい【火星】 太陽系の第４惑星。地球のすぐ外側を回る惑星。軌道長半径が1.524天文単位*。赤道半径が3,390kmで地球の約半分である。公転周期は687日で，地球との会合周期は780日になる。火星と地球は会合周期ごとに接近するが，離心率が0.093で比較的大きいために，接近したときの距離が5.6×10^7〜1.0×10^8kmの間で変化する。視直径は大接近のときで25″，小接近のときで14″，合のときで3″.5になる。反射能*は0.15で水星に次いで小さい。これは表面が濃い雲の層におおわれていないためである。表面の色は赤みをおび，いろいろな形をしたしま模様が見られ，あまり形を変えないので自転周期を正確に決めることができる。自転周期は24時間37分23秒である。火星の軌道面に対する赤道傾斜は25°で，地球と同じような四季の変化がみられる。その代表的なものとして極冠*とよばれるものがあり，氷状のものが季節によって変化し，冬には緯度40°付近にまで広がり，夏にはほとんど消失する。日射量は地球よりも少なく，温度は太陽の直下点で約７℃，極冠で－70℃ぐらいである。大気は希薄で，酸素は地球の１/1,000以下，炭酸ガスの存在は確かめられている。フォボスとディモスの二つの衛星をもつ。

1965年７月15日に飛んだ惑星間空間ゾンデが17,000〜22万kmの距離でとった写真によると，月に似たクレーターが無数に存在しているが，月に比べて火口の形は侵食されてくずれている。また磁場は存在しない。生物は以前想像されていたようなものの存在はほとんど考えられない。存在するとしても細菌類程度であろう。〔磯部琇三〕

化　石



• コレニア(藻類)　先カンブリア時代　中国遼寧省産　×2/3



• レドリキア(サンヨウチュウ)　古生代カンブリア紀　中国遼寧省三十里堡産　×1



• オルモセラス(チョッカクセキ)　古生代オルドビス紀　中国遼寧省本溪湖産　×2/3



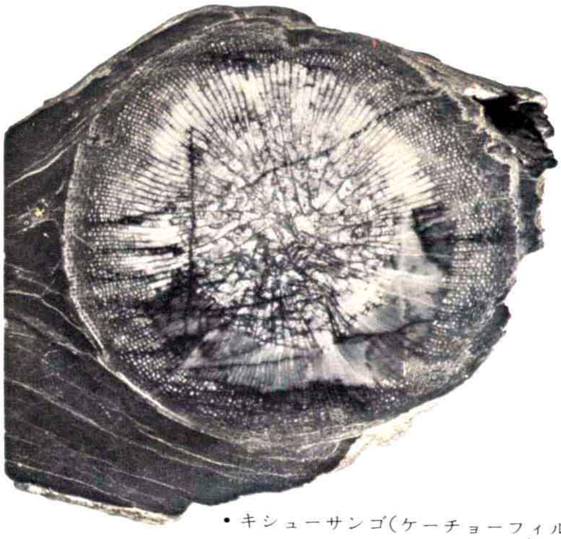
• ハチノスサンゴ　古生代シルリア紀　中国湖北省産　×1/2



• ペコプテリス(シダ植物)　古生代石炭紀　中国山西省太原産　×1/2



• イシツバメ(スピリファー)　古生代デボン紀　中国産　×1



• キシューサンゴ(ケーチョーフィルム) 古生代石炭紀 岩手県住田町世田米,犬頭山産 ×1



• ボウスイチュウ 古生代二畳紀 広島県東城町帝釈峡産 ×⅔



• ジンボイセラス(アンモナイト) 中生代ジュラ紀 北海道穂別町産 ×¾



• トリゴニア(サンカクガイ) 中生代白亜紀 埼玉県小鹿野町産 ×1



• イノセラムス(二枚貝) 中生代白亜紀 北海道夕張郡産 ×½

かせいがく【家政学】われわれが過去から現在，現在から将来へとよりよい生活を求めて生き続けてきた事実に着目して，どのような手段・方法をとったなら生活の向上を実現できるかを問題にする学問をいう。生活の向上は経済・時間・家事労働の3側面から，できるだけ少ない犠牲で，できるだけ多くの効果を求めることによって実現するが，ここを中心視点に衣・食・住・レジャーなど家庭生活の全部を研究するのが家政学である。〔青木　茂〕

かせいかつどう【火成活動】地下の深い所でできたマグマ*が，地殻(ちかく)のいろいろな場所にはいりこんだり地表に噴出したりする現象。火成作用ともいう。その場所でマグマが冷却し固結してできる岩石を火成岩*という。火成活動が地下の深い所で起こった場合と地表に出て火山の噴火の形で起こった場合とでは，その経過も生じる岩石の種類も違い，前者を深成作用，後者を火山作用といい，生じる岩石もそれぞれ深成岩*・噴出岩(火山岩*)とよばれるのが普通である。マグマから深成岩・噴出岩ができるまでの経過を研究することは，地質学・岩石学の中で重要な分野であり，また地質時代のいろいろな時期に起こった火成活動がその周囲の地質・地質構造に及ぼした影響，それらとの関連性を研究することも重要である。〔平山　健〕

かせいカリ【苛性カリ】KOH 水酸化カリウムのこと。無色の固体で，潮解性があり，空気中の炭酸ガスを吸って炭酸カリウムになる。水に発熱してよくとけ，水溶液は強いアルカリ性を示す。塩化カリウム溶液を電解してつくる。炭酸カリウム・重炭酸カリウム，その他のカリウム化合物の原料となり，また染料その他合成化学工業に用いられ，分析・化学実験などに重要な化学薬品である。

かせいがん【火成岩】マグマ*が冷却固化してできたと考えられる岩石の総称。火成岩は火山岩*と深成岩*とに大別される。火山岩は斑晶*(はんしょう)と石基とからなり，火口から噴出するときには，斑晶はすでに結晶として存在し，石基の部分は溶融体になっている。すなわち，斑晶はマグマが地下のたまりにある間に結晶したもので，もしマグマが地下のたまりでそのまま冷却固化を完了したならば，斑晶と同じように粒のあらい結晶の集合した岩石になるであろう。そのような組織をもったものが深成岩である。深成岩は火山岩と違って，マグマから深成岩ができる過程を実際に観察することができない。したがって，深成岩のすべてがはたして真の火成岩であるかどうかは問題である。特にカコウ岩*の一部は変成岩*とも考えられ，少なくとも全体が溶融したような状態を経てはいないのではないかと推定されている。深成岩の分類は通常有色鉱物*の含有率に従い，その小さいものから大きいものへと，カコウ岩*・センリョク岩*・ハンレイ岩*・カンラン岩*の順に分類する。これらはそれぞれ酸性岩*・中性岩*・塩基性岩*・超塩基性岩*にほぼ相当する。カコウ岩と同じ鉱物組成の火山岩が流紋岩*，センリョク岩に対応する火山岩が安山岩*，ハンレイ岩に対応するものが玄武岩*である。これらの火成岩の造岩鉱物として，準チョウ石*やナトリウムと鉄に富むキ石*およびカクセン石*を含む仲間があり，これをアルカリ岩*とよんでいる。それらの造岩鉱物を含まない仲間をカルクアルカリ岩*という。アルカリ岩とカルクアルカリ岩では本源になるマグマが異なるものと考えられている。〔片山信夫〕

かせいきんし【仮性近視】偽近視ともいう。近視・遠視・乱視のない正視の人の目のピントは，まったく目を使わない休息時には無限遠方に合っている。そして近方を見ようとすると，眼球内の毛様筋が働いて，近方にピントが合うようになる。すなわち，遠方を見ているときは目は休んでおり，近くを見ようとすると目が働く。したがって，長時間読書などの近業をしていると，毛様筋は収縮しづめの結果，けいれんを起こして，次に遠方を見てもゆるまなくなることがある。これが仮性近視で，真の近視(目が休んでいてもピントが近方に合っている目)と同じように目のピントは近方に合っていることになる。仮性近視が学生に多いのは，近業を続けるのが原因である。仮性近視が長く続くと真の近視に移行することがある。治療としては毛様筋のけいれんをとる薬剤の点眼・超短波療法などがある。〔氏原　弘〕

かせいクループ【仮性クループ】急性声門下喉頭炎(こうとうえん)の別名。小児の喉頭は腔(こう)が狭く，粘膜のはれにより詰まりやすいため5歳以下の小児に多くみられる。刺激性のせき，呼吸困難が起こる。重症の場合にはけいれんや窒息の危険もある。治療はアドレナリンの注射・吸入や酸素吸入，抗生物質の投与などが必要である。窒息の危険に対しては気管切開，ステロイド剤の吸入も効果がある。

かせいそ【花青素】⇨アントシアン

かせいソーダ【苛性ソーダ】NaOH 水酸化ナトリウムのこと。水によくとける無色の固体で，水にとける際に多くの熱を発生し，水溶液は強いアルカリ性を示す。潮解性があり，空気中に放置すると炭酸ガスを吸収して炭酸ソーダとなる。食塩水を電気分解して塩素と水酸化ナトリウム溶液とに分け，この水酸化ナトリウム溶液を煮つめて製したり，そのまま水溶液の状態でその用途に向けることもある。これは液体苛性といって多くは50%溶液である。食塩水を電気分解する方法に，水銀法と隔膜法とがあるが，現在では水銀法が多くなっている。このほか苛性ソーダ製造法には，炭酸ソーダ溶液の苛性化法があるが，現在はあまり行なわれていない。化学工業・食品工業・パルプ工業など各種の工業に用いられ，硫酸*や塩酸*などとともに重要な工業薬品である。➔水銀式苛性ソーダ法　➔隔膜式苛性ソーダ法〔鈴木　篁〕

かせいち【華清地】中国，陝西(せんせい)省の西安の東にある温泉。臨潼(りんどう)県に属し驪山(りざん)のふもとにあって，秦(しん)の始皇帝以来，歴代宮殿がつくられた。特に唐代には離宮が建てられ，はじめは温湯宮といったが，玄宗*は華清宮と改名し，ここで楊貴妃*(ようきひ)とともに遊楽にふけった。そのあとは今日も遊園地として残り，傷病兵の療養所に利用されるほか，一般人民に解放されている。

かせいてい【嘉靖帝】(1507～1566)中国，明朝(みんちょう)第11代皇帝。世宗ともいう。武帝*の弟興献王の子。武帝が嗣子のないまま没したので，1521年迎えられて即位した。はじめは国政に熱意を示し，前代の弊政を一掃しようとしたが，亡父に皇号を贈ろうとして大礼の議が起こり，4年間にわたって朝臣と争った。以後は道教におぼれて政務を放棄し，北方民族や倭寇(わこう)の激しい侵攻もあって，国力は著しく衰えた。

かせいひんけつ【仮性貧血】学童貧血ともいう。5歳ごろから10歳ごろまでの学童にみられる，みかけ上の貧血。赤血球数やヘモグロビン値は正常であっても，顔色蒼白(そうはく)でいかにも貧血のようにみえる。自律神経失調児や神経質児に多い。➔貧血

かせいぶんか【化政文化】⇨文化・文政時代

カゼイン［casein］リンタンパク質*の一種。哺乳(ほにゅう)動物の乳汁(にゅうじゅう)中の主要タンパク質。リン酸を含み，乳汁中ではおもにカルシウム塩として存在する。水や希酸には不溶，希アルカリには塩をつくって溶解する。栄養上ほぼ完全なタンパク質であり，特にリン酸とカルシウムを含むことは乳幼児の発育に重要な意味をもつ。

カゼインせんい【カゼイン繊維】⇨タンパク繊維　⇨再生繊維

かせき【化石】地質時代に生息していた生物(古生物*という)の体やその一部，または生活の痕跡(こんせき)が堆積物(たいせきぶつ)中に埋没したものが，あとになって発掘されたもの。体やその一部の化石を体化石といい，足跡・はい跡・巣穴などの生活の痕跡の化石を痕跡化石とよんで区別することがある。化石を意味する英語fossilはラテン語fossilisからきており，〈掘り出されたもの〉の意で，石に変わるという意味を表わしてはいない。

貝塚(かいづか)から発掘された貝や動物の骨は，化石と産状が似ているが，大昔の人類が食べた残り物を捨てたもので，人類の手が加わっているため，ふつう化石とはよ

ばない。化石は，あくまでも自然の働きで堆積物の中に埋没されたものに限っている。堆積物の中には，もともと生物とはまったく関係がなく，無機界の働きで生物の形によく似たものができることがある。このようなものは偽化石とよんで，化石とは区別している。亀甲(きっこう)石・忍ぶ石・菊花石*などは，偽化石の例となっている。また，地質時代の地震や波の跡が堆積物中に残っているものを，地震の化石，波の跡の化石とよぶことがあるが，これも化石の本来の意味とは無関係である。

化石の材料となる生物を，現生生物と区別して化石生物とよぶことがある。化石生物の中には，現在の地球上の生物とまったく変わらないものもあるため，特に現在の地球上にはみられない，地質時代にのみ生息していまでは絶滅した生物に限って，化石生物(化石動物・化石植物)とよぶことが多い。

【化石の成因と種類】化石のできかたには，材料となる古生物の生活条件と，化石を埋没している堆積物(母岩という)の形成条件(→堆積作用)が大きく関係している。ふつう，古生物の遺体は死後早い時期に腐敗し分解する。また，遺体が堆積作用を受ける途中でも，さらに分解や破壊が進む。さらに，堆積物中に埋没したあとでも，圧力や地熱の働きを受けて，堆積物の性質が変わる(→続成作用)ため，その中の化石も性質を変えたり，分解したりすることが多い。このように，古生物の遺体や生活の痕跡が堆積物中に埋没してから，化石として保有されたものが発見されるまでの過程を，化石化作用とよぶ。つまり，化石化作用には①古生物の遺体や生活の痕跡の形成過程，②遺体や痕跡が最終点に堆積物に埋没する過程，③埋没後に地殻(ちかく)の働きで変質する過程が含まれる。化石ということばのもつ石に変わるという意味は，上述の③の過程で生じ，あとから付加された性質で，これを特に石化作用とよんで区別することがある。そのため，化石には遺体・遺骸(いがい)そのままの状態で発掘されるものから，いろいろな程度に石化したものまでいろいろのものがみられる。

ふつう，化石として残るためには，次のような条件にあることが望まれる。①化石となる古生物が繁栄して，なるべく広い地域にわたって個体数を多く生ずること。②古生物の遺体や痕跡が，破壊を免れるために，なるべくすみやかに堆積物中に埋没すること。③古生物が，首・殻(から)・骨格・歯などのような，分解や破壊を免れるかたい組織でつくられた器官をもっていること。④地殻の熱や圧力の働きを，なるべく受けないこと。

特別の条件のもとで，古生物の遺体が堆積物中に埋没した場合には，例外として古生物の皮膚・筋肉・内臓などの柔らかい組織でできた部分が化石として保存されることがある。シベリアから発掘された氷づけのマンモスや，琥珀(こはく)中に閉じ込められた動物の遺体，アスファルトの池に落ち込んだ動物の遺体などはこの例である。

石化した化石にも，いろいろの種類がある。ふつう，貝殻類は炭酸カルシウム$CaCO_3$を主成分としているため，これらの化石はホウカイ石・カスミ石の結晶の集合体となっている。生体でできるホウカイ石やカスミ石の小さい結晶が，化石化作用の過程で結晶の大きさや化学組織を変えていく。特に，地下水や温泉水・鉱液などの影響を受けると，化石の成分がまったく変わって，セキテツ鉱・カッテツ鉱・ホウテツ鉱・ジテツ鉱・セキエイなどの結晶の集合体として，もとの形を残しているだけのものも知られている。このようなものを，石核とよんで区別することがある。植物の遺体にケイ酸分SiO_2が注入されて，植物のもとの組織を残したまま化石として発掘されたものをケイ化木*という。

動物の骨や歯は，リン酸カルシウム$Ca_3 \cdot P_2O_5$を主成分とするため，これらの化石はリン灰石の結晶の集合からできている。

化石は，古生物が生活していたところで，そのまま埋没することは少ない。しかし，巣穴の中の化石や，足跡・はい跡などの化石は，古生物が生活していたところで化石となったもので，このような化石を特に現地性の化石といい，古生物の生活環境や生態を考えるのに好つごうである。多くの化石は，堆積作用のため古生物が生活していたところとは違ったところで埋没して，化石として保存される。このような化石を異地性の化石という。したがって，化石から古生物の生活環境や古生態を考える場合には，化石化作用の内容を明らかにして，古生物の生活地域にもどすことが必要である。

生物が地球上に出現してから，生物進化の法則にしたがって，下等で単純な生物からしだいに高等で複雑な生物へと変わってきている。いかなる時代の生物も，それぞれ固有の生活地域と生存期間とをもっている。化石の中で，特に無機的な生活環境と明らかな対応を示すものがある。たとえば，フデイシは底質がどろでできている海域に，サンゴは亜熱帯以南の水の透明な浅海に生活している。したがって，このような化石が発見された場合には，それぞれの環境を考えることが容易である。このような化石を，特に示相化石という。

また，限られた地質時代に地球上の広い地域にわたって繁栄した生物は，その化石の産出によって，容易に地質年代や地層の新旧を決めることができる。サンヨウチュウ*は古生代前期の海域に，ボウスイチュウ*は古生代後期の海域に限って広く繁栄したため，これらの化石の産出はそれぞれ古生代前期・後期と判定するのに役だっている。このような化石を，特に標準化石(または示準化石)という。

最近，電子顕微鏡などの発達によって，堆積岩の中に含まれる微小な化石を識別することが可能となってきた。そのため，ふつう目で識別できる化石を巨視化石，光学顕微鏡によって識別できるmm～μ単位のものを微化石，さらに電子顕微鏡によってはじめて識別できるmμ～Å(オングストローム*)単位のものを超微化石とよんで区別することがある。ユウコウチュウ*・ホウサンチュウ*・珪藻(けいそう)・花粉・胞子などの化石は微化石に属し，コッコリス(浮遊鞭虫(べんちゅう)円石藻(そう)類の外殻小盤の化石)，バクテリアの化石などは超微化石とされている。

また，クロマトグラフィー・X線分析法・赤外線分析法・質量分析法などの発達により，生体の一部をつくっていたと考えられる炭水化物・糖・アミノ酸・タンパクなどがかたい岩石の中から識別されるようになってきている。このように，古生物の生体は残っていないが，生体を構成していたと考えられる有機物の化石を，特に化学化石とよんでいる。化石は，生物進化を考える資料となるが，化石の記録は今日では30数億年前までさかのぼって発見されていて，生命発達史の初期の状態や生命の起源を考えるための貴重な資料を提供している。

→540ページ(写)　〔大森昌衛〕

かせきじんるい【化石人類】地質時代に生存していた人類*(ヒト)の総称。直立二足歩行をして，利器を使用したという特徴をもつことで人類決定すれば，最初に出現した化石人類は猿人*(えんじん)で，第四紀洪積世(こうせきせい)(200万年前)とされる。なお，ヒトの進化の系列は，猿人(前期洪積世，200万～80万年前)，原人*(中期洪積世，50万～30万年前)，旧人*(後期洪積世，30,000年～現在)の階程をたどってきたと考えられる。これをキャンベルによる分類を改変して示せば，次のとおりである。

ホミニーデ科
- オーストラロピテクス属(猿人)
  - オーストラロピテクス-アフリカヌス種
  - オーストラロピテクス-ロブスツス種
- ホモ属
  - ホモ-エレクツス種(原人)
    - ホモ-エレクツス-エレクツス亜種
    - ホモ-エレクツス-ペキネンシス亜種
  - ホモ-サピエンス種
    - ホモ-サピエンス-シュタインハイメンシス亜種
    - ホモ-サピエンス-ネアンデルターレンシス亜種　(以上旧人)
    - ホモ-サピエンス-サピエンス亜種(新人)(現生人類を含む)

〔鈴木　尚〕

{
  "filename": "NDA0MzkwOTIuemlw",
  "filename_decoded": "40439092.zip",
  "filesize": 225012847,
  "md5": "cfc5b087b4fb547471db77b1ade4d37d",
  "header_md5": "2eb98309798c3d6e0f8f60446c923e18",
  "sha1": "ecefa66fc55ef77bfe6c54936d61cdfe65241554",
  "sha256": "f8e7effe41ffb4858ef118701c9a27642d7537feceef4bd919ea67e225907666",
  "crc32": 2114989578,
  "zip_password": "",
  "uncompressed_size": 234374291,
  "pdg_dir_name": "",
  "pdg_main_pages_found": 543,
  "pdg_main_pages_max": 543,
  "total_pages": 547,
  "total_pixels": 2847408000,
  "pdg_status_json": {
    "id": 1902,
    "action": "convert",
    "params": {},
    "result_code": 200,
    "result_value": {
      "image_stats": "03: 10\r\naa: 104\r\n",
      "result_text": "\u8f6c\u6362\u5b8c\u6bd5\u3002",
      "conversion_time": "00:00:01",
      "image_count": "114/114",
      "dpi": "300 / 428 / 303"
    },
    "status": 2,
    "created": 1714851993,
    "updated": 1714852037
  },
  "filenames_to_pdgconvert": [
    "000007.pdg",
    "000014.pdg",
    "000021.pdg",
    "000026.pdg",
    "000030.pdg",
    "000038.pdg",
    "000044.pdg",
    "000045.pdg",
    "000046.pdg",
    "000052.pdg",
    "000057.pdg",
    "000061.pdg",
    "000069.pdg",
    "000070.pdg",
    "000073.pdg",
    "000077.pdg",
    "000083.pdg",
    "000084.pdg",
    "000091.pdg",
    "000094.pdg",
    "000096.pdg",
    "000101.pdg",
    "000108.pdg",
    "000115.pdg",
    "000118.pdg",
    "000122.pdg",
    "000127.pdg",
    "000133.pdg",
    "000139.pdg",
    "000141.pdg",